

THE HOLY BIBLE

BUNGO-YAKU: TAISHO-KAIYAKU (NT) (1950), MEIJI-YAKU (OT) (1953)

Bungo-yaku: Taisho-kaiyaku (NT) (1950), Meiji-yaku (OT) (1953)

This Bible is in the Public Domain.

Table of Contents

Old Testament	7	使徒の働き	296
創世記	7	ローマ人への手紙	307
出エジプト記	21	コリント人への手紙	311
レビ記	34	コリント人への手紙	315
民数記	43	ガラテヤ人への手紙	318
申命記	56	エペソ人への手紙	320
ヨシヤ記	68	ピリピ人への手紙	321
士師記	75	コロサイ人への手紙	322
ルツ記	83	テサロニケ人への手紙	323
サムエル記	84	テサロニケ人への手紙	324
サムエル記	95	テモテへの手紙	325
列王記	103	テモテへの手紙	326
列王記	112	テトスへの手紙	327
歴代誌	121	ピレモンへの手紙	327
歴代誌	131	ヘブル人への手紙	327
エズラ記	141	ヤコブの手紙	331
ネヘミヤ記	144	ペテロの手紙	332
エステル記	149	ペテロの手紙	333
ヨブ記	151	ヨハネの手紙	334
詩篇	160	ヨハネの手紙	335
箴言 知恵の泉	183	ヨハネの手紙	335
伝道者の書	190	ユダの手紙	335
雅歌	193	ヨハネの黙示録	335
イザヤ書	194		
エレミヤ書	211		
哀歌	228		
エゼキエル書	229		
ダニエル書	243		
ホセア書	248		
ヨエル書	250		
アモス書	251		
オバデヤ書	253		
ヨナ書	253		
ミカ書	254		
ナホム書	255		
ハバクク書	256		
ゼパニヤ書	256		
ハガイ書	257		
ゼカリヤ書	258		
マラキ書	260		
New Testament	261		
マタイの福音書	261		
マルコの福音書	271		
ルカの福音書	277		
ヨハネの福音書	288		

創世記

Chapter 1

1 元始に神天地を創造たまへり 2 地は定形なく曠空くして黑暗淵の面にあり神の靈水の面を覆たりき 3 神光あれと言たまひければ光ありき 4 神光を善と觀たまへり神光と暗を分ちたまへり 5 神光を晝と名け暗を夜と名けたまへり 6 神言たまひけるは水の中に穹蒼ありて水と水を分つべし 7 神穹蒼を作りて穹蒼の下の水と穹蒼の上の水とを判ちたまへり即ち斯なりぬ 8 神穹蒼を天と名けたまへり 9 神言たまひけるは天の下の水は一處に集りて乾ける土顯べしと即ち斯なりぬ 10 神乾ける土を地と名け水の集合を海と名けたまへり神之善と觀たまへり 11 神言たまひけるは地は青草と實蔬を生ずる草蔬と其類に従ひ果を結びみづから核をもつ所の果を結び樹の地に發出すべしと即ち斯なりぬ 12 地青草と其類に従ひ實蔬を生ずる草蔬と其類に従ひ果を結びみづから核をもつ所の樹を發出せり神これを善と觀たまへり 13 夕あり朝ありき是三日なり 14 神言たまひけるは天の穹蒼に光明ありて晝と夜を分ち又天象のため時節のため日のため年のために成べし 15 又天の穹蒼にありて地を照す光となるべしと即ち斯なりぬ 16 神二の巨なる光を造り大なる光に晝を司どらしめ小き光に夜を司どらしめたまふまた星を造りたまへり 17 神これを天の穹蒼に置いて地を照さしめ 18 晝と夜を司どらしめ光と暗を分ちしめたまふ神これを善と觀たまへり 19 夕あり朝ありき是四日なり 20 神言たまひけるは水には生物饒に生じし天の穹蒼の面に地上に飛べしと 21 神巨なる魚と水に饒に生じて動く諸の生物を其類に従ひて創造り又羽翼ある諸の鳥を其類に従ひて創造りたまへり神之善と觀たまへり 22 神之を祝して曰く生よ繁息よ海の水に充物よ又禽鳥は地に蕃息よと 23 夕あり朝ありき是五日なり 24 神言給ひけるは地は生物を其類に従て出し家畜と昆蟲と地の獸を其類に従て出すべしと即ち斯なりぬ 25 神地の獸を其類に従て造り家畜を其類に従て造り地の諸の昆蟲を其類に従て造り給へり神之善と觀給へり 26 神言給けるは我儕に象りて我儕の像の如くに我儕人を造り之に海の魚と天空の鳥と家畜と全地と地に匍ふ所の諸の昆蟲を治めんと 27 神其像の如くに人を創造たまへり即ち神の像の如くに之を創造之を男と女に創造たまへり 28 神彼等を祝し神彼等に言たまひけるは生よ繁殖よ地に満盈よ之を服従せよ又海の魚と天空の鳥と地に動く所の諸の生物を治めよ 29 神言たまひけるは視よ我全地の面にある實蔬のなる諸の草蔬と核ある木果の結る諸の樹とを汝等に與ふこれは汝らの糧となるべし 30 又地の諸

の獸と天空の諸の鳥および地に匍ふ諸の物等凡そ生命ある者には我食物として諸の青き草を與ふと即ち斯なりぬ 31 神其造りたる諸の物を視たまひけるに基だ善りき夕あり朝ありき是六日なり

Chapter 2

1 斯天地および其衆群悉く成ぬ 2 第七日に神其造りたる工を竣たまへり即ち其造りたる工を竣て七日に安息たまへり 3 神七日を祝して之を神聖たまへり其は神其創造爲たまへる工を盡く竣て是日に安息みたまひたればなり 4 エホバ神地と天を造りたまへる日に天地の創造られたる其由來は是なり 5 野の諸の灌木は未だ地にあらず野の諸の草蔬は未生ぜざりき其はエホバ神雨を地に降せたまはず亦土地を耕す人なかりければなり 6 霧地より上りて土地の面を遍く潤したり 7 エホバ神土の塵を以て人を造り生氣を其鼻に嘘入たまへり人即ち生靈となりぬ 8 エホバ神エデンの東の方に園を設け其造りし人を其處に置たまへり 9 エホバ神觀に美しく食ふに善き各種の樹を土地より生ぜしめ又園の中に生命の樹および善惡を知の樹を生ぜしめ給へり 10 河エデンより出て園を潤し彼處より分れて四の源となれり 11 其第一の名はピソソといふ是は金のなるハビラの全地を繞る者なり 12 其地の金は善し又ブドラクと碧玉彼處にあり 13 第二の河の名はギホンといふ是はクシの全地を繞る者なり 14 第三の河の名はヒデケルといふ是はアッシリヤの東に流るものなり第四の河はユフラテなり 15 エホバ神其人を撃て彼をエデンの園に置き之を埋め之を守らしめ給へり 16 エホバ神其人に命じて言たまひけるは園の各種の樹の果は汝意のままに食ふことを得 17 然ど善惡を知の樹は汝その果を食ふべからず汝之を食ふ日には必ず死べければなり 18 エホバ神言たまひけるは人獨なるは善らず我彼に適ふ助者を彼のために造らんと 19 エホバ神土を以て野の諸の獸と天空の諸の鳥を造りたまひてアダムの之を何と名るかを見んとて之を彼の所に率ゐいたりたまへりアダムの生物に名けたる所は皆其名となりぬ 20 アダム諸の家畜と天空の鳥と野の諸の獸に名を與へたり然どアダムの之に適ふ助者みえざりき 21 是に於てエホバ神アダムを熟く睡らしめ睡りし時其肋骨の一を取り肉をもて其處を填塞たまへり 22 エホバ神アダムより取たる肋骨を以て女を成り之をアダムの所に携きたりたまへり 23 アダム言けるは此こそわが骨の骨わが肉の肉なれば男より取たる者なれば之を女と名くべしと 24 是故に人は其父母を離れて其妻に好合ひ二人一體となるべし 25 アダムと其妻は二人俱に裸體にして愧ざりき

Chapter 3

1 エホバ神の造りたまひし野の生物の中に蛇最も狡猾し蛇婦に言ひけるは神眞に汝等園の諸の樹の果は食ふべからずと言たまひしや 2 婦蛇に言けるは我等園の樹の果を食ふことを得 3 然ど園の中央に在樹の果實をば神汝等之を食ふべからず又之に捫るべからず恐は汝等死んと言給へり 4 蛇婦に言けるは汝等必ず死る事あらじ 5 神汝等が之を食ふ日には汝等の目開け汝等神の如くなりて善惡を知に至るを知りたまふなりと 6 婦樹を見ば食に善く目に美麗しく且智慧からんが爲に慕はしき樹なるによりて遂に其果實を取て食ひ亦之を己と憚る夫に與へければ彼食へり 7 是において彼等の目俱に開て彼等其裸體なるを知り乃ち無花果樹の葉を綴て裳を作り 8 彼等園の中に日の清涼き時分歩みたまふエホバ神の聲を聞しかばアダムの其妻即ちエホバ神の面を避て園の樹の間に身を匿せり 9 エホバ神アダムを召て之に言たまひけるは汝は何處に在るや 10 彼ひけるは我園の中に汝の聲を聞き裸體なるにより懼れて身を匿せりと 11 エホバ神言たまひけるは誰が汝の裸なるを汝に告しや汝は我が汝に食ふなかれと命じたる樹の果を食ひたりしや 12 アダム言けるは汝が與て我と憚らしめたまひし婦彼其樹の果實を我にあたへたれば我食へりと 13 エホバ神婦に言たまひけるは汝がなしたる此事は何ぞや婦言けるは蛇我を誘惑して我食へりと 14 エホバ神婦に言たまひけるは汝是を爲たるに因て汝は諸の家畜と野の諸の獸よりも勝りて詛はる汝は腹行て一生の間塵を食ふべし 15 又我汝と婦の間および汝の苗裔と婦の苗裔の間に怨恨を置んば汝の頭を碎き汝は彼の踵を碎かん 16 又婦に言たまひけるは我大に汝の懐妊の効勞を増すべし汝は苦みて子を産ん又汝は夫をしたひ彼は汝を治めん 17 又アダムの言たまひけるは汝その妻の言を聽て我が汝に命じて食ふべからずと言たる樹の果を食ひしに縁て土は汝のために詛はる汝は一生のあひだ勞苦て其より食を得ん 18 土は荆棘と藎とを汝のために生ずべしまた汝は野の草蔬を食ふべし 19 汝は面に汗して食物を食ひ終に土に歸らん其は其中より汝は取れたればなり汝は塵なれば塵に賑るべきなりと 20 アダム其妻の名をエバと名けたり其は彼は群の生物の母なればなり 21 エホバ神アダムと其妻のために皮衣を作りて彼等に衣せたまへり 22 エホバ神日たまひけるは視よ夫人我等の如くなりて善惡を知る然ば恐は彼其手を舒べ生命の樹の果實をも取りて食ひ限無生んと 23 エホバ神彼をエデンの園よりいだし其取て造られたるところの土を耕さしめたまへり 24 斯神其人を逐出エデンの園の東にケルビムと自から旋轉る焰の劍を置て生命の樹の途を保守りたまふ

Chapter 4

1 アダム其妻エバを知る彼孕みてカインを生みて言けるは我エホバによりて一個の人を得たりと 2 彼また其弟アベルを生りアベルは羊を牧ふ者カインは土を耕す者なりき 3 日を経て後カイン土より出る果を携來りてエホバに供物となせり 4 アベルもまた其羊の初生と其肥たる者を携來りてエホバ、アベルと其供物を着顧みたまひしかども 5 カインと其供物をば善み給はざりしかばカイン甚だ怒り且其面をふせたり 6 エホバ、カインに言たまひけるは汝何ぞ怒るや何ぞ面をふするや 7 汝若善を行はば擧ることをえざらんや若善を行はずば罪門戸に伏す彼は汝を慕ひ汝は彼を治めん 8 カイン其弟アベルに語りぬ彼野にをりける時カイン其弟アベルに起かりて之を殺せり 9 エホバ、カインに言たまひけるは汝の弟アベルは何處に在るや彼言ふ我しらず我あに我弟の守者ならんやと 10 エホバ言たまひけるは汝何をなしたるや汝の弟の血の聲地より我に叫べり 11 されば汝は詛れて此地を離るべし此地其口を啓きて汝の弟の血を汝の手より受たればなり 12 汝地を耕すとも地は再其力を汝に效さじ汝は地に吟行ふ流離子となるべしと 13 カイン、エホバに言けるは我が罪は大にして負ふこと能はず 14 視よ汝今日斯地の面より我を逐出したまふ我汝の面を觀ることなきにいたらん我地に吟行ふ流離子とならん凡そ我に遇ふ者我を殺さん 15 エホバ彼に言たまひけるは然らず凡そカインを殺す者は七倍の罰を受んとエホバ、カインに遇ふ者の彼を撃ざるため印誌を彼に與へたまへり 16 カイン、エホバの前を離て出でエデンの東なるノドの地に住り 17 カイン其妻を建て其邑の名を其子の名に循てエノクと名けたり 18 エノクにイラデ生れたりイラデ、メホヤエルを生みメホヤエル、メトサエルを生みメトサエル、レメクを生り 19 レメク二人の妻を娶れり一の名はアダと曰ひ一の名はテラと曰り 20 アダ、ヤバルを生みり彼は天幕に住て家畜を牧ふ所の者の先祖なり 21 其弟の名はユバルと云ふ彼は琴と笛をとる凡ての者の先祖なり 22 又テラ、トバルカインを生り彼は銅と鐵の諸の刃物を鍛ふる者なりトバルカインの妹をナアマといふ 23 レメク其妻に言けるはアダとテラよ我聲を聽けレメクの妻等よわが言を容よ我が創傷のために人を殺すわが痕のために少年を殺す 24 カインのために七倍の罰あれレメクのためには七十七倍の罰あらん 25 アダム復其妻を知て彼男子を生み其名をセツと名けたり其は彼神我にカインの殺したるアベルのかはりに他の子を與へたまへりといひたればなり 26 セツにもまた男子生れたりかれ其名をエノスと名けたり此時人々エホバの名を呼ことをはじめたり

Chapter 5

1 アダムは傳の書は是なり神人を創造りたまひし日に神に象りて之を造りたまひ 2 彼等を男女に造りたまへり彼等の創造られし日に神彼等を祝してかれらの名をアダムと名けたまへり 3 アダム百三十歳に及びて其像に循ひ己に象りて子を生み其名をセツと名けたり 4 アダムのセツを生し後の齡は八百歳にして男子女子を生り 5 アダムの生存へたる齡は都合九百三十歳なりき而して死り 6 セツ百五歳に及びてエノスを生り 7 セツ、エノスを生し後八百七年生存へて男子女子を生り 8 セツの齡は都合九百十二歳なりき而して死り 9 エノス九十歳におよびてカイナンを生り 10 エノス、カイナンを生し後八百十五年生存へて男子女子を生り 11 エノスの齡は都合九百五歳なりき而して死り 12 カイナン七十歳におよびてマハラレルを生り 13 カイナン、マハラレルを生し後八百四十年生存へて男子女子を生り 14 カイナンの齡は都合九百十歳なりきしして死り 15 マハラレル六十五歳に及びてヤレドを生り 16 マハラレル、ヤレドを生し後八百三十年生存へて男子女子を生り 17 マハラレルの齡は都合八百九十五歳なりき而して死り 18 ヤレド百六十二歳に及びてエノクを生り 19 ヤレド、エノクを生し後八百年生存へて男子女子を生り 20 ヤレドの齡は都合九百六十二歳なりき而して死り 21 エノク六十五歳に及びてメトセラを生り 22 エノク、メトセラを生し後三百年神とともに歩み男子女子を生り 23 エノクの齡は都合三百六十五歳なりき 24 エノク神と偕に歩みしが神かれを取りたまひければをらずなりき 25 メトセラ百八十七歳に及びてレメクを生り 26 メトセラ、レメクを生しの子七百八十二年生存へて男子女子を生り 27 メトセラの齡は都合九百六十九歳なりき而して死り 28 レメク百八十二歳に及びて男子を生み 29 其名をノアと名けて言けるは此子はエホバの詠ひたまひし日に由れる我操作と我勞苦とに就て我らを慰めん 30 レメク、ノアを生し後五百九十五年生存へて男子女子を生り 31 レメクの齡は都合七百七十七歳なりき而して死り 32 ノア五百歳なりきノア、セム、ハム、ヤベテを生り

Chapter 6

1 人地の面に繁衍はじまりて女子之に生るるに及べる時 2 神の子等人の女子の美しきを見て其好む所の者を取て妻となせり 3 エホバひいたまひけるは我靈永く人と争はじ其は彼も肉なればなり然ど彼の日は百二十年なるべし 4 當時地にネビロムありき亦其後神の子輩人の女の所に入りて子女を生しめたりしが其等も勇士にして古昔の名聲ある人なりき 5 エホバ人の惡の地に大なると其心の思念の都て圖維る所の恒に惟恐きのみなるを見たまへり 6 是に於てエホバ地の上に人を造りしことを悔いて

心に憂へたまへり 7 エホバ言たまひけるは我が創造りし人を我地の面より拭去ん人より獸昆蟲天空の鳥にいたるまでほろぼさん其は我之を造りしことを悔ればなりと 8 されどノアはエホバの目のまへに恩を得たり 9 ノアの傳は是なりノアは義人にして其世の完全き者なりきノア神と偕に歩めり 10 ノアはセム、ハム、ヤベテの三人の子を生り 11 時に世神のまへに亂れて暴虐世に満盈ちたりき 12 神世を視たまひけるに視よ亂れたり其は世の人皆其道をみだしたればなり 13 神ノアに言たまひけるは諸の人の末期わが前に近づけり其は彼等のために暴虐世にみつればなり視よ我彼等を世とともに剪滅さん 14 汝松木をもて汝のために方舟を造り方舟の中に房を作り瀝青をもて其内外を塗るべし 15 汝かく之を作るべし即ち其方舟の長は三百キユビト其濶は五十キユビト其高は三十キユビト 16 又方舟に導光牖を作り上一キユビトに之を作り終べし又方舟の戸は其傍に設くべし下牀と二階と三階とに之を作るべし 17 視よ我洪水を地に起して凡て生命の氣息ある肉なる者を天下より剪滅し絶ん地にをる者は皆死ぬべし 18 然ど汝とは我わが契約をたてん汝は汝の子等と汝の妻および汝の子等の妻とともに其方舟に入るべし 19 又諸の生物總て肉なる者をば汝各其二を方舟に撃へりて汝とともに其生命を保たしむべし其等は牝牡なるべし 20 鳥其類に従ひ獸其類に従ひ地の諸の昆蟲其類に従ひて各汝の所に至りて其生命を保つべし 21 汝食はるる諸の食品を汝の許に取て之を汝の所に集むべし是即ち汝と是等の物の食品となるべし 22 ノア是爲し都て神の己に命じたまひしごとく然爲せり

Chapter 7

1 エホバ、ノアに言たまひけるは汝と汝の家皆方舟に入べし我汝がこの世の人の中にてわが前に義を視たればなり 2 諸の潔き獸を牝牡七宛汝の許に取り潔らぬ獸を牝牡 3 亦天空の鳥を雌雄七宛取て種を全地の面に生のこらしむべし 4 今日ありて我四十日四十夜地に雨ふらしめ我造りたる萬有を地の面より拭去ん 5 ノア、エホバの凡て己に命じたまひし如くなせり 6 地に洪水ありける時にノア六百歳なりき 7 ノア其子等と其妻および其子等の妻と俱に洪水を避て方舟にいりぬ 8 潔き獸と潔らざる獸と鳥および地に匍ふ諸の物 9 牝牡二宛ノアに來りて方舟にいりぬ神のノアに命じたまへるが如し 10 かくて七日の後洪水地に臨めり 11 ノアの齡の六百歳の二月即ち其月の十七日に當り此日に大淵の源皆潰れ天の戸開けて 12 雨四十日四十夜地に注げり 13 此日にノアとノアの妻セム、ハム、ヤベテおよびノアの妻と其子等の三人の妻諸俱に方舟にいりぬ 14 彼等および諸の獸其類に従ひ諸の家畜其類に従ひ都て地に匍ふ昆蟲其類に従ひ諸の禽即ち各様の類の鳥皆其類に従ひ

て入りぬ 15 即ち生命の氣息ある諸の肉なる者二宛ノアに來りて方舟にいりぬ 16 入たる者は諸の肉なる者の牝牡にして皆いりぬ神の彼に命じたまへるが如しエホバ乃ち彼を閉置たまへり 17 洪水四十日地にありき是において水増し方舟を浮めて方舟地の上に高くあがれり 18 而して水瀾漫りて大に地に増しぬ方舟は水の面に漂へり 19 水甚大に地に瀾漫りければ天下の高山皆おほはれたり 20 水はびこりて十五キユビトに上りければ山々おほはれたり 21 凡そ地に動く肉なる者鳥家畜獸地に匍ふ諸の昆蟲および人皆死り 22 即ち凡そ其鼻に生命の氣息のかよふ者都て乾土にある者は死り 23 斯地の表面にある萬有を人より家畜昆蟲天空の鳥にいたるまで盡く拭去たまへり是等は地より拭去れたり唯ノアおよび彼とともに方舟にありし者のみ存れり 24 水百五十日のあひだ地にはびこりぬ

Chapter 8

1 神ノアおよび彼とともに方舟にある諸の生物と諸の家畜を眷念ひたまひて神乃ち風を地の上に吹しめたまひければ水減りたり 2 亦淵の源と天の戸閉塞りて天よりの雨止ぬ 3 是に於て水次第に地より退き百五十日を経てのち水減り 4 方舟は七月に至り其月の十七日にアララテの山に止りぬ 5 水次第に減て十月に至りしが十月の月期に山々の嶺現れたり 6 四十日を経てのちノア其方舟に作りし窓を啓て 7 鴉を放出しけるが水の地に涸るまで往來しをれり 8 彼の地の面より水の減少しを見んとて亦鶴を放出しだしけるが 9 鶴其足の跖を止べき處を得ずして彼に還りて方舟に至れり其は水全地の面にありたればなり彼乃ち其手を舒て之を執へ方舟の中におのれの所に接入たり 10 尚又七日待て再び鶴を方舟より放出しけるが 11 鶴暮におよびて彼に還れり視よ其口に橄欖の新葉ありき是に於てノア地より水の減少しをしれり 12 尚又七日まて鶴を放出しけるが再び彼の所に歸らざりき 13 六百一年の一月の月期に水地に涸たりノア乃ち方舟の蓋を撤きて視しに視よ土の面は燥てありぬ 14 二月の二十七日に至りて地乾きたり 15 爰に神ノアに語りて言給はく 16 汝および汝の妻と汝の子等と汝の子等の妻とともに方舟を出べし 17 汝とともにある諸の肉なる諸の生物諸の肉なる者即ち鳥家畜および地に匍ふ諸の昆蟲を率いてよ此等は地に饑く生育地の上に生且殖増すべし 18 ノアと其子等と其妻および其子等の妻とともに出たり 19 諸の獸諸の昆蟲および諸の鳥等凡そ地に動く者種類に従ひて方舟より出たり 20 ノア、エホバのために壇を築き諸の潔き獸と諸の潔き鳥を取て燔祭を壇の上に献げたり 21 ノアエホバ其馨き香を聞きたまひてエホバ其意に讚たまひけるは我再び人の故に因て地を詛ふことをせじ其は人の心の圖維るところ其幼少時よりして惡かれればなり又我曾て爲

たる如く再び諸の生る物を撃ち滅さじ 22 地のあらん限りは播種時、收穫時、寒熱夏冬および日と夜息ことあらじ

Chapter 9

1 神ノアと其子等を祝して之に曰たまひけるは生よ増殖よ地に満よ 2 地の諸の獸畜天空の諸の鳥地に匍ふ諸の物海の諸の魚汝等を畏れ汝等に懼かん是等は汝等の手に與へらる 3 凡そ生る動物は汝等の食となるべし菜蔬のごとく我之を皆汝等と與ふ 4 然ど肉を其生命なる其血のままに食ふべからず 5 汝等の生命の血を流すをば我必ず討さん獸之をなすも人をこれを爲すも我討さん凡そ人の兄弟人の生命を取ば我討すべし 6 凡そ人の血を流す者は人其血を流さん其は神の像のごとくに人を造りたまひたればなり 7 汝等生よ増殖よ地に饑くなりて其中に増殖よ 8 神ノアおよび彼と偕にある其子等に告て言たまひけるは 9 見よ我汝等と汝等の後の子孫 10 および汝等と偕なる諸の生物即ち汝等とともに鳥家畜および地の諸の獸と契約を立ん都て方舟より出たる者より地の諸の獸にまで至らん 11 我汝等と契約を立ん總て肉なる者は再び洪水に絶る事あらじ又地を滅す洪水再びあざるべし 12 神言たまひけるは我が我と汝等および汝等と偕なる諸の生物の間に世々限りなく爲す所の契約の徴は是なり 13 我わが虹を雲の中に起さん是我と世との間の契約の徴なるべし 14 即ち我雲を地の上に起す時虹雲の中に現るべし 15 我乃ち我と汝等および總て肉なる諸の生物の間のわが契約を記念はん水再び諸の肉なる者を滅す洪水とならじ 16 虹雲の中にあらん我之を觀て神と地にある都て肉なる諸の生物との間なる永遠の契約を記念えん 17 神ノアに言たまひけるは是は我が我と地にある諸の肉なる者との間に立たる契約の徴なり 18 ノアの子等の方舟より出たる者はセム、ハム、ヤベテなりきハムはカナンの父なり 19 是等はノアの三人の子なり全地の民は是等より出て蔓延れり 20 爰にノアの農夫となりて葡萄園を植ることを始しが 21 葡萄酒を飲て醉天幕の中にありて裸になれり 22 カナンの父ハム其父のかくし所を見て外にありし二人の兄弟に告たり 23 セムとヤベテ乃ち衣を取て俱に其肩に負け後向に歩みゆきて其父の裸體を覆へり彼等面を背にして其父の裸體を見ざりき 24 ノア酒さめて其若き子の己に爲たる事を知れり 25 是に於て彼言けるはカナン詛はれよ彼は僕輩の僕となりて其兄弟に事へん 26 又いひけるはセムの神エホバは讚べきかなカナン彼の僕となるべし 27 神ヤベテを大ならしめたまはん彼はセムの天幕に居住はんカナン其僕となるべし 28 ノア洪水の後三百五十年生存へたり 29 ノアの齡は都て九百五十年なりき而して死り

Chapter 10

1ノアの子セム、ハム、ヤベテの傳は是なり洪水の後彼等に子等生れたり2ヤベテの子はゴメル、マゴグ、マデア、ヤワン、トバル、メセク、テラスなり3ゴメルの子はアシケナズ、リパテ、トガルマなり4ヤワンの子はエリシヤ、タルシヤ、キツテムおよびドダニムなり5是等より諸國の洲島の民は派分れ出て各其方言と其宗族と其邦國とに循ひて其地に住り6ハムの子はクシ、ミツライム、フテおよびカナンなり7クシの子はセバ、ハビラ、サブタ、ラアマ、サブテカなりラアマの子はシバおよびデダンなり8クシ、ニムロデを生り彼始めて世の權力ある者となれり9彼はエホバの前にありて權力ある獵夫なり是は故にエホバの前にある夫權力ある獵夫ニムロデの如しといふ諺あり10彼の國の起初はシナルの地のバベル、エルク、アツカデ、及びカルネなりき11其地より彼アツリヤに出でニネベ、レホボテリ、カラ12およびニネベとカラの間なるレセンを建たり是は大なる城邑なり13ミツライム、ルデ族アナミ族レハビ族ナフト族14パテロス族カスル族およびカフトリ族を生りカスル族よりペリシテ族出たり15

カナン其冢子シドンおよびヘテ16エブス族アモリ族ギルガシ族17ヒビ族アルキ族セニ族18アルワデ族ゼマリ族ハマテ族を生り後に至りてカナン人の宗族蔓延りぬ19カナン人の境はシナルよりゲラルを経てガザに至りソドム、ゴモラ、アデマ、ゼボイムに沿てレシヤにまで及びり20是等はハムの子孫にして其宗族と其方言と其土地と其邦國に隨ひて居りぬ21セムはエベルの全の子孫の先祖にしてヤベテの兄なり彼にも子女生れたり22セムの子はエラム、アシユル、アルバクサデルデ、アラムなり23アラムの子はウヅ、ホル、ゲテル、マシなり24アルバクサデ、シラを生みシラ、エベルを生り25エベルに二人の子生れたり一人の名をベレグ(分れ)といふ其は彼の代に邦國分れたればなり其弟の名をヨクタンと曰ふ26ヨクタン、アルモダデ、シヤレフ、ハザルマウテ、エラ27ハドラム、ウザル、デクラ28オバル、アビマエル、シバ29オフル、ハビラおよびヨバブを生り是等は皆ヨクタンの子なり30彼等の居住所はメシヤよりして東方の山セバルにまで至れり31是等はセムの子孫にして其宗族と其方言と其土地と其邦國とに隨ひて居りぬ32是等はノアの子の宗族にして其血統と其邦國に隨ひて居りぬ洪水の後是等より地の邦國の民は派分れ出たり

Chapter 11

1
全地は一の言語一の音のみなりき2茲に人衆東に移りてシナルの地に平野を得て其處に居住り3彼等互に言

けるは去來軛石を作り之を善く蒸んと遂に石の代に軛石を獲灰沙の代に石漆を獲たり4又曰けるは去來邑と塔とを建て其塔の頂を天にいたらしめん斯して我等名を揚て全地の表面に散ることを免れんと5エホバ降臨りて彼人衆の建る邑と塔とを觀たまへり6エホバ言たまひけるは視よ民は一にして皆一の言語を用ふ今既に此を爲し始めたり然ば凡て其爲んと圖維る事は禁止め得られざるべし7去來我等降り彼處にて彼等の言語を消し互に言語を通ずることを得ざらしめんと8エホバ遂に彼等を彼處より全地の表面に散したまひければ彼等邑を建ることを罷たり9是故に其名はバベル(淆亂)と呼ばる是はエホバ彼處に全地の言語を消したまひしに由てなり彼處よりエホバ彼等を全地の表に散したまへり10セムの傳は是なりセム百歳にして洪水の後の二年にアルバクサデを生り11セム、アルバクサデを生し後五百年生存へて男子女子を生り12アルバクサデ三十五歳に及びてシラを生り13アルバクサデ、シラを生し後四百三年生存へて男子女子を生り14シラ三十歳におよびてエベルを生り15シラ、エベルを生し後四百三年生存へて男子女子を生り16エベル三十四歳におよびてベレグを生り17エベル、ベレグを生し後四百三十年生存へて男子女子を生り18ベレグ三十歳におよびてリウを生り19ベレグ、リウを生し後二百九十年生存へて男子女子を生り20リウ三十二歳におよびてセルグを生り21リウ、セルグを生し後二百七年生存へて男子女子を生り22セルグ三十年におよびてナホルを生り23セルグ、ナホルを生し後二百二十年生存へて男子女子を生り24ナホル二十九歳に及びてテラを生り25ナホル、テラを生し後百十九年生存へて男子女子を生り26テラ七十歳に及びてアブラム、ナホルおよびハラシを生り27テラの傳は是なりテラ、アブラム、ナホルおよびハラシを生ハラシ、ロトを生り28ハラシは其父テラに先ちて其生處なるカルデアのウルにて死たり29アブラムとナホルと妻を娶れりアブラムの妻の名をサライと云ナホルの妻の名をミルカと云てハラシの女なりハラシはミルカの父にして亦イスカの父なりき30サライは石女にして子なかりき31テラ、カナンの地に往とて其子アブラムとハラシの子なる其孫ロト及其子アブラムの妻なる其媳サライをひき撃て俱にカルデアのウルを出たりしがハラシに至て其處に住り32テラの齡は二百五歳なりきテラはハラシにて死り

Chapter 12

1爰にエホバ、アブラムに言たまひけるは汝の國を出で汝の親族に別れ汝の父の家を離れて我が汝に示さん其地に至れ2我汝を大なる國民と成し汝を祝み汝の名を大ならしめん汝は祉福の基となるべし3我は汝を祝する者を祝し汝を詛ふ者を詛は

ん天下の諸の宗族汝によりて福視を獲と4アブラム乃ちエホバの自己に言たまひし言に従て出たりロト彼と共に行きアブラムはハラシを出たる時七十五歳なりき5アブラム其妻サライとその弟の子ロトおよび其集めたる總の所有とハラシにて獲たる人衆を携へてカナンに往りて出で遂にカナンに到りて6アブラム其地を經過てシケムの處に及びモレの橡樹に至れり其時にカナン人其地に住り7茲にエホバ、アブラムに顯現れて我汝の苗裔に此地に與へんといひたまへり彼處にて彼己に顯現れたまひしエホバに壇を築けり8彼其處よりベテルの東の山に移りて其天幕を張り西にベテル東にアイありき彼處にてエホバに壇を築きエホバの名を籲り9アブラム尚進て南に遷れり10茲に饑饉其地にありければアブラム、エジプトに寄寓らんとて彼處に下れり其は饑饉其地に甚しかりければなり11彼近く來りてエジプトに入んとす時其妻サライに言けるは視よ我汝を觀て美麗き婦人なるを知る12是故にエジプト人汝を見る時は彼の妻なりと我を殺さん然ど汝をば生存かん13請ふ汝わが妹なりと言へば我汝の故によりて安にしてわが命汝のために生存ん14アブラム、エジプトに至りし時エジプト人此婦を見て甚だ美麗となせり15またパロの大臣等彼を見て彼をパロの前に譽めければ婦遂にパロの家に召入れられたり16是に於てパロ彼のために厚くアブラムを待ひてアブラム遂に羊牛僕婢牝牡の驢馬および駱駝を多く獲るに至れり17時にエホバ、アブラムの妻サライの故によりて大なる災を以てパロと其家を惱したまへり18パロ、アブラムを召て言けるは汝が我になしたる此事は何ぞや汝何故に彼が汝の妻なるを我に告ざりしや19汝何故に彼はわが妹なりといひしや我幾彼をわが妻にめとらんとせり然ば汝の妻は此にあり撃去るべしと20パロ即ち彼の事を人々に命じければ彼と其妻および其有る諸の物を送りさらしめたり

Chapter 13

1アブラム其妻および其有る諸の物と偕にエジプトを出て南の地に上れりロト彼と共にありき2アブラム甚家畜と金銀に富り3彼南の地より其旅路に進てベテルに至りベテルとアイの間なる其前に天幕を張たる處に至れり4即ち彼が初に其處に築きたる壇のある處なり彼處にアブラム、エホバの名を籲り5アブラムと偕に行しロトも羊牛および天幕を有り6其地は彼等を載て俱に居しむること能はざりき彼等は其所有多かりしに縁て俱に居ることを得ざりしなり7斯有かばアブラムの家畜の牧者とロトの家畜の牧者の間に競争ありきカナン人とペリジ人此時其地に居住り8アブラム、ロトに言けるは我等は兄弟の人なれば請ふ我と汝の間およびわが牧者と汝の牧者の間に競争あらしむる勿れ9地は皆

爾の前にあるにあらずや請ふ我を離れよ爾若左にゆかば我右にゆかん又爾右にゆかば我左にゆかんと10是に於てロト目を舉てヨルダンの凡ての低地を瞻望みけるにエホバ、ソドムとゴモラとを滅し給はざりし前なりければゾアルに至るまであまなく善く潤澤ひてエホバの園の如くエジプトの地の如くなりき11ロト乃ちヨルダンの低地を盡く撰とりて東に徙れり斯彼等彼此に別たり12アブラムはカナンに住り又ロトは低地の諸邑に住み其天幕を遷してソドムに至れり13ソドムの人は悪くしてエホバの前に大なる罪人なりき14ロトのアブラムに別れし後エホバ、アブラムに言たまひけるは爾の目を舉て爾の居る處より西東北南を瞻望め15凡そ汝が觀る所の地は我之を永く爾と爾の裔に與べし16我爾の後裔を地の塵沙の如くなさん若人地の塵沙を數ふることを得ば爾の後裔も數へらるべし17爾起て縦横に其地を行き巡るべし我之を爾に與へんと18アブラム遂に天幕を遷して來りヘブロンにマムレの橡林に住み彼處にてエホバに壇を築けり

Chapter 14

1當時シナルの王アマラベル、エラサル、エラムの王ケダラオメルおよびゴイムの王テダル等2ソドムの王ベラ、ゴモルの王ビルシア、アデマの王シナブ、ゼボイムの王セメベルおよびベラ(即ち今のゾアル)の王と戦ひをなせり3是等の五人の王皆結合てシデムの谷に至れり其處は今の鹽海なり4彼等は十二年ケダラオメルに事へ第十三年に叛けり5第十四年にケダラオメルおよび彼と偕なる王等來りてアシタロテカルナイムのレバイム人、ハムのズジ人、シヤベキリアタイムのエミ人6およびセイル山のホリ人を撃て曠野の傍なるエルハラシに至り7彼等歸りてエンミシパテ(即ち今のカデシ)に至りアマレク人の國を盡く撃又ハザソントマルに住るアモリ人を撃り8爰にソドムの王ゴモラの王アデマの王ゼボイムの王およびベラ(即ち今のゾアル)の王出てシデムの谷にて彼等と戦ひを接たり9即ち彼五人の王等エラムの王ケダラオメル、ゴイムの王テダル、シナルの王アマラベル、エラサル、エラムの四人と戦へり10シデムの谷には地瀝青の坑多かりしがソドムとゴモラの王等通て其處に陥りぬ其餘の者は山に遁逃たり11是に於て彼等ソドムとゴモラの諸の物と其諸の食料を取て去れり12彼等アブラムの姪ロトと其物を取て去り其は復ソドムに住たればなり13茲に遁逃者來りてヘブル人アブラムに之を告たり時にアブラムはアモリ人マムレの橡林に住りマムレはエシコルの兄弟又アネルの兄弟なり是等はアブラムと契約を結ぶ者なりき14アブラム其兄弟の擲にせられしを聞しかば其熟練したる家の子三百十八人を率ゐてダンまで追いたり15其家臣を分ちて夜に乘じて彼等を攻め彼等を撃破りてダ

マスコの左なるホバまで彼等を追ゆけり 16 アブラム斯諸の物を奪回し亦其兄弟ロトと其物および婦人と人民を取回せり 17 アブラム、ケダラオメルおよび彼と偕なる王等を撃破りて歸れる時ソドムと王シャベの(即ち今の王の谷)にて彼を迎へたり 18 時にサレムの王メルキゼデク、パンと酒を携出せり彼は至高き神の祭司なりき 19 彼アブラムを祝して言けるは願くは天地の主なる至高神アブラムを祝福みたまへ 20 願くは汝の敵を汝の手に付たまひし至高神に稱譽あれとアブラム乃ち彼に其諸の物の什分の一を饋れり 21 茲にソドムの王アブラムに言けるは人を我に與へ物を汝に取れと 22 アブラム、ソドムの王に言けるは我天地の主なる至高き神エホバを指て言ふ 23 一本の絲にても鞋帯にても凡て汝の所屬は我取ざるべし恐くは汝我アブラムを富しめたりと言ん 24 但少者の既に食ひたる物および我と偕に行し人アネル、エシコルおよびマムレの分を除くべし彼等には彼等の分を取しめよ

Chapter 15

1是等の事の後エホバの言異象の中にアブラムに臨て曰くアブラムよ懼るなかれ我は汝の干櫓なり汝の賚は甚大なるべし 2 アブラム言けるは主エホバよ何を我に與んとしたまふや我は子なくして居り此ダマスコのエリエゼル我が家の相續人なり 3 アブラム又言けるは視よ爾子を我にたまはず我が家の子わが嗣子とならんとすと 4 エホバの言彼にのぞみて曰く此者は爾の嗣子となるべからず汝の身より出る者爾の嗣子となるべしと 5 斯てエホバ彼を外に携へ出して言たまひけるは天を望みて星を數へ得るかを見よと又彼に言たまひけるは汝の子孫は是のごとくなるべしと 6 アブラム、エホバを信ずエホバこれを彼の義となしたまへり 7 又彼に言たまひけるは我は此地を汝に與へて之を有たしめんとして汝をカルデアのウルより導き出せるエホバなり 8 彼言けるは主エホバよ我がいかにして我之を有つことを知るべきや 9 エホバ彼に言たまひけるは三歳の牝牛と三歳の牝山羊と三歳の牡羊と山鳩および難き鴿を我ために取れと 10 彼乃ち是等を皆取て之を中より割き其割たる者を各相對はしめて置り但鳥は割ざりき 11 鷲鳥其死體の上を下る時はアブラム之を驅はらへり 12 斯て日の没る頃アブラム酣く睡りしが其大に暗きを覺えて懼れたり 13 時にエホバ、アブラムに言たまひけるは爾確に知るべし爾の子孫他人の國に旅人となりて其人々に服事へん彼等四百年のあひだ之を惱さん 14 又其服事たる國民は我之を鞫かん其後彼等は大なる財貨を携へて出ん 15 爾は安然に爾の父祖の所にゆかん爾は還齡に達りて葬らるべし 16 四代に及びて彼等此に返りきたらん其はアモリ人の惡未だ貫盈されば也と 17 斯て日の没て黑暗となりし時烟と火焰の出る爐其切割たる物の中を通

過り 18 是日にエホバ、アブラムと契約をなして言たまひけるは我此地をエジプトの河より彼大河即ちユフラテ河まで爾の子孫に與ふ 19 即ちケニ人ケナズ人カデモニ人 20 ヘテ人ペリジ人レバイム人 21 アモリ人カナン人ギルガシ人エブス人の地是なり

Chapter 16

1アブラムの妻サラ子女を生ざりき彼に一人の侍女ありしがエジプト人にして其名をハガルと曰り 2 サライ、アブラムに言けるは視よエホバわが子を生むことを禁めたまひければ請ふ我が侍女の所に入れ我彼よりして子女を得ることあらんとアブラム、サラの言を聴いれたり 3 アブラムの妻サラ其侍女なるエジプト人ハガルを取て之を其夫アブラムに與へて妻となさしめたり是はアブラムがカナンの地に十年住みたる後なりき 4 是においてアブラム、ハガルの所に入るハガル遂に孕みければ己の孕めるを見て其女主を藐視たり 5 サライ、アブラムに言けるはわが蒙れる害は汝に歸すべし我わが侍女を汝の懐に與へたるに彼己の孕るを見て我を藐視ぐ願はエホバ我と汝の間の事を鞫きたまへ 6 アブラム、サラに言けるは視よ汝の侍女は汝の手の中にあり汝の目に善と見ゆる所を彼に爲すべしサラ乃ち彼を苦めければ彼サラの面を避て逃たり 7 エホバの使者曠野の泉の旁即ちシユルの路にある泉の旁に彼に遣ひて 8 言けるはサラの侍女ハガルよ汝何處より來れるや又何處に往や彼言けるは我は女主サラの面をさけて逃るなり 9 エホバの使者彼に言けるは汝の女主の許に返り身を其手に任すべし 10 エホバの使者又彼に言ひけるは我大に汝の子孫を増し其數を衆多して數ふることあたはざらしめん 11 エホバの使者又彼に言けるは汝孕めり男子を生まん其名をイシマエル(神聴知)と名くべしエホバ汝の艱難を聴知したまへばなり 12 彼は野驢馬の如き人とならん其手は諸の人に敵し諸の人の手はこれに敵すべし彼は其諸の兄弟の東に住んと 13 ハガル己に諭したまへるエホバの名をアタエルロイ(汝は見たまふ神なり)とよべり彼いふ我視たる後尚生るやと 14 是をもて其井はベエルハロイ(我を見る活る者の井)と呼ばる是はカデシとベレデの間にあり 15 ハガル、アブラムの男子を生めりアブラム、ハガルの生める其子の名をイシマエルと名づけたり 16 ハガル、イシマエルをアブラムに生める時アブラムは八十六歳なりき

Chapter 17

1アブラム九十九歳の時エホバ、アブラムに顯れて之に言たまひけるは我は全能の神なり汝我前に行みて完全かれよ 2 我わが契約を我と汝の間に立て大に汝の子孫を増ん 3 アブラム乃ち俯伏たり神又彼に告て言たまひけるは 4 我汝とわが契約を立

つ汝は衆多の國民の父となるべし 5 汝の名を此後アブラムと呼ぶべからず汝の名をアブラハム(衆多の人の父)とよぶべし其は我汝を衆多の國民の父と爲ばなり 6 我汝をして衆多の子孫を得せしめ國々の民を汝より起さん 7 汝等汝より出べし 7 我わが契約を我と汝および汝の後の世々の子孫との間に立て永久の契約となし汝および汝の後の子孫の神となるべし 8 我汝と汝の後の子孫に此汝が寄寓の地即ちカナンの全地を與て永久の産業となさん而して我彼等の神となるべし 9 神またアブラハムに言たまひけるは然ば汝と汝の後の世々の子孫わが契約を守るべし 10 汝等の中の男子は咸割禮を受べし是は我と汝等および汝の後の子孫の間の我が契約にして汝等の守るべき者なり 11 汝等其陽の皮を割べし是は我と汝等の間の契約の徴なり 12 汝等の代々の男子は家に生れたる者も異邦人より金にて買たる汝の子孫ならざる者も皆生れて八日に至らば割禮を受べし 13 汝の家に生れたる者も汝の金にて買たる者も割禮を受ざるべからず 14 我我契約汝等の身にありて永久の契約となるべし 15 汝等汝等の男兒即ち其陽の皮を割ざる者は我契約を破るにりて其人其民の中より絶るべし 16 神又アブラハムの言たまひけるは汝の妻サラは其名をサラと稱ぶべからず其名をサラと爲べし 17 我彼を祝み彼よりして亦汝に一人の男子を授けん我彼を祝み彼をして諸邦の民の母とならしむべし諸の民の王等彼より出べし 18 アブラハム俯伏て晒ひ其心に謂けるは百歳の人に豈て子の生ることあらんや又サラは九十歳なれば豈て産ことをなさんやと 19 アブラハム遂に神にむかひて願くはイシマエルの汝のまへに生存へんことをと曰ふ 20 神言たまひけるは汝の妻サラ必ず子を生ん汝其名をイサクと名くべし我彼および其後の子孫と契約を立て永久の契約となさん 21 又イシマエルの事に關ては我汝の願を聽たり視よ我彼を祝みて多衆の子孫を得ざりし大に彼の子孫を増すべし彼十二の君王を生ん我彼を大なる國民となすべし 22 然どわが契約は我翌年の今頃サラが汝に生ん所のイサクと之を立べし 23 神アブラハムと云ことを竟へ彼を離れて昇り給へり 24 是に於てアブラハム神の己に言たまへる如く此日其子イシマエルと凡て其家に生れたる者および凡て其金にて買たる者即ちアブラハムの家の人中なる諸の男を將きたりて其陽の皮を割たり 25 アブラハムは其陽の皮を割れたる時九十九歳 26 其子イシマエルは其陽の皮を割れたる時十三歳なりき 27 是日アブラハムと其子イシマエル割禮を受たり 28 又其家の人家に生れたる者も金にて異邦人より買たる者も皆彼とともに割禮を受たり

Chapter 18

1エホバ、マムレの橡林にてアブラハムに顯現たまへり彼は日の熱き時刻天幕の入口に坐しあたりしが

2 目を擧て見たるに視よ三人の人其前に立り彼見て天幕の入口より趨り行て之を迎へ 3 身を地に鞠めて言けるは我が主我若汝の目のまへに恩を得たるならば請ふ僕を通り過すなかれ 4 請ふ少許の水を取きたしめ汝等の足を濯ひて樹の下に休憩たまへ 5 我一口のパンを取來らん汝等心を慰めて然る後過ゆくべし汝等僕の所に来ればなり彼等言ふ汝が言ることく爲せ 6 是においてアブラハム天幕に急ぎいでりてサラの許に至りて言けるは速に細糲三七ヤを取り捏てパンを作るべしと 7 而してアブラハム牛の群に趨ゆき犢の柔にして善き者を取りきたりて少者に付しければ急ぎて之を調理ふ 8 かくてアブラハム牛酪と牛乳および其調理へたる犢を取て彼等のまへに供へ樹の下にて其側に立り彼等乃ち食へり 9 彼等アブラハムに言けるは爾の妻サラは何處にあるや彼言ふ天幕にあり 10 其一人言ふ明年の今頃我必ず爾に返るべし爾の妻サラに男子あらんサラ其後なる天幕の入口にありて聞あたり 11 抑アブラハムとサラは年邁み老いたる者にしてサラには婦人の常の經已に息たり 12 是故にサラ心に晒ひて言けるは我は老衰へ吾が主も老きたる後なれば我に樂あるべけんや 13 エホバ、アブラハムに言たまひけるは何故にサラは晒ひて我老たれば果して子を生ことあらんと言ふや 14 エホバに豈爲し難き事あらんや時至らば我定めたる期に爾に歸るべしサラに男子あらん 15 サラ懼れたれば承すして我晒はずと言へり 16 エホバ言たまひけるは否汝晒へるなり 17 斯て其人々彼處より起てソドムの方を望みければアブラハム彼等を送らんとて俱に行り 18 エホバ言ひ給けるは我爲んとする事をアブラハムに隱すべけんや 19 アブラハムは必ず大なる強き國民となりて天下の民皆彼に由て福を獲に至るべきに在らず 20 其は我彼をして其後の兒孫と家族とに命じエホバの道を守りて公儀と公道を行しめん爲に彼をしれり 21 是エホバ、アブラハムに其曾て彼に就て言し事を行はん爲なり 22 エホバ又言給ふソドムとゴモラの號呼大なるに因り又其罪甚だ重に因て 23 我今下りて其號呼の我に達れる如くかれら全く行ひたりしやを見んとす若しからずば我知るに至らん 24 其人々其處より身を旋してソドムに赴むけりアブラハムは尚ほエホバのまへに立り 25 アブラハム近よりて言けるは爾は義者も惡者と俱に滅ぼしたまふや 26 若も邑の中に五十人の義者あるも汝尚ほ其處を滅ぼし其中の五十人の義者のためにこれを忍したまはざるや 27 なんぞ斯の如く爲て義者と惡者と俱に殺すが如きは是あるまじき事なり又義者と惡者を均等するが如きも又あるまじき事なり 28 天下を鞫く者は公儀を行ふ可にあらざるや 29 エホバ言たまひけるは我若ソドムに於て邑の中に五十人の義者を看ば其人々のために其處を盡く怨さん 30 アブラハム應へていひけるは我は塵と灰なれども敢て我主に言す 31 若五十人の義者の中五人缺たらんに爾五人の缺たるために邑を

盡く滅ぼしたまふやエホバ言たまひけるは我若彼處に四十五人を見れば減さざるべし 29 アブラハム又重ねてエホバに言上して曰けるは若彼處に四十人見えなば如何エホバ言たまふ我四十人のために之をなさじ 30 アブラハム曰ひけるは請ふわが主よ怒らずして言しめたまへ若彼處に三十人見えなば如何エホバ言たまふ我三十人を彼處に見れば之を爲し 31 アブラハム言ふ我あへてわが主に言上す若彼處に二十人見えなば如何エホバ言たまふ我二十人のためにほるぼさじ 32 アブラハム言ふ請ふわが主怒らずして今一度言しめたまへ若かしこに十人見えなば如何エホバ言たまふ我十人のためにほるぼさじ 33 エホバ、アブラハムと言ふことを終てゆきたまへりアブラハムおのれの所にかへりぬ

Chapter 19

1 其二個の天使黄昏にソドムに至るロト時にソドムの門に坐し居たりしがこれを視て迎へ首を地にさけて2言けるは我主よ請ふ僕の人に臨み足を濯ひて宿りつとに起て遂に遣征たまへ彼等言ふ否我等は街衢に宿らんと3然ど固く強ければ遂に彼の所に臨みて其家に入るロト乃ち彼等のために筵を設け酔いれぬパンを炊て食はしめたり 4 斯て未だ寝ざる前に邑の人々即ちソドムの人老たるも若きも諸共に四方八方より來たれる民皆其家を環み 5 ロトを呼て之に言けるは今夕爾に就たる人は何處に在るや彼等を我等の所に携へ出せ我等之を知らん 6 ロト入口に出て其後の戸を閉ぢ彼等の所に至りて7言けるは請ふ兄弟よ惡き事を爲すなかれ 8 我に未だ男知ぬ二人の女あり請ふ我之を携へ出ん爾等の目に善と見ゆる如く之にたせよ唯此人等は既に我家の陰に入れば何をも之になすなかれ 9 彼等曰ふ爾退け又言けるは此人は來り寓れる身なるに恒に士師とならんとす然ば我等彼等に加ふるよりも多くの害を爾に加へんと遂に彼等酷しく其人ロトに逼り前よりて其戸を破んとせしに 10 彼二人其手を舒しロトを家の内に援いて其戸を閉ぢ 11 家の入口に在る人衆をして大なるも小も俱に目を眩しめければ彼等遂に入口を索ぬるに困憊たり 12 斯て二人ロトに言けるは外に爾に屬する者ありや汝の嫡子女および凡て邑に在りて爾に屬する者を此所より携へ出べし 13 此處の號呼エホバの前に大になりたるに因て我等之を滅さんとすエホバ我等を遣はして之を滅しめたまふ 14 ロト出て其女を娶る嫡等に告て言けるはエホバが邑を滅したまふべければ爾等起て此處を出よと然ど嫡等は之を戲言と視爲り 15 曉に及て天使ロトを促して言けるは起て此なる爾の妻と二人の女を携へんよ恐くは爾の惡とともに滅されん 16 然るに彼遲延ひしかば二人其手と其妻の手と其二人の女の手を執て之を導き出し邑の外に置りエホバ斯彼に仁慈を加へたまふ 17 既に之を導き出して其一人曰けるは

逃遁て汝の生命を救へ後を回顧るなかれ低地の中に止るなかれ山に遁れよ否ずば爾滅されん 18 ロト彼等に言けるはわが主よ請ふ斯したまふなかれ 19 視よ僕爾の目のまへに恩を得たり爾大なる仁慈を吾に施してわが生命を救たまふ吾山に通る能はず恐くは災害身に及びて死るにいたらん 20 視よ此邑は遁ゆくに近くして且小し我をして彼處に遁れしめよしからば吾生命全からん是は小き邑なるにあらずや 21 天使之にいひけるは視よ我此事を聞て亦爾の願を容たれば爾が言ふところの邑を滅さじ 22 急ぎて彼處に遁れよ爾が彼處に至るまでは我何事をも爲を得ずと是に因て其邑の名はゾアル(小し)と稱る 23 ロト、ゾアルに至れる時日地の上に昇れり 24 エホバ硫黄と火をエホバの所より即ち天よりソドムとゴモラに雨しめ 25 其邑と低地と其邑の居民および地に生るところの物を盡く滅したまへり 26 ロトの妻は後を回顧たれば鹽の柱となりぬ 27 アブラハム其朝風に起て其嘗てエホバの前に立たる處に至り 28 ソドム、ゴモラおよび低地の全面を望み見るに其地の烟燄窟の烟のごとくに騰上れり 29 神低地の邑を滅したまふ時即ちロトの住る邑を滅したまふ時に當り神アブラハムを眷念て斯其滅亡の中よりロトを出したまへり 30 斯てロト、ゾアルに居ることを懼れたれば其二人の女と偕にゾアルを出て上りて山に居り其二人の女子とともに巖穴に住り 31 茲に長女季女ともにいひけるは我等の父は老いたり又此地には我等に偶て世の道を成す人あらず 32 然ば我等父に酒を飲せて與に寝ね父に由て子を得んと 33 遂に其夜父に酒を飲せ長女入て其父と與に寝たり然るにロトは女の起臥を知らざりき 34 翌日長女季女に言けるは我昨夜わが父と寝たり我等此夜又父に酒をのません爾入て與に寝よわれらの父に由て子を得ることをえんと 35 乃ち其夜も亦父に酒をのませ季女起て父と與に寝たりロトまた女の起臥を知らざりき 36 斯ロトの二人の女其父によりて孕みたり 37 長女子を生み其名をモアブと名く即ち今のモアブ人の先祖なり 38 季女も亦子を生み其名をベニアンミと名く即ち今のアンモ二人の先祖なり

Chapter 20

1 アブラハム彼處より往りて南の地に至りカデシとシユルの間居りゲラルに寄留り 2 アブラハム其妻サラを我妹なりと言しかばゲラルの王アビメレク人を遣してサラを召たり 3 然るに神夜に夢にアビメレクに臨みて之に言たまひけるは汝は其召入たる婦人のために死るるべし彼は夫ある者なればなり 4 アビメレク未だ彼に近づかざりしかば言ふ主よ汝は義き民をも殺したまふや 5 彼は我にははわが妹なりと言しにあらざるや又婦も自彼はわが兄なりと言たり我全き心と潔き手をもて此をなせり 6 神又夢に之に言たまひけるは然り我汝が全き心をもて之をなせるを

知りたれば我も汝を阻めて罪を我に犯さしめざりき彼に觸るを容ざりしは是がためなり 7 然ば彼の妻を歸せ彼は預言者なれば汝のために祈り汝をして生命を保しめん汝若歸ずば汝と汝に屬する者皆必死るべきを知るべし 8 是に於てアビメレク其朝風に起て臣僕を悉く召し此事を皆語り聞せければ人々甚く懼れたり 9 斯てアビメレク、アブラハムを召て之に言けるは爾我等に何を爲すや我何の惡き事を爾に蒙らば爾大なる罪を我とわが國に蒙らしめんとせしかば爾爲べからざる所爲を我に爲したり 10 アビメレク又アブラハムに言けるは爾何を見て此事を爲たるや 11 アブラハム言けるは我此處はかならず神を畏れざるべければ吾妻のために人我を殺さんと思ひたるなり 12 又我は誠にわが妹なり彼はわが父の子にしてわが母の子にあらざるが遂に我妻となりたるなり 13 神我をして吾父の家を離れて周遊しめたまへる時に當りて我彼に爾我等が至る處にて我を爾の兄なりと言へは是は爾が我に施す恩なりと言たり 14 アビメレク乃ち羊牛僕婢を將てアブラハムに與へ其妻サラ之に歸せり 15 而してアビメレク言けるは視よ我地は爾のまへにあり爾の好むところに住め 16 又サラに言けるは視よ我爾の兄に銀千枚を與へたり是は爾および諸の人にありし事等につきて爾の目を蔽ふ者なり斯爾償贖を得たり 17 是に於てアブラハム神に祈りければ神アビメレクと其妻および婢を醫したまひて彼等子を産むにいたる 18 エホバさきにはアブラハムの妻サラの故をもてアビメレクの家の子の胎をことごとく閉たまへり

Chapter 21

1 エホバ其言し如くサラを眷顧みたまふ即ちエホバ其語しごとくサラに行ひたまひしかば 2 サラ遂に孕み神のアブラハムに語たまひし期日に及びて年老たるアブラハムに男子を生り 3 アブラハム其生れたる子即ちサラが己に生る子の名をイサクと名けたり 4 アブラハム神の命じたまひし如く八日に其子イサクに割禮を行へり 5 アブラハムは其子イサクの生れたる時百歳なりき 6 サラ言けるは神我を笑はしめたまふ聞く者皆我とともに笑はん 7 又曰けるは誰かアブラハムにサラ子女に乳を飲しむるにいたらんと言しものあらん然に彼が年老るに及びて男子を生たりと 8 偕其子長育ちて遂に乳を離るイサクの乳を離る日にアブラハム大なる饗宴を設けたり 9 時にサラ、エジプト人ハガルがアブラハムに生たる子の笑ふを見て 10 アブラハムに言けるは此婢と其子を遂出せ此婢の子は吾子イサクと共に嗣子となるべからざるなりと 11 アブラハム其子のために甚く此事を憂たり 12 神アブラハムに言たまひけるは童兒のため又汝の婢のために之を憂るなかれサラが汝に言ところの言は悉く之を聽け其はイサクより出る者汝の裔と稱るべければなり 13 又婢の子も汝の

胤なれば我之を一の國となさん 14 アブラハム朝風に起てパンと水の革囊とを取りハガルに與へて之を其肩に負せ其子を携へて去しめければ彼往てベエルシバの曠野に躑躅しが 15 革囊の水遂に罄たれば子を灌木の下に置き 16 我子の死るを見るに忍ずといひて遙かに行き筋達を隔てて之に對ひ坐しぬ斯相嚮ひて坐し聲をあけて泣く 17 神其童兒の聲を聞たまふ神の使即ち天よりハガルを呼て之に言けるはハガルよ何事ぞや懼るなかれ神彼處に在る童兒の聲を聞たまへり 18 起て童兒を起し之を汝の手に抱くべし我之を大なる國となさんと 19 神ハガルの目を開きたまひければ水の井あるを見ゆきて革囊に水を充し童兒に飲しめたり 20 神童兒と偕に在す彼遂に成長り曠野に居りて射者となり 21 パランの曠野に住り其母彼のためにエジプトの國より妻を迎へたり 22 當時アビメレクと其軍勢の長ピコル、アブラハムに語て言けるは汝何事を爲にも神汝とともに在す 23 然ば汝が我とわが子とわが孫に僞をなさざらんことを今此に神をさして我に誓へ我が厚情をもて汝をあつかふごとく汝我と此汝が寄留る地とに爲べし 24 アブラハム言ふ我誓はん 25 アブラハム、アビメレクの臣僕等が水の井を奪ひたる事につきてアビメレクを責ければ 26 アビメレク言ふ我誰が此事を爲しを知らず汝我に告しこと無く又我今日まで聞しことなし 27 アブラハム乃ち羊と牛を取て之をアビメレクに與ふ斯て二人契約を結べり 28 アブラハム牝の羔七を分ち置ければ 29 アビメレク、アブラハムに言ふ汝此七の牝の羔を分ちおくは何のためなるや 30 アブラハム言けるは汝わが手より此七の牝の羔を取りて我が此井を掘たる證據とならしめよと彼等二人彼處に誓ひしによりて 3 俱處をベエルシバ(盟約の井)と名けたり 32 斯彼等ベエルシバにて契約を結びアビメレクと其軍勢の長ピコルは起てペリシテ人の國に歸りぬ 33 アブラハム、ベエルシバに柳を植糸永遠に在す神エホバの名を彼處に籲り 34 斯してアブラハム久くペリシテ人の地に留寄りぬ

Chapter 22

1 是等の事後神アブラハムを試みんとて之をアブラハムよと呼ばたまふ彼言ふ我此にあり 2 エホバ言給ひけるは爾の子爾の愛する獨子即ちイサクを携てモリアの地に到りわが爾に示さんとす爾の所の山に於て彼を燔祭として獻ぐべし 3 アブラハム朝風に起て其驢馬に鞍おき二人の少者と其子イサクを携へん燔祭の柴薪を劈りて起て神の己に示したまへる處におもむきけるが 4 三日におよびてアブラハム目を擧て遙に其處を見たり 5 是に於てアブラハム其少者に言けるは爾等は驢馬とともに此に止れ我と童子は彼處にゆきて崇拜を爲し復爾等に歸ん 6 アブラハム乃ち燔祭の柴薪を取て其子イサクに負せ手に火と刀を執て二人ともに住り 7 イ

サク父アブラハムに語て父よと曰ふ彼答て子よ我此にありといひければイサク即ち言ふ火と柴薪は有り然ど燔祭の羔は何處にあるや 8 アブラハム言けるは子よ神自ら燔祭の羔を備へたまはんと二人偕に進みゆきて 9 遂に神の彼に示したまへる處に到れり是においてアブラハム彼處に壇を築き柴薪を臚列べ其子イサクを縛りて之を壇の柴薪の上に置せたり 10 斯てアブラハム手を舒べ刀を執りて其子を宰んとす 11 時にエホバの使者天より彼を呼てアブラハムよアブラハムよと言へり彼言ふ我此にあり 12 使者言けるは汝の手を童子に按るなかれ亦何をも彼に爲べからず汝の子即ち汝の獨子をも我ために惜まざれば我今汝が神を畏るを知るど 13 茲にアブラハム目を擧て視れば後に牡綿羊ありて其角林叢に繋りたりアブラハム即ち往て其牡綿羊を執へ之を其子の代に燔祭として獻けたり 14 アブラハム其處をエホバエレ(エホバ預備たまはんと)と名くはに縁て今日もなほ人々山にエホバ預備たまはんといふ 15 エホバの使者再天よりアブラハムを呼て 16 言けるはエホバ諭したまふ我己を指て誓ふ汝是事を爲し汝の子即ち汝の獨子を惜まざりての因て 17 我大に汝を祝み又大に汝の子孫を増して天の星の如く濱の沙の如くならしむべし汝の子孫は其敵の門を獲ん 18 又汝の子孫によりて天下の民皆福祉を得べし汝わが言に遵ひたるによりてなりと 19 斯てアブラハム其少者の所に歸り皆たちて偕にベエルシバにいたれりアブラハムはベエルシバに住り 20 是等の事の後アブラハムに告る者ありて言ふミルカ亦汝の兄弟ナホルにしたがひて子を生子 21 長子はウツ其弟はブヰ其次はケムエルはアラムの父なり 22 其次はケセデ、ハゾ、ビルダシ、エデラフ、ベトエル 23 ベトエルはリベカを生り是八人はミルカがアブラハムの兄弟ナホルに生たる者なり 24 ナホルの妾名はルマといふ者も亦テバ、ガハム、タハシおよびマアカを生り

Chapter 23

1 サラ百二十七歳なりき是即ちサラの齡の年なり 2 サラ、キリアテアルバにて死り是はカナン地のヘブロンにありアブラハム至りてサラのために哀み且哭り 3 斯てアブラハム死人の前より起ち出てヘテの子孫に語りて言けるは 4 我は汝等の中の賓旅なり寄居者なり請ふ汝等の中にて我は墓地を與へて吾が所有となし我をして吾が死人を出し葬ることを得せしめよ 5 ヘテの子孫アブラハムに應て之に言ふ 6 我主よ我等に聽たまへ我等の中にありて汝は神の如き君なり我等の墓地の佳者を擇みて汝の死人を葬れ我等の中一人も其墓地を汝にをしめて汝をしてその死人を葬らしめざる者なかるべし 7 是に於てアブラハム起ち其地の民ヘテの子孫に對て躬を鞠む 8 而して彼等と語ひて言けるは若我をしてわが死人を出し葬るを得せしむる事汝等の意なら

ば請ふ我に聽て吾ためにゾハルの子エフロンに求め 9 彼をして其野の極端に有るマクベラの洞穴を我に與へしめよ彼其十分の値を取て之を我に與へ汝等の中にてわが所有なる墓地となさば善し 10 時にエフロン、ヘテの子孫の中に坐しめたりヘテエフロン、ヘテの子孫即ち凡て其邑の門に入る者の聽る前にてアブラハムに應へて言けるは 11 吾主よ我に聽たまへ其野は我汝に與ふ又其中の洞穴も我之を汝に與ふ我民なる衆人の前にて之を汝にあたふ汝の死人を葬れ 12 是に於てアブラハム其地の民の前に躬を鞠たり 13 而して彼其地の民に聽る前にてエフロンに語りて言けるは汝若之を肯はば請ふ吾に聽け我其野の値を汝に償はん汝之を吾より取れ我わが死人を彼處に葬らん 14 エフロン、アブラハムに答て曰けるは 15 わが主よ我に聽たまへ彼地は銀四百シケルに當る是は我と汝の間に豈道に足んや然ば汝の死人を葬れ 16 アブラハム、エフロンの言に從ひエフロンがヘテの子孫の聽る前にて言たる所の銀を秤り商買の中の通用銀四百シケルを之に與へたり 17 マムレの前なるマクベラに在るエフロンの野は野も其中の洞穴も野の中と其四周の塚にある樹も皆 18 ヘテの子孫の前即ち凡て其邑に入る者の前にてアブラハムの所有と定りぬ 19 厥後アブラハム其妻サラをマムレの前なるマクベラの野の洞穴に葬れり是即ちカナンの地のヘブロンなり 20 斯く其野と其中の洞穴はヘテの子孫之をアブラハムの所有なる墓地と定めたり

Chapter 24

1 アブラハム年邁て老たりエホバ萬の事に於てアブラハムを祝みたまへり 2 茲にアブラハム其凡の所有を宰る其家の年邁なる僕に言けるは請ふ爾の手を吾牒の下に置よ 3 我爾をして天の神地の神エホバを指て誓はしめん即ち汝わが偕に居むカナン人の女の中より吾子に妻を娶るなかれ 4 汝わが故國に往き吾親族に到りて吾子イサクのために妻を娶れ 5 僕彼に言けるは尙女我に從ひて此地に来ることを好まざる事あらん時は我爾の子を彼汝が出来りし地に導き歸るべきか 6 アブラハム彼に曰けるは汝慎みて吾子を彼處に携かへるなかれ 7 天の神エホバ我を導きて吾父の家とわが親族の地を離れしめ我に語り我に誓ひて汝の子孫に此地を與へんと言たまひし者其使を遣して汝に先たしめたまはん汝彼處より我子に妻を娶るべし 8 若汝汝に從ひる事好ざる時は汝吾此誓を解るべし唯我子を彼處に携かへるなかれ 9 是に於て僕手を其主人アブラハムの牒の下に置て此事について彼に誓へり 10 斯て僕其主人の駱駝の中より十頭の駱駝を取りて出たり即ち其主人の駱駝の佳物を手にとりて起てメソポタミアに往きナホルの邑に至り 11 其駱駝を邑の外にて井の傍に跪伏しめたり其時は黄昏にて婦女等の水汲にいつる時なりき 12 斯して彼言け

るは吾主人アブラハムの神エホバよ願くは今日我にその者を逢しめわが主人アブラハムに恩恵を施し給へ 13 我この水井の傍に立ち邑の人の女等水を汲に出づ 14 我童女に向ひて請ふ汝の瓶をかたむけて我に飲しめよと言んに彼答へて飲め我また汝の駱駝にも飲しめんと言ば彼は汝が僕イサクの爲に定め給ひし者なるべし然れば我汝の吾主人に恩恵を施し給ふを知らん 15 彼語ふことを終るまへに視よりベカ瓶を肩のせて出きたる彼はアブラハムの兄弟ナホルの妻ミルカの子ベトエルに生れたる者なり 16 其童女は觀に甚だ美しく且處女にして未だ人に適しことあらず彼井に下り其瓶に水を盈て上りしかば 17 僕はせききて之にあひ請ひしめして汝の瓶をよ少許の水を飲しめよといひけるに 18 彼主よ飲たまへといひて乃ち急ぎ其瓶を手におろして之にのましめたりしが 19 飲せをはりて言ふ汝の駱駝のためにも其飲をばるまで水を汲て飽しめん 20 急ぎて其瓶を水鉢にあげ又汲んとて井にはせきき其諸の駱駝のために汲みたり 21 其人之を見つめエホバが其途に幸福をくだしたまふや否やをしらんとして黙し居たり 22 茲に駱駝飲をとりしかば其人重半シケルの金の鼻環一箇と重十三シケルの金の手釧二箇をとりて 23 言けるは汝は誰の女なるや請ふ我に告よ汝の父の家に我等が宿る隙地ありや 24 女彼に曰けるは我はミルカがナホルに生みたる子ベトエルの女なり 25 又彼にいひけるは是に驚も飼草も多くなり且宿る隙地もあり 26 是に於て其人伏てエホバを拜み 27 言けるは吾主人アブラハムの神エホバは讚美べきかなわが主人に慈恵と眞實とを缺きたまはず我途にありしにエホバ我を吾主人の兄弟の家にあちぎきたまへり 28 茲に童女走りて其母の家に此等の事を告たり 29 リベカに一人の兄あり其名をラバンといふラバンはせいで井にゆきて其人の許につく 30 すなはち彼鼻環および其妹の手の手釧を見又其妹リベカが其人斯我に語りといふを聞て其人の所に到り見るに井の側らにて駱駝の傍にたちあれば 31 之に言けるは汝エホバに祝る者よ請ふ入れ奚ぞ外にたつや我家を備へ且駱駝のために所をそなへたり 32 是に於て其人家にいりぬラバン乃ち其駱駝の負を釋き藁と飼草を駱駝にあたへ又水をあたへて其人の足と其從者の足をあらはしめ 33 斯して彼の前に食をそなへたるに彼言ふ我はわが事をのぶるまで食はじとラバン語れといひければ 34 彼言ふわれはアブラハムの僕なり 35 エホバ大にわが主人をめぐみたまひて大なる者とならしめ又羊牛金銀僕婢駱駝驢馬をこれにたまへり 36 わが主人の妻サラ年老てのちわが主人に男子をうみければ主人其所有を悉く之に與ふ 37 わが主人我を誓せて言ふ吾すめるカナンの地の人の女子の中よりわが子に妻を娶るなかれ 38 汝わが父の家にゆきわが親族にいたりわが子のために妻をめとれと 39 我わが主人にいひけるは尙女我にしたがひて來ずば如

何 40 彼我にいひけるは吾事ふるところのエホバ其使者を汝とともに遣はして汝の途に幸福を降したまはん爾わが親族わが父の家より吾子に妻をめとるべし 41 汝わが親族に至れる時はわが誓を解るべし若彼等汝にあたへずば汝はわが誓をゆるさるべしと 42 我今日井に至りて謂けらくわが主人アブラハムの神エホバねがはくはわがゆく途に幸福を降したまへ 43 我はこの水井の傍に立つ水を汲にいづる處女あらん時我彼にむかひて請ふ汝の瓶より少許の水を我にのましめよと言んに 44 若我に答へて汝飲め我亦汝の駱駝のためにも汲んと言ばはエホバわが主人の子のために定たまひし女なるべし 45 我心の中に語ふことを終るまへにリベカ其瓶を肩のせて出たり井にくだりて水を汲みたるにより我彼に請ふ我にのましめよと言ければ 46 彼急ぎ其瓶を肩よりおろしていひけるは飲めまた汝の駱駝にものましめんとは是に於て我飲し給また駱駝にものみせたり 47 我彼に問て汝は誰の女なるやといひければミルカがナホルに生たる子ベトエルの女なりといふ是に於て我其鼻に環をつけ其手に手釧をつたり 48 而して我伏てエホバを拜み吾主人アブラハムの神エホバを頌美たりエホバ我を正き途に導きてわが主人の兄弟の女を其子のために娶しめんとしたまへばなり 49 されば汝等若わが主人にむかひて慈恵と眞誠をもて事をなさんと思はば我に告よ然ざるも亦我に告よ然ば我右か左におもむくをえん 50 ラバンとベトエル答て言けるは此事はエホバより出づ我等汝に善惡を言ふあたはず 51 視よりベカ汝の前にをる携へてゆき彼をしてエホバの言たまひし如く汝の主人の子の妻とならしめよ 52 アブラハムの僕彼等の言を聞て地に伏てエホバを拜めり 53 是に於て僕銀の飾品金の飾品および衣服をとりいだしりベカに與へ亦其兄と母に寶物をあたへたり 54 是に於て彼および其從者等食して宿りしが朝起たる時彼言きて吾主人に還らしめよ 55 リベカの兄と母言けるは童女を數日の間少くも十日我等と偕にをらしめよしかるのち彼ゆくべし 56 彼人之に言エホバ吾途に福祉をくだしたまひたるなれば我を阻むるなかれ我を歸してわが主人に往しめよ 57 彼等いひけるは童女をよびて其言を問んと 58 即ちリベカを呼て之に言けるは汝此人と共に往や彼言ふ往ん 59 是に於て彼等妹リベカと其乳媪およびアブラハムの僕と其從者を遣り去しめたり 60 即ち彼等リベカを祝して之にいひけるはわれらの妹よ汝千萬の人の母となれ汝の子孫をして其仇の門を獲しめよ 61 是に於てリベカ起て其童女等とともに駱駝にのりて其人にしたがひ往く僕乃ちリベカを導きてさりぬ 62 茲にイサク、ラハイロイの井の路より來り南の國に住居ればなり 63 しかしてイサク黄昏に野に出て默想をなしたりしが目を擧て見しに駱駝の來るあり 64 リベカ目をあげてイサクを見駱駝をおりて 65 僕にいひけるは野をあゆみて我等にむかひ

来る者は何人なるぞ僕わが主人なりといひければリベカ覆衣をとりて身をおほへり 66 茲に僕其凡てなしたる事をイサクに告ぐ 67 イサク、リベカを其母サラの天幕に携至りリベカを娶りて其妻となしてこれを愛したりイサクは母にわかれて後茲に慰藉を得たり

Chapter 25

1 アブラハム再妻を娶る其名をケトラといふ 2 彼ジムラン、ヨクシヤン、メダン、ミデアン、イシバク、シユウを生じ 3 ヨクシヤン、シバとデダンを生むデダンの子はアッシユリ族レトシ族リウミ族なり 4 ミデアンの子はエバ、エベル、ヘノク、アビダ、エルダアなり是等は皆ケトラの子孫なり 5 アブラハム其所有を盡くイサクに與へたり 6 アブラハムの妾等の子にはアブラハム其生る間の物をあたへて之をして其子イサクを離れて東にさして東の國に至らしむ 7 アブラハムの生存へたる齡の日は即ち百七十五年なりき 8 アブラハム遐齡に及び老人となり年満て氣たえ死て其民に加る 9 其子イサクとイシマエル之をへて人ゾハルの子エフロンの野なるマクベラの洞穴に葬れり是はマムレの前にあり 10 即ちアブラハムがへての子孫より買たる野なり彼處にアブラハムと其妻サラ葬らる 11 アブラハムの死たる後神其子イサクを祝みたまふイサクはベエルハイロイの邊に住り 12 サラの侍婢なるエジプト人ハガルがアブラハムに生たる子イシマエルの傳は左のごとし 13 イシマエルの子の名は其名氏と其世代に循ひて言は是のごとしイシマエルの長子はネバヨテなり其次はケダル、アデビエル、ミブサム 14 ミシマ、ドマ、マツサ 15 ハダダ、テマ、アトル、ネフシ、ケデマ 16 是等はイシマエルの子なり是等は其郷黨を其營にしたがひて言る者にして其國に循ひていへば十二の牧伯なり 17 イシマエルの齡は百三十七歳なりき彼いきたえ死て其民にくははる 18 イシマエルの子等はハビラよりエジプトの前なるシウルまでの間に居住てアッスリヤまでにおよべりイシマエルは其すべての兄弟等のまへにすめり 19 アブラハムの子イサクの傳は左のごとしアブラハム、イサクを生じ 20 イサク四十歳にしてリベカを妻に娶れりリベカはパダンアラムのスリア人ベトエルの女にしてスリア人ラバンの妹なり 21 イサク其妻の子なきに因て之がためにエホバに祈願をたてければエホバ其ねがひを聽たまへり遂に其妻リベカ孕みしが 22 其子腹の内に争そひければ然らば我いかで斯てあるべきとて往てエホバに問に 23 エホバ彼に言たまひけるは二の國民汝の胎にあり二の民汝の腹より出て別れん一の民は一の民よりも強かるべし大は小に事へんと 24 かくて臨月みちて見しに胎には學ありき 25 先に出たる者は赤くして躰中裘の如し其名をエサウと名けたり 26 其後に弟出たるが其手にエサウの踵を持ち其

名をヤコブとなづけたりリベカが彼等を生じし時イサクは六十歳なりき 27 茲に童子人となりしがエサウは巧なる獵人にして野の人となりヤコブは質樸なる人にして天幕に居るとなれり 28 イサクは鷹を嗜によりてエサウを愛したりしがリベカはヤコブを愛したり 29 茲にヤコブ羹を煮たり時にエサウ野より來りて憊れ居り 30 エサウ、ヤコブにむかひ我憊れたれば請ふ其紅羹其處にある紅羹を我にのませよといふ是をもて彼の名はエドム(紅)と稱らる 31 ヤコブ言けるは今日汝の家督の權を我に鬻れ 32 エサウいふ我は死んとして居る此家督の權我に何の益をなさんや 33 ヤコブまた言けるは今日我に誓へと彼すなはち誓て其家督の權をヤコブに鬻ぬ 34 是に於てヤコブ、パンと扁豆の羹とをエサウに與へければ食且飲て起て去り斯エサウ家督の權を親視したり

Chapter 26

1 アブラハムの時にありし最初の饑饉の外に又其國に饑饉ありければイサク、ゲラルに往てペリシテ人の王アビメレクの許にいたれり 2 時にエホバ彼にあらはれて言たまひけるはエジプトに下るなかれ吾汝に示すところの地にをれ 3 汝此地にとどまれ我汝と共にありて汝を祝まふ我是等の國を盡く汝および汝の子孫に與へ汝の父アブラハムに誓ひたる誓言を行ふべし 4 われ汝の子孫を増て天の星のごとくなし汝の子孫に凡て是等の國を與へん汝の子孫によりて天下の國民皆福祉を獲べし 5 是はアブラハムわが言に順ひわが職守とわが誠命とわが憲法とわが律法を守りしに因てなり 6 イサク乃ちゲラルに居しが 7 處の人其妻の事をとへば我妹なりと言ふリベカは觀に美麗かりければ其處の人リベカの故をもて我を殺さんと謂て彼をわが妻と言をおそれたるなり 8 イサク久しく彼處にをりし後一日ペリシテ人の王アビメレク 禰より望みてイサクが其妻リベカと嬉戲を見たり 9 是に於てアビメレク、イサクを召て言けるは彼は必ず汝の妻なり汝なんぞ吾妹といひしやイサク彼に言けるは恐くは我彼のために死るならんと思たればなり 10 アビメレクいひけるは汝なんぞ此事を我等にすや民の一人もし輕々しく汝の妻と寝ることあらんその時は汝罪を我等に蒙らしめんと 11 アビメレク乃ちすべて民に皆命じて此人と其妻にさはるものは必ず死すべしと言ひ 12 イサク彼地に播種其年間に百倍を獲たりエホバ彼を祝みたまふ 13 其人夫になりゆきて進て盛になり遂に甚だ大なる者となれり 14 即ち羊と牛と僕従を多く有しかばペリシテ人彼を嫉みたり 15 其父アブラハムの世に其父の僕従が掘たる諸の井はペリシテ人之をふさぎて土を之にみたり 16 茲にアビメレク、イサクに言けるは汝は大に我等よりも強大ければ我等をはなれて去れと 17 イサク乃ち彼處をさしてゲラルの谷に天幕

を張て其處に住り 18 其父アブラハムの世に掘たる水井をイサク茲に復び鑿り其はアブラハムの死たる後ペリシテ人之を塞ぎたればなり斯してイサク其父が之に名けたる名をもて其名となせり 19 イサクの僕谷に掘て其處に泉の湧出る井を得たり 20 ゲラルの牧者此水は我儕の所屬なりといひてイサクの僕と争ひければイサク其井の名をエセク(競争)と名けたり彼等が己と之を競争たるによりてなり 21 是に於て又他の井を鑿しが彼等はも争ひければ其名をシテナ(敵)となづけたり 22 イサク乃ち彼處より遷りて他の井を鑿けるが彼等之をあらそはざりければ其名をレホボテ(廣場)と名けて言けるは今エホバ我等の處所を廣くしたまへり我等此地を繁衍ん 23 斯て彼其處よりベエルシバにのぼりしが 24 其夜エホバ彼にあらはれて言たまひけるは我は汝の父アブラハムの神なり懼るなかれ我汝と偕にありて汝を祝み我僕アブラハムのために汝の子孫を増ん 25 是に於て彼處に壇を築きてエホバの名を籲び天幕を彼處に張り彼處にてイサクの僕井を鑿り 26 茲にアビメレク其友アホザテ及び其軍勢の長ビコルと共にゲラルよりイサクの許に來りければ 27 イサク彼等に言ふ汝等は我を惡み我をして汝等をはなれて去らしめたるなるに何ぞ我許に來るや 28 彼等いひけるは我等確然にエホバが汝と偕にあるを見れば我等の間即ち我等と汝の間に誓詞を立て汝と契約を結ばんと謂へり 29 汝我等に惡事をなすなかれ其は我等は汝を害せず只善事のみを汝になし且汝を安然に去しめればなり 汝はエホバの祝みたまふ者なり 30 イサク乃ち彼等のために酒宴を設けたれば彼等食ひ且飲り 31 斯て朝夙に起て互に相誓へり而してイサク彼等を去しめれば彼等イサクをはなれて安然にかへりぬ 32 其日イサクの僕來りて其ほりたる井につきて之に告て我等水を得たりといへり 33 即ち之をシバとなづく此故に其邑の名は今日までベエルシバ(誓詞の井)といふ 34 エサウ四十歳の時へて人の女ユデテとへて人エロンの女バスマテを妻に娶り 35 彼等はイサクとリベカの心の愁煩となれり

Chapter 27

1 イサク老て目くもりて見るあたはざるに及びて其長子エサウを召て之に吾子よといひければ答へて我此にありといふ 2 イサクいひけるは視よ我は今老て何時死るやを知らず 然ば請ふ汝の器汝の弓矢を執て野に出てわがために鷹を獵て 4 わが好む美味を作り我にもちきたりて食はしめよ我死るまへに心に汝を祝せん 5 イサクが其子エサウに語る時にリベカ聞たりエサウは鷹を獵て携きたらんとて野に往り 6 是に於てリベカ其子ヤコブに語りていひけるは我聞たるに汝の父汝の兄エサウに語りて言けらく 7 吾ために鷹をとりきたり美味を製りて我にくはせよ死るまへに我エホバの前にて汝を祝せんと

8 然ば吾子よ吾言にしたがひわが汝に命ずることくせよ 9 汝群畜の所にゆきて彼處より山羊の二箇の善き羔を我にとりきたれ我之をもて汝の父のために其好む美味を製らん 10 汝之を父にもちゆきて食しめ其死る前に汝を祝せしめよ 11 ヤコブ其母リベカに言けるは兄エサウは毛深き人にして我は滑澤なる人なり 12 恐くは父我に捫ることあらん然らば我は欺く者と父に見えんされば祝をえざして返て呪詛をまねかん 13 其母彼にいひけるは我子よ汝の詛はるる所は我に歸せん只わが言にしたがひ往て取來れと 14 是において彼往て取り母の所にもちきたりければ母すなはち父の好むところの美味を製れり 15 而してリベカ家の中に己の所にある長子エサウの美服をとりて之を季子ヤコブに衣せ 16 又山羊の羔の皮をもて其手と其頸の滑澤なる處とを掩ひ 17 其製りたる美味とパンを子ヤコブの手にわたせり 18 彼乃ち父の許にいたりて我父よといひければ我此にありわが子よ汝は誰なると曰ふ 19 ヤコブ父にいひけるは我は汝の長子エサウなり我汝が我に命じたるごとくなせり請ふ起て坐しわが鷹の肉をくらひて汝の心に我を祝せよ 20 イサク其子に言けるは吾子よ汝がいかにして斯速に獲たるや彼言ふ汝の神エホバ之を我にあはせたまひしが故なり 21 イサク、ヤコブにいひけるはわが子よ請ふ近くよれ我汝に捫て汝がまことに吾子エサウなるや否やをしらん 22 ヤコブ父イサクに近よりければイサク之にさしていひけるは聲はヤコブの聲なれども手はエサウの手なりと 23 彼の手其兄エサウの手のごとく毛深かりしに因て之を辨別せずして遂に之を祝したり 24 即ちイサクいひけるは汝はまことに吾子エサウなるや彼然りといひければ 25 イサクいひけるは我に持きたれ吾子の鷹を食ひてわが心に汝を祝せんと是に於てヤコブ彼の許にもちきたりければ食へり又酒をもちきたりければ飲り 26 かくて父イサク彼にいひけるは吾子よ近くよりて我に接吻せよと 27 彼すなはち近よりて之に接吻しければ其衣の馨香をかぎて彼を祝していひけるは嗚呼吾子の香はエホバの祝たまへる野の馨香のごとし 28 ねがはくは神天の露と地の腴および饑多の穀を汝にたまへ 29 諸の民汝につかへ諸の邦汝に躬を鞠ん汝兄弟等の主となり汝の母の子等汝に身をかがめん汝を詛ふ者はのろはれ汝を祝す者は祝せらるべし 30 イサク、ヤコブを祝せることを終てヤコブ父イサクの前より出さりし時にあたりて兄エサウ獵より歸り來り 31 己も亦美味をつくりて之を其父の許にもちゆき父にいひけるは父よ起て其子の鷹を食ひて心に我を祝せよ 32 父イサク彼にいひけるは汝は誰なるや彼いふ我は汝の子汝の長子エサウなり 33 イサク甚大に戰兢ていひけるは然ば彼鷹を獵て之を我にもちきたりし者は誰ぞや我汝がきたるまへに諸の物を食ひて彼を祝したれば彼まことに祝福をうべし 34 エサウ父の言を聞て大に哭き痛く泣て父にいひけるは父よ我を祝

せよ我をも祝せよ 35 イサク言けるは汝の弟偽りて来り汝の祝を奪ひたり 36 エサウいひけるは彼をヤコブ(推除者)となづくは宜ならずや彼が我をおしのぐる事此にて二次なり昔にはわが家督の權を奪ひ今はわが祝を奪ひたり又言ふ汝は祝をわがために残しおかざりしや 37 イサク對てエサウにいひけるは我彼を汝の主となし其兄弟を悉く僕として彼にあたへたり又穀と酒とを彼に授けたり然ば吾子よ我何汝になすをえん 38 エサウ父に言けるは父よ父の祝唯一ならんや父よ我を祝せよ我をも祝せよと聲をあげて哭ぬ 39 父イサク答て彼にいひけるは汝の住所は地の膏腴にはなれ上よりの天の露にはなるべし 40 汝は劍をもて世をわたり汝の弟に事ん然ど汝繋を離る時は其軛を汝の頸より振りおとすを得ん 41 エサウ父のヤコブを祝したる其祝の爲にヤコブを惡めり即ちエサウ心に謂けるは父の喪の日近ければ其時我弟ヤコブを殺さんと 42 長子エサウの此言リベカに聞えければ季子ヤコブを呼よせて之に言けるは汝の兄エサウ汝を殺さんとおもひて自ら慰む 43 されば吾子よ我言にしたがひ起てハランにゆきわが兄ラバンの許にのがれ 44 汝の兄の怒の釋るまで暫く彼とともに居れ 45 汝の兄の鬱憤釋て汝をはなれ汝彼になしたる事を忘るにいたらば我人をやりて汝を彼處よりむかへん我何ぞ一日のうちに汝等二人を喪ふべけんや 46 リベカ、イサクに言けるは我はヘテの女等のために世を厭ふにいたるヤコブ若此地の彼女等の如きヘテの女の中より妻を娶らば我身生るも何の利益あらんや

Chapter 28

1 イサク、ヤコブを呼て之を祝し之に命じて言けるは汝カナンの中より妻を娶るなかれ 2 起てパダンアラムに往き汝の母の父ベトエルの家にいたり彼處にて汝の母の兄ラバンの女の中より妻を娶れ 3 願くは全能の神汝を祝み汝をして子女を多く得せしめ且汝の子孫を増て汝をして多衆の民とならしめ 4 又アブラハムに賜んと約束せし祝を汝および汝と共に汝の子孫に賜ひ汝をして神がアブラハムにあたへ給ひし汝が寄寓る地を持たしめたまはんことをと 5 斯てイサク、ヤコブを遣しければパダンアラムにゆきてラバンの所にいたれりラバンはスリア人ベトエルの子にしてヤコブとエサウの母なるリベカの兄なり 6 エサウはイサクがヤコブを祝して之をパダンアラムにつかはし彼處より妻を娶しめんとしたるを見又之を祝し汝はカナンの女の中より妻をめとるなかれといひて之に命じたることを見 7 又ヤコブが其父母の言に順ひてパダンアラムに往しを見たり 8 エサウまたカナンの女の其父イサクの心になはぬを見たり 9 是においてエサウ、イシマエルの所にゆきて其有る妻の外に又アブラハムの子イシマエルの女ネバヨテの妹マハラテを妻にめとれり 10

茲にヤコブ、ベエルシバより出たちてハランの方におもむきけるが 11 一處にいたれる時日暮たれば即ち其處に宿り其處の石をとり枕となして其處に臥て寝たり 12 時に彼夢て梯の地にたちあて其巔の天に達れるを見又神の使者の其にのぼりくだりするを見たり 13 エホバ其上に立て言たまはく我は汝の祖父アブラハムの神イサクの神エホバなり汝が偃臥ところの地は我之を汝と汝の子孫に與へん 14 汝の子孫は地の塵沙のごとなりて西東北南に蔓るべし又天下の諸の族汝と汝の子孫によりて福祉をえん 15 また我汝とともにありて凡て汝が往ところにて汝をまもり汝を此地に率返るべし我はわが汝にかたりし事を行ふまで汝をはなれざるなり 16 ヤコブ目をさまして言けるは誠にエホバ此處にいますに我しらざりきと 17 乃ち惶懼ていひけるは畏るべき哉此處是即ち神の殿の外ならず是天の門なり 18 かくてヤコブ朝夙に起き其枕となしたる石を取り之を立て柱となし膏を其上に沃ぎ 1 9 眞處を名をベテル(神殿)と名けたり其邑の名は初はルズといへり 20 ヤコブ乃ち誓をたてていひけるは若神我とともにいまし此わがゆく途にて我をまもり食ふパンと衣る衣を我にあたへ 21 我をしてわが父の家に安然に歸ることを得せしめたまはばエホバをわが神となさん 22 又わが柱にたてたる此石を神の家となさん又汝がわれにたまふ者は皆必ず其十分の一を汝にささげん

Chapter 29

1 斯てヤコブ其途にすすみて東の民の地にいたりて 2 見るに野に井ありて羊の群三其傍に臥たり此井より群に飲へばなり大なる石井の口におり 3 羊の群皆其處に集る時に井の口より石をまらばして羊に水飼ひ復故のごとく井の口に石をのそおくなり 4 ヤコブ人々に言けるは兄弟よ奚よりきたれるや彼等いふ我等はハランより来る 5 ヤコブ彼等にいひけるは汝等ナホルの子ラバンをしるや彼等識といふ 6 ヤコブ又かれらにいひけるは彼は安きや彼等いふ安し視よ彼の女ラケル羊と偕に來ると 7 ヤコブ言ふ視よ日尚高し家畜を聚むべき時にあらず羊に飲ひて往て牧せよ 8 彼等いふ我等しかする能はず群の皆聚るに及て井の口より石をまらばして羊に飲ふべきなり 9 ヤコブ尚彼等と語れる時にラケル父の羊とともに來る其は之を牧居たればなり 10 ヤコブ其母の兄ラバンの女ラケルおよび其母の兄ラバンの羊を見しかばヤコブ進みよりて井の口より石をまらばし母の兄ラバンの羊に飲ひたり 11 而してヤコブ、ラケルに接吻して聲をあげて啼哭ぬ 12 即ちヤコブ、ラケルに己はその父の兄弟にしてリベカの子なることを告げれば彼はしりゆきて父に告たり 13 ラバン其妹の子ヤコブの事を聞しかば趨ゆきて之を迎へ之を抱きて接吻し之を家に導きいたれりヤコブすなはち此等の事を悉くラバンに述たり 14 ラバン

彼にいひけるは汝は誠にわが骨肉なりとヤコブ一月の間彼とともに居る 15 茲にラバン、ヤコブにいひけるは汝はわが兄弟なればとて空く我に役事べけんや何の報酬を望むや我に告よ 16 ラバン二人の女子を有り姉の名はレアといひ妹の名はラケルといふ 17 レアは目弱かりしがラケルは美しくて姝し 18 ヤコブ、ラケルを愛したれば言ふ我汝の季女ラケルのために七年汝に事ん 19 ラバンいひけるは彼を他の人にあたふるよりも汝にあたふるは善し我と偕に居れ 20 ヤコブ七年の間ラケルのために勤たりしが彼を愛するが爲に此を數日の如く見做り 21 茲にヤコブ、ラバンに言けるはわが期滿たればわが妻をあたへて我をしてかれの處にいることを得せしめよ 22 是に於てラバン處の人を盡く集めて酒宴を設けたりしが 23 晩に及びて其女レアを携へて此をヤコブにつれ來れりヤコブ即ち彼の處にいりぬ 24 ラバンまた其侍婢ジルバを娘レアに與へて侍婢となさしめたり 25 朝にいたりて見るにレアなりしかばヤコブ、ラバンに言けるは汝なんぞ此事を我になしたるや我ラケルのために汝に役事しにあらざるや汝なんぞ我を欺くや 26 ラバンいひけるは姉より先に妹を嫁しむる事は我國にて爲ざるところなり 27 其七日を過せ我等是をも汝に與へん然ば汝是がために尚七年我に事へて勤むべし 28 ヤコブ即ち斯にして其七日をすごせしかばラバン其女ラケルをも之にあたへて妻となさしむ 29 またラバン其侍婢ビルバを女ラケルにあたへて侍婢となさしむ 30 ヤコブまたラケルの所にいりぬ彼レアよりもラケルを愛し尚七年ラバンに事たり 31 エホバ、レアの嫌るを見て其胎をひらきたまへり然どラケルは妊なきものなりき 32 レア孕みて子を生子其名をルベンと名けていひけるはエホバ誠にわが艱苦を顧みたまへりされば今夫我を愛せんと 33 彼ふたたび孕みて子を産みエホバわが嫌るを聞たまひしによりて我に是をもたまへりと言て其名をシメオンと名けたり 34 彼また孕みて子を生子我三人の子を生たれば夫今より我に膠漆んといへり是によりて其名をレビと名けたり 35 彼復妊みて子を生子我今エホバを讚美んといへり是によりて其名をユダと名けたり是にいたりて産ことやみぬ

Chapter 30

1 ラケル己がヤコブに子を産ざるを見て其姉を夢みヤコブに言けるは我に子を與へよ然らば我死んと 2 ヤコブ、ラケルにむかひて怒を發して言ふ汝の胎に子をよどらしめざる者は神なり我神に代るをえんや 3 ラケルいふ吾婢ビルバを視よ彼の處に入れ彼子を生てわが膝に置ん然ば我もまた彼によりて子をうるにいたらん 4 其仕女ビルバを彼にあたへて妻となさしめたりヤコブ即ち彼の處にいる 5 ビルバ遂にはらみてヤコブに子を生ければ 6 ラケルいひけるは神我を監視亦わが聲を聴いて吾

に子をたまへりと是によりて其名をダンと名けたり 7 ラケルの仕女ビルバ再び姘みて次の子をヤコブに生ければ 8 ラケル我神の争をもて姉と争ひて勝めといひて其名をナフタリと名けたり 9 茲にレア産ことと止たるを見しかば其仕女ジルバをとりて之をヤコブにあたへて妻となさしむ 10 レアの仕女ジルバ、ヤコブに子を産ければ 11 レア福來れりといひて其名をガドと名けたり 12 レアの仕女ジルバ次子をヤコブに生ければ 13 レアいふ我は幸なり女等我を幸なる者となさんと其名をアセルとなづけたり 14 茲に麥茹の日にルベン出ゆきて野にて戀茄を獲これを母レアの許にもちきたりければラケル、レアにいひけるは請ふ我に汝の子の戀茄をあたへよ 15 レア彼にいひけるは汝のわが夫を奪しは微き事ならんや然るに汝またわが子の戀茄をも奪んとするやラケルいふ然ば汝の子の戀茄のために夫は夜汝と寝べし 16 晩におよびてヤコブ野より來りければレア之を以てむかへて言けるは我誠にわが子の戀茄をもて汝を雇ひたれば汝我の所にいらざるべからずヤコブ即ち其彼夜といねたり 17 神レアに聽たまひければ彼妊みて第五の子をヤコブに生子 18 レアいひけるは我わが仕女を夫に與へれば神我に其値をたまへりと其名をイツサカルと名けたり 19 レア復妊みて第六の子をヤコブに生子 20 レアいひけるは神我に嘉費を賜ふ我六人の男子を生たれば夫今より我と偕にすまんと其名をゼブルンとなづけたり 21 其後彼女子を生み其名をデナと名けたり 22 茲に神ラケルを念ひ神彼に聽て其胎を開きたまひければ 23 彼妊みて男子を生て曰ふ神わが恥辱を洒ぎたまへりと 24 乃ち其名をヨセフと名けて言ふエホバ又其の子を我に加へたまはん 25 茲にラケルのヨセフを生むに及びてヤコブ、ラバンに言けるは我を歸して故郷に我國に往しめよ 26 わが汝に事て得たる所の妻子を我に與へて我を去しめよわが汝になしたる役事は汝之を知るなり 27 ラバン彼にいひけるは若なんぢの意にかなはばねがはくは留れ我エホバが汝のために我を祝みしをトひ得たり 28 又言ふ汝の望む値をのべよ我之を與ふべし 29 ヤコブ彼にいひけるは汝は如何にわが汝に事しか如何に汝の家畜を牧しかを知る 30 わが來れる前に汝の有たる者は鮮少なりしが増て遂に群をなすに至る吾來りてよりエホバ汝を祝みたまへり然ども我は何時吾家を成にいたらんや 31 彼言ふ我何れ汝に與へんかヤコブいひけるは汝何者をも我に與ふるに及ばず汝若此事を我になさば我復汝の群を牧守らん 32 即ち我今日徧く汝の群をゆきめぐりて其中より凡て斑なる者點なる者を移し綿羊の中の凡て黒き者を移し山羊の中の點なる者と斑なる者を移さん是わが値なるべし 33 後に汝來りてわが備値をしらぶる時わが義我にかはりて應をなすべし若わが所に山羊の斑ならざる者點ならざる者あり綿羊の黒からざる者あらば皆盜る者となすべし 34 ラバンいふ汝の言の如くなさ

んことを願ふ 35 是に於て彼其日牡山羊の斑入なる者斑點なる者を移し凡て牝山羊の斑駁なる者斑點なる者都て身に白色ある者を移し又綿羊の中の凡て黒き者をして其子等の手に付せり 36 而して彼己とヤコブの間に三日程の隔をたてたりヤコブはラバンの餘の群を牧ふ 37 茲にヤコブ楊柳と楓と桑の青枝を執り皮を剥て白紋理を成り枝の白き所をあらはし 38 其皮をはぎたる枝を群の來りて飲むところの水槽と水鉢に立て群に向はしめ群をして水のみの來る時に孕ましむ 39 群すなはち枝の前に孕みて斑入の者斑駁なる者斑點なる者を産しかば 40 ヤコブ其羔羊を區分ちラバンの群の面を其群の斑入なる者と黒き者に對はしめたりしが己の群をば一所に置てラバンの群の中にいれざりき 41 又家畜の壯健き者孕みたる時はヤコブ水槽の中にて其家畜の目の前に彼枝を置き枝の傍において孕ましむ 42 然ど家畜の羸弱ある時は之を置ずるに因て羸弱者はラバンのとなり壯健者はヤコブのとなり 43 是に於て其人大人に富饒になりて多の家畜と婢僕および駱駝驢馬を有にいたれり

Chapter 31

1茲にヤコブ、ラバンの子等がヤコブわが父の所有を盡く奪ひ吾父の所有によりて此凡の榮光を獲たりといふを聞き 2亦ヤコブ、ラバンの面を見るに己に對すること曠昔の如くならず 3時にエホバ、ヤコブに言たまへるは汝の父の國にかへり汝の親族に至れ我汝と偕にをらん 4是に於てヤコブ人をやりてラケルとレアを野に招きて群の所に至らしめ 5之にいひけるは我汝等の父の面を見るに其我に對すること曠昔の如くならず然どわが父の神は我と偕にいますなり 6汝等がしるごとく我力を竭して汝らの父に事へたるに 7汝等の父我を欺きて十次もわが値を易たり然ども神彼の我を害するを容したまはず 8彼斑駁なる者は汝の儻値なるべしといへば群の生ところ皆斑駁なり斑入の者は汝の値なるべしといへば群の生ところ皆斑入なり 9斯神汝らの父の家畜を奪て我に與へたまへり 10 群の孕む時に當りて我夢に目をあけて見しに群の上に乘る牡羊は皆斑入の者斑駁なる者白點なる者なり 11 時に神の使者夢の中に我に言ふヤコブよと我此にありと對へければ 12 乃ち言ふ汝の目をあけて見よ群の上に乘る牡羊は皆斑入の者斑駁なる者白點なる者なり我ラバンの凡て汝に爲すところを鑿みる 13 我はベテルの神なり汝彼處にて柱に膏を沃ぎ彼處にて我に誓を立たり今起て斯地を出て汝の親族の國に歸れと 14ラケルとレア對て彼にいひけるは我等の父の家に尚われらの分あらんや我等の産業あらんや 15 我等は父に他人のごとくせらるるにあらざるや其は我父等を賣り亦我等の金を蝕減したればなり 16 神わが父より取たまひし財寶は我等とわれらの子女の所屬なり然ば都て神の汝に言たま

ひし事を爲せ 17 是に於てヤコブ起て子等と妻等を駱駝に乗せ 18 其獲たる凡の家畜と凡の所有即ちバダンアラムにてみづから獲たるところの家畜を携へ去て所におもむけり 19 時にラバンは羊の毛を剪んとて往てありラケル其父のテラピムを竊めり 20 ヤコブは其去ことをスリア人ラバンに告ずして潛に忍びいでたり 21 即ち彼その凡の所有を挈へて逃去り起て河を渡りギレアデの山におむかふ 22ヤコブの逃去しこと三日におよびてラバンに聞えければ 23 彼兄弟を率てその後を追ひしが七日路をへてギレアデの山にて之に追及ぬ 24 神夜の夢にスリア人ラバンに臨みて汝慎みて善も惡もヤコブに道なかれと之に告たまへり 25 ラバン遂にヤコブに追及しがヤコブは山に天幕を張みたればラバンもその兄弟と共にギレアデの山に天幕をはれり 26 而してラバン、ヤコブに言けるは汝我が知りしに忍びいで吾女を劍をもて執たる者のごとくにひきわり何ぞかかる事をなすや 27 何故に汝潛に逃さり我をはなれて忍いで我につげざりしや我歡喜と歌謠と戯と琴をもて汝を送りしならんを 28 何ぞ我をしてわが孫と女に接吻するを得ざらしめしや汝愚妄なる事をなせり 29 汝等に害をくはふるの能わが手にあり然ど汝等の父の神昨夜我に告て汝つつしみて善も惡もヤコブに語べからずといへり 30 汝今父の家を甚く戀て歸んと願ふは善れども何ぞわが神を竊みたるや 31 ヤコブ答へてラバンにいひけるは恐くは汝強て女を我より奪ならんと思ひて懼れたればなり 32 汝の神を持つ者を見ば之を生しおくなかれ我等の兄弟等の前にて汝の何物我の許にあるかをみわけて之を汝に取れと其はヤコブ、ラケルが之を竊しを知らざればなり 33 是に於てラバン、ヤコブの天幕に入りレアの天幕に入りまた二人の婢の天幕にいりしが視いださざればレアの天幕を出てラケルの天幕にいる 34 ラケル已にテラピムを執て之を駱駝の鞍の下にいれて其上に坐しければラバン遍く天幕の中をさぐりたれども見いださざりき 35 時にラケル父にいひけるは婦女の經の習例の事わが身にあれば父の前に起あたはず願くは主之を怒り給ふなれとは是をもて彼さがしたれども遂にテラピムを見いださざりき 36 是に於てヤコブ怒てラバンを謫即ちヤコブ應てラバンに言けるは我何の愆あり何の罪ありてか汝火急く我をおふや 37 汝わが物を盡く索たると汝の家何物を見いだしたるや此にわが兄弟と汝の兄弟の前に其を置て我等二人の間をさばかしめよ 38 我この二十年汝とともにありしが汝の牝綿羊と牝山羊其胎を殖ねしごとくなし又汝の群の牡綿羊は我食はざりき 39 又曠裂れたる者は我これを汝の所に持きたらずして自ら之を補へり又晝竊るも夜竊るも汝わが手より之を要めたり 40 我は是ありつ晝は晝に夜は寒に犯されて目も寐るの違なく 41 此二十年汝の家にありたり汝の二人の女の爲に十四年汝の群のために六年

汝に事たり然に汝は十次もわが値を易たり 42 若わが父の神アブラハムの神イサクのの畏む者我とともにいますにあらざれば汝今必ず我を空手にて去しめしならん神わが苦難とわが手の勞苦をかへりみて昨夜汝を責たまへるなり 43 ラバン應てヤコブに言けるは女等はわが女子等はわが子群はわが群汝が見る者は皆わが所屬なり我今日此わが女等とその生たる子等に何をなすをえんや 44 然ば來れ我と汝二人契約をむすび之を我と汝の間で證憑となすべし 45 是に於てヤコブ石を執りこれを建て柱となせり 46 ヤコブ又その兄弟等に石をあつめよといひければ即ち石をとりて埕を成れり斯て彼等彼處にて埕の上に食す 47 ラバン之をエガルサハドタ(證憑の埕)と名けヤコブ之をギレアデ(證憑の埕)と名けたり 48 ラバン此埕今日われとなんぢの間の證憑たりといひしによりて其名はギレアデと稱らるる 49 又ミツバ(觀望樓)と稱らるる其は彼我等が互にわがるるに及べる時わがはくはエホバ我と汝の間を監みたまへといひたればなり 50 彼又いふ汝もしわが女をなやまし或はわが女のほかに妻をめとらば人の我らと偕なる者なきも神と汝のあひだにいまて證をなしたまふ 51 ラバン又ヤコブにいひ我われとなんぢの間にたてたる此埕を視よ柱をみよ 52 此埕證とならん柱證とならん我この埕を越て汝を害せし汝この埕この柱を越て我を害せざれ 53 アブラハムの神ナホルの神彼等の父の神われらの間を竊きたまへとヤコブ乃ちその父イサクの畏む者をして誓へり 54 斯てヤコブ山にて犠牲をささげその兄弟を招きてパンを食しむ彼等パンを食ひて山に宿れり 55 ラバン朝暁に起き其孫と女に接吻して之を祝せりしかしてラバンゆきて其所にかへりぬ

Chapter 32

1茲にヤコブその途に進みしが神の使者これにあふ 2 ヤコブこれを見て是は神の陣營なりといひてその處の名をマハナム(二營)となづけたり 3 かくてヤコブ己より前に使者をつかはしてセイルの地エドムの野にをる其兄エサウの所にいたらしむ 4 即ち之に命じて言ふ汝等かくわが主エサウにいふべし汝の僕ヤコブ斯いふ我ラバンの所に寄寓て今までとどまり 5 我牛驢馬羊僕婢あり人をつかはしてわが主に告ぐ汝の前に恩をえんことを願ふなりと 6 使者ヤコブにかへりて言けるは我等汝の兄エサウの許に至りて彼四百人をしたげて汝をむかへんとて來ると 7 是によりヤコブ大におそれ且くるしみ己とともにある人衆および羊と牛と駱駝を二隊にわかちて 8 言けるはエサウもし一の隊に來りて之をうたば遺れたところの一隊逃るべし 9 ヤコブまた言けるはわが父アブラハムの神わが父イサクの神エホバよ汝嘗て我につけて汝の國にかへり汝の親族に到れ我なんぢを善せんといひたまへり 10 我はなんぢが僕にほどこした

まひし恩恵と眞實を一も受るにたらざるなり我わが杖のみを持ってこのヨルダンを濟りしが今は二隊とも成にいたれり 11 願くはわが兄の手よりエサウの手より我をすくひいだしたまへ我彼をおそる恐くは彼きたりて我をうち母と子とに及ばん 12 汝は嘗て我かならず汝を恵み汝の子孫を濱の沙の多して數ふべからざるが如くなさんといひたまへり 13 彼その夜彼處に宿りその手にいりし物の中より兄エサウへの禮物をえらべり 14 即ち牝山羊二百牡山羊二十牝羊二百牡羊二十 15 乳駱駝と其子三十牝牛四十牡牛十牝の驢馬二十驢馬の子十 16 而して其群と群とをわかちて之を僕の手授し僕にいひけるは先に先ち進み群と群との間を隔ておくべし 17 又その前に命じて言けるはわが兄エサウ汝にあひ汝に問て汝は誰の人にして何處にゆくや是汝のまへなる者は誰の所有なるやといはば 18 汝の僕ヤコブの所有にしてわが主エサウにたてまつる禮物なり汝をよめわれらの後にをるといふべしと 19 彼かく第二の者第三の者および凡て群々にしたがひゆく者に命じていふ汝等エサウにあふ時はかくの如く之にいふべし 20 且汝等いへ視よなんぢの僕ヤコブわれらの後にをるとヤコブおもへらく我わが後におくる禮物をもて彼を和めて然るのち其面を觀ん然ば彼われを接遇することあらんと 21 是によりて禮物かれに先ちて行く彼は其夜陣營の中に宿りしが 22 其夜およびて二人の妻と二人の仕女および十一人の子を導きてヤボクの渡をわたれり 23 即ち彼等をみちびきて川を渉らしめ又その有る物を渡せり 24 而してヤコブ一人遺りしが人ありて夜の明るまでと角力す 25 其人己のヤコブに勝ざるを見てヤコブの髀の樞骨に觸しかばヤコブの髀の樞骨其人と角力する時挫離たり 26 其人夜明んとすれば我をさらしめよといひければヤコブいふ汝われを祝せざらばさらしめずと 27 是に於て其人かれにいふ汝の名は何なるや彼いふヤコブなり 28 其人いひけるは汝の名は重てヤコブとなふべからずイスラエルとなふべし其は汝神と人とに力をあらそひて勝たればなりと 29 ヤコブ問て請ふ汝の名を告よといひければ其人何故にわが名をとふやといひて乃ち其處にて之を祝せり 30 是を以てヤコブその處の名をベニエル(神の面)となづけて曰ふ我面と面をあはせて神とあひ見てわが生命なほ存るなりと 31 斯て彼日のためる時にベニエルを過たりしが其髀の樞骨に歩行はかどらざりき 32 是故にイスラエルの子孫は今日にいたるまで髀の樞の巨筋を食はず是彼人がヤコブの髀の巨筋に觸たるによりてなり

Chapter 33

1爰にヤコブ目をあげて視にエサウ四百人をひきみて來しかば即ち子等を分ちてレアとラケルと二人の仕女とに付し 2 仕女とその子等を前におきレアとその子等を次におきラ

ケルとヨセフを後におきて3自彼等の前に進み七度身を地にかがめて遂に兄に近づけるに4エサウ趨てこれを迎へ抱きてその頸をかかへて之に接吻すしかして二人ともに啼泣り5エサウ目をあげて婦人と子等を見ていひけるは是等の汝とともになる者は誰なるやヤコブいひけるは神が僕に授たまひし子なりと6時に仕女等その子とともに近よりて拜し7レアも亦その子とともに近よりて拜す其後にヨセフとラケルちかよりて拜す8エサウ又いひけるは我あへる此諸の群は何のためなるやヤコブいふ主の目の前に恩を獲んがためなり9エサウいひけるは弟よわが有ところの者は足り汝の所有は汝自ら之を有てよ10ヤコブいひけるは否我もし汝の目の前に恩をえたらんは請ふわが手よりこの禮物を受よ我汝の面をみるに神の面をみるがごとくなり汝また我をよろこぶ11神我をめぐりたまひてわが有ところの者足りされば請ふわが汝にたてまつる禮物を受よと彼に強ければ終に受たり12エサウいひけるは我等いでたちてゆかん我汝にさきだつべし13ヤコブ彼にいひけるは主のしりたまふごとく子等は幼弱し又子を持つ羊と牛と我にしたがふ若一日これを驅すごさば群みな死ん14請ふわが主僕にさきだちて進みたまへ我はわが前にゆくところの家畜と子女に足にまかせて徐に導きすすみセイルにてわが主に詣らん15エサウいひけるは然ば我わがひきある人数人を汝の所にこのさんヤコブいひけるは何ぞ此を須んや我をして主の目の前に恩を得せしめよ16是に於てエサウは此日その途にしたがひてセイルに還りぬ17斯てヤコブ、スコテに進みて己のために家を建て又家畜のために廬を作れり是によりて其處の名をスコテ(廬)といふ18ヤコブ、バダンアラムより來りて恙なくカナン地のあるシケムの邑に至り邑の前にその天幕を張り19遂にその天幕をはりしところの野をシケムの父ハモルの子等の手により金百枚にて購とり20彼處に壇をきづきて之をエル、エロへ、イスラエル(イスラエルの神なる神)となづけたり

Chapter 34

1レアのヤコブに生たる女デナその國の婦女を見んとていでゆきしが2その國の君主なるヒビ人ハモルの子シケムこれを見て之をひきいれこれと寝てこれを辱しむ3而してその心ふかくヤコブの女デナを戀ひて彼女を愛しこの女の心をいひなむ4斯てシケムその父ハモルに語り此少き女をわが妻に獲よといへり5ヤコブ彼がその女子デナを汚したることを聞しかどもその子等家畜を牧て野にけしによりて其かへるまでヤコブ黙しめたり6シケムの父ハモル、ヤコブの許にいできたてり之と語らふ7茲にヤコブの子等野より來りしが之を聞しかば其人々憂へかつ甚く怒れり是はシケムがヤコブの女と寝てイスラエルに愚なる事をなし

たるに因り是のごとき事はなすべからざる者なればなり8ハモル彼等に語りていひけるはわが子シケム心になんぢの女を戀ふぬがはくは彼をシケムにあたへて妻となさしめよ9汝ら我らと婚姻をなし汝らの女を我らにあたへ我らの女汝らに娶れ10かくして汝等われらとともに居るべし地は汝等の前にあり此に住て貿易をなし此にて産業を獲よ11シケム又デナの父と兄弟等にいひけるは我をして汝等の目のまへに恩を獲せしめよ汝らが我にいひてくる者は我あへん12いかに大なる聘物と禮物を要るも汝らがわれに言ふごとくあたへん唯この女を我にあたへて妻となさしめよ13ヤコブの子等シケムとその父ハモルに詭りて答へたり即ちシケムがその妹デナを汚したるによりて14彼等これに語りていひけるは我等この事を爲あたはず割禮をうけざる者にわれらの妹をあたるあたはず是われらの恥辱なればなり15然ど斯せば我等汝らに允さん若し汝らの中の男子みな割禮をうけてわれらの如くならば16我等の女子を汝等にあたへ汝らの女子をわれらに娶り汝らと偕にをりて一の民とならん17汝等もし我等に聽ずして割禮をうけざれば我等女子をとりて去べしと18彼等の言ハモルとハモルの子シケムの心にかなへり19此若き人ヤコブの女を愛するによりて其事をなすを遅せざりき彼はその父の家の中に最貴れたる者なり20ハモルとその子シケム乃ちその邑の門にいたり邑の人々に語りていひけるは21是人々は我等と睦し彼等をして此地に住て此に貿易をなさしめよ地は廣くして彼らを容るにたるなり我ら彼らの女を妻にめとり我らの女をわれらに與へん22若唯われらの中の男子みな彼らが割禮をうけるとく割禮を受なば此人々われらに聽て我等と偕にをり一の民となるべし23然ばかれらの家畜と財産と其諸の畜は我等が所有となるにあらざるや只かれらに聽んしからば彼らわれらとともにをるべしと24邑の門に出入する者みなハモルとその子シケムに聽したがひ邑の門に出入する男子皆割禮を受たり25斯て三日におよび彼等その痛をおぼゆる時ヤコブの子二人即ちデナの兄弟なるシメオンとレビ各劍をとり往て思よらざる時に邑を襲ひ男子を悉く殺し26利刃をもてハモルとその子シケムをころしシケムの家よりデナを携へいでたり27而してヤコブの子等ゆきて其殺されし者を剃ぎ其邑をかすめたり是は彼等がその妹を汚したるによりてなり28またその羊と牛と驢馬およびその邑にある者と野にある者29並にその諸の貨財を奪ひその子女と妻等を悉く擄にし家の中なる物を悉く掠めたり30ヤコブ、シメオンとレビに言けるは汝等我を累はし我をして此國の人即ちカナン人とペリジ人の中に避嫌れしむ我は數すくなければ彼ら集りて我をせめ我をころさん然ば我とわが家滅さるべし31彼らいふ彼豈われらの妹を娼妓のごとくしてよからんや

Chapter 35

1茲に神ヤコブに言たまひけるは起てベテルにのぼりて彼處に居り汝が昔に兄エサウの面をさけて逃る時に汝にあらはれし神に彼處にて壇をきづけと2ヤコブ乃ちその家人および凡て己とともなる者にいふ汝等の中にある異神を棄て身を清めて衣服を易よ3我等起てベテルにのぼらん彼處にて我わが苦患の日に我に應へわが往ところの途にて我とともに在せし神に壇をきづくべし4是に於て彼等その手にある異神およびその耳にある耳環を盡くヤコブに與へしかばヤコブこれをシケムの邊なる橡樹の下に埋たり5斯て彼等いでたちしが神其四周の邑々をして懼れしめたまひければヤコブの子の後を追ふ者なかりき6ヤコブ及び之と共にある諸の人遂にカナン地のあるルズに至る是即ちベテルなり7彼かしこに壇をきづき其處をエルベテルと名けたり是は兄の面をさけて逃る時に神此にて己にあらはれ給しによりてなり8時にリベカの乳媪デボラ死たれば之をベテルの下にて橡樹の下に葬れり是によりてその樹の名をアロンバクテ(哀哭の橡)といふ9ヤコブ、バダンアラムより歸りし時神復これにあらはれて之を祝したまふ10神かれに言たまはく汝の名はヤコブといふ汝の名は重てヤコブとよぶべからずイスラエルを汝の名となすべしとその名をイスラエルと稱たまふ11神また彼にいひたまふ我は全能の神なり生よ殖よ國民および多の國民汝よりいで又王等なんぢの腰よりいでん12わがアブラハムおよびイサクに與し地は我これを汝にあたへん我なんぢの後の子孫にその地をあたふべしと13神かれと言たまひし處より彼をはなれて昇りたまふ14是に於てヤコブ神の己と言ひたまひし處に柱すなはち石の柱を立て其上に酒を灌ぎまた其上に膏を沃げり15而してヤコブ神の己にもいひたまひし處の名をベテルとなづけたり16かくてヤコブ等ベテルよりいでたちしがエフラタに至るまでは尚路の隔ある處にてラケル産にのぞみその産おもかりき17彼難産にのぞめる時産婆之にいひけるは懼るなかれ汝また此男の子を得たり18彼死にのぞみてその魂さらんとする時その子の名をベニ(吾苦痛の子)と呼たり然ど其父これをベニヤミン(右手の子)となづけたり19ラケル死てエフラタの途に葬る是即ちベテレヘムなり20ヤコブその墓に柱を立たり是はラケルの墓の柱といひて今日まで在り21イスラエル復いでたちてエタルの塔の外にその天幕を張り22イスラエルかの地に住る時にルベン往て父の妾ビルハと寝たりイスラエルこれを聞くと夫ヤコブの子は十二人なり23即ちレアの子はヤコブの長子ルベンおよびシメオン、レビ、ユダ、イッサカル、ゼブルンなり24ラケルの子はヨセフとベニヤミンなり25ラケルの仕女ビルハの子はダンとナフタリなり26レアの仕女ジルバの子はガドとアセルなり是等は

ヤコブの子にしてバダンアラムにて彼に生れたる者なり27ヤコブ、キリアテアルバのママレにゆきてその父イサクに至れり是すなはちヘbronなり彼處はアブラハムとイサクの寄寓しところなり28イサクの齡は百八十歳なりき29イサク老て年滿ち氣息たえ死にて其民にくははれりその子エサウとヤコブ之をうむる

Chapter 36

1エサウの傳はかくのごとしエサウはすなはちエドムなり2エサウ、カナン地の女の中より妻をめとり即ちヘテ人エロンの女アダおよびヒビ人ヂベオンの女なるアナの女アホリバマ是なり3又イシマエルの女ネバヨテの妹バスマテをめとり4アダはエリパズをエサウに生みバスマテはリウエルを生み5アホリバマはエウシ、ヤラムおよびコラを生り是等はエサウの子にしてカナン地に於て彼に生れたる者なり6エサウその妻と子女およびその家の諸の人並に家畜と諸の畜類およびそのカナン地に於て獲たる諸の物を擧へて弟ヤコブをはなれて他の地にゆけり7其は二人の富有多くして俱にをるあたはざればなり彼らが寄寓しところの地はかれらの家畜のためにかれらを容るをえざりき8是に於てエサウ、セイル山に住りエサウはすなはちエドムなり9セイル山にをりしエドミ人の先祖エサウの傳はかくのごとし10エサウの子の名は左のごとしエサウの妻アダの子はエリパズ、エサウの妻バスマテの子はリウエル11エリパズの子はテマン、オマル、ゼボ、ガタムおよびケナズなり12テムナはエサウの子エリパズの妾にしてアマレクをエリパズに生り是等はエサウの妻アダの子なり13リウエルの子は左の如しナハテ、ゼラ、シヤンおよびミザ等はエサウの妻バスマテの子なり14ヂベオンの女なるアナの女にしてエサウの妻なるアホリバマの子は左のごとし彼エウシ、ヤラムおよびコラをエサウに生り15エサウの子孫の侯たる者は左のごとしエサウの家子エリパズの子にはテマン侯オマル侯ゼボ侯ケナズ侯16コラ侯ガタム侯アマレク侯是等はエリパズよりいでたる侯にしてエドムの地にありき是等はアダの子なり17エサウの子リウエルの子は左のごとしナハテ侯ゼラ侯シヤン侯ミザ侯是等はリウエルよりいでたる侯にしてエドムの地にありき是等はエサウの妻バスマテの子なり18エサウの妻アホリバマの子は左のごとしエウシ侯ヤラム侯コラ侯是等はアナの女にしてエサウの妻なるアホリバマよりいでたる侯なり19是等はエサウすなはちエドムの子孫にしてその侯たる者なり20素より此地に住しホリ人セイルの子は左のごとしロタン、シヨバル、ヂベオン、アナ21デシヨ、エゼル、デシヨ是等はセイルの子ホリ人の中の侯にしてエドムの地にあり22ロタンの子はホリ、ヘママなりロタンの妹はテムナ

23 シヨバルの子は左のごとしアルワン、マナハテ、エバル、シボ、オナム 24 チベオンの子は左のごとし即ちアヤとアナ此アナその父チベオンの驢馬を牧をりし時曠野にて温泉を發見り 25 アナの子は左のごとしデシヨンおよびアホリバマ、アホリバマはアナの女なり 26 デシヨンの子は左のごとしヘムダン、エシバン、イテラン、ケラン 27 エゼルの子は左のごとしビルハン、ザワン、ヤカン 28 デシヤンの子は左のごとしウヅ、アラン 29 ホリ人の侯たる者は左のごとしロタン侯シヨバル侯チベオン侯アナ侯 30 デシヨン侯エゼル侯デシヤン侯是等はホリ人の侯にしてその所領したがひてセイルの地にあり 31 イスラエルの子孫を治むる王いまだあらざる前にエドムの地を治めたる王は左のごとし 32 ペオルの子ペラ、エドムに王たりその都の名はデナバといふ 33 ペラ薨てボヅラのゼラの子ヨバブ之にかはりて王となる 34 ヨバブ薨てテマン人の地のホシヤムこれにかはりて王となる 35 ホシヤム薨てベダデの子ハダデの子ハダこれに代て王となる彼モアブの野にてミデアン人を撃しことあり其邑の名はアピテといふ 36 ハダデ薨てマスレカのサムラこれにかはりて王となる 37 サラム薨て河の旁なるレホボテのサウル之にかはりて王となる 38 サウル薨てアクボルの子パアルハンこれに代りて王となる 39 アクボルの子パアルハン薨てハダル之にかはりて王となる其都の名はパウといふその妻の名はメヘタベルといひてマテレデの女なりマテレデはメザハブの女なり 40 エサウよりいてたる侯の名はその宗族と居處と名に循ひていへば左のごとしテムナ侯アルワ侯エテノン侯 41 アホリバマ侯エラ侯ビノン侯 42 ケナズ侯テマン侯ミヅガル侯 43 マグデエル侯イラム侯是等はエドムの侯にして其領地の居處によりて言る者なりエドム人の先祖はエサウなり

Chapter 37

1 ヤコブはカナンに地に住り即ちその父が寄寓し地なり 2 ヤコブの傳は左のごとしヨセフ十七歳にしてその兄弟と偕に羊を牧ふヨセフは童子にしてその父の妻ビルハの子およびシラの子と偕たりしが彼等の悪き事を父につぐ 3 ヨセフは老年子なるが故にイスラエルその諸の兄弟よりも深くこれを愛しこれがために緑の衣を製れり 4 その兄弟等父がその諸の兄弟よりも深く彼を愛するを見て彼を惡み穢和に彼にもものいふことを得せざりき 5 茲にヨセフ夢をみてその兄弟に告げれば彼等愈これを惡めり 6 ヨセフ彼等にいひけるは請ふわが夢たる此夢を聽け 7 我等田の中に禾束をむすび居たるにわが禾束おき且立り而して汝等の禾束環りたてわが禾束を拜せり 8 その兄弟等にいひけるは汝眞にわれらの君となるや眞に我等をささむるにいたるやとその夢とその言のために益これを

惡めり 9 ヨセフ又一の夢をみて之をその兄弟に述いひけるは我また夢をみたるに日と月と十一の星われを拜せりと 10 則ちこれをその父と兄弟に述べれば父かれを戒めて彼にいふ汝が夢しこの夢は何ぞや我と汝の母となんちの兄弟と實にゆきて地に鞠て汝を拜するにいたらんやと 11 斯しかばその兄弟かれを嫉めり然どその父はこの言をおぼえたり 12 茲にその兄弟等シケムにゆきて父の羊を牧ふたりしかば 13 イスラエル、ヨセフにいひけるは汝の兄弟はシケムにて羊を牧をるにあらざるや來れ汝を彼等につかはさんヨセフ父にいふ我ここにあり 14 父かれにいひけるは請ふ往て汝の兄弟と群の恙なきや否を見てかへりて我につげよと彼をヘブロン谷より遣はしければ遂にシケムに至る 15 或人かれに遇ふに彼野にさまよひをりしかば其人かれに問て汝何をたづぬるやといひければ 16 彼いふ我はわが兄弟等をたづぬ請ふかれらが羊をかひをる所をわれに告よ 17 その人いひけるは彼等は此をされり我かれらがドタンにゆかんといふを聞たりと是に於てヨセフその兄弟の後をおひゆきドタンにて之に遇ふ 18 ヨセフの彼等に近かざる前に彼ら之を遙に見てこれを殺さんと謀り 19 互にいひけるは視よ作夢者きたる 20 去來彼をころして阱に投げられ或惡き獸これを食たりと言ん而して彼の夢の如何なるかを觀るべし 21 ルベン聞てヨセフを彼等の手より拯ぎださんとて言けるは我等これを殺すべからず 22 ルベンまた彼らにいひけるは血をながすなかれ之を曠野の此阱に投げりて手をこれにつくるなかれと是は之を彼等の手よりすくひだして父に歸んとしてなりき 23 茲にヨセフ兄弟の許に到りければ彼等ヨセフの衣即ちその着たる緑の衣を褌ぎ 24 彼を執て阱に投げりたり阱は空にしてその中に水あらざりき 25 斯して彼等坐てパンを食ひ目をあげて見しに一群のイシマエル人駱駝に香物と乳香と没薬をおはせてエジプトにくだりゆかんとてギレアデより來る 26 ヨダその兄弟にいひけるは我儕弟をころしてその血を匿すも何の益かあらん 27 去來彼をイシマエル人に賣ん彼は我等の兄弟われらの肉なればわれらの手をかれにつくべからずと兄弟等これを善とす 28 時にミデアンの商旅經過ければヨセフを阱よりひきあげ銀二十枚にてヨセフをイシマエル人に賣り彼等すなはちヨセフをエジプトにたづさへゆき 29 茲にルベンかへりて阱にいひ見しにヨセフ阱にをらざりしかばその衣を裂き 30 兄弟の許にかへりて言ふ童子はをらず嗚呼我何處にゆくべきや 31 斯て彼等ヨセフの衣をとり牡山羊の羔をころしてその衣を血に濡し 32 その緑の衣を父におくり遣していひけるは我等これを得たりなんちの子の衣なるや否を知れと 33 父これを知りていふわが子の衣なり惡き獸彼をくらへりヨセフはかならずさかれしならんと 34 ヤコブその衣を裂き麻布を腰にまとい久くそののためになげけり 35 その子女みな起てかれ

を慰むれどもその慰謝をうけずして我は哀きつつ陰府にくだりて我子のもとにゆかんといふ斯その父かれのために哭ぬ 36 諸ミデアン人はエジプトにてパロの侍衛の長ポテバルにヨセフを賣り

Chapter 38

1 當時ユダ兄弟をはなれて下りアドラム人名はヒラといふ者の近邊に天幕をはりしが 2 ヨダかしてにてカナン人名はシユアといふ者の女子を見これを買てその所に在る 3 彼はらみて男子を生みければユダその名をエルとなづく 4 彼ふたたび孕みて男子を生みその名をオナンとなづけ 5 またかきねて孕みて男子を生みてその名をシラとなづく 6 ヨダその長子エルのために妻をむかふその名をタマルといふ 7 ヨダの長子エル、エホバの前に惡をなしたればエホバこれを死しめたまふ 8 茲にユダ、オナンにいひけるは汝の兄の妻の所にいりて之をめり汝の兄をして子をえせしめよ 9 オナンその子の己のものとなざるを知らば兄の妻の所にいりし時兄に子をえせしめざらんために地に洩したり 10 斯なせし事エホバの目に惡かりければエホバ彼をも死しめたまふ 11 ヨダその媳タマルにいひけるは姪婦となりて汝の父の家にをりわが子シラの人となるを待てと恐らくはシラも亦その兄弟のごとく死するならんとおもひたればなりタマルすなはち往てその父の家にをる 12 日かさなりて後シユアの女ユダの妻死たりユダ慰をいれてその友アドラム人ヒラとともにテムナにのぼりその羊毛を剪る者の所にいたる 13 茲にタマルにつけて視よなんちの鬘はその羊の毛を剪んとてテムナにのぼるといふ者ありしかば 14 彼その褻の服を脱して被衣をもて身をおほひつつみテムナの途の側にあるエナイムの入口に坐す其はシラ人となりたれども己これが妻にせられざるを見ればなり 15 彼その面を蔽ひたりしかば 16 ヨダこれを見て姪婦ならんとおもひ 16 途の側にて彼に就き請ふ來りて我をして汝の所にいらしめよといふ其はその子の妻なるをしらざればなり彼いひけるは汝何を我にあたへてわが所にいらんとするや 17 ヨダいひけるは我群より山羊の羔をおくるん彼いふ汝其をおくるまで質をあたへんか 18 ヨダ何の質をなんぢに與ふべきやといふに彼汝の印と綬と汝の手の杖をといひければ即ちこれを與へて彼の所にいりぬ彼ユダに由て姪めり 19 彼起て去りその被衣をぬぎすて姪婦の服をまとふ 20 かくてユダ婦の手より質をとらんとてその友アドラム人の手に托して山羊の羔をおくりけるが彼婦を見れば 21 その處の人に問て途の側なるエナイムの娼妓は何處にをるやといふに此には娼妓なしといひければ 22 ヨダの許にかへりていふ我彼を見いださず亦その處の人此には娼妓なしといへりと 23 ヨダいひけるは彼にとらせおけ恐く

はわれら笑柄とならん我この山羊の羔をおくりたるに汝かれを見ざるなりと 24 三月ばかりありて後ユダに告る者ありていふ汝の媳タマル姪淫をなせり亦その姪淫によりて姪めりユダいひけるは彼を曳いだして焚べし 25 彼ひきいだされし時その鬘にいひつかはしけるは是をもてる人によりて我は姪りと彼すなはち請ふこの印と綬と杖は誰の所屬なるかを辨別よといふ 26 ヨダこれを見識ていひけるは彼は我よりも正しわれ彼をわが子わがシラにあたへざりしによりてなりと再びこれを知らざりき 27 かくて産の時にいたりて見るにその胎に孳あり 28 その産時手出しかば産婆是首にいづといひて緋き線をとてその手にしはりしが 29 手を引こむるにあたりて兄弟いでたれば汝なんぞ圻いづるやその圻汝に歸せんといへり故にその名はペレヅ(圻)と稱る 30 その兄弟手に緋線のある者後にいづその名はゼラとよばる

Chapter 39

1 ヨセフ擧へられてエジプトにくだりしがエジプト人ポテバル、パロの臣侍衛の長なる者彼を其處にたづさへくだれるイシマエル人の手よりこれを買ふ 2 エホバ、ヨセフとともに在す彼享通者となりてその主人なるエジプト人の家にをる 3 その主人エホバの彼とともにいますを見またエホバがかれの手の凡てなすところを享通しめたまふを見たり 4 是によりてヨセフ彼の心にかなひて其近侍となる彼ヨセフにその家を宰たらしめその所有を盡くその手に委たり 5 彼ヨセフにその家とその有る凡の物をつかさどらせし時よりしてエホバ、ヨセフのために其エジプト人の家を祝いたまふ即ちエホバの祝福かれが家と田に有る凡の物におよぶ 6 彼その有る物をことごとくヨセフの手にゆたねその食ふパンの外は何もかへりみざりき夫ヨセフは容貌麗しくして顔美しかりき 7 これらの事の後その主人の妻ヨセフに目をつけて我と寝よといふ 8 ヨセフ拒みて主人の妻にいひけるは視よわが主人の家の中の物をかへりみずその有るものごとくわが手に委ぬ 9 この家には我よりも大なるものなし又主人何も我に禁せず只汝を除くのみ汝はその妻なればなり然ば我いか此おほいなる惡をなして神に罪ををさすえんや 10 彼日々にヨセフに言よりたれどもヨセフきかずして之といねず亦與にをらざりき 11 當時ヨセフその職をなさんとて家にいりしが家の一箇もその内にをらざりき 12 時に彼婦その衣を執て我といねよといひければヨセフ衣を彼の手に棄おきて外に遁いでたり 13 彼ヨセフがその衣を己の手に棄おきて遁いでしを見て 14 その家の人々を呼てこれにいひ視よへブル人を我等の所にこれ來て我等にたはむれしむ彼我といねんとて我の所にいり來しかば我大聲によばはれり 15 彼わが聲をあげて呼はるを聞しかばその衣をわが許にすておきて外に遁いでたりと 16

其衣を傍に置いて主人の家に歸るを待つ 17 かくて彼は言のごとく主人につけていふ汝が我らに携へきたりしヘブルの僕われにたはむれんとて我許にいりきたりしが 18 我聲をあげてよばりしかばその衣を我許にすておきて遁いれたり 19 主人その妻が己につけて汝の僕斯のごとく我になせりといふ言を聞て怒を發せり 20 是に於てヨセフの主人彼を執へて獄に在る其獄は王の囚徒を繋ぐ所なりヨセフ彼處にて獄に在りしが 21 エホバ、ヨセフとともに在して之に仁慈を加へ典獄の恩顧をこれにえさせたまひければ 22 典獄獄にある囚人をことごとくヨセフの手に付せたり其處になす所の事は皆ヨセフこれをなすなり 23 典獄そのまかせたる所の事は何もかもへりみざりき其はエホバ、ヨセフとともにいませばなりエホバかれのなすところをさかえしめたまふ

Chapter 40

1 これらの事の後エジプト王の酒人と膳夫その主エジプト王に罪をかす 2 パロその二人の臣すなはち酒人の長と膳夫の長を怒りて 3 之を侍衛の長の家の中なる獄に幽囚ふヨセフが繋れる所なり 4 侍衛の長ヨセフをして彼等の側に侍しめればヨセフ之につかふ彼等幽囚て日を經たり 5 茲に獄に繋れたるエジプト王の酒人と膳夫の二人ともに一夜の中に各夢を見たりその夢はおのおのおのその解明にかなふ 6 ヨセフ朝に及びて彼等の所に入て視るに彼等物憂に見ゆ 7 是に於てヨセフその主人の家に己とともに幽囚をるパロの臣に問て汝等なにゆゑに今日は顔色あやしきやといふに 8 彼等これにいふ我等夢を見たれど之を解く者なしとヨセフ彼等にいひけるは解く事は神によるにあらざるや請ふ我に述よ 9 酒人の長その夢をヨセフに述て之にいふ我夢の中に見しにわが前に一の葡萄樹あり 10 その樹に三の枝あり芽いで花ひらきて葡萄なり球をなして熟たるがごとくなりき 11 時にパロの爵わが手にあり我葡萄を摘てこれをパロの爵に搾りその爵をパロの手に奉たり 12 ヨセフ彼にいひけるはその解明は是のごとし三の枝は三日なり 13 今より三日の中にパロなんぢの首を擧げ汝を故の所にかけさん汝は曩に酒人たりし時になせし如くパロの爵をその手に奉くるにいたらん 14 然ば請ふ汝善ならん時に我をおもひて我に恩恵をほどこし吾事をパロにのべてこの家よりわれを出せ 15 我はまことにヘブル人の地より掬れ來しものなればなりまた此にて我は牢にいられぬるがごとき事はなさざりしなり 16 茲に膳夫の長その解明の善りしを見てヨセフにいふ我も夢を得て見たるに白きパン三箇わが首にありて 17 その上の箇には膳夫がパロのために作りたる各種の饌ありしが鳥わが首の箇の中より之をくらへり 18 ヨセフこたへていひけるはその解明はかくのごとし三の箇は三日なり 19 今より三日の中にパ

ロ汝の首を擧げはなして汝を木に懸んしかして鳥汝の肉をくらひとるべしと 20 第三日はパロの誕辰なればパロその諸の臣僕に筵席をなし酒人の長と膳夫の長をして首をその臣僕の中に擧しむ 21 即ちパロ酒人の長をその職にかへしければ彼爵をパロの手に奉たり 22 されど膳夫の長は木に懸らるヨセフの彼等に解明せるがごとし 23 然るに酒人の長ヨセフをおぼえずして之を忘れたり

Chapter 41

1 二年の後パロ夢ることあり即ち河の濱にたちて 2 視るに七の美しき肥たる牝牛河よりのぼりて草を食ふ 3 その後また七の醜き瘦たる牛河よりのぼり河の畔にて彼牛の側にたちしが 4 その醜き瘦たる牛かのみ美しき肥たる七の牛を食ひつくせりパロ是にいたりて寤む 5 彼また寢て再び夢るに一の莖に七の肥たる佳き穂いできたる 6 其のちに又しなびて東風に焼たる七の穂いできたりしが 7 その七のしなびたる穂かの七の肥實りたる穂を吞盡せりパロ寤て見に夢なりき 8 パロ朝におよびてその心安からず人をつかはしてエジプトの法術士とその博士を皆ことごとく召し之にその夢を述たり然ど之をパロに解うる者なかりき 9 時に酒人の長パロに告ていふ我今日々が過をおもひつ 10 嘗てパロその僕を怒りて我と膳夫の長を侍衛の長の家に幽囚へたまひし時 11 我と彼ともに一夜のうちに夢み各その解明にかなふ夢をみたりしが 12 彼處に侍衛の長の僕なる若きヘブル人我らと偕にあり我等これのべたれば彼われらの夢を解その夢にしたがひて各人に解明をなせり 13 しかして其事かれが解たるとくなりて我はわが職にかへり彼は木に懸らる 14 是に於てパロ人を作りてヨセフを召しければ急ぎてこれを獄より出せりヨセフすなはち髭を薙り衣をかへてパロの許にいり来る 15 パロ、ヨセフにいひけるは我夢をみたれど之をとく者なし聞に汝は夢をきて之を解くことをうると云ふ 16 ヨセフ、パロにこたへていひけるは我よるにあらざるパロの平安を告たまはん 17 パロ、ヨセフにいふ我夢に河の岸にたちて見るに 18 河より七の肥たる美しき牝牛のぼりて草を食ふ 19 後また弱く甚だ醜き事エジプト全國にわが未だ見るほどなり 20 その瘠たる醜き牛初の七の肥たる牛を食ひつくしたりしが 21 己に腹にいりても其腹にいりし事しれず尚前のごとく醜かりき我是にいたりて寤めたり 22 我また夢に見るに七の實たる佳き穂一の莖にいできたる 23 その後またいぢげ萎びて東風にやけたる七の穂生じたりしが 24 そのしなびたる穂かの七の佳穂を吞つて我これを法術士に告たれどもわれにこれをしめすものなし 25 ヨセフ、パロにいひけるはパロの夢は一なり神その爲んとする所をパロに示したまへるなり 26 七の美牝牛は七年七の佳穂も七年にして夢は

一なり 27 其後にのぼりし七の瘠たる醜き牛は七年にしてその東風にやけたる七の空穂は七年の饑饉なり 28 是はわがパロに申すところなり神そのなさんとすることをパロにしめたまふ 29 エジプトの全地に七年の大なる豊年あるべし 30 その後七年の凶年おこらん而してエジプトの地にありし豊作を皆忘るにいたるべし饑饉國を滅さん 31 後にいたるその饑饉はなほだはげしきにより前の豊作國の中に知れざるにいたらん 32 パロのふたたび夢をかさね見たまひしは神がこの事をさだめて速に之をなさんとしたまふなり 33 さればパロ慧く賢き人をえらみて之にエジプトの國を治めしめたまふべし 34 パロこれをなし國中に官吏を置てその七年の豊年の中にエジプトの國の五分の一を取たまふべし 35 而して其官吏をして來らんとするその善き年の諸の糧食を斂めてその穀物をパロの手に蓄へしめ糧食を邑々にかこはしめたまふべし 36 その糧食を國のために畜藏へおきてエジプトの國にのぞむ七年の饑饉に備へ國をして饑饉のために滅ざらしむべし 37 パロとその諸の臣僕此事を善とす 38 是に於てパロその臣僕にいふ我等神の靈のやどれる是のごとき人を見いだすをえんやと 39 しかしてパロ、ヨセフにいひけるは神是を盡く汝にしめたまひたれば汝のごとく慧く賢き者なかるべし 40 汝わが家を宰るべしわが民みな汝の口にしたがはん唯位においてのみ我は汝より大なるべし 41 パロ、ヨセフにいひけるは視よ我汝をエジプト全國の冢宰となすと 42 パロすなはち指環をその手より脱して之をヨセフの手にはめ之を白布を衣せ金の索をその項にかけ 43 之をして己のもてる次の輅に乘しめ下にあよと其前に呼しむるは彼をエジプト全國の冢宰となせり 44 パロ、ヨセフにいひけるは我はパロなりエジプト全國に汝の允准をえずして手足をあぐる者なかるべしと 45 パロ、ヨセフの名をザフナテパネアと名けまたオンの祭司ポテバルの女アセナテを之にあたへて妻となさしむヨセフいでてエジプトの地をめぐる 46 ヨセフはエジプトの王パロのまへに立し時三十歳なりきヨセフ、パロのまへを出て過くエジプトの地を巡れり 47 七年の豊年の中に地山なして物を生ず 48 ヨセフすなはちエジプトの地にありしその七年の糧食を斂めてその糧食を邑々に藏む即ち邑の周圍の田圃の糧食を其邑の中に藏む 49 ヨセフ海隅の沙のごとく甚だ多量糧食を儲へ遂に數ふことをやむるに至る其は數かぎり無ればなり 50 饑饉の歳のいたらざる前にヨセフに二人の子うまる是はオンの祭司ポテバルの女アセナテの生たる者なり 51 ヨセフその冢子の名をマナセ(忘)となづけて言ふ神我をしてわが諸の苦難とわが父の家の凡の事をわすれしめたまふと 52 又次の子の名をエフライム(多く生る)となづけていふ神われをしてわが艱難の地にて多くの子をえせしめたまふと 53 爰にエジプトの國の七年の豊年をはり 54 ヨセフの言しごとく七年の

凶年きたりはじむその饑饉は諸の國にあり然どエジプト全國には食物ありき 55 エジプト全國饑し時民さげびてパロに食物を乞ふパロ、エジプトの諸の人にいひけるはヨセフに住け汝等にいひふところをなせと 56 饑饉全地の面にありヨセフすなはち諸の倉廩をひらきてエジプト人に賣わたせり饑饉ますますエジプトの國にはげしくなる 57 饑饉諸の國にはげしくなりしかば諸國の人エジプトにきたりヨセフにいたりて穀物を買ふ

Chapter 42

1 ヤコブ、エジプトに穀物あるを見しかばその子等にいひけるは汝等なんぞたがひに面を見あはするや 2 ヤコブまたいふ我エジプトに穀物ありと聞り彼處にくだりて彼處より我等のために買きたれ然らばわれら生るを得て死をまぬかれんと 3 ヨセフの十人の兄弟エジプトにて穀物をかはんとて下りゆけり 4 されどヨセフの弟ベニヤミンはヤコブこれをその兄弟とともに遣さざりきおそらくは災難かとの身にのぞむことあらんと思たればなり 5 イスラエルの子等穀物を買んとて來る者とともに來る其はカナンの地に饑饉ありたればなり 6 時にヨセフは國の總督にして國の凡の人に賣くことをなせりヨセフの兄弟等來りてその前に地に伏て拜す 7 ヨセフその兄弟を見てこれを知たれども知ざる者のごとくして荒々しく之にもいふ即ち彼等に汝等は何處より來れるやといへば彼等いふ糧食を買んためにカナンの地より來れり 8 ヨセフはその兄弟をしりたれども彼等はヨセフをしらざりき 9 ヨセフその昔に彼等の事を夢たる夢を憶いだし彼等に言けるは汝等は問者にして此國の隙を窺んとて來るなり 10 彼等之にいひけるはわが主よ然らず唯糧食をかはんとて僕等は來れるなり 11 我等はみな一箇の人の子にして篤實なる者なり僕等は問者にあらず 12 ヨセフ彼等にいひけるは否汝等は此地の隙を窺んとて來るなり 13 彼等いひけるは僕等は十二人の兄弟にしてカナンの地の一箇の人の子なり季子は今日父とともにをる又一人はをらずなりぬ 14 ヨセフかれらにいひけるはわが汝等につけて汝等は問者なりといひしはこの事なり 15 汝等斯してその眞實をあかずべしパロの生命をさして誓ふ汝等の末弟ここに來るにあらざれば汝等は此をいづるをえじ 16 汝等の一人をやりて汝等の弟をつれきたらしめよ汝等をば繋ぎおきて汝等の言をためし汝らの中に眞實なる者ならば汝らの兄弟の一人をしてこの獄に繋しめ汝等は穀物をたづさへゆきてなんぢらの家々の饑をすくへ 20 但し汝らの末弟を我につれきたるべし

すればなんぢらの言の眞實あらはれて汝等死をまぬかるべし彼等すなはち斯なせり 21 茲に彼らたがひに言けるは我等は弟の事によりて信に罪あり彼等は彼が我らに只管にねがひし時にその心の苦を見ながら之を聴ざりき故にこの苦われらにのぞめるなり 22 ルベンかれらに對ていひけるは我なんぢらにいひて童子に罪ををかすなかれといひしにあらずや然るに汝等きかざりき是故に視よ亦彼の血をながせし罪をたださると 23 彼等はヨセフが之を解するをしらざりき其は互に通辨をもちひたればなり 24 ヨセフ彼等を離れゆきて哭き復かれらにかへりて之とかり遂にシメオンを彼らの中より取りその目のまへにて之を縛れり 25 而してヨセフ命じてその器に穀物をみためし其人々の金を囊に返さしめ又途の食を之にあたへしむヨセフ斯かれらになせり 26 彼等すなはち穀物を驢馬におはせて其處をさりしが 27 其一人旅邸にて驢馬に糧を與んとて囊をひらき其金を見たり其は囊の口にありければなり 28 彼の兄弟にいひけるは吾金は返してあり視よ囊の中にありと是において彼等膽を消し懼れてたがひに神の我らになしたまふ此事は何ぞやといへり 29 かくて彼等カナンの地にかへりて父ヤコブの所にいたり其身にありし事等を悉く之につげていひけるは 30 彼國の主荒々しく我等にもいひ我らをもて國を偵ふ者となせり 31 我ら彼にいふ我等は篤實なる者なり問者にあらず 32 我らは十二人の兄弟にして同じ父の子なり一人はをらずなり季のは今日父とともにカナンの地にありと 33 國の主なるその人われらにいひけるは我かくして汝等の篤實なるをしらん汝等の兄弟の一人を吾もとにのこし糧食をたづさへゆきて汝らの家々の饑をすくへ 34 しかして汝らの季の弟をわが許につれきたれ然れば我なんぢらが問者にあらずして篤實なる者たるをしらん我なんぢらの兄弟を汝等返し汝等をしてこの國にて交易をなさしむべしと 35 茲に彼等その囊を傾たるに視よ各人の金包その囊のなかにあり彼等とその父金包を見ておそれたり 36 その父ヤコブ彼等にいひけるは汝等は我をして子を喪はしむヨセフはをらずなりシメオンをもをらずなりたるにまたベニヤミンを取んとす是みなわが身にかかるなり 37 ルベン父に告ていふ我もし彼を汝につれかへらずば吾ふたりの子を殺せば汝をわが手にわたせ我之をなんぢにつれかへらん 38 ヤコブいひけるはわが子はなんぢらとともに下るべからず彼の兄は死て彼ひとり遺たればなり若なんぢらが行ところの途にて災難かれの身におよばば汝等はわが白髪をして悲みて墓にくだらしむるにいたらん

Chapter 43

1 饑饉その地にはげしかりき 2 茲に彼等エジプトよりもちきたりし穀物を食つくせし時父かられらに再びゆきて少許の糧食を買きたれとい

ひければ 3 ユダ父にかたりていひけるは彼人がたく我等をいましめていふ汝らの弟汝らとともにあるにあらざれば汝らはわが面をみるべからずと 4 汝もし弟をわれらとともに遣さば我等下て汝のために糧食を買ふべし 5 されど汝もし汝をつかはさずば我等くだらざるべし其はかの人われらにむかひ汝等の弟なんぢらとともにあるにあらざれば汝ら吾面をみるべからずといひたればなりと 6 イスラエルいひけるは汝等なにゆゑに汝等に尚弟のあることを彼人につげて我を悪くなすや 7 彼等いふ其人われらの模様とわれらの親族を問たして汝らの父は尚生存へをるや汝等は弟をもつやといひしにより其言の條々にしたがひて彼につけたるなり我等いかでか彼が汝等の弟をつれくだれといふならんとしをえん 8 ユダ父イスラエルにいひけるは童子をわれらとともに遣はせ我等たちて往ん然らば我儕と汝およびわれらの子女生ることを得て死をまぬかるべし 9 我彼の身を保はん汝わが手にかれを問へ我もし彼を汝につれかへりて汝のまへに置ずば我永遠に罪をおはん 10 我儕もし滯滞ことなかりしならば必ずすでにゆきて再びかへりしならん 11 父イスラエル彼等にいひけるは然ば斯な汝等國の名物を器にいれ携へくだりて彼人に禮物とせよ乳香少許、蜜少許、香物、没薬、胡桃および巴旦杏 12 又手に一倍の金を取りゆけ汝等の囊の口に返しありし彼金を再び手にたづさへ行べし恐くは差謬にてありしならん 13 且また汝らの弟を擧へ起てふたたび其人の所にゆけ 14 ねがはくは全能の神その人のまへにて汝等を矜恤みその人をして汝等の他の兄弟とベニヤミンを放ちかへさしめたまはんことを若われ子に別るべくあらば別れんと 15 是に於てかの人々その禮物を執り一倍の金を手に執りベニヤミンを携へて起てエジプトにくだりヨセフの前に立つ 16 ヨセフ、ベニヤミンの彼らと偕なるを見てその家宰にいひけるはこの人々を家に導き畜を屠て備へよこの人々卓午に我とともに食をなすべければなり 17 其人ヨセフのいひしごとくなし其人この人々をヨセフの家に導けり 18 人々ヨセフの家に導かれたるによりて懼れいひけるは初めにわれらの囊にかへりてありし金の事のために我等はひきいれる是われらを抑留へて我等にせまり執へて奴隷となし且われらの驢馬を取んとするなりと 19 彼等すなはちヨセフの家宰に進みよりて家の入口にて之にかたりて 20 いひけるは主よ我等實に最初くだりて糧食を買たり 21 しかるに我等旅邸に至りて囊を啓き見るに各人の金その囊の口にありて其金の量全かりし然ば我等これを手にもちかへり 22 又糧食を買ふ他の金をも手にもちくだる我等の金を囊にいれたる者は誰なるかわれらは知ざるなり 23 彼いひけるは汝ら安ぜよ懼るなかれ汝らの神汝らの父の神財なり汝等の囊におきて汝らに賜ひしなり汝らの金は我にとどけりと遂にシメオンを彼等の所にたづさへいだせり 24 かくて

其人この人々をヨセフの家に導き水をあたへてその足を濯はしめ又その驢馬に飼草をあたふ 25 彼等其處にて食をなすなりと聞しかば禮物を調へてヨセフの日に来るをまつ 26 茲にヨセフ家にかへりしかば彼等その手の禮物を家にもちきたりてヨセフの許にいたり地に伏てこれを拜す 27 ヨセフかれらの安否をとふていふ汝等の父汝らが初にかたりしその老人は恙なきや尚いきながらへをるや 28 彼等こたへてわれらの父汝の僕は恙なくしてなほ生ながらへをるといひ身をかがめ禮をなす 29 ヨセフ目をあげてその母の子なる己の弟ベニヤミンを見ていひけるは是は汝らが初に我にかたりし汝らの若き兄弟なるや又いふわが子よ願はくは神汝をめぐみたまはんことをと 30 ヨセフその弟のために心焚るがごとくなりしかば急ぎてその泣べきところを尋ね室にいりて其處に泣り 31 而して面をあらひて出で自から抑へて食をそなへよといふ 32 すなはちヨセフはヨセフ彼等は彼等陪食するエジプト人はエジプト人と別々に之を供ふ是はエジプト人へブル人と共に食することをえざるによる其事エジプト人の穢はしとするところなればなり 33 かくて彼等ヨセフの前に坐るに長子をばその長たるにしたがひて坐らせ若き者をばその幼少にしたがひてすわらせければその人々駭きあへり 34 ヨセフ己のまへより皿を彼等に供ふベニヤミンの皿は他の人のよりも五倍おほかりきかれら飲てヨセフとともに樂めり

Chapter 44

1 茲にヨセフその家宰に命じていふこの人々の囊にその負うるほど糧食を充せ各人の金をその囊の口に置れ 2 またわが杯すなはち銀の杯を彼の少き者の囊の口に置てその穀物の金子とともにあらしめよと彼がヨセフがいひし言のごとくなせり 3 かくて夜のあるにおよびてその人々と驢馬をかへしけるが 4 かれら城邑をいでてなほ程とほかぬにヨセフ家宰にいひけるは起てかの人々の後を追ひおひつきし時之にいふべし汝らなんぞ悪をもて善にむくゆるや 5 其はわが主がもちひて飲み又用ひて常にトフ者にあらずや汝らかくなすは悪しと 6 是に於て家宰かれらにおひつきてこの言をかれらにいひければ 7 かれら之にいふ主にゆゑに是事をいひたまふや僕等きはめてこの事をなさず 8 視よ我らの囊の口にありし金はカナンの地より汝の所にもちかへり然ば我等いかで汝の主の家より金銀をぬすまんや 9 僕等の中誰の手に見あたるも其者は死べし我等またわが主の奴隷となるべし 10 彼いひけるはさらば汝らの言のごとくせん其の見あたりし者はわが奴隷となるべし汝等は咎なしと 11 是において彼等急ぎて各その囊を地におろし各その囊をひらきしかば 12 彼等すなはち索し長者よりはじめて少者にはるに杯はベニヤミンの囊にありき 13 斯有しかば彼等その衣を裂

きおのおのその驢馬に荷を負せて邑にかへる 14 しかしてユダとその兄弟等ヨセフの家にいたるにヨセフなほ其處にをりしかばその前に地に伏す 15 ヨセフかれらにいひけるは汝等がなしたるこの事は何ぞや我がのとき人は善くトフうる者なるをしらざるや 16 ユダいひけるは我等主に何をいはんや何をのべんや如何にしてわれらの正直をあらはさんや神僕等の罪を摘發したまへり然ば我等およびこの杯の見あたりし者俱に主の奴隷となるべし 17 ヨセフいひけるはきはめて然せじ杯の手に見あたりし人はわが奴隷となるべし汝等は安然に父にかへりのぼるべし 18 時にユダかれに近よりていひけるはわが主よ請ふ僕をして主の耳に一言いふをえせしめよ僕にむかひて怒を發したまふなかれ汝はパロのごとくにいますなり 19 昔にわが主僕等に問て汝等は父あるや弟あるやといひたまひしかば 20 我等主にいへり我等にわが父あり老人なり又その老年なる少者ありその兄は死てその母の遺せるは只是のみ故に父これを愛すと 21 汝また僕等にいひたまはく彼を我許につれくだり我をして之に目をつくることをえせしめよと 22 われら主にいへり童子父を離るをえず若父をはなれるならば父死べしと 23 汝また僕等にいひたまはく汝らの季の弟汝等とともに下るにあらざれば汝等ふたたびわが面を見るべからずと 24 我等すなはちなんぢの僕わが父の所にかへりのぼりて主の言をこれに告たり 25 我らの父再びゆきて少許の糧食を買きたれといひければ 26 我らいふ我らくだりゆくことをえずわれらの季の弟われらと共にあらば下りゆくべし其は季の弟われらと共にあるにあらざれば彼の人の面をみるをえざればなりと 27 なんぢの僕わが父われらにいふ汝らのしのごとく吾妻われに二人を生しが 28 その一人出てわれをはなれたれば必ず裂ころされしならんと思へり我今にいたるまで彼を見ず 29 なんぢら是を我側より取ゆかにに若災害の身におよぶあらば遂にわが白髪をして悲みて墓にくだらしむるにいたらんと 30 抑父の生命と童子の生命とは相結びてあれば我なんぢの僕わが父に歸りいたらん時に童子もしわれらと共に在らずば如何ぞや 31 父童子の在ざるを見れば死るにいたらん然れば僕等なんぢの僕われらの父の白髪をして悲みて墓にくだらしむるなり 32 僕わが父に童子の事を保て我もし是を汝につれかへらずば永久に罪を父に負んといへり 33 されば請ふ僕をして童子にかはりて主の奴隷とならしめ童子をしてその兄弟とともに歸りのぼらしめたまへ 34 我いかでか童子を伴はずして父の許に上りゆくべけん恐くは災害の父におよぶを見ん

Chapter 45

1 茲にヨセフその側にたてる人々のまへに自ら禁ぶあたはざるに至りければ人皆われを離れてよと呼

はれり是をもてヨセフが己を兄弟にあかしたる時一人も之とともにたつものなかりき 2 ヨセフ聲をあげて泣りエジプト人これを聞きバロの家またこれを聞く 3 ヨセフすなはちその兄弟にいひけるは我はヨセフなりわが父はなほ生ながらへるやと兄弟等その前に愕き懼れて之にこたふるをえざりき 4 ヨセフ兄弟にいひけるは請ふ我にちかよれとかれらすなはち近よりければ言ふ我はなんぢらの弟ヨセフなんぢらがエジプトにうりたる者なり 5 されど汝等我をここに賣しをもて憂ふるなかれ身を恨るなかれ神生命をすくはしめんとて我を汝等の前につかはしたまへるなり 6 この二年のあひだ饑饉國の中にありしが尚五年の間耕すことも獲こともなかるべし 7 神汝等の後を地につかへんため又大なる救をもて汝らの生命を救はんために我を汝等の前に遣したまへり 8 然ば我を此につかはしたる者は汝等にはあらず神なり神われをもてバロの父となしその全家の主となしエジプト全國の宰となしたまへり 9 汝等いそぎ父の許にのぼりゆきて之にいへ汝の子ヨセフかく言ふ神われをエジプト全國の主となしたまへりわが所にくだれ遅疑なかれ 10 汝ゴセンの地に住べし 汝汝と汝の子と汝の子の子およびなんぢの羊と牛並に汝のすべて有ところの者われの近方にあるべし 11 なほ五年の饑饉あるにより我其處にてなんぢを養はん 汝となんぢの家族およびなんぢの凡て有ところの者匱乏ならん 12 汝等の目とわが弟ベニヤミンの目の視るごとく汝等にこれをいふ者はわが口なり 13 汝等わがエジプトにて亨る顯榮となんぢらが見たる所とを皆悉く父につげよ 汝ら急ぎて父を此にみちびき下るべし 14 而してヨセフその弟ベニヤミンの頸を抱へて哭にベニヤミンもヨセフの頸をかかへて哭く 15 ヨセフ亦その諸の兄弟に接吻し之をいだきて哭く是のち兄弟等ヨセフと言ふ 16 茲にヨセフの兄弟等きたれりといふ聲バロの家にきこえければバロとその臣僕これを悦ぶ 17 バロすなはちヨセフにいひけるは汝の兄弟に言べし汝等かく爲せ汝等の畜に物を負せ往てカナンの地に至り 18 なんぢらの父となんぢらの家族を携へて我にきたれなんぢらにエジプトの地の嘉物をあたへん 汝等國の膏腴を食ふことをうべしと 19 今汝命をうく汝等かく爲せ汝等エジプトの地より車を取ゆきてなんぢらの子女と妻等を載せ汝等の父を導きて來れ 20 また汝等の器を惜み視るなかれエジプト全國の嘉物は汝らの所屬なればなり 21 イスラエルの子等すなはち斯なせりヨセフ、バロの命にしたがひて彼等に車をあたへかつ途の餼糧をかれらにあたへたり 22 又かれらに皆おのおのの衣一襲を與へたりしがベニヤミンには銀三百と衣五襲をあたへたり 23 彼また斯のごとく父に餽れり即ち驢馬十疋にエジプトの嘉物をおはせ牝の驢馬十疋に父の途の用に供ふる穀物と糧と肉をおはせて餽れり 24 斯して兄弟をかへして去しめ之にいふ汝等途にて相あらそふなかれと 25

かれらエジプトより上りてカナンの地にゆきその父ヤコブにいたり 26 之につけてヨセフは尚いきてをりエジプト全國の宰となりをるといふしかるにヤコブの心なほ寒冷なりき其はこれを信ぜざればなり 27 彼等またヨセフの己にいひたる言をことごとく之につげたりその父ヤコブ、ヨセフがおのれを載んとておくりし車をみるにおよびて其氣おのれにかへれり 28 イスラエルすなはちいふ足りわが子ヨセフなほ生をるわれ死ざるまへに往て之を視ん

Chapter 46

1 イスラエルその己につける諸の者とともに出たちベエルシバにいたりてその父イサクの神に犠牲をささぐ 2 神夜の異象にイスラエルにかたりてヤコブよヤコブよといひたまふ 3 ヤコブわれ此にありといひければ神いひたまふ我は神なり汝の父の神なりエジプトにくだることを懼るなかれわれ彼處にて汝を大なる國民となさん 4 我汝と共にエジプトに下るべし亦かならず汝を導のぼるべし 5 ヨセフ手をなんぢの目の上におかんと 5 かくてヤコブ、ベエルシバをたちいでたりイスラエルの子等すなはちバロの載んとておくりたる車に父ヤコブと己の子女と妻等を載せ 6 その家畜とカナンの地にてえたる貨財をたづさへ斯してヤコブとその子孫皆ともにエジプトにいたれり 7 ヤコブかくその子と子の子およびその女と子の女すなはちその子孫を皆ともなひてエジプトにつれゆけり 8 イスラエルの子のエジプトにくだれる者の名は左のごとくヤコブとその子等ヤコブの長子はルベン 9 ルベンの子はヘノク、バル、ヘヅロン、カルミ 10 シメオンの子はエムエル、ヤミン、オハデ、ヤキン、ヅハルおよびカナンの婦のうめる子シヤウル 11 レビの子はゲルシオン、コハテ、メラリ 12 ユダの子エル、オナン、シラ、ベレツ、ゼラ但しエルとオナはカナンの地に死たりベレツの子はヘヅロンおよびハムルなり 13 イッサカルの子はトラ、プ、ヨブ、シムロン 14 ゼブルンの子はセレデ、エロン、ヤリエルなり 15 是等および女子デナはレアがパダンアラムにてヤコブにうみたる者なりその男子女子あはせて三十三人なりき 16 ガドの子はゼボン、ハギ、シユニ、エツボン、エリ、アロデ、アレリ 17 アセルの子はエムナ、イシワ、イスイ、ベリアおよびその妹サラ並にベリアの子ヘルとマルキエルなり 18 是等はラバンがその女レアにあはたるジルバの子なり彼是等をヤコブにうめり都合十六人 19 ヤコブの妻ラケルの子はヨセフとベニヤミンなり 20 エジプトの國にてヨセフにマナセとエフライムうまれたり是はオンの祭司ポテパルの女アセナテが生たる者なり 21 ベニヤミンの子はペラ、ベケル、アシベル、セラ、ナアマン、エヒ、ロシ、ムツビム、ホバム、アルデ 22 是等はラケルの子にしてヤコブにうまれたる者なり都

合十四人 23 ダンの子はホシム 24 ナフタリの子はヤジエル、グニ、エゼル、シレム 25 是等はラバンがその女ラケルにあはたるビルハの子なり彼これらをヤコブにうめり都合七人 26 ヤコブとともにエジプトにいたりし者はヤコブの子の妻をのぞきて六十六人なりき是皆ヤコブの身よりいでたる者なり 27 エジプトにてヨセフにうまれたる子二人ありヤコブの家の人のエジプトにいたりし者はあはせて七十人なりき 28 ヤコブ預じめユダをヨセフにつかはしおのれをゴセンにみちびかしむ而して皆ゴセンの地にいたる 29 ヨセフその車を整へゴセンにのぼりて父イスラエルを逐へ之にまみえてその頸を抱き頸をかかへて久く啼く 30 イスラエル、ヨセフにいふ汝なほ生てをり我汝の面を見ることをえたれば今は死るも可しと 31 ヨセフその兄弟等と父の家族とにいひけるは我のぼりてバロにつけて之にいふべしわが兄弟等とわが父の家族カナンの地にをりし我者のところに來れり 32 その人々は牧者にして牧畜の人なり彼等その羊と牛およびその有る諸の物をたづさへ來れりと 33 バロもし汝等を召て汝等の業は何なるやと問ことあらば 34 僕等は幼少より今に至るまで牧畜の人なり我儕も先祖等もともにしかりといへしからばなんぢらゴセンの地にすむことをえん 牧者は皆エジプト人の穢はしとするものなればなり

Chapter 47

1 茲にヨセフゆきてバロにつけていひけるはわが父と兄弟およびその羊と牛と諸の所有物カナンの地よりいたれり彼らはゴセンの地にをると 2 その兄弟の中より五人をとりてこれをバロにまみえしむ 3 バロ、ヨセフの兄弟等にいひけるは汝らの業は何なるか彼等バロにいふ僕等は牧者なりわれらも先祖等もともにしかりと 4 かれら又バロにいひけるは此國に寓らんとて我等はきたる其はカナンの地に饑饉はげしくして僕等の群をやしなふ牧場なければなりされば請ふ僕等をしてゴセンの地にすましめたまへ 5 バロ、ヨセフにかたりていふ汝の父と兄弟汝の所にきたれり 6 エジプトの地はなんぢの前にあり地の善き處に汝の父と兄弟をすましめよすなはちゴセンの地にかれらるすましめよ汝もし彼等の中に才能ある者あるをしらば其人々をしてわが家畜をつかさどらしめよ 7 ヨセフまた父ヤコブを引いてバロの前にたたりしむヤコブ、バロを祝す 8 バロ、ヤコブにいふ汝の齢の日は幾何なるか 9 ヤコブ、バロにいひけるはわが旅路の年月は百三十年にいたる我が齢の日は僅少にして且惡かり未だわが先祖等の齢の日と旅路の日にはおよばざるなり 10 ヤコブ、バロを祝しバロのまへよりいでり 11 ヨセフ、バロの命せしごとくその父と兄弟に居所を與へエジプトの國の中の善き地即ちラメセスの地をかれらにあたへて所有となさしむ 12 ヨ

セフその父と兄弟と父の全家にその子の數にしたがひて食物をあたへて養へり 13 却説饑饉ははなはだはげしくして全國に食物なくエジプトの國とカナンの國饑饉のために弱れり 14 ヨセフ穀物を賣あたへてエジプトの地とカナンの地にありし金をことごとく斂む而してヨセフその金をバロの家にもちきたる 15 エジプトの國とカナンの國に金つきたればエジプト人みなヨセフにいたりていふ我等に食物をあたへよ如何ぞなんぢの前に食べけんや金すてにたえたり 16 ヨセフいひけるは汝等の家畜をいだせ金もしたえたらば我なんぢらの家畜にかへて與ふべしと 17 かれら乃ちその家畜をヨセフにひききたりければヨセフその馬と羊の群と牛の群および驢馬にかへて食物をかれらにあたへそのすべての家畜のために其年のあひだ食物をあたへてこれをやしなふ 18 かくてその年暮けるが明年にいたりて人衆またヨセフにきたりて之にいふ我等主に隠すところなしわれらの金は竭たりまたわれらの畜の群は主に販す主のまへにいだすべき者は何ものこりをらず唯われらの身體と田地あるのみ 19 われらいかんぞわれらの田地とともに汝の目のまへに死亡ぶべけんや我等とわれらの田地をエジプトに易て買とれ我等田地とともにバロの僕とならんまた我等に種をあたへよ然ばわれら生るをえて死るにいたらず田地も荒蕪にいたらじ 20 是に於てヨセフ、エジプトの田地をことごとく購とりてバロに納る其はエジプト人饑饉にせまりて各人その田圃を賣たればなり是によりて地はバロの所有となれり 21 また民はエジプトのこの境の極よりかの境の極の者までヨセフこれを邑々にうつせり 22 但祭司の田地は購とらざりき祭司はバロより祿をたまはりをればバロの與る祿を食たるによりてその田地を賣ざればなり 23 茲にヨセフ民にいひけるは視よ我今日汝等となんぢらの田地をかひてバロに納る視よこの種子を汝らに與ふ地に播べし 24 しかして收穫の五分の一をバロに輸し四分をなんぢらに取て田圃の種としなんぢらの食としなんぢらの家族と子女の食とせよ 25 人衆いひけるは汝われらの生命を拯きたまへりわれら主のまへに恩をえんことをねがふ我等バロの僕となるべしと 26 ヨセフ、エジプトの田地に法をたてその五分の一をバロにをさめしむその事今日にいたる唯祭司の田地のみバロの有となざりき 27 イスラエル、エジプトの國に於てゴセンの地にすみ彼處に産業を獲その數増て大に殖たり 28 ヤコブ、エジプトの國に十七年いきながらへたりヤコブの年齒の日は合て百四十七年なりき 29 イスラエル死る日ちかよりければその子ヨセフをよびて之にいひけるは我もし汝のまへに恩を得るならば請ふなんぢの手をわが脾の下にいれ懇に眞實をもて我をあつかへ我をエジプトに葬るなかれ 30 我は先祖等とともに偃んことをねがふ汝われをエジプトより昇だして先祖等の墓場にはうむれヨセフいふ我なんぢが言ることくなすべしと 31

ヤコブまた我に誓へといひければすなはち誓へりイスラエル床の頭にて拜をなせり

Chapter 48

1是等の事の後汝の父病にかかるとヨセフに告る者ありければヨセフ二人の子マナセとエフライムをともなひて至る 2人ヤコブに告て汝の子ヨセフなんぢの許にきたるといひければイスラエル強て床に坐す 3しかしてヤコブ、ヨセフにいひけるは昔に全能の神カナン地のルズにて我にあらはれて我を祝し 4我にいひたまひけらく我なんぢをして多く子をえせしめ汝をふやし汝を衆多の民となさん我この地を汝の後の子孫にあたへて永久の所有となさしめんと 5わがエジプトにきたりて汝に就まへにエジプトにて汝に生れたる二人の子エフライムとマナセ等はわが子となるべしルベンとシメオンのごとく是等はわが子とならん 6是等の後になんぢが得たる子は汝のものとするべし又その産業はその兄弟の名をもて稱するべし 7我事をいはんに我昔パダンより來れる時ラケル我にしたがひをりて途にてカナンの地に死り其處はエフラタまで尚途の隔あるところなりわれ彼處にて彼をエフラタの途にはうむれり(エフラタはすなはちベレハムなり) 8 斯てイスラエル、ヨセフの子等を見て是等は誰なるやといひければ 9ヨセフ父にいふ是は神の此にて我にたまひし子等なりとすなはちいふ請ふ彼らを我所につけきたれ我これを祝せんと 10イスラエルの目は年壽のために眯て見るをえざりしがヨセフかれらをその許につれきたりければ之に接吻してこれを抱けり 11しかしてイスラエル、ヨセフにいひけるは我なんぢの面を見るあらんとは思はざりしに視よ神なんぢの子をわれにしめしたまふと 12ヨセフかれらをその膝の間よりいだし地に俯て拜せり 13しかしてヨセフ、エフライムを右の手に執てヤコブに左の手にむかはしめマナセを左の手に執てヤコブの右の手にむかはしめ二人をみちびきてかれに就ければ 14イスラエル右の手をのべて季子エフライムの頭に按き左の手をのべてマナセの頭におけりマナセは長子なれども故にかくその手をおけるなり 15斯てヨセフを祝していふわが父アブラハム、イサクの事へし神わが生れてより今日まで我をやしなひたまひし神 16我をして諸の災禍を贖はしめたまひし天使ねがはくは是童子等を祝たまへねがはくは是等の者わが名とわが父アブラハム、イサクの名をもて稱られんことをねがはくは是等地の中に繁殖るにいたれ 17ヨセフ父が右の手をエフライムの頭に按るを見てよるこばす父の手をあけて之をエフライムの頭よりマナセの頭にうつさんとす 18ヨセフすなはち父にいひけるは然にあらす父は長子なれば右の手をその頭に按たまへ 19父こばみていひけるは我知るわが子われしる彼も一の民となり彼も大なる

者とならん然れどもその弟は彼よりも大なる者となりてその子孫は多衆の國民となるべしと 20此日彼等を祝していふイスラエル汝を指て人を祝し願くは神汝をしてエフライムのごとくマナセのごとくならしめたまへといふにいたらんすなはちエフライムをマナセの先にたてたり 21イスラエルまたヨセフにいひけるは視よわれは死んされど神なんぢらとともにいまして汝等を先祖等の國にみちびきかへりたまふべし 22われ一の分をなんぢの兄弟よりもおほく汝にあたふはわが刀と弓を以てアモリ人の手より取たる者なり

Chapter 49

1ヤコブその子等と呼ていひけるは汝らあつまれ我後の日に汝らが遇んところの事を汝等につげん 2汝等つどひて聽けヤコブの子等よ汝らの父イスラエルに聽け 3ルベン汝はわが冢子わが勢わが力の始威光の卓越たる者權威の卓越たる者なり 4汝は水の沸あがるがごとき者なれば卓越を得ざるべし汝の床にのぼりて浼したればなり嗚呼汝はわが寢床にのぼれり 5シメオン、レビは兄弟なりその劍は暴逆の器なり 6我魂よかれらの席にのぞむなかれ我實よかれらの集會につらなるなかれ其は彼等その怒にまかせて人をころしその意にまかせて牛を筋截たればなり 7その怒は烈しかれば詛ふべしその憤は暴あれば詛ふべし我彼らをヤコブの中に分ちイスラエルの中に散さん 8ユダよ汝は兄弟の讃る者なり汝の手はなんぢの敵の頸を抑へんなんぢの父の子等なんぢの前に鞫ん 9ユダは獅子の子の如しわが子よ汝は所掠物をさきてかへりのぼる彼は牡獅子のごとく伏し牝獅子のごとく蹲まる誰か之をおこすことをせん 10杖ユダを離れず法を立る者その足の間をはなることなくしてシロの來る時にまでおよばん彼に諸の民したがふべし 11彼その驢馬を葡萄の樹に繋ぎその牝驢馬の子を葡萄の蔓に繋がん又その衣を酒にあらし其服を葡萄の汁にあらふべし 12その目は酒によりて紅くその齒は乳によりて白し 13ゼブルンは海邊にすみ舟の泊る海邊に住はんその界はシドンにおよぶべし 14イッサカルは羊の牢の間に伏す健き驢馬の如し 15彼みて安泰を善としその國を樂とし肩をさげて負ひ租税をいだして僕となるべし 16ダンはイスラエルの他の支派の如く其民を鞫かん 17ダンは路の旁の蛇のごとく途邊にある蝮のごとし馬の踵を噛てその騎者をして後に落しむ 18エホバよわれ汝の拯救を待り 19ガドは軍勢これにせまらんされど彼返てその後にはせまらん 20アセルよりいづる食物は美るべし彼王の食ふ美味をいださん 21ナフタリは釋れたる鹿のごとし彼美言をいだしなり 22ヨセフは實を結ぶ樹の芽のごとし即ち泉の傍にある實をむすぶ樹の芽のごとしその枝つひに垣を踰ゆ 23射者彼をなやまし彼を射かれを惡めり 24然どかれの弓はなほ勁くあり

彼の手の臂は力あり是ヤコブの全能者の手によりてなり其よりイスラエルの磐なる牧者いづ 25汝の父の神による彼なんぢを助けん全能者による彼なんぢを祝まん上なる天の福、下によこたはる淵の福、乳哺の福、胎の福、汝にきたるべし 26父の汝を祝することはわが父祖の祝したる所に勝て恒久の山の限極にまでおよばん是等の祝福はヨセフの首に歸しその兄弟と別になりたる者の頭頂に歸すべし 27ベニヤミンは物を噛む狼なり朝にその所掠物を啖ひ夕にその所攫物をわかたん 28是等はイスラエルの十二の支派なり斯その父彼らに語り彼等を祝せりすなはちその祝すべき所にしたがひて彼等諸人を祝せり 29ヤコブまた彼等に命じて之にいひけるは我はわが民にくははらんとすへて人エフロンの田にある洞穴にわが先祖等とともに我をほうむれ 30その洞穴はカナンの地にてマムレのまへなるマクペラの田にあり是はアブラハムがへて人エフロンの田とともに購て所有の墓所となせし者なり 31アブラハムとその妻サラ彼處にはうむられイサクとその妻リベカ彼處に葬られたり我またかしこにレアを葬れり 32彼田とその中の洞穴はヘテの子孫より購たる者なり 33ヤコブその子に命ずることを終し時足を床に敷めて氣たえてその民にくははる

Chapter 50

1ヨセフ父の面に俯し之をいだきて哭き之に接吻す 2而してヨセフその僕なる醫者に命じてその父に響らしむ醫者イスラエルに響れり 3すなはち之がために四十日を用ふ其は尸に響るにはこの日數を用ふべければなりエジプト人七十日の間之がために哭けり 4哀哭の日すぎし時ヨセフ、パロの家にかたりていひけるは我もし汝等の前に恩恵を得るならば請ふパロの耳にまうして言へ 5わが父我死ばカナンの地にわが掘おきたる墓に我をほうむれといひて我を誓はしめたり然ば請ふわれをして上りて父を葬らしめたまへまた歸りきたらんと 6パロいひけるは汝の父汝をちかはせしごとくのぼりて之を葬るべし 7是に於てヨセフ父を葬らんとて上るパロの諸の臣パロの家の長老等エジプトの地の長老等 8およびヨセフの全家とその兄弟等およびその父の家之とともに上る只その子女と羊と牛はゴセンの地にのこせり 9また車と騎兵ヨセフにしたがひてのぼり其隊ははなはだ大なりき 10彼等つひにヨルダンの外なるアタデの禾場に到り彼にて大に泣き痛く哀しむヨセフすなはち七日父のために哭きぬ 11その國の居人なるカナン人等アタデの禾場の哀哭を見て是はエジプト人の痛くなげくなりといへり是によりて其處の名をアベルミツライム(エジプト人の名哭)と稱ふヨルダンの外にあり 12ヤコブの子等その命ぜられたるごとく之になせり 13すなはちヤコブの子等彼をカナンの地に昇りきて之をマクペラの田の洞

穴にはうむれり是はアブラハムがへて人エフロンの田とともに購とりて所有の墓所となせし者にてマムレの前にあり 14ヨセフ父を葬りてのち其兄弟および凡て己とともにのぼりて父をほうむれる者とともにエジプトにかへりぬ 15ヨセフの兄弟等その父の死たるを見ていひけるはヨセフあるいはわれらを恨むることあらん又かならずわれらが彼になしたる諸の惡にむくゆるならんと 16すなはちヨセフにいひおくりけるはなんぢの父死るまへに命じて言けらく 17汝ら斯ヨセフにいふべし汝の兄弟汝に惡をなしたれども冀はくはその罪咎をゆるせと然ば請ふ汝の父の神の僕等の咎をゆるせとヨセフその言を聞て啼泣し 18兄弟等また自らきたりヨセフの面の前に俯し我儕は汝の僕とならんといふ 19ヨセフかれらに曰けるは懼るなかれ我あに神にかはらんや 20汝等は我を害せんとおもひたれども神はそれを善にかはらせ今日のごとく多の民の生命を救ふにいたらしめんとおもひたまへり 21故に汝らおそるなかれ我なんぢらと汝らの子女をやしなはんと彼等をなぐさめ懇に之にかたれり 22ヨセフ父の家族とともにエジプトにすみヨセフは百十歳いきながらへたり 23ヨセフ、エフライムの三世の子女をみるにいたれりマナセの子マキルの子女もうまれてヨセフの膝にありき 24ヨセフその兄弟等にいひけるは我死ん神かならず汝等を眷顧みなんぢらを此地よりいだしてそのアブラハム、イサク、ヤコブに誓ひし地にいたらしめたまはんと 25ヨセフ神かならず汝等をかへりみたまはん汝らわが骨をこよりたづさへのぼるべしといひてイスラエルの子孫を誓はしむ 26ヨセフ百十歳にして死たれば之に響りて櫃にさめてエジプトにおけり

出エジプト記

Chapter 1

1イスラエルの子等のエジプトに至りし者の名は左のごとし衆人各その家族をたづさへてヤコブとともに至れり 2すなはちルベン、シメオン、レビ、ユダ、3イッサカル、ゼブルン、ベニヤミン、4ダン、ナフタリ、ガド、アセルなり 5ヤコブの腰より出たる者は都合七十人ヨセフはずでにエジプトにありき 6ヨセフとその諸の兄弟および當世の人みな死たり 7イスラエルの子孫饑く子を生きみ彌増殖え甚だしく大に強くなりて國に満るにいたれり 8茲にヨセフの事をしらざる新き王エジプトに起りしが 9彼その民にいひけるは視よ此民イスラエルの子孫われらよりも多く且強し 10來れわれら機巧く彼等に事をなさん恐くは彼等多ならん又戰爭の起ることある時は彼等敵にくみして我等と戦ひ遂に國よりいでさんと 11すなはち督者をかれらの上

に立て彼らに重荷をおはせて之を苦む彼等バロのために府庫の邑ピトムとラメセスを建たり 12 然るにイスラエルの子孫は苦むるに隨ひて増殖殖たれば皆これを懼れたり 13 エジプト人イスラエルの子孫を嚴く動作かめし 14 辛き力役をもて彼等をして苦みて生を度らしむ即ち和泥、作靴および田圃の諸の工にはたらかしめけるが其働かしめし工作は皆嚴かりき 15 エジプトの王又ヘブルの産婆シフラと名くる者とプワと名くる者の二人に諭して 16 いひけるは汝等ヘブルの婦女のために收生をなす時は床の上を見てその子若男子ならばこれを殺せ女子ならば生しおくべしと 17 然に産婆神を畏れエジプト王の命ぜしごとく爲ずして男子をを生しおけり 18 エジプト王産婆を召て之にいひけるは汝等なんぞ此事をなし男子を生しおくや 19 産婆バロに言けるはヘブルの婦はエジプトの婦のごとくならず彼等は健して産婆のかれらに至らぬ前に産をはるなりと 20 是によりて神その産婆等に恩をほどこしたまへり是において民増ゆきて甚だ強くなりぬ 21 産婆神を畏れたるによりて神かれらのために家を成たまへり 22 斯有しかばバロその凡の民に命じていふ男子の生るあらば汝等これを悉く河に投いれよ女子は皆生しおくべし

Chapter 2

1 爰にレビの家の一箇の人往てレビの女を娶れり 2 女妊みて男子を生みその美きを見て三月のあひだこれを匿せしが 3 すでにこれを匿すあたはざるにいたりければ萐の箱舟を之がために取て之に瀝青と樹脂を塗り子をその中に納てこれを河邊の葦の中に置り 4 その姉遙に立てその如何になるかを窺ふ 5 茲にバロの女身を洗んかて河にくだりその婢等河の傍にあゆむ彼葦の中に箱舟あるを見て使女をつかはしてこれを取きたらしめ 6 これを啓きてその子のをるを見る嬰兒すなはち啼く彼これを憐みていひけるは是はヘブル人の子なりと 7 時にその姉バロの女にいひけるは我ゆきてヘブルの女の中より此子をなんぢのために養ふべき乳母を呼きたらんか 8 バロの女往よと之にいひければ女子すなはち往てその子の母を呼きたる 9 バロの女かれにいひけるは此子をたれゆきてたために之を養へ我その値をなんぢにとらせんと婦すなはちその子を取てこれを養ふ 10 斯てその子の長ずるにおよびて之をバロの女の所にたづさへゆきければすなはちこれが子となる彼その名をモーセ(援出)と名けて言ふ我これを水より掬いだせしに因ると 11 茲にモーセ生長におよびて一時いでてその兄弟等の所にいたりその重荷を負ふを見しが會一箇のエジプト人が一箇のイスラエル人即ちおのれの兄弟を撃つを見たれば 12 右左を視まはして人のをらざるを見てそのエジプト人を撃ころし之を沙の中に埋め匿せり 13 次の日また出て二人のヘブル人の相争ふを見ればその

曲き者にむかひ汝なんぞ汝の隣人を撃つやといふに 14 彼いひけるは誰が汝を立てわれらの君とし判官としたるや汝かのエジプト人をころせしごとく我をも殺さんとするやと是においてモーセ懼れてその事かならず知れたるならんとおもへり 15 バロ此事を聞てモーセを殺さんともめければモーセすなはちバロの面をさけて逃げのびミデアンの地に住り彼井の傍に坐せり 16 ミデアンの祭司に七人の女子ありしが彼等來りて水を汲み水鉢に盈て父の羊群に飲はんとしけるに 17 牧羊者等きたりて彼らを逐はらひければモーセ起あがりて彼等をたすけその羊群に飲ふ 18 彼等その父リウエルに至れる時父言けるは今日はなんぢら何ぞかく速にかへりしや 19 かれらにいひけるは一箇のエジプト人我らを牧羊者等の手より救いだし亦われらのために水を多く汲て羊群に飲しめたり 20 父女等にいひけるは彼は何處にをるや汝等なんぞその人を連れてきたりしや彼をよびて物を食しめよと 21 モーセこの人とともに居ることを好み彼すなはちその女子チツボラをモーセに與ふ 22 彼男子を生みければモーセその名をゲルシヨム(客)と名けて言ふ我異邦に客となりをればなりと 23 漸て時をふる程にエジプトの王死りイスラエルの子孫その勞役の故によりて歎き號ぶにその勞役の故によりて號ぶところの聲神に達りければ 24 神その長呻を聞き神そのアブラハム、イサク、ヤコブになしたる契約を憶え 25 神イスラエルの子孫を眷み神知しめしたまへり

Chapter 3

1 モーセその妻の父なるミデアンの祭司エテロの群を牧ひをりしがその群を曠野の奥にみちびきて神の山ホレブに至るに 2 エホバの使者棘の裏の火燄の中にて彼にあらはる彼見るに棘火に燃れどもその棘燬ず 3 モーセイひけるは我ゆきてこの大なる觀を見何故に棘の燃たえざるかを見ん 4 エホバ彼がきたり觀んとするを見たまふ即ち神棘の中よりモーセよモーセよと彼をよびたまひければ我ここにありといふに 5 神いひたまひけるは此に近よるなかれ汝の足より履を脱ぐべし汝が立つ處は聖き地なればなり 6 又いひたまひけるは我はなんぢの父の神アブラハムの神イサクの神ヤコブの神なりとモーセ神を見ることを畏れてその面を蔽せり 7 エホバ言たまひけるは我まことにエジプトにをるわが民の苦患を觀また彼等がその驅使者の故をもて號ぶところの聲を聞き我かれらの憂苦を知るなり 8 われ降りてかれらをエジプト人の手より救ひだし之を彼地より導きのぼりて善き廣き地乳と蜜との流るる地すなはちカナン人ヘテ人アモリ人ベリジ人ヒビ人エブス人のをる處に至らしめんとなす 9 今イスラエルの子孫の號呼われに達る我またエジプト人が彼らを苦むるその暴虐を見たり 10 然ば來れ我なんぢをバロにつ

かはし汝をしてわが民イスラエルの子孫をエジプトより導きいださしめん 11 モーセ神にいひけるは我は如何なる者ぞや我豈バロの許に往きイスラエルの子孫をエジプトより導きいだすべき者ならんや 12 神いひたまひけるは我かならず汝とともにあるべし是はわが汝をつかはせる證據なり汝民をエジプトより導きいだしたる時汝等この山にて神に事へん 13 モーセ神にいひけるは我イスラエルの子孫の所にゆきて汝らの先祖等の神我を汝らに遣はしたまふと言んに彼等もし其名は何と我に言ば何とかれらに言べきや 14 神モーセにいひたまひけるは我は有て在る者なり又いひたまひけるは汝かくイスラエルの子孫にいふべし我有といふ者我を汝らに遣はしたまふと 15 神またモーセにいひたまひけるは汝かくイスラエルの子孫にいふべし汝らの先祖等の神アブラハムの神イサクの神ヤコブの神エホバわれを汝らにつかはしたまふとは永遠にわが名となり世々にわが誌となるべし 16 汝往てイスラエルの長老等をつめて之にいふべし汝らの先祖等の神アブラハム、イサク、ヤコブの神エホバ我にあらはれて言たまひけらく我誠になんぢらを眷み汝らがエジプトにて蒙るところの事を見たり 17 我すなはち言り我汝らをエジプトの苦患の中より導き出してカナン人ヘテ人アモリ人ベリジ人ヒビ人エブス人の地すなはち乳と蜜の流るる地にのぼり至らしめんとなす 18 彼等なんぢの言に聽したがふべし汝とイスラエルの長老等エジプトの王の許にいたりて之に言へヘブル人の神エホバ我らに臨めり然ば請ふわれらをして三日程ほど曠野に入しめわれらの神エホバに犠牲をささぐることを得せしめよと 19 我しるエジプトの王は假令能力ある手をくはふるも汝等の往をゆるさざるべし 20 我すなはちわが手を舒べエジプトの中に諸の奇跡を行ひてエジプトを撃ん其後かれ汝等を去しむべし 21 我エジプト人をして此民をめぐましめん汝ら去る時手を空うして去るべからず 22 婦女皆その隣人とおのれの家に寓る者とに金の飾品銀の飾品および衣服を乞べし而して汝らこれを汝らの子女に穿戴せよ汝等かくエジプト人の物を取べし

Chapter 4

1 モーセ對へていひけるは然ながら彼等我を信ぜず又わが言に聽したがはずして言んエホバ汝にあらはれたまはずと 2 エホバかれにいひたまひけるは汝の手にある者は何なるや彼いふ杖なり 3 エホバいひたまひけるは其を地に擲よとすなはち之を地になぐるに蛇となりければモーセその前を避たり 4 エホバ、モーセにいひたまひけるは汝の手をのべて其尾を執れとすなはち手をのべて之を執ば手にいりて杖となる 5 エホバいひたまふ是は彼らの先祖等の神アブラハムの神イサクの神ヤコブの神エホバの汝にあらはれたることを彼らに信ぜしめんためなり 6 エホバまた

かれに言たまひけるは汝の手を懐に納よとすなはち手を懐にいれて之を出し見るにその手癩病を生じて雪のごとくなれり 7 エホバまた言たまひけるは汝の手をふたたび懐にいれよと彼すなはちふたたび其手を懐にいれて之を懐より出し見るに變りて他處の肌膚のごとくなる 8 エホバいひたまふ彼等もし汝を信ぜずまたその最初の徴の聲に聽従はざるならば後の徴の聲を信ぜん 9 彼らもし是はふたつの徴をも信ぜずして汝の言に聽従はざるならば汝河の水をとりて之を陸地にそそげ汝が河より取たる水陸地にて血となるべし 10 モーセ、エホバにいひけるはわが主よ我は素言辭に敏き人にあらず汝が僕に語りたまへるに及びて猶ほしかり我は口重く舌重き者なり 11 エホバかれにいひたまひけるは人の口を造る者は誰なるや唾者聾者目明者瞽者などを造る者は誰なるや我エホバなるにあらずや 12 然ば往けよ我なんぢの口にありて汝の言ふべきことを教へん 13 モーセイひけるはわが主よ願くは遣すべき者をつかはしたまへ 14 是においてエホバ、モーセにむかひ怒を發していひたまひけるはレビ人アロンは汝の兄弟なるにあらずや我かれが言を善するを知るまた彼なんぢに遇んとていて來る彼汝を見る時心に喜ばん 15 汝かれに語りて言をその口に授くべし我なんぢの口と彼の口にありて汝らの爲べき事を教へん 16 彼なんぢに代て民に語らん彼は汝の口に代らん汝は彼のために神に代るべし 17 なんぢの杖を手に執り之をもて奇蹟をおこなふべし 18 是においてモーセゆきてその妻の父エテロの許にかへりて之にいふ請ふ我をして往てわがエジプトにある兄弟等の所にかへらしめ彼等のなほ生ながらへるや否を見させしめよエテロ、モーセに安然に往くべしといふ 19 爰にエホバ、ミデアンにてモーセにいひたまひけるは往てエジプトにかへれ汝の生命をもとめし人は皆死たりと 20 モーセすなはちその妻と子等をとりて之を驢馬に乗てエジプトの地にかへるモーセは神の杖を手に執り 21 エホバ、モーセにいひたまひけるは汝エジプトにかへりゆるる時はかならず我がなんぢの手に授けたるところの奇蹟を悉くバロのまへにおこなふべし但し我かれの心を剛愎にすれば彼民を去しめざるべし 22 汝バロに言べしエホバかく言ふイスラエルはわが子わが家子なり 23 我なんぢにいふ我が子を去らしめて我に事ふることをせしめよ汝もし彼をさらしむることを拒ば我なんぢの子なんぢの家子を殺すべしと 24 モーセ途にある時エホバかれの宿所にて彼に遇てころさんとしたまひければ 25 チツボラ利き石をとりてその男子の陽の皮を割りモーセの足になげうちて言ふ汝はまことにわがためには血の夫なりと 26 是においてエホバ、モーセをゆるしたまふ此時チツボラが血の夫といひしは割禮の故によりてなり 27 爰にエホバ、アロンにいひたまひけるに曠野にゆきてモーセを迎へよと彼すなはちゆきて神の山にてモーセに遇ひ之に接

物す 28 モーセ、エホバがおのれに言ふくめて遣したまへる諸の言とエホバのおのれに命じたまひし諸の奇跡とをアロンにつげたり 29 斯てモーセとアロン集むイスラエルの子孫の長老を盡く集む 30 而してアロン、エホバのモーセにかたりたまひし言を盡くつく又彼民の目のまへにて奇蹟をなしければ 31 民すなはち信ぜず彼等エホバがイスラエルの民をかへりみその苦患をおもひたまふを聞て身をかがめて拜をなせり

Chapter 5

1 その後モーセとアロン入てパロにいふイスラエルの神エホバ斯いひたまふ我民を去しめ彼等をして曠野に於て我を祭ることをえせしめよと 2 パロいひけるはエホバは誰なればか我その聲にしたがひてイスラエルを去しむべき我エホバを識ず亦イスラエルを去しめ 3 彼ら言けるはヘブル人の神我らに顯れたまへり請ふ我等をして三日程ほど曠野にいりてわれらの神エホバに犠牲をささぐることをえせしめよ恐くはエホバ疫病か又は刀兵をもて我らをなやましたまはん 4 エジプト王かれらに言けるは汝等モーセ、アロンなんぞ民の操作を妨ぐるや往てなんぢらの荷を負へ 5 パロまたいふ士民今は多かり然に汝等かれらをして荷をおふことを止しめんとす 6 パロ此日民が驅使ふ者等および民の有司等に命じていふ 7 汝等再び前のごとく民に磚瓦を造る禾稈を與ふべからず彼等をして往てみづから禾稈をあつめしめよ 8 また彼等が前に造りし磚瓦の數のごとくに仍かれらに之をつくらしめよ其を減すなかれ彼等は懶惰が故に我儕をして往てわれらの神に犠牲をささげしめよと呼はり言ふなり 9 人々の工作を重くして之に勞かしめよ然は偽の言を聽くことあらじと 10 民を驅使ふ者等およびその有司等出きて民にいひけるはパロかく言たまふ我なんぢらに禾稈をあたへ 11 汝等往て禾稈のある處にて之をとれ但しなんぢらの工作は分毫も減さざるべしと 12 是において民遍くエジプトの地に散て草藁をあつめて禾稈となす 13 驅使者かれらを促たてて言ふ禾稈のありし時のごとく汝らの工作汝らの日々の業をなすべしと 14 パロの驅使者等がイスラエルの子孫の上に立たるところの有司等擁れなんぢら何ぞ昨日も今日も磚瓦を作るところの汝らの業を前のごとくに爲しをへざるやと云ふ 15 是に於てイスラエルの子孫の有司等來りてパロに呼はりて言ふ汝なんぞ斯僕等になすや 16 僕等に禾稈を與へずしてわれらに磚瓦を作れといふ視よ僕等は撻る是なんぢの民の過なりと 17 然るにパロいふ汝等は懶惰し懶惰し故に汝らは我らをして往てエホバに犠牲をささげしめよと言ふなり 18 然ば汝ら往て操作けよ禾稈はなんぢらに與ふることなかるべけれどなんぢら尚數のごとくに磚瓦を交納むべしと 19 イスラエルの子孫の有司等汝等その日々につくる磚瓦を減す

べからずと云るを聞て災害の身におよぶを知り 20 彼らパロをはなれて出たる時モーセとアロンの對面にたてるを見れば 21 之にいひけるは願くはエホバ汝等を鑿みて鞫きたまへ汝等はわれらの鼻をパロの目と彼の僕の目に忌嫌はれしめ刀を彼等の手にわたして我等を殺さしめんとするなりと 22 モーセ、エホバに返りて言ふわが主よ何て此民をあしくしたまふや何のために我をつかはしたまひしや 23 わがパロの許に來りて汝の名をもて語りしよりして彼この民をあしくす汝また絶てなんぢの民をすくひたまはざるなり

Chapter 6

1 エホバ、モーセに言たまひけるは今汝わがパロに爲んところの事を見るべし能ある手の加はるによりてパロ彼らをさらしめん能ある手の加はるによりてパロ彼らを其國より逐いだすべし 2 神モーセに語りて之にいひたまひけるは我はエホバなり 3 我全能の神といひてアブラハム、イサク、ヤコブに顯れたり然ど我名のエホバの事は彼等しらざりき 4 我また彼らとわが契約を立て彼等が旅して寄居たる國カナンを地をかれらに與ふ 5 我またエジプト人が奴隷となせるイスラエルの子孫の呻吟た聞き且我が契約を憶ひ出づ 6 故にイスラエルの子孫に言へ我はエホバなり我汝らをエジプト人の重負の下より携出し其使役をまぬかれしめ又腕をのべ大なる罰をほどこして汝等を贖はん 7 我汝等を取て吾民となし汝等の神となるべし汝等はわがエジプト人の重擔の下より汝らを携出したるなんぢらの神エホバなることを知ん 8 我わが手をあげてアブラハム、イサク、ヤコブに與へんと誓ひし地に汝等を導きしめり之を汝等に與へて産業となさしめん我はエホバなり 9 モーセかくイスラエルの子孫に語けれども彼等は心の傷と役事の苦きとの爲にモーセに聽ざりき 10 エホバ、モーセに告ていひたまひけるは 11 入てエジプトの王パロに語りイスラエルの子孫をその國より去しめよ 12 モーセ、エホバの前に申していふイスラエルの子孫既に我に聽ず我は口に割禮をうけざる者なればパロいかで我にきかんや 13 エホバ、モーセとアロンに語り彼等に命じてイスラエルの子孫とエジプトの王パロの所に往しめイスラエルの子孫をエジプトの地より導きいださしめたまふ 14 かれらの父の家々の長は左のごとしイスラエルの家子ルベンの子ヘノク、バル、ヘツロン、カルミ等はルベンの家族なり 15 シメオンの子エムエル、ヤミン、オハデ、ヤキン、ゾハルおよびカナンの子の生しシヤウル等はシメオンの家族なり 16 レビの子の名はその世代にしたがひて言は左のごとしゲルシオン、コハテ、メラリはなりレビの年の年は百三十七年なりき 17 ゲルシオンの子はその家族にしたがひて言はリブニおよびシメイなり 18 コハテの子はアムラム、イツハル、ヘブロン、

ウジエルなりコハテの年の年は百三十三年なりき 19 メラリの子はマヘリおよびムシナリ等はレビの家族にしてその世代にしたがひて言るものなり 20 アムラム其伯母ヨケベデを妻にめとれり彼アロンとモーセを生むアムラムの年の年は百三十七年なりき 21 イツハルの子はコラ、ネベグ、ジクリなり 22 ウジエルの子はミサエル、エルザパン、シテリなり 23 アロン、ナシヨンの姉アミナダブの女エリセバを妻にめとれり彼ナダブ、アピウ、エレアザル、イタマルを生む 24 コラの子はアツシル、エルカナ、アビアサフ等はコラ人の族なり 25 アロンの子エレアザル、プテエルの女の中より妻をめとれり彼ビネハスを生む是等はレビ人の父の家々の長にしてその家族に循ひて言る者なり 26 エホバがイスラエルの子孫を其軍隊にしたがひてエジプトの地より導きいだせよといひたまひしは此アロンとモーセなり 27 彼等はイスラエルの子孫をエジプトより導きいださんとしてエジプトの王パロに語りし者にして即ち此モーセとアロンなり 28 エホバ、エジプトの地にてモーセに語りたまへる日に 29 エホバ、モーセに語りて言たまひけるは我はエホバなり汝わが汝にいふ所を悉くエジプトの王パロに語るべし 30 モーセ、エホバの前に言けるは我は口に割禮を受ざる者なればパロいかで我に聽んや

Chapter 7

1 エホバ、モーセに言たまひけるは視よ我汝をしてパロにおけること神のごとくならしむ汝の兄弟アロンは汝の預言者となるべし 2 汝はわが汝に命ずる所を盡く宣べし汝の兄弟アロンはパロに告ることを爲べし彼イスラエルの子孫をその國より出すに至らん 3 我パロの心を剛愎にして吾徴と奇跡をエジプトの國に多くせん 4 然どパロ汝に聽ざるべし我すなはち吾手をエジプトに加へ大なる罰をほどこして吾軍隊わが民イスラエルの子孫をエジプトの國より出さん 5 我わが手をエジプトの上に伸てイスラエルの子孫をエジプト人の中より出す時には彼等我のエホバなるを知ん 6 モーセとアロン斯おこなひエホバの命じたまへる如くに然しぬ 7 そのパロと談論ける時モーセは八十歳アロンは八十三歳なりき 8 エホバ、モーセとアロンに告て言たまひけるは 9 パロ汝等に語りて汝ら自ら奇蹟を行へと言時には汝アロンに言べし汝の杖をとりてパロの前に擲てよ其は蛇とならん 10 是に於てモーセとアロンはパロの許にいりてエホバの命じたまひしごとくに行へり即ちアロンその杖をパロとその臣下の前に擲しに蛇となりぬ 11 斯在しかばパロもまた博士と魔術士を召よせたるにエジプトの法術士等もその秘術をもてかくおこなへり 12 即ち彼ら各人その杖を投たれば蛇となりけるがアロンの杖かれらの杖を呑つくせり 13 然るにパロの心剛愎になりて彼らに聽くことをせざりきエホ

バの言たまひし如し 14 エホバ、モーセに言たまひけるはパロは心頑にして民を去しむることを拒むなり 15 朝におよびて汝パロの許にいたれ視よ彼は水に臨む汝河の邊にたちて彼を逆ふべし汝かの蛇に化し杖を手にとりて居り 16 彼に言ふべしヘブル人の神エホバ我を汝につかはして言しむ吾民を去しめて曠野にて我に事ふることを得せしめよ視よ今まで汝は聽入ざりしなり 17 エホバかく言ふ汝これによりて我がエホバなるを知ん視よ我わが手の杖をもて河の水を撃ん是血に變ずべし 18 而して河の魚は死に河は臭くならんエジプト人は河の水を飲んことを厭ふにいたるべし 19 エホバまたモーセに言たまはく汝アロンに言へ汝の杖をとりて汝の手をエジプトの上に伸べ流水の上河々の上池塘の上一切の湖水の上に伸て血とならしめよエジプト全國に於て木石の器の中に凡て血あるにいたらん 20 モーセ、アロンすなはちエホバの命じたまへるごとくに爲り即ち彼パロとその臣下の前にて杖をあげて河の水を撃しに河の水みな血に變じたり 21 是において河の魚死て河臭くなりエジプト人河の水を飲んことを得ざりき 22 エジプト全國に血ありき 23 エジプトの法術士等もその秘術をもて斯のごとく行へりパロは心頑にして彼等に聽くことをせざりき エホバの言たまひし如し 23 パロすなはち身をめぐらしてその家に入り此事にも心をとめざりき 24 *** POSSIBLE ERROR IN BIBLE, TEXT MISSING HERE ***

Chapter 8

1 エホバ、モーセに言たまひけるは汝パロに語りて彼に言へエホバかく言たまふ吾民を去しめて我に事ふることを得せしめよ 2 汝もし去しむることを拒まば我蛙をもて汝の四方の境を惱さん 3 河に蛙むらがり上りきたりて汝の家にいり汝の寢室にいり汝の牀にのぼり汝の臣下の家にいり汝の民の所にいたり汝の竈におよび汝の搓鉢にいらん 4 蛙なんぢの身にのぼり汝の民と汝の臣下の上にのぼるべし 5 エホバ、モーセに言たまはく汝アロンに言へ汝杖をとりて手を流水の上に伸べ河々の上と池塘の上に伸て蛙をエジプトの地に上らしめよ 6 アロン手をエジプトの水のうへに伸たれば蛙のぼりきたりてエジプトの地を蔽ふ 7 法術士等もその秘術をもて斯おこなひ蛙をエジプトの地に上らしめたり 8 パロ、モーセとアロンを召て言けるはエホバに願ひてこの蛙を我とわが民の所より取さらしめよ我この民を去しめてエホバに犠牲をささぐることを得せしめん 9 モーセ、パロに言けるは我なんぢと汝の臣下と汝の民のために願ひて何時此蛙を汝と汝の家より絶りて河にのみ止らしむべきや我にさせと 10 彼明日といひければモーセ言ふ汝の言のごとくに爲し汝をして我らの神エホバのごとき者なきことを知しめん 11 蛙汝と汝の家を離れ汝の臣下と汝の民を離れて河にのみ止

るべしと 12 モーセとアロンすなはちバロを離れて出でモーセそのバロに至らしめたまひし蛙のためにエホバに呼はりしに 13 エホバ、モーセの言のごとくなしたまひて蛙家より村より田野より死亡たり 14 茲にこれを攢むるに山をなし地臭くなりぬ 15 然るにバロは嘔氣時あるを見てその心を頑固にして彼等に聽ことをせざりきエホバの言たまひし如し 16 エホバ、モーセに言たまひけるは汝アロンに言へ汝の杖を伸べ地の塵を打てエジプト全國に蚤とならしめよと 17 彼等斯なせり即ちアロン杖をとりて手を伸べ地の塵を撃けるに蚤となりて人と畜につけりエジプト全國において地の塵みな蚤となりぬ 18 法術士等その秘術をもて斯おこなひて蚤を出さんとしたりしが能はざりき蚤は人と畜に著く 19 是において法術士等バロに言ふ是は神の指なりと然るにバロは心剛愎にして彼等に聽ざりきエホバの言たまひし如し 20 エホバ、モーセに言たまひて汝朝早く起てバロの前に立て視よ彼は水に臨む汝彼に言へエホバかく言たまふわが民を去しめて我に事ふことを得せしめよ 21 汝もしわが民を去しめずは視よ我汝と汝の臣下と汝の民と汝の家々と蚋をおくらんエジプト人の家々には蚋充べし彼らの居るところの地も然らん 22 その日に我わが民の居るゴセンの地を區別おきて其處に蚋あらしめし是地の中にありて我のエホバなることを汝が知んためなり 23 我わが民と汝の民の間に區別をたてん明日この徴あるべし 24 エホバかく爲たまひたれば蚋おびただしく出來りてバロの家にいりその臣下の家にいりエジプト全國にたり蚋のために地害はる 25 是においてバロ、モーセとアロンを召ていひけるは汝等往て國の中にて汝らの神に犠牲を獻げよ 26 モーセ言ふ然するは宜からず我等はエジプト人の崇拜む者を犠牲としてわれらの神エホバに獻ぐべければなり我等もしエジプト人の崇拜む者をその目の前にて犠牲に獻げなば彼等石にて我等を撃ざらんや 27 我等は三日路ほど曠野にいりて我らの神エホバに犠牲を獻げその命じたまひしごとくせんす 28 バロ言けるは我汝らを去しめて汝らの神エホバに曠野にて犠牲を獻ぐることを得せしめん但餘に遠くは行べからず我ために祈れよ 29 モーセ言けるは視よ我汝をはなれて出づ我エホバに祈ん明日蚋バロとその臣下とその民を離れん第バロ再び偽をおこなひ民を去しめてエホバに犠牲をささぐるを得せしめざるが如きことを爲ざれ 30 かくてモーセ、バロをはなれて出でエホバに祈りたれば 31 エホバ、モーセの言のごとく爲したまへり即ちその蚋をバロとその臣下とその民よりはなれしめたまふ一ものこざりき 32 然るにバロ此時にもまたその心を頑固にして民を去しめざりき

Chapter 9

1爰にエホバ、モーセにいひた

まひけるはバロの所にいりてかれに告よヘブル人の神エホバ斯いひたまふ吾民を去しめて我につかふることをえせしめよ 2 汝もし彼等をさらしむることを拒みて尚かれを拘留へなば 3 エホバの手野にをる汝の家畜馬驢馬駱駝牛および羊に加はらん即ち甚だ惡き疾あるべし 4 エホバ、イスラエルの家畜とエジプトの家畜とを別ちたまはんイスラエルの子孫に屬する者は死者あらざるべしと 5 エホバまた期をさだめて言たまふ明日エホバこの事を國になさんと 6 明日エホバこの事をなしたまひければエジプトの家畜みな死り然どイスラエルの子孫の家畜は一も死ざりき 7 バロ人をつかはして見さしめたるにイスラエルの家畜は一頭だにも死ざりき然どもバロは心剛愎にして民をさらしめざりき 8 またエホバ、モーセとアロンにいひたまひけるは汝等竈爐の灰を一握とれ而してモーセ、バロの目の前にて天にむかひて之をまきちらすべし 9 其灰エジプト全國に塵となりてエジプト全國の人と畜獸につき膿をもちて脹る腫物とならんと 10 彼等すなはち竈爐の灰をとりてバロの前に立ちモーセ天にむかひて之をまきちらしければ人と畜獸につき膿をもちて脹る腫物となれり 11 法術士等はその腫物のためにモーセの前に立つことを得ざりき腫物は法術士等よりして諸のエジプト人にまで生じたり 12 然どエホバ、バロの心を剛愎にしたまひたれば彼らに聽ざりきエホバのモーセに言給ひし如し 13 爰にエホバ、モーセにいひたまひけるは朝早くおきてバロの前にたちて彼に言へヘブル人の神エホバ斯いひたまふ吾民を去しめて我に事ふるをえせしめよ 14 我此度わが諸の災害を汝の心となんぢの臣下およびなんぢの民に降し全地に我ごとき者なきことを汝に知しめん 15 我もしわが手を伸べ疫病をもて汝となんぢの民を撃たらば汝は地より絶れしならん 16 抑わが汝をたてたるは即ちなんぢをしてわが權能を見さしめわが名を全地に傳へんためなり 17 汝なほ吾民の前に立ふさがりて之を去しめざるや 18 視よ明日の今頃我はなはだ大なる雷を降すべし是はエジプトの開國より今までに嘗てあらざりし者なり 19 然ば人をやりて汝の家畜および凡て汝が野に有る物を集めよ人も畜獸も凡て野にありて家に歸らざる者は雷その上にふりくだりて死るにたらん 20 バロの臣下の中エホバの言を畏る者はその僕と家畜を家に逃いらしめしが 21 エホバの言を意にとめざる者はその僕と家畜を野に置り 22 エホバ、モーセにいひたまひけるは汝の手を天に舒てエジプト全國に雷あらしめエジプトの國中の人と畜獸と田圃の諸の蔬にふりくだらしめよと 23 モーセ天にむかひて杖を舒たればエホバ雷と雷を遣りたまふ又火いでて地に馳すエホバ雷をエジプトの地に降せたまふ 24 斯雷ふり又火の塊雷に雜りて降る甚だ勵しエジプト全國には其國を成てよりこのかた未だ斯る者あらざりしなり 25 雷エジプト全國に於て人と畜獸とをいはず凡て田圃

にをる者を撃り雷また田圃の諸の蔬を撃ち野の諸の樹を折り 26 唯イスラエルの子孫のをるゴセンの地には雷あらざりき 27 是に於てバロ人をつかはしてモーセとアロンを召てこれに言けるは我此度罪ををかしたりエホバは義く我とわが民は惡し 28 エホバに願ひてこの神鳴と雷を最早これにて足しめよ我なんぢらを去しめん汝等今は留るにおよばず 29 モーセかれに曰けるは我邑より出で我手をエホバに舒ひろげん然ば雷やみて雷かさねてあらざるべし斯して地はエホバの所屬なるを汝にらしめん 30 然ど我しる汝となんぢの臣下等はなほエホバ神を畏れざるならんと 31 宿麻と大麦は撃れたり大麦は穗いで麻は花さきぬたればなり 32 然ど小麦と裸麥は未だ長ざりしによりて撃れざりき 33 モーセ、バロをはなれて邑より出でエホバにむかひて手をのべひろげれば雷と雷やみて雨地にふらずなりぬ 34 然るにバロ雨と雷と雷鳴のやみたるを見て復も罪を犯し其心を剛愎にす彼もその臣下も然り 35 即ちバロは心剛愎にしてイスラエルの子孫を去しめざりきエホバのモーセによりて言たまひしごとし

Chapter 10

1爰にエホバ、モーセにいひたまひけるはバロの所に入れ我かれの心とその臣下の心を剛愎にせり是はわが此等の徴を彼等の中に示さんため 2 又なんぢをして吾がエジプトにて行ひし事等すなはち吾がエジプトの中にてなしたる徴をなんぢの子となんぢの子の耳に語らしめんためなり斯して汝等わがエホバなるを知べし 3 モーセとアロン、バロの所にいりて彼にいひけるはヘブル人の神エホバかく言たまふ何時まで汝は我に降ることを拒むや我民をさらしめて我に事ふることをえせしめよ 4 汝もしわが民を去しむることを拒まば明日我蝗をなんぢの境に入しめん 5 蝗地の面を蔽て人地を見るあははざるべし蝗かの免かれてなんぢに遺れる者すなはち雷に打のこされたる者や食ひ野に汝らのために生る諸の樹をくらはん 6 又なんぢの家となんぢの臣下の家々および凡のエジプト人の家に満べし是はなんぢの父となんぢの父の父が世にいでしより今日にいたるまで未だ嘗て見ざるものなりと斯て彼身をめぐらしてバロの所よりいでたり 7 時にバロの臣下バロにいひけるは何時まで此人われらの竊となるや人々を去しめてその神エホバに事ふることをえせしめよ汝なほエジプトの滅ぶるを知ざるやと 8 是をもてモーセとアロンふたび召れてバロの許にいたるにバロかれらにいふ往てなんぢらの神エホバに事よ但し往く者は誰と誰なるや 9 モーセいひけるは我等は幼者をも老者をも子息をも息女をも撃へて行き羊をも牛をもたづさへて往くべし其は我らエホバの祭禮をなさんとすればなり 10 バロかれらにいひけるは我汝等となんぢらの子等を去しむる時は

エホバなんぢらと偕に在れ慎めよ惡き事なんぢらの面のまへにあり 11 そは宜からず汝ら男子のみ往てエホバに事よ是なんぢらが求むるところなりと彼等つひにバロの前より逐いださる 12 爰にエホバ、モーセにいひたまひけるは汝の手をエジプトの地のうへに舒て蝗をエジプトの國にのぞませて彼の雷が打殘したる地の諸の蔬を悉く食しめよ 13 モーセすなはちエジプトの地の上に其杖をのべければエホバ東風をおこしてその一日一夜地にふかしめたまひしが東風朝におよびて蝗を吹きたりて 14 蝗エジプト全國にのぞみエジプトの四方の境に居て害をなすこと太甚し是より先には斯のごとき蝗なかりし是より後にあらざるべし 15 蝗全國の上を蔽ひければ國暗くなりぬ而して蝗地の諸の蔬および雷の打殘せし樹の葉を食ひたればエジプト全國に於て樹にも田圃の蔬にも青き者とはのこらざりき 16 是をもてバロ急ぎモーセとアロンを召て言ふ我なんぢらの神エホバと汝等とにむかひて罪ををかせり 17 然ば請ふ今一次のみ吾罪を宥してなんぢらの神エホバに願ひ唯此死を我より取はなさしめよと 18 彼すなはちバロの所より出でエホバにねがひければ 19 エホバはなはだ強き西風を吹めぐらせて蝗を吹はらしめ之を紅海に驅いたまひてエジプトの四方の境に蝗ひとつも遺らざるにいたれり 20 然れどもエホバ、バロの心を剛愎にしたまひたればイスラエルの子孫をさらしめざりき 21 エホバまたモーセにいひたまひけるは天にむかひて汝の手を舒てエジプトの國に黑暗を起すべし其黑暗は摸るべきなりと 22 モーセすなはち天にむかひて手を舒ければ稠密黑暗三日のあひだエジプト全國にありて 23 三日の間は人々たがひに相見るあはず又おのれの處より起ものなかりき然どイスラエルの子孫の居處には皆光ありき 24 是に於てバロ、モーセを呼ていひけるは汝等ゆきてエホバに事よ唯なんぢらの羊と牛を留めおくべし汝らの子女も亦なんぢらとともに往べし 25 モーセいひけるは汝また我等の神エホバに獻ぐべき犠牲と燔祭の物をも我儕に與ふべきなり 26 われらの家畜もわれらとともに往べし一蹄も後にのこすべからず其は我等その中を取てわれらの神エホバに事べきが故なりまたわれら彼處にいたるまでは何をもてエホバに事ふべきかを知らざればなりと 27 然れどもエホバ、バロの心を剛愎にしたまひたればバロかれらをさらしむることを肯ぜざりき 28 すなはちバロ、モーセに言ふ我をはなれて去よ自ら慎め重てわが面を見るなかれ汝わが面を見る日には死べし 29 モーセいひけるは汝の言ふところは善し我重て復なんぢの面を見るべし

Chapter 11

1エホバ、モーセにいひたまひけるは我今一箇の災をバロおよびエジプトに降さん然後かれ汝等を此處

より去しむべし彼なんぢらを全く去しむるには必ず汝らを此より逐はらん 2 然ば汝民の耳にかたり男女をしておのおのその隣々に銀の飾品の飾具を乞しめよと 3 エホバつひに民をしてエジプト人の恩を蒙らしめたまふ又その人モーセはエジプトの國にてパロの臣下の目と民の目に甚だ大なる者と見えたり 4 モーセいひけるはエホバかく言たまふ夜半頃われ出てエジプトの中に至らん 5 エジプトの國の中の長子たる者は位に坐するパロの長子より磨の後にをる婢の長子まで悉く死べし又畜畜の首出もしかり 6 而してエジプト全國に大なる號哭あるべし是まで是のごとき事はあらずまた再び斯ること有ざるべし 7 然どイスラエルの子孫にむかひては犬もその舌をうごかさじ人にむかひても畜畜にむかひても然り汝等これによりてエホバがエジプト人とイスラエルのあひだに區別をなしたまふを知べし 8 汝の此臣等みなわが許に下り来てわれを拜し汝となんぢに從がふ民みな出よと言然る後われ出べしと烈しく怒りてパロの所より出たり 9 エホバ、モーセにいひたまひけるはパロ汝に聽ざるべし是をもて吾がエジプトの國に奇蹟をおこなふこと増べし 10 モーセとアロンこの諸の奇蹟をことごとくパロの前に行ひたれどもエホバ、パロの心を剛愎にしたまひければ彼イスラエルの子孫をその國より去しめざりき

Chapter 12

1 エホバ、エジプトの國にてモーセとアロンに告いでいひたまひけるは 2 此月を汝らの月の首となせ汝らは是を年の正月となすべし 3 汝等イスラエルの全會衆に告いで言べし此月の十日に家の父たる者おのおの羔羊を取べし即ち家ごとく一箇の羔羊を取べし 4 もし家族少くして其羔羊を盡すことあたはずはその家の隣なる人とともに人の數にしたがひて之を取べし各人の食ふ所にしたがひて汝等羔羊を計るべし 5 汝らの羔羊は疵なき當歳の牡なるべし汝等綿羊あるひは山羊の中よりこれを取べし 6 而して此月の十四日まで之を守りおきイスラエルの會衆みな薄暮に之を屠り 7 その血をととりて其之を食ふ家の門口の兩旁の樑と鴨居に塗べし 8 而して此夜その肉を火に炙て食ひ又酔いれぬパンに苦菜をそへて食ふべし 9 其を生じても水に煮ても食ふなかれ火に炙べし其頭と脛と臟腑とを皆くからへ 10 其を明朝まで残しおくなかれ其明朝まで残れる者は火にて焼つくすべし 11 なんぢら斯之を食ふべし即ち腰をひきながら足に鞋を穿き手に杖をとりて急て之を食ふべし是エホバの逾越節なり 12 是夜われエジプトの國を巡りて人と畜とを論ずエジプトの國の中の長子たる者を盡く撃殺し又エジプトの諸の神に罰をかうむらせん我はエホバなり 13 その血なんぢらが居るところの家にありて汝等のために記號とならん我血を見る時なんぢらを逾越すべし又わがエジプトの國を撃つ時災なんぢら

に降りて滅ぼすことなかるべし 14 汝らは是日を記念えてエホバの節期となし世々これを祝ふべし汝等之を常例となして祝ふべし 15 七日の間酔いれぬパンを食ふべしその首の日にパン酵を汝等の家より除け凡て首の日より七日までに酔いれぬパンを食ふ人はイスラエルより絶るべきなり 16 且首の日に聖會をひらくべし又第七日に聖會を汝らの中に開け是ふたつの日には何の業をもなすべからず只各人の食ふ者のみ汝等作ことを得べし 17 汝ら酔いれぬパンの節期を守るべし其は此日に我なんぢらの軍隊をエジプトの國より導きいだせばなり故に汝ら常例となして世々是日をまもるべし 18 正月に於てその月の十四日の晩より同月の二十一日の晩まで汝ら酔いれぬパンを食へ 19 七日の間なんぢらの家にパン酵をおくべからず凡て酔いれたる物を食ふ人は其異邦人たると本國に生れし者たるとを問ず皆イスラエルの聖會より絶るべし 20 汝ら酔いれたる物は何をも食ふべからず凡て汝らの居處に於ては酔いれぬパンを食ふべし 21 是に於てモーセ、イスラエルの長老を盡くまねきて之にいひ汝等その家族に循ひて一頭の羔羊を摘み取り之を屠りて逾越節のために備へよ 22 又牛膝草一束を取て孟の血に濡し孟の血を門口の鴨居および二旁の柱にそそぐべし明朝にいたるまで汝等一人も家の戸をいづるなかれ 23 其はエホバ、エジプトを撃に巡りたまふ時鴨居と兩旁の柱に血のあるを見ばエキバ其門を逾越し殺滅者をして汝等の家に入て撃ざらしめたまふべければなり 24 汝らは是事を例となして汝となんぢの子孫永くこれを守るべし 25 汝等エホバがその言たまひし如くになんぢらに與へたまはんとこの地に至る時ははこの禮式をまもるべし 26 若なんぢらの子女この禮式は何の意なるやと汝らに問ば 27 汝ら言ふべし是はエホバの逾越節の祭祀なりエホバ、エジプト人を撃たまひし時エジプトにをるイスラエルの子孫の家を逾越てわれらの家を救ひたまへりと民すなはち鞠て拜せり 28 イスラエルの子孫去てエホバのモーセとアロンに命じたまひしごとくなし斯おこなへり 29 爰にエホバ夜半にエジプトの國の中の長子たる者を位に坐するパロの長子より牢獄にある俘虜の長子まで盡く撃たまふ亦家畜の首生もしかり 30 期有しかばパロとその諸の臣下およびエジプト人みな夜の中に起あがりエジプトに大なる號哭ありき死人あらざる家なかりければなり 31 パロすなはち夜の中にモーセとアロンを召ていひけるは汝らとイスラエルの子孫起てわが民の中より出さざり汝らがいへる如くに往てエホバに事へよ 32 亦なんぢらが言ることく汝らの羊と牛をひきて去れ汝らまた我を祝せよと 33 是においてエジプト人我等みな死ると言て民を催逼て速かに國を去しめんとせしかば 34 民捏粉の未だ酔いれざるを執り捏盤を衣服に包みて肩に負ふ 35 而してイスラエルの子孫モーセの言のごとく爲しエジプト人に銀の飾物、金の飾物および衣服を

乞たるに 36 エホバ、エジプト人をして民をめぐらしめ彼等にこれを與へしめたまふ斯かれらエジプト人の物を取り 37 斯てイスラエルの子孫ラメセスよりスコテに進みしが子女の外に徒て歩める男六十萬人ありき 38 又衆多の寄集人および羊牛等ははなはだ多の家畜彼等とともに上れり 39 爰に彼等エジプトより携へいでたる捏粉をもて酔いれぬパンを烘り未だ酔いれざりければなり是かれらエジプトより逐いだされて濡滞を得ざりしに由り又何の食糧をも備へざりしに因る 40 倍イスラエルの子孫のエジプトに住居しその住居の間は四百三十年なりき 41 四百三十年の終にいたり即ち其日にエホバの軍隊みなエジプトの國より出たり 42 是はエホバが彼等をエジプトの國より導きいだしたまひし事のためにエホバの前に守るべき夜なり是はエホバの夜にしてイスラエルの子孫が皆世々まもるべき者なり 43 エホバ、モーセとアロンに言たまひけるは逾越節の例は是のごとく異邦人はこれを食ふべからず 44 但し各人の金にて買たる僕は割禮を施して然る後是を食しむべし 45 外國の客および傭人は之を食ふべからず 46 一の家にてこれを食ふべしその肉を少も家の外に持ていづるなれ又其骨を折べからず 47 イスラエルの會衆みな之を守るべし 48 異邦人なんぢとともに寄居てエホバの逾越節を守らんとせば其男悉く割禮を受て然る後に近りて守るべし即ち彼は國に生れたる者のごとくなるべし割禮をうけざる人はこれを食ふべからざるなり 49 國に生れたる者にもまた汝らの中に寄居る異邦人にも此法は同一なり 50 イスラエルの子孫みな斯おこなひエホバのモーセとアロンに命じたまひしごとく爲たり 51 その同じ日にエホバ、イスラエルの子孫をその軍隊にしたがひてエジプトの國より導きいだしたまへり

Chapter 13

1 爰にエホバ、モーセに告いでいひたまひけるは 2 人と畜とを論ず凡てイスラエルの子孫の中の始て生れたる首生をば皆聖別て我に歸せしむべし是わが所属なればなり 3 モーセ民にいひけるは汝等エジプトを出て奴隷たる家を出るこの日を誦えよエホバ能ある手をもて汝等を此より導きいだしたまへばなり酔いれたるパンを食ふべからず 4 アピブの月の此日なんぢら出づ 5 エホバ汝を導きてカナン人へテ人アモリ人ヒビ人エブス人の地すなはちその汝にあたへんと汝の先祖たちに誓ひたまひし彼乳と蜜の流るる地に至らしめたまはん時なんぢ此月には禮式を守るべし 6 七日の間なんぢ酔いれぬパンを食ひ第七日にエホバの節筵をなすべし 7 酔いれぬパンを七日くふべし酔いれたるパンを汝の所におくなかれ又汝の境の中に汝の許にパン酵をおくなかれ 8 汝その日に汝の子に示して言べし是は吾がエジプトより出る時にエホバの我に爲

したまひし事のためなりと 9 斯をなんぢの手におきて記號となし汝の目の間におきて記號となしてエホバの法律を汝の口に在しむべし其はエホバ能ある手をもて汝をエジプトより導きいだしたまへばなり 10 是故に年々その期にいたりてこの例をまもるべし 11 エホバ汝となんぢの先祖等に誓ひたまひしごとく汝をカナン人の地にみちびきて之を汝に與へたまはん時 12 汝凡て始て生れたる者及び汝の有る畜の初生を悉く分ちてエホバに歸せしむべし男牡はエホバの所属なるべし 13 又驢馬の初子は皆羔羊をもて贖ふべしもし贖はずばその頸を折るべし汝の子等の中の長子なる人はみな贖ふべし 14 後に汝の子に問ては何なると言べしこれに言べしエホバ能ある手をもて我等をエジプトより出し奴隷たりし家より出したまへり 15 當時パロ剛愎にして我等を去しめざりしかばエホバ、エジプトの國の中の長子たる者を人の長子より畜の初生まで盡く殺したまへり是故に始て生れし牡を盡くエホバに犠牲に獻ぐ但しわが子等の中の長子は之を贖ふなり 16 是をなんぢの手におきて號となし汝の目の間におきて誌となすべしエホバ能ある手をもて我等をエジプトより導きいだしたまひたればなりと 17 倍パロ民をさらしめし時ペリシテ人の地は近かりけれども神彼等をみちびきて其地を通りたまはざりき其は民戦争を見ば悔てエジプトに歸るならんと神おもひたまひたればなり 18 神紅海の曠野の道より民を導きたまふイスラエルの子孫行伍をたててエジプトの國より出づ 19 其時モーセはヨセフの骨を携ふ是はヨセフ神かならず汝らを着きたまふべし汝らわが骨を此より携へ出づればいひてイスラエルの子孫を固く誓せられたればなり 20 斯てかれらスコテより進みて曠野の端なるエタム比幕張す 21 エホバかれらの前に往たまひ晝は雲の柱をもてかれらを導き夜は火の柱をもて彼らを照して晝夜往すすまめたまふ 22 民の前に晝は雲の柱を除きたまはず夜は火の柱のをぞきたまはず

Chapter 14

1 茲にエホバ、モーセに告いでいひ給へしは 2 イスラエルの子孫に言て轉回てミグドルと海の間なるピハヒロテの前にあたりてパアルゼボンの前に幕を張しめよ其にむかひて海の傍に幕を張るべし 3 パロ、イスラエルの子孫の事をかたりて彼等はその地に迷ひりて曠野に閉こめられたるならんといふべければなり 4 我パロの心を剛愎にすべければパロ彼等の後を追はん我パロとその凡の軍勢に由て譽を得エジプト人をして吾エホバなるを知しめんと彼等すなはち斯なせり 5 茲に民の逃さりたることエジプト王に聞えければパロとその臣下等民の事につきて心を變じて言ふ我等何て斯イスラエルを去しめて我に事ざらしむるがごとき事をなしたるやと 6 パロすなはちその軍

を備へ民を將て己にしたがはしめ 7 撰抜の戦車六百兩にエジプトの諸の戦車および其の諸の軍長等を率ゐたり 8 エホバ、エジプト王パロの心を剛愎にしたまひれば彼イスラエルの子孫の後を追ひイスラエルの子孫は高らかなる手によりて出たり 9 エジプト人等パロの馬、車およびその騎兵と軍勢彼等の後を追てそのパアルゼボンの前なるピハヒロテの邊にて海の傍に幕を張るに追つたり 10 パロの近よりし時イスラエルの子孫目をあげて視しにエジプト人己の後に進み來りしかば痛く懼れたり是に於てイスラエルの子孫エホバに呼號り 11 且モーセに言けるはエジプトに墓のあらざるがために汝われらをたづさへいだして曠野に死しむるや何故に汝われらをエジプトより導き出して斯我らに爲や 12 我等がエジプトにて汝に告て我儕を棄おき我らをしてエジプト人に事しめよと言し言は是ならざるや其は曠野にて死するよりモエジプト人に事するは善ればなり 13 モーセ民にいひけるは汝ら懼るるなかれ立てエホバが今日汝等のために爲たまはんとするの救を見よ汝らが今日見たるエジプト人をば汝らかさねて復これを見ること絶てなかるべきなり 14 エホバ汝等のために戦ひたまはん汝等は靜りて居るべし 15 時にエホバ、モーセにいひたまひけるは汝なんぞ我に呼はるやイスラエルの子孫に言て進みゆかしめよ 16 汝杖を擧げ手を海の上に伸て之を分ちイスラエルの子孫をして海の中の乾ける所を往しめよ 17 我エジプト人の心を剛愎にすべければ彼等その後にしたがひて入るべし我かくしてパロとその諸の軍勢およびその戦車と騎兵に因て榮譽を得ん 18 我がパロとその戦車と騎兵によりて榮譽をえん時エジプト人は我のエホバなるを知らん 19 爰にイスラエルの陣營の前に行る神の使者移りてその後に行けり即ち雲の柱その前面をはなれて後に立ち 20 エジプト人の陣營とイスラエルの陣營の間に至りけるが乾がためには雲となり暗となり是がためには夜を照せり是をもて彼と是と夜の中に相近づかざりき 21 モーセ手を海の上に伸ければエホバ終夜強き東風をもて海を退かしめ海を陸地となしたまひて水遂に分れたり 22 イスラエルの子孫海の中の乾ける所を行くには水は彼等の右左に墻となれり 23 エジプト人等パロの馬車、騎兵みなその後にしたがひて海の中に入る 24 曉にエホバ火と雲との柱の中よりエジプト人の軍勢を望みエジプト人の軍勢を惱ましめ 25 其車の輪を脱して行に重くならしめたまひければエジプト人言ふ我儕イスラエルを離れて逃ん其はエホバかれらのためにエジプト人と戦へばなりと 26 時にエホバ、モーセに言たまひける汝の手を海の上に伸て水をエジプト人とその戦車と騎兵の上に流れ反らしめよと 27 モーセすなはち手を海の上に伸けるに夜明におよびて海本の勢力にかへりたればエジプト人之人に逆ひて逃たりしがエホバ、エジプト人を海の中に擲ちたまへり 28 即ち水流反りて戦車と騎兵を

覆ひイスラエルの後にしたがひて海にいりしパロの軍勢を悉く覆へり一人も遺れる者あらざりき 29 然どイスラエルの子孫は海の中の乾ける所を歩みしが水はその右左に墻となれり 30 斯エホバこの日イスラエルをエジプト人の手より救ひたまへりイスラエルはエジプト人が海邊に死するを見たり 31 イスラエルまたエホバがエジプト人に爲たまひし大なる事を見たり是に於て民エホバを畏れエホバとその僕モーセを信じたり

Chapter 15

1 是に於てモーセおよびイスラエルの子孫この歌をエホバに謡ふ云く我エホバを歌ひ頌ん彼は高らかに高くいますなり彼は馬とその乗者を海になげうちたまへり 2 わが力がわが歌はエホバなり彼はわが救拯となりたまへり彼はわが神なり我これを頌美ん彼はわが父の神なり我これを崇めん 3 エホバは軍人にして其名はエホバなり 4 彼パロの戦車とその軍勢を海に投すてたまふパロの勝れたる軍長等は紅海に沈めり 5 大水かれらを掩ひて彼等石のごとくに淵の底に下る 6 エホバよ汝の右の手は力をもて榮光をあらはすエホバよ汝の右の手は敵を碎く 7 汝の大なる榮光をもて汝は汝にたち逆ひる者を滅したまふ汝怒を發すれば彼等は藁のごとくに焚つくさる 8 汝の鼻の息によりて水積かさなり浪堅く立て岸のごとくに成り大水海の中に凝る 9 敵は言ふ我追て追つき掠取物を分たん我かれらに因てわが心を飽しめん我劍を抜んわが手がかれらを亡さんと 10 汝氣を吹たまへば海かれらを覆ひて彼等は猛烈き水に鉛のごとくに沈めり 11 エホバよ神の中に誰か汝に如ものあらん誰か汝のごとく聖して榮あり讃べくして威ありて奇事を行なふ者あらんや 12 汝その右の手を伸たまへば地かれらを呑む 13 汝はその曠ひし民を恩恵をもて導き汝の力をもて彼等を汝の聖き居所に引たまふ 14 國々の民聞て慄へりシテに住む者畏懼を懐く 15 エドムの子等駭きモアブの剛者戰慄くカナンに住る者みな消うせん 16 畏懼と戰慄かれらに及ぶ汝の腕の大なるがために彼らは石のごとくに黙然たりエホバよ汝の民の通り過るまで汝の買たまひし民の通り過るまで然るべし 17 汝民を導きてこれを汝の産業の山に植たまはんエホバよ是すなはち汝の居所とせんとして汝の設けたまひし者なり主よ是汝の手の建たる聖所なり 18 エホバは世々限なく王たるべし 19 斯パロの馬その車および騎兵とともに海にいりしにエホバ海の水を彼等の上に流れ還らしめたまひしがイスラエルの子孫は海の中にありて旱地を通り 20 時にアロンの姉なる預言者ミリアム籥を手にとるに婦等みな彼にしたがひて出で籥をとり且踊る 21 ミリアムすなはち彼等に和へて言ふ汝等エホバを歌ひ頌ん彼は高らかに高くいますなり彼は馬とその乗者を海に擲ちたまへり 22 斯てモーセ紅海よりイスラエルを導きて

シユルの曠野にいり曠野に三日歩みたりしが水を得ざりき 23 彼ら遂にメラにいたりしがメラの水苦くして飲ことを得ざりき是をもて其名はメラ(苦)と呼る 24 是に於て民モーセにむかひて嘆き我儕何を飲んかと言ければ 25 モーセ、エホバに呼はりしにエホバこれに一本の木を示したまひたれば即ちこれを水に投げしに水甘くなれり彼處にてエホバ民のために法度と法律をたてたまひ彼處にてこれを試みて 26 言たまはく汝も善く汝の神エホバの聲に聽したがひエホバの口に善と見ることを爲しその誠命に耳を傾けその諸の法度を守ば我わがエジプト人に加へしところのその疾病を一も汝に加へざるべし其は我はエホバにして汝を醫する者なればなりと 27 斯て彼等エリムに至れり其處に水の井十二棕櫚七十本あり彼處にて彼等水の傍に幕張す

Chapter 16

1 斯てエリムを出たちてイスラエルの子孫の會衆そのエジプトの地を出しより二箇月の十五日に皆エリムとシナイの間なるシンの曠野にいたりけるが 2 其曠野においてイスラエルの全會衆モーセとアロンに向ひて喧けり 3 即ちイスラエルの子孫かれらに言けるは我儕エジプトの地に於て肉の鍋の側に坐り飽までにパンを食ひし時にエホバの手によりて死たらば善しし者を汝等は此の曠野に我等を導きいだしてこの全會を饑に死しめんとするなり 4 時にエホバ、モーセに言たまひけるは視よ我パンを汝らのために天より降さん民いでて日用の分を毎日斂むべし斯て我かれらが吾の法律にしたがふや否を試みん 5 第六日には彼等その取れたる者を調理ふべし其は日々に斂る者の二倍なるべし 6 モーセとアロン、イスラエルの全の子孫に言けるは夕にいたらば汝等はエホバが汝らをエジプトの地より導きいだしたまひしなるを知にいたらん 7 又朝にいたらば汝等エホバの榮光を見ん其はエホバなんぢらがエホバに向ひて喧くを聞たまへばなり我等を誰となくして汝等は我儕に向ひて喧くや 8 モーセまた言けるはエホバには汝等に肉を與へて食はしめ朝にはパンをあたへて飽しめたまはん其はエホバ己にむかひて汝等が喧くところの怨言を聞給へばなり我儕を誰と爲や汝等の怨言は我等にむかひてするに非ずエホバにむかひてするなり 9 モーセ、アロンに言けるはイスラエルの子孫の全會衆に言へ汝等エホバの前に近よれエホバなんぢらの怨言を聞給へり 10 アロンすなはちイスラエルの子孫の全會衆に語しかば彼等曠野を望むにエホバの榮光雲の中に顯はる 11 エホバ、モーセに告て言たまひけるは 12 我イスラエルの子孫の怨言を聞り彼等に告て言へ汝等夕には肉を食ひ朝にはパンに飽へし而して我のエホバにして汝等の神なることを知にいたらん 13 即ち夕におよびて露營の四圍におきしが 14 そ

のおける露乾くにあたりて曠野の表に霜のごとき小き圓き者地にあり 15 イスラエルの子孫これを見て此は何ぞやと互に言ふ其はその何たるを知らざればなりモーセかれらに言けるは是はエホバが汝等の食にあたへたまふパンなり 16 エホバの命じたまふところの事は是なり即ち各その食ふところに循ひて之を斂め汝等の人数にしたがひて一人に一オメルを取れ各人その天幕に在る者等のためにこれを取べし 17 イスラエルの子孫かくなせしに其斂るところに多きと少きとありしが 18 オメルをもてこれむ量るに多く斂めし者にも餘るところ無く少く斂めし者にも足ぬところ無りき皆その食ふところに循ひてこれを斂めたり 19 モーセ彼等に誰も朝までこれを残しおく可らずと言り 20 然るに彼等モーセに聽したがはずして或者はこれを朝まで残したりしが蟲たかりて臭なりぬモーセこれを怒る 21 人々各その食ふところに循ひて朝毎に之を斂めしが日熱なれば消ゆ 22 第六日にいたりて人々二倍のパンを斂めたり即ち一人に二オメルを斂むるに會衆の長皆きたりて之をモーセに告ぐモーセ 23 かれらに言ふエホバの言たまふところは是のごとし明日はエホバの聖安息日にして休息なり今日汝等焼んとする者を焼き煮んとする者を煮よ其残れる者は皆明朝まで蔵めおくべし 24 彼等モーセの命ぜしごとくに翌朝まで蔵めおきしが臭なりとなく又蟲もその中に生ぜざりき 25 モーセ言ふ汝等今日其を食へ今日はエホバの安息日なれば今日は汝等これを野に獲ざるべし 26 六日の間汝等これを斂むべし第七日は安息日なればその日には有ざるべし 27 然るに民の中に七日に出て斂めんとせし者ありしが得ところ無りき 28 是に於てエホバ、モーセに言たまひけるは何時まで汝等は吾が誠命とわが律法をまもることをせざるや 29 汝等視よエホバなんぢらに安息日を賜へり故に第六日に二日の食物を汝等にあたへたまふなり汝等おのおのその處に休みをれ第七日にはその處より出る者あるべからず 30 是民第七日に休息り 31 イスラエルの家その物の名をマナと稱り是は莞の實のごとくにして白く其味は蜜をいれたる菓子のごとし 32 モーセ言ふエホバの命じたまふところは是のごとし是を一オメル盛て汝等の代々の子孫のためにたくはへおくべし是はわが汝等をエジプトの地より導きいだしし時に曠野にて汝等を養ひしところのパンを之に見さしめんためなり 33 而してモーセ、アロンに言けるは壺を取てその中にマナオメルを盛てこれをエホバの前におき汝等の代々の子孫のためにたくはふべし 34 エホバのモーセに命じたまひし如くにアロンこれを律法の前におきてたくはふ 35 イスラエルの子孫は人の住る地に至るまで四十年が間マナを食へり即ちカナンの地の境にいたるまでマナを食へり 36 オメルはエバの十分の一なり

Chapter 17

1 イスラエルの子孫の會衆エホバの命にしたがひて皆シンの曠野を立出で旅路をかさねてレビデムに幕張せしが民の飲む水あらざりき 2 是をもて民モーセと争ひて言ふ我儕に水をあたへて飲しめよモーセかれらに言けるは汝ら何ぞ我とあらずや何ぞエホバを試むるや 3 彼處にて民水に渴き民モーセにむかひて吹き言ふ汝などて我等をエジプトより導きいだして我等とわれらの子女とわれらの家畜を渴に死しめんとするや 4 是に於てモーセ、エホバに呼はりて言ふ我この民に何をなすべきや彼等は殆ど我を石にて撃んとするなり 5 エホバ、モーセに言たまひけるは汝民の前に進み民の中の或長老等を伴ひかの汝が河を撃し杖を手に執て往よ 6 視よ我そこにて汝の前にあたりてホレブの磐の上に立ん汝聲を撃べし然せば其より水出ん民これを飲べしモーセすなはちイスラエルの長老等の前にて斯おこなへり 7 かくて彼その處の名をマツサと呼び又メリバと呼り是はイスラエルの子孫の争ひしに由り又そのエホバはわれらの中に在すや否と云てエホバを試みしに由なり 8 時にアマレクきたりてイスラエルとレビデムに戦ふ 9 モーセ、ヨシユアに言けるは我等のために人を擇み出でてアマレクと戦へ明日我神の杖を手にとりて岡の嶺に立ん 10 ヨシユアすなはちモーセの己に言しごとくに爲しアマレクと戦ふモーセ、アロンおよびホルは岡の嶺に登りしが 11 モーセ手を擧ぐればイスラエル勝ち手を垂ればアマレク勝り 12 然るにモーセの手重くなりたればアロンとホル石をとりてモーセの下におきてその上に坐せしめ一人は此方一人は彼方にありてモーセの手を支へたりしかばその手日の没まで垂下ざりき 13 是においてヨシユア刃をもてアマレクとその民を敗れり 14 エホバ、モーセに言たまひけるは之を書に筆して記念となしヨシユアの耳にこれをいれよ我必ずアマレクの名を塗抹て天下にこれを誌ゆること无らしめんと 15 斯てモーセ一座の壇を築きその名をエホバニシ(エホバ吾旗)と稱ふ 16 モーセ云けらくエホバの實位にむかひて手を擧ることありエホバ世々アマレクと戦ひたまはん

Chapter 18

1 茲にモーセの外舅なるミデアンの祭司アテロ神が凡てモーセのため又その民イスラエルのために爲したまひし事エホバがイスラエルをエジプトより導き出したまひし事を聞き 2 是に於てモーセの外舅アテロかの遣り還されてありしモーセの妻ツポラとその二人の子を撃へ来る 3 その子の一人の名はゲルシヨムと云ふ是はモーセ我他國に客となりると言たればなり 4 今一人の名はエリエゼルと曰ふ是はかれ吾父の神われを助け我を救ひてバ口の劍を免かれしめたまふと言たればなり 5 斯モー

セの外舅アテロ、モーセの子等と妻をつれて曠野に來りモーセが神の山に陣を張る處にいたる 6 彼すなはちモーセに言けるは汝の外舅なる我アテロ汝の妻および之と供なるその二人の子をたづさへて汝に詣ると 7 モーセ出てその外舅を迎へ禮をなして之に接吻し互に其安否を問て共に天幕に入る 8 而してモーセ、エホバがイスラエルのためにバ口とエジプト人とに爲たまひし諸の事と途にて遇し諸の艱難およびエホバの己等を拯ひたまひし事をその外舅に語りければ 9 アテロ、エホバがイスラエルをエジプト人の手より救ひいだして之に諸の恩典をたまひし事を喜べり 10 アテロすなはち言けるはエホバは頌べき哉汝等をエジプト人の手とバ口の手より救ひいだし民をエジプト人の手の下より拯ひいだせり 11 今我知るエホバは諸の神よりも大なり彼等傲慢を逞しうして事をなせしがエホバかれらに勝りて 12 而してモーセの外舅アテロ燔祭と犠牲をエホバに持きたれりアロンおよびイスラエルの長老等皆きたりてモーセの外舅とともに神の前に食をなす 13 次の日にいたりてモーセ坐して民を審判ししが民は朝より夕までモーセの傍に立り 14 モーセの外舅モーセの凡て民に爲ところを見て言けるは汝が民になす此事は何なるや何故に汝は一人坐しをりて民朝より夕まで汝の傍にたつや 15 モーセその外舅に言けるは民神に問んとて我に來るなり 16 彼等事ある時は我に來れば我此と彼とを審判して神の法度と律法を知しむ 17 モーセの外舅これに言けるは汝のなすところ善らず 18 汝かならず氣力おとろへん汝も汝ともなる民も然らん此事汝には重に過ぐ一人にては之を爲こあたはざるべし 19 今吾言を聽け我なんぢに策を授けん願くは神なんぢとともに在せ汝民のために神の前に居り訴訟を神に陳よ 20 汝かれらに法度と律法を教へ彼等の歩むべき處と爲べき事とを彼等に示せ 21 又汝全體の民の中より賢して神を畏れ眞實を重んじ利を惡むところの人を選び之を民の上に立て千人の司となし百人の司となし五十人の司となし十人の司となすべし 22 而して彼等をして常に民を鞠かしめ大事は凡てこれを汝に陳しめ小事は凡て彼等みづからこれを判かしむべし斯汝の身の煩瑣を省き彼らをして汝とその任を共にせしめよ 23 汝もし此事を爲し神また斯汝に命じなば汝はこれに勝ん此民もまた安然にその所に到ることを得べし 24 モーセその外舅の言にしたがひてその凡て言しごとく成り 25 モーセすなはちイスラエルの中より遍く賢き人を選みてこれを民の長となし千人の司となし百人の司となし五十人の司となし十人の司となせり 26 彼等常に民を鞠か難事はこれをモーセに陳べ小事は凡て自らこれを判けり 27 斯てモーセその外舅を還したればその國に往ぬ

Chapter 19

1 イスラエルの子孫エジプトの地を出て後第三月にいたりて其日にシナイの曠野に至る 2 即ちかれらレビデムを出たちてシナイの曠野にいたり曠野に幕を張り彼處にてイスラエルは山の前に營を設けたり 3 爰にモーセ登て神に詣るにエホバ山より彼を呼て言たまはく汝かくヤコブの家に言ひイスラエルの子孫に告べし 4 汝らはエジプト人に我がなしたるところの事を見我が驚の翼をのべて汝らを負て我にいたらしめしを見たり 5 然ば汝等も善く我が言を聽きわが契約を守らば汝等は諸の民に愈りてわが寶となるべし全地はわが所有なればなり 6 汝等は我に對して祭司の國となり聖き民となるべし是等の言語を汝イスラエルの子孫に告べし 7 是に於てモーセ來りて民の長老等と呼びエホバの己に命じたまひし言を盡くその前に陳たれば 8 民皆等く應へて言けるはエホバの言たまひし所は皆われら之を爲べしとモーセすなはち民の言をエホバに告ぐ 9 エホバ、モーセに言たまひけるは觀よ我密雲の中に在りて汝に臨むは民をして我が汝と語るを聞しめて汝を永く信ぜしめんがためなりとモーセ民の言をエホバに告たり 10 エホバ、モーセに言たまひけるは汝民の所に往て今日明日これを聖め之にその衣服を滌せ 11 準備をなして三日を待て其は第三日にエホバ全體の民の目の前にてシナイ山に降ればなり 12 汝民のために四周に境界を設けて言べし汝等慎んて山に登るなかれその境界に捫るべからず山に捫る者はかならず殺さるべし 13 手を之に觸べからず其者はかならず石にて撃ころされ或は射ころさるべし獸と人とを言ず生ることを得じ喇叭を長く吹鳴さば人々山に上るべしと 14 モーセすなはち山を下り民にいたりて民を聖め民その衣服を濯ふ 15 モーセ民に言けるは準備をなして三日を待て婦人に近づくべからず 16 かくて三日の朝にいたりて雷と電および密雲山の上におり又喇叭の聲ありて甚だ高かり營にある民みな震ふ 17 モーセ營より民を引いでて神に會しむ民山の麓に立に 18 シナイ山都て煙を出せりエホバ火の中にありてその上下りたまへばなりその煙電の煙のごとく立のぼり山すべて震ふ 19 喇叭の聲彌高くなりゆきてばげくなりける時モーセ言を出すに神聲をもて應へたまふ 20 エホバ、シナイ山に下りその山の頂上にいまし而してエホバ山の頂上にモーセを召たまひければモーセ上り 21 エホバ、モーセに言たまひけるは下りて民を警めよ恐らくは民推破りてエホバに來りて見んとし多の者死るにいたらん 22 又エホバに近くところの祭司等にその身を潔めしめよ恐くはエホバかれらを撃ん 23 モーセ、エホバに言けるは民はシナイ山に得のぼらじ其は汝われらを警めて山の四周に境界をたて山を聖めよと言たまひたればなり 24 エホバかれに言たまひけるは往け下れ而して汝とアロンともに

上り來るべし但祭司等と民には推破りてにのぼりきたらしめざれ恐らくは我かれらを撃ん 25 モーセ民にくたりゆきてこれに告たり

Chapter 20

1 神この一切の言を宣て言たまはく 2 我は汝の神エホバ汝をエジプトの地その奴隷たる家より導き出せし者なり 3 汝我面の前に我の外何物をも神とすべからず 4 汝自己のために何の偶像をも彫むべからず又上は天にある者下は地にある者ならびに地の下の水の中にある者の何の形状をも作るべからず 5 之を拜むべからずこれに事ふべからず我エホバ汝の神は嫉む神なれば我を惡む者にむかひては父の罪を子にむくいて三四代におよばし 6 我を愛しわが誠命を守る者には恩恵をほどこして千代にいたるなり 7 汝の神エホバの名を妄に口にあぐべからずエホバはおのれの名を妄に口にあぐる者を罰せではおかざるべし 8 安息日を憶えてこれを聖潔すべし 9 六日の間勞きて汝の一切の業を爲べし 10 七日は汝の神エホバの安息なれば何の業務をも爲べからず汝も汝の息子息女も汝の僕婢も汝の家畜も汝の門の中に在る他國の人も然り 11 其はエホバ六日の中に天と地と海と其等の中の一の物を作りて第七日に息みたればなり是をもてエホバ安息日を祝ひて聖日としたまふ 12 汝の父母を敬へ是は汝の神エホバの汝にたまふ所の地に汝の生命の長からんためなり 13 汝殺すなかれ 14 汝姦淫すなかれ 15 汝盜むなかれ 16 汝その隣人に對して虚妄の證據をたつるなかれ 17 汝その隣人の家を貧るなかれ又汝の鄰人の妻およびその僕婢牛驢馬ならびに凡て汝の隣人の所有を貧るなかれ 18 民みな雷と電と喇叭の音と山の煙とを見たり民これを見て懼れをのきて遠く立ち 19 モーセにいひけるは汝われらに語れ我等聽ん唯神の我らに語りたまふことあらざらしめよ恐くは我等死ん 20 モーセ民に言けるは畏るるなかれ神汝らを試みんため又その畏怖を汝らの面の前におきて汝らに罪を犯さざらしめんために臨みたまへるなり 21 是において民は遠くに立ちしがモーセは神の在すところの濃雲に進みける 22 エホバ、モーセに言たまひけるは汝イスラエルの子孫に斯いふべし汝等は天よりわが汝等に語ふを見たり 23 汝等何をも我にならべて造るべからず銀の神をも金の神をも汝等のために造るべからず 24 汝土の壇を我に築きてその上に汝の燔祭と酬恩祭汝の羊と牛をそなふべし我は凡てわが名を憶えしむる處にて汝に臨みて汝を祝まん 25 汝もし石の壇を我につくるならば琢石をもてこれを築くべからず其は汝もし鑿をこれに當なば之を汚すべければなり 26 汝階よりわが壇に升るべからず是は汝の恥る處のその上に露ることなからんためなり

Chapter 21

1
 是は汝が民の前に立べき律例なり 2 汝ヘブルの僕を買ふ時は六年の間之に職業を爲しめ第七年には贖を索ずしてこれを釋つべし 3 彼もし獨身にて來れば獨身にて去べし 若妻あらばその妻これとともに去べし 4 もしその主人これに妻をあたへて男子又は女子これに生れたらば妻とその子等は主人に屬すべし 彼は獨身にて去べし 5 僕もし我が主人と我が妻を愛す我釋したるを好まずと明白に言ば 6 その主人これを土師の所に携ゆき又戸あるひは戸柱の所につれゆくべし 而して主人錐をもてかれの耳を刺とほすべし 彼は何時までもこれに事ふべきなり 7 人若その娘を賣て婢となす時は僕のごとくに去べからず 8 彼もしその約せし主人の心に適ざる時はその主人これを贖はしむることを得べし 然ど之に眞實ならずして亦これを異邦人に賣ことをなすを得べからず 9 又もし之を己の子に與へんと約しなばこれを女子のごとくに待ふべし 10 父もしその子のために別に娶ることあるとも彼に食物と衣服を與ふる事とその交接の道とはこれを間斷しむべからず 11 其人かれに此三を行はずば彼は金をつくるはすして出さることを得べし 12 人を撃て死しめたる妻は必ず殺さるべし 13 若人みづから畫策ことなきに神人をその手にかからしめたまふことある時は我汝のために一箇の處を設くれればその人其處に逃るべし 14 人もし故にその隣人を謀りて殺す時は汝これをわが壇よりも執へゆきて殺すべし 15 その父あるひは母を撃ものは必ず殺さるべし 16 人を拐帶したる者は之を賣たるも尚その手にあるも必ず殺さるべし 17 その父あるひは母を罵る者は殺さるべし 18 人相争ふ時に一人石または拳をもてその對手を撃ちしに死にいたらずして床につくことあらんに 19 若起あがりて杖によりて歩むにいたらば之を撃たる者は赦さるべし 但しその業を替める賠償をなして之を全く愈しむべきなり 20 人もし杖をもてその僕あるひは婢を撃んにその手の下に死ば必ず罰せらるべし 21 然ど彼もし一日二日生のびなば其人は罰せられざるべし 彼はその人の金子なればなり 22 人もし相争ひて妊めたる妻を撃ちその子を墮させんに別に害なき時は必ずその婦人の夫の要むる所にしたがひて刑られ法官の定むる所を爲べし 23 若害ある時は生命にて生命を償ひ 24 目にて目を償ひ 齒にて齒を償ひ 手にて手を償ひ 足にて足を償ひ 25 烙にて烙を償ひ 傷にて傷を償ひ 打傷にて打傷を償ふべし 26 人もしその僕の一の目あるひは婢の一の目を撃てこれを喪さばその目のために之を釋つべし 27 又もしその僕の一箇の齒か婢の一箇の齒を打落ばその齒のために之を釋つべし 28 牛もし牛あるひは女を衝て死しめなばその牛をば必ず石にて撃殺すべし 其の肉は食べからず 但しその牛の主は罪なし 2

9 然ど牛もし素より衝くことをなす者にしてその主これがために忠告をうけし事あるに之を守りおかずして遂に男あるひは女を殺すに至らしめなばその牛は石にて撃れその主もまた殺さるべし 30 若彼贖罪金を命ぜられなば凡てその命ぜられし者を生命の償に出すべし 31 男子を衝も女子を衝もこの例にしたがひてなすべし 32 牛もし僕あるひは婢を衝ばその主人に銀三十シケルを與ふべし 又その牛は石にて撃ころすべし 33 人もし坑を啓か又は人もし穴を掘くことをなしこれを覆はずして牛あるひは驢馬これに陥ば 34 穴の主これを償ひ金をその所有主に與ふべし 但しその死たる畜は己の有となるべし 35 此人の牛もし彼人のを衝殺さば二人その生る牛を賣てその償を分つべし 又その死たるものをも分つべし 36 然どその牛素より衝くことをなす者なること知るにその主これを守りおかざりしならばその人かならず牛をもて牛を償ふべし 但しその死たる者は己の有となるべし

Chapter 22

1 人もし牛あるひは羊を竊みてこれを殺し又は賣る時は五の牛をもて一の牛を賠ひ 四の羊をもて一の羊を賠ふべし 2 もし盜賊の壞り入るを見てこれを撃て死しむる時はこれがために血をながすに及ばず 3 然ど若日いでてよりならばがために血をながすべし 盜賊は全く償をなすべし 若物あらざる時は身をうりてその竊める物を償ふべし 4 若その竊める物眞に生てその手にあらばその牛驢馬羊たるにかかはらず倍してこれを償ふべし 5 人もし田圃あるひは葡萄園の物を食はせその家畜をはなちて人の田圃の物を食ふにいたらしむる時は自己の田圃の嘉物と自己の葡萄園の嘉物をもてその償をなすべし 6 火もし逸て荆棘にうつりその積あげたる穀物あるひは未だ刈ざる穀物あるひは田野を燬ばその火を焚たる者ならずこれを償ふべし 7 人もし金あるひは物を人に預るにその人の家より竊みとられたる時はその盜者あらはれなばこれを倍して償はしむべし 8 盜者もしあらはれずば家の主人を法官につれゆきて彼がその人の物に手をかけたるや否を見るべし 9 何の過愆を論ず牛にもあれ驢馬にもあれ羊にもあれ衣服にもあれ又は何の失物にもあれ凡て人の見て是其なりと言ふ者ある時は法官その兩造の言を聽べし 而して法官の罪ありとする者これを倍してその對手に償ふべし 10 人もし驢馬か牛か羊か又はその他の家畜をその隣人にあげんに死か傷けらるるか又は捨じさらることありて誰もこれを見し者なき時は 11 二人の間にその隣人の物に手をかけずとエホバを指て誓ふことあるべし 然る時はその持主これを承諾べし 彼人は償をなすに及ばず 12 然ど若自己の許より竊まれたる時はその所有主にこれを償ふべし 13 若またその裂ころされし時は其を證據のために持きたるべし 其の裂ころされし者

は償ふにおよばず 14 人もしその隣人より借たる者あらんにその物傷けられ又は死ることありてその所有主それとともにをらざる時は必ずこれを償ふべし 15 その所有主それと共にをらばこれを償ふにむよばず 雇し者なる時もしかり其は雇れて來りしなればなり 16 人もし聘定あらざる處女を誘ひてこれと寝たらば必ずこれに聘禮して妻となすべし 17 その父もしこれをその人に與ふることを固く拒まば處女にする聘禮にてらし金をはらふべし 18 魔術をつかふ女を生しおくべからず 19 凡て畜を犯す者をば必ず殺すべし 20 エホバをおきて別の神に犠牲を獻る者をば殺すべし 21 汝他國の人を惱すべからず 又これを虐ぐべからず 汝らもエジプトの國に在る時は他國の人たりしなり 22 汝凡て寡婦あるひは孤子を惱すべからず 23 汝もし彼等を惱まして彼等われに呼らば我かならずその號呼を聽べし 24 わが怒烈しくなり我劍をもて汝らを殺さん 汝らの妻は寡婦となり 汝らの子女は孤子とならん 25 汝もし汝とともにあるわが民の貧き者に金を貸す時は金貸のごとくならず 又これより利足をとるべからず 26 汝もし人の衣服を質にとらば日のある時までこれを歸すべし 27 其はその身を蔽ふ者は是のみにして是はその膚の衣なればなり 彼何の中に寝んや彼われに頼らば我きかん我は慈悲ある者なればなり 28 汝神を罵るべからず 民の主長を詛ふべからず 29 汝の豐滿なる物と汝の搾りたる物とを獻ぐることを怠るなかれ 汝の長子を我に與ふべし 30 汝また汝の牛と羊をも斯なすべし 即ち七日母とともにをらしめて八日にこれを我に與ふべし 31 汝等は我の聖民となるべし 汝らは野にて獻に裂れし者の肉を食ふべからず 汝らこれを犬に投與ふべし

Chapter 23

1 汝虚妄の風説を言ふらすべからず 惡き人と手をあはせて人を誣る證人となるべからず 2 汝衆の人にしたがひて惡をなすべからず 訴訟において答をなすに方りて衆の人にしたがひて道を曲べからず 3 汝また貧き人の訴訟を曲て庇ぐべからず 4 汝もし汝の敵の牛あるひは驢馬の迷ひ去に遭はべし 5 汝もし汝を惡む者の驢馬のその負の下に仆れ臥すを見ば 慎みてこれを遣さるべからず 必ずこれを助けてその負を釋べし 6 汝貧き者の訴訟ある時にその判決を曲べからず 7 虚假の事に遠かれ無辜者と義者とをこれを殺すなかれ 我は惡き者を義とすることあらざるなり 8 汝賄賂を受べからず 賄賂は人の目を暗まし 義者の言を曲しむるなり 9 他國の人を虐ぐべからず 汝等はエジプトの國に在る時は他國の人にてありたれば 他國の人の心を知なり 10 汝六年の間 汝の地に種播きその實を獲るべし 11 但し第七年にはこれを息ませて耕さずにおくべし 而して汝の民の貧き者に食ふことを得せしめよ 其餘れる

者は野の獸これを食はん 汝の葡萄園も橄欖園も斯のごとくならず 12 汝六日の間 汝の業をなし 七日に息むべし 斯汝の牛および驢馬を息ませ 汝の婢の子および他國の人をして息をつかひよ 13 わが汝に言して凡て心を用ひよ 他國の神々の名を稱ふべからず また之を汝の口より聞えしめざれ 14 汝年に三度わがために節筵を守るべし 15 汝無醉パンの節禮をまもるべし 即ちわが汝に命ぜしごとく アビブの月の定の時にいて七日の間 酔いれぬパンを食ふべし 其はその月に汝エジプトより出たればなり 徒手にてわが前に出る者あるべからず 16 また 穡時の節禮を守るべし 是すなはち汝が勞苦て田野に播る者の初の實を祝ふなり 又収穫の節禮を守るべし 是すなはち汝の勞苦によりて成る者を年の終に田野より収穫する者なり 17 汝の男たる者は皆年に三次 主エホバの前に出べし 18 汝わが犠牲の血を酔いれしパンとともに獻ぐべからず 又わが節筵の脂を翌朝まで残しおくべからず 19 汝の地に初に結べる實の初を汝の神エホバの室に持きたるべし 汝山羊羔をその母の乳にて煮べからず 20 視よ我天の使をかはして汝に先たせ 途にて汝を守らせ 汝をわが備へし處に導かしめん 21 汝等その前に慎みをりその言にしたがへ 之を怒らすなかれ 彼なんぢらの咎を赦さざるべし わが名かれの中にあればなり 22 汝もし彼が言にしたがひ 凡てわが言ところを爲ば 我なんぢの敵の敵となり 汝の仇の仇となるべし 23 わが使汝にさきだちゆきて 汝をアモリ人ヘテ人ペリジ人カナン人ヒビ人およびエブス人に導きたらん 我かれらを絶べし 24 汝かれらの神を拜むべからず これに奉事べからず 彼らの作にならふなかれ 汝其等を悉く毀ちその偶像を打摧くべし 25 汝等の神エホバに事へよ 然ばエホバ汝らのパンと水を祝し 汝らの中より疾病を除きたまはん 26 汝の國の中には流産する者なく 妊ざる者なかるべし 我汝の日の數を盈さん 27 我わが畏懼をなんぢの前に遣し 汝が至るところの民をことごとく敗り 汝の諸の敵をして汝に後を見せしめん 28 吾黃蜂を汝の先につかはさん 是ヒビ人カナン人およびヘテ人を汝の前より逐はらふべし 29 我かれらを一年の中には汝の前より逐はらはし 恐くは土地荒れ野の獸増て汝を害せん 30 我漸々にかれらを汝の前より逐はらはん 汝らは遂に増てその地を獲にいたらん 31 我なんぢの境をさだめて 紅海よりペリシテ人の海にいたらせ 曠野より河にいたらしめん 我この地に住る者を汝の手に付さん 汝かれらを汝の前より逐はらふべし 32 汝かれらおよび彼らの神と何の契約をもなすべからず 33 彼らは汝の國に住べきにあらず 恐くは彼ら汝をして我に罪を犯さしめん 汝もし彼等の神に事なばその事かならず 汝の機檻となるべきなり

Chapter 24

1 又モーセに言たまひけるは 汝

アロン、ナダブ、アビウおよびイスラエルの七十人の長老とともにエホバの許に上りきたれりして汝等遙にたちて拝むべし 2 モーセ一人エホバに近づくべし彼等は近るべからず又民もかれとともに上るべからず 3 モーセ来りてエホバの諸の言およびその諸の典例を民に告しに民みな同音に應て云ふエホバの宣ひし言は皆われらこれを爲べし 4 モーセ、エホバの言をことごとく書記し朝風に興いでて山の麓に壇を築きイスラエルの十二の支派にしたがひて十二の柱を建て 5 而してイスラエルの子孫の中の少人等を遣はしてエホバに燔祭を献げしめ牛をもて酬恩祭を供へしむ 6 モーセ時にその血の半をとりて鉢に盛れ又その血の半を壇の上に灌げり 7 而して契約の書をとりて民に誦きかせたるに彼ら應へて言ふエホバの宣ふ所は皆われらこれを爲て遵ふべしと 8 モーセすなはちその血をとりて民に灌ぎて言ふ是すなはちエホバが此諸の言に於て汝と結たまへる契約の言なり 9 斯てモーセ、アロン、ナダブ、アビウおよびイスラエルの七十人の長老のぼりゆきて 10 イスラエルの神を見るにその足の下には透明れる青玉をもて作れるごとき物ありて耀ける天空にさも似たり 11 神はイスラエルの此頭人等にその手をかけたまはざりき彼等は神を見又食飲をなせり 12 茲にエホバ、モーセに言たまひけるは山に上りて我に來り其處にをれ我わが彼等を教へんために書しるせる法律と誠命を載るところの石の板を汝に與へん 13 モーセその従者ヨシユアとともに起あがりモーセのぼりて神の山に至る 14 時に彼長老等に言けるは我等の汝等に歸るまで汝等は此に待ちをれ視よアロンとホル汝等とともに在り凡て事ある者は彼等にいたるべし 15 而してモーセ山にのぼりしが雲山を蔽ひをる 16 すなはちエホバの榮光シナイ山の上に駐りて雲山を蔽ふこと六日なりしが七日にいたりてエホバ雲の中よりモーセを呼たまふ 17 エホバの榮光山の嶺に燃る火のごとくにイスラエルの子孫の目に見えたり 18 モーセ雲の中に入り山に登りモーセ四十日四十夜山に居る

Chapter 25

1 エホバ、モーセに告て言たまひけるは 2 イスラエルの子孫に告て我に献物を持きたれと言へ凡てその心に好んで出す者よりは汝等その我に献ぐるところの物を取べし 3 汝等がかれらより取べきその献物は是なり即ち金 銀 銅 4 青紫紅の線 麻山羊毛 5 赤染の牡羊の皮 糞の皮合軟木 6 燈油塗膏と馨しき香を調ぶところの香料 7 葱珩およびエゴデと胸牌に嵌る玉 8 彼等わがために聖所を作るべし我かれらの中に住ん 9 凡てわが汝らに示すところに循ひ幕屋の様およびその器具の様にしたがひてこれを作るべし 10 彼等合軟木をもて櫃を作るべしその長は二キユビト半その潤は一キユビト半その高は一キユビト

半なるべし 11 汝純金をもて之を蔽ふべし即ち内外ともにこれを蔽ひその上の周圍に金の縁を造るべし 12 汝金の環四箇を鑄てその四の足につくべし即ち此旁に二箇の輪彼旁に二箇の輪をつくべし 13 汝また合軟木をもて杠を作りてこれに金を著すべし 14 而してその杠を櫃の邊旁の環にさしいれてこれをもて櫃を昇べし 15 杠は櫃の環に差いれおくべし其より脱はなすべからず 16 汝わが汝に與ふる律法をその櫃に蔽むべし 17 汝純金をもて贖罪所を造るべしその長は二キユビト半その潤は一キユビト半なるべし 18 汝金をもて二箇のケルビムを作るべし即ち槌にて打てこれを作り贖罪所の兩旁に置べし 19 一のケルビムを此旁に一のケルビムを彼旁に造れ即ちケルビムを贖罪所の兩旁に造るべし 20 ケルビムは翼を高く展べその翼をもて贖罪所を掩ひその面を互に相向くべしすなはちケルビムの面は贖罪所に向ふべし 21 汝贖罪所を櫃の上に置たまふ我が汝に與ふる律法を櫃の中に蔽むべし 22 其處にて我なんぢに會ひ贖罪所の上より律法の櫃の上なる二箇のケルビムの間よりして我イスラエルの子孫のためにわが汝に命ぜんとする諸の事を汝に語ん 23 汝また合軟木をもて案を作るべしその長は二キユビトその潤は一キユビトその高は一キユビト半なるべし 24 而して汝純金をこれに著せその周圍に金の縁をつくるべし 25 汝その四圍に掌寬の邊をつくりその邊の周圍に金の小縁を作るべし 26 またそれがために金の環四箇を作りその足の四隅にその環をつくべし 27 環は邊の側に附べし是は案を昇るところの杠をいれる處なり 28 また合軟木をもてその杠をつくりてこれに金を著すべし案はこれに因て昇るべきなり 29 汝また其に用ふる皿匙杓および酒を灌ぐところの甕を作るべし即ち純金をもてこれを作るべし 30 汝案の上に供前のパンを置て常にわが前にあらしむべし 31 汝純金をもて一箇の燈臺を造るべし燈臺は槌をもてうちて之を作るべしその臺座 軸 節 節花は其に聯らしむべし 32 又六の枝をその旁より出しむべし即ち燈臺の三の枝は此旁より出で燈臺の三の枝は彼旁より出しむべし 33 巴旦杏の花の形せる三の節節および花とともに此枝にあり又巴旦杏の花の形せる三の節節および花とともに彼枝にあるべし燈臺より出る六の枝を皆斯のごとくにすべし 34 巴旦杏の花の形せる四の節節および花とともに燈臺にあるべし 35 兩箇の枝の下に一箇の節あらしめ又その兩箇の枝の下に一箇の節あらしめ又その兩箇の枝の下に一箇の節あらしむべし燈臺より出る六の枝みな是のごとくなるべし 36 その節と枝とは其に連ならしめ皆槌にて打て純金をもて造るべし 37 又それがために七箇の燈臺を造りその燈臺を上にしてその對向を照らしむべし 38 その燈鉗と剪燈盤をも純金ならしむべし 39 燈臺と此の諸の器具を造るには純金一タラントを用ふべし 40 汝山にて示されし式様にしたがひて之を作ること

を用ひよ

Chapter 26

1 汝また幕屋のために十の幕を造るべしその幕は即ち麻の撚絲青紫および紅の絲をもて之を造り精巧にケルビムをその上に織出すべし 2 一の幕の長は二十八キユビト一の幕の潤は四キユビトなるべし幕は皆その寸尺を同うすべし 3 一の幕五箇を互に連ねあはせ又その他の幕五箇をも互に連ねあはすべし 4 而してその一聯の幕の邊においてその聯絡處の端に青色の襟を付べし又他の一聯の幕の聯絡處の邊にも斯すべし 5 汝一聯の幕に襟五十をつけ又他の一聯の幕の聯絡處の邊にも襟五十をつけ斯その襟をして彼と此と相對せしむべし 6 而して金の銀五十を造りその銀をもて幕を連ねあはせて一の幕屋となすべし 7 汝また山羊の毛をもて幕をつくりて幕屋の上の蓋となすべし即ち幕十一をつくるべし 8 一の幕の幕の長は三十キユビト一の幕の潤は四キユビトなるべし即ちその十一の幕は寸尺を一にすべし 9 而してその幕五を一に聯ねまたその幕六を一に聯ねその第六の幕を幕屋の前に摺むべし 10 又その一聯の幕の邊すなはちその聯絡處の端に襟五十を付け又他の一聯の幕の聯絡處にも襟五十を付べし 11 而して銅の銀五十を作りその銀を襟にかけてその幕を聯ねあはせて一となすべし 12 その天幕の幕の餘れる遺餘すなはちその餘れる半幕をば幕屋の後に垂しむべし 13 天幕の幕の餘れる者は此旁に一キユビト彼旁に一キユビトあり之を幕屋の兩旁此方彼方に垂てこれを蓋ふべし 14 汝赤く染たる牡山羊の皮をもて幕屋の蓋をつくりその上に獾の皮の蓋をほどこすべし 15 汝合軟木をもて幕屋のために堅板を造るべし 16 一枚の板の長は十キユビト一枚の板の潤は一キユビト半なるべし 17 板ごとに二の樺をつくりて彼と此と交指しめよ幕屋の板には皆斯のごとく爲べし 18 汝幕屋のために板を造るべし即ち南向の方のために板二十枚を作るべし 19 而してその二十枚の板の下に銀の座四十を造るべし即ち此板の下にもその二の樺のために二の座あらしめ彼板の下にもその二の樺のために二の座あらしむべし 20 幕屋の他の方すなはちその北の方のために板二十枚を作るべし 21 而してこれに銀の座四十を作り此板の下にも二の座彼板の下にも二の座あらしむべし 22 幕屋の後すなはちその西の方のために板六枚を造るべし 23 又幕屋の後の兩の隅のために板二枚を造るべし 24 その二枚は下にて相合せしめその頂まで一に連ならしむべし一箇の銀に於て然りその二枚ともに是の如くなるべし其等は二の隅のために設くる者なり 25 その板は合て八枚その銀の座は十六座此板にも二の座彼板にも二の座あらしむべし 26 汝合軟木をもて横木を作り幕屋の此方の板のために五本を設くべし 27 また幕屋の彼方の板のために横木五本を設け幕屋

の後すなはちその西の方の板のために横木五本を設くべし 28 板の眞中にある中間の横木をば端より端まで通らしむべし 29 而してその板に金を着せ金をもて之のために鑲を作りて横木をこれに貫き又その横木に金を着すべし 30 汝山にて示されしところのその模範にしたがひて幕屋を建べし 31 汝また青紫紅の線および麻の撚絲をもて幕を作り巧にケルビムをその上に織いだすべし 32 而して金を着たる四本の合軟木の柱の上に之を掛べしその鉤は金にしその柱は四の銀の座の上に置べし 33 汝その幕を鑲の下に掛け其處にその幕の中に律法の櫃を蔽むべしその幕すなはち汝らのために聖所と至聖所を分たん 34 汝至聖所にある律法の櫃の上に贖罪所を置べし 35 而してその幕の外に案を置幕屋の南の方に燈臺を置て案に對はしむべし案は北の方に置べし 36 又青紫紅の線および麻の撚絲をもて幔を織なして幕屋の入口に掛べし 37 又その幔のために合軟木をもて柱五本を造りてこれに金を着せその鉤を金にすべし又その柱のために銅をもて五箇の座を鑄べし

Chapter 27

1 汝合軟木をもて長五キユビト潤五キユビトの壇を作るべしその壇は四角その高は三キユビトなるべし 2 その四隅の上に其の角を作りてその角を其より出しめその壇には銅を着すべし 3 又灰を受る壺と火鏟と鉢と肉又と火鼎を作るべし壇の器は皆銅をもて之を作るべし 4 汝壇のために銅をもて金網を作りその網の上にその四隅に銅の鑲を四箇作るべし 5 而してその網を壇の中程の邊の下に置て之を壇の半に達せしむべし 6 又壇のために杠を作るべし即ち合軟木をもて杠を造り銅をこれに着すべし 7 その杠を鑲に貫きその杠を壇の兩旁にあらしめて之を昇べし 8 壇は汝板をもて之を空に造り汝が山にて示されしごとくにこれを作るべし 9 汝また幕屋の庭をつくるべし南に向ひては庭のために南の方に長百キユビトの細布の幕を設けてその一方に當べし 10 その二十の柱およびその二十の座は銅にし其柱の鉤およびその桁は銀にすべし 11 又北の方にあたりにて長百キユビトの幕をその縦に設くべしその二十の柱とその柱の二十の座は銅にし其柱の鉤とその桁は銀にすべし 12 庭の横すなはちその西の方には五十キユビトの幕を設くべしその柱は十の座も十 13 また東に向ひては庭の東の方の潤は五十キユビトにすべし 14 而して此一方に五十キユビトの幕を設くべしその柱は三その座も三 15 又彼一方にも五十キユビトの幕を設くべしその柱は三その座も三 16 庭の門のために青紫紅の線および麻の撚絲をもて織なしたる二十キユビトの幔を設くべしその柱は四の座も四 17 庭の四周の柱は皆銀の桁をもて続けその鉤を銀にしその座を銅にすべし 18 庭の縦は百キユビトその横は五十キユビト

宛その高は五キュビト麻の燃糸をもてつくりなしその座を銅にすべし 19 凡て幕屋に用ふるところの諸の器具並にその釘および庭の釘は銅をもて作るべし 20 汝又イスラエルの子孫に命じ橄欖を搗て取たる清き油を燈火のために汝に持ちたらしめて絶ず燈火をともしべし 21 集會の幕屋に於て律法の前なる幕の外にアロンとその子等晩より朝までエホバの前にその燈火を整ふべし是はイスラエの子孫が世々たえず守るべき定例なり

Chapter 28

1 汝イスラエルの子孫の中より汝の兄弟アロンとその子等すなはちアロンとその子ナダブ、アビウ、エレアザル、イタマルを汝に至らしめて彼をして我にむかひて祭司の職をなさしむべし 2 汝また汝の兄弟アロンのために聖衣を製りて彼の身に顯榮と榮光あらしむべし 3 汝凡て心に智慧ある者すなはち我が智慧の靈を充しおきたる者等に語りてアロンの衣服を製しめ之を用てアロンを聖別て我に祭司の職をなさしむべし 4 彼等が製るべき衣服は是なり即ち胸牌エポデ明衣間格の裏衣頭帽および帯彼等汝の兄弟アロンとその子等のために聖衣をつくりて彼をして祭司の職を我にむかひてなすことをせしむべし 5 即ち彼等金青紫紅の糸および麻糸をとりて用ふべし 6 又金青紫紅の線および麻の燃糸をもて巧にエポデを織なすべし 7 エポデには二の肩帯をほどこしその二の端を連ねて之を合すべし 8 エポデの上においてこれを束ぬるところの帯はその物同うしてエポデの製のごとくにすべし 即ち金青紫紅の糸および麻の燃糸をもてこれを作るべし 9 汝二箇の葱珩をとりてその上にイスラエルの子等の名を鑄つべし 10 即ち彼等の誕生にしたがひてその名六を一の玉に鑄りその遺餘の名六を外の玉に鑄べし 11 玉に雕刻する人の印を刻が如くに汝イスラエルの子等の名をその二の玉に鑄つけその玉を金の槽に嵌べし 12 この二の玉をエポデの肩帯の上につけてイスラエルの子等の記念の玉とならしむべし 即ちアロン、エホバの前において彼等の名をその二の肩に負て記念とならしむべし 13 汝金の槽を作るべし 14 而して純金を組て紐の如き二箇の鏈を作りその組る紐をかの槽につくべし 15 汝また審判の胸牌を巧に織なしエポデの製のごとくに之をつくるべし 即ち金青紫紅の線および麻の燃糸をもてこれを製るべし 16 是は四角にして二重なるべく其長は半キュビトその濶も半キュビトなるべし 17 汝またその中に玉を嵌て玉を四行にすべし 即ち赤玉黄玉瑪瑙の一行を第一行とすべし 18 第二行は紅玉青玉金剛石 19 第三行は深紅玉 白瑪瑙 紫玉 20 第四行は黄緑玉 葱珩 碧玉 凡て金の槽の中にこれを嵌べし 21 その玉はイスラエルの子等の名に循ひその名のごとくにこれを十二にす

べし而してその十二の支派の各々の名は印を刻ごとくにこれを鑄つべし 22 汝純金を組のごとくに組たる鏈を胸牌の上につくべし 23 また胸牌の上に金の環二箇を作り胸牌の兩の端にその二箇の環をつけ 24 かの金の紐二條を胸牌の端の二箇の環につくべし 25 而してその二條の紐の兩の端を二箇の槽に結びエポデの肩帯の上につけてその前にあらしむべし 26 又二箇の金の環をつくりて之を胸牌の兩の端につくべし 即ちそのエポデに對ふところの内の邊に之をつくべし 27 汝また金の環二箇を造りてこれをエポデの兩旁の下の方につけその前の方にてその联接る處に對ひてエポデの帯の上にあらしむべし 28 胸牌は青紐をもてその環によりて之をエポデの環に結びつけエポデの帯の上にあらしむべし 然せば胸牌エポデを離ること無るべし 29 アロン聖所に入る時はその胸にある審判の胸牌にイスラエルの子等の名を帶てこれをその心の上に置きエホバの前に恒に記念とならしむべし 30 汝審判の胸牌にウリムとトンミムをいれアロンをしてそのエホバの前に入る時にこれをその心の上に置しむべし 31 アロンはエホバの前に常にイスラエルの子孫の審判を帶てその心の上に置べし 32 頭をいれる孔はその真中に設くべし 又その孔の周圍には織物の縁をつけて鍔の領盤のごとくにして之を綻びざらしむべし 33 その裾には青紫紅の糸をもて石榴をつくりてその裾の周圍につけ又四周に金の鈴をその間々につくべし 34 即ち明衣の据には金の鈴に石榴又金の鈴に石榴とその周圍につくべし 35 アロン奉事をなす時にこれを著べし 彼が聖所にいりてエホバの前に至る時また出きたる時にはその鈴の音聞ゆべし 斯せば彼死ることあらじ 36 汝純金をもて一枚の前板を作り印を刻がごとくにその上にエホバに聖と鑄つけ 37 之を青紐につけて頭帽の上にあらしむべし 即ち頭帽の前の方にこれをつくべし 38 是はアロンの額にあるべし 39 汝麻糸をもて裏衣を間格に織り麻糸をもて頭帽を製りまた帯を繡工に織なすべし 40 汝またアロンの子等のために裏衣を製り彼らのために帯を製り彼らのために頭巾を製りてその身に顯榮と榮光あらしむべし 41 而して汝これを汝の兄弟アロンおよび彼とともにその子等に着せ膏を彼等に灌ぎこれを立てこれを聖別てこれをして祭司の職を我になさしむべし 42 又かれらのためにその陰所を蔽ふ麻の褌を製り腰より腓に達らしむべし 43 アロンとその子等は集會の幕屋に入る時又は祭壇に近づきて聖所に職事をなす時はこれを著べし 斯せば愆をかうむりて死ることなからん 是は彼および彼の後の子孫の永く守るべき例なり

Chapter 29

1 汝かれらを聖別て彼らをして我にむかひて祭司の職をなさしむるには斯これに爲べし 即ち若き牡牛と二の全き牡山羊を取り 2 無酵パン油を和たる無酵菓子および油を塗たる無酵煎餅を取べし 是等は麥粉をもて製るべし 3 而してこれを一箇の筐にいれ牡牛および二の牡山羊とともにこれをその筐のままに持ちたるべし 4 汝またアロンとその子等を集會の幕屋の口に携きたりて水をもてかれらを洗ひ清め 5 衣服をとりて裏衣エポデに屬する明衣エポデおよび胸牌をアロンに着せエポデの帯を之に帶しむべし 6 而してかれの首に頭帽をかむらせその頭帽の上にかの聖金板を戴しめ 7 灌油を取てこれを彼の首に傾け灌ぐべし 8 又かれの子等を携來りて之に裏衣を着せ 9 之に帯を帶しめ頭巾をこれにかむらすべし 即ちアロンとその子等に斯なすべし 祭司の職はかれらに歸す永くこれを例となすべし 10 汝集會の幕屋の前に牡牛をひき來らしむべし 而してアロンとその子等その牡牛の頭に手を按べし 11 かくして汝集會の幕屋の口にてエホバの前にその牡牛を宰すべし 12 汝その牡牛の血をとり汝の指をもてこれを壇の角に塗りその血をばことごとく壇の下に灌ぐべし 13 汝またその臍腑を裏むところの諸の脂肝の上の網膜および二の腎とその上の脂を取てこれを壇の上に燻べし 14 但しその牡牛の肉とその皮および糞は營の外にて火に焼べし 是は罪祭なり 15 汝かの牡山羊一頭を取るべし 而してアロンとその子等その牡山羊の上に手を按べし 16 汝その牡山羊を宰しその血をとりてこれを壇の上の周圍に灌ぐべし 17 汝その牡山羊を切割きその臍腑とその足を洗ひて之をその肉の塊とその頭の上におくべし 18 汝その牡山羊を壇の上に悉く焼べし 是はエホバにたてまつる燻祭なり 是は馨しき香にしてエホバにたてまつる火祭なり 19 汝また今一の牡山羊をとるべし 而してアロンとその子等その牡山羊の頭の上に手を按べし 20 汝すなはちその牡山羊を殺しその血をとりてこれをアロンの右の耳の端およびその子等の右の耳の端につけ又その右の手の大指と右の足の拇指につけその血を壇の周圍に灌ぐべし 21 又壇の上の血をとり灌油をとりて之をアロンとその衣服およびその子等とその子等の衣服に灌ぐべし 斯彼とその衣服およびその子等とその子等の衣服清浄なるべし 22 汝その牡山羊の脂と脂の尾および其臍腑を裏る脂肝の網膜二箇の腎と其上の脂および右の腿を取べし 是は任職の牡山羊なり 23 汝またエホバの前にある無酵パンの筐の中よりパン一個と油ぬりたる菓子一箇と煎餅一個を取べし 24 汝これらを悉くアロンの手と其子等の手に授けこれを搗てエホバに搗祭となすべし 25 而して汝これらを彼等の手より取て壇の上にて燻祭にくはへて焼くべし 是エ

ホバの前に馨しき香となるべし 是すなはちエホバにたてまつる火祭なり 26 汝またアロンの任職の牡山羊の胸を取てこれをエホバの前に搗て搗祭となすべし 是は汝の受るところの分なり 27 汝その搗ところの搗祭の物の胸およびその擧るところの擧祭の物の腿すなはちアロンとその子等の任職の牡山羊の胸と腿を聖別つべし 28 是はアロンとその子等に歸すべし イスラエルの子孫永くこの例を守るべきなり 是はイスラエルの子孫が酬恩祭の犠牲の中よりとるところの擧祭にしてエホバになすところの擧祭なり 29 アロンの聖衣は其後の子孫に歸すべし 子孫これを着て膏をそそがれ職に任ぜらるべきなり 30 アロンの子孫の中彼にかはりて祭司となり集會の幕屋にいて聖所に職をなす者は先七日の間これを着べし 31 汝任職の牡山羊を取り聖所にてその肉を煮べし 32 アロンとその子等は集會の幕屋の戸口においてその牡山羊の肉と筐の中のパンを食ふべし 33 罪を贖ふ物すなはち彼らを立て彼らを聖別るに用るところの物を彼らは食ふべし 餘の人は食ふべからず 其は聖物なればなり 34 もし任職の肉あるひはパン旦まで遺りてをらばその遺者は火をもてこれを焼べし 是は聖ければ食ふべからず 35 汝わが凡て汝に命ずることくにアロンとその子等に斯なすべし 即ちかれらのために七日のあひだ任職の禮をおこなふべし 36 汝日々に罪祭の牡牛一頭をささげて贖をなすべし 又壇のために贖罪をなしてこれを清めこれに膏を灌ぎこれを聖別べし 37 汝七日のあひだ壇のために贖をなして之を聖別め 至聖き壇とならしむべし 凡て壇に捫る者は聖なるべし 38 汝が壇の上にささぐべき者は是なり 即ち一歳の羔を日々絶ず獻ぐべし 39 一の羔は朝にこれを獻げ一の羔は夕にこれを獻べし 40 一の羔に麥粉十分の一に搗たる油一ヒンの四分の一を和たるを添へ又灌祭として酒一ヒンの四分の一を添べし 41 今一の羔羊は夕にこれを獻け朝とおなじき素祭と灌祭をこれと共にささげ馨しき香とならしめエホバに火祭たらしむべし 42 是すなはち汝らが代々絶ず集會の幕屋の門口にてエホバの前に獻ぐべき燻祭なり 我其處にて汝等に會ひ汝と語ふべし 43 其處にて我イスラエルの子孫に會ん幕屋はわが榮光によりて聖なるべし 44 我集會の幕屋と祭壇を聖めん 亦アロンとその子等を聖めて我に祭司の職をなさしむべし 45 我イスラエルの子孫の中に居て彼らの神とならん 46 彼等は我が彼らの神エホバにして彼等の中に住んとて彼等をエジプトの地より導き出せし者なることを知ん 我はかれらの神エホバなり

Chapter 30

1 汝香を焚く壇を造るべし 即ち合歡木をもてこれを造るべし 2 その長は一キュビトその寬も一キュビトにして四角ならしめ其高は三キュビトにして其角は其より出しむべし 3 而

してその上その四傍その角ともに純金を着せその周圍に金の縁を作るべし 4 汝またその両面に金の縁の下に金の環二箇を之がために作るべし即ちその兩傍にこれを作るべしすなはちこれを号とこれをの杓を費く所なり 5 その杓は合歡木をもてこれを作りて之に金を着すべし 6 汝これを律法の櫃の傍なる幕の前に置いて律法の上なる贖罪所に對はしむべし其處はわが汝に會ふ處なり 7 アロン朝ごとにその上に馨しき香を焚べし彼燈火を整ふる時はその上に香を焚べきなり 8 アロンに燈火を燃す時はその上に香を焚べし是香はエホバの前に汝等が代々絶すべからざる者なり 9 汝等その上に異なる香を焚べからず燔祭をも素祭をも獻ぐべからず又その上に灌祭の酒を灌ぐべからず 10 アロン年に一回贖罪の罪祭の血をもてその壇の角のために贖をなすべし汝等代々年に一度是がために贖をなすべし是はエホバに最も聖き者たるなり 11 エホバ、モーセに告て言たまはく 12 汝がイスラエルの子孫の數を數へしらぶるにあたりて彼等は各人その數へらるる時にその生命の贖をエホバにたてまつるべし是はその數ふる時にあたりて彼等の中に災害のあらざらんためなり 13 凡て數へらるる者の中に入る者は聖所のシケルに遵ひて半シケルを出すべしシケルは二十ゲラなり即ち半シケルをエホバにたてまつるべし 14 凡て數へらるる者の中に入る者即ち二十歳以上の者はエホバに獻納物をなすべし 15 汝らの生命を贖ふためにエホバに獻納物をなすにあたりては富者も半シケルより多く出すべからず貧者も其より少く出すべからず 16 汝イスラエルの子孫より贖の金を取てこれを幕屋の用に供ふべし是はエホバの前にイスラエルの子孫の記念となりて汝ら生命を贖ふべし 17 エホバ、モーセに告て言たまはく 18 汝また銅をもて洗盤をつくりその臺をも銅にして洗ふことのために供へ之を集會の幕屋と壇との間に置てその中に水をいれおくべし 19 アロンとその子等はそれに就て手と足を洗ふべし 20 彼等は集會の幕屋に入る時に水をもて洗ふことを爲て死をまぬかるべし亦壇にちかづきてその職をなし火祭をエホバの前に焚く時も然すべし 21 即ち斯その手足を洗ひて死を免かるべし是は彼とその子孫の代々常に守るべき例なり 22 エホバまたモーセに言たまひけるは 23 汝また重立たる香物を取れ即ち淨没薬五百シケル香しき肉桂その半二百五十シケル香しき菖蒲二百五十シケル 24 桂枝五百シケルを聖所のシケルに遵ひて取り又橄欖の油ヒンを取べし 25 汝これをもて聖灌膏を製るべしすなはち薰物を製る法にしたがひて香膏を製るべし是は聖灌膏たるなり 26 汝これを集會の幕屋と律法の櫃に塗り 27 案とそのもろもろの器具燈臺とそのもろもろの器具および香壇 28 並に燔祭の壇とそのもろもろの器具および洗盤とその臺とに塗べし 29 汝是等を聖めて至聖らしむべし凡てこれに捫る者は聖くならん 30 汝アロンとその子等に膏をそ

そぎて之を立て彼らをして我に祭司の職をなさしむべし 31 汝イスラエルの子孫に告ていふべし是は汝らが代々我の爲に用ふべき聖灌膏なり 32 是は人の身に灌ぐべからず汝等また此量をもて是に等き物を製るべからず是は聖し汝等これを聖物となすべし 33 凡て之に等き物を製る者凡てこれを餘人につくる者はその民の中より絶るべし 34 エホバ、モーセに言たまはく汝ナタフ、シケレテ、ヘルベナの香物を取りその香物を淨き乳香に和あはすべしその量は各等からしむべきなり 35 汝これを以て香を製るべし即ち薰物を製る法にしたがひてこれをもて薰物を製り鹽をこれにくはへ潔く且聖らしむべし 36 汝またその幾分を細に搗て我が汝に會ふところなる集會の幕屋の中にある律法の前にこれを供ふべし是は汝等において最も聖き者なり 37 汝が製るところの香は汝等その量をもてこれを自己のために製るべからず是は汝においてエホバのために聖き者たるなり 38 凡て是に均き者を製りてこれを嗅ぐ者はその民の中より絶るべし

Chapter 31

1 エホバ、モーセに告て言たまひけるは 2 我ユダの支派のヨタルの子なるウリの子ベザレルを名指て召し 3 神の靈をこれに充して智慧と了知と智識と諸の類の工に長しめ 4 奇巧を盡して金銀及び銅の作をなすことを得せしめ 5 玉を切り嵌め木に彫刻みて諸の類の工をなすことを得せしむ 6 視よ我またダンの支派のアヒサマクの子アホリアブを與へて彼ともならしむ凡て心に智ある者に我智慧を授け彼等をして我が汝に命ずる所の事を盡くなさしむべし 7 即ち集會の幕屋律法の櫃その上の贖罪所幕屋の諸の器具 8 案ならびにその器具純金の燈臺とその諸の器具および香壇 9 燔祭の壇とその諸の器具洗盤とその臺 10 供職の衣服祭司の職をなす時に用ふるアロンの聖衣およびその子等の衣服 11 および灌膏ならびに聖所の馨しき香息等を我が汝に命ぜしごとくこれに彼等製造すべきなり 12 エホバ、モーセに告て言たまひけるは 13 汝イスラエルの子孫に告て言べし汝等かならず吾安息日を守るべし是は我と汝等の間の代々の徴にして汝等に我の汝等を聖からしむるエホバなるを知しむる爲の者ならん 14 即ち汝等安息日を守るべし是は汝等に聖日なればなり凡て之を瀆す者は必ず殺さるべし凡てその日に働作をなす人はその民の中より絶るべし 15 六日の間業をなすべし第七日は大安息にしてエホバに聖なり凡て安息日に働作をなす者は必ず殺さるべし 16 斯イスラエルの子孫は安息日を守り代々安息日を祝ふべし是は永遠の契約なり 17 是は永久に我とイスラエルの子孫の間の徹たるなり其はエホバ六日の中に天地をつくりて七日に休みて安息に入たまひたればなり 18 エホバ、シナイ山にてモーセに語ることを終たまひし時律

法の板二枚をモーセに賜ふは石の板にして神が手をもて書したまひし者なり

Chapter 32

1 茲に民モーセが山を下ることの遅きを見集りてアロンの許に至り之に言けるは起よ汝われらを導く神を我儕のために作れ其は我らをエジプトの國より導き上りし彼モーセ其人は如何になりしか知ざればなり 2 アロンかれらに言けるは汝等の妻と息子息女等の耳にある金の環をとりはづして我に持きたれと 3 是において民みなその耳にある金の環をとりはづしてアロンの許に持来りければ 4 アロンこれを彼等の手より取り鎚鑿をもて之が形を造りて犢を鑄したるに人々言ふイスラエルよ是は汝をエジプトの國より導きのほりし汝の神なりと 5 アロンこれを見てその前に壇を築き而してアロン宣告て明日はエホバの祭禮なりと言ふ 6 是において人衆明朝早く起いでて燔祭を獻げ酬恩祭を供ふ民坐して飲食し起て戯る 7 エホバ、モーセに言たまひけるは汝往て下れよ汝がエジプトの地より導き出せし汝の民は惡き事を行ふなり 8 彼等は早くも我が彼等に命ぜし道を離れ己のために犢を鑄なしてそれを拜み其に犠牲を獻げて言ふイスラエルよ是は汝をエジプトの地より導きのほりし汝の神なりと 9 エホバまたモーセに言たまひけるは我この民を觀たり視よ是は頂の強き民なり 10 然ば我を阻るなかれ我がこれらに向て怒を發して彼等を滅し盡さん而して汝をして大なる國をなさしむべし 11 モーセの神エホバの面を和めて言けるはエホバよ汝などて彼の大なる權能と強き手をもてエジプトの國より導きいだしたまひし汝の民にむかひて怒を發したまふや 12 何ぞエジプト人をして斯言しむべけんや曰く彼は禍をくだして彼等を山に殺し地の面より滅し盡さんとて彼等を導き出せしなりと然ば汝の烈き怒を息め汝の民にこの禍を下さんとせしを思ひ直したまへ 13 汝の僕アブラハム、イサク、イスラエルを憶ひたまへ汝は自己さして彼等に誓ひて我天の星のごとくに汝等の子孫を増し又わが言ところの比地をことごとく汝等の子孫にあたへて永くこれを有たしめんと彼等に言たまへり 14 エホバ是においてその民に禍を降んとせしを思ひ直したまへり 15 モーセすなはち身を轉して山より下りりかの律法の二枚の板その手にあり此板はその両面に文字あり即ち此面にも彼面にも文字あり 16 此板は神の作りたま文字は神の書にして板に彫つてあり 17 ヨシユア民の呼はる聲を聞てモーセにむかひ營中に戦争の聲すと言ければ 18 モーセ言ふ是は勝鬨の聲にあらず又敗北の號呼聲にもあらず我が聞ところのものは歌唱ひ響なりと 19 斯てモーセ營中に近づくと及びて犢と舞踏を見れば怒を發してその手よりかの板を擲ちこれを山の下に砕けり 20 而して彼等が作りし犢をとりてこれ

を火に焼き碎きて粉となしてこれを水に撒きイスラエルの子孫に之をのましむ 21 モーセ、アロンに言けるは此民汝に何をなしてか汝かれらに大なる罪を犯させしや 22 アロン言けるは吾まよ怒を發したまふ勿れ此民の惡なるは汝の知ところなり 23 彼等われに言けらく我らを導く神をわれらのために作れ其は我らをエジプトの國より導き上りし彼モーセ其人は如何になりしか知ざればなりと 24 是において我凡て金をもつ者はそれをとりはづせと彼等に言ければ則ちそれを我に與へたり我これを火に投たれば此犢出きたれりと 25 モーセ民を視るに縱肆に事をなすアロン彼等をして縱肆に事をなさしめれば彼等はその敵の中に嘲笑となれるなり 26 茲にモーセ營の門に立ち凡てエホバに歸する者は我に來れと言ければレビの子孫みな集りてかれに至る 27 モーセすなはち彼等に言けるはイスラエルの神エホバ斯言たまふ汝等のおの劍を横たへて門より門と營の中を彼處此處に行めぐりて各人その兄弟を殺し各人その伴侶を殺し各人その隣人を殺すべしと 28 レビの子孫すなはちモーセの言のごとくに爲たればその日民凡三千人殺されたり 29 是に於てモーセ言ふ汝等のおのその子をもその兄弟をも顧ずして今日エホバに身を獻げ而して今日福祉を得よ 30 明日モーセ民に言けるは汝等は大なる罪を犯せり今我エホバの許に上りゆかんとす我なんちらの罪を贖ふを得ることもあらん 31 モーセすなはちエホバに歸りて言けるは嗚呼この民の罪は大なる罪なり彼等は自己のために金の神を作れり 32 然どかなはば彼等の罪を赦したまへ然ば願くは汝の書したまへる書の中より吾名を抹さりたまへ 33 エホバ、モーセに言たまひけるは凡てわれに罪を犯す者をば我これをわが書より抹さらん 34 然ば今往て民を我が汝につけたる所に導けよ吾使汝に先だちて往ん但しわが罰をなこなふ日には我かれらの罪を罰せん 35 エホバすなはち民を撃たまへり是はかれら犢を造りたるに因る即ちアロンこれを造りしなり

Chapter 33

1 茲にエホバ、モーセに言たまひけるは汝と汝がエジプトの國より導き上りし民此を起いでて我がアブラハム、イサク、ヤコブに誓ひて之を汝の子孫に與へんと言しその地上るべし 2 我一の使を遣して汝に先だたしめん我カナン人アモリ人ヘブライ人ペリジ人ヒビ人エブス人を逐はらひ 3 なんぢらをして乳と蜜の流るる地にいたらしむべし我は汝の中にをりては共に上らじ汝は頂の強き民なれば恐くは我途にて汝を滅すにいたらん 4 民この惡き告を聞て憂へ一人もその妝飾を身につくる者なし 5 エホバ、モーセに言たまひけるはイスラエルの子孫に言へ汝等は頂の強き民なり我もし一刻も汝の中にありて往ば汝を滅すにいたらん然ば今汝ら

の妝飾を身より取すてよ然せば我汝に爲べきことを知んと 6 是をもてイスラエルの子孫ホレブ山より以來はその妝飾を取すて居ぬ 7 モーセ幕屋をとりてこれを營の外に張て營と遙に離れしめ之を集會の幕屋と名けたり凡てエホバに求むることのある者は出ゆきて營の外なるその集會の幕屋にいたる 8 モーセの出で幕屋にいたる時には民みな起あがりてモーセが幕屋にいるまで各々その天幕の門口に立つたかを見 9 モーセ幕屋にいはば雲の柱くだりて幕屋の門口に立つ而してエホバ、モーセとのいひたまふ 10 民みな幕屋の門口に雲の柱の立つを見れば民みな起て各人その天幕の門口にて拝をなす 11 人がその友に言談ごとくにエホバ、モーセと面をあはせてものいひたまふモーセはその天幕に歸りしがその僕なる少者ヌンの子ヨシユアは幕屋を離れざりき 12 茲にモーセ、エホバに言けるは視たまへ汝はこの民を導き上れと我に言たまひながら誰を我とともに遣したまふかを我にしらしめたまはず汝がつかつて言たまひけらく我名をもて汝を知る汝はまた我前に恩を得たりと 13 然ば我もし誠に汝の目の前に恩を得たらば願くは汝の道を我に示して我に汝を知しめをして汝の目の前に恩を得せしめたまへ又汝この民の汝の有なるを念たまへ 14 エホバ言たまひけるは我親汝と共にゆくべし我汝をして安泰にならしめん 15 モーセ、エホバに言けるは汝もしみづから行たまはずは我等を此より上らしめたまふ勿れ 16 我と汝の民とが汝の目の前に恩を得ることは如何にして知るべきや汝が我等とともに往たまひて我と汝の民とが地の諸の民に異る者となるによるにあらずや 17 エホバ、モーセに言たまひけるは汝が言ることをも我爲ん汝はわが目の前に恩を得たればなり我名をもて汝を知なり 18 モーセ願くは汝の榮光を我に示したまへと言ければ 19 エホバ言たまはく我わが諸の善を汝の前に通らしめエホバの名を汝の前に宣ん我は恵んとする者を恵み憐まんとする者を憐むなり 20 又言たまはく汝はわが面を見ることあたはず我を見て生る人あらざればなり 21 而してエホバ言たまひけるは視よ我が傍に一の處あり汝營の上に立べし 22 吾榮光其處を過る時に我なんぢを磐の穴にいれ我が過る時にわが手をもて汝を蔽はん 23 而してわが手を除る時に汝わが背後を見るべし吾面は見るべきにあらず

Chapter 34

1 茲にエホバ、モーセに言たまひけるは汝石の板二枚を前のごとくに研て作れ汝が碎きし彼の前の板にありし言を我その板に書さん 2 詰朝までに準備をなし朝の中にシナイ山に上り山の嶺に於て吾前に立て 3 誰も汝とともに上るべからず又誰も山の中に居べからず又その山の前にて羊や牛を牧ふべからず 4 モーセすなはち石の板二枚を前のごとくに研て

造り朝早く起て手に二枚石の板をとりエホバの命じたまひしごとくにシナイ山にのぼりゆけり 5 エホバ雲の中にありて降り彼とともに其處に立ちてエホバの名を宣たまふ 6 エホバすなはち彼の前を過て宣たまはくエホバ、エホバ憐憫あり恩恵あり怒ることの遅く恩恵と眞實の大なる神 7 恩恵を千代までも施し惡と過と罪とを赦す者又罰すべき者をば必ず赦すことをせず父の罪を子に報い子の子に報いて三四代におよぼす者 8 モーセ急ぎ地に躬を鞠めて拜し 9 言けるはエホバよ我もし汝の目の前に恩を得たらば願くは主我等の中にいまして行たまへ是は頂の強き民なればなり我等の惡と罪を赦し我等を汝の所有となしたまへ 10 エホバ言たまふ視よ我契約をなす我未だ全地に行はれし事あらず何の國民の中にも行はれし事あざるところの奇跡を汝の總馱の民の前に行ふべし汝が往ところの國の民みなエホバの所行を見ん我が汝をもて爲ところの事は怖るべき者なればなり 11 汝わが今日汝に命ずるところの事を守れ視よ我アモリ人カナン人ヘテ人ペリジ人ヒビ人エブス人を汝の前より逐はらふ 12 汝みづから慎め汝が往ところの國の居民と契約をむすべからず恐くは汝の中に於て機檻となることあらん 13 汝らかへつて彼等の祭壇を崩しその偶像を毀ちそのアシラ像を研たふすべし 14 汝は他の神を拜むべからず其はエホバはその名を嫉妒と言て嫉妒神たればなり 15 然ば汝その地の居民と契約を結ぶべからず恐くは彼等がその神々を慕ひて其と姦淫をおこなひその神々に犠牲をささぐる時に汝を招きてその犠牲に就て食はしむる者あらん 16 又恐くは汝かれらの女子等を汝の息子等に妻すことありて彼等の女子等その神々を慕ひて姦淫を行ひ汝の息子等をして彼等の神々を慕て姦淫をおこなはしむるにいたらん 17 汝おのれのために神々を鑄すべからず 18 汝無酵パンの節筵を守べし即ち我が汝に命ぜしごとくアビブの月のその期におよびて七日の間無酵パンを食ふべし其は汝アビブの月にエジプトより出たればなり 19 首出たる者は皆吾の所有なり亦汝の家畜の首出の物たる者も牛羊ともに皆しかり 20 但し驢馬の首出は羔羊をもて贖ふべし若し贖はずばその頸を折べし汝の息子の中の初子は皆贖ふべし我前に空手にて出るものあるべからず 21 六日の間汝働作をなし第七日に休むべし耕耘時にも收穫時にも休むべし 22 汝七週の節筵すなはち麥秋の初穂の節筵を爲し又年の終に收藏の節筵をなすべし 23 年に三回汝の男子みな主エホバ、イスラエルの神の前に出べし 24 我國々の民を汝の前より逐はらひて汝の境を廣くせん汝が年に三回のぼりて汝の神エホバのまへに出る時には誰も汝の國を取んとする者あらず 25 汝わが犠牲の血を有酵パンとともに供ふべからず又逾越の節の犠牲は明朝まで存しおくべからざるなり 26 汝の土地の初穂の初を汝の神エホバの家に携ふべし汝山羊羔をその母の乳にて煮べからず 2

7 斯てエホバ、モーセに言たまひけるは汝是等の言語を書しるせ我是等の言語をもて汝およびイスラエルと契約をむすべばなり 28 彼はエホバとともに四十日四十夜其處に居しが食物をも食はず水をも飲ざりきエホバその契約の詞なる十誡をかの板の上に書したまへり 29 モーセその律法の板二枚を己の手に執てシナイ山より下りしがその山より下りし時にモーセはその面の己がエホバと言ひしによりて光を發つを知ざりき 30 アロンおよびイスラエルの子孫モーセを見てその面の皮の光を發つを視怖れて彼に近づかざりしかば 31 モーセかれらと呼りアロンおよび會衆の長等すなはちモーセの所に歸りたればモーセ彼等と言ふ 32 斯ありて後イスラエルの子孫みな近よりければモーセ、エホバがシナイ山にて己に告たまひし事等を盡くこれに諭せり 33 モーセかれらと語ふことを終て覆面帛をその面にあてたり 34 但しモーセはエホバの前にいたりてともに語ることある時はその出るまで覆面帛を除きてをりまた出きたりてその命ぜられし事をイスラエルの子孫に告ぐ 35 イスラエルの子孫モーセの面を見るにモーセの面の皮光を發つモーセは入てエホバと言ふまてまたその覆面帛を面にあてをる

Chapter 35

1 モーセ、イスラエルの子孫の會衆を盡く集てこれに言ふ是はエホバが爲せと命じたまへる言なり 2 即ち六日の間は働作を爲べし第七日は汝等の聖日エホバの大安息日なり凡てこの日に働作をなす者は殺さるべし 3 安息日には汝等の一切の住處に火をたく可らず 4 モーセ、イスラエルの子孫の會衆に偏く告て言ふ是はエホバの命じたまへるところの事なり 5 曰く汝等有る物の中より汝等エホバに獻ぐる者を取べし凡て心より願ふ者に其を携へきたりてエホバに獻ぐべし即ち金 銀 銅 6 青紫紅の線 麻糸 山羊の毛 7 赤染の牡羊の皮 獾の皮 合歡木 8 燈油 灌膏 馨しき香をつくる香物 9 葱珩 エゴデと胸牌に嵌る玉 10 凡て汝等の中の心に智慧ある者來りてエホバの命じたまひし者を悉く造るべし 11 即ち幕屋その天幕その頂蓋その鈎その版その横木の柱その座 1 2 かの櫃とその杠 贖罪所障蔽の幕 13 案子とその杠およびその諸の器具供前のパン 14 燈明の臺その器具とその蓋および燈火の油 15 香壇とその杠 灌膏 馨しき香幕屋の入口の幔 16 燔祭の壇およびその銅の網その杠その諸の器具洗盤とその臺 17 庭の幕その柱その座庭の口の幔 18 幕屋の釘庭の釘およびその紐 19 聖所にて職をなすところの供職の衣即ち祭司の職をなす時に用ふる者なる祭司アロンの聖衣および其子等の衣服 20 斯てイスラエルの子孫の會衆みなモーセの前を離れて去しが 21 凡て心に感じたる者凡て心より願ふ者は來りてエホバへの獻納物を携へ

いたり集會の幕屋とその諸の用に供へ又聖衣のために供へたり 22 即ち凡て心より願ふ者は男女ともに環釦耳環 指環 頸玉 諸の金の物を携へいたれり又凡て金の獻納物をエホバに爲す者も然せり 23 凡て青紫紅の線および麻糸 山羊の毛赤染の牡羊の皮 獾の皮ある者は是を携へたり 24 凡て銀および銅の獻納物をなす者はこれを携へきたりてエホバに獻け又物を造るに用ふべき合歡木ある者は其を携へたり 25 また凡て心に智慧ある婦女等はその手をもて紡ぐことをなしその紡ぎたる者なる青紫紅の線および麻糸を携へきたり 26 凡て智慧ありて心に感じたる婦人は山羊の毛を紡じり 27 又長たる者どもは葱珩およびエゴデと胸牌に嵌べき玉を携へたり 28 燈火と灌膏と馨しき香とに用ふる香物と油を携へいたれり 29 斯イスラエルの子孫悦んでエホバに獻納物をなせり即ちエホバがモーセに藉て爲せと命じたまひし諸の工事をなせしむるために物を携へきたらんと心より願ふところの男女は皆是のごとくになしたり 30 モーセ、イスラエルの子孫に言ふ視よエホバ、エゴデの支派のホルの子なるウリの子バザレルを名指て召たまひ 31 神の靈をこれに充して智慧と了知と知識と諸の類の工事に長しめ 32 奇巧を盡して金銀および銅の作をなすことを得せしめ 33 玉を切り嵌め木に彫刻みて諸の類の工をなすことを得せしめ 34 彼の心を明かにして教ふることを得せしめたまふ彼とダンの支派のアヒサマクの子アホリアブ俱に然り 35 斯智慧の心を彼等に充して諸の類の工事をなすことを得せしめたまふ即ち彫刻文織および青紫紅の線と麻糸の刺繡並に機織等凡て諸の類の工をなすことを得せしめ奇巧をこれに盡さしめたまふなり

Chapter 36

1 倍バザレルとアホリアブおよび凡て心の穎敏き人即ちエホバが智慧と了知をあたへて聖所の用に供ふるところの諸の工をなすことを知得せしめたまへる者等はエホバの凡て命じたまひし如くに事をなすべかりし 2 モーセすなはちバザレルとアホリアブおよび凡て心の穎敏き人すなはちその心にエホバが智慧をさづけたまひし者凡そ來りてその工をなさんと心に望ところの者を召よせたり 3 彼等は聖所の用にそなふところの工事をなさしむるためにイスラエルの子孫が携へきたりし諸の獻納物をモーセの手より受りししが民は尚また朝ごとに自意の獻納物をモーセに持きたる 4 是に於て聖所の諸の工をなすところの智き人等みな各々その爲ところの工をやめて來り 5 モーセに告て言けるは民餘りに多く持きたればエホバが爲せと命じたまひし工事をなすに用ふるに餘ありと 6 モーセすなはち命を傳へて營中に宣布しめて云く男女ともに今よりは聖所に獻納物をなすに及ばずと是をもて

民は携へきたることを止たり 7 其はその有とての物すでに一切の工をなすに足て且餘あればなり 8 彼等の中心に智慧ありてその工を爲るところの者十の幕をもて幕屋を造れりその幕は麻の撚糸と青紫紅の絲をもて巧にケルビムを織なして作れる者なり 9 その幕は各々長二十八キユビトその幕は各寛四キユビトその幕はみな寸尺一なり 10 而してその幕五箇を互に連ねあはせ又その幕五箇をたがひに連ねあはせ 11 一聯の幕の邊においてその連絡處の端に青色の襟を造り又他の一聯の幕の邊においてその連絡處にこれを造れり 12 一聯の幕に襟五十をつくりまた他の一聯の幕の連絡處の邊にも襟五十をつくりその襟は彼と此と相對す 13 而して金の鈎五十をつくりその鈎をもてその幕を彼と此と相連ねたれば一箇の幕屋となる 14 又山羊の毛をもて幕をつくりて幕屋の上の天幕となせりその造れる幕は十一なり 15 その幕は各々長三十キユビトその幕はのおのおの寛四キユビトにして十一の幕は寸尺同一なり 16 その幕五を一幅に連ねまたその幕六を一幅に連ね 17 その幕の邊において連絡處に襟五十をつくり又次の一連の幕の邊にも襟五十をつくり 18 又銅の鈎五十をつくりてその天幕をつらねあはせて一とならしめ 19 赤染の牡羊の皮をもてその天幕の頂蓋をつくりてその上に獾の皮の蓋を設けたり 20 又合歎木をもて幕屋の豎板をつくり 21 板の長は十キユビト板の寛は一キユビト半 22 一の板に二の樫ありて彼と此と交指ふ幕屋の板には皆かくのごとく造りなせり 23 又幕屋のために板を作れり即ち南に於て南の方に板二十枚 24 その二十枚の板の下に銀の座四十をつくり即ち此板の下にも二の座ありてその二の樫を承け彼板の下にも二の座ありてその二の樫を承く 25 幕屋の他の方すなはちその北の方のためにも板二十枚を作り 26 又その銀の座四十をつくり即ち此板の下にも二の座あり彼板の下にも二の座あり 27 又幕屋の後面すなはちその西のために板六枚をつくり 28 幕屋の後の兩隅のために板二枚宛をつくり 29 その二枚は下にて相合しその頂まで一に連なれり一箇の環に於て然りその二枚とも是のごとし是等は二隅のために設けたる者なり 30 その板は八枚ありその座は銀の座十六座あり各々の板の下に二の座あり 31 又合歎木をもて横木を作れり即ち幕屋の此方の板のために五本を設け 32 幕屋の彼方の板のために横木五本を設け幕屋の後すなはちその西の板のために横木五本を設けたり 33 又中間の横木をつくりて板の眞中において端より端まで通らしめ 34 而してその板に金を着せ金をもて之がために鏤をつくりて横木をこれに貫き又その横木に金を着たり 35 又青紫紅の絲および麻の撚糸をもて幕をつくり巧にケルビムをその上に織いだし 36 それがために合歎木をもて四本の柱をつくりてこれに金を着せたりその鈎は金なり又銀をもてこれがために座四を鑄たり 37 又青紫紅の絲およ

び麻の撚糸をもて幕屋の入口に掛る幔を織なし 38 その五本の柱とその鈎とを造りその柱の頭と桁に金を着せたり但しその五の座は銅なりき

Chapter 37

1 ベザレル合歎木をもて櫃をつくれりその長は二キユビト半その寛は一キユビト半、その高は一キユビト半 2 而して純金をもてその内外を蔽ひてその上の周圍に金の縁を造れり 3 又金の環四箇を鑄てその四の足につけたり即ち此旁に二箇の輪彼旁に二箇の輪を付く 4 又合歎木をもて杠を作りてこれに金を着せ 5 その杠を櫃の傍の環にさし入れて之をもて櫃をかくべからしむ 6 又純金をもて贖罪所を造れりその長は二キユビト半その寛は一キユビト半なり 7 又金をもて二箇のケルビムを作れり即ち楯にて打て之を贖罪所の兩傍に作り 8 一箇のケルビムを此方の末に一箇のケルビムを彼方の末に置り即ち贖罪所の兩傍にケルビムを作れり 9 ケルビムは翼を高く展べ其翼をもて贖罪所を掩ひ其面をたがひに向く 10 又ケルビムの面は贖罪所に向ふ 11 又合歎木をもて案を作り其長は二キユビト其寛は二キユビト其高は一キユビト半 11 而て純金を之に着せ其周圍に金の縁をつけ 12 又其四圍に掌寬の邊を作り其邊の周圍に金の小縁を作れり 13 而て之が爲に金の環四箇を鑄其足の四隅に其環を付たり 14 即ち環は邊の側に在て案を昇く杠を入れる處なり 15 而て合歎木をもて案を昇く杠を作りて之に金を着せたり 16 又案の上の器具即ち皿匙杓及び酒を灌く甕を純金にて作り 17 又純金をもて一箇の燈臺を造れり即ち楯をもて打て其燈臺を作り其臺座軸等節及び花は其に連る 18 六の枝その旁より出づ即ち燈臺の三の枝は此旁より出で燈臺の三の枝は彼旁より出づ 19 巴旦杏の花の形せる三の等節および花とともに此枝にあり又巴旦杏の花の形せる三の等節および花とともに彼枝にあり燈臺より出る六の枝みな斯のごとし 20 巴旦杏の花の形せる四の等その節および花とともに燈臺にあり 21 兩箇の枝の下に一箇の節あり又兩箇の枝の下に一箇の節あり燈臺より出る六の枝みな是のごとし 22 その節と枝とは其に連れり皆楯にて打て純金をもて造れり 23 又純金をもて七箇の燈臺と燈鉗と剪燈盤を造れり 24 燈臺とその諸の器具は純金一タラントをもて作り 25 又合歎木をもて香壇を造れり其長一キユビトその寛二キユビトにして四角なりその高は二キユビトにしてその角は其より出づ 26 その上その四旁その角ともに純金を着せその周圍に金の縁を作れり 27 又その兩面に金の縁の下に金の環二箇をこれがために作り即ちその兩旁にこれを作る是すなはち之を昇とてこの杠を貫くところなり 28 又合歎木をもてその杠をつくりて之に金を着せたり 29 又薰物をつくる法にしたがひて聖濯膏と香物の清き香とを製れり

Chapter 38

1 又合歎木をもて燔祭の壇を築けりその長は五キユビト其寛は五キユビトにして四角その高は三キユビト 2 而してその四隅の上に其の角を作りてその角を其より出しめその壇には銅を着せたり 3 又その壇の諸の器具すなはち壺と火鏟と鉢と肉叉と火鼎を作れり壇の器はみな銅にて造る 4 又壇のために銅の網をつくりこれを壇の中程の邊の下に置きて壇の半に達せしめ 5 その銅の網の四隅に四箇の環を鑄て杠を貫く處となし 6 合歎木をもてその杠をつくりて之に銅を着せ 7 壇の兩旁の環にその杠をつらぬきて之を昇べからしむその壇は板をもてこれを空につくれり 8 また銅をもて洗盤をつくりその臺をも銅にす即ち集會の幕屋の門にて役事をなすところの婦人等鏡をもて之を作り 9 又庭を作れり南に於ては庭の南の方に百キユビトの細布の幕を設く 10 その柱は二十その座は二十にして共に銅なりその柱の鈎および桁は銀なり 11 北の方には百キユビトの幕を設くその柱は二十その座は二十にして共に銅なりその柱の鈎と桁は銀なり 12 西の方には五十キユビトの幕を設くその柱は十その座は十その柱の鈎と桁は銀なり 13 東においては東の方に五十キユビトの幕を設く 14 而してこの一傍に十五キユビトの幕を設くその柱は三その座も三 15 又かの一傍にも十五キユビトの幕を設くその柱は三その座も三即ち庭の門の此旁彼旁とも然り 16 庭の周圍の幕はみな細布なり 17 柱の座は銅柱の鈎と桁は銀柱の頭の包は銀なり庭の柱はみな銀の桁にて連る 18 庭の門の幔は青紫紅の絲および麻の撚糸をもて織なしたる者なりその長は二十キユビトその寛における高は五キユビトにして庭の幕と等し 19 その柱は四その座は四にして共に銅その鈎は銀その頭の包と桁は銀なり 20 幕屋およびその周圍の庭の釘はみな銅なり 21 幕屋につける物すなはち律法の幕屋につける物を量るに左のごとし祭司アロンの子イタル、モーセの命にしたがひてレビ人を率る用ひてこれを量れるなり 22 ユダの支派のホルの子なるウリの子ベザレル凡てエホバのモーセに命じたまひし事等をなせり 23 ダンの支派のアヒサマクの子アホリア彼とともにありて雕刻織文をなし青紫紅の絲および麻の撚糸をもて文繡をなせり 24 聖所の諸の工作をなすに用たる金は聖所のシケルにしたがひて言ば都合二十九タラント七百三十三シケルなり是すなはち獻納たるところの金なり 25 會衆の中の核數られし者の獻げし銀は聖所のシケルにしたがひて言ば百タラント千七百七十五シケルなり 26 凡て數らるる者の中に入し者即ち二十歳以上の者六萬三千五百五十人ありたれば聖所のシケルにしたがひて言ば一人に一ペカとなる是すなはち半シケルなり 27 百タラントの銀をもて聖所の座と幕の座を鑄たり百タラントをもて百

座をつくれば一座すなはち一タラントなり 28 又千七百七十五シケルをもて柱の鈎をつくり柱の頭を包み又柱を連ねあはせたり 29 又獻納たるところの銅は七十タラント二千四百シケルなり 30 是をもちて集會の幕屋の門の座をつくり銅の壇とその銅の網および壇の諸の器具をつくり 31 庭の周圍の座と庭の門の座および幕屋の諸の釘と庭の周圍の諸の釘を作れり

Chapter 39

1 青紫紅の絲をもて聖所にて職をなすところの供職の衣服を製り亦アロンのために聖衣を製りエホバのモーセに命じたまひしごとくせり 2 又金青紫紅の絲および麻の撚糸をもてエポデを製り 3 金を薄片に打展べ剪て縷となしこれを青紫紅の絲および麻の撚糸に和てこれを織なし 4 又これがために肩帯をつくりて之を連ねその兩の端において之を連ぬ 5 エポデの上において之を束ぬるところの帯はその物同じうして其の製のごとし即ち金青紫紅の絲および麻の撚糸をもて製る者なりエホバのモーセに命じたまひしごとくなり 6 又葱珩を琢て金の槽に嵌め印を刻がごとくにイスラエルの子等の名をこれに鑄つけ 7 これをエポデの肩帯の上につけてイスラエルの子孫の記念の玉となしむエホバのモーセに命じたまひしごとし 8 また胸牌を巧に織なしエポデの製のごとくに金青紫紅の絲および麻の撚糸をもてこれを製れり 9 胸牌は四角にして之を二重につくりたれば二重にしてその長半キユビトその濶半キユビトなり 10 その中に玉四行を嵌む即ち赤玉黃玉瑪瑙の一行を第一行とす 11 第二行は紅玉 青玉 金剛石 12 第三行は深紅玉 白瑪瑙 紫玉 13 第四行は黃綠玉 葱珩 碧玉 凡て金の槽の中にこれを嵌たり 14 その玉はイスラエルの子等の名にしたがひ其名のごとくに之を十二にし而して印を刻がごとくにその十二の支派の各の名をこれに鑄つけたり 15 又純金を紐のごとくに組たる鏈を胸牌の上につけたり 16 又金をもて二箇の槽をつくり二の金の環をつくりその二の環を胸牌の兩の端につけ 17 かの金の紐二條を胸牌の端の二箇の環につけたり 18 而してその二條の紐の兩の端を二箇の槽に結びエポデの肩帯の上につけてその前にあらしむ 19 又二箇の金の環をつくりて之を胸牌の兩の端につけたり即ちそのエポデに對ふところの内の邊にこれを付く 20 また金の環二箇を造りてこれをエポデの兩傍の下の方につけてその前の方にてその联接る處に對てエポデの帯の上にあらしむ 21 胸牌は青紐をもてその環によりて之をエポデの環に結つけエポデの帯の上にあらしめ胸牌をしてエポデを離ることなからしむエホバのモーセに命じたまひしごとし 22 又エポデに屬する明衣は凡てこれを青く織なせり 23 上衣の孔はその眞中にありて鏤の領盤のごとしその孔の周圍に縁ありて綻びざらしむ 24 而して明

衣の裾に青紫紅の撚糸をもて石榴を作りつけ 25 又純金をもて鈴をつくりその鈴を明衣の裾の石榴の間につけ周囲において石榴の間々にこれをつけたり 26 即ち鈴に石榴鈴に石榴と供職の明衣の裾の周囲につけたりエホバのモーセに命じたまひしごとし 27 又アロンとその子等のために織布をもて裏衣を製り 28 細布をもて頭帽を製り細布をもて美しき頭巾をつくり麻の撚糸をもて禪をつくり 29 麻の撚糸および青紫紅の糸をもて帯を織なせりエホバのモーセに命じたまひしごとし 30 又純金をもて聖冠の前板をつくり印を刻がごとくにその上にエホバに聖といふ文字を書つけ 31 之に青紐をつけて之を頭帽の上に結つてたりエホバのモーセに命じたまひしごとし 32 斯集合の天幕なる幕屋の諸の工事成ぬイスラエルの子孫エホバの凡てモーセに命じたまひしごとくに爲て斯おこなへり 33 人衆幕屋と天幕とその諸の器具をモーセの許に携へいたる即ちその鈎その板その横木の柱その座 34 赤染の牡羊の皮の蓋籬の皮の蓋障蔽の幕 35 律法の櫃とその杠贖罪所 36 案とその諸の器具供前のパン 37 純金の燈臺とその蓋すなはち陳列る燈臺とその諸の器具ならびにその燈火の油 38 金の壇灌膏香幕屋の門の幔子 39 銅の壇その銅の網とその杠およびその諸の器具洗盤とその臺 40 庭の幕その柱とその座庭の門の幔子その紐とその釘ならびに幕屋に用ふる諸の器具集會の天幕のために用ふる者 41 聖所に職をなすところの供職の衣服即ち祭司の職をなす時に用ふる者なる祭司アロンの聖衣およびその子等の衣服 42 斯エホバの凡てモーセに命じたまひしごとくにイスラエルの子孫その諸の工事をなせり 43 モーセその一切の工作を見るにエホバの命じたまひしごとくに造りてあり即ち是のごとくに作りてあればモーセ人衆を祝せり

Chapter 40

1 茲にエホバ、モーセに告げたまひけるは 2 正月の元日に汝集會の天幕の幕屋を建べし 3 而して汝その中に律法の櫃を置ゑ幕をもてその櫃を障蔽し 4 又案を携へいり陳設の物を陳設け且燈臺を携へいりてその燈臺を置うべし 5 汝また金の香壇を律法の櫃の前に置ゑ幔子を幕屋の門に掛け 6 燔祭の壇を集會の天幕の幕屋の門の前に置ゑ 7 洗盤を集會の天幕とその壇の間に置ゑて之に水をいれ 8 庭の周圍に藩籬をたて庭の門に幔子を垂れ 9 而して灌膏をとりて幕屋とその中の一切の物に灌ぎて其とその諸の器具を聖別べし是聖物とならん 10 汝また燔祭の壇とその一切の器具に膏をそそぎてその壇を聖別べし壇は至聖物とならん 11 又洗盤とその臺に膏をそそぎて之を聖別し 12 アロンとその子等を集會の幕屋の門につれきたりて水をもて彼等を洗ひ 13 アロンに聖衣を着せ彼に膏をそそぎてこれを聖別め彼をして祭司

の職を我になさしむべし 14 又かれの子等をつれきたりて之に明衣を着せ 15 その父になせるごとくに之に膏を灌ぎて祭司の職を我になさしむべし彼等の膏そそぎて祭司たることは代々變らざるべきなり 16 モーセかく行へり即ちエホバの己に命じたまひし如くに爲たり 17 第二年の正月にいたりてその月の元日に幕屋建ぬ 18 乃ちモーセ幕屋を建てその座を置ゑその板をたてその横木をさしこみその柱を立て 19 幕屋の上に天幕を張り天幕の蓋をその上にほどこせりエホバのモーセに命じ給ひし如し 20 而してかれ律法をとりて櫃に蔽め杠を櫃につけ贖罪所を櫃の上に置ゑ 21 櫃を幕屋に携へいり障蔽の幕を垂て律法の櫃を隠せりエホバのモーセに命じたまひしごとし 22 彼また集會の幕屋において幕屋の北の方にてかの幕の外に案を置ゑ 23 供前のパンをその上にエホバの前に陳設たりエホバのモーセに命じたまひし如し 24 又集會の幕屋において幕屋の南の方に燈臺をおきて案にむかはしめ 25 燈臺をエホバの前にかかけたりエホバのモーセに命じたまひしごとし 26 又集會の幕屋においてかの幕の前に金の壇を居ゑ 27 その上に馨しき香を焚りエホバのモーセに命じたまひしごとし 28 又幕屋の門に幔子を垂れ 29 集會の天幕の幕屋の門に燔祭の壇を置ゑその上に燔祭と素祭をささげたりエホバのモーセに命じたまひし如し 30 又集會の天幕とその壇の間に洗盤をおき其に水をいれて洗ふことこの爲にす 31 モーセ、アロンおよびその子等其につきて手足を洗ふ 32 即ち集會の幕屋に入る時または壇に近づく時に洗ふことをせりエホバのモーセに命じたまひしごとし 33 また幕屋と壇の周圍の庭に藩籬をたて庭の門に幔子を垂ぬ是モーセその工事を竣たり 34 斯て雲集會の天幕を蓋てエホバの榮光幕屋に充たり 35 モーセは集會の幕屋にいることを得ざりき是雲その上に止り且エホバの榮光幕屋に盈たればなり 36 雲幕屋の上より昇る時にはイスラエルの子孫途に進めり其途々凡て然り 37 然ど雲の昇らざる時にはその昇る日まで途に進むことをせざりき 38 即ち晝は幕屋の上にエホバの雲あり夜はその中に火ありイスラエルの家の者皆これを見るその途々すべて然り

レビ記

Chapter 1

1 エホバ集會の幕屋よりモーセを呼びこれに告げ言たまはく 2 イスラエルの子孫に告てこれに言へ汝等の中の人もし家畜の禮物をエホバに供んとせば牛あるひは羊をとりてその禮物となすべし 3 もし牛の燔祭をもてその禮物になさんとせば全き牡牛を供ふべしすなはち集會の幕屋の門にてこれをエホバの前にその受納たま

ふやうに供ふべし 4 彼その燔祭とする者の首に手を按べし然ば受納られて彼のために贖罪とならん 5 彼エホバの前にその櫃を宰るべし又アロンの子等なる祭司等はその血を携へきたりて集會の幕屋の門なる壇の四圍にその血を灑ぐべし 6 彼またその燔祭の牲の皮を剥ぎこれを切わかつべし 7 祭司アロンの子等壇の上に火を置きその火の上に薪柴を陳べ 8 而してアロンの子等なる祭司等その切わかつて者その首およびその脂を壇の上なる火の上にある薪の上に陳ぶべし 9 その臍腑と足はこれを水に洗ふべし 斯て祭司は一切を壇の上に焼て燔祭となすべし 是すなはち火祭にしてエホバに馨しき香たるなり 10 またその禮物もし群の羊あるひは山羊の燔祭たらば全き牡を供ふべし 11 彼壇の北の方においてエホバの前にこれを宰るべしアロンの子等なる祭司等はその血を壇の四圍に灑ぐべし 12 彼また之を切わかちその首とその脂を載となるべし 而して祭司これを皆壇の上なる火の上にある薪柴の上に陳ぶべし 13 またその臍腑と足はこれを水に洗ひ祭司一切を携へきたりて壇の上に焼べし 是を燔祭となす 是即ち火祭にしてエホバに馨しき香たるなり 14 若また禽を燔祭となしてエホバに献るならば鴉鳩または雛き鴿を携へ來りて禮物となすべし 15 祭司はこれを壇にたづさへゆきてその首を切やぶりこれを壇の上に焼べし またその血はこれをしぼりいだして壇の一方にぬるべし 16 またその割殺とその内の物はこれを除きて壇の東の方なる灰棄處にこれを棄べし 17 またその翼は切はなすこと无にこれを割べし 而して祭司これを壇の上にて火の上なる薪柴の上に焼べし 是を燔祭となす 是すなはち火祭にしてエホバに馨しき香たるなり

Chapter 2

1 人素祭の禮物をエホバに供ふる時は麥粉をもてその禮物となしその上に油をそそぎ又その上に乳香を加へ 2 これをアロンの子等なる祭司等の許に携へくべし 斯てまた祭司はその麥粉と油一握をその一切の乳香とともに取り之を記念の分となして壇の上に焼べし 是すなはち火祭にしてエホバに馨しき香たるなり 3 素祭の餘はアロンとその子等に歸すべし 是はエホバに献る火祭の一にして至聖物たるなり 4 汝もし爐に焼たる物をもて素祭の禮物となさんとせば麥粉に油を和て作れる無酵菓子および油を抹たる無酵煎餅を用ふべし 5 汝の素祭とする禮物もし鍋に焼たる物ならば麥粉に油を和て酔いれず作れる者を用ふべし 6 汝これを細に割てその上に油をそそぐべし 是を素祭となす 7 汝の素祭とする禮物もし釜に煮たる物ならば麥粉と油をもて作れる者を用ふべし 8 汝これ等の物をもて作れる素祭の物をエホバに携へいたるべし 是を祭司に授さば祭司はこれを壇にたづさへ往き 9 その素祭の中より記念の分をとりて壇の上に焚べし 是すなはち火祭にしてエホ

バに馨しき香たるなり 10 素祭の餘はアロンとその子等に販すべし 是はエホバにささぐる火祭の一にして至聖物たるなり 11 凡そ汝等がエホバにたづさへいたる素祭は都て酔いれて作るべからず 汝等はエホバに献る火祭の中に酔または蜜を入れて焚べからず 12 但し初熟の禮物をそなふる時には汝等これをエホバにそなふべし 然ど馨しき香のためにこれを壇にそなふる事はなすべからず 13 汝素祭を献るには凡て鹽をもて之に味くべし 汝の神の契約の鹽を汝の素祭に缺こと勿れ 汝禮物をなすには都て鹽をそなふべし 14 汝初穂の素祭をエホバにそなへんとせば穂を火にやきて殻をさりたる者をもて汝の初穂の禮物にそなふべし 15 汝また油をその上にほどこし 乳香をその上加ふべし 是を素祭となす 16 祭司はその殻を去たる穀物の中および油の中よりその記念の分を取りその一切の乳香とともにこれを焚べし 是すなはちエホバにささぐる火祭なり

Chapter 3

1 人もし酬恩祭の犠牲を献るに當りて牛をとりて之を献るならば牝牡にかかはらずその全き者をエホバの前に供ふべし 2 すなはちその禮物の首に手を按き集會の幕屋の門にこれを宰るべし 而してアロンの子等なる祭司等その血を壇の周圍に灑ぐべし 3 彼はまたその酬恩祭の犠牲の中よりして火祭をエホバに献べし 即ち臍腑を裏むところの脂と臍腑の上の一切の脂 4 および二箇の腎とその上の脂の腰の兩傍にある者ならびに肝の網膜の腎の上に達る者を取べし 5 而してアロンの子等壇の上において火の上なる薪の上の燔祭の上にこれを焚べし 是すなはち火祭にしてエホバに馨しき香たるなり 6 もしまたエホバに酬恩祭の犠牲を献るにあたりて羊をその禮物となすならば牝牡にかかはらず其全き者を供ふべし 7 若また羔羊をその禮物となすならば之をエホバの前に牽來り 8 その禮物の首に手を按きこれを集會の幕屋の前に宰るべし 而してアロンの子等その血を壇の四圍にそそぐべし 9 彼の酬恩祭の犠牲の中よりして火祭をエホバに献べし 即ちその脂をとりその尾を脊骨より全く斷きり 臍腑を裏とるころの脂と臍腑の上の一切の脂 10 および二箇の腎とその上の脂の腰の兩傍にある者ならびに肝の網膜の腎の上に達る者をとるべし 11 祭司はこれを壇の上に焚べし 是は火祭にしてエホバにたてまつる食物なり 12 もし山羊を禮物となすならばこれをエホバの前に牽來り 13 其の首に手を按きこれを集會の幕屋の前に宰るべし 而してアロンの子等その血を壇の四圍に灑ぐべし 14 彼またその中よりして禮物をとりエホバに火祭をささぐべし 是すなはち臍腑を裏むところの脂と臍腑の上のすべての脂 15 および二箇の腎とその上の脂と腰の兩傍にある者ならびに肝の網膜の腎の上に達る者をとるべし 16 祭司はこれを壇の上に焚

べし是は火祭として奉つる食物にして馨しき香たるなり脂はみなエホバに歸すべし 17 汝等は脂と血を食ふべからず是は汝らがその一切の住處において代々永く守るべき例なり

Chapter 4

1 エホバまたモーセに告て言たまはく 2 イスラエルの子孫に告ていふべし人もし誤りてエホバの誠命に違ひて罪を犯しその爲べからざる事の一を行ふことあり 3 また若膏そがれし祭司を犯して民を罪に陥れるごとき事あらばその罪せし罪のために全き犢の若き者を罪祭としてエホバに献べし 4 即ちその牡犢を集會の幕屋の門に牽きたりてエホバの前にいたりその牡犢の首に手を按きその牡犢をエホバの前に宰すべし 5 かくて膏そがれし祭司その牡犢の血をとりてこれを集會の幕屋にたづさへ入り 6 而して祭司指をその血にひたしてエホバの前聖所の障蔽の幕の前にその血を七次そそぐべし 7 祭司またその血をとりてエホバの前にて集會の幕屋にある馨香の壇の角にこれを塗べしその牡犢の血は凡てこれを集會の幕屋の門にある燔祭の壇の底下に灌べし 8 またその牡犢の脂をことごとく取て罪祭に用ふべし即ち臍腑を裏むところの油と臍腑の上の一切の脂 9 および兩箇の腎と其上の脂の腰の兩傍にある者ならびに肝の上の網膜の腎の上に達る者を取べし 10 之を取には酬恩祭の犠牲の牛より取が如くすべし而して祭司これを燔祭の壇の上に焚べし 11 その牡犢の皮とその一切の肉およびその首と脛と臍腑と糞等 12 凡てその牡犢はこれを營の外に携へいだして灰を棄る場なる清淨處にいたり火をもてこれを薪柴の上に焚べし即ち是は灰棄處に焚べきなり 13 またイスラエルの全會衆過失をなしたるにその事會衆の目にあらはれずして彼等つひにエホバの誠命の爲べからざる者を爲し罪を獲ることあらんに 14 もし其犯せし罪あらはれなば會衆の者若き犢を罪祭に献べし即ちこれを集會の幕屋の前に献べし 15 會衆の長老等エホバの前にてその牡犢の首に手を按きその一人牡犢をエホバの前に宰すべし 16 而して膏そがれし祭司その牡犢の血を集會の幕屋に携へり 17 祭司指をその血にひたしてエホバの前障蔽の幕の前にこれを七次そそぐべし 18 祭司またその血をとりエホバの前にて集會の幕屋にある壇の角にこれを塗べし其血は凡てこれを集會の幕屋の門にある燔祭の壇の底下に灌べし 19 また其脂をことごとく取て壇の上に焚べし 20 すなはち罪祭の牡犢になしたるごとくにこの牡犢にもなし祭司これをもて彼等のために贖罪をなすべし然せば彼等赦されん 21 かくして彼その牡犢を營の外にたづさへ出し初次の牡犢を焚じごとくにこれを焚べしすなはち會衆の罪祭なり 22 また牧伯たる者罪を犯しその神エホバの誠命の爲べからざる者を誤りて罪を獲ることあらんに 23 若その罪を犯せ

しことを覺らば牡山羊の全き者を禮物に持きたり 24 その山羊の首に手を按き燔祭の牲を宰る場にてエホバの前にこれを宰るべし是すなはち罪祭なり 25 祭司は指をもてその罪祭の牲の血をとり燔祭の壇の角にこれを塗り燔祭の壇の底下にその血を灌ぎ 26 酬恩祭の犠牲の脂のごとくにその脂を壇の上に焚べし斯祭司かれの罪のために贖罪をなすべし然せば彼は赦されん 27 また國の民の中に誤りて罪を犯しエホバの誠命の爲べからざる者の一を爲て罪を獲る者あらんに 28 若その罪を犯せしことを覺らば牡山羊の全き者を牽きたりその犯せし罪のためにこれを禮物になすべし 29 即ちその罪祭の牲の首に手を按き燔祭の牲の場にてその罪祭の牲を宰るべし 30 而して祭司は指をもてその血を取り燔祭の壇の角にこれを塗りその血をことごとくその壇の底下に灌べし 31 祭司また酬恩祭の牲より脂をとるごとくにその脂をことごとく取りこれを壇の上に焚てエホバに馨しき香をたてまつるべし斯祭司かれのために贖罪をなすべし然せば彼は赦されん 32 彼もし羔羊を罪祭の禮物に持きたらんとせば牝の全き者を携へきたり 33 その罪祭の牲の首に手を按き燔祭の牲を宰る場にてこれを宰りて罪祭となすべし 34 かくて祭司指をもてその罪祭の牲の血を取り燔祭の壇の角にこれを塗りその血をことごとくその壇の底下に灌ぎ 35 羔羊の脂を酬恩祭の犠牲より取るごとくにその脂をことごとく取べし而して祭司はエホバに献ぐる火祭のごとくにこれを壇の上に焚べし斯祭司彼の犯せる罪のために贖をなすべし然せば彼は赦されん

Chapter 5

1 人もし證人として出たる時に論誓の聲を聴ながらその見たる事またはその知る事を陳ずして罪を犯さば己の咎は己の身に歸すべし 2 人もし汚穢たる獸の死體汚穢たる家畜の死體汚穢たる昆蟲の死體など凡て汚穢たる物に捫ることあらばその事心づかざるもその身は汚れて辜あり 3 もし又心づかずして人の汚穢にふる事あらばその人の汚穢は如何なる汚穢にもあれその之を知るにいたる時は辜あり 4 人もし心づかずして誓を發し妄に口をもて惡をなさんと云ひ善をなさんと云ふその人の誓を發して妄に言ふところは如何なる事にもあれそのこれを知るにいたる時は此等の一において辜あり 5 若これらの一において辜ある時は某の事において罪を犯せりと云あらはし 6 その愆のためその犯せし罪のために羊の牝なる者すなはち羔羊あるひは牝山羊をエホバにたづさへ來りて罪祭となすべし斯て祭司は彼の罪のために贖罪をなすべし 7 もし羔羊にまで手のとどかざる時は鴉二羽か雛二羽をその犯せし愆のためにエホバに持きたりて罪祭にもちひて燔祭に用ふべし 8 即ちこれを祭司にたづさへ往べし祭司はその罪祭の者を先にささぐべし即ちその首を頸の根

より切やぶるべし但しこれを切はなすべからず 9 而してその罪祭の者の血を壇の一方にそそぎその餘の血をば壇の底下にしぼり出すべし是を罪祭となす 10 またその次ののは慣例のごとくに燔祭にささぐべし斯祭司彼が犯せし罪のために贖をなすべし然せば彼は赦されん 11 もし二羽の鴉鳩か二羽の雛きまで手のとどかざる時はその罪ある者麥粉一エバの十分一を禮物にもちきたりてこれを罪祭となすべしその上に膏をかくべからず又その上に乳香を加ふべからず是は罪祭なればなり 12 彼祭司の許にこれを携へゆくべし祭司はこれを一握とりて記念の分となし壇の上にてエホバの火祭の上にこれを焚べし是を罪祭となす 13 斯祭司は彼が是等の一を犯して獲たる罪のために贖をなすべし然せば彼は赦されんその餘は素祭とひとしく祭司に歸すべし 14 エホバ、モーセに告て言たまはく 15 人もし過失を爲し知らずしてエホバの聖物を于て罪を獲ることあらば汝の估價に依り聖所のシケルにしたがひて數シケルの銀にあたる全き牡羊を群の中よりとりその愆のためにこれをエホバに携へきたりて愆祭となすべし 16 而してその聖物を于て獲たる罪のために償をなしまた之に五分の一をくはへて祭司に付すべし祭司はその愆祭の牡羊をもて彼のために贖罪をなすべし然せば彼は赦されん 17 人もし罪を犯しエホバの誠命の爲べからざる者の一を爲すことあらば假令これを知ざるも尚罪ありその罪を任べきなり 18 即ち汝の估價にしたがひて群の中より全き牡羊をとり愆祭となしてこれを祭司にたづさへいたるべし祭司は彼が知らずして誤りし過誤のために贖罪をなすべし然せば彼は赦されん 19 是を愆祭となすその人は誠にエホバに罪を獲たり

Chapter 6

1 エホバまたモーセに告て言たまはく 2 人もしエホバにむかひて不信をなして罪を獲ることあり即ち人の物をあつかり又は質にとり又は奪ひおきて然る事ならずと言ひ或は人を虐る事を爲し 3 或は人の落せし物を拾ひおきて然る事なしと言ひ偽りて誓ふことを爲す等凡て人の爲て罪を獲るところの事を一にても行はば 4 是罪を犯して身に犯る者なればその奪し物その虐げて取たる物その預りし物その拾ひとりし物 5 および凡てその偽り誓し物を還すべし即ちその原物を還しその上に五分の一をこれに加へその愆祭をささぐる日にこれをその本主に付すべし 6 彼その愆祭をエホバに携へきたるべし即ち汝の估價にしたがひてその愆のために群の中より全き牡羊をとりて祭司にいたりて彼ののために贖罪をなすべし然せば彼はその中のいづれを行ひて愆を獲るもゆるさるべし 8 エホバまたモーセに告て言たまはく 9 アロンとその子等に命じて言へ燔祭の例は是のごとし燔祭は壇の上なる爐の上に巨

まで終夜あらしむべし即ち壇の火をしてこれと共に燃つつあらしむべきなり 10 祭司は麻の衣服を着て麻の褌をその肉に纏ひ壇の上にて火にやけたる燔祭の灰を取て壇の傍に置き 11 而してその衣服を脱ぎ携へたの衣服をつけてその灰を營の外に携へいだし清淨地にもちゆくべし 12 壇の上の火をばたえず燃しむべし熄しむべからず祭司は朝ごとに薪柴をその上に燃し燔祭の物をその上に陳べまた酬恩祭の脂をその上に焚べし 13 火はつねに壇の上にあらず燃しむべし熄しむべからず 14 素祭の例は是のごとしアロンの子等これをエホバの前すなはち壇の前にささぐべし 15 即ち素祭の麥粉とその膏を一握とりまた素祭の上の乳香をことごとく取て之を壇の上に焚き馨しき香となし記念の分となしてエホバにたてまつるべし 16 その遺餘はアロンとその子等これを食ふべし即ち酢をいれずして之を聖所に食ふべし集會の幕屋の庭にて之を食ふべきなり 17 之を酵いれて焼べからずが火祭の中より我これを彼等にあたへてその分となさしかは是は罪祭と愆祭のごとくに至聖し 18 アロンの子等の男たる者はみな之を食ふことを得べし是はエホバにたてまつる火祭の例にして汝等が代々永くまゐるべき者なり凡てこれに觸る者は聖なるべし 19 エホバ、モーセに告て言たまはく 20 アロンとその子等が膏そがれる日にエホバにささぐべき禮物は是のごとし麥粉一エバの十分の一を素祭となして恒に献ぐべし即ちその半を朝にその半を夕にささぐべし 21 是は鍋の内に油をもて作りその焼たる時に汝これを携へきたるべし即ちこれを幾個にも劈て素祭となしエホバに献べし馨しき香となしむべし 22 アロンの子等の中膏をそそがれて彼に継で祭司となる者はこれを献ぐべし斯はエホバに對して永く守るべき例なり是は全く焚つくすべし 23 凡て祭司の素祭はみな全く焚つくすべし食ふべからざるなり 24 エホバまたモーセに告て言たまはく 25 アロンとその子等に告ていふべし罪祭の例は是のごとし燔祭の牲を宰る場にて罪祭の牲をエホバの前に宰るべし是は至聖物なり 26 罪のために之をささぐるごとの祭司これを食ふべし即ち集會の幕屋の庭において聖所に之を食ふべし 27 凡てその肉に觸る者は聖なるべしその血もし衣服に灑ぎかかるとあらばその灑ぎかかれる者を聖所に洗ふべし 28 またこれを煮たる土瓦の器皿は砕くべし若これを煮たる者銅の鍋ならば水をもてこれを磨き洗ふべし 29 祭司等の中の男たる者は皆これを食ふことを得べし是は至聖し 30 然どその血を集會の幕屋にたづさへいりて聖所にて贖罪をなしたる罪祭はこれを食ふべからず火をもてこれを焚べし

Chapter 7

1 また愆祭の例は是のごとし是は至聖者なり 2 燔祭を宰る場にて愆祭を宰るべし而して祭司その血を壇

の四周にそそぎ 3その脂をことごとく献ぐべし即ちその脂の尾その臍を裏むところの諸の脂 4兩個の腎とその上の脂の腰の兩傍にある者および肝の上の網膜の脂の上におよべる者を取り 5祭司これを壇の上に焚てエホバに火祭とすべし之を愆祭となす 6祭司等の中の男たる者はみな之を食ふことを得是は聖所に食ふべし至聖者なり 7罪祭も愆祭もその例は一にして異らずこれは贖罪をなすところの祭司に歸すべし 8人の燔祭をささぐるところの祭司その燔祭はその献ぐる燔祭の物の皮を自己に得べし 9凡て爐に焼たる素祭の物および凡て釜と鍋にて製へたる者はこれを献ぐところの祭司に歸すべし 10 凡そ素祭は油を和たる者も乾たる者もみなアロンの諸の子等に均く歸すべし 11 エホバに献ぐべき酬恩祭の犠牲の例は是のごとし 12 若これを感謝のために献ぐるならば油を和たる無酵菓子と油をぬりたる無酵煎餅および麥粉に油をませて焼たる菓子をその感謝の犠牲にあはせて献ぐべし 13 その菓子の外にまた有酵パンを酬恩祭なる感謝の犠牲にあはせてその禮物に供ふべし 14 即ちこの全體の禮物の中より一箇宛を取りエホバにささげて擧祭となすべし是は酬恩祭の血を灑ぐところの祭司に歸すべきなり 15 感謝のために献ぐる酬恩祭の犠牲の肉はこれを献げしその日の中に食ふべし少にても翌朝まで存しおくまじきなり 16 その犠牲の禮物もし願還かまたは自意の禮物ならばその犠牲をささげし日にこれを食ふべしその殘餘はまた明日これを食ふことを得るなり 17 但しその犠牲の肉の殘餘は第三日にいたれば火に焚べし 18 若その酬恩祭の犠牲の肉を第三日に少にても食ふことをなさば其は受納られずまた禮物と算らることなくして反て憎むべき者とならん是を食ふ者その罪を任べし 19 その肉もし汚穢たる物にふる事あらば食ふべからず火に焚べしその肉は淨き者みなこれを食ふことを得るなり 20 若その身に汚穢ある人エホバに屬する酬恩祭の犠牲の肉を食はばその人はその民の中より絶るべし 21 また人もし人の汚穢あるひは汚たる牲畜あるひは忌しき汚たる物等都て汚穢に觸ることありながらエホバに屬する酬恩祭の犠牲の肉を食はばその人はその民の中より絶るべし 22 エホバまたモーセに告て言たまはく 23 イスラエルの子孫に告て言べし牛羊山羊の脂は都て汝等これを食ふべからず 24 自ら死たる牲畜の脂および裂ころざれし死畜の脂は諸般の事に用ふるを得れどもこれを食ふことは絶てなすべからず 25 人のエホバに火祭として献ぐるところの牲畜の脂は誰もこれを食ふべからず之を食ふ人はその民の中より絶るべし 26 また汝等はそその一切の住處において鳥獸の血を決して食ふべからず 27 何の血によらずこれを食ふ人あればその人は皆民の中より絶るべし 28 エホバ、モーセに告て言たまはく 29 イスラエルの子孫に告て言べし酬恩祭の犠牲をエホバに献ぐる者はその酬恩祭の犠牲の中よりそ

の禮物を取てエホバにたづさへ来るべし 30 エホバの火祭はその人手づからこれを携へきたるべし即ちその脂と胸とをたづさへ来りその胸をエホバの前に擡て擡祭となすべし 31 而して祭司その脂を壇の上に焚べしその胸はアロンとその子等に歸すべし 32 汝等はその酬恩祭の犠牲の右の腿を擧祭となして祭司に與ふべし 33アロンの子等の中酬恩祭の血と脂とを献ぐる者その右の腿を得て自己の分となすべし 34 我イスラエルの子孫の酬恩祭の犠牲の中よりその擡る胸と擡たる腿をとりてこれを祭司アロンとその子等に與ふ是はイスラエルの子孫の中に永く行はるべき例典なり 35 是はエホバの火祭の中よりアロンに歸する分またその子等に歸する分なり彼等を立てエホバに祭司の職をなさしむる日に斯定めらる 36すなはち是は彼等に膏をそそぐ日にエホバが命をくだしてイスラエルの子孫の中より彼等に歸せしめたまふるにて代々永くまもるべき例典たるなり 37 是すなはち燔祭素祭罪祭愆祭任職祭酬恩祭の犠牲の法なり 38 エホバ、シナイの野においてイスラエルの子孫にその禮物をエホバに供ふることを命じたまひし日に是をシナイ山にてモーセに命じたまひしなり

Chapter 8

1 エホバ、モーセに告て言たまはく 2 汝アロンとその子等およびその衣服と灌膏と罪祭の牡牛と二頭の牡羊と無酵パン一箇を携へきたり 3 また會衆をことごとく集會の幕屋の門に集めよ 4 モーセすなはちエホバの己に命じたまひし如くなしたれば會衆は集會の幕屋の門に集りぬ 5 モーセ會衆にむかひて言ふエホバの爲せと命じたまへる事は斯のごとし 6 而してモーセ、アロンとその子等を携きたり水をもて彼等をしひ清め 7 アロンに裏衣を著せ帯を帶しめ明衣を纏はせエポデを着しめエポデの帯を之に帶しめこれをもてエポデを其身に結つけ 8 また胸牌をこれに着させその胸牌にウリムとトンミルをつけ 9 その首に頭帽をかむらしめその頭帽の上すなはちその額に金の板の聖前板をつけたりエホバのモーセに命じたまひし如し 10 モーセまた灌膏をとり幕屋とその中の一切の物に灌ぎてこれを聖別め 11 且これを七度壇にそそぎ壇とその諸の器具および洗盤とその臺に膏そそぎてこれを聖別め 12 また灌膏をアロンの首にそそぎ之に膏そそぎて聖別たり 13 モーセまたアロンの子等をつれきたりて裏衣をこれに着せ帯をこれに帶しめ頭巾をこれに蒙らせたりエホバのモーセに命じたまひし如くなり 14 また罪祭の牡牛を牽きたりてアロンとその子等その罪祭の牡牛の頭に手を按り 15 斯てこれを殺してモーセその血をとり指をもてその血を壇の四周の角につけて壇を潔淨しまた壇の底下にその血を灌ぎて之を聖別めがために贖をなせり 16 モーセまた

その臍腑の上の一切の脂肝の上の網膜および兩箇の腎とその脂をとりて之を壇の上に焚り 17 但しその牡牛その皮その肉およびその糞は營の外にて火に焚りエホバのモーセに命じたまひし如し 18 また燔祭の牡羊を牽きたりてアロンとその子等その牡羊の頭に手を按たり 19 斯てこれを宰してモーセその血を壇の周圍に灑げり 20 而してモーセその牡羊を切さきその頭と肉塊と脂とを焚り 21 また水をもてその臍腑と脛を洗ひてモーセその牡羊をことごとく壇の上に焚り是は馨しき香のためにささぐる燔祭にしてエホバにたてまつる火祭たるなりエホバのモーセに命じたまひし如し 22 また他の牡羊すなはち任職の牡羊を牽きたりてアロンとその子等その牡羊の頭に手を按り 23 斯てこれを殺してモーセその血をとり之をアロンの右の耳の端とその右の手の大指と右の足の拇指につけて 24 またアロンの子等をつれきたりてその右の耳の端と右の手の大指と右の足の拇指にその血をつれたり而してモーセその血を壇の周圍に灑げり 25 彼またその脂と脂の尾および臍腑の上の一切の脂と肝の上の網膜ならびに兩箇の腎とその脂とその右の腿とを取り 26 またエホバの前なる無酵パンの箇の中より無酵菓子一箇と油ぬりたるパンの菓子一箇と煎餅一箇を取り是等をその脂の上とその右の腿の上に載せ 27 是を凡てアロンの手とその子等の手に授け之をエホバの前に擡て擡祭となさめたり 28 而してモーセまた之を彼等の手より取り壇の上にて燔祭の上にこれを焚り是は馨しき香のためにたてまつる任職祭にしてエホバにささぐる火祭なり 29 斯てモーセその胸をとりエホバの前にこれを擡て擡祭となせり任職の牡羊の中是はモーセの分に歸する者なりエホバのモーセに命じたまひし如し 30 而してモーセ灌膏と壇の上の血とをとりて之をアロンとその衣服に灑ぎまたその子等とその子等の衣服にそそぎアロンとその衣服およびその子等とその子等の衣服を聖別たり 31 斯てモーセまたアロンとその子等に言けるは集會の幕屋の門にて汝等その肉を煮よ而して任職祭の箇の内なるパンと偕にこれを其處に食へ是はアロンとその子等これを食ふべしと我に命ありしにしたがふなり 32 その肉とパンの餘れる者は汝等これを火に焚べし 33 汝等はその任職祭の竟る日まで七日の間は集會の幕屋の門口より出べからず其は汝等の任職は七日にわたればなり 34 今日行ひて汝等のために罪をあがなふが如くにエホバ斯せよと命じたまふなり 35 汝等は集會の幕屋の門口に七日の間日夜居てエホバの命令を守れ然せば汝等死る事なからん我かく命ぜられたるなり 36 すなはちアロンとその子等はエホバのモーセによりて命じたまひし事等を盡く爲り

Chapter 9

1 茲に第八日にいたりてモーセ

、アロンとその子等およびイスラエルの長老等と呼びてアロンに言けるは汝若き牡犢の全き者を罪祭のために取りまた牡羊の全き者を燔祭のために取りてこれをエホバの前に献ぐべし 3 汝イスラエルの子孫に告て言べし汝等牡山羊を罪祭のために取りまた犢牛と羔羊の當歳にして全き者を燔祭のために取きたれ 4 また酬恩祭のためにエホバの前に供ふる牡牛と牡羊を取り且油を和たる素祭をとりきたるべしエホバ今日汝等に顯れたまふべければなり 5 是に於てモーセの命ぜし物を集會の幕屋の前に携へ来り會衆みな進りてエホバの前に立ければ 6 モーセ言ふエホバの汝等に爲と命じたまへる者はすなはち是なり斯せばエホバの榮光汝等にはられん 7 モーセすなはちアロンに言けるは汝壇に行き汝の罪祭と汝の燔祭を献げて己のためと民のために贖罪を爲しまた民の禮物を献げてがために贖罪をなし凡てエホバの命じたまひし如くせよ 8 是に於てアロン壇に行き自らのためにする罪祭の犢を宰れり 9 しかしてアロンの子等その血をアロンの許にたづさへ来りければアロン指をその血にひたして之を壇の角につけてその血を壇の底下に灌ぎ 10 また罪祭の性の脂と腎と肝の上の網膜と上に焼り凡てエホバのモーセに命じたまひし如し 11 またその肉と皮は營の外にて火に焚り 12 アロンまた燔祭の牲を宰りしがその子等これが血を自己の許に携へきたりければ之を壇の周圍に灑げり 13 彼等また燔祭の牲すなはちその肉塊と頭をかれに持きたりければ彼壇の上にこれを焚き 14 またその臍腑と脛を洗ひ壇の上にて之を燔祭の上に焚り 15 彼また民の禮物を携へきたり即ち民のためにする罪祭の山羊を取て之を宰り前のごとくに之を献げて罪祭となし 16 また燔祭の牲を牽きたりて定例のごとくに之をささげたり 17 また素祭を携へきたりてその中より一握をとり朝の燔祭にくはへてこれを壇の上に焚り 18 アロンまた民のためにする酬恩祭の犠牲なる牡牛と牡羊を宰りしがその子等これが血を己にもちきたりければ之を壇の周圍に灑げり 19 彼等またその牡牛と牡羊の脂およびその脂の尾と臍腑を裏む者と腎と肝の上の網膜とを携へきたり 20 即ち彼等その脂をその胸の上に載きたりけるにアロンその脂を壇の上に焚り 21 その胸と右の腿はアロンこれをエホバの前に擡て擡祭となせり 22 アロン民にむかひて手を擡てこれを祝し罪祭燔祭酬恩祭を献ぐることを畢て下れり 23 モーセとアロン集會の幕屋にいり出きたりて民を祝せり斯てエホバの榮光總體の民に顯れ 24 火エホバの前より出て壇の上の燔祭と脂を燗つせり民これを見て聲をあげ俯伏ぬ

Chapter 10

1 茲にアロンの子等なるナダブとアビウともにその火盤をとりて火

をこれにいれ香をその上に盛て異火をエホバの前に献げたりははエホバの命じたまひし者にあらざりしかば 2 火エホバより出て彼等を燬ほるばせりすなはち彼等はエホバの前に死すや 3 モーセ、アロンに言けるはエホバの宣ふところは是のごとし云く我は我に近づく者等の中に我の聖ことを顯はし又全體の民の前に榮光を示さんアロンは黙然たりき 4 モーセかくてアロンの叔父ウヰエルの子等なるミサエルとエルザンを呼び汝等進みよりて聖所の前より汝等の兄弟等を營の外に携へ出せと之にいひければ 5 すなはち進みよりて彼等をその裏衣のままに營の外に携へ出しモーセの言のごとくせり 6 モーセまたアロンおよびその子エレアザルとイタマルにいひけるは汝らの頭を露すなかれまた汝らの衣を裂なかれ恐くは汝等死んまた震怒全體の民におよぶらん但汝等の兄弟たるイスラエルの全家エホバのかく火をもて燬ほらばたまひし事を哀くべし 7 汝等はまた集會の幕屋の門より出べからず恐くは汝等死ん其はエホバの灌膏汝らの上にあればなりと彼等モーセの言のごとくに爲り 8 茲にエホバ、アロンに告て言たまはく 9 汝も汝の子等も集會の幕屋にいる時には葡萄酒を飲なかれ恐くは汝等死ん是は汝らが代々永く守るべき例たるべし 10 斯するは汝等が物の聖と世間なるとを分ち汚たと潔淨とを分ちことを得んため 11 又エホバのモーセによりて告たまひし一切の法度をイスラエルの子孫に教ふことを得んがためなり 12 モーセまたアロンおよびその遣れる子エレアザルとイタマルに言けるは汝等エホバの火祭の中より素祭の遺餘を取り酢をいれずして之を壇の側に食へは至聖物なり 13 是はエホバの火祭の中より汝に歸する者また汝の子等に歸する者なれば汝等これを聖所にて食ふべし我かく命ぜられたるなり 14 また搖る胸と擧たる腿は汝および汝の男子と女子これを淨處にて食ふべし是はイスラエルの子孫の酬恩祭の中より汝の分と汝の子等の分に與へらるる者なればなり 15 彼等その擧るところの腿と擧ところの胸を火祭の脂とともに持ちたりこれをエホバの前に擡て擡祭となすべし其は汝と汝の子等に歸すべし是は永く守るべき例にしてエホバの命じたまふ者なり 16 斯てモーセ罪祭の山羊を尋ね索めけるに既にこれを燬たりしかばアロンの遣れる子等エレアザルとイタマルにむかひてモーセ怒を發し言けるは 17 罪祭の牲は至聖なるに汝等なんぞ之を聖所にて食ざりしや是は汝等をして會衆の罪を任て彼等のためにエホバのまへに贖をなさしめんとて汝等に賜ふ者たるなり 18 視よその血はまだこれを聖所に携へいることをせざりきかの物は我が命ぜしごとくに汝等これを聖所にて食ふべかりしなり 19 アロン、モーセに言けるは今日彼等その罪祭と燔祭をエホバの前に献げしが斯る事我身に臨めり今日も我罪祭の牲を食はばエホバこれを善と觀たまふや 20 モーセこれを聽て善とせり

Chapter 11

1 エホバ、モーセとアロンに告てこれに言給はく 2 イスラエルの子孫に告て言へ地の諸の獸畜の中汝らが食ふべき四足は是なり 3 凡て獸畜の中蹄の分たる者すなはち蹄の全く分たる反芻者は汝等これを食ふべし 4 但し反芻者と蹄の分たる者の中汝等の食ふべからざる者は是なり即ち駱駝是は反芻ども蹄わかれば汝等には汚たる者なり 5 山鼠是は反芻ども蹄わかれば汝等には汚たる者なり 6 兎是は反芻ども蹄わかれば汝等には汚たる者なり 7 猪是は蹄あひ分れ蹄まったく分るれども反芻ことをせざれば汝等には汚たる者なり 8 汝等是等の肉を食ふべからずまたその死體にさはるべからず是等は汝等には汚たる者なり 9 水にある諸の族の中汝等の食ふべき者は是なり凡て水の中にをり海河に居る者にして翅と鱗のある者は汝等これを食ふべし 10 凡て水に動く者凡て水に生る者即ち凡て海河にある者にして翅と鱗なき者は汝等には忌はしき者なり 11 是は汝等には忌はしき者なり汝等その肉を食ふべからずまたその死體をば忌はしき者となすべし 12 凡て水にありて翅も鱗もなき者は汝等には忌はしき者たるべし 13 鳥の中に汝等が忌はしとすべき者は是なり是をば食ふべからず是は忌はしき者なり即ち鵝黃鷹鷂 14 鷓鴣の類 15 諸の鴉の類 16 駝鳥梟鷓鴣鷹鷹の類 17 鶴鷄鷄 18 白鳥鷓鴣大鷹 19 鶴鷓鴣の類鷓鴣および蝙蝠 20 また凡て羽翼のありて四爬にあるところの昆蟲は汝等には忌はしき者なり 21 但し羽翼のありて四爬にある諸の昆蟲の中その足に飛腿のありて地に飛ぶものは汝等これを食ふことを得べし 22 即ちその中蝗蟲の類大蝻の類小蝻の類蜈蚣の類を汝等食ふことを得べし 23 凡て羽翼ありて四爬にあるところの昆蟲はみな汝等には忌はしき者たるなり 24 これ等はなんぢらを汚すなり凡て是等の者の死體に捫る者は晩まで汚るべし 25 凡てその死體を身に携ふる者はその衣服を洗ふべしその身は晩まで汚るなり 26 凡そ蹄の分れたる獸畜の中その蹄の全く分れざる者あるひは反芻ことをせざる者の死體は汝等には汚穢たるべし凡てこれに捫る者は汚るべし 27 四足にてあるく諸の獸畜の中その掌底にて歩む者は皆汝等には汚穢たるべしその死骸に捫る者は晩まで汚るべし 28 その死體を身に携ふる者はその衣服を洗ふべしその身は晩まで汚るなり是等は汝等には汚たる者なり 29 地に匍とこるの匍行者の中汝等に汚穢となる者は是なり即ち鼯鼠鼯鼠大蜥蜴の類 30 蛤蚧龍子守宮蛇醫蠅蜓 31 諸の匍行者の中是等は汝等には汚穢たるなり凡てその死たるに捫る者は晩まで汚るべし 32 是等の者の死て上に墜たる物は何にもあれ汚るべし木の器具にもあれ衣服にもあれ皮革にもあれ囊袋にもあれ凡そ事に用ふる器は皆こ

れを水にいろべし是は晩まで汚穢ん斯せば是は清まるべし 33 また是等の中の者瓦の器におつればその内にある者みな汚るべし汝らその器を毀つべきなり 34 また水の入たる食ふべき食物も是等によりて汚るべく諸般の器にある飲べき飲物も是等によりて汚るべし 35 是等の者の死體物の上に墜ればその物都て汚るべし爐にもあれ土鍋にもあれ之を毀つべきなり 36 然ど泉水あるひは塘池水の滯は汚ること無し唯その死體に觸る者汚るべし 37 是等の者の死體は播べき種の上に墜るも其は汚ることなし 38 然ど種の上に水のかかれる時にその死體上に墜なば其は汝等には汚たるべし 39 汝等が食ふところの獸畜の死たる時はその死體に捫る者は晩まで汚るべし 40 その死體を食ふ者はその衣服を濯ふべし其身は晩まで汚るなりその死體を携ふる者もその衣服を洗ふべしその身は晩まで汚るなり 41 地の上に匍とこるの諸の匍行者は忌すべき者なり食ふべからず 42 即ち地に匍とこるの諸の匍行者の中凡て腹ばひ行く者四足にて歩く者ならびに多の足を有つ者是等をば汝等食ふべからず是等は忌べき者たるなり 43 汝等は匍とこるの匍行者のためにその身を忌はしき者にするなかれ是等をもてその身を汚すなかれ又是等に汚さるるなかれ 44 我は汝等の神エホバなれば汝等その身を聖潔せよ然ば汝等聖者とならん我聖ければなり汝等は必ず地に匍とこるの匍行者をもてその身を汚すことをせざれ 45 我は汝等の神とならんとて汝等をエジプトの國より導きいだせしエホバなり我聖ければ汝等聖潔なるべし 46 是すなはち獸畜と鳥と水に動く諸の生物と地に匍ふ諸の匍行者にかかはるところの例にして 47 汚たる者と潔き者とを分ち食する生物と食はれざる生物とを分ち者なり

Chapter 12

1 エホバまたモーセに告て曰たまはく 2 イスラエルの子孫に告て言へ婦女もし種をやどして男子を生ば七日汚るべし即ちその月の穢の日數ほど汚るなり 3 また第八日に至らばその嬰の前の皮を割べし 4 その婦女は尚その成潔の血に三十三日を歷べしその成潔の日の満るまでは聖物にさはるべからず聖所にいるべからず 5 若女子を生ば二七日汚るべし月の穢におけるがごとしまたその成潔の血に六十六日を経べきなり 6 而してその男子あるひは女子につきての成潔の日満なば燔祭の爲に當歳の羔羊を取り罪祭のために離き鷄あるひは鴨鳥を取てこれを集會の幕屋の門に携へきたり祭司にいたるべし 7 祭司は之をエホバの前にささげてその婦女のために贖罪をなすべし然せばその出血の穢潔まるべし是すなはち男子または女子を生る婦女にかかはるところの例なり 8 その婦女もし羔羊にまで手の届かざる時は鴨鳥二羽か又は離き鷄二羽を携へきたるべし

是一は燔祭のため一は罪祭のためなり祭司これがために贖罪をなすべし然せば婦女は潔まるべし

Chapter 13

1 エホバ、モーセとアロンに告て言たまはく 2 人その身の皮に腫あはるひは癩あるひは光る處あらんにもし之がその身の皮にあること癩病の患處のごとくならばその人を祭司アロンまたは祭司たるアロンの子等に携へいたるべし 3 また祭司は肉の皮のその患處を觀べしその患處の毛もし白くなり且その患處身の皮よりも深く見えなば是癩病の患處なり祭司かれを見て汚たる者となすべし 4 もし又その身の皮の光る處白くありて皮よりも深く見えなばまたその毛も白くならず祭司その患處ある人を七日の間禁鎖おき 5 第七日にまた祭司之を觀べし若その患處變るところ無くまたその患處皮に蔓延ること無ば祭司またその人を七日の間禁鎖おき 6 第七日にいたりて祭司ふたたびその人を觀べしその患處も薄らぎまたその患處皮に蔓延らば祭司これを潔者ととなすべし是は癩なりその人は衣服を洗ふべし然せば潔くならん 7 然どその人祭司に觀られて潔き者となりたる後にいたりてその癩皮に廣く蔓延らば再び祭司にその身を見すべし 8 祭司これを觀てその癩皮に蔓延るを見ば祭司その人を汚たる者となすべし是は癩病なり 9 人もしその身に癩病の患處あらば祭司にこれを携ゆくべし 10 祭司これを觀にその皮の腫白くしてその毛も白くなり且その腫に爛肉の見ゆるあらば 11 是舊き癩病のその身の皮にあるなれば祭司これを汚たる者となすべしその人は汚たる者なればこれを禁鎖るにおよばず 12 若また癩病大にその皮に發しその患處ある者の皮に遍く滿て首より足まで凡て祭司の見るところにおよばば 13 祭司これを視若その身に遍く癩病の滿たるを見ばその患處ある者を潔き者となすべし其人は全く白くなりたれば潔きなり 14 然どもし爛肉その人に顯れば汚たる者なり 15 祭司爛肉を視ばその人を汚たる者となすべし爛肉は汚たる者なり是すなはち癩病たり 16 若またその爛肉變て白くならばその人は祭司に詣るべし 17 祭司これを視るにその患處もし白くなりてらば祭司その患處ある者を潔き者となすべしその人は潔きなり 18 また肉の皮に瘍瘡ありしに癒て 19 その瘍瘡の地方に白き腫おこり又は白くして微紅き光る處おこるありて之を祭司に見るところあらんに 20 祭司これを視るに皮よりも卑く見てその毛白くなりてらば祭司その人を汚たる者となすべし其は瘍瘡より起りし癩病の患處たるなり 21 然ど祭司これを觀に其處に白き毛あらずまた皮よりも卑からず却て薄らぎてらば祭司その人を七日の間禁鎖おき 22 而してもし大に皮に蔓延ば祭司その人を汚たる者となすべし是はその患處なり 23 然どその光る處もしその所に止りて蔓延ずば是は癩

瘡の痕跡なり祭司その人を潔き者と
なすべし 24 また肉の皮に火傷あら
んにその火傷の跡もし微紅くして白
く又は只白くして光る處とならば 2
5 祭司これを視べし若その光る處の
毛白くなりてその處皮よりも深く見
なば是火傷より起りし癩病なれば祭
司その人を汚たる者となすべし是は
癩病の患處たるなり 26 然ど祭司こ
れを視にその光る處に白き毛あらず
またその處皮よりも卑からずして却
て薄らぎをらば祭司その人を七日の
間禁鎖おき 27 第七日に祭司これを
視べしもし大に皮に蔓延りをらば祭
司その人を汚たる者となすべし是は
癩病の患處なり 28 もしその光る處
その所に止り皮に蔓延らずして却て
薄らぎをらば是火傷の腫なり祭司其
人を潔き者となすべし其は是火傷の
痕迹なればなり 29 男あるひは女も
し頭または鬚に患處あらば 30 祭司
その患處を觀べし若皮よりも深く見
えまた其處に黄なる細き毛あらば祭
司その人を汚れたる者となすべし其
は瘡にして頭または鬚にある癩病なり
31 若また祭司その瘡の患處を視
に皮よりも深からずしてまた其處に
黒き毛あること無ば祭司その瘡の患
處ある者を七日の間禁鎖おき 32 第
七日に祭司その患處を視べしその瘡
もし蔓延すまた其處に黄なる毛あら
ずして皮よりもその瘡深く見ずば 3
3 その人は剃ことをなすべし但しそ
の瘡の上は剃べからず祭司其瘡ある
者を尚また七日の間禁鎖おき 34 第
七日に祭司またその瘡を視べし若そ
の瘡皮に蔓延すまた皮よりも深く見
ずば祭司その人を潔き者となすべし
その人はまたその衣服をあらふべし
然せば潔くならん 35 若その潔き者
となりし後にいたりてその瘡大に皮
に蔓延りなば 36 祭司その人を觀べ
し若その瘡皮に蔓延らば祭司は黄
なる毛を尋るにおよばずその人は汚
たる者なり 37 然ど若その瘡止たる
ごとくに見えて黒き毛の其處に生ず
るあらばその瘡痊たる者にてその人
は潔し祭司その人を潔き者となすべし
38 また男あるひは女その身の皮に光
る處すなはち白き光る處あらば 39
祭司これを視べし若その身の皮の光
る處薄白からば是白斑のその皮に生
じたるなればその人は潔し 40 もも
しその髪毛頭より脱おつあるも禿
なれば潔し 41 もしその面に近き
處の頭の毛脱おつあるも額の禿た
るなれば潔し 42 然ども若その禿頭
または禿額に白く微紅き患處あらば
是はその禿頭または禿額に癩病の發
したるなり 43 祭司これを觀べし若
その禿頭あるひは禿額の患處の腫白
くして微紅くあり身の肉に癩病のあ
らば是ることくならば 44 是癩病人
にして汚たる者なり祭司その人をも
て全く汚たる者となすべしその患處
その頭にあるなり 45 癩病の患處あ
る者はその衣服を裂きその頭を露し
その口に蓋をあてて居り汚たる者汚
たる者とみづから稱ふべし 46 その患
處の身にある日の間は恒に汚たる者
たるべしその人は汚たる者なれば人
に離れて居るべし即ち營の外に住居
をなすべきなり 47 若また衣服に癩
病の患處起るあらん時は毛の衣にも

あれ麻の衣にもあれ 48 又麻あるひ
は毛の經線にあるにもせよ緯線にあ
るにもせよ皮革にあるにもあれ又凡
て皮革にて造れる物にあるにもあれ
49 若その衣服あるひは皮革あるひは
經線あるひは緯線あるひは凡て皮革
にて造れる物に有とる所の患處青く
あるか又は赤くあらば是癩病の患處
なり之を祭司に見べし 50 祭司はそ
の患處を視その患處ある物を七日の
間禁鎖おき 51 第七日にその患處を
視べし若その衣服あるひは經線ある
ひは緯線あるひは毛あるひは皮革あ
るひは凡て皮革にて造れる物にあ
るところの患處蔓延をらばこれ惡き癩
病にしてその物は汚たる者なり 52
彼その患處あるところの衣服毛また
は麻の經線緯線あるひは凡て皮革に
て造れる物を焼べし是は惡き癩病な
りその物を火に焼べし 53 然ど祭司
これを視に患處もしその衣服あるひ
は經線あるひは緯線あるひは凡て皮
革にて造れる物に蔓延すば 54 祭司
命じてその患處ある物を濯はせ尚七
日の間之を禁鎖おき 55 而して祭司
その濯ひし患處を觀べし患處もし色
の變ることなくば患處の蔓延ことあ
らざるも是は汚たる者なり汝これを
火に燬べし是は表面にあるも裏面に
あるも共に腐蝕の陥なり 56 然ど濯
たる後に祭司これを觀るにその患處
薄らぎたらばその衣服あるひは皮革
あるひは經線あるひは緯線より患處
を切とるべし 57 然るに尚またその
衣服あるひは經線あるひは緯線ある
ひは凡て皮革にて造れる物に患處の
あらはるるあらば是は再發なり汝そ
の患處ある物を火に焼べし 58 また汝
が濯ふところの衣服あるひは經線あ
るひは緯線あるひは凡て皮革にて造
れる物よりして若その患處脱さらば
再びこれを濯ふべし然せば潔し 59
是すなはち毛または麻の衣服および
經線緯線ならびに凡て皮革にて造り
たる物に起れる癩病の患處をしらべ
て潔と汚たるとを定むるところの條
例なり

Chapter 14

1

エホバ、モーセに告て言たまはく 2
癩病人の潔めらるる日の定例は是の
ごとし即ちその人を祭司の許に携へ
ゆくべし 3 先祭司營より出ゆきて觀
祭司もし癩病人の身にありし癩病の
患處の痊たるを見ば 4 祭司その潔め
らるる者のために命じて生る潔き鳥
二羽に香柏と紅の線と牛膝草を取き
たらしめ 5 祭司また命じてその鳥一
羽を瓦の器の内にて活水の上に殺さ
しめ 6 而してその生る鳥を取り香柏
と紅の線と牛膝草をも取て之を夫活
水の上に殺したる鳥の血の中にその
生る鳥とともに濡し 7 癩病より潔め
られんとする者にこれを七回灑ぎて
これを潔き者となしその生る鳥をそ
野に放つべし 8 潔めらるる者はその
衣服を濯ひその毛髪をことごとく剃
おとし水に身を滌ぎて潔くなり然
る後に營に入きたるべし但し七日が
間は自己の天幕の外に居るべし 9 而
して第七日にその身の毛髪をことごと

く剃べし即ちその頭の髪と鬚と眉と
をことごとく剃りまたその衣服を濯
ひ且その身を水に滌ぎて潔くなるべ
し 10 第八日にいたりてその人二匹
の全き羔羊の牡と當歳なる一匹の全
き羔羊の牝を取りまた麥粉十分の三
に油を和たる素祭と油一ログを取べ
し 11 潔禮をなす所の祭司その潔め
らるべき人と是等の物とを集會の幕
屋の門にてエホバの前に置き 12 而
して祭司かの羔羊の牡一匹を取り一
ログの油とともに之を愆祭に獻げま
た之をエホバの前に搖て搖祭となす
べし 13 この羔羊の牡は罪祭燔祭の
牲を宰る處すなはち聖所にてこれを
宰るべし罪祭の物の祭司に歸するご
とく愆祭の物も然るなり是は至聖物
たり 14 而して祭司その愆祭の牲の
血を取りその潔めらるべき者の右の
耳の端と右の手の大指と右の足の拇
指に祭司これをつくべし 15 祭司ま
たその一ログの油をとりて之を自身
の左の手の掌に傾ぎ 16 而して祭司
その右の指を左の手の油にひたしそ
の指をもて之を七回エホバの前に灑
ぐべし 17 その手の殘餘の油は祭司
その潔めらるべき者の右の耳の端と右
の手の大指と右の足の拇指において
その愆祭の牲の血の上に之をつくべ
し 18 而して尚その手に残れる油は
祭司これをその潔めらるべき者の首
につけエホバの前にて祭司その人の
ために贖罪をなすべし 19 斯してま
た祭司罪祭を獻げその汚穢を潔めら
るべき者のために贖罪を爲て然る後
に燔祭の牲を宰るべし 20 而して祭
司燔祭と素祭を壇の上に獻げその人
のために祭司贖罪を爲べし然せばそ
の人は潔くならん 21 その人もし貧
くして之にまで手の届かざる時は搖
て自己の贖罪をなさしむべき愆祭の
ために羔羊の牡一匹をとり又素祭の
ために麥粉十分の一に油を和たるを
取りまた油一ログを取り 22 且その
手のとどくところに循ひて鳴鳩二羽
かまたは難き鴿二羽を取べし其一は
罪祭のための者一は燔祭のための者
なり 23 而してその潔禮の第八日に
之を祭司に携へ集會の幕屋の門にき
たりてエホバの前にいたるべし 24
かくて祭司はその愆祭の牡羊と一ロ
グの油を取り祭司これをエホバの前
に搖て搖祭となすべし 25 而して愆
祭の羔羊を宰りて祭司その愆祭の牲
の血を取りこれをその潔めらるべき
者の右の耳の端と右の手の大指と右
の足の拇指につけ 26 また祭司その
油の中を己の左の手の掌に傾ぎ 27
而して祭司その右の指をもて左の手
の油を七回エホバの前に灑ぎ 28 亦
祭司その潔めらるべき者の右の耳と
右の手の大指と右の足の拇指におい
て愆祭の牲の血をつけし處にその手
の油をつくべし 29 またその手に残
れる油をば祭司その潔めらるべき者
の首に之をつけエホバの前にてその
人のために贖罪をなすべし 30 その
人はその手のおよぶところの鳴鳩ま
たは難き鴿一羽を獻ぐべし 31 即ち
その手のおよぶところの者一を罪祭
に一を燔祭に爲べし祭司はその潔め
らるべき者のためにエホバの前に贖
罪をなすべし 32 癩病の患處ありし
人にてその潔禮に用ふべき物に手の

届ざる者は之をその條例とすべし 3
3 エホバ、モーセとアロンに告て言
たまはく 34 我が汝らの産業に與ふ
るカナンに汝等の至らん時に我
汝らの産業の地の或家に癩病の患處
を生ぜしむること有ば 35 その家の
主來り祭司に告て患處のごとき者家
に現はると言べし 36 然る時は祭司
命じて祭司のその患處を視に行く前
にその家を空しむべし是は家にある
物の凡て汚れざらんためなり而して
後に祭司いりてその家を觀べし 37
その患處を觀にもその家の壁に青
くまたは赤き瘡の患處ありて壁より
も卑く見えなば 38 祭司その家を出
て家の門にいたり七日の間家を閉お
き 39 祭司第七日にまた來りて視る
べしその患處もし家の壁に蔓延をら
ば 40 祭司命じてその患處ある石を
取のぞきて邑の外の汚穢所にこれを
棄しめ 41 またその家の内の四周を
刮らしむべしその刮りし灰沙は之を
邑の外の汚穢所に傾け 42 彼の石を
取てその石の所に入かふべし而して
彼他の灰沙をとりて家を塗べきなり
43 斯石を取のぞき家を刮りてこれを
塗かへし後にその患處もし再びおこ
りて家に發しなば 44 祭司また來り
て視べし患處もし家に蔓延たらば是
家にある惡き癩病なれば其は汚るる
なり 45 彼その家の灰沙をことごとく
邑の外の汚穢所に搬ひいだすべし 4
6 その家を閉おける日の間にこれに
入る者は晩まで汚るべし 47 その家
に臥す者はその衣服を洗ふべしその
家に食する者もその衣服を洗ふべし
48 然ど祭司いりて視にその患處家を
塗かへし後に家に蔓延すば是患處の
痊たる者なれば祭司その家を潔き者
となすべし 49 彼すなはちその家を
潔むるために鳥二羽に香柏と紅の線
と牛膝草を取り 50 その鳥一羽を瓦
の器の内にて活水の上に殺し 51
香柏と牛膝草と紅の線と生鳥を取て
これをその殺せし鳥の血なる活水に
浸し七回家に灑ぐべし 52 祭司鳥
の血と活水と生る鳥と香柏と牛膝
草と紅の線をもて家を潔め 53 そ
の生る鳥を邑の外の野に縦ちその家
のために贖罪をなすべし然せば其は
潔くならん 54
是すなはち癩病の諸患處瘡 55
および衣服と家屋の癩病 56 ならび
に腫と癬と光る處とに關る條例にて
57 何の日潔きか何の日汚たるか
を教ふる者なり癩病の條例は是のご
とし

Chapter 15

1 エホバ、モーセとアロンに告
て言たまはく 2 イスラエルの子孫に
告て言へ凡そ人その肉に流出あらば
その流出のために汚るべし 3 その流
出に由て汚るること是のごとし即ち
その肉の流出したたるもその肉の流
出滞ほるも共にその汚穢となるなり
4 流出ある者の臥たる床は凡て汚る
べし 5 その床に觸る人は衣服をあら
ひ水に身を滌ぐべしその身は晩まで
汚るるなり 6 流出ある人の坐したる

物の上に坐する人は衣服を洗ひ水に身をそそぐべしその身は晩まで汚るるなり 7 流出ある者の身に觸る人は衣服を洗ひ水に身を滌ぐべしその身は晩まで汚るるなり 8 もし流出ある者の唾潔き者にかからばその人衣服を洗ひ水に身を滌ぐべしその身は晩まで汚るるなり 9 流出ある者の乗たる物は凡て汚るべし 10 またその下になりし物に觸る人は皆晩まで汚るるなり 11 流出ある者手を水に洗はずして人にさはらばその人は衣服を洗ひ水に身を滌ぐべしその身は晩まで汚るるなり 12 流出ある者の捫りし瓦の器は凡て砕くべし木の器は凡て水に洗ふべし 13 流出ある者その流出やみて潔くならば己の成潔のために七日を數へその衣服を洗ひ活る水にその體を滌ぐべし然せば潔くなるべし 14 而して第八日に鴉鳩二羽または難き鴿二羽を自己のために取り集會の幕屋の門にきたりてエホバの前にゆき之を祭司に付すべし 15 祭司はその一を罪祭に一を燔祭に献げ而して祭司その人の流出のためにエホバの前に贖罪をなすべし 16 もし精の洩るることあらばその全身を水にあらふべしその身は晩まで汚るるなり 17 凡て精の粘着たる衣服皮革などは皆水に洗ふべし是は晩まで汚るるなり 18 男もし女と寝て精を洩さば二人ともに水に身を滌ぐべしその身は晩まで汚るるなり 19 また婦女流出あらんにその肉の流出もし血ならば七日の間不潔なり凡て彼に捫る者は晩まで汚るべし 20 その不潔の間に彼が臥たるところの物は凡て汚るべし又彼がその上に坐れる物も皆汚れん 21 その床に捫る者は皆衣服を洗ひ水に身を滌ぐべしその身は晩まで汚るるなり 22 彼が凡て坐りし物に捫る者は皆衣服を洗ひ水に身を滌ぐべしその身は晩まで汚るるなり 23 彼の床の上またはその凡て坐りし物の上にある血に捫らばその人は晩まで汚るるなり 24 人もし婦女と寝てその不潔を身に被りて七日汚るべしその人の臥たる床は凡て汚れん 25 婦女もしその血の流出不潔の期の外にありて多くの日に渉ることあり又その流出する事不潔の期に逾るあらばその汚穢の流出する日の間は凡てその不潔の時の如くにしてその身汚る 26 凡てその流出ある日の間彼が臥ところの床は彼におけること不潔の床のごとし凡そ彼が坐れる物はその汚るること不潔の汚穢のごとし 27 是等の物に捫る人は凡て汚るその衣服を洗ひ水に身を滌ぐべしその身は晩まで汚るるなり 28 彼もしその流出やみて淨まらば七日を算ふべし而して後潔くならん 29 彼第八日に鴉鳩二羽または難き鴿二羽を自己のために取りこれを祭司に携へ來り集會の幕屋の門にいれるべし 30 祭司その一を罪祭に一を燔祭に献げ而して祭司かれが汚穢の流出のためにエホバの前に贖罪を爲べし 31 斯汝等イスラエルの子孫をその汚穢に離れしむべし是は彼等その中間に離るる吾が幕屋を汚してその汚穢に死ることなからん爲なり 32 是すな

はち流出ある者その精を洩してこれに身を汚せし者 33 その不潔を患ふ婦女或は男あるひは女の流出ある者汚たる婦女と寝たる者等にとるの條例なり

Chapter 16

1 アロンの子等二人がエホバの前に献ぐることを爲て死たる後にエホバ、モーセに斯告たまへり 2 即ちエホバ、モーセに言たまひけるは汝の兄弟アロンに告よ時をわかつたずして障蔽の幕の内なる聖所にいたるべからず是死することなからんためなり其は我雲のうちにありて贖罪所の上にはあらはるべければなり 3 アロン聖所にいるには斯すべしすなはち犢の牡を罪祭のために取り牡羊を燔祭のために取り 4 聖き麻の裏衣を着麻の禪をその肉にまとひ麻の帯をもて身に帶し麻の頭帽を冠るべし是は聖衣なりその身を水にあらひてこれを着べし 5 またイスラエルの子孫の會衆の中より牡山羊二匹を罪祭のために取り牡羊一匹を燔祭のために取べし 6 アロンは自己のためなるその罪祭の牡牛を牽きたりて自己とその家族のために贖罪をなすべし 7 アロンまたその兩隻の山羊を取り集會の幕屋の門にてエホバの前にこれを置き 8 その兩隻の山羊のために籤を掣べし即ち一の籤をエホバのためにし一の籤をアザゼルのためにすべし 9 而してアロンそのエホバの籤にあたりし山羊を献げて罪祭となすべし 10 又アザゼルの籤にあたりし山羊はこれをエホバの前に生しおきこれをもて贖罪をなしこれを野におくりにアザゼルにいたらすべし 11 即ちアロン己のためなるその罪祭の牡牛を牽きたりて自己とその家族のために贖罪をなし自己のためなる其罪祭の牡牛を宰り 12 而して火鼎をとりエホバの前の壇よりして熱れる火を之に盈てまた兩手に細末の馨しき香を盈て之を障蔽の幕の中に携へり 13 エホバの前に於て香をその火に放べ香の煙の雲をして律法の上なる贖罪所を蓋はしむべし然せば彼死することあり 14 彼またその牡牛の血をとり指をもて之を贖罪所の東面に灑ぎまた指をもてその血を贖罪所の前に七回灑ぐべし 15 斯してまた民のためなるその罪祭の山羊を宰りその血を障蔽の幕の内に携へりかの牡牛の血をもて爲しごとくその血をもて爲しこれを贖罪所の上と贖罪所の前に灑ぎ 16 イスラエルの子孫の汚穢とその諸の悖れる罪とに縁て聖所のために贖罪を爲べし即ち彼等の汚穢の中間にある集會の幕屋のために斯なすべきなり 17 彼が聖所において贖罪をなさんとて入る時はその自己と己の家族とイスラエルの全會衆のために贖罪をなして出るまでは何人も集會の幕屋の内に居べからず 18 斯て彼エホバの前の壇に出入りしがために贖罪をなすべし即ちその牡牛の血と山羊の血を取て壇の四周の角につけ 19 また指をもて七回その血を其の上に灑ぎイスラエルの子孫の汚穢をの

ぞきて其を潔ようし且聖別べし 20 斯かれ聖所と集會の幕屋と壇のために贖罪をなしてかの生る山羊を牽きたるべし 21 然る時アロンその生る山羊の頭に兩手を突きイスラエルの子孫の諸の惡事とその諸の悖反る罪をごとくその上に承認はしてこれを山羊の頭に載せ選びおける人の手をもてこれを野に遣るべし 22 その山羊彼等の諸惡を人なき地に任ゆくべきなり即ちその山羊を野に遣るべし 23 斯してアロン集會の幕屋にいりその聖所にいりし時に穿たる麻の衣を脱て其處に置き 24 聖所においてその身を水にそそぎ衣服をつけて出で自己の燔祭と民の燔祭とを献げて自己と民とのために贖罪をなすべし 25 また罪祭の牲の脂を壇の上に焚べきなり 26 かの山羊をアザゼルに遣りし者は衣服を濯ひ水に身を滌ぎて然る後營にいるべし 27 聖所において贖罪をなさんために其血を携へ入る罪祭の牡牛と罪祭の山羊とは之を營の外に携へいだしその皮と肉と糞を火に焼べし 28 之を焼たる者は衣服を濯ひ水に身を滌ぎて然る後營にいるべし 29 汝等永く此例を守るべし即ち七月にいたらばその月の十日に汝等その身をなやまし何の工をも爲べらず自己の國の人もまた汝等の中に寄寓る外國の人も共に然すべし 30 其はこの日に祭司汝らのために贖罪をなして汝らを淨むればなり是汝らがエホバの前にその諸の罪を清められんためになす者なり 31 是は汝らの大安息日なり汝ら身をなやますべし是永く守るべき例なり 32 膏をそそがれて任ぜられその父に代りて祭司の職をなすところの祭司贖罪をなすべし彼は麻の衣すなはち聖衣を衣べし 33 彼すなはち至聖所のために贖罪をなした集會の幕屋のためと壇のために贖罪をなした祭司等のためと民の會衆のために贖罪をなすべし 34 是汝等が永く守るべき例にしてイスラエルの子孫の諸の罪のために年に一度贖罪をなす者なり彼すなはちエホバのモーセに命じたまひしごとく爲ぬ

Chapter 17

1 エホバ、モーセに告て言たまはく 2 アロンとその子等およびイスラエルの總の子孫に告てこれに言べしエホバの命するところ斯のごとし云く 3 凡そイスラエルの家の人の中牛羊または山羊を營の内に宰りあるひは營の外に宰ることを爲し 4 之を集會の幕屋の門に牽きたりて宰りエホバの幕屋の前において之をエホバに禮物として献ぐることを爲ざる者は血を流せる者と算るべし彼は血を流したるなればその民の中より絶るべきなり 5 是はイスラエルの子孫をしてその野の表に犠牲とすところの犠牲をエホバに牽きたらしめんがためなり即ち彼等は之を牽きたり集會の幕屋の門にいりて祭司に就きこれを酬恩祭としてエホバに献ぐべきなり 6 然る時は祭司その血を集會の幕屋の門なるエホバの壇にそそぎまた

その脂を馨しき香のために焚てエホバに奉つるべし 7 彼等はその慕ひて淫せし魍魅に重て犠牲をささぐ可らず是は彼等が代々永くまもるべき例なり 8 汝また彼等に言べし凡そイスラエルの家の人または汝らの中に寄寓る他國の人燔祭あるひは犠牲を献ぐることをせんに 9 之を集會の幕屋の門に携へきたりてエホバにこれを献ぐるにあらずばその人はその民の中より絶るべし 10 凡そイスラエルの家の人または汝らの中に寄寓る他國の人の中何の血によらず血を食ふ者あれば我その血を食ふ人にわが面をむけて攻めその民の中より之を斷さるべし 11 其は肉の生命は血にあればなり我汝等がこれを以て汝等の靈魂のために壇の上に贖罪をなさんために是を汝等に與ふ血はその中に生命のある故によりて贖罪をなす者なればなり 12 是をもて我イスラエルの子孫にいへり汝らの中何人も血をくらふべからずまた汝らの中に寄寓る他國の人も血を食ふべからずと 13 凡そイスラエルの子孫の中または汝らの中に寄寓る他國の人の中もし食はるべき獸あるひは鳥を獵獲たる者あらばその血を灑ぎいだし土にて之を掩ふべし 14 凡の肉の生命はその血にしてはすなはちその魂たるなり故に我イスラエルの子孫にいへりなんぢらは何の肉の血をもくらふべからず其は一切の肉の生命はその血なればなり凡て血をくらふものは絶るべし 15 およそ自ら死たる物または裂ころされし物をくらふ人はなんぢらの國の者にもあれ他國の者にもあれその衣服をあらひ水に身をそそぐべしその身は晩までけがるなりその後は潔し 16 その人もし洗ふことをせずまたその身を水に滌がざればその罪を任べし

Chapter 18

1 エホバまたモーセに告て言たまはく 2 イスラエルの子孫に告て之に言へ我は汝らの神エホバなり 3 汝らその住をりしエジプトの國に行はる所の事等を倣ひ行ふべからずまた我が汝等を導きいたるカナンの國におこなはる所の事等を倣ひおこなふべからずまたその例に歩行べからず 4 汝等は我が法を行ひ我が例をまもりてその中にあゆむべし我は汝等の神エホバなり 5 汝等わが例とわが法をまもるべし我もし是を行はば之によりて生べし我はエホバなり 6 汝等凡てその骨肉の親に近づきて之と淫するなかれ我はエホバなり 7 汝の母と淫するなかれ是汝の父を辱しむるなればなり彼は汝の母なれば汝これと淫するなかれ 8 汝の父の妻と淫するなかれ是汝の父を辱しむるなればなり 9 汝の姉妹すなはち汝の父の女子と汝の母の女子は家に生れたると家外に生れたるとによらず凡てこれと淫するなかれ 10 汝の男子の女子または汝の女子の女子と淫する事なかれ是自己を辱しむるなればなり 11 汝の父の妻が汝の父によりて産たる女子は汝の姉妹なれば之と淫する勿れ 12 汝の父の姉妹と淫する

なかれ是は汝の父の骨肉の親なればなり 13 また汝の母の姉妹と淫する勿れ是は汝の母の骨肉の親なり 14 汝の父の兄弟の妻に親づきて之と淫する勿れ是は汝の叔伯母なり 15 汝の娘と淫するなかれ是は汝の息子の妻なれば汝これと淫する勿れ 16 汝の兄弟の妻と淫する勿れ是汝の兄弟を辱しむるなればなり 17 汝婦人とその婦の女子とに淫する勿れまたその婦人の子息の女子またはその女子の女子を取て之に淫する勿れ是等は汝の骨肉の親なれば然するは悪し 18 汝妻の尚生る間に彼の姉妹を取て彼とおなじく妻となして之に淫する勿れ 19 婦のその行經の汚穢にある間はこれに近づきて淫するなかれ 20 汝の鄰の妻と交合して彼によりて己が身を汚すなかれ 21 汝その子女に火の中を通らしめてこれをモロクにささぐることを絶て爲ざれ亦汝の神アホバの名を汚すことなかれ我はアホバなり 22 汝女と寝るごとくに男と寝るなかれ是は寝むべき事なり 23 汝獣畜と交合して之によりて己が身を汚すこと勿れまた女たる者は獣畜の前に立て之と接すること勿れ是憎むべき事なり 24 汝等はこの諸の事をもて身を汚すなかれ我が汝等の前に逐はらふ國々の人はこの諸の事によりて汚れ 25 その地もまた汚る是をもて我その惡のために之を罰すその地も亦自らそこに住る民を吐いだすなり 26 然ば汝等はわが例と法を守りこの諸の憎むべき事をも爲べからず汝らの國の人も汝らの中間に寄寓他國の人も然るべし 27 汝等の先にありし此地の人々はこの諸の憎むべき事を行へりその地もまた汚る 28 汝等は是のごとくするなかれ恐くはこの地汝らの先にも吐いだすを吐いだす如くに汝らをも吐いださん 29 凡そこの憎むべき事等を一にても行ふ者あれば之を行ふ人はその民の中より絶るべし 30 然ば汝等はわが例規を守り汝等の先におこなはれし是等の憎むべき習俗を一も行ふなかれまた之によりて汝等身を汚す勿れ我は汝等の神アホバなり

Chapter 19

1 アホバまたモーセに告て言たまはく 2 汝イスラエルの子孫の全會衆に告てこれに言へ汝等宜く聖あるべし其は我アホバ汝らの神聖あればなり 3 汝等おのそのの母とその父を畏れまた吾が安息日を守るべし我は汝らの神アホバなり 4 汝等虚き物を持つなかれまた汝らのために神々を鑄造ることなかれ我は汝らの神アホバなり 5 汝等酬恩祭の犠牲をアホバにささぐる時はその受納るるやうに献ぐべし 6 之を食ふことは之を献ぐる日とその翌日に於てすべし若残りて三日にいたらばこれを火に焼べし 7 もし第三日に少にても之を食ふことあらば是は憎むべき物となりて受納られざるべし 8 之を食ふ者はアホバの聖物を汚すによりてその罰を蒙むるべし即ちその人は民の中より絶されん 9 汝その地の穀物を穫るときは汝等その田野の隅々までを

盡く穫可らず亦汝の穀物の遺穂を拾ふべからず 10 また汝の菓樹園の菓を取つくすべからずまた汝の菓樹園に落ちたる菓を斂むべからず貧者と旅客のためにこれを遺しおくべし我は汝らの神アホバなり 11 汝等竊むべからず偽べからず互に欺くべからず 12 汝等わが名を指て偽り誓ふべからずまた汝の神の名を汚すべからず我はアホバなり 13 汝の鄰人を虐ぐべからずまたその物を奪ふべからず傭人の値を明朝まで汝の許に留めおくべからず 14 汝聾者を詛いばからずまた聾者の前に礙物をおくべからず汝の神を畏るべし我はアホバなり 15 汝審判をなすに方りて不義を行なふべからず貧窮者を偏り護べからず權ある者を曲て庇くべからず但公義をもて汝の鄰を審判べし 16 汝の民の間に往めぐりて人を誘ふべからず汝の鄰人の血をながすべからず我はアホバなり 17 汝心に汝の兄弟を惡むべからず必ず汝の鄰人を勸戒むべし彼の故によりて罪を身にうつる勿れ 18 汝仇をかへすべからず汝の民の子孫に對ひて怨を懐くべからず己のごとく汝の鄰を愛すべし我はアホバなり 19 汝らわが條例を守るべし汝の家畜をして異類と交らしむべからず異類の種をまぜて汝の田野に播べからず麻と毛をまじへたる衣服を身につくべからず 20 凡そ未だ贖ひ出されず未だ解放れざる奴隷の女にして夫に適く約束をなせし者あらんに人もしこれと交しなばその二人を鍵責むべし然ど之を殺すに及ばず是その婦いまだ解放れざるが故なり 21 その男は愆祭をアホバに携へきたるべし即ち愆祭の牡羊を集會の幕屋の門に牽きたるべきなり 22 而して祭司その人の犯せる罪のためにその愆祭の牡羊をもてアホバの前でこれをために贖罪をなすべし然せばその人の犯せし罪赦されん 23 汝等かの地にいたりて諸の果實の樹を植ん時はその果實をもて未だ割禮を受ざる者と見ゆべし即ち三年の間汝等これをもて割禮を受ざる者となすべし是は食はれざるなり 24 第四年には汝らそのもろもろの果實を聖物となしこれをもてアホバに感謝の祭を爲べし 25 第五年に汝等その果實を食ふべし然せば汝らのために多く實を結ばん我は汝らの神アホバなり 26 汝等何をも血のままに食ふべからずまた魔術を行ふべからずト筮をなすべからず 27 汝等頭の鬢を圓く剪べからず汝鬚の兩方を損ずべからず 28 汝等死る人のために己が身に傷くべからずまたその身に刺文をなすべからず我はアホバなり 29 汝の女子を汚して娼妓の業をなさしむべからず恐くは淫事國におこなはれ罪惡國に滿ん 30 汝等わが安息日を守りわが聖所を敬ふべし我はアホバなり 31 汝等愚鬼者を持つなかれト筮師に問ことを爲て之に身を汚さるなかれ我は汝らの神アホバなり 32 白鬚の人の前には起あがるべしまた老人の身を敬ひ汝の神を畏るべし我はアホバなり 33 他國の人汝らの國に寄留て汝とともに在ばこれを虐ぐるなかれ 34 汝等とともに居る他國の人をば汝らの中間に生れたる者のごとく

し己のごとくに之を愛すべし汝等もエジプトの國に客たりし事あり我は汝らの神アホバなり 35 汝等審判に於ても尺度に於ても秤子に於ても升斗に於ても不義を爲べからず 36 汝等公平秤公平き錘公平きエバ公平きヒンをもちふべし我は汝らの神アホバ汝らをエジプトの國より導き出せし者なり 37 汝等わが一切の條例とわが一切の律法を守りてこれを行ふべし我はアホバなり

Chapter 20

1 アホバまたモーセに告て言たまはく 2 汝イスラエルの子孫に言べし凡そイスラエルの子孫の中またはイスラエルに寄寓他國の人の中その子をモロクに献ぐる者は必ず誅さるべし國の民石をもて之を撃べし 3 我またわが面をその人にむけて之を攻めこれをその民の中より絶ん其は彼その子をモロクに献げて吾が聖所を汚しまたわが聖名を褻せばなり 4 その人がモロクにその子を献ぐる時に國の民もし目を掩ひて見ざるがごとくし之を殺すことをせずば 5 我わが面をその人とその家族にむけ彼および凡て彼に倣ひてモロクと淫をおこなふところの者等をその民の中より絶ん 6 愚鬼者またはト筮師を待みこれに従がふ人あらば我わが面をその人にむけ之をその民の中に絶べし 7 然ば汝等宜く自ら聖潔して聖あるべし我は汝らの神アホバたるなり 8 汝等わが條例を守りこれを行ふべし我は汝らを聖別るアホバなり 9 凡てその父またはその母を詛ふ者はかならず誅さるべし彼その父またはその母を詛ひたればその血は自身に歸すべきなり 10 人の妻と姦淫する人すなはちその鄰の妻と姦淫する者あればその姦夫淫婦ともにならず誅さるべし 11 その父の妻と寝る人は父を辱しむるべし兩人ともにならず誅さるべしその血は自己に歸せん 12 人もしその子の妻と寝る時は二人ともにならず誅さるべし是憎むべき事を行へばなりその血は自己に歸せん 13 人もし婦人と寝るごとく男子と寝ることをせば是その二人憎むべき事をおこなふなり二人ともにならず誅さるべしその血は自己に歸せん 14 人妻を娶る時にその母をもとに娶らば是惡き事なり彼も彼等ともにも火に焼るべし是汝らの中に惡き事の無らなためなり 15 男子もし獣畜と交しなばかならず誅さるべし汝らまたその獣畜を殺すべし 16 婦人もし獣畜に近づきこれと交らばその婦人と獣畜を殺すべし是等はともにも必ず誅さるべしその血は自己に歸せん 17 人もしその姉妹すなはちその父の女子あるひは母の女子を取りて此は彼の陰所を見れば此の陰所を見なば是恥べき事をなすなりその民の子孫の前にてその二人を絶べし彼その姉妹と淫したればその罪を任べきなり 18 人もし經水ある婦人と寝て彼の陰所を露すことあり即ち男子その婦人の源を露し婦人また己の血の源を露すあらば二人ともにもその民の中より絶るべし 19 汝の母の

姉妹または汝の父の姉妹の陰所を露すべからず斯する皆にその骨肉の親たる者の陰所をあらはすなれば二人ともにもその罪を任べきなり 20 人もしその伯叔の妻と寝る時は是その伯叔の陰所を露すなれば二人ともにもその罪を任ひずなくして死ん 21 人もしその兄弟の妻を取ば是汚はしき事なり彼その兄弟の陰所を露したるなればその二人は子なかるべし 22 汝等は我が一切の條例と一切の律法を守りて之を行ふべし然せば我が汝らを任せんとて導き行ところの地汝らを吐いだすことを爲じ 23 汝らの前より我が逐はらふところの國人の例に汝ら歩行べからず彼等はこの諸の事をなしたれば我かれらを惡むなり 24 我さきに汝等に言へり汝等その地を獲ん我これを汝らに與へて獲さすべし是は乳と蜜の流るる地なり我は汝らの神アホバにして汝らを他の民より區別り 25 汝等は獸畜の潔と汚たると禽の潔と汚たるとを區別り 26 汝等は我が汚たるとして汝らのために區別たる獸畜または禽または地に匍ふ諸の物をもて汝らの身を汚すべからず 26 汝等は我の聖者となるべし其は我アホバ聖ければなり我また汝等をして我の所有とならしめんがために汝らを他の民より區別たるなり 27 男または女の愚鬼者をなし或はト筮をなす者はかならず誅さるべし即ち石をもてこれを撃べし彼等の血は彼らに歸せん

Chapter 21

1 アホバ、モーセに告て言たまはく アロンの子等なる祭司等に告てこれに言へ民の中の死人のために身を汚す者あるべからず 2 但しその骨肉の親のためすなはちその母のため父のため男子のため女子のため兄弟のため 3 またその姉妹の處女にして未だ夫あらざる者のために身を汚すも宜し 4 祭司はその民の中の長者なれば身を汚して褻たる者となるべからず 5 彼等は髮をそりて頭に毛なき所をつくるべからずその鬚の兩傍を損ずべからずまたその身に傷つくべからず 6 その神に對て聖あるべくまたその神の名をけがすべからず彼等はアホバの火祭すなはち其神の食物を献ぐる者なれば聖あるべきなり 7 彼等は妓女または汚れたる女を妻に娶るべからずまた夫に出されたる女を娶るべからず其はその身アホバにむかひて聖ければなり 8 汝かれをもて聖者とすべし彼は汝の神アホバの食物を献ぐる者なればなり汝すなはちこれをもて聖者となすべし其は我アホバ汝らを聖別る者聖ければなり 9 祭司の女たる者淫行をなしてその身を汚さば是その父を汚すなり火をもてこれを焼べし 10 その兄弟の中濯膏を首にそそがれ職に任ぜられて祭司の長となれる者はその頭をあらはすべからずまたその衣服を裂べからず 11 死人の所に往べからずまたその父のためにも母のためにも身を汚すべからず 12 また聖所より出べからずその神の聖所を褻すべからず其はその神の任職の濯膏首にあれ

ばなり我はエホバなり 13 彼妻には處女を娶るべし 14 寡婦休れたる婦または汚れたる婦妓女等は娶るべからず惟自己の民の中の處女を妻にめとるべし 15 その民の中に自己の子孫を汚すべからずエホバこれを聖別ればなり 16 エホバ、モーセに告て言たまはく 17 アロンに告て言へ凡そ汝の歴代の子孫の中身に疵ある者は進みよりてその神エホバの食物を献ぐる事を爲べからず 18 凡て疵ある人は進みよるべからずすなはち賢者跛者および鼻の缺たる者成餘るところ身にある者 19 脚の折たる者手の折たる者 20 僂者侏儒目に雲膜ある者疥ある者癩ある者外腎の壞れたる者等は進みよるべからず 21 凡そ祭司アロンの子孫の中身に疵ある者は進みよりてエホバの火祭を献ぐべからず彼は身に疵あるなれば進みよりてエホバの食物を献ぐべからざるなり 22 神の食物の至聖者も聖者も彼は食ふことを得 23 障蔽の幕に至べからずまた祭壇に近よるべからず其は身に疵あればなり斯かれわが聖所を汚すべからず其は我エホバこれを聖別ればなり 24 モーセすなはちアロンとその子等およびイスラエルの一切の子孫にこれを告たり

Chapter 22

1 エホバ、モーセに告て言たまはく 2 汝アロンとその子等に告て彼等をしてイスラエルの子孫の聖物をみだりに享用ざらしめまたその聖別て我にささげたる物についてわが名を汚すこと無らしむべし我はエホバなり 3 彼等に言へ凡そ汝等の歴代の子孫の都てイスラエルの子孫の聖別て我にささげし聖物に汚れたる身をもて近く者あればその人はわが前より絶るべし我はエホバなり 4 アロンの子孫の中癩病ある者または流出ある者は凡てその潔くなるまで聖物を食ふべからずまた死骸に汚れたる物に捫れる者または精をもらせる者 5 または凡て人を汚すところの匍行物に捫れる者または何の汚穢を論はず人をして汚れしむるところの人に捫れる者 6 此のごとき物に捫る者は晩まで汚るべしまたその身を水にて洗ふにあらざれば聖物を食ふべからず 7 日の入たる時は潔くなるべければその後聖物を食ふべしはその食物なればなり 8 自ら死たる物または裂ころされし者を食ひて之をもて身を汚すべからず我はエホバなり 9 彼等これを襲してこれが爲に罪を獲て死るにいたらざるやう我が例規をまもるべし我エホバ是等を聖せり 10 外國の人は聖物を食ふべからず祭司の客あるひは傭人は聖物を食ふべからざるなり 11 然ど祭司金をもて人を買たる時はその者はこれを食ふことを得またその家に生れし者も然り彼等は祭司の食物を食ふことを得べし 12 祭司の女子もし外國の人に嫁ぎなば禮物なる聖物を食ふべからず 13 祭司の女子寡婦となるありまたは出さるありて子なくしてその父の家にかけり

幼時のごとくにてあらばその父の食物を食ふことを得べし但し外國の人はこれを食ふべからず 14 人もし誤りて聖物を食はばその聖物にこれが五分一を加へて祭司に付すべし 15 イスラエルの子孫がエホバに献ぐるところの聖物を彼等襲すべからず 16 その聖物を食ふ者にはその愆の罰をかうむらしむべし其は我エホバこれを聖すればなり 17 エホバまたモーセに告て言たまはく 18 アロンとその子等およびイスラエルの一切の子孫に告てこれに言へ凡そイスラエルにをる外國の人の中願還の禮物または自意の禮物をエホバに献げて燔祭となさんとする者は 19 その受納らるるやうに牛羊あるひは山羊の牡の全き者を献ぐべし 20 凡て疵ある者は汝ら献ぐべからず是はその物なんぢらのために受納られざるべければなり 21 凡て願を還さんとしまは自意の禮物をなさんとして牛あるひは羊をもて酬恩祭の犠牲を献上る者はその受納らるるやうに全き者を取べし其物には何の疵もあらしむべからざるなり 22 即ち盲なる者折たる所ある者切斷たる處ある者腫物ある者疥ある者癩ある者是の如き者は汝等これをエホバに献ぐべからずまた壇の上に火祭となしてエホバにたてまつるべからず 23 牛あるひは羊の成餘れる所または成足ざる所ある者は汝らこれを自意の禮物には用ふるも宜し然ど願還においては是は受納らることなかるべし 24 汝等外腎を打壊りまたは壓つぶしまたは割きまたは斬りたる者をエホバに献ぐべからずまた汝らの國の中に斯る事を行ふべからず 25 汝らまた異邦人の手よりも是等の物を受て神の食に供ふることを爲べからず其は是等は缺あり疵ある者なるに因て汝らのために受納らることあらざればなり 26 エホバ、モーセに告て言たまはく 27 牛羊または山羊生れなば之を七日その母につけ置べし八日より後は是はエホバに火祭とすれば受納らるべし 28 牝牛にもあれ牝羊にもあれ汝らの母と子を同日に殺すべからず 29 汝ら感謝の犠牲をエホバに献ぐる時は汝らの受納らるるやうに献ぐべし 30 是はその日の内に食つくすべし明日まで遺しおくべからず我はエホバなり 31 汝らわが誠命を守り且これを行ふべし我はエホバなり 32 汝等わが名を漬すべからず我はかへつてイスラエルの子孫の中に聖者とあらはるべきなり我はエホバにして汝らを聖くする者 33 汝らの神とならんとて汝らをエジプトの國より導きいだせし者なり我はエホバなり

Chapter 23

1 エホバ、モーセに告て言たまはく 2 イスラエルの子孫に告て之に言へ汝らが宣告て聖會となすべしエホバの節期は是のごとし我が節期はすなはち是なり 3 六日の間業務をなすべし第七日は休むべき安息日にして聖會なり汝ら何の業をもなすべからず

是は汝らがその一切の住所において守るべきエホバの安息日なり 4 その期々に汝らが宣告すべきエホバの節期たる聖會は是なり 5 すなはち正月の十四日の晩はエホバの逾越節なり 6 またその月の十五日はエホバの酔いれぬパンの節なり七日の間汝等酔いれぬパンを食ふべし 7 その首の日には汝ら聖會をなすべし何の職業をも爲すべからず 8 汝ら七日のあひだエホバに火祭を献ぐべし第七日にはまた聖會をなし何の職業をもなすべからず 9 エホバまたモーセにつけて言たまはく 10 イスラエルの子孫につけて之に言へ汝らわが汝らにたまふところの地に至るにおよびて汝らの穀物を穫ときは先なんぢらの穀物の初穂一束を祭司にもちきたるべし 11 彼その束の受けいれらるるやうに之をエホバの前に揺べし即ちその安息日の翌日に祭司これを揺べし 12 また汝らその束を揺る日に當歳の牡羔の全き者を燔祭となしてエホバに献ぐべし 13 その素祭には油を和たる麥粉十分の二をもち之をエホバに献げて火祭となし馨しき香たらしむべしまたその灌祭には酒一ヒンの四分の一をもちふべし 14 汝らはその神エホバに禮物をたづさへ来るその日まではパンをも烘麥をも青穂をも食ふべからず是は汝らがその一切の住居において代々永く守るべき例なり 15 汝ら安息日の翌日より即ち汝らが搖祭の束を携へきたりし日より數へて安息日七をもてその數を盈すべし 16 すなはち第七の安息日の翌日までに日數五十を數へをはり新素祭をエホバに献ぐべし 17 また汝らの居所より十分の二をもてつくりたるパン二箇を携へきたりて揺べし是は麥粉にてつくり醗をいれて焼べし是初穂をエホバにささぐる者なり 18 汝らまた當歳の全き羔羊七匹と少き牡牛一匹と牡山羊二匹を其パンとともに献ぐべしすなはち是等をその素祭およびその灌祭とともにエホバにたてまつりて燔祭となすべし是は火祭にしてエホバに馨しき香となる者なり 19 斯てまた牡山羊一匹を罪祭にささげ當歳の羔羊二匹を酬恩祭の犠牲にささぐべし 20 而して祭司その初穂のパンとともにこの二匹の羔羊をエホバの前に揺て揺祭となすべし是等はエホバにたてまつる聖物にして祭司に歸すべし 21 汝らその日に汝らの中に聖會を宣告いだしすべし何の職業をも爲べからず是は汝らがその一切の住所において永く守るべき條例なり 22 汝らの地の穀物を穫ときは汝らの種るのぞみて汝の田野の隅々までをことごとく種つくすべからず又汝の穀物の遺穂を拾ふべからずこれを貧き者と客旅とに遺しおくべし我は汝らの神エホバなり 23 エホバまたモーセに告て言たまはく 24 イスラエルの子孫に告て言へ七月においては汝らその月の一日をもて安息の日となすべし是は喇叭を吹て記念するの日にして即ち聖會たり 25 汝ら何の職業をもなすべからず惟エホバに火祭を献ぐべし 26 エホバまたモーセに告て言たまはく 27 殊にまたその七月の十日は贖罪の日にして汝らにおいて聖會たり汝等

身をなやました火祭をエホバに献ぐべし 28 その日には汝ら何の工をもなすべからず其は汝らのために汝らの神エホバの前に贖罪をなすべき贖罪の日なればなり 29 凡てその日に身をなやますことをせざる者はその民の中より絶れん 30 またその日に何の工にても爲ものあれば我その人をその民の中より滅しざらん 31 汝等何の工をもなすべからず是は汝らがその一切の住所において代々永く守るべき條例なり 32 是は汝らの休むべき安息日なり汝らその身をなやますべしまたその月の九日の晩すなはちその晩より翌晩まで汝等その安息をまもるべし 33 エホバまたモーセに告て言たまはく 34 イスラエルの子孫に告て言へその七月の十五日は結茅節なり七日のあひだエホバの前にこれを守るべし 35 首の日には聖會を開くべし何の職業をもなすべからず 36 汝等また七日のあひだ火祭をエホバに献ぐべし而して第八日に汝等の中に聖會を開きまた火祭をエホバに献ぐべし是は會の終結なり汝ら何の職業をもなすべからず 37 儲等はエホバの節期にして汝らが宣告て聖會となし火祭をエホバに献ぐべき者なり即ち燔祭素祭犠牲および灌祭等をその献ぐべき日にしたがて献ぐべし 38 その外にエホバの諸安息日ありまた外に汝らの献物ありまた外に汝らの諸の願還の禮物ありまた外に汝らの自意の禮物あり是みな汝らがエホバに献る者なり 39 汝らその地の作物を斂めし時は七月の十五日よりして七日の間エホバの節筵をまもるべし即ち初の日にも安息をなし第八日にも安息をなすべし 40 その首の日には汝等佳樹の枝を取べしすなはち棕櫚の枝と茂れる樹の條と水楊の枝とを取て七日の間汝らの神エホバの前に樂むべし 41 汝ら歳に七日エホバに此節筵をまもるべし汝ら代々ながくこの條例を守り七月にこれを祝ふべし 42 汝ら七日のあひだ茅廬に居りイスラエルに生れたる人はみな茅廬に居べし 43 斯する人は我がイスラエルの子孫をエジプトの地より導き出せし時にこれを茅廬に住しめし事を汝らの代々の子孫に知しめんためなり我は汝らの神エホバなり 44 モーセすなはちエホバの節期をイスラエルの子孫に告たり

Chapter 24

1 エホバまたモーセに告て言たまはく 2 イスラエルの子孫に命じ橄欖を搗て取たる清き油を燈火のために汝に持たらしめて絶ず燈火をともしよ 3 またアロンは集會の幕屋において律法の前なる幕の外にて絶ずエホバの前にその燈火を整ふべし是は汝らが代々ながく守るべき定例なり 4 彼すなはちエホバの前にて純精の燈臺の上にその燈火を絶ず整ふべきなり 5 汝等麥粉を取りとれをもて菓子十二を焼べし菓子一箇には其の十分の二をもちふべし 6 而してこれをエホバの前なる純精の案の上に二累に積み一累に六宛あらしむべし 7

汝また淨き乳香をその累の上に置きこれをしてそのパンの上において記念とならしめエホバにたてまつりて火祭となすべし 8 安息日ごとに絶ずこれをエホバの前に供ふべしはイスラエルの子孫の献ぐべき者にして永遠の契約のなり 9 これはアロンとその子等に歸す彼等これを聖所に食ふべしはエホバの火祭の一にして彼に歸する者にて至聖し是をもて永遠の條例となすべし 10 茲にその父はエジプト人母はイスラエル人なる者ありてイスラエルの子孫の中にいで來れることありしがそのイスラエルの婦の生たる者イスラエルの人と營の中に爭論をなせり 11 時にそのイスラエルの婦の生たる者エホバの名を瀆して詛ふことをなすければ人々これをモーセの許にひき來れり(その母はダンの支派のデブリの女子にして名をシロミテと曰ふ) 12 人々かれを閉こめおきてエホバの示諭をかうむるを俟り 13 時にエホバ、モーセにつけて言たまはく 14 かの詛ふことをなせし者を營の外に曳いだし之を聞たる者に皆その手を彼の首に押しめ全會衆をして彼を石にて撃しめよ 15 汝またイスラエルの子孫に告て言べし凡てその神を詛ふ者はその罰を蒙るべし 16 エホバの名を瀆する者はかならず誅されん全會衆かならず石をもて之を撃べし外國の人にて自己の國の人にて自己の國の名を瀆すにおいては誅さるべし 17 人を殺す者はかならず誅さるべし 18 獸畜を殺す者はまた獸畜をもて獸畜を償ふべし 19 人もしその鄰人に傷損をつけなばそのなせし如く自己もせらるべし 20 即ち挫は挫目は目は齒は齒をもて償ふべし人に傷損をつけしごとく自己も然せらるべきなり 21 獸畜を殺す者は是を償ふべく人を殺す者は誅さるべきなり 22 外國の人にも自己の國の人にもこの法は同一なり我は汝らの神エホバなり 23 モーセすなはちイスラエルの子孫にむかひかの營の外にて詛ふことをなせし者を曳いて石にて撃てと言ければイスラエルの子孫エホバのモーセに命じたまひしごとく爲ぬ

Chapter 25

1 エホバ、シナイ山にてモーセに告て言たまはく 2 イスラエルの子孫につけて之に言ふべし我は汝らに與ふる地に汝ら至らん時はその地にもエホバにむかひて安息を守らしむべし 3 六年のあひだ汝その田野に種播きまた六年のあひだ汝その菓園の物を剪伐てその果を斂むべし 4 然ど第七年には地に安息をなさしむべし是エホバにむかひてする安息なり汝その田野に種播べからずまたその菓園の物を剪伐べからず 5 汝の穀物の自然生たる者は種べからずまた汝の葡萄樹の修理なしに結べる葡萄は斂むべからず是地の安息の年なればなり 6 安息の年の産物は汝らの食となすべしすなはち汝と汝の僕と汝の婢と汝の傭人と汝の所に寄寓る他國の人 7 ならびに汝の家畜と汝の國の中の獸みなその産物をもて食となすべ

し 8 汝安息の年を七かぞふべしすなはち七年を七回かぞふるなり安息の年七次の間はすなはち四十九年なり 9 七月の十日になんぢ喇叭の聲を鳴わらしむべし即ち贖罪の日になんぢら國の中にあまねく喇叭を吹ならさしめ 10 かくしてその第五十年を聖め國中の一切の人民に自由を宣しめすべしこの年はなんぢらにはヨベルの年なりなんぢらのおのおのその産業に歸りおのおのその家にかへるべし 11 その五十年そのなんぢらにはヨベルなりなんぢら種播べからずまた自然生たる物を種べからず修理なしになりたる葡萄を斂むべからず 12 年の年はヨベルにしてなんぢらに聖ければなりなんぢらは田野の産物をくらふべし 13 このヨベルの年にはなんぢらのおのおのその産業にかへるべし 14 なんぢの鄰に物を賣りまたは汝の鄰の手より物を買ふ時はなんぢらたがひに相歎むべからず 15 ヨベルの後の年の數にしたがひてなんぢその鄰より買ふことをなすべし彼もまたその果を得べき年の數にしたがひてなんぢに賣くことをなすべきなり 16 年の數多ときはなんぢその値を増し年の數少なきときはなんぢその値を減すべし即ち汝その果の多少にしたがひてこれを汝に賣るべきなり 17 汝らたがひに相歎むべからず汝の神を畏るべし我は汝らの神エホバなり 18 汝等わが法度を行ひまたわが律法を守りてこれを行ふべし然せば汝ら安泰にその地に住んことを得ん 19 地はその産物を出さん汝等は飽までに食ひて安泰に其處に住んことを得べし 20 汝等は我等もし第七年に種をまかずまたその産物を斂めずば何を食はんやと言ふ 21 我命じて第六年に恩澤を汝等に降し三年だけの果を結ばしむべし 22 汝等第八年には種を播ん然ど第九年までその舊き果を食ふことを得んすなはちその果のいできたるまで汝ら舊き者を食ふことを得べし 23 地を賣には限りなく賣べからず地は我の有なればなり汝らは客旅また寄寓者にして我とともに在るなり 24 汝らの産業の地に於ては凡てその地を贖ふことを許すべし 25 汝の兄弟もし零落てその産業を賣しことあらばその贖業人たる親戚きたりてその兄弟の賣たる者を贖ふべし 26 若また人の之を贖ふ者あらずして己みづから之を贖ふことを得にいたらば 27 その賣てよりの年を數へて之が餘の分をその買主に償ふべし然せばその産業にかへることを得ん 28 然ど若これをする人に償ふことを得ずばその賣たる者は買主の手にヨベルの年まで在てヨベルに及びてもどさるべし彼すなはちその産業にかへることを得ん 29 人石垣ある城邑の内の住宅を賣ことあらんに賣てより全一年の間はこれを贖ふことを得べし即ち期定の日の中にその贖をなすべきなり 30 もし全一年の内に贖ふことなくばその石垣ある城邑の内の家は買主の者に確定りて代々ながくこれに屬しヨベルにももどされざるべし 31 然ど周圍に石垣あらざる村落の家はその國の田畠の附屬物と見做べし是は贖はるべくまたヨベルにいたりてもどさ

るべきなり 32 レビ人の邑々すなはちレビ人の産業の邑々の家はレビ人何時にでも贖ふことを得べし 33 人もしレビ人の産業の邑においてレビ人より家を買ふことあらば彼の賣たる家はヨベルにおよびて返さるべし其はレビ人の邑々の家はイスラエルの子孫の中に是がもてる産業なればなり 34 但しその邑々の郊地の田畠は賣べからずはその永久の産業なればなり 35 汝の兄弟零落かつ手憊ひて汝の傍にあらば之を扶助け之をして客旅または寄寓者のごとくに汝とともにありて生命を保たしむべし 36 汝の兄弟より利をも息をも取べからず神を畏るべしまた汝の兄弟をして汝とともにありて生命を保たしむべし 37 汝かれに利をとりに金を貸べからずまた益を得んとて食物を貸べからず 38 我は汝等の神エホバにしてカナンの地を汝らに與へ且なんぢらの神とならんとて汝らをエジプトの國より導きいだせし者なり 39 汝の兄弟零落て汝に身を賣くことあらば汝これを奴隷のごとくに使役べからず 40 彼をして傭人または寄寓者のごとくにして汝とともに在しめヨベルの年まで汝に仕へしむべし 41 其時には彼その子女とともに汝の所より出りその一族にかへりその父祖等の産業に歸るべし 42 彼らはエジプトの國より我が導き出せし我の僕なれば身を賣て奴隷となる可らず 43 汝嚴く彼を使ふべからず汝の神を畏るべし 44 汝の有つ奴隷は男女ともに汝の四周の異邦人の中より取べし男女の奴隷は是者の中より買べきなり 45 また汝らの中に寄寓る異邦人の子女の中よりも汝ら買ことを得また彼等の中汝らの國に生れて汝らと偕に居る人々の家よりも然り彼等は汝らの所有となるべし 46 汝ら彼らを獲得て汝らの後の子孫の所有に遺し之に彼等を有ちてその所有となさしむることを得べし彼等は永く汝らの奴隷とならん然ど汝らの兄弟なるイスラエルの子孫をば汝等たがひに嚴しく相使ふべからず 47 汝の中なる客旅又は寄寓者にして富を致しその傍に住る汝の兄弟零落て汝の中なるその客旅あるひは寄寓者あるひは客旅の家の分支などに身を賣ることあらば 48 その身を賣たる後に贖はるべしと得その兄弟の一人これを贖ふべし 49 その伯叔または伯叔の子これを贖ふべくその家の骨肉の親たる者これを贖ふべしまた若能せば自ら贖ふべし 50 然る時は彼己が身を賣たる年よりヨベルの年までをその買主とともに數へその年の數にしたがひてその身の代の金を定むべしまたその人に仕へし日は人を傭ひし日のごとくに數ふべきなり 51 若なほ遺れる年多からばその數にしたがひまたその買れし金に照して贖の金をその人に償ふべし 52 若またヨベルの年までに遺れる年少からばその人とともに計算をなしその年數にてらして贖の金を之に償ふべし 53 彼のその人に仕ふる事は歳産の傭人のごとくなるべし汝の目の前において彼を嚴く使はしむべからず 54 彼もし斯く贖はれずばヨベルの年にいたりてその子女とともに出べし 5

5 是イスラエルの子孫は我の僕なるに因る彼等はわが僕にして我がエジプトの地より導き出せし者なり我は汝らの神エホバなり

Chapter 26

1 汝ら己のために偶像を作り木像を雕刻べからず柱の像を堅べからずまた汝らの地に石像を立て之を拜むべからず其は我は汝らの神エホバなればなり 2 汝等わが安息日を守りわが聖所を敬ふべし我はエホバなり 3 汝等もしわが法令にあゆみ吾が誠命を守りてこれを行ふば 4 我その時候に雨を汝らに與ふべし地はその産物を出し田野の樹木はその實を結ばん 5 是をもて汝らの麥打は葡萄を斂る時にまで及び汝らが葡萄を斂る事は種播時にまでおよばん 6 汝等は飽までに食物を食ひ汝らの地に安泰に住んことを得べし 6 我平和を國に賜ふべければ汝等は安じて寝ることを得ん 7 汝等は懼れしむる者なかるべし我また猛き獸を國の中より除き去ん 8 汝等の國を行めぐることをも有じ 7 汝等は其の敵を逐ん彼等は汝等の前に劍に殞るべし 8 汝らの五人は百人を逐ひ汝らの百人は萬人を逐らん 9 汝らの敵は皆汝らの前に劍に殞れん 9 我なんぢらを着み汝らに子を生ご多からしめて汝等を増汝らとむすびしわが契約を堅うせん 10 汝等は舊き穀物を食ふ間にまた新しき者を種てその舊き者を出すに至らん 11 我わが幕屋を汝らの中に立ん我心汝らを忌きらはじ 12 我なんぢらの中に歩みまた汝らの神とならん 13 我は汝らの神エホバ汝らをエジプトの國より導き出してその奴隷たることを免れしめし者なり我は汝らの軛の横木を碎き汝らをして眞直に立て歩く事を得せしめたり 14 然ど汝等もし我に聽したがふ事をなさずこの諸の誠命を守らず 15 わが法度を蔑如にしまた心にわが律法を忌きらひて吾が諸の誠命をおこなはず却てわが契約を破ることをなさば 16 我もかく汝らになさんすなはち我なんぢらに驚恐を蒙らしむべし瘡癩と熱病ありて目を壊し靈魂を懲果しめん 17 汝ら若かくのごとくも猶我に聽したがはずば我汝らの罪を罰する事を七倍重すべし 18 我なんぢらが勢力として誇るところの者をほろぼし汝らの天を鐵のごとくに爲し汝らの地を銅のごとくに爲ん 20 汝等が力を用ふる事は徒然なるべし即ち地はその産物を出さず國の中の樹はその實を結ばざらん 21 汝らもし我に敵して事をなし我に聽したがふことをせずば我なんぢらの罪にしたがひて七倍の災を汝らに降さん 22 我また野獸を汝らの中に遣るべし是等の者汝らの子女を攫くらひ汝ちの家畜を噬ころしまた汝らの數を寡くせん 23 汝らの大路は通る人なきに至らん 23 我これらの事をも

て懲すも汝ら改めずなほ我に敵して事をなせば 24 我も汝らに敵して事をなし汝らの罪を罰することをまた七倍おもくすべし 25 我劍を汝らの上にもちきたりて汝らの背約の怨を報さんまた汝らがその邑々に集る時は汝らの中に我疫病を遣らん汝らはその敵の手に付されん 26 我なんぢらが杖とするパンを打くだかん時婦人十人一箇の爐にて汝らのパンを焼き之を稱りて汝らに付さん汝等は食ふも飽ざるべし 27 汝らもし是のごとなるも猶我に聴したがふことをせず我に敵して事をなせば 28 我も汝らに敵し怒りて事をなすべし我すなはち汝らの罪をいましむることを七倍おもくせん 29 汝らはその男子の肉を食ひまたその女子の肉を食ふにいたらん 30 我なんぢらの宗邸を毀ち汝らの柱の像を斫たふし汝らの偶像の尸の上に汝らの死體を投して吾心に汝らを忌きはらん 31 またなんぢらの邑々を滅し汝らの聖所を荒さんまた汝らの祭物の馨しき香を聞じ 32 我その地を荒すべければ汝らの敵の其處に住る者これを奇しまん 33 我なんぢらを國々に散し劍をぬきて汝らの後を追ん汝らの地は荒れ汝らの邑々は亡びん 34 斯その地荒はてて汝らが敵の國に居んその間地は安息を樂まん即ち斯時はその地やすみて安息を樂むべし 35 是はその荒てをる日の間息まん汝らが其處に住たる間は汝らの安息に此休息を得ざりしなり 36 また汝らの中の遣れる者にはその敵の地において我これに恐懼を懐かしめん彼等は木葉の搖く聲にもおどろきて逃げその逃る事は劍をさけて逃るがごとくまた追ものもなきに顛沛ばん 37 彼等は追ものも無に劍の前にあるが如くたがひに相つまづきて倒れん汝等はその敵の前に立ことを得じ 38 なんぢ等ももるもるの國の中にありて滅うせんなんぢらの敵の地なんぢらを呑つくすべし 39 なんぢらの中の遣れる者はなんぢらの敵の地においてその罪の中に瘦衰へまた己の身につけるその先祖等の罪の中に瘦衰へん 40 かくて後彼らその罪とその先祖等の罪および己が我に悻りし咎と我に敵して事をなせし事を懺悔せん 41 我も彼等に敵して事をなし彼らをその敵の地に曳いたりしが彼らの割禮を受ざる心をれて卑くなり甘んじてその罪の罰を受けるに至るべければ 42 我またヤコブとむすびし吾が契約およびイサクとむすびし吾が契約を追憶しまたアブラハムとむすびしわが契約を追憶し且その地を眷顧ん 43 彼等その地を離るべければ地は彼等の之に居る者なくして荒てをる間その安息をたのしまん彼等はまた甘んじてその罪の罰を受ん是は彼等わが律法を蔑如にしその心にわが法度を忌きらひたればなり 44 かれ等斯のごときに至るもなほ我彼らが敵の國にをる時にこれを棄ずまたこれを忌きはらじ斯我かれらを滅ばし盡してわがかれらと結びし契約をやぶることを爲ざるべし我は彼らの神エホバなり 45 我かれらの先祖等とむすびし契約をかれらのために追憶さん彼らは前に我がその神とならんとて國々の人

の目の前にてエジプトの地より導き出せし者なり我はエホバなり 46 是等はすなはちエホバがシナイ山において己とイスラエルの子孫の間にモーセによりて立たまひし法度と條規と律法なり

Chapter 27

¹ エホバ、モーセに告て言たまはく 2 イスラエルの子孫につけてこれに言へ人もし誓願をかけなばなんぢの估價にしたがひてエホバに献納物をなすべし 3 なんぢの估價はかくすべしすなはち二十歳より六十歳までは男には其價を聖所のシケルに循ひて五十シケルに估り 4 女にはその價を三十シケルに估るべし 5 また五歳より二十歳までは男にはその價を二十シケルに估り 6 女には十シケルに估るべし 6 また一箇月より五歳までは男にはその價を銀五シケルに估り 7 女にはその價を銀三シケルに估るべし 7 また六十歳より上は男にはその價を十五シケルに估り 8 女には十シケルに估るべし 8 その人もし貧くして汝の估價に勝ざる時は祭司の前にいたり祭司の估價をうくべきなり 9 祭司はその誓願者の力にしたがひて估價をなすべし 9 人もしそのエホバに禮物として献ることを爲すとこるの牲畜の中を取り誓願の物となしてエホバに献る時は其物は都て聖し 10 之を更むべからずまた佳を惡に惡を佳に易べからず若し牲畜をもて牲畜に易ることをせば其と其に易たる者ともに聖なるべし 11 もし人のエホバに禮物として献ることを爲ざるとこるの汚たる畜の中ならばその畜を祭司の前に牽いたるべし 12 祭司はまたその佳惡にしたがひてこれが估價をなすべし 13 即ちその價は祭司の估るところによりて定むべきなり 13 人もし其若これを贖はんとせばその估る價はまた之が五分の一を加ふべし 14 また人もしその家をエホバに聖別ささげたる時は祭司その佳惡にしたがひて之が估價を爲べし 15 即ちその價は祭司の估るところによりて定むべきなり 15 人もし其家を贖はんとせばその估價の金にまた之が五分の一を加ふべし 16 然せば是は自分の有とならん 16 人もしその遺業の田野の中をエホバに献る時は其處に徹る種の多少にしたがひてこれが估價をなすべし 17 即ち大麥の種一ホメルを五十シケルに算べきなり 17 もしその田野をヨベルの年より献る時はその價は汝の估れる所によりて定むべし 18 もし又その田野をヨベルの後に献る時は祭司そのヨベルの年までに遣れる年の數にしたがひてその金を算へこれに準じてその估價を減すべし 19 9 その田野を献る者若これを贖はんとせばその估價の金の五分の一をこれに加ふべし 20 然ど若その田野を贖ふことをせず又はこれを他の人に賣くことをなせば再び贖ふことを得じ 21 その田野はヨベルにおよびて出きたる時は永く奉納たる田野のごとくエホバに歸して聖き者となり祭司の産業

とならん 22 若また自己が買たる田野にしてその遺業にあらざる者をエホバに献る時は 23 祭司その人のために估價してヨベルの年までの金を推算べし 24 彼は汝の估れる金高をその日エホバにたてまつりて聖物となすべし 24 ヨベルの年にいたればその田野は賣主なるその本來の所有主に歸るべし 25 汝の估價はみな聖所のシケルにしたがひて爲べし 26 二十ゲラを一シケルとなす 26 但し牲畜の初子はエホバに歸すべき初子なれば何人もこれを献べからず牛にもあれ羊にもあれ是はエホバの所屬なり 27 若し汚たる畜ならば汝の估價にしたがひこれにその五分の一を加へてその人これを贖ふべし 28 若これを贖ふことをせず汝の估價にしたがひて之を賣べし 28 但し人がその凡て有る物の中より取て永くエホバに納めたる奉納物は人にもあれ畜にもあれその遺業の田野にもあれ一切賣べからずまた贖ふべからず奉納物はみなエホバに至聖物たるなり 29 また人の中永く奉納られて奉納物となれる者も贖ふべからず必ず殺すべし 30 地の十分の一は地の産物にもあれ樹の果にもあれ皆エホバの所屬にしてエホバに聖きなり 31 人もしその献る十分の一を贖はんとせば之にまたその五分の一を加ふべし 32 牛または羊の十分の一については凡て杖の下を通る者の第十番にあたる者はエホバに聖き者なるべし 33 その佳惡をたづぬべからずまた之を易べからず若これを易る時は其と其の易たる者ともに聖き者となるべし 34 此れを贖ふことを得ず 34 是等はエホバがシナイ山においてイスラエルの子孫のためにモーセに命じたまひし誠命なり

民数記

Chapter 1

1 エジプトの國を出たる次の年の二月の一日にエホバ、シナイの野に於て集會の幕屋の中にてモーセに告て言たまはく 2 汝等イスラエルの子孫の全會衆の惣數をその宗族に依り其父祖の家に循ひて核べその諸の男丁の名の數と頭數とを得よ 3 すなはちイスラエルの中凡て二十歳以上にして戰爭にいづるに勝る者を汝とアロンその軍旅にしたがひて數ふべし 4 また諸の支派のおのその父祖の家の長たる者一人を出して汝等とともにならしむべし 5 汝らとともに立べき人々の名は是なり 6 即ちルベンよりはシデウルの子エリツル 7 シメオンよりはツリシヤダイの子シルミエル 8 ユダよりはアマナダブの子ナシオン 9 イツサカルよりはツアルの子ネタニエル 10 ヨセフの子等の中にてはエフライムよりはアミホデの子エリシヤマ、マナセよりはバダヅルの子ガマリエル 11 ベニヤミンよりはギデオニの子アピダン 12 ダンより

はアミシヤダイの子アヒエゼル 13 アセルよりはオクランの子バギエル 14 ガドよりはデウエルの子エリアサフ 15 ナフタリよりはエナンの子アヒラ 16 是等は會衆の中より選み出されし者にてその父祖の支派の牧伯またイスラエルの父祖の長なり 17 かくてモーセとアロンここに名を擧たる人々を率領て 18 二月の一日に會衆をことごとく集めければ彼等その宗族に循ひその父祖の家にしたがひその名の數にしたがひて自分の出生を述りたりかく二十歳以上の者ことごとく核へらる 19 エホバの命じたまひしごとくモーセ、シナイの野にて彼等を核數たり 20 すなはちイスラエルの長子ルベンの子等より生れたる者をその宗族によりその父祖の家にしたがひて核べ二十歳以上にして戰爭にいづるに勝る男丁を數へたるに其名の數に依りその頭數によれば 21 ルベンの支派の中にその核數られし者四萬六千五百人ありき 22 またシメオンの子等より生れたる者等をその宗族によりその父祖の家にしたがひて核べ二十歳以上にして戰爭にいづるに勝る男丁を數へたるにその名の數に依りその頭數によれば 23 シメオンの支派の中にその核數られし者五萬九千三百人ありき 24 またガドの子等より生れたる者をその宗族に依りその父祖の家にしたがひて核べ二十歳以上にして戰爭に出るに勝る男丁を數へたるにその名の數に依れば 25 ガドの支派の中にその核數られし者四萬五千六百五十人ありき 26 ユダの子等より生れたる者をその宗族に依りその父祖の家に循ひて核べ二十歳以上にして戰爭にいづるに勝る男丁を數へたるにその名の數に依れば 27 ユダの支派の中にその核數られし者七萬四千六百六十人ありき 28 イツサカルの子等より生れたる者をその宗族に依りその父祖の家にしたがひて核べ二十歳以上にして戰爭に出るに勝る男丁を數へたるにその名の數に依れば 29 イツサカルの支派の中にその核數られし者五萬四千四百人ありき 30 ゼブルンの子等より生れたる者をその宗族によりその父祖の家にしたがひて核べ二十歳以上にして戰爭にいづるに勝る男丁を數へたるにその名の數に依れば 31 ゼブルンの支派の中にその核數られし者五萬七千四百人ありき 32 ヨセフの子等の中エフライムの子等より生れたる者をその宗族によりその父祖の家にしたがひて核べ二十歳以上にして戰爭にいづるに勝る男丁を數へたるにその名の數に依れば 33 エフライムの支派の中にその核數られし者四萬五百人ありき 34 又マナセの子等より生れたる者をその宗族に依りその父祖の家に循ひて核べ二十歳以上にして戰爭にいづるに勝る男丁を數へたるにその名の數に依れば 35 マナセの支派の中にその核數られし者三萬二千二百人ありき 36 ベニヤミンの子等より生れたる者をその宗族によりその父祖の家にしたがひて核べ二十歳以上にして戰爭にいづるに勝る男丁を數へたるにその名の數によれば 37 ベニヤミンの支派の中にその數へられし者三萬五千四百人

ありき 38 ダンの子等より生れたる者をその宗族によりその父祖の家にしたがひて核ベ二十歳以上にして戦争にいつるに勝る男丁を數へたるにその名の數によれば 39 ダンの支派の中にその核數られし者六萬二千七百人ありき 40 アセルの子等より生れたる者をその宗族によりその父祖の家にしたがひて核ベ二十歳以上にして戦争にいつるに勝る男丁を數へたるにその名の數によれば 41 アセルの支派の中にその核數られし者四萬一千五百人ありき 42 ナフタリの子等より生れたる者をその宗族によりその父祖の家にしたがひて核ベ二十歳以上にして戦争にいつるに勝る男丁を數へたるにその名の數によれば 43 ナフタリの支派の中にその數へられし者五萬三千四百人ありき 44 是すなはちその核數られし者にしてモーセとアロンとイスラエルの牧伯等の數ふる所是のごとしその牧伯等は十二人にして各々その父祖の家のために出たるなり 45 スイスラエルの子孫をその父祖の家にしたがひて核ベ二十歳以上にして戦争にいつるに勝る男丁をイスラエルの中に數へたるに 46 其核數られし者都合六萬三千五百五十人ありき 47 但しレビの支派の人はその父祖にしたがひて核數らるること無しき 48 即ちエホバ、モーセに告て言たまひけらく 49 惟レビの支派のみは汝これを核數べからずまたその總數をイスラエルの子孫とともに計ふべからざるなり 50 なんぞレビ人をして律法の幕屋とその諸の器具と其に屬する諸の物を管理らしむべし彼等はその幕屋とその諸の器具を運搬ごとを爲しまたこれが役事を爲し幕屋の四圍にその營を張べし 51 幕屋を移す時はレビ人これを拆卸し幕屋を立てる時はレビ人これを組たつべし外人のこれに近く者は殺さるべし 52 イスラエルの子孫はその軍旅に循ひて各々自己の營にその天幕を張り各人その隊の霧の下に天幕を張べし 53 然どレビ人は律法の幕屋の四圍に營を張べしはイスラエルの子孫の全會衆の上に震怒のおよぶことなからん爲なりレビ人は律法の幕屋をあづかり守るべし 54 是においてイスラエルの子孫エホバのモーセに命じたまひしごとくに凡て爲し斯おこなへり

Chapter 2

1 エホバ、モーセとアロンに告て言たまはく 2 イスラエルの子孫は各々その隊の霧の下に營を張てその父祖の旗號の下に居るべくまた集會の幕屋の四圍において之にむかひて營を張べし 3 即ち日の出る方東に於てはユダの營の霧の下につく者その軍旅にしたがひて營を張りアマナダブの子ナシオン、ユダの子孫の牧伯となるべし 4 その軍旅すなはちその核數られし者は七萬四千六百人 5 その傍に營を張る者はイツサカルの支派なるべし而してツアルの子ネタニエル、イツサカルの子孫の牧伯となるべし 6 その軍旅すなはちその核數られし者は五萬四千四百人 7 またゼ

ブルンの支派これと偕にありてヘロンの子エリアブ、ゼブルンの子孫の牧伯となるべし 8 その軍旅すなはちその核數られし者は五萬七千四百人 9 ユダの營の軍旅すなはち核數られし者は都合十八萬六千四百人 是等の者首先に進むべし 10 また南の方に於てはルベンの營の霧の下につく者その軍旅にしたがひて居りシデウルの子エリヅル、ルベンの子孫の牧伯となるべし 11 その軍旅すなはちその核數られし者は四萬六千五百人 12 その傍に營を張る者はシメオンの支派なるべし而してツリシヤダイの子シルミエル、シメオンの子孫の牧伯となるべし 13 その軍旅すなはちその核數られし者は五萬九千三百人 14 ガドの支派これに次ぎデウエルの子エリアサフ、ガドの子孫の牧伯となるべし 15 その軍旅すなはちその核數られし者は四萬五千六百五十人 16 ルベンの營の軍旅すなはちその核數られし者は都合十五萬一千四百五十人 是等の者第二番に進むべし 17 その次に律法の幕屋レビ人の營とともに諸營の眞中にありて進むべし彼等はその營を張がごとくに各々その隊にしたがひてその霧にしたがひて進むべきなり 18 また西の方においてはエフライムの營の霧の下につく者その軍旅にしたがひて居りアミホデの子エリシヤマ、エフライムの子孫の牧伯となるべし 19 その軍旅すなはちその核數られし者は四萬五百人 20 マナセの支派その傍にありてバダヅルの子ガマリエル、マナセの子孫の牧伯となるべし 21 その軍旅すなはちその核數られし者は三萬二千二百人 22 ベニヤミンの支派これに次ぎギデオニの子アビダン、ベニヤミンの子孫の牧伯となるべし 23 その軍旅すなはちその數へられし者は三萬五千四百人 24 エフライムの營の軍旅すなはちその核數られし者は都合十萬八千一百人 是等の者第三番に進むべし 25 また北の方に於てはダンの營の霧の下につく者その軍旅に循ひて居りアマシヤダイの子アヒエゼル、ダンの子孫の牧伯となるべし 26 その軍旅すなはちその核數られし者は六萬二千七百人 27 その傍に營を張る者はアセルの支派なるべし而してオクランの子バギエル、アセルの子孫の牧伯となるべし 28 その軍旅すなはちその核數られし者は四萬一千五百人 29 ナフタリの支派これに次ぎエナンの子アヒラ、ナフタリの子孫の牧伯となるべし 30 その軍旅すなはちその核數られし者は五萬三千四百人 31 ダンの營の核數られし者は都合十五萬七千六百人 是等の者その旗號にしたがひて最後に進むべし 32 イスラエルの子孫のその父祖の家にしたがひて核數られし者は是のごとし諸營の軍旅すなはちその核數られし者は都合六萬三千五百五十人なりき 33 但しレビ人はイスラエルの子孫とともに計へらること無しきすなはちエホバのモーセに命じたまへる如し 34 是においてイスラエルの子孫エホバの凡てモーセに命じたまひしごとくに行ひ各々その宗族に依りその父祖の家に依りその隊の霧にしたがひて營を張りまた

進むことを爲せり

Chapter 3

1 エホバ、シナイ山に於てモーセと語ひたまへる日にはアロンとモーセの一族左のごとくにてありき 2 アロンの子孫は是のごとし長子はナダブ次はアビウ、エレアザル、イタマル 3 是すなはちアロンの子等の名なり彼等は皆膏そそがれ祭司の職に任ぜられて祭司となれり 4 ナダブとアビウはシナイの野にて異火をエホバの前に献する時にエホバの前に死り子なしエレアザルとイタマルはその父アロンの目の前にて祭司の職を爲り 5 エホバまたモーセに告て言たまはく 6 レビの支派を召よせ祭司アロンの前に侍りてこれに事へしめよ 7 彼らは集會の幕屋の前にありてアロンの職と全會衆の職に替り幕屋の役事をなすべきなり 8 すなはち彼等は集會の幕屋の諸の器具を看守イスラエルの子孫の職に替りて幕屋の役事をなすべし 9 汝レビ人をアロンとその子等に與ふべしイスラエルの子孫の中より彼等は全くアロンに與へられたる者なり 10 汝アロンとその子等を立て祭司の職を行はしむべし外人の近づく者は殺されん 11 エホバすなはちモーセに告て言たまはく 12 視よ我イスラエルの子孫の中なる始に生れたる者すなはち首出の代にレビ人をイスラエルの子孫の中より取り 13 首出はすべて吾が有なり我エジプトの國の中的首出をことごとく撃こるせる時イスラエルの首出人も畜もことごとく聖別て我に歸せしめたり是はわが有となるべし我はエホバなり 14 エホバ、シナイの野にてモーセに告ていひたまはく 15 汝レビの子孫をその父祖の家に依りその宗族にしたがひて核數よ即ちその一箇月以上の男子を核數べし 16 是においてモーセ、エホバの言に循ひてその命ぜられしごとくに之を核數たり 17 レビの子等の名は左のごとしゲルシオン、コハテ、メラリ 18 ゲルシヨンの子等の名はその宗族によれば左の如しリブニ、シメイ 19 コハテの子等の名はその宗族に依れば左のごとしアムラム、イツハル、ヘブロン、ウジエル 20 メラリの子等の名はその宗族によればマヘリ、ムシナリレビ人の宗族はその父祖の家に依は是のごとくなり 21 ゲルシオンよりリブニ人の族とシメイ人の族出たり是すなはちゲルシオン人の族なり 22 その核數られし者の數すなはち一箇月以上の男子の數は都合七千五百人 23 ゲルシオン人の族は凡て幕屋の後すなはち西の方に營を張べし 24 而してラエルの子エリアサフ、ゲルシオン人の牧伯となるべし 25 集會の幕屋におけるゲルシヨンの子孫の職守は幕屋と天幕とその頂蓋および集會の幕屋の入口の幔と 26 庭の幕および幕屋と壇の周圍なる庭の入口の幔ならびにその繩等凡て之に用ふる物を守るべき事なり 27 またコハテよりアムラミ人の族イツハリ人の族ヘブロン人の族ウジエリ人の族出たり是すなはちコハテ人の

族なり 28 一箇月以上の男子の數は都合八千六百人 是みな聖所の職守を守るべき者なり 29 コハテの子孫の族は凡て幕屋の南の方に營を張べし 30 而してウジエルの子エリザパン、コハテ人の族の牧伯となるべし 31 彼等の職守は律法の櫃案燈臺諸壇および聖所の役事に用ふる器具ならびに幔等凡て其處に用ふる物を守るべき事なり 32 祭司アロンの子エレアザル、レビ人の牧伯の長となり且聖所の職を守る者を統轄るべし 33 又メラリよりマヘリ人の族とムシナ人の族出たり是すなはちメラリの族なり 34 その核數られし者すなはち一箇月以上の男子の數は六千二百人 35 アビハイルの子ツリエル、メラリの族の牧伯となり此族幕屋の北の方に營を張べし 36 メラリの子孫の管理るべき者職守とすべき者は幕屋の板とその横木その柱その座その諸の器具および其に用ふる一切の物 37 ならびに庭の周圍の柱とその座その釘およびその繩なり 38 また幕屋の前その東の方すなはち集會の幕屋の東の方にはモーセとアロンおよびアロンの子等營を張りイスラエルの子孫の職守に代て聖所の職守を守るべし外人の近づく者は殺されん 39 モーセとアロン、エホバの言に依りレビ人を悉く核數たるに一箇月以上の男子の數二萬二千ありき 40 エホバまたモーセに言たまはく 41 汝イスラエルの子孫の中的首出たる男子の一箇月以上なる者を盡く數へてその名の數を計れ 42 我はエホバなり我ために汝レビ人を取りてイスラエルの子孫の中なる諸の首出子に代へまたレビ人の家畜を取てイスラエルの子孫の家畜の中なる諸の首出に代べし 43 モーセすなはちエホバの己に命じたまへることくにイスラエルの子孫の中なる首出子を盡く數へたり 43 その數へられし首出なる男子の一箇月以上なる者はその名の數に依れば都合二萬二千二百七十三人なりき 44 すなはちエホバ、モーセに告て言たまはく 45 汝レビ人を取てイスラエルの子孫の中なる諸の首出子に代へまたレビ人の家畜を取て彼等の家畜に代よレビ人はわが所有とならん我はエホバなり 46 またイスラエルの子孫の首出子はレビ人より多きこと二百七十三人なれば是等をば贖ふべき者となし 47 その頭數に依て一人ごとに五シケルを取べし即ち聖所のシケルに循ひて之を取べきなり一シケルは二十ゲラなり 48 汝その餘れる者の贖の金をアロンとその子等に付すべし 49 是においてモーセ、レビ人をもて贖ひ餘せるところの者の贖の金を取り 50 即ちモーセ、イスラエルの子孫の首出子の中より聖所のシケルにしたがひて金三千三百六十五シケルを取り 51 その贖はるる者の金をエホバの言にしたがひてアロンとその子等に付せりエホバのモーセに命じたまひし如し

Chapter 4

1 エホバまたモーセとアロンに告て言たまはく 2 レビの子孫の中よ

りコハテの子孫の總數をその宗族に依りその父祖の家にしがひて計べ 3 三十歳以上五十歳までにして能く軍團に入り集會の幕屋に働作をなすことを得る者をことごとく數へよ 4 コハテの子孫が集會の幕屋においてなすべき勤務は至聖物に關するにして是のごとし 5 即ち營を進むる時はアロンとその子等まづ往て障蔽の幕を取おろし之をもて律法の櫃を覆ひ 6 その上に獾の皮の蓋をほどこしまたその上に總青の布を打かけその杓を差いるべし 7 また供前のパンの案の上には青き布を打かけその上に皿匙杓および酒を灌ぐ罎を置きまた常供のパンをその上にあらしめ 8 紅の布をその上に打かけ獾の皮の蓋をもてこれを覆ひ而してその杓を差いるべし 9 また青き布を取て燈臺とその蓋その燈鉗その剪燈盤および其に用ふる諸の油の器を覆ひ 10 獾の皮の蓋の内に燈臺とその諸の器をいれてこれを棹にかくべし 11 また金の壇の上に青き布を打かけ獾の皮の蓋をもて之を蓋ひその杓を差いるべし 12 また聖所の役事に用ふる役事の器をことごとく取青き布に裏み獾の皮の蓋をもてこれを蓋ひて棹にかくべし 13 また壇の灰を取さりて紫の布をその壇に打かけ 14 その上に役事をなすに用ふる諸の器具すなはち火鼎肉又火鏟鉢および壇の一切の器具をこれに載せ獾の皮の蓋をその上に打かけ而してその杓を差とほすべし 15 營を進むるにあたりてアロンとその子等聖所と聖所の一切の器具を蓋ふことを畢りたらば即ちコハテの子孫いり來りてこれを舁べし然ながら彼等は聖物に捫るべからず恐くは死ん集會の幕屋の中なる是等の物はコハテの子孫の擔ふべきなり 16 祭司アロンの子エラザルは燈火の油馨しき香常供の素祭および灌膏を司どりまた幕屋の全體とその中なる一切の聖物および其處の諸の器具を司どるべし 17 エホバまたモーセとアロンに告て言たまはく 18 汝等コハテ人の宗族の者をしてレビ人の中より絶るに至らしむる勿れ 19 彼等が至聖物に近く時に生命を保ちて死ることなからん爲に汝等かく之に爲べし即ちアロンとその子等まづ入り彼等をして各箇その役事に就しめその擔ふべき物を取しむべし 20 彼等ははて須臾も聖物を觀るべからず恐らくは死ん 21 エホバまたモーセに告て言たまはく 22 汝ゲルシヨンの子孫の總數をその父祖の家に依りその宗族に循ひてしらべ 23 三十歳以上五十歳までにして能く軍團に入り集會の幕屋に働作をなすことを得る者をことごとく數へよ 24 ゲルシヨンの働く事と擔ふ物は是のごとし 25 即ち彼等は幕屋の幕と集會の天幕およびその頂蓋とその上なる獾の皮の蓋ならびに集會の天幕の入口の幔を擔ひ 26 庭の幕および幕屋と壇の周圍なる庭の門の入口の幔とその繩ならびにそれに用ふる諸の器具と其がために造る一切の物を擔ふべし斯動作べきなり 27 ゲルシヨンの子孫の一切の役事すなはちその擔ふところと働くところはアロンとその子等の命に循ふべきなり汝等は彼等にそ

の擔ふべき物を割交してこれを守らしむべし 28 ゲルシヨンの子孫の宗族が集會の幕屋において爲べき動作は是のごとし彼等の守る所は祭司アロンの子イタルこれを監督るべし 29 メラリの子孫もまた汝これをその宗族に依りその父祖の家に循ひて計べ 30 三十歳以上五十歳までにして能く軍團に入り集會の幕屋において勤務をなすことを得る者を盡く數へよ 31 彼等が集會の幕屋において爲べき一切の役事すなはちその擔ひ守るべき物は是のごとし幕屋の板その横木その柱その座 32 庭の四周の柱その座その釘その繩およびこれがために用ふる一切の器具なり彼等が擔ひ守るべき器具は汝等その名を按べて之を數ふべし 33 是すなはちメラリの子孫の族がなすべき役事にして彼等は祭司アロンの子イタルの監督をうけて集會の幕屋において此すべての役事を爲べきなり 34 是においてモーセとアロンおよび衆衆の牧伯等コハテの子孫をその宗族に依りその父祖の家にしがひてしらべ 35 三十歳以上五十歳までにして能く軍團に入り集會の幕屋において勤務をなすことを得る者を盡く數へたるに 36 その宗族にしたがひて數へられし者二千七百五十人ありき 37 是すなはちコハテ人の族の數へられし者にして皆集會の幕屋に於て役事をなすことを得る者なりモーセとアロン、エホバがモーセによりて命じたまひし所にしがひて之を數へたり 38 またゲルシヨンの子孫をその宗族に依りその父祖の家に循ひて計べ 39 三十歳以上五十歳までにして能く軍團に入り集會の幕屋において勤務をなすことを得る者を數へたるに 40 その宗族に依りその父祖の家に循ひて數へられし者二千六百三十人ありき 41 是すなはちゲルシヨンの子孫の族の數へられし者にして皆集會の幕屋において勤務をなすことを得る者なりモーセとアロン、エホバの命にしたがひて之を數へたり 42 またメラリの子孫の族をその宗族に依りその父祖の家に循ひて計べ 43 三十歳以上五十歳までにして能く軍團に入り集會の幕屋において勤務をなすことを得る者を數へたるに 44 その宗族にしたがひて數へられし者三千二百人ありき 45 是すなはちメラリの子孫の族の數へられし者なりモーセとアロン、エホバのモーセによりて命じたまひし所にしがひて之を數へたり 46 モーセとアロンおよびイスラエルの牧伯等レビ人をその宗族に依りその父祖の家にしがひてしらべ 47 三十歳以上五十歳までにして能く來りて集會の幕屋の役事を爲し且これを擔ふ業を爲す者を數へたるに 48 その數へられしもの數都合八千五百八十八人なりき 49 エホバの命にしたがひてモーセかれらに數へ彼等をして各人その役事に就しめかつその擔ふ所をうけもたしめたりエホバの命にしたがひて數へたるは是のごとし

Chapter 5

1

エホバ、モーセに告て言たまはく 2 イスラエルの子孫に命じて癩病人と流出ある者と死骸に汚されたる者とを盡く營の外に出さしめよ 3 男女をわかつ汝等これを出して營の外に居しめ彼等をしてその營を汚さしむべからず我その諸營の中に住なり 4 イスラエルの子孫かく爲して之を營の外に出せりすなはちエホバのモーセに告たまひし如くにイスラエルの子孫然しめ 5 エホバまたモーセに告て言たまはく 6 イスラエルの子孫に告よ男または女もし人の犯す罪を犯してエホバに悖りその身罪ある者とならば 7 その犯せし罪を言あらはしその物の代價にその五分の一を加へてこれを己が罪を犯せる者に付してその償を爲べし 8 然ど若その罪の償を受べき親戚その人にあらざる時はその罪の償をエホバになして之を祭司に歸せしむべしまた彼のために用ひて贖をなすところの贖罪の牡羊も祭司に歸す 9 イスラエルの子孫の聖物は皆祭司に歸す 10 諸の人の聖別て献る物は祭司に歸し凡て人の祭司に付す物は祭司に歸するなり 11 エホバ、モーセに告て言たまはく 12 イスラエルの子孫に告てこれに言へ人の妻道ならぬ事を爲てその夫に罪を犯すあり 13 人かれと交合したるにその事夫の目にかくれて露顯ず彼その身を汚したれどこれが證人となせざるあり 14 すなはち妻その身を汚したる事ありて夫猜疑の心を起してその妻を疑ふことあり又は妻その身を汚したる事なきに夫猜疑の心を起してその妻を疑ふことある時は 15 夫その妻を祭司の許に携へきたり大麥の粉一エバの十分の一をこれがために禮物として持きたるべしその上に油を灌べからずまた乳香を加ふべからず是は猜疑の禮物記念の禮物にして罪を誅しむる者なればなり 16 祭司はまたその婦人を近く進ませてエホバの前に立しめ 17 瓦の器に聖水を入れ幕屋の下の地土を取てその水に放ち 18 其婦人をエホバの前に立せ婦人にその頭を露さしめて記念の禮物すなはち猜疑の禮物をその手に持すべし而して祭司は詛を來らすところの苦き水を手に執り 19 婦を誓せてこれに言べし人もし汝と寝たる事あらず汝また汝の夫を措て道ならぬ事を爲て汚穢に染しこと無ば詛を來する此苦水より害を受けること有ざれ 20 然ど汝もし汝の夫を措き道ならぬ事を爲てその身を汚し汝の夫ならざる人と寝たる事あらば 21 (祭司その婦人をして詛を來らす誓をなさしめて祭司その婦人に言べし)エホバ汝の腿を瘦しめ汝の腹を脹れしめ汝をして汝の民の指て詛ふ者指て誓ふ者とならしめたまへ 22 また詛を來するこの水汝の腸にいりて汝の腹を脹れさせ汝の腿を瘦せんとその時婦人はアーメン、アーメンと言べし 23 而して祭司この詛を書に筆記しその苦水にて之を洗お

とし 24 婦人をしてその詛を來らす水を飲しむべしその詛を來らす水かれの中にいりて苦ならん 25 祭司まづその婦人の手より猜疑の禮物を取りその禮物をエホバの前に擡てこれを壇に持來り 26 而して祭司其禮物の中より記念の分一握をとりて之を壇の上に焚き然る後婦人にその水を飲しむべし 27 その水を之に飲しめたる時はもしかれその身を汚し夫に罪を犯したる事あるに於てはその詛を來らす水かれの中に入れて苦くなりその腹脹れその腿瘦て自己はその民の指て詛ふ者とならん 28 然ど彼もしその身を汚しし事あらずして潔からば害を受ずして能く子を生ん 29 是すなはち猜疑の律法なり妻たる者その夫を措き道ならぬ事を爲て身を汚しし時 30 また夫たる者猜疑の心を起してその妻を疑ふ時はその婦人をエホバの前におきて祭司その律法のごとく之に行ふべきなり 31

斯せば夫は罪なく妻はその罪を任ん

Chapter 6

1

エホバ、モーセに告て言たまはく 2 イスラエルの子孫に告て之に言へ男または女俗を離れてナザレ人の誓願を立て俗を離れてその身をエホバに歸せしむる時は 3 葡萄酒と濃酒を斷ち葡萄酒の醃となれる者と濃酒の醃となれる者を飲ずまた葡萄の汁を飲ず葡萄の鮮なる者をも乾たる者をも食はざるべし 4 その俗を離れる日の間は都て葡萄の樹より取たる者はその核より皮まで一切食ふべからざるなり 5 その誓願を立て俗を離れる日の間は都て薙刀をその頭にあつべからずその俗を離れて身をエホバに歸せしめたる日の満るまで彼は聖ければその頭髮を長しおくべし 6 その俗を離れて身をエホバに歸せしむる日の間は凡て死骸に近づくべからず 7 其父母兄弟姉妹の死たる時にもこれがために身を汚すべからず其はその俗を離れて神に歸したる記號その首にあればなり 8 彼はその俗を離れる日の間は凡てエホバの聖者なり 9 もし人計すも彼の傍に死てそのナザレの頭を汚すことあらばその身を潔る日に頭を剃べしすなはち第七日にこれを剃べきなり 10 而して第八日に鴉鳩二羽かまたは雛き鶉を祭司に携へきたり集會の幕屋の門にいたるべし 11 斯て祭司はその一を罪祭に一を燔祭に献け彼が屍に由て獲たる罪を贖ひまたその日にかれの首を聖潔すべし 12 彼またその俗を離れてエホバに歸するの日を新しし當歳の羔羊を携へきたりて愆祭となすべし彼その俗を離れる時に身を汚したれば是より前の日はその中に算ふべからざるなり 13 ナザレ人の律法は是のごとしその俗を離るるの日満たる時はその人を集會の幕屋の門に携へいたるべし 14 斯てその人は禮物をエホバにささぐべし即ち當歳の羔羊の牡の全き者一匹を燔祭となし當歳の羔羊の牝の全き者一匹を罪祭となし牡羊の全き者一匹を酬

恩祭となし 15 また無酵パン一筐麥粉に油を和て作れる菓子油を塗たる酵いれぬ煎餅およびその素祭と灌祭の物を持ちたるべし 16 斯て祭司これをエホバの前に携へきたりその罪祭と酬恩祭を献げ 17 またその牡羊を筐の中なる酵いれぬパンとあはせこれを酬恩祭の犠牲としエホバに献ぐべし祭司またその素祭と灌祭をも献ぐべきなり 18 ナザレ人は集會の幕屋の門に於てそのナザレの頭を剃りそのナザレの頭の髪を取てこれを酬恩祭の犠牲の下の火に放つべし 19 祭司その牡羊の煮たる肩と筐の中の酵いれぬ菓子一箇と酵いれぬ煎餅一箇をとりにてこれをナザレ人がそのナザレの頭を剃におよびてこれをその手に授け 20 而して祭司エホバの前にて之を搖て搖祭となすべし是は聖物にしてその搖る胸と擧たる腿とともに祭司に歸すべし斯て後ナザレ人は酒を飲んことを得 21 是すなはち誓願を立たるナザレ人がその俗を離れ居し事によりてエホバに禮物を献ぐるの律法なり此外にまたその能力及ぶところの物を献ぐることを得べし即ちその立たる誓願のごとくその俗を離るるの律法にしたがひて爲べきなり 22 エホバまたモーセに告て言たまはく 23 アロンとその子等に告て言へ汝等斯のごとくイスラエルの子孫を祝して言べし 24 願くはエホバ汝を恵み汝を守りたまへ 25 願くはエホバその面をもて汝を照し汝を憐みたまへ 26 願くはエホバその面を擧て汝を着み汝に平安を賜へと 27 かくして彼等吾名をイスラエルの子孫に蒙らすべし然ば我かれらに恵まん

Chapter 7

1 モーセ幕屋を建をはり之に膏を灌ぎてこれを聖別めまたその一切の器具およびその壇とその一切の器具に膏を灌ぎて之を聖別たる日に 2 イスラエルの牧伯等すなはちその諸宗族の長諸支派の牧伯にしてその核數られし者を監督する者等献物を爲り 3 彼等その禮物をエホバに持きたるに蓋ある車六輛と牛十二匹あり牧伯二人に車一輛一人に牛一匹なり即ちこれか幕屋の前にひき至れり 4 時にエホバ、モーセに告て言たまはく 5 汝これを彼等より取て集會の幕屋の用に供へレビ人にその職分職分にしたがひて之を授すべし 6 是においてモーセその車と牛を取て之をレビ人に授せり 7 即ちゲルシヨンの子孫にはその職分を按へて車二輛と牛四匹を授し 8 メラリの子孫にはその職分を按へて車四輛と牛八匹を授し祭司アロンの子イタマルをしてこれを監督らしめたり 9 然どコハテの子孫には何をも授さざりき是は彼等が聖所になすべき職分はその肩をもて擔ぶの事なるが故なり 10 壇に膏を灌ぐ日に牧伯等壇奉納の禮物を携へ來り牧伯等その禮物を壇の上に献げたり 11 エホバ先にモーセに言たまひけるは牧伯等は一日に一人宛その壇奉納の禮物を献ぐべし 12 第一日に禮物を献げし者はユダの支派のアミナダ

ブの子ナシヨンなり 13 その禮物は銀の皿一箇その重は百三十シケル銀の鉢一箇是は七十シケル皆聖所のシケルに循ふ此二者には麥粉に油を和たる素祭の品を充す 14 また金の匙の十シケルなる者一箇是には香を充す 15 また燔祭に用ふる若き牡牛一匹牡羊一匹當歳の羔羊一匹 16 罪祭に用ふる牡山羊一匹 17 酬恩祭の犠牲に用ふる牛二匹牡羊五匹牡山羊五匹當歳の羔羊五匹アミナダの子ナシヨンの禮物は是のごとし 18 第二日にはイッサカルの牧伯ツアルの子ネタニエル献納を爲り 19 その献げし禮物は銀の皿一箇その重は百三十シケル銀の鉢一箇是は七十シケル皆聖所のシケルに循ふ此二者には麥粉に油を和たる素祭の品を充す 20 また金の匙の十シケルなる者一箇是には香を充す 21 また燔祭に用ふる若き牡牛一匹牡羊一匹當歳の羔羊一匹 22 罪祭に用ふる牡山羊一匹 23 酬恩祭の犠牲に用ふる牛二匹牡羊五匹牡山羊五匹當歳の羔羊五匹ツアルの子ネタニエルの禮物は是のごとし 24 第三日にはゼブルンの子孫の牧伯ヘロンの子エリアブ献納を爲り 25 その禮物は銀の皿一箇その重は百三十シケル銀の鉢一箇是は七十シケル皆聖所のシケルに循ふ此二者には麥粉に油を和たる素祭の品を充す 26 また金の匙の十シケルなる者一箇是には香を充す 27 また燔祭に用ふる若き牡牛一匹牡羊一匹當歳の羔羊一匹 28 罪祭に用ふる牡山羊一匹 29 酬恩祭の犠牲に用ふる牛二匹牡羊五匹牡山羊五匹當歳の羔羊五匹ヘロンの子エリアブの禮物は是のごとし 30 第四日にはルベンの子孫の牧伯シデウルの子エリツル献納を爲り 31 その禮物は銀の皿一箇その重は百三十シケル銀の鉢一箇是は七十シケル皆聖所のシケルに循ふ此二者には麥粉に油を和たる素祭の品を充す 32 また金の匙の十シケルなる者一箇是には香を充す 33 また燔祭に用ふる若き牡牛一匹牡羊一匹當歳の羔羊一匹 34 罪祭に用ふる牡山羊一匹 35 酬恩祭の犠牲に用ふる牛二匹牡羊五匹牡山羊五匹當歳の羔羊五匹シデウルの子エリツルの禮物は是のごとし 36 第五日にはシメオンの子孫の牧伯ツリヤダイの子シルミエル献納を爲り 37 その禮物は銀の皿一箇その重は百三十シケル銀の鉢一箇是は七十シケル皆聖所のシケルに循ふ此二者には麥粉に油を和たる素祭の品を充す 38 また金の匙の十シケルなる者一箇是には香を充す 39 また燔祭に用ふる若き牡牛一匹牡羊一匹當歳の羔羊一匹 40 罪祭に用ふる牡山羊一匹 41 酬恩祭の犠牲に用ふる牛二匹牡羊五匹牡山羊五匹當歳の羔羊五匹ツリヤダイの子シルミエルの禮物は是のごとし 42 第六日にはガドの子孫の牧伯デウルの子エリアサフ献納をなせり 43 その禮物は銀の皿一箇その重は百三十シケル銀の鉢一箇是は七十シケル皆聖所のシケルに循ふ此二者には麥粉に油を和たる素祭の品を充す 44 また金の匙の十シケルなる者一箇是には香を充す 45 また燔祭に用ふる若き牡牛一匹牡羊一匹當歳の羔羊

一匹 46 罪祭に用ふる牡山羊一匹 47 酬恩祭の犠牲に用ふる牛二匹牡羊五匹牡山羊五匹當歳の羔羊五匹デウルの子エリアサフの禮物は是のごとし 48 第七日にはエフライムの子孫の牧伯アミホデの子エリシヤマ献納をなせり 49 その禮物は銀の皿一箇その重は百三十シケル銀の鉢一箇是は七十シケル皆聖所のシケルに循ふ此二者には麥粉に油を和たる素祭の品を充す 50 また金の匙の十シケルなる者一箇是には香を充す 51 また燔祭に用ふる若き牡牛一匹牡羊一匹當歳の羔羊一匹 52 罪祭に用ふる牡山羊一匹 53 酬恩祭の犠牲に用ふる牛二匹牡羊五匹牡山羊五匹當歳の羔羊五匹アミホデの子エリシヤマの禮物は是のごとし 54 第八日にはマナセの子孫の牧伯バダツルの子ガマリエル献納をなせり 55 その禮物は銀の皿一箇その重は百三十シケル銀の鉢一箇是は七十シケルみな聖所のシケルに循ふ此二者には麥粉に油を和たる素祭の品を充す 56 また金の匙の十シケルなる者一箇是には香を充す 57 また燔祭に用ふる若き牡牛一匹牡羊一匹當歳の羔羊一匹 58 罪祭に用ふる牡山羊一匹 59 酬恩祭の犠牲に用ふる牛二匹牡羊五匹牡山羊五匹當歳の羔羊五匹バダツルの子ガマリエルの禮物は是のごとし 60 第九日にはベニヤミンの子孫の牧伯ギデオの子アビダン献納をなせり 61 その禮物は銀の皿一箇その重は百三十シケル銀の鉢一箇是は七十シケルみな聖所のシケルに循ふ此二者には麥粉に油を和たる素祭の品を充す 62 また金の匙の十シケルなる者一箇是には香を充す 63 また燔祭に用ふる若き牡牛一匹牡羊一匹當歳の羔羊一匹 64 罪祭に用ふる牡山羊一匹 65 酬恩祭の犠牲に用ふる牛二匹牡羊五匹牡山羊五匹當歳の羔羊五匹ギデオの子アビダンの禮物は是のごとし 66 第十日にはダンの子孫の牧伯アミシヤダイの子アヒエゼル献納をなせり 67 その禮物は銀の皿一箇その重は百三十シケル銀の鉢一箇是は七十シケル皆聖所のシケルに循ふ此二者には麥粉に油を和たる素祭の品を充す 68 また金の匙の十シケルなる者一箇是には香を充す 69 また燔祭に用ふる若き牡牛一匹牡羊一匹當歳の羔羊一匹 70 罪祭に用ふる牡山羊一匹 71 酬恩祭の犠牲に用ふる牛二匹牡羊五匹牡山羊五匹當歳の羔羊五匹アミシヤダイの子アヒエゼルの禮物は是のごとし 72 第十一日にはアセルの子孫の牧伯オクランの子バギエル献納を爲せり 73 その禮物は銀の皿一箇その重は百三十シケル銀の鉢一箇是は七十シケルみな聖所のシケルに循ふ此二者には麥粉に油を和たる素祭の品を充す 74 亦金の匙の十シケルなる者一箇是には香を充す 75 亦燔祭に用ふる若き牡牛一匹牡羊一匹當歳の羔羊一匹 76 罪祭に用ふる牡山羊一匹 77 酬恩祭の犠牲に用ふる牛二匹牡羊五匹牡山羊五匹當歳の羔羊五匹オクランの子バギエルの禮物は是のごとし 78 第十二日にはナフタリの子孫の牧伯エ

ナンの子アヒラ献物をなせり 79 其禮物は銀の皿一箇その重は百三十シケル銀の鉢一箇是は七十シケルみな聖所のシケルに循ふ此二者には麥粉に油を和たる素祭の品を充す 80 また金の匙の十シケルなる者一箇是には香を充す 81 また燔祭に用ふる若き牡牛一匹牡羊一匹當歳の羔羊一匹 82 罪祭に用ふる牡山羊一匹 83 酬恩祭の犠牲に用ふる牛二匹牡羊五匹牡山羊五匹當歳の羔羊五匹エナンの子アヒラの禮物は是のごとし 84 是すなはち壇に油を灌げる日にイスラエルの牧伯等が献げたる壇奉納の禮物なり即ち銀の皿十二銀の鉢十二金の匙十二 85 銀の皿は各々百三十シケル鉢は各々七十シケル聖所のシケルに依ばこの諸の銀の器はその重都合二千四百シケルなりき 86 また香を充せる金の匙十二ありその重は聖所のシケルに依ば各々十シケルその匙の金は都合百二十シケルなりき 87 また燔祭に用ふる者は牡牛十二牡羊十二當歳の羔羊十二ありき之にその素祭の物を加ふまた罪祭の牡山羊十二あり 88 また酬恩祭の犠牲に用ふる者は牡牛二十四牡羊六十牡山羊六十當歳の羔羊六十あり壇に膏を灌ぎて後に献たる壇奉納の禮物は是のごとし 89 斯てモーセはエホバと語はんとて集會の幕屋に入れるに律法の櫃の上なる贖罪所の上兩箇のケルビムの間より聲いでて己に語ふを聴り即ち彼と語へり

Chapter 8

1 エホバまたモーセに告て言たまはく 2 アロンに告て之に言へ汝燈火を燃す時は七の燈蓋をして均く燈臺の前を照さしむべし 3 アロンすなはち然し燈火を燈臺の前の方にむけて燃せりエホバのモーセに命じたまへる如し 4 燈臺の作法は是のごとし是は楯にて椎で作れる者即ちその臺座よりその花まで楯にて椎で作れる者なりモーセ、エホバの己に示したまへる式様にてらしてこの燈臺を作れり 5 エホバ、モーセに告て言たまはく 6 レビ人をイスラエルの子孫の中より取てこれを潔めよ 7 汝かく彼らに爲て之を潔むべし即ち罪を潔むる水を彼等に灑ぎかけ彼等にその身をことごとく剃しめその衣服を洗はしめて之を潔め 8 而して彼等に若き牡牛一匹と麥粉に油を和たる者を取しめよ 汝また別に若き牡牛を罪祭のために取べし 9 斯て汝レビ人を集會の幕屋の前に携きたりてイスラエルの子孫の全會を集め 10 而してレビ人をエホバの前に進ましめてイスラエルの子孫に其手をレビ人の上に按しむべし 11 而してイスラエルの子孫の爲にレビ人を搖祭となしてエホバの前に献ぐべし是彼らをしてエホバの勤務を爲しめんためなり 12 斯て汝レビ人にその手をかの牛の頭に按しめその一を燔祭となしてエホバに献げ之をもてレビ人のために贖罪をなすべし 13 即ちレビ人をアロンとその子等の前に立しめ之を搖祭となしてエホバに献ぐべし 14 汝レビ人をイ

スラエルの子孫の中より区分ちレビ人をしてわが所屬とならしむべし 15 斯て後レビ人は入て集會の幕屋の役事をなすべし汝かれらを潔め之を獻げて搖祭となすべし 16 彼らはイスラエルの子孫の中よりして我に獻げらる者なりイスラエルの子孫の中なる始に生れたる者すなはちその首出子の代に我かれらを取なり 17 イスラエルの子孫の中の首出子は人たるも獸たるも凡てわが所屬となるべし其は我エジプトの地において首出子を盡く撃ころしたる時に彼等を聖者となして我に屬せしめられたるなり 18 是をもて我イスラエルの子孫の中の一切の首出子の代にレビ人を取なり 19 我イスラエルの子孫の中よりレビ人を取て之をアロンとその子等に與へ之をして集合の幕屋においてイスラエルの子孫に代てその役事を爲しめまたイスラエルの子孫のために贖罪をなさしめんはイスラエルの子孫が聖所に近く時にイスラエルの子孫の中に災害の起ざらんためなり 20 モーセとアロンおよびイスラエルの子孫の全會衆エホバがレビ人の事につきてモーセに命じたまへる所に悉くしたがひてレビ人におこなへり即ちイスラエルの子孫かくの如く彼等に行はたり 21 レビ人はに於てその身を潔め衣服を洗ひたればアロンかれらをエホバの前に獻て搖祭となしアロンまた彼らのために贖罪をなして之を潔めたり 22 斯て後レビ人は集會の幕屋に入てアロンとその子等の前にてその役事を爲り彼等はレビ人の事につきてエホバのモーセに命じたまへる所に循ひて斯のごとく之を行はたり 23 エホバまたモーセに告て言たまはく 24 レビ人は斯なすべし即ち二十五歳以上の者は軍団に入て集會の幕屋の役事をなすべし 25 然て五十歳よりは軍団を退きて休み重て役事をなすべからず 26 唯集會の幕屋においてその兄弟等をつかさどり且伺ひ守ることを勤むべし役事を爲すべからず汝レビ人をしてその職務をなさしむるには斯のごとくなすべし

Chapter 9

1 エジプトの國を出たる次の年の正月エホバ、シナイの野にてモーセに告ていひたまはく 2 イスラエルの子孫をして逾越節をその期におよびて行はしめよ 3 其期即ち此月の十四日の晩にいたりて汝等これを行ふべし汝等これをおこなふにはその諸の條例とその諸の式法に循ふべきなり 4 是においてモーセ、イスラエルの子孫に逾越節を行ふべき事を告たれば 5 彼等正月の十四日の晩にシナイの野にて逾越節を行へり即ちイスラエルの子孫はエホバのモーセに命じたまへる所に盡く循ひてこれを爲ぬ 6 時に人の死骸に身を汚して逾越節を行ふこと能ざる人々ありてその日にモーセとアロンの前にいたり 7 その人々すなはち彼に言ふ我等は人の死骸に身を汚したり然ば我らはその期におよびてイスラエルの子孫と偕にエホバに禮物を獻ることを得

ざるべき乎 8 モーセかれらに言けるは姑く待てエホバ汝らの事を如何に宣ふかを聽ん 9 エホバ、モーセに告て言たまはく 10 イスラエルの子孫に告て言へ汝等または汝等の子孫の中死屍に身を汚したる人も遠き途にある人も皆逾越節をエホバにむかひて行ふべきなり 11 即ち二月の十四日の晩に之をおこなひ酔いれぬパンと苦菜をそへて之を食ふべし 12 朝までこれを少許も遺しおくべからず又その骨を一本も折べからず逾越節の諸の條例にしたがひて之を行ふべし 13 然ど人その身潔くありまた征途にもあらずして逾越節を行ふことをせざる時はその人民の中より斷れん斯る人はその期におよびてエホバの禮物を持きたらざるが故にその罪を任べきなり 14 他國の人もし汝らの中に寄寓をりて逾越節をエホバにおこなはんとせば逾越節の條例に依りその法式にしたがひて之をおこなふべし他國の人も自國の人もその條例は同一なるべし 15 幕屋を建たる日に雲幕屋を蔽へり是すなはち律法の幕屋なり而して夕にいたれば幕屋の上に火のごとき者あらはれて朝におよべり 16 即ち常に是のごとくにして晝は雲これを蔽ひ夜は火のごとき者ありき 17 雲幕屋を離れて上る時はイスラエルの子孫直に途に進みまた雲の止まる所にイスラエルの子孫營を張り 18 即ちイスラエルの子孫はエホバの命によりて途に進みまたエホバの命によりて營を張り幕屋の上に雲の止まる間は營を張をり 19 幕屋の上に雲の止ること日久しき時はイスラエルの子孫エホバの職守をまもりて途に進まざりき 20 また幕屋の上に雲の止まる事日少き時も然り彼等は只エホバの命にしたがひて營を張りエホバの命にしたがひて途に進めり 21 また雲夕より朝まで止り朝におよびてその雲昇る時は彼等途に進めり夜にもあれ晝にもあれ雲の昇る時は即ち途に進めり 22 日にもあれ一月にもあれまたは其よりも多くの日にもあれ幕屋の上に雲の止り居る間はイスラエルの子孫營を張居て途に進まずその昇るにおよびて途に進めり 23 即ち彼等はエホバの命にしたがひて營を張りエホバの命にしたがひて途に進み且モーセによりて傳はりしエホバの命にしたがひてエホバの職守を守り

Chapter 10

1 エホバ、モーセに告て言たまはく 2 汝銀の喇叭二本を製れ即ち槌にて椎て之を製り之を用ひて人を呼集めまた營を進ますべし 3 この二者を吹ときは全會衆集會の幕屋の門に集りて汝に就べし 4 もし只その一を吹く時はイスラエルの人々の長たるその牧伯等集りて汝に就べし 5 汝等これを吹鳴す時は東の方に營を張る者途に進むべし 6 また二次これを吹ならす時は南の方に營を張る者途に進むべし 7 凡て途に進まんとする時は音長く喇叭を吹ならすべし 7 また會衆を集むる時にも喇叭をふくべし但し音長

くこれを吹ならすべからず 8 アロンの子等の祭司たる者どもその喇叭を吹べし是すなはち汝らが代々ながく守るべき例たるなり 9 また汝らの國において汝等その己を攻るところの敵と戦はんとて出る時は喇叭を吹ならすべし然せば汝等の神エホバ汝らを記憶て汝らをその敵の手より救ひたまはん 10 また汝らの喜樂の日汝らの節期および月々の朔日には燔祭の上と酬恩祭の犠牲の上に喇叭を吹ならすべし然せば汝らの神これに由て汝らを記憶たまはん我は汝らの神エホバ也 11 斯て第二年の二月の二十日に雲律法の幕屋を離れて昇りければ 12 イスラエルの子孫シナイの野より出でて途に進みたりしがパロンの野にいたりて雲止れり 13 斯かれらはエホバのモーセによりて命じたまへるところに遵ひて途に進むことを始めたり 14 首先にはユダの子孫の營の藁の下につく者その軍旅にしたがひて進めりユダの軍旅の長はアマナダブの子ナシオン 15 イッサカの子孫の支派の軍旅の長はツアルの子ネタニエル 16 ゼブルンの子孫の支派の軍旅の長はヘロンの子エリアブなりき 17 乃ち幕屋を取つしゲルシヨンの子孫およびメラリの子孫を擔ひて進めり 18 次にルベンの營の藁の下につく者その軍旅にしたがひて進めりルベンの軍旅の長はシデウルの子エリツル 19 シメオンの子孫の支派の軍旅の長はツリシヤダイの子シルミエル 20 ガドの子孫の支派の軍旅の長はデウエルの子エリアサフなりき 21 コハテ聖所を擔ひて進めり是が至るまでに彼その幕屋を建をはる 22 次にエフライムの子孫の營の藁の下につく者その軍旅にしたがひて進めりエフライムの軍旅の長はアミホデの子エリシヤム 23 マナセの子孫の支派の軍旅の長はバダツルの子ガマリエル 24 ベニヤミンの子孫の支派の軍旅の長はギデオンの子アビダンなりき 25 次にダンの子孫の營の藁の下につく者その軍旅にしたがひて進めりこの軍旅は諸營の後驅なりきダンの軍旅の長はアミシヤダイの子アヒエゼル 26 アセルの子孫の支派の軍旅の長はオクランの子バギエル 27 ナフタリの子孫の支派の軍旅の長はエナンの子アヒラなりき 28 イスラエルの子孫はその途に進む時は是のごとくその軍旅にしたがひて進みたり 29 茲にモーセその外舅なるミデアン人リウエルの子ホバブに言けるは我等はエホバが嘗て我これを汝等に與へんと言たまひし處に進み行なり汝も我等とともに來我等汝をして幸福ならしめん其はエホバ、イスラエルに福祉を降さんと言たまひたればなり 30 彼モーセに言ふ我は往じ我はわが國に還りわが親族に至らん 31 モーセまた言けるは請ふ我等を棄去なれ汝は我儕が曠野に營を張るをば願くは我儕の目となれ 32 汝もし我儕とともに往ばエホバの我儕に降したまふところの福祉を我儕また汝にもおよぼさむ 33 斯て彼等エホバの山をたち出て三日路ほど進み行りエホバの契約の櫃その三日路の間かれらに先だち行て彼等の休息所を尋ね

見めたり 34 彼等營を出て途に進むに當りて晝はエホバの雲かれらの上にありき 35 契約の櫃の進まんとする時にはモーセ言りエホバよ起あがりたまへ然ば汝の敵は打散され汝を惡む者等は汝の前より逃さらん 36 またその止まる時は言りエホバよ千萬のイスラエル人に歸りたまへ

Chapter 11

1 茲に民災難に罹れる者のごとくにエホバの耳に眩きぬエホバその怨言を聞て震怒を發したまひければエホバの火かれらに向ひて燃いてその營の極端を燒り 2 是に於て民モーセに呼はりしがモーセ、エホバに祈ければその火鎮りぬ 3 エホバの火かれらに向ひて燃出たるに因てその處の名をタベラ(燃)と稱ぶ 4 茲に彼等の中なる衆多の寄集人等慾心起すイスラエルの子孫もまた再び哭て言ふ誰か我らに肉を與へて食しめんか 5 憶ひ出るに我等エジプトにありし時は魚黃瓜瓜葱莖青蒜等を心のままに食へり 6 然るに今は我儕の精神枯衰ふ我らの目の前にはこのマナの外何も有ざるなりと 7 マナは莞莖の實のごとくにしてその色はブドラクの色のごとし 8 民行巡りてこれを斂め石磨にひき或は臼に搗てこれを釜の中に煮て餅となせりその味は油菓子味ののごとし 9 夜にいて露露に降る時にマナその上に降り 10 モーセ聞に民の家々の者おのおのその天幕の門口に哭く是におひてエホバ烈しく怒を發したまふこの事またモーセの目にも悪く見ゆ 11 モーセすなはちエホバに言けるは汝なんぞ僕を惡くしたまふ乎いかなれば我汝の前に恩を獲ずして汝かく此すべての民をわが任となして我に負せたまふや 12 この總體の民は我が妬みし者ならんや我が生し者ならんや然るに汝なんぞ我に慈父が乳哺子を抱くがごとくに彼らを懐に抱きて汝が昔日かれらの先祖等に誓ひたまひし地に至れと言たまふや 13 我何處より肉を得てこの總體の民に與へんや彼等は我にむかひて哭き我等に肉を與へて食しめよと言なり 14 我一人にてはこの總體の民をわが任として負ことあたはず是は我には重きに過ればなり 15 我もし汝の前に恩を獲ば請ふ斯我を爲んよりは寧ろ直に我を殺したまへ我をしてわが困苦を見せしめたまふ勿れ 16 是においてエホバ、モーセに言たまはくイスラエルの老人の中民の長老たり有司たるを汝が知るところの者七十人を我前に集め集會の幕屋に携きたりて其處に汝とともに立しめよ 17 我降りて其處にて汝と我はん又われ汝の上にあるところの雲を彼等にも分ち與へん彼等汝とともに民の任を負ひ汝をして一人にて之を負ふこと無らしむべし 18 汝また民に告て言へ汝等身を潔めて明日を待て必ず肉を食ふことを得ん汝等エホバの耳に哭て誰か我等に肉を與へて食しめん我らエジプトにありし時は却て善りしと言ればエホバなんぢらに肉を與へて食したまふべし 19 汝等がこれを食

ふは一日や二日や五日や十日や二十日にはあらずして 20 一月におよび遂に汝らの鼻より出るにいたらん汝等これに厭はつべしはなんぢら己等の中にいますエホバを軽んじてその前に哭き我等何とエジプトより出しやと言たればなり 21 モーセ言けるは我が僭にをる民は歩卒のみにても六十萬あり然るに汝は我かれらに肉を與へて一月の間食しめんと言たまふ 22 羊と牛の群を宰るとも彼等を飽しむることを得んや海の魚をごとく集むるとも彼等を飽しむることを得んや 23 エホバ、モーセに言たまはくエホバの手短からんや吾言の成と然らざるとは汝今これを見るあらん 24 是に於てモーセ出きたりてエホバの言を民に告げ民の長老七十人を集めて幕屋の四圍に立しめけるに 25 エホバ雲の中にありて降りモーセと言ひモーセのうへにある靈をもてその長老七十人にも分ち與へたまひしがその靈かれらの上にやどりしかば彼等預言せり但し此後はかさねて爲ざりき 26 時に彼等の中なる二人の者營に止まり居るその一人の名はエルダゲといひ一人の名はメダゲと曰ふ靈またかれらの上にもやどれり彼らは其名を録されたる者なりしが幕屋に往ざりければ營の中にて預言をなせり 27 時に一人の少者奔りきたりモーセに告てエルダゲとメダゲ營の中にて預言すと言ければ 28 その少時よりしてモーセの従者たりしヌンの子ヨシユアこたへて曰けるは吾主モーセこれを禁めたまへ 29 モーセこれに言けるは汝わがために媚嫉を起すやエホバの民の皆預言者とならんことまたエホバのその靈を之に降したまはんことこそ願しけれ 30 斯てモーセ、イスラエルの長老等とともに營に返りし 31 茲にエホバの許より風おこり出て海の方より鶉を吹きたりこれをして營の周圍に墮しめたりその墮ひろがれること營の四周此旁も大約一日路彼旁も大約一日路地の表より高さこと大約二キユビトなりき 32 民すなはち起あがりてその日終日その夜終夜またその次の日終日鶉を拾ひ斂めけるが拾ひ斂むることの至て寡き者も十ホメルほど拾ひ斂めたり皆これを營の周圍に陳べおけり 33 肉なほ齒のあひだにありていまだ食つくさざるにエホバ民にむかひて怒を發しこれを撃ておほいに滅ぼしたまへり 34 是をもてその處の名をキプロテハツタワ(怒心の墓)とよべり其は怒心をおこせる人々を其處に埋たればなり 35 斯て民キプロテハツタワよりハゼロテに進みゆきてハゼロテに居ぬ

Chapter 12

1モーセはエテオピアの女を娶りたりしがそのエテオピアの女を娶りしをもてミリアムとアロン、モーセを誘れり 2 彼等すなはち言けるはエホバただモーセによりてのみ語りたまはんやまた我等によりても語り給ふにあらずやとエホバこれを聞たまへり 3 (モーセはその人と爲溫柔なること世の中の諸の人に勝れり) 4

是に於てエホバ遽にモーセ、アロン及びミリアムに言たまはく汝等三人集會の幕屋に出きたれと三人すなはち出きたりければ 5 エホバ雲の柱の中にありて降り幕屋の門に立てアロンとミリアムを呼たまひしがかれら二人進みたれば 6 之に言たまはく汝等わが言を聽け汝らの中にもし預言者あらば我エホバ異象において我をこれに知しめまた夢において之と語らん 7 わが僕モーセに於ては然らず彼はわが家に忠義なる者なり 8 彼とは我口をもて相語り明かに言ひて隠語を用ひず彼はまたエホバの形を見るなり然るを汝等なんぞわが僕モーセを誘ふことを畏れざるやと 9 エホバかれらに向ひ忿怒を發して去たまへり 10 雲すなはち幕屋をはなれて去ぬその時ミリアムに癩病生じてその身雪のごとく爲りアロン、ミリアムを見かへるに既に癩病生じをる 11 アロン是においてモーセに言けるは嗟わが主我等愚なる事をなして罪を犯したれど願くは其罪を我等に蒙らしむる勿れ 12 彼をして母の胎より肉半分腐れて死て生れいづる者のごとくならしむる勿れ 13 モーセすなはちエホバに呼はりて言ふ嗚呼神よ願くは彼を醫したまへ 14 エホバ、モーセに言たまひけるは彼の父その面に唾する事ありてすら彼は七日の間差をるべきに非ずや然ば七日の間かれを營の外に禁鎖おきて然る後に歸り入しむべしと 15 ミリアムはすなはち七日の間營の外に禁鎖られぬ民はミリアムの歸り入るまで途に進まざりき 16 その後民ハゼロテより進みてバランの曠野に營を張り

Chapter 13

1茲にエホバ、モーセに告て言たまはく 2 汝人を遣して我がイスラエルの子孫に與ふるカナンの地を窺はしめよ即ち支派ごとに一人を取て之を遣すべし其人々は皆かれらの中の牧伯たる者なるべし 3 モーセすなはちエホバの命にしたがひてバランの曠野よりこれを遣せりその人等は皆イスラエルの子孫の領袖たる者なり 4 その名は是のごとしルベン支派にてはザックルの子シャンマ 5 シメオンの支派にてはホリの子シャパテ 6 ユダの支派にてはエフンネの子カルブ 7 アイッサカルの支派にてはヨセフの子イガル 8 エフライムの支派にてはヌンの子ホセア 9 ベニヤミンの支派にてはラフの子バルテ 10 ゼブルンの支派にてはソデの子ガデエル 11 ヨセフの支派すなはちマナセの支派にてはスシの子ガデ 12 ダンの支派にてはゲマリの子アンミエル 13 アセルの支派にてはミカエルの子セトル 14 ナフタリの支派にてはワフシの子ナヘビ 15 ガドの支派にてはマキの子ギウエル 16 是すなはちモーセがその地を窺はしめんとて遣したる人々の名なり時にモーセ、ヌンの子ホセアをヨシユアと名けたり 17 モーセかれらを遣はしてカナンの地を窺はしめんとて之に言けるは汝等その南の方に赴きて山に登り 1 8 その地の如何と其處に住む民の強

か弱か多か寡かを觀 19 またその住ところの地は善か悪か其住ところの邑々は如何なるものなるか彼等は天幕に住をるか城の邑に住をるかを觀 20 またその地は腴なるか瘠たるか其中に樹あるや否を觀よ汝等勇しかれその地の果物を攜へきたれよこの時は葡萄の熟し始むる時なりき 21 是において彼等上りゆきてその地を窺ひチンの曠野よりレホブにおよべり是はハマテに近し 22 彼等すなはち南の方に上りゆきてへプロンにいたれり此にはアナクの子アヒマン、セシヤイおよびタルマイあり(へプロンはエジプトのゾアンよりも七年前に建たる者なり) 23 彼らつひにエシコルの谷にいたり其處より一球の葡萄のなれる枝を砍とりてこれを缸に實き二人してこれを擔へりまた石榴と無花果を取り 24 イスラエルの子孫其處より葡萄一球を砍とりしが故にその處をエシコル(一球の葡萄)の谷と稱ふ 25 彼ら四十日を経その地を窺ふことを竟て歸り 26 バランの曠野なるカデシに至りてモーセとアロンおよびイスラエルの子孫の全會衆に就きかれらと全會衆にその復命を申しその地の果物をこれに見せり 27 彼等すなはちモーセに語りて言ふ我等は汝が遣し地にいたれり誠に其處は乳と蜜とながするはその果物なり 28 然ながらその地に住む民は猛くその邑々は堅固にして甚だ大なり我等またアナクの子孫の其處にをるを見たり 29 またアマレキ人その南の地に住みへて人エブス人およびアモリ人その山々に住みカナン人その海邊とヨルダンの邊に住をると 30 時にカルブ、モーセの前に民を靜めて言けるは我等直に上りゆきて之を取らん我等は必ずこれに勝ことを得ん 31 然ど彼とともに往たる人々は言ふ我等は汝かこの民の所に攻上ることを得ず彼らは我らよりも強ければなりと 32 彼等すなはちその窺ひたりし地の事をイスラエルの子孫の中に悪く言ふらして云く我等が行巡りて窺ひたる地は其中に住む者を呑ほろぼす地なり且またその中に我等が見し民はみな身幹たかき人なりし 33 我等またアナクの子ネピリムを彼處に見たり是ネピリムより出たる者なり我儕は自ら見るに蝗のごとくまた彼らにも然見なされたり

Chapter 14

1是において會衆みな聲をあげて叫び民その夜哭あかせり 2 すなはちイスラエルの子孫みなモーセとアロンに對ひて吹き全會衆かれらに言けるは嗚呼我等はエジプトの國に死たれば善りしものを又はこの曠野に死ば善らんものを 3 何とてエホバ我等をこの地に導きいりて劍に斃れしめんとし我らの妻子をして掠められしめんとするやエジプトに歸ること反て好らざるやと 4 互に相語り我等一人の長を立てエジプトに歸らんと云り 5 是をもてモーセとアロンはイスラエルの子孫の全會衆の前に對ひて俯伏たり 6 時にかの地を窺ひたりし者の中なるヌンの子ヨシユアとエフ

ソンの子カルブその衣服を裂き 7 イスラエルの子孫の全會衆に語りて言ふ我等が行巡りて窺ひたりし地は甚だ善き地なり 8 エホバもし我等を悦びたまはば我らをその地に導きいりて之を我等に賜はん是は乳と蜜との流る地なるぞかし 9 唯エホバに逆ふ勿れまたその地の民を懼るるなかれ彼等は我等の食物とならん彼等の影となる者は既に去りかつエホバわれらと共にいますなり彼等を懼るる勿れ 10 然るに會衆みな石をもて之を撃んこととせり時にエホバの榮光集會の幕屋の中よりイスラエルの全體の子孫に顯れたり 11 エホバすなはちモーセに言たまはく此民は何時まで我を藐視るや我諸の休徴をかれらの中間に行ひたるに彼等何時まで我を賴むことを爲ざるや 12 我疫病をもてかれらを撃ち滅し汝をして彼等よりも大なる強き民とならしめん 13 モーセ、エホバに言けるは汝がその權能をもてこの民をエジプトより導き出したまひし事はエジプト人唯これを聞き而已ならず 14 また之をこの地に住る民に告たりまた彼等は汝エホバがこの民の中に在し汝エホバが明かにこれに顯れたまふことを聞きまたその上に汝の雲をりて汝が晝は雲の柱の中にあり夜は火の柱の中にありて之が前に行たまふを聞き 15 然ば汝もしこの民を一人のごとくに殺したまはば汝の名聲を聞る國人等言ん 16 エホバこの民を導きてその之に誓ひたりし地に至ること能はざるが故に之を曠野に殺せりと 17 吾主わがはくは今汝の權能を大ならしめて汝の言たまへる如したまへ 18 汝曾言たまひけらくエホバは怒ること遅く恩恵深く怒と過とを赦す者また罰すべき者をば必ず赦すことをせず父の罪を子に報いて三四代に及ぼす者と 19 願くは汝の大なる恩恵をもち汝がエジプトより今にいたるまでこの民を赦しし如くにこの民の惡を赦したまへ 20 エホバ言たまはく我汝の言にしたがひて之を赦す 21 然ながら我の活るごとくまたエホバの榮光の全世界に充わたらん如く 22 かのわが榮光および我がエジプトと曠野において行ひし休徴を見ながら斯十度も我を試みて我聲に聽したがはざる人々は 23 皆かならず我がその先祖等に誓ひし地を見ざるべしまた我を藐視る人々々々を見ざるべし 24 但しわが僕カルブはその心異にして我に全く従ひたれば彼の往たりし地に我かれを導きいらんその子孫これを有つに至るべし 25 アマレキ人とカナン人谷にをれば明日汝等身を轉して紅海の路より曠野に退くべし 26 エホバ、モーセとアロンに告て言たまはく 27 我この我にむかひて喧くところの惡き會衆を何時まで赦しおかんや我イスラエルの子孫が我にむかひて喧くところの怨言を聞き 28 彼等に言へエホバ曰ふ我は活く汝等が我耳に言しごとく我汝等になすべし 29 汝らの屍はこの曠野に横はらん即ち汝ら核數られたる二十歳以上の者の中我に對ひて喧ける者は皆ことごとく此に斃るべし 30 エフンネの子カルブとヌンの子ヨシユアを除くの外汝等は我が汝らを住

しめんと手をあげて誓ひたりし地に
至ることを得ず 31 汝等が掠められ
んと言たりし汝等の子女等を我導き
て入ん彼等は汝らが顧みざるところ
の地を知に至るべし 32 汝らの屍は
かならずこの曠野に横はらん 33 汝
らの子女等は汝らが屍となりて曠野
に朽るまで四十年の間曠野に流蕩て
汝らの悖逆の罪にあたらん 34 汝ら
はかの地を窺ふに日數四十日を経た
れば其一日を一年として汝等四十年
の間その罪を任ひ我が汝らを離れる
を知べし 35 我エホバこれを語り必
ずこれをかの集りて我に敵する惡き
會衆に盡く行なふべし彼らはこの曠
野に朽ち此に死うせん 36 モーセに
遣されてかの地を窺ひに往き還りて
その地を誇り全會衆をしてモー
セに對て咳かしたる人々 37 即ち
その地を惡く言なしたるかの人々は
罰をうけてエホバの前に死り 38
但しその地を窺ひに往きたる人々
の中ヌンの子ヨシユアとエフンネの
子カルブとは生のこれり 39 モーセ
これらの事をイスラエルの子孫に告
げれば民痛く哀み 40 朝蚤く起いで
て山の嶺に登りて言ふ視よ我儕此に
あり率エホバの約束したまひし地に
上りゆかん我等罪を犯したればなり 4
1 モーセ言けるは汝等なんぞエホバ
の命に背くやこの事成就せざるべ
し 42 汝ら上り行く勿れエホバ汝ら
の中にいまさざれば恐くは汝らその
敵の前に撃破られん 43 アマレキ人
とカナン人其處に汝らの前にあれば
汝等は劍に斃るならん汝らエホバに
遵はざりし故にエホバ汝等と偕に
在さざるべしと 44 然るに彼等自擅
に山の嶺に登りて但しエホバの契約
の禮およびモーセは誓を出ざりき 4
5 斯りしかばその山に住るアマレキ
人とカナン人下り來てこれを打敗り
ホルマまで追いたれり

Chapter 15

1茲にエホバ、モーセに告て言
たまはく 2イスラエルの子孫に告て
之に言へ我が汝等に與へて住しむる
地に汝等到り 3エホバに火祭を獻
するすなはち願を還す時期又は自意
の禮物を爲の時期または汝らの節期
にあたりて牛あるひは羊をもて燔祭
または犠牲を獻げてエホバに馨しき香
を奉つる時は 4その禮物をエホバに
獻る者もし羔羊をもて燔祭あるひは
犠牲となすならば麥粉十分の一に油
一ヒンの四分の一を混和たるをその
素祭として供へ酒一ヒンの四分の一
をその灌祭として供ふべし 6若また
牡羊を之に用ふるならば麥粉十分の
二に油一ヒンの三分の一を混和たる
をその素祭として供へ 7また酒一ヒ
ンの三分の一をその灌祭として獻げ
エホバに馨しき香をたてまつるべし
8 汝また願還あるひは酬恩祭をエホ
バになすに當りて牡牛をもて燔祭
あるひは犠牲となすならば 9麥粉十分
の三に油一ヒンの半を混和たるを素
祭となしてその牡牛とともに獻げ 1
0 また酒一ヒンの半をその灌祭とし
て獻ぐべしすなはち火祭にしてエホ
バに馨しき香をたてまつる者なり

11牡牛あるひは牡羊あるひは羔羊あ
るひは羔山羊は一匹ごとに斯爲べき
なり 12 即ち汝らが獻ぐるところの
數にてらしその數にしたがひて一匹
ごとに斯なすべし 13 本國に生きた
る者火祭を獻げてエホバに馨しき香
をたてまつる時には凡て斯のごとく
是等の事を行ふべし 14 また汝ら
の中に寄寓他國の人あるひは汝ら
の中に代々住ふところの人火祭をさ
さげてエホバに馨しき香をたてまつ
るとする時は汝らの爲がごとくにそ
の人もなすべきなり 15 汝ら會衆お
よび汝らの中に寄寓他國の人は同
一の例にしたがふべし是は汝らが代
々永く守るべき例なり他國の人の
エホバの前に侍ることは汝等と異と
ころ無るべきなり 16 汝らと汝ら
の中に宿寓他國の人は同一の法同
一の禮式にしたがふべし 17 エホバ
またモーセに告て言たまはく 18 イ
スラエルの子孫に告てこれに言へ我
が汝等を導き往ところの地に汝等
いたらん時は 19 その地の食物を食
ふにあたりて汝ら學祭をエホバにさ
さぐべし 20 即ち汝らはその麥粉の初
をもてパンを作りてこれを學祭にそ
なふべし是は禾場より學祭をそな
ふが如くに擧てそなふべきなり 21
汝ら代々その麥粉の初をもて學祭を
エホバにたてまつるべし 22 汝等
も誤りてエホバのモーセに告たま
へるこの諸の命令を行はず 23 エホバ
がモーセをもて命じたまひし事等並
にその命ずることを始めたまひし日
より以來汝らの代々にも命じたま
はんとする事等を行はざる事有ん時
24すなはち會衆誤りて犯す所ありて
之を知ざることあらん時は全會衆
少き牡牛一匹を燔祭にささげてエホバ
に馨しき香とならしめ之にその素祭
と灌祭を禮式のごとくに加へまた牡
山羊一匹を罪祭にささぐべし 25 而
して祭司イスラエルの子孫の全會衆
のために贖罪を爲べし斯せば是は赦
されん是は過誤なればなり彼等は
その禮物として火祭をエホバにささ
げまたその過誤のために罪祭をエホ
バの前にささぐべし 26 然せばイス
ラエルの子孫の會衆みな赦されん
また彼等の中に寄寓他國の人も然
るべし其は民みな誤り犯せるなれば
なり 27人も誤りて罪を犯さば當
該の牡山羊一匹を罪祭に獻ぐべし 28
祭司はまたその誤りて罪を犯せる
人が誤りてエホバの前に罪を獲たる
が爲に贖罪をなしてその罪を贖ふべ
し然せば是は赦されん 29 イスラ
エルの子孫の國の者にもあれまた
其中に寄寓他國の人にもあれ凡そ
誤りて罪を犯す者には汝らの法を
同じからしむべし 30 本國の人にも
あれ他國の人にもあれ凡そ擅横に
罪を犯す者は是エホバを瀆すなれば
その人はその民の中より絶るべし
31 斯る人はエホバの言を輕んじ
その誠命を破るるが故に必ず絶れ
その罪を身に承ん 32イスラエルの
子孫曠野に居る時安息日に一箇の
人の柴を拾ひあつむるを見たり 33
是においてその柴を拾ひあつむる
者等これをモーセとアロンおよび
會衆の許に曳きたりけるが 34 之
を如何に爲べきか未だ示諭を蒙ら
ざるが故に之を禁錮お

けり 35 時にエホバ、モーセに言
たまひけるはその人はかならず殺さ
るべきなり全會衆營の外にて石を
もて之を撃べしと 36 全會衆すな
はち之を營の外に曳いだし石をも
てこれを撃ころしエホバのモーセに
命じたまへるとくせり 37 エホバ
亦モーセに告て言たまはく 38 汝
イスラエルの子孫に告げ代々その
衣服の裾に襪をつけその裾の襪の
上に青き紐をほどこすべしと之に
命ぜよ 39 此襪は汝らに之を見て
エホバの諸の誠命を記憶して其を
おこなはしめ汝らをしてその放縱
にする自己の心と目の欲に従がふ
こと無らしむるための者なり 40
斯して汝等吾ももるの誠命を記
憶して之を行ひ汝らの神の前に
聖あるべし 41 我は汝らの神エホ
バにして汝らの神とならんとして
汝らをエジプトの地より導きい
だせし者なり我は汝らの神エホバ
なるぞかし

Chapter 16

1茲にレビの子コハテの子イツ
ハルの子なるコラおよびルベン
の子等なるエリアブの子ダタンと
アピラム並にベレテの子オン等
相結び 2イスラエルの子孫の會
衆の中に選まれて牧伯となれる
ところの名ある人々二百五十人と
ともに起てモーセに逆らふ 3す
なはち彼等集りてモーセとアロ
ンに逆ひに言けるは汝らはその
分を超ゆ會衆みな盡く聖者とな
りてエホバの中に在するに汝ら
尚エホバの會衆の上に立つや 4
モーセこれを聞て俯伏たりしが 5
やがてコラとその一切の黨類に
言けるは明日エホバ己の所属は誰
聖者は誰なるかを示して其者を己
に近かせたまはん即ちその選び
たまへる者を己に近かせたまふべ
し 6汝等かく爲よコラとその黨
類よ汝等みな火盤を取り 7その
中に火をいれその中に香を盛て
明日エホバの前に至れその時エ
ホバの選みたまふ人は聖者たるべ
しレビの人々よ汝等はその分を超
るなり 8モーセまたコラに言ける
は汝等レビの子等よ請ふ聽け 9イ
スラエルの神汝らをイスラエルの
會衆の中より分ちに近かせてエ
ホバの幕屋の役事を爲しめ會衆
の前に立て之にかりて勤務をな
さしめたまふ是あに汝らにとりて
小き事ならんや 10 神すでに
汝と汝の兄弟なるレビの兒孫等
を己に近かせたまふに汝らまた
祭司とならんことをも求むるや 11
汝と汝の黨類は皆これがために
集りてエホバに敵するなりアロ
ンを如何なる者として汝等これ
に對ひて咳くや 12かくてモー
セ、エリアブの子ダタンとアピラ
ムを呼に遣はしけるに彼等いひ
けるは我等は上り往じ 13 汝は
乳と蜜との流るる地より我ら
を導き出して曠野に我らを殺さん
とす是あに小き事ならんや然る
に汝また我等の上に君たらんとす
14 且また汝は我らを乳と蜜との
流るる地にも導きゆかずまた
田畝をも葡萄園をも我らに與へ
て有たしめず汝この人々の目
を抉りたらんとするや我等は上
りゆかじ 15 是においてモー
セおほいに怒りエホバに申しける
は汝かれら

の禮物を顧みたまふ勿れ我はかれ
らより驢馬一匹をも取しことな
くまた彼等を一人も害せしこと
無し 16 斯てモーセ、コラに言
けるは汝と汝の黨類みなアロン
と汝らに明日エホバの前に至れ
17 即ち汝らおののお火盤を
執てその中に香を盛り各人その
火盤をエホバの前に携へいたれ
その火祭は都合二百五十汝とア
ロンも各々その火盤を携へいた
るべしと 18 彼等すなはち各々
火盤を執り火をその中にいれ
て香をその上に盛りモーセお
よびアロンとともに集會の幕屋
の門に立り 19 コラ會衆をこ
ごとく集會の幕屋の門に集め
おきてかれら二人に敵せしめんと
せしにエホバの榮光全會衆に
顯れ 20 エホバ、モーセとア
ロンに告て言たまひけるは 2
1 汝等この會衆を離れよ我
これを直に滅さんとすと 22 是
においてかれら二人俯伏て言ふ
神よ一切の血肉ある者の生命の
神よこの一人の者罪を犯した
ればとて汝全會衆にむかひて怒
を發したまふや 23 エホバ、
モーセに告て言たまはく 24 汝
會衆にむかひてコラとダタンと
アピラムの居所を去れと言へ
と 25 モーセすなはち起あがり
てダタンとアピラムの所に往け
るがイスラエルの長老等これに
従がひいたれり 26 而してモー
セ會衆に告て言けるは汝らこの
惡き人々の天幕を離れて去れ彼
等の物には何にも捫る勿れ恐
くは彼らの諸の罪のために汝ら
も滅ぼされん 27 是において人
々はコラとダタンとアピラムの
居所を離れて四方に去ゆけり
またダタンとアピラムはその妻
子ならびに幼兒とともに出て
その天幕の門に立り 28 モー
セやがて言けるは汝等エホバ
がこの諸の事をなさせんとて我
を遣したまへる事また我がこれ
を自分の心にしたがひて行ふに
あらざる事を是によりて知べし
29 すなはちこの人々もし一般
の人の死るごとくに死に一般
の人の罰せらるる如くに罰せ
られなばエホバわれを遣した
まはざるなり 30 然どエホバ
も新しく事を爲たまひ地その
口を開きてこの人々と之に屬
する者を呑つくして生ながら
陰府に下らしめなばこの人々
はエホバを瀆ししなりと汝ら
知るべし 31 モーセこの一切
の言をのべ終る時かれらの下
なる土裂け 32 地その口を開
きてかれらとその家族の者なら
びにコラに屬する一切の男等と
一切の所有品を呑つくせり 33
すなはち彼等とかれらに屬
する者はみな生ながら陰府に
下りて地その上に閉ふさがり
ぬ彼等かく會衆の中より滅ぼ
されたりしが 34 その周圍に
居たるイスラエル人は皆かれ
らの叫喊を聞て逃はしり恐
くは地われらをも呑つくさん
と言ひ 35 且またエホバの許
より火いでてかの香をそなへ
たる者二百五十人を焼つくせ
り 36 時にエホバ、モーセに
告て言たまはく 37 汝祭司ア
ロンの子エリザザルに告てその
燃る火の中より彼の火盤を取
いだしめその中の火を遠方に
傾すてよその火盤は聖なりた
ればなり 38 而してその罪を
犯して生命を喪へる者等の火
盤は之を濶き展版となして祭壇
を包むに用ひよ彼等エホバ
の前にそなへしに因て

是は聖なりたればなり斯はイスラエルの子孫に徴と爲べし 39 是において祭司エンアザル彼の焼死されし者等が用ひてそなへたる銅の火盤を取いだしければ之を瀾く打展し之をもて祭壇を包み 40 之をイスラエルの子孫の記念の物と爲り是はアロンの子孫たらざる外人が近りてエホバの前に香を焚こと無らんため亦かかる人ありてコラとその黨類のごとくならざらん爲なり是みなエホバがモーセをもて彼にのたまひ所に依るなり 41 斯の翌日イスラエルの子孫の會衆みなモーセとアロンにむかひて眩き汝等はエホバの民を殺せりと言ひ 42 會衆集りてモーセとアロンに敵する時集會の幕屋を望み觀に雲ありてこれを覆ひエホバの榮光顯れをる 43 時にモーセとアロン集會の幕屋の前にいたりけるに 44 エホバ、モーセに言たまひけるは 45 汝らこの會衆をはなれて去れ我直にこれをほろぼさんとす是において彼等二人は俯伏ぬ 46 斯てモーセ、アロンに言けるは汝火盤を執り壇の火を之にいれ香をその上に盛て速かにこれを會衆の中に持ゆき之がために贖罪を爲せ其はエホバ震怒を發したまひて疫病すでに始りたればなりと 47 アロンすなはちモーセの命せしごとく之を執て會衆の中に奔ゆきけるに疫病すでに民の中に始まり居たれば香を焚て民のために贖罪を爲し 48 既に死する者と尚生る者との間に立ければ疫病止まれり 49 コラの事によりて死たる者の外この疫病に死する者は一萬四千七百なりき 50 而してアロンはモーセの許にかへり集會の幕屋の門にいたり疫病は斯やみぬ

Chapter 17

1

エホバ、モーセに告て言給はく 2 汝イスラエルの子孫に語り之が中よりその各箇の父祖の家にしたがひて杖一本づつを取れ即ちその一切の牧伯等よりその父祖の家に循ひて杖都合十二本を取りその人等の名を各々その杖に書せ 3 レビの杖には汝アロンの名を書せ其はその父祖の家の長たる者各箇杖一本を出すべければなり 4 而して集會の幕屋の中我が汝等に會ふ處なる律法の櫃の前に汝之を置べし 5 我が選める人の杖は芽さぬ我かくイスラエルの子孫が汝等にむかひて眩くところの怨言をわが前に止むべし 6 モーセかくイスラエルの子孫に語りければその牧伯等のおの杖一本づつを之に付せり即ち牧伯等のおのその父祖の家にしたがひて一本づつを出したればその杖あはせて十二本アロンの杖もその杖の中にあり 7 モーセその杖を皆律法の幕屋の中にてエホバの前に置り 8 斯てその翌日モーセ律法の幕屋にいりて視るにレビの家のために出せるアロンの杖芽をふき蓄をなし花咲て巴旦杏の果を結べり 9 モーセその杖をことごとくエホバの前よりイスラエルの子孫の所に取いだしければ彼ら見ておのおの自分の杖を取り 10 時にエ

ホバまたモーセに言たまはく汝アロンの杖を律法の櫃の前に携へかへり其處にたくはへ置てこの背反者等のために徴とならしめよ斯して汝かれらの怨言を全く取のぞきかれらをして死ざらしむべし 11 モーセすなはち然しエホバの己に命じたまへる如くせり 12 イスラエルの子孫モーセに語りて曰ふ嗚呼我等は死ん我等は滅びん我等はみな滅びん 13 凡そエホバの幕屋に徴にても近く者はみな死するなり我等はみな死斷べき歎

Chapter 18

1 斯てエホバ、アロンに告て言たまはく汝と汝の子等および汝の父祖の家の者は聖所に關れる罪をその身に擔當べしまた汝と汝の子等は汝らがその祭司の職について獲ところの罪をその身に擔當べし 2 汝また汝の兄弟たるレビの支派の者すなはち汝の父祖の支派の者等をも率て汝に合せしめ汝に事しむべし但し汝と汝の子等は律法の幕屋の前に侍るべきなり 3 彼らは汝の職守と聖所の職守とを守るべし只聖所の器具と壇とに近くべからず恐くは彼等も汝等も死するらん 4 彼等は汝に合して集合の幕屋の職守を守り幕屋の諸の役事をなすべきなり外人は汝らに近づく可らず 5 斯なんぢらは聖所の職守と祭壇の職守を守るべし然せばエホバの震怒かさねてイスラエルの子孫に及ぶこと有じ 6 視よ我なんぢらの兄弟たるレビ人をイスラエルの子孫の中より取りエホバのために之を賜物として汝らに賜ふて集會の幕屋の役事を爲しむ 7 汝と汝の子等は祭司の職を守りて祭壇の上と障蔽の幕の内の一切の事を執おこなひ斯ともに勤むべし我祭司の職の勤務と賜物として汝らに賜ふ外人の近く者は殺されん 8 エホバ又アロンに言たまはく我イスラエルの子孫の諸の聖禮物の中我に擧祭とすところの聖者をもて汝に賜ひて得さす即ち我これを汝と汝の子等にあたへてその分となさしめ是を永く例となす 9 斯のごとく至聖禮物の中火にて燒さる者は汝に歸すべし即ちその我に獻る諸の禮物素祭罪祭愆祭等みな至聖くして汝と汝らの子等に歸すべし 10 至聖所にて汝これを食ふべし男子等はみなこれを食ふことを得是は汝に歸すべき聖物たるなり 11 汝に歸すべき物は是なり即ちイスラエルの子孫の獻る擧祭と搖祭の物我これを汝と汝の男子と女子に與へ是を永く例となす汝の家の者の中潔き者はみな之を食ふことを得るなり 12 油の嘉者酒の嘉者穀物の嘉者など凡てエホバに獻るその初の國を我なんぢに與ふ 13 最初に成る物の産物の中エホバに携へたる者は皆なんぢに歸すべし汝の家の者の中潔き者はみな之を食ふことを得るなり 14 イスラエルの人の獻納る物は皆汝に歸すべし 15 凡そ血肉ある者の首出子にしてエホバに獻らるる者は人にもあれ畜にもあれ皆なんぢに歸すべし但し人の首出子は必ず贖ふべくまた汚れたる畜獸の首出子も贖ふべきなり 16 之を贖ふにはその

人の生れて一箇月に至れる後に汝その估價に依り聖所のシケルに循ひて銀五シケルに之を贖ふべしシケルはすなはち二十ゲラなり 17 然ど牛の首出子羊の首出子山羊の首出子は贖ふべからず是等は聖しその血を壇の上に瀾ぎまたその脂を焚て火祭となしてエホバに馨しき香をたてまつるべし 18 その肉は汝に歸すべし搖る胸と右の腿とおなじく是は汝に歸するなり 19 イスラエルの子孫がエホバに獻て擧祭とする所の聖物はみな我これを汝と汝の男子女子に與へこれを永く例となす是はエホバの前において汝と汝の子孫に對する鹽の契約にして變らざる者なり 20 エホバまたアロンに告たまはく汝はイスラエルの子孫の地の中に産業を有べからずまた彼等の中に何の分をも有べからず彼らの中において我は汝の分汝の産業たるなり 21 またレビの子孫たる者には我イスラエルの中において物の十分の一を與へて之が産業となし其なすところの役事すなはち集會の幕屋の役事に報ゆ 22 イスラエルの子孫はかさねて集會の幕屋に近づくべからず恐くは罪を負て死ん 23 第レビ人集會の幕屋の役事をなすべしまた彼らはその罪な自己の身に負べし彼等はイスラエルの子孫の中に産業の地を有ざる事をもてその例となして汝らの世代の子孫の中に永く之を守るべきなり 24 イスラエルの子孫が十に一を取り擧祭としてエホバに獻るところの物を我レビ人に與へてその産業となさしむるが故に我かれらにつきて言ひ彼等はイスラエルの子孫の中に産業の地を得べからずと 25 エホバ、モーセに告て言たまはく 26 汝かくレビ人に告て之に言べし我がイスラエルの子孫より取て汝等に與へて産業となさしむるその什一の物を汝ら之より受る時はその什一の物の十分の一を獻てエホバの擧祭となすべし 27 汝等の擧祭の物品は禾場よりたてまつる穀物の如く酒酔の内よりたてまつる酒のごとく見做れん 28 此のごとく汝等もまたイスラエルの子孫より受る一切の什一の物の中よりエホバに擧祭を獻げそのエホバの擧祭を祭司アロンに與ふべし 29 汝らの受る一切の禮物の中より汝らはその嘉ところ即ちその聖き分を取てエホバの擧祭を獻べし 30 汝かく彼等に言べし汝らその中より嘉ところを取て獻るに於てはその殘餘の物は汝等レビ人におけること禾場より取る物のごとく酒酔より取る物のごとくならん 31 汝等と汝らの眷屬何處にても之を食ふことを得べし是は汝らが集會の幕屋に於て爲す役事の報酬たればなり 32 汝らその嘉ところを獻るに於ては之がために罪を負こと有じ汝らはイスラエルの子孫の聖別て獻る物を汚すべからず恐くは汝ら死ん

Chapter 19

1 エホバ、モーセとアロンに告て言たまはく 2 エホバが命ずるところの律の例は是のごとし云くイスラエルの子孫に告て赤牝牛の全くして

疵なく未だ軛を負しこと有ざる者を汝の許に牽きたらしめ 3 汝ら之を祭司エレアザルに交すべし彼はまたこれを營の外に牽いだして自己の眼の前にこれを牽らしむべし 4 而して祭司エレアザルこれが血を其指につけ集會の幕屋の表にむかひてその血を七次瀾ぎ 5 やがてその牝牛を自己の眼の前に焼しむべしその皮その肉その血およびその糞をみな燒べし 6 その時祭司香柏と牛膝草と紅の絲をとりて之をその焼る牝牛の中に投いるべし 7 かくて祭司はその衣服を洗ひ水にてその身を滌ぎて然る後營に入べし祭司の身は晩まで汚るるなり 8 また之を燒たる者も水にその衣服を洗ひ水にその身を滌ぐべし彼も晩まで汚るるなり 9 斯て身の潔き人一人その牝牛の灰をかきぬめてこれを營の外の清淨處に蓄へ置べしはイスラエルの子孫の會衆のために備へおきて汚穢を潔くする水を作るべき者にして罪を潔むる物に當るなり 10 その牝牛の灰をかきぬめた者はその衣服を洗ふべしその身は晩まで汚るるなりイスラエルの子孫とその中に寄寓る他國の人とは永くこれを例とすべきなり 11 人の死屍に捫る者は七日の間汚る 12 第三日と第七日にこの灰水を以て身を潔むべし然せば潔くならん然ど若し第三日と第七日に身を潔むることを爲ざれば潔くならじ 13 凡そ死人の屍に捫りて身を潔むることを爲ざる者はエホバの幕屋を汚すなればイスラエルより斷るべし汚穢を潔むる水をその身に瀾ぎるによりて潔くならずその汚穢なほ身にあるなり 14 天幕に人の死ることある時に應用ふる律は是なり即ち凡てその天幕に入る者凡てその天幕にある物は七日の間汚るべし 15 凡そ蓋を取はなして蓋はざりし所の器皿はみな汚る 16 凡そ刀劍にて殺されたる者または死屍または人の骨または墓等に野の表にて捫る者はみな七日の間汚るべし 17 汚れたる者ある時はかの罪を潔むる者たる焼る牝牛の灰をとりて器に入れ活水を之に加ふべし 18 而して身の潔き人一人牛膝草を執てその水にひたし之をその天幕と諸の器皿および其處に居あはせたる人々に瀾ぐべくまたは骨あるひは殺されし者あるひは死たる者あるひは墓などに捫れる者に瀾ぐべし 19 即ち身の潔き人第三日と第七日にその汚れたる者に之を瀾ぐべし而して第七日にはその人みづから身を潔むることを爲しその衣服をあらひ水に身を滌ぐべし然せば晩におよびて潔くなるべし 20 然ど汚れて身を潔ることを爲ざる人はエホバの聖所を汚すが故にその身は會衆の中より絶るべし汚穢を潔むる水を身に瀾がざるによりてその人は潔くならざるなり 21 彼等また永くこれを例とすべし即ち汚穢を潔むる水を人に瀾がる者はその衣服を洗ふべしまた汚穢を潔むる水に捫れる者も晩まで汚るべし 22 凡て汚れたる人の捫れる者は汚るべしまた之に捫る人も晩まで汚るべし

Chapter 20

1 斯てイスラエルの子孫の全會衆正月におよびてテンの曠野にいたれり而して民みなカデシに止りけるがミリアム其處にて死たれば之を其處に葬りぬ 2 當時會衆水を得ざるによりて相集りてモーセとアロンに迫り 3 すなはち民モーセと争ひ言けるは嚮に我らの兄弟等がエホバの前に死たる時に我等も死たらば善ししものを 4 汝等何とてエホバの會衆をこの曠野に導き上りて我等とわれらの家畜を此に死しめんとするや 5 汝らなんぞ我らをエジプトより上らしてこの惡き處に導きいりしや此には種を播べき處なく無花果もなく葡萄もなく石榴も無くまた飲べき水も無し 6 是においてモーセとアロンは會衆の前を去り集會の幕屋の門にいたりて俯伏けるにエホバの榮光がこれに顯れ

7 エホバ、モーセに告て言たまはく 8 汝杖を執り汝の兄弟アロンとともに會衆を集めその眼の前にて汝ら磐に命ぜよ 磐その中より水を出さぬ汝かく磐より水を出して會衆とその獸畜に飲しむべしと 9 モーセすなはちその命ぜられしごとくエホバの前より杖を取り 10 アロンとともに會衆を磐の前に集めて之に言けるは汝ら背反者等よ聽け我等水をしてこの磐より汝らのために出しめん歟と 11 モーセその手を擧げ杖をもて磐を二度撃けるに水多く湧出たれば會衆とその獸畜ともに飲り 12 時にエホバ、モーセとアロンに言たまひけるは汝等は我を信ぜずしてイスラエルの子孫の目の前に我の聖を顯さざりしによりてこの會衆をわが之に與へし地に導きいることを得じと 13 是をメリバ(爭論)の水とよべりイスラエルの子孫是がためにエホバにむかひて争ひたりしかばエホバつひにその聖ことを顯したるなり 14 茲にモーセ、カデシより使者をエドムの王に遣して言けるは汝の兄弟イスラエルかく言ふ汝はわれらが遣し諸の艱難を知る 15 そもそも我らの先祖等エジプトに下りゆきて我ら先ひさしくエジプトに住をりしがエジプト人われらと我らの先祖等をなやましたれば 16 我らエホバに籲はりけるにエホバわれらの聲を聽たまひ一箇の天の使を遣して我らをエジプトより導きいだしたまへり視よ我ら今は汝の邊境の邊端にあるカデシの邑に居るなり 17 願くは我らをして汝の國を通過しめよ我等は田畝をも葡萄園をも通過じまた井の水をも飲じ我らは第王の路を通過り汝の境をいつるまでは右にも左にもまがらじ 18 エドム、モーセに言けるは汝我の中を通過べからず恐くは我いでて劍をもて汝にむかはん 19 イスラエルの子孫エドムに言ふ我らは大道を通過ん若われらと我らの獸畜なんぢの水を飲ことあらばその値を償ふべし我は徒行にて通過のみなれば何事にもあらざるとなりと 20 然るにエドムは汝通過べからずといひて許多の群衆を率ゐて出で大なる力をもて之にむかへり 21 エドムかくイスラエルにその境の中

を通過ことを容さざりければイスラエルは他にむかひて去り 22 かくてイスラエルの子孫の會衆みなカデシより進みてホル山にいたれり 23 エホバ、エドムの國の境なるホル山にてモーセとアロンに告て言たまはく 24 アロンはその死たる民に列らんイスラエルの子孫に我が與へし地に彼は入ことを得ざるべし是メリバの水のある處にて汝等わが言に背きたればなり 25 汝アロンとその子エリアザルをひきつれてホル山に登り 26 アロンにその衣服を脱せてこれをその子エリアザルに衣せよアロンは其處に死てその民に列るべしと 27 モーセすなはちエホバの命じたまへるごとく爲し相つれだちて全會衆の目の前にてホル山に登り 28 而してモーセはアロンにその衣服をぬがせて之をその子エリアザルに衣せたりアロンは其處にて山の嶺に死り斯てモーセとエリアザル山よりくだりけるが 29 會衆みなアロンの死たるを見て三十日のあひだ哀哭をなせりイスラエルの家みな然せり

Chapter 21

1 茲に南の方に住るカナン人アラデ王といふ者イスラエルが間者の道よりして來るといふを聞きイスラエルを攻うちてその中の數人を擄にせり 2 是においてイスラエル誓願をエホバに立て言ふ汝も此の民をわが手に付したまはば我その城邑を盡く滅さんと 3 エホバすなはちイスラエルの言を聽いれてカナン人を付したまひければ之とその城邑をことごとく滅せり是をもてその處の名をホルマ(殲滅)と呼なしたり 4 民はホル山より進みゆき紅海の途よりしてエドムを繞り通らんとせしがその途のために民心を苦めたり 5 すなはち民神とモーセにむかひて呟きけるは汝等なんぞ我らをエジプトより導きよぼりて曠野に死しめんとするや此には食物も無くまた水も無し我等はこの粗き食物を心に厭ふなりと 6 是をもてエホバ火の蛇を民の中に遣して民を咬しめたまひければイスラエルの民の中死者多かりき 7 是によりて民モーセにいたりて言けるは我らエホバと汝にむかひて呟きて罪を獲たり請ふ汝エホバに祈りて蛇を我等より取はなさしめよとモーセすなはち民のために祈ければ 8 エホバ、モーセに言たまひけるは汝蛇を作りてこれを杆の上に載おくべし凡て咬れたる者は之を仰ぎ觀なば生べし 9 モーセすなはち銅をもて一條の蛇をつくり之を杆の上に載おけり凡て蛇に咬れたる者その銅の蛇を仰ぎ觀ば生たり 10 イスラエルの子孫途に進みてオボテに營を張り 11 またオボテより進み行きモアブの東の方に亘るところの曠野においてイエアバラムに營を張り 12 また其處より進みゆきてゼレデの谷に營を張り 13 其處より進みゆきてアルノンの彼旁に營を張りアルノンはアモリの境より出て曠野に流るる者にてモアブとアモリの間においてモアブの界をなすなり 14 故にエホバの戰爭の記に言る

あり云くスバのワヘブ、アルノンの河 15 河の流即ちアルの邑に落下りモアブの界に倚る者と 16 かれら其處よりベエル(井)にいたれりエホバがモーセにむかひて汝民を集めよこれに水を與へんと言たまひしはこの井なりき 17 時にイスラエルこの歌を歌へり云く井の水よ湧あがれ汝等これがために歌へよ 18 此井は笏と杖をもて牧伯等これを掘り民の君長等之を掘りて斯て曠野よりマツタナにいたり 19 マツタナよりナハリエルにいたりナハリエルよりバモテにいたり 20 バモテよりモアブの野にある谷に行き曠野に對するピスガの嶺にいたれり 21 かくてイスラエル使者をアモリ人の王シホンに遣して言しめけるは 22 我をして汝の國を通過しめよ我等は田畝にも葡萄園にも入じまた井の水をも飲じ我らは汝の境を出るまでは唯王の道を通りて行んのみと 23 然るにシホンはイスラエルに自己の境の中を通る事を容さざりき而してシホンその民をことごとく集め曠野にいてイスラエルを攻んとしヤハツに來りてイスラエルと戦ひけるが 24 イスラエル刃をもて之を撃やぶりその地をアルノンよりヤボクまで奪ひ取りアンモンの子孫にまで至れりアンモンの子孫の境界は堅固なりき 25 イスラエルかくその城邑を盡く取り而してイスラエルはアモリ人の諸の城邑に住みヘシボンとそれに附る諸の村々に居る 26 ヘシボンはアモリ人の王シホンの都城なりシホンは曾てモアブの前の王と戦ひてかれの地をアルノンまで盡くその手より奪ひ取しなり 27 故に歌をもて云るあり曰く汝らヘシボンに來れシホンの城邑を築き建よ 28 ヘシボンより火出でシホンの都城より焔いでてモアブのアルを焚つくしアルノンの邊の高處を占る君王等を滅ぼせり 29 モアブよ汝は禍なる哉ケモシの民よ汝は滅ぼさるその男子は逃奔りその女子はアモリ人の王シホンに擄らるるなり 30 我等は彼らを撃たふしヘシボンを滅ぼしてデボンに及び之を荒してまたノバに及びメデバにいたる 31 斯イスラエルの子孫はアモリ人の地に住たりしが 32 モーセまた人を遣はしてヤゼルを窺はしめ遂にその村々を取て其處にをりしアモリ人を逐出し 33 轉てバシヤンの路に上り行きけるにバシヤンの王オグその民を盡く率ゐて出で之を迎へてエデレイに戦はんとす 34 エホバ、モーセに言たまひけるは彼を懼る勿れ我手かれとその民とその地を盡く汝の手に付す汝ヘシボンに住をりしアモリ人の王シホンに爲たるごとく彼にも爲べしと 35 是において彼とその子とその民をことごとく撃ころし一人も生存る者なきに至らしめて之が地を奪ひたり

Chapter 22

1 かくてイスラエルの子孫また途に進みてモアブの平野に營を張り此はヨルダンの此旁にしてアリコに對ふ 2 チッポルの子バラクはイスラエルが凡てアモリ人に爲たる所を見

たり 3 是においてモアブ人大いにイスラエルの民を懼るはその數多きに因てなりモアブ人かくイスラエルの子孫のために心をなやましたれば 4 すなはちミデアンの長老等に言ふこの群衆は牛が野の草を飼食ふごとく我等の四圍の物ををごとく飼食はんとすこの時にはチッポルの子バラク、モアブ人の王たり 5 彼すなはち使者をベトルに遣してベオルの子バラムを招かしめんとすベトルはバラムの本國にありて河の邊に立りその之を招かしむる言に云く茲にエジプトより出來し民あり地の面を蓋ふて我の前にをる 6 然ば請ふ汝今來りて我ためにこの民を詛へ彼等は我よりも強ければなり然せば我これを撃やぶりて我國よりこれを逐はらふを得ることもあらん其は汝が祝する者は福德を得汝が詛ふ者は禍を受くと我しればなりと 7 モアブの長老等とミデアンの長老等すなはち占卜の禮物を手にとりて出たちバラムにいたりてバラクの言をこれに告たれば 8 バラムかれらに言ふ今晩は此に宿れエホバの我に告るところに循ひて汝らに返答をなすべしと是をもてモアブの牧伯等バラムの許に居る 9 時に神バラムに臨みて言たまはく汝の許にをる此人々は何者なるや 10 バラム神に言けるはモアブの王チッポルの子バラク我に言つかはしけらく 11 茲にエジプトより出きたりし民ありて地の面を蓋ふ請ふ今來りてわがために之を詛へ然せば我これに戦ひ勝てこれ逐はらふを得ることもあると 12 神バラムに言たまひけるは汝かれらとともに往べからず亦この民を詛ふべからず是は祝福る者たるなり 13 是においてバラム朝起てバラクの牧伯等に言けるは汝ら國に歸れよエホバ我が汝らとともに往く事をゆるさざるなりと 14 モアブの牧伯たちすなはち起あがりてバラクの許にいたりバラムは我らとともに來ることを肯ぜずと告たれば 15 バラクまた前の者よりも尊き牧伯等を前よりも多く遣せり 16 彼らバラムに詣りて之に言けるはチッポルの子バラクかく言ふ願くは汝何の障碍をも顧みずして我に來れ 17 我汝をして甚だ大なる尊榮を得させん汝が我に言ところは凡て我これを爲べし然ば願くは來りて我ためにこの民を詛へ 18 バラム答へてバラクの臣僕等に言けるは假令バラクその家に盈るほどの金銀を我に與ふるとも我は事の大小を論ずわが神エホバの言を踰ては何をも爲ことを得ず 19 然ば請ふ汝らも今晩此に宿り我をしてエホバの再び我に何と言まふかを知しめよと 20 夜にいたりて神バラムにのぞみて之に言たまひけるはこの人々汝を招きに來りたれば起あがりて之とともに往け但し汝は我が汝につぐる言のみを行ふべし 21 バラム翌朝起あがりてその驢馬に鞍おきてモアブの牧伯等とともに往り 22 然るにエホバかれの往たるに縁て怒を發したまひければエホバの使者かれに敵せんとて途に立り彼は驢馬に乗その僕二人はこれとともに在しが 23 驢馬エホバの使者が劍を手に持て途に立るを見驢馬途より身を轉して

田圃に入れればバラム驢馬を打て途にかへさんとせしに 24 エホバの使者また葡萄園の途に立り其處には此旁にも石垣あり彼旁にも石垣あり 25 驢馬エホバの使者を見石垣に貼依てバラムの足を打垣に貼依たればバラムまた之を打り 26 然るにエホバの使者また進みよりに狭き處に立けるが其處には右にも左にもまがる道あらざりしかば 27 驢馬エホバの使者を見てバラムの下に臥たり是においてバラム怒を發し杖をもて驢馬を打けるに 28 エホバ驢馬の口を啓きたまひたれば驢馬バラムにむかひて言ふ我なんぢに何を爲せばぞ汝かく三次我を打や 29 バラム驢馬に言ふ汝われを侮るが故なり我手に劍あらば今汝を殺さんものを 30 驢馬またバラムに言けるは我は汝の所有となりてより今日にいたるまで汝が常に乗ところの驢馬ならずや我つねに斯のごとく汝になしたるやとバラムこたへて否と言ふ 31 時にエホバ、バラムの目を啓きたまひければ彼エホバの使者の途に立て劍を手に拔持るを見身を鞠めて俯伏たるに 32 エホバの使者これに言ふ汝なにとて斯三度なんぢの驢馬を打や我汝の道の直に滅亡にいたる者なるを見て汝に敵せんとて出きたれり 33 驢馬はわれを見て斯みたたび身を轉して我を避たるなり是もし身を轉らして我を避ずば我すでに汝を殺して是を生しおきしならん 34 バラム、エホバの使者に言けるは我罪を獲たり我は汝が我に敵せんとて途に立るを知ざりしが我汝もし之を惡しとせば我は歸るべし 35 エホバの使者バラムに言けるはこの人々とともに往け但し汝は我が汝に告る言詞のみを宣べしとバラムすなはちバラクの牧伯等とともに往り 36 さてまたバラクはバラムの來るを聞てモアブの境の極處に流るアルノンの旁の邑まで出ききて之を迎ふ 37 バラクすなはちバラムに言けるは我ことさらに人を遣はして汝を招きしにあらざや汝なにゆゑ我許に來らざりしや我あに汝に尊榮を得さすことを得ざらんや 38 バラム、バラクに言けるは視よ我ついに汝の許に來れり然ど今は我何事をも自ら言を得んや我はただ神の我口に授る言語を宣のみと 39 斯てバラムはバラクとともに往てキリアテホゾテに至りしが 40 バラク牛と羊を宰りてバラムおよび之と偕なる牧伯等に饒れり 41 而してその翌朝にいたりバラクはバラムを伴ひこれを携へてパアルの崇邱に登イスラエルの民の極端を望ましむ

Chapter 23

1 バラム、バラクに言けるは我ために此に七個の壇を築き此に七匹の牡牛と七匹の牡羊を備へよと 2 バラクすなはちバラムの言のごとく爲しバラクとバラムその壇ごとに牡牛一匹と牡羊一匹を献けたり 3 而してバラムはバラクにむかひ汝は燔祭の傍に立をれ我は往んとすエホバあるひは我に來りてのぞみたまはんその我に示したまふところの事は凡てこれ

を汝に告んと言て一の高處に登たるに 4 神バラムに臨みたまひければバラムこれに言けるは我は七箇の壇を設けその壇ごとに牡牛一匹と牡羊一匹を献けたりと 5 エホバ、バラムの口に言を授けて言たまはく汝バラクの許に歸りて斯いふべしと 6 彼すなはちバラクの許に至るにバラクはモアブの諸の牧伯等とともに燔祭の傍に立をる 7 バラムすなはちこの歌をのべて云くモアブの王バラク、スリアより我を招き寄せ東の邦の山より我を招き寄せ云ふ來りて我ためにヤコブを詛へ來りてわがためにイスラエルを呪れと 8 神の詛はざる者を我いかで詛ふことを得んやエホバの呪らざる者を我いかで呪ることを得んや 9 磐の頂より我これを觀岡の上より我これを望むこの我は獨り離れて居ん萬の民の中に列ぶことなからん 10 誰かヤコブの塵を計へ得んやイスラエルの四分一を數ふことを能せんや願くは義人のごとくに我死ん願くはわが終これが終にひとしかれ 11 是においてバラク、バラムに言けるは汝我に何を爲や我はわが敵を詛はしめんとて汝を携きたりしなるに汝はかへつて全くこれを祝せり 12 バラムこたへて言けるは我は慎みてエホバの我口に授る事のみを宣べしにあらざや 13 バラクこれに言けるは請ふ汝われとともに他の處に來りて其處より彼らを觀よ汝ただ彼らの極端のみを觀ん彼らを全くは觀ことを得ざるべし請ふ其處にて我のために彼らを詛へと 14 やがて之を導きてビスガの嶺なる斥候の原に至り七箇の壇を築きて壇ごとに牡牛一匹と牡羊一匹を献けたり 15 時にバラム、バラクに言けるは汝此にて燔祭の傍に立をれ我またも往て會見ゆることをせんと 16 エホバまたバラムに臨みて言をその口に授け汝バラクの許に歸りてかく言へとのたまひければ 17 彼バラクの許にかへりけるにバラクは燔祭の傍に立をりモアブの牧伯等これとともに居りしがバラクすなはちバラムにむかひエホバ何と言しやと問ければ 18 バラムまたこの歌を宣たり云くバラクよ起て聽けツポルの子よ我に耳を傾けよ 19 神は人のごとく謀ること無しまた人の子のごとく悔ること有ずその言ところは之を行はざらんやその語るところは之を成就ざらんや 20 我はこれがために福祉をいのれとの命令を受く既に之に福祉をたまへば我これを變るあたはざるなり 21 エホバ、ヤコブの中に惡き事あるを見ずイスラエルの中に憂患あるを見ずその神エホバこれとともに在し王を喜びて呼はる聲その中にあり 22 神かれらをエジプトより導き出したまふイスラエルは強きこと呪のごとし 23 ヤコブには魔術なしイスラエルには占トあらず神はその爲とところをその時にヤコブに告げイスラエルにしめたまふなり 24 觀よこの民は牝獅子のごとくに起あがり牡獅子のごとくに身を興さん是はその擲得たる物を食ひその殺しし物の血を飲では臥ことを爲し 25 是においてバラクはバラムに向ひ汝かれらを詛ふことをも祝することをも爲なかれと言けるに 26

バラクこたへてバラクに言ふ我はエホバの宣まふ事は凡てこれを爲ざるを得ずと汝に告おきしにあらざやと 27 バラクまたバラムに言けるは請ふ來れ我なんぢを他の處に導き往ん神あるひは汝が其處より彼らを我ために詛ふことを善とせん 28 バラクすなはちバラムを導きて曠野に對するペオルの嶺に至るに 29 バラム、バラクに言けるは我ために七箇の壇を此に築き牡牛七匹牡羊七匹を此に備へよと 30 バラクすなはちバラムの言のごとく爲しその壇ごとに牡牛一匹と牡羊一匹を献けたり

Chapter 24

1 バラムはイスラエルを祝することのエホバの心に適ふを視たれば此度は前の時のごとくに往て術術を求むる事を爲すその面を曠野に向て居り 2 バラム目を擧てイスラエルのその支派にしたがひて居るを觀たり時に神の靈かれに臨みければ 3 彼すなはちこの歌をのべて云くペオルの子バラム言ふ目の啓きたる人言ふ 4 神の言詞を聞き者能はざる無き者をまぼろしに觀し者倒れ臥て其目の啓けたる者言ふ 5 ヤコブよ汝の天幕は美しき哉イスラエルよ汝の住所は美しき哉 6 是は谷々のごとくに布列ね河邊の園のごとくエホバの栽し沈香樹のごとく水の邊の香柏のごとし 7 その桶よりは水溢れんその種は水の邊に發育んその王はアガグよりも高くなりその國は振り興らん 8 神これをエジプトより導き出せり是は強きこと呪のごとくその敵なる國々の民を吞つくしその骨を推き矢をもて之を衝とほさん 9 是は牡獅子のごとくに身をかめ牝獅子のごとくに臥す誰か敢てこれを起さんやなんぢを祝するものは福祉を得なんぢをのろふものは災禍をかうむるべし 10 ここにおいてバラクはバラムにむかひて怒を發しその手を拍ならせり而してバラク、バラムにいひけるは我はなんぢをしてわが敵を詛はしめんとてなんぢを招きたるに汝は却て斯三度までも彼らを大に祝したり 11 然ば汝今汝の處に奔り往け我は汝に大なる尊榮を得させんと思ひたれどエホバ汝を阻めて尊榮を得るに至らざらしむ 12 バラム、バラクに言けるは我は汝が我に遣しし使者等に告て言ざりしや 13 假令バラクその家に盈るほどの金銀を我に與ふるとも我はエホバの言を踰て自己の心のままに善も惡きも爲ことを得ず我はエホバの宣まふ事のみを言べしと 14 今われは吾民にかへる然ば來れ我この民が汝の日に汝の民に爲んところの事を汝に告しらせんと 15 すなはちこの歌をのべて云くペオルの子バラム言ふ目の啓きたる人言ふ 16 神の言を聞き者至高者を知の知識あり能はざる無き者をまぼろしに觀れ臥て其目の啓けたる者言ふ 17 我これを見ん然ど今にあらざ我これを望まん然ど近くはあらざヤコブより一箇の星いでんイスラエルより一條の杖おこりモアブを此旁より彼旁に至まで撃破りまた鼓譟者どもを盡く滅す

べし 18 其敵なるエドムは是が産業となりセイルは之が産業とならんイスラエルは盛になるべし 19 權を乗る者ヤコブより出で遣れる者等を城より滅し絶ん 20 バラム又アマレクを望みこの歌をのべて云くアマレクは國々の中の最初なる者なり其終には滅び絶るに至らん 21 亦ケ二人を望みこの歌をのべて云く汝の住所は堅固なり汝は磐に巢をつくる 22 然どカインは亡て終にアッスリアの爲に擲へ移されん 23 彼亦この歌をのべて云く嗟神これを爲たまはん時は誰か生ることを得ん 24 キツテムの方より船來てアッスリアを攻なやましエベルを攻なやますべし而して是もまた終に亡失ん 25 斯てバラムは起あがりて自己の處に歸り行きぬバラクも亦去ゆけり

Chapter 25

1 イスラエルはシツテムに止まり居けるがその民モアブの婦女等と姪をおこなふことを始めたり 2 その婦女等其神々に犠牲を献る時に民を招けは民は往て食ふことを爲しかつその神々を拜めり 3 イスラエルかくパアルペオルに附ければイスラエルにむかひてエホバ怒を發したまへり 4 エホバすなはちモーセに告て言たまはく民の首をことごとく携きたりエホバのためにかの者等を日に曝せ然せばエホバの烈しき怒イスラエルを離るあらんと 5 是においてモーセ、イスラエルの士師等にむかひ汝らおのおのその配下の人々のパアルペオルに附る者を殺せと言へ 6 モーセとイスラエルの子孫の全會衆集會の幕屋の門にて哭るる時一箇のイスラエル人ミデアンの婦人一箇を携きたり彼らの目の前にてその兄弟等の中に至れり 7 祭司アロンの子なるエレアザルの子ピネハスこれを見會衆の中より起あがりて槍を手に執り 8 そのイスラエル人の後を追て之が寢室に入りイスラエルの人を衝きまたその婦人の腹を衝とほして二人を殺せり是において疫病のイスラエルの子孫におよぶこと止れり 9 その疫病にて死たる者は二萬四千人なりき 10 エホバ、モーセに告て言たまはく 11 祭司アロンの子なるエレアザルの子ピネハスはわが熱心をイスラエルの子孫の中にあらはして吾怒をその中より取り去り我として熱心をもてイスラエルの子孫を滅し盡すにいたらざらしめたり 12 故に汝言へ我これに平和のわが契約をさづく 13 即ち彼とその後の子孫永く祭司の職を得べし是は彼その神のために熱心にしてイスラエルの子孫のために贖をなしたればなり 14 その殺されしイスラエル人すなはちミデアンの婦人とともに殺されし者はその名をジムリと言てサルの子にしてシメオン人の宗族の牧伯の一人なり 15 またその殺されしミデアンの婦人は名をコズビと曰てツルの女子なりツルはミデアンの民の宗族の首なり 16 エホバ、モーセに告て言たまはく 17 ミデアン人に逼りてこれを撃て 18 其は彼ら謀計をもて汝に逼りペオル

の事とその姉妹なるミデアンの牧伯の女すなはちペオルのために疫病の起れる日に殺されしコズビの事において汝らを感じたればなり

Chapter 26

1疫病の後エホバ、モーセと祭司アロンの子エレアザルに告て言たまはく 2 イスラエルの全會衆の總數をその父祖の家にしたがひて核ベイスラエルの中凡そ二十歳以上にして戦争に出るに勝る者を數へよと 3 モーセ及び祭司エレアザルすなはちアリコに對してヨルダンの邊にあるモアブの平野に於てかれらに告て言けるは 4 エジプトの地より出きたれるモーセとイスラエルの子孫にエホバの命じ給へる如く汝ら其中の二十歳以上の者を計へよ 5 イスラエルの長子はルベン、ルベンの子孫はヘノクよりヘノク人の族出でバルよりバル人の族出で 6 ヘツロンよりヘツロン人の族出でカルミよりカルミ人の族出づ 7 ルベンの宗族は是のごとくにしてその核數られし者は四萬三千七百三十人 8

またバルの子はエリアブ 9 エリアブの子はネムエル、ダタン、アビラム このダタンとアビラムは會衆の中に名ある者にてコラの黨類とともにモーセとアロンに逆ひてエホバに悖りし事ありしが 10 地その口を開きて彼らとコラとを呑みその黨類二百五十人は火に焼れて死うせ人の鑑戒となれり 11

但しコラの子等は死ざりき 12 シメオンの子孫はその宗族に依ば左のごとしネムエルよりはネムエル人の族出でヤミンよりはヤミン人の族出で ヤキンよりはヤキン人の族出で 13 ゼラよりはゼラ人の族出で シャウルよりはシャウル人の族出づ 14 シメオンの宗族は是の如くにして其數られし者は二萬二千二百人 15 ガドの子孫は其宗族に依ば左の如しゼボンよりはゼボン人の族出で ハギよりはハギ人の族出で シュニよりはシュニ人の族出で 16 オズニよりはオズニ人の族出で エリよりはエリ人の族出で 17 アロドよりはアロド人の族出で アレリよりはアレリ人の族出づ 18 ガドの宗族は是のごとくにしてその核數られし者は四萬五千人 19 ユダの子等はエルとオナン、エルとオナンはカナンの地に死たり 20 ユダの子孫はその宗族によれば左のごとしシラよりはシラ人の族出で ベレツよりはベレツ人の族出で ゼラよりはゼラ人の族出づ 21 ベレツの子孫は左のごとしヘツロンよりはヘツロン人の族出で ハムルよりはハムル人の族出づ 22 ユダの宗族は是のごとくにしてその核數られし者は七萬六千五百人 23 イツサカルの子孫はその宗族によれば左のごとしトラよりはトラ人の族出で プウよりはプウ人の族出で 24 ヤシユブよりはヤシユブ人の族出で シムロンよりはシムロン人の族出づ 25 イツサカルの宗族は是のごとくにしてその數へられし者は六萬四千三百人 26 ゼブルンの子孫はその宗族によれば左の如しセレ

デよりはセレデ人の族出で エロンよりはエロン人の族出で ヤリエルよりはヤリエル人の族出づ 27 ゼブルン人の宗族は是のごとくにしてその核數られし者は六萬五千人 28 ヨセフの子等はその宗族に依ば マナセとエフラ임 29 マナセの子等の中マキルよりマキル人の族出づ マキル、ギレアデを生りギレアデよりギレアデ人の族出づ 30 ギレアデの子孫は左のごとしエゼルよりはエゼルの族出で ヘルクよりはヘルク人の族出で 31 アスリエルよりはアスリエル人の族出で シケムよりはシケム人の族出で 32 セミダよりはセミダ人の族出で ヘベルよりはヘベル人の族出づ 33 ヘベルの子ゼロペハデには男子なく惟女子ありしのみその名はマアラ、ノア、ホグラ、ミルカ、テルザと曰ふ 34 マナセの宗族は是のごとくにしてその核數られし者は五萬二千七百人 35 エフラ임の子孫はその宗族によれば左のごとしシュテラよりはシュテラ人の族出で ベケルよりはベケル人の族出で タハンよりはタハン人の族出づ 36 シュテラの子孫は左のごとしエランよりエラン人の族出づ 37 エフラ임の子孫の宗族は是のごとくにしてその核數られし者は三萬二千五百人 ヨセフの子孫はその宗族に依ば是のごとし 38 ベニヤミンの子孫はその宗族によれば左のごとしベラよりはベラ人の族出で アシベルよりはアシベル人の族出で アヒラムよりはアヒラム人の族出で 39 シュバムよりはシュバム人の族出で ホバムよりはホバム人の族出づ 40 ベラの子等はアルデとナアマン、アルデよりはアルデ人の族出で ナアマンよりはナアマン人の族出づ 41 ベニヤミンの子孫はその宗族に依ば是のごとくにしてその核數られし者は四萬五千六百人 42 ダンの子孫はその宗族に依ば左のごとし シュハムよりシュハム人の族出づ ダンの宗族はその宗族によれば是の如し 43 シュハム人の諸の族の中核數られし者は六萬四千四百人 44 アセルの子孫はその宗族によれば左のごとしエムナよりはエムナ人の族出で アスイよりはアスイ人の族出で ベリアよりはベリア人の族出づ 45 ベリアの子孫の中ヘベルよりはヘベル人の族出で マルキエルよりはマルキエル人の族出づ 46 アセルの女子の名はサラと曰ふ 47 アセルの子孫の宗族は是のごとくにしてその核數られし者五萬三千四百人 48 ナフタリの子孫はその宗族によれば左のごとし ヤジエルよりヤジエル人の族出で グニよりグニ人の族出で 49 エゼルよりエゼル人の族出で シレムよりシレム人の族出づ 50 ナフタリの宗族は是のごとくにしてその核數られしものは四萬五千四百人 51 すなはちイスラエルの子孫の核數られし者は六十萬一千七百三十人なりき 52 エホバ、モーセに告て言たまはく 53 この人々にその名の數にしたがひて地を分ち與へてこれが産業となさしむべし 54 人衆には汝多くの産業を與へ人寡には少の産業を與ふべし即ちその核數られし數にしたがひてお

のの産業を受べきなり 55 但しその地は鬮をもて之を分ちその父祖の支派の名にしたがひて之を獲べし 56 即ち鬮をもてその産業を人衆き者と寡き者とに分すべきなり 57 レビ人のその宗族にしたがひて數へられし者は左のごとし ゲルシオンよりはゲルシオン人の族出で コハテよりはコハテ人の族出で メマリよりはメラリ人の族出づ 58 レビの族は左のごとし リブニ人の族へブロン人の族マヘリ人の族ムシ人の族コハラ人の族コハテ、アムラムを生り 59 アムラムの妻の名はヨケベデといひてレビの女子なり是はエジプトにてレビに生れし者なりしがアムラムにそひてアロンとモーセおよびその姉妹ミリアムを生り 60 アロンにはナダブ、アビウ、エレアザルおよびイタマル生る 61 ナダブとアビウは異火をエホバの前にささげし時死り 62 その核數られし一箇月以上の男子は都合二萬三千人 レビ人はイスラエルの子孫の中に産業を與へらざるが故にイスラエルの子孫の中に核數られざるなり 63 すなはちモーセと祭司エレアザルがヨルダンの邊なるアリコに對するモアブの平野にて數へたるイスラエルの子孫の數なり 64 但しその中にはモーセとアロンがシナイの曠野においてイスラエルの子孫をかぞへし時に數へたる者は一人もあざりき 65 其はエホバ曾て彼らの事を宣て是はかならず曠野に死んといひたまはれたればなり 是をもてアソンの子カルブとヌンの子ヨシヤの外は一人も遺れる者あざりき

Chapter 27

1 茲にヨセフの子マナセの族の中なるヘベルの子ゼロペハデの女子等きたりヘベルはギレアデの子ギレアデはマキルの子マキルはマナセの子なりその女子等の名はマアラ、ノア、ホグラ、ミルカ、テルザといふ 2 彼ら集會の幕屋の門にてモーセと祭司エレアザルと牧伯等と全會衆の前に立ち言けるは 3 我等の父は曠野に死り彼はかのコラに與して集りてエホバに逆ひし者等の中に加はず自己の罪に死り然るに男子なし 4 我らの父の名なんぞその男子あざるがためにその族の中より削らるることある可んや我らの父の兄弟の中において我らにも産業を與へよと 5 モーセすなはちその事をエホバの前に陳けるに 6

エホバ、モーセに告て言たまはく 7 ゼロペハデの女子等の言ところは道理なり汝がならず彼らの父の兄弟の中において彼らに産業を與へて獲さすべし即ちその父の産業をこれに歸せしむべし 8 汝イスラエルの子孫に告て言べし人もし男子なくして死ばその産業をこれが女子に歸せしむべし 9 もしまた女子もあざる時はその産業をその兄弟に與ふべし 10 もし兄弟あざる時はその産業をその父の兄弟に與ふべし 11 もしまたその父に兄弟あざる時はその親戚の最も近き者にその産業を與へて獲さすべしエホバのモーセに命ぜしごと

くイスラエルの子孫は永く之をもて律法の例とすべし 12 茲にエホバ、モーセに言たまはく汝このアバラム山にのぼり我イスラエルの子孫に與へし地を觀よ 13 汝これを觀なばアロンの既に加はりしごとく汝もその民に加はるべし 14 是チンの曠野において會衆の爭論をなせる砌に汝らが命に悖りかの水の側にて我の聖き事をかれらの目のまへに顯すことを爲ざりしが故なり是すなはちチンの曠野のカデシにあるメリバの族なり 15 モーセ、エホバに申して言けるは 16 エホバ一切の血肉ある者の生命の神よ願くはこの會衆の上に一人を立て 17 之をして彼等の前に出かれらの前に入り彼らを導き出し彼らを導き入る者とならしめエホバの會衆をして牧者なき羊のごとくならざらしめたまへ 18 エホバ、モーセに言たまはくヌンの子ヨシヤといふ靈のやどれる人を取り汝の手をその上に按き 19 これを祭司エレアザルと全會衆の前に立てて彼らの前にて之に命ずる事をなすべし 20 汝これに自己の尊榮を分ち與へイスラエルの子孫の全會衆をしてこれに順がはしむべし 21 彼は祭司エレアザルの前に立べしエレアザルはウリムをもて彼のためにエホバの前に問ことを爲べしヨシヤとイスラエルの子孫すなはちその全會衆はエレアザルの言にしたがひて出でエレアザルの言にしたがひて入べし 22 是においてモーセはエホバの己に命じたまへるごとく爲しヨシヤを取て之を祭司エレアザルと全會衆の前に立て 23 その手をこれが上に按き之に命ずることを爲しエホバのモーセをもて命じたまへる如くなせり

Chapter 28

1 エホバ、モーセに告て言たまはく 2 イスラエルの子孫に命じて之に言へわが禮物わが食物なる火祭わが馨香の物は汝らこれをその期にいたりて我に獻ぐることを怠るべからず 3 汝がこれらに言べし汝らがエホバに獻ぐる火祭は是なり即ち當歳の全たき羔羊二匹を日に獻げて常燔祭となすべし 4 即ち一匹の羔羊を朝に獻げ一匹の羔羊を夕に獻ぐべし 5 また麥粉一エバの十分の一に搗て取たる油一ヒンの四分の一を混和して素祭となすべし 6 是すなはちシナイ山において定めたる常燔祭にしてエホバに馨しき香としてたてまつる火祭なり 7 またその灌祭は羔羊一匹に一ヒンの四分の一を用ふべし即ち聖所において濃酒をエホバのために灌ぎて灌祭となすべし 8 夕にはまた今一の羔羊を獻ぐべしその素祭と灌祭とは朝のごとくなし之を獻げて火祭となしてエホバに馨しき香をたてまつるべし 9 また安息日には當歳の羔羊の全き者二匹と麥粉十分の二に油をまじへたるその素祭とその灌祭を獻ぐべし 10 是すなはち安息日ごとの燔祭にして常燔祭とその灌祭の外なる者なり 11 また汝ら月々の朔日には燔祭をエホバに獻ぐべし即ち少き牡牛二匹牡

羊一匹當歳の羔羊の全き者七匹を献げ 12 牡牛一匹には麥粉十分の三に油を和たるをもてその素祭となし牡羊一匹には麥粉十分の二に油をまじへたるをもてその素祭となし 13 羔羊一匹には麥粉十分の一に油を混和たるをもてその素祭となし之を馨しき香の燔祭としてエホバに火祭をたてまつるべし 14 またその灌祭は牡牛一匹に酒一ヒンの半牡羊一匹に一ヒンの三分の一羔羊一匹に一ヒンの四分の一を用ふべしすなはち年の月々の中旬ごとに献ぐべき燔祭なり 15 また常燔祭とその灌祭の外に牡山羊一匹を罪祭としてエホバに献ぐべし 16 正月の十四日はエホバの逾越節なり 17 またその月の十五日は節日なり七日の間酔いれぬパンを食ふべし 18 その首の日には聖會をひらくべし汝等何の職業をも爲べからず 19 汝ら火祭を献げてエホバに燔祭たらしむるには少き牡牛二匹牡羊一匹當歳の羔羊七匹をもてすべし是等は皆全き者なるべし 20 その素祭には麥粉に油を和たるを用べし即ち牡牛一匹には麥粉十分の三を献げ牡羊一匹には十分の二を献げ 21 また羔羊は七匹ともその羔羊一匹ごとに十分の一を献ぐべし 22 また牡山羊一匹を罪祭に献げて汝らのために贖罪をなすべし 23 朝に献ぐる常燔祭なる燔祭の外に汝ら是らを献ぐべし 24 是のごとく汝ら七日の間日ごとに火祭の食物を献げてエホバに馨しき香をたてまつるべし是は常燔祭とその灌祭の外に献ぐべき者なり 25 而して第七日には汝ら聖會を開くべし何の職業をち爲べからず 26 七七日の後すなはち汝らが新しき素祭をエホバに携へきたる初穂の日にも汝ら聖會を開くべし何の職業をも爲べからず 27 汝ら燔祭を献げてエホバに馨しき香をたてまつるべし即ち少き牡牛二匹牡羊一匹當歳の羔羊七匹を献ぐべし 28 その素祭には麥粉に油を混和たるを用ふべし即ち牡牛一匹に十分の三牡羊一匹に十分の二を用ひ 29 また羔羊には七匹とも羔羊一匹に十分の一を用ふべし 5 また牡山羊一匹を罪祭に献げて汝らのために贖罪をなすべし 31 汝ら常燔祭とその素祭とその灌祭の外に是等を献ぐべしはみな全き者なるべし

Chapter 29

1 七月にいたりその月の朔日に汝ら聖會を開くべし何の職業をも爲べからず是は汝らが喇叭を吹べき日なり 2 汝ら燔祭をささげてエホバに馨しき香をたてまつるべし即ち少き牡牛一匹牡羊一匹當歳の羔羊の全き者七匹を献ぐべし 3 その素祭には麥粉に油を混和たるを用ふべし即ち牡牛一匹に十分の三牡羊一匹に十分の二をもちひ 4 また羔羊には七匹とも羔羊一匹に十分の一を用ふべし 5 また牡山羊一匹を罪祭に献げて汝らのために贖罪をなすべし 6 是は月々の朔日の燔祭とその素祭および日々の燔祭とその素祭と灌祭の外なる者なり是らの物の例にしたがひて之をエホバにたてまつりて馨しき香の火祭

となすべし 7 またその七月の十日に汝ら聖會を開きかつ汝らの身をなやますべし何の職業をも爲べからず 8 汝らエホバに燔祭を献げて馨しき香をたてまつるべし即ち少き牡牛一匹牡羊一匹當歳の羔羊七匹はみな全き者なるべし 9 その素祭には麥粉に油を混和たるを用ふべし即ち牡牛一匹に十分の三牡羊一匹に十分の二を用ひ 10 また羔羊には七匹とも羔羊一匹に十分の一を用ふべし 11 また牡山羊一匹を罪祭に献ぐべし是等は贖罪の罪祭と常燔祭とその素祭と灌祭の外なる者なり 12 七月の十五日に汝ら聖會を開くべし何の職業をも爲べからず汝ら七日の間エホバに向て節筵を守るべし 13 汝ら燔祭を献げてエホバに馨しき香の火祭をたてまつるべし即ち少き牡牛十三牡羊二匹當歳の羔羊十四はみな全き者なるべし 14 その素祭には麥粉に油を混和たるを用ふべし即ちその十三の牡牛には各箇十分の三その二匹の牡羊には各箇十分の二を用ひ 15 その十四の羔羊には各箇十分の一を用ふべし 16 また牡山羊一匹を罪祭に献ぐべし是等は常燔祭およびその素祭と灌祭の外なり 17 第二日には少き牡牛十二牡羊二匹當歳の羔羊の全き者十四を献ぐべし 18 その牡牛と牡羊と羔羊のために用ふる素祭と灌祭はその數に循ひて例のごとくすべし 19 また牡山羊一匹を罪祭に献ぐべし是らは常燔祭およびその素祭と灌祭の外なり 20 第三日には少き牡牛十一牡羊二匹當歳の羔羊の全き者十四を献ぐべし 21 その牡牛と牡羊と羔羊のために用ふる素祭と灌祭はその數に循ひて例のごとくすべし 22 また牡山羊一匹を罪祭に献ぐべし是らは常燔祭およびその素祭と灌祭の外なり 23 第四日には少き牡牛十四牡羊二匹當歳の羔羊の全き者十四を献ぐべし 24 その牡牛と牡羊と羔羊のために用ふる素祭と灌祭はその數に循ひて例のごとくすべし 25 また牡山羊一匹を罪祭に献ぐべし是等は常燔祭およびその素祭と灌祭の外なり 26 第五日には少き牡牛九匹牡羊二匹當歳の羔羊の全き者十四を献ぐべし 27 その牡牛と牡羊と羔羊のために用ふる素祭と灌祭はその數にしたがひて例のごとくすべし 28 また牡山羊一匹を罪祭に献ぐべし是らは常燔祭およびその素祭と灌祭の外なり 29 第六日には少き牡牛八匹牡羊二匹當歳の羔羊の全き者十四を献ぐべし 30 その牡牛と牡羊と羔羊のために用ふる素祭と灌祭はその數にしたがひて例のごとくすべし 31 また牡山羊一匹を罪祭に献ぐべし是等は常燔祭およびその素祭と灌祭の外なり 32 第七日には少き牡牛七匹牡羊二匹當歳の羔羊の全き者十四を献ぐべし 33 その牡牛と牡羊と羔羊のために用ふる素祭と灌祭はその數にしたがひて例のごとくすべし 34 また牡山羊一匹を罪祭に献ぐべし是等は常燔祭およびその素祭と灌祭の外なり 35 第八日にはまた汝ら會をひらくべし何の職業をも爲べからず 36 燔祭を献げてエホバに馨しき香の火祭をたてまつるべし即ち牡牛一匹牡羊一匹當歳の羔羊の全き者七匹を献ぐべし 37

その牡牛と牡羊と羔羊のために用ふる素祭と灌祭はその數にしたがひて例のごとくすべし 38 また牡山羊一匹を罪祭に献ぐべし是らは常燔祭およびその素祭と灌祭の外なり 39 汝らその節期にはエホバに斯なすべし是らは皆汝らが願還のために献げまたは自意の禮物として献ぐる所の燔祭素祭灌祭および酬恩祭の外なり 40 モーセはエホバのモーセに命じたまへる事をことごとくイスラエルの子孫に告たり

Chapter 30

1 モーセ、イスラエルの子孫の支派の長等に告て云ふエホバの命じたまふ事は是のごとし 2 人もしエホバに誓願をかけ又はその身に斷物をなさんと誓ひなばその言詞を破るべからずその口より出ししごとく凡て爲べし 3 また女もし若くしてその父の家に居る時エホバに誓願をかけ又はその身斷物を爲ことあらんに 4 その父これが誓願またはその身に斷し斷物を聞て之にむかひて言ふこと無ば其かけたる誓願を行ひまたその身に斷し斷物を守るべし 5 然どその父これを聞る日に之を允さざるあらばその誓願およびその身に斷し斷物を凡て止ることを得べしその父の允さざるなればエホバこれを赦したまふなり 6 もしまた夫に適く身にして自ら誓願をかけまたはその身に斷物せんと軽々しく口より言いだすことあらんに 7 その夫これを聞もそのこれを聞る日にこれに向ひて言ふこと無ばその誓願を行ひその身に斷し斷物を守るべし 8 されど夫もし之を聞る日にこれを允さざるならば之がかけし誓願または之がその身に斷物せんと軽々しく口に出ししところの事を空うするを得べしエホバはその女を赦したまふなり 9 また寡婦あるひは去れたる婦人の誓願など凡てその身に斷し斷物を守らるべし 10 婦女もしその夫の家に於て誓願をかけ又はその身に斷物せんと誓ふことあらんに 11 夫これを聞てこれに對ひて言ふことなく之を允さざること無ばその誓願は凡てこれを行ふべくその身に斷し斷物は凡てこれを守るべし 12 然どその夫もしこれを聞る日に全くこれを空うせばその誓願またはその斷物につき口より出しし事は凡て守るに及ばずその夫これを空くなしたるなればエホバその婦女を赦したまふなり 13 凡の誓願および凡てその身をなやますところの誓約は夫これを堅うすることを得夫これを空うすることを得べし 14 その夫もし之にむかひて言ふことなくして日をおくらば之が誓願またはこれが斷物を凡て堅うするなり彼これを聞る日に妻にむかひて言ふことを爲ざるに因て之を堅うせるなり 15 然どその夫もしこれを聞たる後にいたりてこれを空うする事あらばその妻の罪を任べし 16 すすなはちエホバがモーセに命じたまへる法令にして夫と妻および父とその女子の少くして父の家にある者とかかはる者なり

Chapter 31

1 茲にエホバ、モーセに告て言たまはく 2 汝イスラエルの子孫の仇をミデアン人に報ゆべし其後汝はその民に加はらん 3 モーセすなはち民に告て言けるは汝らの中より人を選びて戰爭にいづる準備をなさしめ之をしてミデアン人に攻めかしてエホバの仇をミデアン人に報ゆべし 4 即ちイスラエルの諸の支派につきて各々の支派より千人づつを取りこれを戰爭につかはすべし 5 是において各々の支派より千人づつを選びイスラエルの衆軍の中より一萬二千人を得て戰爭にいづる準備をなさしむ 6 モーセすなはち各々の支派より千人宛を戰爭に遣しまた祭司エレアザルの子ピネハスに聖器と吹鳴す喇叭を執りて之とともに戰爭に遣せり 7 彼らエホバのモーセに命じたまへるごとくミデアン人を攻撃し遂にその中の男子をことごとく殺せり 8 その殺しし者の外にまたミデアンの王五人を殺せりそのミデアンの王等はエビ、レケム、ツル、ホル、レバといふまたベオルの子バラムをも劍にかけて殺せり 9 イスラエルの子孫すなはちミデアンの婦女等とその子女を生擒りその家畜と羊の群とその貨財をことごとく奪ひ取り 10 その住居の邑々とその村々とを盡く火にて焼り 11 かくて彼等は其の奪ひし物と掠めし物を人と畜ともに取り 12 エリコに對するヨルダンの邊なるモアブの平野の營にその生擒しきたりてモーセと祭司エレアザルとイスラエルの子孫の會衆に詣り 13 時にモーセと祭司エレアザルおよび會衆の牧伯等みな營の外に出て之を迎へたりしが 14 モーセはその軍勢の領袖等すなはち戰爭より歸りきたる千人の長等と百人の長等のなせる所を怒り 15 モーセすなはち彼等に言けるは汝らは婦女等をことごとく生し存しや 16 視よ是等の者はバラムの謀計によりイスラエルの子孫をしてベオルの事に於てエホバに罪を犯さしめ遂にエホバの會衆の中に疫病おこるにいたりしめたり 17 然ばこの子等の中の男の子を盡く殺したる男と寝て男しれる婦人を盡く殺せ 18 但し未だ男と寝て男しれる事あらざる女の子はこれを汝らのために生し存べし 19 而して汝らは七日の間營の外に居れ汝らの中凡そ人を殺せし者または殺されし者に捫りたる者は第三日と第七日にその身を潔め且その俘囚を潔むべし 20 また一切の衣服と一切の皮の器具および凡て山羊の毛にて作れる物と凡て木にて造れる物を潔むべしと 21 祭司エレアザルにいでし軍人等に言けるはエホバのモーセに命じたまへる律法の例は是のごとし 22 金銀銅鐵錫鉛など 23 凡て火に勝る物は火の中を通すべし然せば潔くならん然ながら尚また潔淨の水をもてこれを潔むべしまた凡て火に勝ざる者は水の中を通すべし 24 汝等は第七日にその衣服を洗ひて潔くなり然

る後營にいるべし 25 その時エホバ、モーセに告て言たまはく 26 汝と祭司エレアザルおよび會衆の族長等この取獲たる人と畜の總數をしらべ 27 その獲物を二分に分てその一を戰爭にいでて戦ひして予へその一を全會衆に予へよ 28 而して戦ひに出し軍人をして人または牛または驢馬または羊おのおの五百ごとに一をとりてエホバに貢として奉つらしめよ 29 即ち彼らの一半より之をとりエホバの擧祭として祭司エレアザルに與へよ 30 またイスラエルの子孫の一半よりは其の獲たる人または牛または驢馬または羊または種々の獣畜五十ごとに一を取りエホバの幕屋の職守を守るところのレビ人にこれを與へよと 31 モーセと祭司エレアザルすなはちエホバのモーセに命じたまへるごとく爲り 32 その掠取物すなはち軍人等が奪ひ獲たる物の殘餘は羊六十七萬五千 33 牛七萬二千 34 驢馬六萬一千 35 人三萬二千はみな未だ男と寝て男しれる事あらざる女なり 36 その一半すなはち戰爭にいでし者の分は羊三十三萬七千五百 37 エホバに貢として奉つれる羊は六百七十五 38 牛三萬六千その中よりエホバに貢とせし者は七十二 39 驢馬三萬五百その中よりエホバに貢とせし者は六十一 40 人一萬六千その中よりエホバに貢とせし者は三十二人 41 モーセその貢すなはちエホバの擧祭なる者を祭司エレアザルに與へたりエホバのモーセに命じたまへる如し 42 モーセが戰爭に出しものより分ちとりてイスラエルの子孫に予へし一半 43 すなはち會衆に屬する一半は羊三十三萬七千五百 44 牛三萬六千 45 驢馬三萬五百 46 人一萬六千 47 すなはちイスラエルの子孫のその一半よりモーセ人と畜とも各箇五十ごとに一を取りエホバの幕屋の職守をまもるレビ人に之を與へたりエホバのモーセに命じたまへるごとし 48 時に其軍勢の帥士たりし者等すなはち千人の長百人の長等モーセにきたり 49 モーセに言けるは僕等我らの手に屬する軍人を數へたるにわれらの中一人も缺たる者なし 50 是をもて我ら各人その獲たる金の飾品すなはち鍔指環耳環頸玉等をエホバに携へきたりて禮物となし之をもて我らの生命のためにエホバの前に贖罪をなさんとす 51 モーセと祭司エレアザルすなはち彼らよりその金を受たりはみな製り成る飾品なりき 52 千人の長と百人の長たちがエホバに獻けて擧祭となせしその金は都合一萬六千七百五十シケル 53 軍人は各箇その掠取物をもて自分の有となせり 54 モーセと祭司エレアザルは千人の長と百人の長等よりその金を受て集會の幕屋に携へたりエホバの前におきてイスラエルの子孫の記念とならしむ

Chapter 32

1 ルベンの子孫とガドの子孫は甚だ多くの家畜の群を有り彼等ヤゼルの地とギレアデの地を觀るにその處は家畜に適き所なりければ 2 ガド

の子孫とルベンの子孫來りてモーセと祭司エレアザルと會衆の牧伯等に言けるは 3 アタロテ、デボン、ヤゼル、ニムラ、ヘシボン、エレアレ、シバム、ネボ、ベオン 4 即ちエホバがイスラエルの會衆の前に撃ほるばしたまひし國は家畜に適き所なるが我らは家畜あり 5 また曰ふらば我らもし汝の目の前に恩を獲たらば請ふこの地を僕等に與へて産業となさしめ我らをしてヨルダンを濟ること無らしめよと斯いへり 6 モーセ、ガドの子孫とルベンの子孫に言けるは汝らの兄弟たちは戦ひに往に汝らは此に坐しをらんとするや 7 汝ら何ぞイスラエルの子孫の心を挫きてエホバのこれに賜ひし地に濟ることを得ざらしめんとするや 8 汝らの先祖等も我がカデシバルネアより其地を觀に遣せし時に然なせり 9 即ち彼らエシコルの谷に至りて其地を觀し時イスラエルの子孫の心を挫きて之をしてエホバの賜ひし地に往ことを得ざらしめたり 10 その時エホバ怒を發し誓ひて言たまひけらく 11 エジプトより出きたれる人々の二十歳以上なる者は一人も我がアブラハム、イサク、ヤコブに誓ひたる地を見ざるべし其はかれら我に全くは從はざればなり 12 第ケナテ子アロンの子カルブとヌンの子ヨシユアとを除く此二人はエホバに全く從ひたればなり 13 エホバかくイスラエルにむかひて怒を發し之をして四十年のあひだ曠野にさまよはしめたまひければエホバの前に惡をなししその代の人みな終に亡ぶるに至れり 14 抑汝らはその父に代りて起れる者即ち罪人の種にしてエホバのイスラエルにむかひて懷たまふ烈しき怒を更に増んとするなり 15 汝ら若反きてエホバに從はずばエホバまたこの民を曠野に遣おきたまはん然せば汝等すなはちこの民を滅ぼすにいたるべし 16 彼らモーセの側に進みよりて言けるは我らは此に我らの群のために羊の圍を建我らの少者のために邑を建んとす 17 然ど我らはイスラエルの子孫をその處に導きゆくまでは身をよるひて之が前に奮ひ進まん第われらの少者はこの國に住る者等のために堅固なる邑に居ざるを得ず 18 我らはイスラエルの子孫が皆おのおのその産業を獲までは我らの家に歸らじ 19 我らはヨルダンの彼旁において彼らと偕に産業を獲ことを爲じ我らはヨルダンの此旁すなはち東の方に産業を獲ればなり 20 モーセかれらに言けるは汝らもしこの事を爲し汝らみな身をよるひてエホバの前に往て戦ひ 21 汝ら皆身をよるひエホバの前にゆきてヨルダンを濟りエホバのその敵を己の前より逐はらひたまひて 22 この國のエホバに服ふにおよびて後汝ら歸ばエホバの前にもイスラエルの前にも汝ら罪なかるべし然せばこの地はエホバの前において汝らの産業とならん 23 然ど汝らもし然せずばはエホバにむかひて罪を犯すなれば必ずその罪汝らの身におよぶと知べし 24 汝らその少者のために邑を建てその羊のために圍を建よ而して汝らの口より出せるとを爲せ 25 ガドの子孫とルベンの子孫モーセ

にこたへて言けるはわが主の命じたまふごとく僕等行ふべし 26 我らの少者と妻と羊と諸の家畜は此にギレアデの邑々に居べし 27 然ど僕等はおのおの戰爭のために身をよるひてわが主の言たまふ如くエホバの前に涉りゆきて戦ふべし 28 是においてモーセかれらの爲に祭司エレアザルとヌンの子ヨシユアとイスラエルの支派の族長等に命ずる事ありき 29 すなはちモーセかれらに言けるはガドの子孫とルベンの子孫もし汝らとともにヨルダンを濟りゆき各箇身をよるひてエホバの前に戦ひてこの地汝らに服ふにいたらば汝らギレアデの地をかれらに與へて産業となさしむべし 30 然ど彼らもし汝らとともに身をよるひて濟りゆかずば彼らはカナンに於て汝らの中に産業を獲ざる可らず 31 ガドの子孫とルベンの子孫こたへて言ふエホバが僕等に言たまふごとく我ら爲べし 32 我らは身をよるひてエホバの前にカナンに濟りゆきヨルダンの此旁なる我らの産業を保つことを爲べし 33 是においてモーセはアモリ人の王シホンの國とバシヤンの王オグの國をもてガドの子孫とルベンの子孫とヨセフの子マナセの支派の半とに與へたり即ちその國およびその境の内の邑々とその邑々の周圍の地と之に與ふ 34 ガドの子孫はデボン、アタロテ、アロエル 35 アテロテ、シヨバン、ヤゼル、ヨグベハ 36 ベテニムラ、ベテハラシなどの堅固なる邑を建て羊のために圍を建たり 37 またルベンの子孫はヘシボン、エレアレ、キリヤタイム 38 ネボ、パアルメオン等の邑を建てその名を更めまたシマの邑を建たりその建たる邑々には新しき名をつけたり 39 またマナセの子マキルの子孫はギレアデに至りてこれを取り其處にをりしアモリ人を逐はらひければ 40 モーセ、ギレアデをマナセの子マキルに與へて其處に住しむ 41 またマナセの子ヤイルは往てその村々を取りこれをハラテヤイル(ヤイル村)と名けたり 42 またノバは往てケナテとその村々を取り自己の名にしたがひて之をノバと名けたり

Chapter 33

1 イスラエルの子孫がモーセとアロンに導かれ其軍旅にしたがひてエジプトの國より出きたりて經たる旅路は左のごとし 2 モーセ、エホバの命に依りその旅路にしたがひてこれが發程を記せりその發程によればその旅路は左のごとくなり 3 彼らは正月の十五日にラメセスより出立り即ち逾越の翌日にイスラエルの子孫は一切のエジプト人の目の前にて高らかなる手によりて出たり 4 時にエジプト人はエホバに撃ころされし其長子を葬りて居りエホバはまた彼らの神々にも罰をかうむらせたまへり 5 イスラエルの子孫ラメセスより出立てスコテに營を張り 6 スコテより出立て曠野の極端なるエタムに營を張り 7 エタムより出立てパアルゼボンの前なるピハヒロテに轉りゆきて

ミグドルに營を張り 8 ピハヒロテの前より出立ち海の中を通りて曠野にいでエタムの曠野に三日路ほど入てメラに營を張り 9 メラより出立てエリムに至れりエリムには泉十二棕櫚七十本あり乃ち此に營を張り 10 かくてエリムより出たちて紅海の邊に營を張り 11 紅海より出たちてシンの曠野に營を張り 12 シンの曠野より出たちてドフカに營を張り 13 ドフカより出たちてアルシに營を張り 14 アルシより出たちてレピデムに營を張り此には民の飲む水あらざりき 15 かくてレピデムより出たちてシナイの曠野に營を張り 16 シナイの曠野より出たちてキプロテハツタに營を張り 17 キプロテハツタより出たちてハゼロテに營を張り 18 ハゼロテより出たちてリテマに營を張り 19 リテマより出たちてリンモンパレツに營を張り 20 リンモンパレツより出たちてリブナに營を張り 21 リブナより出たちてリッサに營を張り 22 リッサより出たちてケヘラタに營を張り 23 ケヘラタより出たちてシヤベル山に營を張り 24 シヤベル山より出たちてハラダに營を張り 25 ハラダより出たちてマケロテに營を張り 26 マケロテより出たちてタハテに營を張り 27 タハテより出たちてテラに營を張り 28 テラより出たちてミテカに營を張り 29 ミテカより出たちてハシモナに營を張り 30 ハシモナより出たちてモセラに營を張り 31 モセラより出たちてベネヤカンに營を張り 32 ベネヤカンより出たちてホルハギデガデに營を張り 33 ホルハギデガデより出たちてヨテバタに營を張り 34 ヨテバタより出たちてアプロナに營を張り 35 アプロナより出たちてエジオンベルに營を張り 36 エジオンベルより出たちてカデシのチンの曠野に營を張り 37 カデシより出たちてエドムの國の界なるホル山に營を張り 38 イスラエルの子孫がエジプトの國を出てより四十年の五月の朔日に祭司アロンはエホバの命によりてホル山に登て其處に死に 39 アロンはホル山に死たる時は百二十三歳なりき 40 カナン地の南に住るカナン人アラデ王といふ者イスラエルの子孫の來るを聞り 41 かくてホル山より出たちてザルモナに營を張り 42 ザルモナより出立てブノンに營を張り 43 ブノンより出たちてオボテに營を張り 44 オボテより出たちてモアブの界なるイエアバリムに營を張り 45 イヰムより出たちてデボンガドに營を張り 46 デボンガドより出たちてアルモンデブラタイムに營を張り 47 アルモンデブラタイムより出たちてネボの前なるアバリムの山々に營を張り 48 アバリムの山々より出たちてアリコに對するヨルダンの邊なるモアブの平野に營を張り 49 すなはちモアブの平野においてヨルダンの邊に營を張りベテアシモテよりアベルシツテムにいたる 50 アリコに對するヨルダンの邊なるモアブの平野においてエホバ、モーセに告て言たまはく 51 イスラエルの子孫に告てこれに言へ汝らヨルダンを濟りてカナンに地に入る時は 52 その地に

住る民をことごとく汝らの前より逐はらひその石の像をことごとく毀ちその鑄たる像を毀ちその崇邱をことごとく毀ちつくすべし 53 汝らその地の民を逐はらひて其處に住べし其は我その地を汝らの産業として汝らに與へたればなり 54 汝らの族にしたがひ鬮をもてその地を分ちて産業となし人多きには多くの産業を與へ人少きには少しの産業を與ふべし各人の分はその鬮にあたる處にあるべきなり汝らその先祖の支派にしたがひて之を獲べし 55 然ど汝らもしその地に住る民を汝らの前より逐はらはずば汝らが存しおとくところの者汝らの目に刺となり汝の脇に棘となり汝らの住む國において汝らを惱さん 56 且また我は彼らに爲んと思ひし事を汝らに爲ん

Chapter 34

1 エホバ、モーセに告て言たまはく 2 イスラエルの子孫に告てこれに言へ汝らがカナンの地にいる時に汝らに歸して産業となる地は是なり即ちカナンの地その境に循へる者 3 汝らの南の方はエドムに接するチンの曠野より起り南の界は鹽海の極端より東の方にいたるべし 4 また汝らの界は南より繞りてアクラビムの坂にいたりてチンに赴き南よりカデシバルネアに亘りハザルアダルに進みアズモンに赴くべし 5 その界はまたアズモンより繞りてエジプトの河にいたり海におよびて盡べし 6 西の界においては大海をもてその界とすべし 7 汝らの西の方を 7 汝らの北の界は是のごとし即ち大海よりホル山までを畫り 8 ホル山よりハマテの入口までを畫りその界をしてゼダデまで亘らしむべし 9 またその界はジフロンに進みハザルエノンにいたりて盡べし 10 汝らの東の界はハザルエノンよりシバムまでを畫るべし 11 またその界はアインの東の方においてシバムよりリブラに下りゆくべし 12 その東の界は下りてキンネレテの海の東の傍に抵り 13 2 その界ヨルダンに下りゆきて鹽海におよびて盡べし 汝らの國はその周圍の界に依ば是のごとくなるべし 14 3 モーセ、イスラエルの子孫に命じて言けるは是すなはち汝らが鬮をもて獲べき地なりエホバこれを九の支派と半支派に與へよと命じたまふ 14 4 汝らはハザルエノンの子孫の支派とガドの子孫の支派はともにその宗族にしたがひてその産業を受けまたマナセの半支派もその産業を受たればなり 15 5 この二の支派と半支派とはエリコに對するヨルダンの彼旁すなはちその東日の出る方においてその産業を受たり 16 エホバまたモーセに告て言たまはく 17 汝らに地を分つ人々の名は是なり即ち祭司エレアザルとヌンの子ヨシウバ 18 汝らまた各箇の支派より牧伯一人づつを簡て地を分つことを爲しむべし 19 その人々の名は是のごとしユダの支派にてはエフンネの子カルブ 20 シメオンの子孫の支派にてはアミホデの子

ムエル 21 ベニヤミンの支派にてはキスロンの子エリダゲ 22 ダンの子孫の支派の牧伯はヨグリの子ブッキ 23 ヨセフの子孫すなはちマナセの子孫の支派の牧伯はエゴデの子ハニエル 24 エフライムの子孫の支派の牧伯はシフタンの子ケムエル 25 ゼブルンの子孫の支派の牧伯はパルナクの子エリザバン 26 イッサカルの子孫の支派の牧伯はアザンの子バルテエル 27 アセルの子孫の支派の牧伯はシロミの子アヒウデ 28 ナフタリの子孫の支派の牧伯はアミホデの子バダヘル 29 カナンの地においてイスラエルの子孫に産業を分つことをエホバの命じたまへる人は是のごとし

Chapter 35

1 エリコに對するヨルダンの邊なるモアブの平野においてエホバ、モーセに告て言たまはく 2 イスラエルの子孫に命じてその獲たる産業の中よりレビ人に住べき邑々を與へしめよ汝らまたその邑々の周圍に郊地をつけてレビ人に與ふべし 3 その邑々は彼らの住べき所その郊地は彼らの家畜貨財および諸の獸をおくところたるべし 4 汝らがレビ人に與ふる邑々の郊地は邑の石垣より外四周一千キユビトなるべし 5 すなはち邑の外に於て東の方に二千キユビト南の方に二千キユビト西の方に二千キユビト北の方に二千キユビトを量り邑をその中にあらしむべし 彼らの邑の郊地は是のごとくなるべし 6 汝らがレビ人に與ふる邑々は是のごとくなるべし 7 汝らがレビ人に與ふる邑は都合四十八邑これを其郊地とともに與ふべし 8 汝らイスラエルの子孫の産業の中よりレビ人に邑を與ふるには多く有る者は多く與へ少く有る者は少く與へ各人その獲たる産業にしたがひてその邑々を之に與ふべし 9 エホバまたモーセに告て言たまはく 10 イスラエルの子孫に告てこれに言へ汝らヨルダンを濟りてカナンの地に入らば 11 汝らのために邑を設けて逃遁邑と爲し誤りて人を殺せる者をして其處に逃るべからしむべし 12 其は汝らが仇打する者を避て逃るべき邑なり 是はある人は人を殺せる者が未だ會衆の前にたちて審判をうけざる先に殺さること無らんとためなり 13 汝らが予ふる邑々の中六をもて逃遁邑とすべし 14 すなはち汝らヨルダンの此旁において三の邑を予へカーナンの地において三の邑を予へて逃遁邑となすべし 15 この六の邑はイスラエルの子孫と他國人およびその中に寄寓する者の逃遁場たるべし 凡て誤りて人を殺せる者は其處に逃ることを得べし 16 もし鐵の器をもて人を撃て死しめなばは故殺なり 故殺人はかならず殺せるべし 17 もし人を殺すほどの石を執て人を撃て死しめなばは故殺なり 故殺人はかならず殺せるべし 18 また人を殺すほどの木の器をとりて人を撃て死しめな

ばは故殺なり 故殺人はかならず殺せるべし 19 仇を打つ者その故殺人を殺すことを得すなはち之に遭ふところにて之を殺すことを得るなり 20 もしまた怨恨のために人を推しまたは意ありて人に物を投うちて死しめ 21 または敵の心を挾さみ手をもて人を撃て死しめなばその人を撃たる者は必ず殺せるべし 是は故殺なればなり 仇を打つ者これに遭ふところにて之を殺すことを得べし 22 然どもし敵の心なくして思はず人を推しまたは意なくして人に物を擲ち 23 または人あるを見ずして人を殺すほどの石を之に投つけて死しむること有んにその人これが敵にもあらずまた之を害せんとせしにもあざざる時は 24 會衆この律法によりてその人を殺せる者と仇打する者とに審判を言わたすべし 25 即ち會衆はその人を殺せる者を仇打する者の手より救ひ出してこれをその逃れゆきたる逃遁邑に還すべし 26 その者は聖膏を灌れたる祭司の長の死るまで其處に居べし 27 然ど人を殺しし者その逃れし逃遁邑の境を出でたらんに 28 仇打する者その逃遁邑の境の外にてこれに遭ことありて仇打する者すなはちその人を殺しし者を殺すことあるとも血をながせる罪あらじ 29 其は彼は祭司の長の死るまでその逃遁邑に居べき者なればなり 祭司の長の死たる後はその人を殺せし者おのれの産業の地にかへることを得べし 30 汝ら代々その住所において之を審判の法度とすべし 31 凡て人を殺せる者すなはち故殺人は證人の口にしたがひて殺せるべし 然ど只一人の證人の言にしたがひて人を殺すことを爲べからず 32 汝ら死に當る故殺人の生命を贖しむべからず必ずこれを殺すべし 33 また逃遁邑に逃れたる者の贖を容て祭司の死する前にこれを自己の地に歸り住しむる勿れ 34 汝らその居るところの地を汚すべからず 血は地を汚すなり 地の上に流せる血は之を流せる者の血をもてするに非れば贖ふことを得ざるなり 35 汝らその住ところの地すなはち我が居ところの地を汚すなかれ其は我エホバ、イスラエルの子孫の中に居ばなり

Chapter 36

1 ヨセフの子等の族の中マナセの子マキルの子なるギリアデの子等の族の族長等進みよりモーセの前とイスラエルの子孫の族長たる牧伯等の前に語り 2 言けるはイスラエルの子孫にその産業の地を鬮によりて與ふることをエホバわが主に命じたまへり 吾またわれらの兄弟ゼロバハデの産業をその女子等に與ふべしとエホバに命ぜられたまふ 3 彼らもしイスラエルの子孫の中他の支派の人々に嫁ぎなば彼らの産業はわれらの父祖の産業の中より除去れてその適る支派の産業に加はるべし 斯は是は我らの産業の分の中より除去れん 4 而して彼らの産業はイスラエルの子孫のヨベルに至りてその適る支派の産業に加はるべし 斯かれらの産業は我らの父祖の支派の産業の中より除

去れん 5 モーセ、エホバの言にしたがひてイスラエルの子孫に命じて言ふヨセフの子等の支派の言ところは善し 6 ゼロバハデの女子等の事につきてエホバの命じたまふところは是のごとし云く彼らはその心に適ふ者に嫁ぐべけれど惟その父祖の支派の家にのみ嫁ぐべし 7 然せばイスラエルの子孫の産業この支派よりかの支派に移ることあらじ 8 イスラエルの子孫はみな各箇その父祖の支派の産業に止まるべきなり 9 イスラエルの子孫の支派の中凡そ産業を有る女は皆おのれの父の支派の家に嫁ぐべし 然せばイスラエルの子孫おのその父祖の産業を保つことを得ん 9 産業をしてこの支派よりかの支派に移らしむべからず 10 イスラエルの子孫の支派の者は皆おのその自己の産業にとどまるべし 11 是においてゼロバハデの女子等はエホバのモーセに命じたまへる如くせり 12 即ちゼロバハデの女子等アマラ、テルザ、ホグラ、ミルカおよびノアはその父の兄弟の女子に嫁げり 13 彼らはヨセフの子マナセの子等の家に嫁ぎたればその産業はその父の族の支派に止まれり 14 是等はエリコに對するヨルダンの邊なるモアテの平野においてエホバがモーセによりてイスラエルの子孫に命じたまひし命令と律法なり

申命記

Chapter 1

1 是はモーセがヨルダンの此旁の曠野紅海に對する平野に在てバラ、トベル、ラバン、ハゼロテ、デザハブの間にてイスラエルの一切の人に告たる言語なり 2 ホレブよりシエル山の間を経てカデシバルネアに至るには十一日路あり 3 第四十年の十一月にいたりその月の一日にモーセはイスラエルの子孫にむかひてエホバが彼等のために自己に授けたまひし命令を悉く告たり 4 是はモーセがヘシボンに住るアモリ人の王シホン及びエデレイのアシタロテに住るバシヤンの王オグを殺したる後なり 5 即ちモーセ、ヨルダンの此旁なるモアブの地においてこの律法を解明すことを爲し始めたり 6 我らの神エホバ、ホレブにて我らに告て言たまへり 汝らはこの山に居こと日すでに久し 7 汝ら身を轉らして途に進みアモリ人の山に往き其に鄰れる處々に往き平野山地窪地南の地海邊カナンの地レバノンおよび大河ユフラテ河に至れ 8 我この地を汝らの前に置り入てこの地を獲よ 是はエホバが汝らの先祖アブラハム、イサク、ヤコブに誓ひて之を彼らとその後の子孫に與へんと言たまひし者なりと 9 彼時我なんぢらに語りて言り我一人にては汝らをわが任として負ことあたはず 10 汝らの神エホバ汝らを衆多ならしめたまひたれば汝ら今日は天空の星のごとくに衆し 11 願くは汝らの先祖の神エホバ汝らをして

今あるよりは千倍も多くならしめ又なんぢらに約束せしごとく汝らを祝福たまはんことを 12 我一人にては争で汝らを吾任となしました汝らの重負と汝らの争競に當ることを得んや 13 汝らの支派の中より智慧あり知識ありて人に識れたる人々を簡べ我これを汝らの首長となさんと 14 時に汝ら答へて言ひ汝が言ところの事を爲は善しと 15 是をもて我汝らの支派の首長なる智慧ありて人に知れたる者等を取て汝らの首長となせり即ち之をもて千人の長百人の長五十人の長十人の長となしました汝らの支派の中の官吏となせり 16 また彼時に我汝らの土師等に命じて言ひ汝らその兄弟の中の訴訟を聞き此人と彼人の間を正しく審判くべし他國の人においても然り 17 汝らを見て審判すべからず小き者にも大なる者にも聽べし人の面を懼るべからず審判は神の事なればなり汝らにおいて斷定がたき事は我に持きたれ我これを聽ん 18 我かの時に汝らの爲べき事をことごとく汝らに命じたり 19 我等の神エホバの我等に命じたまひしごとく我等はホレブより出たち汝らが見知るかの大なる畏しき曠野を通りアモリ人の山を指てガデシバルネアに至れり 20 時に我なんぢらに言ひ汝らは我らの神エホバの我らに與へたまへるアモリ人の山に至れり 21 視よ汝の神エホバこの地を汝の前に置たまふ汝の先祖の神エホバの汝に言たまふごとく上り往てこれを獲よ懼るなかれ猶豫なかれと 22 汝らみな我に近きて言ひ我等人を我らの先に遣してその地を伺察しめ彼らをして返て何の途より上るべきか何の邑々に入べきかを我らに告しめんと 23 此の言わが目に善と見ければ我汝らの中より十二人の者を取り即ち一の支派より一人宛なりき 24 彼等前みゆきて山に登りエシコルの谷にいたり之を伺ひ 25 その地の菓物を手に取てわれらの許に持くだり我らに復命して言ひ我等の神エホバの我等に與へたまへる地は善地なりと 26 然るに汝等は上り往て之を好まずして汝らの神エホバの命令に背けり 27 すなはち汝らその天幕にて咳きて言ひエホバわれらを惡むが故に我らをアモリ人の手に付して滅ぼさんとてエジプトの國より我らを導き出せり 28 我等は何方に往べきや我らの兄弟等は言ふその民は我らよりも大にして身長たかく邑々は太にしてその石垣は天に達する我らまたアナクの子孫を其處に見たりと斯いひて我らの氣を挫けりと 29 時に我なんぢらに言ひ懼る勿れ懼るなかれ 30 汝らに先ち行たまふ汝らの神エホバ、エジプトにおいて汝らの爲に汝らの目の前にて諸の事をなしたまひし如く今また汝らのために戦ひたまはん 31 曠野においては汝また汝の神エホバが人のその子を抱くが如くに汝を抱きたまひしを見たり汝らが此處にいたるまでその路すがら常に然ありしなりと 32 この言をなせども汝らはなほその神エホバを信ぜざりき 33 エホバは途にありては汝らに先ちゆきて汝らが營を張べき處を尋ね夜は火の中にあり晝は雲の中にありて

汝らの行べき途を示したまへる者なり 34 エホバ汝らの言語の聲を聞て怒り誓て言たまひけらく 35 この惡き代の人々の中には我が汝らの先祖等に與へんと誓ひしかの善地を見る者一人も有ざるべし 36 只エフソネの子カルブのみ之を見ることを得ん彼が踐たりし地をもて我かれとかれの子孫に與ふべし其は彼まったくエホバに従ひたればなり 37 エホバまた汝らの故をもて我をも怒て言たまへり汝もまた彼處に入るとを得ず 38 汝の前に待るヌンの子ヨシユアかしこに入べし彼に力をつけよ彼イスラエルをして之を獲しむべし 39 また汝等が掠められんと言たりしその汝らの子女および當日になほ善惡を辨へざりし汝らの幼兒等彼ら即ちかしこに入べし我これを彼らに與へて獲さすべし 40 汝らは身をめぐらし紅海の途より曠野に進みいるべしと 41 然るに汝ら對て我にいへり我等はエホバにむかひて罪を犯せり然ばわれらの神エホバの凡て我らに命じたまへるがごとく我ら上りゆきて戦はんと汝らおのおの武器を身に帶て軽々しく山に登らんとせり 42 時にエホバわれに言たまひけるは汝かれらに言へ汝ら上りゆくなかれ又戰ふなかれ我なんぢらの中間に居ざればなり 43 汝ら恐らくはその敵に打敗られんと 43 われかく汝らに告たるに汝ら聽ずしてエホバの命令に背き自擅に山に登りたりしが 44 その山に住るアモリ人汝等にむかひて出きたり蜂の驅がごとくに汝らを驅ちらしなんぢらをセイルに打取てホルマにおよべり 45 斯りしかばなんぢら還りきたりてエホバの前に哭きたりしがエホバなんぢらの聲を聽たまはず汝らに耳を傾むけたまはざりき 46 是をもてなんぢらは日久しくカデシに居りなんぢらが其處に居たる日數のごとし

Chapter 2

1 斯て我らは身を轉らしエホバの我に命じたまへる如く紅海の途より曠野に進みりて日久しくセイル山を行めぐりたりしが 2 エホバつひに我に告て言たまはく 3 汝等はこの山を行めぐること既に久し今よりは北に轉りて進め 4 汝また民に命じて言へ汝らはセイルに住るエサウの子孫なる汝らの兄弟の境界を通らんとす汝らはなんぢらを懼れん汝ら深く自ら謹むべし 5 彼らを攻る勿れ彼らの地は足の跡に踐ほどをも汝らに與へじ其は我セイル山をエサウにあたへて産業となさしめたればなり 6 汝ら金をもて彼らより食物を買て食ひまた金をもて彼らより水をもとめて飲め 7 汝の神エホバ汝が手に作ところの諸の事において汝をめぐみ汝がこの大なる曠野を通るを看すなはしたまへり汝の神エホバこの四十年のあひだ汝とも在したれば汝は乏しき所あらざりしなり 8 我らつひにセイル山に住るエサウの子孫なる我らの兄弟を離れてアラバの路を通りエラテとエジオンゲベルを経て / 轉りてモアブの曠野の路に

進みいり 9 時にエホバわれに言たまひけるはモアブ人をなやますなかれまた之を攻て戰ふなかれ彼らの地をば我なんぢらの産業に與へじ其は我口との子孫にアルをあたへて産業となさしめたればなりと 10 (昔エミ人ここに住り民は大にして數多くアナク人のごとくに身長高かり 11 アナク人とおなじくレバイムと呼なされたりしがモアブ人はこれをエミ人とよべり 12 ホリ人もまた昔セイルに住るりしがエサウの子孫これを逐滅し之にはかりて其處に住りイスラエルがエホバに賜はりしその産業の地になせるが如し) 13 茲に汝等今たちあがりゼレデ川を涉れとありければ我らすなはちゼレデ川を涉れり 14 カデシバルネアを出てよりゼレデ川を涉るまでの間の日は三十八年にしてその代の軍人はみな亡果て營中にあらずなりぬエホバのかれらに誓ひたまひし如し 15 誠にエホバ手をもて之を攻めこれを營中より滅ぼしたまひければ終にみな亡はてたり 16 かく軍人みなその民の中より死亡たる時にあたりて 17 エホバ我に告て言たまひけらく 18 汝は今日モアブの境なるアルを通らんとす 19 汝アンモンの子孫に近く時に之をなやます勿れ之を攻るなかれアンモンの子孫の地は我これを汝らの産業に與へじ其は我これを口との子孫にあたへて産業となさしめたればなり 20 (是もまたレバイムの國とよびなされたり昔レバイムここに住らればなりアンモン人はかれらをザムズミ人とよべり 21 此の民は大にして數多くアナク人のごとくに身長たかかりしがエホバ、アンモン人の前に之を滅ぼしたまひたればアンモン人これを逐はらひて之にはかりて住り 22 その事はセイルに住るエサウの子孫の前にホリ人を滅ぼしたまひしが如し彼らはホリ人を逐はらひ之にはかりて今日まで其處に住るなり 23 カフトルより出たるカフトリ人はまたかの村々に住ひてガザにまで到るところのアビ人を滅ぼし之にはかりて其處に居る) 24 汝ら起あがり進みてアルノン河を涉れ我ヘシボンの王アモリ人シホンとこれが國を汝らの手に付す進んで之を獲よ彼を攻て戰へ 25 今日我一天下の國人に汝を畏が汝を懼れしめん彼らは汝の名聲を聞て慄ひ汝の爲に心を苦めんと 26 茲に我ケデモテの曠野よりヘシボンの王シホンに使者をおくり和好の言を述しめたり云く 27 我に汝の國を通らしめよ我は大路を通りて行ん右にも左にも轉らじ 28 汝金をとりて食物を我に賣て食はせ金をとりて水を我にあたへて飲せよ我はただ徒歩にて通らんのみ 29 セイルに住るエサウの子孫とアルに住るモアブ人とが我になしたる如くせよ然せば我はヨルダンを濟りて我らの神エホバの我らに賜ひし地にいたらん 30 然るにヘシボンの王シホンは我らの通ることを容さざりき是は汝の神エホバ彼を汝の手に付さんとてその氣を頑梗しその心を剛愎にしたまひたればなり今日見るが如し 31 時にエホバ我に言たまひけるは視よ我いまシホンとこれが地を汝に與

へんとす進んでその地を獲て汝の産業とせよと 32 茲にシホンその民をことごとく率ゐて出きたりヤハツに於て戰ひけるが 33 我らの神エホバ彼をわれらに付したまひたれば我らかれとその子等とその一切の民を撃殺せり 34 その時に我らは彼の邑々を盡く取りその一切の邑の男女および兒童を滅して一人をも遺さざりき 35 只その家畜および邑々より取たる掠取物は我らこれを獲て自分の物となせり 36 アルノンの河邊のアロエルおよび河の傍なる邑よりギレアデにいたるまで我らの攻取がたき邑とては一もあらざりき我らの神エホバこれを盡くわれらに付したまへり 37 第アンモンの子孫の地ヤボク川の全岸山地の邑々など凡てわれらの神エホバが我らの往を禁じたまへる處には汝いたらざりき

Chapter 3

1 斯てわれら身をめぐらしてバシヤンの路に上り行けるにバシヤンの王オグその民をことごとく率ゐ出てエデレイに戰はんとせり 2 時にエホバわれに言たまひけらく彼を懼るなかれ我かれとその一切の民とその地とを汝の手に付さん汝かのヘシボンに住たるアモリ人の王シホンになせし如く彼に爲べしと 3 我らの神エホバすなはちバシヤンの王オグとその一切の民を我らの手に付したまひしかば我ら之を撃ころして一人をも遺さざりき 4 その時に我らこれが邑々をことごとく取り取ざる邑は一も有ざりきその取る邑は六十すなはちアルゴブの地にしてバシヤンにおけるオグの國なり 5 此の邑々はみな高き石垣あり門あり關ありて堅固なりき外にまた石垣あらざる邑甚だ多くありき 6 我らはヘシボンの王シホンになせし如く之を滅しその一切の邑の男女および兒童をことごとく滅せり 7 惟その一切の家畜とその邑々よりの掠取物とはこれを獲てわれらの物となせり 8 その時我らヨルダンの此旁の地をアルノン河よりヘルモン山までアモリ人の王二人の手より取り 9 (ヘルモンはシドン人これをシリオンと呼びアモリ人これをセニルと呼ぶ) 10 すなはち平野の一切の邑ギレアデの全地バシヤンの全地サルカおよびエデレイなどバシヤンに於るオグの國をことごとく取り 11 彼レバイムの遺れる者はバシヤンの王オグ一人なりき彼の寢臺は鐵の寢臺なりき是は今なほアンモンの子孫のラバにあるに非ずや人の肘によれば是はその長九キュビトその寛四キュビトあり 12 その時に我らこの地を獲たりしがアルノン河の邊なるアロエルよりの地とギレアデの山地の半とその中の邑々とは我これをルベン人とガド人に與へたり 13 またオグの國なりしギレアデの殘餘の地とバシヤンの全地とは我これをマナセの半支派に與へたりアルゴブの全地すなはちバシヤンの全體はレバイムの國と稱へらる 14 マナセの子ヤイルはアルゴブの全地を取てゲシコルの境界とマアカの境界にまで至

り自分の名にしたがひてバシヤンをハラテヤイルと名けたりその名今日にいたる 15 またマキルには我ギレアデを與へ 16 ルベン人とガド人にはギレアデよりアルノン河までを與へその河の眞中をもて界となしまたアンモンの子孫の地の界なるヤボク河にまで至り 17 またアラバおよびヨルダンとその邊の地をケンネレテよりアラバの海すなはち鹽海まで之にあたへて東の方ピスガの麓にいたる 18 その時我なんぢらに命じて言ひ汝らの神エホバの地を汝らに與へて産業となさしめたまへば汝ら軍人に身をよるひて汝らの兄弟なるイスラエルの子孫に先だちて涉りゆくべし 19 但し汝らの妻と子女と家畜は我が汝らに與へし邑に止るべし我なんぢらが衆多の家畜を有るを知らず 20 エホバなんぢらに賜ひしごとく汝らの兄弟にも安息を賜ひて彼らもまたヨルダンの彼旁にて汝らの神エホバにたまはるところの地を獲て産業となすに至らば汝らのおの我なんぢらに與へし産業に歸るべし 21 かの時に我ヨシユアに命じて言ひ汝はこの二人の王に汝らの神エホバのおこなひたまふ所の事を目に視たりエホバまた汝が往ところの諸の國にも斯のごとく行ひたまはる 22 汝これを懼る勿れ汝らの神エホバ汝らのために戦ひたまはんと 23 當時われエホバに求めて言ひ 24 主エホバよ汝は汝の大なる事と汝の強き手を僕に見すことを始めたまへり天にても地にても何の神か能なんぢの如き事業を爲し汝のごとき能力を有んや 25 願くは我をして涉りゆかしめヨルダンの彼旁なる美地美山およびレバノンを見ことを得させたまへと 26 然るにエホバなんぢらの故をもて我を怒り我に聽ことを爲たまはずエホバすなはち我に言たまひけるは既に足りこの事を重て我に言なかれ 27 汝ピスガの嶺にのぼり目を擧て西南東を望み汝の目をもて其地を觀よ汝はヨルダンを濟ることを得ざるべければなり 28 汝ヨシユアに命じて力をつけ之を堅うせよ其はこの民を率ゐて涉りゆき之に汝が見るところの地を獲さする者は彼なればなりと 29 かくて我らはベテベオルに對する谷に居る

Chapter 4

1 今イスラエルよ我が汝らに教ふる法度と律法を聽てこれを行へ然せば汝らは生ることを得汝らの先祖の神エホバの汝らに賜ふ地にいりて之を産業となすを得べし 2 我が汝らに命ずる言は汝らこれを増しまたは減すべからず我が汝らに命ずる汝らの神エホバの命令を守るべし 3 汝らはエホバがバアルベオルの事によりて行ひたまひし所を目に觀たり即ちバアルベオルに従ひたる人々は汝の神エホバのごとく之を汝らの中間より滅し去たまひしが 4 汝らの神エホバに附て離れざりし汝等はみな今日までも生ながらへ居るなり 5 我はわが神エホバの我に命じたまひし如くに法度と律法を汝らに教へ汝らを

してその往て獲ところの地において之を行はしめんとせり 6 然ば汝ら之を守り行ふべし然する事は國々の民の目の前において汝らの智慧たり汝らの知識たるなり彼らこの諸の法度を聞て言んこの大なる國人は必ず智慧あり知識ある民なりと 7 われらの神エホバは我らがこれに頼もとむるに常に我らに近く在すなり何の國人が斯のごとく大にして神これに近く在すぞ 8 また何の國人か斯のごとく大にして今日我が汝らの前に立るこの一切の律法の如き正しき法度と律法とを有るぞ 9 汝深く自ら慎み汝の心を善く守れ恐くは汝その目に觀たる事を忘れん恐くは汝らの生存らぶる日の中に其等の事汝の心を離れん 汝それらの事を汝の子汝の孫に教へよ 10 汝がホレブにおいて汝の神エホバの前に立る日にエホバわれに言たまひけらく我ために民を集めよ我これに吾言を聽しめ之をしてその世に存らぶる日の間我を畏ることを學ばせまたその子女を教ふることを爲しめんとすと 11 是において汝らは前みよりて山の麓に立ちけるが山は火にて焼てその燄は中天に沖り暗くして雲あり黒雲深かりき 12 時にエホバ火の中より汝らに言ひたまひしが汝らは言詞の聲を聞る而已て聲の外は何の像を見ざりし 13 エホバすなはち其契約を汝らに述て汝らに之を守れと命じたまへり是すなはち十誡にしてエホバこれを二枚の石の板に書したまふ 14 かの時にエホバ我に命じて汝らに法度と律法を教へしめたまへり是汝らにその往て獲ところの地にて之を爲しめんとてなりき 15 ホレブにおいてエホバ火の中より汝らに言ひたまひし日には汝ら何の像を見ざりしなり然ば汝ら深く自ら慎み 16 道をあやまりて自己のために偶像を刻む勿れ物の像は男の形にもあれ女の形にもあれ凡て造るなかれ 17 即ち地の上にをる諸の獸の像空に飛ぶ諸の鳥の像 18 地に匍ふもろもろの物の像地の下の水の中に居る諸の魚の像など凡て造る勿れ 19 汝目をあげて天を望み日月星辰など凡て天の衆群を觀誘はれてこれを拝み之に事ふる勿れ是は汝の神エホバが一天下の萬國の人々に分ちたまひし者なり 20 エホバ汝らを取り汝らを鐵の爐の中すなはちエジプトより導きいだして自己の産業の民となしたまへること今日のごとし 21 然るにエホバなんぢらの故によりて我を怒り我はヨルダンを濟りゆくことを得ずまた汝の神エホバが汝の産業に賜ひしその美地に入ることを得ずと誓ひたまへり 22 我はこの地に死ざるを得ず我はヨルダンを濟りゆくことあたはずなんぢらは濟りゆきて之を獲て産業となすことを得ん 23 汝ら自ら慎み汝らの神エホバが汝らに立たまひし契約を忘れて汝の神エホバの禁じたまふ偶像など凡て物の像を刻むことを爲なかれ 24 汝の神エホバは燬盡す火嫉妬神なり 25 汝ら子を擧げ孫を得てその地に長く居におよびて若し道をあやまりて偶像など凡て物の像を刻み汝の神エホバの怒と觀たまふ事をなしてその震怒を惹おこすことあらば 26 我今

日天と地を呼て證となす汝らはかならずそのヨルダンを濟りゆきて獲たる地より速かに滅亡うせん汝らはその上に汝らの日を永うする能はず必ず滅びうせん 27 エホバなんぢらを國々に散したまへしエホバの汝らを逐やりたまふ國々の中に汝らの遺る者はその數寡なからん 28 其處にて汝らは人の手の作なる見ことも聞ことも食ふことも嗅ぐこともなき木や石の神々に事へん 29 但しまた其處にて汝その神エホバを求むるあらんに若し心をつくし精神を盡してこれを求めなば之に遇ん 30 後の日にいたりて汝艱難にあひて此もろもろの事の汝に臨まん時に汝もしその神エホバにたち歸りてその言にしたがはば 31 汝の神エホバは慈悲ある神なれば汝を棄ず汝を滅さずまた汝の先祖に誓ひたりし契約を忘れたまはざるべし 32 試に問へ汝の前に過さりし日神が地の上に人を造りたまひし日より已來天の此極より彼極までに曾て斯のごとき大なる事ありしや是のごとき事の聞えたる事ありしや 33 曾て人神が火の中より言ふ聲を汝らが聞るごとくに聞て尚生る者ありしや 34 汝らの神エホバがエジプトにおいて汝らの目の前にて汝らの爲に諸の事を爲たまひし如く曾て試探と徴證と奇蹟と戰爭と強き手と伸たる腕と大なる恐嚇をもて來りこの民をかの民の中より領いさんとせし神ありしや 35 汝にこの事を示ししはエホバはすなはち神にしてその外には有ることなしと汝に知しめんがためなりき 36 汝を教へんためにエホバ天より汝に聲を聞しめ地に於てはまたその大なる火を汝に示したまへり即ち汝はその言の火の中より出るを聞き 37 エホバ汝の先祖等を愛したまひしが故にその後の子孫を選び大なる能力をもて親ら汝をエジプトより導き出したまひ 38 汝よりも大にして強き國々の民を汝の前より逐はらひ汝をその地に導きいりて之を汝の産業に與へんとしたまふこと今日のごとなり 39 然ば汝今日知て心に思念べし是は天下は地においてエホバは神にいましその外には神有ること無し 40 今日わが汝に命ずるエホバの法度と命令を守るべし然せば汝と汝の後の子孫祥を得汝の神エホバの汝にたまふ地において汝その日を永うすることを得て疆なからん 41 斯てモーセ、ヨルダンの此旁日の出る方にないて邑三を別てり 42 是素より怨なきに誤りて人を殺せる者をして其處に逃れしむる爲なり其邑の一に逃る時はその人生命を全うするを得べし 43 即ち一は曠野の内の平野にあるベゼルは是はルベン人のためなり一はギレアデのラモテは是はガド人のためなり一はバシヤンのゴランは是はマナセ人のためなり 44 モーセがイスラエルの子孫の前に示しし律法は是なり 45 イスラエルの子孫のエジプトより出たる後モーセこの誠命と法度と律法を之に述たり 46 即ちヨルダンの此旁なるアモリ人の王シホンの地にありベテベオルに對する谷に於て之を述たりシホンはヘシボンに住りしがモーセとイスラエルの子孫エジプトより出きたりし後これを

撃ほろぼして 47 之が地を獲またバシヤンの王オグの地を獲たり彼ら二人はアモリ人の王にしてヨルダンの此旁日の出る方に居り 48 その獲たる地はアルノン河の邊なるアロエルよりヘルモンといふシオノン山にいたり 49 ヨルダンの此旁すなはちその東の方なるアラバの全部を括てアラバの鹽海に達しピスガの麓におよべり

Chapter 5

1 茲にモーセ、イスラエルをことごとく召て之に言ふイスラエルよ今日我がなんぢらの耳に語るところの法度と律法とを聽きこれを學びこれを守りて行へよ 2 我らの神エホバ、ホレブに於て我らと契約を結びたまへり 3 この契約はエホバわれらの先祖等とは結ばずして我ら今日此に生存へる者と結びたまへり 4 エホバ山において火の中より汝らと面をあはせて言ひたまひしが 5 その時我はエホバと汝らの間にたちてエホバの言を汝らに傳へたり汝らに懼れて山にのぼり得ざりければなり 6 エホバすなはち言たまひけらく我は汝の神エホバ汝をエジプトの地その奴隸たる家より導き出せし者なり 7 汝わが面の前に我の外何物をも神とすべからず 8 汝自己のために何の偶像をも彫むべからず又は天に在る者下は地にある者ならびに地の下の水の中にある者の何の形状をも作るべからず 9 之を拝むべからず之に事ふべからず我エホバ汝の神は嫉む神なれば我を惡む者にむかひては父の罪を子に報いて三四代におよぼし 10 我を愛しわが誠命を守る者には恩恵を施して千代にいたるなり 11 汝の神エホバの名を妄に口にあぐべからずエホバは己の名を妄に口にあぐる者を罰せではおかざるべし 12 安息日を守りて之を聖潔すること汝の神エホバの汝に命ぜしごとくすべし 13 六日のあひだ勞きて汝の一切の業を爲べし 14 七日は汝の神エホバの安息なれば何の業務をも爲べからず汝も汝の男子女子も汝の僕婢も汝の牛驢馬も汝の諸の家畜も汝の門の中に入る他國の人も然り斯なんぢ僕婢をして汝とおなじく息ましむべし 15 汝誌ゆべし汝かつてエジプトの地に奴隸たりしに汝の神エホバ強き手と伸べたる腕とをもて其處より汝を導き出したまへり是をもて汝の神エホバなんぢに安息日を守れと命じたまふなり 16 汝の神エホバの汝に命じたまふごとく汝の父母を敬へ是汝の神エホバの汝に賜ふ地において汝の日の長からんため汝に祥のあらんためなり 17 汝殺す勿れ 18 汝姦淫する勿れ 19 汝盜むなかれ 20 汝その隣に對して虚妄の證據をたつる勿れ 21 汝その隣人の妻を貧るなかれまた隣人の家 田野 僕 婢 牛 驢馬ならびに凡て汝の隣人の所有を貧るなかれ 22 是等の言をエホバ山において火の中雲の中黒雲の中より大なる聲をもて汝らの全會衆に告たまひしが此外には言ことを爲ず之を二枚の石の版に書して我に授けたまへり

23時にその山は火にて焼をりしが汝ら黑暗の中よりその聲の出るを聞におよびて汝らの支派の長および長老等我に進みよきて 24 言けるは視よ我らの神アホバその榮光とその大なる事を我らに示したまひて我らその聲の火の中より出るを聞き我ら今日アホバ人と言ひたまふてその人の尚生るを見る 25 我らなんぞ死にいたるべけんや此大なる火われらを焼ほるばさんとするなり我らもし此上になほ我らの神アホバの聲を聞ば死べし 26 凡そ肉身の者の中誰か能く活神の火の中より言ひたまふ聲を我らのごとくに聞てなほ生る者あらんや 27 請ふ汝進みゆきて我らの神アホバの言たまふところを都て聞き我らの神アホバの汝に告給ふところを都て我らに告よ我ら聽て行はんと 28 アホバなんぢらが我に語れる言の聲を聞てアホバ我に言たまひけるは我この民が汝に語れる言の聲を聞き彼らの言ところは皆善し 29 只願し恒は彼等が斯のごとき心を懷いて但に我を畏れ吾が誠命を守りてその身もその子孫も永く福祉を得にいたらん事なり 30 汝ゆきて彼らに言へ汝らおのおのその天幕にかへるべしと 31 然ど汝は此にて我傍に立て我なんぢに諸の誠命と法度と律法とを告しめさん汝これを彼らに教へ我が彼らに與へて産業となさしむる地において彼らにこれを行はしむべしと 32 然ば汝らの神アホバの汝等に命じたまふごとくに汝ら謹みて行ふべし右にも左にも曲るべからず 33 汝らの神アホバの汝らに命じたまふ一切の道に歩め然せば汝らは生ることを得かつ福祉を得て汝らの産業とする地に汝らの日を長うすることを得ん

Chapter 6

1是すなはち汝らの神アホバが汝らに教へよと命じたまふところの誠命と法度と律法とにして汝らがその濟りゆきて獲ところの地にて行ふべき者なり 2是は汝と汝の子および汝の孫をしてその生命ながらふる日の間つねに汝の神アホバを畏れしめて我が汝らに命ずるその諸の法度と誠命とを守らしめんため又なんぢの日を永からしめんための者なり 3 然ばイスラエルよ聽て謹んでこれを行へ然せば汝は福祉を獲汝の先祖の神アホバの汝に言たまひしごとく乳と蜜の流るる國にて汝の數おほいに増ん 4 イスラエルよ聽け我らの神アホバは唯一のアホバなり 5 汝心を盡し精神を盡し力を盡して汝の神アホバを愛すべし 6 今日わが汝に命ずる是らの言は汝これをその心にあらしめ 7 動て汝の子等に教へ家に坐する時も路を歩む時も寝る時も興る時もこれを語るべし 8 汝またこれを汝の手に結びて號となし汝の目の間におきて誌となし 9 また汝の家の柱と汝の門に書すべし 10 汝の神アホバの汝の先祖アブラハム、イサク、ヤコブにむかひて汝に與んと誓ひたりし地に汝を入しめん時は汝をして汝が建たる者にあらざる大なる美しき邑々を得させ 11 汝が盈せるに非る

諸の佳物を盈せる家を得させ汝が掘たる者にあらざる堀井を得させたまふべし汝は食ひて飽ん 12 然る時は汝慎め汝をエジプトの地奴隷たる家より導き出しアホバを忘るる勿れ 13 汝の神アホバを畏れてこれに事へその名を指て誓ふことをすべし 14 汝ら他の神々すなはち汝の四周なる民の神々に従ふべからず 15 汝らの中にいます汝の神アホバは嫉妬神なれば恐くは汝の神アホバ汝にむかひて怒を發し汝を地の面より滅し去たまはん 16 汝マツサにおいて試みしごとく汝の神アホバを試むるなかれ 17 汝らの神アホバの汝らに命じたまへる誠命と律法と法度とを汝ら謹みて守るべし 18 汝アホバの義と視善と視たまふ事を行ふべし然せば汝福祉を獲かつアホバの汝の先祖に誓ひたまひしかの美地に入てこれを産業となすことを得ん 19 アホバまたその言たまひし如く汝の敵をことごとく汝の前より逐はらひたまはん 20 後の日に至りて汝の子なんぢに問てこの汝らの神アホバが汝らに命じたまひし誠命と法度と律法とは何のためなるやと言ば 21 汝その子に告て言べし我らは昔エジプトにありてパロの奴隷たりしがアホバ強き手をもて我らをエジプトより導き出したまへり 22 即ちアホバわれらの目の前において大なる畏るべき徴と奇蹟をエジプトとパロとその全家とに示したまひ 23 我らを其處より導き出して其曾て我等の先祖に誓ひし地に我らを入れて之を我らに與へたまへり 24 而してアホバ我らにこの諸の法度を守れと命じたまふはわれらをして我らの神アホバを畏れて常に幸ならしめんため又アホバ今日のごとく我らを守りて生命を保たしめんとてなりき 25 我らもしその命ぜられたるごとく此一切の誠命を我らの神アホバの前に謹んで守らば是われらの義となるべしと

Chapter 7

1 汝の神アホバ汝が往て獲べきところの地に汝を導きいり多の國々の民へテ人ギルガシ人アモリ人カナ人ペリジ人ヒビ人エブス人など汝よりも數多くして力ある七の民を汝の前より逐はらひたまはん時 2 すなはち汝の神アホバかれらを汝に付して汝にこれを撃せたまはん時は汝かれらをことごとく滅すべし彼らと何の契約をもなすべからず彼らを憐むべからず 3 また彼らと婚姻をなすべからず汝の女子を彼の男子に與ふべからず彼の女子を汝の男子に娶るべからず 4 其は彼ら汝の男子を惑はして我を離れしめ之をして他の神々に事へしむるありてアホバこれがために汝らにむかひて怒を發し俄然に汝を滅したまふにいたるべければなり 5 汝らは反て斯かれらに行ふべし即ちかれらの壇を毀ちその偶像を打擡きそのアシラ像を研たふし火をもてその雕像を焚べし 6 其は汝は汝の神アホバの聖民なればなり汝の神アホバは地の面の諸の民の中より汝を擇びて己の寶の民となしたまへり 7 エ

ホバの汝らを愛し汝らを選びたまひしは汝らが萬の民よりも數多かりしに因にあらざ汝らは萬の民の中にて最も小き者なればなり 8 但アホバ汝らに愛するに因りまた汝らの先祖等に誓ひ誓を保たんとするに因てアホバ強き手をもて汝らを導きいだし汝らを其奴隷たりし家よりエジプトの王パロの手より贖ひだしたまへるなり 9 汝知べし汝の神アホバは神にましまし眞實の神にましまして之を愛しその誠命を守る者には契約を保ち恩恵をほどこして千代にいたり 10 また之を惡む者には靦面にその報をなしてこれを滅ぼしたまふアホバは己を惡む者には緩ならず靦面にこれに報いたまふなり 11 然ば汝わが今日汝に命ずるところの誠命と法度と律法とを守りてこれを行ふべし 12 汝らもし是らの律法を聞きこれを守り行はば汝の神アホバ汝の先祖等に誓ひし契約を保ちて汝に恩恵をほどこしたまはん 13 即ち汝を愛し汝を恵み汝の數を増したまひその昔なんぢに與へんと汝らの先祖等に誓たりし地において汝の兒女をめぐみ汝の地の産物穀物酒油等を殖し汝の牛の産汝の羊の産を増たまふべし 14 汝は恵まること萬の民に愈らん汝らの中および汝らの家畜の中には男も女も子なき者は無るべし 15 アホバまた諸の疾病を汝の身より除きたまひ汝らを知る彼のエジプトの惡き病を汝の身に臨ましめず但汝を惡む者に之を臨ませたまふべし 16 汝は汝の神アホバの汝に付したまはんところの民をことごとく滅すべし彼らを憐み見べからずまた彼らの神に事ふべからずその事汝の害となればなり 17 汝是らの民は我よりも衆ければ我いかでか之を逐はらふことを得んと心に謂ふか 18 汝かれらを懼るるなかれ汝の神アホバがパロとエジプトに爲たまひしところの事を善く憶えよ 19 即ち汝が眼に見たる大なる試煉と徴證と奇蹟と強き手と伸たる腕とを憶えよ汝の神アホバこれをもて汝を導き出したまへり是のごとく汝の神アホバまた汝が懼るる一切の民に爲たまふべし 20 即ち汝の神アホバ黄蜂を彼らの中に遣りて終に彼らの遣れる者と汝の面を避て匿れたる者とを滅したまはん 21 汝かれらを懼るる勿れ其は汝の神アホバ能力ある畏るべき神汝らの中にいませばなり 22 汝の神アホバ是等の國人を漸々に汝の前より逐はらひたまはん汝は急速に彼らを滅すべしす可らず恐くは野の獸殖て汝に逼らん 23 汝の神アホバかれらを汝に付し大にこれを懼れ慄かして汝にこれを滅し盡し 24 彼らの王等を汝の手に付したまはん汝かれらの名を天が下より削るべし汝には當ることを得る者なくして汝つひに之を滅ぼし盡すに至らん 25 汝かれらの神の雕像を火にて焚べし之に著せたる銀あるひは金を貧るべからず之を己に取べからず恐くは汝これに因て害にからん是は汝の神アホバの憎みたまふ者なれば也 26 憎むべき物を汝の家に携へるべからず恐くは汝も其ごとくに詣はる者とならん汝これを大に忌み痛く嫌ふべし是は詛ふべ

き者なればなり

Chapter 8

1 我が今日なんぢに命ずるところの諸の誠命を汝ら謹んで行ふべし然せば汝ら生ることを得かつ殖増しアホバの汝の先祖等に誓たまひし地に入てこれを産業となすことを得ん 2 汝記念べし汝の神アホバこの四十年の間汝をして曠野の路に歩ましめたまへり是汝を苦しめて汝を試験み汝の心の如何なるか汝がその誠命を守るや否やを知んためなりき 3 即ち汝を苦しめ汝を饑しめたまふ汝も知ず汝の先祖等も知ざるところのマナを汝らに食はせたまへり是人はパン而已にて生る者にあらず人はアホバの口より出る言によりて生る者なりと汝に知しめんが爲なり 4 この四十年のあひだ汝の衣服は古びて朽す汝の足は腫ざりし 5 またまた心に念ふべし人のその子を懲戒ごとく汝の神アホバも汝を懲戒たまふなり 6 汝の神アホバの誠命を守りその道にあゆみてこれを畏るべし 7 汝の神アホバ汝をして美地に到らしめたまふは是谷にも山にも水の流あり泉あり瀧水ある地 8 小麥 大麥 葡萄 無花果および石榴ある地 9 汝の食ふ食物に缺るところなく汝に何も乏しきところあらざる地なりその地の石はすなはち鐵その山よりは銅を掘とるべし 10 汝は食ひて飽き汝の神アホバにその美地を己にたまひし事を謝すべし 11 汝わが今日なんぢに命ずるアホバの誠命と律法と法度とを守らずして汝の神アホバを忘るるにいたらざるやう慎めよ 12 汝食ひて飽き美しき家を建て住ふに至り 13 また汝の牛羊殖増し汝の金銀殖増し汝の所有みな殖増にいたらん時に 14 恐くは汝心に驕りて汝の神アホバを忘れんアホバは汝をエジプトの地奴隷たる家より導き出し 15 汝をみちびきて彼の大にして畏るべき曠野すなはち蛇火の蛇蠍などありて水あらざる乾ける地を通り汝らのために堅き磐の中より水を出し 16 汝の先祖等の知ざるマナを曠野にて汝に食せたまへり是みな汝を苦しめ汝を試みて終に福祉を汝にたまはんとてなりき 17 汝我力とわが手の動作によりて我この寶財を得たりと心に謂なれ 18 汝の神アホバを憶えよ其はアホバ汝に寶財を得る力をたまふなればなり斯したまふは汝の先祖等に誓し契約を今日の如く行はんとてなり 19 汝もし汝の神アホバを忘れ果て他の神々に従がひ之に事へこれを拜むことを爲ば我今日汝らに證をなす汝らはかならず滅亡ん 20 アホバの汝の前に滅ぼしたまひし國々の民のごとく汝らも滅亡べし是なんぢらの神アホバの聲に汝らしたがはざればなり

Chapter 9

1 イスラエルよ聽け汝は今日ヨルダンを濟りゆき汝よりも大にして強き國々に入てこれを取んとすその

邑々は大にして石垣は天に達り 2 その民は汝が知ところのアナクの子孫にして大かつ身長たかし汝また人の言るを聞き云く誰かアナクの子孫の前に立ことを得んと 3 汝今日知る汝の神エホバは燬つてす火にましまして汝の前に進みたまふとエホバかならず彼らを滅ぼし彼らを汝の前に攻伏たまはんエホバの汝に言たまひし如く汝かれらを逐はらひ速かに彼らを滅ぼすべし 4 汝の神エホバの汝の前より彼らを逐はらひたまはん汝に汝心に言なかれ云く我の義がためにエホバ我をこの地に導きいりてこれを獲させたまへりとそはこの國々の民の惡きがためにエホバ之を汝の前より逐はらひたまふなり 5 汝の往てその地を獲は汝の義によるにあらざる又なんぢの心直によるに非ずこの國々の民惡きが故に汝の神エホバこれを汝の前より逐はらひたまふなりエホバの斯したまふはまた汝の先祖アブラハム、イサク、ヤコブに誓たりし言を行はんとてなり 6 汝知る汝の神エホバの汝に此美地を與へて獲させたまふは汝の義きによるに非ず汝は項の強き民なればなり 7 汝曠野に於て汝の神エホバを怒せし事を憶えて忘る勿れ汝らはエジプトの地を出し日より此處にいたる日まで常にエホバに侍れり 8 ホレバにおいて汝らエホバを怒せればエホバ汝らを怒りて汝らを滅ぼさんとしたまへり 9 かの時われ石の板すなはちエホバの汝らに立たまへる契約を載る石の板を受んとて山に上り四十日四十夜山に居りパンも食す水も飲ざりき 10 エホバ我に神の指をもて書ししたる文字ある石の板二枚を授けたまへりその上には集會の日にエホバが山において火の中より汝らに告たまひし言をことごとく載す 11 すなはち四十日四十夜過し時エホバ我にその契約を載る板なる石の板二枚を授け 12 而してエホバ我に言たまひけるは汝起あがりて速かに此より下れ汝がエジプトより導き出しし民は惡き事を行ふなり彼らは早くもわが彼らに命ぜし道を離れて自己のために偶像を鑄造れりと 13 エホバまた我に言たまひけるは我この民を觀たり視よ是は項の強き民なり 14 我を阻むるなかれ我かれらを滅ぼしその名を天が下より抹さり汝をして彼らよりも強くまた大なる民とならしむべし 15 是に於て我身をめぐらして山を下りけるが山は火にて焼をる又その契約の板二枚はわが兩の手にあり 16 斯て我觀しに汝らはその神エホバにむかひて罪を犯し自己のために犢を鑄造りて早くもエホバの汝らに命じたまひし道を離れたりしかば 17 我その二枚の板をとりてわが兩の手よりこれを擲ち汝らの目の前にこれを碎けり 18 而して我は前のごとく四十日四十夜エホバの前に伏て居りパンも食す水も飲ざりき是は汝らエホバの目の前に惡き事をおこなひ之を怒せて大に罪を獲たればなり 19 エホバ忿怒を發し憤恨をおこし汝らを怒りて滅ぼさんとしたまひしかば我懼れたりしが此度もまたエホバ我に聽たまへり 20 エホバまた痛くアロンを怒りてこれを滅ぼさん

としたまひしかば我その時またアロンのために祈れり 21 斯て我なんぢらが作りて罪を犯しし犢を取り火をもて之を焼きこれを搗きこれを善く打碎きて細き塵となしその塵を山より流れ下るところの深流に投棄たり 22 汝らはタベラ、マツサおよびキプロテハツタワにおいてもまたエホバを怒らせたり 23 またエホバ、カデシバルネアより汝らを遣さんとせし時言たまひけるは汝ら上りゆきて我がなんぢらに與ふる地を獲て産業とせよと然るに汝らはその神エホバの命に悖り之を信ぜずまたその言を聽ざりき 24 我が汝らを識し日より以來汝らは常にエホバに悖りしなり 25 かの時エホバ汝らを滅さんと言たまひしに因て我最初に伏たる如く 26 四十日四十夜エホバの前に伏し 27 エホバに祈りて言けるは主エホバよ汝その大なる權能をもて贖ひ強き手をもてエジプトより導き出しし汝の民汝の産業を滅したまふ勿れ 27 汝の僕アブラハム、イサク、ヤコブを念たまへ此民の剛愎と惡と罪とを鑑みたまふ勿れ 28 恐くは汝が我らを導き出したまひし國の人言んエホバその約せし地にかれらを導きいること能はざるに因りまた彼らを惡むに因て彼らを導き出して曠野に殺せりと 29 仰かれら汝の民汝の産業にして汝が強き能力をもて腕を伸て導き出したまひし者なり

Chapter 10

1 かの時エホバ我に言たまひけるは汝石の板二枚を前のごとくに研て作りまた木の櫃一箇を作りて山に登り來れ 2 汝が碎きしかの前の板に載たる言を我その板に書さん汝これをその櫃に蔵むべし 3 我すなはち合歡木をもて櫃一箇を作りまた石の板二枚を前のごとくに研て作りその板二枚を手に執て山に登りしかば 4 エホバかの集會の日に山において火の中より汝らに告たるその十誡を前に書したるごとくその板に書し而してエホバこれを我に授けたまへり 5 是に於て我身を轉らして山より下りその板を我が造りしかの櫃に蔵めたり 今なほその中にありエホバの我に命じたまへる如し 6 斯てイスラエルの子孫はヤカン人の井より出たちてモセラにいたれりアロン其處に死て其處に葬られその子エレアザルこれに代りて祭司となれり 7 又其處より出たちてグデゴダにいたりグデゴダより出たちてヨテバにいたりこの地には水の流多かりき 8 かの時エホバ、レビの支派を區分てエホバの契約の櫃を昇しめエホバの前に立てこれに事へしめ又エホバの名をもて祝することを爲せたまへり其事今日にいたる 9 是をもてレビはその兄弟等の中に分なくまた産業なし惟エホバその産業たり汝の神エホバの彼に言たまへる如し 10 我は前の日數のごとく四十日四十夜山に居しがエホバその時にもまた我に聽たまへりエホバ汝を滅すことを好みたまはざりき 11 斯てエホバ我に言たまひけるは汝起あがり民に先だちて進み行き彼ら

をして我が之に與へんとその先祖に誓ひたる地に入てこれを獲せしめよ 12 イスラエルよ今汝の神エホバの汝に要めたまふ事は何ぞや惟是のみ即ち汝がその神エホバを畏れその一切の道に歩み之を愛し心を盡し精神を盡して汝の神エホバに事へ 13 又我が今日汝らに命ずるエホバの誠命と法度とを守りて身に福祉を得るの事のみ 14 夫天と諸天の天および地と その中にある者は皆汝の神エホバに屬す 15 然るにエホバただ汝の先祖等を悦びて之を愛しその後の子孫たる汝らを萬の民の中より選びたまへり今日のごとし 16 然ば汝ら心に割禮を行へ重て項を強くする勿れ 17 汝の神エホバは神の神主の最大にしてかつ權能ある畏るべき神にましまして人を偏り視ずまた賄賂を受す 18 孤兒と寡婦のために審判を行ひまた旅客を愛してこれに食物と衣服を與へたまふ 19 汝ら旅客を愛すべし其は汝らもエジプトの國に旅客たりし事あればなり 20 汝の神エホバを畏れ之に事へこれに附従がひその名を指て誓ふことをすべし 21 彼は汝の讃べき者また汝の神にして汝が目に見たる此等の大なる畏るべき事業をなしたまへり 22 汝の先祖等は僅か七十人にてエジプトに下りたりしに今汝の神エホバ汝をして天空の星のごとくに多くならしめたまへり

Chapter 11

1 然ば汝の神エホバを愛し常にその職守と法度と律法と誠命とを守るべし 2 汝らの子女は知ずまた見ざれば我これに言ず惟汝らに言ふ汝らは今日すでに汝らの神エホバの懲戒とその大なる事とその強き手とその伸たる腕とを知り 3 またそのエジプトの中においてエジプト王パロとその全國にむかひておこなひたまひし徴證と行爲とを知り 4 またエホバがエジプトの軍勢とその馬とその車とに爲たまひし事すなはち彼らが汝らの後を追きたれる時に紅海の水を彼らの上に覆ひかからしめ之を滅ぼして今日までその跡方なからしめし事を知り 5 また此處にいたるまで曠野に於て汝らに爲たまひし事等を知り 6 またそのルベンの子孫なるエリアブの子等ダタンとアビラムに爲たまひし事すなはちイスラエルの全家の眞中において地その口を啓きて彼らとその家族とその天幕とその足下に立つ者とを呑つくしし事を知なり 7 即ち汝らはエホバの行ひたまひし此諸の大なる作爲を目に觀たり 8 然ば汝ら我今日汝らに命ずる誠命を盡く守るべし然せば汝らは強くなり汝らが濟りゆきて獲んとする地にいりて之を獲ことを得 9 またエホバが汝らと汝らの後の子孫にあたへんと汝らの先祖等に誓たまひし地乳と蜜との流る國において汝らの日を長うすることをを得ん 10 汝らが進みいりて獲んとする地は汝らが出來りしエジプトの地のごとくならず彼處にては汝ら種を播き足をもて之に灌漑げりその状蔬菜園におけるが如し 11 然ど汝ら濟りゆきて獲ところの地は

山と谷の多き地にして天よりの雨水を吸ふなり 12 その地は汝の神エホバの顧みたまふ者にして年の始より年の終まで汝の神エホバの目常にその上に在り 13 汝らもし我今日なんぢらに命ずる吾命令を善守りて汝らの神エホバを愛し心を盡し精神を盡して之に事へなば 14 我なんぢらの地の雨を秋の雨春の雨とも時に隨ひて降し汝らをしてその穀物を收入しめ且酒と油を獲せしめ 15 また汝の家畜のために飽に草を生ぜしむべし汝は食むに飽ん 16 汝ら自ら慎むべし心迷ひ翻へりて他の神々に事へこれを拝む勿れ 17 恐くはエホバ汝らにむかひて怒を發して天を閉たまひ雨ふらず地物を生ぜずなりて汝らの神エホバに賜る美地より速かに滅亡に至らん 18 汝ら是等の我言を汝らの心と魂との中に蔵めたまは汝らの手に結びて微となし汝らの目の間におきて誌となし 19 之をなんぢらの子等に教へ家に坐する時も路を歩む時も寝る時も興る時もこれを語り 20 また汝の家の柱となんぢの門に之を書記べし 21 然せばエホバが汝らの先祖等に與へんと誓ひたまひし地に汝らのをる日および汝らの子等のをる日は數多くして天の地を覆ふ日の久きが如くならん 22 汝らもし我が汝らに命ずる此一切の誠命を善く守りてこれを行ひ汝等の神エホバを愛しその一切の道に歩み之に附従がはば 23 エホバこの國々の民をことごとく汝らの前より逐はらひたまはん而して汝らは己よりも大にして能力ある國々を獲にいたるべし 24 凡そ汝らが足の躓にて踏む處は皆汝らの有とならん即ち汝らの境界は曠野よりレバノンに亘りまたユフラテ河といふ河より西の海に亘るべし 25 汝らの前に立ことを得る人あらざらぬ汝らの神エホバ汝ら踏むところの地の人々をして汝らを怖ぢ汝らを畏れしめたまふこと其嘗て汝らに言たまひし如くならん 26 視よ我今日汝らの前に祝福と呪詛とを置く 27 汝らもし我が今日なんぢらに命ずる汝らの神エホバの誠命に遵はば祝福を得ん 28 汝らもし汝らの神エホバの誠命に遵はず翻へりて我が今日なんぢらに命ずる道を離れ素知ざりし他の神々に從がひなば呪詛を蒙らん 29 汝の神エホバ汝が往て獲んとする地に汝を導きいりたまふ時は汝ゲリジム山に祝福を置きエバル山に呪詛をおくべし 30 この二山はヨルダンの彼旁アラバに住るカナン人の地において日の出る方の道の後にありギルガルに對ひてモレの橡樹と相去こと遠らざるにあらざるや 31 汝らはヨルダンを濟り汝らの神エホバの汝らに賜ふ地に進みいりて之を獲んとす必ずこれを獲て其處に住ことを得ん 32 然ば我が今日なんぢらに授くところの法度と律法を汝らことごとく守りて行ふべし

Chapter 12

1 是は汝の先祖等の神エホバの汝に與へて獲させたまふところの地において汝ら世に生存ふる日の間

常に守り行ふべき法度と律法となり 2 汝らが逐はらふ國々の民がその神々に事へし處は山にある者も岡にある者も青樹の下にある者もみな之を盡く毀ち 3 その壇を毀ちその柱を碎きそのアシラ像を火にて焼きまたその神々の雕像を斫倒して之が名をその處より絶去べし 4 但し汝らの神エホバには汝ら是のごとく爲べからず 5 汝らの神エホバがその名を置んとて汝らの支派の中より擇びたまふ處なるエホバの住居を汝ら尋ね求めて其處にいたり 6 汝らの燔祭と犠牲汝らの什一と汝らの手の擧祭汝らの願還と自意の禮物および汝らの牛羊の首出等を汝ら其處に携へ詣り 7 其處にて汝らの神エホバの前に食をなし又汝らと汝らの家族皆その手を勞して獲たる物をもて快樂を取べし是なんぢの神エホバの祝福によりて獲たるものなればなり 8 汝ら彼處にては我らが今日此に爲ごとく各々その目に善と見とこらるを爲べからず 9 汝らはいまだ汝らの神エホバの賜ふ安息と産業にいたらざるなり 10 然ど汝らヨルダンを渡り汝らの神エホバの汝らに與へて獲させたまふ地に住にいたらん時またエホバ汝らの周圍の敵を除き汝らに安息を賜て汝等安泰に住ふにいたらん時は 11 汝らの神エホバその名を置んために一の處を擇びたまはん汝ら其處に我が命ずる物を都て携へゆくべし即ち汝らの燔祭と犠牲と汝らの什一と汝らの手の擧祭および汝らがエホバに誓願をたてて獻んと誓ひし一切の佳物とを携へいたるべし 12 汝ら汝らの男子女子僕婢とともに汝らの神エホバの前に樂むべしまた汝らの門の内にをるレビ人も然すべし其は汝らの中間に分なく産業なき者なればなり 13 汝ら慎め凡て汝が自ら擇ぶ處にて燔祭を獻ることをする勿れ 14 唯汝らの支派の一の中にエホバの選びたまはんその處に於て汝ら燔祭を獻けまた我が汝に命ずる一切の事を爲べし 15 彼處にては汝の神エホバの汝にたまふ祝福に循て汝その心に好む獸畜を汝の門の内に殺してその肉を食ふことを得即ち汚れたる人も潔き人もこれを食ふを得ること 16 但しその血は食ふべからず水の如くにこれを地に灌ぐべし 17 汝の穀物と酒と油の汁一および汝の牛羊の首出ならびに汝が立し誓願を還すための禮物と汝の自意の禮物および汝の手の擧祭の品は汝これを汝の門の内に食ふべからず 18 汝の神エホバの選びたまふ處において汝の神エホバの前に汝これを食ふべし即ち汝の男子女子僕婢および汝の門の内にをるレビ人とともに之を食ひ汝の手を勞して獲たる一切の物をもて汝の神エホバの前に快樂を取べし 19 汝慎め汝が世に生存ふる日の間レビ人を棄る勿れ 20 汝の神エホバ汝に言しごとく汝の境界を廣くしたまふに及び汝心に肉を食ふことを欲して言ん我肉を食はんと然る時は汝すべてその心に好む肉を食ふことを得べし 21 もし汝の神エホバのその名を置んとて擇びたまへる處汝と離るること遠からば我が汝に命ぜし如く汝そのエホバに

賜はれる牛羊を宰り汝の門の内にて凡てその心に好む者を食ふべし 22 牡鹿と羚羊を食ふがごとく汝これを食ふことを得汚れたる者も潔き者も均くこれを食ふことを得るなり 23 唯堅く慎みてその血を食はざれ血これが生命なればなり汝その生命を肉とともに食ふべからず 24 汝これを食ふ勿れ水のごとくにこれを地に灌ぐべし 25 汝血を食はざれ汝もしエホバの善と觀たをふ事を爲ば汝の身と汝の後の子孫とに福祉あらん 26 唯汝の獻げたる聖物と誓願の物とはこれをエホバの擇びたまふ處に携へゆくべし 27 汝燔祭を獻る時はその肉と血を汝の神エホバの壇に供ふべくまた犠牲を獻る時はその血を汝の神エホバの壇の上に灌ぎその肉を食ふべし 28 わが汝に命ずる是等の言を汝聽て守れ汝かく汝の神エホバの善と觀正と觀たまふ事を爲ば汝と汝の後の子孫に永く福祉あらん 29 汝の神エホバ汝が往て逐はらんとする國々の民を汝の前より絶去たまひて汝つひにその國々を獲てその地に住にいたらん時は 30 汝みづから慎め彼らが汝の前に亡びたる後汝かれらに倣ひて罣にかかる勿れまた彼らの神を尋求めこの國々の民は如何なる様にてその神々に事へたるか我もその如くにせんと言ことなけれ 31 汝の神エホバに向ひては汝然す可らず彼らはエホバの忌かつ憎みたまふ諸の事をその神にむかひて爲しその男子女子をさへ火にて焚てその神々に獻げたり 32 我が汝らに命ずるこの一切の言をなんぢら守りて行ふべし汝これを増なかれまた之を減すなかれ

Chapter 13

1 汝らの中に預言者あるひは夢者興りて徴證と奇蹟を汝に見し 2 汝に告て我らは今日汝と我とが是まで識ざりし他の神々に從ひて之に事へんと言ことあらんにその徴證または奇蹟これが言ごとく成とも 3 汝その預言者または夢者の言に聽したがふ勿れ其は汝等の神エホバ汝らが心を盡し精神を盡して汝らの神エホバを愛するや否やを知んとて斯なんぢらを試みたまふなればなり 4 汝らは汝らの神エホバに從ひて歩み之を畏れその誠命を守りその言に遵ひ之に事へこれに附從ふべし 5 その預言者または夢者をば殺すべし是は彼汝らをして汝らをエジプトの國より導き出し奴隸の家より贖ひ取る汝らの神エホバに背かせんとし汝の神エホバの汝に歩めと命ぜし道より汝を誘ひ出さんとして語るに因てなり 6 汝して汝の中より惡を除き去べし 7 汝の母の生る汝の兄弟または汝の男子女子または汝の懐の妻または汝と身命を共にする汝の友潜に汝を誘ひて言あらん汝も汝の先祖等も識ざりし他の神々に我ら往て事へん 7 即ち汝の周圍にある國々の神の或は汝に近く或は汝に遠くして汝の此極より地の彼極までに鎮り坐る者に我ら事へんと斯言ことあるとも 8 汝これに從ふ勿れ之に聽なかれ之を惜み視る勿

れ之を憐むなかれ之を庇ひ匿す勿れ 9 汝かならず之を殺すべし之を殺すには汝まづ之に手を下し然る後に民みな手を下すべし 10 彼はエジプトの國奴隸の家より汝を導き出したまひし汝の神エホバより汝を誘ひ離さんと求めたれば汝石をもて之を擊殺すべし 11 然せばイスラエルみな聞て懼れ重ねて斯る惡き事を汝らの中に行はざらん 12 汝聞に汝の神エホバの汝に與へて住しめたまへる汝の邑の一に 13 邪僻なる人々興り我らは今まで識ざりし他の神々に往て事へんと言てその邑に住む人を誘ひ惑はしたりと言あらば 14 汝これを尋ね探り善問べし若その事真にその言確にして斯る憎むべき事汝らの中に行はれたらば 15 汝かならずその邑に住む者を刃にかけて擊ころしその邑とその中に居る一切の者およびその家畜を刃にかけて盡く擊ころすべし 16 またその中より獲たる掠取物は凡てこれをその衢に集め火をもてその邑とそれの一切の掠取物をことごとく焚て汝の神エホバに供ふべし是は永く荒邱となりて再び建なほさること無るべきなり 17 斯汝この詛はれし物を少許も汝の手に附おく勿れ然せばエホバその烈しき怒を靜め汝に慈悲を加へて汝を憐れみ汝の先祖等に誓ひしごとく汝の數を衆くしたまはん 18 汝もし汝の神エホバの言を聽き我が今日なんぢに命ずるその一切の誠命を守り汝の神エホバの善と觀たまふ事を行はば是のごとくなるべし

Chapter 14

1 汝らは汝等の神エホバの子等なり汝ら死者のために己が身に傷くべからずまた己が目の間にあたる頂の髪を剃べからず 2 其は汝は汝の神エホバの聖民なればなりエホバは地の面の諸の民の中より汝を擇びて己の實の民となし給へり 3 汝穢はしき物は何をも食ふ勿れ 4 汝らが食ふべき獸畜は是なり即ち牛羊 山羊 5 牡鹿 羚羊 小鹿 麋 麂 鹿 6 凡て獸畜の中蹄の分れ割て二つの蹄を獻る反芻獸は汝ら之を食ふべし 7 但し反芻者と蹄の分れたる者の中汝らの食ふべからざる者は是なり即ち駱駝兔および山鼠是らは反芻とも蹄わかれざれば汝らには汚れたる者なり 8 また豚是は蹄わかるれども反芻ことをせざれば汝らには汚れたる者なり 9 汝らは是等の物の肉を食ふべからずまたその死體に捫るべからず 9 水にをる諸の物の中是のごとき者を汝ら食ふべし即ち凡て翅と鱗のある者は皆汝ら之を食ふべし 10 凡て翅と鱗のあらざる者は汝らこれを食ふべからず是は汝らには汚れたる者なり 11 また凡て潔き鳥は皆汝らこれを食ふべし 12 但し是等は食ふべからず即ち鵝 鶩 鷹 鶻 13 鸚鵡 黑鷹の類 14 各種の鴉の類 15 駝鳥 鶉 鶇 鶻の類 16 鶇 鶻 白鳥 17 鶉 鶇 鶻の類 18 鶇 鶻 鶇の類 鶇 鶻 鶇の類 19 また凡て羽翼ありて匍とこころの者は汝らには汚れたる者なり汝らこれを食ふべからず 20 凡

て羽翼をもて飛とこころの潔き物は汝らこれを食ふべし 21 凡そ自ら死たる者は汝ら食ふべからず汝の門の内にをる他國の人に之を與へて食しかべし又これを異邦人に賣も可し汝は汝の神エホバの聖民なればなり汝山羊をその母の乳にて煮べからず 22 汝かならず年々に田畝に種蒔て獲とこころの産物の什一を取べし 23 而して汝の神エホバの前すなはちエホバのその名を置んとて擇びたまはん處において汝の穀物と酒と油の什一を食ひまた汝の牛羊の首出を食ひ斯して汝の神エホバを常に畏ることを學ぶべし 24 但しその路行に勝がたくして之を携へいたること能はざる時または汝の神エホバのその名を置んとて擇びたまへる處汝を離ること餘りに遠き時は汝もその神エホバの恩恵に潤ふ身ならば 25 その物を金に易へその金を包みて手に執り汝の神エホバの擇びたまへる處に往き 26 凡て汝の心の好む物をその金に易べし即ち牛羊 葡萄酒 濃酒など 凡て汝が心に欲する物をもとめ其處にて汝の神エホバの前にこれを食ひ汝と汝の家族ともに樂むべし 27 汝の門の内にをるレビ人を棄る勿れ是は汝の中間に分なく産業なき者なればなり 28 三年の末に到る毎にその年の産物の十分の一を盡く持出してこれを汝の門の内に儲蓄ふべし 29 然る時は汝の中間に分なく産業なきレビ人および汝の門の内にをる他國の人と孤子と寡婦など來りてこれを食ひて飽ん斯せば汝の神エホバ汝が手をもて爲とこころの諸の事において汝に福祉を賜ふべし

Chapter 15

1 七年の終に至るごとに汝放釋を行ふべし 2 その放釋の例は是のごとし凡てその鄰近に貸ことを爲しその債主は之を放釋べしその鄰近またはその兄弟にこれを督促べからず是はエホバの放釋と稱へらるればなり 3 異國の人には汝これを督促ことを得されど汝の兄弟に貸たる物は汝の手よりこれを放釋べし 4 斯せば汝らの中間に貧者ならん其は汝の神エホバその汝に與へて産業となさしめたまふ地において大に汝を祝福たまふべければなり 5 只汝もし謹みて汝の神エホバの言に聽したがひ我が今日行ふに於て是のごとくなるべし 6 汝の神エホバ汝に言しごとく汝を祝福たまふべければ汝は衆多の國人に貸ことを得べし然ど借こと有じまた汝は衆多の國人を治めん然ど彼らは汝を治むることあり 7 汝の神エホバの汝に賜ふ地において若汝の兄弟の貧き人汝の門の中にをらばその貧しき兄弟にむかひて汝の心を剛愎にする勿れまた汝の手を開る勿れ 8 かならず汝の手をこれに開き必ずその要むる物をこれに貸たへてこれが乏しきを補ふべし 9 汝慎め心に惡き念を起し第七年放釋の年近づけりと言て汝の貧き兄弟に目をかけざる勿れ汝もし斯之に何をも與へずしてその人これがために汝をエホバに訴へな

は汝罪を獲ん 10 汝かならず之に與ふることを爲べしまた之に與ふる時は心に惜むこと勿れ其は此事のために汝の神エホバ汝の諸の事業と汝の手の諸の働作とに於て汝を祝福たまふべければなり 11 貧乏者は何時までも國にたゆること無るべけれど我汝に命じて言ふ汝かならず汝の國の中なる汝の兄弟の困難者と貧乏者とに汝の手を開くべし 12 汝の兄弟たるヘブルの男またはヘブルの女女の許に賣れたらんに汝六年なんぢに事へたらば第七年にこれを放ちて去しむべし 13 汝これを放ちて去しむる時は空手にて去しむべからず 14 汝の群と禾場と搾場の中より贈物を取て之が肩に負すべし即ち汝の神エホバの汝を祝福て賜ふところの物をこれに與ふべし 15 汝記憶べし汝はエジプトの國に奴隷たりしが汝の神エホバ汝を贖ひ出したまへり是故に我今日この事を汝に命す 16 その人もし汝と汝の家を愛し汝と偕にをるを善として汝にむかひ我汝を離れて去を好まずと言は 17 汝錐を取て彼の耳を戸に刺とほすべし然せば彼は永く汝の僕たるべし汝の婢にもまた是のごとくすべし 18 汝これを放ちて去しむるを難き事と見るべからず其は彼が六年汝に事へて働かしは工價を取る傭人の二倍に當ればなり汝斯なさば汝の神エホバ汝が凡て爲ところの事に於て汝をめぐみたまふべし 19 汝の牛羊の産る初子は皆これを聖別て汝の神エホバに歸せしむべし汝の牛の初子をもちめて何の工作をも爲べからず又汝の羊の初子の毛を剪べからず 20 汝の神エホバの選びたまへる處にてエホバの前に汝と汝の家族年々にこれを食ふべし 21 然どその畜もし疵ある者すなはち跛足盲目なるなど凡て惡き疵ある者なる時は汝の神エホバにこれを宰りて獻ぐべからず 22 汝の門の内にこれを食べし汚れたる者も潔き者も均くこれを食べを得ること牡鹿と羚羊のごとし 23 但しその血はこれを食べべからず水のごとくにこれを地に灌ぐべし

Chapter 16

1 汝アビブの月を守り汝の神エホバに對ひて逾越節を行なへ其はアビブの月に於て汝の神エホバ夜の間汝をエジプトより導き出したまひたればなり 2 汝すなはちエホバのその名を置んとて擇びたまふ處にて羊および牛を宰り汝の神エホバの前に逾越節をなすべし 3 酔いれたるパンを之とともに食ふべからず七日の間酔いれぬパン即ち憂患のパンを之とともに食ふべし其は汝エジプトの國より出る時は急ぎて出たればなり斯おこなひて汝その世に生存ふる日の間恒に汝がエジプトの國より出來し日を誌ゆべし 4 その七日の間は汝の四方の境の内にパン酵の見ること有しむべからず又なんぢが初日の薄暮に宰りたる者の肉を翌日まで存しおくべからず 5 汝の神エホバの汝に賜ふ汝の門の内にて逾越の牲畜を宰ることを爲べからず 6 惟汝の神エホ

バのその名を置んとて選びたまふ處にて汝薄暮の日の入る頃汝がエジプトより出たる時刻に逾越の牲畜を宰るべし 7 而して汝の神エホバの選びたまふ處にて汝これを燂て食ひ朝におよびて汝の天幕に歸り往くべし 8 汝六日の間酔いれぬパンを食ひ第七日に汝の神エホバの前に會を開くべし何の職業をも爲べからず 9 汝また七七日を計ふべし即ち穀物に鎌をいれ初る時よりしてその七日を計へ始むべきなり 10 而して汝の神エホバの前に七週の節筵を行なひ汝の神エホバの汝を祝福たまふ所にしたがひ汝の力に應じてその心に願ふ禮物を獻ぐべし 11 斯して汝と汝の男子女子僕婢および汝の門の内に居るレビ人ならびに汝らの中間にをる賓旅と孤子と寡婦みなともに汝の神エホバのその名を置んとて選びたまふ處にて汝の神エホバの前に樂むべし 12 汝その昔エジプトに奴隷たりしことを誌え是等の法度を守り行ふべし 13 汝禾場と搾場の物を収蔵たる時七日の間結茅節をおこなふべし 14 節筵をなす時には汝と汝の男子女子僕婢および汝の門の内なるレビ人賓旅孤子寡婦など皆ともに樂むべし 15 エホバの選びたまふ處にて汝七日の間なんぢの神エホバの前に節筵をなすべし汝の神エホバの諸の産物と汝が手の諸の工事とについて汝を祝福たまふべければ汝かならず樂むことを爲べし 16 汝の中間の男は皆なんぢの神エホバの擇びたまふ處にて一年に三次即ち酔いれぬパンの節と七週の節と結茅の節とに於てエホバの前に出べし但し空手にてエホバの前に出べからず 17 各人汝の神エホバに賜はる恩恵にしたがひて其力におよぶ程の物を獻ぐべし 18 汝の神エホバの汝に賜ふ一切の邑々に汝の支派に循がひて士師と官人を立べし彼らはまた義き審判をもて民を審判べし 19 汝裁判を枉べからず人を偏視るべからずまた賄賂を取べからず賄賂は智者の目を暗まし義者の言を枉ればなり 20 汝ただ公義を而已求むべし然せば汝生んで汝の神エホバの汝に賜ふ地を獲にいたらん 21 汝の神エホバのために築くところの壇の傍にアシラの木像を立てべからず 22 また汝の神エホバの惡みたまふ偶像を己のために造るべからず

Chapter 17

1 凡て疵あり惡き處ある牛羊は汝これを汝の神エホバに獻ぐべからず斯る者は汝の神エホバの忌嫌ひたまふ者なればなり 2 汝の神エホバの汝に賜ふ邑々の中にて汝らの中間に若し或男または汝の神エホバの目の前に惡事を行てその契約に悖り 3 往て他の神々に事へてこれを拝み我が命ぜざる日や月や天の衆群などを拝むあらんに 4 その事を汝に告る者ありて汝これを聞き細かにこれを査べ見るにその事眞にその言確にしてイスラエルの中に斯る憎むべき事行はれ居たらば 5 汝その惡き事を行へる男または女を汝の門に曳いだし石をもてその男または女を擊殺すべし

6 殺すべき者は二人の證人または三人の證人の口に依てこれを殺すべし惟一人の證人の口のみをもて之を殺すことは爲べからず 7 斯る者を殺すには證人まづその手を之に加へ然る後に民みなその手を加ふべし汝かく惡事を汝らの中より除くべし 8 汝の門の内に訟へ争ふ事おこるに當りその事件もし血を相流す事または權理を相争ふ事または互に相撃たる事などに於て汝に裁判かぬる者ならば汝起あがりて汝の神エホバの選びたまふ處に上り行き 9 祭司なるレビ人と當時の士師とに詣りて問べし彼ら裁判の言詞を汝に示さん 10 エホバの選びたまふ處にて彼らが汝に示す命令の言のごとくに汝行ひ凡て彼らが汝に教ふるごとくに慎みて爲べし 11 即ち故らに汝に教ふる律法の命令に循がひ彼らが汝に告る裁判に依て行ふべし彼らが汝に示す言に違ふて右にも左にも偏るべからず 12 人もし自ら壇斷にしその汝の神エホバの前に立て事ふる祭司またはその士師に聽たはがざる者よばその人を殺しイスラエルの中より惡を除くべし 13 然せば民みな聞て畏れ重て壇斷に事をなさざらん 14 汝の神エホバの汝に賜ふ地に汝いたり之を獲て其處に住におよべる時汝も我周圍の一切の國人のごとくに我も王をわが上に立んと言あらば 15 只なんぢの神エホバの選びたまふ人を汝の上にたてて王となすべしまた汝の上に王を立てるには汝の兄弟の中の人をもてすべし汝の兄弟ならざる他國の人を汝の上に立べからず 16 但し王となれる者は馬を多く得んとすべからず又馬を多く得んために民を率てエジプトに還るべからず其はエホバなんぢらに向ひて汝らはこの後かさねて此路に歸るべからずと宣ひたればなり 17 また妻を多くその身に有て心を迷すべからずまた金銀を己のために多く蓄積べからず 18 彼その國の位に坐するにいたらば祭司なるレビ人の前にある書よりしてこの律法を一の書に書寫さしめ 19 世に生存ふる日の間つねにこれを己の許に置いて讀み斯してその神エホバを畏ることを學びこの律法一切の言と是等の法度を守りて行ふべし 20 然せば彼の心その兄弟の上に高ぶること無くまたその誠命を離れて右にも左にもまがること無してその子女とともにその國においてイスラエルの中にその日を永うすることを得ん

Chapter 18

1 祭司たるレビ人およびレビの支派は都てイスラエルの中に分なく産業なし彼らはエホバの火祭の品とその産業の物を食ふべし 2 彼らはその兄弟の中間に産業を有じエホバこれが産業たるたり即ちその曾て之に言たまひしが如し 3 祭司が民より受べき分は是なり即ち凡て犠牲を獻ぐ者は牛にもあれ羊にもあれその肩と兩方の頬と胃とを祭司に與ふべし 4 また汝の穀物と酒と油の初および羊の毛の初をも之にあたふべし 5 其は汝の神エホバの汝の諸の支派の中よ

り彼を選び出し彼とその子孫をして永くエホバの名をもて立て奉事をなさしめたまへばなり 6 レビ人はイスラエルの全地の中何の處に居る者にもあれその寄寓たる汝の邑を出てエホバの選びたまふ處に到るあらば 7 その人はエホバの前に待てるその諸兄弟のレビ人とおなじくその神エホバの名をもて奉事をなすことを得べし 8 その人の得て食ふ分は彼らと同じ但しその父の遺業を賣て獲たる物はこの外に彼に屬す 9 汝の神エホバの汝に賜ふ池にいたるに及びて汝その國々の民の憎むべき行爲を傲ひ行ふなかれ 10 汝らの中間にその男子女子をして火の中を通らしむる者あるべからずまた卜筮する者邪法を行なふ者禁厭する者魔術を使ふ者 11 法印を結ぶ者憑鬼する者巫覡の業をなす者死人に詢ことをする者あるべからず 12 凡て是等の事を爲す者はエホバこれを憎たまふ汝の神エホバが彼らを汝の前より逐はらひたまひしも是等の憎むべき事のありしに因てなり 13 汝の神エホバの前に汝完き者たれ 14 汝が逐はらふ故の國々の民は邪法師卜筮師などに聽ことをなせり然ど汝には汝の神エホバ然する事を許したまはず 15 汝の神エホバの汝の中汝の兄弟の中より我のごとき一箇の預言者を汝のために興したまはん汝ら之に聽ことをすべし 16 是まったく汝が集會の日にホレブにおいて汝の神エホバに求めたる所なり即ち汝言けらく我をして重てこの我神エホバの聲を聞きしむる勿れまた重てこの大なる火を見ざる勿れ恐くは我死んと 17 是においてエホバ我に言たまひけるは彼らの言る所は善し 18 我かれら兄弟の中より汝のごとき一箇の預言者を彼らのために興し我言をその口に授けん我が彼に命ずる言を彼ごとごとく彼に告べし 19 凡て彼が吾名をもて語るところの吾言に聽したがはざる者は我これを罰せん 20 但し預言者もし我が諱れと命ぜざる言を吾名をもて縱肆に語りまたは他の神々の名をもて語ること爲すならばその預言者は殺さるべし 21 汝あるひは心に謂ん我ら如何にしてその言のエホバの言たまふ者にあらざるを知んと 22 然ば若し預言者ありてエホバの名をもて語ることをなすにその言就すまた效あらざる時は是エホバの語りたまふ言にあらざりてその預言者が縱肆に語るところなり汝その預言者を畏るるに及ばす

Chapter 19

1 汝の神エホバこの國々の民を滅し絶ち汝の神エホバこれが地を汝に賜ふて汝つひにこれを獲その邑々とその家々に住にいたる時は 2 汝の神エホバの汝に與へて産業となさしめたまふ地の中に三の邑を汝のために區別し 3 而して汝これに道路を開きまた汝の神エホバの汝に與へて産業となさしめたまふ地の全體を三の區に分ち凡て人を殺せる者をして其處に逃れしむべし 4 人を殺せる者の彼處に逃れて生命を全うすべきそ

の事は是のごとし即ち凡て素より恐むことも無く知ずしてその鄰人を殺せる者 5 例ば人木を伐んとてその鄰人とともに林に入り手に斧を執て木を斫んと撃おるす時にその頭の鐵柯より脱てその鄰人にあたりて之を死しめたるが如き是なり斯る人は是等の邑の一に逃れて生命を全うすべし 6 恐くは復仇する者心熱してその殺人者を追かけ道路長きにおいては遂に追しきて之を殺さん然るにその人は素より之を惡みたる者にあらざれば殺さるべき理あらざるなり 7 是をもて我なんぢに命じて三の邑を汝のために區別べしと言ひ 8 汝の神エホバ汝の先祖等に誓ひしごとく汝の境界を廣め汝の先祖等に與へんと申し地を盡く汝に賜ふにいらん時 9 即ち汝我が今日なんぢに命ずるこの一切の誠命を守りてこれを行なひ汝の神エホバを愛し恒にその道に歩まん時はこの三の外にまた三の邑を増加ふべし 10 是汝の神エホバの汝に與へて産業となさしめたまふ地に奉るべき者の血を流すこと無らんためなり斯せずばその血汝に歸せん 11 然どもし人その隣人を惡みて之を附覬ひ起かかり撃てその生命を傷ひて之を死しめ而してこの邑の一に逃れたる事あらば 12 その邑の長老等人を遣て之を其處より曳きたらしめ復仇者の手にこれを付して殺さしむべし 13 汝かれを憫み視るべからず辜なき者の血を流せる咎をイスラエルより除くべし然せば汝に福祉あらん 14 汝の神エホバの汝に與へて獲させたまふ地の中において汝が嗣ぐところの産業に汝の先人の定めたる汝の鄰の地界を侵すべからず 15 何の惡にもあれ凡てその犯すところの罪は只一人の證人によりて定むべからず二人の證人の口によりまたは三人の證人の口によりてその事を定むべし 16 もし偽妄の證人起りて某の人は惡事をなせりと言たつこと有ば 17 その相争ふ二人の者エホバの前に至り當時の祭司と士師の前に立べし 18 然る時士師詳細にこれを查べ視るにその證人もし偽妄の證人にしてその兄弟にむかひて虚妄の證をなしたる者なる時は 19 汝兄弟に彼が蒙らんと謀れる所を彼に蒙らし斯して汝らの中より惡事を除くべし 20 然せばその遭れる者等聞て畏れその後かさねて斯る惡き事を汝らの中におこなはじ 21 汝憫み視ることをすべからず生命は生命眼は眼齒は齒手は手足は足をもて償はしむべし

Chapter 20

1 汝その敵と戦はんとて出るに當り馬と車を見たまふ汝よりも數多き民を見るもこれに懼る勿れ其は汝をエジプトの國より導き上りし汝の神エホバなんぢとともに在せばなり 2 汝ら戦闘に臨む時は祭司進みいで民に告て 3 之に言べしイスラエルよ聽け汝らは今日なんぢらの敵と戦はんとて進み來れり心に臆する勿れ懼るなけれ倉皇なけれ彼らに怖るなけれ 4 其は汝らの神エホバ汝らとともに行き汝らのために汝らの敵と戦

ひて汝らを救ひたまふべければなりと 5 斯てまた有司等民に告て言べし誰か新しき家を建て之に移らざる者あるかその人は家に歸りゆくべし恐くは自己戦闘に死て他の人これに移らん 6 誰か菓物園を作りてその果を食はざる者あるかその人は家に歸りゆくべし恐くは自己戦闘に死て他の人これを食べん 7 誰か女と契りて之を娶らざる者あるかその人は家に歸りゆくべし恐くは自己戦闘に死て他の人これを食べん 8 有司等なほまた民に告て言べし誰か懼れて心に臆する者あるかその人は家に歸りゆくべし恐くはその兄弟たちの心これが心のごとく挫げんと 9 有司等かく民に告ることを終たらば軍勢の長等を立て民を率しむべし 10 汝ある邑に進みゆきて之を攻んとする時は先これに平穩に降ることを勸むべし 11 その邑もし平穩に降らんと答へてその門を汝に開かば其處なる民をして都て汝に貢を納しめ汝に事へしむべし 12 其もし平穩に汝に降るとを肯んぜずして汝と戦かはんことを汝これを攻べし 13 而して汝の神エホバこれを汝の手に付したまふに至らば刃をもてその中の男を盡く撃殺すべし 14 惟その婦女嬰孩家畜および凡てその邑の中に汝が奪ひ獲たる物は盡く己に取べし抑汝がその敵より奪ひ獲たる物は汝の神エホバの汝に賜ふ者なれば汝これをもて樂むべし 15 汝を離るることの遺き邑々すなはち是等の國々に屬せざるところの邑々には凡てかくのごとく行なふべし 16 但し汝の神エホバの汝に與へて産業となさしめたまふこの國々の邑々においては呼吸する者を一人も生し存べからず 17 即ちヘテ人アモリ人カナン人ペリジ人ヒビ人エブス人などは汝かならず汝を滅ぼし盡して汝の神エホバの汝に命じたまへる如くすべし 18 斯するは彼らがその神々にむかひて行ふところの憎むべき事を汝らに教へて之を傲ひおこなはしめ汝らをして汝らの神エホバに罪を獲せしむる事のためなり 19 汝久しく邑を圍みて之を攻取んとする時においても斧を振ふて其處の樹を斫枯すべからず是は汝の食となるべき者なり且その城攻において田野の樹あんに人のごとく汝の前に立ふさがるんや 20 但し果を結ばざる樹と知る樹は之を斫り枯し汝と戦ふ邑にむかひて之をもて雲梯を築きその降るまで之を攻るも宜し

Chapter 21

1 汝の神エホバの汝に與へて獲させたまふ地において若し人殺されて野に仆れをあらんに之を殺せる者の誰なるかを知ざる時は 2 汝の長老等と士師等出きたりその人の殺される處よりその四周の邑々までを度るべし 3 而してその人の殺される處に最も近き邑すなはちその邑の長老等は未だ使はず未だ軛を負せて牽ざるところの少き牝牛を取り 4 邑の長老等その牝牛を耕すことも種蒔こともせざる流つきせぬ谷に牽ゆき

その谷において牝牛の頸を折べし 5 その時は祭司たるレビの子孫等其處に進み來るべし彼らは汝の神エホバが選びて己に事へしめまたエホバの名をもて祝することを爲しめたまふ者にて一切の訴訟と一切の争競は彼らの口によりて決定すべきが故なり 6 而してその人の殺されをりし處に最も近き邑の長老等その谷にて頸を折たる牝牛の上において手を洗ひ 7 答へて言べし我らの手はこの血を流さず我らの目はこれを見ざりしなり 8 エホバよ汝が贖ひし汝の民イスラエルを赦したまへこの辜なき者の血を流せる罰を汝の民イスラエルの中に降したまふ勿れと斯せば彼らその血の罪を赦されん 9 汝かくエホバの善と觀たまふ事をおこなひその辜なき者の血を流せる咎を汝らの中より除くべし 10 汝出て汝の敵と戦ふにあたり汝の神エホバこれを汝の手に付したまひて汝これを俘虜となしたる時 11 汝もしその俘虜の中に貌美しき女あるを見てこれを悦び取て妻となさんとせば 12 汝の家の中にこれを携へゆくべし而して彼はその髪を剃り爪を截り 13 まだ俘虜の衣服を脱すて汝の家に居りその父母のために一月のあひだ哀哭べし然る後なんぢ故の處に入りてこれが夫となりこれを汝の妻とすべし 14 その後汝もし彼を好まずなりなば彼の心のままに去ゆかしむべし決して金のためにこれを賣べからず汝すでにこれを犯したれば之を嚴く待遇べからざるなり 15 二人の妻ありてその一人は愛する者一人は惡む者ならんにその愛する者と惡む者の二人ともに男の子を生ありてその長子もし惡む婦の産る者なる時は 16 その子等に己の所有を嗣しむる日にその惡む婦の産る長子を指てその愛する婦の産る子を長子となすべからず 17 必ずその惡む者の産る子を長子となし己の所有を分つ時にこれには二倍を與ふべし是は己の力の始にして長子の權これに屬すればなり 18 人にもし放肆にして背忤る者ありその父の言にも母の言にも順はず父母これを責るも聽くことをせざる時は 19 その父母これを執へてその處の門にいたり邑の長老等に就き 20 邑の長老たちに言べし我らの此子は放肆にして背忤る者我らの言にしたがはざる者放蕩にして酒に耽る者なりと 21 然る時は邑の人みな石をもて之を撃殺すべし汝かく汝らの中より惡事を除き去べし然せばイスラエルみな聞て懼れん 22 人もし死にあたる罪を犯して死刑に遇ことありて汝これを木に懸て曝す時は 23 翌朝までその體を木の上に留おくべからず必ずこれをその日の中に埋むべし其は木に懸らるる者はエホバに詛はるる者なればなり斯するは汝の神エホバの汝に賜ふて産業となさしめたまふ地の汚れざらんためなり

Chapter 22

1 汝の兄弟の牛または羊の迷ひを見るを見てこれを見ず置べからず必ずこれを汝の兄弟に牽ゆきて歸す

べし 2 汝の兄弟もし汝に近からざるか又は汝かれを知ざる時はこれを汝の家に牽ゆきて汝の許におき汝の兄弟の尋ねきたるに及びて之を彼に還すべし 3 汝の兄弟の驢馬におけるも是のごとく爲しまたその衣服におけるものも斯すべし凡て汝の兄弟の失ひたる遺失物を得たる時も汝かく爲べし之を見すておくべからず 4 また汝の兄弟の驢馬または牛の途に踏れを見るを見て見すておくべからず必ずこれを助け起すべし 5 女は男の衣服を纏ふべからずまた男は女の衣裳を着べからず凡て斯する者は汝の神エホバこれを憎みたまふなり 6 汝鳥の巢の路の頭または樹の上または土の上にあるを見んに雛または卵その中にありて母鳥その雛または卵の上に伏をらばその母鳥を雛とともに取べからず 7 かならずその母鳥を去しめ唯その雛のみをとるべし然せば汝福祉を獲かつ汝の日を永うすることを得ん 8 汝新しき家を建る時はその屋蓋の周圍に欄杆を設くべし是は人その上より墮てしめられ血の汝の家に歸すること無らんためなり 9 汝菓物園に異類の種を混て播べからず然せば汝が播たる種より産する物および汝の菓物園より出る菓物みな聖物とならん 10 汝牛と驢馬とを糞せ耕すことを爲べからず 11 汝毛と麻とをまじへたる衣服を着べからず 12 汝が上に纏ふ衣服の裾の四方に縫をつくべし 13 人もし妻を娶り之とともに寝て後これを嫌ひ 14 我この婦人を娶りしが之と寝たる時にその處女なるを見ざりしとて誹謗の辭柄を設けこれに惡き名を負せなば 15 その女の父と母その女の處女なる證跡を取り門にをる邑の長老等にこれを差出し 16 而してその女の父長老等に言べし我この人にわが女子を與へて妻となさしめしにこの人これを嫌ひ 17 誹謗の辭柄を設けて言ふ我なんぢの女子の處女なるを見ざりしと然るに吾女子の處女なりし證跡は此にありと斯いひてその父母かの布を邑の長老等の前に展べし 18 然る時は邑の長老等その人を執へてこれを鞭ち 19 又これに銀百シケルを罰してその女の父に償はしむべし其はイスラエルの處女に惡き名を負せられたるなり 20 斯てその人はこれを妻とすべし一生これを去くことを得ず 20 然どこの事もし眞にしてその女の處女なる證跡あらざる時は 21 その女をこれが父の家の門に曳いだしその邑の人々石をもてこれを撃ころすべし其は彼のその父の家にて淫なる事なしてイスラエルの中に惡をおこなひたればなり汝かく惡事を汝らの中より除くべし 22 もし夫に適し婦と寝る男あるを見ばその婦と寝たる男と其婦とをともに殺し斯して惡事をイスラエルの中より除くべし 23 處女なる婦人すでに夫に適の約をなせる後ある男これに邑の内に遇てこれを犯さば 24 汝らその二人を邑の門に曳いだし石をもてこれを撃ころすべし是はその女は邑の内にありながら叫ぶことをせざるに因りまたその男は其の鄰の妻を辱しめたるに因てなり汝かく惡事を汝らの中より除くべし 25 然どももし人に適の約をなしし女に野に

て遇ひこれを強て犯すあらば之を犯しし男のみを殺すべし 26 その女には何をモ爲べからず女には死にあたる罪なし人その鄰人に起むかひてこれを殺せるとその事おなじ 27 其は男野にてこれに遇たるが故にその人に適の約をなしし女叫びたれども拯ふ者なかりしなり 28 男もし未だ人に適の約をなさざる處女なる婦に遇ひこれを執へて犯すありてその二人見あらば女のみを殺すべし 29 これを犯せる男その女の父に銀五十シケルを與へて之を己の妻とすべし彼その女を辱しめれば一生これを去るべからざるなり 30 人その父の妻を娶るべからずその父の被を掀開べからず

Chapter 23

1 外腎を傷なひたる者または玉莖を切りたる者はエホバの會に入べからず 2 私子はエホバの會にいるべからず是は十代までもエホバの會にいるべからざるなり 3 アンモン人およびモアブ人はエホバの會にいる可らず故は十代までも何時までもエホバの會にいるべからざるなり 4 是汝らがエジプトより出きたりし時に彼らはパンと水をもて汝らを途に迎へずメソポタミアのベトル人ベオルの子バラムを僱ひて汝を誑はせんと爲たればなり 5 然れども汝の神エホバ、バラムに聽ことを爲給はずして汝の神エホバその呪詛を變て汝のために祝福となしたまへり是汝の神エホバ汝を愛したまふが故なり 6 汝一生いつまでも彼らのために平安をもちた福祿を求めむべからず 7 汝エドム人を惡べからず是は汝の兄弟なればなりまたエジプト人を惡むべからず汝もこれが國に客たりしこと有ばなり 8 彼等の生たる子等は三代におよばばエホバの會にいることを得べし 9 汝軍旅を出して汝の敵を攻る時は諸の惡き事を自ら謹むべし 10 汝らの中間にもし夜中計ずも汚穢にふれて身の潔からざる人あらば陣營の外にいづべし陣營の内に入べからず 11 而して薄暮に水をもて身を洗ひ日の入て後陣營に入べし 12 汝陣營の外に一箇の處を設けおき便する時は其處に往べし 13 また器具の中に小鍬を備へおき外に出て便する時はこれをもて土を掘り身を返してその汝より出たる物を蓋ふべし 14 其は汝の神エホバ汝を救ひ汝の敵を汝に付さんとて汝の陣營の中を歩きたまへばなり是をもて汝の陣營を聖潔すべし然せば汝の中に汚穢物あるを見て汝を離れたまふこと有ざるべし 15 その主人を避て汝の許に逃きたる僕をその主人に交すべからず 16 その者をして汝らの中に汝とともに居しめ汝の一の邑の中に之が善と見て擇ぶ處に住しむべし之を虐遇べからず 17 イスラエルの女子の中に娼妓あるべからずイスラエルの男子の中に娼妓あるべからず 18 娼妓の得たる價および狗の價を汝の神エホバの家に携へりて何の誓願にも用ゐるべからず是等はともに汝の神エホバの憎みたまふ者なればなり 19 汝の兄弟より利息を取べからず即ち金

の利息食物の利息など凡て利息を生ずべき物の利息を取べからず 20 他國の人よりは汝利息を取も宜し惟汝の兄弟よりは利息を取べからず然ば汝が往て獲とごの地において汝の神エホバ凡て汝が手に爲ところの事に福祥をくだしたまふべし 21 汝の神エホバに誓願をけなば之か還すことを怠るべからず汝の神エホバかならずこれを汝に要めたまふべし怠る時は汝罪あり 22 汝誓願をけげざるも罪を獲ること有じ 23 汝が口より出しし事は守りて行ふべし凡て自意の禮物は汝の神エホバに汝が誓願し口をもて約せしごとくに行ふべし 24 汝の隣の葡萄園に至る時汝意にまかせてその葡萄を飽まで食ふも宜し然ど器の中に取りるべからず 25 また汝の隣の麥圃にいたる時汝手にてその穂を摘食ふも宜し然ど汝の隣の麥圃に鎌をいるべからず

Chapter 24

1 人妻を取てこれを娶れる後恥べき所のこれにあるを見てこれを好まざるなりたれば離縁状を書いてこれに手交しこれをその家より出すべし 2 その婦これが家より出たる後往て他の人に嫁ぐことをせんに 3 後の夫もこれを嫌ひ離縁状を書いてその手にわたして之を家より出し又はこれを妻にめとれるその後の夫死するあるも 4 是は己に身を汚玷したるに因て之を出したるその先の夫ふたたびこれを妻にめとるべからず是エホバの憎みたまふ事なればなり 汝の神エホバの汝に與へて産業となさしめたまふ地に汝罪を負すなからず 5 人あつたに妻を娶りたる時は之を軍に出すべからずまた何の職務をもこれに任すべからずその人は一年家に居居してその娶れる妻を慰むべし 6 人その磨磨を質におくべからず是その生命をつなぐ物を質におくなればなり 7 イスラエルの子孫の中なるその兄弟を拐帶してこれを使ひまたはこれを賣る人あるを見ばその拐帶者を殺し然して汝らの中より惡を除くべし 8 汝癩病を慎み凡て祭司たるレビ人が汝らに教ふる所を善く守りて行ふべし即ち我が彼らに命ぜしごとくに汝ら守りて行ふべし 9 汝らがエジプトより出きたる路にて汝の神エホバがミリアムに爲たまひしところの事を誌えよ 10 凡て汝の鄰に物を貸あたふる時は汝みづからこれが家にいりてその質物を取べからず 11 汝は外に立をり汝が貸たる人その質物を外に持たして汝に付すべし 12 その人もし困苦者ならば之が質物を留おきて睡眠に就べからず 13 かならず日の入る頃その質物を之に還すべし然せばその人おのれの上衣をまどふて睡眠につくことを得て汝を祝せん是汝の神エホバの前において汝の義となるべし 14 困苦者貧き傭人は汝の兄弟にもあれ又は汝の地にてなんぢの門の内に寄居る他國の人にもあれ之を虐ぐべからず 15 當日にこれが値をはらふべし日の入るまで延すべからず其は貧き者にてその心にこれを慕へばなり恐らくは彼エホバに汝

を訴ふるありて汝罪を獲ん 16 父はその子等の故によりて殺さるべからず子等はその父の故によりて殺さるべからず各人おのれの罪によりて殺さるべきなり 17 汝他國の人または孤子の審判を曲べからずまた寡婦の衣服を質に取べからず 18 汝誌ゆべし汝はエジプトに奴隷たりしが汝の神エホバ汝を其處より贖ひいだしたまへり是をもて我この事をなせと汝に命ずるなり 19 汝田野にて穀物を刈る時もしその一束を田野に忘れおきたらば返りてこれを取べからず他國の人と孤子と寡婦とにこれを取すべし然せば汝の神エホバ凡て汝が手に作ところの事に祝福を降したまはん 20 汝橄欖を打落す時は再びその枝をさがすべからずその遺れる者を他國の人と孤子と寡婦とに取すべし 21 また葡萄園の葡萄を摘む時はその遺れる者を再びさがすべからず他國の人と孤子と寡婦とにこれを取すべし 22 汝誌ゆべし汝はエジプトの國に奴隷たりしなり是をもて我この事を爲せと汝に命ず

Chapter 25

1 人と人との間に争辯ありて來りて審判を求むる時は士師これを鞠きその義き者を義とし惡き者を惡とすべし 2 その惡き者もし鞭つべき者ならば士師これを伏せその罪にしたがひて數のごとく自己の前にてこれを扑すべし 3 これを扑ことは四十を逾べからず若これを逾て是よりも多く扑ときは汝その汝の兄弟を賤め視にいたらん 4 穀物を碾す牛に口籠をかく可らず 5 兄弟とも居んにその中の一人死て子を遺さざる時はその死たる者の妻いでて他人に嫁ぐべからず其夫の兄弟これの所に入りこれを娶りて妻となししてその夫の兄弟たる道をこれに盡し 6 而してその婦の生ところの初子をもてその死たる兄弟の後を嗣しめその名をイスラエルの中に絶ざらしむべし 7 然どその人もしその兄弟の妻をめとることを肯ぜずばその兄弟の妻門にいたりて長老等に言べし吾夫の兄弟はその兄弟の名をイスラエルの中に興ることを肯ぜず吾夫の兄弟たる道を盡すことをせずと 8 然る時はその邑の長老等かれを呼よせて諭すべし然るも彼堅く執て我はこれを娶ることを好まずと言はば 9 その兄弟の妻長老等の前にて彼の側にいたりこれが鞋をその足より脱せその面に唾して答て言べしその兄弟の家を興ることを肯ぜざる者には斯のごとくすべきなりと 10 またその人の名は鞋を脱たる者の家とイスラエルの中に稱へらるべし 11 二人あひ争ふ時一人の者の妻その夫を撃つ者の手より夫を救はんとて進みより手を伸てその人の陰所を執ふるあらば 12 汝その婦の手を切おとすべし之を憫れみ視るべからず 13 汝の囊の中に一箇は大きく一箇は小き二種の權衡石をいれおくべからず 14 汝の家に一箇は大きく一箇は小き二種の升斗をおくべからず 15 唯十分なる公正き權衡を有べくまた十分な

る公正き升斗を有べし然せば汝の神エホバの汝にたまふ地に汝の日永からん 16 凡て斯る事をなす者凡て正しからざる事をなす者は汝の神エホバこれを憎みたまふなり 17 汝らがエジプトより出きたりし時その路においてアマレクが汝に爲たりし事を記憶よ 18 即ち彼らは汝を途に迎へ汝の疲れ倦たるに乗じて汝の後なる弱き者等を攻撃り斯かれらは神を畏れざりき 19 然ば汝の神エホバの汝に與へて産業となさしめたまふ地において汝の神エホバ汝にその周圍の敵を盡く攻ふせて安泰ならしめたまふに至らば汝アマレクの名を天が下より塗抹て之をおぼゆる者なからしむべし

Chapter 26

1 汝その神エホバの汝に與へて産業となさしめたまふ地にいりこれを獲てそこに住にいたらば 2 汝の神エホバの汝に與へたまへる地の諸の土産の初を取て筐にいれ汝の神エホバの名を置んとて選びたまふ處にこれを携へゆくりしべし 3 而して汝當時の祭司に語り之にいふべし我は今日なんぢの神エホバに申さん我はエホバが我らに與へんと我らの先祖等に誓ひたまひし地に至れりと 4 然る時は祭司汝の手よりその筐をとりて汝の神エホバの壇のまへに之を置べし 5 汝また汝の神エホバの前に陳て言べし我先祖は憫然なる一人のスリア人なりしが僅少の人を將てエジプトに下りゆきて其處に寄寓をりそにて終に大にして強く人口おほき民となり 6 然るにエジプト人我らに害を加へ我らを惱まし辛き力役を我らに負せたりしに因て 7 我等先祖等の神エホバに向ひて呼はりければエホバわれらの聲を聴き我らの艱難と勞苦と虐處を顧みたまひ 8 而してエホバ強き手を伸腕を伸べ大なる威嚇と徴證と奇跡とをもてエジプトより我らを導きいだし 9 この處に我らを携へりてこの地すなはち乳と蜜との流るる地を我らに賜へり 10 エホバよ今我なんぢが我に賜ひし地の産物の初を携きたれりと斯いひて汝の筐を汝の神エホバの前にそなへ汝の神エホバの前に禮拜をなすべし 11 而して汝は汝の神エホバの汝と汝の家に降したまへる諸の善事のためにレビ人および汝の中間なる旅客とともに樂むべし 12 第三年すなはち十に一を取る年に汝その諸の産物の什一を取りレビ人と客旅と孤子と寡婦とにこれを與へて汝の門の内に食ひ飽しめたる時は 13 汝の神エホバの前に言べし我は聖物を家より執りだしたるレビ人と客旅と孤子と寡婦とにこれを與へ全く汝が我に命じたまひし命令のごとくせり我は汝の命令に背かずまたこれを忘れざるなり 14 我はこの聖物を喪の中に食ひし事なくをた汚穢たる身をもて之を携へ出しし事なくまた死人のためにこれを贈りし事なきなり我はわが神エホバの言に聽したがひて凡て汝が我に命じたまへるごとく行へり 15 願くは汝の聖住所なる天より臨み觀汝の

民イスラエルと汝の我らに與へし地とに福祉をくだしたまへは是我がわれらの先祖等に誓ひたまひし乳と蜜との流るる地なり 16 今日汝の神エホバこれらに法度と律法とを行ふことを汝に命じたまふれば汝心を盡し精心を盡してこれを守りおこなふべし 17 今日なんぢエホバを認めて汝の神となし且その道に歩みその法度と誠法と律法とを守りその聲に聴したがはんと語り 18 今日エホバまたその言ごとく汝を認めてその賈の民となし且汝にその諸の誠命を守れと言たまへり 19 エホバ汝の名譽と聲聞と榮耀とをしてその造れる諸の國の人にまさらしめたまはん汝はその神エホバの聖民となることその言たまひしごとくならん

Chapter 27

1モーセ、イスラエルの長老等とともにありて民に命じて曰ふ我が今日なんぢらに命ずるこの誠命を汝ら全く守るべし 2 汝らヨルダンを濟り汝の神エホバが汝に與へたまふ地にいる時は大なる石數箇を立て石灰をその上に塗り 3 既に濟りて後この律法の諸の言語をその上に書すべし 然すれば汝の神エホバの汝にたまふ地なる乳と蜜の流るる國に汝いるを得ること汝の先祖等の神エホバの汝に言たまひしごとくならん 4 即ち汝らヨルダンを濟るにおよばば我が今日なんぢらに命ずるその石をエバル山に立て石灰をその上に塗べし 5 また其處に汝の神エホバのために石の壇一座を築くべし但し之を築くには鐵の器を用あべからず 6 汝新石をもて汝の神エホバのその壇を築きその上に汝の神エホバに燔祭を献ぐべし 7 汝また彼處にて酬恩祭を獻げその物を食ひて汝の神エホバの前に樂むべし 8 汝この律法の諸の言語をその石の上に明白に書すべし 9 モーセまた祭司たるレビ人とともにイスラエルの全家に告て曰ふイスラエルよ謹みて聴け汝は今日汝の神エホバの民となれり 10 然ば汝の神エホバの聲に聽従ひ我が今日汝に命ずる之が誠命と法度をおこなふべし 11 その日にモーセまた民に命じて言ふ 12 汝らがヨルダンを渡りし後是らの者ゲリジム山にたちて民を祝すべし即ちシメオン、レビ、ユダ、イツサカル、ヨセフおよびベニヤミン 13 また是らの者はエバル山にたちて呪詛ことをすべし即ちルベン、ガド、アセル、ゼブルン、ダンおよびナフタリ 14 レビ人大聲にてイスラエルの人々に告て言べし 15 偶像は工人の手の作にしてエホバの憎みたまふ者なれば凡てこれを刻みまたは鑄造りて密に安置く人は詛はるべしと民みな對へてアーメンといふべし 16 その父母を輕んずる者は詛はるべし民みな對へてアーメンといふべし 17 その鄰の地界を侵す者は詛はるべし民みな對へてアーメンといふべし 18 盲者をして路に迷はしむる者は詛はるべし民みな對へてアーメンといふべし 19 客旅孤子および寡婦の審判を枉る者は詛はるべし民みな對へ

てアーメンといふべし 20 その父の妻と寝る者はその父を辱しむるなれば詛はるべし民みな對へてアーメンといふべし 21 凡て牲畜と交る者は詛はるべし民みな對へてアーメンといふべし 22 その父の女子またはその母の女子たる己の姉妹と寝る者は詛はるべし民みな對へてアーメンといふべし 23 その妻の母と寝る者は詛はるべし民みな對へてアーメンといふべし 24 暗中にその鄰を撃つ者は詛はるべし民みな對へてアーメンといふべし 25 報酬をうけて無辜者を殺してその血を流す者は詛はるべし民みな對へてアーメンといふべし 26 この律法の言を守りて行はざる者は詛はるべし民みな對へてアーメンといふべし

Chapter 28

1 汝もし善く汝の神エホバの言に聽したがひ我が今日なんぢに命ずるその一切の誠命を守りて行はば汝の神エホバ汝をして地の諸の國人の上に立しめたまふべし 2 汝もし汝の神エホバの言に聽したがひ時はこの諸の福祉汝に臨み汝におよばん 3 汝は邑の内にても福祉を得田野にても福祉を得ん 4 また汝の胎の産汝の地の産汝の家畜の産汝の牛の産汝の羊の産に福祉あらん 5 また汝の飯籃と汝の捏盤に福祉あらん 6 汝は入にも福祉を得出るにも福祉を得べし 7 汝の敵起て汝を攻るあればエホバ汝をして之を打敗らしめたまふべし彼らは一條の路より攻きたり汝の前にて七條の路より逃はしらん 8 エホバ命じて福祉を汝の倉庫に降しまた汝が手にて爲とこの事に降し汝の神エホバの汝に與ふる地においてエホバ汝を祝福たまふべし 9 汝もし汝の神エホバの誠命を守りてその道に歩まばエホバ汝に誓ひしごとく汝を立て己の聖民となしたまふべし 10 然る時は地の民みな汝がエホバの名をもて稱へらるるを視て汝を畏れん 11 エホバが汝に與へんと汝の先祖等に誓ひたまひし地においてエホバ汝の佳物すなはち汝の身の産と汝の家畜の産と汝の地の産とを饒にしたまふべし 12 エホバその寶の蔵なる天を啓き雨をその時にしたがひて汝の地に降し汝の手の諸の行爲に祝福をたまはん汝は許多の國々の民に貸ことをなすに至らん借ごとくならん 13 エホバ汝をして首となしめたまはん尾とはならしめたまはん汝は只上におらん下には居じ汝もし我が今日汝に命ずる汝の神エホバの誠命に聽したがひてこれを守りおこなはばかならず斯のごとなるべし 14 汝わが今日汝に命ずるこの言語を離れ右または左にまがりて他の神々にしたがひ事ふることをすべからず 15 汝もし汝の神エホバの言に聽したがはず我が今日なんぢに命ずるその一切の誠命と法度とを守りおこなはずば此もろもろの呪詛汝に臨み汝におよぶべし 16 汝は邑の内にても詛はれ田野にても詛はれん 17 また汝の飯籃も汝の捏盤も詛はれん 18 汝の胎の産汝の地の産汝の牛の産汝の羊

の産も詛はれん 19 汝は入にも詛はれ出るにも詛はれん 20 エホバ汝をしてその凡て手をもて爲ところにおいて呪詛と恐懼と鐵責を蒙らしめたまふべければ汝は滅びて速かに亡はてん是は汝惡き事をおこひて我を棄るによりてなり 21 エホバ疫病を汝の身に着せて遂に汝をその往て得るところの地より滅ぼし絶たまはん 22 エホバまた癘瘵と熱病と傷寒と瘧疾と刀劍と枯死と汚濁をもて汝を撃なやましたまふべし是らの物物を追ひ汝をして滅びうせしめん 23 汝の頭の上なる天は銅のごとくになり汝の下なる地は鐵のごとくになるべし 24 エホバまた雨のかはりに沙と灰とを汝の地に降せたまはん是らの物天より汝の上によりて遂に汝を滅ぼさん 25 エホバまた汝をして汝の敵に打敗られしめたまふべし汝は彼らにむかひて一條の路より進み彼らの前にて七條の路より逃はしらん而して汝はまた地の諸の國にて虐遇にあはん 26 汝の死屍は空の諸の鳥と地の獸の食とならん然るもこれを逐はらふ者あらじ 27 エホバまたエジプトの瘍瘡と痔と癰と癩をもて汝を撃たまはん汝はこれより愈ることあらじ 28 エホバまた汝を撃ち汝をして狂ひ且目くらみて心に驚き慄れしめたまはん 29 汝は誓者が暗にたどるごとく眞書においても尚たどらん汝その途によりて福祉を得ることあらじ汝は只つねに虐げられ掠められんのみ汝を救ふ者なかるべし 30 汝妻を娶る時は他人これと寝ん汝家を建るもその中に住ことを得ず葡萄園を作るもその葡萄を摘とることを得じ 31 汝の牛汝の目の前に牽らるるも汝は之を食ふことを得ず汝の驢馬は汝の目の前にて奪ひさられん再び汝にかへることあらじ又なんぢの羊は汝の敵の有とならん然ど汝にはこれを救ふ道あらじ 32 汝の男子と汝の女子は他邦の民の有とならん汝は終日これを慕ひ望みて目を喪ふに至らん汝の手には何の力もあらじ 33 汝の地の産物および汝の努苦て得たる物は汝の識ざる民これを食はん汝は只つねに虐げられ窘められん而已 34 汝はその目に見るところの事によりて心狂ふに至らん 35 エホバ汝の膝と脛とに悪くして愈ざる瘍瘡を生ぜしめて終に足の蹠より頭の頂にまでおよぼしたまはん 36 エホバ汝と汝が立たる王とを携へて汝も汝の先祖等も知ざりし國々に移し給はん汝は其處にて木または石なる他の神々に事ふるあらん 37 汝はエホバの汝を遣はしたまふ國々にて人の詭異む者となり諛語となり諷刺とならん 38 汝は多分の種を田野に携へ出すもその刈とるところは少かるべし蝗これを食ふべければなり 39 汝葡萄園を作りてこれに培ふもその酒を飲ことを得ずまたその果を飲むることを得じ蟲これを食ふべければなり 40 汝の國には遍く橄欖の樹あらん然ど汝はその油を身に膏ことを得じ其果みな墮べければなり 41 汝男子女子を擧ぐるもこれを汝の有とすることを得じ皆擧げゆかるべければなり 42 汝の諸の樹および汝の地の産物はみな蝗これを取て食ふべし 43 汝の

中間にある他國の人はますます高くなりゆきて汝の上に出で汝はますます卑くなりゆかん 44 彼は汝に貸ことをせん汝は彼に貸ことを得じ彼は首となり汝は尾とならん 45 この諸の災禍汝に臨み汝を追ひ汝に及びてついに汝を滅ぼさん是は汝その神エホバの言に聽したがはず其なんぢに命じたまへる誠命と法度とを守らざるによるなり 46 是等の事は恒になんぢと汝の子孫の上にありて徴證となり人を驚かさずとなるべし 47 なんぢ萬の物の豊饒なる中にて心に歎び樂みて汝の神エホバに事へざるに因り 48 饑餓渴きかつ裸になり萬の物に乏しくしてエホバの汝に攻きたらせたまふところの敵に事ふるに至らん彼鐵の鞭をなんぢの頸につけて遂に汝をほろぼさん 49 即ちエホバ遠方より地の極所より一の民を鵬の飛がごとく汝に攻きたらしめたまはん是は汝がその言語を知らざる民 50 その面の猛惡なる民にして老たる者の身を顧みず幼稚者を憐まず 51 汝の家畜の産と汝の地の産を食ひて汝をほろぼし穀物をも酒をも油をも牛の産をも羊の産をも汝のために遣さずして終に全く汝を滅さん 52 その民は汝の全國において汝の一切の邑々を攻め且遂に汝が頼む堅固なる高き石垣をことごとく打圯し汝の神エホバの汝にたまへる國の中なる一切の邑々をことごとく攻圍むべし 53 汝は敵に圍まれ烈しく攻なやまさるるによりて終にその汝の神エホバに賜はれる汝の胎の産なる男子女子の肉を食ふにいたらん 54 汝らの中の柔生育にして軟弱なる男すらもその兄弟とその懐の妻とその遺れる子女とを疾視 55 自己の食ふその子等の肉をこの中の誰にも與ふることを好まざらん是は汝の敵汝の一切の邑々を圍み烈しく汝を攻なやまして何物をも其人に遣さざればなり 56 又汝らの中の柔生育にして纖弱なる婦女すなはちその柔生育にして纖弱なるがために足の蹠を土につくることをも敢てせざる者すらもその懐の夫とその男子とその女子とを疾視 57 己の足の間より出る胞衣と己の産ところの子を取て密にこれを食はん是は汝の敵なんぢの邑々を圍み烈しくこれを攻なやますによりて何物をも得ざればなり 58 汝もしこの書に記されるこの律法一切の言を守りて行はず汝の神エホバと云榮ある畏るべき名を畏れずば 59 エホバ汝の災禍と汝の子孫の災禍を烈しくしたまはん其災禍は大にして久しくその疾病は重くして久しかるべし 60 エホバまた汝が懼れし疾病なるエジプトの諸の疾病を携きたりて汝の身に纏ひ附しめたまはん 61 また此律法の書に載ざる諸の疾病と諸の災害を汝の滅ぶるまでエホバ汝に降したまはん 62 汝らは空の星のごとくに衆多かりしも汝の神エホバの言に聽したがはざるによりて残り寡に打なざるべし 63 エホバさきに汝らを善して汝等を衆くすることを喜びしごとく今はエホバ汝らを滅ぼし絶すことを喜びたまはん汝らは其往て獲ところの地より扱さらんべし 64 エホバ地のこの極よりかの極までの國々の

中に汝を散したまはん汝は其處にて汝も汝の先祖等も知ざりし木または石なる他の神々に事へん 65 その國々の中にありて汝は安寧を得ずまた汝の足の跡を休むる所を得じ其處にてエホバ汝をして心慄き目昏み精神亂れしめたまはん 66 汝の生命は細き糸に懸るが如く汝に見ゆ汝は夜晝となく恐怖をいだき汝の生命おぼつかなしと思はん 67 汝心に懼るる所によりまた目に見る所によりて朝においては言ん嗚呼夕なれば善らんとまた夕においては言ん嗚呼朝なれば善らんと 68 エホバなんぢを舟にのせ彼の昔わが汝に告て汝は再びこれを見ることあらじと言たるその路より汝をエジプトに曳ゆきたまはん彼處にて人汝らを賣て汝らの敵の奴婢となさん汝らを買ふ人もあらじ

Chapter 29

1 エホバ、モーセに命じモアブの地にてイスラエルの子孫と契約を結ばしめたまふその言は斯のごとし是はホレブにてかれらと結びし契約の外なる者なり 2 モーセ、イスラエルの全家を呼あつめて之に言けるは汝らはエホバがエジプトの地において汝らの目の前にてバロとその臣下とその全地に爲たまひし一切の事を觀たり 3 即ち其大なる試煉と徴證と大なる奇跡とを汝目に觀たるなり 4 然るにエホバ今日にいたるまで汝らの心をして悟ることなく目をして見ることなく耳をして聞ことなからしめたまへり 5 四十年の間われ汝らを導きて曠野を通りしが汝らの身の衣服は古びず汝の足の鞋は古びざりき 6 汝らはまたパンをも食はず葡萄酒をも濃酒をも飲ざりき斯ありて汝らは我が汝らの神エホバなることを知り 7 汝らこの處に來りし時ヘシボンの王シホンおよびバシヤンの王オグ我らを迎へて戦ひしが我らこれを打敗りて 8 その地を取りこれをルベン人とガド人とマナセの半支派とに與へて産業となさしめたり 9 然らば汝らこの契約の言を守りてこれを行ふべし然らば汝らの凡て爲ところに祥あらん 10 汝らみな今日なんぢらの神エホバの前に立つ即ち汝らの首領等なんぢらの支派なんぢらの長老等および汝らの牧司等などイスラエルの一切の人 11 汝らの小き者等汝らの妻ならびに汝らの營の中に在る客旅など凡て汝のために薪を割る者より水を汲む者にいたるまで皆エホバの前に立て 12 汝の神エホバの契約に入んとし又汝の神エホバの汝にむかひて今日なしたまふところの誓に入んとす 13 然らばエホバさきに汝に言しごとくまた汝の先祖アブラハム、イサク、ヤコブに誓ひしごとく今日なんぢを立て己の民となし己みづから汝の神となりたまはん 14 我はただ汝らと而已此契約と誓とを結ぶにあらず 15 今日此にてわれらの神エホバの前に我らとともにたちをる者ならびに今日われらとともに此にたち居ざる者ともこれを結ぶなり 16 我らは如何にエジプトの地に住をりしか如何に國々を通り來りしか汝

らこれを知り 17 汝らはまた木石金銀にて造れる憎むべき物および偶像のその國々にあるを見たり 18 然らば汝らの中に今日その心に我らの神エホバを離れて其等の國々の神に往て事ふる男女宗族支派などあるべからず又なんぢらの中に葦籬または菌蔭を生ずる根あるべからず 19 斯る人はこの呪詛の言を聞もその心に自ら幸福なりと思ひて言ん我はわが心を剛愎にして事をなすも尚平安なり終には酔飽る者をもて濁ける者を除くにいたらんと 20 是のごとき人はエホバかならず之を赦したまはじ還てエホバの忿怒と嫉妬の火これが上に燃えまたこの書にしるしたる災禍みなその身に加はらんエホバつひにその人の名を天が下より抹さつたまふべし 21 エホバすなはちイスラエルの諸の支派の中よりその人を分ちてこれに災禍を下しこの律法の書にしるしたる契約中の諸の呪詛のごとくしたまはん 22 汝等の遠に起る汝らの子孫の代の人および遠き國より來る客旅この地の災禍を見たまひエホバがこの地に流行せたまふ疾病を見て言ところあらん 23 即ち彼ら見るにその全地は硫黄となり鹽となり且瘠土となりて種も蒔れず産する所もなく何の草もその上に生せずして彼の昔エホバがその震怒と忿恨をもて毀ちたまひソドム、ゴモラ、アデマ、ゼボイムの毀たれたると同じかるべければ 24 彼らも國々の人もみな言んエホバ何とて斯この地になしたるやこの烈しき大なる震怒は何事ぞやと 25 その時人應へて曰ん彼らはその先祖たちの神エホバがエジプトの地より彼らを導きいだして彼らと結びたるその契約を棄て 26 往て己の識ずまた授らざる他の神々に事へてこれを拝みたるが故なり 27 是をもてエホバこの地にむかひて震怒を發しこの書にしるしたる諸の災禍をこれに下し 28 而してエホバ震怒と忿恨と大なる憤怒をもて彼らをしてこの地より抜とりてこれを他の國に投やれりその状今日のごとし 29 隱微たる事は我らの神エホバに屬する者なりまた顯露されたる事は我らと我らの子孫に屬し我らをしてこの律法の諸の言を行はしむる者なり

Chapter 30

1 我が汝らの前に陳たるこの諸の祝福と呪詛の事すに汝に臨み汝その神エホバに逐やられたる諸の國々において此事を心に考ふるにいたり 2 汝と汝の子等ともに汝の神エホバに起かへり我が今日なんぢに命ずる所に全たく循がひて心をつくし精神をつくしてエホバの言に聽したがばは 3 汝の神エホバ汝の俘擄を解て汝を憐れみ汝の神エホバ汝を顧みその汝を散しし國々より汝を集めたまはん 4 汝たとひ天涯に逐やるとも汝の神エホバ其處より汝を集め其處より汝を携へかへりたまはん 5 汝の神エホバ汝をしてその先祖の有ちし地に歸らしめたまふて汝またこれを有つにいたらんエホバまた汝を善し汝を増て汝の先祖よりも衆からし

めたまはん 6 而して汝の神エホバ汝の心と汝の子等の心に割禮を施こし汝をして心を盡し精神をつくして汝の神エホバを愛せしめ斯して汝に生命を得させたまふべし 7 汝の神エホバまた汝の敵と汝を惡み攻る者にとこの諸の災禍をかうむらせたまはん 8 然ど汝は再びエホバの言に聽したがひ我が今日なんぢに命ずるその一切の誠命を行ふにいたらん 9 然る時は汝の神エホバ汝をして汝が手をかくる諸の物と汝の胎の産と汝の家畜の産と汝の地の産に當しめて汝を善したまはん即ちエホバ汝の先祖たちを悦びしごとく再び汝を悦びて汝を善したまはん 10 是は汝その神エホバの言に聽したがひ此律法の書にしるされたる誠命と法度を守り心をつくし精神を盡して汝の神エホバに歸するによりてなり 11 我が今日なんぢに命ずる誠命は汝が理會がたき者にあらずまた汝に遠き者にあらず 12 是は天に在らねば汝は誰か我らのために天にのぼりてこれを我らに持くだり我らにこれを聞せて行はせんかと曰ふにおよばず 13 また是は海の外にあるならねば汝は誰か我らのために海をわたりゆきてこれを我らに持きたり我らにこれを聞せて行はせんかと曰ふにおよばず 14 是言は甚だ汝に近くして汝の口にあり汝の心にあれば汝これを行ふことを得べし 15 視よ我今日生命と福德および死と災禍を汝の前に置り 16 即ち我今日汝にむかひて汝の神エホバを愛しその道に歩みその誠命と法度と律法とを守ることを命ずるなり然なば汝生ながらへてその數衆ならんまた汝の神エホバ汝が往て獲るところの地にて汝を祝福たまふべし 17 然ど汝もし心をひるがへして聽従がはず誘はれて他の神々に拜みまたこれに事へば 18 我今日汝らに告ぐ汝らは必ず滅びん汝らはヨルダンを渡りゆきて獲るところの地にて汝らの日を永うすることを得ざらん 19 我今日天と地を呼て證となす我は生命と死および祝福と呪詛を汝らの前に置り汝生命をえらぶべし然せば汝と汝の子孫生存らふことを得ん 20 即ち汝の神エホバを愛してその言を聽き且これに附従がふべし斯する時は汝生命を得かつその日を永うすることを得エホバが汝の先祖アブラハム、イサク、ヤコブに與へんと誓ひたまひし地に住ことを得ん

Chapter 31

1 茲にモーセ往てイスラエルの一切の人にこの言をのべたり 2 即ちこれに言けるは我は今日すでに百二十歳なれば最早出入をすること能はず且またエホバ我にむかひて汝はこのヨルダンを濟ることを得ずと宣へり 3 汝の神エホバみづから汝に先だちて渡りゆき汝の前よりこの國々の人を滅ぼしまた汝にこれを獲させたまふべしまたエホバのかつて宣まひしごとくヨシユア汝を率ゐて濟るべし 4 エホバさきにアモリ人の王シホンとオグおよび之が地になしたる如くまた彼らにも爲てこれを滅ぼし

たまはん 5 エホバかれらを汝らの前に付したまふべければ汝らは我が汝らに命ぜし一切の命令のごとくこれに爲べし 6 汝ら心を強くしかつ勇め彼らを懼るる勿れ彼らの前に慄くなかれ其は汝の神エホバみづから汝とともに往きたまへばなり必ず汝を離れず汝を棄たまはじ 7 斯てモーセ、ヨシユアを呼びイスラエルの一切の人の目の前にてこれに言ふ汝はこの民とともに住き在昔エホバがかれらの先祖たちに與へんと誓ひたまひし地に入るべきが故に心を強くしかつ勇め汝彼らにこれを獲させることを得べし 8 エホバみづから汝に先だちて往きたまはんまた汝とともに居り汝を離れず汝を棄たまはじ懼るる勿れ驚くなかれ 9 モーセこの律法を書きエホバの契約の書とそこのレビの子孫たる祭司およびイスラエルの諸の長老等に授けたり 10 而してモーセ彼らに命じて言けるは七年の末年すなはち放釋の年の節期にいたり結茅の節において 11 イスラエルの人皆なんぢの神エホバの前に出んとてエホバの選びたまふ處に來らんその時に汝イスラエルの一切の人の前にこの律法を誦てこれに聞すべし 12 即ち男女子等および汝の門の内なる他國の人など一切の民を集め彼らをしてこれを聽かつ誓ひしむべし然すれば彼等汝らの神エホバを畏れてこの律法の言を守り行はん 13 また彼らの子等のこれを知ざる者も之を聞て汝らの神エホバを畏るることを學ばん汝らそのヨルダンを濟りゆきて獲ところの地に存ふる日の間つねに斯すべし 14 エホバまたモーセに言たまひけるは視よ汝の死る日近しヨシユアを召てともに集會の幕屋に立て我かれに命ずるところあらんとモーセとヨシユアすなはち往て集會の幕屋に立けるに 15 エホバ幕屋において雲の柱の中に現はれたまへりその雲の柱は幕屋の門口の上に駐まれり 16 エホバ、モーセに言たまひけるは汝は先祖たちとともに寝らん此民は起あがりその往ところの他國の神々に慕ひて之と姦淫を行ひかつ我を棄て我が彼らとむすびし契約を破らん 17 その日には我かれらにむかひて怒を發し彼らを棄て吾面をかれらに隠すべければ彼らは吞ほろぼさんれ許多の災害と艱難かれらに臨まん是をもてその日に彼ら言ん是等の災禍の我らにのぞむは我らの神エホバわれらとともに在さざるによるならずやと 18 然るも彼ら諸の惡をおこなひて他の神々に歸するによりて我その日にはかならず吾面をかれらに隠さん 19 然らば汝ら今この歌を書きイスラエルの子孫にこれを教へてその口に念ぜしめ此歌をしてイスラエルの子孫にむかひて我の證とならしめよ 20 我かれらの先祖たちに誓ひし乳と蜜の流るる地にかれらを導きいらんに彼らは食ひて飽き肥太るにおよばば翻へりて他の神々に歸してこれに事へ我を輕んじ吾契約を破らん 21 而して許多の災禍と艱難彼らに臨むにいたる時はこの歌かれらに對て證をなす者とならん其はこの歌かれらの口にありて忘ることなかるべければなり我いまだわが誓

ひし地に彼らを導きいらざるに彼らは早く已に思ひ量る所あり我これを
知ると 22 モーセすなはちその日に
この歌を書てこれをイスラエルの子
孫に教へたり 23 エホバまたヌの
子ヨシエルに命じて曰たまはく汝は
イスラエルの子孫を我が其に誓ひし
地に導きいるべきが故に心を強くし
かつ勇め我なんぢとともに在べしと
24 モーセこの律法の言をことごとく
書に書するすことを終たる時 25 モ
ーセ、エホバの契約の櫃を昇とこ
ろのレビ人に命じて言けるは 26 この
律法の書をとりにて汝らの神エホバの
契約の櫃の傍にこれを置き之をして
汝にむかひて證をなす者たらしめよ
27 我なんぢの悖る事と頑硬なるとを
知る見よ今日わが生存へて汝らと
ともある間すら汝らはエホバに悖れ
り況てわが死たる後においてをや 2
8 汝らの諸支派の長老等および牧伯
たちを吾許に集めよ我これらの言を
かれらに語り聞せ天と地とを呼てか
れらに證をなさしめん 29 我しる我
が死たる後には汝ら必ず悪き事
を行ひ我が汝らに命ぜし道を離れん
にして後の日に災害なんぢらに臨まん
是なんぢらエホバの怒と觀たまふ事
をおこなひ汝らの手の行爲をもてエ
ホバを怒らするによりてなり 30 か
くてモーセ、イスラエルの全會衆に
この歌の言をことごとく語り聞せたり

Chapter 32

1 天よ耳を傾けよ我語らん地
よ吾口の言を聴け 2 わが教は雨の降
るがごとし吾言は露のおくがごとく
露の若草の上にあふること細雨の青
草の上にくだるが如し 3 我はエホバ
の御名を頌揚ん我らの神に汝ら榮光
を歸せよ 4 エホバは磐にましまして
その行爲は完くその道はみな正し
また眞實ある神にましまして悪きと
ころ無し正しくして直くいます 5 彼
らはエホバにむかひて悪き事をおこ
なふ者にてその子にはあらず只これ
が玷となるのみ其人と爲は邪僻に
して曲れり 6 愚にして智慧なき民よ
汝らエホバに報ゆることはこのごと
くなるかエホバは汝の父にして汝を贖
ひまた汝を造り汝を建たまはずや 7
昔の日を憶え過にし世代の年を念へ
よ汝の父に問べし彼汝に示さん汝
中の老年に問べし彼ら汝に語らん 8
至高者の子を四方に散して萬の民
にその産業を分ちイスラエルの子孫
の數に照して諸の民の境界を定め
たまへり 9 エホバの分はその民に
してヤコブはその産業たり 10 エホバ
これを荒野の地に見これに獸の吼る曠
野に遇ひ環りかこみて之をいたはり
眼の珠のごとくにこれを護りたまへ
り 11 鷗のその巢を喚起しその子
の上に翱翔ごとくエホバその羽を展
て彼らを載せその翼をもてこれを負
たまへり 12 エホバは只独にてかれ
を導きたまへり別神はこれともな
らざりき 13 エホバかれに地の高處
を乗とほらせ田園の産物を食はせ石
の中より蜜を吸しめ磐の中より油を
吸しめ 14 牛の乳 羊の乳 羔羊の脂

バシヤンより出る牡羊牡山羊および
小麦の最も佳き者をこれに食はせ
たまひき汝はまた葡萄の汁の紅き酒を
飲り 15 然るにエシユルンは肥て腸
ことを爲す汝は肥太りて大きくなり
己を造りし神を棄て己が救拯の磐を
軽んず 16 彼らは別神をもて己が嫉
妬をおこし憎むべき者をもて之が震
怒を惹く 17 彼らが犠牲をささぐる
者は鬼にして神にあらず彼らが識ざ
りし鬼神近頃新に出たる者汝らの遠
つ親の畏まざりし者なり 18 汝を生
し磐をば汝これ棄て汝を造りし神
をば汝これを忘る 19 エホバこれ
を見その男子女子を怒りてこれを棄
たまふ 20 すなはち曰たまはく我わが
面をかれらに隠さん我かれらの終を
觀ん彼らはみな背き悖る類の者眞實
あらざる子等なり 21 彼らは神なら
ぬ者をもて我に嫉妬を起させ虚き者
をもて我を怒せられたれば我も民なら
ぬ者をもて彼らに嫉妬を起させ愚
なる民をもて彼らを怒らせん 22 即
ちわが震怒によりて火燃いで深き陰府
に燃いたりまた地とその産物をと燒
つくし山々の基をもやさん 23 我禍
災をかれらの上に積かさね吾矢を
かれらにむかひて射つくさん 24 彼
らは饑て瘦おとろへ熱の病患と悪き疫
とによりて滅びん我またかれらをして
獸の齒にかからしめ地に匍ふ者の
毒にあらしめん 25 外には劊内には
恐惶ありて少き男をも少き女をも
幼兒をも白髪の人をも滅ぼさん 26
我は曰ふ我彼等を吹掃ひ彼らの事
をして世の中に記憶らるること無ら
しめん 27 然れども我は敵人の怒を
恐る即ち敵人どれを見あやまりて言
ん我らの手能くこれを爲り是はすべ
てエホバの爲るにあらずと 28 彼
らはまつたく智慧なき民なりその中
には知識ある者なし 29 嗚呼彼らも
し智慧あらば之を了りてその身の終
を思慮らんものを 30 彼らの磐これ
を賣すエホバこれを付さずば争か一人
にて千人を逐ひ二人にて萬人を敗
ることを得ん 31 彼らの磐は我らの
磐にしかず我らの敵たる者等も然
認めたり 32 彼らの葡萄の樹はソドム
の葡萄の樹またゴモラの野より出
たる者その葡萄は毒葡萄その球は苦
し 33 その葡萄酒は蛇の毒のごとく
蠍の毒のごとく 34 是は我の許に蓄
へあり我の庫に封じこめぬにあらず
や 35 彼らの足の躓かん時に我仇
をかへし應報をなさんその災禍の日
は近く其がために備へられたる事
は迅速にいたる 36 エホバつひに
その民を鞠きまたその僕に憐憫をく
はへたまはん其は彼らの力のす
でに去うせて繋かれたる者も繋
かざる者もあらずなれるを見たま
へばなり 37 エホバ言たまはん
彼らの神々は何處にをるや彼ら
が頼める磐は何處ぞや 38 即ち
その犠牲の膏油を食ひその灌
祭の酒を飲たる者は何處にをるや
其等をして起て汝らに助けしめ
汝ら護しめよ 39 汝ら今觀よ我
こそは彼なり我の外には神なし殺
すこと活すこと撃こと愈すこと
は凡て我是を爲す我手より救ひ
出すことを得る者あらず 40 我
天にむかひて手をあげて言ふ我
は永遠に活く 41 我わが閃爍
く刃を磨ぎ審判をわが手に握る時

かならず仇をわが敵にかへし我を
恐む者に返報をなさん 42 我わが
箭をして血に酔しめ吾劍をして肉を
食しめん即ち殺る者と擄らる者の
血を之に飲せ敵の髪おほき首の肉
をこれに食はせん 43 國々の民よ
汝らエホバの民のために歡悦をな
せ其はエホバその僕の血のために
返報をなしその敵に仇をかへし
その地とその民の汚穢をのぞきた
まへばなり 44 モーセ、ヌの子
ヨシユアとともにとりにてこの歌
の言をことごとく民に誦きかせ
たり 45 モーセこの言語をこと
ごとくイスラエルの一切の人に告
をはりて 46 これに言けるは我が
今日なんぢらに對ひて證するこの
一切の言語を汝ら心に蔵め汝ら
の子等にてこの律法の一切の言語
を守りおこなふことを命ぜしめ
47 抑この言は汝らには虚しき
言にあらず是は汝らの生命なり
この言によりて汝らはそのヨル
ダンを濟りゆきて獲ところの地
にて汝らの生命を永うすること
を得ん 48 この日にエホバ、
モーセに告て言たまはく 49 汝
エリコに對するモアブの地のア
パリム山に登りてネボ山にいたり
我がイスラエルの子孫にあたへて
産業となさしむるカナンの地を
觀わたせよ 50 汝はその登れる
山に死て汝の民に列ならん是
汝の兄弟アロンがホル山に死
てその民に列りしごとくなるべし
51 是は汝らチンの曠野なるカ
デシのメリバの水の邊において
イスラエルの子孫の中間にて我
に悖りイスラエルの子孫の中に我
の聖きことを顯さざりしが故なり
52 然れども汝は我がイスラ
エルの子孫に與ふる地を汝の
前に觀わたすことを得ん但し
その地には汝いることを得じ

Chapter 33

1 神の人モーセその死る前に
イスラエルの子孫を祝せりその
祝せし言は是のごとし云く 2
エホバ、シナイより來りセイル
より彼らにむかひて昇りバラ
ンの山より光明を發ちて出で
千萬の聖者の中間よりして格
りたまへりその右の手に輝ける
火ありき 3 エホバは民を愛
したまふ其聖者は皆その手に
あり皆その足下に坐りその言
によりて起あがる 4 モー
セわれらに律法を命ぜり是は
ヤコブの會衆の産業たり 5 民
の首領等イスラエルの諸の支
派あひ集れる時に彼はエシ
ユルンの中に王たりき 6 ル
ベンは生ん死はせじ然とそ
の人數は寡少ならん 7 ユダ
につきては斯いふエホバよ
ユダの聲を聴きこれをその民
に引かへしたまへ彼はその手
をもて己のために戰はん願
くは汝これ助けてその敵にあ
たらしめたまへ 8 レビにつ
いては言ふ汝のトニムとウ
リムは汝の聖人に歸す汝か
つてマツサにて彼を試みメ
リバの水の邊にてかれと争へ
り 9 彼はその父またはその
母につきて言り我はこれを見
ずと又彼は自己の兄弟を認
すまた自己の子等を顧みざ
りき是はなんぢの言に遵が
ひ汝の契約を守りてなり 10
彼らは汝の式例をヤコブに
教へ汝の律法をイスラエルに
教へ又香を汝の鼻

の前にそなへ燔祭を汝の壇の上
にささぐ 11 エホバよ彼の
所有を祝し彼が手の作爲を悦
びて納れたまへ又起てこれに
逆らふ者とこれを恐む者と
の腰を掻きて復起あがること
あたはざらしめたまへ 12
ベニヤミンについては言ふ
エホバの愛する者安らにエ
ホバとともとあり日々その庇
護をかうむりてその肩の間に
居ん 13 ヨセフについては言
ふ願くはその地エホバの祝
福をかうむらんことを即ち天
の寶物なる露淵の底なる水 1
4 日によりて産する寶物月
によりて生ずる寶物 15 古
山の嶺の寶物老嶽の寶物 16
地の寶物地の中の産物および
柴の中に居たまひし者の恩
恵などヨセフの首に臨みそ
の兄弟と別になりたる者の
頂に降らん 17 彼らの牛の
首は汝の身に榮光ありてそ
の角は兇の角のごとく之をも
て國々の民を衝たふして直
に地の四方の極にまで至る
是はエフライムの萬々是はマ
ナセの千々なり 18 エ
ブルンについては言ふゼ
ブルンよ汝は外に出て快
樂を得よイツサカルよ汝
は家に居て快樂を得よ 19
彼らは國々の民を山に招
き其處にて義の犠牲を
献げん又海の中に盈る物
を得て食ひ沙の中に蔵れた
る物を得て食はん 20 ガ
ドについては言ふガドは
獅子のごとくに伏し腕と首
の頂とを搔裂ん 21 彼
は初穂の地を自己のために
選べり其處には大將の分
もこめり彼は民の首領等
とともに至りイスラエル
とともにエホバの公義と
審判となさなへり 22
ダンについては言ふダン
は小獅子のごとくバシ
ヤンより跳り出づ 23
ナフタリについては言
ふナフタリよ汝は大に福
祉をかうむりエホバの
恩恵にうるほふて西と南
の部を獲ん 24 アセル
については言ふアセルは
他の子等よりも幸福なり
また其兄弟等にこえて
恵まれその足を膏の中
に浸さん 25 汝の門
は鐵のごとく銅のごと
く汝の能力は汝が日々
に需むるところに循
はん 26 エシユルンよ
全能の神のごときは
外に無し是は天に乘
て助け雲に駕てその
威光をあらはした
まふ 27 永久に在
す神は住所なり下
には永遠の腕あり
敵人を汝の前より
驅はらひて言たま
ふ滅ぼせよと 28
イスラエルは安
然に住りヤコブの
衆は穀と酒との
多き地に獨り
在らんその天
はまた露を
これに降すべし 29
イスラエルよ
汝は幸福なり
誰か汝のご
とくエホバに
救はれし民
たらんエホバ
は汝を護る
楯汝の榮光
の劍なり汝
の敵は汝に
諂ひ服せん
汝はかれら
の高處を
踐ん

Chapter 34

1 斯てモーセ、モアブの平野より
ネボ山にのぼりエリコに對する
ピスガの嶺にいたり汝は
エホバ之にギレアデの
全地をダンまで見し 2
ナフタリの全部エ
フライムとマナセの
地およびユダの
全地を西の海まで
見し 3 南の地と
棕櫚の邑なる
エリコの谷の原
をゾアルまで
見たまへり 4
而してエホバ
かれに言たま
ひけるは

我がアブラハム、イサク、ヤコブにむかひ之を汝の子孫にあたへんと言て誓ひたりし地は是なり我なんぢをして之を汝の目に觀ことを得せしむ然ど汝は彼處に濟りゆくことを得ずと5斯の如くエホバの僕モーセはエホバの言の如くモアブの地に死り6エホバ、ペテベオルに對するモアブの地の谷にこれを葬り給へり今日までその墓を知る人なし7モーセはその死たる時百二十歳なりしがその目は噂まずその氣力は衰へざりき8イスラエルの子孫モアブの地において三十日のあひだモーセのために哭泣をなしけるがモーセのために哭き哀しむ日つひに満り9ヌンの子ヨシュアは心に智慧の充る者なりモーセその手をこれが上に按たるによりて然るなりイスラエルの子孫は之に聽したがひエホバのモーセに命じたまひし如くおこなへり10イスラエルの中にはこの後モーセのごとき預言者おこざりきモーセはエホバが面を對せて知たまへる者なりき11即ちエホバ、エジプトの地においてかれをパロとその臣下とその全地につかはして諸々の徴證と奇蹟を行はせたまへり12またイスラエルの一切の人の目の前にてモーセその大なる能力をあらはし大なる畏るべき事を行へり

らの神エホバが汝らに與へて獲させんとしたまふ地を獲んために進みゆくべければなりと12ヨシュアまたルベン人ガド人およびマナセの支派の半に告て言ふ13エホバの僕モーセ前に汝らに命じて言ひ汝らの神エホバ今なんぢらに安息を賜へり亦この地を汝らに與へたまふべしと汝らこの言詞を記念よ14汝らの妻子および家畜はモーセが汝らに與へしヨルダンの此岸の地に止まるべし然ど汝ら勇者は皆身をよるひて兄弟等の先にたち進濟りて之を助けよ15而してエホバが汝らに賜ひし如くなんぢらの兄弟等にも安息を賜ふにおよばば又かれらもなんぢらの神エホバの與へたまふ地を獲るにおよばば汝らエホバの僕モーセより與へられしヨルダンの此岸日の出る方なる己が所有の地に還りてこれを保つべしと16彼らヨシュアに應て言ふ汝が我等に命ぜし所は我等盡く爲べし凡て汝が我らを遣す處には我ら往べし17我らは一切の事モーセに聽したがひし如く亦なんぢに聽したがひし唯ねがはくは汝の神エホバ、モーセと偕にいましごとく汝と偕に在さんことを18誰にもあれ汝が命令に背き凡て汝が命ずるところの言に聽したがひざる者あらば之を殺すべし唯なんぢ心を強くしかつ勇め

てに汝らに恩を施したれば汝らも今エホバを指て我父の家に恩をほどこさんことを誓ひて我に眞實の記號を與へよ13又わが父母兄弟姉妹および凡て彼らに屬る者をながらへしめ我らの生命を拯ひて死を免かれしめんことを誓へよ14二人のものこれに言けるは汝ら若しわれらの此事を洩すことなくば我らの生命汝らに代りて死ん又エホバわれらに此地を與へたまふ時には我らなんぢに恩を施し眞實を盡さん15是においてラハブ繩をもて彼らを窓より縋おるせり是は其家邑の石垣の上においてかれ石垣の上に住しによる16ラハブかれらに言けるは恐らくは追者なんぢに遇ん汝ら山に往て三日が間そこに隠れり追者の還るを待て後去ゆくべし17二人のものかれに言けるは汝が我らに誓しし此誓につきては我ら罪を獲じ18我らが此地に打いらん時は汝我らを縋おるしたりし窓に此一條の赤き紐を結つけ且つ汝の父母兄弟および汝の父の家の眷族を悉く汝の家に繋むべし19凡て汝の家の門を出て街衢に来る者はその血自身の首に歸すべし我らは罪なし然どもし汝とともに家に在る者に手をくはふることをせばその血は我らの首に歸すべし20將た汝も我らのこの事を洩せば汝が我らに誓せたる誓に我らあづかることなし21ラハブいひけるはなんぢらの言のごとくすべしと斯てかれらを出し去しめて赤き紐を窓に結べり22かれら往て山にいり追來るものかへるを待て三日が間そこに居れりおひ來れるもの偏なく彼らを途に尋ねしかども終に獲ざりき23而してかの二箇の人は山を下り河を濟りて歸りヌンの子ヨシュアに詣りて其有し事等をつぶさに陳ぶ24またヨシュアにいふ誠にエホバこの國をことごとく我らの手に付したまへりこの國の民は皆我らの前に消うせんと

て立べしと9ヨシュアでイスラエルの人々にむかひて汝ら此に近づき汝らの神エホバの言を聽けと10而してヨシュア語りけらく活神なんぢらの中に在してカナン人ヘテ人ヒビ人ペリジ人ギルガジ人アモリ人エブス人を汝らの前より必ず逐はらひたまふべきを左の事によりてなんぢら知るべし11視よ全地の主の契約の櫃なんぢらに先だちてヨルダンにすすみ入り12然ば今イスラエルの支派の中より支派ごとに一人づつ合せて十二人を擧よ13全地の主エホバの櫃を昇ところの祭司等の足の躡ヨルダンの水の中に踏とどまらばヨルダンの水上より流れくだる水きれとどまり立てうづだかくならん14かくて民はヨルダンを濟らんとてその幕屋を立出祭司等は契約の櫃を昇て之に先だちゆく15抑々ヨルダンは収種の頃には絶すその岸にことごとく溢るなれど櫃を昇く者等ヨルダンに到り櫃を昇ける祭司等の足水際に浸ると奇く16上より流れくだる水止まりて遙に遠き處まで洩れザレタンに近きアダム邑の邊にて積り起て堆かくなりアラバの海すなはち鹽海の方に流れくだる水まつたく截止りたれば民エリコにむかひて直に濟れり17即ちエホバの契約の櫃を昇る祭司等ヨルダンの中乾ける地に堅く立をりてイスラエル人みな乾ける地を涉りゆき遂に民ことごとくヨルダンを濟りつくせり

Chapter 2

ヨシュア記

Chapter 1

1エホバの僕モーセの死し後エホバ、モーセの従者ヌンの子ヨシュアに語りて言たまはく2わが僕モーセは已に死り然ば汝いま此すべての民とともに起てこのヨルダンを濟り我がイスラエルの子孫に與ふる地にゆけ3凡そ汝らが足の躡にて踏む所は我これを盡く汝らに與ふ我が前にモーセに語し如し4汝らの疆界は荒野および此レバノンより大河ユフラテ河に至りてヘテ人の全地を包ぬ日の没る方の大海に及ぶべし5汝が生ながらふる日の間なんぢに當る事を得る人なかるべし我モーセと偕に在しごとく汝と偕にあらん我なんぢを離れず汝を棄じ6心を強くしかつ勇め汝はこの民をして我が之に與ふることをその先祖等に誓ひたりし地を獲しむべき者なり7惟心を強くし勇み勵んで我僕モーセが汝に命ぜし律法をことごとく守りて行へ之を離れて右にも左にも曲るなかれ然ば汝いづくに往ても利を得べし8この律法の書を汝の口より離すべからず夜も晝もこれを念ひて其中に録したる所をことごとく守りて行へ然ば汝の途福利を得汝かならず勝利を得べし9我なんぢに命ぜしにあらざる心を強くしかつ勇め汝の凡て往く處にて汝の神エホバに在せば懼るる勿れ戰慄なかべり10茲にヨシュア民の有司等に命じて言ふ11陣營の中を行めぐり民に命じて言へ汝等糧食を備へよ三日の内に汝らは此ヨルダンを濟り汝

1茲にヌンの子ヨシュア、シツテムより潜かに二人の間者を發し之にいひけるは往てかの地およびエリコを窺ひ探れ乃ち彼ら往て妓婦ラハブと名づくる者の家に入て其處に寝けるが2或人エリコの王に告て觀よイスラエルの子孫の者この地を探らんとて今宵ここに入きたれりといふ3是に於てエリコの王ラハブに言つかはしけるは汝にきたりて汝の家にしし人を曳いだせ彼らは此全國を探らんとて來れるなり4婦人かのふたりの人を將て之を匿し而して言ふ實にその人々はわが許に來り然れども我その何處よりか知ざりしが5黄昏どき門を開るころに出されり我その人々の何處へ往しかを知らず急ぎその後を追へ然ば之に追及んと6その實は婦すでにかれらを領て屋蓋に上り屋蓋の上に列べおきたる麻のなかに之をかくししなり7かくてその人々彼らの後を追ひヨルダンの路をゆきて渡場に赴ひけり、かれらの後を追ふ者出るや直に門を閉しぬ8二人のもの未だ寢ずラハブ屋背に上りて彼らのもとに來り9これに言けるはエホバこの地を汝らに賜へり我らは甚く汝らを懼る此地の民盡く汝らの前に消亡ん我この事を知る10其は汝らがエジプトより出來し時エホバなんぢらの前にて紅海の水を乾たまひし事および汝らがヨルダンの彼旁にありしアモリ人の二箇の王シホンとオグとなししこと即ちことごとく之を滅ぼしたりし事を我ら聞たればなり11我ら之を聞か心怯げなんぢらの故によりて人の魂きえうせたり汝らの神エホバは上の天にも下の地にも神たるなり12然ば請ふ我す

Chapter 3

1ヨシュア朝はやく起いでてイスラエルの人々とともにシツテムを打發てヨルダンにゆき之を濟らずして其處に宿りぬ2斯て三日の後有司陣營の中をめぐり3民に命じて曰ふ汝ら祭司等レビ人がなんぢらの神エホバの契約の櫃を昇出すを見れば其處を發出てその後に従がへ4されど汝らとその櫃との間には量りて凡そ二千キウビト許の隔離あるべし之に近づく勿れなんぢらその行べき途を知らんためなり汝らは未だこの途を経しことなかりき5ヨシュアまた民に言ふ汝ら身を潔めよエホバ明日なんぢらの中に妙なる事を行ひたまふべしと6ヨシュア祭司等に告ていふ契約の櫃を昇き民に先だちて濟れと則ち契約の櫃を昇き民に先だちて進めり7エホバ、ヨシュアに言たまひけるは今日汝をして我イスラエルの衆の目の前に汝を尊くし我がモーセと偕にありし如く汝と偕にあることを之に知せん8なんぢ契約の櫃を昇ところの祭司等に命じて言へ汝らヨルダンの水際にゆかばヨルダンにいり

Chapter 4

1民ことごとくヨルダンを濟りつくしたる時エホバ、ヨシュアに語りて言たまはく2汝ら民の中より支派ごとに一人づつ合せて十二人を擧げ3これに命じて言へ汝らヨルダンの中祭司等の足を踏とめしその處より石十二を取あげてこれを負ひ濟り此夜なんぢらが宿る宿場に居よと4ヨシュアすなはちイスラエルの人々の中より支派ごとに預て一人づつを取て備へおきぬその十二人の者を召よせ5而してヨシュアこれに言けるは汝らの神エホバの契約の櫃の前に當りて汝らヨルダンの中にすすみ入りイスラエルの人々の支派の數に循ひて各々石ひとつを取あげて肩に負きたれ6是は汝らの中に徴となるべし後の日にいたりて汝らの子輩是等の石は何のこころなりやと問て言ば7之にいへ往昔ヨルダンのエホバの契約の櫃の前にて裁斷りたる事を表はずなり即ちそのヨルダンを濟れる時にヨルダンの水きれ止まりりこの故にこれらの石を永くイスラエルの人々の記念となすべしと8イスラエルのひとびとヨシュアの命ぜしごとく然しエホバのヨシュアに告げたまひし如くイスラエルの人々の支派の數にしたがひてヨルダンの中より石十二を取あげ之を負わたりてその宿る處にいたりて之を其處にすゑたり9ヨシュアまたヨルダンの中において契約の櫃を昇る祭司等の足を踏立し處に石十二を立たりしが今日までも尚ほ彼處にあり10櫃を昇る祭司等はエホバのヨシュアに命じて

民に告しめたまひし事の悉く成るまでヨルダンの中に立をれり凡てモーセのヨシユアに命ぜし所に適へり民は急ぎて濟りぬ 11 民の悉く濟りつくせるときエホバの櫃および祭司等は民の觀る前にて濟りたり 12 レベンの子孫ガドの子孫およびマナセの支派の半モーセの之に言たりし如く身をよるひてイスラエルの人々に先だちて濟りゆき 13 凡そ四萬人ばかりの者軍の装に身を堅め攻戦はんとてエホバに先だちて濟りてエリコノ平野に至り 14 エホバこの日イスラエルの衆人の目の前にてヨシユアを尊くしたまひければ皆モーセを畏れしごとくに彼を畏る其一生の間常に然り 15 エホバ、ヨシユアに語りて言たまひけるは 16 なんぢ證詞の櫃を穿る祭司等にヨルダンを出きたれと命ぜよ 17 ヨシユアすなはち祭司等に命じヨルダンを出きたれと言ければ 18 エホバの契約の櫃を穿る祭司等ヨルダンの中より出きたる祭司等足の跡を陸地に擧ると齊くヨルダンの水故の處に流れかへりて初のごとくその岸にことごとく溢れぬ 19 正月の十日に民ヨルダンを出きたりエリコノ東の境界なるギルガルに營を張り 20 時にヨシユアそのヨルダンより取きたらせし十二の石をギルガルにたて 21 イスラエルの人々に語りて言ふ後の日にいたりて汝らの子輩その父に問て是らの石は何の意なりやと言ば 22 その子輩に告らせて言へ在昔イスラエルこのヨルダンを陸地となして濟りすぎし事あり 23 即ち汝らの神エホバ、ヨルダンの水を汝らの前に乾涸して汝らを濟らせたまへり其事は汝らの神エホバの我らの前に紅海を乾涸して我らを渡らせたまひし状況の如くなりき 24 斯なしたまひしは地の諸の民をしてエホバの手の力あるを知しめ汝らの神エホバを恒に畏れしめんためなり

Chapter 5

1ヨルダンの彼旁に居るアモリ人の諸の王および海邊に居るカナン人の諸の王はエホバ、ヨルダンの水をイスラエルの人々の前に乾涸して我らを濟らせたまひしと聞きイスラエルの人々の事によりて神魂消心も心ならざりき 2 その時エホバ、ヨシユアに言たまひけるは汝石の小刀を作り行て復イスラエルの人々に割禮を行なへと 3 ヨシユアすなはち石の小刀を作り陽皮山にてイスラエルの人々に割禮を行へり 4 ヨシユアが割禮を行ひし所以は是なりエジプトより出きたりし民の中の一切の男すなはち軍人は皆エジプトを出し後途にて荒野に死たりしが 5 その出来し民はみな割禮を受けた者なりき然どエジプトを出し後途にて荒野に生れし民には皆割禮を施さざりき 6 そもイスラエルの人々は四十年の間荒野を歩みりて終にそのエジプトより出れし民すなはち軍人等ことごとく亡はたりしはエホバの聲に聽したがはざりしに因てなり是をもてエホバかれらの先祖等に誓ひて我等に與へんと宣まひし地なる乳と蜜と

の流るる地を之に見せじと誓たまへり 7 かれらに繼て興らしめたまひしその子輩にはヨシユア割禮を行へりかれらは途にて割禮を施さざりしによりて割禮なきものなりければなり 8 一切の民に割禮を行ふこと畢りぬれば民は陣營に其儘居てその痊を待ち 9 時にエホバ、ヨシユアにむかひて我今日エジプトの羞辱を汝らの上より轉ばし去りと宣まへり是をもてその處の名を今日までギルガル(轉)と稱ふ 10 イスラエルの人々ギルガルに營を張りその月の十四日の晩エリコノ平野にて逾越節を行へり 11 而して逾越節の翌日その地の穀物餅いれぬパンおよび烘麥をその日に食ひけるが 12 その地の穀物を食ひし翌日よりしてマナの降ることを止みてイスラエルの人々かきさてマナを獲ざりき其年はカナンの地の産物を食へり 13 ヨシユア、エリコノ邊にあひける時目を擧て觀しに一箇の人の劍を手に抜持て己にむかひて立ぬればヨシユアすなはちその許にゆきて之に言ふ汝は我等を助くるか將われらの敵を助くるか 14 かれいひけるは否われはエホバの軍旅の將として今來れるなりとヨシユア地に俯伏て拜し我主にを僕に告んとしたまふやと之に言り 15 エホバの軍旅の將ヨシユアに言けるは汝の履を足より脱され汝が立をる處は聖きなりとヨシユア然なしぬ

Chapter 6

1 (イスラエルの人々の故によりてエリコは堅く閉して出入する者なし) 2 エホバ、ヨシユアに言ひたまひけるは觀よわれエリコおよびその王と大勇士とを汝の手に付さん 3 汝ら軍人みな邑を繞りて邑の周圍を一次まはるべし汝六日が間かく爲よ 4 祭司等七人おのおのヨベルの喇叭をたづさへて櫃に先だつべし而して第七日には汝ら七次邑をめぐり祭司等喇叭を吹ならすべし 5 然して祭司等ヨベルの角を音ながくふきならして喇叭の聲なんぢらに聞ゆる時は民みな大に呼はり喊ぶべし然せばその邑の石垣崩れおちん民みな直に進て攻のぼるべしと 6 ヌンの子ヨシユアやがて祭司等を召て之に言ふ汝ら契約の櫃を穿き祭司等七人ヨベルの喇叭七をたづさへてエホバの櫃に先だつべしと 7 而して民に言ふ汝ら進みゆきて邑を繞れ甲冑のものどもエホバの櫃に先だちて進みべしと 8 ヨシユアかく民に語りしかば七人の祭司等おのおのヨベルの喇叭をたづさへエホバに先だちすきみて喇叭を吹きエホバの契約の櫃これにしたがふ 9 即ち甲冑のものどもは喇叭を吹くところの祭司等にさきだちて行き後軍は櫃の後に行く祭司たちは喇叭を吹きつつすすり 10 ヨシユア民に命じて言ふ汝ら呼はる勿れ汝らの聲を聞えしむるなかれまた汝らの口より言を出すなかわが汝らに呼はれと命ずる日におよび呼はるべしと 11 而してエホバの櫃をもち邑を繞りて一周し陣營に來りて營中に宿れり 12 又あくる朝ヨシユアはやく興いで

祭司等エホバの櫃を穿き 13 七人の祭司等おのおのヨベルの喇叭をたづさへエホバの櫃に先だちて行き喇叭を吹きつつすすり甲冑の者等これに先だちて行き後軍はエホバの櫃の後に行く祭司等喇叭をふきつつ進めり 14 その次の日にも一次邑を繞りて陣營に歸り六日が間然なせり 15 第七日には夜明に早く興いで前のごとくして七次邑を繞り唯この日のみ七次邑を繞りたり 16 七次目にいたりて祭司等喇叭を吹くときにヨシユア民に言ふ汝ら呼はれエホバこの邑を汝らに賜へり 17 この邑およびその中の一切の物をば誂はれしものとしてエホバに獻ぐべし唯妓婦ラハブおよび凡て彼とともに家に在るものは生し存べしわれらが遣しし使者を匿したればなり 18 唯汝ら誂はれし物を慎め恐らくは汝ら其を誂はれしものとして獻ぐるに方りその誂はれし物を自ら取りてイスラエルの陣營をも誂はるものとならしめ之をして惱ましむるに至らん 19 但し銀金銅器鐵器などは凡てエホバに聖別て奉まつべきものなればエホバの府庫にこれを携へるべしと 20 是において民よばはり祭司喇叭を吹ならしけるが民喇叭の聲をきくと齊しくみな大聲を擧て呼はりしかば石垣崩れおちぬ斯りしかば民おのおの直に邑に上りいりて邑を攻取り 21 邑にある者は男女少きもの老たるものの區別なく盡くこれを刃にかけて滅ぼし且つ牛羊驢馬にまで及ぼせり 22 時にヨシユアこの地を窺ひたりし二箇の人にむかひ汝らかの妓婦の家に入りかの婦人およびかれに屬一切のものを携へいだしかれに誓ひし如くせよと言ければ 23 問者たりし少き人等すなはち入てラハブおよびその父母兄弟ならびに彼につけるすべてのものを携へ出したまたその親戚をも携へ出しイスラエルの陣營の外にかれらを置き 24 斯て火をもて邑とその中の一切のものを焚ぬ但し銀金銅器鐵器などはエホバの室の府庫に納めたり 25 妓婦ラハブおよびその父の家の一族と彼に屬一切の者とはヨシユアこれを生し存ければラハブは今日までイスラエルの中に住をる是はヨシユアがエリコを窺はせんとて遣はしし使者を匿したるに因てなり 26 ヨシユアその時人衆に誓ひて命じ言けるは凡そ起てこのエリコの邑を建る者はエホバの前に誂はるべし其石礎をすゑなば長子を失ひその門を建なば季子を失はんと 27 エホバ、ヨシユアとともに在してヨシユアの名あまなく此地に聞ゆ

Chapter 7

1時にイスラエルの人々その誂はれし物につきて罪を犯せり即ちユダの支派の中なるゼラの子ザブデの子なるカルミの子アカン誂はれし物を取りしをもてエホバ、イスラエルの人々にむかひて震怒を發ちたまへり 2 ヨシユア、エリコより人を遣はしベテルの東に當りてベテアベンの邊にあるアイに到らしめんとし之に語りて言ふ汝ら上りゆきてかの地を

窺へとその人々上りゆきてアイを窺ひけるが 3 ヨシユアの許に歸て之に言ふ民を盡くは上り住しめざれ唯二三千人を上らせてアイを撃しめよかれらは寡ければ一切の民を彼處に遣て勞せしむるなかと 4 是において民およそ三千人ばかり彼處に上りゆきけるが遂にアイの人の前より遁はしれり 5 アイの人彼らを門の前より追てシバリムにいたり下坂にてその三十六人ばかりを撃り民は魂神消て水のゴ衣になりぬ 6 斯りしかばヨシユアと人を裂きイスラエルの長老等とともにエホバの櫃の前にて暮まで地に俯伏をり首に塵を蒙れり 7 ヨシユア言けらく嗟主エホバよ何とて此民を導きてヨルダンを濟らせ我らアモリ人の手に付して滅亡させんとしたまふや我等ヨルダンの彼旁に安んじ居しならば善りしものを 8 嗟主よイスラエルすでに敵に背を見せれば我また何をか言ん 9 カナン人およびこの地の一切の民これを聞きわれらを攻かこみてわれらの名をこの世より絶然らば汝の大なる御名を如何にせんや 10 エホバ、ヨシユアに言たまひけるは立よなんぢ何とて斯は俯伏すや 11 イスラエルすでに罪を犯しわが彼らに命じおける契約を破れり即ち彼らは誂はれし物を取り窃みかつ語りてこれを己の所有物の中にいたり 12 是をもてイスラエルの人々は敵に當ること能はず敵に背を見す是は彼らも誂はる者となりたればなり汝ら其誂はれし物を汝らの中より絶あらざれば我ふたたび汝らと偕にをらじ 13 たてよ民を潔めて言へ汝ら身を潔めて明日を待てイスラエルの神エホバかく言たまふイスラエルよ汝の中に誂はれしものあり汝その誂はれし物を汝らの中より除去するまでは汝の敵に當ること能はず 14 然れば翌朝汝らの支派にしたがひて進みいづべし而してエホバの掣たまふ支派はその宗族にしたがひて進み出でエホバの掣たまふ支派は其一切の所有物とともに火に焚るべし是はエホバの契約を破りイスラエルの中に患なる事を行ひたるが故なりと 16 ヨシユアはにおいて朝はやく興いでてイスラエルをその支派にしたがひて進出しめけるにユダの支派掣たれば 17 ユダのもるもの宗族を進み出でしめけるにゼラの宗族掣れゼラの宗族の人々を進み出しめけるにザブデ掣れ 18 ザブデの家の人々を進み出しめけるにアカン掣れぬ彼はユダの支派なるゼラの子ザブデの子なるカルミの子なり 19 ヨシユア、アカンに言けるは我子よ請ふイスラエルの神エホバに稱讚を歸し之にむかひて懺悔し汝の爲たる事を我に告よ其事を我に隠すなかれ 20 アカン、ヨシユアに答へて言けるは實にわれはイスラエルの神エホバに對ひて罪ををかし如此々々行へり 21 即ちわれ掠取物の中にバビロンの美しき衣服一枚に銀二百シケルと重量五十シケルの金の棒あるを見欲く思ひて其を取りりそれはわが

天幕の中に地に埋め匿してあり銀も下にありと 22 爰にヨシュア使者を遣はしければ即ち彼の天幕に奔りゆきて視しに其は彼の天幕の中に匿しありて銀も下にありき 23 彼ら其を天幕の中より取出してヨシュアとイスラエルの一切の人々の所に携へきたりければ則ちそれをエホバの前に置り 24 ヨシュアやがてイスラエルの一切の人とともにゼラの子アカンを執へかの銀と衣服と金の棒およびその男子女子牛驢馬羊天幕など凡て彼の有る物をことごとく取てアコルの谷にこれを曳ゆけり 25 而してヨシュア言けらく汝なんぞ我らを悩まししやエホバ今日汝を悩ましたまふべしと頓てイスラエル人みな石をもて彼を撃ころし又その家族等をも石にて撃ころし火をもて之を焚けり 26 而してアカンの上に大なる石堆を積揚たりしが今日まで存かくてエホバその烈しき忿怒を息たまへり是によりてその處の名を今日までアコル(悩)の谷と呼ぶ

Chapter 8

1 茲にエホバ、ヨシュアに言たまひけるは懼るる勿れ戦慄なかれ軍人をことごとく率ゐ起てアイに攻のぼれ視よ我アイの王およびその民その邑その地を都て汝の手に授く 2 汝さきにエリコとその王とに如くアイとその王とに爲べし今回は其貨財およびその家畜を奪ひて自ら取べし汝まづ邑の後に伏兵を設くべしと 3 ヨシュアすなはち起あがり軍人をことごとく將てアイに攻のぼらんとしまづ大勇士三萬人を選びて夜の中にこれを遣はせり 4 ヨシュアこれに命じて言く汝らは邑に對ひて邑の後に伏すべし邑に遠く離れるを勿れ皆準備をなして待をれ 5 我と我に従がふ民みな共に邑に攻よせん而して彼らが初のごとく我らにむかひて打出んとき我らは彼らの前より逃はしらん 6 然せば彼ら我らを追て出來べければ我等つひに之を邑より誘き出すことを得ん其は彼等いはんこの人衆は初めのごとくまた我等の前より逃ぐと斯てわれらの前より逃はしらん 7 汝らその伏をる處より起りて邑を取べし汝らの神エホバ之を汝らの手に付したまふべし 8 汝ら邑を乗取たらば邑に火を放ちエホバの言詞の如く爲べし我これを汝らに命ずばやと 9 かくてヨシュアかれらを遣はしければ即ち往てアイの西の方にてベテルとアイとの間に身を伏せたりヨシュアはその夜民の中に宿れり 10 ヨシュア朝はやく興いでて民をあつめイスラエルの長老等とともに民に先だちてアイにのぼりゆけり 11 彼に従がふ軍人ことごとく上りゆきて攻寄せ邑の前に至りてアイの北に陣をとれり彼とアイの間には一の谷ありき 12 ヨシュア五千人許を擧て邑の西の方にてベテルとアイとの間にこれを伏せおけり 13 かく民の全軍を邑の北に置きその伏兵を邑の西に置いてヨシュアその夜谷の中にいりぬ 14 アイの王これを視しかばその邑の人々みな急ぎて蚤に起き進み出

てイスラエルと戦ひけるが預て謀しあはせ置る頃には王とその一切の民アラバの前に進み來れり王は邑の後に伏兵ありて已を伺ふを知らざりき 15 時にヨシュア、イスラエルの一切の人とともに彼らに打負し狀して荒野の路を指て逃はしりしかば 16 その邑の民みな之を追撃んとて呼はり集まりヨシュアの後を追て邑を出離れ 17 アイにもベテルにもイスラエルを迫りかすして遣りてる者は一人もなく皆邑を開き放してイスラエルの後を追り 18 時にエホバ、ヨシュアに言たまはく汝の手にある矛をアイの方に指伸よ我これを汝の手に授くべしとヨシュアすなはち己の手にある矛をアイの方に指伸るに 19 伏兵たちまち其處より起りヨシュアが手を伸ると齊しく奔きたりて邑に打りり之を取りて直に邑に火をかけたなり 20 茲にアイの人々背をふりかへりて觀しに邑の焚る煙天に立騰りみれば此へも彼へも逃るに術なかりき斯る機しも荒野に逃ゆける民も身をかくして其追きたる者等に逼れり 21 ヨシュアおよび一切のイスラエル人伏兵の邑を取て邑の焚る煙の立騰るを見身を還してアイの人々を殺しけるが 22 かの兵また邑より出きたりて彼らに向ひければ彼方にも此方にもイスラエル人ありて彼らはその中間に挟まれぬイスラエル人かくして彼らを攻撃て一人をも餘さず逃さず 23 つひにアイの王を生擒てヨシュアの許に曳きたれり 24 イスラエル人己を荒野に追きたりしアイの民をことごとく野に殺し刃をもてこれを併し盡すにおよびて皆アイに歸り刃をもてこれを撃ほろぼせり 25 その日アイの人々ことごとく斃れたりその數男女あはせて一萬二千人 26 ヨシュア、アイの民をことごとく滅ぼし絶まではその矛を指伸たる手を垂ざりき 27 但しその邑の家畜および貨財はイスラエル人これを奪ひて自ら取り是はエホバのヨシュアに命じたまひし言に依なり 28 ヨシュア、アイを燬て永くこれを墟垣とならしむ是は今日まで荒地となりを 29 ヨシュアまたアイの王を薄暮まで木に掛てさらし日の没におよびて命じてその死骸を木より取おるさしめ邑の門の入口にこれを投すて其上に石の大塚を積おこせり其は今日まで存 30 かくてヨシュア、エバル山にてイスラエルの神エホバに一の壇を築けり 31 是はエホバの僕モーセがイスラエルの子孫に命ぜしことに本づきモーセの律法の書に記されたる所に循がひて新石をもて作れる壇にて何人も鐵器をその上に振あげず人衆その上にてエホバに燔祭を献げ酬恩祭を供ふ 32 彼處にてヨシュア、モーセの書しるしし律法をイスラエルの子孫の前にて石に書うつせり 33 かくてイスラエルの一切の人およびその長老官吏裁判人など他國の者も本國の者も打まじりてエホバの契約の櫃を昇る祭司等レビ人の前にあたりて櫃の此旁と彼旁に分れ半はゲリジム山の前に半はエバル山の前に立りてエホバの僕モーセの命ぜし所にしがひて最初に先イスラエルの民を祝せんとなり 34 然る後ヨシ

ユア律法の書に凡てしるされたる所に循ひて祝福と呪詛とにかかはる律法の言をことごとく誦り 35 モーセの命じたる一切の言の中にヨシュアがイスラエルの全會衆および婦人子等ならびにイスラエルの中にをる他國の人の前にて誦ざるは無りき

Chapter 9

1 茲にヨルダンの彼旁において山地平地レバノンに對へる大海の濱邊に居る諸の王すなはちヘテ人アモリ人カナナン人ペリジ人ヒビ人エブス人たる者どもこれな聞て 2 心を同うし相集まりてヨシュアおよびイスラエルと戦はんとす 3 然るにギベオンの民ヨシュアがエリコとアイとに爲たりし事を聞しかば 4 己も詭計をめぐらして使者の狀にいでたち古き袋および古び破れたるを結びとめたる酒の革囊を驢馬に負せ 5 補ひたる古履を足にはき古衣を身にまとい來れり其糧のパンは凡て乾きかつ黴でありき 6 彼等ギルガルの陣營に來りてヨシュアの許にいたり彼とイスラエルの人々に言ふ我らは遠き國より來れり然ば今われらと契約を結べと 7 イスラエルの人々ヒビ人に言けるは汝らは我等の中に住をるならんも計られぬば我ら爭か汝らと契約を結ぶことを得んと 8 彼ら又ヨシュアにむかひて我らは汝の僕なりと言ければヨシュアかれらに汝らは何人にして何處より來りしやと問しに 9 彼らヨシュアに言けるは僕等は汝の神エホバの名の故によりて遙に遠き國より來れり其は我ら彼の聲譽および彼がエジプトにて行たりし一切の事を聞き 10 また彼がヨルダンの彼旁にをりしアモリ人の二箇の王すなはちヘシホンの王シホンおよびアシタロテにをりしバシヤンの王オグに爲たりし一切の事を聞たればなり 11 是をもて我らの長老および我らの國に住をるものみなわれらに告て言り汝ら旅路の糧を手に携さへ往てかれらを迎へて彼らに言へ我らは汝らの僕なり請ふ我らと契約を結べと 12 我らの此パンは我らの所に来らんとて出たちし日に汝ら家々より其なほ温暖なるをとり備へしなるが視よ今は已に乾きて黴たり 13 また酒をみたるこれらの革囊も新しかりしが破るるに至り我らのこの衣服も履も旅路の甚だ長きによりて古びぬと 14 然るに人々は彼らの糧を取りエホバの口を問ことをせざりき 15 ヨシュアすなはち彼らと好を爲し彼らを生しおかんといふ契約を結び會中の長等かれらに誓ひたりしが 16 その彼らと契約を結びてより三日を経て後かれらは己に近き人にして己の中に住をる者なりと聞り 17 イスラエルの子孫やがて進みて第三日に彼らの邑々に至れり其邑はギベオン、ケピラ、ベエロテおよびキリアテヤリムなり 18 然れども會中の長等イスラエルの神エホバを指て彼らに誓ひたりしをもてイスラエルの子孫これを攻撃ざりき是をもて會衆みな長等にむかひて喧けり 19 然ど長等は凡て全會衆に言ふ我らイスラエルの神エ

ホバを指て彼らに誓へり然ば今彼らに觸べからず 20 我ら斯かれらに爲て彼らを生しおかん然すれば彼らに誓ひし誓ひによりて震怒の我らに及ぶことあらじと 21 長等また人衆にむかひて彼らを生しおくべしと言ければ彼らは遂に全會衆のために薪を斬り水を汲ことをする者となれり長等の彼等に言たるが如し 22 ヨシュアすなはち彼らを召よせて彼らに語りて言けるは汝らは我らの中に住をりながら何とて我らは汝らに甚だ遠しと云て我らを誑かししや 23 然ば汝らは詛はる汝らは永く奴隷となり皆わが神の室のために薪を斬り水を汲ことをする者となるべしと 24 彼らヨシュアに應へて言けるは僕等はなんぞの神エホバその僕モーセに此地をことごとく汝らに與へ此地の民をことごとく汝らの前より滅ぼし去ことを命ぜしと明白に傳へ聞たれば汝らのために生命の危からんことを太く懼れて斯は爲けるなり 25 視よ我らは今汝の手の中にあり汝の我らに爲を善とし正當とする所を爲たまへと 26 ヨシュアすなはち其ごとく彼らに爲し彼らをイスラエルの子孫の手より救ひて殺さしめざりき 27 ヨシュアその日かれらをして會衆のためおよびエホバの壇の爲に其えらびたまふ處において薪を斬り水を汲ことをする者とならしめたりしが今日まで然り

Chapter 10

1 茲にエルサレムの王アドニゼデクはヨシュアがアイを攻取てこれを全く滅ぼし嚮にエリコとその王とに爲しごとくにアイとその王とも爲たる事およびギベオンの民がイスラエルと好を爲て之が中にをる事を聞て 2 大に懼る是ギベオンは大なる邑にして都府に等しきに因りまたアイよりも大きくしてその内の人々凡て強きに因てなり 3 エルサレムの王アドニゼデク是においてヘプロンの王ホハム、ヤルムテの王ピラム、ラキシの王ヤピアおよびエグロンの王デビルに人を遣はして云ふ 4 我の處に上りきたりて我を助けよ我らギベオンを攻撃ん其はヨシュアおよびイスラエルの子孫と好を結びたればなりと 5 而してこのアモリ人の王五人すなはちエルサレムの王ヘプロンの王ヤルムテの王ラキシの王およびエグロンの王あひ集まりそり諸軍勢を率て上りきたりギベオンに對ひて陣を取り之を攻て戦ふ 6 ギベオンの人々ギルガルの陣營に人を遣はしヨシュアに言しめけるは僕等を助くることを緩うする勿れ迅速に我らの所に上り來りて我らを救ひ助けよ山地に住をるアモリ人の王みな相集りて我らを攻るなりと 7 ヨシュアすなはち一切の軍人および一切の大勇士を率ゐてギルガルより進みのぼれり 8 時にエホバ、ヨシュアに言たまひけるは汝らを懼るなかれ我れは汝を汝の手に付す彼らの中には汝らに當ることを得る者一人もあらじと 9 この故にヨシュア、ギルガルより終夜進みのぼりて猝然にかれらに攻よせしに

10エホバかれらをイスラエルの前に敗りたまひければヨシユア、ギベオンにおいて彼らを夥多く撃殺しベテホロンの昇阪の路よりしてアゼカおよびマツケダまで彼らを追撃し 11 彼らイスラエルの前より逃はしりてベテホロンの降阪にありける時エホバ天より大石を降しそのアゼカに到るまで然したまひければ多く死すイスラエルの子孫が剣をもて殺しし者よりも雹石にて死し者の方衆かりき 12 エホバ、イスラエルの子孫の前にアモリ人を付したまひし日にヨシユア、エホバにむかひて申せしことあり即ちイスラエルの目の前にて言けらく日よギベオンの上に止まれ月よアヤロンの谷にやすらへ 13 民その敵を撃やぶるまで日は止まり月はやすらひぬはヤシヤルの書に記さるるにあらざり即ち日空の中にやすらひて急ぎ没ざりしこと凡そ一日なりき 14 是より先にも後にもエホバ是のごとく人の言を聴いたまひし日は有す是時にはエホバ、イスラエルのために戦ひたまへり 15 かくてヨシユア一切のイスラエル人とともにギルガルの陣營に歸りぬ 16 かの五人の王は逃ゆきてマツケダの洞穴に隠れたりしが 17 五人の王はマツケダの洞穴に隠れをるとヨシユアに告げ言ふ者ありければ 18 ヨシユアいひけるは汝ら洞穴の口に大石を轉ばしその傍に人を置いてこれを守らせよ 19 但し汝らは止る勿れ汝らの敵の後を追てその殿軍を撃て彼らをその邑々に入しむる勿れ汝らの神エホバかれらを汝らの手に付したまへるぞかしと 20 ヨシユアおよびイスラエルの子孫おびたしく彼らを撃殺して遂に殺し盡しその撃もらされて遣れる者等城々に逃るにおよびて 21 民みな安らかにマツケダの陣營にかへりてヨシユアの許にいたりけるがイスラエルの子孫にむかひて舌を鳴すもの一人もなかりき 22 時にヨシユア言ふ洞穴の口を開きて洞穴よりかの五人の王を我前に曳いだせと 23 やがて然なしてかの五人の王すなはちエルサレムの王ヘブロン、王ヤルムテの王ラキシの王およびエグロンの王を洞穴より彼の前に曳いだせり 24 かの王等をヨシユアの前に曳いだしし時ヨシユア、イスラエルの一切の人々を呼よせ己とともに往し軍人の長等に言けるは汝ら近よりて此王等の頸に足をかけよと乃はち近よりてその王等の頸に足をかけければ 25 ヨシユアこれに言ふ汝ら懼る勿れ慄く勿れ心を強くしかつ勇めよ汝らが攻て戦ふ諸の敵にはエホバすべて斯のごとく爲たまふべしと 26 かくて後ヨシユア彼らを撃て死しめ五個の木にかけて晩暮まで木の上にこれを曝しおきしが 27 日の没る時におよびてヨシユア命を下しければ之を木より取おろしその隠れたりし洞穴に投げ入れて洞穴の口に大石を置り是は今日が日まで存す 28 ヨシユアかの日マツケダを取り刃をもて之と其の王とを撃ち之と其中たる一切の人をことごとく滅して一人をも遺さずアリコ、王になしたるごとくにマツケダの王にも爲しぬ 29 かくてヨシユア一切のイスラエル人を率

ゐてマツケダよりリブナに進みてリブナを攻て戦ひけるに 30 エホバまた之とその王をもイスラエルの手に付したまひしかば刃をもて之と其中なる一切の人を撃ほろぼし一人をもその中に遺さずアリコ、王に爲たるとくにその王にも爲ぬ 31 ヨシユアまた一切のイスラエル人を率ゐてリブナよりラキシに進み之にむかひて陣をとり之を攻めて戦ひけるに 32 エホバでラキシをイスラエルの手に付したまひければ第二日にこれを取り刃をもて之と其中なる一切の人々を撃ちほろぼせり凡てリブナに爲たると 33 時にゲゼルの王ホラム、ラキシを援けんとして上りきたりければヨシユアかれとその民とを撃ころして終に一人をも遺さざりき 34 斯てヨシユア一切のイスラエル人を率ゐてラキシよりエグロンに進み之に對ひて陣を取りこれを攻て戦ひ 35 その日にこれを取り刃をもて之を撃その中なる一切の人をことごとくその日に滅ぼせり凡てラキシに爲たると 36 ヨシユアまた一切のイスラエル人をひきゐてエグロンよりヘブロンに進みのぼり之を攻て戦ひ 37 やがてこれを取り刃と其の王およびその一切の邑々とその中なる一切の人を刃にかけて撃ころして一人をも遺さざりき凡てエグロンに爲たると 38 かくてヨシユア一切のイスラエル人を率ゐてリブナに至り之を攻て戦ひ 39 之とその王およびその一切の邑を取り刃をもて之を撃てその中なる一切の人をことごとく滅ぼし一人をも遺さざりき其デビルと其王に爲たると 40 ヨシユアかく此全地すなはち山地南の地平地および山腹の地ならびに其すべての王等を撃ほろぼして一人一箇をも遺さず凡て氣息する者は盡くこれを滅ぼせりイスラエルの神エホバの命じたまひしごとし 41 ヨシユア、カデシバルネアよりガザまでの國々およびゴセンの全地を撃ほろぼしてギベオンにまで及ぼせり 42 イスラエルの神エホバ、イスラエルのために戦ひたまひしに因てヨシユアこれらの諸王およびその地を一時に取り 43 かくてヨシユア一切のイスラエル人を率ゐてギルガルの陣營にかへりぬ

Chapter 11

1 ハゾルの王ヤビン之を聞およびマドンの王ヨバブ、シムロンの王アクサフの王 2 および北の地山地キンネロテの南のアラバ平地西の地なるドルの高處などに居る王等 3 すなはち東西のカナン人アモリ人ヘテ人ペリジ人山地のエブス人ミツバの地なるヘルモンの麓のヒビ人などに人を遣はせり 4 爰に彼らその諸軍勢を率ゐて出きたれり其民の衆多ことは濱の砂の多きがごとくにして馬と車もまた甚だ多かりき 5 これらの王たち皆あひ會して進みきたり共にメロムの水の邊に陣をとりてイスラエル

と戦はんとす 6 時にエホバ、ヨシユアに言たまひけるは彼らの故によりて懼る勿れ明日の今頃われ彼らをイスラエルの前に付して盡く殺さしめん汝かれらの馬の足の筋を截り火をもて彼らの車を焚べしと 7 ヨシユアすなはち一切の軍人を率ゐて俄然にメロムの水の邊に押寄て之を襲ひけるに 8 エホバこれをイスラエルの手に付したまひしかば則ち之を撃やぶりて大シドンおよびミスレポテマムまで之を追ゆき東の方にては又ミツバの谷までこれを追ゆき遂に一人をも遺さず撃とれり 9 ヨシユアすなはちエホバの己に命じたまひしことにしたがひて彼らに馬の足の筋を截り火をもてその車を焚り 10 その時ヨシユア歸りきたりてハゾルを取り刃をもてその王を撃り在昔ハゾルは是らの諸國の盟主たりき 11 即ち刃をもてその中なる一切の人を撃てことごとく之を滅ぼし氣息する者は一人だに遺さざりき又火をもてハゾルを焚り 12 ヨシユアこれらの王の一切の邑々およびその諸王を取り刃をもてこれを撃て盡く滅ぼせり、エホバの僕モーセの命じたるがごとし 13 但しその岡の上にたちたる邑々はイスラエルこれを焚ず唯ハゾルのみをヨシユア焚り 14 是らの邑の諸の貨財及家畜はイスラエルの人手奪ひて自ら之を取り人はみな刃をもて撃て滅ぼし盡し氣息する者は一人だに遺さざりき 15 エホバその僕モーセに命じたまひし所をモーセまたヨシユアに命じ置たりしがヨシユアその如くに行へり凡てエホバのモーセに命じたまひし所はヨシユア一だに爲で置し事なし 16 ヨシユア斯その全地すなはち山地南の全地ゴセンの全地平地アラバ、イスラエルの山地およびその平地を取り 17 セイルに上りゆくてハラク山よりヘルモン山の麓なるレバノン谷のバルガデまでを獲その王等をことごとく執へて之を撃て死しめたり 18 ヨシユア此すべての王等と戦争をなすこと日ひさし 19 ギベオンの民ヒビ人を除くの外はイスラエルの子孫と好をなしし邑なかりき皆戦争をなしてこれを攻とりしなり 20 そもそも彼らが心を剛愎にしてイスラエルに攻よせしはエホバの然らしめたまひし者なり彼らは誼はれし者となり憐憫を乞ふことせず滅ぼされんがためなりき是全くエホバのモーセに命じたまひしが如し 21 その時ヨシユアまた往て山地ヘブロン、デビル、アナブ、ユダの一切の山地イスラエルの一切の山地などよりしてアナク人を絶ち而してヨシユア彼らの邑々をも與に滅ぼせり 22 然からにイスラエルの子孫の地の内にはアナク一人も遺りならず只ガザ、ガテ、アシドドに少く遺りたる而已 23 ヨシユアかく此地を盡く取り全くエホバのモーセに告たまひし如し而してヨシユア、イスラエルの支派の區別にしたがひ之を與へて産業となさしめたり遂に此地に戦争やみぬ

Chapter 12

1 諸ヨルダンの彼旁日の出る方に於てアルノンの谷よりヘルモン山および東アラバの全土までの間にてイスラエルの子孫が撃ほろぼして地を取たりし其國の王等は左のごとし 2 先アモリ人の王シホン彼はヘシボンの谷の端なるアロエルより谷の中の邑およびギリアデの半を括てアンモンの子孫の境界なるヤボク河にいたり 3 アラバをキンネレテの海の東まで括またアラバの海すなはち鹽海の東におよびてベテエシモテの路にいたり南の方ビスガの山腹にまで達す 4 次にレバイムの餘餘なりしバシヤンの王オグの國境を言んに彼はアシタロテとエデレイに住をり 5 ヘルモン山サレカおよびバシヤンの全土よりしてゲシュリ人マアカ人およびギリアデの半を治めてヘシボンの王シホンと境を接ふ 6 エホバの僕モーセ、イスラエルの子孫とともに彼らを撃ほろぼせり而してエホバの僕モーセ之が地をルベン人ガド人およびマナセの支派の半に與へて産業となさしむ 7 またヨルダンの此旁西の方においてレバノンの谷のバルガデよりセイル山の上途なるハラク山までの間にてヨシユアとイスラエルの子孫が撃ほろぼしたりし其國の王等は左のごとしヨシユア、イスラエルの支派の區別にしたがひその地をあたへて産業となさしむ 8 是は山地平地アラバ山腹荒野野南の地などにしてヘテ人アモリ人カナン人ペリジ人ヒビ人エブス人等が有ちたりし者なり 9 エリコ、王一人ベテルの邊なるアイの王一人 10 エルサレムの王一人ヘブロン、王一人 11 ヤルムテの王一人ラキシの王一人 12 エグロンの王一人ゲゼルの王一人 13 デビル、王一人ゲデルの王一人 14 ホルマの王一人アラデの王一人 15 リブナの王一人アドラムの王一人 16 マツケダの王一人ベテルの王一人 17 タップアの王一人ヘベルの王一人 18 アベクの王一人ラシヤロンの王一人 19 マドンの王一人ハゾルの王一人 20 シムロンメロンの王一人アクサフの王一人 21 タアナクの王一人メギドンの王一人 22 ケデシの王一人カルメル、王一人 23 ドルの高處なるドルの王一人ギルガのゴイム、王一人 24 テルザの王一人合せて三十一王

Chapter 13

1 ヨシユアすでに年邁みて老たりしがエホバかれに言たまひけらく汝は年邁みて老たるが尚取るべき地の残れる者甚だおほし 2 その尚のこれる地は是なりペリシテ人の全州ゲシウル人の全土 3 エジプトの前なるシホルより北の方カナン人に屬する人といふエクロンの境界までの部ペリシテ人の五人の主の地すなはちガザ人アシドド人アシケロン人ガテ人エクロン人の地 4 南のアビ人カナン人の全地シドン人に屬するメアラ

およびアモリ人の境界なるアベクまでの部5またヘルモン山の麓なるパアルガデよりハマテの入口までに亘るゲバル人の地およびレバノンの東の全土6レバノンよりミスレポテマムまでの山地の一切の民すなはちシドン人の全土我かれらをイスラエルの子孫の前より逐はらふべし汝は我が命じたりしごとくその地をイスラエルに分ち與へて産業となさしめよ7即ちその地を九の支派とマナセの支派の半とに分ちて産業となさしむべし8マナセとともにルベンおよびガド人はヨルダンの彼旁東の方にてその産業をモーセより賜はり獲たりエホバの僕モーセの彼らに與へし者は即ち是のごとし9アルノンの谷の端にあるアロエルより此方の地谷の中にある邑デボンまでに亘るメデバの一切の平地10ヘシボンにて世を治めしアモリ人の王シホンの一切の邑々よりしてアンモンの子孫の境界までの地11ギレアデ、ゲシユル人及びマアカ人の境界に沿る地ヘルモン山の全土サルカまでバシヤン一圓12アシタロテおよびエデレイにて世を治めしバシヤンの王オグの全土オグはレバイムの餘民の遺れる者なりモーセこれらを撃て逐はらへり13但しゲシユル人およびマアカ人はイスラエルの子孫これを逐はらはざりきゲシユル人とマアカ人は今日までイスラエルの中に住る14唯レビの支派にはヨシュア何の産業をも與へざりき是イスラエルの神エホバの火祭これが産業たればなり其かれに言たまひしが如し15モーセ、ルベンの子孫の支派にその宗族にしたがひて與ふる所ありしが16その境界の内はアルノンの谷の端なるアロエルよりこなたの地谷の中なる邑メデバの邊の一切の平地17ヘシボンおよびその平地の一切の邑々デボン、パモテバアル、ベテバアルメオン18ヤハズ、ケデモテ、メバアテ19キリアタイム、シブマ、谷中の山のゼレシタイム20ベテベオウル、ピスガの山腹ベテエシモテ21平地の一切の邑々ヘシボンにて世を治めしアモリ人の王シホンの全土モーセ、シホンをミデアンの貴族エビ、レケム、ツル、ホルおよびレバとあはせて撃ころせり是みなシホンの大臣にしてその地に住りし者なり22イスラエルの子孫またベオルの子ト篋師バラムをも刃にかけてその外に殺せし者等とともに殺せり23ルベンの子孫はヨルダンおよびその河岸をもて己の境界とせりルベンの子孫がその宗族に循ひて獲たる産業は是のごとくにして邑も村もこれに准らふ24モーセまたガドの子孫たるガドの支派にもその宗族にしたがひて與ふる所ありしが25その境界の内はヤゼル、ギレアデの一切の邑々アンモンの子孫の地の半ラバの前なるアロエルまでの地26ヘシボンよりラマテミツパまでの地およびベトニム、マナハイムよりデビルの境界までの地27谷においてはベテハラム、ベテニムラ、スコテ、ザパルなどヘシボンの王シホンの國の残れる部分ヨルダンおよびその河岸より

してヨルダンの東の方キンネレテの海の岸までの地28ガドの子孫がその宗族にしたがひて獲たる産業は是のごとくにして邑も村も之に准らふ29モーセまたマナセの支派の半にも與ふる所ありき是すなはちマナセの支派の半にその宗族にしたがひて與へしなり30その境界の内はマナハイムより此方の地バシヤンの全土バシヤンの王オグの全土バシヤンにあるヤイルの一切の邑すなはち其六十の邑31ギレアデの半バシヤンにおけるオグの國の邑々アシタロテおよびエデレイ是等はマナセの子マキルの子孫に歸せり即ちマキルの子孫の半その宗族にしたがひて之を獲たり32ヨルダンの東の方に於てエリコに對ひるモアブの野にてモーセが分ち與へし産業は是のごとし33但しレビの支派にはモーセ何の産業をも與へざりきイスラエルの神エホバこれが産業たればなり其かれらに言たまひし如し

Chapter 14

1イスラエルの子孫がカナンの地にて取しその産業の地は左のごとし即ち祭司エレアザル、ヌンの子ヨシュアおよびイスラエルの子孫の支派の族長等これを彼らに分ち2エホバがモーセによりて命じたまひしごとく産業の籤によりて之を九の支派および半の支派に與ふ3其はヨルダンの彼旁にてモーセ已にかの二の支派と半の支派とに産業を與へたればなり但しレビ人には之が中に産業を與へざりき4是はヨセフの子孫マナセ、エフライムの二の支派と成るに因て然りレビ人には此地において何の分をも與へず唯その住べき邑々およびその家畜と貨財を置べき郊地を與へしのみ5イスラエルの子孫エホバのモーセに命じたまひしごとく行てその地を分てり6茲にユダの子孫ギルガルにてヨシュアの許に至りケニズ人エフンネの子カレブ、ヨシュアに言けるはエホバ、カデシバルネアにて我と汝との事につきて神の人モーセに告たまひし事あり汝これを知る7エホバの僕モーセが此地を窺はせんとて我をカデシバルネアより遣はしし時に我は四十歳なりき其時我は心に思ふまにまに彼に復命したり8我とともに上り往しわが兄弟等は民の心を挫くことを爲たりしが我は全く我神エホバに從へり9その日モーセ誓ひて言けらく汝の足の踐たる地は必ず永く汝と汝の子孫の産業となるべし汝まったく我神エホバに從がひたればなりと10エホバこの言をモーセに語りたまひし時より已來イスラエルが荒野に歩みたる此四十五年の間かく其のたまひし如く我を生存らへさせたまへり視よ我は今日すでに八十五歳なるが11今日もなほモーセの我を遣はしたりし日のごとく健剛なり我が今の力かの時の力のごとくにして出入し戦闘をなすに堪ふ12然ば彼日エホバの語りたまひし此山を我に與へよ汝も彼日聞たる如く彼處にはアナキ人をりその邑々は太にして堅固なり然な

がらエホバわれとともに在して我つひにエホバの宣ひしごとく彼らを逐はらふことを得んと13ヨシュア、エフンネの子カレブを祝しヘブロンをこれに與へて産業となさしむ14是をもてヘブロンは今日までケニズ人エフンネの子カレブの産業となりる是は彼まつたくイスラエルの神エホバに從がひたればなり15ヘブロンの名は元はキリアテアルバと曰ふアルバはアナキ人の中の最も大なる人なりき茲にいたりてその地に戦争やみぬ

Chapter 15

1ユダの子孫の支派がその宗族にしたがひて籤にて獲たる地はエドムの境界に達し南の方デンの荒野にわたり南の極端に及ぶ2その南の境界は鹽海の極端なる南に向へる入海より起り3アクラビムの坂の南にわたりてデンに進みカデシバルネアの南より上りてヘズロンに沿て進みアダルに上り進きてカルカに環り4アズモンに進みてエジプトの河にまで達しその境界海にいたりて盡く汝らの南の境界は是の如くなるべし5その東の境界は鹽海にしてヨルダンの河口に達す北の方の境界はヨルダンの河口なる入海より起り6上りてベテホグラにいたりベテアラバの北をすぎ上りてルベン人ボハンの石に達し7またアコラの谷よりデビルに上りて北におもむき河の南にあるアドミムの坂に對するギルガルに向ひすすみてエンシメシの水に達しエンロゲルにいたりて盡く8又その境界はベニヒノムの谷に沿てエブス人の地すなはちエルサレムの南の脇に上りゆきヒンノムの谷の西面に横はる山の嶺に上る是はレバイムの谷の北の極處にあり9而してその境界この山の嶺より延てネフトアの水の泉源にいたりエフロン山の邑々にわたりその境界延てバララにいたる是すなはちキリアテヤリムなり10その境界バララより西の方セイル山に環りヤリム山(すなはちケサロン)の北の脇をへてベテシメシに下りテムナに沿て進み11エクロンの北の脇にわたりて進みツツケロンに至りバララ山に進みヤブネルに達し海にいたりて盡く12また西の境界は大海にいたりその濱をもて限とすユダの子孫がその宗族にしたがひて獲たる地の四方の境界は是のごとし13ヨシュアそのエホバに命ぜられしごとくエフンネの子カレブにユダの子孫の中にてキリアテアルバすなはちヘブロンを與へてその分となさしむ14アルバはアナクの子なりカレブかこよりアナクの子三人を逐はらへり是すなはちアナクより出たるセシヤイ、アヒマンおよびタルマイなり15而して彼かこよりデビルの民の所に攻上りてデビルの名は元はキリアテセルといふ16カレブ言けらくキリアテセルを撃てこれを取る者には我女子アクサを妻に與へんと17ケナズの子にしてカレブの弟なるオテニエルといふ者これを取ればカレブその女子アクサを之が妻に與へ

たり18アクサ適く時田野をその父に求むべきことをオテニエルに勧め遂にみづから驢馬より下れりカレブこれに何を望むやと言ければ19答へて言ふ我に粧奩を與へよ汝われを南の地に遣なれば水泉をも我に與へよと乃ち上の泉と下の泉とをこれに與ふ20ユダの子孫の支派がその宗族にしたがひて獲たる産業は是のごとし21ユダの子孫の支派が南においてエドムの境界の方に有るその遠き邑々は左のごとしカブジエル、エデル、ヤグル22キナ、デモナ、アダダ、23ケデシ、ハゾル、イテナン、24ジフ、テレム、ペアロテ25ハゾルハダツタ、ケリオテヘズロンすなはちハゾル26アマム、シマ、モラダ27ハザルガダ、ヘシモン、ベテパレテ28ハザルシユアル、ベエルシバ、ビジヨテヤ29バララ、イキム、エゼム30エルトラデ、ケシル、ホルマ31チクラグ、マデマンナ、サンサンナ32レバオテ、シルヒム、アイン、リンモン、その邑あはせて二十九ならびに之に屬る村々なり33平野にてはエシタオル、ゾラ、アシナ34ザノア、エンガンニム、タツプア、エノナム35ヤルムテ、アドラム、シヨコ、アゼカ36シヤアラム、アデタイム、ゲデラ、ゲデロタイム合せて十四邑ならびに之に屬る村々なり37ゼナン、ハダシヤ、ミグダルガデ38デラン、ミツバ、ヨクテル39ラキシ、ボツカテ、エグロン40カボン、ラマム、キリテシ41ゲデロテ、ベテダゴン、ナアマ、マツケダ合せて十六邑ならびに之に屬る村々なり42またリブナ、エテル、アシヤン43イフタ、アシナ、ネジブ44ケイラ、アクジブ、マレシア合せて九邑ならびに之に屬る村々なり45エクロンならびにその郷里および村々なり46エクロンより海まで凡てアシドドの邊にある處々ならびに之につける村々なり47アシドドならびにその郷里および村々ガザならびにその郷里および村々エジプトの河および大海の濱にいたるまでの處々なり48山地にてはシヤミル、ヤツテル、シヨコ49ダンナ、キリアテサンサすなはちデビル50アナブ、エシテモ、アニム51ゴセン、ホロン、ギロ、合せて十一邑ならびに之に屬る村々なり52アラブ、ドマ、エシヤン53ヤニム、ベテタツプア、アペカ54ホムタ、キリアテアルバすなはちヘブロン、デルアあはせて九邑ならびに之につける村々なり55マオン、カルメル、ジフ、ユダ56エズレル、ヨグテアム、ザノア57カイン、ギベア、テムナあはせて十邑ならびに之に屬る村々なり58ハルホル、メテズル、ゲドル59マアラテ、ベテアノテ、エルテコンあはせて六邑ならびに之に屬る村々なり60キリアテバアルすなはちキリアテヤリムおよびラバあはせて二邑ならびに之につける村々なり61荒野にてはベテアラバ、ミデン、セカカ62ニブシヤン鹽邑エングデあは

せて六邑ならびに之につける村々なり 63 エルサレムの民エブス人はユダの子孫これを逐はらふことを得ざりき是をもてエブス人は今日までユダの子孫とともにエルサレムに住ぬ

Chapter 16

1ヨセフの子孫が籐によりて獲たる地の境界はエリコの邊なるヨルダンすなはちエリコの東の水の邊より起りてエリコにかかり更に上りて山地を過ぎベテルにいたりて荒野に沿ひ行き 2ベテルよりルズにおもむきアルキ人の境界なるアタロテに進み 3また西の方ヤフレテ人の境界に下り下ベテホロンの境界に及びゲゼルにまで達し海にいたりて盡く 4かくヨセフの子孫マナセ及びエフライムその産業を受たり 5エフライムの子孫がその宗族にしたがひて獲たる地の境界は是のごとしその産業の境界東はアタロテアダルにて上はベテホロンに達し 6ミクメタの北より西におもむき東にをれてアタナテシロにいたりて之に沿てヤノアの東を過ぎ 7ヤノアより下りてアタロテおよびナアラにいたりエリコに達しヨルダンにいたりて盡く 8タツプアよりして西に進みカナの河にまで達し海にいたりて盡くエフライムの子孫の支派がその宗族にしたがひて獲たる産業は是のごとし 9この外にマナセの子孫の産業の中にてエフライムの子孫に別ち與へし邑々ありエフライムの一切の邑およびその村々を得たり 10但しゲゼルに居るカナン人をば逐はらざりき是をもてカナン人は今日までエフライムの中に住み僕となりて之に使役せらる

Chapter 17

1マナセの支派が籐によりて獲たる地は左のごとしマナセはヨセフの長子なりきマナセの長子にしてギレアデの父なるマキルは軍人なるが故にギレアデとバシヤンを獲たり 2此餘のマナセの子等即ちアビエゼルの子孫ヘレクの子孫アスリエルの子孫シケムの子孫ヘベルの子孫セミダの子孫などもその宗族にしたがひて獲る所ありき是等はヨセフの子マナセが男の子にしてその宗族に循ひて言るなり 3マナセの子マキルその子ギレアデその子ヘベルその子なるゼロバハデといふ者は女の子のみありて男の子あらざりきその女の子の名はマハラ、ノア、ホグラ、ミルカ、テルザといふ 4彼等祭司エラザル、ヌンの子ヨシヤおよび長等の前に進み出て言けらく我らの兄弟の中にて我らにも産業を與へよとエホバ、モーセに命じおきたまへりヨシヤすなはちエホバの命にしたがひて彼らの父の兄弟の中に彼らにも産業を與ふ 5マナセはヨルダンの彼旁にてギレアデおよびバシヤンの地の外になほ十部の地を獲たり 6是はマナセの女の子等もその男の子等の中にて産業を獲たればなりギレアデの地はマナセのその餘の子等に屬す 7マナセの境界はアセルよりシケムの

前なるミクメタに及び右におもむきてエンタツプアの民に達す 8タツプアの地はマナセに屬す但しマナセの境界にあるタツプアはエフライムの子孫に屬す 9またその境界カナの河に下りてその河の南に至る是等の邑はマナセの邑々の中においてエフライムに屬すマナセの境界はその河の北にあり海にいたりて盡く 10その南の方はエフライムに屬し北の方はマナセに屬し海これらの境界を成すマナセは北はアセルに達し東はイツサカルに達す 11イツサカルおよびアセルの中にてマナセはベテシヤンとその郷里イブレアムとその郷里ドルの民とその郷里およびエンドルの民とその郷里タアナクの民とその郷里メギドンの民とその郷里など合せて三の高處を有り 12但しマナセの子孫は是らの邑の民を逐はらふことを得ざりければカナン人この地に固く住むをりしが 13イスラエルの子孫強くなるに及びてカナン人を使役し之を盡く逐こととはせざりき 14茲にヨセフの子孫ヨシヤに語りて言けるはエホバ今まで我を祝福たまひて我は大なる民となりけるに汝わが産業にとて只一の籐一の分のみを我に與へしは何ぞや 15ヨシヤかれらに言けるは汝も大なる民となりしならば林に上りゆきて彼處なるペリジ人およびレバウム人の地を自ら斬ひらくべしエフライムの山地は汝には狭しと言はなり 16ヨセフの子孫言けるは山地は我らには足すかつ又谷の地ををるカナン人はベテシヤンとその郷里にをる者もエズレルの谷にをる者も凡て鐵の戦車を有り 17ヨシヤかさねてヨセフの家すなはちエフライムとマナセに語りて言ふ汝は大なる民にして大なる力あり然れば只一の籐のみを取てをる可らず 18山地をも汝の有とすべし是は林なれども汝これを斬ひらきてその極處を獲べしカナン人は鐵の戦車を有をりかつ強くあれども汝これを逐はらふことを得ん

Chapter 18

1かくてイスラエルの子孫の會衆ことごとくシロに集り集會の幕屋をかしこに立つその地は已に彼らに歸服ぬ 2この時なほイスラエルの子孫の中に未だその産業を分ち取ざる支派七のこりあければ 3ヨシヤ、イスラエルの子孫に言けるは汝らは汝らの先祖の神エホバの汝らに與へたまひし地を取に往くことを何時まで怠りるや 4汝ら支派ごとに三人づつを擧よ我これを遣さん彼らは起てその地を歩きめぐりその産業にしたがひて之を描き寫して我に歸るべし 5彼らその地を分ちて七分となすべしユダは南にてその境界の内にをりヨセフの家は北にてその境界の内にをるべし 6汝らその地を描き寫して七分となし此にわが許に持たれ我ここに我等の神エホバの前になんちらの爲に籐を擧ん 7レビ人は汝らの中に何の分をも有せずエホバの祭司となることをもて其産業とす又ガド、ルベンおよびマナセの支派の半

はヨルダンの彼旁東の方にて已にその産業を受たり是エホバの僕モーセの之に與へし者なりと 8その人々すなはち起て往り其地を描き寫さんとて出ゆける此者等にヨシヤ命じて云ふ汝等ゆきてその地を歩きめぐり之を描き寫して我に歸りきたれ我シロにて此にエホバの前にて汝らのために籐を擧んと 9その人々ゆきてその地をめぐり邑にしたがひて之を七分となして書に描き寫しシロの營に歸りてヨシヤに語りければ 10ヨシヤ、シロにて彼らのためにエホバの前に籐を擧り而してヨシヤ彼所にてイスラエルの子孫の區分にしたがひて其地を分ち與へたり 11まづベニヤミンの子孫の支派のためにその宗族にしたがひて籐を擧りその籐によりて獲たる地の境界はユダの子孫とヨセフの子孫の間にわたる 12即ちその北の方の境界はヨルダンよりしてエリコの北の脇に上り西の山地を逾てまた上りベテアベンの荒野にいたりて盡く 13彼處よりその境界ルズに進みルズの南の脇にいたるルズはベテルなり而して其境界下ベテホロンの南に横たはる山に沿てアタロテアダルに下り 14延て西の方にて南に曲りベテホロンの南面に横たはるところの山より進みユダの子孫の邑キリアテパアル即ちキリアテヤリムにいたりて盡くその西の境界は是のごとし 15またその南の方はキリアテヤリムの極處よりして西におもむきてネフトアの水の源にいたり 16レバウムの谷の中の北の方にてベニヒノムの谷の前に横たはる所の山の極處に下り其處よりしてヒンノムの谷に下りてエブス人の南の脇にいたりエンロゲルに下り 17北に延てエンシメシにおもむきアドミルの阪に對へるゲリロテにおもむきルベン人、ボハンの石まで下り 18北の方にてアラバに對する處にわたりてアラバに下り 19ベテホグラの北の脇にわたりヨルダンの南の極にて鹽海の北の入海にいたりて盡くその南の境界は是のごとし 20東の方にてはヨルダンその境界となる是すなはちベニヤミンの子孫がその宗族にしたがひて獲たる産業の周圍の境界なり 21ベニヤミンの子孫の支派がその宗族にしたがひて獲たる邑々はエリコ、ベテホグラ、エメクケジツ 22ベテアラバ、ゼマライム、ベテル 23アビム、バラ、オフラ 24ケバルアンモン、オフニ、ケバの十二邑ならびに之に屬する村々なり 25ギベオン、ラマ、ベエロテ 26ミツパ、ケビラ、モザ 27レケム、イルビエル、タララ、 28ゼラ、エレフ、エブスすなはちエルサレム、ギベア、キリアテの十四邑ならびに之につける村々はなりベニヤミンの子孫がその宗族にしたがひて獲たる産業は是のごとし

Chapter 19

1次にシメオンのため即ちシメオン子孫の支派のためにその宗族にしたがひて籐を擧りその産業はユダの子孫の産業の中にあり 2その有る

産業はベエルシバ即ちシバ、モラダ 3ハザルシユアル、バラ、エゼム 4エルトラデ、ベトル、ホルマ 5チクラグ、ベテマルカボテ、ハザルスサ 6ベテレバオテ、シヤルヘンの十三邑並びに之につける村々 7およびアイン、リンモン、エテル、アシヤンの四邑ならびに之につける村々 8および此邑々の周圍にありてバラテベエルすなはち南のラマまでに至るところの一切の村々等なりシメオンの子孫の支派がその宗族にしたがひて獲たる産業は是のごとし 9シメオンの子孫の産業はユダの子孫の分の中より出づるユダの子孫の分自分のためには多かりしに因てシメオンの子孫のおのれの産業を彼らの産業の中に獲たるなり 10第三にゼブルンの子孫のために其宗族にしたがひて籐を擧り其産業の境界はサリデに及び 11また西に上りてマララに至りダバセテに達しヨグネアムの前なる河に達し 12サリデよりして東の方の日のいづる方にまがりてキスロテタホルの境界にいたりタバラに出でヤピアに上り 13彼處より東の方ガテヘベルにわたりてイツカカジンにいたりネアまで廣がるるところのリンモンに至りて盡く 14また北にまはりてハンナトンにいたりイフタエルの谷にいたりて盡く 15カツタテ、ナハラル、シムロン、イダラ、ベレヘムなどの十二邑ならびに之につける村々あり 16ゼブルンの子孫がその宗族にしたがひて獲たる産業およびその邑と村とは是のごとし 17第四にイツサカルすなはちイツサカルの子孫のためにその宗族にしたがひて籐を擧り 18その境界の包括る處はエズレル、ケスロテ、シユネム 19ハパライム、シオン、アナハラテ 20ラビテ、キシオン、エベツ 21レメテ、エンガンニム、エンハダ、ベテパツゼズなどなり 22その境界タボル、シヤハチマおよびベテシメシに達しその境界ヨルダンにいたりて盡く其邑あはせて十六また之につける村々あり 23イツサカルの子孫の支派がその宗族にしたがひて獲たる産業および其邑々村々は是の如し 24第五にアセルの子孫の支派のために其宗族にしたがひて籐を擧り 25其境界の内はヘルカテ、ハリ、ベテン、アクサフ 26アラシメレク、アマデ、ミシヤルなり其境界西の方カルメルに達しまたシホルリブナテに達し 27日の出る方に折てベテダゴンにいたりゼブルンに達し北の方イフタエルの谷のベテエメク及びネイエルに達ししてカブルに出で 28エブロン、レホフ、ハンモン、カナにわたりて大シドンにまでいたり 29ラマに旋りツ口の城に及びまたホサに旋りアクジブの邊にて海にいたりて盡く 30またウンマ、アベクおよびレホフありその邑あはせて二十二また之につける村々あり 31エズレルの子孫の支派がその宗族にしたがひて獲たる産業およびその邑々村々は是のごとし 32第六にナフタリの子孫のためにナフタリの子孫の宗族にしたがひて籐を擧り 33その境界はヘレフより即ちザアナムの境の樹より起りアダミネケブおよびヤブニエル

を経てラクムにいたりヨルダンにいたりて盡く 34 而して其境界西に旋りてアズノテタボルにいたり彼處よりホツコクに出て南はゼブルンに達し西はアセルに達し日の出る方はヨルダンの邊にてユダに達す 35 その堅固たる邑々はヂデム、ゼル、ハンマテ、ラツカテ、キンネレテ 36 アダマ、ラマ、ハゾル 37 ケデシ、エデレイ、エンハゾル 38 イロン、ミグダルエル、ホレム、ベテアナテ、ベテシメシなど合せて十九邑亦これにつける村々あり 39 ナフタリの子孫の支派がその宗族にしたがひて獲たる産業およびその邑々村々は是のごとし 40 第七にダンの子孫の支派のためにその宗族にしたがひて籐を撃り 41 その産業の境界の内はゾラ、エシタオル、イルシメシ 42 シヤラビム、アヤロン、イテラ 43 エロン、テムナ、エクロン 44 エルテケ、ギベトン、パアラテ 45 エホデ、ベネベラク、ガテリンモン 46 ヌヤルコン、ラツコン、ヨツパと相對ふ地などなり 47 但しダンの子孫の境界は初よりは廣くなれり其はダンの子孫上りゆきてライシを攻取り刃をもちてこれを撃ほろぼし之を獲て其處に住たればなり而してその先祖ダンの名にしたがひてライシをダンと名けたり 48 ダンの子孫の支派がその宗族にしたがひて獲たる産業およびその邑々村々は是のごとし 49 かく境界を畫りて産業の地を與ふことを終ぬ而してイスラエルの子孫おのれの中にてヌンの子ヨシュアに産業を與へたり 50 すなはちエホバの命にしたがひて彼にその求むる邑を與ふエフライムの山地なるテムナテセラはなり彼その邑を建なほして其處に住む 51 祭司エレアザル、ヌンの子ヨシュアおよびイスラエルの子孫の支派の族長等がシロにおいて集會の幕屋の門にてエホバの前に籐をもて分與へし産業は是のごとし斯地を分つことを終たり

Chapter 20

1 茲にエホバ、ヨシュアに告て言たまひけるは 2 汝イスラエルの子孫に告て言へ汝等モーセによりて我が汝らに語りおきし逃遁の邑を擇び定め 3 誤りて知ずし人を殺せる者其處に逃れしめよ是は汝らが仇打する者を避て逃るべき處なり 4 斯る者は是等の邑の一に逃れゆき邑の門の入口に立てその邑の長老等の耳にその事情を述べし然る時は彼ら之をその邑に受けし處を與へて己の中に住しむべし 5 假令仇打する者追くとも彼らその人を殺せる者之が手に交すべからず是は彼知ずして人を殺せるにて素より之を惡みをりしに非ればなり 6 その人は會衆の前に立て審判を受けるまで其時の祭司の長の死る迄その邑に住るべし然る後その人を殺せる者己の邑に歸りてその家にいたり己が逃いでし邑に住むべし 7 爰にナフタリの山地なるガリラヤのケデシ、エフライムの山地なるキリア

テアルバ(すなはちヘブロン)を之がために分ち 8 またヨルダンの彼旁エリコの東の方にてはルベンの支派の中より平地なる荒野のベゼルを擇び定めガドの支派の中よりギレアデのラモテを擇び定めマナセの支派の中よりバシヤンのゴランを擇び定めたり 9 是すなはちイスラエルの一切の子孫および之が中に寄寓する他國人のために設けたる邑々にして凡人を誤り殺せる者を此に逃れしめ其會衆の前に立ざる中に仇打の手に死るがごときことなからしめんためなり

Chapter 21

1 茲にレビの族長等來りて祭司エレアザル、ヌンの子ヨシュアおよびイスラエルの子孫の支派の族長等の許にいたり 2 カナンの地シロにおいて之に語りて言ふエホバがつつ我らに住べき邑々を與ふることおよびその郊地を我らの家畜のために與ふる事をモーセによりて命じおきたまへり 3 イスラエルの子孫すなはちエホバの命にしたがひて自己の産業の中より左の邑々とその郊地とをレビ人に與ふ 4 先コハテ人の宗族のために籐を撃り祭司アロンの子孫たるレビ人籐によりてユダの支派の中シメオンの支派の中およびベニヤミンの支派の中より十三の邑を獲 5 その他のコハテの子孫は籐によりてエフライムの支派の宗族の中ダンの支派の中マナセの支派の半の中より十の邑を獲たり 6 またゲシヨンの子孫は籐によりてイツサカルの支派の宗族の中アゼルの子孫の中ナフタリの支派の中およびバシヤンにあるマナセの支派の半の中より十三の邑を獲たり 7 またメラリの子孫は其宗族にしたがひてルベンの支派の中ガドの支派の中およびゼブルンの支派の中より十二の邑を獲たり 8 イスラエルの子孫エホバのモーセによりて命じたまひし所にしたがひて此の邑々とその郊地とを籐によりてレビ人に與ふ 9 即ち先ユダの子孫の支派の中およびシメオンの子孫の支派の中より左に名を擧たる邑々を與ふ 10 是はレビの子孫コハテ人の宗族なるアロンの子孫に歸す其は彼ら第一の籐にありたればなり 11 即ちユダの山地なるキリアテアルバ即ちヘブロンおよびその周圍の郊地をこれに與ふ此アルバはアナクの父なりき 12 その邑の田野およびその村々はこれをエフネの子カレブに與へて所有となさしむ 13 祭司アロンの子孫に與へし者は即ち人を殺し者の逃るべき邑なるヘブロンとその郊地リブナとその郊地 14 ヌツテルとその郊地エシテモアとその郊地 15 ホロンとその郊地デビルとその郊地 16 アインとその郊地ユツタとその郊地ベテシメシとその郊地此九の邑は此ふたつの支派の中より分ちしものなり 17 またベニヤミンの支派の中よりギベオンとその郊地ゲバとその郊地 18 アナトテとその郊地アルモンとその郊地など四の邑をあたへたり 19 アロンの子孫たる祭司等の邑は合せて十

三邑又之につける郊地あり 20 この他のコハテの子孫なるレビ人の宗族籐によりてエフライムの支派の中より邑を獲たり 21 即ち之に與へしは人を殺せる者の逃るべき邑なるエフライムの山地のシケムとその郊地およびゲゼルとその郊地 22 キブザイムとその郊地ベテホロンとその郊地など四の邑なり 23 又ダンの支派の中より分ちて與へし者はエルテケとその郊地ギベトンとその郊地 24 アヤロンとその郊地ガテリンモンとその郊地など四の邑なり 25 又マナセの支派の半の中より分ちて與へし者はタアナクとその郊地ガテリンモンとその郊地など二の邑なり 26 外のコハテの子孫の宗族の邑は合せて十また之につける郊地あり 27 ゲルシヨンの子孫たるレビ人の宗族に與へし者はマナセの支派の半の中よりは人を殺せる者の逃るべき邑なるバシヤンのゴランとその郊地およびベエシテラとその郊地など二の邑なり 28 イツサカルの支派の中よりはキシオンとその郊地ダベラとその郊地 29 ヤルムテとその郊地エンガンニムとその郊地など四の邑なり 30 アセルの支派の中よりはミシヤルとその郊地アブドンとその郊地 31 ヘルカテとその郊地レホブとその郊地など四の邑なり 32 ナフタリの支派の中よりは人を殺せる者の逃るべき邑なるガリラヤのケデシとその郊地およびハンモデルとその郊地カルタンとその郊地など三の邑なり 33 ゲルシヨン人がその宗族にしたがひて獲たる邑は合せて十三邑にして又これに屬る郊地あり 34 この餘のレビ人なるメラリの子孫の宗族に與へし者はゼブルンの支派の中よりはヨクネアムと其郊地カルタとその郊地 35 デムナとその郊地ナハラルとその郊地など四の邑なり 36 ルベンの支派の中よりはベゼルとその郊地ヤハツとその郊地 37 ケデモテとその郊地メバアテとその郊地など四の邑なり 38 ガドの支派の中よりは人を殺せる者の逃るべき邑なるギレアデのラモテとその郊地およびマハナイムとその郊地 39 ヘシボンとその郊地ヤゼルとその郊地など合せて四の邑 40 是みな外のレビ人なるメラリの子孫がその宗族にしたがひて獲たる邑々なり其籐によりて獲たる邑は合せて十二 41 イスラエルの子孫の所有の中にレビ人が有る邑々は合せて四十八邑又之につける郊地あり 42 この邑々は各々その周圍に郊地あり此邑々みな然り 43 かくエホバ、イスラエルに與へんとその先祖等に誓ひたまひし地をことごとく與へたまひければ彼ら之を獲て其處に住り 44 エホバ凡てその先祖等に誓ひたまひし如く四方におて彼らに安息を賜へり其すべての敵の中に一人も之に當ることを得る者なかりきエホバかれらの敵をことごとくその手に付したまへり 45 エホバがイスラエルの家に語りたまひし善事は一だに缺ずして悉くみな來りぬ

Chapter 22

1 茲にヨシュア、ルベン人ガド人およびマナセの支派の半を召て 2 これに言けるは汝らはエホバの僕モーセが汝らに命ぜし所をことごとく守り又わが汝らに命ぜし一切の事において我言に聽したがへり 3 汝らは今日まで日ひさしく汝らの兄弟を離れずして汝らの神エホバの命令の言を守り來り 4 今は已に汝らの神エホバなんぢらの兄弟に向に宣まひし如く安息を賜ふに至れり然ば汝ら身を轉らしエホバの僕モーセが汝らに與へしヨルダンの彼方なる汝等の産業の地に歸りて自己の天幕にゆけ 5 只エホバの僕モーセが汝らに命じおきし誠命と律法とを善く謹しみて行ひ汝らの神エホバを愛しその一切の途に歩みその命令を守りて之に附したがひ心を盡し精神を盡して之に事ふべしと 6 かくてヨシュア彼らを祝して去しめければ彼らはその天幕に往り 7 マナセの支派の半にはモーセ、バシヤンにて産業を與へおけりその他の半にはヨシュア、ヨルダンの此旁西の方にてその兄弟等の中に産業を與ふヨシュア彼らをその天幕に歸し遣るに當りて之を祝し 8 之に告て言けるは汝ら衆多の貨財夥多し家畜金銀銅鐵および夥多し衣服をもちて汝らの天幕に歸り汝らの敵より獲たるその物を汝らの兄弟の中に分つべしと 9 爰にルベンの子孫ガドの子孫およびマナセの支派の半はエホバのモーセによりて命じ給ひし所に循ひて己の所有の地すなはち已に獲たるギレアデの地に往んとしてカナンの地のシロよりしてイスラエルの子孫に別れて歸りけるが 10 ルベンの子孫ガドの子孫およびマナセの支派の半カナンの地のヨルダンの岸邊にいたるにおよびて彼處にてヨルダンの傍に一の壇を築けりその壇は大にして遙に見えわたる 11 イスラエルの子孫はルベンの子孫ガドの子孫およびマナセの支派の半カナンの地の前の部にてヨルダンの岸邊イスラエルの子孫に屬する方にて一の壇を築けりと言を聞り 12 イスラエルの子孫これと聞き育しくイスラエルの子孫の會衆ことごとくシロに集まりて彼らの所に攻のぼらんとす 13 イスラエルの子孫すなはち祭司エレアザルの子バハネスをギレアデの地に遣はしてルベンの子孫ガドの子孫およびマナセの支派の半の所に至らしめ 14 イスラエルの各々の支派の中より父祖の家の牧伯一人づつを擧て合せて十人の牧伯を之に伴なはしむはみなイスラエルの家族の中にて父祖の家の長たる者なりき 15 彼らギレアデの地に往きルベンの子孫ガドの子孫およびマナセの支派の半にいたりて之に語りて言けらく 16 エホバの全會衆かく言ふ汝らイスラエルの神にむかひて愆を犯し今日すでに翻へりてエホバに從がはざらんとし即ち己のために一の壇を築きて今日エホバに叛かんとするは何事ぞや 17 ベオールの罪われらに足ざらんや之がためにエホバの會衆に災禍くだりたりしかども我ら今日までも尚身を潔め

てその罪を棄ざるなり 18 然るに汝らは今日ひるがへりてエホバに從がはざらんとするや汝ら今日エホバに叛けば明日はエホバ、イスラエルの全會衆を怒りたまふべし 19 然ながら汝らの所有の地もし潔からずばエホバの幕屋のたてるエホバの産業の地に濟り來て我らの中にて所有を獲よ惟われらの神エホバの壇の外に壇を築きてエホバに叛く勿れまた我らに悖るなかれ 20 ゼラの子アカン誼はれし物につきて愆を犯しつひにイスラエルの全會衆に震怒臨みしにあらざり且また其罪にて滅亡し者は彼人ひとりにはあらざりき 21 ルベンの子孫ガドの子孫およびマナセの支派の半答へてイスラエルの宗族の長等に言けるは 22 諸の神の神エホバ諸の神の神エホバ知しめすイスラエルも亦知んもし叛く事あるひはエホバに罪を犯す事ならば汝今日我らを救ふなかれ 23 我らが壇を築きし事もし翻がへりてエホバに從がはざらぬが爲なるか又は其上に燔祭素祭を獻げんが爲なるか又はその上に酬恩祭の犠牲を獻げんがためならばエホバみづからその罪を問討したまへ 24 我等は遠き慮をもて故に斯なしたるなり即ち思ひけらく後の日にいたりて汝らの子孫われらの子孫に語りて言ならん汝らはイスラエルの神エホバと何の関係あらんや 25 ルベンの子孫およびガドの子孫よエホバ我らと汝らの間にヨルダンを界となしたまへり汝らはエホバの中に分なしと斯いひてなんぢらの子孫われらの子孫としてエホバを畏ることを息しめんと 26 是故に我ら言けらく我らいま一の壇を我らのために築かんと是燔祭のために非ずまた犠牲のために非ず 27 惟し之をして我らと汝らの間および我らの後の子孫の間に證とならしめて我ら燔祭犠牲および酬恩祭をもてエホバの前にその職務をなさんがためなり然せば汝らの子孫後の日いたりて我らの子孫に汝らはエホバの中に分なしと言こと無らん 28 是をもて我ら言ひ彼らが我らまたは後の日に我らの子孫に然いはいばその時我ら言ひ我らの父祖の築きたりしエホバの壇の模形を見よ是は燔祭のためにも非ずまた犠牲のためにもあらざり我らと汝らとの間の證なり 29 エホバに叛き翻へりて今日エホバに從がふことを息め我らの神エホバの幕屋の前にあるその祭壇の外に燔祭素祭犠牲などのために壇を築くことは我らの絶て爲ざる所なり 30 祭司ピネハスおよび會衆の長等即ち彼とともなるイスラエルの宗族の首等はルベンの子孫ガドの子孫およびマナセの子孫が述たる言を聞て善とせり 31 祭司エレアザルの子ピネハスすなはちルベンの子孫ガドの子孫およびマナセの子孫に言けるは我ら今日エホバの我らの中に在るは吾等を知らず其は汝らエホバにむかひて此愆を犯さざればなり今なんぢらはイスラエルの子孫をエホバの手より救ひいだせりと 32 祭司エレアザルの子ピネハスおよび牧伯等すなはちルベンの子孫およびガドの子孫に別れてギレアデの地よりカナンの地に歸りイスラエルの子孫にいたりて復命しけ

るに 33 イスラエルの子孫これを善とせり而してイスラエルの子孫神を讃めルベンの子孫およびガドの子孫の住をる國を滅ぼしに攻上らんと重ねて言ざりき 34 ルベンの子孫およびガドの子孫その壇をエド(譚)と名けて云ふ是は我らの間にありてエホバは神にいますとの證をなす者なりと

Chapter 23

1 エホバ、イスラエルの四方の敵をことごとく除きて安息をイスラエルに賜ひてより久しき後すなはちヨシユア年邁みて老たる後 2 ヨシユア一切のイスラエル人すなはち其長老首領裁判人官吏などを招きよせて之に言けるは 3 我は年すすみて老ゆ汝らは已に汝らの神エホバが汝らのために此もろもの國人に行ひたまひし事を盡く見たり即ち汝らの神エホバみづから汝らのために戦ひたまへり 4 視よ我ヨルダンより日の入る方大海までの此もろもの漏のこれ國々および已に滅ぼしたる一切の國々を籤にて汝らに分ちて汝らの支派の産業となさしめたり 5 汝らの神エホバみづから汝らの前よりその國民を打攘ひ汝らの目の前よりこれを逐はらひたまはん而して汝らは汝らの神エホバの汝らに宣まひしごとく之が地を獲にいたるべし 6 然ば汝ら勵みてモーセの律法の書に記されたる所を盡く守り行なへ之を離れて右にも左にも曲るなかれ 7 汝らの中間に遺りを是等の國人の中に往なかれ彼らの神の名を唱ふるなれ事へこれ指誓はしむる勿れ又これに事へこれを拜むなれ 8 惟今日まで爲たるとく汝らの神エホバに附したがへ 9 それエホバは大にして且強き國民を汝らの前より逐はらひたまへり汝らには今日まで當ることを得人一人一箇もあらざりき 10 汝らの一人は千人を逐ことを得ん其は汝らの神エホバ汝らに宣まひしごとく自ら汝らのために戦ひたまへばなり 11 然ば汝ら自ら善く慎しみて汝らの神エホバを愛せよ 12 然らずして汝ら若後もどりつつ是等の國人の漏のこりて汝らの中間に止まる者等と親くなり之と婚姻をなして互に相往來しなば 13 汝ら確く知れ汝らの神エホバかさねて是等の國人を汝らの目の前より逐はらひたまはんは彼ら反て汝らの竊となり目となり汝らの脇に鞭となり汝らの目に刺となりて汝ら遂に汝らの神エホバの汝らに賜ひしこの美地より亡び絶ん 14 視よ今日われは世人の皆ゆく途を行んとす汝ら一心一念に善く知るならん汝らの神エホバの汝らにつきて宣まひし諸の善事は一も缺る所なかりき皆なんぢらに臨みてその中一も缺たる者なきなり 15 汝らの神エホバの汝らに宣まひし諸の善事の汝らに臨みしごとくエホバまた諸の悪き事を汝らに降して汝らの神エホバの汝らに與へしこの美地より終に汝らを滅ぼし絶たまはん 16 汝ら若なんぢらの神エホバの汝らに命じたまひしその契約を犯し住て他神に事へてこれに身を鞠む

るに於てはエホバの震怒なんぢらに向ひて燃いでてなんぢらエホバに與へられし善地より迅速に亡びうせん

Chapter 24

1 茲にヨシユア、イスラエルの一切の支派をシケムに集めイスラエルの長老首領裁判人官吏などを招きよせて諸共に神の前に進みいで 2 而してヨシユアすべての民に言けるはイスラエルの神エホバかく言たまふ汝らの遠祖すなはちアブラハムの父たりナホルの父たりシテラのごときは在昔河の彼旁に住て皆他神に事へたりしが 3 我なんぢらの先祖アブラハムを河の彼旁より携へ出してカナンの全地を導きてすぎその子孫を増んとして之にイサクを與へたり 4 而してイサクにヤコブとエサウを與へエサウにセイルムを與へて獲させたりまたヤコブとその子等はエジプトに下れり 5 我モーセおよびアロンを遣はしたる災禍をエジプトに降せり我がその中に爲たる所の事のごし而して後われ汝らを導びき出せり 6 我なんぢらの父をエジプト入り導き出し汝ら海に至りしにエジプト人戰車と騎兵とをもて汝らの後を追て紅海に來りけるが 7 汝らの父等エホバに呼はりければエホバ黑暗を汝らとエジプト人との間に置き海を彼らの上に傾むけて彼らを淹へり汝らは我がエジプトにて爲たる事を目に觀たり斯て汝らは日ひさしく曠野に住れり 8 我またヨルダンの彼旁にすめるアモリ人の地に汝らを携へいたりたり彼ら汝らと戦ひければ我かれら汝らに獲しめ彼らを汝らの前より滅ぼし去り 9 時にモアブの王チツポルの子バラク起てイスラエルに敵し人を遣はしてベオルの子バラムを招きて汝らを誂はせんとしたりしが 10 我バラムに聽ことを爲ざりければ彼かへつて汝らを祝せり斯われ汝らを彼の手より拯出せり 11 而して汝らヨルダンを濟りてエリコに至りしにエリコの人々すなはちアモリ人ベリジ人カナン人ヘテ人ギルガシ人ヒビ人エブス人等なんぢらに敵したりしが我かれらを汝らに手に付せり 12 われ黄蜂を汝らの前に遣はして彼のアモリ人の王二人を汝らの前より逐はらへり汝らの劍または汝らの弓を用ひて斯せしに非ず 13 而して我なんぢらが勞せしに非ざる地を汝らに與へ汝らが建たるに非ざる邑を汝らに與へたり汝らは今その中に住をる汝らは亦己が作りたるに非ざる葡萄園と橄欖園とにつきて食ふ 14 然ば汝らエホバを畏れ赤心と眞實とをもて之に事へ汝らの先祖が河の彼邊およびエジプトにて事へたる神を除きてエホバに事へよ 15 汝ら若エホバに事ふることを惡とせば汝らの先祖が河の彼邊にて事へし神々にもあれ又は汝らが今をる地のアモリ人の神々にもあれ汝らの事ふべき者を今日選べ但し我と我家とは共にエホバに事へん 16 民こたへて言けるはエホバを棄て他神に事ふることは我等きはめて爲じ 17 其は我らの神エホバみ

づから我等と我らの先祖とをエジプトの地奴隷の家より導き上りかつ我らの目の前にかの大なる徴を行ひ我らが往し一切の路にて我らを守りまた我らが其中間を通りし一切の民の中にて我らを守りたまひければなり 18 而してエホバ此地に住りしアモリ人などいふ一切の民を我らの前より逐はらひたまへり然ば我らもエホバに事へん彼は我らの神なればなり 19 ヨシユア民に言けるは汝らはエホバに事ふること能はざらん其は彼は聖神また妬みたまふ神にして汝らの罪愆を赦したまはざればなり 20 汝ら若エホバを棄て他神に事へなば汝らに福祉を降したまへる後にも亦ひるがへりて汝らに災禍を降して汝らを滅ぼしたまはん 21 民ヨシユアに言けるは否我ら必らずエホバに事ふべしと 22 ヨシユア民に向ひて汝らはエホバを選びて之に事へんといへりなんぢら自らその證人たりと言ければ皆我らは證人なりと答ふ 23 ヨシユアまた言ひ然ば汝らの中に異なる神を除きてイスラエルの神エホバに汝らの心を傾むけよ 24 民ヨシユアに言けるは我らの神エホバに我らは事へ其聲に我らは聽したがふべしと 25 ヨシユアすなはち其日民と契約を結びシケムにおいて法度と定規とを彼らのために設けたり 26 ヨシユアこれらの言を神の律法の書に書しし大なる石をとり彼處にてエホバの聖所の傍なる榿の樹の下に之を立て 27 而してヨシユア一切の民に言けるは視よ此石われらの證となるべし是はエホバの我らに語りたまひし言をことごとく聞たればなり然ば汝らが己の神を棄ること無らんとために此石なんぢらの證となるべしと 28 かくてヨシユア民を各々その産業に歸しならしめたりき 29 是らの事の後エホバの僕ヌンの子ヨシユア百十歳にして死り 30 人衆これをその産業の地の内にてテムナテセラに葬むれりテムナテセラはエフライムの山地にてガサン山の北にあり 31 イスラエルはヨシユアの世にある日の間またエホバがイスラエルのために行ひたまひし諸の事を識みてヨシユアの後に生存れる長老等の世にある日の間つねにエホバに事へたり 32 イスラエルの子孫のエジプトより携さへりしヨセフの骨を昔ヤコブが銀百枚をもてシケムの父ハマルの子等より買たりしシケムの中なる一の地に葬れり是はヨセフの子孫の産業となりぬ 33 アロンの子エレアザルもまた死り人衆これを其子ピネハスがエフライムの山地にて受たりし岡に葬れり

士師記

Chapter 1

1 ヨシユアの死にたるのちイスラエルの子孫エホバに問ひていひけるはわれらの中孰か先に攻め登りてカナン人と戦ふべきや 2 エホバいひたま

ひけるはユダ上るべし視よ我此國を其の手に付すと3ユダその兄弟シメオンに言けるは我と共にわが領地にのぼりてカナン人と戦へわれもまた偕に汝の領地に往べしとここににおいてシメオンかれともにもゆけり4ユダすなはち上りゆきけるにエホバその手にカナン人とペリジ人とを付したまひたればベゼクにて彼ら一萬人を殺し5またベゼクにおいてアドニベゼクにゆき逢ひこれと戦ひてカナン人とペリジ人を殺せり6しかるにアドニベゼク逃れ去りしかばそのあとを追ひてこれを執へその手足の巨撃を斫りはなちたれば7アドニベゼクいひけるは七十人の王たちかつてその手足の巨撃を斫られて我が食几のしたに肩を拾へり神わが曾て行ひしところをもてわれに報いたまへるなりと衆之を曳てエルサレムに至りしが其處にしねり8ユダの子孫エルサレムを攻めてこれを取り刃をもてこれを撃ち邑に火をかけたなり9かくてのちユダの子孫山と南方の方および平地に往けるカナン人と戦はんとて下りしが10ユダまづヘブロンに住るカナン人を攻めてセシヤイ、アヒマンおよびタルマイを殺せり〔ヘブロンに舊の名はキリアテアルバなり〕11またそこより進みてデビルに住るものを攻む〔デビルに舊の名はキリアテセベルなり〕12時にカレブいひけるはキリアテセベルをうちてこれを取るものにはわが女アクサをあたへて妻となさんと13カレブの舎弟ケナズの子オテニエルこれを取ればすなはちその女アクサをこれが妻にあたふ14アクサ往くとときおのれの父に田圃を求めんことを夫にすすめたりしがつひにアクサ驢馬より下りければカレブこれは何事ぞやといふに15答へけるはわれに恵賜をあたへよなんぢ南の地をわれにあたへたればわがはくは源泉をもわれにあたへよとここににおいてカレブ上の源泉と下の源泉とをこれにあたふ16モーセの外舅ケニの子孫ユダの子孫と偕に棕櫚の邑よりアラドの南なるユダの野にのぼり來りて民のうちに住居せり17茲にユダその兄弟シメオンとともに往きてゼパテに住るカナン人を撃ちて盡くこれを滅ぼせり是をもてその邑の名をホルマと呼ぶ18ユダまたガザとその境アシケロンとその境およびエグロンとその境を取り19エホバ、ユダとともに在したればかれつひに山地を手に入れたりしが谷に住る民は鐵の戰車をもちたるが故にこれを逐出すこと能はざりき20衆モーセのかつていひし如くヘブロンをカレブに與ふカレブそのところよりアナクの三人の子をおひ出せり21ベニヤミンの子孫はエルサレムに住るエブス人を追出さざりしかばエブス人は今日に至るまでベニヤミンの子孫とともにエルサレムに住ふ22茲にヨセフの族またベテルをさして攻め上るエホバこれと偕に在しき23ヨセフの族すなはちベテルを窺察しむ〔此邑の舊の名はルズなり〕24その間者邑より人の出来るを見てこれにいひけるは請ふわれらに邑の入口を示せさらば汝に恩慈を施さんと25彼

邑の入口を示したればすなはち刃をもて邑を撃てり然ど彼の人と其家族をばみな縦ち遣りぬ26その人へて人の地にゆき邑を建てルズと名けたり今日にいたるまでこれを其名となす27マナセはベテシヤンとその村里の民タアナクとその村里の民ドルとその村里の民イブレアムとその村里の民メギドンとその村里の民を逐ひ出さざりきカナン人はなほその地に住み居る28イスラエルはその強なりしときカナン人をして貢を納れしめたりしが之を全く追ひいだすことは爲ざりき29エフライムはゲゼルに住るカナン人を逐ひいださざりきカナン人はゲゼルにおいてかれらのうちに住み居たり30ゼブルンはまたキテロンの民およびナハラルの民を逐ひいださざりきカナンかれらのうちに住みて貢ををさむるものとなりぬ31アセルはアツコの民およびシドン、アヘラブ、アクジブ、ヘルバ、アピク、レホバの民を逐ひ出さざりき32アセル人は其地の民なるカナン人のうちに住み居たりそはこれを逐ひ出さざりしゆゑなり33ナフタリはベテシメシの民およびベテアナテの民を逐ひ出さずその地の民なるカナン人のうちに住み居たり34アセルはアツコの民はつひにかれらに貢を納むるものとなりぬ34アモリ人ダンの子孫を山におひこみ谷に下ることを得させざりき35アモリ人はなほヘレス山アヤロン、シヤラビムに住み居りしがヨセフの家の手力勝りたれば終に貢を納むるものとなりぬ36アモリ人の界はアクラビムの阪よりセラを経て上に至れり

Chapter 2

1エホバの使者ギルガルよりボキムに上りていひけるは我汝等をエジプトより上らしめわが汝らの先祖に誓ひたる地に携へ來れりまた我いひけらくわれ汝らと締べる契約を絶てやぶることあらじ2汝らはこの國の民と契約を締るべからずかれらの祭壇を毀つべしとしかるに汝らわが聲に従はざりき汝ら如何なれば斯ることをなせしや3我またいひけらくわれ汝らの前より彼らを追ふべからずかれら反て汝等の肋を刺す荆棘とならんまた彼らの神々は汝等の害となるべし4エホバの使これらの言をイスラエルのすべての子孫に語しかば民聲をあげて哭ぬ5故に其所の名をボキム(哭者)と呼ぶかれら彼所にてエホバに祭物を獻げたり6ヨシユア民を去しめたればイスラエルの子孫おのその領地におもむきて地を獲たり7ヨシユアの世にありし間またヨシユアより後に生きのこりたる長老等の世にありしあひだ民はエホバに事へたりこの長老等はエホバのかつてイスラエルのために成したまひし諸の大なる行爲を見しものなり8エホバの僕ヌンの子ヨシユア百十歳にて死り9衆人エフライムの山のテムナテヘレスにあるかれらの産業の地においてガアシ山の北にこれを葬れり10かくてまたその時

代のものごとごとくその先祖のもとにあつめられその後に至りて他の時代おこりしが是はエホバを識ずまたそのイスラエルのために爲したまひし行爲をも識ざりき11イスラエルの子孫エホバのまへに惡きことを作してバアルムにつかへ12かつてエジプトの地よりかれらを出したまひしその先祖の神エホバを棄てて他の神すなはちその四周なる國民の神にしたがひ之に跪ぎてエホバの怒を惹起せり13即ちかれらエホバをすてバアルとアシラロテに事へたれば14エホバはげしくイスラエルを怒りたまひ掠むるもの手にわたして之を掠めしめかつ四周なるもろの敵の手にこれを賣たまひしかばかれらふたたびその敵の前に立つことを得ざりき15かれらいつこに往くもエホバの手これに災をなしぬ是はエホバのいひたまひしごとくエホバのこれに誓ひたまひしごとしここににおいてかれら惱むこと甚だしかりか16エホバ士師を立てたまひたればかれらこれを掠むるものの手よりすくひ出したり17然るにかれらその士師にもしたがはず反りて他の神を慕て之と淫をおこなひ之に跪き先祖がエホバの命令に従がひて歩みたることろの道を頓に離れ去りてその如くには行はざりき18かれらのためにエホバ士師を立てたまひし時に方りてはエホバつねにその士師とともに在しその士師の世に在る間はエホバかれら敵の手よりすくひ出したまへり此はかれらおのれを虐げくらしむるものありしを呻きかなしめるによりてエホバ之を哀れみたまひたればなり19されどその士師の死のちまた戻きて先祖よりも甚だしく邪曲を行ひ他の神にしたがひてこれに事へ之に跪きておのれの行爲を息めすその頑固なる路を離れざりき20是をもてエホバはげしくイスラエルをいかりていひたまはく此民はわがかつてその列祖に命じたる契約を犯し吾聲に従がはざるがゆゑに21我もまたいまよりはヨシユアがその死しときに存しおけるいづれの國民をもかれらのまへより逐ひはらはざるべし22此は我イスラエルがその先祖の守りしごとくエホバの道を守りてこれに歩むやいなやを試みんがためなりと23エホバはこれらの國民を逐はらふことを速にせずして之を遣しおきてヨシユアの手に付したまはざりしなり

Chapter 3

1エホバが凡てカナンに諸の戰爭を知ざるイスラエルの者どもをこころみんとて遣しおきたまへる國民は左のことし2(こはただイスラエルの代々の子孫特にいまだ戰爭を知ざるものにこれををしへ知らしめんがためなり)3即ちペリシテ人の五人の伯すべてのカナン人シドン人およびレバノン山に住みてバアルヘルモン山の山よりハマテに入るところまでを占めたるヒビ人はなり4これらをもてイスラエルをこころみかれらがエホバのモーセによりてその先祖

に命じたまひし命令に遵ふや否を可知りしなり5イスラエルの子孫はカナン人へて人アモリ人6ペリジ人ヒビ人エブス人のうちに住みかれらの女を妻に娶りまたおのれの女をかれらの子に與へかつかれらの神に事へたり7斯くイスラエルの子孫エホバのまへに惡をおこなひ己れの神なるエホバをわすれてバアルムおよびアシラに事へたり8是においてエホバはげしくイスラエルを怒りてこれをメソボタミヤの王クシャンリヤタイムの手に賣り付したまひしかばイスラエルの子孫はおよそ八年のあひだクシャンリヤタイムにつかへたり9茲にイスラエルの子孫エホバによばはりしかばエホバはイスラエルの子孫の爲にひとりたりの救者を起して之を救はしめ給ふすなはちカレブの舎弟ケナズの子オテニエル是なり10エホバの靈オテニエルにのぞみたれば彼イスラエルを治め戦ひに出づエホバ、メソボタミヤの王クシャンリヤタイムをその手に付したまひたればオテニエルの手クシャンリヤタイムに勝ことを得たり11かくて國は四十年のあひだ太平なりきケナズの子オテニエルつひに死り12イスラエルの子孫復エホバの眼のまへに惡をおこなふエホバかれらがエホバのまへに惡をおこなふによりてモアブの王エグロンをつよくなしてイスラエルに敵せしめたまへり13エグロンすなはちアンモンおよびアマレクの子孫を招き聚め往きてイスラエルを撃ち櫻欄の邑を取り14ここににおいてイスラエルの子孫は十八年のあひだモアブの王エグロンに事へたりしが15イスラエルの子孫エホバに呼はりけるときエホバかれらの爲に一個の救者を起したまふすなはちベニヤミン人ゲラの子なる左利捷のエホデはなり16イスラエルの子孫かれを以てモアブの王エグロンに饒物せり17エホデ長一キユビトなる兩刃の劍を作らせこれを衣のしたに右の股のあたりにおび18饒物を齎してモアブの王エグロンのもとに詣るエグロンは甚だ肥たる人なりき18さて饒物を獻ぐることをはりしかば彼饒物を負ひ來りしものをかへし去らしめ19自らはギルガルの傍なる石像の在る所より引き回していひけるは王よ我爾に告ぐべき密事ありと王人拂を命じたればその旁に立つものみな出で去りぬ20エホデすなはち王のところに入來りし時に王はひとり上なる涼殿に坐し居たりしがエホデ我神の命に由りて爾に傳ふべきことありといひければ王すなはち座より起し21エホデ左の手を出し右の股より劍を取りてその腹を刺せり22柄もまた刃とともに入りたりしが脂肪刃を塞ぎて之を腹より抜き出すことあたはずその鋒鋭うしろに出づ23エホデすなはち廊をとほりてその後には樓の戸を開てこれを鎖せり24その出でしち王の僕來りて樓の戸の鎖したるを見いひけるは王はかならず涼殿の間に足を蔽ひ居るならんと25僕ども耻るまでに侯居たりと王樓の戸をひらかざれば論をとて之を開き見るにその君は地に仆れて死をる26エホデは彼等の猶

豫ふ間に逃れて石像の在るところを
 通りセイラテに逃げゆけり 27 かれ
 既に至りエフライムの山に箠を吹き
 ければイスラエルの子孫これととも
 山より下るエホデこれを導けり 2
 8 かれ人衆にいひけるは我に續て来
 れエホバ汝等の敵モアブ人を汝等の
 手に付したまふなりここにおいてか
 れらエホデにしたがひて下りモアブ
 におもむくところのヨルダンの津を
 取りて一人も渡ることを允さざりき
 29 そのとき彼らモアブ人および一萬
 人を殺せり是皆肥太たる勇士なりそ
 のうち一人も脱れたるものなし 30
 モアブはその日イスラエルの手に服
 せり而して國は八十年の間太平なり
 き 31 エホデの後にアナテの子シャ
 ムガルといふものあり牛の策を以て
 ベリシテ人六百人を殺せり此人もま
 たイスラエルを救へり

Chapter 4

1 エホデの死たるのちイスラエ
 ルの子孫復エホバの目前に悪を行し
 しかば 2 エホバ、ハゾルにて世を治む
 るカナンの王ヤビンの手にて世を賣た
 まふヤビンの軍勢の長はシセラとい
 ふ彼異邦人のハロセテに住居り 3 鐵
 の戦車九百輛を有居て二十年の間イ
 スラエルの子孫を甚だしく虐げしか
 ばイスラエルの子孫エホバに呼はれ
 り 4 當時ラピドテの妻なる預言者デ
 ボラ、イスラエルの士師なりき 5 彼
 エフライムの山のラマとベテルの間
 に在るデボラの棕櫚の樹の下に坐せ
 りイスラエルの子孫はその許に上り
 て審判を受く 6 デボラ人をつかはし
 てケデシ、ナフタリよりアビノアム
 の子バラクを招きこれにいひけるは
 イスラエルの神エホバ汝に斯く命じ
 たまふにあらざりやいはく汝ナフタ
 リの子孫とゼブルンの子孫とを一萬人
 ひきあゆきてタボル山におもむけ 7
 我ヤビンの軍勢の長シセラおよびそ
 の戦車とその群衆とをキシオン河に
 引き寄せて汝のもとにに至らせ之を
 汝の手に付すべし 8 バラク之にいひけ
 るは汝もし我とともにゆかば我往し
 然ど汝もし我とともに行はずば我行
 ざるべし 9 デボラにいひけるは我がな
 らず汝とともに往くべし然ど汝は今
 往くところの途にては榮譽を得ること
 なからんエホバ婦人の手にシセラ
 を賣りたまふべければなりとデボラ
 すなはち起ちてバラクと共にケデシ
 に行けり 10 バラク、ゼブルンとナ
 フタリをケデシに招き一萬人を従へ
 て上るデボラもまた之とともに上れ
 り 11 ここにケ二人ヘベルといふ者
 あり彼はモーセの外舅ホバブの裔な
 るケケニを離れてケデシの邊なるザ
 アナイムの橡の樹のかたはらにその
 天幕を張り居たり 12 衆アビノアム
 の子バラクがタボル山に上れるよし
 をシセラに告げたりければ 13 シセ
 ラそのすべての戦車すなはち鐵の戦
 車九百輛およびおのれとともに在る
 すべての民を異邦人のハロセテより
 キシオン河に招き集へたり 14 デボ
 ラ、バラクにいひけるは起よ是エホ
 バがシセラを汝の手に付したまふ日
 なりエホバ汝に先き立ちて出でたま

ひしにあらざりやとバラクすなはち一
 萬人をしたがへてタボル山より下る
 15 エホバ刃をもてシセラとその諸の
 戦車およびその全軍をバラクの前に
 打敗りたまひたればシセラ戦車より
 飛び下り徒歩になりて遁れ走れり 1
 6 バラク戦車と軍勢とを追い撃て異
 邦人のハロセテに至れりシセラの軍
 勢は悉く刃にたふれて残れるもの一
 人もなかりしが 17 シセラは徒歩に
 て奔りケ二人ヘベルの妻ヤエルの天
 幕に來れり是はハゾルの王ヤビンと
 ケ二人ヘベルの家とは互ひに睦じか
 りしゆゑなり 18 ヤエル出來りてシ
 セラを迎へ之にいひけるは來れわが
 主よ入り來れ怖るるなかれとシセラ
 その天幕に入ればヤエル被をもて
 これを覆へり 19 シセラ之にいひけ
 るはねがはくは少しの水をわれに飲
 ませよ我渴けりとヤエルすなはち乳
 囊を啓きて之に飲ませまた之を覆へ
 り 20 シセラまた之にいひけるは天
 幕の門邊に立て居れもし人來り汝に
 とふて誰かここに居るかといはば否
 と答ふべしと 21 彼疲れて熟睡せし
 しかばヘベルの妻ヤエル天幕の釘子
 を取り手に鎗を携へてそのかたはらに
 忍び寄り鬢のあたりに釘子をうちこ
 みて地に刺し通したればシセラすな
 はち死たり 22 バラク、シセラを追
 ひ來りしときヤエル之を出むかへて
 いひけるは來れ我汝の索るところの
 人を示さんとかれそのところに入
 りて死たふれをる 23 その日に神カ
 ナンの王ヤビンをイスラエルの子孫
 のまへに打敗りたまへり 24 かくてイ
 スラエルの子孫の手ますます強くな
 りてカナンの王ヤビンに勝つひに
 カナンの王ヤビンを亡ぼすに至れり

Chapter 5

1 その日デボラとアビノアムの
 子バラク謳ひていはく 2 イスラエ
 ルの首長みちびきをなし民また好んで
 出でたればエホバを頌美よ 3 もろも
 ろの王よ聽けもろもろの伯よ耳をか
 たづけよ我はそのエホバに謳はん我
 はイスラエルの神エホバを讃へん 4
 ああエホバよ汝セイルより出でエド
 ムの野より進みたまひしとき地震ひ
 天また滴りて雲水を滴らせたり 5 も
 ろもろの山はエホバのまへに撼動ぎ
 彼のシナイもイスラエルの神エホバ
 のまへに撼動げり 6 アナテの子シャ
 ムガルのときまたヤエルの時には大
 路は通行する者なく途行く人は徑を歩
 み 7 イスラエルの村莊には住者なく
 住む者あらずなりけるがつひに我デ
 ボラ起れり我起りてイスラエルに母
 となる 8 人々新しき神を選びけれ
 ば戦闘門におよべりイスラエルの四萬
 人のうちに盾或は鎗の見しことあら
 んや 9 吾が心は民のうちに好んでい
 てたるイスラエルの有司等に傾けり
 汝らエホバを頌美よ 10 しろき驢馬
 に乗るもの毛氈に坐するものおよび
 路歩む人よ汝ら謳ふべし 11 吶叫の
 聲に遠かり水汲むところにおいてエ
 ホバの義しき所爲をととなへそのイ
 スラエルを治理めたまふ義しき所爲
 を唱へよその時エホバの民は門に下れ

り 12 興よ起よデボラ興よ起よ歌を
 謳ふべし起てよバラク汝の俘虜を擄
 きたれアビノアムの子よ 13 其時民
 の首長等の殘餘者くだり來るエホバ
 勇士の中にいまして我にくだりたま
 ふ 14 エフライムより出る者ありそ
 の根アマレクにありベニヤミン汝の
 あとにつきて汝の民の中にありマキ
 ルよりは牧伯下りゼブルンよりは采
 配を執るものいたる 15 イッサカ
 ルの伯たちはデボラとともに居るイ
 ヂサカルはバラクとおなじく足の進み
 て平地に至るルベンの河邊にて大に
 心にはかる事あり 16 何故に汝は圍
 のうちに止まりて羊の群に笛吹くを
 聽くヤルベンの河邊にて大に心に考
 へることあり 17 ギレアデはヨルダ
 ンの彼方に臥し居る何故にダンは舟
 のかたはらに止まりしやアセルは濱
 邊に坐してその港に臥し居る 18 ゼ
 ブルンは生命を捐て死を冒せる民な
 り野の高きところに居るナフタリま
 た是の如し 19 もろもろの王來りて
 戦へる時にカナンのもろもろの王メ
 ギドンの水の邊においてタアナクに
 戦へり彼ら一片の貨幣をも獲ざりき
 20 天よりこれを攻るものありもろも
 ろの星其の道を離れてシセラを攻む
 21 キシオンの河之を押し流しぬは彼
 の古への河キシオンの河なりわが靈
 魂よ汝ますます勇みて進め 22 その
 時馬の蹄は強きももの馳に馳るに由
 りて地を踏鳴せり 23 エホバの使い
 ひけるはメロズを詛ふべし汝ら重ね
 重ねその民を詛ふべきなり彼等來り
 てエホバを助けずエホバを助けて猛
 者を攻めざればなり 24 ケ二人ヘ
 ベルの妻ヤエルは婦女のうちの最も
 頼むべき者なり彼は天幕に居る婦女
 のうち最も頼むべきものなり 25 シ
 セラ水を乞ふにヤエル乳を與ふ即ち
 貴き盤に乳の油を盛てささぐ 26 ヤ
 エル手に手をかけ右の手に重き椎を
 とりてシセラを打ちその頭を碎きそ
 の鬢のあたりをうちて貫ぬく 27 シ
 セラ、ヤエルの足の間に屈みて仆れ
 僵しその足のあはひに屈みて仆れそ
 の屈みたる所に仆れ亡ぬ 28 シセ
 ラの母窓より望み格子のうちより叫
 びて言ふ彼が車のきたること何て遅
 きや彼が馬の歩何てはかどらざるや
 と 29 その賢き侍女こたへをなす
 (母また獨語して斯いへり) 30 かれ
 ら獲もしてこれを分たざらんや人
 ごとく一人二人の女子を獲んシセラ
 の獲るものは彩る衣ならんその獲る
 者は彩る衣にして文繡を施せる者な
 らん即ち彩りて両面に文繡をほどこ
 せる衣をえてその頸にまとはんと 3
 1 エホバよ汝の敵みな是のごとくに
 亡びよかしまたエホバを愛するもの
 は日の眞盛に昇るが如くなればよか
 しかく後國は四十年のあひだ太平
 なりき

Chapter 6

1 イスラエルの子孫またエホバ
 の目のまへに悪を行ひたればエホバ
 七年の間之をミデアン人の手に付し
 たまふ 2 ミデアン人の手イスラエル
 にかかりイスラエルの子孫はミデア
 ン人の故をもて山にある窟と洞穴と

要害とをおのれのために造れり 3 イ
 スラエル人蒔種してありける時しも
 ミデアン人アマレキ人及び東方の民
 上り來りて押寄せ 4 イスラエル人
 に向て陣を取り地の産物を荒してガ
 バにまで至りイスラエルのうちに生
 命を維くべき物を遺さず羊も牛も驢
 馬も遺ざりき 5 夫この衆人は家畜と
 天幕を携へ上り蝗蟲の如くに數多く
 來れりその人と駱駝は數ふるに勝ず
 彼ら國を荒さんとて入きたる 6 か
 かりしかばイスラエルはミデアン人
 のために大いに衰へイスラエルの子
 孫エホバに呼れり 7 イスラエルの子
 孫ミデアン人の故をもてエホバに呼
 はりしかば 8 エホバひとりの預言者
 をイスラエルの子孫に遣りて言しめた
 まひけるはイスラエルの神エホバ斯
 くいひたまふ我がつて汝らをエジ
 プトより上らせ汝らを奴隷たるの家
 より出し 9 エジプト人の手およびす
 べて汝らを虐ぐるもの手より汝ら
 を拯ひいだし汝らの前より彼らを追
 ひはひて汝らの邦土を汝らに與へり
 10 我また汝らに言り我は汝らの神
 エホバなり汝らが住む居るアモリ人
 の國の神を懼るるなかれとしかるに
 汝らは我が聲に従はざりき 11 茲に
 エホバの使者來りてアビエゼル人ヨ
 シの所有なるオファの橡の樹のした
 に坐す時にヨアシの子ギデオ、ミ
 デアン人に奪はれざらんために酒榨
 のなかに麥を打ち居たりしが 12 エ
 ホバの使之に現れて剛勇丈夫よエ
 ホバ汝とともに在すとひたれば 13
 ギデオ之にいひけるはああ吾が主
 よエホバ我らと偕にいまさばなご
 これらのことわれらの上に及びたる
 やわれらの先祖がエホバは我らを
 エジプトより上らしめたまひしにあ
 らずやといひて我らに告たりしそ
 の諸の不思議なる行爲は何處にある
 や今はエホバわれらに棄てミデア
 ン人の手に付したまへり 14 エホバ
 之を顧みていひたまひけるは汝此
 汝の力をもちて行きミデアン人の手
 よりイスラエルを拯ひいだすべし我
 汝を遣すにあらざりや 15 ギデオ
 之にいひけるはああ主よ我何をも
 てかイスラエルを拯ふべき視よわ
 が家はマナセのうちの最も弱きも
 の我はまた父の家の最も卑賤きも
 のなり 16 エホバ之にいひたまひ
 けるは我がかならず汝とともに
 在ん汝汝は一人を撃がごとくにミ
 デアン人を撃つことを得ん 17 ギ
 デオン之にいひけるは我もし汝の
 まへに恩を蒙るならば請ふ我と語
 る者の汝なる證據を見せたまへ 18
 ねがはくは我復び汝に來りわが祭
 物をたづさへて之を汝のまへに供
 するまでこのを去たまふなかれ彼
 にいひたまひけるは我汝の還るま
 で待つべし 19 ギデオすなはち往
 て山羊の羔を調べ粉一エバをも
 て無酵パンをつくり肉を筐にいれ
 糞を壺に盛り橡樹の下にもち出
 て之を供へたれば 20 神の使之
 にいひたまひけるは肉と無酵パン
 をとりて此巖のうへに置き之に糞
 を斟げとすなはちそのごとくに行
 ふ 21 エホバの使手にもてる杖の
 末端を出して肉と無酵パンに觸れ
 たりしかば巖より火燃えあがり肉
 と無酵パンを焼き盡せりかくて
 エホバの使去てその目に見ずなり
 ぬ 22 ギデオは是

Chapter 7

において彼がエホバの使者なりしを
 覺りギデオンいひけるはああ神エホ
 バよ我面を合せてエホバの使者を見
 たれば將如何せん 23 エホバ之にい
 ひたまひけるは心安かれ怖るる勿れ
 汝死ぬることあり 24 ここにおい
 てギデオン彼所にエホバのために祭
 壇を築き之をエホバシヤロムと名け
 たり是は今日に至るまでアビエゼル
 人のオフラに存る 25 其夜エホバ、
 ギデオンにいひ給ひけるは汝の父の
 少し牡牛および七歳なる第二の牛を
 取り汝の父のもてるバアルの祭壇を
 毀ち其上なるアシラの像を斫りし
 26 汝の神エホバのためにこの堡砦の
 頂において次序をたたくし祭壇を
 築き第二の牛を取りて汝が斫り倒せる
 アシラの木をもて燔祭を供ぐべし
 27 ギデオンすなはちその僕十人を携
 へてエホバのいひたまひしごとく行
 へりされど父の家のものどもおよび
 邑の人を怖れたれば晝之をなすこと
 を得ず夜に入りて之を爲り 28 邑の
 衆朝興出て視にバアルの祭壇は摧け
 其の上なるアシラの像は斫り倒れて
 居り新に築る祭壇に第二の牛の供へ
 てありしかば 29 たがひに此は誰が
 所爲ぞやと言ひつつ尋ね問ひけるに
 此はヨアシの子ギデオンの所爲なり
 といふものありたれば 30 邑の人々
 ヨアシにむかひ汝の子を曳き出して
 死なしめよそは彼バアルの祭壇を摧
 き其上に在しアシラの像を斫りした
 ればなりといふ 31 ヨアシおのれの
 周圍に立るすべてのものにいひける
 は汝らはバアルの爲に争論ふや汝ら
 は之を救ふとするや之が爲に争論ふ
 者は朝の中に死べしバアルもし神な
 らば人其祭壇を摧きたれば自ら争論
 ふ可なりと 32 是をもて人衆ギデ
 オンその祭壇を摧きたればバアル自
 らのといひあらずはんといひて此日か
 れをエルバアル(バアルいひあらずは
 ん)と呼なせり 33 茲にミデアン人ア
 マレク人および東方の民相集まりて
 河を濟りエズレルの谷に陣を取りしが
 34 エホバの靈ギデオンに臨みてギデ
 オンを吹たればアビエゼル人集り
 て之に従ふ 35 ギデオン徧くマナセ
 に使者を遣りしかばマナセ人また集
 りて之に従ふ彼またアセル、ゼブル
 ン及びナフタリに使者を遣りしにそ
 の人々も上りて之を迎ふ 36 ギデ
 オン神にいひけるは汝がついてひたま
 ひしごとくわが手をもてイスラエル
 を救はんとしたまはば 37 視よ我一
 箇の羊の毛を禾場におかん露もし羊
 毛にのみおきて地はすべて燥きをら
 ば我之れによりて汝がかつて言たま
 ひし如く吾が手をもてイスラエルを
 救ひたまふを知らん 38 すなはち斯
 ありぬ彼明る朝早く興きいで羊毛を
 かき寄てその毛より露を搾りしに鉢
 に満つるほどの水いできたる 39 ギ
 デオン神にいひけるは我にむかひて
 怒を發したまふなかれ我をしていま
 一回いはしたまへぬがはくは我を
 して羊の毛をもていま一回試さしめ
 たまへぬがはくは羊毛のみを燥して
 地には悉く露あらしめたまへと 40
 その夜神かくの如くに爲したまふす
 なはち羊毛のみ燥きて地には凡て露
 ありき

1 斯てエルバアルと呼するギデ
 オンおよび之ともにあるすべての
 民朝夙に興きいでて八口デの井のほ
 とりに陣を取るミデアン人の陣はか
 れらの北の方にあたりモレの山に沿
 ひ谷のうちにありき 2 エホバ、ギ
 デオンにいひたまひけるは汝とも
 在る民は餘りに多ければ我その手に
 ミデアン人を付さじおそらくはイス
 ラエル我に向ひ自ら誇りていはん我
 わが手をもて己を救へりと 3 されば
 民の耳に告示していふべし誰にても
 懼れ慄くものはギレアデ山より歸り
 去るべしとここにおいて民のかへり
 しもの二萬二千人あり殘しものは一
 萬人なりき 4 エホバまたギデオンに
 いひたまひけるは民なほ多し之を導
 きて水際を下れ我かしこにて汝のた
 めに彼らを試みんおほよそ我が汝に
 告て此人は汝ともに行くべしとい
 はんものはすなはち汝ともに行く
 べしまたおほよそ我汝に告て此人は
 汝ともに行くべからずといはんも
 のはすなはち行くべからざるなり 5
 ギデオン民をみちびきて水際を下り
 しにエホバ之にいひたまひけるはお
 ほよそ汝の舌がごとくその舌をも
 て水を舐るものは汝之を別けおく
 べしまたおほよそ其の膝を折り屈み
 て水を飲むものをも然すべしと 6 手
 口にあてて水を舐しもの數は三百
 人なり餘の民は盡くその膝を折り屈
 みて水を飲り 7 エホバ、ギデオンに
 いひたまひけるは我水を舐たる三百
 人の者をもて汝らを救ひミデアン
 人を汝の手に付さん餘の民はおの
 其所に歸るべしと 8 ここにおいて彼
 ら民の兵糧とその菰を手にうけとれ
 りギデオンすなはちすべてのイスラ
 エル人を各自その天幕に歸らせ彼の
 三百人を留めおけり時にミデアン
 人の陣はその下の谷のなかにありき 9
 その夜エホバ、ギデオンにいひたま
 はく起よ下りて敵陣に入るべし我之
 を汝の手に付すなり 10 されど汝も
 し下ることを怖れなば汝の僕フラを
 伴ひ陣所を下りて 11 彼らのいふ所
 を聞べし然せば汝の手強くなりて汝
 敵陣にくだることを得んとギデオン
 すなはち僕フラとともに下りて陣中
 にある隊伍のほとりに至るに 12 ミ
 デアン人アマレク人およびすべて東
 方の民は蝗蟲のごとくに數衆く谷の
 うちに墮しをりその駱駝は濱の砂の
 多きがごとくにして數ふるに勝ず 1
 3 ギデオン其處に至りしに或人その
 伴侶に夢を語りて居りすなはちいふ
 我夢を見たりしが夢に大麥のパンひ
 とつミデアンの陣中に轉びりて天
 幕倒れ臥り 14 其の伴侶答ていふ
 是イスラエルの人ヨアシの子ギデ
 オンの劍に外ならず神ミデアンとす
 べての陣營を之が手に付したまふなり
 と 15 ギデオン夢の説話とその解釋
 を聞しかば拜をなしてイスラエルの
 陣所にかへりいひけるは起よエホバ
 汝らの手にミデアンの陣をわたした
 まふと 16 かくて三百人を三隊にわ
 かち手に手に菰および空瓶を取せそ
 の瓶のなかに燈火をおかしめ 17 こ

れにいひけるは我を視てわが爲すと
 ころにならへ我が敵陣の邊に至らん
 ときに爲すごとく汝らも爲すべし 1
 8 我およびわれとも在るものす
 べて菰を吹ば汝らもまたすべて陣營
 の四方にて菰を吹き此エホバのため
 なりギデオンのためなりといへと 1
 9 而してギデオンおよび之ともな
 る百人中更の初に陣營の邊に至るに
 をりしも番兵を更代たるときなりけ
 れば菰を吹き手に携へたる瓶をうち
 くだけり 20 即ち三隊の兵隊菰を吹
 き瓶をうちくだき左の手に燈火を執
 り右の手に菰をもちて之を吹き
 エホバの劍ギデオンの劍なるぞと叫
 べり 21 かくておのおのその持場に
 立ち陣營を取り圍みたれば敵軍みな
 走り叫びてにげゆけり 22 三百人の
 もの菰を吹くにあたりエホバ敵軍を
 してみなたがひに同士撃せしめたま
 ひければ敵軍にげはしりてゼレラの
 ベテシツダ、アベルメホラの境およ
 びタバテに至る 23 イスラエルの
 人々すなはちナフタリ、アセルおよ
 びマナセ中より集み來りてミデアン
 人を追撃り 24 ギデオン使者をあま
 なくエフライムの山に遣していはせ
 けるは下りてミデアン人を攻めベタ
 バラにいたる渡口およびヨルダン
 を遮斷べしと是においてエフライム
 の人盡く集み來りてベタバラにいた
 る渡口およびヨルダンを取り 25 ミ
 デアン人の君主オレブとゼエブの二
 人を俘へてオレブをばオレブ砦の上
 に殺しゼエブをばゼエブの酒搾のほと
 りに殺したミデアン人を追撃ちオ
 レブとゼエブの首を携へてヨルダン
 の彼方よりギデオンの許にいたる

Chapter 8

1 エフライムの人々ギデオンに
 むかひ汝ミデアン人と戦はんとて往
 る時われらを召ざりしが斯ることを
 我らになすは何故ぞといひていたく
 之を詰りたり 2 ギデオン之にいひけ
 るは今吾が成るところは汝らのなせ
 る所に比ぶべけんやエフライムの拾
 ひ得し遺餘の葡萄はアビエゼルの收
 穫し葡萄にも勝れるならずや 3 神は
 ミデアンの群伯オレブとゼエブを汝
 等の手に付したまへりわが成えたる
 ところは汝らの成る所に比ぶべけん
 やとギデオン此の語をのべしかば彼
 らの憤解たり 4 ギデオン自己に従が
 へる三百人ともにもヨルダンに至り
 て之を濟り疲れながらも仍追撃しけ
 るが 5 遂にスコテの人々に言けるは
 願くは我にしたがへる民に食を與へ
 よ彼等疲れをるに我ミデアンの王ゼ
 バとザルムンナを進行なりと 6 スコ
 テの群伯等いひけるはゼバとザル
 ムンナの手すてに汝の手のうちに在
 るや我らなんぞ汝の軍勢に食を與ふ
 べけんや 7 ギデオンいひけるは然らば
 エホバの吾が手にゼバをザルムン
 ナを付したまふときに我野の荊と棘と
 をもて汝の肉を打つべしと 8 かくて
 其所よりベヌエルにのぼりおなじこ
 とを彼らにのべたるにベヌエルの
 人もスコテの人の答へしごとく答へ
 しかば 9 またベヌエルの人につけて
 いひけるは我平康に歸るときに此の

城樓を毀つべしと 10 倍ゼバとザル
 ムンナはその軍勢おほよそ一萬五千
 人をひきゐてカルコルに居る是皆東
 方の人の全軍の中の生殘れるもの
 なり戰死せし者は劍を抜ところのもの
 十二萬人ありき 11 ギデオンすな
 はちノバとゴグベラの東にて天幕に
 すめるものの路より上りて敵軍の慮
 りなく居るを撃り 12 ここにおい
 てゼバとザルムンナにげ走りたればギ
 デオン之を追撃ちミデアンの二人の王
 ゼバとザルムンナを生捕て悉くその
 軍勢を敗れり 13 斯てヨアシの子ギ
 デオン、ヘレシの阪よりして戰陣よ
 りかへり 14 スコテの人の少壯者一
 人を執へて之に尋ねたれば即ちスコ
 テの群伯およびその長老等七十七人
 をこれがために書き録せり 15 ギ
 デオン、スコテの人の所に詣りてい
 ひけるは汝らが曾て我を罵りゼバとザ
 ルムンナの手すてに汝の手のうちに
 あるや我ら何ぞ汝の疲れたる人に食
 をあたふべけんやと言たりしそ
 れゼバとザルムンナを見よと 16 す
 なはちその邑の長老等を執へ野の荊
 と棘を取り之をもちてスコテの人を懲
 し 17 またベヌエルの城樓を毀ちて邑
 の人を殺せり 18 かくてギデオン、
 ゼバとザルムンナにいひけるは汝ら
 がタルボルにて殺せしものは如何なる
 ものなりしや答へていふ彼らは汝に似
 てみな王子の如くに見えたり 19 ギ
 デオンいひけるは彼らは我が兄弟我
 が母の子なりエホバは活く汝らもし
 彼らを生し置たらば我汝らを殺すま
 じきをと 20 すなはちその長子エ
 テルに起て彼らを殺せしといたりしが
 彼の少者は年尚わかかりしかば懼
 れて劍を抜きりき 21 ここにおい
 てゼバとザルムンナにいひけるは汝
 みづから起て我らを撃よ人の如何により
 てその力量異なる者なりとギデオン
 すなはち起てゼバとザルムンナを殺し
 その駱駝の頸にかけたる半月の飾を取
 り 22 茲にイスラエルの衆ギデオン
 にいひけるは汝ミデアンの手より我
 らを救ひたれば汝と汝の子及び汝の
 孫我らを治めよ 23 ギデオン之にい
 ひけるは我汝らを治むことをせじ
 また我が子も汝らを治むべからずエ
 ホバ汝らを治めたまふべし 24 ギ
 デオンまた之にいひけるは我汝らに
 ひとつの願ふべきことあり汝らおの
 の掠取の環を我にあたへよと是は彼
 らイスラエル人なるをもて金の環を
 着けたるに由る 25 衆答へけるは我
 ら悦んで之を與へんとて衣を布きお
 のの掠取の環を其うちに投げいれ
 たり 26 ギデオンが求め得たる金の
 環の重量は金一千七百シケルなり外
 に半月の飾および耳環とミデアンの
 王たちの着たる紫のころもおよび駱
 駝の頸にかけたる鍔などもありき 2
 7 ギデオン之をもて一箇のエボデを
 造り之をおのれの郷里オフラに藏む
 イスラエルみなこれを慕ひてこれと
 淫をおこなふこの物ギデオンと其家
 を陥る害となりぬ 28 ミデアン人
 は是の如くイスラエルの子孫に攻
 せられてふたびその頭を擡ることを
 得ざりきかくて國はギデオンの世
 にある中四十年の間平穩にてありき
 29 ヨアシの子エルバアル往ておの
 の家に住り 30 ギデオンは妻を多く

有ちたれば其身より出たる子七十人ありき 31 シケムに居しその妻またひとりの子を産たれば之をアビメレクと名けたり 32 ヨアシの子ギデオンの妙齢に遇みて死にアビエゼル人のオフラに在るその父ヨアシの墓に葬られたり 33 ギデオンの死るに及びてイスラエルの子孫復ひるがへりてバアルを慕ひて之と淫をおこなひバアルペリテをおのれの神と爲り 34 イスラエルの子孫その四周のもろもろの敵の手よりおのれを救ひ出したまひし神エホバを記憶えす 35 またエルバアルといふギデオンがイスラエルになせし諸の善行にしたがひて彼の家を厚く待ふことをせざりき

Chapter 9

1 エルバアルの子アビメレク、シケムに往きその母の兄弟のもとに至りて彼らおよびすべて其母の父の家一族に語りて云ひけるは 2 ねがはくはシケムのすべての民の耳に斯く告よエルバアルのすべての子七十人して汝らを行むると一人して汝らを行むると孰れか汝らのためによきやまた我は汝らの骨肉なるを記えよと 3 その母の兄弟アビメレクのことにつきて此等の言をことごとくシケムの人々の耳に語りしに是はわれらの兄弟なりといひて心をアビメレクに傾けり 4 バアルペリテの社より銀七十をとりて之に與ふアビメレクこれをもて遊蕩にして輕躁なる者等を備ひておのれに従はせ 5 オフラに在る父の家に往きてエルバアルの子なるその兄弟七十人をつの石の上に殺せり但しエルバアルの季の子ヨタムは身を潜めしに由て遭されたり 6 ここにおいてシケムのすべての民およびミロの諸の人集り往てシケムの碑の旁なる橡樹の邊にてアビメレクを立て王となしけるが 7 ヨタムにかくと告ものありければ往てゲリジム山の巔に立ち聲を揚て號ひかれらにいひけるはシケムの民よ我に聽よ神また汝らに聽たまはん 8 樹木出ておのれのうへに王を立んとし橄欖の樹に汝われらの王となれよといひけるに 9 橄欖の樹之にいふ我がいかに人の手に取て神と人とを崇むところのそのわが油を棄て往て樹木の上に戦ぐべけんやと 10 樹木また無花果樹に汝來りて我らの王となれといひけるに 11 無花果樹之にいひけるく我がわが甜美とわが善き果を棄て往きて樹木の上に戦ぐべけんやと 12 樹木また葡萄の樹に汝來りて我らの王となれよといふに 13 葡萄の樹之にいひけるは我がいかに神と人を悦ばしむるわが葡萄酒を棄て往て樹木の上に戦ぐべけんやと 14 ここにおいてすべての樹木前に汝來りて我らの王となれよといひければ 15 荊樹木にいふ汝らまことに我を立て汝らの王と爲さば來りて我が庇蔭に托れ然せずば荊より火出てレバノンの香柏を焼く彈すべしと 16 抑汝らがアビメレクを立て王となせしは眞實と誠意をもて爲しことなるや汝等はエルバアルと其家を善く待ひかれの手のなせし所に循ひて之にむくいし

や 17 夫わが父は汝らのため戦ひ生命を惜まずして汝らをミデアンの手より救ひ出したるに 18 汝ら今日おこりてわが父の家を攻めその子七十人をつの石の上に殺しその侍妾の子アビメレクは汝らの兄弟なるをもて之を立てシケムの民の王となせり 19 汝らが今日エルバアルとその家になせしこと眞實と誠意をもてなせし者ならば汝らアビメレクのために悦べ彼も汝らのために悦ぶべし 20 若し然らずばアビメレクより火いでてシケムの民とミロの家を燬つくさん またシケムの民とミロの家よりも火いでてアビメレクを燬つくすべしと 21 かくてヨタム走り遁れてベエルに往きその兄弟アビメレクの面を避て彼所に住めり 22 アビメレク三年の間イスラエルを治めたりしが 23 神アビメレクとシケムの民のあひだに惡鬼をおくりたまひたればシケムの民アビメレクを欺くにいたる 24 是エルバアルの七十人の子が受たる殘忍と彼らの血のこれを殺せしその兄弟アビメレクおよび彼の手に力をそへてその兄弟を殺さしめたるシケムの人々に報い來るなり 25 シケムの人伏兵を山の巔に置て彼を窺はしめ其途を經て傍を過る者を凡て擯めたり或人之をアビメレクに告ぐ 26 ここにエベデの子ガアル其の兄弟とともにシケムに越ゆきたりしかばシケムの民かれを待めり 27 民田野に出て葡萄を收穫れこれを踐み絞りて祭禮をなしその神の社に入り食ひかつ飲みてアビメレクを誣ふ 28 エベデの子ガアルいひけるはアビメレクは如何なるものシケムは如何なるものなればか我ら彼に従ふべき彼はエルバアルの子に非ずやゼブルその輔佐なるにあらずやむしるシケムの父ハモルの一族に事ふべし我らなんぞ彼に事ふべけんや 29 嗚呼此の民を吾が手に屬しむるものもがなれば我アビメレクを除かんと而してガアル、アビメレクに汝の軍勢を益て出きたれよと言ひ 30 邑の宰ゼブル、エベデの子ガアルの言をききて怒を發し 31 私かに使者を通しアビメレクに遣りていひけるはエベデの子ガアル及びその兄弟シケムに來り邑をさわがして汝に敵せしめんとす 32 然ば汝及び汝と共なる民夜の中に興て野に身を伏よ 33 而て朝に至り日の昇る時汝夙く興て邑に攻かかれガアル及び之とともになる民出で汝に當らん汝機を見てこれに事をなすべし 34 アビメレクおよび之とともになるすべての民夜の中に興て四隊に分れ身を伏てシケムを伺ふ 35 エベデの子ガアル出で邑の門の口に立るにアビメレク及び之とともになる民その伏たるところより起りしかば 36 ガアル民を見てゼブルにいひけるは視よ民山の峰々より下るとゼブル之に答へて汝山の影を見て人と做すのみといふ 37 ガアルふたたび語りていひけるは視よ民地の高處より下りまた一隊は法術士の橡樹の途より來ると 38 ゼブル之にいひけるは汝がかつてアビメレクは何者なればか我ら之に事ふべきといひしその汝の口今いづくに在るや是汝が侮りたる民にあらずや今乞ふ出で之と戦へよと 39 こ

こにおいてガアル、シケム人を率ゐ往てアビメレクと戦ひしが 40 アビメレク之を追くづしたればガアル其まへより逃走れりかくて殺されて斃るもの多くして邑の門の口までに及ぶ 41 かくてアビメレクはアルマに居しがゼブルはガアルおよびその兄弟等を逐いだしてシケムに居ることを得ざらむ 42 あくる日民田畑に出しに人之をアビメレクに告げしかば 43 アビメレクおのれの民を率ゐてこれを三隊に分ち野に埋伏して伺ふに民邑より出來りたればすなはち起りて之を撃り 44 アビメレクおよび之とともに在る隊の者は襲ひゆきて邑の門の入口に立ち餘の二隊は野に在るすべてのものをおそふて之を殺せり 45 アビメレク其日終日邑を攻めつひに邑を取りてそのうちの民を殺し邑を破却ちて鹽を撒布ぬ 46 シケムの櫓の人みな之を聞てペリテ神の廟の塔に入たりしが 47 シケムの櫓の人のごとく集れるよしアビメレクに聞ければ 48 アビメレク己とともになる民をことごとく率ゐてザルモン山に上りアビメレク手に斧を取り木の枝を斫落し之をおのれの肩に載せ階に居る民にむかひて汝ら吾が爲ところを見る急ぎてわがごとく爲せよといひしかば 49 民もまた皆おのその枝を斫りおとしアビメレクに従ひて枝を塔に倚せかけ塔に火をかけて彼等を攻むここに男男女女およそ一千人なりき 50 茲にアビメレク、テベツに赴きてテベツに對て陣を張て之を取りしが 51 邑のなかに一の堅固なる櫓ありてすべての男女および邑の民みな其所に遁れ往き後を鎖して櫓の頂に上りたれば 52 アビメレクすなはち櫓のもとに押寄て之を攻め櫓の口に近きて火をもて之を焚んとせしに 53 一人の婦アビメレクの頭に磨石の上層石を投げてその腦骨を碎けり 54 アビメレクおのれの武器を執る少者を急ぎ召て之にいひけるは汝の劍を抜て我を殺せおそくは人吾をさして婦に殺されたりといはんと其少者之を刺し通したればすなはち死り 55 イスラエルの人々はアビメレクの死たるを見ておのおのおのれの處に歸り去りぬ 56 神はアビメレクがその七十人の兄弟を殺しておのれの父になしたる惡に斯く報いたまへり 57 またシケムの民のすべての惡き事も神は彼等の頭に報いたまへりすなはちエルバアルの子ヨタムの誣彼らの上に及べるなり

Chapter 10

1 アビメレクの後イッサカルの人にてドドの子なるブワの子トラ起りてイスラエルを救ふ彼エフライムの山のシヤミルに住み 2 二十三年の間イスラエルを審判しがつひに死てシヤミルに葬らる 3 彼の後にギリアデ人ヤイル起りて二十二年の間イスラエルを審判りて 4 彼に子三十人ありて三十の驢馬に乗る彼等三十の邑を有りギリアデの地において今日までヤイルの村ととなふるものすなは

ち是なり 5 ヤイル死てカモンに葬らる 6 イスラエルの子孫ふたたびエホバの目のまへに惡を爲しバアルとアシタロテ及びスリヤの神シドンの神モアブの神アンモンの子孫の神ペリシテ人の神に事へエホバを棄てて之に事へざりき 7 エホバ烈しくイスラエルを怒りて之をペリシテ人及びアンモンの子孫の手に賣付したまへり 8 其年に彼らイスラエルの子孫を虐げ難せりヨルダンの彼方においてギリアデにあるところのアモリ人の地に居るイスラエルの子孫十八年の間斯せられたりき 9 アンモンの子孫またユダとベニヤミンとエフライムの族とを攻んとてヨルダンを渡りしかばイスラエル太く苦めり 10 ここにおいてイスラエルの子孫エホバに呼りていひけるは我らおのれの神を棄てバアルに事へて汝に罪を犯したりと 11 エホバ、イスラエルの子孫にいひたまひけるは我がかつてエジプト人アモリ人アンモンの子孫ペリシテ人より汝らを救ひ出せしにあらざるや 12 又シドン人アマレク人及びマオン人の汝らを困しめしとき汝ら我に呼りしかば我汝らを彼らの手より救ひ出せり 13 然るに汝ら我を棄て他の神に事ふれば我がさねて汝らを救はざるべし 14 汝らが擇める神々に往て呼れ汝らの艱難のときに之をして汝らを救はしめよ 15 イスラエルの子孫エホバに言けるは我ら罪を犯せりすべて汝の目に善と見るところを我らになしたまへねがはくは唯今日我らを救ひたまへと 16 而して民おのれの救ひより異なる神々を取除きてエホバに事へたりエホバの心イスラエルの艱難を見るに忍びずなりぬ 17 茲にアンモンの子孫集てギリアデに陣を取りしがイスラエルの子孫は聚りてミツバに陣を取り 18 時に民ギリアデの群伯たがひにいひけるは誰かアンモンの子孫に打ちむかひて戦を始むべき人ぞ其人をギリアデのすべての民の首となすべしと

Chapter 11

1 ギリアデ人エフタはたけき勇士にして妓婦の子なりギリアデ、エフタをうましめしなり 2 ギリアデの妻子等をうみしが妻の子等成長におよびてエフタをおひだしてこれにいひけるは汝は他の婦の子なればわが父の家を嗣べきにあらずと 3 エフタ其の兄弟の許より逃さりてトブの地に住けるに遊蕩者エフタのもとに集り來りて之とともに出ることなせり 4 程經てのちアンモンの子孫イスラエルとたかふに至りしが 5 アンモンの子孫のイスラエルとたかへるときにギリアデの長老等ゆきてエフタをトブの地より携來らんとし 6 エフタにいひけるは汝來りて吾らの大將となれ我らアンモンの子孫とたかはいん 7 エフタ、ギリアデの長老等にいひけるは汝らは我を惡みてわが父の家を嗣べきに逐いだしたるにあらずやしかるに今汝らが艱める時に至りて何ぞ我に來るや 8 ギリアデの長老等エフタにこたへけるは其が

ために我ら今汝にかへる汝われらとともにゆきてアンモンの子孫とたたかはずば我等ギレアデにすめるもの首領となすべしと 9 エフタ、ギレアデの長老等にいひけるは汝らもし我をたづさへかへりてアンモンの子孫とたたかはずば我は汝らの首となるべし 10 ギレアデの長老等エフタにいひけるはエホバ汝と我との間の證者たり我ら誓つて汝の言のごとくになすべし 11 是に於てエフタ、ギレアデの長老等とともに往くに民之を立ておのれの首領となし大將となせりエフタ即ちミツパにおいてエホバのまへにこの言をことごとく陳たり 12 かくてエフタ、アンモンの子孫の王に使者をつかはしていひけるは汝と我の間に何事ありてか汝われに攻めきたりてわが地に戦はんとする 13 アンモンの子孫の王エフタの使者に答へけるはむかしイスラエル、エジプトより上りきたりし時にアルノンよりヤボクにいたりヨルダンに至るまで吾が土地を奪ひしが故なり然ば今穩便に之を復すべし 14 エフタまた使者をアンモンの子孫の王に遣りて之にいはせけるは 15 エフタ斯いへりイスラエルはモアブの地を取らずまたアンモンの子孫の地をも取ざりしなり 16 夫イスラエルはエジプトより上りきたれる時に曠野を経て紅海に到りカデシに來れり 17 而してイスラエル使者をエドムの王に遣して言けるはねがはくは我をして汝の土地を經過しめよと然るにエドムの王之をうけがはずまたおなじく人をモアブの王に遣したれども是もうべなはざりしかばイスラエルはカデシに留まりしが 18 遂にイスラエル曠野を経てエドムの地およびモアブの地を繞りモアブの地の東の方に於てアルノンの彼方に陣を取り然どモアブの界には入らざりきアルノンはモアブの界なればなり 19 かくてイスラエル、ヘシボンに王たりシアモリ人の王シホンに使者を遣せりすなはちイスラエル之にいひけらくねがはくは我らをして汝の土地を經過てわがところのいたらしめよと 20 然るにシホン、イスラエルを信ぜずしてその界をとほらしめずかへつてそのすべての民を集めてヤハヅに陣しイスラエルとたたかひしが 21 イスラエルの神エホバ、シホンとすべての民をイスラエルの手に付したまひたればイスラエル之を擊敗りてその土地にすめるアモリ人の地を悉く手に入れ 22 アルノンよりヤボクに至るまでまた曠野よりヨルダンに至るまですべてアモリ人の土地を手に入たり 23 斯のごとくイスラエルの神エホバは其の民イスラエルのまへよりアモリ人を逐りしぞけたまひしに汝なほ之を取んとする乎 24 汝は汝の神ケモシが汝に取しむるものを取ざらんやわれらは我らの神エホバが我らに取しむる物を取ん 25 汝は誠にモアブの王チツポルの子バラクにまさる處ありとするかバラク曾てイスラエルとあらそひしことありや曾て之とたたかひしことありや 26 イスラエルがヘシボンとその村里アロエルとその村里およびア

ルノンの岸に沿ひたるすべての邑々に住ること三百年なりしに汝などてかその間に之を回復さざりしや 27 我は汝に罪を犯せしことなきに汝はわれとたたかひて我に害をくはへんとす願くは審判をなしたまふエホバ 今日イスラエルの子孫とアンモンの子孫との間を鞠きたまへと 28 しかれどもアンモンの子孫の王はエフタのいひつかはせる言を聴いれざりき 29 故にエホバの靈エフタに臨みしかばエフタすなはちギレアデおよびマナセを經過りギレアデのミツパにいたりギレアデのミツパよりすすみてアンモンの子孫に向ふ 30 エフタ、エホバに誓願を立ていひけるは汝誠にアンモンの子孫をわが手に付したまはば 31 我がアンモンの子孫の所より然かに歸らんとときに我家の戸より出きたりて我を迎ふるもの必ずエホバの所有となるべし我之を燔祭となしてささげんと 32 エフタすなはちアンモンの子孫の所に進みゆきて之と戦ひしにエホバかれらをその手に付したまひしかば 33 アロエルよりミンニテにまで至りこれが二十の邑を打敗りてアベルケラムにいたり甚だ多の人をころせりかくアンモンの子孫はイスラエルの子孫に攻伏られたり 34 かくてエフタ、ミツパに來りておのが家にいたるに其女鼓を執り舞ひ踊りて之を出で迎ふ是彼が獨子にて其のほかには男子もなくまた女子も有ざりき 35 エフタ之を見てその衣を裂いていひけるはああ吾が女よ汝實に我を傷しむ汝は我を惱すものなり其は我エホバにむかひて口を開きしによりて改むることあたはざればなり 36 女之にいひけるはわが父よ汝エホバにむかひて口をひらきたれば汝の口より言出せしごとく我になせよ其はエホバ汝のために汝の敵なるアンモンの子孫に仇を復したまひたればなり 37 女またその父にいひけるはねがはくは此事をわれに允せずなはち二月の間我をゆるし我をしてわが友等とともに往て山にくだりてわが處女たることを歎かしめよと 38 エフタすなはち往けといひて之を二月のあひだ出し遣ぬ女その友等とともに往き山の上にておのれの處女たるを歎かしが 39 二月満てその父に歸り來りたれば父その誓ひし誓願のごとくに之に行へり女は終に男を知ことなかりき 40 是よりして年々にイスラエルの女子等往て年に四日ほどギレアデ人エフタの女のために哀哭ことをなすはイスラエルの規矩となれり

Chapter 12

1 エフライムの人々つどひて北にゆきエフタにいひけるは汝何故に往きてアンモンの子孫と戦ひながらわれらをまねきて汝とともに往せざりしや我ら火をもて汝の家を汝とともに焚くべしと 2 エフタ之にいひけるは我とわが民の曾てアンモンの子孫と大に争ひしときに我汝らよびしに汝らわれらの手より我を救ふことをせざりき 3 我汝らが我を救はざるを見ればわが命をなかりてアンモ

ンの子孫の所に攻ゆきしにエホバかれらを我が手に付したまへり然ば汝らなんぞ今日我が許に上り來りて我とたたかはんとするやと 4 エフタここにおいてギレアデの人をことごとくつどへてエフライムとたたかひしがギレアデの人々エフライムを撃破れり是はエフライム汝らギレアデ人はエフライムの逃亡者にしてエフライムとマナセの中ををるなりと言しに由る 5 而してギレアデ人エフライムにおもむくところのヨルダンの津をとりきりしがエフライム人の逃來る者ありて我を渡らせよといへばギレアデの人之に汝はエフライム人なるかと問ひ彼もし然らずと言ときは 6 また之に請ふシボレテといへといふに彼その音を正しくいひ得ずしてセボレテと言はずなはち之を引捕へてヨルダンの津に屠せりその時にエフライム人のたふれし者四萬二千人なりき 7 エフタ六年のあひだイスラエルを審きたりギレアデ人エフタつひに死てギレアデのある邑に葬むらる 8 彼の後にてベテレヘムのイブザン、イスラエルを審きたり 9 彼に三十人の男子ありまた三十人の女子ありしがこれをば外に嫁がしめてその子息等のために三十人の女を外より娶りて彼七年のあひだイスラエルを審きたり 10 イブザンつひに死てベテレヘムに葬むらる 11 彼の後にゼブルン人エロン、イスラエルを審きたり 12 ゼブルン人エロンつひに死てゼブルンの地のヤアロンに葬むらる 13 彼の後にピラトン人ヒレルの子アブドン、イスラエルを審きたり 14 彼に四十人の男子および三十人の孫ありて七十の孫を審きたり 15 ピラトン人ヒレルの子アブドンつひに死てエフライムの地のピラトンに葬むらる是はアマレク人の山にあり

Chapter 13

1 イスラエルの子孫またエホバのまへにて惡を行ひしかばエホバこれを四十年の間ペリシテ人の手にわたしたまへり 2 ここにダン人の族にて名をマノアとよべるゾラ人あり其の妻は石婦にして子を生みしことなし 3 エホバの使その女に現れて之にいひけるは汝は石婦にして子を生じことあらざらんぞ汝孕みて子をうまん 4 されば汝つしみて葡萄酒および濃き酒を飲むことなかれまたすべて穢たるものを食ふなかれ 5 視よ汝孕みて子を産ん其の頭には剃刀をあつべからずその兒は胎を出るよりして神のナザレ人〔神に身を獻げし者〕たるべし彼ペリシテ人の手よりイスラエルを拯ひ始めんと 6 その婦人來りて夫に告て曰けるは神の人我にのぞめりその容貌は神の使の容貌のごとくにして甚おそろしかりしが我其のいづれより來れるやを問ず彼また其の名を我に告ざりき 7 彼我にいひけるは視よ汝孕みて子を産まん然ば葡萄酒および濃き酒を飲むなかれまたすべてけがれたるものを食ふなか

れその兒は胎を出るより其の死る日まで神のナザレ人たるべしと 8 マノア、エホバにこひ求めていひけるはああわが主よ汝がさきに遣はしたまひし神の人をふたたび我らにのぞませしをて我らがその産る兒になすべき事を教へしめたまへ 9 神マノアの聲をききいれたまひて神の使者婦人の田野に坐しをる時に復之にのぞめり時に夫マノアは共にをらざりき 10 是において婦いそぎ走りて夫に告て之にいひけるは先頃我らのぞみし人また我に現はれたりと 11 マノアすなはち起て妻のあとに付て行き其人のもとに至りて之に汝はかつて此婦に語言し人なるかといふに然りとこたふ 12 マノアにいひけるは汝の言のごとく成ん時は其兒の養育方および之になすべき事は如何 13 エホバの使者マノアにいひけるはわがさきに婦に言しところのことどもは婦之をつつしむべきなり 14 すなはち葡萄樹よりいづる者は凡て食ふべからず葡萄酒と濃き酒を飲まずすべてわが彼に命じたることどもを彼守るべきなり 15 マノア、エホバの使者にいひけるは請我らをして汝を款留しめ汝のまへに山羊羔を備へしめよ 16 エホバの使者マノアにいひけるは汝我を款留も我は汝の食物をくらはじまた汝燔祭をそなへんとらばエホバにこれをそなふべしと マノアは彼がエホバの使者なるを知ざりしなり 17 マノア、エホバの使者にいひけるは汝の名はなにぞ汝の言の效驗あらんときは我ら汝を崇ん 18 エホバの使者之にいひけるは我が名は不思議なり汝何故に之をたづぬるやと 19 マノア山羊羔と素祭物とをとり磐のうへにて之をエホバにささぐ使者すなはち不思議なる事をなせり マノアとその妻之を視る 20 すなはち火燄壇より天にあがれるときエホバの使者壇の火燄のうちにありて昇れり マノアと其の妻これを視りて地にひれふせり 21 エホバの使者そのち重ねてマノアと其の妻に現はれざりき マノアつひに彼がエホバの使者たりしを曉れり 22 茲にマノアその妻にむかひ我ら神を視たれば必ず死ぬるならんといふに 23 其の妻之にいひけるはエホバもし我らを殺さんとおもひたまはばわれらの手より燔祭及び素祭をうけたまはざりしならんまたこれらの諸のことを我らに示すことをなしこたびのごとく我らに斯ることを告たまはざりしなるべしと 24 かくて婦子を産てその名をサムソンと呼べりその子育ち行くエホバこれを恵みたまふ 25 エホバの靈ゾラとエシタオルのあひだなるマハネダンにて始て感動す

Chapter 14

1 サムソン、テムナテに下り、ペリシテ人の女にてテムナテに住る一人の婦を見 2 歸り上りておのが父母に語ていひけるは我ペリシテ人の女にてテムナテに住るひとりの婦を見たりされば今之をめとりてわが妻とせよと 3 その父母之にいひけるは

汝ゆきて割禮を受けざるペリシテ人のうちより妻を迎んとするは汝が兄弟等の女のうちもしくはわがすべての民のうちに婦女無が故なるかとしかるにサムソン父にむかひ彼婦がここに適へば之をわがために娶れと云り 4 その父母はこの事のエホバより出なるを知らざりきサムソンはペリシテ人を攻んと鬻をうかがひしなりそは其のころペリシテ人イスラエルを轄め居ればなり 5 サムソン父母とともにテムナテに下りてテムナテの葡萄園にいたるに稚き獅子咆哮りて彼に向ひしが 6 エホバの靈彼にのぞみたれば山羊羊を裂がごとくに之を裂たりしが手には何の武器も持ざりきされどサムソンはその爲せしことを父にも母にも告ずしてありぬ 7 サムソンつひに下りて婦とうちかたらひしが婦その心になかへり 8 かくて日を経て後サムソンかれを娶らんとて立かへりしが身を轉して彼の獅子の尻を見るに獅子の體に蜂の群と蜜とありければ 9 すなはちその蜜を手にとりて歩みつつ食ひ父母の許にいたりて之を與へけるに彼ら之を食へりされど獅子の體よりその蜜を取れることをば彼らにかたざりき 10 斯て其の父下りて婦のもとに至りしかばサムソン少年の習例にしたがひてそこに饗宴をまつけたるに 11 サムソンを見て三十人の者をつれ來りて之が伴侶とならしむ 12 サムソンかれらにいひけるは我汝らにひとつの隠語をかけん汝ら七日の筵宴の内に之を解てあきらかに之を我に告なば我汝らに裏衣三十と衣三十襲をあたふべし 13 然どもし之をわれに告得ずば汝ら我に裏衣三十と衣三十襲を與ふべしと彼等之にいひけるは汝の隠語をかけて我らに聽しめよ 14 サムソン之にいひけるは食ふ者より食物出で強き者より甘き物出でたりと彼ら三日の中に之を解ことあたはざりしかば 15 第七日に行りてサムソンの妻にいひけるは汝の夫を説すすめて隠語を我らに明さしめよ然せずば火をもて汝と汝の父の家を焚ん汝らはわれらの物をとらんとてわれらを招けるなるか然るにあらざると 16 是においてサムソンの妻サムソンのまへに泣いていひけるは汝はわれを惡む而巴われを愛せざるなり汝わが民の子孫に隠語をかけて之をわれに説あかさずとサムソン之にいひ我これをわが父や母にも説あかさざればいかで汝に説あかさげんやと 17 婦七日の筵宴のあひだ彼のまへに泣き居りしが第七日に至りてサムソンつひに之を彼に説あさせり其は太く強たればなり婦すなはち隠語をおのが民の子孫に明せり 18 是において第七日に及びて日の没るまへに邑の人々サムソンにいひけるは何もか蜜よりあまらん何もか獅子より強からんとサムソン之にいひけるは汝らわが軋轡をもて耕さざりしならばわが隠語を解得ざるなりと 19 茲にエホバの靈サムソンに臨みしかばサムソン、アシケロンに下りてかひこの者三十人を殺しその物を奪ひ彼の隠語を解し者等とその衣服を與へはげしく怒りて其父の家にかへり上れり 20 サムソンの妻

はサムソンの友となり居たるその伴侶の妻となりぬ

Chapter 15

1日を経てのち麥秋の時にサムソン山羊羊をたづさへて妻のもとを訪ていひけるは我室に入てわが妻に會んと然るに妻の父其の入ことをゆるさず 2 其父すなはちいひけるはわれまことに汝は彼の婦を嫌ひたりと意ひしがゆゑに彼を汝の伴侶たりし者に與へたり彼が妹は彼よりも善にあらざやねがはくは彼に代て之を汝のものとなせよ 3 サムソン彼らにいひけるは今回はわれペリシテ人に害を加ふるとも彼らに對して罪なかるべしと 4 サムソンすなはち往て山犬三百をとらへ火炬をとり尾と尾をあはせてその二つの尾の間に一つの火炬を結びつけ 5 火炬に火をつけてペリシテ人のいまだ刈ざる麥のなかにこれを放ち入れその束ね積たるものといまだ刈ざるものを焚き橄欖の園にまで及ぼせり 6 ペリシテ人いひけるは是は誰の行爲なるやこたへて言ふテムナテ人の婿サムソンなりは彼サムソンの妻をとりて其伴侶なりし者に與へたればなりとここにおいてペリシテ人上りきたりて彼の婦とその父とを火にて焼くうしなへり 7 サムソンかれらに言ふ汝ら斯おこなへば我汝らに仇をむくはでは止じと 8 すなはち腰に腿に彼らを撃て大いに之を殺せりかくてサムソンは下りてエタムの巖間に居る 9 ここにおいてペリシテ人上り來りてユダに陣を取りレヒに布き備へたれば 10 ユダの人々いひけるは汝ら何の故にわれらに攻めたりたるやとかれらこたへけるはサムソンをしばりて彼がわれらに爲しごとくかれに爲んとてのぼれるなりと 11 是をもてユダの人三千人エタムの巖間にくだりてサムソンにいひ汝ペリシテ人はわれらを轄るものなるを知らざるや汝などてかわれらに斯る事をなせしやサムソンかれらにいひけるは我は彼らが我に爲しごとく彼らに爲しなりと 12 かれらまたサムソンにいひけるは我らは汝をしばりてペリシテ人の手にわたさんとて下りきたれりサムソンかれらにいひけるは汝らの自われを害すまじきことを我に誓へ 13 彼ら之にかたりていふいなわれらはただ汝を縛りいましてペリシテ人の手にわたさんのみわれらは必ず汝を殺さざるべしとすなはち二條の新しき索をもてかれをいまして巖より之を携かへり 14 サムソン、レヒにいたれるときペリシテ人聲を揚てかれに近づきしが時しエホバの靈彼にのぞみたればその腕にかかれの索は火に焚たる麻のごとくになりて手のいましめ解はなれたり 15 サムソンすなはち驢馬のあたらしき脛骨ひとつを見出し手をのべて之を取り其をもて一千人を殺し 16 而して言ふ驢馬の脛骨をもて山をきづき山をつくる驢馬の脛骨をもて我一千人を撃殺せりと 17 かく言終りてその手より脛骨をうちすて其處をラマテレヒと名けたり 18 時に彼渴をおぼゆる

こと甚だしかりしかばエホバによははりていふ汝のしもべの手をもて汝この大なる拯をほどこしたまへるにわれ今渴きて死に割禮を受けざるもの手におちいらんとすと 19 ここにおいて神レヒに在るくぼめる所を裂きたまひしかば水そより流れいでしがサムソン之を飲たれば精神舊に返りてふたたび爽になりぬ故に其名をエンハッコレ（呼ばれるものの泉）と呼ぶは今日にいたるまでレヒに在り 20 サムソンはペリシテ人の治世の時に二十年イスラエルをさばけり

Chapter 16

1サムソン、ガザに往きかして一人の妓を見てその處に入りに 2 サムソンここに来れりやガザ人につぐものありければすなはち之を取り圍みよもすがら邑の門に埋伏し詰朝におよび夜の明たる時に之をこすべしといひてよもすがら静まりかへりて居る 3 サムソン夜半までいね夜半の柱にて興き邑の門の扉とふたつの柱に手をかけて健もるともに之をひきぬき肩に載てヘブロンに向ひなる山の巔に負のぼれり 4 このちサムソン、ソレクの谷に居る名はデリラと言ふ婦人を愛す 5 ペリシテ人の群伯その婦のもとに上り來て之にいひけるは汝サムソンを説すすめてその大なる力は何に在るかまたわれら如何にせば之に勝て之を縛りくるしむるを得べきかを見出せ然すればわれらのおの銀千百枚づつをなんぢに與ふべし 6 ここにおいてデリラ、サムソンにいひけるは汝の大なる力は何にあるかまた如何せば汝を縛りて苦むることを得るや請ふ之をわれにつげよ 7 サムソン之にいひけるは人もし乾きしことなき七條の新しき繩をもてわれを縛るときはわれ弱くなりて別人のごとくならんと 8 ここに於てペリシテ人の群伯乾きしことなき七條の新しき繩を婦にもち來りければ婦之を以てサムソンをしばりしが 9 かねて室のうちに人しのび居て己ともにもありたれば斯してサムソンにむかひサムソンよペリシテ人汝に及ぶと言ひサムソンすなはちその索を絶りあたかも麻絲の火にあひて斷るがごとし斯其の力の原由知れざりき 10 デリラ、サムソンにいひけるは視よ汝われを欺きてわれに誑を告たり請ふ何をもてせば汝を縛ることをうるや今我に告よ 11 彼之にいひけるはもし人用ひたることなき新しき索をもてわれを縛りいましてなばわれ弱くなりて別人のごとくならんと 12 是をもてデリラあたらしき索をとり其をもて彼を縛りしかして彼にいひサムソンよペリシテ人汝におよぶと時に室のうちに人しのび居たりしがサムソン絲の如くにその索を腕より絶おとせり 13 デリラ、サムソンにいひけるに今までは汝われを欺きて我に誑をつけたるが何をもてせば汝をしばることをうるやわれに告よと彼之にいひけるは汝もしわが髪七條を機

14 掃すなはち釘をもて之をとめおきて彼にいひけるはサムソンよペリシテ人汝におよぶとサムソンすなはちその髪をさまし織機

の釘と緯線とを曳けり 15 婦ここにおいてサムソンにいひけるは汝の心われに居るに汝いかにわれを愛すといふや汝すでに三次われをあざむきて汝が大なる力の何にあるかをわれに告ずと 16 日々にその言をもて之にせまりうながして彼の心

を死るばかりに苦ませたれば 17 彼つひにその心をことごとく打明して之にいひけるはわが頭にはいまだかつて剃刀を當しことならずそはわれ母の胎を出るよりして神のナザレ人たればなりもしわれ髪をそりおとされなばわが力われをはなれわれは弱くなりて別人のごとくならんと 18 デリラ、サムソンがことごとく其のころを明したるを見人をつかはしてペリシテ人の群伯を召ていひけるはサムソンことごとくその心をわれに明したれば今ひとたび上り來るべしとここにおいてペリシテ人の群伯かの銀を携へて婦のもとにいたる 19 婦おのが膝のうへにサムソンをねむらせ人をよびてその頭髮七條をきりおとさしめ之を苦めはじめたるにその力すてにうせさりてあり 20 婦ここにおいてサムソンよペリシテ人汝におよぶといひければ彼睡眠をさましていひけるはわれ毎のごとく出て身を振はさんと彼はエホバのおのれをはなれたまひしを覺らざりき 21 ペリシテ人すなはち彼を執へ眼を抉りて之をガザにひき下り銅の鏈をもて之を繋げりかくてサムソンは囚獄のうちに磨を挽居たりしが 22 その髪を毛剃りおとされてのち復長はじめたり 23 茲にペリシテ人の群伯共にあつまりてその神ダゴンに大なる祭物をささげて祝をなさんとしすなはち言ふわれらの神はわれらの敵サムソンをわれらの手に付したりと 24 民サムソンを見ておのれを神をほめたたへて言ふわれらの神はわれらの敵たる者われらの地を荒せしものわれらに數多殺せしものをわれらの手に付したりと 25 その心に喜びていひけるはサムソンを召てわれらのために戯技をなさしめよとて囚獄よりサムソンを召いだせしかばサムソン之がために戯技をなせり彼等サムソンを柱の間に立しめしに 26 サムソンおのが手をひきをを少者にいひけるはわれをはなして此家の倚て立ところの柱をさぐりて之に倚しめよと 27 その家には男女充ちペリシテ人の群伯もまたみな其處に居る又屋蓋のうへには三千ばかりの男女をりてサムソンの戯技をなすを觀てありき 28 時にサムソン、エホバに呼はりいひけるはああ主エホバやねがはくは我を記念たまへ嗚呼神よ願くは唯今一度われを強くしてわがふたつの眼のひとつのためにだにもペリシテ人に仇をむくいしめたまへと 29 サムソンすなはちその家の倚てたつところの兩箇の中柱のひとつを右の手ひとつを左の手にかかへて身をこれにせたりしかば 30 サムソン我はペリシテ人とともに死なんといひて力をきはめて身をかがめたれば家は力のながに居る

群伯とすべての民のうへに倒れたりかくサムソンが死るときに殺せしものは生けるときに殺せし者よりもおほかりき 31 こののちサムソンの兄弟およびその父の家族ことごとく下りて之を取り携へるのほりてゾラとエシタオルのあひだなる其の父マノアの墓にはうむれりサムソンがイスラエルをさばきしは二十年なりき

Chapter 17

1ここにエフライムの山のの人に名をミカとよべるものありしが 2 その母に言けるは汝がつてその千百枚の銀を取れしことを吾が聞ところにて詛ひて語りしが視よその銀はわが手に在り我之を取るなりと母すなはちわが子よねがはくはエホバ汝に祝福をたまへと言り 3 彼千百枚の銀をその母にかへせしかば母いひけらくわわが子のためにひとつの像を雕みひとつの像を鑄るためにその銀をわが手よりエホバに納むればわれ今之を汝にかへすべしと 4 ミカその銀を母にかへせしかば母その銀二百枚をとりて之を鑄物師にあたへてひとつの像をきざませひとつの像を鑄させたり其像はミカの家内に在り 5 このミカといふ人神の殿をもちをりエポデおよびテラピムを造りひとりの子を立ておのが祭司となせり 6 此ときはイスラエルに王なかりければ人々おのれの目に是とみゆることをおこなへり 7 ここにひとり少者ありてベテレヘムユダに於てユダの族の中に在る彼はレビ人にしてかこに寓居なり 8 この人居べきところをたづねてその邑ベテレヘムユダを去しが遂に旅してエフライムの山にゆきてミカの家にいたりしに 9 ミカ之にいひけるは汝いつこよ來れるやと彼之にいふ我はベテレヘムユダのレビ人なるが居べきところをたづねに往くものなり 10 ミカ之に言けるは汝われと偕に居りわがために父とも祭司ともなれよ然ばわれ年に銀十枚および衣服食物を汝にあたへんとレビ人すなはち入しが 11 レビ人つひにその人と偕に居んことを肯ふるにおいてその少者はかれの子の一人のごとくなりぬ 12 ミカ、レビ人なるこの少者をたてて祭司となしたればすなはちミカの家に居る 13 ミカここにおいて言ふ今われ知るエホバわれに恩恵をたまはんそはこのレビ人われの祭司となればなり

Chapter 18

1當時イスラエルには王なかりしがダンの支派其頃住むべき地を求めたり是は彼らイスラエルの支派の中にありて其日まで未だ産業の地を得ざりしが故なり 2 ダンの子孫すなはちゾラとエシタオルよりして自己の族の勇者五人を遣はしその境を出て土地を窺ひ探らしむ即ち彼等に言ふ往て土地を探れと彼等エフライムの山にいたりミカの家につきて其處に宿れり 3 かれらミカの家の傍にある時レビ人なる少者の聲を聞認たれば身をめぐらして其處にいりて之

に言ふ誰が汝を此に携きたりしや汝此處にて何をなすや此に何の用あるや 4 其人かれらに言けるはミカス々我を待ひ我を雇ひて我その祭司となれりと 5 彼等これに言ふ請ふ神に問ひ我等が往ところの途に利達あるや否を我等にしらしめよ 6 その祭司かれらに言けるは安んじて往よ汝らが往ところの途はエホバの前にあるなりと 7 是に於て五人の者往てライシに至り其處に住る人民を視るに顧慮なく住ひり其安穩にして安固なることシドン人のごとし此國には政權を握りて人を煩はす者絶てあらず其シドン人と隔たること遠くまた他の人民と交ることなし 8 斯て彼等ゾラとエシタオルに返りてその兄弟等にいたるに兄弟等如何なりしやと彼等に問ければ 9 答て言ふ起よ彼等の所に攻のぼらん我等その地を見るに甚だ善し汝等は安んじをるなり進みいたりてその地を取ることを怠るなかれ 10 汝等往ば安固なる人民の所に至らんその地は堅横ともに廣し此處には世にある物一箇も缺ることあらず 11 是に於てダンの族の者六百人武器を帶てゾラとエシタオルより出ゆき 12 上りてユダのキリヤテヤリムに陣を張り是をもてその處をマハネダンと名けしがその名今日に存る是はキリヤテヤリムの後にあり 13 彼等其處よりエフライム山に進みミカの家に至りけるに 14 夫のライシの國を窺ひに往たりし五人の者その兄弟等に告て言けるは是等の家にはエポデ、テラピムおよび雕める像と鑄たる像あるを汝等知や然ば汝ら今その爲べきことを考へよと 15 乃ち其方に身をめぐらして夫のレビ人の少者の家なるミカの家に至りてその安否を問けるが 16 武器を帶たる六百人のダンの子孫は門の入口に立り 17 夫の土地を窺ひに往たりし五人の者上りて其處にいりその雕める像とエポデとテラピムおよび鑄たる像を取けるが祭司は武器を帶たる六百人の者とともに門の入口に立たり 18 此人々ミカの家にいりて其雕める像とエポデとテラピムと鑄たる像とを取しかば祭司かれらに汝ら何をなすやと言ふに 19 彼等これに言けるは汝黙せよ汝手を口にあてて我らとともに來り我らの父とも祭司ともなれよかし一人の家の祭司たることイスラエルの一の支派一の族の祭司たるとは何か好や 20 祭司すなはち心を悦びてエポデとテラピムと雕める像とを取て民の中に入る 21 斯てかれら身をめぐらしその子女と家畜と財寶を前にたてて進みしが 22 ミカの家を遙かに離れし時ミカの家に近きところの家の人々呼はり集てダンの子孫に追ひつき 23 ダンの子孫を呼たれば彼等回顧てミカに言ふ汝何事ありて集りしや 24 かれら言けるは汝らはわが造れる神々および祭司を奪ひさりたれば我尚何かあらん然るに汝等何ぞ我にむかひて何事ぞやと言や 25 ダンの子孫かれに言けるは汝の聲を我らの中に聞えしむるなかれ恐くは心の荒き人々汝に撃かかるありて汝おのれの生命と家族の生命とを失ふにいたらんと 26 而し

てダンの子孫進みゆきけるがミカは彼らが己よりも強きを見て身をめぐらして家に返れり 27 彼等ミカが造りし者とその有し祭司をとりてライシにおもむき平穩にして安樂なる民の所にいたり刃をもて之を撃ち火をもてその邑を燬たりしが 28 其シドンと隔たること遠きが上に他の人民と交際ざりしによりて之を救ふ者なかりきその邑はベテレホブの邊の谷にあり彼ら邑を建なほして其處に住み 29 イスラエルの生たるその先祖ダンの名にしたがひて其邑の名をダント名けたりその邑の名は本はライシなりき 30 斯てダンの子孫その雕める像を安置りモーセの子なるゲルシヨムの子ヨナタンとその子孫ダンの支派の祭司となりて國の尊はるる時にまでおよびり 31 神の家のシロにありし間恒に彼等はミカが造りしかの雕める像を安置おきぬ

Chapter 19

1其頃イスラエルに王なかりし時にあたりてエフライムの山の奥に一人のレビ人寄寓をりベテレヘムユダより一人の婦人をとりて妾となしたるに 2 その妾彼に背きて姦淫を爲し去てベテレヘムユダなるその父の家にかへり其所に四月といふ日をおくれり 3 是に於てその夫彼をなだめて携かへらんとてその僕と二頭の驢馬をしたがへ起てかれの後をしたひゆきければその父の家に之を導きいたりしに女の父これを見て之に遇ことを悦こべり 4 而してその女の父なる外舅彼をひきとめたれば則ち三日これと共に居り皆食飲して其所に宿りしが 5 四日におよびて朝早く起あがり彼たちて去んとしければ女の父その婿に言ふ少許の食物をもて汝の心を強くして然る後に去れよと 6 二人すなはち坐りて共に食飲しけるが女の父その人にいひけるは請ふ幸に今夜を明し汝の心を樂ましめよと 7 其人起て去んとしけるに外舅これを強たれば遂に復其所に宿り 8 五日におよびて朝はやく起いでて去んとしたるに女の父これに言けるは請ふ汝の心を強くせよ是をもて日の昃るまでとどまりて共に食をなしけるが 9 其人つひに妾および僕とともに去んとて起あがりければ女の父彼に言ふ視よ今は日暮なんとす請ふ今夜を明されよ視よ日暮たり汝此にやどりて汝の心をたのしませ明日蚤く起て出たち汝の家にいたれよと 10 然るに其人止宿することを肯はずして起て去りエプスの對面に至れり是はエルサレムなり鞍おける二の驢馬彼とともにあり妾も彼とともにき 11 彼らエプスの近傍に在る時日はや没んとしければ僕その主人にいひけるは請ふ來れ我等身をめぐらしてエプス人の此邑にいりて其所に宿らんと 12 その主人これに言けるは我等は彼所に身をめぐらしてイスラエルの子孫の邑ならざる外國の人の邑にいるべからずギベアに進みゆかんと 13 すなはちその僕にいひけるは來れ我らギベアカラマか是等の處の一に就て止宿んと 14 皆すすみ往きける

がベニヤミンのギベアの近邊にて日暮たれば 15 ギベアにゆきて宿らんとて其所に身をめぐらし入て邑の衢に坐しけるに誰も彼を家に接て宿らしむる者なかりき 16 時に一人の老人日暮に田野の働作をやめて歸りきたる此人はエフライム山の者にしてギベアに寄寓れるなり但し此處の人はベニヤミン人なり 17 彼目をあげて旅人の邑の衢に在るを見たり老人すなはちいひけるは汝は何所にゆくや何所より來れるやと 18 その人これにいひけるは我らはベテレヘムユダよりエフライム山の奥におもむく者なり我は彼所の者にて既にベテレヘムユダにゆき今エホバの室に詣らんとするなるが誰もわれを家に接もあらず 19 然ど驢馬の糞も飼菊もあり又我と汝の婢および僕等ともなる少者の用ふべき食物も酒も在て何も事缺るところなし 20 老人いひけるは願くは汝安かれ汝が需むる者は我そなへん唯衛に宿るなかれと 21 かれをその家に携れ驢馬に飼ふ彼らすなはち足をあらして食飲せしが 22 その心を樂ませる時にあたりて邑の人々の邪なる者その家をとりにこみ戸を打たたきて家の主人なる老人に言ふ汝の家きたれる人をひき出せ我らこれを犯さんと 23 是に於てその主人なる人かれらの所にいひてゆきてこれに言けるは否わが兄弟よ惡をなす勿れ此人すでにわが家にいらればこの愚なる事をなすなかれ 24 我が處女なる女と此人の妾とあるにより我これを見つれだすべければ汝らこれを辱しめ汝等の好むところをこれに爲せ唯この人には斯る愚なる事を爲すなかれと 25 然るにその人々これを聽いれざるにより其人その妾をとりてこれを彼らの所にいだしやりければすなはちこれを犯して朝にいいたるまで終夜これを辱しめ日のいづる頃にいたりて釋り 26 是をもて婦黎明にきたりてその夫の在る彼人の家の門に仆れ夜のあくるまで其處に臥る 27 その主朝におよびておきいでて家の戸をひらき去つて去んとせしがその妾の婦の家の門にたふれをりて手を鬮の上におくを見ければ 28 これにむかひ起よ我ら出往んと言たれども何の答もあらざりき是によりてその人これを驢馬にのせたてて己の所におもむきしが 29 家にいたるにおよびて刀をとり其妾を執へて骨ぐるみこれを十二分にたちわりて之をイスラエルの四方の境におくりければ 30 之を見る者皆いふイスラエルの子孫がエジプトの地より出のほりし日より今日にいたるまで斯のごとき事は行はれしことなく見えしことなし思をめぐらし相議りて言ふことをせよ

Chapter 20

1是に於てイスラエルの子孫ダンよりベエルシバにいたりギリアデの地にいたるまで皆出たり其會衆一人のごとくにしてミツバに於てエホバの前に集り 2 衆民の長たる者すなはちイスラエルの諸の支派の長等みづから神の民の集會に出づ劍をぬ

くところの歩兵四十萬人ありき 3 ベニヤミンの子孫はイスラエルの子孫がミツパにのぼれることを聞きしてイスラエルの子孫此惡事の様を語れと言れば 4 彼殺されし婦の妾となるレビの人こたへていれ我が妾とともにベニヤミンのギベアに宿らんとて往たるに 5 ギベアの人起りたちて我をせめ夜の間に我がをる家をとるかこみて我を殺さんと企て遂にわが妾を辱しめてこれを死しめれば 6 我が妾をとらへてこれをたぢり是をイスラエルの産業な全地に遣れり是は彼らイスラエルにおいて淫事をなし愚なる事をなしたればなり 7 汝等は皆イスラエルの子孫なり今汝らの意見と思考をのべよ 8 民みな一人のごとくに起ていひけるは我らは誰もおのれの天幕にゆかずまた誰もおのれの家におもむかじ 9 我らがギベアになさんところの事は是なりすなはち鬪にしたがひて之を攻ん 10 我らイスラエルの諸の支派の中に於て百人より十人千人より百人萬人より千人を取りて民の糧食を執せしをしてベニヤミンのギベアにいたり彼らがイスラエルにおこなひたるその愚なる事にしたがひて事をなさしむべしと 11 斯イスラエルの人々皆あつまりて此邑を攻んとせしが其相結ぶこと一人のごとくなりき 12 イスラエルの諸の支派遍く人をベニヤミンの支派の中に遣して言しめけるは汝らの中に此惡事のおこなはれしは何事ぞや 13 然ばギベアにをるかの邪なる人々をわたせ我らこれを誅して惡をイスラエルに絶べしと然るにベニヤミンの子孫はその兄弟なるイスラエルの子孫の言を聴いれざりき 14 却てベニヤミンの子孫は邑々よりギベアにあつまりて出てイスラエルの子孫と戦はんとして 15 その時邑々より出たるベニヤミンの子孫を數ふるに劍をぬく所の人二萬六千あり外にまたギベアの居民ありて之をかぞふるに精兵七百人ありき 16 この諸の民の中に左手利の精兵七百人あり皆能く投石器をもて石を投るに毫末もたがふことなし 17 イスラエルの人を數ふるにベニヤミンを除きて劍をぬくところの者四十萬人ありきはみな軍人なり 18 爰にイスラエルの子孫起あがりてベテルにのぼり神に問て我等の中孰か最初にのぼりてベニヤミンの子孫と戦ふべきやと言ふにエホバ、ユダ最初にと言たまふ 19 イスラエルの子孫すなはち朝おきてギベアにむかひて陣をとりけるが 20 イスラエルの人々ベニヤミンと戦はんとて出でゆきイスラエルの人々行伍をたててギベアに彼らと戦はんとしければ 21 ベニヤミンの子孫ギベアより進みいで其日イスラエル人二萬二千を地に撃つせり 22 然るにイスラエルの民の人々みづから奮ひその初の日に行伍をたてし所にまた行伍をたてたり 23 而してイスラエルの子孫上りゆきてエホバの前に夕暮まで哭きエホバに問て言ふ我復進みよりて吾兄弟なるベニヤミンの子孫とたかふべきやとエホバ彼に攻のぼれと言たまへり 24 是に於てイスラエルの子孫次の日またベニヤミンの子孫の所に攻よするに

25 ベニヤミンまた次の日ギベアより進みて之にいであい再びイスラエルの子孫一萬八千人を地に撃つせり是みな劍をぬくところの者なりき 26 斯在しかばイスラエルの子孫と民みな上りてベテルにいたりて哭き其處にてエホバの前に坐りその日の夕暮まで食を斷ち燔祭と酬恩祭をエホバの前に獻げ 27 而してイスラエルの子孫エホバにとへり(その頃は神の契約の櫃處にありて 28 アロンの子エリアザルの子なるピネハス當時これに事へたり)即ち言けるは我またも出てわが兄弟なるベニヤミンの子孫とたかふべきや或は息べきやエホバ言たまふ上れよ明日はわれ汝の手にかれらを付すべしと 29 イスラエルはに於てギベアの周圍に伏兵を置き 30 而してイスラエルの子孫三日目にまたベニヤミンの子孫の所に攻のぼり前のごとくにギベアにむかひて行伍をたてたれば 31 ベニヤミンの子孫民に出あひしが遂に邑より誘出されたり彼等始は民を撃ち大路にて前のごとくイスラエルの人三十人許を殺せりその大路は一筋はベテルにいたり一筋は野のギベアに至る 32 ベニヤミンの子孫すなはち言ふ彼らは初のごとく我らに撃破らると然るにイスラエルの人は云ふ我等逃て彼らを邑より大路に誘き出さんと 33 イスラエルの人々みなその所を起て去りバルタマルに行伍をたてたり而して伏兵その處より即ちギベアの野原より起れり 34 イスラエルの全軍の中より選抜たる兵一萬來りてギベアを襲ひ其鬪はげしかりしがベニヤミン人は苗害の己にのぞむを知らざりき 35 エホバ、イスラエルのまへにベニヤミンを撃取りたまひしかばイスラエルの子孫その日ベニヤミン人二萬五千一百人を殺せり是みな劍をぬくところの者なりき 36 ベニヤミンの子孫すなはち己の撃破らるるを見たり偕イスラエルの人々そのギベアにむかひて設たる所の伏兵を待てベニヤミン人を避て退きけるが 37 伏兵急ぎてギベアに突入り伏兵進みて刃をもて邑を盡く撃り 38 イスラエルの人々とその伏兵との間に定めたる合圖は邑より大なる黒烟をあげんとの事なりき 39 イスラエルの人々戦陣より引き退ぞくベニヤミン初が程はイスラエルの人々を撃ちて三千人を殺し乃ち言ふ彼等はまことに最初の戦のごとく我等に撃やぶらんと 40 然るに火焰烟の柱なして邑より上りはじめしかばベニヤミン人後を見かへりしに邑は皆烟となりて空にのぼる 41 時にイスラエルの人々ふりかへりしかばベニヤミンの人々苗害のおのれに迫るを見て狼狽へ 42 イスラエルの人々の前より身をめぐらして野の途におもむきけるが鬪これに迫せまりて遂にその邑々よりいでたる者どもその中に戦死す 43 イスラエルの人々すなはちベニヤミン人をとりまきて之を追うち容易くこれを踏たふして東の方ギベアの對面にまでおよべり 44 ベニヤミンの仆る者一萬八千人はみな勇士なり 45 茲に彼等身をめぐらして野の方にいたりベニヤミンの磐にいたりイスラエルの人大路にて彼等

五千人を伐とり尚もこれを追うちてギドムにいたりその二千人を殺せり 46 是をもて其日ベニヤミンの仆れし者は劍をぬくところの人あはせて二萬五千なりきはみな勇士なり 47 但六百人の者身をめぐらして野の方にのぼりベニヤミンの磐にいたりて四月があひだリンモンの磐にをる 48 是に於てイスラエルの人々また身をかへしてベニヤミンの子孫をせめ刃をもて邑の人より畜にいたるまで凡て目のあたる者を撃ち亦その至るところの邑々に火をかけたなり

Chapter 21

1 イスラエルの人々曾てミツパにて誓ひ曰けるは我等の中一人もその女をベニヤミンの妻にあたふる者あるべからずと 2 茲に民ベテルに至り彼處にて夕暮まで神の前に坐り聲を放ちて痛く哭き 3 言けるはイスラエルの神エホバよなんぞイスラエルに斯ること起り今日イスラエルに一の支派の缺るにいたりしやと 4 而して翌日民蚤に起て其處に壇を築き燔祭と酬恩祭をささげたり 5 茲にイスラエルの子孫いひけるはイスラエルの支派の中に誰か會衆とともに上りてエホバにいたらざる者あらんと其は彼らミツパに來りてエホバにいたらざる者の事につきて大なる誓をたてて其人をばかならず死しむべしと言たればなり 6 イスラエルの子孫すなはち其兄弟ベニヤミンの事を憫然におもひて言ふ今日イスラエルに一の支派絶ゆ 7 我等エホバをさして我らの女をかれらの妻にあたへしと誓ひたれば彼の遺る者等に妻をめとらしめんには如何にすべきや 8 又言ふイスラエルの支派の中孰の者がミツパにのぼりてエホバにいたらざると而して視るにヤベシギレアデよりは一人も陣營にきたり集會に臨める者なし 9 即ち民をかぞふるにヤベシギレアデの居民は一人も其處にをらざりき 10 是に於て會衆勇士一萬二千を彼處に遣し之に命じて言ふ往て刃をもてヤベシギレアデの居民を撃て婦女兒女をも餘すなかれ 11 汝ら斯おこなふべし即ち汝等男人および男と寢たる婦人を悉く滅し盡すべしと 12 彼等ヤベシギレアデの居民の中に於て四百人の若き處女を獲たり是は未だ男と寢て男しりしことあらざる者なり彼らすなはち之をシロの陣營に曳きたる是はカナン人の地にあり 13 斯て全會衆人をやりてリンモンの磐にをるベニヤミン人と語はしめ和睦をこれに宣しめたれば 14 ベニヤミンすなはち其時に歸りきたれり是において彼らヤベシギレアデの婦人中より生しおきたるところの女子を之にあたへけるが尚足ざりき 15 エホバ、イスラエルの支派の中に缺を生ぜしめたまひしに因て民ベニヤミンの事を憫然におもへり 16 會衆の長老等いひけるはベニヤミンの婦女絶たれば彼の遺る者等に妻をめとらせんには如何すべきや 17 又言けるはベニヤミンの中の逃れたる者等に産業あらしめん然らばイスラエルに一の支派の消ることなかるべし

18 然ながら我等は我等の女子を彼らの妻にあたふべからず其はイスラエルの子孫誓をなしベニヤミンに妻を與ふる者は詛はれんと言たればなりと 19 而して言ふ歳々シロにエホバの祭ありと其處はベテルの北にあたりてベテルよりシケムにのぼるところの大路の東レバナの南にあり 20 是に於てかれらベニヤミンの子孫に命じて言ふ汝らゆきて葡萄園に伏して窺ひ 21 若シロの女等舞をどらんと出きたらば葡萄園より出でシロの女の中より各人妻を執てベニヤミンの地に往け 22 若その父あるひは兄弟來りて我らに懇へなば我らこれに言ふべし請ふ幸に彼らを我らに取せよ我等戦争の時に皆ことごとくその妻をとりしにあらざればなり汝等今かれらに與へしにあらざれば汝等は罪なしと 23 ベニヤミンの子孫すなはちかく行なひその踊れる者等を執へてその中より己の數にしたがひて妻を取り往てその地にかへり邑々を建なほして其處に往り 24 斯てイスラエルの子孫その時に其處を去て各人その支派に往きその族にいたり即ち其處より出で各人その地にいたりぬ 25 當時はイスラエルに王なかりしかば各人その目に善と見るところを爲り

ルツ記

Chapter 1

1 士師の世をささむる時にあたりて國に饑饉たありければ一箇の人その妻と二人の男子をひきつれてベテレヘムユダを去りモアブの地にゆきて寄寓る 2 その人の名はエリメレクその妻の名はナオミその二人の男子の名はマロンおよびキリオンといふベテレヘムユダのエフラテ人なり彼等モアブの地にいたりて其處にをりしが 3 ナオミの夫エリメレク死てナオミとその二人の男子のこさる 4 彼等おのおのモアブの婦人を妻にめとるその一人の名はオルバといひ一人の名はルツといふ 5 彼處にすむこと十年許にして 6 マロンとキリオンの二人もまた死り 7 斯ナオミは二人の男子と夫に後れしが 6 モアブの地にて彼エホバの民を養みて食物を之にたまふと聞ければその娘とともに起てモアブの地より歸らんとし 8 その在ところを出たりその二人の娘これとともにあり彼等ユダの地にかへらんと途にすむ 8 爰にナオミその二人の娘にいひけるは汝らはゆきておのおの母の家にへれ汝らがかの死たる者と我とを善く待ひしごとくにねがはくはエホバまたなんぢらを善くあつかひたまへ 9 ねがはくはエホバなんぢらをして各々その夫の家にて安身處をえせしめたまへと乃ちかれらに接吻しければ彼等聲をあげて哭き 10 之にいひけるは我ら汝とともに汝の民にかへらんと 11 ナオミいひけるは女子よ返れ

汝らなんぞ我と共にゆくべけんや汝らの夫となるべき子猶わが胎にあらんや 12 女子よかへりゆけ我は老たれば夫をもつをえざるなり假設われ指望ありといふも今夜夫を有つとて而してまた子を生むとも13女等これがために其子の生長までまちをるべけんや之がために夫をもたずしてひきこもりをるべけんや女子よ然すべきにあらず我はエホバの手ののぞみてわれを攻しことを汝らのために痛くうれふなり 14 彼等また聲をあげて哭く而してオルバはその姑に接吻せしがルツは之を離れず 15 是によりてナオミまたいひけるは視よ汝の妯娍はその民とその神にかへり往く汝も妯娍にしたがひてかへるべし 16 ルツいひけるは汝を棄て汝をはなれて歸ることを我に催すなかれ我は汝のゆくところに往き汝の宿るところにやどらん汝の民はわが民汝の神はわが神なり 17 汝の死するところに我は死て其處に葬らるべし若死別にあらずして我なんぞとわかればエホバわかれにかなし又かさねてかくなしたまへ 18 彼嬢が固く心をさだめて己とともに來らんとするを見しかば之に言ふことを止たり 19 かくて彼等二人ゆきて終にベテレヘムにいたりしがベテレヘムにいたれる時邑こそりて之がためにさわぎたち婦女等是はナオミなるやといふ 20 ナオミかれらにいひけるは我をナオミ(樂し)と呼なかれマラ(苦し)とよぶべし全能者痛く我を苦め給ひたればなり 21 我盈足て出たるにエホバ我をして空くなくして歸らしめたまふエホバ我を攻め全能者われをなやましたまふに汝等なんぞ我をナオミと呼や 22 斯ナオミそのモアブの地より歸れる嬢モアブの女ルツとともに歸り來れり即ち彼ら大麥刈の初にベテレヘムにいたる

Chapter 2

1 ナオミにその夫の知己あり即ちエリメレクの族にして大なる力の人なり その名をボアズといふ 2 茲にモアブのルツ、ナオミにいひけるは請ふわれをして田にゆかしめよ我何人かの目のまへに恩をうることをあらばその人の後にしたがひて穂を拾はんとナオミ彼に女子よ往べしといひければ3乃ち往き遂に至りて刈者の後にしたがひて田に穂を拾ふ彼意はずもエリメレクの族なるボアズの田の中にいたれり 4 時にボアズ、ベテレヘムより來りその刈者等刈者等に言ふねがはくはエホバ汝等とともに在せと彼等すなはち答てねがはくはエホバ汝を祝たまへといふ5ボアズその刈者を督る僕にいひけるは此は誰の女なるや6刈者を督る人こたへて言ふ是はモアブの女にしてモアブの地よりナオミとともに還りし者なるが7いふ請ふ我をして刈者の後にしたがひて束束の間に穂をひろひあつめしめよと而して來りて朝より今にいたるまで此にあり 8 其家にやすみし間は暫時のみ8ボア

ズ、ルツにいひけるは女子よ聽け他の田に穂をひろひにゆくなかれ又此よりいづるなかれわが婢等に離すして此にをるべし9人々の刈ところの田に目をとめてその後にしたがひゆけ我少者等に汝にさはるなかれと命ぜしにあらずや汝渴く時は器の所にゆきて少者の汲るを飲めと 10 彼すなはち伏て地に拜し之にいひけるは我如何して汝の目の前に恩恵を得たるか 11 なんぢ異邦人なる我を顧みると 12 ボアズこたへて彼にいひけるは汝が夫の死たるより已來姑に盡したる事汝がその父母および生れたる國を離れて見ず識ずの民に來りし事皆われに聞えたり 12 ねがはくはエホバ汝の行爲に報いたまへねがはくはイスラエルの神エホバ即ち汝がその翼の下に身を寄んとて來れる者汝に十分の報施をたまはんことを 13 彼いひけるは主よ我をして汝の目の前に恩をえせしめたまへ我は汝の仕女の一人にも及ざるに汝かく我を慰め斯仕人に懇切に語りたまふ 14 ボアズかれにいひけるは食事の時は此にきたりてこのパンを食ひ且汝の食物をこの醋に濡せよと彼すなはち刈者の傍に坐しければボアズ烘麥をかれに與ふ彼くらひて飽き其餘を懷む 15 かくて彼また穂をひろはんとして起あがりければボアズその少者に命じていふ彼をして禾束の間にても穂をひろはしめよ 16 かれを羞しむるなかれ 16 且手の穂を故に彼がために抽落しおきて彼に拾はしめよ 17 叱るなかれ 17 彼かく薄暮まで田に穂をひろひてその拾ひし者を撲しに大麥一斗許ありき 18 彼すなはち之を携へて邑にいり姑にその拾ひし者を看せ且その飽た後に懷めおきたる者を取り出して之にあたふ 19 姑かれにいひけるは汝今日何處にて穂をひろひしや 20 何の處にて工作しや 21 願くは汝を眷顧たる者に福祉あれ彼すなはち姑にその誰の所に工作しかを告ていふ今日われに工作をなさしめたる人の名はボアズといふ 20 ナオミ嬢にいひけるは願はエホバの恩かれに至ればは生る者と死る者とを棄ずして恩をほどこすナオミまた彼にいひけるは其人は我等に縁ある者にして我等の贖業者の一人なり 21 モアブの女ルツいひけるは彼また我にかたりて汝わが種刈の盡く終るまでわが少者の傍をはなるなかれといへり 22 ナオミその嬢ルツにいひけるは女子よ汝かれの婢等とともに出るは善し然れば他の田にて人に見らるることを免かれん 23 是によりて彼ボアズの婢等の傍を離れずして穂をひろひ大麥刈と小麥刈の終にまでおよぶ 24 彼その姑とともにをる

Chapter 3

1 爰に姑ナオミ彼にいひけるは女子よ我汝の安身所を求めて汝を幸ならしむべきにあらずや2夫汝が憐にありし婢等を有る彼ボアズは我等の知己なるにあらずや視よ彼は今夜禾場にて大麥を簸る3然ば汝の身を洗て膏をぬり衣服をまとひて禾場に

下り汝をその人にしらせずしてその食飲を終るを待て4而て彼が臥す時に汝その臥す所を見とめおき入てその脚を掀開りて其處に臥せよ彼なんぢの爲べきことを汝につげんと5ルツ姑にいひけるは汝が我に言ところは我皆なすべしと6すなはち禾場に下り凡てその姑の命ぜしごとくなせり7楮ボアズは食飲をなしてその心をたのしませ往て麥を積る所の傍に臥す是に於て彼潜にゆきその足を掀開て其處に臥す8夜半におよびて其人畏懼をおこし起かへりて見るに一人の婦その足の方に臥あれば9汝は誰なるやといふに婦こたへて我は汝の婢ルツなり 10 汝の裾をもて婢を覆ひたまへ 11 汝は贖業者なればなり 10 ボアズいひけるは女子よねがはくはエホバの恩典なんぢにいたれ 12 汝の後の誠實は前のよりも勝る其は汝貧きと富とを論ず少き人に従ふことをせざればなり 11 されば女子よ懼るなかれ汝が言ふところの事は皆われ汝のためになすべし其はわが邑の人皆なんぢの賢き女なるをしればなり 12 我はまことに贖業者なりと雖も我よりも近き贖業者あり 13 今夜は此に住宿れ朝におよびて彼もし汝のために贖ふならば善して贖はしめよ然ど彼もし汝のために贖ふことを好まずばエホバは活く我汝のために贖はん 14 朝まで此に臥せよと 14 ルツ朝までその足の方に臥て誰彼の辨がたき頃に起あがるボアズ此女の禾場に來りしことを人にしらしむべからずといへり 15 而していひけるは汝の著る袷衣を將きたりて其を開げよと即ち開げければ大麥六升を量りて之に負せたり 斯して彼邑にいたりぬ 16 爰にルツその姑の許に至るに姑いふ女子よ如何ありしやと彼すなはち其人の己になしたる事をことごとく之につげて 17 而していひけるは彼空手にて汝の姑の許に往くなかれといひて此六升の大麥を我にあたへたり 18 姑いひけるは女子よ坐して待ち事の如何になりゆくかを見よ彼人今日その事を爲終ずば安んぜざるべければなり

Chapter 4

1 爰にボアズ門の所にのぼり往て其處に坐しけるに前にボアズの言たる贖業者過りければ之に言ふ 2 某よ來りて此に坐せよと 3 即ち來りて坐す2ボアズまた邑の長老十人を招き汝等此に坐せよといひければ則ち坐す3時に彼その贖業人にいひけるはモアブの地より還りしナオミ我等の兄弟エリメレクの地を賣る4我汝につげしらせて此に坐する人々の前わが民の長老の前にて之を買へと言んと想へり 5 汝もし之を贖はんと思はば贖ふべし然どもし之を贖はずば吾に告てしらしめよ汝の外に贖ふ者なければなり 6 我はなんぢの次なりと彼我これを贖はんといひければ 5 ボアズいふ 汝ナオミの手よりその地を買ふ日には死者の妻なりしモアブの女ルツを

も買て死者の名をその産業に存すべきなり 6 贖業人いひけるは我はみづから贖ふあたはず 7 恐くはわが産業を壞はん 8 汝みづから我にかはりてあがなへ我あがなふことあたはざればなりと 9 昔イスラエルにて物を贖ひ或は交易んとする事につきて萬事を定めたる慣例は斯のごとし 10 即ち此人鞋を脱て彼人にわたせり 11 是イスラエルの中の證なりき 8 是によりてその贖業人ボアズにむかひ汝みづから買ふべしといひて其鞋を脱たり 9 ボアズ長老および諸の民にいひけるは汝等今日見證をなす我エリメレクの凡の所有およびキリオンとマロンの凡の所有をナオミの手より買たり 10 我またマロンの妻なりしモアブの女ルツを賣て妻となし彼死者の名をその産業に存すべし是かの死者の名を其兄弟の中とその處の門に絶ざらしめんためなり 11 汝等今日證をなす 11 門にをる人々および長老等いひけるはわれら證をなす願くはエホバ汝の家にあるところの婦人をして彼イスラエルの家を造りなしたるラケルとレアの二人のごとくならしめたまはんことを願くは汝エフラタにて能を得ベテレヘムにて名をあげよ 12 ねがはくはエホバが此若き婦よりして汝にたまはんとする子に由て汝の家かのタマルがユダに生たるペレズの家のごとくなるにいたれ 13 斯てボアズ、ルツを娶りて妻となし彼の所にいりければエホバ彼を孕ましめたまひて彼男子を生り 14 婦女等ナオミにいひけるはエホバは贖べきかな汝を遣ずして今日汝に贖業人あらしめたまふ 15 その名イスラエルに揚れ 16 彼は汝の心をなぐさむる者 17 汝の老を養ふ者とならん汝を愛する汝の嬢即ち七人の子よりも汝に善もの之をうみたり 18 ナオミその子をとりて之を懷に置き之が養育者となる 19 其の隣人なる婦女等これに名をつけて云ふ 20 ナオミに男子うまれたりと 21 その名をオベデと稱り彼はダビデの父なるエサイの父なり 22 18 楮ペレズの系圖は左のごとし 19 ベレツ、ヘツロンを生み 20 ヘツロン、ラムを生み 21 ラム、アミナダブを生み 22 アミナダブ、ナシヨンを生み 23 ナシヨン、サルモンを生み 24 サルモン、ボアズを生み 25 ボアズ、オベデを生み 26 オベデ、エサイを生み 27 エサイ、ダビデを生り

サムエル記

Chapter 1

1 エフライムの山地のラマタイムゾピムにエルカナと名くる人ありエフライテ人にしてエロハムの子なりエロハムはエリウの子エリウはトフの子トフはツフの子なり 2 エルカナに

二人の妻ありてひとりの名をハンナといひひとりの名をペニンナといふペニンナには子ありたれどもハンナには子あらざりき 3 是人毎歳に其邑をいで上りてシロにおいて萬軍のエホバを拝み之に祭物をささぐ其處にエリの子ホフニとビネハスをりてエホバに祭司たり 4 エルカナ祭物をささぐる時其妻ペニンナと其すべての息子女子にわかちあたへしが 5 ハンナには其倍をあたふはハンナを愛するが故なりされどエホバ其孕みをとどめたまふ 6 其敵もまた痛くこれをなやましてエホバが其はらみをとどめしを怒らせんとす 7 歳々ハンナ、エホバの家にのぼるごとにエルカナかくなせしかばペニンナかくのごとく之をなやます是故にハンナなくともはざりき 8 其夫エルカナ之にいひけるはハンナよ何故になくや何故にもくはざるや何故に心かなしむや我は汝のためには十人の子よりもまさるにあらずや 9 かくてシロにて食飲せしちハンナたちあがりて時に祭司エリ、エホバの宮の柱の傍にある壇に坐す 10 ハンナ心にくるしみエホバにのりて甚く哭き 11 誓をなしていひけるは萬軍のエホバよ若し誠に婢の惱をかへりみ我を憶ひ婢を忘れずして婢に男子をあたへたまはば我これを一生のあひだエホバにささげ剃髪刀を其首にあつまじ 12 ハンナ、エホバのまへに長いのりければエリ其口に目をとめたり 13 ハンナ心の中にもいへば只唇うごこのみにて聲きこえず是故にエリこれを酔たる者と思ひ 14 之にいひけるは何時まで酔ひをるか爾の酒をされよ 15 ハンナこたへていひけるは主よ然るにあらず我は氣のわづらふ婦人にして葡萄酒をモ濃き酒をもまざる惟わが婢をエホバのまへに明せるなり 16 婢を邪なる女となすなかれ我はわが憂と悲みの多きよりして今までかたれり 17 エリ答へていひけるは安んじて去れ願くはイスラエルの神汝の求むる願ひを許したまはんことを 18 ハンナいひけるはねがはくは仕女の汝のまへに恩をえんことをと斯てこの婦さりとて食ひ其顔ふたたび哀しげならざりき 19 是に於て彼等朝はやくおきてエホバの前に拝をしかへりてラマの家にいたる而してエルカナ其つまハンナとまじはるエホバ之をかへりきたまふ 20 ハンナ孕みてのち月みちて男子をうみ我これをエホバに求めし故なりとて其名をサムエル(エホバに聴る)となづく 21 爰に其人エルカナ及び其家族みな上りて年々の祭物及び其誓ひし物をささぐ 22 然どもハンナは上らず其夫にいひけるは我はこの子の乳ばなれるに及びてのち之をたづさへゆきエホバのまへにあらはれしめ恒にかしこに居らしめん 23 其夫エルカナ之にいひけるは汝の善と思ふところを爲し此子を乳ばなすまでとどまるべし只エホバの其言を確實ならしめ賜んことをねがふと斯くこの婦止まりて其子に乳をのませ其ちばなれるをまちしが 24 乳ばなせしとき牛三頭粉一斗酒一囊を取り其子をたづさへてシロにあるエホバの家にいたる其子なほ幼稚

し 25 是に於て牛をこらしその子をエリの許に携へゆきぬ 26 ハンナいひけるは主よ汝のたまひは活くわれはかつてここにてなんぢの傍にたちエホバにいのりし婦なり 27 われ此子のためにいのりしにエホバわが求めしものをあたへたまへり 28 此故にわれまたこれをエホバにささげん其一生のあひだ之をエホバにささぐ斯てかしこにてエホバををがめり

Chapter 2

1 ハンナ禱りて言けるは我心はエホバによりて喜び我角はエホバによりて高し我口はわが敵の上にはりひらく是は我汝の救拯によりて樂むが故なり 2 エホバのごとく聖き者はあらず其は汝の外に有る者なければなり又われらの神のごとき譬はあることなし 3 汝等重ねて甚く誇りて語るなかれ汝等の口より漫言を出すなかれエホバは全知の神にして行爲を裁度りたまふなり 4 勇者の弓は折れ倒る者は勢力を帯ぶ 5 飽足る者は食のために身を備はせ饑たる者は憩へり石女は七人を生み多くの子を有る者は衰ふるにいたる 6 エホバは殺し又生したまひ陰府に下し又上らしめたまふ 7 エホバは貧からしめ又富しめたまひ卑くしまた高くしたまふ 8 荏弱者を塵の中より擧げ窮乏者を埃の中より升せて王の宮中に坐せしめ榮光の位をつがしめ給ふ地の柱はエホバの所屬なりエホバ其上に世界を置きたまへり 9 エホバ其聖徒の足を守りたまはん惡き者は黑暗にありて黙すべし其は人力をもて勝つべからざればなり 10 エホバと争ふ者は破碎かれんエホバ天より雷を彼等の上にくだしエホバは地の極を審き其王に力を與へ其膏そそぎし者の角を高くし給はん 11 エルカナ、ラマに往て其家にいたりしが稚子は祭司エリのまへにありてエホバにつかふ 12 さてエリの子は邪なる者にしてエホバをしらざりき 13 祭司の民に於る習慣は斯のごとし人祭物をささぐる時肉を煮るあひだに祭司の僕三の齒ある肉又を手にとりて 14 之を釜あるひは鍋あるひは鼎又は炮烙に突きいれ肉又の引きあぐるところの肉は祭司みなこれを己にとる是くシロに於て凡てそこに來るイスラエル人になせり 15 脂をやく前にも亦祭司のしもべ來り祭物をささぐる人にいふ祭司のために焼くべき肉をあたへよ祭司は汝より煮たる肉を受けず生腥の肉をこのむと 16 もし其人これにむかひ直ちに脂をやくべければ後心のこのむまみに取れといはば僕之にいふ否今あたへよ然らずば我強て取んと 17 故に其壯者の罪エホバのまへに基だ大なりそは人々エホバに祭物をささぐることをいとひたればなり 18 サムエルなほ幼して布のエポデを著てエホバのまへにつかふ 19 また其母これがために小き明衣をつくり毎毎にその夫ととも年の祭物をささげにのぼる時これをもちきたる 20 エリ、エルカナとその妻を祝していひけるは汝がエホバにささげたる者のためにエホバ此婦よ

りして子を汝にあたへたまはんことをねがふと斯てかれら其郷にかへる 21 しかしてエホバ、ハンナをかへり見たまひければハンナ孕みて三人の男子と二人の女子をうめり童子サムエルはエホバのまへにありて生育てり 22 ここにエリ甚だ老て其子等がイスラエルの人々になせし諸の事を聞きまた其集會の幕屋の門にいづる婦人たちと寝たるを聞て 23 これにいひけるは何ぞ斯る事をなすや我このすべての民より汝らのあしき行をきく 24 わが子よ然すべからず我きくところの風聞よからず爾らエホバの民をしてあやまたしむ 25 人もし人にむかひて罪ををかさば神之をさばかんされども人もしエホバに向ひて罪ををかさば誰かこれがためにとりなしをなさんやとしかれども其子父のことは聴ざりきそはエホバかれらを殺さんと思ひたまへばなり 26 童子サムエル生長ゆきてエホバと人々とに愛せらる 27 茲に神の人エリの許に來りこれにいひけるはエホバ斯くいひたまふ爾の父祖の家エジプトにおいてパロの家にありしとき我明かに之にあらはれしにあらざるや 28 我これをイスラエルの諸の支派のうちより選みてわが祭司となしわが壇の上に祭物をささげ香をたかしめ我前にエポデを衣しめたまふイスラエルの人の火祭を悉く汝の父の家にあたへたり 29 なんぞわが命ぜし犠牲と禮物を汝の家にてふみつくるや何ぞ我よりもなんぢの子をたふとみわが民イスラエルの諸の祭物の最も嘉きところをもて己を肥すや 30 是ゆゑにイスラエルの神エホバいひたまはく我誠に曾ていへり汝の家およびなんぢの父祖の家永くわがまへにあゆまんとして今エホバいひたまふ決めてらざる我をたふとむ者は我もこれをたふとむ我を賤しむる者はかるんぜらるべし 31 視よ時いたらん我汝の腕と汝の父祖の家の腕を絶ち汝の家に老たるもの无らしめん 32 我大にイスラエルを善すべけれど汝の家内には災見えん汝の家にはこのち永く老るものなかるべし 33 またわが壇より絶ざる汝の族の者は汝の目をそこなひ汝の心をいたましめん又汝の家にうまれいづるものは壯年にして死なん 34 汝のふたりの子ホフニとベニスとの遇とこの事を其徴とせよ即ち二人とも同じ日に死なん 35 我はわがために忠信なる祭司をおこさん其人わが心とわが意にしたがひておこなはんわれその家をかたうせんかれわが膏そそぎし者のまへに恒にあゆむべし 36 しかして汝の家にこの者は皆きたりてこれに屈み一厘の金と一片のパンを乞ひ且いはんねがはくは我を祭司の職の一に任じて些少のパンにても食ふことをえせしめよと

Chapter 3

1 童子サムエル、エリのまへにありてエホバにつかふ當時はエホバの言まれにして黙示あること恒ならざりき 2 偕エリ目漸くもりて見ることえず此時其室に寝たり 3 神の

燈なほきえずサムエル神の櫃あるエホバの宮に寝ね 4 時にエホバ、サムエルをよびたまふ彼我此にありといひて 5 エリの許に趨ゆきいひけるは汝われをよぶ我ここにありエリいひけるは我よばず反て臥よと乃ちゆきていぬ 6 エホバまたかさねてサムエルよとよびたまへばサムエルおきてエリのもとにいたりいひけるは汝われをよぶ我ここにありエリこたへけるは我よばずわが子よ反りていぬよ 7 サムエルいまだエホバをしらざるエホバのこたばいまだかれにあらはれず 8 エホバ、三たびめに又サムエルをよびたまへばサムエルおきてエリの許にたりいひけるは汝われをよぶ我ここにありとエリ乃ちエホバの童子をよびたまひしをさるとる 9 故にエリ、サムエルにいひけるはゆきて寝よ彼若し汝をよばば僕聴くエホバ語りたまへといへとサムエルゆきて其室にいねしに 10 エホバ來りて立ちまへの如くサムエル、サムエルとよびたまへばサムエル僕き語りたまへといふ 11 エホバ、サムエルにいひ賜けるは視よ我イスラエルのうちに一の事をなさんこれをきくものは皆其耳ふたつながら鳴ん 12 其日にはわれ嘗てエリの家について言しことを始より終までのごとくエリになすべし 13 われかつてエリに其惡事のために永くその家をさばかんとしめせりそは其子の詛ふべきことをなすをしりて之をとどめざればなり 14 是故に我エリの内へに誓ひてエリの家の惡は犠牲あるひは禮物をもて永くあがなふ能はずといへり 15 サムエル朝までいねてエホバの家の戸を開きしが其異象をエリにしめすことをおそる 16 エリ、サムエルをよびていひけるはわが子サムエルよ答へけるはわれここにあり 17 エリいひけるは何事を汝につげたまひしや請ふ我にかくすなかれ汝もし其汝に告げたまひしところを一にてもかくすときは神汝にかくなし又かさねてかくなしたまへ 18 サムエル其事をことごとくしめて彼に隠すことなかりきエリいひけるは是はエホバなり其よしと見たまふことをなしたまへと 19 サムエルそだちぬエホバこれとともにいましてそのことばをして一も地におちざらしたまふ 20 ダンよりベエルシバにいたるまでイスラエルの人みなサムエルがエホバの預言者とさだまれるをしり 21 エホバふたたびシロにてあらはれたまふエホバ、シロにおいてエホバの言によりてサムエルおのれをしめたまふなりサムエルの言あまねくイスラエル人におよぶ

Chapter 4

1 イスラエル人ベリシテ人にいであひて戦はんとしエベネゼルの邊に陣をとりベリシテ人はアベクに陣をとる 2 ベリシテ人イスラエル人にむかひて陣列をなせり戦ふにおよびてイスラエル人ベリシテ人のまへにやぶるベリシテ人戰場において其軍四千人ばかりを殺せり 3 民陣營にいたるにイスラエルの長老曰けるはエ

ホバ何故に今日我等をペリシテ人のまへにやぶりたまひしやエホバの契約の櫃をシロより此にたづさへ來らん其櫃われらのうちに來れば我らを敵の手よりすくひいだすことあらんと4かくて民をシロにつかはしてケルビムの上に坐したまふ萬軍のエホバの契約の櫃を其處よりたづさへきたらしむ時にエリの二人の子ホフニとピネハス神の契約のはことともに彼處にありき5エホバの契約の櫃陣營にいたりしときイスラエル人皆大によははりさげびければ地なりひびけり6ペリシテ人嗚呼の聲を聞いていひけるはヘブル人の陣營に起れる此大なるさげびの聲は何ぞやと遂にエホバの櫃の陣營にいたれるを知る7ペリシテ人おそれていひけるは神陣營にいたる又いひけるは嗚呼われら禍なるかな今にいたるまで斯ることなかりき8ああ我等禍なるかな誰かわれらを是らの強き神の手よりすくひいだせんや此等の神は昔し諸の災を以てエジプト人を曠野に撃し者なり9ペリシテ人よ強くよ豪傑のごとく爲せヘブル人がかつて汝らに事へしごとく汝らこれに事ふるなかれ豪傑のごとく爲して戦へよ10かくてペリシテ人戦ひしかばイスラエル人やぶれて各々其天幕に逃かへる戦死はなはだ多くイスラエルの歩兵の仆れし者三萬人なりき11又神の櫃は奪はれエリの二人の子ホフニとピネハス殺さる12是日ベニヤミンの一人軍中より走來り其衣を裂き土をかむりてシロにいたる13其いたる時エリ道の傍に壇に坐して觀望居たり其心に神の櫃のことを思ひ煩らひたればなり其人いたり邑にて人々に告げれば邑こそぞりてさげびたり14エリ此呼號の聲をききていひけるは是は喧嘩の聲は何なるやと其人いそぎたりてエリにつぐ15時にエリ九十八歳にして其目かたまりて見ることあたはず16其人エリにいひけるは我は軍中より來れるもの我今日軍中より逃れたりエリいひけるは吾子よ事いかん17使人答へていひけるはイスラエル人ペリシテ人の前に逃げ且民の中に大なる戦死ありまた汝の二人の子ホフニとピネハスは殺され神の櫃は奪はれたり18神の櫃のこのを演しときエリ其壇より仰けに門の傍におち頸をれて死ねり是はかれ老て身重かたければなり其イスラエルを鞠しは四十年なりき19エリの媳ピネハスの妻孕みて子産ん時ちかかりしが神の櫃の奪はれしと舅と夫の死にしとの傳言を聞しかば其痛みおこりきたり身をかがめて子を産り20其死なんとする時傍にたてる婦人これにいひけるは懼るるなかれ汝男子を生りと然ども答へず又かへりみず21只榮光イスラエルをさりぬといひて其子をイカボデ(榮なし)と名く是は神の櫃奪はれしによりまた舅と夫の故に因るなり22またいひけるは榮光イスラエルをさりぬ神の櫃うばはれたればなり

Chapter 5

1ペリシテ人神の櫃をとりて之

をエベネゼルよりアシドドにもちきたる2即ちペリシテ人神の櫃をとりて之をダゴンの家にもちきたりダゴンの傍に置ぬ3アシドド人次の日夙く興きエホバの櫃のまへにダゴンの俯伏に地にたふれをを乃乃ちダゴンをとりて再びこれを本の處におく4また翌朝夙く興きエホバの櫃のまへにダゴン俯伏に地にたふれをを見るダゴンの頭と其兩手門闕のうへに斷ち切れをり只ダゴンの體のみのこれり5是をもてダゴンの祭司およびダゴンの家にいるもの今日にいたるまでアシドドにあるダゴンの鬮をふまず6かくてエホバの手おもくアシドド人にくははりエホバこれをほろぼし腫物をもてアシドドおよび其四周の人をくるしめたまふ7アシドド人その斯るを見ていひけるはイスラエルの神の櫃を我らのうちにとどむべからず其は其手いたくわれらおよび我らの神ダゴンにくははればなり8是故に人をつかはしてペリシテ人の諸君主を集めていひけるはイスラエルの神の櫃をいかにすべきや彼らいひけるはイスラエルの神のはこはガテに移さんと遂にイスラエルの神のはこをうつす9之をうつせるのち神の手其邑にくははりて滅亡のもの甚だおほし即ち老たとて幼とをいはす邑の人をうちたまひて腫物人々におこり10是において神のはこをエクロンにおくりたるに神の櫃エクロンにいたりしときエクロン人さげびていひけるは我等とわが民をこそさんとてイスラエルの神のはこを我等にうつすと11かくて人々を遣してペリシテ人の諸君主をあつめていひけるはイスラエルの神の櫃をおくりて本のところにかへさん然らば我等とわが民をこそすることなからん蓋は邑中に恐ろしき滅亡おこり神の手甚だおもく其處にくははればなり12死なざる者は腫物にくるしめられ邑の號呼天に達せり

Chapter 6

1エホバの櫃七月のあひだペリシテ人の國にあり2ペリシテ人祭司とト筮師をよびていひけるは我らエホバの櫃をいかがせんや如何にして之をもとの所にかへすべきか我らにつげよ3答へけるはイスラエルの神の櫃をかへすときはこれを空しくかへすなかれ必ず彼に過祭をなすべし然なれば汝ら愈ことをえ且彼の手汝らをはなれざる故を知いたらん4人々いひけるは如何なる過祭を彼になすべきや答へけるはペリシテ人の諸君主の數にしたがひて五の金の腫物と五の金の鼠をつくれは汝ら皆と汝らの諸伯におよべる災は一なるによる5汝らの腫物の像および地をあらす鼠の像をつくりイスラエルの神に榮光を返すべし庶幾はその手を汝等およびなんぢらの神と汝等の地にくはふることを軽くせん6汝らなんぞエジプト人とバロの其心を頑にせしごとくおのれの心をかたくなにするや神かれらの中に數度其力をしめせしち彼ら民をゆかしめ民つひにさりしにあらすや7されば今

あたらしき車一輛をつくり乳牛のいまだ軛をつけざるもの二頭をとり其牛を車に繋ぎ其轡をはなして家につれゆき8エホバの櫃をとりて之を其車に載せ汝らが過祭として彼になす金の製作物を櫃にをさめて其傍におき之をおくりて去らしめ9しかして見よ若し其境のみちよりベテシメシにのぼらばこの大なる災を我らになせるものは彼なり若ししかせざれば我等をうちしは彼の手にあらずしてそのことの偶然なりしをせるべし10人々つひに斯なし二つの乳牛をとりて之を車につなぎその轡を室にとぞこめ11エホバの櫃および金の鼠と其腫物の像ををさめたる櫃を車に載す12牝牛直にあゆみてベテシメシの路をゆき鳴つつ大路をすすみゆきて右左にまがらずペリシテ人の君主ベテシメシの境まで其うしろにしたがひゆけり13時にベテシメシ人谷に麥を刈り居たりしが目をあげて其櫃をみ之を見るをよるこべり14車ベテシメシ人ヨシユアの田にいりて其處にとどまる此に大なる石あり人々車の木を劈り其牝牛を燔祭としてエホバにささげたり15レビの人エホバの櫃とこれともなる櫃の金の製作物ををさめたる者を取りおろし之を其大石のうへにおくしかしてベテシメシ人此日エホバに燔祭をそなへ犠牲をささげたり16ペリシテ人の五人の君主これを見て同じ日にエクロンにかへり17さてペリシテ人が過祭としてエホバにたせし金の腫物はこれなり即ちアシドドのために一ガザのために一アシケロンのために一ガテのために一エクロンのために一なりき18また金の鼠は城邑と郷里をいはす凡て五人の君主に屬するペリシテ人の邑の數にしたがひて造れりエホバの櫃をおろせし大石今日にいたるまでベテシメシ人ヨシユアの田にあり19ベテシメシの人々エホバの櫃をうかがひしによりエホバこれをうちたまふ即ち民の中七十人をうてりエホバ民をうちて大にこれをころしたまひしかば民なきさけべり20ベテシメシ人いひけるは誰かこの聖き神たるエホバのまへに立つことをえんエホバ我らをはなれて何人のところにのぼりゆきたまふべきや21かくて使者をキリアテヤリムの人に遣はしていひけるはペリシテ人エホバの櫃をかへしたれば汝らくだりて之を汝らの所に携へるべし

Chapter 7

1キリアテヤリムの人來りエホバのはこを携へるのほりこれを山のうへなるアピナダブの家にもちきたり其子エラザルを聖てエホバの櫃をまもらしむ2其櫃キリアテヤリムにとどまること久しくして二十年をへたりイスラエルの全家エホバをしたひて歎けり3時にサムエル、イスラエルの全家に告ていひけるは汝らもし一心を以てエホバにかへり異る神とアシタロテを汝らの中より棄て汝らの心をエホバに定め之のみ事へなばエホバ汝らをペリシテ人の手よ

り救ひださん4ここにおいてイスラエルの人々バルとアシタロテをすててエホバにのみ事ふ5サムエルいひけるはイスラエル人をことごとくミズバにあつめよ我汝らのためにエホバにいのらん6かれらミズバに集り水を汲て之をエホバのまへに注ぎ其日斷食して彼處にいひけるは我等エホバに罪ををかしたりとサムエル、ミズバに於てイスラエルの人を鞠く7ペリシテ人イスラエルの人々のミズバに集れるを聞しかばペリシテ人の諸君主イスラエルにせめのぼれりイスラエル人これを聞いてペリシテ人をおそれたり8イスラエルの人々サムエルに云けるは我らのために我らの神エホバに祈ることをやむるなかれ然らばエホバ我らをペリシテ人の手よりすくひいださん9サムエル哺乳羊をとり燔祭となしてこれをまつたくエホバにささぐまたサムエル、イスラエルのためにエホバにいのりければエホバこれにこたへたまふ10サムエル燔祭をささげ居し時ペリシテ人イスラエル人と戦はんとて近づきぬ是日エホバ大なる雷をくだしペリシテ人をうちて之を亂し賜ければペリシテ人イスラエル人のまへに敗れたり11イスラエル人ミズバをいでてペリシテ人をおひ之をうちてベテカルの下にいたる12サムエルの石をとりてミズバとセンの間におきエホバ是まで我らを助けたまへりといひて其名をエベネゼル(助けの石)と呼ぶ13ペリシテ人攻伏られて再びイスラエルの境にいらざサムエルの一生のあひだエホバの手ペリシテ人をふせげり14ペリシテ人のイスラエルより取たる邑々はエクロンよりガテまでイスラエルにかへりぬまた其周圍の地はイスラエル人これをペリシテ人の手よりとりかへせりまたイスラエル人とアモリ人と好をむすべり15サムエル一生のあひだイスラエルをさばき16歳々ベテルとギルガルおよびミズバをめぐりて其處々にてイスラエル人をさばき17またラマにかへり此處に其家あり此にてイスラエルをさばき又此にてエホバに壇をきづけり

Chapter 8

1サムエル年老て其子をイスラエルの士師となす2兄の名をヨエルといひ弟の名をアビヤといふベエルシバにありて士師たり3其子父の道をあゆまずして利にむかひ賄賂をとりて審判を曲ぐ4是においてイスラエルの長老みなあつまりてラマにゆきサムエルの許に至りて5これにいひけるは視よ汝は老い汝の子は汝の道をあゆまずさればわれらに王をたててわれらを鞠かしめ他の國のごとくならしめよと6その我らに王をあたへて我らを鞠かしめよといふを聞てサムエルよるこばず而してサムエル、エホバにいのりしかば7エホバ、サムエルにいひたまひけるは民のすべて汝にいふところのことばを聽け其は汝を棄るにあらず我を棄て我をして其王とならざらしめんとするなり8かれらはわがエジプトより

救ひだせし日より今日にいたるまで我をすてて他の神につかへて種々の所行をなせしごとく汝にもまた然す9然れどもいま其言をきけ但し深くいさめて其治むべき王の常例をしめすべし 10 サムエル王を求むる民にエホバのこたばをことごとく告て11いひけるは汝等ををさむる王の常例は斯のごとし汝らの男子をとり己れのために之をたてて車の御者となし騎兵となしまた其車の前驅となさん 12 また之をおのれの爲に千夫長五十夫長となしまた其地をたがへし其作物を刈らしめまた武器と車器とを造らしめん 13 また汝らの女子をとりて製香者となし厨婢となし灸麵者ととなさん 14 又汝らの田畝と葡萄園と橄欖園の最も善きところを取て其臣僕にあたへ 15 汝らの穀物と汝らの葡萄の什分一をとりて其官吏と臣僕にあたへ 16 また汝らの僕婢および汝らの最も善き牛と汝らの驢馬を取ておのれののために作かしめ 17 又汝らの羊の十分一をとり又汝を其僕となさん 18 其日において汝等己のために擇みし王のごとによりて呼號らんされどエホバ其日に汝らに聽たまはざるべしと 19 然るに民サムエルの言にしたがふことをせずしていひけるは否われらに王なかるべからず 20 我らも他の國々の如くなり我らの王われらを鞠きわれらを率て我らの戦にたたかはん 21 サムエル民のこたばを盡く聞て之をエホバの耳に告ぐ 22 エホバ、サムエルにいひたまひけるはかれらのこたばを聽きかれらのために王をたてよサムエル、イスラエルの人々にいひけるは汝らおのおの其邑にかへるべし

Chapter 9

1茲にベニヤミンの人にてキシと名くる力の大なるものありキシはアビエルの子アビニルはゼロンの子ゼロンはベコラテの子ベコラテはアビヤの子アビヤはベニヤミンの子なり 2 キシにサウルと名くる子あり壯にして美はしイスラエルの子孫の中に彼より美はしき者たく肩より上民のいづれの人よりも高し 3 サウルの父キシの驢馬失ぬキシ其子サウルにいひけるは一人の僕をともなひ起ちてゆき驢馬を尋ねよ 4 サウル、ニフライムの山地を通り過ぎシヤリヤの地を通りすぐれども見あたらずシヤリムの地を通りすぐれども居らずベニヤミンの地をとほりすぐれども見あたらず 5 かれらツツの地にいたれる時サウル其ともなへる僕にいひけるはいざ還らん恐らくはわが父驢馬の事を措て我等の事を思ひ煩はん 6 僕これにいひけるは此邑に神の人あり尊き人にして其言ふところは皆必ず成る我らかこにいたらんか我らがゆくべき路をわれらにしめすことあらん 7 サウル僕にいひけるは我らもしゆかば何を其人におくらんか器のパンは既に撃て神の人におくるべき禮物あらず何かあるや 8 僕またサウルにこたへていひけるは視よわが手に銀一シケルの四分の一あり我これを神の人にあたへて我らに

路をしめさしめんと 9 昔しイスラエルにおいては人神とはんとてゆく時はいざ先見者にゆかんといへり其は今の預言者は昔しは先見者とよばれたればなり 10 サウル僕にいひけるは善くいへりいざゆかんとて神の人のをる邑におもむけり 11 かれら邑にいる坂をのぼれる時童女數人の水くみにいづるにあひ之にいひけるは先見者は此にをるや 12 答ていひけるはをる視よ汝のまへにをる急ぎゆけ今日民崇邱にて祭をなすにより彼けふ邑にきたれり 13 汝ら邑に在る時かれが崇邱にのぼりて食に就くまへに直ちにかれにあはん其は彼まづ祭品を祝してしかるのち招かれたる者食ふべきに因りかれが来るまでは民食はざるなり故に汝らのほれ今かれにあはん 14 かれら邑にのぼりて邑のなかにいるとき視よサムエル崇邱にのぼらんとてかれらにむかひて出きたりぬ 15 エホバ、サウルのきたる一日まへにサムエルの耳につけていひたまひけるは 16 明日いまごろ我ベニヤミンの地より一箇の人を汝につかはさん汝かれに膏を注ぎてわが民イスラエルの長となせかれわが民をベリシテ人の手より救ひいださんわが民のさけび我に達せしにより我是をかり見り 17 サムエル、サウルを見るるときエホバこれにいひたまひけるは視よわが汝につげしは此人なり是人わが民ををさむべし 18 サウル門の中にてサムエルにちかづきいひけるは先見者の家はいづくにあるや請ふ我につげよ 19 サムエル、サウルにこたへていひけるは我はすなはち先見者なり汝わがまへにゆきて崇邱にのぼれ汝ら今日我とともに食す可し明日わが汝をさらしめ汝の心にあることを悉く汝に驢馬は既に見あたりたれば之をおもふなけれ抑もイスラエルの總ての實は誰の者なるや即ち汝と汝の父の家のものならずや 21 サウルこたへていひけるは我はイスラエルの支派の最も小き支派なるベニヤミンの人にしてわが族はベニヤミンの支派の諸の族の最も小き者に非やなんぞ斯る事を我にかたるや 22 サムエル、サウルと其僕をみちびきて堂にいり招かれたる三十人ばかりの者の中の最も上に坐せしむ 23 サムエル庖人にいひけるはわが汝にわたして汝の許におけといひし分をもちきたれ 24 庖人肩と肩に屬る者を取りあげて之をサウルのまへに置くサムエルいひけるは視よ是は存へおきたる物なり汝のまへにおきて食へ其はわれ民をまねきし時よりこれ汝の爲にたくはへおきたればなりかくてサウル此日サムエルとともに食せり 25 崇邱をくだりて邑にいりし時サムエル、サウルとともに屋背の上にてもがたる 26 かれら早くおく即ちサムエル嚙に屋背の上なるサウルをよびていけるは起よわれ汝をかへさんとサウルすなはちおきあがるサウルとサムエルとも外にいで 27 邑の極處にくだれるときサムエル、サウルにいひけるは僕に命じて我等の先にゆかしめよ(僕先にゆく)かして汝暫くどまれ我汝に神の言をしめさん

Chapter 10

1サムエルすなはち膏の瓶をとりてサウルの頭に沃ぎ口接して曰けるはエホバ汝をたてて其産業の長となしたまふにあらずや 2 汝今日我をはなれて去りゆく時ベニヤミンの境のゼルザにあるラケルの墓のかたはらにて二人の人にあふべしかれら汝にいはん汝がたづねにゆきし驢馬は見あたりぬ汝の父驢馬のことをすてて汝らのことをおもひわづらひわが子の事をいかにすべきやといへり 3 其處より汝尚すみてタボルの橡の樹のところにいたらん彼處にてペテルにのぼり神にまうでんとする三人の者汝にあはん一人は三頭の山羊羔を携へ一人は三團のパンをたづさへ一人は一囊の酒をたづさふ 4 かれら汝に安否をと二團のパンを汝にあたへん汝之を其手よりうくべし 5 其の後汝神のギベアにいたらん其處にベリシテ人の代官あり汝彼處にゆきて邑にいるとき一群の預言者の瑟と箏と笛と琴を前に執らせて預言しつづ崇邱をくだるにあはん 6 其の時神のみたま汝にのぞみて汝れらとともに預言し變りて新しき人とならん 7 是らの徴汝の身におこらば神のあたるにまかせて事を爲すべし神汝とともにいませばなり 8 汝我にさきだちてギルガルにくだるべし我汝の許にくだりて燔祭を供へ酬恩祭を献げんわが汝のもとに至り汝の爲すべきことを示すまで汝七日のあひだ待つべし 9 サケウル背をかへしてサムエルを離れし時神之に新しき心をあたへたまふしかして此しるし皆其日におこれり 10 ふたり彼處にゆきてギベアにいたれるときみよ一群の預言者これにあふしかして神の靈サウルにのぞみてサウルかれらの中にありて預言せり 11 素よりサウルを識る人サウルの預言者と偕に預言するを見て互ひにいひけるはキシの子サウル今何事にあふやサウルも預言者の中にあるやと 12 其處の人ひとり答へて彼等の父は誰ぞやといふ是故にサウルも預言者の中にあるやといひるは諺となれり 13 サウル預言を終て崇邱にいたるに 14 サウルの叔父サウルと僕にいひけるは汝ら何處にゆきしやサウルいひけるは驢馬を尋ねに出しが何處にもをらざるを見てサムエルの許にいたれり 15 サウルの叔父いひけるはサムエルは汝に何をいひしか請ふ我につげよ 16 サウル叔父にいひけるは明かに驢馬の見あたりしを告げたりと然れどもサムエルが言る國王の事はこれにつげざりき 17 サムエル民をミヅパにてエホバのまへに集め 18 イスラエルの子孫にいひけるはイスラエルの神エホバ斯くいひたまふ我イスラエルをみちびきてエジプトより出し汝らをエジプト人の手および凡て汝らを處遇る國人の手より救ひいだせり 19 然るに汝らおのれを患難と難苦のうちより救ひいだしたる汝らの神を棄て且否われらに王をたてよといへり是故にいま汝等の支派と群にしたがひてエホバのまへに出よ 20 サム

エル、イスラエルの諸の支派を呼よせし時ベニヤミンの支派籤にあたりぬ 21 またベニヤミンの支派を其族のわずにしたがひて呼よせしときマテリの族籤にあたりキシの子サウル籤にあたり人々かれを尋ねしかども見出ざれば 22 またエホバに其人は此に来るや否やを問しにエホバ答たまはく視よ彼は行李のあひだにかくると 23 人々はせゆきて彼を其處よりつれきたれり彼民の中にたつに肩より以上民の何の人よりも高かりき 24 サムエル民にいひけるは汝らエホバの擇みたまひし人を見るか民のうちには人の如き者とし民みなよばはりいひけるは願くは王いのちながかれ 25 時にサムエル王國の典章を民にしめて之を書しるしをエホバのまへに薦めたりしかしてサムエル民をことごとく其家にかへらしむ 26 サウルもまたギベアの家にかへるに神に心を感じられたる勇士等これとともにゆけり 27 然れども邪なる人々は彼人いかに我らを救はんやといひて之を蔑視り之に禮物をおくらざりしかどサウルは唾のごとくせり

Chapter 11

1アンモ二人ナハシ、ギレアデのヤベシにのぼりて之を圍むヤベシの人々ナハシにいひけるは我らと約をなせ然らば汝につかへん 2 アンモ二人ナハシこれに答へけるは我かくして汝らと約をなさん即ち我汝らの右の目を抉りてイスラエルの全地に恥辱をあたへん 3 ヤベシの長老これにいひけるは我らに七日の猶予をあたへて使をイスラエルの四方の境におくることを得さしめよ而して若し我らを救ふ者なくば我ら汝にくだらん 4 斯て使サウルのギベアにいたり此事を民の耳に告しかば民皆聲をあげて哭きぬ 5 爰にサウル田より牛にしたがひて来るサウルいひけるは民何によりて哭くやと人々これにヤベシ人の事を告ぐ 6 サウル之を聞るとき神の靈これに臨みてその怒甚だしく燃えたち 7 一鞭の牛をころしてこれを切り割き使の手をもてこれをイスラエルの四方の境にあまねくおくりていはしめけるは誰にてもサウルとサムエルにしたがひて出ざる者は其牛かくのごとくせらるべしと民エホバを畏み一人のごとく均くいであり 8 サウル、バゼクにてこれを數ふるにイスラエルの子孫三十萬ユダの三人萬ありき 9 斯て人々來れる使にいひけるはギレアデのヤベシの人にかくいへ明日の熱き時汝ら助を得んよと使かへりてヤベシ人に告げれば皆よろこびぬ 10 是をもてヤベシの人云けるは明日汝らに降らん汝らの善と思ふところを爲せ 11 明日サウル民を三隊にわかち曉更に敵の軍の中にいりて日の熱くなる時まではアンモ二人をころしければ遺れる者は皆ちりぎりなりて二人俱にあるものなかりき 12 民サムエルにいひけるはサウル豈我らの王となるべけんやと言しは誰ぞや其人を引き來れ我ら之をころさん 13 サウルいひける

は今日エホバ救をイスラエルに施したまひたれば今日は人をこらすべからず 14 茲にサムエル民にいひけるはいざギルガルに往て彼處にて王國を新にせんと 15 民みなギルガルにゆきて彼處にてエホバのまへにサウルを王となし彼處にて酬恩祭をエホバのまへに献げサウルとイスラエルの人々皆かしこにて大に祝へり

Chapter 12

1サムエル、イスラエルの人々にいひけるは視よ我汝らが我にいひし言をことごとく聽て汝らに王を立たり 2 見よ今汝らのまへにあゆむ我は老て髪しるし視よわが子ども汝らと共にあり我幼稚時より今日にいたるまで汝等のまへにあゆめり 3 視よ我ここにありエホバのまへと其膏そそぎし者も今に我を訴へよ我誰の牛を取りしや誰の驢馬をとりしや誰を掠めしや誰を虐遇しや誰の手より賄賂をとりてわが目を矇せしや有ば我これを汝らにかへさん 4 彼らいひけるは汝は我らをかすめずくるしめず又何をも人の手より取りしことなし 5 サムエルかれらにいひけるは汝らが我手のうちに何をも見いださざるをエホバ汝らに證したまふ其膏そそぎし者も今日證す彼ら答へけるは證したまふ 6 サムエル民にいひけるはエホバはモーセとアロンをたてし者汝らの先祖をエジプトの地より導きいだせしものなり 7 立ちあがれエホバが汝らおよび汝らの先祖になしたまひし諸の義しき行爲につきて我エホバのまへに汝らと論ぜん 8 ヤコブのエジプトにいたるにおよびて汝らの先祖のエホバに呼はりし時エホバ、モーセとアロンを遣はしたまひて此二人汝らの先祖をエジプトより導きいだして此處にすましめたり 9 しかるに彼ら其神エホバを忘れしかばエホバこれをハゾルの軍の長シセラの手とペリシテ人の手およびモアブ王の手にわたしたまへり斯て彼らこれを攻ければ 10 民エホバに呼はりていひけるは我らエホバを棄てバアルとアシタロテに事へてエホバに罪を犯したりされど今我らを敵の手より救ひいだしたまへ我ら汝につかへんと 11 是においてエホバ、エルバアルとバラクとエフタとサムエルを遣はして汝らを四方の敵の手より救ひいだしたまひて汝ら安らかに住めり 12 しかるに汝らアンモンの子孫の王ナハシの汝らを攻んとて来るを見て汝らの神エホバ汝らの王なるに汝ら我にいふ否我らををさむる王なかるべからずと 13 今汝らが選みし王汝らがわが王を見よ視よエホバ汝らに王をたてたまへり 14 汝らもしエホバを畏て之につかへ其言にしたがひてエホバの命にそむかずまた汝らと汝らををさむる王恒に汝らの神エホバに従はば善し 15 しかれども汝らもしエホバの言にしたがはずしてエホバの命にそむかばエホバの手汝らの先祖をせめしごとく汝らをせむべし 16 汝ら今たちてエホバが爾らの目のまへになしたまふ此大なる事を見よ 17 今日は麥刈

時にあらずや我エホバを呼んエホバ雷と雨をくだして汝らが王をもとめてエホバのまへに爲したる罪の大なるを見しらしめたまはん 18 かくてサムエル、エホバをよびければエホバ其日雷と雨をくだしたまへり民みな大にエホバとサムエルを恐る 19 民みなサムエルにいひけるは僕らのために汝の神エホバにいのりて我らを死なざらしめよ我ら諸の罪にまた王を求むるの惡をくはへたればなり 20 サムエル民にいひけるは懼るなかれ汝らこの總ての惡をなしたりされどエホバに従ふことを息ず心をつくしてエホバに事へ 21 虚しき物に迷ひゆくなかれ是は虚しき物なれば汝らを助くることも救ふことも得ざるなり 22 エホバ其大なる名のために此民をすてたまはざるべし其はエホバ汝らをおのれの民となすことを善としたまへばなり 23 また我は汝らのために祈ることをやめてエホバに罪ををかすことは決してせざるべし且われ善き正しき道をもて汝らをしてしへん 24 汝ら只エホバをかしくこみ心をつくして誠にこれにつかへよ而して如何に大なることをエホバ汝らになしたまひしかを思ふ可し 25 しかれども汝らもしなほ惡をなさば汝らと汝らの王ともにほろぼさるべし

Chapter 13

1 サウル三十歳にて王の位に即く彼二年イスラエルををさめたり 2 爰にサウル、イスラエル人三千を擇む其二千はサウルとともにミクマシおよびベテルの山地にあり其一千はヨナタンとともにベニヤミンのゲバにあり其餘の民はサウルのおの其幕屋にかへらしむ 3 ヨナタン、ゲバにあるペリシテ人の代官をこらせりペリシテ人之れをきく是においてサウル國中にあまねくラツバを吹ていはしめけるはヘブル人よ聞くべし 4 イスラエル人皆聞けるに云くサウル、ペリシテ人の代官を撃りしかしてイスラエル、ペリシテ人の中に惡まると斯て民めされてサウルにしたがひギルガルにいたる 5 ペリシテ人イスラエルと戦はんとて集りけるが兵車三百騎兵六千にして民は濱の沙の多きがごとくなりき彼らのぼりてベテアベンにむかへるミクマシに陣をとれり 6 イスラエルの人苦められ其危きを見て皆巖穴に林叢に崗巒に高塔に坎阱にかくれたり 7 また或るヘブル人はヨルダンを涉りてガドとギレアデの地にいたる然るにサウルは尚ギルガルにあり民皆戰慄て之にしたがふ 8 サウル、サムエルの定めし期にしたがひて七日とどまりしがサムエル、ギルガルに來らず民はなれて散ければ 9 サウルいひけるは燔祭と酬恩祭を我にもちきたれと遂に燔祭をささげたり 10 燔祭をささぐることを終しときに視よサムエルいたるサウル安否を問はんとてこれをして迎ふに 11 サムエルいひけるは汝何をなせしやサウルいひけるは我民の我をはなれてちりまた汝の定まれる日のうちに來らずしてペリシテ人のミクマシに集まれるを見しかば

12 ペリシテ人ギルガルに下りて我をおそはんに我いまだエホバをなごめずといひて勉て燔祭をささげたり 13 サムエル、サウルにいひけるは汝おろかなることをなせり汝その神エホバのなんぢに命じたまひし命令を守らざりしなり若し守りしならばエホバ、イスラエルををさむる位を永く汝に定めたまひしならん 14 然どもいま汝の位たもたざるべしエホバ其心に適ふ人を求めてエホバ之に其民の長を命じたまへり汝がエホバの命ぜしことを守らざるによる 15 かくてサムエルたちてギルガルよりベニヤミンのギベアにのぼりいたる 16 サウルおのれとともにある民をかぞふるに凡そ六百人ありき 17 サウルおよび其子ヨナタン並にこれとともにある民はベニヤミンのゲバに居りペリシテ人はミクマシに陣を張る 18 劫掠人三隊にわかれてペリシテ人の陣よりいで一隊はオフラの路にむかひてシユアルの地にいたり 19 一隊はベテホロンの道に向ひ一隊は曠野の方にあるゼボイムの谷をのぞむ境の路にむかふ 20 時にイスラエルの地のうち何處にも鐵工なかりき是はペリシテ人ヘブル人の劍あるひは槍を作ることを恐れたればなり 21 イスラエル人皆其鋤耒即ち耜鋤三齒鋤斧の鏝に缺ありてこれを鍛ひ改さんとする時又は鞭を尖らさんとする時は常にペリシテ人の所にくだれり 22 是をもて戦の日にサウルおよびヨナタンとともにある民の手に劍も槍も見えず只サウルと其子ヨナタンのみ持り 23 茲にペリシテ人の先陣ミクマシの渡口に進む

Chapter 14

1 其時サウルの子ヨナタン武器を執る若者にいひけるはいざ對面にあるペリシテ人の先陣に涉りゆかんと然ど其父には告りき 2 サウル、ギベアの極においてミクマシにある石榴の樹の下に住まりしが俱にある民はおよそ六百人なりき 3 又アヒヤ、エボデを衣てともにをるアヒヤはアヒトブの子アヒトブはイカボデの兄弟イカボデはビネハスの子ビネハスはシロにありてエホバの祭司たりしエリの子なり民ヨナタンの行けるをしらざりき 4 ヨナタンの涉りてペリシテ人の先陣にいたらんとする渡口の間に此傍に巖あり彼傍にも巖巖あり一の名をゴゼツといひ一の名をセネといふ 5 其一は北に向ひてミクマシに對し一は南にむかひてゲバに對す 6 ヨナタン武器を執る少者にいひて我ら此割禮なき者どもの先陣にわたらんエホバ我らのためにはたさきたまことあらん多くの人をもて救ふも少き人をもてすくふもエホバにおいては妨げなし 7 武器をとるもの之にいひけるは總て汝の心にあるところをなせ進めよ我汝の心にしたがひて汝とともにあり 8 ヨナタンいひけるは見よ我らからの人々のところにわたり身をかれらにあらはさん 9 かれら若し我らが汝らにいたるまでとまれと斯く我らにいひば我らはこのままとどまりてかれらの所に

のぼらじ 10 されど若し我らのところにのぼれとかくいはば我らのぼらんエホバかれらを我らの手にわたしたまふなり是を徴となさんと 11 斯て二人其身をペリシテ人の先陣にあらはしければペリシテ人いひけるは視よヘブル人其かくれたる穴よりいで來ると 12 すなはち先陣の人ヨナタンと其武器を執る者にこたへて我等の所に上りきたれ目に物見せんといひしかばヨナタン武器を執る者にいひけるは我にしたがひてのぼれエホバ彼らをイスラエルの手にわたしたまふなり 13 ヨナタン攀のぼり其武器を執るもの之にしたがふペリシテ人ヨナタンのまへに付る武器をとる者も後にしたがひて之をこらす 14 ヨナタンと其武器を取るもの手はじめに殺せし者およそ二十人此事田畑半段の内になれり 15 しかして野にある陣のものおよび凡ての民の中に戰慄おこり先陣の人および劫掠人もまたおののき地ふるひ動けり是は神よりの戰慄なりき 16 ベニヤミンのギベアにあるサウルの戎卒望見しに視よペリシテ人の群衆くづれて此彼にちらばる 17 時にサウルおのれともなる民にいひけるは汝ら點驗て誰が我らの中よりゆきしかを見よとすなはちしらべたるにヨナタンとその武器を執るもの居らざりき 18 サウル、アヒヤにエボデを携きたれといふ其はかれ此時イスラエルのまへにエボデを著たれば也 19 サウル祭司にかたれる時ペリシテ人の軍の驕いよいよまじたりければサウル祭司にいひて姑く汝の手を掛けと 20 かくてサウルおよびサウルと共にある民皆呼はりて戰ひに至るにペリシテ人おのおの劍を以て互に相撃ちければその敗績はなはだ大なりき 21 また此時よりまへにペリシテ人とともにありてペリシテ人と共に上りて陣に來るところのヘブル人もまた翻へりてサウルおよびヨナタンと共にあるイスラエル人に合せり 22 又エフラムの山地にかくれたるイスラエル人皆ペリシテ人の逃るを聞てまた戰ひに出て之を追撃り 23 是の如くエホバ此日イスラエルをすくひたまふ而して戰はベテアベンにうつれり 24 されど此日イスラエル人苦めり其はサウル民を誓はせて夕まで即ちわが敵に仇をむくゆるまでに食物を食ふ者は呪詛れんと言たればなり是故に民の中に食物を味ひし者なし 25 爰に民みな林森に至に地の表に蜜あり 26 即ち民森にいたりて蜜のながるるをみる然ども民誓を畏るれば誰も手を口につくる者なし 27 然しヨナタンは其父が民をちかはせしを聞きざりければ手にある杖の末をのぼして蜜にひたし手を口につけたり是に由て其目あきらかになりぬ 28 時に民のひとり答て言けるは汝の父かく民をちかはせて今日食物を十分に食しならばペリシテ人をこらすこと更におほかるべきにあらずや 31 イスラ

エル人かの日ペリシテ人を撃てミクマシよりアヤロンにいたる而して民はなはだ疲たり 32 是において民劫掠物に走かかり羊と牛と犢とを取りて之を地のうへにころし血のままに之をくらふ 33 人々サウルにつけていひけるは民肉を血のままに食て罪をエホバにをかすとサウルいひけるは汝ら背けり直ちにわがもとに大石をまらばしきたれ 34 サウルまたいひけるは汝らわかれて民のうちにいりていへ人各其牛と各其羊をわがもとに引ききたり此處にてころしくらへ血のままにくらひて罪をエホバに犯すなかれと此において民おのおのこの夜其牛を手ひききたりて之をかしこにころせり 35 しかしてサウル、エホバに一つの壇を築くはサウルのエホバに壇を築ける始なり 36 斯てサウルいひけるは我ら夜のうちにペリシテ人を追くだり夜明までかれらを掠めて一人をも残すまじ皆いひけるは凡て汝の目に善とみゆる所をなせと時に祭司いひけるは我ら此にちかより神にもとめんと 37 サウル神に我ペリシテ人をおひくだるべきか汝かれらをイスラエルの手にわたしたまふやと問けれど此日はこたへたまはざりき 38 是においてサウルいひけるは民の長たちよ皆此にちかよれ汝らみて今日のこの罪のいづくにあるを知れ 39 イスラエルを救ひたまへるエホバはいく假令わが子ヨナタンにもあれ必ず死なざるべからずとされど民のうち一人もこれにこたへざりき 40 サウル、イスラエルの人々にいひけるはなんぢらは彼處にをれ我とわが子ヨナタンは此處にをらんとみいひけるは汝の目によしとみゆるところをなせ 41 サウル、イスラエルの神エホバにいひけるはねがはくは眞實をしめたまへとかくてヨナタンとサウル籛にあたり民はのがれたり 42 サウルいひけるは我とわが子のあひだの鬪を撃けと即ちヨナタンこれにあたり 43 サウル、ヨナタンにいひけるは汝がなせしところを我に告よヨナタンつけていひけるは我は只わが手の杖の末をもて少許の蜜をなめしのみなるが我しなざるをえず 44 サウルこたへけるは神かくなしたかかねてかくなしたまへヨナタンよ汝死ざるべからず 45 民サウルにいひけるはイスラエルの中に大なるすくひをなせるヨナタン死ぬべけんや決めてしからずエホバは生くヨナタンの髪のみとすぢも地におつべからず其はかれ神ととも今日はたきたればなりとかく民ヨナタンをすくひて死なざらしむ 46 サウル、ペリシテ人を追ことを息てのぼりぬペリシテ人其國にかへり 47 かくてサウル、イスラエルの王の位につきて四方の敵を攻む即ちモアブ、アンモンの子孫エドム、ゾバの王たちおよびペリシテ人をせめけるに凡てむかふところにて勝利を得たり 48 サウル力をえアマレク人をうちてイスラエルを其劫掠人の手よりすくひだせり 49 サウルの男子はヨナタン、エスイおよびマルキシュアなり其二人の女子の名は姉はメラブといひ妹はミカルといふ 50 サウルの妻の名はアヒ

ノアムといひてアヒマアズの子なり其軍の長の名はアブネルといひてサウルの叔父なるネルの子なり 51 サウルの父キシとアブネルの父ネルはアビエルの子なり 52 サウルの一生のあひだ恒にペリシテ人と烈しき戦ありサウルは力ある人または勇ある人を見るごとにこれをかかへたり

Chapter 15

1 茲にサムエル、サウルにいひけるはエホバ我をつかはし汝に膏を沃ぎて其民イスラエルの王となさしめたりさればエホバの言の聲をきけ 2 萬軍のエホバかくいひたまふ我アマレクがイスラエルになせし事すなはちエジプトよりのぼれる時其途を遮りしをかへりみる 3 今ゆきてアマレクを撃ち其有る物をことごとく滅しつくし彼らを憐むなかれ男女童稚哺乳乳兒牛羊駱駝驢馬を皆殺せ 4 サウル民をよびあつめてこれをテライムに核ふ歩兵二十萬ユダの人一萬あり 5 しかしてサウル、アマレクの邑にいたりて谷に兵を伏たり 6 サウル、ケニ人にいひけるは汝らゆきてさりアマレク人をはなれくだるべし恐らくはかれらとともに汝らをほろぼすにいたらんイスラエルの子孫のエジプトよりのぼれる時汝らこれに恩みをほどこしたりと即ちケニ人アマレク人をはなれてさりぬ 7 サウル、アマレク人をうちてハビラよりエジプトの東面なるシウルにいたる 8 サウル、アマレク人の王アガグを生擒り刃をもて其民をことごとくほろぼせり 9 然ども、サウルと民アガグをゆるしまた羊と牛の最も嘉きもの及び肥たる物並に煮と凡て善き物を殘して之をほろぼしつくすをこのまず但惡き弱き物をほろぼしつくせり 10 時にエホバの言サムエルにのぞみていはく 11 我サウルを王となせしを悔ゆ其は彼背きて我にしたがはずわが命をおこなはざればなりとサムエル憂て終夜エホバによばはれり 12 かくてサムエル、サウルにあはんとて夙く起きけるにサムエルにつぐるものありていふサウル、カルメルにいたり勝利の表を立て轉り進みてギルガルにくだれり と 13 サウル、サウルの許に至りければサウルこれにいひけるは汝がエホバより福祉を得んことをねがふ我エホバの命を行へり と 14 サウルいひけるは然らばわが耳にいる此羊の聲およびわがきく牛のこゑは何ぞや 15 サウルいひけるは人々これをアマレク人のところより引ききたれり其は民汝の神エホバにささげんために羊と牛の最も嘉きものをのこせばなり其ほかは我らほろぼしつくせり 16 サウル、サウルにいひけるは止まれ昨夜エホバの我にかたりたまひしことを汝につげんサウルいひけるはいへ 17 サウルいひけるはさきに汝が微き者とみづから憶へる時に爾イスラエルの支派の長となりしに非ずや即ちエホバ汝に膏を注いでイスラエルの王となせり 18 エホバ汝を途に遣はしていひたまはく往て惡人なるアマレク人をほろぼし其盡るまで戦へよと

19 何故に汝エホバの言をきかずして敵の所有物にはせかきエホバの目のまへに惡をなせしや 20 サウル、サムエルにいひけるは我誠にエホバの言にしたがひてエホバのつかはしたまふ途にゆきアマレクの王アガグを執きたりアマレクをほろぼしつくせり 21 ただ民其ほろぼしつくすべき物の最初としてギルガルにて汝の神エホバにささげんとて敵の物の中より羊と牛をとれり 22 サウルいひけるはエホバはその言にしたがふ事を善したまふごとく燔祭と犠牲を善したまふや夫れ順ふ事は犠牲にまさり聽く事は牡羔の脂にまさるなり 23 其は違逆は魔術の罪のごとく抗戻は虚しき物につかふる如く偶像につかふるがごとし汝エホバの言を棄たるによりエホバもまた汝をすてて王たらざらしめたまふ 24 サウル、サムエルにいひけるに我エホバの命と汝の言をやぶりて罪ををかしたり是は民をおそれて其言にしたがひたるによりつたり 25 されば今ねがはくはわがつみをゆるし我とともにかへりて我をしてエホバを拝することをえさしめよ 26 サウル、サウルにいひけるは我汝とともにかへらじ汝エホバの言を棄たるによりエホバ汝をすててイスラエルに王たらしめたまはざればなり 27 サウル去らんとて振還しときサウルその明衣の裾を捉へしかば裂たり 28 サウルかれにいひけるは今日エホバ、イスラエルの國を裂て汝よりはなし汝の隣なる汝より善きものにこれをあたへたまふ 29 またイスラエルの能力たる者は誑らざる其はかれは人にあらざればくゆることなし 30 サウルいひけるは我罪ををかしたれどねがはくはわが民の長老のまへおよびイスラエルのまへにて我をたふとみて我とともにかへり我をして汝の神エホバを拝むことをえさしめよ 31 ここにおいてサムエル、サウルにしたがひてかへるしかしてサウル、エホバを拝む 32 時にサムエルいひけるは汝らわが許にアマレクの王アガグをひききたれとアガグ喜ばしげにサムエルの許にきたりアガグいひけるは死の苦みは必ず過ぎりぬ 33 サウルいひけるに汝の劍はおほくの婦人の子なき者となせりかくのごとく汝の母は婦人の中の最も子なき者となるべしとサムエル、ギルガルにてエホバのまへにおいてアガグを斬り 34 かくてサムエルはラマにゆきサウルはサウルのギベアにのぼりてその家にいたる 35 サウル其しぬる日ぞふたたびきたりてサウルをみざりきしかれどもサムエル、ギルガルのためになしめりまたエホバはサウルをイスラエルの王となせしを悔たまへり

Chapter 16

1 爰にエホバ、サムエルにいひたまひけるは我すでにサウルを棄てイスラエルに王たらしめざるに汝いつまでかれのために歎くや汝の角に膏油を満してゆけ我汝をベレレム人エサイの許につかはさん其は我其

子の中にひとりの王を尋ねえられたばなり 2 サウルいひけるは我いかで往くことをえんサウル聞て我をころさんエホバいひたまひけるは汝一犢を携へゆきて言エホバに犠牲をささげんために來ると 3 しかしてエホバを犠牲の場によべ我汝が爲すべき事をしめさん我汝に告るところの人に膏をそそぐ可し 4 サウル、エホバの語たまひしごとくなしてベレレムにいたる邑の長老おそれて之をむかへいひけるは汝平康なる事のためにきたるや 5 サウルいひけるは平康なることのためなり我はエホバに犠牲をささげんとてきたる汝ら身をきよめて我とともに犠牲の場にきたれと斯てエサイと其諸子を潔めて犠牲の場よびきたる 6 かれらが至れる時サムエル、エライアを見ておもへらくエホバの膏そそぐものは必ず此人ならんと 7 しかるにエホバ、サムエルにいひたまひけるは其容貌と身長を觀るなかれ我すでに人に異なりてたりわが視るところは人に異なりは外の貌を見エホバは心を見るなり 8 エサイ、ヘアピナダブをよびてサムエルのまへを過しむサムエルいひけるは此人もまたエホバえらみたまはず 10 エサイ其七人の子をしてサムエルの前をすぎしむサムエル、エサイにいふエホバ是等をえらみたまはず 11 サウル、エサイにいひけるは汝の男子は皆此にをるやエサイいひけるは尚季子のこれり彼は羊を牧するなりとサムエル、エサイにいひけるは彼を迎へきたらしめよかれが此にいたるまでは我ら食に就かざるべし 12 是において人をつかはしてかれをつれきたらしむ其人色赤く目美くして其貌麗しエホバいひたまひけるは起て此にあぶらを沃げ是其人なり 13 サウル膏の角をとりて其兄弟の中にてこれに膏をそそげり此日よりのちエホバの靈ダビデにのぞむサムエルはたてラマにゆけり 14 かくてエホバの靈サムエルはなれエホバより來る惡鬼これを惱せり 15 サウルの臣僕これにいひけるは視よ神より來る惡鬼汝をなやます 16 ねがはくはわれらの主汝のまへにつかふる臣僕に命じて善く琴を鼓く者一人を求めしめよ神よりきたれる惡鬼汝に臨む時彼手をもて琴を鼓て汝いゆることをえん 17 サウル臣僕にいひけるはわがために巧に鼓琴者をたづねてわがもとにつれきたれ 18 時に一人の少者こたへていひけるは我ベレレム人エサイの子を見しが琴に巧にしてまた豪氣して善くたたかふ辯舌さはやかなる美しき人なりかつエホバこれとともにいます 19 サウルすなはち使者をエサイにつかはしていひけるは羊をかふ汝の子ダビデをわがもとに遣はせと 20 エサイすなはち驢馬にパンを負せ一囊の酒と山羊の羔を執りてこれを其子ダビデの手によりてサウルにおくれり 21 ダビデ、サウルの許にいたりて其まへに事ふサウル大にこれを愛し其武器を執る者となす 22 サウル人をエサイにつかはしていひけるはねがはくはダビ

デをしてわが前に事へしめよ彼はわが心かなへりと 23 神より出たる悪鬼サウルに臨めるときダビデ琴を執り手をもてこれを弾にサウル慰さみて愈え悪鬼かれをはなる

Chapter 17

1 爰にペリシテ人其軍を集めて戦はんとシヨダに屬するシヨコにあつまりシヨコとアゼカの間なるバスタムに陣をとる 2 サウルとイスラエルの人々集まりてエラの谷に陣をとりペリシテ人にむかひて軍の陣列をたつ 3 ペリシテ人は此方の山にたちイスラエルは彼方の山にたつ谷は其あひだにあり 4 時にペリシテ人の陣よりガテのゴリアテと名くる挑戦者いできたる其身の長六キユビト半 5 首に銅の盔を戴き身に鱗綴の鎧甲を着たり其よりの銅のおもさは五千シケルなり 6 また脛には銅の脛當を着け肩の間に銅の矛戟を負ふ 7 其槍の柄は機梁のごとく槍の鋒刃の鐵は六百シケルなり楯を執る者其前にゆく 8 ゴリアテ立てイスラエルの諸行伍によはり立けるは汝らはなんぞ陣列をなして出きたるや我はペリシテ人にして汝らはサウルの臣下にあらざるや汝ら一人をえらみて我とこころにくだせ 9 其人もし我とたたかひて我をころすことをえば我ら汝らの臣僕とならんされど若し我がちてこれを殺さば汝ら我らの僕となりて我らに事ふ可し 10 かくて此ペリシテ人いひけるは我今日イスラエルの諸行伍を挑む一人をいだし我と戦はしめよと 11 サウルおよびイスラエルみなペリシテ人のこの言を聞き驚きて大に懼れたり 12 抑ダビデはかのベレヘムユダのエフラタ人アサイとなづくる者の子なり此人八人の子ありしがサウルの世には年邁みですでに老たり 13 アサイの長子三人ゆきてサウルにしたがひて戦争にいづ其戦にいでし三人の子の名は長をエリアブといひ次をアビナダブといひ第三をシャンマといふ 14 ダビデは季子にして其兄三人はサウルにしたがへり 15 ダビデはサウルに往來してベレヘムにて其父の羊を牧ふ 16 彼ペリシテ人四十日のあひだ朝夕近づきて前にたたり 17 時にアサイ其子ダビデにいひけるは今汝の兄のために此烘麥一斗と此十のパンを取りて陣營にをる兄のところにいそぎゆけ 18 また此十の乾酪をとりて其千夫の長におくり兄の安否を視て其返事をもちきたれと 19 サウルと彼等およびイスラエルの人は皆ペリシテ人とたたかひてエラの谷にありき 20 ダビデ朝風くおきて羊をひとり牧者にあづけアサイの命ぜしごとく携へゆきて軍營にいたるに軍勢いでて行伍をなし鯨波をあげたり 21 しかしてイスラエルとペリシテ人陣列をたてて行伍を行伍に相むかはせたり 22 ダビデ其荷をおろして荷をまもる者の手になつし行伍の中にはせゆきて兄の安否を問ふ 23 ダビデ彼等と俱に語れる時視よペリシテ人の行伍よりガテのペリシテのゴリアテとなづくる彼の挑戦者のほりき

たり前のことばのごとく言しかばダビデ之を聞けり 24 イスラエルの人其人を見て皆逃て之をはなれ痛く懼れたり 25 イスラエルの人いひけるは汝らこのほり来る人を見しや誠にてイスラエルを挑んと上りきたるなり彼をころす人は王大なる富を以てこれをとまし其女子をこれにあてて其父の家にはイスラエルの中にて租税をまぬかれしめん 26 ダビデ其傍にたてる人々にかたりていひけるは此ペリシテ人をころしイスラエルの耻辱を雪ぐ人には如何なることをなすや此割禮なきペリシテ人は誰なればか活る神の軍を搦む 27 民まへのごとく答へていひけるはかれを殺す人には斯のごとくせらるべしと 28 元エリアブ、ダビデが人々とかたるを聞しかばエリアブ、ダビデにむかひて怒りを發しいひけるは汝なのために此に下りしや彼の野にあるわづかの羊を誰にあづけしや我汝の傲慢と惡き心を知る其は汝戦争を見んとて下ればなり 29 ダビデいひけるは我今なにをなしたるや只一言にあらざるやと 30 又ふりむきて他の人にむかひ前のごとく語れるに民まへのごとく答たり 31 人々ダビデが語れる言をききてこれをサウルのまへにつげければサウルかれを召す 32 ダビデ、サウルにいひけるは人々かれがために氣をおとすべからず僕ゆきてかのペリシテ人とたたかはん 33 サウル、ダビデにいひけるは汝はかのペリシテ人をむかへてたたかふに勝す其は汝は少年なるにかれは若き時よりの戰士なればなり 34 ダビデ、サウルにいひけるは僕さきに父の羊を牧るに獅子と熊と來りて其群の羔を取れば 35 其後をおひて之を搏ち羔を其口より援ひいだせりしかして其獸に猛りかかりたれば其鬚をとらへてこれを撃ちころせり 36 僕は既に獅子と熊とを殺せり此割禮なきペリシテ人活る神の軍をいどみたれば亦かの獸の一のごとくなるべし 37 ダビデまたいひけるはエホバ我を獅子の爪と熊の爪より援ひいだしたまはれば此ペリシテ人の手よりも援ひいだしたまはんとサウル、ダビデにいふ往けねがはくはエホバ汝とともにいませ 38 是においてサウルおのれの戎衣をダビデに衣せ銅の盔を其首にかむらせ亦鱗綴の鎧をこれにさせたり 39 ダビデ戎衣のうへに劍を佩て往かんことを試む未だ驗せしことなればなりしかしてダビデ、サウルにいひけるは我いまだ驗せしことなれば是を衣ては往くあたはずと 40 ダビデこれを脱ぎすて手に杖をとり谿間より五の光滑なる石を拾ひて之を其持てる牧羊者の具なる袋に容れ手に投石索を執りて彼ペリシテ人にちかづく 41 ペリシテ人進みきてダビデに近づけり楯を執るもの其まへにあり 42 ペリシテ人環視てダビデを見て之を藐視る其は少くして赤くまた美しき貌なればなり 43 ペリシテ人ダビデにいひけるは汝杖を持てきたる我豈犬ならんやとペリシテ人其神の名をもってダビデを呪詛ふ 44 しかしてペリシテ人ダビデにいひけるは我がもとに來れ汝の肉を空の鳥と野の獸にあた

へんと 45 ダビデ、ペリシテ人にいひけるは汝は劍と槍と矛戟をもて我にきたる然ど我は萬軍のエホバの名すなはち汝が搦みたるイスラエルの軍の神の名をもて汝にゆく 46 今日エホバ汝をわが手に付したまはんわれ汝をうちて汝の首級を取りペリシテ人の軍勢の尸體を今日空の鳥と地の野獸にあたへて全地をしてイスラエルに神あることをしらしめん 47 且又この群衆みなエホバは救ふに劍と槍を用ひたまはざることをするにいたらん其は戰はエホバによれば汝らを我らの手にわたしたまはんと 48 ペリシテ人すなはち立あがり進みちかづきてダビデをむかへしかばダビデいそぎ陣にはせゆきてペリシテ人をむかふ 49 ダビデ手を囊にいれて其中より一つ石をとり投てペリシテ人の額を撃ければ石其額に突き入りて俯伏に地にたふれたり 50 かくダビデ投石索と石をもてペリシテ人にかちペリシテ人をうちて之をころせり然どダビデの手には劍なかりしかば 51 ダビデはしりてペリシテ人の上にのり其劍を取て之を鞘より抜きはなしこれをもて彼をころし其首級を斬りたり爰にペリシテの人々其勇士の死るを見てにげしかば 52 イスラエルとユダの人おこり喊呼をあげてペリシテ人をおひガテの入口およびエクロンの門にいたるペリシテ人の負傷人シヤライムの路に仆れてガテおよびエクロンにおよぶ 53 イスラエルの子孫ペリシテ人をおふてかへり其陣を掠む 54 ダビデかのペリシテ人の首を取りて之をエルサレムにたづさへきたりしが其甲冑はおのれの天幕におけり 55 サウル、ダビデがペリシテ人にむかひて出るを見て軍長アブネルにいひけるはアブネル此少者はたれの子なるやアブネルいひけるは王汝の靈魂は生くわれしらざるなり 56 王いひけるはこの少年はたれの子なるかを尋ねよ 57 ダビデかのペリシテ人を殺してかへれる時アブネルこれをひきて其ペリシテ人の首級を手にもてるままサウルのまへにつれゆきければ 58 サウルかれにいひけるは若き人よ汝はたれの子なるやダビデこたへけるは汝の僕ベレヘム人アサイの子なり

Chapter 18

1 ダビデ、サウルにかたることを終しときヨナタンの心ダビデの心にむすびつきてヨナタンおのれの命のごとくダビデを愛せり 2 此日サウル、ダビデをかかへて父の家にかへらしめず 3 ヨナタンおのれの命のごとくダビデを愛せしかばヨナタンとダビデ契約をむすぶ 4 ヨナタンおのれの衣たる明衣を脱てダビデにあたふ其戎衣および其刀も弓も帶もまたしかせり 5 ダビデは凡てサウルが遣はすところにいひてゆきて功をあらはしければサウルかれを兵隊の長となせりしかしてダビデ民の心かなひ又サウルの僕にもかなふ 6 衆人かへりきたれる時すなはちダビデ、ペリシテ人をころして還れる時婦女イスラエルの邑々よりいでたり

と祝歌と響をもちて歌ひまひつつサウル王を迎ふ 7 婦人踊躍つつ相こたへて歌ひけるはサウルは千をうち殺しダビデは萬をうちころすと 8 サウル甚だ怒りこの言をよるこぼすしていひけるは萬をダビデに歸しずをわれに歸す此上かれにあたふべき者は唯國のみと 9 サウルこの日より後ダビデを目がけたり 10 次の日神より出たる悪鬼サウルにのぞみてサウル家のなかにて預言したりしかばダビデ故のごとく手をもつて琴をひけり時にサウルの手に投槍ありければ 11 サウル我ダビデを壁に刺とほさんといひて其投槍をさしあげしがダビデ二度身をかはしてサウルをさけたり 12 エホバ、サウルをはなれてダビデと共にいますによりてサウル彼をおそれたり 13 是故にサウル彼を遠ざけて千夫長となせりダビデすなはち民のまへに出入す 14 またダビデすべて其ゆくところにて功をあらはし且エホバかれとともにいませり 15 サウル、ダビデが大に功をあらはすをみてこれを恐れたり 16 しかれどもイスラエルとユダの人はみなダビデを愛せり彼が其前に出入するによりてなり 17 サウル、ダビデにいひけるは汝わが長女メラブを汝に妻さん汝ただわがために勇みエホバの軍に戰ふべしと其はサウルわが手にてかれを殺さでペリシテ人の手にてころさんとおもひたればなり 18 ダビデ、サウルにいひけるは我は誰ぞわが命はなんぞわが父の家はイスラエルにおいて何なる者ぞや我いかでか王の婿となるべけん 19 然るにサウルの子メラブはダビデに嫁ぐべき時におよびてメホランアデリエルに妻されたり 20 サウルの女ミカル、ダビデを愛す人これを王に告げればサウル其事を善しとせり 21 サウルいひけるは我ミカルをかれにあたへて彼を謀る手段となしペリシテ人の手にてかれを殺さんといひてサウル、ダビデにいひけるは汝今日ふたたびわが婿となるべし 22 かくてサウル其僕に命じけるは汝ら密にダビデにかたりて言へ視よ王汝を悦び王の僕みな汝を愛すされば汝王の婿となるべしと 23 サウルの僕此言をダビデの耳に語りしかばダビデいひけるは王の婿となること汝らの目には易き事とみゆるや且われは貧しく賤しき者なりと 24 サウルの僕サウルにつけてダビデ是の如くかたりといへり 25 サウルいひけるはなんぢらかくダビデにいへ王は聘禮を望まずただペリシテ人の陽皮一百をえて王の仇をむくいんことを望むとはサウル、ダビデをペリシテ人の手に殞没しめんとおもへるなり 26 サウルの僕此言をダビデにつげしかばダビデは王の婿となることを善とせり斯て其時いまだ満ざるあひだに 27 ダビデ起て其從者とともにゆきてペリシテ人二百人をころして其陽皮をたづさへきたり之を悉く王にささげて王の婿とならんとすサウル乃はち其女ミカルをダビデに妻せたり 28 サウル見てエホバのダビデとともにいますを知りぬまたサウルの女ミカルはダビデを愛せり 29 サウルにますますダビデを恐れサウル一生

のあひだダビデの敵となれり 30 爰にペリシテ人の諸伯攻きたりしがダビデかれらが攻めきたるごとにサウルの諸の臣僕よりは多の功をたてしかば其名はなはだ尊る

Chapter 19

1 サウル其子ヨナタンおよび諸の臣僕にダビデをこそさんとすることを語り 2 されどサウルの子ヨナタン深くダビデを愛せしかばヨナタン、ダビデにつけていひけるはわが父サウル汝をこそさんことを求むこのゆゑに今ねがはくは汝翌朝謹恪で潜みりて身を隠せ 3 我いでゆきて汝がをる野にてわが父の傍にたちわが父とともに汝の事を談はんしかして我其事の如何なるを見て汝に告ぐべし 4 ヨナタン其父サウルに向ひダビデを褒揚ていひけるは願くは王其僕ダビデにむかひて罪ををかずなかれ彼は汝に罪ををかさずまた彼が汝になす行爲ははなはだ善し 5 またかれは生命をかけてかのペリシテ人こそしたりしかしてエホバ、イスラエルの人々のためにおほいなる救をほどこしたまふ汝見てよるこべりしかるに何ぞゆゑなくしてダビデをこそし無辜者の血をながして罪ををかさんとするや 6 サウル、ヨナタンの言を聴いれサウル誓ひけるはエホバはいくわれかならずかれをこそさじ 7 ヨナタン、ダビデをよびてヨナタン其事をみなダビデにつげ遂にダビデをサウルの許につけきたりければダビデさきのごとくサウルの前にをる 8 爰に再び戦争おこりぬダビデすなはちいでてペリシテ人とたたかひ大にかれらを殺せしかばかれら其まへへを逃げされり 9 サウル手に投槍を執て室に坐する時エホバより出たる惡鬼これにのりうつれり其時ダビデ乃ち手をもて琴を弾く 10 サウル投槍をもてダビデを壁に刺とほさんとしたりしがダビデ、サウルのまへを避ければ投槍を壁に衝たたりダビデ其夜逃さりぬ 11 サウル使者をダビデの家につかはしてかれを守らしめ朝におよびてかれをこそさしめんとすダビデの妻ミカル、ダビデにつけていひけるは若し今夜爾の命を援ずば明朝汝は殺されんと 12 ミカル即ち牖よりダビデを縫おろしければ往て逃されり 13 斯てミカル像をとりて其牖に置き山羊の毛の編物を其頭におき衣服をもて之をおほへり 14 サウル、ダビデを執ふる使者をつかはしければミカルいふかれは疾ありと 15 サウル使者をつかはしダビデを見させんとていひけるはかれを牀のまま我にたづききたれ我これをこそさん 16 使者いりて見たるに牀には像ありて其頭に山羊の毛の編物ありき 17 サウル、ミカルにいひけるはなんぞかく我をあざむきてわが敵を逃しやりしやミカル、サウルにこたへけるは彼我にいへり我をはなちてさらしめよ然らずば我汝をこそさんと 18 ダビデにげざりてラマにゆきサムエルの許にいたりてサウルがおのれになせしことをことごとくつげたりしかしてダビデとサムエル

はゆきてナヨテにすめり 19 サウルに告る者ありていふ視よダビデはラマのナヨテにをると 20 サウル乃ちダビデを執ふる使者をつかはせしが彼等預言者の一群の預言しをりてサムエルが其中の長となりて立てるを見るにおよび神の靈サウルの使者にのぞみて彼等もまた預言せり 21 人々これを告げればサウル他の使者を遣しけるにかれらも亦預言せしかばサウルまた三度使者を遣はしけるが彼等もまた預言せり 22 是においてサウルもまたラマにゆきけるがセクの大井にいたれる時問ていひけるはサムエルとダビデは何處にをるや答ていふラマのナヨテにをる 23 サウルかしこにゆきてラマのナヨテに至りけるに神の靈また彼にのぞみて彼ラマのナヨテにいたるまで歩きつつ預言せり 24 彼もまた其衣服をぬぎすて同くサムエルのまへに預言し其一日一夜裸體にて仆臥たり是故に人々サウルもまた預言者のうちにあるかといふ

Chapter 20

1 ダビデ、ラマのナヨテより逃きたりてヨナタンにいひけるは我何をなし何のあしき事あり汝の父のまへに何の罪を得てか彼わが命を求むる 2 ヨナタンかれにいひけるは汝は汝に殺さるることあらじ視よわが父は事の大きなも小さなも我につげずしてなすことなしわが父なんぞこの事を我にかくさんやこの事しからず 3 ダビデまた誓ひていひけるは汝の父必ずわが汝のまへに恩恵をうるを知る是をもてかれ思へらく恐らくはヨナタン悲むべければこの事をかれにしらしむべからずとしかれどもエホバはいくまたなんぢの靈魂はいくわれは死をさること只一步のみ 4 ヨナタン、ダビデにいひけるはなんぢの心なをねがふか我爾のために之をなさんと 5 ダビデ、ヨナタンにいひけるは明日は月朔なれば我王とともに食につかざるべからず然ども我をゆるして去らしめ三日の晩まで野に隠ることをえさしめよ 6 若汝の父まことに我をもとめば其時言へダビデ切に其邑ベテレヘムにせゆかんことを我に請り其は彼處に全家の歳祭あればなりと 7 彼もし善しといはば僕やすからんされど彼もし甚しく怒らば彼の害をくはへんと決しを知れ 8 汝エホバのまへに僕と契約をむすびたれば願くは僕に恩をほどこせ然ど若我に惡き事あらば汝自ら我をこそせ何ぞ我を汝の父に引ゆくべけんや 9 ヨナタンいひけるは斯る事かならず汝にあらざれ我わが父の害を汝にくはへんと決るをしらば必ず之を汝につげん 10 ダビデ、ヨナタンにいひけるは若し汝の父荒々しく汝にこたふる時は誰か其事を我に告ぐべきや 11 ヨナタン、ダビデにいひけるは來れ我ら野にいでゆかんと俱に野にいでゆけり 12 しかしてヨナタン、ダビデにいひけるはイスラエルの神エホバよ明日か明後日の今ごろ我わが父を窺ひて事のダビデのために善きを見ながら人を汝に遣は

して告しらすばエホバ、ヨナタンに斯なしました重て斯くなしたまへ 13 されど若しわが父汝に害をくはへんと欲せば我これを告げしらせて汝をにがし汝を安らかにさらしめん願くはエホバわが父とともに坐せしごとく汝とともにいませ 14 汝只わが生るあひだエホバの恩を我にしめして死ざらしむるのみならず 15 エホバがダビデの敵を悉く地の表より絶さざりたまふ時にまた汝わが家を永く汝の恩にはなれしむるなかれ 16 かくヨナタン、ダビデの家と契約をむすぶエホバ之に關てダビデの敵を討したまへり 17 しかしてヨナタンふたたびダビデに誓はしむかれを愛すればなり即ちおのれの生命を愛するごとく彼を愛せり 18 またヨナタン、ダビデにいひけるは明日は月朔なるが汝の座空かるべければ汝求めらるべし 19 汝三日とどまりて速かに下り嘗てかの事の日に隠れたるところに至りてエゼルの石の傍に居るべし 20 我的を射るごとくして其石の側に三本の矢をはなたん 21 しかしてゆきて矢をたづねよといひて童子をつかはすべし我もし故に童子に視よ矢は汝の此旁にあり其を取と曰ばなんぢきたるべしエホバは生く汝安くして何もなかるべければなり 22 されど若し我少年に視よ矢は汝の彼旁にありといはば汝さるべしエホバ汝をさらしめたまふなり 23 汝と我とたかれることについては願はくはエホバ恒に汝と我との間にいませと 24 ダビデ即ち野にかくれぬ楯月朔になりければ我坐して食に就く 25 即ち王は常のごとく壁によりて座を占むヨナタン立あがりアブネル、サウルの側に坐すダビデの座はなむし 26 されど其日にはサウル何をもしざりき其は何事か彼におこりしならん彼きよからず定て潔からずと思ひたればなり 27 明日すなはち月の二日におよびてダビデの座なほ虚しサウル其子ヨナタンにいひけるは何ゆゑにエサイの子は昨日も今日も食に來らざるや 28 ヨナタン、サウルにこたへけるはダビデ切にベテレヘムにゆかんことを我にこひて曰けるは 29 ねがはくは我をゆるしてゆかしめよわが家邑にて祭をなすによりわが兄我にきたることを命ぜり故に我もし汝のまへにめぐみをもたらるならばねがはくは我をゆるして去しめ兄弟をみることを得さしめよと是故にかれは王の席に來らざるなり 30 サウル、ヨナタンにむかひて怒りを發しかれにいひけるは汝は曲り且悖れる婦の子なり我あに汝がエサイの子を簡みて汝の身をはづかしめまた汝の母の膚を辱しむることを知ざらんや 31 エサイの子の此世にながらふるあひだは汝と汝の位固くたつを得ず是故に今人をつかはして彼をわが許に引きたれ彼は死ぬべき者なり 32 ヨナタン父サウルに對ていひけるは彼なにによりて殺さるべきか何をなしたるやと 33 ここにおいてサウル、ヨナタンを撃んとて投槍をさしあげたりヨナタンすなはち其父のダビデを殺さんと決しをしり 34 かくてヨナタン烈しく怒りて席を立ち月の二日はは食をなさざりき其は

其父のダビデをはづかしめしによりてダビデのために憂へたればなり 35 翌朝ヨナタン一小童子を従がへダビデと約せし時刻に野にいでゆき 36 重にいひけるは走りて我はなつ矢をたづねよと童子はしる時ヨナタン矢を彼のさきに發てり 37 童子がヨナタンの發ちたる矢のところをいたれる時ヨナタン童子のうしろに呼はりていふ矢は汝のさきにあるにあらざるや 38 ヨナタンまた童子のうしろによばはりていひけるは速かにせよ急げ止まるなかれとヨナタンの童子矢をひろひあつめて其主人のもとにかへる 39 されど童子は何をも知ざりき只ヨナタンとダビデ其事をしりたるのみ 40 かくてヨナタン其武器を童子に授ていひけるは往けこれ邑に携へよと 41 童子すなはち往けり時にダビデ石の傍より立ちあがり地にふして三たび拜せりしかしてふたり互に接吻してたがひに哭くダビデ殊にはなはだし 42 ヨナタン、ダビデにいひけるは安じて往け我ら二人ともにエホバの名に誓ひて願くはエホバ恒に我と汝のあひだに坐し我が子孫と汝の子孫のあひだにいませといへりとダビデすなはちたちて去るヨナタン邑にいりぬ

Chapter 21

1 ダビデ、ノブにゆきて祭司アヒメレクにいたるアヒメレク懼れてダビデを迎へこれにいひけるは汝なんぞ獨にして誰も汝とともにならざるや 2 ダビデ祭司アヒメレクにいふ王我の一の事を命じて我にいふ我が汝を遣はすところの事およびわが汝に命じたる所については何をも人にしらすなかれと我某處に我少者を出おけり 3 いま何か汝の手にあるや我手に五のパンか或はなににてもある所を與よ 4 祭司ダビデに對ていひけるは常のパンはわが手になされど若し少者婦女をだに懐みてありしならば聖きパンあるなりと 5 ダビデ祭司に對ていひけるは實にわがいでしより此三日は婦女われらにちかづ物少し少者等の器は潔しよとパンは常の物のごとし今日器に潔きパンあれば殊に然と 6 祭司かれに聖きパンを與たり其はかしこに供前のパンの外はパン无りければなり即ち其パンは下る日に熱きパンをささげんとて之をエホバのまへより取されるなり 7 其日かしこにサウルの僕一人留められてエホバのまへにあり其名をドエグといふエドミ人にしてサウルの牧者の長なり 8 ダビデまたアヒメレクにいふ此に汝の手に槍か劍あらぬか王の事急なるによりて我は刀も武器も携へざりしと 9 祭司いひけるは汝がエラの谷にて殺したるペリシテ人ゴリアテの劍布に裏みてエポデの後にあり汝もし之をとらんとおもはば取れ此にはほかの劍なしダビデいひけるはそれにかまざるものなし我にあたへよと 10 ダビデ其日サウルをおそれて立てガテの王アキシのところへ逃げゆきぬ 11 アキシの臣僕アキシに曰けるは此は其地の王ダビデにあらざるや人々舞踏のうちにこの人の

ことを歌ひあひてサウルは干をうちころしダビデは萬をうちころすといひしにあらざや 12 ダビデこの言を心に蔵め深くガデの王アキシをおそれ 13 人々のまへに伴て其氣を變じ執はれて狂人のさまをなし門の扉に書き其涎沫を鬚にまがれくらしむ 14 アキシ僕に云けるは汝らの見ごとく此人は狂人なり何ぞかれを我にひき來るや 15 我なんぞ狂人を須ひんや汝ら此者を引きたりてわがまへに狂しめんとするや此者なんぞ吾が家にいるべけんや

Chapter 22

1 是故にダビデ其處をいでたちてアドラムの洞穴にのがる其兄弟および父の家みな聞きおよびて彼處にくだり彼の許に至る 2 また惱める人負債者心に嫌ぬ者皆かれの許にあつまりて彼其長となれりかれとともにある者はおよそ四百人なり 3 ダビデ其處よりモアブのミツパにいたりモアブの王にいひけるは神の我をいかなしたまふかを知るまでねがはくはわが父母をして出て汝らとともにをらしめよと 4 遂にかれらをモアブの王のまへにつれきたるかれらはダビデが要害にをる間王とともにありき 5 預言者ガデ、ダビデに云けるは要害に住るなかれゆきてユダの地にいたれとダビデゆきてハレテの叢林にいたる 6 爰にサウル、ダビデおよびかれとともになる人々の見露されしを聞けり時にサウルはギベアにあり手に槍を執て岡巒の柳の樹の下にをり臣僕ども皆其傍にたてり 7 サウル側にたてる僕にいひけるは汝らベニヤミン人聞けよアサイの子汝らおのおのに田と葡萄園をあたへ汝らおのおのを千夫長百夫長となすことあらんや 8 汝ら皆我に敵して謀り一人もわが子のアサイの子と契約を結びしを我につげしらすするなまた汝ら一人もわがために憂へずわが今日のごとくわが僕を上げまして道に伏て我をおそはしめんとするを我につげしらす者なし 9 時にエドミ人ドエグ、サウルの僕の中にたち居りしが答へていひけるは我アサイの子のノブにゆきてアヒトブの子アヒメレクに至るを見しが 10 アヒメレクかれのためにエホバに問ひまたかれに食物をあたへペリシテ人ゴリアテの劍をあたへたりと 11 王すなはち人をつかはしてアヒトブの子祭司アヒメレクおよびその父の家すなはちノブの祭司たる人々を召したればみな王の許にきたる 12 サウルいひけるは汝アヒトブの子聽よ答へけるは主よ我ここにあり 13 サウルかれにいひ汝なんぞアサイの子とともに我に敵して謀り汝かれにパンと劍をあたへ彼が爲に神に問ひかれをして今日のごとく道に伏て我をおそはしめんとするや 14 アヒメレク王にこたへていひけるは汝の臣僕のうち誰かダビデのごとく忠義なる彼は汝の婿にして親しく汝に見ゆるもの汝の家に尊まるる者にあらざや 15 我其時かれのために神に問ことを始めしや決してしからずねがはくは王僕およびわ

が父の全家に何をも歸するなかれ其は僕この事については多少をいはず何をもしらざればなり 16 王いひけるはアヒメレク汝必ず死ぬべし汝の父の全家もしかりと 17 王旁にたてる前驅の人々にいひけるは身をひるがへしてエホバの祭司を殺せかれらもダビデと力を合するが故またかれらダビデの逃たるをしりて我に告ざりし故なりと然ど王の僕手をいだしエホバの祭司を撃つことを好まざれば 18 王ドエグにいふ汝身をひるがへして祭司をこそせとエドミ人ドエグ乃ち身をひるがへして祭司をうち其日布のエポデを衣たる者八十五人をころせり 19 かれまた刃を以て祭司の邑ノブを撃ち刃をもて男女童稚嬰孩牛驢馬羊を殺せり 20 アヒトブの子アヒメレクの一の子アピヤタルとなづく者逃れてダビデにはしり従がふ 21 アピヤタル、サウルがエホバの祭司を殺したることをダビデに告しかば 22 ダビデ、アピヤタルにいふかの日エドミ人ドエグ彼處にをりしかば我かれが必ずサウルにつげんことを知り我汝の父の家の人々の生命を喪へる源由となれり 23 汝我とともに居れ懼るなかれわが生命を求むる者汝の生命をも求むるなり汝我とともにあらば安全なるべし

Chapter 23

1 人々ダビデにつげていひけるは視よペリシテ人ケイラを攻め穀場を掠むと 2 ダビデ、エホバに問ていひけるは我ゆきて是のペリシテ人を撃つべきかとエホバ、ダビデにいひたまひけるは往てペリシテ人をうちてケイラを救へ 3 ダビデの従者かれにいひけるは視よわれら此にユダにあるすら尚ほおそる況やケイラにゆきてペリシテ人の軍にあたるをやと 4 ダビデふたたびエホバに問ひけるにエホバ答ていひたまひけるは起てケイラにくだれ我ペリシテ人を汝の手にわたすべし 5 ダビデとその従者ケイラにゆきてペリシテ人とたたかひ彼らの家畜を奪ひとり大にかれらをうちころせりかくダビデ、ケイラの居民をすくふ 6 アヒメレクの子アピヤタル、ケイラにのがれてダビデにいたれる時其手にエポデを執てくだれり 7 爰にダビデのケイラに至れる事サウルに聞えければサウルいふ神かれを我手にわたしたまへり其はかれ門あり關ある邑にいりたれば閉こめらるればなり 8 サウルすなはち民をことごとく軍によびあつめてケイラにくだりてダビデと其従者を圍んとす 9 ダビデはサウルのおのれを書せんと謀るを知りて祭司アピヤタルにいひけるはエポデを持ちきたれと 10 しかしてダビデいひけるはイスラエルの神エホバよ僕たしかにサウルがケイラにきたりてわがために此邑をほろぼさんと求むるを聞り 11 ケイラの人々我をかれの手にわたすならんかイスラエルの神エホバよ請ふ僕につけたまへとエホバいひたまひけるは彼下るべしと 12 ダビ

デいひけるはケイラの人々われとわが従者をサウルの手にわたすならんかエホバいひたまひけるは彼らわたすべし 13 是においてダビデと其六百ばかりの従者起てケイラをいでて其ゆきうる所にゆけりダビデのケイラにげはなれしことサウルに聞えければサウルいづることを止たり 14 ダビデは曠野にをり要害の地にをりまたジフの野にある山に居るサウル恒にかれを尋ねたれども神かれを其手にわたしたまはざりき 15 ダビデ、サウルがおのれの生命を求めんために出たるを見る時にダビデはジフの野の叢林にをりしが 16 サウルの子ヨナタンたちて叢林にいたりてダビデにいたり神によりて其力を強うせしめたり 17 即ちヨナタンかれにいひけるに懼るなかれわが父サウルの手汝にとどくことあらじ汝はイスラエルの王とならん我は汝の次なるべし此事はわが父サウルもしりりと 18 かくて彼ら二人エホバのまへに契約をむすびダビデは叢林にとどまりヨナタンは其家にかへり 19 時にジフ人ギベアにのぼりサウルの許にいたりていひけるはダビデは曠野の南にあるハキラの山の叢林の中なる要害に隠れて我らとともにをるにあらずや 20 今王汝のくだらんとする望のごとく下りたまへ我らはかれを王の手にわたさんと 21 サウルいひけるは汝ら我をあはれめば願くは汝等エホバより福祉をえよ 22 請ふゆきて尚ほ心を用ひ彼の跡跡ある處と誰がかれを見たるかを見きはめよ其は人我にかれが甚だ機巧く事を爲すを告たれば也 23 されば汝ら彼が隠るる逃躲處を皆たしかに見きはめて再び我にきたれ我汝らとともにゆかん彼もし其地にあらば我ユダの郡中をあまねく尋ねて彼を獲んと 24 かれらたちてサウルに先てジフにゆけりダビデと其従者は曠野の南のアラバにあるマオンの野にをる 25 斯てサウルと其従者ゆきて彼を尋ぬ人々これをダビデに告ければダビデ巖を下てマオンの野にをるサウル之を聞てマオンの野に至てダビデを追ふ 26 サウルは山の此旁に行ダビデと其従者は山の彼旁に行ダビデは周章てサウルの前を避んとしサウルと其従者はダビデと其従者を圍んで之を取んとす 27 時に使者サウルに來て言けるはペリシテ人國ををかす急ぎきたりたまへと 28 故にサウル、ダビデを追ことを止てかへり往てペリシテ人にあたるここをもて人々その處をセラマレコテ(逃岩)となづく 29 ダビデ其處よりのぼりてエンゲデの要害にをる

Chapter 24

1 サウル、ペリシテ人を追ふことをやめて還りし時人々かれにつげていひけるは視よダビデはエンゲデの野にありと 2 サウル、イスラエルの中より選みたる三千の人を率ゆきて野羊の巖にダビデと其従者を尋ぬ 3 途にて羊の棧にいたるに其處に洞穴ありサウル其足を掩んとていりぬ時にダビデと其従者洞の隅に居た

り 4 ダビデの従者これにいひけるはエホバが汝に告て視よ我汝の敵を汝の手にわたし汝をして善と見るところを彼になさしめんといひたまひし日は今なりとダビデすなはち起てひそかにサウルの衣の裾をきり 5 ダビデ、サウルの衣の裾をきりしによりて後ち其心みづから責む 6 ダビデ其従者にいひけるはエホバの膏そそぎし者なるわが主にわが此事をなすをエホバ禁じたまふかれはエホバの膏そそぎし者なればかれに敵してわが手をのぶるは善らず 7 ダビデ此ことばをもって其従者を止めサウルに撃ちかかる事を容さずサウルたちて洞を出て其道にゆく 8 ダビデもまた後よりたちて洞をいでサウルのうしろに呼はりて我主王よといふサウル後をかへりみる時ダビデ地にふして挿す 9 ダビデ、サウルにいひけるは汝なんぞダビデ汝を害せん事を求むといふ人の言を聴くや 10 視よ今日汝の目エホバの汝を洞のうちにて今日わが手にわたしたまひしことを見たり人々我に汝をこそざんことを勧めたれども我汝を惜めり我いひけらくわが主はエホバの膏そそぎし者なればこれに敵してわが手をのぶべからずと 11 わが父よ視よわが手にある汝の衣の裾を見よわが汝の衣の裾をきりて汝を殺さざるを見ばわが手には惡も罪過もなきことを汝見て知るべし我汝に罪ををかせしことなし然るに汝わが生命をとらんとねらふ 12 エホバ我と汝の間を審きたまはんエホバわがために汝に報いたまふべし然どわが手は汝に加へざるべし 13 古への諺にいふごとく惡は惡人よりいづされどわが手は汝にくはへざるべし 14 イスラエルの王は誰を趕んとて出たるや汝たれを追ふや死たる犬をおひ一の蚤をおふなり 15 ねがはくはエホバ審判者となりて我と汝のあひだをさばきかつ見てわが訟を理し我を汝の手よりすくいだししたまはんことを 16 ダビデこれらの言をサウルに語りてをへしときサウルいひけるはわが子ダビデよ是は汝の聲なるかとサウル聲をあげて哭きぬ 17 しかしてダビデにいひけるは汝は我よりも正し我は汝に惡をむくゆるに汝は我に善をむくゆ 18 汝今日いかに汝が我に善くすかを明かにせりエホバ我を爾の手にわたしたまひしに爾我をこそざりしなり 19 人もし其敵にあはばこれを安らかに去しむべけんや爾が今日我になしたる事のためにエホバ爾に善をむくいたまふべし 20 視よ我爾が必ず王とならんことを知りまたイスラエルの王國の爾の手にによりて堅くしたんことをしる 21 今爾エホバをさして我にわが後にてわが子孫を斷ずわが名をわが父の家に滅せざらんことを誓へと 22 ダビデすなはちサウルにちかふ是においてサウルは家にかへりダビデと其従者は要害にのぼれり

Chapter 25

1 爰にサムエル死にしかばイスラエル人皆あつまりて之をかなしみラマにあるその家にてこれを葬むれ

りダビデたちてバランの野にくだる 2 マオンに一箇の人あり其所有はカルメルにあり其人甚だ大なる者にして三千の羊と一千の山羊をもちしがカルメルにて羊の毛を剪り居たり 3 其人の名はナバルといひ其妻の名はアビガルといふアビガルは賢く顔美き婦なりされど其夫は剛愎にして其爲すところ悪かりきかれはカレブの人なり 4 ダビデ野にありてナバルが其羊の毛を剪るを聞き 5 ダビデ十人の少者を遣はすダビデ其少者にいひけるはカルメルにのぼりナバルにいたりわが名をもてかれに安否をとひ 6 かくのごとくいへ願くは壽ながかれ爾平安なれ爾の家やすらかなれ爾が有ところの物みなやすらかなれ 7 我爾が羊毛を剪せをるを聞き爾の牧羊者は我らとともにありしが我らこれを害せざりきまたかれらがカルメルにありしあひだかれらの物何も失たることなし 8 爾の少者に問へかれら爾につげん願くは少者をして爾のまへに恩をえせしめよ我ら吉日に来る請ふ爾の手にあるところの物を爾の僕らおよび爾の子ダビデにあたへよ 9 ダビデの少者いたりダビデの名をもって是らのことばの如くナバルに語りてやめり 10 ナバル、ダビデの僕にこたへていひけるはダビデは誰なるエサイの子は誰なる此項は主人をすてて遁逃する僕おほし 11 我あにわがパンと水およびわが羊毛をきる者のために殺したる肉をとりて何處よりか知れざるころの人々にあたふべけんや 12 ダビデの少者ふりかへりて其道に就き歸りきたりて此等の言のごとくダビデに告ぐ 13 是においてダビデ其従者に爾らのおの劍を帶よと言ければ各劍をおぶダビデもまた劍をおぶ而して四百人ばかりダビデにしたがひて上り二百人は輜重のところ止れり 14 時にひとりの少者ナバルの妻アビガルに告いでいひけるは視よダビデ野より使者をおくりて我らの主人を祝したるに主人かれらを置れり 15 されどかれの人々はわれらに甚だ善くなし我らは害をかむらず亦われら野にありし時かれらとともにをるあひだはなにをも失なはざりき 16 我らが羊をかひて彼らとともにありしあひだ彼らは日夜われらの嚮となれり 17 されば爾今しるてなにをなさんかを考ふべし其はわれらの主人および主人の全家に定めて害きたるべければなり主人は邪魔なる者にして語ることえずと 18 アビガルいそぎパン二百酒の葦藁二既に調へたる羊五烘麥五セア乾葡萄百球乾無花果の團塊二百を取て驢馬にのせ 19 其少者にいひけるは我先に進め視よ我爾らの後にゆくると然ど其夫ナバルには告げざりき 20 アビガル驢馬のりて山の僻處にくだる時視よダビデと其従者かれにむかひてくだりければかれ其人々にあふ 21 ダビデかつていひけるは誠にわれ徒に此人の野にて有る物をみなまもりてその物をして何もうせざらしめたりかれは惡をもてわが善にむくゆ 22 ねがはくは神ダビデの敵にかくなした重ねてかくなしたまへ明晨までには我はナバルに屬する總ての物の中ひとりの男を

ものこさざるべし 23 アビガル、ダビデを視しとき急ぎ驢馬よりおりダビデのまへに地に俯して拜し 24 其足もとにふしていひけるはわが主よ此咎を我に歸したまへ但し婢をして爾の耳にいふことを得ざしめ婢のことばを聴たまへ 25 ねがはくは我主この邪なる人ナバル(愚)の事を意に介むなかれ其はかれは其名の如くなればなりかれの名はナバルにしてかれは愚なりわれなんぢの婢はわが主のつかはせし少ものを見ざりき 26 さればわがしゆよエホバはいくまたなんぢのたまひはいくエホバなんぢのきたりて血をながしたる爾がみづから仇をむくゆるを阻めたまへりねがはくは爾の敵たるものおよびわが主に害をくはへんとする者はナバルのごとくなれ 27 さて仕わが主にもちきたりしこの禮物をねがはくはわが主の足跡にあゆむ少者にたてまつらしめたまへ 28 請ふ婢の過をゆるしたまへエホバ必ずわが主のために堅き家を立たまはん是はわが主エホバの手におんたより又世にいでてよりこのかた爾の身に悪きこと見えざるによりてなり 29 人たちて爾を追い爾の生命を求むれどもわが主の生命は爾の神エホバとともに生命の包裹の中に包みあり爾の敵の生命は投石器のうちより投すつる如くエホバこれをなげすてたまはん 30 エホバその爾につきて語りたまひし諸の善き事をわが主になして爾をイスラエルの主宰に命じたまはん時にいたりて 31 爾の故なくして血をながしたることも又わが主のみづから其仇をむくいし事も爾の憂となることなくまたわが主の心の責となることなかるべし但しエホバのわが主に善くなしたまふ時にいたらばねがはくは婢を憶たまへ 32 ダビデ、アビガルにいふ今日汝をつかはして我をむかへしめたまふイスラエルの神エホバは頌美べきかな 33 また汝の智慧はほむべきかな又汝はほむべきかな汝今日わがきたりて血をながし自ら仇をむくゆるを止めたり 34 わが汝を害するを阻めたまひしエホバの神エホバは生く誠にし汝いそぎて我を來り迎ずば必ず翌朝までにナバルの所にひとりの男ものこらざりしならんと 35 ダビデ、アビガルの携へきたりし物を其手より受てかれにいひけるは安かに汝の家にかれのぼれ視よわれ汝の言をききいれて汝の顔を立たり 36 かくてアビガル、ナバルにいたりて視にかれは家に酒宴を設け居たり王の酒宴のごとしナバルの心これがために樂みて甚だしく酔たればアビガル多少をいはず何を翌朝までかれにつげざりき 37 朝にいたりナバルの酒のさめたる時妻かれに是等の事をつげたるに彼の心そのうちに死て其身石のごとくなりぬ 38 十日ばかりありてエホバ、ナバルを撃ちたまひければ死り 39 ダビデ、ナバルの死たるを聞いていひけるはエホバは頌美べきかなエホバわが蒙りたる恥辱の訟を理してナバルにむくい僕を阻めて惡をおこなはざらしめたまふ其はエホバ、ナバルの惡を其首に歸し賜へばなりと爰にダビデ、アビガルを妻にめとら

んとて人を遣はしてこれとかたらしむ 40 ダビデの僕カルメルにをるアビガルの許にいたりてこれにかたりいひけるはダビデ汝を妻にめとらんとて我らを汝に遣はすと 41 アビガルたちて地にふして拝しいひけるは視よ婢はわが主の僕等の足を洗ふ仕女なりと 42 アビガルいそぎたちて驢馬に乗り五人の侍女とともにダビデの使者にしたがひゆきてダビデの妻となる 43 ダビデまたエズレルのアヒノアムを娶りて彼ら二人ダビデの妻となる 44 但しサウルはダビデの妻なりし其女ミカルをガリムの人なるライシの子パルテにあたへたり

Chapter 26

1 ジフ人ギベアにきたりサウルの許にいたりていひけるはダビデは曠野のまへなるハキラの山にかくれをるにあらざるやと 2 サウルすなはち起ちジフの野にダビデを尋ねんとイスラエルの中より選みたる三千の人をさがへてジフの野にくだる 3 サウルは曠野のまへなるハキラの山において路のほとりに陣を取るダビデは曠野に居てサウルのおのれをおふて曠野にきたるをさとりければ 4 ダビデ斥候を出してサウルの誠に來しをしれり 5 ここにおいてダビデたちてサウルの陣をとれるところに入りてサウルおよび其軍の長ネルの子アブネルの寝たるところを見たりすなはちサウルは車營の中に寝ぬ民其まはり陣をはれり 6 ダビデ答へてへて人アヒメレクおよびゼルヤの子にしてヨアブの兄弟なるアビシャイにいひけるは誰か我とともにサウルの陣にくだらんかとアビシャイいふ我汝とともに下らん 7 ダビデとアビシャイすなはち夜にいでて民の所にいたるに視よサウルは車營のうちに寝臥し其槍地にさして枕邊にありアブネルと民は其まはり寝たり 8 アビシャイ、ダビデにいひけるは神今日爾の敵を爾の手にわたしたまふ請ふいま我に槍をもてかれを一度地にさしとほさしめよ再びするにおよばじ 9 ダビデ、アビシャイにいふ彼をころすなかれ誰かエホバの膏そそぎし者に敵して其手をのべて罪ならんや 10 ダビデまたいひけるはエホバは生くエホバかれを撃たまはんあるひはその死ぬる日來らんあるひは戦ひにくだりて死すせん 11 わがエホバのあぶらそそぎしものに敵して手をのぶることはきはめて善らずエホバ禁じたまふされどいま請ふ爾そのまくらもとの槍と水の瓶をとれしかして我らさよりゆかんと 12 ダビデ、サウルの枕邊より槍と水の瓶を取りてかれらさよりゆきしが誰も見ず誰もしらず誰も目を醒さざりき其はかれら皆眠り居たればなり即ちエホバかれらをふかく睡らしめたまふ 13 かくてダビデは彼旁にわたりて遙に山の頂にたたり彼と此とのへだたり大なり 14 ダビデ民とネルの子アブネルによははりいひけるはアブネルよ爾こたへざるかアブネルこたへていふ王をよぶ爾はたれるや 15 ダビデ、ア

ブネルにいひけるは爾は勇士ならずやイスラエルの中に誰か爾に如ものあらんしかるに爾なんぞ爾の主なる王をまもらざるや民のひとり爾の主なる王を殺さんとていひぬ 16 爾がなせる此事よからずエホバは生くなんぢらの罪死にあたりて爾らエホバの膏そそぎし爾らの主をまもらざればなり今王の槍と王の枕邊にありし水の瓶はいづくにあるかを見よ 17 サウル、ダビデの聲をしりていひけるはわが子ダビデよ是は爾の聲なるかダビデいひけるは王わが主よわが聲なり 18 ダビデまたいひけるはわが主にゆゑに斯くその僕をおふや我なにをなせしや何の悪き事わが手にあるや 19 王わが主よ請ふいま僕の言を聴きたまへ若しエホバ爾を我に敵せしめたまふならばねがはくはエホバ禮物をうけたまへされど若し人ならばねがはくは其人々エホバのまへののろはれよ其は彼等爾ゆきて他の神につかへよといひて今日我を追いエホバの産業に連なることをえざらしむるが故なり 20 ねがはくは我血をしてエホバのまへをはなれて地におちしむるなかれそは人の山にて鷹鳩をおふがごとくイスラエルの王一の蚤をたづねにいであればなり 21 サウルいひけるは我罪をかせりわが子ダビデよ歸れわが生命今日爾の目に賣と見なされたる故により我々かさねて爾に害を加へざるべし嗚呼われ愚なることをなして甚だしく過てり 22 ダビデこたへていひけるは王よ槍を視よ請ひしめよ 23 ねがはくはエホバのおのに其義と眞實とにしたがひて報いたまへ共はエホバ今日爾をわが手にわたしたまひしに我エホバの受膏者に敵してわが手をのぶることをせざればなり 24 爾の生命を今日わがおもんぜしごとくねがはくはエホバわが生命をおもんじて諸の艱難のうちより我をすくいだしたまへ 25 サウル、ダビデにいひけるはわが子ダビデよ爾はほむべきかな爾大なる事を爲さん亦かならず勝をえんとしかしてダビデは其道にさりサウルはおのれの所にかへり

Chapter 27

1 ダビデ心の中にいひけるは是のごとくば我早晚サウルの手にほろびん速にペリシテ人の地にのがるにまさることならず然らばサウルかさねて我をイスラエルの四方の境にたづめることをやめて我かれの手をのがれんと 2 ダビデたちておのれとともに六百人のものとともにわたりてガテの王マオクの子アキシにいたる 3 ダビデと其従者ガテにてアキシとともに住ておのおの其家族とともにをるダビデはその二人の妻すなはちエズレル人アヒノアムとカルメル人ナバルの妻なりしアビガルとともにあり 4 ダビデのガテにげしとサウルにきこえければサウルかさねてかれをたづねざりき 5 ここにダビデ、アキシにいひけるは我もし爾のまへに恩を得たるならばねがはくは

郷里にある邑のうちにて一のところを我にあたへて其處にすむことを得さしめよ僕なんぞ爾とともに王城にすむべけんやと6アキシ其日チクラグをかれにあたへたり是故にチクラグは今にいたるまでユダの國に屬す7ダビデのペリシテ人の王にをりし日数は一年と四箇月なりき8ダビデ其従者と共にのぼりゲシユル人ゲゼリ人アマレク人を襲ふたり昔よりは等はシユルにいたる地にすみてエジプトの地にまでおよべり9ダビデ其地のうちて男をも女をも生し存さず羊と牛と駱駝と衣服をとりて還りてアキシに至る10アキシいひけるは爾ら今日何地を襲ひしやダビデいひけるはユダの南とエラメル南とケ二人の南をかせりて11ダビデ男も女も生存らしめずして一人をもガテにひきゆかざりき其はダビデ恐くは彼らダビデかくなせりといひて我儕の事を告ぐといひたればなりダビデ、ペリシテ人の地にすめるあひだは其なすところ常にかくのごくなりき12アキシ、ダビデを信じていひけるは彼は其民イスラエルをして全くおのれを悪ましむされば永くわが僕となるべし

Chapter 28

1其頃ペリシテ人イスラエルと戦はんとて軍のために軍勢を集めればアキシ、ダビデにいひけるは爾明かにこれをしれ爾と爾の従者我とともに出て軍にくははるべし2ダビデ、アキシにいひけるはされは爾僕のださんとこそをしるべしとアキシ、ダビデにさば我爾を永く我身をまもる者となさんとはいへり3サムエルすでに死たればイスラエルみなこれをかなしみてこれをそのまぢラマにはうむれりまたサウルは口寄者とト筮師を其地よりおひいだせり4ペリシテ人あつまりきたりてシユネムに陣をとりければサウル、イスラエルを悉くあつめてギルボアに陣をとれり5サウル、ペリシテ人の軍を見しときおそれて其心大にふるへたり6サウル、エホバに問ひけるはエホバ對たまはず夢に因てもウリムによりても預言者によりてもこたへたまはず7サウル僕等にいひけるは口寄の婦を求めよわれそのところにゆきてこれに尋ねんと僕等かれにいひけるは視よエンドンルに口寄の婦あり8サウル形を變へて他の衣服を著二人の人をもなひてゆき彼等夜に間に其婦の所にいたるサウルいひけるは請ふわがために口寄の術をおこなひてわが爾に言ふ人をわれに呼おこせ9婦かれにいひけるはなんぢサウルのなしたる事すなはち如何にかれが口寄者とト筮師を國より斷ざりたるを知る爾なんぞ我を死しめんとてわが生命を亡す謀計をなすや10サウル、エホバを指てかれに誓ひいひけるはエホバは生く此事のためになんぢ罪にあふことあらじ11婦いひけるは誰を我なんぢに呼起すべきかサウルいふサムエルをよびおこせ12婦サムエルを見て大なる聲にてさけびいだせりしかして婦サウルにいひ

けるは爾なにゆゑに我を欺きしや爾はすなはちサウルなり13王かれにいひけるは恐るるなかれ爾なにを見しや婦サウルにいひけるは我神の地よりのぼるを見たり14サウルかれにいひけるは其形容は如何彼いひけるは一人の老翁のぼる其人明衣を衣たりサウル其人のサムエルなるをしりて地にふして拝せり15サムエル、サウルにいひけるは爾なんぞ我をよびおこして我をわづらはすやサウルこたへけるは我いたく悩むべりシテ人我にむかひて軍をおこし又神我をはなれて預言者によりても又夢によりてもふたたび我にこたへたまはずこのゆゑに我なすべき事を爾にまなばんとて爾を呼び16サムエルいひけるはエホバ爾をはなれて爾の敵となりたまふに爾なんぞ我にこふや17エホバわれをもて語りたまひしことをみづから行ひてエホバ國を爾の手より割きはなち爾の隣人ダビデにあたへたまふ18爾エホバの言にしたがはず其烈しき怒をアマレクにもらさざりしによりてエホバ此事を今日爾になしたまふ19エホバ、イスラエルをも爾とともにペリシテ人の手にわたしたまふべし明日爾と爾の子等我とともになるべしまたイスラエルの陣營をもエホバ、ペリシテ人の手にわたしたまはんと20サウル直ちに地に伸びたふれサムエルの言のために痛くおそれ又其力を失へり其はかれ其一日一夜食物食ざりければなり21かの婦サウルにいたり其痛く慄くを見てこれにいひけるは視よ仕女爾の言をききわが生命をかけて爾が我にいひし言にしたがへり22されば請ふ爾も仕女の言を聽て我をして一口のパンを爾のまへにそなへしめよしかして爾くらひて途に就く時力を得よ23されどサウル否みて我は食はじといひしを其僕および婦強ければ其言をききいれて地より立あがり床のうへに坐せり24婦の家に肥たる糞ありしかば急ぎて之を殺した粉をとり擲て酔いれぬパンを炊き25サウルのまへと其僕等のまへに持ちきたりければ彼等くらひて立ちあがり其夜のうちにされり

Chapter 29

1爰にペリシテ人其軍をことごとくアベクにあつむイスラエルはエズレルにある泉水の傍に陣をとる2ペリシテ人の君等あるひは百人或は千人をひきゐて進みダビデと其従者はアキシとともに其後にすむ3ペリシテ人の諸伯いひけるは是等のヘブル人は何なるやアキシ、ペリシテ人の諸伯にいひけるは此はイスラエルの王サウルの僕ダビデにあらずやかれ此日ごろ此年ごろ我とともにをりしがその逃げおちし日より今日にいたるまで我かれの身に咎あるを見ずと4ペリシテ人の諸伯これを怒る即ちペリシテ人の諸伯爾にいひけるは此人をかへらしめて爾が之をおきし其所にふたたびいたらしめよ彼は我らとともに戦ひにくだるべからず然ば彼戦争においてわれらの敵とならざるべしかれ其主と和がんとせば

何をもてすべきやこの人々の首級をもてすべきにあらずや5是はかつて人々が舞踏の中にて歌ひあひサウルは千をうちこるダビデは萬をうちころすといひたるダビデにあらずや6アキシ、ダビデをよびてこれにいひけるはエホバは生くまことになんぢは正し爾の我とともに陣營に出入するはわが目には善と見ゆ其は爾が我に來りし日より今日にいたるまで我爾の身に惡き事あるを見ざればなり然ど諸伯の目には爾よからず7されば今かへりて安かにゆきペリシテ人の諸伯の目に惡く見ゆることをなすなかれ8ダビデ、アキシにいひけるは我何をなせしやわが爾のまへに出し日より今日までに爾何を僕の身に見たればか我ゆきてわが主なるわうの敵とたたかふことをえざると9アキシこたへてダビデにいひけるは我爾のわが目には神の使のごとく善きをしるされどペリシテ人の諸伯かれは我らとともに戦ひにのぼるべからずといへり10されば爾および爾の主の僕爾とともにきたれる者明朝夙く起よ爾ら朝はやくおきて夜のあくに及ばばさるべし11是をもてダビデと其従者ペリシテ人の地にかへらんと朝はやく起てされりしかしてペリシテ人はエズレルにのぼれり

Chapter 30

1ダビデと其従者第三日にチクラグにいたるにアマレク人すでに南の地とチクラグを侵したりかれらチクラグを撃ち火をもて之を熾き2其中に居りし婦女を擄にし老たるをも若きをも一人も殺さずして之をひきて其途におもむけり3ダビデと其従者邑にいたりて視に邑は火に燬けその妻と男子女子は擄にせられたり4ダビデおよびこれとともにある民聲をあげて哭き終に哭く力もなきにいたり5ダビデのふたりの妻すなはちエズレル人アヒノアムとカルメル人ナバルの妻なりしアビガルも虜にせられたり6時にダビデ大に心を苦めたり其は民おのおの其男子女子のために氣をいらだてダビデを石にて撃んといひたればなりされどダビデ其神エホバによりておのれを上げませり7ダビデ、アヒメレクの子祭司アビヤタルにいひけるは請ふエホデを我にもちきたれとアビヤタル、エホデをダビデにもちきたる8ダビデ、エホバに問ていひけるは我此軍の後を追ふべきや我これに追つことをえんかとエホバかれにこたへたまはく追ふべし爾かならず追つてたしかに取もどすことをえん9ダビデおよびこれとともになる六百人の者ゆきてベソル川にいたり後にはこのこれる者はここにどまる10即ちダビデ四百人をひきゐて追ゆしが慙れてベソル川をわたることあたはざる者二百人はどまり11衆人野にて一人のエジプト人を見これダビデにひききたりてこれに食物をあたへければ食へりまたこれに水をのませたり12すなはち一段の乾無花果と二球の乾葡萄をこれにあたへたり

彼くらひて其氣ふたび爽かになれりかれは三日三夜物をもくはず水をものまざりしなり13ダビデかれにいひけるは爾は誰の人なる爾はいづくの者なるやかれいひけるは我はエジプトの少者にて一人のアマレク人の僕なり三日まへに我疾にかかりしゆゑにわが主人我をすてたり14我らケレテ人の南とユダの地とカレブの南ををかした火をもてチクラグをやけり15ダビデかれにいひけるは爾我を此軍にみちびきくだるやかれいひけるは爾我をこらさずまた我をわが主人の手にわたさざるを神をさして我に誓へ我爾を此軍にみちびきくだらん16かれダビデをみちびきくだりしが視よ彼等はペリシテ人の地とユダの地より奪ひたる諸の大なる掠取物のためによるこぼりて飲食し踊りつ地にあまねく散ひろがりて居る17ダビデ暮あひより次日の晩にいたるまでかれらを撃しかば駱駝にりて逃げたる四百人の少者の外は一人もがれたるもの无りき18ダビデはすべてアマレク人の奪ひたる物を取りもどせり其二人の妻もダビデとりもどせり19小きも大なるも男子も女子も掠取物もすべてアマレク人の奪りし物は一も失はずダビデことごとく取かへせり20ダビデまた凡の羊と牛をとり人々この家畜をそのまへに驅きたり是はダビデの掠取物なりといへり21かくてダビデかの慙れてダビデにしたがひ得ずしてベソル川のほとりに止まりし二百人の者のところにいたるに彼らダビデをいでむかへたまふダビデともなる民をいでむかふダビデかの民にちかづきてその安否をたづぬ22ダビデとともにゆきし人々の中の悪く邪なる者みなこたへていひけるは彼等は我らとともにゆかざりければ我らこれに取りもどしたる掠取物をわけあたふべからず唯おのおのにその妻子をあたへてこれをみちびきさらしめん23ダビデ言けるはわが兄弟よエホバ我らをまもり我らにせめきたりし軍を我らの手にわたしたまひたりし軍を我らエホバのわれらにたまひし物をしかするは宜からず24誰か爾らにかかることをゆるさんや戦ひにくだりし者の取る分のごとく輜重のかたはらに止まりし者の取る分もまた然あるべし共にひとしく取るべし25この日よりのちダビデこれをイスラエルの法となし例となせり其事今日にいたる26ダビデ、チクラグにいたりて其掠取物をユダの長老なる其朋友にわかちおくりて曰しめけるは是はエホバの敵よりとりて爾らにおくる饋物なり27ペテルにをるもの南のラモテにをるものヤツテルにをる者28アロエルにをる者シフモテにをるものエシテモにをるもの29ラカルにをるものエラメル人の邑にをるものケ二人の邑にをるもの30ホルマにをるものコラシヤンにをるものアタクにをるもの31ヘブロンにをるものおよびすべてダビデが其従者とともに毎にゆきし所にこれをわかちおくれり

Chapter 31

1ペリシテ人イスラエルと戦ふイスラエルの人々ペリシテ人のまへより逃げ負傷者ギルボア山に斃れたり2ペリシテ人サウルと其子等に攻よりペリシテ人サウルの子ヨナタン、アビナダブおよびマルキシアアを殺したり3戦はげしくサウルにせまりて射手の者サウルを射とめければ彼痛く射手の者のために苦しめり4サウル武器を執る者にいひけるは爾の劍を抜き其をもて我を刺とほせ恐らくは是等の割禮なき者きたりて我を刺し我をばづかしめんと然ども武器をとるもの痛くおそれて背せざればサウル劍をとりて其上に伏したり5武器を執るものサウルの死たるを見ておのれも劍の上にふしてかれとともに死り6かくサウルと其三人の子およびサウルの武器をとるもの並に其従者みな此日俱に死り7イスラエルの人々の谷の對向にをるもの及びヨルダンの對面にをるものイスラエルの人々の逃るを見サウルと其子等の死るをみて諸邑を棄て逃ければペリシテ人きたりて其中にをる8明日ペリシテ人戦没せる者を剥んとてきたりサウルと其三人の子のギルボア山にたふれをるを見たり9彼等すなはちサウルの首を斬り其鎧甲をはぎとりペリシテ人の地の四方につかはして此好報を其偶像の家および民の中につけしむ10またかれら其鎧甲をアシタロテの家におき其體をベテシヤンの城垣に釘けたり11ヤベシギレアデの人々ペリシテ人のサウルにみなしたる事を聞きしかば12勇士みなおこり終夜ゆきてサウルの體と其子等の體をベテシヤンの城垣よりとりおろしヤベシにいたりて之を其處に焚き13其骨をとりてヤベシの柳樹の下にはうむり七日のあひだ斷食せり

サムエル記

Chapter 1

1サウルの死し後ダビデ、アマレク人を撃てかへりチクラグに二日とどまりけるが2第三日に及びて一個の人其衣を裂き頭に土をかむりて陣營より即ちサウルの所より來りダビデの許にいたり地にふして拝せり3ダビデかれにいひけるは汝いづくより來れるやかれダビデにいひけるはイスラエルの陣營より逃れきたれり4ダビデかれにいひけるは事いかん請ふ我につげよかれこたへけるは民戦に敗れて逃げ民おほく仆れて死りまたサウルと其子ヨナタンも死り5ダビデ其おのれにつぐる少者にいひけるは汝いかにしてサウルと其子ヨナタンの死たるをせるや6ダビデにつぐる少者いひけるは我はからずもギルボア山にのぼり見しにサウル其槍に倚かりをりて戦車と騎兵かれにせめよらんとせり7彼うろたひにふりむきて我を見我をよびたれば我こた

へて我ここにありといふ8かれ我に汝は誰なるやといひければ我かれにこたへて我はアマレク人なりといふ9かれまた我にいひけるはわが身いたく攀ば請ふ我うへにのりて我をこそせわが生命なほわれの中にまつたければなりと10我すなはちかれの上のりてかれを殺したり其は我かれが既に仆て生ることをえざるをしりたればなりしかして我その首にありし冕とその腕にありし釧を取りてこれをわが主に携へきたれり11是においてダビデおのれの衣を執てこれを裂けりまた彼とともにある者も皆しかせり12彼等サウルのためまた其子ヨナタンのためまたエホバの民のためイスラエルの家のために哭きかなしみて晩まで食を斷り其は彼ら劍にたふれたればなり13ダビデおのれに告し少者にいひけるは汝は何處の者なるやかれこたへけるは我は他國の人すなはちアマレク人なりと14ダビデかれにいひけるは汝なんぞ手をのばしてエホバの言そそぎし者こそすことを見ざりしやと15ダビデ一人の少者をよびていひけるは近よりてかれをこそせとすなはちかれをうちければ死り16ダビデかれにいひけるは汝の血は汝の首に歸せよ其は汝口づから我エホバのあぶらそそぎし者こそせりといひて己にむかひて證をたつればなり17ダビデ悲歌をもてサウルと其子ヨナタンを吊ふ18ダビデ命じてこれをユダの族にをしへしむ即ち弓の歌なり是はヤシル書に記さる19イスラエルよ汝の榮耀は汝の崇邱に殺さる嗚呼勇士は仆れたるかな20此事をガテに告るなかれアシケロンの邑に傳るなかれ恐くはペリシテ人の女等喜ばん恐くは割禮を受ざる者の女等樂み祝はん21ギルボア山の山嶺は汝の上に雨露降ることあらざれば供物の田園もあらざれば其は彼處に勇士の干棄らるればなり即ちサウルの干膏を沃がずして彼處に棄らる22殺せし者の血をのますてヨナタンの弓は退かず勇士の脂を食すてサウルの劍は空く歸らず23サウルとヨナタンは愛らしく樂げにして生死ともに離れず二人は驚よりも捷く獅子よりも強かりき24イスラエルの女等よサウルのために哀けサウルは絳き衣をもて汝等を華麗に粧ひ金の飾を汝等の衣に着たり25嗚呼勇士は戦の中に仆たるかなヨナタン汝の崇邱に殺されぬ26兄弟ヨナタンよ我汝のために悲慟む汝は大に我に樂き者なりき汝の我をいつくしめる愛は尋常ならず婦の愛にも勝りたり27嗚呼勇士は仆たるかな戦の具は失たるかな

Chapter 2

1此のちダビデ、エホバに問ていひけるは我ユダのひとつの邑にのぼるべきやエホバかれにいひたまひけるはのぼれダビデいひけるは何處にのぼるべきやエホバいひたまひけるはヘブロンにのぼるべしと2ダビデすなはち彼處にのぼれりその二人の妻エズレル人アヒノアムおよびカ

ルメル人ナバルの妻なりシアビガルもともにのぼれり3ダビデ其おのれとともにありし従者と其家族をことごとく將のぼりければ皆ヘブロンの諸巴にすめり4時にユダの人々きたり彼處にてダビデに膏をそそぎてユダの家王となせり人々ダビデにつけてサウルを葬りしはヤベシギレアデの人なりといひければ5ダビデ使者をヤベシギレアデの人におくりてこれにいひけるは汝らこの厚意を汝らの主サウルにあらはしてかれを葬りたればねがはくは汝らエホバより福祉をえよ6ねがはくはエホバ恩寵と眞實を汝等にしめしたまへ汝らこの事をなしたるにより我亦汝らに此恩恵をしめすなり7されば汝ら手をつよくして勇ましくなれ汝らの主サウルは死たり又ユダの家我に膏をそそぎて我をかれらの王となしたればなりと8爰にサウルの軍の長ネルの子アブネル、サウルの子イシボセテを取りてこれをマナイムにみちびきわたり9ギレアデとアシウリ人とエズレルとエフライムとベニヤミンとイスラエルの衆の王となせり10サウルの子イシボセテはイスラエルの王となりし時四十歳にして二年のあひだ位にありしがユダの家はダビデにしたがへり11ダビデのヘブロンにありてユダの家王たりし日數は七年と六ヶ月なりき12ネルの子アブネル及びサウルの子なるイシボセテの臣僕等マハナイムを出てギベオンに至り13セルヤの子ヨアブとダビデの臣僕もいでゆけり彼らギベオンの池の傍に出會一方は池の此畔に一方は池の彼岸に坐す14アブネル、ヨアブにいひけるはいざ少者をして起て我らのまへに戯れしめんヨアブいひけるは起しめんと15サウルの子イシボセテに屬するベニヤミンの人其數十二人及びダビデの臣僕十二人起て前み16おのおの其敵手の首を執へて劍を其敵手の脅に刺し斯して彼等俱に斃れたり是故に其處はヘルカテハツリム(利劍の地)と稱する即ちギベオンにあり17此日戰甚だ烈しくしてアブネルとイスラエルの人々ダビデの臣僕のまへに敗る18其處にゼルヤの三人の子ヨアブ、アビシヤイ、アサヘル居たりしがアサヘルは疾足なること野にをる鷹のごとくなりき19アサヘル、アブネルの後を追ひけるが行に右左にまがらずアブネルの後をしたふ20アブネル後を顧みていふ汝はアサヘルなるか彼しかりと答ふ21アブネルかれにいひけるは汝の右か左に轉向て少者の一人を擒へて其戎服を取れと然どアサヘル、アブネルをおふことを罷て外に向ふを肯せず22アブネルふたたびアサヘルにいふ汝我を追ことをやめて外に向へなんぞ汝を地に撃ち仆すべけんや然せば我いかでかわが面を汝の兄ヨアブにむくべかと23然どもかれ外にむかふことをいなむによりアブネル槍の後鋒をもてかれの腹を刺しければ槍その背後にいでたりかれ其處にたふれて立時に死り斯しかばアサヘルの仆れて死るところに來る者は皆たちどまり24されどヨアブとアビシヤイはアブネルの後を追きたりしが

ギベオンの野の道傍にギアの前にあるアンマの山にいたれる時日暮ぬ25ベニヤミンの子孫アブネルにしたがひて集まり一隊となりてひとつの山の頂にたてり26爰にアブネル、ヨアブをよびていひけるは刀劍豈永久にほろぼさんや汝其終りには怨恨を結ぶにいたるをしらざるや汝何時まで民に其兄弟を追ふことをやめてかへることを命ぜざるや27ヨアブいひけるは神は活く若し汝が言出さざりしならば民はおのおの其兄弟を追はずして今晨のうちにさりゆきしならんと28かくてヨアブ喇叭を吹きければ民皆たちどまりて再イスラエルの後を追はずまたかさねて戰はざりき29アブネルと其従者終夜アラバを經ゆきてヨルダンを濟りピテロンを通りてマハナイムに至れり30ヨアブ、アブネルを追ことをやめて歸り民をことごとく集めたるにダビデの臣僕十九人とアサヘル缺てをらざりき31されどダビデの臣僕はベニヤミンとアブネルの従者三百六十人を撃ち殺せり32人々アサヘルを取りあげてベテレヘムにある其父の墓に葬るヨアブと其従者は終夜ゆきて黎明にヘブロンにいたり

Chapter 3

1サウルの家とダビデの家の間の戦争久しかりしがダビデは益強くなりサウルの家はますます弱くなれり2ヘブロンにてダビデに男子等生る其首出の子はアムノンといひてエズレル人アヒノアムより生る3其次はギレアデといひてカルメル人ナバルの妻なりシアビガルより生る第三はアサラムといひてゲシユルの王タルマイの女子マアカの子なり4第四はアドニヤといひてハギテの子なり第五はシバテヤといひてアビタルの子なり5第六はイテレヤムといひてダビデの妻エグラの子なり是等の子ヘブロンにてダビデに生る6サウルの家とダビデの家の間に戦争ありし間アブネルは堅くサウルの家に荷擔り7嚮にサウル一人の妾を有り其名をリツパといふアヤの女なり爰にイシボセテ、アブネルにいひけるは汝何ぞわが父の妾に通じたるや8アブネル甚しくイシボセテの言を怒りていひけるは我今日汝の父サウルの家とその兄弟とその朋友に厚意をあらはし汝をダビデの手にわたさざるに汝今日婦人の過を擧て我を責む我あに犬の首ならんやユダにくみする者ならんや9神アブネルに斯なしたまかさねて斯なしたまへエホバのダビデに誓ひたまひしごとく我かれに然すべし10即ち國をサウルの家より移しダビデの位をダンよりエルシバにいたるまでイスラエルとユダの上にたてん11イシボセテ、アブネルを恐れたればかさねて一言も之にこたふるをえざりき12アブネルおのれの代に使者をダビデにつかはしていひけるは此地は誰の所有なるや又いひけるは汝我と契約を爲せ我力を汝に添へてイスラエルを悉く汝に歸せしめん13ダビデいひけるは善し我汝と契約をなさん但し我一

の事を汝に索む即ち汝来りてわが面を覲る時先づサウルの女ミカルを携きたらざれば我面を覲るを得じと 14 ダビデ使者をサウルの子イシボセテに遣していひけるはわがペリシテ人の陽皮一布を以て聘たるわが妻ミカルを我に交すべし 15 イシボセテ人をつかはしてかれを其夫ライシの子パルテより取しかば 16 其夫哭つて歩みて其後にしたがひて俱にバホルムにいたりしがアブネルかれに歸り往けといひければすなはち歸りぬ 17 アブネル、イスラエルの長老等と語りていひけるは汝ら前よりダビデを汝らの王となさんことを求め居たり 18 されば今これをなすべし其はエホバ、ダビデに付て語りて我わが僕ダビデの手を以てわが民イスラエルをペリシテ人の手よりまたその諸の敵の手より救ひいださんといひたまひたればなりと 19 アブネル亦ベニヤミンの耳に語りしかしてアブネル自らイスラエルおよびベニヤミンの全家の善とおもふ所をヘブロンにてダビデの耳に告ぐとて往り 20 すなはちアブネル二十人をしてがへてヘブロンにゆきてダビデの許にいたりければダビデ、アブネルと其したがへる従者のために酒宴を設けたり 21 アブネル、ダビデにいひけるは我起てゆきイスラエルをことごとくわが主王の所に集めて彼等に汝と契約を立しめ汝をして心の望む所の者をことごとく治むるにいたらしめんと是においてダビデ、アブネルを歸してかれ安んじ去り 22 時にダビデの臣僕およびヨアブの國を侵して歸り大なる掠取物を携へきたれり然どアブネルはダビデとともにヘブロンにはをらざりき其はダビデかれを歸してかれ安んじ去りたればなり 23 ヨアブおよびともにありし軍兵皆かへりきたりしとき人々ヨアブに告いでいひけるはネルの子アブネル王の所にきたりしが王かれを返してかれ安んじ去れりと 24 ヨアブ王に詣りていひけるは汝何を爲したるやアブネル汝の所にきたりしに汝何故にかれを返して去ゆかしめしや 25 汝ネルの子アブネルが汝を誑かさんとてきたり汝の出入を知りまた汝のすべて爲す所を知んために来りしを知ると 26 かくてヨアブ、ダビデの所より出れり使者をつかはしてアブネルを追しめたれば使者シラの井よりかれを將返れりされどダビデは知ざりき 27 アブネル、ヘブロンに返りしかばヨアブ彼と密に語らんとてかれを門の内に引きゆき其處にてその腹を刺てこれを殺し己の兄弟アサヘルを殺すをくいたり 28 其後ダビデ聞いていひけるは我と我國はネルの子アブネルの血につきてエホバのまへに永く罪あることなし 29 其罪はヨアブの首と其父の全家に歸せよぬがはくはヨアブの家には白濁を疾ものか癩病人か杖に倚ものか劍に仆るものか食物に乏しき者が絶ゆることあらざれと 30 ヨアブとその弟アビシヤイのアブネルを殺したるは彼がギベオンにて戦陣のうちにおのれの兄弟アサヘルをころせしにより 31 ダビデ、ヨアブおよびおのれとともにある民にいひけるは汝らの衣服を裂

き麻の衣を着てアブネルのために哀哭くべしとダビデ王其棺にしたがふ 32 人衆アブネルをヘブロンに葬れり王聲をあげてアブネルの墓に哭き又民みな哭けり 33 王アブネルの爲に悲の歌を作りて云くアブネル如何にして愚なる人の如くに死けん 34 汝の手は縛もあらず汝の足は鏈にも繫れざりしものを嗚呼汝は悪人のために仆る人のごとくにたふれたり斯て民皆再びかれのために哭けり 35 民みな日のあるうちにダビデにパンを食はしめんとて来りしにダビデ誓ひていひけるは若し日の没まへに我パンにても何にても味ひなば神我にかくなし又重ねて斯なしたまへと 36 民皆見て之を其目に善しとせり凡て王の爲すところの事は皆民の目に善と見えたり 37 其日民すなはちイスラエル皆ネルの子アブネルを殺たるは王の所爲にあらざるを知れり 38 王その臣僕にいひけるは今日一人の大將大人イスラエルに斃る汝らこれをしらざるや 39 我は膏そがれし王なれども今日尚弱しゼルヤの子等なる此等の人我には制しがたしエホバ惡をおこな者に其惡に隨ひて報いたまはん

Chapter 4

1 サウルの子はアブネルのヘブロンにて死たるを聞きしかば其手弱くなりてイスラエルみな憂へたり 2 サウルの子隊長二人を有てり其一人をバアナといひ一人をレカブといふベニヤミンの支派なるペロテ人リンモンの子等なり其はペロテも亦ベニヤミンの中に數らるればなり 3 昔にペロテ人ギツタイムに逃遁れて今日にいたるまで彼處に旅人となりて止まる 4 サウルの子ヨナタンに跛足の子一人ありエズレルよりサウルとヨナタンの事の報いたりし時には五歳なりき其乳媪かれを抱きて逃れたりしが急ぎ逃る時其子墮て跛者となれり其名をメビボセテといふ 5 ペロテ人リンモンの子レカブとバアナゆきて日の熱き頃イシボセテの家においたるにイシボセテ午睡し居たり 6 かれら麥を取らんとて家の中に入りきたりかれの腹を刺りし中にレカブと其兄弟バアナ逃げさりぬ 7 彼等が家にいりしときイシボセテは其寢室にありて床の上に寝たりかれら即ちこれをうちころしこれを誑りて其首級をとり終夜アラバの道ゆきて 8 イシボセテの首級をヘブロンにダビデの許に携へたりて王にいひけるは汝の生命を求めたる汝の敵サウルの子イシボセテの首を視よエホバ今日我主なる王の仇をサウルと其裔に報いたまへりと 9 ダビデ、ペロテ人リンモンの子レカブと其兄弟バアナに答へていひけるはわが生命を諸の艱難の中に救ひたまひしエホバは生く 10 我は嘗て人の我に告て視よサウルは死りと言ひて自ら我に善き事を傳ふる者と思ひをりしを執てこれをチクラグに殺し其消息に報いたり 11 況や悪人の義人を其家の床の上に殺したるをやされば我彼の血をながせる罪を汝らに報い汝らをこの

地より絶ざるべけんやと 12 ダビデ少者に命じければ少者かれらを殺して其手足を切離しヘブロンの上の池の上に懸たり又イシボセテの首を取りてヘブロンにあるアブネルの墓に葬れり

Chapter 5

1 爰にイスラエルの支派咸くヘブロンにきたりダビデにいたりていひけるは視よ我儕は汝の骨肉なり 2 前にサウルが我儕の王たりし時にも汝はイスラエルを率ゐて出入する者なりきしかしてエホバ汝に汝わが民イスラエルを牧養はん汝イスラエルの君長とならんといひたまへりと 3 斯くイスラエルの長老皆ヘブロンにきたり王に詣りければダビデ王ヘブロンにてエホバのまへにかれらと契約をたてたり彼らすなはちダビデに膏を灑てイスラエルの王となす 4 ダビデは王となりし時三十歳にして四十年の間位に在き 5 即ちヘブロンにてユダを治むること七年と六箇月またエルサレムにてイスラエルとユダを全く治むること三十三年なり 6 茲に王其従者とともにエルサレムに往き其地の居民エブス人を攻んとすエブス人ダビデに語りていひけるは汝此に入るに能はざるべし反て盲者跛者汝を追はらんと是彼らダビデ此に入るにあはずと思へるなり 7 然るにダビデ、シオンの要害を取り是即ちダビデの城邑なり 8 ダビデ其日いひけるは誰にても水道にいたりてエブス人を撃ちまたダビデの心の惡める跛者と盲者を撃つ者は(首となし長となさん)と是によりて人々盲者と跛者は家に入るべからずといひなせり 9 ダビデ其要害に住て之をダビデの城邑と名けたりまたダビデ、ミロ(城塞)より内の四方に建築をなせり 10 かくてダビデはますます大に成りゆき且萬軍の神エホバこれにいませり 11 ツロの王ヒラム使者をダビデに遣はして香柏および木匠と石工をおくれり彼らダビデの爲に家を建つ 12 ダビデ、エホバのかたく己をたててイスラエルの王となしたまへるを曉りまたエホバの其民イスラエルのために其國を興したまひしを曉れり 13 ダビデ、ヘブロンより來りし後エルサレムの中よりまた妾と妻を納たれば男子女子またダビデに生る 14 エルサレムにて彼に生れたる者の名はかくのごとしシヤンマ、シヨバブ、ナタン、ソロモン 15 イブハル、エリシユア、ネベグ、ヤビア 16 エリシヤマ、エリアダ、エリパレテ 17 爰に膏を洗いでダビデをイスラエルの王と爲し事ペリシテ人に聞えければペリシテ人皆ダビデを獲んとて上るダビデ聞て要害に下れり 18 ペリシテ人臻りてレバイムの谷に布き備たり 19 ダビデ、エホバに問ていひけるは我ペリシテ人にむかひて上るべきや汝かれらをわが手に付したまふやエホバ、ダビデにいひたまひけるは上れ我必ずペリシテ人を汝の手にわたさん 20 ダビデ、バアルペラジムに至りかれらを其所に撃ていひけるはエホバ水の破壊

り出ること我敵をわが前に破壊りたまへりと是故に其所の名をバアルペラジム(破壊の處)と呼ぶ 21 彼處に彼等其偶像を遣たればダビデと其従者これを取あげたり 22 ペリシテ人再び上りてレバイムの谷に布き備へたれば 23 ダビデ、エホバに問にエホバいひたまひけるは上るべからず彼等の後にまはりベカカの樹の方より彼等を襲へ 24 汝ベカカの樹の上に進行の音を聞はずなけち突出づべし其時はエホバ汝のまへにいでてペリシテ人の軍を撃たまふべければなりと 25 ダビデ、エホバのおのれに命じたまひしごとくなしペリシテ人を撃てガバよりガゼルにいたる

Chapter 6

1 ダビデ再びイスラエルの選抜の兵士三萬人を悉く集む 2 ダビデ起ておのれと共にをる民とともにバアルレグダに往て神の櫃を其處より昇上らんとす其櫃はケルビムの上に坐したまふ萬軍のエホバの名をもて呼る 3 すなはち神の櫃を新しき車に載せて山にあるアビナダブの家より昇だせり 4 アビナダブの子ウザとアヒオ神の櫃を載たる其新しき車を御しアヒオは櫃のまへにゆけり 5 ダビデおよびイスラエルの全家琴と瑟と鼈と鈴と鍍鍔をもちて方を極め謡を歌ひてエホバのまへに躍躍り 6 彼等がナコンの禾場にいたれる時ウザ手を神の櫃に伸してこれを扶へたり其は牛振たればなり 7 エホバ、ウザにむかひて怒りを發し其誤謬のために彼を其處に撃ちたまひければ彼そこに神の櫃の傍に死ねり 8 エホバ、ウザを撃ちたまひしによりてダビデ怒り其處をベレツウザ(ウザ撃)と呼り其名今日にいたる 9 其日ダビデ、エホバを畏れていひけるはエホバの櫃いかで我所にいたるべけんやと 10 ダビデ、エホバの櫃を己に移してダビデの城邑にいらしむるを好まず之を轉してガテ人オベデエドムの家においたらしむ 11 エホバの櫃ガテ人オベデエドムの家に在ること三月なりきエホバ、オベデエドムと其全家を恵みたまふ 12 エホバ神の櫃のためにオベデエドムの家と其所有を皆恵みたまふといふ事ダビデ王に聞えければダビデゆきて喜樂をもて神の櫃をオベデエドムの家よりダビデの城邑に昇上れり 13 エホバの櫃を昇る六歩行(ゆき)たる時ダビデ牛と肥たる者を献げたり 14 ダビデ力を極めてエホバの前に踊躍り時にダビデ布のエボデを著け居たり 15 ダビデおよびイスラエルの全家歡呼と喇叭の聲をもてエホバの櫃を昇のほれり 16 神の櫃ダビデの城邑にいらしむ時サウルの女ミカル愈より窺ひてダビデ王のエホバのまへに舞躍るを見其心にダビデを蔑視む 17 人々エホバの櫃を昇てこれをダビデが其爲に張たる天幕の中なる其所に置りしかしてダビデ燔祭と酬恩祭をエホバのまへに献げたり 18 ダビデ燔祭と酬恩祭を献ぐることを終し時萬軍のエホバの

名を以て民を祝せり 19 また民の中即ちイスラエルの衆庶の中に男にも女にも俱にパン一箇肉一斤乾葡萄一塊を分ちあたへたり斯て民皆おのおの其家にかへりぬ 20 爰にダビデ其家族を祝せんとて歸りしかばサウルの女ミカル、ダビデを以てかへりていひけるはイスラエルの王今日如何に威光ありしや自ら遊蕩者の其身を露すがごとく今日其臣僕の婢女のまへに其身を露したまへり 21 ダビデ、ミカルにいふ我はエホバのまへに即ち汝の父よりもまたその全家よりも我を選びて我をエホバの民イスラエルの首長に命じたまへるエホバのまへに躍れり 22 我は此よりも尚鄙からんまたみづから賤しと思はん汝が語る婢女等とともにありて我は尊榮をえんと 23 是故にサウルの女ミカルは死ぬる日まで子あらざりき

Chapter 7

1 王其家に住にいて且エホバ其四方の敵を壊てかれを安らかならしめたまひし時 2 王預言者ナタンに云けるは視よ我は香柏の家に住む然ども神の櫃は幔幕の中にあり 3 ナタン王に云けるはエホバ汝と共に在せば往て凡て汝の心にあるところを爲せ 4 其夜エホバの言ナタンに臨みていはく 5 往てわが僕ダビデに言へエホバ斯く言ふ汝わがために我の住むべき家を建んとするや 6 我はイスラエルの子孫をエジプトより導き出せし時より今日にいたるまで家に住しことなくして但天幕と幕屋の中に歩み居たり 7 我イスラエルの子孫と共に凡て歩める處にて汝ら何故に我に香柏の家を建ざるやとわが命じてわが民イスラエルを牧養しめしイスラエルの士師の一人に一言も語りしことあるや 8 然ば汝わが僕ダビデに斯く言ふべし萬軍のエホバ斯く言ふ我汝を牧場より取り羊に隨ふ所より取りてわが民イスラエルの首長となし 9 汝がすべて往くところにて汝と共にあり汝の諸の敵を汝の前より斷さりて汝の上の大名なる者の名のごとく汝に大なる名を得させたり 10 又我わが民イスラエルのために處を定めてかれらを植つけかれらをして自己の處に住て重て動くことなからしめたり 11 また惡人昔のごとくまたわが民イスラエルの上に士師を立てたる時よりの如くふたたび之を惱ますことなかるべし我汝の諸の敵をやぶりて汝を安かならしめたり又エホバ汝に告ぐエホバ汝のために家をたてん 12 汝の日の満て汝が汝の父祖等と共に寝らるる後に我汝の身より出る汝の種子を汝の後にたてて其國を堅うせん 13 彼わが名のために家を建ん我永く其國の位を堅うせん 14 我はかれの父となり彼はわが子となるべし彼も以て之を懲さん 15 されど我の恩恵はわが汝のまへより除きしサウルより離れたるごとくに彼よりは離ることあらじ 16 汝の家と汝の國は汝のまへに永く保つべし汝の

位は永く堅うせらるべし 17 ナタン凡て是等の言のごとくまたすべてこの異象のごとくダビデに語りければ 18 ダビデ王入りてエホバの前に坐していひけるは主エホバよ我は誰わが家は何なればか爾此まで我を導きたまひしや 19 主エホバよ此はなほ汝の目には小き事なり汝また僕の家の遙か後の事を語りたまへり主エホバよ是は人の法なり 20 ダビデ此上何を汝に言ふを得ん其は主エホバ汝僕を知らまへばなり 21 汝の言のためまた汝の心に隨ひて汝此諸の大なることを爲し僕に之をしらしめたまふ 22 故に神エホバよ爾は大なり其は我らが凡て耳に聞る所に依ば汝の如き者なくまた汝の外に神なければなり 23 地の何れの國か汝の民イスラエルの如くなる其は神ゆきてかれらを贖ひ己の民となして大なる名を得たまひまた彼らの爲に大なる畏るべき事を爲したまへばなり即ち汝がエジプトより贖ひ取たまひし民の前より國々の人と其諸神を逐拂ひたまへり 24 汝は汝の民イスラエルをかぎりなく汝の民として汝に定めたまへりエホバよ汝はかれの神となりたまふ 25 されば神エホバよ汝が僕と其家につきて語りたまひし言を永く堅うして汝のいひしごとく爲たまへ 26 ねがはくは永久に汝の名を崇めて萬軍のエホバはイスラエルの神なりと曰しめたまへねがはくは僕ダビデの家をして汝のまへに堅く立しめたまへ 27 其は萬軍のエホバ、イスラエルの神よ汝僕の耳に示して我汝に家をたてんと言たまひたればなり是故に僕此祈禱を汝に爲す道を心の中に得たり 28 主エホバよ汝は神なり汝の言は眞なり汝この恵を僕に語りたまへり 29 願くは僕の家を祝福て汝のまへに永く続くことを得させたまへ其は主エホバ汝これを語りたまへばなりねがはくは汝の祝福によりて僕の家に永く祝福を蒙らしめたまへ

Chapter 8

1 此後ダビデ、ベリシテ人を撃てこれを服すダビデまたベリシテ人の手よりメテグアンマをとり 2 ダビデまたモアブを撃ち彼らをして地に伏しめ繩をもてかれらを度れり即ち二條の繩をもて死す者を度り一條の繩をもて生しおく者を量るモアブ人は貢物を納てダビデの臣僕となれり 3 ダビデまたレホブの子なるゾバの王ハダデゼルがユフラテ河の邊にて其勢を新にせんとして往るを撃り 4 しかしてダビデ彼より騎兵千七百人歩兵二萬人を取りまたダビデ一の車の馬を存して其餘の車馬は皆其筋を切斷り 5 ダマスコのスリア人ゾバの王ハダデゼルを援んとて來りければダビデ、スリア人二萬二千を殺せり 6 しかしてダビデ、ダマスコのスリアに代官を置きぬスリア人は貢物を納てダビデの臣僕となれりエホバ、ダビデを凡て其往く所に助けたまへり 7 ダビデ、ハダデゼルの臣僕等の持る金の桶を奪ひてこれをエルサレムに携きたる 8 ダビデ王又ハダデゼルの邑ベタとベロタより甚だ

多くの銅を取り 9 時にハマテの王トイ、ダビデがハダデゼルの總の軍を撃破りしを聞て 10 トイ其子ヨラムをダビデ王につかはし安否を問ひかつ祝を宣しむ其はハダデゼル嘗てトイと戦を爲したるにダビデ、ハダデゼルとたたかひてこれを撃やぶりたればなりヨラム銀の器と金の器と銅の器を携へ來りければ 11 ダビデ王其攻め伏せたる諸の國民の中より取りて納めたる金銀と共に是等をモエホバに納めたり 12 即ちエドムよりモアブよりアンモンの子孫よりベリシテ人よりアマレクよりえたる物およびゾバの王レホブの子ハダデゼルより得たる掠取物とともにこれを納めたり 13 ダビデ鹽谷にてエドム人一萬八千を撃て歸て名譽を得たり 14 ダビデ、エドムに代官を置り即ちエドムの全地に徧く代官を置てエドム人は皆ダビデの臣僕となれりエホバ、ダビデを凡て其往くところにて助け給へり 15 ダビデ、イスラエルの全地を治め其民に公道と正義を行ふ 16 ゼルヤの子ヨアブは軍の長アヒルデの子ヨシヤバテは史官 17 アヒトプの子ザドクとアビヤタルの子アヒメレクは祭司セラヤは書記官 18 エホヤダの子ベナヤはケレテ人およびベレテ人の長ダビデの子等は大臣なりき

Chapter 9

1 爰にダビデいひけるはサウルの家の遺存れる者尚あるや我ヨナタンの爲に其人に恩恵をほどこさんと 2 サウルの家の僕なるチバと名くる者ありければかれをダビデの許に召きたるに王かれにいひけるは汝はチバナるか彼いふ僕是なり 3 王いひけるは尚サウルの家の者あるか我其人に神の恩恵をほどこさんとすチバ王にいひけるはヨナタンの子尚あり跛足なり 4 王かれにいひけるは其人は何處に在るやチバ王にいひけるはロデバルにてアンミエルの子マキルの家に在る 5 ダビデ王人を遣はしてロデバルより即ちアンミエルの子マキルの家よりかれを携來らしむ 6 サウルの子ヨナタンの子なるメビボセテ、ダビデの所に來り伏て拜せりダビデ、メビボセテよといひければ答て僕此にありと曰ふ 7 ダビデかれにいひけるは恐るなかれ我必ず汝の父ヨナタンの爲に恩恵を汝にしめさん我汝の父サウルの地を悉く汝に復すべし又汝は恒に我席において食ふべしと 8 かれ拜して言けるは僕何なればか汝死たる犬のごとき我を眷顧たまふ 9 王サウルの僕チバを呼てこれにいひけるは凡てサウルとその家の物は我皆汝の主の子にあたへたり 10 汝と汝の汝等と汝の僕かれのため地に地を耕へして汝の主人の子に食ふべき食物を取りきたるべし但し汝の主人の子メビボセテは恒に我席において食ふべしとチバは十五人の子と二十人の僕あり 11 チバ王にいひけるは總て王わが主の僕に命じたまひしごとく僕なすべしとメビボセテは王の子の一人のごとくダビデの席にて食へり 12 メビボセテに一人の若

き子あり其名をミカといふチバの家に住る者は皆メビボセテの僕なりき 13 メビボセテはエルサレムに住みたり其はかれ恒に王の席にて食ひたればなりかれは兩の足ともに跛たる者なり

Chapter 10

1 此後アンモンの子孫の王死て其子ハヌン之に代りて位に即く 2 ダビデ我ナハシの子ハヌンにその父の我に恩恵を示せしごとく恩恵を示さんといひてダビデかれを其父の故によりて慰めんとして其僕を遣りてダビデの僕アンモンの子孫の地にいたるに 3 アンモンの子孫の諸伯其主ハヌンにいひけるはダビデ慰者を汝に遣はしたるによりて彼汝の父を崇むと汝の目に見ゆるやダビデ此城邑を窺ひこれを探りて陥れんために其僕を汝に遣はせるにあらざるや 4 是においてハヌン、ダビデの僕を執へ其鬚の半を剃り落し其衣服を中より斷て股までにしてこれを歸せり 5 人々これをダビデに告ればダビデ人を遣はしてかれらを迎へしむ其人々々に恥たればなり即ち王いふ汝ら鬚の長るまでアリコに止まりて然るのち歸るべしと 6 アンモンの子孫自己のダビデに惡まるるを見しかばアンモンの子孫人を遣はしてベレテホブのスリア人とゾバのスリア人の歩兵二萬人およびマアカの王より一千人トブの人より一萬二千人を雇いれたり 7 ダビデ聞てヨアブと勇士の惣軍を遣はせり 8 アンモンの子孫出て門の入口に軍の陣列をなしたりゾバとレホブのスリア人およびトブの人とマアカの人は別に野に居り 9 ヨアブ戦の前後より己に向ふを見てイスラエルの選抜の兵の中を選びてこれをスリア人に對ひて備へしめ 10 其餘の民をば其兄弟アビシヤイの手に交してアンモンの子孫に向て備へしめて 11 いひけるは若スリア人我に手強からば汝我を助けよ若アンモンの子孫汝に手剛からば我ゆきて汝をたすけん 12 汝勇ましくなれよ我ら民のためとわれらの神の諸邑のために勇しくわねがはくはエホバ其目によしと見ゆるところをなしたまへ 13 ヨアブ己と共に在る民と共にスリア人にむかひて戦んとて近づきければスリア人彼のまへより逃たり 14 アンモンの子孫スリア人の逃たるを見て亦自己等もアビシヤイのまへより逃て城邑にいりぬヨアブすなはちアンモンの子孫の所より還りてエルサレムにいたる 15 スリア人其イスラエルのまへに敗れたるを見て俱にあつまれり 16 ハダデゼル人をやりて河の河岸に在るスリア人を將み出でて皆ヘラムにきたらしむハダデゼルの軍の長シヨバクかれらを率ゐたり 17 其事ダビデに聞えければ彼イスラエルを悉く集めてヨルダンを涉りてヘラムに來りてスリア人ダビデに向ひて備へると戦ふ 18 スリア人イスラエルのまへより逃ければダビデ、スリアの兵車の人七百騎兵四萬を殺し又其軍の長シヨバクを撃てこれを其所に死しめたり 19 ハダデゼルの

臣なる王等其イスラエルのまへに壞れたるを見てイスラエルと平和をなして之に事へたりススリア人は恐れて再びアンモンの子孫を助くることをせざりき

Chapter 11

1年歸りて王等の戦に出る時におよびてダビデ、ヨアブおよび自己の臣僕並にイスラエルの全軍を遣はせり彼等アンモンの子孫を滅ぼしてラバを圍めりされどダビデはエルサレムに止りぬ 2爰に夕暮にダビデ其床より興きいでて王の家の屋蓋のうへに歩みしが屋蓋より一人の婦人の體をあらふを見たり其婦は觀るに甚だ美し 3ダビデ人を遣して婦人を探らしめしに或人いふ此はエリアムの女ハテシバにてヘテ人ウリヤの妻なるにあらざるや 4ダビデ乃ち使者を遣はして其婦を取る婦彼に來りて彼婦と寝たりしかして婦其不潔を清めて家に歸りぬ 5かくて婦孕みければ人をつかはしてダビデに告いでひけるは我子を孕めりと 6是においてダビデ人をヨアブにつかはしてヘテ人ウリヤを我に遣はせといひければヨアブ、ウリヤをダビデに遣はせり 7ウリヤ、ダビデにいたりしかばダビデこれにヨアブの如何なると民の如何なると戦争の如何なるを問ふ 8しかしてダビデ、ウリヤにいひけるは汝の家に下りて足を洗へとウリヤ王の家を出るに王の贈物其後に從ひてきたる 9然どウリヤは王の家の門に其主の僕等とともに寝ておのれの家にくだりいたらず 10人々ダビデに告てウリヤ其家にくだり至らずといひければダビデ、ウリヤにいひけるは汝は旅路をなして來れるにあらざるや何故に自己の家にくだらざるや 11ウリヤ、ダビデにいひけるは櫃とイスラエルとユダは小屋の中に住まりわが主ヨアブとわが主の僕は野の表に陣を取るに我いかでわが家にゆきて食ひ飲ました妻と寝べけんや汝は生きた汝の靈魂は活く我此事をなさじ 12ダビデ、ウリヤにいふ今日も此にどまれ明日我汝を去しめんとウリヤ其日と次日エルサレムにとどまりしが 13ダビデかれを召て其まへに食ひ飲せしめダビデかれを酔しめたり晩にいたりて彼出て其床に其主の僕と共に寝たりされどおのれの家にはくだりゆかざりき 14朝におよびてダビデ、ヨアブへの書を認めて之をウリヤの手によりて遣れり 15ダビデ其書に書ていはく汝らウリヤを烈しき戦の先鋒にいだしてかれの後より退きて彼をして戦死せしめよ 16是においてヨアブ城邑を窺ひてウリヤをば其勇士の居ると知る所に置り 17城邑の人出てヨアブと戦ひしかばダビデの僕の中の數人仆れヘテ人ウリヤも死り 18ヨアブ人をつかはして軍の事を悉くダビデに告げしむ 19ヨアブ其使者に命じていひけるは汝が軍の事を皆王に語り終るとき 20王もし怒りを發して汝に汝らなんぞ戦はんとて城邑に近づきしや汝らは彼らが石垣の上より射ることを知らざりしや 21エル

ベセテの子アビメレクを撃し者は誰なるや一人の婦が石垣の上より磨の上石を投て彼をテベツに殺せしにあらざるや何ぞ汝ら城垣に近づきしやと言はば汝言べし汝の僕ヘテ人ウリヤもまた死りと 22使者ゆきてダビデにいたりヨアブが遣はしたところのことをことごとく告げたり 23使者ダビデにいひけるは敵我儕に手強かりしが城外にいでて我儕にいたりしかば我儕これに迫りて門の入口にまでいたれり 24時に射手の者城垣の上より汝の僕を射たりければ王の僕の或者死に亦汝の僕ヘテ人ウリヤも死りと 25ダビデ使者にいひけるは斯汝ヨアブに言べし此事を憂ふるなかれ刀劍は此をも彼をも同じく殺すなり強く城邑を攻て戦ひ之を陥れるべしと汝かくヨアブを勵ますべし 26ウリヤの妻其夫ウリヤの死たるを聞て夫のために悲哀り 27其喪の過し時ダビデ人を遣はしてかれをおのれの家にする彼すなはちその妻となりて男子を生り但しダビデの爲たる此事はエホバの目に惡かりき

Chapter 12

1エホバ、ナタンをダビデに遣はしたまへば彼ダビデに至りてこれにいひけるは一の邑に二箇の人あり一は富て一は貧し 2其富者は甚だ多くの羊と牛を有り 3されど貧者は唯自己の買て育てたる一の小き牝羊の外は何をも有ざりき其牝羊彼およびかれの子女とともに生長ちかれの食物を食ひかれの椀に飲みまた彼の懷に寝て彼には女子のごとなりき 4時に一人の旅人其富人の許に來りけるが彼おのれの羊と牛の中を取りてそのおのれに來れる旅人のために烹を惜みてかの貧き人の牝羊を取りて之をおのれに來れる人のために烹たり 5ダビデ其人の事を大に怒りてナタンにいひけるはエホバは生く誠に此をなしたる人は死べきなり 6且彼此事をなしたるに因りまた憐憫まざりしによりて其牝羊を四倍になして償ふべし 7ナタン、ダビデにいひけるは汝は其人なりイスラエルの神エホバは汝いひたまふ我汝に膏を流いでイスラエルの王となし我汝をサウルの手より救ひいだし 8汝に汝の主人の家をあたへ汝の主人の諸妻を汝の懷に與へまたイスラエルとユダの家を汝に與へたり若し少からば我汝に種々の物を増くはへしならん 9何ぞ汝エホバの言を藐視じて其目のまへに惡をなせしや汝刀劍をもてヘテ人ウリヤを殺し其妻をととりて汝の妻となせり即ちアンモンの子孫の劍をもて彼を斬殺せり 10汝我を輕んじてヘテ人ウリヤの妻をととり汝の妻となしたるに因て劍何時までも汝の家を離るることなるべし 11エホバ斯いひたまふ視よ我汝の家の中より汝の上に禍を起すべし我汝の諸妻を汝の目のまへに取て汝の隣人に與へん其人此日のまへにて汝の諸妻とともに寝ん 12其は汝は密に事をなしたれど我はイスラエルの衆のまへと日のまへに此事をなすべければなりと 13ダビデ、ナタ

ンにいふ我エホバに罪を犯したりナタン、ダビデにいひけるはエホバまた汝の罪を除きたまへり汝死ざるべし 14されど汝此所行によりてエホバの敵に大なる罵る機會を與へたれば汝に生れし其子必ず死べしと 15かくてナタン其家にかへり爰にエホバ、ウリヤの妻がダビデに生る子を撃たまひければ痛く疾めり 16ダビデ其子のために神に乞ふ即ちダビデ斷食して入り終夜地に臥したり 17ダビデの家の年寄等彼の傍に立ちてかれを地より起しめんとせしかども彼肯ぜず又かれらとともに食を爲ざりき 18第七日に其子死りダビデの僕其子の死たることをダビデに告ることを恐れたりかれらにいひけるは子の尚生る間に我儕彼に語たりしに彼我儕の言を聽いれざりき如何ぞ彼に其子の死たるを告ぐべけんや被害を爲んと 19然にダビデ其僕の私語くを見てダビデ其子の死たるを曉れりダビデ乃ち其僕に子は死たるやといひければかれら死りと いふ 20是においてダビデ地よりおきあがり身を洗ひ膏をぬり其衣服を更てエホバの家にいりて拜し自己の家に至り求めておのれのために食を備へしめて食へり 21僕等彼にいひけるは此の汝がなせる所は何事なるや女子の生るあひだはこれのために斷食して哭きながら子の死る時に汝は起て食を爲すと 22ダビデいひけるは嬰孩の尚生るあひだにわが斷食して哭きたるは我誰かエホバの我を憐れみて此子を生しめたまふを知んと思ひたればなり 23されど今死たれば我なんぞ斷食すべけんや我再びかれをかへらしむるを得んや我かれの所に往べけれど彼は我の所にかへらざるべし 24ダビデ其妻パテシバを慰めかれの所にいりてかれとともに寝たりければ彼男子を生りダビデ其名をソロモンと呼ぶエホバこれを愛したまひて 25預言者ナタンを遣はし其名をエホバの故によりてエデデア(エホバの愛する者)と名けしめたまふ 26爰にヨアブ、アンモンの子孫のラバを攻めて王城を取れり 27ヨアブ使者をダビデにつかはしていひけるは我ラバを攻て水城を取れり 28されば汝今餘の民を集め斯城に向て陣どりて之を取れ恐らくは我此城を取て人我名をもて之を呼にいたらん 29是においてダビデ民を悉くあつめてラバにゆき攻て之を取り 30しかしてダビデ、アンモン王の冕を其首より取はなしたり其金の重は一タラントなりまた寶石を嵌りてこれをダビデの首に置ダビデ其邑の掠取物を甚だ多く持出せり 31かくてダビデ其中の民を將いだしてこれを鋸と鐵の千齒と鐵の斧にて斬りまた瓦陶の中を通りしめたり彼斯のごとくアンモンの子孫の凡ての城邑になせりしかしてダビデと民は皆エルサレムに還りぬ

Chapter 13

1此後ダビデの子アブサロムにタマルと名くる美しき妹ありしがダビデの子アムノンこれを戀ひたり 2アムノン心を苦めて遂に其姉妹タ

マルのためにわづらへり其はタマルは處女なりければアムノンかれに何事をも爲しがたしと思ひたればなり 3然るにアムノンに一人の朋友ありダビデの兄弟シメアの子にして其名をヨナダブといふヨナダブに甚だ有智き人なり 4彼アムノンにいひけるは汝王の子なんぞ日に日に斯く瘦ゆくや汝我に告ざるやアムノン彼にいひけるは我わが兄弟アブサロムの妹タマルを戀ふ 5ヨナダブかれにいひけるは床に臥て病と伴り汝の父の來りて汝を見る時これにいへ請ふわが妹タマルをして來りて我に食を予へしめわが見て彼の手より食ふことをうる様にわが目のまへにて食物を調理しめよと 6アムノンすなはち臥して病と伴りしが王の來りておのれを見る時アムノン王にいひけるは請ふ吾妹タマルをして來りてわが目のまへにて二の菓子を作へしめて我にかれの手より食ふことを得さしめよと 7是においてダビデ、タマルの家にいひつけしけるは汝の兄アムノンの家につきてかれのために食物を調理よと 8タマル其兄アムノンの家いたるにアムノンは臥し居たりタマル乃ち粉をととりて之を擗てかれの目のまへにて菓子を作へ其菓子を焼き 9鍋を取て彼のまへに傾出たりしかれども彼食ふことを否めりしかしてアムノンいひけるは汝ら皆我を離れていでよと皆かれをはなれていでたり 10アムノン、タマルにいひけるは食物を寢室に持きたれ我汝の手より食はんやタマル乃ち己の作りたる菓子を取りて寢室に持ゆきて其兄アムノンにいたる 11タマル彼に食しめんとて近く持いたれる時彼タマルを執へて之にいひけるは妹よ來りて我と寝よ 12タマルかれにいひける否上よ我を辱しむるなかれ是のごとき事はイスラエルに行はれず汝此愚なる事をなすべからず 13我は何處にわが恥辱を棄んか汝はイスラエルの愚人の一人となるべしされば請ふ王に語れ彼我を汝に予ざることなるべしと 14然どもアムノン其言を聽ずしてタマルより力ありければタマルを辱しめてこれと偕に寝たりしが 15遂にアムノン甚だ深くタマルを惡むにいたる其かれを惡む所の惡みはかれを戀ひたるころの戀より大なり即ちアムノンかれにいひけるは起て往けよ 16かれアムノンにいひけるは我を返して此惡を作るなかれは汝がさきに我になしたる所の惡よりも大なりとしかれども聽いれず 17其側仕ふる少者を呼ていひけるは汝此女をわが許より連れりだして其後に戸を鍵せよ 18タマル振袖を着たり王の女等の處女なるものは斯のごとき衣服をもて粧ひたりアムノンの侍者かれを外にだして其後に戸を鍵せり 19タマル灰を其首に蒙り着たる振袖を裂き手を首にのせて呼はりつつ去ゆけり 20其兄アブサロムかれにいひけるは汝の兄アムノン汝と偕に在しや然ど妹よ黙せよ彼は汝の兄なり此事を心に留るなかれとかくてタマルは其兄アブサロムの家に棲し住み居れり 21ダビデ王是等の事を悉く聞て甚だ怒れり 22アブサロムはアムノンに

むかひて善も悪も語ざりき其はアブサロム、アムノンを悪みればたり是はかれがおのれの妹タマルを辱しめたるに由り 23 全二年の後アブサロム、エフライムの邊なるパルハゾルにて羊の毛を剪し居て王の諸子を悉く招けり 24 アブサロム王の所にいりていひけるは視よ僕羊の毛を剪しめをるねがはくは王と王の僕等僕とともに来りたまへ 25 王アブサロムに云けるは否わが子よ我儕を皆いたしむるなかれおそらくは汝の費を多くせんアブサロム、ダビデを強ふしかれどもダビデ往ことを肯ぜずして彼を祝せり 26 アブサロムいひけるは若しからずば請ふわが兄アムノンをして我らとともに来らしめよ王かれにいひけるは彼なんぞ汝とともにゆくべけんやと 27 されどアブサロムかれを強ければアムノンと王の諸子を皆アブサロムとともにゆかしめたり 28 爰にアブサロム其少者等に命じていひけるは請ふ汝らアムノンの心の酒によりて樂む時を視すましてわが汝等にアムノンを撃てと言ふ時に彼を殺せ懼るるなかれ汝等に之を命じたるは我にあらざるや汝ら勇しく武くなれと 29 アブサロムの少者等アブサロムの命ぜしごとくアムノンになしければ王の諸子皆て各其驛馬に乗て逃たり 30 彼等が路にある時風聞ダビデにいたりていはくアブサロム王の諸子を悉く殺して一人も遺るものなしと 31 王乃ち起ち其衣を裂きて地に臥す其臣僕皆衣を裂て其傍にたり 32 ダビデの兄弟シメアの子ヨナダブ答へていひけるは吾主よ王の御子等なる少年を皆殺したりと思たまふなかれアムノン獨り死のみ彼がアブサロムの妹タマルを辱かしめたる日よりアブサロム此事をさだめおきたるなり 33 されば吾主王よ王の御子等皆死るといひて此事をおもひ煩ひたまふなかれアムノン獨死たるなればなりと 34 断てアブサロムは逃れたり爰に守望ある少者目をあげて視たるに視よ山の傍よりて己の後の道より多くの人來り 35 ヨナダブにいひけるは視よ王の御子等來る僕のいへるがごとくしかりと 36 彼語ることを終し時視よ王の子等來り聲をあげて哭り王と其僕等も皆大に甚く哭り 37 若くアブサロムは逃てゲシユルの王アミホデの子タルマイにいたるダビデは日々其子のために悲めり 38 アブサロム逃てゲシユルにゆき三年彼處に居たり 39 ダビデ王アブサロムに逢んと思ひ煩らふ其はアムノンは死たるによりてダビデかれの事はあきらめられたればなり

Chapter 14

1 1ゼルヤの子ヨアブ王の心のアブサロムに趣くを知れり 2 ヨアブ乃ちテコアに人を遣りて彼處より一人の哲婦を呼きたらしめて其婦にいひけるは請ふ汝處にある眞似して喪の服を着油む身にぬらず死者のために久しく哀しめる婦のごとく爲りて 3 王の所にいたり是のごとくかれに語るべしとヨアブ其語言をかれの口に

授けたり 4 テコアの婦王にいたり地に伏て拜し王にいひけるは王よ助けたまへ 5 王婦にひけるは何事なるや婦いひけるは我は實に贅婦にしてわが夫は死り 6 仕女に二人の子あり俱に野に争ひしが誰もかれらを排解ものなきにより此遂に彼を撃て殺せり 7 是において視よ全家仕女に逼りていふ其兄弟を撃殺したる者を付せ我らかれをその殺したる兄弟の生命のために殺さんと斯く嗣子を滅ぼし存れるわが炭火を熄てわが夫の名をも遺存をも地の面に無らしめんとす 8 王婦にいひけるは汝の家に往け我汝の事につきて命令を下さん 9 テコアの婦王にいひけるは王わが主よねがはくは其罪は我とわが父の家に歸して王と王の位には罪あらざれ 10 王いひけるは誰にても爾に語る者をば我に將來れしかせば彼かさねて爾に觸ること无るべし 11 婦いひけるは願くは王爾の神エホバを憶えてかの仇を報ゆる者をして重て滅すことを爲しめず我子を断ことなからしめたまへと王いひけるはエホバは生く爾の子の髪毛一すぢも地に墮ることなかるべし 12 婦いひけるは請ふ仕女をして一言わが主王に言しめたまへダビデいひけるは言ふべし 13 婦いひけるは爾なんぞ斯る事を神の婦にむかひて思ひたるや王此言を言ふにより王は罪ある者のごとし其は王その放れたる者を歸らしめざればなり 14 抑我儕は死ざるべからず我儕は地に洩れたる水の再び聚る能はざるがごとし神は生命を取りたまはす方法を設けて其放れたる者をして己の所より放たれをることなからしむ 15 我此事を王我主に言んとて來れるは民我を恐れしめられたればなり故に仕女謂らく王に言ん王婢の言を行ひたまふならんと 16 其は王聞て我とわが子を共に滅して神の産業に離れしめんとする人の手より婢を救ひいだしたまふべければなり 17 仕女また思り王わが主の言は慰となるべしと其は神の使のごとく王わが主は善も悪も聽たまへばなりねがはくは爾の神エホバ爾と共に在せと 18 王こたへて婦にいひけるは請ふわが爾に問んところの事を我に隠すなかれ婦いふ請ふ王わが主言たまへ 19 王いひけるは比すべての事においてはヨアブの手爾とともにあるや婦答へていひけるは爾の靈魂は活くわが主よ凡て王わが主の言たまひしところは右にも左にもまがらず皆に爾の僕ヨアブ我に命じ是等の言を悉く仕女の口に授けたり 20 其事の見ゆるところを變んとて爾の僕ヨアブ此事をなしたるなり然どわが主は神の使の智慧のごとく智慧ありて地にある事を悉く知たまふと 21 是において王ヨアブにいひけるは視よ我此事を爲すされば往て少年アブサロムを携歸るべし 22 ヨアブ地に伏し拜し王を祝せりしかしてヨアブいひけるは王わが主よ王僕を言を行ひたまへば今日僕わが爾に患るを知ると 23 ヨアブ乃ち起てゲシユルに往きアブサロムをエルサレムに携きたり 24 王いひけるは彼は其家に退くべしわが面を見るべからずと故にアブサロム己の家に退きて王の面を觀ざりき 2

5 倍イスラエルの中にアブサロムのごとく其美貌のために讃られたる人はなかりき其足の跣より頭の頂にいたるまで彼には瑕疵あることなし 2 6 アブサロム其頭を剪る時其頭の髪を衡るに王の權衡の二百シケルあり毎年の終にアブサロム其頭を剪り是は己の重によりて剪たるなり 27 アブサロムに三人の男子と一人のタマルといふ女子生れたりタマルは美女なり 28 アブサロム二年のあひだエルサレムにをりたれども王の顔を見ざりき 29 是によりてアブサロムに遣さんとてヨアブを呼に遣はしけるが彼來ることを肯ぜず再び遣せしかども來ることを肯ぜざりき 30 アブサロム其僕にいひけるは視よヨアブの田地は我の近くにありて其處に大麥あり往て其に火を放てとアブサロムの僕等田地に火を放てり 31 ヨアブ起てアブサロムの家に来りてこれにいひけるは何故に爾の僕等田地に火を放たるや 32 アブサロム、ヨアブにいひけるは我人を爾に遣はして此に來れ我爾を王につかはさんと語り即ち爾をして王に我何のためにゲシユルよりきたりしや彼處に尚あらば我ためには反て善しと言しめんとせり然ば我今王の面を見ん若し我に罪あらば我を殺すべし 33 ヨアブ王にいたりてこれに告れば王アブサロムを召す彼王にいたりて王のまへに地に伏て拜せり王アブサロムに接吻す

Chapter 15

1 此後アブサロム己のために戰車と馬ならびに己のまへに驅る者五十人を備たり 2 アブサロム夙く興きて門の途の傍にたち人の訴訟ありて王に裁判を求めんとて來る時はアブサロム其人を呼ていふ爾は何の邑の者なるや其人僕はイスラエルの某の支派の者なりといへば 3 アブサロム其人にいふ見よ爾の事は善くまた正し然ど爾に聽くべき人は王いまだ立ずと 4 アブサロム又嗚呼我を此地の士師となす者もがな然れば凡て訴訟と公事ある者は我に來りて我之に公義を爲しあたへんといふ 5 また人彼を拜せんとて近づく時は彼手をのばして其人を扶け之に接吻す 6 アブサロム凡て王に裁判を求めんとて來るイスラエル人には是のごとくなせり斯アブサロムはイスラエルの人々の心を取り 7 斯て四年の後アブサロム王にいひけるは請ふ我をして往てヘブロンにてエホバに我嘗て立し願を果さしめよ 8 其は僕スリアのゲシユルに居し時願を立て若しエホバ誠に我をエルサレムに携歸りたまはばエホバに事へんと言たればなりと 9 王かれにいひけるは安然に往けと彼すなはち起てヘブロンに往り 10 しかしてアブサロム窺ふ者をイスラエルの支派の中に徧く遣はして言せけるは爾等喇叭の音を聞ばアブサロム、ヘブロンにて王となれりと思ふべしと 11 二百人の招かれたる者エルサレムよりアブサロムとともにゆけり彼らは何心なくゆきて何事をもしざりき 12 アブサロム犠牲をささ

ぐる時にダビデの議官ギロアアヒトベルを其邑ギロより呼よせたり徒黨強くして民次第にアブサロムに加はりぬ 13 爰に使者ダビデに來りてイスラエルの人の心アブサロムにしたがふといふ 14 ダビデおのれと共にエルサレムに居る凡ての僕にいひけるは起てよ我ら逃ん然らずば我らアブサロムより遁るあたはざるべし急ぎ往け恐らくは彼急ぎて我らに追ひつき我儕に害を蒙らせむをもて邑を撃ん 15 王の僕等王にいひけるは視よ僕等王わが主の選むところを凡て爲ん 16 王いでゆき其全家これにしたがふ王十人の妾なる婦を遣して家をまもらしむ 17 王いでゆき民みな之にしたがふ彼等遠の家に息めり 18 かれの僕等みな其傍に進みケレテ人とケレテ人に居る凡て彼にしがひてガテよりきたれる六百人のガテ人みな王のまへに進めり 19 時に王がガテ人イツタイにいひけるは何ゆゑに爾もまた我らとともにゆくや爾かへりて王とともにをれ爾は外國人にして移て處をもとむる者なり 20 爾は昨日來れり我は今日わが得るところに往くなれば豈爾をして我らとともにさまよはしむべけんや爾歸り爾の兄弟をも携歸るべしねがはくは恩と眞實爾とともにあれ 21 イツタイ王に答へていひけるはエホバは活く王わが主は活く誠に王わが主いかなる處に坐すとも生死ともに僕もまた其處に居るべし 22 ダビデ、イツタイにいひけるは進みゆけガテ人イツタイ乃ち進みかれのすべての從者およびかれとともにある妻子皆進めり 23 國中皆大聲をあげて哭き民皆進む王もまたケデロン川を渡りて進み民皆進みて野の道におもむけり 24 視よザドクおよび俱にあるレビ人もまた皆神の契約の櫃を背いていたり神の櫃をおするに民の悉く邑よりいづるをまてりアビヤタルもまたのぼれり 25 ここに王ザドクにいひけるは神の櫃を邑に昇もどせ若し我エホバのまへに恩をうるならばエホバ我を携かへりて我にこれを見し其往處を見たまはん 26 されどエホバは汝を悦ばずと斯いひたまはば視よ我は此にあり其目に善と見ゆるところを我になしたまへ 27 王また祭司ザドクにいひけるは汝先見者汝らの二人の子即ち汝の子アヒマアズとアビヤタルの子ヨナタンを伴て安然に城邑に歸れ 28 見よ我は汝より言のきたりて我に告るまで野の渡場に留まらんと 29 ザドクとアビヤタルすなはち神の櫃をエルサレムに昇もどりて彼處に止まれり 30 ここにダビデ橄欖山の路を陟りしが陟るときに哭き其首を蒙りて跣足にて行りかれと俱にある民皆各其首を蒙りてのぼり哭つたのぼれり 31 時にアヒトベルがアブサロムに與せる者の中にあることダビデに聞えければダビデいふエホバねがはくはアヒトベルの計策を愚ならしめたまへと 32 ダビデ嶺にある神を拜する處に至れる時視よアルキ人ホシヤイ衣を裂き土を頭にかむりてきたりてダビデを迎ふ 33 ダビデかれにいひけるは爾若し我とともに進まば我の負となるべし 34 されど汝もし城邑にかへりてアブサロ

ムにむかひ王よ我爾の僕となるべし此まで爾の父の僕たりしごとく今また汝の僕となるべしといはば爾はわがためにアヒトベルの計策を敗るにいたらん 35 祭司ザドクとアビヤタル爾とともに彼處にあるにあらずや是故に爾が王の家より聞たる事はことごとく祭司ザドクとアビヤタルに告べし 36 視よかれらとともに彼處にはその二人の子即ちザドクの子アヒマズとアビヤタルの子ヨナタンをるなり爾ら其聞たる事をことごとく彼等の手によりて我に通ずべし 37 ダビデの友ホシヤイすなはち城邑にいたりぬ時にアブサロムはエルサレムに入居たり

Chapter 16

1ダビデ少しく嶺を過ゆける時視よメビボセテの僕チバ鞍おける二頭の驢馬を引き其上にパン二百乾葡萄一百球乾粟の團塊一百酒一囊を載きたりてダビデを迎ふ 2 王チバにいひけるは此等は何なるかチバにいひけるは驢馬は王の家族の乗るためパンと乾粟は少者の食ふため酒は野に困憊たる者の飲むためなり 3 王にいひけるは爾の主人の子は何處にあるやチバ王にいひけるはかれはエルサレムに止まる其は彼イスラエルの家今日我父の家を我にかへさんと言をればなり 4 王チバにいひけるは視よメビボセテの所有は悉く爾の所有となるべしチバにいひけるは我拜す王わが主よ我をして爾のまへに恩を蒙らしめたまへ 5 斯てダビデ王バホルムにいたるに視よ彼處よりサウルの家の族の者一人出きたる其名をシメイといふゲラの子なり彼出きたりて来りつつ詛へり 6 又彼ダビデとダビデ王の諸の臣僕にむかひて石を投たり時に民と勇士皆王の左右にあり 7 シメイ詛の中に斯いへり汝血を流す人よ爾なる人よ出され出され 8 爾が代りに登りしサウルの家の血を凡てアホバ爾に歸したまへりアホバ國を爾の子アブサロムの手付したまへり視よ爾は血を流す人なるによりて禍患の中にあるなり 9 ゼルヤの子アビシヤ王にいひけるは此死たる犬なんぞ王わが主を詛ふべけんや請ふ我をして涉りゆきてかれの首を取しめよ 10 王にいひけるはゼルヤの子等よ爾らの與るところにあらず彼の詛ふはアホバによるなれば誰か爾なんぞ然するやと言べけんや 11 ダビデ又アビシヤイおよび己の諸の臣僕にいひけるは視よわが身より出たるわが子わが生命を求む況や此ベニヤミン人をや彼を聽して詛はしめよアホバに命じたまへるなり 12 アホバわが艱難を俯視みたまふことあらん又アホバ今日彼の詛のために我に善を報いたまふことあらんと 13 斯てダビデと其從者途を行けるにシメイはダビデに對へる山の傍に行つてつ詛ひまた彼にむかひて石を投げ塵を揚たり 14 王および俱にある民皆アエビムに來りて彼處に息をつげり 15 者アブサロムと總ての民イスラエルの人々エルサレムに至れりアヒト

ベルモアアブサロムとともにいたる 16 ダビデの友なるアルキ人ホシヤイ、アブサロムの許に來りし時アブサロムにいふ願くは王壽かれ願くは王壽かれ 17 アブサロム、ホシヤイにいひけるは此は爾が其友に示す厚意なるや爾なんぞ爾の友とむざるやと 18 ホシヤイ、アブサロムにいひけるは然らずアホバと此民とイスラエルの總の人々の選む者に我は屬し且其人とともに居るべし 19 且我誰に事ふべきか其子の前に事べきにあらずや我は爾の父のまへに事しごとく爾のまへに事べし 20 爰にアブサロム、アヒトベルにいひけるは我儕如何に爲べきか爾等計を爲すべしと 21 アヒトベル、アブサロムにいひけるは爾の父が遺して家を守らしむる妾等の處に入れ然ばイスラエル皆爾が其父に惡まるるを聞ん而して爾とともにをる總の者の手強くなるべしと 22 是において屋脊にアブサロムのために天幕を張ればアブサロム、イスラエルの目めへて其父の妾等の處に入りぬ 23 當時アヒトベルが謀れる謀計は神の言に問たるごとくなりきアヒトベルの謀計は皆ダビデとアブサロムとに俱に是のごとく見えたりき

Chapter 17

1時にアヒトベル、アブサロムにいひけるは請ふ我に一萬二千の人を擇み出さしめよ我起て今夜ダビデの後を追ひ 2 彼が憊れて手弱なりし所を襲ふて彼をおびえしめん而して彼とともにをる民の逃ん時に我王一人を撃とり 3 總の民を爾に歸せしむべし夫衆の歸するは爾が求むる此人に依なれば民みな平穩になるべし 4 此言アブサロムの目とイスラエルの總の長老の目に的當と見えたり 5 アブサロムにいひけるはアルキ人ホシヤイをも召きたれ我等彼が言ふ所をも聞んと 6 ホシヤイ乃ちアブサロムに至るにアブサロムかれにかたりていひけるはアヒトベル是のごとく言り我等其言を爲べきか若し可ずば爾言ふべし 7 ホシヤイ、アブサロムにいひけるは此時にあたりてアヒトベルが授けし計略は善らず 8 ホシヤイまたいひけるは爾の知ることく爾の父と其從者は勇士なり且彼等は野にて其子を奪れたる熊の如く其氣激怒をれり又爾の父は戰士なれば民と共に宿らざるべし 9 彼は今何の穴にか何の處にか匿れるを若し數人の者手始に仆なば其を聞く者は皆アブサロムに従ふ者の中に敗ありと言はん 10 しかば獅子の心のごとく心ある勇猛き夫といふとも父ごとく挫碎ん其はイスラエル皆爾の父の勇士にして彼とともにある者の勇猛き人なるをしればなり 11 我は計議るイスラエルをダンよりベエルシバにいたるまで海濱の沙の多きが如くに悉く爾の處につどへ集めて爾親ら戰陣に臨むべし 12 我等彼の見出さるる處にて彼を襲ひ露の地に下るがごとく彼のうへに降らんしかして彼および彼とともにあるすべての人々を一人も遺さざるべし 13 若し彼何かの城邑に集らば

イスラエル皆繩を其城邑にかけ我等これを河に曳きたふして其處に一の小石も見えざらむべしと 14 アブサロムとイスラエルの人々皆アルキ人ホシヤイの謀計はアヒトベルの謀計より善しといふ其はアホバ、アブサロムに禍を降さんとてアホバ、アヒトベルの善き謀計を破ることを定めたまひたればなり 15 爰にホシヤイ祭司ザドクとアビヤタルにいひけるはアヒトベル、アブサロムとイスラエルの長老等のために斯々に謀れりきた我は斯々に謀れり 16 されば爾ら速に人を遣してダビデに告て今夜野の渡場に宿ることなく速に渡りゆけといへおそらくは王および俱にある民皆呑つくされん 17 時にヨナタンとアヒマズはエンロゲルに俟居たり是は城邑にいたるを見られざらんとてなり爰に一人の仕女ゆきて彼等に告げければ彼らダビデ王に告んとて往く 18 しかるに一人の少者かれらを見てアブサロムにつげたりされど彼等二人は急ぎさきてバホルムの或人の家にいたる其人の庭に井ありてかれら其處にくだりければ 19 婦蓋をとりて井の口のうへに掩け其上に擣たる麥をひろげたり故に事知れざりき 20 時にアブサロムの僕等其婦の家に來りていひけるはアヒマズとヨナタンは何處にをるや婦かれらに彼人々は小川を濟れりといふかれら尋ねたれども見當ざればエルサレムに歸れり 21 彼等が去し時かの二人は井よりのぼりて往てダビデ王に告げたり即ちダビデに言けるは起て速かに水を濟れ其はアヒトベルス爾等について謀計を爲したればなりと 22 ダビデ起て己とともにある凡ての民とともにヨルダンを濟れり曙には一人もヨルダンを濟らざる者はなかりき 23 アヒトベルは其謀計の行れざるを見て其驢馬に鞍おき起て其邑に往て其家にいたり家の人に遺言して自ら縊れ死て其父の墓に葬らる 24 爰にダビデ、マナハイムに至る又アブサロムは己とともにあるイスラエルの凡の人々とともにヨルダンを濟れり 25 アブサロム、アマサをヨアブの代りに軍の長と爲りアマサは夫のナハシの女にてヨアブの母ゼルヤの妹なるアビガルに通じたるイシマエル人名はアテルといふ人の子なり 26 かくてイスラエルとアブサロムはギレアデの地に陣どれり 27 ダビデ、マナハイムにいたれる時アンモンの子孫の中なるラバのナハシの子シヨビとロデバルのアンミエルの子マキルおよびロゲリムのギレアデ人バルジライ 28 臥床と鍋釜と陶器と小麦と大麦と粉と烘麥と豆と小豆の烘たる者と 29 蜜と牛酪と羊と犢をダビデおよび俱にある民の食ふために持來れり其は彼等民は野にて饑憊れ渴くならんと謂たればなり

Chapter 18

1爰にダビデ己とともにある民を核べて其上に千夫の長百夫の長を立たり 2 しかしてダビデ民を三に分ちて其一をヨアブの手に託け一をゼ

ルヤの子ヨアブの兄弟アビシヤイの手に託け一をガテ人イツタイの手に託けたりかくして王民にいひけるは我もまた必ず汝らとともに出んと 3 されど民いふ汝は出べからず我儕如何に逃るとも彼等は我儕に心をとめじ又我儕半死とも我儕に心をとめざるべしされど汝は我儕の一萬に等し故に汝は城邑の中より我儕を助けなば善し 4 王かれらにいひけるは汝等の目に善と見ゆるところを爲すべしとかして王門の傍に立ち民皆或は百人或は千人となりて出づ 5 王ヨアブ、アビシヤイおよびイツタイに命じてわがために少年アブサロムを寬に待へよといふ王のアブサロムの事について諸の將官に命を下せる時民皆聞り 6 爰に民イスラエルにむかひて野に出てアブラハムの叢林に戦ひしがイスラエルの民其處にてダビデの臣僕のまへに敗る其日彼處の戦死大にして二萬にいたれり 8 しかして戦徧く其地の表に廣がりぬ是日叢林の滅ぼせる者は刀劍の滅ぼせる者よりも多かりき 9 爰にアブサロム、ダビデの臣僕に行き遣り時にアブサロム驢馬に乘居たりしが驢馬大なる橡樹の繁き枝の下を過ければアブサロムの頭其橡に繋りて彼天地のあひだにあがれり驢馬はかれの下より行過たり 10 一箇の人見てヨアブに告ていひけるは我アブサロムが橡樹に懸りをるを見たりと 11 ヨアブ其告たる人にいひけるはさらば爾見て何故に彼を其處にて地に撃落さざりしや我爾に銀十枚と一本の帶を與へんものを 12 其人ヨアブにいひけるは假令わが手に銀十枚を受べきも我は手をいだして王の子に敵せじ其は王我儕の聞るまへにて爾とアビシヤイとイツタイに命じて爾ら各少年アブサロムを害するなかれといひたまひたればなり 13 我若し反ていひけるの生命を戕賊はば何事も王に隠る所なければ爾自ら立て我を賣んと 14 時にヨアブ我かく爾とともに滞るべからずといひて手に三本の槍を携へゆきて彼の橡樹の中に尚生るアブサロムの胸に之を衝通せり 15 ヨアブの武器を執る十人の少者繞きてアブサロムを撃ち之を死しめたり 16 かくてヨアブ喇叭を吹ければ民イスラエルの後を追ふことを息てかへりヨアブ民を止めたればなり 17 衆アブサロムを將て叢林の中なる大なる穴に投げいれ其上に甚だ大きく石を疊あげたり是においてイスラエル皆おのおの其天幕に逃かへり 18 アブサロム我はわが名を傳ふべきなしと言て其生る間に己のために一の表柱を建たり王の谷にあり彼おのれの名を其表柱に與たり其表柱今日にいたるまでアブサロムの碑と稱らる 19 爰にザドクの子アヒマズにいひけるは請ふ我をして趨りて王にアホバの王をまもりて其敵の手を免かれしめたまひし音信を傳はしめよと 20 ヨアブかれにいひけるは汝は今日音信を傳ふるものとなるべからず他日に音信を傳ふべし今日は王の子死たれば汝音信を傳ふべからず 21 ヨアブ、クシ人にいひけるは往て爾が見たる所を王に告よクシ人ヨアブに禮をなして走れり 22 ザドクの子アヒ

マアズ再びヨアブにいひけるは請ふ何にもあれ我をも亦クシ人の後より走ゆかしめよヨアブいひけるは我子よ爾は充分の音信を持ざるに何故に走りゆかんとするや 23 かれいふ何れにもあれ我を走りゆかしめよとヨアブかれにいふ走るべしはおいてアヒマアズ低地の路をはしりてクシ人を走越たり 24 時にダビデは二の門の間に坐しあたり爰に守望者門の蓋上にのぼり石壁にのぼりて其目を擧て見るに視よ獨一人にて走きたる者あり 25 守望者呼はりて王に告げれば王いふ若し獨ならば口に音信を持つならんと其人進み來りて近づけり 26 守望者復一人の走りきたるを見しかば守望者守門者に呼はりて言ふ獨一人にて走きたる者あり王いふ其人もまた音信を持ものなり 27 守望者言ふ我先者の走を見るにザドクの子アヒマアズの走るが如しと王いひけるは彼は善人なり善き音信を持来るならん 28 アヒマアズ呼はりて王にいひけるはねがはくは平安なれとかくて王のまへに地に伏していふ爾の神アホバは讃べきかなアホバかの手をあげて王わが主に敵したる人々を付したまへり 29 王いひけるは少年アブサロムは平安なるやアヒマアズこたへけるは王の僕ヨアブ僕を遣はせし時我大なる噪を見たれども何をも知らざるなり 30 王いひけるは側にいたりて其處に立よと乃ち側にいたりて立つ 31 時に視よクシ人來りてクシ人いひけるはねがはくは王音信を受たまへアホバ今日爾をまもりて凡て爾にたち逆ふ者の手を免かれしめたまへり 32 王クシ人にいひけるは少年アブサロムは平安なるやクシ人いひけるはねがはくは王わが主の敵および凡て汝に起ち逆ひて害をなさんとする者は彼少年のごとくなれと 33 王大に感み門の樓にのぼりて哭り彼行ながらかくいへりわが子アブサロムよわが子わが子アブサロムよ嗚呼われ汝に代りて死たらん者をアブサロムわが子よわが子よ

Chapter 19

1時にヨアブに告る者ありていふ視よ王はアブサロムの爲に哭き悲しむと 2 其日の勝利は凡の民の悲哀となれり其は民其日王は其子のために憂ふと言ふを聞たればなり 3 其日民は戰爭に逃て着たる民の竊て去がごとく竊て城邑にいりぬ 4 王は其面を掩へり王大聲に叫てわが子アブサロムよアブサロムわが子よわが子よといふ 5 ここにヨアブ家にいり王の許にいたりていひけるは汝今日汝の生命と汝の男子汝の女子の生命および汝の妻等の生命と汝の妾等の生命を救ひたる汝の凡の臣僕の顔を羞させたり 6 是は汝おのれを惡む者を愛しおのれを愛する者を惡むなり汝今日汝が諸侯伯をも諸僕をも顧みざるを示せり今日我さとる若しアブサロム生をりて我儕皆死たらば汝の目に適ひしならん 7 されど今立て出で汝の諸僕を慰めてかたるべし我アホバを指て誓ふ汝若し出ずば今夜一人も

汝とともに止るものなかるべし是は汝が若き時より今にいたるまでに蒙りたる諸の災禍よりも汝に惡かるべし 8 是に於て王たちて門に坐す人々凡の民に告て視よ王は門に坐し居るといひければ民皆王のまへにいたる然どイスラエルはおのむの其天幕に逃かへり 9 イスラエルの諸の支派の中に民皆争ひていひけるは王は我儕を敵の手より救ひいだした我儕をベリシテ人の手より助けいだせりされど今はアブサロムのために國を逃いでたり 10 また我儕が膏そそぎて我儕の上にかきしアブサロムは戰爭に死ねりされば爾ら何ぞ王を導きかへらんことと言ざるや 11 王祭司ザドクとアビヤタルに言つかはしけるはユダの長老等に告て言へイスラエルの全家の言語王の家に達せしに爾ら何ぞ王を其家に導きかへる最後となるや 12 爾等はわが兄弟爾らはわが骨肉なりしかるになんぞ爾等王を導き歸る最後となるやと 13 又アマサに言へし爾はわが骨肉にあらずや爾ヨアブにかはりて常にわがまへにて軍長たるべし若しからずば神我に斯なし又重ねてかくなしたまへと 14 かくダビデ、ユダの凡人をして其心を傾けて一人のごとくにならしめければかれら一人にねがはくは爾および爾の諸の臣僕歸りたまへといひおくれり 15 是において王歸りてヨルダンにいたるにユダの人々王を迎へんとて來りてギルガルにいたり王を送りてヨルダンを濟らんとす 16 時にバロムの子ベニヤミン人ゲラの子シメイ急ぎてユダの人々とともに下りダビデ王を逐ふ 17 一千のベニヤミン人彼とともにあり亦サウルの家の僕チバも其十五人の男子と二十人の僕をしがへて偕に居たりしが皆王のまへにむかひてヨルダンをこぎ渡れり 18 時に王の家族を濟したる王の目に善と見ゆるところを爲んとて濟舟を濟せり爰にゲラの子シメイ、ヨルダンを濟れる時王のまへに伏して 19 王にいひけるはわが主よねがはくは罪を我に歸するなれまた王わが主のエルサレムより出たまへる日に僕が爲たる惡き事を記憶えたまふなれねがはくは王これを心に置たまふなれ 20 其は僕我罪を犯したるを知ればなり故に視よ我今日ヨセフの全家の最初に下り來りて王わが主を逐ふと 21 然にゼルヤの子アビヤイ答へていひけるはシメイはアホバの膏そそぎし者を誣たるに因て其がために誅さるべきにあらずやと 22 ダビデいひけるは爾らゼルヤの子よ爾らの敵かるところにあらず爾等今日我に對となる今日豈イスラエルの中にて人を誅すべけんや我豈わが今日イスラエルの王となりたるをしらざらんやと 23 是をもて王はシメイに爾は誅されじといひて王かれに誓へり 24 爰にサウルの子メビボセテ下りて王をむかふ彼は王の去し日より安かに歸れる日まで其足を飾らず其鬚を飾らず又其衣を濯ざりき 26 彼エルサレムよりきたりて王を逐ふる時王かれにいひけるはメビボセテ爾なんぞ我とともに住ざりしや彼こたへけるはわが主王よわが僕我を欺けり僕はわれ

驢馬に鞍おきて其に乗て王の處にゆかんといへり僕跛者なればなり 27 しかるに彼僕を王わが主に讒言せり然ども王わが主は神の使のごとし故に爾の目に善と見るところを爲たまへ 28 わが父の全家は王わが主のまへには死人なるのみなるに爾僕を爾の席にて食ふ者の中に置たまへりされば我何の理ありてか重ねて王に哀訴することをえん 29 王かれにいひけるは爾なんぞ重ねて爾の事を言や我いふ爾とチバ其地を分つべし 30 メビボセテ王にいひけるは王わが主安然に其家に歸りたまひたればかれに之を悉くとらしめたまへと 31 爰にギリアデ人バルジライ、ロゲリムより下り王を送りてヨルダンを濟らんとて王とともにヨルダンを濟れり 32 バルジライは甚だ老たる人にて八十歳なりきかれは甚だ大なる人なれば王のマハナイムに留れる間王を養へり 33 王バルジライにいひけるは爾我とともに濟り來れ我エルサレムにて爾を我とともに養はん 34 バルジライ王にいひけるはわが生命の年の日尚幾何ありてか我王とともにエルサレムに上らんや 35 我は今日八十歳なり善きと惡きとを辨へるをえんや僕其食ふところと飲ところを味ふをえんや我再び謳歌之男と謳歌之女の聲を聴えんや僕なんぞ尚王わが主の累となるべけんや 36 僕は王とともにヨルダンを濟りて只少しくゆかん王なんぞこの報賞を我に報ゆるに及ばんや 37 請ふ僕を歸らしめよ我自己の邑にてわが父母の墓の側に死ん但し僕キムハムを視たまへかれを王わが主とともに濟り往しめたまへ又爾の目に善と見るところを彼になしたまへ 38 王いひけるはキムハム我とともに濟り往くべし我爾の目に善と見ゆる所をかれに爲ん又爾が望みて我に求むる所は皆我爾のために爲すべしと 39 民皆ヨルダンを濟れり王渡りし時王バルジライに接吻してこれを祝す彼遂に己の所に歸れり 40 かくて王ギルガルに進むにキムハムかれとともに進めりユダの民皆王を送りてイスラエルの民の半も亦しかり 41 是にイスラエルの人々皆王の所にいたりて王にいひけるは我儕の兄弟なるユダの人々何故に爾を竊みさり王と其家族およびダビデともなる其凡の従者を送りてヨルダンを濟りしやと 42 ユダの人々皆イスラエルの人々に對ていふ王は我に近きが故なり爾なんぞ此事について怒るや我儕王の物を食ひしことあるや王我儕に賜物を與へたることあるや 43 イスラエルの人ユダの人に對ていひけるは我は王のうちに十の分を有ち亦ダビデのうちにも我は爾よりも多を有つなりしかるに爾なんぞ我らを輕じたるやわが王を導きかへらんとしは我最初なるにあらずやとされどユダの人々の言はイスラエルの人々の言よりも厲しかりき

Chapter 20

1爰に一人の邪なる人あり其名をシバといひクワリの子にしてベニヤミン人なり彼喇叭を吹ていひけるは

我儕はダビデの中に分なし又エサイの子のうちに産業なしイスラエルよ各人其天幕に歸れよと 2 是によりてイスラエルの人皆ダビデに隨ふことを止てのぼりクワリの子シバにしたがへり然どユダの人々は其王に附てヨルダンよりエルサレムにいたれり 3 ダビデ、エルサレムにある己の家にいたり王其遺して家を守らせたる妾なる十人の婦をとりてこれを一の室に守り置て養へりされどかれらの處には入ざりき斯かれらは死る日まで閉こめられて生涯齟齬にてすごせり 4 爰に王アマサにいひけるは我ために三日のうちにユダの人々を召きたれしかして爾此處にをれ 5 アマサ乃ちユダを召あつめんとて往たりしが彼ダビデが定めたる期よりも長く留れり 6 是においてダビデ、アビシヤイにいひけるはクワリの子シバ今我儕にアブサロムよりもおほくの害をなさんとす爾の主の臣僕を率て彼の後を追へ恐らくは彼堅固なる城邑を獲て我儕の目を逃れんと 7 是によりてヨアブの従者とケレテ人とベレテ人および都の勇士彼にしたがびて出たり即ち彼等エルサレムより出てクワリの子シバの後を追ふ 8 彼等がギベオンにある大石の傍に居りし時アマサかれらにむかひ來りし時にヨアブ戎衣に帯を結て衣服となし其上に刀を鞘にをさめ腰に結びて帯び居たりしが其劍脱け墮ちたり 9 ヨアブ、アマサにわが兄弟よ爾は平康なるやといひて右の手をもてアマサの鬚を將て彼に接吻せんとせしが 10 アマサはヨアブの手にある劍に意を留ざりければヨアブ其をもてアマサの腹を刺して其腸を地に流しだし重ねて撃に及ばざらしてこれをころせりかくてヨアブと其兄弟アビシヤイ、クワリの子シバの後を追り 11 時にヨアブの少者の一人アマサの側にたちていふヨアブを助くる者とダビデに附従ものはヨアブの後に隨へと 12 アマサは血に染て大路の中に轉び居たり斯人民の皆立どまるを見てアマサを大路より田に移したるが其側にいたる者皆見て立ちとまりければ衣を其上にかけたり 13 アマサ大路より移されければ人皆ヨアブにしたがひ進みてクワリの子シバの後を追ふ 14 彼イスラエルの凡の支派の中を行てアベルとベテマアカに至るに少年皆集りて亦かれにしたがひゆけり 15 かくて彼等來りて彼をアベル、ベテマアカに圍み城邑にむかひて壘を築けり是は壕の中にたてりかくてヨアブとともにある民皆石垣を崩さんとてこれを撃居りしが 16 一箇の哲き婦城邑より呼はりていふ爾ら聽よ爾ら聽よ請ふ爾らヨアブに此に近よれ我爾に言んと言へと 17 かれ其婦にちかよるに婦いひけるは爾はヨアブなるやかれ然りと いひければ婦彼にいふ婢の言を聴けかれ我聽くといふ 18 婦即ち語りていひけるは昔人々誠に語りて人必ずアベルにおいて索問べしといひて事を終ふ 19 我はイスラエルの中の平和なる忠義なる者なりしかるに爾はイスラエルの中にて母ともいふべき城邑を滅さんことを求む何ゆゑに爾アホバの産業を呑み盡さんとするや 2

0 ヨアブ答へていひけるは決めてしからず決めてしからずわれ呑み盡し或は滅ぼさんとすることなし 21 其事しからずエフライムの山地の人ビクリの子名はシバといふ者手を擧て王ダビデに敵せり爾ら只彼一人を付せ然らば我此邑をさらんと婦ヨアブにいひけるは視よ彼の首級は石垣の上より爾に投いだすべし 22 かくて婦其智慧をもて凡の民の所にいたりければかれらビクリの子シバの首級を刎てヨアブの所に投出せり是においてヨアブ喇叭を吹ならしければ人々散て邑より退きておのおの其天幕に還りぬヨアブはエルサレムにかへりて王の處にいたれり 23 ヨアブはイスラエルの全軍の長なりエホヤダの子ベナヤはケレテ人とペレテ人の長なり 24 アドラムは徴募長なりアヒルデの子ヨシヤパテは史官なり 25 シワは書記官なりザドクとアビヤタルは祭司なり 26 亦ヤイル人イラはダビデの大臣なり

Chapter 21

1ダビデの世に年復年と三年饑饉ありければダビデ、エホバに問にエホバ言たまひけるは是はサウルと血を流せる其家のためなり其は彼嘗てギベオン人を殺したればなりと 2 是において王ギベオン人を召てかれらにいへりギベオン人はイスラエルの子孫にあらずアモリ人の殘餘なりしがイスラエルの子孫昔彼等に誓をなしたり然るにサウル、イスラエルとユダの子孫に熱心なるよりして彼等を殺さんと求めたり 3 即ちダビデ、ギベオン人にいひけるは我汝等のために何を爲すべきか我何の賠償を爲さば汝等エホバの産業を祝するや 4 ギベオン人彼にいひけるは我儕はサウルと其家の金銀を取じ又汝は我らのためにイスラエルの中の人一人をも殺すなかれダビデいひけるは汝等が言ふ所は我汝らのために爲ん 5 彼等王にいひけるは我儕を滅したる人我儕を殲してイスラエルの境の中に居留ざらしめんとて我儕にむかひて謀を設けし人 6 請ふ其人の子孫七人我儕に與へ我儕エホバの選みたるサウルのギベアにて彼等をエホバのまへに懸ん王いふ我與ふべしと 7 されど王サウルの子ヨナタンの子なるメビボセテを惜めり是は彼等のあひだ即ちダビデとサウルの子ヨナタンとの間にエホバを指して爲る誓あるに因り 8 されど王アヤの女リツバがサウルに生し二人の子アルモニとメビボセテおよびサウルの女メラブがメホラ人バルジライの子アデリエルに生し五人の子を取りて 9 かれらをギベオン人の手に與へければギベオン人かれらを山の上にてエホバの前に懸たり彼等七人俱に斃れて刈穫の初日即ち大麥刈の初時に死り 10 アヤの女リツバ麻布を取りて刈穫の初時より其屍上到天より雨ふるまでこれをおのれのために磐の上に布きおきて晝は空の鳥を屍の上に止らしめず夜は野の獸をちかよらしめざりき 11 爰にアヤの女サウルの妾リツバの爲しことダビデに聞えければ

12ダビデ往てサウルの骨と其子ヨナタンの骨をヤベシギレアデの人々の所より取り是はペリシテ人がサウルをギルボアに殺してベテシヤンの衢に懸たるをかれらが竊みさりたるものなり 13 ダビデ其處よりサウルの骨と其子ヨナタンの骨を携へ上りまた人々其懸られたる者等の骨を斂たり 14 かくてサウルと其子ヨナタンの骨をベニヤミンの地のゼラにて其父キシの墓に葬り都て王の命じたる所を爲り比より後神其地のため祈禱を聽たまへり 15 ペリシテ人復イスラエルと戰爭を爲すダビデ其臣僕とともに下りてペリシテ人と戦ひけるがダビデ因徳居りければ 16 イシビベノブ、ダビデを殺さんと思へり(イシビベノブは巨人の子等の一人にて其槍の銅の重は三百シケルあり彼新しき劔を帶たり) 17 しかれどもゼルヤの子アビシヤイ、ダビデを助けて其ペリシテ人を撃ち殺せり是においてダビデの従者かれに誓ひていひけるは汝は再我儕と共に戰爭に出べからず恐ろは爾イスラエルの燈光を消さんと 18 此後再びゴブにおいてペリシテ人と戦あり時にホシヤ人シベカイ巨人の子等の一人なるサフを殺せり 19 爰に復ゴブにてペリシテ人と戦あり其處にてペレテム人ヤレオレギムの子エルハナン、ガテのゴリアテの兄弟ラミを殺せり其槍の柄は機の梁の如くなりき 20 又ガテに戦ありしが其處に一人の身長き人あり手には各六の指あり足には各六の指ありて其數合せて二十四なり彼もまた巨人の生る者なり 21 彼イスラエルを挑みしかばダビデに兄弟シメアの子ヨナタン彼を殺せり 22 是らの四人はガテにて巨人の生るものなりしがダビデの手と其臣僕の手に斃れたり

Chapter 22

1ダビデ、エホバが己を諸の敵の手とサウルの手より救ひいだしたまへる日に此歌の言をエホバに陳たり曰く 2 エホバはわが巖わが要害我を救ふ者 3 わが磐の神なりわれ彼に倚頼むエホバはわが干わが救の角わが高槽わが逃躲處わが救主なり爾我をすくひて暴き事を免れしめたまふ 4 我ほめまつべきエホバに呼はりてわが敵より救はる 5 死の波濤われを繞み邪曲なる者の河われをおそれしむ 6 冥府の繩われをとりまき死の機檻われにのぞめり 7 われ艱難のうちエホバをよびまたわが神に籲れりエホバ其殿よりわが聲をききたまひわが喊呼其耳にいりぬ 8 爰に地震ひ撼き天の基動き震へりそは彼怒りたまへばなり 9 烟其鼻より出てのぼり火その口より出て燒きつくしおこれる炭かれより燃いづ 10 彼天を傾けて下りたまふ黒雲その足の下にあり 11 ケルブに乗て飛び風の翼の上にははれ 12 其周圍に黒暗をおき集まれる水密雲を幕としまふ 13 そのまへの光より炭火燃いづ 14 エホバ天より雷をくだし最高者聲をいだし 15 又箭をはなちて彼等をちらし電をはなちて彼等をうちやぶりた

まへり 16 エホバの叱咤とその鼻の氣吹の風によりて海の底あらはれいで地の基あらはになりぬ 17 エホバ上より手をたれて我をとり洪水の中より我を引あげ 18 またわが動き敵および我をにくむ者より我をすくひたまへり彼等は我よりも強かりければなり 19 彼等はわが苗災の日にわれに臨めりされどエホバわが支柱となり 20 我を廣き處にひきいだしわれを喜びがゆゑに我をすくひたまへり 21 エホバわが義にしたがひて我に報い吾手の清潔にしたがひて我に酬したまへり 22 其はわれエホバの道をまもり惡をなしてわが神に離しことなければなり 23 その律例は皆わがまへにあり其法憲は我これを離れざるなり 24 われ神にむかひて完全かり又身を守りて惡を避たり 25 故にエホバわが義にしたがひ其目のまへにわが潔白あるに循ひてわれに報いたまへり 26 矜恤者には爾矜恤ある者のごとく 27 完全人には爾完全者のごとく 28 潔白者には爾潔白もののごとく 29 邪曲者には爾嚴酷者のごとくしたまふ 28 難る民は爾これを救たまふ然ど矜高者は爾の目見て之を卑したまふ 29 エホバ爾はわが燈火なりエホバわが暗をてらしたまふ 30 われ爾によりて軍隊の中を驅とほりわが神に由て石垣を飛こゆ 31 神は其道まつたしエホバの言は純粹なし彼は都て己に倚頼む者の干となりたまふ 32 夫エホバのほか誰か神たらん我儕の神のほか孰か磐たらん 33 神はわが強き堅壁にてわが道を全し 34 わが足を塵の如くなし我をわが崇邱に立しめたまふ 35 神わが手に戦を教へたまへばわが腕は銅の弓をも挽を得 36 爾我に爾の救の干を與へ爾の慈悲われを大ならしめたまふ 37 爾わが身の下の歩を恢廓しめたまへば我蹀ふるへず 38 われわが敵を追て之をほろぼし之を絶すまではかへらず 39 われ彼等を絶し彼等を破碎ば彼等たちえずわが足の下にたふる 40 汝戦のために力をもて我に帶しめ又われに逆ふ者をわが下に拜跪したまふ 41 爾わが敵をして我に後を見せしめたまふ我を惡む者はわれ之をほろぼさん 42 彼等環視せど救ふ者なしエホバを仰視ど彼等に應たまはず 43 地の塵の如くわれ彼等をうちくだき又衢間の泥のごとくわれ彼等をふみにぢる 44 爾われをわが民の争闘より救ひ又われをまもりて異邦人等の首長となしたまふわが知ざる民我につかふ 45 異邦人等は我に媚び耳に聞と均しく我にしたがふ 46 異邦人等は衰へ其衛所より戰慄て出づ 47 エホバは活る者なりわが磐は讚べきかなわが救の磐の神はあがめまつべし 48 此神われに仇を報いしめ國々の民をわが下にくだらしめたまひ 49 又わが敵の中よりわれを出し我にさからふ者の上にて我をあげまた強暴人の許よりわれを救ひいだしたまふ 50 是故にエホバよわれ異邦人等のうちに爾をほめ爾の名を稱へん 51 エホバその王の救をおほいにしその受膏者なるダビデと其裔に永久に恩を施したまふなり

Chapter 23

1ダビデの最後の言は是なりエサイの子ダビデの詔言即ち高く擧られし人ヤコブの神に膏をそそがれし者イスラエルの善き歌人の詔言 2 エホバの靈わが中にありて言たまふ其諭言わが舌にあり 3 イスラエルの神いひたまふイスラエルの磐われに語たまふ人を正く治むる者神を畏れて治むる者は 4 日の出の朝の光のごとく雲なき朝のごとく又雨の後の日の光明によりて地に茁いづる新草のごとく 5 わが家かく神とともにあるにあらずや神萬具備りて鞏固なる永久の契約を我になしたまへり吾が救と喜を皆いかで生ぜしめたまはざらんや 6 しかれども邪なる者は荆棘のごとくにして手をもて取がたければ皆ともすてられん 7 之にふる人は鐵と槍の柯とを其身に備ふべし是は火にやけて燒たゆるにいたらん 8 是等はダビデの勇士の名なりタクモ二人ヤシヨベアムは三人衆の長なりしが一時八百人にむかひて槍を揮ひて之を殺せり 9 彼の次はアホア人ドの子エルザルにして三勇士の中のものなり彼其處に戦はんとて集まれるペリシテ人にむかひて戦を挑みイスラエルの人々の進みのぼれる時にダビデとともに居たりしが 10 たちてペリシテ人を撃ち終に其手疲て其手劍に固着て離れざるにいたり此日エホバ大なる救拯を行ひたまふ民は彼の跡にしたがひゆきて只褻取而已なりき 11 彼の次はハハリ人アゲの子シヤンマなり一時ペリシテ人一隊となりて集まり彼處に扁豆の満たる地の處あり民ペリシテ人のまへより逃たるに 12 彼其地の中に立て禦ぎペリシテ人を殺せりしかしてエホバ大なる救拯を行ひたまふ 13 刈穫の時に三十人衆の首長なる三人下りてアドラムの洞穴に往てダビデに詣れり時にペリシテ人の隊レバイムの谷に陣どり 14 其時ダビデは要害に居りペリシテ人の先陣はベテレムにあり 15 ダビデ慕ひていひけるは誰かベテレムの門にある井の水を我にのましめんかと 16 三勇士乃ちペリシテ人の陣を衝き過てベテレムの門にある井の水を汲取てダビデの許に携へ來れり然どダビデ之をのむことをせずこれをエホバのまへに灌ぎて 17 いひけるはエホバよ我決てこれを爲じ是は生命をかけて往し人の血なりと彼これを飲くとを好まざりき 三勇士は是等の事を爲り 18 ゼルヤの子ヨアブの兄弟アビシヤイは三十人衆の首たり彼三百人にむかひて槍を揮ひて殺せり彼三十人衆の中に最も尊き者にして彼等の長とたれり然ども三人衆にはあざざりき 20 エホヤダの子カブジエルのベナヤは勇氣あり多くの功績ありし者なり彼モアブの人の獅子の如きも二人を撃殺せり彼は亦雪の時に下りて穴の中に獅子を撃殺せり 21 彼また容貌魁偉たるエジプト人を撃殺せり其エジプト人は手に槍を持たるに彼は杖を執て下りエジプト人の手より槍を振とりて其槍をもてこれを殺せ

り 22 エホヤダの子ベナヤ是等の事を爲し三十勇士の中に名を得たり 23 彼は三十人衆の中に尊かりしかども三人衆には及ばざりきダビデかれを参議の中に列しむ 24 三十人衆の中にはヨアブの兄弟アサヘル、ベレヘムのドドの子エルハナン 25 ハロデ人シヤンマ、ハロデ人エリカ 26 パルデ人ヘレツ、テコア人イツケシの子イラ 27 アネトテ人アビエゼル、ホシヤ人メブンナイ 28 アホア人ザルモン、ネトバ人マハライ 29 ネトバ人バアナの子ヘレブ、ベニヤミンの子孫のギベアより出たるリバイの子イツタイ 30 ヒラトン人ベナヤ、ガアシの谷のヒダイ 31 アルバテ人アビアルボン、パホルム人アズマウテ 32 シャルボ二人エリヤバ、キゾニヤセシ 33 ハラリ人シヤンマの子ヨナタン、アラリ人シヤラルの子アヒアム 34 ウルの子エリパレテ、マアカ人ヘベル、ギロ人アヒトベルの子エリアム 35 カルメル人ヘツライ、アルバム人アハライ 36 ゴバのナタンの子イガル、ガド人バニ 37 アンモン人ゼレク、ゼルヤの子ヨアブの武器を執る者ベエロデ人ナハライ 38 エテリ人イラ、エテリ人ガレブ 39 ヘテ人ウリヤあり都三十七人

Chapter 24

1 エホバ復イスラエルにむかひて怒を發しダビデを感動して彼等に敵對しめ往てイスラエルとユダを數へよと言しめたまふ 2 王乃ちヨアブおよびヨアブとともにある軍長等にいひけるは請ふイスラエルの諸の支派の中をダンよりベエルシバに至るまで行めぐりて民を核べ我をして民の數を知しめよ 3 ヨアブ王にいひけるは幾何あるともねがはくは汝の神エホバ民を百倍に増たまへ而して王が主の目のそれを視るにいたれ然といへども王が主の此事を悦びたまふは何故ぞやと 4 されど王の言ヨアブと軍長等に勝ければヨアブと軍長等王の前を退きてイスラエルの民を核べに往り 5 かれらヨルダンを濟りアロエルより即ち河の中の邑より始めてガドにいたりヤゼルにいたり 6 ギレアデにいたりタテムホデシの地にいたり又ダニヤンにいたりシドンに旋り 7 またツコの城にいたりヒビ人とカナン人の諸の邑にいたりユダの南に出てベエルシバにいたり 8 彼等國を徧く行めぐり九月と廿日を経てルサレムに至りぬ 9 ヨアブ人口の數を王に告たり即ちイスラエルに劍を抜く壯士八十萬ありき又ユダの人は五十萬ありき 10 ダビデ民の數を書し後其心自ら責む是においてダビデ、エホバにいふ我これを爲して大に罪を犯したりねがはくはエホバよ僕の罪を除きたまへ我甚だ愚なる事を爲りと 11 ダビデ朝興し時エホバの言ダビデの先見者なる預言者ガデに臨みて曰く 12 往てダビデに言へエホバ斯いふ我汝に三を示す汝其一を擇べ我其を汝に爲んと 13 ガデ、ダビデの許にいたりこれに告てこれにいひけるは汝の地に七年の

饑饉いたらんか或は汝敵に追れて三月其前に遁んか或は爾の地に三日の疫病あらんか爾考へてわが如何なる答を我を遣はせし者に爲べきかを決めよ 14 ダビデ、ガデにいひけるは我大に苦しむ請ふ我儕をしてエホバの手に陥らしめよ其憐憫大ならばなり我をして人の手に陥らしむるなかれ 15 是においてエホバ朝より集會の時まで疫病をイスラエルに降したまふダンよりベエルシバまでに民の死者七萬人なり 16 天の使其手をエルサレムに伸てこれを滅さんとしたりしがエホバ此害惡を悔て民を滅す天使にいひたまひけるは足り今汝の手を住めよ時にエホバの使はエブス人アラウナの禾場の傍にあり 17 ダビデ民を撃つ天使を見し時エホバに申していひけるは嗚呼我は罪を犯したり我は惡き事を爲たり然ども是等の羊群は何を爲たるや請ふ爾の手を我とわが父の家に對たまへと 18 此日ガデ、ダビデの所にいたりてかれにいひけるは上りてエブス人アラウナの禾場にてエホバに壇を建よ 19 ダビデ、ガデの言に隨ひエホバの命じたまひしごとくのぼれり 20 アラウナ觀望て王と其臣僕の己の方に進み来るを見アラウナ出て王のまへに地に伏て拜せり 21 かくてアラウナにいひけるは何に因てか王が主僕所のにきませるやダビデひけるは汝より禾場を買ひとりエホバに壇を築きて民に降る災をとどめんとてなり 22 アラウナ、ダビデにいひけるはねがはくは王わが主其目に善と見ゆるものを取て献げたまへ燔祭には牛あり薪には打禾車と牛の器ありと 23 アラリナこれを悉く王に奉呈ぐアラウナ又王にねがはくは爾の神エホバ爾を受納たまはんことをといふ 24 王アラウナにいひけるは斯すべからず我必ず値をはらひて爾より買とらん我費なしに燔祭をわが神エホバに獻ぐることをせじとダビデ銀五十シケルにて禾場と牛を買とれり 25 ダビデ其處にてエホバに壇を築き燔祭と酬恩祭を獻げたり是においてエホバ其地のために祈禱を聽たまひて災のイスラエルに降ること止りぬ

列王記

Chapter 1

1 爰にダビデ王年邁みて老い寝衣を衣するも温らざりければ 2 其臣僕等彼にいひけるは王わが主のために一人の若き處女を求めしめて之をして王のまへにたちて王の左右となり汝の懷に臥て王わが主を暖めしめんと 3 彼等乃ちイスラエルの四方の境に美き童女を求めてシユナミ人アビシヤグを得て之を王に携きたれり 4 此童女甚だ美しくして王の左右となり王に事たり然ど王と之と交はざりき 5 時にハギデの子アドニヤ自ら高くし我は王とならんとて己のために戰車と騎兵および自己のまへに驅る者五十人を備へたり 6 其父は彼が生れ

てより已來汝何故に然するやとてかれを痛しめし事なかりきアドニヤも亦容貌の甚だ美き者にてアブサロムの次に生れたり 7 彼ゼルヤの子ヨアブおよび祭司アビヤタルと商議ひしかば彼等之に従ひゆきて助けたり 8 されど祭司ザドクとエホヤダの子ベナヤと預言者ナタンおよびシメイとレイならびにダビデに屬したる勇士はアドニヤに與せざりき 9 アドニヤ、エンゲルの近邊なるゾヘレテの石の傍にて羊と牛と肥畜を宰りて王の子の己の兄弟および王の臣僕なるユダの人を盡く請けり 10 されども預言者ナタンとベナヤと勇士とおのれの兄弟ソロモンとをば招かざりき 11 爰にナタン、ソロモンの母バテシバに語りていひけるは汝ハギデの子アドニヤが王となれるを聞ざるかしかるにわれらの主ダビデはこれを知ざるなり 12 されば請ふ來れ我汝に計を授て汝をして己の生命と汝の子ソロモンの生命を救しめん 13 汝往てダビデ王の所に入り之にいへ王わが主よ汝は婢に誓ひて汝の子ソロモンは我に繼で王となりわが位に坐せんとといひたまひしにあらざり然にアドニヤ何故に王となれるやと 14 われまた汝が尚其處にて王と語ふ時に汝に次て入り汝の言を證すべしと 15 是においてバテシバ寢室に入りて王の所にいたるに王は甚だ老てシユナミ人アビシヤグ王に事へ居たり 16 バテシバ躬を鞠め王を拜す王いふ何なるや 17 かれ王にいひけるはわが主汝は汝の神エホバを指て婢に汝の子ソロモンは我に繼で王となりわが位に坐せんと誓ひたまへり 18 しかるに視よ今アドニヤ王となれり而て王わが主汝は知たまはず 19 彼は牛と肥畜と羊を饒く宰りて王の諸子および祭司アビヤタルと軍の長ヨアブを招けりされど汝の僕ソロモンをば招かざりき 20 汝王わが主よイスラエルの目皆汝に注ぎ汝が彼等に誰が汝に繼で王わが主の位に坐すべきを告るを望む 21 王わが主の其父祖と共に寝たまはん時に我とわが子ソロモンは罪人と見做さるるにいたらんと 22 バテシバ尚王と語ふうちに視よ預言者ナタンも亦入きたりければ 23 人々王に告て預言者ナタン此にありと曰ふ彼王のまへに入り地に伏て王を拜せり 24 しかしてナタンにいひけるは王わが主汝はアドニヤ我に繼で王となりわが位に坐すべしといひたまひしや 25 彼は今日下りて牛と肥畜と羊を饒く宰りて王の諸子と軍の長等と祭司アビヤタルを招けりしかして彼等はアドニヤのまへに飲食してアドニヤ王壽かれと言ふ 26 されど汝の僕なる我と祭司ザドクとエホヤダの子ベナヤと汝の僕ソロモンとは彼請かざるなり 27 此事は王わが主の爲たまふ所なるかしかるに汝誰が汝に繼で王わが主の位に坐すべきを僕に知せたまはざるなりと 28 ダビデ王答ていふバテシバをわが許に召せと彼乃ち王のまへに入て王のまへにたつに 29 王誓ひていひけるはわが生命を諸の艱難の中に救ひたまひしエホバは活く 30 我イスラエルの神エホバを指て誓ひて汝の子ソロモン我に繼で王となり我

に代りてわが位に坐すべしといひしごとくに我今日爲すべしと 31 是においてバテシバ躬を鞠め地に伏て王を拜し願くはわが主ダビデ王長久に生ながらへたまへといふ 32 ダビデ王にいひけるはわが許に祭司ザドクと預言者ナタンおよびエホヤダの子ベナヤを召と彼等乃ち王のまへに来る 33 王彼等にいひけるは汝等の主の臣僕を伴ひわが子ソロモンをわが身の騾に乗せ彼をギホンに導き下り 34 彼處にて祭司ザドクと預言者ナタンは彼に膏をそそぎてイスラエルの上に王と爲すべししかして汝ら喇叭を吹てソロモン王壽かれと言へ 35 かくして汝ら彼に隨ひて上り来るべし彼は來りてわが位に坐し我に代りて王となるべし我彼を立てイスラエルとユダの上に主君となせりと 36 エホヤダの子ベナヤ王に對ていひけるはアメンねがはくは王わが主の神エホバ然言たまはんことを 37 ねがはくはエホバ王わが主とともに在せしごとくソロモンとともに在してその位をわが主ダビデ王の位よりも大ならしめたまはんことを 38 斯て祭司ザドクと預言者ナタンおよびエホヤダの子ベナヤ並にケレテ人とベレテ人下りソロモンをダビデ王の騾に乗せて之をギホンに導きいたれり 39 しかして祭司ザドク幕屋の中より膏の角を取てソロモンに膏そそげりかくて喇叭を吹きならし 40 民みなソロモン王壽かれと言ひ民みなかれに隨ひ上りて笛を吹き大に喜び地はかれらの聲にて裂たり 41 アドニヤおよび彼とともに居たる賓客其食を終たる時に皆これを聞りヨアブ喇叭の聲を聞いていひけるは城邑の中の聲音何ぞ喧囂やと 42 彼が言を間に視よ祭司アビヤタルの子ヨナタン來るアドニヤ彼にいひけるは入よ汝は勇る人なり嘉音を持ちたれるならん 43 ヨナタン答へてアドニヤにいひけるは誠にわが主ダビデ王ソロモンを王となしたまへり 44 王祭司ザドクと預言者ナタンおよびエホヤダの子ベナヤ並にケレテ人とベレテ人をソロモンとともに遣したまふ即ち彼等はソロモンを王の騾に乗せてゆき 45 祭司ザドクと預言者ナタン、ギホンにて彼に膏をそそぎて王となせり而して彼等其處より飲て上るが故に城邑は誼囂し汝らが聞る聲音は是なり 46 又ソロモン國の位に坐し 47 且王の臣僕來りてわれらの主ダビデ王に祝を陳て願くは汝の神ソロモンの名を汝の名よりも美し其位を汝の位よりも大ならしめたまへと言ひしかして王は牀の上にて拜せり 48 王また斯いへりイスラエルの神エホバはほむべきかなエホバ今日わが位に坐する者を與たまひてわが目亦これを見るなりと 49 アドニヤとともにある賓客皆驚愕き起て各其途に去りゆけり 50 茲にアドニヤ、ソロモンの面を恐れ起て往き壇の角を執へたり 51 或人ソロモンに告ていふアドニヤ、ソロモン王を畏る彼壇の角を執て願くはソロモン王今日我に劍をもて僕を殺じと誓ひ給へと言たりと 52 ソロモンいひけるは彼もし善人となるならば其髮の毛一すぢも地におちざる

べし然ど彼の中に惡の見るあらば死しむべしと 53 ソロモン王乃ち人を遣て彼を壇より携下らしむ彼來りてソロモン王を拜しければソロモン彼に汝の家に往といへり

Chapter 2

1ダビデ死ぬる日近よりければ其子ソロモンに命じていふ 2我は世人の皆往く途に往んとす汝は強く丈夫のごとく爲れ 3汝の神エホバの職守を守り其道に歩行み其法憲と其誠命と其律例と其證言とをモーセの律法に録されたることく守るべし然らば汝乃て汝の爲とごとく凡て汝の向ふところにて榮ゆべし 4又エホバは其嘗に我の事に付て語りて若汝の子等其道を憤み心を盡し精神を盡して眞實をもて吾前に歩ばイスラエルの位に上る人汝に缺ることなかるべしと言たまひし言を堅したまはん 5又汝はゼルヤの子ヨアブが我に爲たる事即ち彼がイスラエルの二人の軍の長ネルの子アブネルとエテルの子アマサに爲たる事を知る彼此二人を切殺し太平の時に戦の血を流し戦の血を己の腰の周圍の帯と其足の履に染たり 6故に汝の智慧にしたがひて事を爲し其白髪を安然に墓に下らしむるなかれ 7但しギリアデ人バルザイの子等には恩恵を施し彼等をして汝の席にて食ふ者の中にあらしめよ彼等はわが汝の兄弟アブサロムの面を避て逃し時我に就たるなり 8視よ又バホリムのベニヤミン人ゲラの子シメイ汝とともに在り彼はわがマナヒムに往し時勵しき詛言をもて我を誑へり然ども彼ヨルダンに下りて我を迎へたれば我エホバを指て誓ひて我劍をもて汝を殺さじといへり 9然りといへども彼を辜なき者とする勿れ汝は智慧ある人なれば彼に爲べき事を知るなり血を流して其白髪を墓に下すべしと 10斯てダビデは其父祖と偕に寝りてダビデの城に葬らる 11ダビデのイスラエルに王たりし日は四十年なりき即ちヘブロンにて王たりし事七年エルサレムにて王たりし事三十三年 12ソロモン其父ダビデの位に坐し其國は堅固く定まりぬ 13爰にハギテの子アドニヤ、ソロモンの母バテシバの所に來りければバテシバいひけるは汝は平穩なる事のために來るや彼いふ平穩たる事のためなり 14彼又いふ我は汝に言さんとす事ありとバテシバいふ言されよ 15かれいひけるは汝の知ごとく國は我の有にしてイスラエル皆其面を我に向て王となさんと爲りしかるに國は轉てわが兄弟の有となれり其彼の有となれるはエホバより出たるなり 16今我一の願を汝に求む請ふわが面を黜くるなかれバテシバかれにいひけるは言されよ 17彼いひけるは請ふソロモン王に言て彼をしてシエナミ人アビシヤグを我に與て妻となさしめよ彼は汝の面を黜けるなべし然らばなり 18バテシバいふ善し我汝のために王に言んと 19かくてバテシバ、アドニヤのために言とてソロモン王の許に至りければ王起てかれを迎へ彼を拜して其位

に坐なほり王母のために座を設けしむ乃ち其右に坐せり 20しかしてバテシバいひけるは我一の細小き願を汝に求むわが面を黜くるなかれ王かれにいひけるは母上よ求めたまへ我汝の面を黜けるなり 21彼いひけるは請ふシユナミ人アビシヤグをアドニヤに與て妻となさしめよ 22ソロモン王答て其母にいひけるは何ぞアドニヤのためにシユナミ人アビシヤグを求めらるや彼のために國をも求められよ彼は我の兄なればなり彼と祭司アビヤタルとゼルヤの子ヨアブのために求められよと 23ソロモン王乃ちエホバを指て誓ひていふ神我に斯なし又重ねて斯なしたまへアドニヤは其身の生命を喪はんとて此言を言いだせり 24我を立てわが父ダビデの位に上しめ其約せしごとく我に家を建たまひしエホバは生くアドニヤは今日戮さるべしと 25ソロモン王エホバの子ベナヤを遣はしければ彼アドニヤを撃て死しめたり 26王また祭司アビヤタルにいひけるは汝の故園アナトデにいたれ汝は死に當る者なれども嚮にわが父ダビデのまへに神エホバの櫃を昇き又凡てわが父の艱難を受たる處にて汝も艱難を受たれば我今日は汝を戮さじと 27ソロモン、アビヤタルを逐いだしてエホバの祭司たらしめざりき斯エホバがシロにてエリの家につきて言たまひし言應たり 28爰に其風聞ヨアブに達りければヨアブ、エホバの幕屋に遁れて壇の角を執たり其はヨアブは轉てアブサロムには隨はざりしかどもアドニヤに隨ひたればなり 29ヨアブがエホバの幕屋に遁れて壇の傍に居ることソロモンに聞えければソロモン、エホバの子ベナヤを遣はしいひけるは往て彼を撃てと 30ベナヤ乃ちエホバの幕屋にいたり彼にいひけるは王斯言ふ出來れ彼いひけるは否我は此に死んとベナヤ反て王に告てヨアブ斯言ひ斯我に答へたりと言ふ 31王ベナヤにいひけるは彼が言ふごとく爲し彼を撃て葬りヨアブが故なくして流したる血を我とわが父の家より除去べし 32又エホバはヨアブの血を其身の首に歸したまふべし其は彼は己よりも義く且善りし二人を撃ち劍をもてこれを殺したればなり即ちイスラエルの軍の長ネルの子アブネルとユダの軍の長エテルの子アマサを殺せり然るに吾父ダビデは與り知ざりき 33されば彼等の血は長久にヨアブの首と其苗裔の首に飯すべし然どダビデと其苗裔と其家と其位にはエホバよりの平安永久にあるべし 34エホバの子ベナヤすなはち上りて彼を撃ち彼を殺せり彼は野にある己の家に葬らる 35王乃ちエホバの子ベナヤをヨアブに代て軍の長となせり王また祭司ザドクをしてアビヤタルに代しめたり 36又王人を遣てシメイを召て之に曰けるはエルサレムに於て汝の爲に家を建て其處に住み其處より此にも彼にも出るなかれ 37汝が出てキデロン川を濟る日には汝確に知れ汝必ず戮さるべし汝の血は汝の首に歸せん 38シメイ王にいひけるは此言は善し王わが王の言たまへることく僕然すべしと斯シメイ

日久しくエルサレムに住り 39三年の後シメイの二人の僕ガテの王マアカの子アキシの所に逃されり人々シメイに告ていふ視よ汝の僕はガテにありと 40シメイ乃ち起て其驢馬に鞍置きガテに往てアキシに至り其僕を尋ねたり即ちシメイ往て其僕をガテより携來りしが 41シメイのエルサレムよりガテにゆきて歸しことソロモンに聞えければ 42王人を遣てシメイを召て之にいひけるは我汝をしてエホバを指て誓しめ且汝を戒めて汝確に知れ汝が出て此彼に歩く日には汝必ず戮さるべしと言しにあらざり又汝は我に我聞る言葉は善しといへり 43しかるに汝なんぞエホバの誓とわが汝に命じたる命令を守ざりしや 44王又シメイにいひけるは汝は凡て汝の心の知る諸の惡即ち汝がわが父ダビデに爲たる所を知るエホバ汝の惡を汝の首に歸したまふ 45されどソロモン王は福祉を蒙らんまたダビデの位は永久にエホバのまへに固く立べしと 46王エホバの子ベナヤに命じければ彼出てシメイを撃ちて死しめたりしかして國はソロモンの手に固く立り

Chapter 3

1ソロモン、エジプトの王パロと縁を結びパロの女を娶て之を携來り自己の家とエホバの家とエルサレムの周圍の石垣を建築ことを終るまでダビデの城に置り 2當時までエホバの名のために建たる家なかりければ民は崇邱にて祭を爲り 3ソロモン、エホバを愛し其父ダビデの法憲に歩みり但し彼は崇邱にて祭を爲し香を焚り 4爰に王ギベオンに往て其處に祭を爲んとせり其は彼處は大なる崇邱なればなり即ちソロモン一千の燔祭を其壇に献たり 5ギベオンにてエホバ夜の夢にソロモンに顯れたまへり神いひたまひけるは我何を汝に與ふべきか汝求めよ 6ソロモンいひけるは汝は汝の僕わが父ダビデが誠實と公義と正心を以て汝と共に汝の前に歩みしに囚て大なる恩恵を彼に示したまへり又汝彼のために此大なる恩恵を存て今日のごとくかれの位に坐する子を彼に賜へり 7わが神エホバ汝は僕をして我父ダビデに代て王となしめたまへり而るに我は小き子にして出入することを不知 8且僕は汝の選みたまひし汝の民の中にあり即ち大なる民にて其數衆くして數ふること書すことも能はざる者なり 9是故に聽き別る心を僕に與へて汝の民を鞠しめ我をして善惡を辨別することを得さしめたまへ誰か汝の此夥多き民を鞠くことを得んと 10ソロモン此事を求めければ其言主の心にかなへり 11是において神かれにいひたまひけるは汝此事を求めて己の爲に長壽を求めず又己のために富有をも求めず又己の敵の生命をも求めずして惟詔を聽き別る才智を求めたるに因て 12視よ我汝の言に循ひて爲り我汝に賢明く聰慧き心と與ふれば汝の先には汝の如き者なく汝の後にも汝の如き者興らざるべし 13我亦汝の求めざる者即ち富と

をも汝に與ふれば汝の生の涯王等の中に汝の如き者あらざるべし 14又汝若汝の父ダビデの歩し如く吾道に歩みてわが法憲と命令を守らば我汝の日を長うせんと 15ソロモン目窟て視るに夢なりき斯てソロモン、エルサレムに至りエホバの契約の櫃の前に立ち燔祭を献け酬恩祭を爲して其諸の臣僕に饗宴を爲り 16爰に娼妓なる二人の婦王の所に來りて其前に立ししが 17一人の婦いひけるはわが主よ我と此婦は一の家に住む我此婦と偕に家にありて子を生子 18しかるにわが生し後第三日に此婦もまた生りしかして我儕儕にありき家には他人の我らと偕に居りし者なし家には只我儕二人のみ 19然るに此婦其子の上に臥たるによりて夜の中に其子死たれば 20中夜に起て婢の眠れる間にわが子をわれの側より取りて之を己の懷に臥しめ己の死たる子をわが懷に臥しめたり 21朝に及びて我わが子に乳を飲せんとて興て見るに死みたり我朝にいひて其を熟く視たるに其はわが生るわが子にはあらざりしと 22今一人の婦いふ否活るはわが子死るは汝の子なりと此婦いふ否死るは汝の子活るはわが子なりと彼等斯王のまへに論り 23時に王いひけるは一人は此活るはわが子死るは汝の子なりと言ひ又一人は否死るは汝の子活るはわが子なりといふと 24王乃ち劍を我に持來れといひければ劍を王の前に持來れり 25王いひけるは活る子を二に分て其半を此に半を彼に與へよと 26時に其活子の母なる婦人心其子のために焚がごとくなりて王に言していひけるは請ふわが主よ活る子を彼に與へたまへ必ず殺したまふなかれと然ども他の一人は是を我のにも汝のにもならしめず判たせよと言り 27王答ていひけるは活る子を彼に與へよ必ず殺すなかれ彼は其母なるなりと 28イスラエル皆王の審理し所の判決を聞て王を畏れたり其は神の智慧の彼の中にありて審理を爲しむるを見ればなり

Chapter 4

1ソロモン王はイスラエルの全地に王たり 2其有る群卿は左の如しザドクの子アザリヤは相國 3シヤの子エリホレフとアヒヤは書記官アヒルデの子ヨシヤバは史官 4エホバの子ベナヤは軍の長ザドクとアビヤタルは祭司 5ナタンの子アザリヤは代官の長ナタンの子ザブデは大員にして王の友たり 6アヒシャルは宮内卿アブダの子アドニラムは徵募長なり 7ソロモン又イスラエルの全地に十二の代官を置り其人々王と其家のために食物を備へたり即ち各一年に一月宛食物を備へたり 8其名左のごとしエフライムの山地にはベンホル 9マカツとシヤラビムとベテシメシとエロンベテハナンにはベンデケル 10アルベテにはベンヘセデありシヨコとヘベルの全地とは彼擔任り 11ドルの高地の全部にはベンアヒナダブあり彼はソロモンの女タバテを妻とせり 12アルヒデの子バア

ナはアタナクとメギドとエズレルの下にザルタナの邊にあるベテシヤンの全地とを擔任てベテシヤンよりアベルメホラにいたりヨクネアムの外にまで及び 13 ギレアデのラモテにはベンゲベルあり彼はギレアデにあるマナセの子ヤイルの諸村を擔任ち又バシヤンなるアルゴブの地にある石垣と銅の關を有る大なる城六十を擔任り 14 イドの子アヒナダブはマハナイムを擔任り 15 ナフタリにはアヒマズあり彼もソロモンの女バスマテを妻に娶れり 16 アセルとアロテにはホシヤイの子バアナあり 17 イツサカルにはバルアの子ヨシヤバテあり 18 ベニヤミンにはエラの子シメイあり 19 アモリ人の王シホン地およびバシヤンの王オグの地なるギレアデの地にはウリの子ゲベルあり其地にありし代官は唯彼一人のみ 20 ユダとイスラエルの人は多くして濱の沙の多きがごとくなりしが飲食して樂めり 21 ソロモンは河よりペリシテ人の地にいたるまでとエジプトの境に及びまでの諸國を治められたれば皆禮物を餽りてソロモンの一生の間事へたり 22 諸ソロモンの一日の食物は細麵三十石粗麵六十石 23 牝牛十枚牧場の牛二十羊一百其外に牡鹿羚羊小鹿および肥たる禽あり 24 其はソロモン河の此方をテフサよりガザまで盡く治められたればなり即ち河の此方の諸王を悉く統治たり彼は四方の臣僕より平安を得たりき 25 ソロモンの一生の間ユダとイスラエルはダンよりバエルシバに至るまで安然に各其葡萄樹の下と無花果樹の下に住り 26 ソロモン戦車の馬の厩四千騎兵一萬二千を有り 27 彼代官等各其月にソロモン王のためおよび總てソロモン王の席に来る者の爲に食を備へて缺ることなからしめたり 28 又彼等各其職に備ひて馬および疾足の馬に食する大麥と藜藿を其馬の在る處に携へ來れり 29 神ソロモンに智慧と聰明を甚だ多く賜ひ又廣大き心を賜ふ海濱の沙のごとし 30 ソロモンの智慧は東洋の人々の智慧とエジプトの諸の智慧よりも大なりき 31 彼は凡の人よりも賢くエズラ人エタンよりも又マホルの子なるヘマンとカルコルおよびガルダよりも賢くして其名四方の諸國に聞えたり 32 彼箴言三千を説り又其詩歌は一千五百あり 33 彼又草木の事を論じてレバノンの香柏より牆に生る苔に迄及びり彼亦獸と鳥と匍行物と魚の事を論じたり 34 諸の國の人々ソロモンの智慧を聽んとて來り天下の諸の王ソロモンの智慧を聞及びて人を遣はせり

Chapter 5

1 ソロの王ヒラム、ソロモンの膏そそがれて其父にかはりて王となりしを聞て其臣僕をソロモンに遣せりヒラムは恒にダビデを愛したる者なりければなり 2 是に於てソロモン、ヒラムに言遣はしけるは 3 汝の知ごとく我父ダビデは其周圍にありし戰爭に因て其神エホバの名のために家を建ること能はずしてエホバが彼

等を其足の跡の下に置またふを待ち 4 然るに今わが神エホバ我に四方の太平を賜ひて敵もなく殃もなければ 5 我はエホバのわが父ダビデに語てわが汝の代に汝の位に上しむる汝の子其人はわが名のために家を建べしと言たまひしに備ひてわが神エホバの名のために家を建んとす 6 されば汝命じてわがためにレバノンより香柏を砍出さしめよわが僕汝の僕と共にあるべし又我は凡て汝の言ふごとく汝の僕の賃銀を汝に付すべし其は汝の知ごとく我儕の中にはシドン人の如く木を砍に巧みな人なければなりと 7 ヒラム、ソロモンの言を聞て大に喜び言けるは今日エホバに稱譽あれエホバ、ダビデに此夥多しき民を治むる賢き子を與たまへり 8 かくてヒラム、ソロモンに言遣りけるは我汝が言ひ遣したる所の事を聽り我香柏の材木と松樹の材木とに付ては凡て汝の望むごとく爲すべし 9 わが僕レバノンより海に持下らんしかして我これを海より桴にくみて汝が我に言ひ遣す處におくり其處にて之をくづすべし汝之を受よ又汝はわが家のために食物を與へてわが望を成せと 10 斯てヒラムはソロモンに其凡て望むごとく香柏の材木と松の材木を與へたり 11 又ソロモンはヒラムに其家の食物として小麦二萬石を與へまた清油二十石をあたへたり 12 スソロモン年々ヒラムに與へたり 13 エホバ其言たまひしごとくソロモンに智慧を賜へりまたヒラムとソロモンの間睦しくして二人偕に契約を結べり 13 爰にソロモン王イスラエルの全地に徵募人を興せり其徵募人の数は三萬人なり 14 ソロモンかれらを一月交代に一萬人づつレバノンに遣せり即ち彼等は一ヶ月レバノンに二月家ありアドニラムは徵募人の督者なりき 15 ソロモン負載者七萬人山に於て石を砍る者八萬人あり 16 外に又其工事の長なる官吏三千三百人ありて工事に作く民を統たり 17 かくて王命じて大なる石費き石を鑿出さしめ琢石を以て家の基礎を築かむ 18 ソロモンの建築者とヒラムの建築者およびゲバル人之を砍り斯彼等材木と石を家を建るに備へたり

Chapter 6

1 イスラエルの子孫のエジプトの地を出たる後四百八十年ソロモンのイスラエルに王たる第四年ジフの月即ち二月にソロモン、エホバのために家を建ることを始めたり 2 ソロモン王のエホバの爲に建たる家は長六十キユビト潤二十キユビト高三十キユビトなり 3 家の拝殿の廊は家の潤に備ひて長二十キユビト家の前の其潤十キユビトなり 4 彼家に造り附の格子ある窓を施たり 5 又家の牆壁に附て四周に連接屋を建て家の牆壁即ち拝殿と神殿の牆壁の周圍に環らせり又四周に旁房を造れり 6 下層の連接屋は潤五キユビト中層は潤六キユビトを第三層のは潤七キユビトなり即ち家の外に階級を造り環らし何者をも家の牆壁に挿入ざらしむ

7 家は建る時に鑿石所にて鑿り預備たる石にて造りたれば造れる間に家の中には鎚も鑿も其外の鐵器も聞えざりき 8 中層の旁房の戸は家の右の方にあり螺旋梯より中層の房にのぼり中層の房より第三層の房にいたるべし 9 斯彼家を建終り香柏の椽と板をもて家を葺り 10 又家に附て五キユビトの高たる連接屋を建環し香柏をもて家に交接たり 11 爰にエホバの言ソロモンに臨みて曰く 12 汝今此家を建つ若し汝わが法憲に歩みわが律例を行ひわが諸の誠命を守りて之にしたがひて歩まばわれはが汝の父ダビデに言し語を汝に固うすべし 13 我イスラエルの子孫の中に住わが民イスラエルを棄ざるべし 14 スソロモン家を建終り 15 彼香柏の板を以て家の牆壁の裏面を作れり即ち家の牀板より頂格の牆壁まで木をもて其裏面をはりまた松の板をもて家の牀板をはれり 16 又家の奥に二十キユビトの室を牀板より牆壁まで香柏をもて造れり即ち家の内に至聖所なる神殿を造れり 17 家即ち前にある拜殿は四十キユビトなり 18 家の内の香柏は瓠と咲る花を雕刻める者なり皆香柏にして石は見えざりき 19 神殿は彼其處にエホバの契約の櫃を置んとて家の内の中に設けたり 20 神殿の内は長二十キユビト潤二十キユビト高二十キユビトなり純金をもて之を蔽ひ又香柏の壇を覆へり 21 又ソロモン純金をもて家の内を蔽ひ神殿の前に金の鏈をもて間隔を造りて金をもて之を蔽へり 22 又金をもて殘るところなく家を蔽ひ遂に家を飾ることを悉く終たりまた神殿の傍にある壇は皆金をもて蔽へり 23 神殿の内に橄欖の木をもて二のケルビムを造れり其高十キユビト 24 其ケルブの一の翼は五キユビト又其ケルブの他の翼も五キユビトなり一の翼の末より他の翼の末までは十キユビトあり 25 他のケルブも十キユビトなり其ケルビムは偕に同量同形なり 26 此ケルブの高十キユビト彼ケルブも亦しかり 27 ソロモン家の内の中にケルビムを置系ケルビムの翼を展しければ此ケルブの翼は此牆壁に及び彼ケルブの翼は彼の牆壁に及びて其兩翼家の中にて相接れり 28 彼金をもてケルビムを蔽へり 29 家の周圍の牆壁には皆内外ともにケルビムと棕櫚と咲る花の形を雕み 30 家の牀板には内外ともに金を蔽へり 31 神殿の入口には橄欖の木を造れり其木匠の門柱は五分の一なり 32 其二の扉も亦橄欖の木なりソロモン其上にケルビムと棕櫚と咲る花の形を雕刻み金をもて蔽へり即ちケルビムと棕櫚の上に金を鍍たり 33 スソロモン亦拜殿の戸のために橄欖の木を門柱を造れり即ち四分の一なり 34 其二の戸は松の木にして此戸の兩扉は摺むべく彼戸の兩扉も摺むべし 35 ソロモン其上にケルビムと棕櫚と咲る花を雕刻み金をもてこれを蔽ひて善く其雕工に適はしむ 36 また鑿石三層と香柏の厚板一層をもて内庭を造れり 37 第四年のジフの月にエホバの家の基礎を築き 38 第十一年のブルの月即ち八月に凡て其箇條のごとく其定例のごとくに家

成りぬスソロモン之に建るに七年を渉れり

Chapter 7

1 ソロモン己の家を建しが十三年を経て全く其家を建終たり 2 彼レバノン森の家を建たり其長は百キユビト其潤は五十キユビト其高は三十キユビトなり香柏の柱四行ありて柱の上に香柏の梁あり 3 四十五本の柱の上なる梁の上は香柏にて蓋へり柱は一行に十五本あり 4 また愈三行ありて牖と牖と三段に相對ふ 5 戸と戸柱は皆大木をもて角に造り牖と牖と三段に相對へり 6 又柱の廊を造れり其長五十キユビト其潤三十キユビトなり柱のまへに一の廊ありまた其柱のまへに柱と階あり 7 又ソロモン審判を爲すために位の廊即ち審判の廊を造り牀板より牀板まで香柏をもて蔽へり 8 ソロモンの居る家は其廊の後の他の庭にありて其工作同じかりき 9 ソロモン亦其娶りたるバ口の女のために家を建しが此廊に同じかりき 9 是等は内外とも基礎より檐にいたるまで又外面にては大庭にいたるまで皆鑿石の量にしたがひて鋸にて割たる貴き石をもて造れるものなり 10 又基礎は貴き石大なる石即ち十キユビトの石八キユビトの石なり 11 其上には鑿石の量に備ひて貴き石と香柏あり 12 又大庭の周圍に三層の鑿石と一層の香柏の厚板ありエホバの家の内庭と家の廊におけるが如し 13 爰にソロモン人を遣はしてヒラムをツロより召び來れり 14 彼はナフタリの支派なる婦婦の子にして其父はツロの人にて銅の細工人なりヒラムは銅の諸の細工を爲すの智慧と慧悟と知識の充ちたる者なりしがソロモン王の所に來りて其諸の細工を爲り 15 彼銅の柱二を鑄たり其高各十八キユビトにして各十二キユビトの繩を環らすべし 16 又銅を鑄して柱頭を鑄て柱の頭に置ゆ此の頭の高も五キユビト彼の頭の高も五キユビトなり 17 柱の上にある頭の爲に組物の網と鏈様の様物を造れり此頭に七つ彼頭に七つあり 18 又二行の石櫓を一の網工の上の四周に造りて柱の上にある頭を蓋ふ他の頭をも亦然せり 19 柱の上にある頭は四キユビトの百合花の形にして廊におけるがごとし 20 二の柱の頭の上には亦網工の外なる腹の所に接きて石櫓あり他の柱の四周にも石櫓二百ありて相列べり 21 此柱を拜殿の廊に堅つ即ち右の柱を立て其名をヤキンと名け左の柱を堅て其名をボアズと名く 22 其柱の上に百合花の形あり斯其柱の作成り 23 又海を鑄なせり此邊より彼邊まで十キユビトにして其四周圍く其高五キユビトなり其四周は三十キユビトの繩を環らすべし 24 其邊の下には四周に匏瓜ありて之を環れり即ち一キユビトに十づつありて海の周圍を圍り其匏瓜は海を鑄たる時に二行に鑄たるなり 25 其海は十二の牛の上に立り其三は北に向ひ三は西に向ひ三は南に向ひ三は東に向ふ海其上にありて牛の後は皆内に向ふ 26 海の厚は手寛にして其邊は百

合花にて杯の邊の如くに作り海は二千斗を容たり 27 又銅の臺十を造れり一の臺の長四キユビト其濶四キユビト其高三キユビトなり 28 其臺の製作は左のごとし臺には嵌板あり嵌板は邊の中にあリ 29 邊の中にある嵌板の上に獅子と牛とケルビムあり又邊の上に座あり獅子と牛の下に花飾の垂下物あり 30 其臺には各四の銅の輪と銅の軸あり其四の足には肩のごとき者あり其肩のごとき者は洗盤の下にあリて凡の花飾の旁に鑄つたけり 31 其口は頭の内より上は一キユビトなり其口は圓く一キユビト半にして座の作の如し又其口には雕工あり其鏡板は四角にして圓からず 32 四の輪は鏡板の下にあリ輪の手は臺の中にあリ輪は各高一キユビト半 33 輪の工作は戰車の輪の工作の如し其手と縁と輻と轂とは皆鑄物なり 34 臺の四隅に四の肩の如き者あり其肩のごとき者は臺より出づ 35 臺の上の所の高半キユビトは其周圍圍し又臺の上の所の手と鏡板も臺より出づ 36 其手の板と鏡板には其各の隙處に循ひてケルビムと獅子と棕櫚を雕刻み又其四周に花飾を造れり 37 是のごとく十の臺を造れり其鑄法と量と形は皆同じ 38 又銅の洗盤十を造れり洗盤は各四斗を容れ洗盤は各四キユビトなり十の臺の上には各一の洗盤あり 39 其臺五を家の右の旁に五を家の左の旁に置家右の東南に其海を置り 40 ヒラム又銅と火鍬と鉢とを造れりヒラム、エホバの家の爲にソロモン王に爲る諸の細工を成終たり 41 即ち二の往と其柱の上なる頭の二の礎と柱の上なる其頭の二の礎を蓋ふ二の網工と 42 其二の網工の爲の石榴四百是は一の網工に石榴二行ありて柱の上なる二の礎を蓋ふ 43 又十の臺と其臺の上の十の洗盤と 44 一の海と其海の下十二の牛 45 及び鍋と火鍬と鉢是也ヒラムがソロモン王にエホバの家のために造りし此等の器は皆光明ある銅なりき 46 王ヨルダンの低地に於てスコテとザレタンの間の粘土の地に之を鑄たり 47 ソロモン其器甚だしく多かりければ皆權ずに措り其銅の重しれざりき 48 又ソロモン、エホバの家の諸の器を造れり即ち金の壇と供前のパンを載る金の案 49 および純金の燈臺是は神殿のまへに五は右に五は左にあり又金の花と燈蓋と燈鉗と 50 純金の盆と剪刀と鉢と皿と滅燈器と至聖所なる内の家の戸のため及び拜殿なる家の戸のためなる金の肘鈕是なり 51 斯ソロモンのエホバの家のために爲る諸の細工終り是においてソロモン其父ダビデが奉納めたる物即ち金銀および器を携へいりてエホバの家の寶物の中に置り

Chapter 8

1 爰にソロモン、エホバの契約の櫃をダビデの城即ちシオンより昇上らんとてイスラエルの長老と諸の支派の首イスラエルの子孫の家の長等をエルサレムにてソロモン王の所に召集む 2 イスラエルの人皆エタニ

ムの月即ち七月の節筵に當てソロモン王の所に集まれり 3 イスラエルの長老皆至り祭司櫃を執りあげて 4 エホバの櫃と集會の幕屋と幕屋にありし諸の聖き器を昇上れり即ち祭司とレビの人之を昇のばれり 5 ソロモン王および其許に集れるイスラエルの會衆皆彼と偕に櫃の前にありて羊と牛を獻けたりしが其數多くして書すことも數ふること能はざりき 6 祭司エホバの契約の櫃を其處に昇いたり即ち家の神殿なる至聖所の中のケルビムの翼の下に置めたり 7 ケルビムは翼を櫃の所に舒べ且ケルビム上より櫃と其棒を掩へり 8 杠長かりければ杠の末は神殿の前の聖所より見えたり然ども外には見えざりき其杠は今日まで彼處にあリ 9 櫃の内には二の石牌の外何もあらざりき是はイスラエルの子孫のエジプトの地より出たる時エホバの彼等と契約を結たまへる時にモーセがホレブにて其處に置めたる者なり 10 斯て祭司聖所より出けるに雲エホバの家に盈たれり 11 祭司は雲のために立て供事すること能はざりき其はエホバの榮光エホバの家に盈たればなり 12 是においてソロモンいひけるはエホバは濃き雲の中に居んといひたまへり 13 我誠に汝のために住むべき家永久に居べき所を建たりと 14 王其面を轉てイスラエルの凡の會衆を祝せり時にイスラエルの會衆は皆立あたり 15 彼言けるはイスラエルの神エホバは譽べきかなエホバは其口をもて吾父ダビデに言ひ其手をもて之を成し遂げたまへり 16 即ち我は吾民イスラエルをエジプトより導き出せし日より我名を置べき家を建しめんためにイスラエルの諸の支派の中より何れの城邑をも選みしことなし但ダビデを選びたりとがみイスラエルの上に立しめたりと言たまへり 17 夫イスラエルの神エホバの名のために家を建ることはわが父ダビデの心にあリき 18 しかるにエホバわが父ダビデにいひたまひけるはわが名のために家を建ること汝の心にあリ汝の心に此事あるは善し 19 然ども汝は其家を建べからず汝の腰より出る汝の子其人吾名のために家を建べしと 20 而してエホバ其言たまひし言を行ひたまへり即ち我わが父ダビデに代りて立ちエホバの言たまひし如くイスラエルの位に坐しイスラエルの神エホバの名のために家を建たり 21 我又其處にエホバの契約を蔵めたる櫃のために一の所を設けたり即ち我儕の父祖をエジプトの地より導き出したまひし時に彼等に爲したまひし者なりと 22 ソロモン、イスラエルの凡の會衆の前にてエホバの壇のまへに立ち其手を天に舒て 23 言けるはイスラエルの神エホバよ上の天にも下の地にも汝の如き神なし汝は契約を持ちたまひ心を全うして汝のまへに歩むところの汝の僕等に恩恵を施したまふ 24 汝は汝の僕わが父ダビデに語たまへる所を持ちたまへり汝は口をもて語り手をもて成し遂げたまへること今日のごとし 25 イスラエルの神エホバよ然ば汝が僕わが父ダビデに語りて若し汝の子孫其道を慎みて汝がわが前に歩めるとくわが

前に歩まばイスラエルの位に坐する人わがまへにて汝に缺ること無るべしといひたまひし事をダビデのために持ちたまへ 26 然ばイスラエルの神よ爾が僕わが父ダビデに言たまへる爾の言に效驗あらしめたまへ 27 神果して地上に住たまふや視よ天も諸の天の天も爾を容るに足ず況て我が建たる此家をや 28 然どもわが神エホバよ僕の祈禱と懇願を顧みて其號呼と僕が今日爾のまへに祈る祈禱を聴たまへ 29 願くは爾の目を夜晝此家に即ち爾が我名は彼處に在べしといひたまへる處に向ひて開きたまへ願くは僕の此處に向ひて祈らん祈禱を聴たまへ 30 願くは僕と爾の民イスラエルが此處に向ひて祈る時に爾其懇願を聴たまへ爾は爾の居處なる天において聽き聽て赦したまへ 31 若し人其隣人に對ひて犯せることありて其人誓をもて誓ふことを要られんに來りて此家において爾の壇のまへに誓ひなば 32 爾天において聽て行ひ爾の僕等を鞫き惡き者を罪して其道を其首に歸し義しき者を義として其義に循ひて之に報いたまへ 33 若爾の民イスラエル爾に罪を犯したるがために敵の前に敗られんに爾に歸りて爾の名を崇め此家にて爾に祈り願ひなば 34 爾天において聽き爾の民イスラエルの罪を赦して彼等を爾が其父祖に與へし地に歸らしめたまへ 35 若彼等が爾に罪を犯したるが爲に天閉て雨無らん彼等若此處にむかひて祈り爾の名を崇め爾が彼等を苦めたまふときに其罪を離れなば 36 爾天において聽き爾の僕等爾の民イスラエルの罪を赦したまへ爾彼等に其歩むべき善道を教へたまふ時は爾が爾の民に與へて産業となさしめたまひし爾の地に雨を降したまへ 37 若國に饑饉あるか若くは疫病枯死朽腐噬亡ぼす蝗蟲あるか若くは其敵國にいりて彼等を其門に圍むか如何なる災害如何なる病疾あるも 38 若一人か或は爾の民イスラエル皆各己の心の災を知て此家に向ひて手を舒はし其人如何なる祈禱如何なる懇願を爲とも 39 爾の居處なる天に於て聽て赦し行ひ各の人に其心を知給ふ如く其道々にしたがひて報い給へ其は爾のみ凡の人の心を知たまへばなり 40 爾かく彼等をして爾が彼等の父祖に與へたまへる地に居る日に常に爾を畏れしめたまへ 41 且又爾の民イスラエルの者にあらずして爾の名のために遠き國より來る異邦人は 42 (其は彼等爾の大なる名と強き手と伸たる腕を聞およぶべければなり) 若來りて此家にむかひて祈らば 43 爾の居處なる天に於て聽き凡て異邦人の爾に籲求むる如く爲たまへ爾かく地の諸の民をして爾の名をしらしめ爾の民イスラエルのごとく爾を畏れしめ又我が建たる此家は爾の名をもて稱呼するといふことを知り給へ 44 爾の民其敵と戰はんとて爾の遣はしたまふ所に出たる時彼等若爾が選みたまへる城とわが爾の名のために建たる家の方に向ひてエホバに祈らば 45 爾天において彼等の祈禱と懇願を聽て彼等を助けたまへ 46 人は罪を犯さざる者なければ彼等爾に罪を犯すことありて爾彼等を怒

り彼等を其敵に付し敵かれらるを虜として遠近を諭す敵の地に引ゆかん時は 47 若彼等虜れゆきし地において自ら顧みて悔い己を虜へゆきし者の地にて爾に願ひて我儕罪を犯し悖れる事を爲たり我儕惡を行ひたりと言ひ 48 己を虜ゆきし敵の地にて一心一念に爾に歸り爾が其父祖に與へたまへる地爾が選みたまへる城とわが爾の名のために建たる家の方に向ひて爾に祈らば 49 爾の居處なる天において爾彼等の祈禱と懇願を聽てかれらを助け 50 爾の民の爾に對て犯したる事と爾に對て過てる其凡の罪過を赦し彼等を虜ゆる者の前にて彼等に憐を得させ其人々をして彼等を憐ましめたまへ 51 其は彼等は爾がエジプトより即ち鐵の鑪の中よりいだしたまひし爾の民の産業なればなり 52 願くは僕の祈禱と爾の民イスラエルの祈願に爾の目を開きて凡て其爾に籲求むる所を聴たまへ 53 其は爾彼等を地の凡の民の中より別ちて爾の産業となしたまへばなり 神エホバ爾が我儕の父祖をエジプトより導き出せし時モーセによりて言給ひし如し 54 ソロモン此祈禱と祈願を悉くエホバに祈り終りし時其天にむかひて手を舒べ膝を屈居たるを止てエホバの壇のまへより起あがり 55 立て大なる臺にてイスラエルの凡の會衆を祝して言けるは 56 エホバは譽べきかなエホバは凡て其言たまひし如く其民イスラエルに太平を與へたまへり其僕モーセによりて言たまひし其善言は皆一も違はざりき 57 願くは我儕の神エホバ我儕の父祖と偕に在せしごとく我儕とともに在せ我儕を離れたまふなかれ我儕を棄たまふなかれ 58 願くは我儕の心をおのれに傾けたまひて其凡の道に歩ましめ我儕の父祖に命じたまひし誠命と法憲と律例を守らしめたまへ 59 願くはエホバの前にわが願し是等の言日夜われらの神エホバに近くあれ而してエホバ日々事に僕を助け其民イスラエルを助けたまへ 60 斯して地の諸の民にエホバの神なること他に神なきことを知しめたまへ 61 されば爾等我儕の神エホバとともにありて今日の如く爾らの心を完全しエホバの法憲に歩み其誠命を守るべしと 62 斯て王および王と偕にありしイスラエル皆エホバのまへに犠牲を獻たり 63 ソロモン酬恩祭の犠牲を獻けたり即ち之をエホバに獻ぐ其牛二萬二千羊十二萬なりき 斯王とイスラエルの子孫皆エホバの家を開けり 64 其日に王エホバの家の前なる庭の中に聖別め其處にて燔祭と禱祭と酬恩祭の脂とを獻げたり是はエホバの前なる銅の壇小さくして燔祭と禱祭と酬恩祭の脂とを受るにたらざりしが故なり 65 其時ソロモン七日に七日合て十四日我儕の神エホバのまへに節筵を爲りイスラエルの大なる會衆ハマテの入處よりエジプトの河にいたるまで悉く彼と偕にありき 66 第八日にソロモン民を歸せり民は王を祝しエホバが其僕ダビデと其民イスラエルに施したまひし諸の恩恵のために喜び且心に樂みて其天幕に往り

Chapter 9

1 ソロモン、エホバの家と王の家を建てる事を終へ且凡てソロモンが爲んと欲し望を遂し時 2 エホバ再ソロモンに嘗てギベオンにて顯現たまひし如くあらはれたまひて 3 彼に言たまひけるは我は爾が我まへに願ひ祈禱と祈願を聴たり我爾が建たる此家を聖別てわが名を永く其處に置べし且わが目とわが心は恒に其處にあるべし 4 爾若爾の父ダビデの歩みし如く心を完うして正しく我前に歩みわが爾に命じたる如く凡て行ひてわが憲法と律例を守らば 5 我は爾の父ダビデに告てイスラエルの位に上る人爾に缺ること無るべしと言しごとく爾のイスラエルに王たる位を固うすべし 6 若爾等又は爾等の子孫全く轉きて我にしたがはずわが爾等のまへに置たるわが誠命と法憲を守らずして往て他の神に事へ之を拝まば 7 我イスラエルをわが與へたる地の面より絶ん又わが名のために我が聖別たる此家をば我わがまへより投げ棄んししてイスラエルは諸の民の中に諺語となり嘲笑となるべし 8 又此家は高くあれども其傍を過る者は皆之に驚き嘶きて言んエホバ何故に此地に此家に斯爲たまひしやと 9 人答へて彼等は己の父祖をエジプトの地より導き出せし其神エホバを棄て他の神に附従ひ之を拜み之に事へしに因てエホバ此の凡の害惡を其上に降せるなりと言ん 10 ソロモン二十年を経て二の家即ちエホバの家と王の家を建をはりヒウムにガリラヤの地の城邑二十を與へたり 11 其はソロモンの王ヒラムはソロモンに凡て其望に循ひて香柏と松の木と金を供給たればなり 12 ヒラム、ツロより出てソロモンが己に與へたる諸邑を見しに其目に善らざりければ 13 我兄弟よ爾が我に與へたる此等の城邑は何なるやといひて之をカブルの地となづけたり其名今日までのこる 14 嘗てヒラムは金百二十タラントを王に遣れり 15 ソロモン王の徵募人を興せし事は是なり即ちエホバの家と自己の家とミロとエルサレムの石垣とハゾルとメゴドンとゲゼルを建んが爲なりき 16 エジプトの王パロ嘗て上りてゲゼルを取り火を以て之を熾き其邑に住るカナン人を殺し之をソロモンの妻なる其女に與へて粧奩と爲り 17 ソロモン、ゲゼルと下ベテホロンと 18 バアラと國の野にあるタデモル 19 及びソロモンの有てる府庫の諸邑其戦車の諸邑其騎兵の諸邑並にソロモンがエルサレム、レバノンおよび其凡の領地に於て建んと欲し者を盡く建たり 20 凡てイスラエルの子孫に非るアモリ人ヘテ人ペリジ人ヒビ人エブス人の遺存者 21 其地に在て彼等の後に遺存る子孫即ちイスラエルの子孫の滅し盡すことを得ざりし者に至る 22 然どもイステエルの子孫をばソロモン一人も奴隷と爲ざりき其は彼等は軍人彼の臣僕牧伯大將たり戦車と騎兵の長たればなり 23 ソロモンの工事を管理れる首なる官

吏は五百五十人にして工事に働く民を治めたり 24 爰にパロの女ダビデの城より上りてソロモンが彼のために建たる家に至る其時にソロモン、ミロを建たり 25 ソロモン、エホバに築きたる壇の上に年に三次燔祭と酬恩祭を獻げ又エホバの前なる壇に香を焚りソロモン斯家を全うせり 26 ソロモン王エドムの地紅海の濱に於てエラテの邊なるエジオンゲベルにて船數隻を造れり 27 ヒラム海の事を知れる舟人なる其僕をソロモンの僕と偕に其船にて遣せり 28 彼等オフルに至り其處より金四百二十タラントを取てこれをソロモン王の所に携來る

Chapter 10

1 シバの女王エホバの名に關るソロモンの風聞を聞き及び難問を以てソロモンを試みんとて來れり 2 彼甚だ多くの部從香物と甚だ多くの金と寶石を負ふ駱駝を從へてエルサレムに至る彼ソロモンの許に來り其心にある所を悉く之に言たるに 3 ソロモン彼に其凡の事を告たり王の知ずして彼に告ざる事無りき 4 シバの女王ソロモンの諸の智慧と其建たる家と 5 其席の食物と其臣僕の列坐る事と其侍臣の伺候および彼等の衣服と其酒人と其エホバの家に上る階級とを見て全く其氣を奪はれたり 6 彼王にいひけるは我が自己の國にて爾の行爲と爾の智慧に付て聞たる言は眞實なりき 7 然ど我來りて目に見るまでは其言を信ぜざりしが今視るに其半も我に聞えざりしなり爾の智慧と昌盛はわが聞たる風聞に越ゆ 8 常に爾の前に立て爾の智慧を聴く是等の人爾の臣僕は幸福なるかな 9 爾の神エホバは讃べきかなエホバ爾を喜び爾をイスラエルの位に上らせたまへりエホバ永久にイスラエルを愛したまふに因て爾を王となして公道と義を行はしめたまふなりと 10 彼乃ち金百二十タラント及び甚だ多くの香物と寶石とを王に饋れりシバの女王のソロモン王に饋りたるが如き多くの香物は重て至ざりき 11 オフルより金を載來りたるヒラムの船は亦オフルより多くの白檀木と寶石とを運び來りければ 12 王白檀木を以てエホバの家と王の家とに欄干を造り歌謡者のために琴と瑟を造れり是の如き白檀木は至らざりき亦今日までも見たることなし 13 ソロモン王の例に循ひてシバの女王に物を饋りたる外に又彼が望に任せて凡て其求むる物を饋れり斯て彼其臣僕等とともに歸りて其國に往り 14 偕一年にソロモンの所に至れる金の重量は六百六十六タラントなり 15 外に又商賈および商旅の交易並にアラビヤの王等と國の知事等よりも至れり 16 ソロモン王展金の大楯二百を造れり其大楯には各六百シケルの金を用ひたり 17 又展金の千三百を造れり一の千に三斤の金を用ひたり王是等をレバノン森林の家に置り 18 王又象牙をもて大なる寶座を造り純金を以て之を蔽へり 19 其寶座に六の階級あり寶座の後に圓き頭あり坐する處の

兩旁に扶手ありて扶手の側に二の獅子立てり 20 又其六の階級に十二の獅子此旁彼旁に立り是の如き者を作れる國はあらざりき 21 ソロモン王の用ひて飲る器は皆金なり又レバノン森林の家器も皆純金にして銀の物無りき銀はソロモンの世には貴まざりしなり 22 其は王海にタルシシの船を有てヒラムの船と供にあらしめタルシシの船をして三年に一度金銀象牙猿猴および孔雀を載て來らしめられたばなり 23 抑ソロモンは富と智慧に於て天下の諸の王よりも大なりければ 24 天下皆神がソロモンの心に授けたまへる智慧を聴んとてソロモンの面を見んことを求めたり 25 人々各其禮物を携へ來る即ち銀の器金の器衣服甲冑香物馬騾每歲定分ありき 26 ソロモン戦車と騎兵を集めたるに戦車千四百輛騎兵壹萬二千ありきソロモン之を戦車の城邑に置き或はエルサレムにて王の所に置り 27 王エルサレムに於て銀を石の如くに爲し香柏を平地の桑樹の如くに爲して多く用ひたり 28 ソロモンの馬を獲たるはエジプトとコアよりなり即ち王の商賣コアより價値を以て取り 29 エジプトより上り出る戦車一輛は銀六百にして馬は百五十なりき斯のごとくヘテ人の凡の王等およびスリアの王等のために其手をもて取出せり

Chapter 11

1 ソロモン王パロの女の外に多くの外國の婦を寵愛せり即ちモアブ人アンモニ人エドミ人シドン人ヘテ人の婦を寵愛せり 2 エホバ嘗て是等の國民についてイスラエルの子孫に言たまひけらく爾等は彼等と交るべからず彼等も亦爾等と交るべからず彼等必ず爾等の心を轉して彼等の神々に從はしめんとしかるにソロモン彼等を愛して離れざりき 3 彼妃公主七百人嬪三百人あり其妃等彼の心を轉せり 4 ソロモンの年老たる時妃等其心を轉移して他の神に從はしめければ彼の心其父ダビデの心の如く其神エホバに全からざりき 5 其はソロモン、シドン人の神アシタロテに從ひアンモニ人の惡むべき者なるモロクに從ひたればなり 6 ソロモン斯エホバの目のまへに惡を行ひ其父ダビデの如く全くはエホバに從はざりき 7 爰にソロモン、モアブの憎むべき者なるケモシの爲アアンモンの子孫の憎むべき者なるモロクのためにエルサレムの前なる山に崇邱を築けり 8 彼又其異邦の凡の妃の爲にも然せしかば彼等は香を焚て己々の神を祭れり 9 ソロモンの心轉りてイスラエルの神エホバを離れしによりてエホバ彼を怒りたまふエホバ嘗て兩次彼に顯れ 10 此事に付て彼に他の神に從ふべからずと命じたまひけるに彼エホバの命じたまひし事を守らざりしなり 11 エホバ、ソロモンに言たまひけるは此事爾にありしに因り又汝わが契約とわが爾に命じたる法憲を守らざりしに因て我必ず爾より國を裂きはなして之を爾の臣僕に與ふべし 12 然ど爾の父ダビデの爲に爾の

世には之を爲ざるべし我爾の子の手より之を裂きはなさん 13 但し我は國を盡くは裂きはなさずしてわが僕ダビデのために又わが選みたるエルサレムのために一の支派を爾の子に與へんと 14 是に於てエホバ、エドミ人ハダデを興してソロモンの敵と爲したまふ彼はエドム王の裔なり 15 曩にダビデ、エドムに事ありし時軍の長ヨアブ上りて其戰死せし者を葬りエドムの男を盡く撃殺しける時に方りて 16 (ヨアブはエドムの男を盡く絶までイスラエルの群衆と偕に六月其處に止れり) 17 ハダデ其父の僕なる數人のエドミ人と共に逃てエジプトに往んとせり時にハダデは尚小童子なりき 18 彼等ミデアンを起してバランに至りバランより人を伴ひてエジプトに往きエジプトの王パロに詣るにパロ彼に家を與へ食糧を定め且土地を與へたり 19 ハダデ大にパロの心になかひしかばパロ己の妻の妹即ち王妃タベネスの妹を彼に妻せり 20 タベネスの妹は彼に子ゲヌバテを生ければタベネスをばパロの家の中にて乳離せしむゲヌバテ、パロの家にてパロの子の中にありき 21 ハダデ、エジプトに在てダビデの其先祖と偕に寝りたると軍の長ヨアブの死たるを聞きしかばハダデ、パロに告けるは我を去しめてわが國に往しめよと 22 パロ彼にいひけるは爾我とともにありて何の缺たる處ありてか爾の國に往ん事を求むる彼言ふ何も無し然どもねがはくは我を去しめよ去しめよ 23 神父エリアダの子レゾンを興してソロモンの敵となせり彼は其主人ゾバの王ハダデゼルの許を逃さりたる者なり 24 ダビデがゾバの人を殺したる時に彼人を自己に集めて一隊の首領となりしが彼等ダマスコに往て彼處に住みダマスコを治めたり 25 ハダデが爲たる害の外にレゾン、ソロモンの一生の間イスラエルの敵となれり彼イステエルを惡みてスリアに王たりき 26 ゼレダのエフラタ人ネバテの子ヤラベアムはソロモンの僕なりしが其母の名はゼルヤと曰て聲婦なりき彼も亦其手を擧て王に敵す 27 彼が手を擧て王に敵せし故は此なりソロモン、ミロを築き其父ダビデの城の損缺を塞ぎ居たり 28 其人ヤラベアムは大なる能力ある者なりしかばソロモン此少者が事に勤むるを見て之を立てヨセフの家の凡の役を督どらしむ 29 其頃ヤラベアム、エルサレムを出し時シロ人なる預言者アヒヤ路に彼に遣へり彼は新しき衣服を著めたりしが彼等二人のみ野にありき 30 アヒヤ著たる新しき衣服を執へて之を十二片に裂き 31 ヤラベアムに言けるは爾自ら十片を取れイスラエルの神エホバ斯言たまふ視よ我國をソロモンの手より裂きはなして爾に一の支派を與へん 32 (但し彼はわが僕ダビデの故に因り又わがイスラエルの凡の支派の中より選みたる城エルサレムの故に因りて一の支派を有つべし) 33 其は彼等我を棄てシドン人の神アシタロテとモアブの神ケモシとアンモンの子孫の神モロクを拜み其父ダビデの如くわが道に歩てわが目に適ふ事わが法とわが律例を行

はざればなり 34 然ども我は國を盡くは彼の手より取ざるべし我が選みたるわが僕ダビデわが命令とわが法憲を守りたるに因て我彼が爲にソロモンを一生の間主たらしむべし 35 然ども我其子の手より國を取て其十の支派を爾に與へん 36 其子には我一の支派を與へてわが僕ダビデをしてわが己の名を置んとてわがために擇みたる城エルサレムにてわが前に常に一の光明を有しめん 37 我爾を取ん爾は凡て爾の心の望む所を治めイスラエルの上に王となるべし 38 爾若わが爾に命ずる凡の事を聽て吾が道に歩みわが目に適ふ事を爲しわが僕ダビデが爲し如く我が法憲と誠命を守らば我爾と偕にありてわがダビデのために建しごとく爾のために鞏固き家を建てイスラエルを爾に與ふべし 39 我之がためにダビデの裔を苦めんされど永遠には非じと 40 ソロモン、ヤラバラムを殺さんと求めければヤラバラム起てエジプトに逃遁れエジプトの王シヤクに至りてソロモンの死ぬるまでエジプトに居たり 41 ソロモンの其餘の行爲と凡て彼が爲たる事および其智慧はソロモンの行爲の書に記さるるにあらずや 42 ソロモンのエルサレムにてイスラエルの全地を治めたる日は四十年なりき 43 ソロモン其父祖と偕に寝りて其父ダビデの城に葬らる其子レハバラム之に代て王となれり

Chapter 12

1 爰にレハバラム、シケムに往り其はイスラエル皆彼を王と爲んとてシケムに至りたればなり 2 ネバテの子ヤラバラム尚エジプトに在て聞りヤラバラムはソロモン王の面をさけて逃さりエジプトに住居たるなり 3 時に人衆を遣はして彼を招けり斯てヤラバラムとイスラエルの會衆皆來りてレハバラムに告げけるは 4 汝の父我儕の軛を難くせり然ども爾今爾の父の難き役と爾の父の我儕に蒙らせたる重き軛を軽くせよ然ば我儕爾に事へん 5 レハバラム彼等に言けるは去て三日を経て再び我に來れと民乃ち去り 6 レハバラム王其父ソロモンの生る間其前に立たる老人等と計りていひけるは爾等如何に教へて此民に答へしむるや 7 彼等レハバラムに告げけるは爾若今日此民の僕となり之に事へて之に答へ善き言を之に語らば彼等永く爾の僕となるべしと 8 然に彼老人の教へし教を棄て自己と俱に生長て己のまへに立つ少年等と計れり 9 即ち彼等に言けるは爾等何を教へて我儕をして此我に告て爾の父の我儕に蒙むらせし軛を軽くせよと言ふ民に答へしむるや 10 彼と偕に生長たる少年彼に告ていひけるは爾に告て爾の父我儕の軛を重くしたれど爾これを我儕のために軽くせよと言たる此民に爾斯言べし我が小指はわが父の腰よりも大し 11 またわが父爾等に重き軛を負せたりしが我は更に爾等の軛を重くせん我父は鞭にて爾等を懲したれども我は蠟をもて爾等を懲んと爾斯彼等に告べしと 12 ヤラバラムと民皆

王の告て第三日に再び我に來れと言しごとく第三日にレハバラムに詣りしに 13 王荒々しく民に答へ老人の教へし教を棄て 14 少年の教の如く彼等に告て言けるは我父は爾等の軛を重くしたりしが我は更に爾等の軛を重くせん我父は鞭を以て爾等を懲したれども我は蠟をもて爾等を懲さんと 15 王斯民に聽ざりき此事はエホバより出たる者なり是はエホバその嘗てシロ人アヒヤに由てネバテの子ヤラバラムに告し言をおこなはんとて爲たまへるなり 16 かくイスラエル皆王の己に聽ざるを見たり是において民王に答へて言けるは我儕ダビデの中に何の分あらんやエサイの子の中に産業なしイスラエルよ爾等の天幕に歸れダビデよ今爾の家を視よと而してイスラエルは其天幕に去りゆけり 17 然どもユダの諸邑に住るイスラエルの子孫の上にはレハバラム其王となれり 18 レハバラム王徵募頭なるアドラムを遣はしけるにイスラエル皆石にて彼を撃て死しめたればレハバラム王急ぎて其車に登りエルサレムに逃たり 19 斯イスラエル、ダビデの家に背きて今日にいたる 20 爰にイスラエル皆ヤラバラムの歸りしを聞て人を遣して彼を集會に招き彼をイスラエルの全家の上に王と爲りユダの支派の外はダビデの家に従ふ者なし 21 ソロモンの子レハバラム、エルサレムに至りてユダの全家とベニヤミンの支派の者即ち壯年の武夫十八萬を集む斯してレハバラム國を己に販さんがためにイスラエルの家と戦はんとせしが 22 神の言神の人シマヤに臨みて曰く 23 ソロモンの子ユダの王レハバラムおよびユダとベニヤミンの全家並に其餘の民に告て言べし 24 エホバ斯言ふ爾等上るべからず爾等の兄弟なるイスラエルの子孫と戦ふべからず各人其家に歸れ此事は我より出たるなりと彼等エホバの言を聽きエホバの言に循ひて轉り去りぬ 25 ヤラバラムはエフライムの山地にシケムを建て其處に住み又其所より出てベヌエルを建たり 26 爰にヤラバラム其心に謂けるは國は今ダビデの家に歸らん 27 若此民エルサレムにあるエホバの家に禮物を獻げんとて上らば此民の心ユダの王なる其主レハバラムに歸りて我を殺しユダの王レハバラムに歸らんと 28 是に於て王計議て二の金の犢を造り人々に言けるは爾らのエルサレムに上ること既に足りイスラエルよ爾をエジプトの地より導き上りし汝の神を視よと 29 而して彼一をベテルに安乗一をダンに置り 30 此事罪となれりそは民ダンに迄往て其一の前に詣たればなり 31 彼又崇邱の家を建てレビの子孫にあらざる凡民を祭司となせり 32 ヤラバラム八月に節期を定めたり即ち其月の十五日なりユダにある節期に等し而して壇の上に上りたりベテルにて彼斯爲し其作りたる犢に禮物を獻げたり又彼其造りたる崇邱の祭司をベテルに立たり 33 かく彼其ベテルに造れる壇の上に八月の十五日に上れり是は彼が己の心より造り出したる月なり而してイスラエルの人々のために節期を定め壇の上のぼり

て香を焚り

Chapter 13

1 視よ爰に神の人エホバの言に由てユダよりベテルに來りり時にヤラバラムは壇の上に立て香を焚めたり 2 神の人乃ちエホバの言を以て壇に向ひて呼はり言けるは壇よ壇よエホバ斯言たまふ視よダビデの家にヨシアと名くる一人の子生るべし彼爾の上に香を焚く所の崇邱の祭司を爾の上に獻げん且人の骨爾の上に焼れんと 3 是日彼異蹟を示して言けるは是はエホバの言たまへる事の異蹟なり視よ壇は裂け其上にある灰は傾らんと 4 ヤラバラム王神の人がベテルにある壇に向ひて呼はりたる言を聞る時其手を壇より伸し彼を執へよと言けるが其彼に向ひて伸したる手枯て再び屈縮することを得ざりき 5 しかして神の人がエホバの言を以て示したる異蹟の如く壇は裂け灰は壇より傾出たり 6 王答て神の人に言けるは請ふ爾の神エホバの面を和めわが爲に祈りてわが手を本に復しめよ神の人乃ちエホバの面を和めければ王の手に復りて前のごとくに成り 7 是において王神の人に言けるは我と與に家に来りて身を息めよ我爾に禮物を與へんと 8 神の人王に言けるは爾假令爾の家の半を我に與ふるも我は爾とともに居し又此所にパンを食す水を飲ざるべし 9 其はエホバの言我にパンを食ふなかれ水を飲なかれ又爾が往る途より歸るなかれと命じたればなりと 10 斯彼他途を往き自己がベテルに來れる途よりは歸らざりき 11 爰にベテルに一人の老たる預言者住めたりしが其子等來りて是日神の人がベテルにて爲たる諸事を彼に宣たり亦神の人の王に言たる言をも其父に宣たり 12 其父彼等に彼は何の途を往しやといふ其子等ユダより來りし神の人の往たる途を見たればなり 13 彼其子等に言けるは我ために驢馬に鞍おけと彼等驢馬に鞍おきければ彼之に乗り 14 神の人の後に往きて橡の樹の下に坐するを見にいひけるは汝はユダより來れる神の人なるか其人然りと言ふ 15 彼其人にいひけるは我と偕に家に往てパンを食へ 16 其人いふ我は汝と偕に歸る能はず汝と偕に入あたはず又我は此處にて爾と偕にパンを食す水を飲じ 17 其はエホバの言我に爾彼處にてパンを食ふなかれ水を飲なかれ又爾が至れる所の途より歸り往なかれと言たればなりと 18 彼其人にいひけるは我も亦爾の如く預言者なるが天の使エホバの言を以て我に告て彼を爾と偕に爾の家に携かへりばパンを食はしめ水を飲しめよといへりとは其人を誑けるなり 19 是において其人彼と偕に歸り其家にてパンを食ひ水を飲り 20 彼等が席に坐せし時エホバの言其人を携歸し預言者に臨みければ 21 彼ユダより來れる神の人に向ひて呼はり言けるはエホバ斯言たまふ爾エホバの口に違き爾の神エホバの爾に命じたまひし命令を守らずして歸り 22 エホバの爾にパンを食ふなかれ水を飲なかれと

言たまひし處にてパンを食ひ水を飲たれば爾の屍は爾の父祖の墓に至らざるべしと 23 其人のパンを食ひ水を飲し後彼其人のため即ち己が携歸りたる預言者のために驢馬に鞍おけり 24 斯て其人往けるが獅子途にて之に遇ひて之を殺せり而して其屍は途に棄られ驢馬は其傍に立ち獅子も亦其屍の側に立り 25 人々經過て途に棄られたる屍と其屍の側に立る獅子を見て來り彼老たる預言者の住る邑にて語れり 26 彼人を途より携歸りたる預言者聞て言けるは其はエホバの口に違きたる神の人なりエホバの彼に言たまひし言の如くエホバ彼を獅子に付したまひて獅子彼を裂き殺せりと 27 しかして其子等に語りて言けるは我ために驢馬に鞍おけと彼等鞍おきければ 28 彼往て其屍の途に棄られ驢馬と獅子の其屍の傍に立るを見たり獅子は屍を食はず驢馬をも裂ざりき 29 預言者乃ち神の人の屍を取あげて之を驢馬に載せて携歸れりしかして其老たる預言者邑に入り哀哭りて之を葬れり 30 即ち其屍を自己の墓に置め皆之がために嗚呼わが兄弟よといひて哀哭り 31 彼人を葬りし後彼其子等に語りて言けるは我が死る時は神の人を葬りたる墓に我を葬りわが骨を彼の骨の側に置めよ 32 其は彼がエホバの言を以てベテルにある壇にむかひ又サマリヤの諸邑に在る崇邱の凡の家に向ひて呼はりたる言は必ず成べければなり 33 斯事の後ヤラバラム其惡き途を離れ歸らずして復凡の民を崇邱の祭司と爲り即ち誰にても好む者は之を立てければ其人は崇邱の祭司と爲り 34 此事ヤラバラムの家の罪戾となりて遂に之をして地の表面より消失せ滅亡に至らしむ

Chapter 14

1 當時ヤラバラムの子アビヤ疾めたり 2 ヤラバラム其妻に言けるは請ふ起て装を改へ人をして汝がヤラバラムの妻なるを知しめずしてシロに往け彼處にわが此民の王となるべきを手に告たる預言者アヒヤをる 3 汝の手に十のパン及び菓子と一瓶の蜜を取て彼の所に往け彼汝に此子の如何になるかを示すべしと 4 ヤラバラムの妻是爲し起てシロに往きアヒヤの家に至りしがアヒヤは年齢のために其目凝て見ることを得ざりき 5 エホバ、アヒヤにいひたまひけるは視よヤラバラムの妻其子疾るに因て其に付て汝に一の事を諮んとて來る汝斯々彼に言べし其は彼入り來る時其身を他の人とすべければなり 6 彼が戸の所に入來れる時アヒヤ其履聲を聞て言けるはヤラバラムの妻よ汝に嚴酷き事を告るを命ぜらる 7 往てヤラバラムに告べしイスラエルの神エホバ斯言たまふ我汝を民の中より擧げ我民イスラエルの上に汝を君となし 8 國をダビデの家より裂き離して之を汝に與へたるに汝は我僕ダビデの我が命令を守りて一心に我に従ひ唯わが目に適ふ事のみを爲しが如くならずして 9 汝の前に在し凡の者よ

りも悪を爲し往て汝のために他の神と鑄たる像を造り我が怒を激し我を汝の背後に棄たり 10 是故に視よ我ヤラベアムの家に災害を下しヤラベアムに屬する男はイスラエルにありて繫がれたる者も繫がれざる者も盡く絶ち人の塵埃を残りなく除くごとくヤラベアムの家の後を除くべし 11 ヤラベアムに屬する者の邑に死るをば犬之を食ひ野に死ぬるをば天空の鳥之を食はんエホバ之を語たまへばなり 12 爾起て爾の家に往け爾の足の邑に入る時は死ぬべし 13 而してイスラエル皆彼のために哀みて彼を葬らんヤラベアムに屬する者は唯是のみ墓に入るべし其はヤラベアムの家の中にて彼はイスラエルの神エホバに向ひて善き意を懷けばなり 14 エホバ、イスラエル上に一人の王を興さん彼其日にヤラベアムの家を斷絶べし但し何れの時なるか今即ち是なり 15 又エホバ、イスラエルを撃て水に揺撼ぐ葦の如くになしたまひイスラエルを其父祖の賜ひしか善地より抜き去りて之を河の外に散したまはん彼等其アシラ像を造りてエホバの怒を激したればなり 16 エホバ、ヤラベアムの罪の爲にイスラエルを棄たまふべし彼は罪を犯し又イスラエルに罪を犯さじめたりと 17 ヤラベアムの妻起て去ルザに至りて家の鬪に臻れる時は死り 18 イスラエル皆彼を葬り彼の爲に哀めりエホバの僕預言者アヒヤによりて言たまへる言の如し 19 ヤラベアムの其餘の行爲が如何に戦ひしか如何に世を治めしかは視よイスラエルの王の歴代志の書に記載る 20 ヤラベアムの王たりし日は二十二年なりき彼其父祖と偕に寝りて其子ナダブ之に代りて王となれり 21 ソロモンの子レハベアムはユダに王たりきレハベアムは王と成る時四十一歳なりしがエホバの其名を置んとてイスラエルの諸の支派の中より選みたまひし邑なるエルサレムにて十七年王たりき其母の名はナアマといひてアンモニ人なり 22 ユダ其父祖の爲たる諸の事に超てエホバの目の前に惡を爲し其犯したる罪に由てエホバの震怒を激せり 23 其は彼等も諸の高山の上と諸の青木の下に崇邱と碑とアシラ像を建たればなり 24 其國には亦男色を行ふ者ありき彼等はエホバがイスラエルの子孫の前より逐攘ひたまひし國民の中にありし諸の憎むべき事を傲ひ行へり 25 レハベアム王の第五年にエジプトの王シシヤク、エルサレムに攻上り 26 エホバの家の寶物と王の家の寶物を奪ひたり即ち盡く之を奪ひ亦ソロモンの造りたる金の楯を皆奪ひたり 27 レハベアム王其代に銅の楯を造りて王の家の門を守る侍衛の長手に付せり 28 王のエホバの家に入る毎に侍衛之を負ひ復之を侍衛の房に携歸れり 29 レハベアムの其餘の行爲と其凡て爲たる事はユダの王の歴代志の書に記載るに非ずや 30 レハベアムとヤラベアムの間に戦争ありき 31 レハベアム其父祖と偕に寝りて其父祖と共にダビデの城に葬らる其母のナアマといひてアンモニ人なり其子アビヤム之に代りて王と爲り

Chapter 15

1 1ネバテの子ヤラベアム王の第十八年にアビヤム、ユダの王となり 2 エルサレムにて三年世を治めたり其母の名はマアカといひてアブサロムの女なり 3 彼は其父が己のさきに爲たる諸の罪を行ひ其心其父ダビデの心の如く其神エホバに完全からざりき 4 然に其神エホバ、ダビデの爲にエルサレムに於て彼に一の燈明を與へ其子を其後に興しエルサレムを固く立しめ賜へり 5 其はダビデはヘテ人ウリヤの事の外は一生の間エホバの目に適ふ事を爲て其己に命じたまへる諸の事に背かざりければなり 6 レハベアムとヤラベアムの間には其一生の間戦争ありき 7 アビヤムの其餘の行爲と凡て其爲たる事はユダの王の歴代志の書に記載するにあらざりやアビヤムとヤラベアムの間に戦争ありき 8 アビヤム其先祖と俱に寝りしかば之をダビデの城に葬りぬ其子アサ之に代りて王と爲り 9 イスラエルの王ヤラベアムの第二十年にアサ、ユダの王となり 10 エルサレムにて四十一年世を治めたり其母の名はマアカといひてアブサロムの女なり 11 アサは其父ダビデの如くエホバの目に適ふ事を爲し 12 男色を行ふ者を國より逐ひ出し其父祖等の造りたる諸の偶像を除けり 13 彼は亦其母マアカのアシラの像を造りしがために之を貶して太后たらしめざりき而してアサ其像を毀ちてキデロンの谷に焚棄たり 14 但し崇邱は除かざりき然どアサの心は一生の間エホバに完全かりき 15 彼其父の獻納めたる物と己のをさめたる物金銀器をエホバの家に携へりぬ 16 アサとイスラエルの王バアシアの間に一生の間戦争ありき 17 イスラエルの王バアシア、ユダに攻上りユダの王アサの所に誰をも往來せざらしめん爲にラマを築けり 18 是に於てアサ王エホバの家の府庫と王の家の府庫に残れる所の金銀を盡く將て之を其臣僕の手付し之をダマスコに住るスリアの王ヘジヨンの子タブリモンの子なるベネハダデに遣はして言けるは 19 わが父と爾の父の間は我と爾の間に約を立ん視よ我爾に金銀の禮物を饒れり往て爾とイスラエルの王バアシアとの約を破り彼をして我を離れて上らしめよ 20 ベネハダデ、アサ王に聽きて自己の軍勢の長等を遣はしてイスラエルの諸邑を攻めイオンとダンとアベルベテマアカおよびキンネレテの全地とナフタリの全地とを撃り 21 バアシア聞及びラマを築くことを罷てテルザに止り 22 是に於てアサ王令をユダ全國に降したり一人も免かれし者なし斯して即ちバアシアが用ひてラマを築きたる石と材木を取きたらしめアサ王之用てベニヤミンのゲバとミズパを築けり 23 アサの其餘の行爲と其諸の功業と凡て其爲たる事および其建たる城邑はユダの王の歴代志の書に記載するにあらざりや但し彼は年老るに及びて其足を病たり 24 アサ其父祖と時に寝りて其父ダビデの

城に其父祖と偕に葬らる其子ヨシヤバテ之に代りて王と爲り 25 ユダの王アサの第二年にヤラベアムの子ナダブ、イスラエルの王と爲り二年イスラエルを治めたり 26 彼エホバの目のまへに惡を爲其父の道に歩行み其イスラエルに犯させたる罪を行へり 27 爰にイツサカルの家のアヒヤの子バアシア彼に敵して黨を結びペリシテ人に屬するギベトンにて彼を撃り其はナダブとイスラエル皆ギベトンを圍み居たればなり 28 ユダの王アサの第三年にバアシア彼を殺し彼に代りて王となれり 29 バアシア王となれる時ヤラベアムの全家を撃ち氣息ある者は一人もヤラベアムに残さずして盡く之を滅せりエホバの僕シロ人アヒヤに由て言たまへる言の如し 30 是はヤラベアムが犯し又イスラエルに犯させたる罪の爲め又彼がイスラエルの神エホバの怒を惹き起したる事に因るなり 31 ナダブの其餘の行爲と凡て其爲たる事はイスラエルの王の歴代志の書に記載するにあらざりや 32 アサとイスラエルの王バアシアの間に一生のあひだ戦争ありき 33 ユダの王アサの第三年にアヒヤの子バアシア、テルザに於てイスラエルの全地の王となりて二十四年を経たり 34 彼エホバの目のまへに惡を爲しヤラベアムの道にあゆみ其イスラエルに犯させたる罪を行へり

Chapter 16

1 爰にエホバの言ハナニの子エヒウに臨みバアシアを責て曰く 2 我爾を鹽の中より擧て我民イスラエルの上に君となしたるに爾はヤラベアムの道に歩行みわが民イスラエルに罪を犯させて其罪をもて我怒を激したり 3 されば我バアシアの後と其家の後を除き爾の家をしてネバテの子ヤラベアムの家の如くならしむべし 4 バアシアに屬する者の城邑に死るをば犬之を食ひ彼に屬する者の野に死るをば天空の鳥これを食はん 5 バアシアの其餘の行爲と其爲たる事と其功績はイスラエルの王の歴代志の書に記載するにあらざりや 6 バアシア其父祖と俱に寝りてテルザに葬らる其子エラ之に代りて王となれり 7 エホバの言亦ハナニの子エヒウに由て臨みバアシアと其家を責む是は彼がエホバの目のまへに諸の惡事を行ひ其手の目を以てエホバの怒を激してヤラベアムの家に倣たるに縁り又其ナダブを殺したるに縁てなり 8 ユダの王アサの第二十六年にバアシアの子エラ、テルザに於てイスラエルの王となりて二年を経たり 9 彼がテルザにありてテルザの宮殿の宰アルザの家に於て飲み酔たる時其僕ジムリ戦車の半を督どる者之に敵して黨を結べり 10 即ちユダの王アサの第二十七年にジムリ入て彼を撃ち彼を殺し彼にかはりて王となれり 11 彼王となりて其位に上れる時バアシアの全家を殺し男子は其親族にもあれ朋友にもあれ一人も之に遺さざりき 12 ジムリスバアシアの全家を滅ぼせりエホバが預言者エヒウに由

てバアシアを責て言たまへる言の如し 13 是はバアシアの諸の罪と其子エラの罪のためなり彼等は罪を犯し又イスラエルをして罪を犯し其虚物を以てイスラエルの神エホバの怒を激さしめたり 14 エラの其餘の行爲と凡て其爲たる事はイスラエルの王の歴代志の書に記載するにあらざりや 15 ユダの王アサの第二十七年にジムリ、テルザにて七日の間王たりき民はペリシテ人に屬するギベトンに向ひて陣どり居たりしが 16 陣どれる民ジムリは黨を結び亦王を殺したりと言を聞り是に於てイスラエル皆其日陣營にて軍の長オムリをイスラエルの王となせり 17 オムリ乃ちイスラエルの衆と偕にギベトンより上りてテルザを圍り 18 ジムリ其邑の陥るを見て王の家の天守に入り王の家に火をかけて其中に死り 19 是は其犯したる罪によりてなり彼エホバの目のまへに惡を爲しヤラベアムの道にあゆみヤラベアムがイスラエルに罪を犯させて爲したるところの罪を行たり 20 ジムリの其餘の行爲と其なしたる徒黨はイスラエルの王の歴代志の書に記載するにあらざりや 21 其時にイスラエルの民二分れ民の半はギナラの子テブニに従ひて之を王となさんとし半はオムリに従へり 22 オムリに従へる民ギナラの子テブニに従へる民に勝てテブニは死てオムリ王となれり 23 ユダの王アサの第三十一年にオムリ、イスラエルの王となりて十二年を経たり彼テルザにて六年王たりき 24 彼銀二タラントを以てセメルよりサマリア山を買ひ其上に邑を建て其建たる邑の名を其山の故主なりしセメルの名に循ひてサマリアと稱り 25 オムリ、エホバの目のまへに惡を爲し其先に在し凡の者よりも惡き事を行へり 26 彼はネバテの子ヤラベアムの凡の道にあゆみヤラベアムがイスラエルをして罪を犯し其虚物を以てイスラエルの神エホバの怒をおこさしめたる其罪を行へり 27 オムリの爲たる其餘の行爲と其なしたる功績はイスラエルの王の歴代志の書に記載するにあらざりや 28 オムリ其父祖と偕に寝りてサマリアに葬らる其子アハブ之に代りて王となれり 29 ユダの王アサの第三十八年にオムリの子アハブ、イスラエルの王となれりオムリの子アハブ、サマリアに於て二十二年イスラエルに王たりき 30 オムリの子アハブは其先に在し凡の者よりも多くエホバの目のまへに惡を爲り 31 彼はネバテの子ヤラベアムの罪を行ふ事を輕き事となせしがシドン人の王エテバルの女イゼベルを妻に娶り往てバアルに事へ之を捧めり 32 彼其サマリアに建たるバアルの家の中にバアルのために壇を築けり 33 アハブ又アシラ像を作れりアハブは其先にあしイスラエルの諸の王よりも甚だしくイスラエルの神エホバの怒を激すことを爲り 34 其代にベテル人ヒエル、エリコを建たり彼其基を置る時に長子アビラムを喪ひ其門を立る時に季子セグブを喪へりヌンの子ヨシユアによりてエホバの言たまへるがごとし

Chapter 17

1ギレアデに居住れるテシベ人エリヤ、アハブに言ふ吾事ふるイスラエルの神アホバは活くわが言なき時は數年雨露あらざるべしと 2アホバの言彼に臨みて曰く3爾此より往て東に赴きヨルダンの前にあるケリテ川に身を匿せ4爾其川の水を飲べし我獨に命じて彼處にて爾を養はしむと5彼往てアホバの言の如く爲り即ち往てヨルダンの前にあるケリテ川に往り6彼の所に鴉朝にパンと肉亦たパンと肉を運べり彼は川に飲り7しかるに肉に雨なかりければ數日の後其川涸ぬ 8アホバの言彼に臨みて曰9起てシドンに屬するザレパテに往て其處に住め視よ我彼處の癡婦に命じて爾を養はしむと10彼起てザレパテに往けるが邑の門に至れる時一人の癡婦の其處に薪を採ふを見たり乃ち之を呼て曰けるは請ふ器に少許の水を我に携來りて我に飲せよと11彼之を携きたらんとて往る時エリヤ彼を呼て言けるは請ふ爾の手に一口のパンを我に取きたれと12彼いひけるは爾の神アホバは活く我はパン無し只桶に一握の粉と瓶に少許の油あるのみ觀よ我は二の薪を採ふ我いりてわれとわが子のために調理て之をくらひて死んとす13エリヤ彼に言ふ懼るななれ往て汝がいへる如くせよ但し先其をもてわが爲に小きパンを作りて我に携きたり其後爾のためと爾の子のために作るべし14其はアホバの雨を地の面に降したまふ日までは其桶の粉は竭ず其瓶の油は絶ずとイスラエルの神アホバ言たまへばなりと15彼ゆきてエリヤの言ごとくなし彼と其家及びエリヤ久く食へり16アホバのエリヤに由て言たまひし言のごとく桶の粉は竭ず瓶の油は絶ざりき17是等の事の後其家の主母なる婦の子疾に罹し其病甚だ劇くして氣息其中に絶て無きに至れり18婦エリアに言けるは神の人よ汝なんぞ吾事に關渉るべけんや汝はわが罪を憶ひ出さしめんため又わが子を死しめんために我に來れるか19エリヤ彼に爾の子を我に授せと云て之を其懷より取り之を己の居る椀に抱のぼりて己の牀に臥しめ20アホバに呼はりていひけるは吾神アホバよ爾は亦吾ともに宿る癡に笛をくだして其子を死しめたまふやと21而して三度身を伸して其子の上に伏しアホバに呼はりて言ふわが神アホバ願くは此子の魂を中に歸しめたまへと22アホバ、エリヤの聲を聴いたまひしかば其子の魂中にかへりて生たり23エリヤ乃ち其子を取て之を椀より家に携くだり其母に與していひけるは視よ爾の子は生くと24婦エリアにいひけるは此に縁て我は爾が神の人にして爾の口にあるアホバの言は眞實なるを知ると

Chapter 18

1衆多の日を経たるのち第三年にアホバの言エリヤに臨みて曰く往て爾の身をアハブに示せ我雨を地の

面に降さんと2エリヤ其身をアハブに示さんとて往り時に饑饉サマリアに甚しかりき3茲にアハブ家宰なるオバデヤを召たり4(オバデヤは大にアホバを畏みたる者にてイゼベルがアホバの預言者を絶たる時にオバデヤ百人の預言者を取て之を五十人づつ洞穴に匿しパンと水をもて之を養へり)5アハブ、オバデヤにいひけるは國中の水の諸の源と諸の川に往け馬と騾を生活むる草を得ることあらん然ば我儕牲畜を盡くは失ふに至らじと6彼等巡るべき地を二人に分ちアハブは獨にて此途に往きオバデヤは獨にて彼途に往けり7オバデヤ途にありし時觀よエリヤ彼に遭り彼エリヤを識て伏て言けるは我主エリヤ汝は此に居たまふや8エリヤ彼に言けるは然り往て汝の主エリヤは此にありと告よ9彼言けるは我何の罪を犯したれば汝僕をアハブの手に付して我を殺さしめんとする10汝の神アホバは生くわが主の人を遣はして汝を尋ねざる民はなほ國はなし若しエリヤは在らずといふ時は其國其民をして汝を見ずといふ誓を爲しめたり11汝今言ふ往て汝の主エリヤは此にありと告よと12然ど我汝をはなれて往ときアホバの靈我しらざる處に汝を携へゆかん我至りてアハブに告て彼汝を尋獲ざる時は彼我を殺さん然ながら僕はわが幼少よりアホバを畏むなり13イゼベルがアホバの預言者を殺したる時に吾なしたる事即ち我がアホバの預言者の中百人を五十人づつ洞穴に匿してパンと水を以て之を養ひし事は吾主に聞えざりしや14しかるに今汝言ふ往て汝の主エリヤは此にありと告よと然らば彼我を殺すならん15エリヤいひけるは我が事ふる萬軍のアホバは活く我は必ず今日わが身を彼に示すべしと16オバデヤ乃ち往てアハブに會ひ之に告ければアハブはエリヤに會んとて往きけるが17アハブ、エリヤを見し時アハブ、エリヤに言けるは汝イスラエルを惱ます者此にをるか18彼答へけるは我はイスラエルを惱ます但汝と汝の父の家之を惱すなり即ち汝等はアホバの命令を棄て且汝はバアルに従ひたり19されば人を遣てイスラエルの諸の人およびバアルの預言者四百五十人並にアシラ像の預言者四百人イゼベルの席に食ふ者をカルメル山に集めて我に詣しめよと20是においてアハブ、イスラエルの都の子孫の中に人を遣り預言者をカルメル山に集めたり21時にエリヤ總の民に近づきて言けるは汝等何時まで二の物の間にまよふやアホバ若し神ならば之に従へされどバアル若し神ならば之に従へと民は一言も彼に答ざりき22エリヤ民に言けるは惟我一人存りてアホバの預言者たり然どバアルの預言者は四百五十人あり23然ば二の犢を我儕に與へよ彼等は其一の犢を選びて之を載り割き薪の上に載せて火を縦たずに置べし我も其一の犢を調理へ薪の上に載せて火を縦ずに置べし24斯して汝等は汝等の神の名を願へ我はアホバの名を願ふ而して火をもて應る神を神と爲べしと民皆答て斯言は善と言り25エリヤ、

バアルの預言者に言けるは汝等は多ければ一の犢を選びて最初に調理へ汝等の神の名を呼ぶべし但し火を縦なかれと26彼等乃ち其與られたる犢を取て調理へ朝より午にいたるまでバアルの名を願てバアルよ我儕に應へたまへと言り然ど何の聲もなく又何の應る者もなかりければ彼等は其造りたる壇のまはりに踊れり27日中におよびてエリヤ彼等を嘲りていひけるは大聲をあげて呼べ彼は神なればなり彼は黙想をるか他處に行しか又は旅にあるか或は假寐て醒さるべきかと28是において彼等は大聲に呼はり其例に循ひて刀劍と槍を以て其身を傷つけ血を其身に流すに至れり29斯して午時すぐるに至りしが彼等なほ預言を言ひて晩の祭物を獻ぐる時にまで及べり然ども何の聲もなく又何の應ふる者も無く又何の願る者もなかりき30時にエリヤ都の民にむかひて我に近よれと言ければ民皆彼に近より彼乃ち破壊たるアホバの壇を修理へり31エリヤ、ヤコブの子等の支派の數に循ひて十二の石を取れり(アホバの言昔ヤコブに臨みてイスラエルを汝の名とすべしと言り)32彼其石にてアホバの名を以て壇を築き壇の周圍に種子ニセヤを容べき溝を作れり33又薪を陳列べ壇を載割て薪の上に載せて言けるは四の桶に水を満て燔祭と薪の上に沃げ34又いひけるは再び之を爲せと再びこれをなせしかば又言ふ三次これを爲せと三次これをなせり35水に壇の周圍に流るまた溝にも水をみたり36晩の祭物を獻ぐる時に及て預言者エリヤ近よりて言けるはアブラハム、イサク、イスラエルの神アホバよ汝のイスラエルにおいて神なることおよび我が汝の僕にして汝の言に循ひて是等の諸の事を爲せることを今知しめたまへ37アホバよ我に應へたまへ我に應へたまへ此民をして汝アホバは神なることおよび汝は彼等の心を翻へしたまふといふことを知しめたまへと38時にアホバの火降りて燔祭と薪と石と塵とを焚つくせり亦溝の水を飮涸せり39民皆見て伏ていひけるはアホバは神なりアホバは神なり40エリヤ彼等に言けるはバアルの預言者を執へよ其一人をも逃遁しむる勿れと即ち之を執へたればエリヤ之をキシオン川に曳下りて彼處に之を殺せり41斯てエリヤ、アハブにいひけるは大雨の聲あれば汝上りて食飲すべしと42アハブ乃ち食飲せんとて上れり然どエリヤはカルメル山の嶺に登りて伏て其面を膝の間に容めたりしが43其少者にいひけるは請ふ上りて海の方を望めと彼上り望みて何もなしといひければ再び往けといひて遂に七次に及べり44第七次に及びて彼いひけるは視よ海より人の手のごとく微の雲起るとエリヤいふ上りてアハブに雨に阻められざるやう車を備へて下りたまへと言ふべしと45驟に雲と風おこり霄漢黒くなりて大雨ありきアハブはエズレルに乗り往り46アホバの能力エリヤに臨みて彼其腰を束帯びエズレルの入口までアハブの前に趨りゆけり

Chapter 19

1アハブ、イゼベルにエリヤの凡て爲たる事及び其如何に諸の預言者を刀劍にて殺したるかを告しかば2イゼベル使をエリヤに遣はして言けるは神等斯なし復重て斯なしたまへ我必ず明日の今時分汝の命を彼人々の一人の生命のごとくせんと3かれ恐れて起ち其生命のために逃げ往てユダに屬するベエルシバに至り少者を其處に遣して4自ら一日程ほど曠野に入り往て金雀花の下に坐し其身の死んことを求めたいふアホバよ身り今わが生命を取たまへ我はわが父祖よりも善にはあらざるなりと5彼金雀花の下に伏して寝りしが天の使彼に捫り興て食へと言ければ6彼見しに其頭の側に炭に焼きたるパンと一瓶の水ありき乃ち食ひ飲て復偃臥たり7アホバの使者復再び來りて彼に捫りていひけるは興て食へ其は途長くして汝勝べからざればなりと8彼興て食ひ且飲み其食の力に仗て四十日四十夜行て神の山ホレブに至る9彼處にて彼洞穴に入りて其處に宿りしが主の言彼に臨みて彼に言けるはエリヤよ汝此にて何を爲や10彼いふ我は萬軍の神アホバのために甚だ熱心なり其はイスラエルの子孫汝の契約を棄て汝の壇を毀ち刀劍を以て汝の預言者を殺したればなり惟我一人存るに彼等我生命を取んことを求むと11アホバ言たまひけるは出てアホバの前に山の上に立てと茲にアホバ過ゆきたまふにアホバのまへに當りて大なる強き風山を裂きざり石を碎しが風の中にはアホバ在さざり風の後には地震ありしが地震の中にはアホバ在さざりき12又地震の後には火ありしが火の中にはアホバ在さざりき火の後に靜なる細微き聲ありき13エリヤ聞て面を外套に蒙りて出で洞穴の口に立ちけるに聲ありて彼に臨みエリヤよ汝此にて何をなすやといふ14かれいふ我は萬軍の神アホバの爲に甚だ熱心なり其はイスラエルの子孫汝の契約を棄て汝の壇を毀ち刀劍を以て汝の預言者を殺したればなり惟我一人存るに彼等我が生命を取んことを求むと15アホバかれに言たまひけるは往て汝の途に返りダマスコの曠野に至り往てハザエルに膏を沃ぎてスリアの王となせ16又汝ニムシの子エヒウに膏を注ぎてイスラエルの王となすべし又アベルモラのシヤパテの子エリシヤに膏をそそぎ爾に代りて預言者とならしむべし17ハザエルの刀劍を逃る者をばエヒウ殺さんエヒウの刀劍を逃る者をばエリシヤ殺さん18又我イスラエルの中に七千人を遣さん皆其膝をバアルに謁めず其口を之に接ざる者なりと19エリヤ彼處よりゆきてシヤパテの子エリシヤに遣ふ彼は十二軛の牛を其前に行しめて己は其第十二の牛と偕にありて耕し居たりエリヤ彼の所にわたりゆきて外套を其上にかけたれば20牛を棄てエリヤの後に趨ゆれば言けるは請ふ我をしてわが父母に接吻せしめよしかるのち我爾にしたがはんとエリヤかれに言けるは行け還れ我爾に

何をなしたるやと 21 エリシヤ彼をはなれて還り一輓の牛をとりて之をころし牛の器具を焚て其肉を煮て民にあたへて食はしめ起て行きエリヤに従ひて之に事へたり

Chapter 20

1スリアの王ベネハダデ其軍勢を悉く集む王三十二人彼と偕にあり又馬と戦車とあり乃ち上りてサマリアを圍み之を攻む 2彼使をイスラエルの王アハブに遣し邑に至りて彼に言しめけるはベネハダデ斯言ふ 3爾の金銀は私の所有なり亦爾の妻等と爾の子等の美秀者は私の所有なり 4イスラエルの王答へて言けるは王わが主よ爾の言の如く我と我が有つ者は皆爾の所有なり 5使者再び來りて言けるはベネハダデ斯語て言ふ我爾に爾我に爾の金銀妻子を付すべしと言遣れり 6然ど明日今頃我が僕を爾に遣さん彼等爾の家と爾の臣僕の家を探索して凡て爾の日に好ましく見ゆる者を其手に置取り去るべしと 7是においてイスラエルの王國の長老を皆召て言けるは請ふ爾等見て此人の害をなさんと求るを知れ彼人を我に遣りて我が妻子とわが金銀を索めたり而るに我之を謝絶ざりしと 8諸の長老および民皆彼に言けるは爾聽なかれ許すなかれと 9是故に彼ベネハダデの使者に言けるは王わが主に告よ爾が最初に僕に言つかはしたる事は皆我爲べし然ど比事は我爲あははずと使者往て反命をなせり 10ベネハダデ彼に言つかはしけるは神等我に斯なし亦重て斯なしたまへサマリアの塵は我に従ふ諸の民の手に満るに足ざるべしと 11イスラエルの王答へて帶る者は解く者の如く誇るべからずと告よと云り 12ベネハダデ天幕にありて王等と飲みたりしが此事を聞て其臣僕に言けるは爾等陣列を爲せと即ち邑に向ひて陣列をなせり 13時に一人の預言者イスラエルの王アハブの許に至りて言けるはエホバス言たまふ爾此諸の大軍を見るや視よ我今日之を爾の手に付さん爾は我がエホバなるを知にいたらんと 14アハブ言けるは誰を以てせんか彼いひけるはエホバスいひたまふ諸省の牧伯の少者を以てすべしアハブ言ふ誰か戦争を始むべき彼答けるは爾なりと 15アハブ乃ち諸省の牧伯の少者を核るに二百三十二人あり次に凡の民即ちイスラエルの凡の子孫を核るに七千人あり 16彼等日中出たちたりしがベネハダデは天幕にて王等即ち己を助る三十二人の王等とともに飲て醉居たり 17諸省の牧伯の少者等先に出たりベネハダデ人を出してサマリアより人衆出來ると彼に告げれば 18彼言けるは和睦のために出來るも之を生擒べし又戦争のために出來るも之を生擒べしと 19諸省の牧伯の是等の少者および之に従ふ軍勢邑より出たり 20各其敵手を撃ち殺しければスリア人逃たりイスラエル之を追ふスリアの王ベネハダデは馬に乗り騎兵を從へて逃遁たり 21イスラエルの王出で馬と戦車を撃ち又大にスリア人を撃殺せ

り 22茲に彼預言者イスラエルの王の許に詣て彼に言けるは往て爾の力を養ひ爾の爲すべき事を知り辨ふべし年歸らばスリアの王爾に攻上るべければなりと 23スリアの王の臣僕王に言けるは彼等の神等は山嶺の神なるが故に彼等は我等よりも強かりしなり然ども我等若平地に於て彼等と戦はば必ず彼等よりも強かるべし 24但し此事を爲せ即ち王等を除きて各其處を離しめ方伯を置て之に代べし 25又爾の失ひたる軍勢に均き軍勢を爾のために備へ馬は馬戦車は戦車をもて補ふべし斯して我儕平地において彼等と戦はば必ず彼等よりも強かるべしと彼其言を聽いれて然なせり 26年かへるに及びてベネハダデ、スリア人を核めてアベクに上りイスラエルと戦はんとす 27イスラエルの子孫核められ兵糧を受けて彼等に出會んとて往けりイスラエルの子孫は山羊の二の小群の如く彼等の前に陣どりしがスリア人は其地に充満たり 28時に神の人至りてイスラエルの王に告ていひけるはエホバス言たまふスリア人エホバは山嶽の神にして谿谷の神にあらずと言ふによりて我此諸の大軍を爾の手に付すべし 爾等は我がエホバなるを知に至らんと 29彼等七日互に相對て陣どり第七日におよびて戦争を交接しがイスラエルの子孫一日にスリア人の歩兵十萬人を殺しければ 30其餘の者はアベクに逃て邑に入ぬ然るに其石垣崩れて其存れる二萬七千人の上にたふれたりベネハダデは逃て邑にいひり奥の間に入ぬ 31其臣僕彼にいひけるは我儕イスラエルの家の王等は仁慈ある王なりと聞り請ふ我儕粗麻布を腰につけ繩を頭につけてイスラエルの王の所にいたらん彼爾の命を生むることあらんと 32斯彼等粗麻布を腰にまき繩を頭にまきてイスラエルの王の所にいたりていひけるは爾の僕ベネハダデ請ふ我が生命を生しめたまへと言ふとアハブいひけるは彼は尚生をるや彼はわが兄弟なりと 33其人々これを吉兆と爲し速に彼の言を承て爾の兄弟ベネハダデといへり彼言けるは爾等ゆきて彼を導ききたるべしと是においてベネハダデ彼の所に出來りしかば彼之を車に登しめたり 34ベネハダデ彼に言けるは我父の爾の父より取たる諸邑は我返すべし又我が父のサマリアに造りたる如く爾ダマスコに於て爾のために街衢を作るべしアハブ言ふ我此契約を以て爾を歸さんと斯彼と契約を爲て彼を歸せり 35爰に預言者の徒の一人エホバの言によりて其同儕に請我を撃てといひけるが其人彼を撃つことを肯ぜざりしかば 36彼其人に言ふ汝エホバの言を聽ざりしによりて視よ汝の我をはなれて往く時獅子汝をころさんと其人彼の側を離れて往きけるに獅子之に遇て之を殺せり 37彼また他の人に遣て請ふ我を撃といひければ其人之を撃ち撃て傷けたり 38預言者往て王を途に待ち其目に掩巾をあてて儀容を變めたりしが 39王の經過の時王に呼はりていひけるは僕戦車の中に出しに人轉りて一箇の人を我の所に曳きたりて言けるは此人を守れ若彼失ゆく事

あらば汝の生命を彼の生命に代べし或は爾銀一タラントを出すべしと 40而るに僕此彼に事をなしめれば彼遂に失たりとイスラエルの王彼にいひけるは爾の擬定は然なるべし爾之を決めたり 41彼急ぎて其目の掩巾を取除たればイスラエルの王彼が預言者の一人なるを識り 42彼王に言けるはエホバス言たまふ爾はわが殲滅んと定めたる人を爾の手より放ちたれば爾の命は彼の生命に代り爾の民は彼の命に代るべしと 43イスラエルの王憂へ且怒て其家に赴きサマリアに至れり

Chapter 21

1是等の事の後エズレル人ナボテ、エズレルに葡萄園を有ちみたりしがサマリアの王アハブの殿の側に在りければ 2アハブ、ナボテに語て言けるは爾の葡萄園は近くわが家の側にあれば我に與へて蔬采の圃となさしめよ我之がために其よりも美き葡萄園を爾に與へん若し爾の心にかなはば其價を銀にて爾に予へんと 3ナボテ、アハブに言けるはわが父祖の産業を爾に與ふる事は決して爲べからずエホバ禁じたまふと 4アハブはエズレル人ナボテの己に言し言のために憂ひ且怒りて其家に入ぬ其は彼わが父祖の産業を爾に與へじと言ればなりアハブ床に臥し其面を轉けて食をなさざりき 5其妻イゼベル彼の處にいりて彼に言けるは爾の心何を憂へて爾食を爲ざるや 6彼之に言けるは我エズレル人ナボテに語りて爾の葡萄園を銀に易て我に與へよ若また爾好ば我其に易て葡萄園を爾に與へんと彼に言たるに彼答へて我が葡萄園を爾に與へじと言ればなりと 7其妻イゼベル彼に言けるは爾今イステルを國を治むることを爲すや與て食を爲し爾の心を樂しめよ我エズレル人ナボテの葡萄園を爾に與へんと 8彼アハブの名をもて書を書き彼の印を捺し其邑にナボテとともに住る長老と貴き人に其書をおくれり 9彼其書にしるして曰ふ斷食を宣傳てナボテを民の中に高く坐せしめよ 10又邪なる人二人を彼のまへに坐せしめ彼に對ひて證を爲して爾神と王を詛ひたりと言しめよ斯して彼を曳出し石にて撃て死しめよと 11其邑の人即ち其邑に住る長老および貴き人等イゼベルが己に言つかはしたる如く即ち彼が己に遣りたる書に書したる如く爲り 12彼等斷食を宣傳てナボテを民の中に高く坐せしめたり 13時に二人の邪なる人入來りて其前に坐し其邪なる人民のまへにてナボテに對て證をなして言ふナボテ神と王を詛ひたりと人衆彼を邑の外に曳出し石にて之を撃て死しめたり 14斯てイゼベルにナボテ撃れて死たりと言遣れり 15イゼベル、ナボテの撃れて死たるを聞しかばイゼベル、アハブに言けるは起て彼エズレル人ナボテが銀に易て爾に與ることを拒みし葡萄園を取べし其はナボテは生をらず死たればなりと 16アハブ、ナボテの死たるを聞しかばアハブ起ちエズレル人ナボテの葡萄

園を取んとて之に下れり 17時にエホバの言テシベ人エリヤに臨みて曰ふ 18起て下りサマリアにあるイスラエルの王アハブに會ふべし彼はナボテの葡萄園を取んとて彼處に下りるなり 19爾彼に告て言べしエホバス言ふ爾は殺し亦取たるや又爾彼に告て言ふべしエホバス言ふ犬ナボテの血を銜し處にて犬爾の身の血を銜べしと 20アハブ、エリヤに言けるは我敵よ爾我に遇や彼言ふ我遇ふ爾エホバの目の前に惡を爲す事に身を委しに縁り 21我災害を爾に降し爾の後裔を除きアハブに屬する男はイスラエルにありて繋かれたる者も繋かれざる者も悉く絶ん 22又爾の家をネバテの子ヤラベアムの家の如くなしアヒヤの子バアシヤの家のごとくなすべし是は爾我の怒を惹起しイスラエルをして罪を犯させたるに因てなり 23イゼベルに關てエホバ亦語て言給ふエズレルの濠にてイゼベルを食はん 24アハブに屬する者の邑に天空をば犬之を食ひ野に死をば天ろの鳥之を食はんと 25誠にアハブの如くエホバの目の前に惡をなす事に身をゆだねし者はあらざりき其妻イゼベル之を懲懲たるなり 26彼はエホバがイスラエルの子孫のまへより逐退けたまひしアモリ人の我前てなせし如く偶像に従ひて甚だ惡むべき事を爲り 27アハブ此等の言を聞ける時其衣を裂き粗麻布を體にまとい食を斷ち粗麻布に臥し遅々に歩行り 28茲にエホバの言テシベ人エリヤに臨みて言ふ 29爾アハブの我前に卑下るを見るや彼わがまへに卑下るに縁て我災害を彼の世に降さずして其子の世に災害を彼の家に降すべし

Chapter 22

1スリアとイスラエルの間に戦争なくして三年を経たり 2第三年にユダの王ヨシヤパテ、イスラエルの王の所に降りり 3イスラエルの王其臣僕に言けるはギレアデのラモテは我儕の所有なるを爾等知や然るに我儕はスリアの王の手より之を取ることせずして黙しをるなり 4彼ヨシヤパテに言けるは爾我と共にギレアデのラモテに戦ひにゆくやヨシヤパテ、イスラエルの王にいひけるは我は爾のごとくわが民は爾の民の如くわが馬は爾の馬の如しと 5ヨシヤパテ、イスラエルの王に言けるは請ふ今日エホバの言を問へ 6是においてイスラエルの王預言者四百人許を集めて之に言けるは我ギレアデのラモテに戦ひにゆくべきや又は罷べきや彼等曰けるは上るべし主之を王の手に付したまふべしと 7ヨシヤパテ曰けるは外に我儕の由て問べきエホバの預言者此にあらざるや 8イスラエルの王ヨシヤパテに言けるは外にイムラの子ミカヤ人あり然之に由てエホバに問ふことを得ん然ど彼は我に關て善事を預言せず唯惡事のみを預言すれば我彼を惡むなりとヨシヤパテ曰けるは王然言たまふなかれと 9是によりてイスラエルの王一箇の官吏を呼てイムラの子ミカヤを急ぎ來

らしめよと言ひ 10 イスラエルの王
およびユダの王ヨシヤパテ朝衣を著
てサマリアの門の入口の廣場に各其
位に坐しめたり預言者は皆其前に預
言せり 11 ケナアナの子ゼデキヤ鐵
の角を造りて言けるはエホババ言給
ふ爾是等を以てスリア人を抵觸之を
を盡すべしと 12 預言者皆斯預言し
て言ふギレアデのラモテに上りて勝
利を獲たまへエホババ之を王の手に付
したまふべしと 13 茲にミカヤを召
んとて往たる使者之に語りて言ける
はミカヤよ我儕ギレアデのラモテに
戦ひに往くべきや又は罷べきや彼王
に言けるは上りて勝利を得たまへエ
ホババ之を王の手に付したまふべしと
16王彼に言けるは我幾度汝を誓はせ
たらば汝エホバの名を以て唯眞實の
みを我に告るや 17 彼言けるは我イ
スラエルの皆牧者なき羊のごとく山
に散をるを見たるにエホバ是等の者
は主なし各安然に其家に歸るべしと
言たまへり 18 イスラエルの王ヨ
シヤパテに言けるは我汝に彼は我に
ついて善き事を預言せず唯惡き事
のみを預言すと告たるにあらずやと
19 ミカヤ言けるは然ば汝エホバの言
を聽べし我エホバの其位に坐しめ
たまひて天の萬軍の其傍に右左に立つ
を見るに 20 エホバ言たまひける
は誰かアハブを誘ひて彼をしてギレ
アデのラモテに上りて弊れしめんか
と則ち一は此の如くせんと言ひ一は
彼の如くせんといへり 21 遂に一の
靈進み出てエホバの前に立ち我彼を
誘はんと言ければ 22 エホバ彼に何
を以てするかと言たまふに我出て虚
言を言ふ靈となりて其諸の預言者の
口にあらんと言ひエホバ言たまひけ
るは汝は誘ひ亦之を成し遂ん出て然
なすべしと 23 故に視よエホバ虚言
を言ふ靈を爾の此諸の預言者の口に
入たまへり又エホバ爾に關て災禍あ
らんことを言たまへり 24 ケナア
ナの子ゼデキヤ近よりてミカヤの頬
を批て言けるはエホバの靈何途より
我を離れゆきて爾に語らや 25 ミカ
ヤいひけるは爾奧の間にて身を匿
す日に見るにいたらん 26 イスラ
エルの王言けるはミカヤを取て之を邑
の宰アモンと王の子ヨアシに曳かへ
りて言ふべし 27 王斯言ふ此を宰に
置れて苦惱のパンと苦惱の水を以て
之を養ひ我が平安に來るを待と 28
ミカヤ言けるは爾若眞に平安に歸
るならばエホバ我によりて言たまは
ざりしならん又曰けるは爾等民よ皆
聽べし 29 かくてイスラエルの王と
ユダの王ヨシヤパテ、ギレアデのラ
モテに上れり 30 イスラエルの王ヨ
シヤパテに言けるは我裝を改て戰陣
の中に入らん然ど爾は王衣を衣るべ
しとイスラエルの王裝を改て戰陣の
中にいりぬ 31 スリアの王其戰車の
長三十二人に命じて言けるは爾等小
者とも大者とも戰ふなかれ惟イスラ
エルの王とのみ戰へと 32 戰車の長
等ヨシヤパテを見て是必ずイスラエ

ルの王ならんと言ひ身をめぐらして
之と戰はんとしければヨシヤパテ號
呼れり 33 戰車の長彼がイスラエルの
王にあらざるを見しかば之を追ふ
ことをやめて返れり 34 茲に一個の
人偶然弓を挽てイスラエルの王の胸
當と艸摺の間を射たりければ彼其御
者に言けるは我傷を受たれば爾の手
を旋して我を軍中より出すべしと 3
5 是日戰爭嚴くなりぬ王は車の中に
扶持られて立ちスリア人に對ひをり
しが晩景にいたりて死たり創の血車
の中に流る 36 日の没る頃軍中に呼
はりて曰ふあり各其邑に各其郷に歸
るべしと 37 王死て携へられてサマ
リアに至りたれば衆人王をサマリア
に葬れり 38 又其車をサマリアの池
に濯ひけるに犬其血を舐たり又遊女
其所に身をあらへりエホバの言たま
へる言の如し 39 アハブの其餘の行
爲と凡て其爲たる事と其建たる象牙
の家と其建たる諸の邑はイスラエルの
王の歴代志の書に記載るにあらずや
40 アハブ其父祖と共に寢りて其子
アハブアザにかはりて王となり 41
アサの子ヨシヤパテ、イスラエルの
王アハブの第四年にユダの王とな
れり 42 ヨシヤパテ王となりし時三
十五歳なりしがエルサレムにおいて
二十五年王たりき其母の名はアズバ
といひてシルヒの女なり 43 ヨシヤ
パテ其父アサの諸の道に歩行み轉て
之を離れずエホバの目に適ふ事をな
せり但し崇邱は除かざりき民尚崇邱
に犠牲を献げ香を焚り 44 ヨシヤパ
テ、イスラエルの王と和好を結べり
45 ヨシヤパテの其餘の行爲と其なせ
る功績および如何に戰爭をなせしか
はユダの王の歴代志の書に記載るに
あらずや 46 彼其父アサの世に尚ほ
ありし彼の男色を行ふ者の殘餘を國
の中より逐はらへり 47 當時エドム
には王なくして代官王たりき 48 ヨ
シヤパテ、タルシンの船を造りて金
を取ためにオフルに往しめんとした
りしが其船エジオンゲベルに壞れた
れば遂に往に至らざりき 49 是にお
いてアハブの子アハバ、ヨシヤパ
テに言けるはわが僕をして爾の僕と
偕に船に往しめよと然どヨシヤパ
テ聽ざりき 50 ヨシヤパテ其父祖と
ともに寢りて其父ダビデの城邑に其
父祖と共に葬る其子ヨラム之に代
て王となり 51 アハブの子アハバ
ア、ユダの王ヨシヤパテの第十七年
にサマリアにてイスラエルの王とな
り二年イスラエルを治めたり 52 彼
はエホバの目のまへに惡をなし其父
の道と其母の道および彼のイスラ
エルに罪を犯させたるネバテの子ヤ
レアムの道に歩み 53 バアルに事
へて之を拝みイスラエルの神エホバ
の怒を激せり其父の凡て行へるごと
し

列王記

Chapter 1

1 アハブの死のちモアブ、イスラ

エルにそむけり 2 アハバ、サマリ
ヤにあるその樓の欄杆よりおちて病
をおこせしかば使を遣さんとして之
にいひけるは往てエクロンの神バ
アルゼブブにわがこの病の愈るや否
を問へしと 3 時にエホバの使テシベ
エリヤにいひけるは起てサマリア王
の使にあひて之に言べし汝等がエク
ロンの神バアルゼブブに問んとてゆ
くはイスラエルに神なきがゆゑなる
か 4 是によりてエホバかくいふ汝
はその登りし牀より下ることなかる
べし汝がならず死んとエリヤ乃ち往り
5 使者たちアハバに返りければア
ハバ彼等に何故に返りしやといふ
に 6 かれら之にいひけるは一箇の人
上りきたりて我らに會ひわれらにい
ひけるは往てなんぢらを遣はせし王
の所にかへりにいひべしエホバ斯
いひたまふなんぢエクロンの神バ
アルゼブブに問んとて人を遣すはイ
スラエルに神なきがゆゑなるか然ば
汝その登りし牀より下ることなかる
べし汝がならず死んと 7 アハバ彼等
にいひけるはそれはそののぼりきたり
て汝等に會ひ此等の言を汝らに告
たる人の形状は如何なりしや 8 か
れら對へていひけるはそれは毛深き
人にして腰に革の帯をむすび居たり
彼いひけるはその人はテシベ人エリ
ヤなりと 9 是に於て王五十人の長
とその五十人をエリヤの所に遣は
せり彼エリヤの所に上りゆくに視
よエリヤは山の嶺に坐し居りかれ
エリヤにいひけるは神の人よ王い
ひたまふ下るべし 10 エリヤこたへ
て五十人の長にいひけるはわれもし
神の人たらば火天より降りて汝と
汝の五十人とを燒盡すべしと火す
なはち天より降りて彼とその五十
人とを燒盡せり 11 アハバまた他
の五十人の長とその五十人をエリ
ヤに遣せりかれ上りてエリヤにい
ひけるは神の人よ王かく言たま
ふ速かに下るべし 12 エリヤ答て
彼にいひけるはわれもし神の人たら
ば火天より降りて爾となんぢの五
十人を燒盡すべしと神の火すなは
ち天より降りてかれとその五十人
人を燒盡せり 13 かれまた第三の
五十人の長とその五十人を遣せり
第三の五十人の長のぼりいたりて
エリヤのまへに跪きこれに願ひて
いひけるは神の人よ願くはわが生
命となんぢの僕なるこの五十人の
生命をなんぢの目に貴重き者と見
したまへ 14 視よ火天より降りて
前の五十人の長二人とその五十人
人を燒盡せり然どわが生命をば
汝の目に貴重き者となしたまへ 15
時にエホバの使エリヤに云けるは
かれとともに下れかれをおそること
なかれとエリヤすなはち起てかれ
とともに下り王の許に至り 16 之
にいひけるはエホバかくいひたま
ふ汝エクロンの神バアルゼブブに
問んとて使者を遣るはイスラエル
にその言を問ふべき神なきがゆゑ
なるか是によりて汝はその登りし
牀より下ることなかるべし汝が
ならず死んと 17 彼エリヤの言
たるエホバの言の如く死けるが
彼に子なかりしかばヨラムこれ
に代りて王となり是はユダの王ヨ
シヤパテの子ヨラムの二年にあたる
18 アハバのなしたる其餘の事業
はイスラエルの王の歴代志の書に記

さるるにあらずや

Chapter 2

1 エホバ大風をもてエリヤを天
に昇らしめんとしたまふ時エリヤ
はエリヤとともにギルガルより出
たり 2 エリヤ、エリヤにいひける
は請ふここに止まれエホバわれを
ベテルに遣はしたまふなりとエリヤ
いひけるはエホバは活く汝の靈魂
は活く我なんぢをはなれじと彼等
つひにベテルに下れり 3 ベテルに
在る預言者の徒エリヤの許に
出きたりて之にいひけるはエホ
バの今日なんぢの主をなんぢの首
の上よりとらんとしたまふを汝
知やかれいふ然りわれ知り汝等
黙すべし 4 エリヤかれにいひ
けるはエリヤよ請ふ汝ここに止
れエホバわれをエリコに遣した
まふなりとエリヤいふエホバは
活くなんぢの靈魂は活く我なんぢ
を離じとかれらエリコにいたる
5 エリコに在る預言者の徒エリ
ヤに詣りて彼にいひけるはエホ
バの今日なんぢの主をなんぢの首
の上よりとらんとしたまふを汝
知るやエリヤ言ふ然り知り汝ら
黙すべしと 6 エリヤまたかれ
にいひけるは請ふここに止れエ
ホバわれをヨルダンにつかはし
たまふなりとかれいふエホバは
活くなんぢの靈魂は活くわれ汝
をはなれじと二人進ゆくに 7 預
言者の徒五十人ゆきて還に立て
望めり彼ら二人はヨルダンの濱
に立けるが 8 エリヤその外套を
とりて之を巻き水をうちけるに
此旁と彼旁にわかれたれば二人
は乾ける土の上をわたり 9 涉り
ける時エリヤ、エリヤにいひける
は我が取れたなんぢを離るる前
に汝わが汝になすべきことを求
めよエリヤいひけるはなんぢの
靈の二の分の我にをらんことを
願ふ 10 エリヤいひけるは汝
難き事を求む汝もしわが取れた
なんぢを離るるを見ればこの事
なんぢにならんしからずば此事
なんぢにならん 11 彼ら進み
ながら語れる時火の車と火の馬
あらはれて二人を隔てたりエリ
ヤは大風にのりて天に昇れり 12
エリヤ見てわが父わが父イスラ
エルの兵車よその騎兵よと叫びし
が再びかれを見ざりき是におい
てエリヤその衣をとらへて之を
二片に裂き 13 エリヤの身より
おちたるその外套をとりあげ返
りてヨルダンの岸に立ち 14 エリ
ヤの身よりおちたる外套をとり
て水をうちエリヤの神エホバは
いづくにいますやと言ひ而して
己も水をうちけるに水此旁と彼
旁に分れたればエリヤすなはち
渡れり 15 エリコにある預言者
の徒對岸にありて彼を見て言
けるはエリヤの靈エリヤの上にと
どまるとかれら來りてかれを
迎へその前に地に伏て 16 かれ
にいひけるは僕等に勇力者五十
人あり請ふかれらをして往て
なんぢの主を尋ねしめよ恐くは
エホバの靈かれを曳あげてこれ
を或山か或谷に放ちしならん
とエリヤ遣すなかれと言けれど
も 17 かれら彼の愧るまでに
強ければすなはち遣せといへり
是に於てかれら五十人の者を
遣しけるが三日の間たづねたれ
ども彼を

看いださざりしかば 18 エリシヤの尚アリコに止れる時かれら返りてかれの許にいたりしにエリシヤかれらに言けるはわれ往ことなかれと汝らにいひしにあらざやと 19 邑の人々エリシヤにいひけるは視よ吾主の見たまふごとく此邑の建る處は善しされど水あしくしてこの地流産をおこす 20 かれ言けるは新しき皿に鹽を盛て我に持ち來れよと乃ちもちきたりければ 21 彼いでて水の源に至り鹽を其處になげ入ていひけるはエホバかくいひたまふわれこの水を愈す此處よりして重て死あるひは流産おこらじと 22 其水すなはちエリシヤのいひし如くに愈て今日にいたる 23 かれそこよりベテルに上りしが上りて途にありけるとき小童等邑よりいでて彼を嘲り彼にむかひて禿首よのぼれ禿首よのぼれといひければ 24 かれ回轉りてかれらを見エホバの名をもてかれらを呪詛ひければ林の中より二頭の牝熊出てその兒子輩の中四十二人をさきたり 25 かれ彼處よりカルメル山にゆき其處よりサマリヤにかへり

Chapter 3

1 ユダの王ヨシヤバテの十八年にアハブの子ヨラム、サマリヤにありてイスラエルを治め十二年位にありき 2 かれはエホバの目のまへに惡をなせしかどもその父母の如くはあらざりきそは彼その父の造りしバアルの像を除きたればなり 3 されど彼はかのイスラエルに罪を犯させたるネバテの子アラバムの子の罪を行つづけ之をなれざりき 4 モアブの王メシヤは羊を有つ者にして十萬の羔と十萬の牡羊の毛とをイスラエルの王に納めをりしが 5 アハブの死のちモアブの王はイスラエルの王にそむけり 6 是に於てヨラム王其時サマリヤを出てイスラエル人をことごとく集め 7 また往て人をユダの王ヨシヤバテに遣していはしむモアブの王われに背けり汝われとともにモアブに攻めよと彼にいひけるは我上らん我は汝の如くわが民はなんぢの民のごとくまたわが馬は汝の馬の如しと 8 ヨラムいひけるは我儕いづれの路より上らんかかれいふエドムの曠野の途よりせん 9 イスラエルの王すなはちユダの王およびエドムの王と共にゆきけるが行めぐるごと七日路にして軍勢とこれにしたがふ家畜の飲むべき水なかりしかば 10 イスラエルの王いひけるは嗚呼エホバこの三人の王をモアブの手にわたさんと召し集めたまへりと 11 ヨシヤバテいひけるは我儕が由てエホバに問ふべきエホバの預言者此にあらざるやとイスラエルの王の臣僕一人答へていふエリヤの手に水をそそぎたるシヤバテの子エリシヤ此にあり 12 ヨシヤバテいひけるはエホバの言彼にありとかくてイスラエルの王およびヨシヤバテとエドムの王かれの許に下りゆきけるに 13 エリシヤ、イスラエルの王に言けるはわれ汝と何の干與あらんや汝の父の預言者と汝の母の預言者の所にゆくべしとイ

スラエルの王かれにいひけるは然すそはエホバこの三人の王をモアブの手に付さんとて召集めたまへばなり 14 エリシヤ言けるはわが事ふる萬軍のエホバは活く我ユダの王ヨシヤバテのためにするにあらずばかならず汝を顧みず汝を見ざらんものを 15 今樂人をわれにつれ來れと而して樂人の樂をなすにおよびてエホバの手に臨みて 16 彼いひけるはエホバかくいひたまふ此谷に許多の溝を設けよ 17 それエホバかく言ひたまふ汝ら風を見ず雨を見ざるに此谷に水盈て汝等と汝等の家畜および汝らの獸飲ことを得ん 18 然るも是はエホバの目には瑣細き事なりエホバ、モアブ人をも汝らの手にわたしたまはん 19 汝等は保障ある諸の邑と諸の美しき邑とを撃ち諸の佳樹を斫倒し諸の水の井を塞ぎ石をもて諸の善地を壊ふにいたらん 20 かくて朝におよびて供物を献ぐる時に水エドムの途より流れきたりて水國に充つ 21 猶またモアブ人はみな王等の己に攻められるを聞きしかば甲を著ることを得る以上の者を盡く集めてその境に備へしが 22 朝はやく興いでしに水の上に日昇りて對面の水血の如くに赤かりければモアブ人これを見て 23 いひけるはこれ乃ち血なり王たち戦ひて死たるならん互に相撃たるなるべし然ばモアブよ掠取に行けと 24 而してモアブ人イスラエルの陣營に至るにイスラエル人起てこれを撃たればすなはちその前より逃はしれり是においてイスラエル人追みてモアブ人を撃てその國にいり 25 その邑々を撃ちし各石を諸の善地に投てこれに填し水の井をことごとく塞ぎ佳樹をことごとく斫たふし唯キルハラセテにその石をのこせしのみなるに至る但し石を投るもの周りあるきてこれを撃り 26 モアブ王戰鬪の手にたくして當りがたきを見て劍を抜く者七百人をひきゐてエドム王の所にまで衝きいたらんとせしが遂に果さざりしかば 27 己の位を継べきその長子をとてこれを石垣の上になげ焚祭となしたり是に於てイスラエルに大なる憤怒おこりぬ彼等すなはちかれをすててその國に歸れり

Chapter 4

1 預言者の徒の妻の中なる一人の婦人エリシヤに呼はりていひけるは汝の僕なるわが夫死りなんぢの僕のエホバを畏れしことはなんぢの知るところなり今債主きたりてわが二人の子をとてて奴僕となさんとすと 2 エリシヤ之にいひけるはわれなんぢの爲に何をなすべきや汝の家に如何なる物あるかわれに告よ彼いひけるは僅少の油のほかは汝の婢の家に有ものなし 3 彼いひけるは往て外より鄰の人々より器を借よ空たる器を借るべし少許を借るなかれ 4 而してなんぢ入て汝の子等とともに戸の内に閉こもりそのすべての器に油をつけてその盈るところの者をとりおくれ 5 婦人すなはち彼を離れて去りその子等とともに戸の内に閉こ

もり子等のもちきたる器に油をつぎたりしが 6 器のみな盈たるときその子にむかひ尚われに器をもちきたれといひけるに器はもはやあらずといひたればその油すなはち止る 7 是においてその婦人のなにいりてかくと告ればかれいふ往て油をうりてその負債をつくのひその餘分をもて汝と汝の子等生計をなすべしと 8 一日エリシヤ、シユナムにゆきしに其所に一人の大なる婦人ありてしきりにこれに食をすすめたれば彼かこを過る毎にそこに入て食をなせり 9 茲にその婦人夫にいひけるは視よ此つねにわれらを過る人は我これを見るに神の聖き人なり 10 請ふ小き室を石垣の上につくりそこに臥床と案と榻と燭臺をかれのために備へん彼われらに至る時はそこに入るべしと 11 かくてのちある日エリシヤそこに至りその室に入てそこに臥たりしが 12 その僕ゲハジにむかひ彼のシユナミ人を召きたれといへり彼かの婦人を召ればその前にきたりて立つに 13 エリシヤ、ゲハジにいひけるは彼にかく言へ汝かく懇に我らのために意を用ふ汝のために何をなすべきや王または軍勢の長に汝のことを告られんことを望むかと彼答へてわれはわが民の中をるなりといふ 14 エリシヤいひけるは然ばかれのために何をなすべきやゲハジ答へけるは誠にかれは子なくその夫は老たりと 15 是においてエリシヤかれを召といひければこれ呼に來りて戸口に立たれば 16 エリシヤいふ明る年の今頃汝子を抱くあらん彼いひけるはいなわが主神の人よなんぢの婢をあざむきたまふなかれと 17 かくて婦つひに孕て明る年にいたりてエリシヤのいへるその頃に子を生子 18 その子育ちてある日刈獲人の所にいでゆきてその父にいりしが 19 父にわが首わが首といひたれば父少者に彼を母のもとに負ゆけと語り 20 すなはちこれを負て母にいたりしに午まで母の膝に坐り居て遂に死たれば 21 母のほりゆきてこれを神の人の臥床の上に置きこれをとごこめて出で 22 その夫をよびていひけるは請ふ一人の僕と一頭の驢馬を我につかはせ我神の人の許にはせゆきて歸らんと 23 夫いふ何故に汝は今日かれにいたりんとするや今日は朔日にもあらず安息日にもあざるなり彼いひけるは宜しと 24 婦すなはち驢馬に鞍おきてその僕にいひけるは驅て進め吾が命ずることなくば我が騎すむることに緩漫あらしめざれと 25 つひにカルメル山にゆきて神の人にいたるに / 神の人遙にかれの來るを見て僕ゲハジにいひけるは視よかしこにかのシユナミ人を 26 請ふ汝はしりゆきて彼をむかへて言へなんぢは平安なるやなんぢの夫はやすらかなるやなんぢの子はやすらかなるやと彼こたへて平安なりといひ 27 遂に山にきたりて神の人にいたりその足を抱きたればゲハジこれを逐ひらはんとて近よりしに神のいひけるは容しおけ彼は心の中に苦あるなりまたエホバその事を我にかくしていまだわれに告たまはざるなり 28 婦いひけるはわれわが主に子を求めし

やわれをあざむきたまふなかれとわれは言ざりしや 29 エリシヤすなはちゲハジにいひけるはなんぢ腰をひきからげわが杖を手にもちて行け誰に逢も禮をなすべからず又なんぢに禮をなす者あるともそれに答ふることなけれわが杖をかの子の面の上におよよと 30 その子の母いひけるはエホバは活くなんぢの靈魂は生く我は汝を離れじと是をもてエリシヤついに起て婦に従ひ行ぬ 31 ゲハジはかれらに先だちゆきて杖をかの子の面の上に置たるが聲もなす聞もせざりしかばかへりきたりてエリシヤに逢てこれに子いまだ目をさまさずと言ふ 32 エリシヤここにおいて家に入て視に子は死ておのれの臥床の上に臥てあれば 33 すなはち入り戸をとてて二人内においてエホバに祈り 34 而してエリシヤ上りて子の上に伏し己が口をその口におのが目をその目に己が手をその手の上にあて身をもてその子を掩しに子の身體やうやく温まり來る 35 かくしてエリシヤかへり來て家の内に其處此處とあゆみり又のぼりて身をもて子をおほひしに子七度嘔して目をひらきしかば 36 ゲハジを呼てかのシユナミ人をよべと言ければすなはちこれ呼り 37 彼入りしかばエリシヤなんぢの子を取けりと言ひかれすなはち入りてエリシヤの足下に伏し地に身をかがめて其子を取あげて出づ 38 斯てエリシヤまたギルガルにいたりしがその地に饑饉あり預言者の徒の前に坐する是において彼その僕にいひけるは大なる釜をすそて預言者の徒のために羹を煮よと 39 時に一人田野にゆきて菜蔬を摘しが野籐のあるを見て其より野瓜を一風呂鋪摘きたりて羹の釜の中に載こみたり其は皆それをしらす食はばなり 40 斯てこれを盛て人々に食はせんとせしに彼等その羹を食はんとするにあたりて叫びて嗚呼神の人よ釜の中に死をきたらす者ありといひて得食はざりしかば 41 エリシヤさらば粉をもちきたれといひてこれを釜に入れ盛て人々に食しめよと言ひ釜の中にはすなはち害物あらずなりぬ 42 茲にバアルシヤリシヤより人來り初穂のパンと大麥のパン二十と圃の初物一袋とを神の人の許にもちいたりたればエリシヤ衆人にあたへて食はしめよと言ふに 43 その奴僕いひけるは如何にとや我これを百人の前にそなふべきかと然るに彼また言ふ衆人にあたへて食しめよ夫エホバかくいひたまふかれら食て尚あます所あらんと 44 すなはち之をその前にそなへたればみな食てなほ餘せりエホバの言のごとし

Chapter 5

1 スリア王の軍勢の長ナアマンはその主君のまへにありて大なる者にしてまた貴き者なりきはエホバ曾て彼をもてスリアに拯救をほこしたまひしが故なり彼は勇士なりしが癩病をわづらひ居る 2 昔にスリア人隊を組いてたりし時にイスラエルの地より一人の小女を執へゆけ

り彼ナアマンの妻に事たりしが3その女主にむかひわが主サマリヤに居る預言者の前にいまさば善らん者をかれその癩病を痊すならんと言たれば4ナアマン入りてその主君に告てイスラエルの地よりきたる女子斯々語りたりと言ふに5スリヤ王いひけるは往よ往よ我イスラエルの王に書をおくるべしと是において彼いでゆき銀十タラントと金六千および衣服十襲をたづさへ6イスラエルの王にその書をもちゆけりその文に曰くこの書讀みいたらば視よ我わが臣ナアマンをなんぢに遣はせるなりこは汝にその癩病を痊されんがためなり7イスラエルの王その書を読み衣を裂ていふ我神ならんや争か殺すことをなし生すことをなしえん然るに此人なんぞ癩病の人を我に遣はしてこれを痊さしめんとするや然ば請ふ汝等彼が如何に我に争を求むるかを見て知れと8茲に神の人工リシヤ、イスラエルの王がその衣を裂たることをきき王に言遣しけるは汝何とて汝の衣をさきし彼をわがもにいたらしめよ然ば彼イスラエルに預言者のあることを知にいたるべし9是においてナアマンその馬と車とをしたがへ來りてエリシヤの家の門に立けるに10エリシヤ使をこれに遣して言ふ汝ゆきて身をヨルダンに七たび洗へ然ば汝の肉本にかへりて汝は清く爲べしと11ナアマン怒りて去り言けるは我は彼かならず我もとにいできたりて立ちその神エホバの名を呼てその所の上に手を動して癩病を痊すならんと思へり12ダマスコの河アパナとパルパルはイスラエルのすべての河水にまさるにあらずや我これらに身を洗ふて清まることを得ざらんやと乃ち身をめぐらし怒りて去る13時にその僕等近よりこれにいひけるは我父よ預言者なんぢに大なる事をなせと命ずるとも汝はそれを爲ざらんや況て彼なんぢに身を洗ひて清くなれといふをやと14是においてナアマン下りゆきて神の人の言のごとくに七たびヨルダンに身を洗ひしにその肉本にかへり嬰兒の肉の如くなりて清くなりぬ15かれすなはちその従者とともに神の人の許にかへりきたりてその前に立ていふ我いまイスラエルのほかは全地に神なしと知る然ば請ふ僕より禮物をうけよ16エリシヤいひけるはわが事へまつるエホバは活く肯て禮物をうけじとかれ強て之を受しめんとしたれども遂にこれを辭したり17ナアマンいひけるは然ば請ふ驢馬に二駄の土を僕にとらせよ僕は今よりのち他の神には燔祭をものみ祭をもささげずして只エホバにのみ献げんとす18ねがはくは主この事につきて僕をゆるしたまへ即ちわが主君リンモンに倚りてここに崇拝をなしてわが手に倚ることありまた我リンモンに宮にありて身をかがむることあらんわがリンモンに宮において身をかがむる時に願くはエホバその事につきて僕をゆるしたまへと19エリシヤ彼になんぢ安じて去れといひければ彼エリシヤをはなれて少しく進みゆきけるに20神の人工リシヤの僕ゲハジいひけるは吾が主人は

此スリア人ナアマンをいたはりて彼が手に携へきたれるものを受ざりしがエホバは活くわれ彼のあとを追かけて彼より少く物をとらんと21ゲハジすなはちナアマンのあとをおひ行くにナアマンはおのれのあとに走り來る者あるを見て車より下りこれを迎へて皆平安やと言ふに22彼言けるは皆平安しわが主我を遣していはしむ只今エフライムの山より預言者の徒なる二人の少者わが許に來りて請ふ汝かれらに銀一タラントと衣二襲をあたへよと23ナアマンいひけるは望むらくは二タラントを取れとてかれを強ひ銀二タラントを二の袋にいれ衣二襲を添て二人の僕に負せられたれば彼等これをゲハジの前に負きたりしが24彼岡に至りしとき之をかれらの手より取て室のうちにをさめかれらを放ちて去しめ25而して入てその主人のまへに立つにエリシヤこれにいひけるはゲハジよ何處より來りしや答へていふ僕は何處にもゆかず26エリシヤいひけるはその人が車をはなれ來りてなんぢを迎へし時にわが心其處にあざりしや今は金をうけ衣をうけ橄欖園葡萄園羊牛僕婢をうくべき時ならんや27然ばナアマンの癩病はなんぢにつき汝の子孫におよびて限なからんと彼その前より退そくに癩病發して雪のごとくになりぬ

Chapter 6

1茲に預言者の徒エリシヤに言けるは視よ我儕が汝とともに住ふ所はわれらのために隘し2請ふ我儕をしてヨルダンに往しめよ我儕おのの彼處より一の材木を取て其處に我儕の住べき處を設けんエリシヤ往よと言ふ3時にその一人希はくは汝も僕等と共に往けと言ければエリシヤ答へて我ゆかんと言ふ4エリシヤかく彼等とともに往り彼等すなはちヨルダンにいたりて樹を砍りたふしけるが5一人の材木を砍りたふすに方りてその斧水におちりしかば叫びて嗚呼主よ是は乞得たる者なりと言ふ6神の人其は何處におちりしやと言ふにその處をしらせしかば則ち杖を切おとして其處に投げりてその斧を浮ましめ7汝これを取れと言ければその人手を伸てこれを取り8茲にスリアの王イスラエルと戦ひをりその臣僕と評議して斯々の處に我陣を張んと言たれば9神の人工リシヤの王に言おくりけるは汝慎んで某の處を過るなかれ其はスリア人其處に下ればなりと10イスラエルの王是において神の人が己に告げ己に教たる處に人を遣して其處に自防しこと一回に止まらざりき11是をもてスリアの王是事のために心をなやましその臣僕を召て我儕の中誰がイスラエルの王と通じをるかを我に告ざるやと言ふに12その臣僕の一人工ルシヤの預言者エリシヤが寢室にて語る所の言語をもイスラエルの王に告るなり13王いひけるは往て彼が安に居かを見よ我人をやりてこれを執へんと茲に彼はドタンに居ると

王に告ていふ者ありければ14王そこに馬と車および大軍をつかはせり彼等すなはち夜の中に來りてその邑を取かこみけるが15神の人の從屬夙に興て出て見に軍勢馬と車をもて邑を取かこみ居ればその少者エリシヤに言けるは嗚呼わが主よ我儕如何にすべきや16エリシヤ答へけるは懼るなかれ我儕とともにある者は彼等とともにある者よりも多しと17エリシヤ祈りて願くはエホバかれの目を開きて見させたまへと言ければエホバその少者の眼を開きたまへり彼すなはち見るに火の馬と火の車山に盈てエリシヤの四面に在り18スリア人工リシヤの所に下りいたれる時エリシヤ、エホバに祈りて言ふ願くは此人々をして目昏しめたまへと即ちエリシヤの言のごとくにその目を昏しめたまへり19是においてエリシヤ彼らに言けるは是はその途にあらず是はその城にもあらず我に従ひて來れ我汝らを汝らが尋ぬる人の所に携ゆかんとて彼等をサマリヤにひき連れり20彼等がサマリヤに至りし時エリシヤ言けるはエホバよ此人々の目をひらきて見させたまへと即ちエホバかれらの目を開きたまひたれば彼等見るにその身はサマリヤの中にあり21イスラエルの王かれらを見てエリシヤに言けるはわが父よ我撃殺すべきや撃殺すべきや22エリシヤ答けるは撃殺すべからず汝劍と弓をもて擲にせる者等を撃殺することを爲んやパンと水と彼らの前にそなへて食飲せしめてその主君に往しむべきなり23王すなはちかれらの爲に大なる饗宴をまうけ其食飲ををはるに及びてこれを去しめたればすなはち其主君に歸り是をもてスリアの兵ふたたびイスラエルの地に入ざりき24此後スリアの王ベネハダデその全軍を集めて上りきたりてサマリヤを攻圍みければ25サマリヤ大に糧食に乏しくなれり即ちかれら之を攻かこみたれば遂に驢馬の頭一箇は銀八十枚にいたり鳩の糞一カブの四分の一は銀五十枚にいたる26茲にイスラエルの王石垣の上を通りる時一人の婦人かれに呼はりて我主王よ助けたまへと言ければ27彼言ふエホバもし汝を助けたまはずば我何をもてか汝を助くることを得ん禾場之物をもてせんか酒榨の中の物をもてせんか28王すなはち婦人に何事なるやと言は答へて言ふ此婦人我にむかひ汝の子を與へよ我儕今日これ食ひて明日わが子を食べべしと言ひ29斯むれら吾子を煮てこれを食べひけるが我次の日にいたりて彼にむかひ汝の身を與へよ我儕これを食べんとしに彼その子を隠したり30王その婦人の言を聞て衣を裂き而して石垣の上を通りてをりしが民これを見るにその膚に麻布を著居たり31王言けるは今日シヤパテの子エリシヤの首その身の上すわりをらば神われに斯なしまた重ねてかく成たまへ32時にエリシヤはその家に坐しをり長老等これと共に坐し居る王すなはち己の所より人を遣しけるがエリシヤその使者の未だ己にいたらざる前に長老等に言ふ汝等この人を殺す者の子が我の首をとらんとて

人を遣はすを見るや汝等觀てその使者至らば戸を開てこれを戸の内にいるるなかれ彼の主君の足音その後にするにあらずやと33斯彼等と語る間にその使者かれの許に來りしが王もつづいて來り言けるは此災はエホバより出たるなり我なんぞ此上エホバを待べけんや

Chapter 7

1エリシヤ言けるは汝らエホバの言を聽けエホバかく言たまふ明日の今頃サマリヤの門にて麥粉一セアを一ケルに賣り大麥二セアを一ケルに賣にいたらん2時に一人の大將すなはち王のその手に依る者神の人に答へて言けるは由やエホバ天に窓をひらきたまふも此事あるべけんやエリシヤいひけるは汝は汝の目をもて之を見ん然どこれを食べふことはあらず3茲に城邑の門の入口に四人の癩病人をりしが互に言けるは我儕なんぞ此に坐して死るを待べけんや4我ら若邑にいらんと言は邑には食物竭てあれば我ら其處に死んもし又此に坐しをらば同く死ん然ば我儕ゆきてスリアの軍勢の所にいたりたらん彼ら我らを生しおかば我儕生ん若われらを殺すも死るのみなりと5すなはちスリア人の陣營にいたらんとて黄昏に起あがりしがスリアの陣營の邊にいたりて視に一人も其處にをる者なし6是より先に主スリアの軍勢をして車の聲馬の聲大軍の聲を聞しめたまひしかば彼ら互に言けるは視よイスラエルの王われらに敵せんとしてヘテ人の王等およびエジプトの王等を備ひきたりて我らを襲はんとすと7すなはち黄昏に起て逃げその天幕と馬と驢馬とを棄て陣營をその儘になしおき生命を全うせんとして逃たり8かの癩病人等陣營の邊に至りしが遂に一の天幕にいたりて食飲し其處より金銀衣服を持ち去りて往てこれを隠し又きたりて他の天幕にいり其處よりも持さりて往てこれを隠せり9かくて彼等互に言けるは我儕のなすところ善らず今日は好消息ある日なるに我儕は黙し居る若夜明まで待ば菑害身におよびん然ば來れ往て王の眷屬に告んと10すなはち來りて邑の門を守る者を呼びこれに告て言けるは我儕スリア人の陣營にいたりて視に其處には一人も居る者なく亦人の聲もせず但馬のみ繫ぎてあり驢馬のみ繫ぎてあり天幕は其儘なりと11是において門を守る者呼はりてこれを王の家の中に報せられたれば12王夜の中に興いでてその臣下に言けるは我スリア人が我儕になせる所の如何を汝等に示さん彼等をはわれらの饑たるをを知が故に陣營を去て野に隱る是はイスラエル人邑を出なば生擒て邑に推いらんと言て然せるなり13その臣下の一人對へて言けるは請ふ尚遣されて邑に存れる馬の中五匹を取しめよ我儕人に遣て窺はしめん視よ是等は邑の中に遺れるイスラエルの全群衆のごとし視よ是等は滅び亡たるイスラエルの全群衆のごとなりと14是において二輛の戦車とその馬を取り王すなはち往て見よといひ

て人を遣はしてスリアの軍勢の跡を尾しめれば 15 彼らその跡を尾てヨルダンにいたりしが途には凡てスリア人が狼狽する時に棄たる衣服と器具盛りその使者かへりてこれを王に告げれば 16 民いでてスリア人の陣營を掠めたり斯在りしかば麥粉一セアは一シケルとなり大麥二セアは一シケルと成るエホバの言のごとし 17 爰に王その手に依ところの彼大將を立て門を死しめたるに民門にて彼を踐たれば死り即ち神の人が王のおのれに下り來し時に言たる言のごとし 18 又神の人が王につげて明日の今頃サマリヤの門にて大麥二セアを一シケルに賣り麥粉二セアを一シケルに賣にいたらんとしごとくに成ぬ 19 彼大將その時に神の人にたへてエホバ天に窓をひらきたまふも此事あるべけんやと言たりしかば答へて汝目をもてこれを見べけれどもこれを食ふことはあらじと言たりしが 20 そのごとくになりぬ即ち民門にてかれを踐て死しめたり

Chapter 8

1 エリシヤ嘗てその子を甦へらせて與へし婦に言しことあり曰く汝起て汝の家族とともに往き汝の寄寓んとおもふ處に寄寓れ其はエホバ饑饉を呼くだしたまひたれば七年の間に地に臨むべければなりと 2 是をもて婦起て神の人の言のごとくに爲しその家族とともに往てペリシテ人の地に七年寄寓ぬ 3 かくて七年を経て後婦人ペリシテ人の地より歸りしが自己の家と田畝のために王に呼ともめんとて往り 4 時にエリシヤの人の僕ゲハジにむかひ請ふエリシヤが爲し諸の大なる事等を我に告よとてこれと談話を 5 即ち彼エリシヤが死人を甦らせしことを王にものたりする時にその子を彼が甦らせし婦自己の家と田畝のために王に呼ともめければゲハジ言ふわが主王よ是すなはちその婦なり是すなはちエリシヤが甦らせしその子なり 6 王すなはちその婦に尋ねけるにこれを陳たれば王彼のために一人の官吏を派出して言ふ凡て彼に屬する物並に彼がこの地を去し日より今にいたるまでの其田畝の産出物を悉く彼に還せよと 7 エリシヤ、ダマスコに至れる事あり時にスリアの王ベネハダデ病にかかりをりしがこれにつけて神の人此にきたると言ふ者ありければ 8 王ハザエルに言ふ汝手に禮物をとり往て神の人を迎へ彼によりてエホバに吾この病は愈るやとて問へ 9 是においてハザエルかれを迎へんとて出往きダマスコのもるもるの佳物駱駝に四十駄を禮物に携へて到りて彼の前に立ち曰けるは汝の子スリアの王ベネハダデ我を汝につかはして吾この病は愈るやと言しむ 10 エリシヤかれに言けるは往てかれに汝はかならず愈べしと告よ但しエホバかれはかならず死んと我にしめたまふなり 11 而して神の人瞳子をさだめて彼の差るまでに見つめ乃て哭いたれば 12 ハザエルわが主よ何て哭たまふやと言ふにエリシヤ答へけるは

我汝がイスラエルの子孫になさんとこの害悪を知らず即ち汝は彼等の城に火をかけ壯年の人を劍にころし子等を挫ぎ孕女を割ん 13 ハザエル言けるは汝の僕は犬なるか何ぞ斯る大なる事をなさんエリシヤ答へけるはエホバ我にしめたまふ汝はスリアの王となるにいたらん 14 斯て彼エリシヤを離れて去てその主君にいたるにエリシヤは汝に何と言しやと尋ねれば答へて汝汝はかならず愈るあらんと我に告たりと言ふ 15 翌日にいたりてハザエル粗き布をとりて水に浸しこれをもて王の面を覆ひたれば死りハザエルすなはち之にかはりて王となる 16 イスラエルの王アハブの子ヨラムの五年にはヨシヤバテ尚ユダの王たりし此年にユダの王ヨシヤバテの子ヨラム位に即り 17 彼は位に即し時三十二歳にして八年の間エルサレムにて世を治めたり 18 彼はアハブの家のなせるがごとくにイスラエルの王等の道を行へりアハブの女かれの妻なりければなり斯彼はエホバの目の前に惡をなせしかども 19 エホバその僕ダビデのためにユダを滅すことを好みたまはざりき即ち彼にその子孫によりて恒に光明を與ふと言たまひしがごとし 20 ヨラムの代にエドム叛きてユダの手に服せず自ら王を立てれば 21 ヨラムその一切の戰車をしたがへてザイルに涉りしが遂に夜の中に起あがりて自己を圍めるエドム人を撃ちその戰車の長等を撃り斯して民はその天幕に逃ゆきぬ 22 エドムは斯叛きてユダの手に服せずなりしが今日まで然り此時にあたりてリブナもまた叛けり 23 ヨラムのその餘の行爲およびその凡て爲たる事等はユダの王の歴史志の書に記さるゝにあらずや 24 ヨラムその先祖等とともに寢りてダビデの邑にその先祖たと同じく葬られその子アハジこれに代りて王となれり 25 イスラエルの王アハブの子ヨラムの十二年にユダの王ヨラムの子アハジ位に即り 26 アハジは位に即し時二十二歳にしてエルサレムにて一年世を治めたりその母はイスラエルの王オムリの孫女にして名をアタリヤといふ 27 アハジはアハブの家の道にあゆみアハブの家のごとくにエホバの目の前に惡をなせり是かれはアハブの家の婿なりければなり 28 茲にアハブの子ヨラム自身ゆきてスリアの王ハザエルとギレアデのラモテに戦ひけるがスリア人等ヨラムに傷を負せたり 29 是に於てヨラム王はそのスリアの王ハザエルと戦ふにありてラマに於てスリア人に負せられたるところの傷を療さんとてエズレルに歸れりユダの王ヨラムの子アハジはアハブの子ヨラムが病をるをもてエズレルに下りて之を訪ふ

Chapter 9

1 茲に預言者エリシヤ預言者の徒一人を呼てこれに言ふ汝腰をひきからげ此膏の瓶を手にとりてギレアデのラモテに往け 2 而して汝かしこに到らば二ムシの子なるヨシヤバテ

の子エヒウを其處に尋獲て内に入り彼をその兄弟の中より起しめて奥の間につけゆき 3 膏の瓶をとりその首に灌ぎて言へエホバかく言たまふ我汝に膏をそそぎてイスラエルの王となすと而して戸を開きて逃されよ止ること勿れ 4 是において預言者の僕なるその少者ギレアデのラモテに往けるが 5 到りて見るに軍勢の長等坐してをりければ將軍よ我汝に告べき事ありと言ふにエヒウこたへて我儕諸人の中の誰にか言たれば將軍よ汝にと言ふ 6 エヒウすなはち起て家にいりければ彼その首に膏をそそぎて之に言ふイスラエルの神エホバかく言たまふ我汝に膏をそそぎてエホバの民イスラエルの王となす 7 汝はその主アハブの家を撃ほるほすべし其によりて我わが僕なる預言者等の血とエホバの諸の僕等の血をイゼベルの身に報いん 8 アハブの家は全く滅亡べしアハブに屬する男はイスラエルにありて繋がれたる者も繋がれざる者もともに之を絶べし 9 我アハブの家をネバテの子アラバムの家のごとくに爲しアヒヤの子アアシヤの家のごとくになさん 10 エズレルの地において犬イゼベルを食ふべし亦これを葬るものあらじと而して戸を開きて逃れり 11 かくてエヒウその主の臣僕等の許にいできたりたれば一人之に言ふ平安なるやこの狂る者何のために汝にきたりしやエヒウこたへて汝等はかの人を知りまたその言ところを知りと言ふに 12 彼等言けらく謊なり其を我儕に告よと是においてエヒウ言けるは彼斯々我につけて言りエホバかく言たまふ我汝に膏をそそぎてイスラエルの王となすと 13 彼等すなはち急ぎて各人その衣服をとりこれを階の上エヒウの下に布き喇吠を吹てエヒウは王たりと言ひ 14 ニムシの子なるヨシヤバテの子エヒウスヨラムに叛けり(ヨラムはイスラエルを盡くひきめてギレアデのラモテに於てスリアの王ハザエルを禦ぎたりしが 15 ヨラム王はそのスリアの王ハザエルと戦ふ時にスリア人に負せられたるところの傷を痊さんとてエズレルに歸りてをる)エヒウ言けるは若なんぢらの心にかなば一人もこの邑より走いでてこれをエズレルに言ふ者なからしめよと 16 エヒウすなはちエズレルをさして乗往りヨラムかしこに臥をればなりまたユダの王アハジはヨラムを訪に下りてをる 17 エズレルの戌樓に一箇の守望者立をりしがエヒウの群衆のきたるを見て我群衆を見るといひければヨラム言ふ一人を馬に乗て遣し其に會しめて平安なるやと言しめよと 18 是において一人馬にて行てこれに會ひ王かく宣まふ平安なるやと言ふにエヒウ言けるは平安は汝の與るところならんや吾後にまはれと守望者また告て言ふ使者がこれらの許に往たるが歸り來すと 19 是をもて再び人を馬に乗て遣したればその人かれらに到りて王かく宣まふ何か變事あるやと言ふにエヒウ答て平安は汝の與るところならんや吾後にまはれと言ふ 20 守望者また告て言ふ彼も彼等の所にまで到りしが歸り來すその車を趨するは二ムシの

子エヒウが趨するに似狂ふて趨らせ來る 21 是においてヨラム車を整へよと言ひけるが車整ひたればイスラエルの王ヨラムとユダの王アハジのおのおのその車にて出たり即ちかれらエヒウにむかひて出きたりエズレル人ナボテの地にて之に會けるが 22 ヨラム、エヒウを見てエヒウよ平安なるやといひたればエヒウこたへて汝の母イゼベルの姦淫と魔術と斯多かれば何の平安あらんやと云り 23 ヨラムすなはち手をめぐらして逃げアハジにむかひ反逆なりアハジアよと言ふに 24 エヒウ手に弓をひきしぼりてヨラムの肩の間を射たればその矢かれの心をいぬぎて出で彼は車の中に僵しづめり 25 エヒウその將ビデカルに言けるは彼をとりてエズレル人ナボテの地の中に投すてよ其は汝憶ふべし嘗て我と汝と二人ともに乗て彼の父アハブに従へる時にエホバ斯かれの事を預言したまへり 26 曰くエホバ言ふ誠に我昨日ナボテの血とその子等の血を見たりエホバ言ふ我この地において汝にむくゆることあらんと然ば彼をとりてその地になげすてエホバの言のごとくにせよ 27 ユダの王アハジはこれを視て園の家の途より逃ゆきけるがエヒウその後を追ひ彼をも車の中に撃ころせと言しかばイブレアムの邊なるグルの坂にてこれを撃たればメギドンまで逃ゆきて其處に死り 28 その臣僕等すなはち之を車にのせてエルサレムにたづさへゆきダビデの邑においてかれの墓にその先祖等とおなじくこれを葬れり 29 アハブの子ヨラムの十一年にアハジはユダの王となりしなり 30 斯てエヒウ、エズレルにきたりしかばイゼベル聞てその目を塗り髪をかざりて窓より望みけるが 31 エヒウ門に入りたればその主を弑せしムシりよ平安なるやと言ひ 32 エヒウすなはち面をあげて窓にむかひ誰か我に與ものあるや誰があるやと言けるに二三の寺人エヒウを望みたれば 33 彼を投おとせと言すなはち之を投おとしたればその血腫と馬とにほどばしりつくりエヒウこれを踏とほれり 34 斯て彼内にいりて食飲をなし而して言けるは往てかの詔はれし婦を見これを葬れ彼は王の女子なればなりと 35 是をもて彼を葬らんとて往て見るにその頭骨と足と掌とありしのみなりければ 36 歸りて彼につぐるに彼言ふはすなはちエホバがその僕なるテシベ人エリヤをもて告たまひし言なり云くエズレルの地において犬イゼベルの肉を食はん 37 イゼベルの屍骸はエズレルの地に於て糞土のごとくに野の表にあるべし是をもてはイゼベルなりと指て言ふこと能ざらん

Chapter 10

1 アハブ、サマリヤに七十人の子あり茲にエヒウ書をしたためてサマリヤにおくり邑の牧伯等と長老等とアハブの子等の師傳等とに傳へて云ふ 2 汝らの主の子等汝らとともにあり又汝等は車も馬も城もあり且武

器もあれば此書汝らの許にいたらば 3 汝らの主の子等の中より最も優れる方正き者を選び出してその父の位に置よ汝等の主の家のために戦へよ 4 彼ら大に恐れて言ふ二人の王等すでに彼に當ることを得ざりしなれば我儕いかで當ることを得んと 5 乃ち家宰邑宰長老師傳等エヒウに言ふくりにけるは我儕は汝の僕なり凡て汝が我儕に命ずる事を爲ん我儕は王を立てるを好まず汝の目に善と見ゆる所を爲せ 6 是においてエヒウ再度かれらに書をばかきて言ふ汝らもし我に與き我言にしたがふならば汝らの主の子なる人々の首をとりて明日の今頃エズレルにきたりて吾許にいたれど當時王の子七十人はその師傳なる邑の貴人等とともに居る 7 その書かれらに至りしかば彼等王の子等をとらへてその七十人をことごとく殺しその首を籃につめてこれをエズレルのエヒウの許につかはせり 8 すなはち使者いたりてエヒウに告て人衆王の子等の首をたづさへ來りてと言ければ明朝までそれを門の入口に二山に積おけと言ひ 9 朝におよび彼出て立ちすべての民に言ふ汝等は義し我はわが主にそむきて之を弑したり然ど此すべての者等を殺せば誰なるぞや 10 然ば汝等知れエホバがアハブの家につきて告たまひしエホバの言は一も地に隕ず即ちエホバはその僕エリヤによりて告し事を成たまへりと 11 斯てエヒウはアハブの家に屬する者のエズレルに遣れるを盡く殺したるその一切の重立たる者その親き者およびその祭司等を殺して彼に屬する者を一人も遣さざりき 12 エヒウすなはち起て往てサマリヤに至りしがエヒウ途にある時牧者の集會所において 13 ユダの王アハジヤの兄弟等に遇ひ汝等は何人なるやと言けるに我儕はアハジヤの兄弟なるが王の子等と王母の子等の安否を問んとて下るなりと答へたれば 14 彼等を生擒れと言ひ即ちかれらを生擒りその集會所の穴の側にて彼等四十二人を盡く殺し一人をも遣さざりき 15 斯てエヒウ其處より進みゆきしがレカブの子ヨナダブの己を迎にきたるに遣ければその安否をとふてこれに汝の心はわが心の汝の心と同一なるがごとく眞實なるやと言けるにヨナダブ答へて眞實なりと言たれば然ば汝の手を我に伸よと言ひその手を伸ければ彼を挽て己の車に登らしめて 16 言ふ我とともに來りて我がエホバに熱心なるを見よと斯かれを己の車に乗しめ 17 サマリヤにいたりてアハブに屬する者のサマリヤに遣れるを盡く殺して遂にその一族を滅せりエホバのエリヤに告たまひし言語のごとし 18 茲にエヒウ民をことごとく集てこれに言けるはアハブは少くバアルに事たるがエヒウは大にこれに事へんとす 19 然ば今バアルの諸の預言者諸の臣僕諸の祭司等を我許に召せ一人も來らざる者なからしめよ我大なる祭祀をバアルのためになさんとすなり凡て來らざる者は生しおかじと但しエヒウ、バアルの僕等を滅さんとて偽りて斯なせるなり 20 エヒウすなはちバアルの祭禮を設よと言ければ之を宣た

り 21 是てエヒウあまねくイスラエルに人をつかはしたればバアルの僕たる者皆きたれり一人も來らずして遣れるものはあざりき彼等バアルの家にいりたればバアルの家は未より未まで充わたれり 22 時にエヒウ衣裳を掌どる者てむかひ禮服をとりいだしバアルの凡の僕等にあたへよといひければすなはち禮服をとりいだし 23 斯ありてエヒウはレカブの子ヨナダブとともにバアルの家にいりしがバアルの僕等に言ふ汝等尋ね見て此には只バアルの僕のみあらしめエホバの僕を一人も汝らの中にあらしめざれと 24 彼等犠牲と燔祭を獻げんとて入し時エヒウ八十人の者を外に置て言ふ凡てわがその手にわたすとこの人を一人にても逃れしむる者は己の生命をもてその人の生命に代べしと 25 期て燔祭を獻ぐることの終りし時エヒウその士卒と諸將に言ふ入てかれらを殺せ一人をも出さなかれとすなはち刃をもて彼等を撃ころせり而して士卒と諸將これを投いだしてバアルの家の内殿に入り 26 諸の像をバアルの家よりとりいだしてこれを焼り 27 即ちかれらバアルの像をこぼちバアルの家をこぼち其をもて厠を造りしが今日までのこる 28 エヒウかくイスラエルの中よりバアルを絶さりたりしかども 29 エヒウは尚かのイスラエルに罪を犯させたるネバテの子ヤラバアムの罪に離るることをせざりき即ち彼なほベテルとダンにあるところの金の犢に事たり 30 エホバ、エヒウに言たまひけらく汝わが義と視るところの事を行ふにあたりて善く事をなしまたわが心にある諸の事をアハブの家になしたれば汝の子孫は四代までイスラエルの位に坐せんと 31 然るにエヒウは心を盡してイスラエルの神エホバの律法をおこなはんとせず尚かのイスラエルに罪を犯させたるヤラバアムの罪に離れざりき 32 是時にあたりてエホバ、イスラエルを割くことを始めたまへりハゼルすなはちイスラエルの一切の邊境を侵し 33 ヨルダンの東においてギレアデの全地ガド人ルベン人マナセ人の地を侵しアルノン河の邊なるアロエルよりギレアデにいたりバシヤンにおよべり 34 エヒウのその餘の行爲とその凡て爲たる事むよびその大なる能はイスラエルの王の歴代志の書に記さるるにあらざり 35 エヒウその先祖等とともに寝りたればこれをサマリヤに葬りぬその子エホアハズこれに代て王となれり 36 エヒウがサマリヤにをりてイスラエルに王たりし間は二十八年なりき

Chapter 11

1 茲にアハジヤの母アタリヤその子の死たるを見て起て王の種を盡く滅したりしが 2 ヨラム王の女にしてアハジヤの姉妹なるエホシバといふ者アハジヤの子ヨアシを王の子等の殺さるる者の中より竊みとり彼とその乳母を夜着の室にいれて彼をアタリヤに匿したれば終にころされざりき 3 ヨアシは彼とともに六年エホ

バの家に隠れてをりアタリヤ國を治めたり 4 第七年にいたりエホヤダ人を遣して近衛兵の大將等を招きよせエホバの家にきたりて己に就しめ彼等と契約を結び彼らにエホバの家に誓をなさしめて王の子を見し 5 かれらに命じて言ふ汝等がなすべき事は是なり汝等安息日に入きたる者は三分の一は王の家をまもり 6 三分の一はスル門にをり三分の一は近衛兵の後の門にをるべし斯なんぢら宮殿をまもりて人ををるべからず 7 また凡て汝等安息日に出ゆく者はその二手ともにエホバの家において王をまもるべし 8 すなはち汝らおのおの武器を手にとりて王を環て立べし凡てその列を侵す者をば殺すべし汝等又王の出る時にも入る時にも王とともにをるべし 9 是においてその將官等祭司エホヤダが凡て命ぜしごとくにおこなへり即ちかれらおのおの其手の人の安息日に入すべき者と安息日に出ゆくべき者とを率て祭司エホヤダに至りしかば 10 祭司はエホバの殿にあるダビデ王の槍と楯を大將等にわたせり 11 近衛兵はおのおの手に武器をとりて王の四周にをり殿の右の端より左の端におよびて壇と殿にそひて立つ 12 エホヤダすなはち王子を進ませて之に冠冕をいただかせ律法をわたし之を王となして之に膏をそそぎければ人衆手を拍て王長壽かれと言ひ 13 茲にアタリヤ近衛兵と民の聲を聞きエホバの殿にいりて民の所にいたり 14 見るに王は常例のごとくに高座の上に立ち其傍に大將等と喇叭手立をり又國の民みな喜びて喇叭を吹をりしかばアタリヤ其衣を裂て反逆なり反逆なりと叫べり 15 時に祭司エホヤダ大將等と軍勢の士官等に命じてこれに言ふ彼をして列の間をとほりて出しめよ彼に従がふ者をば劍をもて殺せと前にも祭司は彼をエホバの家に殺すべからずと言おけり 16 是をもて彼のために路をひらきければ彼王の家の馬道をとほりゆきしが遂に其處に殺されぬ 17 斯てエホヤダはエホと王と民の間にその皆エホバの民とならんとしふ契約を立しめたり亦王と民の間にもこれを立しめたり 18 是をもて國の民みなバアルの家にいりてこれを毀ちその壇とその像を全く打碎きバアルの祭司マツタンをその壇の前に殺せり而して祭司エホバの家に監督者を設けたり 19 エホヤダすなはち大將等と近衛兵と國の諸の民を率てエホバの家より王をみちびき下り近衛兵の門の途よりして王の家にいたり王の位に坐せしめたり 20 斯有しかば國の民はみな喜びて邑は平穩なりきアタリヤは王の家に殺されぬ 21 ヨアシは位に即し時七歳なりき

Chapter 12

1 ヨアシはエヒウの七年に位に即きエルサレムにおいて四十年世を治めたりその母はベエルシバより出たるものにて名をヂビアといへり 2 ヨアシは祭司エホヤダの己を誨ふる間は恒にエホバの善と視たまふ事をおこなへり 3 然ど崇邱は除かずして

あり民は尚その崇邱において犠牲をささげ香を焚り 4 茲にヨアシ祭司等に言けるは凡てエホバの家に聖別て獻納るところの金即ち核數らるる人の金估價にしたがひて出すところの身の代の金および人々的心より願てエホバの家に持きたるところの金 5 これを祭司等おのおのその知人より受をさめ何處にても殿に破壊の見る時はこれをもてその破壊を修繕ふべしと 6 然るにヨアシ王の二十三年におよぶまで祭司等殿の破壊を修繕ふにいたりざりしかば 7 ヨアシ王祭司エホヤダおよびその他の祭司等を召てこれに言ふ汝等などで殿の破壊を修繕はざるや然ば今よりは汝等の知人より金を受て自己のためにすべからず唯殿の破壊の修理に其を供ふべしと 8 祭司等は重て民より自己のために金を受ず又殿の破壊を修理ふことをせじと約せり 9 斯て後祭司エホヤダ一箇の櫃をとりその蓋に孔を穿ててこれをエホバの家の入口の右において壇の傍に置り門守の祭司等すなはちエホバの家に入きたるところの金をことごとくその中に入たり 10 爰にその櫃の中に金の多くあることを見たれば王の書記と祭司長と上り來りてこのエホバの家に積りし金を包みてこれを數へ 11 その數へし金をその工事をなす者に付せり即ちエホバの家の監督者にこれを付しければ彼等またエホバの家を修理ふところの木工と建築師にこれを與へ 12 石工および琢石者に與へたまふこれをもてエホバの家の破壊を修繕ふ材木と琢石を買い殿を修理ふために用ふる諸の物のためにこれを費せり 13 但しエホバの家に來れるその金をもてエホバの家のために銀の盃燈剪鉢喇叭金の器銀の器等を造ることなせざりき 14 唯これをその工事をなす者にわたして之をもてエホバの家を修理はしめたり 15 またその金を手にわたして工人にはらはしめたる人々と計算をなすことをせざりき 是は彼等忠厚に事をなしたればなり 16 窓金と罪金はエホバの家にいらざりて祭司に歸せり 17 當時スリアの王ハザエルのぼり來りてガテを攻てこれを取り而してハザエル、エルサレムに攻のぼらんとてその面をこれに向たり 18 是をもてユダの王ヨアシの先祖たるユダの王ヨシヤバテ、ヨラム、アハジヤ等が聖別て獻げたる一切の物および自己が聖別て獻げたる物ならびにエホバの家の庫と王の家とにあるところの金を悉く取てこれをスリアの王ハザエルにおくりければ彼すなはちエルサレムを離れて去ぬ 19 ヨアシのその餘の行爲およびその凡て爲たる事はユダの王の歴代志の書に記さるるにあらざり 20 茲にヨアシの臣僕等おこりて黨をむすびシラに下るところのミロの家にてヨアシを弑せり 21 即ちその僕シメアテの子ヨザカルとシヨメルの子ヨザバデかれを弑して死しめたればその先祖とおなじくこれをダビデの邑に葬れりその子アマジヤこれに代りて王となる

リエをもこれとともに殺せり時にギレアド人五十人ペカとともにありきペカすなはち彼をころしかれに代て王となれり 26 ペカヒヤのその餘の行爲とその凡て爲たる事はイスラエルの王の歴代志の書に示さる 27 レマリヤの子ベカはユダの王アザリヤの五十二年にサマリヤに於てイスラエルの王となり二十年位にありき 28 彼エホバの目の前に惡をなし彼のイスラエルに罪ををかさせたるネバテの子アラバムを罪にはなれざりき 29 イスラエルの王ペカの代にアツスリヤの王テグラテビセル來りてイヨン、アベルベテマアカ、ヤノア、ケデシ、ハゾルおよびギレアドならびにナフタリノ全地ガリラヤを取りその人々をアツスリヤに擄へうつせり 30 茲にエラの子ホセア黨をむすびてレマリヤの子ペカに敵しこれを撃て殺しこれに代て王となれり是はウジヤの子ヨタムの二十年にあたり 31 ペカのその餘の行爲とその凡てなしたる事はイスラエルの王の歴代志の書に示さる 32 レマリヤの子イスラエルの王ペカの二年にウジヤの子ユダの王ヨタム王となれり 33 彼は王となれる時二十五歳なりしがエルサレムにて十六年世を治めたり母はザドクの女にして名をエルシャといへり 34 彼はエホバの目にかなふ事をなし凡てその父ウジヤのなしたるごとくにおこなへり 35 惟崇邱は除かずしてあり民なほその崇邱の上に犠牲をささげ香を焚り彼エホバの家の上の門を建たり 36 ヨタムのその餘の行爲とその凡てなしたる事はユダの王の歴代志の書に示さるにあらざり 37 當時エホバ、スリアの王レチンとレマリヤの子ペカをユダにせめきたらせたまへり 38 ヨタムその先祖等とともに寝りてその父ダビデの邑にその先祖等とともに葬られその子アハズこれに代りて王となれり

Chapter 16

1レマリヤの子ペカの十七年にユダの王ヨタムの子アハズ王となれり 2アハズは王となれる時二十歳にしてエルサレムにおいて十六年世を治めたりしがその神エホバの善と見たまふ事をその父ダビデのごとくは行はざりき 3彼はイスラエルの王等の道にあゆみまたその子に火の中を導かしめたり是はエホバがイスラエルの子孫の前より逐はらひたまひし異邦人のおこなふところの憎むべき事にしたがへるなり 4彼は崇邱の上の丘の上一切の青木の下に犠牲をささげ香をたけり 5この頃スリアの王レチンおよびレマリヤの子なるイスラエルの王ペカ、エルサレムにせめのぼりてアハズを圍みけるが勝ことを得ざりき 6この時にあたりてスリアの王レチン復エラテをスリアに歸せしめユダヤ人をエラテより逐いだせり而してスリア人エラテにきたりて其處に住み今日にいたる 7是においてアハズ使者をアツスリヤの王テグラテビセルにつかはして言しめけるは我は汝の臣僕汝の子なりスリア

の王とイスラエルの王と我に攻かりをれば請ふ上りきたりてかれらの手より我を救ひいだしたまへと 8アハズすなはちエホバの家と王の家の庫とにあるところの銀と金をとりこれを禮物としてアツスリヤの王におくりしかば 9アツスリヤの王かれの請を容たりアツスリヤの王すなはちダマスコに攻のぼりて之をとりその民をキルに擄うつしまたレチンを殺せり 10かくてアハズはアツスリヤの王テグラテビセルに會んとてダマスコにゆきけるがダマスコにおいて一箇の祭壇を見ればアスス王その祭壇の工作にしたがひて委くこれが圖と式様を制へて祭司ウリヤにこれをおくれり 11是において祭司ウリヤはアハズ王がダマスコよりおくりたる所にてらして一箇の祭壇をつくりアハズ王がダマスコより來るまでにこれを作りおけり 12茲に王ダマスコより歸りてその祭壇を見壇にちかよりてこれに上り 13壇の上に燔祭と素祭を焚き灌祭をそそぎ酬恩祭の血を灑げり 14彼またエホバの前なる銅の壇を家の前より移せり即ちこれをかの新しき壇とエホバの家の間より移してかの壇の北の方に置たり 15而してアハズ王祭司ウリヤに命じて言ふ朝の燔祭夕の素祭および王の燔祭とその素祭ならびに國中の民の燔祭とその素祭および灌祭はこの大なる壇の上に焚べし又この上に燔祭の牲の血と犠牲の物の血をすべて灑ぐべし彼の銅の壇の事はなほ考ふるあらん 16祭司ウリヤすなはちアハズ王のすべて命じたるごとくに然せり 17またアハズ王臺の邊を削りて洗盤をその上よりうつしまた海をその下なる銅の牛の上よりおろして石の座の上に置爰 18また家に造りたる安息日用の遊廊および王の外の入口をアツスリヤの王のためにエホバの家の中に變じたり 19アハズのなしたるその餘の行爲はユダの王の歴代志の書に示さるにあらざり 20アハズその先祖等とともに寝りてダビデの邑にその先祖等とともに葬られその子ヒゼキヤこれにかはりて王となれり

Chapter 17

1ユダの王アハズの十二年にエラの子ホセア王となりサマリヤにおいて九年イスラエルを治めたり 2彼エホバの目の前に惡をなせしがその前にありしイスラエルの王等のごとくはあらざりき 3アツスリヤの王シヤルマネセル攻のぼりたればホセアこれに臣服して貢を納たりしが 4アツスリヤの王つひにホセアの己に叛けるを見たり其は彼使者をエジプトの王ソにおくり且前に歳々なせしごとくに貢をアツスリヤ王に納ざりければなり是においてアツスリヤの王かれを禁錮て獄におけり 5すなはちアツスリヤの王せめ上りて國中を遍くゆきめぐりサマリヤにのぼりゆきて三年が間これをせめ圍みたりしが 6ホセアの九年におよびてアツスリヤの王つひにサマリヤを取りイスラエルをアツスリヤに擄へゆきてこれ

をハラとハボルとゴザン河の邊とメデアの邑々におきぬ 7此事ありしはイスラエルの子孫己をエジプトの地より導きのぼりてエジプトの王パロの手を脱しめたるその神エホバに對て罪を犯し他の神々を敬ひ 8エホバがイスラエルの子孫の前より逐はらひたまひし異邦人の法度にあゆみ又イスラエルの王等の設けし法度にあゆみたるに因てなり 9イスラエルの子孫義からぬ事もその神エホバを掩ひかくしその邑々に崇邱をたてたり看守臺より城にいたるまで然り 10彼等一切の高丘の上一切の青樹の下に偶像とアシラ像を立て 11エホバがかれらの前より移したまひし異邦人のなせしごとくにその崇邱に香を焚き又惡を行ひてエホバを怒らせたなり 12エホバかれらに汝等これらの事を爲べからずと言おきたまひしに彼等偶像に事ふることを爲しなり 13エホバ諸の預言者諸の先見者によりてイスラエルとユダに見證をたて汝等翻へりて汝らの惡き道を離れわが誠命わが法度をまもり我が汝等の先祖等に命じまたわが僕なる預言者等によりて汝等に傳へし法に率由ふやうにせよと言たまへり 14然るに彼ら聽ことをせずしてその項を強くとり彼らの先祖等がその神エホバを信せずしてその項を強くしたるが如し 15彼等はエホバの法度を棄てエホバがその先祖等と結びたまひし契約を棄てまたその彼等に見證したまひし虚言を棄て且虚妄物にしたがひて虚浮なりまたその周圍なる異邦人の跡をふめり是はエホバが是のごとくに事をなすべからずと彼らに命じ給ひし者なり 16彼等その神エホバの諸の誠命を遭て己のために二の牛の像を鑄し又アシラ像を造り其の衆群を拜み且バルに事へ 17またその子息女に火の中を通らしめト筮および禁厭をなしエホバの目の前に惡を爲ことに身を委ねてその怒を惹起せり 18是をもてエホバ大にイスラエルを怒りこれをその前より除きたまひたればユダの支派のほかは遺れる者なし 19然るにユダもまたその神エホバの誠命を守ずしてイスラエルの立たる法度にあゆみたれば 20エホバ、イスラエルの苗裔ぞごとく棄これを苦しめこれをその掠むる者の手に付して遂にこれをその前より打すてたまへり 21すなはちイスラエルをダビデの家より裂はなしたまひしかばイスラエル、ネバテの子アラバムを王となせしにアラバム、イスラエルをしてエホバにしたがふことを止めてこれに大なる罪を犯さしめたりしが 22イスラエルの子孫はアラバムのなせし諸の罪をおこなひつづけてこれに離ることなかりければ 23遂にエホバその僕なる諸の預言者をもて言たまひしごとくにイスラエルをその前より除きたまへりイスラエルはすなはちその國よりアツスリヤにうつされて今日にいたる 24斯てアツスリヤの王バビロン、クタ、アワ、ハマテおよびセバルワイムより人をおくりてこれをイスラエルの子孫の代にサマリヤの邑々に置ければその人々サマリヤを有ちてその邑々に

住しが 25その彼處に始て住る時には彼等エホバを敬ふことをせざりしかばエホバ獅子をかれらの中に送りたまひてその獅子かれら若干を殺せり 26是によりてアツスリヤの王に告て言ふ汝が移てサマリヤの邑々におきたまひしかの國々の民はこの地の神の道を知ざるが故にその神獅子をかれらの中におくりて獅子かれらを殺せり是は彼等その國の神の道を知ざるに因てなり 27アツスリヤの王すなはち命を下して言ふ汝等が彼處より曳きたりし祭司一人を彼處に携ゆけ即ち彼をして彼處にいたりて住しめその國の神の道をその人々に教へしめよと 28是に於てサマリヤより移れし祭司一人きたりてペテルに住みエホバの敬ふべき事をかれらに教へたり 29その民はまた各々自分自分の神々を造りてこれをかのサマリヤ人が造りたる諸の崇邱に安置せり民みなその住る邑々において然なしぬ 30即ちバビロンの人々はスコテペノテを作りクタの人々はネルガルを作りハラマの人々はアシマを作り 31アビ人はニブハズとタルタクを作りセバルワイ人は其子女を火に焚てセバルワイムの神アデランメルクおよびアナンメルクに奉げたり 32彼ら又エホバを敬ひ凡俗の民をもて崇邱の祭司となしければ其人これがために崇邱に家々にて職務をなせり 33斯その人々エホバを敬ひたりしが亦その携へ出されし國々の風俗にしたがひて自己自己の神々に事へたり 34今日にいたるまで彼等は前の習俗にしたがひて事をなしエホバを敬はず彼等の法度もも例典をも行はず又エホバがイスラエルを名けたまひしヤコブの子孫に命じたまひし律法をも誠命をも行はざるなり 35昔エホバこれと契約をたてこれに命じて言たまひけらく汝等は他の神を敬ふべからずまたこれを拜みこれに事へこれに犠牲をささぐべからず 36只大なる能をもて腕を伸て汝等をエジプトの地より導き上りしエホバをのみ汝等敬ひこれを拜みこれに犠牲をささぐべし 37またその汝等のために録したまへる法度と例典と律法と誠命を汝等謹みて恒に守るべし他の神々を敬ふべからず 38我が汝等とむすびし契約を汝等忘るべからず又他の神々を敬ふべからず 39只汝らの神エホバを敬ふべし彼なんじらをその諸の敵の手より救ひいださん 40然るに彼等は聽ことをせずしてなほ前の習俗にしたがひて事を行へり 41諸この國々の民は斯エホバを敬ひまたその離るる像に事たりしがその子孫も共に然りその先祖のなせしごとくに今日までも然らずなり

Chapter 18

1イスラエルの王エラの子ホセアの三年にユダの王アハズの子ヒゼキヤ王となれり 2彼は王となれる時二十五歳にしてエルサレムにて二十九年世ををさめたりその母はザカリヤの女にして名をアビといへり 3ヒゼキヤはその父ダビデの凡てなせし

ごとくエホバの善と見たまふ事な
し4 崇邱を除き偶像を毀ちアシラ像
を砕けりこの時までイスラエルの子
孫その蛇にむかひて香を焚たれば
なり人々これをネホシタン(銅物)と稱
なせり5 ヒゼキヤはイスラエルの神
エホバを頼り是をもて彼の後にも彼
の先にもユダの諸の王等の中に彼に
如ものなかりき6 即ち彼は固くエホ
バに身をよせてこれに従ふことをや
めずエホバがモーセに命じたまひし
その誠命を守れり7 エホバ彼ととも
に在したれば彼はその住るところにて
凡て利達を得たり彼はアッシリアの
王に叛きてこれに事へざりき8 彼ペ
リシテ人を擊敗りてガザにいたりそ
の境に達し看守臺より城にまで及べ
り9 ヒゼキヤ王の四年すなはちイス
ラエルの王エラの子ホセアの七年に
アッシリアの王シャルマネセル、サ
マリヤに攻のぼりてこれを圍みける
が10 三年の後つひに之を取りサマ
リヤの取れしはヒゼキヤの六年に
してイスラエルの王ホセアの九年にあ
たる11 アッシリアの王イスラエル
をアッシリアに擄へゆきてこれをハ
ラとゴザン河の邊とメデアの邑々に
おきぬ12 是は彼等その神エホバの
言に遵はずその契約を破りエホバの
僕モーセが凡て命じたる事をやぶり
これを聽ことも行ふこともせざるに
よりてなり13 ヒゼキヤ王の十四年
にアッシリアの王セナケリブ攻のぼ
りてユダの諸の堅き邑を取れば14
ユダの王ヒゼキヤ人をラキシにつ
かはしてアッシリアの王にいらしめ
て言ふ我過てり我を離れて歸りたま
へ汝が我に蒙らしむる者は我これ
を爲べしとアッシリアの王すなはち
銀三百タラント金三十タラントをユ
ダの王ヒゼキヤに課したり15 是に
おいてヒゼキヤ、エホバの家と王の
家の庫とにあるところの銀をことごと
く彼に與へたり16 此時ユダの王
ヒゼキヤまた己が金を著たりしエホ
バの宮の戸および柱を剥てこれをア
ッシリアの王に與へたり17 アッシ
リアの王またタルタン、ラブサリス
およびラブシャケをしてラキシより
大軍をひきゐてエルサレムにむかひ
てヒゼキヤ王の所にいらしめたれば
すなはち上りてエルサレムにきたれ
り彼等則ち上り來り漂布邊の大路に
沿るよの池塘の水道の邊にいたり
て立り18 而して彼等王を呼たれば
ヒルキヤの子なる宮内卿エリアキム
書記官セブナおよびアサフの子なる
史官ヨア出きたりて彼等に語りける
に19 ラブシャケこれに詣りけるは汝
等ヒゼキヤに言へし大王アッシリア
の王かく言たまふ汝が頼むところ
の者は何ぞや20 汝戦争をなすの謀
計と勇力とを言も只これ口の先の言
語たのみ誰を待みて我に叛くこと
をせしや21 視よ汝は折かかれる葦
の杖なるエジプトを頼む其は人の其
に倚るあればすなはちその手を刺と
ほすなりエジプトの王パロは凡てこ
れを頼む者に斯あるなり22 汝等あ
るひは我はわれらの神エホバを頼む
と我に言ん彼はヒゼキヤがその崇邱
と祭壇とを除きたる者にあらずや
また彼はユダとエルサレムに告て汝等

はエルサレムに於てこの壇の前に禱
拜をなすべしと言しにあらずや23
然ば請ふわが主君アッシリアの王に
約をなせ汝もし人を乗しむることを
得ば我馬二千匹を汝にあたへん24
汝いかにして吾主君の諸臣の中の
最も微き一將だにも退くることを得
ん汝なんぞエジプトを頼みて兵車と
騎兵をこれに仰がんとするや25 ま
た我とても今エホバの旨によらずし
て比處を滅しに上りけるならんやエ
ホバ我に此處に攻のぼりてこれを滅せ
と言たり26 時にヒルキヤの子エリ
アキムおよびセブナとヨア、ラブシ
ヤケにいひけるは請ふスリアの語を
もて僕等に語りたまへ我儕これを識
なり石垣の上ををる民の聞るところ
にてユダヤ語をもて我儕に言談たま
ふなかれ27 ラブシャケかれらに言
ふわが君唯我を汝の主と汝につか
はして此言をのべしめたまふならん
や亦石垣の上に坐する人々にも我を
遣して彼等をして汝等とともに自己
の便溺を食ひ且飲にいらしめんと
したまふにあらざるやと28 而して
ラブシャケ起あがりユダヤ語をもて大
聲に呼はり言をい出して曰けるは汝
等大王アッシリアの王の言を聽け29
王かく言たまふ汝等ヒゼキヤに欺
かるなかれ彼は汝等をわが手より
救ひいだすことをえざるなり30
ヒゼキヤがエホバかならず我らを救
ひたまはん此邑はアッシリアの王の
手に陥らじとて汝らにエホバを頼
ましめんとするとも31 汝等ヒゼキ
ヤの言を聽なかれアッシリアの王かく
言たまふ汝等約をなして我に降れ
而して各人おのれの葡萄の樹の果を
食ひ各人おのれの無花果樹の果をく
らひ各人おのれの井水を飲めよ32
我來りて汝等を一の國に携ゆかん其
は汝儕の國のごとき國穀と酒のある
地パンと葡萄園のある地油の出る橄
欖と蜜とのある地なり汝等は生るこ
とを得ん死ることあらじヒゼキヤ、
エホバ我儕を救ひたまはんとて汝ら
を勸るともこれを聽なかれ33 國々
の神の中執かその國をアッシリアの
王の手より救ひたりしや34 ハマテ
およびアルパデの神々は何處にある
セバルワイム、ヘナおよびアワの神
々は何處にあるやサマリヤをわが手
より救ひ出せし神々あるや35 國々
の神の中にその國をわが手より救
ひいだせし者ありしや然ば汝は我が
手より救ひいだすことを得んと36
然ども民は黙して一言もこれに應へ
ざりき其は王命じてこれに應ふるな
かれと言おきたればなり37 かくて
ヒルキヤの子なる宮内卿エリアキム
書記官セブナおよびアサの子なる史
官ヨアその衣をさきてヒゼキヤの許
にいたりラブシャケの言をこれに告
たり

Chapter 19

1ヒゼキヤ王これを受けてその衣
を裂き麻布を身にまとひてエホバの
家に入り2宮内卿エリアキムと書記
官セブナと祭司の中の長老等とに麻
布を衣せてこれをアモツの子預言者
イザヤに遣せり3彼等イザヤに言け

るはヒゼキヤかく言ふ今日は艱難の
日懲罰の日打棄らるる日なり嬰孩
すでに産門にいたりて之を産いだす
力なき也4ラブシャケその主君なる
アッシリアの王に差遣れて來り活る
神を誘ふ汝の神エホバあるひは彼
の言を聞たまはんとし汝の神エホバ
その聞る言語を責罰たまふこともあ
らん然ば汝この遺る者の爲に祈禱を
たてまつれと5ヒゼキヤ王の僕等す
なはちイザヤの許にいたりければ6イ
ザヤかれらに言けるは汝等の主君に
かく言べしエホバかく言たまふア
ッシリアの王の臣僕等が我を誘ふと
ころの言を汝に聞て懼るなかれ7我
かれの氣をうつして風聲を聞て己の
國にかへるにいたらしめん我また彼
をして自己の國に於て劍に斃れしむ
べしと8彼またラブシャケは歸りゆ
きてアッシリアの王がリブナに戦争
をなしをるところに至れり其は彼そ
のラキシを離れしを聞たればなり9
茲にアッシリアの王はエテオピアの
王テルハカ汝に攻きたると言ふを
聞てまた使者をヒゼキヤにつかはし
て言しむ10 汝等ユダの王ヒゼキ
ヤに告て言べし汝エルサレムはア
ッシリアの王の手に陥らじとて汝が
頼むところの神に欺かるなかれ11
汝はアッシリアの王等が萬の國々に
したところの事を知る即ちこれを滅
しつくせしなり然ば汝いかで救らん
や12 吾父等はゴザン、ハラ、レ
ゼフおよびテラサルのエデンの人々
等を滅ぼせしがその國々の神これを
救ひたりしや13 ハマテの王アル
パデの王セバルワイムの邑およびヘ
ナとアワの王等は何處にあるや14
ヒゼキヤ使者の手より書を受けてこ
れを讀みエホバの家にのぼりゆきて
エホバの前にこれを展開け15 而し
てヒゼキヤ、エホバの前に祈りて言
けるはケルビムの中にいますイスラ
エルの神エホバよ世の國々の中にお
いて只汝のみ神にいます也汝は天
地を造りたまひし者にいます16
エホバよ耳を傾けて聞たまへエホ
バよ目を開きて見たまへセナケリ
ブが活る神を誘りにおくける言語
を聞たまへ17 エホバよ誠にアッシ
リアの王等は諸の民とその國々を滅
し18 又その神々を火になげいれ
たり其等は神にあらず人の手の作
れる者にして木石たればこれを滅せ
しなり19 今われらの神エホバよ
願くは我らをかれの手より拯ひい
だしたまへ然ば世の國々皆汝エホ
バのみ神にいますことを知にいら
ん20 茲にアモツの子イザヤ、ヒ
ゼキヤに言つかはしけるはイスラ
エルの神エホバかく言たまふ汝
がセナケリブの事につきて我に祈
るところの事は我これを聽り21
エホバが彼の事につきて言ふところ
の言語は是のごとし云く處女なる
女子シオンは汝を藐視じ汝を嘲る
女子エルサレムは汝にむかひて頭
を揺る22 汝誰を誘りてぞ罵詈
雑言や汝誰にむかひて聲をあげし
や汝はイスラエルの聖者にむかひ
て汝の目を高く擧たるなり23
汝使者をもて主を誘て言ふ我夥
多き兵車をひきゐて山々の嶺にの
ぼりレバノンの奥にいたり長高き
香柏と美しき松樹を斫たふす我
その境の休息所にいたりその園の
林にい

たる24 我は外國の地をほりて水
を飲む我は足の跡をもてエジプト
の河をことごとくふみ潤すなり25
汝聞ずや昔われ之を作し古時より
われ之を定めたり今われ之をおこ
なふ即ち堅き邑々は汝のために垣
城となるなり26 是をもてそれら
の中にすむ民は力弱かり懼れかつ
驚くなり彼等は野の草のごとく青
菜のごとく屋蓋の草のごとく枯る
苗のごとし27 汝の止ると汝の出
ると汝の入と汝の我にむかひて怒
るふとは我の知とるなり28 汝の
怒くるふ事と汝の傲慢とところの
事上りてわが耳にいりたれば我
圈を汝の鼻につけ轡を汝の唇に
ほどこして汝を元來し道へひきか
へすべし29 是は汝にあたる微
なり即ち一年は糧を食ひ第二年には
又その糧を食ふあらん第三年には
汝ら稼ことをし糧ことをし又葡萄
園をつくりてその果を食ふべし30
ユダの家の逃れて遺れる者は復
根を下に張り實を上につけばん31
即ち殘餘者エルサレムより出で
逃避たる者シオン山より出きた
らんエホバの熱心これを爲べし32
故にエホバ、アッシリアの王の
事をかく言たまふ彼は此邑に入
じ亦これに矢を發つことあらず
楯を之にむかひて堅ることあらず
亦壘をきづきてこれを攻ることあ
らじ33彼はその來し路より歸らん
此邑にいることあらずエホバこ
れを言ふ34 我わが身のため又
わが僕ダビデのためにこの邑を守
りてこれを救ふべし35 その夜エ
ホバの使者いいてアッシリア人の
陣營の者十八萬五千人を撃ころ
せり朝早く起いて見るに皆死て
屍となりをる36 アッシリアの
王セナケリブすなはち起いて歸
りゆきてニネベに居しが37 その
神ニスロクの家にありて禱拜を
なしをる時にその子アデランメ
クとシヤレゼル劍をもてこれを
殺せり而して彼等はアララテの
池に逃ゆけり是においてその子
エサルハドンこれに代りて王とな
れり

Chapter 20

1當時ヒゼキヤ病て死なんとせ
しことありアモツの子預言者イ
ザヤ彼の許にいたりて之にいひ
けるはエホバかく言たまふ汝
家の人に遺命をなせ汝は死ん生
ることを得じと2 是においてヒ
ゼキヤその面を壁にむけてエホ
バに祈り3 嗚呼エホバよ願く
は我が眞實と一心をもて汝の前
にあゆみ汝の目に適ふことを行
ひしを記憶たまへとて痛く泣り
4 かくてイザヤ未だ中の邑を出
はなれざる間にエホバの言これ
に臨みて言ふ5 汝還りてわが民
の君ヒゼキヤに告よ汝の父ダ
ビデの神エホバかく言ふ我汝
の祈禱を聽り汝の涙を看たり然
ば汝を愈すべし第三日には汝
エホバの家に入ん6 我汝の
齡を十五年増べし我汝とこの
邑とをアッシリアの王の手より
救ひ我名のため又わが僕ダビ
デのためにこの邑を守らん7 是
に於てイザヤ乾無花果の團塊一
箇を持ちたれと言ければすな
はち之を持ちたりてその腫物に
貼たればヒゼキヤ愈ぬ8
ヒゼキヤ、イザヤに言けるは
エホ

バが我を愈したまふ事と第三日に我がエホバの家にのぼりゆく事につきては何の徴あるや9イザヤ言けるはエホバがその言しところを爲たまはん事につきては汝エホバよりこの徴を得ん日影進めること十度なり若日影十度退かば如何 10 ヒゼキヤ答へけるは日影の十度進むは易き事なり然せざれば日影を十度しりぞかしめよ 11 是において預言者イザヤ、エホバに籲はりければアハスの日晷の上に進みし日影を十度しりぞかしめたまへり 12 その頃バラダンの子なるバビロンの王メロダクバラダ書および禮物をヒゼキヤにおくれり是はヒゼキヤの疾をを聞たればなり 13 ヒゼキヤこれがために喜びその寶物の庫金銀香物貴き言および武器庫ならびにその府庫にあるところの一切の物を之に見せたりその家にある物もその國の中にある物も何一箇としてヒゼキヤが彼等に見せざる者はなかりき 14 茲に預言者イザヤ、ヒゼキヤ王のもとに來りてこれに言けるは夫の人々は何を言しや何處より來りしやヒゼキヤ言けるは彼等は遠き國より即ちバビロンより來れり 15 イザヤ言ふ彼等は汝の家にて何を見しやヒゼキヤ答へて云ふ吾家にある物は皆かれら之を見たり我庫の中には我がかれらに見せざる者なきなり 16 イザヤすなはちヒゼキヤに言けるは汝エホバの言を聞け 17 エホバ言たまふ視よ日いたる凡て汝の家に積蓄へたる物はバビロンに携ゆかれん遺る者なるべし 18 汝の身より出る汝の生んとところの子等の中を彼等携へ去ん其等はバビロンの王の殿において官吏となるべし 19 ヒゼキヤ、イザヤに言ふ汝が語れるエホバの言は善し又いふ若わが世にある間に大平と眞實とあらば善しならずや 20 ヒゼキヤのその餘の行爲その能およびその池塘と水道を作りて水を邑にひきし事はユダの王の歴代志の書にしるさるるにあらざり 21 ヒゼキヤその先祖等とともに寢りてその子マナセこれに代りて王となれり

Chapter 21

1 マナセ十二歳にして王となり五十五年の間エルサレムにて世を治めたりその母の名はヘブジバといふ 2 マナセはエホバの目の前に惡をなしエホバがイスラエルの子孫の前より逐はらひたまひし國々の人がなすところの憎むべき事に倣へり 3 彼はその父ヒゼキヤが毀たる崇邱を改め築き又イスラエルの王アハブのなせしごとくバアルのために祭壇を築きアシラ像を作りて天の衆群を拝みてこれに事へ 4 またエホバの家中に數箇の祭壇を築けり是はエホバがこれをさして我わが名をエルサレムにおかんと言たまひし家なり 5 彼エホバの家の二の庭に祭壇を築き 6 またその子に火のの中を通らしめト占をなし魔術をおこなひ口寄者とト筮師を取もちひエホバの目の前に衆多の惡を爲てその震怒を惹おこせり 7 彼はその作りしアシラの銅像を殿にたてた

りエホバこの殿につきてダビデとその子ソロモンに言たまひしことあり云く我この家と我がイスラエルの諸の支派の中より選みたるエルサレムとに吾名を永久におかん 8 彼等も我が凡てこれに命ぜし事わが僕モーセがこれに命ぜし一切の律法を謹みて行はば我これが足をしてわがその先祖等に與へし地より重てさまよひ出ることなからしむべしと 9 然るに彼等は聽ことをせざりきマナセが人々を誘ひて惡をなせしことはエホバがイスラエルの子孫の前に滅したまひし國々の人よりも甚だしかりき 10 是においてエホバその僕なる預言者等をもて語て言給はく 11 ユダの王マナセこれらの憎むべき事を行ひその前にありしアモリ人の凡て爲しところにも踰たる惡をなし亦ユダをしてその偶像をもて罪を犯させられたれば 12 イスラエルの神エホバかく言ふ視よ我エルサレムとユダに災害をくだす是を聞く者はその耳ふたつながら鳴ん 13 我サマリヤを隳りし繩とアハブの家にもちひし準繩をエルサレムにほどこし人が血を拭ひこれを拭ひて反覆のごとくにエルサレムを拭ひさらん 14 我わが産業の民の殘餘を棄てこれをその敵の手に付さぬ彼等はそその諸の敵の擄掠にあひ掠奪にあふべし 15 是は彼等その先祖等がエジプトより出し日より今日にいたるまで吾目の前に惡をおこなひて我を怒らするが故なり 16 マナセはエホバの目の前に惡をおこなひてユダに罪を犯させたる上にまた無辜者の血を多く流してエルサレムのこの極よりかの極にまで盈せり 17 マナセのその餘の行爲とその凡て爲たる事およびその犯したる罪はユダの王の歴代志の書にしるさるるにあらずや 18 マナセその先祖等とともに寢りてその家の園すなはちウザの園に葬られその子アモンこれに代りて王となれり 19 アモンは王となれる時二十二歳にしてエルサレムにおいて二年世を治めたりその母はヨテバのハルツの女にしてその名をメシユレメと云ふ 20 アモンはその父マナセのなせしごとくエホバの目の前に惡をなせり 21 すなはち彼は凡てその父のあゆみし道にあゆみその父の事へし偶像に事へてこれを拝み 22 その先祖等の神エホバを棄てエホバの道にあゆまざりき 23 茲にアモンの臣僕等黨をむすびて王をその家に弑したりしが 24 國の民そのアモン王に敵して黨をむすびし者をことごとく撃ころせり而して國の民アモンの子ヨシアを王となしてそれに代らしむ 25 アモンのなしたるその餘の行爲はユダの王の歴代志の書にしるさるるにあらざり 26 アモンはウザの園にてその墓に葬られその子ヨシアこれに代りて王となれり

Chapter 22

1 ヨシアは八歳にして王となりエルサレムにおいて三十一年世を治めたり其母はボツカテのアダヤの女にして名をエデダと曰ふ 2 ヨシアはエホバの目に適ふ事をなしその父ダ

ビデの道にあゆみて右にも左にも轉らざりき 3 ヨシア王の十八年に王メシユラムの子アザリヤの子なる書記官シヤパンをエホバの家に遣せり即ちこれに言けらく 4 汝祭司の長ヒルキヤの許にのぼりてエホバの家にいりし銀すなはち門守が民よりあつめし者を彼に計算しめ 5 工事を司どるエホバの家の監督者の手にこれを付さしめ而してまた彼らをしてエホバの家にありて工事をなすところの者にこれを付さしめ殿の破壊を修理はしめよ 6 即ち工匠と建築者と石工にこれを付さしめ又これをもて殿を修理ふ材木と斫石を買しむべし 7 但し彼らは誠實に事をなせば彼らの手にわたすところの銀の計算をかれらとするには及ばざるなり 8 時に祭司の長ヒルキヤ書記官シヤパンに言けるは我エホバの家において律法の書を見いだせりとヒルキヤすなはちその書をシヤパンにわたしたれば彼これを讀り 9 かくて書記官シヤパン王の許にいりて王に返事まうして言ふ僕等殿にありし金を返あけてこれを工事を司どるエホバの家の監督者の手に付せりと 10 書記官シヤパンまた王につけて祭司ヒルキヤ我に一書をわたせりと言ひシヤパン其を王の前に讀けるに 11 王その律法の書の言を聞やその衣を裂り 12 而して王祭司ヒルキヤとシヤパンの子アヒカムとミカヤの子アクボルと書記官シヤパンと王の内臣アサヤとに命じて言ふ 13 汝等往てこの見當し書の言につきて我のため民のためユダ全國のためにエホバに問へ其は我儕の先祖等ははこの書の言に聽したがひてその凡て我儕のために記されたるところを行ふことをせざりしに因てエホバの我儕にむかひて怒を發したまふこと甚だしかるべければなり 14 是において祭司ヒルキヤ、アヒカム、アクボル、シヤパンおよびアサヤ等シヤルムの妻なる女預言者ホルダの許にいたれりシヤルムはハルハスの子なるテクワの子にして衣裳の室を守る者なり時にホルダはエルサレムの下邑に住る彼等すなはちホルダに物語せしかば 15 ホルダかれらに言けるはイスラエルの神エホバかく言たまふ汝等を我につかはせる人に告よ 16 エホバかく言ふ我ユダの王が讀たるこの書の一切の言にしたがひて災害をその處と此にする民に降さんとす 17 彼等はわれを棄て他の神に香を焚きその手に作れる諸の物をもて我を怒らするなり是故に我この處にむかひて怒の火を發す是は滅ざるべし 18 但し汝等をつかはして我に問しむるユダの王には汝等かく言べし汝が聞る言につきてイスラエルの神エホバかく言たまふ 19 汝はわが此處と此にする民にむかひて是は荒地となり呪詛とならんとし言を聞たる時に心柔にしてエホバの前に身を卑し衣を裂て吾前に泣たれば我もまた聽ことをなすなりエホバこれを言ふ 20 然ば視よ我なんぢを汝の先祖等に歸せしめん汝は安全に墓に歸することをうべし汝はわが此處にくだす諸の災害を目に見ることあらじと彼等すなはち王に返事まうしぬ

Chapter 23

1 是において王人をつかはしてユダとエルサレムの長老をことごとく集め 2 而して王エホバの家にのぼれりユダの諸の人々エルサレムの一切の民および祭司預言者ならびに大小の民みな之にしたがふ王すなはちエホバの家に見あたりし契約の書の言をことごとくかれらの耳に讀きかせ 3 而して王高座の上を立てエホバの前に契約をなしエホバにしたがひて歩み心をつくし精神をつくしてその誠命と律法と法度を守り此書にしるされたる此契約の言をおこなはんと語り民みなその契約に加はりぬ 4 かくして王祭司の長ヒルキヤとその下にたつところの祭司等および門守等に命じてエホバの家よりしてバアルとアシラと天の衆群との爲に作りたる諸の器と執いださしめエルサレムの外にてキデロンの野にこれを焼きその灰をベテルに持ゆかしめ 5 又ユダの王等が立てダの邑々とエルサレムの四圍なる崇邱に香をたかしめたる祭司等を廢しまたバアルと日月星宿と天の衆群とに香を焚く者等をも廢せり 6 彼またエホバの家よりアシラ像をとりだしエルサレムの外に持ゆきてキデロン川にいたりキデロン川においてこれを焼きこれを打碎きて粉となしその粉を民の墓に散し 7 またエホバの家のある男娼の家を毀てり其處はまた婦人がアシラのために天幕を織ところなりき 8 彼またユダの邑々より祭司をことごとく召よせまた祭司が香をたきたる崇邱をばゲバよりベエルシバまでこれを汚した門にある崇邱を毀てり是等の崇邱は一は邑の宰ヨシユアの門の入口にあり一は邑の門にありて之に入る人の左にあたる 9 崇邱の祭司等はエルサレムにおいてエホバの壇にのぼることをせざりき但し彼等はその兄弟の中にありて無醉パンを食へり 10 王また人がその子息息女に火の中を通らしめて之をモロクにささぐるることなからんためにベンヒンノムの谷にあるトペテを汚し 11 またユダの王等が日のためにささげてエホバの家の門における馬をうつせりこの馬はバルリムにある侍從ナタンメレクの室にをりしなり彼また日の車を皆火に焚り 12 またユダの王等がアハズの桜の屋背につくりたる祭壇とマナセがエホバの家の兩の庭につくりたる祭壇とは王これを毀ちこれを其處より取くづしてその碎片をキデロン川になげ捨たり 13 またイスラエルの王ソロモンが昔シドン人の憎むべき者なるアケロテとモアブ人の憎むべき者なるケモシとアモンの子孫の憎むべき者なるモロクのためにエルサレムの前において殲滅山の右に築きたる崇邱も王これを汚し 14 また諸の像をうち碎きアシラ像をきりたふし人の骨をもてその處々に充せり 15 またベテルにある壇かのイスラエルに罪を犯させたるネパテの子ヤラベアムが造りし崇邱すなはちその壇もその崇邱も彼これを毀ちその崇邱を焚てこれを粉

にうち碎きかつアシラ像を焚り 16 茲にヨシア身をめぐらして山に墓のあるを見人をやりてその墓より骨をとりきたらしめ之をその壇の上に焚てそれを汚せり即ち神の人が宣たるエホバの言のごとし昔神の人この言語を宣しことありしなり 17 ヨシアまた其處に見ゆる碑は何なるやと言しに邑の人々これに告て其は汝がベテルの壇にむかひて爲るこの事等をユダより來りて宣たる神の人の墓なりと言ければ 18 すなはち其には手をつくるなかれ誰もその骨を移すなかれと言り是をもてその骨とサマリヤより來りし預言者の骨には手をつけざりき 19 またイスラエルの王等がサマリヤの邑々に造りてエホバを怒せし崇邱の家も皆ヨシアこれを取のぞき凡てそのベテルにせしごとくに之に事をなせり 20 彼また其處にある崇邱の祭司等を壇の上にごろし人の骨を壇の上に焚てエルサレムに歸りぬ 21 而して王一切の民に命じて言ふ汝らこの契約の書に記されたるごとくに汝らの神エホバに逾越の節を執行ふべしと 22 土師のイスラエルを治めし日より已來もまたユダの王等とイスラエルの王等の代にも斯のごとき逾越の節を守りしことはなかりしが 23 ヨシア王の十八年にいたりてエルサレムにて斯逾越の節をエホバに守りしなり 24 ヨシアまた祭司ヒルキヤがエホバの家にて見いだせし書に記されたる律法の言を世におこなはんとために口寄者とト筮師とテラピムと偶像およびユダの地とエルサレムに見ゆる諸の憎むべき者を取のぞけり 25 ヨシアの如くに心を盡し精神を盡し力を盡してモーセの法に全くしたがひてエホバに歸向せし王はヨシアの先にはあらざりきたまた彼の後にも彼のごとき者はなし 26 斯有しかどもエホバはユダにむかひて怒を發したるその大いなる燃たつ震怒を息ることをしたまはざりき是はマナセ諸の憤らしき事をもてエホバを怒らせしによるなり 27 エホバすなはち言たまはく我イスラエルを移せし如くにユダをもわが目の前より拂ひ移し我が選みし此エルサレムの邑と吾名をそこに置んといひしこの殿とを棄べしと 28 ヨシアのその餘の行爲とその凡て爲たる事はユダの王の歴代志の書にしるさるにあらざり 29 ヨシアの代にエジプトの王パロネコ、アッスリヤの王と戦はんとてユフラテ河をさして上り來しがヨシア王これを防がんとて進みゆきければ彼これに出あひてメギドンにこれを殺せり 30 その僕等すなはちこれを死骸を車にのせてメギドンよりエルサレムに持ゆきこれをその墓に葬れり國の民ここに於てヨシアの子エホアハズを取りこれに膏をそそぎて王となしてその父にかはらしめたり 31 エホアハズは王となれる時二十三歳にしてエルサレムにて三月世を治めたりその母はリブナのエレミヤの女にして名をハムタルと云ふ 32 エホアハズはその先祖等が凡てなしたるごとくにエホバの目の前に惡をなせしが 33 パロネコ彼をハマテの地のリブラに撃おきてエルサレムにおいて王となりをること

を得ざらしめ且銀百タラント金一タラントの罰金を國に課したり 34 而してパロネコはヨシアの子エリアキムをしてその父ヨシアにかはりて王とならしめ彼の名をエホヤキムと改めエホアハズを曳て去ぬエホアハズはエジプトにいたりて其處に死り 35 エホヤキムは金銀をパロにおくれり即ち彼國に課してパロの命のままに金を出さしめ國の民各人に割つけて金銀を征取りてこれをパロネコにおくれり 36 エホヤキムは二十五歳にして王となりエルサレムにおいて十一年世を治めたりその母はルマのベダヤの女にして名をゼブタと云ふ 37 エホヤキムはその先祖等が凡てなしたるごとくにエホバの目の前に惡をなせり

Chapter 24

1 エホヤキムの代にバビロンの王ネブカデネザル上り來りければエホヤキムこれに臣服して三年をへたりしが遂にひるがへりて之に叛けり 2 エホバ、カルデアの軍兵スリアの軍兵モアブの軍兵アンモンの軍兵をしてエホヤキムの所に攻きたらしめたまへり即ちユダを滅さんがためにこれをユダに遣はしたまふエホバがその僕なる預言者等によりて言たまひし言語のごとし 3 この事は全くエホバの命によりてユダのごぞみし者にてユダをエホバの目の前より拂ひ除かんがためなりき是はマナセがその凡てなす所において罪を犯したるにより 4 また無辜人の血をながし無辜人の血をエルサレムに充したるによりてなりエホバはその罪を赦すことをなしたまはざりき 5 エホヤキムのその餘の行爲とその凡て爲たる事はユダの王の歴代志の書にしるさるにあらざり 6 エホヤキムその先祖等とともに寝りその子エホコニアこれに代りて王となれり 7 却説またエジプトの王は重てその國より出きたらざりき其はバビロンの王エジプトの河よりユフラテ河まで凡てエジプトの王に屬する者を悉く取ればなり 8 エホコニアは王となれる時十八歳にしてエルサレムにて三月世を治めたりその母はエルサレムのエルナタンの女にして名をネホシタと云ふ 9 エホコニアはその父の凡てなしたるごとくにエホバの目の前に惡をなせり 10 その頃バビロンの王ネブカデネザルの臣エルサレムに攻のぼりて邑を圍めり 11 即ちバビロンの王ネブカデネザル邑に攻來りてその臣にこれを攻惱さしめられたれば 12 ユダの王エホコニアその母その臣その牧伯等およびその侍従等とともに出てバビロンの王に降りバビロンの王すなはち彼を執ふ是はその代の八年にあたり 13 而して彼エホバの家の諸の寶物および王の家の寶物を其處より携へ去りイスラエルの王ソロモンがエホバの宮に造りたる諸の金の器を切しがせりエホバの言たまひしごとし 14 彼またエルサレムの一切の民および一切の牧伯等と一切の大なる能力ある者ならびに工匠と鍛冶とを一萬人擄へゆけり遺れる者は國の民の賤

き者のみなりき 15 彼すなはちエホコニアをバビロンに擄へゆきまた王の母王の妻等および侍従と國の中の能力ある者をもエルサレムよりバビロンに擄へうつせり 16 凡て能力ある者七千人工匠と鍛冶一千人ならびに強壯して善戦ぶ者は等をバビロンの王擄へてバビロンにうつせり 17 而してバビロンの王またエホコニアの父の兄弟マツタニヤを王となしてエホコニアに代へ其が名をゼデキヤと改めたり 18 ゼデキヤは二十一歳にして王となりエルサレムにて十一年世を治めたりその母はリブナのエレミヤの女にして名をハムタルと曰ふ 19 ゼデキヤはエホヤキムが凡てなしたるごとくにエホバの目の前に惡をなせり 20 エルサレムとユダに斯る事ありしはエホバの震怒による者にしてエホバつひにその人々を自己の前よりはらひ棄たまへり 21 猶またゼデキヤはバビロンの王に叛けり

Chapter 25

1 茲にゼデキヤの代の九年の十月十日にバビロンの王ネブカデネザルその諸軍勢を率てエルサレムに攻きたりこれにむかひて陣を張り周圍に雲梯を建てこれを攻たり 2 かくこの邑攻かこまれてゼデキヤ王の十一年にまでおよびしが 3 その四月九日にいたりて城邑の中饑ること甚だしくなりその地の民食物を得ざりき 4 是をもて城邑つひに打破られければ兵卒はみな王の圍の邊なる二箇の石垣の間の途より夜の中に逃いで皆平地の途にしたがひておちゆけり時にカルデア人は城邑を圍みける 5 茲にカルデア人の軍勢王を追ゆきエリコの平地にてこれに追つきけるにその軍勢みな彼を離れて散しかば 6 カルデア人王を執へてこれをリブラにをるバビロンの王の許に曳ゆきてその罪をさだめ 7 ゼデキヤの子等をゼデキヤの目の前に殺しゼデキヤの目を抉しこれを綱索につなぎてバビロンにたづさへゆけり 8 バビロンの王ネブカデネザルの代の十九年の五月七日にバビロンの王の臣侍衛の長ネブザラダン、エルサレムにきたり 9 エホバの室と王の室を焼き火をもてエルサレムのすべての室と一切の大なる室を焼り 10 また侍衛の長とともにありしカルデア人の軍勢エルサレムの四周の石垣を毀てり 11 侍衛の長ネブザラダンすなはち邑に遣されし殘餘の民およびバビロンの王に降りし降人と群衆の殘餘者を擄へうつせり 12 但し侍衛の長その地の或貧者をのこして葡萄をつくる者となし農夫となせり 13 カルデア人またエホバの家の銅の柱と洗盤の臺と銅の海をくだきてその銅をバビロンに運び 14 また鍋と火鏟と燈剪と匙および凡て役事に用ふる銅の器を取り 15 侍衛の長また火盤と鉢など金銀にて作れる物を取り 16 またソロモンがエホバの室に造しところの二の柱と一の海と臺とを取り此もるもるの銅の重は量るべからず 17 この柱は高さ十八キユビトにしてその上に銅の頂ありその頂の高は三キユビトそ

の頂の四周に網子と石榴とありて皆銅なり他の柱とその網子もこれに同じ 18 侍衛の長は祭司の長セラヤと第二の祭司ゼバニヤと三人の門守を執へ 19 また兵卒を督する一人の寺人と王の前にはべる者の中邑にて遇しところの者五人とその他の民を募る軍勢の長なる書記官と城邑の中にて遇しところの六十人の者を邑より擄へされり 20 侍衛の長ネブザラダンこれらを執へてリブラにをるバビロンの王の許にいたりければ 21 バビロンの王ハマテの地のリブラにてこれらを撃殺せりかくユダはおのれの地よりとらへ移されたり 22 かくてバビロンの王ネブカデネザルは自己が遣してユダの地に止らしめし民の上にシヤパンの子なるアヒカムの子ゲダリヤをたててこれをその督者となせり 23 茲に軍勢の長等およびこれに屬する人々みなバビロンの王がゲダリヤを督者となせしことを聞しかばすなはちネタニヤの子シマエル、カレヤの子ヨナハン、ネバ人タンホメテの子サヤおよび或マアカ人の子ヤザニヤならびに彼らに屬する人々ミツパにきたりてゲダリヤの許にいたり 24 ゲダリヤすなはち彼等とかれらに屬する人々に誓ひてこれに言けるは汝等カルデア人の僕となることを恐るるなかれこの地に住てバビロンの王につかへば汝等幸福ならんと 25 然るに七月に王の血統なるエリシヤマの子ネタニヤの子なるイシマエル十人の者ととも來りてゲダリヤを撃ころし又彼とともにミツパにをりしユダヤ人とカルデア人を殺せり 26 是において大小の民および軍勢の長等みな起てエジプトにおもむけり是はカルデア人をおそれたればなり 27 ユダの王エホヤキムがとらへ移れたる後三十七年の十二月二十七日バビロンの王エビルメロダクその代の一年にユダの王エホヤキムを獄より出してその首をあげしめ 28 善言をもて彼をなくさめその位をバビロンにともに居るところの王等の位よりも高くし 29 その獄の衣服を易しめたりエホヤキムは一生のあひだつねに王の前に食をなせり 30 かれ一生のあひだたえず日々の分を王よりたまはりてその食物となせり

歴代誌

Chapter 1

1 アダム、セツ、エノス 2 ケナン、マハラレル、ヤレド 3 エノク、メトセラ、ラメク 4 ノア、セム、ハム、ヤベテ 5 ヤベテの子等はゴメル、マゴグ、マデア、ヤワン、トバル、メセク、テラス 6 ゴメルの子等はアシケナズ、リパテ、トガルマ 7 ヤワンの子等はエリシヤ、タルシシ、キツテム、ドダニム 8 ハムの子等はクシ、ミツライム、プテ、カナン 9 クシの子等はセバ、ハピラ、サブタ、ラアマ、サブテカ、ラアマの子等はセバとデダン 10

クシ、ニムロデを生り彼はじめて世の権力ある者となれり 11 ミツライムはルデ族アナミ族レハビ族ナフト族 12 パテロス族カスル族カフトリ族を生りカスル族よりベリシテ族出たり 13 カナンその家子シドンおよびヘテを生み 14 またエブス族アモリ族ギルガシ族 15 ヒビ族アルキ族セニ族 16 アルワデ族ゼマリ族ハマテ族を生り 17 セムの子等はエラム、アシユル、アルバクサデ、ルデ、アラム、ウズ、ホル、ゲテル、メセク 18 アルバクサデ、シラを生みシラ、エベルを生り 19 エベルに二人の子生れたりその一人の名をベレグ(分)と曰ふ其は彼の代に地の人散り分れたればなりその弟の名をヨクタンと曰ふ 20 ヨクタンはアルモダデ、シャレフ、ハザルマウテ、エラ 21 ハドラム、ウザル、デクラ 22 エバル、アピマエル、シバ 23 オフル、ハビラおよびヨハブを生り是等はみなヨクタンの子なり 24 セム、アルバクサデ、シラ 25 エベル、ベレグ、リウ 26 セルグ、ナホル、テラ 27 アブラム是すなはちアブラハムなり 28 アブラハムの子等はイサクおよびイシマエル 29 彼らの子孫は左のごとしイシマエルの家子はネバヨテ次はケダール、アデビエル、ミブサム 30 ミシマ、ドマ、マツサ、ハダデ、テマ 31 エトル、ネフシ、ケデマ、イシマエルの子孫は是の如し 32 アブラハムの妾ケトラの生る子は左のごとし彼ジムラン、ヨクシヤン、メダン、ミデアン、イシバク、シユウを生りヨクシヤンの子等はシバおよびデダン 33 ミデアンの子等はエバ、エベル、ヘノク、アビダ、エルダア是等はみなケトラの生る子なり 34 アブラハム、イサクを生りイザクの子等はエサウとイスラエル 35 エサウの子等はエリバズ、リウエル、エウシ、ヤラム、コラ 36 エリバズの子等はテマン、オマル、ゼビ、ガタム、ケナズ、テムナ、アマレク 37 リウエルの子等はナハテ、ゼラ、シヤンマ、ミツザ 38 セイの子等はロタン、シヨバル、チベオン、アナ、デシヨン、エゼル、デシヤン 39 ロタンの子等はホリとホمام、ロタンの妹はテムナ 40 シヨバルの子等はアルヤン、マナハテ、エバル、シビ、オナム、チベオンの子等はアヤとアナ 41 アナの子等はデシヨン、デシヨンの子等はハムラム、エシバン、イテラン、ケラン、42 エゼルの子等はビルハン、ザワン、ヤカン、デシヤンの子等はウズおよびアラン 43 イスラエルの子孫を治むる王いまだ有ざる前にエドムの地を治めたる王等は左のごとしベオルの子ベラその都城の名はデナバといふ 44 ベラ薨てボズラのゼラの子ヨバブこれに代りて王となり 45 ヨバブ薨てテマン人の地のホシヤムこれにかはりて王となり 46 ホシヤム薨てベダデの子ハダデこれにかはりて王となり彼モアブの野にてミデアン人を撃りその都城の名はアビテといふ 47 ハダデ薨てマスレカのサムラこれに代りて王となり 48 サムラ薨て河の傍なる

レホボテのサウルこれに代りて王となり 49 サウル薨てアクボルの子バアルハナンこれに代りて王となり 50 バアルハナン薨てハダデこれにかはりて王となれりその都城の名はパイといふその妻はマレデの子にして名をメヘタベルといへりマレデはメザハブの女なり 51 ハダデも薨たり / エドムの諸侯は左のごとし、テムナ侯アルヤ侯エテテ侯 52 アホリバマ侯エラ侯ビノン侯 53 ケナズ侯テマン侯ミブザル侯 54 マグデエル侯イラム侯エドムの諸侯は是のごとし

Chapter 2

1 イスラエルの子等は左のごとしルベン、シメオン、レビ、ユダ、イツサカル、ゼブルン 2 ダン、ヨセフ、ベニヤミン、ナフタリ、ガド、アセル 3 ユダの子等はエル、オナン、シラなりこの三人はカナンの女パテシユアがユダによりて生たるなりユダの長子エルはエホバの前に悪き事をなしたれば之を殺したまへり 4 ユダの嫡タマルはユダによりてベレツとゼラとを生りユダの子等は都合五人なりき 5 ベレツの子等はヘツロンおよびハムル 6 ゼラの子等はジムリ、エタン、ヘマン、カルコル、ダラ都合五人 7 カルミの子はアカル、アカルは誑はれし物につきて罪を犯してイスラエルを惱ませし者なり 8 エタンの子はアザリヤ 9 ヘツロンに生れたる子等はエラメル、ラム、ケルバイ 10 ラム、アミナダブを生みアミナダブ、ナシヨンを生りナシヨンはユダの子孫の牧伯なり 11 ナシヨン、サルマを生みサルマ、ボアズを生み 12 ボアズ、オベデを生み、オベデ、エツサイを生り 13 エツサイの生る者は長子はエリアブその次はアミナダブ 14 その三はシヤンマ その四はネタンエル その五はラダイ 15 その六はオゼム その七はダビデ 16 かれらの姉妹はゼルヤとアビガル、ゼルヤの産る子はアビシヤイ、ヨアブ、アサヘルあはせて三人 17 アビガルはアマサを産りアサの父はイシマエル人エテルといふ者なり 18 ヘツロンの子カレブはその妻アズバによりまたエリオテによりて子を擧けたりその産る子等は左のごとしエシル、シヨバブおよびアルドン 19 アズバ死たればカレブまたエフラタを娶れりエフラタ、カレブによりてホルを産り 20 ホル、ウリを生みウリ、ベザレルを生り 21 その後ヘツロンはギレアデの父マキルの女の所にいれりその之を娶れる時は六十歳なりき彼ヘツロンによりてセグブを産り 22 セグブ、ヤイルを生りヤイルはギレアデの地に邑二十三を有り 23 然るにゲシユルおよびアラム彼等よりヤイルの邑々およびケナテとその郷里など都合六十の邑を取り是皆ギレアデの父マキルの子等なりき 24 ヘツロン、カレブエフテタに死て後ヘツロンの妻アビヤその子アシユルを生りアシユルはテコアの父

なり 25 ヘツロンの長子エラメルの子等は長子はラム次はブナ、オレン、オゼム、アヒヤ 26 エラメルはまた他の妻をもてりその名をアタラといふ彼はオナムの母なり 27 エラメルの子等はマアツ、ヤミン、エゲル 28 オナムの子等はシヤンマイ、ヤダ、シヤンマイの子等はナダブおよびアビシユル 29 アビシユルの妻の名はアビハイルといふ彼アバンおよびモリデを生り 30 ナダブの子等はセレデおよびアツパイム、セレデは子なくして死り 31 アツパイムの子はイシ、イシの子はセシヤン、セシヤンの子はアヘライ 32 シヤンマイの兄弟ヤダの子はエテルおよびヨナタン、エテルは子なくして死り 33 ヨナタンの子等はベレテおよびザゲ、エラメルの子孫は斯のごとし 34 セシヤンは男子なくして惟女子ありしのみなるがセシヤンにヤルハと名くるエジプトの僕ありければ 35 セシヤンその女をこの僕ヤルハに與へて妻となさしめたり彼ヤルハによりてアツタイを生り 36 アツタイ、ナタンを生みナタン、ザバデを生み 37 ザバデ、エフラルを生み エフラル、オベデを生み 38 オベデ、エヒウを生み エヒウ、アザリヤを生み 39 アザリヤ、ヘレツを生み ヘレツ、エレアサを生み 40 エレアサ、シスマイを生み 41 シスマイ、シヤルムを生み シヤルム、エカミヤを生み 42 エカミヤ、エリシヤマを生り 42 エラメル兄弟カレブの子等はその長子をメシヤといふ是はジフの父なりジフの子はマレシヤ、マレシヤはヘブロン之父なり 43 ヘブロンの子等はコラ、タツプア、レケム、シマ 44 シマはラハムを生りラハムはヨルカムの父なり 45 シヤンマイの子はマオン、マオンはベテスルの父なり 46 カレブの妾エバでハラン、モザおよびガゼズを産りハランはガゼズを生り 47 エダイの子等はレゲム、ヨタム、ゲシヤン、ベレテ、エバ、シヤフ 48 カレブの妾マアカはシベルおよびテルハナを生み 49 またマデマンナの父シヤフおよびマクベナとギベアの父シウを生り 50 カレブの女子はアクサといふ 50 カレブの子孫は左のごとしエフラタの長子ホルの子はキリアテヤリムの父シヨバル 51 ベテレヘムの父サルマおよびベテカデルの父ハレフ 52 キリアテヤリムの父シヨバルの子等はハロエにメヌコテ人の半 53 またキリアテヤリムの宗族はイテリ族ブヒ族シユマ族ミシラ族是等よりザレア族およびエシタオール族出たり 54 サルマの子孫はベレテヘム、ネトバ族アタロテベテヨアブ、マナハテ族の半およびゾリ族 55 ならびにヤベツに住る諸士の宗族すなはちテラテ族シメアテ族スカテ族是等はケ二人にしてレカブの家の先祖ハマテより出たる者なり

Chapter 3

1 ヘブロンにて生れたるダビデの子等は左のごとし長子はアムノンといひてアズレル人アヒノアムより生れ其次はダニエルといひてカルメル人アビガルより生る 2 その三はアブサロムといひてゲシユルの王タルマイの女アカカの子生る 3 其四はアドニヤといひてハギテの生る子なり 3 その五はシバテヤといひてアビタルより生れ其六はイテレアムといひて妻エグラより生る 4 この六人ヘブロンにてかれに生れたるダビデ彼處にて王たりし事七年と六箇月またエルサレムにて王たりし事三十三年 5 エルサレムにて生れたるその子等は左のごとしシメア、シヨバブ、ナタン、ソロモンこの四人はアンミエルの女パテシユアより生る 6 またイブハル、エリシヤマ、エリベレテ 7 ノガ、ネベグ、ヤビア 8 エリシヤマ、エリアダ、エリベレテの九人 9 はみなダビデの子なり此外にまた妾等の生る子等あり彼らの姉妹にタマルといふ者あり 10 ソロモンの子はレハバムその子はアビヤその子はアサその子はヨシヤバテ 11 その子はヨラムその子はアハジアその子はヨアシ 12 その子はアマジャその子はアザリヤモの子はヨタム 13 その子はアハズその子はヒゼキヤその子はマナセ 14 その子はアモンその子はヨシア 15 ヨシアの子等は長子はヨハナンその次はエホヤキムその三はゼデキヤその四はシヤルム 16 エホヤキムの子等はその子はエコニアその子はゼデキヤ 17 俘虜人エコニアの子等はその子シヤルテル 18 マルキラム、ベダヤ、セナザル、エカミア、ホシヤマ、ネダビヤ 19 ベダヤの子等はゼルバベルおよびシメイ、ゼルバベルの子等はメシユラムおよびハナニヤその姉妹にシロミテといふ者あり 20 またハシユバ、オヘル、ベレキヤ、ハサデヤ、ユサブヘセデの五人あり 21 ハナニヤの子等はベラテヤおよびエサヤまたレバヤの子等アルナンの子等オバデヤの子等シカニヤの子等あり 22 シカニヤの子はシマヤ、シマヤの子等はハツトシ、イガル、バリア、ネアリア、シヤパテの六人 23 ネアリアの子等はエリヨエナイ、ヒゼキヤ、アズリカムの三人 24 エリヨエナイの子等はホダヤ、エリアシブ、ベラヤ、アツクブ、ヨハナン、デラヤ、アナニの七人

Chapter 4

1 ユダの子等はベレツ、ヘツロン、カルミ、ホル、シヨバル 2 シヨバルの子レアヤ、ヤハテを生みヤハテ、アホマイおよびラハデを生り是等はザレア人の宗族なり 3 エタムの父の生る者は左のごとしエズレル、イシマおよびイデバシその姉妹の名はハゼレルボ二といふ 4 ゲドルの父ベヌエル、ホシヤの父エゼル是等はベレテヘムの父エフラタの長子ホルの子等なり 5 テコアの父アシユルは二人の妻を有り即ちヘラとナアラ 6

ナアラ、アシユルによりてアホザム、ヘベル、テメニおよびアハシタリを産り是等はナアラの産る子なり 7ヘラの産る子はゼレテ、エゾアル、エテナン 8ハツコツはアヌブおよびゾバを産りハルムの子アハルヘルの宗族も後より出づ 9ヤベツはその兄弟の中にて最も尊ばれたる者なりきその母我くるしみてこれを産たればといひてその名をヤベツ(くるしみ)と名けたり 10ヤベツ、イスラエルの神に籲はり我を祝福に祝福で我境を擴め御手をもて我を助け我をして災難に罹りてくるしむこと無らしめたまへと言ひ神その求むる所を允したまふ 11シユワの兄弟ケルブはメヒルを生りメヒルはエシトンの父なり 12エシトンはベテラバ、バセアおよびイルハナシの父テヒンナを生り是等はレカの人なり 13ケナズの子等はオテニエルおよびセラヤ、オテニエルの子はハタテ 14メオノタイはオフラを生みセラヤはアオブを生りヨアブはカラシム(工匠)谷の人々の父なり彼處のものは工匠なればかくいふ 15エフンネの子カレブの子等はイル、エラおよびナム、エラの子等およびケナズ 16エハレレルの子等はジフ、ジバ、テリア、アサレレ 17エズラの子等はエテル、メレデ、エベル、ヤロン、メレデの妻はミリアム、シャンマイおよびイシバを産り

イシバはエシテモアの父なり 18そのユダヤ人なる妻はゲドルの父エレデとシヨコの父ヘベルとザノアの父エクトエルを産り是等はメレデが娶りたるパロの女ピテヤの生る子なり 19ナハムの姉妹なるホデヤの妻の生める子等はガルミ人ケイラの父およびマアカ人エシテモアなり 20シモンの子等はアムノン、リンナ、ベネハナン、テロン、イシの子等はゾヘテおよびベネゾヘテ 21ユダの子シラの子等はレカの父エル、マレシヤの父ラダおよび織布者の家の宗族すなはちアシベアの家の者等 22ならびにモアブに主たりしヨキム、コゼバの人々ヨアシおよびサラフ等なりまたヤシユブ、レハムといふ者ありその記録は古し 23是等の者は陶工にしてネタイムおよびゲデラに住み王の地に居りてその用をなせり 24シメオンの子等はネムエル、ヤミン、ヤリブ、ゼラ、シャウル 25シャウルの子はシャルムその子はミブサムその子はミシマ 26ミシマの子はハムエルその子はザツクルその子はシメイ 27シメイには男子十六人女子六人ありしがその兄弟等には多の子あらざりきまたその宗族の者は凡てユダの子孫ほどには殖増ざりき 28彼らの住る處はベエルシバ、モラダ、ハザルシユアル 29ビルハ、エゼム、トラデ 30ベトエル、ホルマ、チクラグ 31ベテマルカボテ、ハザルスシム、ベテビリ、シヤライム是等の邑はダビデの世にたるまで彼等の有たりき 32その村郷はエタム、アイン、リンモン、トケン、アシヤンの五の邑なり 33またこの邑々の周圍に衆多の村ありてバアルにまでおよびり彼らの住

處は是のごとくにして彼ら各々系譜あり 34メシヨバブ、ヤムレク、アマジャの子ヨシヤ 35ヨエル、アシエルの曾孫セラヤの孫ヨシビアの子エヒウ 36エリオエナイ、ヤコバ、アシヨハヤ、アサヤ、アデエル、エシミエル、ベナヤ 37およびシビの子ジザ、シビはアロンの子アロンはエダヤの子エダヤはシムリの子シムリはシマヤの子なり 38此に名を擧げたる者等はその宗族の中の長たる者にしてその宗家は共に蔓延り 39彼等はその群のために牧場を求めんとてゲドルの西におもむき谷の東の方にいたり 40つひに膏腴なる善き牧場を見いだせしがその地は廣く靜穩にして安寧なりき其は昔より其處に住たりし者はハム人なればなり 41即ち上にその名を記したる者等ユダの王ヒゼキヤの代に住て彼らの幕屋を撃やぶり彼らと其處に居しメウ二人を盡く滅ぼし之に代りて其處に住て今日にいたる是はその群を牧べき牧場其處にありたればなり 42またシメオンの子孫の者五百人許イシの子等ベラテア、ネアリア、レバヤ、ウジエルを長としてセイル山に攻ゆき 43アマレキ人の逃れて遺れる者を撃ほるばして今日まで其處に住り

Chapter 5

1イスラエルの長子ルベンの子等は左のごとしルベンは長子なりしがその父の床を瀆ししによりてその長子の權はイスラエルの子ヨセフの子等に與へらる然れども系譜は長子の權にしたがひて記すべきに非ず 2そはユダその諸兄弟に勝る者となりて君たる者その中より出ればなり但し長子の權はヨセフに屬す 3即ちイスラエルの長子ルベンの子等はハノク、パル、ヘツロン、カルミ 4ヨエルの子はシマヤ その子はゴグその子はシメイ 5その子はミカその子はレアヤ その子はバアル 6その子はベエラこのベエラはアッスリヤの王テルガテビルネセルに擄へられてゆけり彼はルベン人の中に牧伯たる者なりき 7彼の兄弟等はその宗族に依りその歴代の系譜によれば左のごとし長イエルおよびゼカリヤ 8ベラ等なりベラはアザズの子シマの孫ヨエルの曾孫なりかれアロエルに住みて地をネゴ、パアルメオンにまでおよびししが 9ギレアデの地にてその家畜殖増ければまた地を東の方ユフラテ河の此方なる荒野の極端にまでおよびせり 10またサウルの時にハガリ人と戦争してこれを打破りギレアデの東の全部なる彼らの幕屋に住たり 11ガドの子孫はこれと相對ひてバシヤンの地にすみて地をサルカにまで及ぼせり 12長はヨエル次はシヤバム、ヤアナイ、シヤパテ共にバシヤンに居り 13彼らの兄弟等はその宗家によればミカエル、メシユラム、シバ、ヨライ、ヤカン、ジア、ヘベル都合七人 14是等はホリの子アビハイの子等なりホリはヤロアの子ヤロアはギレアデの

子ギレアデはミカエルの子ミカエはエシサイの子エシサイはヤドの子ヤドはブズの子 15アヒはアブデルの子アブデルはグニの子グニは其宗家の長たり 16彼らはギレアデとバシヤンと其郷里とシヤロンの諸郊地に住て地を其四方の境に及ぼせり 17是等はみなユダの王ヨタムの世とイスラエルの王ヤラベアムの世に系譜に載たるなり 18ルベンの子孫とガド人とマナセの半支派には出て戦ふべき者四萬四千七百六十人あり皆勇士にして能く楯と矛とを執り善く弓を彎きかつ善戦ふ者なり 19彼等ハガリ人およびエトル、ネフシ、ノダブ等と戦争しけるが 20助力をかうむりて攻撃たればハガリ人および之と偕なりし者等みな彼らの手におちいれり是は彼ら陣中にて神を呼びこれを頼みしによりて神これを聽いたまひしが故なり 21かくて彼らその家畜を奪ひとりしに駱駝五萬羊二十五萬驢馬二千あり人十萬ありき 22またころされて倒れたる者衆しその戦争神に由るがゆゑなり而して彼らはこれが地に代りて住その擧移さるる時におよべり 23マナセの半支派の人々はこの地に住み殖蔓りてつひにバシヤンおよびバアルヘルモン、セニルおよびヘルモン山まで地をおよびせり 24その宗家の長は左のごとし即ちエベル、イシ、エリエル、アズリエル、エレミヤ、ホダヤ、ヤデエル是みなその宗家の長にして名ある大勇士なりき 25彼等その先祖等の神にむかひて罪を犯し曾て彼等の前に神の滅ぼしたまひし國の民等の神を慕ひてこれと姦淫したれば 26イスラエルの神アッスリヤの王ブルの心を振興しまたアッスリヤの王テグラテビルセルの心を振興したまへり彼つひにルベン人とガド人とマナセの半支派とを擧へゆきこれをハウラとハボルとハラとゴザンの河の邊とに移せり彼等は今日まで其處にあり

Chapter 6

1レビの子等はゲルシオン、コハテ、メラリ 2コハテの子等はアムラム、イツハル、ヘブロン、ウジエル 3アムラムの子等はアロン、モーセ、ミリアム、アロンの子等はナダブ、アビウ、エレアザル、イタマル 4 エレアザル、ピネハスを生み 5 ピネハス、アビシユアを生み 6 アビシユア、ブツキを生み 7 ブツキ、ウジを生み 8 ウジ、ゼラヒヤを生み 9 ゼラヒヤ、メラヨテを生み 10 メラヨテ、アマリヤを生み 11 アマリヤ、アヒトブを生み 12 アヒトブ、ザドクを生み 13 ザドク、アヒマアズを生み 14 アヒマアズ、アザリヤを生み 15 アザリヤ、ヨハナンを生み 16 ヨハナン、アザリヤを生り此アザリヤはエルサレムなるソロモンの建たる宮にて祭司の職をなせし者なり 17 アザリヤ、アマリヤを生み 18 アマリヤ、アヒトブを生み 19 アヒトブ、ザドクを生み

13 ザドク、シャルムを生み 14 シヤルム、ヒルキヤを生み 15 ヒルキヤ、アザリヤを生み 16 アザリヤ、セラヤを生み 17 セラヤ、ヨザダクを生む 18 ヨザダクはエホバ、ネバカデネザルの手をもてユダおよびエルサレムの人を擧へうつしたまひし時に擧へられて住り 16レビの子等はゲルシオン、コハテおよびメラリ 17ゲルシヨンの子等の名は左のごとしリブニおよびシメイ 18コハテの子等はアムラム、イツハル、ヘブロン、ウジエル 19メラリの子等はマヘリおよびムシ、レビ人の宗族はその宗家によれば是のごとし 20ゲシヨンの子はリブニその子はヤハテ その子はジンマ 21その子はヨア その子はイドその子はゼラ その子はヤテライ 22コハテの子はアミナダブその子はコラ その子はアシル 23その子はエルカナその子はエビアサフその子はアシル 24その子はタハテその子はウリエル その子はウジヤその子はシャウル 25エルカナの子等はアマサイおよびアヒモテ 26エルカナについてはエルカナの子はゾバイ その子はナハテ 27その子はエリアブその子はエロハムその子はエルカナ 28サムエルの子等は長子はヨエル次はアビヤ 29メラリの子はマヘリその子はリブニ その子はシメイその子はウザ 30その子はシメアその子はガギヤその子はアサヤなり 31契約の櫃を安置せし後ダビデ左の人々を立てエホバの家にて謳歌事を司どらせたり 32彼等は集會の幕屋の住所の前にて謳歌事をおこしなひりしがソロモン、エルサレムにエホバの室を建るにおよびその次序に循ひてその職をとめたり 33立て奉事をなせるものおよびその子等は左のごとしコハテの子等の中へマンは謳歌師長たりヘマンはヨルの子ヨエルはサムエルの子サムエルはエルカナの子エルカナはエロハムの子エロハムはエリエルの子エリエルはトアの子トアはツフの子ツフはエルカナの子エルカナはマハテの子マハテはアマサイの子アマサイはエルカナの子エルカナはヨエルの子ヨエルはアザリヤの子アザリヤはゼパニヤの子ゼパニヤはタハテの子タハテはアシルの子アシルはエビアサフの子エビアサフはコラの子コラはイツハルの子イツハルはコハテの子コハテはレビの子レビはイスラエルの子なり 39ヘマンの兄弟アサフ、ヘマンの右に立りアサフはベレキヤの子ベレキヤはシメアの子シメアはミカエルの子ミカエルはバアセヤの子バアセヤはマルキヤの子

マルキヤはエテニの子
 エテニはゼラの子
 ゼラはアダヤの子 42
 アダヤはエタンの子
 エタンはジンマの子
 ジンマはシメイの子 43
 シメイはヤハテの子
 ヤハテはゲルシヨンの子
 ゲルシヨンはレビの子なり 44 また
 彼らの兄弟なるメラリ人等その左に
 立り 其中のエタンはキシの子なり
 キシはアブデの子
 アブデはマルクの子 45
 マルクはハシヤビヤの子
 ハシヤビヤはアマジャの子
 アマジャはヒルキヤの子 46
 ヒルキヤはアムジの子
 アムジはバニの子
 バニはセメルの子 47
 セメルはマヘリの子
 マヘリはムシの子ムシはメラリの子
 メラリはレビの子なり 48 彼らの兄
 弟なるレビ人等は神の室の幕屋の諸
 の職に任ぜられたり 49 アロンおよび
 その子等は燔祭の壇と香壇の上に
 物を献ぐることを司どりまた至聖所
 の諸の工をなし且イスラエルのため
 に贖をなすことを司どれり凡て神の
 僕モーセの命じたるごとし 50
 アロンの子孫は左のごとし
 アロンの子はエレアザル
 その子はピネハス
 その子はアビシユア 51
 その子はブツキ その子はウジ
 その子はゼラヒヤ 52
 その子はメラヨテその子はアマリヤ
 その子はアヒトブ 53
 その子はザドク
 その子はアヒマアズ 54 アロンの子
 孫の住處は四方の境の内にありその
 間に循ひていはば左の如し先コハ
 テ人の宗族が籤によりて得たるこ
 ろは是なり 55 すなはちユダの地
 の中よりはヘブロンとその周圍の郊地
 を得たり 56 但しその邑の田野と村
 々はエフンネの子カレブに歸せり 5
 7 すなはちアロンの子孫の得たる邑
 は逃遁邑なるヘブロン、リブナとそ
 の郊地ヤツテルおよびエシモアと
 それらの郊地 58 ホロンとその郊地
 デビルとその郊地 59
 アシヤンとその郊地
 ベテシメシとその郊地なり 60 また
 ベニヤミンの支派の中よりはガバと
 その郊地 アレメテとその郊地
 アナトテとその郊地を得たり彼らの
 邑はその宗族の中に都合十三ありき
 61 またコハテの子孫の支派の中此他
 なる者はかの半支派の中即ちマナセ
 の半支派の中より籤によりて十の邑
 を得たり 62 またゲルシヨンの子孫
 の宗族はイツサカル支派アセルの
 支派ナフタリの支派及びバシヤン
 なるマナセの支派の中より十三の邑を
 得たり 63 またメラリの子孫の宗族
 はルベンの支派ガドの支派およびゼ
 ブルンの支派の中より籤によりて十
 二の邑を得たり 64 イスラエルの子
 孫は邑とその郊地とをレビ人に與へ
 たり 65 即ちユダの子孫の支派とシ
 メオンの子孫の支派とベニヤミンの
 子孫の支派の中よりして此に名を擧
 たる是等の邑を籤によりて之に與へ
 たり 66 コハテの子孫の宗族はまた

エフライムの支派の中よりも邑を得
 てその領地となせり 67 即ちその得
 たる逃遁邑はエフライム山のシケム
 とその郊地およびゲゼルとその郊地
 68 ヨクメアムとその郊地
 ベテホロンとその郊地 69
 アヤロンとその郊地
 ガテリンモンとその郊地なり 70 ま
 たマナセの半支派の中よりはアネル
 とその郊地ビレアムとその郊地はみ
 なコハテの子孫の遺れる宗族に歸せ
 り 71 ゲルシヨンの子孫に歸せし者
 はマナセの半支派の宗族の中よりは
 バシヤンのゴランとその郊地
 アシタロテとその郊地 72 イツサカ
 ルの支派の中よりはゲデシとその郊
 地 ダベラテとその郊地 73
 ラモテとその郊地
 アネムとその郊地 74 アセル支派の
 中よりはミシアルとその郊地
 アブドンとその郊地 75 ホコクとそ
 の郊地レホブとその郊地 76 ナフタ
 リの支派の中よりはガリラヤのゲデ
 シとその郊地 ハンモンとその郊地
 キリアタイムとその郊地 77 比外
 の者すなはちメラリの子孫に歸せし者
 はゼブルンの支派の中よりはリンモ
 ンとその郊地 タボルとその郊地 78
 エリコに對するヨルダンの彼旁すな
 はちヨルダンの東においてルベンの
 支派の中よりは曠野のベゼルとその
 郊地 ヤザとその郊地 79
 ケデモテとその郊地
 メバアテとその郊地 80 ガドの支派
 の中よりはギレアデのラモテとその
 郊地 マハナイムとその郊地 81
 ヘシボンとその郊地
 ヤゼルとその郊地

Chapter 7

1イツサカルの子等はトラ、ブ
 ワ、ヤシユブ、シムロムの四人 2ト
 ラの子等はウジ、レバヤ、エリエル
 、ヤマイ、エブサム、サムエルはみ
 なトラの子にして宗家の長なり其子
 孫の大勇士たる者はダビデの世には
 その數二萬二千六百なりき 3ウジ
 の子はイズラヒヤ、イズラヒヤの子
 等はミカエル、オバデヤ、ヨエル、
 イツシヤの五人はみな長たる者なり
 き 4その宗家によればその子孫の中
 に軍旅の士卒三萬六千人ありき是は
 彼等妻子を衆く有たればなり 5イツ
 サカルの諸の宗族の中なるその兄弟
 等すなはち名簿に記載たる大勇士は
 都合八萬七千人 6ベニヤミンの子等
 はベラ、ベケル、エデアエルの三人
 7ベラの子等はエツボン、ウジ、ウ
 ジエル、エレモテ、イリの五人皆そ
 の宗家の長なりその名簿に記載たる
 大勇士は二萬二千三十四人 8ベケル
 の子等はセミラ、ヨアシ、エリエゼ
 ル、エリオエナイ、オムリ、エレモ
 テ、アビヤ、アナトテ、アラメテは
 みなベケルの子等にして宗家の長な
 り 9その子孫の中名簿に記載たる大
 勇士は二萬二百人なりき 10またエ
 デアエルの子はビルハン、ビルハン
 の子等はエウシ、ベニヤミン、エホ
 デ、ケナアナ、ゼタン、タルシシ、
 アビシヤハル 11 はみなエデアエ
 ルの子にして宗家の長たりきその子孫

の中に能く陣にのぞみて戦ふ大勇士
 一萬七千二百人ありき 12 またイリ
 の子等はシユバムおよびホバム、ま
 たアヘラの子はホシム 13 ナフタリ
 の子等はヤジエル、グニ、エゼル、
 シヤルムはみなビルハの産る子なり
 14 マナセの子等ははその妻の産る者は
 アシリエルその妾なるスリアの女の
 産る者はギレアデの父マキル 15 マ
 キルはホバムとシユバムの妹名はマ
 アカとい者を妻に娶れりその次の者
 はゼロバエデといふゼロバエデには
 女子ありしのみ 16 マキルの妻マ
 カ男子を産てその名をペレシとよべ
 りその弟の名はシヤレシ、シヤレシ
 の子等はウラムおよびラケム 17 ウ
 ラムの子はペダン是等はマナセの子
 マキルの子なるギレアデの子等なり
 18 その妹ハンモレケテはイシホデ、
 アビエゼル、マヘラを産り 19 セミ
 ダの子等はアヒアン、シケム、リキ
 、アニヤム 20
 エフライムの子はシユテラ
 その子はベレデ その子はタハテ
 その子はエラダ その子はタハテ 21
 その子はザバデその子はシユテラエ
 ゼルとエレアデはガテの土人等これ
 を殺せり其は彼ら下りゆきてこれが
 家畜を奪はんとしたればなり 22 そ
 の父エフライムこれがために哀むこ
 と日久しかりければその兄弟等き
 たりてこれを慰さめたり 23 かくて後
 エフライムその妻の所にいりけるに
 胎みて男子を生たればその名をベリ
 ア(災難)と名づけたりその家に災
 難ありたればなり 24 エフライム
 の女子セラは上下のベテホロンおよ
 びウゼンセラを建たり 25
 ベリアの子はレバおよびレセフ
 その子はテラ その子はタハン 26
 その子はラダン その子はアミホデ
 その子はエリシヤマ 27
 その子はヌン その子はヨシユア 28
 エフライムの子孫の産業と住處はベ
 テルとその郷里
 また東の方にてはナアラン
 西の方にてはゲゼルとその郷里
 またシケムとその郷里
 およびアワとその郷里 29 またマナ
 セの子孫の國境に沿てはベテシヤン
 とその郷里 タアナクとその郷里
 メギドンとその郷里
 ドルとその郷里なりイスラエルの子
 ヨセフの子孫は是等の處に住り 30
 アセルの子等はイムナ、イシウ、エ
 スイ、ベリアおよびその姉妹セラ 3
 1 ベリアの子等はヘベルおよびマル
 キエル、マルキエルはビルザヒテの
 父なり 32 ヘベルはヤフレテ、シヨ
 メル、ホタムおよびその姉妹シユ
 ヨを生り 33 ヤフレテの子等はバサク
 、ビムハル、アシワテ、ヤフレテの
 子等は是のごとし 34 シヨメルの子
 等はアヒ、ロガ、ホバおよびアラム
 35 シヨメルの兄弟ヘレムの子等はゾ
 バ、イムナ、シレン、アマル 36 ゾ
 バの子等はスア、ハルネベル、シユ
 アル、ベリ、イムラ 37 ベゼル、ホ
 ド、シヤンマ、シルシヤ、イテラン
 、ベエラ 38 エテルの子等はエフ
 ンネ、ピスパおよびアラ 39 ウラの子
 等はアラ、ハニエルおよびリチア 4
 0 はみなアセルの子孫にして宗家の
 長たり挺出たる大勇士たり將官の長

たりきその名簿に記載たる能く陣に
 のぞみて戦ふ者二萬六千人あり

Chapter 8

1
 ベニヤミンの生る者は長子はベラ
 その次はアシベルその三はアハラ 2
 その四はアハ その五はラバ 3 ベラ
 の子等はアダル、ゲラ、アビウデ 4
 アビシユア、ナアマン、アホア 5
 ゲラ、シフバム、ヒラム 6 エホデの
 子等は左のごとし是等はゲバの民の
 宗家の長なり是はマナハテに移され
 たり 7 すなはちナアマンおよびアヒ
 ヤとともにゲラこれを移せるなりエ
 ホデの子等はすなはちウザとアヒウ
 デ是なり 8 シヤハライムはその妻ホ
 シムとバアラを去し後モアブの國に
 おいてまた子等を擧げたり 9 彼がそ
 の妻ホデシによりて擧げたる子等は
 ヨバブ、チビア、メシヤ、マルカム
 10 ヌウツ、シヤキヤおよびミルマ
 はその子等にして宗家の長なり 11 彼
 またホシムによりてアビトブとエル
 パアルを擧げたり 12 エルパアルの
 子等はエルベ、ミシヤムおよびシヤ
 メル彼はオノとロドとその郷里を建
 たる者なり 13 またベリア、シマあ
 り是等はアヤロンの民の宗家の長た
 る者にしてガテの民を逐はらへり 1
 4 またアヒオ、シヤシヤク、エレモ
 テ 15 ゼバデヤ、アラデ、アデル 16
 ミカエル、イシバ、ヨハ是等はベリ
 アの子等なり 17 ゼバデヤ、メシユ
 ラム、ヘゼキ、ヘベル 18 イシメラ
 イ、エズリア、ヨバブ是等はエルパ
 アルの子等なり 19
 ヤキン、ジクリ、ザベデ 20 エリエ
 ナイ、チルタイ、エリエル 21 アダ
 ヤ、ベラヤ、シムラテ是等はシマの
 子等なり 22
 イシバン、ヘベル、エリエル 23
 アブドン、ジクリ、ハナン 24
 ハナニヤ、エラム、アントテヤ 25
 イベデヤ、ベヌエル是等はシヤシヤ
 タの子等なり 26 シヤムセライ、シ
 ハリア、アタリヤ 27 ヤレシヤ、エ
 リヤ、ジクリ是等はエロハムの子等
 なり 28 是等は歴代の宗家の長に
 して首たるものなり是らはエルサレム
 に住たり 29 ギベオンの祖はギベオ
 ンに住りその妻の名はマアカといふ
 30 その長子はアブドン、次はツル、
 キシ、パアル、ナダブ 31
 ゲドル、アヒオ、ザケル 32 ミク
 ロテはシメアを生り是等も又その兄弟
 等とともにエルサレムに住てこれに
 對ひ居り 33 ネル、キシを生み キシ
 、サウルを生みサウルはヨナタン、
 マルキシユア、アビナダブ、エシバ
 アルを生り 34 ヨナタンの子はメリ
 パアル、メリパアル、ミカを生り 3
 5 ミカの子等はピトン、メレク、ダ
 レア、アハズ 36
 アハズはエホアダを生みエホアダは
 アレメテ、アズマウテおよびジムリ
 を生み ジムリはモザを生み 37
 モザはピネアを生り その子はラバ
 その子はニレアサ
 その子はアゼル 38 アゼールには六人
 の子あり其名は左のごとしアズリカ
 ム、ボケル、イシマエル、シヤリヤ

、オバデヤ、ハナンはみなアゼルの子なり 39 その兄弟エセクの子等の長子はウラムその次はエウンその三はエリベレテ 40 ウラムの子等は大勇士にして善く弓を射る者なりき彼は孫子多くして百五十人もありき是みなベニヤミンの子孫なり

Chapter 9

1 イスラエルの人は皆名簿に記載られたり視よ是は皆イスラエルの列王紀に録さるユダはその罪のためにバビロンに擄へられてゆけり 2 その産業の邑々に最初に住ひし者にイスラエル人祭司等レビ人およびネテ二人等なり 3 またエルサレムにはユダの子孫ベニヤミンの子孫およびエフライムとマナセの子孫等住り 4 即ちユダの子ベレツの子孫の中にてはアミホデの子ウタイ、アミホデはオムリの子オムリはイムリの子イムリはパニの子なり 5 シロ族の中にてはシロの長子アサヤおよびその他の子等 6 ゼラの子孫の中にてはユエルおよびその兄弟六百九十人 7 ベニヤミンの子孫の中にてはハセアヤの子ハダヤの子なるメシユラムの子サル 8 エロハムの子イブニヤ、ミクリの子なるウジの子エラおよびイブニヤの子リウエルの子なるシパテヤの子メシユラム 9 並に彼らの兄弟等その世系によれば合せて九百五十六人はみなその宗家の長たる人々なり 10 また祭司の中にてはエダヤ、ヨアリブ、ヤキン 11 およびヒルキヤの子アザリヤ、ヒルキヤはメシユラムの子メシユラムはザドクの子ザドクはメラヨテの子メラヨテはアヒトブの子なりアザリヤは神の室の宰たり 12 またエロハムの子アダヤ、エロハムはバシユルの子バシユルはマルキヤの子なりまたアデエルの子アマセヤ、アデエルはヤゼラの子 ヤゼラはメシユラムの子メシユラムはメシレモテの子メシレモテはインメルの子なり 13 また彼らの兄弟等是等は宗家の長たる者にして合せて一千七百六十人あり皆神の室の奉事をなす力あるものなり 14 レビ人の中にてはハシユブの子シマヤ、ハシユブはアズリカムの子アズリカムはハシヤビヤの子是はメラリの子孫なり 15 またバクバツカル、ヘレシ、ガラルおよびアサフの子ジクリの子なるミカの子マツタニヤ 16 ならびにエドトンの子ガラルの子なるシマヤの子オバデヤおよびエルカナの子なるアサの子ベレキヤ、エルカナはネトパ人の郷里に住たる者なり 17 門を守る者はシャルム、アツクブ、タルモン、アヒマンおよびその兄弟等にしてシャルムその長たり 18 彼は今日まで東の方なる王の門を守りける是等はレビの子孫の營の門を守る者なり 19 コラの子エビアサフの子なるコレの子シャルムおよびその父の家の兄弟等などのコラ人は幕屋の門々を守る職務を主どれりその先祖等はエホバの營の傍にありてその入口を守れり 20 エレアザルの子ベネハス昔彼らの

主宰たりきエホバ彼とともに在せり 21 メシレミヤの子ゼカリヤは集會の幕屋の門を守る者なりき 22 是みな選ばれて門を守る者にて合せて二百十二人ありき皆その村々の名簿に記載たる者なりしがダビデと先見者サメルこれをもその職に任じたり 23 彼等とその子孫は順番にエホバの室すなはち幕屋の門を司どれり 24 門を守る者は西東北南の四方に居り 25 またその村々に居る兄弟等は七日ごとに迭り來りて彼らを助けたり 26 門を守る者の長たるこの四人のレビ人はその職に在りて神の室の諸の室と府庫とを司どれり 27 彼らは番守をなす身なるに因て神の室の四周に舍れり而して朝ごとにこれを開くことをせり 28 その中に奉事の器皿を司どる者あり是はその數を按べて携へいりそり數を按べて携へいだすべき者なり 29 またその他の器皿すなはち聖所の一切の器皿および麥粉酒油乳香香料を司どる者あり 30 また祭司の徒の中に香料をもて香膏を製る者あり 31 コラ人シャルムの長子なるマツタテヤといふレビ人は鍋にて製るところの物を司どれり 32 またコハテ人の子孫たるその兄弟等の中に供前のパンを司どりて安息日ごとにこれを調ふる者等あり 33 レビ人の宗家の長たる是等の者は謳歌師にして殿の諸の室に居て他の職を爲ざりき其は日夜その職務にかかりをればなり 34 是等はレビ人の歴代の宗家の長にして首長たる者なり是等はエルサレムに住り 35 ギベオンの祖エヒエルはギベオンに住りその妻の名はマアカといふ 36 その長子はアブドン次はツル、キシ、バアル、ネル、ナダブ 37 ゲドル、アヒオ、ゼカリヤ、ミクロテ 38 ミクロテ、シメアムを生り彼等もその兄弟等とともにエルサレムに住てその兄弟等と相對ひ居り 39 ネルはキシを生みキシはサウルを生みサウルはヨナタン、マルキシユア、アピナダブおよびエシバアタを生り 40 ヨナタンの子はメリバル、メリバル、ミカを生り 41 ミカの子等はピトン、メレク、タレアおよびアハズ 42 アハズはヤラを生みヤラはアレメテ、アズマウテおよびジムリを生みジムリはモザを生み 43 モザはビネアを生みビネアの子はレバヤその子はエレアサその子はアゼル 44 アゼルは六人の子ありきその名は左のごとしアズリカム、ボケル、イシマエル、シャリヤ、オバデヤ、ハナン是等はアゼルの子なり

Chapter 10

1 茲にペリシテ人イスラエルと戦ひけるがイスラエルの人々はペリシテ人の前より逃げギルボア山に殺されて倒れたり 2 ペリシテ人はサウルとその子等を追撃しかしてペリシテ人サウルの子ヨナタン、アピナダブおよびマルキシユアを殺せり 3 斯その戦鬪烈しうしてサウルにおし迫

り射手の者等つひにサウルに追つきければサウルは射手の者等のために惱めり 4 サウル是におひてその武器を執る者に言けるは汝の劍をぬき其をもて我を刺せ恐らくはこの割禮なき者等きたりて我を辱しめんと然るにその武器を執る者痛くおそれて肯はざりければサウルすなはちその劍をとりてその上に伏たり 5 武器を執る者サウルの死たるを見て己もまた劍の上に伏ており 6 斯サウルとその三人の子等およびその家族みな共に死り 7 谷に居るイスラエルの人々みな彼らの逃るを見またサウルとその子等の死るを見てその邑々を棄て逃げればペリシテ人來りてその中に住り 8 明る日ペリシテ人殺されたる者を剥んとて來りサウルとその子等のギルボア山にたふれをを見 9 すなはちサウルを剥てその首とその鎧甲を取りペリシテの國の四方に人を遣はしてこの事をその偶像と民に告しめ 10 しかしてかれが鎧甲をその神の室に蔽め彼が首をダゴンの宮に釘けたり 11 茲にペリシテ人がサウルになしたる事ごとくヤベシギレアデ中に聞えければ 12 勇士等みな起りサウルの體とその子等の體とを奪ひ取てこれをヤベシに持きたりヤベシの橡樹の下にその骨を葬りて七日のあひだ斷食せり 13 斯サウルはエホバにむかひて犯せし罪のために死たり即ち彼はエホバの言を守らずまた憑鬼者に問ことを爲して 14 エホバに問ことをせざりしなり是をもてエホバかれを殺しその國を移してエツサイの子ダビデに與へたまへり

Chapter 11

1 茲にイスラエルの人みなヘブロンに集まりてダビデの許に詣り言けるは我らは汝の骨肉なり 2 前にサウルが王たりし時にも汝はイスラエルを率ゐて出入する者なりき又なんぢの神エホバ汝にむかひて汝はわが民イスラエルを牧養ふ者となり我民イスラエルの君とならんと言たまへりと 3 斯イスラエルの長老みなヘブロンにきたりて王の許にいたりければダビデ、ヘブロンにてエホバの前に彼らと契約をたてたり彼らすなはちダビデに膏をそそぎてイスラエルの王となしサムエルによりて傳はりしエホバの言のごとくせり 4 かくてダビデはイスラエルの人々を率ゐてエルサレムに往りエルサレムは即ちエブスなりその國の土人エブス人其處に居り 5 是においてエブスの民ダビデに言けるは汝は此に入べからずと然るにダビデはシオンの城を取り是すなはちダビデの邑なり 6 この時ダビデいけるは誰にもあれ第一にエブス人を撃やぶる者を首となし將となさんと斯てゼルヤの子ヨアブ先登して首となれり 7 ダビデその城に住たればこれをダビデの邑と稱へたり 8 ダビデまたその邑の四方すなはちミロ(城塞)より内の四方に建築をなせり邑の中その之餘の處はヨアブこれを修理へり 9 斯てダビデはますます大になりゆけり萬軍のエホバこれとともに在したればなり 10 ダビ

デ有る勇士の重なる者は左のごとし是等はイスラエルの一切の人とともにダビデに力をそへて國を得させ終にこれを王となしてエホバがイスラエルに於て宣ひし言を果せり 11 ダビデの有る勇士の數は是のごとし第一は三十人の長たるハクモ二人の子ヤシヨベアム彼は槍を揮ひて一時に三百人を衝殺せし事あり 12 彼の次はアホア人ドドの子エレアザルにして三勇士の中なり 13 彼ダビデとともにバスタダミムに在けるにペリシテ人其處に集りて戦へり其處に大麥の満たる地一箇所あり時に民ペリシテ人の前より逃たりしが 14 彼その地所の中に踐とどまり之を護りてペリシテ人を殺せり而してエホバ大なる拯救をほどこして之を救ひたまへり 15 三十人の長なる三人の者アドラムの洞穴に下り磐の處に住てダビデに詣りし事あり時にペリシテ人の軍兵はレバイムの谷に陣どれり 16 その時ダビデは皆に居りペリシテ人の鎮臺兵はベテレヘムにありけるが 17 ダビデ慕ひ望みて言けるは誰かベテレヘムの門にある井の水を持來りて我に飲せよかし 18 この三人すなはちペリシテ人の軍兵の中を衝とほりてベテレヘムの門にある井の水を汲取てダビデの許に携へきたれり然どダビデこれを飲こととせす之をエホバの前に灌ぎて 19 言けるは我神よ我決てこれを爲じ我いかで命をかけし此三人の血を飲べけんやと彼らその命をかけて之を携へきたればなり故にダビデこれらを飲ことを爲ざりき此三勇士は是らの事を爲り 20 ヨアブの兄弟アビシヤイは三人の長たり彼は槍を揮ひて三百人を衝ころし三人の中に名を得たり 21 彼は第二の三人の中にて尤も貴くしてその首にせらる然ど第一の三人には及ばざりき 22 エホヤダの子カブジエルのベナヤは勇氣あり衆多の功績ありし者なり彼はモアブのアリエルの二人の子を撃殺せりまた雪の日に下りゆきて穴の中に獅子一匹を撃殺せし事ありき 23 彼はまた長身五キユト程なるエジプト人を殺せりそのエジプト人は機織の膝のごとき槍を手に執りしに彼は杖をとりて之が許に下りゆきエジプト人の手よりその槍を掬とりてその槍をもて之を殺せり 24 エホヤダの子ベナヤ是等の事を爲し三勇士の中に名を得たり 25 彼は三十人の中に尊かりしかども第一の三人には及ばざりきダビデかれを親兵の長となせり 26 軍兵の中の勇士はヨアブの兄弟アサヘル、ベテレヘムのドドの子エルハナン 27 ハロデ人シャヤム、ペロニ人ヘレツ 28 テコア人イツケシの子イラ、アナトテ人アビエゼル 29 ホシヤ人シベカイ、アホア人イライ 30 ネットパ人マハライ、ネットパ人バナアの子ヘレデ 31 ベニヤミンの子孫のギベアより出たるリバイの子ウタイ、ピラトン人ベナヤ 32 ガアシの谷のホライ、アルパテ人アビエル 33 バハルム人アズマウテ、シャルボ二人エリヤバ 34 ギゾ二人ハセム、ハラリ人シャゲの子ヨナタン 35 ハラリ人サカルの子アヒラム、ウルの子エリバル 36 メケラ人ヘベル、ベ

ロ二人アヒヤ 37 カルメル人ヘツライ、エズバイの子ナアライ 38 ナタンの兄弟ヨエル、ハグリの子ミヅバル 39 アンモ二人ゼレク、ゼルヤの子ヨアブの武器を執る者なるベエロ子ナハライ 40 エテリ人イラ、エテリ人ガレブ 41 ヘテ人ウリヤ、アヘライの子ザバデ 42 レブン人シザの子アデナ是はルベン人の軍長の一人にして従者三十人を率ゐたり 43 マアカの子ハナン、ミテ二人ヨシヤバデ 44 アシテラウジヤ、アロエル人ホタンの子等シヤマとエイエル 45 デジ人シムリの子エデアエルおよびその兄弟ヨハ、46 マハウ人エリエル、エルナムの子等エリバイおよびヨシヤワヤ、モアブ人イテマ 47 エリエル、オベデ、ソメバ人ヤシエル

Chapter 12

1 ダビデがキシの子サウルの故によりて尚チクラグに閉こもり居ける時に彼處にゆきてダビデに就し者は左のごとしその人々は勇士の中にしてダビデを助けて戦ひたる者 2 能く弓を響き右左の手を用いて善く石を投げ弓矢を發つ者なりしが俱にベニヤミン人にしてサウルの宗族たり 3 首はアヒエゼル次はヨアシ是らはギバア人シアマの子等なり又エジエルおよびベレテ是らはアズマウラの子等なり又ベラカおよびアナトテ人アヒウ 4 またギベオン人イシマヤ彼は三十人の中の勇士にして三十人の首なり又エレミヤ、ヤハジエル、ヨハナン、ゲデラ人ヨザバデ 5 エルガイ、エリモテ、ベアリア、シマリア、ハリフ人シバテヤ 6 エルカナ、エシヤ、アザリエル、ヨエゼル、ヤシヨベアム是等はコラ人なり 7 またゲドルのエロハムの子等たるヨエラおよびゼバデヤ 8 ガド人の中より曠野の岩に脱きたりてダビデに歸せし者あり是みな大勇士にして善戦かふ軍人能く楯と戈とをつかふ者にてその面は獅子の面のごとくその捷きことは山にをる鹿のごとくなりき 9 その首はエゼルその二はオバデヤその三はエリアブ 10 その四はミシマナその五はエレミヤ 11 その六はアツタイその六はエリエル 12 その八はヨハナンその九はエルザバデ 13 その十はエレミヤその十一はマクパナイ 14 是等はガドの人々にして軍旅の長たりそ最も小き者は百人に當りその最も大なる者は千人に當れり 15 正月ヨルダンその全岸に溢れたる時に是らの者濟りゆきて谷々に居る者をことごとく東西に打奔らせたり 16 茲にベニヤミンとユダの子孫の中の人々皆に來りてダビデに就きけるに 17 ダビデこれを出むかへ應へて之に言けるは汝ら厚志をもて我を助けんとして來れるならば我心なんぢらと相結ばん然と汝らもし我手に惡きこと有ざるに我を欺きて敵に付さんとせば我らの先祖の神ねがはし之を監みて責たまへと 18 時に聖靈三十人の長アマサイに臨みて彼すなはち言けるはダビデよ我らは汝に屬すアツサイの子よ我らは汝を助けん願

くは平安あれ汝にも平安あれ汝を助くる者にも平安あれ汝の神汝を助けたまふなりと是においてダビデ彼らを接いれて軍旅の長となせり 19 前にダビデ、ペリシテ人とともにサウルと戦はんとて攻きたれる時マナセ人數人ダビデに屬り但しダビデ等は遂にペリシテ人を助けざりき其はペリシテ人の君等あひ謀り彼は我らの首級をもてその主君サウルに歸らんとて彼を去しめたればなり 20 斯てダビデ、チクラグに往る時マナセ人アデナ、ヨザバデ、エデアエル、ミカエル、ヨザバデ、エリウ、チルタイこれに歸せり皆マナセ人の千人の長たる者なりき 21 彼等ダビデを助けて敵軍に當れり彼らは皆大勇士にして軍旅の長となれり 22 當時ダビデに歸して之を助くる者日々に加はりて終に大軍となり神の軍旅のごとくなれり 23 戦争のために身をよるひヘブロンに來りてダビデに就きエホバの言のごとくサウルの國をダビデに歸せしめんとしたる武士の數は左のごとし 24 ユダの子孫にして楯と戈とを執り戦争のために身をよるへる者は六千八百人 25 シメオンの子孫にして善戦かふ大勇士は七千一百人 26 レビの子孫たる者は四千六百人 27 エホヤダ、アロン人を率ゐたり之に屬する者は三千七百人 28 またザドクといふ年若き勇士ありきその宗家の長たる者二十二人ありたり 29 サウルの宗族ベニヤミンの子孫たる者は三千人はベニヤミン人は多くサウルの家に尚も忠義を盡しあれたればなり 30 エフライムの子孫たる者は二萬八千人皆大勇士にしてその宗家の名ある人々たり 31 マナセの半支派の者は一萬八千人皆名を録されたる者なるが來りてダビデを王にたてんとす 32 イツサカルの子孫たる者の中より善く時勢に通じイスラエルの爲べきことを知る者きたれりその首二百人ありその兄弟等は皆これが指揮にしたがへり 33 ゼブルンの者は五萬人皆よく身をよるひ各種の武器をもて善く戦闘をなし一に行伍を守る者なりき 34 ナフタリの者は將たる者千人楯と戈とを執てこれに従ふ者三萬七千人 35 ダン人は二萬八千六百にして皆そなへる者なりき 36 アセルの者は四萬人にして皆よく陣にのぞみ且行伍を守る者なりき 37 またヨルダンの彼旁なるルベン人とガド人とマナセの半支派の者は十二萬人みな各種の武器を執て戦争にいづるに勝る者なりき 38 是等の行伍を守る軍人等眞實の心を懷きてヘブロンに來りダビデをもてイスラエル全國の王となさんとせり其餘のイスラエル人もまた心を一にしてダビデを王となさんとせり 39 彼ら彼處に三日をりてダビデとともに食みかつ飲り其はその兄弟等これがために備をなしたればなり 40 また近處の者よりイツサカル、ゼブルンおよびナフタリの者に至るまでパンと麥粉の食物と乾無花果と乾葡萄と酒と油等を驢馬駱駝牛馬に載きたりかつ牛羊を多く携へたれり是イスラエルみな喜びたればなり

Chapter 13

1 茲にダビデ千人の長百人の長などの諸將とあひ議り 2 而してダビデ、イスラエルの全會衆に言けるは汝らもし之を善とし我らの神エホバこれを允したまはば我ら徧く人を遣してイスラエルの各地に留まれる我らの兄弟ならびにその諸郊地の邑々にをる祭司とレビ人とに至らせ之をして我らの所に集まらしめん 3 而して我らまた我らの神の契約の櫃を我らの所に移さんサウルの世には我ら之に就て詢ことをせざりしなりと 4 會衆みな然すべしと言り其は民みな此事を善と觀たればなり 5 是においてダビデはキリアテヤリムより神の契約の櫃を昇きたらんとてエジプトのジホルよりハマテの入口までのイスラエル人をことごとく召あつめ 6 而してダビデ、イスラエル一切の人とともにバアラといふユダのキリアテヤリムに上り行きケルビムの上に坐したまふエホバ神の名をもて稱らるる契約の櫃を其處より昇のぼらしんとし 7 乃ち神の契約の櫃を新しき車に載てアビナダブの家より牽いだしウザとアヒオその車を御せり 8 ダビデおよびイスラエルの人はみな歌と琴と瑟と鼗鼓と鏡鉞と喇叭などを以て力をきはめ歌をうたひて神の前に踊れり 9 かくてキドンの禾場に至れる時ウザ手を神の契約の櫃に伸してこれを扶へたり其は牛これを振たればなり 10 ウザその手を伸て契約の櫃につけたるによりてエホバこれに向ひて忿怒を發してこれを撃たまひければ其處にて神の前に死り 11 エホバ、ウザを撃たまひしに因てダビデ怒れり其處は今日までベレツウザ(ウザ撃)と稱へらる 12 その日ダビデ神を畏れて言り我なんぞ神の契約の櫃を我所に昇ゆくべけんやと 13 ダビデその契約の櫃を己のところダビデの城邑にうつさず之を轉らしてガテ人オベデエドムの家に昇いらしめたり 14 神の契約の櫃オベデエドムの家にありて其家族とともにおかかること三月なりきエホバ、オベデエドムの家とその一切の所有を祝福たまへり

Chapter 14

1 茲にツロの王ヒラム使者をダビデに遣はし之がために家を建させんとて香柏および木匠と石工をおくれり 2 ダビデはエホバの固く己をたててイスラエルの王となしたまへるを曉れり其はその民イスラエルの故によりてその國振ひ興りたればなり 3 ダビデ、エルサレムにおいてまた妻妾を納たり而してダビデまた男子女子を得たり 4 そのエルサレムにて得たる子等の名は左のごとしシヤマ、シヨバブ、ナタン、ソロモン 5 イブハル、エリシユア、エルバレテ 6 ノガ、ネベグ、ヤビア 7 エリシヤマ、ベエリアダ、エリバレテ 8 茲にダビデの膏そそがれてイスラエル全國の王となれる事ペリシテ人に聞えければペリシテ人みなダビデを獲んとて上れりダビデは聞て之に當らん

とて出たりしが 9 ペリシテ人すでに來りてレバイムの谷を侵したりき 10 時にダビデ神に問て言けるは我ペリシテ人にむかひて攻上るべきや汝彼らを吾手に付し給ふやエホバ、ダビデに言たまひけるは攻上れ我がれらを汝の手に付さんと 11 是において皆パアルベラジムに上りゆきけるがダビデつひに彼處にて彼らを打敗り而してダビデ言り神水の破壊り出ることくに我手をもてわが敵を敗りたまへりとは是をもてその處の名をパアルベラジム(破壊の處)と呼ぶなり 12 彼ら其處にその神々を遣ゆきたればダビデ命じて火をもてこれを焚せたり 13 斯て後ペリシテ人復谷を侵しければ 14 ダビデまた神に問に神これに言たまひけるは彼らを追て上るべからず彼らを離れて回りベカの樹の方よりこれを襲へ 15 汝ベカの樹の上に進行の音あるを聞ば即ち進んで戦ふべし神汝のまへに進みいでペリシテ人の軍勢を撃たまふべければなりと 16 ダビデすなはち神の己に命じたまひし如くしてペリシテ人の軍勢を撃やぶりつつギベオンよりガゼルにまでいたれり 17 是においてダビデの名諸の國々に聞えわたりエホバ諸の國人に彼を懼れしめたまへり

Chapter 15

1 ダビデはダビデの邑の中に自己のために家を建て又神の契約の櫃のために處を備へてこれがために幕屋を張り 2 而してダビデ言けるは神の契約の櫃を昇べき者は只レビ人のみ其はエホバ神の契約の櫃を昇しめまた己に永く事しめんとてレビ人を選びたまひたればなりと 3 ダビデすなはちエホバの契約の櫃をその之がために備へたる處に昇のぼらんとてイスラエルをことごとくエルサレムに召集めたり 4 ダビデまたアロンの子孫とレビ人を集めたり 5 即ちコハテの子孫の中よりはウリエルを長としてその兄弟百二十人 6 メラリの子孫の中よりはアサヤを長としてその兄弟百二十人 7 ゲルシヨンの子孫の中よりはヨエルを長としてその兄弟百三十人 8 エリザパンの子孫の中よりはシマヤを長としてその兄弟二百人 9 ヘブロンの子孫の中よりはエリエルを長としてその兄弟八十人 10 ウジエルの子孫の中よりはアミナダブを長としてその兄弟百二十人 11 ダビデ祭司ザドクとアビヤタルおよびレビ人ウリエル、アサヤ、ヨエル、シマヤ、エリエル、アミナダブを召し 12 これに言けるは汝らはレビ人の宗家の長たり汝らと汝らの兄弟共に身を潔めイスラエルの神エホバの契約の櫃を我が其の爲に備へたる處に昇のぼれよ 13 前には之をかきしもの汝らにあらざりしに縁て我らの神エホバわれらを撃たまへり是は我らそのさだめにしたがひて之に求めざりしが故なりと 14 是において祭司等とレビ人等イスラエルの神エホバの契約の櫃を昇のぼらんと身を潔め 15 レビの子孫たる人々すなはちモーセがエホバの言にしたがひ

て命じたるごとく神の契約の櫃をその貫ける柱によりて肩に負り 16 ダビデまたレビ人の長等に告げその兄弟等を選びて謳歌者となし瑟と琴と鑼鈸などの楽器をもちて打はやして歡喜の聲を擧げしめよと言はれ 17 レビ人すなはちヨエルの子ヘマンとその兄弟ベレキヤの子アサフおよびメラリの子孫たる彼らの兄弟クシャヤの子エタンを選べり 18 また之に次るその兄弟等これと偕にあり即ちゼカリヤ、ベン、ヤジエル、セミラモテ、エイエル、ウンニ、エリアブ、ペナヤ、マアセヤ、マツタテヤ、エリベレホ、ミクネヤおよび門を守る者なるオベデエドムとエイエル 19 謳歌者ヘマン、アサフおよびエタンは銅の鑼鈸をもて打はやす者としたり 20 ゼカリヤ、アジエル、セミラモテ、エイエル、ウンニ、エリアブ、マアセヤ、ペナヤは瑟をもて細き音を出し 21 マツタテヤ、エリベレテ、ミクネヤ、オベデエドム、エイエル、アザジヤは琴をもて太き音を出して拍子をとれり 22 ケナニヤはレビ人の長にして負事に通じをるによりて負事者を指揮せり 23 またベレキヤとエルカナは契約の櫃の門を守り 24 祭司シバナヤ、ヨシヤパテ、ネタネル、アマザイ、ゼカリヤ、ペナヤ、エリエゼル等は神の契約の櫃の前に進みて喇叭を吹きオベデエドムとアヒアは契約の櫃の門を守れり 25 スダビデとイスラエルの長老および千人の長等は往てオベデエドムの家よりエホバの契約の櫃を歡び勇みて昇のぼれり 26 神エホバの契約の櫃を昇ところのレビ人を助けたまひければ牡牛七匹牡羊七匹を献げたり 27 ダビデは細布の衣をまとへり又契約の櫃を昇ところの一切のレビ人と謳歌者および負事者を主どれるケナニヤも然りダビデはまた白布のエポデを着居たり 28 斯てイスラエルみな聲を擧げ角を吹ならし喇叭と鑼鈸と瑟と琴とをもて打はやしてエホバの契約の櫃を昇のぼれり 29 エホバの契約の櫃ダビデの邑にいりし時サウルの女ミカル慮り窺ひてダビデ王の舞躍るを見その心にこれを藐視めり

Chapter 16

1人々神の契約の櫃を昇りて之をダビデがその爲に張たる幕屋の中に置置而して燔祭と酬恩祭を神の前に献げたり 2 ダビデ燔祭と酬恩祭を献ぐることを終しかばエホバの名をもて民を祝し 3 イスラエルの衆庶に男にも女にも都てパン一箇肉一片乾葡萄一塊を分ち與へたり 4 ダビデまたレビ人を立てエホバの契約の櫃の前にて職事をなせしめ又イスラエルの神エホバを崇め讃めかつ頌へしめたり 5 伶長はアサフその次はゼカリヤ、エイエル、セミラモテ、エヒエル、マツタテヤ、エリアブ、ペナヤ、オベデエドム、エイエルこれは瑟と琴とを弾じアサフは鑼鈸を打鳴し 6 また祭司ペナヤとヤハジエルは喇叭をとりにて恒に神の契約の櫃の前に侍れり 7 當日ダビデ始めてアサフ

とその兄弟等を立てエホバを頌へしめたり其言に云く 8 エホバに感謝しその名をよびその作たまへることをもるもろの民輩の中にしらしめよ 9 エホバにむかひてうたへエホバを讃うたへそのもろもろの奇しき跡をかたれ 10 そのきよき名をほこしエホバをたづぬるもの心はよるこぶべし 11 エホバとその能力とをたづねよ恒にその聖顔をたづねよ 12 その僕イスラエルの裔よ所コダの子輩よそのえらびたまひしものよそのなしたまへる奇しき跡とその異事とその口のさばきとを心にとむれ 14 彼はわれらの神エホバなりそのおほくの審判は全地にあり 15 なんぢらたえずその契約をここに記よ此はよろづ代に命じたまひし聖言なり 16 アブラハムとむすびたまひし契約イサクに與へたまひし誓なり 17 之をかたくしヤコブのために律法となしイスラエルのためにとこしへの契約となして 18 言たまひけるは我なんぢにカナンの地をたまひてなんぢらの嗣業の分となさん 19 この時なんぢらの數おほからず甚くなくしてかしくにて旅人となり 20 この國よりかの國にゆきこの國よりほかの民にゆけり 21 人のかれらを虐ぐるをゆるしたまはずかれらの故によりて王たちを懲しめて 22 宣給くわが受膏者たちにふるるなかれわが預言者たちをそこなふなかれ 23 全地よエホバにむかひて謳へ日ごとにその拯救をのべつたへよ 24 もろもろの國のなかにその榮光をあらはしもるもろの民のなかにその奇しきみわざを顯すべし 25 そはエホバはおほいなり大にほめたたふべきものなりまたもるもろの神にまさりて畏るべきものなり 26 もろもろの民のすべての神はことごとく虚しされどエホバはもるもろの天をつくりたまへり 27 尊貴と稜威とはその前にあり能とよるこびとはその聖所にあり 28 もろもろのたみの諸族よ榮光とちからとをエホバにあたへよエホバにあたへよ 29 その聖名にかなふ榮光をもてエホバにあたへ献物をつづきて其前にきたれきよき美はしき物をもてエホバを拜め 30 全地よその前にをのけ世界もかたくたちて動かさるることなし 31 天はよるこび地のはしむべしもろもろの國のなかにいへエホバは統治たまふ 32 海とそのなかに盈るものとはなりどよみ田畑とその中のすべての物とはよるこぶべし 33 かくて林のもろもろの樹もまたエホバの前によるこぶうたはまふエホバ地をさばかんとて來りたまふ 34 エホバに感謝せよそのめぐみはふかくその憐憫はかぎりなし 35 汝ら言へ我らの拯救の神よ我らを救ひ我らを取り集め列邦のなかより救ひいだしたまへ我らは聖名に謝しなんぢのほむべき事をほこらん 36 イスラエルの神エホバは窮なきより窮なきまでほむべきかなすべての民はアメンとなへてエホバを讃稱へたり 37 ダビデはアサフとその兄弟等をエホバの契約の櫃の前に留めおきて契約の櫃の前に常に侍りて日々を執行なはせたり 38 オベデエドムとその兄弟等は合せて六十八人またエ

ドトンの子なるオベデエドムおよびホサは司門たり 39 祭司ザドクおよびその兄弟たる祭司等はギベオンなる崇邱においてエホバの天幕の前に侍り 40 燔祭の壇の上に朝夕斷ず燔祭をエホバに献げ且エホバがイスラエルに命じたまひし律法に記されたる諸の事を行へり 41 またヘマン、エドトンおよびその餘の選ばれて名を記されたる者等彼らとともにありてエホバの恩寵の世々限なきを讃まつれり 42 即ちヘマンおよびエドトンかれらとともに居て喇叭鑼鈸など神の楽器を操て樂を奏せり又エドトンの子等は門を守れり 43 かくて民みな各々その家にかへれり又ダビデはその家族を祝せんとて還りゆけり

Chapter 17

1ダビデその家に住にいたりてダビデ預言者ナタンに言けるは觀よ我は香柏の家に住む然れどもエホバの契約の櫃は幕の下にありと 2 ナタン、ダビデに言けるは神なんぢとともに在せば凡て汝の心にある所を爲せ 3 その夜神の言ナタンに臨みて曰く 4 往てわが僕ダビデに言へエホバかく言ふ汝は我ために我の住べき家を建べからず 5 我はイスラエルを導びき上りし日より今日にいたるまで家に住しこと無し但幕屋より幕屋に移り天幕より天幕に遷れり 6 我イスラエルの人々と共に歩みたる處々にて我わが民を牧養ふことを命じたるイスラエルの士師の一人にもなんぢ何故に香柏の家を我ために建ざるやと一言にても言し事ありや 7 然ば汝わが僕ダビデに斯言べし萬軍のエホバかく言ふ我なんぢを牧場より取り羊に隨がふ處より取て我民イスラエルの君長と爲し 8 汝が凡て往る處にて汝と偕にあり汝の諸の敵を汝の前より斷されり我また世の中の大なる人の名のごとき名を汝に得させん 9 かつ我わが民イスラエルのために處を定めて彼らを植つけ彼らをして自己の處に住て重て動くこと無らしめん 10 又惡人昔のごとく即ち我民イスラエルの上に士師を立てる時より已來のごとく重ねて彼らを荒すこと無るべし我汝の諸の敵を屈服ん且今我汝に告ぐエホバまた汝のために家を建ん 11 汝の日の満汝ゆきて先祖等と偕になる時は我汝の生る汝の子を汝の後に立て且その國を堅うせん 12 彼わが爲に家を建ん我ながく彼の位を堅うせん 13 我は彼の父となり彼はわが子となるべし我は汝の先にありし者より取たるごとくに彼よりは我恩恵を取さるじ 14 却て我かれを永く我家に我國に居置ん彼の位は何時までも堅く立べし 15 ナタン凡て是等の言のごとく凡てこの異象のごとくダビデに語りければ 16 ダビデ王入てエホバの前に坐して言けるはエホバ神よ我は誰わが家は何なれば汝此まで我を導きたまひしや 17 神よ是はなほ汝の目には小き事たりエホバ神よ汝はまた僕の家の遙後の事を語り高き者のごとくに我を見働た

まへり 18 僕の名譽についてはダビデこの上何をか汝に望むべけん汝は僕を知らたまふなり 19 エホバよ汝は僕のため又なんぢの心に循ひて此もろもろの大なる事を爲し此すべの大なる事をたすまへり 20 エホバよ我が凡て耳に聞る所に依ば汝のごとき者は無くまた汝の外に神は無し 21 地の何の國が汝の民イスラエルに如ん是は在昔神の往て贖ひて己の民となして大なる畏るべき事を行なひて名を得たまひし者なり汝はそのエジプトより贖ひいだせし汝の民の前より國々の人を逐はらひたまへり 22 而して汝は汝の民イスラエルを永く汝の民となしたまふエホバよ汝は彼らの神となりたまへり 23 然ばエホバよ汝が僕とその家につきて宣まひし言を永く堅うして汝の言し如く爲たまへ 24 願くは汝の名の堅く立ち永久に崇められて萬軍のエホバ、イスラエルの神はイスラエルに神たりと曰れんことを願くは僕ダビデの家を汝の前に堅く立んことを 25 我神よ汝は僕の耳に示して之が爲に家を建んと宣へり是によりて僕なんぢの前に祈る道を得たり 26 エホバよ汝は即ち神にましまし此恩典を僕に傳たまへり 27 願くは今僕の家を祝福て汝の前に永く在しめたまへ其はエホバよ汝の祝福たまへる者は永く祝福を蒙ればなり

Chapter 18

1此後ダビデ、ペリシテ人を撃てこれを服し又ペリシテ人の手よりガテとその郷里を取り 2 彼またモアタを撃ければモアブ人はダビデの臣となりて貢を納たり 3 ダビデまたハマテの邊にてゾバの王ハダレゼルを撃り是は彼がユフラテ河の邊にてその權勢を振はんとて往る時なり兵 4 而してダビデ彼より車千輛騎兵七千歩兵二萬を取りダビデまた一百の馬を存してその餘の車馬は皆その足の筋を切り 5 その時ダマスコのスリア人ゾバの王ハダレゼルを援けんとて來りければダビデそのスリア人二萬二千を殺せり 6 而してダビデ、ダマスコのスリアに鎮臺を置ぬスリア人は貢を納てダビデの臣となれり エホバ、ダビデを凡てその往く處にて助たまへり 7 ダビデ、ハダレゼルの臣僕等を持金の楯を奪ひて之をエルサレムに持きたり 8 またハダレゼルの邑テハテとクンより甚だ衆多の銅を取きたれりソロモンこれを用て銅の海と柱と銅の器具を造れり 9 時にハマテの王トイ、ダビデがゾバの王ハダレゼルの總の軍勢を撃破りしを聞て 10 その子ハドラムをダビデ王に遣し安否を問ひかつこれを賀せしむ其はハダレゼル曾てトイと戰闘をなしたるにダビデ、ハダレゼルと戰ひて之を撃やぶりたればなり 11 ハドラム金銀および銅の種々の器を携へきたりければ 12 ダビデ王そのエドム、モアブ、アンモンの子孫ペリシテ人アマレクなどの諸の國民の中より取きたりし金銀とともに是等をもエホバに奉納たり 12 ゼルヤの子アビシヤイ鹽谷にてエドム人一萬

八千を殺せり 13 斯てダビデ、エドムに鎮臺を置エドム人は皆ダビデの臣となりぬエホバかくダビデを凡その往處にて助けたまへり 14 ダビデはイスラエルの全地を治めてその諸の民に公平と正義を行へり 15 ゼルヤの子ヨアブは軍旅の長アヒルデの子ヨシヤパテは史官 16 アヒトブの子ザドクとアビヤタルの子アビメレクは祭司シヤウシヤは書記官 17 エホヤダの子ベナヤはケレテ人とペレテ人の長ダビデの子等は王の座側に侍る大臣なりき

Chapter 19

1 此後アンモンの子孫の王ナハシ死ければその子これに代りて王となりたり 2 ダビデ言けるは我ナハシの子ヌンをねんごろに遇はんかれば父われをねんごろにあしらひたればなりとダビデすなはち彼をその父の故によりて慰めんとして使者を遣はせりダビデの臣僕等アンモンの子孫の地に往きハヌンに詣りてこれを慰めけるに 3 アンモンの子孫の牧伯等ハヌンに言けるはダビデ慰籍者を汝につかはしたるに因て彼なんぢの父を尊ぶと汝の目に見ゆるや彼の臣僕等は此國を窺ひ探りて滅ぼさんとて來れるならずやと 4 是においてハヌン、ダビデの臣僕等を執へてその鬚を剃おとしその衣服を中より斷て鬚までにして之を歸したりしが 5 或人きたりて此人々の爲られし事をダビデに告げればダビデ人をつかはして之を迎へしめたりその人々おほいに愧たればなり即ち王いひけるは汝ら鬚の長るまで王に止まりて然る後かへるべしと 6 アンモンの子孫自己のダビデに惡まる様になれるを見しかばハヌンおよびアンモンの子孫すなはち銀一千タラントをおくりてメソポタミヤと騎アママカおよびゾバより戰車と騎兵とを雇ひよれたり 7 即ち戰車三萬二千乘にアマカの王とその兵士を雇ひければ彼ら來りてメデバの前に陣を張り是においてアンモンの子孫その邑々より寄あつまりて戰はんとて來り 8 ダビデ聞てヨアブと勇士の惣軍を遣はけるに 9 アンモンの子孫は出て邑の門の前に戰爭の陣列をなせり又援助に來れる王等は別に野に居り 10 時にヨアブ前後より敵の攻寄るを見てイスラエルの倔強の兵士の中を擡擡て之をしてスリア人むかひて陣列しめ 11 その餘の民をばその兄弟アビシヤイの手に交してアンモンの子孫にむかひて陣列しめ 12 而して言けるはスリア人もし我に手強からは汝我を助けよアンモンの子孫もし汝に手強からば我なんぢを助けん 13 汝勇しくなれよ我儕の民のためと我らの神の諸邑のために我ら勇しく爲ん願くはエホバその目に善と見ゆる所をなしたまへと 14 ヨアブ己に従へる民とともに進みよりてスリア人を攻撃けるにスリア人かれの前より潰奔れり 15 アンモンの子孫はスリア人の潰奔るを見て自己等もまたその兄弟アビシヤイの前より逃奔りて城邑にいりぬ是においてヨアブはエルサ

レムに歸れり 16 スリア人はそのイスラエルに撃やぶられたるを見て使者を遣はして河の彼旁なるスリア人を將み出せりハダレゼルの軍旅の長シヨバクこれを率ゆ 17 その事ダビデに聞えければ彼イスラエルを悉く集めヨルダンを渡りて彼らの所に來り之にむかひて戰爭の陣列を立たりダビデかく彼らにむかひて戰爭の陣列を立たれば彼らこれと戰へり 18 然るにスリア人イスラエルの前に潰たればダビデ、スリアの兵車の人七千歩兵四萬を殺しまた軍旅の長シヨバクを殺せり 19 ハダレゼルの臣たる者等そのイスラエルに撃やぶられたるを見てダビデと和睦をなしてこれが臣となれりスリア人は此後ふたびアンモンの子孫を助くることを爲ざりき

Chapter 20

1 年かへりて王等の戰爭に出る時におよびてヨアブ軍勢を率ゐて出でアンモン人の地を打荒し往てラバを攻圍りされどダビデはエルサレムに止まりたりヨアブつひにラバを撃壞りてこれを滅ぼせり 2 ダビデ彼らの王の冠冕をその首より取はなしたりしがその金の重を量り見るに一タラントありまたその中に寶石を嵌るありき之をダビデの首に冠せたり彼また甚だ衆多の掠取物をその邑より取り 3 而して彼またその中の民を曳いだし鋸と鐵の打車と斧とをもてこれを斬りダビデ、アンモンの子孫の一切の邑に斯く爲り而してダビデとこの後ゲゼルにおいてベリシテ人と戰爭おこりたりしがその時にホシヤ人シベカイ巨人の子孫の一人なるシバイを殺せり彼等つひに攻伏られき 5 復ベリシテ人と戰爭ありしがヤイルの子エルハナン、ガテのゴリアテの兄弟ラミを殺せりラミの槍の柄は機の膝の如くなりき 6 またガテに戰爭ありしが其處に一人の身長き人ありその手の指と足の趾は六宛にして合せて二十四あり彼も巨人の生る者なりき 7 彼イスラエルを挑みしかばダビデの兄弟シメアの子ヨナタンこれを殺せり 8 是等はガテにて巨人の生る者なりしがダビデの手とその臣僕の手に斃れたり

Chapter 21

1 茲にサタン起りてイスラエルに敵しダビデを感動してイスラエルを核數しめんとせり 2 ダビデすなはちヨアブと民の牧伯等に言けるは汝等ゆきてベエルシバよりダンまでのイスラエル人を數へその數をとりきたりて我に知せよ 3 ヨアブ答へけるは幾何あるとも願くはエホバその民を百倍に増たまへ然ながら王わが主よ是はみな我主の僕ならずや然に何とて我主この事を爲んと要たまふや何ぞイスラエルをして之によりて罪を獲せしむべけんやと 4 されど王つひにヨアブに言勝たればヨアブすなはち出ゆきイスラエルを徧く行めぐりてエルサレムに還れり 5 而してヨ

アブ民の總數をダビデに告たり即ちイスラエルの中には劍を帶る者一十萬人ありユダの中には劍を帶る者四十七萬人ありき 6 但しレビとベニヤミンとはその中に數へざりき其はヨアブ王の言を惡みたればなり 7 この事神の目に惡かりければイスラエルを撃なやましたまへり 8 ダビデ是において神に申しけるは我この事をなして大に罪を獲たり然ども今ねがはくは僕の罪を除きたまへ我はなはだ患なる事をなせりと 9 時にエホバ、ダビデの先者ガデにきて言たまひけるは 10 往てダビデに告て言へエホバかく言ふ我なんぢに三のものを示す汝その一を撰べ我それを汝に爲んと 11 ガデすなはちダビデの許に至りに言けるはエホバかく言たまふ汝擇べよ 12 即ち三年の饑饉か又は汝三月の間汝の敵の前に敗れて汝の仇の劍に追しかれんか又は三日の間エホバの劍すなはち疫病この國にありてエホバの使者イスラエルの四方の境の中に撃滅ぼすことをせんか我が如何なる答を我を遣せし者に爲べきかを汝決めよ 13 ダビデ、ガデに言けるは我おほいに苦む請ふ我はエホバの手に陥らん其憐憫甚だおほいなればなり人の手には陥らじと 14 是においてエホバ、イスラエルに疫病を降したまひければイスラエルの人七萬人斃れたり 15 神また使者をエルサレムに遣してこれを滅ぼさんとしたまひしが其これを滅ぼすにあたりてエホバ視てこの禍害をなせしを悔い其ほろぼす使者に言たまひけるは足り今なんぢの手を止めよと時にエホバの使者はエブス人オルナンの打場の傍に立をる 16 ダビデ目をあげて視るにエホバの使者地と天の間に立て拔身の劍を手にとりてエルサレムの方にこれを伸をりければダビデと長老等麻布を衣て俯伏り 17 而してダビデ神に申しけるは民を數へよと命ぜし者は我ならずや罪を犯し惡き事をなしたる者は我なり然れども是等の羊は何をなせしや我神エホバよ請ふ汝の手を我とわが父の家に加へたまへ惟汝の民に加へて之を疚めたまふ勿れと 18 時にエホバの使者ガデに命じ汝ダビデに告てダビデをして上りゆきてエブス人オルナンの打場にてエホバのために一箇の壇を築しめよと云り 19 是においてダビデはガデがエホバの名をもて告たる言にしたがひて上りゆけり 20 オルナンは麥を打ぬけるが回顧て天の使の居るを視その四人の子等とともに匿れたり 21 やがてダビデはオルナンの方に來りけるがオルナン望てダビデを見すなはち打場より出ゆきて面を地につけてダビデを拜せり 22 ダビデ、オルナンに言けるは此打場の處を我に與へよ我そこにてエホバに一箇の壇を築かん汝その十分の値をとて之を我にあたへ災害の民におよぶことを止めしめよ 23 オルナン、ダビデに言けるは請ふ之を取り王わが主の目に善と觀るところを爲たまへ我なんぢに獻げて牛を燔祭の料とし打禾車を柴薪とし麥を素祭とせん我みなこれを奉呈ると 24 ダビデ王オルナンに言けるは然るべからず我かならず十分の値をは

ひて之を買ん我は汝の物を取てエホバに奉まつらじ又貴なしに燔祭を獻ぐることをせじと 25 ダビデすなはち其處のために金六百シケルを衡りてオルナンに與へたり 26 而してダビデ其處にてエホバに一箇の祭壇を築き燔祭と酬恩祭を獻げてエホバを籲けるに天より燔祭の壇の上に火を降して之に應へたまへり 27 エホバすなはちその使者に命じたまひければ彼その劍を鞘に蔽めたり 28 その時ダビデはエホバがエブス人オルナンの打場において己に應へたまふを見れば其處にて犠牲を獻ぐることを爲り 29 モーセが荒野にて造りたるエホバの幕屋と燔祭の壇とは當時ギベオンの崇邱にありけるが 30 ダビデはその前に進みゆきて神に求むることを得ざりき是は彼エホバの使者の劍のために懼れたるに因てなり

Chapter 22

1 ダビデ言けるはエホバ神の室は此なりイスラエルの燔祭の壇は此なりと 2 ダビデすなはち命じてイスラエルの地に居る異邦人を集めしめ又神の室を建るに用ふる石を琢ために石工を設けたり 3 ダビデまた門の扉の釘および鋸に用ふる鐵を夥しく備へたり又銅を數しれぬほどに夥しく備へたり 4 また香柏を備ふることを數しれず是はシドン人およびツロの者夥多しく香柏をダビデの所に運びきたりたればなり 5 ダビデ言けるは我子ソロモンは少くして弱し又エホバのために建る室は極めて高にして萬國に名を得榮を得る者たらざる可らず今我其がために準備をなさんとダビデその死る前に大に之が準備をなせり 6 而して彼その子ソロモンを召てイスラエルの神エホバのために家を建ることを之に命ぜり 7 即ちダビデ、ソロモンに言けるは我子よ我は我神エホバの名のために家を建る志ありき 8 然るにエホバの言われに臨みて言り汝は多くの血を流し大なる戰爭を爲したり汝我前にて多の血を地に流したれば我名の爲に家を建べからず 9 視よ男子汝これに平安を賜ひてその四周の諸の敵に煩はさるること無らしめん故に彼の名はソロモン(平安)といふべし彼の世に我平安と靜謐をイスラエルに賜はん 10 彼わが名のために家を建ん彼はわが子となり我は彼の父とならん我かれの國の祚を固うして永くイスラエルの上に立しめん 11 然ば我子よ願くはエホバ汝とともに在し汝を盛ならしめ汝の神エホバの室を建させたまへんぢにつきて言たる如くしたまはんとことを 12 惟ねがはくはエホバ汝に智慧と穎悟を賜ひ汝をイスラエルの上に立て汝の神エホバの律法を汝に守らせたまはんとことを 13 汝もしエホバがイスラエルにつきてモーセに命じたまひし法度と例規を謹みて行はば汝旺盛になるべし心を強くしかつ勇め懼るる勿れ慄くなかれ 14 視よ我患難の中にてエホバの室のために金十萬タラント銀百萬タラント

を備へまた銅と鐵とを數しれぬほど夥多しく備へたり又材木と石をも備へたり汝また之に加ふべし 15 かつまた工人夥多しく汝の手にあり即ち石や木を琢刻む者および諸の工事を爲すところの工匠など都てあり 16 夫金銀銅鐵は數限りなし汝起て爲せ願くはエホバ汝とともに在せと 17 ダビデまたイスラエルの一切の牧伯等にその子ソロモンを助くることを命じて云く 18 汝らの神エホバなんぢらと偕に在すならずや四方において泰平を汝らに賜へるならずや即ちこの地の民を我手に付したまひてこの地はエホバの前とその民の前に服せり 19 然ば汝ら心をこめ精神をこめて汝らの神エホバを求めよ汝ら起てエホバ神の聖所を建てエホバの名のために建るその室にエホバの契約の櫃と神の聖器を携さへいるべし

Chapter 23

1ダビデ老てその日満ければその子ソロモンをイスラエルの王となせり 2ダビデ、イスラエルの一切の牧伯および祭司とレビ人をあつめたり 3レビ人の三十歳以上なる者を數へたるにその人々の頭數は三萬八千 4 その中二萬四千はエホバの室の事幹を掌どり六千は有司および裁判人たり 5 四千は門を守る者たりまた四千はダビデが造れる讚美の樂器をとりにてエホバを頌ることをせり 6ダビデ、レビの子孫を分ちて班列を立ちり即ちゲルシヨン、コハテおよびメラリ 7ゲルシヨン人たる者はラダンおよびシメイ 8ラダンの子等は長エヒエルにゼタムとヨエル合せて三人 9 シメイの子等はシロミテ、ハジエル、ハランの三人是等はラダンの宗家の長たり 10 シメイの子等はヤハテ、ジナ、エウシ、ベリア この四人はシメイの子なり 11 ヤハテは長シメイはその次エウシ、ベリアは子多からざるが故に之をともに數へて一の宗家となせり 12 コハテの子等はアムラム、イツハル、ヘブロン、ウジエルの四人 13 アムラムの子等はアロンとモーセ、アロンはその子等とともに永く區別れてその身を潔めて至聖者となりエホバの前に香を焚き之に事へ恒にこれが名をもて祝することを爲り 14 神の人モーセの子等はレビの支派の中に數へいれる 15 モーセの子等はゲルシヨンおよびエリエゼル 16 ゲルシヨンの子等は長はシブエル 17 エリエゼルの子等は長はレハビヤ、エリエゼルは此外に男子あらざりき但しレハビヤの子等は甚だ多かりき 18 イツハルの子等は長はシロミテ 19 ヘブロンの子等は長子はエリヤ その次はアマリヤ その三はヤハジエル その四はエカメアム 20 ウジエルの子等は長子はミカ 次はエシヤ 21 メラリの子等はマヘリおよびムシ、マヘリの子等はエレアザルおよびキシ 22 エレアザルは男子なくして死り惟女子ありし而已その女子等はキシの子たるその兄弟等これを娶り 23 ムシの子等はマ

ヘリ、エデル、エレモテの三人 24 レビの子孫をその宗家に循ひて言ば是のごとし是皆かの頭數を數へられその名を録されてエホバの家の役事をなせる二十歳以上の者の宗家の長なり 25 ダビデ言けらくイスラエルの神エホバその民を安んじて永くエルサレムに住たまふ 26 レビ人はまた重ねて幕屋およびその奉事の器具を昇ことあらずと 27 ダビデの最後の詞にしたがひてレビ人は二十歳以上よりして數へられたり 28 彼らの職はアロンの子孫等の手に屬して神の家の役事を爲し庭と諸の室の用を爲し一切の聖物を潔むるなど凡て神の家の役事を勤むるの事なりき 29 また供前のパン素祭の麥粉酵いれぬ菓子鍋にて製る者焼て製る者などを掌どりまた凡て容積と長短を量ることを掌どり 30 また朝ごとに立てエホバを頌へ讃ることを掌どり夕もまた然り 31 又安息日と朔日と節會においてエホバに諸の燔祭を献げ其命ぜられたる所に循ひて數のごとくに斷ずこれをエホバの前にたてまつる事を掌どり 32 是のごとく彼らは集會の幕屋の職守と聖所の職守とアロンの子孫たるその兄弟等の職守とを守りてエホバの家の役事をおこなふ可りしなり

Chapter 24

1アロンの子孫の班列は左のごとしアロンの子等はナダブ、アビウ、エレアザル、イタマル 2ナダブとアビウはその父に先だちて死て子なかりければエレアザルとイタマル祭司となれり 3ダビデ、エレアザルの子孫ザドクおよびイタマルの子孫アヒメレクとともに彼らを分ちて各その職と務に任じたり 4エレアザルの子孫の中にはイタマルの子孫の中より長たる人多かりき是をもてその分かれし班列はエレアザルの子孫たる宗家の長には十六ありイタマルの子孫たる宗家の長には八あり 5 斯彼らは籤によりて分たる彼と此と相等し其は聖所の督者および神の督者はエレアザルの子孫の中よりも出でイタマルの子孫の中よりも出ればなり 6 レビ人ネタルの子シマヤといふ書記王と牧伯等と祭司ザドクとアビヤタルの子アヒメレクと祭司およびレビ人の宗家の長の前にて之を書しるせり即ちエレアザルのために宗家一を取り 7 第一の籤はヨアリアに當り第二はアダヤに當り 8 第三はハリムに當り第四はセオリムに當り 9 第五はマルキヤに當り第六はミヤミンに當り 10 第七はハツコツに當り第八はアピアに當り 11 第九はアシユアに當り第十はシカニヤに當り 12 第十一はエリアシブに當り第十二はヤキンに當り 13 第十三はホツバに當り第十四はエシバブに當り 14 第十五はビルガに當り第十六はインメルに當り 15 第十七はヘジルに當り 16 第十八はハビセツに當り 16 第十九はベタヒヤに當り第二十はエゼキエルに當り 17 第二十一はヤキンに當り第二十一はガムルに當り 18 第二

十三はデラヤに當り第二十四はマアシアに當り 19 是その職務の順序なり彼らは之にしたがひてエホバの家にいり其先祖アロンより傳はりし例規によりて勤むべかりしなり即ちイスラエルの神エホバの彼に命じたまひしごとし 20 その餘のレビの子孫は左の如しアムラムの子等の中にはシユバエル、シユバエルの子等の中にはエデヤ 21 レハビヤについてはレハビヤの子等の中には長子イツシア 22 イツハリ人の中にはシロミテ、シロミテの子等の中にはヤハテ 23 ヘブロンの子等の中には長子エリヤ二子アマリヤ三子ヤハジエル四子エカメアム 24 ウジエルの子等の中にはミカ、ミカの子等の中にはシヤミル 25 ミカの子等をイツシアといふイツシアの子等の中にはゼカリヤ 26 メラリの子等はマヘリおよびムシ、ヤジアの子等はベノ 27 メラリの子孫のヤジアより出たる者はベノ、シヨハム、ザツクル、イブリ 28 マヘリよりエレアザル出たりエレアザルは子等なかりき 29 キシについてはキシの子はエラメル 30 ムシの子等はマヘリ、エデル、エリモテ是等はレビの子孫にしてその宗家にしたがひて言る者なり 31 是らの者もまたダビデ王とザドクとアヒメレクと祭司およびレビ人の宗家の長たる者等の前にてアロンの子孫たるその兄弟等のごとく籤を擧り兄の宗家も弟の宗家も異なること無りき

Chapter 25

1ダビデと軍旅の牧伯等またアサフ、ヘマンおよびエドトンの子等を選びて職に任じ之をして琴と瑟と鏡鈸を執て預言せしむその職によれば伶人の數左のごとし 2アサフの子等はザツクル、ヨセフ、ネタニヤ、アサラフ皆アサフの子等にしてアサフの手に屬すアサフは王の手につきて預言す 3エドトンについてはエドトンの子等はゲダリア、ゼリ、エサヤ、ハシヤビヤ、マツタテヤの六人皆琴を操てその父エドトンの手に屬すエドトンはエホバを讃めかつ頌へて預言す 4ヘマンについてはヘマンの子等たる者はブツキヤ、マツタニヤ、ウジエル、シブエル、エレモテ、ハナニヤ、ハナテ、エリアタ、ゲダルテ、ロムムテエゼル、ヨシベカシヤ、マロテ、ホテル、マハジオテ 5 是みな神の言をつたふる王の先見者ヘマンの子等にして角を擧ぐ神ヘマンに男子十四人女子三人を賜へり 6 是等の者は皆その父の手に屬しエホバの家において歌を謡ひ鏡鈸と瑟と琴をもて神の家の奉事をなせりアサフ、エドトンおよびヘマンは王の手につけり 7 彼等およびエホバに歌を謡ふことを習へるその兄弟等即ち巧なる者の數は二百八十八人 8 彼ら大も小も巧なる者も習ふ者も皆ともにその職務の籤を擧げるが 9 第一の籤はアサフの家のヨセフに當り第二はゲダリアに當り彼もその兄弟等および子等十二人 10 第三はザツクルに當りその子等とその兄弟等十

二人 11 第四はイツリに當れりその子等とその兄弟等十二人 12 第五はネタニヤに當れりその子等とその兄弟等十二人 13 第六はブツキヤに當れりその子等とその兄弟等十二人 14 第七はアサラフに當れりその子等とその兄弟等十二人 15 第八はエサヤに當れりその子等とその兄弟等十二人 16 第九はマツタニヤに當れりその子等とその兄弟等十二人 17 第十はシメイに當れりその子等とその兄弟等十二人 18 第十一はアザリエルに當れりその子等とその兄弟等十二人 19 第十二はハシヤビヤに當れりその子等とその兄弟等十二人 20 第十三はシユバエルに當れりその子等とその兄弟等十二人 21 第十四はマツタテヤに當れりその子等とその兄弟等十二人 22 第十五はエレモテに當れりその子等とその兄弟等十二人 23 第十六はハナニヤに當れりその子等とその兄弟等十二人 24 第十七はヨシベカシヤに當れりその子等とその兄弟等十二人 25 第十八はヘナニに當れりその子等とその兄弟等十二人 26 第十九はマロテに當れりその子等とその兄弟等十二人 27 第二十はエリアタに當れりその子等とその兄弟等十二人 28 第二十一はホテルに當れりその子等とその兄弟等十二人 29 第二十二はゲダルテに當れりその子等とその兄弟等十二人 30 第二十三はマハジオテに當れりその子等とその兄弟等十二人 31 第二十四はロムムテエゼルに當れりその子等とその兄弟等十二人

Chapter 26

1門を守る者の班列は左のごとしコラ人の中にはアサフの子コレの子なるメシレミヤ 2メシレミヤの子等は長子はゼカリヤその次はエデアエルその三はゼバデヤその四はヤテニエル 3その五はエラムその六はヨハンその七はエリヨエナイ 4 またオベデエドムの子等は長子はシマヤその次はヨザバデその三はヨアその四はサルカルその五はネタネル 5 その六はアシミエルその七はイツサルその八はビウレイ是は神かれを祝福たまひしなり 6 また彼の子シマヤにも數人の子生れたりしがその子等は大勇士にしてその父の家の主たる者なりき 7 すなはちシマヤの子等はオテニ、レバエル、オベデ、エルザバデ、エルザバデの兄弟エリウとセマキヤは力ある人なりき 8 是みなオベデエドムの孫子なり彼らとその子等および其兄弟等は合せて六十二人 9 皆力ある者にしてその職に堪ふ是みなオベデエドムに屬する者なり 9 メシレミヤも子等と兄弟等合せて十八人あり皆力ある者なりき 10 メラリの子孫ホサもまた子等ありき其長はシムリ是は長子ならざりしかどもその父これを長となせしなり 11 その次はヒルキヤその三はデバリアその四はゼカリヤ、ホサの子等と兄弟等は合せて十三人 12 門を守るところの班列此長等の中より出でみなその兄弟と等く勤務をなしてエホバの家に仕ふ 13 彼ら門々を分つために

小も大もともにその宗家に循ひて籤を掣たりしが 14 東の方の籤はシレミヤに當れり又その子ゼカリヤのために籤を掣けるに北の方の籤これに當れりゼカリヤは智慧ある議士なりき 15 オベデエドムは南の方の籤に當りその子等は倉の籤に當れり 16 シユバムおよびホサは西の方の籤に當り坂の大路にあるシャレケテの門の傍に居り守者はみな相對ふ 17 東の方にはレビ人六人北の方には日々に四人南の方にも日々に四人倉のかたはらには二人に二人 18 西の方バルバルにおいては大路に四人バルバルに二人 19 門を守る者の班列は是のごとし皆コラの子孫とメラリの子孫なり 20 また神の府庫および聖物の府庫を司どれる彼らの兄弟なるレビ人は左のごとし 21 ラダンの子孫すなはちラダンより出たるゲルシヨン人にしてゲルシヨン人ラダンの宗家の長たる者の中にてはエヒエリ 22 およびエヒエリの子等ならびにその兄弟ゼタムとヨエルははエホバの家の府庫を司どれり 23 アムラミ人イツハリ人ヘブロン人ウジエリ人の中においては左のごとし 24 モーセの子ゲルシヨムの子なるシブエルは府庫の宰たり 25 その兄弟にしてエリエゼルより出たる者は即ちエリエゼルの子レハビヤその子エサヤその子ヨラムその子ジクリその子シロミテ 26 此シロミテとその兄弟等はすべての聖物の府庫を掌どれりその聖物はすなはちダビデ王宗家の長千人の長百人の長軍旅の長等などが奉納たる者なり 27 即ち戦争において獲たる物および掠取物を奉納てエホバの家の修繕に供へたるなり 28 凡て先見者サムエル、キシの子サウル、ネルの子アブネル、ゼルヤの子オムリ等が奉納たる物および其他の奉納物は皆シロミテとその兄弟等の手の下にありき 29 イツハリ人の中にてはケナニヤとその子等イスラエルの外事を理め有司となり裁判人となれり 30 ヘブロン人の中にてはハシヤビヤおよびその兄弟などの勇士一千七百人ありてヨルダンの此旁すなはち西の方にてイスラエルの監督者となりエホバの一切の事を行ひ王の用を爲り 31 ヘブロン人の中にてはその系譜と宗家とに依はエリヤといひ者ヘブロン人の長なりダビデの治世の四十年に彼らを探ね求めギレアデのヤゼルにおいて彼らの中より大勇士を得たり 32 エリヤの兄弟たる勇士は二千七百人にして皆宗家の長たりダビデ王かれらをしてルベン人ガド人およびマナセの半支派を監督しめ神につける事と王につける事とを宰どらせたり

Chapter 27

1 イスラエルの子孫すなはち宗家の長千人の長百人の長およびその有司等は年の愆の月のあひだ月ごとに更りにより更り出で其班列の諸の事をつとめて更に事へたるが其數を按ふるに一班列に二萬四千人ありき 2 先第一の班列すなはち正月の分はザブデの子ヤシヨバムこれを率

ゆ其班列は二萬四千人 3 彼は正月の軍團の長等の首たる者にしてペレツの子孫なり 4 二月の班列はアホア人ドガイその班列の者とともにこれを率ゆミクロテといふ宰あり其班列は二萬四千人 5 三月の軍團を統る第三の將は祭司の長エホヤダの子ベナヤその班列は二萬四千人 6 このベナヤはかの三十人の中の勇士にして三十人の上にたてり彼の子アマザバデその班列にあり 7 四月の分を統る第四の將はヨアブの弟アサヘルにしてその子ゼバデヤこれに次り其班列は二萬四千人 8 五月の分を統る第五の將はイスラヒ人シヤンモテその班列は二萬四千人 9 六月の分を統る第六の將はテコア人イツケシの子イラその班列は二萬四千人 10 七月の分を統る第七の將はエフライムの子孫たるペロ二人ヘレツその班列は二萬四千人 11 八月の分を統る第八の將はゼラの子孫たるホシヤ人シベカイその班列は二萬四千人 12 九月の分を統る第九の將はベニヤミンの子孫たるアナト人アビエゼルその班列は二萬四千人 13 十月の分を統る第十の將はゼラの子孫たるネトパ人マハライその班列は二萬四千人 14 十一月の分を統る第十一の將はエフライムの子孫たるピラト人ベナヤその班列は二萬四千人 15 十二月の分を統る第十二の將はオテニエルの子孫たるネトパ人ヘルダイその班列は二萬四千人 16 イスラエルの支派を治むる者は左のごとしルベン人の牧伯はヂクリの子エリエゼル、シメオンの牧伯はマアカの子シバテヤ 17 レビ人の牧伯はケムエルの子ハシヤビヤ、アロン人の牧伯はザドク 18 ユダの牧伯はダビデの兄弟エリウ、イツサカルの牧伯はミカエルの子オムリ 19 ゼブルンの牧伯はオバダヤの子イシマヤ、ナフタリの牧伯はアズリエルの子エレモテ 20 エフライムの子孫の牧伯はアザジャの子ホセア、マナセの半支派の牧伯はベダヤの子ヨエル 21 ギレアデなるマナセのご半支派の牧伯はゼカリヤの子イド、ベニヤミンの牧伯はアブネルの子ヤシエル 22 ダンの牧伯はエロハムの子アザリエル、イスラエルの支派の牧伯等は是のごとし 23 二十歳以下なる者はダビデこれを數へざりき其はエホバかつてイスラエルを増て天空の星のごとくにせんと言たまひしことあればなり 24 ゼルヤの子ヨアブ數ふることを始めたりしがこれを爲をへざりきそのかぞふることによりて震怒イスラエルにおよべりその數はまたダビデ王の記録の籍に載ざりき 25 アデエルの子アズマウテは王の府庫を掌どりウジヤの子ヨナタンは田野邑々村々城などにある府庫を掌どり 26 ケルブの子エリは地を耕す農業の人を掌どり 27 ラマテ人シメイは葡萄園を掌どりシフミ人ザブデはその葡萄園より取る葡萄酒の蔵を掌どり 28 ゲデラ人パアルハナンは平野なる橄欖樹と桑樹を掌どりヨアシは油の蔵を掌どり 29 シヤロン人シテナイはシヤロンにて牧牛の群を掌どりアデレイの子シヤパテは谷々にある牛の群を掌どり 30 イシマエル人オビルは駱駝を

掌どりメロノテ人エデヤは驢馬を掌どり 31 ハガリ人ヤジズは羊の群を掌どれる者なり 32 またダビデの叔父ヨナタンは議官たり彼は智慧あり學識ある者なり又ハクモニの子アヒエルは王の子等の輔佐たり 33 アヒトベルは王の議官たりアルキ人ホシヤイは王の伴侶たり 34 アヒトベルに次ぐ者はベナヤの子エホヤダおよびアビヤタル王の軍旅の長はヨアブ

Chapter 28

1 茲にダビデ、イスラエルの一切の長支派の長王に事ふる班列の長千人の長百人の長王とその子等の所有及び家畜を掌どる者閭官有力者諸勇士などを盡くエルサレムに召集め 2 而してダビデ王その足にて起て言けるは我兄弟等我民よ我に聽け我はエホバの契約の櫃のため我らの神の足臺のために安居の家を建んと志ありて已にこれを建る準備をなせり 3 然るに神我に言たまへり汝は我名のために家を建べからず汝は軍人にして許多の血を流したればなりと 4 然りと雖もイスラエルの神エホバ我父の全家の中より我を選びて永くイスラエルに王たらしめたまふ即ちユダを選びて長となしユダの全家の中より我父の家を選び我父の子等の中にて我を悦びイスラエルの王となしめたまふ 5 而してエホバ我に衆多の子をたまひて其わが諸の子等の中より我子ソロモンを選び之をエホバの國の位に坐せしめてイスラエルを治めしめんとしたまふ 6 エホバまた我に言たまひけるは汝の子ソロモンはわが家および我庭を作らん我かれを選びて吾子となせり我かれの父となるべし 7 彼もし今日のごとく我誠命と律法を堅く守り行はば我その國を永く堅うせん 8 然ば今エホバの會衆たるイスラエルの全家の目の前および我らの神の聞しめす所にて汝らに勤む汝らその神エホバの一切の誠命を守りかつ之を追もとむべし然せば汝等この美地を保ちてこれを汝らの子孫に永く傳ふることを得ん 9 我子ソロモンよ汝の父の神を知り完全心をもて喜び勇んで之に事へよエホバは一切の心を探り一切の思想を睨りたまふなり汝もし之を求めなば之に遇ん然ど汝もし之を棄なば永く汝を棄たまはん 10 然ば汝謹めよエホバ汝を選びて聖とすべき家を建させんと爲たまへば心を強くしてこれを爲べしと 11 而してダビデは殿の廊およびその家その府庫その上の室その内の室贖罪所の室などの式様をその子ソロモンに授け 12 また其心に思ひはかれる一切の物すなはちエホバの家の庭四周の諸の室神の家の府庫聖物の府庫などの式様を授け 13 また祭司およびレビ人の班列とエホバの家の諸の奉事の工とエホバの家の諸の奉事の器皿とにつきて諭すところあり 14 また諸の奉事に用ふる金の器皿を作る金の重量を定め又諸の奉事の器に用ふる諸の銀の器皿の銀の重量を定む 15 即ち金の燈臺とその金の燈蓋の重量を宣て

一切の燈臺とその燈蓋の重量を定め又銀の燈臺につきても各々の燈臺の用法にしたがひて燈臺とその燈蓋の重量を定め 16 また供前のパンの案につきてはその各の案のために金の重量を定め又銀の案のためにも銀を定め 17 又肉鉤孟杓のために用ふる純金の重量を定め金の大聲につきてもまた各々の大聲のために重量を定め銀の一切の大聲のためにも重量を定め 18 また香壇のために用ふる精金の重量を定めかつ車なるケルビムの式様の金をなす此ケルビムはその翼を展てエホバの契約の櫃を覆ふ 19 而してダビデ言けらく此工事の式様は皆ことごとくエホバのその手を我上にくだして我を教へて書せたまひし者なりと 20 かくてダビデその子ソロモンに言けるは汝心を強くし勇みてこれを爲せ懼る勿れ慄くなかれエホバ神我神汝とともに在さん彼かならず汝を離れず汝を棄ず汝をしてエホバの家の奉事の諸の工を成終しめたまふべし 21 視よ神の家の諸の役事をなすために祭司とレビ人の班列あり又諸の工と従事を悦びて爲ところの諸の技巧者汝とともに在り且また牧伯等および一切の民汝の命するところを悉く行はん

Chapter 29

1 ダビデ王また全會衆に言けるは我子ソロモンは神の惟獨選びたまへる者なるが少くして弱く此工事は大なり此殿は人のために非ずエホバ神のためにする者なればなり 2 是をもて我力を盡して我神の家のために物を備へたり即ち金の物を作る金銀の物の銀 銅の物の銅 鐵の物の鐵 木の物の木を備へたり又葱珩 嵌石 黒石火崗諸の寶石蠟石など夥多し 3 かつまた我わが神の家を悦ぶが故に聖所のために備へたる一切の物の外にまた自己の所有なる金銀をわが神の家に獻ぐ 4 即ちオフルの金三千タラント精銀七千タラントを獻げてその家々の壁を蔽ふに供ふ 5 金は金の物に銀は銀の物に凡て工人の手にて作るものに用ふべし誰か今日自ら進んでエホバのためにその手に物を盈さんと 6 是において宗家の長イスラエルの支派の牧伯等千人の長百人の長および王の工事を掌どる者等誠意より献物をなせり 7 その神の家の奉事のために獻げたるものは金五千タラント一萬ダリク銀一萬タラント銅一萬八千タラント鐵十萬タラント 8 また寶石ある者はゲルシヨン人エヒエルの手に託て之を神の家の府庫に納めたり 9 彼ら斯誠意よりみづから進んでエホバに獻げたりは民その獻ぐるを喜びダビデ王もまた大に喜びぬ 10 茲にダビデ全會衆の前にてエホバを頌へたりダビデの曰く我らの先祖イスラエルの神エホバよ汝は世々限なく頌へまつべきなり 11 エホバよ權勢と能力と榮光と光輝と威光とは汝に屬す凡て天にある者地にある者はみな汝に屬すエホバよ國もまた汝に屬す汝は萬有の首と崇られたまふ 12 富と貴とは共に汝より出づ汝は萬有を主宰たまふ汝の手

には權勢と能力あり汝の手は能く一切をして大たらしめ又強くならしむるなり 13 然ば我儕の神よ我儕今なんぢに感謝し汝の尊き名を讚美す 14 但し我ら斯のごとく自ら進んで獻ぐことを得たるも我は何なんぢやまた我民は何なんぢや萬の物は汝より出づ我らは只汝の手より受て汝に獻げたるなり 15 汝の前にありては我らは先祖等のごとく旅客たり寄寓者たり我らの世にある日は影のごとし望む所ある無し 16 我らの神エホバよ汝の聖名のために汝に家を建んとて我らが備へたる此衆多の物は凡て汝の手より出づ亦皆なんぢの所有なり 17 我神よ我また知る汝は心を鑒みたまひ又正直を悦びたまふ我は正しき心をもて眞實より此一切の物を獻げたり今我また此にある汝の民が眞實より獻物をするを見て喜悅にたへざるなり 18 我らの先祖アブラハム、イサク、イスラエルの神エホバよ汝の民をして此精神を何時までもその心の思念に保たしめその心を固く汝に歸せしめたまへ 19 又わが子ソロモンに完全心を與へ汝の誠命と汝の證言と汝の法度を守らせて之をことごとく行はせ我が備をなせるその殿を建させたまへ 20 ダビデまた全會衆にむかひて汝ら今なんぢらの神エホバを頌へよと言ければ全會衆その先祖等の神エホバを頌へ俯てエホバと王とを拝せり 21 而して其翌日に至りてイスラエルの一切の人のためにエホバに犠牲を獻げエホバに燔祭を獻げたり其牡牛一千牡羊一千羔羊一千またその灌祭と祭物夥多しかりき 22 その日彼ら大に喜びてエホバの前に食ひかつ飲みノさらに改めてダビデの子ソロモンを王となしエホバの前にてこれに膏をそそぎて主君となし又ザドクを祭司となせり 23 かくてソロモンはエホバの位に坐しその父ダビデに代りて王となりその繁榮を極むイスラエルみな之に従がふ 24 また一切の牧伯等勇士等およびダビデ王の諸の子等みなソロモン目に服す 25 エホバ、イスラエルの目の前にてソロモンを甚だ大ならしめ彼より前のイスラエルの王の未だ得たること有ざる王威を之に賜へり 26 夫エツサイの子ダビデはイスラエルの全地を治めたり 27 そのイスラエルを治めし間は四十年なり即ちヘブロンにて七年世を治めエルサレムにて三十三年世を治めたりき 28 遐齡にいたり年も富も尊貴も満足て死り其子ソロモンこれに代りて王となる 29 ダビデ王が始り終まで爲たる事等は先見者サムエルの書預言者ナタンの書および先見者ガドの書に記さる 30 其中にはまた彼の政治とその能力および彼とイスラエルと國々の諸の民に臨みしところの事等を載す

歴代誌

Chapter 1

1 ダビデの子ソロモン堅くその國にたたりその神エホバこれとともに在して之を甚だ大ならしめたまひき 2 茲にソロモン、イスラエルの一切の人々すなはち千人の長百人の長裁判人ならびにイスラエルの全地の諸の牧伯等宗家の長などに告る所あり 3 而してソロモンおよび全會衆ともにギベオンなる崇邱に往りエホバの僕モーセが荒野にて作りたる神の集會の幕屋かしこにあればなり 4 されど神の契約の櫃はダビデすでにキリアテヤリムよりこれが爲に備へたる處に携へ上りダビデ曩にエルサレムにて之が爲に幕屋を張まうけたりき 5 またホルの子ウリの子なるベザレルが作りたる銅の壇彼處においてエホバの幕屋の前にありソロモンおよび會衆これに就きて求め 6 即ちソロモン彼處に上りゆき集會の幕屋の中にあるエホバの前なる銅の壇に就き燔祭一千を其上に獻げたり 7 その夜神ソロモンに顯れてこれに言たまひけるは我なんぢに何を與ふべきか求めよ 8 ソロモン神に申しけるは汝は我父ダビデに大なる恩恵をほどこし又我をして彼に代りて王とならしめたまへり 9 今エホバ神よ願くは我父ダビデに宣ひし事を堅うしたまへ其は汝地の塵のごとき衆多の民の上に我を王となしたまへばなり 10 我が此民の前に出入することを得んために今我に智慧と智識とを與へたまへ斯のごとき大なる汝の民を誰か鞠きえんや 11 神ソロモンに言たまひけるは此事なんぢの心にあり汝は富有をも財寶をも尊貴をも汝を愛む者の生命をも求めずまた壽長からんことをも求めず惟智慧と智識とを己のためにもとめて我が汝を王となしたる我民を鞠かんとすれば 12 智慧と智識は已に汝に授かり我また汝の前の王等の未だ得たること有ざる程の富有と財寶と尊貴とを汝に與へん汝の後の者もまた是のごときを得ざるべし 13 斯てソロモンはギベオンの崇邱を去り集會の幕屋の前を去りてエルサレムに歸りイスラエルを治めたり 14 ソロモン戰車と騎兵とを集めしに戰車一千四百騎騎兵一萬二千人ありきソロモンこれを戰車の邑々に置き又エルサレムにて王の所に置り 15 王銀と金とを石のごとくエルサレムに多からしめまた香柏を平野の桑樹のごとく多からしめたり 16 ソロモンの有る馬は皆エジプトよりひききたれり王の商買一群一群となして之を取りだし群ごとに價金をはらへり 17 エジプトより取りだし携へ上る戰車一輛は銀六百馬一匹は五百十なりき是のごとくヘテ人の諸の王等およびスリアの王等のためにもその手をもて取りだせり

Chapter 2

1 茲にソロモン、エホバの名のために一の家を建てまた己の國のために一の家を建んとし 2 ソロモンすなはち荷を負べき者七萬人山において木や石を斫べき者八萬人是等を監督すべき者三千六百人を數へ出せり 3 ソロモンまづツロの王ヒラムに人

を遣して言しめけるは汝はわが父ダビデにその住むべき家を建る香柏をおくれり請ふ彼になせしごとく亦我にもせよ 4 今我わが神エホバの名のために一の家を建て之を聖別て彼に奉つり彼の前に馨しき香を焚き常に供前のパンを供へ燔祭を朝夕に獻げまた安息日月期ならびに我らの神エホバの節期などに獻げんとす是はイスラエルの永く行ふべき事なればなり 5 我建る家は大なり其は我らの神は諸の神よりも大なればなり 6 然ながら天も諸人の天も彼を容ること能はざれば誰か彼のために家を建ることを得んや我は何人ぞや争か彼のために家を建ることを得ん唯彼の前に香を焚くためのみ 7 然ば請ふ今銀銅鐵の細工および紫赤青の製造に精しく彫刻の術に巧なる工人一箇を我に遣り我父ダビデが備へおきたるユダとエルサレムのわが工人とともに操作しめよ 8 請ふ汝また香柏松木および白檀をレバノンより我におくれ我なんぢの僕等がレバノンにて木を斫ることを善するを知るなり我僕また汝の僕と共に操作べし 9 是のごとくして我ために材木を多く備へしめよ其は我が建んとする家は高大を極むる者なるべければなり 10 我は木を斫る汝の僕に搗麥二萬石大麥二萬石酒二萬バテ油二萬バテを與ふべしと 11 是においてツロの王ヒラム書をソロモンにおくりて之に答へて云ふエホバその民を愛するが故に汝をもて之が王となせりと 12 ヒラムまた言けるは天地の造主なるイスラエルの神エホバは讚べきかな彼はダビデ王に賢き子を與へて之に分別と才智とを賦け之をしてエホバのために家を建てまた己の國のために家を建ることを得せしむ今我わが達人ヒラムといふ才智ある工人一人を汝におくる 14 彼はダンの子孫たる婦の産る者にて其父はツロの人なるが銀銅鐵木石の細工および紫布青布細布赤布の織法に精しく又能く各種の彫刻を爲し奇巧を凝して諸の工をなすなり然ば彼を用ひてなんぢの工人および汝の父わが主ダビデの工人とともに操作しめよ 15 是については我主の宣まへる小麥大麥油および酒をその僕等に遣りたまへ 16 汝の凡て需むるごとく我らレバノンより木を斫いだしこれを筏にくみて海よりヨツバにおくるべければ汝これをエルサレムに運びのぼりたまへと 17 ここにおいてソロモンその父ダビデが核數しごとくイスラエルの國にをる異邦人をことごとく核數みるに合せて十五萬三千六百ありければ 18 その七萬人をもて荷を負ふ者となし八萬人をもて山にて木や石を斫る者となし三千六百をもて民を操作かしむる監督者となせり

Chapter 3

1 ソロモン、エルサレムのモリア山にエホバの家を建ることを始む彼處はその父ダビデにエホバの顯れたまひし所にて即ちエブス人オルナンの打場の中にダビデが備へし處なり 2 之を建ることを始めたはそ

の治世の四年の二月二日なり 3 神の家を建るためにソロモンの置たる基は是のごとし長六十キユビト濶二十キユビト皆古の尺に循がふ 4 家の前の廊は家の濶にしたがひてその長二十キユビトまたその高は百二十キユビトその内は純金をもて蔽ふ 5 またその大殿は松の木をもて張つめ美金をもて之を蔽ひその上に棕櫚と鏈索の形を施こし 6 また寶石をもてその家を美しく飾るその金はパルワイムの金なり 7 彼また金をもてその家の金の重五十シケルまた上の室も金にて覆ふ 10 また至聖所の家の内に刻鏤めたる二のケルビムを造り金をこれに覆ふ 11 そのケルビムの翼は長二十キユビト此ケルブの一の翼は五キユビトにして家の壁に達しその他の翼も五キユビトにして此ケルブの翼と相接はる 13 是等のケルビムの翼はその舒ひろがること二十キユビト共にその足にて立ちその面を家に向く 14 彼また青紫赤の布および細布をもて障蔽の幕を作りケルビムをその上に纏ふ 15 また家の前に柱二本を頂るその高は三十五キユビトその頂の頭は五キユビト 16 また環帯を造り鏈索を之に繞らしてこれを柱の頂に施こし石榴一百をつくりてその鏈索の上に施こす 17 この柱を拝殿の前に立て一本を右に一本を左に置右なる者をヤキンと名け左なる者をボアズと名く

Chapter 4

1 ソロモンまた銅の壇を作れりその長二十キユビト濶二十キユビトその高十キユビト 2 また海を鑄造れり此邊より彼邊まで十キユビトにしてその周圍は圓くその高は五キユビトその周圍には三十キユビトの繩をめぐらすべし 3 その下には牛の像ありてその周圍を繞る即ち一キユビトに十宛ありて海の周圍を繞れり此牛は二行にして海を鑄る時に鑄付たるなり 4 その海は十二の牛の上に立ちその三は北にむかひ三は西にむかひ三は南にむかひ三は東にむかひ海はその上にありて牛の後はみな内にむかふ 5 その厚は手寬その邊は百合花形にして杯の邊の如くに作り是は三千バテを受容る 6 彼また洗盤十箇を作りて五箇を右に五箇を左に置たり是はものを洗ふ所にして燔祭の品をその中にて濯ぐ海は祭司が其身を洗ふ處なり 7 また金の燈臺十をその例規に従ひて作り拝殿の中に五を右に五を左に置き 8 また案十を作りて拝殿の中に五を右に五を左に据ゆ又金の鉢一をを作り 9 彼また祭司の庭と大庭および庭の戸を作り銅をもてその扉を覆ふ 10 海は東のかた右の方に置て南に向はしむ 11 ヒラム

また鍋と火鉢と鉢とを作りし / 斯ヒラムはソロモン王のためにさせる神の家の諸の工事を終たり 12 即ち二の柱と礎とその二の柱の頂の頭およびその柱の頂なる頭の二の礎を包む二の綱工 13 ならずび欄四百の石欄は各々の綱工の上に二行づつありて柱の頂なる頭の二の礎を包む 14 また臺を作り臺の上の洗盤を作り 15 また一の海とその下なる十二の牛 16 および鍋火鉢肉叉などエホバの家の諸の器具を達人ヒラムソロモン王の爲に作りたり是みな磨銅なり 17 王ヨルダンの窪地に於てスコテとゼレダタの間の黏土の地にて是等を鑄させたり 18 是のごとくソロモンはらの諸の器皿を甚だ多く造りたればその銅の重は測られざりき 19 ソロモン神の家の一切の器皿を造れり即ち金の壇供前のパンを載る案 20 また定規のごとく神殿の前にて火をとすべき純金の燈臺およびその燈臺 21 その花その燈臺その燈鉗等は金の純精なる者なり 22 また剪刀鉢匙火盤是等も純金なり又家の内の戸すなはち至聖所の戸および拝殿の戸の肘鈕も金なり

Chapter 5

1 斯ソロモンがエホバの家のために爲る一切の工事ははれり是においてソロモンその父ダビデが奉納たる物なる金銀および諸の器皿を携へいりて神の家の府庫の中に置り 2 茲にソロモン、エホバの契約の櫃をダビデの邑シオンより昇のぼらんとてイスラエルの長老と諸の支派の長等イスラエルの子孫の宗家の長をエルサレムに召集めければ 3 イスラエルの人みな七月の節筵に當りて王の所に集まり 4 イスラエルの長老等みな至りレビ人契約の櫃を執あげ 5 その契約の櫃と集會の幕屋と幕屋にありし諸の聖器を昇のぼれり即ち祭司レビ人これを昇のぼりぬ 6 時にソロモン王および彼の許に集まれるイスラエルの會衆契約の櫃の前にありて羊と牛を献げたりしがその數多かりて書すことも數ふることも能はざりき 7 かくて祭司等エホバの契約の櫃をその處に昇いれたり即ち室の神殿なる至聖所の中のケルビムの翼の下に昇いりぬ 8 ケルビムは翼を契約の櫃の所の上に舒べケルビム上より契約の櫃とその杠を掩ふ 9 杠長かりければ杠の末は神殿の前の契約の櫃より見えたり然れども外には見えざりき其は今日まで彼處にあり 10 契約の櫃の内には二枚の板の外何もあらず是はイスラエルの子孫のエジプトより出たる時エホバが彼らと契約を結びたまへる時にモーセがホレブにて蔵めたる者なり 11 斯て祭司等は聖所より出たり此にありし祭司はみな身を潔めその班列によらずして職務をなせり 12 またレビ人の謳歌者すなはちアサフ、ヘマン、エドトン及び彼らの子等と兄弟等はみな細布を纏ひ鑢鍔と瑟と琴とを操て壇の東に立りまた祭司百二十人彼らとともにありて喇叭を吹り 13 喇叭を吹く

者と謳歌者とは一人のごとくに聲を齊うしてエホバを讃かつ頌へたりしが彼ら喇叭鑢鍔等の樂器をもちて聲をふりたて善かなエホバその矜憫は世々限なしとてエホバを讃ける時に雲その室すなはちエホバの室に充り 14 祭司は雲の故をもて立て奉事をなすことを得ざりきエホバの榮光神の室に充たればなり

Chapter 6

1 是においてソロモン言けるはエホバは濃き雲の中に居んと言たまひしが 2 我汝のために住むべき家永久に居べき所を建たりと 3 而して王その面をふりむけてイスラエルの全會衆を祝せり時にイスラエルの會衆は皆立をれり 4 彼いひけるはイスラエルの神エホバは讃べき哉エホバはその口をもて吾父ダビデに言ひその手をもて之を成とげたまへり 5 即ち言たまひけらく我はわが民をエジプトの地より導き出せし日より我名を置べき家を建しめんためにイスラエルの諸の支派の中より何の邑をも選みしこと無く又何人をも選みて我民イスラエルの君となせしこと無し 6 只我はわが名を置くためにエルサレムを選びまた我民イスラエルを治めしむるためにダビデを選び 7 夫イスラエルの神エホバの名のために家を建ることは我父ダビデの心にありき 8 然るにエホバわが父ダビデに言たまひけるは我名のために家を建ること汝の心にあり汝の心にこの事あるは善し 9 然れども汝はその家を建べからず汝の腰より出る汝の子その人わが名のために家を建べしと 10 而してエホバその言たまひし言をおこなひたまへり即ち我わが父ダビデに代りて立ちエホバの言たまひしごとくイスラエルの位に坐しイスラエルの神エホバの名のために家を建て 11 その中にエホバがイスラエルの子孫に立たまひし契約を容る櫃ををさめたりと 12 ソロモン、イスラエルの全會衆の前にてエホバの壇の前に立てその手を舒ぶ 13 ソロモンさきに長五キュビト潤五キュビト高三キュビトの銅の臺を造りてこれを庭の眞中に据おきたりしが乃ちその上に立ちイスラエルの全會衆の前にて膝をかがめ其手を天に舒て 14 言けるはイスラエルの神エホバ天にも地に母汝のごとき神なし汝は契約を保ちたまひ心を全うして汝の前に歩むところの汝の僕等に恩恵を施こしたまふ 15 汝は汝の僕わが父ダビデにのたまひし所を保ちたまへり汝は口をもて言ひ手をもて成就たまへること今日のごとし 16 イスラエルの神エホバよ然ば汝が僕わが父ダビデに語りて若し汝の子孫その道を慎みて汝がわが前に歩めるごとくに我律法にあゆまばイスラエルの位に坐する人わが前にて汝に缺ること無るべしと言たまひし事をダビデのために保ちたまへ 17 然ばイスラエルの神エホバよ汝が僕ダビデに言たまへるなんぢの言に效驗あらしめたまへ 18 但し神果して地の上に人とともに居たまふや夫天も諸天の天も汝を容る

に足す況て我が建たる此家をや 19 然れども我神エホバよ僕の祈禱と懇願をかへりみて僕が今汝の前に祈るその號呼と祈禱を聴たまへ 20 願くは汝の目を夜晝此家の上即ち汝が其名を置んと言たまへる所の上に開きたまへ願くは僕がこの處にむかひて祈らん祈禱を聴たまへ 21 願くは僕と汝の民イスラエルがこの處にむかひて祈る時にその懇願を聴たまへ請ふ汝の住處なる天より聴き聽て赦したまへ 22 人その隣人にむかひて罪を犯せることありてその人誓をもて誓ふことを要められんに若し來りてこの家において汝の壇の前に誓ひなば 23 汝天より聽て行ひ汝の僕等を鞠き惡き者に返報をなしてその道をその首に歸し義者を義としてその義にしたがひて之を待たたまへ 24 汝の民イスラエルなんぢに罪を犯したるがために敵の前に敗れんに若なんぢに歸りて汝の名を崇め此家にて汝の前に祈り願ひなば 25 汝天より聽て汝の民イスラエルの罪を赦し汝が彼等とその先祖に與へし地に彼等を歸らしめたまへ 26 彼らが汝に罪を犯したるがために天閉て雨なからんに彼ら若この處にむかひて祈り汝の名を崇め汝が彼らを苦しめたまふ時にその罪を離れなば 27 汝天より聽きて汝の僕等なんぢの民イスラエルの罪を赦したまへ汝既にかれらにその歩むべき善道を教へたまへり汝の民に與へて産業となさしめたまひし汝の地に雨を降したまへ 28 若くは國に饑饉あるか若くは疫病枯死朽腐盜賊稲蠶あるか若くは其敵かれらをその國の邑に圍む等如何なる災禍如何なる疾病あるとも 29 もし一人或は汝の民イスラエルみな各々おのれの災禍と憂患を知てこの家にむかひて手を舒なば如何なる祈禱如何なる懇願をなすとも 30 汝の住處なる天より聽て赦し各々の人にその心を知たまふごとくその道々にしたがひて報いたまへ其は汝のみ人々の心を知たまへばなり 31 汝かく彼らをして汝が彼らの先祖に與へたまへる地に居る日の間つねに汝を畏れしめ汝の道に歩ましめたまへ 32 且汝の民イスラエルの者にあらずして汝の大なる名と強き手と伸たる腕とのために遠き國より來れる異邦人においてもまた若來りてこの家にむかひて祈らば 33 汝の住處なる天より聴き凡て異邦人の汝に頼もとむるごとく成たまへ汝かく地の諸の民をして汝の名を知らしめ汝の民イスラエルの爲ごとくに汝を畏れしめ又わが建たる此家は汝の名をもて稱らるといふことを知しめたまへ 34 汝の民その敵と戦はんとて汝の遣はしたまふ道に進める時もし汝が選びたまへるこの邑およびわが汝の名のために建たる家にむかひて汝に祈らば 35 汝天より彼らの祈禱と懇願を聴て彼らを助けたまへ 36 人は罪を犯さざる者なければ彼ら汝に罪を犯すことありて汝かれらを怒り彼らをその敵に付したまひて敵かれらを虜として遠き地または近き地に曳ゆかん時 37 彼らその擄れゆきし地において自ら心に了ることあり其俘擄の地において翻へりて汝に祈り我らは罪を犯し悖

れる事を爲し惡き事を行ひたりと言ひ 38 その擄へゆかれし俘擄の地にて一心一念に汝に立歸り汝がその先祖に與へたまへる地にむかひ汝が選びたまへる邑と我が汝の名のために建たる家にむかひて祈らば 39 汝の住處なる天より彼らの祈禱と懇願を聴て彼らを助け汝の民が汝にむかひて罪を犯したるを赦したまへ 40 然ば我神よ願くは此處にて爲す祈禱に汝の目を開き耳を傾むけたまへ 41 エホバ神よ今汝および汝の力ある契約の櫃起て汝の安居の所にいりたまへエホバ神よ願くは汝の祭司等に拯救の衣を纏はせ汝の聖徒等に恩恵を喜こばせたまへ 42 エホバ神よ汝の膏そそぎし者の面を黜ぞけたまふ勿れ汝の僕ダビデの徳行を記念たまへ

Chapter 7

1 ソロモン祈ることを終し時天より火くだりて燔祭と犠牲とを焚きエホバの榮光その家に充り 2 エホバの榮光エホバの家に充しに因て祭司はエホバの家に入ことを得ざりき 3 イスラエルの子孫は皆火の降れるを見たまへエホバの榮光のその家にのぞめるを見て敷石の上にて地に俯伏て拝しエホバを讃て云り善かなエホバその恩恵は世々限なしと 4 斯て王および民みなエホバの前に犠牲を献ぐ 5 ソロモン王の献げたる犠牲は牛二萬二千羊十二萬斯王と民みな神の家を開けり 6 祭司は立てその職をなしレビ人はエホバの樂器を執て立つ其樂器はダビデ王彼らの手によりて讚美をなすに當り自ら作りてエホバの恩恵は世々限なしと頌へし者なり 7 祭司は彼らの前にありて喇叭を吹きイスラエルの人は皆立をる 7 ソロモンまたエホバの家の前なる庭の中を聖め其處にて燔祭と酬恩祭の脂とを献げたり是はソロモンの造れる銅の壇その燔祭と素祭と脂とを受けるに足ざりしが故なり 8 その時ソロモン七日の間節筵をなしけるがイスラエル全國の人々すなはちハマテの入口よりエジプトの河までの人々あつまりて彼ともにもあり其會は是はなほ大なりき 9 かくて第八日に聖會を開けり彼らは七日のあひだ壇奉納の禮をおこなひまた七日のあひだ節筵を守りけるが 10 七月の二十三日にいたりてソロモン民をその天幕に歸せり皆エホバがダビデ、ソロモンおよびその民イスラエルに施こしたまひし恩恵のために喜こび且心に樂しみて去り 11 ソロモン、エホバの家と王の家とを造了へエホバの家と己の家とにつきて爲んと心に思ひし事を盡く成就たり 12 時にエホバ夜ソロモンに顯れて之に言たまひけるは我すでに汝の祈禱を聴きたまふ此處をわがために選びて犠牲を献ぐる家となす 13 我天を開て雨なからしめ又は盜賊に命じて地の物を食はしめ又は疫病を我民の中におくらん 14 我名をもて稱らるる我民も自ら卑くし祈りてわが面を求めその惡き道を離れなば我天より聽てその罪を赦しその地を醫さん 15 今より我この處の祈禱に目を啓き耳を傾むけん 16 今我

すでに此家を選びかつ聖別む我名は永く此にあるべしまた我目もわが心も恒に此にあるべし 17 汝もし汝の父ダビデの歩みしごとく我前に歩み我が汝に命じたるごとく凡て行ひてわが法度と律例を守らば 18 我は汝の父ダビデに契約してイスラエルを治むる人汝に缺ること無るべしと言しごとく汝の國の祚を堅うすべし 19 然ど汝ら若ひるがへり我が汝らの前に置たる法度と誠命を棄てて他の神々に事へかつ之を拜まば 20 我かれらを我が與へたる地より拔さるべし又我名のために我が聖別たる此家は我これを我前より投棄て萬國の中に諺語となり嘲笑とならしめん 21 且又この家は高くあれども終にはその傍を過る者は皆これに驚きて言んエホバ何故に此地に此家に斯なしたるやと 22 人これに答へて言ん彼ら己の先祖をエジプトの地より導き出ししその神エホバを棄て他の神々に附従がひ之を拜み之に事へしによりてなりエホバ之がためにこの諸の災禍を彼らに降せりと

Chapter 8

1 ソロモン二十年を経てエホバの家と己の家を建をはりけるが 2 ヒラム邑幾何をソロモンに歸しければソロモンまた之を建ほしイスラエルの子孫をしてその中に住しむ 3 ソロモンまたハマテゾバに往て之に勝り 4 彼また曠野のタデモルを建てハマテの諸の府庫邑を建つ 5 また上ベテホロンおよび下ベテホロンを建つは堅固の邑にして石垣あり門あり關木あり 6 ソロモンまたバアラテとおのが有る府庫の邑々と戦車の諸の邑々と騎兵の邑々ならびにそのエルサレム、レバノンおよび己が治むるところの全地に建んと望みし者を盡く建つ 7 凡てイスラエルの子孫にあらざるヘテアマリ人ベリジ人ヒビ人エプス人の遺れる者 8 その地にありて彼らの後に遺れるその子孫即ちイスラエルの子孫の滅ぼし盡さざりし民はソロモンこれを使役して今日にいたる 9 然れどもイスラエルの子孫をばソロモン一人も奴隸となして其工事に使ふことをせざりき彼らは軍人となり軍旅の長となり戦車と騎兵の長となれり 10 ソロモン王の有司の首は二百五十人ありて民を統ぶ 11 ソロモン、パロの女をダビデの邑より携へるばりて曩に彼がために建おきたる家にいたるこそすなはち言り我妻はイスラエルの王ダビデの家に居べからずエホバの契約の櫃のいたる處は皆聖ければなりと 12 茲にソロモン曩に廊の前に築きおきたるエホバの壇の上にエホバに燔祭を獻ぐることをせり 13 即ちモーセの命令にしたがひて毎日例のごとくに之を獻げ安息日月期および年に三次の節會すなはち酵いぬパンの節と七週の節と結茅節とに之を獻ぐ 14 ソロモンその祭司の班列を定めてその職に任じ又レビ人をその勤務に任じて日々例のごとく祭司の前にて頌讚をなし奉事をなさしめ又門を守

る者をしてその班列にしたがひて諸門を守らしむ神の人ダビデの命ぜしところ是の如くなりければなり 15 祭司とレビ人は諸の事につきたる府庫の事につきて王に命ぜられたる所に違ざりき 16 ソロモンはエホバの家の基を置る日までにその工事の準備をことごとく爲しおきて遂に之を成をへたればエホバの家は全備せり 17 茲にソロモン、エドムの地の海邊にあるエジオンゲルおよびエロテに往り 18 時にヒラムその僕等の手に託て船を彼に遣りまた海の事を知る僕等を遣りけるが彼等すなはちソロモンの僕とともにオフルに往て彼處より金四百五十タラントを取てソロモン王の許に携へ來れり

Chapter 9

1 茲にシバの女王ソロモンの風聞を聞および難問をもてソロモンを試みんとて甚だ衆多の部従をしたがへ香物と夥多き金と寶石とを駱駝に負せてエルサレムに來りソロモンの許にいたりてその心にある所をことごとくに陳けるに 2 ソロモンこれが問に盡く答へたりソロモンの知ずして答へざる事は無りき 3 シバの女王ソロモンの智慧とその建たる家を觀 4 またその席の食物とその諸臣の列坐る状とその侍臣の伺候と彼らの衣服およびその酒人とその衣服ならびに彼がエホバの家に上りゆく昇道を觀におよびて全くその氣を奪はれたり 5 是において彼王に言けるは我が自己の國にて汝の行爲と汝の智慧とにつきて聞およびたる言は眞實なりき 6 然るに我は來りて目に觀るまではその言を信ぜざりしが今視ば汝の智慧の大なる事我が聞たるはその半分にも及ばざりき汝は我が聞たる風聞に愈れり 7 汝の人々は幸福なるかな汝の前に常に立て汝の智慧を聽る此なんぢの臣僕等は幸福なるかな 8 汝の神エホバは讃べき哉彼なんぢを悦びてその位に上らせ汝の神エホバの爲に汝を王となしたまへり汝の神イスラエルを愛して永く之を堅うせんとするが故に汝之を王となして公平と正義を行はせたまふなりと 9 すなはち金百二十タラントおよび莫大の香物と寶石とを王に饋れりシバの女王がソロモン王に饋りたるが如き香物は未だ曾て有ざりたり 10 (かのオフルより金を取きたりしヒラムの臣僕とソロモンの臣僕等また白檀木と寶石とをも携さへいたりければ 11 王その白檀木をもてエホバの家と王の宮とに段階を作りまた謳歌者のために琴と瑟とを作り是より前には是のごとき者ユダの地に見しこと無りき) 12 ソロモン王シバの女王に物を饋りてその携へきたる所に報いたるが上にまた之が望にまかせて凡てその求むる者を與へたり斯て彼はその臣僕とともに去てその國に還りぬ 13 一年にソロモンの所に來れる金の重量は六百六十六タラントなり 14 この外にまた商賣および商旅の携へきたる者ありアラビアの一切の王等および國の知事等もまた金銀をソロモンに携へ至れり

15 ソロモン王展金の大桶二百を作れりその大桶一枚には展金六百シケルを用ふ 16 また展金の小千三百を作れり其小千一枚には金三百シケルを用ふ王これらをレバノン森の家に置り 17 王また象牙をもて大なる寶座一を造り純金をもて之を蔽へり 18 その寶座には六の階級あり又金の足臺ありて共にその寶座に連なりその坐する處の此旁彼旁に按手ありて按手の側に二頭の獅子立をり 19 その六の階級に十二の獅子ありて此旁彼旁に立り是のごとき者を作れる國は未だ曾て有ざりしなり 20 ソロモン王の用ゐる飲料の器は皆金なりまたレバノン森の家の器もことごとく精金なり銀はソロモンの世には何とも算ざりしなり 21 其は王の舟ヒラムの僕を乗てタルシシに往き三年毎に一回その舟タルシシより金銀象牙猴および孔雀を載て來りたればたり 22 ソロモン王は天下の諸王に勝りて富有と智慧とをもちたれば 23 天下の諸王みな神がソロモンの心に授けたまへる智慧を聽んとてソロモンの面を見んことを求め 24 各々その禮物を携さへ來る即ち銀の器金の器衣服甲冑香物馬騾など年々定分ありき 25 ソロモン戦車の馬四千厩騎兵一萬二千あり王これを戦車の邑々に置きまたエルサレムにて自己の所に置り 26 彼は河よりペリシテの地とエジプトの界までの諸王を統治めたり 27 王は銀を石のごとくエルサレムに多からしめまた香柏を平野の桑木のごとく多からしめたり 28 また人衆エジプトなどの諸國より馬をソロモンに率いたれり 29 ソロモンのその餘の始終の行爲は預言者ナタンの書とシロ人アヒヤの預言と先見者イドがネバテの子ヤラベアムにつきて述たる黙旨の中に記するにあらざるや 30 ソロモンはエルサレムにて四十年の間イスラエルの全地を治めたり 31 ソロモンその先祖等と俱に寝りてその父ダビデの邑に葬られ其子レハベアムこれに代りて王となれり

Chapter 10

1 爰にレハベアム、シケムに往り其はイスラエルみな彼を王となさんとてシケムに到りたればたり 2 ネバテの子ヤラベアムはさきにソロモン王の面を避てエジプトに逃れ居しがこのことを聞てエジプトより歸れり 3 人衆を遣はして之を招きたるなり斯てヤラベアムとイスラエルの人みな來りてレハベアムに語りて言けるは 4 汝の父我らの軛を苦しき我らに蒙むらせたる重き軛を軽くしたまへ然れば我儕なんぢに事へん 5 レハベアムかれらに言けるは汝ら三日を経て再び我に來れと民すなはち去り 6 是においてレハベアム王その父ソロモンの生る間これが前に立たる老人等に語りて言けるは汝ら如何に教へて此民に答へしむるや 7 彼らレハベアムに語りて言けるは汝もし此民を厚く待ひ之を悦ばせ善言を之に語らば永く汝の僕たらんと 8 然るに彼その老人等の教へし教を棄て

自己とともに生長て己の前に立ところの少年等と計れり 9 即ち彼らに言けるは汝ら如何に教へて我らをして此我に語りて汝の父の我らに蒙むらせし軛を軽くせよと言ふ民に答へしむるやと 10 彼とともに生長たる少年等かれに語りて言けるは汝に語りて汝の父我らの軛を重くしたれば汝これを我らのために軽くせよと言たる此民に汝かく答へ斯これに言べし吾小指は我父の腰より太し 11 我父は汝らに重き軛を負せたりしが我は更に汝らの軛を重くせん我父は軛をもて汝らを懲せしが我は蠟をもて汝らを懲さんと 12 偕またヤラベアムと民等は皆王の告て第三日に再び我にきたれと言しごとく第三日にレハベアムに語りしに 13 王荒々しく彼らに答へたり即ちレハベアム老人の教を棄て 14 少年の教のごとく彼らに告て言けるは我父は汝らの軛を重くしたりしが我は更に之を重くせん我父は軛をもて汝らを懲せしが我は蠟をもて汝らを懲さんと 15 王かく民に聽ことをせざりき此事は神より出たる者にしてその然るはエホバかつてシロ人アヒヤによりてネバテの子ヤラベアムに告たる言を成就んがためなり 16 イスラエルの民みな王の己に聽ざるを見しかば王に答へて言けるは我らダビデの中に何の分あらんやエッサイの子の中には所有なしイスラエルよ汝ら各々その天幕に歸れダビデ族よ今おのれの家を顧みよと斯イスラエルは皆その天幕に歸れり 17 但しユダの邑々に住るイスラエルの子孫の上にはレハベアムなほ王たりき 18 レハベアム王役夫の頭なるアドラムを遣はしけるにイスラエルの子孫をもてこれを撃て死しめたればレハベアム王急ぎてその車に登りてエルサレムに逃かへり 19 是のごとくイスラエルはダビデの家に背きて今日にいたる

Chapter 11

1 茲にレハベアム、エルサレムに至りてユダとベニヤミンの家より倔強の武者十八萬を集め而してレハベアム國を己に歸さんためにイスラエルと戦はんとせしに 2 エホバの言神の人シマヤに臨みて云ふ 3 ソロモンの子ユダの王レハベアムおよびユダとベニヤミンにあるイスラエルの人々に告て言べし 4 エホバかく言ふ汝ら攻上るべからず又なんぢらの兄弟と戦ふべからず各々その家に歸れ此事は我より出たる者なりと彼ら乃ちエホバの言にしたがひヤラベアムに攻ゆくことを止て歸れり 5 斯てレハベアム、エルサレムに居りユダに守衛の邑々を建たり 6 即ちその建たる者はベテレヘム、エタム、テコアアベテズル、シヨコ、アドラム 8 ガテ、マレシヤ、ジフ 9 アドライム、ラキシ、アゼカ 10 ゴラ、アヤロン、ヘブロン等はユダとベニヤミンにありて守衛の邑なり 11 彼その守衛の邑々を堅固にし之に軍長を置き糧食と油と酒とを貯はへ 12 またその一切の邑に盾と矛とを備へて之を甚だ強からしむユダとベニ

ヤミンこれに附り 13 イスラエルの全地の祭司とレビ人は四方の境より来りてレハベアムに投ず 14 即ちレビ人はその郊地と産業とを離れてユダとエルサレムに至れり是はヤラベアムとその子等かれらを廢して祭司の職をエホバの前に爲しめざりし故なり 15 ヤラベアムは崇邱と牡山羊と己が作れる櫃とのために自ら祭司を立つ 16 またイスラエルの一切の支派の中凡てその心を傾むけてイスラエルの神エホバを求むる者はその先祖の神エホバに禮物を獻げんとてレビ人にしたがひてエルサレムに至れり 17 是のごとく彼等ユダの國を固うしソロモンの子レハベアムをして三年の間強からしめたり即ち民は三年の間ダビデとソロモンの道に歩めり 18 レハベアムはダビデの子エモテの女マハラテを妻に娶れりマハラテはエッサイの子エリアブの女アビハイルの産し者なり 19 彼エウシ、シヤマリヤおよびザハムの三子を産む 20 また之が後にアブサロムの女マアカを娶れり彼アビヤ、アツタイ、ジザおよびシロミテを産む 21 レハベアムはアブサロムの女マアカをその一切の妻と妾にまさりて愛せり彼は妻十八人妾六十人を取り男子二十八人女子六十人を擧ぐ 22 レハベアム、マアカの子アビヤを王となさんと思ふが故に之を立て首となしその兄弟の長となせり 23 斯るが故に慧く取行ひ其男子等を盡くユダとベニヤミンの地なる守衛の邑々に散し置き之に糧食を多く與へかつ衆多の妻を求得させたり

Chapter 12

1レハベアムその國を固くしその身を強くするに及びてエホバの律法を棄たりイスラエルみな之に倣ふ 2 彼ら斯エホバにむかひて罪を犯すによりてレハベアムの五年にエジプトの王シヤク、エルサレムに攻のぼれり 3 その戦車は一千二百騎兵は六萬また彼に従がひてエジプトより來れる民ルビ人スキ人エテオピヤ人等は數しれず 4 彼すなはちユダの守衛の邑を取り進てエルサレムに至る 5 是においてレハベアムおよびユダの牧伯等シヤクの故によりてエルサレムに集まり居けるに預言者シマヤこれが許にいたりて之に言けるはエホバか言たまふ汝等は我を棄たれば我も汝らをシヤクの手に遣おけり 6 是をもてイスラエルの牧伯等および王は自ら卑くしてエホバは義と語り 7 エホバかれらが自ら卑くするを見たまひければエホバの言シマヤに臨みて言ふ彼等は自ら卑くしたれば我かれらを滅ぼさず少く拯救を彼らに施こさん我シヤクの手をもて我忿怒をエルサレムに洩さじ 8 然ながら彼等は之が臣とならん是彼らが我に事ふる事と國々の王等に事ふる事との辨をしらん爲なり 9 エジプトの王シヤクすなはちエルサレムに攻のぼりエホバの家の寶物と王の家の寶物とを奪ひて盡くこれを取り又ソロモンの作りたる金の櫃を奪ひされり 10 是をもてレハベア

ム王その代に銅の櫃を作り王の家の門を守る侍衛の長等の手にこれを交し置けるが 11 王エホバの家に入る時には侍衛きたりて之を負ひまた侍衛の房にこれを持かへり 12 レハベアム自ら卑くすればエホバの忿怒かれを離れこれを盡く滅ぼさんと爲たまはず又ユダにも善事ありき 13レハベアム王はエルサレムにありてその力を強くし世を治めたり即ちレハベアムは四十一歳のとき位に即ち十七年の間エルサレムにて世を治む是すなはちエホバがその名を置んとてイスラエルの一切の支派の中より選びたまへる邑なり彼の母はアンモ二人にしてその名をナアマといふ 14レハベアムはエホバを求むる事に心を傾けずして惡き事を行へり 15レハベアムの始終の行爲は預言者シマヤの書および先見者イドの書の中に系圖の形に記さるるに非ずやレハベアムとヤラベアムの間には絶ず戰爭ありき 16レハベアムその先祖等とともに寝りてダビデの邑に葬られ其子アビヤ之にははりて王となれり

Chapter 13

1ヤラベアム王の十八年にアビヤ、ユダの王となり 2エルサレムにて三年の間世を治めたり其母はギバアのウリエルの女にして名をミカヤといふ茲にアビヤとヤラベアムの間に戰爭あり 3アビヤは四十萬の軍勢をもて戰鬥に備ふるはみな倔強の猛き武夫なり又ヤラベアムは倔強の人八十萬をもて之にむかひて戰爭の行伍を立つてはまた大勇士なり 4時にアビヤ、エフライムの山地なるゼマライム山の上に立て言けるはヤラベアムおよびイスラエルの人々皆聽よ 5汝ら知ずやイスラエルの神エホバ鹽の契約をもてイスラエルの國を永くダビデとその子孫に賜へり 6然るにダビデの子ソロモンの臣たるネバテの子ヤラベアム興りてその主君に叛き 7 邪曲なる放蕩者これに集り附き自ら強くしてソロモンの子レハベアムに敵せしがレハベアムは少くまた心弱くして之に當る力なかりき 8今またなんぢらはダビデの子孫の手にあるエホバの國に敵對せんとなす汝らは大軍なり又ヤラベアムが作りて汝らの神と爲たる金の櫃なんぢらと偕にあり 9汝らはアロンの子孫たるエホバの祭司とレビ人とを逐放ち國々の民の爲がごとくに祭司を立てるにあらずや即ち誰にもあれ少き牡牛一匹牡羊七匹を携へきたりて手に充す者は皆かの神ならぬ者の祭司となることを得るなり 10 然ど我儕に於てはエホバ我儕の神にましまして我儕は之を棄すまたエホバに事ふる祭司はアロンの子孫にして役事をなす者はレビ人なり 11 彼ら朝ごと夕ごとにエホバに燔祭を獻げ香を焚くことを爲し又供前のパンを純精の案の上に供へまた金の燈臺とその燈臺を整へて夕ごとに點すなり斯われらは我らの神エホバの職守を守れども汝らは却て彼を棄たり 12 視よ神みづから我らとともに在して我らの大將となりたまふまた其祭司等は喇叭を吹なら

して汝らを攻むイスラエルの子孫よ汝らの先祖の神エホバに敵して戦ふ勿れ汝ら利あらざるべければなりと 13ヤラベアム伏兵を彼らの後に回らせればイスラエルはユダの前にあり伏兵は其後にあり 14 ユダ後を顧みるに敵前後にありければエホバにむかひて號呼り祭司等喇叭を吹り 15 ユダの人々すなはち吶喊を擧げるがユダの人々吶喊を擧るにあたりて神ヤラベアムとイスラエルの人々をアビヤとユダの前に打敗り給ひしかば 16 イスラエルの子孫はユダの前より逃はしれり神かく彼らを之が手に付したまひければ 17 アビヤとその民彼らを夥多く擊殺せりイスラエルの殺されて倒れし者は五十萬人みな倔強の人なりき 18 是時にはイスラエルの子孫打負されユダの子孫勝を得たり是は彼らその先祖の神エホバを頼みしが故なり 19 アビヤすなはちヤラベアムを追撃て邑數箇を彼より取れり即ちベテルとその郷里エシヤナとその郷里エフロンとその郷里是なり 20 ヤラベアムはアビヤの世に再び權勢を奮ふことを得ずエホバに撃れて死り 21 然どアビヤは權勢を得妻十四人を娶り男子二十二人女子十六人を擧げたり 22 アビヤのその餘の作爲とその行爲とその言は預言者イドの註釋に記さる

Chapter 14

1アビヤその先祖等とともに寝りてダビデの邑に葬られその子アサこれに代りて王となれりアサの代になりて其國十年の間平穩なりき 2アサはその神エホバの目に善と視正義と視たまふ事を行へり 3即ち異なる祭壇を取のぞき諸の崇邱を毀ち柱像を打碎きアシラ像を斫倒し 4ユダに命じてその先祖等の神エホバを求めしめその律法と誡命を行はしめ 5ユダの一切の邑より崇邱と日の像とを取除けり而して國は彼の前に平穩なりき 6彼また守衛の邑數箇をユダに建たり是はその國平安を得て此年頃戰爭なかりしに因り即ちエホバ彼に安息を賜ひしなり 7彼すなはちユダに言けるは我儕是等の邑を建てその四周に石垣を築き戌樓を起し門と門とを設けん我儕の神エホバを我儕求めしに因て此國なほ我儕の前にあり我ら彼を求めたれば四方において我らに平安を賜へりと斯彼ら阻滯なく之を建たりて 8アサの軍勢はユダより出たる者三十萬ありて楯と戈とを執りベニヤミンより出たる者二十八萬ありて小楯を執り弓を彎く是みな大勇士なり 9茲にエテオピヤ人ゼラ軍勢百萬人戦車三百輛を率ゐて攻またりマレシヤに至りければ 10アサこれにむかひて進み出で共にマレシヤのゼバタの谷において戰爭の陣列を立つ 11 時にアサその神エホバにむかひて呼はりて言ふエホバよ力ある者を助くるも力なき者を助くるも汝においては異なること無し我らの神エホバよ我らを助けたまへ我らは汝に倚頼み汝の名に託りて往て此群集に敵るエホバよ汝は我らの神にましまして人をして汝に勝せたまふ

勿れと 12 エホバすなはちアサの前とユダの前においてエテオピヤ人を擊敗りたまひしかばエテオピヤ人逃はしりけるに 13 アサと之に従がふ民かれらをゲラルまで追撃り斯エテオピヤ人は倒れて再び振ふことを得ざりき其は彼等エホバとその軍旅に打敗られたればなりユダの人々の得たる掠取物は甚だ多き 14 かれらはまたゲラルの四周の邑々を盡く撃やぶれり是の邑々エホバを畏れたればなり是において彼らその一切の邑より物を掠めたりしがその中より得たる掠取物は夥多かりき 15 また家畜のをる天幕を襲ふて羊と駱駝を多く奪ひ取り而してエルサレムに歸りぬ

Chapter 15

1茲に神の靈オデデの子アザリヤに臨みければ 2彼出ゆきてアサを迎へ之に言けるはアサおよびユダとベニヤミンの人々よ我に聽け汝等がエホバと偕にをる間はエホバも汝らと偕に在すべし汝ら若かれを求めなば彼に遇然どかれを棄なば彼も汝らを棄たまはん 3抑イスラエルには眞の神なく教訓を施こす祭司なく律法なきこと日久かりしが 4患難の時にイスラエルの神エホバに立かへりて之を求めたれば即ちこれに遇り 5 當時は出る者にも入る者にも平安なく惟大なる苦患くにくにの民に臨めり 6國は國に邑は邑に擊碎する其は神諸の患難をもて之を苦しめたまへばなり 7然ば汝ら強かれよ汝らの手を弱くす勿れ汝らの行爲には賞賜あるべければなりと 8アサこれらの言および預言者オデデの預言を聽て力を得憎むべき者をユダとベニヤミンの全地より除きまた其エフライムの山地に得たる邑々より除きエホバの廊の前なるエホバの壇を再興せり 9彼またユダとベニヤミンの人々およびエフライム、マナセ、シメオンより来りて寄寓の者を集めたりイスラエルの人々の中エホバ神のアサと偕に在すを見てアサに降れる者夥多しかりしなり 10 彼等すなはちアサの治世の十五年の三月にエルサレムに集り 11 其たづさへ來れる掠取物の中より牛七百羊七千をその日エホバに獻げ 12 皆契約を結びて曰く心を盡し精神を盡して先祖の神エホバを求めん 13 凡てイスラエルの神エホバを求めざる者は大小男女の區別なく之を殺さんと 14 而して大聲を擧げ號呼をなし喇叭を吹き角を鳴してエホバに誓を立て 15 ユダみなその誓を喜び即ち彼ら一心をもて誓を立て一念にエホバを求めたればエホバこれに遇ひ四方において之に安息をたまへり 16 備またアサ王の母マアカ、アシラ像を作りしこと有ければアサこれを取て太后たらしめずその像を研たふして粉々に碎きキデロン川にてこれを焚り 17 但し崇邱は尚イスラエルより除かざりき然どもアサの心は一生の間全かりしなり 18 彼はまたその父の納めたる物および己が納めたる物すなはち金銀ならびに器皿等をエホバの家に携

へいれり 19 アサの治世の三十五年
までは再び戦争あらざりき

Chapter 16

1アサの治世の三十六年にイスラエルの王バアシア、ユダに攻めりユダの王アサの所に誰をも往來せざらしめんとてラマを建たり 2是においてアサ、エホバの家と王の家との府庫より金銀を取だしダマスコに住るスリアの王ベネハダデに饒りて言けるは 3我父と汝の父の間の如く我と汝の間に約を立ん視よ我今汝に金銀を饒りて往て汝とイスラエルの王バアシアとの約を破り彼をして我を離れて去しめよ 4ベネハダデすなはちアサ王に聴き自己の軍勢の長等をイスラエルの邑々に攻遣ければ彼等イヨフ、ダン、アベルマイムおよびナフタリノ一切の府庫の邑々を撃たり 5バアシア聞てラマを建ることを罷めその工事を廢せり 6是においてアサ王ユダ全國の人を率ゐバアシアがラマを建るに用ひたる石と材木を運びきたらしめ之をもてゲバとミズバを建たり 7その頃先見者ハナニ、ユダの王アサの許にいたりて之に言けるは汝はスリアの王に倚頼みて汝の神エホバに倚頼まざりしに因てスリア王の軍勢は汝の手を脱せり 8かのエテオピア人とルビ人は大軍にして戦車および騎兵はなほ多かりしにあらざるも汝エホバに倚頼みたればエホバかれらを汝の手に付したまへり 9エホバは全世界を徧く見そなはし己にむかひて心を全うする者のために力を顯したまふこの事において汝は愚なる事をなせり故に此後汝は戦争あるべしと 10然るにアサその先見者を怒りて之を獄舎にいれたり其は烈しくこの事のために彼を怒りたればなりアサまた其頃民を虐げたる事ありき 11アサの始終の行爲はユダとイスラエルの列王の書に記さる 12アサはその治世の三十九年に足を病みその病患ついに劇しくなりしがその病患の時にもエホバを求めずして醫師を求めたり 13アサその先祖等と偕に寝りその治世の四十二年に死り 14人衆これをその己のためにダビデの邑に掘おける墓に葬り製香の術をもて製したる種々の香物を盈せる床の上に置き之がために夥多しく焚物をなせり

Chapter 17

1アサの子ヨシヤバテ、アサに代りて王となりイスラエルにむかひて力を強くし 2ユダの一切の堅固なる邑々に兵を置きユダの地およびその父アサが取たるエフライムの邑々に鎮營を置く 3エホバ、ヨシヤバテとともに在せり其は彼その父ダビデの最初の道に歩みてバアル等を求めず 4その父の神を求めてその誠命に歩みイスラエルの行爲に倣はざればなり 5このゆゑにエホバ國を彼の手に堅く立たまへりまたユダの人衆みなヨシヤバテに禮物を饒り彼は富と貴とを極めたり 6是において彼エホバの道にその心を勵まし遂に崇邱

とアシラ像とをユダより除けり 7彼またその治世の三年にその牧伯ベネハイル、オバデヤ、ゼカリヤ、ネタンエルおよびミカヤを遣はしてユダの邑々にて教誨をなさしめ 8またレビ人の中よりシマヤ、ネタニヤ、ゼバデヤ、アサヘル、セミラモテ、ヨナタン、アドニヤ、トビヤ、トバドニヤなどいふレビ人を遣して之と偕ならしめ且祭司エリシヤマとヨラムをも之と偕に遣はしけるが 9彼らはエホバの律法の書を携へユダにおいて教誨をなすユダの邑々を盡く行めぐりて民を教へたり。 10是においてユダの周圍の地の國々みなエホバを懼れてヨシヤバテを攻ることをせざりき 11またペリシテ人の中に禮物および貢の銀をヨシヤバテに饒れる者あり且アラビヤ人は家畜をこれに饒り即ち牡羊七千七百牡山羊七千七百 12ヨシヤバテは益々大になりゆきてユダに城および府庫邑を多く建て 13ユダの邑々に多くの工事を爲し大勇士たる軍人をエルサレムに置り 14彼等を數ふるにその宗家に循へば左のごとしユダより出たる千人の長の中にはアデナといふ軍長あり大勇士三十萬これに従がふ 15その次は軍長ヨハナン之に従ふ者は二十八萬人 16その次はジクリの子アマシヤ彼は悦びてその身をエホバに献げたり大勇士二十萬これに従がふ 17ベニヤミンより出たる者の中にはエリアダといふ大勇士あり弓および楯をもつて二十萬これに従がふ 18その次はヨザバデ戰鬥の準備をなせる者十八萬これに従がふ 19是等は皆王に事ふる者等なり此外にまたユダ全國の堅固なる邑々に王の置る者あり

Chapter 18

1ヨシヤバテは富と貴とを極めアハブと縁を結べり 2かれ數年の後サマリアに下りてアハブを訪ければアハブ彼およびその部従のために牛羊を多く宰りギレアデのラモテに俱に攻らんことを彼に勸む 3すなはちイスラエルの王アハブ、ユダの王ヨシヤバテに言けるは汝我とともにギレアデのラモテに攻めよヨシヤバテこれに答へけるは我は汝のごとく我民は汝の民のごとし汝とともに戰鬥に臨まん 4ヨシヤバテまたイスラエルの王に言けるは請ふ今日エホバの言を問たまへ 5是においてイスラエルの王預言者四百人を集めて之に言けるは我らギレアデのラモテに往て戦ふべきや又は罷べきや彼等いひけるは攻上りたまへ神これを王の手に付したまふべしと 6ヨシヤバテいひけるは此外に我らの由て問べきエホバの預言者此にあらざるや 7イスラエルの王こたへてヨシヤバテに言けるは外になほ一人あり我ら之によりてエホバに問ことを得ん然ど彼は今まで我につきて善事を預言せず恒に惡き事のみを預言すれば我彼を惡むなり其者は即ちイムラの子ミカヤなりと然るにヨシヤバテこたへて王しか宣ふ勿れと言ければ 8イスラエルの王一人の官吏を呼てイム

ラの子ミカヤを急ぎ來らしめよと言り 9イスラエルの王およびユダの王ヨシヤバテは朝衣を纏ひサマリアの門の入口の廣場にて各々その位に坐し居り預言者は皆その前に預言せり 10時にケナアナの子ゼデキヤ鐵の角を造りて言けるはエホバかく言たまふ汝是等をもてスリア人を衝て滅ぼし盡すべしと 11預言者みな斯預言して云ふギレアデのラモテに攻上りて勝利を得たまへエホバこれを王の手に付したまふべしと 12茲にミカヤを召んとて往たる使者これに語りて言けるは預言者等の言は一の口より出るがごとくにして王に善し請ふ汝の言をも彼らの一人のごとくにして善事を言へ 13ミカヤ言けるはエホバは活く我神の宣ふ所を我は陳べんと 14かくて王に至るに王彼に言けるはミカヤよ我らギレアデのラモテに往て戦かふべきや又は罷べきや彼言けるは上りゆきて利を得たまへ彼らは汝の手に付されんと 15王かれに言けるは我幾度なんぢを誓はせたらば汝エホバの名をもて唯眞實のみを我に告るや 16彼言けるは我イスラエルが皆牧者なき羊のごとく山に散るを見るがエホバ是等の者は主なし各々よすらかに其家に歸るべしと言たまへり 17イスラエルの王是においてヨシヤバテに言けるは我なんぢに告て彼は善事を我に預言せず只惡き事のみを預言せんと申しに非ずやと 18ミカヤまた言けるは然ば汝らエホバの言を聽べし我視しにエホバその位に坐し居たまひて天の萬軍その傍に右左に立をりしが 19エホバ言たまひけるは誰かイスラエルの王アハブを誘ひて彼をしてギレアデのラモテにのぼりゆきて彼處に斃れしめんかと即ち一は此ごとくせんと言ひ一は彼ごとくせんと言ければ 20遂に一の靈すすみ出てエホバの前に立ち我かれを誘はんと言たればエホバ何をもてするかと之に問たまふに 21我いでて虚言を言ふ靈となりてその諸の預言者の口にあらんと語りエホバ言たまひけるは汝は誘はむ且これを成就ん出で然すべしと 22故に視よエホバ虚言を言ふ靈を汝のこの預言者等の口に入たまへり而してエホバ汝に災禍を降さんと定めたまふと 23時にケナアナの子ゼデキヤ近よりミカヤの頬を批て言けるはエホバの靈何の途より我を離れゆきて汝と言ふや 24ミカヤ言けるは汝奥の室にいりて身を匿す日に見るべし 25イスラエルの王いひけるはミカヤを取てこれを邑の宰アモンおよび王の子アアシに曳かへりて言べし 26王かく言ふ我が安然に歸るまで比者を牢にいれて苦惱のパンを食せ苦惱の水を飲せよと 27ミカヤ言けるは汝もし眞に平安に歸るならばエホバ我によりて斯宣ひし事ならずと而してまた言り汝ら民よ皆聽べしと 28かくてイスラエルの王およびユダの王ヨシヤバテはギレアデのラモテに上りゆけり 29イスラエルの王時にヨシヤバテに言けるは我は服装を變て戰陣の中にいらん汝は朝衣を纏ひたまへとイスラエルの王すなはち服装を變へ二人俱に戰陣の中にいれり 30スリアの王その戰

車の長等にかねて命じおけり云く汝ら小き者とか大なる者とも戦ふなかれ惟イスラエルの王とのみ戦へと 31戰車の長等ヨシヤバテを見て是はイスラエルの王ならんと言ひ身をめぐらして之と戦はんとせしがヨシヤバテ號呼ければエホバこれを助けたまへり即ち神彼らを感じて之を離れしめたまふ 32戰車の長等彼がイスラエルの王にあらざるを見しかば之を追ことをやめて引返せり 33茲に一箇の人何心なく弓を彎てイスラエルの王の胸當と草摺の間に射あてたれば彼その御者に言けるは我傷を受たれば汝手を旋らして我を軍中より出せと 34此日戰爭烈しくなりぬイスラエルの王は車の中に自ら扶持て立ち薄暮までスリア人をささへをりしが日の没る頃にいたりて死り

Chapter 19

1ユダの王ヨシヤバテは恙なくエルサレムに歸りてその家に至れり 2時に先見者ハナニの子エヒウ、ヨシヤバテ王を出むかへて之に言けるは汝惡き者を助けエホバを惡む者を愛して可らんや之がためにエホバの前より震怒なんぢの上に臨む 3然ながら善事もまた汝の身に見ゆ即ち汝はアシラ像を國中より除きかつ心を傾けて神を求むるなりと 4ヨシヤバテはエルサレムに往をりしが復出てベエルシバよりエフライムの山地まで民の間を行めぐりその先祖の神エホバにこれを導き歸せり 5彼またユダの一切の堅固なる邑に裁判人を立つ國中の邑々みな然り 6而して裁判人に言けるは汝等その爲とを懼め汝らは人のために裁判するに非ずエホバのために裁判するなり裁判する時にはエホバ汝らと偕にいます 7然ば汝らエホバを畏れ懼みて事をなせ我らの神エホバは惡き事なく人を偏視することなく賄賂を取と無ればなり 8ヨシヤバテまたレビ人祭司およびイスラエルの族長を選びてエルサレムに置きエホバの事および訴訟を審判しむ彼らはエルサレムにかへり 9ヨシヤバテこれに命じて云く汝らエホバを畏れ眞實と誠心をもて斯おこなふべし 10凡てその邑々に住む汝らの兄弟血を相流せる事または律法と誠命法度と條例などの事につきて汝らに訴へ出ること有ばこれを論してエホバに罪を犯さざらしめよ恐らくは震怒なんぢと汝らの兄弟のぞまん汝ら斯おこなはば怒なかるべし 11視よ祭司の長アマリヤ汝らの上においてエホバの事を凡て司どりユダの家の宰イスマエルの子ゼバデヤ王の事を凡て司どる亦レビ人汝らの前にありて官吏とならん汝ら心を強くして事をなせエホバ善人を祐けたまふべし

Chapter 20

1この後モアブの子孫アンモンの子孫およびマオ二人等ヨシヤバテと戦はんとて攻きたれり 2時に或人きたりてヨシヤバテに告て云ふ海の彼旁スリアより大衆汝に攻きたる視

よ今ハザソントンタルにありとハザソントンタルはすなはちエンゲデなり 3 是においてヨシヤパテ懼れ面をエホバに向てその助を求めユダ全國に斷食を布令しめられたれば 4 ユダ撃て集りエホバの助を求めたり即ちユダの一切の邑より人々きたりてエホバを求めむ 5 時にヨシヤパテ、エホバの室の新しき庭の前においてユダとエルサレムの會衆の中に立ち 6 言けるは我らの先祖の神エホバよ汝は天の神にましますに非ずや異邦人の諸國を統たたまふに非ずや汝の手に能力あり權勢ありて誰もなんぢを禦ぐこと能はざるに非ずや 7 我らの神よ汝は此國の民を汝の民イスラエルの前より逐はらひて汝の友アブラハムの子孫に之を永く與へたまひしに非ずや 8 彼らは此に住み汝の名のために此に聖所を建て言へり 9 刑罰の劍疫病饑饉などの災禍われらに臨まん時は我らこの家の前に立て汝の前にをりその苦難の中に汝に呼號らんしかして汝聽て助けたまはん汝の名はこの家にあればなりと 10 今アンモン、モアブおよびセイル山の子孫を視たまへ在昔イスラエル、エジプトの國より出きたれる時汝イスラエルに是等を侵さしめたまはざりしかば 11 これを離れざりて滅ぼさざりしを 12 我らが我らに報ゆる所を視たまへ彼らは汝がわれらに有たしめたまへる汝の産業より我らを逐はらんとす 12 我らの神よ汝がわれらを鞠きたまはざるや我らは此斯く攻よせたる此の大衆に當る能力なく又爲ところを知ず唯汝を仰ぎ望むのみと 13 ユダの人々はその小者および妻子とともに皆エホバの前に立をれり 14 時に會衆の中にエホバの靈アサフの子孫たるレビ人ハジエルに臨めりヤハゼルはゼカリヤの子ゼカリヤはベナヤの子ベナヤはエイエルの子エイエルはマツタニヤの子なり 15 ヤハジエルすなはち言けるはユダの人衆およびエルサレムの居民ならびにヨシヤパテ王よ聽べしエホバかく汝らに言たまふ此大衆のために懼るる勿れ慄くなかれ汝らの戦に非ずエホバの戦なればなり 16 なんぢら明日彼らの所に攻くだれ彼らはチツの坡より上り来る汝らエルエルの野の前なる谷の口にて之に遇ん 17 この戦手には汝ら戦におよばずユダおよびエルサレムよ汝ら惟進みいでて立ち汝らとともに在すエホバの拯救を見よ懼る勿れ慄くなかれ明日彼らの所に攻いでよエホバ汝らとともに在せばなりと 18 是においてヨシヤパテ首をさげて地に俯伏りユダの人衆およびエルサレムの民もエホバの前に伏てエホバを拜す 19 時にコハテの子孫およびコラの子孫たるレビ人立あがり響を高くあげてイスラエルの神エホバを讚美せり 20 かくて皆朝はやく起てテコアの野に出ゆけり其いづるに當りてヨシヤパテて言けるはユダの人衆およびエルサレムの民よ我に聽け汝らの神エホバを信ぜよ然ば汝ら堅くあらんその預言者を信ぜよ然ば汝ら利あらん 21 彼また民と議りて人々を選び之をして聖き飾を著て軍勢の前に進ませしめエホバにむかひて歌をうたひ且これを讚美

せしめエホバに感謝せよ其恩恵は世々かぎりなしと言む 22 その歌を歌ひ讚美をなし始むるに當りてエホバ伏兵を設けかのユダに攻きたれるアンモン、モアブ、セイル山の子孫をなやましたまひければ彼ら打敗られたり 23 即ちアンモンとモアブの子孫起てセイル山の民にむかひ盡くこれを殺して滅ししがセイルの民を殺し盡すに及びて彼らも亦力をいだし互に滅ぼしあへり 24 ユダの人々野の觀望所に至りてかの群衆を觀たりければ唯地に仆れたる死屍のみにして一人だに逃れし者なかりき 25 是においてヨシヤパテおよびその民彼らの物を奪はんとて來り觀にその死屍の間に財寶衣服および珠玉などおびたたく在れば則ち各々これを剥とりけるが餘に多くして携さへ去ること能はざる程なりき其物多かりしに因て之を取に三日を費しけるが 26 第四日にベラカ(感謝)の谷に集り其處にてエホバに感謝せり是をもてその處の名を今日までベラカ(感謝)の谷と呼ぶ 27 而してユダとエルサレムの人々みな各々歸りきたりヨシヤパテの後にしたがひ歎びてエルサレムに至れり其はエホバ彼等をしてその敵の故によりて歎喜を得させたまひたればなり 28 即ち彼ら瑟と琴および喇叭を合奏してエルサレムに往てエホバの室にいたる 29 諸の國の民エホバがイスラエルの敵を攻撃たまひしことを聞て神を畏れたれば 30 ヨシヤパテの國は平穩なりき即ちその神四方において之に安息を賜へり 31 ヨシヤパテはユダの王となり三十五歳のときその位に即き二十五年の間エルサレムにて世を治めたり其母はシルヒの女にして名をアズバといふ 32 ヨシヤパテはその父アサの道にあゆみて之を離れしエホバの目に善と觀たまふ事を行へり 33 然れども崇邱はいまだ除かず又民はいまだその先祖の神に心を傾けざりき 34 ヨシヤパテのその餘の始終の行爲はハナニの子エヒウの書に記さるエヒウの事はイスラエルの列王の書に載す 35 ユダの王ヨシヤパテ後にイスラエルの王アハジアと相結べりアハジアは大に惡を行ふ者なりき 36 ヨシヤパテ、タルシシに遣る舟を造らんとて彼と相結びてエジオンゲベルにて共に舟數隻を造れり 37 時にマレシヤのドダウの子エリエゼル、ヨシヤパテにむかひて預言して云ふ汝アハジアと相結びたればエホバなんぢの作りし者を毀ちたまふと即ちその舟は皆壊れてタルシシに往くことを得ざりき

Chapter 21

1 ヨシヤパテその先祖等とともに寝りてダビデの邑にその先祖等とともに葬られその子ヨラムこれに代て王となる 2 ヨシヤパテの子たるその兄弟はアザリヤ、アヒエル、ゼカリヤ、アザリヤ、ミカエルおよびシパテヤ是みなイスラエルの王ヨシヤパテの子なり 3 その父彼らに金銀寶物の賜物を多く與へたまふユダの守衛の邑々を與へけるが國はヨラムに與

へたりヨラム長子なりければなり 4 ヨラムその父の位に登りて力つよくなりければその兄弟等をことごとく劍にかけて殺し又イスラエルの牧伯等數人を殺せり 5 ヨラムは三十二歳の時に即エルサレムにて八年の間世を治めたり 6 彼はアハブの家のなせるごとくイスラエルの王等の道にあゆめりアハブの女を妻となしたればなり斯かれエホバの目に惡と觀たまふ事をなせしかども 7 エホバ曩にダビデに契約をなし且彼とその子孫に永遠に光明を與へんと言たまひし故によりてダビデの家を滅ぼすことを欲み給はざりき 8 ヨラムの世にエドム人叛きてユダの手に服せず自ら王を立たれば 9 ヨラム其牧伯等および一切の戰車をしたがへて涉りゆき夜の中に起いでて自己を圍めるエドム人を撃ちその戰車の長等を撃り 10 エドム人は斯叛きてユダの手に服せずなりしが今日まで然り此時にありてリブナもまた叛きてユダの手に服せずなりぬ是はヨラムその先祖の神エホバを棄たるに因てなり 11 彼またユダの山々に崇邱を作りてエルサレムの民に姦淫をおこなはせユダを惑はせり 12 時に預言者エリヤの書ヨラムの許に達せり其言に云く汝の先祖ダビデの神エホバかく言たまふ汝はその父ヨシヤパテの道にあゆまずまたユダの王アサの道にあゆまずして 13 イスラエルの王等の道にあゆみユダの人とエルサレムの民をしてアハブの家の姦淫をなせるごとくに姦淫を行はしめまた汝の父の家の者にて汝に愈れるところの汝の兄弟等を殺せり 14 故にエホバ大なる災禍をもて汝の民汝の子女汝の妻等および汝の一切の所有を撃たまふべし 15 汝はまた臍の疾を得て大病になりその疾日々に重りて臍腫つひに墜んと 16 即ちエホバ、ヨラムを攻させんとてエテオピアに近きところのペリシテ人とアラビヤ人の心を振起したまひければ 17 彼らユダに攻のぼりて之を侵し王の家に在ところの貨財を盡く奪ひ取りまたヨラムの子等と妻等をも携へ去れり是をもてその末子エホアハズの外には一人も遺れる者なかりき 18 此もろるの事の後エホバ彼を撃て臍腫に愈ざる疾を生ぜしめたまひければ 19 月日を送り二年を経るおよびてその臍腫疾のために墜ち重き病苦によりて死ねり民かれの先祖のために焚物をなせし如く彼のためには焚物をなさざりき 20 彼は三十二歳の時位に即き八年の間エルサレムにて世を治めて終に薨去れり之を惜む者なかりき人衆これをダビデの邑に葬れり但し王等の墓にはあらず

Chapter 22

1 エルサレムの民ヨラムの季子アハジアを王となして之に継む其は曾てアラビヤ人とともに陣營に攻きたりし軍兵その長子をことごとく殺したればなり是をもてユダの王ヨラムの子アハジア王となれり 2 アハジアは四十二歳の時位に即きエルサレムにて一年の間世を治めたりその

母はオムリの女にして名をアタリヤといふ 3 アハジアもまたアハブの家の道に歩めり其母かれを教へて惡をなさしめたるなり 4 即ち彼はアハブの家のごとくにエホバの目の前に惡をおこなへり其父の死し後彼かくアハブの家の者の教にしたがひたれば終に身を滅ぼすに至れり 5 アハジアまた彼らの教にしたがひイスラエルの王アハブの子ヨラムとともにギレアデルのラモテにゆきてスリアの王ハザエルと戦ひけるにスリア人ヨラムに傷を負せたり 6 是においてヨラムはそのスリアの王ハザエルと戦ふにあたりてラムにて負たる傷を療さんとてエズレルに歸れりユダの王ヨラムの子アザリヤはアハブの子ヨラムが病をるをもてエズレルに下りてこれを訪ふ 7 アハジアがヨラムを訪ふて害に遇しは神の然らしめたまへるなり即ちアハジアは來り居てヨラムとともに出てニムシの子エヒウを迎へたりエヒウはエホバが曩にアハブの家を絶去しめんとて膏を沃きたまひし者なり 8 エヒウ、アハブの家を罰するに方りてユダの牧伯等およびアハジアの兄弟等の子等がアハジアに奉へるに遇て之を殺せり 9 アハジアはサマリヤに匿れたりしがエヒウこれを探求めければ人々これを執へエヒウの許に曳きたりて之を殺せり但し彼は心を盡してエホバを求めたるヨシヤパテの子なればとてこれを葬れり斯りしかばアハジアの家は國を統治むる力なくなりぬ 10 茲にアハジアの母アタリヤその子の死たるを見て起てユダの家の王子をことごとく滅ぼしたりしが 11 王の女エホシバ、アハジアの子ヨアシを王の子等の殺さる者の中より竊み取り彼とその乳媪を夜衣の室におきて彼をアタリヤに匿したればアタリヤかれを殺さざりきエホシバはヨラム王の女アハジアの妹にして祭司エホヤダの妻なり 12 かくてヨアシはエホバの家に匿れて彼らとともにをること六年アタリヤ國に王たりき

Chapter 23

1 第七年にいたりエホヤダ力を強してエロハムの子アザリヤ、ヨハナンの子イシマエル、オベデの子アザリヤ、アダヤの子マアセヤ、ジクリの子エシヤパテなどいふ百人の長等を招きて己と契約を結ばしむ 2 是において彼らユダを行めぐりてユダの一切の邑よりレビ人を集めまたイスラエルの族長を集めてエルサレムに歸り 3 而してその會衆みな神の家に於て王と契約を結べり時にエホヤダかれらに言けるはダビデの子孫の事につきてエホバの宣まひしごとく王の子位に即べきなり 4 然ば汝ら斯なすべし汝ら祭司およびレビ人の安息日に入きたる者は三分の一は門を守り 5 三分の一は王の家に居り 三分の一は基礎の門に居り民はみなエホバの室の庭に居べし 6 祭司と奉事をするレビ人の外は何人もエホバの家に入べからず彼らは聖者なれば入ことを得るなり民はみなエホバの殿を守るべし 7 レビ人はおのおの

手に武器を執て王を繞りて立べし家に入る者をば凡て殺すべし汝らは王の出る時にも入る時にも王とともに居れと8是においてレビ人およびユダの人衆は祭司エホヤダが死んで命じた如くに行ひ各々その手の人の安息日に入來べき者と安息日に出ゆくべき者とを率る居れり祭司エホヤダ班列の者を去せざればなり9祭司エホヤダすなはち神の家にあるダビデ王の鎧および大楯小楯を百人の長等に交し10一切の民をして各々武器を手に執て王の四周に立ち殿の右の端より殿の左の端におよびて壇と殿にそふて居しむ11斯て人衆王の子を携へ出し之に冠冕を戴かせ證詞をわたくして王となし祭司エホヤダおよびその子等これに膏をそそげり而して皆王長壽かれと言ふ12茲にアタリヤ民と近衛兵と王を讃る者との聲を聞きエホバの室に入て民の所に至り13視に王は入口にてその柱の傍に立ち王の側に軍長と喇叭手立をり亦國の民みな喜びて喇叭を吹き謳歌を奏し先だちて讚美を吹きおろしかばアタリヤその衣を裂き叛逆なり叛逆なりと言ひ14時に祭司エホヤダ軍兵を統る百人の長等を呼出してこれに言ふ彼をして列の間を通りて出しめよ凡て彼に従がぶ者をば劍をもて殺すべしと祭司は彼をエホバの室に殺すべからずとて斯いへるなり15是をもて之がために路をひらき王の家の馬の門の入口まで往しめて其處にて之を殺せり16斯てエホヤダ己と一切の民と王との間にわれらは皆エホバの民とならんことの契約を結べり17是において民みなバアルの室にゆきて之を毀ちその壇と其の像を打碎きバアルの祭司マツタンを壇の前に殺せり18エホヤダまたエホバの室の職事を祭司レビ人の手に委ぬ昔ダビデ、レビ人を班列にわかちてエホバの室におきモーセの律法に記されたる所にしたがひて歡喜と謳歌とをもてエホバの燔祭を献げしめたりき今このダビデの例に倣ふ19彼またエホバの室の門々に看守者を立て置き身の汚れたる者には何によりて汚れたるにもあれ凡て入ことを得ざらしむ20斯てエホヤダ百人の長等と貴族と民の牧伯等および國の一切の民を率るてエホバの家より王を導きくだりし門よりして王の家にいり王を國の位に坐せしめたり21斯りしかば國の民みな喜びて邑は平穩なりきアタリヤは劍にて殺さる

Chapter 24

1ヨアシは七歳の時位に即きエルサレムにて四十年の間世を治めたりその母はベエルシバより出たる者にして名をデビアといふ2ヨアシは祭司エホヤダの世にある日の間は恒にエホバの善と觀たまふことを行へり3エホヤダ彼のために二人の妻を娶れり男子女子生る4此後ヨアシ、エホバの室を修繕んと志し5祭司とレビ人を集めて之に言けるは汝ら出てユダの邑々に往き汝らの神エホバの室を葺き修繕ふべき金子をイスラ

エルの人衆より聚むべし其事を亟にせよと然るにレビ人これを亟にせざりき6王エホヤダ長を召てこれに言けるは汝なんぞレビ人に求めてエホバの僕モーセおよびイスラエルの會衆の古昔證詞の幕屋のために集めたるが如き税をユダとエルサレムより取きたらせざるやと7かの惡き婦アタリヤの子等神の家を壊りかつエホバの家の諸の奉納物をバアルに供へたり8是において王の命にしたがひて一箇の匱を作りエホバの室の門の外にこれを置き9ユダとエルサレムに宣布て汝ら神の僕モーセが荒野にてイスラエルに課したる如き税をエホバに携へきたれと言けるに10一切の牧伯等および一切の民みな喜びて携へきたりその匱に投入れて遂に納めをはれり11レビ人の匱に金の多くあるを見てこれを王の廳に携へゆく時は王の書記と祭司の長の下役きたりてその匱を傾け復これを取て本の處に持ちけり日々に斯のごとくして金を聚むること夥多し12而して王とエホヤダこれをエホバの家の工事を爲す者に付し石工および木匠を雇ひてエホバの室を修繕はせまた鐵工および銅工を雇ひてエホバの室を修復せしめけるが13工人動作てその工事を成へ神の室を本の状に復してこれを堅固にす14その既に成るにおよびて餘れる金を王とエホヤダの前に持いたりければ其をもてエホバの室のために器皿を作り即ち奉事の器獻祭の器および匙ならびに金銀の器を作りエホヤダが世に在る日の間はエホバの室にて燔祭をささぐることを絶ざりき15エホヤダは年邁み日満て死りその死る時は百三十歳なりき16人衆ダビデの邑にて王等の中間にこれを葬むる其は彼イスラエルの中において神とその殿とにむかひて善事をおこなひたればなり17エホヤダの死たる後ユダの牧伯等きたりて王を拜す是において王これに聽したがふ18彼らその先祖の神エホバの室を棄てアシラ像および偶像に事へたればその愆のために震怒ユダとエルサレムに臨めり19エホバかれらを己にひきかへさんとて預言者等を遣はし之にむかひて證をたてさせたまひしかども聽ことをせざりき20是において神の靈祭司エホヤダの子ゼカリヤに臨みければ彼民の前に高く起あがりて之に言けるは神かく宣ふ汝らエホバの誠命を犯して災禍を招くは何ぞや汝らエホバを棄たればエホバも汝らを棄たまふと21然るに人衆かれを害せんと謀り王の命によりて石をもてこれをエホバの室の庭にて擊殺せり22斯ヨアシ王はゼカリヤの父エホヤダが己にほどこせし恩を念ずしてその子を殺せり彼死る時にエホバこれを顧みこれを問討したまへと言ひり23かくてその年の終るにおよびてスリアの軍勢かれにむかひて攻のぼりユダとエルサレムにいたりて民の牧伯等をことごとく民の中より滅ぼし絶ちその掠取物を凡てダマスコの王に遣れり24この時スリアの軍勢は小勢にて來りけるにエホバ大軍をこれが手に付したまへり是はその先祖の神エホバを棄たるが故なり斯かれ

らヨアシを罰せり25スリア人ヨアシに大傷をおはせて遣去けるがヨアシの臣僕等祭司エホヤダの子等の血のために黨をむすびて之に叛き之をその床の上に弑して死せしめたり人衆これをダビデの邑に葬れり但し王の墓には葬らざりき26黨をむすびて之に叛きし者はアンモンの婦シメアテの子ザバデおよびモアブの婦シムリテの子ヨザバデなりき27ヨアシの子等の事ヨアシの告られし預言および神の室を修繕し事などは列王の書の註釋に記さるヨアシの子アマジャこれに代りて王となれり

Chapter 25

1アマジャは二十五歳の時位に即きエルサレムにて二十九年の間世を治めたりその母はエルサレムの者にして名をエホアダンといふ2アマジャはエホバの善と視たまふ事を行なひしかども心を全うしてこれを爲ざりき3彼國のおのが手に堅く立つにおよびてその父王を弑せし臣僕等を殺せり4然どその子女等をば殺さずしてモーセの書の律法に記せるごとく爲り即ちエホバ命じて言たまはく父はその子女の故によりて殺さるべからず子女はその父の故によりて殺さるべからず各々おのれの罪によりて殺さるべきなりと5アマジャ、ユダの人を集めその父祖の家にしたがひて或は千人の長に附屬せしめ或に百人の長に附屬せしむユダとベニヤミンとも然り且二十歳以上の者を數へ戈と楯とを執て戰闘に臨む倔強の士三十萬を得6また銀百タラントをもてイスラエルより大勇士十萬を備へり7時に神の人かれに詣りて言けるは王よイスラエルの軍勢をして汝とともに往しむる勿れエホバはイスラエル人すなはちエフライムの子孫とは借にいまさざるなり8汝もし往ば心を強くして戰闘を爲せ神なんぢをして敵の前に斃れしめたまはん神は助くる力ありまた倒す力あるなり9アマジャ神の人にいひけるは然ば已にイスラエルの軍隊に與へたる百タラントを如何にすべきや神の人答へけるはエホバは其よりも多き者を汝に賜ふことを得るなりと10是においてアマジャかのエフライムより來りて己に就る軍隊を分離してその處に歸らしめければ彼らユダにむかひて烈しく怒を發し火のごとくに怒りてその處に歸れり11かくてアマジャは力を強くしその民を率めて鹽の谷に往きセイル人一萬を擊殺せり12ユダの子孫またこの外に一萬人を生擒て磐の頂に曳ゆき磐の頂よりこれを投おとしければ皆微塵に碎けたり13前にアマジャが己とともに戰闘に往べからずとして歸し遣たる軍卒等サマリアよりベテホロンまでのユダの邑々を襲ひ人三千を擊ころし物を多く奪ふ14アマジャ、エドム人を戮して歸る時にセイル人の神々を携へ來りて之を安置して己の神となしその前に禮拜をなし之に香を焚り15是をもてエホバ、アマジャにむかひて怒を發し預言者をこれに遣はして言しめたまひけるは彼

民の神々は己の民を汝の手より救ふことを得ざりし者なるに汝なにとて之を求むるや16彼かく王に語れる時王これにむかひ我儕汝を王の議官となせしや止よ汝なんぞ擊殺されんとするやと言ければ預言者すなはち止て言り我知る汝この事を行びて吾諫を聽いれざるによりて神なんぢを滅ぼさんと決めたまふと17斯てユダの王アマジャ相議りて人をエヒウの子エホアハズの子なるイスラエルの王ヨアシに遣し來れ我儕たがひに面をあはせんと申しめければ18イスラエルの王ヨアシ、ユダの王アマジャに言おくりけるはレバノンの荆棘かつてレバノンの香柏に汝の女子を我子の妻に與へよと言おくりたること有しにレバノンの野獸とほりてその荆棘を踏たふせり19汝はエドム人を擊破れりと謂ひ心にたかぶりて誇る然ば汝家に安んじ居れ何ぞ禍を惹おこして自己もユダもともに亡びんとするやと20然るにアマジャ聽ことをせざりき此事は神より出たる者にて彼らをその敵の手に付さんがためなり是は彼らエドムの神々を求めしに因る21是においてイスラエルの王ヨアシ上りきたりユダのベテシメシにてユダの王アマジャと面をあはせたりしが22ユダ、イスラエルに擊敗られて各々その天幕に逃かへりぬ23時にイスラエルの王ヨアシはエホアハズの子ヨアシの子なるユダの王アマジャをベテシメシに執へてエルサレムに携へゆきエルサレムの石垣をエフライムの門より隅の門まで四百キュビト程を毀ち24また神の室の中にてオベデエドムが守り居る一切の金銀および諸の器皿ならびに王の家の財寶を取りかつ人質をとりてサマリアに歸れり25ユダの王ヨアシの子アマジャはイスラエルの王エホアハズの子ヨアシの死てより後なほ十五年生存らへたり26アマジャのその餘の始終の行爲はユダとイスラエルの列王の書に記さるるにあらざるや27アマジャ翻へりてエホバに従はずなりし後エルサレムにおいて黨を結びて彼に敵する者ありければ彼ラキシに逃ゆきけるにその人々ラキシに人をやりて彼を其處に殺さしめたり28人衆これを馬に負せてきたりユダの邑にてその先祖等とともにこれを葬りぬ

Chapter 26

1是においてユダの民みなウジヤをとりて王となしてその父アマジャに代らしめたり時に年十六なりき2彼エラテの邑を建てこれを再びユダに歸せしむ是はかの王がその先祖等とともに寝りし後なりき3ウジヤは十六歳の時位に即きエルサレムにて五十二年の間世を治めたりその母はエルサレムの者にして名をエコリアといふ4ウジヤはその父アマジャが凡てなしたる如くエホバの善と觀たまふ事を行ひ5神の默示に明なりしかのゼカリヤの世にある日の間心をこめてエホバを求めたりそのエホバを求むる間は神これをして幸福ならしめたまへり6彼いでてベリシテ

人と戦ひガテの石垣ヤブネの石垣およびアシドの石垣を圮しアシドの地ならびにペリシテ人の中間に邑を建つ7神かれを助けてペリシテ人グルバルに住むアラビヤ人およびメウニ人を攻撃したまへり8アンモニ人はまたウジヤに貢を納るウジヤの名つひにエジプトの入口までも廣まれり其は甚だ強くなりければなり9ウジヤ、エルサレムの隅の門谷の門および角隅に戌樓を建てこれを堅固にし10また荒野に戌樓を建て許多の水溜を掘り其は家畜を多く有たればなり亦平野にも平地にも家畜を有り又山々およびカルメルには農夫と葡萄を修る者を有り農事を好みたればなり11ウジヤ戦士一旅團あり書記アイエルと牧伯マアセヤの數調査によりて隊々にわかれて戰爭に出づ皆王の軍長ハナニヤの手に屬す12大勇士の族長の數は都合二千六百13その手に屬する軍勢は三十萬七千五百人みな大なる力をもて戦ひ王を助けて敵に當る14ウジヤその全軍のために楯戈兜鎧弓および投石器の石を備ふ15彼またエルサレムにおいて工人に機械を案へ造らしめ之を戌樓および石垣に施こし之をもて矢ならびに大石を射出せり是においてその名速く廣まれり其は非常の援助を蒙りて旺盛になりければなり16然るに彼旺盛になるにおよびその心に高ぶりて惡き事を行なへり即ち彼その神アホバにむかひて罪を犯しアホバの殿に入て香壇の上に香を焚んとせり17時に祭司アザリヤ、アホバの祭司たる勇者八十人を率ゐて彼の後にしたがひ入り18ウジヤ王を阻へてこれに言けるはウジヤよアホバに香を焚くことは汝のなすべき所にあらずアロンの子孫にして香を焚かために潔められたる祭司等のなすべき所なり聖所より出よ汝は罪を犯せりアホバ神なんぢに榮を加へたまはじと19是においてウジヤ怒を發し香爐を手にとりて香を焚くとせしがその祭司にむかひて怒を發しをる間に癩病その顔に起れり時に彼はアホバの室にて祭司等の前にあたりて香壇の側にをる20祭司の長アザリヤおよび一切の祭司等彼を見しに已にその顔に癩病生じぬれば彼を其處より速にいだせり彼もまたアホバの己を撃たまへるを見て自ら急ぎて去り21ウジヤ王はその死る日まで癩病人となり居しがその癩病人となるにおよびては別殿に住りアホバの室より斷れたればなり其子ヨタム王の家を管理て國の民を審判り22ウジヤのその餘の始終の行爲はアモツの子預言者イザヤこれを書記したり23ウジヤその先祖等とともに寝りたれば彼は癩病人なりとて王等の墓に連接る地にこれを葬りてその先祖等とともにならしむその子ヨタムこれに代りて王となれり

Chapter 27

1ヨタムは二十五歳の時に即きエルサレムにて十六年の間世を治めたり其母はザドクの女にして名をエルシヤといふ2ヨタムはその父ウ

ジヤの凡て爲たるごとくアホバの善と視たまふ事をなせり但しアホバの殿には入りき民は尚惡き事を爲り3彼アホバの家の上の門を建なほしオペルの石垣を多く築き増し4ユダの山地に數箇の邑を建て林の間に城および戌樓を築けり5彼アンモニ人の王と戦ひこれに勝り其年アンモンの子孫銀百タラント小麦一萬石大麦一萬石を彼におくれりアンモンの子孫は第二年にも第三年にも是のごとく彼に貢をいり6ヨタムその神アホバの前にてその行を堅うしたるに困て權能ある者となれり7ヨタムのその餘の行爲その一切の戰闘およびその行などはイスラエルとユダの列王の書に記さる8彼は二十五歳の時に即きエルサレムにて十六年の間世を治めたり9ヨタムその先祖等とともに寝りたればダビデの邑にこれを葬れりその子アハズこれに代りて王となる

Chapter 28

1アハズは二十歳の時に即きエルサレムにて十六年の間世を治めたりしがその父ダビデと異にしてアホバの善と觀たまふ所を行はず2イスラエルの王等の道にあゆみ亦諸のバアルのために像を鑄造り3ベンヒノムの谷にて香を焚きその子を火に焼きなどしてアホバがイスラエルの子孫の前より逐はらひたまひし異邦人の行ふところの憎むべき事に倣ひ4また崇邱の上丘の上一切の青木の下にて犠牲をささげ香を焚り5是故にその神アホバかれをスリアの王の手に付したまひてスリア人つひに彼を撃破りその人々を衆く虜囚としてダマスコに曳ゆけり彼はまたイスラエルの王の手に付されればイスラエルの王かれを撃て大にその人を殺せり6すなはちレマリヤの子ペカ、ユダにおいて一日の中に十二萬人を殺せり皆勇士なり是は彼らその先祖の神アホバを棄しによるなり7その時にエフライムの勇士ジクリといふ者王の子マアセヤ宮内卿アズリカムおよび王に亞ぐ人エルカナを殺せり8イスラエルの子孫つひにその兄弟の中より婦人ならびに男子女子など合せて二十萬人を俘擄にしました衆多の掠取物を爲しその掠取物をサムリアに携へゆけり9時に彼處にアホバの預言者ありその名をオデといふ彼サムリアに歸れる軍勢の前に進みいでて之に言けるは汝らの先祖の神アホバ、ユダを怒りてこれを汝らの手に付したまひしが汝らは天に達するほどの忿怒をもて之を殺せり10然のみならず汝ら今ユダとエルサレムの子孫を圧つて己の奴婢となさんと思ふ然も汝ら自身もまた汝らの神アホバに罪を獲たる身にあらずや11然ば今我に聽き汝らがその兄弟の中より擄へ來りし俘擄を放ち歸せアホバの烈しき怒なんぢらの上に臨まんすすればなりと12是においてエフライム人の長たる人々すなはちヨハナンの子アザリヤ、メシレモテの子ベレキヤ、シャルムの子ヒゼキヤ、ハデライの子アマサ等

戰爭より歸れる者等の前に立ふさがりて13之にいひけるは汝ら俘擄を此に曳いるべからず汝らは我らをしてアホバに忿を得せしめて更に我らの罪愆を増んとす我らの忿は大にして烈しき怒イスラエルにのぞまんとするなりと14是において兵卒等その俘擄と掠取物を牧伯等と全會衆の前に遣おきければ15上に名を擧げたる人々たちて俘擄を受取り掠取物の中より衣服を取てその裸なる者に着せ之に靴を穿せ食飲を爲しめ膏油を沃ぎ等しその弱き者をば盡く驢馬に乗せ斯して之を棕欄の邑エリコに導きゆきてその兄弟に詣らしめ而してサムリアに歸れり16當時アハズ王人をアツスリヤの王等に遣はして援助を乞ひし17其はエドム人また來りてユダを攻撃キ民を擄へて去たればなり18ペリシテ人もまた平野の邑々およびユダの南の邑々を侵してベテシメシ、アヤロン、ゲデロテおよびシヨコとその郷里テムナとその郷里ギムゾとその郷里を取て其處に住めり19イスラエルの王アハズの故をもてアホバかくユダを卑くしたまふ其は彼ユダの中に淫逸なる事を行ひかつアホバにむかひて大に罪を犯したればなり20アツスリヤの王テグラテビセルは彼の所に來りしかども彼に力をそへずして反てこれを煩はせり21アハズ、アホバの家と王の家および牧伯等の家の物を取てアツスリヤの王に與へけれどもアハズを援くることをせざりき22このアハズ王はその困難の時に當りてますアホバに罪を犯せり23即ち彼おのれを撃るダマスコの神々に犠牲を獻げて言ふスリアの王等の神々はその王等を助くれれば我もこれに犠牲を獻げん然ば彼ら我を助けんと然れども彼等はかへつてアハズとイスラエル全國を併す者となれり24アハズ神の室の器皿を取聚めて神の室の器皿を切やぶりアホバの室の戸を閉ぢエルサレムの隅々に凡て祭壇を造り25ユダの一切の邑々に崇邱を造りて別神に香を焚き等してその先祖の神アホバの忿怒を惹おこせり26アハズのその餘の始終の行爲およびその一切の行跡はユダとイスラエルの列王の書に記さる27アハズその先祖等とともに寝りたればエルサレムの邑にこれを葬れり然どイスラエルの王等の墓にはこれを持ちかざりき其子ヒゼキヤこれに代りて王となる

Chapter 29

1ヒゼキヤは二十五歳の時に即きエルサレムにて二十九年の間世を治めたりその母はゼカリヤの女にして名をアビヤといふ2ヒゼキヤはその父ダビデの凡てなしたる如くアホバの目に善と視たまふ事をなせり3即ち彼その治世の第一年一月にアホバの室の戸を開きかつ之を修繕ひ4祭司およびレビ人を携へいりて東の廣場にこれを集め5而して之にいひけるはレビ人よ我に聽け汝等いま身を潔めて汝等の先祖の神アホバの室を潔め汚穢を聖所より除きされ

6夫我らの先祖は罪を犯し我らの神アホバの目に惡しと見たまふことを行ひてアホバを棄てアホバの住所に面を背けて後をこれに向け7また廊の戸を閉ぢ燈火を消し聖所にイスラエルの神に香を焚ず燔祭を獻けざりし8是をもてアホバの忿怒ユダとエルサレムに臨みアホバ彼等をして打ただよはされしめ詔異とならしめ胡盧とならしめたまへり汝らが目に觀るごとし9即ち我儕の父は劍に斃れ我らの男子女子及び妻等これがために俘擄となれり10今我イスラエルの神アホバと契約を結ばんとする意志ありその烈しき怒我らを離ることあらん11我子等よ今は怠たる勿れアホバ汝らを選びて己の前に立て事へしめ己に事ふる者となし香を焚く者となしたまひたればなりと12是においてレビ人起り即ちコハテの子孫の中にてはアマサイの子マハテおよびアザリヤの子ヨエル、メラリの子孫の中にてはアブデの子キンおよびエハレレルの子アザリヤ、ゲルシヨンの中にてはジャンマの子ヨアおよびヨアの子エデン13エリザパンの子孫の中にてはシムリおよびエイエル、アサフの子孫の中にてはゼカリヤおよびマツタニヤ14ヘマンの子孫の中にてはエヒエルおよびシメイ、エドトンの子孫の中にてはシマヤおよびウジエル15かれらその兄弟を集へて身を潔めアホバの言に依りて王の傳へし命令にしたがひてアホバの室を潔めんとて入りたり16祭司等アホバの殿の奥に入りてこれを潔めアホバの殿にありし汚穢をことごとくアホバの室の庭に携へいだしせばレビ人それを受て外にいだしキデロン河に持いたる17彼ら正月の元日に潔むることを始めてその月の八日にアホバの廊においてまたアホバの家を潔むるに八日を費し正月の十六日にいたりて之を終れり18かくて彼らヒゼキヤ王の處に入て言ふ我らアホバの室をことごとく潔めまた燔祭の壇とその一切の器具および供前のパンの案とその一切の器皿とを潔めたり19またアハズ王がその治世に罪を犯して棄たりし一切の器皿をも整へてこれを潔めアホバの壇の前にこれを据置りて20是においてヒゼキヤ王蚤に起いで邑の牧伯等をおつめてアホバの家にのぼり往き21牡牛七匹牡羊七匹山羊七匹牡山羊七匹を牽きたらしめ國と聖所とユダのためにこれを罪祭となしアロンの子孫たる祭司等に命じてこれをアホバの壇の上に獻げしむ22即ち牡牛を宰れば祭司等その血を受て壇に灑ぎまた牡羊を宰ればその血を壇に灑ぎり23かくて人々罪祭の牡山羊を王と會衆の前に牽きたりければ彼らその上に手を按り24而して祭司これを宰りその血を罪祭として壇の上に獻げてイスラエル全國のために贖罪をなせり是は王イスラエル全國の爲に燔祭および罪祭を獻ぐることを命じたるに因る25王レビ人をアホバの室に置きダビデおよび王の先人がガデと預言者ナタンの命令にしたがひて之に鑄鍛瑟および琴を執しむ是はアホバがその預言者により

て命じたまひし所なり 26 是においてレビ人はダビデの樂器をとり祭司は喇叭をとりて立つ 27 時にヒゼキヤ燔祭を壇の上に献ぐることを命ぜり燔祭をささげ始むるときエホバの歌をうたひ喇叭を吹きイスラエルの王ダビデの樂器をならしはじめたり 28 しかして會衆みな禮拜をなし謳歌者歌をうたひ喇叭手喇叭を吹ならし燔祭の終るまで凡て斯ありしが 29 献ぐる事の終るにおよびて王および之と偕に在る者皆身をかがめて禮拜をなせり 30 かくて又ヒゼキヤ王および牧伯等レビ人に命じダビデと先見者アサフの詞をもてエホバを讚美せしむ彼等喜樂をもて讚美し首をさげて禮拜す 31 時にヒゼキヤこたへて言けるは汝らすでにエホバに事へんために身を潔められたれば進みよりにてエホバの室に犠牲および感謝祭を携へきたれと會衆すなはち犠牲および感謝祭を携へきたる又志ある者はみな燔祭を携ふ 32 會衆の携へきたりし燔祭の数は牡牛七十牡羊一百羔羊二百はみなエホバに燔祭として奉つる者なり 33 また奉納物は牛六百羊三千なりき 34 然るに祭司寡くしてその燔祭の物の皮を剥つくすこと能はざりければその兄弟たるレビ人これを助けてその工を終ふ斯る間に他の祭司等も身を潔むレビ人は祭司よりも心正しくして身を潔めたり 35 燔祭夥多しあり酬恩祭の脂及びすべての燔祭の酒も然り斯エホバの室の奉事備はれり 36 この事俄なりしかども神かく民の爲に備をなしたまひしに因てヒゼキヤおよび一切の民喜べり

Chapter 30

1茲にヒゼキヤ、イスラエルとユダに遍ねく人を遣しまた書をエフライムとマナセに書おくりエルサレムなるエホバの室に來りてイスラエルの神エホバに逾越節を行はんことを勸む 2 王すでにその牧伯等およびエルサレムにある會衆と議り二月をもて逾越節を行はんと定めたり 3 其は祭司の身を潔めし者足す民またエルサレムに集らざりしに因て彼時これをを行ふことを得ざればなり 4 王も會衆もこの事を見て善となし 5 即ちこの事を定めてベエルシバよりダンまでイスラエルに遍ねく宣布しめしエルサレムに來りてイスラエルの神エホバに逾越節を行はんことを勸む是はその録されたるごとくにこれを行ふ事久しく無りしが故なり 6 飛脚すなはち王とその牧伯等が授けし書をもちてイスラエルとユダを遍ねく行めぐり王の命を傳へて云ふイスラエルの子孫よ汝らアブラハム、イサク、イスラエルの神エホバに起歸ればエホバ、アツスリヤの王等の手より逃れて遺るところの汝らに歸りたまはん 7 汝らの父および兄弟の如くならざれば彼らその先祖の神エホバにむかひて罪を犯したればこれを滅亡に就しめたまへり汝らが見るごとし 8 然ば汝らの父のごとく汝ら頂を強くせずしてエホバに歸服しその永久に聖別たまひし聖所に入り汝

らの神エホバに事へよ然ればその烈しき怒なんぢらを離れん 9 汝ら若エホバに歸らば汝らの兄弟および子女その己を擡へゆきし者の前に衿襖を得て遂にまた此國にかへらん汝らの神エホバは恩恵あり憐憫ある者にましませば汝らこれに起かへるにおいては面を汝らに背けたまはじと 10 かくのごとく飛脚エフライム、マナセの國にいりて邑より邑に行めぐりて遂にゼブルンまで至りしが人衆これを嘲り笑へり 11 但しアセル、マナセおよびゼブルンの中より身を卑くしてエルサレムに來りし者もあり 12 またユダに於ては神その力をいだしして人々に心を一にせしめ王と牧伯等がエホバの言に依て傳へし命令を之に行はしむ 13 斯りしかば二月にいたりて民酔いれぬパンの節をおこなはんとて多くエルサレムに來り集れりその會はなはだ大なりき 14 彼等すなはち起てエルサレムにある諸の壇を取のぞきまた一切の香壇を取のぞきてこれをキデロン川に投すとす 15 二月の十四日に逾越節の物を宰れり是において祭司等およびレビ人は自ら恥ぢ身を潔めてエホバの室に燔祭を携へきたり 16 神の人モーセの律法に循ひ例に依て各々その所に立ち而して祭司等レビ人の手より血を受けて灑げり 17 時に會衆の中に未だ身を潔めざる者多かりければレビ人その潔からざる一切の人々に代りて逾越節の物を宰りてエホバに潔め献ぐ 18 また衆多の民すなはちエフライム、マナセ、イツサカル、ゼブルンより來りし衆多の者未だ身を潔むる事をせずその書録されし所に違ひて逾越節の物を食へり是をもてヒゼキヤこれがために祈りて云ふ 19 恵ふかきエホバよ凡そその心を傾けて神を求めその先祖の神エホバを求むる者は假令聖所の潔齋に循はざるとも願くは是を赦したまへと 20 エホバ、ヒゼキヤに聽て民を醫したまへり 21 エルサレムにきたれるイスラエルの子孫は大なる喜悅をいだきて七日の間酔いれぬパンの節をおこなへり又レビ人と祭司は日々にエホバを讚美し高聲の樂を奏してエホバを頌へたり 22 ヒゼキヤ、エホバの奉事に善通じを一切のレビ人を深く勞らふ斯人衆酬恩祭を献げその先祖の神エホバに感謝して七日のあひだ節の物を食へり 23 かくて又全會あひ議りて更に七日を守らんと決め喜悅をいだきてまた七日を守れり 24 時にユダの王ヒゼキヤは牡牛一千羊七千を會衆に餽り又牧伯等は牡牛一千羊一萬を會衆に餽り祭司もまた衆く身を潔めたり 25 ユダの全會衆および祭司レビ人ならびにイスラエルより來れる全會衆およびイスラエルの地より來れる異邦人とユダに住む異邦人みな喜べり 26 かくエルサレムに大なる喜悅ありきイスラエルの王ダビデの子ソロモンの時より以來かくのごとき事エルサレムに在ざりしなり 27 この時祭司レビ人起て民を祝しけるにその言聽れその祈禱エホバの聖き住所なる天に達せり

Chapter 31

1この事すべて終りしかば其處に在しイスラエル人みなユダの邑々に出ゆき柱像を碎きアシラ像を斫たふしユダとベニヤミンの全地より崇邱と祭壇を崩し絶ちエフライム、マナセにも及ぼして遂にまつたく之を毀ち而してイスラエルの子孫おのその邑々に還りて己の産業にいたれり 2 ヒゼキヤ祭司およびレビ人の班列を定めその班列にしたがひて各々にその職を行はしむ即ち祭司とレビ人をして燔祭および酬恩祭を献げしめエホバの營の門において奉事をなし感謝をなし讚美をなさしめ 3 また己の財産の中より王の分を出して燔祭のためにす即ち朝夕の燔祭および安息日朔日節會などの燔祭のために之を出してエホバの律法に記さるる如くす 4 彼またエルサレムに住む民に祭司とレビ人にその分を與へんことを命ずしかれらをしてエホバの律法に身を委ねしめんとてなり 5 其命令の傳はるや否やイスラエルの子孫穀物油蜜ならびに田野の諸の産物の初を多く獻げまた一切の物の什一を夥多しく携へきたる 6 ユダの邑々に住るイスラエルとユダの子孫もまた牛羊の什一ならびにその神エホバに納むべき聖物の什一を携へきたりてこれを積疊ぬ 7 三月に之を積疊ぬことを始め七月にいたりて之を終り 8 ヒゼキヤおよび牧伯等きたりて其積疊ねたる物を見エホバとその民イスラエルを祝せり 9 ヒゼキヤ人に問尋ねければ 10 ザドクの家より出し祭司の長アザリヤ彼に應へて言けるは民エホバの室に禮物を携ふることを始めしより以來我儕飽までに食ひしがその餘れる所はなはだ多しエホバその民をめぐみたまひたればなりその餘れる所かくのごとく夥多しと 11 ヒゼキヤ、エホバの家内に室を設くることを命じければ則ちこれを設け 12 忠實にその禮物什一および奉納物を携へいれりレビ人コナニヤこれを主どりその兄弟シメイこれに副ふ 13 アヒエル、アザヤ、ナハテ、アサヘル、エレモテ、ヨザパテ、エリエル、イスマキヤ、マハテ、ベナヤ等ヒゼキヤ王および神の室の宰アザリヤの命に依りコナニヤ及びその兄弟シメイの手下につきてこれが監督者となる 14 東の門を守る者レビ人エムナの子コレレムに献ぐる誠意よりの禮物を司どりてエホバの献納物および至聖物を領つ 15 その手につく者はエデン、ミニヤミン、エシユア、シマヤ、アマリヤおよびシカニヤみな祭司の邑々に居てその職を盡しその兄弟に班列に依て之を領つ大小ともに均し 16 此外にまた凡て名簿に載たる男子三歳以上にしてエホバの室に入りその班列にしたがひて日々の職分を盡し擔任の勤務を爲すところの者に之を領つ 17 またその宗家にしたがひて名簿に載られその班列にしたがひて擔任の事を執行ふところの祭司および二十歳以上のレビ人 18 ならびに名簿に載たるその小き者その妻その男子そ

の女子などに盡く之を領つ會中すべて然り即ち彼等は潔白忠實にその職を盡せり 19 また邑々の郊地に居るアロンの子孫たる祭司等のためには邑ごとに人を名指し選び祭司の中の一の男およびレビ人の中の名簿に載せたる一切の者にその分を予へしむ 20 ヒゼキヤ、ユダ全國に斯のごとく爲し善事正事忠實なる事をその神エホバの前に行へり 21 凡てその神の室の職務につき律法につき誠命につきて行ひ始めてその神を求めし工は悉く心をつくして行ひてこれを成就たり

Chapter 32

1ヒゼキヤが此等の事を行ひ且つ忠實なりし後アツスリヤの王セナケリブ來りてユダに入り堅固なる邑々にむかひて陣を張り之を攻取んとす 2 ヒゼキヤ、セナケリブの既に来りエルサレムに攻むかはんとするを見 3 その牧伯等および勇士等と謀りて邑の外なる一切の泉水を塞がんとす彼等これを助く 4 衆多の民あつまりて一切の泉水および國の中を流れわたる漢河を塞ぎていひけるはアツスリヤの王等來りて水を多く得ば豈で可らんやと 5 ヒゼキヤまた力を強くし破れたる石垣をことごとく建なほして之を戌樓まで築き上げその外にまた石垣をめぐらシダビデの邑のミ口を堅くし戈盾を多く造り 6 軍長を多く民の上に立て邑の門の廣場に民を集めてこれを努ひて言ふ 7 汝ら心を強くし且勇めアツスリヤの王のためにも彼とともなる群衆のためにも懼るる勿れ懼く勿れ我らとともなる者は彼とともなる者より多きぞかし 8 彼とともなる者は肉の腕なり然れども我らとともなる者は我らの神エホバにして我らを助け我らに代りて戦かひたまふべしと民はユダの王ヒゼキヤの言に安んず 9 此後アツスリヤの王セナケリブその全軍をもてラキシを攻圍み居りて臣僕をエルサレムに遣はしてユダの王ヒゼキヤおよびエルサレムにをる一切のユダ人に告めて云く 10 アツスリヤの王セナケリブかく言ふ汝ら何を待みてエルサレムに閉籠りをるや 11 ヒゼキヤ我らの神エホバ、アツスリヤの王の手より我らを救ひ出したまはんとて汝らを浚かし汝らをして饑渴て死しめんとするに非ずや 12 此ヒゼキヤはすなはちエホバの諸の崇邱と祭壇を取のぞきユダとエルサレムとに命じて汝らは唯一の壇の前にて崇拜を爲しその上に香を焚べしと言し者にあらずや 13 汝らは我およびわが先祖等が諸の國の民に爲したる所を知らざるか其等の國々の民の神少許にてその國をわが手より救ひ取ることを得しや 14 わが先祖等の滅ぼし盡せし國民の諸の神の中誰か己の民をわが手より救ひ出すことを得し者あらんや然れば汝らの神いかでか汝らをわが手より救ひ出すことを得ん 15 然れば斯ヒゼキヤに欺かるる勿れ浚かざる勿れまた彼を信する勿れ何の民何の國の神もその民を我手または我父祖の手より救

Chapter 33

ひ出すことを得ざりしなれば況て汝らの神いかでか我手より汝らを救ひ出すことを得んと 16 セナケリブの臣僕等この外にも多くエホバ神およびその僕ヒゼキヤを誹り 17 セナケリブまた書をかきおくりてイスラエルの神エホバを嘲りかつ誹り諸國の民の神々その民をわが手より救ひいださざりし如くヒゼキヤの神もその民をわが手より救ひ出さじと云ふ 18 彼ら遂に大聲を擧げユダ語をもて石垣の上なるエルサレムの民に語ひ之を威しかつ擡せり是は邑を取んとてなり 19 斯かれらはエルサレムの神を論ずること人の手の作なる地上の民の神々を論ずるがごとくせり 20 是によりてヒゼキヤ王およびアモツの子預言者イザヤともに祈禱て天に呼はりければ 21 エホバ天の使一箇を遣はしてアツスリヤ王の陣營にある一切の大勇士および將官軍長等を絶しめたまへり斯りしかば王面を赧らめて己の國に還りけるがその神の家にいりし時其身より出たる者等劍をもて之を其處に弑せり 22 是のごとくエホバ、ヒゼキヤとエルサレムの民をアツスリヤの王セナケリブの手および諸人の手より救ひだし四方において之を守護たまへり 23 是において衆多の人獻納物をエルサレムに携へきたりてエホバに奉りまた財寶をユダの王ヒゼキヤに餽れり此後ヒゼキヤは萬國の民に尊び見らる 24 當時ヒゼキヤ病て死んとせしがエホバに祈りければエホバこれに告をなし之に休養を賜へり 25 然るにヒゼキヤその蒙むりし恩に酬ゆることをせずして心に高ぶりければ震怒これに臨まんとしたまふユダとエルサレムに臨まんとせしが 26 ヒゼキヤその心に高慢を悔て身を卑くしエルサレムの民も同じく然したるに因てヒゼキヤの世にはエホバの震怒かれらに臨まざりき 27 ヒゼキヤは富と貴を極め府庫を造りて金銀寶石香物櫃および各種の寶貴き器物を蔵め 28 また倉庫を造りて穀物酒油などの産物を蔵め園を造りて種々の家畜を置き牢を造りて羊の群を置き 29 また許多の邑を設けかつ牛羊を夥多し有り是は神貨財を甚だ多くこれに賜ひしが故なり 30 このヒゼキヤまたギホンの水の上の源を塞ぎてこれを下より眞直にダビデの邑の西の方に引り斯ヒゼキヤはその一切の工を善なし就たり 31 但しバビロンの君等が使者を遣はしてこの國にありし奇蹟を問しめたる時は神かれを棄おきたまへり是はその心に有ところの事を盡く知んがために之を試みたまへるなり 32 ヒゼキヤのその餘の行爲およびその徳行はユダとイスラエルの列王紀の書の中なるアモツの子預言者イザヤの默示の中に記さる 33 ヒゼキヤその先祖等と偕に寝りたればダビデの子孫の墓の中なる高き處にこれを葬りユダの人々およびエルサレムの民みな厚くその死を送り其子マナセこれに代りて王となる

1 マナセは十二歳の時に即きエルサレムにて五十五年の間世を治めたり 2 彼はエホバの目に惡と觀たまふことを爲しイスラエルの子孫の前よりエホバの逐はらひたまひし國人の行ふところの憎むべき事に倣へり 3 即ちその父ヒゼキヤの毀ちたりし崇邱を改め築き諸のバアルのために壇を設けアシラ像を作り天の衆群を拝みて之に事へ 4 またエホバが我名は永くエルサレムに在べしと宣まひしエホバの室の内に數箇の壇を築き 5 天の衆群のためにエホバの室の兩の庭に壇を築き 6 またベンヒノムの谷にてその子女に火の中を通らせかつ占トを行ひ魔術をつかひ禁厭を爲し憑鬼者とト筮師を取用ひなどしてエホバの目に惡と視たまふ事を多く行ひてその震怒を惹起せり 7 彼またその作りし偶像を神の室に安置せり神此室につきてダビデとその子ソロモンに言たまひし事あり云く我この室と我がイスラエルの諸の支派の中より選びたるエルサレムとに我名を永く置ん 8 彼らも我が凡て命ぜし事すなはちモーセが傳へし一切の律法と法度と例典を謹みて行はば我が汝らの先祖のために定めし地より我これが足を重てうつさじと 9 マナセかくユダとエルサレムの民とを迷はして惡を行はしめたり其状イスラエルの子孫の前にエホバの滅ぼしたまひし異邦人よりも甚だし 10 エホバ、マナセおよびその民を論したまひしかども聽ことをせざりき 11 是をもてエホバ、アツスリヤの王の軍勢の諸將をこれに攻らせたまひて彼等つひにマナセを鉤にて擡へ之を柵械に繋ぎてバビロンに曳ゆけり 12 然るに彼患難に罹るにおよびてその神エホバを和めその先祖の神の前に大に身を卑くして 13 神に祈りければその祈禱を容れその懇願を聽きこれをエルサレムに携へかへりて再び國に莅ましめたまへり是によりてマナセ、エホバは誠に神にいますと知り 14 この後かれダビデの邑の外にてギホンの西の方面なる谷の内に石垣を築き魚門の入口までに及ぼし又オベルに石垣を環らして甚だ高く之を築き上げユダの一切の堅固なる邑に軍長を置き 15 またエホバの室より異邦の神々および偶像を取除きエホバの室の山とエルサレムとに自ら築きし一切の壇を取のぞきて邑の外に投す 16 エホバの壇を修復ひて酬恩祭および感謝祭をその上に獻げユダに命じてイスラエルの神エホバに事へしめたり 17 然れども民は猶崇邱にて犠牲を獻ぐることを爲り但しその神エホバに而已りき 18 マナセのその餘の行爲その神になせし祈禱およびイスラエルの神エホバの名をもて彼を諭せし先見者等の言はイスラエルの列王の言行録に見ゆ 19 またその祈禱を爲たる事その聽れたる事その諸の罪愆その身を卑くする前に崇邱を築きてアシラ像および刻たる像を立たる處々などはホザイの言行録の中に記さる 20 マナセその先祖とともに寝りたれば之を

その家に葬れり其子アモンこれに代りて王となる 21 アモンは二十二歳の時に即きエルサレムにて二年の間世を治めたり 22 彼は其父マナセの爲しごとくエホバの目に惡と觀たまふ事を爲り即ちアモンその父マナセが作りたる諸の刻たる像に犠牲を獻げてこれに事へ 23 その父マナセが身を卑くせしごとくエホバの前に身を卑くすることを爲ざりき斯このアモン愈その愆を増たりしが 24 その臣僕黨を結びて之に叛きこれをその家の内に弑せり 25 然るに國の民その黨を結びてアモン王に叛きし者等を盡く誅し而して國の民その子ヨシアを王となしてその後を嗣しむ

Chapter 34

1 ヨシアは八歳の時に即きエルサレムにて三十一年の間世を治めたり 2 彼はエホバの善と觀たまふ事を爲しその父ダビデの道にあゆみて右にも左にも曲らざりき 3 即ち尚若かりしかどもその治世の八年にその父ダビデの神を求むる事を始めその十二年には崇邱アシラ像刻たる像刻たる像などを除きてユダとエルサレムを潔むることを始め 4 諸のバアルの壇を己の前にて毀たしめ其上に立る日の像を新たふしアシラ像および雕像像を打碎きて粉々にし是等に犠牲を獻げし者等の墓の上に其を撒ちらし 5 祭司の骨をその諸の壇の上に焚き斯してユダとエルサレムを潔めたり 6 またマナセ、エフライム、シメオンおよびナフタリの荒たる邑々をも斯なし 7 諸壇を毀ちアシラ像および諸の雕像を微塵に打碎きイスラエル全國の日の像を盡く研たふしてエルサレムに歸りぬ 8 ヨシアその治世の十八年にいたりて己に國と殿とを潔めりその神エホバの家を修繕はしめんとてアザリヤの子シャパンの知事マアセヤおよびヨアハズの子史官ヨアを遣せり 9 彼ら祭司の長ヒルキヤの許に至りてエホバの室に入し金を交せり是は門守のレビ人がマナセ、エフライムおよび其餘の一切のイスラエル人ならびにユダとベニヤミンの人およびエルサレムの民の手より斂めたる者なり 10 やがてエホバの室を監督するところの工師等の手にこれを交しければ彼等エホバの室にて操作ところの工人にこれを交して室を繕ひ修めしむ 11 即ち木匠および建築者に之を交しユダの王等が壞りたる家々のために琢石および骨木を買しめ梁木をとのはしむ 12 その人々忠實に操作けりその監督者はメラリの子孫たるヤハテ、オバデヤおよびコハテの子孫たるゼカリヤ、メシユラムなどのレビ人なりき彼等すなはち之を主どる又樂器を弄ぶに精巧なるレビ人凡て之に伴なふ 13 彼等亦荷を負ものを監督し種々の工事に操作ところの諸の工人をつかさどり別のレビ人書記となり役人となり門守となれり 14 エホバの室にいりし金を取いだすに當りて祭司ヒルキヤ、モーセの傳へしエホバの律法の書を見いだせり 15 ヒルキヤ是において書記官シャパン

にきて言けるは我エホバの室にて律法の書を見いだせりと而してヒルキヤその書をシャパンに付しければ 16 シャパンその書を王の所に持ゆき王に復命まうして言ふ僕等その手に委ねられし所を盡く爲し 17 エホバの室にありし金を打あけて之を監督者の手および工人の手に交せりと 18 書記官シャパン亦王に告て祭司ヒルキヤ我に一の書を交せりと言ひシャパンそれを王の前に讀けるに 19 王その律法の言を聞て衣服を裂り 20 而して王ヒルキヤとシャパンの子アヒカムとミカの子アブドンと書記官シャパンと王の内臣アサヤとに命じて言ふ 21 汝ら往てこの見當りし書の言につきて我の爲またイスラエルとユダに遺れる者等のためにエホバに問へ我らの先祖等はエホバの言を守らず凡て此書に記されたる所を行ふことを爲ざりしに因てエホバ我等に大なる怒を斟ぎ給ふべければなりと 22 是においてヒルキヤおよび王の人々シャルムの妻なる女預言者ホルダの許に往りシャルムはハルハスの子なるテクワの子にして衣裳を守る者なり時にホルダはエルサレムの第二の邑に住をれり彼等すなはちホルダに斯と語りしかば 23 ホルダこれに答へけるはイスラエルの神エホバかく言たまふ汝らを我に遣はせる人に告よ 24 エホバかく言たまふユダの王の前に讀し書に記されたる諸の呪詛に循ひて我この處と此に住む者に災害を降さん 25 其は彼ら我を棄て他の物に香を焚きおのが手にて作れる諸の物をもて我怒を惹起さんとしたればなりこの故にわが震怒この處に斟ぎて滅ざるべし 26 されど汝らを遣はしてエホバに問しむるユダの王には汝ら斯いふべしイスラエルの神エホバかく言たまふ汝が聞る言につきては 27 汝此處と此にすむ者を責る神の言を聞し時に心やさしくして神の前に於て身を卑くし我前に身を卑くし衣服を裂て我前に泣きたれば我も汝に聽りとエホバ宣まふ 28 然ば我汝をして汝の先祖等に列ならしめん汝は安んじに墓に歸す事を得べし汝は我が此處と此に住む者に降すところの諸の災害を目に見る事あらじと彼等即ち王に復命まうしめ 29 是において王人を遣はしてユダとエルサレムの長老をことごとく集め 30 而して王エホバの室に上りゆけりユダの人々エルサレムの民祭司レビ人及び一切の民大より小にいたるまでことごとく之にともなふ王すなはちエホバの室に見あたりし契約の書の言を盡く彼らの耳に讀聞せ 31 而して王己の所に立ちてエホバの前に契約を立てエホバにしたがひて歩み心を盡し精神を盡してその誠命と證詞と法度を守り此書に記されたる契約の言を行はんと言ひ 32 エルサレムおよびベニヤミンの有ゆる人々をみな之に加はせりたりエルサレムの民すなはちその先祖の神にまします御神の契約にしたがひて行へり 33 かくてヨシア、イスラエルの子孫に屬する一切の地より憎むべき者を盡く取のぞきイスラエルの有ゆる人をしてその神エホバに事まつらしめたりヨシアの世にある日の間は彼ら

その先祖の神エホバに従ひて離れざりき

Chapter 35

1茲にヨシア、エルサレムにおいてエホバに逾越節を行はんとし正月の十四日に逾越の物を宰らしめ2祭司をしてその職を執行はせ之を勵してエホバの室の務をなさしめ3またエホバの聖者となりてイスラエルの衆を誨ふるレビ人に言ふ汝らイスラエルの王ダビデの子ソロモンが建たる家に聖契約の匱を放け再び肩に擔ふこと有ざるべし然ば今汝らの神エホバおよびその民イスラエルに事ふべし4汝らまたイスラエルの王ダビデの書およびその子ソロモンの書に本づきて父祖の家に循がひその班列に依て自ら準備をなし5汝らの兄弟なる民の人々の宗家の区分に循ひて聖所に立ち之にレビ人の宗族の分缺ること無らしむべし6汝ら逾越の物を宰り身を潔め汝らの兄弟のために準備をなしモーセが傳へしエホバの言のごとく行ふべしと7ヨシアすはち羔羊および羔山羊を民の人々に饒る其數三萬また牡牛三千を饒る是みな王の所有の中より出して其處に居る一切の人のために逾越の祭物となせるなり8その牧伯等も民と祭司とレビ人に誠意より與ふ所ありまた神の室の長等ヒルキヤ、ゼカリヤ、エヒエルも綿羊二千六百牛三百を祭司に與へて逾越の祭物と爲す9またレビ人の長たる人々すなはちコナニヤおよびその兄弟シマヤ、ネタンエル並にハシヤビヤ、アイエル、ヨザバデなども綿羊五千牛五百をレビ人に饒りて逾越の祭物となす10是のごとく献祭の事備はりぬれば王の命にしたがひて祭司等はその擔任場に立ちレビ人はその班列に循がひ居り11やがて逾越の物を宰りければ祭司その血をこれが手より受け洒げりレビ人その皮を剥り12かくて燔祭の物を移して民の人々の父祖の家の区分に付してエホバに獻げしむモーセの書に記されたるが如し其牛に行ふところも亦是のごとし13而して例規のごとくに逾越の物を火にて炙りその他の聖物を鍋釜鼎などに煮て一切の民の人々に奔配れり14かくて後かれら自身のためと祭司等のために備ふ其はアロンの子孫たる祭司等は燔祭と脂を獻げて夜に入ればなり是に因て斯レビ人自分のためとアロンの子孫たる祭司等のために備ふるなり15アサフの子孫たる謳歌者等はダビデ、アサフ、ヘマンおよび王の先見者アドトンの命にしたがひてその擔任場に居り門を守る者等は門々に居てその職務を離るるに及ばざりき其はその兄弟たるレビ人これがために備へたればなり16斯のごとく其日エホバの献祭の事ことごとく備はりければヨシア王の命にしたがひて逾越節を行ひエホバの壇に燔祭を獻げたり17即ち其處に来れるイスラエルの子孫その時逾越節を行ひ七日の間酔いれぬパンの節を行へり18預言者サムエルの日より以來イスラエルにて是のごとく

に逾越節を行ひし事なし又イスラエルの諸王の中にはヨシアが祭司レビ人ならびに来りあつまれるユダとイスラエルの諸人およびエルサレムの民とともに行ひし如き逾越節を行ひし者一人もあらず19この逾越節はヨシアの治世の十八年に行ひしなり20是のごとくヨシア殿をととのへし後エジプトの王ネコ、ユフラテの邊なるカルケミシを攻撃んとて上り來りけるにヨシアこれを禦がんとて出往り21是においてネコ使者をかれに遣はして言ふユダの王よ是にあに汝の與る所ならんや今日は汝を攻んとには非ず我敵の家を攻んとするなり神われに命じて急がしむ神われとともにあり汝神に逆ふことを罷よ恐らくは彼なんぢを滅ぼしたまはんと22然るにヨシア面を轉じて去ことを肯はず却てこれと戦はんとて服装を變へ神の口より出しネコの言を聽いれずしてメギドンの谷に到りて戦ひけるが23射手の者等ヨシア王に射中たれば王その臣僕にむかひて我を扶け出せ我太瘼を負ふと云り24是においてその臣僕等かれをその車より扶けおろし其引せたる次の車に乗てエルサレムにつれゆきけるが遂に死たればその先祖の墓にこれを葬りぬユダとエルサレムみなヨシアのために哀しめり25時にエレミヤ、ヨシアのために哀歌を作れり謳歌男謳歌女今日にいたるまでその哀歌の中にヨシアの事を述べイスラエルの中に之を例となせりその詞は哀歌の中に書さる26ヨシアのその餘の行爲そのエホバの律法に録されたる所にしたがひて爲し德行27およびその始終の行爲などはイスラエルとユダの列王の書に記さる

Chapter 36

1是において國の民ヨシアの子エホアハズを取りエルサレムにてその父にかはりて王とならしむ2エホアハズは二十三歳の時位に即きエルサレムにて三月が間世を治めけるが3エジプトの王エルサレムにて彼を廢し且銀百タラント金一タラントの罰金を國に課せり4而してエジプトの王ネコ彼の兄弟エリアキムをもてユダとエルサレムの王となして之が名をエホヤキムと改めその兄弟エホアハズを執へてエジプトに曳ゆけり5エホヤキムは二十五歳の時位に即きエルサレムにて十一年の間世を治めその神エホバの惡と視たまふことを爲り6彼の所にバビロンの王ネブカデネザル攻のぼりバビロンに曳ゆかんとして之を柵城に繫けり7ネブカデネザルまたエホバの家の器具をバビロンに携へゆきてバビロンにあるその宮にこれを蔵めたり8エホヤキムのその餘の行爲その行ひし憎むべき事等およびその心に企みし事などはイスラエルとユダの列王の書に記さる其子エホヤキンこれに代りて王となる9エホヤキンは八歳の時位に即きエルサレムにて三月と十日の間世を治めエホバの惡と視たまふ事を爲けるが10歳の歸るにおよびてネブカデネザル王人を遣はして彼とエ

ホバの室の貴き器皿とをバビロンに携へいたらしめ之が兄弟ゼデキヤをもてユダとエルサレムの王となせり11ゼデキヤは二十一歳の時位に即きエルサレムにて十一年の間世を治めたり12彼はその神エホバの惡と視たまふ事を爲しエホバの言を傳ふる預言者エレミヤの前に身を卑くせざりき13ネブカデネザル彼をして神を指て誓はしめたりしにまた之にも叛けり彼かくその項を強くしその心を剛愎にしてイスラエルの神エホバに立かへらざりき14祭司の長等および民もまた凡て異邦人の中にある諸の憎むべき事に倣ひて太甚しく大に罪を犯しエホバのエルサレムに聖め置たまへるその室を汚せり15其先祖の神エホバその民とその住所とを恤むが故に頻りにその使者を遣はして之を諭したまひしに16彼ら神の使者等を嘲けり其御言を輕んじその預言者等を罵りたればエホバの怒その民にむかひて起り遂に救ふべからざるに至りし17即ちエホバ、カルデア人の王を之に攻きたらせたまひければ彼その聖所の室にて劍をもて少者を殺し童男をも童女をも老人をも白髮の者をも憐まざりき皆ひとしく彼の手に付したまへり18神の財室の諸の大小の器皿エホバの室の貨財王とその牧伯等の貨財など凡て之をバビロンに携へゆき19神の室を焚きエルサレムの石垣を崩しその中の宮殿を盡く火にて焚きその中の貴き器を盡く壞なへり20また劍をのがれし者等はバビロンに攜れゆきて彼處にて彼とその子等の臣僕となりベルシヤの國の興るまで斯てありき21是エレミヤの口によりて傳はりしエホバの言の應ぜんがためなりき斯この地遂にその安息を享たり即ち是はその荒るの間安息して終に七十年満ぬ22ベルシヤ王クロスの元年に當りエホバ曩にエレミヤの口によりて傳へたまひしその聖言を成んとてベルシヤ王クロスの心を感動したまひければ王すなはち宣命をつたへ詔書を出して徧く國中に告示して云く23ベルシヤ王クロスカク言ふ天の神エホバ地上の諸國を我に賜へりその家をユダのエルサレムに建ることを我に命ず凡そ汝らの中もしその民たる者あらばその神エホバの助を得て上りゆけ

エズラ記

Chapter 1

1ベルシヤ王クロスの元年に當りエホバ曩にエレミヤの口によりて傳へたまひしその聖言を成んとてベルシヤ王クロスの心を感動したまひければ王すなはち宣命をつたへ詔書を出して徧く國中に告示して云く2ベルシヤ王クロスカク言ふ天の神エホバ地上の諸國を我に賜へりその家をユダのエルサレムに建ることを我に命ず3凡そ汝らの中もしその民たる者あらばその神の助を得てユダの

エルサレムに上りゆきエルサレムなるイスラエルの神エホバの室を建ることをせよ彼は神にましませり4その民にして生存れる者等の寓りる處の人々は之に金銀貨財家畜を予へて助くべしその外にまたエルサレムなる神の室のために物を誠意よりささぐべしと5是にユダとベニヤミンの宗家の長祭司レビ人など凡て神にその心を感動せられし者等エルサレムなるエホバの室を建んとて起おこれり6その周圍の人々みな銀の器黄金貨財家畜および寶物を予へて之に力をそへこの外にまた各種の物を誠意より獻げたり7クロス王またネブカデネザルが前にエルサレムより携へ出して己の神の室に納めたりしエホバの室の器皿を取りだせり8即ちベルシヤ王クロス庫官ミテレダテの手をもて之を取りだしてユダの牧伯セシバザルに數へ交付せり9その數は是のごとし金の盤三十銀の盤一千小刀二十九10金の大罎三十、二等の銀の大罎四百十その他の器具一千11金銀の器皿は合せて五千四百ありしがセシバザル俘虜人等をバビロンよりエルサレムに將て上りし時に之をことごとく携さへ上れり

Chapter 2

1往昔バビロンの王ネブカデネザルに擄へられバビロンに遷されたる者のうち俘囚をゆるされてエルサレムおよびユダに上りおのおの己の邑に歸りし此州の者は左の如し2是皆セルバベル、アシユア、ネヘミヤ、セラヤ、レエラヤ、モルデカイ、ビルシヤン、ミスバル、ビッグワイ、レホム、バアナ等に隨ひ來れり其イスラエルの民の人数は是のごとし3パロシの子孫二千百七十二人4シパテヤの子孫三百七十二人5アラの子孫七百七十五人6エシユアとヨアブの族たるバハテモアブの子孫二千八百十二人7エラムの子孫千二百五十四人8ザツトの子孫九百四十五人9ザツカイの子孫七百六十二人10パニの子孫六百四十二人11ペバイの子孫六百二十三人12アズガデの子孫千二百二十二人13アドニカムの子孫六百六十六人14ビッグワイの子孫二千五十六人15アデンの子孫四百五十四人16ヒゼキヤの家のアテルの子孫九十八人17ベザイの子孫三百二十三人18ヨラの子孫百十二人19ハシユムの子孫二百二十三人20ギバルの子孫九十五人21ベテレヘムの子孫百二十三人22ネトバの人五十六人23アナトデの人百二十八人24アズマウテの民四十二人25キリアテヤリム、ケビラおよびベエロテの民七百四十三人26ラマおよびゲバの民六百二十一人27ミクシヤの人百二十二人28ベテルおよびアイの人二百二十三人29ネボの民五十二人30マグビシの民百五十六人31他のエラムの民千二百五十四人32

ハリムの民三百二十人 33 ロド、ハ
 デデおよびオノの民七百二十五人 3
 4 エリコの民三百四十五人 35
 セナアの民三千六百三十人 36 祭司
 はエシユアの家のエダヤの子孫九百
 七十三人 37
 インメルの子孫千五十二人 38
 パシュルの子孫千二百四十七人 39
 ハリムの子孫千十七人 40 レビ人は
 ホダヤの子等エシユアとカデミエル
 の子孫七十四人 41 謳歌者はアサフ
 の子孫百二十八人 42 門を守る者の
 子孫はシャルムの子孫アテルの子孫
 タルモンの子孫アツクブの子孫ハテ
 タの子孫シヨバイの子孫合せて百三
 十九人 43 ネテ二人はチハの子孫ハ
 スパの子孫タバオテの子孫 44 ケロ
 スの子孫シアハの子孫パンドの子孫
 45 レバナの子孫ハガバの子孫アツク
 ブの子孫 46 ハガブの子孫シャルマ
 イの子孫ハナンの子孫 47 ギデルの
 子孫ガハルの子孫レアヤの子孫 48
 レデンの子孫ネコダの子孫ガザム
 の子孫 49 ウザの子孫パセアの子孫ベ
 サイの子孫 50 アスナの子孫メウニ
 ムの子孫ネフシムの子孫 51 パクブ
 クの子孫ハクバの子孫ハルホルの子
 孫 52 バツリテの子孫メヒダの子孫
 ハルシヤの子孫 53 パルコスの子孫
 シセラの子孫テマの子孫 54 ネチア
 の子孫ハテバの子孫等なり 55 ソロ
 モンの僕たりし者等の子孫すなはち
 ソタイの子孫ハッソペレテの子孫ペ
 リダの子孫 56 ヤアラの子孫ダルコ
 ンの子孫ギデルの子孫 57 シパテヤ
 の子孫ハッテルの子孫ボケレテハッ
 ゼバイムの子孫アミの子孫 58 ネテ
 二人とソロモンの僕たりし者等の子
 孫とは合せて三百九十二人 59 また
 テルメラ、テルハレサ、ケルブ、ア
 ダンおよびインメルより上り来れる
 者ありしがその宗家の長とその血統
 とを示してイスラエルの者なるを明
 かにすることを得ざりき 60 是すな
 はちデラヤの子孫トビヤの子孫ネコ
 ダの子孫にして合せて六百五十二人
 61 祭司の子孫たる者の中にハバヤ
 の子孫ハッコツの子孫バルジライの
 子孫ありバルジライはグレアデ人バ
 ルジライの女を妻に娶りてその名を
 名りしなり 62 是等の者譜系に載た
 る者等の中におのが名を尋ねたれど
 も在ざりき是の故に汚れたる者とし
 て祭司の中より除かれたり 63 テルシ
 ヤタは之に告てウリムとトンミムを
 帯る祭司の興るまでは至聖物を食ふ
 べからずと云り 64 會衆あはせて四
 萬二千三百六十人 65
 この外にその僕婢七千三百三十七人
 謳歌男女二百人あり 66
 その馬七百三十六匹
 その騾二百四十五匹 67
 その駱駝四百三十五匹
 驢馬六千七百二十匹 68 宗家の長數
 人エルサレムなるエホバの室にいた
 るにおよびエホバの室をその本の
 處に建んとて物を誠意より獻げたり
 69 即ちその力にしたがひて工事のた
 めに庫を納めし者は金六萬一千ダ
 リク銀五千斤祭司の衣服百襲なりき
 70 祭司レビ人民等謳歌者門を守る者
 およびネテ二人等その邑々に住み一
 切のイスラエル人の邑々に住り

Chapter 3

1 イスラエルの子孫かくその邑
 々に住居しが七月に至りて民一人の
 ごとくにエルサレムに集まり 2 是
 に於てヨザダクの子エシユアとその
 兄弟なる祭司等およびシャルテルの
 子ゼルバベルとその兄弟等立おこり
 てイスラエルの神の壇を築けり是神
 の人モーセの律法に記されたる所に
 循ひてその上に燔祭を獻げんとてな
 りき 3
 彼等は壇をその本の處に設けたり
 是國々の民を懼れしが故なり而して
 その上に燔祭をエホバに獻け朝夕
 にこれを獻ぐ 4 またその録されたる
 所に循ひて結茅節を行ひ毎日の分を
 按へて例に照し數のごとくに日々の
 燔祭を獻けたり 5 是より後は常の燔
 祭および月朔とエホバの一切のきよ
 き節會とに用ゐる供物ならびに人の
 誠意よりエホバにたてまつる供物を
 獻ぐることをす 6 即ち七月の一日よ
 りして燔祭をエホバに獻ぐることを
 始めけるがエホバの殿の基礎は未だ
 置ざりき 7 是において石工と木工に
 金を交付したシンドンとツロの者に
 食物飲物および油を與へてベルシヤ
 の王クロスの允准にしたがひてレバ
 ノンよりヨツパの海に香柏を運ばし
 めたり 8 斯てエルサレムより神の室
 に歸りたる次の年の二月にシャルテ
 ルの子ゼルバベル、ヨザダクの子エ
 シユアおよびその兄弟たる他の祭司
 レビ人など凡て俘囚をゆるされてエ
 ルサレムに歸りし者等を始め二十歳
 以上のレビ人を立てエホバの室の工
 事を監督せしむ 9 是に於てユダの子
 等なるエシユアとその子等および兄
 弟カデミエルとその子等齊しく立
 て神の家の工人を監督せりヘナダデ
 の子等およびその子等と兄弟等のレ
 ビ人も然り 10 かくて建築者エホバ
 の殿の基礎を置る時祭司等禮服を衣
 て喇叭を執りアサフの子孫たるレビ
 人鏡鉞を執りイスラエルの王ダビデ
 の例に循ひてエホバを讚美す 11 彼等
 班列にしたがひて諸共に歌を誦ひて
 エホバを讚めかつ頌へエホバは思ふ
 かく其矜恤は永遠にたゆむことな
 ればなりと云りそのエホバを讚美す
 る時に民みな大聲をあげて呼はれり
 エホバの室の基礎を据ればなり 12
 されど祭司レビ人宗家の長等の中に
 以前の室を見たりし老人ありけるが
 今この室の基礎をその目の前に置る
 を見て多く聲を放ちて泣きまた喜悅
 のために聲をあげて呼はる者も多
 かりき 13 是をもて人衆民の歡こび
 て呼はる聲と民の泣く聲とを聞わ
 くることを得ざりきそは民大聲に呼
 び叫べればその聲遠くまで聞えわ
 たりたればなり

Chapter 4

1 茲にユダとベニヤミンの敵た
 る者等夫俘囚より歸り來りし人タイ
 スラエルの神エホバのために殿を建
 ると聞き 2 乃ちゼルバベルと宗家
 の長等の許に至りて之に言けるは我
 儕をして汝等と共に之を建しめよ
 我らは汝等と同じく汝らの神を求む

アッスリヤの王エサルハドンが我儕
 を此に携へのぼりし日より以來我
 らはこれに犠牲を獻ぐるなりと 3 然
 るにゼルバベル、エシユアおよびそ
 の餘のイスラエルの宗家の長等これ
 に言ふ汝らは我らの神に室を建るこ
 とに與るべからず我儕獨りみづから
 イスラエルの神エホバのために建る
 ことを爲べしはベルシヤの王クロス
 王の我らに命ぜし所なりと 4 是に於
 てその地の民ユダの民の手を弱ら
 せてその建築を妨げ 5 之が計る所を
 敗らんために讓官に賄賂して之に
 敵せしむベルシヤ王クロスの世に
 ある日よりベルシヤ王ダリヨスの
 治世まで常に然り 6 アハシユエ
 ロスの治世すなはち其治世の初に
 彼ら表を上りてユダとエルサレム
 の民を誣訟へたり 7 またアルタ
 シヤスタの世にビシラム、ミテレ
 ダテ、タビエルおよびその餘の同
 僚同じく表をベルシヤの王アル
 タシヤスタに上つれりその書の文
 はスリヤの文字にて書きスリヤ語
 にて陳述たる者なりき 8 方伯レ
 ホム書記官シムシヤイ書をアル
 タシヤスタ王に書おくりてエルサ
 レムを誣ゆ左のごとし 9 即ち方
 伯レホム書記官シムシヤイおよび
 その餘の同僚デナ人アパルサテ
 カイ人タルペライ人アパルサイ
 人アルケロイ人バビロン人シ
 ユシヤ人デハウエラマイ人 10
 ならびに其他の民すなはち大臣
 オスナバルが移してサマリアの
 邑および河外ふのその他の地に置
 し者等云々 11 其アルタシヤスタ
 王に上りし書の稿は是なく云く
 河外ふの汝の僕等云々 12 王知
 たまへ汝の所より上り來りしユ
 ダヤ人エルサレムに到りてわれ
 らの中にいりかの背き悖る惡き
 邑を建なほし石垣を築きあげそ
 の基礎を固うせり 13 然ば王
 いま知たまへ若この邑を建て石
 垣を築きあげば汝ら必す貢賦租
 稅税金などを納じ然すれば終に
 王等の不利とならん 14 そも
 そも我らは王の鹽を食む者なれば
 王の輕んぜらるるを見るに忍び
 ず茲に人を遣はし王に奏聞す 15
 列祖の記録の書を稽へたまへ必
 ずその記録の書の中において此
 邑は背き悖る邑にして諸王と諸
 州とに害を加へし者なるを見そ
 の中に古來叛逆の事ありしを
 知たまふべし此邑の滅ぼされし
 は此故に緣なり 16 我ら王に
 奏聞す若この邑を建て石垣を
 築きあげばなんぢは之がために
 河外ふの領分をうしなふなるべ
 しと 17 王すなはち方伯レホム
 書記官シムシヤイこの餘サマ
 リアおよび河外ふのほかの處に
 住る同僚に答書をおくりて云く
 平安あれ云々 18 汝らが我儕
 におくりし書をば我前に讀解し
 めたり 19 我やがて詔書を下
 して稽考しめしに此邑の古來起
 りて諸王に背きし事その中に反
 亂謀叛のありし事など詳悉なり
 20 またエルサレムには在昔大
 なる王等ありて河外ふをことごと
 く治め貢賦租稅税金などを己に
 納しめたる事あり 21 然ば汝
 ら詔言を傳へて其人々を止め我
 が詔言を下すまで此邑を建ること
 無らしめよ 22 汝ら慎め之を爲
 ことを忽にする勿れ何ぞ損害を
 増て王に害を及ぼすべけんやと
 23 アルタシヤスタ王の書の稿を
 レホ

ム及び書記官シムシヤイとその同
 僚の前に讀あげれば彼等すなはち
 エルサレムに奔ゆきてユダヤ人に
 就き腕力と權威とをもて之を止め
 たり 24 此をもてエルサレムなる
 神の室の工事止みぬ即ちベルシヤ
 王ダリヨスの治世の二年まで止
 めたりき

Chapter 5

1 爰に預言者ハガイおよびイド
 の子ゼカリヤの二人の預言者ユダ
 とエルサレムに居るユダヤ人に向
 ひてイスラエルの神の名をもて預
 言する所ありければ 2 シャルテ
 ルの子ゼルバベルおよびヨザダク
 の子エシユア起あがりてエルサレ
 ムなる神の室を建ることを始む
 神の預言者等これと共に在て之
 を助く 3 その時に河外の總督
 タテナイといふ者セタルボズ
 ナイおよびその同僚とともにそ
 の所に來り誰が汝らに此室を建
 て此石垣を築きあぐることを命
 ぜしやと斯言ひ 4 また此建物
 を建る人々の名は何といふやと
 斯これに問り 5 然るにユダヤ
 人の長老等の上にはその神の目
 そぎゐたれば彼等これを止むる
 こと能はずして遂にその事をダ
 リヨスに奏してその返答の來る
 を待ち 6 河外ふの總督タテナ
 イおよびセタルボズナイとその
 同僚なる河外ふのアルサカイ
 人がダリヨス王に上まつりし書
 の稿は左のごとし 7 即ち其上
 まつりし書の中に書ししたる所
 は是のごとし云く願くはダリ
 ヨス王に大なる平安あれ 8 王
 知たまへ我儕ユダヤ州に往てか
 の大神の室に至り視しに巨石を
 もて之を建て材木を組て壁を作
 り居り其工事おほいに抄どりて
 その手を下すところ成ざる無し
 9 是に於て我儕その長老等に問
 てこれに斯いへり誰が汝らに
 此室を建てこの石垣を築きあ
 ぐることを命ぜしやと 10 我
 儕またその首長たる人々の名を
 書して汝に奏聞せんがためにそ
 の名を問り 11 時に彼等かく我
 らに答へて言り我儕は天地の神
 の僕にして年久しき昔に建お
 かれし殿を再び建るなり是は素
 イスラエルの大なる王其の建築
 きたる者なりしが 12 我らの
 父等天の神の震怒を惹起せし
 りて縁てつひに之をカルデヤ
 人バビロンの王ネブカデネザ
 ルの手に付したまひければ彼
 この殿を毀ち民をバビロンに
 擄へゆけり 13 然るにバビロ
 ンの王クロスのこの室を建べし
 との詔言を下したまへり 14 然
 のみならずエルサレムの殿より
 ネブカデネザルが取いだしてバ
 ビロンの殿に携へいれし神の室
 の金銀の器皿もクロス王これを
 バビロンの殿より取いだし其
 立たる總督セシバザルと名くる
 者に之を付し 15 而して彼に
 言けらく是等の器皿を取り往て
 之をエルサレムの殿に携へいれ
 神の室をその本の處に建よと
 16 是において其セシバザル來り
 てエルサレムなる神の室の石礎
 を置たりき其時よりして今に至
 るまで之を建つつありしが猶
 いまだ竣らざるなりと 17 然
 ば今王もし善となされば請ふ
 御膝下バビロンにある所の王
 の寶藏を査べ

たまひて神のこの室を建べしとの詔言のクロス王より出しや否を稽へ而して王此事につきて御旨を我らに諭したまえ

Chapter 6

1是に於てダリヨス王詔言を出しバビロンにて寶物を蔵むる所の文庫に就て査べ稽しめしに2メデア州の都城アクメタにて一の巻物を得たりその内に書しるせる記録は是のごとし3クロス王の元年にクロス王詔言を出せり云くエルサレムなる神の室の事につきて論すその犠牲を獻ぐる所なる殿を建てその石礎を堅く置系其室の高を六十キユビトにし其潤を六十キユビトにし 4

巨石三行新木一行を以せよ其費用は王の家より授くべし5またネカデネザルがエルサレムの殿より取いだしてバビロンに携へきたりし神の室の金銀の器皿は之を還してエルサレムの殿に持ちかめし神の室に置てその故の所にあらしむべしと6然ば河外ふの總督タテナイおよびセタルボズナイとその同僚なる河外ふのアルバルサカイ人汝等これに遠ざかるべし 7 神のその室の工事を妨ぐる勿れユダヤ人の牧伯とユダヤ人の長老等に神のその家を故の處に建しめよ8我また詔言を出し其神の家を建ることにつきて汝らが此ユダヤ人の長老等に爲べきことを示す王の財寶の中すなはち河外ふの租税の中より迅速に費用をその人々に與へよその工事を滞ほらしむる勿れ9又その需むる物即ち天の神にたてまつる燔祭の小牛牡羊および羔羊ならびに麥鹽酒油など凡てエルサレムにをる祭司の定むる所に循ひて日々怠慢なく彼等に與へ 10 彼らをして馨しき香の犠牲を天の神に獻ぐることを得せしめ王とその子女の生命のために祈ることを得せしめよ 11 かつ我詔言を出す誰にもせよ此言を易る者あらば其家の梁を抜きとり彼を擧て之に釘んその家はまた之がために厠にせらるべし 12 凡そ之を易へまたエルサレムなるその神の室を毀たんとて手を出す王あるひは民は彼處にその名を留め給ふ神ながはくはこれを倒したまへ 我ダリヨス詔言を出せり

迅速に之を行なへ 13 ダリヨス王かく論しければ河外ふの總督タテナイおよびセタルボズナイとその同僚迅速に之を行なへり 14 ユダヤ人の長老等すなはち之を建て預言者ハガイおよびイドの子ゼカリヤの預言に由て之を成就たり彼等イスラエルの神の命に循ひてクロス、ダリヨスおよびペルシヤ王アルタシヤスタの詔言に依て之を建竣ぬ 15 ダリヨス王の治世の六年アダル月の三日にこの室成り 16 是に於てイスラエルの子孫祭司レビ人およびその餘の俘擄人よこびて神のこの室の落成禮を行なへり 17 即ち神のこの室の落成禮において牡牛一百牡羊二百羔羊四百を獻げまたイスラエルの支派の數にしたがひて牡山羊十二を獻げてイスラエル全體のために罪祭となし 18

祭司をその分別にしたがひて立てレビ人をその班列にしたがひて立てエルサレムに於て神に事へしむ凡てモーセの書に書しるしたるが如し 19 斯て俘囚より歸り來りし人々正月の十四日に逾越節を行へり 20 即ち祭司レビ人共に身を潔めて皆潔くなり一切俘囚より歸り來りし人々のため其兄弟たる祭司等のため又自己のために逾越の物を宰れり 21 擄はれゆきて歸り來しイスラエルの子孫および其國の異邦人の汚穢を棄て是等に附てイスラエルの神エホバを求むる者等すべて之を食ひ 22 喜びて七日の間酔いれぬパンの節を行へり是はエホバかれらを喜ばせアッスリヤの王の心を彼らに向はせ彼をしてイスラエルの神にまします神の家の工事を助けさせたまひしが故なり

Chapter 7

1是等の事後ペルシヤ王アルタシヤスタの治世にエズラといふ者ありエズラはセラヤの子セラヤはアザリヤの子アザリヤはヒルキヤの子2ヒルキヤはシャルムの子シャルムはザドクの子ザドクはアヒトブの子3アヒトブはアマリヤの子アマリヤはアザリヤの子アザリヤはメラヨテの子4メラヨテはゼラヒヤの子ゼラヒヤはウジの子ウジはブツキの子5ブツキはアビシユアの子アビシユアはピネハスの子ピネハスはエレアザルの子エレアザルは祭司の長アロンの子なり 6 此エズラ、バビロンより上り來り彼はイスラエルの神エホバの授けたまひしモーセの律法に精しき學士なり其神エホバの手これが上にありしに因てその求むる所を王ことごとく許せり7アルタシヤスタ王の七年にイスラエルの子孫および祭司レビ人謳歌者門を守る者ネテニ人など多くエルサレムに上れり8王の七年の五月にエズラ、エルサレムに到れり9即ち正月の一日にバビロンを出たちて五月の一日にエルサレムに至る其神のよき手これが上にありしに因てなり 10 エズラは心をこめてエホバの律法を求め之を行てイスラエルの中に法度と例規とを教へたりき 11 エホバの誠命の言に精しく且つイスラエルに賜ひし法度に明かなる學士にて祭司たるエズラにアルタシヤスタ王の與へし書言は是のごとし 12 諸王の王アルタシヤスタの神の律法の學士なる祭司エズラに論す願くは全云く 13 我詔言を出す我國の内にをるイスラエルの民およびその祭司レビ人の中凡てエルサレムに往んと志す者は皆なんどと偕に往べし 14 汝はおのが手にある汝の神の律法に照してユダとエルサレムの模様とを察せんために王および七人の議官に遣はされて往くなり 15 且汝は王とその議官がエルサレムに宮居するところのイスラエルの神のために誠意よりささぐる金銀を携へ 16 またバビロン全州にて汝が獲る一切の金銀および民と祭司とがエルサレムなる其神の室のために誠意よりする禮物を携さふ 17 然ば汝その金を

もて牡牛牡羊羔羊およびその素祭と灌祭の品を速に買ひエルサレムにある汝らの神の室の壇の上にこれを獻ぐべし 18 また汝と汝の兄弟等その餘れる金銀をもて爲んと欲する所あらば汝らの神の旨にしたがひて之を爲せ 19 また汝の神の室の奉事のために汝が賜はりし器皿は汝これをエルサレムの神の前に納めよ 20 その外汝の神の室のために需むる所あらば汝の用ひんとする所の者をことごとく王の府庫より取て用ふべし 21 我や我アルタシヤスタ王河外ふの一切の庫官に詔言を下して云ふ天の神の律法の學士祭司エズラが汝らに需むる所は凡てこれを迅速に爲べし 22 即ち銀は百タラント小麦は百石酒は百バテ油は百バテ鹽は量なかるべし 23 天の神の室のために天の神の命ずる所は凡て謹んで之を行なへしからずば王とその子等との國に恐くは震怒のぞまん 24 かつ我儕なんどらに論す祭司レビ人謳歌者門を守る者ネテニ人および神のその室の役者などには貢賦租税金などを課すべからず 25 汝エズラ汝の手にある汝の神の智慧にしたがひて有司および裁判人を立て河外ふの一切の民すなはち汝の神の律法を知る者等を盡く裁判しめよ 26 汝らまた之を知ざる者を教へよ 27 凡そ汝の神の律法および王の律法を行はざる者をば迅速にその罪を定めて或は殺し或は追放ち或はその貨財を沒收し或は獄に繋ぐべし 28 我らの先祖の神エホバは讃べき哉斯王の心にエルサレムなるエホバの室を飾る意を起させ 28 また王の前とその議官の前と王の大臣の前にて我に矜恤を得させたまへり我神エホバの手わが上にありしに因て我は力を得イスラエルの中より首領たる人々を集めて我とともに上らしむ

Chapter 8

1アルタシヤスタ王の治世に我とともにバビロンより上り來りし者等の宗家の長およびその系譜は左のごとし2ピネハスの子孫の中にてはゲルシヨム、イタルの子孫の中にてはダニエル、ダビデの子孫の中にてはハットシ3シカニヤの子孫の中バロシの子孫の中にてはゼカリヤ彼と偕にありて名簿に載られたる男子百五十人4パハテマエの子孫の中にてはゼラヒヤの子エリヨエナイ彼と偕なる男二百人5シカニヤの子孫の中にてはヤハジエルの子彼と偕なる男三百人6アデンの子孫の中にてはヨナタンの子エベデ彼ともなる男五十人7エラムの子孫の中にてはアサリヤの子アサヤ彼と偕なる男七十人8シバテヤの子孫の中にてはミカエルの子ゼバデヤ彼ともなる男八十人9ヨハブの子孫の中にてはエヒエルの子オバデヤ彼ともなる男二百十八人 10 シロミテの子孫の中にてはヨシバアの子彼ともなる男百六十人 11 ペバイの子孫の中にてはペバイの子ゼカリヤ彼と偕なる男二十八人 12 アズガデの子孫の中にてはハッカタンの子

ヨハナン彼ともなる男百十人 13 アドニカムの子孫の中の後なる者等あり其名をエリペレテ、ユエル、シマヤといふ彼らと偕なる男六十人 14 ビグワイの子孫の中にてはウタイおよびザブデ彼等ともなる男七十人 15 我かれらをアハワに流るる所の河の邊に集めて三日が間かして天幕を張居たりしが我民と祭司とを聞せしにレビの子孫一人も其處に居ざりければ 16 すなはち人を遣てエリエゼル、アリエル、シマヤ、エルナタン、ヤリブ、エルナタン、ナタン、ゼカリヤ、メシユラムなどいふ長たる人々を招きまた教誨を施す所のヨヤリブおよびエルナタンを招けり 17 而して我カシピアといふ處の長イドの許に彼らを出し遣せり即ち我カシピアといふ處にをるイドとその兄弟なるネテニ人に告ぐべき詞を之が口に授け我等の神の室のために役者を我儕に携へ來れと言けるが 18 我らの神よく我儕を助けたまひて彼等つひにイスラエルの子レビの子マヘリの子孫イシケルを我らに携へ來り又セレビヤといふ者およびその子等と兄弟十八人 19 ハシヤビヤならびにメマリの子孫のエサヤおよびその兄弟とその子等二十人を携へ 20 またネテニ人すなはちダビデとその牧伯等がレビ人に事へしむるために設けたりしネテニ人二百二十人を携へ來り此等の者は皆その名を掲げられたり 21 斯て我かしこなるアハワの河の邊にて斷食を宣傳へ我儕の神の前にて我儕身を卑し我らと我らの小き者と我らの諸の所有のために正しき途を示されんことを之に求む 22 其は我儕さきに王に告て我らの神は己を求むる者を凡て善く助けまた己を棄る者にはその權能と震怒とをあらはしたまふと言しに因て我道路の敵を防ぎて我儕を護るべき歩兵と騎兵とを王に請ふを差ぢたればなり 23 かくてこのことを我ら斷食して我儕の神に求めけるに其祈禱を容たまへり 24 時に我祭司の長十二人即ちセレビヤ、ハシヤビヤおよびその兄弟十人等之とともに擇び 25 金銀および器皿すなはち王とその議官とその牧伯と彼處の一切のイスラエル人とが我らの神の室のために獻げたる奉納物を量りて彼らに付せり 26 その量りて彼らの手に付せし者は銀六百五十タラント銀の器百タラント金百タラントなりき 27 また金の大聲二十あり一千ダリクに當るまた光り輝く精銅の器二箇ありその貴きこと金のごとし 28 而して我かれらに言り汝等はエホバの聖者なり此器皿もまた聖し又この金銀は汝らの先祖の神エホバに奉まつりし誠意よりの禮物なり 29 汝等エルサレムに至りてエホバの家の室に於て祭司レビ人の長等およびイスラエルの宗家の首等の前に量るまで之を同ひ守るべしと 30 是に於て祭司およびレビ人その金銀および器皿をエルサレムなる我らの神の室に携へゆかんとて其重にしたがひて之を受取れり 31 我ら正月の十二日にアハワの河邊を出たちてエルサレム赴きけるが我らの神の手を我らの上におき我らを救ひて敵の手また路に伏て窺

ふ者の手に陥らしめたまはざりき 3
2 我儕すなはちエルサレムに至りて
三日かしこに居しが 33 四日にいた
りて我らの神の室においてその金銀
および器皿をウリヤの祭司メレモ
テの手に量り付せりビネハスの子エ
リアザル彼に副ふ又エシユアの子ヨ
ザバデおよびピンヌイの子ノアデヤ
の二人のレビ人かれらに副ふ 34 即
ちその一々の重と數を調べ其重をこ
ごとく其時かきとめたり 35 俘囚
の人々のその俘囚をゆるされて歸り
來し者イスラエルの神に燔祭を獻げ
たり即ちイスラエル全體にあたる牡
牛十二を獻げまた牡羊九十六羔羊七
十七罪祭の牡山羊十二を獻げたり是
みなエホバにたてまつりし燔祭なり
36 彼等王の勅諭を王の代官と河外ふ
の總督等に示しければその人々民を
助けて神の室を建しむ

Chapter 9

1 是等の事の成し後牧伯等我許
にきたりて言ふイスラエルの民祭司
およびレビ人は諸國の民とはなれず
してカナン人ヘテ人ペリジ人エビス
人アンモニ人モアブ人エジプト人ア
モリ人などの中なる憎むべき事を行
へり 2 即ち彼等の女子を自ら娶りま
たその男子に娶れば聖種諸國の民と
相雜れり牧伯たる者長たる者さきだ
ちてこの愆を犯せり 3 我この事を
聞て我衣と袍を裂き頭髮と鬚を抜き
驚き呆れて坐せり 4 イスラエルの神
の言を戦慄おそる者はみな俘囚よ
り歸り來し者等の愆の故をもて我許
に集まりしが我は晩の供物の時まで
驚きつつ茫然として坐しぬ 5 晩の供
物の時にいたり我その苦行より起て
衣と袍とを裂たるまま膝を屈めてわ
が神エホバにむかひ手を舒て 6 言け
るは我神よ我はわが神に向ひて面を
擧るを羞て赧らむ其は我らの罪積り
て頭の上に出で我らの愆重りて天に
達すればなり 7 我らの先祖の日より
今日にいたるまで我らは大なる愆を
身に負り我らの罪の故によりて我儕
と我らの王等および祭司たちは國々
の王等の手に付され劍にかけられ擧
へゆかれ掠められ面に恥をかづられ
り 今日のごとし 8 然るに今われら
の神エホバ暫く恩典を施こして逃れ
存すべき者を我らの中に殘し我ら
をしてその聖所にうち釘のごとくな
らしめしめて我らの神われらの目を
明しし我らをして奴隷の中にありて
少く生る心地せしめたまへり 9 そも
そも我らは奴隷の身なるがその奴隷
たる時にも我らの神われらを忘れず
反てペルシヤの王等の目の前にて我
らに憐憫を施こして我らに活る心地
せしめ我らの神の室を建しめ其破壊
を修理はしめユダとエルサレムにて
我らに石垣をたまふ 10 我らの神よ
己に是のごとくなれば我ら今何と言
のべんや我儕はやくも汝の命令を棄
たればなり 11 汝かつて汝の僕なる
預言者等によりて命じて宣へり云く
汝らが往て獲んとする地はその各地
の民の汚穢により其憎むべき事によ
りて汚れたる地にして此極より彼極
までその汚穢盈わたるなり 12 然ば

汝らの女子を彼らの男子に與ふる勿
れ彼らの女子をなんぢらの男子に娶
る勿れ又何時までかれらの爲に平
安をも福祿をも求むべからず然すべ
ば汝ら旺盛にしてその地の佳物を食
ふことを得永くこれを汝らの子孫に
傳へて産業となさしむることを得ん
と 13 我らの惡き行により我らの大
なる愆によりて此事すべて我儕に臨
みたりしが汝我らの神はわれらの罪
よりも軽く我らを罰して我らの中に
是のごとく人を遣したまひたれば 14
我儕再び汝の命令を破りて是等の
憎むべき行ある民と縁を結ぶべけん
や汝我らを怒りて終に滅ぼし盡し遣
る者も逃るる者も無にいたらしめた
まはざらんや 15
イスラエルの神エホバよ汝は義し即
ち我ら逃れて遣ること今日のごとし
今我ら罪にまとはれて汝の前にあり
是がために一人として汝の前に立こ
とを得る者なきなり

Chapter 10

1 エズラ神の室の前に泣伏して
禱りかつ懺悔しをる時に男女および
兒女はなはだしくイスラエルの中
より集ひて彼の許に聚り來り
すべての民はいたく泣かなしめり 2
時にエラムの子エヒエルの子シカニ
ヤ答へてエズラに言ふ我らはわれら
の神に對ひて罪を犯し此地の民なる
異邦人の婦女を娶り然ながら此事
につきてはイスラエルに今なほ望あ
り 3 然ば我儕わが主の教誨にしたが
ひ又我らの神の命令に戦慄く人々の
教誨にしたがひて斯る妻をことごと
く出し之が産たる者を去んといふ契
約を今われらの神に立てん而して律
法にしたがひて之を爲べし 4
起よ是事は汝の主どる所なり我ら汝
を助くべし心を強くして之を爲せと
5 エズラやがて起あがり祭司の長等
レビ人およびイスラエルの人衆をし
て此言のごとく爲んと誓はしめたり
彼ら乃ち誓へり 6 かくてエズラ神の
家の前より起いでエリアシブの子
ヨハナンの室に入しが彼處に至りて
もパンを食ず水を飲ざりき是は俘囚
より歸り來りし者の愆を憂へたれば
なり 7 斯てユダおよびエルサレムに
遍ねく宣て俘囚の人々に盡く示して
云ふ
汝ら皆エルサレムに集まるべし 8 凡
そ牧伯等と長老等の諭言にしたがひ
て三日の内に來らざる者は皆その一
切の所有を取あげられ俘擯人の會よ
り黜けらるべしと 9 是においてユダ
とベニヤミンの人々みな三日の内に
エルサレムに集まり是は九月にして
恰もその月の廿日なりき民みな神
の室の前なる廣場に坐して此事のた
めまた大雨のために震ひ懼けり 10
時に祭司エズラ起て之に言けるは汝
らは罪を犯し異邦の婦人を娶りてイ
スラエルの愆を増り 11 然ば今なん
ぢらの先祖の神エホバに懺悔して
その御旨を行へり婦人とはなるべしと
12 會衆みな聲をあげて答へて言ふ
汝が我らに諭せるごとく我儕かなら
ず爲べし 13 然ど民は衆し又今は大

雨の候なれば我儕外に立こと能はず
且これは一日二日の事業にあらず其
は我らこの事について大に罪を犯し
たればなり 14 然ば我らの牧伯等こ
の全會衆のために立れよ凡そ我儕の
邑の内にもし異邦の婦人を娶りし者
あらば皆定むる時に來るべし又その
各々の邑の長老および裁判人これに
伴ふべし斯して此事を成ば我らの神
の烈しき怒つひに我らを離るるあら
んと 15 その時立てこれに逆ひし者
はアサヘルの子ヨナタンおよびテク
ワの子ヤハジア而已メシユラムおよ
びレビ人シャベタイこれを贊く 16
俘囚より歸り來りし者つひに然なし
祭司エズラおよび宗家の長數人その
宗家にしたがひて名指して撰ばれ十
月の一日より共に坐してこの事を査
べ 17 正月の一日に至りてやうやく
異邦の婦人を娶りし人々を盡く査べ
畢れり 18 祭司の徒の中にて異邦の
婦人を娶りし者は即ちヨザダクの子
エシユアの子等およびその兄弟マア
セヤ、エリエゼル、ヤリブ、ゲダリ
ヤ 19 彼らはその妻を出さんといふ
誓をなし己に愆を獲たればとて牡羊
一匹をその愆のために獻げたり 20
インメルの子孫ハナニおよびゼバデ
ヤ 21 ハリムの子孫マアセヤ、エリ
ヤ、シマヤ、エヒエル、ウジヤ 22
バシユルの子孫エリオエナイ、マア
セヤ、イシマエル、ネタンエル、ヨ
ザバデ、エラサ 23 レビ人の中にて
はヨザバデ、シメイ、ケラヤ（即ち
ケリタ）ペタヒヤ、ユダ、エリエゼ
ル 24 謳歌者の中にてはエリアシブ
門を守る者の中にてはシャルム、テ
レムおよびウリ 25 イスラエルの中
にてはパロシの子孫ラミヤ、エジ
ア、マルキヤ、ミヤミン、エリアザ
ル、マルキヤ、ベナヤ 26 エラムの子
孫マッタニヤ、ゼカリヤ、エヒエル
、アブデ、エレモテ、エリヤ 27 ザ
ットの子孫エリオエナイ、エリアシ
ブ、マッタニヤ、エレモテ、ザバデ
、アジザ 28 ベバイの子孫ヨハナ
ン、ハナニヤ、ザバイ、アテライ 29
パニの子孫メシユラム、マルク、ア
ダヤ、ヤシュブ、シャル、エレモテ
30 パハテモアブの子孫アデナ、ケラ
ル、ベナヤ、マアセヤ、マッタニヤ
、ベザレル、ピンヌイ、マナセ 31
ハリムの子孫エリエゼル、エシヤ、
マルキヤ、シマヤ、シメオン 32
ベニヤミン、マルク、シマリヤ 33
ハシュムの子孫マッテナイ、マツタ
タ、ザバデ、エリパレテ、エレマイ
、マナセ、シメイ 34 パニの子孫マ
アダイ、アムラム、ウエル 35
ベナヤ、ベデヤ、ケルヒ 36
ワニヤ、メレモテ、エリアシブ 37
マッタニヤ、マッテナイ、ヤアス 3
8 パニ、ピンヌイ、シメイ 39
シレミヤ、ナタン、アダヤ 40 マク
ナデバイ、シャシヤイ、シャライ 4
1 アザリエル、シレミヤ、シマリヤ
42 シャルム、アマリヤ、ヨセフ 43
ネボの子孫エイエル、マッタテヤ、
ザバデ、ゼビナ、イド、ヨエル、ベ
ナヤ 44
是みな異邦の婦人を娶りし者なりそ
の婦人の中には子女を産し者もあり
き

ネヘミヤ記

Chapter 1

1 ハカリヤの子ネヘミヤの言詞 / 第
二十年キスレウの月我シユシヤンの
都にありける時 2 わが兄弟の一人な
るハナニ數人の者とともニユダより
來りしかば我俘虜人の遺餘なる夫の
逃れかへりシユダヤ人の事および
エルサレムの事を問たづねしに 3 彼ら
我に言けるは俘虜人の遺餘なる夫の
州内の民は大なる患難に遭ひ凌辱に
遭ふ又エルサレムの石垣は打崩され
其門は火に焚たりと 4 我この言を聞
坐りて泣き數日の間哀しみ斷食し天
の神に祈りて言ふ 5 天の神エホバ大
なる畏るべき神己を愛己の誠命を
守る者にむかひて契約を保ち恩恵を
施こしたまふ者よ 6 ねがはくは耳を
傾むけ目を開きて僕の祈禱を聽いた
まへ我いま汝の僕なるイスラエルの
子孫のために日夜なんぢの前に祈
り我儕イスラエルの子孫が汝にむか
ひて我己し罪を懺悔す誠に我も我父
の家も罪を犯せり 7 我らは汝にむか
ひて大に惡き事を行ひ汝の僕モーセ
に汝の命じたまひし誠命をも法度
をも例規をも守らざりき 8 請ふ汝の僕
モーセに命じたまひし言を憶ひたま
へ其言に云く汝ら若罪を犯さば我汝
らを國々に散さん 9 然れども汝らも
し我にたちかへり我誠命を守りてこ
れを行なはば暇令逐れゆきて天の涯
にをるとも我そことより汝等にあつめ
我名を住はせんとて撰びし處にきた
らしめんと 10 そもそも是の者は
汝が大なる能力と強き手をもて贖ひ
たまひし汝の僕なんぢの民なり 11
主よ請ふ僕の祈禱および汝の名を畏
むことを悦ぶ汝の僕等の祈禱に耳
を傾けたまへ願くは今日僕を助けて
此人の目の前に憐憫を得させたまへ
この時我は王の酒人なりき

Chapter 2

1 茲にアルタシヤスタ王の二十
年ニサンの月王の前に酒のいでし時
我酒をつぎて王にたてまつれり我は
今まで王の前にて憂色を帶しこと有
ざりき 2 王われに言けるは汝は疾病
も有ざるに何とて面に憂色を帶るや
是他ならず心に憂ふる所あるなりと
是において我甚だ大に懼れたりしが
3 遂に王に奏して曰ふ願くは王長壽
かれ我が先祖の墓の地たるその邑は
荒蕪その門は火にて焚たれば我いか
で顔に憂色を帶ざるを得んやと 4 王
われに向ひて然らば汝何をなさんと
願ふやと言ければ我すなはち天の神
に祈りて 5 王に言けるは王もし之を
善としたまひ我もし汝の前に恩を得
たる者なりせば願くはユダにあるわ
が先祖の墓の邑に我を遣はして我に
これを建起さしめたまへと 6 時に后
妃も傍に坐しをりしが王われに言け
るは汝が往てをる間は何程なるべき
や何時頃歸りきたるやと王かく我を
遣はすことを善としければ我期を定

めて奏せり7而して我また王に言けるは王もし善としたまはば請ふ河外心の總督等に與ふる書を我に賜ひ彼らをして我をユダまで通さしめたまへ8また王の山林を守るアサフに與ふる書を賜ひ彼をして殿に屬する城の門を作り邑の石垣および我が入べき家に用ふる材木を我に授けしめたまへと我神善く我を助けたまひしに因て王これを我に允せり9是に於て我河外心の總督等に詣りて王の書をこれに付せり王は軍長數人に騎兵をそへて我に伴なはせたり10時にホロ二人サンバラテおよびアンモ二人奴隷トビヤこれを聞きイスラエルの子孫の安寧を求むる人來れりとて大に憂ふ11我ついにエルサレムに到りて彼處に三日居りける後12夜中に起いでたり數人の者われに伴なふ我はわが神がエルサレムのために爲せんとて我心に入たまひし所の事を何人にも告しらせず亦我が乗る一匹の畜の外には畜を引つれざりき13我すなはち夜中に立いでて谷の門を通り龍井の對面を經實門に至りてエルサレムの石垣を閱せしにその石垣は頽れをりその門は已に火に焚てありき14かくて又前みて泉の門にゆき王の池にいたりしに我が乗る畜の通るべき處なかりき15我亦その夜の中に深川に沿て進みのぼりて石垣を觀めぐり頓て身を反して谷の門より歸りいりぬ16然るに牧伯等は我が何處に往しか何を爲しかを知らざりき我また未だこれをユダヤ人にも祭司にも貴き人にも方伯等にも其他の役人にも告しらせざりしが17遂に彼らに言けるは汝らの見ごとく我儕の境遇は悪くエルサレムは荒はてその門は火に焚たり來れ我儕エルサレムの石垣を築きあげて再び世の凌辱をうくることなからんと18而して我わが神の善われを助けたまひし事を彼らに告げまた王の我に語りし言詞をも告しらせければ去來起て築かんと云ひ皆奮ひてこの美事を爲んとす19時にホロ二人サンバラテ、アンモ二人奴隷トビヤおよびアラビヤ人ガシムこれを聞て我らを嘲けり我儕を侮りて言ふ汝ら何事をなすや王に叛かんとするなるかと20我すなはち答へて彼らに言ふ天の神われらをして志を得させたまはん故に其僕たる我儕起て築くべし然ど汝らはエルサレムに何の分もなく權理もなく記念もなしと

Chapter 3

1茲に祭司の長エリアシブその兄弟の祭司等とともに起て羊の門を建てて之を聖別てその扉を設け尚も之を聖別てハンメアの成樓に及ぼし又ハナネルの成樓に及ぼせり2その次にはアリコの人々を築き建て其次にはイムリの子ザツクル築き建たり3魚の門はハツセアの子等これを建構へその扉を設けて之に鎖と門を施せり4その次にはハツコツの子ウリヤの子メレモタ修繕をなし其次にはメシザベルの子ベレキヤの子メシユラム修繕をなしその次にはバアナの子ザドク修繕をなし5その次には

テコア人等修繕をなせり但しその貴き族はその主の工事に服せざりき6古門はバセアの子ヨリアダおよびベソデヤの子メシユラムこれを修繕ひ構へその扉を設けて之に鎖と門を施せり7その次にはギベオンメラテヤ、メロノテヤヤドン河外心の總督の管轄に屬するギベオンとミツパの人々等修繕をなせり8その次にはハルハヤの子ウジェルなどの金工修繕をなし其次には製香者ハナニヤなど修繕をなしエルサレムを堅うして石垣の廣き處にまで及べり9その次にはエルサレムの郡の半の知事ホルの子レバヤ修繕をなせり10その次にはハルマフの子エダヤ己の家と相對ふ處を修繕りその次にはハシヤブニヤの子ハツトシ修繕をなせり11ハリムの子マルキヤおよびバハテモアブの子ハシユブも一方を修繕ひまた爐成樓を修繕へり12その次にはエルサレムの郡の半の知事ハロヘシの子シャルムその女子等とともに修繕をなせり13谷の門はハヌン、ザノアの民と偕に之を修繕ひ之を建なほしてその扉を設け之に鎖と門を施したまた糞の門までの石垣一千キユビトを修繕り14糞の門はベテハケレムの郡の半の知事レカブの子マルキヤこれを修繕ひ之を建なほしてその扉を設け之に鎖と門を施せり15泉の門はミツパの郡の知事コロホゼの子シャルンこれを修繕ひ之を建なほして覆ひその扉を設け之に鎖と門を施こしたまた王の園の邊なるシラの池に沿る石垣を修繕てダビデの邑より下るところの階級にまで及ぼせり16その後にはベテズルの郡の半の知事アズブクの子ネヘミヤ修繕をなしてダビデの墓に對ふ處にまで及ぼし堀池に至り勇士宅に至れり17その後にはパニの子レホムなどのレビ人修繕をなし其次にはケイラの郡の半の知事ハシヤビヤその郡の爲に修繕をなせり18その後にはケイラの郡の半の知事ヘナダデの子パワイなどいふ其兄弟修繕をなし19その次にはアシユアの子ミツパの知事エゼル石垣の彎にある武器庫に至る所に對へる部分を修繕ひ20その後にはザバイの子バルク力を調して石垣の彎より祭司の長エリアシブの家の門までの部分を修繕ひ21その次にはハツコツの子ウリヤの子メレモテ、エリアシブの家の門よりエジアシブの家の極までの部分を修繕ひ22その次には窪地の人なる祭司等修繕をなし23その次にはベニヤミンおよびハシユブ己の家と相對ふ處を修繕ひ其次にはアナニヤの子マアセヤの子アザリヤ己の家に近き處を修繕ひ24その次にはヘナダデの子ピンヌイ、アザリヤの家より石垣の彎角までの部分を修繕へり25ウザイの子パラルは石垣の彎に對ふ處および王の上の家より聳え出たる成樓に對ふ處を修繕り是は侍衛の廳に近し其次にはパロシの子ベダヤ修繕をなせり26時にネテニ人オベルに住をりて東の方水の門に對ふ處および聳え出たる成樓に對ふ處まで及べり27その次にはテコア人聳出たる大成樓に對ふところの部分を修繕てオベルの石垣に及ぼせり28馬の門より上は祭

司等おのおのその己の家と相對ふ處を修繕り29その次にはインメルの子ザドク己の家と相對ふ處を修繕ひ其次にはシカニヤの子シマヤといふ東の門を守る者修繕をなし30その次にはシレミヤの子ハナニヤおよびザラフの第六の子ハヌン一方を修繕ひその後にはベレキヤの子メシユラム己の室と相對ふ處を修繕へり31その次には金工の一人マルキヤといふ者ハンミフカデの門と相對ふ處を修繕ひ隅の昇口に至りネテニ人および商人の家に及ぼせり32また隅の昇口と羊の門の間は金工および商人等これを修繕へり

Chapter 4

1茲にサンバラテわれらが石垣を築くを聞て怒り大に憤りてユダヤ人を罵れり2即ち彼その兄弟等およびサマリヤの軍兵の前に語りて言ふ此軟弱しきユダヤ人何を爲や自ら強くせんとするか獻祭をなさんとするか一日に事を終んとするか塵堆の中の石は既に燐たるに之を取出して活きんとするか3時にアンモ二人トビヤその傍にありてまた言ふ彼らの築く石垣は狐上るも圯るべしと4我らの神よ聽たまへ我らは侮らる願くは彼らの出す凌辱をその身の首に歸し彼らを他國に擄はれしめ掠られしめたまへ5彼らの愆を蔽ひたまふ勿れ彼らの罪を汝の前より消去しめたまはざれ其は彼ら築建者の前にて汝の怒を惹おこしたればなり6斯われら石垣を築きけるが石垣はみな己に相連なりてその高さの半にまで及べり其は民心をこめて操作たればなり7然るにサンバラテ、トビヤ、アラビヤ人アンモ二人アシドド人等エルサレムの石垣改修れ其破壊も次第に塞がると聞て大に怒り8皆ともに相結びてエルサレムに攻來らんとしその中に擾亂をおこさんとせり9是において我ら神に祈禱をなしかれたるために日夜守望者を置て之に備ふ10ユダ人は言り荷を負ふ者の力衰へしが上に灰土おびたたくして我ら石垣を築くこと能はずと11我らの敵は言り彼等が知すまた見ざる間に我ら其中に入りて之を殺してその工事を止めんと12又彼らの邊に住るユダヤ人來る時は我らに告て言ふ汝ら我らの所に歸らざるべからずと其事十次にも及べり13是に因て我石垣の後の顯露なる低き處に民を置き劍鎗または弓を持せてその宗族にしたがひて之をそなふ14我觀めぐり起て貴き人々および牧伯等ならびにその餘の民に告て云ふ汝ら彼等のために懼る勿れ主の大にして畏るべきを憶ひ汝らの兄弟のため男子女子のため妻および家のために戦かへよと15我らの敵おのが事の我らに知れたるをききておのが謀計を神に破られたるを聞しによりて我ら皆石垣に歸り各々その工事をなせり16其時より我わが僕半は工事に操作き半は鎗楯弓などを持て鎗を着たり牧伯等はユダの全家の後にありき17石垣を築く者および荷を負ひはこぶ者は各々片手もて工事を爲し片手に武器を

執り18築建者はおのおのその腰に劍を帶て築き建つ又喇叭を吹く者は我傍にあり19我貴き人々および牧伯等ならびにその餘の民に告て云ふ此工事は大にして廣ければ我儕石垣にありて彼此に相離ること遠し20何處にもあれ汝ら喇叭の音のきこゆるを聞ば其處に奔あつまりて我らに就け我らの神われらのために戦ひたまふべしと21我ら斯して工事をなしけるが半の者は東雲の出るより星の現はるまで鎗を持をり22當時われ亦民に言らく皆おのおのその僕とともにエルサレムの中に宿り夜は我らの防守となり晝は工事をつとむべしと23而して我もわが兄弟等もわが僕も我に従がふ防守の人々もその衣服を脱す水を汲に出るにも皆武器を執れり

Chapter 5

1茲に民その妻とともにその兄弟なるユダヤ人にむかひて大に叫べり2或人言ふ我儕および我らの男子女子は多し我ら穀物を得食ふて生ざるべからず3或人は言ふ我らは我らの田畑葡萄園および家をも質となすなり既に饑に迫れば我らに穀物を獲させよ4或は言ふ我らは我らの田畝および葡萄園をもて金を貸て王の租税を納む5然ど我らの肉も我らの兄弟の肉と同じく我らの子女も彼らの子女と同じく我らは男子女子を人に伏従はせて奴隷となす我らの女子の中すでに人に伏従せし者もあり如何とも爲ん方法なし其は我らの田畝および葡萄園は別の人の物となりたればなりと6我は彼らの叫および是等の言を聞て大に怒れり7是において我心に思ひ計り貴き人々および牧伯等を責てこれに言けるは汝らは各々その兄弟より利息を取るなりと而して我かれらの事につきて大會を開き8我らに言けるは我らは異邦人の手に賣れたる我らの兄弟ユダヤ人を我らの力にしたがひて贖へり然るにまた汝等は己の兄弟を賣んとするやいかで之をわれらの手に賣るべけんやと彼らは黙して言なかりき9我また言けるは汝らの爲すところ善らず汝らは我らの敵たる異邦人の誹謗をおもひて我儕の神を畏れつつ事をなすべきに非ずや10我もわが兄弟および僕等も同じく金と穀物とを貸て利息を取とをなす願くは我らこの利息を廢ん11請ふ汝ら今日にも彼らの田畑葡萄園橄欖園および家を彼らに還したまた彼らに貸あたへて金穀物および酒油などの百分の一を取ることを廢よと12彼ら即ち言けるは我ら之を還すべし汝らに何をよもめざらん汝の言のごとく我ら然らずしとは是に於て我祭司を呼び彼らをして此言のごとく行なふといふ誓を立しめたり13而して我わが胸懷を打拂ひて言ふ此言を行はざる者をは願くは神是のごとく凡て打拂ひてその家は我らその業を離れさせたまへ即ちその人は斯打拂はれて空しくなれかしと時に會衆みなアーメンと云てエホバを讚美せり而して民はこの言のごとくに行へり14且また我がユ

ダの地の總督に任せられし時より即ちアルタシヤユタ王の二十年より三十二年まで十二年の間は我もわが兄弟も總督の受べき禄を食ざりき 15 わが以前にありし舊の總督等は民に重荷を負せてパンと酒とを是より取り其外にまた銀四十シケルを取り然のみならずその僕等も亦民を圧せり然ども我は神を畏るに因て然せざりき 16 我は反てこの石垣の工事に身を委ね我儕は何の田地にも買しこと無し我僕は皆かしこに集りて工事をなせり 17 且また我席にはユダヤ人および牧伯等百五十人あり其外にまた我らの周圍の異邦人の中より我らに来れる者等もありき 18 是をもて一日に牛一匹肥たる羊六匹を備へ亦鶏をも許多備へ十日に一回種々の酒を多く備へたり是ありしかどもこの民の役おもきに因て我は總督の受くべき禄を要めざりき 19 わが神よ我が此民のために爲る一切の事を憶ひ仁慈をもて我をあしらひ給へ

Chapter 6

1サンバラテ、トビヤおよびアラビヤ人ガシムならびにその餘の我らの敵我が石垣を築き終りて一の破壊も遭らずと聞り(然どその時は未だ門に扉を設けざりしなり) 2 是においてサンバラテとガシム我に言つかはしけるは來れ我らオノの平野なる某の村にて相會せんとその實は我を害せんと思ひしなり 3 我すなはち使者を彼らに遣はして言らく我は大なる工事をなし居れば下りゆくことを得ずなんぞ工事を離れ汝らの所に下りゆきてその間工事を休まずべけんやと 4 彼ら四次まで是のごとく我に言遣はしけるが我は何時もかくのごとく之に答へたり 5 是においてサンバラテまた五次目にその僕を前のごとく我に遣はせり其手には封ぜざる書を携さふ 6 その文に云く國々にて言傳ふガシムもまた然いふ汝はユダヤ人とともに叛かんとして之がために石垣を築けり而して汝はその王とならんとすとその言ところ是のごとし 7 また汝は預言者を設けて汝の事をエルサレムに宣しめユダに王ありと言しむといひ傳ふ恐くはその事この言のごとく王に聞えん然ば汝いまい來れ我ら共に相議らんと 8 我すなはち彼に言つかはしけるは汝が言るとき事を爲し事なし惟なんぢ之を己の心より作りいだせるなりと 9 彼らは皆われらを懼れしめんとせり彼ら謂らく斯なさは彼ら手弱りて工事を息べければ工事成ざるべしと今ねがはくは我手を強くしたまへ 10 かくて後我メヘタベルの子デラヤの子シマヤの家に往しに彼閉こもり居て言らく我ら神の室に到りて神殿の内に相會し神殿の戸を開おかん彼ら汝を殺さんとて來るべければなり必ず夜のうちに汝を殺さんとて來るべしと 11 我言けるは我ごとく人いきいて逃べけんや我ごとく身にして誰か神殿に入て生命を全うすることを爲んや我は入じと 12 我曉れるに神かれを遣はしたまひしに非ず彼が我にむかひて此預言を説しはトビヤとサンバラ

テ彼に賄賂したればなり 13 彼に賄賂せしは此事のためなり即ち我をして懼れて然なして罪を犯さしめ惡き名を我に負する種を得て我を辱しめんとてなりき 14 わが神よトビヤ、サンバラテおよび女預言者ノアデヤならびにその他の預言者など凡て我を懼れしめんとする者等を憶えてその行爲に報をなしたまへ 15 石垣は五十二日を歴てエルルの月の二十五日に成就せり 16 我らの敵皆これを聞ければ我らの周圍の異邦人は凡て怖れ大に面目をうしなへり其は彼等この工事は我らの神の爲たまひし者なりと曉りたればなり 17 其頃ユダの貴き人々しばしば書をトビヤにおくれりトビヤの書もまた彼らに來れり 18 トビヤはアラの子シカニヤの婿なるをもてユダの中に彼と盟を結べる者多かりしが故なりトビヤの子ヨハナンも亦ベレキヤの子メシユラムの女子を妻に娶りたり 19 彼らはトビヤの善行を我前に語りまた我言を彼に通ぜりトビヤは常に書をおくりて我を懼れしめんとせり

Chapter 7

1石垣を築き扉を設け門を守る者謳歌者およびレビ人を立るにおよびて 2 我わが兄弟ハナニおよび城の宰ハナニヤをしてエルサレムを治めしむ彼は忠信なる人にして衆多の者に超りて神を畏る者なり 3 我かれらに言ふ日の熱くなるまではエルサレムの門を啓くべからず人々の立て守りをる間に門を開させ汝らこれを堅うせよ汝らエルサレムの民を番兵に立て各々にその所を守らしめ各々にその家と相對ふ處を守らしめよと 4 邑は廣くして大なりしかどもその内の民は寡くして家は未だ建ざりき 5 我神はわが心に貴き人々牧伯等および民を集めてその名簿を先らぶる思念を起さしめたまへり我最らに上り來りし者等の系圖の書を得て見にその中に書しるして曰く 6 往昔バビロンの王ネブカデネザルに擄へられバビロンに遷されたる者のうち俘囚をゆるされてエルサレムおよびユダに上りおのおの己の邑に歸りし此州の者は左の如し是皆ゼルバベル、アシユア、ネヘミヤ、アザリヤ、ラアミヤ、ナハマニ、モルデカイ、ビルシヤン、ミスベレテ、ビグワイ、ネホム、パアナ等に隨ひ來れり 7 そのイスラエルの民の人数は是のごとし 8 バロシの子孫二千百七十二人 9 シパテヤの子孫三百七十七人 10 アラの子孫六百五十二人 11 エシユアとヨアブの族たるバハテモアブの子孫二千八百十八人 12 エラムの子孫千二百五十四人 13 ザツトの子孫八百四十五人 14 ザツカイの子孫七百六十人 15 ピンヌイの子孫六百四十八人 16 ペバイの子孫六百二十八人 17 アズガデの子孫二千三百二十二人 18 アドニカムの子孫六百六十七人 19 ビグワイの子孫二千六百六十七人 20 アデンの子孫六百五十五人 21 ヒゼキヤの家のアテルの子孫九十八人 22 ハシユムの子孫三百二十八人 23

ベザイの子孫三百二十四人 24 ハリフの子孫百十二人 25 ギベオンの子孫九十五人 26 ベテレヘムおよびネトバの人百八十八人 27 アナトテの人百二十八人 28 ベテアズマウテの人四十二人 29 キリアテアリウテ、ケビラおよびベエロテの人七百四十三人 30 ラマおよびゲバの人六百二十一人 31 ミクマシの人百二十二人 32 ベテルおよびアイの人百二十三人 33 他のネボの人五百二十人 34 他のエラムの民千二百五十四人 35 ハリムの民三百二十人 36 エリコの民三百四十五人 37 ロド、ハデデおよびオノの民七百二十一人 38 セナアの子孫三千九百三十人 39 祭司はアシユアの家のアダヤの子孫九百七十三人 40 インメルの子孫千五百五十二人 41 パシユルの子孫一千二百四十七人 42 ハリムの子孫一千七十七人 43 レビ人はホデワの子等アシユアとカデミエルの子孫七十四人 44 謳歌者はアサフの子孫百四十八人 45 門を守る者はシャルムの子孫アテルの子孫タルモンの子孫アツクブの子孫ハタタの子孫シヨバイの子孫百三十八人 46 ネテニ人はジハの子孫ハスバの子孫タバオテの子孫 47 ケロスの子孫シアの子孫パドンの子孫 48 レバナの子孫ハガバの子孫サルマイの子孫 49 ハナンの子孫ギデルの子孫ガハルの子孫 50 レアヤの子孫レヂンの子孫ネコダの子孫 51 ガザムの子孫ウザの子孫パセアの子孫 52 ベサイの子孫メウニムの子孫ネフセシムの子孫 53 パクブクの子孫ハクバの子孫ハルホルの子孫 54 バヅリテの子孫メヒダの子孫ハルシヤの子孫 55 バルコスの子孫シセラの子孫テマの子孫 56 ネチアの子孫ハテバの子孫等なり 57 ソロモンの僕たりし者等の子孫は即ちソタイの子孫ソベレテの子孫ペリダの子孫 58 ヤアラの子孫ダルコンの子孫ギデルの子孫 59 シパテヤの子孫ハツテルの子孫ボケレテハツゼバウムの子孫アモンの子孫 60 ネテニ人とソロモンの僕たりし者等の子孫とは合せて三百九十二人 61 またテルメラ、テルハレサ、ケルブ、アドンおよびインメルより上り來れる者ありしがその宗家とその血統とを示してイスラエルの者なるを明かにすることを得ざりき 62 是すなはちデラヤの子孫トビヤの子孫ネコダの子孫にして合せて六百四十二人 63 祭司の中にホバヤの子孫ハツコツの子孫バルジライの子孫ありバルジライはギレアデ人バルジライの女を妻に娶りてその名を名りしなり 64 是等の者系圖に載る者等の中にその籍を尋ねたれども在ざりき是故に汚れたる者として祭司の中より除かれたり 65 テルシヤタ即ち之に告てウリムとトンミムを帶る祭司の興るまでは至聖物を食ふべからずと言り 66 會衆あはせて四萬二千三百六十人 67 この外にその僕婢七千三百三十七人謳歌男女二百四十五人あり 68 その馬七百三十六匹その驢二百四十五匹 69 駱駝四百三十五匹驢馬六千七百二十四匹 70 宗家の長の中工事のために物を納めし人々ありテルシヤ

タは金一千ダリク鉢五十祭司の衣服五百三十襲を施して庫に納む 71 また宗家の長數人は金二萬ダリク銀二千二百斤を工事のために庫に納む 72 その餘の民の納めし者は金二萬ダリク銀二千斤祭司の衣服六十襲なりき 73 かくて祭司レビ人門を守る者謳歌者民等ネテニ人およびイスラエル人すべてその邑々に住りノイスラエルの子孫かくてその邑々に住みりて七月にいたりぬ

Chapter 8

1茲に民みな一人のごとくになりて水の門の前なる廣場に集り學士エズラに請てアホバのイスラエルに命じたまひしモーセの律法の書を携へきたらんことを求めたり 2 この日すなはち七月一日祭司エズラ律法を携へ來りてその集りる男女および凡て聽て了ることを得るところの人々の前に至り 3 水の門の前なる廣場にて曙より日中まで男女および了り得る者等の前にこれを誦めり民みな律法の書に耳を傾く 4 學士エズラこの事のために預て設けたる木の臺の上に立たりしがその傍には右の方にマツタテヤ、シマ、アナヤ、ウリヤ、ヒルキヤおよびマアセヤ立り左の方にベダヤ、ミサエル、マルキヤ、ハシユム、ハシバダナ、ゼカリヤおよびメシユラム立る 5 エズラ一切の民の目の前にその書を開けり(彼一切の民より高きところに立たり)かれが開きたる時に民みな起あがり 6 エズラすなはち大神アホバを祝しければ民みなその手を舉げてアーメン、アーメンと言ひ首を下げ地に俯伏てアホバを拜めり 7 アシユア、バニ、セレビヤ、ヤミン、アツクブ、シヤベタイ、ホデヤ、マアセヤ、ケリタ、アザリヤ、ヨザパテ、ハナン、ペラヤおよびレビ人等民に律法を了らしめたり此日は我らの所に立る 8 彼等その書に就て神の律法を朗かに誦み且その意を解あかしてその誦ところを之に了らしむ 9 時にテルシヤタたるネヘミヤ祭司たる學士エズラおよび民を教ふるレビ人等一切の民にむかひて此日は汝らの神アホバの聖日なり哭くなかれ泣なかれと言ひ其は民みな律法の言を聽て泣たればなり 10 而して彼らに言けるは汝ら去て肥たる者を食ひ甘き者を飲め而してその備をなし得ざる者に之を分ちおくれ此日は我らの主の聖日なり汝ら憂ふることをせざれアホバを喜ぶ事は汝らの力なるぞかしと 11 レビ人も亦一切の民を靜めて言ふ汝ら黙せよ此日は聖きぞかし憂ふる勿れと 12 一切の民すなはち去りて食ひかつ飲み又人に分ちおくりて大なる喜悅をなせり是はその誦きかされし言を了りしが故なり 13 その翌日一切の民の族長等祭司およびレビ人等律法の語を學ばんとて學士エズラの許に集り來り 14 律法を視るにアホバのモーセによりて命じたまひし所を録して云く七月の節會にはイスラエルの子孫茅廬に居るべしと 15 又云く一切の邑々及びエルサレムに布傳へて言べし汝ら山に出ゆき橄

櫓の枝油木の枝烏拈の枝棕櫚の枝および茂れる木の枝を取りたりて録されたるごとくに茅廬を造れと 16 是において民出ゆきて之を取りたり各々その家の屋背の上あるひはその庭あるひは神の室の庭あるひは水の門の廣場あるひはエフライムの門の廣場に茅廬を造れり 17 擲はれゆきて歸り來りし會衆みな茅廬を造りて茅廬に居りヌンの子ヨシユアの日より彼日までイスラエルの子孫おこなひし事なし是をもてその喜悅はなはだ大なりき 18 初の日より終の日までエズラ日々に神の律法の書を誦り人衆七日の間節筵をおこなひ第八日にいたり例にしたがひて聖會を開けり

Chapter 9

1その月の二十四日にイスラエルの子孫あつまりて斷食し麻布を纏ひ土を蒙れり 2イスラエルの裔たる者一切の異邦人とはなれ而して立て己の罪と先祖の愆とを懺悔し 3皆おのおのがその處に立てこの日の四の一をもてその神アホバの律法の書を誦み他の四分の一をもて懺悔をなしその神アホバを拝めり 4時にアシユア、パニ、カデミエル、シバニヤ、ブンニ、セレビヤ、パニ、ケナニ等レビ人の臺に立ち大聲を擧てその神アホバに呼はれり 5斯てまたアシユア、カデミエル、パニ、ハシヤブニヤ、セレビヤ、ホデヤ、セバニヤ、ベタヒヤなどのレビ人言けらく汝ら起あがり永遠より永遠にわたりて在す汝らの神アホバを讃よ汝の尊き御名は讃べきかな是は一切の讃にも崇にも遠く超るなり 6汝は唯なんぢのみアホバにまします汝は天と諸天の天およびその萬象地とその上的一切の物ならびに海とその中的一切の物を造りて之をごとく保存せたまふなり天軍なんぢを拜す 7汝はアホバ神にまします汝は在昔アブラムを撰みてカルデアのウルより之を導きいだしアブラムといふ名をこれにつけ 8その心の汝の前に忠信なるを觀そなはしに契約を立てカナン人ヘテアマリ人ペリジ人エブス人およびギルガシ人の地をこれに與へその子孫に授けんと宣まひて終に汝の言を成たまへり汝は實に義し 9汝は我らの先祖がエジプトにて艱難を受けるを鑒みその紅海の邊にて呼はれ叫ぶを聴いれ 10 異兆と奇蹟とをあらはしてバロとその諸臣とその國の庶民とを攻たまへりそはかれらは傲りて我らの先祖等を攻しことを知たまへばなり而して汝の名を揚たまへること尚今日のごとし 11 汝はまた彼らの前にあたりて海を分ち彼らをして早ける地を踏て海の中を通らしめ彼らを追ふ者をば石を大水に投いるごとくに淵に投いたまひ 12 また晝は雲の柱をもて彼らを導き夜は火の柱をもて其往べき路を照したまひき 13 汝はまたシナイ山の上に降り天より彼らと語り正しき例規および眞の律法善き法度および誠命を之に授け 14 汝の聖安息日を之に示し汝の僕モーセの手によりて誠命と法

度と律法を之に命じ 15 天より食物を之に與へてその餓をとどめ晝より水を之がために出してその渴を濕し且この國をなんぢらに與へんと手を擧て誓ひ給ひしその國に入これを獲べきことをかれらに命じたまへり 16 然るに彼等すなはち我らの先祖みづから傲りその項を強くして汝の誠命に聽したがはず 17 聽従ふことを拒み亦なんぢが其中にて行ひたまひし奇蹟を憶はずてその項を強くし悖りて自ら一人の首領を立てその奴隸たりし處に歸らんとせり然りと雖も汝は罪を赦す神にして恩恵あり憐憫あり怒ること遅く慈悲厚くましまして彼らを棄たまはざりき 18 また彼ら自ら一箇の犢を鑄造りて是は汝をエジプトより導き上りし汝の神なりとて大に震怒をひきおこす事を行ひし時にすら 19 汝は重々も憐憫を垂て彼らを荒野に棄たまはず晝は雲の柱その上を離れずして之を途に導き夜は火の柱離れずして之を照しその行べき路を示したりき 20 汝はまた汝の善霊を賜ひて彼ら 21 汝のマナを常に彼らの口にあたへたまはた水を彼らに與へてその渴をとどめ 21 四十年の間かれらを荒野に養ひたまはれば彼らは何の缺る所もなくその衣服も古びずその足も腫ざりき 22 而して汝諸國諸民を彼らにあらへて之を各々に分ち取しめ給へりかれらはシホンの地へシホンの王の地およびバシヤンの王オグの地を獲たり 23 斯てまた汝は彼らの子孫を増て空の星のごくならしめ前にその先祖等に入て獲よと宣まひたる地に之を導きいりたまひしかば 24 則ちその子孫入てこの地を獲たり斯て汝この地にすめるカナン人をかれらの前に打伏せその王等およびその國の民をかれらの手に付して意のままに之を待はしめたまひき 25 斯りしかば彼ら堅固なる邑々および膏腴なる地を取り各種の美物の充る家壘井葡萄園橄欖園および許多の菓の樹を獲乃ち食ひて飽き肥太り汝の大なる恩恵に沾ひて樂みたりしが 26 尚も悖りて汝に叛き汝の律法を後に抛擲己を戒しめて汝に歸らせんとしたる預言者等を殺し大に震怒を惹おこす事を行なへり 27 是に因て汝かれらをその敵の手に付して窘しめさせたまひしが彼らその艱難の時に汝に呼はりければ汝天より之を聴て重々も憐憫を加へ彼らに救ふ者を多く與へて彼らをその敵の手より救はせたまへり 28 然るに彼らは安を獲の後復も汝の前に惡き事を行ひしかば汝かれらをその敵の手に棄おきて敵にこれを治めしめたまひけるが彼ら復立歸りて汝に呼はりたれば汝天よりこれを聴き憐憫を加へてしばしば彼らを助け 29 彼らを汝の律法に引もどさんとして戒しめたまへり然りと雖も彼らは自ら傲りて汝の誠命に聽したがはず汝の例規(人のこれを行はば之によりて生べしといふ者)を犯し肩を聳かし項を強くして聽ことをせざりき 30 斯りしかど汝は年ひさしく彼らを容しおき汝の預言者等に由て汝の靈をもて彼らを戒めたまひしが彼等つひに耳を傾けざりしに因て彼らを國々の民等の手に付したまへり 3

1 されど汝は憐憫おほくして彼らを全くは絶さず彼らを棄たまふことをも爲たまはざりき汝は恩恵あり憐憫ある神にましますばなり 32 然ば我らの神大にして力強く且畏るべくして契約を保ち恩恵を施したまふ御神ねがはくはアッスリヤの王等の日より今日にいたるまで我儕の王等牧伯等祭司預言者我らの先祖汝の一切の民等に臨みし諸の苦難を小き事と觀たまはざれ 33 我らに臨みし諸の事につきては汝義く在せり汝の爲たまひし所は誠實にして我らの爲しところは惡かりしなり 34 我らの王等牧伯等祭司父祖等は汝の律法を行はず汝が用ひて彼らを戒めたまひしその誠命と證詞に聽従はざりき 35 即ち彼らは己の國に居り汝の賜ふ大なる恩恵に沾ひ汝が與へてその前に置たまひし廣き膏腴なる地にありける時に汝に事ふることを爲す又ひるがへりて自己の惡き業をやむる事もせざりしなり 36 嗚呼われらは今日奴隸たり汝が我らの先祖に與てその中の產物およびその中の佳物を食はせんとしたまひし地にて我らは奴隸となりをるこそはかなけれ 37 この地は汝が我らの罪の故によりて我らの上に立たまひし王等のために衆多の產物を出すなり且また彼らは我らの身をも我らの家畜をも意のままに左右することを得れば我らは大難の中にあるなり 38 此もろもろの事のために我ら今堅き契約を立てこれを書しるし我らの牧伯等我らのレビ人我らの祭司これに印す

Chapter 10

1印を捺る者はハカリヤの子テルシヤタ、ネヘミヤおよびゼデキヤ 2 セラヤ、アザリヤ、エレミヤ 3 バシコル、アマリヤ、マルキヤ、4 ハットシ、シバニヤ、マルク 5 ハリム、メレモテ、オバデヤ 6 ダニエル、ギンネトン、バルク 7 メシユラム、アビヤ、ミヤミン 8 マアアジア、ビルガ、シマヤ等は祭司なり 9 レビ人は即ちアザニヤの子アシユア、ヘナダデの子ピンヌイ、カデミエル 10 ならびに其兄弟シバニヤ、ホデヤ、ケリタ、ペラヤ、ハナン 11 ミカ、レホブ、ハシヤビヤ 12 ザツクル、セレビヤ、シバニヤ 13 ホデヤ、パニ、ベニヌ 14 民の長たる者はバロシ、バハテモアブ、エラム、ザツト、パニ 15 ブンニ、アズカデ、ペバイ 16 アドニヤ、ビグワイ、アデン 17 アテル、ヒゼキヤ、アズル 18 ホデヤ、ハシユム、ベザイ 19 ハリフ、アナトテ、ノバイ 20 マグビアシ、メシユラム、ヘジル 21 メシザベル、ザドク、ヤドア 22 ペラテヤ、ハナン、アナニヤ 23 ホセア、ハナニヤ、ハシユブ 24 ハロヘシ、ビルハ、シヨベク 25 レホム、ハシヤブナ、マアセヤ 26 アヒヤ、ハナン、アナン 27 マルク、ハリム、バアナ 28 その他民祭司レビ人門をまもる者謳歌者ネテ二人ならびに都て國々の民等と

離れて神の律法に附る者およびその妻その男子女子など凡そ事を知り辨まふる者は 29 皆その兄弟たる貴き人々に附したがひ祝詔に加はり誓を立て云く我ら神の僕モーセによりて傳はりし神の律法に歩み我らの主アホバの一切の誠命およびその例規と法度を守り行はん 30 我らは此地の民等に我らの女子を與へじ亦われらの男子のために彼らの女子を娶らじ 31 此地の民等たとひ貨物あるひは食物を安息日に携へ來りて賣んとするとも安息日または聖日には我儕これを取じ又七年ごとに耕作を廢め一切の負債を免さんと 32 我らまた自ら例を設けて年々にシケルの三分の一を出して我らの神の室の用となし 33 食物のパン常素祭常燔祭のため聖息日月朔および節會の祭物のため聖物のためイスラエルの贖をなす罪祭および我らの神の家の諸の工のために之を用ゐることを定む 34 また我ら祭司レビ人および民籤を撃き律法に記されたるごとく我らの神アホバの壇の上に焚き薪木の禮物を年々定まれる時にわれらの宗家にしたがひて我らの神の室に納むる者を定め 35 かつ誓ひて云ふ我らの產物の初および各種の樹の果の初を年々アホバの室に携へきたらん 36 また我らの子等および我らの獸畜の首出および我らの牛羊の首出を律法に記されたるごとく我らの神の室に携へ來りて我らの神の室に事ふる祭司に交し 37 我らの麥粉の初われらの擧祭の物各種の樹の果および酒油を祭司の許に携へ到りて我らの神の家室に納め我らの產物の什一をレビ人に與へんレビ人は我ら一切の農作の邑においてその什一を受べき者なればなり 38 レビ人什一を受る時にはアロンの子孫たる祭司一人そのレビ人と偕にあるべし而してまたレビ人はその什一の十分の一を我らの神の家に携へ上りて府庫の諸室に納むべし 39 即ちイスラエルの子孫およびレビの子孫は穀物および酒油の擧祭を携さへいたり聖所の器皿および奉事をする祭司門を守る者謳歌者などが在るところの室に之を納むべし我らは我らの神の家を棄じ

Chapter 11

1民の牧伯等はエルサレムに住りその餘の民もまた籤を撃き十人の中よりして一人宛を聖邑エルサレムに來りて住しめその九人を他の邑々に住しめたり 2 又すべて自ら進でエルサレムに住んと言ふ人々は民これを祝せり 3 イスラエル祭司レビ人ネテニ人およびソロモンの臣僕たりし者等の子孫すべてユダの邑々にありておのおのその邑々なる自己の所有地に住をれり此州の貴き人々のエルサレムに住をりし者は左のごとし 4 即ちユダの子孫およびベニヤミンの子孫のエルサレムに住る者は是なりユダの子孫はウジヤの子アタヤ、ウジヤはゼカリヤの子ゼカリヤはアマリヤの子アマリヤはシバテヤの子シバテヤはマハラレルの子是はベレズの子孫なり 5 又バルクの子マアセヤ

といふ者ありバルクはコロホゼの子コロホゼはハザヤの子ハザヤはアダヤの子アダヤはヨヤリブの子ヨヤリブはゼカリヤの子ゼカリヤはシロ二人の子なり 6 ベレズの子孫のエルサレムに住る者は合せて四百六十八人にして皆勇士なり 7 ベニヤミンの子孫は左のごとしメシユラムの子サル、メシユラムはヨエデの子ヨエデはベダヤの子ベダヤはコラヤの子コラヤはマアセヤの子マアセヤはイテエルの子イテエルはマサヤの子なり 8 その次はガバイおよびサイなどにして合せて九百二十八人 9 ジクリの子ヨエルかれらの監督たりハツセヌアの子ユダこれに副ふて邑を治む 10 祭司はヨヤリブの子アダヤ、ヤキン 11 および神の室の宰セラヤ、セラヤはヒルヤキの子ヒルキヤはメシユラムの子メシユラムはザドクの子ザドクはメラヨテの子メラヨテはアヒトブの子なり 12 殿の職事をするその兄弟八百二十二人あり又アダヤといふ者ありアダヤはエロハムの子エロハムはペラリヤの子ペラリヤはアムジの子アムジはゼカリヤの子ゼカリヤはバシホルの子バシホルはマルキヤの子なり 13 アダヤの兄弟たる宗家の長二百四十二人あり又アマサイといふ者ありアマサイはアザリエルの子アザリエルはアハザイの子アハザイはメシレモテの子メシレモテはイシメルの子なり 14 その兄弟たる勇士百二十八人ありハツゲドリムの子ザブデエル彼らの監督たり 15 レビ人はハシユブの子シヤム、ハシユブはアズリカムの子アズリカムはハシヤビヤの子ハシヤビヤはブン二の子なり 16 またシヤベタイおよびヨザパデあり是等はレビ人の長にして神の室の外の事を掌どり 17 またマツタニヤといふ者ありマツタニヤはミカの子ミカはザブデの子ザブデはアサフの子なりマツタニヤは祈禱の時に感謝の詞を唱へはじむる者なり彼の兄弟の中にてバクブキヤといふ者かれに次り又アブダといふ者ありアブダはシヤンマの子シヤンマはガラルの子ガラルはエドトンの子なり 18 聖邑にあるレビ人は合せて二百八十四人 19 門を守る者アツク、タルモンおよびその兄弟等合せて百七十二人あり皆門々にありて伺守ることをせり 20 その他イスラエル人祭司およびレビ人は皆ユダの一切の邑々にありて各々おのれの産業に居り 21 但しネテ二人はオベルに居りデハ及びギシバ、ネテ二人を統ぶ 22 エルサレムにをるレビ人の監督はウジといふ者なりウジはバニの子バニはハシヤビヤの子ハシヤビヤはマツタニヤの子マツタニヤはミカの子なり是は謳歌者なるアサフの子孫なりその職務は神の室の事にかかはる 23 王より命令ありて是らの事を定め謳歌者に日々定めれる分を與へしむ 24 ユダの子セラの子孫メシザベルの子ベタヒヤといふ者王の手に屬して民に關る一切の事を取あつかへり 25 又村莊とその田圃につきてはユダの子孫の者キリアアルバとその郷里デボンとその郷里およびカブジエルとその村莊に住み 26 エシユア、モラダおよびベ

テベレテに住み 27 ハザルシユアルおよびエエルシバとその郷里に住み 28 デクラグおよびメコナとその郷里に住み 29 エンリンモン、ザレア、ヤルムテに住み 30 ザノア、アドラムおよび其等の村莊ラキシとその田野およびアゼカとその郷里に住り斯かれらはベエルシバよりヒンノムの谷までに天幕を張り 31 ベニヤミンの子孫はまたゲバよりしてミクマシ、アヤおよびベテルとその郷里に住み 32 アナトテ、ノブ、アナニヤ 33 ハゾル、ラマ、ギツタイム 34 ハデデ、ゼボイム、ネバラテ 35 ロド、オノ工匠谷に住り 36 レビ人の班列のユダにある者の中ベニヤミンに合せし者もありき

Chapter 12

1 シヤルテルの子ゼルバベルおよびエシユアと偕に上りきたりし祭司とレビ人は左のごとしセラヤ、エレミヤ、エズラ 2 アマリヤ、マルク、ハツトシ 3 シカニヤ、レホム、メレモテ 4 イド、ギンネトイ、アビヤ 5 ミヤミン、マアデヤ、ビルガ 6 シマヤ、ヨヤリブ、アダヤ 7 サライ、アモク、ヒルキヤ、アダヤ是等の者はエシユアの世に祭司およびその兄弟等の長たりき 8 またレビ人はエシユア、ビンヌイ、カデミエル、セラビヤ、ユダ、マツタニヤ、マツタニヤはその兄弟とともに感謝の事を掌どり 9 またその兄弟バクブキヤおよびウンノと相對ひて職務をなせり 10 エシユア、ヨヤキムを生みヨヤキム、エリアシブを生みエリアシブ、ヨイアダを生み 11 ヨイアダ、ヨナタンを生みヨナタン、ヤドアを生り 12 ヨヤキムの日に祭司等の宗家の長たりし者はセラヤの族にてはメラヤ、エレミヤの族にてはハナニヤ 13 エズラの族にてはメシユラム、アマリヤの族にてはヨハン 14 マルキの族にてはヨナタン、シバニヤの族にてはヨセフ 15 ハリムの族にてはアデナ、メラヨテの族にてはヘルカイ 16 イドの族にてはゼカリヤ、ギンネトン膳長にてはメシユラム 17 アビヤの族にてはジクリ、ミニヤミンの族モアデヤの族にてはビルタイ 18 ビルガの族にてはシヤンマ、シマヤの族にてはヨナタン 19 ヨヤリブの族にてはマツテナイ、アダヤの族にてはウジ 20 サライの族にてはカライ、アモクの族にてはエベル 21 ヒルキヤの族にてはハシヤビヤ、アダヤの族にてはネタンエル 22 エリアシブ、ヨイアダ、ヨハンおよびヤドアの日にレビ人の宗家の長等冊に録さる亦ベルシヤ王ダリヨスの治世に祭司等も然せらる 23 宗家の長たるレビ人はエリアシブの子ヨハンの日まで凡て歴代志の書に記さる 24 レビ人の長はハシヤビヤ、セラビヤおよびカデミエルの子エシユアなりその兄弟等これと相對ひて居る即ち彼らは班列と班列とあひむかひ居り神の人ダビデの命令に本づきて讚美と感謝とをつとむ 25 マツタニヤ、バクブキヤ、オパデ

ヤ、メシユラム、タルモン、アツクは門を守る者にして門の内の府庫を伺守れり 26 是等はヨザダクの子エシユアの子ヨヤキムの日に在り總督ネヘミヤおよび學士たる祭司エズラの日に在りし者なり 27 エルサレムの石垣の落成せし節會に當りてレビ人をその一切の處より招きてエルサレムに來らせ感謝と歌と鑢鍔と瑟と琴とをもて歡喜を盡してその落成の節會を行はんとす 28 是において謳歌ぶ徒輩エルサレムの周圍の窪地およびネトバ人の村々より集り來り 29 またベテギルガルおよびゲバとアズマウテとの野より集り來れりこの謳歌者等はエルサレムの周圍に己の村々を連たりき 30 茲に祭司およびレビ人身を潔めまた民および諸の門と石垣とを潔めければ 31 我すなはちユダの牧伯等をして石垣の上によらしめ又二の大なる隊を作り設けて之に感謝の詞を唱へて並進ししむ即ちその一は糞の門を指て石垣の上を右に進めり 32 その後につきて進める者はホシヤヤおよびユダの牧伯の半 33 ならびにアザリヤ、エズラ、メシユラム 34 ユダ、ベニヤミン、シマヤ、エレミヤなりき 35 又祭司の徒數人喇叭を吹て伴ふあり即ちヨナタンの子ゼカリヤ、ヨナタンはシマヤの子シマヤはマツタニヤの子マツタニヤはミカヤの子ミカヤはザツクルの子ザツクルはアサフの子なり 36 またゼカリヤの兄弟シマヤ、アザリエル、ミラライ、ギラライ、マアイ、ネタンエル、ユダ、ハナニヤ等ありて神の人ダビデの樂器を執り學士エズラこれに先だつ 37 而して彼ら泉の門を経ただちに進みて石垣の上口に於てダビデの城の段階より登りダビデの家の上を過て東の方水の門に至れり 38 また今一隊の感謝する者は彼らに對ひて進み我は民の半とともにその後に従がへり而して皆石垣の上を行き爐成樓の上を過て石垣の廣き處にいたり 39 エフライムの門の上を通り舊門を過ぎ魚の門およびハニエルの成樓とハンメアの成樓を過て羊の門に至り牢の門に立どまれり 40 かくて二隊の感謝する者神の室にいりて立り我もそこにたち牧伯等の半われと偕にありき 41 また祭司エリアキム、マアセヤ、ミニヤミン、ミカヤ、エリヨエナイ、ゼカリヤ、ハナニヤ等喇叭を執て居り 42 マアセヤ、シマヤ、エレアザル、ウジ、ヨハン、マルキヤ、エラム、エゼルと偕にあり謳歌ぶ者聲高くうたへりエズラヒヤはその監督なりき 43 斯してその日みな大なる犠牲を獻けて喜悅を盡せり其は神かれらをして大に喜び樂ませたまひたればなり婦女小兒までも喜悅り是をもてエルサレムの喜悅の聲とほくまで聞えたりぬ 44 その日府庫のすべての室を掌どるべき人々を撰びて樂祭の品初物および什一など律法に定むるところの祭司とレビ人との分を邑々の田圃に准ひて取あつめてすべての室にいることを掌どらしむ是は祭司およびレビ人の立て奉ふるをユダ人喜びたればなり 45 彼らは神の職守および潔齋の職守を勤む謳歌者および門を守る者も然

り皆ダビデとその子ソロモンの命令に依る 46 在昔ダビデおよびアサフの日には謳歌者の長一人ありて神に讚美感謝をたてまつる事ありき 47 またゼルバベルの日およびネヘミヤの日にはイスラエル人みな謳歌者と門を守る者に日々分を與へまたレビ人に物を聖別て與へレビ人またこれを聖別てアロンの子孫に與ふ

Chapter 13

1 その日モーセの書を讀て民に聽しめけるに其中に録して云ふアンモニ人およびモアブ人は何時までも神の會に入べからず 2 是は彼らパンと水とをもてイスラエルの子孫を迎へずして還て之を誑はせんとてバラムを備ひたりしが故なり斯りしかども我らの神はその呪詛を變て祝福となしたまへり 3 衆人の律法を聞てのち維りたる民を盡くイスラエルより分ち離てり 4 是より先我らの神の家の室を掌れる祭司エリアシブといふ者トビヤと近くなりたれば 5 彼のために大なる室を備ふ其室は元來素祭の物乳香器皿および例によりてレビ人謳歌者門を守る者等に與ふる穀物酒油の什一ならびに祭司に與ふる樂祭の物を置し處なり 6 當時は我エルサレムに居ざりき我はバビロンの王アルタシャスタの三十二年に王の所に往たりしが數日の後王に暇を乞て 7 エルサレムに來りエリアシブがトビヤのために爲たる惡事すなはちかれがために神の家の庭に一の室を備へし事を詳悉にせり 8 我はなはだこれを憂ひてトビヤの家の器皿をことごとくその室より投だし 9 頼て命じてすべての室を潔めさせ而して神の家の器皿および素祭乳香などを再び其處に携へいれたり 10 我また查べ觀しにレビ人そのうくべき分を與へられざりきこの故に其職務をなす所のレビ人および謳歌者等々おのれの田に奔り歸りぬ 11 是において我何故に神の室を棄させしやと言て牧伯等を詰り頼てまたレビ人を招き集めてその故の所に立しめたり 12 斯りしかばユダ人みな穀物酒油の什一を府庫に携へ來れり 13 その時我祭司シレミヤ學士ザドクおよびレビ人ベダヤを府庫の有司とし之にマツタニヤの子ザツクルの子ハンナを副て庫をつかさどらしむ彼らは忠信なる者と思はれたればなり其職は兄弟等に分配の事なりき 14 わが神よ此事のために我を記念たまへ我神の室とその職事のために我が行ひし善事を拭ひ去たまはざれ 15 當時われ觀しにユダの中にて安息日に酒樽を踏む者あり麥束を持ちたりて驢馬に負するあり亦酒葡萄無花果および各種の荷を安息日にエルサレムに携へいるあり我かれらが食物を齎ぎをる日に彼らを戒しめたり 16 彼處にまたツロの人々も住りしが魚および各種の貨物を携へりて安息日にユダの人々に之を齎ぎかつエルサレムにて商賣せり 17 是において我ユダの貴き人々を詰りて之に言ふ汝ら何ぞ此惡き事をなして安息日を瀆すや 18 汝らの先祖等も斯おこなは

ざりしや我らの神これが爲にこの一切の災禍を我らとこの邑とに降したまひしにあらざるに汝らは安息日を潰して更に大なる震怒をイスラエルに招くなりしと 19 而して安息日の前の日エルサレムの門々暗くなりしと 20 我を戒めてこれに言ふ汝ら石垣の前に宿るは何ぞや汝等もし重ねて然なれば我なんぢらに手をかけんと其時より後は彼ら安息日には来らざりき 22 我またレビ人に命じてその身を潔めさせ来りて門を守らしめて安息日を聖くす我神よ我ために此事を記念し汝の大なる仁慈をもて我を憫みたまへ 23 當時われアシドド、アンモン、モアブなどの婦女を娶りユダヤ人を見しに 24 その子女はアシドドの言語を半兼へて言ひユダヤの言語を言ことあたはず各國の言語を雑へ用ふ 25 我彼等を詰りまた語りその中の數人を撞ちその毛を抜き神を指て誓はしめて言ふ汝らは彼らの男子におのが女子を與ふべからざるやなんぢらの男子あるひはおのれ自身のために彼らの女子を娶るべからざる 26 是らの事についてイスラエルの王ソロモンは罪を獲たるに非ざるや彼がごとき王は衆多の國民の中にもあらずして神に愛せられし者なり神かれをイスラエル全國の王となしたまへり然るに尚ほ異邦の婦女等はこれに罪を犯さしめたり 27 然ば汝らが異邦の婦女を娶りこの一切の大惡をなして我らの神に罪を犯すを我儕聽し置べけんや 28 祭司の長エリアシブの子ヨアダの一人の子はホロ二人サンバラテの婿なりければ我これを逐出して我を離れしむ 29 わが神よ彼らは祭司の職を汚し祭司およびレビ人の班列を立て各々その職務に服せしめ 31 また人衆をして薪柴の禮物をその定まる期に獻げしめかつ初物を奉つらしむ我神よ我を憶ひ仁慈をもて我を待ひたまへ

エステル記

Chapter 1

1 アハシユエロスすなはち印度よりエテオピアまで百二十七州を治めたるアハシユエロスの世 2 アハシユエロス王シユシヤンの城にてその國の祚に坐しをりける当時 3 その治世の第三年にその牧伯および臣僕等のために酒宴を設けたりペルシヤとメデアの武士および貴族と諸州の牧伯等その前にありき 4 時に王その盛なる國の富有とその大なる威光の榮を示して衆多の日をわたり百八十日に

及びぬ 5 これらの日のをはりし時王また王の宮の園の庭にてシユシヤンに居る大小のすべての民のために七日の間酒宴を設けたり 6 白緑青の帳幔ありて細布と紫色の紐にて銀の環および蠟石の柱に繋がるまた牀榻は金銀にして赤白黄黒の蠟石の上に居らる 7 金の酒盃にて酒を賜ふその酒盃は此と彼おのおの異なり王の用ゐる酒をたまふこと夥だし王の富有に適へり 8 その飲むことは法がかなひて誰も強ることを爲す其は王人として各々おのれの好むごとく爲しむべしとその宮内のすべての有司に命じればなり 9 后ワシテもまたアハシユエロス王に屬する王宮の内にて婦女のために酒宴をまうけたり 10 第七日にアハシユエロス王酒のために心樂み王の前に事ふる七人の侍從メホマン、ピスタ、ハルボナ、ピグタ、アバグタ、セタルおよびカルカスに命じ 11 后ワシテをして後の冠冕をかぶりて王の前に来らしめよと言ひ是は彼觀に見しければその美麗を民等と牧伯等に見せんとて美らき 12 しかるに后ワシテ侍從が傳へし王の命に従ひて来ることを肯はざりしかば王おほいに憤ほりて震怒その衷に燃ゆ 13 是において王時を知る習者にむかひて言ふ(王はすべて法律と審理に明かなる者にむかひて是の如くするを常とせり 14 時に彼の次にをりし者はペルシヤおよびメデアの七人の牧伯カルシナ、セタル、アデマタ、タルシシ、メレス、マルセナ、ムムカンなりき是みな王の面を見る者にして國の第一に位せり) 15 后ワシテ、アハシユエロス王が侍從をもて傳へし命を爲ざれば法律にしたがひて如何に彼になすべきや 16 メムカン王と牧伯たちの前に答へて曰ふ后ワシテは唯王にむかひて惡き事をなしたる而已ならず一切の牧伯たちおよびアハシユエロス王の各州のもろもろの民にむかひてもまた之を爲るなり 17 后のこの事あまねく一切の婦女に聞えて彼らつひにその夫を藐め觀て言ふアハシユエロス王后ワシテに己のまへに來れと命じたりしに來らざりしと 18 而して後の此所行を聞るペルシヤとメデアの諸夫人もまた今日王のすべての牧伯等に是のごとく言ふ然すれば必ず藐視と忿怒多く起るべし 19 王もし之を善としたまはばワシテは此後ふたたびアハシユエロス王の前に來るべからざるといふ王命を下し之をペルシヤとメデアの律法の中に書いれて更ること無らしめ而してその後の位を彼に勝れる他の者に與へたまへ 20 王の下したまはん御詔この大なる御國に徧ねく聞えわたる時は妻たる者ごとくその夫を大小となく共に敬まふべしと 21 王と牧伯等この言を善としければ王メムカンの言のごとく爲たり 22 かくて王の諸州に徧ねく書をおくりもろもろの州にその文字にしたがひて書おくりもろもろの民にその言語にしたがひて書おくり凡て男子たる者はその家の主となるべくまたおのれの民の言を用ひてものいふべしと諭しぬ

Chapter 2

1 これらの事の後アハシユエロス王忿怒とけてワシテおよび彼が爲たる所またその彼にむかひて議定めしところの事を憶ひおこせり 2 ここに王の前に事ふる僕等いひけるは請ふ美しき少き處女等を王のために尋もとめん 3 願はくは王御國の各州において官吏を擇び之をして美はしき處女をことごとくシユシヤンの城に集めしめ婦人を管理する王の侍從ヘガイの手にわたして婦人の局に入らしめ而して潔淨の物をこれに與へたまへ 4 斯して王の御意に適ふ女子を取りワシテに代りて后とならしめたまへと王この事を善として然なしぬ 5 茲にシユシヤンの城に一人のユダヤ人ありその名をモルデカイと曰ひキシの曾孫シメイの孫ヤイルの子にしてベニヤミン人なり 6 かれはパピロンの王ネブカデネザルが擄へゆきシユダのエコニヤとともに擄はれ往る俘囚の中にありてエサレムより移されたる者なり 7 かれその叔父の女ハダツサすなり 8 エステルを養ひ育てたり是は父も母もなかりければなりこの女子顔貌勝れてうるはしかりしがその父母の死たる後モルデカイこれを取ておのれの女となせるなり 8 王の命令と詔言の聞え傳はり衆多の女子シユシヤンの城にあつめられてヘガイの手にわたされし時エステルも亦王の家に携へられてゆき婦人を管理するヘガイの手に交されしが 9 この女子ヘガイの意にかなひて之が惠を受たり即ちヘガイすみやかに之に潔淨の物およびその分を與へたまへ王の家の中より七人の侍女を擧てこれに附せしめ彼とその侍女等を婦人の局の中なる最も佳き處に移しぬ 10 エステルはおのれの民をもおのれの宗族をも顯はざりき其はモルデカイこれを顯はすなかれと彼に言ふくめればなり 11 またモルデカイはエステル模様およびその如何になれるかを知らため日々婦人の局の庭の前をあゆめり 12 女子はおの婦人の則にしたがひて十二月月を経し其の後順番にいりてアハシユエロス王にいたる是その潔淨の日を終るはかくのごとくなるが故なり即ち没葉の油を用ふること六ヶ月また各種の薫物および婦人の潔淨ごとにあつる物等を用ふること六ヶ月 13 女子の王にいたるは是のごとしその婦人の局より出て王の家にゆく時には凡てその望む物をことごとく與へらる 14 而して夕に往き朝におよびて婦人の第二の局に還り妃嬪をつかさどる王の侍從シヤシガスの手に屬す王これを喜びて名をさして召すにあらざれば重ねて王にいたることなし 15 ここにモルデカイの叔父アビハイルの女すなはちモルデカイが取ておのれの女となしたるエステル入て王にいたるべき順番にあたりけるが彼は婦人をつかさどる王の侍從ヘガイが言きかせたる事の外には何をもちめざりきエステルは凡て彼を見る者によるこばれたり 16 かくエステルは王の家に召いれられてアハシユエロス王にいたれり是その治

世の第七年十月即ちテベテの月なり 17 王一切の婦人に超てエステルを愛しければエステルはすべての處女にまさりて王の前に恩寵と厚情を得たり王つひに後の冕をかれの首に戴かせ彼をしてワシテにかはりて后とならしむ 18 ここにおいて王おほいなる酒宴を設けてそのもろもろの牧伯と臣僕を饗すこれをエステルの酒宴と稱ふまた諸州に租税をゆるし王の富有にかなひて物を賜ふ 19 再度處女の集められし時モルデカイは王の門に坐しをりぬ 20 エステルはモルデカイがかれに言ふくめたる如くして未だおのれの宗族をもおのれの民をも顯はざりきエステルはモルデカイの言語にしたがふことその彼に養なひ育てられし時と異ならざりき 21 當時モルデカイ王の門に坐し居ける時王の侍從にて戸を守る者の中ピグタンおよびテレシの二人怨む事ありてアハシユエロス王を弑せんともめたりしが 22 その事モルデカイに知れければモルデカイこれを后エステルに告げエステルまたモルデカイの名をもてこれを王に告げたり 23 ここにおいて此事をしらばせしにその然ること顯はれければ彼ら二人は木にかけられその事は王の前なる日誌の書にかきしるさる

Chapter 3

1 これらの事の後アハシユエロス王アガゲ人ハンメダタの子ハマンを貴びこれを高くして己とともにある一切の牧伯の上にその席を定めしむ 2 王の門にある主の諸臣みな跪びきてハマンを拜せり是は王斯かれになすことを命じればなり然れどもモルデカイは跪まづかず又これを拜せざりき 3 ここをもて王の門にある王の諸臣モデカイにむかひて言ふ汝いかなれば王の命に背くやと 4 かれらモルデカイに日々かく言ふといへども聽ざりければその事の爲をふさるべきか否を見んとてハマンにこれを告たり其はモルデカイおのれのユダヤ人なることを語りたればなり 5 ハマン、モルデカイの跪づかずまた己を拜せざるを見ればハマン忿怒にたへざりしが 6 ただモルデカイ一人を殺すは事小さしと思へり彼らモルデカイの屬する民をハマンに顯はしければハマンはアハシユエロスの國の中にある一切のユダヤ人すなはちモルデカイの屬する民をことごとく殺さんと謀れり 7 アハシユエロス王の十二年正月即ちニサンの月にハマンの前にて十二月すなはちアダルの月まで一日一日のため一月一月のためにプルを投じむプルは即ち籤なり 8 ハマンかくてアハシユエロス王に言けるは御國の各州にある諸民の中に散されて別れ別れになりる一の民ありその律法は一切の民と異りまた王の法律を守らずこの故にこれを容しおくは王の益にあらず 9 王もしこれを善としたまはば願くは彼らを滅ぼせと書くだしたまへさらば我王の事をつかさどる者等の手に銀一萬タラントを秤り交して王の府庫に入しめん 10 王すなはち

指環をその手より取はづアガグ人ハンメダタの子ハマンすなはちユダヤ人の敵たる者に交し 11 しかしてハマンに言けるはその銀はなんぢに與ふその民もまた汝におたふれば汝に善と見ゆるごとく爲よ 12 ここにおいて正月の十三日に王の書記官を召あつめ王に屬する州牧各州の方伯およびもろもろの民の牧伯にハマンが命ぜんとする所をことごとく書するさしむ即ちもろもろの州におくるものは其文字をもちひもろもろの民におくるものはその言語をもちひおのおののアハシユエロス王の名をもてこれを書き王の指環をもてこれに印したり 13 しかして驛卒をもて書を王の諸州におくり十二月すなはちアダルの月の十三日において一日の内に一切のユダヤ人を若き者老たる者小兒婦人の差別なくことごとく滅ぼし殺し絶しかつその所有物を奪ふべしと諭しぬ 14 この詔旨を諸州に傳へてかの日のために準備をなさしめんとてその書る物の寫本を一切の民に開きて示せり 15 驛卒王の命によりて急ぎて出ゆきぬこの詔書はシユシヤンの城に於て出されたりかくて王とハマンは坐して酒飲みたりしがシユシヤンの邑は惑ひわづらへり

Chapter 4

1 モルデカイ凡てこの爲れたる事を知しかばモルデカイ衣服を裂き麻布を纏ひ灰をかぶり邑の中に行て大に哭き痛く號す 2 王の門の前までも斯くして來れり其は麻布をまとふては王の門の内に入るこ能はざればなり 3 すべて王の命とその詔書と到れる諸州にてはユダヤ人の中におほいなる哀みあり斷食哭泣號呼おこれりまた麻布をまとふて灰の上に坐する者おほかりき 4 ここにエステルの侍女およびその侍従等きたりてこれを告げれば后はなはだしく憂ひ衣服をおくり之をモルデカイにきせてその麻布を脱しめんとしたりしがうげざりき 5 ここをもてエステルは王の侍従の一人すなはち王の命じて己に侍らしむるハタクといふ者を召しモルデカイの許に往きてその何事なるか何故なるかを知きたれと命ぜり 6 ハタクいでて王の門の前なる邑の廣場にをるモルデカイにいたりしに 7 モルデカイおのれの遇たるところを具にこれに語りかつハマンがユダヤ人を滅ぼす事のために王の府庫に秤りいれんと約したる銀の額を告げ 8 またその彼等をほろぼさしむるためにシユシヤンにおいて書て與へられし詔書の寫本を彼にわたし之をエステルに見せてつ解あかしした彼に王の許にゆきてその民のためにこれに矜恤を請ひその前に願ふことを爲べしと言つたへよと言り 9 ハタクかへり來りてモルデカイの言詞をエステルに告げれば 10 エステル、ハタクに命じモルデカイに言をつたへしむ云く 11 王の諸臣がよび王の諸州の民みな知る男にもあれ女にもあれ凡て召れずして内庭に入て王にいたる者は必ず殺さるべき

一の法律ありされど王これに金圭を伸れば生るを得べしかく我此三十日は王にいたるべき召をかうむらざるなり 12 エステルの言をモルデカイに告げけるに 13 モルデカイ命じてエステルに答へしめて曰く汝王の家にあれば一切のユダヤ人の如くならずして免かるべしと心に思ふなかれ 14 なんぞ若この時にあたりて黙して言ずば他の處よりして助援と拯救ユダヤ人に興らんされど汝どなんぢの父の家は亡ぶべし汝が後の位を得たるは是のごときのためなりしやも知るべからず 15 エステルまたモルデカイに答へしめて曰く 16 なんぢ往きシユシヤンにをるユダヤ人をことごとく集めてわがために斷食せよ三日の間夜晝とも食ふことも飲むこともするなかれ 我とわが侍女等もおなじく斷食せんしかして我法律にそむく事なれども王にいたらん 我もし死べくば死べし 17 ここにおいてモルデカイ往てエステルが凡ておのれに命じたるごとく行なへり

Chapter 5

1 第三日にエステル後の服を着王の家の内庭にいり王の家にむかひて立つ王は王宮の玉座に坐して王宮の戸口にむかひをりしが 2 王后エステルが庭にたちをるを見てこれに恩をくはへ其手にある金圭をエステルの方に申しければエステルすすみよりてその圭の頭にさはれり 3 王かれに言けるは后エステルなんぢ何をもとむるやなんぢの願意は何なるや國の半分にいたるとも汝にあたふべし 4 エステルいひけるは王もし善としたまはば願くは今日わが王のために設けたる酒宴に王とハマンと臨みたまへ 5 ここに於て王ハマンを急がしめてエステルの言ることくならしめよと命じ王とハマンやがてエステルが設けたる酒宴に臨り 6 酒宴の時王またエステルに言けるは汝の所求は何なるやかならずゆるさるべしなんぢの願意は何なるや國の半分にいたるとも成就らるべし 7 エステル言けるは我が所求わが願意は是なり 8 われもし王の目の前に恩を得王もしわが所求をゆるしわが願意を成就しむることを善としたまはば願くは王とハマンまたわが設けんとする酒宴に臨みたまへわれ明日王の宣まへる言にしたがはん 9 かくてハマンはその日よるこび心たのしみて出きたりけるがハマン、モルデカイが王の門に居て己にむかひて起もあがらず身動もせざるを見しかば 痛くモルデカイを怒れり 10 されどもハマン耐忍びて家にかへりその朋友等および妻ゼレシをまねき來らしめ 11 而してハマンその富の榮耀とその子の衆多ことと凡て王の己を貴とびし事また己をたかくして王の牧伯および臣僕の上にあらしむることを之に語れり 12 しかしてハマンまた言けらく后エステル酒宴を設けたりしが我がほかは何人をも王とともに之に臨ましめず明日もまた我は王とともに後に招かれをるなり 13 然

れどユダヤ人モルデカイが王の門に坐しをるを見る間は是らの事も快樂からず 14 時にその妻ゼレシとその一切の朋友かれに言けるは請ふ高五十キユビトの木を立しめ明日の朝モルデカイをその上に懸んことを王に奏せ而して王とともに楽しみてその酒宴におもむけとハマンこの事を善としてその木を立しめたり

Chapter 6

1 その夜王ねむること能はざりければ命じて日々事を記せる記録の書を持ちたらしめ王の前にこれを讀しめけるに 2 モルデカイ曾て王の侍従の二人戸を守る者なるビグタンとテレシがアハシユエロス王を殺さんと謀れるを告たりと記せるに遇ふ 3 王すなはち言けるは之がために何の榮譽と爵位をモルデカイにあたへしや王に事ふる臣僕等こたへて何をも彼にあたへしこと無しといへり 4 ここにおいて王誰ぞ庭にあるやと問ふこの時ハマンは己がモルデカイのために設けたる木にモルデカイを懸ることを王に奏せんとして己に王の家の外庭に來りて居る 5 王の臣僕等王につけてハマン庭に立ると言ければ王かれをして入來らしめよと言ふ 6 ハマンやがて入きたりしに王かれにいひけるは王の尊とばんと欲する人には如何になさば善らんかとハマン心におもひけるは王の尊ばんとする者は我にあらずして誰ぞやと 7 ハマンすなはち王にいひけるは王の尊ばんと欲する人のためには 8 王の着たまへる衣服を携さへ來らしめかつ王の乗たまへる馬即ちその頭に王の冠冕を戴ける馬をひき來らしめ 9 これを王の最も貴とき一人の牧伯の手にわたし王の尊ばんとする人に其衣服を衣せしめこれを馬にのせて邑の街衢をみちびき通り王の尊とばんと欲する人には是のごとくなすべしと呼はらしむべし 10 王ハマンに言けるは急ぎなんぢが言しごとくその衣服と馬とを取り王の門に坐するユダヤ人モルデカイに斯なせよなんぢが言しところを一も缺こと無らしめよ 11 ここにおいてハマン衣服と馬とを取りモルデカイにその衣服を着せ彼をして邑の街衢を乗とほらしめその前に呼はりて云ふ王の尊ばんと欲する人には是のごとくなすべしと 12 かくてモルデカイは王の門にかへりたりしがハマンは愁へなやみ首をおほふておのれの家にはしりゆき 13 しかしてハマンおのが遇る事をことごとくその妻ゼレシとその朋友等に告げるにその智者等およびその妻ゼレシかれに言けるは彼のモルデカイすなはちなんぢがその前に敗れはじめたる者もしユダヤ人ならば汝これに勝ことを得じ必ずその前にやぶれんと 14 かれら尚ハマンともいひをる間に王の侍従きたりてハマンをうながしエステルが設けたる酒宴にのぞましむ

Chapter 7

1 王またハマンとともに后エステルと酒宴せんとして來れり 2 この第二の酒宴の日に王またエステルに言けるは后エステルよなんぢのもめは何なるやかならず許さるべし汝のねがひは何なるや國の半分にいたるとも成就らるべし 3 后エステルこたへて言けるは王よ我もし王の御目の前に恩を得王もし善と見たまはばわがもめにしたがりこわが生命をわれに賜へまたわが願にしたがひてわが民を我に賜へ 4 我とわが民は賣れて滅ぼされ殺され絶えれんとす我らもし奴婢に賣れたるならんには我黙してはべらん敵人は王の損害を償なふ事能はざるなり 5 アハシユエロス王后エステルにこたへて言けるは之をなさんと心にたくめる者は誰また何處にをるや 6 エステルいひけるはその敵その仇人は即ちこの惡きハマンなりと是によりてハマンは王と後の前にありて懼れたり 7 王怒り酒宴の席をたちて宮殿の園に往きければハマンたちあがりて后エステルに生命を乞り其はかれ王のおのれに禍災をなさんと決めしを見たればなり 8 王宮殿の園より歸りて酒宴の場にいたりしにエステルをる牀榻の上にハマン俯伏みれば王いひけるは彼はまた家の内にてわが前に后を辱しめんとするかと此ことば王の口より出るや人々ハマンの面をおほへり 9 時に王の前にある一人の侍従ハルボナイひけるは王の爲に善き事を言たりしかのモルデカイを懸んとてハマンが作りたる五十キユビトの木ハマンの家に立をるなりと王いひけるは彼をその上に懸よ 10 人々ハマンを其モルデカイをかけんとて設けし木の上に懸たり 王の震怒つひに解く

Chapter 8

1 その日アハシユエロス王ユダヤ人の敵ハマンの家を后エステルに賜ふモダカイもまた王の前に來れり是はエステル彼が己と何なる係りなるかを告たればなり 2 王ハマンより取かへせし己の指環をはづしてモルデカイに與ふ而してエステル、モルデカイをしてハマンの家をつかさどらしむ 3 エステルふたたび王の前に奏してその足下にひれふしアガグ人ハマンがユダヤ人を害せんと謀りしその謀計を除かんことを涙ながらに乞求めたり 4 王エステルにむかひて金圭を伸ければエステル起て王の前に立ち 5 言けるは王もし之を善としたまひ我もし王の前に恩を得この事もし王に正と見え我もし御目にならばアガグ人ハンメダタの子ハマンが王の諸州にあるユダヤ人をほろぼさんと謀りて書おくりたる書をとりけすべき旨を書くだりたまへ 6 われ豈わが民に臨まんとする禍害を見るに忍びんや豈わが宗族のほろぶるを見るにしのびんや 7 アハシユエロス王后エステルとユダヤ人モルデカイにいひけるはハマン、ユダヤ人を殺さんとしたれば我すでにハマンの家をエステルに與へまたハマンを

木にかけたり 8 なんぢらも亦おのれの好むごとく王の名をもて書をつくり王の指環をもてこれに印してユダヤ人につたへよ王の名をもて書き王の指環をもて印したる書は誰もとりけすこと能はざればなり 9 これをもてその時また王の書記官を召あつむ是三月すなはちシワンの月の二十三日なりきしかして印度よりエテオピアまでの百二十七州のユダヤ人州牧諸州の方伯州牧等にモルデカイが命ぜんとするところを盡く書するさしむ即ちもろもろの州におくるものはその文字をもちひ諸の民におくるものはその言語をもちひて書おくりユダヤ人におくるものはその文字と言語をもちひ 10 かれアハシユエロス王の名をもてこれをかき王の指環をもてこれに印し驛卒をして御厩にてそだてたる逸足の御用馬のりてその書をおくりつたへしむ 11 その中に云ふ王すべての邑にあるユダヤ人に許す彼らあひ集まり立ておのれの生命を保護しおのれを襲ふ諸國諸州の一切の兵民をその妻をもろももにほろぼし殺し絶し且その所有物を奪ふべし 12 アハシユエロス王の諸州において十二月すなはちアダルの月の十三日一日の内かくのごとくするを許さる 13 この詔旨を諸州につたへんがためまたユダヤ人をしてかの日のために準備してその敵に仇をかへさしめんがためにその書る物の寫本を一切の民に開きて示せり 14 驛卒逸足の御用馬のりて王の命によりて急がせらるせきたてられて出ゆけりこの詔書はシユシヤンの城において出されたり 15 かくてモルデカイは藍と白の朝服を着大なる金の冠を戴き紫色の細布の外衣をまといて王の前よりいできたれりシユシヤンの邑中聲をあげて喜びぬ 16 ユダヤ人には光輝あり喜悅あり快樂あり尊榮ありき 17 いづれの州にても何の邑にても凡て王の命令と詔書のいたるところにてはユダヤ人よるこび楽しみ酒宴をひらきて此日を吉日となせりしかして國の民おほくユダヤ人となれり是はユダヤ人を畏る心おこりたればなり

Chapter 9

12月すなはちアダルの月の十三日王の命令と詔書のおこなはるべき時よいよ近づける時すなはちユダヤ人の敵ユダヤ人を打伏んとまぢかまへたりしに却てユダヤ人おのれを悪む者を打ふする事となりける其日に 2 ユダヤ人アハシユエロス王の各州にある己の邑々に相あつまりおのれを害せんとする者どもを殺さんとせり誰も彼らに敵ることを得る者なかりき其は一切の民ユダヤ人を畏れたればなり 3 諸州の牧伯州牧方伯など凡て王の事を辨理ふ者は皆ユダヤ人をたすけたり是モルデカイを畏るによりてたり 4 モルデカイは王の家にて大なる者となりその名各州にきこえわたれり斯その人モルデカイはますます大になりゆきぬ 5 ユダヤ人すなはち刀刃をもてその一切の敵を撃て殺し滅ぼしおのれを悪む

者を意のままに爲したり 6 ユダヤ人またシユシヤンの城においても五百人を殺しほろぼせり 7 パルシヤンダタ、ダルボン、アスパタ 8 ポラタ、アダリヤ、アリダタ 9 パルマサタ、アリサイ、アリダイ、ワエザタ 10 これらの者すなはちハンメダタの子ユダヤ人の敵たるハマンの十人の子をも彼ら殺せりされどその所有物には手をかけざりき 11 シユシヤンの城の内にて殺されし者の數をその日王にまうしあげければ 12 王さきエステルにいひけるはユダヤ人シユシヤンの城の内にて五百人を殺したハマンの十人の子をころせり王のその餘の諸州においては幾何なりしぞや汝また何か求むるところあるやかならず許さるべし尚何かねがふところあるや必らず成就らるべし 13 エステルにいひけるは王もし之を善としたまはば願くはシユシヤンにあるユダヤ人に允して明日も今日の詔旨のごとくなさしめ且ハマンの十人の子を木に懸れたまへ 14 王かく爲せと命じシユシヤンにおいて詔旨を出せりマンの十人の子は木に懸らる 15 アダルの月の十四日にシユシヤンのユダヤ人また集まりシユシヤンの内にて三百人をころせり然れどもその所有物には手をかけざりき 16 王の諸州にあるその餘のユダヤ人もまた相あつまり立ておのれの生命を保護しその敵に勝て安んじおのれを惡む者七萬五千人をころせり然れどもその所有物には手をかけざりき 17 アダルの月の十三日にこの事をおこなひ十四日にやすみてその日に酒宴をなして喜こべり 18 されどシユシヤンにをるユダヤ人はその十三日と十四日とにあひ集まり十五日にやすみてその日に酒宴をなして喜こべり 19 これによりて村々のユダヤ人すなはち石垣なき邑々にすめる者はアダルの月の十四日をもて喜樂の日酒宴の日吉日となして互に物をやりとりす 20 モルデカイこれらの事を書ししてアハシユエロス王の諸州にをるユダヤ人に遠きにも近きにも書をおくり 21 アダルの月の十四日と十五日を年々にはいふことを命じ 22 この兩の日にユダヤ人その敵に勝て休みこの月は彼のために憂愁より喜樂にかはり悲哀より吉日にかはりたれば是らの日に酒宴をなして喜びたがひに物をやりとりし貧しき者に施與をなすべしと諭しぬ 23 ここをもてユダヤ人はその己にはじめたるごとくモルデカイがかれらに書おくりしごとく行なひつづけたる 24 アガグ人ハンメダタの子ハマンすなはちすべてのユダヤ人の敵たる者ユダヤ人を滅ぼさんと謀りブルすなはち籬を投てこれを滅ぼし絶さんとしたりしが 25 その事王の前に明かになりし時王書をおくりて命じハマンがユダヤ人を害せんとはかりしその惡き謀計をしてハマンのかうべに歸らしめ彼とその子等を木に懸しめたり 26 このゆゑに此兩の日をそのブルの名にしたがひてプリムとなづけたり斯しかばこの書のすべての詞によりこの事につきて見たるところ己の遇たるところに依て 27 ユダヤ人あひ定め年々その書るとこ

ろにしたがひその定めたる時にしたがひてこの兩の日をまもり己とおのれの子孫および凡て己につらなる者これを行ひつづけて廢すること無く 28 この兩の日をもて代々々々州々邑々において必ず記念てまもるべき者となしこれらのプリムの日をしてユダヤ人の中に廢せらるること無らしめまたこの記念をしてその子孫の中に絶ること無らしむ 29 かくてアビハイルの女なる后エステルとユダヤ人モルデカイおほいなる力をもて此プリムの第二の書を書おくりてこれを堅うす 30 すなはちモルデカイ、アハシユエロスの國の百二十七州にある一切のユダヤ人に平和と眞實の言語をもて書をおくり 31 斷食と悲哀のことにつきてプリムのこれらの日を堅うしてその定めたる時を守らしむすなはちユダヤ人モルデカイと后エステルが曾てかれらに命じたるごとくまたユダヤ人等が曾てみづから己のためおよびおのれの子孫のために定めたるがごとし 32 エステルの語プリムにかかはる是等の事をかたうせり是は書にしるされたり

Chapter 10

1 アハシユエロス王國土および海の島々に貢をたてまつらしむ 2 アハシユエロス王が權勢と能力をもて爲たる一切の事業および彼がモルデカイを高くして大いなる者とならしめたる事の委き話はメデアとペルシヤの列王の日誌の書に記さるるにあらずや 3 ユダヤ人モルデカイはアハシユエロス王に次ぐ者となりユダヤ人の中にありて大なる者にしてその衆多の兄弟によるこばれたり彼はその民の福祉をもとめその一切の宗族に平和の言をのべたりき

ヨブ 記

Chapter 1

1 ウツの地にヨブと名くる人あり其人と爲完全かつ正しくして神を畏れ惡に遠ざかる 2 その生る者は男の子七人女の子三人 3 その所有物は羊七千駱駝三千 牛五百軛 牝驢馬五百僕も夥多しくあり此人は東の人の中にて最も大なる者なり 4 その子等おの己の家にて己の日に宴筵を設くる事を爲しその三人の姉妹をも招きて與に食飲せしむ 5 その宴筵の日はつる毎にヨブかならず彼らを召よせて潔む即ち朝はやく興き彼ら一切の數にしたがひて燔祭を獻ぐ是はヨブ我子ら罪を犯し心を神を忘れたらんも知べからずと謂てなり 6 或日神の爲とて常には是のごとし 7 或日神の子等きたりてエホバの前に立つ サタンも來りてその中にあり 7 エホバ、サタンに言たまひけるは汝何處より來りしやサタン、エホバに應へて言けるは地を行めぐり此彼經あるきて來れり 8 エホバ、サタンに言たまひけるは汝心をもちひてわが

僕ヨブを觀しや彼のごとく完全かつ正しくして神を畏れ惡に遠ざかる人世にあらざるなり 9 サタン、エホバに應へて言けるはヨブあにもとむることなくして神を畏れんや 10 汝彼とその家およびその一切の所有物の周圍に藩屏を設けたまふにあらざるや汝がれが手に爲ところを盡く成就せしむるがゆゑにその所有物地に遍ぬし 11 然ど汝の手を伸て彼の一切の所有物を撃たまへば必ず汝の面にむかひて汝を誑はん 12 エホバ、サタンに言たまひけるは視よ彼の一切の所有物を汝の手に任す 13 唯かれの身に汝の手をつくる勿れサタンすなはちエホバの前よりいでゆけり 14 或日ヨブの子女等その第一の兄の家にて物食ひ酒飲めたる時 15 使者ヨブの許に來りて言ふ牛耕しをり牝驢馬その傍に草食をりしに 16 シバ人襲ひて之を奪ひ刃をもて少者を打殺せり我ただ一人のがれて汝に告んとて來れりと 17 彼なほ語ひをる中に又一人きたりて言ふ神の火天より降りて羊および少者を焚て滅ぼせり我ただ一人のがれて汝に告んとて來れりと 18 彼なほ語ひをる中に又一人來りて言ふ汝の子女等その第一の兄の家にて物食ひ酒飲をりしに 19 荒野の方より大風ふき來て家の四隅を撃ければ夫の若き人々の上に潰れおちて皆しねり我これを汝に告んとて只一人のがれ來れりと 20 是においてヨブ起あがり外衣を裂き髪を斬り地に伏して拜し 21 言ふ我裸にて母の胎を出たり又裸にて彼處に歸らん 22 エホバ與へエホバ取たまふなり 23 エホバの御名は讚べきかな 24 この事においてヨブは全く罪を犯さず神にむかひて愚なることを言ざりき

Chapter 2

1 或日神の子等きたりてエホバの前に立つサタンも來りその中にありてエホバの前に立つ 2 エホバ、サタンに言たまひけるは汝何處より來りしやサタン、エホバに應へて言けるは地を行めぐり此彼經あるきて來れり 3 エホバ、サタンに言たまひけるは汝心をもちひて我僕ヨブを見しや彼のごとく完全かつ正しくして神を畏れ惡に遠ざかる人世にあらざるなり 4 汝われを勸めて故なきに彼を打惱さしめしかど彼なほ己を完うして自ら堅くす 5 サタン、エホバに應へて言けるは皮をもて皮に換るなれば人はその一切の所有物をもて己の生命に換ふべし 6 然ど今なんぢの手を伸て彼の骨と肉とを撃たまへば必ず汝の面にむかひて汝を誑はん 7 エホバ、サタンに言たまひけるは彼を汝の手に任す 8 只かれの生命を害ふ勿れと 9 サタンやがてエホバの前よりいでゆきヨブを撃てその足の跖より頂までに惡き腫物を生ぜしむ 10 ユブ土瓦の碎片を

取り其をもて身を掻き灰の中に坐りぬ 9時にその妻かれに言けるは汝は尚も己を完たうして自ら堅くするや神を詛ひて死るに如ずと 10然るに彼はこれに言ふ汝の言ところは愚なる婦の言ところに似たり我ら神より福祉を受けるなれば災禍をも亦受ざるを得んやと此事においてはヨブまつたくその唇をもて罪を犯さざりき 11時にヨブの三人の友この一切の災禍の彼に臨めるを聞き各々おのれの處よりして來れり即ちテマン人エリバズ、シユヒ人ビルダゲおよびアマナ人ゾバル是なり彼らヨブを弔りかつ慰めんとて互に約してきたりしが12目を擧て遙に觀しに其ヨブなるを見識がたき程なりければ齊く聲を擧て泣き各おのれの外衣を裂き天にむかひて塵を撒て己の頭の上にちらし13乃ち七日七夜かれと偕に地に坐しゐて一言も彼に言かくる者なかりき彼が苦惱の基だ大なるを見ればなり

Chapter 3

1斯て後ヨブ口を啓きて自己の目を詛へり 2
ヨブすなはち言詞を出して云く 3
我が生れし日亡びうせよ男子胎にやどれりと言し夜も亦然あれ 4
その日は暗くなれ
神上よりこれを顧みたまはざれ
光これを照す勿れ 5
暗闇および死蔭これを取もどせ
雲これが上をおほえ
日を暗くする者これを懼しめよ 6
その日は黑暗の執ふる所となれ
年の夜の中に加はらざれ
月の數に入ざれ 7
その夜は孕むこと有ざれ
歡喜の聲その中に興らざれ8日を詛ふ者レビヤタンを激發すに巧なる者これを詛へ9その夜の晨星は暗かれその夜には光明を望むも得ざらしめ又東雲の眼蓋を見ざらしめよ 10
是は我母の胎の戸を闔ずまた我目に憂を見ること無らしめざりしによる 11
1何とて我は胎より死て出ざりしや何とて胎より出し時に氣息たえざりしや 12
如何なれば膝ありてわれを接しや如何なれば乳房ありてわれを養ひしや13若らば今は我偃て安んじかつ眠らん 然ばこの身やすらひをり 14
かの荒墟を自己のために築きたりし世の君等臣等と偕にあり 15
かの黄金を有ち白銀を家に充したりし牧伯等と偕にあらん 16
又人しれず墮る胎兒のごとくにして世に出ずまた光を見ざる赤子のごとくならん 17
彼處にては惡き者
虐遇を息め倦憊たる者安息を得 18
彼處にては俘囚人みな共に安然に居りて驅使者の聲を聞ず 19
小き者も大なる者も同じく彼處にあり僕も主の手を離る 20
如何なれば艱難にをる者に光を賜ひ心苦しむ者に生命をたまひしや 21
斯る者は死を望むなれどもきたらずこれをもとむるは藏れたる寶を掘るよりも甚だし 22
もし墳墓を尋ねて獲ば大に喜び楽しむなり 23
その

道かくれ神に取籠られをる人に如何なれば光明を賜ふや 24
わが歎息はわが食物に代り我呻吟は水の流れそそくに似たり 25
我が戦慄き懼れし者我に臨み我が怖懼れたる者この身に及べり 26
我は安然ならず穩ならず安息を得ず唯艱難のみきたる

Chapter 4

1
時にテマン人エリバズ答へて曰く 2
人もし汝にむかひて言詞を出さば汝これを厭ふや然ながら誰か言で忍ぶことを得んや 3
さきに汝は衆多の人を誨へ諭せり
手の垂たる者をばこれを強くし 4
つまづく者をば言をもて扶けおこし
膝の弱りたる者を強くせり 5
然るに今この事汝に臨めば汝悶えこの事なんぢに加はれば汝おちまどふ 6
汝は神を畏こめり
是なんぢの依頼む所ならずや
汝はその道を全うせり
是なんぢの望ならずや 7
請ふ想ひ見よ
誰か罪なくして亡びし者あらん
義者の絶れし事いづくに在や 8
我の觀る所によれば不義を耕へし惡を播く者はその獲る所も亦是のごとし 9
みな神の氣吹によりて滅びその鼻の息によりて消うす 10
獅子の吼猛き獅子の聲とも息み
少き獅子の牙折れ 11
大獅子獲物なくして亡び小獅子散失す 12
前に言の密に我に臨めるありて我その細聲を耳に聞得たり 13
即ち人の熟睡する頃我夜の異象によりて想ひ煩ひをりける時 14
身に恐懼をもよほして戦慄き
骨節ことごとく振ふ 15
時に靈ありて我面の前を過ければ我は身の毛よだちたり 16
その物立とまりしが我はその状を見わかつことえざりき
唯一の物の象わが目の前にあり時に我しづかなる聲を聞けり云く 17
人いかで神より正義からんや人いかでその造主より潔からんや 18
彼はその僕をさへに恃みたまはず
其使者をも足ぬ者と見做たまふ 19
況んや土の家に住りて塵を基とし
蜉蝣のごとく亡ぶる者や 20
是は朝より夕までの間に亡びかへりみる者もなくして永く失逝る 21
その魂の緒あに絶ざらんや皆悟ること無して死うす

Chapter 5

1
請ふなんぢ顧みて看よ
誰か汝に應ふる者ありや聖者の中に
て誰に汝むかはんとするや 2
夫愚なる者は憤恨のために身を殺し
癡き者は嫉妬のために己を死しむ 3
我みづから愚なる者のその根を張るを見たりしがすみやかにその家を詛へり 4
その子等は助援を獲ることなく
門にて惱まざる 之を救ふ者なし 5
その穢とれる物は饑たる人これを食ひ
荆棘の籬の中にありてもなほ之を奪ひいだし羈をその所有物にむかひて口を張る 6
災禍は塵より起らず

艱難は土より出ず7人の生れて艱難をうくるは火の子の上に飛がごとし 8
もし我ならんには我は必らず神に告求め 我事を神に任せん 9
神は大にして測りがたき事を行ひたまふ其不思議なる事を爲たまふこと數れしす 10
雨を地の上に降し
水を野に遣り 11
卑き者を高く擧げ
憂ふる者を引興して幸福ならしめたまふ 12
神は狡しき者の謀計を敗り之をして何事をもその手に成就ること能はざらしめ 13
慧き者をその自分の詭計によりて執へ
邪なる者の謀計をして敗れしむ 14
彼らは晝も暗黒に遇ひ
卓午にも夜の如くに摸り惑はん 15
神は惱める者を救ひてかれらが口の劍を免かれしめ
強き者の手を免かれしめたまふ 16
是をもて弱き者望あり
惡き者口を閉づ 17
神の懲したまふ人は幸福なり然ば汝全能者の傲責を輕んずる勿れ 18
神は傷け又裏み撃ていたため又その手をもて善醫したまふ 19
彼はなんぢを六の艱難の中にて救ひたまふ七の中にて災禍なんぢにのぞまじ 20
饑饉の時にはなんぢを救ひて死を免れしめ
戦争の時には劍の手を免れしめたまふ 21
汝は舌にて鞭たる時にも隨ることを得
壊滅の來る時にも懼ること有じ 22
汝は壊滅と饑饉を笑ひ地の獸をも懼ること無るべし 23
田野の石なんぢと結び野の獸なんぢと和がん 24
汝はおのが幕屋の安然なるを知ん汝の住處を見まはるに缺たる者なからん 25
汝また汝の子等の多くなり汝の裔の地の草の如くなるを知ん 26
汝は遐齡におよびて墓にいらん
宛然來束を時にいたりて運びあぐるごとくなるべし 27
視よ我らが尋ね明めし所かくのごとし
汝これを聽て自ら知れよ

Chapter 6

1
ヨブ應へて曰く 2
願はくは我憤恨の善く權られ我懊惱の之とむかひて天秤に懸れんことを 3
然すれば是は海の沙よりも重からん
斯ればこそ我言躁妄なりけれ 4
それ全能者の箭わが身にいらわが魂神その毒を飲り神の畏怖我を襲ひ攻む 5
野驢馬あに青草あるに鳴んや
牛あに食物あに鹽なくして食はれんや 6
淡き物あに鹽なくして食はれんや
蛋の白あに味あらんや 7
わが心の觸ることを嫌ふ物是は我が厭ふ所の食物のごとし 8
願はくは我求むる所を得んことを願はくは神わが希ふ所の物を我に賜はらんことを 9
願はくは神われを滅ぼすを善とし御手を伸て我を絶たまはんことを 10
然るとも我は尚みづから慰むる所あり烈しき苦痛の中において喜ばん是は我聖者の言に悖りしことなればなり 11
我何の氣力ありてか尚俟ん
我の終いかなれば我なほ耐へ忍ばんや 12
わが氣力あに石の氣力のごとくならんや
我肉あに銅のごとくならんや 13

わが助われの中に無にあらずや救拯我より逐はなされしにあらずや 14
憂患にしづむ者はその友これを憐れむべし然らずば全能者を畏ることを廢ん 15
わが兄弟はわが望を充さざること溪川のごとく
溪川の流のごとくに過る 16
是は氷のために黒くなり
雪その中に藏るれども 17
温暖になる時は消ゆき熱くなるに及てはその處に絶つ 18
隊旅客身をめぐらして去り空曠處にいたりて亡ぶ 19
テマの隊旅客これを望みシバの旅客これを慕ふ 20
彼等これを望みしによりて愧恥を取り
彼處に至りてその面を赧くす 21
かく汝等も今は虚しき者なり汝らは怖ろしき事を見れば則ち懼る 22
我あに汝等我に予へよと言しこと有んや汝らの所有物の中より物を取て我ために饋れと言しこと有んや 23
また敵人の手より我を救ひ出せと言しことあらんや虐ぐる者の手より我を贖へと言しことあらんや 24
我を教へよ 然らば我黙せん
請ふ我の過てる所を知せよ 25
正しき言は如何に力あるものぞ然ながら汝らの規諫の所は何の規諫とならんや 26
汝らは言を規正んと想ふや望の絶たる者の語る所は風のごときなり 27
汝らは孤子のために籤を擧ぎ
汝らの友をも商貨にするならん 28
今ねがはくは我に向へ
我は汝らの面の前に偏はず 29
請ふ再びせよ 不義あらしむる勿れ
請ふ再びせよ 30
此事においては我正義し
我舌に不義あらんや
我口惡き物を辨へざらんや

Chapter 7

1
それ人の世にあるは戦闘にあるがごとくならずや又其日は傭人の日のごとくなるにあらずや 2
奴僕の暮を冀がふが如く傭人のその價を望むがごとく 3
我は苦しき月を得させられ
憂はしき夜をあたへらる 4
我臥ば乃はち言ふ何時夜あけて我おきいでんかと 5
曙まで頻に輾轉ぶ
わが肉は蟲と土塊とを衣服となし
我皮は愈てまた腐る 6
わが日は機の梭よりも迅速なり
我望む所なくし之を送る 7
想ひ見よわが生命が氣息なる而已
我目は再び福祉を見ること有じ 8
我を見し者の眼かさねて我を見ざらん
汝目を我にむくるも我は己に在ざるべし 9
雲の消て逝がごとく陰府に下れる者は重ねて上りきたらじ 10
彼は再びその家に歸らず
彼の郷里も最早かれを認めじ 11
然ば我はわが口を禁めず
我心の痛によりて語ひわが神魂の苦しきによりて歎かん 12
我あに海ならんや鰐ならんや汝なに
て我を守らせおきたまふぞ 13
わが寐われを慰めわが寢床わが愁を解んと思ひをる時に 14
汝夢をもて我を驚かし
異象をもて我を懼れしめたまふ 15

是をもて我心は氣息の閉んことを願ひ我この骨よりも死を冀がふ 16 われ生命を厭ふ
 我は永く生るをことを願はず
 我を捨おきたまへ
 我日は氣息のごときなり 17 人を如何なる者として汝これを大にし之を心に留 18
 朝ごとに之を看そなはし
 時わかず之を試みたまふや 19
 何時まで汝われに目を離さず我が津を咽む間も我を捨おきたまはざるや 20 人を鑿みたまふ者よ我罪を犯したりとて汝に何をか爲ん何ぞ我を汝の的となして我にこの身を厭はしめたまふや 21 汝なんぞ我の愆を赦さず我罪を除きたまはざるや
 我いま土の中に睡らん汝我を尋ねたまふとも我は在ざるべし

Chapter 8

1
 時にシユヒ人ビルダデ答へて曰く 2
 何時まで汝かかる事を言や何時まで汝の口の言語を大風のごとくにするや 3 神あに審判を曲たまはんや全能者あに公義を曲たまはんや 4 汝の子等かれに罪を獲たるにや之をその愆の手に付したまへり 5
 汝もし神に求め 全能者に祈り 6 清くかつ正しうしてあらば必ず今汝を顧み汝の義き家を榮えしめたまはん 7 然らば汝の始は微小くあるとも汝の終は甚だ大ならん 8
 請ふ汝過にし代の人に問へ彼らの父祖の尋究めしところの事を學べ 9 (我らは昨日より有しのみにて何をも知らず
 我らが世にある日は影のごとし) 10
 彼等なんぢを教へ汝を諭し
 言をその心より出さざらんや 11
 葦あに泥なくして長んや
 萩あに水なくしてそだたんや 12 是はそ青くして未だ刈ざる時にも他の一切の草よりは早く禰る 13
 神を忘るる者の道は凡て是のごとく悖る者の望は空しくなる 14
 その恃む所は絶れ
 その倚ところは蜘蛛網のごとし 15
 その家に倚かからんとすれば家立ず之に堅くとりすがらも保たじ 16
 彼日の前に青緑を呈はし
 その枝を圍に蔓延らせ 17 その根を石堆に盤みて石の屋を眺むれども 18 若その處より取のぞかれなばその處これを認めずして我は汝を見る事なしと言ん 19
 視よその道の喜樂是のごとし而してまた他の者地より生いでん 20
 それ神は完全人を棄たまはず
 また悪き者の手を執りたまはず 21
 遂に哂笑をもて汝の口に充し歡喜を汝の唇に置たまはん 22
 汝を惡む者は羞恥を着せられ
 惡き者の住所は無なるべし

Chapter 9

1 ヨブこたへて言けるは 2
 我まことに其事の然るを知り
 人いかにか神の前に義かるべけん 3
 よし人は神と辨争はんとするとも千

の一も答ふること能はざるべし 4
 神は心慧く力強くましますなり
 誰か神に逆ひてその身安からんや 5
 彼山を移したまふに山しらず
 彼震怒をもて之を顛倒したまふ 6
 彼地を震ひてその所を離れしめたまへばその柱ゆるぐ 7
 日に命じたまへば日いせず
 又星辰を封じたまふ 8
 唯かれ獨天を張り海の濤を覆たまふ 9
 また北斗參宿昴宿および南方の密室を造りたまふ 10
 大なる事を行ひたまふこと測られず奇しき業を爲たまふこと數しれず 11
 視よ彼わが前を過たまふ然るに我これを見ず彼すすみゆき賜ふ然るに我之を噴す 12
 彼奪ひ去賜ふ誰か能之を沮まん誰か之に汝何を爲やと言ことを得爲ん 13
 神其震怒を息賜はず
 ラハブを助る者等之が下に屈む 14
 然らば我争か彼に回答を爲ことを得ん
 争われ言を選びて彼と論ぶ事をえんや 15
 假令われ義かるとも彼に回答をせじ彼は我を審判く者なれば我彼に哀き求ん 16
 假令我彼を呼て彼われに答たまふともわが言を聴いれ賜ひしとは我信ぜざるなり 17
 彼は大風をもて我を撃碎き
 故なくして我に衆多の傷を負せ 18
 我に息をつかさしめず
 苦き事をもて我身に充せ賜ふ 19
 強き者の力量を言んか視よ此にあり審判の事ならんか
 誰か我を喚出すことを得爲ん 20
 假令われ義かるとも我口われを惡しと爲ん假令われ完全かるとも尚われを罪ありとせん 21
 我は全し然ども我はわが心を知ず
 我生命を賤む 22
 皆同一なり 故に我は言ふ神は完全者と惡者とを等しく滅したまふと 23
 災禍の俄然に人を誅す如き事あれば彼は幸なき者の苦痛を笑ひ見たまふ 24
 世は惡き者の手に交されてあり
 彼またその裁判人の面を蔽ひたまふ若彼ならずば是誰の行爲なるや 25
 わが日は驛使よりも速く
 徒に過ぎりて福祉を見ず 26
 其はしること葦舟のごとく物を擲まんとて飛かける鷺のごとし 27
 たとひわが愁を忘れ面色を改めて笑いをらんと思ふとも 28
 尚この諸の苦痛のために戰慄くなり我思ふに汝われを釋し放ちたまはざらん 29
 我は罪ありとせらるるなれば何ぞ徒然に勞すべけんや 30
 われ雪水をもて身を洗ひ
 灰汁をもて手を潔むるとも 31
 汝われを汚はしき穴の中に陥れたまはん而して我衣も我を厭ふにいたらん 32
 神は我のごとく人にあらざれば我かれに答ふべからず我ら二箇して共に裁判に臨むべからず 33
 また我らの間には我ら二箇の上に手を置べき仲保あらず 34
 願くは彼その杖を我より取はなしその震怒をもて我を懼れしめたまはざれ 35
 然らば我言語て彼を畏れざらん其は我みづから斯る者と思はざればなり

Chapter 10

1
 わが心生命を厭ふ
 然らばわが憂愁を包まず言あらはしわが魂神の苦きによりて語はん 2
 われ神に申さん
 我を罪ありしとしたまふ勿れ何故に我とあらそふかを我に示したまへ 3
 なんぢ虐遇を爲し汝の手の作を打棄て惡き者の謀計を照すことを善としたまふや 4
 汝は肉眼を有たまふや汝の觀たまふ所は人の觀るのごとくなるや 5
 なんぢの日は人間の日のごとく
 汝の年は人の日のごとくなるや 6
 何とて汝わが愆を尋ねわが罪をしらべたまふや 7
 されども汝はすでに我の罪なきを知らたまふまた汝の手より救ひいだし得る者なし 8
 汝の手われをいとなみ我をことごとく作りり然るに汝今われを滅ぼしたまふなり 9
 請ふ記念たまへ汝は土塊をもてするがごとく我を作りたまへり然るに復われを塵に歸さんとしたまふや 10
 汝は我を乳のごとく斟ぎ牛酪のごとくに凝しめたまひしに非ずや 11
 汝は皮と肉とを我に着せ骨と筋とをもて我を編み 12
 生命と思恩とをわれに授け我を眷顧てわが魂神を守りたまへり 13
 然はあれど汝これらの事を御心に藏しおきたまへり
 我この事汝の心にあるを知る 14
 我もし罪を犯さば汝われをみとめてわが罪を赦したまはじ 15
 我もし行状あしからば禍あらん
 假令われ義かるとも我頭を擧じ
 其は我は衷に羞耻充ち
 眼にわが患難を見ればなり 16
 もし頭を擧げば獅子のごとくに汝われを追打ち我身の上に復なんぢの奇しき能力をあらはしたまはん 17
 汝はしばしば證する者を入かへて我を攻め我にむかひて汝の震怒を増し新手に新手を加へて我を攻めたまふ 18
 何とて汝われを胎より出したまひしや然らずば我は息絶え目に見らること無く 19
 曾て有ざりし如くならん即ち我は胎より墓に持ゆかれん 20
 わが日は幾時も无きに非ずや願くは彼姑らく息て我を離れ我をして少しく安んぜしめんことを 21
 我が往て復返ることなきその先に斯あらしめよ 我は暗き地死の蔭の地に往ん 22
 この地は暗くして晦冥に等しく死の蔭にして區分なし
 彼處にては光明も黑暗のごとし

Chapter 11

1 是においてナアマ人ソバル答へて言けるは 2
 言語多からば豈答へざるを得んや
 口おほき人あに義とせられんや 3
 汝も空しき言あに人をして口を閉しめざらんや 4
 汝は言ふ 我教は正し我は汝の目の前に潔しと 5
 願くは神言を出し
 汝にむかひて口を開き 6
 智慧の秘密をなんぢに示してその知識の相倍するを願したまはんことを汝しれ神はなんぢの罪よりも輕くなんぢを處置したまふなり 7

なんぢ神の深事を窮むるを得んや
 全能者を全く窮むることを得んや 8
 その高きことは天のごとし
 汝なにを爲し得んや
 其深きことは陰府のごとし
 汝なにを知えんや 9
 その量は地よりも長く海よりも濶し 10
 彼もし行めぐりて人を執へて召集めたまふ時は誰か能くこれを阻まんや 11
 彼は僞る人を善く知りたまふ又惡事は顧みること無して見知たまふなり 12
 虚しき人は悟性なし その生るるよりして野驢馬の駒のごとし 13
 汝もし彼にむかひて汝の心を定め汝の手を舒べ 14
 手に罪のあらんには之を遠く去れ
 惡をなんぢの幕屋に留むる勿れ 15
 然すれば汝
 面を攀て玷なかるべく堅く
 立て懼る事なかるべし 16
 すなはち汝憂愁を忘れん汝のこれを憶ゆることは流れ去し水のごとくならん 17
 なんぢの生存らるる日は眞晝よりも輝かぬ假令暗き事あるとも是は平旦のごとくならん 18
 なんぢは望あるに因て安んじ汝の周圍を見めぐりて安然に寐るにいたらん 19
 なんぢは何にも懼れさせらるること無して僞やまん必ず衆多の者なんぢを悦ごせんと務むべし 20
 然ど惡き者は目矇み逃遁處を失ははん 其望は氣の斷ると等しかるべし

Chapter 12

1 ヨブこたへて言ふ 2
 なんぢら而已まことに人なり
 智慧は汝らと共に死ん 3
 我もなんぢらと同じく心あり
 我はなんぢらの下に立ず誰か汝らの言し如き事を知ららんや 4
 我は神に顛はりて聽る者なるに今その友に嘲けらるる者となれり嗚呼正しくかつ完たき人あざける 5
 安逸なる者は思ふ輕侮は不幸なる者に附そひ足のよろめく者を俟と 6
 掠奪ふ者の天幕は繁榮え神を怒らせ自己の手に神を携ふる者は安泰なり 7
 今請ふ黙に問へ然らば汝に教へん 8
 天空の鳥に問へ然らばなんぢに語らん 8
 地に言へばなんぢに教へん
 海の魚もまた汝に述べし 9
 誰かこの一切の者に依てエホバの手のこれを作りしなるを知ららんや 10
 一切の生物の生氣および一切の人の靈魂ともは彼の手の中にあり 11
 耳は説話を辨へざらんやその状あたかも口の食物を味ふがごとし 12
 老たる者の中には智慧あり
 壽長者の中には穎悟あり 13
 智慧と權能は神に在り
 智謀と穎悟も彼に屬す 14
 視よ彼毀て再び建ること能はず彼人を閉こむれば開き出すことを得ず 15
 視よ彼水を止むれば則ち涸れ水を出せば則ち地を滅ぼす 16
 權能と穎悟は彼に在り惑はさるる者も惑はず者も共に彼に屬す 17
 彼は議士を裸體にして擣へゆき審判人をして愚なる者とならしめ 18
 王等の權威を解て反て之が腰に繩をかけ 19
 祭司等を裸體にして擣へゆき權力ある者を滅ぼし 20

言爽なる者の言語を取除き
 老たる者の了知を奪ひ 21
 侯伯たる者等に恥辱を蒙らせ
 強き者の帯を解き 22
 暗中より隠れたる事等を顯し
 死の蔭を光明に出し 23
 國々を大にしました之を滅ぼし
 國々を廣くしました之を舊に歸し 24
 地の民の長たる者等の了知を奪ひ
 これを路なき荒野に吟行はしむ 25
 彼らは光明なき暗にたどる彼また彼
 らを酔る人のごとくによるめかしむ

Chapter 13

1 視よわが目これを盡く観
 わが耳これを聞いて通達れり 2
 汝らが知るころは我もこれを知る
 我は汝らに劣らず 3
 然りと雖ども我は全能者に物言ん
 我は神と論ぜんことをぞむ 4
 汝らは只謊言を造り設くる者
 汝らは皆無用の醫師なり 5
 願くは汝ら全く黙せよ
 然するは汝らの智慧なるべし 6
 請ふわが論ずる所を聴き
 我が唇にて辨争ふ所を善く聴け 7
 神のために汝ら恐き事を言や
 又かれのために虚偽を述るや 8
 汝ら神の爲に偏るや
 またかれのために争はんとするや 9
 神もし汝らを監察たまはば豈善らん
 や汝等人を欺むごとくに彼を欺む
 き得んや 10 汝等もし密に私する
 あらば彼かならず汝らを責ん 11
 その威光なんぢらを懼れしめざらんや
 彼を懼るる畏懼なんぢらに臨まざら
 んや 12
 なんぢらの諭言は灰に譬ふべし
 なんぢらの城は土の城となる 13
 黙して我にかかはらざれ
 我言語んとす
 何事にもあれ我に來らば來れ 14
 我なんぞ我肉をわが齒の間に置き
 わが生命をわが手に置かんや 15
 彼われを殺すとも我は彼に依頼まん
 唯われは吾道を彼の前に明かにせん
 とす 16 彼また終に我救拯とならん
 邪曲なる者は彼の前にいたること能
 はざればなり 17 なんぢら聽よ 我言
 を聴け我が述る所をなんぢらの耳に
 入しめよ 18
 視よ我すでに吾事を言並べたり
 必ず義しとせられんと自ら知る 19
 誰か能われと辨論ふ者あらん
 若あらば我は口を縛て死ん 20
 惟われに二の事を爲たまはざれば
 我なんぢの面をさけて隠れじ 21
 なんぢの手を我より離れたまへ汝の
 威嚴をもて我を懼れしめたまはざれ
 22 而して汝われを召たまへ
 我こたへん又われにも言はしめて汝
 われに答へたまへ 23
 我の愆われの罪いくばくなるや我の
 背反と罪とを我に知しめたまへ 24
 何とて御顔を隠し我をもて汝の敵と
 なしたまふや 25
 なんぢは吹廻さる木の葉を威士
 干あがりたる初殻を追たまふや 26
 汝は我につきて苦き事等を書しるし
 我をして我が幼稚時の罪を身に負し
 め 27 わが足を足械にはめ
 我すべての道を伺ひ

我足の周圍に限界をつけたまふ 28
 我は腐れたる者のごとくに朽ゆき
 蠹に食るる衣服に等し

Chapter 14

1 婦の産む人はその日少なくし
 て艱難多し 2
 その來ること花のごとくにして散り
 其馳ること影のごとくにして止まら
 ず 3 なんぢ是のごとき者に汝の目を
 啓きたまふや汝われを汝の前にひき
 て審判したまふや 4 誰か清き物を汚
 れたる物の中より出し得る者あらん
 一人も無し 5 その日既に定まり
 その月の數なんぢに由り汝これが區
 域を立て越ざらしめたまふなれば 6
 是に目を離して安息を得させ之をし
 て傭人のその日を樂しむがごとくな
 らしめたまへ 7 それ木には望あり
 假令砍るるとも復芽を出してその枝
 絶す 8 たとひ其根地の中に老い
 幹土に枯るとも 9 水の潤露にあへば
 即ち芽をふき枝を出して若樹に異な
 らず 10 然ど人は死れば消うす
 人氣絶なば安に在んや 11
 水は海に竭き河は涸てかわく 12
 是のごとく人も寢臥てまた興ず天の
 盡るまで目覺ず睡眠を醒さざるなり
 13 願はくは汝われを陰府に藏し
 汝の震怒の息むまで我を掩ひ我ため
 に期を定め而して我を念ひたまへ 14
 4人もし死ばまた生んや 我はわが征
 戰の諸日の間望みをりて我が變更の
 來るを待ん 15
 なんぢ我を呼たまはん
 而して我こたへん汝かならず汝の手
 の作を顧みたまはん 16
 今なんぢは我に步履を數へたまふ我
 罪を汝うかがひたまはざらんや 17
 わが愆は凡て囊の中に封じてあり汝
 わが罪を縫こめたまふ 18 それ山も
 倒れて終に崩れ巖石も移りてその處
 を離る 19 水は石を鑿ち
 浪は地の塵を押流す
 汝は人の望を斷たまふ 20 なんぢは
 彼を永く攻なやまして去ゆかしめ彼
 の面容の變らせて逐やりたまふ 21
 その自尊なるも彼は之を不知卑賤
 なるもまた之を曉らざるなり 22 只
 己みづからその肉に痛苦を覺え己み
 づからその心に哀く而已

Chapter 15

1
 テマン人エリバズ答へて曰く 2 智者
 風に虚しき知識をもて答へんや豈東
 風をその腹に充さんや 3 かに裨なき
 談益なき詞をもて辨論はんや 4
 まことに汝は神を畏るる事を棄て
 その前に禱ることを止む 5
 なんぢの罪なんぢの口を教ふ汝はみ
 づから擇びて狡猾人の舌を用ふ 6
 なんぢの口みづから汝の罪を定む我
 には非ず汝の唇なんぢの惡きを證す 7
 汝あに最初に世に生れたる人なら
 んや山よりも前に出來しならんや 8
 神の御謀議を聞しならんや
 智慧を獨にて藏めをらんや 9
 なんぢが知る所は我らも知ざらんや
 汝が曉るところは我らの心にも在ざ
 らんや 10 我らの中には白髮の人あ

よび老たる人ありて汝の父よりも年
 高し 11 神の慰藉および夫の柔かき
 言詞を汝小しとするや 12
 なんぢ何ぞかく心狂ふや
 何ぞかく目をしばたたくや 13 なん
 ぢ是のごとく神に對ひて氣をいらだ
 てる言詞をなんぢの口よりい出す
 は如何ぞや 14 人は如何なる者ぞ
 如何してか潔からん
 婦の産し者は如何なる者ぞ
 如何してか義からん 15 それ神はそ
 の聖者にすら信を置たまはず諸の天
 もその目の前には潔からざるなり 16
 6 況んや罪を取ること水を飲がごと
 くする憎むべき穢れたる人をや 17
 我なんぢに語る所あらん 聽よ
 我見たる所を述ん 18 是すなはち智
 者等が父祖より受て隠すところ無く
 傳へ來し者なり 19 彼らに而已この
 地は授けられて外國人は彼等の中に
 往來せしこと無りき 20 惡き人はそ
 の生る日の間つねに悶へ苦しむ
 強暴人の年は數へて定めおかる 21
 その耳には常に懼怖しき音きこえ平
 安の時にも滅ぼす者これに臨む 22
 彼は幽暗を出得るとは信ぜず
 目ざされて劔に付さる 23 彼食物は
 何處にありやと言つつ尋ねありき黒
 暗日の備へられて己の側にあるを知る
 24 患難と苦痛とはかれを懼れしめ戰闘
 の準備をなせる王のごとくして彼に
 打勝ん 25 彼は手を伸て神に敵し
 傲りて全能者に悖り 26 頸を強くし
 厚き楯の面を向て之に馳かかり 27
 面に肉を滿せ 腰に脂を凝し 28 荒さ
 れたる邑々に住居を設けて人の住べ
 からざる家
 石堆となるべき所に居る 29
 是故に彼は富す
 その貨物は永く保たず 30
 また己は黒暗を出づるに至らず
 火燄その枝葉を枯さん而してその身
 は神の口の氣吹によりて亡ゆかん 31
 1 彼は虚妄を恃みて自ら欺くべからず
 其報は虚妄なるべければなり 32
 彼の日の來らざる先に其事成べし
 彼の枝は緑ならじ 33 彼は葡萄の樹
 のその熟せざる果を振落すがごとく
 橄欖の樹のその花を落すがごとくな
 るべし 34
 邪曲なる者の宗族は零落れ
 賄賂の家は火に焚ん 35
 彼等は惡念を孕み 虚妄を生み
 その胎にて詭計を調ふ

Chapter 16

1 ヨブ答へて曰く 2
 斯る事は我おほく聞り汝らはみな人
 を慰めんとして却つて人を煩はす者
 なり 3 虚しき言語に終極あらんや
 汝なにに勵されて應答をなすや 4
 我もまた汝らの如くに言ことを得も
 し汝らの身わが身と處を換なば我は
 言語を練て汝らを攻め
 汝らにむかひて首を搖ことを得 5
 また口をもて汝らを強くし唇の慰藉
 をもて汝らの憂愁を解ことを得るなり
 6
 たとひ我言を出すとも我憂愁は解す

黙するとも何ぞ我身の安くなるこ
 と有んや 7 彼いま已に我を疲らしむ
 汝わが宗族をことごとく荒せり 8
 なんぢ我をして皺らしめたり
 是われに向ひて見證をなすなり又わ
 が瘦おとろへたる状貌わが面の前に
 現はれ立て我を攻む 9
 かれ怒てわれを撕裂きかつ寤しめ我
 にむかひて齒を嚙鳴し我敵となり目
 を鋭して我を見る 10
 彼ら賤にむかひて口を張り
 我を賤しめてわが頬を打ち
 相集まりて我を攻む 11
 神われを邪曲なる者に交し
 惡き者の手に擲ちたまへり 12 我は
 安穩なる身なりしに彼いたく我を打
 惱まし頸を執へて我をうちくだき遂
 に我を立て鵠となしたまひ 13
 その射手われを連れ圍めり
 やがて情もなく我腰を射透し
 わが膽を地に流れしめたまふ 14
 彼はわれを打敗りて破壊に破壊を加
 へ勇士のごとく我に奔かかりたまふ
 15 われ麻布をわが肌に縫つけ我角
 を塵にて汚せり 16
 我面は泣て頰くなり
 我目縁には死の蔭あり 17
 然れども我手には不義あること無く
 わが祈禱は清し 18
 地よ我血を掩ふなかれ
 我號呼は休む處を得ざれ 19
 視よ今にても我證となる者天にあり
 わが眞實を表明す者高き處にあり 20
 わが朋友は我を嘲けれども我目は
 神にむかひて涙を注ぐ 21
 願くは彼人のために神と論辨し人の
 顔のためにこれにわが朋友と論辨せんこ
 とを 22 數年すぎさらば我は還らぬ
 旅路に往べし

Chapter 17

1 わが氣息は已にくさり我日す
 でに盡なるとし墳墓われを待つ 2
 まことに嘲弄者等わが傍に在り我目
 は彼らの辨争ふを常に見ざるを得ず
 3 願くは質を賜て汝みづから我の
 保證となりたまへ
 誰か他にわが手をうつ者あらんや 4
 汝彼らの心を閉て悟るところ無らし
 めたまへり
 必ず彼らをして愈らしめたまはじ 5
 朋友を交付して掠奪に遭しむる者は
 其子等の目潰るべし 6 彼われを世の
 民の笑柄とならしめたまふ
 我は面に唾せらるべき者となれり 7
 かつまた我目は憂愁によりて昏み
 肢體は凡て影のごとし 8
 義しき者は之に驚き
 無辜者は邪曲なる者を見て憤ほる 9
 然ながら義しき者はその道を堅く持
 ち手の潔淨きはますます力を得る
 なり 10 請ふ汝ら皆ふたたび來れ 我
 は汝らの中に一人も智き者あるを見
 ざるなり 11 わが日は已に過ぎわが
 計る所わが心に冀ふ所は已に敗れたり
 12 彼ら夜を晝に變ふ
 黑暗の前に光明ちかづく 13 我もし
 俟つところ有ば是わが家たるべき陰
 府なるのみ
 我は黑暗にわが牀を展ぶ 14 われ朽
 腐に向ひては汝はわが父なりと言ひ
 蛆に向ひては汝は我母わが姉妹なり

と言ふ 15
 然ばわが望はいづくにかある
 我望は誰かこれを見る者あらん 16
 是は下りて陰府の闇に到らん之と齊
 しく我身は塵の中に臥静まるべし

Chapter 18

1
 シュヒ人ビルダデこたへて曰く 2汝
 等いつまで言語を獵求むることをす
 るや 汝ら先曉るべし
 然る後われら辨論はん 3
 われら何ぞ獣畜とおもはるべけんや
 何ぞ汝らの目に汚穢なる者と見らる
 べけんや 4
 なんぢ怒りて身を裂く者よ
 汝のためとて地あに棄られんや
 磐あに其處より移されんや 5
 悪き者の光明は滅され
 其火の焰は照じ 6その天幕の内なる
 光明は暗くなり其が上の燈火は滅さ
 るべし 7またその強き歩履は狭まり
 其計るところは自分を陥いる 8
 すなはち其足に逐れて網に到り
 また陷阱の上を歩むに 9
 索はその踵に纏り 躡これを執ふ 10
 索かれを執ふるために地に隠しあり
 罾かれを陥しいるために路に設け
 あり 11怖ろしき事四方において彼
 を懼れしめ
 其足にしたがひて彼をおふ 12
 その力は餓系
 其傍には災禍そなはり 13
 その膚の肢は蝕壞らる即ち死の初子
 これが肢を蝕壞るなり 14やがて彼
 はその恃める天幕より曳離されて懼
 怖の王の許に驅やられん 15
 彼に屬せざる者かれの天幕に住み
 硫磺かれの家の上に降ん 16
 下にてはその根枯れ
 上にてはその枝斫る 17
 彼の跡は地に絶え
 彼の名は街衢に傳はらじ 18
 彼は光明の中より黑暗中に逐やられ
 世の中より驅出されん 19
 彼はその民の中に子も無く孫も有じ
 また彼の住所には一人も遺る者な
 らん 20之が日を見るにおいて後に
 来る者は駭ろき
 先に出し者は怖おそれん 21
 かならず悪き人の住所は是のごとく
 神を知らざる者の所は是のごとくなる
 べし

Chapter 19

1 ヨブこたへて曰く 2
 汝ら我心をなやまし言語をもて我を
 打くだくこと何時までぞや 3なんぢ
 ら已に十次も我を辱しめ我を悪く待
 ひてなほ愧るところ無し 4假令われ
 眞に過ちたらんもその過は我の身に
 止れり 5なんぢら眞に我に向ひて誇
 り我身に差べき行爲ありと證するな
 らば 6神われを虐げその網羅をもて
 我を包みたまへりと知るべし 7
 我虐げらると叫べども答なく
 呼はり求むれども審理なし 8彼わが
 路の周圍に垣を結めぐらして適る能
 はざらしめ
 我が行く途に黑暗を蒙むらしめ 9わ
 が光榮を褫ぎ我冠冕を首より奪ひ 1

0 四方より我を毀ちて失しめ
 我望を樹のごとくに根より抜き 11
 我にむかひて震怒を燃し
 我を敵の一人と見たまへり 12その
 軍旅ひとしく進み途を高くして我に
 攻寄せ
 わが天幕の周圍に陣を張り 13彼わ
 が兄弟等をして遠くわれを離れしめ
 たまへり我を知る人々は全く我に疎
 くなりぬ 14わが親戚は往來を休め
 わが朋友はわれを忘れ 15わが家に
 寄寓る者およびわが婢等は我を見て
 外人のごとくす我かれらの前にては
 異國人のごとし 16
 われわが僕を喚どもこたへず我口を
 もて彼に請はざるを得ざるなり 17
 わが氣息はわが妻に厭はれわが臭氣
 はわが同胎の子等に嫌はる 18
 童子等さへも我を侮どり
 我起あがれば即ち我を嘲ける 19わ
 が親しき友われを惡みわが愛したる
 人々ひるがへりてわが敵となれり 20
 わが骨はわが皮と肉とに貼り 我は
 僅に齒の皮を全うして逃れしのみ 2
 1 わが友よ汝等われを恤れめ
 我を恤れめ 神の手われを撃り 22汝
 らなにとて神のごとくして我を攻め
 わが肉に廢ことなきや 23
 望むらくは我言の書留られんことを
 望むらくは我言書に記されんことを
 24望むらくは鐵の筆と鉛をもて之
 を永く磐石に鐫つけおかんことを 2
 5われ知る我を贖ふ者は活く 後の日
 に彼かならず地の上に立ん 26
 わがこの皮この身の朽はてん後
 われ肉を離れて神を見ん 27
 我みづから彼を見てまつらん我目
 かれを見んに識らぬ者のごとくな
 り 我が心これを望みて焦る 28なん
 ぢら若われら如何に彼を攻んかと言
 ひ また事の根われに在りと言は 29
 劍を懼れよ忿怒は劍の罰をきたらす
 斯なんぢら遂に審判のあるを知ん

Chapter 20

1
 ナアマ人ゾバルこたへて曰く 2これ
 に因てわれ答をなすの思念を起し心
 しきりに之がために急る 3
 我を辱しむる警語を我聞ざるを得ず
 然しながらわが爲し知のしわれをして
 答ふることを得せしむ 4なんぢ知ず
 や古昔より地に人の置れしより以來
 5 悪き人の勝誇は暫時にして邪曲な
 る者の歡樂は時の間のみ 6その高天
 に達しその首雲に及ぶとも 7終には
 己の糞のごとくに永く亡絶べし彼を
 見識る者は言ん彼は何處にありやと
 8 彼は夢の如く過さりて復見るべか
 らず夜の幻のごとく追はらはれん 9
 彼を見る目かさねてかれを見るこ
 とあらず彼の住たる處も再びかれを
 見ること無らん 10
 その子等は貧しき者に寛待を求めん
 彼もまたその取し貨財を手づから償
 さん 11その骨に少壯氣勢充り 然れ
 どもその氣勢もまた塵の中に彼とお
 なじく臥ん 12かれ惡の口に甘しと
 して舌の底に藏め 13 愛みて捨ず
 之を口の中に含みをもる 14
 然どその食物腸の中にて變り
 腹の内にて蝮の毒とならん 15かれ

貨財を吞たれども復之を吐いださん
 神これを彼の腹より推いだしたまふ
 べし 16 かれは蝮の毒を吸ひ
 蝮の舌に殺されん 17 かれは蜂蜜と
 牛酪の湧て流るる河川を視ざらん 1
 8 その勞苦で獲たる物は之を償して
 自ら食はず又それを求めたる所有よ
 りは快樂を得じ 19 是は彼貧しき者
 を虐げて之を棄たればなり假令家
 を奪ひとるとも之を改め作ることを
 得ざらん 20 かれはその腹に飽こと
 を知らざるが故に己の深く喜ぶ物
 をも保つこと能はじ 21 かれが遺して
 食はざる物とては一も無し是により
 てその福祉は永く保たじ 22 その繁
 榮の眞盛において彼は艱難に迫られ
 乏しき者すべて手をこれが上に置ん
 23かれ腹を充さんとすれば神烈しき
 震怒をその上に下しその食する時に
 これをその上に降したまふ 24 かれ
 鐵の器を避けば銅の弓これを射透す
 25是に於て之をその身より拔ば閃く
 鐵の膽より出きたりて畏懼これに
 臨む 26 各種の黑暗これが實物を
 をぼすために蒼へたる又人の吹お
 こせしに非る火かれを焚き
 その天幕に遺りをる者をも焚ん 27
 天かれの罪を顯はし
 地興りて彼を攻ん 28 その家の儲蓄
 は亡て神の震怒の日に流れ去ん 29
 是すなはち悪き人が神より受る分
 神のこれに定めたまへる數なり

Chapter 21

1 ヨブこたへて曰く 2
 請ふ汝等わが言を謹んで聽き
 之をもて汝らの慰藉に代よ 3
 先われに容して言しめよ
 我が言る後なんぢ嘲るも可し 4わが
 怨言は世の人の上につきて起れる者
 ならんや我なんぞ氣をいだつ可ら
 ざらんや 5なんぢら我を視て驚き手
 を口にあてよ 6われ思ひまはせば畏
 しくなりて身體しきりに戰慄く 7
 悪き人何とて生ながらへ
 老かつ勢力強くなるや 8その子等は
 その周圍にありてその前に堅く立ち
 その子孫もその目の前に堅く立べし
 9 またその家は平安にして畏懼なく
 神の杖その上に臨まじ 10
 その牝牛は種を與へ過らずその牝
 牛は子を産てそこなふ事なし 11 彼
 等はその少き者等を外に出すこと群
 のごとし その子等は舞をどる 12
 彼等は鼓と琴をもて歌ひ
 笛の音に由て樂み 13
 その日を幸福に暮し
 まばたくまに陰府にくだる 14 然は
 あれども彼等は神に言らく我らを離
 れ賜へ我らは汝の道をしることを好
 まず 15 全能者は何者なれば我らこ
 れに事ふべき我儕これに祈るとも何
 の益を得んやと 16 視よ彼らの福祉
 は彼らの力に由にあらざるなり惡人
 の希圖は我の與する所にあらず 17
 惡人のその燈火を滅るる事幾度あり
 しかその滅亡のこれに臨む事神の怒
 りて之に艱苦を蒙らせたまふ事幾度
 有しか 18 かれら風の前の藁の如く
 暴風に吹さらるる初穀の如くなるこ
 と幾度有しか 19 神かれの愆を積た
 くはへてその子孫に報いたまふか之

を彼自己の身に報い知しむるに如ず
 20かれをして自らその滅亡を目に視
 させ
 かつ全能者の震怒を飲しめよ 21 そ
 の月の數すでに盡るに於ては何ぞそ
 の後の家に關はる所あらん 22 神は
 天にある者等をさへ審判たまふなれ
 ば誰か能これに知識を教へんや 23
 或人は繁榮を極め全く平穩にかつ安
 康にして死に 24 その器に乳充ち
 その骨の髓は潤はへり 25
 また或人は心を苦しめて死し
 終に福祉をあぢはふる事なし 26 是
 等は俱に齊しく塵に臥して蛆におほ
 はる 27
 我まことに汝らの思念を知り汝らが
 我を攻撃んとするの計略を知る 28
 なんぢらは言ふ王侯の家は何に在る
 惡人の住所は何にあると 29
 汝らは路往く人々に詢ざりしや
 彼等の證據を曉らざるや 30
 すなはち滅亡の日に惡人遺され烈し
 き怒の日に惡人たづさへ出さる 31
 誰か能かれに打向ひて彼の行爲を指
 示さんや誰か能彼の爲たる所を彼に
 報ゆることを爲ん 32
 彼は昇れて墓に到り
 塚の上にて守護ることを爲す 33
 谷の土塊も彼には快し
 一切の人その後に従ふ
 其前に行る者も數へがたし 34 既に
 是の如くなるに汝等なんぞ徒に我を
 慰さめんとするや
 汝らの答ふる所はただ虚偽のみ

Chapter 22

1是においてテマン人エリバズ
 こたへて曰く 2
 人神を益する事をえんや智人も唯み
 づから益する而已なるぞかし 3なん
 ぢ義かるとも全能者に何の歡喜があ
 らんなんぢ行爲を全たふすとも彼
 に何の利益かあらん 4彼汝の畏懼の
 故によりて汝を責め汝を鞠きたまは
 んや 5なんぢの怒大なるにあらざる
 汝の罪はきはまり無し 6 即はち汝は
 故なくその兄弟の物を抑へて質とな
 し 裸なる者の衣服を剥て取り 7
 渴く者に水を與へて飲しめず
 饑る者に食物を施さざす 8
 力ある者土地を得
 貴き者その中に住む 9なんぢは寡婦
 に手を空しうして去しむ 10
 孤子の腕は折る 11
 是をもて網羅なんぢを環り
 畏懼にはかに汝を擾す 11
 なんぢ黑暗を見ずや
 洪水のなんぢを覆ふを見ずや 12
 神は天の高に在すならざるや
 星辰の巔ああ如何に高きぞや 13
 是によりて汝は言ふ
 神なをわが知しめさん豈よく黒雲の
 中より審判するを得たまはんや 14
 濃雲かれを蔽へば彼は見たまふ所な
 し 唯天の蒼穹を歩きたまふ 15 なん
 ぢ古昔の世の道を行なはんとするや
 是あしき人の踐たりし者ならずや 1
 6 彼等は時いまだに至るに打絶れ
 その根基は大水に押流されたり 17
 彼ら神に言けらく我儕を離れたまへ
 全能者われらのために何を爲ことを
 得んと 18 しかるに彼は却つて佳物

を彼らの家に盈したまへり但し惡人の計畫は我に與する所にあらず 19
 義しき者は之を見て喜び
 無辜者は彼らを笑ふ 20
 曰く我らの仇は誠に滅ばされ其盈餘れる物は火にて焚つくさる 21
 請ふ汝神と和らぎて平安を得よ
 然らば福祿なんぢに來らん 22
 請ふかれの口より教晦を受け
 その言語をなんぢの心に藏めよ 23
 なんぢもし全能者に歸向り且なんぢの家より惡を除き去ば
 汝の身再び興されん 24
 なんぢの寶を土の上に置きオフルの黄金を谿河の石の中に置け 25 然れば全能者なんぢの寶となり汝のために白銀となりたまふべし 26 而してなんぢは又全能者を喜び且神にむかひて面をあげん 27 なんぢ彼に祈らば彼なんぢに聽たまはん而して汝その誓願をつくのひ果さん 28 なんぢ事を爲んと定めなばその事なんぢに成ん 汝の道には光照ん 29
 其卑く降る時は汝いふ昇る哉と彼は謙遜者を拯ひたまふべし 30 かれは罪なきに非ざる者をも拯ひたまはん汝の手の潔淨によりて斯る者も拯はるべし

Chapter 23

1 ヨブこたへて曰く 2
 我は今日にても尚つばやきて服せずわが禍災はわが嘆息よりも重し 3 ねがはくは神をたづねて何處にか遇まつるを知り其御座に參いたらんことを 4 我この愁訴をその御前に陳べ口を極めて辨論はん 5
 我その辨に答へたまふ言を知り
 また其われに言たまふ所を了らん 6
 かれ大なる能をもて我と争ひたまはんや
 然らじ反つて我を着きたまふべし 7
 彼處にては正義人かれと辨争ふことを得斯せば我を鞠く者の手を永く免かるべし 8
 しかるに我東に往くも彼いまさず西に往くも亦見たてまつらず 9
 北に工作きたまへども遇まつらず南に隠れ居たまへば望むべからず 10
 わが平生の道は彼知たまふ彼われを試みたまはば我は金のごとく出て出きたらん 11
 わが足は彼の步履に堅く隨がへり我はかれの道を守りて離れざりき 12
 我はかれの唇の命令に違はず我が法よりも彼の口の言語を重ぜり 13
 かれは一に居る者にまします
 誰か能かれをして意を變しめん彼はその心に慾する所をかならず爲たまふ 14 然ば我に向ひて定めし事を必ず成就たまはん是のごとき事を多く彼は爲たまふなり 15
 是故に我かれの前に慄ふ
 我考ふれば彼を懼る 16
 神わが心を弱くならしめ全能者われをして懼れしめたまふ 17 かく我は暗の來らぬ先わが面を黑暗の覆ふ前に打絶れざりき

Chapter 24

1 なにゆゑに全能者時期を定めおきたまはざるや何故に彼を知る者その日を見ざるや 2 人ありて地界を侵し群畜を奪ひて牧ひ 3
 孤子の驢馬を驅去り
 寡婦の牛を取て質となし 4
 貧しき者を路より推退け世の受難者をして盡く身を匿さしむ 5 視よ彼らは荒野にをる野驢馬のごとく出て業を爲て食を求め野原よりその子等のために食物を得 6
 圃にて惡き者の麥を刈り
 またその葡萄の遺餘を摘む 7
 かれらは衣服なく裸にして夜を明し覆ふて寒氣を禦ぐべき物なし 8
 山の暴風に濡れ
 庇はるるところ無し岩を抱く 9
 孤子を母の懷より奪ふ者あり貧しき者の身につける物を取て質となす者あり 10 貧き者衣服なく裸にて歩き饑つづ麥束を擔ふ 11
 人の垣の内にて油を搾め
 また渴きつづ酒酔を踐む 12
 邑の中より人々の呻吟たちのぼり傷けられたる者の叫喚おたる然れども神はその怪事を省みたまはず 13
 また光明に背く者あり光の道を知ず光の路に止らず 14
 人を殺す者味爽に興いで
 受難者や貧しき者を殺し
 夜は盜賊のごとくす 15 姦淫する者は我を見る目はなからんとてその目に昏暮をうかがひ待ち而してその面に覆ふ物を當つ 16
 また夜分家を穿つ者あり彼等は晝は閉こもり居て光明を知らず 17
 彼らには晨は死の蔭のごとし
 是死の蔭の怖るしきを知ばなり 18
 彼は水の面に疾ながるる物の如し
 その産業は世の中に詛はるるその身重ねて葡萄園の路に向はず 19
 亢旱および炎熱は雪水を直に乾涸す陰府が罪を犯せし者におけるも亦かくのごとし 20
 これを宿せし腹これを忘れ
 蛆これを好みて食ふ
 彼は最早世におぼえらるること無く
 その惡は樹を折るが如くに帰る 21
 是すなはち孕まず産ざりし婦人をなやまし 寡婦を憐れまざる者なり 22
 神はその權能をもて強き人々を保存へさせたまふ彼らは生命あらじと思ふ時にも復興る 23 神かれらに安泰を賜へば彼らは安らかなり而してその目をもて彼らの道を見そはしたまふ 24 かれらは旺盛になり暫時が間に無なり卑くなりて一切の人のごとくに没し麥の穂のごとくに斷る 25
 すでに是のごとくなれば誰か我の謬まれるを示してわが言語を空しくすることを得ん

Chapter 25

1 時にシユヒ人ビルダゲこたへて曰く 2 神は大權を握りたまふ者畏るべき者にましまし
 高き處に平和を施したまふ 3
 その軍旅數ふることを得んや
 其光明なに物をか照さざらん 4
 然ば誰か神の前に正義かるべき

婦人の産し者いかでか清かるべき 5
 視よ月も輝かず
 星も其目には清明ならず 6
 いはんや蛆のごとき人
 蟲のごとき人の子をや

Chapter 26

1 ヨブこたへて曰く 2
 なんぢ能力なき者を如何に助けしや
 氣力なきものを如何に救ひしや 3
 智慧なき者を如何に誨へしや
 穎悟の道を如何に多く示ししや 4
 なんぢ誰にむかひて言語を出ししや
 なんぢより出しは誰が靈なるや 5 陰靈水またその中に居る者の下に慄ふ 6
 かれの御前には陰府も顯露なり滅亡の坑も蔽ひ匿す所なし 7
 彼は北の天を虚空に張り
 地を物なき所に懸けたまふ 8 水を濃雲の中に包みたまふてその下の雲裂す 9 御寶座の面を隠して雲をその上に展べ 10 水の面に界を設けて光と暗とに限を立たまふ 11 かれ叱咤たまへば天の柱震ひかつ怖る 12
 その權能をもて海を静め
 その智慧をもてラハブを撃碎き 13
 その氣嘘をもて天を輝かせ其手をもて逃る蛇を衝とほしたまふ 14 視よ是等はただその御工作の端なるのみ我らが聞ところの者は如何にも微細なる耳語ならずや然どその權能の雷轟に至りては誰かこれを曉らんや

Chapter 27

1 ヨブまた語を繼ぎていはく 2
 われに義しき審判を施したまはざる神わが心魂をなやまし給ふ全能者此神は活く 3
 (わが生命なほ全くわれの衷にあり神の氣息なほわが鼻にあり) 4
 わが口は惡を言ず
 わが舌は謊言を語らじ 5
 我決めて汝等を是とせし我に死るまで我が罪なきを言ことを息じ 6
 われ堅くわが正義を持ちて之を棄じ我は今まで一日も心に賣られし事なし 7 我に敵する者は惡き者と成り我を攻る者は義からざる者と成るべし 8 邪曲なる者もし神に絶れその魂神を脱とらるるに於ては何の望かあらん 9 かれ艱難に罹る時に神その呼號を聽いたまはんや 10
 かれ全能者を喜こばんや
 常に神を籲んや 11
 われ神の御手を汝等に教へん
 全能者の道を汝等に隠さじ 12
 視よ汝等もみな自らこれを觀たり然るに何ぞ斯愚蒙をきはむるや 13
 惡き人の神に得る分強暴の人の全能者より受る業は是なり 14
 その子等蓄れば劍に殺さる
 その子孫は食物に飽ず 15 その遺れる者は疫病に斃れて埋められ
 その妻等は哀哭をなさず 16 かれ銀を積こと塵のごとく衣服を備ふること土のごとくなるとも 17
 その備ふる者は義き人これを着んまたその銀は無辜者これを分ち取ん 18
 その建る家は蟲の巢のごとく
 また番人の造る茅家のごとし 19 彼は富る身にて寢臥し重ねて興ること

無しまた目を開けば即ちその身きえ亡す 20
 懼ろしき事大水のごとく彼に追及き夜の暴風かれを奪ひ去る 21
 東風かれを颺げて去り
 彼をその處より吹はらふ 22
 神かれを射て恤まず
 彼その手より逃れんともがく 23
 人かれに對ひて手を鳴し
 嘲りわらひてその處をいでゆかしむ

Chapter 28

1 白銀掘いだす坑あり
 煉るところの黄金は出處あり 2
 鐵は土より取り
 銅は石より熔して獲るなり 3 人すなはち黑暗を破り極より極まで尋ね窮めて黑暗および死蔭の石を求む 4 その穴を穿つこと深くして上に住む人と遠く相離れ
 その上を歩む者まつたく之を覺えず是のごとく身を縫下げ
 遙に人と隔りて空に懸る 5
 地その上は食物を出し其下は火に覆へさるがごとく覆へる 6
 その石の中には碧の玉のある處あり黄金の沙またその内にあり 7
 その逕は鷲鳥もこれを知ず
 鷹の目もこれを見ず 8
 鷲も獅子も未だこれを踏んず 9 人堅き磐に手を加へたまふ山を根より倒し 10 岩に河を掘り各種の貴き物を目に見とめ 11 水路を塞ぎて漏ざらしめ隠れたる寶物を光明に取いだすなり 12
 然ながら智慧は何處よりか買得ん明哲の在る所は何處ぞや 13 人その價を知らず人のすめる地に獲べからず 14
 淵は言ふ我の内に在らずと海は言ふ我と偕ならずと 15
 精金も之に換るに足す
 銀も秤りてその價となすを得ず 16
 オフルの金にてもその價を量るべからず 貴き青玉も碧玉もまた然り 17
 黄金も玻璃もこれに並ぶ能はず
 精金の器皿も之に換るに足す 18
 珊瑚も水晶も論にたらず
 智慧を得るは眞珠を得るに勝る 19
 エテオピアより出る黄玉もこれに並ぶあたはず純金をもてするとその價を量るべからず 20
 然ば智慧は何處より來るや
 明哲の在る所は何處ぞや 21
 是は一切の生物の目に隠れ
 天空の鳥にも見えす 22
 滅亡も死も言ふ
 我等はその風聲を耳に聞し而已 23
 神その道を曉り給ふ
 彼その所を知りたまふ 24 彼は地の極までも觀そなはし天が下を看きはめたまへばなり 25
 風にその重量を與へ水を度りてその量を定めたまひし時 26
 雨のために法を立て雷霆の光のために途を設けたまひし時 27 智慧を見て之を顯はし之を立て試みたまへり 28 また人に言たまはく視よ主を畏るは是智慧なり
 惡を離るるは明哲なり

Chapter 29

1 ヨブまた語をつぎて曰く 2
嗚呼過にし年月のごとくならまほし
神の我を護りたまへる日のごとく
ならまほし 3 かの時には彼の燈火わが
首の上に輝き彼の光明によりて我
黑暗を歩めり 4
わが壯なりし日のごとくならまほし
彼時には神の恩恵わが幕屋の上に
ありき 5 かの時には全能者なほ我と
ともに在し
わが子女われの周囲にありき 6
乳ながれてわが足跡を洗ひ
我が傍なる磐油を灌ぎいだせり 7 かの
時には我いでて邑の門に上りゆき
わが座を街衢に設けたり 8
少き者は我を見て隠れ
老たる者は起あがりて立ち 9 牧伯
たる者も言談ずしてその口に手を當て
10 貴き者も聲をさめてその舌を上
顎に貼たりき 11 我事を耳に聞る者
は我を幸福なりと呼び我を目に見た
る者はわがために證據をなしぬ 12
是は我助力を求むる貧しき者を拯ひ
孤子および助くる人なき者を拯ひた
ればなり 13
亡びんとせし者われを祝せり我また
寡婦の心をして喜び歌はしめたり 14
われ正義を衣また正義の衣の所と
なれり我が公義は袍のごとく冠履の
ごとし 15 われは盲目の目となり跛
者の足となり 16 貧き者の父となり
知ざる者の訴訟の由を究め 17
悪き者の牙を折りその齒の間より獲
物を取いだせり 18
我すなはち言けらく
我はわが巢に死ん
我が日は砂の如く多からん 19
わが根は水の邊に蔓り
露わが枝に終夜おかん 20 わが榮光
はわが身に新なるべくわが弓はわが
手に何時も強からんと 21 人々われ
に聴き黙して我が教を俟ち 22
わが言し後は彼等言を出さず我説と
ころは彼等に甘露のごとく 23 かれ
らは我を望み待つこと雨のごとく口
を開きて仰ぐこと春の雨のごとく
なりき 24 われ彼等にむかひて笑ふと
も彼等は敢て眞實とおもはず我面の
光を彼等は除くことをせざりき 25
われは彼等のために道を探ひ
その首として座を占め
軍中の王のごとくして居りまた哀哭
者を慰さむる人のごとくなりき

Chapter 30

1 然るに今は我よりも年少き者
等われを笑ふ彼等の父は我が賤しめ
て群の犬と並べ置くことをもせざり
し者なり 2 またかれらの手の力もわ
れに何の用をかなさん彼らは其氣力
すでに衰へたる者なり 3 かれらは缺
乏と饑によりて瘦おとろ荒かつ
廢れたる暗き野にて乾ける地を咬む
4 すなはち灌木の中にて藜を摘み若
の根を食物となす 5
彼らは人の中より逐いださる盜賊を
追ふがよ 6 彼等は懼ろしき谷に住み
土坑および磐穴に居り 7
灌木の中に嘶なき荊棘の下に偃す 8

彼らは愚蠢なる者の子卑むべき者の
子にして國より撃いださる 9
しかるに今は我かれらの歌謠に成り
彼らの嘲哂となれり 10
かれら我を厭ふて遠く我を離れまた
わが面に唾することを辭まず 11 神
わが綱を解て我をなやましたまへば
彼等もわが前にその韉を縦せり 12
この輩わが右に起あがりわが足を推
のけ我にむかひて滅亡の路を築く 13
3 彼らは自ら便なき者なれども尚わ
が逕を毀ちわが滅亡を促す 14 かれ
らは石垣の大なる崩口より入がごと
くに進み來り
破壊の中にてわが上に乗かかり 15
懼ろしき事わが身に臨み
風のごとくに我が尊榮を吹はらふ
わが福祿は雲のごとくに消失す 16
今はわが心われの衷に鎔て流れ
患難の日かたく我を執ふ 17
夜にいれば我骨刺れて身を離るわが
身を噬む者つひに休むこと無し 18
わが疾病の大なる能によりてわが衣
服は醜き様に變り裏衣の襟の如くに
我身に固く附く 19 神われを泥の中
に投こみたまひて我は塵灰に等しく
なれり 20 われ汝にむかひて呼はる
に汝答へたまはず 我立をるに
汝只われをながめ居たまふ 21 なん
ぢは我にむかひて無情なりたまひ御
手の能力をもて我を攻撃たまふ 22
なんぢ我を擧げ風の上に乗て負去し
め大風の音とともに消亡したまふ 23
われ知る汝はわれを死に歸らし
め一切の生物の終に集る家に歸らし
めたまはん 24 かれは必ず荒坵にむ
かひて手を舒たまふこと有じ假令
人滅亡に陥るとも是等の事のために號
呼ぶことをせん 25 苦みて日を送る
者のために我哭ざりしや貧しき者
のために我心うれざりしや 26
われ吉事を望みしに凶事きたり
光明を待しに黑暗きたり 27
わが腸沸かへりて安からず
患難の日我に追及ぬ 28 われは日
の光を蒙らずして哀しみつつ歩き
公會の中に立て助を呼もとむ 29
われは山犬の兄弟となり
駝鳥の友となれり 30
わが皮は黒くなりて剥落ち
わが骨は熱によりて焚け 31
わが琴は哀の音となり
わが笛は哭の聲となれり

Chapter 31

1 我わが目と約を立たり
何ぞ小艾を慕はんや 2 然せば上より
神の降り給ふ分は如何なるべきぞ高
處より全能者の與へ給ふ業は如何
なるべきぞ 3
悪き人には滅亡きたらざらんや善
らぬ事を爲す者には常ならぬ災禍あ
らざらんや 4 彼わが道を見そなは
しわが步履をことごとく數へたまは
ざらんや 5
我虚誕とつれだちて歩みし事ありや
わが足虚偽に奔從がひし事ありや 6
請ふ公平き權衡をもて我を稱れ
然ば神われの正しきを知たまはん 7
わが步履もし道を離れ
わが心もしわが目に隨がひて歩み
わが手にもし汚のつきてあらば 8

我が播たるを人食ふも善し
わが産物を根より拔るも善し 9 わ
れもし婦人のために心まよへる事あ
るか又は我もしわが隣の門にありて
伺ひし事あらば 10
わが妻ほかの人のために臼磨きほか
の人々かれの上に寝るも善し 11 其
は是は重き罪にして裁判人に罰せら
るべき惡事なればなり 12 是はすな
はち滅亡にまでも熾いたる火にして
わが一切の産をことごとく絶さん 13
わが僕あるひは婢の我と辯争ひし
時に我もしわが權理を輕んぜし事あ
らば 14 神の起あがりたまふ時には
如何せんや神の臨みたまふ時には何
と答へまつらんや 15 われを胎内に
造りし者また彼をも造りたまひしな
らずやわれらを腹の内に形造りたま
ひし者は唯一の者ならずや 16 我も
し貧き者にその願ふところを獲しめ
ず寡婦をしてその目おとろへしめし
事あるか 17 または我獨みづから食
物を啖ひて孤子にこれを啖はしめざ
りしこと有るか 18 (却つて彼らは我
が若き時より我に育てられしこと父
におけるが如し我は胎内を出てより
以來寡を導びく事をせり) 19 われ衣
服なくて死んとする者あるひは身
を覆ふ物なくて居る人を見し時に
20 その腰もし我を祝せず また彼も
しわが羊の毛にて温まらざりし事あ
るか 21 われを助くる者の門にをる
を見て我みなしごに向ひて手を上し
事あるか 22 然ありしならば肩骨よ
りしてわが肩おち骨とはなれてわが
腕折よ 23
神より出る災禍は我これを懼る
その威光の前には我 能力なし 24
我もし金をわが望となし精金にむか
ひて汝わが所頼なりと言しこと有か
25 我もしわが富の大なるとわが手
に物を多く獲たことを喜びしことあ
るか 26 われ日輝くを見または月
の輝わたりて歩むを見し時 27 心竊
にまよひて手を口に接しことあるか
28 是もまた裁判人に罰せらるべき惡
事なり我もし斯なせし事あらば上
なる神に背しなり 29
我もし我を惡む者の滅亡を喜び又
は其災禍に罹るによりて自ら誇りし
事あるか 30 (我は之が生命を呪ひ
索めて我口に罪を犯さしめし如き事
あらず) 31 わが天幕の人は言はず
彼の肉に飽ざる者いづこにか在んと
32 旅人は外に宿らず わが門を我は
街衢にむけて啓けり 33
我もしアダムのごとくわが罪を蔽ひ
わが惡事を胸に隠せしことあるか 34
すなはち大衆を懼れ宗族の輕蔑に
怖がて口を開ぎ門を出ざりしこと
事あるか 35 嗚呼われの言ところを
聽わくる者あらまほし(我が花押こ
こに在り願くは全能者われに答へた
まへ)我を訴ふる者みづから訴訟状を
書け 36 われ必らず之を肩に負ひ冠履
のごとくこれを首に結ばん 37
我わが步履の數を彼に述ん君王たる
者のごとくして彼に近づかん 38
わが田圃號呼りて我を攻めその阡陌
ことごとく泣きけぶあるか 39 若わ
れ金を出さずしてその産物を食ひま
したその所有主をして生命を失はし
めし事あらば 40
小麦の代に蒺藜生いで大麥のかはり

に雜草おひ出るとも善し
ヨブの詞をはりぬ

Chapter 32

1 ヨブみづから見て己の正義と
するに因て此三人の者之に答ふる事
を止む 2 時にラムの族プジンバラケ
ルの子エリフ怒を發せりヨブ神より
も己を正しとするに因て彼ヨブにむ
かひて怒を發せり 3 またヨブの三人
の友答ふるに詞なくして猶ヨブを罪
ありとせしによりて彼らにむかひて
怒を發せり 4 エリフはヨブに言ふこ
とをひかへて俟りぬは自己よりも
彼等年老たればなり 5 茲にエリフ
この三人の口に答ふる詞の有ざるを
見て怒を發せり 6 プジンバラケル
の子エリフすなはち答へて曰く我は年
少く汝等は年老たり是をもて我はば
かりて我意見をなんぢらに陳ること
を敢てせざりき 7 我意へらく日を重
ねたる者宜しく言を出すべし年を積
たる者宜しく智慧を教ふべしと 8
但し人の衷には靈あり
全能者の氣息人に聰明を與ふ 9
大なる人すべて智慧あるに非ず老た
る者すべて道理に明白なるに非ず 10
然ば我言ふ 我に聽け
我もわが意見を陳ん 11
視よ我は汝らの言語を俟ち
なんぢらの辯論を聴きなんぢらが言
ふべき言語を尋ね盡すを待り 12 わ
れ細に汝らに聽し汝らの中にヨブ
を駁折る者一人も無く
また彼の言詞に答ふる者も無し 13
おそらくは汝等いはん
我ら智慧を見得たり
彼に勝つ者は唯神のみ
人は能はずと 14
彼はその言語を我に向て發さざりき
我はまた汝らの言ふ所をもて彼に答
へし 15
彼らは愕ろきて復答ふる所なく
言語かれらの衷に浮はず 16 彼等も
のいはず立とどまりて重ねて答へざ
ればとて我あに俟るをけんや 17
我も自らわが分を答へわが意見を吐
露さん 18 われには言満ち
わが衷の心しきりに迫る 19
わが腹は口を啓かざる酒のごとし新
しき皮囊のごとく今にも裂んとす 20
われ説いだして胸を安んぜんとす
われ口を啓きて答へん 21
かならず我は人に偏らず
人に諂はじ 22
我は諂らふことを知ずもし諂らばば
我の造化主ただちに我を絶たまふべ
し

Chapter 33

1
然ばヨブよ請ふ我が言ふ事を聽け
わが一切の言語に耳を傾むけよ 2
視よ我口を啓き
舌を口の中に動かす 3
わが言ふ所は正義き心より出づ
わが唇あきらかにその知識を陳ん 4
神の靈われを造り
全能者の氣息われを活しむ 5
汝もし能せば我に答へよ
わが前に言をいひつらねて立て 6

我も汝とおなじく神の者なり我もまた土より取てつくられしなり 7 わが威厳はなんぢを懼れしめず わが勢はなんぢを壓せず 8 汝わが聴くところにて言談り我なんぢの言語の聲を聞けり云く 9 われは潔淨にして愆なし我は辜なく 悪き事わが身にあらす 10 視よ彼われを攻る罅隙を尋ね われを己の敵と算へ 11 わが脚を桎に夾めわが一切の擧動に目を着たまふと 12 視よ我なんぢに答へん なんぢ此事において正義からず神は人よりも大なる者にいませり 13 彼の凡て行なふところの理由を示したまはずとて汝かれにむかひて辯争そふは何ぞや 14 まことに神は一度二度と告示したまふなれど人これを曉らざるなり 15 人熟睡する時または床に睡る時に夢あるひは夜の間の異象の中にて 16 かれ人の耳をひらきその教ふるところを印して堅うし 17 斯て人にその悪き業を離れしめ 傲慢を人の中より除き 18 人の魂を護りて墓に至らしめず人の生命を護りて剣にほろびざらしめたまふ 19 人床にありて疼痛に攻られその骨の中に絶ず戦慄のあるあり 20 その氣食物を厭ひ その魂靈うまき物をも嫌ふ 21 その肉は瘦おちて見えずその骨は見えざりし者までも顯露になり 22 その魂靈は墓に近より その生命は滅ぼす者に近づく 23 しかる時にもし彼とともに一箇の使者あり千の中の一箇にして中保となり 正しき道を人に示さば 24 神かれを憫れみて言給はん彼を救ひて墓にくだること無ししめよ 我すでに收贖の物を得たりと 25 その肉は小兒の肉よりも瑞々しくなり その若き時の形状に歸らん 26 かれ若し神に禱らば神かれを顧りみ彼をしてその御面を喜び見ることを得せしめたまはん神は人の正義に報をなしたまふべし 27 かれ人の前に歌ひて言ふ 我は罪を犯し正しきを枉たり 然ど報を蒙らず 28 神わが魂を贖ひて墓に下らしめず わが生命光明を見ん 29 そもそも神は是等のもろもろの事をしばしば人におこなひ 30 その魂を墓より牽かへし生命の光明をもて彼を照したまふ 31 ヨブよ耳を傾むけて我に聴け 請ふ黙せよ 我かたらん 32 なんぢもし言ふべきことあらば我にこたへよ 請ふ語れ我なんぢを義とせんを怒すればなり 33 もし無ば我に聴け 請ふ黙せよ 我なんぢに智慧を教へん

Chapter 34

1 エリフまた答へて曰く 2 なんぢら智慧ある者よ我言を聴け 知識ある者よ我に耳を傾むけよ 3 口の食物を味はふごとく耳は言詞を辨まふ 4 われら自ら是非を究め われらもるとともに善惡を明らかにせん 5

それヨブは言ふ我は義し神われに正しき審判を施こしたまはず 6 われは義しかれども偏る者とせらる 我は怒なけれどもわが身の矢創愈がたしと 7 何人かヨブのごとくならん 彼は罵言を水のごとくに飲み 8 悪き事を爲す者等と交はり 惡人とともに歩むなり 9 すなはち彼いへらく人は神と親しむとも身に益なしと 10 然ばなんぢら心ある人々よ我に聴け 神は惡を爲すことを決めて無く全能者は不義を行ふこと決めて無し 11 却つて人の所爲をその身に報い人をしてその行爲にしたがひて獲るところあらしめたまふ 12 かならず神は惡き事をなしたまはず全能者は審判を枉たまはざるなり 13 たれかこの地を彼に委ねし者あらん 誰か全世界を定めし者あらん 14 神もしその心を己にのみ用ひその靈と氣息とを己に收回したまはば 15 もろもろの血肉のごとく亡び人も亦塵にかへるべし 16 なんぢもし曉ることを得ば請ふ我に聴けわが言詞の聲に耳を側だてよ 17 公義を惡む者あに世ををさむるを得んやなんぢあに至善き者を惡しとすべけんや 18 王たる者にむかひて汝は邪曲なりと言ひ牧伯たる者にむかひて汝らは惡しといふべけんや 19 まして君王たる者をも偏視ず貧しき者に超て富る者をかへりみるごとき事をせざる者にむかひてをやす爲たまふは彼等みな同じくその御手の作るところなればなり 20 彼らは瞬く時間に死に民は夜の間に滅びて消失せし力ある者も人手によらずして除かる 21 それ神の目は人の道の上にある神は人の一切の步履を見そなはず 22 惡を行なふ者の身を匿すべき黑暗も無く死蔭も無し 23 神は人をして審判を受しむるまでに長くその人を窺がふに及ばず 24 權勢ある者をも査ぶることを須ひずして打ほろぼし他の人々を立て之に替たまふ 25 かくの如く彼らの所爲を知り夜の間に彼らを覆がへしたまへば彼らは乃て滅ぶ 26 人の觀るところにて彼等を惡人のごとく撃たまふ 27 是は彼ら背きて之に従はずその道を全たく顧みざるに因る 28 かれら是のごとくして遂に貧しき者の號呼を彼の許に達らしめ患難者の號呼を彼に聴しむ 29 かれ平安を賜ふ時は誰か惡しと言ふことをえんや彼面をかくしたまふ時には誰かこれを見るを得んや一國におけるも一人におけるも凡て同じ 30 かくのごとく邪曲なる者をして世を治むること無ししめ 民の機檻となることなからしむ 31 人は宜しく神に申すべし我は己に懲しめられたり再度惡き事を爲じ 32 わが見ざる所は請ふ我にをしへたまへ我もし惡き事を爲たるならば重ねて之をなさじと 33 かれ豈なんぢの好むごとくに應報をなしたまはんや 然るに汝はこれを咎む 然ばなんぢ自ら之を選ぶべし 我は爲じ 汝の知るところを言へ 34 心ある人々は我に言ん我に聴ところの智慧ある人々は言ん 35 ヨブの言ふ所は辨知なし その言詞は明哲からずと 36 ねがは

くはヨブ終まで試みられんことを其は惡き人のごとくに應答をなせばなり 37 まことに彼は自己の罪に愆を加へわれらの中間にありて手を拍ちかつ言詞を繁くして神に逆らふ

Chapter 35

1 エリフまた答へて曰く 2 なんぢは言ふ 我が義しきは神に愈れりと なんぢ之を正しとおもふや 3 すなはち汝いへらく 是は我に何の益あらんや罪を犯すに較ぶれば何の愈るところか有んと 4 われ言詞をもて汝およびなんぢにそへる汝の友等に答へん 5 天を仰ぎて見よ 汝の上なる高き空を望め 6 なんぢ罪を犯すとも神に何の害か有ん愆を熾んにするとも神に何を爲えんや 7 汝正義かとも神に何を與るを得んや 神なんぢの手より何をか受たまはん 8 なんぢの惡は只なんぢに同じき人を損ぜん而已なんぢの善は只人の子を益せんのみ 9 暴虐の甚だしきに因て叫び權勢ある者の腕に壓れて呼はる人々あり 10 然れども一人として我を造れる神は何處にいますやといふ者なし彼は人をして夜の中に歌を歌ふに至らしめ 11 地の獸畜より善くわれらを教へ 空の鳥より我らを智からしめたまふ者なり 12 惡き者等の驕傲ぶるに因て斯のごとく人々叫べども應ふる者あらず 13 虚しき語は神かならず之を聽たまはず 全能者これを顧みたまはじ 14 汝は我かれを見たまつらずと言といへども審判は神の前にあり この故に汝彼を待べきなり 15 今かれ震怒をもて罰することを爲す 罪愆を深く心に留たまはざる(が如くなる)に因て 16 ヨブ口を啓きて虚しき事を述べ無知の言語を繁くす

Chapter 36

1 エリフまた言詞を繼て曰く 2 暫らく我に容せ我なんぢに示すこと有ん尚神のために言ふべき事あればなり 3 われ廣くわが知識を取り我の造化主に正義を歸せんとす 4 わが言語は眞實に虚偽ならず 知識の完全き者なんぢの前にあり 5 視よ神は權能ある者にましませども何をも藐視めたまはず その了知の能力は大なり 6 惡しき者を生し存す 患難者のために審判を行ひたまふ 7 義しき者に目を離さず位にある王等とともに永遠に坐せしめて之を貴くしたまふ 8 もし彼ら鏈索に繋がれ 患難の繩にかかると時は 9 彼らの所行と愆尤とを示してその驕れるをさせ 10 彼らの耳を開きて教を容れしめ かつ惡を離れて歸れよと彼らに命じたまふ 11 もし彼ら聴したがひて之に事へなば繁昌てその日を送り 樂しくその年を涉らん 12 若かれら聴したがはずば刀劍にて亡び 知識を得ずして死なん 13 しかれども心の邪曲なる者等は忿怒を蓄はへ

神に縛しめらるるとも祈ることを爲す 14 かれらは年わかして死亡せ 男娼とその生命をひとしようせん 15 神は艱難者を艱難によりて救ひ之が耳を虐遇によりて開きたまふ 16 然ば神また汝を狭きところより出して 狹からぬ廣き所に移したまふあらん 而して汝の席に陳める物は凡て肥たる物ならん 17 今は惡人の鞫罰なんぢの身に充り 審判と公義となんぢを執ふ 18 なんぢ忿怒に誘はれて嘲笑に陥らざるや 汝慎しめよ收贖の大なるが爲に自ら誤るなけれ 19 なんぢの號叫なんぢを艱難の中より出さんや 如何に力を盡すとも所益あらじ 20 世の人のその處より絶る其夜を慕ふなけれ 21 慎しみて惡に傾むくなけれ汝は艱難よりも寧ろ之を取んとせり 22 それ神はその權能をもて大なる事を爲したまふ 誰か能く彼のごとくに教晦を垂んや 23 たれか彼のためにその道を定めし者あらんや 誰かなんぢは惡き事をなせりと言ふことを得ん 24 なんぢ神の御所爲を讚歎ふることを忘れざれ 25 此世の人の歌ひ崇むる所なり 26 人みな之を仰ぎ觀る遠き方より人これを視てまつるなり 27 神は大なる者にいまして我儕かれを知らてまつらずその御年の數は計り知るべからず 28 かれ水を細にして引あげたまへば霧の中に滴り出て雨となるに 29 雲これを降せて人々の上に沛然に灌ぐなり 30 たれか能く雲の舒展る所以またその幕屋の響く所以を了知んや 31 視よ彼その光明を自己の周圍に繞らし 32 また海の底をも蔽ひたまひ 33 これらをもて民を鞫きまた是等をもて食物を豐饒に賜ひ 34 電光をもてその両手を包みその電光に命じて敵を撃しめたまふ 35 その鳴聲かれを顯はし 36 家畜すらも彼の來ますを知らずなり

Chapter 37

1 之がためにわが心わななき その處を動き離る 2 神の聲の響およびその口より出る轟聲を善く聴け 3 これを天が下に放ちまたその電光を地の極にまで至らせたまふ 4 その後聲ありて打響き 彼威光の聲を放ちて鳴わたりたまふ その御聲聞えしむるに當りては電光を押へおきたまはず 5 神奇しくも御聲を放ちて鳴わたり我儕の知ざる大なる事を行ひたまふ 6 かれ雪にむかひて地に降れと命じたまふ 雨すなはちその權能の大雨にもまじかり 7 斯かれ一切の人の手を封じたまふ 是すべての人にその御工作を知しめんがためなり 8 また獸は穴にいりてその洞に居る 9 南方の密室より暴風きたり 10 北より寒氣きたる 11 水の氣吹によりて氷いできたり 水の寛狭くせらる 11 かれ水をもて雲に搭載せまた電光の雲を遠く散したまふ 12

是は神の導引によりて過る是は彼の命ずるところを盡く世界の表面に爲んがためなり 13 その之を來せたまふは或は懲罰のためあるひはその地のため
 又は恩恵のためなり 14
 ヨブよ是を聴け立ちて神の奇妙き工作を考がへよ 15 神いかに是等に命を傳へその雲の光明をして輝やかせたまふか汝これを知るや 16 なんぢ雲の平衡知識の全たき者の奇妙き工作を知るや 17 南風によりて地の穠かになる時なんぢの衣服は熱くなるなり 18 なんぢ彼とともに彼の堅くして鑄たる鏡のごとく蒼穹を張ることを能せんや 19 われらが彼に言ふべき事を我らに教へよ我らは暗昧して言詞を列ぬること能はざるなり 20 われ語るごとありと彼に告ぐべけんや人あに滅ぼさるることを望まんや 21 人いまは雲霄に輝やく光明を見ること能はず
 然れど風きたりて之を吹清む 22 北より黄金いでてきたる神には畏るべき威光あり 23 全能者はわれら測りきはむることを得ず彼は能おほいなる者にいまし審判をも公義をも狂たまはざるなり 24 この故に人々かれを畏る彼はみづから心に有智とする者をかへりみたまはざるなり

Chapter 38

1茲にエホバ大風の中よりヨブに答へて宣まはく 2 無智の言詞をもて道を暗からしむる此者は誰ぞや 3 なんぢ腰ひきからげて丈夫のごとくせよ 我なんぢに問ん
 汝われに答へよ 4 地の基を我が置たりし時なんぢは何處にありしや
 汝もし穎悟あらば言へ 5 なんぢ若知んには誰が度量を定めたりしや
 誰が準繩を地の上に張りたりしや 6 その基は何の上に奠れたりしや
 その隅石は誰が置たりしや 7
 かの時には晨星あひともに歌ひ神の子等みな歡びて呼はりぬ 8
 海の水ながれ出で胎内より湧いでし時誰が戸をもて之を閉こめたりしや
 9 かの時我雲をもて之が衣服となし
 黑暗をもて之が襦袢となし 10 これに我法度を定め關および門を設けて
 11 曰く此までは來るべし此を越べからず
 汝の高浪ここに止まるべしと 12 なんぢ生れし日より以來朝にむかひて命を下せし事ありや
 また黎明にその所を知しめ 13 これをして地の縁を取へて惡き者をその上より振落さしめたりしや 14 地は變りて土に印したるごとくに成り諸の物は美はしき衣服のごとくに顯る
 15 また惡人はその光明を奪はれ高く擧たる手は折らる 16 なんぢ海の泉源にいたりしことありや
 淵の底を歩みしことありや 17 死の門なんぢのために開けたりしや
 汝死陸の門を見たりしや 18 なんぢ地の廣を看きはめしや
 若これを盡く知ば言へ 19 光明の在る所に往く路は孰ぞや
 黑暗の在る所は何處ぞや 20

なんぢ之をその境に導びき得るや
 その家の路を知るや 21 なんぢ之を知らん汝はかの時すでに生れをり
 また汝の經たる日の數も多ければなり 22 なんぢ雪の庫にいりしや
 雷の庫を見しや 23
 これ我が艱難の時にために蓄はへ戰爭および戰鬥の日のために蓄はへ置くものなり 24 光明の發散る道 東風の地に吹わたる所の路は何處ぞや 25
 誰が大雨を灌ぐ水路を開き雷電の光の過る道を開き 26 人なき地にも人なき荒野にも雨を降し 27
 荒かつ廢れたる處々を潤ほしかつ
 若菜蔬を生出しむるや 28
 雨に父ありや 露の珠は誰が生る者なるや 29
 氷は誰が胎より出るや 空の霜は誰が産むとこなるや 30
 水かたまりて石のごとくに成り淵の面こぼる 31
 なんぢ昴宿の鏈索を結びうるや 參宿の繫繩を解うるや 32
 なんぢ十二宮をその時にしたがひて引だし得るや
 また北斗とその子星を導びき得るや 33
 なんぢ天の常經を知るや 天をして其權力を地に施こさしむるや 34
 なんぢ鬣を雲に擧げ滂沛の水をして汝を掩はしむるを得るや 35
 なんぢ閃電を遣はして住しめなんぢに答へて我儕は此にありと言しめ得るや 36
 胸の中の智慧は誰が與へし者ぞ
 心の内の聰明は誰が授けし者ぞ 37
 たれか能く智慧をもて雲を數へんや
 たれか能く天の瓶を傾むけ 38 塵をして一塊に流れあはしめ土塊をしてあひかたましめんや 39
 なんぢ牝獅子のために食物を獵や
 また小獅子の食氣を満すや 40
 その洞穴に伏し森の中に隠れ何がふ時
 なんぢこの事を爲うるや 41
 また鴉の子 神にむかひて呼はり食物なくして徘徊る時
 鴉に餌を與ふる者は誰ぞや

Chapter 39

1なんぢ岩間の山羊が子を産む時をしるや
 また鹿鹿の産に臨むを見しや 2
 なんぢ是等の在胎の月を數へうるや
 また是等が産む時を知るや 3
 これらは身を鞠めて子を産みその痛苦を出す 4
 またその子は強くなりて野に育ち出ゆきて
 再びその親にかへらず 5
 誰が野驢馬を放ちて自由にせしや
 誰が野驢馬の繫繩を解しや 6
 われ野をその家となし 荒野をその住所となせり 7
 是は邑の喧鬧を賤しめ 馭者の號呼を聽いれず 8
 山を走まはりて草を食ひ 各種の青き物を尋ぬ 9
 兕肯て汝に事へなんぢの飼草槽の傍にとどまんや 10
 なんぢ兕に綱附て阡陌があるかせ得んや
 是あに汝にしたがひて谷に馬鋂を牽んや 11
 その力おほいなればと汝これに恃まんや
 またなんぢの工事をこれに任せんや 12
 なんぢこれにたよりて己が穀物を運びかへらせ之を打禾場にあ

つめしめんや 13
 駝鳥は歡然にその翼を鼓ふ然どもその羽と毛とはあに鶴にしかんや 14
 是はその卵を土の中に棄おき
 これを砂の中にて暖たまらしめ 15
 足にてその漬さるべきと野の獸のこれを踐むべきを思はず 16
 これはその子に情なくして宛然おのれの子ならざるが如くしその劬勞の空しくなるも
 繫念ところ無し 17
 是は神これに智慧を授けず
 穎悟を與へざるが故なり 18
 その身をおこして走るにおいては馬をもその騎手をも騎けるべし 19
 なんぢ馬に力を與へしや
 その頸に勇ましき鬣を粧ひしや 20
 なんぢ之を蝗蟲のごとく飛しむるや
 その嘶なく聲の響は畏るべし 21
 谷を脚爬て力に誇り 自ら進みて兵士に向ふ 22
 懼るることを笑ひて驚るるところ無く 劍にむかふとも退ぞかず 23
 矢筒その上に鳴り 鎗に矛あひきらめく 24
 猛りつ狂ひつ地を一呑にし喇叭の聲囂わたるも
 ことまる事なし 25
 喇叭の鳴ごとにハハハと言ひ遠方より
 戰鬥を嗅つけ將帥の大聲および吶喊聲を聞し 26
 鷹の飛かけり
 その羽翼を舒て南に向ふは豈なんぢの智慧によるらんや 27
 驚の翔のほり 高き處に巢を營なむは豈なんぢの命令に依んや 28
 これは岩の上に住所を構へ 岩の尖所または峻險き所に居り 29
 其處よりして攫むべき物をうかがふその目のおよぶところ遠し 30
 その子等もまた血を吸ひ凡そ殺されし者のあるところには是そこに在り

Chapter 40

1エホバまたヨブに對へて言たまはく 2
 非難する者エホバと争はんとするや
 神と論ずる者これに答ふべし 3
 ヨブ是においてエホバに答へて曰く 4
 嗚呼われは賤しき者なり 何となんぢに答へまつらんや 5
 唯手をわが口に當のみ 復いはじわれ已に一度言たり 6
 是に於てエホバまた大風の中よりヨブに應へて言たまはく 7
 なんぢ腰ひきからげて丈夫のごとくせよ 我なんぢに問ん 8
 なんぢ我審判を廢んとするや
 我を非として自身を是とせんとするや 9
 なんぢ神のごとき腕ありや神のごとき聲をもて轟きわたらんや 10
 さればなんぢ威光と尊貴とをもて自ら飾り 榮光と華美とをもて身に纏へ 11
 なんぢの溢るる震怒を洩し高ぶる者を視とめて之をことごとく卑くせよ 12
 すなはち高ぶる者を見てこれを盡く鞠ませ 13
 また惡人を立所に踐つけ 14
 これを塵の中に埋めこれが面を隠れたる處に閉こめよ 15
 さらば我もなんぢを讀てなんぢの右の手なんぢを救ひ得ると爲ん 16
 今なんぢ我がなんぢとともに造りたりし河馬を視よ 17
 是は牛のごとく草を食ふ 18
 觀よその力は腰にあり 19
 その勢力は腹の筋にあり 20
 その尾の搖く様は香柏のごとく 21
 その腿の筋は彼此に盤互ふ 22
 その骨は銅の管ごとくその肋骨は鐵の棒のごとし 23
 これは神の工の第一なる者にして之を造りし者これに劍を賦けたり 24
 山もこれがために食物を産出し 25
 もろもろの野獸そこに遊ぶ 26
 これは蓮の樹の下に臥し葦蘆の中または沼の裏に隠れる 27
 蓮の樹その蔭をもてこれを覆ひ 28
 また河の柳これを環りかこむ 29
 たとひ河荒くなるとも驚ろかずヨルダンその口に注ぎかかるも惶てず 30
 4 その目の前にて誰か之を執ふるを得ん 31
 誰か竊をその鼻に貫ぬくを得ん 32

Chapter 41

1なんぢ鉤をもて鱷を釣いだすことを得んや
 その舌を糸にひきかくることを得んや 2
 なんぢ葦の繩をその鼻に通し
 また鉤をその齶に衝とほし得んや 3
 是あに頻になんぢに願ふことをせんや 4
 柔かになんぢに言談んや 5
 あに汝と契約を爲んや
 なんぢこれを執て永く僕と爲しおくを得んや 6
 なんぢ鳥と戯むる如くこれとたはむれ
 また汝の婦人等のために之を繫ぎおくを得んや 7
 6 また漁夫の社會これを商貨と爲して商賣人の中間に分たんや 8
 なんぢ漁叉をもてその皮に満し魚矛をもてその頭を衝とほし得んや 9
 手をこれに下し見よ
 然ばその戰鬥をおぼえて再びこれを爲ざるべし 10
 視よその望は虚し 11
 之を見てすら倒るるに非ずや 12
 何人も之に激する勇氣あるなし
 然ば誰かわが前に立つる者あらんや 13
 誰か先に我に與へしところありて我をして之に酬いしめんとする者あらん 14
 普天の下にある者はことごとく我有なり 15
 我また彼者の肢體とその著るしき力とその美はしき身の構造とを言では措じ 16
 誰かその外甲を剥ん 17
 誰かその雙鬚の間に入ん 18
 誰かその面の戸を開きえんや 19
 その周圍の齒は畏るべし 20
 その並列る鱗甲は之が誇るところその相闘たる様は堅く封じたるごとく 21
 16 此と彼とあひ接きて風もその中間にいるべからず 22
 一々あひ連なり堅く膠て離すことを得ず 23
 噓すれば即ち光發すその目は曙光の眼險(を開く)に似たり 24
 その口よりは炬火いでて火花發し 25
 その鼻の孔よりは煙いでてきたりて宛然章を焚く釜のごとし 26
 21 その氣息は炭火を蒸し 27
 火燄その口より出づ 28
 力氣その頸に宿る 29
 懼るる者その前に彷徨まよふ 30
 その肉の片は密に相連なり 31
 堅く身に着て動かす可らず 32
 その心の堅硬こと石のごとく 33
 その堅硬こと下磨のごとし 34
 その身を興す時は勇士も戰慄き 35

恐怖によりて狼狽まどふ 26
 剣をもて之を撃とも利ず鎗も矢も漁
 叉も用ふるところ無し 27 是は鐵を
 見る事稿のごとくし銅を見ること
 朽木のごとくす 28
 弓箭もこれを逃しむること能はず
 投石機石も稿屑と見做る 29
 棒も是には稿屑と見ゆ
 鎗の閃めくを是は笑ふ 30
 その下腹には瓦礫の碎片を連れ
 泥の上に麥打車を引く 31
 淵をして鼎のごとく沸かへらしめ海
 をして香油の釜のごとくならしめ 3
 2 己が後に光る道を遣せば淵は白髪
 をいただけるかと疑がはる 33
 地の上には是と並ぶ者なし
 是は恐怖なき身に造られたり 34
 是は一切の高大なる者を輕視す
 誠に諸の誇り高ぶる者の王たるなり

Chapter 42

1
 ヨブ是に於てエホバに答へて曰く 2
 我知る汝は一切の事をなすを得たま
 ふまた如何なる意志にても成あたは
 ざる無し 3
 無知をもて道を蔽ふ者は誰ぞや
 斯われは自ら了解らざる事を言ひ
 自ら知ざる測り難き事を述たり 4
 請ふ聴たまへ 我言ふところあらん
 我なんぢに問まつらん
 我に答へたまへ 5 われ汝の事を耳に
 て聞いたりしが今は目をもて汝を見
 たてまつる 6
 是をもて我みづから恨み
 塵灰の中にて悔ゆ 7 エホバ是等の言
 語をヨブに語りたまひて後エホバ、
 テマン人エリバズに言たまひけるは
 我なんぢと汝の二人の友を怒る其は
 なんぢらが我に關て言述べたところ
 はわが僕ヨブの言たることのごと
 く正當からざればなり 8
 然ば汝ら牡牛七頭牡羊七頭を取てわ
 が僕ヨブに至り汝らの身のために燔
 祭を獻げよ
 わが僕ヨブなんぢらのために祈らん
 われかれを嘉納べければ之によりて
 汝らの愚を罰せざらん汝らの我につ
 いて言述べたところは我僕ヨブの言
 たることのごとく正當からざればなり
 9 是においてテマン人エリバズ、
 シュヒ人ビルダデ、ナアマ人ソバル
 往てエホバの自己に宣まひしごとく
 爲ければエホバすなはちヨブを嘉納
 たまへり 10
 ヨブその友のために祈れる時エホバ
 、ヨブの艱難をときて舊に復ししか
 してエホバつひにヨブの所有物を二
 倍に増たまへり 11 是において彼の
 諸の兄弟諸の姉妹およびその舊相識
 者等ことごとく來りて彼とともに
 その家にて飲食を爲しかつエホバの
 彼に降したまひし一切の災難につき
 て彼をいたはり慰さめまた各金一ケ
 セタと金の環一箇を之に贈れり 12
 エホバかくのごとくヨブをめぐみて
 その終を初よりも善したまへり
 即ち彼は綿羊一萬四千匹駱駝六千匹
 牛一千頭 牝驢馬一千匹を有り 13
 また男子七人 女子三人ありき 14 か
 れその第一の女をエミマと名け第二
 をケジアと名け第三をケレンハツブ

クと名けたり 15 全國の中にてヨブ
 の女子等ほど美しき婦人は見えざり
 きその父之にその兄弟等とおなじく
 産業をあたへたり 16 この後ヨブは
 百四十年いきながらへてその子その
 孫と四代までを見たり 17
 かくヨブは年老い日満て死たりき

詩篇

Psalm 1

1 悪きものの謀略にあゆまず
 つみびとの途にたたず嘲るもの座
 にすわらぬ者はさいはひなり 2 かか
 る人はエホバの法をよろこびて日も
 夜もこれをおもふ 3 かかるとは水流
 のほとりにうろし樹の期にいたりて
 實をむすび葉もまた凋まざるごとく
 その作ところ皆さかえん 4
 あしき人はしからず
 風のふきさる靴糠のごとし 5 然ばあ
 しきものは審判にたへず罪人は義き
 もの會にたつことを得ざるなり 6
 そはエホバはただしきものの途をし
 りたまふ
 されど悪きものの途はほろびん

Psalm 2

1 何なればもろもろの國人はさ
 わぎたち諸民はむなしきことを謀る
 や 2 地のもろもろの王はたちかまへ
 群伯はともに議りエホバとその受膏
 者にとさからひていふ 3
 われらその械をこぼち
 その繩をすてんと 4
 天に坐するもの笑ひたまはん
 主かれらを嘲りたまふべし 5 かくて
 主は忿恚をもてものいひ大なる怒を
 もてかれらを怖まどはしめて宣給ふ
 6 しかれども我わが王をわがきよき
 シオンの山にたてたりと 7 われ詔命
 をのべんエホバわれに宣まへりなん
 ぢはわが子なり今日われなんぢを生り
 8 われに求めよ さらば汝にもろ
 もろの國を嗣業としてあたへ地の極
 をなんぢの有としてあたへん 9 汝く
 ろがねの杖をもて彼等をうちやぶり
 陶工のうつものはものごとくに打碎か
 んと 10 されば汝等もろもろの王よ
 さとかれ地の審士輩をしへをうけよ
 11 畏をもてエホバにつかへ戰慄をも
 てよこべ 12 子にくちつけせよ お
 そらくはかれ怒をはなちなんぢら途
 にほろびんその忿恚はすみやかに燃
 べければなり
 すべてかれに依頼むものは福ひなり

Psalm 3

1 エホバよ我にあたる者のい
 かに蔓延れるや
 我にさからひて起りたつもの多し 2
 わが靈魂をあげつらひてかれは神に
 すくはるることなしといふ者ぞおほ
 き セラ 3 されどエホバよ なんぢは
 我をかこめる盾わが榮わが首をもた
 げ給ふものなり 4 われ聲をあげてエ
 ホバによばはればその聖山より我に

こたへたまふ セラ 5
 われ臥していね また目さめたり
 エホバわれを支へたまへばなり 6 わ
 れをかこみて立かまへたる千萬の人
 をも我はおそれじ 7
 エホバよねがはくは起たまへ
 わが神よわれを救ひたまへなんぢ曩
 にわがすべての仇の頬骨をうち悪き
 もの齒ををりたまへり 8
 救はエホバにありねがはくは恩恵な
 んぢの民のうへに在んことを セラ

Psalm 4

1 わが義をまもりたまふ神よね
 がはくはわが呼るときに答へたまへ
 わがなやみたる時なんぢ我をくつろ
 がせたまへり
 ねがはくは我をあはれみ
 わが祈をききたまへ 2 人の子よなん
 ぢらわが榮をはじめて幾何時をへん
 とするかなんぢらむなしき事をこ
 のみ虚偽をしたひていくそのときを
 經んとするか セラ 3
 然どなんぢら知れエホバは神をうや
 まふ人をわかつて己につかしたま
 ひしことをわれエホバによばはらば
 聴たまはん 4 なんぢら慎みをのき
 て罪ををかすなかれ
 臥床にておのが心にかたりて黙せ
 セラ 5 なんぢら義のそなへものを獻
 てエホバに依頼め 6 おほくの人はい
 ふたれか嘉事をわれに見するもの
 あらんやとエホバよねがはくは聖顔
 の光をわれらの上にのぼせたまへ
 7 なんぢのわが心にあたへたまひし
 歡喜はかれらの穀物と酒との豊かな
 る時にまさりき 8
 われ安然にして臥またねぶらんエホ
 バよわれを獨りに坦然にをらしむる
 ものは汝なり

Psalm 5

1 エホバよねがはくは我がこと
 ばに耳をかたむけ
 わが思にみこころを注たまへ 2
 わが王よわが神よ
 わが號呼のこゑをききたまへ
 われ汝にいのればなり 3 エホバよ朝
 になんぢわが聲をききたまはん我あ
 したになんぢの爲にそなへして俟望
 むべし 4 なんぢは悪きことをよろこ
 びたまふ神にあらざる惡人はなんぢの
 賓客たるを得ざるなり 5 たかぶる者
 はなんぢの目前にたつをえずなんぢ
 はすべて邪曲をおこなふものを憎み
 たまふ 6 なんぢは虚偽をいふ者をほ
 ろぼしたまふ血をながすものと詭計
 をなすものと
 エホバ憎みたまふなり 7 然どわれは
 豊かなる仁慈によりてなんぢの家に
 いらんわれ汝をおそれつつ聖宮にむ
 かひて拜まん 8 エホバよ願くはわが
 仇のゆゑになんぢの義をもて我をみ
 ちびきなんぢの途をわが前になほく
 したまへ 9 かれらの口には眞實なく
 その衷はよこしま
 その喉はあばける墓
 その舌はへつらひをいへばなり 10
 神よねがはくはかれらを刑なひ
 その謀略によりてみづからわれしめ
 その忿のおほきによりて之をおひい

だしたまへ
 かれらは汝にそむきたればなり 11
 されど凡てなんぢに依頼む者をよろ
 こばせ永遠によるこびよばはせたま
 へ
 なんぢ斯る人をまもりたまふなり名
 をいつくしむ者にもなんぢによりて
 歡喜をえしめたまへ 12 エホバよな
 んぢに義者にさいはひし盾のごとく
 恩恵をもて之をかこみたまはん

Psalm 6

1 エホバよねがはくは忿恚をも
 て我をせめ烈しき怒をもて我をこら
 したまふなかれ 2
 エホバよわれを憐みたまへ
 われ萎みおとろふなり
 エホバよ我を醫したまへ
 わが骨わななきふるふ 3
 わが靈魂さへも甚くふるひわななく
 エホバよかくて幾何時をへたまふや
 4 エホバよ歸りたまへ
 わがたましひを救ひたまへなんぢの
 仁慈の故をもて我をたすけたまへ 5
 その死にありては汝をおもひいづる
 ことなし陰府にありては誰かなんぢ
 に感謝せん 6
 われ歎息にてつかれたり我よなよな
 床をただよはせ涙をもてわが衾をひ
 たせり 7
 わが目うれへによりておとろへ
 もろもろの仇ゆゑに老ぬ 8 なんぢら
 邪曲をおこなふ者ことごとく我をは
 なれよエホバはわが泣こゑをききた
 まひたり 9
 エホバわが懇求をききたまへり
 エホバわが祈をうけたまはん 10 わ
 がもろもろの仇ははぢて大におぢま
 どひ あわただしく恥てしりぞきぬ

Psalm 7

1
 わが神エホバよわれ汝によりたのむ
 願くはすべての逐せまるものより我
 をすくひ我をたすけたまへ 2 おそら
 くはかれ獅の如くわが靈魂をかきや
 ぶり援るものなき間にさきてずたず
 たに爲ん 3 わが神エホバよ
 もしわれ此事をなししならんにはわ
 が手によこしまの纏りをらんには 4
 故なく仇ずるものをさへ助けしに禍
 害をもてわが友にむくいしならんには
 5
 よし仇人わがたましひを逐とらへわ
 が生命をつちにふみにじりわが榮を
 塵におくとも その作にまかせよ
 セラ 6 エホバよなんぢの怒をもて起
 わが仇のいきどほりにむかひて立た
 まへわがために目をさましたまへな
 んぢは審判をおほせ出したまへり 7
 もろもろの國人の會がなんぢのまは
 りに集はしめ
 其上なる高座にかへりたまへ 8 エホ
 バはもろもろの民にさばきを行ひた
 まふエホバよわが正義とわが衷なる
 完全とにしたがひて我をさばきたま
 へ 9 ねがはくは悪きものの曲事をた
 ちて義しきものを堅くしたまへた
 だしき神は人のこころと賢とをさぐり
 知たまふ 10 わが盾をとるものは心
 のなほきものをすくふ神なり 11 神

はただしき審士ひとに忿恚をおこしたまふ神なり 12
人もしかへらずば神はその剣をとぎその弓をはりてかまへ 13
これに死の器をそなへ
その矢に火をそへたまはん 14 視よその人はよこしまを産んとしてくるしむ
残害をはらみ虚偽をうむなり 15 また坑をほりてふかくし己がつくれるその溝におちいれり 16
その残害はおのが首にかへりその強暴はおのが頭上にくだらん 17
われその義によりてエホバに感謝しいとたかきエホバの名をほめうたはん

Psalm 8

1われらの主エホバよなんぢの名は地にあまねくして尊きかな
その榮光を天におきたまへり 2 なんぢは嬰兒ちのみごの口により力の基をおきて敵にそなへたまへりこは仇人とうらみを報るものを鎮静めんがためなり 3 我なんぢの指のわざなる天を觀なんぢの設けたまへる月と星とをみるに 4 世人はいかなるものなればこれを聖念にとめたまふや人の子はいかなるものなればこれを顧みたまふや 5 只すこしく人を神よりも卑つくりて榮と尊貴とをかうぶらせ 6 またこれに手のわざを治めしめ萬物をその足下におきたまへり 7
すべての羊うしまた野の獣 8 そらの鳥うみの魚もろもろの海路をかよふものをまで皆しかなせり 9 われらの主エホバよなんぢの名は地にあまねくして尊きかな

Psalm 9

1
われ心をつくしてエホバに感謝しそのもろもろの奇しき事迹をのべつたへん 2 われ汝によりてたのしみ且よるこぼん至上者よなんぢの名をほめうたはん 3 わが仇しりぞくとき躓きたふれて御前にほろぶ 4 なんぢわが義とわが訟とをまもりたまへばなりなんぢはだしき審判をしつつ寶座にすわりたまへり 5 またもろもろの國をせめ悪きものをほろぼし世々かぎりなくかれらが名をけしたまへり 6 仇はたえはてて世々あれすたれたり汝のくつがへしたまへるもろもろの邑はうせてその跡だにもなし 7 エホバはとこしへに聖位にすわりたまふ審判のためにその寶座をまうけたまひたり 8
エホバは公義をもて世をさばき直をもてもろもろの民に審判をおこなひたまはん 9 エホバは虐げらるるもの城また難みのときの城なり 10 聖名をしるものはなんぢに依頼んそはエホバよなんぢを尋るもの棄られしこと斷てなければなり 11 シオンに住たまふエホバに對ひてほめうたへその事迹をもろもろの民のなかにのべつたへよ 12 血を問糺したまふものは苦しむものを心にとめてその號呼をわすれたまはず 13
エホバよ我をあはれみたまへわれを

死の門よりすくひだしたまへる者よねがはくは仇人のわれを難むるを視たまへ 14 さらば我なんぢのすべての頌美をのぶるを得たまシオンのむすめの門にてなんぢの救をよろこばん 15 もろもろの國民はおのがつくれる阱におちいりそのかくしまうけたる網におのが足をとらへらる 16 エホバは己をしらしめ審判をおこなひたまへりあしき人はおのが手のわざなる羂にかかれり ヒガイオンセラ 17
あしき人は陰府にかへるべし神をわするもろもろの國民もまたしからん 18 貧者はつねに忘らるるにあらざる苦しむもの望はとこしへに滅ぶるにあらざる 19 エホバよ起たまへねがはくは勝を人にえしめたまふなかれ御前にてもろもろのくにびとに審判をうけしめたまへ 20 エホバよ願くはかれらに懼をおこしめたまへもろもろの國民におのれただ人なることを知しめたまへ セラ

Psalm 10

1 ああエホバよ何ぞはるかに立たまふや
なんぞ患難のときに匿れたまふや 2
あしき人はたかぶりて苦しむものを甚だしくせむかれらをそのくはだての謀略にとらはれしめたまへ 3
あしきひとは己がこころの欲望をほこり貪るものを祝してエホバをかるしむ 4
あしき人はほこりかにいふ 神はさぐりもとむることをせざるなりと 凡てそのおもひに神なしとせり 5
かれの途はつねに堅くなんぢの審判はその眼よりはなれてたかし彼はそのもろもろの敵をくちさきらにて吹く 6
かくて己がこころの中にいふ 我うごかされることなく世々われに禍害なかるべしと 7
その口にはのろひと虚偽としへたげとみちその舌のしたには残害とよこしまとあり 8
かれは村里のかくれたる處にをり隠やかなところにて罪なきものをころすその眼はひそかに倚仗なきものをうかがひ 9
窟にをる獅のごとく潜みまち苦しむものをとらへんために伏ねらひ貧しきものをその網にいひきいれてとらふ 10
また身をかがめて躡まるその強勁によりて依仗なきものは仆る 11
かれ心のうちにいふ 神はわすれたり神はその面をかくせり神はみることなかるべしと 12
エホバよ起たまへ
神よ手をあげたまへ
苦しむものを忘れたまふなけれ 13
いかなれば悪きものを神をいやしめて心中になんぢ探求むることをせじといふや 14
なんぢは豎たまへりその残害と怨恨とを見てこれに手をくだしたまへり
倚仗なきものは身をなんぢに委ぬなんぢは昔しより孤子をたすけたまふ者なり 15
ねがはくは悪きものの臂をりたまへあしきもの惡事を一つだにのこらぬまでに探究したまへ 16
エホバはいやとほながに王なりもろもろの國民はほろびて神の國より跡をたちたり 17
エホバよ汝はくらしむもの懇求をききたまへり

その心をかたくしたまはん
なんぢは耳をかたづけてきき 18
孤子と虐げらるる者とのために審判をなし地につける人にふたたび恐嚇をもちひざらしめ給はん

Psalm 11

1 われエホバに依頼りなんぢら何ぞわが靈魂にむかひて鳥のごとくなんぢの山にのがれよといふや 2
視よあしきものは暗處にかくれ心なほきものを射んとて弓をはり絃に矢をつがふ 3
みなみやぶれたらんに義者なをなさんや 4
エホバはその聖宮にいますエホバの寶座は天にありその目はひとのこを鑒その眼瞼はかれらをこころみたまふ 5
エホバは義者をこころむ そのみこころは悪きものと強暴をこのむ者とをにくみ 6
羂をあしきものうへに降したまはん火と硫磺ともゆる風とはかれらの酒杯にうくべきものなり 7
エホバはだしき者にして義きことを愛したまへばなり 直きものはその聖顔をあふぎみん

Psalm 12

1 ああエホバよ助けたまへそは神をうやまふ人はたえ誠あるものは人の子のなかり消失るなり 2
人はみな虚偽をもてその隣とあひかたり滑なるくちびると貳心とをもてものいふ 3
エホバはすべての滑なるくちびると大なる言をかたる舌とをほろぼし給はん 4
かれらはいふわれら舌をもて勝をえんこの口唇はわがものなり誰かわれらに主たらんやと 5
エホバのたまはく 苦しむもの掠められ貧しきもの歎くがゆゑに我いま起てこれをその慕ひもとむる平安におかん 6
エホバの言はきよきことばなり地にまうけたる爐にてねり七次きよめたる白銀のごとし 7
エホバよ汝はかれらをまもり之をたすけてとこしへにこの類より免れしめたまはん 8
人の子のなかに穢しきことの崇めらるるときは悪者ここやかしこにあるくなり

Psalm 13

1 ああエホバよ
かくて幾何時をへたまふや
汝とこしへに我をわすれたまふや聖顔をかくしていくそのときを歴たまふや 2
われ心のうちに終日かなしみをいだき籌畫をたましひに用ひて幾何時をふべきかわが仇はわがうへに崇められて幾何時をふべきか 3
わが神エホバよ我をかへりみて答をなしたまへわが目をあきらかにしたまへ 恐らくはわれ死の睡につかん 4
おそらくはわが仇いはん 我かれに勝りとおそらくはわが敵わがうごかされるによりて喜ばん 5
されど我はなんぢの憐憫によりたのみわが心はなんぢの救によりてよろこばん 6
エホバはゆたかに我をあしらひたまひたれば

われエホバに對ひてうたはん

Psalm 14

1 愚なるものは心のうちに神なしといへり 2
かれらは腐れたりかれらは憎むべき事をなせり 善をおこなふ者なし 2
エホバ天より人の子をぞみみて悟るもの神をたづぬる者ありやと見たまひしに 3
みな逆きいでてことごとく腐れたり 善をなすものなし一人だになし 4
不義をおこなふ者はみな智覺なきかかれらは物くふごとくわが民をくらひまたエホバをよぶことをせざるなり 5
視よかかる時かれらは大におそれたり神はだしきものの類のなかに在せばなり 6
なんぢらは苦しめるものの謀略をあなどり辱かしむされどエホバはその選所なり 7
ねがはくはシオンよりイスラエルの救のいでんことをエホバその民のとらはれたるを返したまふときヤコブはよろこびイスラエルは樂まん

Psalm 15

1 エホバよなんぢの帷帳のうちにやどらん者はたれぞなんぢの聖山にすまはんものは誰ぞ 2
直くあゆみ義をおこなひそのところに眞實をいふものぞその人なる 3
かかる人は舌をもてそしらずその友をそこなはずまたその隣をばしむる言をあげもちひす 4
惡にしづめるものを見ていとひかるしめエホバをおするものをたふとび誓ひしことはおのれに禍害となるも變ることなし 5
貨をかして過たる利をむさばらず賄賂をいれて無辜をそこなはざるなり 斯ることをも行ふものは永遠にうごかされることなかるべし

Psalm 16

1
神よねがはくは我を護りたまへ 我なんぢに依頼む 2
われエホバにいへらくなんぢはわが主なり 3
なんぢのほかにわが福祉はなしと 3
地にある聖徒はわが極めてよろこぶ勝れしものなり 4
エホバにかへて他神をたるもの悲哀はいやまさん 我かれらがささぐる血の御酒をそがず
その名を口にとなふることをせじ 5
エホバはわが嗣業またわが酒杯にうくべき有なりなんぢはわが所領をまもりたまはん 6
準繩はわがために樂しき地におちたり 宜われよき嗣業をえたるかな 7
われは訓諭をさづけたまふエホバをほめまつらん 夜はわが心われををしふ 8
われ常にエホバをわが前におけりエホバわが右にいませばわれ動かさることなかるべし 9
このゆゑにわが心はたのしみわが樂はよろこぶわが身もまた平安にをらん 10
そは汝わがたましひを陰府にすておきたまはずなんぢの聖者を墓のなかに朽

しめたまはざる可ればなり 11 なんぢ生命の道をわれに示したまはんなんぢの前には充足るよるこびありなんぢの右にはもろもろの快樂としへにあり

Psalm 17

1

ああエホバよ公義をききたまへわが哭聲にみこころをとめたまへいつはりなき口唇よりいづる我がいのりに耳をかたぶけたまへ 2 ねがはくはわが宣告みまへよりいでてなんぢの目公平をみたまはんことを 3 なんぢわが心をこころみまた夜われにのぞみたまへり斯てわれを糺したまへど我になにの惡念あるをも見出たまはざりきわが口はつみを犯すことなからん 4 人の行爲のこをいはいは我なんぢのくちびるの言によりて暴るもの途をさけたり 5 わが歩はかたくなんぢの途にたちわが足はよろめくことなかりき 6 神よなんぢにこたへたまふ我なんぢをよべりねがはくは汝の耳をかたぶけてわが陳るところをききたまへ 7 なんぢに依頼むものを右手をもて仇するものより救ひたまふ者よねがはくはなんぢの妙なる仁慈をあらはしたまへ 8 願くはわれを瞳のごとくにまもり汝のつばきの蔭にかくし 9 我をなやむるあしき者また我をかこみてわが命をそこなはんとする仇よりのがれしめ給へ 10 かれらはおのが心をふさぎその口をもて誇かにもにいへり 11 いづこにまれ往ところにわれらを打圍みわれらを地にたふさんと目をとむ 12 かれは抓裂んといらだつ獅のごとく隠やかなところに潜みまつ壯獅のごとし 13 エホバよ起たまへねがはくはかれに立對ひてこれをたふし御劍をもて悪きものよりわが靈魂をすくひたまへ 14 エホバよ手をもて人より我をたすけいだしたまへ おのがうくべき有をこの世にてうけ汝のたからにてその腹をみたさる世人より我をたすけいだし給へ 15 かれらはおほくの子にあきたりその富ををさなごに遺す 16 されどわれは義にありて聖顔をみ目さむるとき容光をもて飽足ることをえん

Psalm 18

1

エホバわれの力よわれ切になんぢを愛しむ 2 エホバはわが巖 わが城われをすくふ者 わがよりのたむ神わが堅固なるいはほ わが盾わがすくひの角わがたかき櫓なり 3 われ讃稱ふべきエホバをよびて仇人よりすくはるることをえん 4 死のつな我をめぐり惡のみなきる流われをおそれしめたり 5 陰間のなは我をかこみ死のわな我にたちむかへり 6 われ窮苦のうちにありてエホバをよび又わが神にさけびたりエホバはその宮よりわが聲をききたまふその前にてわがよびし聲はその耳にいれり 7

このときエホバ怒りたまひたれば地はふるひうごき山の基はゆるぎうごきたり 8 烟その鼻よりたち火その口よりいでてやきつくし炭はこれがために燃あがり 9 エホバは天をたれて臨りたまふその足の下はくらくきこと甚だし 10 かくてケルブに乗りてとび風のつばさにて翔り 11 闇をおほひとなし水のくらくきとそらの密雲とをそのまはりの幕となしたまへり 12 そのみまへの光輝よりくるくもをへて雲ともえたる炭とふりきたれり 13 エホバは天に雷鳴をとどろかせたまへり至上者のごゑいでて雲ともえたる炭とふりきたり 14 エホバ矢をとばせてかれらを打ちらし數しげき電光をはなちてかれらをうち敗りたまへり 15 エホバよ斯るときになんぢの叱咤となんぢの鼻のいぶぎとによりて水の底みえ地の基あらはれいでたり 16 エホバはたかきより手をのべ我をとりにて大水よりひきあげ 17 わがつよき仇とわれを憎むものより我をたすけいだしたまへりかれら是我にまさりて最強かりき 18 かれらわが災害の日にせまりきたれり然どエホバはわが支柱となりたまひき 19 エホバはわれを悦びたまふがゆゑにわれをたづさへ廣處にだして助けたまへり 20 エホバはわが正義にしたがひて恩賜をたまひわが手のきよきにしたがひて報賞をたれたまへり 21 われエホバの道をまもり惡をなしてわが神よりはなれしことなればなり 22 そのすべての審判はわがまへにありてわれその律法をすてしことなればなり 23 われ神にむかひて缺るところなく己をまもりて不義をはなれたり 24 この故にエホバはわがただしきとその目にわが手のきよきにしたがひて我にむくいをなし給へり 25 なんぢ憐憫あるものには憐みあるものとなり完全ものには全きものとなり 26 きよきものには潔きものとなり僻むものにはひがむ者となりたまふ 27 そは汝くるしめる民をすくひたまへど高ぶる目をひくくしたまふ可ればなり 28 なんぢわが燈火をともし給ふべければなりわが神エホバわが暗をてらしたまはん 29 我なんぢによりて軍の中をはせとほりわが神によりて垣ををどりこゆ 30 神はしもその途またくエホバの言はきよしエホバはすべて依頼むものの盾なり 31 そはエホバのほかには神はたれぞやわれらの神のほかには巖はたれぞや 32 神はちからをわれに帶しめわが途を全きものとなしたまふ 33 神はわが足を塵のあしのごとくし我をわが高處にたてせたまふ 34 神はわが手をたたかひにならしてわが臂に銅弓をひくことを得しめたまふ 35 なんぢの救の盾をわれにあたへたまへりなんぢの右手われをささへなんぢの謙卑われを大ならしめたまへり 36 なんぢわが歩むところを寛濶ならしめたまひたればわが足ふるはざりき 37 われ仇をおひてこれに追及かれらのほろぶるまでは歸ることをせし 38 われかれらを撃てたつことを得ざらしめんかれ

らはわが足の下にたふるべし 39 そはなんぢ戰爭のために力をわれに帶しめわれにさからひておこりたつ者をわが下にかがませたまひたればなり 40 我をにくむ者をわが滅しえんがために汝またわが仇の背をわれにむけしめ給へり 41 かれら叫びたれども救ふものなくエホバに對ひてさけびたれども答へたまはざりき 42 我かれらを風のまへの塵のごとくに搗碎き 43 ちまたの坵のごとくに打棄たり 44 なんぢわれを民のあらそひより助けいだし我をたててもろもろの國の長となしたまへりわがしらざる民われにつかへん 45 かれらわが事をききて立刻われにしたがひ異邦人はきたりて俵りつかへん 46 エホバは活いてませりわが誓はほむべきかなわがすくひの神はあがむべきかな 47 わがために讎をむくい異邦人をわれに服はせたまふはこの神なり 48 神はわれを仇よりすくひたまふ實になんぢは我にさからひて起りたつ者のうへに我をあげあらぶる人より我をたすけいだし給ふ 49 この故にエホバよわれもろもろの國人のなかにてなんぢに感謝しなんぢの名をほめうたはん 50 エホバはおほいなる救をその王にあたへその受膏者ダビデとその裔とに世々かぎりなく憐憫をたれたまふ

Psalm 19

1 ちもろもろの天は神のえいくわうをあらはし穹蒼はその手のわざをしめす 2 この日ことばをかの日につたへこのよ知識をかの夜におくる 3 語らずいはずその響きこえざるに 4 そのひびきは全地にあまねくそのことばは地のはてにまでおよぶ神はかしこに帷幄を日のためにまうけたまへり 5 日は新婿がいはひの殿をいづるごとく勇士がきそひはしるをよるごぶに似たり 6 そのいでたつや天の涯よりしその運りゆくや天のはてにいたる物としてその和煦をかうぶらざるはなし 7 エホバの法はまたくして靈魂をいきかへらしめエホバの證詞はかたくして愚なるものを智からしむ 8 エホバの訓諭はなほくして心をよるごばしめエホバの誠命はきよくして眼をあきらかならしむ 9 エホバを惶みおそる道はきよくして世々にたゆることなくエホバのさばきは眞實にしてことごとく正し 10 これを黄金にくらぶるもおほくの純精金にくらぶるも彌増りてしたふべくこれを蜜にくらぶるも蜂のすの滴瀝にくらぶるもいやまさりて甘し 11 なんぢの僕はこれらによりて儆戒をうくこれらをまもらば大なる報賞あらん 12 たれかおのれの過失をしりえんやねがはくは我をかくれたる愆より解放ちたまへ 13 願くはなんぢの僕をひきとめて故意なる罪ををかさしめずそれをわが主たらしめ給ふなかれさればわれ玷なきものとなりて大なる

愆をまめかるるをえん 14 エホバわが誓わが贖主わがくちの言わがこころの思念なんぢのまへに悦ばるることを得しめたまへ

Psalm 20

1 ねがはくはエホバなやみの日になんぢにこたへヤユブのかみの名なんぢを高にあげ 2 聖所より援助をなんぢにおくりシオンより能力をなんぢにあたへ 3 汝のもろもろの献物をみこころにとめなんぢの燔祭をうけたまはんことをセラ 4 ねがはくはなんぢがこころの願望をゆるしなんぢの謀略をことごとく遂しめたまはんことを 5 我儕なんぢの救によりて歎ひうたひわれらの神の名によりて旗をたてんねがはくはエホバ汝のもろもろの求を上げしめたまはんことを 6 われ今エホバその受膏者をすくひたまふを知るエホバそのきよき天より右手なるすくひの力にてかれに應へたまはん 7 あるひは車をたのみあるひは馬をたのみとする者ありされどわれらはわが神エホバの名をとらん 8 かれらは屈みまた仆るわれらは起てかたくたり 9 エホバよ王をすくひたまへわれらがよぶとき應へたまへ

Psalm 21

1 エホバよ王はなんぢの力によりてたのしみ汝のすくひによりて奈何におほいなる歡喜をなさん 2 なんぢ彼がこころの願望をゆるしそのくちびるの求をいなみ給はざりき 3 セラ 3 そはよきたまもの恵をもてかれを迎へまじりなきこがねの冕弁をもてかれの首にいだき給ひたり 4 かれ生命をもとめしに汝これをあたへてその齢の日を世々かぎりならしめ給へり 5 なんぢの救によりてその榮光おほいなりなんぢは尊貴と稜威とをかれに衣せたまふ 6 そは之をこしへに福ひなるものとなし聖顔のまへの歡喜をもて樂しめたまへばなり 7 王はエホバに依頼みいとたかき者のいつくしみを蒙るがゆゑに動かさることなからん 8 なんぢの手はそのもろもろの仇をたづねいだし汝のみぎの手はおのれを憎むものを探ねいだすべし 9 なんぢ怒るときは彼等をもゆる爐のごとくにせんエホバはげしき怒りによりてかれらを呑たまはん 10 火はかれらを食べつくさん 11 汝かれらの裔を地よりほろぼしかれらの種を人の子のなかよりほろぼさん 12 汝かれらは汝にむかひて惡事をくはだて遂がたき謀略をおもひまはせばなり 13 汝かれらをして背をむけしめその面にむかひて弓絃をひかん 14 エホバよ能力をあらはしてみづからを高くしたまへ我儕はなんぢの稜威をうたひ且ほめたまへん

Psalm 22

1 わが神わが神なんぞ我をすて
たまふや
何なれば遠くはなれて我をすくはず
わが歎きのこゑをきき給はざるか 2
ああわが神われ晝よばはれども汝こ
たへたまはず
夜よばはれどもわれ平安をえず 3 然
はあれイスラエルの讚美のなかに住
たまふものよ汝はきよし 4
われらの列祖はなんぢに依頼めりか
れら依頼みたればこれを助けたまへ
り 5 かれら汝をよびて援をえ汝によ
りたのみて恥をおへることなかりき
6 然はあれどわれは蟲にして人にあ
らず
世にそしられ民にいやしめらる 7 す
べてわれを見るものはわれをあざみ
わらひ
口唇をそらし首をふりていふ 8 かれ
はエホバによりたのめりエホバ助く
べしエホバかれを悦びたまふが故に
たすくべしと 9 されど汝はわれを胎
内よりいだし給へるものなりわが母
のふとこしにありしとき既になんぢ
に依頼ましろたまへり 10 わりま
れいでしより汝にゆだねられたりわが
母われを生しときより汝はわが神な
り 11 われに遠ざかりたまふなけれ
ば患難ちかづき又すくふものなけれ
ばなり 12 おほくの牡牛われをめぐり
バサンの力つよき牡牛われをかこ
めり 13 かれらは口をあけて我にむか
ひ物をかきさき吼うだく獅のごとし
14 われ水のごとくそぞいだされ
わがもろもろの骨ははづれわが心は
蠟のごとくなりて腹のうちに溶たり
15 わが力はかわきて陶器のくだけ
のごとくわが舌は齧にひたつけりなん
ぢわれを死の塵にふさせたまへり 1
6 そは犬われをめぐり悪きもの群
われをかこみてわが手およびわが足
をさしつらぬけり 17 わが骨はこと
ごとく數ふるばかりになりぬ
悪きもの目をとめて我をみる 18
かれらたがひにわが衣をわち我が
したぎを鬪にす 19
エホバよ遠くはなれ居たまふなけれ
わが力よねがはくは速きたりてわれ
を授けたまへ 20
わがたましひを劔より助けいだしわ
が生命を犬のたけいきほより脱
れしめたまへ 21 われを獅の口また
野牛のつより救ひいだしたまへ
なんぢ我にこたへたまへり 22 われ
なんぢの名をわが兄弟にのべつたへ
なんぢを會のなかにて讚たへん 2
3 エホバを懼るものよエホバをほ
めたたへよヤコブのもろもろの裔よ
エホバをあがめよイスラエルのもろ
もろのすゑよエホバを畏め 24 エホ
バはなやむもの辛苦をかるしめ棄
たまはずこれに聖顔をあほふことな
くしてその叫ぶときにききたまへば
なり 25 大なる會のなかにてわが汝
をほめたしふるは汝よりいづるなり
わが誓ひしことはエホバをおそる
者のまへにてことごとく償はん 26
謙遜者はくらひて飽ことをえエホバ
をたづねもとむるものはエホバをほ
めたたへん願くはなんぢらの心とこ
しへに生んことを 27 地のはては皆

おもひいだしてエホバに歸りもろ
ろの國の族はみな前にふしをがむべ
し 28 國はエホバのものなればなり
エホバはもろもろの國人をすべをさ
めたまふ 29 地のこえたるものは皆
くらひてエホバををがみ塵にくだる
ものと己がたましひを存ふること能
はざるものと皆そのみまへに拝跪か
ん 30 たみの裔のうちにエホバにつ
かる者あらん主のことは代々にかた
りつたへらるべし 31 かれら來りて
此はエホバの行爲なりとてその義を
後にうまるる民にのべつたへん

Psalm 23

1 エホバは我が牧者なり
われ乏しきことあらじ 2
エホバは我をみどりの野にふさせ
いこひの水濱にともなひたまふ 3 エ
ホバはわが靈魂をいかし名のゆゑを
もて我をただしき路にみちびき給ふ
4 たとひわれ死のかけの谷をあゆむ
とも禍害をおそれじ
なんぢ我とともに在せばなり
なんぢの筈なんぢの杖われを慰む 5
なんぢわが仇のまへに我がために筵
をまうけ
わが首にあぶらをそそぎたまふ
わが酒杯はあふるるなり 6 わが世に
あらん限りはかならず恩恵と憐憫と
われにそひきたらん
我はとこしへにエホバの宮にすまん

Psalm 24

1 地とそれに充るもの世界とそ
の中にすむものとは皆エホバのもの
なり 2 エホバはそのもとを大海の
うへに置これを大川のうへに定めた
まへり 3
エホバの山にのぼるべきものは誰ぞ
その聖所にたつべき者はたれぞ 4 手
きよく心いさぎよき者そのたましひ
虚きことを仰ぎのぞまず偽りの誓を
せざるものぞ その人なる 5
かかる人はエホバより福祉をうけ
そのすくひの神より義をうけん 6 斯
のごとき者は神をしたふもの族類
なりヤコブの神よなんぢの聖顔をも
とむる者なり セラ 7
門よなんぢらの首をあげよ
とこしへの戸よあがれ
榮光の王いりたまはん 8
えいくわうの王はたれなるか
ちからをもちたまふ猛きエホバなり
戦闘にたけきエホバなり 9
門よなんぢらの首をあげよ
とこしへの戸よあがれ
榮光の王いりたまはん 10
この榮光の王はたれなるか萬軍のエ
ホバはぞえいくわうの王なる セラ

Psalm 25

1 ああエホバよ
わがたましひは汝をあふぎ望む 2
わが神われなんぢに依頼めりわが
はくはわれに愧をおはしめたまふな
かれわが仇のわれに勝誇るることな
からしめたまへ 3 實になんぢを俟望む
ものははぢしめられず故なくして信

をうしなふものは愧をうけん 4 エホ
バよなんぢの大路をわれにしめし
なんぢの徑をわれにをしへたまへ 5
我をなんぢの眞理にみちびき我をを
しへたまへ汝はわがすくひの神なり
われ終日なんぢを俟望む 6 なんぢの
あはれみと仁慈とはいにしへより絶
ずあり
エホバよこれを思ひだしたまへ 7
わがわがきときの罪とわが愆とはお
もひいでたまふなかれエホバよ汝の
めぐみの故になんぢの仁慈にしたが
ひて我をおもひいでたまへ 8 エホバ
はめぐみ深くして直くましませり斯
るがゆゑに道をつみびとにをしへ 9
謙だるものを正義にみちびきたまは
んその道をへりくだる者にしめた
まはん 10 エホバのもろもろの道は
そのけいやくと證詞とをまもるもの
には仁慈なり眞理なり 11
わが不義はおほいなりエホバよ名
のために之をゆるしたまへ 12
エホバをおそる者はたれなるか之
にそのえらぶべき道をしめたまは
ん 13
かかる人のたましひは平安にすまひ
その裔はくにつぐべし 14 エホバ
の親愛はエホバをおそる者とも
にありエホバはその契約をかれらに
示したまはん 15
わが目はつねにエホバにむかふエホ
バわがあしを網よりとりいだしたま
ふ可ればなり 16 ねがはくは歸り
たりて我をあはれみたまへわれ獨わ
びしまた苦しみををるなり 17 願く
はわが心のうれへをゆるめ我をわざ
はひより脱かれしめたまへ 18
わが患難わが辛苦をかへりみ
わがすべての罪をゆるしたまへ 19
わが仇をみたまへかれらの數はおほ
し情なき憾をもてわれをにくめり 2
0 わがたましひをまもり我をたすけ
たまへ
われに愧をおはしめたまふなかれ
我なんぢに依頼めばなり 21 われな
んぢを俟望むねがはくは完全と正直
とわれをまもれかし 22 神よすべて
の憂よりイスラエルを贖ひだした
まへ

Psalm 26

1 エホバよねがはくはわれを鞠
きたまへわれわが完全によりてあゆ
みたり然のみならず我たゆたはずエ
ホバに依頼めり 2
エホバよわれを糺した試みたまへ
わが賢とこころを鍊きよめたまへ 3
そは汝のいつくしみわが眼前にあり
我はなんぢの眞理によりてあゆめり 4
われは虚しき人とともに座らざりき
惡をいつはりかざる者とともにほ
かじ 5 惡をなすもの會をにくみ惡
者とともにすわることせじ 6
われ手をあらひて罪なきをあらはす
エホバよ斯てなんぢの祭壇をめぐり
7 感謝のこゑを聞えしめすべてなん
ぢの奇しき事をのべつたへん 8 エホ
バよ我なんぢのまします家となんぢ
が榮光のとどまる處をいつくしむ 9

願くはわがたましひを罪人とともに
わが生命を血をながす者とともに取
収めたまふなかれ 10 かかる人の手
にはあしきくはだてあり
その右の手は賄賂にてみつ 11 され
どわれはわが完全によりてあゆまん
願くはわれをあがなひ我をあはれみ
たまへ 12
わがあしは平坦なるところにたつわ
れもろもろの會のなかにてエホバを
讚まつらん

Psalm 27

1 エホバはわが光わが救なり
われ誰をかおそれん
エホバはわが生命のちからなり
わが懼るべきものはたれぞや 2 われ
の敵われの仇なるあしきもの襲ひき
たりてわが肉をくらはんとせしが躰
きかつ仆れたり 3 縦ひいくさびと齧
きつらねて我をせむるともわが心お
それじたとひ戦ひおこりて我をせむ
るとも我になほ恃あり 4 われ一事を
エホバにこへり我これをもとむわれ
エホバの美しきを仰ぎその宮をみん
がためにわが世にあらん限りはエホ
バの家にするまんとこそ願ふなれ 5 エ
ホバはなやみの日にその行宮のうち
に我をひそませその幕屋のおくにわ
れをかくし巖のうへに我をたかく置
たまふべければなり 6 今わが首はわ
れをめぐれる仇のうへに高くあげら
るべしこの故にわれエホバのまくや
にて歡喜のそなへものを献んわれう
たひてエホバをほめたたへん 7 わが
誓をあけてさけぶときエホバよまき
給へまた憐みてわれに應へたまへ 8
なんぢらわが面をたづねもとめよと
斯る聖言のありしときわが心なんぢ
にむかひてエホバよ我なんぢの聖顔
をたづねんといへり 9 ねがはくは聖
顔をかくしたまふなかれ怒りてなん
ぢの僕をとほざけたまふなかれ汝は
われの助なり噫わがすくひの神よわ
れをおひだしし我をすてたまふな
かれ 10 わが父母われをすつともエ
ホバわれを迎へたまはん 11
エホバよなんぢの途をわれにをしへ
わが仇のゆゑに我をたひらかなる途
にみちびきたまへ 12 いつはりの證
をなすもの暴厲を吐もの我にさから
ひて起りたり願くはわれを仇にわ
たしてその心のままに爲しめたまふ
なかれ 13 われもしエホバの恩寵を
いけるもの地にて見るの侍なから
ましかば奈何ぞや 14 エホバを俟望
ぞめ雄々しかれ汝のこころを堅うせ
よ 必ずやエホバをまちのぞめ

Psalm 28

1 ああエホバよわれ汝をよばん
わが誓よねがはくは我にむかひて暗
唾となりたまふなかれなんぢ黙した
まはば恐らくはわれ墓にいるものと
ひとしからん 2 われ汝にむかひてさ
げび聖所の奥にむかひて手をあぐる
ときわが懇求のこゑをききたまへ 3
あしき人また邪曲をおこなふ者とも
に我をたらへてひきき給ふなかれ
かれらはその隣にやはらぎをかた
れども心には殘害をいだけり 4 その

事にしたがひそのなす惡にしたがひて彼等にあたへその手の行爲にしたがひて與へこれにその受べきものを報いたまへ 5 かれらはエホバのもるもの事とその手のなしわざとをかへりみずこの故にエホバかれらを毀ちて建たまふことなからん 6 エホバは讃べきかな わが祈のこゑをききたまひたり 7 エホバはわが力わが盾なりわがこころこれに依頼みれば我たすけをえたり 然るゆゑにわが心いたくよるこぼ われ歌をもてほめまつらん 8 エホバはその民のちからなり その受賞者のすくひの城なり 9 なんぢの民をすくひなんぢの嗣業をさきはひ且これをやしなひ之をとしなへに懐きたすけたまへ

Psalm 29

1 なんぢら神の子らよエホバに獻げまつれ榮と能とをエホバにささげまつれ 2 その名にふさはしき榮光をエホバにささげ奉れきよ衣をつけてエホバを拝みまつれ 3 エホバのみこゑは水のうへにありえいくわうの神は雷をとどろかせたまふ エホバは大水のうへにいませり 4 エホバの聲はちからあり エホバのみこゑは稜威あり 5 エホバのみこゑは香柏ををりくたくエホバ、レバノンのかうはくを折くできたまふ 6 これを擯のごとくをどらせレバノンとシリオンとをわかき野牛のごとくをどらせたまふ 7 エホバのみこゑは火焰をわかつ 8 エホバのみこゑは野をふるはせエホバはカデンの野をふるはせたまふ 9 エホバのみこゑは鹿に子をうませ また林木をはだかにすその宮にあるすべてのもの呼はりて榮光なるかなといふ 10 エホバは洪水のうへに坐したまへり エホバは寶座にざして永遠に王なり 11 エホバはその民にちからをあたへたまふ平安をもてその民をさきはひたまはん

Psalm 30

1 エホバよわれ汝をあげめんなんぢ我をおこしてわが仇のわがことによりて喜ぶをゆるし給はざればなり 2 わが神エホバよわれ汝によれば汝我をいやしたまへり 3 エホバよ汝わがたましひを陰府よりあげ我をながらへしめて墓にくだらせたまはざりき 4 エホバの聖徒よエホバをほめうたへ奉れ きよき名に感謝せよ 5 その怒はただしばしにてその恵はいのちとともにながし夜はよまずが泣かなしむとも朝にはよるこぼうたはん 6 われ安けかりしときに謂くとしへに動かさることなからんと 7 エホバよなんぢ恵をもてわが山をかたく立せたまひきはあれどなんぢ面をかくしたまひたれば我おぢまどひたり 8 エホバよわれ汝によればわれ我ひたすらエホバにねがへり 9 われ墓にくだらばわが血なにの益あらん

塵はなんぢを讃たへんや なんぢの眞理をのべつたへんや 10 エホバよ聽たまへわれを憐みたまへ エホバよ願くはわが助となりたまへ 11 なんぢ蹠躍をもてわが哀泣にかへわが履服をとき歡喜をもてわが帯としたまへり 12 われ榮をもてほめうたひつつ黙すことなからんためなりわが神エホバよわれ永遠になんぢに感謝せん

Psalm 31

1 エホバよわれ汝によりたのむ願くはいづれの日までも愧をおはしめたまふなけれなんぢの義をもてわれを助けたまへ 2 なんぢの耳をかたぶけて速かにわれをすくひたまへ願くはわがためにかたき磐となり我をすくふ保障の家となりたまへ 3 なんぢはわが磐わが城なりされば名のゆゑをもてわれを引われを導きたまへ 4 なんぢ我をかれらが密かにまうけたる網よりひきいだしたまへ なんぢはわが保岩なり 5 われ靈魂をなんぢの手にゆだねエホバまことの神よなんぢはわれを贖ひたまへり 6 われはいづれはりの虚きことに心をよする者をにくむ われは獨エホバによりたのむなり 7 我はなんぢの憐憫をよるこびたのしまん なんぢわが艱難をかへりみわがたましひの禍害をしり 8 われを仇の手にとどめしめたまはずわが足をひろきところに立たまへばなり 9 われ迫りくるしめり エホバよ我をあはれみたまへ わが目はうれひによりておとろふ 靈魂も身もまた衰へぬ 10 わが生命は魂なしみによりて消えゆきわが年華はなげきによりて消ゆけばなり わが力はわが不義によりておとろへわが骨はかれはたり 11 われもろもろの仇ゆゑにそしらるわが隣にはわけて甚だし相識ものは忌憚られ備にてわれを見るもの避てのがる 12 われは死たるもののごとく忘られて人のところに置れずわれはやぶれたる器もののごとくなれり 13 そは我おほくの人のそしりをきい到るところに懼ありかれら我にさからひて互にはかりしがわが生命をさへとらんと企てたり 14 されどエホバよわれ汝によりたのめり また汝はわが神なりといへり 15 わが時はすべてなんぢの手にありねがはくはわれを仇の手よりたすけわれに追迫るものより助けいだしたまへ 16 なんぢの僕のうへに聖顔をかがやかせんなんぢの仁慈をもて我をすくひたまへ 17 エホバよわれに愧をおはしめ給ふなけれ そは我なんぢをよべばなり願くはあしきものに恥をうけしめ陰府にありて口をつぐましめ給へ 18 傲慢と輕侮をもて義きものにむかひ妄りにのしるいつはりの口唇をつぐましめたまへ 19 汝をおそる者のためにたくはへなんぢに依頼むものために人の子のまへにてほどこしたまへる汝のいつくしみは大なるかな 20 汝かれらを御前なるひそかなる所にかくして人

の謀略よりまぬかれしめまた行宮のうちひそませて舌のあらそひをさけしめたまはん 21 讃べきかなエホバは堅固なる城のなかにて奇しめるるばかりの仁慈をわれに顯したまへり 22 われ驚きあわてていへらくなんぢの目のまへより絶れたりと然どわれ汝によびもとめしとき汝わがねがひの聲をききたまへり 23 なんぢらもろもろの聖徒よエホバをいつくしめエホバは眞實あるものをまもり傲慢者におもく報をほどこしたまふ 24 すべてエホバを俟望むものよ雄々しけれ なんぢら心をかたうせよ

Psalm 32

1 その窓をゆるされその罪をおほはれしものは福ひなり 2 不義をエホバに負せられざるもの心いつはりなき者はさいはひなり 3 我いひあらはさざりしときは終日かなしみさげびたるが故にわが骨ふるびおとろへたり 4 なんぢの手はよるも晝もわがうへにありて重しわが身の潤澤はかはりて夏の旱のごとくなれり 5 セラ 5 斯てわれなんぢの前にわが罪をあらはしわが不義をおほはざりき 我いへらくわが窓をエホバにいひあらはさんと斯るときも汝わがつみの邪曲をゆるしたまへり 6 されば神をうやまふ者はなんぢに遇ことをうべき間になんぢに祈らん大水あふれ流るともかならずその身におよばじ 7 汝はわがかくるべき所なりなんぢ患難をふせぎて我をまもり救のうたをもて我をかこみたまはん 8 われ汝ををしへ汝をあゆむべき途にみちびき わが目をなんぢに注てさとさん 9 汝等わきまへなき馬のごとく驢馬のごとくなるなけれかれらは鎌たづなのごとき具をもてひきとめずば近づきたることなし 10 惡者はかなしみ多かれどエホバに依頼むものは憐憫にてかこまれん 11 ただしき者よエホバを喜びたのしめ 凡てこころの直きものよ喜びよばふべし

Psalm 33

1 ただしき者よエホバによりてよるこべ 讚美はなほきものに適はしきなり 2 琴をもてエホバに感謝せよ十絃のこともてエホバをほめうたへ 3 あたらしき歌をエホバにむかひてうたひ歡喜の聲をあげてたくみに琴をかきならせ 4 エホバのことばは直くそのすべて行ひたまふところ眞實なればなり 5 エホバは義と公平とをこのみたまふその仁慈はあまねく地にみつ 6 もろもろの天はエホバのみことばによりて成りてんの萬軍はエホバの口の氣によりてつくられたり 7 エホバはうみの水をあつめてうづだかくし深淵を庫にさめたまふ 8 全地はエホバをおそれ世にすめるもろもろの人はエホバをおぢかしこむべし 9

そはエホバ言たまへば成り おほせたまへば立るがゆゑなり 10 エホバはもろもろの國のはかりごとを虚くしもろもろの民のおもひを徒勞にしたまふ 11 エホバの謀略はとこしへに立ちそのみこころのおもひは世々にたつ 12 エホバをおのが神とする國はさいはひなりエホバ嗣業にせんとして撰びたまへるその民はさいはひなり 13 エホバ天よりうかがひてすべての人の子を見 14 その在すところより地にすむもろもろの人をみたまふ 15 エホバはすべてかれらの心をつくりその作ところをことごとく鑿みたまふ 16 王者いくさびと多をもて救をえず勇士ちから大なるをもて助をえざるなり 17 馬はすくひに益なくその大なるちからも人をたすることなからん 18 視よエホバの目はエホバをおそるもの並その憐憫をのぞむものうへにあり 19 此はかれらのたましひを死よりすくひ饑饉たるきにも世にながらへしめんがためなり 20 われらのたましひはエホバを俟望めりエホバはわれらの援われらの盾なり 21 われらはきよき名にりたのめり斯てぞわれらの心はエホバにありてよるこぼん 22 エホバよわれら汝をまちのぞめりこれに循ひて憐憫をわれらのうへに垂たまへ

Psalm 34

1 われつねにエホバを祝ひまつらんその頌詞はわが口にたえじ 2 わがたましひはエホバによりて誇らん 謙だるものは之をききてよるこぼん 3 われとともにエホバを崇めよ われらとともにその名をあげたへん 4 われエホバを尋ねたればエホバわれにこたへ我もろもろの畏懼よりたすけいだしたまへり 5 かれらエホバを仰ぎのぞみて光をかうぶれりかれらの面ははぢあからむことなし 6 この苦しむもの叫びたればエホバこれをききそのすべての患難よりすくひいだしたまへり 7 エホバの使者はエホバをおそる者のまはりて營をつらねてこれを擧ぐ 8 なんぢらエホバの恩恵ふかきを嘗ひしれエホバによりたのむ者はさいはひなり 9 エホバの聖徒よエホバを畏れよエホバをおそるものには乏しきことなればなり 10 わかき獅はともくして饑ることありされどエホバをたづぬるものは嘉物にかることあらじ 11 子よきたりて我にきけわれエホバを畏るべきことを汝等にをしへん 12 福祉をみんがために生命をたひ存へんことをこのむ者はたれぞや 13 なんぢの舌をおさへて惡につかしめずなんぢの口唇をおさへて虚偽をいはざらしめよ 14 惡をはなれて善をおこなひ和睦をもとめて切にこのことを勉めよ 15 エホバの目はただしきものをかへりみその耳はかれらの號呼にかたぶく 16 エホバの聖顔はあくをなす者にむかひてその跡を地より斷滅したまふ 17 義者さけびたればエホバ之をききてそのすべての

患難よりたすけいだしたまへり 18
 エホバは心のいたみかなしめる者に
 ちかく在してたましひの悔類れたる
 ものをすくひたまふ 19
 ただしきものは患難おほしされどエ
 ホバはみなその中よりたすけいだし
 たまふ 20 エホバはかれがすべての
 骨をまもりたまふ
 その一つだに折らることなし 21
 惡はあしきものをころさん義人をに
 くむものは刑なはるべし 22 エホバ
 はその僕等のたましひを贖ひたまふ
 エホバに依頼むものは一人だにつみ
 なはるることながらん

Psalm 35

1 エホバよねがはくは我にあら
 そふ者とあらそひ我とたたかふもの
 と戦ひたまへ 2 干と大盾とをとりて
 わが援にたちいでたまへ 3 戦をぬき
 いただいたまひて我におひせるもの
 の途をふさぎ且わが靈魂にわれはな
 んぢの救なりといひたまへ 4 願くは
 わが靈魂をたづぬるもの恥をえて
 いやしめられ我をそこなはんと謀る
 もの退けられて惶てふためかんと
 ことを 5 ねがはくはかれらが風のまへ
 なる靴のごとくなりエホバの使者
 におひやられんことを 6 願くはかれ
 らの途をくらくし滑らかにしエホバ
 の使者にかれらを追ゆかしたまは
 んことを 7 かれらは故なく我をたら
 へんとて網をあなにふせ故なくわが
 靈魂をそこなはんとて阱をうがちた
 ればなり 8 願くはかれらが思ひよら
 ぬ間にほろびきたり己がふせたる網
 にとらへられ自らその滅におちいら
 んことを 9 然とさわが靈魂はエホバ
 によりてよるこび
 その救をもて樂しまん 10
 わがすべての骨はいはんエホバよ汝
 はくるしむものを之にまさりて力つ
 よきものより並くるしむもの貧しき
 ものを掠めよばふ者よりたすけい
 だし給ふ誰かなんぢに比ふべき者あら
 んと 11 ころあしき證人おこりて
 わが知ざることを詰りとふ 12 かれ
 らは惡をもてわが善にむくい我がた
 ましひを依仗なきものとせり 13 然
 どわれかれらが病しときには羸服を
 つけ糧をたちてわが靈魂をくるしめ
 たり
 わが祈はふところにかへれり 14 わ
 がかれに作ることはわが友が兄弟
 ごとくならず母の喪にありて痛哭が
 ごとく哀しみうなれたり 15 然ど
 かれらはわが倒れんとせしとき喜び
 つどひわが知ざりしとき匪類あつま
 りきたりて我をせめ
 われを裂てやめざりき 16 かれらは
 酒宴にて穢きことをのぶる嘲笑者
 のごとく我にむかひて齒をかみらせり
 17 主よいたづらに見るのみにし
 て幾何時をへたまふや願くはわがた
 ましひの彼等にほろぼさるるを脱れ
 しめわが生命をわかき獅よりまぬか
 れしめたまへ 18 われ大なる會にあり
 てなんぢに感謝しおほくの民のな
 かにて汝をほめたまへん 19 虚偽を
 もてわれに仇するものわが故によ
 るこびことを容したまなれ故なく
 して我をにくむ者のたがひに胸せす

ることながらしめたまへ 20
 かれらは平安をかたらずあざむきの
 言をつくりまうけて國內におだやか
 にすまふ者をそこなはんと謀る 21
 然のみならず我にむかひて口をあけ
 ひろげああ視よや視よやわれらの眼
 これをみたりといへり 22
 エホバよ汝すでにこれを視たまへり
 ねがはくは黙したまふなれ主よわ
 れに遠ざかりたまふなれ 23
 わが神よわが主よ
 おきたまへ醒たまへねがはくはわが
 ために審判をなしわが訟ををさめた
 まへ 24 わが神エホバよなんぢの義
 にしたがひて我をさばきたまへわが
 事によりてかれらに歡喜をえしめた
 まふなれ 25
 かれらにその心裡にてああこちよ
 きかな觀よこれわが願ひしところな
 りといはしめたまふなれ又われら
 かれを呑つくせりといはしめたまふ
 なれ 26 願くはわが害なはるるを
 喜ぶもの皆はどて惶てふためき我に
 むかひてはこりかに高ぶるもの愧
 とはづかしめとを衣んことを 27 わ
 が義をよみする者をばよるこび謳は
 しめ大なるかなエホバその僕のさい
 はひを悦びたまふと恒にいしめた
 まへ 28 わが舌は終日なんぢの義と
 なんぢの譽とをかたらん

Psalm 36

1 あしきものの怒はわが心のう
 ちにかたりてその目のまへに神をお
 そるるの畏あることなしといふ 2 か
 れはおのが邪曲のあらはることなく
 憎まるることながらんとて自から
 その目にて詔る 3 その口のことばは
 邪曲と虚偽となり智をこぼし善をお
 こなふことを息たり 4 かつその寢床
 にてよこしまなる事をはかりよから
 ぬ途にたちとまりて惡をきはらず 5
 エホバよなんぢの仁慈は天にあり
 なんぢの眞實は雲にまでよぶ 6
 汝のただしきは神の山のごとく
 なんぢの審判はおほいなる淵なりエ
 ホバよなんぢは人とけものとを護り
 たまふ 7
 神よなんぢの仁慈はたふときかな
 るの子はなんぢの翼の蔭にさげど
 ころを得 8 なんぢの屋のゆたかなるに
 よりてことごとく飽ことをえんなんぢ
 はその歡樂のかはの水をかれらに飲
 したまはん 9
 そはいのちの泉はなんぢに在りわれ
 らはなんぢの光によりて光をみん 10
 ねがはくはなんぢを知るものにた
 えず憐憫をほどこし心なほき者にた
 えず正義をほどこしたまへ 11 たか
 ぶるもの足われをふみ惡きもの
 手われを逐去ふをゆるし給ふなれ
 12 邪曲をおこなふ者はかしこに仆
 れたりかれら打伏られてまた起こと
 あたはざるべし

Psalm 37

1
 惡をなすもの故をもて心をなやめ
 不義をおこなふ者にむかひて嫉をお
 こすなれ 2 かれらははやがて草の
 ごとかりとられ青菜のごとく打萎

べければなり 3
 エホバによりたのみて善をおこなへ
 この國にとどまり眞實をもて糧とせ
 よ 4 エホバによりて歡喜をなせエ
 ホバはなんぢが心のねがひを汝にあ
 たへたまはん 5
 なんぢの途をエホバにゆだねよ
 彼によりたのまば之をなしとげ 6 光
 のごとくなんぢの義をあきらかにし
 午日のごとくなんぢの訟をあきらか
 にしたまはん 7 なんぢエホバのまへ
 に口をつぐみ忍びてこれを俟望め
 のが途をあゆみて榮るもの故をも
 てあしき謀略をとぐる人の故をも
 て心をやむるなれ 8
 怒をやめ忿恚をすてよ
 心をやむるなれ
 これ惡をおこなふ方にうつらん 9
 そは惡をおこなふものは斷滅され
 エホバを俟望むものは國をつぐべ
 ければなり 10
 あしきものは久しからずしてうせん
 なんぢ細密にその處をおもひみると
 ものであることながらん 11
 されど謙だるものは國をつぎ
 また平安のゆたかなるを樂まん 12
 惡きものは義きものにさからはんと
 て謀略をめぐらし之にむかひて切齒
 す 13
 主はあしきものを笑ひたまはんかれ
 が日のきたるを見たまへばなり 14
 あしきものは劍をぬき弓をはりて苦
 しむものと貧しきものとをたふし行
 ひなほきものを殺さんとせり 15 さ
 れどその劍はおのが胸をさしその
 弓はをらるべし 16 義人のもてるもの
 のすくなくは多くの惡きもの豊か
 なるにまさり 17 そは惡きものの
 臂はをらるれどエホバは義きものを
 扶持たまへばなり 18 エホバは完全
 ものもろもろの日をしりたまふか
 らの嗣業はかぎりなく久しからん
 19 かれらは禍害にあふとき愧をおは
 ず饑饉の日にもあくことを得ん 20
 あしき者はほろびエホバのあはは
 牧場のさかえの枯るがごとくうせ烟
 のごとく消ゆかん 21
 あしき者はものかりて償はず
 義きものは恵ありて施しあたふ 22
 神のことほぎたまふ人は國をつぎ神
 のろひたまふ人は斷滅さるべし 23
 人のあゆみはエホバによりて定め
 らるそのゆく途をエホバよるこび
 たまへり 24 縦ひその人たふること
 ありとも全くうちふせらることなし
 エホバかれが手をたすけ支へたま
 へばなり 25 われむかし年わかくし
 て今おいたれど義者のすてられ或
 はその裔の糧こひありくを見しこと
 なし 26 ただしきものは終日めぐみ
 ありて貧あたふ
 その裔はさいはひなり 27
 惡をはなれて善をなせ然ばなんぢの
 住居とこしへならん 28
 エホバは公平をこのみ
 その聖徒をすてたまはざればなりか
 らは永遠にまもりたすけらるれど
 惡きものすゑは斷滅さるべし 29
 ただしきものは國をつぎその中にす
 まひてとこしへに及ばん 30
 ただしきものの口は智慧をかたり
 その舌は公平をのび 31
 かれが神の法はそのここにありそ
 のあゆみは一步だにすべることあら

じ 32 あしきものは義者をひそみう
 かがひて之をころさんとはかる 33
 エホバは義者をあしきもの手にの
 こしおきたまはず審判のときに罰ひ
 たまふことなし 34
 エホバを俟望みてその途をまもれ
 ば汝をあげて國をつがせたまはん
 なんぢ惡者のたちほろぼさるる時に
 これをみん 35 我あしきもの猛く
 してはびこれを見るに生立たる地
 にさかえしげれる樹のごとし 36
 然れどもかれは逝ゆけり
 視よたちまちに無なりぬわれ之をた
 づねしかど遇ことをえざりき 37
 完人に目をそそぎ直人をみよ
 和平なる人には後あれど 38 罪をを
 かすものらは共にほろぼされ惡きも
 のの後はかならず斷るべければなり
 39
 ただしきものの救はエホバよりいづ
 エホバはかれらが辛苦のときの保
 岩なり 40 エホバはかれらを助け
 かれらを解脱ちたまふエホバはか
 れらに惡者よりときはなちて救ひた
 まふかれらはエホバをその避所とす
 ればなり

Psalm 38

1 エホバよねがはくは忿恚をも
 て我をせめはげしき怒をもて我をこ
 らしめ給ふなれ 2
 なんぢの矢われにあたり
 なんぢの手わがうへを壓へたり 3 な
 んぢの怒によりてわが肉には全きと
 ころなくわが罪によりてわが骨には
 健かなるところなし 4 わが不義は首
 をすぎてたかく重荷のごとく負がた
 げればなり 5 われ愚なるによりてわ
 が傷あし臭をはなちて腐れただ
 たり 6 われ折屈みていたくなげきう
 なたれたり
 われ終日かなしみありく 7 わが腹は
 ことごとく焼るがごとく肉に全きと
 ころなければなり 8 我おとろへは
 て甚くすつけられわが心のやすから
 ざるによりて歎歎さけべり 9 ああ主
 よわがすべての願望はなんぢの前に
 ありわが嘆息はなんぢに隠ること
 なし 10
 わが胸をどりわが力おとろへわが眼
 のひかりも亦われをはなれたり 11
 わが友わが親めるものはわが痲を
 みて遥にたち
 わが隣もまた遠かりてたてり 12 わ
 が生命をたづぬるものは籍をまうけ
 我をそこなはんとするものは惡言を
 いひまた終日ばかりを謀る 13 然
 はあれどわれは聾者のごとくきかず
 われは口をひらかぬ唾者のごとし 14
 如此われはきかざる人のごとく口
 にことあげせぬ人のごときなり 15
 エホバよ我なんぢを俟望めり主わが
 神よなんぢかならず答へたまふべ
 ければなり 16 われ曩にいふおそらく
 はかれらわが事によりて喜びわが足
 のすべらんととき我にむかひて誇り
 したかぶらんと 17
 われ外るばかりになりぬ
 わが悲哀はたえずわが前にあり 18
 そは我みづから不義をいひあらはし
 わが罪のためにかなしめばなり 19
 わが仇はいきはたらきてたけく故な

くして我をうらむるものおほし 20
 悪をもて善にむくゆるものはわれ善
 事にしたがふが故にわが仇となれり
 21 エホバよねがはくは我をはなれた
 たまふなわれわが神よわれに遠かり
 たまふなわれ 22 主わがすくひよ速
 きたりて我をたすけたまへ

Psalm 39

1 われ曩にいへりわれ舌をもて
 罪ををかさざらんために我すべての
 途をつつしみ悪者のわがまへに在る
 あひだはわが口に衝をかけんと2 わ
 れ黙して唾となり善言すことばに
 いたさず わが憂なほおこれり 3
 わが心わがうちに熱しおもひつづく
 ほどに火もえぬればわれ舌をもて
 いへらく 4 エホバよ願くはわが終と
 わが日の數のいくばくなくとを知し
 めたまへ
 わが無常をしらしめたまへ 5 觀よな
 んぢわがすべての日を一掌にすぎさ
 らしめたまふわがいのち主前にて
 はなきにことならず實にすべての人
 は皆その盛時だにもむなしからざる
 はなし セラ 6
 人の世にあるは影にことならずその
 思ひなやむことはむなしからざるな
 しその積蓄ふるものはたが手にをさ
 まるをしらず 7
 主よわれ今にをかまたん
 わが望はなんぢにあり 8 ねがはくは
 我ぞすべて窓より助けいだしたまへ
 患なるものに誹らることなからし
 めたまへ 9
 われは黙して口をひらかず此はなん
 ぢの成したまふ者なればなり 10 願
 くはなんぢの責をわれよりはなちた
 まへ我なんぢの手にうちこらさるる
 によりて亡ぶるばかりになりぬ 11
 なんぢ罪をせめて人をこらしその慕
 ひよこぶところのものを羸のくら
 ぶがごとく消うせしめたまふ實に
 もろる人はむなしからざるなし
 セラ 12 ああエホバよねがはくはわ
 が祈をきき
 わが號呼に耳をかたぶけたまへ
 わが涙をみて黙したまふなわれわれ
 はなんぢに寄る旅客すべてわが列祖
 のごとく宿れるものなり 13 我こ
 を去てうせざる先になんぢ面をそむ
 けてわれを爽快ならしめたまへ

Psalm 40

1
 我たへしのびてエホバを俟望みたり
 エホバ我にむかひてわが號呼をきき
 たまへり 2 また我をほるびの阱より
 泥のなかよりとりいだしてわが足を
 磐のうへにおきわが歩をかたくした
 まへり 3 エホバはあたらしき歌をわ
 が口にいられたまへり此はわれらの神
 にささぐる讚美なり
 おほくの人はこれを見ておそれ
 かつエホバによりたのまん 4 エホバ
 をおのが頼となし高るものによらず
 虚偽にかたぶく者によらざる人はさ
 いはひなり 5 わが神エホバよなんぢ
 の作たまへる奇しき迹とわれらにむ
 かふ念とは甚おほくして汝のみまへ
 につらねいふことあたはず我これを

いひのべんとすれどその數かぞふる
 ことあたはず 6 なんぢ犠牲と祭物と
 をよるこびたまはず汝わが耳をひら
 きたまへりなんぢ燔祭と罪祭とをも
 とめたまはず 7 そのとき我いへらく
 觀よわれきたらんわがことを書の巻
 にするしなり 8 わが神よわれは聖意
 にしたがふことを樂むなんぢの法は
 わが心のうちにありと 9
 われ大なる會にて義をつけしめせり
 視よわれ口唇をとどす
 エホバよなんぢ之をしりたまふ 10
 われなんぢの義をわが心のうちにひ
 めおかずなんぢの眞實となんぢの拯
 救とをのべつたへたり我なんぢの仁
 慈となんぢの眞理とをおほいなる會
 にかくさざりき 11 エホバよなんぢ
 憐憫をわれにをしみたまふなわれ仁
 慈と眞理とをもて恒にわれをまもり
 たまへ 12
 そはかぞへがたき禍害われをかこみ
 わが不義われに追及てあぶぎみること
 能はぬまでになりぬ
 その多きことわが首の髪にもまさり
 わが心きえうするばかりなればなり 13
 エホバよ願くはわれをすくひたまへ
 エホバよ急ぎきたりて我をたすけた
 まへ 14 願くはわが靈魂をたづねほ
 るぼさんとするもの皆はぢあて
 んことをわが害はるるをよるこぶも
 ののみな後にしりぞきて恥をおはん
 ことを 15 われにむかひて ああ視よ
 や視よやといふ者おのが恥によりて
 おどろきおそれんことを 16 願くは
 なんぢを尋求むるもの皆なんぢに
 によりて樂みよるこばんことをなんぢ
 の救をしたふもの恒にエホバは大
 なるかなとなへんことを 17
 われはくるしみ且ともし
 主われをねんごろに念ひたまふ
 なんぢはわが助なり
 われをすくひたまふ者なり ああわが
 神よねがはくはためらひたまふな
 くれ

Psalm 41

1 わき人をかへりみる者はさ
 いはひなりエホバ斯るものを禍ひの
 日にたすけたまはん 2 エホバ之をま
 もり之をながらへしめたまはん
 かれはこの地にありて福祉をえん
 なんぢ彼をその仇ののぞみにまかせて
 付したまふなわれ 3 エホバは彼わ
 づらひの床にあるをたすけ給はん
 なんぢかれが病るときその衾をしき
 かへたまはん 4 我いへらくエホバよ
 われを憐みわがたましひを醫したま
 へわれ汝にむかひて罪ををかし
 たりと 5 わが仇われをそしりていへり
 彼いづれのときに死いづれのときに
 その名ほろびんと 6 かれ又われを見
 んとてきたるときは虚偽をかたり邪
 曲をその心にあつめ
 外にいではこれを述べ 7 すべてわ
 れをにくむもの互ひにささやき我を
 そこなはんとして相謀る 8 かつ云
 かれの一のわざはひつきまかしたれば
 仆れふしてふたたび起ることなから
 んと 9 わが恃みしところ わが糧を
 くらひしところのわが親しき友さへ
 も我にそむきてその踵をあげたり 1

0 然はあれどエホバよ汝ねがはくは
 我をあはれみ我をたすけて起したま
 へされば我かれらに報ることをえん
 11 わが仇われに打勝てよるこぶこ
 と能はざるをもて汝がわれを愛いつ
 くしみたまふを我しりぬ 12
 わが事をいはばなんぢ我をわが完全
 うちにてたもち我をとこしへに面の
 まへに置たまふ 13 イスラエルの神
 エホバはとこしへより永遠までほむ
 べきかな アーメン アーメン

Psalm 42

1 ああ神よしかの深水をしたひ
 喘ぐがごとくわが靈魂もなんぢをし
 したひあへくなり 2 わがたましひは渴
 けるごとくに神をしたふ
 活神をぞしたふ何れるときにか我ゆ
 きて神のみまへにいでん 3
 かれらが終日われにむかひてなんぢ
 の神はいづくにありやとのしる間
 はただわが涙のみ晝夜そそぎてわが
 糧なりき 4 われむかし群をなして祭
 日をまもる衆人とともにゆき歡喜と
 讚美のこゑをあげてかれらを神の家
 にともなへり今これらのことを追想
 してわが衷よりたましひを注ぎいだ
 すなり 5 ああわが靈魂よ
 なんぢ何ぞうなたるや
 なんぞわが衷におもひみだるや
 なんぢ神をまちのぞめわれに聖顔の
 たすけありて我なほわが神をほめた
 たふべければなり 6 わが神よわが
 たましひはわが衷にうなたる然ばわれ
 ヨルダンの地よりヘルモンよりミザ
 ルの山より汝をおもひつづ 7 なんぢ
 の大瀑のひびきによりて淵々よびこ
 たへなんぢの波なんぢの猛浪ことごと
 くわが上をこえゆけり 8 然はあれ
 ど晝はエホバその憐憫をほどこした
 まふ夜はその歌われとともにあり此
 うたはわがいのちの神にささぐる祈
 なり 9 われわが磐なる神にいはん
 なんぞわれを忘れたまひしやなんぞ
 われは仇のしへたげによりて悲しみ
 ありくや 10 わが骨もくだるばかり
 にわがてきはひねもす我にむかひ
 てなんぢの神はいづくにありやとい
 ひのしりつづ我をそしれり 11
 ああわがたましひよ
 汝なんぞうなたるや
 何ぞわがうちに思ひみだるや
 なんぢ神をまちのぞめわれ尚わが
 かほの助なるわが神をほめたたふべ
 ければなり

Psalm 43

1 神よねがはくは我をさばき情
 しらぬ民にむかひてわが訟をあげつ
 らひ詭計おほきよしまなる人より
 我をたすけいだし給へ 2
 なんぢはわが力の神なり
 なんぞ我をすてたまひしや何ぞわれ
 は仇の暴虐によりてかなしみありく
 や 3 願くはなんぢの光となんぢの眞
 理とをはなち我をみちびきてその聖
 山とその帷幄とにゆかしめたまへ 4
 さらばわれ神の祭壇にゆき又わがよ
 るこびよるこぶ神にゆかん ああ神よ
 わが神よわれ琴をもてなんぢを讚た
 へん 5 ああわが靈魂よなんぢなん

ぞうなたるや
 なんぞわが衷におもひみだるや
 なんぢ神によりて望をいだけ我なほ
 わが面のたすけなるわが神をほめた
 たふべければなり

Psalm 44

1 ああ神よむかしわれらの列祖
 の日になんぢがなしたまひし事迹を
 われら耳にきけり
 列祖われらに語り 2 なんぢ手をも
 てもろもろの國人をおひしりぞけわ
 れらの列祖をうゑ並もろもろの民を
 なやましてわれらの列祖をばびこら
 せたまひき 3 かれらはおのが劔によ
 りて國をえしにあらす
 おのが臂によりて勝をえしにあらす
 只なんぢの右の手なんぢの臂なんぢ
 の面のひかりにより 4
 汝かれらを恵みたまひたればなり 4
 神よなんぢはわが王なりねがはくは
 ヤコブのために救をほどこしたまへ
 5 われらは汝によりて敵をたふしま
 た我儕にさからひて起りたつものを
 なんぢの名によりて踐壓ふべし 6
 そはわれわが弓によりたのまはずわ
 が劔もまた我をすくふことあたはざ
 ればなり 7
 なんぢわれらを敵よりすくひまたわ
 れらを惡むものを辱かしめたまへり
 8
 われらはひねもす神によりてほこり
 われらは永遠になんぢの名に感謝せ
 ん セラ 9 しかるに今はわれらをす
 てて恥をおはせたまへりわれらの軍
 人とともに出ゆきたまはず 10 われ
 らを敵のまへより退かしたまへり
 われらを惡むものその任意にわれら
 を掠めうばへり 11 なんぢわれらを
 食にそなへらるる羊のごとくにあた
 へ斯てわれらをもろもろの國人のな
 かにちらし 12 得るところなくして
 なんぢの民をうりその價によりてな
 んぢの富をましたまはざりき 13
 汝われらを隣人にそしらしめ
 われらを環るものにあなどらしめ
 嘲けらしめたまへり 14 又もろも
 ろの國のなかにわれらを談柄となし
 もろもろの民のなかにわれらを頭ふ
 る者となしたまへり 15
 わが凌辱ひねもす我がまへにあり
 わがかほの恥われをおほへり 16 こ
 は我をそしり我をのしるものの聲
 により我にあだし我にうらみを報る
 もの故によるなり 17 これらのこ
 と皆われらに臨みきつれどわれらな
 ほ汝をわすれずなんぢの契約をいつ
 はりまもらざりき 18 われらの心し
 りぞかずわれらの歩履なんぢの道
 はなれず 19 然どなんぢは野犬のす
 みかにてわれらをかきつづけ死蔭を
 もてわれらをおほひ給へり 20 われら
 もしおのれの神の名をわすれればわ
 れらの手を異神にのべしことあらん
 には 21
 神はこれを亂したまはざらんや神は
 こころの隠れたることをも知たまふ
 22 われらは終日なんぢのために死に
 わたされ屠られんとする羊の如くせ
 られたり 23 主よさめたまへ何なれ
 ばねぶりたまふや起たまへわれら
 をとこしへに棄たまふなわれ 24 いか

なれば聖顔をかくしてわれらがうくる
苦難と虐待とをわすれたまふや 2
5 われらのたましひはかがみて塵に
ふし われらの腹は土につきたり 26
ねがはくは慈てわれらをたすけたま
へなんぢの仁慈のゆゑをもてわれら
を贖ひたまへ

Psalm 45

1
わが心はうるはしき事にてあふるわ
れは王のために詠たるものをいひい
でんわが舌はすみやけく寫字人の筆
なり 2 なんぢは人の子輩にまさりて
美しく文雅そのくちびるにそそがる
このゆゑに神はとこしへに汝をさい
はひしたまへり 3 英雄よなんぢその
劍その榮その威をこしに佩べし 4 な
んぢ眞理と柔和とただしきとのため
に威をたくましくし勝をえて乗す
めなんぢの右手なんぢに畏るべきこ
とをしへん 5 なんぢの矢は鋭して
王のあたる胸をつらぬきもろもろの
民はなんぢの下にたふる 6 神よなん
ぢの寶座はいやとほ永くなんぢの國
のつゑは公平のつゑなり 7
なんぢは義をいつくしみ惡をにくむ
このゆゑに神なんぢの神はよるこび
の膏をなんぢの侶よりまさりて汝に
そそぎたまへり 8 なんぢの衣はみな
没薬蘆薈肉桂のかがりあり琴瑟の音
ざうげの諸歌ありいでて汝をよるこ
ばしめたり 9 なんぢがたふとき婦の
なかにはもろもろの王のむすめあり
皇后はオフルの金をかざりてなんぢ
の右にたつ 10 女よきけ目をそそげ
なんぢの耳をかたづけよなんぢの民
となんぢが父の家とをわすれよ 11
さらば王はなんぢの美麗をしたはん
王はなんぢの主なりこれを伏拝め 1
2 ツ口の女は贈物をもてきたり民間
のとめるものも亦なんぢの恵をこひ
もとめん 13 王のむすめは殿のうち
にていと榮えかがやき
そのころもは金をもて織なせり 14
かれは緞繡せる衣をきて王のもとに
いざなはる之にともなへる處女もそ
のあとにしたがひて汝のもとにみち
びかれゆかん 15 かれらは歡喜と快
樂をもていざなはれ斯して王の殿
にいらん 16
なんぢのすらは列祖にかはりてたち
なんぢはこれを全地に君となさん 1
7 我なんぢの名をよるづ代にしらし
めんこの故にもろもろの民はいやと
ほ永くなんぢに感謝すべし

Psalm 46

1 神はわれらの避所また力なり
なやめるとき最ちかき助なり 2 さ
ればたとひ地はかはり山はうみの中
央にうつるとも我儕はおそれじ 3 よ
しその水はなりとどろきてさわぐと
もその溢れきたるによりて山はゆる
ぐとも何かあらん セラ 4 河ありそ
のながれは神のみやこをよるこばし
め至上者のすみたまふ聖所をよるこ
ばしむ 5
神そのなかにいませば都はうごかじ
神は朝つとにこれを助けたまはん 6
もろもろの民はさわぎたち

もろもろの國はうごきたり神その聲
をいだしたまへば地はやがてとけぬ
7 萬軍のヱホバはわれらとともなり
ヤコブの神はわれらのたかき櫓なり
セラ 8 きたりてヱホバの事跡をみよ
ヱホバはおほくの懼るべきことを地
になしたまへり 9 ヱホバは地のはて
までも戰鬪をやめしめ弓をり戈を
たち戰車を火にてやきたまふ 10
汝等しづまりて我の神たるをしれわ
れはもろもろの國のうちに崇められ
全地にあがめらるべし 11
萬軍のヱホバはわれらと偕なり ヤ
コブの神はわれらの高さやぐらなり
セラ

Psalm 47

1 もろもろのたみよ手をうち歡
喜のこゑをあげ神にむかひてさけよ
2 いとたかきヱホバはおそるべくま
た地をあまねく治しめす大なる王に
てましませばなり 3 ヱホバはもろも
ろの民をわれらに服はせもろもろの
國をわれらの足下にまつるはせたま
ふ 4 又そのいつくしみたまふヤコブ
が誓とする嗣業をわれらのために選
びたまはん セラ 5 神はよるこびさ
けぶ聲とともにのぼりヱホバはラッ
パの聲とともにのぼりたまへり 6
ほめうたへ神をほめうたへ
頌歌へわれらの王をほめうたへ 7
かみは地にあまねく王なればなり
教訓のうたをうたひてほめよ 8 神は
もろもろの國をすべをさめたまふ神
はそのきよき寶座にすわりたまふ 9
もろもろのたみの諸侯はつどひきた
りてアブラハムの神の民となれり地
のもろもろの盾は神のものなり神は
いとたふとし

Psalm 48

1 ヱホバは大なりわれらの神の
都そのきよき山のうへにて甚くほめ
たたへられたまふべし 2 シオンの山
はきたの端たかくしてうるはしく喜
悦を地にあまねくあたふ
ここは大なる王のみやこなり 3 そ
のもろもろの殿のうちに神はおのれを
たかき櫓としてあらはしたまへり 4
みよ王等はつどひあつまりて偕にす
ぎゆきぬ 5 かれらは都をみてあやし
み且おそれて忽ちのがれり 6
戰慄はかれらにのぞみその苦痛は子
をうまんとする婦のごとし 7 なんぢ
は東風をおこしてタルシシの舟をや
ぶりたまふ 8 曩にわれらが聞しごと
く今われらは萬軍のヱホバの都われ
らの神のみやこにて之をみることを
えたり神はこの都をとこしへまで固
くしたまはん セラ 9 神よ我らはな
んぢの宮のうちに仁慈をおもへり
10 神よなんぢの譽はその名のごとく
地の極にまでおよべりなんぢの右手
はただしきにて充り 11 なんぢのも
ろもろの審判によりてシオンの山は
よるこびユダの女輩はたのしむべし
12 シオンの周圍をありき徧くめぐり
てその櫓をかぞへよ 13
その石垣に目をとめよ
そのもろもろの殿をみよなんぢらこ
れを後代にかたりつたへんが爲なり

14 ぞはこの神はいや遠長にわれらの
神にましましてわれらを生るまでみ
ちびきたまはん

Psalm 49

1 もろもろの民よきけ賤きも貴
きも富るも貧きもすべて地にすめる
者よ
なんぢらともに耳をそばだてよ 3
わが口はかしこきことをかたり
わが心はさときことを思はん 4 われ
耳を諭言にかたづけ琴をならしてわ
が幽玄なる語をときあらはさん 5 わ
が踵にちかがる不義のわれを打圍む
わざはひの日もいかで懼ることあら
んや 6 おのが富をたのみ財おほき
を誇るもの 7 たれ一人おのが兄弟を
あがなふことあたはず之がために贖
價を神にささげ 8 之をとこしへに生
存へしめて朽ざらむることあたはず
(靈魂をあがなふには費いとおほ
くして此事をとこしへに捨置ざるを
得ざればなり) 10
そは智きものも死おろかもも獸心
者もひとしくほろびてその富を他人
にのこすことは常にみるところなり
11 かれら竊におもふ わが家はとこ
しへに存りわがすまひは世々にいた
らんとかれらはその地におのが名を
おはせたり 12 されど人は譽のなか
に永くとどまらず亡びうする獸のご
とし 13
斯のごときは愚かなるもの途なり
然はあれど後人はその言をよしとせ
ん セラ 14 かれらは羊のむれのごと
くに陰府のものと定めらる死これが
牧者とならん直きもの朝にかれら
ををさめんその美容は陰府にほろぼ
されて宿るところなかるべし 15 され
ど神われを接たまふべければわが靈
魂をあがなひて陰府のちからより脱
かれしめたまはん セラ 16 人のとみ
てその家のさかえくははらんととき
汝おそるなかれ 17 かれの死るとき
は何一つたづさへゆくことあたはず
その榮はこれにしたがひて下ること
をせざればなり 18 かかる人はいき
ながらふるほどに己がたましひを祝
すともみづから厚うするがゆゑ
に人々なんぢをほむるとも 19
なんぢ列祖の世にゆかん
かれらはたえて光をみざるべし 20
尊貴なかにありて暁らざる人はほろ
びうする獸のごとし

Psalm 50

1 げんのうの神ヱホバ詔命して
日のいづるところより日のいるとこ
ろまであまねく地をよびたまへり 2
かみは美麗の極なるシオンより光を
はなちたまへり 3 われらの神はきた
りて黙したまはじ火その前にものを
やきつし暴風その四周にふきあれ
ん 4 神はその民をさばかんとて上
なる天および地をよびたまへり 5 い
はく祭物をもて我とけいやくをたてし
わが聖徒をわがもとに集めよと 6
もろもろの天は神の義をあらはせり
神はみづから審土ればなり セラ 7
わが民よきけ我ものいはんイスラ
エルよきけ我なんぢにむかひて證をな

さん われは神なんぢの神なり 8 わ
がなんぢを責るは祭物のゆゑにあら
ずなんぢの燔祭はつねにわが前にあ
り 9
我はなんぢの家より牡牛をとらず
なんぢの牢より牡山羊をとらず 10
林のもろもろのけもの山のうへの千
々の牲畜はみなわが有なり 11
われは山のすべての鳥をしる野のた
けき獸はみなわがものなり 12 世界
とそのなかに充るものとはわが有な
れば縦ひわれ饑るともなんぢに告じ
13 われいかで牡牛の肉をくらひ牡山
羊の血をのまんや 14
感謝のそなへもを神にささげよな
んぢのちかひを至上者につくのへ 1
5 なやみの日にわれをよべ我なんぢ
を援けん而してなんぢ我をあがむべ
し 16
然はあれど神あしきものに言給く
なんぢは教をにくみわが言をその後
にすつるものなるに何のかかはりあ
りてわが律法をのべ
わがけいやくを口にとりしや 18 な
んぢ盜人をみれば之をよしとし姦淫
をおこなふもの伴侶となれり 19
なんぢその口を惡にわたす
なんぢの舌は詭計をくみなせり 20
なんぢ坐りて兄弟をそしり己がは
の子を誣ののしれり 21 汝これらの
事をなししをわれ黙しぬればなんぢ
我をおのれに恰にたるものとおもへ
りされど我なんぢを責めてその罪を
なんぢの目前につらぬべし 22 神を
わするものよ今このことを念へお
そらくは我なんぢを捕さかんとさ助
るものあらじ 23 感謝のそなへもの
を獻るものは我をあがむおのれの行
爲をつつしむ者にはわれ神の救をあら
はさん

Psalm 51

1 ああ神よねがはくはなんぢの
仁慈によりて我をあはれみなんぢの
憐憫のおほきによりてわがもろも
ろの愆をけしたまへ 2 わが不義をこ
ごとくあらひさり我をわが罪よりき
よめたまへ 3 われはわが愆を
わが罪はつねにわが前にあり 4 我は
なんぢにむかひて獨なんぢに罪をを
かし聖前にあしきことを行へり
されば汝ものいふときは義とせられ
なんぢ鞠くときは咎めなしとせられ
給ふ 5 視よわれ邪曲のなかにうまれ
罪ありてわが母われをはらみたりき
6 なんぢ眞實をこころの衷にまで
ぞみわが隠れたるところに智慧をし
らしめ給はん 7 なんぢヒソブをもて
我をきよめたまへ
さらばわれ浄まらん
我をあらひたまへ
さらばわれ雪より白からん 8 なん
ぢ我によるこびと快樂とをきかせな
んぢが碎きし骨をよるこばせたまへ
9 ねがはくは聖顔をわがすべての罪
よりそむけ
わがすべての不義をけしたまへ 10
ああ神よわがために清心をつくりわ
が衷になほき靈をあらたにおこした
まへ 11
われを聖前より棄たまふなかれ汝の
きよき靈をわれより取りたまふな

れ 12 なんぢの救のよるこびを我にかへし自由の霊をあたへて我をたもちたまへ 13 さらばわれ窓ををかせる者になんぢの途ををしへん罪人はなんぢに歸りきたるべし 14 神よわが救のかみよ血をながし罪より我をたすけいだしたまへわが舌は聳たからかになんぢの義をうたはん 15 主よわが口唇をひらきたまへ然ばわが口なんぢの頌美をあらはさん 16 なんぢは祭物をこのみたまはずもし然らずば我これをささげんなんぢまた燔祭をも悦びたまはず 17 神のもとめたまふ祭物はくだけたる靈魂なり神よなんぢは砕けたる悔しころを藐しめたまふまじ 18 ねがはくは聖意にしたがひてシオンにさいはひしエルサレムの石垣をきづきたまへ 19 その時なんぢ義のそなへものと燔祭と全きはんさいとを悦びたまはんかくて人々なんぢの祭壇に牡牛をささぐべし

Psalm 52

1 猛者よなんぢ何なればあしき企圖をもて自らほこるや神のあはれみは恒にたえざるなり 2 なんぢの舌はあしきことをはかり利き剃刀のごとくいつはりをおこなふ 3 なんぢは善よりも惡をこのみ正義をいふよりも虚偽をいふをこのむ セラ 4 たばかりの舌よなんぢはすべての物をくひほろぼす言をこのむ 5 されば神とこしへまでも汝をくだきまた汝をとらへてその幕屋よりぬきいだし生るもの地よりなんぢの根をたやしたまはん セラ 6 義者これをみておそれ彼をわらひていはん 7 神をおのが力となさずその富のゆたかなるをたのみその惡をもて己をかたくせんとする人を見よと 8 然はあれどわれは神の家にあるあをき橄欖の樹のごとし我はいやとほながに神のあはれみに依頼まん 9 なんぢこの事をおこなひ給ひしによりて我とこしへになんぢに感謝しなんぢの聖徒のまへにて聖名をまちのぞまん
こは宜しきことなればなり

Psalm 53

1 愚かなるものは心のうちに神なしといへりかれらは腐れたりかれらは憎むべき不義をおこなへり善をおこなふ者なし 2 神は天より人の子をのぞみて悟るものと神をたづぬる者とありやなしやを見たまひしに 3 みな退ぞきてことごとく汚れたり善をなすものなし一人だになし 4 不義をおこなふものは知覺なきかかれらは物くふごとくわが民をくらひまた神をよばふことをせざるなり 5 かれらは懼るべきことなきとき大におそれたり神はなんぢにむかひて營をつらぬるものの骨をちらしたまへばなり神かれらを棄たまひしによりて汝かれらを辱かめたり 6 願くはシオンよりイスラエルの救のいでんことを神その民のとはれたるを返したまふときヤコブはよるこびイスラエルは樂まん

Psalm 54

1 神よねがはくは汝の名によりて我をすくひなんぢの力をもて我をさばきたまへ 2 神よわが祈をききたまへわが口のごとに耳をかたふけたまへ 3 そは外人はわれにさからひて起りたち強暴人はわがたましひを索むるなりかれらは神をおのが前におかざりきセラ 4 みよ神はわれをたすくものなり主はわがたましひを保つものとともに在せり 5 主はわが仇にそのあしきことの報をなしたまはん願くはなんぢの眞實によりて彼等をほろぼしたまへ 6 我よるこびて祭物をなんぢに献じエホバよ我なんぢの名にむかひて感謝せん 7 此は宜しきことなればなり 7 そはエホバはすべての患難より我をすくひたまへりわが目はわが仇につきての願望をみたり

Psalm 55

1 神よねがはくは耳をわが祈にかたふけたまへわが懇求をさけて身をかくしたまふなけれ 2 われに聖意をとめ我にこたへたまへわれ歎息によりてやすからず悲みうめくなり 3 これ仇のこゑと惡きもの暴虐とのゆゑなり 4 そはかれら不義をわれに負せいきどほりて我におひせまるなり 4 わが心わがうちに憂ひいたみ死のもろもろの恐懼わがうへにおちたり 5 おそれと戰慄とわれにのぞみ甚だしき恐懼われをおほへり 6 われ云ねがはくは鴿のごとく羽翼のあらんことをさらば我とびざりて平安をえん 7 みよ我はるかにのがれさりて野にすまん セラ 8 われ速かにのがれて暴風と狂風とをはなれん 9 われ都のうちに強暴とあらそひとをみたり主よねがはくは彼等をほろぼしたまへ 10 かれらの舌をわかれしめたまへ 11 彼等はひるもよるも石垣のうへをあるきて邑をめぐる邑のうちには邪曲とあしき企圖とあり 12 また惡きこと邑のうちにありしへたげと欺詐とはその街衢をはなるることなし 12 われを誘れるものは仇たりしものにあらずもし然りしならば尚しのばれしなるべし我にむかひて己をたかくせし者はわれを恨たりしものにあらず若しかりしならば身をかくして彼をさけしなるべし 13 されどこれ汝なり われとおなじきものわが友われと親しきものなり 14 われら互にしたしき語らひをなした會衆のなかに在るともに神の家のほりたりき 15 死は忽然かれらにのぞみその生るままにて陰府にくだらんことをそは惡事その住處にありその中にあればなり 16 されど我はただ神をよばんエホバわれを救ひたまふべし 17 夕にあしたに晝にわれなげき且かなしむうめかん 18 エホバわが聲をききたまふべし

エホバは我をせむる戰闘よりわが靈魂をあがなひだして平安をえしめたまへりそはわれを攻るもの多かりければなり 19 太古よりいます者なる神はわが聲をききてかれらを惱めたまへしセラかれらには變ることなく神をおそれることなし 20 かの人はおのれと睦みをりしものに手をのべてその契約をけがしたり 21 その口はなめらかにして乳酥のごとくなれどもその心はたたかひなりその言はあぶらに勝りてやはらかなれどもぬきたる劍にことならず 22 なんぢの荷をエホバにゆだねよさらば汝をささへたまはんだしき人のうごかざることを常にゆるしたまふまじ 23 かくて神よなんぢはかれらを亡の坑におとしられたまはん血をながすものと詭計おほきものと生ておのが日の半にもいたらざるべし 然はあれどわれは汝によりたのまん

Psalm 56

1 ああ神よねがはくは我をあはれみたまへ人いきまきて我をのまんとし終日たたかひて我をしへたぐ 2 わが仇いねもす急喘てわれをのまんとなす誇りたかぶりて我とたたかふものおほし 3 われおそれるときは汝によりたのまん 4 われ神によりてその聖言をほめまつらんわが神に依頼みたればおそれることあらじ肉體われになにをなし得んや 5 かれらは終日わがことばを曲るなりその思念はことごとくわれにわざはひをなす 6 かれらは群つどひて身をひそめわが歩に目をとめてわが靈魂をうかがひもとむ 7 かれらは不義をもてのがれんとおもへり神よねがはくは憤ほりてもろもろの民をたふしたまへ 8 汝わがあまた土の流離をかぞへたまへりなんぢの革囊にわが涙をたくはへたまへは皆なんぢの冊にしろしあるにあらずや 9 わがよびもとむ日にはわが仇しりぞかんわが神のわれを守りたまふことを知る 10 われ神によりてその聖言をはめまつらん我エホバによりてそのみことばを讀まつらん 11 われ神によりたのみたれば懼ることあらじ 12 神よわがなんぢにたてし誓はわれをまへりわれ感謝のささげものを汝にささげん 13 汝わがたましひを死よりすくひたまへばなりなんぢ我をたふさじとわが足をまもり生命の光のうちにて神のまへに我をあゆませ給ひしにあらずや

Psalm 57

1 我をあはれみたまへ神よわれをあはれみたまへわが靈魂はなんぢを避所とすわれ禍害のすぎさるまではなんぢの翼のかけを避所とせん 2 我はいとたかき神によばはんわがために百事をなしをへたまふ神によばはん 3 神はたすけを天よりおくりて我をのまんとする者のそしるるときに我を救ひたまはんセラ神はその憐憫

その眞實をおくりたまはん 4 わがたましひは群る獅のなかにあり 5 火のごともゆる者その齒は戈のごとく矢のごとくその舌はとき劍のごとき人の子のなかに我ふしぬ 6 神よねがはくはみづからを天よりも高くしみさかえを全地のうへに擧たまへ 6 かれらはわが足をとらへんとて網をまうくわが靈魂はうなたるかれらはわがまへに阱をほりたり而してみづからその中におちいれり セラ 7 わが心さだまれり神よわがこころ定まれり われ謳ひまつらん頌まつらん 8 わが榮よさめよ 箏よ琴よさめよ われ黎明をよびさまさん 9 主よわれもろもろの民のなかにてなんぢに感謝しもろもろの國のなかにて汝をほめうたはん 10 そは汝のあはれみは大にして天にまでいたり 11 なんぢの眞實は雲にまでいたる 12 神よねがはくは自からを天よりも高くし光榮をあまねく地のうへに擧たまへ

Psalm 58

1 なんぢら黙しみて義をのべうか人の子よなんぢらなほき審判をおこなふや 2 否なんぢらは心のうちに惡事をおこなひその手の強暴をこの地にはかりいだすなり 3 あしきものは胎をはなるるより背きとほざかり生れいづるより迷ひていつはりをいふ 4 かれらの毒は蛇のどくのごとしかれらは靈術をおこなふもの甚たくみにまじなふその聲をだにきかざる耳ふさぐ蠶ひの蝮のごとし 6 神よかれらの口の齒ををりたまへエホバよ壯獅の牙をぬきききたまへ 7 願くはかれらを流れゆく水のごとくに消失しめその矢をはなつときは折れたるごとくなくし蝸はんことを 8 また融てきえゆへ 蝸はんのごとく婦のときならず産たる目をみぬ嬰のごとくならしめ給へ 9 なんぢらの釜いまだ荊棘の火をうけざるさきに青をも燃たるをもともに狂風にて吹さりたまはん 10 義者はかれらが讎かへさるるを見てよるこびその足をあしきもの血のなかにてあらはん 11 かくて人はいふべし實にただしきものに報賞あり實にさばきをほどきたまふ神はましますなりと

Psalm 59

1 わが神よねがはくは我をわが仇よりたすけいだしわれを高處におきて我にさからひ起立つものより脱かれしめたまへ 2 邪曲をおこなふものより我をたすけいだし血をながす人より我をすくひたまへ 3 視よかれらは潜みかくれてわが靈魂をうかがひ猛者むれつどひて我をせむ エホバよ此はわれに懲あるにあらずわれに罪あるにあらず 4 かれら趨りまはりて過失なきに我をそこなはんとて備をなすねがはくは我をたすくために目をさまして見たまへ 5 なんぢエホバ萬軍の神イスラエルの神よねがはくは目をさましてもろもろ

の國にのぞみたまへあしき罪人にあはれみを加へたまふなかれ セラ 6
 かれらは夕にかへりきたり犬のごとくほえて邑をへありく 7
 視よかれらは口より悪をはくそのくちびるに劍ありかれらおもへらく誰ありてこの言をきかんやと 8
 されどエホバよ汝はかれらをわらひもろもろの國をあざわらひたまはん 9
 わが力よわれ汝をまちのぞまん神はわがたかき櫓なり 10 憐憫をたまふ神はわれを迎へたまはん神はわが仇につきての願望をわれに見せたまはん 11
 願くはかれらを殺したまふなかれわが民つひに忘れやはせん 主われらの盾よ
 大能をもてかれらを散し また卑したまへ 12 かれらがくちびるの言はその口のつみなりかれらは詛と虚偽をいひいづるによりてその傲慢のためにとらへられしめたまへ 13
 忿恚をもてかれらをほろぼしたまへ再びながらふることなきまでに彼等をほろぼしたまへヤコブのなかに神いまして統治めたまふことをかれらに知しめて地の極にまでおよぼしたまへ セラ 14 かれらは夕にかへりきたり犬のごとくほえて邑をへありくべし 15
 かれらはゆききして食物をあさりもし飽ことなくば終夜とどまれり 16
 されど我はなんぢの大能をうたひ清晨にこゑをあげてなんぢの憐憫をうたひまつらんなんぢわが迫りくるしみたる日にたかき櫓となりわが避所となりたまひたればなり 17 わがちからよ我なんぢにむかひて頌辭をうたひまつらん神はわがたかき櫓われにあはれみをたまふ神なればなり

Psalm 60

1 神よなんぢわれらを棄われらをちらし給へり
 なんぢは憤ほりたまへりねがはくは再びわれらを歸したまへ 2 なんぢ國をふるはせてこれを裂たまへりねがはくはその多くの隙をおぎなひたまへ その國ゆりうごくなり 3 なんぢはその民にたへがたきことをしめし人をよめかする酒をわれらに飲しめ給へり 4 なんぢ眞理のために擧しめんとて汝をおそるもの一つの旗をあたへたまへり セラ 5 ねがはくは右の手をもて救をほどこしわれらに答をなして愛しみたまふものに助をえしめたまへ 6
 神はその聖をもていひたまへりわれ甚くよるこばんわれシケムをわかしスコテの谷をはからん 7
 ギレアデはわがもの マナセはわが有なり エフライムも亦わが首のまもりなり ユダはわが杖 8
 モアブはわが足踏なり エドムにはわが履をなげんペリシテよわが故によりて聲をあげよと 9 たれかわれを堅固なる邑にすすめんや誰かわれをみちびきてエドムにゆきたるか 10 神よなんぢはわれらを棄たまひしにあらざるや神よなんぢ

はわれらの軍とともにいでゆきたまはず 11 ねがはくは助をわれにあたへて敵にむかはしめたまへ
 人のたすけは空しければなり 12 われらは神によりて勇しくはたらかんわれらの敵をみたまふものは神なればなり

Psalm 61

1 ああ神よねがはくはわが哭聲をききたまへ
 わが祈にみこころをとめたまへ 2 わが心くづぶるとき地のはてより汝をよばんなんぢ我をみちびきてわが及びがたきほどの高き巒にのぼらせたまへ 3 なんぢはわが避所われを仇よりのがれしむる堅固なる櫓なればなり 4 われ永遠になんぢの帷幄にすまはん我なんぢの翼の下にのがれん セラ 5 神よなんぢはわがもろもろの誓をきき名をおそるものにたまふ嗣業をわれにあたへたまへり 6
 なんぢは王の生命をのばしその年を幾代にもいたらせたまはん 7 王はとこしへに神のみまへにとどまらんねがはくは仁慈と眞實とをそなへて彼をまもりたまへ 8 さらば我とこしへに名をほめうたひて日ごとくわがもろもろの誓をつくのひ果さん

Psalm 62

1
 わがたましひは黙してただ神をまつわがすくひは神よりいづるなり 2
 神こそわが磐わがすくひなれまたわが高き櫓にしあれば我いたくは動かされじ 3 なんぢらは何のときまで人におしせまるやなんぢら相共にかたぶける石垣のごとく揺ぎうごける籬のごとくに人をたふさんとするか 4
 かれらは人をたふとき位よりおとさんとのみ謀りいつはりをよるこび またその口にてはいはひその心にてはのろふ セラ 5
 わがたましひよ黙してただ神をまつそはわがのぞみは神よりいづ 6
 神こそわが磐わがすくひなれ又わがたかき櫓にしあれば我はうごかされじ 7 わが救とわが榮とは神にありわがちからの磐わがさけどころは神にあり 8
 民よいかなる時にも神によりたのめその前になんぢらの心をそそぎいだせ 神はわれらの避所なり セラ 9 實にひくき人はむなくたかき人はいつはりなりすべてかれらを權衡におかば上にあがりて虚しきものよりも軽きなり 10
 暴虐をもて恃とするなかれ 掠奪ふをもてほこるなかれ富のましくははる時はこれに心をかくるなかれ 11 ちからは神にあり神ひとたび之をのたまへり
 われ二次これをきけり 12
 ああ主よあはれみも亦なんぢにありなんぢは人おのおのの作にしたがひて報をなしたまへばなり

Psalm 63

1 ああ神よなんぢはわが神なりわれ切になんぢをたづねもとむ水なき燥きおとろへたる地にあるごとくわが靈魂はかわきて汝をのぞみわが肉體はなんぢを戀したふ 2 曩にも我かくのごとく大權と榮光とをみんことをねがひ聖所において目をなんぢより離れしめざりき 3 なんぢの仁慈はいのちにも勝れるゆゑにわが口唇はなんぢを讃まつらん 4 斯われはわが生るあひだ汝をいはひ名によりてわが手をあげん 5 われ床にありて汝をおもひいで夜の更るまになんぢを深くおもはん時わがたましひは髓と脂とにて饗さるごとく飽ことをえわが口はよるこびの口唇をもてなんぢを讃たへん 7 そはなんぢわが助となりたまひたれば我なんぢの翼のかけに入てよるこびたのしまん 8 わがたましひはなんぢを慕追ふみぎの手はわれを支ふるなり 9 然どわがたましひを滅さんとて尋ねもとむるものは地のふかきところにゆき 10 又つるぎの刃にわたされ野犬の獲るところとなるべし 11
 しかれども王は神をよるこばん神によりて誓をたつるものはみな誇ることをえん虚偽をいふものの口はふさがるべければなり

Psalm 64

1 神よわがなげくときわが聲をききたまへわが生命をまもりて仇のおそれより脱かれしめたまへ 2 ねがはくは汝われをかくして悪をなすものの陰かなる謀略よりまぬかれしめ不義をおこなふものの喧嘩よりまぬかれしめ給へ 3
 かれらは劍のごとくおのが舌をときその弓をはり矢をつがへるごとく苦言をはなち 4 隠れたるところにて全者を射んとす俄かにこれを射ておそることなし 5 また彼此にあしき企圖を上げまし共にはかりてひそかに罾をまうく 6
 斯ていふ誰かわれらを見んと 6 かれらはさまざまの不義をたづねいだして云われらは懇ろにたづね終れりとおのおのの衷のおもひと心とはふかし 7 然はあれど神は矢にてかれらを射たまふべし
 かれらは俄かに傷をうけん 8 斯てかれらの舌は其身にさからふがゆゑに遂にかれらは躓かん
 これを見るものはみな逃れさるべし 9
 もろもろの人はおそれん而して神のみわざをのべつたへ
 その作たまへることを考ふべし 10
 義者はエホバをよるこびて之によりたのまんすべて心のなほきものは皆ほこることを得ん

Psalm 65

1 ああ神よさんびはシオンにて汝をまつ
 人はみまへにて誓をはたさん 2 祈をききたまふものよ諸人こそぞりて汝にきたらん 3 不義のことは我にかてり

なんぢ我儕のもろもろの怨をきよめたまはん 4 汝にえらばれ汝にちかづけられて大庭にすまふ者はさいはいなりわれらはなんぢの家なんぢの宮のきよき處のめぐみにて飽ことをえん 5 われらが救のかみよ 地と海のものもろもろの極なるきはめて遠ものの特とするなんぢは公義によりて畏るべきことをもて我儕にこたへたまはん 6 かみは大能をおび その權力によりてもろもろの山をかたくたたしめ 7 海のひびき狂瀾のひびきもろもろの民のかしがましきを鎮めたまへり 8 されば極遠にすめる人々もなんぢのくさぐさの豫兆をみておそるなんぢ朝夕のいづる處をよるこび 謳はしめたまふ 9 なんぢ地にのぞみて澆そきおほいに之をゆたかにしたまへり神のかはに水みちりなんぢ如此そなへをなして穀物をかれらにあたへたまへり 10 なんぢ吠をおほいにうるほし敵をたひらにし白雨にてこれをやはらかにし 11
 その萌芽を祝し 11 また恩恵をもて年の鬘弁としまへり
 なんぢの途には膏したたれり 12 その恩滴は野の牧場をうるほし小山はみな喜びにかこまる 13 牧場はみな羊のむれを衣もろもろの谷は穀物におほはれたりかれらは皆よるこびてよばはりたまふ謳

Psalm 66

1
 全地よ神にむかひて喜びよばはれ 2
 その名の榮光をうたへその頌美をさかえしめよ 3 かみに告まつれ 汝のもろもろの功用はおそるべきかななる力によりてなんぢの仇はなんぢに畏れしたがひ 4 全地はなんぢを拜みてうたひ名をほめうたはんと
 セラ 5 來りて神のみわざをみよ 人の子輩にむかひて作たまふことはおそるべきかな 6 神はうみをかへて乾ける地となしたまへり
 ひとびと歩行にて河をわたりきその處にてわれらは神をよるこべり 7 神はその大能をもてとこしへに統治めその目は諸國をみたまふ
 そむく者みづから崇むべからず
 セラ 8 もろもろの民よ われらの神をほめまつれ神をほめたたふる聲をきこえしめよ 9
 神はわれらの靈魂をながらしめわれらの足のうごかざることをゆるしたまはず 10 神よなんぢはわれらを試みて白銀をねることくにわれらを鍊たまひたればなり 11
 汝われらを網にひきいれわれらの腰におもき荷をおき 12 人々をわれらの首のうへに騎こえしめたまひきわれらは火のなか水のをなすすぎゆけりされど汝の中よりわれらをひきいたし豊盛なる處にいたらしめたまへり 13
 われ燔祭をもてなんぢの家にゆかん迫りくるしむらとくにわが口唇のいひいでわが口のべし誓をなんぢに償はん 15 われ肥たるものを燔祭とし牡羊を馨香として汝にささげ牡牛と牡山羊とをそなへまつらん
 セラ 16 神をおそる人よ

みな來りてきけわれ神のわがたましひのために作たまへることをのべん
17 われわが口をもて神によばはりまた舌をもてあがむ 18 然るにわが心にしるる不義あらば主はわれにきたたまふまじ 19 さてれどもことに神はきたたまへり聖意をわがいのりの聲にとめたまへり 20 神はほむべきかなわが祈をしりぞげずその憐憫をわれよりとりのぞきたまはざりき

Psalm 67

1 ねがはくは神われらをあはれみわれらをさきはひてその聖顔をわれらのうへに照したまはんことを セラ 2 此はなんぢの途のあまねく地にしらねなんぢの救のもろもろの國のうち知れんがためなり 3 かみよ庶民はなんぢに感謝しもろもろの民はみな汝をほめたたへん 4 もろもろの國はたのしみ又よろこびうたふべしなんぢ直をもて庶民をさばき地のうへなる萬の國ををさめたまふべければなり セラ 5 神よたまはなんぢに感謝しもろもろの民はみな汝をほめたたへん 6 地は産物をいだせり 神わが神はわれらを福ひたまはん 7 神われらをさきはひたまふべしかくて地のもろもろの極ことごとく神をおそれん

Psalm 68

1 ねがはくは神おきたまへその仇はことごとくちり神をにくむものは前よりにげさんことを 2 烟のおひやらるごとくかれらを驅逐たまへ怒きものは火のまへに蟻のとくごとく 神のみまへにてほろぶべし 3 されど義きものには歡喜ありかれら神の前にてよろこびをどらん實にたのしみて喜ばん 4 神のみまへにうたへその名をほめたたへよ乗て野をすぐる者のために大道をきづけかれの名をヤハとよぶ その前によろこびをどれ 5 きよき住居にまします神はみなしごの父やもめの審しなり 6 神はよるべなきものを家族の中にをらしめ囚人をとき福祉にみちびきたまふされど悖逆者はうるほひなき地にすめり 7 神よなんぢは民にさきだちいでて野をすきみゆきたまひき セラ 8 そのとき地ふるひ天かみのみまへに漏るシナイの山すら神イスラエルの神の前にふるひうごけり 9 神よなんぢの嗣業の地のつかれおとろへたるとき豊かなる雨をふらせて之をかたくしたまへり 10 曠になんぢの公會はその中にとどまれり神よなんぢは恵をもて貧きものために預備をなしたまひき 11 主みことばを賜ふその佳音をのぶる婦女はおほくして群をなせり 12 もろもろの軍旅の王たちはげさる逃去りたれば家はなる婦女はその掠物をわかす 13 なんぢら羊の牢のうちに入るときは鶴のつばさの白銀にお

ほはれその毛の黄金におほはるるがごとし 14 全能者かしくにて列王をちらし給へるときはサルモンの上に雪ふりたるがごとくなりき 15 パシヤンのやまは神の山なりパシヤンのやまは峰かさなれる山なり 16 峰かさなれるもろもろの山よなんぢら何なれば神の住所にえらびたまへる山をねたみ見るや然れエホバは永遠にこの山にすみたまはん 17 神の戦車はよろづに萬をかさね千にちぎくはふ主その中にいませり聖所にいますごとくシナイの山にいまししがごとし 18 なんぢ高處にのぼり虜者をとりこにしてひきみ禮物を人のなかよりも叛逆者のなかよりも受たまへりヤハの神ここに住たまはんが爲なり 19 日々にわれらの荷をおひたまふ主われらのすくひの神はほむべきかな セラ 20 神はしばしばわれらを助けたまへる神なり死よりのがれうは主エホバに由る 21 神はそこの仇のかうべを撃やぶりたまはん愆のなかにとどまるもの髪おほき顛頂をうちやぶりたまはん 22 主いへらく我パシヤンよりかれらを携へかへり海のかき所よりたづさへ歸らん 23 斯てなんぢの足をそのあたの血にひたし之をなんぢの犬の舌になめしめん 24 神よすべての人はなんぢの進行きたまふをみたりわが神わが王の聖所にすすみゆきたまふを見たり 25 幾うつ童女のなかにありて謳ふものは前にゆき琴ひくものは後にしたがへり 26 なんぢらすべての會にて神をほめよイスラエルのみなもとより出るなんぢらよ主をほめまつれ 27 彼處にかれらを統るとしわかきベニヤミンありユダの諸侯とその群衆とありまたゼブルンのみきたチナフタリの諸侯あり 28 なんぢの神はなんぢの力をたてたまへり神よなんぢ我儕のためになしたまひし事をかたくしたまへ 29 エルサレムなるなんぢの宮のために列王なんぢに禮物をささげん 30 ねがはくは羣間の獸むらされる牯犢のごときもろもろの民をいましてかれらに白銀をたづさへきたりみづから服ふことを爲したまへ神はたたかひを好むもろもろの民をちらしたまへり 31 諸侯はエジプトよりきたりエテオピアはあわただしく神にむかひて手をのべん 32 地のもろもろのくによ神のまへにうたへ主をほめうたへ セラ 33 上古よりの天の天にのりたま者にむかひてうたへみよ主はみこ糸を發したまふ勢力ある聲をいだしたまふ 34 なんぢらちからを神に歸せよその稜威はイスラエルの上にとどまり その大能は雲のなかにあり 35 神のおそるべき状はきよき所よりあらはるイスラエルの神はその民にちからと勢力とをあたへたまふ 神はほむべきかな

Psalm 69

1 神よねがはくは我をすくひたまへ大水ながれきたりて我がたましひにま

でおよべり 2 われ立止なきふかき泥の中にしづめりわれ深水におちいるおほみづわが上をあふれすぐ 3 われ歎息によりてつかれたりわが喉はかわきわが目はわが神をまちわびておとろへぬ 4 故なくしてわれをにくむ者わがかしらの髪よりもおほく謂なくしてわが仇となり我をほろぼさんとするものの勢力つよしわれ掠めざりしものをも償はせらる 5 神よなんぢはわが罪なるをしりたまふわがもろもろの罪はなんぢにたくれざるなり 6 萬軍のエホバ主よねがはくは汝をまちのぞむ者をわが故によりて辱かしめらることなからしめたまへイスラエルの神よねがはくはなんぢを求むる者をわが故によりて恥をおはしめらることなからしめたまへ 7 我はなんぢのために誘をおひ恥はわが面をおほひたればなり 8 われわが兄弟には旅人のごとくわが母の子には外人のごとくなれり 9 そはなんぢの家をおもふ熱心われをくらひ汝をそしめるもの誘われにおよべり 10 われ涙をながして食をたちわが靈魂をなげかすれば反てこれによりて誘をうく 11 われ塵布をころもとなししにかれらが諺語となりぬ 12 門にすわる者はわがうへをかたるわれは酔狂たるものに謳ひはやされたり 13 然はあれどエホバよわれは恵のときに汝にいのるねがはくは神よなんぢの憐憫のおほきによりて汝のすくひの眞實をもて我にこたへたまへ 14 ねがはくは泥のなかより我をたすけいだして沈ざらしめたまへ我をにくむものより深水よりたすけいだしたまへ 15 大水われを淹ふことなく淵われをのむことなく坑その口をわがうへに閉ることなからしめたまへ 16 エホバよねがはくは我にこたへたまへ なんぢの仁慈うるはしければなりなんぢの憐憫はおほしわれに歸りきたりたまへ 17 面をなんぢの僕にかくしたまふなかれわれ迫りくるしめりねがはくは速かに我にこたへたまへ 18 わがたましひに近くよりて之をあがなひわが仇のゆゑに我をすくひたまへ 19 汝はわがうくる謗とはざと侮辱とをしりたまへり わが敵はみな汝のみまへにあり 20 譏誨わが心をくだきぬれば我いたくわづらへりわれ憐憫をあたふる者をまちたれど一人だになく慰むるものを俟たれど一人をもみざりき 21 かれら苦草をわがくひものにあたへわが渴けるときに醋をのませたり 22 ねがはくは彼等のまへなる筵は網となりそのたのむ安逸はつひに罾となれ 23 その目をくらくして見しめずその腰をつねにふるはしめたまへ 24 願くはなんぢの忿怒をかれらのうへにそそぎ汝のいかりの猛烈をかれらに追及せたまへ 25 かれらの屋をむなくせよその幕屋に人をすまはするなかれ 26 かれらはなんぢが撃たまひたる者をせめなんぢが傷けたまひたるものの痛をかたりふるればなり 27 ねがはくはこれらの不義に不義をくはへてなんぢの義にあづからせ給ふなかれ 28 かれ

らを生命の冊よりけして義きものとともに記さることなからしめたまへ 29 斯てわれはくるしみ且うれひあり神よねがはくはなんぢの救われを高處におかんとを 30 われ歌をもて神の名をほめたたへ 感謝をもて神をあがめまつらん 31 此はをうしまたは角と蹄とある力つよき牡牛にまさりてエホバよろこびたまはん 32 謙遜者これを見てよろこべり神をしたふ者よなんぢらの心はいくべし 33 エホバは乏しきもの聲をききその俘囚をかるしめたまはざればなり 34 天地はエホバをほめ蒼海とその中にうごくらゆるものとはエホバを讃まつるべし 35 神はシオンをすくひユダのもろもろの邑を建たまふべければなりかれらは其處にすみ且これをおのが有とせん 36 その僕のすゑも亦これを嗣その名をいつくしむ者その中にすまん

Psalm 70

1 神よねがはくは我をすくひたまへエホバよ速きたりて我をたすけたまへ 2 わが靈魂をたづめるものの恥あわてんことをわが害はるるをよろこぶもの後にしりぞきて恥をおはんことを 3 ああ視よや視よやといひぞもののが恥によりて後にしりぞかんことを 4 すべて汝をたづねもむる者のなんぢによりて樂みよろこばんことをなんぢの救をしたふものつねに神は大なるかなとなへんことを 5 われは苦しむ且もし神よいそぎて我にきたりたまへ 汝はわが助われを救ふものなりエホバよねがはくは猶豫たまふなかれ

Psalm 71

1 エホバよ我なんぢに依頼むねがはくは何の日でも恥うることなからしめ給へ 2 なんぢの義をもて我をたすけ我をまぬかれしめたまへなんぢの耳をわれに傾けて我をすくひたまへ 3 ねがはくは汝わがすまひの磐となりたまへ われ恒にそのところに往ことを得んなんぢ我をすくはんとて勅命をいだしたまへり 4 わが神よあしきものの手より不義残忍なる人のためなり 我をまぬかれしめたまへ 5 主エホバよなんぢはわが望なりわが幼少よりの恃なり 6 われ胎をはなるより汝にまもられ母の腹にありしときより汝にめぐまれたり 我つねに汝をほめたたへん 7 我おほくの人にあやしまるるごとき者となれり然どなんぢはわが堅固なる避所なり 8 なんぢの頌辭となんぢの頌美とは終日わが口にみちん 9 わが年老ぬるとき我をすてたまふなかれわが力おとろふるとき我をはなれたまなかれ 10 わが仇はわがことを論ひわが靈魂をうかがふ者とはがひに譏ていひ 11 神かれを離れたり彼をた

する者なし
 かれを追てとらへよと 12
 神よわれに遠ざかりたまふなかれわ
 が神よとく来りて我をたすけたまへ
 13わがたましひの敵ははぢ且おとろ
 へ我をそこなはんとするものは謗と
 辱とおほはれよ 14 されど我はた
 えざ望をいだきていやますます汝を
 ほめたたへん 15 わが口はひねもす
 汝の義となんぢの救とをかたらん
 われその数をしらざればなり 16 わ
 れは主エホバの大能の事跡をたづさ
 へゆかんわれは只なんぢの義のみを
 かたらん 17 神よなんぢわれを幼少
 より教へたまへりわれ今にいたるま
 で汝のくすしき事跡をのべつたへり
 18 神よねがはくはわれ老て頭髪
 しろくなるとも我がなんぢの力を次
 代にのべつたへなんぢの大能を世に
 うまれいづる凡のものに宣傳ふるま
 で我をはなれ給ふなかれ 19
 神よなんぢの義もまた甚たかし
 なんぢは大なることをなしたまへり
 神よたれが汝にひとしき者あらんや
 20 汝われらを多のおも苦難にあは
 せたまへりなんぢ再びわれらを活し
 われらを地の深所よりあげたまはん
 21 ねがはくは我をいよいよ大ならし
 め歸りきたりて我をなぐさめ給へ 2
 2 わが神よさらばわれ箒をもて汝を
 ほめなんぢの眞實をほめたたへん
 イスラエルの聖者よわれ琴をもてなん
 ぢを讃うたはん 23 われ聖前にうた
 ときわが口唇よろこびなんぢの贖ひ
 たまへるわが靈魂おほいに喜ばん 2
 4 わが舌もまた終日なんぢの義をか
 たらんわれを害はんとするもの愧惶
 つればなり

Psalm 72

1 神よねがはくは汝のもろもろ
 の審判を王にあたへなんぢの義をわ
 うの子にあたへたまへ 2 かれは義を
 もてなんぢの民をさばき公平をもて
 苦しむものを鞫かん 3 義によりて山
 と岡とは民に平康をあたふべし 4 か
 れは民のくるしむ者のために審判を
 なし乏しきもの子輩をすくひ慮ぐ
 るものを壊きたまはん 5 かれらは日
 と月のあらんかぎり世々おしなべ
 て汝をおそるべし 6 かれは効とれる
 牧にふる雨のごとく地をうるほす白
 雨のごとくのぞまん 7 かれの世にた
 だしき者はさかえ平和は月のうする
 まで豊かならん 8 またその政治は海
 より海にいたり河より地のはてにお
 よぶべし 9
 野にをる者はそのまへに屈み
 そり仇は塵をなめん 10 タルシシお
 よび鳥々の王たちは眞ををさめシバ
 とセバの王たちは禮物をささげん 1
 1 もろもろの王はそのまへに俯伏し
 もろもろの國はかれにつかへん 12
 かれは乏しき者をその叫ぶときにす
 くひ 助けなき苦しむ者をたすけ 13
 弱きものと乏しき者とをあはれみ乏
 しきもの靈魂をすくひ 14 かれら
 のたましひを暴虐と強暴とよりあが
 なひたまふ
 その血はみまへに貴かるべし 15
 かれらは存ふべし人はシバの黄金を
 ささげてかれのために恒にいのり終

日かれをいははん 16 國のうち五穀
 ゆたかにしてその實はレバノンのご
 とく山のいただきにそよぎ邑の人々
 は地の草のごとく榮ゆべし 17
 かれの名はつねにたえずかれの名は
 日の久しきごとくに絶ることなし
 人はかれによりて福祉をえんもろ
 ろの國はかれをさいはひなる者とと
 なへん 18 ただイスラエルの神のみ
 奇しき事跡をなしたまへり
 神エホバはほむべきかな 19 その榮
 光の名はよよにほむべきかな全地は
 その榮光にて満べしアーメン
 アーメン 20
 エッサイの子ダビデの祈はをはりぬ

Psalm 73

1 神はイスラエルにむかひ心の
 きよきものに對ひてまことに恵あり
 2 然はあれどわれはわが足つまづ
 ばかりわが歩すべるばかりにてあり
 き 3 こはわれ惡きものの榮ゆるを見
 てその誇れる者をねたみしによる 4
 かれらは死るに苦しみなくそのちか
 らは反てかたし 5 かれらは人のご
 とく憂にをらず人のごとく患難にあふ
 ことなし 6 このゆゑに傲慢は妝飾の
 ごとくその頸をめぐり強暴はころも
 のごとく彼等をおほへり 7 かれら肥
 ふとりてその目とびいて心の欲にま
 さりて物をうるなり 8 また嘲笑をな
 し惡をもて暴虐のことばをいだし高
 ぶりてものいふ 9 その口を天におき
 その舌を地にあまねく往しむ 10 こ
 のゆゑにかれの民はここにかけり水
 のみちたる杯をしぼりいだして 11
 いへらく神いかで知たまはんや至上
 者に知識あらんやと 12 視よかれら
 は惡きものなるに常にやすらかにし
 てその富ましくははれり 13 誠に我
 はいたづらに心をきよめ罪ををかさ
 ずして手をあらひたり 14 そはわれ
 終日なやみにあひ朝ごとに責をうけ
 しなり 15 われもし斯ることを述ん
 といひしならば我なんぢが子輩の代
 をあやませしならん 16 われこれ
 らの道理をしらんとして思ひめぐら
 ししにわが眼いたく痛たり 17 われ
 神の聖所にゆきてかれらの結局をふ
 かく思へるまでは然りき 18 誠になん
 ぢはかれらを滑かなることなるにお
 きかれらを滅亡におとしいれ給ふ 1
 9 かれらは瞬間にやぶれたるかな彼
 等は恐怖をもてことごとく滅びたり
 20 主よなんぢ目をさましてかれらが
 像をかるしめたまはんときは夢みし
 人の目さめたるがごとし 21
 わが心はうれへ
 わが腎はさされたり 22 われおろか
 にして知覺なし聖前にありて獸にひ
 としかりき 23 されど我つねになん
 ぢとともにあり汝わが右手をたもち
 たまへり 24 なんぢその訓諭をもて
 我をみちびき後またわれをうけて榮
 光のうちに入たまはん 25 汝のほか
 に我たれをか天にもたんに地にはなん
 ぢの他にわが慕ふものなし 26
 わが身とわが心とはおとろふされど
 神はわがこころの磐わがとこしへの
 嗣業なり 27
 視よなんぢに遠きものは滅びん汝を
 はなれて姦淫をおこなふ者はみな

んぢ之をほろぼしたまひたり 28 神
 にちかづき奉るは我によきことなり
 われは主エホバを避所としてそのも
 ろもろの事跡をのべつたへん

Psalm 74

1 神よいかなれば汝われらをか
 ぎりなく棄たまひしや奈何ばなんぢ
 の草苑の羊にみかいかりの煙あがれ
 るや 2 ねがはくは往昔なんぢが買求
 めたまへる公會ゆづりの支派となさ
 んとて贖ひたまへるものを思ひいで
 たまへ又なんぢが住たまふシオン
 の山をおもひいで給へ 3 とこしへの滅
 亡の跡にみあしを向たまへ仇は聖所
 にもろもろの惡きわざをおこなへり
 4 なんぢの敵はなんぢの集のなか
 に吼たけびおのが旗をたてて詠とせり
 5 かれらは林のしげみにて斧をあ
 ぐる人の状にみゆ 6 いま鍔と鎚とを
 もて聖所のなかなる彫刻めるものを
 ことごとく毀ちおとせり 7 かれらは
 なんぢの聖所に火をかけ名の居所を
 けがして地におとしたり 8
 かれら心のうちにいふわれらことご
 とく之をこぼちあらさんとかくて國
 内なる神のもろもろの會堂をやきつ
 くせり 9 われらの誌はみえず預言者
 も今はなし
 斯ていくその時をかふべき
 われらのうちに知るものなし 10 神
 よ敵はいくその時をふるまでそしる
 や仇はなんぢの名をとこしへに汚す
 ならんか 11 いかねば汝その手み
 ぎの手をひきたまふやねがはくは手
 をふところよりいだしてかれらを滅
 したまへ 12
 神はいにしへよりわが王なりすくひ
 を世の中におこなひたまへり 13 な
 んぢその力をもて海をわかち水のな
 かなる龍の首をくだき 14 鱔のかう
 べをうちくだき野にすめる民にあた
 へて食となしたまへり 15 なんぢは
 泉と水流とをひらき又もろもろの大
 河を架したまへり 16 晝はなんぢ
 のもの夜も又汝のものなり
 なんぢは光と日とをそなへ 17 あま
 ねく地のもろもろの界をたて夏と冬
 とをつくりたまへり 18 エホバよ仇
 はなんぢをそしり愚かなる民はなん
 ぢの名をけがせり
 この事をおもひいでたまへ 19 願く
 はなんぢの鶴のたましひを野のあら
 き獸にわたしたまふなかれ苦しむ
 のに命をとこしへに忘れたまふなか
 れ 20 契約をかへりみたまへ地のく
 らきところは強暴の宅にて充たれば
 なり 21 ねがはくは虐げらるるもの
 を慚退かしめ給ふなかれ惱るものと
 苦しむものにと聖名をほめたたへし
 めたまへ 22 神よおきてなんぢの訟
 をあげつらひ愚かなるもの終日な
 んぢを誑れるをみこころに記たまへ
 23 なんぢの敵の聲をわすれたまふな
 かれ汝にさからひて起りたつ者のか
 しがましき聲はたえずあがれり

Psalm 75

1 神よわれら汝にかんしやすわ
 れら感謝すなんぢの名はちかく坐せ
 ばなりもろもろの人はなんぢの奇し

き事跡をかたりあへり 2 定りたる期
 いたらば我なほき審判をなさん 3 地
 とすべての之にすむものと消去しと
 き我そのもろもろの柱をたてたり
 セラ 4 われ誇れるものに誇りかにお
 こなふなかれといひ惡きものに角を
 あぐるなれといへり 5 なんぢらの
 角をたかく擧るなかれ頭をかたくし
 て高りいふなかれ 6 擧ることは東よ
 りにあらざり西よりにあらざり南よ
 りにもあらざるなり 7 ただ神のみ審
 判にましませば此をさげ彼をあげた
 まふ 8 エホバの手にさかづきありて
 酒あわだり
 その中にもまじりてみつ
 神これをそそぎいだせり誠にその滓
 は地のすべてのあしき者しぼりて飲
 むべし 9 されど我はヤコブの神をの
 べつたへん
 とこしへに讃うたはん 10 われ惡き
 ものすべての角をきりはなたん
 義きもの角はあげらるべし

Psalm 76

1 神はユダにいられたまへり
 その名はイスラエルに大なり 2
 またサレムの中にその幕屋あり
 その居所はシオンにあり 3 彼所にて
 かれは弓の火矢ををり盾と劍と戰陣
 とをやぶりたまひき セラ 4 なんぢ
 榮光あり掠めうばふ山よりもたふと
 し 5 心のつよきものは掠めらる
 かれらは睡にしみつ勇ましきものは皆
 その手を見うしなへり 6 ヤコブの神
 よなんぢの叱咤によりて戰車と馬と
 ともに深睡につけり 7
 神よなんぢこそ懼るべきものなれ一
 たび怒りたまふときは誰かみまへに
 立えんや 8
 なんぢ天より宣告をのりたまへり地
 のへりくだる者をみなすくはんとて
 神のさばきに立たまへるとき地は
 おそれて黙したり セラ 9
 實に人のいかりは汝をほむべし怒の
 あまりは汝おのれの帯としたまはん
 11 なんぢの神エホバにちかひをたて
 て償へそのまはりなるすべての者は
 おそるべきエホバに禮物をささぐべ
 し 12 エホバはもろもろの諸侯のた
 ましひを絶たまはんエホバは地の王
 たちのおそるべき者なり

Psalm 77

1
 我わがこゑをあげて神によばはんわ
 れ聲を神にあげなばその耳をわれに
 にかたぶけたまはん 2 わがなやみの日
 にわれ主をたづねまつれり夜わが手
 をのべてゆるむることなかりきわが
 たましひは慰めらるるをいなみたり
 3 われ神をおもひいでて打なやむわ
 れ思ひなげきてわが靈魂おとろへぬ
 セラ 4 なんぢはわが眼をささへて開
 がしめたまはず我はものいふこと能
 はぬほどに悩んだり 5 われむかしの
 日にしへの年をおもへり 6
 われ夜わが歌をむもひいづ我わが心
 にてふかくおもひわが靈魂はねもこ
 ろに尋ねもとむ 7
 主はとこしへに棄たまふや
 再びめぐみを垂たまはざるや 8

その憐憫はのこりなく永遠にさりその
 のちかひは世々ながく廢れたるや 9
 神は恩をほどこすことを忘れたまふ
 や
 怒をもてそのあはれみを絨たまふや
 セラ 10 斯るときに我いへらく此は
 ただわが弱きがゆゑのみいで至上者
 のみぎの手のもろもろの年をおもひ
 いでん 11
 われヤハの作爲をのべとなへんわれ
 往古よりありし汝がくすしきみわざ
 を思ひいたさん 12 また我なんぢの
 すべての作爲をおもひいで汝のなし
 たまへることを深くおもはん 13
 神よなんぢの途はいときよし
 神のごとく大なる神はたれぞや 14
 なんぢは奇きみわざをなしたまへる
 神なりもろもろの民のあひだにその
 大能をしめし 15 その臂をもてヤコ
 ブ、ヨセフの子輩なんぢの民をあが
 なひたまへり セラ 16
 かみよ大水なんぢを見たりおほみづ
 汝をみてをのき淵もまたふるへり
 17雲はみづをそそぎいだし空はひき
 きをいだし
 なんぢの矢ははしりいでたり 18 なん
 ぢの雷鳴のこゑは暴風のうちにあり
 き電光は世をてらし地はふるひう
 ごけり 19
 なんぢの大道は海のなかにあり
 なんぢの徑はおほみづの中にありな
 んぢの蹤跡はたづねがたかりき 20
 なんぢその民をモーセとアロンとの
 手によりて羊の群のごとくみちびき
 たまへり

Psalm 78

1わが民よわが教訓をきき、わ
 が口のことばになんぢらの耳をかた
 ぶけよ 2
 われ口をひらきて譬喩をまうけいに
 しへの玄幽なる語をかたりいでん 3
 是われらが曩にききしところ知しと
 ころ又われらが列祖のかたりつたへ
 し所なり 4 われら之をその子孫にか
 くさずエホバのもろもろの頌美と能
 力とそなしたまへる奇しき事跡と
 をきたらんとする世につげん 5 そは
 エホバ證詞をヤコブのうちにたてて律
 法をイスラエルのうちに定めてその
 子孫にしらすべきことをわれらの列
 祖におほせたまひたればなり 6 これ
 來らんとする代のちに生る子孫が
 これを知みづから起りてそのまた子
 孫につたへ 7 われらをして神により
 たのみ神のみわざを忘れずその誠命
 をまもらしめん爲なり 8 またその列
 祖のごとく頑固にしてそむくもの
 類となりそのこころ修まらずそのた
 ましひ神に忠ならざる類とならざら
 ん爲なり 9 エフライムのこらは武器
 とのへ弓をたづさへしに戦ひの日
 にうしろをそむけたり 10
 かれら神のちかひをまもらず
 そのおきてを履ことをいなみ 11 エ
 ホバのなしたまへることとかれらに
 示したまへる奇しき事跡とをわすれ
 たり 12 神はエジプトの國にてゾア
 ンの野にて妙なる事をかれらの列祖
 のまへになしたまへり 13 すなはち
 海をさきてかれらを過ぎしめ水をつ
 みて堆かくしたまへり 14 ひるは雲

をもてかれらのみちびき夜はよもす
 がら火の光をもてこれを導きたまへ
 り 15 神はあれのにて磐をさき大なる
 淵より汲がごとくにかれらに飲しめ
 16 また磐より流をひきて河のご
 とくに水をながれしめたまへり 17
 然るにかれら尚たえまなく罪ををか
 して神にさからひ荒野にて至上者に
 そむき 18 またおのが怒のために食
 をもとめてその心のうちに神をこ
 ろみたり 19 然のみならずかれらは
 神にさからひていへり神は荒野にて
 筵をまうけたまふを得んや 20 みよ
 神いはを撃たまへば水ほどばしりい
 で流あぶれたり糧をもあたへたまふ
 を得んや神はその民のために肉をそ
 なへたまはんやと 21 この故にエホ
 バこれを聞いていきどほりたまひき火
 はヤコブにむかひてもえあがり怒は
 イスラエルにむかひて立騰れり 22
 こはかれら神を信ぜずその救にたの
 まざりし故なり 23 されどなほ神は
 うへなる雲に命じて天の戸をひらき
 24 彼等のうへにマナをふらせて食は
 しめ天の穀物をあたへたまへり 25
 人みな勇士の糧をくらへり神はかれ
 らに食物をおくりて飽足らしめたま
 ふ 26 神は天に東風をふかせ大能も
 て南の風をみちびきたまへり 27 神
 はかれらのうへに塵のごとく肉をふ
 らし海砂の沙のごとく翼ある鳥をふ
 らせて 28 その營のなかその住所のま
 はりに落したまへり 29
 斯てかれらは食ひて飽たりぬ神はこ
 れにその欲みしものを與へたまへり
 30 かれらが未だその怒をはなれず食
 物のなほ口のうちにあるほどに 31
 神のいかり既にかれらに對ひてた
 ちのぼり彼等のうちに最もこえたる
 者をこらしイスラエルのわかき男を
 うちたふしたまへり 32 これらの事
 ありしかど彼等はなほ罪ををかし
 てその奇しきみわざを信ぜざりしかば
 33 神はかれらの日を空しくすぐさせ
 その年をおそれつ過ぎさせたまへり
 34 神はかれらを殺したまへる時かれら
 神をたづね歸りきたりて懇ろに神を
 もとめたり 35 かくて神はおのれの
 磐いとたかき神はおのれの贖主なる
 ことをおもひいでたり 36 然はあれ
 ど彼等はただその口をもて神にへつ
 らひその舌をもて神にいつはりをい
 ひたりしのみ 37 そはかれらのこ
 ころは神にむかひて堅からずその契約
 をまもるに忠信ならざりき 38 され
 ど神はあはれみに充たまへばかれら
 の不義をゆるして亡したまはず屢ば
 そのみいかりを轉してことごとくは
 忿恚をふりおこし給はざりき 39 又
 かがただ肉にして過去ばふたたび
 歸りこぬ風なるをおもひいで給へり
 40 かれらは野にて神にそむき荒野に
 て神をうれしめしこと幾次ぞや 4
 1 かれらかへすがへす神をこころみ
 イスラエルの聖者をはづかしめたり
 42 かれらは神の手をも敵より贖ひた
 まひし日をもおもひいでざりき 43
 神はそのもろもろの豫兆をエジプト
 にあらはしその奇しき事をゾアンの
 野にあらはし 44 かれらの河を血に
 かはらせてその流を飲あたはざらし
 め 45 また蠅の群をおくりてかれら
 をくはしめ蛙をおくりてかれらを亡
 させたまへり 46

神はかれらの田産を蠹賊にわたしか
 れらの勤勞を蝗にあたへたまへり 4
 7 神は雪をもてかれらの葡萄の樹を
 からし霜をもてかれらの桑の樹をか
 らし 48 その家畜をへうにわたしそ
 の群をもゆる閃電にわたし 49 か
 れらの上にはげしき怒といきどほりと
 怨恨となやみと禍害のつかひの群と
 をなげいだし給へり 50
 神はその怒をもらす道をまうけか
 れらのたましひを死よりまぬかれしめ
 ずそのいのちを疫病にわたし 51 エ
 ジプトにてすべての初子をうちハム
 の幕屋にてかれらの力の始をうちた
 まへり 52 されどおのれの民を羊の
 ごとくに引いだしかれらを曠野にて
 けだものの群のごとくにみちびき 5
 3 かれらをもともひておそれなく安
 けからしめ給へりされど海はかれら
 の仇をおほへり 54
 神はその聖所のさかひその右の手に
 て購たまへるこの山に彼らを携へた
 まへり 55 又かれらの前にてもろも
 ろの國人をおもひいだし準繩をもち
 んその地をわかちて嗣業となしイス
 ラエルの族をかれらの幕屋にすまは
 せたまへり 56 然はあれど彼等はい
 とたかき神をこころみにそむきて
 そのもろもろの證詞をまもらず 57
 叛きしりぞきてその列祖の如く眞實
 をうしなひてくるへる弓のごとくひ
 るがへりて逸ゆけり 58 高處をまうけ
 て神のいきどほりをひき刻める像に
 て神の嫉妬をおこしたり 59 神きき
 たまひて甚だしくいかり大にイスラ
 エルを憎みたまひしかば 60 人々の
 間におきたまひし幕屋なるシロのあ
 げばりを棄さり 61
 その力をとりことならしめ
 その榮光を敵の手にわたし 62
 その民を劍にあたへその嗣業にむか
 ひて甚だしく怒りたまへり 63
 火はかれらのわかき男をやきつくし
 かれらの處女はその婚姻の歌により
 て響らることなく 64
 かれらの祭司はつぎにて仆れかれ
 らの寡婦は喪のなげきだにせざりき
 65 斯るときに主はねぶりし者のさめ
 しごとく勇士の酒によりてさけぶが
 ごとく目さめたまひて 66
 その敵をうちしりぞけとこしへの辱
 をかれらに負せたまへり 67 またヨ
 セフの幕屋いのみエフライムの族
 をえらばず 68 ユダの族そのいつく
 しまたまふシオンの山をえらびたま
 へり 69 その聖所を山のごとく永遠
 にさだめたまへる地のごとくに立た
 まへり 70 またその僕ダビデをえら
 びて羊の牢のなかよりとり 71 乳を
 あたふる牝羊にしたがひゆく勤のう
 ちより携へたりてその民ヤコブそ
 の嗣業イスラエルを牧はせたまへり
 72 斯てダビデはそのこころの完全
 にしたがひてかれらを牧ひその手の
 たくみをもてをみちびけり

Psalm 79

1あお神よもろもろの異邦人は
 なんぢの嗣業の地ををかしなんぢの
 聖宮をけがしエルサレムをこぼちて
 礫堆となし 2 なんぢの僕のかばね
 をそらの鳥に與へて餌となしなんぢ

の聖徒の肉を地のけものにあたへ 3
 その血をエルサレムのめぐりに水の
 ごとく流したりされど之をうむる
 人なし 4 われらは隣人にそしられ四
 周のひとびとに侮られ嘲けらるも
 のとなれり 5
 エホバよ斯て幾何時をへたまふや
 汝とこしへに怒たまふやなんぢのね
 たみは火のごとく燃るか 6 願くはな
 んぢを誹ることなくにびと聖名をよ
 ばざるもろもろの國のうへに烈怒を
 そそぎたまへ 7 かれらはヤコブを吞
 むその住處をあらしたればなり 8 わ
 れらにむかひて先祖のよこしまなるわ
 ざを記念したまふなかれ願くはなん
 ぢの憐憫をもて速かにわれらを迎へ
 たまへわれらは販されて甚だしく卑
 くなりたればなり 9 われらのすくひ
 の神よ名のえいくわうのために我儕
 をたすけ名のためにわれらを救ひ
 われらの罪をのぞきたまへ 10
 いかなれば異邦人はいふ
 かれらの神はいづくにありやと願く
 はなんぢの僕等がながされし血の報
 をわれらの目前になして異邦人にし
 らしめたまへ 11 ねがはくは汝のみ
 まへにとらはれびとの嘆息のとどか
 んことをなんぢの大なる能力により
 死にさだめられし者をまもりて存へ
 しめたまへ 12 主よわれらの隣人の
 なんぢをそしるたむごを七倍まして
 その懐にむくいかけしたまへ 13 然
 ばわれらなんぢの民なんぢの草苑の
 ひつじは永遠になんぢに感謝しその
 頌辭を世々あらはさん

Psalm 80

1イスラエルの牧者よひつじの
 群のごとくヨセフを導きたまもよ
 耳をかたぶけたまへ
 ケルビムのうへに坐したまふものよ
 光をはなちたまへ 2 エフライム、ベ
 ニヤミン、マナセの前になんぢの力
 をふりおこし來りてわれらを救ひた
 まへ 3 神よふたたびわれらを復し
 なんぢの聖顔のひかりをてらしたま
 へ 然ばわれら救をえん 4 ばんぐん
 の神エホバよなんぢその民の祈にむ
 かひて何のときまで怒りたまふや
 5 汝かれらにのみだの糧をくらはせ涙
 を量器にみちみつるほどあたへて飲
 しめ給へり 6 汝われらを隣人のあひ
 あらそふ種料となしたまふわれらの
 仇はたがひにあざわらへり 7 萬軍
 の神よふたたびわれらを復したまへ
 汝のみかほの光をてらしたまへ
 さらばわれら救をえん 8 なんぢ葡萄
 の樹をエジプトより携へいだしもろ
 もろの國人をおひしりぞけて之をう
 ゑたまへり 9 汝そのまへに地をまう
 けたまひしかば深く根して國にはび
 これり 10
 その影はもろもろの山をおほひその
 えだは神の香柏のごとくにありき
 11 その樹はえだを海にまでのべ
 その若枝を河にまでのべたり 12 汝
 いかねばその垣をくづして路ゆく
 すべての人に嫡取せたまふや 13
 はやし猪はこれくらふ 14 ああ萬軍
 の神よねがはくは歸りたまへ天より俯
 視てこの葡萄の樹をかへりみ 15 な

んぢが右の手にてうゑたまへるもの
自己のために強くなしたまへる枝を
まもりたまへ 16
その樹は火にて焼れた斫たふさる
かれらは聖顔のいかりにて亡ぶ 17
ねがはくはなんぢの手をその右の手の
人のうへにおき自己のためにつよ
くなしたまへる人の子のうへにおき
たまへ 18 さらばわれら汝をしりぞ
き離ることながらん
願くはわれらを活したまへ
われら名をよばん 19 ああ萬軍の神
エホバよふたたび我儕をかへしたま
へ
なんぢの聖顔のひかりを照したまへ
然ばわれら救をえん

Psalm 81

1われらの力なる神にむかひて
高らかにうたひヤコブの神にむかひ
てよるこびの聲をあげよ 2 歌をうた
ひ鼓とよき音のことと箏とをもちき
たれ 3 新月と満月とわれらの節會の
日とにラッパをふきならせ 4 これイ
スラエルの律法ヤコブのかみの格なり
5 神さきにエジプトを攻たまひし
ときヨセフのなかに之をたてて證と
なしたまへり我かしこにて未だしら
ざりし方言をきけり 6
われかれの肩より重荷をのぞきかれ
の手を監よりまぬかれしめたり 7 汝
なやむととき呼ばれ我なんぢをす
くへりわれ雷鳴のかくれたるところ
にて汝にこたへメリバの水のほとり
にて汝をこころみたり セラ 8
わが民よきけ我なんぢに證せんイス
ラエルよ汝がうちに從はんことをも
とむ 9 汝のうちに他神あるべからず
なんぢ他神ををがむべからず 10 わ
れはエジプトの國よりなんぢを携へ
いでたる汝の神エホバなり
なんぢの口をひろくあけよ
われ物をみたまへ 11
されどわが民はわか聲にしたがはず
イスラエルは我をこのまず 12 この
ゆゑに我かれらが心のかたくななる
にまかせ彼等がその任意にゆくにま
かせたり 13 われはわが民のわれに
從ひイスラエルのわが道にあゆまんこ
とを求む 14 さらば我すみやかにか
れらの仇をしたがへ
わが手をかれらの敵にむけん 15 斯
てエホバをにくみし者もかれらに從
ひかれらの時はとこしへにつづかん
16 神はむぎの最嘉をもてかれらを
やしなひ磐よりいでたる蜜をもて汝
をあかしむべし

Psalm 82

1
かみは神のつどひの中にたちたまふ
神はもろもろの神のなかに審判をな
したまふ 2
なんぢらは正からざる審判をなしあ
しきもの身をかたよりみて幾何時
をへんとするや セラ 3 よわきもの
と孤兒とのためにさばき苦しむもの
と乏しきものとのために公平をほど
こせ 4 弱きものと貧しきものとをす
くひ彼等をあしきものの手よりたす
けいだせ 5 かれらは知ることなく悟

ることなくして暗中をゆきめぐりぬ
地のもろもろの基はうごきたり 6
我いへらくなんぢらは神なりなんぢ
らはみな至上者の子なりと 7 然どなん
ぢらは人のごとくに死もろもろの
侯のなかの一人のごとく仆れん 8
神よおきて全地をさばきたまへ汝も
ろもろの國を嗣たまふべければなり

Psalm 83

1神よもだしたまふなかれ神よ
ものいはで寂靜たまふなかれ 2 視よ
なんぢの仇はかしがきしき聲をあげ
汝をにくむものは首をあげたり 3 か
れらはたくみな謀略をもてなんぢ
の民にむかひ相共にはかりて汝のか
くれたる者にむかふ 4
かれらいつたりき來かれらを斷滅し
てふたたび國をたつことを得ざら
しめイスラエルの名をふたたび人に
しられざらしめんと 5 かれらは心を
一つにしてともにはかり互にちかひ
をなしてなんぢに逆ふ 6 こはエドム
の幕屋にすめる人イシマエル人モア
ブ、ハガル人 7 ゲバル、アンモン、
アマレク、ペリシテおよびツロの民
などなり 8
アスリヤも亦かれらにくみせり
斯て口の子輩のたすけをなせり
セラ 9 なんぢ裏にミデアンになした
まへる如くキシヨンの河にてシセラ
とヤビンとに作たまへるごとく彼等
にもなしたまへ 10 かれらはエンド
ルにてほろび地のために肥料となれ
り 11 かれらの貴人をオレブ、ゼエ
ブのごとくそのもろもろの侯をゼバ
、ザルムンナのごとくなしたまへ 12
かれらはいへりわれら神の草苑を
えてわが有とすべしと 13 わが神よ
かれらをまきあげらる塵のごとく
風のまへの藁のごとくならしめたま
へ 14 林をやく火のごとく山をもや
す煩のごとく 15 なんぢの暴風をも
てかれらを追ひなんぢの旋風をもて
かれらを怖れしめたまへ 16
かれらの面に恥をみたまへエ
ホバよ然ばかれらなんぢの名をもと
めん 17 かれらをとこしへに恥おそ
れしめ惶てまどひて亡びうせしめた
まへ 18 然ばかれらはエホバてふ名
をもちたまふ汝のみ全地をしるしめ
す至上者なることを知るべし

Psalm 84

1萬軍のエホバよなんぢの帷幄
はいかに愛すべきかな 2 わが靈魂は
たえいるばかりにエホバの大庭をし
たひわが心わが身はいける神にむか
ひて呼ぶ 3 誠やすずめは窩をえ燕子
はその雛をいる巢をえたり萬軍の
エホバわが王わが神よ
これなんぢの祭壇なり 4
なんぢの家にすむものは福ひなりか
かるひとはつねに汝をたたへまつら
ん セラ 5 その力なんぢにあり その
心シヨンの大路にある者はさいはひ
なり 6 かれらは涙の谷をすぐれども
其處をおほくの泉あるところとなす
また前の雨はもろもろの恵をもて之
をおほへり 7 かれらは力より力にす
すみ遂におのおのシオンにいたりて

神にまみゆ 8 ばんぐんの神エホバよ
わが祈をききたまへ
ヤコブの神よ耳をかたぶけたまへ
セラ 9 われらの盾なる神よ
みそなはしてなんぢの受膏者の顔を
かへりみたまへ 10 なんぢの大庭に
すまふ一日は千日にもまされり
われ惡の幕屋にをらんよりは寧ろわ
が神のいへの門守とならんことを欲
ふなり 11
そは神エホバは日なり盾なりエホバ
は恩とえいくわうとをあたへ直くあ
ゆむものに善物をこぼたまふこと
なし 12 萬軍のエホバよなんぢに依
頼むものはさいはひなり

Psalm 85

1エホバよなんぢは御國にめぐ
みをそそぎたまへりなんぢヤコブの
俘囚をかへしたまひき 2 なんぢおの
が民の不義をゆるしそのもろもろの
罪をおほひたまひき セラ 3 汝すべ
ての怒をすてその烈しきいきどほり
を遠けたまへり 4 われらのすくひの
神よかへりきたり我儕にむかひて忿
怒をやめたまへ 5 なんぢ永遠にわれ
らをいかり萬世にみいかりをひきの
べたまふや 6 汝によりてなんぢの民
の喜びをえんが爲に我儕を活したま
はざるか 7 エホバよなんぢの憐憫を
われらにせしめし汝のすくひを我儕に
あたへたまへ 8 わが神エホバのいた
りたまふ事をきかんエホバはその民
その聖徒に平和をかたりたまへばな
りさればかれらは愚かなる行爲にふ
たたび歸るなかれ 9 實にそのすくひ
は神をおそる者にちかしかく 10 榮
光はわれらの國にとどまらん 11 あ
はれみと眞實とともにあひ義と平和
とたがひに接吻せり 12 まことは地
よりはえ義は天よりみおろせり 12
エホバ善物をあたへたまへばわれら
の國は物産をいだしん 13 義はエホ
バのまへにゆきエホバのあゆみたま
ふ跡をわれに踏しめん

Psalm 86

1エホバよなんぢ耳をかたぶけ
て我にこたへたまへ
我はくるしみかつ乏しければなり 2
ねがはくはわが靈魂をまもりたまへ
われ神をうやまふ者なればなりわが
神よなんぢに依頼める汝のしもべを
救ひ給へ 3 主よわれを憐みたまへ
われ終日なんぢによばふ 4 なんぢの
僕のたましひを悦ばせたまへ主よわ
が靈魂はなんぢを仰ぎのぞむ 5 主よ
なんぢは恵ふかくまた救をこのみたま
ふ汝によばふ凡てのものを豊かに
あはれみたまふ 6
エホバよわがいのりに耳をかたぶけ
わが懇求のこゑをききたまへ 7
われわが患難の日になんぢに呼ばん
なんぢは我にこたへたまふべし 8 主
よもろもろの神のなかに汝にひとし
きものはなく汝のみわざに倅しきも
のはなし 9 主よなんぢの造れるもろ
もろの國はなんぢの前にきたりて伏
拝まん
かれらは聖名をあがむべし 10 なん
ぢは大なり奇しき事跡をなしたまふ

唯なんぢのみ神にましませり 11 エ
ホバよなんぢの道をわれに教へたま
へ我なんぢの眞理をあゆまんねがは
くは我をして心ひとつに聖名をおそ
れしめたまへ 12 主わが神よ我心を
つくして汝をほめたたへとこしへに
聖名をあがめまつらん 13
そはなんぢの憐憫はわれに大なりわ
がたましひを陰府のふかき處より助
けいだしたまへり 14 神よたかぶれ
るものは我にさからひて起りたち暴
ぶる人の會はわがたましひをもとめ
斯てなんぢを己がまへに置ざりき 15
されど主よなんぢは憐憫とめぐみ
とにとみ怒をおそくし愛しみと眞實
とにゆたかなる神にましませり 16
我をかへりみ我をあはれみたまへね
がはくは汝のしもべに能力を與へ汝
のはしための子をすくひたまへ 17
我にめぐみの憑據をあらはしたまへ
然ばわれをにくむ者これを見て恥を
いだかんそはエホバよなんぢ我をた
すけ我をなぐさめたまへばなり

Psalm 87

1
エホバの基はきよき山にあり 2 エホ
バはヤコブのすべての住居にまさり
てシオンのもろもろの門を愛したま
ふ 3 神の都よなんぢにつきておほく
の榮光のことを語りはせりセラ 4
われはラハブ、バビロンをも我をし
るものの中にあげんペリシテ、ツロ
、エテオピアを視よこの人はかしこ
に生れたりといはん 5
シオンにつきては如此いはん此もの
彼ものシオンにうまれたり至上者み
づからシオンを立たまはんと 6 エホ
バもろもろの民をしるしたまふ時こ
のものは彼處にうまれたりと算へあ
げたまはん セラ 7
うたふもの踊るもの皆いはんわがも
ろもろの泉はなんぢの中にありと

Psalm 88

1わがすくひの神エホバよわれ
晝も夜もなんぢの前にさけべり 2 願
くはわが祈をみまへにいたらせ汝の
みみをわが號呼のこゑにかたぶけた
まへ 3 わがたましひは患難にてみち
我がいのちは陰府にちかづけり 4 わ
れは穴にいるものともどもにかぞへら
れ依仗なき人のごとくなれり 5 われ
墓のうちなる殺されしもののごとく
死者のうちにすてらる汝かれらを再
びこころに記たまはずかれらは御手
より斷滅されしものなり 6
なんぢ我をいとふかき穴 くらき處
ふかき淵におきたまひき 7
なんぢの怒はいたくわれにせまれり
なんぢそのもろもろの浪をもて我を
くるしめ給へり セラ 8 わが相識も
の我よりとぼざけ我をかれらに憎
ませたまへりわれは緇閉されていづ
ることあたはず 9 わが眼はなやみの
故をもておとろへぬ
われ日ごとに汝をよべりエホバよ
なんぢに向ひてわが両手をのべたり 10
なんぢ死者にくすしき事跡をあら
はしたまはんや亡ししもの跡をなん
ぢを讃たたへんや セラ 11 汝のいつ

くしみは墓のうちに汝のまことは滅亡のなかに宣傳へられんや 12 汝のくすしみわざは幽暗になんぢの義は忘失のくにに知ることあらんや 13 されどエホバよ我なんぢに向ひてさけべりわがいのりは朝にみまへに達らん 14 エホバよなんぢ何なればわが靈魂をすてたまふや何なればわれに面をかくしたまふや 15 われ幼稚よりなやみて死るばかりなり我なんぢの恐嚇にあひてくるしみまどへり 16 汝のはげしき怒わがうへをすく汝のおびやかし我をほろぼせり 17 これらの事ひねもす大水のごとく我をめぐりことごとく來りて我をかこみふさげり 18 なんぢ我をいつくしむ者とわが友とをとほざけわが相識のものを幽暗にいらたまへり

Psalm 89

1 われエホバの憐憫をとしへにうたはんわれ口もてエホバの眞實をよるづ代につげしらせん 2 われいふあはれみは永遠にたてらる汝はその眞實をかたく天にさだめたまはんと 3 われわが撰びたるものと契約をむすびわが僕ダビデにちかひたり 4 われなんぢの裔をとしへに固うしなんぢの座位をたてて代々におよばしめん 5 セラ エホバよもるもの天はなんぢの奇しき事跡をほめんなんぢの眞實もまた潔きもの會にてほめらるべし 6 蒼天にてたれかエホバに類ふものあらんや神の子のなかに誰かエホバのごとき者あらんや 7 神はきよきものの公會のなかにて畏むべきものなりその四周にあるすべての者にまさりて懼るべきものなり 8 萬軍の神エホバよヤハよ汝のごとく大能あるものは誰ぞやなんぢの眞實はなんぢをめぐりたり 9 なんぢ海のあるるををさめその浪のたちあがらんときは之をしづめたまふなり 10 なんぢラハブを殺されしものごとく撃碎きおのれの仇れどもを力ある腕をもて打散したまへり 11 もるもの天はなんぢのもの地もまた汝のものなり世界とその中にみつるものとはなんぢの基したまへるなり 12 北と南はなんぢ造りたまへりタボル、ヘルモンはなんぢの名によりて歎びよばふ 13 なんぢは大能のみうでをもちたまふなんぢの手はつよく汝のみぎの手はたかし 14 義と公平はなんぢの寶座のもとありあはれみと眞實とは聖顔のまへにあらはれゆく 15 よるこびの音をしる民はさいはひなりエホバよかれらはみかほの光のなかをあゆめり 16 かれらは名によりて終日よるこび汝の義によりて高くあげられたり 17 かれらの力の榮光はなんぢなり汝の恵によりてわれらの角はたかくあげられん 18 そはわれらの盾はエホバに屬われらの王はイスラエルの聖者につけり 19 そのとき異象をもてなんぢの聖徒につげたまはくわれ佑助をちからあるものに委ねたりわが民のなかより一人をえらびて高くあげたり 20 われわが僕ダビデをえて之

にわが聖膏をそそげり 21 わが手はかれとともに堅くわが臂はかれを強くせん 22 仇かれをしへたぐることなし惡の子かれを苦しむることなからん 23 われかれの前にそのもろもの敵をたふし彼をにくめるものを撃ん 24 されどわが眞實とわが憐憫とはダビデとともに居りわが名によりてその角はたかくあげられん 25 われ亦かれの手を海のうへにおきそのみぎの手を河のうへにおかん 26 ダビデ我にむかひて汝はわが父わが神わがすくひの岩なりとよばん 27 われまた彼をわが初子となし地の王たちのうち最もたかき者となさん 28 われとこしへに憐憫をかれがためにたまち之とたてし契約はかはることなからんべし 29 われまたその裔をとしへに存へそのくらゐを天の日數のごとくながらへしめん 30 もしその子わが法をはなれわが審判にしたがひて歩まず 31 わが律法をやぶりわが誠言をまもらずば 32 われ杖をもてかれらの愆をただし鞭をもてその邪曲をただすべし 33 されど彼よりわが憐憫をことごとくはとりさらずわが眞實をおとろへしむることなからん 34 われおのれの契約をやぶらず己のくちびるより出しことをかへじ 35 われ曩にわが聖をさして誓へり われダビデに虚偽をいはじ 36 その裔はとこしへにつぎその座位は日のごとく恒にわが前にあらん 37 また月のごとく永遠にたたられん空にある證人はまことなり 38 されどその受膏者をとほざけて棄たまへり 39 なんぢ之をいきどほりたまへり 40 なんぢ己がしもべの契約をいみ其かんむりをけがして地にまでおとし給へり 41 またその垣をことごとく倒しその保壁をあれすたれしめたまへり 42 その道をすぐるすべての者にかすめられ隣人にののしらる 43 なんぢかれが敵のみぎの手をたかく擧げるもるもの仇をよるこぼしめたまへり 44 3 なんぢかれの劍の刃をふりかへして戦闘にたつに堪へざらしめたまひき 44 またその光輝をけしその座位を地になげおとし 45 その年若き日をちぢめ恥をそのうへに覆たまへり 46 エホバよかくて幾何時をへたまふや自己をとしへに隠したまふや忿怒は火のもゆるごとくなるべきか 47 ねがはくはわが時のいかに短かきかを思ひたまへ汝いたづらにすべての人の子をつくりたまはんや 48 誰かいきて死をみず又おのがたましひを陰府より救ひうるものあらんや 49 主よなんぢが眞實をもてダビデに誓ひたまへる昔日のあはれみはいづこにありや 50 主よねがはくはなんぢの僕ものつくる謗をみこころにとめたまへエホバよ汝のもるもの仇はわれをそしりなんぢの受膏者のあしあとをそしり我もるもの民のそしりをわが懐中にいだく 52 エホバは永遠にほむべきかな アーメン アーメン

Psalm 90

1 主よなんぢは往古より世々われらの居所にてましませり 2 山いまだ生いでず汝いまだ地と世界とをつくりたまはざりしとき永遠よりとこしへまでなんぢは神なり 3 なんぢ人を塵にかへらしめて宣はく人の子よなんぢら歸れと 4 なんぢの目前には千年もすてにすぐる昨日のごとく 5 また夜間のひとときにおなじ 5 なんぢこれらをお水のごとく流去らしめたまふかれらは一夜の寝のごとく朝にはえいづらる青草のごとし 6 朝にはえいでてさかえ夕にはかられて枯るなり 7 われらはなんぢの怒によりて消うせ汝のいきどほりによりて怖まどふ 8 汝われらの不義をみまへに置われらの隠れたるつみを聖顔のひかりのなかにおきたまへり 9 われらのもるもの日はなんぢの怒によりて過去りわれらがすべての年のつくるは一息のごとし 10 われらが年をふる日は七十歳にすぎざるはは壯やかにして八十歳にいたらんされどその誇るところはただ勤勞とかなしみとのみその去ゆくこと速かにしてわれらもまた飛去れり 11 誰かなんぢの怒のちからを知らんやたれか汝をおそるる畏にたくらべて汝のいきどほりをしらんや 12 願くはわれらにおのが日をかぞふことををしへて智慧のこころを得しめたまへ 13 エホバよ歸りたまへ斯ていくそのときを歴たまふやねがはくは汝のしもべらに係れるみこころを變へたまへ 14 ねがはくは朝にわれらを汝のあはれみにてあきたらしめ世をはるまで喜びたのしませたまへ 15 汝がわれらを苦しめたまへるもるもの日とわれらが禍言にかかれるもるもの年とにたくらべて我儕をたのしませたまへ 16 なんぢの作爲をなんぢの僕等になんぢの榮光をその子等にあらはしたまへ 17 斯てわれらの神エホバの佳美をわれらのうへにのぞましめわれらの手のわざをわれらのうへに確からしめたまへ願くはわれらの手のわざを確からしめたまへ

Psalm 91

1 至上者のもとなる隠れたるところにすまふその人は全能者の陰にやどらん 2 われエホバのことを宣てエホバはわが避所わが城わがよりのむ神なりといはん 3 そは神なんぢを狩人のわなと毒をなす疫癘よりたすけいだしたまふべければなり 4 かれその翮をもてなんぢを庇ひたまはん なんぢその翼の下にかくれんその眞實は盾なり干なり 5 夜はおどるくべきことあり晝はとびきたる矢あり 6 幽暗にはあゆむ疫癘あり日午にはそこなふ勵しき疾あり 7 されどなんぢ畏ることあらじ 7 千人はなんぢの左にたふれ萬人はなんぢの右にたふるされどその災害はなんぢに近づきことなからん 8 なんぢの眼はただこの事をみるのみ

なんぢ惡者のむくいを見ん 9 なんぢ曩にいへりエホバはわが避所なりとなんぢ至上者をその住居となしたれば 10 災害なんぢにいたらず苦難なんぢの幕屋に近づかじ 11 そは至上者なんぢのためにその使者輩におほせて汝があゆむもるもの道になんぢを守らせ給へばなり 12 彼ら手にてなんぢの足の石にふれざらんために汝をささへん 13 なんぢは獅と蝮とをふみ壯獅と蛇とを足の下にふみにじらん 14 彼その愛をわれにそそげがゆ糸に我これを助けんかれわが名をしるがゆ糸に我これを高處におかん 15 かれ我をよはば我こたへん我その苦難のときに偕にをりて之をたすけ之をあがめん 16 われ長寿をもてかれを足はしめ且わが救をしめさん

Psalm 92

1 いとたかき者よエホバにかんしやし聖名をほめたたふるは善かな 2 あしたに汝のいつくしみをあらはし夜々なんぢの眞實をあらはすに 3 十絃のなりものと箏とをもちる琴の妙なる音をもちるはいと善かな 4 そはエホバよなんぢその作爲をもて我をたのしませたまへり我なんぢの手のわざをよるこびほらん 5 エホバよ汝のみわざは大なるかな汝のもるもの思念はいとぶかし 6 無知者はしることなく愚なるものは之をさとらず 7 惡きものは草のごとくもえいで不義をおこなふ衆庶はさかゆるとも遂にはとこしへにほろびん 8 されどエホバよ汝はとこしへに高處にましませり 9 エホバよ呼なんぢの仇あなんぢの仇はほろびん不義をおこなふ者はことごとく散されん 10 されど汝わが角をたくあげて野の牛のつものごとくならしめたまへり 我はあたらしき膏をそそがれたり 11 又わが目はわが仇につきて願へることを見わが耳はわれにさからひておこりたつ惡をなすものにつきて願へることをききたり 12 義しきものは棕櫚の樹のごとく榮えレバノンの香柏のごとくそだつべし 13 エホバの宮にうゑられしものはわれらの神の大庭にさかえん 14 かれらは年老てなほ果をむすび豊かにうるほひ緑の色みちみちて 15 エホバの直きものなることを示すべしエホバはわが嚴なりエホバには不義なし

Psalm 93

1 エホバは統治たまふエホバは稜威をきたまへりエホバは能力をころもとなし帯となしたまへりさればまた世界もたたくちて動かさることなし 2 なんぢの寶座はいにしへより堅くたちぬ 汝はとこしへより在せり 3 大水はこゑをあげたりエホバよおほみづは聲をあげたりおほみづは浪をあげ 4 エホバは高處にいましてその威力はあほくの水のごとく海のさかまくにまさりて盛んな

り 5 なんぢの證詞はいとかたし エホバよ聖潔はなんぢの家にとこしへまでも適應なり

Psalm 94

1 エホバよ仇をかへすは汝にあり神よあたを報すはなんぢにありねがはくは光をはなちたまへ 2 世をさばきたまふものよ願くは起てたかぶる者にそのうくべき報をなしたまへ 3 エホバよ悪きもの幾何のときを経んとするやあしきもの勝誇りていくそのとしを経るや 4 かれらはみだりに言をい出して誇りものいふすべて不義をおこなふ者はみづから高ぶれり 5 エホバよ彼等はなんぢの民をうちくだき

なんぢの業をそこなふ 6 かれらは廢婦と旅人との生命をうしなひ孤子をこらす 7 かれらはいふ ヤハは見ずヤコブの神はさとらざるべしと 8 民のなかなる無知よなんぢらさとれ愚かなる者よ

いづれのとにか智からん 9 みみを植るものきくことをせざらんや目をつくれるもの見ることをせざらんや 10 もろもろの國ををしふる者ただすことを爲ざらんや人に知識をあたふる者しることなからんや 11 エホバは人の思念のむなしきを知りたまふ 12 ヤハよなんぢの懲めたまふ人なんぢの法ををしへらる人はさいはひなるかな 13 かたる人をわざはひの日よりのがれしめ悪きものために坑のほらるるまでこれに平安をあたへたまはん 14 そはエホバその民をすてたまはずその嗣業はなされたまはざるなり 15 審判はただしきにかへり心のなほき者はみなその後にしたがはん 16 誰かわがために起りたちて悪きものを責んや誰か我がために立て不義をおこなふ者をせめんや 17 もしエホバ我をたすけたまはざりせばわが靈魂はとくに幽寂とこりに住ひしならん 18

されどわが足すべりぬといひしときエホバよなんぢの憐憫われをささへたまへり 19 わがうちに憂慮のみつる時なんぢの安慰わがたましひを喜ばせたまふ 20 律法をもて害ふことをはかる惡の位はなんぢに親むことを得んや 21 彼等はあひかたらひて義人のたましひをせめ罪なき血をつみに定む 22 然はあれどエホバはわがたかき櫓わが神はわが避所の磐なりき 23 神はかれらの邪曲をその身におはしめかれらをその悪き事のなかに滅したまはんわれらの神エホバはこれを滅したまはん

Psalm 95

1 率われらエホバにむかひてうたひすくひの磐にむかひてよるこばしき聲をあげん 2 われら感謝をもてその前にゆきエホバにむかひて歌をもて歡ばしきこゑをあげん 3 そはエホバは大なる神なりもろもろの神にまされる大なる王な

り 4 地のふかき處みなその手にあり山のいただきもまた神のものなり 5 うみは神のものその造りたまふところ早ける地もまたその手にて造りたまへり 6 いざわれら拝みひれふし我儕をつくれる主エホバのみまへに曲跪くべし 7 彼はわれらの神なりわれらはその草苑の民その手のひつじなり今日なんぢらがその聲をきかんことをのぞむ 8 なんぢらメリバに在りしときのごとく野なるマサにありし日の如くその心をかたくなにするなかれ 9 その時なんぢらの列祖われをこころみ我をためし又わがわざをみたり 10 われその代のためにうれへて四十年を歴われいへりかれらは心あやまれる民わが道を知ざりきと 11 このゆゑに我いきどほりて彼等はわが安息に在るべからずと誓ひたり

Psalm 96

1 あたらしき歌をエホバにむかひてうたへ 2 エホバに向ひてうたひその名をほめよ 日ごとにその救をのべつたへよ 3 もろもろの國のなかにその榮光をあらはしもろもろの民のなかにその奇しきみわざを顯すべし 4 そはエホバはおほいなり大にほめたたふべきものなりもろもろの神にまさりて畏るべきものなり 5 もろもろの民のすべての神はことごとく虚しされどエホバはもろもろの天をつくりたまへり 6 尊貴と稜威とはその前にあり能と善美とはその聖所にあり 7 もろもろの民のやからよ榮光とちからとをエホバにあたへよ エホバにあたへよ 8 その聖名にかなふ榮光をもてエホバにあたへ獻物をたづさへてその大庭にきたれ 9 きよき美しきものをもてエホバををがめ

10 全地よその前にをのけ 11 もろもろの國のなかにいへエホバは統治たまふ世界もかたたくちて動かさることなしエホバは正直をもてすべての民をさばきたまはん 12 天はよるこび地はたのしみ海とそそのなかに盈るものとはなりどよみ 13 田畑とその中のすべての物とはよるこぶべしかくて林のもろもろの樹もまたエホバの前によるこびうたはん 14 エホバ來りたまふ地をさばかんとて來りたまふ義をもて世界をさばきその眞實をもてもろもろの民をさばきたまはん

Psalm 97

1 エホバは統治たまふ全地はたのしみ多くの鳥々はよるこぶべし 2 雲とくらきとはそり環環にあり義と公平とはその寶座のもとゝなり 3 火ありそのみまへにすみ 4 その四周の敵をやきつくす 5 エホバのいなびかりは世界をてらす地これを見てふるへり 6 もろもろの山はエホバのみまへ全地の主のみまへて蟬のごとくどけぬ 7 もろもろの天はその義をあらはしよるづの民はその榮光をみたり 7 す

べてさざめる像につかへ虚しきものによりてみづから誇るものは恥辱をうくべしもろもろの神よみなエホバをふしをがめ 8 エホバよなんぢの審判のゆゑによりシオンはききてよるこびユダの女輩はみな樂しめり 9 エホバよなんぢ全地のうへにましまして至高くなんぢもろもろの神のうへにましまして至貴とし 10 エホバを愛しむものよ惡をにくめエホバはその聖徒のたましひをまもり之をあしきものの手より助けいだしたまふ 11 光はただしき人のためにまかれ欣喜はこころ直きものために播れたり 12 義人よエホバにより喜べそのきよき名に感謝せよ

Psalm 98

1 あたらしき歌をエホバにむかひてうたへそは妙なる事をおこなひその右の手そのきよき臂をもて己のために救をなし畢たまへり 2 エホバはそのすくひを知しめその義をもろもろの國人の目のまへにあらはし給へり 3 又その憐憫と眞實とをイスラエルの家にむかひて記念したまふ地の極もことごとくわが神のすくひを見たり 4 全地よエホバにむかひて歡ばしき聲をあげよ聲をはなちてよるこびうたへ 5 讃うたへ 6 琴をもてエホバをほめうたへ 7 ラッパと角笛をふきなならし王エホバのみまへによるこばしき聲をあげよ 8 海とそそのなかに盈るもの世界とせかいにすむものど鳴響むべし 9 大水はその手をうちもろもろの山はあひともにエホバの前によるこびうたふべし 10 エホバ地をさばかんとて來りたまへばなり 11 エホバ義をもて世界をさばき公平をもてもろもろの民をさばきたまはん

Psalm 99

1 エホバは統治たまふもろもろの民はをのくべし 2 エホバはケルビムの間にいます 3 エホバはシオンにましまして大なりもろもろの民にすぐれてたふとし 4 かれらは汝のおほいなる畏るべき名をほめたたふべし 5 エホバは聖なるかな 6 王のちからは審判をこのみたまふ汝はかたく公平をたてヤコブのなかに審判と公義とおこなひたまふ 7 われらの神エホバをわがめその承足のもにて拝みまつれ 8 エホバは聖なるかな 9 その祭司のなかにモーセとアロンとありその名をよぶ者のなかにサムエルありかれらエホバをよびしに應へたまへり 10 エホバ雲の柱のうちにましましてかれらに語りたまへりかれらはその證詞とその賜はりたる律法とを守りたりき 11 われらの神エホバよなんぢ彼等にこたへたまへりかれらのなしし事にむかひたまへたれどまた赦免をあたへたまへる神にてましませり 12 われらの神エホバを崇めそのきよき山

にてをがみまつれ 13 そはわれらの神エホバは聖なるなり

Psalm 100

1 全地よエホバにむかひて歡ばしき聲をあげよ 2 欣喜をいだきてエホバに事へうたひつその前にきたれ 3 知れエホバこそ神にますなれわれらを造りたまへるものはエホバにましませば我儕はその屬なりわれらはその民その草苑のひつじなり 4 感謝しつその門にいり 5 感謝してその名をほめたたへよ 6 エホバはめぐみふかくその憐憫がぎりなくその眞實よろづ世におよぶべければなり

Psalm 101

1 われ憐憫と審判とをうたはん 2 エホバよ我なんぢを讃うたはん 2 われ心をとくして全き道をまもらんなんぢいづれの時われにきたりたまふや我なほき心をもてわが家のうちをありかん 3 われわが眼前にいやしき事をおかずわれ叛くもの業をにくむ 4 そのわざは我につかじ 5 僻めるところは我よりはなれん 6 惡きものを知ることをこのまず 7 隠にその友をそしめるものは我これをほろぼさん高ぶる眼また驕れる心のもは我これをしるべし 8 われ朝な朝なこの國のあしき者をことごとく滅しエホバの邑より不義をおこなふ者をことごとく絶除かん

Psalm 102

1 エホバよわが祈をききたまへ願くはわが號呼のこゑの御前にいたらんことを 2 わが窮苦の日みかほを蔽ひたまふなけれ 3 なんぢの耳をわれにかたづけ我がよぶ日にすみやかに我にこたへたまへ 4 わが骨はたきぎのごとく焚るなり 5 わが骨はたきぎのごとく焚るなり 6 わが骨はたきぎのごとく焚るなり 7 わが骨はたきぎのごとく焚るなり 8 わが骨はたきぎのごとく焚るなり 9 わが骨はたきぎのごとく焚るなり 10 わが骨はたきぎのごとく焚るなり 11 わが骨はたきぎのごとく焚るなり 12 わが骨はたきぎのごとく焚るなり 13 わが骨はたきぎのごとく焚るなり 14 わが骨はたきぎのごとく焚るなり 15 わが骨はたきぎのごとく焚るなり 16 わが骨はたきぎのごとく焚るなり 17 わが骨はたきぎのごとく焚るなり 18 わが骨はたきぎのごとく焚るなり 19 わが骨はたきぎのごとく焚るなり 20 わが骨はたきぎのごとく焚るなり

へり 11
わが齢はかたぶける日影のごとし
またわれは草のごとく萎れたり 12
されどエホバよなんぢは永遠になが
らへ
その名はよるづ世にながらへん 13
なんぢ起てシオンをあはれみたまは
んそはシオンに恩恵をほどこしたま
ふときなり
そのさだまれる期すでに來れり 14
なんぢの僕はシオンの石をもよるこ
も 15
その國はさへ愛しむ
むろもその塵はエホバの名をおそれ
地のもろもろの王はその榮光をおそ
れん 16
エホバはシオンをきづき榮
光をもてあらはれたまへり 17
エホ
バは乏しきものの祈をかへりみ彼等
のいのりを藐しめたまはざりき 18
來らんとするのちの世のためにこの
事をするさん新しくつくられたる民
はヤハをほめたたふべし 19
エホバ
その聖所のたかき所よりみおろし天
より地をみたまへり 20
こは俘囚の
なげきをきき死にさだまれる者をと
きはなち 21
人々のシオンにてエホ
バの名をあらはしエルサレムにてそ
の頌美をあらはさんが爲なり 22
か
かる時にもろもろの民もろもろの國
つどひあつまりてエホバに事へまつ
らん 23
エホバはわがちからを途に
ておとろへしめ
わが齢をみじかからしめ給へり 24
我いへりねがはくはわが神よわがす
べての日のなかばにて我をとりさり
たまふなかれ
汝のよはひは世々かぎりなし 25
汝いにしへ地の基をすゑたまへり
天もまたなんぢの手の工なり 26
これらは亡びん
されど汝はつねに存らへたまはん
これらはみな衣のごとくふるびん
汝これらを袍のごとく更たまはん
されば彼等はかはらん 27
然れども汝はかはることなし
なんぢの齢はをはらざるなり 28
汝のしもべの子輩はながらへん
その裔はかたく前にたてらるべし

Psalm 103

1

わが靈魂よエホバをほめまつれわが
衷なるすべてのものよそのきよき名
をほめまつれ 2
わがたましひよエホバを讃まつれそ
のすべての恩恵をわするなかれ 3
エホバはなんぢがすべての不義をゆる
し汝のすべての疾をいやし 4
なん
ぢの生命をほろびより贖ひだし
仁慈と憐憫とを汝にかうぶらせ 5
なん
ぢの口を嘉物にてあかしめたまふ
斯てなんぢは壯じて驚のごとく新に
なるなり 6
エホバはすべて虐げらる
る者のために公義と審判とおこな
ひたまふ 7
おのれの途をモーセにしらしめおの
れの作爲をイスラエルの子輩にしら
しめ給へり 8
エホバはあはれみと恩
恵にみちて怒りたまふごとくおそく仁
慈ゆたかにまします 9
恒にせむる
ことをせず永遠にいかりを懐きたま
はざるなり 10
エホバはわれらの罪
の量にしたがひて我儕をあしらひた

まはずわれらの不義のかさにしたが
ひて報いたまはざりき 11
エホバを
おそるものにエホバの賜ふそのあ
はれみは大にして
天の地よりも高きがごとし 12
その
われらより愆をとほざけたまふこと
は東の西より遠きがごとし 13
エホ
バの己をおそる者をあはれみたま
ふことは父がその子をあはれむが如
し 14
エホバは我儕のつくられし状をしり
われらの塵なることを念ひ給へばなり
15
人のよはひは草のごとく
その榮はのの花のごとし 16
風すぐ
れば失てあもなくその生いでし處に
とへど尚しらざるなり 17
然はあれ
どエホバの憐憫はとこしへより永遠
までエホバをおそるものにいitari
その公義は子孫のまた子孫にいitari
らん 18
その契約をまもりその訓諭を
心にとめて行ふものぞその人なる 19
エホバはその寶座をもろもろの天
にかたく置たまへりその政權はよる
づものうへにあり 20
エホバにつかふる使者よ
エホバの聖言のこゑをきき
その聖言をおこなふ勇士よ
エホバをほめまつれ 21
その萬軍よ
その聖旨をおこなふ僕等よ
エホバをほめまつれ 22
その造りたまへる萬物よエホバの政
權の下なるすべての處にてエホバを
ほめよ
わがたましひよエホバを讃まつれ

Psalm 104

1

わが靈魂よエホバをほめまつれわが
神エホバよなんぢは至大にして尊貴
と稜威とを衣たまへり 2
なんぢ光を
ころものごとくにまとひ天を幕のご
とくにはり 3
水のなかにおのれの殿の棟梁をおき
雲をおのれの車となし
風の翼にのりあるき 4
かぜを使者と
なし焔のいづる火を僕となしたまふ 5
エホバは地を基のうへにおきて 永
遠にうごくことなからしめたまふ 6
衣にておほふがごとく大水にて地を
おほひたまへり
水たたへて山のうへをこゆ 7
なんぢ叱咤すれば水しりぞき汝いか
づちの聲をはなてば水たちまち去ぬ 8
あるひは山にのぼり或ひは谷にく
だりて
汝のさだめたまへる所にゆけり 9
なん
ぢ界をたてて之をこえしめずふ
たたび地をおほふことなからしむ 10
エホバはいづみを谷にわきだし
給ふ
その流は山のあひだにはしる 11
か
くて野のもろもろの獣にのましむ
野の驢馬もその渴をやむ 12
空の鳥もそのほとりにすみ
樹梢の間よりさえづりうたふ 13
エ
ホバはその殿よりもろもろの山に灌
漑たまふ地はなんぢのみわざの實に
よりに飽足ぬ 14
エホバは草をはえ
しめて家畜にあたへ田産をはえしめ
て人の使用にそなへたまふ 15
人
のこころを歎ばしむる葡萄酒ひと

の顔をつややかならしむるあぶら人
のこころを強からしむる糧どもなり
16
エホバの樹とその植たまへるレバ
ノンの香柏とは飽足ぬべし 17
鳥は
そのなかに巢をつくり鶴は松をその
棲として 18
たかき山は山羊のすま
ひ磐石は山鼠のかくるる所なり 19
エ
ホバは月をつくりて時をつかさど
らせたまへり
日はその西にいることをしる 20
なん
ぢ黑暗をつくりたまへば夜あり
そのとき林のけものは皆ししのびし
のびに起きたる 21
わかき獅ほえて餌
をもとめ神にくひものをもとむ 22
日
いづれば退きてその穴にふす 23
人
はいてて工をとりその勤勞はゆふ
べにまでいたる 24
エホバよなんぢ
の事跡はいかに多なるこれらは皆な
んぢの智慧にてつくりたまへり
汝のもろもろの富は地にみつ 25
か
しこに大なるひろき海ありそのな
かに敷しられぬ蘆ふも小なる大なる
生るものあり 26
舟そのうへをは
しり汝のつくりたまへる鰐そのうち
にあそびたはぶる 27
彼ら皆なんぢを
俟望むなんぢ宜時に
くひものを之にあたへたまふ 28
彼
等はなんぢの予へたまふ物をひろふ
なんぢ手をひらきたまへばかれら嘉
物にあきたりぬ 29
なんぢ面をおほ
ひたまへば彼等はあわてふためく汝
かれらの氣息をとりたまへばかれら
は死て塵にかへる 30
なんぢ靈をい
だしたまへば百物みな造らるなんぢ
地のおもてを新にしたまふ 31
願く
はエホバの榮光とこしへにあらんこ
とをエホバそのみわざを喜びたまは
んことを 32
エホバ地をみたまへば
地ふるひ山にふれたまへば山は煙を
いだし 33
生るかぎり
はエホバに向ひてうたひ
我ながらふるほどはわが神をほめう
たはん 34
エホバをおもふわが思念
はたのしみ深からん
われエホバによりて喜ぶべし 35
罪
人は地より絶滅され
あしきものは復あらざるべしわが靈
魂よエホバをほめまつれエホバを讃
稱へよ

Psalm 105

1

エホバに感謝してその名をよびその
なしたまへる事をもろもろの民輩の
なかにしらしめよ 2
エホバにむかひ
てうたへエホバを讃うたへそのもろ
もろの妙なる事跡をかたれ 3
その
きよき名をほこれエホバをたづ
ねもとむるものの心はよるこごべし
4
エホバとその能力とをたづねも
とめよ つねにその聖顔をたづねよ 5
その僕アブラムの裔よヤコブの子輩
よそのえらびたまひし所のものよそ
のなしたまへる妙なるみわざと奇し
き事跡とその口のさばきとを心にと
むれ 7
彼はわれらの神エホバなり
そのみさばきは全地にあり 8
エホバ
はたえすその契約をみこころに記た
まへり此はよるづ代に命じたまひし
聖言なり 9
アブラハムとむすびたま
ひし契約イサクに與へたまひし誓な
り 10
之をかたくしヤコブのために

律法となしイスラエルのためにとこ
しへの契約となして 11
言たまひけ
るは我なんぢにカナンをたまひて
なんぢらの嗣業の分となさん 12
こ
の時かれらの數おほからず甚すく
なくしてかこにて旅人となり 13
こ
の國よりかの國にゆき
この國よりほかの民にゆけり 14
人
のかれらを虐ぐるをゆるし給はず
かれらの故によりて王たちを懲しめ
て 15
宣給くわが受膏者たちにふる
るなかれわが預言者たちをそこなふ
なかれ 16
エホバは饑饉を地にまねき人の杖
とする糧をことごとく砕きたまへり
17
又かれらの前にひとり遣したま
へり
ヨセフはうられて僕となりぬ 18
か
れら足械をもてヨセフの足をそこな
ひくろかねの鏈をもてその靈魂をつ
なげり 19
斯てそのことばの驗をう
るまでに及ぶエホバのみことば彼を
こころみたまへり 20
王は人をつかはしてこれを解きもろ
もろの民の長はこれをゆるし 21
之
をその家司となし
その財寶をことごとく司どらせ 22
そ
の心のままにかの國のきみたちを
縛しめ
長老たちに智慧をしへしむ 23
イ
スラエルも亦エジプトにゆき
ヤコブはハムの地にやどれり 24
エ
ホバはその民を大にましくはへ之を
その敵よりも強くしたまへり 25
ま
た敵のこころをかへておのれの民を
にくましめおのれの僕輩をあざむき
待さしめたまへり 26
又そのしもべ
モーセとその選びたまへるアロンと
を遣したまへり 27
かれらはエホバ
の預兆をハムの地におこなひまたそ
の國にくすしき事をおこなへり 28
エ
ホバは闇をつかはして暗くしたま
へりかれらその聖言にそむくことを
せざりき 29
彼等のすべての水を血
にかへてその魚をころしたまへり 30
か
れらの國は蛙むれいでて王の殿
のうちにまでみちふさがりぬ 31
エ
ホバひいたまへば蠅むらがり 32
ま
たすべての境にいりきたりぬ 33
ま
た雨にかへて霰をかれらに與へもゆる
火をかれらの國にふらし 33
かれら
の葡萄の樹といちじくの樹とをうち
その境のもろもろの樹ををりくだ
きたまへり 34
エホバひいたまへば算
しられぬ蝗と蝻賊きたり 35
かれら
の國のすべての田産をはみつくしそ
の地のすべての實を食つくせり 36
エ
ホバはかれらの國のすべての首出
者をうちかれらのすべての力の始を
うちたまへり 37
しるかね黄金をた
づさへて彼等をいでゆかしめたまへ
りその家族のうち一人のよわき者
もなかりき 38
エジプトはかれらの
出るをよるこべりかれらをおそる
の念そのうちにおこりたればなり 39
エ
ホバは雲をきして蓋となし夜は
火をもて照したまへり 40
又かれら
の求によりて鶉をきたらしめ天の餅
にてかれらを飽しめたまへり 41
鶯
をひらきたまへば水ほどばしりいで
潤ひなきところに川をなして流れい
たり 42
エホバそのきよき聖言と
その僕アブラハムとおもひいでたま
ひたればなり 43
その民をみちび

きて喜びついでしめそのえらべる民をみちびきて謳ひついでしめたまへり 44 もろもろの國人の地をかれらに與へたまひしかば彼等もろもろのたみの勤勞をおのが有とせり 45 この彼等がその律にしたがひその法をまもらんが爲なり
エホバをほめたまへよ

Psalm 106

1 エホバをほめたまへエホバに感謝せよそのめぐみはふかくその憐憫はかぎりなし 2 たれかエホバの力ある事跡をかたりその讃べきことを悉とくいひあらはし得んや 3 審判をまもる人々つねに正義をおこなふ者はさいはひなり 4 エホバよなんぢの民にたまふ恵をもて我をおぼえなんぢの救をもてわれに臨みたまへ 5 さらば我なんぢの撰びたまへる者のさいはひを見なんぢの國の歡喜をよこびなんぢの嗣業とともに誇ることをせん 6 われら列祖とともに罪ををかせり我儕よこしまなし惡をおこなへり 7 われらの列祖はなんぢがエジプトにてなしたまへる奇しき事跡をさとらず汝のあはれみの豊かなるを心にとめず海のほとり即ち紅海のほとりにて逆きたり 8 されどエホバはその名のゆゑをもて彼等をすくひたまへりこは大きな能力をしらしめんとてなり 9 また紅海を叱咤したまひたれば乾きたりかくて民をみちびきて野をゆくがごとくに淵をすぎしめ 10 恨むるものの手よりかれらをすくひ仇の手よりかれらを贖ひたまへり 11 水その敵をおほひたればその一人だにのこりし者なかりき 12 このとき彼等そのみことばを信じその頌美をうたへり 13 彼等しばしがほどにその事跡をわすれその訓誨をまたず 14 野にいたくむさぼり荒野にて神をこころみたりき 15 エホバはかれらの願欲をかなへたまひしかどその靈魂をやせしめたまへり 16 たみは營のうちにモーセを嫉みエホバの聖者アロンをねたみしかば 17 地ひらけてダタンを呑みアピラムの黨類をおほひ 18 火はことのもがらの中にもえおこり焔はあしき者をやきつくせり 19 かれらはホレブの山にて犢をつくり鑄たる像ををがみたり 20 かくの如くおのが榮光をかへて草をくらふ牛のかたち似す 21 救主なる神はエジプトにて大なるわざをなし 22 ハムの地にて奇しき事跡をなし紅海のほとりにて懼るべきことを爲たまへり 23 この故にエホバかれらを亡さんと宣まへりされど神のえらみたまへる者モーセやぶれの隙間にありてその前にたちその烈怒をひきかへして滅亡をまぬかれしめたり 24 かれら美しき地を蔑しそのみことばを信ぜず 25 刺さへその幕屋にてつぶやきエホバの聲をもちかざりき 26 この故に手をあげて彼等にむかひたまへりこれ野にてかれらを斃れしめんとし 27 又もろもろの國のうちにてその裔をたふれしめもろもろの地にかれらを散

さんとしたまへるなり 28 彼らはバアルベオルにつきて死るものの祭物をくらひたり 29 斯のごとくその行爲をもてエホバの烈怒をひきいだしければえやみ侵しりたり 30 そのときピネハスたちて裁判をなせりかくて疫癘はやみぬ 31 ピネハスは萬代までとこしへにこのことを義とせられたり 32 民メリバの水のほとりにてエホバの烈怒をひきおこししかばかれらの故によりてモーセも禍害にあへり 33 かれら神の靈にそむきしかばモーセその口唇にて妄にもいひたればなり 34 かれらはエホバの命じたまへる事にしたがはずしてもろもろの民をほろぼさず 35 反てもろもろの國人とまじりをりてその行爲にならひ 36 おのが驕となりしその偶像につかへたり 37 かれらはその子女を鬼にささぐ 38 罪なき血すなはちカナンにささげたる己がむすこむすめの血をながしぬ 39 斯てくには血にてけがされたり 40 またそのわざは自己をけがしそのおこなふところは姦淫なり 41 このゆゑにエホバの怒その民にむかひて起りその嗣業をにくみて 42 かれらをもろもろの國の手にわたしたまへり彼等はおのれを恨るものに制へられ 43 おのれの仇にしへたげられその手の下にうちふせられたり 44 エホバはしばしば助けたまひしかどかれらは謀略をまうけて逆きそのよこしまに卑くせられたり 45 されどエホバはかれらの哭聲をききたまひしとき 46 その契約をかれらの爲におもひだしその憐憫のゆたかなるにより聖意をかへさせ給ひて 47 かれらを己がとりこにせられたる者どもに憐まるることを得しめたまへり 48 われらの神エホバよわれらをすくひて列邦のなかより取集めたまへわれらは聖名に謝しなんぢのほむべき事をほこらん 49 イスラエルの神エホバはとこしへより永遠までほむべきかな 50 すべての民はアーメンととなふべしエホバを讃稱へよ

Psalm 107

1 エホバに感謝せよエホバは恵ふかくましましてその憐憫かぎりなし 2 エホバの救贖をかうぶる者はみな然いふべきなり 3 エホバは敵の手よりかれらを贖ひもろもろの地よ東西南北よりとりあつめたまへり 4 かれら野にてあればたる路にさまよひその住ふべき邑にあはざりき 5 かれら饑また渴きそのうちの靈魂おとろへたり 6 斯てその困苦のうちにてエホバをよばはりたればエホバこれを患難よりたすけいだし 7 住ふべき邑にゆかしめんとて直き路にみちびきたまへり 8 願くはすべての人はエホバの恵により人の子になしたまへる奇しき事跡によりてエホバを讃稱へんことを 9 エホバは渴きたる靈魂をたらはせ饑たるたましひを嘉物

にてあかしめ給へばなり 10 くらきと死の蔭とに居るもの患難とくろがねとに縛しめらるるもの 11 神の言にそむき至高者のをしへを蔑しめければ 12 勤勞をもてその心をひくうしたまへりかれら仆れたれど助くるものもなかりき 13 斯てその困苦のうちにてエホバをよばはりたればエホバこれを患難よりすくひ 14 くらきと死のかげより彼等をみちびき出してその械をこぼちたまへり 15 願くはすべての人はエホバの恵により人の子になしたまへる奇しき事跡によりてエホバを讃稱へんことを 16 そはあかがねの門をこぼちくろがねの關木をたちりたまへり 17 愚かなる者はおのが窓の道により己がよこしまによりて惱めり 18 かれらの靈魂はすべての食物をきらひて死の門にちかづく 19 かくてその困苦のうちにてエホバをよばふエホバこれを患難よりすくひたまふ 20 その聖言をつかはして之をいやし之をその滅亡よりたすけいだしたまふ 21 願くはすべての人エホバのめぐみにより人の子になしたまへる奇しき事跡によりてエホバをほめたまへんことを 22 かれらは感謝のそなへをもをささげ喜びうたひてその事跡をいひあらはすべし 23 舟にて海にうかび患難によりてその靈魂とけり 27 左た右たにかたぶき酔たる者のごとく踉蹌てなす所をしらず 28 かくてその困苦のうちにてエホバをよばふエホバこれを患難よりたづさへいで 29 狂風をしづめて浪をおだやかにし給へり 30 かれらはおのが靜かなるをよこぶ斯てエホバはかれらをその望むところの澳にみちびきたまふ 31 願くはすべての人エホバの恵により人の子になしたまへる奇しき事跡によりてエホバをほめたまへんことを 32 かれら民の會にてこれをおがめ長老の座にてこれを讃稱ふべし 33 エホバは河を野にかはらせ泉をかわける地に變らせ 34 また豊かなる地にすめる民の惡によりてそこを鹵の地にかけらせ給ふ 35 野を池にかはらせ乾ける地をいづみにかはらせ 36 ここに餓たるものを住はせたまふされば彼らは己がすまひの邑をたて 37 畠にたねをまき葡萄園をまうけてそのむすべる實をえたり 38 エホバはかれらの貧くふえひろごれるまでに恵をあたへその牲畜のへることをも許したまはず 39 されどまた虐待くるしみ悲哀によりて滅ゆき且うなたれたり 40 エホバもろもろの君に侮辱をそそぎ道なき荒地にさまよはせたまふ 41 然はあれど貧しきものを患難のうちにて攀てその家族をいつじの群のごとくならしめたまふ 42 直きものは之をみて喜びもろもろの不義はその口をふさがん 43 すべて慧者はこれらのことに心をよせエホバの憐憫をさとるべし

Psalm 108

1 神よわが心はさだまれりわれ謳ひまつらん 稱まつらんわが榮をもてたたへまつらん 2 箏よ琴よさむべしわれ黎明をよびまさん 3 エホバよ我もろもろの民のなかにてなんぢに感謝しもろもろの國のなかにてなんぢをほめうたはん 4 そは汝のあはれみは大にして天のうへにあがりなんぢの眞實は雲にまでおよぶ 5 神よねがはくはみづからを天よりもたかくし榮光を全地のうへに擧たまへ 6 ねがはくは右の手をもて救をほどこしわれらに答をなして愛しみたまふものに助をえしめたまへ 7 神はその聖をもていひたまへりわれ甚くよこばん我シケムをわかちスコテの谷をはからん 8 グレアデはわがもマナセはわが有りエフライムも亦わが首のまよりなりエダはわが杖 9 モアブはわが足盤なりエドムにはわが履をなげんベリシテわが故によりて聲をあげよと 10 誰かれを堅固なる邑にすましめんや誰かれをみちびきてエドムにゆきしや 11 神よなんぢはわれらを棄たまひしにあらざるや神よなんぢはわれらの軍とともに出ゆきたまはず 12 ねがはくは助をわれにあたへて敵にむかはしめたまへ人のたすけは空しければなり 13 われらは神によりて勇しくはたらかんわれらの敵をふみたまふものは神なればなり

Psalm 109

1 わが讃たたる神よもだしたまふなれ 2 かれらは惡の口とあざむきの口とをあけて我にむかひいつはりの舌をもて我にかたり 3 うらみの言をもて我をかこみゆゑなく我をせめて鬪ふことあればなり 4 われ愛するにかれら反りてわが敵となる われただ祈るなり 5 かれらは惡をもてわが善にむくい恨をもてわが愛にむくいたり 6 ねがはくは彼のうへに惡人をたてその右方に敵をたしためたまへ 7 かれが鞠がるときはその罪をあらはにせられ又そのいのりは罪となり 8 その日はすくなくその職はほかの人にえられ 9 その子輩はみなしごととなりその妻はやもめとなり 10 その子輩はさすらひて乞丐そのあれたる處よりいできたりて食をもとむべし 11 彼のもてるすべてのものは債主にうばはれかれの勤勞は外人にかすめらるべし 12 かれに恵をあたふる人ひとりだになくかれの孤子をあはれむ者もなく 13 その裔はたえその名はつぎの世にきえうすべし 14 その父等のよこしまはエホバのみこころに記されその母のつみはきえざるべし 15 かれらは恒にエホバの前におかれその名は地より斷るべし 16 かかる人はあはれみを施すことをおもはず反りて貧しきもの乏しきもの心のいためる者をころさんとして攻たりき 17 かかる人は詛ふことをこのむこ

の故にのろひ己にいたる恵むことを
たのしまずこの故にめぐみ己にとほ
ざかれり 18 かかる人はころものご
とくに詛をきるこの故にのろひ水の
ごとくにおのれの衷にいり油のごと
くにおのれの骨にいれり 19 ねがは
くは詛をおのれのきたる衣のごとく
帯のごとくなして恒にみづから纏は
んことを 20 これらの事はわが敵と
わが靈魂にさからひて悪言をいふ者
とにエホバのあたへたまふ報なり 2
1 されど主エホバよなんぢの名のゆ
糸をもて我をかへりみたまへ
なんぢの憐憫はいとふかし
ねがはくは我をたすけたまへ 22
われは貧しくして乏し
わが心うちにて傷をうく 23
わがゆく状はゆふ日の影のごとく
また蝗のごとく吹さらるなり 24
わが膝は斷食によりてよるめき
わが肉はやせおとろふ 25
われは彼等にそしらるる者となれり
かれら我をみるときは首をふる 26
わが神エホバよねがはくは我をたす
けその憐憫にしたがひて我をすくひ
たまへ 27 エホバよこれらは皆なん
ぢの手よりいで汝のなしたまへるこ
となるを彼等にしらしめたまへ 28
かれらは詛へども汝はめぐみたまふ
かれらの立ときは恥かしめらるれど
もなんぢの僕はよろこばん 29 わが
もろもろの敵はあなどりを衣おのが
恥を外袍のごとくにまとふべし 30
われはわが口をもて大にエホバに謝
しおほくの人のなかにて讃まつらむ
31 エホバはまづしきもの右にた
ちてその靈魂を罪せんとする者より
之をすくひたまへり

Psalm 110

1 エホバわが主にのたまふ我な
んぢの仇をなんぢの承足とするまで
はわが右にざすべし 2 エホバはなん
ぢのちからの杖をシオンよりつぎい
ださしめたまはん汝はもろもろの仇
のなかに王となるべし 3 なんぢのい
きほひの日になんぢの民は聖なるう
るはしき衣をつけ
心よりよろこびて己をささげんなん
ぢは朝の胎よりいづる壯きものの露
をもてり 4 エホバ誓をたてて聖意を
かへさせたまふことなし汝はメルキ
セデクの状にひとしくとこしへに祭
司たり 5 主はなんぢの右にありてそ
のいかりの日に王等をうちたまへり
6 主はもろもろの國のなかにて審判
をおこなひたまはん
此處にも彼處にも屍をみたしめ寛潤
なる地をすぐる首領をうちたまへり
7 かれ道のほとりの川より涙てのみ
斯てかうべを擧ん

Psalm 111

1 エホバを讃たへよ我はなほ
きものの會あるひは公會にて心をつ
くしてエホバに感謝せん 2 エホバの
みわざは大なりすべてその事跡をし
たふものは之をかながへ究む 3 その
行ひたまふところは榮光ありまた稜
威ありその公義はとこしへに失す
ることなし 4 エホバはその奇しきみ

わざを人のこころに記しめたまへり
エホバはめぐみと憐憫にて充たまふ
5 エホバは己をおそるるものに糧を
あたへたまへりまたその契約をとこ
しへに心にとめたまはん 6 エホバは
もろもろの國の所領をおのれの民に
あたへてその作爲のちからを之にあ
らはしたまへり 7
その手のみわざは眞實なり公義なり
そのもろもろの訓諭はかたし 8 これ
らは世々がぎりなく堅くたち眞實と
正直にてなれり 9
エホバはそのために救贖をほどこし
その契約をとこしへに立たまへり
エホバの名は聖にしてあがむべきなり
10 エホバをおそるるは智慧のはじめ
なりこれらを行ふものは皆あきらか
なる聰ある人なりエホバの頌美はと
こしへに失ることなし

Psalm 112

1 エホバを讃まつれエホバを畏
れてそのもろもろの誠命をいたく喜
ぶものはさいはひなり 2 かかる人
のすゑは地にてつよく直きもの類は
さいはひを得ん 3
富と財とはその家にあるその公義は
とこしへにうすることなし 4 直き者
のために暗きなかにも光あらはる彼
は愚ゆたかに憐憫にみつる義しきも
のなり 5 恵をほどこし貸こをなす
者はさいはひなりかかる人は審判を
つくるときおのが訴をささへうべし
6 又とこしへまで動かさることな
からん義者はながく忘れらること
なかるべし 7
彼はあしき音信によりて畏れずその
心エホバに依頼みてさだまれり 8 そ
の心かたくたて懼ることなく敵
につきての願望をつひに見ん 9
彼はちらして貧者にあたふその正義
はとこしへにうすることなしその角
はあがめをうけて擧られん 10 惡者
はこれを見てうれへもだえ切齒しつ
つ消さらん
また惡きものの願望はほろぶべし

Psalm 113

1 エホバをほめまつれ汝等エホ
バの僕よほめまつれエホバの名をほ
めまつれ 2 今より永遠にいたるまで
エホバの名はほむべきかな 3 日のい
づる處より日のいる處までエホバの
名はほめらるべし 4 エホバはもろも
ろの國の上においてたかく
その榮光は天よりもたかし 5 われら
の神エホバにたぐふべき者はたれぞ
や寶座をその高處にすゑをひくく
して天と地とをかへりみ給ふ 7 まづ
しきものを塵よりあげしきものを
糞土よりあげて 8
もろもろの諸侯とともにすわらせ
その民のきみたちと共にすわせたま
はん 9
又はらみなき婦に家をまもらせおほ
くの子女のよろこばしき母たらしめ
たまふ エホバを讃まつれ

Psalm 114

1
イスラエルの民エジプトをいでヤコ
ブのいへ異言の民をはなれしとき 2
ユダはエホバの聖所となりイスラエ
ルはエホバの所領となれり 3 海はこ
れを見てにげヨルダンは後にしりぞ
き 4 山は牡羊のごとくをどり小山は
こひつじのごとく躍れり 5 海よなん
ぢ何とてにぐるやヨルダンよなんぢ
何とて後にしりぞくや 6 山よなにと
て牡羊のごとくをどるや小山よな
にとて小羊のごとく躍るや 7 地よ主
のみまへヤコブの神の前にをのけ 8
主はいはを池にかはらせ石をいづみ
に變らせたまへり

Psalm 115

1 エホバよ榮光をわれらに歸す
るなかれわれらに歸するなかなん
ぢのあはれみと汝のまこととの故に
よりてただ名にのみ歸したまへ 2
もろもろの國人はいかなればいふ
今かれらの神はいづくにありやと 3
然どわれらの神は天にいます神はみ
こころのままにすべての事をおこな
ひ給へり 4 かれらの偶像はしろかね
と金にして人の手のわざなり 5 その
偶像は口あれどいはず目あれどみず
6 耳あれどきかず鼻あれどかかず 7
手あれどとらず脚あれどあゆまず喉
より聲をいだすことなし 8 此をつ
くる者とこれに依頼むものとは皆こ
れにひとしからん 9
イスラエルよなんぢエホバに依頼め
エホバはかれらの助かれらの盾なり
10 アロンの家よなんぢらエホバによ
りたのめエホバはかれらの助かれら
の盾なり 11 エホバを畏るものよ
エホバに依頼めエホバはかれらの助
かれらの盾なり 12 エホバは我儕を
みこころに記たまへりわれらを恵み
イスラエルの家をめぐみアロンのい
へをめぐみ 13 また小なるも大なる
もエホバをおそるる者をめぐみたま
はん 14
願くはエホバなんぢらを増加へなん
ぢらとなんぢらの子孫とをましくは
へ給はんことを 15 なんぢらは天地
をつくりたまへるエホバに恵まる
者なり 16 天はエホバの天なりされ
ど地は人の子にあたへたまへり 17
死人も幽寂ところに下れるものも
ヤハを讃稱ふることなし 18 然どわれ
らは今より永遠にいたるまでエホバ
を讃まつらむ
汝等エホバをほめたたへよ

Psalm 116

1 われエホバを愛しむそはわが
聲とわが願望とをききたまへばなり
2 エホバみみを我にかたぶけたまひ
しが故にわれ世にあらんかぎりエホ
バを呼まつらむ 3 死の繩われをまと
ひ陰府のくるしめ我にのぞめり
われは患難とうれへににあへり 4
その時われエホバの名をよべりエホ
バよ願くはわが靈魂をすくひたまへ
と 5 エホバは恩恵ゆたかにして公義

ましませり
われらの神はあはれみ深し 6
エホバは愚かなるものを護りたまふ
われ卑くせられしがエホバ我をすく
ひたまへり 7
わが靈魂よなんぢの平安にかへれ
エホバは豊かになんぢを待ひたまへば
なり 8 汝はわがたましひを死より
わが目をなみだよりわが足を顛蹶よ
りたすけいだしたまひき 9 われは活
るもの國にてエホバの前にあゆま
ん 10 われ大になやめりといひつづ
もなほ信じたり 11
われ惶てしときに云らく
すべての人はいつはりなりと 12 我
いかにしてその賜へるもろもろの恩
恵をエホバにむくいんや 13 われ救
のさかづきをとりにエホバの名をよ
びまつらむ 14 我すべての民のまへ
にてエホバにわが誓をつくのはん 1
5 エホバの聖徒の死はそのみまへに
て貴とし 16
エホバよ誠にわれはなんぢの僕なり
われはなんぢの婢女の子にして汝の
しもべなり
なんぢわが線綫をときたまへり 17
われ感謝をそなへもとして汝にさ
さげん われエホバの名をよばん 18
我すべての民のまへにてエホバにわ
がちかひを償はん 19 エルサレムよ
汝のなかにてエホバのいへの大庭の
なかにて此をつくのふべし
エホバを讃まつれ

Psalm 117

1 もろもろの國よなんぢらエホ
バを讃まつれもろもろの民よなんぢ
らエホバを稱へまつれ 2 そはわれら
に賜ふその憐憫はおほいなりエホバ
の眞實はとこしへに絶ることなし
エホバをほめまつれ

Psalm 118

1 エホバに感謝せよエホバは恩
恵ふかくその憐憫とこしへに絶ること
なし 2 イスラエルは率いふべし
その憐憫はとこしへにたゆることな
しと 3 アロンの家はいざ言ふべし
そのあはれみは永遠にたゆることな
しと 4
エホバを畏るものは率いふべしそ
の憐憫はとこしへにたゆることなし
と 5
われ患難のなかよりエホバをよべば
エホバこたへて我をひろき處におき
たまへり 6 エホバわが方にいませば
われにおそえなし
人われに何をなしえんや 7 エホバは
われを助くるものとともに我がかた
に坐すこの故にわれを憎むものにつ
きての願望をわれ見んことをえん 8
エホバに依頼むは人にたよるよりも
勝りてよし 9 エホバによりたのむは
もろもろの侯にたよるよりも勝りて
よし 10
もろもろの國はわれを圍めりわれ
エホバの名によりて彼等をほろぼさん
11 かれらは我をかこめり我をかこめ
りエホバの名によりて彼等をほろぼ
さん 12
かれらは蜂のごとく我をかこめり

かれらは荊の火のごとく消たりわれはエホバの名によりてかれらを滅さん 13 汝われを倒さんとしていたく刺つれど
エホバわれを助けたまへり 14 エホバはわが力わが歌にしてわが救となりたまへり 15 歎喜とすくひとの聲はただしきもの幕屋にありエホバのみぎの手はいさましき動作をなしたまふ 16 エホバのみぎの手はたかくあがりエホバの右の手はいさましき動作をなしたまふ 17 われは死ることなからん存へてヤハの事跡をいひあらはさん 18 ヤハはいたく我をこらしたまひしかど死には付したまはざりき 19 わがために義の門をひらけ我そのうちにいりてヤハに感謝せん 20 こはエホバの門なりただしきものはその内にいるべし 21 われ汝に感謝せんなんぢ我にこたへてわが救となりたまへばなり 22 工師のすてたる石はすみの首石となれり 23 これエホバの成たまへる事にしてわれらの目にあやしとする所なり 24 これエホバの設けたまへる日なりわれらはこの日によるこびたのしまん 25 エホバよねがはくはわれらを今すくひたまへエホバよねがはくは我儕をいま榮えしめたまへ 26 エホバの名によりて来るものは福ひなりわれらエホバの家よりなんぢらを祝せり 27 エホバは神なりわれらに光をあたへたまへり繩をもて祭壇の角にいけにへをつなげ 28 なんぢはわが神なり我なんぢに感謝せんなんぢはわが神なり我なんぢを崇めまつらん 29 エホバにかんしやせよエホバは恩恵ふかくその憐憫とこしへに絶ることなし

Psalm 119

1おのが道をなほくしてエホバの律法をあゆむ者はさいはひなり 2 エホバのもろもろの證詞をまもり心をつくしてエホバを尋求むものは福ひなり 3 かかる人は不義をおこなはずしてエホバの道をあゆむなり 4 エホバよなんぢ訓諭をわれらに命じてねんごろに守らせたまふ 5 なんぢわが道をかたくたててその律法をまもらせたまはんことを 6 われ汝のもろもろの誠命にこころをとむるときは恥ることあらじ 7 われ汝のただしき審判をまなばば直き心をもてなんぢに感謝せん 8 われは律法をまもらんわれを棄はてたまふなかれ 9 わかき人はなにによりてかその道をきよめん聖言にしたがひて慎むのほかぞなき 10 われ心をつくして汝をたづねもてめり願くはなんぢの誠命より迷ひださしめ給ふなかれ 11 われ汝にむかひて罪ををかずまじき爲になんぢの言をわが心のうちに感へたり 12 讃べきかエホバよねがはくは律法をわれに教へたまへ 13 われわが口唇をもてなんぢの口よりいでしもろもろの審判をのべつたへたり 14 我もろもろの財貨をよろこぶごとく汝のあかしの道をよろこべり 1

5 我なんぢの訓諭をおもひ汝のみちに心をとめん 16 われは律法をよろこび聖言をわすることなからん 17 ねがはくは汝のしもべを豊にあしらひて存へしめたまへ 18 さらばわれ聖言をまもらん 19 なんぢわが眼をひらきなんぢの法のうちなる奇しきことを我にみせたまへ 19 われは世にある旅客なり 我になんぢの誠命をかくしたまふなかれ 20 斷るときなくなんぢの審判をしたふが故にわが靈魂はくだくるなり 21 汝はたかぶる者をせめたまへり 22 なんぢの誠命よりまよひづる者はのろはる 22 我なんぢの證詞をまもりたり我より謗とあなどりとを取去たまへ 23 又もろもろの侯は坐して相語りわれをそなはんとせり然はあれど汝のしもべは律法をふかく思へり 24 汝のもろもろの證詞はわれをよろこばせわれをさとす者なり 25 わが靈魂は塵につきぬなんぢの言にしたがひて我をいかしたまへ 26 我わがふめる道をあらはししかば汝こたへを我になしたまへりなんぢの律法をわれに教へたまへ 27 なんぢの訓諭のみちを我にわかまへしめたまへわれ汝のくすしき事跡をふかく思はん 28 わがたましひ痛めるにりてとけゆくねがはくは聖言にしたがひて我にちからを予へたまへ 29 願くはいつはりの道をわれより遠ざけなんぢの法をもて我をめぐみたまへ 30 われは眞實のみちをえらび 恒になんぢのもろもろの審判をわが前におけり 31 我なんぢの證詞をしたひて離れずエホバよねがはくは我をはづかしめ給ふなかれ 32 われ汝のいましめの道をはしらんその時なんぢわが心をひろく爲たまふべし 33 エホバよ願くはなんぢの律法のみちを我にをしへたまへわれ終にいたるまで之をまもらん 34 われに智慧をあたへ給へさらば我なんぢの法をまもり心をつくして之にしたがはん 35 われに汝のいましめの道をふましめたまへ 36 われその道をたのしめばなり 37 わが心をなんぢの證詞にかたぶかしめて貪利にかたぶかしめ給ふなかれ 37 わが眼をほかにむけて虚しきことを見ざらしめ 38 我をなんぢの途にて活し給へ 39 ひたすらに汝をおそる汝のしもべに聖言をかたくしたまへ 39 わがおそる謗をのぞきたまへそはなんぢの審判はきはめて善し 40 我なんぢの訓諭をしたへり願くはなんぢの義をもて我をいかしたまへ 41 エホバよ聖言にしたがひてなんぢの憐憫なんぢの拯救を我にのぞませたまへ 42 さらば我われを誘ふものに答ふることをえん 43 われ聖言によりたのめばなり 43 又わが口より眞理のこばをことごとく除き給ふなかれわれなんぢの審判をのぞみたればなり 44 われたえずいや永久になんぢの法をまもらん 45 われなんぢの訓諭をもめたるにより障なくしてあゆまん 46 われまた王たちの前になんぢの證詞をかた

りて恥ることあらじ 47 我わが愛するなんぢの誠命をもて己をたのしましめん 48 われ手をわがあいする汝のいましめに擧げ 49 なんぢの律法をふかく思はん 49 ねがはくは汝のしもべに宣ひたる聖言をおもひだしたまへ 50 汝われに之をのぞましめ給へり 50 なんぢの聖言はわれを活ししがゆゑに今もなほわが艱難のときの安慰なり 51 高ぶる者おほいに我をあざわらへりされど我なんぢの法をはなれざりき 52 エホバよわれ汝がふるき昔よりの審判をおもひだして自から慰めたり 53 なんぢの法をすつる悪者のゆゑによりて 54 我はげしき怒をおこしたり 54 なんぢの律法はわが旅の家にてわが歌となれり 55 エホバよわれ夜間になんぢの名をおもひだして 56 われ汝のさとしを守りしによりてこの事をえたるなり 57 エホバはわがうくべき有なりわれ汝のもろもろの言をまもらんといへり 58 われ心をつくして汝のめぐみを請求めたりねがはくは聖言にしたがひて我をあはれみたまへ 59 我わがすべての途をおもひ足をかへしてなんぢの證詞にむけたり 60 我なんぢの誠命をまもるに速くしてたゆたはざりき 61 悪きものの繩われに纏ひたれども我なんぢの法をわすれざりき 62 我なんぢのただしき審判のゆゑに夜半におきてなんぢに感謝せん 63 われは汝をおそる者またなんぢの訓諭をまもるものの侶なり 64 エホバよ汝のあはれみは地にみちたり願くはなんぢの律法をわれにしへたまへ 65 エホバよなんぢ聖言にしたがひ恵をもてその僕をあしらひたまへり 66 われ汝のいましめを信ずねがはくはわれに聡明と智識とををしへたまへ 67 われ苦しむる前にはまよひいでぬされど今はわれ聖言をまもる 68 なんぢは善にして善をおこなひたまふねがはくは汝のおきてを我にしへたまへ 69 高ぶるもの虚偽をくはだてて我にさからへりわれ心をつくしてなんぢの訓諭をまもらん 70 かれらの心はこえふとりて脂のごとしされど我はなんぢの法をたのしむ 71 困苦にあひたりしは我によきことなり此によりて我なんぢの律法をまなびえたり 72 なんぢの口の法はわがために千々のこがね白銀にもまされり 73 なんぢの手はわれを造りわれを形づくれりねがはくは智慧をあたへて我になんぢの誠命をまなばしめたまへ 74 なんぢを畏るものは我をみて喜ばんわれ聖言によりて望をいたきたればなり 75 エホバよ我はなんぢの審判のたたく又なんぢが眞實をもて我をくるしめたまひしを知る 76 ねがはくは汝のしもべに宣ひたる聖言にしたがひて汝の仁慈をわが安慰となしたまへ 77 なんぢの憐憫をわれに臨ませたまへさらばわれ生んなんぢの法はわが樂しめるところなり 78 高ぶるものに恥をかうぶらせたまへ

かれらは虚偽をもて我をくつがへしたればなりされど我なんぢの訓諭をふかくおもはん 79 汝をおそる者となんぢの證詞をしるものとを我にかへらしめたまへ 80 わがこころを全くして汝のおきてを守らしめたまへ 81 わが靈魂はなんぢの救をしたひてたえいるばかりなり然どわれなほ聖言によりて望をいだく 82 なんぢ何のとき我をなぐさむるやといひつつ我みことばを慕ふによりて眼おとろふ 83 我は煙のなかの革囊のごとくなりぬれども 84 尚なんぢの律法をわすれず 84 汝のしもべの日は幾何ありや汝いづれるとき我をせむるものに審判をおこなひたまふや 85 たかぶる者われを害はんとて阱をほれりかれらはなんぢの法にしたがはず 86 なんぢの誠命はみな眞實なり 87 かれらは虚偽をもて我をせむねがはくは我をたすけたまへ 87 かれらに地にてほとんども我をほろぼせりされど我はなんぢの訓諭をすてざりき 88 願くはなんぢの仁慈にしたがひて我をいかしたまへ然ばわれ御口よりいづる證詞をまもらん 89 エホバよみことばは天にてとこしえに定まり 90 なんぢの眞實はよろづ世におよぶなんぢ地をかたく立たまへば地はつねにあり 91 これらのものはなんぢの命令にしたがひ 92 恒にありて今日にいたる萬のものは皆なんぢの僕なればなり 92 なんぢの法わがたのしみとならざりしならば我はつひに患難のうちに滅びたるならん 93 われ恒になんぢの訓諭をわすれじ汝これをもて我をいかしたまへばなり 94 我はなんぢの有なりねがはくは我をすくひたまへ 95 悪きものは我をほろぼさんとして窺ひぬわれは唯なんぢのもろもろの證詞をおもはん 96 我もろもろの純全に限あるをみたりされど汝のいましめはいと廣し 97 われなんぢの法をいつくしむこといかばかりぞや 98 われ終日これを深くおもふ 98 なんぢの誠命はつねに我とともありて我をわが仇にまさりて悪からしむ 99 我はなんぢの證詞をふかくおもふが故にわがすべての師にまさりて智慧おほし 100 我はなんぢの訓諭をまもるがゆゑに老たる者にまさりて事をわかまふるなり 101 われ聖言をまもらんためにわが足をとめてもろもろのあしき途にゆかしめず 102 なんぢ我ををしへたまひしによりて我なんぢの審判をはなれざりき 103 みことばの滋味はわが腭にあまきこといかばかりぞや 104 我蜜のわが口に甘きにまさりて 104 我なんぢの訓諭によりて智慧をえたりこのゆゑに虚偽のすべての途をにくむ 105 なんぢの聖言はわがあしの燈火わが路のひかりなり 106 われなんぢのただしき審判をまもらんことをちかひ且かたせり 107 われ甚いたく苦しめりエホバよねが

はくは聖言にしたがひて我をいかしたまへ 108 エホバよねがはくは誠意よりするわが口の献物をうけてなんぢの審判ををしへたまへ 109 わが靈魂はつねに危険ををかすされど我なんぢの法をわすれず 110 あしき者がために霧をまうけたりされどわれ汝のさとしより迷ひいでざりき 111 われ汝のもろもろの證詞をとこしへにわが嗣業とせりこれらの證詞はわが心をよこばしむ 112 われ汝のおきてを終までとこしへに守らんとて之にこころを傾けたり 113 われ二心のものにくみ汝のおきてを愛しむ 114 なんぢはわが匿るべき所わが盾なりわれ聖言によりて望をいさぐ 115 悪きをなすものよ我をはなれされわれわが神のいましめを守らん 116 聖言にしたがひ我をささへて生存しめたまへわが望につきて恥なからしめたまへ 117 われを支へたまへさらばわれ安けかるべしわれ恒になんぢの律法にこころをそぞろに 118 すべて律法よりまよひいづるものを汝かろしめたまへりかれらの欺詐はむなしければなり 119 なんぢは地のすべての悪きものを渣滓のごとく除きさりたまふ
この故にわれ汝のあかしを愛す 120 わが肉體なんぢを懼るるによりてふるふ我はなんぢの審判をおそる 121 われは審判と公義とおこなふ我をすてて虐ぐるものに委ねたまふなかれ 122 汝のしもべの中保となりて福祉をえしめたまへ高ぶるもの我をしへたぐるを容したまふなかれ 123 わが眼はなんぢの救となんぢのただしき聖言とをしたふによりておとろふ 124 ねがはくはなんぢの憐憫にしたがひてなんぢの僕をあしらひ我になんぢの律法をしへたまへ 125 我はなんぢの僕なりわれに智慧をあたへてなんぢの證詞をしらしめたまへ 126 彼等はなんぢの法をすてたり今はエホバのはたらきたまふべき時なり 127 この故にわれ金よりもまじりなき金よりもまさりて汝のいましめを愛す 128 この故にもろもろのことに係るなんぢの一切のさとしを正しとおもふ我すべてのいつはりの途をにくむ 129 汝のあかしは妙なりかかるが故にわが靈魂これをまもる 130 聖言うちひらくれば光をはなちて愚かなるものをさとからしむ 131 我なんぢの誠命をしたふが故にわが口をひろくあけて喘ぎもとめたり 132 ねがはくは聖名を愛するものに恒になしたまふごとく身をかへして我をあはれたまへ 133 聖言をもてわが步履をととのへもろもろの邪曲をわれに主たらしめたまふなかれ 134 われを人のしへたげより贖ひたまへさらばわれ訓諭をまもらん 135 ねがはくは聖顔をなんぢの僕のうちにてらし 汝のおきてを我にしへ給へ 136 人なんぢの法をまもらざるによりてわが眼のなみだ河のごとくに流る 137 エホバよなんぢは義しくなんぢの審判はなほし 138 汝ただしきと此上なき眞實とをもて

その證詞を命じ給へり 139 わが敵なんぢの聖言をわすれたるをもてわが熱心われをほろぼせり 140 なんぢの聖言はいときよし 此故になんぢの僕はこれを愛す 141 われは微なるものにて人にあなどるれども汝のさとしを忘れず 142 なんぢの義はとこしへの義なり汝ののりは眞理なり 143 われ患難と憂とにかかれども汝のいましめはわが喜樂なり 144 なんぢの證詞はとこしへの義しねがはくはわれに智慧をたまへ 我ながらふることを得ん 145 われ心をつくしてよばはれり エホバよ我にこたへたまへ 我なんぢの律法をまもらん 146 われ汝をよばはれり ねがはくはわれを救ひ給へ 我なんぢの證詞をまもらん 147 われ詰朝おきいでて呼はれり われ聖言によりて望をいだけり 148 夜の更のきたらぬに先だちわが眼はさめて汝のみことばを深くおもふ 149 ねがはくはなんぢの仁慈にしたがひてわが聲をききたまへ エホバよなんぢの審判にしたがひて我をいかしたまへ 150 悪をおひもとむるものは我にちかづけり彼等はなんぢの法にとほくはなる 151 エホバよ汝はわれに近くましませり なんぢのすべての誠命はまことなり 152 われ早くよりなんぢの證詞によりて汝がこれを永遠にたてたまへることを知れり 153 ねがはくはわが患難をみて我をすくひたまへ 我なんぢの法をわすれざればなり 154 ねがはくはわが訟をあげつらひて我をあがなひ聖言にしたがひて我をいかしたまへ 155 すくひは悪きものより遠くはなるかれらはなんぢの律法をもとめざればなり 156 エホバよなんぢの憐憫はおほいなり 願くはなんぢの審判にしたがひて我をいかしたまへ 157 我をせむる者われに敵するものおほし我なんぢの證詞をはなれることなかりき 158 虚偽をおこなふもの汝のみことばを守らざるにより 我かれらを見てうれへたり 159 ねがはくはわが汝のさとしを愛すること幾何なるをかへりみたまへ エホバよなんぢの仁慈にしたがひて我をいかしたまへ 160 なんぢのみことばの總計はまことなり汝のただしき審判はとこしへにいたるまで皆たゆることなし 161 もろもろの侯はゆゑなくして我をせむ然どわが心はただ汝のみことばを畏る 162 われ人のおほいなる掠物をえたるごとくに 汝のみことばをよこば 163 われ虚偽をにくみ之をいみきらへども 汝ののりを愛す 164 われ汝のただしき審判のゆゑをもて一日に七次なんぢを讃稱ふ 165 なんぢの法をあいするものには大なる平安ありかれらには躓礙をあたふる者なし 166 エホバよ我なんぢの救をのぞみ汝のいましめをおこなへり 167 わが靈魂はなんぢの證詞をまもれり 我はいたく之をあいす 168 われなんぢの訓諭となんぢの證詞とをまもりぬわがすべての道はみまへにあれば

なり 169 エホバよ願くはわがよぶ聲をみまへにちかづけ聖言にしたがひて我にちよをあたへたまへ 170 わが願をみまへにいたらせ聖言にしたがひて我をたすけたまへ 171 わがくちびるは讚美をいだすべし汝われに律法をしへ給へばなり 172 わが舌はみことばを謳ふべしなんぢの一切のいましめは義なればなり 173 なんぢの手をつねにわが助となし 174 たまへわれなんぢの訓諭をえらび用ゐたればなり 175 エホバよ我なんぢの救をしへり なんぢの法はわがたのしみなり 176 願くはわが靈魂をながらへしめたまへさらば汝をほめたたへん 汝のさばきの我をたすけんことを 176 われは亡はれたる羊のごとく迷ひいでぬ なんぢの僕をたづねたまへ われ汝のいましめを忘れざればなり

Psalm 120

1 われ困苦にあひてエホバをよびしかば我にこたへたまへり 2 エホバよねがはくは虚偽のくちびる欺詐の舌よりわが靈魂をたすけいだしたまへ 3 あざむきの舌よなんぢに何をあたへられ何をくはへらるべきか 4 ますらをの利き箭と金萵花のあつき炭となり 5 わざはひなるかな我はメセクにやどりケダルの幕屋のかたはらに住めり 6 わがたましひは平安をにくむものと偕にすめり 7 われは平安をねがふされど我ものいふときにかれら戦争をこのむ

Psalm 121

1 われ山にむかひて目をあくわが扶助はいづこよりきたるや 2 わがたすけは天地をつくりたまへるエホバよりきたる 3 エホバはなんぢの足のうごかざるを容したまはず汝をまもるものは微睡たまふことなし 4 視よイスラエルを守りたまふものは微睡こともなく寝ることもなからん 5 エホバは汝をまもる者なり エホバはなんぢの右手をおほふ蔭なり 6 ひるは日なんぢをうたず夜は月なんぢを傷じ 7 エホバはなんぢを守りてもろもろの禍害をまぬかれしめ並なんぢの靈魂をまもりたまはん 8 エホバは今よりとこしへにいたるまで汝のいづると入るとをまもりたまはん

Psalm 122

1 人われにむかひて率エホバのいへにゆかんといへるとき我よこべり 2 エルサレムよわれらの足はなんぢの門のうちにたてり 3 エルサレムよなんぢは稠くつらなりたる邑のごとく固くたてり 4 もろもろのやから即ちヤハの支派かきこに上りきたりイスラエルにむかひて證詞をなしまたエホバの名にかんしやをなす 5 彼處にさばきの寶座まうけらるこれダビデの家のみくらなり 6 エルサレムのために平安をいのれ エルサレムを愛するものは榮ゆべし 7

ねがはくはなんぢの石垣のうちに平安ありなんぢの諸殿のうちに福祉あらんことを 8 わが兄弟のためわが侶のためにわれ今なんぢのなかに平安あれといはん 9 われらの神エホバのいへのために我なんぢの福祉をもとめん

Psalm 123

1 天にいますものよ我なんぢにむかひて目をあく 2 みよ僕その主の手に目をそそぎ婢女その主母の手に目をそそぐのごとくわれらはわが神エホバに目をそそぎてそのわれを憐みたまはんことをまつ 3 ねがはくはわれらを憐みたまへ エホバよわれらを憐みたまへ そはわれらに輕侮はみちあふれぬ 4 おもひわづらひなきものの凌辱とたかぶるもの輕侮とはわれらの靈魂にみちあふれぬ

Psalm 124

1 今イスラエルはいふべし エホバもしわれらの方にいまさず 2 人々われらにさからひて起りたつとき エホバもし我儕のかたに在ざりしならんには 3 かれらの怒のわれらにむかひておこりし時 われらを生るままにて呑しならん 4 また水はわれらをおほひ 流はわれらの靈魂をうちこえし 5 高ぶる水はわれらの靈魂をうちこえしならん 6 エホバはほむべきかな我儕をかれらの齒にわたして嚙くらはせたまはざりき 7 我儕のたましひは捕鳥者のわなをのがる鳥のごとくにのがれたり 羅はやぶれてわれらはのがれたり 8 われらの助は天地をつくりたまへるエホバの名にあり

Psalm 125

1 エホバに依頼むものはシオンの山のうごかざることなくして永遠にあるごとく 2 エルサレムを山のかこめるごとく エホバ今よりとこしへにその民をかこみたまはん 3 惡の杖はただしきものの所領にとどまることなかるべし 斯てただしきものはその手を不義にのぶることあらじ 4 エホバよねがはくは善人とこころ直きものとに福祉をほどこし 5 されどエホバは轉へりておのが曲れる道にいるものを悪きわざをなすものととも去しめたまはん 平安はイスラエルのうへにあれ

Psalm 126

1 エホバ、シオンの俘囚をかへしたまひし時われらは夢みるものごとくなりき 2 そのとき笑はわれらの口にみち歌はわれらの舌にみりて エホバかれらのために大なることを作たまへりといへる者もろもろの國のなかにありき 3 エホバわれらのために大なることをなしたまわれれば我儕はたのしめり 4 エホバよ願くは

われらの俘囚をみなみの川のごとくに歸したまへ 5 涙とともに播くものは歡喜とともに穫らん 6 その人は種をたづさへ涙をながしていでゆけど禾束をたづさへ喜びてかへりきたらん

Psalm 127

1
エホバ家をたてたまふにあらずば建るもの勤勞はむなくエホバ城をまもりたまふにあらずば衛士のさめをるは徒勞なり 2 なんぢら早くおき遅くいねて辛苦の糧をくらふはむなしきなり 3 斯てエホバその愛しみたまふものに寝をあたへたまふ 3 みよ子輩はエホバのあたへたまふ嗣業にして胎の實はその報のたまものなり 4 年壯きころほひの子はますらをの手にある矢のごとし 5 矢のみちたる艱をもつ人はさいはひなりかれら門にありて仇ともいふとき恥ることあらじ

Psalm 128

1 エホバをおそれその道をおよむものは皆さいはひなり 2 そのなんぢおのが手の勤勞をくらふべければなり 3 なんぢは福祉をえまた安處ををるべし 3 なんぢの妻はいへの奥にをりておほくの實をむすぶ葡萄の樹のごとく 4 汝の子輩はなんぢの筵に円居してかんらん若樹のごとし 4 見よエホバをおそる者はかく福祉をえん 5 エホバはシオンより恵をなんぢに賜はんなんぢ世にあらんかぎりエルサレムの福祉をみん 6
なんぢおのが子輩の子をみるべし 平安はイスラエルの上におり

Psalm 129

1 今イスラエルはいふべし彼等はしばしば我をわかきときより惱めたり 2 かれらはしばしば我をわかきときより惱めたり 3 されどわれに勝たをたがへしてその吠をながくせり 4 エホバは義しあしきもの繩をたちたまへり 5 シオンをにくむ者はみな恥をおびてしりぞかせらるべし 6 かれらは長たざるさきにかかる屋上の草のごとし 7 これを刈るものはその手にみたずをつかぬるものはその束ふところに盈ざるなり 8 かたはらを過るものはエホバの恵なんぢの上にあれといはずわれらエホバの名によりてなんぢらを祝すといはず

Psalm 130

1 ああエホバよわれふかき淵より汝をよべり 2 主よねがはくはわが聲をきき汝のみみをわが懇求のこゑにかたづけたまへ 3 ヤハよ主よなんぢ若もろもろの不義に目をとめたまはば誰たれかよく立ことをえんや 4 されどなんぢに赦あれば人におそれ

かしこまれ給ふべし 5
我エホバを俟望む
わが靈魂はまちのぞむわれはその聖言によりて望をいだく 6 わがたましひは衛士があしたを待にまさり誠にえじが目をまつにまさりて主をまつり 7 イスラエルよエホバによりて望をいだけそはエホバにあはれみあり 8 またゆたかなる救贖あり 8 エホバはイスラエルをそのもろもろの邪曲よりあがなひたまはん

Psalm 131

1 エホバよわが心おごらずわが目たかぶらずわれは大なることと我におよばぬ奇しき事とをつとめざりき 2 われはわが靈魂をもださしめまた安からしめたり 乳をたちし嬰兒のその母にたよるごとく我がたましひは乳をたちし嬰兒のごとくわれに侍れり 3 イスラエルよ今よりとこしへにエホバにたよりて望をいだけ

Psalm 132

1 エホバよねがはくはダビデの爲にそのもろもろの憂をこころに記たまへ 2 ダビデ、エホバにちかひヤコブの全能者にうけひていふ 3 われエホバのために處をたづねいだしヤコブの全能者のために居所をもとめうるまでは 我家の幕屋にいらずわが臥床にのぼらずわが目をねぶらしめずわが眼瞼をどがしめざるべしと 6 われらエフラタにて之をききヤアルの野にて見とめたり 7
われらはその居所にゆきてその承足のまへに俯伏さん 8
エホバよねがはくは起きてなんぢの稜威の糧とともになんぢの安居所にいりたまへ 9
なんぢの祭司たちは義を衣なんぢの聖徒はみな歡びよばふべし 10 なんぢの僕ダビデのためになんぢの受膏者の面をしりぞけたまふなけれ 11 エホバ眞實をもてダビデに誓ひたまひたれば之にたがふことあらじ曰くわれなんぢの身よりいでし者をなんぢの座位にざせしめん 12 なんぢの子輩もしわがをしふる契約と證詞とをまもらばかれらの子輩もまた永遠になんぢの座位にざすべしと 13 エホバはシオンを擇びておのが居所にせんとのぞみたまへり 14
曰くこれは永遠にわが安居處なり われここに住ん
そはわれ之をのぞみたればなり 15
われシオンの糧をゆたかに祝しくひものをもてその貧者をあかしめん 1
6
われ救をもてその祭司たちに衣せん その聖徒はみな聲たからかによるこびよばふべし 17 われダビデのためにかしこに一つの角をはえしめんわが受膏者のために燈火をそなへたり 18
われかれの仇にはぢを衣せん されどかれはその冠弁さかゆべし

Psalm 133

1 觀よはらから相睦でともにをるはいかに善いかに樂きかな 2 首にそそがれたる貴きあぶら鬚にながれアロンの鬚にながれその衣のすそにまで流れしたたるがごとく 3 またヘルモンの露くだりてシオンの山にながるがごとしそはエホバかしこに福祉をくだし窮なき生命をさへあたへたまへり

Psalm 134

1 夜間エホバの家にたちエホバに事ふるもろもろの僕よ
エホバをほめまつれ 2 なんぢら聖所にむかひ手をあげてエホバをほめまつれ 3 ねがはくはエホバ天地をつくりたまへるものシオンより汝をめぐみたまはんことを

Psalm 135

1 なんぢらエホバを讃稱へよ
エホバの名をほめたたへよ
エホバの僕等ほめたたへよ 2 エホバの家われらの神のいへの大庭にたつものよ讃稱へよ 3 エホバは恵ふかしなんぢらエホバをほめたたへよ
その聖名はうるはし讃うたへ 4 そはヤハおのがためにヤコブをえらみイスラエルをえらみてその珍寶となしたまへり 5 われエホバの大なるとわれらの主のもろもろの神にまされるとをしり 6 エホバその聖旨にかなふことを天にも地にも海にも淵にもみなことごとく行ひ給ふなり 7
エホバは地のはてより霧をのぼらせ雨のために電光をつくりその庫より風をいだしたまふ 8 エホバは人より畜類にいたるまでエジプトの首出をうちたまへり 9 エジプトよエホバはなんぢの中にしるしと奇しき事跡をおくりて
パロとその僕とに臨ませ給へり 10
エホバはおほくの國々をうち又いきほひある王等をころし給へり 11
アモリ人のわうシホン、バシヤンの王オグならばカナンの國々なり 12
かれらの地をゆづりとしその民イスラエルの嗣業としてあたへ給へり 13
エホバよなんぢの名はとこしへに絶ることなしエホバよなんぢの記念はよろづ世におよばん 14
エホバはその民のために審判をなしその僕等にかかはれる聖意をかへたまふ可ればなり 15
もろもろのくにの偶像はしろかねと金にして人の手のわざなり 16
そのぐうざうは口あれどいはず目あれど見ず 17
耳あれどきかずまたその口に氣息あることなし 18
これを造るもの之によりたのむものとは皆これにひとしからん 19
イスラエルの家よエホバをほめまつれアロンのいへよエホバをほめまつれ 20
レビの家よエホバをほめまつれエホバを畏るものよエホバをほめまつれ 21
エルサレムにすみたまふエホバはシオンにて讃まつべきかな
エホバをほめたたへよ

Psalm 136

1 エホバに感謝せよエホバはめぐみふかしその憐憫はとこしへに絶ることなければなり 2
もろもろの神の神にかんしやせよその憐憫はとこしへにたゆることなければなり 3
もろもろの主の主にかんしやせよその憐憫はとこしへにたゆることなければなり 4
ただ獨りおほいなる奇跡なしたまふものに感謝せよその憐憫はとこしへにたゆることなければなり 5
智慧をもてもろもろの天をつくりたまへるものに感謝せよそのあはれみはとこしへにたゆることなければなり 6
地を水のうへに布たまへるものに感謝せよそのあはれみは永遠にたゆることなければなり 7
巨大なる光をつくりたまへる者にかんしやせよその憐憫はとこしへに絶ることなければなり 8
晝をつかさどるために日をつくりたまへる者にかんしやせよその憐憫はとこしへにたゆることなければなり 9
夜をつかさどるために月ともろもろの星とをつくりたまへる者にかんしやせよその憐憫はとこしへにたゆることなければなり 10
もろもろの首出をうちエジプトを責たまへるものに感謝せよそのあはれみは永遠にたゆることなければなり 11
イスラエルを率てエジプト人のなかより出だしたまへる者にかんしやせよそのあはれみはとこしへに絶ることなければなり 12
臂をのばしつよき手をもて之をひきだしたまへる者にかんしやせよその憐憫はとこしへにたゆることなければなり 13
紅海をふたつに分たまへる者にかんしやせよその憐憫はとこしへにたゆることなければなり 14
イスラエルをしてその中をわたらしめ給へるものに感謝せよそのあはれみは永遠にたゆることなければなり 15
パロとその軍兵とを紅海のうちについたまへるものに感謝せよそのあはれみは永遠にたゆることなければなり 16
その民をみちびきて野をすぎしめたまへる者にかんしやせよその憐憫はとこしへにたゆることなければなり 17
大なる王たちを撃たまへるものに感謝せよそのあはれみは永遠にたゆることなければなり 18
名ある王等をころしたまへる者にかんしやせよその憐憫はとこしへに絶ることなければなり 19
アモリ人のわうシホンをころしたまへる者にかんしやせよその憐憫はとこしへにたゆることなければなり 20
バシヤンのわうオグを誅したまへるものに感謝せよそのあはれみは永遠にたゆることなければなり 21
かれらの地を嗣業としてあたへたまへる者にかんしやせよその憐憫はとこしへにたゆることなければなり 22
その僕イスラエルにゆづりとして之をあたへたまへるものに感謝せよそのあはれみは永遠にたゆることなければなり 23
われらが微賤かりしときに記念したまへる者にかんしやせよその憐憫はとこしへに絶ることなければなり 24
わが敵よりわれらを助けいだしたまへる者にかんしやせよその憐憫は

とこしへに絶ることなければなり 2
5 すべての生るものに食物をあたへ
たまふものに感謝せよそのあはれみ
はとこしへに絶ることなければなり
26 天の神にかんしやせよ その憐憫
はとこしへに絶ることなければなり

Psalm 137

1 われらバビロンの河のほとり
にすわりシオンをおもひいでて涙を
ながしぬ 2 われらそのあたりの柳に
わが琴をかけたなり 3 そはわれらを虜
にせしものわれらに歌をもとめたり
我儕をくるしむる者われらにおのれ
を歎ばせんとて
シオンのうた一つうたへといへり 4
われら外邦にありていかでエホバの
歌をうたはんや 5 エルサレムよもし
我なんぢをわすれなばわが右の手に
その巧をわすれしめたまへ 6
もしわれ汝を思ひいでずもしわれ
エルサレムをわがすべての歡喜の極と
なさずばわが舌をわが脛につかしめ
たまへ 7 エホバよねがはくはエルサ
レムの日にエドムの子輩がこれを掃
除けその基までもはらひのぞけとい
へるを聖意にとめたまへ 8
ほろぼさるべきバビロンの女よなん
ぢがわれらに作しごとく汝にむくゆ
る人はさいはひなるべし 9 なんぢの
嬰兒をとりて岩のうへになげうつも
のは福ひなるべし

Psalm 138

1 われはわが心をつくしてなん
ぢに感謝しもろもろの神のまへにて
汝をほめうたはん 2 我なんぢのきよ
き宮にむかひて伏拝みなんぢの仁慈
とまこととの故によりて聖名にかん
しやせんそは汝そのみことばをもち
もろの聖名にまさりて高くしたまひ
たればなり 3
汝わがよばはりし日にわれにこたへ
わが靈魂にちからをあたへて雄々し
からしめたまへり 4 エホバよ地のす
べての王はなんぢに感謝せんかれら
はなんぢの口のもろもろの言をきき
たればなり 5 かれらはエホバのもろ
もろの途についてうたはん
エホバの榮光おほいなければなり 6 エ
ホバは高くましませども卑きものを
顧みたまふされど亦おこされるもの
を遠よりしりたまへり 7 縦ひわれ患難
のなかを歩むとも汝われをふたたび
活しその手をのばしてわが仇のいかり
をふせぎその右の手われをすくひ
たまふべし 8 エホバはわれに係れる
ことを全うしたまはんエホバよなん
ぢの憐憫はとこしへにたゆることなし
願くはなんぢの手のもろもろの事
跡をすてたまふなかれ

Psalm 139

1 エホバよなんぢは我をさぐり
我をしりたまへり 2
なんぢはわが坐るをも立をもしり又
とほよりわが念をわきまへたまふ
3 なんぢはわが歩むをもわが臥をも
さぐりいだしわがもろもろの途をこ

とごとく知たまへり 4 そはわが舌に
一言ありとも觀よエホバよなんぢこ
とごとく知たまふ 5
なんぢは前より後よりわれをかこみ
わが上にその手ををき給へり 6 かか
る知識はいとくすしくて我にすぐ
また高くして及ぶことあたはず 7 我
いづこにゆきてなんぢの聖靈をはな
れんやわれいづこに往てなんぢの前
をのがれんや 8 われ天にのぼるとも
汝かしこにいまし
われわが榻を陰府にまうくるとも
觀よなんぢ彼處にいます 9 我あけぼ
のの翼をかりて海のはてにすむとも
10 かしこにて尚なんぢの手われをみ
ちびき汝のみぎの手われをもちたま
はん 11 暗はかならず我をおほひ
我をかこめる光は夜とならんと我い
ふとも 12 汝のみまへには暗ものを
かくすことなく
夜もひるのごとくに輝けりなんぢに
はくらきも光もことなることなし 1
3 汝はわがはらわたをつくり又わが
はの胎にわれを組成たまひたり 1
4
われなんぢに感謝す
われは畏るべく奇しくつくられたり
なんぢの事跡はことごとくすしわ
が靈魂はいとつばらに之をしれり 1
5 われ隠れたるところにてつくられ
地の底所にて妙につくりあはされし
ときわが骨なんぢにかくることな
かりき 16
わが體いまだ全からざるに
なんぢの目ははやくより之をみ日々
かたづつられしわが百體の一だに
あらざりし時にことごとくなんぢの
冊にしろされたり 17 神よなんぢり
もろもろの思念はわれに賣きことい
かばかりぞやそのみおもひの總計は
いかに多きかな 18 我これを算へん
とすれどもそのかずは沙よりもおほ
しわれ眼さむるときも尚なんぢと
もにをる 19 神よなんぢはかならず
惡者をころし給はんされば血をなが
すもよ我をはなれされ 20 かれら
はあしき企圖をもて汝にさからひて
言ふなんぢの仇はみだりに聖名をと
なふるなり 21 エホバよわれは汝を
にくむ者をにくむにあらざらん
に逆ひておこりたつものを厭ふにあ
らずや 22 われ甚くかれらをにくみ
てわが仇とす 23 神よねがはくは我
をさぐりてわが心をしり我をこころ
みてわがもろもろの思念をしりたま
へ 24 ねがはくは我によこしまなる
途のありやなしやを見て
われを永遠のみちに導きたまへ

Psalm 140

1 エホバよねがはくは惡人より
われを助けいだし我をまもりて強暴
人よりのがれしめたまへ 2
かれらは心のうちに殘害をくはだて
たえざり戦闘をおこす 3
かれらは蛇のごとくおのが舌を利す
そのくちびるのうちに蝮の毒あり
セラ 4 エホバよ願くはわれを保ちて
あしきひとの手よりのがれしめ我を
まもりてわが足をつまづかせんと謀
るあらぶる人よりのがれしめ給へ 5
高ぶるものはわがために竊と索とを
ふせ 路のほとりに網をはり

かつ機をまうけたり 6 セラ 7 われエ
ホバにいへらく汝はわが神なりエホ
バよねがはくはわが祈のこゑをきき
給へ 7 わが救のちからなる主の神よ
なんぢはたたかひの日にわが首をお
ほひたまへり 8 エホバよあしきひと
の欲のままにすることをゆるしたま
ふなかれそのあしき企圖をとげしめ
たまふなかれ
おそらくは彼等みづから誇らん
セラ 9 われを圍むもの首はおのれ
のくちびるの殘害におほはるべし 1
0 もえたる炭はかれらのうへにおち
かれらは火になげいれられふかき穴
になげいれられて再びおきいづること
あたはざるべし 11
惡言をいふものは世にたてられず暴
ぶるものはわざはひに追及れてたふ
さるべし 12 われは苦しむもの訴
とまづしきもの義とをエホバの守り
たまふを知る 13 義者はかならず
聖名にかんしやし直者はみまへに住
ん

Psalm 141

1 エホバよ我なんぢを呼ぶねが
はくは速かにわれにきたりたまへわ
れ汝をよばふときわが聲に耳をかた
ぶけたまへ 2 われは薫物のごとくに
わが祈をみまへにささげ夕のそなへ
もの如くにわが手をあげて聖前に
ささげんことをねがふ 3 エホバよ
ねがはくはわが口に門守をおきて
わがくちびるの戸をまもりたまへ 4
惡事にわがこころを傾かしめて邪曲
をおこなふ者ととも惡きわざにあ
づからしめ給ふなかれ又かれらの珍
饈をくらはしめたまふなかれ 5 義者
われをうつとも我はこれを愛しみつ
しその我をせむるを頭のあぶらとせ
んわが頭はこれを辭まずかれらが禍
害にあふときもわが祈はたえじ 6
その審士ははほの唾になげられんか
れらわがことばの甘美によりて聽こ
ことをすべし 7 人つちを耕しうがつ
ごとく我儕のほねははかの口にちら
さる 8 されど主エホバよわが目はな
ほ汝にむかふ我なんぢに依頼めりね
がはくはわが靈魂をもしきまにま
に捨おきたまふなかれ 9 我をまもり
てかれらわがためにまうくる竊とよこ
しまを行ふものの機とをまぬかれし
めたまへ 10 われは全くのがれん あ
しきものをおのれの網におちいらし
めたまへ

Psalm 142

1
われ聲をいだしてエホバによばはり
聲をいだしてエホバにこひもとむ 2
われはその聖前にわが歎息をそそぎ
いだし
そのみまへにわが患難をあらはす 3
わが靈魂わがうちにきえうせんとす
るときも汝わがみちを識たまへり人
われをとらへんとてわがゆくみちに
竊をかくせり 4 願くはわがみぎの
手に目をそそぎて見たまへ
一人だに我をしるものなしわれには
避所なくまたわが靈魂をかへりみる
人なし 5 エホバよわれ汝をよばふ

我いへらく汝はわがさけどころ有生
の地にてわがうべき分なりと 6 ねが
はくはわが號呼にみこころをとめた
まへ
われいたく卑くせられたればなり
我をせむる者より助けいだしたまへ
彼等はわれにまさりて強ければなり
7 願くはわがたましひを圍園よりい
だしわれに聖名を感謝せしめたまへ
なんぢ豊かにわれを待ひたまふべ
ければ 義者われをめぐらん

Psalm 143

1
エホバよねがはくはわが祈をきき
わが懇求にみみをかたぶけたまへな
んぢの眞實なんぢの公義をもて我に
こたへたまへ 2 汝のしもべの審判に
かかつたたまふなかれそはいける
もの一人だにみまへに義とせらる
はなし 3 仇はわがたましひを迫め
わが生命を地にうちすて死てひさしく
世を経たるものごとく我をくらき
所にすまはせたり 4 又わがたましひ
はわが衷にきえうせんとし
わが心はわがうちに曠ざりたり 5
われはいにしへの日をおもひいで汝
のおこなひたまひし一切のことを考
へ なんぢの手のみわざをおもふ 6
われ汝にむかひてわが手をのべわ
がたましひは燥きおとろへたる地のご
とく汝をきたり 7
エホバよ速かにわれにこたへたまへ
わが靈魂はおとろふ
われに聖顔をかくしたまふなかれお
そらくはわれ穴にくだるもののご
くならん 8
朝になんぢの仁慈をきかしめたまへ
われ汝によりたのめばなり
わが歩むべき途をしらせたまへわれ
わが靈魂をなんぢに攀ればなり 9
エホバよねがはくは我をわが仇より
たすけ出したまへわれ隠れんとし
汝にはしりゆく 10 汝はわが神なり
われに聖旨をおこなふことをしへ
たまへ 11 願くは我をたひら
かなる國にみちびきたまへ 12 エ
ホバよねがはくは聖名のために我を
いかしなんぢの義によりてわがたま
しひを患難よりいだしたまへ 12 又
なんぢの仁慈によりてわが仇をたち
靈魂をくるしむる者をことごとく滅
したまへ そは我なんぢの僕なり

Psalm 144

1 戰することをわが手にをしへ
闘ふことをわが指にしへたまふ
わが響エホバはほむべきかな 2
エホバはわが仁慈わが城なりわがた
かき櫓われをすくひたまふ者なり
わが盾わが依頼むものなりエホバは
わが民をわれにしたがはせたまふ 3
エホバよ人はいかなる者なれば之を
しり人の子はいかなる者なれば之を
みこころに記たまふや 4
人は氣息にことならずその存らふる
日はすぎゆく影にひとし 5 エホバ
よねがはくはなんぢの天をたれてくだ
り手山につけて煙をたたしめたま
へ 6
電光をうちいだして彼等をちらしな

んぢの矢をはなちてかれらを取りたまへ7上より手をのべ我をすくひて大水より外人の手よりたすけいだしたまへ8
かれらの口はむなしき言をいひその右の手はいつはりのみぎの手なり9神よわれ汝にむかひて新らしき歌をうたひ十絃の琴にあはせて汝をほめうたはん10
なんぢは王たちに救をあたへ僕ガビデをわざはひの劔よりすくひたまふ神なり11ねがはくは我をすくひて外人の手よりたすけいだしたまへ
かれらの口はむなしき言をいひその右の手はいつはりのみぎの手なり12われらの男子はとしわかきとき育ちたる草木のごとくわれらの女子は宮のふりにならひて刻みいだし隅の石のごとくらん13われらの倉はみちたらひてさまさまのものをそなへわれらの羊は野にて千萬の子をうみ14
われらの牡牛はよく物をおひわれらの衢にはせめいることなく亦おしいづることなく叫ぶこともなからん15かかる状の民はさいはひなりエホバをおのが神とする民はさいはひなり

Psalm 145

1わががみ王よわれ汝をあがめ世かぎりなく聖名をほめまつらん2われ日ごとに汝をほめ世々かぎりなく聖名をはめたたへん3エホバは大にましませば最もほむべきかなその大なることは尋ねしることかたし4この代はかの代にむかひてなんぢの事跡をほめたたへなんぢの大能のはたらきを宣つたへん5われ汝のほまれの榮光ある稜威となんぢの奇しきみわざとを深くおもはん6人はなんぢのおそるべき動作のいきほひをかたり我はなんぢの大なることを宣つたへん7かれらはなんぢの大なる恵の跡をいひいで
なんぢの義をほめうたはん8
エホバは恵ふかく憐憫みちまた怒りたまふことおそく憐憫おほいなり9
エホバはよろづの者にめぐみありそのふかき憐憫はみわざの上にあまねし10
エホバよ汝のすべての事跡はなんぢに感謝し
なんぢの聖徒はなんぢをほめん11
かれらは御國のえいくわうをかたり汝のみちからを宣つたへて12
その大能のはたらきとそのみくにの榮光あるみいつとを人の子輩にしらすべし13
なんぢの國はとこしへの國なりなんぢの政治はよろづ代にたゆることなし14
エホバはすべて倒れんとする者をささへかがむものを直くたしたまふ15
よろづのものの目はなんぢを待なんぢは時にしたがひてかれらに糧をあたへ給ふ16
なんぢ手をひらきてもるもろの生るものの願望をあかしまつ17
エホバはそのすべての途にたたくそのすべての作爲にめぐみふかし18
すべてエホバをよぶもの誠をもて之をよぶものに

エホバは近くましますなり19
エホバは己をおそるものの願望をみちたらしめその號呼をききて之をすくひたまふ20
エホバはおのれを愛しむものをすべて守りたまへど
悪者をことごとく滅したまはん21
わが口はエホバの頌美をかたりよろづの民は世々かぎりなくそのきよき名をほめまつるべし

Psalm 146

1エホバを讃稱へよわががみ生ひよエホバをほめたたへよ2われ生るかぎりエホバをほめたたへわがながらふるほどはわが神をほめうたはん3
もるもろの君によりたのむことなく人の子によりたのむなかれ
かれらに助あることなし4
その氣息いでゆけばかれ土にかへるその日かれがもるもろの企圖はほろびん5
ヤコブの神をおのが助としその望をおのが神エホバにおくものは福ひなり6
此はあめつちと海とそのなかなるあらゆるものを造り
とこしへに眞實をまもり7
處げらるるものために審判をおこなひ饑餓たるものに食物をあたへたまふ神なり
エホバはとらはれたる人をときはなちたまふ8
エホバはめしひの目をひらき
エホバは屈者をなほくたせエホバは義しきものを愛しみたまふ9
エホバは他邦人をまもり
孤子と寡婦とをささへたまふされど
悪きものの徑はくつがへしたまふなり10
エホバはとこしへに統治めたまはん
シオンよなんぢの神はよろづ代まで統治めたまはん
エホバをほめたたへよ

Psalm 147

1エホバをほめたたへよわれらの神をほめうたふは善ことなり
樂しきことなり
稱へまつるはよろしきに適へり2
エホバはエルサレムをきづきイスラエルのさすらへる者をつめたまふ3
エホバは心のくだけたるものを醫しその傷をつつみたまふ4
エホバはもるもろの星の數をかぞへてすべてこれに名をあたへたまふ5
われらの主はおほいなりその能力もまた大なりその智慧はきはまりなし6
エホバは柔和なるものをささへ悪きものを地にひきおとし給ふ7
エホバに感謝してうたへ琴にあはせてわれらの神をほめうたへ8
エホバは雲をもて天をおほひ地のために雨をそなへもるもろの山に草をはえしめ9
くひものを獸にあたへ並なく小鴉にあたへたまふ10
エホバは馬のちからを喜びたまはず人の足をよみしたまはず11
エホバはおのれを畏るものとおのれの憐憫をのぞむものとを好したまふ12
エルサレムよエホバをほめたたへよシオンよなんぢの神をほめたたへよ13
エホバはなんぢの門の關木をかた

うし汝のうちなる子輩をさきはひ給ひたればなり14
エホバは汝のすべての境にやはらぎをあたへいと嘉麥をもて汝をあかしまたまふ15
エホバはそのいましめを地にくだしたまふその聖言はいとしみやかにはしる16
エホバは雪をひつじの毛のごとくふらせ霜を灰のごとくにまきたまふ17
エホバは氷をつちくれのごとくに擲ちたまふたれかその寒冷にたふることをえんや18
エホバ聖言をくだしてこれを消しその風をふかしたまへばもるもろの水はながる19
エホバはそのみことばをヤコブに示しそのもるもろの律法とその審判とをイスラエルにせめたまふ20
エホバはいづれの國をも如此あしらひたまひしにあらざエホバのもるもろの審判をかれらはしらざるなり
エホバをほめたたへよ

Psalm 148

1エホバをほめたたへよもるもろの天よりエホバをほめたたへよもるもろの高所にてエホバをほめたたへよ2
その天使よみなエホバをほめたたへよ3
その萬軍よみなエホバをほめたたへよ4
日よ月よエホバをほめたたへよ
ひかりの星よみなエホバをほめたたへよ5
もるもろの天のてんよ天のうへなる水よ
エホバをほめたたへよ6
これらはみなエホバの聖名をほめたたふべし
そはエホバ命じたまひたればかれらは造られたり6
エホバまた此等をいやとほながに立たまひたり又すぎうすまじき詔命をくだしたまへり7
龍よすべての淵よ地よりエホバをほめたたへよ8
火よ霰よ雪よ霧よみことばにしたがふ狂風よ9
もるもろの山もるもろのをか實をむすぶ樹すべての香柏よ10
獸ももるもろの牲畜はふもりの翼ある鳥よ11
地の王たちもるもろのたみ地の諸侯よ地のもるもろの審士よ12
少きをのこ若きをみな老たる人をさなきものよ13
みなエホバの聖名をほめたたふべし
その聖名はたかくして類なくそのえいくわうは地より天よりもうへにあればなり14
エホバはその民のために一つの角をあげたまへり
こはもるもろの聖徒のほまれエホバにちかき民なるイスラエルの子輩のほまれなり
エホバを讃稱へよ

Psalm 149

1エホバをほめたたへよエホバに對ひてあたらしき歌をうたへ聖徒のつどひにてエホバの頌美をうたへ2
イスラエルはおのれを造りたまひしものをよろこびシオンの子輩は己が王のゆゑによりて楽しむべし3
かれらをどりつつその聖名をほめたたへ琴鼓にてエホバをほめうたべし4
エホバはおのが民をよろこび教にて柔和なるものを美しくしたまへばなり5
聖徒はいいくわうの故によりてよろこび
その寝牀にてよろこびうたふべし6

その口に神をほむるうたあり
その手にもろの劔あり7
こはもるもろの國に仇をかへし
もるもろの民をつみなひ8
かれらの王たちを鏝にてかれらの貴人をくるかねの械にていましめ9
録したる審判をかれらに行ふべきためなり
斯るほまれはもるもろの聖徒にあり
エホバをほめたたへよ

Psalm 150

1
エホバをほめたたへよその聖所にて神をほめたたへよその能力のあらはるる穹蒼にて神をほめたたへよ2
その大能のはたらきのゆゑをもて神をほめたたへよその秀ておほいなることの故によりてエホバをほめたたへよ3
ラッパの聲をもて神をほめたたへよ
箏と琴とをもて神をほめたたへよ4
つづみと踏舞とをもて神をほめたたへよ
絃簫をもて神をほめたたへよ5
音のたかき鑼鼓をもて神をほめたたへよ
なりひびく鑼鼓をもて神をほめたたへよ6
氣息あるものは皆ヤハをほめたたふべし
なんぢらエホバをほめたたへよ

箴言 知恵の泉

Chapter 1

1
ダビデの子イスラエルの王ソロモンの箴言2
こは人に智慧と訓誨とをしらしめ哲言を曉らせ3
さとき訓と公義と公平と正直とをえしめ4
拙者にさとりを與へ少者に知識と謹慎とを得させん爲なり5
智慧ある者は之を聞て學にすすみ哲者は智略をうべし6
人これによりて箴言と譬喩と智慧ある者の言とその隱語とを悟らん7
エホバを畏るは知識の本なり愚なる者は智慧と訓誨とを軽んず8
我が子よ汝の父の教をきけ汝の母の法を棄ることなかれ9
これ汝の首の美しき冠となり汝の項の妝飾とならん10
わが子よ惡者なんぢ誘ふとも従ふことなかれ11
彼等なんぢにむかひて請ふわれらと偕にきたれ我儕まちぶせして人の血を流し無辜ものを故なきに伏てねらひ12
陰府のごとく彼等を活たるままにて呑み壯健なる者を墳に下る者のごとくなさん13
われら各様のたふとき財貨をえ奪ひ取たる物をもて我儕の家に盈さん14
汝われらと偕に籠をひけ我儕とともに一の金囊を持べしと云とも15
我が子よ彼等とともに途を歩むことなかれ汝の足を禁めてその路にゆくこと勿れ16
そは彼らの足は惡に趨り血を流さんとて急げばなり17
すべて鳥の目の前にて羅を張は徒勞なり18
彼等はおのれの血のために埋伏しおのれの命をふしてねらふ19

凡て利を貧者の途はかくの如し是
 その持主をして生命をうしなはしむ
 るなり 20
 智慧外に呼はり衢に其聲をあげ 21
 熱鬧しき所にさけび城市の門の口邑
 の中にその言をのべていふ 22
 なんぢら拙者のつたなきを愛し
 嘲笑者のあざけりを楽しみ愚なる者
 の知識を惡むは幾時までぞや 23
 わが督斥にしたがひて心を改めよ
 視よわれ我が霊を汝らにそそぎ
 我が言をなんぢらに示さん 24
 われ呼たれども汝らこたへず
 手を伸たれども顧る者なく 25 かへ
 つて我がすべての勸告をすて我が督
 斥を受ざりしに由り 26
 われ汝らが禍災にあふとき之を笑ひ
 汝らの恐懼きたらんとし嘲るべし 27
 これは汝らのおそれ颯風の如くき
 たり汝らのほろび颯風の如くきたり
 艱難とかなしみと汝らにきたらん時
 なり 28 そのとき彼等われを呼ばん
 然れどわれ應へじ只管に我を求めん
 されど我に遇じ 29 かれら知識を憎
 み又エホバを畏ることを悦ばず 30
 わが勸に從はず凡て我督斥をいや
 しめたるによりて 31 己の途の果を
 食ひおのれの策略に飽べし 32
 拙者の逆違はおのれを殺し愚なる者
 の幸福はおのれを滅さん 33 されど
 我に聞ものは平穩に住ひかつ禍害に
 あふ恐怖なくして安然ならん

Chapter 2

1 我が子よ汝もし我が言をうけ
 我が誠命を汝のところに蔽め 2 斯て
 汝の耳を智慧に傾け汝の心をさとり
 にむけ 3 もし知識を呼求め聰明をえ
 んど汝の聲をあげ 4
 銀の如くこれを探り
 秘れたる寶の如くこれを尋ねば 5
 汝エホバを畏ることを曉り
 神を知ることを得べし 6
 そはエホバは智慧をあたへ知識と聰
 明とその口より出づればなり 7
 かれは義人のために聰明をたくはへ
 直く行む者の盾となる 8
 そは公平の途をたもちその聖徒の途
 ずぎを守りたまへばなり 9 斯て汝は
 つひに公義と公平と正直と一切の善
 道を曉らん 10
 すなはち智慧なんぢの心にいり
 知識なんぢの靈魂に樂しからん 11
 謹慎なんぢを守り
 聰明なんぢをたもちて 12 惡き途よ
 りすくひ虚偽をかたる者より救はん
 13 彼等は直き途をはなれて幽暗き路
 に行み 14 惡を行ふを樂しみ
 惡者のいつはりを悦び
 その途はまがり 15
 その行爲は邪曲なり 16
 聰明はまた汝を妓女より救ひ
 言をもて諂ふ婦より救はん 17
 彼はわかき時の侶をすてその神に契
 約せしことを忘るるなり 18
 その家は死に下り
 その途は陰府に赴く 19
 凡てかれにゆく者は歸らず
 また生命の途に達らざるなり 20
 聰明汝をたもちてよき途に行ませ
 義人の途を守らしめん 21
 そは義人は地にながらへをり

完全者は地に止らん 22 されど惡者
 は地より亡され悖逆者は地より拔さ
 らるべし

Chapter 3

1 我が子よわが法を忘るるなかれ
 汝の心にわが誠命をまもれ 2 さらば
 此事は汝の日をながくし生命の年を
 延べ平康をなんぢに加ふべし 3 仁慈
 と眞實とを汝より離すことなかれ
 之を汝の項にむすび
 これを汝の心の碑にするせ 4 さらば
 なんぢ神と人との前に恩寵と好名と
 を得べし 5
 汝こころを盡してエホバに倚頼め
 おのれの聰明に倚ることなかれ 6
 汝すべての途にてエホバをみとめよ
 さらばなんぢの途を直くしたまふべ
 し 7 自から見て聰明とする勿れ
 エホバを畏れて惡を離れよ 8 此れ汝
 の身に良薬となり汝の骨に滋潤とな
 らん 9 汝の貨財と汝がすべての産物
 の初生をもてエホバをあがめよ 10
 さらば汝の倉庫はみちて餘り
 汝の酒酔は新しき酒にて溢れん 11
 我子よ汝エホバの懲治をかるんずる
 勿れその譴責を受くるを厭ふこと勿
 れ 12 それエホバはその愛する者を
 いましめたまふあたかも父のその愛
 する子を謹むるが如し 13 智慧を求
 め得る人および聰明をうる人は福な
 り 14 そは智慧を獲るは銀を獲るに
 愈りその利は精金よりも善ければなり
 15 智慧は眞珠よりも尊し 汝の凡
 ての財貨も之と比ぶるに足らず 16
 其右の手には長壽あり
 その左の手には富と尊貴とあり 17
 その途は樂しき途なり
 その徑すぢは悉く平康し 18
 これは執る者には生命の樹なり
 これ持ものは福なり 19
 エホバ智慧をもて地をさだめ
 聰明をもて天を置たまへり 20
 その知識によりて海洋はわきいで
 雲は露をそそぐなり 21 我が子よこ
 れらを汝の眼より離す勿れ
 聰明と謹慎とを守れ 22 然ばこれは
 汝の靈魂の生命となり汝の項の妝飾
 とならん 23
 かくて汝やすらかに汝の途をゆかん
 又なんぢの足つまづかじ 24
 なんぢ臥とき怖るるところあらず
 臥ときは酣く睡らん 25
 なんぢ猝然なる恐懼をおそれず惡者
 の滅亡きたる時も之を怖るまじ 26
 そはエホバは汝の倚頼むものにして
 汝の足を守りてとらはれしめたまは
 ざるべければなり 27 汝の手善をな
 ず力あらば之を爲すべき者に爲さざ
 ること勿れ 28
 もし汝に物あらば汝の鄰に向ひて
 復來れ明日われ汝に予へんといふな
 かれ 29 汝の鄰なんぢの傍に安らか
 に居らば之にむかひて惡を謀ること
 勿れ 30 人もし汝に惡を爲さずば故
 なく之と争ふこと勿れ 31
 暴虐人を羨むことなくそのすべての
 途を好とすることなかれ 32 そは邪
 曲なる者はエホバに惡まるればなり
 されど義者はその親き者とせらるべ
 し 33

エホバの呪詛は惡者の家にありされ
 ど義者の室はかれにめぐまる 34
 彼は嘲笑者をあざけり
 謙る者に恩恵をあたへたまふ 35
 智者は尊榮をえ
 愚なる者は羞辱之をとりさるべし

Chapter 4

1 小子等よ父の訓をきけ
 聰明を知んために耳をかたむけよ 2
 われ善教を汝らにさづく
 わが律を棄つることなかれ 3
 われも我が父には子にして
 我が母の目には獨の愛子なりき 4 父
 われを教へていへらく我が言を汝の
 心にとどめ わが誠命をまもれ
 然らば生べし 5 智慧をえ聰明をえよ
 これを忘るるなかれまた我が口の言
 に身をそむくるなかれ 6 智慧をすつ
 ることなかれ彼なんぢを守らん
 彼を愛せよ彼なんぢを保たん 7
 智慧は第一なるものなり智慧をえよ
 凡て汝の得たる物をもて聰明をえよ
 8 彼を尊べ
 さらば彼なんぢを高く擧げんもし彼
 を懐かば彼汝を尊榮からしめん 9
 かれ美しき飾を汝の首に置き
 榮の冠弁を汝に予へん 10
 我が子よきけ 我が言を納れよ
 さらば汝の生命の年おほからん 11
 われ智慧の道を汝に教へ義しき徑筋
 に汝を導けり 12
 歩くとき汝の歩は艱ま
 趨るときも躓かじ 13
 堅く訓誨を執りて離すこと勿れ
 これを守れ これは汝の生命なり 14
 邪曲なる者の途に入ることなかれ
 惡者の路をあやむこと勿れ 15
 これを避よ 過ること勿れ
 離れて去れ 16
 そは彼等は惡を爲さざれば睡らず
 人を躓かせざればいねず 17 不義の
 パンを食ひ暴虐の酒を飲めばなり 18
 義者の途は旭光のごとしいよいよ
 光輝をまして晝の正午にいたる 19
 惡者の途は幽冥のごとし彼らはその
 蹟もものなになるを知らざるなり 20
 わが子よ我が言をきけ 我が語ると
 ころに汝の耳を傾けよ 21
 汝の汝の目より離すこと勿れ
 汝の心のうちに守れ 22 是は之を得
 るものの生命にしてまたその全體の
 良薬なり 23 すべての操守べき物よ
 りもまさりて汝の心を守れそは生命
 の流これより出ればなり 24
 虚偽の口を汝より棄さり
 惡き口唇を汝より遠くはなせ 25
 汝の目は正く視汝の眼瞼は汝の前を
 眞直に視るべし 26
 汝の足の徑をかんがへはかり
 汝のすべての道を直くせよ 27 右に
 も左にも偏ること勿れ汝の足を惡よ
 り離れしめよ

Chapter 5

1 我が子よわが智慧をきけ
 汝の耳をわが聰明に傾け 2 しかして
 なんぢ謹慎を守り汝の口唇に知識を
 保つべし 3 娼妓の口唇は蜜を滴らし
 其口は脂よりも滑なり 4 されど其終
 は茵蔯の如くに苦く兩刃の劍の如く

に利し 5 その足は死に下り
 その歩は陰府に趣く 6
 彼は生命の途に入らず其徑はさだか
 ならねども自ら之を知らざるなり 7
 小子等よいま我にきけ
 我が口の言を棄つる勿れ 8
 汝の途を彼より遠く離れしめよ
 其家の門に近づくことなかれ 9
 恐くは汝の榮を他人にわたし汝の年
 を憐憫なき者にわたすにいたらん 10
 恐くは他人なんぢの資財によりて
 盈され
 汝の勞苦は他人の家にあらん 11 終
 にいたりて汝の身なんぢの體亡ぶる
 時なんぢ泣悲みていはん 12
 われ教をいとひ
 心に譴責をかるんじ 13
 我が師の聲をきかず
 我を教ふる者に耳を傾けず 14 あつ
 まりの中會衆のうちにてほとんど諸
 の惡に陥れりと 15
 汝おのれの水溜より水を飲み
 おのれの泉より流る水をのめ 16
 汝の流をほかに溢れしめ汝の河の水
 を衢に流れしむべけんや 17
 これを自己に歸せしめ他人をして汝
 と偕にこに與らしむること勿れ 18
 汝の泉に福祉を受しめ
 汝の少き時の妻を樂しめ 19 彼は愛
 しき鹿のごとく美しき鹿の如し
 その乳房をもて常にたれりとし
 その愛をもて常によるこべ 20
 我子よ何なればあそびめをたのしみ
 淫婦の胸を懐くや 21
 それ人の途はエホバの目の前にあり
 彼はすべて其行爲を量りたまふ 22
 惡者はおのれの愆にとらへられ
 その罪の繩に繋る 23
 彼は訓誨なきによりて死その多くの
 愚なることに由りて亡ぶべし

Chapter 6

1 我が子よ汝もし朋友のために保
 證をなし
 他人のために汝の手を拍ば 2
 汝その口の言によりてわなにかかり
 その口の言によりてとらへらるるなり
 3 我子よ汝友の手に陥りしならば
 斯りて自ら救へすなはち往て自ら謙
 だり只管なんぢの友に求め 4
 汝の目をして睡らしむることなく
 汝の眼瞼をして閉しむること勿れ 5
 かりうどの手より鹿ののがるごと
 く鳥とる者の手より鳥ののがる如
 くしてみづからを救へ 6 情者よ蟻
 にゆき其爲すところを觀て智慧をえ
 よ 7 蟻は首領なく有司なく君主な
 けれども 8 夏のうちに食をそなへ
 収穫のときに糧を斂む 9
 情者よ汝いづれの時まで臥息むや
 いづれの時まで睡りて起きるや 10
 いばらく臥ししばらく睡り
 手を叉きてまた片時やすむ 11 さら
 ば汝の貧窮は盜人の如くきたり汝の
 缺乏は兵士の如くきたるべし 12 邪
 曲なる人あしき人は虚偽の言をもて
 事を行ふ 13 彼は指をもて胸せし
 脚をもてしてし 指をもて示す 14
 その心に虚偽をたもち
 常に惡をはかり 争端を起す 15
 この故にその禍害にはかに來り
 援助なくして立刻に敗らるべし 16

エホバの憎みたまふもの六あり否その心に嫌ひたまふもの七あり 17
 即ち驕る目いつはりをいふ舌
 つみなき人の血を流す手 18
 悪き謀計をめぐらす心
 すみやかに悪に趨る足 19
 詐偽をのぶる證人および兄弟のうちに争端をおこす者なり 20
 我子よ汝の父の誠命を守り
 汝の母の法を棄る勿れ 21
 常にこれを汝の心にむす
 び之をなんぢの頸に佩よ 22
 これは汝のゆくとき汝をみちびき
 汝の寝るとき汝をまもり
 汝の寝るとき汝とかならん 23
 それ誠命は燈火なり 法は光なり
 教訓の懲治は生命の道なり 24
 これは汝をまもりて悪き婦よりまぬかしめ
 汝をたもちて淫婦の舌の諂媚にまどはされざらしめん 25
 その艶美を心に戀ふことなかれ
 その眼瞼に捕へらるること勿れ 26
 それ娼妓のために人はただ僅に一撮の糧をのこすのみにいたる又淫婦は人の尊き生命を求むるなり 27
 人は火を懐に抱きてその衣を焚れざらんや 28
 人は熱火を踏て其足を焚れざらんや 29
 その隣の妻と姦淫をおこなふ者もかくあるべし
 凡て之に捫る者は罪なしとせられず 30
 竊む者もし饑しときに其饑を充さん爲にぬすめるならば人これを藐ぜじ 31
 もし捕へられなばその七倍を償ひ其家の所有をことごとく出さざるべからず 32
 婦と姦淫をおこなふ者は智慧なきなり
 之を行ふ者はおのれの靈魂を亡し 33
 傷と陵辱とをうけて其恥を雪ぐこと能はず 34
 妒忌その夫をして忿怒をもやさしむればその怨を報ゆるときかならず實さじ 35
 いかなる贖物をも顧みず衆多の饋物をなすともしやはらがざるべし

Chapter 7

1 我子よわが言をまもり我が誠命を汝の心にたくはへよ 2
 我が誠命をまもりて生命をえよ
 我法を守ること汝の眸子を守るが如くせよ 3
 これを汝の指にむすび
 これを汝の心の碑に銘せ 4
 なんぢ智慧にむかひて汝はわが姉妹なりといひ
 明理にむかひて汝はわが友なりといへ 5
 さらば汝をまもりて淫婦にまよはざらしめ言をもて媚る娼妓にとほざからしめん 6
 われ我室の牖により櫛子よりのぞきて 7
 拙き者のうち幼弱者のうちに一人の智慧なき者あるを觀たり 8
 彼衝をすぎ婦の門にちかづき其家の路にゆき 9
 黄昏に半宵に夜半に黑暗の中にあるけり 10
 時に娼妓の衣を着たる狡らなる婦かこれにあふ 11
 この婦は謙しくしてつつしみなく其足は家に止らず 12
 あるときは衝にあり
 或時はひろばにあり
 すみずみにたてて人をうかがふ 13
 この婦かこれをひきて接吻し恥しらぬ面をもていひけるは 14
 われ酬恩祭を獻け今日すでにわが誓願を償せり 15
 これによりて我なんぢを迎へんとていで

汝の面をたづねて汝に逢へり 16
 わが榻には美しき褥およびエジプトの文象をしき 17
 没薬蘆薈桂皮をもて我が榻にそそげり 18
 來れわれら詰朝まで情をつくし愛をかよはして相なくさめん 19
 そは夫は家にあらず遠く旅立して 20
 手に金囊をとれり望月ならでは家に歸らじと 21
 多の婉言をもて感し口唇の諂媚をもて誘へば 22
 わかき人ただちにこれに隨へり
 あだかも牛の宰地にゆくが如く愚なる者の桎梏をかけらるる爲にゆくが如し 23
 遂には矢その肝を刺さん鳥の速かに羅にいりてその生命を喪ふに至るを知らざるがごとし 24
 小子等よいま我にきけ
 我が口の言に耳を傾けよ 25
 なんぢの心を淫婦の道にかたむくこと勿れ
 またこれが徑に迷ふこと勿れ 26
 そは彼は多の人を傷つけて仆せり彼に殺されたる者ぞ多かる 27
 その家は陰府の途にして死の室に下りゆく

Chapter 8

1 智慧は呼はらざるか
 聰明は聲を出さざるか 2
 彼は路のほとりの高處また街衢のなかに立ち 3
 邑のもろもろの門邑の口および門々の入口にて呼はりいふ 4
 人々よわれ汝をよび
 我が聲をもて人の子等をよぶ 5
 拙き者よなんぢら聰明に明かなれ愚なる者よ汝ら明かなる心を得よ 6
 汝さけわれ善事をかたらんわが口唇をひらきて正事をいださん 7
 我が口は眞實を述べ
 わが口唇はあしき事を憎むなり 8
 わが口の言はみな義しそのうちに虚偽と奸邪とあることなし 9
 是みな智者の明かにするところ知識をうる者の正とするところなり 10
 なんぢら銀をつくるよりは我が教をうけよ
 精金よりもむしろ知識をえよ 11
 それ智慧は眞珠に愈れり
 凡の寶も之に比ぶるに足らず 12
 われ智慧は聰明をすみかとし
 知識と謹慎にいたる 13
 エホバを畏ることは惡を憎むことなり
 我は傲慢と驕奢 14
 惡道と虚偽の口とを憎む
 謀略と聰明は我にあり我は了知なり 15
 我は能力あり
 我に由て王者は政をなし
 君たる者は義しき律をたて 16
 我によりて主たる者および牧伯たちなど凡て地の審判人は世ををさむ 17
 われを愛する者は我これを愛す
 我を切に求むるものは我に遇ん 18
 富と榮とは我にあり
 實き寶と公義とも亦然り 19
 わが果は金よりも精金よりも愈り
 わが利は精銀よりもよし 20
 我は義しき道にあゆみ
 公平なる路徑のなかを行む 21
 これ我を愛する者に貨財をえさせ
 又その庫を充しめん爲なり 22
 エホバににせしめ其御わざをなし
 そめたまへる前にその道の始として我をつくりたまひき 23
 永遠より元始より地の有ざりし前より我は立られ 24
 いまだ海洋あらずいまだ大なるみづの泉あざりしとき我すでに生れ 25
 山いまださだめられず
 陵いまだ有ざりし前に我すでに生れたり 26
 即ち神いまだ地をも野をも地の塵の根元をも造り給はざりし時なり 27
 わかれ天をつくり海の面に穹蒼を張たまひしとき我かしこに在りき 28
 彼うへに雲氣をかたく定め
 淵の泉をつよくならしめ 29
 海にその限界をたて
 水をしてその岸を踏えざらしめ
 また地の基を定めたまへるとき 30
 我はその傍にありて創造者となり
 日々欣び恒にその前に樂み 31
 その地にて樂み又世の人を喜べり 32
 されば小子等よ 33
 いま我にきけわが道をまもる者は福ひなり 34
 教をききて智慧をえよ
 之を棄ることなかれ 35
 凡そ我にきき日々わが門の傍にまちわが戸口の柱のわきにたつ人は福ひなり 36
 そは我を得る者は生命をえ
 エホバより恩寵を獲ればなり 37
 我を失ふものは自己の生命を害すすべて我を惡むものは死を愛するなり

て死を脱かれしむ 3
 エホバは義者の靈魂を餓えしめず
 惡者にその欲するところを得ざらしむ 4
 手をものうくして動くものは貧くなり
 勤めはたらく者の手は富を得 5
 夏のうちに斂むる者は智き子なり
 收穫の時に斂むる者は辱をきたす子なり 6
 義者の首には福祉きたり
 惡者の口は強暴を掩ふ 7
 義者の名は讃られ惡者の名は腐る 8
 心の智き者は誠命を受く
 されど口の頑愚なる者は滅さる 9
 直くあゆむ者はそのあゆむこと安し
 されどその途を曲ぐる者は知らるべし 10
 眼をもて胸せする者は憂をおこし
 口の頑愚なる者は亡さる 11
 義者の口は生命の泉なり
 惡者の口は強暴を掩ふ 12
 怨恨は争端をおこし
 愛はすべての怨を掩ふ 13
 哲者のくちびるには智慧あり
 智慧なき者の背のためには鞭あり 14
 智慧ある者は知識をたたくは愚かなる者の口はいまにも滅亡をきたらす 15
 富者の資財はその堅き城なり
 貧者のともしきはそのほろびなり 16
 義者が動作は生命にいたり
 惡者の利得は罪にいたる 17
 教をまもる者は生命の道にあり懲戒をすつる者はあやまりにおちいる 18
 怨をかくす者には虚偽のくちびるあり
 誹謗をいだす者は愚かなる者なり 19
 言おほければ罪なきことあたはず
 その口唇を禁むるものは智慧あり 20
 義者の舌は精銀のごとし
 惡者の心は値すくなし 21
 義者の口唇はおほくの人をやしなひ
 愚なる者は智慧なきに由て死ぬ 22
 エホバの祝福は人を富す人の勞苦はこれに加ふところなし 23
 愚かなる者は惡をなすを戯れごとのごとくす
 智慧のさとかる人にとりても是のごとし 24
 惡者の怖るところは自己にきたり
 義者のねがふところはあたへらる 25
 狂風のすぐるとき惡者は無に歸せん
 義者は窮なくたもつ基のごとし 26
 情る者のこれを遣すものに於るは
 酔の齒に於るが如く煙の目に於るが如し 27
 エホバを畏ることは人の日を多くす
 されど惡者の年はちぢめらる 28
 義者の望は喜悅にいたり
 惡者の望は絶べし 29
 エホバの途は直者の城となり
 惡を行ふものの滅亡となる 30
 義者は何時までも動かさざれず
 惡者は地に住むことを得じ 31
 義者の口は智慧をいだすなり
 虚偽の舌は拔るべし 32
 義者のくちびるは喜ばるべきことをわきまへ
 惡者の口はいつはりを語る

Chapter 9

1 智慧はその家を建て
 その七の柱を砍成し 2
 その畜を宰りその酒を混和せ 3
 その筵をそなへ 3
 その婢女をつかはして邑の高處に呼はりいはいしむ 4
 拙者よここに來れとまた智慧なき者にいふ 5
 汝等きたりて我が糧を食ひ
 わがませあはせてる酒のみ 6
 拙劣をすてて生命をえ
 聰明のみちを行め 7
 嘲笑者をいましむる者は恥を己にえ
 惡人を責むる者は疵を己にえん 8
 嘲笑者を責むることなかれ
 恐くは彼なんぢを惡まん
 智慧ある者をせめよ
 彼なんぢを愛せん 9
 智慧ある者に授けよ
 彼はますます智慧をえん
 義者を教へよ 彼は知識に進まん 10
 エホバを畏ることは智慧の根本なり
 聖者を知るは聰明なり 11
 我により汝の日は多くせられ
 汝のいのちの年は増べし 12
 汝もし智慧あらば自己のために智慧あるなり
 汝もし嘲らば汝ひとり之を負ん 13
 愚なる婦は嘩しく且つたなくして何事をも知らず 14
 その家の門に坐し邑のたかき處にある座にすわり 15
 道をますぐに過る往來の人を招きていふ 16
 拙者よここに來れとまた智慧なき人にむかひては之にいふ 17
 慧みたる水は甘く密かに食ふ糧は美味ありと 18
 彼處にある者は死し者その客は陰府のふかき處にあることを是等の人は知らざるなり

Chapter 10

1 ソロモンの箴言
 智慧ある子は父を欣ばす
 愚なる子は母の憂なり 2
 不義の財は益なし
 されど正義は救ひ

Chapter 11

1
 いつはりの權衡はエホバに惡まれ
 義しき法馬は彼に欣ばる 2
 驕傲きたれば辱も亦きたる謙だる者には智慧あり 3
 直者の端莊は己を導き悖逆者の邪曲は己を亡す 4

實は震怒の日に益なしされど正義は救ふて死をまぬかれしむ 5 完全者はその正義によりてその途を直くせられ悪者はその惡によりて跌るべし 6 直者はその正義によりて救はれ悖逆者は自己の惡によりて執へらる 7 惡人は死るときにその望たえ不義なる者の望もまた絶べし 8 義者は艱難より救はれ 惡者はこれに代る 9 邪曲なる者は口をもてその鄰を亡すされど義しき者はその知識によりて救はる 10 義しきもの幸福を受けばその城邑に歡喜あり惡きもの亡さるれば歡喜の聲おこる 11 城邑は直者の祝ぶに倚て高く擧られ惡者の口によりて亡さる 12 その鄰を侮る者は智慧なし 聰明人はその口を嚙む 13 往て人の是非をいふ者は密事を洩し心の忠信なる者は事を隠す 14 はかりごとなければ民たふれ 謙士多ければ平安なり 15 他人のために保證をなす者は苦難をうけ 保證を嫌ふ者は平安なり 16 柔順なる婦は榮譽をえ 強き男子は資財を得 17 慈悲ある者は己の靈魂に益をくはへ 殘忍者はおのれの身を擡はず 18 惡者の獲る報はむなし 義を播くもの得る報賞は確し 19 堅く義をたもつ者は生命にいたり惡を追もとむる者はおのれの死をまねく 20 心の戻れる者はエホバに憎まれ 直く道を歩む者は彼に悦ばる 21 手に手をあはすとも惡人は罪をまぬかれず 義人の苗裔は救を得 22 美しき婦のつつしみなきは金の環の冢の鼻にあるが如し 23 義人のねがふところは凡て福祉にいたり惡人ののぞむところは震怒にいたり 24 ほどこし散して反りて増ものあり與ふべきを吝みてかへりて貧しきにいたる者あり 25 施與を好むものは肥え 人を潤ほす者はまた利潤をうく 26 穀物を蔽めて糶ざる者は民に詛はる 然れど售る者の首には祝福あり 27 善をもとむる者は恩恵をえん惡をもとむる者には惡き事きたらん 28 おのれの富を恃むものは仆れんされど義者は樹の青葉のごとくさかえん 29 おのれの家をくるしむるものは風をえて所有とせん 愚なる者は心の智きものの僕とならん 30 義人の果は生命の樹なり 智慧ある者は人を捕ふ 31 みよ 義人すらも世にありて報をうくべし 況て惡人と罪人とをや

Chapter 12

訓誨を愛する者は知識を愛す 懲戒を惡むものは畜のごとし 2 善人はエホバの恩寵をうけ 惡き謀略を設くる人はエホバに罰せらる 3 人は惡をもて堅く立ことあたはず 義人の根は動くことなし 4 賢き婦はその夫の冠弁なり 辱をきたらす婦は夫をしてその骨に腐あるが如くならしむ 5 義者のおもひは直し

惡者の計るところは虚偽なり 6 惡者の言は人の血を流さんとして伺ふされど直者の口は人を救ふなり 7 惡者はたふされて無ものとならんされど義者の家は立べし 8 人はその聰明にしたがひて譬られ心の恃れる者は藐めらる 9 卑賤してしもべある者は自らたかぶりて食に乏き者に愈る 10 義者はその畜の生命を顧みるされど惡者は殘忍をもてその憐憫とす 11 おのれの田地を耕すものは食にあく放蕩なる人にしたがふ者は智慧なし 12 惡者はあしき人の獲たる物をうらやみ 義者の根は芽をいだす 13 惡者はくちびるの怒によりて罾に陥るされど義者は患難の中よりまぬかれいでん 14 人はその口の徳によりて福祉に飽かん 人の手の行爲はその人の身にかへるべし 15 愚なる者はみづからその道を見て正しとすされど智慧ある者はすすめを容る 16 愚なる者はただちに怒をあらはし 智きものは恥をつつむ 17 眞實をいふものは正義を述べ いつはりの證人は虚偽をいふ 18 妄りに言をいだし 劍をもて刺がごとくする者ありされど智慧ある者の舌は人をいやす 19 眞理をいふ口唇は何時までも存つされど虚偽をいふ舌はただ瞬息のあひだのみなり 20 惡事をはかる者の心には欺詐あり 和平を謀る者には歡喜あり 21 義者には何の禍害も來らず 惡者はわざはひをもて充さる 22 いつはりの口唇はエホバに憎まれ 眞實をおこなふ者は彼に悦ばる 23 賢人は知識をかくすされど愚なる者のところは愚なる事を述べ 24 勤めはたらく者の手は人ををさむるにいたり 情者は人に服ふるにいたり 25 うれひ人の心にあれば之を屈ます されど善言はこれを樂します 26 義者はその友に道を示す されど惡者は自ら途にまよふ 27 勤めはおのれの獵獲たる物をも燻ず 勉めはたらくことは人の貴とき實なり 28 義しき道には生命あり 其の道すぢには死なし

Chapter 13

1 智慧ある子は父の教訓をきき 戲謔者は懲治をきかず 2 人はその口の徳によりて福祉をくらひ 悖逆者の靈魂は強暴をくらふ 3 その口を守る者はその生命を守る その口唇を大きくひらく者には滅亡きたる 4 情者はたらくところに慕へども得ることなし 勤めはたらく者の心は豊饒なり 5 義者は虚偽の言をにくみ 惡者ははぢをかうむらせ面を赤くせしむ 6 義は道を直く あゆむ者をまもり 惡は罪人を倒す 7 自ら富めりといひあらはして 些少の所有もなき者あり 8 人の資財は稱へて 資財おほき者あり 然ど貧者は威嚇をきくことあらず 9 義者の光は輝き 惡者の燈火はけさる

10 驕傲はただ争端を生ず 勸告をきく者は智慧あり 11 詭計をもて得たる資財は減るされど 手をもて聚めたくはふる者はこれを増すことを得 12 望を得ること遅きときは心を疾しめ 願ふ所既にとくるときは生命の樹を得たるがごとし 13 御言をかるんずる者は亡され 誠命をおそる者は報賞を得 14 智慧ある人の教訓はいのちの泉なり 能く人をして死の罟を脱れしむ 15 善にして哲きものは恩を蒙る されど悖逆者の途は艱難なり 16 凡そ賢者は知識に由りて事をおこなひ 愚なる者はおのれの痴を顯す 17 惡き使者は災禍に陥るされど 忠信なる使者は良薬の如し 18 貧乏と恥辱とは教訓をすつる者にきたる されど譴責を守る者は尊まる 19 望を得れば心に甘し 愚なる者は惡を棄つことを嫌ふ 20 智慧ある者と 偕にあゆむものは智慧をえ 愚なる者の友となる者はあしくなる 21 わざはひは罪人を追ひ 義者は善報をうく 22 善人はその産業を子孫に遺すされど 罪人の資財は義者のために蓄へらる 23 貧しき者の新田にはおほくの糧あり されど不義によりて亡る者あり 24 鞭をくはへざる者はその子を憎むなり 子を愛する者はしきりに之をいましむ 25 義しき者は食をえて飽く されど惡者の腹は空し

Chapter 14

1 智慧ある婦はその家をたて 愚なる婦はおのれの手をもて之を毀つ 2 直くあゆむ者はエホバを畏れ 曲りてあゆむ者はこれを侮る 3 愚なる者の口にはその敵のために鞭笞あり 智者の口唇はおのれを守る 4 牛なければ 飼養倉むなし 牛の力によりて生産る物おほし 5 忠信の證人はいつはらず 虚偽のあかしびとは 謊言を吐く 6 嘲笑者は 智慧を求めどもえず 哲者は 知識を得ること容易し 7 汝おろかなる者の前を離れ されつひに知識の彼にあるを見ざるべし 8 賢者の智慧はおのれの道を曉るにあり 愚なる者の痴は欺くにあり 9 おろかなる者は罪をかるんず されど義者の中には 恩恵あり 10 心の苦しみ心みづから知る 其よろこびには 他人あづからず 11 惡者の家は亡され 正直き者の幕屋はさかゆ 12 人のみづから見て正しとする途にして その終はつひに死にいたる途となるものあり 13 笑ふ時にも心に悲あり 歡樂の終に憂あり 14 心の恃れる者はおのれの途に飽かん 善人もまた自己に飽かん 15 拙者はすべての言を信ず 賢者はその行を慎む 16 智慧ある者は怖れて惡をはなれ 愚なる者はたかぶりて怖れず 17 怒り易き者は愚なることを行ひ 惡き謀計を設くる者は惡まる 18 拙者は愚なる事を得て 所有となし

賢者は知識をもて冠弁となす 19 惡者は善者の前に俯伏し 20 罪ある者は義者の門に俯伏す 21 貧者はその鄰にさへも惡まる されど富者を愛する者はおほし 22 その鄰を藐むる者は罪あり 23 困苦者を憐むものは幸福あり 24 惡を謀る者は自己をあやまるにあらず や善を謀る者には 憐憫と眞實とあり 25 すべて勤勞には利益あり されど口唇のことは 貧乏をきたらすのみなり 26 智慧ある者の財寶はその冠弁となる 愚なる者のおろかは ただ痴なり 27 眞實の證人は人のいのちを救ふ 謊言を吐く者は偽人なり 28 エホバを畏ることは 堅き依頼なり 29 エホバを畏ることは 生命の泉なり 人を死の罟より脱れしむ 30 王の榮は 民の多きにあり 31 牧伯の衰敗は 民を失ふにあり 32 怒を遅くする者は 大なる知識あり 33 氣の短き者は 愚なることを顯す 34 心の安穩なるは 身のいのちなり 35 娯は 骨の腐なり 36 貧者を虐ぐる者はその造主を侮るなり 彼をうやまふ者は 貧者をあはれむ 37 惡者はその惡のうちにて 亡され 義者はその死ぬる時にも望あり 38 智慧は 哲者の心にとどまり 愚なる者の衷にある事は あらはる 39 義は 國を高くし 罪は 民を辱しむ 40 さとき僕は 王の恩を蒙ぶり 辱をきたらす者は その震怒にあふ

Chapter 15

1 柔和なる答は 憤恨をとどめ 厲しき言は 怒を激す 2 智慧ある者の舌は 知識を善きものと おもはしめ 3 愚なる者の口はおろかを はく 4 エホバの目は 何處にもありて 惡人と善人とを 鑒みる 5 溫柔き舌は 生命の樹なり 6 恃れる舌は 靈魂を傷ましむ 7 愚なる者はその父の訓を かるんず 8 誠命をまもる者は 賢者なり 9 義者の家には 多くの資財あり 10 惡者の利潤には 擾累あり 11 智者のくちびるは 知識をひろむ 12 愚なる者の心は 定りなし 13 惡者の祭物は エホバに 憎まれ 14 直き人の祈は 彼に悦ばる 15 惡者の道は エホバに 憎まれ 正義をもとむる者は 彼に愛せらる 16 道をはなる者には 厳しき懲治あり 17 譴責を惡む者は 死ぬべし 18 陰府と 沉淪とは エホバの目の前にあり 19 況て人の心を や 20 嘲笑者は 誠めらるることを 好まず 21 また 智慧ある者に 近づかず 22 心に 喜樂あれば 顔色よき 23 心に 憂苦あれば 氣ふさぐ 24 哲者のところは 知識を たづね 25 愚なる者の口は 愚を くらふ 26 艱難者の日は ことごとく 惡く 27 心の 懼る者は 恒に 酒宴にあり 28 すこしの物を 有て エホバを 畏るは 多くの寶を 有て 擾煩あるに 愈る 29 蔬菜を くらひて 互に 愛するは 肥たる 牛を 食ひて 互に 恨むるに 愈る 30 憤ほり 易きものは 争端をおこし 怒を

おそくする者は争端をどむ 19
 情者の道は棘の籬に似たり
 直者の途は平坦なり 20
 智慧ある子は父をよるこばせ
 愚なる人はその母をかるんず 21
 無知なる者は愚なる事をよるこび
 哲者はその途を直くす 22
 相議ることあらざれば謀計やぶる議
 者おほければ謀計かならず成る 23
 人はその口の答によりて喜樂をう言
 語を出して時に適ふはいかに善らず
 や 24 智人の途は生命の路にして上
 へ昇りゆくこれ下にあるところの陰
 府を離れんが爲なり 25
 エホバはたかぶる者の家をほろぼし
 寡婦の地界をさだめたまふ 26
 あしき謀計はエホバに憎まれ
 溫柔き言は潔白し 27 不義の利をむ
 さばる者はその家をわづらはせ賄賂
 をにくむ者は活ながらふべし 28
 義者の心は答ふべきことを考へ
 惡者の口は惡を吐く 29
 エホバは惡者に遠ざかり
 義者の祈禱をききたまふ 30
 目の光は心をよるこばせ
 好音信は骨をうるほす 31 生命の誠
 命をきくところの耳は智慧ある者の
 中間に駐まる 32 教をすつる者は自
 己の生命をかるんずなり
 懲治をきく者は聰明を得 33
 エホバを畏ることは智慧の訓なり
 謙遜は尊貴に先だつ

Chapter 16

1 心に謀るところは人にあり
 舌の答はエホバより出づ 2 人の途は
 おのれの目にことごとく潔しと見ゆ
 惟エホバ靈魂をはかりたまふ 3
 なんぢの作爲をエホバに託せよさら
 ば汝の謀るところ必ず成るべし 4 エ
 ホバはすべての物をおのおのその用
 のために造り惡人もも惡き日のため
 に造りたまへり 5 すべて心たかぶる
 者はエホバに惡まれ手に手をあはす
 るとも罪をまぬかれし 6
 憐憫と眞實とによりて怒は贖はるエ
 ホバを畏るることによりて人惡を離
 る 7 エホバもし人の途を喜ばば
 その人の敵をも之と和がしむべし 8
 義によりて得たるところの僅少な
 る物は不義によりて得たる多の資財に
 まさる 9
 人は心におのれの途を考へはかるさ
 れどその歩履を導くものはエホバなり
 10
 王のくちびるには神のさばきあり審
 判するときその口あやまる可らず 1
 1 公平の權衡と天秤とはエホバのも
 のなり囊にある法馬もことごとく彼
 の造りしものなり 12 惡をおこなふ
 ことは王の憎むところなり是はその位
 は公義によりて堅く立ばなり 13
 義しき口唇は王によるこばる
 彼等は正直をいふものを愛す 14
 王の怒は死の使者のごとし
 智慧ある人はこれをなだむ 15
 王の面の光には生命あり
 その恩寵は春雨の雲のごとし 16 智
 慧を得るは金をうるよりも更に善ら
 ずや聰明をうるは銀を得るよりも望
 まし 17
 惡を離るるは直き人の路なりおのれ

の道を守るは靈魂を守るなり 18 驕
 傲は滅亡にさきだち誇る心は傾跌に
 さきだつ 19 卑き者に交りて謙だる
 は驕ぶる者と偕にありて贓物をわか
 つに愈る 20 慎みて御言をおこなふ
 者は益をうべし
 エホバに倚頼むものは福なり 21
 心に智慧あれば哲者と稱へらるくち
 びる甘ければ人の知識をます 22 明
 哲はこれを持つものに生命の泉とな
 る愚なる者をいましむる者はおのれ
 の痴是なり 23 智慧ある者の心はお
 のれの口をしへ
 又おのれの口唇に知識をます 24
 こころよき言は蜂蜜のごとくにして
 靈魂に甘く骨に良薬となる 25
 人の自から見て正しとする途にして
 その終はつひに死にいたる途となる
 ものあり 26
 勞をるものは飲食のために骨をる
 是その口おのれに迫ればなり 27
 邪曲なる人は惡を掘るその口唇には
 烈しき火のごときものあり 28
 いつはる者はあらずを起しつけぐ
 ちする者は朋友を離れしむ 29
 強暴人はその鄰をいざなひ
 之を善らざる途にみちびく 30
 その目を閉て惡を謀り
 その口唇を蹙めて惡事を成遂ぐ 31
 白髪は榮の冠弁なり
 義しき途にてこれを見ん 32
 怒を遅くする者は勇士に愈りおのれ
 の心を治むる者は城を攻取る者に愈
 る 33 人は籤をひくされど事をさだ
 むるは全くエホバにあり

Chapter 17

1
 睦じうして一塊の乾けるパンあるは
 あらそひありて宰れる畜の盈たる家
 に愈る 2 かしこき僕は恥をきたらす
 る子ををさめ且その子の兄弟の中に
 ありて産業を分ち取る 3
 銀を試むる者は坩堝
 金を試むる者は鍔
 人の心を試むる者はエホバなり 4 惡
 を行ふものは虚偽のくちびるにきき
 虚偽をいふ者はあしき舌に耳を傾ぶ
 く 5 貧人を嘲るものはその造主をあ
 などなるなり人の災禍を喜ぶものは罪
 をまぬかれず 6 孫は老人の冠弁なり
 父は子の榮なり 7 勝れたる事をいふ
 は愚なる人に適はず況て虚偽をいふ
 口唇は君たる者に適はんや 8 贈物は
 これを受る者の目には貴き珠のごと
 しその向ふところにて凡て幸福を買
 ふ 9
 愛を追求むる者は人の過失をおほふ
 人の事を言ひふるる者は朋友をあひ
 離れしむ 10 一句の誠命の智人に徹
 るは百回持つことの愚なる人に徹る
 よりも深し 11 叛きもとる者はただ
 惡きことのみをもとむ故に彼にむ
 かひて殘忍なる使者遣はさる 12 愚
 なる者の愚妄をなすにあはんよりは
 寧ろ子をとられたる牝鹿にあへ 13
 惡をもて善に報ゆる者は惡その家を
 離れしむ 14 争端の起源は堤より水を
 もらすに似たりこの故にあらそひの
 起らざる先にこれを止むべし 15 惡
 者を義とし義者を惡しとするこの二
 の者はエホバに憎まる 16 愚なる者

はずでに心なし何ぞ智慧をかはんと
 て手にその價の金をもつや 17
 朋友はいづれの時にも愛す
 兄弟は危難の時のために生る 18 智
 慧なき人は手を拍てその友の前にて
 保證をなす 19
 争端をこのむ者は罪を好みその門を
 高くする者は敗壞を求む 20
 邪曲なる心ある者はさいはひを得ず
 その舌をみだりにする者はわざはひ
 に陥る 21 愚なる者を産むものは自
 己の憂を生じ
 愚なる者の父は喜樂を得ず 22
 心のたのしみは良薬なり
 靈魂のうれひは骨を枯す 23 惡者は
 人の懐より賄賂をうけて審判の道を
 まく 24
 智慧は哲者の面のまへにありされど
 愚なる者は目を地の極にそそぐ 25
 愚なる子は其父の憂となり
 亦これを生る母の煩勞となる 26
 義者を罰するは善らず貴き者をその
 義きがために扑は善らず 27
 言を寡くする者は知識あり
 心の靜なる者は哲人なり 28 愚なる
 者も黙するときは智慧ある者と思は
 れその口唇を閉るときは哲者とおも
 はるべし

Chapter 18

1 自己を人と異にする者はおの
 れの欲するところのみを求めてすべ
 ての善き考察にもとる 2
 愚なる者は明哲を喜ばず
 惟おのれの心意を顯すことを喜ぶ 3
 惡者きたれば藐視したがひてきたり
 恥きたれば凌辱もともに来る 4
 人の口の言は深水の如し
 湧てながる川 智慧の泉なり 5
 惡者を偏視るは善らず審判をなして
 義者を惡しとするも亦善らず 6
 愚なる者の口唇はあらそひを起し
 その口は打るることを招く 7
 愚なる者の口はおのれの敗壞となり
 その口唇はおのれの靈魂の害となる
 8 人の是非をいふもの言はたはぶ
 れのごとしといへども反つて腹の奥
 にいる 9 その行爲をおこたる者は滅
 すもの兄弟なり 10
 エホバの名はかたき櫓のごとし
 義者は之に走りりて救を得 11
 富者の資財はその堅き城なり
 これを高さ石垣の如くに思ふ 12
 人の心のたかぶりは滅亡に先だち謙
 遜はたふとまるる事にさきだつ 13
 いまだ事をさかざるさきに應ふる者
 は愚にして辱をかうぶる 14
 人の心は尚其疾を忍ぶべしされど心
 の傷める時は誰かこれに耐んや 15
 哲者の心は知識をえ
 智慧ある者の耳は知識を求む 16 人
 の贈物はその人のために道をひらき
 かつ貴きもの前にこれを導く 17
 先に訴訟の理由をのぶるものは正義
 に似たれどもその鄰人きたり詰問ひ
 てその事を明かにす 18 籤は争端を
 とどめ且つよきもの間にへだてと
 なる 19 怒れる兄弟はかたき城にも
 まさりに似たり説き伏せがたし兄弟のあら
 そひは櫓の貫木のごとし 20
 人は口の徳によりて腹をあかしその
 口唇の徳によりて自ら飽べし 21

死生は舌の權能にありこれを愛する
 者はその果を食はん 22
 妻を得るものは美物を得るなり
 且エホバより恩寵をあたへらる 23
 貧者は哀なる言をもて乞ひ
 富人は厲しき答をなす 24 多の友を
 まうくる人は遂にその身を亡す但し
 兄弟よりもたのもしき知己もまたあ
 り

Chapter 19

1 ただしく歩むまづしき者は
 くちびるの憚れる愚なる者に愈る 2
 心に思慮なければ善らず
 足にて急ぐものは道にまよふ 3 人は
 おのれの痴によりて道につまづき
 反て心にエホバを怨む 4
 資財はおほくの友をあつむ
 されど貧者はその友に疎まれる 5
 虚偽の證人は罰をまぬかれず 6
 君に媚る者はおほし凡そ人は贈物を
 與ふる者の友となるなり 7 貧者はそ
 の兄弟すらも皆これをにくむ
 況てその友これに遠ざからざらんや
 言をはなちてこれを呼とも去てかへ
 らざるなり 8
 智慧を得る者はおのれの靈魂を愛す
 聰明をたもつ者は善福を得ん 9
 虚偽の證人は罰をまぬかれず
 謊言をばく者はほろぶべし 10
 愚なる者の驕奢に居るは適當からず
 況て僕にして上に在る者を治むるこ
 とをや 11
 聰明は人に怒をしをばしむ
 過失を宥すは人の榮譽なり 12
 王の怒は獅の吼るが如くその恩典は
 草の上におく露のごとし 13
 愚なる子はその父の災禍なり妻の相
 争すふは雨漏のたえぬにひとし 14
 家と資財とは先祖より承嗣ぐもの賢
 き妻はエホバより賜ふものなり 15
 懶惰は人を酣寐せしむ
 懈怠人は饑べし 16 誠命を守るもの
 は己の靈魂を守るなりその道をか
 るむるものは死ぬべし 17 貧者をあ
 はれむ者はエホバに貸すなり
 その施濟はエホバ償ひたまはん 18
 望ある間に汝の子を打て
 これを殺すところを起すなかれ 19
 怒ること烈しき者は罰をうく汝も
 しこれを救ふともしばしば然せざる
 を得じ 20
 なんぢ勸をきき訓をうけよ
 然ばなんぢの終に智慧あらん 21
 されど惟エホバの旨のみ立べし 22
 人のよるこびは施濟をするにあり
 貧者は誑人に愈る 23 エホバを畏る
 ことは人をして生命にいたらしめ
 かつ恒に飽足りて災禍に遇ざらしむ
 24 情者はその手を盤に過ぎるも之を
 その口に擧ぐることをだにせず 25
 嘲笑者を打て さらば拙者も慎まん
 哲者を謹めよ
 さらばかれ知識を得ん 26 父を煩は
 し母を逐ふは羞報をきたらし凌辱を
 まねく子なり 27 わが子よ哲言を離
 れしむる教を聴くことを息めよ 28
 惡き證人は審判を嘲り
 惡者の口は惡を呑む 29
 審判は嘲笑者のために備はられ

鞭は愚なる者の背のために備へらる

Chapter 20

1 酒は人をして嘲らせ
濃酒は人をして騒がしむ
之に迷はざる者は無智なり 2
王の震怒は獅子の吼るがごとし彼を怒らする者は獅子のいのちを書ふ 3 穩かに居りて争はざるは人の榮譽なり
すべて愚なる者は怒り争ふ 4
情者は寒ければとて耕さずこの故に
収穫のときにおよびて求るとも得るところなし 5 人の心にある謀計は深き井の水のごとし
然れど哲人はこれを汲出す 6
凡そ人は各自おのれの善を誇る
されど誰か忠信なる者に遇しぞ 7 身を正しくして步履む義人はその後の子孫に福祉あるべし 8 審判の位に坐する王はその目をもてすべての惡を散す 9 たれか我わが心をきよめわが罪を潔められたりといひ得るや 10
二種の權衡二種の斗量は等しくエホバに憎まる 11 幼子といへどもその動作によりておのれの根性の清きか或は正しきかをあらはす 12 聴くところの耳と視るところの眼とはともにエホバの造り給へるものなり 13
なんぢ睡眠を愛すること勿れ
恐くは貧窮にいたらん
汝の眼をひらけ
然らば糧に飽べし 14
買者はいふ惡し惡しと
然れど去りて後はみづから誇る 15
金もあり眞珠も多くあれど貴き器は知識のくちびるなり 16 人の保證をなす者よりは先その衣をとれ他人の保證をなす者をばかたくらへよ 17
欺きとりし糧は人に甜しされど後にはその口に沙を充されん 18
謀計は相議るによりて成る
戦はんとなせば先よく議るべし 19
あるきめぐりて人の是非をいふ者は密事をもらす口唇をひらきてあるくものと交ること勿れ 20
おのれの父母を罵るものはその燈火くらやみの中に消ゆべし 21
初に俄に得たる産業はその終さいはひならず 22
われ惡に報いんと言ふこと勿れ
エホバを待て 彼なんぢを救はん 23
二種の法馬はエホバに憎まる
虚偽の權衡は善らず 24
人の步履はエホバによる人いかで自らその道を明かにせんや 25
漫に誓願をたつては其人の詛となる誓願をたててのちに考ふることも亦然り 26
賢き王は箕をもて簸るごとく惡人を散し
車輪をもて碾すごとく之を罰す 27
人の靈魂はエホバの燈火にして人の心の輿を窺ふ 28
王は仁慈と眞實をもて自らたもつその位もまた恩恵のおこなひによりて堅くなる 29
少者の榮はその力
おいたる者の美しきは白髪なり 30
傷つくまでに打たば惡きところきよまり
打てる鞭は腹の底までもとほる

Chapter 21

1 王の心はエホバの手の中にあ
りて恰かも水の流れのごとし彼その聖旨のままに之を導きたまふ 2
人の道はおのれの目に正しとみゆされどエホバは人の心をはかりたまふ 3
正義と公平を行ふは犠牲よりも愈りてエホバに悦ばる 4
高ぶる目と驕る心とは惡人の光にしてただ罪のみ 5
勤めはたらく者の圖るところは遂にその身を豊裕ならしめ凡てさわがしく急ぐ者は貧乏をいたす 6
虚偽の舌をもて財を得るは吹はらはるる雲烟のごとし
之を求むる者は死を求むるなり 7
惡者の殘虐は自己を亡すこれ義しきを行ふことを好まざればなり 8
罪人の道は曲り潔者の行爲は直し 9
相争ふ婦と偕に室に居らんよりは屋蓋の隅にをるはよし 10
惡者の靈魂は惡をねがふ
その鄰も彼にあはれみ見られず 11
あざけるもの罰をうくれば拙者は智慧を得 12
義しき神は惡者の家を見とめて惡者を滅亡に投いたたまふ 13
耳を掩ひて貧者の呼ぶ聲をきかざる者はおのれ自ら呼ぶときもまた聽れざるべし 14
潜なる饋物は忿恨をなだめ懐中の賄賂は烈しき瞋毒をやはらぐ 15
公義を行ふことは義者の喜樂にして惡を行ふものの敗壞なり 16
さとり
の道を離るる人は死し者の集會の中にをらん 17
宴樂を好むものは貧人となり酒と膏とを好むものは富をいたさじ 18
惡者は義者のあがなひとなり
悖れる者は直き者に代る 19
争ひ怒る婦と偕にをらんよりは荒野に居るはよし 20
智慧ある者の家には貴き寶と膏とあり
愚なる人は之を呑つくす 21
正義と憐憫と追求むる者は生命と正義と尊貴とを得べし 22
智慧ある者は強者の城にのぼりて
その堅く頼むところを倒す 23
口と舌とを守る者はその靈魂を守りて患難に遇せじ 24
高ぶり驕る者を嘲笑者となづくこれ驕奢を逞くして行ふものなり 25
情者の情慾はおのれの身を殺す是はその手を肯て動かさざればなり 26
人は終日しきりに慾を圖る
されど義者は與へて吝まず 27
惡者の獻物は憎まるる況て惡き事のために獻ぐる者をや 28
虚偽の證人は滅さる
然れど聴く人は恒にいふべし 29
惡人はその面を厚くし
義者はその道を謹む 30
エホバにむかひては智慧も明哲も謀略もなすところなし 31
戦闘の日のために馬を備ふ
されど勝利はエホバによる

Chapter 22

1 嘉名は大なる富にまさり恩寵は銀また金よりも佳し 2
富者と貧者と偕に世にをる
凡て之を造りし者はエホバなり 3

賢者は災禍を見てみづから避け
拙者はすすみて罰をうく 4
謙遜とエホバを畏る事との報は富と尊貴と生命となり 5
悖れる者の途には荆棘と罟とあり
靈魂を守る者は遠くこれを離れん 6
子をその道に従ひて教へよ
然ばその老たる時も之を離れじ 7
富者は貧者を治め借者は貸人の僕となる 8
惡を播くものは禍害を穽り
その怒の杖は廢るべし 9
人を見て恵む者はまた恵まる此はその糧を貧者に與ふればなり 10
嘲笑者を逐へば争論も亦さり
且闘争も恥辱もやむ 11
心の潔きを愛する者はその口唇に憐憫をもてり
王その友とならん 12
エホバの目は知識ある者を守る
彼は悖れる者の言を敗りたまふ 13
情者はいふ獅そとにあり
われ衝にて殺されんと 14
妓婦の口は深き坑なりエホバに憎まる者これに陥らん 15
痴なること子の心の中に繋がる
懲治の鞭これに逐いだす 16
貧者を虐げて自らを富さんとする者と富者に與ふる者とは遂にかならず貧しくなる 17
汝の耳を傾けて智慧ある者の言をきき且なんぢの心をわが知識に用よ 18
之を汝の腹にたまちて盡くなんぢの口唇にそなはらしめば樂しがるべし
19 汝をしてエホバに倚頼ましめんが爲にわれ今日これを汝に教ふ 20
われ勸言と知識とをふくみたる勝れし言を汝の爲に録しにあらざや 21
これ汝をして眞の言の確實なることを曉らしめ且なんぢを遣しし者に眞の言を持歸らしめん爲なり 22
弱きを弱きがために掠むることなかれ
艱難者を門にて壓つくること勿れ 23
そはエホバの訴を糺し且かれらを書ふもの生命をそこなはん 24
怒る者と交ること勿れ
憤ほる人とともに往ことなかれ 25
恐くは汝その道に效ひてみづから罟に陥らん 26
なんぢ人と手をうつ者となることなかれ
人の負債の保證をなすこと勿れ 27
汝もし償ふべきものあらずば人なんぢの下なる臥牀までも奪ひ取ん
是豈よからんや 28
なんぢの先祖がたてし古き地界を移すこと勿れ 29
汝その業に巧なる人を見るか
斯る人は王の前に立ん
かならず賤者の前にたたじ

Chapter 23

1 なんぢ侯たる者とともに坐して食ふときは慎みて汝の前にある者の誰なるかを思へ 2
汝もし食を嗜む者ならば汝の喉に刀をあてよ 3
その珍饈を貧り食ふこと勿れ
これ迷惑の食物なればなり 4
富を得んと思煩らふこと勿れ
自己の明哲を恃むこと勿れ 5
なんぢ虚しきに歸すべき者に目をとむるが富はかならず自ら翅を生じて驚のごとく天に飛ざらん 6
惡目をする者の糧をくらふことなく
その珍饈をむさぼりねがふことなかれ 7
そはその心に思ふごとくその人

となりも亦しかればなり彼なんぢに食へ飲めといふこといへどもその心は汝に眞實ならず 8
汝つひにその食へる物を吐出すにいたり且その出しし懇懃の言もむなくならん 9
愚なる者の耳に語ること勿れ彼なんぢが言の示す明哲を藐めん 10
古き地界を移すことなかれ
孤子の畑を侵すことなかれ 11
そはかれが瞞者は強し必ず汝に對らひて之が訴をのべん 12
汝の心を教に用
汝の耳を知識の言に傾けよ 13
子を懲すことを爲ざるなかれ
鞭をもて彼を打とも死することあらじ 14
もし鞭をもて彼をうたばその靈魂を陰府より救ふことをえん 15
わが子よもし汝のこころ智からば我が心もまた歡び 16
もし汝の口唇にただしき事をいはば我が腎腸も喜ぶべし 17
なんぢ心に罪人をうらやむ勿れ
ただ終日エホバを畏れよ 18
そは必ず應報ありて汝の望は廢らざればなり 19
わが子よ 汝ききて智慧をえかつ汝の心を道にかたがたけよ 20
酒にふけり肉をたしむものと交ること勿れ 21
それ酒にふける者と肉を嗜む者とは貧しくなり睡眠を貧者は散れたる衣をきるにいたらん 22
汝を生る父にきけ
汝の老たる母を輕んずる勿れ 23
眞理を買へ 24
これを售るなかれ
智慧と誠命と知識とまた然あれ 25
義き者の父は大によるこび智慧ある子を生る者はこれがために楽しまん 26
汝を生る者を喜ばせよ
わが子よ汝の心を我にあたへ
汝の目にわが途を樂しめ 27
それ妓婦は深き坑のごとく
淫婦は狭き井のごとし 28
彼は盜賊のごとく人を窺ひかつ世の人の中に悖れる者を増なり 29
禍害ある者は誰ぞ憂愁ある者は誰ぞ争端をなす者は誰ぞ
煩慮ある者は誰ぞ
故なくして傷をうくる者は誰ぞ
赤目ある者は誰ぞ 30
是すなはち酒に夜をふかすもの往て混和せたる酒を味ふる者なり 31
酒はあかく盃の中に泡だち滑かにくだる
汝これを見るなかれ 32
是は終に蛇のごとく噬み蝮の如く刺すべし 33
また汝の目は怪しきものを見なんぢの心は誠言をいはん 34
汝は海のなかに偃すもののごとく帆桅の上に偃すもののごとし 35
汝いはん人われを撃ども我いたます
我を擧げども我おぼえず
我さめなばまた酒を求めんと

Chapter 24

1 なんぢ惡き人を羨むことなかれ又これと偕に居らんことを願ふなかれ 2
そはその心に暴虐をはかりその口唇に人を書ふことをいへばなり 3
家は智慧によりて建られ
明哲によりて堅くせられ 4
また室は知識によりて各種の貴く美しき寶にて充されん 5
智慧ある者は強し
知識ある人は力をます 6

汝よき謀計をもて戦闘をなせ
 勝利は議者の多きによる 7 智慧は高くして愚なる者の及ぶところにあらず愚なる者は門にて口を啓くことをえず 8 悪をなさんと謀る者を邪曲なる者と稱ふ 9
 愚なる者の謀るところは罪なり
 嘲笑者は人に憎まる 10 汝もし患難の日に氣を挫かば汝の力は弱し 11 なんぢ死地に曳れゆく者を拯へ滅亡によるめきゆく者すくはざる勿れ 12 女われら之を知らずといふとも心をはかる者これを曉らざらんや汝の靈魂をまもる者これを知らざらんや彼はおのおのの行爲によりて人に報ゆべし 13 わが子よ蜜を食へ是は美ものなり
 また蜂のすの滴瀝を食へ
 是はなんぢの口に甘し 14 智慧の汝の靈魂におけるも是の如しと知れこれを得ばかならず報いありて汝の望すたれじ 15
 悪者よ義者の家を窺ふことなかれ
 その安居所を攻ること勿れ 16
 そは義者は七次たふるともまた起くされど悪者は禍災によりて亡ぶ 17
 汝の仇たふるとき楽しむこと勿れ
 彼の亡ぶるときここに喜ぶことなかれ 18
 恐くはエホバこれを見て惡しとしその震怒を彼より離れしめたまはん 19
 なんぢ悪者を怒ることなかれ
 邪曲なる者を羨むなかれ 20
 それ悪者には後の善賞なし
 邪曲なる者の燈火は滅されん 21
 わが子よエホバと王とを畏れよ
 叛逆者に交ること勿れ 22
 斯ものらの災禍は速におこるこの
 兩者の滅亡はたれか知えんや 23
 是等もまた智慧ある者の箴言なり
 偏り鞫するは善らず 24
 罪人に告て汝は義しといふものは衆人これを詛ひ諸民これを惡まん 25
 これを譴る者は恩をえん
 また福祉これにきたるべし 26
 ほどよき應答をなす者は口唇に接吻するなり 27
 外にて汝の工をととのへ田圃にてこれを自己のためにそなへ
 然るのち汝の家を建よ 28
 故なく汝の鄰に敵して證することなかれ汝なんぞ口唇をもて欺くべけんや 29
 彼の我に爲しし如く我も亦かれになすべしわれ人の爲ししところに循ひてこれに報いんといふこと勿れ 30
 われ曾て情人の田圃と智慧なき人の葡萄園とをすぎて見しに 31
 荆棘あまねく生え薊その地面を掩ひその石垣くづれみたり 32
 我これをみて心をとどめ
 これを觀て教をえたり 33
 しばらく臥し 暫らく睡り
 手を叉きて又しばらく休む 34
 さらば汝の貧窮は盜人のごとく汝の缺乏は兵士の如くきたるべし

Chapter 25

1

此等もまたソロモンの箴言なりユダの王ヒゼキヤに屬せる人々これを輯めたり 2 事を隠すは神の榮譽なり事を窮むるは王の榮譽なり 3 天の高さと地の深さと

王たる者の心とは測るべからず 4
 銀より渣滓を除け
 さらば銀工の用ふべき器いでん 5
 王の前より惡者をのぞけ
 然ばその位義によりて堅く立ん 6
 王の前に自ら高ぶることなかれ
 貴人の場に立つことなかれ 7
 なんぢが目に見る王の前にて下にさげらるるよりは
 ここに上れといはるること愈れり 8
 汝かろがるしく出でて争ふことなかれ
 恐くは終にいたりて汝の鄰に辱しめられんその時なんぢ如何になさんとするか 9
 なんぢ鄰と争ふことあらば只これと争へ
 人の密事を洩すなかれ 10
 恐くは聞者なんぢを卑しめん
 汝そしられて止ざらん 11
 機にかなひて語る言は銀の彫刻物に金の林檎を嵌たるが如し 12
 智慧をもて謹むる者の之をきく者の耳におけることは金の耳環と精金の飾のごとし 13
 忠信なる使者は之を遣す者におけること稽收の日に冷かなる雪あるがごとし 14
 能その主の心を喜ばしむ 14
 おくりものすと偽りて誇る人は雨なき雲風の如し 15
 怒を緩くすれば君も言を容る
 柔かなる舌は骨を折く 16
 なんぢ蜜を得るか
 惟これを足る程に食へ
 恐くは食ひ過して之を吐出さん 17
 なんぢの足を鄰の家にしげくするなかれ
 恐くは彼なんぢを厭ひ惡まん 18
 その鄰に敵して虚偽の證をたつる人は
 斧刃または利き箭のごとし 19
 艱難に遇ふとき忠實ならぬ者を頼むは惡しき齒または跛たる足を恃むがごとし 20
 心の傷める人の前に歌をうたふは寒き日に衣をぬぐが如く
 曹達のうへに酢を注ぐが如し 21
 なんぢの仇もし饑餓なば之に糧をくらはせ
 もし渴かば之に水を飲ませよ 22
 なんぢ斯するは火をこれが首に積むなり
 エホバなんぢに報いたまふべし 23
 北風は雨をおこしかげごとをいふ舌は人の顔をいからす 24
 争ふ婦と偕に室に居らんより屋蓋の隅にをるは宜し 25
 遠き國よりきたる好き消息は渴きたる人における冷かなる水のごとし 26
 義者の惡者の前に服するは井の濁れるがごとく泉の汚れたるがごとし 27
 蜜をおほく食ふは善らず人おのれの榮譽をもとむるは榮譽にあらず 28
 おのれの心を制へざる人は石垣なき壊れたる城のごとし

Chapter 26

1 榮譽の愚なる者に適はざるは夏の時に雪ふり
 稽收の時に雨ふるがごとし 2
 故なき詛は雀の翔り燕の飛ぶが如くにきたるものにあらず 3
 馬の爲には策あり
 驢馬の爲には術あり
 愚なる者の背のために杖あり 4
 愚なる者の痴にしたがひて答ふること勿れ
 恐くはおのれも是と同じからん 5
 愚なる者の痴にしたがひて之に答へ

よ恐くは彼おのれの目に自らを智者と見ん 6
 愚なる者に托して事を言おくる者はおのれの足をきり身に害をうく 7
 跛者の足は用なし
 愚なる者の口の箴もかくのごとし 8
 榮譽を愚なる者に與ふるは石を投石索に繋ぐが如し 9
 愚なる者の口にたもつ箴言は酔へるものの刺ある杖を手にて擧ぐるがごとし 10
 愚なる者を備ひ流浪者を備ふ者は
 すべての人を傷くる射手の如し 11
 狗のかへり來りてその吐たる物を食ふがごとく愚なる者は重ねてその痴なる事をおこなふ 12
 汝おのれの目に自らを智慧ある者とする人を見るか
 彼よりも却て愚なる人に望あり 13
 情者は途に獅あり
 衢に獅ありといふ 14
 戸の蝶紋によりて轉ごとく情者はその牀に輾轉す 15
 情者はその手を盤に在るも之をその口に擧ることを厭ふ 16
 情者はおのれの目に自らを善く答ふる七人の者よりも智慧ありとなす 17
 路をよぎり自己に關りなき争擾にたづさはる者は狗の耳をとらふる者のごとし 18
 既にその鄰を欺くことをなして我はただ戯れしのみといふ者は
 火箭または鎗または死を擲つ狂人のごとし 20
 薪なれば火はきえ人の是非をいふ者なれば争端はやむ 21
 煨火に炭をつぎ火に薪をくぶるがごとく
 争論を好む人は争論を起す 22
 人の是非をいふもの言はたはぶれのごとし
 雖もかへつて腹の奥に入る 23
 温かき口唇をもちて惡き心あるは銀の滓をきせたる瓦片のごとし 24
 恨むる者は口唇をもて自ら飾れども心の衷には虚偽をいだく 25
 彼その聲を和らかにするとも之を信するなかれその心に七の憎むべき者あればなり 26
 たとひ虚偽をもてその恨をかくすとも
 その惡は會集の中に顯はる 27
 坑を掘るものは自ら之に陥らん石を轉ばしあぐる者の上にはその石まるぶかへらん 28
 虚偽の舌はおのれの害す者を憎み
 諂ふ口は滅亡をきたらす

Chapter 27

1

なんぢ明日のことを誇るなかれそは一日の生ずるところの如何なるを知らざればなり 2
 汝おのれの口をもて自ら譴むることなく人をして己を讚めしめよ
 自己の口唇をもてせず他人をして己をほめしめよ 3
 石は重く沙は軽からず然ど愚なる者の怒はこの二よりも重し 4
 忿怒は猛く憤恨は烈しされど嫉妬の前には誰か立ことを得ん 5
 明白に譴むるに秘に愛するに愈る 6
 愛する者の傷つくるは眞實よりし
 敵の接吻するは偽詐よりするなり 7
 飽るものは蜂の蜜をも踐つくされど饑たる者は苦き物さへもすべた甘し 8
 その家を離れてさまよふ人はその巢を離れてさまよふ鳥のごとし 9
 膏と香とは人の心をやよこばすなり

心よりして勸言を與ふる友の美しきもまた斯のごとし 10
 なんぢの友と汝の父の友とを棄るなかなんぢ患難にあふ日に兄弟の家にいることなかれ
 親しき隣は疏き兄弟に愈れり 11
 わが子よ智慧を得てわが心を悦ばせよ
 然ば我をそしる者に我こたふることを得ん 12
 賢者は禍害を見てみづから避け
 拙者はすすみて罰をうく 13
 人の保證をなす者よりは先その衣をとれ他人の保證をなす者は固くとらへよ 14
 農はやく起て大聲にその鄰を祝すれば却て呪詛と見なされん 15
 相争ふ婦は雨ふる日に絶ずある雨漏のごとし 16
 これを制ふるものは風をおさふるがごとく
 右の手に膏をつかむがごとし 17
 鐵は鐵をとぐ
 斯のごとくその友の面を研なり 18
 無花果の樹をまもる者はその果をくらふ
 主を貴ぶものは譽を得 19
 水に照せば面と面と相肖るがごとく
 人の心は人の心に似たり 20
 陰府と沈淪とは飽ことなく
 人の目もまた飽ことなし 21
 垣塙によりて銀をためし鑛によりて金をためしその讚らざる所によりて人をためす 22
 なんぢ愚なる者を白にいれ杵をもて麥と偕にこれを搗ともその愚は去らざるなり 23
 なんぢの羊の情況をよく知り
 なんぢの群に心を留めよ 24
 富は永く保つものにあらず
 いかで位は世々にたもたん 25
 艸枯れ苗いで山の蔬菜あつめらる 26
 羔羊はなんぢの衣服を出し
 牝羊は田圃を買ふ價となり 27
 牝羊の乳はおほくして汝となんぢの家人の糧となり汝の女をやしなふにたる

Chapter 28

1 惡者は逐ふ者なけれども逃げ

義者は獅子のごとくに勇まし 2
 國の罪によりて侯伯多くなり智くして知識ある人によりて國は長く保つ 3
 弱者を虐ぐる貧人は糧をのこさざる暴しき雨のごとし 4
 律法を棄るものは惡者をほめ
 律法を守る者はこれに敵す 5
 惡人は義きことを覺らずエホバを求むる者は凡の事をさとる 6
 義しくあゆむ貧者は曲れる路をあゆむ富者に愈る 7
 律法を守る者は智子なり放蕩なる者に交るものは父を辱かしむ 8
 利息と高利をもてその財産を増すものは貧人をめぐむ者のために之をたくはふるなり 9
 耳をそむけて律法を聞ざる者はその祈すらも憎まる 10
 義者を惡き道に惑す者はみづから自己の阱に陥らんされど眞直なる者は福祉をつぐべし 11
 富者はおのれの目に自らを智慧ある者となすされど聰明ある貧者は彼をはかり知る 12
 義者の喜ぶときは大なる榮あり
 惡者の起るときは民身を匿す 13
 その罪を隠すものは榮ゆることなし
 然ど認らはして之を離る者は憐憫をうけん 14
 恒に畏るる人は幸福なりその心を剛愎にする者は災禍に陥るべし 15
 貧

しき民を治むるあしき侯伯は吼る獅子あるひは饑たる熊のごとし 16 智からざる君はおほく暴虐をおこなふ不義の利を惡む者は遐齡をうべし 17 人を殺してその血を心に負ふ者は墓に奔るなり
人これを阻むること勿れ 18 義く行む者は救をえ 曲れる路に行む者は直に跌れん 19 おのれの田地を耕す者は糧にあき放蕩なる者に従ふものは貧乏に飽く 20 忠信なる人は多くの幸福をえ速かに富を得んとする者は罪を免れず 21 人を偏視るはよからず人はただ一片のパンのために愆を犯すなり 22 惡目をもつ者は財をえんとて急がはしく却て貧窮のおのれに来るを知らず 23 人を誹むる者は舌をもて諂ふ者よりも大なる感謝をうく 24 父母の物を竊みて罪ならずといふ者は滅す者の友なり 25 心に貧る者は争端を起しエホバに倚頼むものは豊饒になるべし 26 おのれの心を持つ者は愚なり 智慧をもて行む者は救をえん 27 貧者に調すものは乏しからずその目を掩ふ者は詛を受ること多し 28 惡者の起るときは人匿れ その滅るときは義者ます

Chapter 29

1 しばしば責られてもなほ強項なる者は救はるることなくして猝然に滅されん 2 義者ませば民よるこび 惡きもの權を掌らば民かなしむ 3 智慧を愛する人はその父を悦ばせ 妓婦に交る者はその財産を費す 4 王は公義をもて國を堅うすされど租税を征收る者はこれを滅す 5 その鄰に諂ふ者はかれの脚の前に羅を張る 6 惡人の罪の中には咎あり 然ど義者は歡び楽しむ 7 義きものは貧きもの訟をかへりみる 然ど惡人は之を知ること願はず 8 嘲笑人は城邑を擧し 智慧ある者は怒をしむ 9 智慧ある人おろかな人と争へば或は怒り或は笑ひて休むことなし 10 血をながす人は直き人を惡むされど 義き者はその生命を救はんことを求む 11 愚なる者はその怒をことごとく露はし 智慧ある者は之を心に蔽む 12 君王もし虚偽の言を聴かばその臣みな惡し 13 貧者と苛酷者と偕に世にをる エホバは彼等の目に光をあたへ給ふ 14 眞實をもて弱者を審判する王はその位つねに堅く立つべし 15 鞭と譴責とは智慧をあたふ任意になしおかれたる子はその母を辱しむ 16 惡きもの多ければ罪も亦おほし 義者は彼等の傾覆をみん 17 なんちの子を懲せ さらば彼なんぢを安からしめ 又なんぢの心に喜樂を與へん 18 默示なければ民は放肆にす 律法を守るものは福ひなり 19 僕は言をもて誹むるとも改めず 彼は知れども従はざればなり 20 なんぢ言を謹まざる人を見しや 彼よりは却て愚なる者に望あり 21 僕をその幼なき時より柔かに育てな

ば終には子の如くならしめん 22 怒る人は争端を起し憤る人は罪おほし 23 人の傲慢はおのれを卑くし 心に謙たる者は榮譽を得 24 盗人に黨する者はおのれの靈魂を惡むなり 彼は誓を聴けども説述べず 25 人を畏るれば咎におちいる エホバをたのむ者は護られん 26 君の慈悲を求むる者はおほし然れども人の事を定むるはエホバによる 27 不義をなす人は義者の惡むところ 義くあゆむ人は惡者の惡むところなり

Chapter 30

1 ヤケの子アグルの語なる箴言かれイテエルにむかひて之をいへり 即ちイテエルとウカルとにいへる所のものなり 2 我は人よりも愚なり 我には人の聰明あらず 3 我いまた智慧をならひ得ずまたいまだ至聖きものを暁ることをえず 4 天に昇りまた降りし者は誰か 風をその掌中に聚めし者は誰か 水を衣につつまし者は誰か 地のすべての限界を定めし者は誰か その名は何ぞ その子の名は何ぞ 汝これを知るや 5 神の言はみな潔よし 神は彼を頼むものの盾なり 6 汝その言に加ふることを勿れ 恐くは彼なんぢをせめ 又なんぢを誑る者となしたまはん 7 わね二の事をなんぢに求めたり 我が死ざる先にこれをたまへ 8 即ち虚假と謊言とを我より離れしめ 我をして貧からしめずまた富しめず 惟なくてはならぬ糧をあたへ給へ 9 我は我あきて神を知ずといひエホバは誰なりやといはんとを恐れまた貧くして窃盜をなし我が神の名を汚さんことを恐るればなり 10 なんぢ僕をその主に讓ることなかれ 恐くは彼なんぢを誑ひてなんぢを罪せられん 11 その父を誑ひその母を祝せざる世類あり 12 おのれの目に自らを潔者となして尚その汚穢を滌はれざる世類あり 13 また一の世類あり 嗚呼その眼はいかに高きぞや その臉は昂れり 14 その齒は劍のごとく その牙は刃のごとき世類あり 彼等は貧き者を地より呑み 窮乏者を人の中より食ふ 15 蛭に二人の女あり 與へよ與へよと呼はる 飽ことを知ざるもの三あり 否な四あり皆たれりといはず 16 即ち陰府妊まざる胎水に満されざる地 足りといはざる火これなり 17 おのれの父を嘲り母に従ふことをいやしとする眼は谷の鴉これを抜いだし驚の雛これを食はん 18 わが奇とするもの三あり否な四あり共にわが識ざる者なり 19 即ち空にとぶ鷲の路 盤の上にはふ蛇の路 海にはしる舟の路 男の女にあふの路これなり 20 淫婦の途も亦しかり 彼は食ひてその口を拭ひ われ惡きことを爲ざりきといふ 21 地は三の者によりて震ふ否な四の者

によりて耐ることあたはざるなり 2 2 即ち僕たるもの王となるに困り愚なるもの糧に飽るにより 23 厭忌はれたる婦の嫁ぐにより婢女その主母に續に困りてなり 24 地に四の物あり微小といへども最智し 25 蟻は力なき者なれどもその糧を夏のうちに備ふ 26 山鼠ば強からざれどもその室を磐につくる 27 蝗は王なけれどもみな隊を立ていづ 28 守宮は手をもてつかまり王の宮にをる 29 善あゆむもの三あり否な四あり皆よく歩く 30 獸の中にても最も強くもるものもの前より退かざる獅子 31 肚帶せし戦馬牡野羊および當ること能はざる王これなり 32 汝もし愚にして自から高ぶり或は惡きことを計らば汝の手を口に當つべし 33 それ乳を搾れば乾酪いで鼻を搾れば血いで 怒を激ふれば争端おこる

Chapter 31

1 レムエル王のことば即ちその母の彼に教へし箴言なり 2 わが子よ何を言んか わが胎の子よ何をいはんか我が願ひて得たる子よ何をいはんか 3 なんぢの力を女につひやすなかれ王を滅すものに汝の途をまかす勿れ 4 レムエルよ酒を飲は王の爲べき事に非ず王の爲べき事にあらず醇醪を求むるは牧伯の爲すべき事にあらず 5 恐くは酒を飲て律法をわすれ且すべて惱まざる者の審判を枉げん 6 醇醪を亡びんとする者にあたへ 酒を心の傷める者にあたへよ 7 かれ飲てその貧窮をわすれ 復その苦楚を憶はざるべし 8 なんぢ瘡者のため又すべての孤者の訟のために口をひらけ 9 なんぢ口をひらきて義しき審判をなし貧者と窮乏者の訟を糺せ 10 誰か賢き女を見出すことを得ん その價は眞珠よりも貴とし 11 その夫の心は彼を待み その産業は乏しくならじ 12 彼が存命ふる間はその夫に善事をなして惡き事をなさず 13 彼は羊の毛と麻とを求め喜びて手から操き 14 商賈の舟のごとく遠き國よりその糧を運び 15 夜のあけぬ先に起てその家人に糧をあたへ その婢女に日用の分をあたふ 16 田畝をはかりて之を買ひその手の操作をもて葡萄園を植ゑ 17 力をもて腰に帶し その手を強くす 18 彼はその利潤の益あるを知る その燈火は終夜きえず 19 かれ手を紡線車にのべ その指に紡錘をとり 20 手を貧者にのべ 手を困苦者に舒ぶ 21 彼は家人の爲に雪をおそれず蓋その家人みな蕃紅の衣をきればなり 22 彼はおのれの爲に美しき襦子をつくり 23 細布と紫とをもてその衣とせり 24 彼の夫はその地の長老とともに邑の門に坐するによりて人に知るなり 25 彼は帯をつくりて商賈にあたふ 25 彼は

筋力と尊貴とを衣とし且のちの日を笑ふ 26 彼は口を啓きて智慧をのぶ 仁愛の教誨その舌にあり 27 かれはその家の事を鑿み 怠惰の糧を食はず 28 その衆子は起て彼を祝す その夫も彼を讃ていふ 29 賢く事をなす女子は多けれども 汝はすべての女子に愈れり 30 艶麗はいつはりなり 美色は呼吸のごとし 惟エホバを畏る女は譽られん 31 その手の操作の果をこれにあたへその行爲によりてこれを邑の門にほめよ

伝道者の書

Chapter 1

1 ダビデの子 エルサレムの王 傳道者の言 2 傳道者言く 空の空の空なる哉 都て空なり 3 日の下に人の勞して爲とてころの諸の動作は その身に何の益かあらん 4 世は去り世は来る 地は永久に長存なり 5 日は出で日は入り またその出し處に喘ぎゆくなり 6 風は南に行き又轉りて北にむかひ 旋轉に旋りて行き 風復その旋轉の處にかへる。 7 河はみな海に流れ入る 海は盈ること無し河はその出きたれる處に復還りゆくなり 8 萬の物は勞苦す 人これを言つことあたはず目は見に飽ことなく耳は聞に充ること無し 9 曩に有し者はまた後にあるべし 曩に成し事はまた後に成べし日の下には新しき者あらざるなり 10 見よ是は新しき者なりと指て言べき物あるや其は我等の前にありし世々に既に久しくありたる者なり 11 己前のものの事はこれを記憶ることなし以後のもの事もまた後に出る者これをおぼゆることあらじ 12 われ傳道者はエルサレムにありてイスラエルの王たりき 13 我心を盡し智慧をもちて天が下に行はるる諸の事を尋ねかつ考覈たり此苦しき事件は神が世の人にさづけて之に身を勞せしめたまふ者なり 14 我日の下に作ところの諸の行爲を見たり嗚呼皆空にして風を捕ふりがごとし 15 曲れる者は直からしむるあたはず缺たる者は數をあはするあたはず 16 我心の中に語りて言ふ 嗚呼我は大なる者となれり我より先にエルサレムに在りしすべての者よりも我は多くの智慧を得たり 17 我心を盡して智慧を知んとし狂妄と愚癡を知んとしたりしが是も亦風を捕ふるがごとくなるを暁れり 18 夫智慧多ければ憤激多し 知識を増す者は憂患を増す

Chapter 2

1 我わが心に言けらく
 來れ我試みに汝をよるこばせんとす
 汝逸樂をきはめよと
 嗚呼はもまた空なりき 2
 我笑を論ふ是は狂なり快樂を論ふ是
 何の爲とてころあらんやと 3 我心に智
 慧を懷きて居つつ酒をもて肉身を肥
 さんと試みたり又世の人は天が下
 において生涯如何なる事をなさば善ら
 んかを知んために我は愚なる事を行
 ふことをせり 4
 我は大なる事業をなせり我はわが爲
 に家を建て葡萄園を設け 5
 園をつくり圃をつくり
 又菓のなる諸の樹を其處に植ふ 6
 また水の塘池をつくりて樹木の生茂れ
 る林に其より水を灌がしめたり 7
 我は僕婢を買得たりまた家の子あり
 我はまた凡て我より前にエルサレム
 にをりし者よりも衆多の牛羊を有り 8
 我は金銀を積み
 王等と國々の財寶を積あげたり
 また歌詠之男女を得
 世の人の樂なる妻妾を多くえたり 9
 斯人は大なる者となり我より前に
 エルサレムにをりし諸の人よりも大
 になりぬ吾智慧もまたわが身を離れざ
 りき 10 凡そわが目の好む者は我
 これを禁ぜざり凡そわが心の悦ぶ者は我
 これを禁ぜざりき即ち我はわが諸の
 勞苦によりて快樂を得たり是は我が
 諸の勞苦によりて得たるところの分
 なり 11 我わが手にて爲たる諸の事
 業および我が勞して事を爲たる勞苦
 を顧みるに
 皆空にして風を捕ふるが如くなりき
 日の下には益となる者あらざるなり
 12 我また身を轉らして智慧と狂妄と
 愚癡とを觀たり抑王に嗣ぐところの
 人は如何なる事を爲するやその既に
 なせしところの事に過ぎるべし 13
 光明の黑暗にまさるがごとく智慧は
 愚癡に勝るなり 我これを曉れり 14
 智者の目はその頭にあり愚者は黑暗
 に歩む然ど我し其みな遇ふところ
 の事は同一なり 15 我心に謂けらく
 愚者の遇ふところの事に我もまた遇
 ふべし
 我なんぞ智慧のまさる所あらんや我
 また心に謂り是も亦空なるのみと 16
 夫智者も愚者と均しく永く世に記
 念らることなし來らん世にいたれば
 皆早く既に忘らるるなり嗚呼智者
 の愚者とおなじく死るは如何なる
 事ぞや 17 是に於て我世にながら
 ることを厭へり凡そ日の下に爲と
 ころの事は我に惡く見ればなり即ち
 皆空にして風を捕ふるがごとし 18 我
 は日の下にわが勞して諸の動作をな
 したるを恨む其は我の後を嗣ぐ人に
 これを遺さざるを得ざればなり 19
 其人の智慧は誰かこれを知らん然る
 にその人は日の下に我が勞して爲し
 智慧をこめて爲たる諸の工作を管理
 るにいたらん是また空なり 20 我身
 をめぐらし日の下にわが勞して爲た
 る諸の動作のために望を失へり 21
 今茲に人あり智慧と知識と才能をも
 て勞して事をなさん終には之がた
 めに勞せざる人に一切を遺してその
 所有となさしめざるを得ざるなり

是また空にして大に惡し 22 夫人は
 その日の下に勞して爲ところの諸の
 動作とその心勞によりて何の得と
 ころ有るや 23
 その世にある日には常に憂患あり
 その勞苦は苦しその心は夜の間も安
 んずることあらず 是また空なり 24
 人の食飲をなしその勞苦によりて心
 を樂しましむるは幸福なる事にあ
 らず 是もまた神の手より出るなり
 我これを見る 25 誰かその食ふと
 ころその歡樂を極むるところに於て
 人にまさる者あらん 26 神はその心
 に適ふ人には智慧と知識と喜樂を賜
 ふ然れども罪を犯す人には勞苦を賜
 ひて斂めかつ積ことを爲さしむるは
 其を神の心に適ふ人に與へたまは
 んためなり是もまた空にして風を捕
 ふるがごとし

Chapter 3

1 天が下の萬の事には期あり
 萬の事務には時あり 2
 生るるに時あり死るるに時あり植るに
 時あり植たる者を抜に時あり 3
 殺すに時あり斃すに時あり
 毀つに時あり建るに時あり 4
 泣に時あり笑ふに時あり
 悲むに時あり躍るに時あり 5 石を擲
 つに時あり石を斂むるに時あり懐く
 に時あり懐くことをせざるに時あり 6
 得に時あり失ふに時あり
 保つに時あり棄るに時あり 7
 裂に時あり縫に時あり
 黙すに時あり語るに時あり 8
 愛しむに時あり惡むに時あり
 戰ふに時あり和ぐに時あり 9 働く者
 はその勞して爲ところよりして何の
 益を得んや 10 我神が世の人にさづ
 けて身をこれに勞せしめたまふと
 ころの事件を視たり 11 神の爲した
 まふところは皆その時に適ひて美麗
 かり神はまた人の心に永遠をおも
 ふの思念を賦けたまへり然れども神
 のなしたまふ作爲を始り終て知明
 むることを得ざるなり 12 我知る人
 の中にはその世にある時に快樂を
 なし善をおこなふより外に善事はあ
 らず 13 また人はみな食飲をなしその
 勞苦によりて逸樂を得べきなり
 是すなはち神の賜物たり 14 我知る
 凡て神のなしたまふ事は限なく存せ
 ん是は加ふべき所なく是は減すべき
 ところ無し神の之をなしたまふは人
 をしてその前に畏れしめんがためなり
 15 昔ありたる者は今もあり
 後にあらん者は既にありし者なり神
 はその遂やられし者を索めたまふ 16
 我また日の下を見るに審判をおこ
 なふ所に邪曲なる事あり公義を行ふ
 ところに邪曲なる事あり 17 我すな
 はち心に謂けらく神は義者と惡者と
 を鞠きたまはぬ彼處において萬の事
 と萬の所爲に時あるなり 18 我また
 心に謂けらく是事あるは是世の人の
 ためなり即ち神は斯世の人を檢して
 之にその獸のごとくなることを自ら
 曉らしめ給ふなり 19 世の人に臨む
 ところの事はまた獸にも臨むこの二
 者に臨むところの事は同一にして是
 も死ば彼も死るなり
 皆同一の呼吸に依れり

人は獸にまさる所なし皆空なり 20
 皆一の所に往く
 皆塵より出で皆塵にかへるなり 21
 誰か人の魂の上に昇り獸の魂の地に
 くだることを知ん 22 然ば人はその
 動作によりて逸樂をなすに如はなし
 是その分なればなり我これを見るそ
 の身の後の事は誰かこれを携へゆき
 て見さしむる者あらんや

Chapter 4

1 茲に我身を轉して日の下に行
 ける諸の處を視たり
 嗚呼慮げらる者の涙ながる
 之を慰むる者あらざるなり
 また慮ぐる者の手には權力あり彼等
 はこれを慰むる者あらざるなり 2 我
 は猶生る生者よりも既に死たる死者
 をもて幸なりとす 3 またこの二者よ
 りも幸なるは未だ世にあらずして日
 の下におこなはるる惡事を見ざる者
 なり 4 我また諸の勞苦と諸の工事の
 精巧とを觀るに是は人のたがひに嫉
 みあひて成せる者たるなり
 是も空にして風を捕ふるが如し 5 愚
 なる者は手を束ねてその身の肉を食
 ふ 6 片手に物を盈て平穩にあるは
 兩手に物を盈て勞苦て風を捕ふるに
 愈れり 7 我また身をめぐらし日の下
 に空なる事のあるを見たり 8 茲に人
 あり只獨にして伴侶もなく子もなく
 兄弟もなく然しその勞苦は都て窮
 乏の目は富に飽ことなし彼また言
 ず嗚呼我は誰がために勞するや何と
 て我は心を樂ませざるやと是もまた
 空にして勞力の苦き者なり 9 二人は
 一人に愈る其はその勞苦のために善
 報を得ればなり 10 即ちその跌倒る
 時には一箇の人その伴侶を扶けおこ
 すべし然ど孤身にして跌倒る者は憐
 なるかな之を扶けおこす者なきなり
 11 又二人ともに寝れば温暖なり一人
 ならば争て温暖ならんや 12 人もし
 その一人を攻撃ば二人してこれに當
 るべし
 三根の繩は容易く斷ざるなり 13
 貧くして賢き童子は老て愚にして諫
 を納れざる王に愈る 14
 彼は牢獄より出て王となれり然どそ
 の國に生れし時は貧かりき 15 我日
 の下にあゆむところの群生が彼王に
 續てこれに代りて立ところの童子と
 ともあるを觀たり 16
 民はすべて際限なし
 その前にありし者みな然り
 後にきたる者また彼を悦ばず
 是も空にして風を捕ふるがごとし

Chapter 5

1 汝エホバの室にいたる時には
 その足を慎め進みよりて聽聞は愚
 なる者の犠牲にまさる彼等ははその惡
 をおこなひをることを知ざるなり 2 汝
 神の前にありては輕々し口を開くな
 かれ
 心を攝めて妄に言をいだすなかれ其
 は神は天にいまし汝は地にをればなり
 然ば汝の言詞を少からしめよ 3
 夫夢は事の繁多によりて生じ愚なる
 者の聲は言の衆多によりて識るなり 4
 汝神に誓願をかけなば之を還すこ

とを怠るなかれ
 神は愚なる者を悦びたまはざるなり
 汝はそのかけし誓願を還すべし 5 誓
 願をかけてこれを還さざるよりは寧
 る誓願をかけざるは汝に善し 6 汝の
 口をもて汝の身に罪を犯さしむるな
 かれ亦使者の前に其は過誤なりとい
 ふべからず恐くは神汝の言を怒り汝
 の手の所爲を滅したまはん 7
 夫夢多ければ空なる事多し
 言詞の多きもまた然り
 汝エホバを畏め 8 汝國の中に貧き者
 を慮る事および公道と公義を枉る
 ことあるを見るもその事あるを怪む
 なかれ其はその位高き人よりも高き
 者ありてその人を伺へばなり又其等
 よりも高き者あるなり 9
 國の利益は全く是にあり即ち王者が
 農事に勤むるにあるなり 10
 銀を好む者は銀に飽こと無し豊富
 ならんことを好む者は得るところ有ら
 ず 是また空なり 11
 貨財増せばこれを食む者も増すなり
 その所有主は唯目これを看るのみ
 その外に何の益かあらん 12 勞する
 者はその食ふところは多きも少きも
 快く睡るなり然れども富者はその貨
 財の多きがために睡ることを得せず
 13 我また日の下に患の大なる者ある
 を見たりすなはち財寶のこれを蓄ふ
 る者の身に害をおよぼすことある是
 なり 14 その財寶はまた災難により
 て失落ことあり然ばその人子を擧
 ることあらんもその手には何物もあ
 ることなし 15 人は母の胎より出て
 来りごとくにまた裸體にして販りゆ
 くべしその勞苦によりて得たる者を
 毫厘も手にとりて携へゆくことを得
 ざるなり 16 人は全くその來りしご
 とくにまた去ゆかざるを得ず
 是また患の大なる者なり抑風を追
 追する者何の益をうること有んや 17
 人は生命の涯黑暗の中に食ふこと
 を爲すまた憂愁多かり疾病身にあり
 憤怒あり 18 視よ我は斯觀たり
 人の身にとりて善かつ美なる者は神
 にたまはるその生命の極食飲をなし
 且その日の下に勞して働ける勞苦に
 よりて得るところの福祿を身に享る
 の事なり是その分なればなり 19 何
 人によらず神がこれに富と財を與へ
 てそれに食ことを得せしめまたその
 分を取りその勞苦によりて快樂を得
 ることをせさせたまふあれば 20
 其事は神の賜物たるなり 20 かか
 る人はその年齢の日を憶ゆること深
 からず其は神これが心の喜ぶところ
 にしたがひて應ることを爲したまへ
 ばなり

Chapter 6

1 我觀るに日の下に一件の患あ
 り是は人の間に恒なる者なり 2 すな
 はち神富と財と貴を人にあたへてそ
 の心に慕ふ者を一件もこれに缺ること
 なからしめたまひながらも神また
 その人に之を食ふことを得せしめた
 まはずして
 他人のこれを食べることあり
 是空なり惡き疾なり 3 假令人百人の
 子を擧げまた長壽してその年齢の日
 多からんも若その心景福に満足せざ

るか又は葬らるることを得ざるあれば我言ふ流産の子はその人にまさるたり 4 夫流産の子はその來ること空しくして黑暗の中に去ゆきその名は黑暗の中にかくるなり 5 又はは日を見ることなく物を知ることなければ彼よりも安泰なり 6 人の壽命千年に倍するとも福祉を蒙れるにはあらず 皆一所に往くにあらずや 7 人の勞苦は皆その口のためなり その心はなほも飽ざるところ有り 8 賢者なんぞ愚者に勝るところあらんやまた世人の前に歩行ことを知ところの貧者も何の勝るところ有んや 9 目に觀る事物は心のさまよひ歩くに愈るなり是また空にして風を捕ふるがごとし 10 嘗て在し者は久しき前にすでにその名を命られたり 即ち是は人なりと知るれば是はかの自己よりも力強き者と争ふことを得ざるなり 11 衆多の言論ありて虚浮き事を増す然ど人に何の益あらんや 12 人はその虚空き生命の世を影のごとくに送るなり誰かこの世において如何なる事か人のために善き者なるやを知ん誰かその身の後に日の下にあらんところの事を人に告うる者あらんや

Chapter 7

1 名は美言に愈り 死る日は生るる日に愈る 2 哀傷の家に人は宴樂の家に入に愈る 其は一切の人の終かくのごとくなればなり生る者またこれをその心にとむるあらん 3 悲哀は嬉笑に愈る 其は面に憂色を帶るなれば心も善にむかへばなり 4 賢き者の心は哀傷の家にあり 愚なる者の心は喜樂の家にあり 5 賢き者の勸責を聽は愚なる者の歌詠を聽に愈るなり 6 愚なる者の笑は釜の下に焚る荆棘の聲のごとし是また空なり 7 賢き人も虐待する事によりて狂するに至るあり賄賂は人の心を壞なふ 8 事の終はその始よりも善し 容忍心ある者は傲慢心ある者に勝る 9 汝氣を急くして怒るなかれ 怒は愚なる者の胸にやどるなり 10 昔の今にまさるは何故ぞやと汝言なかれ汝の斯る問をなすは是智慧よりいづる者にあらざるなり 11 智慧の上に財産をかぬれば善し然れば日を見る者等に利益おほかるべし 12 智慧も身の護庇となり銀子も身の護庇となる然ど智慧はまたこれを有る者に生命を保しむ 是知識の殊勝たるところなり 13 汝神の作爲を考ふべし神の曲たまひし者は誰かこれを直くすることを得ん 14 幸福ある日には樂め禍患ある日には幸へよ日はこの二者をあひ交錯て降したまふ是は人をしてその後の事を知ることなからしめんためなり 15 我この空の世にありて各様の事を見たり 義人の義をおこなひて亡ぶるあり 惡人の惡をおこなひて長壽あり 16 汝義に過るなかれまた賢に過るなかれ 汝なんぞ身を滅すべけんや 17 汝惡に過るなかれまた愚なる勿れ汝なんぞ時いたらざるに死べけんや 1

8 汝此を執は善しまた彼にも手を放すなかれ神を畏む者はこの一切の者の中より逃れ出るなり 19 智慧の智者を罰くことは邑の英雄者十人にまさるなり 20 正義して善をおこなひ罪を犯すことなき人は世にあることなし 21 人の言はず言詞には凡て心をとむる勿れ恐くは汝の僕の汝を詛ふを聞こともあらん 22 汝も屢人を詛ふことあるは汝の心に知ところなり 23 我智慧をもてこの一切の事を試み我は智者とならんと謂たりしが遠くおよばざるなり 24 事物の理は遠くして甚だ深し 誰かこれを究むることを得ん 25 我は身をめぐらし心をもちひて物を知り事を探り智慧と道理を索めんとし又惡の愚たると愚癡の狂妄たるを知んとせり 26 我了れり 婦人のその心羅と網のごとくその手繰綫のごとくなる者は是死よりも苦き者なり神の悦びたまふ者は之を避ることを得ん 罪人は之に執らるべし 27 傳道者言ふ視よ我その數を知んとして一々に算へてつひに此事を了る 28 我なほ尋ねて得ざる者は是なり 我千人の中には一箇の男子を得たれどもその數の中には一箇の女子をも得ざるなり 29 我了れるところは唯是のみ即ち神は人を正直者に造りたまひしに人衆多の計略を案出せしなり

Chapter 8

1 誰か智者に如ん誰か事物の理を解くことを得ん人の智慧はその人の面に光輝あらしむ 又その粗暴面も變改べし 2 我言ふ王の命を守るべし既に神をさして誓ひしことあれば然るべきなり 3 早まりて王の前を去ることなかれ 惡き事につること勿れ其は彼は凡てその好むところを爲ばなり 4 王の言語には權力あり然ば誰か之に汝何をなすやといふことを得ん 5 命令を守る者は禍患を受るに至らず 智者の心は時期と判断を知なり 6 萬の事務には時あり判断あり是をもて 人大なる禍患をうくるに至るあり 7 人は後にあらんところの事を知ずまた誰か如何なる事のあらんかを之に告る者あらん 8 靈魂を掌管て靈魂を留めうる人あらず人はその死る日には權力あること無し 此戰爭には釋放たる者あらず又罪惡はこれを行ふ者を救ふことを得ざるなり 9 我この一切の事を見また日の下におこなはるる諸の事に心を用ひたり時としては此人彼人を治めてこれに害を蒙らしむることあり 10 我見しに惡人の葬られて安息に在るありまた善をおこなふ者の聖所を離れてその邑に忘るるに至るあり 是また空なり 11 惡き事の報速にきたらざるが故に世人心を專にして惡をおこなふ 12 罪を犯す者百次惡をなして猶長命あれども我知る神を畏みてその前に畏怖をいだく者には幸福あるべし 13 但し惡人には幸福あらずまたその生命も長からずして影のごとし其は神の前に畏怖をいだくことなければ

り 14 我日の下に空なる事のおこなはるるを見たり即ち義人にして惡人の遣べき所に遣ふ者あり惡人にして義人の遣べきところに遣ふ者あり 我謂り是もまた空なり 15 是に於て我喜樂を讀む其は食飲して樂むよりも好き事は日の下にあらざればなり人の勞して得る物の中是こそはその日の下にて神にたまはる生命の日の間その身に離れざる者なれ 16 茲に我心をつくして智慧を知らんとし世に爲とごころの事を究めんとしたり人は夜も晝もその目をとごて眠ることをせざるなり 17 我神の諸の作爲を見しが人は日の下におこなはるるところの事を究むるあたはざるなり人これを究めんと勞するもこれを究むることを得ず且又智者ありてこれを知らんと思ふもこれを究むることあたはざるなり

Chapter 9

1 我はこの一切の事に心を用ひてこの一切の事を明めんとせり即ち義き者と賢き者およびかれらの爲とごころは神の手にあるなるを明めんとせり愛むや惡むや人は人これを知ることなし一切の事はその前にあるなり 2 諸の人に臨む所は皆同じ 義き者にも惡き者にも善き者にも淨者にも穢れたる者にも犠牲を献ぐる者にも犠牲を献げぬ者にもその臨むところの事は同一なり 善人も罪人に異ならず誓をなす者も誓をなすことを畏るる者に異ならず 3 諸の人に臨むところの事の同一なるは是日の下におこなはるる事の中の惡き者なり 抑人の心には惡き事充をり その生る間は心に狂妄を懐くあり 後には死者の中に往くなり 4 凡活る者の中に列る者は望あり其は生る犬は死る獅子に愈ればなり 5 生者はその死んことを知る然ど死者は何事をも知ずまた應報をうくることも重てあらずその記憶らるる事も遂に忘れらるるに至る 6 またその愛も惡も嫉も既に消うせて彼等は日の下におこなはるる事に最早何時までも關係ことあらざるなり 7 汝往て喜悅をもて汝のパンを食ひ樂き心をも汝の酒を飲め其は神久しく汝の行爲を嘉納たまへばなり 8 汝の衣服を常に白からしめよ 汝の頭に膏を絶しむるなかれ 9 日の下に汝が賜はるこの汝の空なる生命の日の間汝その愛する妻とともに喜びて度生せ 汝の空なる生命の日の間しかせよ是は汝が世にありて受る分汝が日の下に働ける勞苦によりて得る者なり 10 凡て汝の手に堪ることは力をつくしてこれを爲せ其は汝の往んところの陰府には工作も計謀も知識も智慧もあることなければなり 11 我また身をめぐらして日の下を觀るに迅速者走ることに勝にあらず強者戰爭に勝にあらず智慧者食物を獲にあらず 知識人財貨を得にあらず 凡て人に臨むところの事は時ある者偶然なる者なり 12 人はまたその時を知らず

禍の網にかり鳥の鳥羅にかかるが如くに世の人もまた禍患の時の計らざるに臨むに及びてその禍患にかかるなり 13 我日の下には是事を觀て智慧となし大なる事となせり 14 すなはち茲に一箇の小さき邑ありてその人は鮮かりしが大なる王これに攻きたりてこれを圍みこれに向ひて大なる雲梯を建たり 15 時に邑の中に一人の智慧ある貧しき人ありてその智慧をもて邑を救へり然るに誰ありてその貧しき人を記念もの無りし 16 是におきて我言り智慧は勇力に愈る者なりと但しかの貧しき人の智慧は藐視られその言詞は聽れざりしなり 17 靜に聽る智者の言は愚者の君長たる者の號呼に愈る 18 智慧は軍の器に勝れり一人の惡人は許多の善事を壞ふなり

Chapter 10

1 死し蠅は和香者の膏を臭くしこれを腐らす少許の愚癡は智慧と尊榮よりも重し 2 智者の心はその右に 愚者の心はその左に行くなり 3 愚者は出て途を行にたたりてその心たらず自己の愚なることを一切の人に告ぐ 4 君長たる者汝にむかひて腹たつとも汝の本處を離る勿れ温順は大なる愆を生ぜしめざるなり 5 我日の下に一の患事あるを見たりは君長たる者よりいづる過誤に似たり 6 すなはち愚なる者高き位に置かれ貴き者卑き處に坐る 7 我また僕たる者が馬に乗り王侯たる者が僕のごとく地の上に歩むを觀たり 8 坑を掘る者はみづから之におちいり石垣を毀つ者は蛇に咬れん 9 石を打くたく者はそれがために傷を受け木を割る者はそれがために危難に遭ん 10 鐵の鈍くなれるあらんにその刃を磨ざれば力を多く之にもちひざるを得ず 智慧は功を成に益あるなり 11 蛇もし呪物を聽ずして咬ば呪術師は用なし 12 智者の口の言語は恩徳あり 愚者の唇はその身を吞ほろぼす 13 愚者の口の言は始は愚なりまたその言は終は狂妄にして惡し 14 愚者は言詞を衆くす

人は後に有ん事を知ず誰かその身の後にあらんところの事を述るを得ん 15 愚者の勞苦はその身を疲らす彼は邑にいることをも知ざるなり 16 その王は童子にしてその侯伯は朝に食をなす國よ 汝は禍なるかな 17 その王は貴族の子またその侯伯は醉樂むためならず力を補ふために適宜き時に食をなす國よ 汝は福なるかな 18 懶惰ところよりして屋背は落ち手を垂をとるところよりして家屋は漏る 19 食事をもて笑ひ喜ぶの物となし酒をもて快樂を取れり 銀子は何事にも應ずるなり 20 汝心の中にても王たる者を詛ふなかれ また寢室にても富者を詛なかれ 天空の鳥その聲を傳へ羽翼ある者その事を布べければなり

Chapter 11

1 汝の糧食を水の上に投げよ多くの日の後に汝ふたたび之を得ん 2

汝一箇の分を七また八にわけて其は
汝如何なる災害の地にあらんかを知
ざればなり 3
雲もし雨の充るあれば地に注ぐまた
樹もし南が北に倒るるあればその樹
は倒れたる處にあるべし 4
風を伺ふ者は種播ことを得ず
雲を望む者は刈ことを得ず 5
汝は風の道の如何なるを知らずまた孕
める婦の胎にて骨の如何に生長つを
知ず汝は萬事を爲たまふ神の作爲
を知ことなし 6 汝朝に種を播け
夕にも手を歌るなかれ其はその實の
者は此なるか彼なるか又は二者とも
に美なるや汝これを知ざればなり 7
夫光明は快き者なり
目に日を見るは樂し 8 人多くの年生
ながらへてその中凡て幸福なるもな
ほ幽暗の日を憶ふべきなり
其はその數も多かるべければなり
凡て來らんとするの事は皆空なり 9
少者よ汝の少き時に快樂をなせ汝の
少き日に汝の心を悦ばしめ汝の心の
道に歩み汝の目に見るところを爲せ
よ但しその諸の行爲のために神汝を
鞫きたまはんと知べし 10
然ば汝の心より憂を去り
汝の身より惡き者を除け少き時と壯
なる時はともに空なればなり

Chapter 12

1
汝の少き日に汝の造主を記えよ即ち
惡き日の來り年のよりにて我は早何も
樂むところ無しと言にいたらざる先
2 また日や光明や月や星の暗くなら
ざる先雨の後に雲の返らざる中に汝
然せよ 3
その日いたる時は家を守る者は慄ひ
力ある人は屈み
磨碎者は寡きによりて息み
窓より窺ふ者は目昏むなり 4
磨こなす聲低くなれば衢の門は閉づ
その人は鳥の聲に起あがり
歌の女子はみな身を卑くす 5 かか
る人々は高き者を恐る畏しき者多く途
にあり巴旦杏は咲くまた蝗もその
身に重くその嗜欲は廢る人永遠の家
にいたらんとすれば哭婦衢にゆきか
ふ 6 然る時は銀の紐は解け金の蓋
は碎け吊瓶は泉の側に壞れ轆轤は井
の傍に破ん 7
而して塵は本の如くに土に販り靈魂
はこれを賦けし神にかへるべし 8 傳
道者云ふ空の空なるかな皆空なり 9
また傳道者は智慧あるが故に恒に知
識を民に教へたり彼は心をもちて
尋ね究め許多の箴言を作れり 10 傳
道者は務めて佳美き言詞を求めたり
その書しるしたる者は正直して眞實
の言語なり 11
智者の言語は刺鞭のごとく
會衆の師の釘たる釘のごとくにして
一人の牧者より出し者なり 12
わが子よ是等より訓誡をうけよ
多く書をつくれば竟なし
多く學べば體疲る 13
事の全體の販する所を聽べし 云く
神を畏れその誠命を守れ
是は諸の人の本分たり 14 神は一切
の行爲ならびに一切の隠れたる事を
善惡ともに審判たまふなり

雅歌

Chapter 1

1 これはソロモンの雅歌なり 2 ねが
はしきは彼その口の接吻をもて我に
くちつけんことなり
汝の愛は酒よりもまさりぬ 3 なんだ
の香膏は其香味たへに馨しくなんだ
の名はそそがれたる香膏のごとし
是をもて女子等々を愛す 4
われを引たまへ
われら汝にしたがひて走らん 5 われ
をたづさへてその後宮にいたたまへ
り我らは汝によりて歡び樂しみ酒よ
りも勝りてなんだの愛をほめたたふ
彼らは直きころをもて汝を愛す 5
エルサレムの女子等々
われは黒けれどまほ美はし
ケダルの天幕のごとく
またソロモンの帷帳に似たり 6 われ
色くろきが故に日のわれを焼たるが
故に我を視るなかれわが母の子等
われを怒りて我に葡萄園をまもらし
めたり
我はおのが葡萄園をまもらざりき 7
わが心の愛する者よなんだは何處に
てなんだの群を牧ひ午時いづこにて
之を息まするや請ふわれに告よなん
ぞ面を覆へる者の如くしてなんだが
伴侶の群のかたはらにをるべけんや
8 婦女の最も美はしき者よ 9 なんだ若
しらずば群の足跡にしたがひて出ゆ
き牧羊者の天幕のかたはらにて汝の
羔山羊を牧へ 9 わが佳耦よ
我なんだをバ口の車の馬に警ふ 10
なんだの臉には鏈索を垂れなんだの
頭には珠玉を陳ねて至も美はし 11
われら白銀の星をつけたる黄金の鏈
索をなんだのために造らん 12
王其席につきたまふ時
わがナルダ其香味をいだせり 13 わ
が愛する者は我にとりてはわが胸の
あひだにおきたる没薬の袋のごとし
14 わが愛する者はわれにとりてはエ
ンゲデの園にあるコベルの英華のご
とし 15 ああ美はしきかな
わが佳耦よ ああうるはしきかな
なんだの目は鴿のごとし 16
わが愛する者よあなんぢは美はし
くまた樂しきかな
われらの牀は青緑なり 17
われらの家の棟梁は香柏
その垂木は松の木なり

Chapter 2

1 われはシャロンの野
花の百合花なり 2 女子等の中にわが
佳耦のあるは荊棘の中に百合花の
あるがごとし 3 わが愛する者の男子
等の中には林の樹の中に林檎の
あるがごとし
我ふかく喜びてその蔭にすわれり
その實はわが口に甘かりき 4 彼
われをたづさへて酒宴の室にいたま
へりその我上にひるがへしたる旗は
愛なりき 5 請ふ 6 なんだら乾葡萄
をもてわが力をおぎなへ
林檎をもて我に力をつけよ

我は愛によりて疾わづらふ 6
彼が左の手はわが頭の下にあり
その右の手をもて我を抱く 7 エルサ
レムの女子等よ我なんぢらに獐と野
の鹿とをさし誓ひて請ふ愛のおのづ
から起るときまでは殊更に喚起し且
つ醒すなかれ 8
わが愛する者の聲きこゆ 視よ
山をとび 岡を躍りこえて來る 9 わ
が愛する者は獐のごとくまた小鹿の
ごとし
視よ彼われらの壁のうしろに立ち
窓より覗き 格子より窺ふ 10
わが愛する者われに語りて言ふ
わが佳耦よ わが美はしき者よ
起ていできたれ 11 視よ
冬すでに過ぎ
雨もやめてはやすりぬ 12
もるもるの花は地にあらはれ
鳥のさへづる時すでに至り
班鳩の聲われらの地にきこゆ 13
無花果樹はその青き果を赤らめ葡萄
の樹は花さきてその馨はしき香氣を
はなつ わが佳耦よ わが美しき者よ
起て出きたれ 14 磐間にをり
斷崖の匿處にをるわが鴿よ
われに汝の面を見させよ
なんだの聲をきかしめよ
なんだの聲は愛らしく 15
なんだの面はうるはし
われらのために狐をとらへよ彼の葡
萄園をそこなふ小狐をとらへよ
我等の葡萄園は花盛なればなり 16
わが愛する者は我につき我はかれに
つく彼は百合花の中にてその群を牧
ふ 17 わが愛する者よ
日の涼しくなるまで
影の消るまで身をかへして出ゆき
荒き山々の上において獐のごとく
小鹿のごとくせよ

Chapter 3

1 夜われ床にありて我心の愛す
る者をたづねしが尋ねたれども得ず
2 我おもへらく今おきて邑をまはり
ありきわが心の愛する者を街衢ある
ひは大路にてたづねんと
乃ちこれを尋ねたれども得ざりき 3
邑をまはりありて夜巡者らわれに遇
ければ汝らわが心の愛する者を見し
やと問ひ 4 これに別れて過ゆき問も
なくわが心の愛する者の遇たれば
之をひきとめて放さず
遂にわが母の家にともなひゆき
我を産し者の室にいりぬ 5
エルサレムの女子等よ我なんぢらに
獐と野の鹿とをさし誓ひて請ふ愛の
おのづから起る時まで殊更に喚起し
且つ醒すなかれ 6 この没薬乳香など
商人のもるもるの薫物をもて身をか
をらせ煙の柱のごとくして荒野より
來る者は誰ぞや 7 視よ
こはソロモンの乘輿にして
勇士六十人その周圍にあり
イスラエルの勇士なり 8
みな刀劍を執り戰鬥を善す各人腰に
刀劍を帶て夜の警誡に備ふ 9 ソロ
モン王レバノンの木をもて己のために
輿をつくれり 10 その柱は白銀
その欄杆は黄金
その座は紫色にて作りその内部には
イスラエルの女子等が愛をもて繡た

る物を張つく 11 シオンの女子等よ
出きたりてソロモン王を見よ
かれは婚姻の日心の喜べる日にその
母の己にかうがらしし冠冕を戴けり

Chapter 4

1 ああなんぢ美はしきかな
わが佳耦よ
ああなんぢうるはしきかな 2 なんだの
目は面帕のうしろにありて鴿のごと
し 3 なんだの髪はギレアデ山の腰に臥
たる山羊の群に似たり 4 なんだの齒
は毛を剪たる牝羊の浴場より出たる
がごとし 5 おのおの雙子をうみてひと
つも子なきものはなし 3
なんだの唇は紅色の線維のごとく
その口は美はし 4 なんだの頬は面帕の
うしろにありて石榴の半片に似たり
4 なんだの頸項は武器庫にて建たる
ダビデの成樓のごとし
その上には一千の盾を懸け列ぬ
みな勇士の大楯なり 5 なんだの兩乳
房は牝獐の雙子なる二箇の小鹿が百
合花の中に草はみをるに似たり 6
日の涼しくなるまで影の消るまでわ
れ没薬の山また乳香の岡に行べし 7
わが佳耦よ 8 なんだはことごとくうる
はしくしてすこしのきずもなし 8
新婦よ レバノンより我にともなへ
レバノンより我とともに來れアマナ
の巔セルニルまたヘルモンの巔より 9
み 獅子の穴また豹の山より望め 9
わが妹わが新婦よ
なんだはわが心を奪へり 10 なんだは只
一目をもてまた頸玉の一をもてわが
心をうばへり 10 わが妹わが新婦よ
なんだの愛は樂しきかな
なんだの愛は酒よりも遙にすぐれな
んだの香膏の馨は一切の香物よりも
すぐれたり 11 新婦よ
なんだの唇は蜜を滴らす
なんだの舌の底には蜜と乳とありな
んだの衣裳の香氣はレバノンの香氣
のごとし 12 わが妹わがはなよめ
なんだは閉たる園 閉たる水源
封じたる泉水のごとし 13 なんだの
園の中に生いづる者は石榴及びも
るもるの佳果またコベル及びナルダ
の草 14 ナルダ 番紅花 菖蒲
桂枝さまさまの乳香の木および没薬
蘆薈一切の貴とき香物なり 15
なんだは園の泉水 活る水の井
レバノンよりいづる流水なり 16
北風よ起れ 南風よ來れ
我園を吹てその香氣を揚よ ねがはく
はわが愛する者のおのが園にいりき
たりてその佳き果を食はんことを

Chapter 5

1 わが妹わがはなよめよ
我はわが園にいり
わが没薬と薫物とを採り
わが蜜房と蜜とを食ひ
わが酒とわが乳とを飲り
わが伴侶等よ 請ふ食へ
わが愛する人々よ 請ふ飲あけよ 2
われは睡りたれどもわが心は醒めたり
時にわが愛する者の聲あり
即ち門をたたきていふ
わが妹わが佳耦 わが鴿
わが完きものよ われのために開け

わが首には露満ち
わが髪に毛には夜の点滴みりてと 3
われすでにわが衣服を脱り
いかでまた着るべき
已にわが足をあらへり
いかでまた汚すべき 4 わが愛する者
戸の穴より手をさし入れしかば
わが心かれのためにうごきたり 5 や
がて起いでわが愛する者の爲に開
かんとせしとき没薬わが手より没薬
の汁わが指よりながれて關木の把柄
のうへにしたれり 6
我わが愛する者の爲に開きしに
わが愛する者は已に退き去りぬさき
にその物いひし時はわが心さわぎた
り 我かれをたづねたれども遇ず
呼たれども答應なかりき 7 邑をま
はりありて夜巡る者われを見てうち
傷つけ石垣をまもる者はわが上衣
をはぎとれり 8
エルサレムの子等よ
我なんぢらにかたく請ふもしわが愛
する者にあはば汝ら何とこれにつぐ
べきや
我愛によりて疾わづらふと告よ 9 な
んぢの愛する者は別の人の愛する者
に何の勝れるところありや
婦女の中のいと美はしき者よなんぢ
が愛する者は別の人の愛する者に何
の勝れるところありて斯われらに固
く請ふや 10 わが愛する者は白くか
つ紅にして萬人の上に越ゆ 11
その頭は純金のごとくその髪はふさ
やかにして黒きこと鳥のごとし 12
その目は谷川の水のほとりにをる鶺
のごとく
乳にて洗はれて美はしく嵌れり 13
その類は馨しき花の床のごとく
香草の壇のごとしその唇は百合花の
ごとくにして没薬の汁をしたたらす
14 その手はきばみたる碧玉を嵌し
黄金の釧のごとく其軀は青玉をもて
おほひたる象牙の彫刻物のごとし 15
その脛は蠟石の柱を黄金の臺にてた
てたるのごとく
その相貌はレバノンのごとくその優
れたるさまは香柏のごとし 16 その
口ははなはだ甘く誠に彼には一つだ
にうつくしからぬ所なし
エルサレムの子等よ
これぞわが愛する者
これぞわが伴侶なる

Chapter 6

1 婦女のいと美はしきものよ
汝の愛する者は何處へゆきしやなん
ぢの愛する者はいつこへおもむきし
や われら汝とともにたづねん 2
わが愛するものは己の園にくだり
香しき花の床にゆき
園の中にて群を牧ひ
また百合花を採る 3
我はわが愛する者につき
わが愛する者はわれにつく
彼は百合花の中にてその群を牧ふ 4
わが佳耦よなんぢは美はしきこと
テルザのごとく
華やかなることエルサレムのごとく
畏るべきこと旗をあげたる軍旅の
ごとし 5 なんぢの目は我をおそれしむ
請ふ我よりはなれしめよなんぢの髪
はギレアデ山の腰に臥たる山羊の群

に似たり 6 なんぢの齒は毛を剪たる
牝羊の浴場より出たるがごとしおの
おの雙子をうみてひとつも子なきも
のはなし 7 なんぢの頬は面帕の後に
ありて石榴の半片に似たり 8
后六十人 妃嬪八十人
數しられぬ處女あり 9
わが鴿わが完き者はただ一人のみ彼
はその母の獨子にして産たる者の喜
ぶところの者なり女子等は彼を見て
幸福なる者となへ
后等妃嬪等は彼を見て讃む 10
この晨光のごとくに見えわたり
月のごとくに美はしく
日のごとくに輝やき畏るべきこと旗
をあげたる軍旅のごとき者は誰ぞや
11 われ胡桃の園にくだりゆき
谷の青き草木を見葡萄や芽しし石榴
の花や咲しと見回しをりしに 12 意
はず知ず我が心われをしてわが貴と
き民の車の中間にあらしむ 13
歸れ歸れシユラムの婦よ 歸れ歸れ
われら汝を觀んことをねがふなんぢ
ら何とてマハナイムの跳舞を觀んご
とくにシユラムの婦を觀んことねがふ
や

Chapter 7

1 君の女よなんぢの足は鞋の中
にありて如何に美はしきかな
汝の腿はまろらかにして玉のごとく
巧匠の手にて作りたるがごとし 2 な
んぢの臍は美酒の缺ることあらざる
圓き杯盤のごとくなんぢの腹は積か
さねたる麥のまはり百合花もてか
こめるが如し 3 なんぢの兩乳房は牝
鹿の雙子なる二の小鹿のごとし 4
なんぢの頭は象牙の成樓の如く汝の
目はヘシボンにてパテラビムの門の
ほとりにある池のごとくなんぢの鼻
はダマスコに對へるレバノンの成樓
のごとし 5
なんぢの頭はカルメルのごとく
なんぢの頭の髪は紫花のごとし
王その垂たる髪につながれたり 6
ああ愛よもろもろの快樂の中にあり
てなんぢは如何に美はしく如何に悦
ばしき者なるかな 7
なんぢの身の長は棕櫚の樹に等しく
なんぢの乳房は葡萄のふさのごとし 8
われ謂ふこの棕櫚の樹にのぼり
その枝に執つかんと
なんぢの乳房は葡萄のふさのごとく
なんぢの鼻の氣息は林檎のごとく匂
はん 9 なんぢの口は美酒のごとし
わが愛する者のために滑かに流れく
だり
睡れる者の口をして動かさむ 10
われはわが愛する者につき
彼はわれを戀したふ 11
わが愛する者よわれら田舎にくだり
村里に宿らん 12 われら夙におきて
葡萄や芽しし荳やいでし石榴の花や
さきしいざ葡萄園にゆきて見んかし
こにて我わが愛をなんぢにあたへん
13 懸茄かくはしき香氣を發ち もろ
もろの佳き果物古き新らしき共にわ
が戸の上においてわが愛する者よ我こ
れをなんぢのためにたくはへたり

Chapter 8

1 ねがはずは汝わが母の乳をの
みしわが兄弟のごとくならんことを
われ戸外にてなんぢに遇ふとき接吻
せん然するとも誰ありてわれをいや
しむるものあらじ 2
われ汝をひきてわが母の家にいたり
汝より教晦をうけん我がくはしき酒
石榴のあまき汁をなんぢに飲しめん 3
かれが左の手はわが頭の下にあり
その右の手をもて我を抱く 4
エルサレムの子等よ
我なんぢ等に誓ひて請ふ愛のおのづ
から起る時まで殊更に喚起し且つ醒
すなかれ 5 おのれの愛する者に倚か
かりて荒野より上りきたる者は誰ぞ
や林檎の樹の下にてわれなんぢを喚
さませりなんぢの母かしこにて汝の
ために劬勞をなしなんぢを産し者か
しこにて劬勞をなしぬ 6
われを汝の心におきて印のごとくし
なんぢの腕におきて印のごとくせよ
其の愛は強くして死のごとく
嫉妬は堅くして陰府にひとし
その焔は火のほのほのごとし 7
いとものはげしき焔なり
愛は大水も消ことあたはず
洪水も溺らすことあたはず人その家
の一切の物をことごとく與へて愛に
換んとするとも尚いやしめらるべし 8
われら小きき妹子あり
未だ乳房あらざるわれらの妹子の間
聘をうる日ははに何をなしてあた
へんや 9 かれもし石垣ならんには我
ら白銀の城をその上にたてん彼もし
戸ならんには香柏の板をもてこれを
圍まん 10
われは石垣わが乳房は成樓のごとし
是をもてわれは情をかうむれる者
のごとく彼の目の前にありき 11 パ
アルモンにソロモンの葡萄園をもて
りこれをその守る者等にあづけおき
彼等をしておのおの銀一千をその果
のために納めしむ 12 われ自らの有
なる葡萄園われの手にあり
ソロモンなんぢは一千を獲よその果
をまもる者も二百を獲べし 13
なんぢ園の中に住む者よ
伴侶等なんぢの聲に耳をかたむく
請ふ我にこれを聴しめよ 14
わが愛する者よ請ふ急ぎはしれ香は
しき山々の上において獐のごとく
小鹿のごとくあれ

イザヤ書

Chapter 1

1 アモツの子イザヤがユダの王ウジ
ヤ、ヨタム、アハズ、ヒゼキヤのと
きに示されたるユダとエルサレムと
に係る異象 2
天よきけ地よ耳をかたづけよ
エホバの語りたまふ言あり曰くわれ
子をやしなひ育てしにかれらは我に
そむけり 3 牛はその主をしり驢馬は
そのあるじの厩をしる
然どイスラエルは識ず
わが民はさとらず 4 ああ罪ををかせ

る國人よこしまを負ふたみ
惡をなす者のすゑ壊りそこなふ種族
かれらはエホバをすてイスラエルの
聖者をあなとり之をうとみて退きた
り 5 なんぢら何ぞかさねがさね悖り
て猶撻れんとするかその頭はやまざ
る所なくその心はつかれはてたり 6
足のうらより頭にいたるまで全きと
ころなくただ創痕と打傷と腫物との
みなり而してこれを合すものなく包
むものなく亦あぶらにて軟らぐる者
もなし 7 なんぢらの國はあれすたれ
なんぢらの諸邑は火にてやかれなん
ぢらの田畑はその前にて外人にのま
れ既にあだし人にくつがへされて荒
廢れたり 8 シオンの女はぶだうぞの
廬のごとく瓜田の假舎のごとくま
た圃をうけたる城のごとく唯ひとり
遺れり 9 萬軍のイスラバわれらに少
しの遺をとどめ給ふことなくば我儕
はソドムのごとく又ゴモラに同じかり
しならん 10 なんぢらソドムの有司
よエホバの言をきけ
なんぢらゴモラの民よわれらの神の
律法に耳をかたづけよ 11 エホバ言
たまはくなんぢらが獻ぐるおほくの
犠牲はわれに何の益あらんや我はを
ひつじの燔祭とこえたるけもの膏
とにあげりわれは牡牛あるひは小羊
あるひは牡山羊の血をよるこぼす 12
なんぢら是我に見えんとてきたる
このことを誰がなんぢらに要めしや
徒らにわが庭をふむのみなり 13 む
なしき祭物をふたび携ふることな
かれ燻物はわがにくむところ新月お
よび安息日また會衆をよくあつむる
ことも我がにくむところなり
なんぢらは聖會に惡を兼ね
われ容すにたへず 14 わが心はなん
ぢらの新月と節會とをきらふ
是わが重荷なり 15 我なんぢらが
手をのぶるとそ目をおほひ汝等がお
ほくの祈禱をなすときも聞ことをせ
じなんぢらの手には血みちたり 16
なんぢら己をあらひ己をきよくしわ
が眼前よりその惡業をさり 17
惡をおこなふことを止め
善をおこなふことをならひ
公平をもとめ處げらるる者をたすけ
孤子に公平をおこなひ
寡婦の訟をあげつらへ 18
エホバいひたまはく
率われらともに論らはんなんぢらの
罪は緋のごとくなるも雪のごとく白
くなり紅のごとく赤くとも羊の毛の
ごとくにならん 19 若なんぢら肯ひ
したがはば地の美産をくらふことを
得べし 20 もし汝等こぼみそむかば
劍にのまるべし此はエホバその御口
よりかたりたまへるなり 21 忠信な
りし邑いかにして妓女とはなれる昔
しは公平にてみち正義その中にやど
りしに今は人をこるす者ばかりとな
りぬ 22 なんぢの白銀は滓となり
なんぢの葡萄酒は水をまじへ 23 な
んぢの長輩はそむきて盗人の伴侶と
なり おのおの賄賂をよるこび
贓財をおひもとめ
孤子に公平をおこなはず寡婦の訟は
かれらの前にいづること能はず 24
このゆゑに主萬軍のエホバ、イスラ
エルの全能者のたまはく嗚われ報
むかひて念をはらし仇にむかひて報

をすべし 25
 我また手をなんぢの上にそへ
 なんぢの滓をことごとく淨くし
 なんぢの鉛をすべて取去り 26
 なんぢの審士を舊のごとくなんぢの
 議官を始のごとくに復すべし然る
 のちなんぢは正義の邑忠信の邑とな
 へられん 27
 シオンは公平をもてあがなはれ歸來
 るものも正義をもて贖はるべし 28
 されど愆ををかすものと罪人ととは
 ともに敗れエホバをすつる者もまた亡
 びうせん 29 なんぢらはその喜びた
 る櫓樹によりて恥をいただきそのえら
 びたる園によりて慙報むべし 30 な
 んぢらは葉のかる櫓樹のごとく水
 なき園のごとくならん 31
 權勢あるものは麻のごとく
 その工は火花のごとく二つのもの一
 同もえてこれを撲滅すものなし

Chapter 2

1アモツの子イザヤが示された
 るユダとエルサレムとにかかると言 2
 す系の日にエホバの家の山はもろも
 ろの山のいいただきに堅立ち
 もろもろの嶺よりまたかく擧りすべ
 ての國は流のごとく之につかん 3
 おほくの民ゆきて相語いはん率われ
 らエホバの山にのぼりヤコブの神の
 家にゆかん
 神われらにその道ををしへ給はん
 われらその路をあゆむべしとそは律
 法はシオンよりいでエホバの言は
 エルサレムより出なければなり 4
 エホバはもろもろの國のあひだを鞠
 きおほくの民をせめたまはん斯てか
 れらはその劔をうちかへて鋤となし
 その鎗をうちかへて鎌となし
 國は國にむかひて劔をあげず
 戦闘のこゝを再びまなばざるべし 5
 ヤコブの家よきたれ
 我儕エホバの光にあゆまん 6
 主よなんぢはその民ヤコブの家をすて
 たまへり此はかれらのなかに東のかた
 の風俗みち
 皆ペリシテ人のごとく陰陽師となり
 異邦人のともがらと手をうちて盟を
 たてしが故なり 7
 かれらの國には黄金
 白銀みちて財寶の數かぎりなし
 かれらの國には馬みちて戦車のかず
 限りなし 8
 かれらの國には偶像
 みち皆おのが手の工その指のつくれる
 者ををがめり 9
 賤しきものは屈められ
 尊きものは卑せらる
 かれらを容したまふなかれ 10
 なんぢ岩間にいりまた土にかくれて
 エホバの畏るべき容貌とその稜威の
 光輝とをさくべし 11
 この日には目
 をあげて高ぶるもの卑せられ
 驕る人ががめられ唯エホバのみ高く
 あげられ給はん 12
 そは萬軍のエホバの一の日ありすべ
 て高ぶる者おごる者みづからを崇る
 ものの上にのぞみて之をひくくし 13
 またレバノンのたかく聳たるすべ
 ての香柏バシヤンのすべての櫓樹 14
 もろもろの高山もろもろの嶺
 15 すべのたかき櫓すべての
 堅固なる石垣 16
 およびタルシシの
 すべての舟すべての慕ふべき美はし
 きものに臨むべし 17

この日には高ぶる者はかがめられ
 驕る人はひくくせられ唯エホバのみ
 高くあげられ給はん 18
 かくて偶像
 はことごとく亡びうすべし 19
 エホ
 バたちて地を震動したまふとき人々
 そのおそるべき容貌とその稜威の光
 輝とをさけて巖の洞と地の穴とにい
 らん 20
 その日人々おのが拜せんと
 て造れる白銀のぐうざうと黄金のぐ
 うざうとを鼯鼠のあな蝙蝠の穴にな
 げすて 21
 岩々の隙けはしき山峽にいりエホバ
 の起て地をふるひうごかしたまふそ
 の畏るべき容貌と稜威のかがやきと
 を避ん 22
 なんぢら鼻より息のいで
 いりする人に倚ることをやめよ斯る
 ものは何ぞかぞふるに足らん

Chapter 3

1みよ主ばんぐんのエホバ、エ
 ルサレムおよびユダの頼むところ倚
 とこなる凡てその頼むところの糧
 すべてその頼むところの水 2
 勇士
 戰士 審士 預言者 卜筮者 長老 3
 五十人の首 貴顯者 議官 藝に長た
 る者および言語たくみなるものを除
 けりたまはん 4
 われ童子をもてかれら
 の君とし嬰兒にかれらを治めしめん
 5
 民たがひに相虐げ
 人おのおのその隣をしへたげ
 童子は老たる者にむかひて高ぶり賤
 しきものは貴きものに對してたかぶ
 らん 6
 そのとき人ちちの家にて兄弟
 にすがりていはん汝なほ衣ありわれ
 らの有司となりてこの荒敗をその手
 にてをさめよと 7
 その日かれ聲をあげていはん
 我なんぢらを愈すものとなるを得じ
 わが家に糧なくまた衣なし我をたて
 て民の有司とすることなかれと 8
 是
 かれらの舌と行爲とはみなエホバに
 そむきてその榮光の目ををかししが
 故にエルサレムは敗れユダは仆れた
 ればなり 9
 かれらの面色はその惡き
 ことの證をなしソドムのごとくその
 罪をあらはして隠すことをせざるな
 りかれらの靈魂はわざはひなるかな
 自らその惡の報をとれり 10
 なんぢら義人にいへ
 かならず福祉をうけんと彼等はそ
 のおこなひの實をくらふべければなり
 11
 惡者はわざはひなる哉かならず災
 禍をうけん
 その手の報きたるべければなり 12
 わが民はをさなごに虐げられ婦女に
 をさめらる啖わが民よなんぢを導く
 ものは反てなんぢを迷はせ汝のゆく
 べき途を絶つ 13
 エホバ立いでて公
 理をのべ起てもろもろの民を審判し
 給ふ 14
 エホバ來りておのが民の長
 老ともろもろの君とをさばきて言給
 はん
 なんぢらは葡萄園をくひあらせり貧
 きものより掠めとりたる物はなんぢ
 らの家にあり 15
 いかなれば汝等わ
 が民をふみにじり貧きものの面をす
 りくたくやとこれ主萬軍のエホバの
 みことばなり 16
 エホバまた言給は
 くシオンの女輩はおごり
 頂をのばしてあるき
 眼にて媚をおくり徐々としてあゆみ
 ゆくその足にはりんりと音あり 1

7
 このゆゑに主シオンのむすめらの
 頭をかぶるにしエホバ彼らの醜所を
 あらし給はん 18
 その日主かれら
 が足にかざれる美はしき釧をとり
 環珞 半月飾 19
 耳環 手釧 面帕
 20
 華冠 脛飾 紳 香盒 符囊 21
 指環
 鼻環 22
 公服 上衣 外被 金囊 23
 鏡
 細布の衣 首帕
 被衣などを取除きたまはん 24
 而し
 て馨はしき香はかはりて異穢となり
 紳はかはりて繩となり
 美はしく編たる髪はかぶるとなり華
 かなる衣はかはりて麤布のころもと
 なり麗顔はかはりて烙鐵せられたる
 痕とならん 25
 なんぢの男はつるぎにたふれなんぢ
 の勇士はたたかひに仆るべし 26
 その門はなげきかなしみ
 シオンは荒廢れて地にすわらん

Chapter 4

1その日七人のをんな一人の男
 にすがりていはん我儕おのれの糧を
 くらひのころもを着るべしただ我
 儕になんぢの名をとなふることを許
 してわれらの恥をとりぞと 2
 その日エホバの枝はさかえて輝かん
 地よりなりいづるもののははすぐれ
 並うはしくして逃れのこれるイス
 ラエルの益となるべし 3
 而してシオンに遣れるもの
 エルサレムにとどまれる者すべて此
 等のエルサレムに存ふる者のなかに
 録されたるものは聖となへられん 4
 そは主さばきするみたまと焼つく
 す靈をもてシオンのむすめらの汚
 りのぞきたまふ期きたるべければなり
 5
 爰にエホバはシオンの山のすべ
 ての住所と
 もろもろの聚會とのうへに晝は雲と
 煙とをつくり夜はほのほの光をつ
 くり給はん
 あまねく榮のうへに覆庇あるべし 6
 また一つの假廬ありて
 晝はあつさをふせぐ陰となり暴風と
 雨とをさけてかくる所となるべし

Chapter 5

1われわが愛する者のために歌
 をつくり我があひするものの葡萄園
 のことをうたはんわが愛するものは
 土肥たる山にひとつの葡萄園をもて
 り 2
 彼その園をすきかへし石をのぞ
 きて嘉ぶだうをうゑそのなかに望樓
 をたて酒榨をほりて嘉葡萄のむすぶ
 を望みまてり然るに結びたるものは
 野葡萄なりき 3
 さればエルサレムに
 住るものとユダの人よ請なんぢら我
 とわがぶだうそのとの間をさばけ 4
 わが葡萄園にわれの作たるほか何の
 なすべき事ありや我はよきぶだうの
 結ぶをのぞみまちに
 何なれば野葡萄をむすびしや 5
 然ば
 われわが葡萄園になさんとすることを
 汝等につげん我はぶだうそのの籬
 芭をとりさりてその食あらさるに
 まかせその垣をこぼちてその踐あら
 さるにまかせん 6
 我これを荒して
 ぶたたび剪ことをせず耕すことをせ
 ず棘と荊とをはえいでしめんまた雲

に命せてそのうへに雨ふることなから
 らしめん 7
 それ萬軍のエホバの葡萄
 園はイスラエルの家なりその喜びた
 まふところの植物はユダの人なりこ
 れに公平をのぞみたまひしに反りて
 血をながしこれに正義をのぞみ給ひ
 しかへりて號呼あり 8
 禍ひなるか
 な彼らは家に家をたてつらね
 田圃に田圃をましくはへて
 餘地をあまさず
 己ひとり國のうちに住んとす 9
 萬軍のエホバ我耳につげて宣はく實
 におほくの家はあれすたれ大にして
 美しき家は人のすむことなきにいた
 らん 10
 十段のぶだうぞの僅かに一
 パテをみのり一ホメルの穀種はわづ
 かに一エバを實るべし 11
 禍ひなる
 かなかれらは朝つとにおきて濃酒を
 おひもとめ
 夜のふくるまで止まりてのみ
 酒にその身をやかするなり 12
 かれらの酒宴には琴あり 瑟あり
 鼓あり 笛あり 葡萄酒あり されどエ
 ホバの作爲をかへりみずその手のな
 したまふところに目をとめず 13
 斯
 るが故にわが民は無知にして虜にせ
 られその貴顯者はうゑそのもろもろ
 の民は渴によりて疲れはてん 14
 また陰府はその欲望をひろくし
 その度れざざる口をはる
 かれらの榮華 15
 かれらの群衆
 かれらの饒富および喜びたのしめる
 人みなその中におつべし 15
 賤しき者はかがめられ
 貴きものは卑くせられ目をあげて高
 ぶる者はひくくせらるべし 16
 され
 ど萬軍のエホバは公平によりてあが
 められ聖なる神は正義によりて聖と
 せられ給ふべし 17
 而して小羊おの
 が牧場にあるごとくに草をはみ豊か
 なるものの田はあれて旅客にくらは
 れん 18
 禍ひなるかな彼等はいつは
 りを繩となして惡をひき索にて車を
 ひくごとく罪をひけり 19
 かれらは云その成んとする事をいそ
 ぎて速かになせ我儕これを見んイス
 ラエルの聖者のさだむることを逼來
 せよ われらこれを知んと 20
 禍ひなるかなかれらは惡をよびて善
 とし善をよびて惡とし
 暗をもて光とし光をもて暗とし苦を
 もて甘とし甘をもて苦とする者なり
 21
 わざはひなる哉 22
 禍ひなるか
 かれらは葡萄酒をのむに丈夫なり
 濃酒を和するに勇者なり 23
 かれら
 は賄賂によりて惡きものを義となし
 義人よりその義をうばふ 24
 此によ
 りて火舌の刈株をくらぶがごとくま
 た枯草の火焰のなかにおつがごと
 くその根はくちはてその花は塵のご
 とくに飛さらんかれらは萬軍のエホ
 バの律法をすててイスラエルの聖者
 のことばを蔑したればなり 25
 この
 故にエホバその民にむかひて怒をは
 なち手をのべてかれらを撃たまへり
 山はふるひうごきかれらの屍は衢の
 なかにて糞土のごとくなれり然はあ
 れどエホバの怒やまずして尚その手
 を伸したまふ 26
 かくて旗をたて
 てとほき國々をまねき彼等をよびて地
 の極より來らしめたまはん視よかれ
 ら趨りて速かにきたるべし 27
 その

中には疲れたふるものなく眠りまたは寝るものなしその腰の帯はとけずその履の紐はきれず 28
その矢は鋭その弓はことごとく張りその馬のひづめは石のごとくその車の輪は疾風のごとしと稱へられん 29
その嘯ること獅のごとくまた小獅のごとく嘯なりつつ獲物をつかみて掠去れども之をすくふ者なし 30
その日かれらが嘯響めくこと海のなりどよめくがごとしもし地をのぞまば暗と難とありて光は黒雲のなかにくらくなりたるを見ん

Chapter 6

1ウジヤ王のしにたる年われ高くあがれる御座にエホバの坐し給ふを見しにその衣褔は殿にみちたり 2
セラビムその上にあつたつ
おのおの六の翼あり
その二をもて面をおほひ
その二をもて足をおほひ
其二をもて飛翔り 3 たがひに呼びひけるは聖なるかな聖なるかな聖なるかな萬軍のエホバ
その榮光は全地にみつ 4 斯よばはる者の聲によりて鬨のもとみ揺うごき家のうちに煙みちたり 5
このとき我いへり
禍ひなるかな我ほろびなん我はけがれたる唇の民のなかにすがみて穢たるくちびるの者なるにわが眼ばんぐんのエホバにまします王を見まつればなりと 6 爰にかのセラビムのひとり鉗をもて壇の上よりとりたる熱炭を手にとつぎへて我にとびきたり 7
わが口に觸ていひけるは視よこの火なんぢの唇にふれたれば既になんぢの惡はのぞかれ
なんぢの罪はきよめられたりと 8
我またエホバの聲をきく曰くわれ誰をつかはさん誰かわれらのために住べきかとそのとき我いひけるはわれ此にあり我をつかはしたまへ 9
エホバいひたまはく往てこの民にかくのごとく告よなんぢら聞てきけよ然どさとらざるべし
見てみよ然どしらざるべしと 10
なんぢこの民のこころを鈍くしその耳をものうくしその眼をおほへ恐らくは彼らその眼にて見その耳にてききその心にてきとり翻へりて醫さることあらん 11
ここに我いひけるは主よいつまで如此あらんか
主こたへたまはく
邑はあれすたれて住むものなく
家に人なく
邦ことごとく荒土となり 12
人々エホバに遠方までうつされ廢りたるところ國中におほくならん時まで如此あるべし 13
そのなかに十分の一のこゝろあれども此もまた呑つくされんされど聖裔のこりてこの地の根となるべし彼のテレピントまたは檀樹がきらることありともその根ののこるがごとし

Chapter 7

1ウジヤの子ヨタムその子ユダヤ王アハズのときアラムの王レゼンとレマリヤの子イスラエル王ペカと

上りきたりてエルサレムを攻しがつひに勝ことあたはざりき 2
ここにアラムとエフライムと結合なりたりとダビデの家につぐる者ありければ王のこころと民の心とは林木の風にうごかざるが如くに動けり 3
その時エホバ、イザヤに言たまひけるは今なんぢと汝の子シャルヤシユブと共にいでて布をさらす野の大路のかたはらなる上池の樋口にゆきてアハズを迎へ 4
これに告べし なんぢ謹みて静かなれアラムのレゼン及びレマリヤの子はげしく怒るともこの燼餘りたる煙れる片柴のごとし懼るるなかれ心をよわくするなかれ 5
アラム、エフライム及びレマリヤの子なんぢにむかひて悪き謀ごとを企てていふ 6
われらユダに攻りて之をおびやかす我儕のためにこれを破りとリタビエルの子をその中にたてて王とせんと 7
されど主エホバいひたまはくこの事おこなはれずまた成ことなし 8
アラムの首はダマスコ、ダマスコの首はレゼンなりエフライムは六十五年のうちに敗れて國をなさざるべし 9
またエフライムの首はサマリヤ、サマリヤの首はレマリヤの子なり若なんぢら信せずばかならず立ことを得じと 10
エホバ再びアハズに告ていひたまはく 11
なんぢの神エホバに一の豫兆をもとめよ或はふかき處あるひは上のたかき處にもとめよ 12
アハズいひけるは我これを求めじ我はエホバを試むることせざるべし 13
イザヤいひけるはダビデのいへよ請なんぢら聞なんぢら人をわづらはしこれを小事として亦わが神をも煩はさんとするか 14
この故に主みづから一の豫兆をなんぢらに賜ふべし
視よをとめ孕みて子をぞまんその名をインマヌエルと稱ふべし 15
かれ惡をすて善をえらぶことを知ころほひにいたりて乳酥と蜂蜜とをくらはん 16
そはこの子いまだ惡をすて善をえらぶことを知ざるさきになんぢが忌きらふ兩の王の地はすてらるべし 17
エホバはエフライムがユダを離れし時よりこのかた臨みしことなき日を汝となんぢの民となんぢの父の家とにのぞませ給はん是アツリヤの王なり 18
其日エホバ、エジプトなる河々のほとりの蠅をまねきアツリヤの地の蜂をよびたまはん 19
皆きたりて荒たるたに岩穴すべての荆棘すべての牧場のうへに止まるべし 20
その日主はかほの外ふより雇へるアツリヤの王を剃刀として首と足の毛とを剃たまはん
また鬚をも除きたまふべし 21
その日人わかき牝犢ひとつと羊ふたつとを飼をらん 22
その出すところの乳おほきによりて乳酥をくらふことを得んすて國のうちに遺れるものは乳酥と蜂蜜とをくらふべし 23
その日千株に銀一千の價をえたる葡萄ありし處もことごとく荆と棘はえいづべし 24
荆とおどろと地にあまねきがゆゑに人々矢と弓とをもて彼處にゆくなり 25
鋤をもて掘たがへしたる山々もいばらと棘のために人おそれその中にゆくことを得じその地はただ牛をはなち羊にふましむる處

とならん

Chapter 8

1エホバ我にいひたまひけるは一の大なる牌をとり
そのうへに平常の文字にてマヘルシャルルハシバズと録せ 2
われ信實の證者なる祭司ウリヤおよびエベレキヤの子ゼカリヤをもてその證をなさしむ 3
われ預言者の妻にちかづきしとき彼はらみて子をうみければエホバ我にいひたまはく
その名をマヘル シャラル ハシバズと稱へよ 4
そはこの子いまだ我が父わが母とよぶことを知らざるうちにダマスコの富とサマリヤの財寶はうばはれてアツリヤ王のまへに到るべければなり 5
エホバまた重て我につけたまへり云く 6
この民はゆるやかに流るるシロアの水をすててレゼンとレマリヤの子とをよるこぶ 7
此によりて主はいきほひ猛くみなぎりわたる大河の水をかれらのうへに堰入たまはん是はアツリヤ王とそのもろもろの威勢とにして百の支流にはびこり
もろもろの岸をこえ 8
ユダにながれいり
溢れひろがりてその項にまで及ばん
インマヌエルよそののぶる翼はあまねくなんぢの地にみちわたらん 9
もろもろの民よ
さばめき騒げなんぢら摧かるべし
遠きくにぐにの者よ 10
きけ腰におびせよ 汝等くだかるべし
腰に帯せよ なんぢら摧かるべし 11
なんぢら互にはかれ
つひに徒勞ならんなんぢら言をいだせ遂におこなはれしそは神われらとともに在せばなり 12
エホバつよき手をもて此如われに示しこの民の路にあゆまざらんことを我にさとて言給はく 13
此民のすべて叛逆となふるところの者をなんぢら叛逆となふるなかれ彼等のおそるところを汝等おそるなかれ懼くなかれ 14
なんぢらはただ萬軍のエホバを聖としてこれを畏みこれを恐るべし 15
然らばエホバはきよき避所となりたまはん然どイスラエルの兩の家には蹟く石となり妨ぐる磐とならん
エルサレムの民には網罟となり機檻とならん 16
おほくの人々これによりて蹶きかつつれやぶれ
網せられた捕へるべし 17
證詞をつかね律法をわが弟子のうちに封べし 18
いま面をおほひてヤコブの家をかへりみ給はずといへども我そのエホバを待そのエホバを望みまつらん 19
視われとエホバが我にたまひたる子輩とはイスラエルのうちの豫兆なり奇しき標なり此はシオンの山にいます萬軍のエホバの與たまふ所なり 20
もし人なんぢらにつけて巫女および魔術者のさえづるがごとく細語がごとき者にもとめよといはば民はおのれの神にもとむべきにあらずやいかで活者のために死者にもとむることを爲んといへ 21
ただ律法と證詞とを求むべし彼等のいふところ此言にかなはずば晨光あらじ 22

かれら國をへあるきて苦みうゑんその饑るとき怒をはなち己が王おのが神をさして誼ひかつその面をうへに向ん 22
また地をみれば艱難と幽暗とくるしみの闇とあり
かれらは昏黒におひやられん

Chapter 9

1今くるしみを受れども後には闇なかるべし昔しはゼブルンの地ナフタリの地をあなどられしめ給ひしかど後には海にそひたる地ヨルダンの外の地ことくに人のガリラヤに榮をうけしめ給へり 2
幽暗をあゆめる民は大なる光をみ死蔭の地にすめる者のうへに光てらせり 3
なんぢ民をましその歡喜を大にしたまひければかれらは收穫時よるこぶがごとく掠物をわかつときに樂むがごとく汝の前によるこべり 4
そは汝かれらがあへる軛とその肩の笞と虐ぐるもの杖とを折りこれを折りてミデアンの日のごとくなし給ひたればなり 5
すべて亂れたたかふ兵士のよろひと血にまみれたる衣とはみな火のもえくさとなりて焚るべし 6
ひとりの子をわれらのために生れたり
我儕はひとりの子をあたられたり
政事はその肩にあり
その名は奇妙たま議士
また大能の神としへのちち
平和の君ととなへられん 7
その政事と平和とはましくははりて窮りなし
且ダビデの位にすわりてその國ををさめ今よりのちとしへに公平と正義とをもてこれを立これを保ちたまはん萬軍のエホバの熱心これを成たまふべし 8
主一言をヤコブにおくり之をイスラエルの上ののぞませ給へり 9
すべてのこの民エフライムとサマリヤに居るものとは知らんかれらは高ぶり誇る心をもていふ 10
瓦くづるともわれら斫石をもて建くはの木きらるるともわれら香柏をもて之にかへんと 11
この故にエホバ、レゼンの敵をあげもちめてイスラエルを攻しめ
その仇をたけび勇しめたまはん 12
前にアラム人あり後にペシリテ人あり口をはりてイスラエルを呑んとす
然はあれどエホバの怒やまずして尚その手をのぼしたまふ 13
然どこの民はおのれをうつものに歸らず萬軍のエホバを求めず 14
斯るゆゑにエホバ一日のうちに首と尾と櫻欄のえだと韋とをイスラエルより斷切たまはん 15
その首とは老たるもの尊きものその尾とは謊言をのぶる預言者をいふなり 16
この民をみちびく者はこれを迷はせその引導をつくる者はほろぶるなり 17
このゆゑに主はその少壯者をよるこびたまはずその孤兒と寡婦とを憐みたまはざるべし
はその民はことごとく邪まなり惡をおこなふ者なりおのれの口は愚かなる言をかたはずなり
然はあれどエホバの怒やまずして尚その手をのぼしたまふ 18
惡は火のごとくもえ棘と荊とを食つくし茂りあふ林をやくべければみな煙となりむらがりて上騰らん 19

萬軍のエホバの怒によりて地はくろく焼その民は火のもえくさとなり人々たがひに相憐むことなし 20 人みぎに攫めどもなほ饑ひだりに食へども尚あかずおのおの腕の肉をくらふべし 21 マナセはエフライムをエフライムはマナセをくらひ又かれら相合てユダを攻めん然はあれどエホバの怒やまずして尚その手をのばしたまふ

Chapter 10

1 不義のおきてをさだめ暴虐のことばを録すものは禍ひなるかな 2 かれらは乏きものの訴をうけずわが民のなかの貧しきものの権利をはぎ寡婦の資産をうばひ孤児のものを掠む 3 なんぢら懲しめらるる日きたらば何をなさんとするか敗壞とほきより來らんとし何をなさんとするかなんぢら逃れゆきて誰にすくひを求めんとするかまた何處になんぢらの榮をのこさんとするか 4 ただ縛められたるもの下にかがみ殺されたるものしたに伏れんのみはあれどエホバのいかり止すして尚ほその手をのばしたまふ 5 咄アツスリヤ人なんぢはわが怒の杖なりその手の笞はわが忿怒なり 6 われ彼をつかはして邪曲なる國をせめ我かれに命じて我がいかれる民をせめてその所有をかすめその財寶をうばはしめかれらを街の泥のごとくに蹂躪らしめん 7 されどアツスリヤ人のこころざしは斯のごとくならずその心の念もまた斯のごとくならずそのころは敗壞をこのみあまたの國をほろぼし絶ん 8 かれ云わが諸侯はみな王にあらずや 9 カルノはカルケミシの如くハマテはアルパデの如くサマリヤはダマスコの如きにあらずや 10 わが手は偶像につかふる國々を得たりその彫たる像はエルサレムおよびサマリヤのものに勝れたり 11 われ既にサマリヤとその偶像とに行へることく亦エルサレムとその偶像とにおこなはざる可んやと 12 このゆゑに主いひたまふ我シオンの山とエルサレムとに爲んとする事をことごとく遂をはらんとし我アツスリヤ王のおこれる心の實とその高ぶり仰ぎたる眼とを罰すべし 13 そは彼いへらくわれ手の力と智慧とによりて之をなせり 我はかしこし國々の境をのぞきその獲たるものをうばひ又われは丈夫にしてかの位に坐するものを下したり 14 わが手もろもろの民のたからを得たりしは巢をとるが如くまた天が下を取收めたりしは遺すてたる卵をとりあつむるが如くなりきあるひは翼をうごかしあるひは口をひらきあるひは囁々する者もなかりしなりと 15 斧はこれをもちあて伐もとのむかひて己みづから誇ることをせんや鋸はこれを動かす者にむかひて己みづから高ぶることをせんや此はあだかも笞がおのれを擧るものを動かし杖みづから木

にあらざるものを擧んとするにひとし 16 このゆゑに主萬軍のエホバは肥たるものを瘠しめ且その榮光のしたに火のもゆるが如き火焰をおこし給はん 17 イスラエルの光は火のごとくその聖者はほのほの如くならん斯て一日のうちに荊とおどろとを焼ほろぼし 18 又かの林と土肥たる田圃の榮をうせしめ靈魂をも身をもうせしめて病るものの衰へたるが如くなさん 19 かつ林のうちに残れる木わづかにして童子も算へうるが如くなるべし 20 その日イスラエルの遣れる者とヤコブの家ののがれたる者とは再びおのれを撃し者にたよらず誠意をもてイスラエルの聖者エホバにたよらん 21 その遣れるものヤコブの遣れるものは大能の神にかへるべし 22 ああイスラエルよなんぢの民は海の沙のごとしといへども遣りて歸りきたる者はただ僅少ならんそは敗壞すでにさだまり義にて溢るべければなり 23 主萬軍のエホバの定めたまへる敗壞はこれを徧く國內におこなひ給ふべし 24 このゆゑに主萬軍のエホバいひたまはくシオンに住るわが民よアツスリヤ人エジプトの例にならひ笞をもて汝をうち杖をあげて汝をせむるとも懼るるなかれ 25 ただ頃刻にして忿怒はやまん我がいかりは彼等をほろぼして息ん 26 萬軍のエホバむかしミデアン人をオレブの巖のあたりにて撃たまひしごとくに禍害をおこして之をせめ又その杖を海のうへに伸しエジプトの例にしたがひてこれを撃たまはん 27 その日かれの重荷はなんぢの肩より下かれの輓はなんぢの頸よりはなれその輓はあぶらの故をもて壊れん 28 かれアイにきたりミグロンを過ミクマシにてその輜重をとどめ 29 渡口をすぎてゲバに宿るここに於てラマはをのきサウルギベア人は逃れはしれり 30 ガリムの女よなんぢ鬘をあげて叫べライシよ耳をかたがけて聴けアナトテよなんぢも鬘をあげよ 31 マデメナはさすらひゲビムの民のがれ走れり 32 この日かれノブに立とどまりシオンのむすめの山エルサレムの岡にむかひて手をふりたり 33 主ばんぐんのエホバは雄々しくたげてその枝を断たまはん丈高きものは伐おとされ聳えたる者はひくくせらるべし 34 また鍔をもて茂りあふ林をきり給はんレバノンに能力あるものに倒さるべし

Chapter 11

1 エツサイの株より一つの芽いでその根より一つの枝はえて實をむすばん 2 その上にエホバの靈とどらんこれ智慧聰明の靈 謀略才能の靈知識の靈エホバをおそるの靈なり 3 かれはエホバを畏るをもて歡樂としました目みるところによりて審判をなさず耳きくところによりて斷定をなさず 4 正義をもて貧しき者をさばき 公平

をもて國のうちの卑しき者のために斷定をなしその口の杖をもて國をうちその口唇の氣息をもて惡人をころすべし 5 正義はその腰の帶となり忠信はその身のおびとならん 6 おほかみは小羊とともにやどり豹は小山羊とともにふし 犢をじし肥たる家畜ともに居てちひさき童子にみちびかれ 7 牝牛と熊とはくひものを共にし熊の子と牛の子とともにふし 獅はうしのごとく藁をくらひ 8 乳兒は毒蛇のほらにたはふれ乳ばなれの兒は手をまむしの穴にいれん 9 斯てわが聖山のいづこにても害ふことなく傷ることなからんそは水の海をおほへることくエホバをしの知識地にみつべければなり 10 その日エツサイの根たちてもろもろの民の旗となりもろもろの邦人はこれに服ひきたり榮光はそのとどまる所にあらん 11 その日主はまたふたたび手をのべてその民のこのれる僅かのものアツスリヤ、エジプト、パテロス、エテオピア、エラム、シナル、ハマテおよび海のしまじまより贖ひたまふべし 12 エホバは國々の爲に旗をたててイスラエルの逐やられたる者をおつめ地の四極よりユダの散失たるものを集へたまはん 13 またエフライムの猜はうせユダを惱ますものは断れエフライムはユダをそねまずユダはエフライムを惱ますことなかるべし 14 かれらは西なるペリシテ人の境にとびくき相共にひがしの子輩をかすめその手をエドムおよびモアブのペアンモンの子孫をおのれに服はしめん 15 エホバ、エジプトの海沓をからし河のうへに手をふりて熱風をふかせその河をうちて七の小流となし履をはきて渉らしめたまはん 16 斯てその民のこのれる僅かのもの爲にアツスリヤより來るべき一つの大路あり昔しイスラエルがエジプトの地よりいでし時のごとくなるべし

Chapter 12

1 その日なんぢ言んエホバよ我なんぢに感謝すべし汝さきに我をいかり給ひしかどその怒はやみて我をなくさめたまへり 2 視よ神はわが救なりわれ依頼ておそるところなし主エホバはわが力わが歌なりエホバは亦わが救となりたまへりと 3 此故になんぢら欣喜をもて救の井より水をくむべし 4 その日なんぢらいはんエホバに感謝せよその名をよべその行爲をもろもろの民の中につたへよその名のあがむべきことを語りつげよと 5 エホバを頌うたへそのみわざは高くすぐれたればなりこれを全地につたへよ 6 シオンに住るものよ聲をあげてよばはれイスラエルの聖者はなんぢの中にて大なればなり

Chapter 13

1 アモツの子イザヤが示されたるバビロンにかかる重負の預言 2 なんぢらかぶるの山に旗をたて聲をあげ手をふり彼等をまねきて貴族の門にいらしめよ 3 われ既にきよめ別ちたるものに命じわが丈夫ほこりにかにいさめる者をよびてわが怒をもらさしむ 4 山におほくの人の聲きこゆ大なる民あるがごとしもろもろの國民のよりつどひて喧めく聲きこゆこれ萬軍のエホバたたかひの軍兵を召したまふなり 5 かれらはとほき國より天の極よりきたるこれエホバとその忿怒をもらす器とともに全國をほろぼさんとて來るなり 6 なんぢら泣號ぶべしエホバの日ちかつき全能者よりいづる敗亡きたるべければなり 7 この故にすべての手はたれ凡の人のこころは消ゆかん 8 かれら懼きおそれ艱難と憂とにせまれれ子をうまんとする婦のごとく苦しみ互におどろき相みあひてその面は燄のごとくならん 9 視よエホバの日奇くして忿怒はげしき怒をもて來りてこの國をあらしし中よりつみびとを絶滅さん 10 天のもろもろの星とほしの宿は光をはなたす 日はいでてくらく月はその光をかがやかさざるべし 11 われ惡ことのために世をつみし不義のために惡きものをばつし驕るものものを誇をとどめ暴ぶるものの傲慢をひくくせん 12 われ人をして精金よりもすくなくオフルの黄金よりも少なからしめん 13 かくて亦われ萬軍のエホバの忿怒のとき烈しき怒りの日に天をふるはせ地をうごかしてその處をうしなはしむべし 14 かれらは逐る鹿のごとく集むるものなき羊のごとなりて各自おのれの民にかへりおのれの國にのがれゆかん 15 すべて其處にあるもの見出さるれば刺れ拘留らるるものは劍にたふされ 16 彼等の嬰兒はその目前にてなげくかれ その家財はかすめうばはれその妻はけがさるべし 17 視よわれ白銀をもちかへりみず黄金をもよるこはざるメデア人をおこして之にむかはしめん 18 かれらは弓をもて若きものを射くだき腹の實をあはれむことなく小子をみてをしむことなし 19 すべての國の中にてうるはしくカルデヤ人がほこり飾となせるバビロンはむかし神にほろぼされたるソドム、ゴモラのごとくならん 20 ここに住むもの永くたえ世々にいたるまで居もなくアラビヤ人もかしこに幕屋をはらず牧人もまたかしこにはその群をふさずることなく 21 ただ猛獸かしこにふし吼るものその家にみち駝鳥かしこにすみ牡山羊かしこに躍らん 22 豺狼その城のなかにき野犬えいぐわの宮にさげばん 23 その時のいたるは近きにありその日は延ることなかるべし

Chapter 14

1 エホバ、ヤコブを憐みイスラエルをふたたび撰びて之をおのれのおきたまはん異邦人これに加りてヤコブの家にむすびつらなるべし 2 もろもろの民はかれらをその處にたづさへいたらん而してイスラエルの家はエホバの地にてこれを奴婢となし曩におのれを虜にしたるものを虜にし おのれを虐げたるものを治めん 3 エホバなんぢの憂と艱難とをのぞき亦なんぢが勤むるからき役をのぞきて安息をたまふ日 4 なんぢこの歌をとなへバビロン王をせめていはん 虐ぐる者いかにして息みしやと 5 エホバあしきものの咎ともろもろの有司の杖とををりたまへり 6 かれらは怒をもてるもろの民をたえず撃てはうち忿恚をもてるもろの國ををさむれど その暴虐をとどむる者なかりき 7 今は全地やすみを得おたやかを得ることごとく聲をあげてうたふ 8 實にまつ樹およびレバノンの香柏さへもなんぢの故により歡びていふ汝すでに仆たれば樵夫のほりきたりてわれらを攻ることなしと 9 下の陰府はなんぢの故により動きて汝のきたるをむかへ世のもろもろの英雄の亡靈をおこし國々のもろもろの王をその位より起おこらしむ 10 かれらは皆なんぢに告ていはん 汝もわれらのごとく弱くなりしや 汝もわれらと同じくなりしやと 11 なんぢの榮華となんぢの琴の音はすでに陰府におちたり蛆なんぢの下にしかれ蚯蚓なんぢをおほふ 12 あしたの子明星よいかにして天より隕しやもろもろの國をたふしし者よいかにして折れて地にたふれしや 13 汝さきに心中におもへらくわれ天にのぼり我くらみを神の星のうへにあげ北の極なる集會の山にざし 14 たかき雲漢にのぼり至上者のごとくなるべしと 15 然どなんぢは陰府におとされ坑の最下にいられん 16 なんぢを見るものは熟々なんぢを視なんぢに目をとめていはんこの人は地をふるはせ列國をうごかし 17 世を荒野のごとくし もろもろの邑をこぼち捕へたるものをその家にとさかへさざりしものなるかと 18 もろもろの國の王たちはことごとく皆たふとき狀にておのおのその家にねぶる 19 然どなんぢは忌きらふべき枝のごとくおのが墓のそとにすてられその周圍には劍にて刺ころされ坑におろされ石におほはれたる者ありて踐つけらるる屍にことならず 20 汝おのれの國をほろぼし おのれの民をころししが故にかれらとおなじく葬らるることあたはずそれ惡をおこなふもの裔はとこしへに名をよぶることなかるべし 21 先祖のよこしまの故をもて その子孫のために戮場をそなへ彼等をしてたちて地をとり世界のおもてに邑をみたすことなからしめよ 22 萬軍のエホバのたまはく我立てかれ

らを攻めバビロンよりその名と遣りたるものとを絶滅し
その子その孫をたちほろぼさんと
これエホバの聖言なり 23 われバビロンを刺蝟のすみかとし沼とし且ほろびの箒をもてこれを掃除かんと
これ萬軍のエホバのみことばなり 24 萬軍のエホバ誓をたてて言給はくわがおもひし事はかならず成
わがさだめし事はかならず立ん 25 われアツスリヤ人をわが地にてうちやぶりわが山々にてふみにじらん
ここにわいて彼がおきし軛はイスラエル人よりはなれ彼がおはせし重負はイスラエル人の肩よりはなるべし 26 これは全地のことにつきて定めたる謀略なり是はもろもろの國のうへに伸したる手なり 27 萬軍のエホバさだめたまへり誰かこれを破ることを得んやその手をのぼしたまへり誰かこれを押返すことを得んや 28 アハズ王の死たる年おもにの預言ありき 29 日くペリシテの全地よなんぢをうちし杖をれたればとて喜ぶなかれ蛇の根より蟻いでその果はとびかける巨蛇となるべければなり 30 いと貧しきものはものくひ乏しきものは安然にふさんわれ饑饉をもてなんぢの根をしなせ汝がのこれる者をころすべし 31 門よなげけ邑よさけペリシテよなんぢの全地きえうせたりそはけぶり北よりいできたりその軍兵の列におくるものなし 32 その國の使者たちは何とこたふべきや答へていはん
エホバ、シオンの基をおきたまへりその民のなかの苦しむものは避所をこの中にえん

Chapter 15

1 モアブにかかる重負のよげん曰くノモアブのアルは一夜の間にあらされて亡びうせモアブのキルは一夜の間に荒されてほろびうせん 2 かれバテおよびデボンの高所にのぼりて哭きモアブはネボ及びメデバの上にてなげきさけぶおのおのその頭を禿にしその鬚をことごとく剃たり 3 かれら鹿服をきてその衢にあり屋蓋または廣きところにて皆なきさけび悲しむこと甚だし 4 ヘシボンとエレアレと叫びてその聲ヤハズにまで聞ゆ
この故にモアブの軍兵こ糸をあげその靈魂うちにて在てをのけり 5 わが心モアブのために叫びよばはれりその貴族はゾアルおよびエグラテシリシヤにのがれ
哭つツルヒテの坂をのぼりホロナイムの途にて敗亡の聲をあぐ 6 ニムリムの水はかわき草はかれ苗はつきて緑蔬あらず 7 このゆゑに彼等はそ獲たる富とその藏めたる物をたづさへて柳の河をわたらん 8 その泣號のこ糸はモアブの境をめぐり
悲歎のこ糸はエグライムにいたりなげきの聲はベエルエリムにいたる 9 デモンの水は血にて充われデモンの上にひとしほ禍害をくはへモアブの遁れたる者とのこの地の遣りたるものとに獅をおくらん

Chapter 16

1 なんぢら荒野のセラより羔羊をシオンの女の山におくりて國の首にをさむべし 2 モアブの女輩はアルノンの津にありてさまよふ鳥のごとく巢をおはれたる雛のごとくなるべし 3 相謀りて審判をおこなひ亭午にもなんぢの蔭を夜のごとくならしめ 驅逐人をかくし 遁れきたるものを顯はすなかれ 4 わが驅逐人をなんぢとともに居しめ汝モアブの避所となりて之をそこなふ者のまへより脱れしめよ勒索者はうせ害ふものはたえ暴虐者は地より絶れん 5 ひとつの位あはれみをもて堅くたち眞實をおこなふ者そのうへに坐せん彼ダビデの幕屋にをりて審判をなし公平をもとめて義をおこなふに速し 6
われらモアブの傲慢をきけり
その高ぶること甚だしわれらその誇とたかぶりと忿恚とをきけり
その大言はむなし 7 この故にモアブはモアブの爲になきさげび民みな哭さげべしなんぢら必らず甚だしく心をいためてキルハレステの乾葡萄のためになげくべし 8 そはヘシボンの畑とシブマのぶだうの樹とは洞みおとろへたりその枝さきにはヤゼルにまでいたりて荒野にはびこりてて海をわたりしが國々のもろもろの主その美はしき枝ををりたり 9 この故にわれヤゼルの哭とひとしくシブマの葡萄の樹のためになかんヘシボンよエレアレよわが涙なんぢをひたさんそは聞聲なんぢが果物なんぢが收穫の實のうへにおちきたればなり 10 欣喜とたのしみとは土肥たる畑より取さられ葡萄園には謳ふことなく歡呼はふことなく酒榨にはふみて酒をしぼるものなし我そのよるこびたつる聲をやめしめたり 11 このゆゑにわが心腸はモアブの故をもてごとく嗚ひびきキルハレステの故をもてわが衷もまた然り 12 モアブは高處にいでて倦つかれその聖所にきたりて祈るべけれど驗あらじ 13 こはエホバが曩にモアブに就てかたりたまへる聖言なり 14 されど今エホバかたりて言たまはくモアブの榮はその大なる群衆とともに傭人の期にひとしく三年のうちに恥かしめをうけ遣れる者はなはだ少なくて力なからん

Chapter 17

1
ダマスコにかかはる重負の預言いはくノ視よダマスコは邑のすがたをうしなひて荒墟となるべし 2 アロエルの諸邑はすてられん獸畜のむれそこにするてその伏やすめるをおびやかす者もなからん 3 エフライムの城はすたりダマスコの政治はやみスリアの遣れる者はイスラエルの子輩のさかえのごとく消うせん
是は萬軍のエホバの聖言なり 4 その日ヤコブの榮はおとろへその肥たる肉はやせて 5 あだかも收穫人の麥をかりあつめ腕をもて穂をかりたる後のごとくレバイムの谷に穂をひろひ

たるあとの如くならん 6 されど橄欖樹をうつとき二つ三の核を杪にのこしあるひは四つ五をみのりおほき樹の外面のえだに遣せるが如く採のこさるものあるべし 是イスラエルの神エホバの聖言なり 7 その日人おのれを造れるものを仰ぎのぞみイスラエルの聖者に目をとめん 8 斯ておのれの手工なる祭壇をあふぎ望まずおのれの指のつくりたるアシラの像と日の像とに目をとめじ 9
その日かれが堅固なるまぢまちは昔イスラエルの子輩をさけてすてざりたる森のなか嶺のうへに今のこれる荒跡のごとく荒地となるべし 10
そは汝おのがすくひの神をわすれ己がちからとなるべき誓を心にとめざりしによるこのゆゑになんぢ美しくき植物をうゑ異やうの枝をさし 11 かつ植たる日に籬をまはし朝に芽をいだしむれども患難の日といたましき憂の日ときたりて收穫の果はとびざらん 12 唉おほくの民はなりどよめけり海のなりどよめく如くかれらも鳴動めけりもろもろの國はなりひびけり大水のなりひびくが如くかれらも鳴響けり 13 もろもろの國はおほくの水のなりひびくがごとく鳴響かん
されど神かれらを攻たまふべしかれら遠くのがれて風にふきさらるる山のうへの靴糠のごとくまた旋風にふきさらるる塵のごとくならん 14 視よゆぶぐれに恐怖ありいまだ黎明にいたらずして彼等は亡たりこれ我儕をかすむる者のうくべき報われらを奪ふものひくべき鬪なり

Chapter 18

1 埃エテオピアの河の彼方なるさやさやと羽音のきこゆる地 2 この地兼のふねを水にうかべ海路より使者をつかはさんとてその使者にいへらく疾走る使よなんぢら河々の流のわかるる國にゆけ丈たかく肌なめらかなる始めより今にいたるまで懼るべく繩もてはかり人を踐にじる民にゆけ 3
すべて世にをるもの地にすむものよ山のうへに旗のたつき汝等これを見ラッパの鳴響くときなんぢら之をきけ 4 そはエホバわれに如此いひ給へりいはく空はわたり日てり收穫の熱むしてつゆけき雲のたるる間われわが居所にじづかに居てながめん 5 收穫のまへにその芽まく生その花ぶだうとなりて熟せんとするときかれ鎌をもて蔓をかり枝をきり去ん 6 斯てみな山のたけきとりと地の獸とになげあたへらるべし猛鳥そのうへにて夏をすごし地のけものその上にて冬をわたらん 7 そのとき河々の流のわかるる國の丈たかく肌なめらかなる始めより今にいたるまで懼るべく繩もてはかり人をふみにじる民より萬軍のエホバにささぐる禮物をたづさへて萬軍のエホバの聖名のところシオンの山にきたるべし

Chapter 19

1 エジプトにかかる重負のよげんはいくノエホバははやく雲にのりてエジプトに來りたまふエジプトのもろもの偶像はその前にふるひをのきエジプト人のころはその裏にて消ゆかん 2 我エジプト人をたけひ勇ましてエジプト人を攻しめん斯てかれら各自その兄弟をせめおのおのその鄰をせめ 邑は邑をせめ國はくにを攻べし 3 エジプト人の靈魂うせてその中むなしくならん われその謀略をほろぼすべしかれらは偶像および呪文をとなくふもの巫女魔術者にもとむることを爲ん 4 われエジプト人を苛酷なる主人の手にわたさんあらあらしき王かれらを治むべし是主萬軍のエホバの聖言なり 5 海の水はつき河もまた涸てかわかん 6 また河々はくさき臭をはなちエジプトの埴はみな漸次にへりてかわき葦と蘆とかれはてん 7 ナイルのほとりの草原ナイルの岸にほどこかき所すべしナイルの最寄にまきたる者はことごとく枯てちりうせん 8 漁者もまた歎きすべしナイルに釣をたる者はかなしみ網を水のうへに施ものはおとろふべし 9 練たる麻にて物つくるもの白布を織ものは恥あわて 10 その柱はくだけ一切のやとはれたる者のころ憂ひかなしまん 11 誠やゾアンの諸侯は愚なりパロの最もかしこき議官のはかりごとは癡鈍べし然はなんぢら何でパロにむかひて我のはかきこきもの子われは古への王の子なりといふを得んや 12 なんぢの智者いつくにありや彼らもし萬軍のエホバの定めたまひしエジプトに係はることを曉得ばこれをなんぢに告こそよけれ 13 ゾアンのもろもの諸侯は愚かなりノフの諸侯は惑ひたりかれらはエジプトのもろもの支派の隅石なるに却てエジプトをあやませたり 14 エホバ曲れる心をその中にまじへ給ひしにより彼等はエジプトのすべて作ところを謬らせ恰かも酔なる人の吐吐ときによろめくが如くならしめたり 15 エジプトにて或は首あらひは尾あるひは櫻欄のえだまたは葦すべてその作ところの工なかるべし 16 その日エジプトは婦女のごとくならん萬軍のエホバの動かしたまふ手のその上にごくが故におそれをのくべし 17 ユダの地はエジプトに懼れるこの事をかたりつぐれば聴くもの皆おそるこれ萬軍のエホバ、エジプトに對ひて定めたまへる謀略の故によるなり 18 その日エジプトの地に五の邑ありカナンの方言をかたりまた萬軍のエホバに誓ひをたてんその中のひとつは日邑となへらるべし 19 その日エジプトの地の中にエホバをまつ一つの祭壇ありその境にエホバをまつ一柱あらん 20 これエジプトの地にて萬軍のエホバの徴となり證となるなりかれら暴虐者の故によりてエホバに號求むべければエホバは救ふ

もの護るものを遣してこれを助けたまはん 21 エホバおのれをエジプトに知せたまはんその日エジプト人はエホバをしり犠牲と祭物をもて之につかへん誓願をエホバにたてて成とぐべし 22 エホバ、エジプトを撃たまはん エホバこれを撃これを醫したまふ この故にかれらエホバに歸らんエホバその懇求をいれて之をいやし給はん 23 その日エジプトよりアツスリヤにかよふ大路ありて アツスリヤ人はエジプトにきたり エジプト人はアツスリヤにゆきエジプト人とアツスリヤ人と相共につかふることをせん 24 その日イスラエルはエジプトとアツスリヤとを共にし三あひならび地のうへにて福祉をうくる者となるべし 25 萬軍のエホバこれを祝して言たまはくわが民なるエジプトわが手の工なるアツスリヤわが産業なるイスラエルは福ひなるかな

Chapter 20

1 アツスリヤのサルゴン王タルタンを遣してアシドドにゆかしむ彼がアシドドを攻てとりし年にあたり 2 この時エホバ、アモツの子イザヤに托てかたりたまはく往なんぢの腰よりあらたへの衣をとき汝の足より履をぬげここに於てかれその如くなし赤裸跣足にて歩めり 3 エホバ言給くわが僕イザヤは三年の間はだかはだしにてあゆみエジプトとエテオピアとの豫兆となり奇しき標となりたり 4 斯のごとくエジプトの虜とエテオピアの俘囚とはアツスリヤの王にひきゆかれその若きも老たるもみな赤裸跣足にて髻までもあらはしエジプトの恥をしめすべし 5 かれらはその恃とせるエテオピアその誇とせるエジプトのゆゑをもて懼れはざん 6 その日この濱邊の民いはん視よわれらの恃とせる國われらが遁れゆきて助をもとめアツスリヤ王の手より救出されんとせし國すでに斯のごとし我儕はいかにして脱かるを得んやと

Chapter 21

1 うみべの荒野にかかる重負のよげんはいくノ荒野よりおそるべき地より南のかたの暴風のふきすぐるが如くきたれり 2 われ奇き黙示をしめされたり欺騙者はあざむき荒すものはあらずべし エラムよ上れメデアよかこめ我すにすべての歎息をやめしめたり 3 この故にわが腰は甚だしくいたみ産にのぞめる婦人の如き苦しみにせまれりわれ悶へ苦しみて聞くことあたはず我をのきて見ことあたはず 4 わが心みだれまどひて懼き怖ること甚だしわが樂しめる夕はかはりて懼れとなりぬ 5 彼らは席をまうけ筵をしきてくひのみすもろもろの君よたちて盾にあぶらぬれ 6 エホバかく我にいひ給へり汝ゆきて

斥候をおきその見るところを告しめよ 7 かれ馬にのりて二列にならび來るものを見たまふ驢馬にのりたると駱駝にのりたるとをみば耳をかたがけて詳細にきくことをせしめよと 8 かれ獅の如く呼はりて日けるはわが主よわれ終日やぐらに立よもすがら斥候の地にたつ 9 馬にのりて二列にならびたる者きたれり彼こたへていはくバビロンは倒れたり倒れたりそのもろもろの神の像はくだけて地にふしたり 10 蹂躪するわが民よわが打場りたなつものよ我イスラエルの神萬軍のエホバに聞るところものを汝につげたり 11 ドマに係るおもにの預言はいくノ人ありセイルより我をよびていふ 斥候よ夜はなにのときぞ 12 ものみ答へていふ 朝きたり夜またきたる 汝もしとはんとおもはば問 なんぢら歸りきたるべし 13 アラビヤにかかる重負のよげん曰くノデガンの客商よなんぢらはアラビヤの林にやどらん 14 テマの地のたみよ水をたづさへて渴ける者をむかへ糧をもて逃遁れたるものを迎へよ 15 かれらは刃をさけ既にぬきたる劍すでに張たる弓およびたかひの艱難をさけて逃きたれり 16 そは主われにいひたまはく傭人の期にひとしく一年のうちにケダルのすべての榮華はつきはてん 17 そののこれる弓士のかずとケダルの子孫のますらをとは少なかるべし此はイスラエルの神エホバのかたり給へるなり

Chapter 22

1 異象の谷にかかる重負のよげん曰くノなんぢら何故にみな屋蓋にのぼれるか 2 汝はさわがしく喧すしき邑ほこりたのしむ邑なんぢのうちの殺されたるものは劍をもて殺されしにあらず 亦たたかひにて死しにもあらず 3 なんぢの司はみな共にのがれゆきしかど弓士にいましめられ汝の民はとほくにげゆきしかど見出されて皆とも縛められたり 4 この故にわれいふ回顧てわれを見るなかれ 我いたく哭かなしまんわが民のむすめははれたるによりて我をなぐさめんと勉むるなかれ 5 そは主萬軍のエホバ異象のたにに騒亂ふみにじり惶惑の日をきたらせたまふ垣はくづれ號呼のこゑは山々にきこゆ 6 エラムは服をおひたり歩兵と騎兵とありキルは盾をあらはせり 7 かくて戰車はなんぢの美しき谷にみち騎兵はその門にむかひてつらなれり 8 ユダの庇護はのぞかるその日なんぢは林のいへの武具をあふぎのぞめり 9 なんぢらダビデのまのちの壤おほきを見る なんぢら下のいけの水をあつめ 10 またエルサレムの家をかぞへ且その家をこぼちて垣をかたくし 11 一つの水坑をかきとかきとの間につくりて古池の水をひけりされどこの事を

なし給へるものを仰望まずこの事をむかしより警みたまへる者をかへりみざりき 12 その日主萬軍のエホバ命じて哭かなしみ首をかぶるにし麤服をまとへと仰せたまひしかど 13 なんぢらは喜びたのし牛身をほぶり羊をこらし肉をくらひ酒をのみていふ我儕くらひ且のむべし明日はしぬべければなりと 14 萬軍のエホバ黙示をわが耳にきかしたまはくまことにこの邪曲はなんぢらが死にいたるまで除き清めらるを得ずとこれ主萬軍のエホバのみことばなり 15 主ばんぐんのエホバ如此のたまふゆけ宮ををさめ庫をつかさどるセブナにゆきていへ 16 なんぢここに何のかかはりありやまた茲にいかなる人のありとして己がために墓をほりしや彼はたかきところ墓をほり磐をうがちて己がために住所をつくれり 17 視よエホバはつよき人のなげうつ如くに汝をなげうち給はん 18 なんぢを包みかためふりまはして闊かなる地に球のごとくなげいだしたまはん主人のいへの恥となるものよ汝そこにて死そのえいぐわの車もそこにあらん 19 我なんぢをその職よりおひその位よりひきおとさん 20 その日われわが僕ヒルキヤの子エリアキムを召て 21 なんぢの衣をきせ汝の帯をもて固めなんぢの政權をその手にゆだねべし 斯て彼エルサレムの民とユダの家とに父とならん 22 我またダビデのいへの鑰をその肩におかん彼あくればとづるものなく彼とづればあくものなし 23 我かれをたてて堅處にうち釘のごとくすべし而してかれはその父の家のさかえの位とならん 24 その父の家のもろもろの榮は彼がうへに懸るその子その孫およびすべての器のちひさきもの皿より瓶子にいたるまでも然らざるなり 25 萬軍のエホバのたまはくその日かたき處にうちたる釘はぬけいで折れておちんそのうへにかかれる負もまた絶るべし 此はエホバ語り給へるなり

Chapter 23

1 ツロに係るおもにの預言はいくノタルシンのもろもろの舟よなきさけベツロは荒廢れて屋なく入べきところなければなりかれら此事をキツテムの地にて告しらせらる 2 うみべの民よもだせ曩には海をゆきかふシドンの商賣くさぐさの物をかしこに充せたり 3 ツロは大なる水をわたりくるシホルの種物とナイルがはの穀物とによりて収納をえたり ツロはもろもろの國のつどふ市なりき 4 シドンよなづけしそは海すなはち海城かくいへり曰くわれ苦しまずうまず壯男をやしなはず處女をそだてざりきと 5 この音信のエジプトにいたるとき彼等ツロのおとづれによりて甚くうれふべし 6 なんぢらタルシシにわたれ 海邊のたみよ汝等なきさけがべし 7 これは上れる世にいしへよりありし邑おのが足にてうつり遠くたびずまひせる邑なんぢらの樂しみの邑なりしや 8 斯のごとくツロに對ひてはか

りしは誰なるか
ツロは冕をさづけし邑
その中のあきうどは君その中の貿易
するものは地のたふとき者なりき 9
これ萬軍のエホバの定め給ふところ
にしてすべて華美にかざれる驕奢を
けがし地のもろもろの貴者をひくく
したまはんが爲なり 10 タルシシの
女よナイルのごとく己が地にあふれ
よなんぢを結びかたむる帯ふたび
なかるべし 11 エホバその手を海
の上にべて國々をふるひうごかし給
へりエホバ、カナンにつきて詔命を
いだしその保砦をこぼたしめたまふ
12 彼ひたたまはく虐げられたる處女
シドンのむすめよ
汝ふたびよるこぶことなかるべし
起てキツテムにわたれ彼處にてなん
ぢまた安息をえじ 13
カルデヤ人のくにを視よ
この民はふたたびあることなしアツ
スリヤ人この國を野のけもの居所
にさだめたりかれら櫓をたてもろも
ろの殿をこぼちて荒墟となせり 14
タルシシのもろもろの舟よなきさけ
べなんぢの保砦はくだかれたり 15
その日ツロは七十年のあひだ忘れら
るべしひとりの王のながらぶる日の
かずなり七十年終りてのちツロは妓
女のうたの如くならん 16 さきに忘
れられたるうかれめよ琴をとりて城
市をへめぐり巧に弾じておほくの歌
をうたひ人にふたたび記念らるべし
17 七十年をはりてエホバまたツロを
顧みたまはんツロはふたたびその利
潤をえて地のおもてにあるもろもろ
の國と淫をおこなふべし 18 その貿
易とその獲たる利潤とはきよめてエ
ホバに獻ぐべければ之をたくはへず
積ことをせざるなりその貿易はエホ
バの前にをるもの用のとなり飽くら
ふ料となり華美なるこもりの料とな
らん

Chapter 24

1 視よエホバこの地をむなしから
しめ荒廢らしめこれを覆へしてそ
の民をちらしたまふ 2
かくて民も祭司もひとしく
僕も主もひとしく
下婢も主婦もひとしく
買ものも賣ものもひとしく
貸ものも借ものもひとしく利をはた
るものも利をいたす者もひとしくこ
の事にあふべし 3 地はことごとく空
しくことごとく掠められん
こはエホバの言たまへるなり 4 地は
うれへおとろへ世は萎おとろへ地の
たふときものも萎はてたり 5
民おきてにそむき法ををかしとこし
への契約をやぶりたるがゆゑに
地はその下にけがされたり 6 このゆ
ゑに呪詛は地をのみつくしそこに住
るものは罪をうけまた地の民はやか
れて僅かばかり遭れり 7
あたらしき酒はうれへ葡萄はなえ心
たのしめるものはみな歎息せざるは
なし 8 鼓のおとは寂なり歡ぶもの
の聲はやみ琴の音もまたしづまれり 9
彼等はふたたび歌うたひ酒のまず濃
酒はこれをのむものに苦くなるべし
10 騒ぎみだれたる邑はすでにやぶら

れ毎家はことごとく閉て人のいるな
し 11 街頭には酒の故によりて叫ぶ
こゑありすべての歡喜はくらくなり
地のたのしみは去ゆけり 12
邑はあれすたれたる所のみのこり
その門もこぼたれて破れぬ 13 地の
うちにてもろもろの民のなかにて遺
るものは橄欖の樹のうたれしのちの
果の如く葡萄の収穫はてしおのちの實
のごとし 14
これらのもの聲をあげてよばはんエ
ホバの稜威のゆゑを故て海より歡び
よばはん 15 この故になんぢら東に
てエホバをあがめ海のしまじまにて
イスラエルの神エホバの名をあがむ
べし 16
われら地の極より歌をきけりいはく
榮光はただしきものに歸すとわれ
云らく我やせおとろへたり我やせお
とろへたり我はわざはひなるかな欺
騙者はあざむき欺騙者はいつはり
をもて欺むけり 17 地にすむものよ恐
怖と陥阱と罟とはなんぢに臨めり 1
8 おそのの聲をのがる者はおとし
あなに陥りおとしあなの中よりいづ
るものは罟にかかるべしそは高處の
窓ひらけ地の基ふるひうごけばなり
19 地は碎けにくだけ地はやぶれにや
ぶれ地は揺にゆれ 20 地は乘へる者
のごとく躑ぎによるめき假廬のごと
くふりうごくその罪はそのうへにお
もく遂にたふれて再びおくることな
し 21 その日エホバはたかき處にて
高きところの軍兵を征め地にて地の
もろもろの王を征めたまはん 22 か
れらは囚人が阱にあつめらるごとく
集められて獄中にとざされ多くの
日をへてのち刑せらるべし 23 かく
て萬軍のエホバ、シオンの山および
エルサレムにて統治めかつその長老
たちのまへに榮光あるべければ月
は面あからみ日ははぢて色かはるべし

Chapter 25

1 エホバよ汝はわが神なり我な
んぢを崇めなんぢの名をほめたたへ
ん汝さきに妙なる事をおこなひ古時
より定めたることを眞實をもて成た
まひたればなり 2
なんぢ邑をかへて石堆となし
堅固なる城を荒墟となし外人の京都
を邑とならしめず永遠にたつこと
を得ざらしめたまへり 3
この故につよき民はなんぢをあがめ
暴びたる國々の城はなんぢをおそる
べし 4
そはなんぢ弱きものの保砦となり
乏しきものの難のときの保砦となり
雨風のふききたりて垣をうつごとく
暴ぶるものの荒きたるときは避所と
なり熱をさくる蔭となりたまへり 5
なんぢ外人の喧嘩をおさへて早ける
地より熱をのりのぞく如くならしめ
暴ぶるものの凱歌をとどめて雪の陰
をもて熱をとどむる如くならしめた
まはん 6 萬軍のエホバこの山にても
ろもろの民のために肥たるものをも
て宴をまうけたくはへたる葡萄酒
をもて宴をまうく臚おほき肥た
るもの久しくたくはへたる清るぶだ
う酒の宴なり 7 又この山にてもろ
もろの民のかぶれる面帕ともろもろの

國のおほへる外帔をとりのぞき 8
とこしへまで死を呑たまはん主エホ
バはすべての面より涙をぬぐひ全地
のうへよりその民の凌辱をのぞき給
はん
これはエホバの語りたまへるなり 9
その日此如いはん
これはわれらの神なり
われら俟望めり
彼われらを救ひたまはん
是エホバなりわれらまちのぞめり我
儕そのすくひを歡びたのしむべしと
10 エホバの手はこの山にとどまり
モアブはその處にてあくたの水のな
かにふまるる藁のごとく蹂躪られん
11 彼そのなかにて游者のおよがんと
して手をのばすが如く己が手をのば
さん然どエホバその手の腕計ととも
にその傲慢を伏たまはん 12 なんぢ
の垣たかき堅固なる城はエホバかた
ぶけたふし
地におとして塵にまじへたまはん

Chapter 26

1 その日ユダの國にてこの歌を
うたはんわれらに堅固なる邑あり神
すくひをもてその垣その藩となした
まふべし 2 なんぢら門をひらきて忠
信を守るただしき國民をいれよ 3 な
んぢは平康にやすきをもて心志かた
き者をまもりたまふ
彼はなんぢに依頼めばなり 4
なんぢら常盤にエホバによりたのめ
主エホバはとこしへの巖なり 5
たかきに居るものを少し
そびえたる城をふせしめ
地にふせしめて塵にまじへ給へり 6
かくて足これをもふまん
苦しむものは足にて之をふみ
貧しき者はその上をあゆまん 7
義きものの道は直からざるなしなん
ぢ義きものの途を直く平らかにし給
ふ 8 エホバよ審判をおこなひたまふ
道にてわれら汝をまちのぞめりわれ
らの心はなんぢの名となんぢの記念
の名とをしたふなり 9
わがこころ夜なんぢを慕ひたりわが
うちなる靈あしたに汝をもとめんそ
は汝のさばき地におこなはるるとき
世にすめるもの正義をまなぶべし 1
0 惡者はめぐまるるれども公義をま
なばず直き地にありてなほ不義をおこ
なひエホバの稜威を見ることをこの
まず 11 エホバよなんぢの手たかく
擧れどもかれら顧みず然どなんぢが
民をすくひたまふ熱心を見ばはぢを
いだかん
火なんぢの敵をやきつくすべし 12
エホバよ汝はわれらのために平和を
まうけたまはん我儕のおこなひしこ
とは皆なんぢの成たまへるなり 13
エホバわれらの神よなんぢにあらぬ
他の主ども曩にわれらを治めたり然
どわれらはただ汝によりて汝の名を
かたりつけん 14
かれら死たればまたいぎず
亡靈となりたればまた復らず
なんぢかれらを糺してこれを滅ぼし
その記念の名をさへ悉くうせしめた
まへり 15 エホバよなんぢこの國民
をましたまへり此くにびとを増たま
へりなんぢは尊ばれたまふなんぢ地

の界をことごとく擴めたまへり 16
エホバよかれら苦難のときに汝をあ
ふぎのぞめり彼等なんぢの懲罰にあ
へるとき切になんぢに禱告せり 17
エホバよわれらは孕める婦のうむと
き近づきてくしみその痛みにより
て叫ぶがごとく汝のまへに然ありき
18 われらは孕みまた苦しみたれどそ
の産るところは風ににたりわれら救
を地にほどこさず世にすむ者うまれ
いでざりき 19 なんぢの死者はいき
わが民の屍はおきん
塵にふすものよ醒てうたうたふべし
なんぢの露は草木をうるほす露のご
とく地はなきたまをいだいさん 20
わが民よゆけなんぢの室にいり汝の
うしろの戸をとどて忿恚のすぎゆく
まで暫時かくるべし 21 視よエホバ
はその處をいでて地にすむもの
不義をただしたまはん地はその上なる
血をあらはにして殺されたるものを
また掩はざるべし

Chapter 27

1 その日エホバは硬く大いなる
つよき劍をもて疾走るへびレビヤタ
ン曲りうねる蛇レビヤタンを罰しま
た海にある鱷をころし給ふべし 2
その日如此うたはんうらはしき葡萄
園あり之をうたへよ 3
われエホバこれを護り
をりをり水そそぎ夜も晝もまもりて
害ふものあらざらしめん 4 我にいき
どほりなし願はくは荆棘のわれと戦
はんことを然ばわれすすみ迎へて皆
もるともに焚盡さん 5 寧ろわが力に
たよりて我とやざらざるを結べ
われと平和をむすぶべし 6 後にいた
らばヤコブは根をはりイスラエルは
芽をいだして花さきその實せかいの
面にみちん 7 ヤコブ主にうたると
いへども彼をうちしもの主にうた
るるが如きことあらんやヤコブの殺
さるは彼をころししもの殺さる
るが如きことあらんや 8 汝がヤコブ
を逐たまへる懲罰は度にかなひぬ東
風のふきし日なんぢあらしき風をも
てこれをうつし給へり 9 斯るがゆゑに
ヤコブの不義はこれによりて潔めら
れんこれに因てむすぶ果は罪をのぞ
くことをせん彼は祭壇のもろもろの
石を碎けたる石灰のごとくになしア
シラの像と日の像とをふたたび建る
ことなからしめん 10 堅固なる邑は
あれてすさまじく棄去れたる家のご
とくまた荒野のごとし積このところ
にて草をはみ此所にてふし
且そこなる樹のえだをくらはん 11
その枝かるるとき折とらる
婦人きたりてこれを焼んこれは無知
の民なるが故に之をつくれる者あは
れまずこれを形づくれるもの恵まざ
るべし 12
その日なんぢらイスラエルの子輩よ
エホバは打落したる果をあつむるご
とく大河の流よりエジプトの川にい
たるまでなんぢらを一一つにつにあつ
めたまふべし 13 その日大なるラッ
パ鳴ひびきアツソリの地にさすら
ひたる者
エジプトの地におひやられたる者き
たりてエルサレムの聖山にてエホバ

を拜むべし

Chapter 28

1 酔るものなるエフライム人よ
なんぢらの誇の冠はわざはひなるかな
酒におぼるものよ肥たる谷の首
にある潤んとする花のうはしき飾
はわざはひなるかな 2 みよ主はひとり
の力ある強剛者をもち給へり
それは雷をまじへたる暴風のごとく
壊りそなふ狂風のごとく大水のあふれ
漲るごとく烈しくかれを地にうづ
つし 3 酔るものなるエフライム人
のほこりの冠は足にて踐にじられん
4 肥たる谷のかしらにある潤んとす
る花のうはしきかざりは夏こぬに
熟したる初結の無花果のごとし見
るものこれをみて取る手おそしと呑
るなり 5 その日萬軍のエホバその
民のこれらの者のために榮のかんむ
りとなり美しき冠となり給はん 6 さ
ばきの席にざするものには審判の靈
をあたへ軍を門よりおひかへす者
には力をあたへ給ふべし 7 然どかれ
らも酒によりてよろめき濃酒により
てよろぼひたり祭司と預言者とは濃
酒によりてよろめき
酒にのまれ濃酒によりてよろぼひ
して黙示をみるときにもよろめき
審判をおこなふときにも躓けり 8
すべて臍には吐たるものと穢とみ
て潔きところなし 9 かれは誰をし
めて知識をあたへんとするか誰にし
めて音信を曉らせんとするか乳を
たち懐をはなれたる者にするならん
か 10 そは誠命にいましめをくはへ
誠命にいましめをくはへ
度のにりをくはへ度のにりをくは
へ此にもすこしく彼にもすこしく
教ふ 11 このゆゑに神あだし唇と異
なる舌とをもてこの民にかたりたま
はん 12 曩にかれらに言たまひける
は此は安息なり疲困者にやすみを
あたへよ此は安慰なりと
されど彼らは聞ことをせざりき 13
斯るがゆゑにエホバの言かれらに
くだりて誠命にいましめをくはへ
誠命にいましめをくはへ
度のにりをくはへ度のにりをくは
へ此にもすこしく彼にもすこしく
をしへん之によりて彼等すすみて
うしろに仆れそなはれ罪にかりて
捕へらるべし 14 なんぢら此エルサ
レムにある民ををさむるところの
輕慢者よエホバの言をきけ 15
なんぢらは云い我ら死と契約をた
て陰府とちぎりをむすべり漲りあ
ふる禍害のすぐるときわれらに
來らじそはわれら虚偽をもて避所
となし欺詐をもて身をかくしたれば
なりと 16 このゆゑに神エホバか
くいひ給ふ視よわれシオンに一つ
の石をすゑてその基となせりこれ
は試をへたる石たふとき隅石か
たくすゑたる石なりこれに依頼
むものはあわつることなし 17
われ公平を準繩とし正義を錘と
す斯て雷はいつはりにてつくれる
避所をのぞきさり水はその匿れた
るところに漲りあふれん 18 汝ら
が死とたてし契約はきえうせ陰
府とむすべり成りしは成ることなし
されば漲り溢るる

わざはひのすぐるとき汝等はこれ
に踐たふさるべし 19
その過るごとになんぢらを捕へん
朝々にすぎ晝も夜もすぐ
この音信をききわきまふるのみに
ても憎きをるなり 20 その状は床
みじかくして身をのぶることあた
はず衾せまくして身をおほふこと
能はざるが如し 21 そはエホバ
往昔ペラヂムの山にて起たまひし
がごとくにたちギベオンの谷にて
忿恚をはなちたまひしが如くに
いきどほり
而してその所爲をおこなひ給はん
奇しき所爲なりその工を成たま
はん異なる工なり 22
この故になんぢら侮るなかれ恐
くはなんぢらの縲縄きびしくなら
ん我すでに全地のうへにさだま
れる敗亡あるよしを主萬軍のエ
ホバより聞たればなり 23 なん
ぢら耳をかたがけてわが聲をき
け懇ろにわが言をきくべし 24
農夫たねをまかに何で日々に
たがへし日々その地をすきその
土塊をくだくことのみを爲んや
25 もし地の面をたひらかにせ
ばいかに豊粟をまき 馬芹の種
をおろし 小麦をうねにうゑ
大麥をさだめたる處にうゑ
粗麥を畔にうゑざらんや 26
斯のごときはかれの神これに
智慧をあたへて教へたまへん
なり 27 けしは連枷にてうた
ず馬芹はそのうへに車輪をき
しらせず豊粟をうつには杖を
もちひ 馬芹をうつには棒を
もちふ 28 麥をくだくか否く
のまにきしらせ馬にふませて
落すことはすれども斷ずしか
するにあらず 29
これを砕くことをせざるべし 29
此もまた萬軍のエホバよりい
づその謀略はくすしくその智慧
はすぐれたり

Chapter 29

1 ああアリエルよアリエルよ
ああダビデの營をかまへたる
邑よとしに年をくはへ節會ま
はりきたらば 2 われアリエル
をなやまし之にかなしみと歎息
とあらしめん彼をアリエルの
まはりに營をかまへ保者をき
つて汝をかこみ櫓をたててなん
ぢを攻べし 4 かくてなんぢは卑
くせられ地にふしてものいひ
塵のなかより低聲をいだし
てかたらん汝のこゑは巫女の
こゑのごとく地よりいづのこ
ゑは塵のなかより囀るがごと
し 5 然どなんぢのあだの群衆
はこまやかなる塵の如くあら
ぶるもの群衆はぶきさるる
糞糠の如くならん 俄にまた
たく間にこの事あるべし 6
萬軍のエホバはいかづち 地震
おほごゑ暴風つむじかぜ及び
やきつくす火の燄をもて臨
みたまふべし 7 斯てアリエル
を攻てたかかふ國々のも
るもるアリエルとその城とを
せめてたかかひて難ますもの
はみな夢のごとく夜のまぼろ
しの如くならん 8 饑たるもの
の食ふことを夢みて醒きたれば
その心なほ空しきがごとく
渴けるもの飲ことを夢みて
醒きたれば疲れかつ頻にのまん
ことを欲するが

ごとくシオンの山をせめて戦
ふくに群衆もまた然あらん 9
なんぢらためらへ而しておど
ろかなんぢら放肆にせよ而して
目くらまなかれらは酔りされど
酒のゆゑにあらざるなりといは
ん 10 そはエホバ酣睡の靈を
なんぢらの上にそそぎ而して
なんぢらの目をとぢなんぢら
の面をおほひたまへりその
目は預言者そのかほは先知者
なり 11 かかるが故にすべて
の黙示はなんぢらには封じたる
書のことばのごとくなり文字
しれる人にわたして請これを
讀といはんに答へて封じたる
がゆゑによむこと能はずとい
はん 12 また文字しらぬ人に
わたして請これをよめといはん
にこたへて文字しらざるなり
といはん 13 主いひ給はく
この民は口をもて我にちかづ
き口唇をもてわれを敬へども
その心はわれに遠かれりその
われを畏みおそるは人の誠命
によりてをしめられしのみ 14
この故にわれこの民のなかに
て再びくすしき事をおこなは
ん そのわざはひ奇しくしてい
とあやしかれらの中なる智者
のちゑはうせ聰明者のさと
きはかくれん 15 己がはかり
ごとくをエホバに深くかくさ
んとする者はわざはひなるかな
暗中にありて事をおこなひ
ていふ誰かわれを見んや
たれか我をしらんやと 16
なんぢらは曲れりいかで陶工
をみて土塊のごとくおもふ可
んや造られし者のれを作れる
ものをさして我をつくれるに
あらずといふをえんや形づく
られたる器はかたちづくりし
者をさして智慧なしといふを
得んや 17 暫くしてレバノン
はかはりて良田となり良田は
林のごとく見ゆるとききた
らざるや 18 その日聾者は
この書のことばをきき盲者の
目はくらきより闇よりみる
ことを得べし 19 謙だるもの
はエホバによりてその歡喜を
まし人のなかの貧きものは
イスラエルの聖者によりて快
樂をうべし 20 暴るものは
たえ 侮慢者はうせ 邪曲の
機をうかがふ者はことごと
く斷滅さるべければなり 21
かれらは訟をきく時まげて
人をつみし邑門にていさむ
るものを謀略におとしいれ
虚しき語をかまへて義人を
しりぞく 22 この故にわかし
アブラハムを贖ひたまひし
エホバはヤコブの家につき
て如此いひたまふ ヤコブは
今より恥をかかうむらずその
面はいまより色をうしなはず
23 かれの子孫はその中
にわががおこなふ手のわざを
みんその時わがが名を聖とし
ヤコブの聖者を聖として
イスラエルの神をおそるべし 24
心あやまれるものも知識を
えつづやけるものも教誨を
まなばん

Chapter 30

1 エホバのたまはく
悖る子輩はわざはひなるかな
なれら謀略をすれども我に
よりてせず 盟をむすべども
わがが靈にしたがはず ます
ます罪につきをくはへん 2
かれ

らわが口にとはずしてエジ
プトに下りゆきパロの力を
かりておのれを強くしエ
ジプトの蔭によらん 3
パロのちからは反てなんぢ
らの駟となりエジプトの
蔭によるは反てなんぢら
の辱かしめとなるべし 4
かれの君たちはゾアンに
ありかれの使者たちはハ
ネスにきたれり 5 かれ
らは皆おのれを益すること
あたはざる民によりて恥
をいだくかの民はたすけ
とならず益とならずか
へりて恥となり謗とな
れり 6 南のかたの牲畜
にかかる重負のよげん曰
く / かれらその財貨を
若き驢馬のかたにおは
せ その寶物を駱駝の背
におはせて牝獅牡獅ま
むし及びとびかける蛇
のいづる苦しみと艱難
との國をすきて己をえ
きすること能はざる民
にゆかん 7 そのエジ
プトの助はいたづらに
して虚しこのゆゑに我
はこれを休みをするラ
ハブとよべり 8 いま
往てこれをその前にて
牌にしし書にのせ後の
世に傳へてとししへに
證とすべし 9 この民
は悖る民いつらにい
ふ子輩エホバの律法を
きくことをせざる子
輩なり 10 かれら見る
ものに対ひていふ見る
なかれと黙示をうる者
にむかひていふ直きこ
とを示すなかれ滑なる
ことをかたれ虚偽をし
めせ 11 なんぢら大道
をさし運をはなれわれ
らが前にイスラエルの
聖者をあらしむるな
かれと 12 此によりて
イスラエルの聖者かく
いひ給ふなんぢらこの
言をあなどり暴虐と
邪曲とをたのみて之に
たれり 13 斯るがゆ
ゑにこの不義なんぢら
には凸出ておちんと
するたかき垣のさけ
たるところのごとく
その破壊にはかに暫
しが間にきたらんと
14 主これを破りあ
だかも陶工の瓶をく
だきやぶるがごとく
して惜みたまはず
その碎のなかを爐
より火をとり池より
水をくむほどの一
片だに見出すこと
なからん 15 主エ
ホバ、イスラエルの
聖者かくいひたま
へりなんぢら立か
へりて靜かにせば
救をえ 平穩にして
依頼まば力をうべし
と然どなんぢらこの
事をこのまざりき
16 なんぢら反てい
へり 否われら馬に
のりて逃走らんと
この故になんぢら
逃走らん 又いへり
われら疾きものに
乗るとこの故になん
ぢらを追も疾かるべ
し 17 ひとり叱咤す
れば千人にげはしり
五人しつたすれば
なんぢら逃走りて
その遺るものは
僅かに山嶺にある
杆のごとく岡のう
へにある旗のごと
くならん 18 エホ
バこれによりて
俟てこの恩恵を汝
等にほどこしこれ
により上りてのち
なんぢらを憐れみ
たまはんエホバは
公平の神にましま
せり凡てこれを俟
望むものは福なり
19 シオンにをり
エルサレムにをる
民よなんぢは再び
なくことあらじ
そのよばはる聲に
應じて必ずなんぢ
に恵をほどこした
まはん主ききた
まふとき直にこた
へたまふべし 20
主はなんぢらに
なやみの糧とくる
しみの水とをあた
へ給はん なんぢ
を教るもの再び
かくれじ汝の目
はその教るもの
を恒にみるべし
21 なんぢ右に
ゆくも左にゆく
もその耳にこれ
は道なりこれを
歩むべしと

後邊にてかたるをきかん 22
 又なんぢら白銀をおほひし刻める像
 こがねをはりし鑄たる像をけがれと
 し 糞物のごとく打棄ていはん
 去れと 23 なんぢが地にまく種に主
 は雨をあたへ
 また地にへりいづる糧をたまふ
 その土産こえて豊かならんその日な
 んぢの家畜はひろき牧場に草をはむ
 べし 24 地をたがへす牛と驢馬とは
 團扇にてあぶぎ箕にてとほし鹽をく
 はへたる飼料をくらはん 25 大なる
 殺戮の日やぐらのたふる時もろも
 ろのたかき山もろもろのそびえたる
 嶺に河とみづの流とあるべし 26
 かくてエホバその民のきずをつつみ
 そのうたれたる創痕をいやしたまふ
 日には月のひかりは日の光のごとく
 日のひかりは七倍をくはへて七日
 のひかりの如くならん 27 視よエホ
 バの名はとほき所よりきたりそのは
 げしき怒はもえあがる焔のごとく
 その唇はいきどほりにてみち
 その舌はやくつくす火のごとく 28
 その氣息はみなぎりて項にまでいた
 る流のごとし且ほろびの篩にてもろ
 もろの國をふるひ又まどはす鞭をも
 ろもろの民の口におきたまはん 29
 なんぢらは歌うたはん節會をまもる
 夜のごしなんぢらは心によるこば
 ん笛をならしエホバの山にきたりイ
 スラエルの磐につくときの如し 30
 エホバはその稜威のこゑをきかしめ
 烈しき怒をはなちて焼つくす火のほ
 のと暴風と大雨と雷とをもてその
 臂のくだることを示したまはん 31
 エホバのこゑによりてアツスリヤ人
 はくじけん
 主はこれを答にてうち給ふべし 32
 エホバの豫じめさだめたまへる杖を
 アツスリヤのうへにくはへたまふご
 とに鼓をならし琴をひかん主はうご
 きふるふ戦闘をもてかれらとたたか
 ひ給ふべし 33
 トベテは往古よりまうけられ
 また王のために備へられたりこれを
 深くしこれを廣くしここに火とおほ
 くの薪とをつみおきたりエホバの氣
 息これを硫黄のながれのごとくに燃
 さん

Chapter 31

1 助をえんとてエジプトにくだ
 り馬によりたのむものは禍ひなるか
 な戦車おほきが故にこれにたのみ騎
 兵はなはだ強きがゆゑに之にたのむ
 されどイスラエルの聖者をあぶがず
 エホバを求ることをせざるなり 2 然
 はあれどもエホバもまた智慧あるべ
 しかならず禍害をくだしてその言を
 ひるがへしたまはず
 起てあしきものは家をせめまた不義
 を行ふ者の助をせめ給はん 3 かのエ
 ジプト人は人にして神にあらずその
 馬は肉にして靈にあらずエホバその
 手をのばしたまはば助くるものも蹟
 きたすけらるる者もたふれてみなひ
 としく亡びん 4
 エホバ如此われにいひたまふ獅のほ
 え壯獅の獲物をつかみてほえたけれ
 るとき許多のひつじかひ相呼つどひ
 てむかひゆくともその聲によりて挫

けずその喧譁しきによりて隠せざる
 ごとく萬軍のエホバくだりてシオン
 の山およびその岡にて戦ひ給ふべし
 5 鳥の雛をまもるがごとく萬軍のエ
 ホバはエルサレムをまもりたまはん
 これを護りてこれをすくひ踰越てこ
 れを援けたまはん 6 イスラエルの子
 輩よなんぢらさきには甚だしく主に
 そむけり 今たちかへるべし 7 なん
 ぢらおのが手につくりて罪ををかし
 し白銀のぐうざう黄金の偶像をその
 日のおののげすてん 8 爰にアツス
 リヤびとは劍にてたふれん
 されど人のつるぎにあらず
 劍かれらをほろぼさん
 されど世の人のつるぎにあらずかれ
 ら劍のまへより逃はしりその壮きも
 のは役どとならん 9
 かれらの聲はおそれによりて逝去り
 その君たちは旗をみてくじけん
 こはエホバの御言なりエホバの火は
 シオンにありエホバの爐はエルサレ
 ムにあり

Chapter 32

1 茲にひとりの王あり
 正義をもて統治めその君たちは公平
 をもて宰さどらん 2 また人ありて風
 のさけどころ暴雨ののがれどころと
 なり
 早ける地にある水のながれのごとく
 倦つかれたる地にある大なる岩陰の
 如くならん 3
 見るもの目はくまらず聞もの耳
 はかたぶけきくをうべし 4 躁がしき
 もの心はさとりて知識をえ吃者の
 舌はすみやくあざやかに語るをう
 べし 5 愚かなる者はふたたび尊貴と
 よばることなく狡猾なる者はふた
 たび大人とよばることなかるべし
 6 そは愚なるものは愚なることをか
 たりその心に不義をかもし邪曲をお
 こなひエホバにむかひて妄なること
 をかたり饑たる者のころを空しく
 し渴けるもの飲料をつきはてしむ
 7 狡猾なるもののみる器はあしし
 彼あしき企圖をまうけ虚偽のこば
 をもて苦しむ者をそこなひ乏しき者
 のかたること正理なるも尚これを害
 へり 8 たふとき人はたふとき謀略を
 まうけ恒にたふとき事をおこなふ 9
 安逸にをる婦等よおきてわが聲をき
 け思煩ひなき女等よわが言に耳を傾
 けよ 10 思煩ひなきをんなたちよ一
 年あまりの日をすぎて摺きあわてん
 そは葡萄の収穫むなしく果ををさむ
 期きたるまじければなり 11 やす
 らかにをる婦等よふるひおそれよお
 もひわづらひなき者よをのきあわ
 てよ衣をぬぎ裸體になりて腰に籠服
 をまとへ 12 かれら良田のため賣り
 ゆたかなる葡萄の樹のために胸をう
 たん 13 棘と荊わが民の地には樂
 みの邑なるよろこびの家々にもはえ
 ん 14 そは殿はすてられ
 にぎはひたる邑はあれすたれオベル
 と槽とはとこしへに洞穴となり野の
 驢馬のたのしむところ羊のむれの草
 はむところとなるべし 15 されど遂
 には靈うへより我儕にそそぎて
 荒野はよき田となり良田は林のごと
 く見ゆるとききたらん 16

そのとき公平はあれのにすみ
 正義はよき田にをらん 17
 かくて正義のいさをは平和せいぎの
 むすぶ果はとこしへの平隱とやすき
 なり 18 わが民はへいわの家にをり
 思ひわづらひなき住所にをり
 安らかなる休息所にをらん 19 され
 どまづ雪ふりて林くだけ邑もことご
 とくたふるべし 20 なんぢらもろも
 ろの水のほとりに種をおろし牛およ
 び驢馬の足をはなちおく者はさいは
 ひなり

Chapter 33

1 禍ひなるかななんぢ害はれざ
 るに人をそこなひ
 欺かれざるに人をあざむけりなんぢ
 が害ふこと終らば汝そこなはれなん
 ぢが欺くことはてなば汝あざむかる
 べし 2 エホバはわれらを恵み給へわ
 れらなんぢを俟望めり
 なんぢ朝ごとにわれらの臂となりま
 た患難のときにわれらの救となりた
 まへ 3 なりとどろく聲によりてもろ
 もろの民にげはしりなんぢの起たま
 ふによりてもろもろの國はちりうせ
 ぬ 4 蠢賊のものをはみつくすがごと
 く人なんぢらの財をとり盡さんまた
 蝗のとびつどふがごとく人なんぢら
 の財にとびつどふべし 5 エホバは最
 たかし高處にすみたまふなりエホバ
 はシオンに公正と正義とを充せたま
 ひたり 6 なんぢの代はかたくたち
 救と智恵と知識とはゆたかにあらん
 エホバをおそるは國の賣なり 7 視
 よかれらの勇士は外にありてさけひ
 和をもとむる使者はいたく哭く 8
 大路あれすたれて旅客たえ敵は契約
 をやぶり諸邑をなみし人をものか
 ずとせず 9 地はうれへおとろへ
 レバノンは恥らひて枯れ
 シヤロンはアラバの如くなりバシヤ
 ンとカルメルとはその葉をおとす 1
 0 エホバ言給はく
 われ今おきん今たたん
 今みづから高くせん 11 なんぢら
 の孕むところは枇糠のごとく
 なんぢらの生ところは糞のごとしな
 んぢらの氣息は火となりてなんぢら
 を食ひつくさん 12 もろもろの民は
 やかれて灰のごとくなり荊のきられ
 て火にもやされたるが如くならん 1
 3 なんぢら遠にあるものよ
 わが行ひしことをきけ
 なんぢら近にあるものよ
 わが能力をしれ 14
 シオンの罪人はおそる
 戦慄はよこしまなる者にのぞめりわ
 れらの中たれか焼つくす火に止るこ
 とを得んや我儕のうち誰かとこしへ
 に焼るなかに止るをえんや 15 義を
 おこなふもの直をかたるもの虐げて
 えたる利をいとひつするもの手をふ
 りて賄賂をとらざるもの耳をふさぎ
 て血をながす謀略をきかざるもの
 目をとちて惡をみざる者 16
 かかる人はたかき處にすみ
 かたき聲はその槽となりその糧はあ
 たへられその水はともしきことな
 らん 17 なんぢの目はうはしき狀
 なる王を見
 とほくひろき國をみるべし 18 汝の

心はかの懼しかりしことどもを思ひ
 いでん會計せし者はいづくにありや
 貢をはかりし者はいづくにありや 19
 汝ふたたび暴民をみざるべしかの民
 の言ははふかくして悟りがたくその
 舌は異にして解がたし 20
 われらの節會の邑シオンを見よなん
 ぢの目はやすらかなる居所となれる
 エルサレムを見んエルサレムはうつ
 さることなき幕屋にして
 その代はとこしへにぬかれずその繩
 は一すぢだに断れざるなり 21 エホ
 バ我らとともに彼處にいまして稜威
 をあらはし給はん斯てそのところは
 ひろき川ひろき流あるところとなり
 てその中には漕舟もいらず巨艦もす
 ぐることなかるべし 22
 エホバはわれらを躡きたまふもの
 エホバはわれらに律法をたてたまひし
 者エホバはわれらの王にましまして
 我儕をすくひ給ふべければなり 23
 なんぢの船纜はとけたりその桅杆の
 もとを結びかたむることあたはず
 帆をあぐることあたはずその時おほ
 くの財をわかち跛者までも掠物あら
 ん 24 かしこに住るものの中われ病
 りといふ者なし彼處にをる民の咎は
 ゆるされん

Chapter 34

1
 もろもろの國よちかづきてきけ
 もろもろの民よ耳をかたぶけよ地と
 地にみつるもの世界とせかいより出
 るすべての者きけ 2
 エホバはよるづの國にむかひて怒り
 そのよるづの軍にむかひて忿怒り
 かれらをことごとく滅し
 かれらを屠らしたまふ 3
 かれらは殺されて抛棄られその屍の
 臭氣たちのぼり山はその血にて融さ
 れん 4 天の萬象はきえうせ もろも
 ろの天は書卷のごとくにまかれんそ
 の萬象のおつるは葡萄の葉のおつる
 がごとく無花果のかれたる葉のおつ
 るが如くならん 5
 わが劍は天にてうるほひたり視よエ
 ドムの上にくだりて滅亡に定めたる民
 のうへにくだりて之をさばかん 6
 エホバの劍は血にてみち脂にてこえ小
 羊と山羊との血
 牡羊の腎のあぶらにて肥ゆエホバは
 ボズラにて牲のけものをころしエド
 ムの地にて大にはふることをなし給
 へり 7 その屠場には野牛 こうし
 牡牛もともに下る
 そのくには血にてうるほされ
 その塵はあぶらにて肥さるべし 8
 こはエホバの仇をかへしたまふ日
 にしてシオンの訟のために報をなした
 まふなり 9 エドムのもろもろの河は
 かはりて樹脂となり
 その塵はかはりて硫磺となりその土
 はかはりてもゆる樹脂となり 10
 晝も夜もきえずその煙つくる期なく上
 騰らんかくて世々あれすたれ永遠
 までもその所をすぐる者なかるべし 1
 1 鷓と刺鴉とそこを己がものとなし
 鷓と鴉とそこにすまんエホバそのう
 へに亂をおこす繩をはり空虚をきた
 らする錘をさげ給ふべし 12 國をつ

ぐべき者をたてんとて貴者ふたび
 呼集ることをせじもろもろの諸侯は
 みな失てなくなるべし 13
 その殿にはことごとく荊はえ
 城にはことごとく刺草と薊とはえ
 野犬のすみか駝鳥の場とならん 14
 野のすみのと豺狼とここにあひ
 牡山羊その友をよび鴉もまた宿り
 てここを安所とせん 15 蛇ここに穴
 をつくり卵をうみてこれを孚しおの
 れの影の下に子をおつむ鳥もまたそ
 の偶とともに此處にあつまらん 16
 なんぢらエホバの書をつまびらかに
 たづねて讀べしこれらのもの一つも
 缺ることなく又ひとつもその偶をか
 くものあらじ
 そのエホバの口このことを命じその
 靈これを集めたまふべければなり
 17 エホバこれらのものに鬮をひかせ
 手づから繩をもて量りこの地をわけ
 あたへて永くかれらに保たしめ世々
 にいたるまでここに住しめたまはん

Chapter 35

1
 荒野とるほひなき地とはたのしみ
 沙漠はよろこびて番紅の花のごとく
 に咲かがやかん 2 盛に咲かがやきて
 よろこび且よろこび且うたひレバノ
 ンの榮をえカルメルおよびシヤロン
 の美しきを得んかれらはエホバのさ
 かえを見われらの神のうるはしき
 を見るべし 3 なんぢら委たる手をつよ
 くし弱りたる膝をすこやかにせよ 4
 心さわがしきものに對ていへ
 なんぢら雄々しかれ懼るるなかれ
 なんぢらの神をみよ
 刑罰きたり神の報きたらん神きたり
 てなんぢらを救ひたまふべし 5 その
 とき聾者の目はひらけ聾者の耳はあ
 くことを得べし 6 そのとき跛者は鹿
 の如くにとびはしり唾者の舌はうた
 うたはんそは荒野に水わきいで沙漠
 に川ながるべければなり 7
 やけたる沙は池となり
 うるほひなき地はみづの源となり野
 犬のふしたるすみかは蘆葦のしげり
 あふ所となるべし 8
 かしこに大路あり
 そのみちは聖道となへられん穢れ
 たるものはこれを過ることあたはず
 ただ主の民のために備へらるこれを
 歩むものはおろかなりとも迷ふこと
 なし 9 かしこに獅をらず
 あらき獸もその路にのぼることなし
 然ばそこにて之にあふ事なかるべし
 ただ贖はれたる者のみそこを歩まん
 10 エホバに贖ひすくはれし者うたう
 たひつつ歸てシオンにきたりその首
 にとこしへの歡喜をいただき樂とよ
 るこびとをえん
 而して悲哀となげきとは逃さるべし

Chapter 36

1 ヒゼキヤ王の十四年にアツス
 リヤの王セナケリブ上りきたりてユ
 ダのもろもろの堅固なる邑をせめと
 れり 2 アツスリヤ王ラキシよりラ
 シヤケをエルサレムに遣はし大軍を
 ひきあてヒゼキヤ王のもとに往しむ
 ラシヤケ漂工の野のおほざの傍な

る上の池の樋にそひてたてり 3 この
 時ヒゼキヤの子なる家司エリアキム
 書記セブナ、アサフの子なる史官ヨ
 ア出てこれを迎ふ 4
 ラシヤケかれらにいひけるはなん
 ぢら今ヒゼキヤにいへ大王アツスリ
 ヤの王かくいへりなんぢの恃とする
 その恃むところはなるか 5 我いふ
 なんぢが説とてこの軍のはかりごと
 とその能力とはただ口唇のことばの
 み今なんぢ誰によりたのみて我にさ
 かふことをなすや 6
 視よなんぢエジプトに依頼めりこれ
 傷める葦の杖によりたのめるがごと
 しもし人これに倚もたれなばその手
 をつきさされんエジプト王バロがす
 べて己によりたのむものに對するは
 スのごとし 7 汝われらはわれらの神
 エホバに依頼めり我にいはんかそ
 は曩にヒゼキヤが高きところと祭壇
 とをみな取去てユダとエルサレムと
 にむかひ汝等ここなる一つの祭壇の
 まへにて拜すべしといへる夫ならず
 や 8 いま請わが君アツスリヤ王に賭
 をせよわれ汝に二千の馬を與ふべ
 ければ汝よりこれに乗ものをいだし
 果して出しうべしや 9 然ばいかで我
 君のいとちひさき僕の長一人をだに
 退くることを得んやなんぞエジプト
 によりたのみて戰車と騎兵とをえん
 とするや 10 いま我のぼりきたりて
 この國をせめほろぼすはエホバの旨
 にあらざるべけんや
 エホバわれらにいひたまはくのぼりゆ
 きてこの國をせめほろぼせと 11 爰
 にエリアキムとセブナとヨアと共に
 ラシヤケにいひけるは請スリアの
 方言にて僕輩にかたれ我儕これをさ
 とりうるなり石垣のうへなる民のき
 くところにてはユダヤの方言をもて
 われらに語るなかれ 12
 ラシヤケにいひけるはわが君はこれ
 らのことをなんぢの君となんぢとに
 のみ語らんために我をつかはししな
 らんやなんぢらと共におのが糞をく
 らひおのが溺をのまんとする石垣の
 うへに坐する人々に我をつかはし
 しならずや 13 ステラシヤケはた
 てユダヤの方言もて大聲によはり
 いひけるはなんぢら大王アツスリヤ
 王のことばをきくべし 14
 王かくのたまへりなんぢらヒゼキヤ
 に惑はさるるなかれ
 彼なんぢらを救ふことあたはず 15
 ヒゼキヤがなんぢらをエホバに頼し
 めんとする言にしたがふなかれ
 彼いへらくエホバかならず我儕をす
 くひこの邑はアツスリヤ王の手にわ
 たさることなしと 16
 ヒゼキヤに聽從ふなかれ
 アツスリヤ王かくのたまへりなんぢ
 らわれと親和をなし出できたりて我
 にくだれおのおのその葡萄とその無
 花果とをくらひかのおのその井の水
 をのむことを得べし 17 遂には我き
 たりて汝等をほかの國にたづさへゆ
 かんその國はなんぢの國のごとき國
 にして 穀物 ぶどう酒
 パンおよび葡萄園あり 18 おそらく
 はヒゼキヤなんぢらに説てエホバ
 われらを救ふべしといはん然どもも
 ろもろの國の神等のなかにその國を
 アツスリヤ王の手より救へる者あり
 しや 19 ハマテ、アルパデの神等い

づこにありや
 セバルワイムの神等いづこにありや
 又わが手よりサマリヤを救出しし神
 ありや 20 これらの國のもろもろの
 神のなかに誰かその國をわが手より
 すくひたし者ありやさればエホバ
 王何でわが手よりエルサレムを救
 ひいだし得んと 21 如此ありければ
 民は黙して一言をもこたへざりきそ
 は之にこたふるなかれとの王のおほ
 せありつればなり 22 そのときヒル
 キヤの子なる家司エリアキム書記セ
 ブナおよびアサフの子なる史官ヨア
 ころもを裂てヒゼキヤにゆき之にラ
 シヤケの言をつげたり

Chapter 37

1 ヒゼキヤ王これをききてその
 衣をさき麤衣をまといてエホバの家
 にゆき 2 家司エリアキム書記セブナ
 および祭司のなかの長老等をして皆
 あらたへをまとはせてアモツの子預
 言者イザヤのもとにゆかしむ 3
 かれらイザヤにいひけるは
 ヒゼキヤ如此いへり
 けふは患難と責と辱かしの日なり
 そはうつまれんとして之をうみだ
 すの力なし 4 なんぢの神エホバある
 ひはラシヤケがもろもろの言をき
 きたまはん彼はその君アツスリヤ王
 につかはされて活る神をそしれりな
 んぢの神エホバその言をききて或は
 せめたまふならんされば請なんぢこ
 の遣れるものために祈禱をささげ
 よと 5 かくてヒゼキヤ王の諸僕イザ
 ヤにいたる 6
 イザヤかれらに言けるは
 なんぢらの君につげよ
 エホバ斯いひたまへり曰くアツスリ
 ヤ王のしもべら我をのりしりけがせ
 りなんぢらその聞しことばによりて
 懼るるなかれ 7 視よわれかれが意を
 うごかすべければ一つの風聲をき
 ておのが國にかへらんかれをその國
 にて劍にたふれしむべし 8 爰にラ
 シヤケはアツスリヤ王がラキシを離
 れさりしとききて歸りけるとき際し
 も王はリブナを攻をり 9 このとき
 エテオピアの王テルハカの事につ
 てきけり云く
 かれいいて汝とたたかふべしとこの
 ことをききて使者をヒゼキヤに遣し
 ていふ 10 なんぢらユダの王ヒゼキ
 ヤにつけて如此いへなんぢが頼める
 神なんぢを欺きてエルサレムはアツ
 スリヤ王の手にわたされじといふを
 聽ことなかれ 11 視よアツスリヤの
 王等もろもろの國にいかなることを
 おこなひ如何してこれを悉くほろぼ
 ししかを汝ききしならんされば汝す
 くはることを得んや 12 わが先祖
 たちの滅びししゴザン、ハラ、レ
 ゼフおよびテラサルなるエデンの族
 など此等のくにぐにの神はその國を
 すくひたりしや 13 ハマテの王アル
 パデの王セバルワイムの都の王ヘナ
 の王およびイワの王はいづこにあり
 やと 14 ヒゼキヤつかひの手より書
 をうけて之を讀りしかしてヒゼキヤ
 、エホバの宮にのぼりゆきエホバの
 前にこのふみを展ぶ 15 ヒゼキヤ、
 エホバに祈ていひけるは 16 ケルビ

ムの上に坐したまふ萬軍のエホバ、
 イスラエルの神よただ汝のみ地のう
 へなるよろづの國の神なり
 なんぢは天地をつくりたまへり 17
 エホバよ耳をかたむけて聽たまへ
 エホバよ目をひらきて視たまへセナ
 ケリブ使者して活る神をそしらしめ
 し言をことごとくききたまへ 18 エ
 ホバよ實にアツスリヤの王等もも
 ろの國民とその地とをあらし毀ち
 19
 かれらの神たちを火に投げいれたり
 これらのものは神にあらざ
 人の手の工にして
 あるひは木あるひは石なり
 斯るがゆゑに滅ぼされたり 20
 さればわれらの神エホバよ今われら
 をアツスリヤ王の手より救ひだし
 て地のもろもろの國にただ汝のみエ
 ホバなることを知しめたまへ 21 こ
 こにアモツの子イザヤ人をつかはし
 てヒゼキヤにいひせけるはイスラエ
 ルの神エホバかくいひたまふ汝はア
 ツスリヤ王セナケリブのことにつ
 きて我にいれり 22 エホバが彼のこ
 につきて語り給へるみことばは是
 なりいはくシオンの處女はなんぢを
 侮りなんぢをあざけりエルサレムの
 女子はなんぢの背後より頭をふれり
 23 汝がそしりかつ罵れるものは誰ぞ
 なんぢが聲をあげ目をたかく向てさ
 からひたるものはたれぞ
 イスラエルの聖者ならずや 24 なん
 ぢその使者によりて主をそしりてい
 ふ我はおほくの戰車をひきみて山々
 のいただきに登りレバノンの奥にま
 いていぬ我はたけたかき香柏とうる
 はしき松樹とをきりまたその境なる
 たかき處にゆき腴たる地の林にゆか
 ん 25 我は井をほりて水のみたり
 われは足踏をもてエジプトの河々を
 からさんと 26 なんぢ聞すや
 これらのことはわが昔よりなす所
 いにしへの日よりさだめし所なり今
 なんぢがこの堅城をこぼちあらして
 石堆となすも亦わがきたらしし所な
 り 27 そのなかの民はちから弱くを
 のきて恥をいだき野草のごとく青
 き菜のごとく屋蓋の草のごとく未だ
 そだたざる苗のごとし 28 我なんぢ
 が居ること出入すること又われにむ
 かひて怒りさげべることをしる 29
 なんぢが我にむかひて怒りさげべる
 と汝がほこれる言とわが耳にいりた
 れば我なんぢの鼻に環をはめ汝のく
 ちびるに鑣をつけて汝がきたれる路
 よりかへらしめん 30 ヒゼキヤよ我
 がなんぢにたまふ徴はこれなりなん
 ぢら今年は落穂より生たるものを食
 ひ
 明年は糠生より出たるものを食はん
 三年にあたりては種ことをなし收こ
 とをなし葡萄そのを作りてその果を
 食ふべし 31 ユダの家ののがれて遣
 れる者はふたたび下は根をはり上は
 果を結ぶべし 32 そは遣るものはエ
 ルサレムよりいで脱るものはシオ
 ンの山よりいづるなり萬軍のエホバ
 の熱心これを成たまふべし 33 この
 故にエホバ、アツスリヤの王につ
 ては如此いひたまふ
 彼はこの城にいらすここに箭をはな
 たす盾を城のまへならんべす
 壘をきづきて攻ることなし 34 かれ

はそのきたりし道よりかへりてこの城にいらす 35 我おのれの故によりて僕ダビデの故によりてこの城をまもり この城をすくはんこれエホバに宣給るなり 36 エホバの使者いできたりアツスリヤの陣營のなかにて十八萬五千人をうちこころせり早晨におきいでて見ればみな死てかばねとなれり 37 アツスリヤ王セナケリブ起てかへりゆきニネベにとどまる 38 一日おのが神ニスロクのみやにて禮拜をなし居しにその子アデランメレクとシヤレゼルと劍をもて彼をこらし而してアララテの地にげゆけりかれが子エサルハドンつぎて王となりぬ

Chapter 38

1そのころヒゼキヤやみて死んとせしにアモツの子預言者イザヤきたりて彼にいふ

エホバ如此いひたまはくなんぢ家に遺言をとどめよ汝しにて活ることあたはざればなり 2 爰にヒゼキヤ面を壁にむけてエホバに祈りいひけるは 3 ああエホバよ 願くはわがなんぢの前に眞實をもて一心をもてあゆみなんぢの目によきことを行ひたるをおもひいでたまへ

斯てヒゼキヤ甚くなきぬ 4 エホバの言イザヤにのぞみて曰く 5 なんぢ往てヒゼキヤにいへなんぢの祖ダビデの神エホバかくいひ給はく我なんぢの禱告をききなんぢの涙をみたり

我なんぢの齡を十五年ましくはへ 6 且なんぢとこの城とを救ひてアツスリヤわうの手をのがれしめん又われこの城をまもるべし 7 エホバ語りたまひたる此事を成たまふ證にこの徴をなんぢに賜ふ 8 視よわれアハズの日晷にすすみたる日影を十度しりぞかしめんといひければ乃ちひばかりにすすみたる日影十度しりぞきぬ 9 ユダの王ヒゼキヤ病にかりてその病のいえしのち記しし書は左のごとし 10 我いへりわが齡ひの全盛のとき陰府の門にいりわが餘年をうしなはんと 11 我いへりわれ再びエホバを見奉ることあらじ再びいけるもの地にてエホバを見奉ることあらじわれは無物の中にいりてふたたび人を見ることあらじ 12 わが住所はうつされて牧人の幕屋をとりさるごとくに我をはなるわがいのちは織工の布をまきはりて機より翦はなすごとくならんなんぢ朝夕のあひだに我をたえしめたまはん 13 われは天明におよぶまで己をおさへてしづめたり主は獅のごとくに我ももろの骨を砕きたまふなんぢ朝夕の間にわれを絶しめたまはん 14 われは燕のごとく鶴のごとくに哀みなき鳩のごとくにうめき

わが眼はうへを視ておとろふ

エホバよわれは迫りくるしめらる願くはわが中保となりたまへ 15 主はわれとものいひ且そのごとくみづから成たまへりわれ何をいふべきかわが世にある間わが靈魂の苦しめる故によりて慎みてゆかん 16 主よこれらの事によりて人は活るなりわが

靈魂のいのちも全くこれらの事によるなり願くはわれを醫しわれを活したまへ 17 視よわれに甚しき艱苦をあたへたまへるは我に平安をえしめんがためなり汝わがたましひを愛して滅亡の穴をまぬかれしめ給へりそはわが罪をことごとく背後にすてたまへり 18 陰府はなんぢに感謝せず死はなんぢを讃美せず墓にくだる者はなんぢの誠實をのぞまず 19 唯いけるもののみ活るものこそ汝にかんしやすするなれ

わが今日かんしやすするが如し父はなんぢの誠實をその子にしらしめん 20 エホバ我を救ひたまはんわれら世にあらんかぎりエホバのいへにて琴をひきわが歌をうたはん 21 イザヤいへらく無花果の一團をとりきたりて腫物のうへにつけよ 22 王かならずいへん 23 ヒゼキヤも亦いへらくわがエホバの家にのぼることにつきては何の兆あらんか

Chapter 39

1そのころバラダンの子バビロン王メロダクバラダ、ヒゼキヤが病をうれへて愈しことをききければ書と禮物とおくれり 2 ヒゼキヤその使者のきたるによりて喜びこれに財物 金銀 香料 たふとき油ををさめたる家およびすべての軍器ををさめたる家また庫のなかなる物をことごとく見すおほよそヒゼキヤのいへの裏にあるものと全國のうちにあるものと

見せざるものは一もあらざりき 3 ここに預言者イザヤ、ヒゼキヤ王のもとに來りていひけるはこの人々はなにをいひしや何處よりなんぢのもとに來りしやヒゼキヤ曰けるはかれらはとほき國よりバビロンより我にきたれり 4 イザやいふ 彼等はなんぢの家にてなにを見たりしや 5 ヒゼキヤ答ふかれらはわが家にあるものを皆みたり又わが庫のなかにあるものは一つをもかれらに見せざるものなかりき

イザヤ、ヒゼキヤにいふ 6 なんぢ萬軍のエホバの言をきけ 7 みよ日きたらんなんぢの家のものなんぢの列祖がけふまで蓄へたるものは皆バビロンにたづさへゆかれて遣るもの一もなかるべし 8 是はエホバのみことばなり 9 なんぢの身より生れいでん者もとらはれ寺人とせられてバビロン王の宮のうちにあらん 10 ヒゼキヤ、イザヤにいひけるは 11 汝がかるエホバのみことばは善しまた云わが世にあるほどは太平と眞理とあるべしと

Chapter 40

1なんぢらの神いひたまはくなくさめよ汝等わが民をなくさめよ 2 憩るにエルサレムに語り之によばはり告よ 3 その服役の期すでに終りその咎すでに赦されたりそのもろもろの罪によりてエホバの手よりうけしところは倍したりと 4

よばはるもの響きこゆ云くなんぢら野にてエホバの途をそなへ沙漠にわれらの神の大路をなほくせよと 4 もろもろの谷はたかくもろもろの山と岡とはひくくせられ曲りたるはなほく崎嶇はたひらかにせらるべし 5 斯てエホバの榮光あらはれ人みな共にこれを見んこはエホバの口より語りたまへるなり 6 響きこゆ云くよばはれ答へていふ何とよばはるべきか

いはく人はみな草なりその榮華はすべて野の花のごとし 7 草はかれ花はしほむエホバの息そのうへに吹ければなり實に民はくさなり 8 草はかれ花はしほむ然どわれらの神のことは永遠にたたん 9 よき音信をシオンにつたふる者よなんぢ高山にのぼれ嘉おとづれをエルサレムにつたふる者よ

なんぢ強く聲をあげよ 10 こゑを揚ておそるなかれユダのもろもろの邑につけよ 11 なんぢらの神きたり給へりよ 12 主エホバ能力をもちて來りたまはん 13 その臂は統治めたまはん 14 賞賜はその手にあり 15 はたらきの値はその前にあり 16 11 主は牧者のごとくその群をやしなひその臂にて小羊をいだき之をその懐中にいれてたづさへ乳をふくする者をやはらかに導きたまはん 12 たれか掌心をもてもろもろの水をはかり指をのぼして天をはかりまた地の塵を量器にもり天秤をもてもろもろの山をはかり權衡をもてもろもろの岡をはかりしや 13 誰かエホバの靈をみちびきその議士となりて教しや 14

エホバは誰とともに議りたまひしや 15 たれかエホバを聴くしこれに公平の道をまなばせ知識をあたへ明通のみちを示したりしや 16 15 視よもろもろの國民は桶のひとしづくのごとく權衡のちりのごとくに思ひたまふ島々はたちのぼる塵埃のごとし 16 レバノンは柴にたらずそのなかの獸は燔祭にたらず 17 エホバの前にはもろもろの國民みななきにひとしエホバはかれらを無もののごとく空きもののごとく思ひたまふ 18

然ばなんぢら誰をもて神にくらべいかなる肖像をもて神にたくふか 19 偶像はたくみ鑄てつくり金工こがねをもてをとおほひ白銀をもて之がために鏈をつくれり 20 かかる賣物をそなへえざる貧しきものは朽まじき木をえらみ良匠をもとめてうごくことなき像をたしむ 21 なんぢら知ざるかなんぢら聞ざるか始よりなんぢらに傳へざりしかなんぢらは地の基をおきしときより悟らざりしか 22 エホバは地のはるか上にすわり地にすむものを蝗のごとく視たまふ

おほぞらを薄絹のごとく布きこれを住ふべき幕屋のごとくはり給ふ 23 又もろもろの君をなくならしめ地の審士をむなくせしむ 24 かれらは僅かに植られ僅かに播れその幹わづかに地に根ざししに神そのうへを吹たまへば即ちかれて藁のごとく暴風にまきさらるべし 25 聖者いひ給はくさらばなんぢら誰を

もて我にくらべ我にたくふか 26 なんぢら眼をあげて高をみよたれか此等のものを創造せしやをおもへ主は數をしらべてその萬象をひきいだしおのおの名をよびたまふ 27 主のいきほひ大なりその力のつよきがゆゑに一も缺ることなし 28 ヤコブよなんぢ何故にわが途はエホバにかくれたりといふやイスラエルよ汝なにゆゑにわが訟はわが神の前をすぎざれりとかたるや 29 汝しらざるか聞ざるかエホバはとこしへの神地のはての創造者にして倦たまふことなく 30 また疲れたまふことなく 31 その聰明こと測りがたし 32 疲れたるものには力をあたへ勢力なきものには強きをまし加へたまふ 33 年少きものもつかれてうみ壯なるものも衰へおとろふ 34 然はあれどエホバを俟望むものは新なる力をえん 35 また驚のごとく翼をはりてのぼらん 36 走れどもつかれず歩めども倦ざるべし

Chapter 41

1 もろもろの島よわがまへに黙せもろもろの民よあらたなる力をえて近づききたれ 2 而して語れわれら寄集ひて論らはん 3 たれか東より人をおこししやわれは公義をもて之をわが足下に召し 4 その前にもろもろの國を服せしめ 5 また之にもろもろの王ををさめしめ 6 かれらの劍をちりのごとくかれらの弓をふきさらる藁のごとくならしむ 7 斯て彼はこれらのものを追 8 その足いまだ行ざる道をやすらかに過ゆけり 9

このことは誰がおこなひしや 10 たが成しやたが太初より世々の人をよびいだししや 11 われエホバなり 12 我ははじめなり終なり 13 もろもろの島ははこれを見ておそれ地の極はをのきて寄集ひきたれり 14 6 かれら互にその隣をたすけ 15 その兄弟にいひけるは 16 なんぢ雄々しかれ 17 木匠は鐵工をはげまし鎚をもて平らぐるものは鐵礎をうつものを勵ましていふ 18 接合せいとよしとまた釘をもて堅うして揺くことなからしむ 19 然どわが僕イスラエルよわが選めるヤコブわが友アブラハムの裔よ 20 われ地のはてより汝をたづさへきたり地のはしよりなんぢを召かくて汝にいり汝はわが僕われ汝をえらみて棄ざりきと 21 10

おそるなかれ 22 我なんぢとともにあり 23 驚くなかれ我なんぢの神なり 24 われなんぢを強くせん 25 誠になんぢを助けん誠にわがただしき右手なんぢを支へん 11 視よなんぢにむかひて怒るものはみな恥をえて惶てふためかんなんぢと争ふものは無もののごとくなりて滅亡せん 12 なんぢ尋ぬるとも汝とたたかふ人々にあはざるべし汝といくさする者はなきものの如くなりて虚しくなるべし 13 是は我エホバなんぢの神はなんぢの右手をとりて汝にいふ懼る

るなかれ我なんぢを助けんと 14
 またエホバ宣給ふなんぢ虫にひとしきヤコブよイスラエルの人よおそる
 るなかれ我なんぢをたすけん汝をあがなふものはイスラエルの聖者なり
 15 視よわれ汝をおほくの鋭齒ある新しき打麥の器となさんなんぢ山をうちて細微にし岡を糶糠のごとくすべし 16
 なんぢ簸げば風これを巻さり
 狂風これを吹けらさん汝はエホバによりて喜びイスラエルの聖者によりて誇らん 17 貧しきものと乏しきものと水を求めて水なくその舌かわきて衰ふるとき
 われエホバ聽てこたへん我イスラエルの神かれらを棄ざるなり 18 われ河をかぶるの山にひらき泉を谷のなかにいだしまた荒野を池となし乾ける地を水の源と變ん 19
 我あれのに香柏 合歡樹 もちの樹 および油の樹をうろ沙漠に松 杉 及び黃楊をもとに置ん 20 かくて彼等これを見てエホバの手を作たまふところイスラエルの聖者の造り給ふ所なるをしり且こころをとめ且ともどもにさとらん 21 エホバ言給くなんぢらの道理をとり出せ
 ヤコブの王いひたまはく
 汝等のかたき證をもちきたれ 22 これを持來りてわれらに後ならんとする事をしめせ
 そのいやさきに成るべきことを示せわれら心をとめてその終をしらん或はきたらんとする事をわれらに聞すべし 23 なんぢら後ならんとすることをしめせ我儕なんぢらが神なることを知らんなんぢら或はさいはひし或はわざはひせよ
 我儕ともに見ておどろかん 24
 視よなんぢらは無もののごとし
 なんぢらの事はむなしなんぢらを撰ぶものは憎むべきものなり 25 われ一人を起して北よりきたらせ我が名をよぶものを東よりきたらしむ彼きたりももろの長をふみて泥のごとくにし陶工のつちくれを踐がごとくにせん 26 たれか初よりこれらの事をわれらに告てしらしめたりやたれか上古よりわれらに告てこは是なりといはしめたりや一人だに告るものなし一人だに聞するものなし一人だになんぢらの言をきくものなし 27
 われ豫じめシオンにいはん
 なんぢ視よかれらを見よとわれ又よきおとづれを告るものをエルサレムに予へん 28
 われ見るに一人だになしかれらのなかに謀略をまうくるもの一人だになし我かれらに問どこたふるもの一人だになし 29 かれらの爲はみな徒然にして無もののごとし
 その偶像は風なりまた空しきなり

Chapter 42

1 わが扶くるわが僕わが心よるこぶわが撰人をみよ
 我わが靈をかれにあたへたり
 かれ異邦人に道をしめすべし 2 かれは叫ぶことなく聲をあぐることなくその聲を街頭にきこえしめず 3 また傷める蘆ををることなくほのくらき

燈火をけすことなく
 眞理をもて道をしめさん 4 かれは衰へず喪膽せずして道を地にたてをはらんもろの島はその法言をまちのぞむべし 5
 天をつくりてこれをのべ
 地とそのうへの産物とをひらき
 そのうへの民に息をあたへその中をあゆむものに靈をあたへたまふ神エホバかく言給ふ 6 云くわれエホバ公義をもてなんぢを召たり
 われなんぢの手をとり汝をまもりなんぢを民の契約とし異邦人のひかりとなし 7 而して瞽の目を開き俘囚を獄よりいだし暗にすめるものを檻のうちより出さしめん 8
 われはエホバなり是わが名なり
 我はわが榮光をほかの者にあたへずわがほまれを偶像にあたへざるなり 9 さきに預言せるところはや成れり
 我また新しきことをつげん事いまだ兆さざるさきに我まづなんぢらに聞せんと 10 海にうかぶもの海のなかに充るもの
 もろもろの島およびその民よ
 エホバにむかひて新しき歌をうたひ地の極よりその頌美をたたへまつれ 11 荒野とその中のもろもろの邑とゲダル人のすめるもろもろの村里はこゑをあげよセラの民はうたひて山のいだしきよよははれ 12
 榮光をエホバにかうぶらせその頌美をもろもろの島にて語りつげよ 13
 エホバ勇士のごとく出たまふ
 また戰士のごとく熱心をおこし聲をあげてよばはり大能をあらはして仇をせめ給はん 14 われ久しく聲をいだし黙して己をおさへたり今われ子をうまんとする婦人のごとく叫ばん 我いきづかしくかつ喘がん 15
 われ山と岡とをあらし且すべてその上の水草をからしもろもろの河を鳥としもろもろの池を涸さん 16
 われ賢者をその未だしらざる大路にゆかしめ
 その未だしらざる徑をふましめ
 暗をその前に光となし
 曲れるをその前になほくすべし我これらの事をおこなひて彼らをすてじ 17 刻みたる偶像にたのみ鑄たる偶像にむかひて汝等はわれらの神なりといふものは退けられて大に恥をうけん 18
 賢者よきけ賢者よ眼をそそぎてみよ 19
 賢者はたれぞわが僕にあらざるや誰かわがつかはせる使者の如き賢者あらんや
 誰かわが友の如きめしひあらんや誰かエホバの僕のごとくめしひあらんや 20
 汝おほくののを見れども顧みず
 耳をひらけども聞ざるなり 21
 エホバおのれ義なるがゆゑに大にしてたふとき律法をたまふをよるこび給へり 22
 然るにこの民はかすめられ奪はれてみな穴中にとらはれ獄のなかに閉こめらる
 斯てその掠めらるるを助くる者なくその奪はれたるを償へといふ者なし 23
 なんぢらのうち誰かこのことに耳をかたげけんたれか心をもちみて後のために之をきかん 24
 ヤコブを奪はせしものは誰ぞかすむる者にイスラエルをわたしし者はた

れぞ 是エホバにあらざるや
 われらエホバに罪ををかし
 その道をあゆまずその律法にしたがふことを好まざりき 25
 この故にエホバ烈しき怒をかたげけ
 猛きいくさをきたらせその烈しきこと
 と火の如く四圍にもゆれども彼しらず
 その身に焚せまれども心におかざりき

Chapter 43

1 ヤコブよなんぢを創造せるエホバいま如此いひ給ふイスラエルよ
 汝をつくれるもの今かく言給ふ
 おそるなかれ我なんぢを贖へり我なんぢの名をよべり汝はわが有なり 2
 なんぢ水中をすぐるときは我ともにあらん河のなかを過るときは水なんぢの上にあふれじなんぢ火中をゆくとき焚ることなく火焰もまた燃つかじ 3
 我はエホバなんぢの神イスラエルの聖者なんぢの救主なりわれエジプトを予えてなんぢの贖代となしエテオピアとセバとをなんぢに代ふ 4
 われ見てなんぢを賣とし尊きものとして亦なんぢを愛す
 この故にわれ人をもてなんぢにかへ民をなんぢの命にかへん 5
 懼るなかれ我なんぢとともにあり我なんぢの裔を東よりきたらせ西より汝をあつむべし 6
 われ北にむかひて釋せといひ南にむかひて留るなかれといはん
 わが子輩を遠きよりきたらせ
 わが女らを地の極よりきたらせよ 7
 すべてわが名をもて稱へらるる者をきたらせよ我かれらをわが榮光のために創造せりわれ曩にこれを造りかつ成をはれり 8
 目あれども賢者のごとく耳あれども賢者のごとき民をたづさへ出よ 9
 國々はみな相集ひもろもろの民はあつまるべし彼等のうち誰か
 いやさきに成るべきことをつげ之をわれらに聞することを得んやその證人をいだして己の是なるをあらはすべし彼等ききて此はまことなりといはん 10
 エホバ宣給くなんぢらはわが證人わがえらみし僕なり然ばなんぢら知てわれを信じわが主なるをさとりてよ 11
 我よりまへにつくらし神なく我よりのちにもあることなからん 11
 ただ我のみ我はエホバなりわれの外にすくふ者あることなし 12
 われ前につげまた救をほどこし
 また此事をきかせたり
 汝等のうちには他神なかりき
 なんぢらはわが證人なり我は神なり
 これエホバ宣給るなり 13
 今よりわれは主なりわが手より救ひいだし得るものなしわれ行はば誰かどむることを得んや 14
 なんぢらを贖ふものイスラエルの聖者エホバかく言たまふなんぢらの爲にわれ人をバビロンにつかはし彼處にあるカルデヤ人をことごとく下らせその宴樂の船にのりてのがれしむ 15
 われはエホバなんぢらの聖者イスラエルを創造せしもの又なんぢらの王なり 16
 エホバは海のなかに大路をまうけ大なる水のなかに徑をつくり 17
 戦車および馬 軍兵

武士をいできたらせ
 ことごとく仆れて起ることあたはず
 皆ほろびて燈火のきえうするが如く
 ならしめ給へり 18
 エホバ言給くなんぢら往昔のことを思ひいづるな
 かれたま古のことをかながふるな
 かれ 19
 視よわれ新しき事をなさん頓ておこるべし
 なんぢら知ざるべけんやわれ荒野に道
 をまうけ沙漠に河をつくらん 20
 野の黙われを崇むべし
 野犬および駝鳥もまた然りわれ水を
 荒野にいだし河を沙漠にまうけてわ
 が民わがえらびたる者にのましむべ
 ければなり 21
 この民はわが頌美をのべしめん
 とて我おのれのために造れるなり 22
 然るにヤコブよ汝われを呼た
 りのまざりき
 イスラエルよ汝われを厭ひたり 23
 なんぢ燔祭のひつじを我にもちきた
 らず犠牲をもて我をあがめざりき
 われ汝にそなへものの荷をおはせざ
 りきまた乳香をもて汝をわづらはせ
 ざりき 24
 なんぢは銀貨をもて我がために
 蒲蓆をかはず
 犠牲のあぶらをもて我をあかしめず
 反てなんぢの罪の荷をわれに負せ
 なんぢの邪曲にて我をわづらはせ
 たり 25
 われこそ我みづからの故によりて
 なんぢの咎をけし汝のつみを心にと
 めざるなれ 26
 なんぢその是なるを
 あらはさんがために己が事をのべて
 我に記念せしめよ
 われら相共にあげつらふべし 27
 なんぢの遠祖つみををかし汝のをし
 わの師われにそむけり 28
 この故にわれ
 聖所の長たちを汚さしめヤコブを
 誑はしめイスラエルをののしらしめ
 ん

Chapter 44

1 されどわが僕ヤコブよわが撰
 みたるイスラエルよ今きけ 2
 なんぢを創造しなんぢを胎内につくり
 又なんぢを助くるエホバ如此いひ
 たまふわがしもべヤコブよわが撰
 みたるエシュルンよおそるなかれ 3
 われ渴けるものに水をそそぎ乾る
 地に流をそそぎ
 わが靈をなんぢの子輩にそそぎわが
 恩恵をなんぢの裔にあたふべければ
 なり 4
 斯てかれらは草のなかにて川の
 ほりの柳のごとく生そだつべし 5
 ある人はいふ我はエホバのものなり
 とある人はヤコブの名をとへん
 ある人はエホバの有なりと手にし
 してイスラエルの名をのらん 6
 エホバ、イスラエルの王イスラエルを
 あがなふもの萬軍のエホバ如此いひ
 たまふ われは始なりわれは終なり
 われの外に神あることなし 7
 我いにしへの民をまうけしより以
 來たれかわれののごとく後事をしめし
 又つげ又わが前にいひつらねんや試
 みに成んとすること來らんとすること
 を告よ 8
 なんぢら懼るなかれ懼くなかれ我
 いにしへより聞せたるにあらざるや
 告しにあらざるや
 なんぢらはわが證人なり
 われのほか神あらんや
 我のほかには賢あらず

われその一つだに知ことなし 9
偶像をつくる者はみな空しく
かれらが慕ふところのものは益なし
その證を見るものは見ことなく知ことなし
斯るがゆゑに恥をうくべし 10 たれ
が神をつくり又えきなき偶像を鑄たりしや 11
視よその伴侶はみなはざん
その匠工らは人なりかれら皆あつまり
りて立ときはおそれてもるとともに恥
なるべし 12 鐵匠は斧をつくるに
炭の火をもて之をもちてこれを鍛へて
これを鍛へつよき碗をもてこれをうちか
たむ饑れば力おとろへ水をのまざれば
つつかれはつべし 13 木匠はすみな
はをひきはり朱にて糸がき鏝にてけ
づり文回をもて書き之を人の形にか
たどり人の美しき容にしたがひて造
り而して家のうちに安置す 14 ある
ひは香柏をきりあるひは榲をとり
あるひは檀をとり或ははやししの樹の
なかにて一をえらびあるひは杉をう
る雨をえて長たしむ 15 而して人こ
れを薪となし之をもておのが身をあ
たため又これを燃してパンをやき又
これを神につくりてをがみ偶像につ
くりてその前にひれふす 16 その半
は火にもやしその半は肉をにて食ひ
あるひは肉をあぶりてくひあき
また身をあたためていふ
ああ我あたたまり
われ熱きをおほゆ 17 斯てその餘を
もて神につくり偶像につくりてその
前にひれふし之ををがみ之にいのり
ていふ
なんぢは吾神なり我をすくへと 18
これらの人は知ことなく悟ることなし
その眼ふさがりて見え
その心とどてあきらかならず 19 心
のうちに思ふことをせず智識なく明
悟なきがゆゑに我そのなかばを火に
もやしその炭火のうへにパンをやき
肉をあぶりて食ひその木のあまりを
もて我いかで憎むべきものを作るべ
けんや我いかで木のはしくれに俯伏
すことをせんやといふ者もなし 20
かかる人は灰をくらひ迷へる心にま
どはされて己がたましひを救ふあた
はずまたわが右手にいつはりあるに
あらずやとおもはざるなり 21
ヤコブよ イスラエルよ
此等のことを心にとめよ
汝はわが僕なり 我なんぢを造れり
なんぢわが僕なりイスラエルよ我は
なんぢを忘れじ 22
我なんぢの愆を雲のごとくに消し
なんぢの罪を霧のごとくにちらせり
なんぢ我にかへれ我なんぢを贖ひた
ればなり 23 天ようたうたへエホバ
このことを成たまへり
下なる地よばはれもろもろの山よ
林およびその中のもろもろの木よ
こゑを發ちてうたふべし
エホバはヤコブを贖へりイスラエルの
うちに榮光をあらはし給はん 24
なんぢを贖ひなんぢを胎内につくれ
るエホバかく言たまふ我はエホバな
り我よるづのものを創造し
ただ我のみ天をのべ
みづから地をひらき 25 いつはるも
の豫兆をむなしくしト者をくるは
せ智者をうしるに退けてその知識を
おろかならしむ 26

われわが僕のことばを遂しめ
わが使者のはかりごとを成しめエル
サレムについては民また住はんとい
ひユダのもろもろの邑については重
ねて建らるべし我その荒廢たるとこ
ろを舊にかへさんといふ 27
また淵に命ずかわけ我なんぢのもろ
もろの川をほさんと 28 又クロスに
ついては彼はわが牧者すべてわが好
むところを成しむる者なりといひ
エルサレムについてはかさねて建られ
その宮の基すゑられんといふ

Chapter 45

1 われエホバわが受膏者クロス
の右手をとりてもろもろの國をその
まへに降らしめもろもろの王の腰を
とき扉をその前にひらかせて門をと
づるものなからしめん 2 われ汝のま
へにゆきて崎嶇をたひらかにし
銅の門をこぼち
くろがねの關木をたちきるべし 3 わ
れなんぢに暗ところの財貨とひそか
なるところに藏せるたからとを予へ
なんぢに我はエホバなんぢの名をよ
べるイスラエルの神なるを知しめん 4
わが僕ヤコブわが撰みたるイスラ
エルのために我なんぢの名をよべり
汝われを知ずといへどわれ名をなん
ぢに賜ひたり 5 われはエホバなり
我のほかに神なし一人もなし汝われ
をしらずといへども我なんぢを固う
せん 6 而して日のいつるところより
西のかたまで人々我のほかに神なし
と知べし
我はエホバなり他にひとりもなし 7
われは光をつくり又くらきを創造す
われは平和をつくりまた禍害をさう
ざうす 我はエホバなり
我すべてこれらの事をなすなり 8
天ようへより滴らすべし
雲よ義をふらすべし地はひらけて救
を生じ義をもともに萌いだすべし
われエホバ之を創造せり 9 世人は
すゑものの中のひとつの陶器なるに己
をつくれる者とあらそふはわざはひ
なるかな泥塊はすゑものつくりむ
かひて汝なにを作るかといふべけん
や又なんぢの造りたる者なんぢを手
なしといふべけんや 10 父にむかひ
て汝なにゆゑに生むことをせしやとい
ひ婦にむかひて汝なにゆゑに産の
くるしみをなししやといふ者はわざ
はひなるかな 11 エホバ、イスラ
エルの聖者イスラエルを造れるもの如
此いひたまふ
後きたらんとすることを我にとへま
たわが子女とわが手の工とにつきて
汝等われに言せよ 12 われ地をつ
くりてそのうへに人を創造せり
われ自らの手をもて天をのべ
その萬象をさだめたり 13
われ義をもて彼のクロスを起せり
われそのすべての道をなほくせん彼
はわが邑をたてわが俘囚を價のため
ならず報のためならずして釋すべし
これ萬軍のエホバの聖言なり 14
エホバ如此いひたまふエジプトがは
たらきて得しものとエテオピアがあ
きなひて得しものとはなんぢの有と
ならんまた身のたけ高さセバ人きた
りくだりて汝にしたがひ繩につなが

れて降りなんぢのまへに伏しなんぢ
に祈りていはん
まことに神はなんぢの中にいませり
このほかに神なし一人もなしと 15
救をほどこし給ふイスラエルの神よ
まことに汝はかくれています神なり
16 偶像をつくる者はみな恥をいだし
辱かしめをうけ諸共にはぢあわてて
退かん 17 されどイスラエルはエホ
バにすくはれて永遠の救をえんなん
ぢらは世々かぎりなく恥をいだが
辱かしめをうけし 18 エホバは天を
創造したまへる者にしてすなはち神
なりまた地をもつくり成てこれを堅
くし徒然にこれを創造し給はず
これを人の住所につくり給へり
エホバかく宣給ふわれはエホバなり
我のほかに神あることなしと 19 わ
れは隠れたるところ地のくらき所
にてかたらず我はヤコブの裔になん
ぢらが我をたづぬるは徒然なりとい
はず我エホバはただしき事をかたり
直きことを告ぐ 20 汝等もろもろの國
より脱れきたれる者よ
つどいあつまり共にすすみきたれ
木の像をになひ救ふことあたはざる
神にいのりするものは無智なるなり
21 なんぢらその道理をもちきたりて
述よ また共にはかれ
此事をたれか上古より示したりや
誰かむかしより告たりしや
此はわれエホバならずや
我のほかに神あることなしわれは義
をおこなひ救をほどこす神にして我
のほかに神あることなし 22
地の極なるもろもろの人よなんぢら
我をあふぎのぞめ然ばすくはれんわ
れは神にして他に神なければなり 23
われは己をさして誓ひたりこの言
はただしき口よりいでたれば反ること
なしすべて膝はわがまへに屈み
すべて舌はわれに誓をたてん 24
人われに就ていはん正義と力とはエ
ホバにのみありと
人々エホバにきたらんすべてエホバ
にむかひて怒るものは恥をいだけ
し 25 イスラエルの裔はエホバによ
りて義とせられ且ほこらん

Chapter 46

1 ベルは伏しネボは屈むかれら
の像はけものと家畜とのうへにあり
なんぢらが擡げあるきしものは荷と
なりて疲れおとろへたるけもの負
ところとなりぬ 2
かれらは屈みかれらは共にふしその
荷となれる者をすくふこと能はずし
て己とらはれゆく 3 ヤコブの家よ
イスラエルのいへの遣れるものよ腹を
いでしより我におはれ胎をいでしよ
り我にもたげられしものよ
皆われにきくべし 4 なんぢらの年老
るまで我はかはらず白髪となるまで
我なんぢらを負ん我つくりたれば擡
ぐべし我また負ひかつ救はん 5
なんぢら我をたれに比べたれに配ひ
たれに擬らへかつ相くらぶべきか 6
人々ふるもより黄金をかたづけいだ
し權衡をもて白銀をはかり金工をや
とひてこれを神につくらせ之にひれ
ふして拜む 7
彼等はこれをもたげて肩にのせ

負ひゆきてその處に安置す
すなはち立てその處をはなれず人こ
れにむかひて呼はれども答ふること
能はず又これをすくひて苦難のうち
より出すことあたはず 8 なんぢら此
事をおもひいでて堅くたつべし
悖逆者よこのことを心にとめよ 9 汝
等いにしへより以來のことをおもひ
いでよ
われは神なり我のほかに神なし
われは神なり我のごとき者なし 10
われは終の事を始よりつけ
いまだ成ざることを昔よりつけ
わが謀事はかならず立つといひすべ
て我がよるこぶことを成んといへり
11 われ東より驚をまねき遠國よりわ
が定めおける人をまねかん我この
ことを語りたれば必ず來らすべし我
このことを謀りたればかならず成す
べし 12 なんぢら心がたくなにして
義にとほざかるものよ我にきけ 13
われわが義をちかつかしむればそ
の來ること遠からず
わが救おそからず
我すくひをシオンにあたへ
わが榮光をイスラエルにあたへん

Chapter 47

1 バビロンの處女よ
くだりて塵のなかにすわれカルデヤ
人のむすめよ座にすわらずして地に
すわれ汝ふたたび婀娜にして嬌なり
ととなへらるることなからん 2
髻をとりて粉をひけ面帕をとりさり
桂をぬぎ髓をあらはして河をわたれ
3 なんぢの肌はあらはれなんぢの恥
はみゆべし
われ仇をむくいて人をかへりみず 4
われらを贖ひたまふ者はその名を萬
軍のエホバ、イスラエルの聖者とい
ふ 5 カルデヤ人のむすめよ
なんぢ口をつくみてすわれ
又くらき所にいでてをれ汝ふたたび
もろもろの國の聖母となへらるる
ことなからん 6 われわが民をいきど
ほりわが産業をけがして之をなんぢ
の手にあたへたり汝これに憐憫をほ
どこさず年老たるものうへに甚だ
おもき軛をおきたり 7 汝いへらく我
とこしへに主母たらんと斯てこれら
のことを心にとめず亦その終をおも
はざりき 8
なんぢ歡樂にふけり安らかにをり心
のうちにただ我のみにして我のほかに
誰もなく我はやもめとなりてをら
ずまた子うしなふことを知まじと
おもへる者よなんぢ今きけ 9 子をう
しなひ寡婦となるこの二つのこと一
日のうちに俄になんぢに來らん汝お
ほく魔術をおこなひひろく呪詛をほ
どこすと雖もみちみちて汝にきたる
べし 10
汝おのれの惡によりたのみていふ
我をみるものなしとなんぢの智慧と
なんぢの聰明とはなんぢを惑せたり
なんぢ心のうちにおもへらくただ我
のみにして我のほかに誰もなしと 11
この故にわがはひ汝にきたらんなん
ぢ呪ひてこれを除くことをしらす
難難なんぢに落きたらん
汝これをはらふこと能はずなんぢの
思ひよらざる荒廢にはかに汝にきた

るべし 12 今なんぢわかきときより
勤めおこなひたる呪詛とおほくの魔
術とをもて立ちかふべしあるひは益
をうるることあらんあるひは敵をおそ
れしむることあらん 13 なんぢは謀
畧おほきにより倦つかれたりかの
天をうらなふもの星をみるもの新月
をうらなふ者もし能はばいざたちて
汝をきたらんとする事よりまぬかれ
しむることをせよ 14 彼らは驚のご
とくなりて火にやかれんおのれの身
をほのほの勢力よりすくひいだすこ
と能はずその火は身をあたむべき
炭火にあらず又その前にすわるべき
火にもあらず 15 汝がつとめて行ひ
たる事は終にかくのごとくならん汝
のわかきときより汝とうりかひした
る者おのその所にさすらひゆきて
一人だになんぢを救ふものなるべし

Chapter 48

1

ヤコブの家よなんぢら之をきけ汝ら
はイスラエルの名をもて稱へられユ
ダの根源よりいでエホバの名により
て誓ひイスラエルの神をかたりつく
れども眞實をもてせず正義をもてせ
ざるなり 2 かれらはみづから聖京の
ものとなへイスラエルの神により
たのめり
その名は萬軍のエホバといふ 3 われ
今よりさきに成しことを既にいにし
へより告たりわれ口よりいだして既
にのべつたへたり我にはかにこの事
をおこなひ而して成ぬ 4 われ汝がか
たくなにして頂の筋はくろがねその
額はあかがねなるを知れり 5 このゆ
糸に我はやくよりのか事をなんぢに
つけその成ざるさきに之をなんぢに
聞しめたり恐くはなんぢ云んわが偶
像これを成せり刻みたるざう鑄たる
像これを命じたりと 6
なんぢ既にきけり 凡てこれを視よ
汝ら之をのべつたへざるかわれ今よ
り新なる事なんぢが未だしらざりし
秘事をなんぢに示さん 7 これらの事
はいま創造せられしにて上古よりあ
りしにあらず
この日よりさきに汝これを聞ざりき
然らずば汝いはん視よわれこれを知
れりと 8
汝これを聞ともなく知ともなく
なんぢの耳はいにしへより開けざり
き我なんぢが欺きあざむきて生れな
がら悖逆者となへられしを知れば
なり 9 わが名のゆゑしによりて我いか
りを遅くせんわが頌美のゆゑにより
我しのびてなんぢを絶滅することをせ
じ 10 視よわれなんぢを煉たりされど
白銀の如くせずして患難の爐をも
てこころみたり 11 われ己のため我
おのれの爲にこれを成ん
われ何でわが名をけがさしむべき我
わが榮光をほかの者にあたることを
せじ 12
ヤコブよわが召たるイスラエルよ
われにきけ われは是なり
われは始また終なり 13 わが手は地
のもとを置わが右の手は天をのべ
たり我よべ彼等もろともに立なり
14 汝ら皆あつまりてきけ エホバ

の愛するものエホバの好みたまふ所
をバビロンに成しその腎はカルデア
人のうへのぞまん彼等のうち誰か
これらの事をのべつけしや 15
ただ我のみ我かたれり
我かれをめし我かれをきたらせたり
その道さかゆべし 16
なんぢら我にちかよりて之をきけ我
はじめより之をひそかに語りしにあ
らず
その成しときより我はかしこに在り
いま主エホバわれとその靈とをつか
はしたまへり 17 なんぢの贖主イス
ラエルの聖者エホバかく言給く
われはなんぢの神エホバなり
我なんぢに益することを教へなんぢ
を導きてそのゆくべき道にゆかしむ
18 願くはなんぢわが命令にききた
がはんことをもし然らばなんぢの平
安は河のごとく
汝の義はうみの波のごとく 19
なんぢの裔はすなのごとく汝の體よ
りいづる者は細沙のごとくになりて
その名はわがまへり絶ることなく
亡ざることなからん 20 なんぢら
バビロンより出てカルデア人より
のがれよなんぢ歡の聲をもてのべ
きかせ地のはてにいたるまで語りつ
たへエホバはその僕ヤコブをあがな
ひ給へりといへ 21 エホバかれを
して沙漠をゆかしめ給へるとき彼等
はかわきたることなかりきエホバ彼
等のために磐より水をながれしめ
また磐をさきたまへば水ほどばしり
いでたり 22 エホバいひたまはく悪
きものには平安あることなし

Chapter 49

1 もろもろの島よ我にきけ遠き
ところのもろもろの民よ耳をかたむ
けよ
我うまれいづるよりエホバ我を召し
われ母の胎をいづるよりエホバわが
名をかたりつけたまへり 2 エホバわ
が口を剣刺し我をその手のかけ
にかくし我をとぎすましたる矢とな
して簾にをさめ給へり 3
また我にいひ給はく汝はわが僕なり
わが榮光のあらはるべきイスラエル
なりと 4 されど我いへり われは徒
然にはたらき益なくむなし力をつ
ひやしぬと然はあれど誠にわが審判
はエホバにあり
わが報はわが神にあり 5 ヤコブをふ
たたび己にかへらしめイスラエルを
己のもとにあつませんとて我をう
まれいでしより立ておのれの僕とな
し給へるエホバいひ給ふ(我はエホバ
の前にたふとくせらる
又わが神はわが力となりたまへり) 6
その聖言にいはいはなんぢわが僕とな
りてヤコブのもろもろの支派をおこ
しイスラエルのうちののこりて全う
せしものを歸らしむることはいと輕
し
我また汝をたてて異邦人の光となし
我がすくひを地のはてにまで到らし
む 7 エホバ、イスラエルの贖主イス
ラエルの聖者は人にあなどらるもの
の民にいみきはるるもの長たちに
役せらるる者にむかひて如此いひた
まふもろもろの王は見てたちもろも

ろの君はみて拜すべしこれ信實ある
エホバ、イスラエルの聖者なんぢを
選びたまへるが故なり 8
エホバ如此いひたまふわれ恵のとき
に汝にこたへ救の日になんぢを助け
たりわれ汝をまもりて民の契約とし
國をおこし荒すたれたる地をまた産
業としてかれらにつがしめん 9 われ
縛しめられたる者にいでよといひ暗
にをるものに顯れよといはん
かれら途すがら食ふことをなしもろ
もろの禿なる山にも牧草をうべし 10
かれらは饑すかわかず 又やけたる
砂もあつき日もうつことなし彼等
をあはれむもの之をみちびきて泉のほ
とりに和かにみちびき給ければなり 11
我わがもろもろの山を路とし
わが大路をたかくせん 12
視よ人々あるひは遠きよりきたり
あるひは北また西よりきたらん或は
またシニムの地よりきたるべし 13
天よたへ地よよこべ
もろもろの山よ聲をはなちてうたへ
エホバはその民をなぐさめその苦む
ものを憐れたまへばなり 14 然どシ
オンはいへりエホバ我をすてまわれ
をわすれたまへりと 15 婦その乳兒
をわすれて己がはらの子をあはれま
ざることあらんや縦ひかれら忘るる
ことありとも我はなんぢを忘るるこ
となし 16
われ掌になんぢを彫刻めりなんぢの
石垣はつねにわが前にあり 17
なんぢの子輩はいそぎ來りなんぢを
毀つもの汝をあらす者は汝より出さ
らん 18 なんぢ目をあげて環視せよ
これらのもの皆あひあつまりて汝が
もとに來るべしエホバ宣給くわれは
活なんぢ此等をみな身によほひて
飾となし新婦の帯のごとくに之をま
とふべし 19 なんぢの荒かつ廢れた
るところ毀れたる地はこののち住
ぶもの多くして狭きをおぼえんなん
ぢを呑つくししもの遙にはなれ去る
べし 20 むかし別れたりしなんぢの
子輩はのちの日なんぢの耳のあたり
にて語りあはん云く
こは我がために狭しなんぢ外にゆ
きて我にすむべき所をえしめよと 21
その時なんぢ心裏にいはん
誰かわがために此等のものを生しや
われ子をうしなひて獨居りかつ俥れ
且さすらひたり誰かこれを育てしや
視よわれ一人のこされたり 22
此等はいづこに居しや 22
主エホバいひたまはく視よわれ手
もろもろの國にむかひてあげ
旗をもろもろの民にむかひてたてん
斯てかれらはその懷中になんぢの子
輩をたづさへその肩になんぢの女輩
をのせきたらん 23
もろもろの王はなんぢの養父となり
その後妃はなんぢの乳母となりかれ
らはその面を地につけて汝にひれふ
し なんぢの足の塵をなめん
而して汝わがエホバなるをしりわれ
を俵望むもの恥をかうぶることなき
を知るならん 24 勇士がうばひた
る掠物をいかでとりかへし強暴者が
かすめたる虜をいかで救いだすこと
を得んや 25
されどエホバ如此いひたまふ云くま
すらをが掠めたる虜もとりかへされ
強暴者がうばひたる掠物もすくひい

ださるべしそは我なんぢを攻るもの
をせめてなんぢの子輩をすくふべけ
ればなり 26 我なんぢを虐ぐるもの
にその肉をくらはせまたその血をあ
たらしき酒のごとくにのぼせて酔し
めん而して萬民はわがまはせてして
汝をすくふ者なんぢを贖ふものヤコ
ブの全能者なることを知るべし

Chapter 50

1 エホバかくいひ給ふわがなん
ぢらの母をさりたる離書はいづこに
ありや我いづれの債主になんぢら
を賣わたししや視よなんぢらはその不
義のために賣られなんぢらの母は汝
らの咎戾のために去られたり 2 わが
きたりし時にゆゑ一人もをらざり
しや我よびしとき何故ひとりも答ふ
ものなかりしや
わが手みぢかくして贖ひえざるか
われ救ふべき力なからんや視よわれ
叱咤すれば海はかれ河はあれのとな
りそのなかの魚は水なきによりかわ
き死て臭氣をいだすなり 3 われ黒き
ころもを天にきせ簾布をもて蔽とな
す 4 主エホバは教をうけしもの舌
をわれにあたへ言をもて疲れたるも
のを扶支ふることを知得しめたまふ
また朝ごとに醒しわが耳をさまして
教をうけし者のごとく聞ことを得し
めたまふ 5
主エホバわが耳をひらき給へりわれ
は逆ふことをせず退くことをせざり
き 6 われを撻つものにわが背をまか
せわが鬚をぬくものにわが頬をまか
せ恥と唾とをさくるために面をおほ
ふことをせざりき 7
主エホバわれを助けたまはん
この故にわれ恥ることなかるべし我
わが面を石の如くして恥しめらる
ことなきを知る 8
われを義とするもの近きにあり
たれか我とあらそはんや
われら相共にたつべし 9
わが仇はたれそや近づきたれ 9
主エホバわれを助け給はん
誰かわれを罪せんや視よかれらはみ
な衣のごとくふるび露のためにくひ
つくされん 10 汝等のうちエホバを
おそれその僕の聲をきくものは誰ぞ
や暗をあゆみて光をえざるともエホ
バの名をたのみおのれの神にたよれ
11 火をおこし火把を帶るものよ汝等
みなその火のほのほのなかをあゆめ
又なんぢらの燃したる火把のなかを
あゆめなんぢら斯のごとき事をわが
手よりうけて悲みのうちに臥べし

Chapter 51

1 義をおひ求めエホバを尋ねも
とむるものよ我にきけなんぢらが斫
出されたる磐となんぢらの掘出され
たる穴とおもひ見よ 2 なんぢらの
父アブラハム及びなんぢらを生たる
サラをおもひ見よわれ彼をその唯一
人なりしときに召しこれを祝してそ
の子孫をまし加へたり 3
そはエホバ、シオンを慰めまたその
凡てあれたる所をなぐさめてその荒
野をエデンのごとくその沙漠をエホ
バの園のごとくなしたまへり斯てそ

の中によるこびと歡樂とあり感謝と
うたうたふ聲とありてきこゆ 4
わが民よわが言にころをとめよ
わが國人よわれに耳をかたづけよ
律法はわれより出づわれわが途をか
たく定めてもろもろの民の光となさ
ん 5 わが義はちかづきわが救はすで
に出たり
わが臂はもろもろの民をさばかん
もろもろの鳥はわれを俟望み
わがかひなに依頼ん 6 なんぢら目を
あげて天を觀また下なる地をみよ天
は烟のごとくきえ地は衣のごとくふ
るびその中にすむ者これとひとしく
死ん
されどわが救はとこしへにながらへ
わが義はくだることなし 7 義をし
るものよ心のうちにわが律法をたも
つ民よわれにきけ人のそしりをおそ
るなかれ人ののしりに慍くなか
れ 8 そはかれら衣のごとく蠶にはま
れ羊の毛のごとく蟲にはまれん
されどわが義はとこしへに存らへ
わがすくひ萬代におよぶべし 9 さめ
よ醒よエホバの臂よちからを着よさ
めて古への時むかしの代にありし如
くなれラハブをきりころし繩をさし
つらぬきたるは汝にあらずや 10 海
をかわかしたる淵の水をかわかした
る人のすぐべき路となししは汝にあら
ずや 11 エホバに贖ひすくはれしもの
歌うたひつつ歸りてシオンにきたり
その首にとこしへの歡喜をいただき
きて快樂とよるこびとをえん而して
かなしみと歎息とはにげさるべし 12
我こそ我なんぢらを慰むれ汝いかな
る者なれば死べき人をおそれ草の
如くなるべき人の子をおそれるか 13
いかなれば天をのべ地の基をす
汝をつくりたまへるエホバを忘れし
や何なれば汝をほろぼさんとて豫備
する虐ぐるもの憤れるをみて常に
ひねもす懼るるか虐ぐるもの忿恚
はいづこにありや 14 身をかがめぬ
る俘囚はすみやかに解れて
死ることなく穴にくだることなく
その食はつること無るべし 15 我
は海をふるはせ波をなりどよめかす
る汝の神エホバなり
その御名を萬軍のエホバといふ 16
我わが言をなんぢの口におきわが手
のかげにて汝をおほへり
かくてわれ天をうゑ地の基をす
シオンにむかひて汝はわが民なりとい
はん 17
エルサレムよさめよさめよ起よなん
ぢ前にエホバの手よりその忿恚のさ
かづきをうけて飲みよめかす大杯
をのみすひほしたり 18 なんぢの
生るもろもろの子のなかに汝をみち
びく者なく汝のそだてたるもろも
ろの子の中にてなんぢの手をたづさ
ぶる者なし 19 この二のこと汝にのぞ
めり誰かなんぢのために歎んや荒廢
の饑饉ほろびの劍なんぢに及びり我
いかにして汝をなぐさめんや 20 な
んぢのすらは息たえだえにして網に
かかれる羚羊のごとくし街衢の口に
ふすエホバの忿恚となんぢの神のせ
めとはかれらに満たり 21 このゆゑ
に苦しめるもの酒にあらで酔たるも
のよ之をきけ 22 なんぢの主エホバ
おのが民の訟をあげつらひ給ふ

なんぢの神かくいひ給ふ我よめか
す酒杯をなんぢの手より取除きわが
いきどほりの大杯をとりのぞきたり
汝ふたたびこれを飲ことあらじ 23
我これを汝をなやますもの手にわ
たさん彼らは曩になんぢの靈魂にむ
かひて云らん
なんぢ伏せよわれら越ゆかんと而し
てなんぢその背を地のごとくし衢の
ごとくし彼等のこえゆくに任せたり

Chapter 52

1
シオンよ醒よさめよ汝の力を衣よ聖
都エルサレムよなんぢの美しき衣を
つけよ今より割禮をうけざる者およ
び潔からざるものふたたび汝に在
ること無るべければなり 2
なんぢ身の塵をふりおとせ
エルサレムよ起よすわれ辱れたるシ
オンのむすめよ汝がうなじの繩をと
きすてよ 3 そはエホバかく言給ふ
なんぢらは價なくして賣られたり
金なくして贖はるべし 4
主エホバ如此いひ給ふ曩にわが民
エジプトにくだりゆきて彼處にとど
まれりアツスリヤ人ゆゑなくして彼等
をしへたり 5 エホバ宣給く
わが民はゆゑなくして辱れたり
されば我ここに何をなさん
エホバのたまはく
彼等をつかさどる者さけびよばはり
わが名はつねに終日けがさるなり 6
この故にわが民はわが名をしらん
このゆゑにその日には彼らこの言を
かたるもの我なるをしらん
我ここに在り 7
よこびの音信をつたへ平和をつけ
善おとづれをつたへ救をつけシオン
に向ひてなんぢの神はすべ治めたま
ふといふもの足は山上にありてい
かに美しきかな 8
なんぢが斥候の聲きこゆかれらは
エホバのシオンに歸り給ふを目と目と
あひあはせて視るが故にみな聲をあ
げてもるともにうたへり 9 エルサレ
ムの荒廢れたるところよ聲をはなち
て共にうたふべしエホバその民をな
ぐさめエルサレムを贖ひたまひたれ
ばなり 10 エホバそのきよき手をも
ろもろの國人の目のまへにあらはし
たまへり地のもろもろの極までもわ
れらの神のすくひを見ん 11
なんぢら去よされよ彼處をいでて汚
れたるものに觸るなかれ
その中をいでよ
エホバの器になふ者よ
なんぢら潔くあれ 12 なんぢら急ぎ
いづるにあらず趨りゆくにあらず
エホバはなんぢらの前にゆきイスラ
エルの神はなんぢらの軍後となり給ふ
べければなり 13 視よわがしもべ智
慧をもておこなはん
上りのぼりて甚だたかくならん 14
曩にはおほくの人かれを見ておどろ
きたり(その面貌はそこなはれて人と
異なりその形容はおとろへて人の子
とことなれり) 15
後には彼おほく國民にそそがん
王たち彼によりて口を緘まんそはか
れら未だつたへられざることを見
いまだ聞ざることを悟るべければなり

Chapter 53

1 われらが宣るところを信ぜし
ものは誰ぞや
エホバの手はたれにあらはれしや 2
かれは主のまへに芽えのごとく燥き
たる土よりいづる樹株のごとくそだ
ちたり
われらが見るべきうるはしき容なく
うつくしき貌はなく
われらがしたふべき艶色なし 3
かれは侮られて人にすてられ
悲哀の人にして病患をしれりまた面
をおほひて避ることをせらるる者の
ごとく侮られたり
われらも彼をたふとまざりき 4 ま
ことに彼はわれらの病患をおひ我儕の
かなしみを擔へり然るにわれら思へ
らく彼はせめられ神にうたれ苦しめ
らるなりと 5
彼はわれらの窓のために傷けられ
われらの不義のために碎かれみづか
ら懲罰をうけてわれらに平安をあ
たふそのうたれし痕によりてわれらは
癒されたり 6 われらはみな羊のご
とく迷ひておの己が道にむかひゆ
けり然るにエホバはわれら凡てのも
のの不義をかれのうへに置たまへり
7 彼はくるしめらるれどもみづか
ら謙だりて口をひらかず屠場にひかる
る羔羊の如く毛をさる者のまへにも
だす羊の如くしてその口をひらかざ
りき 8 かれは虐待と審判とによりて
取去れたりその代の人のうち誰か彼
が活るもの地より絶れしことを思
ひたりしや彼はわが民のとのが爲に
うたれしなり 9 その墓はあしき者
とともに設けられたれど
死るときは富るものとともになれり
かれは暴をおこなはずその口には虚
偽なかりき 10 されどエホバはかれ
を砕くことをよるこびて之をなや
ましたまへり斯てかれの靈魂とがの
献物をなすにいたらば彼の末をみる
を得その日は承からんかつエホバの
悦び給ふことは彼の手にによりて榮
ゆべし 11 かれは己がたましひの煩
勞をみて心たらはんわが義しき僕
はその知識によりておほくの人を義
し又かれらの不義をおはん 12 この
ゆゑに我かれをして大なるものとも
に物をわかち取しめんかれは強きも
のとともに掠物をわかちとるべし彼
はおのが靈魂をかたづけて死にいた
らればなり彼はおほくの人の罪をお
ひ懲あるもの爲にとりなしをなせ
り

Chapter 54

1 なんぢ孕まず子をうまざるも
のよ歌うたふべし産のくろしみなき
ものよ聲をはなちて謳ひよばはれ夫
なきものの子はとつげるものの子
よりおほしと此はエホバの聖言なり 2
汝が幕屋のうちを廣くしなんぢが住
居のまくをはりひろげてきむな
かれ汝の綱をながくしなんぢの杖をか
たくせよ 3
そはなんぢが右に左にひるごり
なんぢの裔はもろもろの國をえ荒廢

れたる邑をもすむべき所となさしむ
べし 4 懼るなかれなんぢ恥ること
なからん惶てためくことなかれ汝は
ぢしめらることなからん若きとき
の恥をわすれ寡婦たりしときの恥辱
をふたたび覺る者とならん 5 なん
ぢを造り給へる者はなんぢの夫なり
その名は萬軍のエホバなんぢを贖ひ
給ふものはイスラエルの聖者なり
全世界の神となへられ給ふべし 6
エホバ汝をまねきたまふ棄られて心
うれふる妻また若きとき嫁てされ
たる妻をまねくがごとくしと
此はなんぢの神のみことばなり 7 我
しばし汝をすてたれど大なる憐憫を
もて汝をあつめん 8 わが忿恚あふ
れて暫くわが面をなんぢに隠したれど
永遠のめぐみをもて汝をあはれま
んと此はなんぢをあげなむ給ふエホ
バの聖言なり 9 このこと我にはノア
の洪水のときのごとし我むかしノア
の洪水をふたたび地にあふれ流るこ
となからしめんと誓ひしがそのごと
く我ふたたび汝をいぢきどほらず
再びなんぢを責じとちかひたり 10
山はうつり岡はうごくとも
わが仁慈はなんぢよりうつらず平安
をあたふるわが契約はうごくことな
からんと此はなんぢを憐みたまふ
エホバのみことばなり 11 なんぢ苦
しみをうけ暴風にひるがへされ
安慰をえざるものよ我うるはしき彩
色をなしてなんぢの石をす
青き玉をもてなんぢの基をおき 12
くれなゐの玉をもてなんぢの櫓をつ
くりむらさきの玉をもてなんぢの門
をつくりなんぢの境内はあまねく
寶石にてつくるべし 13 又なんぢの
子輩はみなエホバに教をうけなんぢ
の子輩のやすきはならん 14
なんぢ義をもて堅くたち
虐待よりとほざかりて懼ることなく
また恐懼よりとほざかるべしそは恐
懼なんぢに近づくことなければなり
15 縦ひかれら群集ふとも我によるに
あらず凡てむれつどひて汝をせむ
る者はなんぢの故にたふるべし 16
みよ炭火をふきおこして用ゐべき器
をいだす鐵工はわが創造するところ
又あらし滅ぼす者もわが創造するこ
ところなり 17 すべてなんぢを攻んと
てつくられしうつはものは利あるこ
となし興起てなんぢとあらそひ訴ふ
る舌はなんぢに罪せらるべし
これエホバの僕等のうくる産業なり
是かれらが我よりうくる義なりと
エホバのたまへり

Chapter 55

1 噫なんぢら渴ける者ことごと
く水にきたれ金なき者もきたるべし
汝等きたりてかひ求めてくらへきた
れ金なく價なくして葡萄酒と乳とを
かへ 2 なにゆゑ糧にもあらぬ者のた
めに金をいだし飽ことを得ざるもの
のために勞するやわれに聽従へさ
らばなんぢら美物をくらふをえ脂をも
てその靈魂をたのまするを得ん 3
耳をかたづけ我にきたりてきけ
汝等のたましひは活べしわれ亦なん
ぢらととこしへの契約をなしてダビ
デに約せし變らざる恵をあたへん 4

視よわれ彼をたててもるもの民の
 證とし又もるもの民の君となし命
 令する者となせり 5
 なんぢは知ざる國民をまねかん汝を
 しらざる國民はなんぢのもとに走り
 きたらん此はなんぢの神エホバ、イ
 スラエルの聖者のゆゑによりてなり
 エホバなんぢを尊くしたまへり 6
 なんぢら遇ことをうる間にエホバを尋
 ねよ
 近くあたまふ間によびもとめよ 7
 悪きものはその途をすてよしまな
 る人はその思念をすててエホバに反
 れざらば憐憫をほどこしたまはん我
 等の神にかへれ豊に赦をあたへ給は
 ん 8 エホバ宣給くわが思はなんぢら
 の思とことなりわが道はなんぢら
 のみちと異なり 9
 天の地よりたかきごとく
 わが道はなんぢらの道よりも高くわ
 が思はなんぢらの思よりもたかし 1
 0
 天より雨くだり雪おちて復かへらず
 地をうるほして物をはえしめ萌をい
 ださしめて播ものに種をあたへ
 食ふものに糧をあたふ 11 如此わが
 口よりいづる言もむなくは我にか
 へらず わが喜ぶところを成し
 わが命じ遣りし事をはたさん 12
 なんぢらは喜び出きたり平穩にみち
 びかれゆくべし山と岡とは響をはな
 ちて前にうたひ野にある樹はみな手
 をうたん 13 松樹はいばらにかはり
 てはえ岡枯樹は棘にかはりてはゆべ
 し此はエホバの頌美となり並とこし
 への徴となりて絶ることなからん

Chapter 56

1 エホバ如此いひ給ふなんぢら
 公平をまもり正義をおこなふべし
 わが救のきたるはちかくわが義のあ
 らはるは近ければなり 2
 安息日をまもりて汚さず
 その手をおさへて悪きことをなさず
 斯おこなふ人かく堅くまもる人の子
 はさいはひなり 3 エホバにつらなれ
 る異邦人はいふなかれエホバ必ず我
 をその民より分ち給はんと
 寺人もまたいふなかれ
 われは枯れたる樹なりと 4
 エホバ如此いひたまふ
 わが安息日をまもりわが悦ぶことを
 えらみて我が契約を堅くまもる寺人
 には 5 我わが家のうちにてわが垣の
 うちにてにも女にもまさる記念の
 うしと名とをあたへ並とこしへの
 名をたまふて絶ることなからしめん
 6 またエホバにつらなりこれに事へ
 エホバの名を愛しその僕となり安息
 日をまもりて汚すことなく凡てわが
 契約をかたくまもる異邦人は 7
 我これわがが聖山にきたらせ
 わが祈の家のうちにて樂ましめんか
 れらの燔祭と犠牲とはわが祭壇のう
 へに納めらるべしわが家はすべての
 民のいのりの家となへらるべけれ
 ばなり 8 イスラエルの放逐れたるも
 のを集めたまふ主エホバのたまはく
 我さらに人をあつめて既にあつめら
 れたる者にはへん 9
 野獸よみなきたりてくらへ林にをる
 けもよ皆きたりてくらへ 10

斥候はみな醫者にしてしることなし
 みな啞なる犬にして吠ることあたは
 ずみな夢みるもの臥あるもの眠るこ
 とをこのむ者なり 11 この犬はむさ
 ぼること甚だしくして飽くことをし
 らずかれらは悟ることを得ざる牧者
 にして皆おのが道にむかひゆき何れに
 をる者もおのおの己の利をおもふ 1
 2 かれら互にいふ請われ酒をたづさ
 へきたらんわれら濃酒にのみあかん
 かくて明日もなほ今日のごとく大に
 みち足はせん

Chapter 57

1
 義者ほろぶれども心にとむる人なく
 愛しみ深き人々ととりさらるれども義
 きものの禍害のまへより取去るるな
 るを悟るものなし 2
 かれは平安にいり直きをおこなふ者
 はその寐床にやすめり 3
 なんぢら巫女の子
 淫人また妓女の裔よ 近ききたれ 4
 なんぢら誰にむかひて戯れをなすや
 誰にむかひて口をひらき舌をのばす
 やなんぢらは悖逆の子輩いつはりの
 黨類にあらずや 5 なんぢらは檀樹の
 あひだ緑りなる木々のしたに心をこ
 がし
 谷のなか岩の狭間に子をころせり 6
 なんぢは谷のなかの滑かなる石をう
 くべき嗣業とし
 これをなんぢが所有とすなんぢ亦こ
 れに灌祭をなし之にそなへものを献
 げたりわれ之によりていかで心をな
 だむべしや 7 なんぢは高くそびえつ
 る山の上になんぢの床をまうけかつ
 其處にのぼりゆきて犠牲をささげたり
 8 また戸および柱のうしろに汝の
 記念をおけりなんぢ我をはなれて他
 人に身をあらはし
 登りゆきてその床をひろくし
 かれらと誓をなし
 又かれらの床を愛し
 これがためにその所をえらびたり 9
 なんぢ香膏とおほくの薫物とをたづ
 さへて王にゆき又なんぢの使者をと
 ほきにつかはし陰府にまで己をひく
 せり 10 なんぢ途のながきに疲れた
 れどなほ望なしといはずなんぢ力を
 をいさかへされしによりて衰弱ざり
 き 11 なんぢ誰をおそれ誰のゆゑに
 懼きていつはりをいひ我をおもはず
 亦そのことを心におかざりしやわれ
 久しく黙したれど汝かへりて我をお
 それざりしにあらざるや 12
 我なんぢの義を上げしめさん
 なんぢの作はなんぢに益せじ 13
 なんぢ呼るときその集めおきたるもの
 汝をすくへ
 風はかれらを悉くあげさり
 息はかれらを吹さらん然どわれに依
 頼むものは地をつぎわが聖山をうべ
 し 14 また人いはん
 土をもり土をもりて途をそなへよわ
 が民のみちより躓礙をとりされと 1
 5 至高く至上なる永遠にするもの
 聖者となくするもの如此いひ給ふ
 我はたかき所きよき所にすみ亦こ
 ろ砕けてへりくだる者とともにすみ
 謙だるものの靈をいかし砕けたるも
 のの心をいかす 16 われ限なくは争

はじ我たえずは怒らじ然らずば人の
 ころころ我がまへにおとろへん
 わが造りたる靈はみな然らん 17 彼
 のむさぼりの罪により我いかりて之
 をうちまた面をおほひて怒りたり然
 るになほ悖りて己がころの途にゆ
 けり 18 されど我その途をみたり
 我かれを愈すべし又かれを導きてふ
 たたび安慰をかれとその中のかなし
 める者となかへすべし 19
 我くちびるの果をつくれり遠きもの
 にも近きものにも平安あれ平安あれ
 我かれをいやすん
 此はエホバのみことばなり 20 然
 はあれど惡者はなみだつ海のごとし 静
 かなること能はずしてその水つねに
 濁と泥とをいだせり 21 わが神いひ
 たまはく惡きものには平安あること
 なしと

Chapter 58

1
 大によばはりて聲ををしむなかれ
 汝のこゑをラッパのごとくあげわが
 民にその窓をつげヤコブの家にその
 罪を上げしめ 2 かれらは日々われ
 を求めわが途をしらんことをこの
 む義をおこなひ神の法をすてざる國
 のごとく義しき法をわれにもとめ神
 と相近づくことをこのめり 3
 かれらはいふ
 われら斷食するになんぢ見たまはず
 われら心をくるしむるになんぢ知た
 まはざるは何ぞやと視よなんぢらの
 斷食の日にはおのがこのむ作をなし
 その工人をことごとく惱めつかふ 4
 視よなんぢら斷食するときは相あら
 そひ相きそひ惡の拳をもて人をつつ
 なんぢらの今のだんじきはその聲を
 うへに聞えしめんとにあらざるなり
 5 斯のごとき斷食はわが悦ぶところ
 のものならんやかくのごときは人そ
 の靈魂をなやますの日ならんやその
 首を葦のごとくにふし履服と灰とを
 その下にしてをもて斷食の日またエ
 ホバに納らるる日となふべけんや
 6 わが悦ぶところの斷食はあくの繩
 をほどき輓のつなをとき虐げらるる
 ものを放ちさらしめすすべての輓をを
 るなどの事にあらざるや 7 また饑た
 る者になんぢのパンを分ちあたへさす
 らへる貧民をなんぢの家にいれ裸か
 なるものを見てこれに衣せおのが骨
 肉に身をかくさざるなどの事にあら
 ざるや 8 しかる時はなんぢのひかり暁
 の如くにあらはれいで
 汝すみやかに愈さることを得
 なんぢの義はなんぢの前にゆきエホ
 バの榮光はなんぢの軍後となるべし
 9 また汝よぶときはエホバ答へたま
 はんなんぢが叫ぶときは我ここに在り
 といひ給はん / もし汝のなかより輓
 をのぞき指點をのぞき惡きことをか
 たるを除き 10 なんぢの靈魂の欲す
 るものをも饑たる者にほどこし
 苦しむもの心を満足しめば
 なんぢの光くらきにたりいで
 なんぢの闇は晝のごとくならん 11
 エホバは常になんぢをみちびき乾け
 るところにても汝のころを満足し
 めなんぢの骨をかたうし給はんなん
 ぢは潤ひたる園のごとく水のたえざ

る泉のごとくなるべし 12 汝よりい
 づる者はひさしく荒廢れたる所をお
 こし
 なんぢは累代やぶれたる基をたてん
 人なんぢをよぶて破隙をおぎなふ者
 といひ市街をつくりてすむべき所
 とす者といふべし 13
 もし安息日になんぢの歩行をとどめ
 我聖日になんぢの好むわざをおこな
 はず安息日をとなへて樂日となしエ
 ホバの聖日をとなへて尊むべき日と
 なし
 之をたふとみて己が道をおこなはず
 おのが好むわざをなさず 14
 おのが言をかたらずば
 その時なんぢエホバを樂しむべしエ
 ホバなんぢを地のたかき處にのらし
 めなんぢが先祖ヤコブの産業をもて
 汝をやしなひ給はん
 こはエホバ口より語りたまへるなり

Chapter 59

1 エホバの手はみちかくして救
 ひえざるにあらずその耳はにぶくし
 て聞えざるにあらず 2 惟なんぢらの
 邪曲なる業なんぢらとなんぢらの神
 との間をへだてたり又なんぢらの罪
 その面をおほひて聞えざらしめたり
 3 そはなんぢらの手は血にてけられ
 なんぢらの指はよこしまにて汚れ
 なんぢらのくちびるは虚偽をかたり
 なんぢらの舌は惡をささやき 4 その
 一人だに正義をもてうつたへ眞實を
 もて論らふものなし
 彼らは虚浮をたのみ虚偽をかたり惡
 しきくはだてをはらみ不義をうむ 5
 かれらは蠅の卵をかへし蛛網を卵も
 その卵をくらふものは死るなり亦も
 し踐るればやぶれて毒蛇をいだす 6
 その織るところは衣になすあたはず
 その工をもて身をおほふこと能はず
 かれらの工はよこしまの工なりかれ
 らの手には暴虐のおこなひあり 7 か
 れらの足はあくにはしり罪なき血を
 ながすに速し
 かれらの思念はよこしまの思念なり
 殘害と滅亡とその路徑にのこれり 8
 彼らは平穩なる道をしらずその過る
 ところに公平なく又まがれる小徑を
 つくる
 凡てこれを踐ものは平穩をしらず 9
 このゆゑに公平とはほくわれらをは
 なれ正義はわれらに追及ず
 われら光をのぞめど暗をみ
 光輝をのぞめど闇をゆく 10 われら
 は醫者のごとく牆をさぐりゆき目な
 き者のごとく摸りゆき正午にても日
 暮のごとくにつまづき強壯なる者の
 なかにありても死るもののごとし 1
 1 我儕はみな熊のごとくにほえ鶺鴒
 のごとくに甚くうめき
 審判をのぞめどもあることなく救を
 のぞめども遠くわれらを離る 12
 われらの愆はなんぢの前におほく
 われらのつみは證してわれらを訟へ
 われらのとがは我らとともに在りわ
 れらの邪曲なる業はわれら自らしれ
 り 13 われら罪をなしてエホバを
 棄われらの神にはなれてしがは
 暴虐と悖逆とをかたり虚偽のことば
 を心にはらみて説出すなり 14 公平
 はうしろに退けられ正義ははるかに

立り そは 眞實は衢間にたふれ
 正直はいることを得ざればなり 15
 眞實はかけてなく悪をはなるもの
 は掠めうははる / エホバこれを見て
 その公平のなかりしを喜びたまはざり
 き 16 エホバは人なきを中保なき
 を奇しみたまへり
 斯てその臂をもてみづから助けその
 義をもてみづから支たまへり 17 エ
 ホバ義をまとひて護胸とし救をその
 頭にいたきて兜となし
 仇をまとひて衣となし
 熱心をきて外衣となしたまへり 18
 かれらの作にしたがひて報をなし敵
 にむかひていかり仇にむかひて報を
 なし
 また鳥々にむくいをなし給はん 19
 西方にてエホバの名をおそれのい
 づる所にてその榮光をおそるべしエ
 ホバは堰ぎとめたる河のその氣息に
 ふき潰えたるがごとくに来りたまふ
 可ればなり 20 エホバのたまはく贖
 者シオンにきたりヤコブのなかの怨
 をはなるる者にかんと 21
 エホバいひ給くなんぢの上にあるわ
 が靈なんぢの口におきたるわがこと
 ばは今よりのち永遠になんぢの口よ
 りなんぢの裔の口より汝のすゑの裔
 の口よりはなれざるべしわがかれら
 にたつる契約はこれなりと此はエホ
 バのみことばなり

Chapter 60

1起よひかりを發てなんぢの光
 きたりエホバの榮光なんぢのうへに
 照出たればなり 2視よくらきは地を
 おほひ闇はもろもろの民をおほはん
 されど汝の上にはエホバ照出たまひ
 てその榮光なんぢのうへに顯るべし
 3
 もろもろの國はなんぢの光にゆきも
 ろもろの王はてり出るなんぢが光輝
 にゆかん 4
 なんぢの目をあげて環視せ
 かれらは皆つどひて汝にきたり
 汝の子輩とはほきより來り
 なんぢの女輩はいだかれて來らん 5
 そのときなんぢ視てよるこびの光を
 あらはしなんぢの心おどろきあやし
 み且ひろかになるべし
 そは海の富はうつりて汝につきもろ
 もろの國の貨財はなんぢに來るべし
 6おほくの駱駝ミデアンお
 よびエバのわかき駱駝なんぢの中
 にあまねくみこシバのもろもろの人
 がね乳香をたづさへきたりてエホバ
 の響をのべつたへん 7ケダルのひつ
 じの群はみな汝にあつまりきたり
 ネバヨテの牡羊はなんぢに事へわが
 祭壇のうへにのほりて受納られん
 斯てわれわが榮光の家をかがやすべ
 し 8雲のごとくにとび鳩のその巢に
 とびかへるが如くしてきたる者はた
 れぞ 9もろもろの鳥はわれを俟望み
 タルシシのふねは首先になんぢの子
 輩をとほきより載きたり並かれらの
 金銀をもとのせきたりてなんぢの
 神エホバの名にささげ
 イスラエルの聖者にささげんエホバ
 なんぢを輝かせたまひたればなり 1
 0 異邦人はなんぢの石垣をきづき
 かれらの王等はなんぢに事へんそは

我いかりて汝をうちしかどまた恵を
 もて汝を憐みたればなり 11 なんぢ
 の門はつねに開きて夜も日もとぎす
 ことなしこは人ももろの國の貨財
 をなんぢに携へきたりその王等をひ
 きあもらんがためなり 12
 なんぢに事へたる國と民とはほろび
 そのくにぐには全くあれすたるべし
 13 レバノンの榮はなんぢにきたり
 松杉黃楊はみな共にきたりて我が聖
 所をかがやかさんわれ亦わが足を
 おく所をたふとくすべし 14 汝を苦し
 めたるものの子輩はかがみて汝にき
 たり汝をさげしめたる者はことごと
 くなんぢの足下にふし斯て汝をエホ
 バの都イスラエルの聖者のシオンと
 となへん 15 なんぢ前にはすてられ
 憎まれてその中をすぐる者もなかり
 しが今はわれ汝をとしへの華美よ
 よの歡喜となさん 16 なんぢ亦もろ
 もろの國の乳をすひ王たちの乳房を
 すひ而して我エホバなんぢの救主
 なんぢの贖主ヤコブの全能者なるを
 知るべし 17 われ黄金をたづさへきた
 りて赤銅にかへ
 白銀をたづさへきたりて鐵にかへ
 赤銅を木にかへ鐵を石にかへ
 なんぢの施政者をおだやかにし
 なんぢを役するものを義うせん 18
 強暴のこと再びなんぢの地にきこえ
 ず殘害と敗壞とはふたたびなんぢの
 境にきこえず
 汝その石垣をすくひととなへ
 その門を聳ととなへん 19
 晝は日ふたたびなんぢの光とならず
 月もまた輝きてなんぢを照さず
 エホバ永遠になんぢの光となりなん
 ぢの神はなんぢの榮となり給はん 2
 0 なんぢの日はふたたび落ず
 なんぢの月はかくることなかるべし
 そはエホバ永遠になんぢの光となり
 汝のかなしみの日畢るべければなり
 21汝の民はことごとく義者となりて
 とこしへに地を嗣んかれはわが植た
 る樹株わが手の工わが榮光をあらは
 す者となるべし 22
 その小きものは千となり
 その弱きものは強國となるべしわれ
 エホバその時いたらば速かにこの事
 をなさん

Chapter 61

1主エホバの靈われに臨めりこ
 はエホバわれに膏をそそぎて貧きも
 のに福音をのべ傳ふることをゆだね
 我をつかはして心の傷める者をいや
 し俘囚にゆるしをつけ
 縛められたるものに解放をつけ 2 エ
 ホバのめぐみの年とわれらの神の刑
 罰の日とを告しめ
 又すべて哀むものをなぐさめ 3 灰に
 かへ冠をたまひてシオンの中のかな
 しむ者にあたへ
 悲哀にかへて歡喜のあぶらを予へう
 れひの心にかへて讚美の衣をかたへ
 しめたまふなり 4 かれらは義の樹
 エホバの植たまふ者その榮光をあら
 はす者となへられん 4
 彼等はひさしく荒たる處をつくるひ
 上古より廢れたる處をおこし荒たる
 邑々をかされて新にし世々すたれた
 る處をふたたび建べし 5

外人はたちてなんぢらの群をかひ異
 邦人はなんぢらの畑をたがへす者
 となり 葡萄をつくる者とならん 6 然
 どなんぢらはエホバの祭司となへ
 られ われらの神の役者とよばれ
 るもろの國の富をくらひ
 かれらの榮をえて自らほこるべし 7
 曩にうけし恥にかへ倍して賞賜をう
 け凌辱にかへ嗣業をえて樂むべし而
 してその地にありて倍したる賞賜を
 たもち永遠によるこびを得ん 8 われ
 エホバは公平をこのみ邪曲なるかす
 めごとをにくみ
 眞實をもて彼等にむくいをあたへ彼
 等ととこしへの契約をたつべければ
 なり 9 かれらの裔はもろもろの國の
 なかに知れかれらの子輩はもろもろ
 の民のなかに知れんすべてこれを見
 るものはそのエホバの祝したまへる
 裔なるを辨ふべし 10
 われエホバを大によるこび
 わが靈魂はわが神をたのしまんそは
 我にすくひの衣をきせ義の外服をま
 とせて新郎が冠をいただき新婦が
 玉こねの飾をつくるが如くなした
 まへばなり 11 地は芽をいだし畑は
 まけるものを生ずるがごとく主エホ
 バは義と聳とをもろもろの國のまへ
 に生ぜしめ給ふべし

Chapter 62

1われシオンの義あさ日の光輝
 のごとくにいでエルサレムの救もゆ
 る松火のごとくなるまではシオン
 のために黙さずエルサレムのために
 休まざるべし 2
 もろもろの國はなんぢの義を見もろ
 もろの王はみななんぢの榮をみん
 斯てなんぢはエホバの口にて定め給ふ
 新しき名をもて稱へらるべし 3 また
 汝はうるはしき冠のごとくエホバの
 手にあり王の冕のごとくなんぢの神
 のたなごころにあらん 4 人ふたたび
 汝をすてられたる者といはず再びな
 んぢの地をあれたる者といはじ却て
 なんぢをへフジバ(わが悦ぶところ)
 ととなへ なんぢの地をペウラ(配偶)
 ととなふべし
 そはエホバなんぢをよるこびたまふ
 なんぢの地は配偶をえん 5 わかきも
 のの處女をめとる如くなんぢの子輩
 はなんぢを娶らん新郎の新婦をよる
 こぶごとくなんぢの神なんぢを喜び
 たまふべし 6 エルサレムよ我なんぢ
 の石垣のうへに斥候をおきて終日終
 夜たえず黙すことなからしむなんぢ
 らエホバに記念したまはんことを求
 むるものよ 自らやすむなかれ 7 エ
 ホバ、エルサレムをたてて全地に響
 をえしめ給ふまでは息め奉るなかれ
 8 エホバその右手をさしその大能の
 臂をさし誓ひて宣給くわれ再びなん
 ぢの五穀をなんぢの敵にあたへて食
 はせず異邦人はなんぢが勞したる酒
 をのまざるべし 9 収穫せしものは之
 をくらひてエホバを讚たたへ葡萄を
 あつめし者はわが聖所の庭にて之を
 のむべし 10
 門よりすすみゆけ進みゆけ民の途を
 そなへ土をもり土をもりて大路をま
 つけよ 11 石をとりのぞけ
 もろもろの民に旗をあげて示せ 11

エホバ地の極にまで告てのたまはく
 汝等シオンの女にいへ
 視よなんぢらの救きたる
 視よ主の手にその恩賜あり
 はたらきの價はその前にあり 12 而
 してかれらはきよき民たまエホバに
 あがなはれたる者となへられん
 なんぢは人にもとめ尋らるるもの棄ら
 れざる邑となへらるべし

Chapter 63

1このエドムよりきたり緋衣を
 きてボツラよりきたる者はたれぞそ
 の服飾はなやかに大なる能力をもて
 厳しく歩みきたる者はたれぞこれは
 義をもてかたり大にすくひをほどこ
 す我なり 2 なんぢの服飾はなにゆゑ
 に赤くなんぢの衣はなにゆゑに酒榨
 をふむ者とひとしきや 3
 我はひとりにて酒榨をふめりもろも
 るの民のなかに我とともにする者な
 しわれ怒りによりて彼等をふみ忿恚に
 よりてかれらを踏にじりたればかれ
 らの血わが衣にそそぎわが服飾をこ
 とごとく汚したり 4
 そは刑罰の日わが心の中にあり
 救贖の歳すでにきたれり 5 われ見て
 たすくる者なく扶る者なきを奇しめ
 りこの故にわが臂われをすくひ我い
 きどほり我をささへたり 6 われ怒り
 によりてもろもろの民をふみおさへ
 忿恚によりてかれらを酔しめ
 かれらの血を地に流れしめたり 7 わ
 れはエホバのわれらに施したまへる
 各種のめぐみとその聳とをかたりつ
 げ又その憐憫にしたがひ其おほくの
 恩恵にしたがひてイスラエルの家に
 ほどこし給ひたる大なる恩寵をかた
 り告ん 8 エホバいひたまへり
 誠にかれらはわが民なり
 虚偽をせざる子輩なりと斯てエホバ
 はかれらのために救主となりたまへ
 り 9 かれらの艱難のときはエホバも
 なやみ給ひてその面前の使をもて彼
 等をすくひその愛とその憐憫とによ
 りて彼等をあがなひ彼等をもたげ昔
 時の日つねに彼等をいだきたまへり
 10 然るにかれらは悖りてその聖靈を
 うれへしめたる故にエホバ翻然かれ
 らの仇となりて自らこれを攻たまへ
 り 11 爰にその民にいしへのモーセ
 の日をおもひいでて日けるはかれら
 とその群の牧者とを海より携へあげ
 し者はいつこにありや彼等のなかに
 聖靈をおきしものは何處にありや 1
 2 榮光のかひなをモーセの使にゆか
 しめ彼等のまへに水をさきて自らと
 こしへの名をつくり 13 彼等をみち
 びきて馬の野をはしるがごとく躡か
 で淵をすぎしめたりし者はいつこに
 在りや 14 谷にくだる家畜の如くに
 エホバの靈かれらをしていこはせ給へり
 主よなんぢは斯おのれの民をまぢび
 きて榮光の名をつくり給へり 15
 ねがはくは天より俯觀なほしその榮
 光あるきよき居所より見たまへなん
 ぢの熱心となんぢの大能あるみわざ
 とは今いつこにありやなんぢの切なる
 仁慈と憐憫とはおさなはられて我に
 あはれず 16 汝はわれらの父なり
 アブラハムわれらを知ず
 イスラエルわれらを認めず

されどエホバよ汝はわれらの父なり
上古よりなんぢの名をわれらの贖主
といへり 17 エホバよ何故にわれら
をなんぢの道より離れまどはしめ我
儕のこころを頑固にして汝を畏れざ
らしめたまふや願くはなんぢの僕等
のためになんぢの産業なる支派のた
めに歸りたまへ 18 汝のきよきたみ
地をえて久しからざるにわれらの敵
なんぢの聖所をふみにじれり 19 我
儕はなんぢに上古より治められざる
者のごとくなんぢの名をもて稱られ
ざる者のごとなりぬ

Chapter 64

1

願くはなんぢ天を裂てくだり給へ
なんぢのみまへに山々ふるひ動かん
ことを 2 火の柴をやし火の水を沸
すがごとくして降りたまへ
かくて名をなんぢの敵にあらはし
もろもろの國をなんぢのみまへに戦
慄かしたまへ 3 汝われらが逆料あ
はざる懼るべき事をおこなひ給ひし
ときに降りたまへり
山々はその前にふるひうごけり 4 上
古よりこのかた汝のほかにななる神
ありて俟望みたる者にかかる事をお
こなひしや いまだ聴
いまだ耳にいら
いまだ目にみしことなし 5 汝はよ
こびて義をおこなひなんぢの途にあ
りてなんぢを記念するものを迎へた
まふ 視よなんぢ怒りたまへり
われらは罪ををかせり
かかる状なること既にひさし
我儕いかで救はるを得んや 6 我儕
はみな潔からざる物のごとなり
われらの義はことごとく汚れたる衣
のごとし我儕はみな木葉のごとく枯
れわれらのよこしまは暴風のごとく
我らを吹去れり 7
なんぢの名をよぶ者なくみづから
勵みて汝によりする者なしなんぢ
面をおほひてわれらを顧みたまはず
われらが邪曲をもてわれらを消
失せしめたまへり 8
されどエホバよ汝はわれらの父
なりわれらは泥塊にしてなんぢは
陶工なり
我らは皆なんぢの御手のわざなり 9
エホバよいたく怒りたまふな
かれ永くよこしまを記念したまふ
なかれ願くは顧みたまへ
我儕はみななんぢの民なり 10 汝
のきよき諸邑は野となりシオンは
野となりエルサレムは荒廢れたり
11 我らの先祖が汝を讃たへたる
榮光ある我儕のきよき宮は火に
やかれ我儕のしたひたる處はこ
ごとく荒はたり 12 エホバよ
これらの事あれども汝なほみづ
から制したまふやなんぢなほ
黙してわれらに深くくらしみ
を受しめたまふや

Chapter 65

1 我はわれを求めざりしもの
に問もたれ
我をたづねざりしものに見出され
わが名をよばざりし國にわれ曰ら
くわれは此にあり我はここに在と 2 善

らぬ途をあゆみおのが思念にした
がふ悖れる民をひねもす手をの
べて招けり 3 この民はまのあたり
恒にわが怒をひき圓のうちにて犠
牲をささげ瓦の壇にて香をたき 4
墓のあひだにすわり隠密なる處に
やどり猪の肉をくらひ憎むべき
ものをその器皿にもりて 5 人に
いふなんぢ其處にたちて我にちか
づくなかれ
そは我なんぢよりも聖しと彼らは
わが鼻のけぶり終日もゆる火なり
6 視よこの事わが前にしるされたり
われ黙さずして報いかへすべし
必ずかれらの懐中に報いかへすべ
し 7 エホバいひ給くなんぢらの
邪曲となんぢらが列祖のよこしま
とはともに報いかへすべしかれら
は山上にて香をたき岡のうへに
て我を汚ししがゆゑに我まづその
作をはかりてその懐中にかへすべ
し 8 エホバ如此いひたまふ人ぶ
だうのなかに汁あるを見ればい
はんこれを壊るなかれ福祉その中
にあればなりと我わが僕等のた
めに如此おこなひてことごとくは
壊らじ 9 ヤコブより一裔をい
だしユダよりわれ山々をうけつ
ぐべき者をいざんわが撰みたる
者はこれをうけつぎ我がしもべら
は彼處にすむべし 10 シヤロン
は羊のむれの牧場となりアコ
ルの谷はうしの群のふす所とな
りて我をたづねもとめたるわが
民の有とならん 11 然どなん
ぢらエホバを棄わがきよき山を
わすれ 机をガド(禍福の神)に
そなへ雜合せたる酒をもりてメ
ニ(運命の神)にささぐる者よ
12 われ汝らを劍にわたすべく
定めたりなんぢらは皆かがみて
屠らるべし 汝等はわが呼しとき
こたへずわが語りしとききかず
わが目にあしき事をおこなひわ
が好まざりし事をえらみたれば
なり 13 このゆゑに主エホバ
かく言給ふわが僕等はくろへ
ども汝等はうゑわが僕等はのめ
ども汝等はかわき我しもべらは
喜べどもなんぢらははぢ 14
わが僕等はこころ樂きによりて
歌うたへども汝等はこころ哀き
によりて叫びまた靈魂うれふる
によりて泣嘸ぶべし 15 なん
ぢらが遺名はわが撰みたるもの
の呪詛の料とならん 主エホ
バなんぢらを殺したまはん然
どおのれの僕等をほかの名をも
て呼たまふべし 16 斯るがゆ
ゑに地にありて己のために福祉
をわが民のものに眞實の神にむ
かひて福祉をもとめ地にありて
誓ふものは眞實の神をさして
誓ふべしさきの困難は忘れられ
てわが目よりかくれ失たるに
因る 17 視よわれ新しき天と
あたらしき地とを創造す人さ
きものを記念することなく之を
その心におもひ出ることなし
18 然どなんぢらわが創造する
者によりて永遠にたのしみよ
るこべ視よわれはエルサレムを
造りてよこびとしその民を快
樂とす 19 われエルサレムを
喜びわが民をたのしめんと
して泣聲とさげが聲とはふた
たびその中にきこえざるべし
20 日數わづかにして死る嬰兒
といのちの日をみたさざる老
人とはその中にまたあること
なかるべし百歳にて死るもの
も尚わかしとせられ百歳にて
死るものを詛れたる罪人とす
べし 21 か

れら家をたてて之にすみ葡萄園
をつくりてその果をくらふべし
22 かれらが建るところにほか
の人すまざればわが造るところ
の果はほかの人くらはず
そはわが民のいのちの樹の命
の如く我がえらみたる者は
その手の工ふるびうするとも
存ふべければなり 23 かれら
の勤勞はむなしからずその生
ところの者はわがはひにかか
らず彼等はエホバの福祉を
たまひしもの裔にその子輩も
あひ共にをる可ればなり 24
かれらが呼ざるさきにわれ
こたへ彼らが語りてをへざる
に我きかん 25 豺狼とこひつ
じと食物をともにし獅は牛の
ごとく糞をくらひ蛇はちりを
糧とすべし斯てわが聖山の
いづこにても害ふことなく
傷ることなからん 此れエホ
バの聖言なり

Chapter 66

1

エホバ如此いひたまふ
天はわが位地はわが足臺なり
なんぢら我がために如何なる
家をたてんとするか又いかに
なる處わが休憩の場とならん
2 エホバ宣給く我手はあら
ゆる此等のものを造りてこれ
らの物ことごとく成れり我は
ただ苦しみまた心をいため我
がことばを畏れをのくものを
顧みるなりと 3 牛をほふる
ものは人をこらす者のごとく
羔を犠牲とするものは狗をく
りこらす者のごとく祭物をさ
さぐるものは豕の血をささ
ぐる者のごとく香をたくものは
偶像をほむる者のごとし彼
等はおのが途をえらみその心
にくむべき者をたのしみとせ
り 4 我もまた災禍をえらび
て彼等にあたへその懼る所
の事を彼らに臨ましめんそ
は我よびしとき應ふるもの
なく我がたりしとき聽ことを
せざりきわが目にあしき事
をおこなひわが好まざる事
をえらみたればなり 5 なん
ぢらエホバの言をおそれるの
者よエホバの言をきけなん
ぢらの兄弟なんぢらを憎み
なんぢらをわが名のために
逐出していふ願くはエホバ
その榮光をあらはして我儕に
なんぢらの歡喜を見せしめよ
と然どかれらは恥をうけん
6 騒亂るこゑよりきこえ聲
ありて宮よりきこゆ此はエ
ホバその仇にむくいをなし
たまふ聲なり 7 シオンは産
のなやみを知ざるさきに生
その幼勞きたらざるさきに
男子をうみいだせり 8 誰
がかかる事をききしや誰が
かかる類をみしや一の國は
ただ一日のくるしみにて成
べけんや一つの國民は一時
にうまるべけんや然どシ
オンはくるしむ間もなく直
にその子輩をうめり 9 エ
ホバ言給くわれ産にのぞまし
めしに何でうまざらしめん
やなんぢの神いひたまはく
我はうましむる者なるにいか
で胎をとざさんや 10 エ
ルサレムを愛するものよ皆
かれとともに喜びべかれの
故をもてたのしめ彼のために
悲めるものよ皆かれともに
喜びたのしめ 11 そはなん
ぢら乳をすふ如くエルサレ
ムの安慰をうけて飽ことを
得んまた乳をしぼること
その豊

なる榮をうけておのづから心
さわやかならん 12 エホバ
如此いひたまふ視よわれ河
のごとく彼に平康をあたへ
漲る流のごとく彼にもろも
ろの國の榮をあたへん而して
汝等歡樂すすひ背におはれ
膝におかれて樂しむべし 13
母のその子をなぐさむるご
とく我もなんぢらを慰めん
なんぢらはエルサレムにて
安慰をうべし 14 なんぢら
見て心よるこばんなんぢら
の骨は若草のさかゆるごと
くだるべしエホバの手は
その僕等にあらはれ又その
仇をはげしく怒りたまは
ん 15 視よエホバは火中
にあらはれて來りたまふ
その車輦ははやちのごとし
烈しき威勢をもてその怒を
もらし火のほのほをもて
その譴をほどこし給はん
16 エホバは火をもて劍
をもてよるづの人を刑ひ
たまはんエホバに刺殺さ
るもの多かるべし 17
エホバ宣給くみづからを
潔くしみづからを別ちて
園にゆきその中にある木
の像にしたがひ豕の肉け
れたる物および鼠をくら
ふ者はみな共にたえう
せん 18 我かれらの作
爲とかれらの思念とをし
れり時きたらばもろもろ
の國民ともろもろの族と
をあつめん彼等きたりて
わが榮光をみるべし 19
我かれらのなかに一つの
休徴をたてて逃れたる者
をもろもろの國すなはち
タルシよく弓をひく
ブル、ルデおよびトバル、
ヤワン又わが聲をきか
ずわが榮光をみざる遙
かなる諸島につかはさん
彼等はわが榮光をもろ
もろの國にのべつたふ
べし 20 エホバいひ給
ふわれはイスラエルの
子輩がきよき器にそ
なへをもりてエホバの
家にたづさへきたるが
如くなんぢらの兄弟も
ろもろの國の中より
たづさへて馬車驪駱駝
にのらしめわが聖山
エルサレムにきたら
せてエホバの祭物と
すべし 21 エホバい
ひ給ふ我また彼等の
うちより人をえらび
て祭司としレビ人と
せん 22 エホバ宣
給くわが造らんとす
る新しき天とあたら
しき地とわが前にな
ぐくとどまる如く
なんぢの裔となんぢ
の名はながくとど
まらん 23 エホバ
いひ給ふ新月ごと
に安息日ごとによ
るづの人わが前に
きたりて崇拜をな
さん 24 かれら出
てわれに逆きたる
人の屍をみん
その蛆しなず
その火きえず
よるづの人に
いみきはるべし

エレミヤ書

Chapter 1

1 こはベニヤミンの地アナトテの
祭司の一人なるヒルキヤの子
エレミヤの言なり 2 アモン
の子ユダの王ヨシヤの時
すなはちその治世の十三年
にエホバの言エレミヤに
臨めり 3 その言たまふ
ヨシヤの子ユダの王エホ
ヤキムの時にもぞみて
ヨシヤの子ユダの王ゼ
デキヤの十一年のをはり
即ちその年の五月
エルサレムの民の移
されたる時まで
にいたれり 4

エホバの言我にのぞみて云ふ5 われ汝を腹につくらざりし先に汝をしり汝が胎をいでざりし先に汝を聖め汝をたてて萬國の預言者となせりと6 我こたへけるは噫主エホバよ視よわれは幼少により語ることを知らず7 エホバわれにいひたまひけるは汝われは幼少といふ勿れすべて我汝を遣すところにゆき我汝に命ずるすべてのことを語るべし8 なんぢ彼等の面を畏る勿れ蓋われ汝と偕にありて汝をすくふべければなりとエホバいひたまへり9 エホバ遂にその手をのべて我口につけエホバ我にいひたまひけるは視よわれ我言を汝の口にいらたり10 みよ我けふ汝を萬民のうへと萬國のうへにたて汝をして或は抜き或は毀ち或は滅し或は覆し或は建て或は植しめん11 エホバの言また我に臨みていふエレミヤよ汝何をみるや我こたへけるは巴旦杏の枝をみる12 エホバ我にいひたまひけるは汝善く見たりそわれ速に我言をなさんとすればなり13 エホバの言また我に臨みていふ汝何をみるや我こたへけるは沸騰たる鑪をみるその面は北より此方に向ふ14 エホバ我にいひたまひけるは災北よりおこりてこの地に住るすべての者にきたらん15 エホバいひたまひけるはわれ北の國々のすべての族をよばん彼等きたりてエルサレムの門の入口とその周圍のすべての石垣およびユダのすべての邑々に向ひておのおのその座を設けん16 われかれらの凡の悪事のために我鞫をかれにつげん是はかれら我をすてて別の神に香を焚きおのれの手にて作りし物を拝するによる17 汝腰に帯して起ちわが汝に命ずるすべての事を彼等につげよその面を畏る勿れ否らざれば我かれらの前に汝を辱かしめん18 視よわれ今日この全國とユダの王とその牧伯とその祭司とその地の民の前に汝を撃き城 鐵の柱銅の牆となせり19 彼等なんぢと戦はんとするも汝に勝ざるべしそはわれ汝とともにありて汝をすくふべければなりとエホバいひたまへり

Chapter 2

1

エホバの言我にのぞみていふ2 ゆきてエルサレムに住る者の耳につげよエホバ斯くいふ我汝につきて汝の若き時の懇切なんぢが契をなせしときの愛曠野なる種播ぬ地にて我に従ひしことを憶ゆと3 イスラエルはエホバの聖物にしてその初に結べる實なりすべて之を食ふものは罰せられ災にあふべしとエホバ云ひたまへり4 ヤコブの家とイスラエルの家の諸の族よエホバの言をきけ5 エホバかくいひたまふ汝等の先祖は我に何の悪事ありしを見て我に遠かり虚しき物にしたがひて虚しくなりしや6 かれらは我儕をエジプトの地より導きいだし曠野なる岩穴ある荒たる地早きたる死の陰の地人の過ぎざる地人の住はざる地を通らしめしエホバはいづこにあるといはざりき7 われ汝等を導きて園のごとき地にいれ其

實と佳物をくらはしめたり然ど汝等此處にいり我地を汚し我産業を憎むべきものとなせり8 祭司はエホバは何處にいますといはず律法をあつかふ者は我を知らず牧者は我に背き預言者はバアルによりて預言し益なきものに從へり9 故にわれ尚汝等とあらそはん且汝の子孫とあらそふべしとエホバいひたまふ10 汝等キツテムの諸島にわたりにて觀よまた使者をケダルにつかはし斯のごとき事あるや否やを詳細に察せしめよ11 その神を神にあらざる者に易たる國ありや然るに我民はその榮を益なき物にかへたり12 天よこの事を驚け懼けいたく怖れよとエホバいひたまふ13 蓋わが民はふたつの悪事をなせり即ち活る水の源なる我をすて自己水溜を掘れりすなはち壞れたる水溜にして水を有たざる者なり14 イスラエルはしもべなるか家にうまれし僕なるかいかにして擄掠となれるや15 わかき獅子かれにむかひて哮えその聲をあげてその地を荒せりその諸邑は焚れて住む人なし16 ノフとタバネスの諸子も汝の頭首の髪をくらはん17 汝の神エホバの汝を途にみちびきたまへる時に汝これを棄たるによりて此事汝におよぶにあらずや18 ナイルの水を飲んでてエジプトの路にあるは何ゆゑぞまた河の水を飲んでてアツスリヤの路にあるは何故ぞ19 汝の惡は汝をこらしめ汝の背は汝をせめん斯く汝が汝の神エホバをすてたると我を畏るごとの汝の衷にあらざるとは惡く且つ苦きことなるを汝見しるべしと主なる萬軍のエホバいひ給ふ20 汝昔より汝の軛ををり汝の縛を截ちていひけるは我つかふることをせじと即ち汝すべての高山のうへと諸の青木の下に妓女のごとく身をかがめたり21 われ汝を植て佳き葡萄の樹となし全き眞の種となせしにいかなれば汝われに向ひて異なる葡萄の樹の惡き枝にかはりしや22 たとひ嚙嚼をもて自ら濯ひまたおほくの灰汁を加ふるも汝の惡はわが前に汚れたりと主エホバいひ給ふ23 汝いかに我は汚れずバアルに從はざりしといふことを得んや汝谷の中のおこなひを觀よ汝のなせしことを知れ汝は疾走るわかき牝の駱駝にしてその途にさまよへり24 汝は曠野になれたる野の牝驢馬なり其欲のために風にあへぐその欲のうごくときは誰かこれをとどめえん凡てこれを尋る者は自ら勞するにおよばすその月の中に之にあふべし25 汝足をつつしみて跣足にならざるやうにし喉をつつしみて湯かぬやうにせよしかるに汝いふ是は徒然なり然りわれ異なる國の者を愛してこれに從ふなりと26 盜人の執へられて恥辱をうくるがごとくイスラエルの家恥辱をうくる彼等その王その牧伯その祭司その預言者みな然り27 彼等木にむかひて汝は我父なりといひまた石にむかひて汝は我を生みたりといふ彼等は背を我にむけて其面をわれに向けずされど彼等災にあふときは起てわれらを救ひ給へといふ28 汝がおのれの爲に造りし神はいづこにあるやもし汝が災にあふときかれら汝を救ふを得ば起つべきなりそは

ユダよ汝の神は汝の邑の數に同じければなり29 汝等なんぞ我とあらそふや汝らは皆我に背けりとエホバいひ給ふ30 我が汝らの衆子を打しは益なかりき彼等は懲治をうけず汝等の劍は猛き獅子のごとく汝等の預言者を滅せり31 なんぢらこの世の人よエホバの言をきけ我はイスラエルのために曠野となりしや暗き地となりしや何故にわが民はわれら徘徊りて復汝に來らじといふや32 それ處女はその飾物を忘れんや新婦はその帯をわすれんや然ど我民の我を忘れたる日は數へがたし33 汝愛を得んとて如何に汝の途を美しくするぞよされば汝の行はあしき事を爲すに慣たり34 また汝の裾に辜なき貧者の生命の血ありわれ盜人の穿たる所にて之を見ずしてすべて此等の上にこれを見る35 されど汝いふわれは辜なし故にその怒はかならず我に臨まじとみよわれ罪を犯さざりしといふにより我汝とあらそふべし36 なんぢ何故にその途を易んとて迅くはしるや汝アツスリヤに恥辱をうけしごとくエジプトにも亦恥辱をうけん37 汝兩手を頭に置てかしこよりも出去らんそはエホバ汝のたのむところの者を棄れば汝彼等によりて望を遂ること無るべければなり

Chapter 3

1世にいへるあり人もしその妻をいださんに去りゆきてほかの人の妻とならば其夫ふたたび彼に歸るべけんやさすれば其地はおほいに汚れざらんや汝はおほくの者と姦淫を行へりされど汝われに叛れよとエホバいひ給ふ2 汝目をあげてもろの童山をみよ姦淫を行はざる所はいづこにあるや汝は曠野にをるアラビヤ人の爲すがごとく路に坐して人をまてり汝は姦淫と惡をもて此地を汚せり3 この故に雨はとどめられ春の雨はふらざりし然れど汝娼妓の額あれば肯て恥ず4 汝いまより我を呼ていはざらんや我父よ汝はわが少時の交友なり5 窮なくその怒を含まんや恒に之を存たんやと視よ汝はかくいへど力をきはめて惡を爲すなり6 ヨシヤ王のときエホバまた我にいひ給ひけるは汝そむけるイスラエルのなせしことを見しや彼はすべての高山にのぼりすべての青木の下にゆきて其處に姦淫を行へり7 彼このすべての事を爲せしち我かれに汝われに歸れと言しかどもわれに歸らざりき其悖れる姊妹なるユダ之を見たり8 我に背けるイスラエル姦淫をなせしにより我かれを出して離縁をあたへたれどその悖れる姊妹なるユダは懼れずして往て姦淫を行ふ我これを見る9 また其姦淫の暍をもてこの地を汚し且石と木とに姦淫を行へり10 此諸の事あるも仍其悖れる姊妹なるユダは眞心をもて我にかへらず僞れるのみとエホバいひたまふ11 エホバまた我にいひたまひけるは背けるイスラエルは悖れるユダよりも自己を義とす12 汝ゆきて北にむかひ此言を宣ていふべしエホバいひたまふ背けるイスラエルよ歸れわれ怒の面

を汝らにむけじわれは矜恤ある者なり怒を限なく含みることあらじとエホバいひたまふ13 汝ただ汝の罪を認はせそは汝の神エホバにそむき經めぐりてすべての青木の下にて異邦人にゆき汝等わが聲をきかざればなりとエホバいひ給ふ14 エホバいひたまふ背ける衆子よ我にかへれそはわれ汝等を娶ればなりわれ邑より一人支派より二人を取りて汝等をシオンにつれゆかん15 われ我心に合ふ牧者を汝等にあたへん彼等は知識と明哲をもて汝等を養ふべし16 エホバいひたまふ汝等地に増して多くなるときは人々復エホバの契約の櫃といはず之を想ひいでず之を憶えずこれを尋ねずこれを作らざるべし17 その時エルサレムはエホバの座位と稱はれ萬國の民ここに集るべし即ちエホバの名によりてエルサレムに集り重て其惡き心の剛愎なるにしたがひて行まざるべし18 その時ユダの家はイスラエルの家とともに行みて地の地よりいれ我汝らの先祖たちと與へて嗣しめし地に偕にさるべし19 我いへり嗚呼われいかにして汝を諸子の中に置き萬國の中にて最も美しき産業なる此美地を汝にあたへんと我またいへり汝われを我父とよび亦我を離れざるべしと20 然にイスラエルの家よ妻の誓に違きてその夫を棄るがごとく汝等われに背けりとエホバいひたまふ21 聲山のうへに聞ゆ是はイスラエルの民の悲み祈るなり蓋彼等まがれる途にあゆみ其神エホバを忘るればなり22 背ける諸子よ我に歸れわれ汝の退違をいやさん/ 視よ我儕なんぢに到る汝はわれらの神エホバなればなり23 信に諸の岡とおほくの山に救を望むはいたづらなり誠にイスラエルの救はわれらの神エホバにあり24 羞恥はわれらの幼時より我儕の先祖の産業すなはち其多の羊とそのおほくの牛および其子その女を吞盡せり25 われらは羞恥に臥し我らは恥辱に覆はるべしそは我儕とわれらの列祖は我らの幼時より今日にいたるまで罪をわれらの神エホバに犯し我儕の神エホバの聲に遵はざればなり

Chapter 4

1エホバいひたまふイスラエルよ汝もし歸らば我に歸れ汝もし憎むべき者を眞實より除けば流湯はじ2 かつ汝は我儕と正義と公義とをもてエホバは活くと誓はんさらば萬國の民は彼によりて福祉をうけ彼によりて誇るべし3 エホバ、ユダとエルサレムの人々にかくいひ給ふ汝等の新田を耕せ荆棘の中に種くなかれ。4 ユダの人々とエルサレムに住める者よ汝等みづから割禮をおこなひてエホバに屬きおのれの心の前の皮を去れ然らざれば汝等の惡行のためわが怒火の如くに發して燃えんこれを滅すものなかるべし5 汝等ユダに告げエルサレムに示していへ籬を國の中に吹けとまた大聲に呼はりていへ汝等あつまれ我儕堅き邑にゆくべしと6 シオンに指示す合圖の旗をたてよ逃よ留まる勿れそは我北より災とお

ほいなる敗壞をきたらすればなり 7 獅子は其森よりいでて上り國々を滅すものは進みきたる彼汝の國を荒さんとて既にその處よりいでたり汝の諸邑は滅されて住む者なきに至らん 8 この故に汝等麻の衣を身にまきとて悲み哭けそはエホバの烈しき怒いまだ我儕を離れざればなり 9 エホバ いひたまひけるはその日王と牧伯等は其の心をうしなひ祭司は驚き預言者は異むべし 10 我いひけるは嗚呼主エホバよ汝はまことに此民とエルサレムを大にあざむきたまふすなはち汝はなんぢら安かるべしと云給ひしに劍命にまでおよべり 11 その時この民とエルサレムにいふものあらん熱き風曠野の童山よりわが民の女にふききたると此は簸るためにあらず潔むる爲にもあらざるなり 12 これよりも猶ほげしき風われより來らん今我かれらに鞫を示さん 13 みよ彼は雲のごとく上りきたらん其車は颶風のごとくにしてその馬は鷹よりも疾し嗚呼われらは禍なるかな我儕滅さるべし 14 エルサレムよ汝の心の惡をあらひ潔めよ然ばすくはれん汝の惡き念いつまで汝のうちにあるや 15 ダンより告ぐる聲ありエライムの山より災を知るなり 16 汝ら國々の民に告げまたエルサレムに知らせよ攻めかこむ者遠き國より來りユダの諸邑にむかひて其聲を揚ぐと 17 彼らは田圃をまもる者のごとくにこれを圍むこは我に從はざりしに由るとエホバいひ給ふ 18 汝の途と汝の行これ汝に招けりこれは汝の惡なり誠に苦くして汝の心におよぶ 19 嗚呼わが腸よ我腸よ痛苦心の底におよびわが心胸とどろくわれ黙しがたし我靈魂よ汝の聲と軍の鬨をきくなり 20 敗滅に敗滅のしらせありこの地は皆荒されわが幕屋は頃刻にやぶられ我幕は忽ち破れたり 21 我が旗をみ菰の聲をきくは何時までぞや 22 それ我民は愚にして我を識らず拙き子等にして曉ることなし彼らは惡を行ふに智けれども善を行ふことを知ず 23 われ地を見るに形なくして空くあり天を仰ぐに其處に光なし 24 我山を見るに皆震へまた諸の丘も動けり 25 我見に入ることなし天空の鳥も皆飛されり 26 我みるに肥美なる地は沙漠となり且その諸の邑はエホバの前にその烈しき怒の前に毀れたり 27 そはエホバかくいひたまへりすべて此地は荒地とならんされど我ことごとくは之を滅さじ 28 故に地は皆哀しみ上る天は暗くならん我すでに之をいひ且これを定めて悔いずまた之をなす事を止さればなり 29 邑の人みな騎兵と射者の咄喊のために逃て叢林にいり又岩の上に升れり邑はみな棄れて其處に住む人なし 30 滅されたる者よ汝何をなさんとするや設令汝れなみの衣をき金の飾物をもて身を粧ひ目をぬりて大きくすとも汝が身を粧ふはいたづらなり汝の戀人は汝をいやしめ汝のいのちを索るなり 31 われ子をうむ婦のごとき聲首子をうむ者の苦むがごとき聲を聞かすシオンの女の嗚呼りかれ自ら歎き手をのべていふ嗚呼われは禍なるかな我靈魂殺す者のために疲はてぬ

Chapter 5

1 汝等エルサレムの邑をめぐりて視且察りその街を尋ねよ汝等もし一人の公義を行ひ眞理を求る者に違はばわれ之(エルサレム)を救すべし 2 彼らエホバは活くといふとも實は偽りて誓ふなり 3 エホバよ汝の目は誠實を顧みるにあらずや汝彼らを憐れどもかれら痛苦をおぼえず彼等を滅せどもかれら懲治をうけず其面を磐よりも硬くして歸ることを拒めり 4 故に我いひけるは此輩は惟いやしき愚なる者なればエホバの途と其神の鞫を知ざるなり 5 われ貴人にゆきて之に語らんかれらはエホバの途とその神の鞫を知るなり然に彼らも皆鞫を折り縛を斷り 6 故に林よりいつる獅子は彼らを殺しアラバの狼はかれらを滅し豹はその邑をねらふ此處よりいつる者は皆裂るべしそは其罪おほくその背違はなほだしければなり 7 我なに故に汝をゆるすべきや汝の諸子われを棄て神にあらざる神を指して誓ふ我すでに彼らを誓はせたりと彼ら姦淫して娼妓の家に群集る 8 彼らは肥たる牡馬のごとくに行めぐりおのおの嘶きて隣の妻を慕ふ 9 エホバいひたまふ我これらの事のために彼らを罰せざらんや我心はかくの如き民に仇を復さざらんや 10 汝等その石垣にのぼりて滅せされど悉くはこれを滅す勿れそ汝の杖を截除けエホバのものに有ざればなり 11 イスラエルの家とユダの家は大に我に悖るなりとエホバいひたまふ 12 彼等はエホバを認ずしていふエホバはある者にあらず災われらに來らじ我儕劍と饑饉をも見ざるべし 13 預言者は風となり言はかれらの衷にあらず斯彼らになるべしと 14 故に萬軍の神エホバかくいひたまふ汝等この言を語により視よわれ汝の口にある我言を火となし此民を薪となさんその火彼らを焚盡すべし 15 エホバいひ給ふイスラエルの家よみよ我遠き國人をなんぢらに來らしめん其國は強くまた古き國なり汝等その言をしらず其語ることをも曉らざるなり 16 その籐は啓きたる墓のごとし彼らはみな勇士なり 17 彼らは汝の糶れたる物と汝の糧食を食ひ汝の子女を食ひ汝の羊と牛を食ひ汝の葡萄の樹と無花果の樹を食ひまた劍をもて汝の頼むところの堅き邑を滅さん 18 されど其時われことごとくは汝を滅さじとエホバいひたまふ 19 汝等何ゆゑにわれらの神エホバ此等の諸のことを我儕になしたまふやといはば汝かれらに答ふべし汝ら我をすて汝らの地に於て異なる神に奉へしごとく汝らのものにあらざる地に於て異邦人につかふべしと 20 汝これをヤコブの家にのべまたこれをユダに示していへ 21 愚にして知なく目あれども見えず耳あれども聞えざる民よこれをきけ 22 エホバいひ給ふ汝等われを畏れざるが我前に戦慄さるが我は沙を置て海の界となしこれを永遠の限界となし踰ることをえざらしむ其浪さかまきいたるも勝ことあたはず澎湃もこれを踰るあたはざる

なり 23 然るにこの民は背き且悖れる心あり既に背きて去れり 24 彼らはまた我儕に雨をあたへて秋の雨と春の雨を時にしたがひて下し我儕のために收穫の時節を定め給へる我神エホバを畏るべしと其心にははざるなり 25 汝等の怨はこれらの事を退け汝等の罪は嘉物を汝らに來らしめざりき 26 我民のうちに惡者あり網を張る者のごとくに身をかがめてうかがひ罟を置て人をとらふ 27 籐籠に鳥の盈るがごとく不義の財彼らの家に充つこの故に彼らは大なる者となり富る者となる 28 彼らは肥て光澤あり其惡き行は甚し彼らは訟をたださず孤の訟を糺さずして利達をえ亦貧者の訴を鞫かず 29 エホバいひ給ふわれかのごときことを罰せざらんや我心は是のごとき民に仇を復さざらんや 30 この地に驚くべき事と憎むべきこと行はる 31 預言者は偽りて預言をなし祭司は彼らの手によりて治め我民は斯る事を愛すされど汝等その終に何をなさんとするや

Chapter 6

1 べニヤミンの子等よエルサレムの中より逃れテコアに菰をふきベテハケレムに合圖の火をあげよそは北より災と大なる敗壞のぞめばなり 2 われ美しき窈窕なるシオンの女を滅さん 3 牧者は其群を牽て此處にきたりその周圍に天幕をはらん群はおのおのその處にて草を食はん 4 汝ら戦端を開きて之を攻べし起よわれら日午にのぼらん嗚呼惜かな日はや長き夕日の影長くなれり 5 起よわれら夜の間にのぼりてその諸の殿舎を毀たらん 6 萬軍のエホバかくいひたまへり汝ら樹をきりエルサレムに向ひて壘を築けこれは罰すべき邑なりその中には唯暴逆のみあり 7 源の水をいだすがごとく彼その惡を流すその中に暴逆と威慮さくゆ我前に憂と傷たえす 8 エルサレムよ汝訓戒をうけよ然らざれば我心汝をはなれ汝を荒蕪となし住む人なき地となさん 9 萬軍のエホバかくいひたまふ彼らは葡萄の遺餘を摘みとらんとくイスラエルの遣れる者を摘とらん汝葡萄を摘取者のごとく屢手を筐に入るべし 10 我たれに語り誰を警めてきかしめんや視よその耳は割禮をうけざるによりて聽えず彼らはエホバの言を嘲りこれを悦ばず 11 エホバの怒わが身に充つわれ忍ぶに倦むこれを衝街にある童子と集れる年少者にと泄すべし夫も婦も老たる者も年邁し者も執へらるるにいたらん 12 その家と田地と妻はともに佗人にわたらん其はわれ手を擧てこの地に住る者を撃ばなりとエホバいひたまふ 13 夫彼らは少さき者より大なる者にいたるまで皆貪婪者なり又預言者より祭司にいたるまで皆詭詐をなす者なればなり 14 かれら淺く我民の女の傷を醫し平康からざる時に平康平康といへり 15 彼らは憎むべき事を爲て恥辱をうくれども毫も恥すまた愧を知らずこの故に彼らは傾仆る者と偕にたふれん我來るとき彼ら蹟かんとエホバいひたまふ 16 エホバかくい

ひたまふ汝ら途に立て見古き徑に就て何か善道なるを尋ねて其途に行めさらば汝らの靈魂安を得ん然ど彼らこたへて我儕はそれに行まじといふ 17 我また汝らの上に守望者をたて菰の聲をきけといへり然ど彼等こたへて我儕は聞じといふ 18 故に萬國の民よきけ會衆よかれらの遇ところを知れ 19 地よきけわれ災をこの民にくださんこは彼らの思の結ぶ果なりかれら我言とわが律法をきかずして之を棄るに由る 20 シバより我許に乳香きたり遠き國より菰蒲きたるは何のためぞやわれは汝らの燔祭をよるこばず汝らの犠牲を甘しとせず 21 故にエホバかくいひたまふみよ我この民の前に蹟礙をおく父と子とそれと蹶き隣人とその友偕に滅ぶべし 22 エホバかくいひたまふみよ民北の國よりきたる大なる民地の極より起る 23 彼らは弓と槍をとる殘忍にして憫なしその聲は海の如く鳴るシオンの女よかれらは馬に乗り軍人のごとく身をよろひて汝を攻めん 24 我儕その風聲をききたれば我儕の手弱り子をうむ婦のごとき苦痛と劬勞われらに迫る 25 汝ら田地に出る勿れまた路に行むなかれ敵の劍と畏怖四方にあればなり 26 我民の女よ麻衣を身にまき灰のうちにまろび獨子を喪ひしごとくに哀みていたく哭けそは毀滅者突然に我らに來るべければなり 27 われ汝を民のうちに立て金を驗る者のごとくなし又城のごとくなすこは汝をしてその途を知しめまた試みしめんためなり 28 彼らは皆いたく悖れる者なり歩てて人を誘る者なり彼らは銅のごとく鐵のごとし皆邪なる者なり 29 鞫は火に焚け鉛はつき匠匠はいたづらに鑄す惡者いまだ除かれざればなり 30 エホバ彼らを棄たまふによりて彼等は棄られたる銀と呼ばれん

Chapter 7

1 エホバよりエレミヤにのぞめる言云ふ 2 汝エホバの室の門にたち其處にてこの言を宣て言へエホバを拜まんとしてこの門にいりしユダのすべての人よエホバの言をきけ 3 萬軍のエホバ、イスラエルの神かくいひ給ふ汝らの途と汝らの行を改めよさらばわれ汝等をこの地に住しめん 4 汝らは是はエホバの殿なりエホバの殿なりエホバの殿なりと云ふ偽の言をたのむ勿れ 5 汝らもし全くその途と行を改めんと人との間を正しく鞫き 6 異邦人と孤兒と寡を虐げず無辜者の血をこの處に流さず他の神に従ひて害をまねかずば 7 我なんぢらを我汝等の先祖にあたへしこの地に永遠より永遠にいたるまで住しむべし 8 みよ汝らは益なき偽の言を頼む 9 汝等は盗み殺し姦淫し妄りて誓ひバアルに香を焚き汝らがしらざる他の神にしたがふなれど 10 我名をもて稱へらるるこの室にきたりて我前に行ふらはこの室の憎むべきことを行とも救はるるなりといふは何にぞや 11 わが名をもて稱へらるる此室は汝らの目には盜賊の巢と見ゆるや我も之をみたりとエホバいひたまふ

12 汝等わが初シロに於て我名を置し處にゆき我がイスラエルの民の惡のために其處になせしところのことをみよ 13 エホバひたまふ今汝ら此等のすべての事をなす又われ汝らに語り頻にかりたりたれども聴かず汝らと呼ばれども答へざりき 14 この故に我シロになせしごとく我名をもて稱へらるる此室になさんすなはち汝等が頼むところ我汝らと汝らの先祖にあたへし此處になすべし 15 またわれ汝等のすべての兄弟すなはちエフライムのすべての裔を棄てしごとく我前より汝らをも棄つべし 16 故に汝この民のために祈る勿れ彼らの爲に歎くなかれ求むるなかれ又我にとりなしをなす勿れわれ汝にきかじ 17 汝かれらがユダの邑とエルサレムの街になすところを見ざるか 18 諸子は薪を拾め父は火を燃き婦は麵を搏ねパンをつくりて之を天后にそなふ又かれら他の神の前に酒をそそぎて我を怒らす 19 エホバひたまふ彼ら我を怒らすか是れおのが面を辱むにあらずや 20 是故に主エホバかくいひたまふ視よわが震怒とわが憤怒はこの處と人と獸と野の樹および地の果にそそぐ且燃て滅ざるべし 21 萬軍のエホバ、イスラエルの神かくいひたまふ汝らの犠牲に燔祭の物をあはせて肉をくらへ 22 そはわれ汝等の先祖をエジプトより導きいだせし日に燔祭と犠牲とに就てかりしことなく又命ぜしことなし 23 惟われこの事を彼等に命じ汝ら我聲を聴ばわれ汝らの神となり汝ら我民とならん且わが汝らに命ぜしすべての道を行みて福祉をうべしといへり 24 されど彼らはきかず其耳を傾けずおのれの惡き心の謀と剛愎なるとして其ながひて行みまた後を我にむけて其面を向けざりき 25 汝らの先祖がエジプトの地をいでし日より今日にいたるまでわれ我僕なる預言者を汝らにつかはし日々晨より之をつかはせり 26 されど彼らは我にきかず耳を傾けずして其項を強くしその列祖よりも愈て惡をなすなり 27 汝汝らに此等のすべてのことばを語るとも汝にきかずかれらと呼ばぶとも汝にこたへざるべし 28 汝かく彼らに語れこれは其神エホバの聲を聴ずその訓を受ざる民なり眞實はうせてその口に絶たり 29 (シオンの女よ)汝の髪を剃りてこれを棄て山の上に哀哭の聲をあげよエホバその怒るところの世の人をすててこれを離れたまへばなり 30 エホバひたまふユダの民は我前に惡を行へり即ちその憎むべき者を我名をもて稱へらるる室に置いてこれを汚せり 31 又ベンヒノムの谷に於てトベテの崇邱を築きてその子女を火に焚かんせり我これを命ぜずまた斯ることを思はざりし 32 エホバひたまふ然ば視よ此處をトベテまたはベンヒノムの谷と稱へずして殺戮の谷と稱ふる日きたらん其は葬るべき地所なきまでにトベテに葬るべければなり 33 この民の屍は天空の鳥と地の獸の食物とならんこれを逐ふものなかるべし 34 そのわれユダの邑とエルサレムの街に欣喜の聲 歡樂の聲 新婦の聲新婦の聲なからしむべしこ

の地荒蕪ればなり

Chapter 8

1 エホバひたまふその時人ユダの王等の骨とその牧伯等の骨と祭司の骨と預言者の骨とエルサレムの民の骨をその墓よりほりいだし 2 彼等の愛し奉へ従ひ求め且祭れるところの日と月と天の衆群の前にこれを曝すべし其骨はあつむる者なく葬る者なくして糞土のごとくに地の面にあらん 3 この惡き民の中のこのれる餘遺の者すべてわが逐やりしところに遣れる者皆生るよりも死ぬることを願ふと萬軍のエホバ云たまふ 4 汝また彼らにエホバかくいふと語るべし人もし休れば起きかへるにあらずやもし離れば歸り來るにあらずや 5 何故にエルサレムにをる此民は恒にわれを離れて歸らざるや彼らは詐偽をかたく執て歸ることを否認り 6 われ耳を側て聽に彼らは善ことを云ず一人もその惡を悔いてわがなせし事は何ぞやといふ者なし彼らはみな戰場に馳入る馬のごとくにその途に歸るなり 7 天空の鶴はその定期を知り斑鳩と燕と鷹はそのきたる時を守るされど我民はエホバの律法をしらざるなり 8 汝いかで我ら智慧ありわれらにはエホバの律法ありといふことをえんや視よまことに書記の偽の筆之を偽とせり 9 智慧ある者は辱しめられまたあわてて執へらる視よ彼等エホバの言を棄たり彼ら何の智慧あらんや 10 故にわれその妻を他人にあたへ其田圃を他人に嗣しめたる彼らは小さき者より大なる者にいたるまで皆貪婪者また預言者より祭司にいたるまで皆詭詐をなす者なればなり 11 彼ら我民の女の傷を淺く醫し平康からざる時に平康平康といへり 12 彼ら憎むべき事をなして恥辱する然れど毫も恥すまた恥を知らずこの故に彼らは仆る者と偕に仆れんわが彼らを罰するときかれら踏くべしとエホバひたまふ 13 エホバひたまふ我彼らをことごとく滅さん葡萄の樹に葡萄なく無花果の樹に無花果なしその葉も枯れたり故にわれ穢滅者を彼らにつかはす 14 我ら何ぞ此にとどまるやあつまれよ我ら堅き城邑にゆきて其處に滅ん我儕エホバに罪を犯せしによりて我らの神エホバ我らを滅し毒なる水を飲せたまへばなり 15 われら平康を望めども善こと來らず慰めらるる時を望むにかへつて恐懼きたる 16 その馬の嘶はダンよりきこえこの地みなその強き馬の聲によりて震ふ彼らきたりて此地とその上にある者および邑とその中に住る者を食べ 17 視よわれ呪詛のきかざる蛇蠍を汝らのうちに遣はさん是汝らを噛べしとエホバひたまふ 18 嗚呼われ憂ふいかにして慰藉をえんや我衷の心悩む 19 みよ遠き國より我民の女の聲ありていふエホバはシオンに在ざるか其王はその中に在ざるかと(エホバひたまふ)彼らは何故にその偶像と異邦の虚き物をもて我を怒らせしやと 20 收穫の時は過ぎ夏もはや畢りぬされど我らはいまだ救はれず 21 我民

の女の傷によりて我も傷み且悲しむ恐懼我に迫れり 22 ギリアデに乳香あるにあらずや彼處に醫者あるにあらずやいかにして我民の女はいやされざるや

Chapter 9

1 ああ我わが首を水となし我目を涙の泉となすことをえんものを我民の女の殺されたる者の爲に晝夜哭かん 2 嗚呼われ曠野に旅人の寓所をえんものを我民を離れてさりゆかん彼らはみな姦淫するもの悖れる者の族なればなり 3 彼らは弓を擲くがごとく其舌をもて偽をいだす彼らは此地において眞實のために強からず惡より惡にすすみまた我を知らざるなりとエホバひたまふ 4 汝らおのおの其隣に心せよ何の兄弟をも信する勿れ兄弟はみな欺きをなし隣はみな譏りまはればなり 5 彼らはおのおの其隣を欺きかつ眞實をいはず其舌に詭をかたることを教へ惡をなすに勞る 6 汝の住居は詭譎の中にあり彼らは詭譎のために我を識ことをいなめり 7 エホバひたまふ 7 故に萬軍のエホバかくいひたまふ 7 故に我かれらを箝し試むべしわれ我民の女の事を如何になすべきや 8 彼らの舌は殺す矢のごとしかれら詭をいふまた其口をもて隣におだやかにかたれども其心の中に害をはかるなり 9 エホバひたまふ我これらの事のために彼らを罰せざらんや我心はかくのごとき民に仇を復さざらんや 10 われ山のために泣き咩ひ野の牧場のために悲むこれらは焚れて過る人なしましたここに牛羊の聲をきかず天空の鳥も獸も皆逃てさりぬ 11 われエルサレムを邱墟とし山犬の巢となさんまたユダの諸の邑々を荒して住む人なからしめん 12 智慧ありてこの事を曉る人は誰ぞやエホバの口の言を受けてこれを示ん野の者は誰ぞやこの地滅されまた野のごとく焚れて過る者なきにいたりしは何故ぞ 13 エホバひたまふ是彼ら我その前に立しところの律法をすて我聲をきかず之に従はざるによりてなり 14 彼らはその心の剛愎なるとその列祖たちがおのれに教へしアラルとに従へり 15 この故に萬軍のエホバ、イスラエルの神かくいひたまふ視よわれ彼等すなはち斯民に箇陳を食はせ毒なる水を飲せ 16 彼らもその先祖たちもしらざりし滅し國のうちに彼らを散したるを我の目に涙を散しまた彼らを滅し盡すまで其後に劍をつかはさん 17 萬軍のエホバかくいひたまふ汝らよく考へ哭婦をよびきたれ又人を遣して智き婦をまねけよ 18 彼らは速にきたりて我儕のために我哀しみ我儕の目に涙をこぼさせ我儕の目蓋より水を溢れしめん 19 シオンより哀の聲きこゆ云く嗚呼われら滅され我ら痛く辱めらる我らは其地を去り彼らはわが住家を毀ちたり 20 婦たちよエホバの言をきけ汝らの耳に其口の言をいれよ汝らの女に哭ことを教へおのおのその隣に哀の歌を教ふべし 21 そは死のぼりてわれらの窓よりいり我らの殿舎に入り外にある諸子を絶し街にある壯年を殺さ

んとすればなり 22 エホバかくいへりと汝云ふべし人の屍は糞土のごとく田野に墮ちんまた收穫者のうしろに残りて斂めずにある把のごとくならんと 23 エホバかくいひたまふ智慧ある者はその智慧に誇る勿れ力ある者は其力に誇るなかれ富者はその富に誇ること勿れ 24 誇る者はこれをもて誇るべし即ち明哲して我を識る事とわがエホバにして地に仁恵と公道と公義とを行ふ者なるを知る事是なり我これを悦ぶなりとエホバひたまふ 25 *** POSSIBLE ERROR IN BIBLE, TEXT MISSING HERE ***

Chapter 10

1 イスラエルの家よエホバの汝らに語たまふ言をきけ 2 エホバかくいひたまふ汝ら異邦人の途に效ふ勿れ異邦人は天にあらはるる徴を懼るるとも汝らはこれを懼るる勿れ 3 異國人の風俗はむなしその崇むる者は林より斫たる木にして木匠の手に斧をもて作りし者なり 4 彼らは銀と金をもてこれを飾り釘と鍍をもて之を堅めて搖動かざらしむ 5 こは圓き柱のごとくにして言はずまた歩むこと能はざるによりて人にたづさへらる是は災害をくだし亦は福祉をくだすの權なきによりて汝らこれを畏るる勿れ 6 エホバよ汝に比ぶべき者なし汝は大なり汝の名は其權威のために大なり 7 汝萬國の王たる者よ誰か汝を畏れざるべきや汝を畏るるは當然なりそは萬國のすべての博士たちのうちにもその諸國のうちにも汝に比ぶべき者なければなり 8 彼らはみな獸のごとくまた痴愚なり虚しき者の教は惟木のみ 9 タルシシより携へ來し銀箔ウバズより携へ來し金は鍛冶と鑄匠の作りし物なり青と紫をその衣となす是はすべて巧みな細工人の工作なり 10 エホバは眞の神なり彼は活る神なり永遠の王なり其怒によりて地は震ふ萬國はその憤怒にあたること能はず 11 汝等かく彼らにいふべし天地を造らざりし諸神は地のよりこの天の下より失さざらんと 12 エホバはその能をもて地をつくり其智慧をもて世界を建ててその明哲をもて天を舒べたまへり 13 かれ聲をいだせば天に衆の水ありかれ雲を地の極よりいだし電と雨をおこし風をその府庫よりいだし 14 すべての人は獸の如くにして智なしすべての鑄匠はその作りし像のために辱をとる其鑄るところの像は偽物にしてその中に靈魂なければなり 15 是らは虚き者にして迷妄の工作なりその罰せらるる是のごとくならず彼は萬物の造化主なりイスラエルはその産業の杖なりその名は萬軍のエホバといふなり 17 圍の中に坐する者よ汝の包を地より取りあげよ 18 エホバかくいひたまふみよ我らの地にすめる者を此處擲らん且かれをせめなやまして擲られしむべし 19 われ毀傷をうく嗚呼われは禍なるかな我傷は重し我いふこれまことにわが患難なりわれ之を忍べし 20 わが幕屋はやぶ

れわが繩索は悉く断れ我衆子は我をすてゆきて居ずなりぬ幕屋を張る者なくわが幃をかくる者なし 21 牧者は愚にしてエホバを求めず故に利達ずその群はみな散れり 22 きけよ風聲あり北の國より大なる騒ぎたるはユダの諸邑を荒して山犬の巢となさん 23 エホバよわれ知る人の途は自己によらず且歩む人は自らその步履を定むること能はざるなり 24 エホバよ我を懲したまへ但道にしたがひ怒らざして懲したまへおそろくは我無に歸せん 25 汝を知ざる國人と汝の名を誦ざる族に汝の怒を罰ぎたまへ彼らはヤコブを噬ひ之をくらふて滅しその牧場を荒したればなり

Chapter 11

1 エホバよりエレミヤにのぞめる言いふ 2 汝らこの契約の言をききユダの人とエルサレムにすめる者に告よ 3 汝がれらに語れイスラエルの神エホバかくいひたまふこの契約の言に遵はざる人は罰はる 4 この契約はわが汝らの先祖をエジプトの地獄の爐の中より導き出せし日にかれらに命ぜしものなり即ち我いひけらく汝ら我言をきき我汝らに命ぜし諸の事に従ひて行はば汝らは我民となり我は汝らの神とならん 5 われ汝らの先祖に乳と蜜の流るる地を與へんと誓ひしことを成就んと即ち今日のごとしその時我こたへてアメン、エホバといへり 6 またエホバ我にいひたまひけるは汝すべて此等の言をユダの諸邑とエルサレムの衢にしめし汝ら此契約の言をききてこれを行へといふべし 7 われ汝らの列祖をエジプトの地より導き出せし日より今日にいたるまで切に彼らを戒め頻に戒めて汝ら我言に遵へといへり 8 然ど彼らは遵はずその耳を傾けずおのおの其惡き心の剛愎なるにしたがひて歩めり故にわれ此契約の言を彼等にきたらす是はわがかれらに之を行へと命ぜしかども彼等がおこなはざりし者なり 9 またエホバ我にいひたまひけるはユダの人々とエルサレムに住る者の中に叛逆の事あり 10 彼らは我言をきくことを好まざりしところのその先祖の罪にかへり亦他の神に従ひて之に奉へたりイスラエルの家とユダの家はわがその列祖たちと締たる契約をやぶれり 11 この故にエホバかくいひ給ふみよわれ災禍をかかれにくださん彼らこれを免がることをえざるべし彼ら我をよぶとも我聽じ 12 ユダの邑とエルサレムに住る者はゆきてその香を焚し神を顧んされど是等はその災禍の時に絶てかれらを救ふことあるじ 13 ユダよ汝らの神の数は汝の邑の数のごとし且汝らエルサレムの衢の敷にしたがひて馳べき者に壇をたてたり即ちバアルに香を焚んとて壇をたつ 14 故に汝この民の爲に祈る勿れ又その爲に泣きあるひは求める勿れ彼らがその災禍のために我を呼ときわれ彼らに聽さるべし 15 わが愛する者は我室にて何をなすや惡き謀をなすや願と聖き肉汝に災を脱れしむるやもしならば汝よるごべし 16 エホバ汝の名

を嘉果ある美しき青橄欖の樹と稱たまひしがおほいなる喧嚷の聲をもて之に火をかけ且その枝を折りたまふ 17 汝を植し萬軍のエホバ汝の災をさだめ給へりこれイスラエルの家とユダの家みづから害ぶの惡をなしたるによるなり即ちバアルに香を焚きてわれを怒らせたり 18 エホバ我に知せたまひければ我これを知るその時汝彼らの作爲を我にしめしたまへり 19 我は牽れて幸られにゆく羔の如く彼らが我をそこなはんとて謀をなすを知らず彼らにいふいざ我ら樹とその果とを共に滅さんかれを生る者の地より絶てその名を人に忘れしむべしと 20 躰き鞣をなし人の心腸を察りたまふ萬軍のエホバよ我わが訴を汝にのべたればわれをして汝が彼らに仇を報すを見せしめたまへ 21 是をもてエホバ、アナトテの人々につきてかくいひたまふ彼等汝の生命を取んと索めて言ふ汝エホバの名をもて預言する勿れ恐らくは汝我らの手に死んと 22 故に萬軍のエホバかくいひ給ふみよ我がれらに罰すべし壯丁は劍に死にその子女は饑饉にて死なん 23 餘る者なかるべし我災をアナトテの人々にきたらしめわが彼らを罰するの年をきたらしめん

Chapter 12

1 エホバよわが汝と争ふ時に汝は義し惟われ鞣の事につきて汝と言ん惡人の途のさかえ悖れる者のみな福なるは何故ぞや 2 汝がれらに植たり彼らは根つき成長て實を結べりその口は汝に近けどもその心は汝に遠ざかる 3 エホバ汝の汝を知り我を見るまたわが心の汝にむかひて何をなすを試みたまふ羊を宰りに牽いだがごとく彼らを牽いだし殺す日の爲にかれらをそなへたまへ 4 いつまでこの地は哭きすべての畑の蔬菜は枯るべけんやこの地に住る者の惡によりて畜獸と鳥は滅さる彼らといふ彼は我らの終をみざるべしと 5 汝もし歩行者とともに趨つかれなばいかで騎馬者と競はんや汝平安なる地を待まばいかでヨルダンの傍の叢に居ることをえんや 6 汝の兄弟と汝の父の家も汝を欺きまた大言をあげて汝を追ふかれらしたしく汝に語るともこれを信ずる勿れ 7 われ我家を離れわが産業をすて我靈魂の愛するところの者をその敵の手にわたせり 8 わが産業は林の獅子のごとし我にむかひて其聲を揚ぐ故にわれ之を怒めり 9 我産業は我におけること班駁ある鳥のごとくならずや鳥之を圍むにあらざるや野のすべての獸きたりあつまれ来てこれを食へ 10 衆の牧者わが葡萄園をほろぼしわが地を踐踏しわがうらはしき地を荒野となせり 11 彼らこれを荒地となせりその荒地我にむかひて哭くなり一人もかへりみる者なければこの全地は荒たり 12 毀滅者は野のすべての董山のうへに來りエホバの劍地のこの極よりかの極までを滅ぼすすべて血氣ある者は安をえず 13 彼らは麥を播て荆棘をかる勞れども得るところなし汝らはその作物のために恥るにいたらん是

エホバの烈き怒りによりてなり 14 わがイスラエルの民に嗣しむる産業をせむるところのすべてのわが惡き隣にむかひてエホバかくいふみよわれ彼等をその地より拔出したまふユダの家を彼らの中より拔出すべし 15 われ彼らを拔出せしちまた彼らを恤みておのおのを其産業にかへし各人をその地に歸らしめん 16 彼等もし我民の道をまなび我名をさしてエホバは活くと誓ふこと嘗て我民を教へてバアルを指て誓はしめし如くせば彼らはわが民の中に建らるべし 17 されど彼らもし聽かざれば我かならずかかる民を全く拔出して滅すべしとエホバいひたまふ

Chapter 13

1 エホバかくいひたまへり汝ゆきて麻の帯をかひ汝の腰にむすべ水に入る勿れ 2 われすなはちエホバの言に遵ひ帯をかひてわが腰にむすべり 3 エホバの言ふたび我にのぞみて云ふ 4 汝が買て腰にむすべる帯を取り起てユフラテにゆき彼處にてこれを磐の穴にかくせと 5 ここに於てわれエホバの命じたまひし如く往てこれをユフラテの涯にかくせり 6 おほくの日を経しちエホバ我にいひたまひけるは起てユフラテにゆきわが汝に命じて彼處にかくさしめし帯を取れと 7 われすなはちユフラテにゆき帯を我隠せしところより掘取りしにその帯は朽て用ふるにたへず 8 またエホバの言われにのぞみて云ふ 9 エホバかくいふ我かくの如くユダの驕傲とエルサレムの大なる驕傲をやぶらん 10 この惡き民はわが言を聽くことをこぼみ己の心の剛愎なるにしたがひて行み且他の神に従ひてこれにつかへ之を拜す彼等は此帯の用ふるにたへざるが如くなるべし 11 エホバいふ帯の人の腰に附がごとくわれイスラエルの家を我に附しめ之を我民となし名となし譽となし榮となさんとせり然るに彼等はきかざりき 12 故に汝この言を彼らに語るべしイスラエルの神エホバかくいふ酒壺には皆酒盈つと彼汝にこたへていはん我儕皆酒壺に酒の盈ることを知ざらんやと 13 其時汝がれらにいふべしエホバかくいふみよわれ此地に住るすべての者とダビデの位に坐する王等と祭司と預言者およびエルサレムに住るすべての者に酔を盈せ 14 彼らを此と彼と打あはせて碎かん父と子をも然すべしわれ彼らを恤まず惜まず憐まずして滅さん 15 汝らきけ耳を傾けよ驕る勿れエホバかたりたまふなり 16 汝らの神エホバに其いまだ暗を起したまはざる先汝らの足のくらき山に躓かざる先に榮光を飯すべし汝ら光明を望まんにエホバ之を死の蔭に變へ之を昏黒となしたまふにいたらん 17 汝ら若これを聽ずば我靈魂は汝らの驕を隱るところに悲まんとエホバの群の掠めらるるによめて我目いたく泣て涙をながすべし 18 なんぢ王と太后につげよ汝ら自ら謙りて坐せそはなんぢらの美しき冕汝らの首より落べければなり 1

9 南の諸邑は閉てこれを啓く人なしユダは皆擄移され盡くたらへ移さる 20 汝ら目を擧げて北より來る者を見よ汝らが賜はりし群汝のうらはしき群はいづこにあるや 21 かれ汝の親み馴たる者を汝の上にてたてて首領となさんとき汝何のいふべきことあらんや汝の痛は子をうむ婦のごとくならざらんや 22 汝心のうちに何故にこの事我にきたるやといふか汝の罪の重によりて汝の裾は掲げられなんぢの踵はあらはさるるなり 23 エトピア人その膚をかへうるか豹その斑駁をかへうるか若これを爲しえば惡に慣たる汝らも善をなし得べし 24 故にわれ彼らを散して野の風に吹散さるる皮壳のごとくせん 25 エホバいひたまふこは汝の得べき分わが量て汝にあたふる産業なり汝我をわすれて虚假を依頼ばなり 26 故にわれ汝の前の裳を剥ぎて汝の羞恥をあらはさん 27 われ汝の姦淫と汝の嘶と汝が岡のうへと野にせし汝の亂淫の罪と汝の憎むべき行をみたり 28 エルサレムよ汝は禍なるかな汝の潔くせらるるには尚いくばくの時を経べきや

Chapter 14

1 乾旱の事につきてエレミヤにのぞみしエホバの言は左のごとし 2 ユダは悲むその門は傾き地にたふれて哭くエルサレムの吶は上る 3 その侯伯等は僕をつかはして水を汲しむ彼ら井にいたれども水を見ず空き器をもちて歸り恥かつ憂へてその首をおほふ 4 地に雨ふらずして土燥裂たるにより農夫は恥て首を掩ふ 5 また野にある鷹は子をうみて之を棄つ草なければなり 6 野の驢馬は董山のうへにたちて山犬のごとく喘ぎ草なきによりて目眩む 7 エホバよ我儕の罪われらを訟へて證をなすと願くは汝の名の爲に事をなし給へ我儕の違背はおほいなり我儕汝に罪を犯したり 8 イスラエルの企望なる者その艱るときに救ひたまふ者よ汝いかなれば此地に於て他邦人のごとく一夜寄宿の旅客のごとくしたまふや 9 汝いかなれば呆てをる人のごとくし汝をなすこと能はざる勇士のごとくしたまふやエホバよ汝は我らの間にいます我儕は汝の名をもて稱へらるる者なり我らを棄たまふ勿れ 10 エホバこの民にかくいひたまへり彼らかく好んでさまよひ其足を禁めざればエホバ彼らを悦ばずいままの窓をおぼえ其罪を罰すべし 11 エホバまた我にいひたまひけるは汝この民のために恩をいのる勿れ 12 彼ら斷食すると我その呼籲をきかず燔祭と素祭を献るとも我これを用はず却てわれ劍と饑饉と疫病をもて彼らを滅すべし 13 われいひけるは嗚呼主エホバよみよ預言者たちはこの民にむかひ汝ら劍を見ざるべし饑饉は汝らにきたらじわれ此處に鞏固なる平安を汝らにあたへんといへり 14 エホバ我にいひたまひけるは預言者等は我名をもて詭を預言せりわれ之を遣さず之に命ぜずまた之にいはず彼らは虚誕の默示と卜筮と虚きことと己の

心の詐を汝らに預言せり 15 この故にかの吾が遣さざるに我名をもて預言して剣と饑饉はこの地にきたらじといへる預言者等につきてエホバかくいふこの預言者等は剣と饑饉に滅さるべし 16 また彼等の預言をうけし民は饑饉と剣によりてエルサレムの街に擲棄られんこれを葬る者なかるべし彼等とその妻および其子その女みな然りそはわれ彼らの惡をその上に罰げばなり 17 汝この言を彼らに語るべしわが目は汝も書もたえず涙を流さんそは我民の童女大なる滅と重き傷によりて亡さるればなり 18 われ出て畑にゆくに剣に死者あり我邑に在るに饑饉に難むものあり預言者も祭司もみなその地にさまよひて知ところなし 19 汝はユダを悉くすてたまふや汝の心はシオンをきらふや汝いかなれば我儕を撃て愈しめざるか我ら平安を望めども善ことあらず又醫さる時を望むに却て驚懼あり 20 エホバよ我らはおのれの惡と先祖の愆を知るわれら汝に罪を犯したり 21 汝の名のために我らを棄たまふ勿れ汝の榮の位を辱めたまふ勿れ汝のわれらに立し契約をおぼえて毀りたまふなかれ 22 異邦の虚き物の中に雨を降せうものあるや天みづから白雨をくだすえんや我らの神エホバ汝これを書したまふにあらざるや我ら汝を望むそは汝すべて此等を悉く作りたまひたればなり

Chapter 15

1 エホバ我にいひたまひけるはたとひモーセとサムエルわが前にたつとも我こころは斯民を顧ざるべしかれら我前より逐ひていでざらしめよ 2 彼らもし汝にわれら何處にいでざらんやといはば汝彼らにエホバかくいへりといへ死に定められたる者は死にいたり剣に定められたる者は剣にいたり饑饉に定められたる者は饑饉にいたり虜に定められたる者は虜にいたるべしと 3 エホバ云たまひけるはわれ四の物をもて彼らを罰せんすなはち剣をもて戮し犬をもて噬せ天空の鳥および地の獸をもて食ひ滅さしめん 4 またユダの王ヒゼキヤの子マナセがエルサレムになせし事によりわれ彼らをして地のすべての國に艱難をうけしめん 5 エルサレムよ誰か汝を憐まんたれか汝のために嘆かん誰かちかづきて汝の安否を問はん 6 エホバいひたまふ汝われをすてたり汝退けり故にわれ手を汝のうへに伸て汝を滅さんわれ憫に倦り 7 われ風扇をもて我民をこの地の門に煽がんかれら其途を離れざるによりて我その子を絶ち彼らを滅すべし 8 彼女の寡婦はわが前に海濱の沙よりも多し晝われほろぼす者を携へきたりて彼らと壯者の母とをせめ驚駭と恐懼を突然にかれの上におこさん 9 七人の子をうみし婦は衰へて氣たえ尚書なるにその日は早く没る彼は辱められて面をあかめん其餘れる者はわれ之をその敵の剣に付さんとエホバいひたまふ 10 嗚呼われは禍なるかな我母よ汝なに故に我を生しや全國の人我と争ひ我を攻むわれ

人に貸さず人また我に貸さず皆我を詛ふなり 11 エホバいひたまひけるは我實に汝に益をえせしめんために汝を惱す我まことに敵をして其艱の時と災の時に汝に求むることをなさしめん 12 鐵いかに北の鐵と銅を碎かんや 13 われ汝の資産と汝の資財を擄掠物とならしめ價をうるることなからしめん是汝のすべての罪によるなりすべて汝の境のうちにかなさ 14 われ汝の敵をして汝を汝の識ざる地にとらへ移さしめん夫我怒によりて火燃え汝を焚んとするなり 15 エホバよ汝これを知りたまふ我を憶え我をかへりみたまへ我を迫害するものに仇を復したまへ汝の容忍によりて我をとらへられしむる勿れ我汝の爲に辱を受るを知りたまへ 16 われ汝の言を得て之を食へり汝の言はわが心の欣喜快樂なり萬軍の神エホバよわれは汝の名をもて稱へらるるなり 17 われ嬉笑者の會に坐せずまた喜ばずわれ汝の手にによりて獨り坐す汝憤怒をもて我前に立しめん汝もし賤をすてて貴をいださば我口のごとくならん彼らは汝に歸らんされど汝は彼らにかへる勿れ 20 われ汝をこの民の前に堅き銅の牆となさんかれら汝を攻るとも汝にかたざるべしそはわれ汝と偕にありて汝をたすけ汝を救へばなりとエホバいひたまへり 21 我汝を惡人の手より救ひとり汝を怖るべき者の手より放つべし

Chapter 16

1 エホバの言また我にのぞみていふ 2 汝この處にて妻を娶るなかれ子女を得るなかれ 3 此處に生る子女この地に之を生む母と之を生む父にと就てエホバかくいひたまふ 4 彼らは惨しき病に死し哀まれず葬られずして糞土のごとくに田地の面にあらんまた剣と饑饉に滅されて其屍は天空の鳥と地の獸の食物とならん 5 エホバかくいひたまへり喪ある家にいる勿れまた往て之を哀み嗟く勿れそはわれ我平安と恩寵と矜恤をこの民より取ばなりとエホバいひたまへり 6 大なる者も小さき者もこの地に死べし彼らは葬られずまた彼らのために哀む者なく自ら傷くる者なく髪をそる者なかるべし 7 またその哀むときパンをさきて其死者のために之を慰むるものなく又父あるひは母のために慰藉の杯を彼らに飲しむる者なかるべし 8 汝また筵宴の家にいりて偕に坐して食飲する勿れ 9 萬軍のエホバ、イスラエルの神かくいひたまふ視よ汝の目の前汝の世に在るときにわれ欣喜の聲と歡樂の聲と新娶者の聲と新婦の聲とを此處に絶しめん 10 汝このすべての言を斯民に告るとき彼ら汝に問ふてエホバわれらを責てこの大なる災を示したまふは何故

ぞやまたわれらに何の惡事あるやわが神エホバに背きてわれらのなせし罪は何ぞやといはば 11 汝かれらに答ふべしエホバいひたまふ是汝らの先祖われを棄て他の神に従ひこれに奉へこれを拜した我をすてわが律法を守らざりしによる 12 汝らは汝らの先祖よりも多く惡をなせりみよ汝らはおのの自己の惡き心の剛愎なるにしたがひて我にきかず 13 故にわれ汝らを此の地より逐ひて汝らと汝らの先祖の識ざる地にいたらしめん汝らかしこにて晝夜ほかの神に奉へん是わが汝らを憐まざるによるなりと 14 エホバいひたまふ然ばみよ此後イスラエルの民をエジプトの地より導きいだせしエホバは活くといふことなきて 15 イスラエルの民を北の地とそすて逐やられし地より導出せしエホバは活くといふ日きたらん我かれらを我その先祖に與へしかれらの地に導きかへるべし 16 エホバいひたまふみよ我おほくの漁者をよび來りて彼らを漁らせまたその後おほくの獵者を呼來りて彼らを諸の山もろもろの岡および岩の穴より獵いださしめん 17 我目はかれらの諸の途を鑿る皆我にかくるところなし又その惡は我目に匿れざるなり 18 われまづ倍して其惡とその罪に報いんそは彼らその汚れたる者の屍をもて我地を汚しその惡むべきものをもて我産業に充せばなり 19 エホバ我の力我の城難の時の逃場よ萬國の民は地の極より汝にきたりわれらの先祖の嗣ところの者は惟諛と虚浮事と益なき物のみなりといはん 20 人豈神にあらざる者をおのれの神となすべけんや 21 故にみよわれ此度かれらに知らしむるところあらん即ち我手と我能をかれらに知らしめん彼らは我名のエホバなるを知るべし

Chapter 17

1 ユダの罪は鐵の筆金剛石の尖をもてしるされその心の碑と汝らの祭壇の角に鑿らるるなり 2 彼らはその子女をおもふが如くに青木の下と高岡のうへなるその祭壇とアシラをおもふ 3 われ野に在る我山と汝の資産と汝のもろもろの財産および汝の四方の境の内なる汝の罪を犯せる崇邱を擄掠物とならしめん 4 わが汝にあたへし産業より汝手をはなさん又われ汝をして汝の識ざる地に於て汝の敵につかへしめんそは汝我をいからせて限なく燃る火を發したればなり 5 エホバかくいひたまふおほよそ人を恃み肉をその臂とし心にエホバを棄る人は詛るべし 6 彼は荒野に離られたる者のごとくならん彼は善事のきたるをみず荒野の燥きたる處躡あるところ人の住ざる地に居らん 7 おほよそエホバをたのみエホバを其恃とする人は福なり 8 彼は水の旁に植たる樹の如くならん其根を河にのべ炎熱きたるも恐るるところなしその葉は青く亢旱の年にも憂へずして絶ず果を結ぶべし 9 心は萬物よりも偽る者にして甚だ惡し誰かこれを知るをえんや 10 われエホバは心

腹を察り腎腸を試みおのおのに其途に順ひその行爲の果によりて報ゆべし 11 鷓鴣のおのれの生ざる卵をいだが如く不義をもて財を獲る者あり其人は命の半にてこれに離れその終に愚なる者とならん 12 榮の位よ原始より高き者が聖所たる者 13 イスラエルの望なるエホバよ凡て汝を離るる者は辱められん我を棄る者は土に録されん此はいける水の源なるエホバを離るるによる 14 エホバよ我を醫し給へ然らばわれ愈んわれを救ひたまへさらば我救はれん汝はわが頌るものなり 15 彼ら我にいひエホバの言は何にあるやいま之をのぞましめよと 16 われ牧者の職を退かずして汝にしたがひ又禍の日を願はざりき汝これを知りたまふ我唇よりいづる言は汝の面の前にあり 17 汝我を懼れしむる者となり給ふ勿れ禍の時に汝は我避場なり 18 我を攻る者を辱しめ給へ我を辱しむるなかれ彼らを怖れしめよ我を怖れしめ給ふなかれ禍の日を彼らに來らしめ滅亡を倍して之を滅し給へ 19 エホバ我にかくいひ給へり汝ゆきてユダの王等の出入する民の門及びエルサレムの諸の門に立て 20 彼らにいへ此門より入る所のユダの王等とユダのすべての民とエルサレムに住るすべての者よ汝らエホバの言をきけ 21 エホバかくいひたまふ汝ら自ら慎め安息日に荷をたづさへてエルサレムの門に在る勿れ 22 また安息日に汝らの家より荷を出す勿れ諸の工作をなす勿れ我汝らの先祖に命ぜしごとく安息日を聖くせよ 23 されど彼らは遵はず耳を傾けずまたその項を強くして聽ず訓をうけざるなり 24 エホバいひ給ふ汝らもし謹慎て我にきき安息日に荷をたづさへてこの邑の門にいらざ安息日を聖くして諸の工作をなさずば 25 ダビデの位に坐する王等牧伯たちユダの民エルサレムに住る者車と馬に乗てこの邑の門より入ることをえんまた此邑には限なく人すまはん 26 また人々ユダの邑とエルサレムの四周およびベニヤミンの地と平地と山と南の方よりきたり祭祭 犠牲 素祭 馨香 謝祭を携へてエホバの室にいらん 27 されど汝らもし我に聽ずして安息日を聖くせず安息日に荷をたづさへてエルサレムの門にいらばわれ火をその門の内に燃してエルサレムの殿舎を燬んその火は滅ざるべし

Chapter 18

1 エホバよりエレミヤにのぞめる言いふ 2 汝起て陶人の屋にくだれ我かしこに於てわが言を汝に聞しめんと 3 われすなはち陶人の屋にくだり視るに轆轤をもて物をつくりをりしが 4 その泥をもて造れるところの器陶人の手のうちに傷ねたれば彼その心のままに之をもて別の器をつくれり 5 時にエホバの言我にのぞみていふ 6 エホバいふイスラエルの家よこの陶人のなすが如くわれ汝になすことをえざるかイスラエルの家よ陶人の手に泥のあるごとく汝らはわが手にあ

り7われ急に民あるひは國をぬくべし敗るべし滅すべしといふことあらんに8もし我いひしところの國その惡を離れなば我之に災を降さんとおもひしことを悔ん9我また急に民あるいは國を立べし植べしといふことあらんに10もし其國わが目に惡く見ゆるところの事を行ひわが聲に遵はずば我これに福祉を賜へんといひしことを悔ん11汝いまユダの人々とエルサレムに住る者にいへエホバかくいひて視よ我汝らに災をくださんと思ひめぐらし汝らをはかる計策を設く故に汝らおのおの其惡き途を離れ其途と行をあらためよと12しかるに彼らいふ是は徒然なりわれらは自己の圖維とてころにしたがひ各自の惡き心の剛愎なるを行はんと13この故にエホバかくいひたまふ汝ら異國のうちに問へ斯の如きことを聞し者ありやイスラエルの處女はいと驚くべきことをなせり14レバノンの雪豈野の磐を離れんや遠方より流くる冷なる水豈涸かや15しかるに我民は我をわすれりて虚き物に香を焚り是等の物彼らをその途すなはち古き途に蹶かせまた徑すなはち備なき道に行しめ16その地を荒して恒に人の笑とならしめん凡て其處を過る者は驚きてその首を揺らん17われ東風のごとくに彼らとその敵の前に散さん其滅亡の日にはわれ背を彼らに向て面をむけじ18彼らいふ去來われら計策を設てエレミヤをはからんそれ祭司には律法あり智慧ある者には謀畧あり預言者には言ありて失ざるべし去來われら舌をもて彼を撃ちその諸の言を聽ことをせざらんと19エホバよ我にききたまへ又我と争ふ者の聲をききたまへ20惡をもて善に報ゆべきものならんや彼らわが命をとらん爲に坑を掘りわが汝の前に立て彼ら舌を善く言ひ汝の憤怒を止めんとせしを憶えたまへ21さればかれらの子女を饑饉にあたへ彼らを劍の刃にわたしたまへ其妻は子を失ひ且寡となり其男は死をもて亡されその少者は劍をもて戦に殺されよかし22汝突然に敵をかかれらに臨ませたまふ時號呼をその家の内より聞えしめよそは彼ら坑を掘りて我を執へんとしたまふ機檻を置てわが足を執へんとすればなり23エホバよ汝はかれらが我を殺さんとするすべの謀畧を知りたまふ其惡を赦すことなく其罪を汝の前より抹去りたまふなかれ彼らを汝の前に仆れしめよ汝の怒りたまふ時にかく彼らになしたまへ

Chapter 19

1エホバかくいひたまふ往て陶人の瓦罇をかひ民の長老と祭司の長老の中より數人をともなひて2陶人の門前にあるベンヒンノムの谷にゆき彼處に於てわが汝に告ぐところの言を宣よ3云くユダの王等とエルサレムに住る者よエホバの言をきけ萬軍のエホバ、イスラエルの神かくいひたまふ視よ我災を此處にくだすべし凡そ之をきく者の耳はかならず鳴らん4こは彼ら我を棄てこの處を

瀆し此にて自己とその先祖およびユダの王等の知ざる他の神に香を焚き且辜なきもの血をこの處に盈せばなり5又彼らはバアルの爲に崇邱を築き火をもて己の兒子を焚き燔祭となしてバアルにささげたり此わが命ぜしことにあらず我いひしことにあらず又我心に意はざりし事なり6エホバいひたまふさればみよ此處をトベテまたはベンヒンノムの谷と稱ずして屠戮の谷と稱ふる日きたらん7また我この處に於てユダとエルサレムの謀をむなしうし劍をもて彼らを其敵の前とその生命を索る者の手に仆しまたその屍を天空の鳥と地の獸の食物となし8かつ此邑を荒して人の胡盧とならしめん凡そこを過る者はその諸の災に驚きて笑ふべし9また彼らがその敵とその生命を索る者にとり圍みくるしめらるる時我彼らをして己の子の肉女の肉を食はせん又彼らは互にその友の肉を食ふべし10汝ともに行く人の目の前にてその瓦罇を毀て彼らにいふべし11萬軍のエホバかくいひ給ふ一毀設てば復全うすること能はざる陶人の器を毀つが如くわれ此民とこの邑を毀たんとまた彼らは葬るべき地なきによりてトベテに葬られん12エホバいひ給ふ我この處とこの中に住る者とに斯なし此邑をトベテの如くなすべし13且エルサレムの室とユダの王等の室はトベテの處のごとく汚れん其は彼らすべての室の屋蓋のうへにて天の衆群に香をたき他の神に酒をそそげばなり14エレミヤ、エホバの己を遣はして預言せしめたまひしトベテより歸りきたりエホバの室の庭に立ちすべての民に語りていひけるは15萬軍のエホバ、イスラエルの神かくいひたまふ視よわれ我いひし諸の災をこの邑とその諸の鄉村にくださん彼らその項を強くして我言を聽ざればなり

Chapter 20

1祭司インメルの子エホバの室の宰の長なるバシユル、エレミヤがこの言を預言するをきけり2是に於てバシユル預言者エレミヤを打ちエホバの室にある上のベニヤミンの門の桎梏に繋げり3翌日バシユル、エレミヤを桎梏より釋はなちしにエレミヤ彼にいひけるはエホバ汝の名をバシユルと稱ずしてマゴルミッサビ(驚懼周圍にあり)と稱ひ給ふ4即ちエホバかくいひたまふ視よわれ汝をして汝と汝のすべての友に恐怖をおこさしむる者となさん彼らはその敵の劍に仆れん汝の目はこれを見べし我またユダのすべての民をバビロン王の手に付さん彼は彼らをバビロンに移し劍をもて殺すべし5我またこの邑のすべての貨財とその得たる諸の物とその諸の珍寶とユダの王等のすべての儲蓄を其敵の手に付さん彼らはこれを掠めまた民を擄へてバビロンに移すべし6バシユルよ汝と汝の家にすめる者は悉く擄へ移されん汝はバビロンにいたりて彼處に死にかしこに葬られん汝も汝が偽りて預言せし言を聽し友もみな然らん7

エホバよ汝われを勧めたまひてわれ其勸に従へり汝我をとらへて我に勝給へりわれ日々人の笑となり人皆我を嘲りぬ8われ語り呼はるごとに暴逆殘虐の事をいふエホバの言日々わが身の恥辱となり嘲弄となるなり9是をもて我かかねてエホバの事を宣す又その名をもてかたらじといへり然どエホバのことば我心にありて火のわが骨の中に閉こもりて燃るがごとくなれば忍耐につかれて堪難し10そは我おほくの人の讒をきく驚懼まはりになり訴へよ彼を訴へん我親しき者はみな我蹶くことあらんかと窺ひて互にいふ彼誘はるることあらんしからば我儕彼に勝て仇を報ゆることをえんと11然どエホバは強き勇士のごとくにして我と偕にいます故に我を攻る者は蹶きて勝ことをえずそのなし遂ざるが爲に大なる恥辱を取ん其羞恥は何時迄も忘れざるべし12義人を試み人の心腸を見たまふ萬軍のエホバよ我汝に訴を申たれば我をして汝が彼らに仇を報すを見せしめよ13エホバに歌を誦へよエホバを頌めよそは貧者の生命を惡者の手より救ひ給へばなり14ああ我生れし日は詛はれよ我母のわれを生し日は祝せられざれ15わが父に男子汝に生れしと告て父を大に喜ばせし人は詛はれよ16其人はエホバの憫まずして滅したまひし邑のごとくなれば彼をして朝に號呼をきかめしめ午間に鬨聲をきかめしめよ17彼我を胎のうちに殺さず我母を我の墓となさず常にその胎を大ならしめざりしが故なり18我何なれば胎をいでて艱難と憂患をかうむり恥辱をもて日を送るや

Chapter 21

1ゼデキヤ王マルキヤの子バシユルと祭司マアセヤの子ゼパニヤをエレミヤに遣し2バビロンの王ネブカデネザル我らを攻むれば汝われらの爲にエホバに求めよエホバ恒のごとくそのもろもろの奇なる跡をもて我らを助けバビロンの王を我らより退かしめたまふことあらんと日しむ其時エホバの言エレミヤに臨めり3エレミヤ彼らにこたへけるは汝らゼデキヤにかく語ふべし4イスラエルの神エホバかくいひたまふ視よわれ汝らがこの邑の外にありて汝らを攻め圍むところのバビロン王およびカデルヤ人とたたかひて手に持ところのその武器をかへし之を邑のうちに聚めん5われ手を伸べ臂をつよくし震怒と憤恨と烈き怒をもて汝らをせむべし6我また此邑にすめる人と畜を撃ん皆重き疫病によりて死べし7エホバいひたまふ此後われユダの王ゼデキヤとその諸臣および民此邑に疫病と劍と饑饉をまぬかれて遭れる者をバビロンの王ネブカデネザルの手と其敵の手および凡そその生命を索る者の手に付さんバビロンの王は劍の刃をもて汝らを撃ちかれらを惜まず顧みず恤れまざるべし8汝また此民にエホバかくいふと語るべし視よわれ生命の道と死の道を汝らの前に置く9この邑にとどまる者は劍と

饑饉と疫病に死べしされど汝らを攻め圍むところのカルデヤ人に出降る者はいきん其命はおのれの掠取物となるべし10エホバいひたまふ我この邑に面を向しは福をあたる爲にあらざ禍をあたへんが爲なりこの邑はバビロンの王の手に付されん彼火をもて之を焚くべし11またユダの王の家に告げし汝らエホバの言をきけ12ダビデの家よエホバかくいふ汝朝ごとに義く鞫をなし物を奪はるる人をその暴逆者の手より救へ否ざれば汝らの行の惡によりて我怒火のごとくに發て燃て滅ざるべし13エホバいひたまふ谷と平原の磐とにすめる者よみよ我汝に敵す汝らは誰か降て我儕を攻んや誰かわれらの居處にいらんやといふ14我汝らをその行の果によりて罰せん又其林に火を起し其四周をことごとく焚つくすべしとエホバいひたまふ

Chapter 22

1エホバかくいひたまへり汝ユダの王の室にくだり彼處にこの言をのべていへ2ダビデの位に坐するユダの王よ汝と汝の臣および此門よりいる汝の民エホバの言をきけ3エホバかくいふ汝ら公道と公義を行ひ物を奪はるる人をその暴虐者の手より救ひ異邦人と孤子と廢婦をなやまし虐ぐる勿れまた此處に無辜の血を流す勿れ4汝らもし此言を眞に行はばダビデの位に坐する王とその臣および其民は車と馬に乗てこの室の門にいることをえん5然ど汝らもし此言を聽ずばわれ自己を指して誓ふ此室は荒地となるべしとエホバいひたまふ6エホバ、ユダの王の家につきてかく曰たまふ汝は我におけることギレアデのごとくレバノンの巔のごとし然どわれかならず汝を荒野となし人の住はざる邑となさん7われ彼壊るをまふけて汝を攻めしめん彼ら各人その武器を執り汝のめしき香柏を斫てこれを火に投げれん8多の國の人此邑をすぎ互に語てエホバ何なれば此大なる邑にかく爲せしやといはんに9人こたへて是は彼等其神エホバの契約をすてて他の神を拜し之に奉へしに由りなりといはん10死者の爲に泣くことなくまた之が爲に嗟くこと勿れ擧擗へ移されし者の爲にいたく泣くべし彼は再び歸てその故園を見ざるべければなり11ユダの王ヨシヤの子サルム即ちその父に繼で王となりて遂に此處をいでたる者につきてエホバかくいひたまへり彼は再び此處に歸らじ12彼はその移されし處に死んふたたび此地を見ざるべし13不義をもて其室をつくり不法をもて其樓を造り其隣人を備て何をも與へず其價を拂はざる者は禍なるかな14彼いふ我己の爲に廣厦と涼しき樓をつくり又己の爲に窓を造り香柏をもて之を蔽ひ赤く之を塗んと15汝香柏を争ひもちふるにやて王たるを得るか汝の父は貪欲ざりしやと公義と公道を行て福を得ざりしや16彼は貧者と患難者の訟を理して祥をえたりかく爲すは我を識ことに非ずやとエホバいひ給ふ1

7 然ど汝の目と心は惟貪をなさんとし無辜の血を流さんとし虐遇と暴逆をなさんとするのみ 18 故にエホバ、ユダの王のヨシヤの子エホヤキムにつきてかく曰たまふ衆人は哀しいかな我兄かぬしいかな我姊といひて嗟か又哀しいかな主よ哀しいかな其榮と曰て嗟かじ 19 彼は驢馬を埋るがごとく埋られん即ち曳れてエルサレムの門の外に投棄るべし 20 汝レバノンに登りて呼ばばりバシヤンに汝の聲を揚げアハムより呼ばれ其は汝の愛する者悉く滅されたればなり 21 汝の平康なる時我汝に語しかども汝は我にきかじといへり汝いとけなき時よりわが聲を聴ずこれ汝の故習なり 22 汝の牧者はみな風に呑つくされ汝の愛する者はとらへ移されん其時汝はおのれ諸の惡のために痛く恥べし 23 汝レバノンにすみ巢を香柏につくる者よ汝の劬勞子を産む婦の痛苦のごとくにきたらんととき汝の哀惨はいかにぞや 24 エホバいひたまふ我は活くユダの王エホヤキムの子エコニヤは我右の手の指環なれども我これを抜ん 25 われ汝の生命を索る者の手および汝が其面を畏る者の手すなはちバビロンの王ネブカデネザルの手とカルデア人の手に汝を付さん 26 われ汝と汝を生し母を汝等がうまれざりし地の地に逐やらん汝ら彼處に死べし 27 彼らの靈魂のいたく歸らんことを願ふところの地に彼らは歸ることをえず 28 この人エコニヤは賤しむべき壊れたる器ならんや好ましからざる器具ならんや如何なれば彼と其子孫は逐出されてその識ざる地に投やらるや 29 地よ地よ地よエホバの言をきけ 30 エホバかくいひたまふこの人を子なくして其生命の中に榮えざる人と録せそはその子孫のうちに榮えてダビデの位に坐しユダを治る人かさねてなかるべければなり

Chapter 23

1 エホバいひ給ひけるは嗚呼わが養ふ群を滅し散す牧者は禍なるかな 2 故にイスラエルの神エホバ我民を養ふ牧者につきて斯いふ汝らわが群を散しこれを逐はなちて顧みざりき視よわれ汝らの惡き行によりて汝等に報ゆべしとエホバいひふ 3 われ我群の遺餘たる者をその逐はなちたる諸の地より集め再びこれを其牢に歸さん彼らは子を産て多くなるべし 4 我これを養ふ牧者をその上に立ん彼等はふたたび慄かず懼すまた失じとエホバいひたまふ 5 エホバいひたまひけるは視よわがダビデに一の義き杖を起す日來ん彼王となりて我を治め榮え公道と公義を世に行ふべし 6 其日ユダは救をイスラエルは安に居らん其名はエホバ我儕の義と稱るべし 7 この故にエホバいひ給ふ視よイスラエルの民をエジプトの地より導出せしエホバは活くと人衆復はいはずして 8 イスラエルの家の裔を北の地と其諸て逐やりし地より導出せしエホバは活くといふ日來らん彼らは自己の地に居るべし 9 預言者

輩のために我心はわが衷に壞れわが骨は皆震ふ且エホバとその聖言のためにわれは酔る人のごとく酒に勝る人のごとし 10 この地は姦淫をなすもの盈ち地は呪詛によりて憂へ曠野の岬は枯る彼らの途はあしく其力は正しからず 11 預言者と祭司は偕に邪惡なりわれ我家に於てすら彼等の惡を見たりとエホバいひたまふ 12 故にかれらの途は暗に在る滑なる途の如くならん彼等推れて其途に仆るべし我災をその上にのぞましめん是彼らが刑罰する年なりとエホバいひたまふ 13 われサマリヤの預言者の中に愚昧なる事あるをみたり彼等はバアルに託りて預言し我民イスラエルを惑はせり 14 我エルサレムの預言者の中にも憎むべき事あるを見たり彼等は姦淫をなし詐偽をおこなひ惡人の手を堅くして人をその惡に離れざらしむ彼等みな我にはソドムのごとく其民はゴモラのごとし 15 この故に萬軍のエホバ預言者につきてかくいひたまふ視よわれ茵蔯を之に食はせ毒水をこれに飲せしそは邪惡エルサレムの預言者よりいでて此全地に及べばなり 16 萬軍のエホバかくいひたまふ汝等に預言する預言者の言を聴く勿れ彼等は汝らを欺きエホバの口よりいでざるおのが心の默示を語るなり 17 常に彼らは我を藐忽する者にむかひて汝等平安をえんとエホバいひたまへりといひ又己が心の剛愎なるに循ひて行むところのすべての者に向ひて災汝らに來らしめといへり 18 誰かエホバの議會上に立て其言を見聞せし者あらんや誰か其耳を傾けて我言を聴し者あらんや 19 みよエホバの暴風あり怒と旋轉風いでて惡人の首をうたん 20 エホバの怒はかれがその心の思を行ひてこれを遂げ給ふまでは息じ末の日に汝ら明にこれを曉らん 21 預言者等はわが遣さざるに趨り我告ざるに預言せり 22 彼らもし我議會に立ちしならば我民にわが言をきかして之をその惡き途とその惡き行に離れしめしならん 23 エホバいひ給ふ我はただ近くにおいてのみ神たらんや遠くに於ても神たるにあらずや 24 エホバいひたまふ人我に見られざる様に密かなる處に身を匿し得るかエホバいひたまふ我は天地に充るにあらずや 25 われ我名をもて預言する預言者等がわれ夢を見たりわれ夢を見たりと曰ふをきけり 26 謊を預言する預言者等はいつまで此心をいだくや彼らは其心の詐偽を預言するなり 27 彼らは其先祖がバアルによりて我名を忘れしごとく互に夢をかたりて我民にわが名を忘れしめんと思ふや 28 夢をみし預言者は夢を語るべし我言を受し者は誠實をもて我言を語るべし糠いかで麥に比擬ことをえんやとエホバいひたまふ 29 エホバ言たまはく我言は火のごとくならずや又磐を打砕く槌の如くならずや 30 故に視よわれ我言を相互に竊める預言者の敵となるとエホバいひたまふ 31 視よわれは彼いひたまへり舌をもて語るところの預言者の敵となるとエホバいひたまふ 32 エホバいひたまひけるは視よわれ偽の夢を預言する者の敵となる彼らは

之を語りまたその謊と其誇をもて我民を惑はす我かれらを遣さずかれらに命ぜざるなり故に彼らは斯民に益なしとエホバいひ給ふ 33 この民或は預言者又は祭司汝に問てエホバの重負は何ぞやといはば汝彼等にこたへてエホバの重負は我汝等を棄んとエホバの云たまひし事はなりといふべし 34 エホバの重負といふところの預言者と祭司と民には我その人と其家にこれを降さん 35 汝らはおのおの斯互に言ひその兄弟にいふべしエホバは何と應へたまひしやエホバは何と云たまひしやと 36 汝ら復びエホバの重負といふべからず人の重負となる者は其人の言なるべし汝らは活る神萬軍のエホバなる我らの神の言を枉るなり 37 汝かく預言者にいふべしエホバは何と答へ給ひしやエホバは何といひたまひしやと 38 汝らもしエホバの重負といはばエホバそれにつきてかくいひたまふ我人を汝らに遣して汝等エホバの重負といふべからずといはしむるも汝らはエホバの重負といふ此言をいふによりて 39 われ必ず汝らを忘れ汝らと汝らの先祖にあたへし此邑と汝らとを我前より棄ん 40 且われ永遠の辱と永遠なる忘らることなき恥を汝らにかうむらしめん

Chapter 24

1 バビロンの王ネブカデネザル、ユダの王エホヤキムの子エコニヤおよびユダの牧伯等と木匠と鐵匠をエルサレムよりバビロンに移せしちエホバよりエホバの殿の前に置れたる二筐の無花果を示したまへり 2 その一の筐には始に熟せしがごとき至佳き無花果ありその一の筐にはいと悪くして食ひ得ざるほどなる惡き無花果あり 3 エホバ我にいひ給ひけるはエレミヤよ汝何を見しや我答へけるは無花果なりその佳き無花果はいと佳しその惡きものは至惡くして食ひ得ざるほどに惡し 4 エホバの言また我にのぞみていふ 5 イスラエルの神エホバかくいふ我わが此處よりカルデア人の地に逐ひやりしユダの虜人を此佳き無花果のごとくに顧みて恵まん 6 我彼等に目をかけて之をめぐみ彼らを此地にかへし彼等を建て住さず植て拔じ 7 我彼らに我のエホバなるを識るの心をあたへん彼等我民と一心我彼らの神とならん彼等は一心をもて我に歸るべし 8 エホバかくいひたまへり我ユダの王ゼデキヤとその牧伯等およびエルサレムの人の遣りて此地にをる者ならびにエジプトの地に住る者とを此惡くして食はれざる惡き無花果のごとくに食さん 9 我かれらをして地のもるもろの國に於て虐遇と災害にあはしめん又彼らをしてわが逐やらん諸の處にて辱にあはせ謔となり嘲と詛に遣しめん 10 われ劍と饑饉と疫病をかれらの間におくりて彼らをしてわが彼らとその先祖にあたへし地に絶るにいたらしめん

Chapter 25

1 ユダの王ヨシヤの子エホヤキムの四年バビロンの王ネブカデネザルの元年にユダのすべての民にかかはる言エレミヤにのぞめり 2 預言者エレミヤこの言をユダのすべての民とエルサレムにすめるすべての者に告ていひけるは 3 ユダの王アモンの子ヨシヤの十三年より今日にいたるまで二十三年のあひだエホバの言我にのぞめり我これを汝等に告げ頻にこれを語りしかども汝らきかざりし 4 エホバその僕なる預言者を汝らに遣し頻に遣したまひけれども汝らはきかず又きかんとて耳を傾けざりき 5 彼らいへり汝等おのおのいま其惡き途とその惡き行を棄よればエホバが汝らと汝らの先祖に與へたまひし地に永遠より永遠にいたるまで住ことをえん 6 汝ら他の神に従ひこれに事へこれを拜み汝らの手にて作りし物をもて我を怒らす勿れ然ば我汝らを書はじ 7 然ど汝らは我にきかず汝等の手にて作りし物をもて我を怒らて自ら害へりとエホバいひたまふ 8 この故に萬軍のエホバかく云たまふ汝ら我言を聴ざれば 9 視よ我北の諸の族と我僕なるバビロンの王ネブカデネザルを招きよせ此地とその民と其四圍の諸國を攻滅さしめて之を詫異物となし人の嗤笑となし永遠の荒地となさんとエホバいひたまふ 10 またわれ欣喜の聲 歡樂の聲 新夫の聲 新婦の聲 磐磨の音および燈の光を彼らの中にたえしめん 11 この地はみな空曠となり詫異物とならん又その諸國は七十年の間バビロンの王につかふべし 12 エホバいひたまふ七十年のをはりし後我バビロンの王と其民とカルデアの地をその罪のために罰し永遠の空曠となさん 13 我かの地につきて我かたりし諸の言をその上に臨しめん是エレミヤが萬國の事につきて預言する者にて皆この書に録さるなり 14 多の國々と大なる王等は彼らをして己につかへしめん我かれらの行爲とその手の所作に循ひてこれに報いん 15 イスラエルの神エホバかく我に云たまへり我手より此怒の杯をうけて我汝を遣はすところの國々の民に飲しめよ 16 彼らは飲てよるめき狂はんこは我かれらの中に劍をつかはすによりてなり 17 是に於てわれエホバの手より杯をうけエホバのわれを遣したまふところの國々の民に飲しめたり 18 即ちエルサレムとユダの諸の邑とその王等およびその牧伯等に飲せてこれをほろぼし詫異物となし人の嗤笑となし詛る者となせり今日のごとし 19 またエジプトの王パロと其臣僕その牧伯等その諸の民と 20 諸の雜種の民およびウズの諸の王等およびペリシテ人の地の諸の王等アシケロン、ガザ、エクロン、アシドドの遺餘の者 21 エドム、モアブ、アンモンの子孫 22 ヴロのすべての王等シドンのすべての王等海のかなたの鳥々の王等 23 デダン、テマ、プズおよびすべて鬚をそる者 24 アラビアのすべての王等曠野の雜種の民の諸の王等 25 ジムリの諸の王

等エラムの諸の王等メデアのすべての王等 26 北のすべての王等その彼と此において或は遠者或は近きもの凡地の面にある世の國々の王等はこの杯を飲んせシヤク王はこれらの後に飲べし 27 故に汝かれらに語ていへ萬軍のエホバ、イスラエルの神かくいひたまふ我汝等の中に劍を遣すによりて汝らは飲みまた酔ひまた吐き又侍て再び起ざれと 28 彼等もし汝の手より此杯を受けて飲ずば汝彼らにいへ萬軍のエホバかくいひたまふ汝ら必ず飲べし 29 視よわれ我名をもて稱へらるるこの邑にすら災を降すなり汝らいかで罰を免ることをえんや汝らは罰を免れじ蓋われ劍をよべて地に住るすべての者を攻べんべしなりと萬軍のエホバいひたまふ 30 汝彼等にこの諸の言を預言していふべしエホバ高き所より呼號り其聖宮より聲を出し己の住家に向てよばはりに地に住る諸の者にむかひて葡萄を踐む者のごとく咄たまはん 31 號咄地の極まで聞か蓋エホバ列國と争ひ萬民を審き惡人を劍に付せば也とエホバ曰たまへり 32 萬軍のエホバかく曰たまふ視よ災いでて國より國にいたらん大なる暴風地の極よりおこるべし 33 其日エホバの戮したまふ者は地の此極より地の彼の極に及ばん彼等は哀れず強められず葬られずして地の面に糞土とならん 34 牧者よ哭き叫べ群の長等よ汝ら灰の中に轉ぶべし蓋汝らの屠らるる日滿れば也我汝らを散すべければ汝らは責き器のごとく墮べし 35 牧者は避場なく群の長等は逃る處なし 36 牧者の呼號の聲と群の長等の哀哭きこゆ蓋エホバ其牧場を滅したまへば也 37 エホバの烈き怒によりて平安なる牧場は滅さる 38 彼は獅子の如く其巢を出たり滅す者の怒と其烈き忿によりて彼らの地は荒されたり

Chapter 26

1 ユダの王ヨシヤの子エホヤキムが位に即し初るころエホバより此言いでていふ 2 エホバかくいふ汝エホバの室の庭に立我汝に命じていしむる諸の言をユダの邑々より來りてエホバの室に拜する人々に告よ一言をも滅す勿れ 3 彼等聞ておのおの其惡き途を離るることあらん然ば我かれらの行の惡がために災を彼らに降さんとせることを悔べし 4 汝彼等にエホバかくいふといへ汝等もし我に聽すわが汝らの前に置し律法を行はず 5 我汝らに遣し切に遣せし我僕なる預言者の言を聽ずば(汝らは之をきかざりき) 6 我この室をシロの如くになし又この邑を地の萬國に詛はる者となすべし 7 祭司と預言者及び民みなエレミヤがエホバの室に立てこの言をのぶるをきけり 8 エレミヤ、エホバに命ぜられし諸の言を民に告畢りしとき祭司と預言者および諸の民彼を執へいひけるは汝は必ず死べし 9 汝何故にエホバの名をもて預言し此室はシロの如くになりこの邑は荒蕪となりて住む者なきにいたらんと云しやと民みなエホバの室にあつまりてエレミヤを攻む 10 ユ

ダの牧伯等この事をききて王の家をいでエホバの室にのぼりてエホバの家の新しき門の入口に坐せり 11 祭司と預言者等牧伯等とすべての民に訴ていふ此人は死にあたる者なり是は汝らが耳に聽しごとくこの邑にむかひて怒き預言をなしたるなり 12 是に於てエレミヤ牧伯等とすべての民にいひけるはエホバ我を遣し汝らが聽る諸の言をもて此宮とこの邑にむかひて預言せしめたまふ 13 故に汝らいま汝らの途と行爲をあらためて汝らの神エホバの聲にしたがへ然ばエホバ汝らに災を降さんとせしことを悔たまふべし 14 みよ我は汝らの手にあり汝らの目に善とみゆるところ義とみゆることを我に行へ 15 然ど汝ら善くこれを知れ汝らもし我を殺さば必ず無辜もの血なんぢらの身とこの邑と其中に住る者に歸せんエホバ我を遣してこの諸の言を汝らの耳につげしめたまひしなればなり 16 牧伯等とすべての民すなはち祭司と預言者にいひけるは此人は死にあたる者にあらず是は我らの神エホバの名によりて我儕に語りしなりと 17 時にこの地の長老數人立て民のすべての集れる者につけていひけるは 18 ユダの王ヒゼキヤの代にモレシテ人ミカ、ユダの民に預言して云けらく萬軍のエホバかくいひ給ふシオンは田地のごとく耕されエルサレムは邱墟となり此室の山は樹深き崇邱とならん 19 ユダの王ヒゼキヤとすべてのユダ人は彼を殺さんとせしことありしやヒゼキヤ、エホバを畏れエホバに求ければエホバ彼らに降さんと告給ひし災を悔給ひしにあらざるや我儕かく爲すは自己の靈魂をそこなふ大なる惡をなすなり 20 又前にエホバの名をもて預言せし人あり即ちキリヤテリムのシマヤの子ウリヤなり彼エレミヤの凡ていへるごとく此邑とこの地にむかひて預言せり 21 エホヤキム王と其すべての勇士とすべての牧伯等その言を聽り是において王彼を殺さんと欲ひしがウリヤこれをきき懼てエジプトに逃ゆきしかば 22 エホヤキム王人をエジプトに遣せり即ちアクポルの子エルナタンに數人をそへてエジプトにつかはしければ 23 彼らウリヤをエジプトより引出しエホヤキム王の許に携きたりしに王劍をもて之を殺し其屍骸を賤者の墓に棄せたりと 24 時にシヤパンの子アヒカム、エレミヤをたすけこれを民の手にわたし殺さざらしむ

Chapter 27

1 ユダの王ヨシヤの子エホヤキムが位に即し初るころエホバより此言エレミヤに臨みていふ 2 すなはちエホバかく我に云たまへり汝索と鞭をつくりて汝の項に置き 3 之をエルサレムにきたりてゼデキヤ王にいたるとこの王の使臣等の手によりてエドムの王モアブの王アンモン人の王ツロの王シドンの人に送るべし 4 汝彼らに命じて其主にいはいしめよ萬軍のエホバ、イスラエルの神かくいひたまふ汝ら其主にかく告べし 5 われ我

大なる能力と伸たる臂をもて地と地の上にをる人と獸とをつくり我心のままに地を人にあたへたり 6 いま我この諸の地を我僕なるバビロンの王ネブカデネザルの手にあたへ又野の獸を彼にあたへてかれにつかへしむ 7 かれの地の時期いたるまで萬國民は彼と其子とその孫につかへん其時いたらばおほくの國と大なる王は彼を己に事へしむべし 8 バビロンの王ネブカデネザルに事へずバビロンの王の鞭をその項に負ざる國と民は我彼の手をもて悉くこれを滅すまで劍と饑饉と疫病をもてこれを罰せんとエホバいひたまふ 9 故に汝らの預言者なんぢらの占筮師汝らの夢みる者汝らの法術士汝らの魔法士汝らに告て汝らはバビロンの王に事ふることあらじといふとも聽なかれ 10 彼らは謊を汝らに預言して汝らをその國より遠く離れしめ且我をして汝らを逐しめ汝らを滅さしむるなり 11 然どバビロンの王の鞭をその項に負ふて彼に事ふる國々人は我これをその故土に存し其處に耕し住しむべしとエホバいひたまふ 12 我この諸の言のごとくユダの王ゼデキヤに告ていひけるは汝らバビロンの王の鞭を汝らの項に負ふて彼と其民につかへよ然ば生べし 13 汝と汝の民なんぞエホバがバビロンの王につかへざる國につきていひたまひし如く劍と饑饉と疫病に死ぬべけんや 14 故に汝らはバビロンの王に事ふることあらじ汝等に告る預言者の言を聽なかれ彼らは謊を汝らに預言するなり 15 エホバいひたまひけるは我彼らを遣さざるに彼らは我名をもて謊を預言す是をもて我汝らを逐はなち汝らと汝らに預言する預言者等を滅すにいたらん 16 我また祭司とこのすべての民に語りていひけるはエホバかくいひたまふ視よエホバの室の器皿いま速にバビロンより持歸さるべしと汝らに預言する預言者の言をきく勿れそは彼ら謊を汝らに預言すればなり 17 汝ら彼らに聽なかれバビロンの王に事へよ然ば生べしこの邑を何ぞ荒蕪となすべけんや 18 もし彼ら預言者にしエホバの言かれらの衷にあらばエホバの室とユダの王の家とエルサレムとに餘れるところの器皿のバビロンに移せざることを萬軍のエホバに求むべきなり 19 萬軍のエホバ柱と海と臺およびこの邑に餘れる器皿につきてかくいひたまふ 20 是はバビロンの王ネブカデネザルがユダの王エホヤキムの子エホヤキムおよびユダとエルサレムのすべての牧伯等をエルサレムよりバビロンにとらへ移せしときに掠ざりし器皿なり 21 すなはち萬軍のエホバ、イスラエルの神エホバの室とユダの王の室とエルサレムとに餘れる器皿につきてかくいひたまふ 22 これらはバビロンに携へゆかれ我これを顧る日まで彼處にあらん其後我これを此處にたづさへ歸らしめんとエホバいひたまふ

Chapter 28

1 この年すなはちユダの王ゼデ

キヤが位に即し初る四年の五月ギベオンのアズルの子なる預言者ハナニヤ、エホバの室にて祭司と凡の民の前にて我に語りいひけるは 2 萬軍のエホバ、イスラエルの神かくいひたまふ我バビロンの王の鞭を掛けり 3 二年の内にバビロンの王ネブカデネザルがこの處より取てバビロンに携へゆきしエホバの室の器皿を再び悉くこの處に歸らしめん 4 我またユダの王エホヤキムの子エホヤキムおよびバビロンに住しユダのすべての擲人をしてこの處に歸らしめんそは我バビロンの王の鞭を推くべければなりとエホバいひたまふ 5 是に於て預言者エレミヤ、エホバの家に立る祭司の前とすべての民の前にて預言者ハナニヤと語ふ 6 預言者エレミヤすなはちいひけるはアーメン願くはエホバかくなし給へ願くはバビロンに携へゆかれしエホバの室の器皿及びすべて處へうつされし者をエホバ、バビロンより復びこの處に歸らしめたまはんと汝の預言せし言の成らんことを 7 然ど汝いませ我なんぢの耳と諸の民の耳に語らんとする此言をきけ 8 我と汝の先にいでし預言者は古昔より多くの地と大なる國につきて戰闘と災難と疫病の事を預言せり 9 泰平を預言するところの預言者は若しその預言者の言とげばその誠にエホバの遣したまへる者なること知るべし 10 ここに於て預言者ハナニヤ預言者エレミヤの項より鞭を取てこれを掛けり 11 ハナニヤ諸の民の前にて語りエホバかくいひたまふわれ二年のうちには是の如く萬國民の項よりバビロン王ネブカデネザルの鞭を推きはなさんといふ預言者エレミヤ遂に去りぬ 12 預言者ハナニヤ預言者エレミヤの項より鞭を推きはなせし後エホバの言エレミヤに臨みていふ 13 汝ゆきてハナニヤにエホバかくいふと告よ汝木の鞭を推きたれども之に代て鐵の鞭を作れり 14 萬軍のエホバ、イスラエルの神かくいふ我鐵の鞭をこの萬國民の項に置いてバビロンの王ネブカデネザルに事へしむ彼ら之につかへんわれ野の獸をもこれに與へたり 15 また預言者エレミヤ預言者ハナニヤにいひけるはハナニヤよ請ふ聽けエホバ汝を遣はし給はず汝はこの民に謊を信ぜしむるなり 16 是故にエホバいひ給ふ我汝を地の面よりぞかへん汝エホバに叛くことを教ふるによりて今年死ぬべしと 17 預言者ハナニヤはこの年の七月死ぬ

Chapter 29

1 預言者エレミヤ、エルサレムより書をかの擲へうつされて餘れるところの長老および祭司と預言者ならびにネブカデネザルがエルサレムよりバビロンに移したるすべての民に送れり 2 是より先エホヤキム王と王后と寺人およびユダとエルサレムの牧伯等および木匠と鐵匠はエルサレムをされり 3 エレミヤその書をシヤパンの子エラサおよびヒルキヤの子ゲマリヤ即ちユダの王ゼデキヤがバビロンにつかはしてバビロンの王ネ

ブカデネザルにいたらしむる者の手によりて送れり其書にいはいはく 4 萬軍のエホバ、イスラエルの神すべて擄うつされし者即ち我エルサレムよりバビロンに移さしめしにむかひて 5 汝ら屋を建てこれに住ひ園をつくりてその果をくらへ 6 妻を娶て子女をうみ又汝らの子に媳を娶り汝らの女を嫁がしめ彼らに子女を生しめよ此は汝等かしこに減ずして増んがためなり 7 我汝らを擄移さしめしところの邑の安を求めこれが爲にエホバにいのれその邑の安によりて汝らもまた安をうればなり 8 萬軍のエホバ、イスラエルの神かくいひたまふ汝らの中の預言者とト筮士に惑はさるる勿れまた汝ら自ら作りしところの夢に聽したがふ勿れ 9 そは彼ら我名をもて誑を汝らに預言すればなり我彼らを遣さずエホバひいたまふ 10 エホバかくいひたまふバビロンに於て七十年満なばわれ汝らを着み我嘉言を汝らになして汝ら此の處に歸らしめん 11 エホバひいたまふ我が汝らにむかひて懐くところの念は我これを知るすなはち災をあたへんとにあらざり平安を與へんとおもひ又汝らに後と望をあたへんとおもふなり 12 汝らわれに顛はり往て我にいのらん我汝らに聽べし 13 汝らもし一心をもて我を察めなば我に尋ね遇はん 14 エホバひいたまふ我汝らの遇ところとならんわれ汝らの俘擄を解き汝らを萬國よりすて我汝らを逐やりし處より集め我汝らに於て擄らはれて離れしめしその處に汝らをひき歸らんとエホバひいたまふ 15 エホバわれらの爲にバビロンに於て預言者を立たまひしと汝らはいふ 16 ダビデの位に坐する王とこの邑に住るすべての民汝らと偕にとらへ移されざりし兄弟につきてエホバかくいひたまふ 17 萬軍のエホバかくいふ視よわれ劍と饑饉と疫病を彼らにおくり彼らを悪くして食はれざる惡き無花果のごとくになさん 18 われ劍と饑饉と疫病をもて彼らを逐ひまた彼らを地の萬國にわたして處にあはしめ我彼らを逐やる諸國に於て呪詛となり詫異となり人の嗤笑となり恥辱とならしめん 19 是彼ら我言を聽ざればなりとエホバひいたまふ我この言を我僕なる預言者によりて遣り頻におくれども汝ら聽ざるなりとエホバひいたまふ 20 わがエルサレムよりバビロンにおくりし諸の俘擄人よ汝らエホバの言をきけ 21 我名をもて誑を汝らに預言するコラヤの子アハブとマアセヤの子ゼデキヤにつきて萬軍のエホバ、イスラエルの神かくいふ視よわれ彼らをバビロンの王ネブカデネザルの手に付さん彼これを汝らの目の前に殺すべし 22 バビロンにあるユダの俘擄人は皆彼らをもて詛となし願くはエホバ汝をバビロンの王が火にて焚しぜデキヤとアハブのごとき者となしたまはん事をといふ 23 此は彼らイスラエルの中に惡をなし鄰の妻を犯し且我彼らに命ぜざる誑の言をわが名をもて語りしによる我これを知りまた證すとエホバひいたまふ 24 汝ネヘラミシマヤにかく語りいふべし 25 萬軍のエホバ、イスラエルの神かくいふ汝

おのれの名をもて書をエルサレムにある諸の民と祭司マアセヤの子ゼパニヤおよび諸の祭司に送りていふ 26 エホバ汝を祭司エホヤダに代て祭司となし汝らをエホバの室の監督となしまたふ此すて狂妄ひ且みづから預言者なりといふ者を獄と桎梏につながしめんためなり 27 然るに汝いま何故に汝らにむかひてみづから預言者なりといふところのアナトテのエレミヤを斥責めざるや 28 そは彼バビロンにをる我儕に書を送り時尚長ければ汝ら家を建て之に住ひ園をつくりてその實をくらへといへり 29 祭司ゼパニヤこの書を預言者エレミヤに讀きかせたり 30 時にエホバの言エレミヤにのぞみていふ 31 諸の俘擄人に書をおくりて云べしネヘラミシマヤの事につきてエホバかくいふ我シマヤを遣さざるに彼汝らに預言し汝らに誑を信ぜしめしによりて 32 エホバかくいふ視よ我ネヘラミシマヤと其子孫を罰すべし彼エホバに逆くことを教へしによりて此民のうちには彼に屬する者一人も住ふことなからん且我民に吾がなさんとする善事をみざるべしとエホバひいたまふ

Chapter 30

1 エホバよりエレミヤにのぞめる言いふ 2 イスラエルの神エホバかく告ていふ我汝に言し言をことごとく書に録せ 3 エホバひいたまふ我民イスラエルとユダの俘囚人を返す日きたらんエホバこれをいふ我彼らをその先祖にあたへし地にかへらしめん彼らは之をたもた 4 エホバのイスラエルとユダにつきていひたまひし言は是なり 5 エホバかくいふ我ら戰慄の聲をきく驚懼あり平安あらず 6 汝ら子を産む男あるやを尋ね觀よ我男が皆子を産む婦のごとく手をその腰におき且その面色皆青く變るをみるこは何故ぞや 7 哀しいかなその日は大にして之に擬ふべき日なし此はヤコブの患難の時なり然ど彼はこれより救出されん 8 萬軍のエホバひいたまふ我なんぢの項よりその軛をくだきはなし汝の繩目とそかん異邦人は復役を使役はざるべし 9 彼らは其神エホバと我彼らの爲に立んところの其王ダビデにつかふべし 10 エホバひいたまふ我僕ヤコブよ懼るる勿れイスラエルよ驚く勿れ我汝を遠方より救ひかへし汝の子孫を其とらへ移されし地より救ひかへさんヤコブは歸りて平穩と寧靜をえん彼を畏れしむる者なかるべし 11 エホバひいたまふ我汝と偕にありて汝を救はん設令われ汝を散せし國々を悉く滅しつくとすも汝をば滅しつとさじされど我道をもて汝を懲さん汝を全たく罰せずにはおさざるべし 12 エホバかくいふ汝の創は愈ず汝の傷は重し 13 汝の訟を理す者なく汝の創を裹む膏藥あらず 14 汝の愛する者は皆汝を忘れて汝を求めず是汝の愆の多きと罪の數多なるによりて我仇敵の撃がごとく汝を撃ち嚴く汝を懲せばなり 15 何ぞ汝の創のために叫ぶや汝の患は愈ることなし汝の愆の多きと罪の數多なる

によりて我これを汝になすなり 16 然どすべて汝を食ふ者は食はれずべて汝を虐ぐる者は皆とらはれ汝を掠むる者は掠められん凡て汝の物を奪ふ者は我これをして奪はるる事にあはしむべし 17 エホバひいたまふ我汝に膏藥を貼り汝の傷を醫さんそは汝を棄られし者とよび尋る者なきシオンといへばなり 18 エホバかくいふ視よわれかの擄移されたるヤコブの天幕をかへし其住居をあはれまん斯邑はその故の丘垣に建られん城には宜き様に人住はん 19 感謝と歡樂者の聲とその中よりいでん我かれらを増ん彼ら少からじ我彼らを崇せん彼ら藐められじ 20 其子は嘯昔のごとくあらん其集會は我前に固く立ん凡かれを虐ぐる者は我これを罰せん 21 其首領は本族よりいでん其督者はその中よりいでん我彼をちかづけ彼に近かん誰かその生命を繋て我に近くものあらんやとエホバひいたまふ 22 汝等は我民となり我は汝らの神とならん 23 みよエホバの暴風あり怒と旋轉風いでて惡人の首をうたふ 24 エホバの烈き忿はかれがその心の思を行ひてこれを遂るまでは息し末の日に汝ら明にこれを曉らん

Chapter 31

1 エホバひいたまふ其時われはイスラエルの諸の族の神となり彼らは我民とならん 2 エホバかくいひたまふ劍をのがれて遣りし民は曠野の中に恩を獲たりわれ往て彼イスラエルに安息をあたへん 3 遠方よりエホバ我に顯れていひたまふ我窮なき愛をもて汝を愛せり故にわれたえず汝をめぐむなり 4 イスラエルの童女よわれ復び汝を建ん汝は建らんべし汝ふたたび糞をもて身を飾り歡樂者の舞にいでん 5 汝また葡萄の樹をサマリヤの山に植ん植る者は植てその果を食ふことえん 6 エフライムの山の上に守望者の立て呼はる日きたらんいはく汝ら起よ我らシオンにのぼりて我儕の神エホバにまうでんと 7 エホバかくいひたまふ汝らヤコブの爲に歡びて呼はる萬國の首なる者のために叫べ汝ら示し且歌ひて言へエホバよ願くはイスラエルの遭れる者汝の民を救ひたまへと 8 みよ我彼らを北の地よりひきかへり彼らを地の極より集めん彼らの中には警者跛者孕める婦子を産みし婦とも居る彼らは大なる群をなして此處にかへらん 9 彼ら悲泣來らん我かれらをして祈禱をもて來らしめ直くして蹶かざる途より水の流に歩みいたらしめん我はイスラエルの父にしてエフライムは我長子なればなり 10 萬國の民よ汝らエホバの言をきき之を遠き諸島に示していえイスラエルを散せしものこれを聚め牧者のその群を守るが如く之を守らん 11 すなはちエホバ、ヤコブを贖ひ彼等よりも強き者の手よりかれを救出したまへり 12 彼らは來てシオンの頂によればなりエホバの賜ひし福なる麥と酒と油および若き羊と牛の爲に寄集はんその靈魂は灌ふ園のごとくらん彼らは重て愁ふること無るべし 13 その時

童女は舞てたのしみ壯者と老者もるとともに楽しまん我かれらの悲をかへて喜となしかれらの愁をさりてこれを慰さめん 14 われ膏をもて祭司の心を飢しめ我恩をもて我民に満しめんとエホバ言たまふ 15 エホバかくいひたまふ歡き悲みいたく憂ふる聲ラマに聞ゆラケルその兒子のために歎きその兒子のあらずなりしによりて慰をえず 16 エホバかくいひ給ふ汝の聲を禁て哭こと勿れ汝の目を禁て涙を流すこと勿れ汝の工に報あるべし彼らは其敵の地より歸らんとエホバひいたまふ 17 汝の後の日に望あり兒子等その境に歸らんとエホバひいたまふ 18 われ固にエフライムのみづから歎くをきけり云く汝は我を懲しめたまふ我は輒に馴ざる犢のごとくに懲治を受たりエホバよ汝はわが神なれば我を牽轉したまへ然ば我轉るべし 19 われ轉りし後に悔い教を承しの中に我蹄を撃つ我幼時の羞を身にもてば恥ぢかつ辱しめらるるなりと 20 エホバひいたまふエフライムは我愛するところの子悦ぶところの子ならずや我彼にむかひてかたるごとに彼を念はざるを得ず是をもて我腸かれの爲に痛む我必ず彼を恤むべし 21 汝のために指路號を置き汝のために柱をたてよ汝のゆける道なる大路に心をとめよイスラエルの童女よ歸れこの汝の邑々にかへれよ 22 遣ける女よ汝いつまで流蕩ふやエホバ新しき事を地に創造らん女は男を抱くべし 23 萬軍のエホバ、イスラエルの神かくいひ給ふ我がの俘囚人を返さん時人々復ユダの地とその邑々に於て此言をいはん義き居所よ聖き山よ願くはエホバ汝を祝みたまへと 24 ユダとその諸の邑々に農夫と群を牧ふもの偕に住はん 25 われ疲れたる靈魂を飢しめすすべての憂ふる靈魂をなぐさむるなり 26 茲にわれ目を醒しみるに我眠は甘かりし 27 エホバひいたまふ視よ我が人の種と畜の種とをイスラエルの家とユダの家とに播く日いたらん 28 我彼らを抜き毀ち覆し滅し難さんとうかがひし如く汝を建て植桑んとうかがふべしとエホバひいたまふ 29 その時彼らは父が酸き葡萄を食ひしによりて兒子の齒齧くと再びいはざるべし 30 人はおのの自己の惡によりて死なん凡そ酸き葡萄をくらふ人はその齒齧く 31 エホバひいたまふみよ我イスラエルの家とユダの家とに新しき契約を立つる日きたらん 32 この契約は我彼らの先祖の手をとりてエジプトの地よりこれを導きいだせし日に立しところの如きにあらず我かれらを娶りたれども彼らはその我契約を破れりとエホバひいたまふ 33 然どかの日の後に我イスラエルの家に立んところの契約は此なり即ちわれ我律法をかれらの衷におきその心の上に録さん我は彼らの神となり彼らは我民となるべしとエホバひいたまふ 34 人おのの其隣とその兄弟に教へて汝エホバを識と復いはじそは小より大にいたるまで悉く我をしるべければなりとエホバひいたまふ我彼らの不義を赦しその罪をまた思はざるべし 35 エホバかく言すなはち是日をあてて晝の光

となし月と星をさだめて夜の光となし海を激してその濤を鳴しむる者その名は萬軍のエホバと言なり 36 エホバいひたまふもし此等の規律我前に廢らばイスラエルの子孫も我前に廢りて永遠も民たふることを得ざるべし 37 エホバかくいひたまふ若し上の天量ることを得下の地の基探ることをえば我またイスラエルのすべての子孫を其もるもるの行のために棄べしエホバこれをいふ 38 エホバいひたまふ視よ此邑ハナネルの塔より隅の門までエホバの爲に建つ日きたらん 39 量繩ふたたび直ちにガレブの岡をこえゴアテの方に轉るべし 40 屍と灰の谷またケデロンの溪にいたるまでと東の方の馬の門の隅にいたるまでの諸の田地皆エホバの聖き處となり永遠におよぶまで再び拔れまた覆さる事なかるべし

Chapter 32

1 ユダの王ゼデキヤの十年即ちネブカデネザルの十八年の頃エホバの言エレミヤにのぞめり 2 その時バビロンの軍勢エルサレムを攻環み居て預言者エレミヤはユダの王の室にある獄の庭の内に禁錮られたり 3 ユダの王ゼデキヤ彼を禁錮していひけるは汝何故に預言してエホバかく云たまふといふや云く視よ我この邑をバビロン王の手に付さん彼之を取るべし 4 またユダの王ゼデキヤはカルデヤ人の手より脱れず必ずバビロン王の手に付され口と口とあひ語り目と目あひ觀るべし 5 彼ゼデキヤをバビロンに携きゆかんゼデキヤはわが彼を顧る時またカルデヤ人とエホバいひたまふ汝らカルデヤ人と戦ふとも勝ことを得じと 6 エレミヤいふエホバの言われに臨みていはく 7 みよ汝の叔父シャルムの子ハナメル汝にきたりていはん汝アナトテに在るわが田地を買へそは之を贖ふ事は汝の分なればなりと 8 かくてエホバの言のごとく我叔父の子ハナメル獄の庭にて我に來り云けるは願くは汝ベニヤミンの地のアナトテに在るわが田地を買へそは之を嗣ぎこれを贖ふことは汝の分なれば汝みつからこれを買ひとれとここに於てわれ此はエホバの言なりと知りたれば 9 我叔父の子ハナメルがアナトテにもてる田地をかひて彼に銀十七シケルを稱てあたふ 10 すなはち我その契券を書てこれに封印し證人をたて權衡をもて銀を稱て與ふ 11 而してわれその約定をのするところの封印せし買券とその開きたるものを取り 12 わが叔父の子ハナメルと買券に印せし證人の前および獄の庭に坐するユダ人の前にてその買券をマアセヤの子なるネリヤの子バルクに與へ 13 彼らの前にてわれバルクに命じていひけるは 14 萬軍のエホバ、イスラエルの神かく云たまふ汝これらの契券すなはち此買券の封印せし者と開きたるものを取り之を瓦器の中に貯へて多くの日の間保たしめよ 15 萬軍のエホバ、イスラエルの神かくいひたまふすは此地に於て人復屋と田地と葡萄園を買ふにいたらんと 16 われ買契を

ネリヤの子バルクに付せしちエホバに祈りて云ひけるは 17 嗚呼主エホバよ汝はその大なる能力と伸たる腕をもて天と地を造りたまへり汝には爲す能はざるところなし 18 汝は恩寵を千萬人に施し又父の罪をその後の子孫の懷に報いたまふ汝は大なる全能の神にいまして其名は萬軍のエホバとまうすなり 19 汝の謀略は大なり汝は事をなすに能あり汝の目は人のこどもらの諸の途を鑿しよのおの行に循ひその行爲の果によりて之に報いたまふ 20 汝休徵と奇跡をエジプトの地に行ひたまひて今日にまでいたるまたイスラエルと他の民の中にも然りかくして今日のごとくに汝の名を揚たまへり 21 汝は休徵と奇跡と強き手と伸たる腕と大なる怖しき事をもて汝の民イスラエルをエジプトの地より導きだし 22 この地を彼らにたまへり是即ち汝がかれらの先祖等に與へんと誓ひたまひし乳と蜜の流る地なり 23 彼等すなはち入てこれを獲たりしかども汝の聲に遵はず汝の例典を行はず凡て汝がなせと命じたまひし事を爲ざりしによりて汝この災を其上にくだらしむ 24 みよ壘成れり是はこの邑を取んとて來れるなり劍と饑饉と疫病のためにこの邑は之を攻むるカルデヤ人の手に付さる汝のいひたまひしことば既に成れり汝之を見たまふなり 25 主エホバよ汝われに銀をもて田地を買へ證人を立よといひたまへり然るにこの邑はカルデヤ人の手に付さる 26 時にエホバの言エレミヤに臨みていふ 27 みよ我はエホバなりすべて血氣ある者の神なり我に爲す能はざるところあらんや 28 故にエホバかくいふ視よわれ此邑をカルデヤ人の手とバビロンの王ネブカデネザルの手に付さん彼これを取るべし 29 この邑を攻るところのカルデヤ人きたり火をこの邑に放ちて之を焚ん屋蓋のうへにて人がバアルに香を焚き他の神に酒をそそぎて我を怒らせしその屋をも彼ら亦焚ん 30 そはイスラエルの子孫とユダの子孫はその幼少時よりわが前に惡き事のみをなしたイスラエルの民はその手の作爲をもて我をいからする事のみをなしたればなりエホバ之をいふ 31 此邑はその建し日より今日にいたるまで我震怒を惹き我憤恨をおこすところの者なれば我前よりわれ之を除かんとするなり 32 こはイスラエルの民とユダの民諸の惡を行ひて我を怒らせしによりてなり彼らその王等その牧伯等その祭司その預言者およびユダの人々とエルサレムに在る者皆然なせり 33 彼ら背を我にむけて面を我にむけずわれ彼らををしへ頻に教ふれどもかれらは教をきかずしてうげざるなり 34 彼らは憎むべき物をわが名をもて稱へる室にたてて之を汚し 35 又ベンヒンソムの谷にあるバアルの崇邱を築きその子女をモロクに獻げたりわれは彼らにこの憎むべきことを行ひてユダに罪を犯さしむることを命ぜず斯事は我心におこらざりしなり 36 いまイスラエルの神エホバのすなはち汝らが劍と饑饉と疫病のためにバビロン王の手に付されんといひしと

ころの邑につきて斯いひたまふ 37 みよわれ我震怒と憤恨と大なる怒をもて彼らを逐やりし諸の國より彼らを集め此處に導きかへりて安然に居らしめん 38 彼らは我民となり我は彼らの神とならん 39 われ彼らに一の心と一の途をあたへて常に我を畏れしめんこは彼らと其子孫とに福をえせしめん爲なり 40 われ彼らを棄ずして恩を施すべしといふ永遠の契約をかれらにたてて我を畏るの畏をかれらの心におきて我を離れざらしめん 41 われ悦びて彼らに恩を施し心を盡し精神をつくして誠に彼らを此地に植べし 42 エホバかくいひたまふわれ此諸の大なる災をこの民に降せしごとくわがかれらに言し諸の田を彼等に降さん 43 人衆この地に田野を買はん是汝等が荒て人も畜もなきにいたりカルデヤ人の手に付されしといへる地なり 44 人衆ベニヤミンの地とエルサレムの四周とユダの邑々と山の邑々と平地の邑々と南の方の邑々において銀をもて田野をかひ契券を書きてこれに封印し又證人をたてんそは我かの俘囚者を歸らしむればなりとエホバいひたまふ

Chapter 33

1 エレミヤ尚獄の庭に禁錮られてをる時エホバの言ふたたび彼に臨みていふ 2 事をおこなふエホバ事をなして之を成就るエホバ其名をエホバと名る者かく言ふ 3 汝我に蘇求めよわれ汝に應へん又汝が知る大なる事と秘密たる事とを汝に示さん 4 イスラエルの神エホバ壘と劍によりて毀れたる此邑の室とユダの王の室につきてかくいひ給ふ 5 彼らカルデヤ人と戦はんとして來る是には我震怒と憤恨をもて殺すところの人々の屍體充るにいたらん我かれらの諸の惡のためにわが面をこの邑に蔽ひかくせり 6 視よわれ卷布と良藥をこれに持きたりて人々を醫し平康と眞實の豊厚なるをこれに示さん 7 我ユダの俘囚人とイスラエルの俘囚人を歸らしめ彼ら而建て從前のごとくなすべし 8 われ彼らが我にむかひてせずし一切の罪を潔め彼らが我にむかひて犯し且行ひし一切の罪を赦さん 9 此邑は地のもるもるの民の中において我がために欣喜の名となり顔美となり榮耀となるべし彼等はわが此民にほどこすところの諸の恩恵を聞ん而してわがこの邑にほどこすところの諸の恩恵と諸の福祿のために發振へ且身を動搖さん 10 エホバかくいひ給へり汝らが荒れて人もなく畜もなしといひしこの處即ち荒れて人もなく住む者もなく畜もなきユダの邑とエルサレムの街に 11 再び欣喜の聲 歡樂の聲 新娶者の聲 新婦の聲および萬軍のエホバをあがめよエホバは善にしてその矜恤は窮なしといひて其感謝の祭物をエホバの室に携ひける者の聲聞ゆべし蓋われこの地の俘囚人を返らしめて初のごとくなすべければなりエホバ之をいひたまふ 12 萬軍のエホバかくいひたまふ荒れて人もなく畜もなきこの處と其すべての邑々に再び牧者の

その群を伏しむる牧場あるにいたらん 13 山の邑と平地の邑と南の方の邑とベニヤミンの地とエルサレムの四周とユダの邑において群ふたたびその之を核ふる者の手の下を過らんとエホバいひたまふ 14 エホバ言たまはく視よ我イスラエルの家とユダの家に語りし善言を成就ぐる日きたらん 15 その日その時にいたらばわれダビデの爲に一の義き枝を生ぜしめん彼は公道と公義を地に行ふべし 16 その日ユダは救をえエルサレムは安らかに居らんその名はエホバ我儕の義と稱へらるべし 17 エホバかくいひたまふイスラエルの家の位に坐する人ダビデに缺ることなかるべし 18 また我前に燔祭をささげ素祭を燃し恒に犠牲を獻ぐる人レビ人なる祭司に絶ざるべし 19 エホバのことばエレミヤに臨みていふ 20 エホバかくいふ汝らもし我畫につきての契約と我夜につきての契約を破りてその時々晝も夜もなからしむることをえば 21 僕ダビデに吾が立し契約もまた破れその子はかれの位に坐して王となることをえざらんまたわが我に事ふるレビ人なる祭司に立し契約も破れん 22 天の星は數へられず濱の沙は量られずわれその如く我僕ダビデの裔と我に事ふるレビ人を増ん 23 エホバの言またエレミヤに臨みていふ 24 汝この民の語りてエホバはその選みし二の族を棄たりといふを聞ざるか彼らはかく我民を藐じてその眼にこれを國と見なさざるなり 25 エホバかくいひ給ふもしわれ晝と夜とについてこの契約を立すまた天地の律法を定めずば 26 われヤコブと我僕ダビデとの裔をすてて再びかれの裔の中よりアブラハム、イサク、ヤコブの裔を治むる者を取ざるべし 我その俘囚し者を返らしめこれを恤れむべし

Chapter 34

1 バビロンの王ネブカデネザルその全軍および己の手の下に屬するところの地の列國の人および諸の民を率てエルサレムとその諸邑を攻めて戰ふ時エホバの言エレミヤに臨みていふ 2 イスラエルの神エホバかくいふ汝ゆきてユダの王ゼデキヤに告ていふべしエホバかくいひたまふ視よわれ此邑をバビロン王の手に付さん彼火をもてこれを焚べし 3 汝はその手を脱れず必ず擡へられてこれが手に付されん汝の目はバビロン王の目をみ又かれの口は汝の口と語ふべし汝はバビロンにゆくにいたらん 4 然どユダの王ゼデキヤよエホバの言をきけエホバ汝の事につきてかくいひたまふ汝は劍に死じ 5 汝は安らかに死なん民は汝の先相たる汝の先の王等の爲に香を焚しごとく汝のためにも香を焚き且汝のために嘆て嗚呼主よいはん我この言をいふとエホバいひたまふ 6 預言者エレミヤすなはち此言をことごとくエルサレムにてユダの王ゼデキヤにつげたり 7 時にバビロン王の軍勢はエルサレムおよび存れるユダの諸の邑を攻めラキシとアゼカを攻て戦ひをる其はユダ

の諸邑のうちには是等の城の邑尚存り
 るたればなり 8 ぜデキヤ王エルサレ
 ムに居る諸の民と契約を立てて彼ら
 に解放の事を宣示せし後エホバの言
 エレミヤに臨みて 9 その契約はすな
 はち人をしておのおの其僕婢なるヘ
 ブルの男女を釋放しめその兄弟なる
 ユダヤ人を奴隷となさざらしむる者
 なりき 10 この契約をなせし牧伯等
 とすべての民は人おのおのその僕婢
 を釋ちて再び之を奴隷となすべから
 ずといふをききて遂にそれに聽した
 がひてこれを釋ちしが 11 後に心を
 ひるがへしてその釋ちし僕婢をひき
 かへりて再び之を伏従はしめて僕婢
 となせり 12 是故にエホバの言エホ
 バよりエレミヤにのぞみて云 13 イ
 スラエルの神エホバかくいふ我汝ら
 の先祖をエジプトの地その奴隷たり
 し宅より導きいだせし時彼らと契約
 を立ていひけらく 14 汝らの兄弟な
 るヘブル人の身を汝らに賣たる者
 をば七年の終に汝らおのおのこれ
 を釋つべし然るに汝らの先祖等は我
 に聽ず亦その耳を傾けざりし 15 然
 ど汝らは今日心をあらためておのお
 の其鄰人に解放の事を示してわが目
 に正とみゆる事を行ひ且我名をもて
 稱へらるる室に於て我前に契約を立
 たり 16 然るに汝ら再び心をひるが
 へして我名を汚し各自釋ちて其心に
 任せしめたる僕婢をひき歸り再び之
 を伏従はしめて汝らの僕婢となせり
 17 この故にエホバかくいひたまふ汝
 らに聽ておのおの其兄弟とその鄰
 人に解放の事を示さざりしによりて視
 よわれ汝らの爲に釋放を示して汝ら
 を劍と饑饉と疫病にわたさん我汝ら
 をして地の諸の國にて艱難をうけし
 むべし 18 エホバこれを云ふ憤を兩
 にさきて其二個の間を過り我前に
 契約をたてて却つて其言に從はずわ
 が契約をやぶる人々 19 即ち兩に分ち
 し憤の間を過りしユダの牧伯等エル
 サレムの牧伯等と寺人と祭司とこの
 地のすべての民を 20 われ其敵の手
 とその生命を奪る者の手に付さんそ
 の屍體は天空の烏と野の獸の食物と
 なるべし 21 且われユダの王ゼデキ
 ヤとその牧伯等をその敵の手其生命
 を奪むる者の手汝らを離れて去しバ
 ビロン王の軍勢の手に付さん 22 エ
 ホバいひたまふ視よ我彼らに命じて
 此邑に歸らしめん彼らこの邑を攻て
 戦ひ之を取り火をもて焚くべしわれ
 ユダの諸邑を住人なき荒地となさん

Chapter 35

1 ユダの王ヨシヤの子エホヤキ
 ムの時エレミヤにのぞみしエホバの
 言いふ 2 汝レカブ人の家に往て彼ら
 とかたり彼らをエホバの室の一房に
 携きたりて酒をのませよと 3 是に於
 てわれハバジニヤの子なるエレミヤ
 の子ヤザニヤとその兄弟とその諸子
 およびレカブ人の全家を取り 4 これ
 をエホバの室にあるハナンの諸子の
 房につきたれりハナンはイグダリ
 ヤの子にして神の人なり其房は牧伯
 等の房の次にして門を守るシヤレム
 の子マアセヤの房のうへに在り 5 我

すなはちレカブ人の家の諸子の前に
 酒を満したる壺と杯を置き彼らに告
 て汝ら酒を飲めといひければ 6 彼ら
 こたへけるは我儕は酒をのまず蓋レ
 カブの子なる我らの先祖ヨナダブ我
 らに命じて汝等と汝らの子孫はいつ
 までも酒をのむべからず 7 また汝ら
 屋を建ず種をまかず葡萄園を植ざれ
 亦これを有べからず汝らの生存ふる
 あひだ幕屋にをれ然らば汝らが寄寓
 とする所の地に於て汝らの生命長から
 んと云たればなり 8 斯我らはレカブ
 の子なるわれらの先祖ヨナダブの凡
 て命ぜし言に遵ひて我儕とわれらの
 妻と子女は生存ふるあひだ酒を飲ず
 9 我らは住べき屋を建てず葡萄園も
 田野も種も有らずして 10 幕屋にをり
 すべて我儕の先祖ヨナダブが我らに
 命ぜしごとく行へり 11 然どバビロ
 ンの王ネブカデネザルがこの地に上
 り來りしとき我ら云けるは我らカル
 デヤ人の軍勢とスリア人の軍勢を畏
 るれば去來エルサレムにゆかんとす
 なはち我らはエルサレムに住へり 1
 2 時にエホバの言エレミヤにのぞみ
 ていふ 13 萬軍のエホバ、イスラエ
 ルの神かくいふ汝ゆきてユダの人々
 とエルサレムに住る者とに告よエホ
 バいひたまふ汝らは我言を聽て教を
 受ざるか 14 レカブの子ヨナダブが
 その子孫に酒をのむべからずと命ぜ
 し言は行はる彼らは今日に至るまで
 酒をのまず其先祖の命令に遵ふなり
 然るに汝らは吾汝らに語り頻りに語
 れども我にきかざるなり 15 我また
 我僕なる預言者たちを汝らに遣し頻
 りにこれを遣していはせけるは汝ら
 いまおのおの其惡き道を離れて歸り
 汝らの行をあらためよ他の神に従ひ
 て之に奉ふる勿れ然らば汝らはわが汝
 らと汝らの先祖に與へたるこの地に
 住ことをえんと然ど汝らは耳を傾け
 ず我にきかざりき 16 レカブの子ヨ
 ナダブの子孫はその先祖が彼らに命
 ぜしところの命令に遵ふなり然ど此
 民は我に聽ず 17 この故に萬軍の神
 エホバ、イスラエルの神かくいふ視
 よわれユダとエルサレムに住る者
 とに我彼らにつきていひし所の災を降
 さん我かれらに語れども聽ずかれら
 を召ども應へざればなり 18 茲にエ
 レミヤ、レカブ人の家にいひけるは
 萬軍のエホバ、イスラエルの神かく
 いひたまふ汝らはその先祖ヨナダブ
 の命に遵ひその凡の誠を守り彼が汝
 らに命ぜしことを行ふ 19 是により
 て萬軍のエホバ、イスラエルの神か
 くいひたまふレカブの子ヨナダブに
 は我前に立つ人いつまでも缺ること
 あらじ

Chapter 36

1 ユダの王ヨシヤの子エホヤキ
 ムの四年にこの言エホバよりエレミ
 ヤに臨みていふ 2 汝卷物を取り我汝
 に語りし日即ちヨシヤの日より今日
 に至るまでイスラエルとユダと萬國
 とにつきてわが汝に語りしすべての
 言を之に録せ 3 ユダの家わが降さん
 と擬るところの災をききて各自その
 惡き途をはなれて轉ることもあらん
 然ばわれ其愆とその罪を赦すべし 4

是に於てエレミヤ、ネリヤの子バル
 クを召べりバルクすなはちエレミヤ
 の口にしたがひエホバの彼に告たま
 ひし言をことごとく卷物に録せり 5
 エレミヤ、バルクに云ひけるはわれ
 は禁錮られたればエホバの室に往く
 ことを得ず 6 故に汝ゆきて汝が我の
 口にしたがひて卷物に録したるエホ
 バの言をよみ斷食の日にエホバの室
 に於て民の耳にこれを聽しめよまた
 之を讀みてユダの人々のその邑々よ
 り來れる者の耳に聽しむべし 7 彼ら
 エホバの前にその祈禱を獻り各自其
 惡き途をはなれて轉ることもあらん
 エホバの此民につきてのべたまひし
 怒と憤は大なり 8 斯てネリヤの子バ
 ルクは凡て預言者エレミヤが己に命
 ぜしごとくエホバの室にてその卷物
 よりエホバの言を讀り 9 ユダの王ヨ
 シヤの子エホヤキムの五年九月エル
 サレムの諸の民およびユダの諸邑よ
 りエルサレムに來れる諸の民にエホ
 バの前に斷食を行ふべきこと宣示さ
 る 10 バルク、エホバの室の上庭に
 於てエホバの室の新しき門の入口の
 傍にあるシヤパンの子なる書記ゲマ
 リヤの房にてその書よりエレミヤの
 言を民に讀きかせたり 11 シヤパン
 の子なるゲマリヤの子ミカヤその書
 のエホバの言を盡くききて 12 王の
 宮にある書記の房にくだりいたるに
 諸の牧伯等即ち書記エリシヤマ、シ
 ママの子デラヤ、アカボルの子エル
 ナタン、シヤパンの子ゲマリヤ、ハ
 ナニヤの子ゼデキヤおよび諸の牧伯
 等そこに坐せり 13 ミカヤ、バルク
 が書を讀て民の耳に聽せしときに己
 が聽しどころのすべての言を彼らに
 告ければ 14 牧伯等クシの子シレミ
 ヤの子なるネタニヤの子エホデをバ
 ルクに遣はしていはせけるは汝が民
 に讀きかせしその卷物を手に取て來
 れとネリヤの子バルクすなはち手に
 卷物を取りて彼らの許にきたりたれ
 ば 15 彼らバルクにいひけるは請ふ
 坐して之を我らに讀きかせよとバル
 クすなはち彼らに讀聞せたり 16 彼
 らその諸の言をききて俱に懼れバル
 クにいひけるは我ら必ずこの諸の言
 を王に告んと 17 またバルクに問
 ていひけるは請ふ汝いかにこの諸の言
 をかれの口にしたがひて録せしや我
 らに告よ 18 バルク答へけるは彼そ
 の口をもてこの諸の言を我に述べた
 ればわれ墨をもて之を書に録せり 1
 9 牧伯等バルクにいひけるは汝ゆき
 てエレミヤとともに身を匿し在所を
 人に知しむべからずと 20 すなはち
 卷物を書記エリシヤマの房に置きて
 庭にいり王に詣りてこの諸の言を王
 につげければ 21 王その卷物を持來
 らせんとてエホデを遣せりエホデす
 なはち書記エリシヤマの房より卷物
 を取來りて之を王と王の側に立るす
 べての牧伯等に讀みきかせたり 22
 時は九月にして王冬の室に坐せり其
 前に火の燃る爐あり 23 エホデ三枚
 が四枚を讀れるとき王小刀をもてそ
 の卷物を切割き爐の火に投入れて之
 を盡く爐の火に焚り 24 王とその臣
 僕等は此の諸の言をきけども懼れず
 亦その衣を裂ざりき 25 エルナツ
 、デラヤ、ゲマリヤ等王にその卷物
 を焚たまふ勿れと求めたれども聽ざ

りき 26 王ハンメレクの子アラメル
 とアツリエルの子セラヤとアブデル
 の子セレミヤに書記バルクと預言者
 エレミヤを執へよと命ぜしがエホバ
 かれらを匿したまへり 27 王卷物お
 びバルクがエレミヤの口にしたがひ
 て記せし言を焚ししちエホバの言
 エレミヤに臨みていふ 28 汝また他
 の卷物を取りユダの王エホヤキムが
 焚しところの前の卷物の中の言をこ
 とごとく其に録せ 29 汝またユダの
 王エホヤキムに告よエホバかくいふ
 汝がわが卷物を焚ていへり汝何なれば
 此卷物に録してバビロンの王必ず來
 りてこの地を滅し此に人と畜を絶さん
 と云しやと 30 この故にエホバ、
 ユダの王エホヤキムにつきてかくい
 ひ給ふ彼にはダビデの位に坐する者
 無にいたらん且かれの屍は棄られて
 晝は熱氣にあひ夜は寒氣にあはん 3
 1 我また彼とその子孫とその臣僕等
 をその惡のために罰せんまた彼らと
 エルサレムの民とユダの人々に我ら
 が彼らにつきて語りしかども彼ら
 が聽ことをせざりし所の禍を降すべ
 し 32 是に於てエレミヤ他の卷物
 を取てネリヤの子書記バルクにあたふ
 バルクすなはちユダの王エホヤキム
 が火に焚たるところの書の諸の言を
 エレミヤの口にしたがひて之に録し
 外にまた斯る言を多く之に加へたり

Chapter 37

1 ヨシヤの子ゼデキヤ、エホヤ
 キムの子コニヤに代りて王となるバ
 ビロンの王ネブカデネザル彼をユダ
 の地に王となせしなり 2 彼もその臣
 僕等もその地の人々もエホバが預言
 者エレミヤによりて示したまひし言
 を聽ざりき 3 ぜデキヤ王シレミヤの
 子ユカルとマアセヤの子祭司ゼバニ
 ヤを預言者エレミヤに遣して請ふ汝
 我らの爲に我らの神エホバに祈れと
 いはしむ 4 エレミヤは民の中に入
 せりそはいまだ獄に入られざればなり
 5 パロの軍勢のエジプトより來り
 しかばエルサレムを攻圍みたるカル
 デヤ人は其音信をききてエルサレム
 を退けり 6 時にエホバの預言者エ
 レミヤにのぞみていふ 7 イスラエ
 ルの神エホバかくいふ汝ら遣して我
 に求めしユダの王にかくいへ汝らを
 救はんとて出きたりしパロの軍勢は
 おのれの地エジプトへ歸らん 8 カル
 デヤ人再び來りてこの邑を攻て戦ひ
 これを取り火をもて焚べし 9 エホバ
 かくいふ汝らカルデヤ人は必ず我ら
 をはなれて去んといひて自ら欺く勿
 れ彼らは去ざるべし 10 設令汝らお
 のれを攻て戦ふところのカルデヤ人
 の軍勢を悉く撃ちやぶりてその中に
 負傷のみを遺すとも彼らはおのお
 の其幕屋に起ちあがり火をもて此邑
 を焚かん 11 茲にカルデヤ人の軍勢
 パロの軍勢を懼れてエルサレムを退
 きければ 12 エレミヤ、ベニヤミン
 の地に於て民の中にその分を分ち取ら
 んとてエルサレムを出でてかの地に行
 きしが 13 ベニヤミンの門にいりし
 時そこにハナニヤの子シレミヤの
 子なるイリヤと名くる門守を預言
 者エレミヤを執へて汝はカルデヤ人

に降るなりといふ 14 エレミヤいひけるは詐なり我はカルデヤ人に降るにあらずと然どイリヤこれを聴ずエレミヤを執へて侯伯等の許に引ゆけり 15 侯伯等すなはち怒りてエレミヤを撻ちこれを書記ヨナタンの室の獄にいれたり蓋この室を獄となしたればなり 16 エレミヤ獄にいり土牢に入りてそこに多の日を送りしち 17 ゼデキヤ王人を遣して彼をひきいださしむ而して王室にて竊にかれにいひけるはエホバより臨める言あるやとエレミヤ答へていひけるは有り汝はバビロン王の手に付されん 18 エレミヤまたゼデキヤ王にいひけるは我汝あるいは汝の臣僕或はこの民に何なる罪を犯したれば汝ら我を獄にいれしや 19 汝らに預言してバビロンの王は汝らにも此地にも攻來らじといひし汝らの預言者はいま何處にあるや 20 されば王わが君よ願くはいま我に聴たまへ請ふわが願望を受納れ給へ我を書記ヨナタンの家に歸らしめたまふなかれ恐らくは我彼處に死なんと 21 是においてゼデキヤ王命じてエレミヤを獄の庭にいれしめ且邑のパンの悉く盡るまでパンを製る者の街より日々一片のパンを彼に與へしむ即ちエレミヤは獄の庭に在る

Chapter 38

1 マツタンの子シパテヤ、パシユルの子ゲダリヤ、シレミヤの子ユカル、マルキヤの子バシユル、エレミヤがすべての民に告たるその言を聞き 2 云くエホバかくいひたまふこの邑に留まるものは劍と饑饉と疫病に死べし然どいでてカルデヤ人に降る者は生んすなはちその生命をおのれの掠取物となして生べし 3 エホバかくいひたまふこの邑は必ずバビロン王の軍勢の手に付されん彼之を取べし 4 是をもてかの牧伯等王にいひけるは請ふこの人を殺したまへ彼はかくの如き言をのべて此邑に遣れる兵卒の手と民の手を弱くす夫人は民の安を求めずして其害を求むるなりと 5 ゼデキヤ王いひけるは視よ彼は汝らの手にあり王は汝らに逆ふこと能はざるなりと 6 彼らすなはちエレミヤを取て獄の庭にあるハンメレクの子マルキヤの阱に投いる即ち索をもてエレミヤを緋下せしがその阱は水なくして汚泥のみなりければエレミヤは汚泥のなかに沈めり 7 王の室の寺人エテオピア人エベデメレク彼らがエレミヤを阱になげいれしを聞き時に王ベニヤミンの門に坐しめられたれば 8 エベデメレク王の室よりいでゆきて王にいひけるは 9 王わが君よかの人が預言者エレミヤに行ひし事は皆好らず彼らこれを阱になげ入たり邑の中に食物なければ彼はその居るところに餓死せん 10 王エテオピア人エベデメレクに命じていひけるは汝こより三十人を携へゆきて預言者エレミヤをその死する先を阱より曳あげよ 11 エベデメレクすなはちその人々を携へて王の室の庫の下にいり其處より破れたる舊き衣の布片をとり索をもてこれをを阱

に在るエレミヤの所に緋下せり 12 而してエテオピア人エベデメレク、エレミヤに告て汝この破れたる舊き衣の布片を汝の腋の下にはさみて索に當よと云ければエレミヤ然なせり 13 彼らすなはち索をもてエレミヤを阱より曳あげたりエレミヤは獄の庭に在る 14 かくてゼデキヤ王人を遣はして預言者エレミヤをエホバの室の第三の門につれきたらしめ王エレミヤにいひけるは我汝に問ことあり毫もわれに隠す勿れ 15 エレミヤ、ゼデキヤにいひけるは我もし汝に示さば汝かならず我を殺さざらんや假令われ汝を勸むるとも汝われに聴じ 16 ゼデキヤ王密にエレミヤに誓ひていひけるは我らにこの靈魂を造りあたへしエホバは活く我汝を殺さず汝の生命を索むる者の手に汝を付さじ 17 エレミヤ、ゼデキヤにいひけるは萬軍の神イスラエルの神エホバかくいひたまふ汝もしまことにバビロン王の牧伯等に降らば汝の生命活んまた此邑は火にて焚れず汝と汝の家の者はいくべし 18 然ど汝もし出てバビロンの王の牧伯等に降らば此邑はカルデヤ人の手に付されん彼らは火をもて之を焚ん汝はその手を脱れざるべし 19 ゼデキヤ王エレミヤに云けるは我カルデヤ人に降りしところのユダ人を恐る恐くはカルデヤ人我をかれらの手に付さん彼ら我を辱しめん 20 エレミヤいひけるは彼らは汝を付さじ願くはわが汝に告しエホバの聲に聴したがひたまへさらば汝汝をえん汝の生命いきん 21 然ど汝もし降ることを否まばエホバこの言を我に示し給ふ 22 すなはちユダの王の室に遣れる婦は皆バビロンの王の牧伯等の所に曳いだされん其婦等いはん汝の朋友等は汝を誘ひて汝に勝り汝の足は泥に沈む彼らは退き去る 23 汝の妻たちと汝の子女等はカルデヤ人の所に曳出されん汝は其手を脱れじバビロンの王の手に執へられん汝此邑をして火に焚しめん 24 ゼデキヤ、エレミヤにいひけるは汝この事を人に知る勿れさらば汝殺されじ 25 もし牧伯等わが汝と語りしことを我儕に告げよ我らに隠す勿れ然ば我ら汝を殺さじ又王の汝に語りしことを告よといはば 26 汝彼らに答へて我王に求めて我をヨナタンの家に歸して彼處に死むること勿れといへりといふべし 27 かくて牧伯等エレミヤにきたりて問けるに彼王の命せし言のごとく彼らに告たればその事露はれざりき是をもて彼ら彼ともいふことを罷たり 28 エレミヤはエルサレムの取る日まで獄の庭に居りしがエルサレムの取れし時にも彼處に在り

Chapter 39

1 ユダの王ゼデキヤの九年十月バビロンの王ネブカデネザルその全軍をひきみエルサレムにきたりて之を攻圍みける 2 ゼデキヤの十一年四月九日にいたりて城邑破れたれば 3 バビロンの王の牧伯等即ちネルガルシヤレゼル、サムガルネボ、寺人の長サルセキム博士の長ネルガ

ルシヤレゼルおよびバビロンの王のその外の牧伯等皆ともに入て中の門に坐せり 4 ユダの王ゼデキヤおよび兵卒ども之を見て逃げ夜の中に王の園の途より兩の石垣の間の門より邑をいでてアラバの途にゆきしが 5 カルデヤ人の軍勢これを追ひエリコの平地にてゼデキヤにおひつき之を執へてハマテの地リブラに在るバビロンの王ネブカデネザルの許に曳ゆきければ王かしこにて彼の罪をさだめたり 6 すなはちバビロンの王リブラにてゼデキヤの諸子をかれの目の前に殺せりバビロンの王またユダのすべての牧伯等を殺せり 7 王またゼデキヤの目を抉さしめ彼をバビロンに曳ゆかんとて銅索に縛り 8 またカルデヤ人火をもて王の室と民の家をやき且エルサレムの石垣を毀てり 9 かくて侍衛の長ネブザラダンは邑の中に餘れる民とおのれに降りし者およびその外の遣れる民をバビロンに移せり 10 されど侍衛の長ネブザラダンはその時民の貧しくして所有なき者等をユダの地に遣し葡萄酒と田地とをこれにあたり 11 爰にバビロンの王ネブカデネザル、エレミヤの事につきて侍衛の長ネブザラダに命じていひけるは 12 彼を取りて善く待へよ害をくはふる勿れ彼が汝に云ふごとくなすべしと 13 是をもて侍衛の長ネブザラダ、寺人の長ネブシヤスバン博士の長ネルガルシヤレゼルおよびバビロンの王の牧伯等 14 人を遣してエレミヤを獄の庭よりたづさへ來らしめシヤパンの子アヒカムの子なるゲダリヤに付て之を家につれゆかしむ斯彼民の中に居る 15 エレミヤ獄の庭に禁錮される時エホバの言彼にのぞみていふ 16 汝ゆきてエテオピア人エベデメレクに告よ萬軍のエホバ、イスラエルの神かくいふわれ我語しところの禍を此邑に降さん福はこれに降さじその日この事汝の目前にならん 17 エホバいひたまふその日にはわれ汝を救はん汝はそれの畏るところの衆の手に付されじ 18 われ必ず汝を救はん汝は劍をもて殺されじ汝の生命は汝の掠取物とならん汝われに倚頼めばなりとエホバいひたまふ

Chapter 40

1 侍衛の長ネブザラダんかのバビロンにとらへ移さるエルサレムとユダの人々の中にエレミヤを縛につなぎおきてこれを執へゆきけるが遂にこれを放ちてラマを去しめたりその後エホバの言エレミヤにのぞめり 2 茲に侍衛の長エレミヤを召てこれにいひけるは汝の神エホバ此處にこの災あらんことを言り 3 エホバこれを降しその云し如く行へり汝らエホバに罪を犯しその聲に聴したがはざりしによりてこの事汝らに來りしなり 4 視よ我今日汝の手の縛を解て汝を放つ汝もし我とともにバビロンにゆくことを善とせば來れわれ汝を善くあしらはん汝もし我と偕にバビロンにゆくを惡とせば留れ視よこの地は皆汝の前に在り汝の善とする所汝の心に合ふところに往べし 5 エレ

ミヤいまだ答へざるに彼またいひけるは汝バビロンの王がユダの諸邑の上にて有司となせしシヤパンの子アヒカムの子なるゲダリヤの許に歸り彼とともに民の中に居れ或は汝の善とおもふところにゆくべしと侍衛の長彼に食糧と禮物をとらせて去しめたり 6 エレミヤすなはちミツパに往きてアヒカムの子ゲダリヤに詣りその地に遣れる民のうちに彼と偕に在る 7 茲に田舎にある軍勢の長等および彼らに屬する人々バビロンの王がアヒカムの子ゲダリヤを立てこの地の有司となし男女嬰孩および國の中のバビロンに移されざる貧者を彼にあづけたることをきしかば 8 即ちネタニヤの子イシマエルとカレヤの子ヨハナンとヨナタンおよびタンホメテの子セラヤとネトバ人なるエパイの諸子と或マアカ人の子ヤザニヤおよび彼らに屬する人々ミツパにゆきてゲダリヤの許にいたる 9 シヤパンの子アヒカムの子なるゲダリヤ彼らと彼らに屬する人々に誓ひていひけるは汝らカルデヤ人に在ることを怖る勿れこの地に住てバビロンの王に事へなば汝ら幸福ならん 10 我はミツパに居り我らに來らんところのカルデヤ人に事へん汝らは葡萄酒と菓物と油とをあつて之を器に蓄へ汝らが獲るところの諸邑に住めと 11 又モアブとアンモンの中およびエドムと諸の邦に在るところのユダヤ人はバビロンの王がユダに人を遣したるシヤパンの子アヒカムの子なるゲダリヤを立てこれが有司となしたることを聞き 12 是においてそのユダヤ人皆その追われし諸の處よりかへりてユダの地のミツパに來りゲダリヤに詣り而して多くの葡萄酒と菓物をあつむ 13 又カレヤの子ヨハナンおよび田舎に在りし軍勢の長たちミツパにきたりてゲダリヤの許にいたり 14 彼にいひけるは汝アンモン人の王バアリスが汝を殺さんとてネタニヤの子イシマエルを遣せしを知るやと然どアヒカムの子ゲダリヤこれを信ぜざりしかば 15 カレヤの子ヨハナン、ミツパにて密にゲダリヤに語りて言けるは請ふわれゆきて人知らずにネタニヤの子イシマエルを殺さんいかで彼汝を殺し汝に集れるユダ人を散しユダの遣れる者を滅すべけんやと 16 然るにアヒカムの子ゲダリヤ、カレヤの子ヨハナンにいひけるは汝この事をなすべからず汝イシマエルにつきて偽をいふなり

Chapter 41

1 七月ごろ王の血統なるエリシヤマの子ネタニヤの子イシマエル王の十人の牧伯等とともにミツパにゆきてアヒカムの子ゲダリヤにいたりミツパにて偕に食をなせしが 2 ネタニヤの子イシマエルおよび偕に在りし十人の者起上りバビロンの王がこの地の有司となせしシヤパンの子アヒカムの子なるゲダリヤを刀にて殺せり 3 イシマエルまたミツパにゲダリヤと偕に在りし諸のユダヤ人と彼處に在りしカルデヤ人の兵卒を殺し

たり4彼がゲダリヤを殺してより二日の後いまだ誰も之を知ざりし時5ある人八十人その鬚を薙り衣を裂き身に傷つけ手に素祭の物と香を携へてシケム、シロ、サマリヤよりきたりてエホバの室にいらんとせしかば6ネタニヤの子イシマエル、ミツバよりいでて哭きつつ行て彼らを迎へ彼等に逢てアヒカムの子ゲダリヤの許に來れといへり7而して彼ら邑の中に入しときネタニヤの子イシマエル己と偕にある人々とともに彼らを殺してその屍を阱に投げたり8但しその中の十人イシマエルにむかひ我らは田地に小麦麥黍油および蜜を藏し有り我らをこらすなかれと言たれば彼らをその兄弟と偕に殺さずして已ぬ9イシマエルがゲダリヤの名をもて殺せし人の屍を投入れし阱はアサ王がイスラエルの王バアシャを怖れて鑿し阱なりネタニヤの子イシマエルその殺せし人々を之に充せり10イシマエルはミツバに遣りて諸の民即ち王の諸女と侍衛の長ネブザラダンがアヒカムの子ゲダリヤに交付しところのミツバに遣れる諸の民とを擄にせりネタニヤの子イシマエルすなはち彼らを擄にしアンモン人に往んと去れり11カレヤの子ヨハナンおよび彼と偕に在る軍勢の長たちネタニヤの子イシマエルの爲し諸の惡事を聞ければ12その衆卒を率てネタニヤの子イシマエルと戰はんとて出でギベオンの池の旁にて彼に遇ふ13イシマエルと偕に在る人々はカレヤの子ヨハナンおよび彼とともに在る軍勢の長たちを見て欣べり14是をもてイシマエルがミツバより擄へきたりし所の人々身をめぐらしてカレヤの子ヨハナンの許にゆけり15ネタニヤの子イシマエルは八人の者と偕にヨハナンを避け逃てアンモン人に往り16カレヤの子ヨハナンおよび彼とともに在る軍勢の長等はネタニヤの子イシマエルがアヒカムの子ゲダリヤを殺してミツバより擄へゆけるところの彼遣れる民すなはち兵卒婦人兒女寺人等を其手より携かへして之をギベオンより携かへりしが17進てエジプトにいたらんとしてベツレヘムの近傍にあるキムハムの住處に往て留れり18こはネタニヤの子イシマエルがバピロンの王の此地の有司となしたるアヒカムの子ゲダリヤを殺せしによりカルデヤ人を懼たればなり

Chapter 42

1茲に軍勢の長たちおよびカレヤの子ヨハナンとホシャヤの子エザニヤ並に民の至微者より至大者にいたるまで2皆預言者エレミヤの許に來りて言けるは汝の前に我らの求の受納れんことを願ふ請ふ我ら遣れる者の爲に汝の神エホバに祈れ(今汝の目に見がごとく我らは衆さの中の遣れる者にして寡なり)3さらば汝の神エホバ我らの行むべき途となすべき事を示したまはん4預言者エレミヤ彼らに云けるは我汝らに聽り汝らの言に循ひて汝らの神エホバに祈らん凡そエホバが汝らに應へたまふ

ことはわれ隠す所なく汝らに告べし5彼らエレミヤにいひけるは願くはエホバ我儕の間にありて眞實なる信すべき證者となりたまへ我らは汝の神エホバの汝を遣して我らに告しめたまふ諸の事に遵ひて行ふべし6我らは善にまれ惡きにまれ我らが汝を遣すところの我らの神エホバの聲に遵はん斯我らの神エホバの聲に遵ひてわれら福をうけん7十日の後エホバの言エレミヤにのぞみしかば8エレミヤ、カレヤの子ヨハナンおよび彼と偕に在る軍勢の長たち並に民の至微者より至大者までを悉く招きて9これにいひけるは汝らが我を遣して汝らの祈を獻げしめしところのイスラエルの神エホバがくいひ給ふ10汝らもし信に此地に留らばわれ汝らを建てて倒さず汝らを植て拔じそは我汝らに災を降せしを悔ればなり11エホバいひたまふ汝らが畏るところのバピロンの王を畏る勿れ彼をおそる勿れわれ汝らとともにありて汝らを救ひ彼の手より汝らを拯ふべし12われ汝らを恤みたまふ汝をして汝らを恤ませ汝らを故土に歸らしめん13然ど汝らもし我らはこの地に留らじ汝らの神エホバの聲に遵はじと言ひ14また然りわれらはかの戰爭を見ず菰の聲をきかず食物に乏しからざるエジプトの地にいたりて彼處に住はんといはば15汝らユダの遣れる者よエホバの言をきけ萬軍のエホバ、イスラエルの神かくいひたまふ汝らもし強てエジプトにゆきて彼處に住はば16汝らが懼るところの劍エジプトの地にて汝らに臨み汝らが恐るところの饑饉エジプトにて汝らにおよばん而して汝らは彼處に死べし17凡そエジプトにおもむき至りて彼處に住はんとする人々は劍と饑饉と疫病に死べしその中には我彼らに降さんとところの災を脱れて遣る者無るべし18萬軍のエホバ、イスラエルの神かくいひたまふ我震怒と憤恨のエルサレムに住る者に注ぎし如くわが憤恨汝らがエジプトにいらん時に汝らに注がんと汝らは呪詛となり詫異となり罵詈となり凌辱とならん汝らは再びこの處を見ざるべしと19ユダの遣れる者よエホバ汝らにつきていひたまへり汝らエジプトにゆく勿れと汝ら今日わが汝らを警めしことを確に知れ20汝ら我を汝らの神エホバに遣して言へり我らの爲に我らの神エホバに祈り我らの神エホバの汝に示したまふ事をことごとく我らに告よ我ら之を行はんと斯なんぞ自ら欺けり21われ今日汝らに告たれど汝らは汝らの神エホバの聲に遵はず汝らはエホバが我を遣して命ぜしめたまひし事には都て遵はざりき22然ば汝らはその往て住んとねがふ處にて劍と饑饉と疫病に死ることを今確に知るべし

Chapter 43

1エレミヤ諸の民にむかひて其神エホバの言を盡く宣べその神エホバが己を遣して言しめたまへる其諸の言を宣をはりし時2ホシャヤの子アザリヤ、カレヤの子ヨハナンおよ

び驕る人皆エレミヤに語りていひけるは汝は謊をいふ我らの神エホバはエジプトにゆきて彼處に住む勿れと汝をつかはして云せたまはざるなり3ネリヤの子バルク汝を唆して我らに逆はしむは我らをカルデヤ人の手に付して殺さしめバピロンに移さしめん爲なり4スカレヤの子ヨハナンと軍勢の長等および民皆エホバの聲に遵はずしてユダの地に住ことをせざりき5斯てカレヤの子ヨハナンと軍勢の長等はユダに遣れる者即ちその逐やられし國々よりユダの地に往んとて飯りし者6男女嬰孩王の女たちおよび凡て侍衛の長ネブザラダンがシャパンの子なるアヒカムの子ゲダリヤに付し置し者並に預言者エレミヤとネリヤの子バルクを取て7エジプトの地に至りし彼らエホバの聲に遵はざりき而して遂にタバネスに至れり8エホバの言タバネスにてエレミヤに臨みていふ9汝大なる石を手に取りユダの人々の目の前にてこれをタバネスに在るパロの室の入口の旁なる磚室の泥土の中に藏して10彼らにいへ萬軍のエホバ、イスラエルの神かくいひたまふ視よわれ使者を遣はしてわが僕なるバピロンの王ネブカデネザルを召きその位をこの藏したる石の上に置しめん彼錦繡をその上に敷べし11かれ來りてエジプトの地を撃ち死に定まれる者を死しめ虜に定まれる者を虜にし劍に定まれる者を劍にかけん12われエジプトの諸神の室に火を燃さんネブカデネザル之を焚きかれらを虜にせん而して羊を牧ふ者のその身に衣を纏ふがごとくエジプトの地をその身に纏はん彼安然に其處をさるべし13彼はエジプトの地のベテシメシの偶像を毀ち火をもてエジプト人の諸神の室を焚べし

Chapter 44

1エジプトの地に住るところのユダの人衆すなはちミグドル、タバネス、ノフ、パテロスの地に住る者の事につきてエレミヤに臨みし言に曰く2萬軍のエホバ、イスラエルの神かくいふ汝ら是我エルサレムとユダの諸邑に降せしところの災をみたり視よこれらは今日すでに空曠となりて住む人なし3こは彼ら惡をなして我を怒らせしによる即ちかれらは己も汝らも汝らの先祖等も識ざるところの他の神にゆきて香を焚き且これに奉へたり4われ我僕なる預言者たちを汝らに遣し頻にこれを遣して請ふ汝らわが嫌ふところの此憎むべき事を行ふ勿れといはせけるに5彼ら聽かず耳を傾けず他の神に香を焚きてその惡を離れざりし6是によりて我震怒とわが憤恨エジプトの諸邑とエルサレムの街にそそぎて之を焚たれば其等は今日のごとく荒れかつ傾圮たり7萬軍の神イスラエルの神エホバいまかくいふ汝ら何なれば大なる惡をなして己の靈魂を害しユダの中より汝らとの男と女と孩童と乳哺子を絶て一人も遣らざらしめんとするや8何なれば汝ら其手の行爲をもて我を怒らせ汝らが往て住ふところの工

ジプトの地に於て他の神に香を焚きて己の身を滅し地の萬國の中に呪詛となり凌辱とならんとするや9ユダの地とエルサレムの街にて行ひし汝らの先祖等の惡ユダの王等の惡其妻等の惡および汝らの身の惡汝らの妻等の惡を汝ら忘れしや10彼らは今日にいたるまで悔いずまた畏れず汝らと汝らの先祖等の前に立たる我律法とわが典例に循ひて行まざるなり11是故に萬軍のエホバ、イスラエルの神かくいふ視よわれ面を汝らにむけて災を降しユダの人衆を悉く絶ん12又われエジプトの地にすまんとてその面をこれにむけて往しところの彼ユダの遣れる者を取らん彼らは皆滅されてエジプトの地に仆れん彼らは劍と饑饉に滅され微者も大者も劍と饑饉によりて死べし而して呪詛となり詫異となり罵詈となり凌辱とならん13われエルサレムを罰せし如く劍と饑饉と疫病をもてエジプトに住る者を罰すべし14是をもてエジプトの地に往て彼處に住るところのユダの遣れる者の中に一人も逃れまたは遣りてその心にしたひて歸り住はんとねがふところのユダの地に歸るもの無るべし逃る者の外には歸る者無るべし15是に於てその妻が香を他の神に焚しことを知れる人々および其處に立てる婦人等の大なる群衆並にエジプトの地のパテロスに住るところの民エレミヤに答へて云けるは16汝がエホバの名をもてわれらに述し言は我ら聽かじ17我らは必ず我らの口より出る言を行ひ我らが素なせし如く香を天后に焚きまた酒をその前に灌ぐべし即ちユダの諸邑とエルサレムの街にて我らと我らの先祖等および我らの王等と我らの牧伯等の行ひし如くせん當時われらは糧に飽き福をえて災に遇ざりし18我ら天后に香を焚くことを止め酒をその前に灌がずなりし時より諸の物に乏しくなり劍と饑饉に滅されたり19我らが天后に香を焚き酒をその前に灌ぐに方りて之に象りてパンを製り酒を灌ぎしは我らの夫等の許せし事にあらずや20エレミヤ即ち男女の諸の人衆および此言をもて答へたる諸の民にいひけるは21ユダの諸邑とエルサレムの街にて汝らと汝らの先祖等および汝等の王等と汝らの牧伯等および其地の民の香を焚しことはエホバ之を憶えまた心に思ひたまふにあらずや22エホバは汝らの惡き爲のため汝らの憎むべき行の爲に再び忍ぶことをえせざりきこの故に汝らの地は今日のごとく荒地となり詫異となり呪詛となり住む人なき地となれり23汝ら香を焚きエホバに罪を犯しエホバの聲に聽したがはずその律法と憲法と證詞に循ひて行まざりしに由て今日のごとく此災汝らにおよべり24エレミヤまたすべての民と婦等にいひけるはエジプトの地に居るユダの子孫よエホバの言をきけ25萬軍のエホバ、イスラエルの神かくいひたまふ汝らと汝らの妻等は口をもていひ手をもて成し我ら香を天后に焚き酒を灌ぎて立しところの誓を必ず成就んといふ汝ら必ず誓をたてかならず其誓を成就んとす26この故にエジプトの地に

住るユダの人々よエホバの言をきけ
エホバいひたまふわれ我大なる名を
指て誓ふエジプトの全地にユダの人
々一人もその口に主エホバは活くと
いひて再び我名を稱ふることなきに
いたらん 27 視よわれ彼らをつかが
はん是福をあたふる爲にあらず禍を
くださん爲なりエジプトの地に居る
ユダの人々は剣と饑饉に滅びて絶る
にいたらん 28 然ど剣を逃るる僅少
の者はエジプトの地を出てユダの地
に歸らん又エジプトの地にゆきて彼
處に寄寓れるユダの遣れる者はその
立ところの言は我のなるか彼らのな
るかを知るにいたるべし 29 エホバ
いひ給ふわがこの處にて汝らを罰す
る兆は是なり我かくして我汝らに禍
をくださんといひし言の必ず立こと
を知しめん 30 すなはちエホバかく
いひたまふ視よわれユダの王ゼデキ
ヤを其生命を索むる敵なるバビロン
の王ネブカデネザルの手に付せしが
如くエジプトの王パロホフラを其敵
の手その生命を索むる者の手に付さ
ん

Chapter 45

1 ユダの王ヨシヤの子エホヤキ
ムの四年ネリヤの子バルクが此等の
言をエレミヤの口にしたがひて書に
録せしとき預言者エレミヤこれに語
りていひけるは2 バルクよイスラエ
ルの神エホバ汝にかくいひ給ふ3 汝
曾ていへり嗚呼我は禍なるかなエホ
バ我憂に悲を加へたまへり我は歎き
て疲れ安きをえずと4 汝かく彼に語
れエホバかくいひたまふ視よわれ我
建しところの者を毀ち我植しところ
の者を拔ん是の全地なり5 汝己れ
の爲に大なる事を求むるかこれを求
むる勿れ視よわれ災をすべての民に
降さん然ど汝の生命は我汝のゆかん
諸の處にて汝の掠物とならしめん
とエホバいひたまふ

Chapter 46

1 茲にエホバの言預言者エレミ
ヤに臨みて諸國の事を論ふ2 先エジ
プトの事すなはちユフラテ河の邊な
るカルケミシの近傍にをるところの
エジプト王パロネコの軍勢の事を論
ふ是はユダの王ヨシヤの子エホヤキ
ムの四年にバビロンの王ネブカデ
ネザルが撃やぶりし者なり其言にい
はく 3 汝ら大楯小干を備へて進み戦へ4 馬
を車に繋ぎ馬に乗り盔を被りて立て
て戈を磨き甲を着よ5 われ見るに彼ら
は懼れて退きその勇士は打敗られ狼
狽遁て後をかへりみずは何故ぞや畏
懼かれらのまはりにありとエホバ
いひたまふ6 快足なる者も逃えず強
者も遁れえず皆北の方にてユフラテ
河の旁に蹶き仆れん7 かのナイルのご
とくに湧あがり河のごとくに其水さ
かまく者は誰ぞや8 エジプトはナ
イルの如くに湧あがりその水は河の如
くに逆まくなり而していふ我上りて
地を蔽ひ邑とその中に住る者を滅
さん9 汝等馬に乗り車を驅馳らせよ
勇士よ盾を執るエテオピア人ブテ

および弓を張り挽くルデ人よ進みい
づべし 10 此は主なる萬軍のエホバ
の復仇の日即ちその敵に仇を復し給
ふ日なり剣は食ひて飽きその血に酔
はん主なる萬軍のエホバ北の地にて
ユフラテ河の旁に幸ることをなし給
へばなり 11 處女よエジプトの女よ
ギレアデに上りて乳香を取れ汝多く
の薬を用ふるも益なし汝は愈ざるべ
し 12 汝の恥辱は國々にきこえん汝
の號泣は地に満てり勇士は勇士にう
ち觸てともに仆る 13 バビロンの王
ネブカデネザルが來りてエジプトの
地を撃んとする事につきてエホバの
預言者エレミヤに告たまひし言 14
汝らエジプトに宣べミグドルに示し
又ノフ、タバネスに示しいふべし汝
ら堅く立ちて自ら備よ劍なんぢの四
周を食ひたればなり 15 汝の力ある
者いかにして拂ひ除かれしやその立
ざるはエホバこれを仆したまふに由
るなり 16 彼多の者を蹶かせたまふ
人其友の上に仆れかさなり而してい
ふ起よ我ら滅すところの劍を避てわ
が國にかへり故土にいたらんと 17
人彼處に叫びてエジプトの王パロ
は滅されたり彼は機會を失へりとい
ふ 18 萬軍のエホバと名りたまふと
ころの王いひたまふ我は活く彼は山
々の中のタボルのごとく海の旁の
カルメルのごとくに來らん 19 エジ
プトに住る女よ汝移轉の器皿を備へよ
そはノフは荒蕪となり焼れて住む人
なきにいたるべければなり 20 エジ
プトは至美しき牝の犢のごとし蜚蛇
きたり北の方より來る 21 また其
の傭人は肥たる犢のごとし彼ら轉向
てともに逃げ立ことをせず是の滅
さるる日いたり其罰せらるる時來り
たればなり 22 彼は蛇の如く聲をい
だす彼ら軍勢を率ゐて來り樵夫の如
く斧をもて之にのぞめり 23 エホバ
いひ給ふ彼らは探りえざるに由りて
彼の林を砍仆せり彼等は蝗蟲よりも
多して數へがたし 24 エジプトの女
は辱められ北の民の手に付されん 25
萬軍のエホバ、イスラエルの神い
ひ給ふ視よわれノフのアモンとパロ
とエジプトとその諸神とその王等
すなはちパロとかれを頼むものを罰
せん 26 われ彼らを其生命を索むる
者の手とバビロンの王ネブカデネザ
ルの手とその臣僕の手に付すべし
その後この地は昔のごとく人の住む
ところとならん又エホバいひたまふ
27 我僕ヤコブよ怖るる勿れイスラ
エルよ驚く勿れ視よわれ汝を遠方より
救ひきたり汝の子孫をその擄移され
たる地より救ひとるべしヤコブは歸
りて平安と寧靜をえん彼を畏れし
者なかるべし 28 エホバいひたま
ふ我僕ヤコブよ汝怖るる勿れ我汝と
偕にあればなり我汝を逐やりし國々
を悉く滅すべけれど汝をば悉くは滅
さじわれ道をもて汝を懲し汝を全く
は罪なき者とせざるべし

Chapter 47

1 パロがガザを撃ざりし先にペ
リシテ人の事につきて預言者エレミ
ヤに臨みしエホバの言 2 エホバかく
いひたまふ視よ水北より起り溢れな

がれて此地と其中の諸の物とその邑
と其中に住る者にと溢れかかるべし
その時人衆は叫びこの地に住る者は
皆哭くべし 3 その遅しき馬の蹄の蹴
たつる音のため其車の響のため其輪
の轟のために父は手弱りて己の子女
を顧みざるなり 4 是ペリシテ人を滅
しつろとシドンにのこりて助力を
なす者を悉く絶す日來ればなり
エホバ、カフトルの地に遣れるペリ
シテ人を滅したまふべし 5 ガザには
髪を剃るの事はじまるアシケロンと
其剩餘の平地は滅ぼさる汝いつまで
身に傷くるや 6 エホバの劍よ汝いつ
まで息まざるや汝の鞘に歸りて息み
静まれ 7 エホバこれに命じたるなれ
ばいかで息むことをえんやアシケロ
ンと海邊を攻ることを定めたまへり

Chapter 48

1 萬軍のエホバ、イスラエルの
神モアブの事につきてかくいひたま
ふ嗚呼ネボは禍なるかな是滅され
たりキリヤタイムは辱められて取られ
ミスガブは辱められて毀たる 2 モア
ブの榮譽は失ざりぬヘシボンにて人
衆モアブの害を謀り去來之を絶ちて
國をなさざらしめんといふマデメン
よ汝は滅されん劍汝を追はん 3 ホロ
ナインより號眺の聲きこゆ毀敗と大
なる滅亡なり 4 モアブ滅されてその
嬰孩等の號眺聞ゆ 5 彼らは哭き哭き
てルヒテの坂を登る敵はホロナイン
の下り路にて滅亡の號眺をきけり 6
逃て汝らの生命を救へ曠野に棄られ
たる者の如くなれ 7 汝は汝の工作と
財寶を頼むによりて汝も執られん
又ケモシは其祭司およびその牧伯等
と偕に擄へうつさるべし 8 殘害者諸
の邑に來らん一の邑も免れざるべし
谷は滅され平地は荒されんエホバの
いひたまひしがごとし 9 翼をモア
ブに予へて飛ざらしむ其諸邑は荒て
住者なからん 10 エホバの事を行ふ
て怠る者は詛はれ又その劍をおさへ
て血を流さざる者は詛はる 11 モア
ブはその幼時より安然にして酒の其
滓のうへにとざまりて此器よりの器
に斟うつされざりしが如くなりき彼
擄うつされざりしに由て其味尚存ち
その香氣變らざるなり 12 エホバ
いひたまふ此故にわがこれを傾くる者
を遣はす日來らん彼らすなはち之を
傾け其器をあげ其罇を碎くべし 13
モアブはケモシのために羞をとらん
是イスラエルの家がその恃めるところ
のペテルのために羞をとらしが如く
なるべし 14 汝ら何ぞ我らは勇士な
り強き軍人なりといふや 15 モア
ブはほろぼされその諸邑は騰りその
選擇の壯者は下りて殺さる萬軍のエ
ホバと名る王これをいひ給ふ 16 モ
アブの滅亡近けりその禍速に來る 17
凡そ其四周にある者よ彼のために歎
けその名を知る者よ強き羊美しき杖
いかにして折しやといへ 18 デボン
に住る女よ榮をはなれて下り燥ける
地に坐せよモアブを敗る者汝にきた
りて汝の城を滅さん 19 アロエルに
住る婦よ道の側にたちて聞ひ逃きた
る者と脱れいたる者に事いかんと問
へ 20 モアブは敗られて羞をとる汝

ら呼はり眺びモアブは滅されたりと
アルノンに告よ 21 鞠災平地に臨み
ホロン、ヤハツ、メバアテ 22 デボ
ン、ネボ、ベテデブラタイム 23 キ
リヤタイム、ベテガムル、ベテメオ
ン 24 ケリオテ、ボズラ、モアブの
地の諸邑の遠き者にも近き者にも臨
めり 25 モアブの角は砕け其臂は折
たりとエホバいひたまふ 26 汝らモ
アブを酔はしめよ彼エホバにむかひ
て驕傲ればなりモアブは其吐る物
に轉びて笑柄とならん 27 イスラエ
ルは汝の笑柄にあらざりしや彼盜人
の中にありしや汝彼の事を語ること
に首を揺たり 28 モアブに住る者よ
汝ら邑を離れて磐の間にすめ穴の口
の側に巢を作る斑鳩の如くせよ 29
われらモアブの驕傲をきけり其驕傲
は甚だし即ち其驕傲矜高驕誇および
その心の自ら高くするを聞き 30 エ
ホバいひたまふ我モアブの驕傲とそ
の言の虚きとを知る彼らは偽を行ふ
なり 31 この故に我モアブの爲に眺
びモアブの全地の爲に呼はるキルハ
レスの人々の爲に嗟歎あり 32 シマ
マの葡萄の樹よわれヤゼルの哭泣に
こえて汝の爲になげくべし汝の蔓は
海を踰え延てヤゼルの海にまでいた
る掠奪者來りて汝の果と葡萄をとらん
33 欣喜と歡樂園とモアブの地を
はなれ去る我酒醉に酒無からしめん
呼はりて葡萄を踐ももの無るべし其
喚呼は葡萄をふむ喚呼にあらざらん
34 ヘシボンよりエレアレとヤハツに
いたりゾアルよりホロナインとエゲ
ラテシリヤにいたるまで人聲を揚
ぐそはニムロムの水までも絶たれば
なり 35 エホバいひたまふ我祭物を
崇邱に献げ香をその諸神に焚くこ
ころの者をモアブの中に滅さんと 36
この故に我心はモアブの爲に簫のご
とく歎き我心はキルハレスの人衆の
ために簫のごとく歎く是其獲たると
ころの財うせたればなり 37 人みな
その髪を剃り皆その鬚をそり皆その
手に傷け腰に麻布をまとはん 38 モ
アブにては家蓋の上と街のうちに遍
く悲哀ありそはわれ心に適ざる器の
ごとくにモアブを碎きたればなりと
エホバいひたまふ 39 嗚呼モアブは
ほろびたり彼らは眺び嗚呼モアブは
羞て面を背けたりモアブはその四
周の者の笑柄となり恐懼となれり 40
エホバかくいひたまふ視よ敵驚の
ごとくに飛來りて翼をモアブのうへ
に舒ん 41 ケリオテは取られ城はみな
奪はるその日にはモアブの勇士の心
子を産む婦のごとくなるべし 42
モアブはエホバにむかひて傲りしゆ
糸に滅ばされて再び國を成ざるべし
43 エホバいひたまふモアブにすめる
者よ恐怖と陷阱と罟汝に臨めり 44
恐怖をさけて逃るものは陷阱におち
いり陷阱より出るものは罟にとら
はれん其はわれモアブにその罰をう
べき年をのぞまひむればなりエホ
バこれをいふ 45 遁逃者は力なく
してヘシボンの蔭に立つ是は火ヘシ
ボンより出で火焰シボンのうちより
出でモアブの地および喧鬧をなす者
の首の頂を焼ばなり 46 嗚呼禍なる
かなモアブよケモシの民は亡びたり即
ち汝の諸子は擄へうつされ汝の女等
は執へゆかれたり 47 然ど末の日に

我モアブの擄移されたる者を返さんとエホバひひ給ふ此まではモアブの鞫をいへる言なり

Chapter 49

1アンモン人の事につきてエホバかくいひたまふイスラエルに子ながらんや嗣子ながらんや何なれば彼らの王ガドを受嗣ぎ彼の民その邑々に住や2エホバひひたまふ是故に視よわが戦闘の號呼をアンモン人のラバに聞えしむる日いたらんラバは荒埜となりその女等は火に焚れんその時イスラエルはおのれの嗣者となりし者等の嗣者となるべしエホバこれをいひたまふ3ヘシボンよ眺ベアイは滅びたりラバの女たちよ呼はれ麻布を身にまとひ嗟て籬のうちに走れマルカムとその祭司およびその牧伯等は偕に擄へ移されたり4汝何なれば谷の事を誇るや背ける女よ汝の谷は流るなり汝財貨に倚頼みていふ誰か我に來らんと5主なる萬軍のエホバひひたまふ視よ我畏懼を汝の四周の者より汝に來らしめん汝らおのおの逐れて直にすすまん逃る者を集むる人無るべし6然ど後にいたりてわれアンモン人の擄移されたる者を返さんとエホバひひたまふ7エドムの事につきて萬軍のエホバかくいひたまふテマンの中には智慧あることなきにいたりしや明哲者には謀略あらずなりしやその智慧は盡はてしや8デダンに住る者よ逃よ遁れよ深く竊れよ我工サウの滅亡をかれの上にてぞませ彼を罰する時をきたらしむべし9葡萄酒を飲むる者もし汝に來らば少許の果も余さざらんもし夜間盗人きたらばその飽まで滅さん10われ工サウを裸にし又その隱處を露にせん彼は身を匿すことをえざるべしその裔も兄弟も隣舍も滅されん而して彼は在ざるべし11汝の孤子を遣せわれ之を生かすべし汝の嬰は我に倚頼むべし12エホバかくいひ給ふ視よ杯を飲べきにあらざる者もこれを飲ざるをえざるなれば汝まつたく罰を免るることをえんや汝は罰を免れじ汝これを飲ざるべからず13エホバひひたまふ我おのれを指して誓ふボズラは詫異となり羞辱となり荒地となり呪詛とならんその諸邑は永く荒地となるべし14われエホバより音信をきけり使者遣されて萬國にいたり汝ら集りて彼に攻めきたり起て戦へよといへり15視よわれ汝を萬國の中に小者となし人々の中に藐めらるる者となせり16磐の隱場にすみ山の高處を占る者よ汝の恐るしき事と汝の心の驕傲汝を欺けり汝鷹のごとくに巢を高き處に作りたれどもわれ其處より汝を取り下さんとエホバひひたまふ17エドムは詫異とならん凡そ其處を過る者は驚きその災害のために笑ふべし18エホバひひたまふソドムとゴモラとその隣の邑々の滅しがごとく其處に住む人なく其處に宿る人の子ながらんべし19視よ敵獅子のヨルダンの叢より上るがごとく堅き宅に攻めきたらんわれ直に彼を其處より逐奔らせわが選みたる者をその上に立てん誰か我の

ごとき者あらん誰か我爲に時期を定めんや孰の牧者か我前にたつことをえん20さればエドムにつきてエホバの謀りたまひし御謀とテマンに住る者につきて思ひたまひし思をきけ群の弱者はかならず曳ゆかれん彼かならずかれらの住宅を滅すべし21その傾圮の響によりて地は震ふ號眺ありその聲紅海にきこゆ22みよ彼鷹のごとくに上り飛びその翼をボズラの上に舒べんその日エドムの勇士の心は子を産む婦の心如くならん23ダマスコの事ハマテとアルパデは羞づそは凶き音信をきけばなり彼らは心を喪へり海の上に恐懼あり安き者なし24ダマスコは弱り身をめぐらして逃んとす恐懼これに及び憂愁と痛劬子を産む婦にあるごとくこれにおよぶ25頌美ある邑我欣ぶところの邑を何なれば棄さらざるや26さればその日に壯者は街に仆れ兵卒は悉く滅されんと萬軍のエホバひひたまふ27われ火をダマスコの石垣の上に燃しベネハダゲの殿舎をごとく焚くべし28バビロンの王ネブカデネザルが攻め撃たるケダルとハゾルの諸國の事につきてエホバかくいひたまふ汝ら起てケダルに上り東の衆人を滅せ29その幕屋とその羊の群は彼等これを取りその幕とその諸の器と駱駝とは彼等これを奪ひとらん人これに向ひ惶懼四方にありと呼べし30エホバひひたまふハゾルに住る者よ逃よ急に走りゆき深き處に居れバビロンの王ネブカデネザル汝らせむる謀略を運らし汝らせむる術計を設けたればなり31エホバひひ給ふ汝ら起て穩なる安かに住める民の所に攻め上れ彼らは門もなく關もなくして獨り居ふなり32その駱駝は擄掠とせられその多の畜は奪はれん我かの毛の角を剪る者を四方に散しその滅亡を八方より來らせんとエホバひひたまふ33ハゾルは山犬の窟となり何までも荒蕪となりをらん彼處に住む人なく彼處に宿る人の子ながらんべし34ユダの王ゼデキヤが位に即し初このころエホバの言預言者エレミヤに臨みてエラムの事をいふ35萬軍のエホバかくいひたまふ視よわれエラムが權能として頼むところの弓を折らん36われ天の四方より四方の風をエラムに來させらるを四方の風に散さんエラムより追出さるる者のいたらざる國はなかるべし37エホバひひたまふわれエラムをしてその敵の前とその生命を奪むるもの前に懼れしめん我災をくだし我烈しき怒をその上にいたらせんまたわれ劍をその後につかしてこれを滅し盡すべし38われ我位をエラムに居る王と牧伯等を其處より滅したたんとエホバひひたまふ39然ど末の日にいたりてわれエラムの擄移されたる者を返すべしとエホバひひたまふ

Chapter 50

1エホバ預言者エレミヤによりてバビロンとカルデア人の地のことを語り給ひし言2汝ら國々の中に告げまた宣示せ霧を樹より隠すことなく

宣示して言へバビロンは取られれば辱められメロダクは碎かれ其像は辱められ其木像は碎かると3そは北の方より一の國人きたりて之を攻めその地を荒して其處に住む者無らしむればなり人も畜も皆逃去れり4エホバひひたまふその日その時イスラエルの子孫かへり來らん彼らと偕にユダの子孫かへり來るべし彼らは哭きつつ行てその神エホバに請求むべし5彼ら面をシオンに向てその路を問ひ來れ我らは永遠わすることなき契約をもてエホバにたらならんといふべし6我民は迷へる羊の群なりその牧者之をいざなひて山にふみ迷はしめられたれば山より岡とゆきめぐりて其休息所を忘れたり7之に遇ふもの皆之を食ふその敵いへり我らは罪なし彼らエホバすなはち義きの在所その先祖の望みしところなるエホバに罪を犯したるなり8汝らバビロンのうちより逃よカルデア人の地より出よ群の前にゆくところの牡山羊のごとくせよ9視よわれ大なる國々より人を起しあつめられたる地よりバビロンに攻め來らしめん彼ら之にむかひて備をたてん是すなはち取るべし彼らの矢は空しく返らざる狡き勇士の矢のごとくなるべし10カルデアは人に掠められん之を掠むる者は皆飽ことをえんエホバ曰たまふ11我産業を掠る者よ汝らは喜び樂み穀物を碾す犢のごとくに躍り牡馬のごとく嘶けども12汝らの母は痛く辱められん汝らを生しものは恥べし視よ國々の中の終末の者荒野となり焼ける地となり沙漠とならん13エホバの怒りの爲に之に住む者なくして悉く荒地となるべしバビロンを過る者は皆その禍に驚き且嗤はん14凡そ弓を張る者よバビロンの四周に備をなして攻め矢を惜まらずして之を射よそは彼エホバに罪を犯したればなり15その四周に喊き叫びて攻めかかれは手を伸ぶその城堞は倒れその石垣は崩る是エホバ仇を復したまふなり汝らこれに仇を復せ是の行ひしごとく是に行へ16播種者および穡收時に鎌を執る者をバビロンに絶せその滅すところの劍を怖れて人おのおの其民に歸り各その故土に逃べし17イスラエルは散されたる羊にして獅子之を追ふ初にアツスリヤの王之を食ひ後にこのバビロンの王ネブカデネザルその骨を碎けり18この故に萬軍のエホバ、イスラエルの神かくいひたまふ視よわれアツスリヤの王を罰せしごとくバビロンの王とそその地を罰せん19われイスラエルを再びその牧場に歸さん彼カルメルとバシヤンの上に草をくらはんまたエフライムとギレアデの山にてその心を飽すべし20エホバひひたまふ其日その時にはイスラエルの愆を尋るも有らず又ユダの罪を尋るも遇しすはわれ我存せしところの者を救すべしわれはなり21エホバひひたまふ汝ら上りて悖れる國罰を受べき民を攻めその後より之を荒し全くこれを滅せ我汝らに命ぜしごとく行ふべし22その地に戦闘の眺と大なる敗壞あり23嗚呼全地を摧きし鎚折れ碎くるかな嗚呼バビロン國々の中に荒地となるかな24バビロンよわれ汝を

とるために罟を置けり汝は擒へらるれども知ず汝エホバに敵せしにより尋られて獲へらるるなり25エホバ庫を啓きてその怒りの武器をいだしたまふ是主なる萬軍のエホバ、カルデア人の地に事をなさんとしたまへばなり26汝ら終の者にいたるまで來りてこれを攻めその庫を啓き之を積て塵埃のごとくせよ盡くこれを滅ぼして其處に遺る者なからしめよ27その牡牛を悉く殺せこれを屠場にくだらしめよ其等は禍なるかな其日その罰を受べき時來れり28バビロンの地より逃げて遁れ來し者の聲ありて我らの神エホバの仇復その殿の仇復をシオンに宣ぶ29射者をバビロンに召集めよ凡そ弓を張る者よその四周に陣どりて之を攻め何人をも逃す勿れその作爲に備へて之に報いそのすべて行ひし如くこれに行へそは彼イスラエルの聖者なるエホバにむかひて驕りたればなり30是故にその日壯者は衢に踏れその兵卒は悉く絶されんとエホバひひたまふ31主なる萬軍のエホバひひたまふ驕傲者よ視よわれ汝の敵となる汝の日わが汝を罰する時きたれり32驕傲者は蹶きて仆れん之を扶け起す者なかるべしわれ火をその諸邑に燃しその四周の者を燒盡さん33萬軍のエホバかくいひたまふイスラエルの民とユダの民は偕に虐げらる彼らを擄にせし者は皆固くこれを守りて釋たざるなり34彼らを贖ふ者は強しその名は萬軍のエホバなり彼必ずその訴を理てこの地に安を與へバビロンに住る者を慥慥しめ給はん35エホバひひたまふカルデア人の上バビロンに住る者の上およびその牧伯等とその智者等の上に劍あり36劍傷る者の上にあり彼ら愚なる者とならん劍その勇士の上において彼ら懼れん37劍その馬の上において其車の上において又その中にあるすべての援兵の上において彼ら婦女のごとくにならん劍その寶の上にあり是掠めらるべし38早その水の上にあり是涸かん斯は偶像の地にして人々偶像に迷へばなり39是故に野の獸彼處に山犬と偕に居り駝鳥も彼處に棲べし何時までも其地に住む人なく世々ここに住む人なかるべし40エホバひひたまふ神のソドム、ゴモラとその近隣の邑々を滅せしごとく彼處に住む人なく彼處に宿る人の子ながらんべし41視よ北の方より民きたるあらん大なる國の人とおほくの王たち地の極より起らん42彼らは弓と槍をとる情なく矜恤なしその聲は海のごとくに鳴るバビロンの女よ彼らは馬に乗り戦士のごとくに備へて汝を攻ん43バビロンの王その風聲をききしかば其手弱り苦痛と子を産む婦の如き劬勞彼に迫る44視よ敵獅子のヨルダンの叢より上るが如く堅き宅に攻めきたらんわれ直に彼等を其處より逐奔らせわが選みたる者をその上に立ん誰か我のごとき者あらんや誰かわが爲に時期を定めんや何の牧者か我前に立ことをえん45さればバビロンにつきてエホバの謀りたまひし御謀とカルデア人の地につきて思ひたまひし思想をきけ群の弱者必す曳ゆかれん彼必ずかれらの住居を滅すべし

46バビロンは取れたりとの聲によりて地震へその號咷國々の中に聞ゆ

Chapter 51

1エホバかくいひたまふ視よわれ滅すところの風を起してバビロンを攻め我に悖る者の中に住む者を攻べし 2われ箴者をバビロンに遣さん彼らこれを箴てその地を空くせん彼らすなはちその禍の日にこれを四方より攻むべし 3弓を張る者に向ひまた鎧を被て立あがる者に向ひて射者者其弓を張らん汝らその壯者を憫れまざる者カルデア人の地に踏れ刺る者その街に踏れん 5イスラエルとユダはその神萬軍のエホバに棄てられず彼らの地にはイスラエルの至聖者にむかひて犯せるところの罪充つ 6汝らバビロンのうちより逃げいでておのおの其生命をすくへ其の罪のために滅さるる勿れ今はエホバの仇をかへしたまふ時なれば報をそれになしたまふなり 7バビロンは金の杯にしてエホバの手にあり諸の地を酔せたり國々その酒を飲めり是をもて國々狂へり 8バビロンは忽ち踏れて壊る之がために哭けその傷のために乳香をとれ是或は愈ん 9われらバビロンを醫さんとすれども愈ず我らこれをすてて各その國に歸るべしはその罰天におよび雲にいたればなり 10エホバわれらの義をあらはしたまふ來れシオンに於て我らの神エホバの作爲をのべん 11矢を磨ぎ楯を取れエホバ、メデア人の王等の心を激發したまふエホバ、バビロンをせめんとして謀り之を滅さんとしたまふ是エホバの復仇その殿の復仇たるなり 12バビロンの石垣に向ひて蘆を樹て圍を堅くし番兵を設け伏兵をそなへよ蓋エホバ、バビロンに住める者をせめんとして謀りその言しごとく行ひたまへばなり 13おほくの水の傍に住み多くの財寶をもてる者よ汝の終汝の貧乏の限來れり 14萬軍のエホバおのれを指して誓ひいひ給ふ我まことに人を蝗のごとくに汝の中に充さん彼ら汝に向ひて鯨波の聲を揚ぐべし 15エホバその能力をもて地をつくり其知慧をもて世界を建てその明哲をもて天を舒たまへり 16彼聲を發したまふ時は天に衆の水いづかれ雲を地の極より起らしめ電光と雨をおこし風をその庫よりいだしたまふ 17すべての人は獸のごとくにして智慧なし諸の鑄物師はその作りし像のために辱を取る其鑄るところの像は偽の者にしてその中に靈なし 18其等は空しき者にして迷妄の工作なりわが臨むとき其等は滅べし 19ヤコブの分は此の如くならず彼は萬物およびその産業の族の造化主なりその名は萬軍のエホバといふ 20汝はわが鎗にして戦の器具なりわれ汝をもて諸の邦を碎き汝をもて萬國を滅さん 21われ汝をもて馬とその騎る者を摧き汝をもて車とその御する者を碎かん 22われ汝をもて男と女をくだき汝をもて老たる者と幼き者をくだき汝をもて壯者と童女をくだくべし 23われ汝をもて牧者とそ

の群をくだき汝をもて農夫とその軛を負ふ牛をくだき汝をもて方伯等と督宰等をくだかん 24汝らの目の前にて我バビロンとカルデアに住るすべての者がシオンにせし諸の悪きことに報いんとエホバいひたまふ 25エホバ言ひたまはく全地を滅したる滅す山よ視よわれ汝の敵となるわれ手を汝の上に伸て汝を巖より轉ばし汝を焚山となすべし 26エホバいひたまふ人汝より石を取て隅石となすことあらじ亦汝より石を取て基礎となすことあらじ汝はいつまでも荒地となりをらん 27蘆を地に樹て籬を國々の中に吹き國々の民をあつめて之を攻めアララテ、ミンニ、アシケナズの諸國を招きて之を攻め軍長をたてて之を攻め恐しき蝗のごとくに馬をすめよ 28國々の民をあつめて之を攻めメデア人の王等とその方伯等とその督宰等およびそのすべての領地の人をあつめて之を攻めよ 29地は震ひ揺かんそはエホバその意旨をバビロンになしバビロンの地をして住む人なき荒地とならしめたまふべければなり 30バビロンの勇者は戦をやめて其城にこもりその力失せて婦のごとくにならん其宅は焼けその門門は折れん 31駟は趨て駟にあひ使者は趨て使者を取りバビロンの王につけて邑は盡くあられ 32渡口は取られ沼は焼れ兵卒は怖るといはん 33萬軍のエホバ、イスラエルの神かくいひたまふバビロンの女は禾場のごとしその踏る時きたれり暫くありてその茹る時きたらん 34バビロンの王ネブカデネザル我を食ひ我を滅し我を空き器のごとくなし龍の如くに我を呑みわが珍饈をもて其腹を充し我を逐出せり 35シオンに住る者いはんわがうけし虐遇と我肉はバビロンにかかるべしエルサレムいはいん我血はカルデアに住める者にかかるべしと 36さればエホバかくいひたまふ視よわれ汝の訟を理し汝の爲に仇を復さん我その海を涸かし其泉を乾かすべし 37バビロンは類壘となり山犬の巢窟となり詫異となり嗤笑となり人なき所とならん 38彼らは獅子のごとくに吼え小獅のごとくに吼ゆ 39彼らの怒の燃る時にわれ籬を設けてかれらを酔せ彼らをして喜ばしめながき寢にいでて目を醒すことなからしめんとエホバいひたまふ 40われ屠る羔羊のごとく又牡羊と牡山羊のごとくにかれらをくだらしめん 41セシヤクいかにして取られしや全地の人の頌美者いかにして執へられしや國々の中にバビロンいかにして詫異となりしや 42海バビロンに溢れかかりその多くの波濤これを覆ふ 43その諸邑は荒れて燥ける地となり沙漠となり住む人なき地とならん人の子そこを過ることあらじ 44われベルをバビロンに罰しその呑みたる者を口より取出さん國々はまた川の如くに彼に來らじバビロンの石垣踏れん 45我民よ汝らその中よりいでて各エホバの烈しき怒をまぬかれてその命を救へ 46汝ら心を弱くする勿れ此地にてきく所の浮言によりて畏るる勿れ浮言は此年も來り次の年も亦きたらん此地に強暴あり宰者と宰者とあひ

攻むることあらん 47故に視よ我バビロンの偶像を罰する日來らんその全地は辱められ其殺さるる者は悉くその中に踏れん 48然して天と地とその中にあるところのすべての者はバビロンの事の爲に歡び歌はんそは敗壞者北の方より此處に來ればなりエホバこれをいひたまふ 49バビロンがイスラエルの殺さるる者を踏せし如く全地の殺さるる者バビロンに踏るべし 50劍を逃るる者よ往け止る勿れ遠方よりエホバを憶えエルサレムを汝らの心に置くべし 51罵言をきくによりて我ら羞づ異邦人エホバの室の聖處にいるによりて我らの面には羞恥盈つ 52この故にエホバいひたまふ視よわがその偶像を罰する日いたらん傷けられたる者はその全國に呻吟べし 53たとひバビロン天に昇るとも其城を高くして堅むるとも敗壞者我よりいでて彼らにいたらんエホバいひたまふ 54バビロンに號咷の聲ありカルデア人の地に大なる敗壞あり 55エホバ、バビロンをほるばし其中に大なる聲を絶したまふ其波濤は巨水のごとくに鳴りその聲は響わたる 56破滅者これに臨みバビロンにいたる其勇士は執へられ其弓は折らるエホバは施報をなす神なればかならず報いたまふなり 57われその牧伯等と博士等と督宰等と勇士とを酔せん彼らは永き寢にいでて目を醒すことあらじ萬軍のエホバと名くる王これをいひ給ふ 58萬軍のエホバかくいひたまふバビロンの闊き石垣は悉く毀たれその高き門は火に焚れん斯民の勞苦は徒となるべし民は火のために懺れん 59これマアセヤの子なるネリヤの子セラヤがユダの王ゼデキヤとともに其治世の四年にバビロンに往くときにあたりて豫言者エレミヤがこれに命ぜし言なりこのセラヤは侍従の長なり 60エレミヤ、バビロンにのぞまんとする諸の災を書にしるせり是即ちバビロンの事につきて録せる此すべての言なり 61エレミヤ、セラヤにいひけるは汝バビロンに往しとき慎みてこの諸の言を讀め 62而して汝いふべしエホバよ汝はこの處を滅し人と畜をいはず凡て此處に住む者なからしめて窮なくこれを荒地となさんと此處にむかひていひたまへり 63汝この書を讀畢りしとき之に石をむすびつてユフラテの中に投げいれよ 64而していふべしバビロンは我これに災笛をくだすによりて是しづみて復おこらざるべし彼らは絶てんと / 此まではエレミヤの言なり

Chapter 52

1ゼデキヤは位に即きしとき二十一歳なりしがエルサレムに於て十一年世ををさめたりその母の名はハムタルといひてリブナのエレミヤの女なり 2ゼデキヤはエホヤキムが凡てなしたる如くエホバの目の前に惡をなせり 3すなはちエホバ、エルサレムとユダとを怒りて之をその前より棄てはなちたまふ / 是に於てゼデキヤ、バビロンの王に叛けり 4ゼデキヤの世の九年十月十日にバビロン

の王ネブカデネザルその軍勢をひきゐてエルサレムに攻めきたり之に向ひて陣をはり四周に戌樓を建て之を攻めたり 5かくこの邑攻圍まれてゼデキヤ王の十一年にまでおよびしが 6その四月九日にいたりて城邑のうち饑ること甚だしくなり其地の民食物をえざりき 7是をもて城邑つひに打破られたれば兵卒は皆逃て夜の中に王の圍の邊なる二個の石垣の間の門より城邑をぬけいで平地の途に循ひておちゆけり時にカルデア人は城邑を圍みをもる 8茲にカルデア人の軍勢王を追ひゆきエリコの平地にてゼデキヤに追付けるにその軍勢みな彼を離れて散りしかば 9カルデア人王を執へて之をハマテの地のリブラにをるバビロンの王の所に曳きゆきければ王彼の罪をさだめたり 10バビロンの王すなはちゼデキヤの子等をその目の前に殺さしめユダの牧伯等を悉くりブラに殺さしめ 11またゼデキヤの目を抉さしめたり斯てバビロンの王かれを銅索に繋ぎてバビロンに携へゆきその死の日まで獄に置けり 12バビロン王ネブカデネザルの世の十九年の五月十日バビロンの王の前につかふる侍衛の長ネブザラダン、エルサレムにきたり 13エホバの室と王の室を焼き火をもてエルサレムのすべての室と大なる諸の室を焼けり 14また侍衛の長と偕にありしカルデア人の軍勢エルサレムの四周の石垣を悉く毀てり 15侍衛の長ネブザラダンすなはち民のうちの貧乏者城邑の中に餘れる者およびバビロンの王に降りし人と民の餘れる者を擄へ移せり 16但し侍衛の長ネブザラダンその地のある貧者を遣して葡萄を耕る者となし農夫となせり 17カルデア人またエホバの室の銅の柱と洗盥の臺と銅の海を碎きてその銅を悉くバビロンに運び 18また鍋と火鑪と燭剪と鉢と匙およびすべて用ふところの銅器を取れり 19侍衛の長もまた洗盥と火盤と鉢と鍋と燭臺と匙と罌など凡て金銀にて作れる者を取り 20またソロモン王がエホバの室に造りしころの二つの柱と一の海と臺の下なる十二の銅の牛を取れりこのもろもろの銅の重は稱る可らず 21この柱は高さ十八キユビトなり又紐をもてその周圍を厚にして十二キユビトあり指四本の圓にして空り 22その上に銅の頂ありその頂の高さは五キユビトその周圍は銅の網子と石榴にて飾れり他の柱とその石榴も之におなじ 23その四方に九十六の石榴あり網子の上なるすべての石榴の数は百なり 24侍衛の長は祭司の長セラヤと第二の祭司ゼパニヤと三人の門守を執へ 25また兵卒を督る一人の寺人と王の前にはべるものうち城邑にて遇しところの者七人とその地の民を募る軍勢の長なる書記と城邑の中に遇しところの六十人の者を邑よりとらへされり 26侍衛の長ネブザラダンこれらを執へてリブラに居るバビロンの王の許にいたれり 27バビロンの王ハマテの地のリブラにこれを撃ち殺せりかくユダはおのれの地よりとらへ移されり 28ネブカデネザルがとらへ移せし民は左の如し第七年にユ

ダ人三千二十三人 29 またネブカデネザルその十八年にエルサレムより八百三十二人をとらへ移せり 30 ネブカデネザルの二十三年に侍衛の長ネブザラダン、ユダ人七百四十五人をとらへ移したり其總ての数は四千六百人なりき 31 ユダの王エホヤキンがとらへ移されたる後三十七年の十二月二十五日バビロンの王エビルメロダクその治世の一年にユダの王エホヤキンを獄よりいだしてその首をあげしめ 32 善言をもて彼を慰めその位をバビロンに偕に居るところの王等の位よりもたかくし 33 其獄の衣服を易へしむエホヤキンは一生の間つねに王の前に食せり 34 かれ其死る日まで一生の間たえず日々の分をバビロンの王よりたまはりて其食物となせり

哀歌

Chapter 1

1 ああ哀しいかな古昔は人のみちみちたりし此都邑
いまは凄しき様にて坐し
寡婦のごとくになれり嗟もろもろの民の中にて大いなりし者
もろもろの州の中に女王たりし者いまはかへつて貢をいる者となりぬ
2 彼よもすがら痛く泣きかなしみて涙面にながるその戀人の中にはこれを慰むる者ひとりだに無くその朋これに背きてその仇となれり 3 ユダは艱難の故によりまた大いなる苦役のゆゑによりて擲はれゆき
もろもろの國に住ひて安息を得ずこれを追ふものみな狹隘にてこれに追しきぬ 4 シオンの道路は節會の上り来る者なきがために哀しむ
その門はことごとく荒れ
その祭司は歎き その處女は憂へシオンもまた自から苦しむ 5
その仇は首となりその敵は享ゆその窓の多きによりてエホバこれをなやませたまへるなりそのわかき子等は擲はれて仇の前にゆけり 6 シオンの女よりは其の榮華ことごとく離れされりまたその牧伯等は草を得ざる鹿のごとくに成りおのれを追ふもの前に力つかれて歩みゆけり 7 エルサレムはその艱難と窘迫の樂しむかしの代にありしもろもろの樂しき物を思ひ出づその民仇の手におちり誰もこれを助くるものなき時仇人これを見てその荒はてたるを笑ふ 8 エルサレムははなはだしく罪ををかけたれば汚穢たる者のごとくになれり前これを尊とびたる者もその裸體を見しによりて皆これをいやしむはもまたみづから嗟き身をそむけて退ぞけり 9 その汚穢これが裾にあり彼その結局をおもはざりき
此故に驚ろくまでに零落たり
一人の慰さむる者だに無し
エホバよわが艱難をかへりみたまへ敵は勝ほこれり 10 敵すでに手を伸てその財寶をことごとく奪ひたり汝さきに異邦人等はなんぢの公會にい

るべからずと命じおきたまひしに彼らが聖所を侵しいるをシオンは見たり 11
その民はみな哀きて食物をもとめその生命を支へんがために財寶を出して食にかへたりエホバよ見そなはし我のいやしめらるるを顧りみたまへ 12
すべて行路人よなんぢら何ともおもはざるかエホバその烈しき震怒の日に我をなやましてわれに降したまへるこの憂苦にひとしき憂苦また世にあるべきや考がへ見よ 13 エホバ上より火をくだしわが骨にいれて之を克服せしめ網を張りわが足をとらへて我を後にむかしめ我をして終日心さびしくかつ疾わづらはしめたまふ 14 わが愆尤の軛は主の御手に結ばれ諸の愆あひ纏はりてわが項にのれり
是はわが力をしておとろへしむ主われを敵たりがたき者の手にわたしたまへり 15 主われの中なる勇士をことごとく除き
節會をもよほして我を攻め
わが少き人を打ほろぼしたまへり主酒榨をふむがごとくにユダの處女をふみたまへり 16
これがために我なげく
わが目やわが目には水ながるわがたましひを活すべき慰さむるものわれに埋ければなりわが子等は敵の勝によりて滅びうせにき 17 シオンは手をのぶれども誰もこれを慰さむる者なしヤコブにつきてはエホバ命をくだしてその周圍の民をこれが敵とならしめたまふエルサレムは彼らの中にありて汚れたる者のごとくなりぬ 18
エホバは正し我その命令にそむきたるなり
一切の民よわれに聽け
わが憂苦をかへりみよわが處女もわがきも浮囚て往り 19 われわが戀人を呼たれども彼らはわれを欺むけりわが祭司およびわが長老は生命を繋がんとして食物を求むる間に都邑の中にて氣息たえたり 20
エホバよかへりみたまへ
我はなやみてをりわが腸わきかへりわが心わが裏に顛倒す
我甚しく恃りたればなり
外には劍ありてわが子を殺し
内には死のごとき者あり 21
かれらはわが嗟歎をきけり
我をなぐさむるもの一人だに無し
わが敵みなわが艱難をききおよび
汝のこれを爲たまひしを喜こべり汝はさきに告らせしその日を來せたまはん而して彼らもつひに我ごとくに成るべし 22 ねがはくは彼等が與へし艱難をことごとくなんぢの御前にあらはし前にわがもろもろの罪愆のために我におこなひし如く彼らにも行ひたまへわが嗟歎は多くわが心はうれひかなしむなり

Chapter 2

1 ああエホバ震怒をおこし
黒雲をもてシオンの女を蔽ひたまひ
イスラエルの榮光を天より地に
おとしその震怒の日に己の足凳を心にとめたまはざりき 2 主ヤコブのすべての住居を呑つくしてあはれま

震怒によりてユダの女の保砦を毀ちこれを地にたふし
その國とその牧伯等を辱かしめ 3 烈しき震怒をもてイスラエルのすべての角を絶ち
敵の前にて己の右の手をひきちぢめ四面を焚きつくす燃る火のごとくヤコブを焚き 4 敵のごとく弓を張り仇のごとく右の手を挺て立ち
凡て目に喜こばしきものを滅しシオンの女の幕屋に火のごとくその怒をそそぎたまへり 5 主敵のごとくに成たまてイスラエルを呑ほろぼし
その諸の殿を呑ほろぼし
そのもろもろの保砦をこぼちユダの女の上に憂愁と悲哀を増くはへ 6
園のごとく己の幕屋を荒し
その集會の所をほろぼしたまへりエホバ節會と安息日とをシオンに忘れしめ烈しき怒によりて王と祭司とをいやしめ棄たまへり 7
主その祭壇を放棄て
その聖所を嫌ひ憎みてその諸の殿の石垣を敵の手にわたしたまへり彼らは節會の日のごとくエホバの室にて聲をたつ 8 エホバ、シオンの女の石垣を毀たんと思ひさだめ 繩を張りこぼち進みてその手をひかず
壕と石垣とをして哀しましめたまふ
是らは共に憂ふ 9
その門は地に埋もれ
エホバその關木をこぼちくだきその王ともろもろの牧伯は律法なき國人の中にありその預言者はエホバより異象を蒙らず 10 シオンの女の長老等は地に坐りて黙し首に灰をかむり身に麻をまとふエルサレムの處女は首を地に低る 11
わが目は涙の爲に潰れんとし
わが腸は沸かへりわが肝は地に塗るわが民の女ほろぼされ幼少ものや乳哺子は疲はれてりて邑の街衢に氣息たへんとすればなり 12 かれらは疵を負る者の如く邑のちまたにて氣息たえんとし
母の懷にその靈魂をそそがんとし
母にむかひて言ふ
穀物と酒とはいはれぬに
あるやと 13
エルサレムの女よ
我なにもて汝にあかしし
何をもて汝にならべんや
シオンの處女よわれ何をもて汝になぞらへて汝をなぐさめんや
汝のやぶれは海のごとく大なり
嗟たれか能く汝を醫さんや 14 なんぢの預言者は虚しき事と思なることとなんぢに預言しかつて汝の不義をあらはしてその浮囚をまぬかれしめんとはせざりきその預言するところは唯むなしき重荷および追放たるる根本となすべき事のみ 15 すべて往來の人なんぢにむかひて手を拍ちエルサレムの女にむかひて嘲りわらひかつ頭をふりて言ふ美麗の極全地の欣喜ととなへたりし邑は是なるかと 16 なんぢのもろもろの敵はなんぢに對て口を開け
あざけり笑ひて切齒をなす
斯て言ふわれら之を呑つくしたり
是われらが望みたりし日なり
我ら己に之にあへり
我らすでに之を見たりと 17 エホバはその定めたまへることを成しいにしへより其命じたまひし言を果した

まへりエホバはほろぼして憐れまず敵をして汝にかちほこらしめ汝の仇の角をたかくしたまへり 18
かれらの心は主にむかひて呼はれりシオンの女の墻垣よ
なんぢ夜も晝も河の如く涙をながせみづから安んずることをせず
汝の瞳子を休むることなかれ 19
なんぢ夜の初更に起いでて呼さけべ
主の御前に汝の心を水のごとく灌げ
街衢のほとりに饑たふるるなんぢの幼兒の生命のために主にむかひて兩手をあげよ 20 エホバよ視たまへ
汝これを誰におこなひしか
願はくは顧みたまへ婦人おのが實なるその懐き育てし孩兒を食ふべけんや祭司預言者等主の聖所において殺さるべけんや 21 をさなきも老たるも街衢にて地に臥しわが處女も若き男も刃にかりて斃れたり
なんぢはその震怒の日にこれを殺しこれを屠りて恤れみたまはざりき 22
なんぢ節會の日のごとくわが懼るるところの者を四方より呼あつめたまへりエホバの震怒の日には遁れたる者なく又のこりたる者なかりきわが懐き育てし者はみなわが敵のためにほろぼされたり

Chapter 3

1 我はかれの震怒の咎によりて艱難に遭たる人なり 2 かれは我をひきて黑暗をあゆませ光明にゆかしめたまはず 3 まことに屢々その手をむけて終日われを攻なやまし 4
わが肉と肌膚をおとろへしめ
わが骨を摧き 5 われにむかひて患苦と艱難を築きこれをもて我を圍み 6
われをして長久に死し者のごとく暗き處に住しめ 7 我をかこみて出ること能はざらしめわが鏈索を重くしたまへり 8 我さけびて助をもとめしとき彼わが祈禱をふせぎ 9 斫たる石をもてわが道を塞ぎわが途をまげたまへり 10 その我に對することは伏て伺がふ熊のごとく潜みかくる獅子のごとし 11 われに路を離れしめ我をひきさきて獨くるしましめ 12 弓を張りてわれを矢先の的となし 13 矢筒の矢をもてわが腰を射ぬきたまへり 14 われはわがすべての民のあざけりとなり
終日うたひそしらる 15 かれ我をして苦き物に飽しめ茵陳を飲しめ 16 小石をもてわが齒を摧き灰をもて我を蒙ひたまへり 17 なんぢわが靈魂をして平和を遠くはなれしめたまへば我は福祉をわすれたり 18
是において我みづから言り
わが氣力うせゆきぬエホバより何を望むべきところ無しと 19 ねがはくは我が艱難と苦楚茵陳と膽汁とを心に記たまへ 20 わがたましひは今なほ是らの事を想ひてわが裏に鬱ぐ 21
われこの事を心におもひ起せりこの故に望をいだくなり 22 われらの尚ほろびざるはエホバの仁愛によりその憐憫の盡ざるに因る 23
これは朝ごとくに新なり
なんぢの誠實はおほいなるかな 24
わが靈魂は言ふエホバはわが分なりこのゆゑに我彼を待ち望まん 25 エ

ホバはおのれを待ち望む者とおのれを尋ねもとむる人に恩恵をほどこしたまふ 26 エホバの救拯をのぞみて静にこれを待は善し 27 人わかき時に軛を負は善し 28 エホバこれを負せたまふなれば獨坐して黙すべし 29 口を塵につけよあるひは望あらん 30 おのれを撃つ者に頬をむけ充足れるまでに恥辱をうけよ 31 そは主は永久に棄ることを為たまはざるべければなり 32 かれは患難を與へ給ふといへどもその慈悲おほいなればまた憐憫を加へたまふなり 33 心より世の人をなやましかつ苦しめ給ふにはあらざるなり 34 世のもるもるの俘囚人を脚の下にふみにじり 35 至高者の面の前にて人の理を上げ 36 人の詞訟を屈むることを主のよろこび給はざるところなり 37 主の命じたまふにあらざれば誰か事を述んにその事即ち成んや 38 禍も福もともに至高者の口より出るにあらざや 39 活る人なんぞ怨言べけんや 人の罪の罰せらるるをつぶやくべけんや 40 我等みづからの行をしらべかつ省みてエホバに歸るべし 41 我ら天にいます神にむかひて手とともに心を擧べし 42 われらは罪ををかして我らは叛きたりなんぞこれを赦したまはざりき 43 なんぢ震怒をもてみづから蔽ひ我らを追攻め殺してあはれまず 44 雲をもてみづから蔽ひ祈禱をして通ぜざらしめ 45 もろもろの民の中にわれらを塵埃となしたまへり 46 敵は皆われらにむかひて口を張れり 47 恐懼と陥閉また暴行と滅亡我らに來れり 48 わが民の女の滅亡によりてわが眼には涙の河ながる 49 わが目は斷ず涙をそそぎて止す 50 天よりエホバの臨み見て顧みたまふ時にまで至らん 51 わが邑の一切の女等の故によりてわが眼はわが心をいたましむ 52 故なくして我に敵する者ども鳥を追ごとくにいたく我をおひ 53 わが生命を坑の中にほろぼし わが上に石を投げかけ 54 また水わが頭の上に溢る 我みづから言ひ滅びうせぬと 55 エホバよわれ深き坑の底より汝の名を呼び 56 なんぢ我が聲を聴たまへりわが哀歎と祈求に耳をおほひたまふなけれ 57 わが汝を籲たりし時なんぢは近よりたまひて恐るるなかれと宣へり 58 主よなんぢはわが靈魂の訴を助け伸べ わが生命を贖ひ給へり 59 エホバよなんぢは我がうむりたる不義を見たまへり願はくは我に正しき審判を與へたまへ 60 なんぢは彼らが我を怨みわれを害せんとはかるを凡て見たまへり 61 エホバよなんぢは彼らが我を罵り我を害せんとはかるを凡て聞たまへり 62 かの立て我に逆らふ者等の言語およびその終日われを攻んとて運らす謀計もまた汝これを聞たまへり 63 ねがはくは彼らの起居をかんがみたまへ 我はかれらに歌ひそしらす 64 エホバよなんぢは彼らが手に爲すところ循がひて報をなし 65 かれら

をして心くからしめたまはん
なんぢの呪詛かれらに歸せよ 66
なんぢは震怒をもてかれらを追ひエホバの天の下よりかれらをほろぼし絶たまはん

Chapter 4

1 ああ黄金は光をうしなひ純金は色を變じ聖所の石はもろもろの街衢の口に投すてられたり 2 ああ精金にも比ぶべきシオンの愛子等は陶器師の手の作なる土の器のごとくに見做る 3 山犬さへも乳房をたれてその子に乳を哺す然るにわが民の女は殘忍荒野の駝鳥のごとくなれり 4 乳哺兒の舌は渴きて上顎にひたと貼き幼兒はパンをもとむるも撃てあたふる者なし 5 肥甘物をくらひ居りし者はおちぶれて街衢にあり紅の衣服にて育てられし者も今は塵堆を抱く 6 今我民の女のうくる窓の罰はソドムの罪の罰よりもおほいなりソドムは古昔人に手を加へらることなくして瞬く間にほろぼされしなり 7 わが民の中なる貴き人は従前には雪よりも咬潔に乳よりも白く珊瑚よりも躰紅色にしてその形貌のうろはしきこと藍玉のごとくなりしが 8 いまはその面くろきが上に黒く街衢にあるとも人にしられずその皮は骨にひたと貼き乾きて枯木のごとくなれり 9 劍にて死者は饑て死者よりもさいはひなりそは斯る者は田圃の産物の罄るによりて漸々におとろへゆき刺れし者のごとくに成ばなり 10 わが民の女のほろぶる時には情愛ふかき婦人等さへも手づから己の子等を煮て食となせり 11 エホバその憤恨をことごとく洩し烈しき怒をそそぎ給ひシオンに火をもちしてその基礎までも焼しめ給へり 12 地の諸王も世のもろもろの民もすべてエルサレムの門に仇や敵の打いらんとは信ぜざりき 13 斯なりしはその預言者の罪によりその祭司の愆によれりかれらは即ち正しき者の血をその邑の中にながしたりき 14 今かれらは盲人のごとく街衢にさまよひ身は血にて汚れをれば人その衣服にふるるあたはず 15 人かれらに向ひて呼はり言ふ去れよ穢らはし去れ去れ觸るなかれと彼らはしり去りて流離ば異邦人の中間にても人々また言ふ彼らは此に寓るべからずと 16 エホバ怒れる面をもてこれを散し給へり再びこれを顧みたまはし人々祭司の面をも尊はず長老をもあはれまざりき 17 われらは頼まれぬ救拯を望みて目つかれおとろふ我らは俟むたりしが救拯をなすこと能はざる國人を待りぬ 18 敵われらの脚をうかがへば我らはおのれの街衢をも歩くことあたはず 我らの終ちかづけり我らの日つきたり即ち我らの終きたりぬ 19 我らを追ふものは天空ゆく鷲よりも迅し山にて我らを追ひ野に伏てわれらを伺ふ 20 かの我らが鼻の氣息たる者エホバに膏そが

れたるものは陷阱にて執へられにき是はわれらが異邦にありてもこの蔭に住んともおもひたりし者なり 21 ウズの地に住むエドムの女よ悦び樂しめ汝にもまたつひに杯めぐりゆかんなんぢも酔て裸になるべし 22 シオンの女よなんぢが窓の罰をははれり重ねてなんぢを擣へゆきたまはしエドムの女よなんぢの窓を罰したまはん汝の罪を露はしたまはん

Chapter 5

1 エホバよ我らにありし所の事をおもひたまへ 我らの恥辱をかへりみ觀たまへ 2 われらの産業は外國人に歸しわれらの家屋は他國人の有となれり 3 われらは孤子となりて父あらずわれらの母は寡婦にひとし 4 われらは金を出して自己の水を飲みおのれの薪を得るにも價をはらふ 5 われらを追ふ者われらの頸に迫る我らは疲れて休むことを得ず 6 食物を得て饑を凌ぐんとてエジプト人およびアッスリヤ人に手を與へたり 7 われらの父は罪ををかして已に世にあらざり 我らその罪を負ふなり 8 奴僕等われらを制するに誰ありて我らを之が手よりすくひ出すものなし 9 荒野の刀兵の故によりて我ら死を冒して食物を得 10 饑饉の烈しき熱氣によりてわれらの皮膚は爐のごとく熱し 11 シオンにて婦人等をかされユダの邑々にて處女等けがさる 12 侯伯たる者も敵の手にて吊され老たる者の面も尊とばれず 13 少き者は石磨を擔はせられ童子は薪を負ふてよるめき 14 長老は門にあつまることを止め少き者はその音楽を廢せり 15 我らが心の快樂はずに罷みわれらの跳舞はかはりて悲哀となり 16 われらの冠冕は首より落たりわれら罪ををかしれば禍なるかな 17 これが爲に我らの心うれへこれらのために我らが目くらくなれり 18 シオンの山は荒はて山犬はその上を歩くなり 19 エホバよなんぢは永遠に在すなんぢの御位は世々かぎりなし 20 何とて我らを永く忘れわれらを斯ひさしく棄おきたまふや 21 エホバよねがはくは我らをして汝に歸らしめたまへわれら歸るべし我らの日を新たにす昔日の日のごとくならしめたまへ 22 さりとて汝まつたく我らを棄てたまひしや痛くわれらを怒りゐたまふや

エゼキエル書

Chapter 1

1 第三十年四月の五日に我ケバル河の邊にてかの擣うつされたる者の中にをりしに天ひらけて我神の異象を見たり 2 是エゴニヤ王の擣ゆかれし

より第五年のその月の五日なりき 3 時にカルデヤ人の地に於てケバル河の邊にてエホバの言祭司ブシの子エゼキエルに臨めりエホバの手かしにて彼の上にあり 4 我見しに視よ烈き風大なる雲および燃る火の團塊北より出きたる又雲の周圍に輝光ありその中よりして火の中より熱たる金族のごときもの出づ 5 其火の中に四箇の生物にて成る一箇の形あり其狀は是のごとし即ち人の象あり 6 各四の面あり各四の翼あり 7 その足は直なる足その足の跖は犢牛の足の跖のごとくにして磨ける銅のごとくに光れり 8 その生物の四方に翼の下に人の手ありこの四箇の物皆面と翼あり 9 その翼はたがひに相つらなれりその往とこに回轉すして各その面の向ふとこに行く 10 その面の形は人の面のごとし四箇の者右には獅子の面あり四箇の者左には牛の面あり又四箇の者鷲の面あり 11 その面とその翼は上にて分るその各箇の翼二箇は彼と此と相つらなり二箇はその身を覆ふ 12 各箇その面の向ふところへ行き靈のゆかんとする方に行く又行にまはることなし 13 その生物の形は熱る炭の火のごとく松明のごとし火生物の中に此彼に行き火輝きてその火の中より電光いづ 14 その生物奔りて電光の如くに往來す 15 我生物を觀しに生物の近邊にあたりてその四箇の面の前にて地上に輪あり 16 其輪の形と作は黄金色の玉のごとしその四箇の形は皆同じその形と作は輪の中に輪のあるごとくなり 17 その行く時は四方に行く行にまはることなし 18 その輪輞は高くして畏懼かり輪輞は四箇ともに皆遍く目あり 19 生物の行く時は輪その傍に行き生物地をはなれて上る時は輪もまた上る 20 凡て靈のゆかんとする所には生物その靈のゆかんとする方に行く輪またその傍に上る是生物の靈輪の中にあればなり 21 此の行く時は彼もゆき此の止る時は彼も止り此地をはなれて上る時は輪も共にあがる是生物の靈輪の中にあればなり 22 生物の首の上に畏しき水晶のごとき穹蒼ありてその首の上に展開る 23 穹蒼の下に其翼直く開きて此と彼とあひ連る又各二箇の翼ありその各の二箇の翼此方彼方にありて身をおほふ 24 我その行く時の羽聲を聞に大水の聲のごとく全能者の聲のごとし其聲音の響は軍勢の聲のごとしその立どまる時は翼を垂る 25 その首の上なる穹蒼の上より響ありその立どまる時は翼を垂る 26 首の上なる穹蒼の上に青玉のごとき寶位の狀式ありその寶位の狀式の上に人のごとき者在す、 27 又われその中と周圍に磨きたる銅のごとく火のごとくなる者を見る其人の腰より上も腰より下も火のごとくに見ゆ其周圍に輝光あり 28 その周圍の輝光は雨の日に雲にあらはるる虹のごとしエホバの榮光かくのごとく見ゆ我これを見て俯伏したるに語る者の聲あるを聞く

Chapter 2

1彼われに言たまひけるは人の
子よ起あがれ我なんちに語はんと 2
斯われに言給ひし時靈われにきたり
て我を立あがらしむ愛に我その我に
語りたまふを聞くに 3われに言たま
ひけるは人の子よ我なんぢをイスラ
エルの子孫に遣すすなはち我に叛け
る叛逆の民につかはさん彼等とその
先祖我に悖りて今日にいたる 4その
子女等は厚顔にして心の剛愎なる者
なり我汝をかれらに遣す汝かれらに
主エホバかくいふと告べし 5彼等は
悖逆する族なり彼等は之を聴も之を
拒むも預言者の己等の中にありしを
知ん 6汝人の子よたとひ蘊と棘汝の周
圍にあるとも亦汝蠟の中に住ともこ
れを懼るるなかれその言をおそる
るなかれ夫かれらは悖逆する族なり汝
の言をおそるるなかれ其面に慄くな
れ 7彼等は悖逆する族なり汝これ
を聴もこれを拒むも汝吾言をかれら
に告よ 8人の子よわが汝に言ところ
を聴け汝かの悖逆する族のごとく悖
るなかれ汝の口を開きてわが汝にあた
ふる者をくらふべし 9時に我見に吾
方に伸たる手ありて其中に巻物あり
10彼これをわが前に開けり巻物は裏
と表に文字ありて上に嗟嘆と悲哀と
憂患とを録す

Chapter 3

1彼また我に言たまひけるは人
の子よ汝獲るところの者を食へ此巻
物を食ひ往てイスラエルの家に告よ
2是に於て我口をひらけばその巻物
を我に食はしめて 3我にいひ給ひけ
るは人の子よわが汝にあたふる此巻
物をもて腹をやしなへ腸にみたせよ
と我すなはち之をくらふに其わが口
に甘きこと蜜のごとくなりき 4彼ま
た我にいひたまひけるは人の子よイ
スラエルの家にゆきて吾言を之につ
げよ 5我なんぢを唇の深き舌の重き
民につかはすにあらざイスラエル
の家につかはすなり 6汝がその言語
をしらざる唇の深き舌の重き多くの
國人に汝をつかはすにあらざ我もし
汝を彼らに遣さば彼等汝に聴べし 7然
どイスラエルの家は我に聴ことを好
まざれば汝に聴ことをせざるべし
イスラエルの全家は厚顔にして心の
剛愎なる者なればなり 8視よ我かれ
らの面のごとく汝の面をかたくしか
れらの額のごとく汝の額を堅くせり
9我なんぢの額を金剛石のごとくし
磐よりも堅くせり彼らは背逆する族
なり汝かれらを懼るるなかれ彼ら
の面に戦慄くなかれ 10又われに言
たまひけるは人の子よわが汝にいふと
ころの凡の言を汝の心にをさめ汝の
耳にきよ 11往てかの擗へ移されたる
汝の民の子孫にいたりこれに語りて
主エホバかく言たまふと言へ彼ら
聴も拒むも汝然すべし 12時に靈
われを上を擧しが我わが後に大なる
響の音ありてエホバの榮光のその
處より出る者は讚べきかなと云ふを
聞けり 13また生物の互にあひ連る
響の聲とその傍にある輪の聲および
大なる響の音を聞く 14靈われを上
にあげて

携へゆけば我苦々しく思ひ心を熱く
して往くエホバの手強くわが上に
あり 15愛に我ケバル河の邊にてテ
ラアビブに居るかの擗移れたる者
に至り驚きあきれてその坐する所に
七日俱に坐せり 16七日すぎし後エ
ホバの言われにのぞみて言ふ 17人
の子よ我なんぢを立てイスラエルの
家の爲に守望者となす汝わが口より
言を聴き我にかはりてこれを警むべ
し 18我惡人に汝かならず死べしと
言に汝かれを警めず彼をいましめ
語りその惡き道を離れしめて之が
生命を救はずばその惡人はおのが
惡のために死んされど其血をば我
汝の手に要むべし 19然ど汝惡人
を警めんは彼その惡とその惡き道
を離れずば彼はその惡の爲に死ん
汝はおのれの靈魂を救ふなり 20
又義人その義事をすてて惡を行は
んに我躓礙をその前におかば彼は
死べし汝かれを警めざれば彼はそ
の罪のために死てそのおこなひし
義き事を記ゆる者なきにいたらん
然らば我その血を汝の手に要むべ
し 21然ど汝もし義き人をいまし
め義き人に罪ををかさしめずして
彼罪を犯すことをせずば彼は警戒
をうけたるがためにかならずその
生命をたもたん汝はおのれの靈魂
を救ふなり 22茲にエホバの手か
しこにてわが上にあり彼われに言
たまひけるは起て平原にいでよ我
そこに汝にかたらん 23我すなは
ち起て平原に往にエホバの榮光
わがケバル河の邊にて見し榮光
のごとく其處に立ければ俯伏たり
24時に靈われの中にいりて我を
立あがらせ我にかはりていふ往て
汝の家にこもれ 25人の子よ彼等
汝に繩をうちかけ其をもて汝を縛
らん汝はかれらの中にゆくことを
得ざるべし 26我なんぢの舌を上
罫に堅く着しめて汝を啞となし彼
等を警めざらしむべし彼等は悖
逆する族なればなり 27然ど我
汝に語る時は汝の口をひらかん
汝彼らにいふべし主エホバかく
言たまふ聴者は聴べし拒む者は
拒むべし彼等は悖逆する族なり

Chapter 4

1人の子よ汝磚瓦をとりて汝の
前に置きその上にエルサレムの邑
を畫け 2而して之を取圍み之にむ
かひて雲梯を建て壘を築き陣營を
張り邑の周圍に破城槌を備へて之
を攻めよ 3汝また鐵の鍋を取り汝
と邑の間に置いて鐵の石垣となし
汝の面を之に向よ斯この邑圍まる
汝之を圍むべし是すなはちイスラ
エルの家にあたる徴なり 4又汝左
側を下にして臥しイスラエルの家
の罪を其上に置よ汝が斯臥とそ
ろの日の數は是上なんぢがその
罪を負ふ者なり 5我かれらが罪
を犯せる年を算へて汝のために日
の數となす即ち三百九十日の間
汝イスラエルの家の罪を負ふべし
6汝これを終なば復右側を下にして
臥し四十日の間ユダの家の罪を負
ふべし我汝のために一日を一年と
算ふ 7汝エルサレムの圍に面を
向け腕を袒して其の事を預言す
べし 8視よ我索を汝にかけて汝
の圍の日の終るまで右左に動く
ことを得ざらしめん 9汝 小麦

大麦 豆 扁豆 粟および裸麥を取
て之を一箇の器にいれ汝が横はる
日の數にしたがひてこれを食とせ
よ即ち三百九十日の間これを食ふ
べし 10汝食を權りて一日に二十
シケルを食へ時々これを食べべし
11又汝水を量りて一ヒンの六分
一を飲め時々これを飲むべし 12
汝大麦のパンの如くにして之を食
へ即ち彼等の目のまへにて人の糞
をもて之を烘べし 13エホバ
いひ給ふ是のごとくイスラエルの
民はわが追やらんとするの國々
においてその汚穢たるパンを食ふ
べし 14是において我いふ嗚呼
主エホバよわが魂は絶て汚れし事
なし我は幼少時より今にいたるま
で自ら死し者や裂殺れし者を食ひ
し事なし又絶て汚れたる肉わが口
にいりしことなし 15エホバ我
にいひ給ふ我牛の糞をもて人の糞
にかふることを汝にゆるす其をも
て汝のパンを調ふべし 16又われ
に言たまふ人の子よ視よ我エル
サレムに於て人の杖とするパンを
打碎かん彼等は食をはかりて惜
みて食ひ水をばかりて驚きて飲
まん 17斯食と水と乏しくなりて
彼ら互に面を見あはせて駭きそ
の罪に亡びん

Chapter 5

1人の子よ汝利き刀を執り之を
剃刀となして汝の頭と頤をそり
權衡をとりてその毛を分てよ 2
而して圍城の日の終る時邑の中
にて火をもて其三分の一を焼く
又三分の一を取り刀をもて邑の
周圍を撃ち三分の一を風に散す
べし我刀をぬきて其後を追ん 3
汝その毛を少く取りて裾に包み
4又その中を取りてこれを火の中
になげいれ火をもて之をやくべ
し火その中より出てイスラエルの
全家におよばん 5主エホバかく
いひ給ふ我このエルサレムを萬
國の中におき列邦をその四圍に
置けり 6エルサレムは異邦よりも
惡くわが律法に悖り其四圍の國
々よりもわが法憲に悖る即ち彼
等はわが律法を蔑如にしわが法
憲に歩まざるなり 7故に主エホ
バかくいひたまふ汝等はそその
周圍の異邦人よりも甚だしく
噪ぎたち吾憲にあゆまず吾法を
おこなはず又汝らの周圍なる異
邦人の法のごとくに行ふことす
らもせざるなり 8是故に主エホ
バかくいひ給ふ視よ我われは汝
を攻め異邦人の目の前にて汝の
中に鞘をおこなはん 9なんぢの
爲せし諸の惡むべき事のために
我わが未だ爲ざりしところの事
此後ふたたび其ごとく爲ざるべ
きところの事を汝になさん 10
是がために汝の中にて父たる者
はその子を食べひたる者はその
父を食はん我汝の中に鞘をおこ
なひ汝の中の餘れる者を盡く四
方の風に散さん 11是故に主エ
ホバいひ給ふ我は活く汝その忌
むべき物とその憎むべきところ
の事をもてわが聖所を穢したれば
我かならず汝を滅さん我目なん
ぢを惜み見ず我なんぢを憐まざ
るべし 12汝の三分の一は汝の中
において疫病にて死に饑饉にて
滅びん又三分の一は汝の四周
にて刀に仆れん又三分の一をば
我四

方の風に散し刀をぬきて其後をお
はん 13斯我怒を洩し盡しわが
憤を彼らの上にかうむらせて心
を安んぜん我わが憤を彼らの上
に洩し盡す時は彼ら我エホバ
の熱心をもてかたりたる事をし
るに至らん 14我汝を荒地とな
し汝の周圍の國々の中に汝を笑
柄となし凡て往來の人の目に斯
あらしむべし 15我怒と憤と重
き責をもて鞘を汝に行ふ時は汝
はその周圍の邦々の笑柄となり
嘲となり警戒となり驚懼とな
らん我エホバこれと言ふ 16即
ち我饑饉の惡き矢を彼等に放た
ん是は滅亡すための者なり我汝
らを滅さんために之を放つべし
我なんぢらの上に饑饉を増しくは
へ汝らが杖とするところのパン
を打碎かん 17我饑饉と惡き獸
を汝等におくらん是は汝をして
子なき者とならしめん又疫病
と血なんぢの間に往たらん我刀
を汝にのぞましむべし我エホバ
これと言ふ

Chapter 6

1エホバの言われに臨みて言ふ
2人の子よ汝の面をイスラエルの
山々にむけて預言して言ふべし
3イスラエルの山よ主エホバの
言を聴け主エホバ山と岡と谷と
平原にむかひて斯いひたまふ
視よ我劍を汝等に遣り汝らの
崇邱を滅ぼす 4汝等の壇は荒れ
日影は毀たれん我汝らの中の
殺さるる者をして汝らの偶像の
前に仆れしむべし 5我イスラ
エルの子孫の尸骸をその偶像の
前に置ん汝らの骨をその壇の
周圍に散さん 6凡て汝らの住
ところにて邑々は滅され崇邱は
荒れん斯して汝らの壇は壞れて
荒れ汝らの偶像は毀たれて滅
び汝等の日の像は斫たふされ
汝等の作りし者は絶されん 7
又殺さるる者なんぢらの中に
仆れん汝等これに由て吾エホ
バなるを知るにいたらん 8我
或者を汝らにのこす即ち劍を
のがれて異邦の中にをる者國
々の中にちらさるる者なり 9
汝等の中の逃れたる者はその
擗ゆかれし國々において我を
記念ふに至らん是は我かれら
の我をはなれたるその姦淫を
なすの心を挫き且かれらの姦
淫を好みてその偶像を慕ふと
ころの目を挫くに由てなり而
して彼等はその諸の憎むべき
者をもて爲たるところの惡の
ために自ら恨むべし 10斯彼
等はわがエホバなるを知るに
いたらん吾がその災害をかれ
らになさんと言ふことは徒然
にならざるなり 11主エホバ
かく言たまふ汝手をもて撃ち
足を踏ならして言へ嗚呼凡て
イスラエルの家の惡き憎むべ
き者は禍なるかな皆刀と饑饉
と疫病に仆るべし 12遠方
にある者は刀に仆れん又生存
りて身を全うする者は饑饉に
死ぬべし斯我わが憤怒を彼等
に洩すべし 13彼等の殺さる
者その偶像の中にありその壇
の周圍にあり諸の高岡にあり
諸の山頂にあり諸の青樹の下
にあり諸の茂れる橡樹の下に
あり彼等が馨しき香をその諸
の偶像にささげたる處にあら
ん其時汝等はわがエホバなる
を知るべし 1

4 我手をかれらの上に伸べ凡てかれらの住居ところにて其地を荒してデブラの野にもまさる荒地となすべし是によりて彼らはわがエホバなるを知るにいたらん

Chapter 7

1

エホバの言また我にのぞみて言ふ 2 汝人の子よ主エホバかくいふイスラエルの地の末期いたる此國の四方の境の末期來れり 3 今汝の末期いたる我が忿怒を汝に洩らし汝の行にしたがひて汝を鞠き汝の諸の憎むべき物のために汝を罰せん 4 わが目は汝を惜み見ず我なんぢを憫まず汝の行の爲に汝を罰せん汝のなせし憎むべき事の報汝の中にあるべし是によりて汝等はわがエホバなるを知らん 5 主エホバかくいふ給ふ視よ災禍あり非常災禍きたる 6 末期きたる其末期きたる是起りて汝に臨む視よ來る 7 此地の人よ汝の命數いたる時いたる日ちかし山々には擾亂のみありて喜樂の聲なし 8 今我すみやかに吾憤恨を汝に蒙らせわが怒氣を汝に洩すつくし汝の行爲にしたがひて汝を鞠き汝の諸の憎むべきところの事のために汝を罰せん 9 わが目は汝を惜み見ず我汝をあはれまず汝の行のために汝を罰せん汝の爲し憎むべき事の果報汝の中にあるべし是によりて汝等は我エホバの汝を撃てるを知ん 10 視よ日きたる視よ來れり命數いたりのぞむ杖花咲き驕傲茁す 11 暴逆おこりて惡の杖と成る彼等もその群衆もその驕奢も皆失んかれらの中には何も残る者なきにいたるべし 12 時きたる日ちかつり買者は喜ぶなかれ賣者は思ひわづらふなかれ怒その群衆におよぶべければなり 13 賣者は假令その生命ながらふともその賣たる者に歸することあたはじ此地の全の群衆をさすところの預言は廢らざるべければなり其惡の中にありて生命を全うする者なかるべし 14 人衆ラツパを吹て凡て預備をなせども戦にいつる者なし其はわが怒その全の群衆におよばなり 15 外には劍あり内には疫病と饑饉あり田野にをる者は劍に死なん邑の中にをる者は饑饉と疫病これをほろぼすべし 16 その中の逃るる者は逃れて谷の鶉のごとくに山の上をりて皆その罪のために悲しまん 17 手みな弱くなり膝みな水となるべし 18 彼等は麻の衣を身にまとはん恐懼かれらに蒙まん諸の面には羞あらはれ諸の首は髪をそりおとされん 19 彼等その銀を街にすてん其金はかれらに塵芥のごとくなすべしエホバの怒の日にはその金銀もかれらを救ふことあたはざるなり是等はその心魂を満足せしめず其腹を充さず唯彼等をつまづかせて惡におとしいる者なり 20 彼の美しき飾物を彼等驕傲のために用ひ又これをもてその憎むべき偶像その憎むべき物をつくれり是をもて我これを彼らに芥とならしむ 21 我これを外國人にわたして奪はしめ地の惡人にわたして掠めしめん彼等すなはちこれを汚すべし 22 我かれらにわが

面を背くべければ彼等わが密たる所を汚さん強暴人其處にいりてこれを汚すべし 23 汝鏈索を作れよ死にあたる罪國に滿ち暴逆邑に充たり 24 我國々の中の惡き者等を招きて彼らの家を奪しめん我強者の驕傲を止めんその聖所は汚さるべし 25 滅亡きたれり彼等平安を求むれども得ざるなり 26 災害に災害くははり注進に注進くははる彼等預言者に默示を求めん律法は祭司の中に絶え謀略は長老の中に絶へ 27 民は哀き牧伯は驚惶を身に纏ひ國の民の手は懐へん我その行爲に循ひて彼らを處置しその審判に循ひて彼らを罰せん彼等は我エホバなるを知にいたるべし

Chapter 8

1 爰に六年の六月五日に我わが家に坐しをりユダの長老等わがまへに坐りあし時主エホバの手われの上に降りて 2 我すなはち視しに火のごとくに見ゆる形象あり腰より下は火のごとく見ゆ腰より上は光輝て見え焼たる金屬の色のごとし 3 彼手のごとき者を伸て吾が頭髮を執りしかば靈われを地と天の間に曳あげ神の異象の中に我をエルサレムに携へゆき北にむかへる内の門の口にいたらしむ其處に嫉妬をおこすところの嫉妬の像たてり 4 彼處にイスラエルの神の榮光あらはる吾が平原に見たる異象のごとし 5 彼われに言たまふ人の子よ目をあげて北の方をのぞめと我すなはち目をあげて北の方を望むに視よ壇の門の北にあたりてその入口に此嫉妬の像あり 6 彼また我にいひたまふ人の子よ汝かれらが爲とところ即ちイスラエルの家が此にてなすところの大なる憎むべき事を見るや我これがために吾が聖所をはなれて遠くさるべし汝身を轉らせ復大なる憎むべき事等を見ん 7 斯て彼われを領て庭の門にいたりたまふ我見しに其壁に一の穴あり 8 彼われに言たまふ人の子よ壁を穿てよと我すなはち壁を撃つに一箇の戸あるを視る 9 茲に彼われにいひ給ひけるは入て彼等が此になすとところの惡き憎むべき事等を見よと 10 便ち入りて見るに諸の爬蟲と憎むべき獸畜の形およびイスラエルの家の諸の偶像その周圍の壁に畫きてあり 11 イスラエルの家の長老七十人その前に立てりシヤパンの子ヤザニヤもかれらの中に立ちてあり各手に香爐を執るその香の煙雲のごとくにのぼれり 12 彼われに言たまひけるは人の子よ汝イスラエルの家の長老等が暗におこなふ事即ちかれらが各人その偶像の間におこなふ事を見るや彼等いふエホバは我情を見ずエホバこの地を棄てたりと 13 また我に言たまはく汝身を轉らせ復かれらが爲すところの大なる憎むべき事等を見ん 14 斯て彼我を携てエホバの家の北の門の入口にいたるに其處に婦女等坐してタムズのために哭をる 15 彼われに言たまふ人の子よ汝これを見るや又身を轉らせよ汝これよりも大なる憎むべき事等を見ん 16 彼また我を携てエホバの家の内庭にいたるにエホバの宮の入

口にて廊と壇の間に二十五人ばかりの人その後をエホバの宮にむけ面を東にむけ東にむかひて日の前に身を鞠めをる 17 彼われに言たまふ人の子よ汝これを見るやユダの家はその此におこなふところの憎むべき事等をもて瑣細き事となすにや亦暴逆を國に充して大に我を怒らす彼等は枝をその鼻につくるなり 18 然ば我また怒をもて事をなさん吾目はかれらを惜み見ず我かれらを憫まじ彼等大聲にわが耳に呼はるとも我かれらに聽じ

Chapter 9

1 斯て彼大聲に吾耳に呼はりて言たまふ邑を主どる者等々々剪滅の器具を手にとりて前み來れと 2 即ち北にむかへる上の門の路より六人の者おのの打壞る器具を手にとりて來る其中に一人布の衣を着筆記人の墨盃を腰におぶる者あり彼等來りて銅の壇の傍に立てり 3 爰にイスラエルの神の榮光その居るところのケルブの上より起あがりて家の闕にいたり彼の布の衣を着て腰に筆記人の墨盃をおぶる者と呼ぶ 4 時にエホバかれに言たまひけるは邑の中エルサレムの中を巡れ而して邑の中に行はるところの諸の憎むべき事のために歎き哀しむ人々の額に記號をつけよと 5 我聞に彼またその他の者等にいひたまふ彼にしたがひて邑を巡りて撃てよ汝等の目人を惜み見るべからず憐れむべからず 6 老人も少者も童女も孩子も婦人も悉く殺すべし然ど身に記號ある者には觸べからず先わが聖所より始めよと彼等すなはち家の前にをりし老人より始む 7 彼またかれらに言たまふ家を汚し死人をもて庭に充せよ汝等往けよと彼等すなはち出ゆきて邑の中に人を撃つ 8 彼等人を撃ちける時我遣されたれば俯伏て叫び言ふ嗚呼主エホバよ汝怒をエルサレムにもらしてイスラエルの殘餘者を悉くほろぼしたまふや 9 彼われに言たまひけるはイスラエルとユダの家の罪甚だ大なり國には血盈ち邑には邪曲充つ即ち彼等いふエホバは此地を棄てたりエホバは見ざるなりと 10 然ば亦わが目かれらを惜み見ず我かれらを憐まじ彼らの行ふところを彼等の首に報いん 11 時にかの布の衣を着て腰に筆記人の墨盃をおぶる人復命まをして言ふ汝が我に命じたまひしごとく爲たりと

Chapter 10

1 茲に我見しにケルブムの首の上なる穹蒼に青玉のごとき者ありて賣位の形に見ゆ彼そのケルブムの上にはあらはれたまひて 2 かの布の衣を着たる人に告て言たまひけるはケルブムの下なる輪の間に入りて汝の手にケルブムの間の炭火を盈し之を邑に散すべしとすなはち吾目の前にて其處に入しが 3 其人の入る時ケルブムは家の右に立をり雲その内庭に盈り 4 茲にエホバの榮光ケルブの上より昇りて家の闕にいたる又家には雲滿ちその庭にはエホバの榮光の輝光

盈てり 5 時にケルブムの羽音外庭に聞ゆ全能の神の言語たまふ聲のごとし 6 彼布の衣を着たる人に命じて輪の間ケルブムの間より火を取れと言たまひければ即ち入りて輪の傍に立ちけるに 7 一のケルブムの手をケルブムの間より伸てケルブムの間の火を取り之をかの布の衣を着たる人の手に置れたれば彼これを取りて出づ 8 ケルブムに人の手の形の者ありて其翼の下に見ゆ 9 我見しにケルブムの側に四箇の輪あり此ケルブにも一箇の輪あり彼ケルブにも一箇の輪あり輪の式は黄金色の玉のごとくに見ゆ 10 その式は四箇みな同じ形にして輪の中に輪のあるがごとし 11 その行ときは四方に行く行にまはることなし首の向ふところに従ひ行く行にまはることなし 12 その全身その脊その手その翼および輪には四周に偏く目ありその四箇みな輪あり 13 我聞に轉回れと輪にむかひてよばはるあり 14 其は各々四の面あり第一の面はケルブの面第二の面は人の面第三の面は獅子の面第四の面は鷹の面なり 15 ケルブムすなはち昇れり是わがケバル河の邊にて見たるところの生物なり 16 ケルブムの行く時は輪もその傍に行きケルブム翼をあげて地より飛上る時は輪またその傍を離れず 17 その立つときは立ちその上る時は俱に上れりその生物の靈は其等の中にある 18 時にエホバの榮光家の闕より出ゆきてケルブムの上に立ちければ 19 ケルブムすなはちその翼をあげ出ゆきてわが目の前にて地より飛のぼれり輪はその傍にあり而して遂にエホバの家の東の門の入口にいたりて止るイスラエルの神の榮光その上にあり 20 是すなはち吾がケバル河の邊にてイスラエルの神の下に見たるところの生物なり吾そのケルブムなるを知れり 21 是等には各々四宛の面あり各箇四の翼あり又人の手のごとき物その翼の下にあり 22 その面の形は吾がケバル河の邊にて見たるところの面なりその姿も身も然り各箇その面にしたがひて行けり

Chapter 11

1 茲に靈我を擧げてエホバの室の東の門に我を携へゆけり門は東に向ふ視るにその門の入口に二十五人あり我その中にアズルの子ヤザニヤおよびバネヤの子ペラテヤ即ち民の牧伯等を見る 2 彼われに言たまひけるは人の子よ此邑において惡き事を考へ惡き計謀をめぐらす者は此人々なり 3 彼等いふ家を建ることは近からず此邑は鍋にして我儕は肉なりと 4 是故にかれらに預言せよ人の子よ預言すべし 5 時にエホバの靈わが上に降りて我にいひ給ひけるはエホバかく言ふと言べしイスラエルの家よ汝等は斯いへり汝等の心におこる所の事は我これを知るなり 6 汝等はこの邑に殺さるる者を増し死人をもて街衢に充せり 7 是故に主エホバ斯いふ汝等が邑の中に置くところのその殺されし者はすなはち肉にして邑は鍋なり然ど人邑の中より汝等を曳

いだすべし 8 汝等は刀劍を懼る我劍を汝等にのぞましめんと主エホバいひたまふ 9 我なんぢらを其中よりひき出し外國人の手に付して汝等に罰をかうむらすべし 10 汝等は劍に踏れん我イスラエルの境にて汝等を罰すべし汝等は是によりてわがエホバなるを知るにいたらん 11 是は汝らの鍋とならず汝らはその中の肉たることを得ざるなりイスラエルの境にて我汝らに罰をかうむらすべし 12 汝ら即ちわがエホバなるを知にいたらん汝らはわが憲法に遵はずわが律法を行はずしてその周圍の外國人の慣例のごとくに事をなせり 13 斯てわが預言しをる時にベナヤの子ペラテヤ死たれば我俯向に伏て大聲に叫び嗚呼主エホバよイスラエルの遺餘者を盡く滅ぼさんとしたまふやといふに 14 エホバの言われに臨みていふ 15 人の子よ汝の兄弟汝の兄弟たる者は汝の親族の人々にして即ちイスラエルの全家全軀なりエルサレムに居る人々は是にむかひて汝等は遠くエホバをはなれて居れ此地はわれらの所有としてあたへらると言ふ 16 是故に汝言ふべしエホバかく言ひたまふ我かれらを遠く逐やりて國々に散したればその往る國々に於て暫時の間かれらの聖所となると 17 是故に言ふべし主エホバかく言たまふ我なんぢらを諸の民の中より集へ汝等をその散されたる國々より聚めてイスラエルの地を汝らに與へん 18 彼等は彼處に到りその諸の汚たる者とその諸の憎むべき者を彼處より取除かん 19 我かれらに唯一の心を與へ新しき靈を汝らの衷に賦けん我かれらの身の中より石の心を取さりて肉の心を與へ 20 彼らをしてわが憲法に遵はしめ吾律法を守りて之を行はしむべし彼らはわが民となり我はかれらの神とならん 21 然どその汚れたる者とその憎むべき者の心をもておのれの心となす者等は我これが行ふところをその首に報ゆべし主エホバこれと言ふ 22 茲にケルビムの翼をあぐ輪その傍にありイスラエルの神の榮光その上に在す 23 エホバの榮光ついに邑の中より昇りて邑の東の山に立てり 24 時に靈われを擧げ神の靈に由りて異象の中に我をカルデアに携へゆきて俘囚者の所にいたらしむ吾見たる異象すなはちわれを離れて昇れり 25 かくて我エホバの我にしめしたまひし言を盡く俘囚者に告たり

Chapter 12

1 エホバの言また我にのぞみて云ふ 2 人の子よ汝は背戻る家の中に居る彼等は見る目あれども見えず聞く耳あれども聞かず背戻る家なり 3 然ば人の子よ移住の器具を備へかれらの目の前にて畫の中に移れ彼らの目の前にて汝の處より他の處に移るべし彼等は背戻る家なり他ども或は見て考ふことあらん 4 汝移住の器具のごとき器具を彼等の目の前にて畫の中に持たせ而して移住者の出ゆくがごとく

彼等の目の前にて宵の中に出ゆくべし 5 即ちかれらの目の前にて壁をやぶりて之を其處より持たせ 6 彼らの目の前にてこれを肩に負ひ黑暗の中にこれを持たすべし汝の面を掩へ地を見るなかれ我汝を豫兆となしてイスラエルの家に示すなり 7 我すなはち命ぜられしごとく爲し移住の器具のごとき器具を畫の中に持たし又宵に手をもて壁をやぶり黑暗の中にこれを持たし彼らの目の前にてこれを肩に負り 8 明旦におよびてエホバの言われに臨みて言ふ 9 人の子よ背戻る家なるイスラエルの家汝にむかひて汝なにを爲やと言しにあらざるや 10 汝かれらに言ふべし主エホバかく言たまふこの負荷はエルサレムの君主および彼等の中なるイスラエルの全家に當るなり 11 汝また言ふべし我は汝等の豫兆なりわが爲るごとく彼等然なるべし彼等は擄へうつされん 12 彼らの中の君主たる者黑暗のうちに物を肩に載て出ゆかん彼等壁をやぶりて其處より物を持たすべし彼はその面を覆ひて土地を目に見ざらん 13 我わが綱を彼の上に打かけん彼はわが羅にかかるとし我かれをカルデア人の地に曳きよてバビロンにいたらしめん然れども彼はこれを見ずして其處に死べし 14 凡て彼の四周にありて彼を助くる者およびその軍兵は皆我これを四方に散し刀刃をぬきて其後をおふべし 15 吾がかれらを諸の民の中に散し國々に撒布さん時にいたりて彼らは我のエホバなるをしるべし 16 但し我かれらの中に僅少の人を遣して劍と饑饉と疫病を免れしめ彼らをしてそのおこなひし諸の憎むべき事をその到るところの民の中に述しめん彼等はわがエホバなるを知るにいたらん 17 エホバの言また我にのぞみて言ふ 18 人の子よ汝發震て食物を食ひ戰慄と恐懼をもて水を飲め 19 而してこの地の民に言べし主エホバ、エルサレムの民のイスラエルにをる者に斯いひたまふ彼等は懼れて食物を食ひ驚きて水を飲にいたるべしはそこの地凡てその中に在る者の暴逆のために富饒をうしなひて荒地となるが故なり 20 人の住る邑々は荒はて國は滅亡ぶべし汝等すなはち我がエホバなるを知らん

21 エホバの言われに臨みて言ふ 22 人の子よイスラエルの國の中に汝等いふ日は延び黙示はみな空しくなれりとは何の言ぞや 23 是故に汝彼等に言べし主エホバかくいひ給ふ我この言を止め彼等をして再びこれをイスラエルの中に言ことなからしめん即ち汝かれらに言へ其日とそその諸の黙示の言は近づけりと 24 イスラエルの家には此後重ねて空浮き黙示と虚偽の占卜あらざるべし 25 夫我はエホバなり我わが言をいださん吾いふところは必ず成んかさねて延ることあらじ背戻る家よ汝等が世にある日に我言を發して之を成すべし主エホバこれと言ふ 26 エホバの言また我にのぞみて言ふ 27 人の子よ視よイスラエルの家言ふ彼が見たる黙示は許多の日の後の事にして彼は遙後の事を預言するのみと 28 是故にかれらに言ふべし主エホバかくいひたま

ふ我言はみな重ねて延ず吾がいへる言は成べしと主エホバこれを言ふなり

Chapter 13

1 エホバの言われに臨みて言ふ 2 人の子よ預言を事とするイスラエルの預言者にむかひて預言せよ彼のおのれの心のままに預言する者等に言ふべし汝らエホバの言を聴け 3 主エホバかくいひ給ふ彼の何をも見ずして己の心のままに行ふところの愚なる預言者は禍なるかな 4 イスラエルよ汝の預言者は荒墟にをる狐のごとくなり 5 汝等は破壊口を守らずまたイスラエルの家の四周に石垣を築きてエホバの日に防ぎ戦はんともせざるなり 6 彼らは虚浮者および虚妄の占卜を見る彼等はエホバいひたまふと言ふといへどもエホバはかれらを遣さざるなり然るに彼らその言の成らんことを望む 7 汝らは空しき異象を見虚妄の占卜を言ふ吾が言ふことあらざるにエホバいひ給ふと言ふにあらざるや 8 是故に主エホバかくいひたまふ汝等空虚き事を言ひ虚偽の物を見るによりて我なんぢらを罰せん主エホバこれをいふ 9 我手はかの虚浮き事を見虚偽の事をトひいふところの預言者等に加はるべし彼等はわが民の會にをらずなりイスラエルの家の籍にしるされずイスラエルの地にいることをえざるべし汝等すなはち吾のエホバなるをしるにいたらん 10 かれらは吾民を感し平安あらざるに平安といふ又わが民の屏を築くにあたりて彼等灰砂をもて之を汚る 11 是故にその灰砂を汚る者には是は圯るべしと言へ大雨くだらん雷よ降れ大風よ吹べし 12 視よ屏は圯る然ば人々汝等が用ひて汚たる灰砂は何處にあるや汝等に言ざらんや 13 即ち主エホバかく言たまふ我憤恨をもて大風を吹せ忿怒をもて大雨を注がせ憤恨をもて雷を降せてこれを毀つべし 14 我なんぢらが灰砂をもて汚たる屏を毀ちてこれを地に倒しその基礎を露にすべし是すなはち圯れん汝等はその中にほろびて吾のエホバなるを知にいたらん 15 斯われその屏とこれを灰砂にてぬれる者とにむかひてわが憤恨を洩しつくして汝等にいふべし屏はあらずなり又灰砂にてこれを汚る者もあらずなれりと 16 是すなはちイスラエルの預言者等なり彼等はエルサレムにむかひて預言をなし其處に平安のあらざるに平安の黙示を見たりといへり主エホバこれをいふ 17 人の子よ汝の民の女等の其心のままに預言する者に汝の面をむけ之にむかひて預言し 18 言べし主エホバかくいひたまふ吾手の節々の上に小枕を縫つけ諸の大きさの頭に帽子を造り蒙せて靈魂を獵んとする者は禍なるかな汝等はわが民の靈魂を獵て己の靈魂を生しめんとするなり 19 汝等小許の麥のため小許のパンのために吾民の前にて我を汚しかの偽言を聴ける吾民に偽言を陳て死べからざる者を死しめ生べからざるを生しむ 20 是故に主エホバ

かくいひたまふ我汝等が用ひて靈魂を獵ところの小枕を奪ひ靈魂を飛さらしめん我なんぢらの髻より小枕を裂とりて汝らが獵ところの靈魂を釋ち其靈魂を飛さらしむべし 21 我なんぢらの帽子を裂き吾民を汝らの手より救ひいださん彼等はふたたび汝等の手に陥りて獵れざるべし汝らは吾エホバなるを知にいたらん 22 汝等虚偽をもて義者の心を憂へしむ我はこれを憂へしめざるなり又汝等惡者の手を強くし之をしてその惡き道を離れかへりて生命を保つことをなさしめず 23 是故に汝等は重ねて虚浮き物を見ることを得ず占卜をなすことを得ざるに至るべし我わが民を汝らの手より救ひいださん汝等すなはちわがエホバなるを知にいたるべし

Chapter 14

1 爰にイスラエルの長老の中の人々我にきたりて吾前に坐しけるに 2 エホバの言われに臨みて言ふ 3 人の子よこの人々はその偶像を心の中に立しめ罪に陥るるところの障礙をそのの前に置なり我あに是等の者の求を容べけんや 4 然ば汝かれらに告げて言ふべし主エホバかくいひたまふ凡そイスラエルの家の人のその心の中に偶像を立しめその面のまへに罪に陥るるところの障礙を置きて預言者に來る者には我エホバその偶像の多衆にしたがひて應をなすべし 5 斯て我イスラエルの家の人の心を執へん是はかれら皆その偶像のために我を離れたればなり 6 是故にイスラエルの家に言ふべし主エホバかくいひたまふ汝等悔い汝らの偶像を棄てはなるべし汝等面を回らしてその諸の憎むべき物を離れよ 7 凡てイスラエルの家およびイスラエルに寓ところの外國人若われを離れてその偶像を心の中に立しめ其の前に罪に陥るるところの障礙をおきて預言者に來りその心のままに我に求むる時は我エホバわが心のままにこれに應ふべし 8 即ち我面をその人にむけこれを滅して兆象となし諺語となし之をわが民の中より絶るべし汝等これによりてわがエホバなるを知るにいたらん 9 もし預言者欺かれて言を出すことあらば我エホバその預言者を欺けるなり我かれの上にわが手を伸べ吾民イスラエルの中より彼を絶ららん 10 彼等その罪を負ふべしその預言者の罪はかの問求むる者の罪のごとくなるべし 11 是イスラエルの民をして重ねて我を離れて迷はざらしめ重ねてその諸の窓に汚れざらしめんため又かれらの吾民となり我の彼らの神とならんためなり 12 エホバの言また我にのぞみて言ふ 13 人の子よ國もし悖れる事をおこなひて我に罪を犯すことあり我手をその上に伸て其杖とたのむところのパンを打碎き饑饉を之におくりて人と畜とをその中より絶ことある時には 14 其處にかのノア、ダニエル、ヨブの三人あるも只其義によりて己の生命を救ふことをうるのみなり主エホバこれを

いふ 15 我もし悪き獸を國に行めぐらしめて之を子なき處となし荒野となして其獸のために其處を通る者なきに至らん時は 16 主エホバ言ふ我は活く此三人そこにをるもその子女を救ふことをえず只その身を救ふことを得るのみ國は荒野となるべし 17 又は我劍を國に臨ませて劍よ國を行めぐるべしと言ひ人と畜をそこより絶さらん時には 18 主エホバ言ふ我は活く此三人そこにをるもその子女をすくふことをえず只その身をすくふことを得るのみ 19 又われ疫病を國におくり血をもてわが怒をその上にそそぎ人と畜をそこより絶さらん時には 20 主エホバ言ふ我は活くノア、ダニエル、ヨブそこにをるもその子女を救ふことをえず只その義によりて己の生命を救ふことを得るのみ 21 主エホバかくいひたまふ然ばわが四箇の嚴しき罰すなはち劍と饑饉と悪き獸と疫病をエルサレムにおくりて人と畜をそこより絶さらんとする時は如何にぞや 22 其中に逃れて遭はるところの男子女子あり彼等携へ去るべし彼ら出ゆきて汝等の所にいたらん汝らかれらの行爲と擧動を見ば吾がエルサレムに災をくだせし事につきて心をやすむるにいたるべし 23 汝ら彼らの行爲と擧動を見ばこれがためにその心をやすむるにいたりわがこれに爲たる事は皆故なくして爲たるにあらざるなるをしるにいたらん主エホバこれを言ふ

Chapter 15

1
エホバの言われに臨みて言ふ 2 人の子よ葡萄の樹森の中にあるところの葡萄の枝なんぞ他の樹に勝るところあらんや 3 其木物をつくるに用ふべけんや又人これを用ひて器をかくる木釘を造らんや 4 視よ是は火に投げ入れられて燃ゆ火もしその兩端を焼くあり又その中間焦たらば争でか物をつくるに勝べけんや 5 是はその全かる時すらも物を造るに用ふべからざれば況て火のこれを焚焦したる時は是争で物をつくるに用ふべけんや 6 是故に主エホバかく言たまふ我森の樹の中なる葡萄の樹を火になげられて焚く如くにエルサレムの民を亦然するなり 7 我面をかれらに向けて攻む彼らは火の中より出たれども火なほこれを焼つくすべし我面をかれらにむけて攻むる時に汝らは我のエホバなるをしらん 8 彼等悖逆の事をおこなひしに由て我かの地を荒地となすべし主エホバこれを言ふ

Chapter 16

1
エホバの言また我にのぞみて言ふ 2 人の子よエルサレムに其憎むべき事等を示して 3 言ふべし主エホバ、エルサレムに斯いひたまふ汝の起本汝の誕生はカナン地なり汝の父はアモリ人汝の母はヘテ人なり 4 汝の誕生を言んに汝の生れし日に汝の臍帯を断ことなく又水にて汝を洗ひ潔むることなく鹽をもて汝を擦ることな

く又布に裹むことなかりき 5 一人も汝を憐み見憫をもて是等の事の一をも汝になせし者なし汝の生れたる日に人汝の生命を忘れて汝を野原に棄たり 6 我汝のかたはらを通りし時汝が血の中をりて踐るを見汝が血の中にある時汝に生よと言ひ即ち我なんぢが血の中にある時に汝に生よといへり 7 我野の百卉のごとくに汝を増して千萬となせり汝は生長て大きくなり美しき姿となるにいたり乳は堅くなり髪は長たりしが衣なくして裸なりき 8 茲に我汝の傍を通りて汝を見に今は汝の時汝の愛せらるべき時なりければ我衣服の裾をもて汝を覆ひ汝の恥るところを蔽し而して汝に誓ひ汝に契約をたてたり汝すなはち吾所屬となれり主エホバこれを言ふ 9 斯て我水をもてんじ汝を洗ひ汝の血を滌ぎおとして膏を汝にぬり 10 文繡あるものを着せ皮の鞋を穿たしめ細布を蒙らせ絹をもて汝の身を罩めり 11 而して飾物をもて汝をかざり腕環をなんぢの手にはめ金索を汝の項にかけしめ 12 鼻には鼻環耳には耳環首には華美なる冠冕をほどこせり 13 汝すなはち金銀をもて身を飾り細布と絹および文繡をその衣服となし麥粉と蜜と油とを食へり汝は甚だ美しくして遂に榮えて王の權勢に進みいたる 14 汝の美貌のために汝の名は國々にひろまればわが汝にほどこせしわれの飾物によりて汝の美麗極りたればなり主エホバこれを言ふ 15 然るに汝その美麗を恃み汝の名によりて姦淫をおこなひ凡て其傍を過る者と縦恣に姦淫をなしたり是はその人の所屬となる 16 汝おのれの衣服をとりて崇邱を彩り作りその上に姦淫をおこなへり是爲べからず有べからざる事なり 17 汝はわが汝にあたへし金銀の飾の品を取り男の像を造りて之と姦淫をおこなひ 18 汝の繡衣を取りて之に纏ひ吾の膏と香をその前に陳へ 19 亦わが汝にあたへし我の食物我が用ひて汝をやしなふところの麥粉油および蜜を其前に陳へて馨しき香氣となせり是事ありしと主エホバいひ給ふ 20 汝またおのれの我に生たる男子女子をとりてこれをその像にそなへて食はしむ汝が姦淫なほ小き事なるや 21 汝わが子等を殺し亦火の中を通らしめてこれに獻ぐ 22 汝その諸の憎むべき事とその姦淫とおこなふに當りて汝が若かりし日に衣なくして裸なりしことおよび汝が血のうちにをりて蹈れしことを想はざるなり 23 主エホバまた言たまふ汝は禍なるかな禍なるかな 24 汝その諸の惡をおこなひし後街衢街衢に樓をしつらひ臺を造り 25 また路の辻々に臺をつくりて汝の美麗を汚辱むることを爲し凡て傍を過るところの者に足をひらきて大に姦淫をおこなふ 26 汝かの肉の大なる汝の隣人エジプトの人々と姦淫をおこなひ大に姦淫をなして我を怒らせたれば 27 我手を汝の上のべて汝のたまはる分を減し彼の汝を惡み汝の淫なる行爲を着るところのペリシテ人の女等の心に汝をまかせたり 28 然るに汝は厭ことなれば亦アツスリヤの人々と姦淫をおこなひしが之と姦淫をおこなひ

たるも尚厭ことなかりき 29 汝また大に姦淫をおこなひてカナン國カテルデヤに迄およびしが是にても尚厭ことなし 30 主エホバいひたまふ汝の心如何に戀煩ふにや汝この諸の事を爲りて氣隨なる遊女の行爲なり 31 汝道の辻々に樓をしつらひ衢々に臺を造りしが金錢を輕んじれば娼妓のごとくならざりき 32 夫淫婦はその夫のほか他人と通ずるなり 33 人は凡て娼妓に物を贈るなるに汝はその諸の戀人に物をおくり且汝と姦淫せんとして四方より汝に來る者に報金を與ふ 34 汝は姦淫をおこなふに當りて他の婦と反す即ち人汝を戀求むるにあらざるなり汝金錢を人にあたへて人金錢を汝にあたへざるは是はその相反するところなり 35 然ば娼妓よエホバの言を聴け 36 主エホバかく言たまふ汝金銀を撒散し且汝の戀人と姦淫して汝の恥處を露したるに由り又汝の憎むべき諸の偶像と汝が之にささげたる汝の子等の血の故により 37 視よ我汝が交れる諸の戀人および凡て汝が戀たる者並に凡て汝が惡みたる者を集め四方よりかれらを汝の所に集め汝の恥處を彼らに現さん彼ら汝の恥處を悉く見るべし 38 我姦淫を爲せる婦および血をながせる婦を鞠くがごとくに汝を鞠き汝をして忿怒と嫉妬の血とならしむべし 39 我汝を彼等の手に付せば彼等汝の樓を毀ち汝の臺を倒しなんぢの衣服を褌取り汝の美しき飾を奪ひ汝をして衣服なからしめ裸にならしむべし 40 彼等群衆をひきみて汝の所にのぼり石をもて汝を撃ち劍をもて汝を切さき 41 火をもて汝の家を焚き多くの婦女の目の前にて汝を鞠かん斯われ汝をして姦淫を止しむべし汝は亦ふたび金錢をあたふることなからん 42 我ここに於て汝に對するわが怒を思ふ汝にかかはるわが嫉妬を去り心をやすんじて復怒らざらん 43 主エホバいひたまふ汝その若かりし日の事を記憶えずしてこの諸の事をもて我を怒らせたれば視よ我も汝の行ふところを汝の首に報ひし汝の諸の憎むべき事の上に此惡事をなしたるにあらざるなり 44 視よ諺語をもちふる者みな汝を指てこの諺を用ひ言ん母のごとくに女も然りと 45 汝の母はその夫と子女を棄たり汝はその女なり汝の姉妹はその夫と子女を棄たり汝はその姉妹なり汝の母はヘテ人汝の父はアモリ人なり 46 汝の姉はサマリヤなり彼その女子等とともに汝の左に住む汝の妹はソドムなり彼その女子等とともに汝の右に住む 47 汝は少しく彼らの道に歩み多かるの憎むべきところの事等を行ひしのみならず汝の爲る事は皆かれらのよりも惡かりき 48 主エホバ言たまふ我は活く汝の妹ソドムと其女子らが爲しところは汝とその女子らが爲しところの如くはあらざりき 49 汝の妹ソドムの罪は是なり彼は傲り食物に飽きその女子らとともに安泰にをり而して難める者と貧しき者を助けざりき 50 かれらは傲りわが前に憎むべき事をなしたれば我見てかれらを掃ひ除けり 51 サマリヤは汝の罪の半分ほども罪を犯さざりき汝は憎むべき事

等を彼らよりも多く行ひ増し汝の爲たる諸の憎むべき事のために汝の姉妹等をして義きが如くならしめたり 52 然ば汝が曾てその姉妹等の蒙るべき者と定めたところの恥辱を汝もまた蒙れよ汝が彼等よりも多くの憎むべき事をなしたるその罪の爲に彼等は汝よりも義くなれり然ば汝も辱を受け恥を蒙れは汝その姉妹等を義き者となしたればなり 53 我ソドムとその女等の俘囚をかへしサマリヤとその女等の俘囚をかへさん時に其と同じ擄はれたる汝の俘囚人を歸し 54 汝をして恥を蒙らしめ汝が凡て爲たるところの事を羞しむべし汝かく彼らの慰とならん 55 汝の姉妹ソドムとその女子等は舊の様に歸りサマリヤとその女子等は舊の様に歸らん又汝の女子等も舊の様にかへるべし 56 汝はその驕傲れる日には汝の姉妹ソドムの事を口に述ざりき 57 汝の惡の露れし時まで即ちスリアの女子等と凡て汝の周圍の者ペリシテ人の女等が四方より汝を罵りて辱しめし時まで汝は是のごとくなりき 58 主エホバいひたまふ汝の淫なる行爲と汝のもろもろの憎むべき事とは汝みづからこれを身に負ふなり 59 主エホバかく言たまふ誓言を輕んじて契約をやぶりとたるところの汝には我汝の爲るところにしたがひて爲べし 60 我汝の若かりし日に汝になせし契約を記憶え汝と限りなき契約をたてん 61 汝その姉妹の汝より大なる者と小き者とを得る時にはおのれの行爲をおぼえて羞ん彼等は汝の契約に屬する者にあざれども我かれらを汝にあたへて女となさしむべし 62 我汝と契約をたてん汝すなはち吾のエホバなるを知にいたらん 63 我なんぢの凡て汝行ひしところの事を赦す時は汝は憶えて羞ざその恥辱のために再び口を開くことなかるべし主エホバこれを言ふ

Chapter 17

1
爰にエホバの言我にのぞみて言ふ 2 人の子よ汝イスラエルの家に謎をかけ譬言を語りて 3 言べし主エホバかく言たまふ大なる翼長き羽ありて種々の色の毛の満たる大鷲レバノンに來りて香柏の梢を採り 4 其芽の巔を摘みカナン地にこれを持ちたりて商人の邑に置きけるが 5 又その地の種をとりて之を種田に播けりすなはち之を水の多き處にもちゆきて柳のごとくにこれを樹しに 6 成長ちて丈卑き垂さがりたる葡萄樹となり其枝は鷲にむかひその根は鷲の下にあり遂に葡萄樹となりて芽をふき葉を出す 7 此に又大なる翼多くの羽ある一箇の大鷲ありしがその葡萄樹根をこれにむかひて張り枝をこれにむかひて伸べ之をしてその植りたる地の外より水を灌がしめんとす 8 抑是を善き圃に多くの水の傍に植たるは根を張り實をむすびて盛なる葡萄樹とならしめんためなりき 9 なんぢ主エホバかく言ふといふべし是旺盛になるや鷲その根を抜きその果を絶ちて之を枯しめざらんや其芽の若葉は皆枯

ん之を根より擧るには強き腕と多くの人を用ふるにおよばざるなり 10 是は樹られたれども旺盛にならんや東風これに當らば枯果ざらんや是の生たるところの地に枯べし 11 エホバの言また我にのぞみて言ふ 12 背ける家に言ふべし汝等此の何たるを知らざるかと又言へ視よバビロンの王エルサレムに來りその王とその牧伯等を執へてこれをバビロンに曳ゆけり 13 彼また王の族の一人を取てこれと契約を立て誓言をなさしめ又國の強き者等を執へゆけり 14 是はこの國を卑くして自ら立つことを得ざらしめその人をして契約を守りてこれを堅うせしめんがためなりき 15 然るに彼これに背きて使者をエジプトに遣し馬と多くの人を己におくらしめんとせり彼旺盛にならんや是を爲る者逃るることをえんや彼その契約をやぶりたり争で逃るることを得んや 16 主エホバいひたまふ我は活く必ず彼は己を王となしたる彼王の處に偕をしてバビロンに死べし彼その王の誓言を輕んじ其契約を破りたるなり 17 夫壘を築き雲梯を建てて衆多の人を殺さんとする時にはバロ大なる軍勢と衆多の人をもて彼のために戦争をなさじ 18 彼は誓言を輕んじて契約を破る彼手を與へて却て此等の事をなしたれば逃るることを得ざるべし 19 故に主エホバかく言たまふ我は活く彼が我の誓言を輕んじ我の契約をやぶりたる事を必ずかれの首にむくいん 20 我わが網をかれの上におちかけ彼をわが羅にとらへてバビロンに曳ゆき彼が我にむかひて爲しところの叛逆につきて彼を鞠くべし 21 彼の諸の軍隊の逃脫者は皆刀に仆れ生殘れる者は八方に散ざるべし汝等は我エホバがこれを言しなるを知いたらん 22 主エホバかく言たまふ我高き香柏の梢の一を取てこれを樹系その芽の巔より若芽を摘みとりて之を高き勝れたる山に樹べし 23 イスラエルの高山に我これを植ん是は枝を生じ果を殖すびて榮華なる香柏と枝の類すの鳥皆その下に棲ひその枝の蔭に住はん 24 是に於て野の樹みな我エホバが高き樹を卑くし卑き樹を高くし緑なる樹を枯しめ枯木を緑ならしめしことを知ん我エホバこれを言ひ之を爲なり

Chapter 18

1
エホバの言また我にのぞみて言ふ 2 汝等なんぞイスラエルの地に於て此諺語を用ひ父等酸き葡萄を食ひたれば子等の齒齧くと言ふや 3 主エホバいふ我は生く汝等ふたたびイスラエルに於てこの諺語をもちぶることなかるべし 4 夫凡の靈魂は我に屬す父の靈魂も子の靈魂も我に屬するなり 5 若人正義して公道と公義を行ひ 6 山の上に食をなさず目をあげてイスラエルの家の偶像を仰がず人の妻を犯さず穢れたる婦女に近づかず 7 何人をも虐げず質物を還し物を奪はずその食物を饑る者に與へ裸なる者に衣

を着せ 8 利を取て貸さず息を取らず手をひきて惡を行はず眞實の判断を人と人の間になし 9 わが法憲にあゆみ又吾が律例を守りて眞實をおこなはば是義者なり彼は生べし主エホバこれを言ふ 10 然ど彼子を生んにその子暴き者にして人の血をながし是の如き事の一箇を行ひ 11 是をば凡て行はずして山の上に食をなし人の妻を犯し 12 惱める者と貧しき者を虐げ物を奪ひ質物を還さず目をあげて偶像を仰ぎ憎むべき事をおこなひ 13 利をととりて貸し息を取ば彼は生べきや彼は生べからず彼の諸の憎むべき事をなしたれば必ず死べしその血はかれに歸せん 14 又子生れんに其子父のなせる諸の罪を視しかども視て斯有ことを行はず 15 山の上に食をなさず目をあげてイスラエルの家の偶像を仰がず人の妻を犯さず 16 何人をも虐げず質物を存留めず物を奪はず饑る者にその食物を與へ裸なる者に衣を着せ 17 その手をひきて惱める者を苦めず利と息を取らずわが律法を行ひわが法憲に歩まば彼は其父の惡のために死ことあらじ必ず生べし 18 その父は甚だしく人を掠めその兄弟を痛く虐げその民の中に善らぬ事をなしたるに由てその惡のために死べし 19 しかるに汝等は子なんぞ父の惡を負ざるやと言ふ夫子は律法と公義を行ひわが凡ての法度を守りてこれを行ひたれば必ず生べし 20 罪を犯せる靈魂は死べし子は父の惡を負ず父はその惡を負ざるなり義人の義はその人に歸し惡人の惡はその人に歸すべし 21 然ど惡人もしその凡て行ひしところの惡を離れわが諸の法度を守り律法と公義を行ひなばかならず生ん死ざるべし 22 その爲しところの咎は皆記念られざるべしその爲し義き事のために彼は生べし 23 主エホバ言たまふ我争で惡人の死を好まんや寧彼がその道を離れて生んことを好まざらんや 24 若義人その義をはなれて惡を行ひ惡人の爲る諸の憎むべき事をなさば生べきや其なせし義き事は皆記念られざるべし彼はその爲る咎とその犯せる罪とのために死べし 25 然るに汝等主の道は正しからずと言ふ然ばイスラエルの家よ聽け吾道正しからざるやその正しからざる者は汝らの道にあらずや 26 若義人その義をはなれて惡を爲し其がために死ることあらば是の爲る惡のために死るなり 27 若惡人その爲る惡をはなれて律法と公義を行はばその靈魂を生しむることをえん 28 彼も視てその行ひし諸の咎を離れなば必ず生ん死ざるべし 29 然るにイスラエルの家は主の道は正しからずといふイスラエルの家よわが道正しからざるやその正しからざる者は汝らの道にあらずや 30 主エホバいひ給ふ是故に我汝らば各その道にしたがひて審くべし汝らその諸の咎を悔改めよ然らば惡汝らを躓かせて滅ぼすことなかるべし 31 汝等その行ひし諸の罪を棄去り新しき心と新しき靈魂を起すべしイスラエルの家よ汝らなんぞ死べけんや 32 我は死者の死を好まざるなり然ば汝ら悔て生よ主エホバこれを言ふ

Chapter 19

1 汝イスラエルの君等のために哀の詞をのべて 2 言ふべし汝の母なる牝獅は何故に牡獅の中に伏し小獅の中にその子を養ふや 3 彼その一の子を育てたれば小獅となりて食を攫ことを學ひ遂に人を食へり 4 國々の人これの事を聞きこれを陷阱にて執へ鼻環をほどこしてこれをエジプトの地にひきいたれり 5 牝獅姑く待しがその望を失ひしを見たれば又一个の子を取てこれを小獅とならしむ 6 是すなはち牝獅の中にも歩みて小獅となり食を攫ことを學ひしが亦人を食ひ 7 其寡婦をしりその邑々を滅せりその咆哮聲によりてその地とその中に盈る者荒たり 8 是をもて四方の國人その國々より攻來り網をこれにおちかけ陷阱にてこれを執へ 9 鼻環をほどこして籠にいれ之をバビロンの王の許に曳いたりて城の中に携へ入れ其聲を再びイスラエルの山々に聞えざらしむ 10 汝の母は汝の血にして水の側に植たる葡萄樹のごとし水の多きがために結實多く蔓はびこれり 11 是に強き枝ありて君王等の杖となすべし是の長は雲に至りその衆多の枝のために高く聳えて見へたり 12 然るに是怒をもて抜れて地に擲たる東風その實を吹乾かしその強き枝は折れて枯れ火に焚る 13 今これは荒野にて乾ける水なき地に植りてあり 14 その枝の芽より火いでてその果を焼けば復強き枝の君王等の杖となすべし

Chapter 20

1 七年の五月十日にイスラエルの長老の中の人々エホバに問んとて來りてわが前に坐しけるに 2 エホバの言我にのぞみて云ふ 3 人の子よイスラエルの長老等に告て之にいふべし主エホバかく言ふ汝等我に問んとて來るや主エホバいふ我は活く我汝らの問を容じと 4 汝かれらを鞠かんとするや人の子よ汝かれらを鞠かんとするや彼等の先祖等のなしたる憎むべき事等をかれらに知しめて 5 言べし主エホバかくいふ我イスラエルを選びヤコブの家の裔にむかひてわが手をあげエジプトの地に我をかれらに知せかれらにむかひて吾手をあげて我は汝らの神エホバなりと言し 6 その日に我かれらにむかひて吾手をあげエジプトの地よりかれらにをいだし吾がかれらのために求め得たるその乳と蜜の流るる地に導かんとせり是諸の地の中の美しき者なり 7 而して我かれらに言けらく各人その目にあるところの憎むべき事等を棄てよエジプトの偶像をもてその身を汚すなかれ我は汝らの神エホバなりと 8 然るに彼らは我に背きて我に聽したがふことを好まざりき彼等一人もその目にあるところの憎むべき者を棄てずエジプトの偶像を棄てざりしかば我エジプトの地の中において吾憤恨をかれらに注ぎわが忿怒をかれらに洩さんと言ひ 9 然

れども我わが名のために事をなして彼らをエジプトの地より導きいだせり是吾名の異邦人等の前に汚されざらんためなりその異邦人等の中に彼等居り又その前にて我おのれを彼等に知せたり 10 すなはち我エジプトの地より彼等を導き出して曠野に携ゆき 11 わが法憲をこれに授けわが律法をこれに示せり是は人の行ひて之に由て生べき者なり 12 我また彼らに安息日を與へて我と彼らの間の徴となしかれらをして吾エホバが彼らを聖別しを知しめんとせり 13 然るにイスラエルの家は曠野にて我に背き人の行ひて之によりて生べき者なるわが法憲にあゆまず吾が律法を輕んじ大に吾が安息日を汚したれば曠野にてわが憤恨をかれらに注ぎてこれを滅さんと言ひしが 14 我わが名のために事をなせり是わが彼らを導きいだして見せしところの異邦人等の目のまへにわが名を汚されざらしめんためなりき 15 但し我曠野にて彼らにむかひて吾手をあげ彼らをわが與へしその乳と蜜の流るる地に導かじと誓へり是は諸の地の中の美しき者なり 16 是かれら心にその偶像を慕ひてわが律法を輕んじ棄てわが法憲にあゆまずわが安息日を汚したればなり 17 然りとはいへども吾かれらを惜み見てかれらを滅ぼさず曠野にて彼らを絶ざざりき 18 我曠野にてかれらの子等に言ひ汝らの父の法憲にあゆむなかれ汝らの律法を守るなかれ汝らの偶像をもて汝らの身を汚すなかれ 19 我は汝らの神エホバなり吾法憲にあゆみ吾律法を守りてこれを行ひ 20 わが安息日を聖くせよ是は我と汝らの間の徴となりて汝らをして我が汝らの神エホバなるを知しめんと 21 然るにその子等我にそむき人の行ひてこれによりて活べき者なるわが法憲にあゆまず吾律法をまもりて之をおこなはずわが安息日を汚したれば我わが憤恨を彼らにそそぎ曠野にてわが忿怒をかれらに洩さんと言たりしが 22 吾手を翻してわが名のために事をなせり是わが彼らを導き出して見せしところの異邦人等の目のまへにわが名を汚されざらしめんためなりき 23 但し我汝らを國々に散し處々に撒んと曠野にてかれらにむかひて我手を舉たわが法憲を輕じわが安息日をわがしその父の偶像を目に慕ひたればなり 25 我かれらに善らぬ法度を與へかれらが由て活べからざる律法を與へ 26 彼らをしてその禮物によりて己の身を汚さしむ即ちかれらその長子をして火の中を通過したり是は我彼らを滅し彼らをして我のエホバなるを知しめんためなり 27 然ば人の子よイスラエルの家につげて之にいふべし主エホバかくいひたまふ彼らの父等は更にまた不忠の罪をかし我を瀆せり 28 我わが彼らに與へんと手をあげし此地にかれらを導きいれしに彼ら諸の高丘と諸の茂樹を尋ね得てその犠牲を其處に供へその憤らしき禮物をそこに獻げその誓しき佳氣をそこに奉つりその神酒をそこに灌げり 29 我わが彼らに言ひ汝ら若しところの崇き處は何なるやと其名は

今日にいたるまでバマと言ふなり 30 この故にイスラエルの家に言ふべし主エホバかくいひたまふ汝らの先祖の途をもて汝らはその身を汚し彼等の憎むべき物をしたひてこれと姦淫を行ふにあらずや 31 汝等はその禮物を獻げその子女に火の中を通らしめて今日にいたるまで汝らの諸の偶像をもてその身を汚すなり然ばイスラエルの家よ我なんぢらの問を容るべけんや主エホバいふ我は活く我は汝らの問を容ざるなり 32 汝ら我儕は木と石に事へて異邦人の如くなり國々の宗族のごとくならんと言はば汝らの心に起るところの事は必ず成ざるべし 33 主エホバいふ我は生く我かならず強き手と伸たる腕をもて怒を注ぎて汝らを治めん 34 我強き手と伸たる腕をもて怒を注ぎて汝らを國々より曳いたし汝らが散れたる處々より汝らを集め 35 國々の曠野に汝らを導き其處にて面をあはせて汝らを鞫かん 36 主エホバいふ我エジプトの曠野にて汝らの先祖等をおおきごとくに汝らをおおき 37 我なんぢらをして杖の下を通らしめ契約の索に汝らを入しめ 38 汝らの中より背ける者および我に悖れる者を別たすべし彼らはイスラエルの地に來らざるべし汝らすなはち我のエホバなるを知ん 39 然ばイスラエルの家よ主エホバかくいふ汝等のおの往てその偶像に事へよ然ど後には汝らかならず我に聽て重てその禮物と偶像をもてわが名を汚さざるべし 40 主エホバいふ我が聖山の上イスラエルの高山の上にてイスラエルの全家その地の者皆我に事へん其處にて我かれらを悦びて受納ん其處にて我なんぢらの獻物および初成の禮物すべて汝らが聖別たる者を出しべし 41 我汝らを國々より導き出し汝らが散されたる處々より汝らを集むる時馨しき香氣のごとくに汝らを悦びて受納れ汝らによりて異邦人等の目のまへに我の聖ことをあらはすべし 42 我が汝らをイスラエルの地すなはちわが汝らの先祖等にあたへんと手をあげしところの地にいたらしめん時に汝等は我のエホバなるを知るにいたらん 43 汝らは其身を汚したるところの汝らの途と汝らのもるもの行爲を彼處にて憶え其なしたる諸の惡き作爲のために自ら恨み視ん 44 イスラエルの家よ我汝らの惡き途によらず汝らの邪なる作爲によらずして吾名のために汝等を待はん時に汝らは我のエホバなるを知るにいたらん主エホバこれを言ふなり 45 エホバの言また我にのぞみて言ふ 46 人の子よ汝の面を南方に向け南にむかひて言を垂れ南の野の森の事を預言せよ 47 すなはち南の森に言ふべしエホバの言を聽け主エホバかく言ふ視よ我なんぢの中に火を燃さん我なんぢの中の諸の青樹と枯木の焚べしその烈しき火焰消ることなし南より北まで諸の面これがために焼ん 48 肉ある者みな我エホバのこれを焼しなるを見ん是は消ざるべし 49 我是において言り嗚呼主エホバよ人われを指て言ふ彼は警言をもて語るにあらずやと

Chapter 21

1 エホバの言われにのぞみて言ふ 2 人の子よ汝の面をエルサレムに向け聖き處々にむかひて言を垂れイスラエルの地にむかひて預言し 3 イスラエルの地に言ふべしエホバかく言ふ視よ我汝を責め吾刀を鞘より拔はなし義者と惡者とを汝の中より絶ん 4 我義者と惡者とを汝の中より絶んとすればわが刀鞘より脱出て南より北までの凡て肉ある者を責ん 5 肉ある者みな我エホバのその刀を鞘より拔はなしを知らん是は歸りをさまらざるべし 6 人の子よ腰の砕くるまでに歎き彼らの目のまへにて痛く歎け 7 人汝に何て歎くやと言はば汝言べし來るところの風聞のためなり心みな鎔け手みな瘻え魂みな弱り膝みな水とならん視よ事いたれりかならず成ん主エホバこれを言ふ 8 エホバの言我にのぞみて言ふ 9 人の子よ預言して言ふべしエホバかく言ふ劍あり研ぎ且磨きたる劍あり 10 是は大に殺す事をなさんがために研てあり光り閃かんがために磨きてあり我子の杖は萬の樹を藐視すとて我等喜ぶべけんや 11 是を手に執んために與へて磨かしむるは劍は殺す者の手に付さんために之を研かつ磨かしむるなり 12 人の子よ叫び哭け其は是わが民の上に臨みイスラエルの諸の牧伯等の上に臨めばなり彼らはわが民とともに劍に仆る故に汝腿を撃べし 13 その試すでに成る若かの藐視すところの杖きたらずは如何ぞや主エホバこれを言ふ 14 人の子よ汝預言し手を拍べし劍人を刺透すところの劍三倍に働かん是は人を刺透し大なる者を殺すところの劍にして彼らを買る者なり 15 彼らの心を鎔し礙く物を増んがために我拔身の劍をその諸の門に立つ嗚呼是は光ひらめき脱いでて人を殺さんとす 16 汝合して右に向へ進んで左に向へ汝の刃の向ふところに隨へ 17 我また吾手を拍ちわが怒を静めん我エホバこれを言ふなり 18 エホバの言また我にのぞみて言ふ 19 人の子よバビロンの王の劍の由て來るべき途を設けよ其の途を一の國より出しめて道標の記號を書き邑の途の首處にこれを畫くべし 20 汝またアンモンの子孫のラバとユダの堅き城の邑エルサレムとに劍のきたるべき途を設けよ 21 バビロンの王その道の首處その途の岐處に止りて占トをなし箭を擲りテラピムに問ひ肝を察べるなり 22 彼の右にエルサレムといふ占トいづく云破城槌を備へ口をひらきて喊殺し聲をあげて吶喊を作り門にむかひて破城槌を備へ壘をきづき雲梯を建べしと 23 是はかれらの目には虚偽の占考と見ゆ聖き誓言かれらに在ばなり然れども彼罪を憶ひおこさしむ即ちかれらは取るべし 24 是故に主エホバかく言ふ汝ら既にその罪を憶おこさしめて汝らの窓著明になりたれば汝らの罪その諸の行爲に顯る汝ら既に憶いださるれば必ず手に執へらるべし 25 汝刺透さる

る者罪人イスラエルの君主よ汝の罪その終を來らしめて汝の罰せらるる日至る 26 主エホバかく言ふ冕旒を去り冠冕を除き離せ是は是ならざるべし卑き者は高くせられ高き者は卑くせられん 27 我顛覆をなし顛覆をなし顛覆を爲ん權威を持べき者の來る時まで是は有ことなし彼に我之を與ふ 28 人の子よ汝預言して言べし主エホバ、アンモンの子孫とその嘲笑につきて斯言ふと即ち汝言べし劍あり劍ありは殺すことのために拔てあり滅すことのために磨きありて光ひらめくなり 29 人なんぢに虚淨を預言し汝に假偽の占考を示して汝をその殺さるる惡人の頸の上に置んとす彼らの罪その終を來らしめて彼ら罰せらるる日いたる 30 これをその鞘にかへし納めよ汝の造られし處なんぢの生れし地にて我汝を鞫き 31 わが怒を汝に斟ぎ吾憤恨の火を汝にむかひて燃し狂暴人滅すことに巧なる者の手に汝を付すべし 32 汝は火の新となり汝の血は國の中にあらん汝は重ねて憶えらるることなるべし我エホバこれを言ばなり

Chapter 22

1 エホバの言われに臨みて言ふ 2 人の子よ汝鞫かんとするや此血を流すところの邑を鞫かんとするや汝これにその諸の憎むべき事を示して 3 言へ主エホバかく言ふ己の中に血を流してその罰せらるる時を來せ己の中に偶像を作りてその身を汚すところの邑よ 4 汝はその流せる血によりて罪を得その作れる偶像をもて身を汚し汝の日を近づかせすでに汝の年にいたれり是故に我汝を國々の嘲とならしめ萬國の笑とならしむべし 5 汝に近き者も遠き者も汝が名の汚れたる混亂の多きとを笑はん 6 視よイスラエルの君等各その力にしたがひて血を流さんと汝の中にをる 7 彼ら汝の中にて父母を賤め汝の中にて他國の人を虐げ汝の中にて孤兒と寡婦を惱ますなり 8 汝わが聖き物を賤めわが安息日を汚す 9 人を誣づる者血を流さんど汝の中にあり人汝の中にて山の上に食をなし汝の中にて邪淫をおこなひ 10 汝の中にてその父の妻に交り汝の中にて月經のさはりに穢れたる婦女を犯す 11 又汝の中にその鄰の妻と憎むべき事をおこなふものあり邪淫をおこなひてその嫁を犯すものありその父の女なる己の姊妹を犯すものあり 12 人汝の中にて賄賂をうけて血を流すことをなすなり 13 汝見よ我汝が掠めとる事をなし且血を汝の中に流すによりて我手を拍つ 14 我が汝を攻る日には汝の心堅く立ち汝の手強くあることを得んや我エホバこれを言ひこれをなすなり 15 我汝を異邦の國中に散し國々の中に播き全く汝の汚穢を取のぞくべし 16 汝は己の故によりて異邦人の目に汚れたる者と見えん而して汝我のエホバなるを知べし 17 エホバの言また我にのぞみて言ふ 18 人の子

よイスラエルの家は我に渣滓のごとくなれり彼等は凡て爐の中の銅錫鐵鉛のごとし彼らは銀の渣滓のごとく成れり 19 此故に主エホバかく言ふ汝らは皆渣滓となりたれば視よ我なんぢらをエルサレムの中に集む 20 人の銀銅鐵鉛錫を爐の中に集め火を吹かけて鎔すが如く我怒と憤をもて汝らを集め入て鎔すべし 21 即ち我汝らを集め吾怒の火を汝らに吹かけん汝らはその中に鎔ん 22 銀の爐の中に鎔るがごとくに汝らはその中に鎔け我エホバが怒を汝らに斟ぎしを知にいたらん 23 エホバの言われに臨みて言ふ 24 人の子よ是に言ふべし汝は怒の日に日も照らず雨もふらざる地なり 25 預言者等の徒黨その中にありその食を擄くところの吼ゆる獅子のごとくに彼らは靈魂を呑み財寶と貴き物を取り寡婦をその中に多くす 26 その祭司等はわが法を犯しわが聖き物を汚し聖きと聖からざるとの區別をなさず潔きと穢たるとの差別を教へずその目を掩ひてわが安息日を顧みず我はかれらの中に汚さる 27 その中にある公伯等は食を擄くところの豺狼のごとくにして血をながし靈魂を滅し物を掠めとらんとす 28 その預言者等は灰砂をもて是等を塗り虚浮物を見偽の占トを人になしエホバの告あらざるに主エホバかく言たまふと言ふなり 29 國の民は暴虐をおこなひ奪ふ事をなし難める者と貧き者を掠め道に反きて他國の人を虐ぐ 30 我一箇の人の國のために石垣を築き我前にあたりてその破壊處に立ち我をして之を滅さしめざるべき者を彼等の中に尋れども得ざるなり 31 主エホバいふ是故に我わが怒を彼らに斟ぎわが憤の火をもて彼らを滅し彼らの行爲をその首に報ゆ

Chapter 23

1 エホバの言われに臨みて言ふ 2 人の子よ爰に二人の婦女あり一人の母の女子なり 3 彼等エジプトにおいて淫を行ひその少き時に淫を行へり即ち彼處において人かれらの乳を拵り彼處においてその處女の乳房に觸る 4 その名は姉はアホラ妹はアホリバと云ふ彼ら我に歸して男子女子を生り彼らの本名はアホラはサマリヤと言ひアホリバはエルサレムと云ふなり 5 アホラは我有たる間に淫を行てその戀人等に焦れたり是すなはちその隣なるアツスリヤ人にして 6 紫の衣を着る者牧伯たる者督宰たる者なり是等は皆美麗き秀でたる人馬に乗る者なり 7 彼凡てアツスリヤの秀でたる者す淫を行ひ且その焦れたる諸の者すなはちその諸の偶像をもてその身を汚せり 8 彼またエジプトよりの淫行を捨ざりき即ち彼の少き時に彼ら彼と寝ねその處女の乳房にさしりその淫慾を彼の身の上に洩せり 9 是故に我彼をその戀人の手に付しその焦れたるアツスリヤの子孫の手に付せり 10 是に於て彼等かれの陰所を露しその子女を奪ひ劍をもて彼を殺して婦人の中にその名を聞えしめ

その身の上に鞫を行へり 11 彼の妹アホリバこれを見彼よりも甚だしくその慾を縦恣にしその姉の淫行よりもしたる淫行をなし 12 その隣なるアツスリヤの人々に戀焦れたり彼らはすなはち牧伯たる者督宰たる者華美に粧ひたる者馬に騎る者にして皆美しき秀でたる者なり 13 我かれがその身を汚せしを見たり彼らは共に一の途をあゆめり 14 彼その淫行を増り彼壁に彫つけたる人々を見たり是すなはち朱をもて壁に彫つけたるカルデヤ人の像にして 15 腰には帯を結び首には垂さがれる帊巾を戴けり是等は皆君王たる者の形ありてその生れたる國なるカルデヤのバビロン人に似たり 16 彼その目に是等を見てこれに戀焦れ使者をカルデヤにおくりて之にいたらしむ 17 是に於てバビロンの人々彼の許にきたりて戀の床に就きその淫行をもて彼を汚したりしが彼らにその身を汚さるるにおよびて彼その心にかれらを疎んず 18 彼その淫行を露しその陰所を顯したれば我心彼を疎んず吾心かれの姉を疎んじたるごとし 19 彼その淫行を増しその少き日にエジプトに於て淫をおこなひし事を憶え 20 彼らの戀人になるその人の肉は驢馬の肉のごとく其精は馬の精のごとし 21 汝は己の少き時にエジプト人が汝の處女の乳房のために汝の乳にさはりたる時の淫行を顧みるなり 22 この故に主エホバかく言ふアホリバよ我汝が心に疎んずるに至りしところの戀人等を激して汝を攻めしめ彼らをして四方より汝に攻きたらしむべし 23 即ちバビロンの人々およびカルデヤの諸の人々ペコデ、シヨワ、コア並にアツスリヤの諸の人々美しき秀でたる人々牧伯等および督宰等 大君および名高き人 凡て馬に騎る者 24 鋒車および輪を持ち衆多の民をひきめて汝に攻め來り大楯小楯および兜をそなへて四方より汝に攻かからん我裁判をかれらに委ぬべし彼らすなはち其律法によりて汝を鞫かん 25 我汝にむかひてわが嫉妬を發すれば彼ら怒をもて汝を待ひ汝の鼻と耳を切るとるべし汝のうちの存れる者は劍に仆れん彼ら汝の子女を奪ふべし汝の中の残れる者は火に焼ん 26 彼ら汝の衣を剥脱り汝の美しき妝飾を取べし 27 我汝の淫行を除き汝がエジプトの地より行ひ來れるところの邪淫を除き汝をして重て彼らに目をつけざらしめ再びエジプトの事を憶はざらしめん 28 主エホバかく言ふ視よ我汝が惡む者の手汝が心に疎する者の手に汝を付せば 29 彼ら怨憎をもて汝を待ひ汝の得たる物を盡く取り汝を赤裸に成おくべし是をもて汝が淫をおこなへる陰所露にならん汝の淫行と邪淫もしかし 30 汝異邦人を慕ひて淫をおこなひ彼らの偶像をもて身を汚したるに由て是等の事汝におよぶなり 31 汝その姉の途に歩みたれば我かれの杯を汝の手に交す 32 主エホバかく言ふ汝その姉の深き大なる杯を飲べし是は笑と嘲を充す者なり 33 醉と憂汝に満ちん汝の姉サマリヤの杯は駭異と滅亡の杯なり 34 汝これを飲み乾しこれを吸つくしその碎片を

咬み汝の乳房を摘去ん我これを言ふと主エホバ言ふ 35 然ば主エホバかく言ふ汝我を忘れ我を後に棄たれば汝またその淫行と邪淫の罪を負べし 36 斯てエホバ我にいひたまふ人の子よ汝アホラとアホリバを鞫かんとするや然らば彼らにその憎むべき事を示せ 37 夫彼らは姦淫をおこなへり又血その手にあり彼らその偶像と姦淫をおこなひ又その我に生たる男子等に火の中をとほらしめてこれを焼り 38 加之また是をなせり即ち彼ら同日にわが聖處を汚しわが安息日を犯せり 39 彼らその偶像のために男子等を宰りしその日にわが聖處に來りてこれを汚し斯わが家の中に事をなせり 40 且又彼らは使者をやりにて遠方より人を招きて至らしむ其人々のために汝身を洗ひ目を書き妝飾を着け 41 華美なる床に坐し臺盤をその前に備へその上にわが香とわが膏を置り 42 斯て群衆の喧噪その中に靜りしがその多衆の人々の上にまた曠野よりサバ人を招き寄たり彼らは手に腕環をばめ首に美しき冠を戴けり 43 我かの姦淫のために衰弱たる女の事を云り今は早彼の姦淫その姦淫をなしをはらんかと 44 彼らは遊女の所にいるごとくに彼の所に入り斯かれらすなはち淫婦アホラとアホリバの所に入らん 45 義人等姦婦の律法に照し故殺の律法に照して彼らを鞫かん彼らは姦婦にしてまたその手に血あればなり 46 主エホバかく言ふ我群衆を彼等に攻きたらしめ彼らを是に付して虐と掠にあはしめん 47 群衆かれらを石にて撃ち劍をもて斬りその子女を殺し火をもてその家を焼べし 48 斯我この地に邪淫を絶さん婦女みな自ら警めて汝らのごとくに邪淫をおこなはざるべし 49 汝ら汝らの邪淫の罪を汝らに報いん彼らはその偶像の罪を負ひ而して我の主エホバなるを知にいたるべし

Chapter 24

19年の十月十日にエホバの言我にのぞみて言ふ 2人の子よ汝此日すなはち今日の名を書セバビロンの王今日エルサレムを攻るるなり 3汝背ける家に譬喩をかたりて之に言へ主エホバかく言たまふ釜を居る居るてこれに水を斟いれ 4其肉の凡て佳き所を集めて股と肩とを之に入れ佳き骨をこれに充し 5羊の選擇者を取れ亦薪一束を取り下にに入れて骨を煮釜を善く煮て亦その中の骨を煮よ 6 是故に主エホバかく言ふ禍なるかな血の流るる邑鏽のつきたる釜その鏽これを離れざるなり肉を一箇一箇に取いだせ之がために釜を撃べからず 7彼の血はその中において乾ける磐の上にこれを置りこれ土にそそぎて塵に覆はれしめず 8我怒を來らせ仇を復さんがためにその血を乾ける磐の上に置て塵に覆はれざらしめたり 9是故に主エホバかく言ふ禍なるかな血の流るる邑我またその薪の束を大にすべし 10 薪を積かさぬ火を燃し肉を善く煮てこれを煮つくしその骨をも焼しむべし 11 而して釜を空にして炭火の上に置きその銅を

して熱くなりて焼しめ其汚穢をして中に鎔しめその鏽を去しむべし 12 既に手を盡したれどもその大なる鏽さらざればその鏽を火に投棄べし 13 汝の汚穢の中に淫行あり我汝を淨めんとしたれども汝淨まらざりしに因てわが怒を汝に洩しつくすまでは汝その汚穢をはなれて淨まることあらじ 14 我エホバこれを言ひ是至る我これを爲べし止す惜まず悔ざるなり汝の道にしたがひ汝の行爲にしたがひて彼ら汝を鞫かん主エホバこれを言ふ 15 エホバの言われに臨みて言ふ 16 人の子よ我頓死をもて汝の目の喜ぶ者を取去ん汝哀かず泣ず涙をながすべからず 17 聲をたてずして哀け死人のために哀哭をなすなかれ冠物を戴き足に鞋を穿べし鬚を掩ふなかれ人のおくれる食物を食ふべからず 18 朝に我人々に語りしが夕にわが妻死ねり明朝におよびて我命ぜられしごとくなせり 19 茲に人々我に言けるは此汝がなすところの事は何の意なるや我らに告ざるや 20 我かれらに言けるはエホバの言我にのぞみて言ふ 21 イスラエルの家にいふべし主エホバかく言ふ視よ我汝らの勢力の榮汝らの目の喜愛汝らの心の望なるわが聖所を汚さん汝らが遺すところの子女等は劍に仆れん 22 汝らもわが爲るごとくなし鬚を覆はず人のおくれる食物を食はず 23 首に冠物を戴き足に履を穿き哀かず泣ずその罪の中に瘦衰へて互に呻かん 24 斯エゼキエル汝らに兆とならん彼がなしたること汝ら爲ん是事の至らん時に汝ら我の主エホバなるを知べし 25 人の子よわが彼らの力かれらの樂むところの榮その目の喜愛その心の望その子女を取去る日 26 その日に逃亡者汝の許に來り汝の耳に告ることあらん 27 その日に汝逃亡者にむかひて口を啓き語りて再び黙せざらん 28 汝かれらに兆となるべし彼らは遂に我のエホバなるを知ん

Chapter 25

1エホバの言我に臨みて言ふ 2 人の子よ汝の面をアンモンの人々に向けこれに向ひて預言し 3アンモンの人々に言べし汝ら主エホバの言を聽け主エホバかく言ひたまふ汝わが聖處の汚さるる事につきイスラエルの地の荒さるる事につき又ユダの家の擄へ移さるることにつきて嗚呼心地善しと語り 4是故に視よ我汝を東方の人々に付して所と爲さしめん 彼等汝の中に畜圍を設け汝の中にその住宅を建て汝の作物を食ひ汝の乳を飲ん 5ラバをば我駱駝を蒙ふ地となしアンモンの人々の地をば羊の臥す所となすべし 汝ら我のエホバなるを知にいたらん 6主エホバかく言たまふ汝イスラエルの地の事を見て手を拍ち足を蹈み傲慢を極めて心に喜べり 7是故に視よ我わが手を汝に伸べ汝を國々に付して掠奪に遭しめ汝を國民の中より絶ち諸國に斷じ滅すべし 汝我のエホバなるを知るにいたらん 8主エホバかく言たまふモアブとセイル言ふユダの家は他の諸の國

と同じと 9是故に我モアブの肩を鞫くべし即ちその邑々その最遠の邑にして國の莊嚴なるベテエシモテ、パアルメオンおよびキリヤタイムよりこれを聞き 10 之をアンモンの人々に添て東方の人々に與へその所有となさしめアンモンの人々をして國々の中に記憶らるること無しめん 11 我モアブに鞫を行ふべし彼ら我のエホバなるを知にいたらん 12 主エホバかく言たまふエドムは怨恨をふくんでユダの家に事をなし且これに怨を復して大に罪を得たり 13 是故に主エホバかく言たまふ我エドムの上にわが手を伸して其中より人と畜を絶去り之をテマンより荒地となすべし 14 我わが民イスラエルの手をもてエドムにわが仇を報いん彼らわが怒にしたがひわが憤にしたがひてエドムに行ふべし 15 我わが民イスラエルの手をもてエドムにわが仇を報いん彼らわが怒にしたがひわが憤にしたがひてエドムに行ふべし 16 我わが民イスラエルの手をもてエドムにわが仇を報いん彼らわが怒にしたがひわが憤にしたがひてエドムに行ふべし 17 我怒の罰をもて大なる復仇を彼らに爲ん我仇を彼らに復す時に彼らは我のエホバなるを知べし

Chapter 26

1十一年の月の首の日にエホバの言我にのぞみて言ふ 2人の子よツロはエルサレムの事につきて語り嗚呼心地よし諸の國民の門破るは我に辱るならん我は豐滿にならべし彼は荒はてたりと 3是故に主エホバかく言たまふツロよ我汝を攻め海のその波濤を起すが如く多くの國人を汝に攻きたらしむべし 4彼らツロの石壙を毀ちその櫓を倒さん我その塵を拂ひ去りて是を乾ける磐と爲べし 5是は海の中の網を張る處とならん 我これを言ばなりと主エホバいひたまふ 是は諸の國人に掠めらるべし 6その野にをる女子等は劍に殺されん彼らすなはち我のエホバなるを知べし 7主エホバかく言たまふ視よ我王の王なるバビロンの王ネブカデネザルをして馬車騎兵群衆および多くの民を率て北よりツロに攻きたらしむべし 8野にをる汝の女子等をば彼劍にかけて殺し又汝にむかひて雲梯を建て汝にむかひて壘を築き汝にむかひて干を備へ 9破城槌を汝の石垣に向けその斧をもて汝の櫓を打碎かん 10 その衆多の馬の煙塵汝を覆はん彼等蔽れたる城に入ること共に汝の門々に入らん時その騎兵と輪と車の聲のために汝の石垣震動べし 11 彼その馬の蹄をもて汝の諸の衢を踏あらし劍をもて汝の民を殺さん 汝の榮光の柱地に仆るべし 12 彼ら汝の財寶を奪ひ汝の商貨を掠め汝の石垣を打崩し汝の樂き館を毀ち汝の石と木と土を水に沈めん 13 我汝の歌の聲を止めん汝の琴の音は復聞えざるべし 14 我汝を乾ける磐となさん 汝は網を張る處となり再び建ことなかるべし 我エホバこれを言ふと主エホバ言た

まふ 15 主エホバ、ツロにかく言たまふ鳥々汝の作る響手負の呻吟および汝の中の殺戮によりて震動ざらんや 16 海の君主等皆その座を下り朝服を脱ぎ纏ある衣を去り恐懼を身に纏ひ地に坐し時となく恐れ汝の事を驚かかん 17 彼ら汝の爲に哀の詞を擧て汝に言ふべし汝海より出たる住處名の高き邑自己もその居民も共に海に於て勢力ある者その凡の居民に己を恐れしむる者汝如何にして亡びたるや 18 それ鳥々は汝の作るに汝をして下の國に住しめ古昔よりの墟址に於て彼の墓に下れる者等とともに居しめ汝の中に復人の住こと無しむべし而して我活る人の地に榮を創造いさん 21 我汝をもて人の戒懼となすべし汝は復ることなし人汝を尋るも終に汝を看ざるべし主エホバこれを言ふなり

Chapter 27

1

エホバの言また我に臨みて言ふ 2 人の子よ汝ツロのために哀の詞を宣べ 3 ツロに言べし汝海の口に居りて諸の國人の商人となり多衆の鳥々に通ふ者よ主エホバかく言たまふツロよ汝言ふ私の美は極れりと 4 汝の國は海の中にあり汝を建る者汝の美を盡せり 5 人セニルの樅をもて船板を作りレバノンより香柏を取て汝のために櫓を作り 6 パシヤンの樅をもて汝の漿を作りキッテムの島より至れる黄楊に象牙を嵌て汝の坐板を作れり 7 汝の帆はエジプトより至れる文布にして旗に用ふべし汝の天蓋はエリシヤの島より至れる藍と紫の布なり 8 汝の水手はシドンとアルワデの人なりツロよ汝の中にある賢き者汝の舵師となる 9 ゲバルの老人等およびその賢き者汝の中をりて汝の漏を繕ひ海の諸の船およびその舟子汝の中にありて汝の貨物を交易す 10 ペルシヤ人ルデ人フテ人汝の軍にありて汝の戦士となる彼等汝の中に干と兜を懸け汝に光輝を與ふ 11 アルワデの人々および汝の軍勢汝の四周の石垣の上であり勇士等汝の櫓にあり彼等汝の四周の石垣にその櫓をかけ汝の美を盡せり 12 その諸の貨物に富るがためにタルシシ汝と商をなし銀鐵錫および鉛をもて汝と交易を爲り 13 ヤワン、トバルおよびメセクは汝の商賈にして人の身と銅の器をもて汝と貿易を行ふ 14 トガルマの族馬と騎馬および驛をもて汝と交易し 15 デダンの人々汝と商をなせり衆の鳥々汝の手にありて交易し象牙と黒檀をもて汝と貿易せり 16 汝の製造品の多がためにスリア汝と商をなし赤玉 紫貨 縞貨 珊瑚および瑪瑙をもて汝と交易す 17 ユダとイスラエルの地汝に商をなしミンニテの麥と菓子と蜜と油と乳香をもて汝と交易す 18 汝の製造物の多がため

諸の貨物の多きがためにダマスコ、ヘルボンの酒と曝毛をもて汝と交易せり 19 ウザルのペダンとヤワン熟鐵をもて汝と交易す肉桂と菖蒲汝の市にあり 20 デダンの毛氈を汝に商へり 21 アラビヤとケダルの君等とは汝の手に在りて商をなし羔羊と牡羊と牡山羊をもて汝と交易す 22 シバとラアマの商人汝と商をなし諸の貴き香料と諸の寶石と金をもて汝と交易せり 23 ハランとカンネとエデンとシバの商賈とアツスリヤとキルマデ汝と商をなし 24 華美なる物と紫色なる縞の衣服と香柏の箱の綾を盛て紐にて結たる者ともて汝の市にあり 25 タルシシの船汝のために往來して商賈を爲す汝は海の中にありて豊満にして榮あり 26 水手汝を蕩て大水の中にいたるに海の中にて東風汝を打破る 27 汝の財寶汝の商貨物汝の交易の物汝の舟子汝の舵師汝の漏を繕ふ者汝の貨物を商ふ者汝の中にあるところの凡ての軍人並に汝の中の乗者みな汝の壞る日に海の中に陥るべし 28 汝の舵師等の叫號の聲にその處々震ふ 29 凡て棹を執る者舟子および凡て海の舵師その船より下りて陸に立ち 30 汝のために聲を擧げて痛く哭き塵を首に蒙り灰の中に輾轉び 31 汝のために髪を剃り麻布を纏ひ汝のために心を痛めて泣き甚く哭くべし 32 彼等悲みて汝のために哀の詞を宣べ汝を弔ひて言ふ孰かツロの如くなる海の中に滅びたる者の如くなると 33 汝の商貨の海より出し時は汝衆多の國民を厭しめ汝の衆多の財寶と貨物をもて世の王等を富しめたりしが 34 汝海に壞れて深き水にあらん時は汝の貨物汝の乗人みな陥らん 35 鳥々に住る者皆汝に駭かんその君等大に恐れてその面を振はすべし 36 國々の商賈汝のために嘶かん汝は人の戒懼となり限りなく失果ん

Chapter 28

1

エホバの言われに臨みて言ふ 2 人の子よツロの君に言ふべし主エホバかく言たまふ汝心に高ぶりて言ふ我は神なり神の座に坐りて海の中にありと汝は人にして神にあらず而して神の心のごとき心を懷くなり 3 夫汝はダニエルよりも賢かり隠れたる事として汝に明ならざるは無し 4 汝の智慧と明哲によりて汝富を獲金銀を汝の庫に收め 5 汝の大なる智慧と汝の貿易をもて汝の富有を増しその富有のために心に高ぶれり 6 是故に主エホバかく言ふ汝神の心のごとき心を懷くに因り 7 視よ我異國人を汝に攻きたらしめん是國々の暴人々なり彼ら劍を抜きて汝が智慧をもて得たるころの美しき者に向ひ汝の美を汚し 8 汝を穴に投げれん汝は海の中に殺さるる者のごとき死を遂べし 9 汝は人にして神にあらず汝を殺す者の手にあるも尚その己を殺す者の前に我は神なりと言んとするや 10 汝は割禮をうけざる者の死を異國人の手に遂べし我これを言ばなりとエ

ホバ言たまふ 11 エホバの言我にのぞみて言ふ 12 人の子よツロの王のために哀の詞を述べこれに言べし主エホバかく言たまふ汝は全く整へたる者の印智慧の充ち美の極れる者なり 13 汝神の園エデンに在りき諸の寶石 赤玉 黄玉 金剛石 黄緑玉 葱垢 碧玉 青玉 紅玉 瑪瑙および金汝を覆へり汝の立らるる日に手鼓と笛汝のために備へらる 14 汝は膏そそがれしケルブにして掩ふことを爲り我汝を斯なせしなり汝神の聖山に在り又火の石の間に歩めり 15 汝はその立られし日より終に汝の中に惡の見ゆるにいたるまでは其行全かりき 16 汝の交易の多きがために汝の中には暴逆滿ちて汝罪を犯せり是故に掩ふことを爲とるのケルブよ我神の山より汝を汚し出し火の石の間より汝を滅し去べし 17 汝その美麗のために心に高ぶり其榮耀のために汝の智慧を汚したれば我汝を地に擲ち汝を王等の前に置て觀物とならしむべし 18 汝正しからざる交易をなして犯したる多くの罪を以て汝の聖所を汚したれば我なんぢの中より火を出して汝を燒き凡て汝を見る者の目の前にて汝を地に灰となさん 19 國々の中にて汝を知る者は皆汝に驚かん汝は人の戒懼となり限りなく失果てん 20 エホバの言我にのぞみて言ふ 21 人の子よ汝の面をシドンに向けこれに向ひて預言し 22 言べし主エホバかく言たまふシドンよ視よ我汝の敵となる我汝の中において榮耀を得ん我彼らを鞫き我の聖事を彼らに顯す時彼ら我のエホバなるを知ん 23 われ疫病を是におくりその衢に血あらしめんその四方より是に來るところの劍に殺さるる者その中に仆るべし彼らすなはち我のエホバなるを知ん 24 イスラエルの家にはその周圍にありて之を賤むる者の所より重て惡き荆棘苦き芒蘄來ることなし彼らは我の主エホバなるを知にいたらん 25 主エホバかく言ふ我イスラエルの家をその散されたる國々より集めん時彼らに由りて我の聖きを異國人の目の前にあらはさん彼らはわが僕ヤコブに與へたるその地に住ん 26 彼ら彼處に安然に住み家を建て葡萄園を作らん彼らの周圍にありて彼らを藐視する者を悉く我が鞫かん時彼らは安然に住み我エホバの己の神なるを知らん

Chapter 29

10年の十月の十二日にエホバの言我にのぞみて言ふ 2 人の子よ汝の面をエジプトの王パロにむけとエジプト全國にむかひて預言し 3 語りて言べし主エホバかく言たまふエジプトの王パロよ視よ我汝の敵となる汝その河に臥すところの鱷よ汝いふ河は我の所有なり我自己のためにこれを造れりと 4 我鉤を汝の腮に鉤け汝の河の魚をして汝の鱗に附しめ汝および汝の鱗に附る諸の魚を汝の河より曳いだし 5 汝と汝の河の諸の魚を曠野に投すとん汝は野の面に仆れん汝を取あぐる者なく集むる者な

かるべし我汝を地の獸と天の鳥の餌に與へん 6 エジプトの人々皆我のエホバなるを知ん彼等のイスラエルの家におけるは葦の杖のごとなりき 7 イスラエル汝の手を執ば汝折れてその肩を盡く裂き又汝に倚ば汝破れてその腰を盡く振へしむ 8 是故に主エホバかく言ふ視よ我劍を汝に持きたり人と畜を汝の中より絶ん 9 エジプトの地は荒て空曠なるべし彼らすなはち我のエホバなるを知ん彼らよ我の有なり我これを作れりと言ふ 10 是故に我汝と汝の河々を罰しエジプトの地をミグドルよりスエネに至りエテオピアの境に至るまで盡く荒して空曠せん 11 人の足此を渉らず獸の足此を渉らじ四十年の間此に人の住ことなかるべし 12 我エジプトの地を荒して荒たる國々の中にあらしめんその邑々は荒て四十年の間荒たる邑々の中にあるべし我エジプト人を諸の民の中に散し諸の國に散さん 13 但し主エホバかく言たまふ四十年の後我エジプト人をその散されたる諸の民の中より集めん 14 即ちエジプトの俘囚人を歸しその生れし國なるパテロスの地にかへらしむべし彼らは其處に卑き國を成ん 15 是は諸の國よりも卑くして再び國々の上にいづることなかるべし我かれらを小くすれば彼らは重て國々を治むることなし 16 彼らは再びイスラエルの家の特とならじイスラエルはこれに心をよせてその罪をおもひ出さしむることなかるべし彼らすなはち我の主エホバなるを知ん 17 茲に二十七年の一月の一日にエホバの言我にのぞみて言ふ 18 人の子よバビロンの王ネブカデネザルその軍勢をしてツロにむかひて大に働かしむ皆首上げ皆腐破る然るに彼もその軍勢もその爲るところの事業のためにツロよりその報を得ず 19 是故に主エホバかくいふ視よ我バビロンの王ネブカデネザルにエジプトの地を與へん彼その衆多の財寶を取り物を掠め物を奪はん是はその軍勢の報たらん 20 彼の勞動る値として我エジプトの地をかれに與ふ彼わがために之をなしたればなり主エホバこれを言ふ 21 當日に我イスラエルの家に一の角を生ぜしめ汝をして彼らの中に口を啓くことを得せしめん彼等すなはち我がエホバなるを知べし

Chapter 30

1

エホバの言我にのぞみて言ふ 2 人の子よ預言して言へ主エホバかく言たまふ汝ら叫べ其日は禍なるかな 3 その日近しエホバの日近し是雲の日こ異邦人の時なり 4 劍エジプトに臨まん殺さるる者エジプトに仆る時エテオピアに痛苦あるべし敵その財寶を奪はんその基址は毀たるべし 5 エテオピア人フテ人ルデ人凡て加勢の兵およびクブ人ならびに同盟の國の人々彼らとともに劍にたふれん 6 エホバかく言ふエジプトを扶くる者は仆れ其驕るところの勢力は失せんミグドルよりスエネにいたるまで人劍によりて己の中に仆るべし主エ

ホバこれを言なり 7 其は荒て荒地の中にあり其邑々は荒たる邑の中にあるべし 8 我火をエジプトに降さん時は是を助くる者の皆ほろびん時は彼等我のエホバなるを知ん 9 その日には使者船にて我より出でかの心強きエテオピア人を懼れしめんエジプトの日にありし如く彼等の中に苦痛あるべし視よ是は至る 10 主エホバかく言たまふ我バビロンの王ネブカデネザルをもてエジプトの喧噪を止むべし 11 彼および彼にしたがふ民即ち國民の中の暴き者を召来りてその國を滅さん彼ら劍をぬきてエジプトを攻めその殺せる者を國に満すべし 12 我その河々を涸し國を惡き人の手に賣り外國人の手をもて國とその中の物を荒すべし我エホバこれを言り 13 主エホバかく言たまふ我偶像を毀ち神々をノフに絶さんエジプトの國よりは再び君のいづることなかるべし我エジプトの國に畏怖を蒙らしめん 14 我バテロスを荒しゾアンに火を擧げノに鞠を行ひ 15 わが怒をエジプトの要害なるシンに洩しノの群衆を絶つべし 16 我火をエジプトに降さんシンは苦痛に悶えノは打破られノフは日中敵をうけん 17 アベンとピベセテの少者は劍に仆れ其中の人々は擡ゆかれん 18 テパネスに於ては吾がエジプトの輓を其處に摧く時に日暗くならんその誇るところの勢力は失せん雲これを覆はんその女子等は擡へゆかれん 19 かく我エジプトに鞠をおこなはん彼等すなはち我のエホバなるを知べし 20 十一年の一月の七日にエホバの言われに臨みて言ふ 21 人の子よ我エジプトの王バロの腕を折れり是は再び東へて藥を施し裏布を巻て之を裹み強く爲して劍を執いたへしむること能はざるなり 22 是故に主エホバかく言たまふ視よ我エジプトの王バロを罰し其強き腕と折たる腕とを俱に折り劍をその手より落しむべし 23 我エジプト人を諸の民の中に散し諸の國に散さん 24 而してバビロンの王の腕を強くして我劍をこれに授けん然ど我バロの腕を折れば彼は刺透されたる者の呻くが如くにその前に呻かん 25 我バビロンの王の腕を強くせんバロの腕は弱くならん我わが劍をバビロンの王の手に授けて彼をしてエジプトにむかひて之を伸しむる時は人衆我のエホバなるを知ん 26 我エジプト人を諸の民の中に散し諸の國に散さん彼らすなはち我のエホバなるを知るべし

Chapter 31

十一年の三月の一日にエホバの言我に臨みて言ふ 2 人の子よエジプトの王バロとその群衆に言へ汝はその大なること誰に似たるや 3 アツスリヤはレバノンの香柏のごとし其枝美しくして生茂りその丈高くして其巔雲に至る 4 水これを大ならしめ大水これを高からしむ其川々の植れる處を環りその流を野の諸の樹に及ぼせり 5 是によりてその長野の諸の樹よりも高くなりその生長にあたりて多の水のために枝葉茂りその枝

長く伸たり 6 その枝葉に空の諸の鳥巢をくひ其枝の下に野の諸の獸子を生みその蔭に諸の國民住ふ 7 是はその大なるとその枝の長きとに由て美しかりき其根多くの水の傍にありたればなり 8 神の園の香柏これを蔽ふことあたはず縦もその枝葉に及ばず横もその枝に如す神の園の樹の中その美しき事これに如ものあらざりき 9 我これが枝を多してこれを美しくなせりエデンの樹の神の園にある者皆これを羨めり 10 是故に主エホバかく言ふ汝その長高くなればは其巔雲に至りその心高く驕れば 11 我これを萬國の君たる者の手に付さん彼これを處置せん其惡のために我これを打棄たり 12 他國人國々の暴き者これを截倒して棄つ其枝葉は山々に谷々に墮ち其枝は碎けて地の諸の谷川にあり地の萬民その蔭を離れてこれを遺つ 13 その倒れたる上に空の諸の鳥止まり其枝の上に野の諸の獸居る 14 是水の邊の樹その高のために誇るることなくその巔を雲に至らしむることなからんためなり 15 夫是等は皆死に付されて下の國に入り他の人々の中にあり墓に下る者等と偕なるべし 16 主エホバかく言たまふ彼が下の國に下れる日に我哀哭あらしめがために大水を蓋ひその川々をせきとめれば大水止まれり我レバノンをして彼のために哭かしめ野の諸の樹をして彼のために瘦衰へしむ 16 我かれを陰府に投くだして墓に下る者と共にらしむる時に國々をしてその墮る響に震動しめたり又エデンの諸の樹レバノンの勝れたる最美しき者凡て水に濕ふ者皆下の國に於て慰を得たり 17 彼等も彼とともに陰府に下り劍に刺れたる者の處にいたる是すなはちその助者となりてその蔭に坐し萬國民の中にをりし者なり 18 エデンの樹の中にありて汝は其榮とその大なること孰に似たるや汝は斯エデンの樹とともに下の國に投下され劍に刺透されたる者とともに割禮を受ざる者の中にあるべしバロとその群衆は是のごとし主エホバこれを言ふ

Chapter 32

1 茲にまた十二年の十二月の一日にエホバの言我にのぞみて言ふ 2 人の子よエジプトの王バロのために哀の詞を述て彼に言ふべし汝は自ら萬國の中の獅子に擬へたるが汝は海の鱷の如くなり汝河の中に跳起き足をもて水を濁しその河々を蹈みだす 3 主エホバかく言たまふ我衆多の國民の中にてわが網を汝に打掛け彼らをしてわが網にて汝を引あげしめん 4 而して我汝を地上に投す汝を野の面に擲ち空の諸の鳥をして汝の上に止らしめ全地の獸をして汝に飽しむべし 5 我汝の肉を山々に遺て汝の屍を堆くして谷々を埋むべし 6 我汝の溢る血をもて地を濕し山にまで及ぼさん谷川には汝盈べし 7 我汝を滅する時は空を蔽ひその星を暗くし雲をもて日を掩はん月はその光を發たざるべし 8 我空の照る光明を盡く

汝の上に暗くし汝の地を黑暗となすべし主エホバこれを言ふ 9 我なんぢの滅亡を諸の民汝の知ざる國々の中に知しめて衆多の民をして心を傷ましめん 10 我衆多の民をして汝に驚かしめんその王等はわが前にわれの劍を振り時に戰慄かん汝の仆る日には彼ら各人その生命のために絶す發振ん 11 即ち主エホバかく言たまふバビロンの王の劍汝に臨まん 12 我汝の群衆をして勇士の劍に仆れしめん彼等は皆國々の暴き者なり彼らエジプトの驕傲を絶さん其の群衆は皆ほろぼさるべし 13 我その家畜を盡く多の水の傍より絶去ん人の足再び之を濁すことなく家畜の蹄これを濁すことなかるべし 14 我すなはちその水を清しめ其河々をして油のごとく流れしめん主エホバこれを云ふ 15 我エジプトの國を荒地となしてその國荒てこれが富を失ふ時また我その中に住る者を盡く撃つ時人々我のエホバなるを知ん 16 是哀の詞なり人悲みてこれを唱へん國々の女等悲みて之を唱ふべし即ち彼等エジプトとその諸の群衆のために悲みて之を唱へん主エホバこれを言ふ 17 十二年の月の十五日にエホバの言また我に臨みて言ふ 18 人の子よエジプトの群衆のために哀き是と大なる國々の女等とを下の國に投くだし墓にくだる者と共にらしめよ 19 汝美しき事誰に勝るや下りて割禮なき者とともに臥せよ 20 彼らは劍に殺される者の中に仆るべし劍已に付してあり是と其の諸の群衆を曳下すべし 21 勇士の強き者陰府の中より彼にその助者と共に言ふ割禮を受ざる者劍に殺されたる者彼等下りて臥す 22 彼處にアツスリアとその凡の群衆をりその周圍に之が墓あり彼らは皆殺され劍に仆れたる者なり 23 かれの墓は穴の奥に設けてありその群衆墓の四周にあり是皆殺されて劍に仆れたる者生者の地に畏怖をおこせし者なり 24 彼處にエラムありその凡の群衆その墓の周圍にあり是皆殺されて劍に仆れ割禮を受すして下の國に下りし者生者の地に畏怖をおこせし者にて夫穴に下れる者等とともに恥辱を蒙るなり 25 殺されたる者の中にその床を置きてその凡の群衆と共にすその墓周圍にあり彼等は皆割禮を受ざる者にして劍に殺さる彼ら生者の地に畏怖をおこしたれば穴に下れる者とともに恥辱を蒙るなり彼は殺されし者の中に置く 26 彼處にメセクとトバルおよびその凡の群衆ありその墓周圍にあり彼らは皆割禮を受ざる者にして劍に殺さる是生者の地に畏怖をおこしたればなり 27 彼らは割禮を受すして仆れたる勇士とともに臥さず是はその武器を持て陰府に下りその劍を枕にすその罪は骨にあり是生者の地に於て勇士を畏れしめられたればなり 28 汝は割禮を受ざる者の中に打碎け劍に殺されたる者とともに臥し 29 彼處にエドムとその王等とその諸の君等あり彼らは勇力をもちながら劍に殺さる者の中に入り割禮なき者および穴に下れる者とともに臥すべし 30 彼處に北の君等皆あり又シドン人皆あり彼らは殺されし者等とともに下り人を

怖れしむる勇力もちて羞辱を受く彼處に彼らは割禮を受すして劍に殺されたる者とともに臥し穴に下れる者とともに恥辱を蒙る 31 巴口かれらを見その諸の群衆の事につきて心を安めんバロとその軍勢皆劍に殺さる主エホバこれを言ふ 32 我かれらをして生者の地に畏怖をおこさしめたりバロとその諸の群衆は割禮をうけざる者の中にありて劍に殺されし者とともに臥す主エホバこれを言ふ

Chapter 33

1

爰にエホバの言われに臨みて言ふ 2 人の子よ汝の民の人々に告て之に言へ我劍を一の國に臨ましめん時その國の民おのれの國人の中より一人を選びて之を守望となさんと 3 かれ國に劍の臨むを見ラッパを吹てその民を警むることあらん 4 然るに人ラッパの音を聞て自ら警めず劍つひに臨みて其人を失ふにいたらばその血はその人の首に歸すべし 5 彼ラッパの音を聞て自ら警むることを爲ざればその血は己に歸すべし然ども自ら警むることを爲ぼその生命を保つことを得ん 6 然れども守望者劍の臨むを見てラッパを吹す民警戒をうけざるあらんに劍のぞみて其中の一人を失はば其人は己の罪に死るなれど我その血を守望者の手に討問めん 7 然ば人の子よ我汝を立てイスラエルの家の守望者となす汝わが口より言を聞き我にかはりて彼等を警むべし 8 我惡人に向ひて惡人よ汝死ざるべからずと言んに汝その惡人を警めてその途を離るやうに語らずば惡人はその罪に死んなれどその血は我汝の手に討問むべし 9 然ど汝もし惡人を警めて翻りてその途を離れしめんとしたるに彼その途を離れずば彼はその罪に死ん而して汝はおのれの生命を保つことを得ん 10 然ば人の子よイスラエルの家に言へ汝らは斯語りて言ふ我らの愆と罪は我らの身の上であり我儕はその中にありて消失ん争てか生ることを得んと 11 汝かれらに言べし主エホバ言たまふ我は活く我惡人の死るを悦ばず惡人のその途を離れて生るを悦ぶなり汝ら翻へり翻へりてその惡き道を離れよイスラエルの家よ汝等なんぞ死べけんや 12 人の子よ汝の民の人々に言べし義人の義はその人の罪を犯せる日にはその人を救ふことあたはず惡人はその惡を離れたる日にはその惡のために仆ることあらじ義人はその罪を犯せる日にはその義のために生ることを得じ 13 我義人に汝かならず生べしと言んに彼その義を恃みて罪をかかばその義は悉く忘らるべし其をかせる罪のために彼は死べし 14 我惡人に汝かならず死べしと言んに彼その惡を離れ公道と公義を行ふことあらん 15 即ち惡人質物を歸しその奪ひし者を還し惡をなさずして生命の憲法にあゆみなば必ず生ん死ざるべし 16 その犯したる各種の罪は記憶らることなかるべし彼すでに公道と公義を行ひたれば必ず生べし 17 汝の民の人々は主の道正

しからずと言ふ然ど實は彼等の道の正しからざるなり 18 義人もしその義を離れて罪ををかさば是がために死べし 19 惡人もしその惡を離れて公道と公義を行ひなば是がために生べし 20 然るに汝らは主の道正しからずといふイスラエルの家よ我各人の行爲にしたがひて汝等を鞠くべし 21 我らが擣へうつされし後すなはち十二年の十月の五日にエルサレムより脱逃者きたりて邑は擊敗られたりと言ふ 22 その逃亡者の来る前の夜エホバの手我に臨み彼が朝におよびて我に来るまでに我口を開けり斯わが口開けたれば我また黙せざりき 23 即ちエホバの言われに臨みて言ふ 24 人の子よイスラエルの地の彼の墟址に住る者語りて云ふアブラハムは一人にして此地を有てり我等は衆多し此地はわれらの所有に授かると 25 是故に汝かれらに言ふべし主エホバかく言ふ汝らは血のままに食ひ汝らの偶像を仰げ且血を流すなれば尚此地を有つべけんや 26 汝等は劍を憎み憎むべき事を爲ひ各々人の妻を汚すなれば此地を有つべけんや 27 汝かれらに斯言べし主エホバかく言ふ我は活くかの荒場に居る者は劍に仆れん野の表にをる者をば我獸にあたへて噬はしめん要害と洞穴ににをる者は疫病に死ん 28 我この國を全く荒さん其誇るところの權勢は終に至らんイスラエルの山々は荒て通る者なかるべし 29 彼らが行ひたる諸の憎むべき事のために我その國を全く荒さん時に彼ら我のエホバなるを知ん 30 人の子よ汝の民の人々垣の下家の門にて汝の事を論じ互に語りあひ各々その兄弟に言ふ去來われら如何なる言のエホバより出るかを聽んと 31 彼ら民の集會のごとくに汝に來り吾民のごとくに汝の前に坐して汝の言を聞ん然ども之を行はじ彼らは口に悦ばしきところの事をなし其心は利にしたがふなり 32 彼等には汝悦ばしき歌美しき聲美く奏る者のごとし彼ら汝の言を聞ん然ど之をおこなはじ 33 視よその事至る其事のこなたは時に彼らおのれの中に預言者あるを知べし

Chapter 34

1

エホバの言われに臨みて言ふ 2 人の子よイスラエルの牧者の事を預言せよ預言して彼ら牧者に言ふべし主エホバかく言ふ己を牧ふところのイスラエルの牧者は禍なるかな牧者は群を牧ふべき者ならずや 3 汝らは脂を食ひ毛を纏ひ肥たる物を屠りその群をば牧はざるなり 4 汝ら其弱き者を強くせずその病る者を醫さずその傷ける者を裹まず散られたる者をひきかへらず失たる者を尋ねず手荒に嚴刻く之を治む 5 是は牧者なきに因て散り失せ野の諸の獸の餌となりて散失するなり 6 我羊は諸の山々に諸の高丘に迷ふ我羊全地の表に散りれど之を索す者なく尋ぬる者なし 7 是故に牧者よ汝らエホバの言を聽け 8 主エホバ言たまふ我は活く我羊掠められわが羊野の諸の獸の餌となる

又牧者あらず我牧者わが羊を尋ねず牧者己を牧ふてわが羊を牧はず 9 是故に牧者よ汝らエホバの言を聞け 10 主エホバ斯言たまふ視よ我牧者等を罰し吾羊を彼らの手に討問め彼等をしてわが群を牧ふことを止めて再び己を牧ふことなからしめ又わが羊をかれらの口より救とりてかれらの食とならざらしむべし 11 主エホバかく言たまふ我みづからわが群を索して之を守らん 12 牧者がその散たる羊の中にある日にその群を守ることく我わが群を守り之がその雲深き暗き日に散たる諸の處よりこれを救ひとるべし 13 我かれらを諸の民の中より導き出し諸の國より集めてその國に携へりイスラエルの山の上と谷の中および國の凡の住居處にて彼らを養はん 14 善き牧場にて我かれらを牧はんその休息處はイスラエルの高山にあるべし彼處にて彼らは善き休息所に臥しイスラエルの山々の上にて肥たる牧場に草を食はん 15 主エホバいひたまふ我みづからわが群を牧ひ之を偃しむべし 16 亡たる者は我これを尋ね逐はなたれたる者はこれを引返り傷けられたる者はこれを裹み病る者はこれを強くせん然ど肥たる者と強き者は我これを滅さん我公道をもて之を牧ふべし 17 主エホバかく言たまふ汝等わが群よ我羊と羊の間および牡羊と牡山羊の間の審判をなさん 18 汝等は善き牧場に草食ひ足をもてその残れる草を踏あらし又清たる水を飲み足をもてその殘餘を濁す是汝等にとりて小き事ならんや 19 わが群汝等が足にて踏あらしたる者を食ひ汝等が足にて濁したる者を飲べけんや 20 是をもて主エホバ斯かれらに言たまふ視よ我肥たる羊と瘦たる羊の間を審判くべし 21 汝等は脅と肩とをもて擠し角をもて弱き者を盡く衝て遂に之を外に逐散せり 22 是によりて我わが群を助けて再び掠められざらしめ又羊と羊の間をさばくべし 23 我かれらの上に一人の牧者をたてん其人かれらを牧ふべし是わが僕ダビデなり彼はかれらを牧ひ彼らの牧者となるべし 24 我エホバかれらの神とならん吾僕ダビデかれらの中に君たるべし我エホバこれを言ふ 25 我かれらと平和の契約を結び彼らの中より惡き獸を滅し絶つべし彼らすなはち安かに野に住み森に眠らん 26 我彼らおよび吾山の周圍の處々に福祉を下し時に隨ひて雨を降しめん是すなはち福祉の雨なるべし 27 野の樹はその實を結び地はその産物をべし我等は安然にその國にあるべし我がかれらの軛を碎き彼らとその僕となせる人の手より救ひいだす時に彼等は我のエホバなるを知べし 28 彼等は重ねて國々の民に掠めらるる事なく野の獸かれらを食べることなかるべし彼等は安然に住はん彼等を懼れしむる者なかるべし 29 我かれらのために一の栽植處を起してその名を聞えしめん彼等は重ねて國の饑饉に滅ぶることなく再び外邦人の凌辱を蒙ることなかるべし 30 彼らはその神なる我エホバが己と共にあるを知り自己イスラエルの家はわが民なることを知るべし主エホバこれを言ふ 31 汝等

はわが羊わが牧場の群なり汝等是人なり我は汝らの神なりと主エホバ言たまふ

Chapter 35

1

愛にエホバの言われに臨みて言ふ 2 人の子よ汝の面をセイル山にむけ之にむかひて預言し 3 之にいふべし主エホバかく言ふセイル山よ視よ我汝を罰し汝にむかひてわが手を伸べ汝を全く荒し 4 汝の邑々を滅すべし汝は荒てん而して我のエホバなるを知にいたらん 5 汝果しなき恨を懷きてイスラエルの人々をその艱難の時その終の罪の時に劍の手に付せり 6 是故に主エホバ言ふ我は活く我汝を血になさん血汝を追べし汝血を嫌はざれば血汝を追ん 7 我セイル山を全く荒し其處に往來する者を絶ち 8 殺されし者をその山々に満すべし劍に殺されし者汝の岡々谷々および窪地窪地に仆れん 9 我汝を長に荒地となさん汝の邑々には人の住むことあらじ汝等すなはち我のエホバなるを知にいたらん 10 汝言ふこの二箇の民二箇の國は我が所有なり我等これを獲んとエホバ其處に居せしなり 11 是故に主エホバいひ我は活く汝が恨をもて彼らに示したる忿怒と嫉惡に循ひて我汝に事をなさん我汝を鞠くことを以て我を彼等に示すべし 12 汝は我エホバの汝がイスラエルの山々にむかひて是は荒はて我儕の食に授かるといひて吐たるところの諸の謗讟を聞たることを知にいたらん 13 汝等口をもて我にむかひて誇り我にむかひて汝等の言を多くせり我これを聞く 14 主エホバ斯いひたまふ全地の歡ぶ時に我汝を荒地となさん 15 汝イスラエルの家の産業の荒るを喜びたれば我汝をも然らすべしセイル山よ汝荒地とならんエドムも都て然るべし人衆すなはち我のエホバなるを知にいたらん

Chapter 36

1 人の子よ汝イスラエルの山々に預言して言べしイスラエルの山々よエホバの言を聽け 2 主エホバかく言たまふ敵汝等の事につきて言ふ嗚呼是等の舊き高處我儕の所有となると 3 是故に汝預言して言へ主エホバかく言ふ彼等汝らを荒し四方より汝らを吞り是をもて汝等は國民の中の殘餘者の所有となり亦人の口齒にかかりて嚼せらる 4 然ばイスラエルの山々よ主エホバの言を聞け主エホバ山と岡と窪地と谷と滅びたる荒跡と人の棄たる邑々即ちその周圍に残れる國民に掠められ嘲けらるる者にかく言たまふ 5 即ち主エホバかく言たまふ我まことに吾が嫉妬の火焰をもちて國民の殘餘者とエドム全國の事を言ひ是等は心に歡樂を極め心に誇りて吾地をおのれの所有となし之を奪ひ掠めし者なり 6 然ばイスラエルの國の事を預言し山と岡と窪地と谷とにいふべし主エホバかく言たまふ汝等諸の國民の羞辱を蒙りしに因て我わが嫉妬と忿怒を發して語れり

7 是をもて主エホバかく言たまふ我わが手を擧ぐ汝の周圍の諸の國民は必ず自身羞辱を蒙るべし 8 然どイスラエルの山々よ汝等は枝を生じわが民イスラエルのために實を結ばん此事遠からず成ん 9 視よ我汝らに臨み汝らを着みん汝らは耕されて種をまかるべし 10 我汝等の上に人を殖さん 是皆悉くイスラエルの家の者なるべし邑々には人住み墟址は建直さるべし 11 我なんぢらの上に人と牲畜を殖さん 是等は殖て多く子を生ん我汝らの上に昔時のごとくに人を住しめ汝らの初の時よりもまされる恩恵を汝等に施すべし汝等は我がエホバなるを知にいたらん 12 我わが民イスラエルの人を汝らの上に歩ましめん彼等汝を有つべし汝はかれらの産業となり重ねて彼等に子なからしむることあらじ 13 主エホバかく言ひたまふ彼等汝らに向ひ汝は人を食ひなんぢの民をして子なからしめたりと言ふ 14 是故に主エホバ言たまふ汝ふたたび人を食ふべからず再び汝の民を躓かしむべからず 15 我汝をして重ねて國々の民の嘲笑を聞しめじ汝は重ねて國々の民の羞辱を蒙ることあらじ汝の民を躓かしむることあらじ主エホバこれを言ふ 16 エホバの言また我にのぞみて言ふ 17 人の子よ昔イスラエルの家その國に住み己の途と行爲とをもて之を汚せりその途は月穢ある婦の穢のごとくに我に見えたり 18 彼等國に血を流し且その偶像をもて國を汚したるに因て我わが怒を彼等に對ぎ 19 彼らを諸の國の民の中に散したれば則ち諸の國に散め我かれらの道と行爲とにしたがひて彼等を鞠けり 20 彼等その往ところの國々に至りしが遂にわが聖き名を汚せり即ち人かれらを見てこれハエホバの民にしてかれの罪より出來れる者なりと語り 21 是をもて我イスラエルの家がその至れる國々にて潰せしわが聖き名を惜めり 22 此故に汝イスラエルの家に言べし主エホバかく言たまふイスラエルの家よ我汝らのために之をなすにあらず汝らがその至れる國々にて汚せしわが聖き名のためになすなり 23 我國々の民の中に汚されたるわが大なる名即ち汝らがかれらの中にありて汚したるところの者を聖くせん國々の民はわが汝らに由て我の聖き事をその目の前にあらはさん時我がエホバなるを知ん 24 我汝等を諸の民の中より導き出し諸の國より集めて汝らの國に携いたり 25 清き水を汝等に灑ぎて汝等を清くならしめ汝等の諸の汚穢と諸の偶像を除きて汝らを清むべし 26 我新しき心を汝等に賜ひ新しき靈魂を汝らの衷に賦け汝等の肉より石の心を除きて肉の心を汝らに與へ 27 吾靈を汝らの衷に置き汝らをして我が法度に歩ましめ吾律を守りて之を行はしむべし 28 汝等はわが汝らの先祖等と與へし地に住て吾民とならん我は汝らの神となるべし 29 我汝らを救ひてその諸の汚穢を離れしめ穀物を召て之を増し饑饉を汝らに臨ませず 30 樹の果と田野の作物を多くせん是をもて汝らは重て饑饉の羞を國々の民の中に蒙ることあらじ 31 汝らはその惡き途と

その善らぬ行爲を憶えてその罪とその憎むべき事のために自ら恨みん 32 主エホバ言たまふ我が之を爲は汝らのためにあらず汝らこれを知れよイスラエルの家よ汝らの途を愧て悔むべし 33 主エホバかく言たまふ我汝らの諸の罪を清むる日に邑々に人を住しめ墟址を再興しめん 34 荒たる地は前に往來の人々の目に荒地と見たるに引かへて耕さるるに至るべし 35 人すなはち言ん此荒たりし地はエデンの園のごとくに成り荒滅び圯れたりし邑々は堅固なりて人の住に至れりと 36 汝らの周圍に残れる國々の民はすなはち我エホバが圯れし者を再興し荒たるところに栽植することを知にいたらん我エホバこれを言ふ之を爲ん 37 主エホバかく言たまふイスラエルの家我が是を彼らのために爲んことをまた我に求むべきなり我群のごとくに彼ら人々を殖さん 38 荒たる邑々には聖き群のごとくエルサレムの節日の群のごとくに人の群滿ん人々すなはち我がエホバなるを知べし

Chapter 37

1 爰にエホバの手我に臨みエホバ我をして靈にて出行しめ谷の中に我を放賜ふ其處には骨充てり 2 彼その周圍に我をひきめぐりたまふに谷の表には骨はなはだ多くあり皆はなはだ枯たり 3 彼われに言たまひけるは人の子よ是等の骨は生るや我言ふ主エホバよ汝知たまふ 4 彼我に言たまふ是等の骨に預言し之に言べし枯たる骨よエホバの言を聞け 5 主エホバ是らの骨に斯言たまふ視よ我汝らの中に氣息を入しめて汝等を生しめん 6 我筋を汝らの上に作り肉を汝らの上に生ぜしめ皮をもて汝らを蔽ひ氣息を汝らの中に與へて汝らを生しめん汝ら我がエホバなるを知ん 7 我命ぜられしごとく預言し給が我が預言する時に音あり骨うごきて骨と骨あひ聯る 8 我見しに筋その上に出きたり肉生じ皮上よりこれを蔽ひしが氣息その中にあらず 9 彼また我に言たまひけるは人の子よ氣息に預言せよ人の子よ預言して氣息に言へ主エホバかく言たまふ氣息よ汝四方の風より來り此殺されし者等の上に呼吸きて是を生しめん 10 我命ぜられしごとく預言せしかば氣息これに入て皆生きその足に立ち甚だ多くの群衆となれり 11 斯て彼われに言たまふ人の子よ是等の骨はイスラエルの全家なり彼ら言ふ我らの骨は枯れ我らの望は竭く我儕絶はつるなりと 12 是故に預言して彼らに言へ主エホバかく言たまふ吾民よ我汝等の墓を啓き汝らをその墓より出きたらしめてイスラエルの地に至らしむべし 13 わが民よ我汝らの墓を開きて汝らを其墓より出きたらしむる時汝らは我のエホバなるを知ん 14 我わが靈を汝らのおきて汝らを生しめん汝らその地に安んぜしめん汝等すなはち我エホバがこれを言ひ之を爲たることを知にいたるべし 15 エホバの言我にのぞみて言ふ 16 人の子よ汝一片の木を取てその上にユ

ダおよびその侶なるイスラエルの子孫と書き又一片の木をとりてその上にヨセフおよびその侶なるイスラエルの全家と書べし是はエフライムの木なり 17 而して汝これを俱にあはせて一の木となせ汝の手の中にて相聯らん 18 汝の民の人々汝に是は何の意なるか我儕に示さざるやと言ふ時は 19 これに言ふべし主エホバかく言たまふ我エフライムの手にあるヨセフとその侶なるイスラエルの支派の木を取り之をユダの木に合せて一の木となしわが手にて一とならしめん 20 汝が書つたところの木を彼らの目のまへにて汝の手にあらしめ 21 かれらに言ふべし主エホバかく言たまふ我イスラエルの子孫をその住るところの國々より出し四方よりかれを集めてその地に導き 22 その地に於て汝らを一の民となしてイスラエルの山々にをらしめん一人の王彼等全體の王たるべし彼等は重て二の民となることあらず再び二の國に分れざるべし 23 彼等またその偶像とその憎むべき事等およびその諸の愆をもて身を汚すことあらず我かれらをその罪を犯せし諸の住處より救ひ出してこれを清むべし而して彼らはわが民となり我は彼らの神とならん 24 わが僕ダビデかれらの王とならん彼ら全體の者の牧者は一人なるべし彼らはわが律法にあゆみ吾法度をまもりてこれを行はん 25 彼ら是我僕ヤコブに我が賜ひし地に住んは其先祖等が住し所なり彼處に彼らとその子及びその子の子としなへに住はん吾僕ダビデ長久にかれらの君たるべし 26 我かれらと和平の契約を立ん是は彼らに永遠の契約となるべし我かれらを堅うし彼らを殖しわが聖所を長久にかれらの中におかん 27 我が住所は彼らの上にあるべし我かれらの神となり彼らわが民とならん 28 わが聖所長久にかれらの中にあるにいたらば國々の民は我のエホバにしてイスラエルを清むる者なるを知ん

Chapter 38

1 エホバの言我にのぞみて言ふ 2 人の子よロシ、メセクおよびトバルの君たるマゴグの地の王ゴグに汝の面をむけ之にむかひて預言し 3 言べし主エホバかく言たまふロシ、メセク、トバルの君ゴグよ視よ我なんぢを罰せん 4 我汝をひきもどし汝の臍に鉤をほどこして汝および汝の諸の軍勢と馬とその騎者を曳いだすべし是みな其服粧に美を極め大楯小楯をもち凡て劍を執る者にして大軍なり 5 ペルシヤ、エテオピアおよびフテこれともあり皆楯と盔をもつ 6 ゴメルとその諸の軍隊北の極のトガルマの族とその諸の軍隊など衆多の民汝とともにあり 7 汝準備をなせ汝と汝にあつまれるところの保護みな備をせよ而して汝かれらの軍隊となれ 8 衆多の日の後なんぢ罰せられん末の年に汝かの劍をのがれてかへり衆多の民の中より集りきたれる者の地にいたり久しく荒あたるイスラエルの

山々にいたらん是は國々より導きいだされて皆安然に住ふなり 9 汝その諸の軍隊および衆多の民をひきみて上り暴風のごとく至り雲のごとく地を覆はん 10 主エホバかくいひたまふ其日に汝の心に思想おこり惡き謀計をくはだてて 11 言ん我平原の邑々にのぼり穩にして安然に住る者等にいたらん是みな石垣なくして居り關も門もあらずる者なりと 12 斯して汝物を奪ひ物を掠め汝の手をかへして彼人の住むにいたれる墟址を攻め又かの國々より集りきたりて地の塊區にすみて群と財寶をもつところの民をせめんとす 13 シバ、デダン、タルシシの商賈およびその諸の小獅子汝に言ん汝物を奪はんとして來れるや汝物を掠めんために軍隊をありてしや金銀をもちさり群と財寶を取り多くの物を奪はんとするやと 14 是故に人の子よ汝預言してゴグに言へ主エホバかくいひたまふ其日に汝わが民イスラエルの安然に住むを知らざらんや 15 汝すなはち北の極なる汝の處より來らん衆多の民汝とともにあり皆馬に乗る其軍隊は大にしてその軍勢は夥多し 16 而して汝わが民イスラエルに攻きたり雲のごとくに地を覆はんゴグよ末の日にこの事あらんすなはち我汝をわが地に攻きたらしめ汝をもて我の聖き事を國々の民の目のまへにあらはして彼らに我をしらしむべし 17 主エホバかく言たまふ我の昔日わが僕なるイスラエルの預言者等をもて語りし者は汝ならずや即ち彼ら其頃年ひさしく預言して我汝を彼らに攻きたらしめんと語り 18 主エホバいひたまふ其日すなはちゴグがイスラエルの地に攻來らん日にわが怒面にあらはるべし 19 我嫉妬と燃たつ怒をもて言ふ其日には必ずイスラエルの地に大なる震動あらん 20 海の魚空の鳥野の獸凡て地に匍ふところの昆蟲凡て地にある人わが前に震へん又山々崩れ巖巖たふれ石垣みな地に仆れん 21 主エホバいひたまふ我劍をわが諸の山に召きたりて彼をせめしめん人々の劍その兄弟を撃べし 22 我疫病と血をもて彼の罪をたださん我漲ぎる雨と雷と火と硫磺を彼とその軍勢および彼ともなる多の民の上に降すべし 23 而して我わが大なることと聖きことを明かにし衆多の國民の目のまへに我を示さん彼らはすなはち我のエホバなることをしるべし

Chapter 39

1 人の子よゴグにむかひ預言して言へ主エホバかく言たまふロシ、メセク、トバルの君ゴグよ視よ我汝を罰せん 2 我汝をひきもどし汝をみちびき汝をして北の極より上りてイスラエルの山々にいたらしめ 3 汝の左の手より弓をうち落し右の手より矢を落しむべし 4 汝と汝の諸の軍勢および汝ともなる民はイスラエルの山々に仆れん我汝を諸の類の鷲鳥と野の獸にあたへて食しむべし 5 汝は野の表面に仆れん我これを言ばなりと主エホバ言たまふ 6 我マゴグと鳥々に安然に住る者にとり火をおくり

彼らをして我のエホバなるを知しめん 7 我わが聖き名をわが民イスラエルの中に知しめ重てわが聖き名を汚さしめじ國々の民すなはち我がエホバにしてイスラエルにありて聖なることを知るにいたらん 8 主エホバいひたまふ視よ是は來りて成れり是わが言る日なり 9 茲にイスラエルの邑々に住る者出きたり甲冑大楯小楯弓矢手鎗手矛および槍を燃し焚き之をもて七年のあひだ火を燃さん 10 彼ら野より木をとりきたること無く林より木をきりとらずして甲冑をもて火を燃しまた己を掠めし者をかすめ己の物を奪ひし者の物を奪はん 主エホバこれを言ふ 11 其日に我イスラエルにおいて墓地をゴグに與へん是往來の人の谷にして海の東にあり是往來の人を礙げん其處に人ゴグとその群衆を埋めこれをゴグの群衆の谷となづけん 12 イスラエルの家之を埋めて地を清むるに七月を費さん 13 國の民みなこれを埋め之によりて名をえんは我が榮光をあらはす日なり 14 彼等定れる人を選む其人國の中をゆきめぐりて往來の人とともにかの地の面に遺れる者を埋めてこれを清む七月の終れる後かれら尋ぬることをなさん 15 國を行巡る者往來し人の骨あるを見るときはその傍に標をたつれば死人を埋むる者これをゴグの群衆の谷に埋む 16 邑の名もまた群衆となへられん斯かれら國を清めん 17 人の子よ主エホバかく言ふ汝諸の類の鳥と野の諸の獸に言べし汝等集ひ來り我が汝らのために殺せしところの犠牲に四方より聚れ即ちイスラエルの山々の上なる大なる犠牲に臨み肉を食ひ血を飲め 18 汝ら勇士の肉を食ひ地の君等の血を飲め 牡羊 羔羊 牡山羊 牝牛など凡てバシヤンの肥たる畜を食へ 19 汝らわが汝らのために殺せしところの犠牲につきて飽まで脂を食ひ醉まで血を飲べし 20 汝らわが席につきて馬と騎者と勇士と諸の軍人に屬べしと主エホバいひたまふ 21 我わが榮光を國々の民にしめん國々の民みな我がおこなふ審判を見我がかれらの上に加ふる手を見るべし 22 是日より後イスラエルの家我エホバの己の神なることを知ん 23 又國々の民イスラエルの家の擴へうつされしは其惡によりしなるを知べし彼等われに背きたるに因て我わがを彼らに隠し彼らをその敵の手に付したれば皆劍に仆れたり 24 我かれらの汚穢と愆惡とにしたがひて彼らを待ひわが面を彼等に隠せり 25 然ば主エホバかく言たまふ我今ヤコブの俘擄人を歸しイスラエルの全家を憐れみ吾聖き名のために熱中せん 26 彼らその地に安然に住ひて誰も之を怖れしむる者なきに至る時はその我にむかひて爲たるところの諸の悖れる行爲のために愧べし 27 我かれらを國々より導きかへりその敵の國々より集め彼らをもて我の聖き事を衆多の國民にしめす時 28 彼等すなはち我エホバの己の神なるを知ん是は我かれらを國々に移し又その地にひき歸りて一人をも其處にのこさざればなり 29 我わが靈をイスラエルの家にそそぎたれば重て吾面を彼らに隠さじ主

エホバこれを言ふ

Chapter 40

1我らの擡へ移されてより二十五年邑の撃破られて後十四年その年の初の月の十日其日にエホバの手われに臨み我を彼處に携へむ 2即ち神異象の中に我をイスラエルの地にたづさへゆきて甚だ高き山の上におろしたまふ其處に南の方にあたりて邑のごとき者建てり 3彼我をひきて彼處にいたり給ふに一箇の人あるを見るその面容は銅のごとくにして手に麻の繩と間竿を執り手に立てり 4其人われに言けるは人の子よ汝目をもて視耳をもて聞き我が汝にしめす諸の事に心をとめよ汝を此にたづさへしはこれを汝にしめさんためなり汝が見るところの事を盡くイスラエルの家に告よと 5斯ありて視るに家の外の四周に壇垣ありその手に六キユビトの間竿ありそのキユビトは各一キユビトと一手潤なり彼その壇の厚を量るに一竿ありその高もまた一竿あり 6彼東向の門にいたりその階をのぼりて門の闊を量るに其潤一竿あり即ち第一の闊の潤一竿なり 7 守房は長一竿廣一竿守房と守房の間は五キユビトあり内の門の廊の傍なる門の闊も一竿あり 8 内の門の廊を量るに一竿あり 9又門の廊を量るに八キユビトありその柱は二キユビトなりその門の廊は内にあり 10 東向の門の守房は此旁に三箇彼處に三箇あり此三みな其寸尺おなじ柱もまた此處彼處ともにその寸尺おなじ 11 門の入口の廣をはかるに十キユビトあり門の長は十三キユビトなり 12 守房の前に一キユビトの界あり彼旁の界も一キユビトなり守房は此旁彼旁ともに六キユビトなり 13 彼また此守房の屋背より彼屋背まで門をはかるに入口より入口まで二十五キユビトあり 14 柱は六十キユビトに作れる者なり門のまはりに庭ありて柱にまでおよぶ 15 入口の門の前より内の門の廊の前にいたるまで五十キユビトあり 16 守房と門の内面の周圍の柱とに閉窓あり壇垣の差出たる處にもしかり内面の周圍には窓あり柱には棕櫚あり 17 彼また我を外庭に携ゆくに庭の周圍に設けたる室と鋪石あり鋪石の上に三十の室あり 18 鋪石は門の側にありて門の長におなじは下鋪石なり 19 彼下の門の前より内庭の外の前までの廣を量るに東と北とに百キユビトあり 20 又外庭なる北向の門の長と寬をはかれり 21 守房その此旁に三箇彼旁に三箇あり柱および差出たる處もあり是は前の門の寸尺のごとく長五十キユビト潤二十五キユビトなり 22 その窓と差出たる處と棕櫚は東向の門にある者の寸尺と同じ七段の階級を経て上るに差出たる處その前にあり 23 内庭の門は北と東の門に向ふ彼門より門までを量るに百キユビトあり 24 彼また我を南に携ゆくに南向の門ありその柱と差出たる處をはかるに前の寸尺の如し 25 是とその差出たる處の周圍に窓あり彼窓のごとしその門は長五十キユビト

潤二十五キユビトなり 26 七段の階級をへて登るべし差出たる處その前にありその柱の上には此旁に一箇彼旁に一箇の棕櫚あり 27 内庭に南向の門あり門より門まで南の方をはかるに百キユビトあり 28 彼我を携へて南の門より内庭に至る彼南の門をはかるにその寸尺前のごとし 29 その守房と柱と差出たる處は前の寸尺のごとしその門と差出たる處の周圍とに窓あり門の長五十キユビト潤二十五キユビトなり 30 差出たる處周圍にありその長二十五キユビト潤五キユビト 31 其差出たる處は外庭に出づその柱の上に棕櫚あり八段の階級をへて升るべし 32 彼また内庭の東の方に我をたづさへゆきて門をはかるに前の寸尺の如し 33 その守房と柱および差出たる處は寸尺前のごとしその門と差出たる處の周圍とに窓あり門の長五十キユビト潤二十五キユビト 34 その差出たる處は外庭にいづ柱の上には此旁彼旁に棕櫚あり八段の階級をへて升るべし 35 彼われを北の門にたづさへゆきてこれを量るに寸尺おなじ 36 その守房と柱と差出たる處ありその周圍に窓あり門の長五十キユビト潤二十五キユビト 37 その柱は外庭に出づ柱の上に此旁彼旁に棕櫚あり八段の階級をへて升るべし 38 門の柱の傍に戸のある室あり其處は燔祭の牲を洗ふところなり 39 門の廊に此旁に二の臺彼旁に二の臺あり其上に燔祭 罪祭 愆祭の牲畜を屠るべし 40 北の門の入口に升るに外面に於て門の廊の傍に二の臺あり亦他の旁にも二の臺あり 41 門の側に此旁に四の臺彼旁に四の臺ありて八なり其上に屠ることを爲す 42 升口に琢石の四の臺あり長一キユビト半廣一キユビト半高一キユビトなり燔祭および犠牲を宰するところの器具をその上に置く 43 内の周圍に一手寬の曲釘うちてあり犠牲の肉は臺の上におかる 44 内の門の外において内庭に謳歌人の室あり一は北の門の側にありて南にむかひ一は南の門の側にありて北にむかひ 45 彼われに言ふ此南にむかへる室は殿をまもる祭司のための者 46 北にむかへる室は壇をまもる祭司のための者なり彼等はレビの子孫の中なるザドクの後裔にしてエホバに近よりて之に事ふるなり 47 而して彼庭をはかるに長百キユビト寬百キユビトにして四角なり殿の前に壇あり 48 彼殿の廊に我をひきゆきて廊の柱を量るに此旁も五キユビト彼方も五キユビトあり門の廣は此旁三キユビト彼旁三キユビトなり 49 廊の長は二十キユビト寬は十一キユビト階級によりて升るべし柱にそふて柱あり此旁に一箇彼旁に一箇

Chapter 41

1彼殿に我をひきゆきて柱を量るに此旁の寬六キユビト彼旁の寬六キユビト幕屋の寬なり 2戸の寬は十キユビト戸の側柱は此旁も五キユビト彼旁も五キユビト彼量るに其長四十キユビト廣二十キユビトあり 3内にいりて戸の柱を量るに二キユビト

あり戸は六キユビト戸の潤は七キユビト 4彼量るに其長二十キユビト廣二十キユビトにして殿に向ふ彼我に言けるは是至聖所なり 5彼室の壁を量るに六キユビトあり室の周圍の連接屋の寬は四キユビトなり 6連接屋は三階にして各三十の間あり室の壁周圍の連接屋の側にありて連接屋は之に連りて堅く立つ然れども室の壁に挿入して堅く立るにあらず 7連接屋は上にいたるに隨ひて廣くなり行く即ち家の圍牆家の四圍に高くのぼれば家は上圍くして下のより上ののぼる様は中の割合にしたがふなり 8 我室に高さ處あるを見る連接屋の基は一竿に足てその連接處まで六キユビトなり 9連接屋にある外の壁の厚は五キユビト室の連接屋の傍の隙もまた然り 10 室の間にあたりて家の四圍に廣二十キユビトの處あり 11 連接屋の戸は皆かの隙にむかふ一の戸は北にむかひ一の戸は南にむかふ其隙たる處は四圍にありて廣五キユビトなり 12 西の方にあたる離處の前の建物は廣七十キユビトその建物の周圍の壁は厚五キユビト長九十キユビト 13 彼殿をはかるにその長百キユビトあり離處とその建物とその壁は長百キユビト 14 殿の面および離處の東面は廣百キユビトなり 15 彼後なる離處の前の建物の長を量り其此旁彼旁の廊下は百キユビトありまた内殿と庭の廊を量り 16 彼の三にある處の闊と閉窓と周圍の廊下を量り闊の對面に當りて周圍に嵌板あり窓まで地を量りしが窓は皆蔽ふてあり 17 戸の上なる處内室と外の處および内外の周圍の諸の壁まで量ることをなせり 18 ケルビムと棕櫚と造りてあり二のケルビムの間毎に一本の棕櫚ありケルブには二の面あり 19 此旁には人の面ありて棕櫚にむかひ彼旁には獅子の面ありて棕櫚にむかふ家の周圍に凡て是のごとく造りてあり 20 地より戸の上までケルビムと棕櫚の設あり殿の壁も然り 21 殿には四角の戸柱あり聖所の前にも同形の者あり 22 壇は木にして高三キユビト長二キユビトなり是に隅木ありその臺と其周圍も木なり彼われに言けるは是はエホバの前の壇なり 23 殿と聖所とは二の戸あり 24 その戸に二の扉あり是二の開扉なり此戸に二箇彼戸に二箇の扉あり 25 殿の戸にケルビムと棕櫚つくりてあり壁におけるがごとし外の廊の前に木の段あり 26 廊の横壁と家の連接屋と段には此旁彼旁に閉窓と棕櫚あり

Chapter 42

1彼われを携へ出して北におもむく路よりして外庭にいたり我を室に導く是は北の方にありて離處に對ひ建物に對ひる 2その百キユビトの長ある所前に至るに戸は北の方にあり寬は五十キユビト 3内庭の二十キユビトなる處に對ひ外庭の鋪石に對ふ廊下の上に廊下ありて三なり 4 室の前に寬十キユビトの路あり又内庭にいたるところの百キユビトの路あり室の戸は北にむかふ 5その建

物の上の室は下のと中のとに比べれば狭しは廊下の爲に其場を削られるればなり 6是等は三階にして庭の柱の如くは柱あらず是をもて上のは下のと中のよりもその場狭し 7室の前にあたりて外に垣ありて室より外庭にいたる其長五十キユビト 8外庭の室の長は五十キユビトにして殿に對ふ所は百キユビトあり 9その下の方より是等の室いづ外庭よりこれに往ときは其入口東にあり 10 南の庭垣の廣き方にあたり離處とその建物にむかひて室あり 11 北の方なる室のごとく其前に路ありその長寬およびその出口その建築みな同じ 12 その入口のごとく南の方なる室の入口も然り路の頭に入口あり是は垣に連るところの路にて東より來る路なり 13 彼われに言けるは離處の前なる北の室と南の室は聖き室にしてエホバに近くところの祭司の至聖き物を食ふべき所なり其處にかれら最聖き物素祭罪祭愆祭の物を置べし其處は聖ければなり 14 祭司は入たるときは聖所より外庭に出べからず彼等職掌を行ふところの衣服を其處に置べし是聖ければなり而して他の衣を着て民に屬するの處に近くべし 15 彼内室を量ることを終て東向の門の路より我を携へ出して四方を量り 16 彼間竿をもて東面を量るにその周圍間竿五百竿あり 17 又北面をはかるにその周圍間竿五百竿あり 18 また南面をはかるに間竿五百竿あり 19 また西面にまはりて量るに間竿五百竿あり 20 斯四方を量り周圍に牆ありその長五百竿 寬 五百竿 聖所と俗所とを區別つなり

Chapter 43

1彼われを携へて門にいたる其門は東に向ふ 2時にイスラエルの神の榮光東よりきたりしがその聲大木の音のごとくにして地その榮光に照さる 3其状を見るに我がこの邑を滅しに來りし時に見たるところの狀の如くに見ゆ又ケバル河の邊にて我が見しところの形ののごとき形の者あり我すなはち俯伏す 4エホバの榮光東向の門よりきたりて室に入る 5靈われを引あげて内庭にたづさへいるにエホバの榮光室に充る 6我聽に室より我に語ぶ者あり又人ありてわが傍に立つ 7彼われに言たまひけるは人の子よ吾位のある所我脚の跣のふむ所此にて我長久にイスラエルの子孫の中に居んイスラエルの家とその王等再びその姦淫とその王等の屍骸およびその崇邱をもてわが聖き名を汚すことなかるべし 8彼らその闊をわが闊の側に設け其門柱をわが門柱の傍に設けたれば我と其等との間には只壁一重ありしのみ而して彼ら憎むべき事等をおこなひて吾が聖名を汚したるが故に我怒りてかれらを滅したり 9彼ら今はその姦淫とその王等の屍骸をわが前より除き去ん我また彼らの中に長久に居べし 10 人の子よ汝この室をイスラエルの家に示せ彼らその惡を愧ぢまたこの式様を量らん 11 彼らその爲たる諸の事を

愧なば彼らに此室の製法とその式様その出入口その一切の製法その一切の則その一切の製法その一切の法をしらしめよ是をかれらの目の前に書て彼らにその諸の製法とその他一切の則を守りてこれを爲しむべし 12 室の法は是なり山の頂の上なるその地は四方みな最聖し是室の法なり 13 壇の寸尺はキユピトをもて言ば左のごとしそのキユピトは一キユピトと手寛あり壇の底は一キユピト寛一キユピトその周囲の邊は半キユピト是壇の臺なり 14 土に坐れる底座より下の層までニキユピト寛一キユピト又小き層より大なる層まで四キユピト寛一キユピトなり 15 正壇は四キユピト壇の上の面に四の角あり 16 壇の上の面は長十二キユピト寛十二キユピトにしてその四面角なり 17 その層は四方とも長十四キユピト寛十四キユピトその四周の縁は半キユピトその底は四方一キユピトその階は東に向ふ 18 彼われに言けるは人の子よ主エホバかく言たまふ壇を建て其上に燔祭を献ぐ血を灑ぐ日には是をその則とすべし 19 主エホバかく言ふ汝レビの支派ザドクの裔にして我にちかづき事ふるところの祭司等に擯なる牡牛を罪祭として與ふべし 20 又その血を取てこれをその四の角と層の四隅と四隅の邊に抹り斯して之を清め潔よすべし 21 汝罪祭の牛を取てこれを聖所の外にて殿の中の定まれる處に焚べし 22 第二日に汝全き牡山羊を罪祭に献ぐべし即ちかれら牡牛をもて清めしごとく之をもて壇を清むべし 23 汝潔禮を終たる時は擯なる牡牛の全き者および群の全き牡羊を献ぐべし 24 汝これをエホバの前に持きたるべし祭司等これに鹽を撒かけ燔祭としてエホバに献ぐべし 25 七日の間汝日々に牡山羊を罪祭に供ふべしまた彼ら擯なる牡牛と群の牡羊との全き者を供ふべし 26 七日の間かれら壇を潔よしこれを清めその手を満すべし 27 是等の日満て八日にいたりて後は祭司等汝らの燔祭と酬恩祭をその壇の上に奉へん我悦びて汝らを受納べし主エホバこれを言たまふ

Chapter 44

1 斯て彼我を引て聖所の東向なる外の門の路にかへるに門は閉てあり 2 エホバすなはち我に言たまひけるは此門は閉おくれ開くべからず此より誰も入るべからずイスラエルの神エホバ此より入れば是は閉おくべきなり 3 その君は君たるが故にこの内に坐してエホバの前に食をなさん彼は門の廊の路より入りまたその路より入り 4 彼また我をひきて北の門の路より家の前に至りしが視るにエホバの榮光エホバの家に満むれば我俯伏けるに 5 エホバわれに言たまふ人の子よエホバの家諸の則とその諸の法に心を我が汝に告るところの諸の事に於て我目を見注ぎ耳を傾け又殿の入口と聖所の諸の出口に心を用ひよ 6 而して悖れる者なるイスラエルの家に言べし主エホバ斯いふイスラエルの家よ汝らその行

ひし諸の憎むべき事等をもて足りとせよ 7 即ち汝等は心にも割禮をうけず肉にも割禮をうけざる外國人をひききたりて吾聖所にあらしめてわが家を汚し又わが食なる脂と血を獻ぐことを爲り斯汝らの諸の憎むべき事の上に彼等また吾契約を破れり 8 汝ら我が聖物を守る職守を怠り彼らをして我が聖所において汝らにかはりて我の職守を守らしめたり 9 主エホバかく言たまふイスラエルの子孫の中に居るところの諸の異邦人の中凡て心に割禮をうけず肉に割禮をうけざる異邦人はわが聖所に入るべからず 10 亦レビ人も迷へるイスラエルがその憎むべき偶像をしたひて我を棄て迷ひし時に我を棄ゆきたる者はその罪を蒙るべし 11 即ち彼らは吾が聖所にありて下僕となり家の門を守る者となり家にて下僕の業をなさん又彼ら民のために燔祭および犠牲の牲畜を殺し民のまへに立てこれに事へん 12 彼等その偶像の前にて罪に事へイスラエルの家を礙かせて民におちいらしめたるが故に主エホバ言ふ我手をあげて彼らを罰し彼らをしてその罪を蒙らしめたり 13 彼らは我に近づきて祭司の職をなすべからず至聖所にきたりわが詔の聖き物に近よるべからずその恥とその行ひし諸の憎むべき事等の報を蒙るべし 14 我かれらをして宮守の職務をおこなはしめ宮の諸の業および其中に行ふべき諸の事を爲しむべし 15 然どザドクの裔なるレビの祭司等すなはちイスラエルの子孫が我を棄て迷謬し時にわが聖所の職守を守りたる者等は我に近づきて事へ我まへに立ち脂と血をわれに獻げん主エホバこれを言ふなり 16 即ち彼等わが聖所にいり吾が臺にちかづきて我に事へわが職守を守るべし 17 彼等内庭の門にいる時は麻の衣を衣べし内庭の門および家において職をなす時は毛服を身につくべからず 18 首には麻の冠をいただき腰には麻の袴を穿つべし汗のいづるごとく身によそはふべからず 19 彼ら外庭にいづる時すなはち外庭にいづる時に就く時はその職をなせるところの衣服を脱てこれを聖き室に置き他の衣服をつくべし是はその服をもて民を聖くすること無らんためなり 20 彼ら頭を剃べからず又髪を長く長すべからずその頭髪を剪るべし 21 祭司たる者は内庭に入るときに酒をのむべからず 22 又寡婦および去れたる婦を妻にめとるべからず唯イスラエルの家の出なる處女を娶るべし又は祭司の妻の寡となりし者を娶るべし 23 彼らわが民を教へ聖き物と俗の物の區別および汚れたる物と潔き物の區別を之に知しむべし 24 争論ある時は彼ら起ちて判決き吾定例にしたがひて断決をなさん我が諸の節期において彼らわが法と憲を守るべく又わが安息日を聖くすべし 25 死人の許にいたりて身を汚すべからず只父のため母のため息子のため息女のため兄弟のため夫なき姉妹のためには身を汚すも宜し 26 斯る人にはその潔齋の後なほ七日を數へ加ふべし 27 彼聖所にいたり内庭にいり聖所に於て職を執行ふ日には罪祭を獻ぐべし主エホバ

これを言ふ 28 彼らの産業は是なり即ち我これが産業たり汝らイスラエルの中に彼らに所有を與ふべからず我すなはちこれが所有たるなり 29 祭物および罪祭愆祭の物是等を彼等食ふべし凡てイスラエルの中の奉納物は彼らに歸す 30 諸の物の初實の初および凡て汝らが獻ぐる諸の献物みな祭司に歸すべし汝等その諸の麥粉の初を祭司に與ふべし是汝の家に幸福あらしめんためなり 31 鳥にもあれ獸にもあれ凡て自ら死にたる者又は裂ころされし者をば祭司たる者食ふべからず

Chapter 45

1 汝ら籟をひき地をわかちて産業となす時は地の一分を取り聖き者となすエホバに獻ぐべし其長は二萬五千寛は一萬なるべし是は其四方周圍凡て聖し 2 此中聖所に屬する者は長五百寛五百にして周圍四角なり又五十キユピトの隙地その周圍にあり 3 汝この量りたる處より長二萬五千寛一萬の場を度り取るべし此うちに聖所至聖所を設くべし 4 是は地の聖場なりエホバに近づき事ふる聖所の役者なる祭司等に屬すべし是はかれらの家を建てまた聖所を設くる聖地なり 5 又長二萬五千寛一萬の處家に事ふるレビ人に屬し其所有に二十の室あるべし 6 その獻げたる聖地に並びて汝ら寛五千長二萬五千の處を分ち邑の所有となすべし是はイスラエルの全家に屬す 7 又君たる者の分はかの獻げたる聖地と邑の所有の此處彼處にあり獻げたる聖地に沿ひ邑の所有に沿ひ西は西にわたり東は東に渉るべし西の極より東の極まで其長は支派の分の一と等し 8 イスラエルの中に彼が有ところの者は地にあり吾君等は重てわが民を慮ることなくイスラエルの家にかの支派にしたがひて地を與へおかん 9 主エホバかく言たまふイスラエルの君等よ汝ら足ことを知れ慮ることと掠むる事を止め公道と公義を行へ我民を逐放すことを止よ主エホバこれを言ふ 10 汝ら公平き權衡公平きエバ公平きパテを用ふべし 11 エバとパテとはその量を同じうすべし即ちパテもホメルの十分一を容れエバもホメルの十分一を容るべしホメルに準じてその度量を定むべし 12 シケルは二十ゲラに當る二十シケル二十五シケル十五シケルを汝等マネとなすべし 13 汝らが獻ぐべき献物は左のごとし一ホメルの小麥の中よりエバの六分一を獻げ一ホメルの大麥の中よりエバの六分一を獻ぐべし 14 油の例油のバテは是のごとし一コルの中よりバテの十分一を獻ぐべしコルは十バテを容る者に即ちホメルなり十バテ一ホメルとなればなり 15 又イスラエルの腴なる地より群二百ごとに一箇の羊を出して素祭および燔祭酬恩祭の物に供へ民の罪を贖ふことを用ひしむべし主エホバこれを言ふ 16 國の民みなこの献物をイスラエルの君にもちきたるべし 17 又君たる者は祭日期日安息日およびイスラエルの家の諸の節期に燔祭素祭灌祭を

奉ぐべし即ち彼イスラエルの家の贖罪をなすために罪祭 素祭 燔祭 酬恩祭を執行なふべし 18 主エホバかく言たまふ正月の元日に汝擯なる全き牡牛を取り聖所を清むべし 19 又祭司は罪祭の牲の血を取りて殿の門柱にぬり壇の隅の四隅と内庭の門の柱に塗べし 20 月の七日に汝等また迷ふ人および拙き者のために斯なして殿のために贖をなすべし 21 正月の十四日に汝ら逾越節を守り七日の間祝をなし無酵パンを食ふべし 22 その日に君は己のため又國の諸の民のために牡牛を備へて罪祭となし 23 七日の節筵の間七箇の牡牛と七箇の牡羊の全き者を日々に七日の間備へてエホバに燔祭となし又牡山羊を日々に備へて罪祭となすべし 24 彼また素祭として一エバを牡牛のために一エバを牡山羊のために備へ油一ヒンをエバに加ふべし 25 七月の十五日の節筵に彼また罪祭 燔祭素祭および油を是のごとく七日の間備ふべし

Chapter 46

1 主エホバかく言たまふ内庭の東向の門は事務をなすところの六日の間は閉ぢ置き安息日にこれを開き又月朔にこれを開くべし 2 君たる者は外より門の廊の路をとりて入り門の柱の傍に立つべし祭司等その時かれの爲に燔祭と酬恩祭を備ふべし彼は門の闕において禮拜をなして出べし但し門は暮まで閉べからず 3 國の民は安息日と月朔とにその門の入口においてエホバの前に禮拜をなすべし 4 君が安息日にエホバに獻ぐる燔祭には六の全き羔羊と一の全き牡羊を用ふべし 5 又素祭は牡羊のために一エバを用ふべし羔羊のために用ふる素祭はその手の出しうる程を以し一エバに油一ヒンを加ふべし 6 月朔には擯なる一頭の全き牡牛および六の羔羊と一の牡羊の全き者を用ふべし 7 素祭は牛のために一エバ牡羊のために一エバ羔羊のために其手のおよぶ程を備へ一エバに油一ヒンを加ふべし 8 君は來る時に門の廊の路より入りまたその路より出べし 9 國の民祭日にエホバの前に來る時は北の門よりいりて禮拜をなせる者は南の門より出で南の門より入る者は北の門より出べし其入りたる門より歸るべからず眞直に進みて出べし 10 君彼らの中にありてその入る時に入りその出る時に出べし 11 祭日と祝日には素祭として牛のために一エバ牡羊のために一エバ羔羊のためにその手の出し得る程を備へ一エバに油一ヒンを加ふべし 12 君もし自ら好んでエホバに燔祭を備へんとし又は自ら好んで酬恩祭を備へんとせば彼のために東向の門を開くべし彼は安息日に爲ごとくその燔祭と酬恩祭を備ふべし又彼が出たる時はその出たる後に門を閉べし 13 汝日々に一歳の全き羔羊一箇を燔祭としてエホバに備ふべし即ち朝ごとにこれを備ふべし 14 汝朝ごとに素祭をこれに加ふべし即ち一エバの六分一と麥粉を濕す油一ヒンの三分一とを素祭とし

てエホバに獻ぐべし是は長久に續くところの例典なり 15 即ち朝ごとに羔羊と素祭と油とを燔祭にそなへて止ことなかるべし 16 主エホバかく言たまふ君もし其子の一人に讓物をなす時は是はその人の産業となりその子孫に傳はりて之が所有となるべし 17 然ど若その産業の中をその僕一人に與ふる時は是は解放の年までその人に屬し居て遂に君にかへるべし彼の産業は只その子孫にのみ傳はるべきなり 18 君たる者は民の産業を取て民をその所有より逐放すべからず只己の所有の中をその子等に傳ふべし是わが民のその所有をはなれて散ことなからんためなり 19 斯て彼門の傍の入口より我をたづさへりて北向なる祭司の聖き室にいたるに西の奥に一箇の處あり 20 彼われに言けるは是は祭司が愆祭および罪祭の物を烹素祭の物を捧ところなり斯するはこれを外庭に携へいてて民を聖くすることなからんためなり 21 彼また我を外庭に携へいだして庭の四隅をとほらしむるに庭の隅々にまた庭あり 22 即ち庭の四隅に庭の設ありてその長四十キユビト廣三十キユビトなり四隅の處その寸尺みな同じ 23 凡てその四の周圍なるその建物の下に烹飪の處造りてあり 24 彼われに云けるは是等は家の役者等が民の犠牲の品を烹る厨房なり

Chapter 47

1 斯てかれ我を室の門に携へかへりしが室の鬮の下より水の東の方に流れ出るあり室の面は東にむかひをりその水下より出で室の右の方よりして壇の南より流れ下る 2 彼北の門の路より我を携へいだして外面をまはらしめ東にむかふ外の門にいたらしむるに水門の右の方より流れ出づ 3 その人東に進み手に度繩を持た一千キユビトを度り我に繩をわたらしむるに水踝骨にまでおよぶ 4 彼また一千を度り我を涉らしむるに水膝にまでおよぶ而してまた一千を度り我を涉らしむるに水腰にまで及び 5 彼また一千を度るに早わが渉るあたはざる河となり水高くして涸くほどの水となり徒渉すべからざる河とはなりぬ 6 彼われに言けるは人の子よ汝これを見とめたるやと乃ち河の岸に沿て我を將かへれり 7 我歸るに河の岸の此方彼方に甚だ衆多の樹々生ひ立るあり 8 彼われに言ふこの水東の境に流れゆきアラバにおち下りて海に入る是海に入ればその水すなはち醫ゆ 9 凡そ此河の往ところには諸の動くところの生物みな生ん又甚だ衆多の魚あるべし此水到るところにて醫すことをなせばなり此河のいたる處にては物みな生べきなり 10 漁者その傍に立んエンゲデよりエネグライムまでは網を張る處となるべしその魚はその類にしたがひて大海の魚のごとく甚だ多からん 11 但しその澤地と濕地とは愈ることあらずして鹽地となりるべし 12 河の傍その岸の此旁彼旁に食はるる果を結ぶ諸の樹生そだたんその葉は枯ずその果は絶ず月々新しき果をむすべし

はその水かの聖所より流れいづればなりその果は食となりその葉は藥とならん 13 主エホバかく言たまふ汝らイスラエルの十二の支派の中に地を分ちてその産業となさしむるにはその界を斯さだむしヨセフは二分を得べきなり 14 汝ら各々均しく之を獲て産業とすべし是は我が手をあげて汝らの先祖等に與へし者なり斯この地汝らに歸して産業とならん 15 地の界は左のごとし北は大海よりヘテロンの路をへてゼダゲの方にいたり 16 ハマテ、ベロクにいたりダマスコの界とハマテの界の間なるシブライムにいたりハウランの界なるハザルハテコンにいたる 17 海よりの界はダマスコの界のハザルエノンにいたる北の方においてはハマテその界たり北の方は是のごとし 18 東の方はハウラン、ダマスコ、ギレアデとイスラエルの地との間にヨルダンあり汝らかの界より東の海までを量るべし東の方は斯のごとし 19 南の方はタルメリポテカデシにおよび河に沿て大海にいたる南の方は是のごとし 20 西の方は大海にしてこの界よりハマテにおよぶ西の方は是のごとし 21 汝らイスラエルの支派にしたがひて此地を汝らの中にかつべし 22 汝ら籤をもて之を汝らの中に分ち又汝らの中にをりて汝らの中に子等を擧げたる異邦人の中に分ちて産業となすべし斯る人は汝らにおけることイスラエルの子孫の中に生れたる本國人のごとし彼らも汝らと共に籤をひきてイスラエルの支派の中に産業を得べし 23 異邦人にはその住ところの支派の中にて汝ら之に産業を與ふべし主エホバこれを言たまふ

Chapter 48

1 支派の名は是のごとしダンの方は北の極よりヘテロンの路の傍にいたりハマテにいたり北におもむきてダマスコの界なるハザルエノンにいたりハマテの傍におよぶ是の東の方と西の方なり 2 アセルの方はダンの界にそひて東の方より西の方にわたる 3 ナフタリの方はアセルの界にそひて東の方より西の方にわたる 4 マナセの方はナフタリの界にそひて東の方より西の方にわたる 5 エフライムの方はマナセの界にそひて東の方より西の方にわたる 6 ルベンの方はエフライムの界にそひて東の方より西の方にわたる 7 ユダの方はルベンの界にそひて東の方より西の方にわたる 8 ユダの界にそひて東の方より西の方にわたる處をもて汝らが獻ぐところの獻納地となすべし其廣二萬五千其東の方より西の方にわたる長は他の一分のごとし聖所はその中にあるべし 9 即ち汝らがエホバに獻ぐところの獻納地は長二萬五千廣一萬なるべし 10 この聖き獻納地は祭司に屬し北は二萬五千西は廣一萬東は廣一萬南は長二萬五千エホバの聖所その中にあるべし 11 ザドクの子孫たる者すなはち我が職守をまもりイスラエルの子孫が迷謬し時にレビ人の迷ひしご

とく迷はざりし者の中聖別られて祭司となれる者に是は屬すべし 12 その獻げたる地の中より一分の至聖き獻納地かれらに屬してレビの境界に沿ふ 13 レビ人の地は祭司の地にならびて其長二萬五千廣一萬なり即ちその都の長二萬五千その廣一萬なり 14 彼らこれを賣べからず換べからず又その地の初實は人にわたすべからず是エホバに屬する聖物なればなり 15 彼二萬五千の處に沿て残れる廣五千の處は俗地にして邑を建て住家を設くべし又郊地となすべし邑その中にあるべし 16 その廣狹は左のごとし北の方四千五百南の方四千五百東の方四千五百西の方四千五百 17 邑の郊地は北二百五十南二百五十東二百五十西二百五十 18 聖き獻納地にならびて餘れる處の長は東へ一萬西へ一萬なり是は聖き獻納地に並びその産物は邑の役人の食物となるべし 19 邑の役人はイスラエルの諸の支派より出てその職をなすべし 20 その獻納地の惣體は堅二萬五千横二萬五千なりこの聖き獻納地の四分の一にあたる處を取て邑の所有となすべし 21 聖き獻納地と邑の所有との此旁彼旁に餘れる處は君に屬すべし是はすなはち獻納地の二萬五千なる所に沿て東の界にいたり西はかの二萬五千なる所にそひて西の界に至りて支派の分と相並ぶ是君に屬すべし聖き獻納地と室の聖所とはその中間にあるべし 22 君に屬する所の中間にあるレビ人の所有と邑の所有の兩傍ユダの境とベニヤミンの境の間にある所は君の所有たり 23 その餘の支派はベニヤミンの一分東の方より西の方にわたる 24 シメオンの一分はベニヤミンの境にそひて東の方より西の方にわたる 25 イッサカルの一分はシメオンの境にそひて東の方より西の方にわたる 26 ゼブルンの一分はイッサカルの境にそひて東の方より西の方にわたる 27 ガドの一分はゼブルンの境にそひて東の方より西の方にわたる 28 南の方はその界ガドの境界にそひてタルメリポテカデシにおよび河に沿て大海にいたる 29 是は汝らが籤をもてイスラエルの支派の中にわかつて産業となすべき地なりその分は斯のごとし主エホバこれを言たまふ 30 邑の出口は斯のごとしすなはち北の方の廣四千五百あり 31 邑の門はイスラエルの支流の名にしたがひ北に三あり即ちルベンの門ーユダの門ーレビの門ー32 東の方も四千五百にして三の門あり即ちヨセフの門ーベニヤミンの門ーダン門ー 33 南の方も四千五百にして三の門ありすなはちシメオンの門ーイッサカルの門ーゼブルンの門ー 34 西の方も四千五百にしてその門三あり即ちガドの門ーアセルの門ーナフタリの門ー 35 四周は一萬八千あり邑の名は此日よりエホバ此に在すと云ふ

ダニエル書

Chapter 1

1 ユダの王エホヤキムの治世の第三年にバビロンの王ネブカデネザル、エルサレムにきたりて之を攻圍みしに 2 主ユダの王エホヤキムと神の家の器具幾何とをかれの手にわたしたまひければ則ちこれをシナルの地に携へゆきて己の神の家にいたりその器具を己の神の庫に蔽めたり 3 茲に王寺人の長アシパネズに命じてイスラエルの子孫の中より王の血統の者と貴族たる者幾何を召寄しむ 4 即ち身に疵なく容貌美しくして一切の智慧の道に類く知識ありて思慮深く王の宮に侍るに足る能幹ある少き者を召寄しめこれにカルデア人の文學と言語とを學ばせんとす 5 是をもて王は命を下して日々に王の用ゐる饌と王の飲む酒とを彼らに與へしめ三年の間かく彼らを養ひ育てしめんとす是その後には彼らをして王の前に立ことを得せしめんとす 6 是等の中にユダの人ダニエル、ハナニヤ、ミシヤエル、アザリヤありしが 7 寺人の長かれらに名をあたへてダニエルをベルテシヤラクと名けハナニヤをシヤデラクと名けミシヤエルをメシヤクと名けアザリヤをアベデネゴと名く 8 然るにダニエルは王の用ゐる饌と王の飲む酒とをもて己の身を汚すまじと心に思ひさだめれば己の身を汚さざらしめんことを寺人の長に求む 9 以前よりエホバ、ダニエルをして寺人の長の慈悲と寵愛とを蒙らしめたまふ 10 是において寺人の長ダニエルに言けるは吾主なる王すでに命をくだして汝らの食物と汝らの飲物とを領たしめたまへば我かれを畏る恐くは彼なんぢらの面の其同輩の少者等と異にして憂色あるを見ん然る時は汝らのために我首王の前に危からん 11 寺人の長はメルザル官をしてダニエル、ハナニヤ、ミシヤエル及びアザリヤを監督らせ置たればダニエル之に言けるは 12 請ふ十日の間僕等を験したまへ即ち我らには菜蔬を與へて食せ水を與へて飲せよ 13 而して我らの面と王の饌を食ふ少者どもの面とを較べ見汝の視るところにしたがひて僕等を待たまへと 14 是において彼この事を聽いれ十日のあひだ彼らを験しけるが 15 十日の後にいたりて見るに王の饌を食へる諸の少者よりも彼らの面は美しくまた肥え膩つきてありければ 16 メルザル官すなはち彼らの分なる饌と彼らの飲べき酒とを撒きりて菜蔬をこれに與へたり 17 この四人の少者には神知識を得させ諸の文學と智慧に類からしめたまへりダニエルはまた能く各諸の異象と夢兆を曉る 18 王かねて命をくだし少者どもを召いる迄に經べき日を定めおきしがその日數も過たるに因て寺人の長かれらを引てネブカデザルの前にいたりければ 19 王かれらと言談へり彼ら一切の中にはダニエル、ハナニヤ、ミシヤエル、アザリヤに比ぶ者あ

らざりければこの四人は王の前に待
れり 20 王かれらに諸の事を詢たづ
ね見に彼らは智慧の學においてその
全國の博士と法術士に愈ること十倍
なり 21 ダニエルはクロス王の元年
までありき

Chapter 2

1ネブカデネザルの治世の二年
にネブカデネザル夢を見それがため
に心に思ひなやみて復睡ること能は
ざりき 2是をもて王は命を下し王の
ためにその夢を解せんとて博士と法
術士と魔術士とカルデヤ人とを召し
しめれば彼ら來りて王の前に立つ 3
王すなはち彼らにむかひ我夢を見そ
の夢の義を知んと心に思ひなやむと
言ければ 4カルデヤ人等スリア語を
もて王に申しけるは願くは王長壽か
れ請ふ僕等にその夢を語りたまへ我
らの解明を進めたまつらん 5
王こたへてカルデヤ人に言けるは我
すでに命を出せり汝等もしその夢と
これが解明とを我に示さざるにおい
ては汝らの身は切裂れ汝らの家は厠
にせられん 6又汝らもしその夢と
これが解明を示さば贖物と賞賚と大なる
尊榮とを我より獲ん然ばその夢と
之が解明を我に示せ 7彼らまた對へ
て言けるは願くは王僕どもにその夢
を語りたまへ然ば我らその解明を奏
すべしと 8王こたへて言けるは我あ
きらかに知る汝らは吾命の下りしを
見るが故に時を延さんことを望むなり
9汝らもしその夢を我に示さずば
汝らを處置するの法は只一のみ汝ら
は相語らひて虚言と妄誕なる詞を我
前にのべて時の變るを待んとするなり
汝ら今先その夢を我に示せ然すれ
ば汝らがその解明をも我にしめし得
ることを我しらんと 10カルデヤ人
等こたへて王の前に申しけるは世の
中には王のその事を示し得る人一箇
もなし是をもて王たる者主たる者君
たる者等の中に斯る事を博士または
法術士またはカルデヤ人に問たづね
し者絶てあらざるなり 11王の問た
まふその事は甚だ難し肉身なる者と
共に居ざる神々を除きては王の前に
これを示すことを得る者無るべしと
12斯りしかば王怒を發し大に憤りバ
ビロンの智者をことごとく殺せと命
じたり 13即ち此命くだりければ智
者等は殺されんとせり又ダニエルと
その同僚をも殺さんとともてたり 1
4茲に王の侍衛の長アリオク、バビ
ロンの智者等を殺さんとて出きたり
ければダニエル遠慮と智慧とをもて
之に應答せり 15すなはち王の高官
アリオクに對へて言けるは王なにと
て斯すみやかにこの命を下したまひ
しやとアリオクその事をダニエルに
告しらせられた 16ダニエルいりて
王に乞求めて言ふ暫くの時日を賜へ
然ばその解明を王に奏せんと 17斯
てダニエルその家にかへりその同僚
ハナニヤ、ミシャエルおよびアザリ
ヤにこの事を告しらせ 18共にこの
秘密につき天の神の憐憫を乞ひダニ
エルとその同僚等をしてその他のバ
ビロンの智者とともに滅びさらしめ
んことを求めたりしが 19ダニエル

つひに夜の異象の中にこの秘密を示
されければダニエル天の神を稱賛ふ
20即ちダニエル應へて言けるは永遠
より永遠にいたるまでこの神の御名
は讚まつべきなり智慧と權能はこれ
が有なればなり 21彼は時と期と
を變じ王を廢し王を立て智者に智慧
を與へ賢者に知識を賜ふ 22彼は深
妙秘密の事を顯し幽暗にあるところ
の者を知たまふまた光明彼の裏にあり
23わが先祖等の神よ汝は我に智慧
と權能を賜ひ今われらが汝に乞求
めたるこの事を我にしめし給へば
我感謝して汝を稱賛ふ即ち汝は王
のかの事を我らに示したまへり 24
是においてダニエルは王がバビロンの
智者等を殺すことを命じおけるア
リオクの許にいたり即ちいりてこれ
に言けるはバビロンの智者等を殺す
勿れ我を王の前に引いたれよ我その
解明を王に奏上ぐべしと 25アリオ
クすなはちダニエルを引て急ぎ王の
前にいたり王にまうしけるは我ユダ
の俘囚人の中に一箇の人は得たり是
者その解明を王にまうしあけん 26
王こたへてベルテシヤザルと名くる
ダニエルに言けるは汝は我が見たる
夢とその解明とを我に知らすることを
得るやと 27ダニエルすなはち應
へて王の前に言けるは王の問たまふ
秘密は智者法術士博士ト筮師など之
を王に奏上ぐることを得ず 28然ど
天に一の神ありて秘密をあらはし給
ふ彼後の日に起らんとする事の如
何なるかをネブカデネザル王にしら
せたまふなり汝の夢汝が牀にありて
想見たまひし汝の腦中の異象は是なり
29王よ汝牀にいりし時將來の事
の如何を想ひまはしたまひしが秘密
を顯す者將來の事の如何を汝にしめ
し給へり 30我がこの示現を蒙る
は凡の生る者にまさりて我に智慧あ
るに由にあらず唯その解明を王に知
しむる事ありて王のつひにその心に
想ひたまひし事を知にいたり給はん
がためなり 31王よ汝は一箇の巨なる
像の汝の前に立るを見たまへり其
像は大きくしてその光輝は常ならず
その形は畏るしくあり 32
其像は頭は純金 胸と兩腕とは銀
腹と腿とは銅 33 脛は鐵
脚は一分は鐵一分は泥土なり 34 汝
見て居たまひしに遂に一箇の石人手
によらずして撃れて出でその像の鐵
と泥土との脚を撃てこれを砕けり 3
5 斯りしかばその鐵と泥土と銅と銀
と金とは皆ともに砕けて夏の禾場の
糠のごとくに成り風に吹はらはれて
止るところ無りき而してその像を撃
たる石は大なる山となりて全地に充
り 36是の夢なり我らその解明を
王の前に陳ん 37王よ汝は諸王の王
にいませり即ち天の神汝に國と權威
と能力と尊貴とを賜へり 38また人
の子等野の獸畜および天空の鳥は何
處に在る者にもあれ皆これを汝の手に
與へて汝にこれをことごとく治め
しめたまふ汝はすなはち此金の頭なり
39汝の後に汝に劣る一の國おこ
らんまた第三に銅の國おこりて全
世界を治めん 40第四の國は堅きこ
と鐵のごとくならん鐵は能く萬の物を
毀ち砕くがごとく其國は毀ちかつ砕く

ことをせん 41汝その足と足の趾を
見たまひしに一分は陶人の泥土一分
は鐵なりければその國は分裂たる者
ならん又汝鐵と粘土との混和たるを
見たまひたればその國は鐵のごとく
強からん 42その足の趾の一分は鐵
一分は泥土なりしごとくその國は強
きところもあり脆きところも有ん 4
3 汝が鐵と粘土との混りたるを見た
まひしごとく其等は人草の種子と混
らん然ど鐵と泥土との相合せざるご
とく彼と此と相合すること有じ 44
この王等の日に天の神一の國を建た
まはん是は何時までも滅ぶること無
らん此國は他の民に歸せず却てこの
諸の國を打破りてこれを滅せん是は
立ちて永遠にいたらん 45かの石の
人手によらずして山より撃れて出で
鐵と銅と泥土と銀と金とを打砕けし
を汝が見たまひしは即ちこの事なり
大御神この後に起らんとする事を
王にしらせたまへるなりその夢は眞
にしてこの解明は確なり 46是にお
いてネブカデネザル王は俯伏てダニ
エルを拜し禮物と香をこれに献ぐる
ことを命じたり 47而して王こたへ
てダニエルに言けるは汝がこの秘密
を明かに示すことを得たるを見れば
誠に汝らの神は神等の神王等の主
にして能く秘密を示す者なりと 48か
くて王はダニエルに高位を授け種々
の大なる賜物を與へてこれをバビロ
ン全州の總督となしまたバビロンの
智者等を統る者の首長となせり 49
王またダニエルの願によりてシヤデ
ラクとメシヤクとアベデネゴを擧
げてバビロン州の事務をつかさどらしめ
たりダニエルは王の宮にをる

Chapter 3

1茲にネブカデネザル王一箇の
金の像を造れりその高は六十キユピ
トその横は廣は六キユピトなりき即
ちこれをバビロン州のドラの平野に
立たり 2而してネブカデネザル王は
州牧將軍方伯刑官庫官法官士師およ
び州郡の諸有司を召集めそのネブカ
デネザル王の立たる像の告成禮に臨
ましめんとせり 3是においてその州
牧將軍方伯刑官庫官法官士師および
州郡の諸有司等はネブカデネザル王
の立たる像の告成禮に臨みそのネブ
カデネザル王の立たる像の前に立り
4 時に傳令者大聲に呼はりて言ふ諸
民諸族諸音よ汝らは斯命ぜらる 5汝
ら喇叭簫琵琶琴瑟箏箏などの諸の樂
器の音を聞く時は俯伏しネブカデネ
ザル王の立たまへる金像を拜すべし
6 凡て俯伏て拜せざる者は即時に火
の燃る爐の中に投こまるべしと 7是
をもて諸民等喇叭簫琵琶琴瑟などの
諸の樂器の音を聞くや直に諸民諸族
諸音みな俯伏しネブカデネザル王
の立たる金像を拜したり 8その時或
カルデヤ人等進みきたりてユダヤ人
を譏奏せり 9即ち彼らネブカデネザ
ル王に奏聞して言ふ願くは王長壽か
れ王よ汝は命を出して宣へり凡て喇
叭簫琵琶琴瑟箏箏などの諸の樂器の
音を聞く者はみな俯伏しこの金像を
拜すべし 11 凡て俯伏し拜せざる者
はみな火の燃る爐の中に投こまるべ

しと 12 此に汝が立てバビロン州の
事務を司どらせ給へるユダヤ人シヤ
デラク、メシヤクおよびアベデネゴ
あり王よ此人々は汝を尊ばず汝の神
々にも事へず汝の立たまへる金像を
も拜せざるなりと 13 是においてネ
ブカデネザル怒りかつ憤りてシヤデ
ラク、メシヤクおよびアベデネゴを
召寄よと命じければ即ちこの人々を
王の前に引きたりしに 14 ネブカデ
ネザルかれらに問て言けるはシヤデ
ラク、メシヤク、アベデネゴよ汝ら
我神に事へずまた我が立たる金像を
拜せざるは是故意にするなるか 15
汝らもし何の時にあれ喇叭簫琵琶
琴瑟箏箏などの諸の樂器の音を聞く
時に俯伏し我が造れる像を拜するこ
とを爲ば可し然ど汝らもし拜するこ
とをせずば即時に火の燃る爐の中に
投こまるべし何の神が能く汝らをわ
が手より救ひいだすことをせん 16
シヤデラク、メシヤクおよびアベデ
ネゴ對へて王に言けるはネブカデネ
ザルよこの事において我らは汝に答
ふるに及ばず 17 もし善らんに我
よ我らの事ふる我らの神我らを救ふ
の能あり彼その火の燃る爐の中と汝
の手の中より我らを救ひいださん 1
8 假令しからざるも王よ知たまへ我
らは汝の神々に事へずまた汝の立た
る金像を拜せし 19 是においてネブ
カデネザル怒氣を充しシヤデラク、
メシヤクおよびアベデネゴにむかひ
てその面の容を變へ即ち爐を常に熱
くするよりも七倍熱くせよと命じ 2
0 またその軍勢の中の力強き人々を
喚てシヤデラク、メシヤクおよびア
ベデネゴを縛りてこれを火の燃る爐
の中に投こめと命じたり 21 是をも
て此人々はその褲子羽織外套および
その他の服装を着たるままにて縛ら
れて火の燃る爐の中に投こまれたり
しが 22 王の命はなほだ急にして爐
は甚だしく熱しめられたれば彼のシヤ
デラク、メシヤクおよびアベデネゴを
引抱へゆける者等はその火焰に燒こ
ろされたり 23 また此シヤデラク、
メシヤク、アベデネゴの三人は縛ら
れたるままにて燃る爐の中に落りい
ぬ 24 時にネブカデネザル王驚きて
急忙しくたちあがり大臣等に言ふ我
らは三人を縛りて火の中に投いれざ
りしや彼ら王にこたへて言ふ王よ然
り 25 王また應へて言ふ今我見る
に四人の者縲縛解て火の中に歩み
り凡て何の害をも受ずまたその第四
の者の容は神の子のごとしと 26 ネ
ブカデネザルすなはちその火の燃る
爐の口に進みよりて呼て言ふ至高神
の僕シヤデラク、メシヤク、アベデ
ネゴよ汝ら出きたれと是においてシ
ヤデラク、メシヤクおよびアベデネ
ゴその火の中より出きたりしかば 2
7 州牧將軍方伯および王の大臣等集
りて比人々を見たり此人々の身は火
もこれを害する力なかりきまたその
頭の髪は燒けずその衣裳は傷ねず火
の臭氣もこれに付ざりき 28 ネブカ
デネザルすなはち宣て曰くシヤデラ
ク、メシヤク、アベデネゴの神は讚
べき哉彼その使者を遣りて己を頼む
僕を救へりまた彼らは自己の神の外
には何の神にも事へずまた拜せざら
んとて王の命をも用ひず自己の身を

も捨んとせり 29 然ば我今命を下す諸民諸族諸音の中凡てシヤデラク、メシヤクおよびアバダネゴの神を置く者あらばその身は切裂れその家は厠にせられん其は是のごとくに救を施す神他にあらざればなりと 30 かくて王またシヤデラク、メシヤクおよびアバダネゴの位をすすめてバビロン州にをらしむ

Chapter 4

1ネブカデネザル王全世界に住める諸民諸族諸音に諭す願くは大なる平安汝にあれ 2至高神我にむかひて徴證と奇蹟を行へり我これを知しむることを善と思ふ 3嗚呼大なるかなその徴證嗚呼盛なるかなその奇蹟その國は永遠の國その權は世々限なし 4我ネブカデネザルわが家に安然に居りわが宮に榮え居れり 5我一の夢を見て之がために懼れ即ち床にありてその事を想ひめぐらしその我腦中の異象のために心をなやませり 6是に於て我命を下しバビロンの智者をことごとく我前に召よせしめてその夢の解明を我にしめさせんと爲たれば 7すなはち博士術士カルデヤ人ト筮師等きたりしに囚て我その夢を彼らに語りけるに彼らはその解明を我にしめすことを得ざりき 8かくてダニエルわが前に來り彼の名は吾神の名にしたがひてベルテシヤザルと稱へられその裏には聖神の靈やどれり我その夢を彼の前に語りて曰けらく 9博士の長ベルテシヤザルよ我知る汝の裏には聖神の靈やどれば如何なる秘密も汝には難き事なし我が夢に見たることこの事を聞きその解明を我に告げよ 10我が床にありて見たる吾腦中の異象は是のごとし我觀しに地の當中に一の樹ありてその丈高かりしが 11その樹長じて強固なり天に達するほどの高となりて地の極までも見えわたり 12その葉は美しくその葉は饒にして一切の者その中より食を得た野の獸その蔭に臥し空の鳥その枝に棲み凡て血氣ある者みな是によりて身を養ふ 13我床にありて得たる腦中の異象の中に一箇の警寤者一箇の聖者の天より下るを見たりしが 14彼聲高く呼はりて斯いへり此樹を伐たふしその枝を斫はなしその葉を揺おとしその果を打散し獸をしてその下より逃はしらせ鳥をしてその枝を飛さらしめよ 15但しその根の上の斬株を地に遺しおき鐵と銅の索をかけて之を野の草の中にあらしめよ是は天よりくだる露に濡れまた地の草の中に獸とその分を同じうせん 16又その心は變りて人間の心のごとくならず獸の心を棄て七の時を經ん 17この事は警寤者等の命によりこの事は聖者等の言による是至最高人間の國を治めて自己の意のままにこれを人に與へたまふの中の最も賤き者をその上に立たまふといふ事を一切の者に知しめんがためなり 18我ネブカデネザル王この夢を見たりベルテシヤザルよ汝その解明を我に述よ我國の智者は執も皆その解明を我に示すことを得ざりしが汝は之を能せん其

は汝の裏には聖神の靈やどればなりと 19その時ダニエル又の名はベルテシヤザルとい者暫時の間驚き居り心に深く懼れたれば王これに告て言りベルテシヤザルよ汝この夢とその解明のために懼るるにおよぼすとベルテシヤザルすなはち答へて言けらく我主よ願くはこの夢汝を惡む者の上にかからん事を願くは此解明汝の敵にのぞまんことを 20汝が見たまひし樹すなはちその長じて強くなり天に達するほどの高となりて地の極までも見えわたり 21その葉は美しくその果は饒にして一切の者その中より食を得たその下に野の獸臥しその枝に空の鳥棲たる者 22王よ是はすなはち汝なり汝は長じて強くなり汝の勢ひは盛にして天におよぶ汝の權は地の極にまでおよぶ 23王また一箇の警寤者一箇の聖者の天より下りて斯言ふを見たまへり云くこの樹を伐たふして之をそこなへ但し其根の上の斬株を地に遺しおき鐵と銅の索をかけて之を野の草の中にあらしめよ是は天よりくだる露に濡れ野の獸とその分を同じうして七の時を經ん 24王よその解明は是の如し是即ち至最高者の命にして王我主に臨まんとする者なり 25即ち汝は逐れて世の人と離れ野の獸とともに居り牛のごとくに草を食ひ天よりくだる露に濡れん是の如くにして七の時を經て汝つひに知ん至最高人間の國を治めて自己の意のままに之を人に與へ給ふと 26又彼らその樹の根の上の斬株を遺しおけと言たれば汝の國は汝が天は主たりと知にいたる時まで汝を離れん 27然ば王よ吾諫を容れ義をおこなひて罪を離れ貧者を憐みて惡を離れよ然らば汝の平安あるひは長く続かんと 28この事みなネブカデネザル王に臨めり 29十二箇月を經て後王バビロンの王宮の上に出歩みより 30王すなはち語りて言ふ此大なるバビロンは我が大なる力をもて建て京城となし之をもてわが威光を耀かす者ならずや 31その言なほ王の口にある中に天より聲降りて言ふネブカデネザル王よ汝に告ぐ汝は國の位を失はん 32汝は逐れて世の人と離れ野の獸と共に居り牛のごとくに草を食はん斯の如くにして七の時を經て汝つひに知ん至最高人間の國を治めて己れの意のままにこれを人に與へたまふと 33その時直にこの事ネブカデネザルに臨み彼は逐れて世の人に離れ牛のごとくに草を食ひてその身は天よりくだる露に濡れ終にその鬚毛は鷲の羽のごとくなりその爪は鳥の爪のごとくなりぬ 34斯てその日の満たる後我ネブカデネザル目をあげて天を望みしにわが分別性我に歸りたれば我至最高者に感謝しその永遠に生る者を讀かつ崇めたり彼の御宇は永遠の御宇彼の國は世々かぎり無し 35地上の居民は凡て無き者のごとし天の衆群にも地の居民にも彼はその意のままに事をなしたまふ誰も彼の手をおさへて汝なんぞ然するやと言ことを得る者なし 36この時わが分別性かく我に歸りたりしがわが國の榮光につきてはまた私の尊嚴と光耀我にかへり且また大臣牧伯等我に請求めて我ふたたび

國の祚を踐み前よりも著しく威光を増たり 37是において我ネブカデネザル今は天の王を讃頌へかつ崇む彼の作爲は凡て眞實彼の道は正義自ら高ぶる者は彼能くこれを卑くしたまふ

Chapter 5

1ベルシヤザル王その大臣一千人のために酒宴を設けその一千人の者の前に酒を飲たりしが 2酒の進むにいたりてベルシヤザルはその父ネブカデネザルがエルサレムの宮より取きたりし金銀の器を携へたれと命ぜり是王とその大臣および王の妻妾等みな之をもて酒を飲んとてなりき 3是をもてそのエルサレムなる神の宮の内院より取たりし金の器を携へたりければ王とその大臣および王の妻妾等これをもて飲めり 4すなはち彼らは酒をのみて金銀銅鐵木石などの神を讃たへたりしが 5その時に人の手の指あらはれて燭臺と相對する王の宮の粉壁に物書り王その物書る手の末を見たり 6是において王の愉快なる顔色は變りその心は思ひなやみて安からず腿の關節はゆるみ膝はあひ撃り 7王すなはち大聲に呼はりて術士カルデヤ人ト筮師等を召きたらしめ而して王バビロンの智者等に告て言ふこの文字を讀みその解明を我に示す者は紫の衣を衣せしめて金の鏈をかけさせて之を國の第三の牧伯となさんと 8王の智者等は皆きたりしかどもその文字を讀くこと能はずたりければ 9ベルシヤザル王おほいに思ひなやみてその顔色を失へりその大臣等もまた驚き懼れたり 10時に太后王と大臣等の言を聞てその酒宴の室にいりきたり太后すなはち陳て言ふ願くは王長壽かれ汝心に思ひなやむ勿れまた顔色を失ふにおよぼす 11汝の國に聖神の靈のやどれる一箇の人あり汝の父の代に彼聰明了知および神の智慧のごとき智慧あることを顯せり汝の父ネブカデネザル王すなはち汝の父の王彼を立てて博士術士カルデヤ人ト筮師等の長となせり 12彼はダニエルといへる者なるが王これにベルシヤザルといふ名を與へたり彼は心の殊勝たる者にて了知あり知識ありて能く夢を解き隱語を解き難問を解くなり然ばダニエルを召されよ彼その解明をしめさんと 13是においてダニエル召れて王の前に至りければ王ダニエルに語りて言ふ汝は吾父の王がユダより曳きたりしユダの俘囚人なるそのダニエルなるか 14我聞になんぢの裏には神の靈やどりをりて汝は聰明了知および非凡の智慧ありと云ふ 15我智者術士等を吾前に召よせてこの文字を讀しめその解明を我にしめさせんと爲たれども彼らはこの事の解明を我にしめすことを得ず 16我聞に汝は能く物事の解明をなしかつ難問を解くと云ふ然ば汝もし能くこの文字を讀みその解明を我に示さば汝に紫の衣を衣せ金の索を汝の頸にかけさせて汝をこの國の第三の牧伯となさんと 17ダニエルこ

たへて王に言けるは汝の賜物は汝みづからこれを取り汝の饒物はこれを他の人に與へたまへ然ながら我は王のためにその文字を讀みその解明をこれに知せてまつらん 18王よ至高神汝の父ネブカデネザルに國と權勢と榮光と尊貴を賜へり 19彼に權勢を賜ひしによりて諸民諸族諸音みな彼の前に慄き畏れたり彼はその欲する者を殺しその欲する者を活しその欲する者を上げその欲する者を下しなり 20而して彼心に高ぶり氣を剛愎にして驕りしかばその國の位をすべりてその尊貴を失ひ 21逐れて世の人と離れその心は獸のごとくに成りその住所は野馬の中にあり牛のごとくに草を食ひてその身は天よりの露に濡たり是のごとくにして終に彼は至高神の人間の國を治めてその意のままに人を立たまふといふことをするにいたれり 22ベルシヤザルよ汝は彼の子にして此事を盡く知るといへども猶その心を卑くせず 23却つて天の主にむかひて自ら高ぶりその家の器皿を汝の前に持ちたらしめて汝と汝の大臣と汝の妻妾等それをもて酒を飲み而して汝は見ことも聞ことも知こともあらぬ金銀銅鐵木石の神を讃頌ふることを爲し汝の生命をその手に握り汝の一切の道を主どりたまふ神を崇むることをせず 24是をもて彼の前よりこの手の末いできたりてこの文字を書るなり 25その書る文字は是のごとしメネ、メネ、テケル、ウバルシン 26その言の解明は是のごとしメネ(數へたり)は神汝の治世を數へてこれをその終に至らせしを謂なり 27テケル(秤れり)は汝が權衡にて秤られて汝の重の足らざることを顯れたるを謂なり 28レレス(分たれたり)は汝の國の分たれてメデアとベルシヤに與へらるるを謂なり 29是においてベルシヤザル命を降してダニエルに紫の衣を着せしめ金の鏈をこれが頸にかけさせて彼は國の第三の牧伯なりと布告せり 30カルデヤ人の王ベルシヤザルはその夜の中に殺せり 31メデア人ダリヨスその國を獲たり此時ダリヨスは六十二歳なりき

Chapter 6

1ダリヨスはその國に百二十人の牧伯を立てることを善とし即ちこれを上に全國を治理しめ 2また彼らの上に監督三人を立てりダニエルはその一人なりき是その州牧をして此三人の前にその職を述しめて王に損失の及ぶこと無らしめんためなりき 3ダニエルは心の殊勝たる者にしてそれ他の監督および州牧等に勝りたれば王かれを立て全國を治めしめんとせり 4是においてその監督と州牧等國事につきてダニエルを訟ふる隙を得んとしたりしが何の隙をも何の咎をも見いだすことを得ざりき其は彼は忠義なる者にてその身に何の咎もなく何の過失もなかりければなり 5是においてその人々言けるはこのダニエルはその神の例典について之が隙を獲にあらざればついにこれを訟るに由なしと 6すなはちその監督と州

牧等王の許に集り來りて斯王に言り
 ダリヨス王よ願くは長壽かれ7國の
 監督將軍州牧牧伯方伯等みな相議り
 て王に一の律法を立て一の禁令を定
 めたまはんことを求めんとす王よそ
 の事は是の如し即ち今より三十日
 の内は唯汝にのみ願事をなさしめ若
 汝をおきて神または人にこれをなす
 者あらば凡て獅子の穴に投いれん
 といふ是なり8然ば王よねがはくは
 その禁令を立てその詔書を認めメ
 デアとベルシヤの廢ることなき律
 法のごとくに之をして變らざらし
 めたまへと9王すなはち詔書をし
 たためてその禁令を出せり10茲に
 ダニエルはその詔書を認めたるこ
 とを知りて家にかへりけるがその
 二階の窓のエルサレムにむかひ
 て開ける處にて一日に三度づつ膝
 をかがめて禱りその神に向て感
 謝せり是はその時の前よりして
 斯なし居たればなり11斯りしか
 ばその人々馳りてダニエルがその
 神にむかひて禱りかつ求めを見
 ありはせり12而して彼ら進みきた
 り王の禁令の事につきて王に奏上
 し言けるは王よ汝は禁令をしたため
 出し今より三十日の内には只なん
 ぢにのみ願事をなさしめ若し汝を
 おきて神または人にこれをなす者
 あらば凡てその者を獅子の穴に
 投いれんと定めたまへるならず
 王と王こいたへて言ふ其事は眞
 實にしてメデアとベルシヤの律
 法のごとく廢べからざる者なり
 13彼らまた對へて王の前に言
 けるは王よユダの俘虜人なるダ
 ニエルは汝を汝の認め出し給ひし
 禁令をも願みずして一日に三度
 づつ祈禱をなすなりと14王この
 事を聞てこれがために大に愁ひ
 ダニエルを救はんことを用ひ即ち
 これを拯げんと力をつくして日
 々の入る頃におよびければ15
 その人々また王の許に集ひきたり
 て王に言けるは王よ知りたまへ
 メデアとベルシヤの律法によれば
 王の立たる禁令または法度は變
 べからざる者なりと16是にお
 いて王命を下しければダニエル
 を曳きたりて獅子の穴に投いれ
 たり王ダニエルに語りて言ふ願
 くは汝が恒に事ふる神汝を救は
 んことをと17時に石を携きたり
 てその穴の口を塞ぎければ王お
 のれの印と大臣等の印をもてこ
 れに封印をなせり是ダニエルの
 處置をして變ることなからしめ
 んためなりき18斯て後王はそ
 の宮にかへりけるがその夜は食
 をなさずまた嬪等を召よせず
 して全く寝ることをせざりき19
 而して王は朝まだきに起いでて
 その獅子の穴に急ぎいたりしが
 20穴にいたりける時哀しげなる
 聲をあげてダニエルを呼りすな
 はち王ダニエルに言けるは活
 神の僕ダニエルよ汝が恒に事
 ふる神汝を救ふて獅子の害を
 免れしむることを得しや21ダ
 ニエル王にいひけるは願くは王
 長壽かれ22吾神その使をおく
 りて獅子の口を閉させたまは
 れば獅子は我を害せざりき其
 は我の辜なき事かれの前に明
 かなればなり王よ我は汝にも
 惡しき事をなさざりしなりと
 23是において王おほいに喜び
 ダニエルを穴の中より出せと命
 じければダニエルは穴の中より
 出されけるがその身に何の害
 も受をらざりき是は彼おのれの

神を頼みたるによりてなり24
 かくて王また命を下しかのダ
 ニエルを譏奏せし者等を曳きた
 らせて之をその妻子とともに
 獅子の穴に投いれしめたるに
 その穴の底につかざる内に獅
 子はやくも彼らを攫みてその骨
 までもごとく咬砕けり25是
 においてダリヨス王全世界に
 住る諸民諸族諸音に詔書を
 頒てり云く願くは大なる平
 安なんぢらにあれ26今我詔
 命を出す我國の各州の人みな
 ダニエルの神を畏れ敬ふべし
 是は活神にして永遠に立つ者
 またその國は亡びずその權は
 終極まで続くなり27是は救
 を施し拯をなし天においても
 地においても休徴をほどこし
 奇蹟をおこなふ者にてすな
 はちダニエルを救ひて獅子の
 力を免れしめたりと28この
 ダニエルはダリヨスの世と
 ベルシヤ人クロスの世において
 その身榮えたり

Chapter 7

1バビロンの王ベルシヤザルの
 元年にダニエルその牀にありて
 夢を見腦中に異象を得たりしが
 即ちその夢を記してその事の大意
 を述ぶ2ダニエル述て曰く我夜
 の異象の中に見てありしに四
 方の天風大海にむかひて烈しく
 吹きたり3四箇の大なる獸海
 より上りきたれりその形はおの
 の異なり4第一のは獅子の如
 くにして驚の翼ありけるが我
 見てをりしに是はその翼を
 振とられまた地より起され人
 のごとく足にて立せられ且人
 の心を賜はれり5第二の獸は
 熊のごとなりき是はその體の
 一方を擧げその口の齒の間に
 三の脇骨を啣へ居けるが之に
 むかひて言る者あり曰く起
 あがりて多くの肉を食へと6
 その後に我見しに豹のごとき
 獸いでたりしがその背には鳥
 の翼四ありこの獸はまた四
 の頭ありて統轄權をたまは
 れり7我夜の異象の中に見し
 にその後第四の獸いでたりしが
 是は畏しく猛く大に強くて大
 なる鐵の齒あり食ひかつ咬
 砕きてその殘餘をば足にて踏
 つけたり是はその前に出たる
 諸の獸とは異なりてまた十
 の角ありき8我その角を考へ
 觀つちありけるにその中に
 また一箇の小さき角出きたり
 しがこの小さき角のために
 先の角三箇その根より抜
 ちたりこの小さき角には人の
 目のごとき目ありまた大なる
 事を言ふ口あり9我觀つち
 ありて遂に寶座を置列るあり
 て日の老たる者座を占めたり
 しがその衣は雪のごとくに
 白くその髪毛は漂潔めたる
 羊の毛のごとし又その寶座は
 火の焰にしてその車輪は燃
 る火なり10而して彼の
 前より一道の火の流わきい
 づ彼に仕ふる者は千々彼の
 前に待る者は萬々審判す
 なはち始りて書を開けり11
 その角の大なる事を言ふ
 聲によりて我觀つちあり
 けるが我が見る間にその
 獸は終に殺され體を壞は
 れて燃る火に投いれられたり
 12またその餘の獸は其の
 權威を奪はれたりしがその
 生命は時と期の至るまで
 延されたり13我また夜
 の異象の中に觀てありける
 に人の子のごとき者雲に
 乘て來り日の老たる者の
 許に到

りたればすなはちその前に
 導きけるに14之に權と榮
 と國とを賜ひて諸民諸族
 諸音をしてこれに事へしむ
 その權は永遠の權にして
 移りさらず又その國は亡
 ぶることなし15是にお
 いて我ダニエルその體の
 内の魂を憂へしめわが
 腦中の異象のために思ひ
 なやみたれば16すなは
 ち其處にたてる者の一箇
 に就てこの一切の事の眞
 意を問けるに其者われに
 この事の解明を告し
 せて云く17この四の大
 なる獸は地に興らんとす
 る四人の王なり18然
 だ終には至高者の聖徒
 國を受け長久にその國
 を保ちて世々限りなから
 んと19是において我
 またその第四の獸の眞
 意を知んと欲せり此獸は
 他の獸と異なりて至
 畏ろしくその齒は鐵
 その爪は銅にして食
 かつ咬砕きてその殘
 餘を足にて踏つけたり
 20此獸の頭には十
 の角ありしが其他に
 また一の角いできたり
 しかば之がために三
 の角抜ちたり此角に
 は目ありまた大なる
 事を言ふ口ありてその
 状はその同類よりも
 強く見えたり我また
 この事を知んと欲せ
 り21我觀つちあり
 けるに此角聖徒と戦
 ひてこれに勝たりしが
 22終に日の老たる者
 來りて至高者の聖徒
 のために公義をおこな
 へり而してその時
 いたりて聖徒國を獲
 たり23彼かきり
 第四の獸は地上の
 第四の國なり是は
 一切の國と異なり
 全世界を并呑し
 これを踏つけかつ
 打破らん24その
 十の角はこの國
 に興らんとする
 十人の王なり之
 が後にまた一人
 興るべし是は
 先の者と異なり
 且その王三人
 を倒すべし25
 かく至高者に
 敵して言を出
 しかつ至高者の
 聖徒を惱まし
 ん彼また時と
 法とを變んこと
 を望まん聖徒
 は一時と二時
 と半時を経
 るまで彼の
 手に付され
 てあらん26
 斯て後審判
 はじまり彼は
 その權を奪
 はれて終極
 まで滅び亡ん
 27而して
 國と權と天下
 の國々の勢力
 とはみな至高
 者の聖徒たる
 民に歸せん
 至高者の國
 は永遠の國
 なり諸國の
 者みな彼に
 事へかつ順
 はんと28
 その事此に
 て終り我ダ
 ニエルこれ
 を思ひまは
 して大に憂
 へ顔色も變
 りぬ我この
 事を心に
 蔵む

Chapter 8

1我ダニエル前に
 異象を得たりしが
 後またベルシヤザル
 の第三年にいたりて
 異象を得たり2我
 異象を見たり我
 これを見たる時に
 吾身はエラム州なる
 シュシヤンの城に
 あり我が異象を見
 たるはウライ河の
 邊においてなりき
 3我目を擧て觀
 しに河の上に一匹
 の牡羊立をり之に
 二の角ありてその
 角共に長かりしが
 一の角はその他
 の角より長かりき
 一の長き者は後
 に長たるなり4
 我觀しにその牡
 羊西南にむかひ
 て牴觸りけるが
 之に敵ることを
 得る獸一匹も
 無くまたその手
 より救ひいだす
 ことを得る者
 絶てあらざり
 き是はその意
 にまかせて事
 をなしその勢
 威はなほだ
 盛なりき5我
 これを考へ見
 つちありける
 に一匹の牡山
 羊全地の上を
 飛わたりて西
 より來りしが
 その足は土を
 履ざりきこの
 牡山羊は目の
 間に著明しき

一の角ありき6
 此者さきに我が
 河の上立るを見
 たる彼の二の角
 ある牡羊に向ひ
 來り熾盛なる力
 をもて之の所に
 跑いたりけるが
 7我觀てあるに
 牡羊に近づくに
 至りて之にむか
 ひて怒を發し牡
 羊を撃て之の二
 の角を碎きたる
 に牡羊にはその
 敵る力なかり
 ければこれを地
 に打倒して踏つ
 けたり然るに
 その牡羊をこれ
 が手より救ひ得
 る者あらざり
 き8而してその
 牡山羊甚だ大き
 くなりけるが
 その盛なる時に
 いたりてかの
 大なる角折れ
 その時に四の著
 明しき角生じて
 四方に對へり
 9またその角の
 一よりして一の
 小き角いでき
 たり南にむかひ
 東にむかひ美地
 にむかひて甚だ
 大きくなり10
 天軍におよぶ
 までに高くなり
 その星と星數
 萬を地に投くだ
 してこれを踏つ
 け11また自ら
 高ぶりてその
 軍の主を敵し
 その常供の物を
 取のぞきかつ
 その聖所を毀て
 り12一軍罪の
 故によりて常
 供の物とともに
 棄られたり彼
 者はまた眞理
 を地に擲ち事
 をなしてその
 意志を得たり
 13かくて我聞
 に一箇の聖者語
 ひをりしが又一
 箇の聖者あり
 てその語ひを
 る聖者にむか
 ひて言ふ常供
 の物と荒廢を
 來らする罪と
 つきて異象に
 あらはれたる
 ところの事聖
 所とその軍と
 の棄れて踏つ
 ける事は何時
 まで斯てある
 べきかと14
 彼すなはち我
 に言けるは二
 千三百の朝夕
 をかさぬまで
 斯てあらん而
 して聖所は潔
 めらるべし15
 我ダニエル
 この異象を見て
 その意義を知
 んと求めをり
 ける時人のご
 とく見ゆる者
 わが前に立り
 16時に我聞に
 ウライ河の兩岸
 の間より人の
 聲出て呼はり
 て言ふガブリ
 エルよこの異
 象をその人に
 曉らしめよと
 17彼すなは
 ち我の立る所
 にきたりしが
 その到れる時
 に我おそれて
 仆れ伏するに
 彼われに言ける
 は人の子よ
 曉れ此異象は
 終の時にかか
 はる者なりと
 18彼の我に
 語ひける時我
 は氣を喪へる
 状にて地に俯
 伏をりしが彼
 我に手をつけて
 我を立せ言
 けるは19
 視よ我忿怒の
 終に起らんと
 ころの事を
 汝に告げん
 此事は終末の
 期におよび
 てあらん20
 汝が見たる
 かの二の角
 ある牡羊は
 メデアとベル
 シヤの王なり
 21またかの
 牡山羊はギリ
 シヤの王その
 目の間の
 大なる角は
 その第一の
 王なり22
 またその角
 をれてその代
 に四の角生じ
 たらばその
 民よりして
 四の國おこ
 らん然だ第一
 の者の權勢
 には及ばざる
 なり23
 彼らの國の
 末にいたり
 罪人の罪貫盈
 におよびて
 一人の王お
 こらんその
 顔は猛惡に
 して巧に詭
 譎を言ひ24
 その權勢は
 熾盛なるん
 但し自己の
 能力をもて
 之を致すに
 非ずその毀
 滅ことを爲
 するは常
 ならず意志
 を得て事を
 爲し權能
 ある者等と
 聖民とを滅
 さん25
 彼は機巧
 をもて詭譎
 をその手に
 行ひ遂げ
 心にみづか
 ら高ぶり平
 和の時
 に衆多の人
 を打滅しま
 した君の君
 たる者に敵
 せん然だ終
 には人手に
 よらずして
 滅されん26
 前に告たる
 朝夕の異
 象は眞實なり
 汝その異
 象の事を秘
 しおけ是は
 衆多の日の
 後に有べき
 事なり27
 是において
 わダニエル
 疲れはて
 數日の間
 病づらひ
 後興いで
 て王の事務
 をおこなへ
 り我はこの
 異象の事を
 案ひて駭け
 り人もまた
 こ

れを暁ることを得ざりき

Chapter 9

1メデア人アハシユエロスの子ダリヨスがカルデア人の王とせられしその元年2すなはちその世の元年に我ダニエル、アホバの言の預言者アレミヤにのぞみて告たるその年の數を書によりて暁れり即ちその言にエルサレムは荒て七十年を経んとあり3是にかいて我面を主アホバに向け斷食をなし麻の衣を着灰を蒙り祈りかつ願ひて求むることをせり4即ち我わが神アホバに祈り懺悔して言り嗚呼大にして畏るべき神なる主自己を愛し自己の誠命を守る者のために契約を保ち之に恩恵を施したまふ者よ5我等は罪を犯し悖れる事を爲し惡を行ひ叛逆を爲して汝の誠命と律法を離れたり6我等はまた汝の僕なる預言者等が汝の名をもて我らの王等君等先祖等および全國の民に告たる所に聽したがはざりしなり7主よ公義は汝に歸し羞辱は我らに歸せりその状今日のごとし即ちユダの人々エルサレムの居民およびイスラエルの全家の者は近き者も遠き者も皆汝の逐やりたまひし諸の國々にて羞辱を蒙れり是は彼らが汝に背きて獲たる罪によりて然るなり8主よ羞辱は我儕に歸し我らの王等君等および先祖等に歸すは我儕なんぢに向ひて罪を犯したればなり9憐憫と教宥は主たる我らの神の裏にあり其は我らこれに叛きたればなり10我らはまた我らの神アホバの言に遵はずアホバがその僕なる預言者等によりて我らの前に設けたまひし律法を行はざりしなり11抑イスラエルの人は皆汝の律法を犯し離れさりて汝の言に遵はざりき是をもて神の僕モーセの律法に記したる呪詛と誓詞我らの上に斟ぎかかれり是は我らこれに罪を獲たればなり12即ち神は大なる災害を我らに蒙らせたまひてその前に我らと我らを鞠ける士師とにむかひて宣ひし言を行ひとげたまへりかのエルサレムに臨みたる事の如きは普天の下に未だ曾て有ざりしなり13モーセの律法に記したる如くにこの災害すべて我らに臨みしかども我らはその神アホバの面を和めんとも爲ずその惡を離れて汝の眞理を暁らんとも爲ざりき14是をもてアホバ心にかけて災害を我らに降したまへり我らの神アホバは何事をなしたまふも凡て公義いますなり然るに我らはその言に遵はざりき15主たる我らの神よ汝は強き手をもて汝の民をエジプトの地より導き出して今日のごとく汝の名を揚たまふ我らは罪を犯し惡き事を行へり16主よ願くは汝がはまで公義き御行爲を爲たまひし如く汝の邑エルサレム汝の聖山より汝の忿怒と憤恨を取離し給へ其は我らの罪と我らの先祖の惡のためにエルサレムと汝の民は我らの周圍の者の笑柄となりたればなり17然ば我らの神よ僕の禱と願を聽たまへ汝は主にいませばかの荒を汝の聖所に汝の面を耀かせたまへ18我神よ耳を傾けて聽たまへ目を啓きて我ら

の荒蕪たる状を觀汝の名をもて稱へらるる邑を觀たまへ我らが汝の前に祈禱をたてまつるは自己の公義によるに非ず唯なんぢの大なる憐憫によるなり19主よ聽いたたまへ主よ赦したまへ主よ聽いれて行かたまへこの事を遠くしたまふなかれわが神よ汝みづからのために之をなしたまへ其は汝の邑と汝の民は汝の名をもて稱へらるればなり20我かく言て祈りかつわが罪とわが民イスラエルの罪を懺悔し我神の聖山の事につきてわが神アホバのまへに願をたてまつりをする時21即ち我祈禱の言をのべをする時我が初に異象の中に見たるかの人ガブリエル迅速に飛て晩の祭物を獻ぐる頃我許に達し22我に告げ我に語りて言けるはダニエルよ今我なんぢを教へて了解を得せしめんとて出きたれり23汝が祈禱を始むるに方りて我言を受たれば之を汝に示さんとて來れり汝は大に愛せらるる者なり此言を了りその現れたる事の義を暁れ24汝の民と汝の聖邑のために七十週を定めおかりてして惡を抑へ罪を封じ愆を贖ひ永遠の義を携へ入り異象と預言を封じ至聖者に膏を灌がん25汝暁り知べしエルサレムを建なほせといふ命令の出づるよりメッシャたる君の起るまでに七週と六十二週ありその街と石垣とは擾亂の間に建なほされん26その六十二週の後メッシャ絶れん但し是は自己のために非ざるなりまた一人の君の民きたりて邑と聖所とを毀たんとす其は洪水に由れる如くなるべし戰爭の終るまでに荒蕪すに極る27彼一週の間衆多の者と固く契約を結ばん而して彼その週の半に犠牲と供物を廢せんまた殘暴可惡者羽翼の上に立たん斯てつひにその定まれる災害殘暴る者の上に斟ぎくだらん

Chapter 10

1ベルシヤの王クロスの三年にベルテシヤザルといふダニエルの事の黙旨を得たるがその事は眞實にしてその戰爭は大なり彼その事を暁りその示現の義を曉れり2當時我ダニエル三七日の間哀めり3即ち三七日の全く満るまでは旨き物を食ず肉と酒とを口にいれずまた身に膏油を抹ざりき4正月の二十四日に我ヒデケルといふ大河の邊に在りて目を擧て望觀しに箇の人ありて布の衣を衣ウバスの金の帯を腰にしめをり6その體は黄金色の玉のごとくその面は電光の如くその目は火の焰のごとくその手とその足の色は磨ける銅のごとくその言ふ聲は群衆の聲の如し7この示現は唯我ダニエル一人これを觀たり我と偕なる人々は此の示現を見ざりしが何となくその身大に慄きて逃かくれたり8故に我ひとり遺りたるがこの大なる示現を觀るにおよびて力ぬけさり顔色まつたく變りて毫も力なかりき9我その語く聲を聞けるがその語く聲を聞る時我は氣を喪へる狀にて俯伏し面を土につくめたりしに10一手ありて我に捫りければ我戦ひながら跪きて手をつきたるに11彼われに言

けるは愛せらるる人ダニエルよ我が汝に告る言を暁れよ汝まづ起あがれ我は今汝の許に遣されたるなりと彼がこの言を我に告る時に我は戦ひて立り12彼すなはち我に言けるはダニエルよ懼るる勿れ汝が心をこめて悟らんとし汝の神の前に身をなやませるその初の日よりして汝の言はずでに聽れたれば我汝の言によりて來れり13然るにベルシヤの國の君二十一日の間わが前に立塞がりけるが長たる君の一なるミカエル來りて我を助けたれば我勝留りてベルシヤの王等の傍にをる14我は末の日に汝の民に臨まんとするところの事を汝に暁らせんとて來れりまた後の日に關はる所の異象ありと15かれは等の言を我に宣たる時に我は面を土につけて居り辭を措ところ無りしが16人の子のごとき者わが唇に捫りければ我すなはち口を開きわが前に立る者に陳て言り我主よこの示現によりて我は畏怖にたへず全力を失へり17此わが主の僕いかでか此わが主と語ふことを得んよその時は我まつたく力を失ひて氣息も止らんばかりなりしが18人の形のごとき者ふたたび我に捫り我に力をつけて19言けるは愛せらるる人よ懼るる勿れ安んぜよ心強かれ心強かれと斯われに言ければ我力づきて曰り我主よ語りたまへ汝われに力をつけたまへりと20彼われに言けるは汝は我が何のために汝に臨めるかを知るや我今また歸りゆきてベルシヤの君と戦はんとす我が出行ん後にギリシヤの君きたらん21但し我まつ眞實の書に記されたる所を汝に示すべし我を助けて彼らに敵る者は汝らの君ミカエルのみ

Chapter 11

1我はまたメデア人ダリヨスの元年にかれを助け彼に力をそへたる事ありしなり2我いま眞實を汝に示さん視よ此後ベルシヤに三人の王興らんその第四の者は富ること一切の者に勝りその富強の大なるを待みて一切を激發してギリシヤの國を攻ん3また一箇の強き王おこり大なる威權を振ふて世を治めその意のままに事を爲ん4但し彼の正に旺盛なる時にその國は破裂して天の四方に分れん其は彼の兒孫に歸せず又かれの振ひしほどの威權あらず即ち彼の國は抜とられて是等の外なる者等に歸せん5南の王は強からん然どその大臣の一人これに逾て強くなり威權を振はんその威權は大なる威權なるべし6年を経て後彼等相結ばん即ち南の王の女子北の王に適て和好を圖らん然どその腕は力なしまたその王およびその腕は立ことを得じこの女とこれを導ける者とこれを生せたる者とこれに力をつけたる者はみな時におよびて付されん7斯て後この女の根より出たる芽興りて之に代り北の王の軍勢にむかひて來りこれが城に打いりて之を攻て勝を得8之が神々鑄像および金銀の貴き器具をエジプトに携へさらん彼は北の王の上に立て年を重ねん9彼南の王の國に打入

ことあらん然ど自己の國に退くべし10その子等また憤激して許多の大軍を聚め進みきたり溢れて往來しその城まで攻寄せん11是において南の王大に怒り出きたりて北の王と戦ふべし彼大軍を興してこれに當らん然れどもその軍兵はこれが手に付されん12大軍すなはち興りて彼心に高ぶり數萬人を仆さん然れどもその勢力はこれがために増さじ13また北の王は退きて初よりも大なる軍兵を興し或時すなはち或年數を経てかならず大兵を率ゐ莫大の輜重を備へて攻來らん14是時にあたりて衆多の者興りて南の王に敵せん又なんぢの民の中の奸惡人等みづから高ぶりて事を爲しつひに預言をして應ぜしめん即ち彼らは自らをべし15茲に北の王襲ひきたり壘を築きて堅城を攻おとさん南の王の腕はこれに當ることを得じ又その撰抜の民もこれに當る力なかるべし16之に攻きたる者はその意に任せて事をなさんその前に立ことを得る者なかるべし彼は美しき地に到らんその地はこれがために荒さるべし17彼その全國の力を盡して打入んとその面をこれに向べけれどまたこれと和好をなして婦人の女子を之に與へん然るにその婦人の女子は之のために身を滅すなり何事を成もたはす毫も彼のために益する所なかるべし18彼またその面を烏々にむけて之を多く取らん茲に一人の大將ありて彼が與へたる恥辱を雪ぎその恥辱をかれの身に與へかへさん19かくて彼その面を自己の國の城々に向て終に躡き伏れて亡ん20彼に代りて興る者は榮光の國に人を出して租税を征斂しめん但し彼は忿怒にも戰鬥にもよらずして數日の内に滅亡せん21また之にかはりて起る者は賤まるる者にして國の尊榮これに歸せざらん然れども彼不意に來り巧言をもて國を獲ん22洪水のごとき軍勢かれのために押流されて敗れん契約の君たる者も然らん23彼は之に契約をむすびて後詭計を行ひ上りきたりて僅少の民をもて勢を得ん24すなはち不意にきたりてその國の膏腴なる處に攻りりその父もその父の父も爲ざりしところの事を行はん彼はその奪ひたる物掠めたる物および財寶を衆人の中に散すべし彼は謀略をめぐらして堅固なる城々を攻取べし時の至るまで斯のごとくならん25彼はその勢力を奮ひ心を勵まし大軍を率ゐて南の王に攻よせん南の王もまた自ら奮ひ甚だ大なる強き軍勢をもて迎へ戦はん然ど謀略をめぐらして彼が故にこれに當ることを得ざるべし26すなはち彼の珍膳に與り食ふ者彼を倒さんその軍兵溢れん打死する者衆かるべし27此二人の王は書をなさんと心にはかり同席に共に食して詭計を言ん然どもその志ならざるべし定まれる時のいたる迄は其事終らじ28彼は莫大の財寶をもちて自己の國に歸らん彼は聖約に敵する心を懷きて事をなし而してその國にかへらん29定まれる時にいたりて彼また進みて南に到らん然ど彼の模様は先の模様のごとくならざらん30即ちキツテムの船かれに到るべければ

彼力をおとして還り聖約にむかひて忿怒をもらして事をなさん而して彼歸りゆき聖約を棄る者と相謀らん 31 彼より腕おこりて聖所すなはち聖城を汚し常供の物を撤除かせかつ殘暴可惡者を立ん 32 彼はまた契約に關て罪を獲る者等を巧言をもて引誘して背かせん然どその神を知る人々は力ありて事をなさん 33 民の中の穎悟者ども衆多の人を教ふるあらん然ながら彼らは暫時の間刃にかかり火にやかれ擲はれ掠められ等して仆れん 34 その仆る時にあたりて彼らは少しく扶助を獲ん又衆多の人詐りて彼らに合せん 35 また穎悟者等の中にも仆る者あらん斯のごとく彼らの中に試むる事淨むる事潔よくする事おこなはれて終る時にいたらん即ち定まれる時まで終るべし 36 此王その意のままに事をおこなひ萬の神に逾て自己を高くし自己を大にし神々の神たる者にむかひて大言を吐き等して忿怒の息む時までその志を得ん其はその定まれるところの事成ざるべからざればなり 37 彼はその先祖の神々を顧みず婦女の愉快を思はずまた何の神をも顧みざらん其は彼一切に逾て自己を大にすればなり 38 彼は之の代に軍神を崇め金銀珠玉および寶物をもてその先祖等の識ざりし神を崇めん 39 彼はこの異邦の神に由り要害の城々にむかひて事を爲ん凡て彼を尊ぶ者には彼加ふるに榮を以てし之をして衆多の人を治めしめ土地をこれに分ち與へて賞賜とせん 40 終る時にいたりて南の王彼と戦はん北の王は車と馬と衆多の船をもて大風のごとく之に攻寄せ國に打いりて潮のごとく溢れ渉らん 41 彼はまた美しき國に進み入ん彼のために亡ぶる者多かるべし然どエドム、モアブ、アンモン人の中の第一なる者などは彼の手を免かれん 42 彼國々にその手を伸さんエジプトの地も免かれがたし 43 彼は遂にエジプトの金銀財寶を手に入れんリブア人とエテオピア人は彼の後に従はん 44 彼東と北より報知を得て周章たためき許多の人を滅し絶んと大に忿りて出ゆかん 45 彼は海の間において美しき聖山に天幕の宮殿をしつらはん然ど彼つひにその終にいたらん之を助くる者なかるべし

Chapter 12

1 その時汝の民の人々のために立ところの大なる君ミカエル起あがらん是艱難の時なり國ありてより以來その時にいたるまで斯る艱難ありし事なかるべしその時汝の民は救はれん即ち書にしるされたる者はみな救はれん 2 また地の下に睡りてる者の中衆多の者目を醒さんその中永生を得る者ありまた恥辱を蒙りて限なく羞る者あるべし 3 穎悟者は空の光輝のごとくに耀かんまた衆多の人を義に導ける者は星のごとくなりて永遠にいたらん 4 ダニエルよ終末の時まで此言を秘し此書を封じおけ衆多の者跋渉らん而して知識増べしと 5 茲に我ダニエル觀に別にまた二箇の者ありて一箇は河の此旁の岸にあり

一箇は河の彼旁の岸にありけるが 6 その一箇の者がかの布の衣を衣て河の水の上に立る人にむかひて言ひ此奇跡は何の時にいたりて終るべきやと 7 我聞にかの布の衣を衣て河の水の上に立る人天にむかひてその右の手と左の手を擧げ永久に生る者を指て誓ひて言ひその間は一時と二時と半時なり聖民の手の碎くること終らん時に是等の事みな終るべしと 8 我聞たれども曉ることを得ざりき我また言ひわが主よ是等の事の終は何ぞやと 9 彼いひけるはダニエルよ往け此言は終極の時まで秘しかつ封じ置るべし 10 衆多の者淨められ潔よくせられ試みられん然ど惡き者は惡き事を行はん惡き者は一人も曉ること無るべし然ど穎悟者は曉るべし 11 常供の者を除き殘暴可惡者を立ん時よりして一千二百九十日あらん 12 待をりて一千三百三十五日に至る者は幸福なり 13 汝終りに進み行け汝は安息に入り日の終りに至り起て汝の分を享ん

ホセア書

Chapter 1

1 これユダの王ウジヤ、ヨタム、アハズ、ヒゼキヤの世イスラエルの王ヨアシの子アラバエムの世にペエリの子ホセアに臨めるエホバの言なり 2 エホバはじめホセアによりて語りたまへる時エホバ、ホセアに宣はく汝ゆきて淫行の婦人を娶り淫行の子等を取れこの國エホバに遠ざかりてはなはだしき淫行をなせばなり 3 是において彼ゆきてデブライムの女子ゴメルを妻に娶りけるがその婦はらみて男子を産り 4 エホバまた彼にいひ給ひけるは汝その名をエズレルと名くべし暫時ありて我エズレルの血をエヒウの家に報いイスラエルの家の國をほろぼすべければなり 5 その日われエズレルの谷にてイスラエルの弓を折べしと 6 ゴメルまた孕みて女子を産ければエホバ、ホセアに言たまひけるは汝その名をロルマハ(憐まれぬ者)と名くべしそは我もはやイスラエルの家をあはれみて赦すが如きことを爲ざるべければなり 7 然どわれユダの家をあはれまんその神エホバによりて之をすくはん我は弓劍戰車馬騎兵などによりてすくふことをせじ 8 ロルマハ乳をやめゴメルまた孕みて男子を産けるに 9 エホバ言たまひけるはその子の名をロアンミ(吾民に非ざる者)と名くべし其は汝らは吾民にあらず我は汝らの神に非ざればなり 10 然どイスラエルの子孫の数は濱の沙石のごとくに成ゆきて量ることも數ふる事も爲しがたく前になんぢらわが民にあらずとされしその處にて汝らは活神の子なりと言れんとす 11 斯てユダの子孫とイスラエルの子孫は共に集り一人の首をたててその地より上り來らん エズレルの日は大なるべし

Chapter 2

1 汝らの兄弟に向ひてはアンミ(わが民)と言ひ汝らの姉妹にむかひてはルハマ(憐まるる者)と言へ 2 なんぢらの母とあげつらへ論辨ふことをせよ彼はわが妻にあらず我はかれの夫にあらざるなりなんぢら斯てかれにその面より淫行を除かせその乳房の間より姦淫をのぞかしめよ 3 然らざれば我かれを剥て赤體にしその生れいでたる日のごとくにまた荒野のごとくならしめ潤ひなき地のごとくならしめ湯によりて死しめん 4 我その子等を憐まじ淫行の子等なればなり 5 かれらの母は淫行をなせりかれらを生る者は恥べき事をおこなへり蓋かれいへる言あり我はわが戀人等につきしがはん彼らはわがパンわが水わが羊毛わが麻わが油わが飲物などを我に與ふるなりと 6 この故にわれ荊棘をもてなんぢの路をふさぎ垣をたてて彼にその徑をえざらしむべし 7 彼はその戀人たちの後をしたひゆけども追及ことなく之をたづぬれども遇ことなし是において彼いはん我ゆきてわが前の夫にかへるべしかのときのわが状態は今にまさりて善りきと 8 彼が得る穀物と酒と油はわが與ふるところ彼がバアルのために用ゐたる金銀はわが彼に増あたへたるところなるを彼はしらざるなり 9 これによりて我わが穀物をその時におよびて奪ひわが酒をその季にいたりてうばひ又かれの裸體をおほふに用ゆべきわが羊毛およびわが麻をとらん 10 今われかれの恥るところをその戀人等の目のまへに露すべし彼をわが手より救ふものあらじ 11 我かれがすべての喜樂すなはち祝筵新月のいはひ安息日および一切の節會をして息しめん 12 また彼の葡萄の樹と無花果樹をそこなはん彼さきに此等をさしてわが戀人の我にあたへし賞賜なりと言しがわれこれを林となし野の獸をしてくらはしめん 13 われかれが耳環頸玉などを掛てその戀人らをしたひゆき我をわすれ香をたきて事へしもろもろのバアルの日のゆゑをもてその罪を罰せん エホバかく言たまふ 14 斯がゆゑに我かれを誘ひて荒野にみちびきいり終にかれの心をなぐさめ 15 かしこを出るや直ちにわれかれにその葡萄園を與へアコル(艱難)の谷を望の門となしてあたへん彼はわかかりし時のごとくエジプトの國より上りきたりし時のごとくかしこにて歌うたはん 16 エホバ言たまふその日にはなんぢ我をふたたびバアリとよばずしてイシ(吾夫)とよばん 17 我もろもろのバアルの名をかれが口よりとりぞき重ねてその名を世に記憶せらるること無らしめん 18 その日には我かれら(我民)のために野の獸そらの鳥および地の昆蟲と誓約をむすびまた弓箭ををり戰爭を全世界よりぞき彼らをしてあらかに居しむべし 19 われ汝をめとりて永遠にいたらん公義と公平と寵愛と憐憫とをもてなんぢを娶り 20 かはることなき眞實をもて汝をめとるべし汝エホバをしらん 21 エホバいひ給ふその日

われ應へん我は天にこたへ天は地にこたへ 22 地は穀物と酒と油とに應へまた是等のものはエズレルに應へん 23 我わがためにかれを地にまき憐まれざりし者をあはれみわが民ならざりし者にむかひて汝はわが民なりといはんかれらは我にむかひて汝はわが神なりといはん

Chapter 3

1 エホバわれに言給ひけるは汝ふたたび往てエホバに愛せらるれども轉りてほかのもろもろの神にむかひ葡萄の菓子愛するイスラエルの子孫のごとくそのつれそふものに愛せらるれども姦淫をおこなふ婦人をあいせよ 2 われ銀十五枚おほむぎ一ホメル半をもてわが爲にその婦人をえたり 3 我これにいひけるは汝おほくの日わがためにとどまりて淫行をなすことなく他人にゆくことなかれ 我もまた汝にむかひて然せん 4 イスラエルの子輩は多くの日王なく君なく犠牲なく表柱なくエホデなくテラビムなくして居らん 5 その後イスラエルの子輩はかへりてその神エホバとそその王ダビデをたづねとも末日にをのきてエホバとその恩恵とにむかひてゆかん

Chapter 4

1 イスラエルの子輩よエホバの言を聽けエホバこの地に住る者と争辨たまふ其は此地には誠實なく愛情なく神を知る事なければなり 2 ただ詛偽凶殺姦淫のみにして互に相襲ひ血血につぎ流る 3 このゆゑにその地うれひにしづみ之にすむものはみな野のけもの空のとりとともにおとろへ海の魚もまた絶てん 4 されど何人もあらそふべからずいましむ可らず汝の民は祭司と争ふ者の如くなれり 5 汝は畫つまつき汝と偕なる預言者は夜つまつかん我なんぢの母を亡すべし 6 わが民は知識なきによりて亡せるなんぢ知識を棄つによりて我もまた汝を棄ててわが祭司たらしめじ汝おのが神の律法を忘るるによりて我もなんぢの子等を忘れん 7 彼らは大なるにしたがひてますます我に罪を犯せば我かれらの榮を辱に變ん 8 彼らはわが民の罪をくらひ心をかたむけてその罪ををかすを願へり 9 このゆゑに民の遇ふところは祭司もまた同じわれその途をかれらにきたらせその行爲をもて之にむくゆべし 10 かれらは食へども飽す淫行をなせどもその數まさすその心をエホバにとむることを止ればなり 11 淫行と酒と新しき酒はその人の心をつばふ 12 わが民木にむかひて事をとふその杖かれらに事をしめす是かれら淫行の靈にまよはされその神の下を離れて淫行を爲すなり 13 彼らは山々の巔にて犠牲を献け岡の上にて香を焚き橡樹楊樹栗樹の下にてこの事をおこなふ此はその樹蔭の美しきによりてなりここをもてなんぢらの女子は淫行をなしなんぢらの兒婦は姦淫をおこなふ 14 我なんぢらのむすめ淫行をなせども罰せずなん

ぢらの兒婦かんいんをおこなへども刑せじ其はなんぢらもみづから離れゆきて妓女とともに居り淫婦とともに献物をそなふればなり悟らざる民はほろぶべし 15 イスラエルよ汝淫行をなすともユダに罪を犯さす勿れギルガルに往なかれベテアベンに上なかれエホバは活くと曰て誓ふなかれ 16 イスラエルは頑強なる牛のごとくに頑強なり今エホバ悉羊をひろき野にはなてが如くして之を牧はん 17 エフライムは偶像にむすびつらなれりその爲にまかせよ 18 かれらの酒はくされかれらの淫行はやまずかれらの楯となるべき者等は恥を愛しいたく之を愛せり 19 かれは風の翼につつまれかれらはその禮物によりて恥辱をかうむらん

Chapter 5

1 祭司等よこれを聴けイスラエルの家よ耳をかたむけよ 王のいへよ之にこころを注よ さばきは汝等にのぞまんそは我らはミズバに設くる罾トボルに張れる網のごとくなればなり 2 悖逆者はふかく罪にしつみたり我かれらをこごとく懲しめん 3 我はエフライムを知るイスラエルはわれに隠るるところ無しエフライムよなんぢ今すでに淫行をなせりイスラエルはすでに汚れたり 4 かれらの行爲かれらをしてその神に歸ること能はざらしむそは淫行の靈その衷にありてエホバを知ることなければなり 5 イスラエルの驕傲はその面にむかひて證をなしその罪によりてイスラエルとエフライムは併れユダもまた之とともにたふれん 6 かれらは羊のむれ牛の群をたづさへ往てエホバを尋ね求めん然どあふことあらじエホバ既にかれらより離れ給ひたればなり 7 かれらエホバにむかひ貞操を守らずして他人の子を産り新月かれらとその産業とをともに滅さん 8 なんぢらギベアにて角をふきラマにてラッパを吹ならしベテアベンにて呼はりて言へベニヤミンよなんぢの後にありと 9 罰せらるる日にエフライムは荒廢れん我イスラエルの支派の中にならず有べきことを示せり 10 ユダの牧伯等は境界をうつすものごとくなれり我わが震怒を水のごとくに彼らのうへに斟かん 11 エフライムは甘んじて人のさだめたるところに従ひあゆむがゆゑに鞫をうけて虐げられ圧られん 12 われエフライムには蠱のごとくユダの家には腐朽のごとし 13 エフライムおのれに病あるを見ユダおのれに傷あるをみたり斯てエフライムはアツスリヤに往きヤレブ王に人をつかはしたれど彼はなんぢらを醫すことをえず又なんぢらの傷をのぞきさるることを得ざるべし 14 われエフライムには獅子のごとくユダの家にはわかき獅子のごとし我もし我は抓撻せり掠めゆけども救ふ者なかるべし 15 我ふたたびわが處にかへりゆき彼らがその罪をくいてひたすらわが面をたづね求むるまで其處にをらん彼らは艱難によりて我をたづねもとむるこ

とをせん

Chapter 6

1 來れわれらエホバにかへるべしエホバわれらを抓撻たまひたれどもまた醫すことをなし我儕をうち給ひたれどもまたその傷をつむむことを爲したまふ可ればなり 2 エホバは二日ののちわれらむ活かへし三日にわれらを起せたまはん 我らその前にて生ん 3 この故にわれらエホバをしるべし切にエホバを知ること求むべしエホバは最光のごとく必ずあらはれいで雨のごとくわれらにのぞみ後の雨のごとく地をうるほし給ふ 4 エフライムよ我なんぢに何をなさんやユダよ我なんぢに何をなさんやなんぢの愛情はあしたの雲のごとくまたただちにきゆる露のごとし 5 このゆゑにわれ預言者等をもてかれらを撃ちわが口の言をもてかれらえを殺せりわが審判はあらはれいつる光明のごとし 6 われは愛情をよるごびて犠牲をよるこぼす神をしるを悦ぶこと燔祭にまさり 7 然るに彼らはアダムのごとく誓をやぶりかしこにて不義をわれにおこなへり 8 ギレアデは惡をおこなふもの邑にして血の足跡そのなかに偏し 9 祭司のともがらは山賊の群のごとく伏伺して人をこそすなむシケムに往く大路にて人をこそす彼等はかくのごとき惡きことをおこなへり 10 われイスラエルのいへに憎むべきことあるを見たりかの處にてエフライムは淫をおこなふイスラエルは汚れたり 11 ユダよ我わが民の俘囚をかへさんときまた汝のためにも種刈をそなへん

Chapter 7

1 われイスラエルを醫さんときエフライムの愆とサムリヤのおしきわざと露るかれらは詐詭をおこなひ内には偷盜いるあり外には山賊のむれ掠めさるあり 2 かれら心にわがその一切の惡をしたためたることを思はず今その行爲はかれらを圍みふさぎて皆わが目前にあり 3 かれらはその惡をもて王を悦ばせその詐詭をもてるもろの牧伯を悦ばせり 4 かれらはみな姦淫をおこなふ者にしてパンを作るものに焼るの爐のごとし捏粉をこねてその發酵ときまでしばらく火をおこすことをせざるのみなり 5 われらの王の日にともろの牧伯は酒の熱によりて疾し王は嘲るものとともに手を伸ぶ 6 かれら伏伺するほどに心を爐のごとくして備をなすそのパンを焼くものは終夜ねむりにつき朝におよべばまた焔のごとく燃ゆ 7 かれらはみな爐のごとくに熱しその審士をやくそのもろの王はみな仆るかれらの中には我をよぶもの一人だになし 8 エフライムは異邦人にいりまじるエフライムはかへさざる饅餅となれり 9 かれは他邦人らにその力をのまるれども之をしらず白髪その身に雜り生れどもこれをさとらず 10 イスラエルの驕傲はそ

の面にむかひて證をなすかれらは此もろの事あれどもその神エホバに歸ることをせず又もとむることをせざるなり 11 エフライムは智慧なくして愚なる鴿のごとし彼等はエジプトにむかひて呼求めたアツスリヤに往く 12 我かれらの往ときわが網をその上にはりて天空の鳥のごとくに引墮し前にその公會に告しごとくかれらを懲しめん 13 禍なるかなかれらは我をはなれて迷ひいでたり敗壞かれらにきたらんかれらは我にむかひて罪ををかしたり我かれらを贖はんとおもへどもかれら我にさからひて謊言をいへり 14 かれら誠心をもて我をよばず唯咻にありて哀號べりかれらは穀物とあたらしき酒のゆゑをもて相集りかつわれに逆らふ 15 我かれらを教へその腕をつよくせしかども彼らはわれにもとりて惡きことを謀る 16 かれらは歸るされども至高者にかへらず彼らはたのみがたき弓のごとし彼らのもろの牧伯はその舌のあらき言によりて劍にたふれん彼らは之がためにエジプトの國にて嘲笑をうくべし

Chapter 8

1 ラッパをなんぢの口にあてよ敵は驚のごとくエホバの家にのぞめりこの民わが契約をやぶりわが律法を犯しにやる 2 かれら我にむかひてわが神よわれらイスラエルはなんぢを知れりと呼ばん 3 イスラエルは善をいみきらへり敵これを追ん 4 かれら王をたてたり然れども我により立しにあらざれら牧伯をたてたり然れども我がしらざるどころなり彼らまたその金銀をもて己がために偶像をつくれりその造れるは毀ちすてられんが爲にせしにことならず 5 サマリヤよなんぢの犢は忌きらふべきものなりわが怒かれらにむかひて燃ゆかれら何れの時にか罪なきにいたらん 6 この犢はイスラエルより出づ匠人のつくれる者にして神にあらざサムリヤの犢はくだけて粉とならん 7 かれらは風をまきて狂風をかりとらん種とこころは生れる穀物なくその穂はみのらざるべしとひ實とも他邦人これを呑ん 8 イスラエルは既に呑れたり彼等いま列國の中において悦ばれざる器のごとく視めるなり 9 彼らは獨りし野の驢馬のごとくアツスリヤにゆけりエフライムは物を餓りて戀を得たり 10 かれら列國の民に物を餓りたりと雖も今われ彼等をつどへ集む彼らは諸侯伯の王に負せらるる重擔のために衰へ始めん 11 エフライムは多くの祭壇を造りて罪を犯すこの祭壇はかれらが罪に陥る階とはなれり 12 我かれらのために律法をしるして數件の箇條を示したれど彼らは反て之を異物とおもへり 13 かれらは我に献ふべき物を献ふれども只肉をそなへて己みづから之を食ふエホバは之を納たまはず今かれらの愆を覚え彼らの罪を罰したまはん彼らはエジプトに歸るべし 14 イスラエルは己が造主を忘れてもろの社廟を建てユダは塙をとりまはせる邑を多く増し加へたり

然どわれ火をその邑々におくりて諸の城を焼亡さん

Chapter 9

1 イスラエルよ異邦人のごとく喜びすさむ勿れなんぢ淫行をなして汝の神を離る汝すべての愛の打場にて賜はる淫行の賞賜を愛せり 2 打場と酒樽とはかれらを養はし亦あたらしき酒もむなくならん 3 かれらはエホバの地にとどまらずエフライムはエジプトに歸りアツスリヤにて汚穢たる物を食はん 4 彼等はエホバにむかひて酒を灌ぐべき者にあらざその祭物はエホバの悦びたまふ所にあらずかれらの犠牲は喪に居ものものパンのごとし凡てこれを食ふものは汚るべし彼等のパンは只おのが食ふためにのみ用ゐるべしエホバの家に入るべきにあらず 5 なんぢら集團の日とエホバの節會の日は何をなさんとするや 6 視よかれら滅亡の故によりて去ゆきぬエジプトかれらをあつめメンビスかれらを葬らん 7 荊藜かれらが銀の寶物を獲いばら彼らの天幕に蔓らん 7 刑罰の日きたり應報の日きたれりイスラエルこれを知ん預言者は愚なるもの靈に感じたるものは狂へるものなりこれ汝の惡おほく汝の怨恨おほいなるに因る 8 エフライムは我が神にならて他の神をも侍望めり預言者の一切の途は鳥を捕ふる者の網のごとく且その神の室の中にて怨恨を懐けり 9 かれらはギベアの日のごとく甚だしく惡き事を行へりエホバはその惡をこころに記てその罪を罰したまはん 10 在昔われイスラエルを見ること荒野の葡萄のごとく汝らの先祖等を見ること無花果樹の始にむすべる最先の果の如くなしに彼等はバルベアルにゆきて身を恥辱にゆだねその愛する物とともに憎むべき者とはなれり 11 エフライムの榮光は鳥のごとく飛さん 12 假令かれら子等を育つとも我その子を喪ひて遺る人なきにいたらしめん我が離る時かれらの禍大なる哉 13 われエフライムを美地に植てツロのごとくなししかどもエフライムはその子等を携へいだして人を殺すに付さんとす 14 エホバよ彼らに與へたまへ汝なにを與へんとしたまふや孕まざる胎と乳なき乳房とを與へたまへ 15 かれらが凡の惡はギルガルにあり此故に我かしこにて之を懲めりその行爲あしければ我が家より遠いだし重て愛することをせじその牧伯等はみな悖れる者なり 16 エフライムは撃れその根はかれて果を結ぶまじ若し産ことあらば我その胎なる愛しむ實を殺さん 17 かれら聽従はざるによりて我が神これを棄たまふべしかれらは列國民のうちに流離人とならん

Chapter 10

1 イスラエルは果をむすびて茂り榮る葡萄の樹その果の多くなるがままに祭壇をましその地の饒かなるがままに偶像を美しくせり 2 かれら

は二心をいだけり今かれら罪せらるべし神はその祭壇を打毀ちその偶像を折棄てたまはん 3 かれら今いふべし我儕神を畏れざりしに因て我らに王なしこの王はわれらのために何をかなさんと 4 かれらは虚しき言をいだし偽の誓をなして約をたつ審判は畑の畝にもえいづる茵蔕のごとし 5 サマリヤの居民はベテアベンの犢の故によりて戦慄かんその民とこれを悦ぶ祭司等はその榮のうせたるが爲になげ物 6 犢はアッスリヤに携へられ禮物としてヤレブ王に獻げらるべしエフライムは羞をかうむりイスラエルはおのが計議を恥ぢん 7 サマリヤはほろびその王は水のうへの木片のごとし 8 イスラエルの罪なるアベンの崇邱は荒てはて荆棘と蒺藜その壇のうへにはえ茂らんその時かれら山にむかひて我儕をおほへ陵にむかひて我儕のうへに倒れよといはん 9 イスラエルよ汝はギベアの日より罪ををかせり彼等はそこに立り邪惡のひとつとを攻たりし戦争は郭アベにてかれらに及ばざりき 10 我思ふままに彼等をいましめん彼等その二の罪につながらん時もろもろの民あつまりて之をせめん 11 エフライムは馴されたる牝牛のごとくにして穀をふむことを好むされどわれその美しき頸に物を負しむべし我エフライムに轆をかけんユダは耕しヤコブは土塊をくだかん 12 なんぢら義を生ずるために種をまき憐憫にしたがひてかりとり又新地をひらけ今はエホバを求むべき時なり終にはエホバきたりて義を雨のごとく汝等のうへに降せたまはん 13 なんぢらは惡をたがへし不義を穫をさめ虚偽の果をくらへりこは汝おのれの途をたのみ己が勇士の數衆きをたのめるに縁る 14 この故になんぢらの民のなかに擾亂おこりて汝らの城はことごとく打破られんシャルマンが戰鬥の日にベテアルベルを打破りしにことならず母その子とともに碎かれたり 15 なんぢらの大なる惡のゆゑによりてベテル如此なんぢらに行へるなりイスラエルの王はあしたに滅びん

Chapter 11

1 イスラエルの幼かりしとき我これを愛しぬ我わが子をエジプトより呼いだしたり 2 かれらは呼るるに隨ひていよいよその呼者に遠ざかり且もろもろのパアルに犠牲をささげ雕たる偶像に香を焚り 3 われエフライムに歩むことををしへ彼等をわが腕にのせて抱けり然どかれらは我にいやされたるをせず 4 われ人にもちゐる索すなはち愛のつなをもて彼等をひけり我がかれら待ふは轆をその腮より擧ぐるもののごとくにして彼等に食物をあたへたり 5 かれらはエジプトの地にかへらじ然どかれらがエホバに歸らざるによりてアッスリヤ人その王とならん 6 劍かれらの諸邑にまはりゆきてその關門をこぼち彼らをその謀計の故によりて滅さん 7 わが民はともすれば我にはなれんとする心あり人これを招きて上に在るものに屬しめんとすれども身

をおこすもの一人だになし 8 エフライムよ我いかで汝をすてんやイスラエルよ我いかで汝をわたさんや我いかで汝をアダマのごとくせんや争でなんぢをゼボイムのごとく爲んやわが心わが衷にかはりて我の愛憐ことごとく燃おこれり 9 我わが烈しき震怒をほどこすことをせじ我がさねてエフライムを滅すことをせじ我は人にあらず神なればなり我は汝のうちにいます聖者なりいかりをもて臨まじ 10 かれらは獅子の吼のごとくに聲を出したまふエホバに隨ひて歩まんエホバ聲を出したまへば子等は西より急ぎ來らん 11 かれらエジプトより鳥のごとくアッスリヤより鶉のごとくに急ぎ來らん我かれらをその家々に住はしむべし是エホバの聖言なり 12 エフライムは謊言をもてイスラエルの家は詐偽をもて我を圍めりユダは神と信ある聖者にとに屬きみつかずみ漂蕩をれり

Chapter 12

1 エフライムは風をくらひ東風をおひ日々に詐偽と暴逆とを増くはヘアッスリヤと契約を結び油をエジプトに餽れり 2 エホバはユダと争辨をなしたまふヤコブをその途にしたがひて罰しその行爲にしたがひて報いたまふ 3 ヤコブは胎にみし時その兄弟の踵をとらへまた己が力をもて神と角力あらそへり 4 かれは天の使と角力あらそひて勝ちなきて之に恩をもとめたり彼はベテルにて神にあへり其處にて神われらに語ひたまへり 5 これは萬軍の神エホバなりエホバは其記念の名なり 6 然ばなんぢの神にかへり矜恤と公義とをまもり恒になんぢの神を仰ぐべし 7 彼はカナン人(商賈)なりその手に詭詐の權衡をもち好であざむき取ことをなす 8 エフライムはいふ誠にわれは富る者となり我は身に財寶をえたり凡てわが勞したることの中に罪をうべき不義を見いだす者なかるべし 9 我エホバはエジプトの國をいでしより以來なんぢらの神なり我いまも尚なんぢを幕屋にすまはせて節會の日のごとくならしめん 10 我もろもろの預言者にかたり又これに益々おほく異象をしめしたり我もろもろの預言者に托して譬喩をまうく 11 ギレアデは不義なる者ならずや彼らは全く虚しかれらはギルガルにて牛を犠牲に獻ぐかれらの祭壇は圃の畝につみたる石の如し 12 ヤコブはアラムの野ににげゆけりイスラエルは妻を得んために人に事へ妻を得んために羊を牧へり 13 エホバー人の預言者をもてイスラエルをエジプトより導きいだし一人の預言者をもて之を護りたまへり 14 エフライムは怒を激ふるごとく極てはなはだしその主かれが流しし血をかれが上にとどめその恥辱をかれに歸らせたまはん

Chapter 13

1 エフライム言を出せば人をのけり彼はイスラエルのなかに己をたかうしパアルにより罪を犯して死

たりしが 2 今も尚ますます罪を犯しその銀をもて己のために像を鑄その機巧にしたがひて偶像を作る是みな工人の作なるなり彼らは之につきていふ犠牲を獻ぐる者はこの犢に吻を接べし 3 是によりて彼らは朝の雲のごとく速にきえうする露のごとく打場より大風に吹散さるる穀殻のごとく窓より出ゆく煙のごとくならん 4 されど我はエジプトの國をいでてより以來なんぢの神エホバなり爾われの外に神を知ことなし我のほかには救者なし 5 我さきに荒野にて水なき地にて爾を顧みたり 6 かれらは林場によりて食に飽き飽くによりてその心たかぶり是によりて我を忘れたり 7 斯るがゆゑに我かれらに對ひて獅子の如くなり途の傍にひそみうかがふ豹のごとくならん 8 われ子をうしなへる熊のごとく彼らに向ひてその心膜を裂き獅子の如くこれを食はん野の獸これを攔斷るべし 9 イスラエルよ汝の滅ぶるは我に背き汝を助くる者に背くが故なり 10 汝のもろもろの邑に汝を助くべき汝の王は今いづくにかあるなんぢらがその王と牧伯等とを我に與へよと言たりし士師等は今いづくにかある 11 われ忿怒をもて汝に王を與へ憤恨をもて之をうばひたり 12 エフライムの不義は包まれてありその罪はをさめたくはへられたり 13 劬勞にかかれる婦のかなしみ之に臨まん彼は愚なる子なり時に臨みてもなほ産門に入らず 14 我かれらを陰府の手より贖はん我かれらを死より贖はん死よなんぢの疾は何處にあるか陰府よなんぢの災は何處にあるか悔改はかくれて我が目みえず 15 彼は兄弟のなかにて果を結ぶこと多けれど東風吹きたりエホバの息荒野より吹おこらん之がためにその泉は乾その源は涸れんその積蓄へたるもろもろの寶貴器皿は掠め奪はるべし 16 サマリヤはその神にそむきたれば刑せられ劍に斃れんその嬰兒はなげくだかれその孕たる婦は割れん

Chapter 14

1 イスラエルよ汝の神エホバに歸れよ汝は不義のために仆れたり 2 汝ら言詞をたづさへ來りエホバに歸りていへ諸の不義は赦して善ところを受納れたまへ斯て我らは唇をもて牛のごとくに汝に獻げん 3 アッスリヤはわれらに授けり我らは馬に騎らじまたふたたび我儕みづからの手に作れる者にむかひわが神なりと言ひ孤兒は爾によりて憐憫を得べければなりと 4 我かれらの反逆を醫し悦びて之を愛せん我が怒はかれを離れ去たり 5 我イスラエルに對しては露のごとくならん彼は百合花のごとく花さきレバノンのごとく根をはらん 6 その枝は茂りひろがり其美麗は橄欖の樹のごとくその芬芳はレバノンのごとくならん 7 その蔭に住む者がへり來らんかれらは穀物の如く活かへり葡萄樹のごとく花さきその馨香はレバノンの酒のごとくなるべし 8 エフライムはいふ我また偶像と何のあづかる所あらんやと我これに應へ

たり我かれを顧みん我は蒼翠の松のごとし汝われより果を得ん 9 誰か智慧ある者ぞその人はこの事を曉らん誰か穎悟ある者ぞその人は之を知ん エホバの道は凡て直し義者は之を歩む然ど罪人は之に躓かん

ヨエル書

Chapter 1

1 ペトエルの子ヨエルに臨めるエホバの言 2 老たる人よ汝は是を聴けすべて此地に住む者汝ら耳を傾けよ汝らの世あるは汝らの先祖の世にも是のごとき事ありしや 3 汝ら之を子に語り子はまた之をその子に語りその子之を後の代に語りつたへよ 4 嚙くらふ蝗虫の遣せる者は群ある蝗虫のくらふ所となりその遣せる者はなめつくすおほねむしのくらふ所となりその遣せる者は喫ほるばす蝗虫の食ふ所となれり 5 醉る者よ汝ら目を醒して泣けすべて酒をのむ者よ哭きさけべあたらしき酒なんぢらの口に絶えたればなり 6 そはことなる民わが國に攻ますればなりその勢ひ強くその數はかられずその齒は獅子の齒のごとくその牙は牝獅子の牙のごとし 7 彼等わが葡萄の樹を荒しわが無花果の樹を折りその皮をはぎはだかにして之を棄つ その枝白くなれり 8 汝ら哀哭かなしめ貞女その若かりしときの夫のゆゑに麻布を腰にまといて哀哭かなしむがごとくせよ 9 素祭灌祭ともにエホバの家に絶えエホバに事ふる祭司等哀傷をなす 10 田は荒れ地は哀傷む是穀物荒はて新しき酒つき油たえんとすればなり 11 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50 51 52 53 54 55 56 57 58 59 60 61 62 63 64 65 66 67 68 69 70 71 72 73 74 75 76 77 78 79 80 81 82 83 84 85 86 87 88 89 90 91 92 93 94 95 96 97 98 99 100 101 102 103 104 105 106 107 108 109 110 111 112 113 114 115 116 117 118 119 120 121 122 123 124 125 126 127 128 129 130 131 132 133 134 135 136 137 138 139 140 141 142 143 144 145 146 147 148 149 150 151 152 153 154 155 156 157 158 159 160 161 162 163 164 165 166 167 168 169 170 171 172 173 174 175 176 177 178 179 180 181 182 183 184 185 186 187 188 189 190 191 192 193 194 195 196 197 198 199 200 201 202 203 204 205 206 207 208 209 210 211 212 213 214 215 216 217 218 219 220 221 222 223 224 225 226 227 228 229 230 231 232 233 234 235 236 237 238 239 240 241 242 243 244 245 246 247 248 249 250 251 252 253 254 255 256 257 258 259 260 261 262 263 264 265 266 267 268 269 270 271 272 273 274 275 276 277 278 279 280 281 282 283 284 285 286 287 288 289 290 291 292 293 294 295 296 297 298 299 300 301 302 303 304 305 306 307 308 309 310 311 312 313 314 315 316 317 318 319 320 321 322 323 324 325 326 327 328 329 330 331 332 333 334 335 336 337 338 339 340 341 342 343 344 345 346 347 348 349 350 351 352 353 354 355 356 357 358 359 360 361 362 363 364 365 366 367 368 369 370 371 372 373 374 375 376 377 378 379 380 381 382 383 384 385 386 387 388 389 390 391 392 393 394 395 396 397 398 399 400 401 402 403 404 405 406 407 408 409 410 411 412 413 414 415 416 417 418 419 420 421 422 423 424 425 426 427 428 429 430 431 432 433 434 435 436 437 438 439 440 441 442 443 444 445 446 447 448 449 450 451 452 453 454 455 456 457 458 459 460 461 462 463 464 465 466 467 468 469 470 471 472 473 474 475 476 477 478 479 480 481 482 483 484 485 486 487 488 489 490 491 492 493 494 495 496 497 498 499 500 501 502 503 504 505 506 507 508 509 510 511 512 513 514 515 516 517 518 519 520 521 522 523 524 525 526 527 528 529 530 531 532 533 534 535 536 537 538 539 540 541 542 543 544 545 546 547 548 549 550 551 552 553 554 555 556 557 558 559 560 561 562 563 564 565 566 567 568 569 570 571 572 573 574 575 576 577 578 579 580 581 582 583 584 585 586 587 588 589 590 591 592 593 594 595 596 597 598 599 600 601 602 603 604 605 606 607 608 609 610 611 612 613 614 615 616 617 618 619 620 621 622 623 624 625 626 627 628 629 630 631 632 633 634 635 636 637 638 639 640 641 642 643 644 645 646 647 648 649 650 651 652 653 654 655 656 657 658 659 660 661 662 663 664 665 666 667 668 669 670 671 672 673 674 675 676 677 678 679 680 681 682 683 684 685 686 687 688 689 690 691 692 693 694 695 696 697 698 699 700 701 702 703 704 705 706 707 708 709 710 711 712 713 714 715 716 717 718 719 720 721 722 723 724 725 726 727 728 729 730 731 732 733 734 735 736 737 738 739 740 741 742 743 744 745 746 747 748 749 750 751 752 753 754 755 756 757 758 759 760 761 762 763 764 765 766 767 768 769 770 771 772 773 774 775 776 777 778 779 780 781 782 783 784 785 786 787 788 789 790 791 792 793 794 795 796 797 798 799 800 801 802 803 804 805 806 807 808 809 810 811 812 813 814 815 816 817 818 819 820 821 822 823 824 825 826 827 828 829 830 831 832 833 834 835 836 837 838 839 840 841 842 843 844 845 846 847 848 849 850 851 852 853 854 855 856 857 858 859 860 861 862 863 864 865 866 867 868 869 870 871 872 873 874 875 876 877 878 879 880 881 882 883 884 885 886 887 888 889 890 891 892 893 894 895 896 897 898 899 900 901 902 903 904 905 906 907 908 909 910 911 912 913 914 915 916 917 918 919 920 921 922 923 924 925 926 927 928 929 930 931 932 933 934 935 936 937 938 939 940 941 942 943 944 945 946 947 948 949 950 951 952 953 954 955 956 957 958 959 960 961 962 963 964 965 966 967 968 969 970 971 972 973 974 975 976 977 978 979 980 981 982 983 984 985 986 987 988 989 990 991 992 993 994 995 996 997 998 999 1000

野の獣もまた汝にむかひて呼はらん
其は水の流涸はて荒野の草火にてや
けつくればなり

Chapter 2

1 汝らシオンにて喇叭を吹け
我聖山にて音たかく之を吹鳴せ
國の民みな慄いわなかなんそはエホ
バの日きたらんとすればなり
すでに近づけり 2 この日は黒くをぐ
らき日雲むらがるまぐらき日にして
しののめの山々にたなびくが如し數
おほく勢はいかなる民むれいたらん
かかちの勢はいにしへよりありしこ
なくのちの代々の年にもあることな
かるべし 3 火彼らの前を焼き火焰か
れらの後にもゆその過ぎる前は地エ
デンのごとくその過しのちは荒はて
たる野の如し此をのがれうるもの一
としてあることなし 4 彼らの状は馬
のかたちのごとく其馳ありくことは
軍馬のごとし 5 その山の嶺にとびを
どる音は車の轟聲のごとくまた火の
稗株をやくおとの如くしてその様強
き民の行伍をたてて戦陣にのぞむに
似たり 6 そのむかふところ諸民戦慄
きその面みな色を失ふ 7 彼らは勇士
の如くに趨あるき軍人のごとくに石
垣に攀のぼる彼ら各々おのが道を進
みゆきてその列を亂さず 8 彼ら互に
推あはず各々その道にしたがひて進
み行く
彼らは刃に觸るとも身を害はず 9 彼
らは邑をかけめぐり石垣の上に奔り
家に攀登り盜賊のごとくに窓より入
る 10 そのむかふところ地ゆるぎ天
震ひ日も月も暗くなり星その光明を
失ふ 11 エホバその軍勢の前にて聲
をあげたまふ
其軍旅はなほだ大なればなり
其言を爲とぐる者は強しエホバの日
は大にして甚だ畏るべきが故に誰か
これに耐ることを得んや 12
然どエホバ言たまふ今にても汝ら斷
食と哭泣と悲哀とをなし心をつくし
て我に歸れ 13 汝ら衣を裂かずして
心を裂き汝等の神エホバに歸るべし
彼は恩恵あり憐憫ありかつ怒ること
ゆるく愛憐大にして災害をなすを悔
たまふなり 14 誰か彼のあるひは立
歸り悔て祝福をその後にとめのこし
汝らをして素祭と灌祭とをなんぢら
の神エホバにささげしめたまはじと
知んや 15 汝らシオンにて喇叭を吹
きならし斷食を定め公會をよびつど
へ 16 民を集めその會を潔くし老た
る人をあつめ孩童と乳哺子を集め新
郎をその室より呼びだし新婦をその
密室より呼びだせ 17 而してエホバ
に事ふる祭司等は廊と祭壇の間にて
泣て言へ
エホバよ汝の民を赦したまへ汝の産
業を恥辱せしめらるるに任せ之を異邦
人に治めさす勿れ何ぞ異邦人をして
彼らの神は何處にあると言しむべ
けんや 18 然せばエホバ己の地にた
めに嫉妬を起しその民を憐みたまは
ん 19
エホバ應へてその民に言たまはん視
よ我穀物とあたらしき酒と油を汝に
おくる汝ら之に飽ん我なんぢらをして
重ねて異邦人の中に恥辱を蒙らし

めじ 20 我北よりきたる軍を遠く汝
らより離れしめうるほひなき荒地に
逐やらん其前軍を東の海にその後軍
を西の海に入れん
その臭味立ちその惡臭騰らん
是は大なる事を爲たるに因る 21
地よ懼る勿れ喜び樂しめエホバ大
なる事を行ひたまふなり 22
野の獣よ懼る勿れあれ野の牧草は
もえいで樹は果を結び無花果樹葡萄
樹はその力をめざすなり 23
シオンの子等よ
汝らの神エホバによりて樂め喜べエ
ホバは秋の雨を適當なんぢらに賜ひ
また前のごとく秋の雨と春の雨とを
汝らの上に降せたまふ 24 打場には
穀物盈ち糞にはあたらしき酒と油溢
れん 25 我が汝らに遣しし大軍すな
はち群ある蝗なめつくす蝗喫ほるば
す蝗噬くらふ蝗の觸あらせる年をわ
れ汝らに賠はん 26
汝らは食ひ食ひて飽きよのつねなら
ずなんぢらを待ひたまひし汝らの神
エホバの名をほめ頌へん我民はとし
へに辱しめらるることなかるべし
27 かくて汝らはイスラエルの中に我
が居るを知り汝らの神エホバは我の
みにて外に無きことを知らん我民は
永遠に辱かしめらるることなかるべ
し 28
その後われ吾靈を一切の人に注がん
汝らの男子女子は預言せん
汝らの老たる人は夢を見
汝らの少き人は異象を見ん 29 その
日我またわが靈を僕婢に注がん 30
また天と地に徴證を顯さん即ち血あ
り火あり煙の柱あるべし 31 エホバ
の大なる畏るべき日の來らん前に日
は暗く月は血に變らん 32 凡てエホ
バの名を籲ぶ者は救はるべしそはエ
ホバの宣ひし如くシオンの山とエル
サレムとに救はれし者あるべければ
なり其遣れる者の中にエホバの召し
給へるものあらん

Chapter 3

1 觀よ我ユダとエルサレムの俘
囚人を歸さん その日その時 2 萬國
の民を集め之を携へてヨシヤパテの
谷にくだりかしこにて我民我ゆづり
の産なるイスラエルのために彼らを
さばかん彼らこれを國々に散してそ
の地を分ち取りたればなり 3 彼らは
籐をひきて我民を取り童子を娼妓に
換へ童女を賣り酒に換て飲めり 4 ツ
ロ、シドンよベリシテのすべての國
よ汝ら我と何のかかはりあらんや汝
ら我がなししことに返をなさんとす
るや若し我に返報をなさんとすらば
我忽ち迅速に汝らがなししことをも
てその首に歸らしめん 5 是は汝らは
私の金銀を取り私のしたふべき寶を
汝らの宮にたづさへゆき 6 またユダ
の人とエルサレムの人をギリシヤ人
に賣りてその本國より遠く離らせた
ればなり 7 視よ我からしを起して汝
らが賣りたる處より出し汝らがなし
しことをもてその首にかへらしめん
8 我はなんぢらの男子女子をユダの
人の手に賣り彼らは之を遠き民なる
シバ人に賣らん エホバこれを言ふ 9
もるもろの國に宣つたへよ戦争の準

備を爲し勇士をはげまし軍人をこ
ごとくちかより來らしめよ 10 汝等
の鋤を劍に打かへ汝らの鎌を鎗に打
かへよ 弱き者も我は強しと言へ 11
四周の國々の民よ汝ら急ぎ上りて集
れエホバよ汝の勇士をかしこに降し
たまふ 12 國々の民よ起り上りヨシ
ヤパテの谷に至れ彼處に我座をしめ
て四周の國々の民をこごとく鞠か
ん 13 鎌をいれよ 穀物は熟せり
來り踏めよ酒樽は盈ち糞は溢る
彼らの惡大なればなりと 14 かまび
すしきかな無数の民審判の谷にあり
てかまびすしエホバの日審判の谷に
近づくが故なり 15 日も月も暗くな
り星その光明を失ふ 16 エホバ、シ
オンよりよびとどろかしエルサレム
より聲をはなち天地を震ひうごかし
たまふ然れどエホバはその民の避所
イスラエルの子孫の城となりたまは
ん 17 かくて汝ら我はエホバ汝等の
神にして我聖山シオンに住むことを
しるべしエルサレムは聖き所となり
他國の人は重ねてその中をかよふま
じ 18 その日山にあたらしき酒滴り
岡に乳流れユダのもるもろの河に水
流れエホバの家より泉水流れいでて
シッテムの谷に灌がん 19 エジプト
は荒すたれエドムは荒野とならん是
はかれらユダの子孫を虐げ辜なき者
の血をその國に流したればなり 20
されどユダは永久にすまひエルサレ
ムは世々に保たん 21 我さきにはか
れらが流しし血の罪を報いざりしが
今はこれをむくいん
エホバ、シオンに住みたまはん

アモス書

Chapter 1

1 テコアの牧者の中なるアモスの言
是はユダの王ウジヤの世イスラエルの
王ヨアシの子ヤラバアムの世地震
の二年前に彼が見されたる者にてイ
スラエルの事を論るなり
其言に云く 2 エホバ、シオンより呼
號りエルサレムより聲を出したまふ
牧者の牧場は哀きカルメルの嶺は枯
る 3 エホバかく言たまふ
ダマスコは三の罪あり四の罪あれば
我かならず之を罰して赦さじ即ち彼
らは鐵の打禾車をもてギレアデを打
り 4 我ハザエルの家に火を遣りベネ
ハダデの宮殿を焚ん 5 我ダマスコの
關を碎きアベンの谷の中よりその居
民を絶のぞきベテエデンの中より王
の杖を執る者を絶のぞかんスリアの
民は擄はられてキルにゆかん
エホバこれを言ふ 6
エホバかく言たまふ
ガザは三の罪あり四の罪あれば我か
ならず之を罰して赦さじ即ち彼らは
俘囚をこごとく曳ゆきてこれをエド
ムに付せり 7 我ガザの石垣の内に
火を遣り一切の殿を焚ん 8 我アシド
ドの中よりその居民を絶のぞきアシ
ケロンの中より王の杖を執る者を絶
除かん
我また手を反してエクロンを撃ん

ベリシテ人の遣れる者亡ぶべし
主エホバこれを言ふ 9
エホバかく言たまふ
ツロは三の罪あり四の罪あれば我か
ならず之を罰して赦さじ即ち彼らは
俘囚をこごとくエドムに付しまた
兄弟の契約を忘れたり 10 我ツロの
石垣の内に火を遣り一切の殿を焚ん
11 エホバかく言たまふ
エドムは三の罪あり四の罪あれば我
かならず之を罰して赦さじ即ち彼は
劍をもてその兄弟を追ひ全く憐憫の
情を斷ち恒に怒りて人を害し永くそ
の憤恨をたくはへたり 12 我テマン
に火を遣りボツラの一切の殿を焚ん
13 エホバかく言たまふ
アンモンの人々は三の罪あり四の罪
あれば我かならず之を罰して赦さじ
即ち彼らはその國境を廣めんとてギ
レアデの孕める婦を割たり 14 我ラ
バの石垣の内に火を放ちその一切の
殿を焚ん是は戰鬪の日に吶喊の聲を
もて爲され暴風の日に旋風をもて爲
されん 15 彼らの王はその牧伯等と
諸共に擄はられて往ん
エホバこれを言ふ

Chapter 2

1 エホバかく言たまふ
モアブは三の罪あり四の罪あれば我
かならず之を罰して赦さじ即ち彼は
エドムの王の骨を焼て灰となせり 2
我モアブに火を遣りケリオテの一切
の殿を焚んモアブは噪擾と吶喊の聲
と喇叭の音の中に死ん 3 我その中よ
り審判長を絶除きその諸の牧伯を之
とともに殺さん
エホバこれを言ふ 4
エホバかく言たまふ
ユダは三の罪あり四の罪あれば我か
ならず之を罰して赦さじ即ち彼らは
エホバの律法を輕んじその法度を守
らずその先祖等が従ひし偽の物に惑
はさる 5 我ユダに火を遣りエルサレ
ムの諸の殿を焚ん 6
エホバかく言たまふ
イスラエルは三の罪あり四の罪あれば
我かならず之を罰して赦さじ即ち
彼らは義者を金のために賣り貧者を
鞋一足のために賣る 7 彼らは弱き者
の頭に地の塵のあらんことを喘ぎて
求め柔かき者の道を曲げ又父子共に
一人の女子に行て我聖名を汚す 8 彼
らは質に取れる衣服を一切の壇の傍
に敷きてその上に偃し銀金をもて得
たる酒をその神の家に飲む 9 嚮に我
はアモリ人を彼らの前に絶たりアモ
リ人はその高きこと香柏のごとくそ
の強きこと橡の樹のごとくなりしが
我その上の果と下の根とをほろぼし
たり 10 我は汝らをエジプトの地よ
り携へてばり四十年のあひだ荒野に
おいて汝らを導き終にアモリ人の地
を汝らに獲させたり 11 我は汝ら
の子等の中より預言者を興し汝らの少
者の中よりナザレ人を興したり
イスラエルの子孫よ然るにあらざるや
エホバこれを言ふ 12 然るに汝らは
ナザレ人に酒を飲ませ預言者に命じ
て預言するなかれと言ひ 13 視よ我
麥束を積滿せる車の物を壓するが
ごとく汝らを壓せん 14

その時は疾走者も逃るに暇あらず
強き者もその力を施すを得ず勇士も
己の生命を救ふこと能はず 15
弓を執る者も立ことを得ず
足駛の者も自ら救ふ能はず馬に騎れる
者も己の生命を救ふこと能はず 1
6 勇士の中の心剛き者もその日には
裸にて逃ん エホバこれを言ふ

Chapter 3

1 イスラエルの子孫よエホバが
汝らにむかひて言ところ我がエジプ
トの地より導き上りし全家にむかひ
て言ところの此言を聴け 2 地の諸の
族の中にて我た汝ら而已を知れり
この故に我なんぢらの諸の罪のため
に汝らを罰せん 3 二人もし相會せず
ば争で共に歩かんや 4 獅子もし獲物
あらずば豈林の中に吼んや 5 獅子も
し物を獲まらずば豈その穴より聲を出
さんや 5 もし籟の設なくば鳥あに地
に張れる網にかからんや 6 網もし何の
得るところも無くば豈地よりあがら
んや 6 邑にて喇叭を吹けば民おどら
かざらんや 7 邑に災禍のおこるはエホ
バのこれを降し給ふならずや 7 夫主
エホバはその隠れたる事をその僕なる
預言者に傳へずしては何事をも爲
たまはざるなり 8 獅子吼ゆ
誰か懼れざらんや
主エホバ言語たまふ
誰か預言せざらんや 9 アシドの一切
の殿に傳へエジプトの地の一切の
殿に宣て言へ汝等サマリヤの山々に
集りその中にある大なる紛亂を觀そ
の中間におこなはるる處遇を觀よ 1
0 エホバいひたまふ
彼らは正義をおこなふことを知ず虐
げ取し物と奪ひたる物とをその宮殿
に積蓄ふ 11
是故に主エホバかく言たまふ敵あり
て此國を攻かこみ汝の權力を汝より
取下さん
汝の一切の殿は掠めらるべし 12
エホバかく言たまふ牧羊者は獅子の
口より羊の兩足あるひは片耳を取か
へし得るのみサマリヤに於て床の隅
またはダマスコ錦の榻に坐するイス
ラエルの子孫もその救はるることは
のごとくならん 13 萬軍の神
主エホバかく言たまふ
汝ら聽てヤコブの家に證せよ 14 我
イスラエルの諸の罪を罰する日には
ベテルの壇を罰せん 15
其壇の角は折て地に落べし 15
我また冬の家および夏の家をうたん
象牙の家ほろび大きなる家失ん
エホバこれを言ふ

Chapter 4

1
バシヤンの牝牛等よ汝ら此言を聴け
汝らはサマリヤの山に居り弱者を虐
げ貧者を壓し又その主にむかひて此
に持きたりて我らに飲せよと言ふ 2
主エホバ己の聖を指し誓ひて云ふ
視よ日汝らの上に臨むその日には人
汝らを鉤にかけ汝等の遺餘者を釣魚
鉤にかけて曳いださん 3 汝らは各々
その前なる石垣の破壊たる處より奔
出てハルモンに逃往ん

エホバこれを言ふ 4 汝らベテルに往
て罪を犯しギルガルに往て益々おほ
く罪を犯せ
朝ごとに汝らの犠牲を携へゆけ
三日ごとに汝らの什一を携へゆけ 5
酔いれたる者を感謝祭に獻げ願意
よりする禮物を召てこれを告せ
イスラエルの子孫よ汝らは斯するを
好むなりと主エホバ言たまふ 6 また
我汝ら一切の邑に於て汝らの齒を
清からしめ汝ら一切の處において
汝らの食を乏しからしめたり然るに
汝らに我に歸らずとエホバ言給ふ 7
また我收穫までには尚三月あるに雨
をとどめて汝らに下さずかの邑には
雨を降しこの邑には雨をふらさざり
き 此田圃は雨を得
彼田圃は雨を得ずして枯れたり 8 二
三の邑別の一の邑に躑めきゆきて水
を飲ども飽ことあたはず然るに汝ら
は我に歸らずとエホバ言たまふ 9 我
枯死穀と朽腐穂とをもて汝等を撃な
やませりまた汝らの衆多の園と葡萄
園と無花果樹と橄欖樹とは蝗これを
食へり然るに汝らに我に歸らずとエ
ホバ言たまふ 10 我なんぢらの中に
エジプトに爲し如く疫病をおこし劍
をもて汝らの少き人を殺し又汝らの
馬を奪さり汝らの營の臭氣をして騰
りて汝らの鼻を撲しめたり然るも汝
らは我に歸らずとエホバ言たまふ 1
1 我なんぢらの中の邑を滅すことソ
ドム、ゴモラを神の滅したまひし如
くしたれば汝らは燄の中より取いだ
したる燃柴のごとくなれり然るも汝
らは我に歸らずとエホバ言たまふ 1
2
イスラエルよ然ば我かく汝に行はん
我是を汝に行ふべければイスラエル
よ汝の神に會ふ準備をせよ 13 彼は
即ち山を作りなし風を作り出し人の
思想の如何なるをその人に示した
晨光をかへて黑暗となし地の高處を
踏む者なり
その名を萬軍の神エホバといふ

Chapter 5

1 イスラエルの家よ我が汝らに
對ひて宣る此言を聴け
是は哀歎の歌なり 2 處女イスラエル
は仆れて復起あがらず彼は己の地に
仆倒さる 之を扶け起す者なし 3
主エホバかく言たまふイスラエルの
家においては前に千人出たる邑は只
百人のみのこり前に百人出たる邑は
只十人のみのこらん 4 エホバかくイ
スラエルの家に言たまふ
汝ら我を求めよ さらば生べし 5
ベテルを求むるなかれ
ギルガルに往なかれ
ベエルシバに赴く勿れギルガルは必
ず擧へられゆきベテルは無に歸せん
6 汝らエホバを求めよ 然ば生べし 恐
くはエホバ火のごとくにヨセフの家
に落くだりたまひてその火これを焼
んベテルのためにこれを熄す者一人
もあらず 7 汝ら公道を茵陳に變じ正
義を地に擲する者よ 8 昴宿および參
宿を造り死の陰を變じて朝となし晝
を暗くして夜となし海の水を呼て地
の面に溢れさする者を求めよ
其名はエホバといふ 9

彼は滅亡を忽然強者に臨ましむ
滅亡つひに城に臨む 10 彼らは門に
ありて勸戒る者を惡み正直を言ふ者
を忌嫌ふ 11 汝らは貧き者を踐つけ
麥の禮物を之より取るこの故に汝ら
は鑿石の家を建しと雖どもその中に
住ことあらし美しき葡萄園を作りし
と雖どもその酒を飲ことあらし 12
我知る汝らの愆は多く汝らの罪は大
なり汝らは義き者を虐げ賄賂を取り
門において貧き者を推挽ぐ 13
是故に今の時は賢き者黙す
是惡き時なればなり 14
汝ら善を求めよ 惡を求めざれ
然らば汝ら生べしまた汝らが言ごと
く萬軍の神エホバ汝らと偕に在さん
15 汝ら惡を惡み善を愛し門にて公義
を立よ萬軍の神エホバあるひはヨセ
フの遺れる者を憐れみたまはん 16
是故に主たる萬軍の神エホバかく言
たまふ 諸の街衢にて啼ことあらん
諸の大路にて人哀哉哀哉と呼ん又農
夫を呼きたりて哀哭しめ啼女を招き
て啼しめん 17
また諸の葡萄園にも啼こと有べし
其は我汝らの中を通るべければなり
エホバこれを言たまふ 18
エホバの日を望む者は禍なるかな
汝ら何とてエホバの日を望むや
是は昏くして光なし 19 人獅子の前
を連れて熊に遇ひ又家にいりてその
手を壁に附て蛇に咬るるに宛も似た
り 20 エホバの日は昏くして光なく
暗にして耀なきに非ずや 21
我は汝らの節筵を惡みかつ藐視む
また汝らの集會を悦ばじ 22 汝ら我
に燔祭または素祭を獻ぐるとも我之
を受納れじ汝らの肥たる犢の感謝祭
は我これを顧みじ 23 汝らの歌の聲
を我前に絶て汝らの琴の音は我これ
を聴じ 24 公道を水のごとくに正義
をつきざる河のごとくに流れしめよ
25 イスラエルの家よ汝らは四十年荒
野に居し間犠牲と供物を我に獻げたり
しや 26 かへつて汝らは汝らの王
シクテを負ひ汝らの偶像キウンを負
へり是即ち汝らの神とする星にして
汝らの自ら造り設けし者なり 27
然ば我汝らをダマスコの外に移さん
萬軍の神となふるエホバこれを言
たまふ

Chapter 6

1 身を安くしてシオンに居る者
思ひわづらははずしてサマリヤの山に
居る者諸の國に勝れたる國の中なる
聞高くしてイスラエルの家に就き
したがはるる者は禍なるかな 2 カル
ネに涉りゆき彼處より大ハマテに至
りまたベリシテ人のガテに下りて視
よ其等は此二國に愈るや彼らの土地
は汝らの土地よりも大なるや 3 汝等
は災禍の日をもて尚遠しと爲し強暴
の座を近づけ 4 自ら象牙の牀に臥し
寢臺の上を身を伸し群の中より羔羊
を取り圍の中より犢牛を取て食ひ 5
琴の音にあはせて唄ひ噪ぎダビデの
ごとくに樂器を製出し 6 大聲をも
て酒を飲み最も貴と爲し膏を身に抹り
ヨセフの艱難を憂へざるなり 7 是故
に今彼等は擧はれて俘囚人の眞先に
立て往んかの身を伸したる者等の嗜

の聲止べし 8
萬軍の神エホバ言たまふ
主エホバ己を指て誓へり我ヤコブが
誇る所の物を忌嫌ひその宮殿を惡む
我この邑とその中に充る者とを付す
べし 9 一家に十人遺りるるとも皆
死ん 10 而してその親戚すなはち之
を焚く者その死骸を家より運びいだ
さんとて之を取あげまたその家の奥
に潛み居る者に向ひて他になほ汝と
とも居る者あるやと言ふとき對へ
て一人も無しと言ふ
此時かの人また言べし黙せよエホバ
の名を口に擧ること有べからずと 1
1 視よエホバ命を下し大なる家を撃
て墟址とならしめ小き家を撃て微塵
とならしめたまふ 12
馬あに能く岩の上を走らんや人あに
牛をもて岩を耕へすことを得んや然
るに汝らは公道を毒に變じ正義の果
を茵陳に變じたり 13 汝らは無物を
喜び我儕は自分の力をもて角を得し
にあらずやと言ふ 14
是をもて萬軍の神エホバ言たまふ
イスラエルの家よ我一の國を起して汝
らに敵せしめん是はハマテの入口よ
りアラバの川までも汝らをなやまさ
ん

Chapter 7

1 主エホバの我に示したまへる
ところ是のごとし即ち草の再び生ず
る時にあたりて彼蝗を造りたまふそ
の草は王の刈たる後に生じたるもの
なり 2
その蝗地の青物を食盡しし後我言り
主エホバよ願くは赦したまへ
ヤコブは小し
争でか立ことを得んと 3 エホバその
行へる事につきて悔をなし我これを
爲じと言たまふ 4 主エホバの我に示
したまへる所是のごとし即ち主エホ
バ火をもて罰せんとして火を呼たまひ
ければ火大淵を焚きまた産業の地を
焚かんとす 5 時に我言り
主エホバよ願くは止みたまへヤコブ
は小し争でか立ことを得んと 6 エホ
バその行へる事につきて悔をなし我
これをなさじと主エホバ言たまふ 7
また我に示したまへるところ是のご
とし即ち準繩をもて築ける石垣の上
にエホバ立ちその手に準繩を執たま
ふ 8 而してエホバ我にむかひアモ
ス汝何を見るやと言たまひければ準繩
を見ると我答へしに主また言たまは
く我準繩を我民イスラエルの中に設
く我再び彼らを見過しにせじ 9 イ
サクの崇邱は荒されイスラエルの聖
所は毀たれん我劍をもちてヤラベ
ムの家に起むかはん 10 時にベテル
の祭司アマジヤ、イスラエルの王ヤ
ラベラムに言遣しけるはイスラエル
の家の真中にてアモスが汝に叛けり彼
の諸の言には此地も堪るあたはざる
なり 11 即ちアモスかく言り
ヤラベラムは劍によりて死んイスラ
エルは必ず擧へられてゆきてその國
を離れんと 12 而してアマジヤ、ア
モスに言けるは先見者よ汝往てユダ
の地に逃れ彼處にて預言して汝の食
物を得よ 13 然どベテルにては重ね
て預言すべからず

是は王の聖所王の宮なればなり 14
アモス對へてアマジャに言けるは我
は預言者にあらず
また預言者の子にも非ず
我は牧者なり
桑の樹を作る者なりと 15 然るにエ
ホバ羊に従ふ所より我を取り往て我
民イスラエルに預言せよとエホバわ
れに宣へり 16 今エホバの言を聴け
汝は言ふイスラエルにむかひて預言
する勿れイスラエルの家にむかひて言を
出すなかれと 17
是故にエホバかく言たまふ汝の妻は
邑の中にて妓婦となり汝の男子女子
は劍に斃れ汝の地は繩をもて分たれ
ん而して汝は穢れたる地に死にイス
ラエルは擄られゆきてその國を離れ
ん

Chapter 8

1 主エホバの我に示したまへる
ところ是のごとし
即ち熟したる果物一筐あり 2 エホバ
われにむかひてアモス汝何を見るや
と言たまひければ熟したる果物一筐
を見ると答へしにエホバ我に言たま
はく我民イスラエルの終いたれり
我ふたたび彼らを見過しにせじ 3
主エホバ言たまふ
其日には宮殿の歌は哀哭に變らん
死屍おびただしくあり
人これを遍き處に投棄ん 默せよ 4
汝ら喘ぎて貧しき者に迫り且地の困
難者を滅す者よ之を聴け 5
汝らは言ふ月朔は何時過去んか
我等穀物を買んとす
安息日は何時過去んか
我ら麥倉を開かんかす我らエバを小
くシケルを大くし偽の權衡をもて
欺く事をなし 6 銀をもて賤しき者
を買ひ鞋一足をもて貧き者を買ひかつ
屑麥を賣いださんと 7 エホバ、ヤコ
ブの榮光を指て誓ひて言たまふ我か
ならず彼等一切の行爲を何時まで
も忘れ 8 之がために地震はざらん
や地に住る者みな哭かざらんや
地みな河のごとく噴あがらんエジ
プトの河のごとく湧あがり又沈まん 9
主エホバ言たまふ其日には我日をして
眞晝に沒せしめ地をして白晝に暗
くならしめ 10 汝らの節筵を悲傷に
變らせ汝らの歌を盡く哀哭に變らせ
一切の人に麻布を腰に纏はしめ一切
の人に頂を剃しめ其日をして獨子を
喪へる哀傷のごとくならしめ其終を
して苦き日のごとくならしめん 11
主エホバ言たまふ視よ日至らんとす
その時我饑饉たを此國におくらん
是はパンに乏しきに非ず
水に渴くに非ず
エホバの言を聴ことこの饑饉なり 12
彼らは海より海とさまよひ歩き北よ
り東と奔まはりてエホバの言を求め
ん 然ど之を得ざるべし 13 その日
には美しき處女も少き男もともに渴
のために絶いらん 14 かのサマリヤの
罪を指て誓ひダンよ汝の神は活くと
言ひまたベエルシバの路は活くと
言者等は必ず仆れん
復興ことあらじ

Chapter 9

1 我觀るに主壇の上に立て言た
まはく柱の頭を撃て鬨を震はせ之を
打碎きて一切の人の首に落かからし
めよ
其遭れる者をば我劍をもて殺さん彼
らの逃る者も逃おほすことを得ず
彼らの遁る者もたすからじ 2 假令
かれら陰府に掘くたるとも我手をも
て之を其處より曳いださん假令かれ
ら天に攀のぼるとも我これを其處よ
り曳おろさん 3 假令かれらカルメル
の巔に匿るとも我これを搜して其
處より曳いださん假令かれら海の底
に匿れて我目を逃るるとも我蛇に命
じて其處にて之を咬しめん 4 假令か
れらその敵に擄はれゆくとも我劍に
命じて其處にて之を殺さしめん我か
れらの上に我目を注ぎて災禍を降さ
ん 福祉を降さじ 5 主たる萬軍のエ
ホバ地に捫れば地鎔けその中に住む
者みな哀む即ち全地は河のごとくに
噴あがりエジプトの河のごとくに
また沈むなり 6 彼は樓閣を天に作り穹
蒼の基を地の上に置ゑまた海の水を
呼て地の面の上にを斟くなり
其名をエホバといふ 7
エホバ言たまふイスラエルの子孫よ
我は汝らを視ことエテオピア人を觀
がごとくするにあらずや我はイスラ
エルをエジプトの國よりペリシテ人
をカフトルよりスリア人をキルより
導き來りしにあらずや 8 視よ我主エ
ホバその目を此罪を犯すところの國
に注ぎ之を地の面より滅し絶ん
但し我はヤコブの家を盡くは滅さじ
エホバこれを言ふ 9 我すなはち命を
下し篩にて物を篩ふがごとくイスラ
エルの家を萬國の中にて篩はん
一粒も地に落ざるべし 10 我民の罪
人即ち災禍われらに及ばず我らに降
らじと言をる者等は皆劍によりて死
ん 11 其日には我ダビデの倒れたる
幕屋を興しその破壊を修繕ひて傾
圯たるを興し古代の境のごとくに之
を建なほすべし 12 而して彼らはエ
ドムの遺餘者および我名をもて稱へ
らるる一切の民を獲ん 此事を行ふ
エホバかく言なり 13 エホバ言ふ
視よ日いたらんとすその時は耕者
は刈者に相繼ぎ葡萄を踐む者は播種
者に相繼がんまた山々には酒滴り岡
は皆鎔て流れん 14
我わが民イスラエルの俘囚を返さん
彼らは荒たる邑々を建なほして其處
に住み葡萄園を作りてその酒を飲み
園圍を作りてその果を食はん 15
我かれらをその地に植つけん彼らは
我がこれに與ふる地より重ねて抜と
らるることあらじ
汝の神エホバこれを言ふ

オバデヤ書

Chapter 1

1 オバデヤの預言 主エホバ、
エドムにつきて斯いひたまふ
我らエホバより出たる音信を聞けり
一人の使者國々の民の中に遣されて

云ふ

起よ我儕起てエドムを攻撃んと 2 我
汝をして國々の中において小き者た
らしむ 汝は大に藐視らるるなり 3
山崖の巖屋に居り高き處に住む者よ
汝が心の傲慢なんぢを欺けり汝心
の中に謂ふ誰か我を地に曳くだすこ
を得んと 4 汝たとひ驚のごとくに高
く擧り星の間に巢を造るとも我そこ
より汝を曳くださん
エホバこれを言たまふ 5
盜賊汝に來り強盜夜なんぢに來り竊
むともその心に滿るときは止ざらん
や 嗚呼なんぢは滅されて絶ゆ
葡萄を摘む者汝にいたるも尚
幾何を遺さざらんや 6 嗚呼エサウは
搜されその隠しおける物は探りい
ださる 7 汝と盟約を結べる人々はみな
汝を國境に逐やり汝と和好をなせる
人々はみな汝を欺きて汝に勝ち汝の
食物を食ふ者等は汝の下に躡を設く
彼の中には穎悟あらず 8 エホバ言た
まふ當日には我智慧ある者をエドム
より絶除き穎悟をエサウの山より絶
除かざらんや 9
テマンよ汝の勇士は驚き懼れん而
して人みな終に殺されてエサウの山
より絶除かるべし 10 汝はその兄弟ヤ
コブに暴虐を加へたるに因て恥辱な
んぢを蒙はん
汝は永遠に至るまで絶るべし 11 汝
が遠く離れて立をりし日即ち異邦人
これが財寶を奪ひ他國人これが門に
進み入りエルサレムのために籠を掣
たる日には汝も彼らの一人のごとく
なりき 12 汝は汝の兄弟の日すなは
ちその災禍の日を觀るべからず又
ユダの子孫の滅亡の日を喜ぶべから
ずその苦難の日には汝口を大きく開
べからざるなり 13 我民の滅ぶる日
には汝その門に入べからず其滅ぶる
日には汝その患難を見べからず又その
滅ぶる日には汝その財寶に手をかく
可らず 14 汝路の辻々に立て
その逃亡者を斬べからず其患難の日
にこれが遺る者を付すべからず 15
エホバの日萬國に臨むこと邇し汝の
爲せごとく汝も爲られ汝の應報な
んぢの首に歸すべし 16 汝等のわが
聖山にて飲しごとく萬國の民も恒に
飲ん即ちみな飲かつ噉りて從前より
有ざりし者のごとく成ん 17 シオン
山には救はるる者等をりてその山聖
所とならんまたヤコブの家はその産
業を獲ん 18 ヤコブの家は火となり
ヨセフの家は火燄となりエサウの家
は藁とならん
即ち彼等これが上に燃てこれを焚ん
エサウの家には遺る者一人も無にい
たるべし エホバこれを言なり 19
南の人はエサウの山を獲
平地の人はペリシテを獲ん又彼らは
エフライムの地およびサマリヤの地
を獲
ベニヤミンはギレアデを獲ん 20 か
の擄はれゆきしイスラエルの軍旅は
カナン人に屬する地をザレバテまで
取んセバラデにあるエルサレムの俘
擄人は南の邑々を獲ん 21 然る時に
救者シオンの山に上りてエサウの山
を鞫かん而して國はエホバに歸すべ
し

ヨナ書

Chapter 1

1 エホバの言アマタイの子ヨナに臨
めりいはく 2 起てかの大なる邑ニネ
ベに往きこれと呼ばはり責めよそは其
惡わが前に上り來ればなりと 3 然る
にヨナはエホバの面をさけてタルシ
シへ逃れんと起てヨツパに下り行け
るが機しもタルシシへ往く舟に遇け
ればその價值を給へエホバの面をさ
けて偕にタルシシへ行んとてその舟
に乗り 4 時にエホバ大風を海の上
に起したまひて烈しき颶風海にあり
ければ舟は幾んど破れんとせり 5 か
かりしかば船夫恐れて各おのれの神
を呼び又舟を軽くせんとてその中な
る載荷を海に投すてたり然るにヨナ
は舟の奥に下りゐて臥て酣睡せり 6
船長來りて彼に云けるは汝なんぞか
く酣睡するや起て汝の神を呼べある
ひは彼われらを着顧て淪亡ざらしめ
んと 7 かくて人衆互に云けるは此災
の我儕にのぞめるは誰の故なるかを
知んがため去來圖を掣んとやがて圖
をひきしに圖ヨナに當りければ 8 み
な彼に云けるはこの災禍なにゆゑに
我らにのぞめるか請ふ告げよ
汝の業は何なるや何處より來れるや
汝の國は何處ぞや何處の民なるや 9
ヨナ彼等にいひけるは我はヘブル人
にして海と陸とを造りたまひし天の
神エホバを畏る者なり 10 是に於
て船夫甚だしく懼れて彼に云けるは
汝なんぞ其事をなせしやとその人々
は彼がエホバの面をさけて逃れしな
るを知れり其はさきにヨナ彼等に告
たればなり 11 遂に船夫彼にいひけ
るは我儕のために海を靜かにせん
には汝に如何がなすべきや其は海い
よいよ甚だしく狂蕩たればなり 12
ヨナ彼等に曰けるはわれを取りて海に
投げられよ
さらば海は汝等の爲に靜かにならん
そはこの大なる颶風の汝等にのぞめ
るはわが故なるを知ればなり 13 さ
れど船夫は陸に漕もどさんとつとめ
たりしが終にあたはざりき其は海か
れらにむかひていよいよ烈しく蕩た
ればなり 14 ここにおいて彼等エホ
バに呼はりて曰けるはエホバよこ
ひねがはくは此人の命の爲に我儕を滅
亡したまふ勿れ又罪なきの血をわれ
らに歸し給ふなかれそはエホバよ汝
聖意にかなふところを爲し給へるな
ればなりと 15
すなわちヨナを取りて海に投入たり
しかして海のあることやみぬ 16
かかりしかばその人々おほいにエホ
バを畏れエホバに犠牲を獻げ誓願を
立たり 17 さてエホバすてに大なる
魚を備へおきてヨナを呑しめたまへ
り
ヨナは三日三夜魚の腹の中にありき

Chapter 2

1 ヨナ魚の腹の中よりその神エ
ホバに祈禱て 2 曰けるは われ患難
の中よりエホバを呼びしに彼われこ

たへたまへりわれ陰府の腹の中より呼はりしに汝わが聲を聴たまへり 3 汝我を淵のうち海の中心に投げたまひて海の水我を環り汝の波濤と巨浪すべて我上にながる 4 われ曰けるは我なんぢの目の前より逐れたれども復汝の聖殿を望まん 5 水われを環りて魂にも及ばんとし淵我をとりかこみ海草わが頭に纏へり 6 われ山の根基にまで下れり地の闊木いつも我うしろにありきしかるに我神エホバよ汝はわが命を深き穴より救ひあげたまへり 7 わが靈魂衰に弱りしとき我エホバをおもへりしかしてわが祈なんぢに至りなんぢの聖殿におよべり 8 1つはりなる虚き者につかふるものは自己の恩たる者を棄つ 9 されど我は感謝の聲をもて汝に獻祭をなし 又わが誓願をなんぢに償さん 救はエホバより出るなりと 10 エホバ其魚に命じたまひければヨナを陸に吐出せり

Chapter 3

1 エホバの言ふたびヨナに臨めり曰く 2 起てかの大なる府ニネベに往きわが汝に命ずるところを宣よ 3 ヨナすなはちエホバの言に循ひて起てニネベに往りぬべは甚だ大なる邑にしてこれをめぐるに三日を歴る程なり 4 ヨナその邑に入はじめ一日路を行つ呼はり曰けるは四十日を歴ばニネベは滅亡さるべし 5 かかりしかばニネベの人々神を信じ斷食を宣れ大なる者より小き者に至るまでみ麻布を衣たり 6 この言ニネベの王に聞えければ彼位より起ち朝服を脱ぎ麻布を身に纏ふて灰の中に坐せり 7 また王大臣とともに命をくだしてニネベ中に宣しめて曰く人も畜も牛も羊もともに何を味ふべからず 又物をくらひ水を飲べからず 8 人も畜も麻布をまとひ只管神に呼はり且おのおの其惡き途および其手に作す邪惡を離るべし 9 或は神その聖旨をかへて悔い其烈しき怒を息てわれらを滅亡せざらん 誰かその然らざるを知らんや 10 神かれらの爲すところをかながみ其あしき途を離るるを見そなはし彼等になさんと申し所の災禍を悔て之をなしたまはざりき

Chapter 4

1 ヨナこの事を甚だ惡しとして烈く怒り 2 エホバに祈りて曰けるはエホバよ我なほ本國にありし時斯あらんと曰しに非ずやさればこそ前にタルシシへ逃れたるなれ 其は我なんぢは矜恤ある神憐憫あり怒ること遅く慈悲深くして災禍を悔たまふものなりと知ばなり 3 エホバよ願くは今わが命を取たまへ其は生ることよりも死るかた我に善ればなり 4 エホバ曰たまひけるは汝の怒る事いかで宜しからんや 5 ヨナは邑より出てその東の方に居り己が爲に其處に一の小屋をしつらひその

蔭の下に坐して府の如何に成行くかを見る 6 エホバ神瓢を備へこれをして發生てヨナの上を覆はしめたりこはヨナの首の爲に庇蔭をまうけてその憂を慰めんが爲なりきヨナはこの瓢の木によりて甚だ喜べり 7 されど神あくる日の夜明に虫をそなへて其ひさごを囓せたまひければ瓢は枯たり 8 かくて日の出し時神曇き東風を備へ給ひ又日ヨナの首を照しければ彼よわりて心の中に死ることを願ひて言ふ 生ることよりも死るかた我に善し 9 神またヨナに曰たまひけるは瓢の爲に汝のいかる事いかで宜しからんや 彼曰けるはわれ怒りて死るともよろし 10 エホバ曰たまひけるは汝は勞をくはへず生育ざる此の一夜に生じて一夜に亡びし瓢を惜めり 11 まして十二萬餘の右左を辨へざる者と許多の家畜とあるこの大なる府ニネベをわれ惜まざらんや

ミカ書

Chapter 1

1 ユダの王ヨタム、アハズおよびヒゼキヤの代にモレシテ人ミカに臨める エホバの言はすなはちサマリヤとエルサレムの事につきて彼が示されたる者なり 2 萬民よ聽け地とその中の者よ耳を傾けよ主エホバ汝らに對ひて證を立たまはん即ち主その聖殿より之を立たまふべし 3 視よエホバその處より出てくだり地の高處を踏たまはん 4 山は彼の下に融け谷は裂けたり火の前なる蠟のごとく坡に流るる水の如し 5 はみなヤコブの咎の故イスラエルの家の罪のゆゑなり ヤコブの愆とは何か サマリヤにあらずや ユダの崇邱とは何か エルサレムにあらずや 6 是故に我サマリヤを野の石堆となし葡萄を植る處と爲し又その石を谷に投おとしその基を露さん 7 その石像はみな碎かれその獲たる價金はみな火にて焚けん我その偶像をことごとく毀たん彼妓女の價金よりこれを積たれば是はまた歸りて妓女の價金となるべし 8 我これがために哭き咄ばん 衣を脱ぎ裸體にて歩行ん山犬のごとくに哭き駝鳥のごとくに啼ん 9 サマリヤの傷は醫すべからざる者にてすでにユダに至り我民の門エルサレムにまでおよべり 10 ガテに傳ふるなかれ泣きけ勿れベテレアフラにて我塵の中に輾びたり 11 サビルに住る者よ汝ら裸になり辱を蒙りて進みゆけ ザアナンに住る者は敢て出ずベテエゼルの哀哭によりて汝らは立處を得ず 12 マロテに住る者は己の幸福につきて思ひなやむ其は災禍エホバより出てエルサレムの門に臨めばなり 13 ラキシに住る者よ馬に車をつなげ ラキシはシオンの女の罪の根本なり

イスラエルの愆は汝の中に見ゆ 14 この故に汝モレセテガテに離別の饋物を與へよアクジブの家々はイスラエルの王等におけること人を欺く溪川のごとくなるべし 15 マレシヤにすめる者よ我また汝の地を獲べき者を汝に携へ往べしイスラエルの榮光アドラムに往ん 16 汝その悦ぶところの子等の故によりて汝の髪を剃おるせ汝の首の剃し處を大きくして驚のごとくにせよ其は彼等擄へられて汝を離るればなり

Chapter 2

1 その牀にありて不義を圖り惡事を工夫する者等には禍あるべし彼らはその手に力あるが故に天亮におよべばこれを行ふ 2 彼らは田圃を貧りてこれを奪ひ家を貧りて是を取りまた人を虐げてその家を掠め人を虐げてその産業をかすむ 3 是故にエホバかく言たまふ視よ我此族にむかひて災禍を降さんと謀る汝らはその頸を是より脱すること能はじまた首をあげて歩くこと能はざるべし 其時は災禍の時なればなり 4 その日には人汝らにつきて詩を作り悲哀の歌をもて悲哀と言ん 事既にいたれり 我等は悉く滅さる彼わが民の産業を人に與ふ 如何なれば我よりこれを離すや 我儕の田圃を違逆者に分ち與ふ 5 然ば汝らエホバの會衆の中には籤によりて繩をうつ者一人も有じ 6 預言する勿れ彼らは預言す彼らは是等の者等にむかひて預言せじ 恥辱彼らを離れざるべし 7 汝ヤコブの家と稱へらるる者よ エホバの氣短からんや エホバの行爲是のごとくならんや我言は品行正直者の益とならざらんや 8 然るに我民は近頃起りて敵となれり汝らは夫の戰爭を避て心配なく過るところの者等に就てその衣服の外衣を奪ひ 9 我民の婦女をその悦ぶところの家より逐いだしその子等より我の妝飾を永く奪ふ 10 起て去れ是は汝らの安息の地にあらず是は已に汚れたれば必ず汝らを滅さん 其滅亡は劇かるべし 11 人もし風に歩み謊言を宣べ我葡萄酒と濃酒の事につきて汝に預言せんと言ことあらばその人はこの民の預言者とならん 12 ヤコブよ我かならず汝をことごとく集へ 必ずイスラエルの遺餘者を聚めん而して我之を同一に置てボツラの羊のごとく成しめん彼らは人数衆きによりて牧場の中なる群のごとくにその聲をたてん 13 打破者かれらに先だちて登彼ら遂に門を打破り之を通りて出ゆかん彼らの王その前にたちて進みエホバその首に立たまふべし

Chapter 3

1 我言ふヤコブの首領よイスラエルの家の侯伯よ汝ら聽け公義は汝らの知べきことに非ずや 2 汝らは善を惡み惡を好み民の身より皮を剥ぎ骨より肉を剔り 3 我民の肉を食ひそ

の皮を剥ぎその骨を碎きこれを切きざみて鍋に入る物のごとくし鼎の中にいる肉のごとくす 4 然ば彼時に彼らエホバに呼はるともエホバかれらに應へたまはじ却てその時には面を彼らに隠したまはん 彼らの行惡ければなり 5 我民を惑す預言者は齒にて嚙べき物を受る時は平安あらんと呼はれども何をもその口に與へざる者にむかひては戰鬥の準備をなす エホバ彼らにつきて斯いひたまふ 6 然ば汝らは夜に遭べし復異象を得じ 黑暗中に遭べし復ト兆を得じ日はその預言者の上をはなれて没りその上は晝も暗かるべし 7 見者は愧を抱きト者は面を緋らめ皆共にその唇を掩はん 神の垂應あらざればなり 8 然れども我はエホバの御靈によりて能力身に満ち公義および勇氣衷に滿ればヤコブにその愆を示しイスラエルにその罪を示すことを得 9 ヤコブの家の首領等およびイスラエルの家の牧伯等公義を惡み一切の正直事を曲る者よ汝ら之を聽け 10 彼らは血をもてシオンを建て不義をもてエルサレムを建つ 11 その首領等は賄賂をとりて審判をなしその祭司等は値錢を取て教晦をなす又その預言者等は銀子を取て占トを爲しエホバに倚頼みて云ふエホバわれらと偕に在すにあらずや 然ば災禍われらに降らじと 12 是によりてシオンは汝のゆゑに田圃となりて耕へされエルサレムは石堆となり宮の山は樹の生しげる高處とならん

Chapter 4

1 末の日にいたりてエホバの家の山諸の山の巔に立ち諸の嶺にこえて高く聳へ萬民河のごとくに流れ歸せん 2 即ち衆多の民來りて言ん 去來我儕エホバの山に登ヤコブの神の家にゆかんエホバその道を我らに教へて我らにその路を歩ましめたまはん 律法はシオンより出てエホバの言はエルサレムより出べければなり 3 彼衆多の民の間を鞠き強き國を規戒め遠き處にまでも然したまふべし 彼らはその劍を鋤に打かへその鎗を鎌に打かへん 國と國とは劍を擧て相攻めず また重て戰爭を習はじ 4 皆その葡萄の樹の下に坐しその無花果樹の下に居ん 之を懼れしむる者なるべし 萬軍のエホバの口之を言ふ 5 一切の民はみな各々その神の名によりて歩む然れども我らはわれらの神エホバの名によりて永遠に歩まん 6 エホバ言たまふ其日には我かの足蹠たる者を集へかの散れし者および我が苦しめし者を聚め 7 その足蹠たる者をもて遺餘民となし遠く逐やられたりし者をもて強き民となさん而してエホバ、シオンの山において今より永遠にこれが王とならん 8 羊樓シオンの女の山よ最初の權杖に歸らん即ちエルサレムの女の國祚なんぢに歸るべし 9 汝なにとて喚叫ぶや汝の中に王なきや汝の議者絶果しや汝は産婦のごとくに痛苦を懷くなり

10シオンの女よ産婦のごとく働勞て産め汝は今邑を出て野に宿りバビロンに往ざるを得ず
彼處にて汝救はれんエホバ汝を彼處にて汝の敵の手より贖ひ取り給ふべし 11 今許多の國民あつまりて汝におしよせて言ふ
願くはシオンの汚されんことを我ら目にシオンを觀てなぐさまんと 12 然ながら彼らはエホバの思念を知らずまたその御謀議を曉らずエホバ麥束を打場にあつむるごとくに彼らを聚め給へり 13
シオンの女よ起てこなせ我なんぢの角を鐵にし汝の蹄を銅にせん
汝許多の國民を打碎くべし汝かれらの掠取物をエホバに獻げ彼らの財産を全地の主に奉納べし

Chapter 5

1軍隊の女よ今なんぢ集りて隊をつくれ敵われらを攻圍み杖をもてイスラエルの士師の頬を撃つ 2ベレヘム、エフラタ汝はユダの郡中にて小き者なり汝れどもイスラエルの君となる者汝の中より我ために出べしその出る事は古昔より永遠の日よりなり 3是故に産婦の産おとすまで彼等を付しおきたまはん然る後その遣れる兄弟イスラエルの子孫とともに歸るべし 4彼はエホバの力に由りその神エホバの名の威光によりて立てその群を牧ひ之ををして安らかに居しめん今彼は大きな者となりて地の極にまでおよばん 5 彼は平和なりアッスリヤ人われらの國に入り我らの宮殿を踏あらさんとする時は我儕七人の牧者八人の人君を立てこれに當らん 6彼ら劍をもてアッスリヤの地をほろぼしニムロデの地の邑々をほろぼさんアッスリヤの人我らの地に攻いり我らの境を踏あらず時には彼の手より我らを救はん 7ヤコブの遺餘者は衆多の民の中に在ること人に頼ず世の人を俟ずしてエホバより降る露の如く青草の上にふりしく雨の如くならん 8ヤコブの遺餘者の國々にをり衆多の民の中にをる様は林の獸の中に獅子の居るごとく羊の群の中に猛き獅子の居るごとくならんその過るときは踏みかつ裂くことをなす救ふ者なし 9望らくは汝の手汝が諸の敵の上にあげられ汝がもろもろの仇ことごとく絶れんことを 10 エホバ言たまふ其日には我なんぢの馬を汝の中より絶ち汝の車を毀ち 11 汝の國の邑々を絶し汝の一切の城をことごとく圮さん 12
我また汝の手より魔術を絶ん
汝の中にト筮師無にいたるべし 13 我なんぢの彫像および柱像を汝の中より絶ん汝の手にて作れる者を汝重て拜むこと無るべし 14 我また汝のアシラ像を汝の中より抜たふし汝の邑々を滅さん 15 而して我忿怒と憤恨をもてその聽從はざる國民に仇を報いん

Chapter 6

1請ふ汝らエホバの宣まふところを聽け

汝起あがりて山の前に辨争へ
崗に汝の聲を聽しめよ 2
山々よ地の易ることなき基よ
汝らエホバの辨争を聽けエホバその民と辨争を爲しイスラエルと論ぜん 3
我民よ我何を汝になししや
何において汝を疲勞たるや
我にむかひて證せよ 4 我はエジプトの國より汝を導きのぼり奴隷の家より汝を贖ひいだしモーセ、アロンおよびミリアムを遣して汝に先だたしめたり 5 我民よ請ふモアブの王バラクが謀りし事およびベオルの子バラムがこれに應へし事を念ひシツテムよりギルガルにいたるまでの事等を念へ 然らば汝エホバの正義を知ん 6 我エホバの前に何をもちゆきて高き神を拜せん燔祭の物および當歳の犢をもてその御前にいたるべきか 7 エホバ數千の牡羊萬流の油を悦びたまはんか
我忿のためにわが長子を獻げんか我靈魂の罪のために我身の産を獻げんか 8 人よ彼さきに善事の何なるを汝に告たりエホバの汝に要めたまふ事は唯正義を行ひ憐憫を愛し謙遜りて汝の神とともに歩む事ならずや 9 エホバの聲にむかひて呼はる智慧ある者はなんぢの名を仰がん汝ら笞杖および之をおくらんと定めし者に聽け 10
悪人の家に猶惡財ありや
詛ふべき縮小たる升ありや 11 我もし正からざる權衡を用ひ袋に偽の碼子をいれおかば争で潔からんや 12 その富人は強暴にて充ち其居民は謊言を言ひその舌は口の中に欺くことを爲す 13 是をもて我も汝を撃て重傷を負はせ汝の罪のために汝を滅す 14 汝は食ふとも飽ず腹はつねに空ならん
汝は移すともつひに拯ふことを得じ汝が拯ひし者は我これを劍に付すべし 15 汝は種播とも刈ることあらず橄欖を踐ともその油を身に抹ることあらず葡萄酒を踐ともその酒を飲ことあらず 16 汝らはオムリの法度を守りアハブの家の一切の行爲を行て彼等の謀計に遵ふ是は我をして汝を荒さしめ且その居民を胡盧となさしめんが爲なり
汝らはわが民の恥辱を任べし

Chapter 7

1我は禍なるかな我の景況は夏の菓物を採る時のごとく遣れる葡萄を斂むる時に似たり 食ふべき葡萄あること無く我が心に嗜む初結の無花果あること無し 2 善人地に絶ゆる人の中に直き者なし皆血を流さんと伏て伺ひ各々網をもてその兄弟を獵る 3 兩手は惡を善なすに急がし 撒伯は要求め裁判人は賄賂を取り力ある人はその心の惡き望を言あらはし 斯共にその惡をあざなひ合す 4 彼らの最も善き者も荆棘のごとく最も直き者も刺ある樹の垣より惡し汝の觀望人の日すなはち汝の刑罰の日いたる 彼らの中に今混亂あらん 5 汝ら伴侶を信ずる勿れ
朋友を待むなかれ汝の懷に寝る者にむかひても汝の口の戸を守れ 6 男子

は父を藐視め女子は母の背き息は姑に背かん
人の敵はその家の者なるべし 7 我はエホバを仰ぎ望み我を救ふ神を望み俟つ 我神われに聽たまふべし 8 我敵人よ我につきて喜ぶなかれ我仆るれば興あがる幽暗に居ればエホバ我の光となりたまふ 9 エホバわが訴訟を理し我ために審判をおこなひたまふまで我は忍びてその忿怒をかうむらん
其は我これに罪を得たればなりエホバつひに我を光明に携へいだし給はん 而して我エホバの正義を見ん 10 わが敵これを見ん汝の神エホバは何處にをるやと我に言る者恥辱をかうむらん我かれを目に見るべし彼は街衢の泥のごとくに踏つけらるべし 11
汝の垣を築く日いたらん
其日には法度遠く徙るべし 12 その日にはアッスリヤよりエジプトの邑々より人々汝に來りエジプトより河まで海より海まで山より山までの人々汝に來り就ん 13 その日地はその居民の故によりて荒はつべし 是その行爲の果報なり 14 汝の杖をもて汝の民即ち獨離れてカルメルの中の林にをる汝の産業の羊を牧養ひ之をして古昔の日のごとくパンヤンおよびギレアデにおいて草を食はしめたまへ 15 汝がエジプトの國より出來し日のごとく我ふしぎなる事等を彼にしめさん 16 國々の民見てその一切の能力を恥ぢその手を口にあてん その耳は聾となるべし 17 彼らは蛇のごとくに塵を舐め地に匍ふ者の如くにその城より振ひて出で戰慄て我らの神エホバに詣り汝のために懼れん 18 何の神か汝に如ん 汝は罪を赦しその産業の遺餘者の怨を見過したまふなり神は憐憫を悦ぶが故にその震怒を永く保ちたまはず 19 ふたたび顧みて我らを憐み我らの怨を踏つけ我らの諸の罪を海の底に投しづめたまはん 20 汝古昔の日われらの先祖に誓ひたりし其眞實をヤコブに賜ひ憐憫をアブラハムに賜はん

ナホム書

Chapter 1

1 ニネベに關る重き預言
エルコシ人ナホムの異象の書 2
エホバは妬みかつ仇を報ゆる神
エホバは仇を報ゆる者また忿怒の主
エホバは己に逆らふ者に仇を報い己に敵する者にむかひて憤恨を含む者なり 3 エホバは怒ることの遅く能力の大なる者また罰すべき者をば必ず赦すことを爲ざる者
エホバの道は旋風に在り大風に在り雲はその足の塵なり 4 彼海を指斥て之を乾かし河々をしてことごとく涸しむパンヤンおよびカルメル草木は枯れレバノンの花は凋む 5 彼の前には山々ゆるぎ嶺々溶く彼の前には地墳上り世界およびその中に住む者皆ふきあげらる 6
誰かその憤恨に當ることを得ん
誰かその燃る忿怒に堪ることを得ん

其震怒のそそぐこと火のごとし
巖も之がために裂く 7 エホバは善なる者にして患難の時の要害なり
彼は己に倚頼む者を善知たまふ 8 彼みな己に敵する者を幽暗處に逐やりたまはん 9
汝らエホバに對ひて何を謀るや
彼全く滅したまふべし
患難かさねて起らし 10 彼等むすびからまれる荆棘のごとくとも酒に浸りるとも乾ける藁のごとくに焚つくさるべし 11 エホバに對ひて惡事を謀る者一人汝の中より出で邪曲なる事を勤む 12
エホバかく言たまふ彼等全くしてその數夥多しかるとも必ず芟たふされて皆絶ん我前にはなんぢを苦めたれども重て汝を苦めじ 13 いま我れが汝に負せし軛を碎き汝の縛を切はなすべし 14
エホバ汝の事につきて命令を下す
汝の名を負ふ者再び播ることよじ汝の神々の室より我彫像および鑄像を除き絶べし 我汝の墓を備へん 汝輕ければなり 15
嘉音信を傳ふる者の脚山の上に見ゆ
彼平安を宣ぶユダよ汝の節筵を行ひ汝の誓願を果せ邪曲なる者重て汝の中を通らざるべし 彼は全く絶る

Chapter 2

1
撃破者攻のぼりて汝の前に至る汝城を守り路を窺ひ腰を強くし汝の力を大に強くせよ 2 エホバはヤコブの榮を舊に復してイスラエルの榮のごとくしたまふ其は掠奪者これを掠めその葡萄蔓を壞いたればなり 3 その勇士は楯を紅にしその軍兵は紅に身を甲ふ其行伍を立つる時には戰車の鐵灼燦て火のごとし
鎗また閃めきふるふ 4
戰車街衢に狂ひ奔り大路に推あふ其形狀火炬のごとく其疾く馳すること電光の如し 5
彼その將士を憶ひいだす彼らはその途にて躓き仆れその石垣に奔ゆき大楯を備ふ 6
河々の門啓け宮消うせん 7
この事定まれり彼は裸にせられて擲はれゆきその宮女胸を打て鶺鴒のごとくに啼くべし 8 二ネベはその建し日より民今來水の満る池に似たりしがその民今は逃奔る止れ止れと呼ども後を顧みたる者なし 9 白銀を奪へよ黄金を奪へよその寶物限なく諸の貴とき器用夥多し 10 滅亡たり空虚なれり荒果たり心は消え膝は慄ひ腰には凡て劇しき痛あり
面はみな色を失ふ 11
獅子の穴は何處ぞや
少き獅子の物を食ふ處は何處ぞや雄獅子雌獅子その小獅子とともに彼處に歩むに之を懼れしむる者なし 12 雄獅子は小獅子のために物を嚙ころし雌獅子の爲に物をくぶり殺しその掠獲たる物をもて穴に充しその裂殺しし物をもて住所に満す 13
萬軍のエホバ言たまふ
視よ我なんぢに臨む
我なんぢの戰車を焚て煙となすべし

汝の少き獅子はみな劍の殺す所とならん我また汝の獲物を地より絶べし汝の使者の聲がさねて聞ゆること無らん

Chapter 3

1 禍なるかな血を流す邑その中には全く詭譎および暴行充ち掠め取ること息まず 2 鞭の音あり輪の轟く音あり 3 馬は躍り跳ね車は輾り行く 4 騎兵馳のぼり剣きらめき鎗ひらめく殺さるる者夥多しして死屍山を爲し死骸限なし皆死屍に躓きて倒る 5 是はかの魔術の主なる美しき妓女多く淫行を行ひその淫行をもて諸國を奪ひその魔術をもて諸族を惑したるに因てなり 6 萬軍のエホバ言たまふ視よ我なんぢに臨む我なんぢの裳褕を掲げて面上にまで及ぼし汝の陰所を諸民に見し汝の羞る所を諸國に見すべし 7 我また穢はしき物を汝の上に投かけて汝を辱しめ汝をして糞物とならしめん 8 凡て汝を見る者はみな汝を避て奔り去りニネべは亡びたりと言ん誰か汝のために哀かんと何處よりして我なんぢを弔ふ者を尋ね得んや 9 汝あにノアモンに愈らんやノアモンは河々の間に立ち水をその周圍に環らし海をもて壕となし海をもて垣となせり 10 かつその勢力たる者はエテオピア人およびエジプト人などにして限あらず 11 フテ人ルビ人等汝を助けたりき 12 然るに是も俘囚となりて擯はれてゆきその子女は一切の衢の隅々にて投分られて碎け又その尊貴者は籠にて分たれ其大なる者はみな鐘に繋がれたり 13 汝もまた酔せられて終に隱匿ん汝もまた敵を避て逃る處を尋ね求めん 14 汝の城々はみな初に結びし果のなれる無花果樹のごとし之を撼がせばその果落て食はんとする者の口にいる 15 汝の中にある民は婦人のごとし汝の地の門はみな汝の敵の前に廣く開きてあり 16 火なんぢの關を焚ん 17 汝水を汲て圍まる時の用に備へ汝の城々を堅くし泥の中に入れて踐て石灰を作りかつ瓦燒壺を修理へよ 18 其處にて火汝を焼き劍なんぢを斬ん其なんぢを滅すこと吸蝗のごとくなるべし 19 汝吸蝗のごとく數多からば多かれ汝群蝗のごとく數多からば多かれ 20 汝はおのれの商賈を空の星よりも多くせり 21 吸蝗掠めて飛さる 22 汝の重臣は群蝗のごとく汝の軍長は蝗の群のごとし寒き日には垣に巢窟を構へ日出きたれば飛て去る 23 その在る處を知る者なし 24 アッシリアの王よ汝の牧者は睡り汝の貴族は臥す又なんぢの民は山々に散さる之を聚むる者なし 25 汝の傷は愈ること無し汝の劍は重し汝の事を聞および者はみな汝の故によりて手を拍ん誰か汝の惡行を恒に身に受ざる者やある

ハバクク書

Chapter 1

1 預言者ハバククが示を蒙りし預言の重負 2 エホバよ我呼はるに汝の我に聴たまはざること何時までぞや我なんぢにむかひて強暴を訴ふれども汝は助けたまはざるなり 3 汝なにとて我に害惡を見せたまふや何とて艱難を瞻望居たまふや奪掠および強暴わが前に行はる且爭論あり鬭争おこる 4 是によりて律法弛み公義正しく行はれず惡き者義しき者を圍むが故に公義曲りて行はる 5 汝ら國々の民の中を望み觀おどろけ駭け汝らの日に我一の事を爲ん之を告る者あると汝ら信ぜざらん 6 視よ我カルデヤ人を興さんとす是すなはち猛くまた荒き國人にして地を縦横に行めぐり 7 己の有ならざる住處を奪ふ者なり 8 是は懼るべく又驚くべし 9 其是非威光は己より出づ 10 その馬は疾よりも迅く夜食する豺狼よりも疾し 11 其騎兵は跑まはる即ちその騎兵は遠き處より來る其飛ことは物を食はんと急ぐ驚のごとし 12 9 是は全く強暴のために來り 13 其面を前にむけて頻に進むその俘虜を寄集むることは砂のごとし 14 是は王等を侮り君等を笑ひ諸の城々を笑ひ土を積あげてこれを取ん 15 斯て風のごとくに行めぐり進みわたりて罪を獲ん 16 是は己の力を神とす 17 エホバわが神わが聖者よ 18 汝は永遠より在らずに非ずや 19 我らは死なしエホバよ汝は是を審判のために設けたまへり 20 磐よ汝は是を懲戒のために立たまへり 21 汝は目清くして肯て惡を觀たまはざる者肯て不義を視たまはざる者なるに何ゆゑ邪曲の者を觀すて置たまふや惡き者を己にまさりて義しき者を呑噬ふに何ゆゑ汝黙し居たまふや 22 汝は人をして海の魚のごとくならしめ君あらぬ昆蟲のごとくならしめたまふ 23 彼釣をもて之を盡く釣あげ網をもて之を寄せ集め引網をもて之を捕ふるなり 24 是に因て彼歡び樂しむ 25 是は故に彼その網に犠牲を獻げその引網に香を焚く其は之がためにその分肥まさりその食糧になりたればなり 26 然ど彼は其の網を傾けつなほたえず國々の人を惜みなく殺すことをするならんか

Chapter 2

1 我わが觀望所に立ち成樓に身を置ん而して我候ひ望みて其われに何と宣まふかを見わが詭言に我みづから何と答ふべきかを見ん 2 エホバわれに答へて言たまはく此默示を書しるして之を板の上に明白に鐫つけ奔りながらも之を讀むべからしめよ 3 この默示はなほ定まれる時を俟てその終を急ぐなり 偽ならず若し遅くあらば待べし必ず臨むべし 4 濡滞りはせじ 5 視よ彼の心は高ぶり

6 其の中にありて直からず然ど義き者はその信仰によりて活べし 7 かの酒に耽る者は邪曲なる者なり驕傲者にして安んぜず彼はその情慾を陰府のごとくに濶くす 8 また彼は死のごとし又足ことを知らず 9 萬國を集へて己に歸せしめ萬民を聚めて己に就しむ 10 其等の民みな諺語をもて彼を評し嘲弄の詩歌をもて彼を諷せざらんや即ち言ん己に屬せざる物を積累ぬる者は禍なるかな 11 斯て何の時にまでおよばんや 12 嗟かの質物の重荷を身に負ふ者よ 13 汝を噬む者にはかに興ざらんや 14 汝を惱ます者醒出ざらんや 15 汝は之に掠めらるべし 16 汝衆多の國民を掠めしに因てその諸の民の遺れる者なんぢを掠めん 17 是人の血を流ししに因るまた強暴を地上に行ひて邑とその内に住る一切の者とに及ぼせしに因るなり 18 災禍の手を免れんが爲に高き處に巢を構へんとて己の家に不義の利を取る者は禍なるかな 19 汝は事を圖りて己の家に恥辱を來らせ衆多の民を滅して自ら罪を取れり 20 石垣の石叫び建物の梁これに應へん 21 血をもて邑を建て惡をもて城を築く者は禍なるかな 22 諸の民は火のために勞し諸の國人は虚空事のために疲る是は萬軍のエホバより出る者ならずや 23 エホバの榮光を認むるの知識地上に充て宛然海を水の掩ふが如くならん 24 人に酒を飲せ己の忿怒を酌和へて之を酔せ而して之が陰所を見んとする者は禍なるかな 25 汝は榮譽に飽ずして羞辱に飽り 26 汝もまた飲て汝の不割禮を露はせエホバの右の手の杯汝に巡り來るべし 27 汝は汚なき物を吐て榮耀を掩はん 28 汝がレバノンに爲たる強暴と獸を懼れしめしその穢濁とは汝の上に報いきたるべし是人の血を流ししに因りまた強暴を地上に行ひて邑とその内に住る一切の者とに及ぼししに因るなり 29 雕像はその作者これを刻みたりとて何の益あらんや又鑿像および偽師は語はぬ偶像なればその像の作者これを作りて頼むとも何の益あらんや 30 木にむかひて興ませと言ひ語はぬ石にむかひて起たまへと言ふ者は禍なるかな 31 是はかに教誨を爲んや視よ 32 是は金銀に着せたる者にてその中には全く氣息なし 33 然りとていへどもエホバはその聖殿に在ますぞかし 34 全地その御前に黙すべし

Chapter 3

1 シギヨノテに合せて歌へる預言者ハバククの祈禱 2 エホバよ我なんぢの宣ふ所を聞て懼るエホバよこの諸の年の中間に汝の運動を活奮させたまへ 3 此諸の年の間に之を顯現したまへ 4 怒る時にも憐憫を忘れ給はざれ 5 神テマンより來り聖者パラン山より臨みたまふセラ其榮光諸天を蔽ひ其讚美世界に徧なし 6 その朗耀は日のごとく光線その手より出づ 7 彼處はその權能の隠る所なり 8 疫病その前に先だち行き熱病その足下

9 より出づ 10 彼立て地を震はせ觀まはして萬國を戰慄しめたまふ 11 永久の山は崩れ常磐の岡は陥る 12 彼の行ひたまふ道は永久なり 13 我觀るにクシヤンの天幕は艱難に罹りミデアンの地の幃幕は震ふ 14 エホバよ汝は馬を驅り汝の拯救の車に乗りたまふ 15 是河にむかひて怒りたまふなるか河にむかひて汝の忿怒を發したまふなるか海にむかひて汝の憤恨を洩し給ふなるか 16 汝の弓は全く囊を出で杖は言をもて言かためらる 17 セラ 18 汝は地を裂て河となし給ふ 19 山々汝を見て震ひ洪水溢れわたり淵聲を出してその手を高く擧ぐ 20 汝の奔る矢の光のため汝の鎗の電光のごとき閃爍のために日月その住處に立とどまる 21 汝は憤ほりて地を行めぐり 22 怒りて國民を踏つけ給ふ 23 汝は汝の民を救んとて出きたり汝の膏沃ける者を救はんとて臨みたまふ 24 汝は惡き者の家の頭を碎きその石礎を露はして頸におよぼし給へり 25 セラ 26 汝は彼の鎗をもてその將帥の首を刺とほし給ふ彼らは我を散さんとて大風のごとくに進みきたる彼らは貧き者を密に呑ほろぼす事をもてその樂とす 27 汝は汝の馬をもて海を乗とほり大水の逆巻ところを涉りたまふ 28 我聞て腸を斷つ 29 我唇その聲によりて震ふ 30 腐朽わが骨に入り我下體わななく 31 其は我患難の日の來るを待ばなり其時は即ち此民に攻寄る者ありて之に押逼らん 32 その時には無花果の樹は花咲ず葡萄の樹には果ならず 33 橄欖の樹の産は空くなり田圃は食糧を出さず園には羊絶え小屋には牛なかるべし 34 然ながら我はエホバによりて樂みわが拯救の神によりて喜ばん 35 主エホバは我力にして我足を鹿の如くならしめ 36 我をして我高き處を歩ましめ給ふ 37 伶長これを我琴にあはすべし

ゼバニヤ書

Chapter 1

1 アモンの子ユダの王ヨシヤの世にゼバニヤに臨めるエホバの言 2 ゼバニヤはクシの子 3 クシはゲダリアの子 4 ゲダリアはアマリヤの子 5 アマリヤはヒゼキヤの子なり 6 エホバ言たまふわれ地の面よりすべて物を獻はらひのぞかん 7 われ人と獸畜をほろぼし空の鳥海の魚および躑躅になる者と惡人とを滅さん我かならず地の面より人をほろぼし絶ん 8 エホバこれを言ふ 9 我ユダとエルサレムの一切の居民との上に手を伸ん我この處よりかの漏のこれるバルを絶ちケマリムの名を祭司と與に絶ち 5 また屋上にて天の衆軍を拜む者エホバに誓を立てて拜みながらも亦おのれの王を指て誓ふこ

とをする者 6 エホバに悖り離るる者
 エホバを求めず尋ねざる者を絶ん 7
 汝主エホバの前に黙せよそはエホバ
 の日近づきエホバすでに犠牲を備へ
 その招くべき者をさだめ給ひたれば
 なり 8 エホバの犠牲の日に我もろも
 ろの牧伯と王の子等および凡て異邦
 の衣服を着る者を罰すべし 9 その日
 には我また凡て鬪をとびこえ強暴と
 詭譎をもて獲たる物をおのが主の
 家に満す者等を罰せん 10
 エホバ曰たまはくその日には魚の門
 より號呼の聲おこり下邑より喚く聲
 おこり山々より大なる敗壞おこらん
 11 マクテシの民よ汝ら叫べ
 其は商賣する民
 悉くほろび銀を擔ふ者
 悉く絶たればなり 12 その時はわれ
 燈をもちてエルサレムの中を尋ねん
 而して滓の上に居着て心の中にエホ
 バは福をもなさず災をもなさずとい
 ふものを罰すべし 13 かれらの財寶
 は掠められ彼らの家は荒果んかれら
 家を造るともその中に住とをせず
 葡萄を植るともその葡萄酒を飲こと
 を得ざるべし 14
 エホバの大なる日近づけり
 近づきて速かに来る
 聴よ是エホバの日なるぞ
 彼處に勇士のいたく叫ぶあり 15
 その日は忿怒の日
 患難および痛苦の日
 荒かつ亡ぶるの日
 黑暗またをぐらき日
 濃き雲および黒雲の日 16 箊をふき
 鯨聲をつくり堅き城を攻め高き櫓を
 攻るの日なり 17 われ人々に患難を
 蒙らせて盲者のごとくに惑ひあるか
 しめん彼らエホバにむかひて罪を犯
 したればなり彼らの血は流されて塵
 のごとくになり彼らの肉は捨られて
 糞土のごとくなるべし 18 かれらの
 銀も金もエホバの烈き怒の日には彼
 らを救ふことあたはず
 全地その嫉妬の火に呑るべし即ちエ
 ホバ地の民をことごとく滅したまは
 ん 其事まことに速なるべし

Chapter 2

1 汝等羞恥を知ぬ民早く自ら内
 に省みよ 2
 夫日は糠粃の如く過ぎざる然ば詔言
 のいまだ行はれざる先エホバの烈き
 怒のいまだ汝等に臨まざる先エホバ
 の忿怒の日のいまだ汝等に来たらざ
 るさきに自ら省みよ 3 すべてエ
 ホバの律法を行ふ斯地の遜るものよ
 汝等エホバを求め公義を求め謙遜を
 求めよ然すれば汝等エホバの忿怒の
 日に或は匿されることあらん 4 夫ガ
 ザは棄られアシケロンは荒てアシ
 ドは白晝に逐はられはれエクロンは
 拔さらるべし 5 海邊に住る者および
 ケレテの國民は禍なるかな
 ペリシテ人の國カナンよ
 エホバの言なんぢらを攻む我なんぢ
 を滅して住者なきに至らしむべし 6
 海邊は必ず牧場となり牧者の洞およ
 び羊の牢そこに在ん 7 此地はユダの
 家の殘餘る者に歸せん彼ら其處に
 て草飼ひ暮に至ればアシケロンの家
 に臥んそは彼らの神エホバかれらを

顧みその俘囚を歸したまふべければ
 なり 8 我すでにモアブの嘲弄とアン
 モンの子孫の罵言を聞けり彼らはわ
 が民を嘲り自ら誇りて之が境界を侵
 せしなり 9 是故に萬軍のエホバ、
 イスラエルの神 言たまふ 我は活く 必
 ずモアブはソドムのごとくになりア
 ンモンの子孫はゴモラのごとくにな
 らん是は共に蕁麻の蔓延る處となり
 鹽坑の地となりて長久に荒はつべし
 我民の遺れる者かれらを掠めわが國
 民の餘されたる者かれらを獲ん 10
 この事の彼らに臨むはその傲慢によ
 る即ち彼ら萬軍のエホバの民を嘲り
 て自ら誇りたればなり 11 エホバは
 彼等に對ひては畏ろしくましまし地
 の諸の神や饑し滅したまふなり諸の
 國の民おのおのその處より出てエホ
 バを拜まん 12 エテオピア人よ汝等
 もまたわが劍にかかりて殺さる 13
 エホバ北に手を伸てアッスリヤを滅
 したまはん亦ニネベを荒して荒野の
 ごとき旱地となしたまはん 14 而し
 て畜の群もろもろの類の生物その中
 に伏し鸚鵡および刺鴉其柱の頂に住
 み囀る者の聲窓の内にきこえ荒落た
 る物鬪の上に積り香柏の板の細工露
 顯になるべし 15
 是邑は驕り傲ぶりて安泰に立をり
 唯我あり我の外には誰もなしと心
 中に言つつありし者なるが斯も荒は
 てて畜獸の臥す處となる者かな此を
 過る者はみな嘶きて手をふるはん

Chapter 3

1 此暴虐を行ふ悖りかつ汚れた
 る邑は禍なるかな 2 是は聲を聽い
 れず教誨を承ずエホバに依頼せずお
 のれの神に近よらず 3 その中にをる牧
 伯等は吼る獅子の如くその審士は明
 旦までに何をも遺さざる
 夜求食する狼のごとし 4
 その預言者は傲りかつ詐る人なりそ
 の祭司は聖物を汚し律法を破ること
 をなせり 5 その中にいますエホバは
 義くして不義を行なひたまはず朝な
 朝な己の公義を顯して缺ることなし
 然るに不義なる者は恥を知ず 6 我國
 々の民を滅したればその櫓は凡て荒
 たり我これが街を荒涼れしめられた
 往來する者なしその邑々は滅びて人
 なく住む者なきに至れり 7
 われ前に言り
 汝ただ我を畏れまた警教を受べし然
 らばその住家は我が凡て之につきて
 定めたる所の如くに滅されざるべし
 と然るに彼等は夙に起て己の一切の
 行状を壊れり 8 エホバ曰たまふ 是
 ゆゑに汝らわが起て獲物をする日
 いたるまで我を俟て我もろもろの民を
 集へ諸の國を聚めてわが憤恨とわが
 烈き忿怒を盡くその上にそがんと
 思ひ定む全地はわが嫉妬の火に焼ほ
 るぼさるべし 9 その時われ國々の民
 に清き唇をあたへ彼らをして凡てエ
 ホバの名を呼しめ心をあはせて之に
 つかへしめん 10 わが散せし者等の
 女即ち我を拜む者エテオピアの河々
 の彼旁よりもきたりて我に禮ものを
 ささぐべし 11 その日には汝われに
 對てをかしきたりし諸の行爲をもて
 羞を得ことなるべしその時には我

なんぢの中より高ぶり樂む者等を除
 けば汝がさねてわが聖山にて傲り高
 ぶることなければなり 12 われ柔和
 にして貧き民をなんぢの中にのこさ
 ん
 彼らはエホバの名に依頼むべし 13
 イスラエルの遺れる者は惡を行はず
 詭をいはず
 その口のうちには詐偽の舌なし
 彼らは草食ひ臥やすまん
 之を懼れしむる者なかるべし 14
 シオンの女よ歡喜の聲を擧よ
 イスラエルよ樂み呼はれエルサレム
 の女よ心のかぎり喜び樂め 15 エホ
 バすでに汝の鞫を止め汝の敵を逐は
 らひたまへりイスラエルの王エホバ
 汝の中にいます汝はかさねて災禍に
 あふことあらじ 16 その日にはエル
 サレムに向ひて言あらん
 懼るなかれ シオンよ
 汝の手をしなえ垂るなかれと 17
 なんぢの神エホバなんぢの中にいま
 す彼は拯救を施す勇士なり彼なんぢ
 のために喜び樂み愛の餘りに黙し汝
 のために喜びて呼はりたまふ 18 わ
 れ節會のことにつきて憂ふるものを
 集めん彼等は汝より出し者なり恥辱
 がれらに蒙むること重負のごとし 1
 9 視よその時われ汝を處遇る者を盡
 く處置し足蹙たるものを救ひ逐はな
 したる者を集め彼らをして其羞辱
 を蒙りし一切の國にて稱譽を得させ
 名を得さすべし 20 その時われ汝ら
 を携へその時われ汝らを集むべし我
 なんぢらの目の前において汝らの俘
 囚をかへし汝らをして地上の萬國に
 名を得させ稱譽を得さすべし
 エホバこれを言ふ

八ガイ書

Chapter 1

1 ダリヨス王の二年六月其月の一日
 にエホバの言預言者八ガイによりて
 シヤルテルの子ユダの方伯ゼルバ
 ルおよびヨザダクの子
 祭司の長ヨシユアに臨めりいはく 2
 萬軍のエホバかくいひたまふ是民は
 エホバの殿を建べき時期未だ來らず
 といへり 3 エホバの言また預言者八
 ガイによりて臨めり曰く 4 此殿かく
 毀壞をれば汝等板をもてはれる家に
 居るべき時らんや 5
 されば今萬軍のエホバかく曰たまふ
 汝等おのれの行爲を省察べし 6 汝ら
 は多く播ども収入のところは少く食
 へども飽足ことを得ず
 飲ども満足ことを得ず
 衣れども暖きことを得ず又工價を得
 るものは之を破れたる袋に入る 7
 萬軍のエホバまた曰たまふ
 汝等おのれの行爲を省察べし 8
 山に上り木を携へ來て殿を建てよ
 さすれば我これを悦び又榮光を受ん
 エホバこれを言ふ 9 なんぢら多く得
 んと望みたりしに反て少かりき又汝
 等これを家に携へ歸りしとき我これ
 を吹はらへり
 萬軍のエホバいひたまふは何故ぞや

是は我が殿破壊をるに汝等おのおの
 己の室に走り至ればなり 10 この故
 になんぢらの上の天は雨露を止め地
 はその産物を止めたり 11 且われ地
 にも山にも穀物にも新酒にも油にも
 地の生ずる物にも人にも家畜にも手
 のもろもろの工にもすべて毀壞を召
 きかうむらしめたり 12 シヤルテル
 の子ゼルバベルとヨザダクの子祭司
 の長ヨシユアおよびその殘れるすべ
 ての民ともに其神エホバの聲と預言
 者八ガイの言に聽したがへり是は其
 神エホバかれを遣したまひしに因る
 民みなエホバの前に敬畏たり 13 時
 にエホバの使者八ガイ、エホバの命
 により民に告て曰けるは我なんぢら
 と偕に在りとエホバ曰たまふと 14
 エホバ、シヤルテルの子ユダの方伯
 ゼルバベルの心とヨザダクの子祭司
 の長ヨシユアの心およびその殘れる
 すべての民の心をふりおこしたまひ
 ければ彼等來りて其神萬軍のエホバ
 の殿にて工作を爲り 15 これダリヨ
 ス王の二年六月二十四日なりき

Chapter 2

1 七月其月の二十一日エホバの
 言預言者八ガイによりて臨めり曰く
 2 シヤルテルの子ユダの方伯ゼルバ
 ベルとヨザダクの子祭司の長ヨシユ
 アおよびその殘れる一切の民に告よ
 3 なんぢら遺れる者の中この殿の從
 前の榮光を見しものは誰ぞや
 今これを如何に見るやかの殿にくら
 ぶれば是は汝らの目に何もなきが如
 く見ゆるにあらずや 4 エホバ曰たま
 ふゼルバベルよ自ら強くせよヨザダ
 クの子祭司の長ヨシユアよ自ら強く
 せよエホバ言たまふこの地の民よ自
 らつよくしてはたらけ
 我なんぢらとともに在り
 萬軍のエホバこれを言ふ 5 汝らがエ
 ジプトよりいでし時わがなんぢらに
 約せし言およびわが靈なほなんぢら
 の中に留れり 懼るなかれ 6
 萬軍のエホバかくいひたまふいま一
 度しばらくありてわれ天と地と海と
 陸とを震動はん 7
 又われ萬國を震動はん
 また萬國の願ふところのもの來らん
 又われ榮光をもてこの殿に充滿さん
 萬軍のエホバこれを言ふ 8
 銀も我ものなり金もわが物なりと萬
 軍のエホバいひたまふ 9 この殿の後
 の榮光は從前の榮光より大ならん
 萬軍のエホバいひたまふこの處にお
 いてわれ平康をあたへんと萬軍のエ
 ホバいひたまふ 10 ダリヨスの二年
 九月二十四日エホバのことは預言者
 八ガイによりて臨めり曰く 11
 萬軍のエホバかく曰たまふ律法に
 つきて祭司に問ふて曰ふべし 12 人衣
 の裾にて聖肉を携へたらんにその裾
 もしパン或は羹あるひは酒あるひは
 油あるひは他の食物に捫らばそれら
 は聖ものとなるや祭司たち答へて曰
 けるはしからず 13 八ガイまたいひ
 けるは屍體に捫りて汚れしもの若こ
 れらの物にさはらば其ものはけがる
 べきや
 祭司等こたへて曰けるは汚れん 14
 ここに於て八ガイ答へて曰けるはエ

ホバ曰たまふ我前此民もかくの如く
また此國もかくの如し又其手の一切
のわざもかくのごとく彼等がその處
に獻ぐるものもけがれたるものなり
15 また今われ汝らに乞 この日より
以前のなほエホバの殿にて石の上
に石の置れざりし時を憶念べし 16
かの時には二十舛もあるべき麥來に
ついてわづかに十を得たま酒榨につ
きて五十桶汲んとせしにただ二十を
得たるのみ 17 汝が手をもて爲せる
一切の事に於てわれ不實穂と朽腐穂
と雷を以てなげらばを撃り
されど汝我にかへらざりき
エホバこれを言ふ 18
なんぢらこの日より以前を憶念みよ
即ち九月二十四日よりエホバの殿の
基を置し日までをおもひ見よ 19
種子なほ倉にあるや 葡萄の樹
無花果の樹 石榴の樹
橄欖の樹もいまだ實を結ばざりき
此日よりのちわれ汝らを恵まん 20
此月の二十四日にエホバのことば再
び八ガイに臨めり曰く 21
ユダの方伯ゼルバベルに告よ
われ天地を震動ん 22
列國の位を倒さん
また異邦の諸國の權勢を滅さん
又車および之に駕る者を倒さん馬お
よび之に騎る者もおのの其伴侶の
劍によりてたぶれん 23 萬軍のエホ
バ曰たまはくシャルテルの子わが僕
ゼルバベルよエホバいふその日に我
なんぢを取りなんぢを印の如くにせ
ん そはわれ汝をえらびたればなり
萬軍のエホバこれを言ふ

ゼカリヤ書

Chapter 1

1 ダリヨスの二年八月のエホバの言
イドの子ベレキヤの子なる預言者ゼ
カリヤに臨めり云く 2 エホバいたく
汝らの父等を怒りたまへり 3 萬軍の
エホバかく言ふと汝かれらに告よ萬
軍のエホバ言ふ汝ら我に歸れ萬軍の
エホバいふ我も汝らに歸らん 4 汝ら
の父等のごとくならざりし前の預言者
等かれらに向ひて呼はりて言り萬軍
のエホバかく言たまふ請ふ汝らその
惡き道を離れその惡き行を棄てて歸
れと然るに彼等は聽ず耳を我に傾け
ざりきエホバこれを言ふ 5 汝らの父
等は何處にありや預言者たち永遠に
生んや 6 然ながら我僕なる預言者等
に我が命じたる吾言とわが法度とは
汝らの父等に追及たるに非ずや然ゆ
ゑに彼ら道に循ひて言り萬軍のエホバ
我らの道に循ひ我らの行に循ひて我
らに爲んと思ひたまひし事を我らに
爲たまへりと 7 ダリヨスの二年十一
月すなはちセパテといふ月の二十四
日にエホバの言イドの子ベレキヤの
子なる預言者ゼカリヤに臨めり云く
8 我夜觀し一箇の人赤馬に乗て谷
の裏なる鳥拈樹の中に立ちその後に
赤馬駁馬白馬をる 9 我わが主よ是等
は何ぞやと問けるに我と語ふ天の使
われにむかひて是等の何なるをわれ

汝に示さんと言り 10 鳥拈樹の中に
立る人答へて言けるは是等は地上を
遍く歩かしめんとてエホバの遣した
まひし者なりと 11 彼ら答へて鳥拈
樹の中に立るエホバの使に言けるは
我ら地上を行めぐり觀しに全地は穢
にして安し 12 エホバの使こたへて
言ふ萬軍のエホバよ汝いつまでエル
サレムとユダの邑々を恤みたまはざ
るか汝はこれを怒りたまひてすでに
七十年になりぬと 13 エホバ我と語
ふ天の使に嘉事慰事をもて答へたま
へり 14 かくて我と語ふ天の使我に
言けるは汝呼はりて言へ萬軍のエホ
バかく言たまふ我エルサレムのため
シオンのために甚だしく心を熱して
嫉妬おもひ 15 安居せる國々の民を
太く怒る其は我すこしく怒りしに彼
ら力を出して之に害を加へたればなり
16 エホバかく言ふ是故に我憐憫
をもてエルサレムに歸る萬軍のエホ
バのたまふ我室その中に建られ量繩
エルサレムに張られん 17 汝また呼
はりて言へ萬軍のエホバかく言ふ我
邑々には再び嘉物あふれんエホバふ
たたびシオンを慰め再びエルサレム
を簡びたまふべしと 18 かくて我目
を擧て觀しに四の角ありければ 19
我に語ふ天の使に是等は何なるやと
問しに彼われに答へけるは是等はユ
ダ、イスラエルおよびエルサレムを
散したる角なりと 20 時にエホバ四
箇の鍛冶を我に見し給へり 21 我是
等は何を爲んとて來れるやと問しに
斯こたへ給へり是等の角はユダを散
して人々にその頭を擧しめざりし者な
るが今この四箇の者來りて之を威士
かのユダの地にむかひて角を擧て之
を散せし諸國の角を擲たんとす

Chapter 2

1 茲に我目を擧て觀しに一箇の
人量繩を手に執居れば 2 汝は何處
へ往くやと問しにエルサレムを量り
てその廣と長の幾何なるを觀んとす
と我に答ふ 3 時に我に語ふ天の使
行たりしが又一箇の天の使出きたり
て之に會ひ 4 之に言けるは走ゆきて
この少き人に告て言へエルサレムは
その中に人と畜と饒なるによりて野
原のごとくに廣く亘るべし 5 エホバ
言たまふ我その四周にて火の垣とな
りその中にて榮光とならん 6 エホバ
いひたまふ來れ來れ北の地より逃さ
たれ我なんぢらを四方の天風のごと
くに行わたらしむればなりエホバこ
れを言ふ 7 來れバビロンの女子と
ともに居るシオンよ遁れ來れ 8 萬軍
のエホバかく言たまふエホバ汝等を擯
へゆきし國々へ榮光のために我儕を
遣したまふ汝らを打つ者は彼の目の
珠を打なればなり 9 即ち我手をか
らの上に揺ん彼らは己に事へし者の
俘虜となるべし汝らは萬軍のエホバ
の我を遣したまへるなるを知ん 10
エホバ言たまふシオンの女子よ喜び
樂め我きたりて汝の中に住ばなり 11
その日には許多の民エホバに附て
我民とならん我なんぢの中に住べし
汝は萬軍のエホバの我を遣したまへ
るなるを知ん 12 エホバ聖地の中
にてユダを取て己の分となし再びエル

サレムを簡びたまふべし 13 エホバ
起てその聖住所よりいでたまへば凡
そ血肉ある者エホバの前に肅然たれ

Chapter 3

1 彼祭司の長ヨシユアがエホバ
の使の前に立ちサタンのその右に立
てこれに敵しをるを我に見す 2 エホ
バ、サタンに言たまひけるはサタン
よエホバ汝をせむべし即ちエルサレ
ムを簡びしエホバ汝をいましむはは
火の中より取いだしたる燃柴ならず
やと 3 ヨシユア汚なき衣服を衣て使
の前に立をりしが 4 エホバ己の前に
立る者等に告て汚なき衣服を之に脱
せよと宣ひまたヨシユアに向ひて觀
よ我なんぢの罪を汝の身より取のぞ
けり汝に美服を衣すべしと宣へり 5
我また潔き冠冕をその首に冠らせよ
と宣ひ是において潔き冠冕をその首
に冠らせ衣服をこれに衣すエホバの
使は立をる 6
エホバの使證してヨシユアに言ふ 7
萬軍のエホバかく言たまふ汝もし我
道を歩みわが職守を守らば我家を司
どり我庭を守ることを得ん我また此
に立る者等の中に往來する路を汝に
與ふべし 8 祭司の長ヨシユアよ請ふ
汝と汝の前に坐する汝の同僚とともに
聽べし彼らは即ち前表となるべき
人なり我かならず我僕たる枝を來ら
すべし 9 ヨシユアの前に我が立ると
ころの石を視よ此一箇の石の上に七
箇の目あり我自らその彫刻をなす萬
軍のエホバこれを言ふなり我この地
の罪を一日の内に除くべし 10 萬軍
のエホバ言たまふ其日には汝等お
の互に相招きて葡萄の樹の下無花
果の樹の下にあらん

Chapter 4

1 我に語へる天の使また來りて
我を呼醒せり我は睡れる人の呼醒さ
れしごとくなりき 2 彼我にむかひて
汝何を見るやと言ければ我いへり我
觀に惣金の燈臺一箇ありてその頂に
油を容る器ありまた燈臺の上に七箇
の燭臺ありその燭臺は燈臺の頂にあ
りて之に各七本づつの管あり 3 また
燈臺の側に橄欖の樹二本ありて一は
油を容る器の右にあり一はその左に
あり 4 我答へて我と語ふ天の使の問
言けるは我主よ是等は何ぞやと 5 我
と語ふ天の使我に答へて汝是等の何
なるを知らざるかと言しにより我主よ
知ずとわれ言り 6 彼また答へて我に
言けるはゼルバベルにエホバの告た
まふ言は是のごとし萬軍のエホバ宣
ふ是は權勢に由らず能力に由らず我
靈に由るなり 7 ゼルバベルの前にあ
たれる大山よ汝は何者ぞ汝は平地と
ならん彼は恩恵あれ之に恩恵あれと
呼はる聲をたてて頭石を曳いださん
8 エホバの言われに臨めり云く 9
ゼルバベルの手この室の石礎を置たり
彼の手これを成終ん汝ららん萬軍の
エホバ我を汝等に遣したまひしと 10
誰か小き事の日を藐視する者ぞ夫
の七の者は遍く全地に往來するエホ
バの目なり準繩のゼルバベルの手に
あるを見て喜ばん 11 我また彼に問

て燈臺の右左にある此二本の橄欖の
樹は何なるやと言ひ 12 重ねてまた
彼に問て此二本の金の管によりて金
の油をその中より斟ぎ出す二枝の橄
欖は何ぞやと言しに 13 彼われに答
へて汝是等の何なるを知らざるかと
言ければ我主よ知ずと言けるに 14
彼言らく是等は油の二箇の子にして全
地の主の前に立つ者なり

Chapter 5

1 我また目を擧て觀しに巻物の
飛あり 2 彼われに汝何を見るやと
言ければ我言ふ我巻物の飛ぶを見る
其長は二十キユビトその寬は十キユ
ビト 3 彼またわれに言けるは是は全
地の表面を往めぐる呪詛の言なり凡
て竊む者は巻物のこの面に照して除
かれ凡て誓ふ者は巻物の彼の面に照
して除かるべし 4 萬軍のエホバのた
まふ我これをせしめり是は竊盜者の家
に入りまた我名を指て偽り誓ふ者の
家に入りてその家の中に宿りその木
と石とを並せて盡く之を燒べしと 5
我に語へる天の使進み來りて我に言
けるは請ふ目を擧てこの出きたる物
の何なるを見よ 6 これは何なるやと
我言ければ彼言ふ此出來れる者はエ
パ舛なり又言ふ全地において彼等の
形狀は是のごとしと 7 かくて鉛の圓
蓋を取あぐれば一人の婦人エパ舛
の中に坐し居る 8 彼は是は罪惡なり
とてその婦人をエパ舛の中に投げ鉛
の錘をその舛の口に投かぶらせたり
9 我また目を擧て觀しに婦人二人出
きたれり之に鶴の翼のごとき翼あり
てその翼風を含む彼等そのエパ舛
を天地の間に持擧ぐ 10 我すなはち
我に語ふ天の使にむかひて彼等エパ
舛を何處へ携へゆくなるやと言ける
に 11 彼我に言ふシナルの地にて之
がために家を建んとてなり是は彼處
に置られてその臺の上に立ん

Chapter 6

1 我また目を擧て觀しに四輛の
車二の山の間より出きたれりその山
は銅の山なり 2 第一の車には赤馬
を着け第二の車には黒馬を着け 3 第
三の車には白馬を着け第四の車には
白點なる強馬を着く 4 我すなはち我
に語ふ天の使に問て我主よ是等は何
なるやと言けるに 5 天の使こたへ
て我に言ふ是は四の天風にして全地
の主の前より罷り出たる者なり 6 黒
馬は北の地をさして進み行き白馬の
後に從ふ又白點馬は南の地をさして
進みゆき 7 強馬は進み出てを徧く
行めぐらんとす彼汝ら行き地を徧く
めぐれと言たまひければ則ち地を行
めぐれり 8 彼われを呼て我に告て
言ふこの北の地に往る者等は北の地
にて我靈を安んず 9
エホバの言われに臨めり曰く 10
汝かの囚虜人の中の者ヘルダイ、ト
ビヤおよびアダヤより取ことせよ即
ちその日に汝かれらがバビロンより
歸りて宿りるゼパニヤの子ヨシヤ
の家に到り 11 金銀を取て冠冕を造
りヨザダクの進み出る祭司の長ヨシ
ユアの首にこれを冠らせ 12 彼に語り

て言へし萬軍のエホバ斯言たまふ視よ人ありその名を枝といふ彼おのれの處より生いでてエホバの宮を建ん13即ち彼者エホバの宮を建て尊榮を帯びその位に坐して政事を施しその位にありて祭司とならん此2の者の間に平和の計議あるべし14 偁またその冠冕はヘレム、トビヤ、ユダヤおよびゼパニヤの子ヘンの記念のために之をエホバの殿に納むべし15 遠き處の者等來りてエホバの殿を建ん而して汝らは萬軍のエホバの我を遣したまひしなるを知らざらん汝らもし汝らの神エホバの聲に聽したがば是のごとくなるべし

Chapter 7

1ダリヨス王の四年の九月すなはちスリウといふ月の四日にエホバの言ゼカリヤに臨めり2ペテルかの時ヤレゼル、レゲンメクおよびその従者を遣してエホバを和めさせ3かつ萬軍のエホバの室にをる祭司に問しめ且預言者に問しめて言けらく我今まで年久しく爲きたりしごとく尚五をもて哭きかつ齋戒すべきやと4ここにおいて萬軍のエホバの言我に臨めり云く5國の諸民および祭司に告て言へ汝らは七十年のあひだ五月と七月とに斷食しかつ哀哭せしがその斷食せし時果して我にむかひて斷食せしや6汝ら食ひかつ飲は全く己のために食ひ己のために飲ならずや7在昔エルサレムおよび周圍の邑々人の住ふありて平安なりし時南の地および平野にも人の住ひをりし時に已往の預言者によりてエホバの宣ひたりし言を汝ら知ざるや8エホバの言ゼカリヤに臨めり云く9萬軍のエホバかく宣へり云く正義き審判を行ひ互に相愛しみ相憐め10寡婦孤兒旅客および貧者を虐ぐるなかれ人を害せんと心に圖る勿れと11然るに彼等は肯て耳を傾けず背を向け耳を鈍くして聽ず12且その心を金剛石のごとくし萬軍のエホバがその御靈をもて已往の預言者に由て傳へたまひし律法と言詞に聽したがばざりき是をもて大なる怒萬軍のエホバより出て臨めり13彼かく呼はりたれども彼等聽ざりき其ごとく彼ら呼はるとも我聽じ萬軍のエホバこれを言ふ14我かれらをその識ざる諸の國に吹散すべし其後にてこの地は荒て往來する者なきに至らん彼等かく美しき國を荒地となす

Chapter 8

1萬軍のエホバの言われに臨めり曰く2萬軍のエホバかく言たまふ我シオンのために甚だしく心を熱して妬く思ひ大なる忿怒を起して之がために妬く思ふ3エホバかく言たまふ今我シオンに歸れり我エルサレムの中に住んエルサレムは誠實ある邑と稱へられ萬軍のエホバの山は聖山と稱へらるべし4萬軍のエホバかく言たまふエルサレムの街衢には再び老たる男老たる女坐せん皆年高くて各々杖を手持べし5またその邑の街衢には男の兒女の兒満て街衢に

遊び戯れん6萬軍のエホバかく言たまふこの事その日には此民の遺餘者の目に奇といふとも我目に何の奇きこと有んや萬軍のエホバこれを言ふ7萬軍のエホバかく言たまふ視よ我わが民を日の出る國より日の入る國より救ひ出し8かれらを携へ來りてエルサレムの中に住しめん彼らは我民となり我は彼らの神となりて共に誠實と正義に居ん9萬軍のエホバかく言たまふ汝ら萬軍のエホバの室なる殿を建んとて其基礎を置たる日に起りし預言者等の口の言詞を今日聞く者よ汝らの腕を強くせよ10此日の先には人も工の價を得ず畜畜も工の價を得ず出者も入者も仇の故をもて互に相攻しめたり11然れども今我は我此民の遺餘者に對すること曩の日の如くならずと萬軍のエホバ言たまふ12即ち平安の種子あるべし葡萄の樹は果を結び地は産物を出し天は露を與へん我この民の遺餘者にこれを盡く獲さすべし13ユダの家およびイスラエルの家よ汝らが國々の中に呪詛となりしごとく此度は我なんぢらを救ふて祝言とならしめん懼るる勿れ汝らの腕を強くせよ14萬軍のエホバかく言たまふ在昔汝らの先祖我を怒らせし時に我これに災禍を降さんと思ひて之を悔ざりき萬軍のエホバこれを言ふ15是のごとく我また今日エルサレムとユダの家に福祉を降さんと思ふ汝ら懼るる勿れ16汝らの爲べき事は是なり汝ら各々がひに眞實を言べし又汝等の門にて審判する時は眞實を執て平和の審判を爲べし17汝等すべて人の災害を心に圖る勿れ偽の誓を好む勿れ是等はみな我が怒む者なりとエホバ言たまふ18萬軍のエホバの言われに臨めり云く19萬軍のエホバかく言たまふ四月の斷食五月の斷食七月の斷食十月の斷食かへつてユダの家の宴樂となり欣喜となり佳節となるべし惟なんぢら眞實と平和を愛すべし20萬軍のエホバかく言たまふ國々の民および衆多の邑の居民来り就ん21即ちこの邑の居民住てかの邑の者に向ひ我儕すみやかに往てエホバを和め萬軍のエホバを求めんと言んに我も往べしと答へん22衆多の民強き國民エルサレムに來りて萬軍のエホバを求めエホバを和めん23萬軍のエホバかく言たまふ其日はは諸の國語の民十人にてユダヤ人一箇の裾を拉へん即ち之を拉へて言ん我ら汝らと與に往べし其は我ら神の汝らと偕にいますを聞たればなり

Chapter 9

1エホバの言詞の重負ハデラクの地に臨むダマスコはその止る所なりエホバ世の人を着みイスラエルの一切の支派を着きたまへばなり2之に界するハマテも然りツロ、シドンも亦はなはだ伶俐ければ同じく然るべし3ツロは自己のために城郭を構へ銀を塵のごとくに積み金を街衢の土のごとくに積み4視よ主これを攻取り海にて之が力を打ほろぼしたまふべし是は火にて焚うせん5アシ

ケロンこれを見て懼れガザもこれを見て太く慄ふエクロンもその望む所の者辱しめらるるに因て亦然りガザには王絶えアシケロンには住者なきに至らん6アシドトにはまた雜種の民すまん我ペリシテ人が誇る所の者を絶べし7我これが口より血を取除き之が齒の間より憎むべき物を取除かん是も遣りて我儕の神に歸しユダの牧伯のごとくに成べしたエクロンはアブス人のごとくなるべし8我わが家のために陣を張て敵軍に當り之をして往來すること無らしめん慮遇者かさねて逼ること無るべし我いま我目をもて親に見ればなり9シオンの女よ大に喜べエルサレムの女よ呼はれ視よ汝の王汝に來る彼は正義して拯救を賜り柔和にして驢馬に乗る即ち牝驢馬の子なる駒に乗るなり10我エフライムより車を絶ちエルサレムより馬を絶ん戰爭弓も絶るべし彼國々の民に平和を諭さん其政治は海より海に及び河より地の極におよぶべし11汝についてはまた汝の契約の血のために我がの水なき坑より汝の被俘人を放ち出さん12望を懷く被俘人よ汝等城に歸れ我今日もなほ告て言ふ我かならず信じて汝等に費ふべし13我ユダを張て弓となしエフライムを矢となして之につがへんシオンよ我汝の人々を振起してギリシヤの人々を攻しめ汝をして大丈夫の劍のごとくならしむべし14エホバこれが上に顯れてその箭を電光のごとくに射いだしたまはん主エホバ喇叭を吹ならし南の暴風に乘て出來まさん15萬軍のエホバ彼らを護りたまはん彼等は食ふことを爲し投石器の石を踏つけん彼等は飲ことを爲し酒に酔るごとくに聲を擧ん其これに盈さることは血を盛る鉢のごとく祭壇の隅のごとくなるべし16彼らの神エホバ當日に彼らを救ひその民を羊のごとくに救ひたまはん彼等は冠冕の玉のごとくなりて其地に輝くべし17その福祉は如何計ぞや其美麗は如何計ぞや穀物は童男を長ぜしめ新酒は童女を長ぜしむ

Chapter 10

1汝ら春の雨の時に雨をエホバに乞へエホバは電光を造り大雨を人々に賜ひ田野において草蔬を各々に賜ふべし2夫テラビムは空虚き事を言ひト笠師はその見る所眞實ならずして虚偽の夢を語る其慰むる所は徒然なり是をもて民は羊のごとくに迷ひ牧者なきに因て悩む3我牧者にむかひて怒を發す我牡山羊を罰せん萬軍のエホバその群なるユダの家を顧み之をしてその美しき軍馬のごとくならしめたまふ4隅石彼より出で釘かれより出で軍弓かれより出で幸たる者みな齊く彼より出ん5彼等戰ふ時は勇士のごとくにして街衢の泥の中に敵を蹂躪らんエホバかれらとともて在せば彼らは戦ん馬に騎れる者等すなはち媿を抱くべし6我ユダの家を強くしヨセフの家を救はん我かれらを恤むが故に彼らをして歸り住しめん彼らは我に棄られし事なきが如くなるべし我は彼らの神エホバな

り我かれらに聽べし7エフライム人は勇士に等しくして酒を飲たるとく心に歡ばん其子等は見て喜びエホバに因て心に樂しまん8我かれらに向ひて嘯て之を集めん其は我これを贖ひたればなり彼等は昔殖増たる如くに殖増ん9我かれらを國々の民の中に捲ん彼等は遠き國において我をおぼへん彼らは其子等とともに生ながらへて歸り來るべし10我かれらをエジプトの國より携へかへりアッリヤより彼等を集めギレアデの地およびレバノンに彼らを携へゆかんその居處も無きほどなるべし11彼難難の海を通り海の浪を撃破りたまふナイルの淵は盡く涸るアッリヤの傲慢は卑くせられエジプトの杖は移り去ん12我彼らをしてエホバに由て強くならしめん彼等はエホバの名をもて歩まんエホバこれを言たまふ

Chapter 11

1レバノンよ汝の門を啓き火をして汝の香柏を焚しめよ2松よ叫べ香柏は倒れ威嚴樹はそこなはれたりバシヤンの椽よ叫べ高らかなる林は倒れたり3牧者の叫ぶ聲あり其榮そこなはれたればなり猛き獅子の吼る聲ありヨルダンの叢そこなはれたればなり4我神エホバかく言たまふ宰らるべき羔を牧へ5之を買ふ者は之を宰るとも罪なし之を賣る者は言ふ我富を得ればエホバを祝すべしと其牧者もこれを惜まざるなり6エホバ言たまふ我かさねて地の居民を惜まじ視よ我人を各々その隣人の手に付しその王の手に付さん彼ら地を荒すべし我これを彼らの手より救ひ出さじ7我すなはち其宰らるべき羊を牧り是は最も憫然なる羊なり我みづから二本の杖を取り一を恩と名け一を結と名けてその羊を牧り8我一月に牧者三人を絶り我心に彼ら一厭ひが彼等も心に我を怒めり9我いへり我は汝らを飼はじ死者は死に絶る者は絶れ遺る者は互にその肉を食ひあふべし10我恩といふ杖を取て之を折れり是は諸の民に立し我契約を廢せんとてなりき11是は其日に廢せられたり是に於てかの民に聽したがひし憫然なる羊は之をエホバの言なりしと知れり12我彼らに向ひて汝等もし善と視なば我價を我に授けよ若しからず止めよと言ければ彼等すなはち銀三十を權りて我價とせり13エホバに言たまひけるは彼等に我が估價せられしその善價を陶人に投あたへよと我すなはち銀三十を取てエホバの室に投入れて陶人に歸せしむ14我また結といふ杖を折れしはユダとイスラエルの間和好を絶んとてなりき15エホバに言たまはく汝また愚なる牧者の器を取れ16視よ我地に一人の牧者を興さん彼は亡ぶる者を顧みず迷へる者を尋ねず傷つける者を醫さず健剛なる者を飼はず肥たる者の肉を食ひ且その蹄を裂ん17其羊の群を棄る惡き牧者は禍なるかな劍その腕に臨みその右の目に臨まん其腕は全く枯えその右の目は全く盲れん

Chapter 12

1 イスラエルにかかはるエホバの言詞の重負エホバ即ち天を舒べ地の基を置衆人のうちの靈魂を造る者言たまふ 2 視よ我エルサレムをしてその周圍の國民を踰踏はする杯とならしむべしエルサレムの攻圍まる時は是はユダにも及ばん 3 其日には我エルサレムをして諸の國民に對ひて重石とならしむべし之を持擧る者は大傷を受ん地上の諸國みな集りて之に攻寄べし 4 エホバ言たまふ當日には我一切の馬を撃て駭かせその騎手を撃て狂はせん而して我ユダの家の上に我目を開き諸の國民の馬を撃て盲になすべし 5 ユダの牧伯等その心の中に誦んエルサレムの居民はその神萬軍のエホバに由て我力となるべしと 6 當日には我ユダの牧伯等をして薪の下にある火盤のごとく麥束の下にある炬火のごとくならしむべし彼等は右左にむかひその周圍の國民を盡く焚んエルサレム人はなほエルサレムにてその本の處に居ることを得べし 7 エホバよユダの幕屋を救ひたまはん是はダビデの家の榮およびエルサレムの居民の榮のユダに勝ること無らなためたり 8 當日エホバ、エルサレムの居民を護りたまはん彼らの中の弱き者もその日にはダビデのごとくなるべしまたダビデの家は神のごとく彼らに先だつエホバの使のごとくなるべし 9 その日には我エルサレムに攻きたる國民をことごとく滅すことを務むべし 10 我ダビデの家およびエルサレムの居民に恩恵と祈禱の靈をそそがん彼等はその刺たりし我を仰ぎ觀獨子のため哭くがごとく之がために哭き長子のために悲しむがごとく之がために痛く悲しまん 11 その日にはエルサレムに大なる哀哭あらん是はメギドンの谷なるハダデリンモンに在し哀哭のごとくなるべし 12 國中の族のおの別れ居て哀哭べし即ちダビデの族別れ居て哀哭きその妻等別れ居て哀哭きナタンの家の族別れ居て哀哭きその妻等別れ居て哀哭かん 13 レビの家族別れ居て哀哭きその妻等別れ居て哀哭きシメイの族別れ居て哀哭きその妻等わかれ居て哀哭かん 14 その他の族も凡て然りすなはち族おのの別れ居て哀哭きその妻等別れ居て哀哭くべし

Chapter 13

1 その日罪と汚穢を清むる一の泉ダビデの家とエルサレムの居民のために開くべし 2 萬軍のエホバ言たまふ其日には我地より偶像の名を絶のぞき重て人に記憶らるること無らしむべし我また預言者および汚穢の靈を地より去しむべし 3 人もしなほ預言することあらば其生の父母これに言ん汝は生べからず汝はエホバの名をもて虚偽を語るなりと而してその生の父母これが預言しをするを刺ん 4 その日には預言者等預言するに方りてその異象を羞ん重て人を欺かんために毛衣を纏はじ 5 彼言ん我は預

言者にあらず地を耕へす者なり即ち我は若き時より人に買れたりと 6 若これに向ひて然らば汝の両手の間の傷は何ぞやと言あらば是は我が愛する者の家に受たる傷なりと答へん 7 萬軍のエホバ言たまふ劍よ起て我牧者わが伴侶なる人を攻よ牧者を撃て然らばその羊散らん我また我手を小き者等の上に伸べし 8 エホバ言たまふ全地の人二分は絶れて死に三分の一はその中に遺らん 9 我その三分の一を携へて火にいれ銀を熬分のごとくに之を熬分け金を試むのごとくに之を試むべし彼らわが名を呼ん我これにこたへん我これは我民なりと言ん彼等またエホバは我神なりと言ん

Chapter 14

1 視よエホバの日來る汝の貨財奪はれて汝の中に分たるべし 2 我萬國の民を集めてエルサレムを攻撃しめん邑は取られ家は掠められ婦女は犯され邑の人は半は擄へられてゆかん然どその餘の民は邑より絶れじ 3 その時エホバ出きたりて其等の國人を攻撃たまはん昔その軍陣の日に戦ひたまひしごとくなるべし 4 其日にはエルサレムの前に當りて東にあるところの橄欖山の上に彼の足立たん而して橄欖山その真中より西東に裂て甚だ大なる谷を成しその山の半は北に半は南に移るべし 5 汝ら是我山の谷に迷いらん其山の谷はアザルにまで及ぶべし汝らはユダの王ウジヤの世に地震を避て逃しごとくに逃ん我神エホバ來りたまはん諸の聖者なんぢごとくもなるべし 6 その日には光明なるべく輝く者消すべし 7 茲に只一日あるべしエホバこれを知らまふ是は晝にもあらず夜にもあらず夕暮の頃に明るなるべし 8 その日に活る水エルサレムより海でその半は東の海にその半は西の海に流れん夏も冬も然あるべし 9 エホバ全地の王となりたまはん其日には只エホバのみ只その御名のみにならん 10 全地はアラバのごとくなりてゲバよりエルサレムの南のリンモンまでの間のごとくなるべし而してエルサレムは高くなりてその故の處に立ちベニヤミンの門より第一の門の處に及び隅の門にいたりハナニエルの戌樓より王の酒榨倉までに渉るべし 11 その中には人住ん重て呪詛あらしエルサレムは安然に立べし 12 エルサレムを攻撃し諸の民にエホバ災禍を降してこれを撃なやましたまふこと是のごとくなるべし即ち彼らその足にて立る中に肉腐れ目その孔の中に腐れ舌その口の中に腐れん 13 その日にはエホバかれらをして大に狼狽しめたまはん彼らは各々人の手を執へん此手と彼手撃あふべし 14 ユダもまたエルサレムに於て戦ふべしその四周の一切の國人の財寶金銀衣服など甚だ多く聚められん 15 また馬騾驢駝驢馬およびその諸營の一切の家畜の蒙る災禍もこの災禍のごとくなるべし 16 エルサレムに攻きたりし諸の國人の遺れる者はみな歳々に上りきてその王なる萬軍のエ

ホバを拜み結茅の節を守るにいたるべし 17 地上の諸族の中その王なる萬軍のエホバを拜みにエルサレムに上らざる者の上には凡て雨ふらざるべし 18 例ばエジプトの族もし上り來らざる時はその上に雨ふらじエホバその結茅の節を守りに上らざる一切の國人を撃なやまず災禍を之に降したまふべし 19 エジプトの罪凡て結茅の節を守りに上り來らざる國人の罪是のごとくなるべし 20 その日には馬の鈴にまでエホバに聖としさん又エホバの家の鍋は壇の前の鉢と等しかるべし 21 エルサレムおよびユダの鍋は都て萬軍のエホバの聖物となるべし凡そ犠牲を獻ぐる者は來りてこれを取り其中にて祭肉を煮ん其日には萬軍のエホバの室に最早カナン人あらざるべし

マラキ書

Chapter 1

1 これマラキに托てイスラエルに臨めるエホバの言の重負なり 2 エホバ曰たまふ我汝らを愛したり然るに汝ら云ふ 汝いかに我儕を愛せしやとエホバいふエサウはヤコブの兄に非ずや 3 エサウを惡めり且つわれ彼の山を荒し其嗣業を山犬にあたへたり 4 エドムは我儕ほろぼされたれども再び荒たる所を建んといふによりて萬軍のエホバか曰たまふ 彼等は建んされど我れを倒さん人は彼等を惡境とよび又エホバの恒に怒りたまふ人民と稱へん 5 汝らこれを目に見て云んエホバはイスラエルの地に大なりと 6 子は其父を敬ひ僕はその主を敬ふされば我も父を敬ひたらば我を敬ふこと安にあるや我もし主たらば我をおそること安にあるやなんぢら我が名を藐視る祭司よと萬軍のエホバいひたまふ然に汝書はいふ我儕何に汝の名を藐視りしやと 7 汝ら汚れたるパンをわが壇の上に獻げしかして言ふ我儕何に爾を汚せしやと汝書エホバの臺は卑しきなりと云しがゆゑなり 8 汝ら盲目なる者を犠牲に獻ぐるは惡に非ずや又跛足なるものと病者を獻ぐるは惡に非ずや 今これを汝の方伯に獻げよされば彼なんぢを悦ぶや 汝を受納るや 萬軍のエホバこれをいふ 9 請ふ汝ら神に我らをあはれみ給はんことをもとめよ これらは凡て汝らの手になれり 彼なんぢらを納んや 萬軍のエホバこれを言ふ 10 汝らがわが壇の上のいたづらに火をたくこと無らなために汝らの中一人扉を閉つる者あらまほわれ汝らを悦ばず又なんぢらの手より獻物を受じと萬軍のエホバいひ給ふ 11 日の出る處より没る處までの列國の中に我名は大ならん又何處にても香と潔き獻物

を我名に獻げんそはわが名列國の中に大なるべければなりと萬軍のエホバいひ給ふ 12 しかるになんぢら之を褻したりまそは爾書はエホバの臺は汚れたりまた其果すなはちその食物は卑しと云ばなり 13 なんぢらは又如何に煩勞しきことにあらずやといひ且これを藐視たり萬軍のエホバこれをいふ又なんぢらは奪ひし物跛足たる者病る者を携へ來り汝らかく獻物を携へ來ればわれ之を汝らの手より受けんやエホバこれをいひ給へり 14 群の中に牡あるに誓を立てて疵あるものをエホバに獻ぐる詐偽者は詛はるべしそは我は大なる王また我名は列國に畏らるべきなればなり 萬軍のエホバこれをいふ

Chapter 2

1 祭司等よ今この命令なんぢらにあたへらる 2 萬軍のエホバいひたまふ汝等もし聴きたがはず又これを心にとめず我名に榮光を歸せずばわれ汝らの上に詛を來らせん 又なんぢらの祝福を詛はん われすてに此等を詛へり汝らこれを心にとめざりしに因てなり 3 視よ我なんぢらのために種をいましめんまた糞すなはち汝らの犠牲の糞を汝らの面上に撒さん 汝らこれとともに携へされん 4 わが此命令をなんぢらに下し與ふるは我契約をしてレビに保たしめんためなるを汝ら知るべし 萬軍のエホバこれをいふ 5 わが彼と結び契約は生命と平安とにあり我がこれに彼に與へしは彼に我を畏れしめんが爲なり彼われを懼れわが名の前にをののけり 6 眞理の法彼の口に在て不義その口唇にあらず彼平安と公義をとりて我とともにあゆみ又多の人を不義より立歸せたりき 7 夫れ祭司の口唇に知識を持けり又人彼の口より法を諮詢べしそは祭司は萬軍のエホバの使者なればなり 8 しかるに汝らは道を離れ衆多の人を法に躓礙かせレビの契約を壊りたり 萬軍のエホバこれをいふ 9 汝らは我道を守らざればおこなふに當りて人に偏りし故にわれも汝ら一切の民の前に輕められまた賤められしむ 10 我儕の父は皆同一なるにあらずやわれらを造りし神は同一なるにあらずや我儕先祖等の契約を破りて各々おのれの兄弟にいつはりを行はし何ぞ 11 ユダは誓約にそむけり イスラエル及びエルサレムの中には憎むべき事行はるすなはちユダはエホバの愛したまふ聖所を褻して他神の女をめとれり 12 エホバこれをおこなふ人をば主なるものをも事ふる者をもヤコブの幕屋よりのぞきたまはん萬軍のエホバに獻物をささぐるものにてもまた然り 13 つぎに又なんぢらはこれをなせり即ち涙と泣と歎とをもてエホバの壇をおほはしめたり故に彼もはや獻物を顧みずまたこれを汝らの手より悦び納たまはざるなり 14 汝らはなほ何故ぞやと言ふそは是はエホバ汝となんぢの若き時の妻の間

にいりて證をなしたまへばなり彼はなんぢの伴侶汝が契約をなせし妻なるに汝誓約に背きてこれを棄つ 15 エホバは只一を造りたまひしにあらざや
されども彼にはなほ靈の餘ありき何故にひとつのみなりしや
是は神を敬虔の裔を得んが爲なりき故になんぢら心に謹みその若き時の妻を誓約にそむきて棄るなかれ 16 イスラエルの神エホバいひたまふわれは離縁を惡みまた虐待をもて其衣を蔽ふ人を惡む故に汝ら誓約にそむきて妻を待遇はざるやう心につしむべし 萬軍のエホバこれをいふ 17 なんぢらは言をもてエホバを頌勞はせり
されど汝ら言ふ何にわづらはせしやと如何となればなんぢら凡て惡をなすものはエホバの目に善と見えかつ彼に悦ばると言ひまた審判の神は安にあるやといへばなり

Chapter 3

1 視よ我わが使者を遣さんかれ我面の前に道を備へんまた汝らが求むるところの主すなはち汝らの悦樂ぶ契約の使者忽然その殿に來らん視よ彼來らんと萬軍のエホバ云たまふ
2 されど其來る日には誰か堪えんやその顯著る日には誰か立えんや彼は金をふきわくる者の火の如く布晒の灰汁のごとくならん 3 かれは銀をふきわけてこれを潔むる者のごとく坐せん彼はレビの裔を潔め金銀の如くかれらをきよめんして彼等は義をもて獻物をエホバにささげん 4 その時ユダとエルサレムの獻物はむかし日の如く又先の年のごとくエホバに悦ばれん 5 われ汝らにちかづきて審判をなし巫術者にむかひ姦淫を行ふ者にむかひ偽の誓をなせる者にむかひ傭人の價金をかすめ寡婦と孤子を捨てたげ異邦人を推擡げ我を畏れざるものどもにむかひて速に證をなさんと萬軍のエホバ云たまふ
6 それわれエホバは易らざる者なり故にヤコブの子等よ汝らは亡されず 7 なんぢら其先祖等の日よりこのかたわが律例をはなれてこれを守らざりき
我にかへれわれ亦なんぢらに歸らん
萬軍のエホバこれを言ふ然るに汝らはわれら何においてかへるべきやと
8 ひと神の物をぬすむことをせんやされど汝らはわが物を盗めり汝らは又何において汝の物をぬすみしやといへり
9 十分の一および獻物に於てなり
10 汝らは呪詛をもて詛はるまたなんぢら一切の國人はわが物をぬすめり 1
0 わが殿に食物あらしめんために汝ら什一をすべて我倉にたづさへきたれ而して是をもて我を試みわが天の窓をひらきて容べきところなきまでに恩澤を汝らにそそぐや否やを見るべし 萬軍のエホバこれを言ふ 11 我また噬食ふ者をなんぢらの爲に抑へてなんぢらの地の産物をやぶらざらしめん又なんぢらの葡萄の樹をして

時のいたらざる前にその實を圃におとさざらしめん
萬軍のエホバこれをいふ 12 又萬國の人なんぢらを幸福なる者となへんそは汝ら樂しき地となるべければなり 萬軍のエホバこれをいふ 13 エホバ云たまふ汝らは言詞をばげしくして我に逆らへりしかるも汝らは我儕なんぢらにさからひて何をいひしやといへり 14 汝らは言らく神に服することは徒然なりわれらその命令をまもりかつ萬軍のエホバの前に悲みて歩みたりとて何の益あらんや 15 今われらは驕傲ものを幸福なりと稱ふ
また惡をおこなふものも盛になり神を試むるものすらも救はると 16 その時エホバをおそる者互に相かたりエホバ耳をかたむけてこれを聴たまへりまたエホバを畏る者およびその名を記憶る者のためにエホバの前に記念の書をかきしるせり 17 萬軍のエホバいひたまふ我わが設くる日にかれらをもて我實となすべしまた人の己につかふる子をあはれむがごとく我彼等をあはれまん 18 その時汝らは更にまた義者と惡きものと神に服するものと事へざる者との區別をしらん

Chapter 4

1 萬軍のエホバいひたまふ視よ爐のごとくに焼る日來らんすべて驕傲者と惡をおこなふ者は藁のごとくにならん其きたらんとする日彼等を焼つくして根も枝ものこらざらしめん 2 されど我名をおそる汝らには義の日いでて昇らん
その翼には醫す能をそなへん汝らは牢よりいでし犢の如く躍跳ん 3 又なんぢらは惡人を踐つけん即ちわが設くる日にかれらは汝らの脚の掌の下にありて灰のごとくならん
萬軍のエホバこれを言ふ 4 なんぢらわが僕モーセの律法をおぼえよすなはち我がホレブにてイスラエル全體のために彼に命ぜし法度と誠命をおぼゆべし 5 視よエホバの大なる畏るべき日の來るまへにわれ預言者エリヤを汝らにつかはさん
6 かれ父の心にその子女の心を慈はせ子女の心にその父をおもはしめん是は我が來りて詛をもて地を撃ことなからんためなり

マタイの福音書

Chapter 1

1 アブラハムの子、ダビデの子、イエス・キリストの系圖。2 アブラハム、イサクを生み、イサク、ヤコブを生み、ヤコブ、ユダとその兄弟らとを生み、3 ユダ、タマルによりてパレスとザラとを生み、パレス、エスロンを生み、エスロン、アラムを生み、4 アラム、アミナダブを生み、アミナダブ、ナアソンを生み、ナアソン、サルモンを生み、5 サルモ

ン、ラハブによりてボアズを生み、ボアズ、ルツによりてオベデを生み、オベデ、エツサイを生み、6 エツサイ、ダビデ王を生めり。ダビデ、ウリヤの妻たりし女によりてソロモンを生み、7 ソロモン、レハベラムを生み、レハベラム、アビヤを生み、アビヤ、アサを生み、8 アサ、ヨサパテを生み、ヨサパテ、ヨラムを生み、ヨラム、ウジヤを生み、9 ウジヤ、ヨタムを生み、ヨタム、アハズを生み、アハズ、ヒゼキヤを生み、10 ヒゼキヤ、マナセを生み、マナセ、アモンを生み、アモン、ヨシヤを生み、11 バビロンに移さる頃、ヨシヤ、エコニヤとその兄弟らとを生めり。12 バビロンに移されて後、エコニヤ、サラテルを生み、サラテル、ゾロバベルを生み、13 ソロバベル、アビウデを生み、アビウデ、エリヤキムを生み、エリヤキム、アゾルを生み、14 アゾル、サドクを生み、サドク、アキムを生み、アキム、エリウデを生み、15 エリウデ、エレアザルを生み、エレアザル、マタンを生み、マタン、ヤコブを生み、16 ヤコブ、マリヤの夫ヨセフを生めり。此のマリヤよりキリストと稱ふるイエス生れ給へり。17 されば總て世をふる事、アブラハムよりダビデまで十四代、ダビデよりバビロンに移さるまで十四代、バビロンに移されてよりキリストまで十四代なり。18 イエス・キリストの誕生は左のごとし。その母マリヤ、ヨセフと許嫁したるのみにて、未だ偕にならざりしに、聖靈によりて孕り、その孕りたること顯れたり。19 夫ヨセフは正しき人にして、之を公然にするを好まず、私に離縁せんと思ふ。20 かくて、これらの事を思ひ回らしをるとき、視よ、主の使、夢に現れて言ふ『ダビデの子ヨセフよ、妻マリヤを納る事を恐るな。その胎に宿る者は聖靈によるなり。21 かれ子を生まん、汝その名をイエスと名づくべし。己が民をその罪より救ひ給ふ故なり。』22 すべて此の事の起りしは、預言者によりて主の云ひ給ひし言の成就せん爲なり。曰く、23 『視よ、處女みごもりて子を生まん。その名はインマヌエルと稱はられん』之を釋けば、神われらと偕に在すといふ意なり。24 ヨセフ寐より起き、主の使の命ぜし如くして妻を納れたり。25 されど子の生るまでは、相知る事なかりき。かくてその子をイエスと名づけたり。

Chapter 2

1 イエスはヘロデ王の時、ユダヤのベツレヘムに生れ給ひしが、視よ、東の博士たちエルサレムに來りて言ふ、2 『ユダヤ人の王とて生れ給へる者は、何處に在るか。我ら東にてその星を見れば、拜せんために來れり。』3 ヘロデ王これを聞きて惱みまどふ、エルサレムも皆然り。4 王、民の祭司長・學者らを皆あつめて、キリストの何處に生るべきを問ひ質す。5 かれら言ふ『ユ

ダヤのベツレヘムなり。それは預言者によりて、6 『ユダの地ベツレヘムよ、汝はユダの長たちの中にて最小き者にあらず、汝の中より一人の君いでて、わが民イスラエルを牧せん』と録されたるなり。7 ここにヘロデ密に博士たちを招きて、星の現れし時を詳細にし、8 彼らをベツレヘムに遣さんとして言ふ『往きて幼児のこを細にたづね、之にあはば我に告げよ。我も往きて拜せん』9 彼ら王の言をききて往きしに、視よ、前に東にて見し星、先だちゆきて、幼児の在すところの上止る。10 かれら星を見て、歡喜に溢れつつ、11 家に入りて、幼児のその母マリヤと偕に在すを見、平伏して拜し、かつ寶の匣をあげて、黄金・乳香・沒藥など禮物を獻けたり。12 かくて夢にてヘロデの許に返るなどの御告を蒙り、ほかの路より己が國に去りゆきぬ。13 その去り行きしうち、視よ、主の使、夢にてヨセフに現れていふ『起きて、幼児とその母とを携へ、エジプトに逃れ、わが告ぐるまで彼處に留れ。ヘロデ幼児を求めて亡さんとするなり。』14 ヨセフ起きて、夜の間に幼児とその母とを携へて、エジプトに去りゆき、15 ヘロデの死ぬるまで彼處に留りぬ。これ主が預言者によりて『我エジプトより我が子呼び出せり』と云ひ給ひし言の成就せん爲なり。16 ここにヘロデ、博士たちに賺されたりと悟りて、甚だしく憤り、人を遣し、博士たちに由りて詳細にせし時を計り、ベツレヘム及び凡てその邊の地方なる、二歳以下の男の兒をことごとく殺せり。17 ここに預言者エレミヤによりて云はれたる言は成就したり。曰く、18 『聲ラマにありて聞ゆ、慟哭なり、いとどしき悲哀なり。ラケル己が子を歎き、子等のなき故に慰めらるるを厭ふ。』19 ヘロデ死にてのち、視よ、主の使、夢にてエジプトなるヨセフに現れて言ふ、20 『起きて、幼児とその母とを携へ、イスラエルの地にゆけ。幼児の生命を察めし子どもは死にたり。』21 ヨセフ起きて、幼児とその母とを携へ、イスラエルの地に到りしに、22 アケラオその父ヘロデに代りてユダヤを治むと聞き、彼處に往くことを恐る。また夢にて御告を蒙り、ガリラヤの地方に退き、23 ナザレといふ町に到りて住みたり。これは預言者たちに由りて、『彼はナザレ人と呼ばれん』と云はれたる言の成就せん爲なり。

Chapter 3

1 その頃バプテスマのヨハネ來り、ユダヤの荒野にて教を宣べて言ふ 2 『なんぢら悔改めよ、天國は近づきたり』 3 これ預言者イザヤによりて、斯く云はれし人なり、曰く『荒野に呼はる者の聲す「主の道を備へ、その路すぢを直せよ。」』 4 このヨハネは駱駝の毛織衣をまとひ、腰に皮の帯をしめ、蝗と野蜜とを食とせり。5 ここにエルサレム及びユダヤ全國、またヨルダンの邊なる全

地方の人々、ヨハネの許に出でたり、6罪を言ひ表し、ヨルダン川にてバプテスマを受けたり。7ヨハネ、パリサイ人およびサドカイ人のバプテスマを受けんとて、多く来るを見て、彼らに言ふ『娘の裔よ、誰が汝らに、來らんとする御怒を避くべき事を示したるぞ。』8さらば悔改に相應しき果を結べ。9汝ら「われらの父にアブラハムあり」と心のうちに言はんと思ふな。我なんぢらに告ぐ、神は此らの石よりアブラハムの子らを生じ得給ふなり。10斧ははや樹の根に置かる。されば凡て善き果を結ばぬ樹は、伐られて火に投げ入れらるべし。11我は汝らの悔改のために、水にてバプテスマを施す。されど我より後にきたる者は、我よりも能力あり、我はその鞋をとるにも足らず、彼は聖靈と火にて汝らにバプテスマを施さん。12手には箕を持ちて禾場をきよめ、その麥は倉に納め、穀は消えぬ火にて焼くつさん。13ここにイエス、ヨハネにバプテスマを受けんとて、ガリラヤよりヨルダンに來り給ふ。14ヨハネ之を止めんとし言ふ『われは汝にバプテスマを受くべき者なるに、反つて我に來り給ふか。』15イエス答へて言ひたまふ『今は許せ、われら斯く正しき事をことごとく爲すは、當然なり』ヨハネ乃ち許せり。16イエス、バプテスマを受けて直ちに水より上り給ひしとき、視よ、天ひらけ、神の御靈の、鴿のごとく降りて己が上にきたるを見給ふ。17また天より聲あり、曰く『これは我が愛しむ子、わが悦ぶ者なり』

Chapter 4

1ここにイエス御靈によりて荒野に導かれ給ふ、惡魔に試みられんとするなり。2四十日 四十夜斷食して、後に飢餓たまふ。3試むる者きたりて言ふ『汝もし神の子ならば、命じて此等の石をパンと爲らしめよ』4答へて言ひ給ふ『人の生くるはパンのみに由るにあらず、神の口より出づる凡ての言に由る』と録されたり。5ここに惡魔イエスを聖なる都につれゆき、宮の頂上に立たせて言ふ、6『汝もし神の子ならば己が身を下に投げよ。それは「なんぢの手に御使たちに命じ給はん。彼ら手にて汝を支へ、その足を石にうち當つること無からしめん」と録されたるなり。』7イエス言ひたまふ『「主なる汝の神を試むべからず」と、また録されたり。』8惡魔またイエスを最高き山につれゆき、世のものもろの國と、その榮華とを示して言ふ、9『汝もし平伏して我を拜せば、此等を皆なんぢに與へん』10ここにイエス言ひ給ふ『サタンよ、退け「主なる汝の神を拜し、ただ之にのみ事へ奉るべし」と録されたるなり。』11ここに惡魔は離れ去り、視よ、御使たち來り事へぬ。12イエス、ヨハネの囚はれし事をききて、ガリラヤに退き、13後ナザレを去りて、

ゼブルンとナフタリとの境なる、海邊のカペナウムに到りて住み給ふ。14これは預言者イザヤによりて云はれたる言の成就せん爲なり。曰く15『ゼブルンの地、ナフタリの地、海邊、ヨルダンの彼方、異邦人のガリラヤ、16暗きに坐する民は、大なる光を見、死の地と死の蔭とに坐する者に、光のぼれり』17この時よりイエス教を宣へはじめて言ひ給ふ『なんぢら悔改めよ、天國は近づきたり。』18かくて、ガリラヤの海邊をあゆみて、二人の兄弟ペテロといふシモンとその兄弟アンデレとが、海に網うちをるを見給ふ、かれらは漁人なり。19これに言ひたまふ『我に従ひきたれ、さらば汝らを人を漁る者となさん。』20かれら直ちに網をすてて従ふ。21更に進みゆきて、また二人の兄弟、ゼベダイの子ヤコブとその兄弟ヨハネとが、父ゼベダイとともに舟にありて網を繕ひをるを見て呼び給へば、22直ちに舟と父とを置いて従ふ。23イエスあまねくガリラヤを巡り、會堂にて教をなし、御國の福音を宣べつたへ、民の中のものもろの病、もろもろの疾患をいやし給ふ。24その噂あまねくシリヤに弘り、人々すべての惱めるもの、即ちさまざまの病と苦痛とに罹れるもの、惡鬼に憑かれたるもの、癩癩および中風の者などを連れ來りたれば、イエス之を醫したまふ。25ガリラヤ、デカポリス、エルサレム、ユダヤ及びヨルダンの彼方より、大なる群衆きたり従へり。

Chapter 5

1イエス群衆を見て、山にのぼり、座し給へば、弟子たち御許にきたる。2イエス口をひらき、教へて言ひたまふ、3『幸福なるかな、心の貧しき者。天國はその人のものなり。4幸福なるかな、悲しむ者。その人は慰められん。5幸福なるかな、柔和なる者。その人は地を嗣がん。6幸福なるかな、義に飢餓渴ぐ者。その人は飽くことを得ん。7幸福なるかな、憐憫ある者。その人は憐憫を得ん。8幸福なるかな、心の清き者。その人は神を見ん。9幸福なるかな、平和ならしむる者。その人は神の子と稱へられん。10幸福なるかな、義のために責められたる者。天國はその人のものなり。11我がために、人なんぢらを罵り、また責め、詐りて各様の惡しきことを言ふときは、汝ら幸福なり。12喜びよるこべ、天にて汝らの報は大なり。汝等より前にありし預言者たちをも、斯く責めたりき。13汝らは地の鹽なり、鹽もし効力を失はば、何をもてか之に鹽すべき。後は用なし、外にすてられて人に踏まるのみ。14汝らは世の光なり。山の上にある町は隠ることなし。15また人は燈火をともして升の下におかず、燈臺の上におく。かくて燈火は家にある凡ての物を照すなり。16かくのごとく汝らの光を人の前にかが

やかせ。これ人の汝らが善き行爲を見て、天にいます汝らの父を崇めん爲なり。17われ律法また預言者を毀つために來れりと思ふな。毀たんとて來らざり、反つて成就せん爲なり。18誠に汝らに告ぐ、天地の過ぎ往かぬうちに、律法の一點、一畫も廢ることなく、ことごとく全うせらるべし。19この故にもし此等のいと小き誠命の一つをやぶり、且その如く人に教ふる者は、天國にて最小き者と稱へられ、之を行ひ、かつ人に教ふる者は、天國にて大なる者と稱へられん。20我なんぢらに告ぐ、汝らの義、學者・パリサイ人に勝らざれば、天國に入るに能はず。21古への人に「殺すなかれ、殺す者は審判にあふべし」と云へることあるを汝等きけり。22されど我は汝らに告ぐ、すべて兄弟を怒る者は、審判にあふべし。また兄弟に對ひて、患者よといふ者は、衆議にあふべし。また痴者よといふ者は、ゲヘナの火にあふべし。23この故に汝もし供物を祭壇にささぐる時、そこに兄弟に怨まる事あるを思ひ出さば、24供物を祭壇のまへに遣しおき、先づ往きて、その兄弟と和睦し、然るのち來りて、供物をささげよ。25なんぢを訴ふる者とともに途に在るうちに、早く和解せよ。恐らくは、訴ふる者なんぢを審判人にわたし、審判人は下役にわたし、遂になんぢは獄に入れられん。26まことに汝に告ぐ、一厘ものこりなく償はずば、其處をいづること能はず。27「姦淫するなかれ」と云へることあるを汝等きけり。28されど我は汝らに告ぐ、すべて色情を懷きて女を見るものは、既に心のうち姦淫したるなり。29もし右の目なんぢを躓かせば、決り出して棄てよ、五體の一つ亡びて、全身ゲヘナに投げ入れられぬは益なり。30もし右の手なんぢを躓かせば、切りて棄てよ、五體の一つ亡びて、全身ゲヘナに往かぬは益なり。31また「妻をいだす者は離縁状を與ふべし」と云へることあり。32されど我は汝らに告ぐ、淫行の故ならで其の妻をいだす者は、これに姦淫を行はしむるなり。また出されたる女を娶るものは、姦淫を行ふなり。33また古への人に「いひたり誓ふなかれ、なんぢの誓は主に果すべし」と云へる事あるを汝ら聞けり。34されど我は汝らに告ぐ、一切ちかふな、天を指して誓ふな、神の御座なればなり。35地を指して誓ふな、神の足臺なればなり。エルサレムを指して誓ふな、大君の都なればなり。36己が頭を指して誓ふな、なんぢ頭髮一筋だに白くし、また黒くし能はねばなり。37ただ然り然り、否否といへ、之に過ぐるは惡より出づるなり。38「目には目を、齒には齒を」と云へることあるを汝ら聞けり。39されど我は汝らに告ぐ、惡しき者に抵抗ふな。人もし汝の右の頬をうたば、左をも向けよ。40なんぢを訟へて下衣を取らんとする者には、上衣をも取らせよ。41人もし汝に一里ゆくことを強ひなば、共に二里ゆけ。42なんぢに請ふ者にあたへ

、借らんとする者を拒むな。43「なんぢの隣を愛し、なんぢの仇を憎むべし」と云へることあるを汝等きけり。44されど我は汝らに告ぐ、汝らの仇を愛し、汝らを買むる者のために祈れ。45これ天にいます汝らの父の子とならん爲なり。天の父は、その日を惡しき者のうへにも善き者のうへにも昇らせ、雨を正しき者にも正しからぬ者にも降らせ給ふなり。46なんぢら己を愛する者を愛すとも何の報をか得べき、取税人も然するにあらずや。47兄弟にのみ挨拶すとも何の勝ることある、異邦人も然するにあらずや。48さらば汝らの天の父の全きが如く、汝らも全かれ。

Chapter 6

1汝ら見られんために己が義を人の前にて行はぬやうに心せよ。然らざれば、天にいます汝らの父より報を得じ。2さらば施濟をなすとき、偽善者が人に崇められんとて會堂や街にて爲すごとく、己が前にラッパを鳴すな。誠に汝らに告ぐ、彼らは既にその報を得たり。3汝は施濟をなすとき、右の手のなすことを左の手に知らすな。4是はその施濟の隠れん爲なり。さらば隠れたるに見たまふ汝の父は報い給はん。5なんぢら祈るとき、偽善者の如くあらざれ。彼らは人に顯さんとて、會堂や大路の角に立ちて祈ることを好む。誠に汝らに告ぐ、かれらは既にその報を得たり。6なんぢは祈るとき、己が部屋にいり、戸を閉ぢて隠れたるに在す汝の父に祈れ。さらば隠れたるに見給ふなんぢの父は報い給はん。7また祈るとき、異邦人の如くいたづらに言を反復すな。彼らは言多きによりて聽かれんと思ふなり。8さらば彼らに效ふな、汝らの父は求めぬ前に、我なんぢらの必要なる物を知りたまふ。9この故に汝らは斯く祈れ。「天にいます我らの父よ、願はくは御名の崇められん事を。10御國の來らんことを。御意の天のごとく地にも行はれん事を。11我らの日用の糧を今日もあたへ給へ。12我らに負債ある者を我らの免したる如く、我らの負債をも免し給へ。13我らを嘗試に遇はせず、惡より救ひ出したまへ」14汝等もし人の過失を免さば、汝らの父も汝らを免し給はん。15もし人を免さずば、汝らの父も汝らの過失を免し給はじ。16なんぢら斷食するとき、偽善者のごとく、悲しき面容をすな。彼らは斷食することを人に顯さんとて、その顔色を害ふなり。誠に汝らに告ぐ、彼らは既にその報を得たり。17なんぢは斷食するとき、頭に油をぬり、顔をあらへ。18これ斷食することの人に顯れずして、隠れたるに在す汝の父にあらはれん爲なり。さらば隠れたるに見たまふ汝の父は報い給はん。19なんぢら己がために財寶を地に積むな、ここは蟲と錆とが損ひ、盗人うがちて盜むなり。20なんぢら己がために財寶を天に積

め、かしこは蟲と蟻とが損はず、盗人うがちて盗まぬなり。 21 なんぢの財寶のある所には、なんぢの心もあるべし。 22 身の燈火は目なり。この故に汝の目ただしくば、全身あかるからん。 23 されど汝の目あしくば、全身くらからん。もし汝の内の光、闇ならば、その闇いかにかりぞや。 24 人は二人の主にも兼ね事ふること能はず、或はこれを憎み彼を愛し、或はこれに親しみ彼を軽しむべければなり。汝ら神と富とに兼ね事ふること能はず。 25 この故に我なんぢらに告ぐ、何を食ひ、何を飲まんとして生命のことを思ひ煩ひ、何を著んと體のことを思ひ煩ひ。生命は糧にまさり、體は衣に勝るならずや。 26 空の鳥を見よ、播かず、刈らず、倉に收めず、然るに汝らの天の父は、これを養ひたまふ。汝らは之よりも遙に優る者ならずや。 27 汝らの中たれか思ひ煩ひて身の長一尺を加へ得んや。 28 又なにゆゑ衣の事を思ひ煩ひや。野の百合は如何にして育つかを思へ、勞せず、紡がざるなり。 29 されど我なんぢらに告ぐ、榮華を極めたるソロモンだに、その服装この花の一つにも及がざりき。 30 今日ありて明日 燼に投げ入れらるる野の草をも、神はかく装ひ給へば、まして汝らをや、ああ信仰うすき者よ。 31 さらば何を食ひ、何を飲み、何を著んとて思ひ煩ひ。 32 是みな異邦人の切に求むる所なり。汝らの天の父は、凡てこれらの物の汝らに必要なを知り給ふなり。 33 まづ神の國と神の義とを求めよ、さらば凡てこれらの物は汝らに加へらるべし。 34 この故に明日のことを思ひ煩ひ、明日は明日みづから思ひ煩ひ。一日の苦勞は一日にて足れり。

Chapter 7

1なんぢら人を審くな、審かれざらん爲なり。 2己がさばく審判にて己もさばかれ、己がはかる量にて己も量らるべし。 3何ゆゑ兄弟の目にある塵を見て、おのが目にある梁木を認めぬか。 4視よ、おのが目に梁木のあるに、いかで兄弟にむかひて、汝の目より塵をとり除かせよと言ひ得んや。 5偽善者よ、まづ己が目より梁木をとり除け、さらば明かに見えて、兄弟の目より塵を取りのぞき得ん。 6聖なる物を犬に與ふな。また眞珠を豚の前に投ぐな。恐らくは足にて踏みつけ、向き返りて汝らを嘔みやぶらん。 7求めよ、さらば與へられん。尋ねよ、さらば見出さん。門を叩け、さらば開かれん。 8 すべて求むる者は得、たづぬる者は見だし、門をたたく者は開かるるなり。 9 汝等のうち、誰かその子パンを求めんに石を與へ、 10 魚を求めんに蛇を與へんや。 11 さらば、汝ら惡しき者ながら、善き賜物をその子らに與ふるを知る。まして天にいます汝らの父は、求むる者に善き物を賜はざらんや。 12 さらば凡て人に爲られんと思ふことは、人にも亦その如くせよ。これは律法

なり、預言者なり。 13 狭き門より入れ、滅にいたる門は大きく、その路は廣く、之より入る者おほし。 14 生命にいたる門は狭く、その路は細く、之を見出す者すくなくし。 15 偽預言者に心せよ、羊の扮装して來れども、内は奪ひ掠る豺狼なり。 16 その果によりて彼らを知るべし。茨より葡萄を、薊より無花果をとる者あらんや。 17 斯く、すべて善き樹は善き果をむすび、惡しき樹は惡しき果をむすぶ。 18 善き樹は惡しき果を結ぶこと能はず、惡しき樹はよき果を結ぶこと能はず。 19 すべて善き果を結ばぬ樹は、伐られて火に投げ入れらる。 20 さらばその果によりて彼らを知るべし。 21 我に對ひて主よ主よといふ者、ことごとくは天國に入らず、ただ天にいます我が父の御意をおこなふ者のみ、之に入るべし。 22 その日おほくの者われに對ひて「主よ、主よ、我らは汝の名によりて預言し、汝の名によりて惡鬼を逐ひだし、汝の名によりて多くの能力ある業を爲ししにあらざるや」と言はん。 23 その時われ明白に告げん「われ斷えて汝らを知らず、不法をなす者よ、我を離れされ」と。 24 さらば凡て我がこれらの言をききて行ふ者を、磐の上に家をたてたる慧き人に擬へん。 25 雨ふり流みなぎり、風ふきてその家をうてど倒れず、これ磐の上に建てられたる故なり。 26 すべて我がこれらの言をききて行はぬ者を、沙の上に家を建てたる愚なる人に擬へん。 27 雨ふり流みなぎり、風ふきて其の家をうてば、倒れてその顛倒はなはだし。 28 イエスこれらの言を語りてへ給へるとき、群衆その教に驚きたり。 29 それは學者らの如くならず、權威ある者のごとく教へ給へる故なり。

Chapter 8

1イエス山を下り給ひしとき、大なる群衆これに従ふ。 2 視よ、一人の癩病人みもとに來り、拜して言ふ「主よ、御意ならば、我を潔くし給ふを得ん」 3 イエス手をのべ、彼につけて「わが意なり、潔くなれ」と言ひ給へば、癩病ただちに潔れり。 4 イエス言ひ給ふ「つつしみて誰にも語るな、ただ往きて己を祭司に見せ、モーセが命じたる供物を獻げて、人々に證せよ」 5 イエス、カペナウムに入り給ひしとき、百卒長きたり、6 請ひていふ「主よ、わが僕、中風を病み、家に臥しめて甚く苦しめり」 7 イエス言ひ給ふ「われ往きて醫さん」 8 百卒長こたへて言ふ「主よ、我は汝をわが屋根の下に入れまつるに足らぬ者なり。ただ御言のみを賜へ、さらば我が僕はいえん。 9 我みづから權威の下にある者なるに、我が下にまた兵卒ありて、此に「ゆけ」と言へば往き、彼に「きたれ」と言へば來り、わが僕に「これを爲せ」といへば爲すなり」 10 イエス聞きて怪しみ、從へる人々に言ひ給ふ「まことに汝らに告ぐ、かかる驚き信仰はイスラエルの中の

一人にだに見しことなし。 11 又なんぢらに告ぐ、多くの人、東より西より來り、アブラハム、イサク、ヤコブとともに天國の宴につき、 12 御國の子らは外の暗きに逐ひ出され、そこにて哀哭・切齒することあらん」 13 イエス百卒長に「ゆけ、汝の信ずるごとく汝になれ」と言ひ給へば、このとき僕いえたり。 14 イエス、ペテロの家に入り、その外姑の熱を病みて臥しるを見、 15 その手に觸り給へば、熱去り、女おきてイエスに事ふ。 16 夕になりて、人々、惡鬼に憑かれたる者をおほく御許につれ來りたれば、イエス言にて靈を逐ひだし、病める者をことごとく醫し給へり。 17 これは預言者イザヤによりて「かれは自ら我らの疾患をうけ、我らの病を負ふ」と云はれし言の成就せん爲なり。 18 さてイエス群衆の己を環れるを見て、ともに彼方の岸に往かんことを弟子たちに命じ給ふ。 19 一人の學者きたりて言ふ「師よ、何處にゆき給ふとも、我は從はん」。 20 イエス言ひたまふ「狐は穴あり、空の鳥は壩あり、されど人の子は枕する所なし」 21 また弟子の一人いふ「主よ、先づ、往きて、我が父を葬ることを許したまへ」 22 イエス言ひたまふ「我に從へ、死にたる者にその死にたる者を葬らせよ」 23 かくて舟に乗り給へば、弟子たちも從ふ。 24 視よ、海に大なる暴風おこりて、舟波に蔽はるるばかりなるに、イエスは眠り給ふ。 25 弟子たち御許にゆき、起して言ふ「主よ、救ひたまへ、我らは亡ぶ」 26 彼らに言ひ給ふ「なにゆゑ臆するか、信仰うすき者よ」乃ち起きて、風と海とを禁め給へば、大なる風となりぬ。 27 人々あやしみて言ふ「こは如何なる人ぞ、風も海も從ふとは」 28 イエス彼方にわたり、ガダラ人の地にゆき給ひしとき、惡鬼に憑かれたる二人のもの、墓より出できたりて之に遇ふ。その猛きこと甚だしく、其處の途を人の過ぎ得ぬほどなり。 29 視よ、かれら叫びて言ふ「神の子よ、われら汝と何の關係あらん、未だ時いたらぬに、我らを責めんとて此處にきたり給ふか」 30 遙にへだたりて多くの豚の一群、食しあたりしが、 31 惡鬼ども請ひて言ふ「もし我らを逐ひ出さんとならば、豚の群に遣したまへ」 32 彼らに言ひ給ふ「ゆけ」惡鬼いでて豚に入りたれば、視よ、その群みな崖より海に墜け下りて、水に死にたり。 33 飼ふ者ども逃げて町にゆき、すべての事と惡鬼に憑かれたりし者の事とを告げたれば、 34 視よ、町人こぞりてイエスに逢はんとして出でたり、彼を見て、この地方より去り給はんことを請へり。

Chapter 9

1イエス舟にのり、渡りて己が町にきたり給ふ。 2 視よ、中風にて床に臥しる者を、人々みもとに連れ來れり。 イエス彼らの信仰を見て

、中風の者に言ひたまふ「子よ、心安かれ、汝の罪ゆるされたり」 3 視よ、或學者ら心の中にいふ「この人は神を瀆すなり」 4 イエスその思を知りて言ひ給ふ「何ゆゑ心に惡しき事をおもふか。 5 汝の罪ゆるされたりと言ふと、起きて歩めと云ふと、孰か易き。 6 人の子 地にて罪を赦す權威あることを汝らに知らせん爲に」ここに中風の者に言ひ給ふ「起きよ、床をとりて汝の家にかへ」 7 彼おきてその家にかへる。 8 群衆これを見ておそれ、かかる能力を人にあたへ給へる神を崇めたり。 9 イエス此處より進みて、マタイといふ人の收税所に坐しるを見て「我に從へ」と言ひ給へば、立ちて從へり。 10 家にて食事の席につき居給ふとき、視よ、多くの取税人・罪人來りて、イエス及び弟子たちと共に列る。 11 パリサイ人これを見て弟子たちに言ふ「なに故なんぢらの師は、取税人・罪人と共に食するか」 12 之を聞きて、言ひたまふ「健かなる者は醫者を要せず、ただ、病める者これを要す。 13 なんぢら往きて學べ「われ憐憫を好みて、犠牲を好まず」とは如何なる意ぞ。我は正しき者を招かんとにあらで、罪人を招かんとて來れり」 14 ここにヨハネの弟子たち御許にきたりて言ふ「われらとパリサイ人は斷食するに、何故なんぢの弟子たちは斷食せぬか」 15 イエス言ひたまふ「新郎の友だち、新郎と偕に在る間は、悲しむことを得んや。されど新郎をとらるる日きたらん、その時には斷食せん。 16 誰も新しき布の裂を舊き衣につぐことは爲じ、補ひたる裂は、その衣をやぶりて、破綻さらに甚だしかるべし。 17 また新しき葡萄酒をふるき革囊に入ることは爲じ。もし然せば、囊はりさけ酒ほどばしり出でて、囊もまた廢らん。新しき葡萄酒は新しき革囊にいれ、かくて兩ながら保つなり」 18 イエス此等のことを語り給ふとき、視よ、一人の司をとり、拜して言ふ「わが娘いま死にたり。されど來りて御手を之におき給はば活きん」 19 イエス起ちて彼に伴ひ給ふに、弟子たちも從ふ。 20 視よ、十二年 血漏を患ひみたる女、イエスの後にきたりて、御衣の繻にさはる。 21 是れは、御衣にだに觸らば救はれんと心の中にいへるなり。 22 イエスふりかへり、女を見て言ひたまふ「娘よ、心安かれ、汝の信仰なんぢを救へり」女この時より救はれたり。 23 かくてイエス司の家に入り、笛ふく者と騒ぐ群衆とを見て言ひたまふ、 24 「退け、少女は死にたるにあらで、寐ねたるなり」人々イエスを嘲笑ふ。 25 群衆の出されし後、いりてその手と給へば、少女おきたり。 26 この聲聞あまねく其の地に弘りぬ。 27 イエス此處より進みたまふ時、ふたりの盲人さけびて「ダビデの子よ、我らを憐れたまへ」と言ひつつ從ふ。 28 イエス家にいたり給ひしに、盲人ども御許に來りたれば、之に言ひたまふ「我この事をなし得と信ずるか」彼

等いふ『主よ、然り』 29 爰にイエスかれらの目に觸りて言ひたまふ『なんぢらの信仰のごとく汝らに成れ』 30 乃ち彼らの目あきたり。イエス厳しく戒めて言ひたまふ『慎みて誰にも知らすな』 31 されど彼ら出でて、あまねくその地にイエスの事をいひ弘めたり。 32 盲人どもの出づるとき、視よ、人々、悪鬼に憑かれたる唾者を御許につれきたる。 33 悪鬼おひ出されて唾者ものいひたれば、群衆あやしみて言ふ『かかる事は未だイスラエルの中に顯れざりき』 34 然るにパリサイ人いふ『かれは悪鬼の首によりて悪鬼を逐ひ出すなり』 35 イエスあまねく町と村とを巡り、その會堂にて教へ、御國の福音を宣べつたへ、もろもろの病、もろもろの疾患をいやし給ふ。 36 また群衆を見て、その牧ふ者なき羊のごとく悩み、且たふるるを甚く憫み、 37 遂に弟子たちに言ひたまふ『收穫はおほく労働人はすくなし。 38 この故に收穫の主に、労働人をその收穫場に遣し給はんことを求めよ』

Chapter 10

1 かくてイエスその十二弟子を召し、穢れし靈を制する權威をあたへて、之を逐ひ出し、もろもろの病、もろもろの疾患を醫すことを得しめ給ふ。 2 十二使徒の名は左のごとし。先づペテロといふシモン及びその兄弟アンデレ、ゼベダイの子ヤコブ及びその兄弟ヨハネ、3 3 びリボ及びバルトロマイ、トマス及び取税人マタイ、アルパヨの子ヤコブ及びタダイ、4 熱心黨のシモン及びイスカリオテのユダ、このユダはイエスを賣りし者なり。 5 イエスこの十二人を遣さんとて、命じて言ひたまふ。『異邦人の途にゆくな、又サマリヤ人の町に入るな。 6 むしろイスラエルの家の失せたる羊にゆけ。 7 往きて宣べつたへ「天國は近づけり」と言へ。 8 病める者をいやし、死にたる者を甦へらせ、癩病人をきよめ、悪鬼を逐ひいだせ。價なしに受けられたれば價なしに與へよ。 9 帯のなかに金・銀または錢をもつな。 10 旅の囊も、二枚の下衣も、鞋も、杖ももつな。労働人の、その食物を得るは相應しきなり。 11 いづれの町いづれの村に入るとも、その中に相應しき者を尋ねいだして、立ち去るまでは其處に留れ。 12 人の家に入らば平安を祈れ。 13 その家もし之に相應しければ、汝らの祈る平安はその上に臨まん。もし相應しからずば、その平安はなんぢらに歸らん。 14 もし汝らを受けず、汝らの言を聴かずば、その家その町を立ち去るとき、足の塵をはらへ。 15 まことに汝らに告ぐ、審判の日には、その町よりもソドム、ゴモラの地のかた耐へ易からん。 16 視よ、我なんぢらを遣すは、羊を豺狼のなかに入るが如し。この故に蛇のごとく慧く、鴿のごとく素直なれ。 17 人々に心せよ、それは汝らを衆議所に付し、會堂にて鞭うたん。

18 また汝等わが故によりて、司たち王たちの前に曳かれん。これは彼らと異邦人との證をなさん爲なり。 19 かれら汝らを付さば、如何に何を言はんと思ひ煩ふな、言ふべき事は、その時さづけらるべし。 20 これ言ふものは汝等にあらず、其の中にありて言ひたまふ汝らの父の靈なり。 21 兄弟は兄弟を、父は子を死に付し、子どもは親に逆ひて之を死なしめん。 22 又なんぢら我が名のために凡ての人に憎まれん。されど終まで耐へ忍ぶものは救はるべし。 23 この町にて責めらるる時は、かの町に逃れよ。誠に汝らに告ぐ、なんぢらイスラエルの町々を巡り盡さぬうちに人の子は来るべし。 24 弟子はその師にまさらず、僕はその主にまさらず、 25 弟子はその師のごとく、僕はその主の如くならば足れり。もし家主をベルゼブルと呼びたらんには、ましてその家の者をや。 26 この故に、彼らを懼るな。蔽はれたるものに露れぬはなく、隠れたるものに知られぬは無ければなり。 27 暗黒にて我が告ぐことを光明にて言へ。耳をあてて聽くことを屋の上にて宣べよ。 28 身を殺して靈魂をこころし得ぬ者どもを懼るな、身と靈魂とをゲヘナにて滅し得る者をおそれよ。 29 2 羽の雀は一錢にて賣るにあらずや、然るに、汝らの父の許なくば、その一羽も地に落つること無からん。 30 汝らの頭の髪までも皆かぞへらん。 31 この故におそるな、汝らは多くの雀よりも優るるなり。 32 されど凡そ人の前にて我を言ひあらはす者を、我もまた天にいます我が父の前にて言ひ顯さん。 33 されど人の前にて我を否む者を、我もまた天にいます我が父の前にて否まん。 34 われ地に平和を投ぜんために來れりと思ふな。平和にあらず、反つて劍を投ぜん爲に來れり。 35 それ我が來れるは、人をその父より、娘をその母より、嫁をその姑嬢より分たん爲なり。 36 人の仇はその家の者なるべし。 37 我よりも父または母を愛する者は、我に相應しからず。我よりも息子または娘を愛する者は、我に相應しからず。 38 又おのが十字架をとりて我に従はぬ者は、我に相應しからず。 39 生命を得る者はこれを失ひ、我がために生命を失ふ者はこれを得べし。 40 汝らを受くる者は、我を受くるなり。我をうくる者は、我を遣し給ひし者を受くるなり。 41 預言者たる名の故に預言者をうくる者は、預言者の報をうけ、義人たる名のゆゑに義人をうくる者は、義人の報を受くべし。 42 凡そわが弟子たる名の故に、この小き者の一人に冷かなる水一杯にても與ふる者は、まことに汝らに告ぐ、必ずその報を失はざるべし』

Chapter 11

1 イエス十二弟子に命じ終へてのち、町々にて教へ、かつ、宣傳へんとて、此處を去り給へり。 2 ヨハ

ネ牟舎にてキリストの御業をきき、弟子たちを遣して、3 イエスに言はしむ『來るべき者は汝なるか、或は、他に待つべきか』 4 答へて言ひたまふ『ゆきて、汝らが見聞する所をヨハネに告げよ。 5 盲人は見、跛者はあゆみ、癩病人は潔められ、聾者はきき、死人は甦へさせられ、貧しき者は福音を聞かせらる。 6 おほよそ我に躰かぬ者は幸福なり』 7 彼らの歸りたるをり、ヨハネの事を群衆に言ひ出でたまふ『なんぢら何を眺めんとて野に出でし、風にそよぐ葦なるか。 8 さらば何を見んとて出でし、柔かき衣を著たる人なるか。視よ、やはらかき衣を著たる者は、王の家に在り。 9 さらば何のために出でし、預言者を見んとてか。然り、汝らに告ぐ、預言者よりも勝る者なり。 10 「視よ、わが使をなんぢの顔の前につかはす。彼はなんぢの前に、なんぢの道をそなへん」と録されたるは此の人なり。 11 誠に汝らに告ぐ、女の産みたる者のうち、バプテスマのヨハネより大なる者は起らざりき。されど天國にて小き者も、彼よりは大きなり。 12 バプテスマのヨハネの時より今に至るまで、天國は烈しく攻めらる、烈しく攻むる者はこれを奪ふ。 13 凡ての預言者と律法との預言したるは、ヨハネの時までなり。 14 もし汝等わが言をうけんことを願はば、來るべきエリヤは此の人なり、 15 15 耳ある者は聽くべし。 16 われ今の代を何に比へん、童子、市場に坐し、友を呼びて、 17 「われら汝等のために笛吹きたれど、汝ら踊らず、歎きたれど、汝ら胸うたざりき」と言ふに似たり。 18 それは、ヨハネ來りて飲食せざれば「悪鬼に憑かれたる者なり」といひ、 19 人の子來りて飲食すれば、「視よ、食を貪り酒を好む人、また取税人・罪人の友なり」と言ふなり。されど智慧は己が業によりて正しとせらる』 20 爰にイエス多くの能力ある業を行ひ給へる町々の悔改めぬによりて、之を責めはじめ給ふ、 21 『禍害なる哉コラジンよ、禍害なる哉ベツサイダよ、汝らの中にて行ひたる能力ある業を、ツロとシドンとにて行ひしならば、彼らは早く荒布を著、灰の中に悔改めしならん。 22 されば汝らに告ぐ、審判の日にはツロとシドンとのかた汝等よりも耐へ易からん。 23 カペナウムよ、なんぢは天にまで擧げらるべきか、黃泉にまで下らん。汝のうちにて行ひたる能力ある業を、ソドムにて行ひしならば、今日までもかの町は遣りしならん。 24 されば汝らに告ぐ、審判の日にはソドムの地のかた汝よりも耐へ易からん』 25 その時イエス答へて言ひたまふ『天地の主なる父よ、われ感謝す、此等のことを智き者慧き者にかくして、嬰兒に顯し給へり。 26 父よ、然り、かくの如きは御意に適へるなり。 27 すべての物は我わが父より委ねられたり。子を知る者は父の外になく、父をしる者は子または子の欲するまに顯すところの者の外になし。 28 凡て勞する者・重荷を負ふ

者、われに來れ、われ汝らを休ません。 29 我は柔和にして心卑ければ、我が軛を負ひて我に學べ、さらば靈魂に休息を得ん。 30 わが軛は易く、わが荷は輕ければなり』

Chapter 12

1 その頃イエス安息日に麥畠をとほり給ひしに、弟子たち飢えて穂を摘み、食ひ始めたるを、 2 2 パリサイ人見てイエスに言ふ『視よ、なんぢの弟子は安息日に爲まじき事をなす』 3 彼らに言ひ給ふ『ダビデがその伴へる人々とともに飢えしとき、爲しし事を讀まぬか。 4 即ち神の家に入りて、祭司のほかは、己もその伴へる人々も食ふまじき供のパンを食へり。 5 また安息日に祭司らは宮の内にて安息日を犯せども、罪なきことを律法にて讀まぬか。 6 われ汝らに告ぐ、宮より大なる者ここに在り。 7 「われ憐憫を好みて犠牲を好まず」とは、如何なる意かを汝ら知りたらんには、罪なき者を罪せざりしならん。 8 8 それ人の子は安息日の主たるなり』 9 イエス此處を去りて、彼らの會堂に入り給ひしに、 10 視よ、片手なえたる人あり。人々イエスを訴へんと思ひ、問ひていふ『安息日に人を醫すことは善きか』 11 彼らに、言ひたまふ『汝等のうち一匹の羊をもてる者あらんに、もし安息日に穴に陥らば、之を取りあげぬか。 12 人は羊より優ること如何ばかりぞ。さらば安息日に善をなすは可し』 13 ここにかの人に言ひ給ふ『なんぢの手を伸べよ』 14 かれ伸べたれば、他の手のごとく癒ゆ。 14 14 パリサイ人いていかにしてかイエスを亡さんと議る。 15 イエス之を知りて此處を去りたまふ。多くの人したがひ來りたれば、ことごとく之を醫し、 16 かつ我を人に知らすなど戒め給へり。 17 これ預言者イザヤによりて云はれたる言の成就せんためなり。曰く、 18 「視よ、わが選びたる我が僕、わが心の悦ぶ我が愛しむ者、我わが靈を彼に與へん、彼は異邦人に正義を告げ示さん。 19 彼は争はず、叫ばず、その聲を大路にて聞く者なからん。 20 正義をして勝ち遂げしむるまでは、傷へる葦を折ることなく、煙れる亞麻を消すことなからん。 21 異邦人も彼の名に望をおかん』 22 ここに悪鬼に憑かれたる盲目の唾者を御許に連れ來りたれば、之を醫して、唾者の物言ひ見ゆるやうに爲し給ひぬ。 23 群衆みな驚きて言ふ『これはダビデの子にあらぬか』 24 然るにパリサイ人ききて言ふ『この人、悪鬼の首ベルゼブルによらば、悪鬼を逐ひ出すことなし』 25 イエス彼らの思を知りて言ひ給ふ『すべて分れ争ふ國はほろび、分れ争ふ町また家はたたず。 26 サタンもしサタンを逐ひ出さば、自ら分れ争ふなり。さらばその國いかに立つべき。 27 我もし

ベルゼブルによりて悪鬼を逐ひ出さば、汝らの子は誰によりて之を逐ひ出すか。この故に彼らは汝らの審判人となるべし。28 されど我もし神の靈によりて悪鬼を逐ひ出さば、神の國は既に汝らに到れるなり。29 人まつ強き者を縛らずば、いかに強き者の家に入りて、その家財を奪ふことを得ん、縛りて後その家を奪ふべし。30 我と偕ならぬ者は我にそむき、我とともに集めぬ者は散すなり。31 この故に汝らに告ぐ、人の凡ての罪と瀆とは赦されん、されど御靈を瀆すことは赦されじ。32 誰にても言をもて人の子に逆ぶ者は赦されん、されど言をもて聖靈に逆ぶ者は、この世にても後の世にても赦されじ。33 或は樹をも善しとし、果をも善しとせよ。或は樹をも惡しとし、果をも惡しとせよ。樹は果によりて知らるるなり。34 蠅の裔よ、なんぢら惡しき者なるに、争で善きことを言ひ得んや。それ心に満つより口には言はるるなり。35 善き人は善き倉より善き物をいだし、惡しき人は惡しき倉より惡しき物をいだす。36 われ汝らに告ぐ、人の語る凡ての虚しき言は、審判の日に糺さるべし。37 それは汝の言によりて義とせられ、汝の言によりて罪せらるるなり。38 ここに或學者・パリサイ人ら答へて言ふ『師よ、われら汝の徴を見んことを願ふ』39 答へて言ひたまふ『邪曲にして不義なる代は徴を求む、されど預言者ヨナの徴のほかには徴は與へられじ。40 即ち『ヨナが三日三夜、大魚の腹の中に在りし』ごとく、人の子も三日三夜、地の中に在るべきなり。41 二ネベの人、審判のとき今の代の人とともに立ちて之が罪を定めん、彼らはヨナの宣ふ言によりて悔改めたり。視よ、ヨナよりも勝るもの此處に在り。42 南の女王、審判のとき今の代の人とともに起きて之が罪を定めん、彼はソロモンの智慧を聽かんとて地の極より來れり。視よ、ソロモンよりも勝る者ここに在り。43 穢れし靈、人を出づるときは、水なき處を巡りて休を求む、而して得ず。44 乃ち「わがいでし家に歸らん」といひ、歸りて、その家の空きて掃き淨められ、飾られたるを見、45 遂に往きて己より惡しき他の七つの靈を連れきたり、共に入りて此處に住む。されば其の人の後の状は前よりも惡しくなるなり。邪曲なる此の代もまた斯くの如くならん』46 イエスなほ群衆にかたり居給ふとき、視よ、その母と兄弟たちと、彼に物言はんとして外に立つ。47 或人イエスに言ふ『視よ、なんぢの母と兄弟たちと、汝に物言はんとして外に立てり』48 イエス告げし者に答へて言ひたまふ『わが母とは誰ぞ、わが兄弟とは誰ぞ』49 かくて手をのべ、弟子たちを指して言ひたまふ『視よ、これは我が母、わが兄弟なり。50 誰にても天にいます我が父の御意をおこなふ者は、即ち我が兄弟、わが姉妹、わが母なり』

Chapter 13

1 その日イエスは家を出でて、海邊に坐したまふ。2 大なる群衆ももとに集りたれば、イエスは舟に乗りて坐したまひ、群衆はみな岸に立てり。3 譬にて數多のことを語りて言ひたまふ、『視よ、種播く者まかんとて出づ。4 播くとき路の傍らに落ちし種あり、鳥きたりて啄む。5 土うすき磯地に落ちし種あり、土深からぬによりて速かに萌え出でたれど、6 日の昇りし時やけて根なき故に枯る。7 茨の地に落ちし種あり、茨そだちて之を塞く。8 良き地に落ちし種あり、あるひは百倍、あるひは六十倍、あるひは三十倍の實を結べり。9 耳ある者は聽くべし』10 弟子たち御許に來りて言ふ『なにゆゑ譬にて彼らに語り給ふか』11 答へて言ひ給ふ『なんぢらは天國の奧義を知ること許されたれど、彼らは許されず。12 それ誰にても、有てる人は與へられて愈々豊ならん。されど有たぬ人は、その有てる物をも取らるべし。13 この故に彼らには譬にて語る、これ彼らは見ゆれども見えず、聞ゆれども聽かず、また悟らぬ故なり、14 かくてイザヤの預言は、彼らの上に成就す。曰く、『なんぢら聞きて聞けども悟らず、見て見れども認めず。15 この民の心は鈍く、耳は聞くに懶く、目は閉ぢたればなり。これ目にて見、耳にて聽き、心にて悟り、翻へりて、我に驚さるる事なからん爲なり』16 されど汝らの目なんぢらの耳は、見るゆゑに聞くゆゑに、幸福なり。17 まことに汝らに告ぐ、多くの預言者・義人は、汝らが見る所を見んとせしが見えず、なんぢらが聞く所を聞かんとせしが聞かざりしなり。18 されば汝ら種播く者の譬を聽け。19 誰にても天國の言をききて悟らぬときは、惡しき者きたりて、其の心に播かれたるものを奪ふ。路の傍らに播かれしとは斯かる人なり。20 磯地に播かれしとは、御言をききて、直ちに喜び受くれども、21 己に根なければ暫し耐ふるのみにて、御言のために艱難あるひは迫害の起るときは、直ちに躓くものなり。22 茨の中に播かれしとは、御言をきけども、世の心勞と財貨の惑とに、御言を塞がれて賣らぬものなり。23 良き地に播かれしとは、御言をききて悟り、實を結びて、あるひは百倍、あるひは六十倍、あるひは三十倍に至るものなり』24 また他の譬を示して言ひたまふ『天國は良き種を畑にまく人のごとし。25 人々の眠れる間に、仇きたりて麥のなかに毒麥を播きて去りぬ。26 苗はえ出でて實りたる時、毒麥もあらはる。27 僕ども來りて家主にいふ「主よ、畑に播きしは良き種ならずや、然るに如何にして毒麥あるか」28 主人いふ「仇のなしたるなり」僕ども言ふ「さらば我らが往きて之を抜き集むるを欲するか

』29 主人いふ「いな、恐らくは毒麥を抜き集めんとて、麥をも共に抜かん。30 兩ながら收穫まで育つに任せよ。收穫のとき我がかる者に「まづ毒麥を抜きあつめて、焚くために之を束ね、麥はあつめて我が倉に納れよ」と言はん』31 また他の譬を示して言ひたまふ『天國は一粒の芥種のごとし、人これを取りてその畑に播くときは、32 萬の種よりも小けれど、育ちては他の野菜よりも大く、樹となりて、空の鳥きたり其の枝に宿るほどなり。33 また他の譬を語りたまふ『天國はパンだねのごとし、女これを取りて、三斗の粉の中に入るれば、ことごとく脹れいだすなり。34 イエスすべて此等のことを、譬にて群衆に語りたまふ、譬ならでは何事も語り給はず。35 これ預言者によりて云はれたる言の成就せん爲なり。曰く、『われ譬を設けて口を開き、世の創より隠れたる事を言ひ出さん』36 ここに群衆を去らしめて、家に入りたまふ。弟子たち御許に來りて言ふ『畑の毒麥の譬を我らに解きたまへ』37 答へて言ひ給ふ『良き種を播く者は人の子なり、38 畑は世界なり、良き種は天國の子どもなり、毒麥は惡しき者の子どもなり、39 之を播きし仇は惡魔なり、收穫は世の終なり、刈る者は御使たちなり。40 されば毒麥の集められて火に焚かる如く、世の終にも斯くあるべし。41 人の子その使たちを遣さん。彼ら御國の中より凡ての顛蹟となる物と不法をなす者とを集めて、42 火の爐に投げ入るべし、其處にて哀哭・切齒することあらん。43 其のとき義人は父の御國にて日のごとく輝かん。耳ある者は聽くべし。44 天國は畑に隠れたる實のごとし。人見出さば、之を隠しおきて、喜びゆき、有てる物をことごとく賣りて其の畑を買ふなり。45 また天國は良き眞珠を求むる商人のごとし。46 價たかき眞珠一つを見出さば、往きて有てる物をことごとく賣りて、之を買ふなり。47 また天國は、海におろして各様のものを集むる網のごとし。48 充つれば岸にひきあげ、坐して良きものを器に入れ、惡しきものを棄つるなり。49 世の終にも斯くあるべし。御使たち出でて、義人の中より惡人を分ちて、50 之を火の爐に投げ入るべし。其處にて哀哭・切齒することあらん。51 汝等これらの事をみな悟りしか』彼等いふ『然り』52 また言ひ給ふ『この故に、天國のことを教へられたる凡ての學者は、新しき物と舊き物とをその倉より出す家主のごとし』53 イエスこれらの譬を終へて此處を去りたまふ。54 己が郷にいたり、會堂にて教へ給へば、人々おどろきて言ふ『この人はこの智慧と此等の能力とを何處より得しぞ。55 これ木匠の子にあらずや、其の母はマリヤ、其の兄弟はヤコブ、ヨセフ、シモン、ユダにあらずや。56 又その姉妹も皆われらと共に在るに非ずや。然るに此等のすべての事は何處より得しぞ』57 遂に人々かれに躓けり。イエス彼らに言ひたまふ『

預言者は、おのが郷おのが家の外にて尊ばれざる事なし』58 彼らの不信仰によりて其處にては多くの能力ある業を爲し給はざりき。

Chapter 14

1 そのころ、國守ヘロデ、イエスの噂をききて、2 侍臣どもに言ふ『これバプテスマのヨハネなり。かれ死人の中より甦へりたり、さればこそ此等の能力その内に働くなれ』3 ヘロデ先に、己が兄弟ピリポの妻ヘロデヤの爲にヨハネを捕へ、縛りて獄に入れたり。4 ヨハネ、ヘロデに『かの女を納るは宜しからず』と言ひしに因る。5 かくてヘロデ、ヨハネを殺さんと思へど、群衆を懼れたり。群衆ヨハネを預言者とすればなり。6 然るにヘロデの誕生日に當り、ヘロデヤの娘その席上に舞をまひてヘロデを喜ばせられたれば、7 ヘロデ之に何にても求むるままに與へんと誓へり。8 娘その母に唆かされて言ふ『バプテスマのヨハネの首を盆に載せてここに賜はれ』9 王憂ひたれど、その誓と席に在る者とに對して、之を與ふることを命じ、10 人を遣し獄にてヨハネの首を斬り、11 その首を盆にのせて持ち來らしめ、之を少女に與ふ。少女はこれを母に捧ぐ。12 ヨハネの弟子たち來り、屍體を取りて葬り、往きて、イエスに告ぐ。13 イエス之を聞きて人を避け、其處より舟にのりて寂しき處に往き給ひしを群衆ききて町々より徒歩にて從ひゆく。14 イエス出でて大なる群衆を見、これを憫みて、その病める者を醫し給へり。15 夕になりたれば、弟子たち御許に來りて言ふ『ここは寂しき處、はや時も晩し、群衆を去らしめ、村々に往きて、己が爲に食物を買はせ給へ』16 イエス言ひ給ふ『かれら往くに及ばず、汝らに食物を與へよ』17 弟子たち言ふ『われらが此處にもてるは、唯五つのパンと二つの魚とのみ』18 イエス言ひ給ふ『それを我に持ちきたれ』19 かくて群衆に命じて草の上に坐せしめて、五つのパンと二つの魚とを取り、天を仰ぎて祝し、パンを裂きて、弟子たちに與へ給へば、弟子たち之を群衆に與ふ。20 凡ての人食ひて飽く、裂きたる餘を集めしに十二の筐に滿ちたり。21 食ひし者は、女と子供とを除きて凡そ五千人なりき。22 イエス直ちに弟子たちを強ひて舟に乘らせ、自ら群衆をかへす間に、彼方の岸に先に往かしむ。23 かくて群衆を去らしめてのち、祈らんとて竊に山に登り、夕になりて獨そこに給ふ。24 舟ははや陸より數日はなれ、風逆ふによりて波に難されたり。25 夜明の四時ごろ、イエス海の上を歩みて、彼らに到り給ひしに、26 弟子たち其の海の上を歩み給ふを見て心騒ぎ、變化の者なりと言ひて懼れ叫ぶ。27 イエス直ちに彼らに語りて言ひたまふ『心安かれ、我なり、懼るな』28 ペテ

口答へて言ふ『主よ、もし汝ならば我に命じ、水を踏みて御許に到らしめ給へ』29『來れ』と言ひ給へば、ペテロ舟より下り、水の上を歩みてイエスの許に往く。30然るに風を見て懼れ、沈みかかりければ、叫びて言ふ『主よ、我を救ひたまへ』31イエス直ちに御手を伸べ、これを捉へて言ひ給ふ『ああ信仰うすき者よ、何ぞ疑ふか』32相共に舟に乗りしとき、風やみたり。33舟に居る者どもイエスを拜して言ふ『まことに汝は神の子なり』34遂に渡りてゲネサレの地に著きしに、35その處の人々イエスを認めて、あまねく四方に人をつかはし、又すべての病める者を連れきたり、36ただ御衣の總にだに觸らしめ給はんことを願ふ、觸りし者はみな醫されたり。

Chapter 15

1ここにパリサイ人・學者ら、エルサレムより來りてイエスに言ふ、2『なにゆゑ汝の弟子は、古への人の言傳を犯すか、食事のときに手を洗はぬなり』3答へて言ひ給ふ『なにゆゑ汝らは、また汝らの言傳によりて神の誡命を犯すか。4即ち神は「父母を敬へ」と言ひ「父または母を罵る者は必ず殺さるべし」と言ひたまへり。5然るに汝らは「誰にても父または母に對て、我が負ふ所のものは供物となりたり」と言はば、6父または母を敬ふに及ばず」と言ふ。斯くその言傳によりて神の言を空しうす。7偽善者よ、宜なる哉、イザヤは汝らに就きて能く預言せり。曰く、8「この民は我に遠ざかる。9ただ徒らに我を拜む。人の訓誡を教とし教へて」』10かくて群衆を呼び寄せて言ひたまふ『聽きて悟れ。11口に入るものは人を汚さず、されど口より出づるものは、これを汚すなり』12ここに弟子たち御許に來りていふ『御言をききてパリサイ人の躓きたるを知り給ふか』13答へて言ひ給ふ『わが天の父の植ゑ給はぬものは、みな抜かれん。14彼らを捨ておけ、盲人を手引する盲人なり、盲人もし盲人を手引せば、二人とも穴に落ちん』15ペテロ答へて言ふ『その譬を我らに解き給へ』16イエス言ひ給ふ『なんぢらも今なほ悟りなきか。17凡て口に入るものは腹にゆき、遂に廁に棄てらるる事を悟らぬか。18されど口より出づるものは心より出づ、これを汚すものなり。19それ心より惡しき念いづ、すなはち殺人・姦淫・淫行・竊盜・偽證・誹謗、20これらは人を汚すものなり、されど洗はぬ手にて食する事は人を汚さず』21イエスここを去りてツロとシドンとの地方に往き給ふ。22視よ、カナンの女その邊より出できたり、叫びて『主よ、ダビデの子よ、我を憐み給へ、わが娘、惡鬼につかれて甚く苦しむ』と言ふ。23されどイエス一言も答へ給はず。弟子たち來り請ひて言ふ『女を歸したまへ、我らの後より叫ぶなり』24

答へて言ひたまふ『我はイスラエルの家の失せたる羊のほかには遣されず』25女きたり拜して言ふ『主よ、我を助けたまへ』26答へて言ひたまふ『子供のパンをとりにて小粒に投げ與ふるは善からず』27女いふ『然り、主よ、小狗も主人の食卓よりおつる食屑を食ふなり』28ここにイエス答へて言ひたまふ『をんなよ、汝の信仰は大なるかな、願のごとく汝になれ』娘この時より癒えたり。29イエス此處を去り、ガリラヤの海邊にいたり、而して山に登り、そこに坐し給ふ。30大なる群衆、跛者・不具・盲人・啞者および他の多くの者を連れ來りて、イエスの足下に置きたれば、醫し給へり。31群衆は、啞者の物いひ、不具の癒え、跛者の歩み、盲人の見えたるを見て之を怪しみ、イスラエルの神を崇めたり。32イエス弟子たちを召して言ひ給ふ『われ此の群衆をあはれむ、既に三日われと偕にをりて食ふべき物なし。飢ゑたるままにて歸らしむるを好まず、恐らくは途にて疲れ果てん』33弟子たち言ふ『この寂しき地にて、斯く大なる群衆を飽かしむべき多くのパンを、何處より得べき』34イエス言ひ給ふ『パン幾つあるか』彼らいふ『七つ、また小さい魚すこしあり』35イエス群衆に命じて地に坐せしめ、36七つのパンと魚とを取り、謝して之をさき弟子たちに與へ給へば、弟子たちこれを群衆に與ふ。37凡ての人くらひて飽き、裂きたる餘を拾ひしに、七つの籃に満ちたり。38食ひし者は、女と子供とを除きて四千人なりき。39イエス群衆をかへし、舟に乗りてマガダンの地方に往き給へり。

Chapter 16

1パリサイ人とサドカイ人と來りてイエスを試み、天よりの徴を示さんことを請ふ。2答へて言ひたまふ『夕には汝ら「空あかき故に晴ならん」と言ひ、3また朝には「そら赤くして曇る故に、今日は風雨ならん」と言ふ。なんぢら空の氣色を見分くることを知りて、時の徴を見分くること能はぬか。4邪曲にして不義なる代は徴を求む、されどヨナの徴の外に徴は與へられじ』かくて彼らを離れて去り給ひぬ。5弟子たち彼方の岸に到りしに、パンを携ふることを忘れたり。6イエス言ひたまふ『慎みてパリサイ人とサドカイ人とのパン種に心せよ』7弟子たち互に『我らはパンを携へざりき』と語り合ふ。8イエス之を知りて言ひ給ふ『ああ信仰うすき者よ、何ぞパン無きことを語り合ふか。9未だ悟らぬか、五つのパンを五千人に分ちて、その餘を幾籃ひろひ、10また七つのパンを四千人に分ちて、その餘を幾籃ひろひしかを覚えぬか。11我が言ひしはパンの事にあらぬを何ぞ悟らざる。唯パリサイ人とサドカイ人とのパンだねに心せよ』12ここに弟子たちイエスの心せよと言ひ給ひしは、パンの種にはあ

らで、パリサイ人とサドカイ人との教なることを悟れり。13イエス、ピリポ・カイザリヤの地方にいたり、弟子たちに問ひて言ひたまふ『人々は人の子を誰と言ふか』14彼等いふ『或人はバプテスマのヨハネ、或人はエリヤ、或人はエレミヤ、また預言者の一人』15彼らに言ひたまふ『なんぢらは我を誰と言ふか』16シモン・ペテロ答へて言ふ『なんぢはキリスト、活ける神の子なり』17イエス答へて言ひ給ふ『バルヨナ・シモン、汝は幸福なり、汝に之を示したるは血肉にあらず、天にいます我が父なり。18我はまた汝に告ぐ、汝はペテロなり、我この磐の上に我が教會を建てん、黄泉の門はこれに勝たざるべし。19われ天國の鍵を汝に與へん、凡そ汝が地にて縛ぐ所は天にて縛ぎ、地にて解く所は天にて解くなり』20ここにイエス、己がキリストなる事を誰にも告ぐなど、弟子たちを戒め給へり。21この時よりイエス・キリスト、弟子たちに、己のエルサレムに往きて、長老・祭司長・學者らより多くの苦難を受け、かつ殺され、三日めに甦へるべき事を示し始めたまふ。22ペテロ、イエスを傍にひき戒め出でて言ふ『主よ、然らざれば、此の事なんぢに起らざるべし』23イエス振反りてペテロに言ひ給ふ『サタンよ、我が後に退け、汝はわが躓物なり、汝は神のことを思はず、反つて人のことを思ふ』24ここにイエス弟子たちに言ひたまふ『人もし我に従ひ來らんと思はば、己をすて、己が十字架を負ひて、我に従へ。25己が生命を救はんと思ふ者は、これを失ひ、我がために己が生命をうしなふ者は、之を得べし。26人、全世界を贏くとも、己が生命を損せば、何の益あらん、又その生命の代に何を與へんや。27人の子は父の榮光をもて、御使たちと共に來らん。その時おのおのの行爲に隨ひて報ゆべし。28まことに汝らに告ぐ、ここに立つ者のうちに、人の子のその國をもて來るを見るまでは、死を味はぬ者どもあり』

Chapter 17

1六日の後、イエス、ペテロ、ヤコブ及びヤコブの兄弟ヨハネを率きつれ、人を避けて高き山に登りたまふ。2かくて彼らの前にてその状かはり、其の顔は日のごとく輝き、その衣は光のごとく白くなりぬ。3視よ、モーセとエリヤとイエスに語りつつ彼らに現る。4ペテロ差出でてイエスに言ふ『主よ、我らの此處に居るは善し。御意ならば我ここに三つの廬を造り、一つを汝のため、一つをモーセのため、一つをエリヤの爲にせん』5彼なほ語りるとき、視よ、光れる雲かれらを覆ふ。また雲より聲あり、曰く『これは我が愛しむ子、わが悦ぶ者なり、汝ら之に聽け』6弟子たち之を聞きて倒れ伏し、懼ること甚だし。7イエスその許にきたり之に觸りて『起きよ

、懼るな』と言ひ給へば、8彼ら目を擧げしに、イエス一人の他は誰も見えざりき。9山を下るとき、イエス彼らに命じて言ひたまふ『人の子の死人の中より甦へるまでは、見たることを誰にも語るな』10弟子たち問ひて言ふ『さらばエリヤ先づ來るべしと學者らの言ふは何ぞ』11答へて言ひたまふ『實にエリヤ來りて萬の事をあらためん。12我なんぢらに告ぐ、エリヤは既に來り。されど人々これを知らず、反つて心のままに待り。かくのごとく人の子もまた人々より苦しめらるべし』13ここに弟子たちバプテスマのヨハネを指して言ひ給ひしなるを悟れり。14かれら群衆の許に到りしとき、或人御許にきたり跪づきて言ふ、15『主よ、わが子を憐みたまへ。癩癩にて難み、しばしば火の中に、しばしば水の中に倒るるなり。16之を御弟子たちに連れ來りしに、醫すこと能はざりき』17イエス答へて言ひ給ふ『ああ信なき曲れる代なるかな、我いつまで汝らと偕にをらん、何時まで汝らを忍ばん。その子を我に連れきたれ』18遂にイエスこれを禁め給へば、惡鬼いでてその子この時より癒えたり。19ここに弟子たち竊にイエスに來りて言ふ『われらは何故に逐ひ出し得ざりしか』20彼らに言ひ給ふ『なんぢら信仰うすき故なり。まことに汝らに告ぐ、もし芥種一粒ほどの信仰あらば、この山に「此處より彼處に移れ」と言ふとも移らん、かくて汝ら能はぬこと無かるべし』21なし22彼らガリラヤに集ひる時、イエス言ひたまふ『人の子は人の手に付され、23人々は之を殺さん、かくて三日めに甦へるべし』弟子たち甚く悲しめり。24彼らカペナウムに到りしとき、納金を集むる者どもペテロに來りて言ふ『なんぢらの師は納金を納めぬか』25ペテロ『納む』と言ひ、やがて家に入りしに、逸速くイエス言ひ給ふ『シモンいかに思ふか、世の王たちは税または貢を誰より取るか、己が子よりか、他の者よりか』26ペテロ言ふ『ほかの者より』イエス言ひ給ふ『されば子は自由なり。27されど彼らを躓かせぬ爲に、海に往きて釣をたれ、初に上る魚をとれ、其の口をひらかば銀貨一つを得ん、それを取りて我と汝との爲に納めよ』

Chapter 18

1そのとき弟子たちイエスに來りて言ふ『しからば天國にて大なるは誰か』2イエス幼兒を呼び、彼らの中に置きて言ひ給ふ3『まことに汝らに告ぐ、もし汝ら翻へりて幼兒の如くならずば、天國に入るを得じ。4されば誰にても此の幼兒のごとく己を卑うする者は、これ天國にて大なる者なり。5また我が名のために、かくのごとき一人の幼兒を受くる者は、我を受くるなり。6されど我を信する此の小さき者の一人を躓かする者は、寧ろ大なる礫石を頸に懸

けられ、海の深處に沈められんかた益なり。7この世は蹟物あるによりて禍害なるかな。蹟物は必ず來らん、されど蹟物を來らす人は禍害なるかな。8もし汝の手または足なぐちを躓かせば、切りて棄てよ。不具または蹇跛にて生命に入るは、兩手兩足ありて永遠の火に投げ入れらるるよりも勝るなり。9もし汝の眼なぐちを躓かせば、抜きて棄てよ。片眼にて生命に入るは、兩眼ありて火のゲヘナに投げ入れらるるよりも勝るなり。10汝ら慎みて此の小き者の一人をも侮るな。我なんぢらに告ぐ、彼らの御使たちは天にありて、天にいます我が父の御顔を常に見るなり。11なし12汝等いかに思ふか、百匹の羊を有てる人あらんに、若しその一匹まよはば、九十九匹を山に遺しおき、往きて迷へるものを尋ねぬか。13もし之を見出さば、まことに汝らに告ぐ、迷はぬ九十九匹に勝りて此の一匹を喜ばん。14かくのごとく此の小き者の一人の亡ぶるは、天にいます汝らの父の御意にあらざ。15もし汝の兄弟罪を犯さば、往きてただ彼とのみ相對して諫めよ。もし聽かば其の兄弟を得たるなり。16もし聽かずば、一人・二人を伴ひ往け、これ二三の證人の口によりて、凡ての事の慥められん爲なり。17もし彼等にも聽かずば、教會に告げよ。もし教會にも聽かずば、之を異邦人または取税人のごとき者とすべし。18まことに汝らに告ぐ、すべて汝らが地に縛く所は天にても縛ぎ、地に解く所は天にても解くなり。19また誠に汝らに告ぐ、もし汝等のうち二人、何にても求むる事につき地にて心をつなげば、天にいます我が父は之を成し給ふべし。20二人わが名によりて集る所には、我もその中に在るなり。21ここにペテロ御許に來りて言ふ『主よ、わが兄弟われに對して罪を犯さば幾たび赦すべきか、七度までか』22イエス言ひたまふ『否、われ「七度まで」とは言はず「七度を七十倍するまで」と言ふなり。23この故に、天國はその家來どもと計算をなさんとする王のごとし。24計算を始めるとき、一萬タラントの負債ある家來つれ來れしが、25償ひ方なかりしかば、其の主人、この者と其の妻子と凡ての所有とを賣りて償ふことを命じたるに、26その家來ひれ伏し拜して言ふ「寛くし給へ、さらば悉く償はん」27その家來の主人あはれみで之を解き、その負債を免したり。28然るに其の家來いでて、己より百デナリを負ひたる一人の同僚にあひ、之をとらへ、喉を締めて言ふ「負債を償へ」29その同僚ひれ伏し、願ひて「寛くし給へ、さらば償はん」と言へど、30肯はずして行き、その負債を償ふまで之を獄に入れたり。31同僚ども有りし事を見て甚く悲しみ、往きて有りし凡ての事をその主人に告ぐ。32ここに主人かれを呼び出して言ふ「惡しき家來よ、なんぢ願ひしによりて、かの負債をことごとく免

せり。33わが汝を憐みしごとく、汝もまた同僚を憐むべきにあらずや」34斯くその主人、怒りて、負債をことごとく償ふまで彼を獄卒に付せり。35もし汝等おのおの心より兄弟を赦さずば、我が天の父も亦なんぢらに斯のごとく罵し給ふべし』

Chapter 19

1イエスこれらの言を語り終へて、ガリラヤを去り、ヨルダンの彼方なるユダヤの地方に來り給ひしに、2大なる群衆したがひたれば、此處にて彼らを醫し給へり。3バリスイ人ら來り、イエスを試みて言ふ『何の故にかかはらず、人その妻を出すは可きか』4答へて言ひたまふ『人を造り給ひしもの、元始より之を男と女とに造り、而して、5「かかる故に人は父母を離れ、その妻に合ひて、二人のもの一體となるべし」と言ひ給ひしを未だ讀まぬか。6されば、はや二人にはあらず、一體なり。この故に神の合せ給ひし者は、人これを離すべからず』7彼らイエスに言ふ『さらば何故モーセは離縁状を與へて出すことを命じたるか』8彼らに言ひ給ふ『モーセは汝の心つれなきによりて妻を出すことを許したり。されど元始より然にはあらぬなり。9われ汝らに告ぐ、おほよそ淫行の故ならで其の妻をいだし他に娶る者は、姦淫を行ふなり』10弟子たちイエスに言ふ『人もし妻のことに於てかくのごとくば、娶らざるに如かず』11彼らに言ひたまふ『凡ての人のこの言を受け容るるにはあらず、ただ授けられたる者のみなり。12それ生れながらの閨人あり、人に爲られたる閨人あり、また天國のために自らなりたる閨人あり、之を受け容れうる者は受け容るべし』13ここに人々イエスの手をおきて連れ給はんことを望みて、幼兒らを連れ來りしに、弟子たち禁められたれば、14イエス言ひたまふ『幼兒らを許せ、我に來るを止むな、天國はかくのごとき者の國なり』15かくて手を彼らの上におきて此處を去り給へり。16視よ、或人みもとに來りて言ふ『師よ、われ永遠の生命をうる爲には、如何なる善き事を爲すべきか』17イエス言ひたまふ『善き事につきて何ぞ我に問ふか、善き者は唯ひとりのみ。汝もし生命に入らんと思はば誠命を守れ』18彼いふ『孰を』イエス言ひたまふ『「殺すなかれ」「姦淫するなかれ」「盜むなかれ」「偽證を立つる勿れ』19「父と母とを敬へ」また「己のごとく汝の隣を愛すべし』20その若者いふ『我みな之を守れり、なほ何を缺くか』21イエス言ひたまふ『なんぢ若し全からんと思はば、往きて汝の所有を賣りて貧しき者に施せ、さらば財寶を天に得ん。かつ來りて我に従へ』22この言をききて、若者悲しみつつ去りぬ。大なる資産を有てる故なり。23イエス弟子たちに言ひ給ふ『まことに汝らに告ぐ、富める者の天國に入るは難し。24復なんぢらに告ぐ

、富める者の神の國に入るよりは、駱駝の針の孔を通るかた反つて易し』25弟子たち之をきき、甚だしく驚きて言ふ『さらば誰か救はるることを得ん』26イエス彼らに目を注ぎて言ひ給ふ『これは人に能はねど、神は凡ての事をなし得るなり』27ここにペテロ答へて言ふ『視よ、われら一切をすてて汝に従へり、されば何をすべきか』28イエス彼らに言ひ給ふ『まことに汝らに告ぐ、世あらたまりて人の子その榮光の座位に坐するとき、我に従へる汝等もまた十二の座位に坐して、イスラエルの十二の族を審かん。29また凡そ我が名のために、或は家、あるひは兄弟、あるひは姉妹、あるひは父、あるひは母、あるひは子、あるひは田畑を棄つる者は、數倍を受け、また永遠の生命を嗣がん。30されど多くの先なる者後に、後なる者先になるべし。』

Chapter 20

1天國は労働人を葡萄園に雇ふために、朝早く出でたる主人のごとし。2一日一デナリの約束をなして、労働人どもを葡萄園に遣す。3また九時ごろ出でて市場に空しく立つ者どもを見て、4「なんぢらも葡萄園に往け、相當のものを與へん」といへば、彼らも往く。5十二時頃と三時頃とに復いでて前のごとくす。6五時頃また出でしに、なほ立つ者どものあるを見ていふ「何ゆゑ終日ここに空しく立つか」7かれら言ふ「たれも我らを雇はぬ故なり」主人いふ「なんぢらも葡萄園に往け」8夕になりて葡萄園の主人その家司に言ふ「労働人を呼びて、後の者より始め、先の者にまで賃銀をはらへ」9かくて五時ごろに雇はれしもの來りて、おのおの一デナリを受く。10先の者きたりて、多く受くるならんと思ひしに、之も亦おのおの一デナリを受く。11受けしとき、家主にむかひ呟きて言ふ、12「この後の者どもは僅に一時間はたらきたるに、汝は一日の勞と暑さとを忍びたる我らと均しく之を遇へり」13主人こたへて其の一人に言ふ「友よ、我なんぢに不正をなさず、汝は我と一デナリの約束をせしにあらずや。14己が物を取りて往け、この後の者に汝とひとしく與ふるは、我が意なり。15わが物を我が意のままにするは可からずや、我よきが故に汝の目あしきか」16かくのごとく後なる者は先に、先なる者は後になるべし』17イエス、エルサレムに上らんとし給ふとき、竊に十二弟子を近づけて、途すがら言ひ給ふ、18『視よ、我らエルサレムに上る、人の子は祭司長・學者らに付されん。彼ら之を死に定め、19また嘲弄し、鞭うち、十字架につけん爲に異邦人に付さん、かくて彼は三日目に甦るべし』20ここにゼベダイの子らの母、その子らと共に御許にきたり、拜して何事か求めんとしたるに、21イエス彼に言ひたま

ふ『何を望むか』かれ言ふ『この我が二人の子が汝の御國にて、一人は汝の右に、一人は左に坐せんことを命じ給へ』22イエス答へて言ひ給ふ『なんぢらは求むる所を知らず、我が飲まんとする酒杯を飲み得るか』かれら言ふ『し得るなり』23イエス言ひたまふ『實に汝らは我が酒杯を飲むべし、されど我が右左に坐することは、これ我の與ふべきものならず、我が父より備へられたる人こそ與へらるるなれ』24十人の弟子これ聞き、二人の兄弟の事によりて憤ほる。25イエス彼らを呼びて言ひたまふ『異邦人の君のその民を幸どり、大なる者の民の上に權を執ることは、汝らの知る所なり。26汝らの中には然らず、汝らの中に大ならんと思ふ者は、汝らの役者となり、27首たらんと思ふ者は汝らの僕となるべし。28かくのごとく、人の子の來れるも事へらるる爲にあらず、反つて事ふることをなし、又おほくの人を贖償として己が生命を與へん爲なり』29彼らエリコを出づるとき、大なる群衆イエスに従へり。30視よ、二人の盲人、路の傍らに坐しをりしが、イエスの過ぎ給ふことを聞き、叫びて言ふ『主よ、ダビデの子よ、我らを憐みたまへ』31群衆かれらを禁めて黙さしめんとしたれど、愈々叫びて言ふ『主よ、ダビデの子よ、我らを憐み給へ』32イエス立ちどまり、彼らを呼びて言ひ給ふ『わが汝らに何を爲さんことを望むか』33彼ら言ふ『主よ、目の開かれんことなり』34イエスいたく憐みて彼らの目に觸り給へば、直ちに物を見ることを得て、イエスに従へり。』

Chapter 21

1彼らエルサレムに近づき、オリブ山の邊なるペテバゲに到りし時、イエス二人の弟子を遣さんとして言ひ給ふ、2『向の村にゆけ、やがて繋ぎたる驢馬のその子とともに在るを見ん、解きて我に牽ききたれ。3誰かもし汝らに何とか言はば「主の用なり」と言へ、さらば直ちに之を遣さん』4此の事の起りしは、預言者によりて云はれたる言の成就せん爲なり。曰く、5『シオンの娘に告げよ、「視よ、汝の王、なんぢに來り給ふ。柔和にして驢馬に乗り、輓を負ふ驢馬の子に乗りて」』6弟子たち往きて、イエスの命じ給へる如くして、7驢馬とその子とを牽ききたり、己が衣をその上におきたれば、イエス之に乗りたまふ。8群衆の多くはその衣を途にしき、或者は樹の枝を伐りて途に敷く。9かつ前にゆき後にしたがふ群衆よばはりて言ふ『ダビデの子にホサナ、讃むべきかな、主の御名によりて來る者。いと高き處にてホサナ』10遂にエルサレムに入り給へば、都擧りて騒立ちて言ふ『これは誰なるぞ』11群衆いふ『これガリラヤのナザレより出でたる預言者イエスなり』12イエス宮に入り、その内なる凡ての

賣買する者を逐ひだし、兩替する者の臺、鴿を賣る者の腰掛を倒して言ひ給ふ、13『「わが家は祈の家と稱へらるべし」と録されたるに、汝らは之を強盜の巢となす」14宮にて盲人・跛者ども御許に來りたれば、之を醫したまへり。15祭司長・學者らイエスの爲し給へる不思議なる業と、宮にて呼はり『ダビデの子にホサナ』と言ひをる子等とを見、憤りて、16イエスに言ふ『なんぢ彼らの言ふところを聞くか』イエス言ひ給ふ『然り「嬰兒乳兒の口に讚美を備へ給へり」とあるを未だ讀まぬか』17遂に彼らを離れ、都を出でてベタニヤにゆき、そこに宿り給ふ。18朝早く都にかへる時、イエス飢ゑたまふ。19路の傍なる一もとの無花果の樹を見て、その下に到り給ひしに、葉のほかに何をも見出さず、之に對ひて『今より後いつまでも果を結ばざれ』と言ひ給へば、無花果の樹たちどころに枯れたり。20弟子たち之を見、怪しみて言ふ『無花果の樹の斯く立刻に枯れたるは何ぞや』21イエス答へて言ひ給ふ『まことに汝らに告ぐ、もし汝ら信仰ありて疑はずば、畜に此の無花果の樹にありし如きことを爲し得るのみならず、此の山に「移りて海に入れ」と言ふとも亦成るべし。22かつ祈るとき何にても信じて求めば、ことごとく得べし』23宮に到りて教へ給ふとき、祭司長・民の長老ら御許に來りて言ふ『何の權威をもて此等の事をなすか、誰がこの權威を授けしか』24イエス答へて言ひたまふ『我も一言なんぢらに問はん、もし夫を告げなば、我もまた何の權威をもて此等のことを爲すかを告げん。25ヨハネのパテスマは何處よりぞ、天よりか、人よりか』かれら互に論じて言ふ『もし天よりと言はば「何故かれを信ぜざりし」と言はん。26もし人よりと言はんか、人みなヨハネを預言者と認むれば、我らは群衆を恐る』27遂に答へて『知らず』と言へり。28イエスもまた言ひたまふ『我も何の權威をもて此等のことを爲すか汝らに告げし。28なんぢら如何に思ふか、或人ふたりの子ありしが、その兄にゆきて言ふ「子よ、今日、葡萄園に往きて働け」29答へて「主よ、我ゆかん」と言ひて終に往かず。30また弟にゆきて同じやうに言ひしに、答へて「往かじ」と言ひたれど、後くいて往きたり。31この二人のうち孰か父の意を爲しし』彼らいつ「後の者なり」イエス言ひ給ふ『まことに汝らに告ぐ、取税人と遊女とは汝らに先だちて神の國に入るなり。32それヨハネ義の道をもて來りしに、汝らは彼を信ぜず、取税人と遊女とは信じたり。然るに汝らは之を見し後も、なほ悔改めずして信ぜざりき。33また一つの譬を聽け、ある家主、葡萄園をつくりて籬をめぐらし、中に酒槽を掘り、櫓を建て、農夫どもに貸して遠く旅立せり。34果期ち近づきたれば、その果を受取らんとて僕らを農夫どもの許に遣はして、35農夫どもその僕らを執へて、一人

を打ちたたき、一人をころし、一人を石にて撃てり。36復ほかの僕らを前よりも多く遣はしに、之をも同じやうに遇へり。37「わが子は敬ふならん」と言ひて、遂にその子を遣はしに、38農夫ども此の子を見て互に言ふ「これは世嗣なり、いざ殺して、その嗣業を取らん」39かくて之をとらへ、葡萄園の外に逐ひ出して殺せり。40さらば葡萄園の主人きたる時、この農夫どもに何を爲さんか』41かれら言ふ『その惡人どもを飽くまで滅し、果期におよびて果を納むる他の農夫どもに葡萄園を貸し與ふべし』42イエス言ひたまふ『聖書に、「造家者らの棄てたる石は、これぞ隅の首石となれる、これ主によりて成れるにて、我らの目には奇しきなり」とあるを汝ら未だ讀まぬか。43この故に汝らに告ぐ、汝らは神の國をとられ、其の果を結ぶ國人は、之を與へらるべし。44この石の上に倒るる者はくだけ、又この石、人のうへに倒れるれば、其の人を徹塵とせん』45祭司長・パリサイ人ら、イエスの譬をきき、己らを指して語り給へるを悟り、46イエスを執へんと思へど群衆を恐れたり、群衆かれを預言者とするに因る。

Chapter 22

1イエスまた譬をもて答へて言ひ給ふ2『天國は己が子のために婚筵を設くる王のごとし。3婚筵に招きおきたる人々を迎へんとて僕どもを遣はしに、來るを肯はず。4復ほかの僕どもを遣すとて言ふ「招きたる人々に告げよ、視よ、晝餐は既に備りたり。我が牛も肥えたる畜も屠られて、凡ての物備りたれば、婚筵に來れと」5然るに人々顧みずして、或者は己が畑に、或者は己が商賣に往けり。6また他の者は僕を執へて、辱しめかつ殺したれば、7王怒りて軍勢を遣し、かの兇行者を滅して其の町を焼きたり。8かくて僕どもに言ふ「婚筵は既に備りたれど、招きたる者どもは相應しからず。9されば汝ら街に往きて、遇ふほどの者を婚筵に招け」10僕ども途に出でて、善きも惡しきも遇ふほどの者をみな集めれば、婚禮の席は客にて満てり。11王、客を見んとて入り來り、一人の禮服を著けぬ者あるを見て、12之に言ふ「友よ、如何なれば禮服を著けずして此處に入りたるか」かれ黙しむたり。13ここに王、侍者らに言ふ「その手足を縛りて外の暗黒に投げだせ、其處にて哀哭・切齒することあらん」14それ招かるる者は多かれど、選ばれる者は少し』15ここにパリサイ人ら出でて、如何にしてかイエスの言の繻に係けん」と相議り、16その弟子らをヘロデ黨の者どもと共に遣して言はしむ『師よ、我らは知る、なんじは眞にして、眞をもて神の道を教へ、かつ誰をも憚りたまふ事なし、人の外貌を見

給はぬ故なり。17されば我らに告げたまへ、貢をカイザルに納むるは可きか、惡しきか、如何に思ひたまふ』18イエスその邪曲なるを知りて言ひたまふ『僞善者よ、なんぞ我を試むるか。19貢の金を我に見せよ』彼らデナリ一つを持ち來る。20イエス言ひ給ふ『これは誰の像、たれの號なるか』21彼ら言ふ『カイザルのなり』ここに彼らに言ひ給ふ『さらばカイザルの物はカイザルに、神の物は神に納めよ』22彼ら之を聞きて怪しみ、イエスを離れて去り往けり。23復活なしといふサドカイ人ら、その日みもとに來り問ひて言ふ24『師よ、モーセは「人もし子なくして死なば、其の兄弟かれの妻を娶りて、兄弟のために世嗣を擧ぐべし」と云へり。25我らの中に七人の兄弟ありしが、兄めとりて死に、世嗣なくして其の妻を弟に遺したり。26その二その三より、その七まで皆かくの如く爲し、27最後にその女も死にたり。28されば復活の時、その女は七人のうち誰の妻たるべきか、彼ら皆これを妻としたればなり』29イエス答へて言ひ給ふ『なんぢら聖書をも神の能力をも知らぬ故に誤れり。30それ人よみがへりの時は、娶らず嫁がず、天に在る御使たちの如し。31死人の復活に就きては、神なんぢらに告げて、32「我はアブラハムの神、イサクの神、ヤコブの神なり」と言ひ給へることを未だ讀まぬか。神は死にたる者の神にあらず、生ける者の神なり』33群衆これを聞きて其の教に驚けり。34パリサイ人ら、イエスのサドカイ人らを黙さしめ給ひしことを聞きて相集り、35その中なる一人の教法師、イエスを試むる爲に問ふ36『師よ、律法のうち孰の誠命が大なるか』37イエス言ひ給ふ『「なんぢ心を盡し、精神を盡し、思を盡して主なる汝の神を愛すべし」38これは大にして第一の誠命なり。39第二もまた之にひとし「おのれの如くなんぢの隣を愛すべし」40律法全體と預言者とは此の二つの誠命に據るなり』41パリサイ人らの集りたる時、イエス彼らに問ひて言ひ給ふ42『なんぢらはキリストに就きて如何に思ふか、誰の子なるか』かれら言ふ『ダビデの子なり』43イエス言ひ給ふ『さらばダビデ御靈に感じて何故かれを主と稱ふるか。曰く44「主わが主に言ひ給ふ、われ汝の敵を汝の足の下に置くまでは、我が右に坐せよ」45斯くダビデ彼を主と稱ふれば、争でその子ならんや』46誰も一言だに答ふること能はず、その日より敢へて復イエスに問ふ者なかりき。

Chapter 23

1ここにイエス群衆と弟子たちとに語りて言ひ給ふ、2『學者とパリサイ人とはモーセの座を占む。3されば凡てその言ふ所は守りて行へ、されどその所作には效ふな、彼らは言ふのみにて行はぬなり。4また

重き荷を括りて人の肩にのせ、己は指にて之を動かさんとせず。5凡てその所作は人に見られん爲にするなり。即ちその經札を幅ひろくし、衣の總を大きくし、6饗宴の上席、會堂の上座、7市場にての敬禮、また人にラビと呼ぶることを好む。8されど汝らはラビの稱を受くな、汝らの師は一人にして、汝等はみな兄弟なり。9地にある者を父と呼ぶな、汝らの父は一人、すなはち天に在る者なり。10また導師の稱を受くな、汝らの導師はひとり、即ちキリストなり。11汝等のうち大なる者は、汝らの役者とならん。12凡そおのれを高うする者は卑うせられ、己を卑うする者は高うせらるるなり。13禍害なるかな、僞善なる學者、パリサイ人よ、なんぢらは人の前に天國を開いて自ら入らず、入らんとする人の入るをも許さぬなり。14なし15禍害なるかな、僞善なる學者、パリサイ人よ、汝らは一人の改宗者を得んために海陸を經めぐり、既に得れば、之を己に倍したるゲヘナの子となすなり。16禍害なるかな、盲目なる手引よ、なんぢらは言ふ「人もし宮を指して誓はば事なし、宮の黄金を指して誓はば果さざるべからず」と。17愚にして盲目なる者よ、黄金と黄金を聖ならしむる宮とは孰か貴き。18なんぢら又いふ「人もし祭壇を指して誓はば事なし、其の上の供物を指して誓はば果さざるべからず」と。19盲目なる者よ、供物と供物を聖ならしむる祭壇とは孰か貴き。20されば祭壇を指して誓ふ者は、祭壇とその上の凡ての物とを指して誓ふなり。21宮を指して誓ふ者は、宮とその内に住みたまふ者とを指して誓ふなり。22また天を指して誓ふ者は、神の御座とその上に坐したまふ者とを指して誓ふなり。23禍害なるかな、僞善なる學者、パリサイ人よ、汝らは薄荷・蒔蘿・クミンの十分の一を納めて、律法の中にて尤も重き公平と憐憫と忠信とを等閑にす。されど之は行ふべきものなり、而して、彼もまた等閑にすべきものならず。24盲目なる手引よ、汝らは轡を漉し出して駱駝を呑むなり。25禍害なるかな、僞善なる學者、パリサイ人よ、汝らは酒杯と皿との外を潔くす、されど内は貪慾と放縱とにて滿つるなり。26盲目なるパリサイ人よ、汝まづ酒杯の内を潔めよ、さらば外も潔くなるべし。27禍害なるかな、僞善なる學者、パリサイ人よ、汝らは白く塗りたる墓に似たり、外は美しく見ゆれども、内は死人の骨とさまさまの穢とにて滿つ。28かくのごとく汝らも外は人に正しく見ゆれども、内は僞善と不法とにて滿つるなり。29禍害なるかな、僞善なる學者、パリサイ人よ、汝らは預言者の墓をたて、義人の碑を飾りて言ふ、30「我らもし先祖の時にありしならば、預言者の血を流すことに與せざりしものを」と。31かく汝らは預言者を殺しし者の子たるを自ら證す。32なんぢら己が先祖の樹目を沓せ。33蛇よ、蠍の裔よ、なんぢら争でゲヘナの

刑罰を避け得んや。 34 この故に視よ、我なんぢらに預言者・智者・學者らを遣さん、其の中の或者を殺し、十字架につけ、或者を汝らの會堂にて鞭うち、町より町に逐ひ苦しめん。 35 之によりて義人アベルの血より、聖所と祭壇との間に汝らが殺しバラキヤの子ザカリヤの血に至るまで、地上にて流したる正しき血は、皆なんぢらに報い來らん。 36 まことに汝らに告ぐ、これらの事はみな今の代に報い來るべし。 37 ああエルサレム、エルサレム、預言者たちを殺し、遣されたる人々を石にて撃つ者よ、牝鷄のその雛を翼の下に集むごとく、我なんぢの子どもを集めんとせしこと幾度ぞや、されど汝らは好まざりき。 38 視よ、汝らの家は廢てられて汝らに遣らん。 39 われ汝らに告ぐ「讀むべきかな、主の名によりて來る者」と、汝等のいふ時の至るまでは、今より我を見ざるべし」

Chapter 24

1 イエス宮を出てゆき給ふとき、弟子たち宮の建造物を示さんとて御許に來りしに、 2 答へて言ひ給ふ『なんぢら此の一切の物を見ぬか。誠に汝らに告ぐ、此處に一つの石も崩れずしては石の上に遣らじ』 3 オリブ山に坐し給ひしとき、弟子たち竊に御許に來りて言ふ『われらに告げ給へ、これらの事は何時あるか、又なんぢの來り給ふと世の終には、何の兆あるか』 4 イエス答へて言ひ給ふ『なんぢら人に惑されぬやうに心せよ。 5 多くの者わが名を冒し來り「我はキリストなり」と言ひて多くの人を惑さん。 6 又なんぢら戰爭と戰爭の噂とを聞かん、慎みて懼るな。かかる事はあるべきなり、されど未だ終にはあらず。 7 即ち「民は日に、國は國に逆ひて起らん」また處々に饑饉と地震とあらん、 8 此等はみな産の苦難の始なり。 9 そのとき人々なんぢらを患難に付し、また殺さん、汝等わが名の爲に、もろもろの國人に憎まれん。 10 その時おほくのうつまづき、且たがひに付し、互に憎まん。 11 多くの偽預言者おこりて、多くの人を惑さん。 12 また不法の増すによりて、多くの人を愛ひややかにならん。 13 されど終まで耐へしもの者は救はるべし。 14 御國のこの福音は、もろもろの國人に證をなさんため全世界に宣傳はれん、而してのち終は至るべし。 15 なんぢら預言者ダニエルによりて言はれたる「荒す恐むべき者」の聖なる處に立つを見ば（讀む者さとれ） 16 その時ユダヤに居る者どもは山に遁れよ。 17 屋の上に居る者はその家の物を取り出さんとして下るな。 18 畑にをる者は上衣を取らんとて歸るな。 19 その日には孕りたる者と乳を哺ます者とは禍害なること。 20 汝らの遁ぐるこの冬または安息日に起らぬように祈れ。 21 そのとき大なる患難あらん、世の創より今に至るまでかかる患難はなく、また

後にも無からん。 22 その日もし少くせられずば、一人だに救はるる者なからん、されど選民の爲にその日少くせらるべし。 23 その時あるひは「視よ、キリスト此處にあり」或は「此處にあり」と言ふ者ありとも信すな。 24 偽キリスト・偽預言者おこりて、大なる徴と不思議とを現し、爲し得べくば選民をも惑さんとするなり。 25 視よ、あらかじめ之を汝らに告げおくなり。 26 されば人もし汝らに「視よ、彼は荒野にあり」といふとも出で往くな「視よ、彼は部屋にあり」と言ふとも信すな。 27 電光の東より出でて西にまで閃きわたる如く、人の子の來るも亦然らん。 28 それ死骸のある處には驚あつまらん。 29 これらの日の患難のち直ちに日は暗く、月は光を發たず、星は空より墮ち、天の萬象ふるひ動かん。 30 そのとき人の子の兆、天に現れん。そのとき地上の諸族みな嘆き、かつ人の子の能力と大なる榮光とをもて、天の雲に乗り來るを見ん。 31 また彼は使たちを大なるラッパの聲とともに遣さん。使たちは天の此の極より彼の極まで、四方より選民を集めん。 32 無花果の樹よりの警をまなべ、その枝すでに柔かくなりて葉芽ぐめば、夏の近きを知る。 33 かくのごとく汝らも此等のすべての事を見ば、人の子すでに近づきて門邊に到るを知れ。 34 誠に汝らに告ぐ、これらの事ごとく成るまで、今の代は過ぎ往くまじ。 35 天地は過ぎゆかん、されど我が言は過ぎ往くことなし。 36 その日その時を知る者なし、天の使たちも知らず、子も知らず、ただ父のみ知り給ふ。 37 ノアの時のごとく人の子の來るも然あるべし。 38 曾て洪水の前ノア方舟に入る日までは、人々飲み食ひ、娶り嫁がせなどし、 39 洪水の來りて悉く滅すまでは知らざりき、人の子の來るも然あるべし。 40 そのとき二人の男畑にをらんに、一人は取られ一人は遣されん。 41 二人の女 磨ひき居らんに、一人は取られ一人は遣されん。 42 されば目を覺しをれ、汝らの主のきたるは、何れの日なるかを知らざればなり。 43 汝等これを知れ、家主もし盗人いづれの時きたるかを知らば、目をさまし居て、その家を穿たすまじ。 44 この故に汝らも備へをれ、人の子は思はぬ時に來ればなり。 45 主人が時に及びて食物を與へさする爲に、家の者のうへに立てたる忠實にして懸き僕は誰なるか。 46 主人のきたる時、かく爲し居るを見らる僕は幸福なり。 47 まことに汝らに告ぐ、主人すべての所有を彼に掌どらすべし。 48 もしその僕惡しくして、心のうちに主人は遅しと思ひて、 49 その同輩を突きはじめ、酒徒らと飲食を共にせば、 50 その僕の主人おもはぬ日しらぬ時に來りて、 51 之を烈しく笞うち、その報を偽善者と同じうせん。其處にて哀哭・切齒することあらん。

Chapter 25

1 このとき天國は、燈火を執りて新郎を迎へに出づる、十人の處女に比ふべし。 2 その中の五人は愚にして五人は慧し。 3 愚なる者は燈火をとりて油を携へず、 4 慧きものは油を器に入れて燈火とともに携へたり。 5 新郎 遅かりしかば、皆まどろみて寝ぬ。 6 夜半に「やよ、新郎なるぞ、出で迎へよ」と呼はる警す。 7 ここに處女みな起きてその燈火を整へたるに、 8 愚なる者は慧きものに言ふ「なんぢらの油を分けあたへよ、我らの燈火きゆるなり」 9 慧きもの答へて言ふ「恐らくは我らと汝らとに足るまじ、寧ろ賣るものに往きて己がために買へ」 10 彼ら買はんとて往きたる間に新郎きたりたれば、備へりし者どもは彼とともに婚筵にいり、而して門は閉ざれたり。 11 その後かの他の處女ども來りて「主よ、主よ、われらの爲にひらき給へ」と言ひしに、 12 答へて「まことに汝らに告ぐ、我は汝ら知らず」と言へり。 13 されば目を覺しをれ、汝らは其の日その時を知らざるなり。 14 また或人とほく旅立せんとして、其の僕どもを呼び、之に己が所有を預くるが如し。 15 各人の能力に應じて、或者には五タラント、或者には一タラントを與へ置きて旅立せり。 16 五タラントを受けし者は、直ちに往き、之をはたらかせて他に五タラントを贏け、 17 二タラントを受けし者も同じく他に二タラントを贏く。 18 然るに一タラントを受けし者は、往きて地を掘り、その主人の銀をかくし置けり。 19 久しうして後この僕どもの主人きたりて彼らと計算したるに、 20 五タラントを受けし者は他に五タラントを持ちきたりて言ふ「主よ、なんぢ我に五タラントを預けたりしが、視よ、他に五タラントを贏けたり」 21 主人いふ「宜いかな、善かつ忠なる僕、なんぢは僅なる物に忠なりき。我なんぢに多くの物を掌どらせん、汝の主人の歡喜に入れ」 22 二タラントを受けし者も來りて言ふ「主よ、なんぢ我に二タラントを預けたりしが、視よ、他に二タラントを贏けたり」 23 主人いふ「宜いかな、善かつ忠なる僕、なんぢは僅なる物に忠なりき。我なんぢに多くの物を掌どらせん、汝の主人の歡喜にいれ」 24 また一タラントを受けし者もきたりて言ふ「主よ、我はなんぢの嚴しき人にて、播かぬ處より刈り、散らぬ處より斂むことを知るゆゑに、 25 懼れてゆき、汝のタラントを地に藏しおけり。視よ、汝はなんぢの物を得たり」 26 主人こたへて言ふ「惡しくかつ情れる僕、わが播かぬ處より刈り、散らぬ處より斂むことを知るか。 27 さらば我が銀を銀行にあづけ置かばかりしなり、我きたりて利子とともに我が物をうけ取りしものを。 28 されば彼のタラントを取りて十タラントを有てる人に與へよ。 29

すべて有てる人は、與へられて愈々豊ならん。されど有ため者は、その有てる物をも取るべし。 30 而して此の無益なる僕を外の暗黒に逐ひいだせ、其處にて哀哭・切齒することあらん」 31 人の子の榮光をもて、もろもろの御使を率ゐきたる時、その榮光の座位に坐せん。 32 かくてその前にもろもろの國人あつめられん、之を別つこと牧羊者が羊と山羊とを別つ如くして、 33 羊をその右に、山羊をその左におかん。 34 ここに王その右にをる者どもに言はん「わが父に祝せられたる者よ、來りて世の創より汝等のために備へられたる國を嗣げ。 35 なんぢら我が飢えしときに食はせ、渴きしときに飲ませ、旅人なりし時に宿らせ、 36 裸なりしときに衣せ、病みしときに訪ひ、獄に在りしときに來りたればなり」 37 ここに、正しき者ら答へて言はん「主よ、何時なんぢの飢えしを見て食はせ、渴きしを見て飲ませし。 38 何時なんぢの旅人なりしを見て宿らせ、裸なりしを見て衣せし。 39 何時なんぢの病みまた獄に在りしを見て、汝にいたりし」 40 王こたへて言はん「まことに汝らに告ぐ、わが兄弟なる此等のいと小き者の一人になしたるは、即ち我に爲したるなり」 41 かくてまた左にをる者どもに言はん「詛はれたる者よ、我を離れて惡魔とその使らとのために備へられたる永遠の火に入れ。 42 なんぢら我が飢えしときに食はせず、渴きしときに飲ませず、 43 旅人なりしときに宿らせず、裸なりしときに衣せず、病みまた獄にありしときに訪はざればなり」 44 ここに彼らも答へて言はん「主よ、いつ汝の飢え、或は渴き、或は旅人、あるひは裸、あるひは病み、或は獄に在りしを見て事へし」 45 ここに王こたへて言はん「誠になんぢらに告ぐ、此等のいと小きもの一人に爲さざりしは、即ち我になさざりしなり」と。 46 かくて、これらの者は去りて永遠の刑罰にいり、正しき者は永遠の生命に入らん」

Chapter 26

1 イエスこれらの言をみな語りて、弟子たちに言ひ給ふ 2 『なんぢらの知ることく、二日の後は過越の祭なり、人の子は十字架につけられん爲に賣らるべし』 3 そのとき祭司長・民の長老ら、カヤパといふ大祭司の中庭に集り、 4 詭計をもてイエスを捕へ、かつ殺さんと相議りたれど、 5 又いふ『まつり間は爲すべからず、恐らくは民の中に亂起らん』 6 イエス、ベタニヤにて癩病人シモンの家に居給ふ時、 7 ある女、石膏の壺に入りたる貴き香油を持ちて、近づき來り、食事の席に就き居給ふイエスの首に注げり。 8 弟子たち之を見て憤り言ふ『何故かく濫なる費をなすか。 9 之を多くの金に賣りて、貧しき者に施すことを得たりしものを』 10 イエス之を知りて言ひたまふ『何ぞこの女を惱すか、我に善き事をなせるなり。』

11貧しき者は常に汝らと偕にをれど、我は常に偕に居らず。 12この女の我が體に香油を注ぎしは、わが葬りの備をなせるなり。 13まことに汝らに告ぐ、全世界いずこにても、この福音の宣傳へらるる處には、この女のななし事も記念として語らるべし。 14ここに十二弟子の一人イスカリオテのユダといふ者、祭司長らの許にゆきて言ふ 15『なんぢらに彼を付さば、何ほど我に與へんとすか』彼ら銀三十を量り出せり。 16ユダこの時よりイエスを付さんと好き機を窺ふ。 17除酵祭の初の日、弟子たちイエスに來りて言ふ『過越の食をなし給ふために、何處に我らが備ふる事を望み給ふか』 18イエス言ひたまふ『都にゆき、某のものに到りて「師いふ、わが時近づけり。われ弟子たちと共に過越を汝の家にて守らん」と言へ』 19弟子たちイエスの命じ給ひし如くして、過越の備をなせり。 20日暮れて十二弟子とともに席に就きて、 21食するとき言ひ給ふ『まことに汝らに告ぐ、汝らの中の一人われを賣らん』 22弟子たち甚く憂ひて、おのおの『主よ、我なるか』と言ひいでしに、 23答へて言ひたまふ『我とともに手を鉢に入る者われを賣らん。 24人の子は己に就きて録されたる如く逝くなり。されど人の子を賣る者は禍害なるかな、その人は生れざりし方よかりしものを』 25イエスを賣るユダ答へて言ふ『ラビ、我なるか』 26イエス言ひ給ふ『なんぢの言へる如し』 26彼ら食しをる時、イエス、パンをとり、祝してさき、弟子たちに與へて言ひ給ふ『取りて食へ、これは我が體なり』 27また酒杯をとりて謝し、彼らに與へて言ひ給ふ『なんぢら皆この酒杯より飲め。 28これは契約のわが血なり、多くの人のために、罪の赦を得させんとて流す所のものなり。 29われ汝らに告ぐ、わが父の國にて新しきものを汝らと共に飲む日まで、われ今より後この葡萄酒の果より成るものを飲まじ』 30彼ら讚美を歌ひて後オリブ山に出でゆく。 31ここにイエス弟子たちに言ひ給ふ『今宵なんぢら皆われに就きて躓かん「われ牧羊者を打たん、さらば群の羊散るべし」と録されたるなり。 32されど我よみがへりて後、なんぢらに先だちてガリラヤに往かん』 33ペテロ答へて言ふ『假令みな汝に就きて躓くとも我はいつまでも躓かじ』 34イエス言ひ給ふ『まことに汝に告ぐ、こよひ鷄鳴く前に、なんぢ三たび我を否むべし』 35ペテロ言ふ『我なんぢと共に死ぬべき事ありとも汝を否まず』弟子たち皆かく言へり。 36ここにイエス彼らと共にゲツセマネといふ處にいたりて、弟子たちに言ひ給ふ『わが彼處にゆきて祈る間、なんぢら此處に坐せよ』 37かくてペテロとゼベダイの子二人とを伴ひゆき、憂ひ悲しみ出でて言ひ給ふ、 38『わが心いたく憂ひて死ぬばかりなり。汝ら此處に止りて我と共に目を覺しをれ』 39少し進みゆきて、平伏し祈りて言ひ給ふ

『わが父よ、もし得べくば此の酒杯を我より過ぎ去らせ給へ。されど我が意の儘にとにはあらず、御意のままに爲し給へ』 40弟子たちの許にきたり、その眠れるを見てペテロに言ひ給ふ『なんぢら斯く一時も我と共に目を覺し居ること能はぬか。 41誘惑に陥らぬやう、目を覺しかつ祈れ。實に心は熱すれども肉體よわきなり』 42また二度ゆき祈りて言ひ給ふ『わが父よ、この酒杯もし我飲までは過ぎ去りがたくなば、御意のままで成し給へ』 43復きたりて彼らの眠れるを見たまふ、はその目疲れたるなり。 44また離れゆきて、三たび同じ言にて祈り給ふ。 45而して弟子たちの許に來りて言ひ給ふ『今は眠りて休め。視よ、時近づけり、人の子は罪人らの手に付さるるなり。 46起きよ、我ら往くべし。視よ、我を賣るもの近づけり』 47なほ語り給ふほどに、視よ、十二弟子の一人なるユダ來る、祭司長・民の長老より遣はれたる大なる群衆、劍と棒とをもちて之に伴ふ。 48イエスを賣る者あらかじめ合圖を示して言ふ『わが接吻する者はそれなり、之を捕へよ』 49かくて直ちにイエスに近づき『ラビ、安かれ』といひて接吻したれば、 50イエス言ひたまふ『友よ、何とて我を賣るとき人々すすみてイエスに手をかけて捕ふ。 51視よ、イエスと偕にありし者のひとり、手をのべ劍を抜きて、大祭司の僕をうちて、その耳を切り落せり。 52ここにイエス彼に言ひ給ふ『なんぢの劍をもとに收めよ、すべて劍をとる者は劍にて亡ぶるなり。 53我わが父に請ひて、十二軍に餘る御使を今あたへらるること能はずと思ふか。 54もし然せば、斯くあるべく録したる聖書はいかて成就すべき』 55この時イエス群衆に言ひ給ふ『なんぢら強盜に向ふごとく劍と棒とをもち、我を捕へんとて出で来るか。我は日々宮に坐して教へたりしに、汝ら我を捕へざりき。 56されどかくの如くなるは、みな預言者たちの書の成就せん爲なり』ここに弟子たち皆イエスを棄てて逃げさりぬ。 57イエスを捕へたる者ども、學者・長老らの集り居る大祭司カヤラの許に曳きゆく。 58ペテロ遠く離れ、イエスに従ひて大祭司の中庭まで到り、その成行を見んとて、そこに入り下役どもと共に坐せり。 59祭司長らと全議會と、イエスを死に定めんとて、いつはりの證據を求めたるに、 60多くの偽證者いであれども得ず。後に二人の者いでて言ふ 61『この人は「われ神の宮を毀ち三日にて建て得べし」と云へり』 62大祭司たちてイエスに言ふ『この人々が汝に對して立つる證據に何を答へ給へか』 63されどイエス黙し居給ひたれば、大祭司いふ『われ汝に命ず、活ける神に誓ひて我らに告げよ、汝はキリスト、神の子なるか』 64イエス言ひ給ふ『なんぢの言へる如し。かつ我なんぢらに告ぐ、今より後、なんぢら人の子の全能者の右に坐し、天の雲に乗りて來るを見ん』 65

ここに大祭司おのが衣を裂きて言ふ『かれ瀆言をいへり、何ぞ他に證人を求めん。視よ、なんぢら今この瀆言をきけり。 66いかに思ふか』答へて言ふ『かれは死に當れり』 67ここに彼等その御顔に唾し、拳にて搏ち、或者どもは手掌にて批きて言ふ 68『キリストよ、我らに預言せよ、汝をうちし者は誰なるか』 69ペテロ外にて中庭に坐しあたるに、一人の婢女きたりて言ふ『なんぢもガリラヤ人イエスと偕にあり』 70かれ凡ての人の前に肯はずして言ふ『われは汝の言ふことを知らず』 71かくて門まで出で往きたるとき、他の婢女かれを見て、其處にをる者どもに向ひて『この人はナザレ人イエスと偕にあり』と言へるに、 72重ねて肯はず、契ひて『我はその人を知らず』といふ。 73暫くして其處に立つ者ども近づきてペテロに言ふ『なんぢも慥にかの黨與なり、汝の國訛なんぢを表せり』 74ここにペテロ口盟ひかつ契ひて『我その人を知らず』と言ひ出づるをりしも、鷄鳴きぬ。 75ペテロ『にはとり鳴く前に、なんぢ三度われを否まん』と、イエスの言ひ給ひし御言を思ひだし、外に出でて甚く泣けり。

Chapter 27

1夜明けになりて、凡ての祭司長・民の長老ら、イエスを殺さんと相議り、 2遂に之を縛り、曳きゆきて總督ピラトに付せり。 3ここにイエスを賣りしユダ、その死に定められ給ひしを見て悔い、祭司長・長老らに、かの三十の銀をかへして言ふ、 4『われ罪なきの血を賣りて罪を犯したり』彼らいふ『われら何ぞ干らん、汝みづから當るべし』 5彼その銀を聖所に投げすてて去り、ゆきて自ら縊れたり。 6祭司長らその銀をとりて言ふ『これは血の價なれば、宮の庫に納むるは可からず』 7かくて相議り、その銀をもて陶工の畑を買ひ、旅人らの墓地とせり。 8之によりて其の畑は、今に至るまで血の畑と稱へらる。 9ここに預言者エレミヤによりて云はれたる言は成就したり。曰く『かくて彼ら値積られしもの、即ちイスラエルの子らが値積りし者の價の銀三十をとりて、 10陶工の畑の代に之を與へたり。主の我に命じ給ひし如し』 11さてイエス、總督の前に立ち給ひしに、總督問ひて言ふ『なんぢはユダヤ人の王なるか』イエス言ひ給ふ『なんぢの言ふが如し』 12祭司長・長老ら訴ふれども、何を答へ給はず。 13ここにピラト彼に言ふ『聞かぬか、彼らが汝に對して如何におほくの證據を立つるを』 14されど總督の甚く怪しむまで、一言をも答へ給はず。 15祭の時には、總督群衆の望にまかせて、囚人一人を之に赦す例あり。 16ここにバラバといふ隠れなき囚人あり。 17されば人々の集れる時、ピラト言ふ『なんぢら我が誰を赦さんことを

願ふか。バラバなるか、キリストと稱ふるイエスなるか』 18これピラト彼らのイエスを付ししは嫉に因ると知る故なり。 19彼なほ審判の座にをる時、その妻、人を遣して言はしむ『かの義人に係る故を爲な、我けふ夢の中にて彼れにさまざま苦しめり』 20祭司長・長老ら、群衆にバラバの赦されん事を請はしめ、イエスを亡さんことを勤む。 21總督こたへて彼らに言ふ『二人の中いづれを我が赦さん事を願ふか』彼らいふ『バラバなり』 22ピラト言ふ『さらばキリストと稱ふるイエスを我いかにすべきか』皆いふ『十字架につくべし』 23ピラト言ふ『かれ何の悪事をなしたるか』彼ら烈しく叫びていふ『十字架につくべし』 24ピラトは何の效なく反つて亂にならんとするを見て、水をとり群衆のまへに手を洗ひて言ふ『この人の血につきて我は罪なし、汝等みづから當れ』 25民みな答へて言ふ『其の血は、我らと我らの子孫とに歸すべし』 26ここにピラト、バラバを彼らに赦し、イエスを鞭うちて、十字架につくる爲に付せり。 27ここに總督の兵卒ども、イエスを官邸につれゆき、全隊を御許に集め、 28その衣をはぎて、緋色の上衣をきせ、 29茨の冠冕を編みて、その首に冠らせ、鞆を右の手にもたせ、且その前に跪づき、嘲弄して言ふ『ユダヤ人の王、安かれ』 30また之に唾し、かの鞆をとりて其の首を叩く。 31かく嘲弄してのち、上衣を剥ぎて、故の衣をきせ、十字架につけんとして曳きゆく。 32その出づる時、シモンといふクレネ人にあひしかば、強ひて之にイエスの十字架をおはしむ。 33かくてゴルゴタといふ處、即ち髑體の地にいたり、 34苦味を混ぜたる葡萄酒を飲ませんとしたるに、嘗めて、飲まんとし給はず。 35彼らイエスを十字架につけてのち、籤をひきて其の衣をわかち、 36且そこに坐して、イエスを守る。 37その首の上に『これはユダヤ人の王イエスなり』と記したる罪標を置きたり。 38ここにイエスとともに二人の強盜、十字架につけられ、一人はその右に、一人はその左におかる。 39往來の者どもイエスを譏り、首を振りていふ、 40『宮を毀ちて三日のうちに建つる者よ、もし神の子ならば己を救へ、十字架より下りよ』 41祭司長らもまた同じく、學者・長老らとともに嘲弄して言ふ、 42『人を救ひて己を救ふこと能はず。彼はイスラエルの王なり、いま十字架より下りよかし、さらば我ら彼を信ぜん。 43彼は神に依り頼めり、神かれを愛しまば今すぐひ給ふべし「我は神の子なり」と云へり』 44ともに十字架につけられたる強盜どもも、同じ事をもてイエスを罵れり。 45晝の十二時より地の上あまねく暗くなりて、三時に及ぶ。 46三時ごろイエス大聲に叫びて『エリ、エリ、レマ、サバクタニ』と言ひ給ふ。 わが神、わが神、なんぞ我を見棄て給ひしとの意なり。 47そこに立つ者のうち或人々これを聞

きて『彼はエリヤを呼ぶなり』と言ふ。48 直ちにその中の一人はしりゆきて海綿をとり、酸き葡萄酒を含ませ、葦につけてイエスに飲みしむ。49 その他他の者ども言ふ『さて、エリヤ來りて彼を救ふや否や、我ら之を見ん』50 イエス再び大聲に呼はりて息絶えたまふ。51 視よ、聖所の幕、上より下まで裂けて二つとなり、また地震ひ、磐さけ、52 墓ひらけて、眠りたる聖徒の屍體おほく活きかへり、53 イエスの復活のち墓をいで、聖なる都に入りて、多くの人に現れたり。54 百卒長および之と共にイエスを守りあたる者ども、地震とその有りし事を見て甚く懼れ『實に彼は神の子なりき』と言へり。55 その處にて遙に望みあたる多くの女あり、イエスに事へてガリラヤより従ひ來りし者どもなり。56 その中には、マグダラのマリヤ、ヤコブとヨセフとの母マリヤ、及びゼベダイの子らの母などもあり。57 7日暮れて、ヨセフと云ふアリマタヤの富める人きたる。彼もイエスの弟子なるが、58 ピラトに往きてイエスの屍體を請ふ。ここにピラト之を付すことを命ず。59 ヨセフ屍體をとりて淨き亞麻布につつま、60 岩にほりたる己が新しき墓に納め、墓の入口に大なる石を轉しおきて去りぬ。61 其處にはマグダラのマリヤと他のマリヤと墓に向ひて坐しめたり。62 あくる日、即ち準備日の翌日、祭司長らとパリサイ人とピラトの許に集りて言ふ、63 『主よ、かの惑すもの生き居りし時『われ三日の後に甦へらん』と言ひしを、我ら思ひいだせり。64 されば命じて三日に至るまで墓を固めしめ給へ、恐らくはその弟子ら來りて之を盗み、『彼は死人の中より甦へれり』と民に言はん。然らば後の惑は前のよりも甚だしからん』65 ピラト言ふ『なんぢらに番兵あり、往きて力限り固めよ』66 乃ち彼らゆきて石に封印し、番兵を置きて墓を固めたり。

Chapter 28

1さて安息日ははりて、一週の初の日のほの明き頃、マグダラのマリヤと他のマリヤと墓を見んとて來りしに、2視よ、大なる地震あり、これ主の使、天より降り來りて、かの石を轉し退け、その上に坐したるなり。3その状は電光のごとく輝き、その衣は雪のごとく白し。4守の者ども彼を懼れたれば、戦きて死人の如くなりぬ。5御使こたへて女たちに言ふ『なんぢら懼るな、我なんぢらが十字架につけられ給ひしイエスを尋ぬるを知る。6此處には在さず、その言へる如く甦へり給へり。來りてその置かれ給ひし處を見よ。7かつ速かに往きて、その弟子たちに『彼は死人の中より甦へり給へり。視よ、汝らに先だちてガリラヤに往き給ふ、彼處にて調ゆるを得ん』と告げよ。視よ、汝らに之を告げた

り』8女たち懼と大なる歡喜とをもて、速かに墓を去り、弟子たちに知らせんとて走りゆく。9視よ、イエス彼らに遇ひて『安かれ』と言ひ給ひたれば、進みゆき、御足を抱きて拜す。10ここにイエス言ひたまふ『懼るな、往きて我が兄弟たちに、ガリラヤにゆき、彼處にて我を見るべきことを知らせよ』11女たちの往きたるとき、視よ、番兵のうちの數人、都にいたり、凡て有りし事どもを祭司長らに告ぐ。12祭司長ら、長老らと共に集りて相議り、兵卒どもに多くの銀を與へて言ふ、13『なんぢら言へ『その弟子ら夜きたりて、我らの眠れる間に彼を盗めり』と。14この事もし總督に聞えなば、我ら彼を宥めて汝らに憂なからしめん』15彼ら銀をとりて言ひ含められたる如くしたれば、此の話ユダヤ人の中にひろまりて、今日に至れり。16十一弟子たちガリラヤに往きて、イエスの命じ給ひし山にのぼり、17遂に謁えて拜せり。されど疑ふ者もありき。18イエス進みきたり、彼らに語りて言ひたまふ『我は天にても地にても一切の權を與へられたり。19されば汝ら往きて、もろもろの國人を弟子となし、父と子と聖靈との名によりてバプテスマを施し、20わが汝らに命ぜし凡ての事を守るべきを教へよ。視よ、我は世の終まで常に汝らと偕に在るなり』

マルコの福音書

Chapter 1

1神の子イエス、キリストの福音の始。2預言者イザヤの書に、『視よ、我なんぢの顔の前に、わが使を遣す、彼なんぢの道を設くべし。3荒野に呼はる者の聲す、『主の道を備へ、その路すぢを直くせよ』』と録されたる如く、4バプテスマのヨハネ出で、荒野にて罪の赦を得さす悔改のバプテスマを宣傳す。5ユダヤ全國またエルサレムの人々、みな其の許に出で來りて罪を言ひあらはし、ヨルダン川にてバプテスマを受けたり。6ヨハネは駱駝の毛織を着、腰に皮の帶して、蝗と野蜜とを食へり。7かれ宣傳へて言ふ『我より力ある者、わが後に來る。我は屈みてその鞋の紐をとくにも足らず、8我は水にて汝らにバプテスマを施せり。されど彼は聖靈にてバプテスマを施さん』9その頃イエス、ガリラヤのナザレより來り、ヨルダンにてヨハネよりバプテスマを受け給ふ。10かくて水より上るをりしも、天さけゆき、御靈、鶴のごとく己に降るを見給ふ。11かつ天より聲出づ『なんぢは我が愛しむ子なり、我なんぢを悦ぶ』12かくて御靈ただちにイエスを荒野に逐ひやる。13荒野にて四十日の間サタンに試みられ、獸とともに居給ふ、御使たち之に事へぬ。14ヨハ

ネの囚はれし後、イエス、ガリラヤに到り、神の福音を宣傳へて言ひ給ふ、15『時は満てり、神の國は近づけり、汝ら悔改めて福音を信ぜよ』16イエス、ガリラヤの海にそひて歩みゆき、シモンと其の兄弟アンデレとが、海に網うちをるを見給ふ。かれらは漁人なり。17イエス言ひ給ふ『われに従ひきたれ、汝等をして人を漁る者とならしめん』18彼ら直ちに網をすてて從へり。19少し進みゆきて、ゼベダイの子ヤコブとその兄弟ヨハネとを見給ふ、彼らも舟にありて網を繕ひめたり。20直ちに呼び給へば、父ゼベダイを雇人とともに舟に遣して従ひゆけり。21かくて彼らカペナウムに到る、イエス直ちに安息日に會堂にいりて教へ給ふ。22人々その教に驚きあへり。それは學者の如くならず、權威ある者のごとく教へ給ふゆゑなり。23時にその會堂に、穢れし靈に憑かれたる人あり、叫びて言ふ24『ナザレのイエスよ、我らは汝と何の關係あらんや、汝は我らを亡さんとて來給ふ。われは汝の誰なるを知る、神の聖者なり』25イエス禁めて言ひ給ふ『黙せ、その人を出でよ』26穢れし靈その人を痙攣けさせ、大聲をあげて出づ。27人々みな驚き相問ひて言ふ『これ何事ぞ、權威ある新しき教あるかな、穢れし靈すら命ずれば従ふ』28ここにイエスの噂あまねくガリラヤの四方に弘りたり。29會堂をいで、直ちにヤコブとヨハネとを伴ひて、シモン及びアンデレの家に入り給ふ。30シモンの外姑、熱をやみて臥しめられたれば、人々ただちに之をイエスに告ぐ。31イエス往きて、その手をとり、起し給へば、熱さして女かれらに事ふ。32夕となり、日いりてのち、人々すべての病ある者・惡鬼に憑かれたる者をイエスに連れ來り、33全町こぞりて門に集る。34イエスさまざまの病を患ふ多くの人をいやし、多くの惡鬼を逐ひだし、之に物言ふことを免し給はず、惡鬼イエスを知るに困りてなり。35朝まだき暗き程に、イエス起き出でて、寂しき處にゆき、其處にて祈りたまふ。36シモン及び之と偕にをる者ども、その跡を慕ひゆき、37イエスに遇ひて言ふ『人みな汝を尋ぬ』38イエス言ひ給ふ『いざ最寄の村々に往かん、われ彼處にも教を宣ふべし、我はこの爲に出で來りしなり』39遂に教を、偏くガリラヤの會堂にて教を宣べ、かつ惡鬼を逐ひ出し給へり。40一人の癩病人みもとに來り、跪づき請ひて言ふ『御意ならば、我を潔くなし給ふを得ん』41イエス憫みて、手をのべ彼につけて『わが意なり、潔くなれ』と言ひ給へば、42直ちに癩病さりて、その人きよまれり。43やがて彼を去らしめんとて、嚴しく戒めて言ひ給ふ44『つつしみて誰にも語るな、唯ゆきて己を祭司に見せ、モーセが命じたる物を汝の潔のために獻けて、人々に證せよ』45されど彼いでて此の事を大に述べつたへ、偏く弘め始

めたれば、この後イエスあらはに町に入りがたく、外の寂しき處に留りたまふ。人々四方より御許に來れり。

Chapter 2

1數日の後、またカペナウムに入り給ひしに、その家に在することを聞きて、2多くの人あつまり來り、門口すら隙間なき程なり。イエス彼らに御言を語り給ふ。3ここに四人に擔はれたる中風の者を人々つれ來る。4群衆によりて御許にゆくこと能はざれば、在す所の屋根を穿ちあけて、中風の者を床のまま縋り下せり。5イエス彼らの信仰を見て、中風の者に言ひたまふ『子よ、汝の罪ゆるされたり』6ある學者たち其處に坐しめたるが、心の中に、7『この人なんぞ斯く言ふか、これは神を潰すなり、神ひとりの外は誰か罪を赦すことを得べき』と論ぜしかば、8イエス直ちに彼等がかく論ずるを心に悟りて言ひ給ふ『なにゆゑ斯かることを心に論ずるか、9中風の者に『なんぢの罪ゆるされたり』と言ふと『起きよ、床をとりて歩め』』と言ふと、孰か易き。10人の子の地にて罪を赦す權威ある事を、汝らに知らせん爲に』中風の者に言ひ給ふ、11『なんぢに告ぐ、起きよ、床をとりて家に歸れ』12彼おきて直ちに床をとりあげ、人々の眼前いで往けば、皆おどろき、かつ神を崇めて言ふ『われら斯くの如きことは斷えて見ざりき』13イエスまた海邊に出でゆき給ひしに、群衆みもとに集り來りたれば、之を教へ給へり。14かくて過ぎ往くとき、アルパヨの子レビの收税所に坐しをるを見て『われに従へ』と言ひ給へば、立ちて從へり。15而して其の家にて食事の席につき居給ふとき、多くの取税人・罪人ら、イエス及び弟子たちと共に席に列る、これらの者おほく居て、イエスに従へるなり。16パリサイ人の學者ら、イエスの罪人・取税人とともに食し給ふを見て、その弟子たちにも言ふ『なにゆゑ取税人・罪人とともに食するか』17イエス聞きて言ひ給ふ『健かなる者は醫者を要せず、ただ病ある者これを要す。我は正しき者を招かんとにあらで、罪人を招かんとて來れり』18ヨハネの弟子とパリサイ人とは、斷食しめたり。人々イエスに來りて言ふ『なにゆゑヨハネの弟子とパリサイ人の弟子とは斷食して、汝の弟子は斷食せぬか』19イエス言ひ給ふ『新郎の友たち、新郎と偕にをるうちは斷食し得べきか、新郎と偕にをる間は、斷食するを得ず。20されど新郎をとらる日きたらん、その日には斷食せん。21誰も新しき布の裂を舊き衣に縫ひつくることは爲じ。もし然せば、その補ひたる新しきものは、舊き物をやぶり、破綻さらに甚だしからん。22誰も新しき葡萄酒を、ふるき革囊に入ること爲じ。もし然せば、葡萄酒は囊をはりさきて、葡萄酒も囊も廢らん。新しき葡萄酒は、新しき革囊に入

るるなり』23 イエス安息日に麥 鼠をとほり給ひしに、弟子たち歩みつ つ穂を摘み始めたれば、24 パリサイ人、イエスに言ふ『視よ、彼らは何ゆゑ安息日に爲まじき事をするか』25 答へ給ふ『ダビデその伴へる人々と共に乏しくして飢餓しとき爲しし事を未だ讀まぬか。26 即ち大祭司アビアタルの時、ダビデ神の家に入りて、祭司のほかは食ふまじき供のパンを取りて食ひ、おのれと偕なる者にも與へたり』27 また言ひたまふ『安息日は人のために設けられて、人は安息日のために設けられず。28 されば人の子は安息日にも主たるなり』

Chapter 3

1 また會堂に入り給ひしに、片手なえたる人あり。2 人々イエスを訴へんと思ひて、安息日にかの人を醫すや否やと窺ふ。3 イエス手なえたる人に『中に立て』といひ、4 また人々に言ひたまふ『安息日に善をなすと惡をなすと、生命を救ふと殺すと、孰かよき』彼ら默然たり。5 イエスその心の頑固なるを憂ひて、怒り見回して、手なえたる人に『手を伸べよ』と言ひ給ふ。かれ手を伸べたれば癒ゆ。6 パリサイ人いでて、直ちにヘロデ黨の人とともに、如何にしてイエスを亡さんと議る。7 イエスその弟子とともに海邊に退き給ひしに、ガリラヤより來れる夥多しき民衆も從ふ。又ユダヤ、8 エルサレム、イdmaマヤ、ヨルダンの向の地、およびツロ、シドンの邊より夥多しき民衆その爲し給へる事を聞きて、御許に來る。9 イエス群衆のおしなやますを逃れんとて、小舟を備へ置くことを弟子に命じ給ふ。10 これ多くの人を醫し給ひたれば、凡て病に苦しむもの、御體に觸らんとて押迫る故なり。11 また穢れし靈イエスを見る毎に、御前に平伏し、叫びて『なんぢは神の子なり』と言ひたれば、12 我を顯すなとて、嚴しく戒め給ふ。13 イエス山に登り、御意に適ふ者を召し給ひしに、彼ら御許に來る。14 ここに十二人を擧げたまふ。是かれらを御側におき、また教を宣べさせ、15 惡鬼を逐ひ出す權威を用ひさする爲に、遣さんとてなり。16 此の十二人を擧げて、シモンにペテロといふ名をつけ、17 セベダイの子ヤコブ、その兄弟ヨハネ、此の二人にボアネルゲ、即ち雷霆の子といふ名をつけ給ふ。18 又アンデレ、ペリポ、バルトロマイ、マタイ、トマス、アルパヨの子ヤコブ、タダイ、熱心黨のシモン、19 及びイスカリオテのユダ、かくてイエス家に入り給ひしに、20 群衆また集り來りたれば、食事する暇もなかりき。21 是の親族の者これを聞き、イエスを取押へんとて出で來る、イエスを狂へりと謂ひてなり。22 又エルサレムより

下れる學者たちも『彼はベルゼブルに憑かれたり』と言ひ、かつ『惡鬼の首によりて惡鬼を逐ひ出すなり』と言ふ。23 イエス彼らと呼ばよせ、譬にて言ひ給ふ『サタンはいかでサタンを逐ひ出し得んや。24 もし國分れ争はば、其の國立つこと能はず。25 もし家分れ争はば、其の家立つこと能はざるべし。26 もしサタン己に逆ひて分れ争はば、立つこと能はず、反つて亡び果てん。27 誰にても先づ強き者を縛らずば、強き者の家に入りて其の家財を奪ふこと能はじ、縛りて後その家を奪ふべし。28 まことに汝らに告ぐ、人の子らの凡ての罪と、けがす瀆とは赦されん。29 されど聖靈をけがす者は、永遠に赦されず、永遠の罪に定めらるべし』30 これは彼らイエスを『穢れし靈に憑かれたり』と云へるが故なり。31 ここにイエスの母と兄弟と來りて外に立ち、人を遣してイエスと呼ばしむ。32 群衆イエスを環りて坐したりしが、或者いふ『視よ、なんぢの母と兄弟姉妹と外にありて汝を尋ぬ』33 イエス答へて言ひ給ふ『わが母、わが兄弟とは誰ぞ』34 かくて周圍に坐する人々を見回して言ひたまふ『視よ、これは我が母、わが兄弟なり。35 誰にても神の御意を行ふものは、是わが兄弟、わが姉妹、わが母なり』

Chapter 4

1 イエスまた海邊にて教へ始めたまふ。夥多しき群衆、みもとに集りたれば、舟に乗り海に泛びて坐したまひ、群衆はみな海に沿ひて陸にあり。2 譬にて數多の事ををしへ、教の中に言ひたまふ、3 『聽け、種播くもの、播かんとて出づ。4 播くとき、路の傍らに落ちし種あり、鳥きたりて啄む。5 土うすき礫地に落ちし種あり、土深からぬによりて、速かに萌え出でたれど、6 日出でてやけ、根なき故に枯る。7 茨の中に落ちし種あり、茨そだち塞ぎたれば、實を結ばず。8 良き地に落ちし種あり、生え出でて茂り、實を結ぶこと、三十倍、六十倍、百倍せり』9 また言ひ給ふ『きく耳ある者は聽くべし』10 イエス人々を離れ居給ふとき、御許に在る者ども、十二弟子とともに、此等の譬を問ふ。11 イエス言ひ給ふ『なんぢらには神の國の奧義を與ふれど、外の者には、凡て譬にて教ふ。12 これ「見るとき見ゆとも認めず、聽くとき聞ゆとも悟らず、穢れりて救さる事なからん」爲なり』13 また言ひ給ふ『なんぢら此の譬を知らぬか、さらば争でもるもるの譬を知り得んや。14 播く者は御言を播くなり。15 御言の播かれて路の傍らにありとは、かかるといふ、即ち聞くと、直ちにサタン來りて、その播かれたる御言を奪ふなり。16 同じく播かれて礫地にありとは、かかるといふ、

即ち御言をききて、直ちに喜び受くれども、17 その中に根なければ、ただ暫し保つのみ、御言のために患難また迫害にあふ時は、直ちに墮くなり。18 また播かれて茨の中にありとは、かかるといふ、19 すなはち御言をきけど、世の心勞、財貨の惑、さまざまの慾りきたり、御言を塞ぐによりて、遂に實らざるなり。20 播かれて良き地にありとは、かかるといふ、即ち御言を聽き、かかるといふ、三十倍、六十倍、百倍の實を結ぶなり』21 また言ひたまふ『升のした、寢臺の下におかんとて、燈火をもち來るか、燈臺の上におく爲ならずや。22 それ顯る爲ならで隠るものなく、明かにせらるる爲ならで秘めらるものなし。23 聽く耳ある者は聽くべし』24 また言ひ給ふ『なんぢら聽くことに心せよ、汝らが量る量にて量られ、更に増し加へらるべし。25 それ有てる人は、なほ與へられ、有たぬ人は、有てる物をも取るべし』26 また言ひたまふ『神の國は、或人たねを地に播くが如し、27 日夜起臥するほどに、種は生え出でて育てども、その故を知らず。28 地はおのづから實を結ぶものにして、初には苗、つぎに穂、ついに穂の中に充て足れる穀なる。29 實みのれば直ちに鎌を入る、收穫時の到れるなり』30 また言ひ給ふ『われら神の國を何にならずへ、如何なる譬をもて示さん。31 一粒の芥種のごとし、地に播く時は、世にある萬の種よりも小けれど、32 既に播きて生え出づれば、萬の野菜よりは大きく、かつ大なる枝を出して、空の鳥その蔭に棲み得るほどになるなり』33 かくのごとき數多の譬をもて、人々の聽きうる力に隨ひて、御言を語り、34 譬ならでは語り給はず、弟子たちには、人なき時に凡ての事を釋き給へり。35 その日、夕になりて言ひ給ふ『いざ彼方に往かん』36 弟子たち群衆を離れ、イエスの舟に給ふまま共に乗り出づ、他の舟も從ひゆく。37 時に烈しき颶風おこり、浪うち込みて、舟に滿つるばかりなり。38 イエスは艫の方に茵を枕として寝たまふ。弟子たち呼び起して言ふ『師よ、我らの亡ぶるを顧み給はぬか』39 イエス起きて風をいましめ、海に言ひたまふ『黙せ、鎮れ』乃ち風やみて、大なる風となりぬ。40 かくて弟子たちに言ひ給ふ『なに故かく臆するか、信仰なきは何ぞ』41 かれら甚く懼れて互に言ふ『こは誰ぞ、風も海も順ふとは』

Chapter 5

1 かくて海の彼方なるゲラセネ人の地に到る。2 イエスの舟より上り給ふとき、穢れし靈に憑かれたる人、墓より出でて直ちに遇ふ。3 この人、墓を住處とす、鏈にてすら今は誰も繫ぎ得ず。4 彼はしばしば足絛と鏈とにて繋かれたれど、鏈をちぎり、足絛をくだきたり、誰も之を制する力なかりしなり。5 夜も晝も、絶えず墓あるひは山にて叫び、己

が身を石にて傷つけたり。6 かれ遙にイエスを見て、走りきたり、御前に平伏し、7 大聲に叫びて言ふ『いと高き神の子イエスよ、我は汝と何の關係あらん、神によりて願ふ、我を苦しめ給ふな』8 これはイエス『穢れし靈よ、この人より出で往け』と言ひ給ひしに因るなり。9 イエスマた『なんぢの名は何か』と問ひ給へば『わが名はレギオン、我ら多きが故なり』と答へ、10 また己らを此の地の外に逐ひやり給はざらんことを切に求む。11 彼處の山邊に豚の大なる群、食しめたり。12 惡鬼どもイエスに求めて言ふ『われらを遣して豚に入らしめ給へ』13 イエス許したまふ。穢れし靈いでて、豚に入りたれば、二千匹ばかりの群、海に向ひて崖を駆けくだり、海に溺れたり。14 飼ふ者ども逃げ往きて、町にも里にも告げたれば、人々何事の起りしかを見んとて出づ。15 かくてイエスに來り、惡鬼に憑かれたりし者、即ちレギオンをもちたりし者の、衣服をつけ、慥なる心にて坐しをるを見て、懼れあへり。16 かの惡鬼に憑かれたる者の上にありし事と、豚の事とを見し者ども、之を具に告げたれば、17 人々イエスにその境を去り給はん事を求む。18 イエス舟に乘らんし給ふとき、惡鬼に憑かれたりしもの偕に在らん事を願ひたれど、19 許さずして言ひ給ふ『なんぢの家に、親しき者に歸りて、主がいかに大なる事を汝に爲し、いかに汝を憐み給ひしかを告げよ』20 彼ゆきて、イエスの如何に大なる事を己になし給ひしかを、デカポリスに言ひ弘めたれば、人々みな怪しめり。21 イエス舟にて復かなたに渡り給ひしに、大なる群衆みもとに集り、イエス海邊に在せり。22 會堂司の一人、ヤイロといふ者きたり、イエスを見て、その足下に伏し、23 切に願ひて言ふ『わが稚なき娘、いまはの際なり、來りて手を置き給へ、さらば救はれて活くべし』24 イエス彼と共にゆき給へば、大なる群衆したがひつ御許に押迫る。25 ここに十二年血漏を患ひたる女あり。26 多くの醫者に多く苦しめられ、有てる物をことごとく費したれど、何の效なく、反つて増々惡しくなりたり。27 イエスの事をききて、群衆にまじり、後に來りて、御衣にさはる、28 『その衣にだに觸らば救はれん』と自ら謂へり。29 かくて血の泉ただちに乾き、病のいえたるを身に覺えたり。30 イエス直ちに能力の己より出でたるを自ら知り、群衆の中に、振反り言ひたまふ『誰が我が衣に觸りしぞ』31 弟子たち言ふ『群衆の押迫るを見て、誰が我に觸りしぞと言ひ給ふか』32 イエスこの事を爲しし者を見んとて見回し給ふ。33 女おそれ戦き、己が身になりし事を知り、來りて御前に平伏し、ありしまを告ぐ。34 イエス言ひ給ふ『娘よ、なんぢの信仰なんぢを救へり、安らかに往け、病いえて健かになれ』35 かく語り給ふほどに、會堂司の家より人々きたりて言ふ『なんぢの娘は

早や死にたり、争でなほ師を煩はすべき』36 イエス其の告ぐる言を傍より聞きて、會堂司に言ひたまふ『懼るな、ただ信ぜよ』37 かくてペテロ、ヤコブその兄弟ヨハネの他は、ともに往く事を誰にも許し給はず。38 彼ら會堂司の家に來る。イエス多くの人の、甚く泣きつ叫びつする騒を見、39 入りて言ひ給ふ『なんぞ騒ぎかつ泣くか、幼兒は死にたるにあらず、寐ねたるなり』40 人々イエスを嘲笑ふ。イエス彼等をみな外に出し、幼兒の父と母と己に伴へる者とを率きつれて、幼兒のをる處に入り、41 幼兒の手を執りて『タリタ、クミ』と言ひたまふ。少女よ、我なんぢに言ふ、起きよ、との意なり。42 直ちに少女たちて歩む、その歳十二なりければなり。彼ら直ちに甚く驚きおどろけり。43 イエス此の事を誰にも知れぬやうにせよと、堅く彼らを戒め、また食物を娘に與ふことを命じ給ふ。

Chapter 6

1 かくて其處をいで、己が郷に到り給ひしに、弟子たちも從へり。2 安息日になりて、會堂にて教へ始め給ひしに、聞きたる多くのもの驚きて言ふ『この人は此等のことを何處より得しぞ、此の人の授けられたる智慧は何ぞ、その手にて爲すかくのごとき能力あるわざは何ぞ。3 此の人は木匠にして、マリヤの子、またヤコブ、ヨセ、ユダ、シモンの兄弟ならずや、其の姉妹も此處に我らと共にをるに非ずや』遂に彼に躓けり。4 イエス彼らに言ひたまふ『預言者は、おのが郷、おのが親族、おのが家の外にて尊ばれざる事なし』5 彼處にては、何の能力ある業も行ひ給ふこと能はず、ただ少數の病める者に、手をおきて醫し給ひしのみ。6 彼らの信仰なきを怪しみ給へり。かくて村々を歴巡りて教へ給ふ。7 また十二弟子を召し、二人づつ遣はしはじめ、穢れし靈を制する權威を與へ、8 かつ旅のために、杖一つの他は、何をも持たず、糧も囊も帯の中に錢をも持たず、9 ただ草鞋ばかりをはきて、二つの下衣をも著ざること命じ給へり。10 かくて言ひたまふ『何處にても人の家にいらば、その地を去るまで其處に留れ。11 何處にても汝らを受けず、汝らに聽かずば、其處を出づるとき、證のために足の裏の塵を拂へ』12 ここに弟子たち出で往きて、悔改むべきことを宣傳へ、13 多くの惡鬼を逐ひだし、多くの病める者に油をぬりて醫せり。14 かくてイエスの名顯れたれば、ヘロデ王ききて言ふ『バプテスマのヨハネ死人の中より甦へりたり。この故に此等の能力の中に働くなり』15 或人は『エリヤなり』といひ、或人は『預言者、いにしへの預言者のごとき者なり』といふ。16 ヘロデ聞きて言ふ『わが首斬りしヨハネ、かれ甦へりたるなり』17 ヘロデ先にそ

の娶りたる己が兄弟ピリポの妻ヘロデヤの爲に、みづから人を遣し、ヨハネを捕へて獄に繋げり。18 ヨハネ、ヘロデに『その兄弟の妻を納るは宣しからず』と言へるに因る。19 ヘロデヤ、ヨハネを怨みて殺さんと思へど能はず。20 それはヘロデ、ヨハネの義にして聖なる人たるを知りて、之を畏れ、之を護り、且つその教をききて、大に惱みつつも、なほ喜びて聽きたる故なり。21 然るに機よき日來り。ヘロデ己が誕生日に、大臣・將校・ガリラヤの貴人たちを招きて饗宴せしに、22 かのヘロデヤの娘いり來りて、舞をまひ、ヘロデと其の席に列れる者とを喜ばしむ。王、少女に言ふ『何にても欲しく思ふものを求めよ、我あたへん』23 また誓ひて言ふ『なんぢ求めば、我が國の半までも與へん』24 娘いりて母にいふ『何を求むべきか』母いふ『バプテスマのヨハネの首を』25 娘ただちに急ぎて王の許に入りきたり、求めて言ふ『ねがはくは、バプテスマのヨハネの首を盆に載せて速かに賜はれ』26 王いたく憂ひたれど、その誓と席に在る者とに對して拒むことを好まず、27 直ちに衛兵を遣し、之にヨハネの首を持ち來ることを命ず、衛兵ききて、獄にてヨハネを首斬り、28 その首を盆にのせ、持ち來りて少女に與ふ、少女これを母に與ふ。29 ヨハネの弟子たち聞きて來り、その屍體を取りて墓に納めたり。30 使徒たちイエスの許に集りて、その爲ししこと、教へし事をことごとく告ぐ。31 イエス言ひ給ふ『なんぢら人を避け、寂しき處に、いざ來りて暫し息へ』これは往來の人おほくして、食する暇だになかりし故なり。32 かくて人を避け、舟にて寂しき處にゆく。33 其の往くを見て、多くの人それと知り、その處を指して、町々より徒歩にてともに走り、彼等よりも先に往けり。34 イエス出でて大なる群衆を見、その牧ふ者なき羊の如くなるを甚く憫みて、多くの事を教へはじめ給ふ。35 時すでに晚くなりたれば、弟子たち御許に來りていふ『ここは寂しき處、はや時も晚し。36 人々を去らしめ、周圍の里また村に往きて、己がために食物を買はせ給へ』37 答へて言ひ給ふ『なんぢら食物を與へよ』弟子たち言ふ『われら往きて二百デナリのパンを買ひ、これに與へて食はすべきか』38 イエス言ひ給ふ『パン幾つあるか、往きて見よ』彼ら見ていふ『五つ、また魚二つあり』39 イエス凡ての人の組々となりて、青草の上に坐することを命じ給へば、40 或は百人、あるひは五十人、敵のごとく列びて坐す。41 かくてイエス五つのパンと二つの魚とを取り、天を仰ぎて祝し、パンをさき、弟子たちに付して人々の前に置かしめ、二つの魚をも人毎に分け給ふ。42 凡ての人食ひて飽きたれば、43 パンの餘、魚の殘を集めしに、十二の筐に滿ちたり。44 パンを食ひたる男は五千人なりき。45 イエス直ちに、弟子たちを強ひて舟に乗らせ、自ら群衆

を返す間に、彼方なるベツサイダに先に往かしむ。46 群衆に別れてのち、祈らんとて山にゆき給ふ。47 夕になりて、舟は海の真中にあり、イエスはひとり陸に在す。48 風逆風に因りて、弟子たちの漕ぎ煩ふを見て、夜明の四時ごろ、海の上を歩み、その許に到りて、往き過ぎんとし給ふ。49 弟子たち其の海の上を歩み給ふを見、變化の者ならんと思ひて叫ぶ。50 皆これを見て心騒ぎたるに因る。イエス直ちに彼らに語りて言ひ給ふ『心安かれ、我なり、懼るな』51 かくて弟子たちの許にゆき、舟に登り給へば、風やみたり。弟子たち心の中にて甚く驚く、52 彼らは先のパンの事をさとらず、反つて其の心鈍くなりしなり。53 遂に渡りてゲネサレの地に著き、舟がかりす。54 舟より上りしに、人々ただちにイエスを認めて、55 徧くあたりを馳せまはり、その在すと聞く處々に、患ふ者を床のまつれ來る。56 その到りたまふ處には、村にても、町にても、里にても、病める者を市場におきて、御衣の總にだに觸らしめ給はんことを願ふ。觸りし者は、みな醫されたり。

Chapter 7

1 パリサイ人或學者らと、エルサレムより來りてイエスの許に集る。2 而して、その弟子たちの中に、潔からぬ手、即ち洗はぬ手にて食事する者のあるを見たり。3 パリサイ人および凡てのユダヤ人は、古への人の言傳を固く執りて、懇ろに手を洗はねば食はず。4 また市場より歸りては、まず楔がざれば食はず。このほか酒杯・鉢・銅の器を濯ぐなど、多くの傳を承けて固く執りたり。5 パリサイ人および學者らイエスに問ふ『なにゆゑ汝の弟子たちは、古への人の言傳に遵ひて歩まず、潔からぬ手にて食事するか』6 イエス言ひ給ふ『イザヤは汝ら偽善者につきて能く預言せり。この民は口唇にて我を敬ふ、されどその心は我に遠ざかる。7 ただ徒らに我を拜む、人の訓誡を教とし教へて』と詠したり。8 なんぢらは神の誠命を離れて、人の言傳を固く執る』9 また言ひたまふ『汝等はおのれの言傳を守らんとて、能くも神の誠命を棄つ。10 即ちモーセは「なんぢの父、なんぢの母を敬へ」といひ「父また母を置る者は、必ず殺さるべし」といへり。11 然るに汝らは「人もし父また母にむかひ、我が汝に對して負ふ所のもの、コルバン即ち供物なり」と言はば可し」と言ひて、12 そののち人をして、父また母に事ふること無からしむ。13 かく汝らの傳へたる言傳によりて、神の言を空しうし、又おほく此の類の事をなしをるなり』14 更に群衆を呼び寄せて言ひ給ふ『なんぢら皆われに聽きて悟れ。15 外より人に入りて、人を汚し得るものなし、されど人より出づるものは、これ人を汚すなり』16 なし 17 イエス群衆を離れて

家に入り給ひしに、弟子たち其の鬻を問ふ。18 彼らに言ひ給ふ『なんぢらも然か悟なきか、外より人に入る物の、人を汚しえぬを悟らぬか、19 これ心には入らず、腹に入りて潔におつるなり』かく凡ての食物を潔しとし給へり。20 また言ひたまふ『人より出づるものは、これ人を汚すなり。21 それ内より、人の心より、惡しき念いづ、即ち淫行・竊盜・殺人、22 姦淫・慳貪・邪曲・詭計・好色・嫉妬・誹謗・傲慢・愚痴。23 すべて此等の惡しき事は、内より出でて人を汚すなり』24 イエス起ちて此處を去り、ツロの地方に往き、家に入りて人に知られじとし給ひたれど、隠ること能はざりき。25 ここに穢れし靈に憑かれたる稚なき娘をもて女、ただちにイエスの事をきき、來りて御足の許に平伏す。26 この女はギリシヤ人にて、スロ・フェニキヤの生なり。その娘より惡鬼を逐ひ出し給はんことを請ふ。27 イエス言ひ給ふ『まづ子供に飽かしむべし、子供のパンをとりて小犬に投げ與ふるは善からず』28 女こたへて言ふ『然り、主よ、食卓の下の小犬も子供の食屑を食ふなり』29 イエス言ひ給ふ『なんぢ此の言によりて[安んじ]往け、惡鬼は既に娘より出でたり』30 をんな家に歸りて見るに、子は寢臺の上に臥し、惡鬼は既に出でたり。31 イエスまたツロの地方を去りて、シドンを過ぎ、デカポリスの地方を経て、ガリラヤの海に來り給ふ。32 人々、耳聾にして物言ふこと難き者を連れ來りて、之に手をおき給はんことを願ふ。33 イエス群衆の中より、彼をひとり連れ出し、その兩耳に指をさし入れ、また唾して其の舌に觸り、34 天を仰ぎて嘆じ、その人に對ひて『エパタ』と言ひ給ふ、ひらけよとの意なり。35 かくてその耳ひらけ、舌の縫ただちに解け、正しく物いへり。36 イエス誰にも告ぐなど人々を戒めたまふ。されど戒むるほど反つて愈々言ひ弘めたり。37 また甚だしく打驚きて言ふ『かれの爲しし事は皆よし、聾者をも聞えしめ、啞者をも物いはしむ』

Chapter 8

1 その頃また大なる群衆にて食ふべき物なかりしかば、イエス弟子たちを召して言ひ給ふ、2 『われ此の群衆を憫む、既に三日われと偕にをりて、食ふべき物なし。3 飢餓のままにて其の家に歸らしめば、途にて疲れ果てん。其の中には遠くより來れる者あり』4 弟子たち答へて言ふ『この寂しき地にては、何處よりパンを得て、この人々を飽かしむべき』5 イエス問ひ給ふ『パン幾つあるか』答へて『七つ』といふ。6 イエス群衆に命じて地に坐せしめ、七つのパンを取り、謝して之を裂き、弟子たちに與へて群衆の前におかしむ。弟子たち乃ちその前におく。7 また小き魚すこしばかりあり、祝して、之をもその前におけと言ひ給ふ

。8人々食ひて飽き、裂きたる餘を拾ひしに、七つの籃に満ちたり。9 その人おほよそ四千人なりき。イエス彼らを歸し、10 直ちに弟子たちと共に舟に乗りて、ダルマヌタの地方に往き給へり。11 パリサイ人いで來りて、イエスと論じはじめ、之を試みて天よりの徴をもとむ。12 イエス心に深く歎じて言ひ給ふ『なにゆゑ今の代は徴を求むるか、まことに汝らに告ぐ、徴は今の代に斷えて與へられじ』13 かくて彼らを離れ、また舟に乗りて彼方に往き給ふ。14 弟子たちパンを携ふることを忘れ、舟には唯一つのお餅ばかりなりき。15 イエス彼らを戒めて言ひたまふ『慎みて、パリサイ人のパンだねと、ヘロデのパンだねとにせよ』16 弟子たち互に、これはパン無き故ならんと語り合ふ。17 イエス知りて言ひたまふ『何ぞパン無き故ならんと語り合ふか、未だ知らぬか、悟らぬか、汝らの心なほ鈍きか。18 目ありて見ぬか、耳ありて聽かぬか。又なんぢら思ひ出でぬか、19 五つのパンを裂きて、五千人に與へし時、その餘を幾筐ひろひしか』弟子たち言ふ『十二』20 『七つのパンを裂きて四千人に與へし時、その餘を幾籃ひろひしか』弟子たち言ふ『七つ』21 イエス言ひたまふ『未だ悟らぬか』22 彼ら遂にベツサイダに到る。人々、盲人をイエスに連れ來りて、觸り給はんことを願ふ。23 イエス盲人の手をとりて、村の外に連れ往き、その目に唾し、御手をあてて『なにか見ゆるか』と問ひ給へば、24 見上げて言ふ『人を見る、それは樹の如き物の歩くが見ゆ』25 また御手をその目にあて給へば、視礙めたるに、癒えて凡てのもの明かに見えたり。26 かくて『村にも入るな』と言ひて、その家に歸し給へり。27 イエス其の弟子たちとピリポ・カイザリヤの村々に出でゆき、途にて弟子たちに問ひて言ひたまふ『人々は我を誰と言ふか』28 答へて言ふ『バプテスマのヨハネ、或人はエリヤ、或人は預言者の一人』29 また問ひ給ふ『なんぢらは我を誰と言ふか』ペテロ答へて言ふ『なんぢはキリストなり』30 イエス己がことを誰にも告ぐなと、彼らを戒め給ふ。31 かくて人の子の必ず多くの苦難をうけ、長老・祭司長・學者らに棄てられ、かつ殺され、三日の後に甦へるべき事を教へはじめ、32 此の事をあらはに語り給ふ。ここにペテロ、イエスを傍らにきて戒め出でたれば、33 イエス振反りて弟子たちを見、ペテロを戒めて言ひ給ふ『サタンよ、わが後に退け、汝は神のことを思はず、反つて人の子のことを思ふ』34 かくて群衆を弟子たちと共に呼び寄せて言ひたまふ『人もし我に従ひ來らんとせば、己をすて、己が十字架を負ひて我に従へ。35 己が生命を救はんと思ふ者は、これを失ひ、我が爲また福音の爲に己が生命をうしなふ者は、之を救はん。36 人、全世界を贏くとも、己が生命を損せば、何の益あらん、37 人その生命の

代に何を與へんや。38 不義なる罪深き今の代にて、我または我が言を恥づる者をば、人の子もまた、父の榮光をもて、聖なる御使たちと共に來らん時に恥づべし』

Chapter 9

1 また言ひ給ふ『まことに汝らに告ぐ、此處に立つ者のうちに、神の國の、權能をもて來るを見るまでは、死を味はぬ者どもあり』2 六日の後、イエスただペテロ、ヤコブ、ヨハネのみを率きつれ、人を避けて高き山に登りたまふ。かくて彼らの前にて其の状かはり、3 其の衣かがやきて甚だ白くなりぬ、世の晒布者を爲し得ぬほど白し。4 エリヤ、モーセとも彼らに現れて、イエスと語り合たり。5 ペテロ差出でてイエスに言ふ『ラビ、我らの此處に居るは善し。われら三つの廬を造り、一つを汝のため、一つをモーセのため、一つをエリヤのためにせん』6 彼等いたく懼れたれば、ペテロ何と言ふべきかを知らざりしなり。7 かくて雲おこり、彼らを覆ふ。雲より聲出づ『これは我が愛しむ子なり、汝ら之に聽け』8 弟子たち急ぎ見回すに、イエスと己らとの他には、はや誰も見えざりき。9 山をくだる時、イエス彼らに、人の子の、死人の中より甦へるまでは、見しことを誰にも語るなと戒め給ふ。10 彼ら此の言を心にため『死人の中より甦へる』とは、如何なる事ぞと互に論じ合ふ。11 かくてイエスに問ひて言ふ『學者たちは、何故エリヤまづ來るべしと言ふか』12 イエス言ひ給ふ『實にエリヤ先づ來りて、萬の事をあらたむ。さらば人の子につき、多くの苦難を受け、かつ蔑せらるる事の録されたるは何ぞや。13 されど我なんぢらに告ぐ、エリヤは既に來り。然るに彼に就きて録されたる如く、人々心のままに之を待へり』14 相共に弟子たちの許に來りて、大なる群衆の之を環り、學者たちの之と論じぬたるを見給ふ。15 群衆みなイエスを見るや否や、いたく驚き、御許に走り往きて禮をなせり。16 イエス問ひ給ふ『なんぢら何を彼らと論ずるか』17 群衆のうちの一人こたふ『師よ、唾の靈に憑かれたる我が子を御許に連れ來れり。18 靈いつこにも彼に憑けば、痙攣け泡をふき、齒をくひしばり、而して瘦せ衰ふ。御弟子たちに之を逐ひ出すことを請ひたれど能はざりき』19 ここに彼らに言ひ給ふ『ああ信なき代なるかな、我いつまで汝らと偕にをらん、何時まで汝らを忍ばん。その子を我が許に連れきたれ』20 乃ち連れきたる。彼イエスを見しとき、靈ただちに之を痙攣けたれば、地に倒れ、泡をふきて轉ひ廻る。21 イエスその父に問ひ給ふ『いつの頃より斯くなりしか』父いふ『をさなき時よりなりし。22 靈しばしば彼を火のなか水の中に投げ入れて亡さんとせり。されど汝なにか爲し得ば、我らを憫みて助け給へ』23 イエス言ひた

まふ『爲し得ばと言ふか、信ずる者には、凡ての事なし得るるなり』24 その子の父ただちに叫びて言ふ『われ信ず、信仰なき我を助け給へ』25 イエス群衆の走り集るを見て、穢れし靈を禁めて言ひたまふ『唾にて耳聾なる靈よ、我なんぢに命ず、この子より出でよ、重ねて入るな』26 靈さけびて甚だしく痙攣けさせて出でしに、その子、死人の如くなりたれば、多くの者これを死にたりと言ふ。27 イエスその手を執りて起し給へば立りて。28 イエス家に入り給ひしとき、弟子たち竊に問ふ『我等いかなれば逐ひ出し得ざりしか』29 答へ給ふ『この類は祈に由らざれば、如何にすとも出でざるなり』30 此處を去りてガリラヤを過ぐ。イエス人の此の事を知るを欲し給はず。31 これは弟子たちに教をなし、かつ『人の子は人々の手にわたされ、人々これを殺し、殺されて三日ののち甦へるべし』と言ひ給ふが故なり。32 弟子たちはその言を悟らず、また問ふ事を恐れたり。33 かくてカペナウムに到る。イエス家に入りて弟子たちに問ひ給ふ『なんぢら途すがら何を論ぜしか』34 弟子たち黙然たり、これは途すがら、誰か大ならんと、互に争ひたるに因る。35 イエス坐して十二弟子を呼び、之に言ひたまふ『人もし頭たらんと思はば、凡ての人の後となり、凡ての人の役者となるべし』36 かくてイエス幼児をとりて彼らの中におき、之を抱きて言ひ給ふ、37 『おほよそ我が名のために斯かる幼児の一人を受くる者は、我を受くるなり。我を受くる者は、我を受くるにあらず、我を遣しし者を受くるなり』38 ヨハネ言ふ『師よ、我らに従はぬ者の、御名によりて惡鬼を逐ひ出すを見しが、我らに従はぬ故に、之を止めたり』39 イエス言ひたまふ『止むな、我が名のために能力ある業をおこなひ、俄に我を譏り得る者なし。40 我らに逆はぬ者は、我らに附く者なり。41 キリストの者たるによりて、汝らに一杯の水を飲ます者は、我まことに汝らに告ぐ、必ずその報を失はざるべし。42 また我を信ずる此の小き者の一人を躓かす者は、寧ろ大なる礪石を頸に懸けられて、海に投げ入れられんかた勝れり。43 もし汝の手なんぢを躓かせば、之を切り去れ、不具にて生命に入るは、兩手ありてゲヘナの消えぬ火に往くよりも勝るなり。44 なし45 もし汝の足なんぢを躓かせば、之を切り去れ、蹠にて生命に入るは、兩足ありてゲヘナに投げ入れらるるよりも勝るなり。46 なし47 もし汝の眼なんぢを躓かせば、之を抜き出せ、片眼にて神の國に入るは、兩眼ありてゲヘナに投げ入れらるるよりも勝るなり。48 『彼處にては、その蛆つきず、火も消えぬなり』49 それ人はみな火をもて鹽づけらるべし。50 鹽は善きものなり、されど鹽もし其の鹽氣を失はば、何をもち之に味つけん。汝ら心の中に鹽を保ち、かつ互に和ぐべし』

Chapter 10

1 イエス此處をたちて、ユダヤの地方およびヨルダンの彼方に來り給ひしに、群衆またも御許に集ひたれば、常のごとく教へ給ふ。2 時にパリサイ人ら來り試みて問ふ『人その妻を出すはよきか』3 答へて言ひ給ふ『モーセは汝らに何と命ぜしか』4 彼ら言ふ『モーセは離縁狀を書きて出すことを許せり』5 イエス言ひ給ふ『汝らの心つれなきによりて、此の誡命を録ししなり。6 されど開關の初より『人を男と女とに造り給へり』7 『かかる故人はその父母を離れて、8 二人のもの一體となるべし』さればはや二人にはあらず、一體なり。9 この故に神の合せ給ふものは、人これを離すべからず』10 家に入りて弟子たち復この事を問ふ。11 イエス言ひ給ふ『おほよそ其の妻を出して他に娶る者は、その妻に對して姦淫を行ふなり。12 また妻もし其の夫を棄てて他に嫁がば、姦淫を行ふなり』13 イエスの觸り給はんことを望みて、人々幼児を連れ來りしに、弟子たち禁めたれば、14 イエス之を見、いきどほりて言ひたまふ『幼児らの我に來るを許せ、止むな、神の國は斯くのごとき者の國なり。15 まことに汝らに告ぐ、凡そ幼児の如くに神の國をうくる者ならずば、之に入るに能はず』16 かくて幼児を抱き、手をその上におきて祝し給へり。17 イエス途に出で給ひしに、一人はしり來り、跪づきて問ふ『善き師よ、永遠の生命を嗣ぐために、我なにを爲すべきか』18 イエス言ひ給ふ『なにゆゑ我を善しと言ふか、神ひとり他に善き者なし。19 誡命は汝が知るところなり「殺すなかれ」「姦淫するなかれ」「盜むなかれ」「僞證を立つるなかれ」「欺へるなかれ」「汝の父と母とを敬へ』20 彼いふ『師よ、われ幼き時より皆これを守れり』21 イエス彼に目をとめ、愛しみて言ひ給ふ『なんぢ尚ほ一つを缺く、往きて汝の有てる物をことごとく賣りて、貧しき者に施せ、さらば財寶を天に得ん。且きたりて我に従へ』22 この言によりて、彼は憂を催し、悲しみつつ去りぬ、大なる資産をもてる故なり。23 イエス見回して弟子たちに言ひたまふ『富ある者の神の國に入るは如何に難いかな』24 弟子たち此の御言に驚く。イエスまた答へて言ひ給ふ『子たちよ、神の國に入るは如何に難いかな、25 富める者の神の國に入るよりは、駱駝の針の孔を通るかた反つて易し』26 弟子たち甚く驚きて互に言ふ『さらば誰か救はるる事を得ん』27 イエス彼らに目を注めて言ひたまふ『人には能はねど、神には然らず、夫れ神は凡ての事をなし得るなり』28 ペテロ、イエスに對ひて『我らは一切をすてて汝に従ひたり』と言ひ出でたれば、29 イエス言ひ給ふ『まことに汝らに告ぐ、我がため、福音のために、或は兄弟、あるひは姉妹、或は父、或は母、或は子、或は田畑をすつる者は、

30 誰にても今、今の時に百倍を受けぬはなし。即ち家・兄弟・姉妹・母・子・田畑を迫害と共に受け、また後の世にては、永遠の生命を受けぬはなし。31 されど多くの先なる者は後に、後なる者は先になるべし。32 エルサレムに上る途にて、イエス先だち行き給ひしかば、弟子たち驚き、随ひ行く者ども懼れたり。イエス再び十二弟子を近づけて、己が身に起らんとする事どもを語り出で給ふ。33 『視よ、我らエルサレムに上る。人の子は祭司長・學者らに付されん。彼ら死に定めて、異邦人に付さん。34 異邦人は嘲弄し、唾し、鞭うち、遂に殺さん、かくて彼は三日の後に甦へるべし。35 ここにゼバイの子ヤコブ、ヨハネ御許に來りて言ふ『師よ、願はくは我らが何にても求むる所を爲したまへ。36 イエス言ひ給ふ『わが汝らに何を爲さんことを望むか。37 彼ら言ふ『なんぢの榮光の中にて、一人をその右に、一人をその左に坐せしめ給へ。38 イエス言ひ給ふ『なんぢらは求むる所を知らず、汝等わが飲む酒杯を飲み、我が受くるバプテスマを受け得るか。39 彼等いふ『得るなり。』イエス言ひ給ふ『なんぢら我が飲む酒杯を飲み、また我が受くるバプテスマを受くべし。40 されど我が右左に坐することは、我の與ふべきものならず、ただ備へられたる人こそ與へらるるなれ。41 十人の弟子これ聞き、ヤコブとヨハネとの事により憤ほり出でたれば、42 イエス彼ら呼びて言ひたまふ『異邦人の君と認めらるる者の、その民を宰どり、大なる者の、民の上に權を執ることは、汝らの知る所なり。43 されど汝らの中には然らず、反つて大ならんと思ふ者は、汝らの役者となり、44 頭たらんと思ふ者は、凡ての者の僕となるべし。45 人の子の來れるも、事へらるる爲にあらず、反つて事ふることをなし、又おほくの人の贖償として己が生命を與へん爲なり。46 かくて彼らエリコに到る。イエスその弟子たち及び大なる群衆と共に、エリコを出でたまふ時、テマイの子バルテマイといふ盲目の乞食、路の傍に坐しをりしが、47 ナザレのイエスなりと聞き、叫び出して言ふ『ダビデの子イエスよ、我を憐れたまへ。』48 多くの人かれを禁めて黙さしめんとしたれど、ますます叫びて『ダビデの子よ、我を憐れたまへ』と言ふ。49 イエス立ち止りて『かれを呼べ』と言ひ給へば、人々盲人を呼びて言ふ『心安かれ、起て、なんぢを呼びたまふ。』50 盲人うはぎを脱ぎ捨て、躍り上りて、イエスの許に來りしに、51 イエス答へて言ひ給ふ『わが汝に何を爲さんことを望むか。盲人いふ『わが師よ、見えんことなり。』52 イエス彼に『ゆけ、汝の信仰なんぢを救へり』と言ひ給へば、直ちに見ることを得、イエスに従ひて途を往けり。

Chapter 11

1 彼らエルサレムに近づき、オリブ山の麓なるベテバゲ及びベタニヤに到りし時、イエス二人の弟子を遣さんとして言ひ給ふ、2 『むかひの村にゆけ、其處に入らば、やがて人の未だ乗りたることなき驢馬の子の繫ぎあるを見ん、それを解きて牽き來れ。3 誰かもし汝らに「なにゆゑ然るか」と言はば「主の用なり、彼ただちに返さん」といへ。』4 弟子たち行き、門の外に驢馬の子の繫ぎあるを見て解きたれば、5 其處に立つ人々のうちの或者『なんぢら驢馬の子を解きて何とするか』と言ふ。6 弟子たちイエスの告げ給ひし如く言ひしに、彼ら許せり。7 かくて弟子たち驢馬の子をイエスの許に牽ききたり、己が衣をその上に置きたれば、イエス之に乗り給ふ。8 多くの人は己が衣を、或人は野より伐り取りたる樹の枝を途に敷く。9 かつ前に行き後に従ふ者ども呼はりて言ふ『「ホサナ、讃むべきかな、主の御名によりて來る者」10 讃むべきかな、今し來る我らの父ダビデの國。「いと高き處にてホサナ」』11 遂にエルサレムに到りて宮に入り、凡ての物を見回し、時はや暮に及びたれば、十二弟子と共にベタニヤに出で往きたまふ。12 ありし日かれらベタニヤより出で來りし時、イエス飢餓給ふ。13 遙に葉ある無花果の樹を見て、果をや得んと其のもとに到り給ひしに、葉のほかは何をも見出し給はず、是は無花果の時ならぬに因る。14 イエスその樹に對ひて言ひたまふ『今より後いつまでも、人なんぢの果を食はざれ』弟子たち之を聞けり。15 彼らエルサレムに到る。イエス宮に入り、その内にて賣買する者どもを逐ひ出し、兩替する者の臺、鴿を賣るものの腰掛を倒し、16 また器物を持ちて宮の内を過ぐることを免し給はず。17 かつ教へて言ひ給ふ『「わが家は、もろもろの國人の祈の家と稱へらるべし」と録されたるにあらずや、然るに汝らは之を「強盜の巢」となせり。』18 祭司長・學者ら之を聞き、如何にしてかイエスを亡さんと謀る、それは群衆みな其の教に驚きたれば、彼を懼れしなり。19 夕になる毎に、イエス弟子たちと共に都を出でゆき給ふ。20 彼ら朝早く路をすぎしに、無花果の樹の根より枯れたるを見る。21 ペテロ思ひ出してイエスに言ふ『ラビ、見給へ、詛ひ給ひし無花果の樹は枯れたり。』22 イエス答へて言ひ給ふ『神を信ぜよ。23 まことに汝らに告ぐ、人もし此の山に「移りて海に入れ」と言ふとも、其の言ふところ必ず成るべしと信じて、心に疑はずば、その如く成るべし。24 この故に汝らに告ぐ、凡て祈りて願ふ事は、すでに得たりと信ぜよ、さば得べし。25 また立ちて祈るとき、人を怨む事あらば免せ、これは天に在す汝らの父の、汝らの過失を免し給はん爲なり。』26 なし 27 かれら又エルサレムに到る。イエス宮の内を歩み給ふとき、

祭司長・學者・長老たち御許に來りて、28 『何の權威をもて此等の事をなすか、誰が此等の事を爲すべき權威を授けしか』と言ふ。29 イエス言ひ給ふ『われ一言なんぢらに問はん、答へよ、さらば我も何の權威をもて、此等の事を爲すかを告げん。30 ヨハネのバプテスマは、天よりか、人よりか、我に答へよ。』31 彼ら互に論じて言ふ『もし天よりと言はば「何故かれを信ぜざりし」と言はん。32 されど人よりと言はんか……。』彼ら群衆を恐れたり、人みなヨハネを實に預言者と認められたればなり。33 遂にイエスに答へて『知らず』と言ふ。イエス言ひ給ふ『われも何の權威をもて此等の事を爲すか、汝らに告げじ』

Chapter 12

1 イエス警をもて彼らに語り出で給ふ『ある人、葡萄園を造り、籬を環らし、酒槽の穴を掘り、櫓をたて、農夫どもに貸して、遠く旅立せり。2 時いたりて農夫より葡萄園の所得を受取りんとて、僕をその許に遣ししに、3 彼ら之を執へて打ちたたき、空手にて歸らしめたり。4 又ほかの僕を遣ししに、その首に傷つけ、かつ辱しめたり。5 また他の者を遣ししに、之を殺したり。又ほかの多くの僕をも、或は打ち或は殺したり。6 なほ一人あり、即ち其の愛しむ子なり「わが子は敬ふならん」と言ひて、最後に之を遣ししに、7 かの農夫ども互に言ふ「これは世嗣なり、いざ之を殺さん、さらばその嗣業は、我らのものとなるべし」8 乃ち執へて之を殺し、葡萄園の外に投げ棄てたり。9 さらば葡萄園の主、なにを爲さんか、來りて農夫どもを亡し、葡萄園を他の者どもに與ふべし。10 汝ら聖書に「造家者となれる。11 これ主によりて成れるにて、我らの目には奇しきなり」とある句をすら讀まぬか。12 ここに彼等イエスを執へんと思ひたれど、群衆を恐れたり、この警の己らを指し言ひ給へるを悟りに因る。遂にイエスを離れて去り往けり。13 かくて彼らイエスの言尾をとらへて陥入れん爲に、パリサイ人とヘロデ黨の中より、數人を御許に遣す。14 その者ども來りて言ふ『師よ、我らは知る、汝は眞にして、誰をも憚りたまふ事なし、人の外貌を見ず、眞をもて神の道を教へ給へばなり。我ら貢をカイザルに納むるは、宜きか、惡しきか、納めんか、納めざらんか。』15 イエス其の詐偽なるを知りて『なんぞ我を試むるか、デナリを持ち來りて我に見せよ』と言ひ給へば、16 彼ら持ち來る。イエス言ひ給ふ『これは誰の像、たれの號なるか。』『カイザルのなり』と答ふ。17 イエス言ひ給ふ『カイザルの物はカイザルに、神の物は神に納めよ』彼らイエスに就きて甚だ怪しめり。18 また復活なしと云ふサドカイ人ら、イエスに來り問ひて言ふ 19 『師

よ、モーセは、人の兄弟もし子なく妻を遺して死なば、その兄弟かれの妻を娶りて、兄弟のため嗣子を擧ぐべしと、我らに書き遺したり。20 ここに七人の兄弟ありて、兄妻を娶り、嗣子なくして死に、21 第二の者その女を娶り、また嗣子なくして死に、第三の者もまた然し、22 七人とも嗣子なくして死に、終には其の女も死にたり。23 復活のとき彼らみな甦へらんに、この女は誰の妻たるべきか、七人これを妻としたればなり。』24 イエス言ひ給ふ『なんぢらの誤れるは、聖書をも神の能力をも知らぬ故ならずや。25 人、死人の中より甦へる時は、娶らず、嫁がず、天に在る御使たちの如くなるなり。26 死にたる者の甦へる事に就きては、モーセの書の中なる柴の條に、神モーセに「われはアブラハムの神、イサクの神、ヤコブの神なり」と告げ給ひし事あるを、未だ讀まぬか。27 神は死にたる者の神にあらず、生ける者の神なり。なんぢら大に誤れり。』28 學者の一人、かれらの論じを聞き、イエスの善く答へ給へるを知り、進み出でて問ふ『すべての誠命のうち、何か第一なる。』29 イエス答へたまふ『第一は是なり「イスラエルよ聽け、主なる我らの神は唯一の主なり。』30 なんぢ心を盡し、精神を盡し、思を盡し、力を盡して、主なる汝の神を愛すべし。』31 第二は是なり「おのれの如く汝の隣を愛すべし。』此の二つより大なる誠命はなし。』32 學者いふ『善きかな師よ「神は唯一にして他に神なし」と言ひ給へるは眞なり。』33 「こころを盡し、知恵を盡し、力を盡して神を愛し、また己のごとく隣を愛すべし」は、もろもろの燔祭および犠牲に勝るなり。』34 イエスその聰く答へしを見て言ひ給ふ『なんぢ神の國に遠からず。』此の後たれも敢へてイエスに問ふ者なかりき。35 イエス宮にて教ふとき、答へて言ひ給ふ『なにゆゑ學者らはキリストをダビデの子と言ふか。36 ダビデ聖靈に感じて自らいへり「主わが主に言ひ給ふ、我なんぢの敵を汝の足の下に置くまでは、我が右に坐せよ」と。37 ダビデ自ら彼を主と言ふ、されば争でその子ならんや。大なる群衆は喜びてイエスに聽きたり。38 イエスその教のうちに言ひたまふ『學者らに心せよ、彼らは長き衣を着て歩むこと、市場にての敬禮、39 會堂の上座、饗宴の上座を好み、40 また寡婦の家を呑み、外見を巧くして長き祈をなす。その受くる審判は更に嚴しからん。』41 イエス寶錢函に對ひて坐し、群衆の錢を寶錢函に投げ入るを見給ふ。富める多くの者は、多く投げ入れしが、42 一人の貧しき寡婦きたりて、レプタ二つを投げ入れたる、即ち五厘ほどなり。43 イエス弟子たちを呼び寄せて言ひ給ふ『まことに汝らに告ぐ、この貧しき寡婦は、寶錢函に投げ入る凡ての人よりも多く投げ入れたる。44 凡ての者は、その豊なる内より入れぬ、この寡婦は其の乏しき中より、凡ての所有、即ち己が生命の料をこここ

とく投げ入れたればなり』

Chapter 13

1 イエス宮を出て給ふとき、弟子の一人いふ『師よ、見給へ、これらの石、これらの建造物、いかに盛ならずや』
2 イエス言ひ給ふ『なんぢ此等の大なる建造物を見るか、一つの石も崩されずしては石の上に残らじ』3 オリブ山にて宮の方に對ひて坐し給へるに、ペテロ、ヤコブ、ヨハネ、アンデレ竊に問ふ4『われらに告げ給へ、これらの事は何時あるか、又すべて此等の事の成し遂げられんとする時は、如何なる兆あるか』5 イエス語り出で給ふ『なんぢら人に惑されぬやうに心せよ。6 多くの者が名を冒し來り「われは夫なり」と言ひて多くの人を惑さん。7 戦争と戦争の噂とを聞くとき懼るな、かかる事はあるべきなり、されど未だ終にはあらず。8 即ち「民は民に、國は國に逆ひて起たん」また處々に地震あり、饑饉あらん、これらは産の苦難の始なり。9 汝等みづから心せんよ、人々なんぢらを衆議所に付さん。なんぢら會堂に曳かれて打たれ、且わが故によりて、司たち及び王たちの前に立てられん、これは證をなさるものなり。10 かくて福音は先づもろもろの國人に宣傳へらるべし。11 人々なんぢらを曳きて付さんとき、何を言はんと思ひ煩ふな、唯そのとき授けらるることを言へ、これ言ふ者は汝等にあらず、聖靈なり。12 兄弟は兄弟を、父は子を死にわたし、子らは親たちに逆ひ立ちて死なしめん。13 又なんぢら我が名の故に凡ての人に憎まれん、されど終まで耐へ忍ぶ者は救はるべし。14 「荒す惡むべき者」の立つべからざる所に立つを見ば（讀むもの悟れ）その時ユダヤにをる者どもは、山に遁れよ。15 屋の上にをる者は、内に下るな。また家の物を取り出さんとて内に入るな。16 畑にをる者は上衣を取らんとて歸るな。17 其の女には孕りたる女と、乳を哺乳する女とは禍害なるかな。18 この事の冬おこらぬやうに祈れ、19 その日は患難の日なればなり。神の萬物を造り給ひし開闢より今に至るまで、かかる患難はなく、また後にもなからん。20 主その日を少くし給はずば、救はるる者一人だになからん。されど其の選ひ給ひし選民の爲に、その日を少くし給へり。21 其の時なんぢらに「視よ、キリスト此處にあり」「視よ、彼處にあり」と言ふ者ありとも信ずな。22 偽キリスト・偽預言者ら起りて、微と不思議とを行ひ、爲し得べくは、選民をも惑さんとするなり。23 汝らは心せよ、あらかじめ之を皆なんぢらに告げおくなり。24 其の時、その患難ののち、日は暗く、月は光を發たず。25 星は空より墮ち、天にある萬象ふるひ動かん。26 其のとき人々、人の子の大なる能力と榮光とをもて、雲に乗り來るを見ん。27 その時かれは使者たちを遣して、

地の極より天の極まで、四方より其の選民をあつめん。28 無花果の樹よりの譬を學べ、その枝すでに柔かくなりて葉芽ぐめば、夏の近きを知る。29 かくの如く此等のことの起るを見ば、人の子すでに近づきて門邊にいたるを知れ。30 まことに汝らに告ぐ、これらの事ごとく成るまで、今の代は過ぎ逝くことなし。31 天地は過ぎゆかん、されど我が言は過ぎ逝くことなし。32 その日その時を委ねて、各自の務を定め、更に門守に、目を覺しをれと命じ置きて、遠く旅立したる人のごとし。33 この故に目を覺しをれ、家の主人の歸るは、夕か、夜半か、鶏鳴くころか、夜明けか、いづれの時なるかを知らねばなり。36 恐らくは俄に歸りて、汝らの眠れるを見ん。37 わが汝らに告ぐるは、凡ての人に告ぐるなり。目を覺しをれ』

Chapter 14

1 さて過越と除酵との祭の二日前となりぬ。祭司長・學者ら詭計をもてイエスを捕へ、かつ殺さんと企てて言ふ2『祭の間は爲すべからず、恐らくは民の亂あるべし』3 イエス、ベタニヤに在して、癩病人シモンの家にて食事の席につき居給ふとき、或女、價高き混なき持ち來り、その壺を毀ちてイエスの首に注ぎたり。4 ある人々、憤ほりて互に言ふ『なに故かく濫に油を費すか、5 この油を三百デナリ餘に賣りて、貧しき者に施すことを得たりしものを』而して甚く女を咎む。6 イエス言ひ給ふ『その爲すに任せよ、何ぞこの女を惱すか、我に善き事をなせり。7 貧しき者は常に汝らと偕にをれば、何時にても心のままに助け得べし、されど我は常に汝らと偕にをらず。8 此の女は、なし得る限をなして、我が體に香油をそそぎ、あらかじめ葬りの備をなせり。9 まことに汝らに告ぐ、全世界いづこにても、福音の宣傳へらる處には、この女の爲しし事も記念として語らるべし』10 ここに十二弟子の一人なるイスカリオテのユダ、イエスを賣らんとて祭司長の許にゆく。11 彼等これを聞きて喜び、銀を與へんと約したれば、ユダ如何にしてか機好くイエスを付さんと謀る。12 除酵祭の初の日、即ち過越の羔羊を屠るべき日、弟子たちイエスに言ふ『過越の食をなし給ふために、我らが何處に往きて備ふることを望み給ふか』13 イエス二人の弟子を遣さんとして言ひたまふ『都に往け、然らば水をいれたる瓶を持つ人、なんぢらに遇ふべし。之に従ひ往き、14 その入る所の家主に「師いふ、われ弟子らと共に過越の食をなすべき座

敷は何處なるか」と言へ。15 さらば調べ備へたる大なる二階座敷を見すべし。其處に我らのために備へよ』16 弟子たち出で往きて都に入り、イエスの言ひ給ひし如くなるを見て、過越の設備をなせり。17 日暮れてイエス十二弟子とともに往き、18 みな席に就きて食するとき言ひ給ふ『まことに汝らに告ぐ、我と共に食する汝らの中の一人、われを賣らん』19 弟子たち憂ひて一人一人『われなるか』と言ひ出でしに、20 イエス言ひたまふ『十二のうちの一人にて、我と共にパンを鉢に浸す者は夫なり。21 實に人の子は己に就きて録されたる如く逝くなり。されど人の子を賣る者は禍害なるかな、その人は生れざりし方よりしものを』22 彼ら食しをる時、イエス、パンを取り、祝してさき、弟子たちに與へて言ひたまふ『取れ、これは我が體なり』23 また酒杯を取り、謝して彼らに與へ給へば、皆この酒杯より飲めり。24 また言ひ給ふ『これは契約の我が血、おほくの人の爲に流す所のものなり。25 まことに汝らに告ぐ、神の國にて新しきものを飲む日までは、われ葡萄の果より成るものを飲まじ』26 かれら讚美をうたひて後、オリブ山に出でゆく。27 イエス弟子たちに言ひ給ふ『なんぢら皆蹟かん、それは「われ牧羊者を打たん、さらば羊散るべし」と録されたるなり。28 されど我よみがへりて後、なんぢらに先だちてガリラヤに往かん』29 時にペテロ、イエスに言ふ『假令みな蹟くとも、我は然らじ』30 イエス言ひ給ふ『まことに汝に告ぐ、今日この夜、鶏ふたたび鳴く前に、なんぢ三たび我を否むべし』31 ペテロ力をこめて言ふ『われ汝とともに死ぬべき事ありとも、汝を否まず』弟子たち皆かく言へり。32 彼らゲツセマネと名づくる處に到りし時、イエス弟子たちに言ひ給ふ『わが祈る間、ここに座せよ』33 かくてペテロ、ヤコブ、ヨハネを伴ひゆき、甚く驚き、かつ悲しみ出でて言ひ給ふ34『わが心いたく憂ひて死ぬばかりなり、汝ら此處に留りて目を覺しをれ』35 少し進みゆきて、地に平伏し、若しも得べくば此の時の己より過ぎ往かんことを祈りて言ひ給ふ36『アバ父よ、父には能はぬ事なし、此の酒杯を我より取り去り給へ。されど我が意のままを成さんとあらず、御意のままを成し給へ』37 來りて、その眠れるを見、ペテロに言ひ給ふ『シモンよ、なんぢ眠るか、一時も目を覺しをること能はぬか。38 なんぢら誘惑に陥らぬやう、目を覺しかつ祈れ。實に心は熱すれども肉體よわきなり』39 再びゆき、同じ言にて祈り給ふ。40 また來りて彼らの眠れるを見たまふ、はその目いたく疲れたるなり、彼ら何と答ふべきかを知らざりき。41 三度來りて言ひたまふ『今は眠りて休め、足れり、時きたれり、視よ、人の子は罪人らの手に付さるるなり。42 起て、われらは往くべし。視よ、我を賣る者ちかづけり』43

なほ語り給ふほどに、十二弟子の一人なるユダ、やがて近づき來る、祭司長・學者・長老らより遣されたる群衆、劍と棒とを持ちて之に伴ふ。44 イエスを賣るもの、あらかじめ合圖を示して言ふ『わが接吻する者はそれなり、之を捕へて確と引きゆけ』45 かくて來りて直ちに御許に往き『ラビ』と言ひて接吻したれば、46 人々イエスに手をかけて捕ふ。47 傍らに立つ者のひとり、劍を抜き、大祭司の僕を撃ちて、耳を切り落せり。48 イエス人々に對ひて言ひ給ふ『なんぢら強盜にむかふ如く、劍と棒とを持ち、我を捕へんとて出で來るか。49 我は日々なんぢらと偕に宮にありて教へたりしに、我を執へざりき、されど是は聖書の言の成就せん爲なり』50 其のとき弟子みなイエスを棄てて逃げ去る。51 ある若者、素肌に亞麻布を纏ひて、イエスに従ひたりしに、人々これを捕へければ、52 亞麻布を棄て裸にて逃げ去れり。53 人々イエスを大祭司の許に曳き往きたれば、祭司長・長老・學者ら皆あつまる。54 ペテロ遠く離れてイエスに従ひ、大祭司の中庭まで入り、下役どもと共に坐して火に煖まりたり。55 さて祭司長ら及び全議會、イエスを死に定めんとて、證據を求めども得ず。56 それはイエスに對して偽證する者多くあれども、其の證據あはざりしなり。57 遂に或者ども起ちて偽證して言ふ58『われら此の人の「われは手にて造りたる此の宮を毀ち、手にて造らぬ他の宮を三日にて建つべし」と云へるを聞けり』59 然れど尚この證據もあはざりき。60 ここに大祭司、中に立ちイエスに問ひて言ふ『なんぢ何をも答へぬか、此の人々の立つる證據は如何に』61 されどイエス黙して何をも答へ給はず。大祭司ふたたび問ひて言ふ『なんぢは頷くべきものの子キリストなるか』62 イエス言ひ給ふ『われは夫なり、汝ら、人の子の全能者の右に坐し、天の雲の中にありて來るを見ん』63 此のとき大祭司おのが衣を裂きて言ふ『なんぞ他に證人を求めん。64 なんぢこの瀆言を聞けり、如何に思ふか』かれら擧りてイエスを死に當るべきものと定む。65 而して或者どもはイエスに唾し、又その顔を蔽ひ、拳にて搏ちなど爲始めて言ふ『預言せよ』下役どもイエスを受け、手掌にてうてり。66 ペテロ下に中庭にをりしに、大祭司の婢女の一人きたりて、67 ペテロの火に煖まりをるを見、これに目を注めて『汝もかのナザレ人イエスと偕に居たり』と言ふ。68 ペテロ肯はずして『われは汝の言ふことを知らず、又その意をも悟らず』と言ひて庭口に出でたり。69 婢女かれを見て、また傍らに立つ者どもに『この人はかの黨與なり』と言ひ出でしに、70 ペトロ重ねて肯はず、暫くしてまた傍らに立つ者どもペテロに言ふ『なんぢは慥にかの黨與な

り、汝もガリラヤ人なり』71 此の時ペテロ盟ひかつ誓ひて『われは汝らの言ふ其の人を知らず』と言ひ出づ。72 その折しも、また鶏なきぬ。ペテロ『にはとり二度なく前に、なんぢ三度われを否まん』とイエスの言ひ給ひし御言を思ひだし、思ひ反して泣きたり。

Chapter 15

1夜明るや直ちに、祭司長・長老・學者ら、即ち全議會ともに相議りて、イエスを縛り、曳きゆきてピラトに付す。2ピラト、イエスに問ひて言ふ『なんぢはユダヤ人の王なるか』答へて言ひ給ふ『なんぢの言ふが如し』3祭司長らさまざまに訴ふれば、4ピラトまた問ひて言ふ『なにも答へぬか、視よ、如何に多くの事をもて訴ふるか』5されどピラトの怪しむばかり、イエス更に何を答へ給はず。6さて祭の時には、ピラト民の願に任せて、囚人ひとり人を殺す例なるが、7ここに一揆を起し、人を殺して繋かれる者の中に、バラバといふ者あり。8群衆すすみ來りて、例の如くせんことを願ひ出でたれば、9ピラト答へて言ふ『ユダヤ人の王を赦さんことを願ふか』10これピラト、祭司長らのイエスを付しは、嫉に因ると知る故なり。11されど祭司長ら群衆を唆かし、反つてバラバを赦さんことを願はしむ。12ピラトまた答へて言ふ『さらば汝らがユダヤ人の王と稱ふる者をわれ如何にすべきか』13人々また叫びて言ふ『十字架につけよ』14ピラト言ふ『そも彼は何の惡事を爲したるか』かれら烈しく叫びて『十字架につけよ』と言ふ。15ピラト群衆の望を満さんとて、バラバを釋し、イエスを鞭うちたるのち、十字架につくる爲にわたせり。16兵卒どもイエスを官邸の中庭に連れゆき、全隊を呼び集めて、17彼に紫色の衣を著せ、茨の冠を編みて冠らせ、18『ユダヤ人の王、安かれ』と禮をなし始め、19また葦にて其の首をたたき、唾し、跪づきて拜せり。20かく嘲弄してのち、紫色の衣を剥ぎ、故の衣を著せ、十字架につけんとして曳き出せり。21時にアレキサンデルとルボスとの父シモンといふクレネ人、田舎より來りて通りかかりしに、強ひてイエスの十字架を負はせ、22イエスをゴルゴダ、釋けば髑髏といふ處に連れ往けり。23かくて没藥を混ぜたる葡萄酒を與へたれど、受け給はず。24彼らイエスを十字架につけ、而して誰が何を取るべきと、鬮を引きて其の衣を分つ、25イエスを十字架につけしは、朝の九時頃なりき。26その罪標には『ユダヤ人の王』と書せり。27イエスと共に、二人の強盜を十字架につけ、一人をその右に、一人をその左に置く。28なし29往來の者どもイエスを譏り、首を振りて言ふ『ああ、宮を毀ちて三日のうちに建つる者よ、30十字架より下りて己を救へ』31

祭司長らも亦同じく、學者らと共に嘲弄して互に言ふ『人を救ひて、己を救ふこと能はず、32イスラエルの王キリスト、いま十字架より下りよかし、さらば我ら見て信ぜん』共に十字架につけられたる者どもも、イエスを罵りたり。33晝の十二時に、地のうへ徧く暗くなりて、三時に及ぶ。34三時にイエス大聲に『エロイ、エロイ、ラマ、サバクタニ』と呼はり給ふ。之を釋けば、わが神、わが神、なんぞ我を見棄て給ひし、との意なり。35傍らに立つ者のうち或人々これを聞きて言ふ『視よ、エリヤを呼ぶなり』36一人はしり往きて、海綿に酸き葡萄酒を含ませて葦につけ、イエスに飲ましめて言ふ『待て、エリヤ來りて、彼を下すや否や、我ら之を見ん』37イエス大聲を出して息絶え給ふ。38聖所の幕、上より下まで裂けて二つとなりたり。39イエスに向ひて立てる百卒長、かかる様にて息絶え給ひしを見て言ふ『實にこの人は神の子なりき』40また遙に望み居たる女たちあり、その中にはマグダラのマリヤ、小ヤコブとヨセとの母マリヤ、及びサロメなども居たり。41彼らはイエスのガリラヤに居給ひしとき、従ひ事へし者どもなり。此の他イエスと共にエルサレムに上りし多くの女もありき。42日 既に暮れて、準備日すなはち安息日の前の日となりたれば、43貴き議員にして、神の國を待ち望める、アリマタヤのヨセフ來りて、憚らずピラトの許に往き、イエスの屍體を乞ふ。44ピラト、イエスは早や死にしかと訝り、百卒長を呼びて、その死にしより時

Chapter 16

1安息日 終りし時、マグダラのマリヤ、ヤコブの母マリヤ及びサロメ、往きてイエスに抹らんとて香料を買ひ、2一週の日、日の出でたる頃いよいよ早く墓にゆく。3誰か我らの爲に墓の入口より石を轉すべきと語り合ひしに、4目を擧ぐれば、石の既に轉しあるを見る。この石は甚だ大なりき。5墓に入り、右の方に白き衣を著たる若者の坐するを見て甚く驚く。6若者いふ『おどろくな、汝らは十字架につけ給ひしナザレのイエスを尋ねれど、既に甦へりて、此處に在さず。視よ、納めし處は此處なり。7されど往きて弟子たちとペテロ口に告げよ』汝らに先だちてガリラヤに往き給ふ、彼處にて謁ゆるを得ん、曾て汝らに言ひ給ひしが如し』8女たち甚く驚きをのき、墓より逃げ出でしが、懼れたれば一言をも人に語らざりき

。9[一週の日]の拂曉、イエス甦へりて先づマグダラのマリヤに現れたまふ、前にイエスが七つの惡鬼を逐ひだし給ひし女なり。10マリヤ往きて、イエスと偕にありし人々の、立き悲し居るときに之を告ぐ。11彼らイエスの活き給へる事と、マリヤに見え給ひし事とを聞けども信ぜざりき。12此の後その中の二人、田舎に往く途を歩むほどに、イエス異なりたる姿にて現れ給ふ。13此の二人ゆきて、他の弟子たち之を告げたれど、なほ信ぜざりき。14其ののち十一弟子の食しする時に、イエス現れて、己が甦へりたるを見し者どもの言を信ぜざりしにより、其の信仰なきと、其の心の頑固なるを責め給ふ。15かくて彼らに言ひたまふ『全世界を巡りて凡ての造られしものに福音を宣傳へよ。16信じてバプテスマを受くる者は救はるべし、然れど信ぜぬ者は罪に定めらるべし。17信ずる者は此等の徴ともなはん。即ち我々が名によりて惡鬼を逐ひだし、新しき言をかたり、18蛇を握るとも、毒を飲むとも、害を受けず、病める者に手をつけなば癒えん』19語り終へてのち、主イエスは天に擧げられ、神の右に坐し給ふ。20弟子たち出でて、あまねく福音を宣傳へ、主も亦ともに働き、伴ふところの徴をもて、御言を確うし給へり]

ルカの福音書

Chapter 1

1我らの中に成りし事の物語につき、始よりの目撃者にして、2御言の役者となりたる人々の、我らに傳へし其のままを書き列ねんと、手を著けし者あまたある故に、3我も凡ての事を最初より詳細に推し尋ねたれば、4テオピロ閣下よ、汝の教へられたる事の慥なるを悟らせん爲に、これが序を正して書き贈るは善き事と思はるなり。5ユダヤの王ヘロデの時、アビヤの組の祭司に、ザカリヤという人あり。その妻はアロンの裔にて、名をエリサベツといふ。6二人ながら神の前に正しくして、主の誠命と定規とを、みな缺なく行へり。7エリサベツ石女なれば、彼らに子なし、また二人とも年邁みぬ。8さてザカリヤその組の順番に當りて、神の前に祭司の務を行ふとき、9祭司の慣例にしたがひて、籬をひき主の聖所に入りて、香を焼くこととなりぬ。10香を焼くとき、民の群みな外にありて祈りゐたり。11時に主の使あらはれて、香壇の右に立ちたれば、12ザカリヤ之を見て、心さわぎ懼を生ず。13御使いふ『ザカリヤよ、懼るな、汝の願は聽かれたり。汝の妻エリサベツ男子を生まん、汝その名をヨハネと名づくべし。14なんぢに喜悅と歡樂とあらん、又おほくの人もその

生るるを喜ぶべし。15この子、主の前に大ならん、また葡萄酒と濃き酒とを飲まず、母の胎を出づるや聖靈にて満されん。16また多くのイスラエルの子らを、主なる彼らの神に歸らしめて、17且エリヤの靈と能力とをもて、主の前に往かん。これ父の心を子に、戻れる者を義人の聰明に歸らせて、整へたる民を主のために備へんとてなり』18ザカリヤ御使にいふ『何に據りてか此の事あるを知らん。我は老人にて、妻もまた年邁みたり』19御使こたへて言ふ『われは神の御前に立つガブリエルなり、汝に語りてこの嘉き音信を告げん爲に遣さる。20視よ、時いたらば必ず成就すべき我が言を信ぜぬに因り、なんぢ物言へずなりて、此らの事事成る日までは語ることはじ』21民はザカリヤを俟ちて、其の聖所の内に久しく留るを怪しむ。22遂に出て來りたれど語ること能はねば、彼らその聖所の内にて異象を見たることを悟る。ザカリヤは、ただ首にて示すのみ、なほ唾なりき。23かくて務の日満ちたれば、家に歸りぬ。24此の後その妻エリサベツ孕りて、五月ほど隠れをりて言ふ、25『主わが恥を人の中に雪がせんとて、我を顧み給ふときは、斯く爲し給ふなり』26その六月めに、御使ガブリエル、ナザレといふガリラヤの町に在る處女のもとに、神より遣さる。27この處女はダビデの家のヨセフといふ人と許嫁せし者にて、其の名をマリヤと云ふ。28御使、處女の許にきたりて言ふ『めでたし、恵まるる者よ、主なんぢと偕に在せり』29マリヤこの言によりて心いたく騒ぎ、斯かる挨拶は如何なる事ぞと思ひ廻らしたるに、30御使いふ『マリヤよ、懼るな、汝は神の御前に恵を得たり。31視よ、なんぢ孕りて男子を生まん、其の名をイエスと名づくべし。32彼は大人らん、至高者の子と稱へらる。また主たる神、これに其の父ダビデの座位をあたへ給へば、33ヤコブの家を永遠に治めん。その國は終ることなかるべし』34マリヤ御使にいふ『われ未だ人を知らぬに、如何にして此の事のあるべき』35御使こたへて言ふ『聖靈なんぢに臨み、至高者の能力なんぢを被はん。此の故に汝が生むところの聖なる者は、神の子と稱へらるべし。36視よ、なんぢの親族エリサベツも、年老いたれど、男子を孕めり。石女といはれたる者なるに、今は孕りてはや六月になりぬ。37それ神の言には能はぬ所なし』38マリヤ言ふ『視よ、われは主の婢女なり。汝の言のごとく、我に成れかし』つひに御使はなれ去りぬ。39その頃マリヤ立ちて山里に急ぎ往き、ユダの町にいたり、40ザカリヤの家に入りてエリサベツに挨拶せしに、41エリサベツその挨拶を聞くや、兒は胎内にて躍り。エリサベツ聖靈にて満され、42聲高らかに呼はりて言ふ『をんなの中にて汝は祝福せられ、その胎の實もまた祝福せられたり。43わが主の母われに來る、われ何によりてか之を得し。

44 視よ、なんぢの挨拶の聲、わが耳に入るや、我が兒、胎内に喜びをどれり。 45 信ぜし者は幸福なるかな、主の語り給ふことは必ず成就すべければなり』 46 マリヤ言ふ、『わがこころ主をあがめ、47 わが靈はわが救主なる神を喜びまつ。 48 その婢女の卑しきをも顧み給へばなり。視よ、今よりのち萬世の人われを幸福とせん。 49 全能者われに大なる事を爲したまへばなり。その御名は聖なり、50 そのあはれみは代々かしこみ恐る者に臨むなり。 51 神は御腕にて權力をあらはし、心の念に高ぶる者を散し、52 權勢ある者を座位より下し、いやしき者を高うし、53 飢餓たる者を善き物に飽かせ、富める者を空しく去らせ給ふ。 54 また我らの先祖に告げ給ひし如く、55 アブラハムとその裔とに對するあはれみを永遠に忘れじとて、僕イスラエルを助けたまへり』 56 かくてマリヤは、三月ばかりエルザベツと偕に居りて、己が家に歸り。 57 さてエリサベツ産む期みちて男子を生みたれば、58 その最寄のもの親族の者ども、主の大なる憐憫をエリサベツに垂れ給ひしことを聞きて、彼とともに喜ぶ。 59 八日めになりて、其の子に割禮を行はんとて人々きたり、父の名に因みてザカリヤと名づけんとせしに、60 母こたへて言ふ『否、ヨハネと名づくべし』 61 かれら言ふ『なんぢの親族の中には此の名をつけたる者なし』 62 而して父に首にて示し、いかに名づけんと思ふか、問ひたるに、63 ザカリヤ書板を求めて『その名はヨハネなり』と書きしかば、みな怪しむ。 64 ザカリヤの口たちどころに開け、舌ゆるみ、物いひて神を讚めたり。 65 最寄に往む者みな懼をいだき、又すべて此等のこと徧くユダヤの山里に言ひ囃されたれば、66 聞く者みな之を心にとめて言ふ『この子は如何なる者にか成らん』 主の手かれと偕に在りしなり。 67 かくて父ザカリヤ聖靈にて満され預言し言ふ、68 『讚むべきかな、主イスラエルの神、その民をかへりみて贖罪をなし、69 我らのために救の角を、その僕ダビデの家に立て給へり。 70 これぞ古へより聖預言者の口をもて言ひ給ひし如く、71 我らを仇より、凡て我らを憎む者の手より、取り出したまふ救なる。 72 我らの先祖に憐憫を垂れ、その聖なる契約を思し、73 我らの先祖アブラハムに立て給ひし御誓を忘れずして、74 我らを仇の手より救ひ、生涯、主の御前に、75 聖と義とをもて懼なく事へしめたまふなり。 76 幼兒よ、なんぢは至高者の預言者と稱へられん。これ主の御前に先だちゆきて、其の道を備へ、77 主の民に罪の赦による救を知らしむればなり。 78 これ我らの神の深き憐憫によるなり。この憐憫によりて朝のひかり、上より臨み、79 暗黒と死の蔭とに坐する者をてらし、我らの足を平和の路にみちびかん』 80 かくて幼兒は漸に成長し、その靈強くなり、イスラエルに現る日まで

荒野にみたり。

Chapter 2

1 その頃、天下の人を戸籍に著かすべし詔令、カイザル・アウグストより出づ。 2 この戸籍 登録は、クレニオ、シリヤの總督たりし時に行はれし初のものなり。 3 さて人みな戸籍に著かんとて、各自その故郷に歸る。 4 ヨセフもダビデの家系また血統なれば、既に孕める許嫁の妻マリヤとともに、戸籍に著かんとて、ガリラヤの町ナザレを出でてユダヤに上り、ダビデの町ベツレヘムといふ處に到りぬ。 6 此處に居るほどに、マリヤ月満ちて、7 初子をうみ、之を布に包みて馬槽に臥させたり。旅舎にをる處なかりし故なり。 8 この地に野宿して、夜群を守りける牧者ありしが、9 主の使その傍らに立ち、主の榮光その周圍を照したれば、甚く懼る。 10 御使かれらに言ふ『懼るな、視よ、この民一般に及ぶべき、大なる歡喜の音信を我なんぢらに告ぐ。 11 今日ダビデの町にて汝らの爲に救主うまれ給へり、これ主キリストなり。 12 なんぢら布にて包まれ、馬槽に臥しをる嬰兒を見ん、是その徴なり』 13 忽ちあまたの天の軍勢、御使に加はり、神を讚美して言ふ、14 『いと高き處には榮光、神にあれ。地には平和、主の喜び給ふ人にあれ』 15 御使等さりて天に往きしとき、牧者たがひに語る『いざ、ベツレヘムにいたり、主の示し給ひし起れる事を見ん』 16 乃ち急ぎ往きて、マリヤとヨセフと、馬槽に臥したる嬰兒とに尋ねあふ。 17 既に見て、この子につき御使の語りしことを告げられたれば、18 聞く者はみな牧者の語りしことを怪しみたり。 19 而してマリヤは凡て此等のことを心に留めて思ひ回せり。 20 牧者は御使の語りしごとく凡ての事を見聞せしによりて、神を崇めかつ讚美しつつ歸り。 21 八日みちて幼兒に割禮を施すべき日となりたれば、未だ胎内に宿らぬ先に御使の名づけし如く、その名をイエスと名づけたり。 22 モーセの律法に定めたる潔の日満ちたれば、彼ら幼兒を携へてエルサレムに上る。 23 これは主の律法に『すべて初子に生るる男子は、主につける聖なる者と稱へらるべし』と録されたる如く、幼兒を主に獻げ、 24 また主の律法に『山鳩一つがひ或は家 鳩の雛 二羽』と云ひたるに遵ひて、犠牲を供へん爲なり。 25 視よ、エルサレムにシメオンといふ人あり。この人は義かつ敬虔にして、イスラエルの慰められんことを待ち望む。 聖靈その上に在す。 26 また聖靈に、主のキリストを見ぬうちは死を見ずと示されたれしが、27 此とて御靈に感じて宮に入る。 兩親その子イエスを携へ、この子のために律法の慣例に遵ひて行はんとて來りたれば、28 シメオン、イエスを取りいただき、神を讚めて言ふ、 29 『主よ、今こ

そ御言に循ひて、僕を安らかに逝かしめ給ふなれ。 30 わが目は、はや主の救を見たり。 31 是もろもろの民の前に備へ給ひし者、 32 異邦人をてらす光、御民イスラエルの榮光なり』 33 かく幼兒に就きて語ることを、其の父 母あやしみ居たれば、 34 シメオン彼らを祝して母マリヤに言ふ『視よ、この幼兒は、イスラエルの多くの人の或は倒れ、或は起たん爲に、また言ひ逆ひを受くる徴のために置かる。 35 劍なんぢの心をも刺し貫くべし 此れは多くの人の心の念の顯れん爲なり』 36 ここにアセルの族バヌエルの娘に、アンナといふ預言者あり、年いたく老ゆ。處女のとき、夫に適きて七 年とともに居り、37 八十四年寡婦たり。宮を離れず、夜も晝も斷食と祈祷とを爲して神に事ふ。 38 この時すすみ寄りて神に感謝し、また凡てエルサレムの拯贖を待ちのぞむ人に、幼兒のことを語り。 39 さて主の律法に遵ひて、凡ての事を果したれば、ガリラヤに歸り、己が町ナザレに到れり。 40 幼兒は漸に成長して健かになり、智慧みち、かつ神の恵その上にありき。 41 かくてその兩親、過越の祭には年毎にエルサレムに往きぬ。 42 イエスの十二歳のとき、祭の慣例に遵ひて上りゆき、43 祭の日 終りて歸る時、その子イエスはエルサレムに止りたまふ。兩親は之を知らずして、 44 道伴のうちに居るならんと思ひ、一日路ゆきて、親族・知邊のうちを尋ねれど、45 遇はぬに因りて復たづねつつエルサレムに歸り、46 三日ののち、宮にて教師のなかに坐し、かつ聴き、かつ問ひ給ふに遇ふ。 47 聞く者は皆その聰と答とを怪しむ。 48 兩親イエスを見て、いたく驚き、母は言ふ『兒よ、何故かかる事を我らに爲しぞ、視よ、汝の父と我と憂ひて尋ねたり』 49 イエス言ひたまふ『何故われを尋ねたるか、我はわが父の家に居るべきを知らぬか』 50 兩親はその語りたまふ事を悟らず。 51 かくてイエス彼等とともに下り、ナザレに往きて順ひ事へたまふ。其の母これらの事をことごとく心に藏む。 52 イエス智慧も身のたけも彌まさり、神と人とにますます愛せられ給ふ。

Chapter 3

1 テベリオ・カイザル在位の十五年、ポンテオ・ピラトはユダヤの總督、ヘロデはガリラヤ分封の國守、その兄弟ピリポはイツリヤ及びテラコニテの地の分封の國守、ルサニヤはアビレネ分封の國守たり、 2 アンナスとカヤパとは大祭司たりしとき、神の言、荒野にてザカリヤの子ヨハネに臨む。 3 かくてヨルダン河の邊なる四方の地にゆき、罪の赦を得さする悔改のバプテスマを宣傳ふ。 4 預言者イザヤの言の書に『荒野に呼はる者の聲す。主の道を備へ、その路すじを直くせよ。 5 諸の

谷は埋められ、諸の山と岡とは平けられ、曲りたるは直く、嶮きは坦かなる路となり、6 人みな神の救を見ん』と録されたるが如し。 7 さてヨハネ、バプテスマを受けんとて出できたる群衆にいふ『蝮の裔よ、誰が汝らに、來らんとする御怒を避くべき事を示したるぞ。8 さらば悔改に相應しき果を結べ。なんぢら「我らの父にアブラハムあり」と心のうちに言ひ始むな。我なんぢらに告ぐ、神はよき此の石よりアブラハムの子 等を起し得給ふなり。 9 斧ははや樹の根に置かる。されば凡て善き果を結ばぬ樹は、伐られて火に投げ入れらるべし』 10 群衆ヨハネに問ひて言ふ『さらば我ら何を爲すべきか』 11 答へて言ふ『二つの下衣をもつ者は、有たぬ者に分け與へよ。食物を有つ者もまた然せよ』 12 取税人もバプテスマを受けんとて來りて言ふ『師よ、我ら何を爲すべきか』 13 答へて言ふ『定りたる卒の外の外、なにをも促らん』 14 兵卒もまた問ひて言ふ『我らは何を爲すべきか』 答へて言ふ『人を劫かし、また誣ひ訴ふな、己が給料をもて足れりとせよ』 15 民、待ち望みみたれば、みな心の中にヨハネをキリストならんかと論ぜし。 16 ヨハネ凡ての人に答へて言ふ『我は水にて汝らにバプテスマを施す、されど我よりも能力ある者きたらん、我はその鞋の紐を解くにも足らず。彼は聖靈と火にて汝らにバプテスマを施さん。 17 手には箕を持ちたまふ。禾場をきよめ、麥を倉に納めんとてなり。而して殻は消えぬ火にて焚きつくさん』 18 ヨハネこの他なほ、さまざまの勳をなして、民に福音を宣傳ふ。 19 然るに國守ヘロデ、その兄弟の妻ヘロデヤの事につき、又その行ひたる凡ての惡しき事につきて、ヨハネに責められたれば、 20 更に復一つの惡しき事を加へて、ヨハネを獄に閉ぢこめたり。 21 民みなバプテスマを受けし時、イエスもバプテスマを受けたり、祈り給へば、天より、 22 聖靈、形をなして鴿のごとく其の上に降り、かつ天より聲あり、曰く『なんぢは我が愛しむ子なり、我なんぢを悦ぶ』 23 イエスの、教を宣へ始め給ひしは、年おほよそ三十の時なりき。人にはヨセフの子と思はれ給へり。ヨセフの父はヘリ、 24 その先はマタテ、レビ、メルキ、ヤンナイ、ヨセフ、 25 マタテヤ、アモス、ナホム、エスリ、ナンガイ、 26 マハテ、マタテヤ、シメイ、ヨセク、ヨダ、 27 ヨハナン、レサ、ゾロバベル、サラテル、ネリ、 28 メルキ、アデイ、コサム、エルマダム、エル、 29 ヨセ、エリエゼル、ヨリム、マタテ、レビ、 30 シメオン、ユダ、ヨセフ、ヨナム、エリヤキム、 31 メレヤ、メナ、マタテ、ナタン、ダビデ、 32 エツサイ、オベデ、ボアズ、サラ、ナアソン、 33 アミナダブ、アデミン、アルニ、エスロン、パレス、ユダ、 34 ヤコブ、イサク、アブラハム、テラ、ナホル、 35 セルグ、レウ、ベレグ、エベル、サラ、 36 カイナン、アルパクサデ、ヨセム、ノア

、ラメク、37メトセラ、エノク、ヤレデ、マハラレル、カイン、38エノス、セツ、アダムに至る。アダムは神の子なり。

Chapter 4

1さてイエス聖霊にて満ち、ヨルダン河より歸り、荒野にて四十日のあひだ御霊に導かれ、2悪魔に試みられ給ふ。この間なにも食はず、日 數満ちてのち餓え給ひたれば、3悪魔いふ『なんぢ若し神の子ならば、此の石に命じてパンと爲らしめよ』4イエス答へたまふ『人の生くるはパンのみに由るにあらず』と録されたり』5悪魔またイエスを携へるのぼりて、瞬間に天下のもろもろの國を示して言ふ、6『この凡ての權威と國々の榮華とを汝に與へん。我これを委ねられたれば、我が欲する者に與ふるなり。7この故にもし我が前に拜せば、ことごとく汝の有となるべし』8イエス答へて言ひたまふ『主なる汝の神を拜し、ただ之にのみ事ふべし』と録されたり』9悪魔またイエスをエルサレムに連れゆき、宮の頂上に立たせて言ふ『なんぢ若し神の子ならば、此處より己が身を下に投げよ。10それは「なんぢの爲に御使たちに命じて守らしめ給はん』11「かれら手にて汝をささへ、その足を石に打當つる事なからしめん』と録されたるなり』12イエス答へて言ひたまふ『主なる汝の神を試むべからず』と云ひてあり』13悪魔あらゆる嘗試を盡してのち、暫くイエスを離れたり。14イエス御霊の能力をもてガリラヤに歸り給へば、その聲聞あまねく四方の地に弘る。15かくて諸會堂にて教をなし、凡ての人に崇められ給ふ。16諸その育てられ給ひし處のナザレに到り、例のごとく安息日に會堂に入りて、聖書を讀まんとて立ち給ひしに、17預言者イザヤの書を與へたれば、其の書を繰きて、かく録されたる所を見出し給ふ。18『主の御靈われに在す。これ我に油を注ぎて貧しき者に福音を宣べしめ、我をつかはして囚人に赦を得ることと、盲人に見ゆることとを告げしめ、壓へらるる者を放ちて自由を與へしめ、19主の喜ばしき年を宣傳へしめ給ふなり』20イエス書を巻き、係の者に返して坐し給へば、會堂に居る者みな之に目を注ぐ。21イエス言ひ出でたまふ『この聖書は今日なんぢらの耳に成就したり』22人々みなイエスを譽め、又その口より出づる恵の言を怪しみて言ふ『これヨセフの子ならずや』23イエス言ひ給ふ『なんぢら必ず我に悞謬を引き、「醫者よ、みづから己を醫せ、カペナウムにて有りしといふ我らが聞ける事どもを、己が郷なる此の地にても爲せ』と言はん』24また言ひ給ふ『われ誠に汝らに告ぐ、預言者は己が郷にて喜ばることなし。25われ實をもて汝らに告ぐ、エリヤのとき三年六个月、天とぞて、全地大なる饑饉なりしが、イスラエルの

中に多くの寡婦ありたれど、26エリヤは其の一人にすら遣されず、唯シドンなるサレプタの一人の寡婦にのみ遣されたり。27また預言者エリシヤの時、イスラエルの中に多くの癩病人ありしが、其の一人だに潔められず、唯シリヤのナアマンのみ潔められたり』28會堂にをる者みな之を聞きて憤恚に満ち、29起ちてイエスを町より逐ひ出し、その町の建ちたる山の崖に引き寄せて、投げ落さんとせしに、30イエスその中を通りて去り給ふ。31かくてガリラヤの町カペナウムに下りて、安息日ごとに人を教へ給へば、32人々その教に驚きあへり。その言、權威ありたるに因る。33會堂に穢れし惡鬼の靈に憑かれたる人あり、大聲に叫びて言ふ、34『ああ、ナザレのイエスよ、我らは汝となにの關係あらんや。我らを亡さんとて來給ふか。我はなんぢの誰なるを知る、神の聖者なり』35イエス之を禁めて言ひ給ふ『黙せ、その人より出でよ』惡鬼その人を人々の中に倒し、傷つけずして出づ。36みな驚き語り合ひて言ふ『これ如何なる言ぞ、權威と能力とをもて命ずれば、穢れし惡鬼すら出で去る』37ここにイエスの噂あまねく四方の地に弘りたり。38イエス會堂を立ち出でて、シモンの家に入り給ふ。シモンの外姑おもき熱を患ひ居たれば、人々これが爲にイエスに願ふ。39その傍らに立ちて熱を責めたまへば、熱去りて女たちどころに起きて彼らに事ふ。40日のある時、さまざまの病を患ふ者をもつ人、みな之をイエスに連れ來れば、一々その上に手を置きて醫し給ふ。41惡鬼もまた多くの人より出でて叫びつつ言ふ、『なんぢは神の子なり』之を責めて物言ふことを免し給はず、惡鬼そのキリストなるを知るに因りてなり。42明るる朝イエス出でて寂しき處にゆき給ひしが、群衆たづねて御許に到り、その去り行くことを止めんとせしに、43イエス言ひ給ふ『われ又ほかの町々にも神の國の福音を宣傳へざるを得ず、わが遣されしは之が爲なり』44かくてユダヤの諸會堂にて教を宣へたまふ。

Chapter 5

1群衆おし迫りて神の言を聽きをる時、イエス、ゲネサレの湖のほとりに立ちて、2渚に二艘の舟の寄せあるを見たまふ、漁人は舟をいでて網を洗ひ居たり。3イエスその一艘なるシモンの舟に乗り、彼に請ひて陸より少しく押し出さしめ、坐して舟の中より群衆を教へたまふ。4語り終へてシモンに言ひたまふ『深處に乗りいだし、網を下して漁れ』5シモン答へて言ふ『君よ、われら終夜勞したるに、何をも得ざりき、されど御言に隨ひて網を下さん』6かくて然せしに、魚の夥多しき群を圍みて、網裂けかりたれば、7他の一艘の舟にをる組の者を差招きて來り助けしむ。來りて魚を二艘の舟に満したれば、舟

沈まんばかりになりぬ。8シモン・ペテロ之を見て、イエスの膝下に平伏して言ふ『主よ、我を去りたまへ。我は罪ある者なり』9これはシモンも偕に居る者もみな、漁りし魚の夥多しきに驚きたるなり。10ゼベダイの子にしてシモンの侶なるヤコブもヨハネも同じく驚けり。イエス、シモンに言ひたまふ『懼るな、なんぢ今よりのち人を漁らん』11かれら舟を陸につけ、一切を棄ててイエスに従へり。12イエス或町に居給ふとき、視よ、全身癩病をわづらふ者あり。イエスを見て平伏し、願ひて言ふ『主よ、御意ならば、我を潔くなし給ふを得ん』13イエス手をのべ彼につけて『わが意なり、潔くなれ』と言ひ給へば、直ちに癩病されり。14イエス之を誰にも語らぬやうに命じ、かつ言ひ給ふ『ただ往きて己を祭司に見せ、モーセが命じたるごとく汝の潔のために獻物して、人々に證せよ』15されど彌増々イエスの事ひろまりて、大なる群衆、あるひは教を聽かんとし、或は病を醫されんとし集り來りしが、16イエス寂しき處に退きて祈り給ふ。17或日イエス教をなし給ふとき、ガリラヤの村々、ユダヤ及びエルサレムより來りしパリサイ人、教法學者ら、そこに坐しめたり。病を醫すべき主の能力イエスと偕にありき。18視よ、人々、中風を病める者を、床にのせて擔ひきたり、之を家に入れて、イエスの前に置かんとすれど、19群衆によりて擔ひ入るべき道を得ざれば、屋根にのぼり、瓦を取り除けて、床のまま人々の中に、イエスの前につり縋り下せり。20イエス彼らの信仰を見て言ひたまふ『人よ、汝の罪ゆるされたり』21ここに學者・パリサイ人ら論じてて言ふ『瀆言をいふ此の人は誰ぞ、神より他に誰か罪を赦すことを得べき』22イエス彼らの論ずる事をさとり、答へて言ひ給ふ『なにを心のうちに論ずるか。23「なんぢの罪ゆるされたり』と言ふと「起きて歩め』と言ふと孰か易き、24人の子の地にて罪をゆるす權威あることを汝らに知らせん爲に』中風を病める者に言ひ給ふ『なんぢに告ぐ、起きよ、床をとりて家に往け』25かれ立刻に人々の前にて起きあがり、臥しあたる床をとりあげ、神を崇めつつ己が家に歸りたり。26人々みな甚く驚きて神をあがめ懼に満ちて言ふ『今日われら珍しき事を見たり』27この事の後イエス出でて、レビといふ取税人の收税所に坐してを見るを『われに従へ』と言ひ給へば、28一切を棄ておき、起ちて從へり。29レビ己が家にて、イエスの爲に大なる饗宴を設けしに、取税人および他の人々も多く食事の席に列りゐたれば、30パリサイ人および其の曹番の學者ら、イエスの弟子たちに向ひ、呟きて言ふ『なにゆゑ汝らは取税人・罪人らと共に飲食するか』31イエス答へて言ひたまふ『健康なる者は醫者を要せず、ただ病ある者これを要す。32我は正しき者を招かんとあらで、罪人を招きて悔改めさせんと

て來れり』33彼らイエスに言ふ『ヨハネの弟子たちは、しばしば斷食し祈禱し、パリサイ人の弟子たちも亦然するに、汝の弟子たちは飲食するなり』34イエス言ひたまふ『新郎の友だち新郎と偕にをるうちは、彼らに斷食せしめぬや。』35されど日來りて新郎をとられん、その日には斷食せん』36イエスまた譬を言ひ給ふ『たれも新しき衣を切り取りて、舊き衣を繕ふ者はあらじ。もし然せば、新しきものも破れ、かつ新しきものより取りたる裂も舊きものに合はじ。37誰も新しき葡萄酒を、ふるき革囊に入れることは爲じ。もし然せば、葡萄酒は囊をはりさき漏れ出でて、囊も廢らん。38新しき葡萄酒は、新しき革囊に入れるべきなり。39誰も舊き葡萄酒を飲みてのち、新しき葡萄酒を望む者はあらじ。「舊きは善し』と云へばなり』

Chapter 6

1イエス安息日に麥 畠を過ぎ給ふとき、弟子たち穗を摘み、手にて揉みつつ食ひたれば、2パリサイ人のうち或者ども言ふ『なんぢらは何ゆゑ安息日に爲まじき事をするか』3イエス答へて言ひ給ふ『ダビデその伴へる人々とともに飢えしとき、爲しし事をすら讀まぬか。4即ち神の家に入りて、祭司の他は食ふまじき供のパンを取りて食ひ、己と偕なる者にも與へたり』5また言ひたまふ『人の子は安息日の主たるなり』6又ほかの安息日に、イエス會堂に入りて教をなし給ひしに、此處に人あり、其の右の手なえたり。7學者・パリサイ人ら、イエスを訴ふる廉を見出さんと思ひて、安息日に人を醫すや否やを窺ふ。8イエス彼らの念を知りて、手なえたる人に『起きて中に立て』と言ひ給へば、起きて立てり。9イエス彼らに言ひ給ふ『われ汝らに問はん、安息日に善をなすと惡をなすと、生命を救ふと亡すと、孰かよき』10かくて一同を見まはして、手なえたる人に『なんぢの手を伸べよ』と言ひ給ふ。かれ然なしたれば、その手癒ゆ。11然るに彼ら狂氣の如くなりて、イエスに何をなさんと語り合へり。12その頃イエス祈らんとて山にゆき、神に祈りつ夜を明したまふ。13夜明になりて弟子たちを呼び寄せ、その中より十二人を選びて、之を使徒と名づけたまふ。14即ちペテロと名づけ給ひしシモンと其の兄弟アンデレと、ヤコブとヨハネと、ピリポとバルトロマイと、15マタイとトマスと、アルパヨの子ヤコブと熱心黨と呼ばるるシモンと、16ヤコブの子ユダとイスカリオテのユダとなり。このユダはイエスを賣る者となりたり。17イエス此等とともに下りて、平かなる處に立ち給ひしに、弟子の大なる群衆、およびユダヤ全國、エルサレム又ツロ、シドンの海

邊より來りて、或は教を聽かんとし、或は病を醫されんとする民の大なる群も、そこにあり。18穢れし靈に惱されたる者も醫される。19能力イエスより出でて、凡ての人を醫せし、群衆のみならず人に觸らぬ事を求む。20イエス目をあげ弟子たちを見て言ひたまふ『幸福なるかな、貧しき者よ、神の國は汝らの有なり。21幸福なる哉、いま飢うる者よ、汝ら飽くことを得ん。幸福なる哉、いま泣く者よ、汝ら笑ふことを得ん。22人々ならざるを憎み、人のために遠ざけ、誘ひ、汝らの名を惡しとして棄てなば、汝ら幸福なり。23その日には喜び躍れ。視よ、天にて汝らの報は大なり、彼らの先祖が預言者たちに爲ししも斯くありき。24されど禍害なるかな、富む者よ、汝らは既にその慰安を受けたり。25禍害なる哉、いま飽く者よ、汝らは飢えん。禍害なる哉、いま笑ふ者よ、汝らは、悲しみ泣かん。26凡ての人、なんぢらに譽められ、汝ら禍害なり。彼らの先祖が虚偽の預言者たちに爲ししも斯くありき。27われ更に汝ら聽くものに告ぐ、なんぢらの仇を愛し、汝らを憎む者を善くし、28汝らを誑ふ者を祝し、汝らを辱しむ者のために祈れ。29なんぢの頬を打つ者には、他の頬をも向けよ。なんぢの上衣を取る者には下衣をも拒むな。30すべて求むる者に與へ、なんぢの物を奪ふ者に復索むな。31なんぢらに爲られんと思ふごとく、人にも然せば。32なんぢら己を愛する者を愛せばとて、何の嘉すべき事あらん、罪人にて己を愛する者を愛するなり。33汝等おのれに善をなす者に善を爲すとも、何の嘉すべき事あらん、罪人にて何の嘉するなり。34なんぢら得る事あらんと思ひて人に貸すとも、何の嘉すべき事あらん、罪人にて均しきものを受けんとて罪人に貸すなり。35汝らは仇を愛し、善をなし、何を求めずして貸せ、さらば、その報は大ならん。かつ至高者の子たるべし。至高者は、恩を知らぬもの惡しき者にも、仁慈あるなり。36汝らの父の慈悲なるごとく、汝らも慈悲なれ。37人を畜く、さらば汝らも畜かる事あらじ。人を罪に定むな、さらば、汝らも罪に定めらる事あらじ。人を救せ、さらば汝らも救されん。38人に與へよ、さらば汝らも與へられん。人は量をよくし、押し入れ、揺り入れ、溢るるまでにして、汝らの懐の中に入れん。汝等おのが量る量にて量らるべし。39また譬にて言ひたまふ『盲人は盲人を手引するを得んや。二人とも穴に落ちざらんや。40弟子はその師に勝らず、凡そ全うせられたる者は、その師の如くならん。41何ゆゑ兄弟の目にある塵を見て、己が目にある梁木を認めぬか。42おのが目にある梁木を見ずして、争で兄弟に向ひて「兄弟よ、汝の目にある塵を取り除かせよ」といふを得んや。偽善者よ、先づ己が目より梁木を取り除け。さらば明かに見えて、兄弟の目にある塵を取りのぞき得ん。43惡しき果を結び善き樹はな

く、また善き果を結び惡しき樹はなし。44樹はおのおの其の果によりて知らる。茨より無花果を取らず、野荊より葡萄を収めざるなり。45善き人は心の善き倉より善きものを出し、惡しき人は惡しき倉より惡しき物を出す。それ心に満つるより、口は物言ふなり。46なんぢら我を「主よ主よ」と呼びつつ、何ぞ我が言ふことを行はぬか。47凡そ我にきたり我が言を聽きて行ふ者は、如何なる人に似たるかを示さん。48即ち家を建つるに、地を深く掘り岩の上に基を据ゑたる人のごとし。洪水いでて流その家を衝けども動かすこと能はず、これ固く建てられたる故なり。49されど聽きて行はぬ者は、基なくして家を土の上に建てたる人のごとし。流その家を衝けば、直ちに崩れて、その破壊はなはだし』

Chapter 7

1イエス凡て此らの言を民に聞かせ終へて後、カペナウムに入り給ふ。2時に或百卒長、その重んずる僕やみて死ぬばかりなりしかば、3イエスの事を聽きて、ユダヤ人の長老たちを遣し、來りて僕を救ひ給はんことを願ふ。4彼らイエスの許にいたり、切に請ひて言ふ『かの人はい此の事を爲らるるに相應し。5わが國人を愛し、我らのために會堂を建てたり』6イエス共に往き給ひて、その家はや程近くなりしとき、百卒長、數人の友を遣して言はしむ『主よ、自らを煩はし給ふ。我は汝をわが屋根の下に入れまつるに足らぬ者なり。7されば御前に出づるにも相應しからずと思へり、ただ御言を賜ひて我が僕をいやし給へ。8我みづから權威の下に置かる者なるに、我が下にまた兵卒ありて、此に「往け」と言へば往き、彼に「來れ」と言へば來り、わが僕に「これを爲せ」と言へば爲すなり』9イエス聞きて彼を怪しみ、振反りて從ふ群衆に言ひ給ふ『われ汝らに告ぐ、イスラエルの中にだに斯かるあつき信仰は見しことなし』10遣されたる者ども家に歸りて僕を見れば、既に健康となれり。11その後イエス、ナインといふ町にゆき給ひしに、弟子たち及び大なる群衆も共に往く。12町の門に近づき給ふとき、視よ、昇き出さるる死人あり。これは獨息子にて母は寡婦なり、町の多くの人々これに伴ふ。13主、寡婦を見て憫み『泣くな』と言ひて、14近より、柩に手をつけ給へば、昇くもの立ち止る。イエス言ひたまふ『若者よ、我なんぢに言ふ、起きよ』15死人、起きかへりて物言ひ始む。イエス之を母に付したまふ。16人々みな懼をいだき、神を崇めて言ふ『大なる預言者われらの中に興れり』また言ふ『神その民を顧み給へり』17この事ユダヤ全國および最寄の地に傳くひろまりぬ。18諸ヨハネの弟子たち、凡て此等のことを告げれば、19ヨハネ兩三人の弟子を呼び、主に遣

して言はしむ『來るべき者は汝なるか、或は他に待つべきか』20彼ら御許に到りて言ふ『バプテスマのヨハネ、我らを遣して言はしむ「來るべき者は汝なるか、或は他に待つべきか」』21この時イエス多くの者の病・疾患を醫し、惡しき靈を逐ひいだし、又おほくの盲人に見ることを得しめ給ひしが、22答へて言ひたまふ『往きて汝らが見聞せし所をヨハネに告げよ。盲人は見、跛者はあゆみ、癩病人は潔められ、聾者はきき、死人は甦へらせられ、貧しき者は福音を聞かせる。23おほよそ我に蹟かぬ者は幸福なり』24ヨハネの使の去りたる後、ヨハネの事を群衆に言ひいで給ふ『なんぢら何を眺めんとて野に出でし、風にそよぐ葦なるか。25さらば何を見んとて出でし、柔かき衣を著たる人なるか。視よ、華美なる衣をきて奢り暮す者は王宮に在り。26さらば何を見んとて出でし、預言者なるか。然り、我なんぢらに告ぐ、預言者よりも勝る者なり。27「視よ、わが使を汝の顔の前につかはす。かれは汝の前になんじの道をそなへん」と録されたるは此の人なり。28われ汝らに告ぐ、女の産みたる者の中、ヨハネより大なる者はなし。されど神の國にて小き者も、彼よりは大きなり。29「凡ての民これを聞きて、取税人までも神を正しとせり。ヨハネのバプテスマを受けたるによる。30されどパリサイ人・教法師らは、其のバプテスマを受けざりしにより、各自にかかはる神の御旨をこぼみたり』31さればわれ今の代の人を何に比へん。彼らは何に似たるか。32彼らは、童市場に坐し、たがひに呼びて「われら汝らの爲に笛吹きたれど、汝ら躍らず。歎きたれど、汝ら泣かざりき」と云ふに似たり。33それはバプテスマのヨハネ來りて、パンをも食はず葡萄酒をも飲まねば、「惡鬼に憑かれたる者なり」と汝ら言ひ、34人の子きたりて飲食すれば「視よ、食を貪り、酒を好む人、また取税人・罪人の友なり」と汝ら言ふなり。35されど智慧は己が凡ての子によりて正しとせらる』36ここに或パリサイ人ともに食せん事をイエスに請ひたれば、パリサイ人の家に入りて、席につき給ふ。37視よ、この町に罪ある一人の女あり。イエスのパリサイ人の家にて食事の席にお給ふを知り、香油の入りたる石膏の壺を持ちきたり、38泣きつつ御足近く後にたち、涙にて御足をうるほし、頭の髪にて之を拭ひ、また御足に接吻して香油を抹れり。39イエスを招きたるパリサイ人これを見て、心のうちに言ふ『この人もし預言者ならば、觸る者の誰、如何なる女なるかを知らん、彼は罪人なるに』40イエス答へて言ひ給ふ『シモン、我なんぢに言ふことあり』シモンいふ『師よ、言ひたまへ』41『或債主に二人の負債者ありて、一人はデナリ五百、一人は五十の負債せしに、42債ひかたなければ、債主の二人を共に免せり。されば二人のうち債主を愛すること孰か多き』43シモン

答へて言ふ『われ思ふに、多く免されたる者ならん』イエス言ひ給ふ『なんぢの判断は當れり』44かくて女の方に振向きシモンに言ひ給ふ『この女を見るか。我なんぢの家に入りしに、なんぢは我に足の水を與へず、此の女は涙にて我足を濡し、頭髮にて拭へり。45なんぢは我に接吻せず、此の女は我が入りし時より、我が足に接吻して止まず。46なんぢは我が頭に油を抹らず、此の女は我が足に香油を抹れり。47この故に我なんぢに告ぐ、この女の多くの罪は赦されたり。その愛すること大なればなり。赦さるる事の少き者は、その愛する事もまた少し』48遂に女に言ひ給ふ『なんぢの罪は赦されたり』49同席の者ども心の内に『罪をも赦す此の人は誰なるか』と言ひ出づ。50ここにイエス女に言ひ給ふ『なんぢの信仰なんぢを救へり、安らかに往け』

Chapter 8

1この後イエス教を宣へ、神の國の福音を傳へつつ、町々村々を廻り給ひしに、十二弟子も伴ふ。2また前に惡しき靈を逐ひ出され、病を醫されなどせし女たち、即ち七つの惡鬼のいでしマガラダと呼ばれるマリヤ、3ヘロデの家司クエラの妻ヨハンナ及びスザンナ、此の他にも多くの女ともなひみて、其の財産をもて彼らに事へたり。4大なる群衆むらがり、町々の人もみに寄り集むれば、警をもて言ひたまふ、5『種播く者その種を播かんとて出づ。播くとき路の傍らに落ちし種あり、踏みつけられ、また空の鳥これを啄む。6岩の上に落ちし種あり、生え出でたれど潤澤なきによりて枯る。7茨のてに落ちし種あり、茨も共に生え出でて之を塞く。8良き地に落ちし種あり、生え出でて百倍の實を結べり』これらの事を言ひて呼はり給ふ『きく耳ある者は聽くべし』9弟子たち此の譬の如何なる意なるかを問ひたるに、10イエス言ひ給ふ『なんぢらは神の國の奧義を知ることを許されたれど、他の者は譬にてせらる。彼らの見て見ず、聞きて悟らぬ爲なり。11譬の意は是なり。種は神の言なり。12路の傍らなるは、聽きたるのち、惡魔きたり、信じて救はるる事のなからんために、御言をその心より奪ふ所の人なり。13岩の上なるは、聽きて御言を喜び受くれども、根なければ、暫く信じて嘗試のときに退く所の人なり。14茨の中に落ちしは、聽きてのち過ぐるほどに、世の心勞と財貨と快樂とに塞がれて賣らぬ所の人なり。15良き地なるは、御言を聽き、正しく善き心にて之を守り、忍びて實を結ぶ所の人なり。16誰も燈火をともし器にて覆ひ、または寢臺の下におく者なし、入り來る者のその光を見んために、之を燈臺の上に置くなり。17それ隠れたるものの顯れぬはなく、秘めたるものの知られぬはなく、

明かにならぬはなし。18 されば汝ら聴くこと如何にと心せよ、誰にても有てる人はなほ與へられ、有たぬ人はその有てりと思ふ物をも取るべし。19 さてイエスの母と兄弟と来りたれど、群衆によりて近づくこと能はず。20 或人イエスに『なんぢの母と兄弟と、汝に逢はんとて外に立つ』と告げられたれば、21 答へて言ひたまふ『わが母が兄弟は、神の言を聴き、かつ行ふ此らの者なり。』22 或日イエス弟子たちと共に舟に乗りて『みづうみの彼方にゆかん』と言ひ給へば、乃ち船出す。23 渡るほどにイエス眠りたまふ。颯風みづうみに吹き下し、舟に水満ちんとて危かりしかば、24 弟子たち御側により、呼び起して言ふ『君よ、君よ、我らは亡ぶ』イエス起きて風と浪とを禁め給へば、ともに鎮りて風となりぬ。25 かくて弟子たちに言ひ給ふ『なんぢらの信仰いづこに在るか』かれら懼れ怪しみて互に言ふ『こは誰ぞ』風と水とに命じ給へば順ふとは。26 遂にガラヤに對へるゲラセネ人の地に著く。27 陸に上りたまふ時、その町の人にて惡鬼に憑かれたる者きたり遇ふ。この人は久しきあひだ衣を著ず、また家に住まずして墓の中にあたり。28 イエスを見てさけび、御前に平伏して大聲にいふ『至高き神の子イエスよ、我は汝と何の關係あらん、願はくは我を苦しめ給ふな』29 これはイエス穢れし靈に、この人より出て往かんことを命じ給ひしに因る。この人けがれし靈にしばしば拘へられ、鏈と足械とにて繋ぎ守られたれど、その繋をやぶり、惡鬼に逐はれて荒野に往けり。30 イエス之に『なんぢの名は何か』と問ひ給へば『レギオン』と答ふ、多くの惡鬼その中に入りたる故なり。31 彼らイエスに、底なき所に往くを命じ給はざらんことを請ふ。32 彼處の山に、多くの豚の一群、食し居たりしが、惡鬼ども其の豚に入るを許し給はんことを請ひたれば、イエス許し給ふ。33 惡鬼、人を出でて豚に入りたれば、その群、崖より湖水に駆け下りて溺れたり。34 飼ふ者ども此の起りし事を見て、逃げ往きて、町にも里にも告げられたれば、35 人々ありし事を見んとて出で、イエスに來りて、惡鬼の出でたる人の、衣服をつけ慥なる心にて、イエスの足下に坐しをるを見て懼れあへり。36 かの惡鬼に憑かれたる人の救はれし事柄を見し者ども、之を彼らに告げられたれば、37 ゲラセネ地方の民衆、みなイエスに出で去り給はんことを請ふ。これ大に懼れたるなり。ここにイエス舟に乗りて歸り給ふ。38 時に惡鬼の出でたる人、ともに在らんことを願ひたれど、之を去らしめんとて、39 言ひ給ふ『なんぢの家に歸りて、神が如何に大なる事を汝になし給ひしかを具に告げよ』彼ゆきて、イエスの如何に大なる事を己になし給ひしかを、徧くその町に言ひ弘めたり。40 かくてイエスの歸り給ひしとき、群衆これを迎ふ、みな待ちあたるなり。41 視よ、會堂司にてヤイロといふ者あ

り、來りてイエスの足下に伏し、その家にきたり給はんことを願ふ。42 おほよそ十二歳ほどの一人娘ありて、死ぬばかりなる故なり。イエスの往き給ふとき、群衆がかみ塞がる。43 ここに十二年このかた血漏を患ひて、醫者の爲に己が身代をことごとく費したれども、誰にも癒され得ざりし女あり。44 イエスの後に來りて、御衣の總にさはりたれば、血の出づること立刻に止みたり。45 イエス言ひ給ふ『我に觸りしは誰ぞ』人みな否みたれば、ペテロ及び共にをる者ども言ふ『君よ、群衆なんぢを圍みて押迫るなり』46 イエス言ひ給ふ『われに觸りし者あり、能力の我より出でたるを知る』47 女おのれが隠れ得ぬことを知り、戦き來りて御前に平伏し、觸りし故と立刻に癒えたる事を、人々の前にて告ぐ。48 イエス言ひ給ふ『むすめよ、汝の信仰なんぢを救へり、安らかに往け』49 かく語り給ふほどに、會堂司の家より人きたりて言ふ『なんぢの娘は早や死にたり、師を煩はすな』50 イエス之を聞きて會堂司に答へたまふ『懼るな、ただ信ぜよ。さらば娘は救はれん』51 イエス家に到りて、ペテロ、ヨハネ、ヤコブ及び子の父母の他は、ともに入ることを誰にも許し給はず。52 人みな泣き、かつ子のために歎き居たりしが、イエス言ひたまふ『泣くな、死にたるにあらず、寝ねたるなり』53 人々その死にたるを知らば、イエスを嘲笑ふ。54 然るにイエスの手をとり、呼びて『子よ、起きよ』と言ひ給へば、55 その靈かへりて立刻に起く。イエス食物を之に與ふることを命じ給ふ。56 その兩親おどろきたり。イエス此の有りし事を誰にも語りぬやうに命じ給ふ。

Chapter 9

1 イエス十二弟子を召し寄せて、もろもろの惡鬼を制し、病をいやす能力と權威とを與へ、2 また神の國を宣傳へしめ、人を醫さしむる爲に、之を遣さんとて言ひ給ふ、3 『旅のために何をも持たず、杖も袋も糧も銀も、また二つの下衣をも持たず。4 いづれの家に入るとも、其處に留れ、而して其處より立ち去れ。5 人もし汝らを受けずば、その町を立ち去るとき、證のために足の塵を拂へ』6 ここに弟子たち出でて村々を歴巡り、あまねく福音を宣傳へ、醫すことを爲せり。7 さて國守ヘロデ、ありし凡ての事をききて周章てまどふ。或人はヨハネ死人の中より甦へりたりといひ、8 或人はエリヤ現れたりといひ、また或人は、古への預言者の一人よみがへりたりと言へばなり。9 ヘロデ言ふ『ヨハネは我すきで首斬りたり、然るに斯かる事さきゆゆる此の人は誰なるか』かくてイエスを見んことを求めたり。10 使徒たち歸りきて、其の爲しし事を具にイエスに告ぐ。イエス彼らを携へて竊にベツサイ

ダといふ町に退きたまふ。11 されど群衆これを知りて従ひ來りたれば、彼らを接けて、神の國の事を語り、かつ治療を要する人々を醫したまふ。12 傾きたれば、十二弟子きたりて言ふ『群衆を去らしめ、周圍の村また里にゆき、宿をとりて食物を求めさせ給へ。我らは斯かる寂しき所に居るなり』13 イエス言ひ給ふ『なんぢら食物を與へよ』弟子たち言ふ『我らただ五つのパンと二つの魚とあるのみ、此の多くの人のために、往きて買はねば他に食物なし』14 男おほよそ五千人あたればなり。イエス弟子たちに言ひたまふ『人々を組にして五、十人づつ坐せしめよ』15 彼等その如くして、人々をみな坐せしむ。16 かくてイエス五つのパンと二つの魚とを取り、天を仰ぎて祝し、撃きて弟子たちに付し、群衆のまへに置かしめ給ふ。17 彼らは食ひて皆飽く。撃きたる餘を集めしに十二筐ほどありき。18 イエス人々を離れて祈り居給ふとき、弟子たち偕にをりにしに、問ひて言ひたまふ『群衆は我を誰といふか』19 答へて言ふ『パテスマのヨハネ、或人はエリヤ、或人は古への預言者の一人よみがへりたりと言ふ』20 イエス言ひ給ふ『なんぢらは我を誰と言ふか』ペテロ答へて言ふ『神のキリストなり』21 イエス彼らを戒めて、之を誰にも告げぬやうに命じ、かつ言ひ給ふ『22 人の子は必ず多くの苦難をうけ、長老・祭司長・學者らに棄てられ、かつ殺され、三日めに甦へるべし』23 また一同の者に言ひたまふ『人もし我に従ひ來らんとせば、己をすて、日々おのが十字架を負ひて我に従へ。24 己が生命を救はんと思ふ者は之を失ひ、我がために己が生命を失ふその人は之を救はん。25 人、全世界を贏くとも、己をうしなひ己を損せば、何の益あらんや。26 我と我が言とを恥づる者をば、人の子もまた、己と父と聖なる御使たちとの榮光をもて來らん時に恥づべし。27 われ實をもて汝らに告ぐ、此處に立つ者のうちに、神の國を見るまでは死を味はぬ者どもあり』28 これらの言をいひ給ひしの日ばかり過ぎて、ペテロ、ヨハネ、ヤコブを率きつれ、祈らんとて山に登り給ふ。29 かくて祈り給ふほどに、御顔の状かはり、其の衣白くなりて輝けり。30 視よ、二人の人ありてイエスと共に語る。これはモーセとエリヤとにて、31 榮光のうちに現れ、イエスのエルサレムにて遂げんとする逝去のことを言ひみたるなり。32 ペテロ及び共にをる者いたく睡氣ざしたれど、目を覺してイエスの榮光および偕に立つ二人を見たり。33 二人の者イエスと別れんとする時、ペテロ、イエスに言ふ『君よ、我らの此處に居るは善し、我ら三つの廬を造り、一つを汝のため、一つをモーセのため、一つをエリヤの爲にせん』彼は言ふ所を知らざりき。34 この事を言ひ居るほどに、雲おこりて彼らを覆ふ。雲の中に入りしとき、弟子たち懼れたり。35 雲より聲出でて言ふ

『これは我が選びたる子なり、汝ら之に聴け』36 聲出でしとき、唯イエスひとり見え給ふ。弟子たち黙して、見し事を何一つ其の頃たれにも告げざりき。37 次の日、山より下りたるに、大なる群衆イエスを迎ふ。38 視よ、群衆のうちの或人さけびて言ふ『師よ、願はくは我が子を顧みたまへ、之は我が獨子なり。39 視よ、靈の憑くときは俄に叫ぶ、痲瘳けて沫をふかせ、甚く害ひ、漸くにして離るるなり。40 御弟子たちに之を逐ひ出すことを請ひたれど、能はざりき』41 イエス答へて言ひ給ふ『ああ信なき曲れる代なる哉、われ何時まで汝らと偕にをりて、汝らを忍ばん。汝の子をここに連れ來れ』42 乃ち來るとき、惡鬼これを打ち倒し、甚く痲瘳けさせたり。イエス穢れし靈を禁め、子を醫して、その父に付したまふ。43 人々みな神の稜威に驚きあへり。人々みなイエスの爲し給ひし凡ての事を怪しめる時、イエス弟子たちに言ひ給ふ、44 『これらの言を汝らの耳にをさめよ。人の子は人々の手に付さるべし』45 かれら此の言を悟らず、辨へぬやうに隠されたるなり。また此の言につきて問ふことを懼れたり。46 ここに弟子たちの中に、誰か大ならんとする論おこりたれば、47 イエスその心の争論を知りて、幼兒をとり御側に置いて言ひ給ふ、48 『おほよそ我が名のために此の幼兒を受くる者は、我を受くるなり。我を受くる者は、我を遣しし者を受くるなり。汝らの中に最も小き者は、これ大なるなり』49 ヨハネ答へて言ふ『君よ、御名によりて惡鬼を逐ひいだす者を見しが、我等とともに従はぬ故に、之を止めたり』50 イエス言ひ給ふ『止むな。汝らに逆はぬ者は、汝らに附く者なり』51 イエス天に擧げらるる時満ちんとしたれば、御顔を堅くエルサレムに向けて進まんとし、52 己に先だちて使を遣したまふ。彼ら往きてイエスの爲に備をなさんとて、サマリヤ人の或村に入りしに、53 村人そのエルサレムに向ひて往き給ふさまなるが故に、イエスを受けず、54 弟子のヤコブ、ヨハネ、これを見て言ふ『主よ、我らが天より火を呼び下して彼らを滅すことを欲し給ふか』55 イエス顧みて彼らを戒め、56 遂に相共に他の村に往きたまふ。57 途を往くとき、或人イエスに言ふ『何處に往き給ふとも我は従はん』58 イエス言ひたまふ『狐は穴あり、空の鳥は罅あり、されど人の子は枕する所なし』59 また或人に言ひたまふ『我に従へ』かれ言ふ『まづ往きて我が父を葬ることを許し給へ』60 イエス言ひたまふ『死にたる者に、その死にたる者を葬らせ、汝は往きて神の國を言ひ弘めよ』61 また或人いふ『主よ、我なんぢに従はん、されど先づ家の者に別を告ぐことを許し給へ』62 イエス言ひたまふ『手を鋤につけてのち後を顧みる者は、神の國に通ふ者にあらず』

Chapter 10

十 1この事ののち、主、ほかに七十人をあげて、自ら往かんとする町々處々へ、おのれに先だち二人づつを遣さんとして言ひ給ふ、2『收穫はおほく、労働人は少し。この故に收穫の主、労働人をその收穫場に遣し給はんことを求めよ。3往け、視よ、我なんぢらを遣すは、羔羊を豺狼のなかに入るが如し。4財布も袋も鞋も携ふな。また途にて誰にも挨拶すな。5孰の家に入るとも、先づ平安の歌にあれと言へ。6もし平安の子に居らば、汝らの祝する平安はその上に留らん。もし然らずば、其の平安は汝らに歸らん。7その家にとどまりて、與ふる物を食ひ飲ませよ。労働人のその値を得るは相應しきなり。家より家に移るな。8孰の町に入るとも、人々なんぢらを受けなば、汝らの前に供ふる物を食し、9其處にをる病のものを醫し、また「神の國は汝らに近づけり」と言へ。10孰の町に入るとも、人々なんぢらを受けずば、大路に出て、11「我らの足につきたる汝らの町の塵をも、汝らに對して拂ひ棄つ、されど神の國の近づけるを知れ」と言へ。12われ汝らに告ぐ、かの日にはソドムの方その町よりも耐へ易からん。13禍害なる哉、コラジンよ、禍害なる哉、ベツサイダよ、汝らの中にて行ひたる能力ある業を、ツロとシドンとにて行ひしならば、彼らは早く荒布をき、灰のなかに坐して、悔改めしならん。14されば審判は、ツロとシドンとのかた汝等よりも耐へ易からん。15カペナウムよ、汝は天にまで擧げらるべきか、黄泉にまで下らん。16汝等に聽く者は我に聽くなり、汝ら棄つる者は我を棄つるなり。我を棄つる者は我を遣し給ひし者を棄つるなり』17七十人よるこび歸りて言ふ『主よ、汝の名によりて惡鬼すら我らに服す』18イエス彼らに言ひ給ふ『われ天より閃く電光のごとくサタンの落ちしを見た。19視よ、われ汝らに蛇・蠍を踏み、仇の凡ての力を抑ふる權威を授けたれば、汝ら害ふもの斷えてなからん。20されど靈の汝らに服するを喜ぶな、汝らの名の天に録されたるを喜べ』21その時イエス聖靈により喜びて言ひたまふ『天地の主なる父よ、われ感謝す、此等のことを智きもの慧き者に隠して、嬰兒に顯したまへり。父よ、然り、此のごときは御意に適へるなり。22凡ての物は我わが父より委ねられたり。子の誰なるを知る者は、父の外になく、父の誰なるを知る者は、子また子の欲するままに顯すところの者の外になし』23かくて弟子たちを顧み竊に言ひ給ふ『なんぢらを見る所を見る眼は幸福なり。24われ汝らに告ぐ、多くの預言者も、王も、汝らの見るところを見んと欲したれど見ず、汝らの聞く所を聞かんと欲したれど聞かざりき』25視よ、或教師師、立ちてイエスを試

みて言ふ『師よ、われ永遠の生命を嗣ぐためには何をなすべきか』26イエス言ひたまふ『律法に何と録したるか、汝いかに讀むか』27答へて言ふ『なんぢ心を盡し精神を盡し、力を盡し、思を盡して、主たる汝の神を愛すべし。また己のごとく汝の隣を愛すべし』28イエス言ひ給ふ『なんぢの答は正し。之を行へ、さらば生くべし』29彼おのれを義とせんとしイエスに言ふ『わが隣とは誰なるか』30イエス答へて言ひたまふ『或人エルサレムよりエリコに下るとき強盜にあひしが、強盜どもその衣を剥ぎ、傷を負はせ、半死半生にして棄て去りぬ。31或祭司たまたま此の途より下り、之を見てかなたを過ぎ往けり。32又レビ人も此處にきたり、之を見て同じく彼方を過ぎ往けり33然るに或るサマリヤ人、旅して其の許にきたり、之を見て憫み、34近寄りて油と葡萄酒とを注ぎ、傷を包みて己が畜にのせ、旅先に連れゆきて介抱し、35あくる日デナリ二つを出し、主人に與へて「この人を介抱せよ。費もし増さば、我が歸りくる時に償はん」と言へり。36汝いかに思ふか、此の三人のうち、孰か強盜にあひし者の隣となりし乎』37かれ言ふ『その人に憐憫を施したる者なり』イエス言ひ給ふ『なんぢも往きて其の如くせよ』38かくて彼ら進みゆく間に、イエス或村に入り給へば、マルタと名づくる女おのが家に迎へ入る。39その姉妹にマリヤといふ者ありて、イエスの足下に坐し、御言を聽きをりしが、40マルタ響應のこと多くして心いりみだれ、御許に進みよりて言ふ『主よ、わが姉妹われを一人のこして働かせるを、何とも思ひ給はぬか、彼に命じて我を助けしめ給へ』41主、答へて言ひ給ふ『マルタよ、マルタよ、汝さまざまの事により、思ひ煩ひて心勞す。42されど無くてならぬものは多からず、唯一つのみ、マリヤは善きかたを選びたり。此は彼より奪ふべからざるものなり』

Chapter 11

1イエス或處にて祈り居給ひしが、その終りしとき、弟子の一人いふ『主よ、ヨハネの其の弟子に教へし如く、祈ることを我らに教へ給へ』2イエス言ひ給ふ『なんぢら祈るときに斯く言へ「父よ、願はくは御名の崇められん事を。御國の來らん事を。3我らの日用の糧を日毎に與へ給へ。4我らに負債ある凡ての者を我ら免せば、我らの罪をも免し給へ。我らを嘗試にあはせ給ふな』5また言ひ給ふ『なんぢらの中たれか友あらんに、夜半にその許に往きて「友よ、我に三つのパンを貸せ。6わが友、旅より來りしに、之に供ふべき物なし」と言ふ時に、7かれ内より答へて「われを煩はすな、戸ははや閉ぢ、子らは我と共に臥所にあり、起ちて與へ難し」といふ事ありとも、8われ汝らに告ぐ、友なるに

よりては起ちて與へねど、求の切なるにより、起きて其の要する程のものを與へん。9われ汝らに告ぐ、求めよ、さらば與へられん。尋ねよ、さらば見出さん。門を叩け、さらば開かれん。10すべて求むる者は得、尋ねる者は見出し、門を叩く者は開かるなり。11汝等のうち父たる者、たれか其の子魚を求めんに、魚の代に蛇を與へ、12卵を求めんに蠍を與へんや。13さらば汝ら惡しき者ながら、善き賜物をその子らに與ふるを知る。まして天の父は、求むる者に聖靈を賜はざらんや』14さてイエス唾の惡鬼を逐ひだし給へば、惡鬼いでて唾もの言ひしにより、群衆あやめり。15其の中の或者ども言ふ『かれは惡鬼の首ベルゼブルによりて惡鬼を逐ひ出すなり』16また或者どもは、イエスを試みんとて天よりの徴を求む。17イエスその思を知りて言ひ給ふ『すべて分れ争ふ國は亡び、分れ争ふ家は倒る。18サタンもし分れ争はば、その國いかで立つべき。汝等わが惡鬼を逐ひ出すを、ベルゼブルに由ると言へばなり。19我もしベルゼブルによりて惡鬼を逐ひ出さば、汝らの子は誰によりて之を逐ひ出すか。この故に彼らは汝らの審判人ととなるべし。20されど我もし神の指によりて惡鬼を逐ひ出さば、神の國は既に汝らに到れるなり。21強きもの武具をよるひて己が屋敷を守るときは、其の所有安全なり。22されど更に強きもの來りて之に勝つときは、恃とする武具をことごとく奪ひて、分捕物を分たん。23我と偕ならぬ者は我にそむき、我と共に集めぬ者は散すなり。24穢れし靈、人を出づる時は、水なき處を巡りて休を求む。されど得ずして言ふ「わが出でし家に歸らん」25歸りて其の家の掃き浄められ、飾られたるを見、26遂に住きて己よりも惡しき他の七つの靈を連れきたり、共に入りて此處に住む。さればその人の後の状は、前よりも惡くなるなり』27此等のことを言ひ給ふとき、群衆の中より或女、聲をあげて言ふ『幸福なるかな、汝を宿しし胎、なんぢの嘔ひし乳房は』28イエス言ひたまふ『更に幸福なるかな、神の言を聽きて之を守る人は』29群衆おし集れる時、イエス言ひ出でたまふ『今の世は邪曲なる代にして徴を求む。されどヨナの徴のほかには徴は與へられじ。30ヨナがニネベの人に徴となりし如く、人の子もまた今の代に然らん。31南の女王、審判のとき、今の代の人と共に起きて之が罪を定めん。彼はソロモンの智慧を聽かんとて地の極より來れり。視よ、ソロモンよりも勝るもの此處にあり。32ニネベの人、審判のとき、今の代の人と共に立ちて之が罪を定めん。彼らはヨナの宣ぶる言によりて悔改めたり。視よ、ヨナよりも勝るもの此處に在り。33誰も燈火をともして、穴藏の中または升の下におく者なし。入り來る者の光を見んために、燈臺の上に置くなり。34

汝の身の燈火は目なり、汝の目正しき時は、全身明るからん。されど惡しき時は、身もまた暗からん。35この故に汝の内の光、闇にはあらぬか、省みよ。36もし汝の全身明るくして暗き所なくば、輝ける燈火に照さるる如く、その身全く明るからん』37イエスの語り給へるとき、或パリサイ人その家にて食事し給はん事を請ひたれば、入りて席に著きたまふ。38食事前に手を洗ひ給はぬを、此のパリサイ人見て怪しみたれば、39主これに言ひたまふ『今や汝らパリサイ人は、酒杯と盆との外を潔くす、されど汝らの内は貪慾と惡とにて滿つるなり。40愚なる者よ、外を造りし者は、内をも造りしならずや。41唯その内にある物を施せ。さらば一切の物なんぢらの爲に潔くなるなり。42禍害なるかな、パリサイ人よ、汝らは薄荷・芸香その他あらゆる野菜の十分の一を納めて、公平と神に對する愛とを等閑にす、されど之は行ふべきものなり。而して彼もまた等閑にすべきものならず。43禍害なるかな、パリサイ人よ、汝らは會堂の上座、市場にての敬禮を喜ぶ。44禍害なるかな、汝らは露れぬ墓のごとし。其の上を歩む人これを知らぬなり』45教師師の一人、答へて言ふ『師よ、斯かることを言ふは、我らをも辱しむるなり』46イエス言ひ給ふ『なんぢら教師師も禍害なる哉。なんぢら擔ひ難き荷を人に負せて、自ら指一つに其の荷につけぬなり。47禍害なるかな、汝らは預言者たちの墓を建つ、之を殺しし者は汝らの先祖なり。48げに汝らは先祖の所作を可しとする證人ぞ。それは彼らは之を殺し、汝らはその墓を建つればなり。49この故に神の智慧いへる言あり、われ預言者と使徒とを彼らに遣さん、その中の或者を殺し、また逐ひ苦しめん。50世の創り流されたる凡ての預言者の血、51即ちアベルの血より、祭壇と聖所との間に殺せられたるザカリヤの血に至るまでを、今の代に糺すべきなり。然り、われ汝らに告ぐ、今の代は糺さるべし。52禍害なるかな教師師よ、なんぢらは知識の鍵を取り去りて自ら入らず、いらんとする人をも止めしなり』53此處より出で給へば、學者・パリサイ人ら烈しく詰め寄せ、様々のことを詰りはじめ、54その口より何事かを捉へんと待構へたり。

Chapter 12

1その時、無数の人あつまりて、群衆おみ合ふばかりなり。イエスマづ弟子たちに言ひ出で給ふ『なんぢら、パリサイ人のパンだねに心せよ、これ偽善なり。2蔽はれたるものに露れぬはなく、隠れたるものに知らぬはなし。3この故に汝らが暗きにて言ふことは、明るきにて聞え、部屋の内にて耳によりて語りしことは、屋の上にて宣べらるべし。4我が友たる汝らに告ぐ。身を殺し

て後に何をも爲し得ぬ者どもを懼るな。5 懼るべきものを汝らに示さん。殺したる後ゲヘナに投げ入るる權威ある者を懼れよ。われ汝らに告ぐ、げに之を懼れよ。6 五羽の雀は二錢にて賣るにあらずや、然るに其の一羽だに神の前に忘れらるる事なし。7 汝らの頭の髪までもみな數へらる。懼るな、汝らは多くの雀よりも優るなり。8 われ汝らに告ぐ、凡そ人の前に我を言ひあらはす者を、人の子もまた神の使たちの前にて言ひあらはさん。9 されど人の前にて我を否む者は、神の使たちの前にて否まれん。10 凡そ言をもて人の子に逆ぶ者は赦されん。されど聖靈を潰すものは赦されじ。11 人なんぢらに會堂、或は司、あるひは權威ある者の前に引きゆかん時、いかに何を答へ、または何を言はんと思ひ煩ふな。12 聖靈そのとき言ふべきことを教へ給はん。13 群衆のうちの或人いふ『師よ、わが兄弟に命じて、嗣業を我に分たしめ給へ』14 之に言ひたまふ『人よ、誰が我を立てて汝らの裁判人また分配者とせしぞ』15 かくて人々に言ひたまふ『慎みて凡ての慳貪をふせげ、人の生命は所有の豊なるには因らぬなり。16 また譬を語りて言ひ給ふ『ある富める人、その畑豊に實りたれば、17 心の中に議りて言ふ「われ如何にせん、我が作物を藏めおく處なし」18 遂に言ふ「われ斯く爲さん、わが倉を毀ち、更に大なるものを建てて、其處にわが穀物および善き物をことごとく藏めん。19 かくてわが靈魂に言はん、靈魂よ、多年を過すに足る多くの善き物を貯へたれば、安んぜよ、飲食せよ、樂しめよ」20 然るに神かれに「愚なる者よ、今宵なんぢの靈魂とらるべし、さらば汝の備へたる物は、誰がものとなるべきぞ」と言ひ給へり。21 己のために財を貯へ、神に對して富まぬ者は斯くのごとし』22 また弟子たちに言ひ給ふ『この故にわれ汝らに告ぐ、何を食はんと生命のことを思ひ煩ひ、何を著んと體のことを思ひ煩ふな。23 生命は糧にまさり、體は衣に勝るなり。24 鵜を思ひ見よ、播かず、刈らず、納屋も倉もなし。然るに神は之を養ひたまふ、汝ら鳥に優ること幾許ぞや。25 汝らの中たれか思ひ煩ひて、身の長一尺を加へ得んや。26 されば最小き事すら能はぬに、何ぞ他のことを思ひ煩ふか。27 百合を思ひ見よ、紡がず、織らざるなり。されど我なんぢらに告ぐ、榮華を極めたるソロモンだに、其の服装この花の一つにも及がざりき。28 今日ありて、明日爐に投げ入れらるる野の草をも、神は斯く裝ひ給へば、況て汝らをや、ああ信仰仰すべきよ、29 なんぢら何を食べ何を飲まん」と求むな、また心を動かすな。30 是みな世の異邦人の切に求むる所なれど、汝らの父は、此等の物のなんぢらに必要なるを知り給へばなり。31 ただ父の御國を求めよ。さらば此等の物は、なんぢらに加へらるべし。

32 懼るな、小き群よ、なんぢらに御國を賜ふことは、汝らの父の御意なり。33 汝らの所有を賣りて施濟をなせ。己がために舊びぬ財布をつくり、盡きぬ財寶を天に貯へよ。かしこは盗人も近づかず、蟲も壞らぬなり。34 汝らの財寶のある所には、汝らの心もあるべし。35 なんぢら腰に帶し、燈火をともし居れ。36 主人、婚筵より歸り來りて戸を叩かば、直ちに開くために待つ人のごとくなれ。37 主人の來るとき、目を覺しをるを見らるる僕どもは幸福なるかな。われ誠に汝らに告ぐ、主人帶して其の僕どもを食事の席に就かせ、進みて給仕すべし。38 主人、夜の半ごろ若くは夜の明るる頃に来るとも、かくの如くなるを見らるる僕どもは幸福なり。39 なんぢら之を知れ、家主もし盗人いづれの時來るかを知らば、その家を穿たすまじ。40 汝らも備へをれ。人の子は思はぬ時に來ればなり。41 ペテロ言ふ『主よ、この譬を言ひ給はんは我らにか、また凡ての人に』42 主いひ給ふ『主人が時に及びて僕どもに定の糧を與へさする爲に、その僕どもの上に立つる忠實にして慧き支配人は誰なるか、43 主人のきたる時、かく爲し居るを見らるる僕は幸福なるかな。44 われ實をもて汝らに告ぐ、主人すべての所有を彼に掌どらすべし。45 若しその僕、心のうちに、主人の來るは遅しと思ひ、僕・婢女をたたき、飲食して酔ひ給めば、46 その僕の主人、おもはぬ日知らぬ時に來りて、之を烈しく答うち、その報を不忠者と同じうせん。47 主人の意を知りながら用意せず、又その意に従はぬ僕は、答うたること多からん。48 されど知らずして打たるべき事をなす者は、答うたること少からん。多く與へらるる者は、多く求められん。多く人に托くれれば、更に多くその人より請ひ求むべし。49 我は火を地に投ぜんとて來れり。此の火すでに燃えたらんには、我また何をか望まん。50 されど我には受くべきバプテスマあり。その成し遂げらるるまでは、思ひ煩ること如何ばかりぞや。51 われ地に平和を與へんために來ると思ふか。われ汝らに告ぐ、然らず、反つて分爭なり。52 今よりのち一家に五人あらば、三人は二人に、二人は三人に分れ争はん。53 父は子に、子は父に、母は娘に、娘は母に、姑母は嫁に、嫁は姑母に分れ争はん』54 イエスマた群衆に言ひ給ふ『なんぢら雲の西より起るを見れば、直ちに言ふ「急雨きたらん」と、果して然り。55 また南風ふけば、汝等いふ「強き暑あらん」と、果して然り。56 僞善者よ、汝ら天地の氣色を辨ふことを知りて、今の時を辨ふること能はぬは何ぞや。57 また何故みづから正しき事を定めぬか。58 なんぢ訴ふる者とともに司に往くとき、途にて和解せんことを力めよ。恐らくは訴ふる者なんぢを審判人に引きゆき、審判人なんぢを下役にわたし、下役なんぢを獄に投げ入れん。59 われ汝に告ぐ、一レプタ

も残りなく償はずば、其處に出づること能はじ』

Chapter 13

1 その折しも或人々きたりて、ピラトがガリラヤ人らの血を彼らの犠牲にまじへたりし事をイエスに告げられたば、2 答へて言ひ給ふ『かのガリラヤ人は斯かることに遭ひたる故に、凡てのガリラヤ人に勝れる罪人なりしと思ふか。3 われ汝らに告ぐ、然らず、汝らも悔改めずば皆おなじく亡ぶべし。4 又シロアムの槽たふれて、壓し殺されし十八人は、エルサレムに住める凡ての人に勝りて、罪の負債ある者なりしと思ふか。5 われ汝らに告ぐ、然らず、汝らも悔改めずば、みな斯くのごとく亡ぶべし。6 又この譬を語りたまふ『或人おのが葡萄園に植桑ありし無花果の樹に來りて、果を求むれども得ずして、7 園丁に言ふ「視よ、われ三年きたりて此の無花果の樹に果を求むれども得ず。これを伐り倒せ、何ぞ徒らに地を塞ぐか」8 答へて言ふ「主よ、今年も容したまへ、我その周圍を掘りて肥料せん。9 そののち果を結ばば善し、もし結ばずば伐り倒したまへ』10 イエス安息日に或會堂にて教えたまふ時、11 視よ、十八年のあだ病の靈に憑かれたる女あり、屈まりて少しも伸ぶること能はず。12 イエスこの女を見、呼び寄せて『女よ、なんぢは病より解かれたり』と言ひ、13 之に手を按きたまへば、立刻に身を直にして神を崇めたり。14 會堂司イエスの安息日に病を醫し給ひしことを憤り、答へて群衆に言ふ『働くべき日は六日あり、その間に來りて醫されよ。安息日には爲され』15 主こたへて言ひたまふ『僞善者らよ、汝等おのの安息日には、己が牛または驢馬を小屋より解きだし、水飼はんとて牽き往かぬか。16 さらば長き十八年の間サタンに縛られたるアブラハムの娘なる此の女は、安息日にその繫より解かるべきならずや』17 イエス此等のことを言ひ給へば、逆ぶ者はみな恥ぢ、群衆は擧りてその爲し給へる榮光ある凡ての業を喜び。18 かくてイエス言ひたまふ『神の國は何に似たるか、我これを何に擬へん、19 一粒の芥種のごとし。人これを取りて己の園に播きたれば、育ちて樹となり、空の鳥その枝に宿れり』20 また言ひたまふ『神の國を何に擬へんか、21 パン種のごとし。人これを取りて、三斗の粉の中に入れば、ことごとく脹れいだすなり』22 イエス教へつつ町々村々を過ぎて、エルサレムに旅し給ふとき、23 或人いふ『主よ、救はるる者は少きか』24 イエス人々に言ひたまふ『力盡して狭き門より入れ。我なんぢらに告ぐ、入らん事を求めて入り能はぬ者おほからん。25 家主おきて門を閉ぢたる後、なんぢら外に立ちて「主よ、我らに開き給へ」と言ひ

つつ門を叩き始めんに、主人こたへて「われ汝らが何處の者なるかを知らず」と言はん。26 その時「われらは御前にて飲食し、なんぢは、我らの町の大路にて教へ給へり」と言ひ出でんに、27 主人こたへて「われ汝らが何處の者なるかを知らず、惡をなす者どもよ、皆われを離れ去れ」と言はん。28 汝らアブラハム、イサク、ヤコブ及び凡ての預言者の、神の國に居り、己らの逐ひ出さるるを見、其處にて哀哭・切齒する事あらん。29 また人々、東より西より南より北より來りて、神の國の宴に就くべし。30 視よ、後なる者の先になり、先なる者の後になる事あらん』31 そのとき或パリサイ人らイエスに來りて言ふ『いにて此處を去り給へ、ヘロデ汝を殺さんとす』32 答へて言ひ給ふ『住きてかの狐に言へ。視よ、われ今日明日、惡鬼を逐ひ出し、病を醫し、而して三日めに全うせられん。33 されど今日も明日も次の日も我は進み往くべし。それ預言者のエルサレムの外にて死ぬることは有るまじきなり。34 噫エルサレム、エルサレム、預言者たちを殺し、遣されたる人々を石にて撃つ者よ、牝鷄の己が雛を翼のうちに集むることく、我なんぢの子どもを集めんとせしこ幾度ぞや。されど汝らは好まざりき。35 視よ、汝らの家は棄てられて汝らに遺らん。我なんぢらに告ぐ、「讃むべきかな、主の名によりて來る者」と、汝らの言ふ時の至るまでは、我を見ざるべし』

Chapter 14

1 イエス安息日に食事せんとて、或パリサイ人の頭の家に入り給へば、人々これを窺ふ。2 視よ、御前に水腫をわづらふ人みれば、3 イエス答へて教法師とパリサイ人に言ひたまふ『安息日に人を醫すことは善しや、否や』4 かれら黙然たり。イエスその人を執り、醫して去らしめ、5 且かれらに言ひ給ふ『なんぢらの中の子あるひは其の牛、井に陥らんに、安息日には直ちに之を引揚げぬ者あるか』6 彼等これに對して物言ふこと能はず。7 イエス招かれたる者の上席をえらぶを見、譬をかたりて言ひ給ふ、8 『なんぢ婚筵に招かれるとき、上席に著かん。恐らくは汝より貴き人の招かれんに、9 汝と彼とを招きたる者きたりて「この人に席を譲れ」と言はん。さらば其の時なんぢ恥ぢて末席に往きはじめん。10 招かれるとき、寧ろ往きて末席に著け、さらば招きたる者きたりて「友よ、上に進め」と言はん。その時なんぢ同席の者の前に響あるべし。11 凡そおのれを高うする者は卑うせられ、己を卑うする者は高うせらるるなり』12 また己を招きたる者にも言ひ給ふ『なんぢ晝餐または夕餐を設くるとき、朋友・兄弟・親族・富める隣人などをよぶな。恐らくは彼らも亦なんぢを招きて報をなさん。13 饗宴を設くる時は

、寧ろ貧しき者・不具・跛者・盲人などを招け。14 彼らは報ゆること能はぬ故に、なんぢ幸福なるべし。正しき者の復活の時に報いらるなり。15 同席の者の一人これらの事を聞きてイエスに言ふ『おほよそ神の國にて食する者は幸福なり』16 之に言ひたまふ『或人、盛なる夕餐を設けて、多くの人を招く。17 夕餐の時にたりて、招きおきたる者の許に僕を遣して「來れ、既に備りたり」と言はしめたるに、18 皆ひとしく辭りしむ。初の者いふ「われ田地を買へり。往きて見ざるを得ず。請ふ、許されんことを」19 他の者いふ「われ五疋の牛を買へり、之を驗すために往くなり。請ふ、許されんことを」20 また他も者いふ「われ妻を娶り、此の故に往くこと能はず」21 僕かへりて此等の事をその主人に告ぐ、家主いかりて僕に言ふ「とく町の大路と小路とに往きて、貧しき者・不具者・盲人・跛者などを此處に連れきたれ」22 僕いふ「主よ、仰のごとく爲したれど、尚ほ餘の席あり」23 主人、僕に言ふ「道や籬の邊にゆき、人々を強ひて連れきたり、我が家に充たしめよ。24 われ汝らに告ぐ、かの招きおきたる者のうち、一人だに我が夕餐を味ひ得る者なし」25 さて大なる群衆イエスに伴ひゆきたれば、顧みて之に言ひたまふ、26 『人もし我に來りて、その父母・妻子・兄弟・姉妹・己が生命までも憎まずば、我が弟子となるを得ず。27 また己が十字架を負ひて我に従ふ者ならでは、我が弟子となるを得ず。28 汝らの中たれか櫓を築かんと思はば、先づ坐して其の費をかぞへ、己が所有、竣工までに足るか否かを計らざらんや。29 然らずして基を据ゑ、もし成就すること能はずば、見る者みな嘲笑ひて、30 「この人は築きかけて成就すること能はざりき」と言はん。31 又いづれの王か出でて他の王と戰爭をせんに、先づ坐して、此の一萬人をもて、かの二萬人を率ゐきたる者に對ひ得るか否か籌らざらんや。32 もし及かずば、敵なほ遠く隔るうちに、使を遣して和睦を請ふべし。33 かくのごとく、汝らの中その一切の所有を退くる者ならでは、我が弟子となるを得ず。34 鹽は善きものなり、然れど鹽もし効力を失はば、何によりてか味つけられん。35 土にも肥料にも適せず、外に棄てらるるなり。聽く耳ある者は聽くべし』

Chapter 15

1 取税人、罪人ども、みな御言を聽かんとて近寄りたれば、2 パリサイ人・學者ら呟きて言ふ、『この人は罪人を迎へて食を共にす』3 イエス之に譬を語りて言ひ給ふ、4 『なんぢらの中たれか百匹の羊を有たんに、若その一匹を失はば、九十九匹を野におき、往きて失せたる者を見出すまでは尋ねざらんや。5 遂に見出さば、喜びて之を己が肩にかけ、6 家に歸りて其の友と隣人

とを呼び集めて言はん「我とともに喜び、失せたる我が羊を見出せり」7 われ汝らに告ぐ、かくのごとく悔改む一人の罪人のためには、悔改の必要な九十九人の正しき者にも勝りて、天に歡喜あるべし。8 又いづれの女が銀貨十枚を有たんに、若しその一枚を失はば、燈火をともし、家を掃きて見出すまでは懇ろに尋ねざらんや。9 遂に見出さば、其の友と隣人と呼び集めて言はん、「我とともに喜び、わが失ひたる銀貨を見出せり」10 われ汝らに告ぐ、かくのごとく悔改む一人の罪人のために、神の使たちの前に歡喜あるべし。11 また言ひたまふ『或人に二人の息子あり、12 弟、父に言ふ「父よ、財産のうち我が受くべき分を我にあたへよ」父その身代を二人に分けあたふ。13 幾日も経ぬに、弟おのが物をことごとく集めて、遠國にゆき、其處にて放蕩にその財産を散せり。14 ことごとく費したる後、その國に大なる饑饉おこり、自ら乏しくなり始めたれば、15 往きて其の地の或人に依附りしに、其の人かれを畑に遣して豚を飼はしむ。16 かれ豚の食ふ蝗豆にて、己が腹を充さんと思ふ程なれど、何をも與ふる人なかりき。17 此のとき我に反りて言ふ『わが父の許には食物あまれる雇人いくばくぞや、然るに我は飢餓てこの處に死なんとす。18 起ちて我が父にゆき「父よ、われは天に對し、また汝の前に罪を犯したり。19 今より汝の子と稱へらるるに相應しからず、雇人の一人のごとく爲し給へ」と言はん」20 乃ち起ちて其の父のもとに往く。なほ遠く隔りたるに、父これを見て憫み、走りゆき、其の頸を抱きて接吻せり。21 子、父にいふ「父よ、我は天に對し又なんぢの前に罪を犯したり。今より汝の子と稱へらるるに相應しからず」22 されど父、僕どもに言ふ「とくとく最上の衣を持ち來りて之に著せ、その手に指輪をはめ、其の足に鞋をはかせよ。23 また肥えたる犢を牽ききたりて屠れ、我ら食して楽しまん。24 この我が子、死にて復生き、失せて復得られたり」かくて彼ら樂しみ始む。25 然るに其の兄、畑にありしが、歸りに家に近づきたるとき、音樂と舞蹈との音を聞き、26 僕の一人を呼びてその何事なるかを問ふ。27 答へて言ふ「なんぢの兄弟歸りたり、その善なきを迎へたれば、汝の父肥えたる犢を屠れるなり」28 兄怒りて内に入ることを好まざりしかば、父いでて勧めしに、29 答へて父に言ふ「視よ、我は幾歳もなんぢに仕へて、未だ汝の命令に背きし事なきに、我には小山羊一匹だに與へる友と樂しましめし事なし。30 然るに遊女らと共に、汝の身代を食ひ盡したる此の汝の子歸り來れば、之がために肥えたる犢を屠れり」31 父いふ「子よ、なんぢは常に我とともに在り、わが物は皆なんぢの物なり。32 されど此の汝の兄弟は死にて復

生き、失せて復得られたれば、我らの樂しみ喜ぶは當然なり』

Chapter 16

1 イエスまた弟子たちに言ひ給ふ『或富める人に一人の支配人あり、主人の所有を費しをりて訴へられたれば、2 主人かれを呼びて言ふ「わが汝につきて聞か所は、これ何事ぞ、務の報告をいだし、汝こののち支配人たるを得じ」3 支配人 心のうちに言ふ「如何にせん、主人わが職を奪ふ。われ土 掘るには力なく、物乞ふは恥かし。4 我なすべき事こそ知りたれ、斯く爲ば職を罷めらるるとき、人々その家に我を迎ふるならん」とて、5 主人の負債者を一人一人呼びよせて、初の者に言ふ「なんぢ我が主人より負ふところ何程あるか」6 答へて言ふ「油、百樽」支配人いふ「なんぢの證書をとり、早く坐して五十と書け」7 又ほかの者に言ふ「負ふところ何程あるか」答へて言ふ「麥、百石」支配人いふ「なんぢの證書をとりて八十と書け」8 ここに主人、不義なる支配人の爲し事の巧なるによりて、彼を譽めたり。この世の子らは、己が時代の事には光の子らよりも巧なり。9 われ汝らに告ぐ、不義の富をもて、己がために友をつくれ。さらば富の失する時、その友なんぢらを永遠の住居に迎へん。10 小事に忠なる者は大事にも忠なり。小事に不忠なる者は大事にも不忠なり。11 さらば汝等もし不義の富に忠ならずば、誰か眞の富を汝らに任すべき。12 また汝等もし人のものに忠ならずば、誰か汝等のものを汝らに與ふべき。13 僕は二人の主兼ね事ふること能はず、或は之を憎み彼を愛し、或は之に親しみ彼を輕しむべければなり。汝ら神と富とに兼ね事ふること能はず』14 ここに愨深きパリサイ人ら、この凡ての事を聞きてイエスを嘲笑ふ。15 イエス彼らに言ひ給ふ『なんぢらは人のまへに己を義とする者なり。されど神は汝らの心を知りたまふ。人のなかに尊ばるる者は、神のまへに憎まるる者なり。16 律法と預言者とはヨハネまでなり、その時より神の國は宣傳られ、人みな烈しく攻めて之に入る。17 されど律法の一畫の落つるよりも、天地の過ぎ往くは易し。18 凡てその妻を出して、他に娶る者は、姦淫を行ふなり。また夫より出されたる女を娶る者も、姦淫を行ふなり。19 或富める人あり、紫色の衣と細布とを着て、日々奢り樂しめり。20 又ラザロといふ貧しき者あり、腫物にて腫れただれ、富める人の門に置かれ、21 その食卓より落つる物にて飽かんと思ふ。而して犬ども來りて其の腫物を舐れり。22 遂にこの貧しきもの死に、御使たちに携へられてアブラハムの懷裏に入れり。富める人もまた死にて葬られしが、23 黄泉にて苦惱の中より目を擧げて、遙にアブラハムと其の懷裏にをるラ

ザロとを見る。24 乃ち呼びて言ふ「父アブラハムよ、我を憐みて、ラザロを遣し、その指の先を水に浸して我が舌を冷させ給へ、我はこの焔のなかに悶ゆるなり」25 アブラハム言ふ「子よ、憶へ、なんぢは生ける間なんぢの善き物を受け、ラザロは惡しき物を受けたり。今ここにて彼は慰められ、汝は悶ゆるなり。26 然のみならず、此處より汝らに渡り往かんとすとも得ず、其處より我らに來り得ぬために、我らと汝らとの間に大なる淵定めおかれたり」27 富める人また言ふ「さらば父よ、願はくは我が父の家にラザロを遣したまへ。28 我に五人の兄弟あり、この苦痛のところに來らぬよう、彼らに證せしめ給へ」29 アブラハム言ふ「彼らにはモーセと預言者とあり、之に聽くべし」30 富める人いふ「いな、父アブラハムよ、もし死人の中より彼らに往く者あらば、悔改めん」31 アブラハム言ふ「もしモーセと預言者にと聽かずば、たとひ死人の中より甦へる者ありとも、其の勸を納れざるべし』

Chapter 17

1 イエス弟子たちに言ひ給ふ『蹟物は必ず來らざるを得ず、されど之を來らす者は禍害なるかな。2 この小き者の一人を蹟かするよりは、寧ろ礪白の石を頸に懸けられて、海に投げ入れられんかた善きなり。3 汝等みづから心せよ。もし汝の兄弟罪を犯さば、これを戒めよ。もし悔改めなば之をゆるせ。4 もし一日に七度なんぢに罪を犯し、七たび「悔改む」と言ひて、汝に歸らば之をゆるせ」5 使徒たち主に言ふ『われらの信仰を増したまへ』6 主いひ給ふ『もし芥種一粒ほどの信仰あらば、此の桑の樹に「抜けて海に植れ」と言ふとも汝らに従ふべし。7 汝等のうち誰か或は耕し、或は牧する僕を有たんに、その僕畑より歸りたる時、これに對ひて「直ちに來り食に就け」と言ふ者あらんや。8 反つて「わが夕餐の備をなし、我が飲食するあひだ、帶して給仕せよ、然る後に、なんぢ飲食すべし」と言ふにあらずや。9 僕、命ぜられし事を爲したればとて、主人これに謝すべきか。10 かくのごとく汝らも命ぜられし事をことごとく爲したる時「われらは無益なる僕なり、爲すべき事を爲したるのみ」と言へ』11 イエス、エルサレムに往かんとて、サマリヤとガリラヤとの間をとほり、12 或村に入り給ふとて、十人の癩病人これに遇ひて、遙に立ち止り、13 聲を揚げて言ふ『君イエスよ、我らを憫みたまへ』14 イエス之を見て言ひたまふ『なんぢら往きて身を祭司らに見せよ』彼ら往く間に潔められたり。15 その中の一人、おのが醫されたるを見て、大聲に神を崇めつつ歸りきたり、16 イエスの足下に平伏して謝す。これはサマリヤ人なり。17 イエス答へて言ひたまふ『十

人みな潔められしならずや、九人は何處に在るか。18 この他國人のほかは、神に榮光を歸せんとて歸りきたる者なきか。19 かくて之に言ひたまふ『起ちて往け、なんぢの信仰なんぢを救へり』20 神の國の時きたるべきかをパリサイ人に問はれし時、イエス答へて言ひたまふ『神の國は見ゆべき状にて來らず。21 また「視よ、此處に在り」「彼處に在り」と人々言はざるべし。視よ、神の國は汝らの中に在るなり』22 かくて弟子たちと言ひ給ふ『なんぢら人の子の日の一日を見んと思ふ日きたらん、されど見ることを得じ。23 そのとき人々なんぢらに「見よ彼處に、見よ此處に」と言はん、されど往くな、從ふな。24 それ電光の天の彼方より閃きて、天の此方に輝くごとく、人の子もその日には然あるべし。25 されど人の子は先づ多くの苦難を受け、かつ今の代に棄てらるべきなり。26 ノアの日にありし如く、人の子の日にも然あるべし。27 ノア方舟に入る日までは、人々飲み食ひ娶り嫁ぎなど爲たりしが、洪水きたりて彼等をことごとく滅せり。28 ロトの日にモスクのごとく、人々飲み食ひ、賣り買ひ、植桑つけ、家造りなど爲たりしが、29 ロトのソドムを出でし日に、天より火と硫黄と降りて、彼等をことごとく滅せり。30 人の子の顯る日にも、その如くなるべし。31 その日には、人もし屋の上をりて、器物家の内にあらば、之を取らんとて下るな。畑にをる者も同じく歸るな。32 ロトの妻を憶へ。33 おほよそ己が生命を失うせんとする者はこれを失ひ、失ふ者はこれを保つべし。34 われ汝らに告ぐ、その夜ふたりの男、一つ寢臺に居らんに、一人は取られ一人は遣されん。35 二人の女ともに白ひき居らんに、一人は取られ一人は遣されん。36 なし 37 弟子たち答へて言ふ『主よ、それは何處ぞ』イエス言ひたまふ『屍體のある處には驚も亦あつたらん』

Chapter 18

1 また彼らに、落膽せずして常に祈るべきことを、譬にて語り言ひ給ふ 2 『或町に、神を畏れず人を顧みぬ裁判人あり。3 その町に寡婦ありて、屢次その許にゆき「我がために仇を審きたまへ」と言ふ。4 かれ久しく聴き入れざりしが、其のち心の中に言ふ「われ神を畏れず、人を顧みねど、5 此の寡婦われを煩はせば、我がれが爲に審かん、然らずば絶えず來りて我を惱さん」と』6 まいひ給ふ『不義なる裁判人の言ふことを聽け、7 まして神は夜晝よばはる審民のために、たとひ遅くとも遂に審きはざらんや。8 我なんぢらに告ぐ、速かに審きはらん。されど人の子の來るとき地上に信仰を見んや』9 また己を義と信じ、他人を輕しむる者どもに、此の譬を言ひ

たまふ、10 『二人のもの祈らんとて宮にのぼる、一人はパリサイ人、一人は取税人なり。11 パリサイ人たちは心の中に斯く祈る「神よ、我はほかの人の、強奪・不義・姦淫するが如き者ならず、又この取税人の如くならぬを感謝す。12 我は一週のうち二度斷食し、凡て得るものの十分の一を献ぐ」13 然るに取税人は遙に立ちて、目を天に向くる事だにせず、胸を打ちて言ふ「神よ、罪人なる我を憐れたまへ」14 われ汝らに告ぐ、この人は、かの人よりも義とせられて、己が家に下り往けり。おほよそ己を高うする者は卑うせられ、己を卑うする者は高うせらるるなり』15 イエスの觸り給はんことを望みて、人々嬰兒らを連れ來りしに、弟子たち之を見て禁められたれば、16 イエス幼兒らと呼ばよせて言ひたまふ『幼兒らの我に來るを許して止むな、神の國はかくのごとき者の國なり。17 われ誠に汝らに告ぐ、おほよそ幼兒のごとくに神の國をうる者ならずば、之に入ることは能はず』18 或司問ひて言ふ『善き師よ、われ何をなして永遠の生命を嗣ぐべきか』19 イエス言ひ給ふ『なにゆゑ我を善しと言ふか、神ひとりの他に善き者なし。20 誠命はなんぢが知る所なり「姦淫するなかれ」「殺すなかれ」「盜むなかれ」「偽證を立つる勿れ」「なんぢの父と母とを敬へ』21 彼いふ『われ幼き時より皆これを守れり』22 イエス之をききて言ひたまふ『なんぢなほ足らぬこと一つあり、汝の有てる物をことごとく賣りて、貧しき者に分ち與へよ、然らば財寶を天に得ん。かつ來りて我に従へ』23 彼は之をききて甚く悲しめり、大に富める者なればなり。24 イエス之を見て言ひたまふ『富める者の神の國に入るは如何に難いかな。25 富める者の神の國に入るよりは、駱駝の針の穴をとほるは反つて易し』26 之をきく人々いふ『さらば誰か救はる事を得ん』27 イエス言ひたまふ『人のなし得ぬところは、神のなし得る所なり』28 ペテロ言ふ『視よ、我等わが物をすべて汝に従へり』29 イエス言ひ給ふ『われ誠に汝らに告ぐ、神の國のために、或は家、或は妻、或は兄弟、あるひは両親、あるひは子を棄つる者は、誰にても、30 今の時に數倍を受け、また後の世にて永遠の生命を受けぬはなし』31 イエス十二弟子を近づけて言ひたまふ『視よ、我らエルサレムに上る。人の子につき預言者たちによりて録されたる凡ての事は、成し遂げらるべし。32 人の子は異邦人に付され、嘲弄せられ、辱しめられ、唾せられん。33 彼等これを鞭うち、かつ殺さん。かくて彼は三日めに甦へるべし』34 弟子たち此等のことを一つだに悟らず、此の言かれらに隠れたれば、その言ひ給ひしことを知らざりき。35 イエス、エリコに近づき給ふとき、一人の盲人、路の傍らに坐して、物乞ひ居たりしが、36 群衆の過ぐるを聞きて、その何事なるかを問ふ。37 人々ナザレのイエスの過ぎたまふ

由を告げられたれば、38 盲人よばはりて言ふ『ダビデの子イエスよ、我を憐れたまへ』39 先だち往く者ども、彼を禁めて黙さしめんと爲たれど、増々さびて言ふ『ダビデの子よ、我を憐れたまへ』40 イエス立ち止り、盲人を連れ來るべきことを命じ給ふ。かれ近づきたれば、41 イエス問ひ給ふ『わが汝に何を爲さんことを望むか』彼いふ『主よ、見えんことなり』42 イエス彼に『見ることを得よ、なんぢの信仰なんぢを救へり』と言ひ給へば、43 立刻に見ることを得、神を崇めてイエスに従ふ。民みな之を見て神を讚美せり。

Chapter 19

1 エリコに入りて過ぎゆき給ふとき、2 視よ、名をザアカイといふ人あり、取税人の長にて富める者なり。3 イエスの如何なる人なるかを見んと思へど、丈矮うして群衆のために見るに能はず、4 前に走りゆき、桑の樹にのぼる。イエスその路を過ぎんとし給ふ故なり。5 イエス此處に至りしとき、仰ぎ見て言ひたまふ『ザアカイ、急ぎおりよ、今日われ汝の家に宿るべし』6 ザアカイ急ぎおり、喜びてイエスを迎ふ。7 人々みな之を見て眩きて言ふ『かれは罪人の家に入りて客となれり』8 ザアカイ立ちて主に言ふ『主、視よ、わが所有の半を貧しき者に施さん、若しわれ誣ひ訴へて人より取りたる所あらば、四倍にして償はん』9 イエス言ひ給ふ『けふ救はこの家に来ればなり、此の人もアブラハムの子なればなり。10 それ人の子の來れるは、失せたる者を尋ねて救はん爲なり』11 人々これらの事を聴きぬるとき、譬を加へて言ひ給ふ。これはイエス、エルサレムに近づき給ひ、神の國たちどころに現るべしと彼らが思ふ故なり。12 乃ち言ひたまふ『或貴人、王の權を受けて歸らんとて遠き國へ往くとき、13 十人の僕をよび、之に金三十ナを付して言ふ「わが歸るまで商賣せよ」14 然るに其の地の民かれを憎み、後より使を遣して「我らは此の人の我らの王となることを欲せず」と言はしむ。15 貴人、王の權をうけて歸り來りしとき、銀を付し置きたる僕ども、如何に商賣せしかを知らんとて彼らと呼ばしむ。16 初のもの進み出でて言ふ「主よ、なんぢの一ミナは十ミナを贏けたり」17 王いふ「善いかな、良き僕、なんぢは小事に忠なりしゆゑ、十の町を司どるべし」18 次の者きたりて言ふ「主よ、なんぢの一ミナは五ミナを贏けたり」19 王また言ふ「なんぢも五つの町を司どるべし」20 また一人きたりて言ふ「主、視よ、なんぢの一ミナは此處に在り。我これを袱紗に包みて藏め置きたり。21 これ汝の嚴しき人なるを懼れたるに因る。なんぢは置かぬものを取り、播かぬものを刈るなり」22 王いふ「惡しき僕、われ汝の口によりて汝を審かん。我の嚴しき人にて、置か

ぬものを取り、播かぬものを刈るを知るか。23 何ぞわが金を銀行に預けざりし、さらば我きたりて元金と利子とを請求せしものを」24 かくて傍らに立つ者どもに言ふ「かれの一ミナを取りて十ミナを有てる人に付せ」25 彼等いふ「主よ、かれは既に十ミナを有てり」26 「われ汝らに告ぐ、凡て有てる人はなほ與へられ、有たぬ人は有てるものをも取るべし。27 而して我が王たる事を欲せぬ、かの仇どもを此處に連れきたり、我が前にて殺せ」28 イエス此等のことを言ひてのち、先だち進みてエルサレムに上り給ふ。29 オリーブといふ山の麓なるベテパゲ及びベタニヤに近づきし時、イエス二人の弟子を遣さんとして言ひ給ふ、30 『向の山に上り、其處に入らば、一度も人の乗りたる事なき驢馬の子の繫ぎあるを見ん、それを解きて牽ききたれ。31 誰かもし汝らに「なにゆゑ解くか」と問はば、斯く言ふべし「主の用なり」と』32 遣されたる者ゆきたれば、果して言ひ給ひし如くなるを見る。33 かれら驢馬の子をとく時、その持主とも言ふ『なにゆゑ驢馬の子を解くか』34 答へて言ふ『主の用なり』35 かくて驢馬の子をイエスの許に牽ききたり、己が衣をその上にかけて、イエスを乗せたり。36 その行き給ふとき、人々おのが衣を途に敷く。37 オリーブ山の下りあたりまで近づき來り給へば、群れある弟子たち皆喜び、その見しところの能力ある御業につき、聲高らかに神を讚美して言ひ給ふ、38 『讚むべきかな、主の名によりて來る王。天には平和、至高き處には榮光あれ』39 群衆のうちの或パリサイ人ら、イエスに言ふ『師よ、なんぢの弟子たちを禁めよ』40 答へて言ひ給ふ『われ汝らに告ぐ、此のともがら黙さば、石叫ぶべし』41 既に近づきたるとき、都を見やり、之がために泣きて言ひ給ふ、42 『ああ汝、なんぢも若しこの日の間に、平和にかかはる事を知りたらんに、されど今なんぢの目に隠れたり。43 日きたりて敵なんぢの周圍に壘をきづき、汝を取圍みて四方より攻め、44 汝とその内にある子らとを地に打倒し、一つの石をも石の上に遣さざるべし。なんぢが眷顧の時を知らざりしに因る』45 かくて宮に入り、商ひする者どもを逐ひ出しはじめ、46 之に言ひたまふ『「わが家は祈の家たるべし」と録されたるに、汝らは之を強盜の巢となせり』47 イエス日々宮にて教へたまふ。祭司長・學者ら及び民の重立ちたる者ども、之を殺さんと思ひたれど、48 民みな耳を傾けてイエスに聴きたれば、爲すべき方を知らざりき。

Chapter 20

1 或日イエス宮にて民を教へ、福音を宣べ給ふとき、祭司長・學者らは、長老どもと共に近づき來り、2 イエスに語りて言ふ『なにの權威をもて此等の事をなすか、此の權

威を授けし者は誰か、我らに告げよ』3 答へて言ひ給ふ『われも一言なんぢらに問はん、答へよ。4 ヨハネのパプテスマは天よりか、人よりか』5 彼ら互に論じて言ふ『もし「天より」と言はば「なに故かれを信ぜざりし」と言はん。6 もし「人より」と言はんか、民みなヨハネを預言者と信ずるによりて、我らを石にて撃たん』7 遂に何處よりか知らぬ由を答ふ。8 イエス言ひたまふ『われも何の權威をもて此等の事をなすか、汝らに告げじ』9 かくて次の譬を民に語りいで給ふ『ある人、葡萄園を造りて農夫どもに貸し、遠く旅立して久しくなりぬ。10 時 至りて、葡萄園の所得を納めしめんとて、一人の僕を農夫の許に遣ししに、農夫ども之を打ちたたき、空手にて歸らしめたり。11 又ほかの僕を遣ししに、之をも打ちたたき、辱しめ、空手にて歸らしめたり。12 なほ三度めて之を遣ししに、之をも傷つけて逐ひ出したり。13 葡萄園の主いふ「われ何を爲さんか。我が愛しむ子を遣さん、或は之を敬ぶなるべし」14 農夫ども之を見て互に論じて言ふ「これは世嗣なり。いざ殺して其の嗣業を我らの物とせん」15 かくてこれを葡萄園の外に逐ひ出して殺せり。さらば葡萄園の主かれらに何を爲さんか、16 來りてかの農夫どもを亡し、葡萄園を他の者どもに與ふべし』人々これを聽きて言ふ『然はあらざれば』17 イエス彼らに目を注めて言ひ給ふ『されば「造家者らの棄てる石は、これぞ隅の首石となれる」と録されたるは何ぞや。18 凡そその石の上に倒る者は砕け、又その石、人の上に倒るれば、その人を微塵にせん』19 此のとき學者・祭司長ら、イエスに手をかけんと思ひたれど、民を恐れたり。この譬の己どもを指して言ひ給へるを悟りしに因る。20 かくて彼ら機を窺ひ、イエスを司の支配と權威との下に付さんとして、その言を捉ふるために、義人の様したる間諜どもを遣したれば、21 其の者どもイエスに問ひて言ふ『師よ、我らは汝の正しく語り、かつ教へ、外貌を取らず、眞をもて神の道を教へ給ふを知る。22 われら眞をカイザルに納むるは、善きか、惡しきか』23 イエスその惡巧を知りて言ひ給ふ、24 『デナリを我に見せよ。これは誰の像、たれの號なるか』『カイザルのなり』と答ふ。25 イエス言ひ給ふ『さらばカイザルの物はカイザルに、神の物は神に納めよ』26 かれら民の前にて其の言をとらへ得ず、且その答を怪しみて黙したり。27 また復活なしと言張るサドカイ人の或者ども、イエスに來り問ひて言ふ、28 『師よ、モーセは、人の兄弟も妻あり子なくして死なば、其の兄弟かれの妻を娶りて、兄弟のために嗣子を擧ぐべしと、我らに書き遣したり。29 さて茲に七人の兄弟ありて、兄、妻を娶り、子なくして死に、30 第二、第三の者も之を娶り、31 七人みな同じく子を殘さずして死に、

32 後には其の女も死にたり。33 されば復活の時、この女は誰の妻たるべきか、七人これを妻としたればなり』34 イエス言ひ給ふ『この世の子らは娶り嫁ぎすれど、35 かの世に入るに、死人の中より甦へるに相應しとせらるる者は、娶り嫁ぎすることなし。36 彼等ははや死ぬること能はざればなり。御使たちに等しく、また復活の子どもにして、神の子供たるなり。37 死にたる者の甦へる事は、モーセも柴の條に、主を「アブラハムの神、イサクの神、ヤコブの神」と呼びて之を示せり。38 神は死にたる者の神にあらず、生ける者の神なり。それ神の前には皆生けるなり』39 學者のうちの或者ども答へて『師よ、善く言ひ給へり』と言ふ。40 彼等ははや何事をも問ひ得ざりし故なり。41 イエス彼らに言ひたまふ『如何なれば人々、キリストをダビデの子と言ふか。42 ダビデ自ら詩篇に言ふ「主わが主に言ひたまふ、43 われ汝の敵を汝の足臺となすまでは、わが右に坐せよ」44 ダビデ斯く彼を主と稱ふれば、争でその子ならんや』45 民の皆ききる中にて、イエス弟子たちに言ひ給ふ、46 『學者らに心せよ。彼らは長き衣を着て歩むことを好み、市場にての敬禮、會堂の上座、饗宴の上席を喜び、47 また寡婦らの家を呑み、外見をつくりて長き祈をなす。其の受くる審判は更に厳しからん』

Chapter 21

1 イエス目を擧げて、富める人々の納物を賣錢函に投げ入るを見、2 また或 貧しき寡婦のレプタ二つを投げ入るを見て言ひ給ふ、3 『われ實をもて汝らに告ぐ、この貧しき寡婦は、凡ての人よりも多く投げ入れたり。4 彼らは皆その豊かな内より納物の中に投げ入れ、この寡婦はその乏しき中より、己が有てる生命の料をことごとく投げ入れたればなり』5 或 人々、美麗なる石と献物とにて宮の飾られたる事を語りしに、イエス言ひ給ふ、6 『なんぢらが見る此等の物は、一つの石も崩されずして石の上に殘らぬ日きたらん』7 彼ら問ひて言ふ『師よ、さらば此等のことは何時あるか、又これらの事の成らんとする時は如何なる兆あるか』8 イエス言ひ給ふ『なんぢら惑されぬように心せよ、多くの者わが名を冒し來り「われは夫なり」と言ひ「時は近づけり」と言はん、彼らに従ふな。9 戰爭と騷亂との事を聞くと、驚く。斯かることは先づあるべきなり。然れど終は直ちに來らず』10 また言ひたまふ『「民は民に、國は國に逆ひて起たん」11 かつ大なる地震あり、處々に疫病・饑饉あらん。懼るべき事と天よりの大なる兆とあらん。12 さて此等のことに先だちて、人々なんぢらに手をくだし、汝らを買めん、即ち汝らを會堂および獄に付し、わが名のために王たち司たちの前に曳きゆか

ん。13 これは汝らに證の機とならん。14 されば汝ら如何に答へんと預じめ思慮るまじき事を心に定めよ。15 われ汝らに、凡て逆ぶ者の言ひ逆ひ言ひ消すことをなし得ざる、口と智慧とを與ふべければなり。16 汝らは兩親・兄弟・親族・朋友にさへ付されん。又かれらは汝らの中の或者を殺さん。17 汝等わが名の故に凡ての人に憎まるべし。18 然れど汝らの頭の髪一すぢだに失せじ。19 汝らは忍耐によりて其の靈魂を得べし。20 汝らエルサレムが軍勢に圍まるを見れば、其の亡近づけりと知れ。21 その時ユダヤに居る者どもは山に遁れよ、都の中にをる者どもは出でよ、田舎にをる者どもは都に入るな、22 これ録されたる凡ての事の遂げらるべき刑罰の日なり。23 その日には孕りたる者と、乳を哺ます者とは禍害なるかな。地に大なる艱難ありて、御怒この民に臨み、24 彼らは劍の刃に斃れ、又は捕はれて諸國に曳かれん。而してエルサレムは異邦人の時滿つるまで、異邦人に蹂躪らるべし。25 また日・月・星に兆あらん。地にては國々の民なやみ、海と濤との鳴り轟くによりて狼狽へ、26 人々おそれ、かつ世界に來らんとする事を思ひて膽を失はん。これ天の萬象ふるひ動けばなり。27 其のとき人々、人の子の能力と大なる榮光をもて、雲に乗りきたるを見ん。28 これらの事 起り始めなば、仰げて首を擧げよ。汝らの贖罪近づけるなり』29 また譬を言ひたまふ『無花果の樹また凡ての樹を見よ、30 既に芽ぞせば、汝等これを見てみづから夏の近きを知る。31 斯くのごとく此等のことの起るを見れば、神の國の近きを知れ。32 われ誠に汝らに告ぐ、これらの事ことごとく成るまで、今の代は過ぎゆくことなし。33 天地は過ぎゆかん、されど我が言は過ぎゆくことなし。34 汝等みづから心せよ、恐らくは飲食にふけり、世の煩勞にまはれて心 鈍り、思ひがけぬ時、かの日羸のごとく來らん。35 これは徧く地の面に住める凡ての人に臨むべきなり。36 この起るべき凡ての事のがれ、人の子のまへに立ち得るやう、常に祈りつて目を覺しをれ』37 イエス晝は宮にて教へ、夜は出でてオリブといふ山に宿りたまふ。38 民はみな御教を聽かんとて、朝とく宮にゆき、御許に集れり。

Chapter 22

1 さて過越といふ除酵祭近づけり。2 祭司長・學者らイエスを殺さんとし、その手段いかにと求む、民を懼れたればなり。3 時にサタン、十二の一人なるイスカリオテと稱ふるユダに入る。4 ユダ乃ち祭司長・宮守頭どもに往きて、イエスを如何にして付さんと議りたれば、5 彼ら喜びて銀を與へんと約す。6 ユダ諾ひて、群衆の居らぬ時にイエスを付さんと好き機をうかがふ。7

過越の羔羊を屠るべき除酵祭の日來りたれば、8 イエス、ペテロとヨハネとを遣さんとして言ひたまふ『往きて我らの食せん爲に過越の備をなせ』9 彼ら言ふ『何處に備ふことを望み給ふか』10 イエス言ひたまふ『視よ、都に入らば、水をいれたる瓶を持つ人なんぢらに遇ふべし、之に従ひゆき、その入る所の家にいりて、11 家の主人に「師なんぢに言ふべき座敷は何處なるか」と言へ。12 さらば調へたる大なる二階座敷を見すべし。其處に備へよ』13 かれら出で往きて、イエスの言ひ給ひし如くなるを見て、過越の設備をなせり。14 時いたりてイエス席に著きたまひ、使徒たちも共に著く。15 かくて彼らに言ひ給ふ『われ苦難の前に、なんぢらと共にこの過越の食をなすことを望みに望みたり。16 われ汝らに告ぐ、神の國にて過越の成就するまでは、我復これを食せざるべし』17 かくて酒杯を受け、かつ謝して言ひ給ふ『これを取りて互に分ち飲め。18 われ汝らに告ぐ、神の國の來るまでは、われ今よりのち葡萄の果より成るものを飲まじ』19 またパンを取り謝してさき、弟子たちに與へて言ひ給ふ『これは汝らの爲に與ふる我が體なり。我が記念として之を行へ』20 夕餐ののち酒杯をも然して言ひ給ふ『この酒杯は、汝らの爲に流す我が血によりて立つる新しき契約なり。21 されど視よ、我を賣る者の手、われと共に食卓の上であり、22 實に人の子は定められたる如く逝くなり。されど之を賣る者は禍害なるかな』23 弟子たち己らの中にて此の事をなす者は、誰ならんと互に問ひ始む。24 また彼らの間に、己らの中たれか大ならんとの爭論おこりたれば、25 イエス言ひたまふ『異邦人の王はその民を宰どり、また民を支配する者は愚人と稱へらる。26 されど汝らは然らざれば、汝等のうち大なる者は若き者のごとく、頭たる者は事ふる者の如くなれ。27 食事の席に著く者と事ふる者とは、何れか大なる。食事の席に著く者ならずや、されど我は汝らの中にて事ふる者のごとし。28 汝らは我が嘗試のうちに絶えず我とともに居りし者なれば、29 わが父の我に任じ給へることく、我も亦なんぢらに國を任ず。30 これ汝らの我が國にて我が食卓に飲食し、かつ座位に坐してイスラエルの十二の族を審かん爲なり。31 シモン、シモン、視よ、サタン汝らを麥のごとく篩はんとて請ひ得たり。32 されど我なんぢの爲に、その信仰の失せぬやうに祈りたり、なんぢ立ち歸りてのち兄弟たちを堅うせよ』33 シモン言ふ『主よ、我は汝とともに獄にまでも、死にまでも往かんと覺悟せり』34 イエス言ひ給ふ『ペテロよ、我なんぢに告ぐ、今日なんぢ三度われを知らずと否むまでは、鷄鳴かざるべし』35 かくて弟子たちに言ひ給ふ『財布・囊・鞋をも持たせずして汝らを遣ししとき、缺けたる所ありしや』彼ら言ふ『無かりき

』 36 イエス言ひ給ふ『されど今は財布ある者は之を取れ、囊ある者も然すべし。また剣なき者は衣を賣りて剣を買へ。 37 われ汝らに告ぐ「かれは悪人と共に數へられたり」と録されたるは、我が身に成し遂げらるべし。凡そ我に係る事は成し遂げらるればなり』 38 弟子たち言ふ『主、見たまへ、茲に劍二振あり』イエス言ひたまふ『足り』 39 遂に出でて、常のごとくオリブ山に往き給へば、弟子たちも従ふ。 40 其處に至りて彼らに言ひたまふ『誘惑に入らぬやうに祈れ』 41 かくて自らは石の投げらる程かれらより隔り、跪づきて祈り言ひたまふ、 42 『父よ、御旨ならば、此の酒杯を我より取り去りたまへ、されど我が意にあらざりて御意の成らんことを願ふ』 43 時に天より御使あらはれて、イエスに力を添ふ。 44 イエス悲しみ迫り、いよいよ切に祈り給へば、汗は地上に落つる血の雫の如し。 45 祈了へ、起ちて弟子たちの許にきたり、その憂によりて眠れるを見て言ひたまふ、 46 『なんぞ眠るか、起て、誘惑に入らぬやうに祈れ』 47 なほ語り給ふとき、視よ、群衆あらはれ、十二の一人なるユダ先だち來り、イエスに接吻せんとて近寄りたれば、 48 イエス言ひ給ふ『ユダ、なんぢは接吻をもて人の子を賣るか』 49 御側に居る者ども事の及ばんとするを見て言ふ『主よ、われら劍をもて撃つべきか』 50 その中一人、大祭司の僕を撃ちて、右の耳を切り落せり。 51 イエス答へて言ひたまふ『之にてゆるせ』而して僕の耳に手をつけて醫し給ふ。 52 かくて己に向ひて來れる祭司長・宮守頭・長老らに言ひ給ふ『なんぢら強盜に向ふごとく、劍と棒とを持ち出てきたるか。 53 我は日々なんぢらと共に宮に居りしに、我が上に手を伸べざりき。されど今は汝らの時、また暗黒の權威なり』 54 遂に人々イエスを捕へて、大祭司の家に曳きゆく。ペテロ遠く離れて従ふ。 55 人々、中庭のうちに火を焚きて、諸共に坐したれば、ペテロもその中に坐す。 56 或婢女ペテロの火の光を受けて坐し居るを見、これに目を注ぎて言ふ『この人も彼と偕にあり』 57 ペテロ肯はずして言ふ『をんなよ、我は彼を知らず』 58 暫くして他の者ペテロを見て言ふ『なんぢも彼の黨なり』ペテロ言ふ『人よ、然らず』 59 一時ばかりして又ほかの男、言張りて言ふ『まさしく此の人も彼とともに在りき、是ガリラヤ人なり』 60 ペテロ言ふ『人よ、我なんぢの言ふことを知らず』なほ言ひ終へぬに、やがて鷄鳴きぬ。 61 主、振反りてペテロに目をとめ給ふ。ここにペテロ、主の『今日にはとり鳴く前に、なんぢ三度われを否まん』と言ひ給ひし御言を憶ひだし、 62 外に出でて甚く泣けり。 63 守る者どもイエスを嘲弄し、之を打ち、 64 その目を蔽ひ問ひて言ふ『預言せよ、汝を撃ちし者は誰なるか』 65 この他なほ多くのことを言ひて讒れり。 66 夜明になりて、民の長老・

祭司長・學者ら相集り、イエスをその議會に曳き出して言ふ、 67 『なんぢ若しキリストならば、我らに言へ』イエス言ひ給ふ『われ言ふとも汝ら信ぜじ、 68 又われ問ふとも汝ら答へじ。 69 されど人の子は今よりのち神の能力の右に坐せん』 70 皆いふ『されば汝は神の子なるか』答へ給ふ『なんぢらの言ふごとく我はそれなり』 71 彼ら言ふ『何ぞなほ他に證據を求めんや。我ら自らその口より聞けり』

Chapter 23

1 民衆みな起ちて、イエスをピラトの前に曳きゆき、2 訴へ出でて言ふ『われら此の人が、わが國の民を惑し、貢をカイザルに納むるを禁じ、かつ自ら王なるキリストと稱ふるを認めたり』 3 ピラト、イエスに問ひて言ふ『なんぢはユダヤ人の王なるか』答へて言ひ給ふ『なんぢの言ふが如し』 4 ピラト祭司長らと群衆とに言ふ『われ此の人に悪あるを見ず』 5 彼等ますます言ひ募り『かれはユダヤ全國に教をなして民を騒がし、ガリラヤより始めて、此處に至る』と言ふ。 6 ピラト之を聞き、そのガリラヤ人なるかを問ひて、7 ヘロデの權下の者なるを知り、ヘロデ此の頃エルサレムに居たれば、イエスをその許に送れり。 8 ヘロデ、イエスを見て甚く喜ぶ。これは彼に就きて聞く所ありたれば、久しく逢はんことを欲し、何をか徴を行ふを見んと望み居たる故なり。 9 かくて多くの言をもて問ひたれど、イエス何をも答へ給はず。 10 祭司長・學者ら起ちて激甚くイエスを訴ふ。 11 ヘロデその兵卒と共にイエスを侮り、かつ嘲弄し、華美なる衣を著せて、ピラトに返す。 12 ヘロデとピラトと前には仇たりしが、此の日たがひに親しくなれり。 13 ピラト、祭司長らと司らと民とを呼び集めて言ふ、 14 『汝らこの人を民を惑す者として曳き來れり。視よ、われ汝らの前にて訊したれど、其の訴ふる所に就きて、この人に悪あるを見ず。 15 ヘロデも亦然り、彼を我らに返したり。視よ、彼は死に當るべき業を爲さざりき。 16 されば懲しめて之を赦さん』 17 なし 18 民衆ともに叫びて言ふ『この人を除け、我らにバラバを救せ』 19 此のバラバは、都に起りし一揆と殺人との故によりて、獄に入れられたる者なり。 20 ピラトはイエスを赦さんと欲して、再び彼らに告げたれど、 21 彼ら叫びて『十字架につけよ、十字架につけよ』と言ふ。 22 ピラト三度まで『彼は何の惡事を爲ししか、我その死に當るべき業を見ず、故に懲しめて赦さん』と言ふ。 23 されど人々、大聲をあげ迫りて、十字架につけんことを求めたれば、遂にその聲勝てり。 24 ここにピラトその求の如くすべしと言渡し、 25 その求むるままに、かの一揆と殺人との故によりて獄に入れられたる者を赦し、イエスを付して彼らの心の隨ならしめたり。 26 人々イ

エスを曳きゆく時、シモンといふクレネ人の田舎より來るを執へ、十字架を負はせてイエスの後に従はしむ。 27 民の大なる群と、歎き悲しめる女たちの群と之に従ふ。 28 イエス振反りて女たちに言ひ給ふ『エルサレムの娘よ、わが爲に泣くな、ただ己がため、己が子のために泣け。 29 視よ「石婦、兒産まぬ腹、哺ませぬ乳は幸福なり」と言ふ日きたらん。 30 その時ひとびと「山に向ひて我らの上に倒れよ、岡に向ひて我らを掩へ」と言ひ出でん。 31 もし青樹に斯く爲さば、枯樹は如何にせられん』 32 また他に二人の惡人も、死罪に行はんとてイエスと共に曳きゆく。 33 髑髏といふ處に到りて、イエスを十字架につけ、また惡人の一人をその右、一人をその左に十字架につく。 34 かくてイエス言ひたまふ『父よ、彼らを赦し給へ、その爲す所を知らざればなり』 彼らイエスの衣を分ちて鬭取にせり。 35 民は立ちて見たり。司たちも嘲りて言ふ『かれは他人を救へり、もし神の選び給ひしキリストならば、己をも救へかし』 36 兵卒どもも嘲弄しつつ、近よりて酸き葡萄酒をさし出して言ふ、 37 『なんぢ若しユダヤ人の王ならば、己を救へ』 38 又イエスの上には『これはユダヤ人の王なり』との罪標あり。 39 十字架に懸けられたる惡人の一人、イエスを譏りて言ふ『なんぢはキリストならずや、己と我らとを救へ』 40 他の者これに答へ禁めて言ふ『なんぢ同じく罪に定められながら、神を畏れぬか。 41 我らは爲しし事の報を受くるなれば當然なり。されど此の人は何の不善をも爲さざりき』 42 また言ふ『イエスよ、御國に入り給ふとき、我を憶へたまへ』 43 イエス言ひ給ふ『われ誠に汝に告ぐ、今日なんぢは我と偕にバラダイスに在るべし』 44 晝の十二時ごろ、日、光をうしなひ、地のうへ偏く暗くなりて、三時に及び、 45 聖所の幕、眞中より裂けたり。 46 イエス大聲に呼はりて言ひたまふ『父よ、わが靈を御手にゆだね』斯く言ひて息絶えたまふ。 47 百卒長の有りし事を見て、神を崇めて言ふ『實にこの人は義人なりき』 48 これを見んとて集りたる群衆も、ありし事どもを見て、みな胸を打ちつつ歸れり。 49 凡てイエスの相識の者およびガリラヤより従ひ來れる女たちも、遙に立ちて此等の途を見たり。 50 議員にして善かつ義なるヨセフといふ人あり。 51 この人はかの評議と仕業とに與せざりき ユダヤの町なるアリマタヤの者にて、神の國を待ちのぞめり。 52 此の人ピラトの許にゆき、イエスの屍體を乞ひ、 53 これを取りおろし、亞麻布にて包み、巖に鑿りたる未だ人を葬りし事なき墓に納めたり。 54 この日は準備日なり、かつ安息日近づきぬ。 55 ガリラヤよりイエスと共に來りし女たち後に従ひ、その墓と屍體の納められたる様とを見、 56 歸りて香料と香油とを備ふ。かくて

誠命に遵ひて、安息日を休みたり。

Chapter 24

1 一週の初の日、朝まだき、女たち備へたる香料を携へて墓にゆく。 2 然るに石の既に墓より轉し除けあるを見、3 内に入りたるに、主イエスの屍體を見ず、4 これが爲に狼狽へりしに、視よ、輝ける衣を著たる二人の人その傍らに立てり。 5 女たち懼れて面を地に伏せられたれば、その二人の者いふ『なんぞ死にし者どもの中に生ける者を尋ぬるか。 6 彼は此處に在さず、甦へり給へり。尚ガリラヤに居給へるとき、如何に語り給ひしかを憶ひ出でよ。 7 即ち「人の子は必ず罪ある人の手に付され、十字架につけられ、かつ三日めに甦へるべし」と言ひ給へり』 8 ここに彼らその御言を憶ひ出で、 9 墓より歸りて、凡て此等のことを十一弟子および凡て他の弟子たちに告ぐ。 10 この女たちはマグダラのマリヤ、ヨハンナ及びヤコブの母マリヤなり、而して彼らと共に在りし他の女たちも、之を使徒たちに告げたり。 11 使徒たちは其の言を妄語と思ひて信ぜず。 12 [ペテロは起ちて墓に走りゆき、屈みて布のみあるを見、ありし事を怪しみつつ歸れり] 13 視よ、この日二人の弟子、エルサレムより三里ばかり隔りたるエマオといふ村に往きつつ、 14 凡て有りし事どもを互に語りあふ。 15 語りかつ論じあふ程に、イエス自ら近づきて共に往き給ふ。 16 されど彼らの目遮へられて、イエスたを認むること能はず。 17 イエス彼らに言ひ給ふ『なんぢら歩みつつ互に語りあふ言は何ぞや』かれら悲しげなる状にて立ち止り、 18 その一人なるクレオパと名づくるもの答へて言ふ『なんぢエルサレムに寓り居て、獨り此の頃かしこに起りし事どもを知らぬか』 19 イエス言ひ給ふ『如何なる事ぞ』答へて言ふ『ナザレのイエスの事なり、彼は神と凡ての民との前にて、業にも言にも能力ある預言者なりしに、 20 祭司長ら及び我が司らは、死罪に定めんとて之を付し遂に十字架につけたり。 21 我らはイスラエルを贖ふべき者は、この人なりと望みたり、然のみならず、此の事の有りしより今日にはや三日過ぎるが、 22 なほ我等のうちの或女たち、我らを驚かせり、即ち彼ら朝夙く墓に往きたるに、 23 屍體を見ずして歸り、かつ御使たち現れて、イエスは活き給ふと告げたりと言ふ。 24 我らの朋輩の數人もまた墓に往きて見れば、正しく女たちの言ひし如くにしてイエスを見ざりき』 25 イエス言ひ給ふ『ああ愚にして預言者たちの語りたる凡てのことを信ぜず此らの苦難を受けて、其の榮光に入るべきならずや』 27 かくてモーセ及び凡ての預言者をはじめ、己に就きて凡ての聖書に録したる所を説き示したまふ。 28 遂に往く所の

村に近づきしに、イエスなほ進みゆく様なれば、29 強ひて止めて言ふ『我らと共に留れ、時々及びて、日も早や暮れんとす』乃ち留らんとて入りたまふ。30 共に食事の席に著きたまふ時、パンを取りて祝し、擧げて與へ給へば、31 彼らの目開けてイエスなるを認む、而してイエス見えざり給ふ。32 かれら互に言ふ『途にて我らと語り、我らに聖書を説明し給へるとき、我らの心、内に燃えしならずや』33 かくて直ちに立ちエルサレムに歸りて見れば、十一弟子および之と偕なる者あつまり居て言ふ、34 『主は實に甦へりて、シモンに現れ給へり』35 二人の者もまた途にて有りし事と、パンを擧げ給ふによりてイエスを認めし事を述べ給ふ。36 此等のことを語る程に、イエスその中に立ち[『平安なんぢらに在れ』と言ひ]給ふ。37 かれら怖ぢ懼れて、見る所のものを靈ならんと思ひしに、38 イエス言ひ給ふ『なんぢら何ぞ心騒ぐか、何ゆゑ心に疑惑おこるか、39 我が手わが足を見よ、これ我なり。我を撫でて見よ、靈には肉と骨となし、我にはあり、汝らの見るごとし』40 [斯く言ひて手と足を示し給ふ]41 かれら歡喜の餘に信ぜずして怪しめる時、イエス言ひたまふ『此處に何か食物あるか』42 かれら炙りたる魚一片を捧げれば、43 之を取り、その前にて食し給へり。44 また言ひ給ふ『これらの事は、我がなほ汝らと偕に在りし時に語りて、我に就きモーセの律法・預言者および詩篇に録されたる凡ての事は、必ず遂げらるべしと言ひし所なり』45 ここに聖書を悟らしめんとて、彼らの心を開きて言ひ給ふ、46 『かく録されたり、キリストは苦難を受けて、三日めに死人の中より甦へり、47 且その名によりて罪の赦を得さする悔改は、エルサレムより始りて、もろもろの國人に宣傳へらるべしと。48 汝らは此等のことの證人なり。49 視よ、我は父の約し給へるものを汝らに贈る。汝ら上より能力を著せらるるまでは都に留れ』50 遂にイエス彼らをベタニヤに連れゆき、手を擧げて之を祝したまふ。51 祝する間に、彼らを離れ[天に擧げられ]給ふ。52 彼ら[之を拜し]大なる歡喜をもてエルサレムに歸り、53 常に宮に在りて、神を讃めたり。

ヨハネの福音書

Chapter 1

1 太初に言あり、言は神と偕にあり、言は神なりき。2 この言は太初に神とともに在り、3 萬の物これに由りて成り、成りたる物に一つとして之によらで成りたるはなし。4 之に生命あり、この生命は人の光なりき。5 光は暗黒に照る

、而して暗黒は之を悟らざりき。6 神より遣されたる人いでたり、その名をヨハネといふ。7 この人は證のために來り、光に就きて證をなし、また凡ての人の彼によりて信ぜん爲なり。8 彼は光にあらざり、光に就きて證せん爲に來れるなり。9 もろもろの人をてらす眞の光ありて、世にきたれり。10 彼は世にあり、世は彼に由りて成りたるに、世は彼を知らざりき。11 かれは己の國にきたりしに、己の民は之を受けざりき。12 されど之を受けし者、即ちその名を信ぜし者には、神の子となる權をあたへ給へり。13 かかる人は血脈によらず、肉の欲によらず、人の欲によらず、ただ、神によりて生れしなり。14 言は肉體となりて我らの中に宿りたまへり、我らその榮光を見たり、實に父の獨子の榮光にして、恩恵と眞理とにて満てり。15 ヨハネ彼につきて證をなし、呼はりて言ふ『わが後にきたる者は我に勝れり、我より前にありし故なり』と、我が曾ていへるは此の人なり』16 我らは皆その充ち満ちたる中より受けて、恩恵に恩恵を加へらる。17 律法はモーセによりて與へられ、恩恵と眞理とはイエス・キリストによりて來れるなり。18 未だ神を見し者なし、ただ父の懷裡にいます獨子の神のみ之を顯し給へり。19 さてユダヤ人、エルサレムより祭司とレビ人とをヨハネの許に遣して『なんぢは誰なるか』と問はせし時、ヨハネの證はかくのごとし。20 乃ち言ひあらはして諱まず『我はキリストにあらず』と言ひあらはせり。21 また問ふ『さらば何、エリヤなるか』答ふ『然らず』問ふ『かの預言者なるか』答ふ『いな』22 ここに彼ら言ふ『なんぢは誰なるか、我らを遣しし人々に答へ得るやうにせよ、なんぢ己につきて何と言ふか』23 答へて言ふ『我は預言者イザヤの云へるが如く「主の道を直くせよと、荒野に呼はる者の聲」なり』24かの遣されたる者はパリサイ人なりき。25 また問ひて言ふ『なんぢ若しキリストに非ず、またエリヤにも、かの預言者にも非ずば、何故バプテスマを施すか』26 ヨハネ答へて言ふ『我は水にてバプテスマを施す。なんじらの中に汝らの知らぬもの一人たてり。27 即ち我が後にきたる者なり、我はその鞋の紐を解くにも足らず』28 これらの事は、ヨハネのバプテスマを施しめたりしヨルダンの向なるベタニヤにてありしなり。29 明るる日ヨハネ、イエスの己が許にきたり給ふを見ていふ『視よ、これぞ世の罪を除く神の羔羊。30 われ曾て「わが後に來る人あり、我にまされり、我より前にありし故なり」と云ひしは此の人なり。31 我もと彼を知らざりき。然れど彼のイスラエルに顯れんために、我きたりて水にてバプテスマを施すなり』32 ヨハネまた證をなして言ふ『われ見しに、御靈鴿のごとく天より降りて、その上に止れり。33 我もと彼を知らざりき。されど我を遣し水にてバプテスマを施させ給ふもの、我に告げて「なんぢ御靈く

だりて或人の上に止るを見ん、これぞ聖靈にてバプテスマを施す者なる」といひ給へり。34 われ之を見て、その神の子たるを證せしなり』35 明るる日ヨハネまた二人の弟子とともに立ちて、36 イエスの歩み給ふを見ていふ『視よ、これぞ神の羔羊』37 かく語るをききて、二人の弟子イエスに従ひゆきたれば、38 イエス振反りて、その従ひむかるを見て言ひたまふ『何を求むるか』彼等いふ『ラビ(釋きていへば師)いづこに留り給ふか』39 イエス言ひ給ふ『きたれ、さらば見ん』彼ら往きてその留りたまふ所を見、この日ともに留れり、時は第十時ごろなりき。40 ヨハネより聞きてイエスに従ひし二人のうち一人は、シモン・ペテロの兄弟アンデレなり。41 この人まづ其の兄弟シモンに遇ひ『われらメシヤ(釋けばキリスト)に遇へり』と言ひて、42 彼をイエスの許に連れきたれり。イエス之に目を注めて言ひ給ふ『なんぢはヨハネの子シモンなり、汝ケバ(釋けばペテロ)と稱へらるべし』43 明るる日イエス、ガリラヤに往かんとし、ピリポにあひて言ひ給ふ『われに従へ』44 ピリポはアンデレとペテロとの町なるベツサイダの人なり。45 ピリポ、ナタナエルに遇ひて言ふ『我らはモーセが律法に録ししところ、預言者たちが録しし所の者に遇へり、ヨセフの子ナザレのイエスなり』46 ナタナエル言ふ『ナザレより何の善き者か出づべき』ピリポいふ『來りて見よ』47 イエス、ナタナエルの己が許にきたるを見、これを指して言ひたまふ『視よ、これ眞にイスラエル人なり、その衷に虚偽なし』48 ナタナエル言ふ『如何にして我を知り給ふか』イエス答えて言ひたまふ『ピリポの汝を呼ぶまへに、我なんぢが無花果の樹の下に居るを見たり』49 ナタナエル答ふ『ラビ、なんぢは神の子なり、汝はイスラエルの王なり』50 イエス答へて言ひ給ふ『われ汝が無花果の樹の下にをるを見たりと言ひしに困りて信ずるか、汝これよりも更に大なる事を見ん』51 また言ひ給ふ『まことに誠に汝らに告ぐ、天ひらけて、人の子のうへに神の使たちの昇り降りするを汝ら見るべし』

Chapter 2

1 三日めにガリラヤのカナに婚禮ありて、イエスの母そこに居り、2 イエスも弟子たちと共に婚禮に招かれ給ふ。3 葡萄酒つきたれば、母イエスに言ふ『かれらに葡萄酒なし』4 イエス言ひ給ふ『をんなよ、我と汝となにの關係あらんや、我が時は未だ來らず』5 母僕どもに『何にても其の命する如くせよ』と言ひおく。6 彼處にユダヤ人の潔の例にしたがひて、四五斗入りの石甕六個ならべあり。7 イエス僕に『水を甕に滿せ』といひ給へば、口まで滿す。8 又言ひ給ふ『いま汲み取りて饗宴

長に持ちゆけ』乃ち持ちゆけり。9 饗宴長、葡萄酒になりたる水を嘗めて、その何處より來りしかを知らざれば(水を汲みし僕どもは知れり)新郎を呼びて言ふ、10 『おほよそ人は先よき葡萄酒を出し、酔のまはる頃ほひ劣れるものを出すに、汝はよき葡萄酒を今まで留め置きたり』11 イエス此の第一の徴をガリラヤのカナにて行ひ、その榮光を顯し給ひたれば、弟子たち彼を信じたり。12 この後イエス及びその母・兄弟・弟子たちカペナウムに下りて、そこに數日留りたり。13 かくてユダヤ人の過越の祭ちかづきたれば、イエス、エルサレムに上り給ふ。14 宮の内に牛・羊・鴿を賣るもの、兩替する者の坐するを見て、15 繩を鞭につくり、羊をも牛をもみな宮より逐ひ出し、兩替する者の金を散し、その臺を倒し、16 鴿をうる者に言ひ給ふ『これらの物を此處より取り去れ、わが父の家を商賣の家とすな』17 弟子たち『なんじの家をおもふ熱心われを食はん』と録されたるを憶ひ出せり。18 ここにユダヤ人こたへてイエスに言ふ『なんぢ此等の事をなすからには、我らに何の徴を示すか』19 答へて言ひ給ふ『なんぢら此の宮をこぼて、われ三日の間に之を起さん』20 ユダヤ人いふ『この宮を建つるには四十六年を経たり、なんぢは三日のうちに之を起すか』21 これはイエス己が體の宮をさして言ひ給へるなり。22 然れば死人の中より甦へり給ひしの子、弟子たち斯く言ひ給ひしことを憶ひ出して、聖書とイエスの言ひ給ひし言とを信じたり。23 過越のまつりの間、イエス、エルサレムに在すほどに、多くの人々その爲し給へる徴を見て御名を信じたり。24 されどイエス己を彼らに任せ給はざりき。それは凡ての人を知り、25 また人の衷にある事を知りたまへば、人に就きて證する者を要せざる故なり。

Chapter 3

1 ここにパリサイ人にて名をニコデモといふ人あり、ユダヤ人の宰なり。2 夜イエスの許に來りて言ふ『ラビ、我らは汝の神より來る師なるを知る。神もし偕に在さずば、汝が行ふこれらの徴は誰もなし能はぬなり』3 イエス答へて言ひ給ふ『まことに誠に汝に告ぐ、人あらたに生れずば、神の國を見ること能はず』4 ニコデモ言ふ『人はや老いぬれば、争で生る事を得んや、再び母の胎に入りて生ることを得んや』5 イエス答へ給ふ『まことに誠に汝に告ぐ、人は水と靈とによりて生れずば、神の國に入ること能はず、6 肉によりて生るる者は肉なり、靈によりて生るる者は靈なり。7 なんぢら新に生るべしと我が汝に言ひしを怪しむな。8 風は我が好むところに吹く、汝その聲を聞けども、何處より來り何處へ往くを知らず。すべて靈によりて生るる者も斯くのごとし』9 ニコデモ答へて言ふ『いかに斯かる事どものあり得べき』10 イエス

答へて言ひ給ふ『なんぢはイスラエルの師にして、猶かかる事どもを知らぬか。11 誠にまことに汝に告ぐ、我ら知ることを語り、また見しことを證す、然るに汝らその證を受けず。12 われ地のことを言ふに汝ら信ぜずば、天のことを言はんには争で信ぜんや。13 天より降りし者、即ち人の子の他には、天に昇りしものなし。14 モーセ荒野にて蛇を擧げしごとく、人の子もまた必ず擧げらるべし。15 すべて信ずる者の彼によりて永遠の生命を得ん爲なり。16 それ神はその獨子を賜ふほどに世を愛し給へり、すべて彼を信ずる者の亡びずして、永遠の生命を得んためなり。17 神その子を世に遣したまへるは、世を審かん爲にあらず、彼によりて世の救はれん爲なり。18 彼を信ずる者は審かれず、信ぜぬ者は既に審かれたり。神の獨子の名を信ぜざりしが故なり。19 その審判は是なり。光、世にきたりしに、人その行爲の悪しきによりて、光よりも暗黒を愛したり。20 すべて悪を行ふ者は光をにくみて光に來らず、その行爲の責められざらん爲なり。21 眞をおこなふ者は光にきたる、その行爲の神によりて行ひたることの顯れん爲なり。22 この後イエス、弟子たちとユダヤの地にゆき、其處にともに留りてバプテスマを施し給ふ。23 ヨハネもサリムに近きアイノンにてバプテスマを施しあり、其處に水おほくある故なり。人々つどひ來りてバプテスマを受く。24 ヨハネは未だ獄に入れられざりしなり。25 ここにヨハネの弟子たちと一人のユダヤ人との間に、潔につきて論起りたれば、26 彼らヨハネの許に來りて言ふ『ラビ、視よ、汝ともてヨルダンの彼方より視し者、なんぢが證せし者、バプテスマを施し、人みなその許に往くなり。27 ヨハネ答へて言ふ『人は天より與へられずば、何をもち受くること能はず。28 「我はキリストにあらず」唯「その前に遣された者なり」と我が言ひしことに就きて證する者は汝らなり。29 新婦をもつ者は新郎なり、新郎の友は、立ちて新郎の聲をきくとき大に喜ぶ、この我が歡喜いま満ちたり。30 彼は必ず盛になり、我は衰ふべし。31 上より來るものは凡ての物の上にあり、地より出づるものは地の者にして、その語ることも地の事なり。天より來るものは凡ての物の上にあり。32 彼その見しところ聞きしところを證したまふに、誰もその證を受けず。33 その證を受くる者は、印して神を眞なりとす。34 神の遣し給ひし者は神の言をかたる、神、御靈を賜ひて量りなければなり。35 父は御子を愛し、萬物をその手に委ね給へり。36 御子を信ずる者は永遠の生命をもち、御子に從はぬ者は生命を見ず、反つて神の怒の上に止るなり。

Chapter 4

1主、おのれの弟子を造り、之にバプテスマを施すこと、ヨハネよ

りも多しと、パリサイ人に聞えたるを知り給ひし時、2 (その實イエス自らバプテスマを施ししにあらず、その弟子たちなり) 3 ユダヤを去りて復ガリラヤに往き給ふ。4 サマリヤを経るを得ず。5 サマリヤのスカルといふ町にいたり給へるが、この町はヤコブその子ヨセフに與へし土地に近くして、6 此處にヤコブの泉あり。イエス旅路に疲れて泉の傍らに坐し給ふ、時は第六 時頃なりき。7 サマリヤの或 女、水を汲まんとして來りたれば、イエスに『われに飲ませよ』と言ひたまふ。8 弟子たちは食物を買はんとて町にゆきしなり。9 サマリヤの女いふ『なんぢはユダヤ人なるに、如何なればサマリヤの女なる我に、飲むことを求むるか』これはユダヤ人とサマリヤ人とは交りせぬ故なり。10 イエス答へて言ひ給ふ『なんぢ若し神の賜物を知り、また「我に飲ませよ」といふ者の誰なるを知りたらんには、之に求めしならん、さらば汝に活ける水を與へしものを』11 女いふ『主よ、なんぢは汲む物を持たず、井は深し、その活ける水は何處より得しぞ。12 汝はこの井を我らに與へし我らの父ヤコブよりも大なるか、彼も、その子らも、その家畜も、これより飲みたい。13 イエス答へて言ひ給ふ『すべて此の水をのむ者は、また渴かん。14 されど我があたふる水を飲む者は、永遠に渴くことなし。わが與ふる水は彼の中にて泉となり、永遠の生命の水湧きいづべし』15 女いふ『主よ、わが渴くことなく、又ここに汲みに來ぬために、その水を我にあたへよ』16 イエス言ひ給ふ『ゆきて夫をここに呼びきたれ』17 女こたへて言ふ『われに夫なし』イエス言ひ給ふ『夫なしといふは宜なり。18 夫は五人までありしが、今ある者はなんぢの夫にあらず。無しと云へるは眞なり』19 女いふ『主よ、我なんぢを預言者とみとむ。20 我らの先祖たちは此の山にて拜したるに、汝らは拜すべき處をエルサレムなりと言ふ』21 イエス言ひ給ふ『をんなよ、我が言ふことを信ぜよ、此の山にもエルサレムにもあらで、汝ら父を拜する時きたるなり。22 汝らは知らぬ者を拜し、我らは知る者を拜す、救はユダヤ人より出づればなり。23 されど眞の禮拜者の、靈と眞とをもて父を拜する時きたらん、今すでに來れり。父はかくのごとく拜する者を求めたまふ。24 神は靈なれば、拜する者も靈と眞とをもて拜すべきなり』25 女いふ『我はキリストと稱ふるメシヤの來ることを知る、彼きたらば諸般のことを我らに告げん』26 イエス言ひ給ふ『なんぢと語る我はそれなり』27 時に弟子たち歸りきたりて、女と語り給ふを怪しみたれど、何を求め給ふか、何故かれと語り給ふかと問ふもの誰もなし。28 ここに女その水瓶を遣しおき、町にゆきて人々にいふ、29 『來りて見よ、わが爲しし事のごとく我に告げし人。この人あるいはキリストならんか』30 人々町を出でてイエスの許にゆく。31

この間に弟子たち請ひて言ふ『ラビ、食し給へ』32 イエス言ひたまふ『我には汝らの知らぬ我が食する食物あり』33 弟子たち互にいふ『たれか食する物を持ち來りしか』34 イエス言ひ給ふ『われを遣し給へる物の御意を行ひ、その御業をなし遂ぐるは、是わが食物なり。35 なんぢら收穫時の來るには、なほ四月ありと言はずや。我なんぢらに告ぐ、目をあげて畑を見よ、はや黄ばみて收穫時になれり。36 刈る者は價を受けて永遠の生命の實を集む。播く者と刈る者とともに喜ばん爲なり。37 聖諭に、彼は播き此は刈るといへるは、斯において眞なり。38 我なんぢらを遣して、勞せざりしものを刈らしむ。他の人々さきに勞し、汝らはその勞を收むるなり』39 此の町の多くのサマリヤ人、女の『わが爲しし事をことごとく告げし』と證したる言によりてイエスを信じたり。40 かくてサマリヤ人御許にきたりて、此の町に留らんことを請ひたれば、此處に二日とどまり給ふ。41 御言によりて猶もおほくの人信じたり。42 かくて女に言ふ『今われらの信ずるは、汝のかたる言によるにあらず、親しく聽きて、これは眞に世の救主なりと知りたる故なり』43 二日の後、イエスこを去りてガリラヤに往き給ふ。44 イエス自ら證して、預言者は己が郷にて尊ばる事なしと言ひ給へり。45 かくてガリラヤに往き給へば、ガリラヤ人これを迎へたり。前に彼らも祭に上り、その祭の時にエルサレムにて行ひ給ひし事を見たる故なり。46 イエス復ガリラヤのカナに往き給ふ、ここは前に水を葡萄酒になし給ひし處なり。時に王の近臣あり、その子カペナムにて病みあれば、47 イエスのユダヤよりガリラヤに來り給へるを聞き、御許にゆきて、カペナムに下りその子を醫し給はんことを請ふ、子は死ぬばかりなりしなり。48 ここにイエス言ひ給ふ『なんぢら徴と不思議とを見ずば、信ぜじ』49 近臣いふ『主よ、わが子の死ぬぬ間に下り給へ』50 イエス言ひ給ふ『かへれ、汝の子は生くるなり』彼はイエスの言ひ給ひしことを信じて歸りしが、51 下る途中、僕ども往き遇ひて、その子の生きたることを告ぐ。52 その癒えはじめし時を問ひしに『昨日の第七時に熱去れり』といふ。53 父その時の、イエスが『なんぢの子は生くるなり』と言ひ給ひし時と同じきを知り、而して己も家の者もみな信じたり。54 是はイエス、ユダヤよりガリラヤに往きて爲し給へる第二の徴なり。

Chapter 5

1この後ユダヤ人の祭ありて、イエス、エルサレムに上り給ふ。2 エルサレムにある羊門のほとりに、ヘブル語にてベテスダといふ池あり、之にそひて五つの廊あり。3 その内に病める者、盲人、跛者、瘦せ衰へたる者ども夥多しく臥しあたり。(水の動くを待てるなり。4 それは

御使のをりをり降りて水を動かすことあれば、その動きたるのち最先に池にいる者は、如何なる病にても癒ゆる故なり) 5 爰に三十八年病になやむ人ありしが、6 イエスその臥し居るを見、かつその病の久しきを知り、之に『なんぢ癒えんことを願ふか』と言ひ給へば、7 病める者こたふ『主よ、水の動くとき、我を池に入る者なし、我が往くほどに、他の人さきだち下るなり』8 イエス言ひ給ふ『起きよ、床を取りあげて歩め』9 この人ただちに癒え、床を取りあげて歩めり。その日は安息日に當りたれば、10 ユダヤ人醫されたる人にいふ『安息日なり、床を取りあぐるは宜しからず』11 答ふ『われを醫ししその人「床を取りあげて歩め」と云へり』12 かれら問ふ『「取りあげて歩め」と言ひし人は誰なるか』13 されど醫されし者は、その誰なるを知らざりき、そこに群衆あつたればイエス退き給ひしに因る。14 この後イエス宮にて彼に遇ひて言ひたまふ『視よ、なんぢ癒えたり。再び罪を犯すな、恐らくは更に大なる悪しきこと汝に起らん』15 この人ゆきてユダヤ人、おのれを醫したる者のイエスなるを告ぐ。16

ここにユダヤ人、かかる事を安息日になすとて、イエスを責められたれば、17 イエス答へ給ふ『わが父は今にいたるまで働き給ふ、我もまた働くなり』18 此に由りてユダヤ人いよいよイエスを殺さんと思ふ。それは安息日を破るのみならず、神を我が父といひて、己を神と等しき者になし給ひし故なり。19 イエス答へて言ひ給ふ『まことに誠に汝らに告ぐ、子は父のなし給ふことを見て行ふほかは、自ら何事もをもし得ず、父のなし給ふことは子もまた同じく爲すなり。20 父は子を愛して、その爲す所をことごとく子に示したまふ。また更に大なる業を示し給はん、汝等をして怪しましめん爲なり。21 父の死にし者をして活し給ふごとく、子もまた己が欲する者を活すなり。22 父は誰をも審き給はず、審判をさへみな子に委ね給へり。23 これ凡ての人の父を敬ふごとくに子を敬はん爲なり。子を敬はぬ者は、之を遣し給ひし父をも敬はぬなり。24 誠にまことに汝らに告ぐ、わが言をききて我を遣し給ひし者を信ずる人は、永遠の生命をもち、かつ審判に至らず、死より生命に移れるなり。25 誠にまことに汝らに告ぐ、死にし人、神の子の聲をきく時きたらん、今すでに來れり、而して聞く人は活くべし。26 これ父みづから生命を有ち給ふごとく、子にも自ら生命を有つことを得させ、27 また人の子たるに因りて、審判する權を與へ給ひしなり。28 汝ら之を怪しむな、墓にある者みな神の子の聲をききて出づる時きたらん。29 善をなしし者は生命に甦へり、悪を行ひし者は審判に甦へるべし。30 我みづから何事もなし能はず、ただ聞くまことに審くなり。わが審判は正し、それは我が意を求めずして、我を遣し給ひし者の御意を求むるに因る。3

1 我もし己につきて證せば、我が證は眞ならず。 32 我につきて證する者は他にあり、その我につきて證する證の眞なるを我は知る。 33 なんぢら前に人をヨハネに遣ししに、彼は眞につきて證せり。 34 我は人よりの證を受くる事をせねど、唯なんぢらの救はれん爲に之を言ふ。 35 かれは燃えて輝く燈火なりしが、汝等その光にありて暫時よろこぶ事をせり。 36 されど我にはヨハネの證よりも大なる證あり。父の我にあたへて成し遂げしめ給ふわざ、即ち我がおこなふ業は、我につきて父の我を遣し給ひたるを證し、 37 また我をおくり給ひし父も、我につきて證し給へり。汝らは未だその御聲を聞きし事なく、その御形を見し事なし。 38 その御言は汝らの衷にとどまらず、その遣し給ひし者を信ぜぬに因りて知らるるなり。 39 汝らは聖書に永遠の生命ありと思ひて之を查ぶ、されどこの聖書は我につきて證するものなり。 40 然るに汝ら生命を得んために我に来るを欲せず。 41 我は人よりの譽をうくる事をせず、 42 ただ汝らの衷に神を愛する事なきを知る。 43 我はわが父の名によりて来りしに、汝等われを受けず、もし他人のおのれの名によりて来らば之を受けん。 44 互に譽をうけて、唯一の神よりの譽を求めぬ汝らは、争で信ずることを得んや。 45 われ父に汝らを訴へんとすと思ふな、訴ふもの一人あり、汝らが頼とするモーセなり。 46 若しモーセを信ぜしならば、我を信ぜしならん、彼は我につきて録したればなり。 47 されど彼の書を信ぜずば、争で我が言を信ぜんや。

Chapter 6

1この後イエス、ガリラヤの海、即ちテベリアの海の彼方にゆき給へば、2大なる群衆これに従ふ、これは病みたる者に行ひたまへる徴を見し故なり。3イエス山に登りて、弟子たちと共にそこに坐し給ふ。4時はユダヤ人の祭なる過越に近し。5イエス眼をあげて大なる群衆のきたるを見て、ピリポに言ひ給ふ『われら何處よりパンを買ひて、此の人々に食はすべきか』6かく言ひ給ふはピリポを試むるために、自ら爲さんとする事を知り給ふなり。7ピリポ答へて言ふ『二百デナリのパンありとも、人々すこしづつ受くるにはほ足らじ』8弟子の一人にてシモン・ペテロの兄弟なるアンデレ言ふ9『ここに一人の童子あり、大麥のパン五つと小き肴二つをもてり、されど此の多くの人には何にかならん』10イエス言ひたまふ『人々を坐せしめよ』その處に多くの草ありて人々坐せしが、その數おほよそ五千なりき。11ここにイエス、パンを取りて謝し、坐したる人々に分ちあたへ、また肴をもたなし、その欲するほど與へ給ふ。12人々の飽きたるのち弟子たちに言ひたまふ『廢るものなきように撃きたる餘を

あつめよ』13乃ち集めたるに、五つの大麥のパンの撃きたるを食ひしもの餘、十二の筐に満ちたり。14人々その爲し給ひし徴を見ていふ『實にこれは世に来るべき預言者なり』15イエス彼ら来りて己をとらへ、王となさんとす地を知り、復ひとりにて山に遁れたまふ。16夕になりて弟子たち海にくだり、17船にのり海を渡りて、カペナウムに往かんとす。既に暗くなりたるに、イエス未だ来りたまはず。18大風ふきて海やりに荒出づ。19かくて四五丁こぎ出でしに、イエスの海の上をあゆみ、船に近づき給ふを見て懼れたれば、20イエス言ひたまふ『我なり、懼るな』21乃ちイエスを船に歡ひ迎へしに、船は直ちに往かんとする地に著けり。22明くる日、海のかなたに立てる群衆は、一艘のほか船なく、又イエスは弟子たちと共に乘りたまはず、弟子たちのみ出でゆきしを見たり。23(時にテベリアより數艘の船、主の謝して人々にパンを食はせ給ひし處の近くに來る)24ここに群衆はイエスも居給はず、弟子たちも居らぬを見て、その船に乗り、イエスを尋ねてカペナウムに往けり。25遂に海の彼方にてイエスに遇ひて言ふ『ラビ、何時ここに來り給ひしか』26イエス答へて言ひ給ふ『まことに誠に汝らに告ぐ、汝らが我を尋めるは、徴を見し故ならで、パンを食ひて飽きたる故なり。27朽ちる糧のためならで、永遠の生命にまで至る糧のために働け。これは人の子の汝らに與へんとするものなり、父なる神は印して彼を證し給ひたるに因る』28ここに彼ら言ふ『われら神の業を行はんには何をなすべきか』29イエス答へて言ひたまふ『神の業はその遣し給へる者を信ずるはなり』30彼ら言ふ『さらば我らが見て汝を信ぜしために、何の徴をなすか、何を行ふか。31我らの先祖は荒野にてマナを食へり、録して「天よりパンを彼らに與へて食はしめたり」と云へるが如し』32イエス言ひ給ふ『まことに誠に汝らに告ぐ、モーセは天よりのパンを汝らに與へしに、されど我が父は天よりの眞のパンを與へたまふ。33神のパンは天より降りて生命を世に與ふるものなり』34彼等いふ『主よ、そのパンを常に與へよ』35イエス言ひ給ふ『われは生命のパンなり、我にきたる者は飢えず、我を信ずる者はいつまでも渴くことなからん。36されど汝らは我を見てなほ信ぜず、我さきに之を告げたり。37父の我に賜ふものは皆われに來らん、我にきたる者は我これを退けず。38夫わが天より降りしは、我が意をなさん爲に、我を遣し給ひし者の御意をなさん爲なり。39我を遣し給ひし者の御意は、すべて我に賜ひし者を、我その一つをも失はずして、終の日に甦へらするはなり。40わが父の御意は、すべて子を見て信ずる者の永遠の生命を得るはなり。われ終の日にこれを甦へらすべし』41ここにユダヤ人ら、イエスの『われは天より降りしパンなり』と

言ひ給ひしにより、42呟きて言ふ『これはヨセフの子イエスならずや、我等はその父母を知る、何ぞ今「われは天より降りし」と言ふか』43イエス答へて言ひ給ふ『なんぢら呟き合ふな、44我を遣しし父ひき給はずば、誰も我に來ること能はず、我これを終の日に甦へらすべし。45預言者たちの書に「彼らみな神に教へられん」と録されたり。すべて父より聽きて學びし者は我にきたる。46これは父を見し者ありとにあらず、ただ神よりの者のみ父を見たり。47まことに誠になんぢらに告ぐ、信ずる者は永遠の生命をもつ。48我は生命のパンなり。49汝らの先祖は、荒野にてマナを食ひしが死にたり。50天より降るパンは、食ふ者をして死ぬる事なからしむるなり。51我は天より降りし活けるパンなり、人このパンを食はば永遠に活くべし。我が與ふるパンは我が肉なり、世の生命のために之を與へん』52ここにユダヤ人たがひに争ひて言ふ『この人はいかに己が肉を我らに與へて食はしむることを得ん』53イエス言ひ給ふ『まことに誠になんぢらに告ぐ、人の子の肉を食はず、その血を飲まずば、汝らに生命なし。54わが肉をくらひ、我が血をのむ者は、永遠の生命をもつ、われ終の日にこれを甦へらすべし。55夫わが肉は眞の食物、わが血は眞の飲料なり。56わが肉をくらひ我が血をのむ者は、我に居り、我もまた彼に居る。57活ける父の我をつかはし、我の父によりて活くるごとく、我をくらふ者も我によりて活くべし。58天より降りしパンは、先祖たちが食ひてなほ死にし如きものに、此のパンを食ふものは永遠に活きん』59此等のことはイエス、カペナウムにて教ふるとき、會堂にて言ひ給ひしなり。60弟子たちの中おほくの者これを聞きて言ふ『こは甚だしき言なるかな、誰か能く聽き得べき』61イエス弟子たちの之に就きて呟くを自ら知りて言ひ給ふ『このことは汝らを躰かするか。62さらば人の子のもと居りし處に昇るを見れば如何に。63活すものは靈なり、肉は益する所なし、わが汝らに語りし言は、靈なり、生命なり。64されど汝らの中に信ぜぬ者どもあり』65イエス初より、信ぜぬ者どもは誰、おのれを賣る者は誰なるかを知り給へるなり。66かくて言ひたまふ『この故に我さきに汝らに告げて、父より賜はりたる者ならずば我に來るを得ずと言ひしなり』66ここにおいて、弟子たちのうち多くの者がへり去りて、復イエスと共に歩まざりき。67イエス十二弟子に言ひ給ふ『なんぢらも去らんとすか』68シモン・ペテロ答ふ『主よ、われら誰にゆかん、永遠の生命の言は汝にあり。69又われらは信じかつ知る、なんぢは神の聖者なり』70イエス答へ給ふ『われ汝ら十二人を選びしに、然るに汝らの中の一人は惡魔なり』71イスカリオテのシモンの子ユダを指して言ひ給へるなり、彼は十二弟子の一人なれど、イエスを賣らんとする者なり。

Chapter 7

1この後イエス、ガリラヤのうちを巡り給ふ、ユダヤ人の殺さんとするに困りて、ユダヤのうちを巡ることを欲し給はぬなり。2ユダヤ人の假廬の祭ちかづきたれば、3兄弟たちイエスに言ふ『なんぢの行ふ業を弟子たちにも見せんために、此處を去りてユダヤに往け。4誰にても自ら顯れんことを求めて、隱に業をなす者なし。汝これらの事を爲すからは、己を世にあらはせ』5はその兄弟たちもイエスを信ぜぬ故なり。6ここにイエス言ひ給ふ『わが時はいまだ到らず、汝らの時は常に備れり。7世は汝らを憎むこと能はねど我を憎む、我は世の所作の惡しきを證すればなり。8なんぢら祭に上れ、わが時いまだ満たねば、我は今この祭にのぼらず』9かく言ひて尚ガリラヤに留り給ふ。10而して兄弟たちの祭にのぼりたる後、あらはならで潜びやかに上り給ふ。11祭にあたりユダヤ人らイエスを尋ねて『かれは何處に居るか』と言ふ。12また群衆のうちに囁く者おほくありて、或は『イエスは善き人なり』といひ、或は『いな、群衆を惑すなり』と言ふ。13されどユダヤ人を懼るに困りて、誰もイエスのことを公然に言はず。14祭も、はや半となりし頃、イエス宮にのぼりて教へ給へば、15ユダヤ人あやしみて言ふ『この人は學びし事なきに、如何にして書を知るか』16イエス答へて言ひ給ふ『わが教はわが教に、我を遣し給ひし者の教なり。17人もし御意を行はんと欲せば、此の教の神よりか、我が己より語るかを知らん。18己より語るものは己の榮光をもとむ、己を遣しし者の榮光を求むる者は眞なり、その中に不義なし。19モーセは汝らに律法を與へしに、されど汝等のうちに律法を守る者なし。汝ら何ゆゑ我を殺さんとすか』20群衆こたふ『なんぢは惡鬼に憑かれたり、誰が汝を殺さんとすぞ』21イエス答へて言ひ給ふ『われ一つの業をなしたれば、汝等みな怪しめり。22モーセは汝らに割禮を命じたり(これはモーセより起りしとに、先祖より起りしなり)この故に汝ら安息日に人に割禮を施す。23モーセの律法の廢らぬために、安息日に人の割禮を受くる事あらば、何ぞ安息日に人の全身を健かにせしめて我を怒るか。24外貌によりて裁くな、正しき審判にて審け』25ここにエルサレムの或人々いふ『これは人々の殺さんとする者ならずや。26視よ、公然に語るに、之に對して何を言ふ者なし、司たちは此の人のキリストたるを眞に認めしならんか。27されど我らは此の人の何處よりかを知る、キリストの來る時には、その何處よりかを知る者なし』28ここにイエス宮にて教へつつ呼はりて言ひ給ふ『なんぢら我を知り、亦わが何處よりかを知る。されど我は己より來るに、あらざる、眞の

者ありて我を遣し給へり。汝らは彼を知らず、29 我は彼を知る。我は彼より出で、彼は我を遣し給ひしに因りてなり』30 ここに人々イエスを捕へんと謀りたれど、彼の時いまだ到らぬ故に手出する者なかりき。31かくて群衆のうち多くの人々イエスを信じて『キリスト來るとも、此の人の行ひしより多く徴を行はんや』と云ふ。32 イエスにつきて群衆のかく囁くことパリサイ人の耳に入りたれば、祭司長・パリサイ人ら彼を捕へんとて下役どもを遣ししに、33 イエス言ひ給ふ『我なほ暫く汝らと偕に居り、而してのち我を遣し給ひし者の御許に往く。34 汝ら我を尋ねん、されど逢はざるべし、汝等わが居る處に往くこと能はず』35 ここにユダヤ人ら互に云ふ『この人われらの逢ひ得ぬいづこに往かんとするか、ギリシヤ人のうちに散りる者に往きて、ギリシヤ人を教へんとするか。36 その言に「なんぢら我を尋ねん、然れど逢はざるべし、汝ら我を尋ねん、然れど逢はざるべし」と云へるは何ぞや』37 祭の終の大なる日に、イエス立ちて呼はりて言ひたまふ『人もし渴かば我に來りて飲め。38 我を信する者は、聖書に云へること、その腹より活ける水、川となりて流れ出づべし』39 これは彼を信する者の受けんとする御靈を指して言ひ給ひしなり。イエス未だ榮光を受け給はざれば、御靈いまだ降らざりしなり。40 此等の言をききて群衆のうちの或人は『これ眞にかの預言者なり』といひ、41 或人は『これキリストなり』と云ひ、又ある人は『キリストいかでガリラヤより出でんや、42 聖書に、キリストはダビデの裔またダビデの居りし村ベツレヘムより出づと云へるならずや』と云ふ。43 斯くイエスの事によりて、群衆のうちに紛争おこりたり。44 その中には、イエスを捕へんと欲する者もありしが、手出する者なかりき。45 而して下役ども、祭司長・パリサイ人の許に歸りたれば、彼ら問ふ『なに故かれを曳き來らぬか』46 下役ども答ふ『この人の語ること語りし人は未だなし』47 パリサイ人等これに答ふ『なんぢらも惑されしか、48 同たち又はパリサイ人のうちに、一人だに彼を信ぜし者ありや、49 律法を知らぬこの群衆は誑はれたる者なり』50 彼等のうちの一人にてさきにイエスの許に來りしニコデモ言ふ、51 『われらの律法は、先その人に聽き、その爲すところを知るにあらざれば、審く事をせんや』52 かれら答へて言ふ『なんぢもガリラヤより出でしか、查べ見よ、預言者はガリラヤより起る事なし』53 [斯くておのおの己が家に歸れり。

Chapter 8

1

イエス、オリブ山にゆき給ふ。2 夜明ごろ、また宮に入りしに、民みな御許に來りたれば、坐して教へ給ふ。3 ここに學者・パリサイ人ら、姦

淫のとき捕へられたる女を連れきたり、眞中に立ててイエスに言ふ、4 『師よ、この女は姦淫のをり、そのまま捕へられたるなり。5 モーセは律法に、斯かる者を石にて撃つべき事を我らに命じたるが、汝は如何に言ふか』6 かく云へるは、イエスを試みて、訴ふる種を得んとてなり。イエス身を屈め、指にて地に物書き給ふ。7 かれら問ひて止まざれば、イエス身を起して『なんぢらの中、罪なき者まづ石を擲て』と言ひ、8 また身を屈めて地に物書きたまふ。9 彼等これを聞きて良心に責められ、老人をはじめ若き者まで一人一人いでゆき、唯イエスと中に立てる女とのみ遺れり。10 イエス身を起して、女のほかに誰も居らぬを見て言ひ給ふ『をんなよ、汝を訴へたる者どもは何處にをるぞ、汝を罪する者なきか』11 女いふ『主よ、誰もなし』イエス言ひ給ふ『われも汝を罪せじ、往け、この後ふたたび罪を犯すな』12 かくてイエスまた人々に語りて言ひ給ふ『われは世の光なり、我に従ふ者は暗き中を歩まず、生命の光を得べし』13 パリサイ人ら言ふ『なんぢは己につきて證す、なんぢの證は眞ならず』14 イエス答へて言ひ給ふ『われ自ら己につきて證すとも、我が證は眞なり、我は何處より來り何處に往くを知る故なり。汝らは我が何處より來り、何處に往くを知らず、15 なんぢらは肉によりて審く、我は誰をも審かず。16 されど我もし審かば、我が審判は眞なり、我は一人ならず、我と我を遣し給ひし者と偕なるに因る。17 また汝らの律法に、二人の證は眞なりと録されたり。18 我みづから己につきて證をなし、我を遣し給ひし父も我につきて證をなし給ふ』19 ここに彼ら言ふ『なんぢの父は何處にあるか』イエス答へ給ふ『なんぢらは我をも我が父をも知らず、我を知りしならば、我が父をも知りしならん』20 イエス宮の内にて教へし時、これらの事を賣錢函の傍らにて語り給ひしが、彼の時いまだ到らぬ故に、誰も捕ふる者なかりき。21 かくてまた人々に言ひ給ふ『われ往く、なんぢら我を尋ねん。されど己が罪のうちに死なぬ、わが往くところに汝ら來ること能はず』22 ユダヤ人ら言ふ『わが往く處に汝ら來ること能はず』と云へるは、自殺せんとてか』23 イエス言ひ給ふ『なんぢらは下より出で、我は上より出づ、汝らは此の世より出で、我は此の世より出でず。24 之によりて我なんぢらは己が罪のうちに死なんと云へるなり。汝等もし我の夫なるを信ぜずば、罪のうちに死ぬべし』25 彼ら言ふ『なんぢは誰なるか』イエス言ひ給ふ『われは正しく汝らに告げ來りし所の者なり。26 われ汝らに就きて語るべきこと審くべきこと多し、而して我を遣し給ひし者は眞なり、我は彼に聽きしその事を世に告ぐるなり』27 これは父をさして言ひ給へるを、彼らは悟らざりき。28 ここにイエス言ひ給ふ『なんぢら人の子を擧げしもの、我の夫なるを知り、又わが己

によりて何事をも爲さず、ただ父の我に教へ給ひしごとく、此等のことを語りたるを知らん。29 我を遣し給ひし者は、我とともに在す。我つねに御意に適ふことを行ふによりて、我を獨おき給はず』30 此等のことを語り給へるとき、多くの人々イエスを信じたり。31 ここにイエス己を信じたるユダヤ人に言ひたまふ『汝等もし常に我が言に居らば、眞にわが弟子なり。32 また眞理を知らん、而して眞理は汝らに自由を得さすべし』33 かれら答ふ『われはアブラハムの裔にして、未だ人の奴隷となりし事なし。如何なれば「なんぢら自由を得べし」と言ふか』34 イエス答へ給ふ『まことに誠に汝らに告ぐ、すべて罪を犯す者は罪の奴隷なり。35 奴隷はとしへに家に居らず、子は永遠に居るなり。36 この故に子もし汝らに自由を得させば、汝ら實に自由とならん。37 我は汝らがアブラハムの裔なるを知る、されど我が言なんぢらの衷に留らぬ故に、我を殺さんと謀る。38 我はわが父の許にて見しことを語り、汝らは又なんぢらの父より聞きしことを行ふ』39 かれら答へて言ふ『われらの父はアブラハムなり』イエス言ひ給ふ『もしアブラハムの子ならば、アブラハムの業をなさん。40 然るに汝らは今、神より聽きたる眞理を汝らに告ぐる者なる我を殺さんと謀る。アブラハムは斯かることを爲さざりき。41 汝らは汝らの父の業を爲すなり』かれら言ふ『われら淫行によりて生れず、我らの父はただ一人、即ち神なり』42 イエス言ひたまふ『神もし汝らの父ならば、汝ら我を愛せん、われ神より出でて來ればなり。我は己より來るにあらざり、神われを遣し給へり。43 何故わが語ることを悟らぬか、是わが言をきくこと能はぬに因る。44 汝らは己が父惡魔より出でて、己が父の慾を行はんことを望む。彼は最初より人殺なり、また眞その中になき故に眞に立たず、彼は虚偽をかたる毎に己より語る、それは虚偽者にして虚偽の父なればなり。45 然るに我は眞を告ぐるによりて、汝ら我を信ぜず、46 汝等のうち誰か我を罪ありとして責め得る。われ眞を告ぐるに、我を信ぜぬは何故ぞ。47 神より出づる者は神の言をきく、汝らの聽かぬは神より出でぬに因る』48 ユダヤ人こたへて言ふ『なんぢはサマリヤ人にて惡鬼に憑かれたる者なりと、我らが云へるは宜ならずや』49 イエス答へ給ふ『われは惡鬼に憑かれず、反つて我が父を敬ふ、なんぢらは我を輕んず。50 我はおのれの榮光を求めず、之を求めかつ審判し給ふ者あり。51 誠にまことに汝らに告ぐ、人もし我が言を守らば、永遠に死を見ざるべし』52 ユダヤ人いふ『今ぞなんぢが惡鬼に憑かれたるを知る。アブラハムも預言者たちも死にたり、然るに汝は「人もし我が言を守らば、永遠に死を味はざるべし」と云ふ。53 汝われらの父アブラハムよりも大なるか、彼は死に、預言者たちも死

にたり、汝はおのれを誰とするか』54 イエス答へたまふ『我もし己に榮光を歸せば、我が榮光は空し。我に榮光を歸する者は我が父なり、即ち汝らが己の神と稱ふる者なり。55 然るに汝らは彼を知らず、我は彼を知る。もし彼を知らずと言はば、汝らの如く僞者たるべし。されど我は彼を知り、且その御言を守る。56 汝らの父アブラハムは、我が日を見んとて楽しみ且これを見て喜べり』57 ユダヤ人いふ『なんぢ未だ五十歳にもならぬにアブラハムを見しか』58 イエス言ひ給ふ『まことに誠に汝らに告ぐ、アブラハムの生れいでぬ前より我は在るなり』59 ここに彼ら石をとりてイエスに擲たんとしたるに、イエス隠れて宮を出で給へり。

Chapter 9

1

イエス途往くとき、生れながらの盲人を見給ひたれば、2 弟子たち問ひて言ふ『ラビ、この人の盲目にて生れしは、誰の罪によるぞ、己のか、親のか』3 イエス答へ給ふ『この人の罪にも親の罪にもあらず、ただ彼の上に神の業の顯れん爲なり。4 我を遣し給ひし者の業を我ら晝の間になさざる可からず。夜きたらん、その時は誰も働くこと能はず。5 われ世にをる間は世の光なり』6 かく言ひて地に唾し、唾にて泥をつくり、之を盲人の目にぬりて言ひ給ふ、7 『ゆきてシロアム（釋けば遣されたる者）の池にて洗へ』乃ちゆきて洗ひたれば、見ゆることを得て歸れり。8 ここに隣人および前に彼の乞食なるを見し者ども言ふ『この人は坐して物乞ひみたるにあらずや』9 或人は『夫なり』といひ、或人は『否、ただ似たるなり』といふ。かの者『われは夫なり』と言ひたれば、10 人々いふ『さらば汝の目は如何にして開きたるか』11 答ふ『イエスといふ人、泥をつくり我が目に塗りて言ふ「シロアムに往きて洗へ」と、乃ち往きて洗ひたれば、物見ることを得たり』12 彼ら『その人は何處に居るか』と言へば『知らず』と答ふ。13 人々さきに盲目なりし者をパリサイ人の許に連れきたる。14 イエスの泥をつくりて其の人の目をあけし日は安息日なりき。15 パリサイ人らも亦いかにして物見ることを得しかと問ひたれば、彼いふ『かの人わが目に泥をぬり、我これを洗ひて見ゆることを得たり』16 パリサイ人の中なる或人は『かの日、安息日を守らぬ故に、神より出でし者にあらず』と言ひ、或人は『罪ある人いかで斯かる徴をなし得んや』と言ひて互に相争ひたり。17 ここにまた盲目なりし人に言ふ『なんぢの目をあけしに因り、汝は彼に就きて如何にいふか』彼いふ『預言者なり』18 ユダヤ人ら、彼が盲目なりしに見ゆるやうになりしことを、未だ信ぜずして、

目の開きたる人の両親を呼び、19 問ひて言ふ『これは盲目にて生れしと言ふ汝の子なりや、さらば今いかにして見ゆるか』20 両親こたへて言ふ『かれの我が子なることと、盲目にて生れたる事を知る。21 されど今いかにして見ゆるかを知らず、又その目をあけしは誰なるか、我らは知らず、彼に問へ、年長たれば自ら己がことを語らん』22 両親のなく言ひしはユダヤ人を懼れたるなり。ユダヤ人ら相譲りて『若しイエスをキリストと言ひ顯す者あらば、除名すべし』と定めたるに因る。23 両親の『かれ年長たれば彼に問へ』と云へるは此の故なり。24 かれら盲目なりし人を再び呼びて言ふ『神に榮光を歸せよ、我等はかの人を罪人たるを知る』25 答ふ『かれ罪人なるか、我は知らず、ただ一つの事をする、即ち我さきに盲目たりしが、今見ゆることを得たる是なり』26 彼ら言ふ『かれは汝に何をなししか、如何にして目をあけしか』27 答ふ『われ既に汝らに告げたれど聴かざりき。何ぞまた聴かんとするか、汝らもその弟子とならんことを望むか』28 かれら罵りて言ふ『なんぢは其の弟子なり、我等モーセの弟子なり。29 モーセに人の語り給ひしことを知れど、此の人の何處よりかを知らず』30 答へて言ふ『その何處よりかを知らずとは怪しき事なり、彼わが目をあけしに。31 神は罪人に聴き給はねど、敬虔にして御意をおこなふ人々に聴き給ふことを我らは知る。32 世の太初より、盲目にて生れし者の目をあけし人あるを聞きし事なし。33 かの人もし神より出でずば、何事をも爲し得ざらん』34 かれら答へて『なんぢ全く罪のうちに生れながら、我らを教ふるか』と言ひて、遂に彼を追ひ出せり。35 イエスその追ひ出されしことを聞き、彼に逢ひて言ひ給ふ『なんぢの子を信するか』36 答へて言ふ『主よ、それは誰なる乎、われ信ぜまほし』37 イエス言ひ給ふ『なんぢ彼を見たり、汝と語る者は夫なり』38 ここに彼『主よ、我は信ず』といひて拜せり。39 イエス言ひ給ふ『われ審判の爲にこの世に來れり。見えぬ人は見え、見ゆる人は盲目とならん爲なり』40 パリサイ人の中イエスと共に居りし者、これを聞いて言ふ『我らも盲目なるか』41 イエス言ひ給ふ『もし盲目なりしならば、罪なかりしならん、されど見ゆと言ふ汝らの罪は遭れり』

Chapter 10

1 『まことに誠に汝らに告ぐ、羊の檻に門より入らずして、他より越ゆる者は、盗人なり、強盗なり。2 門より入る者は、羊の牧者なり。3 門守は彼のために開き、羊はその聲をきき、彼は己の羊の名を呼びて牽きいだす。4 悉とく其の羊をいだしし時、これに先だちゆく、羊その聲を知るによりて従ふなり。5 他者

には従はず、反つて逃ぐ、他者どもその聲を知らぬ故なり』6 イエスの聲を言ひ給へど、彼らその何事かをたたり給ふかを知らざりき。7 この故にイエス復ひ給ふ『まことに誠に汝らに告ぐ、我は羊の門なり。8 すべて我より前に來りし者は、盗人なり、強盗なり、羊は之に聴かざりき。9 我は門なり、おほよそ我によりて入る者は救はれ、かつ出入をなし、草を得べし。10 盗人のきたるは盗み、殺し、亡さんとするの他なし。わが來るは羊に生命を得しめ、かつ豊に得しめん爲なり。11 我は善き牧者なり、善き牧者は羊のために生命を捨つ。12 牧者ならず、羊も己がものならぬ雇人は、豺狼のきたるを見れば羊を棄てて逃ぐ、豺狼は羊をうばひ且ちらす』13 彼は雇人にて、その羊を顧みぬ故なり。14 我は善き牧者にして、我がものを知り、我がものは我を知る、15 父の我を知り、我の父を知るが如し、我は羊のために生命を捨つ。16 我には亦この檻のものならぬ他の羊あり、之をも導かざるを得ず、彼ら是我が聲をきかん、遂に一つの群ひとりの牧者となるべし。17 之によりて父は我を愛し給ふ、それは我ふたび生命を得んために生命を捨つる故なり。18 人これを我より取るにあらず、我みづから捨つるなり。我は之をすつる權あり、復これを得る權あり、我この命令をわが父より受けたり』19 これらの言によりて復ユダヤ人のうちに紛争おこり、20 その中なる多くの者いふ『かれは惡鬼に憑かれて氣狂へり、何ぞ之にきくか』21 他者ども言ふ『これは惡鬼に憑かれたる者の言にあらず、惡鬼は盲人の目をあけ得んや』22 その頃エルサレムに宮潔の祭あり、時は冬なり。23 イエス宮の内、ソロモンの廊を歩きたまふに、24 ユダヤ人ら之を取圍みて言ふ『何時まで我らの心を惑しむるか、汝キリストならば明白に告げよ』25 イエス答へ給ふ『われ既に告げたれど汝ら信ぜず、わが父の名によりて行ふわざは、我に就きて證す。26 されど汝らは信ぜず、我が羊ならぬ故なり。27 わが羊はわが聲をきき、我は彼らを知り、彼らは我に従ふ。28 我かれらに永遠の生命を與ふれば、彼らは永遠に亡ぶることなく、又かれらを我が手より奪ふ者あらず。29 彼らを我にあたへ給ひし我が父は、一切のものよりも大なるべし、誰にても父の御手よりは奪ふこと能はず。30 我と父とは一つなり』31 ユダヤ人また石を取りあげてイエスを撃たんとす。32 イエス答へ給ふ『われは父によりて多くの善き業を汝らに示したり、その孰の業ゆゑに我を石にて撃たんとするか』33 ユダヤ人こたふ『なんぢを石にて撃つは善きわざの故ならず、瀆言の故にして、なんぢ人なるに、己を神とする故なり』34 イエス答へ給ふ『なんぢらの律法に「われ言ふ、汝らは神なり」と録されたるに非ずや。35 かく神の言を賜はりし人々を神と云へり。

聖書は廢るべきにあらず、36 然るに父の潔め別ちて世に遣し給ひし者が「われは神の子なり」と言へばとて、何ぞ「瀆言を言ふ」といふか。37 我もし我が父のわざを行はずば、我を信すな、38 もし行はば、假令われを信ぜずとも、その業を信ぜよ。さらば父の我にをり、我の父に居ることを知りて悟らん』39 かれら復イエスを捕へんとせしが、その手より脱れて去り給へり。40 かくてイエス復ヨルダンの彼方、ヨハネの最初にバプテスマを施したる處にいたり、其處にとどまり給ひしが、41 多くの人みもとに來りて『ヨハネは何の徴をも行はざりしかど、この人に就きてヨハネの言ひし事は、ことごとく眞なりき』と言ふ。42 而して多くの人かしこにてイエスを信じたり。

Chapter 11

1 ここに病める者あり、ラザロと云ふ、マリヤとその姉妹マルタとの村ベタニヤの人なり。2 此のマリヤは、主に香油をぬり、頭髮にて御足を拭ひし者にして、病めるラザロはその兄弟なり。3 姉妹ら人をイエスに遣して『主、視よ、なんぢの愛し給ふもの病めり』と言はしむ。4 之を聞いてイエス言ひ給ふ『この病は死に至らず、神の榮光のため、神の子のこれに由りて榮光を受けんためなり』5 イエスはマルタと、その姉妹と、ラザロとを愛し給へり。6 ラザロの病みたるを聞いて、その居給ひし處になほ二日とどまり、7 而してその弟子たちと言ひ給ふ『われら復ユダヤに往くべし』8 弟子たち言ふ『ラビ、この程もユダヤ人、なんぢを石にて撃たんとせしに、復かしこに往き給ふか』9 イエス答へたまふ『一日に十二時あるならずや、人もし晝あるかば、此の世の光を見るゆゑに蹟くことなし。10 夜あるかば、光その人になき故に蹟くなり。11 かく言ひて復その後いひ給ふ『われらの友ラザロ眠れり、されど我よび起さん爲に往くなり』12 弟子たち言ふ『主よ、眠れるならば癒ゆべし』13 イエスは彼が死にたることを言ひ給ひしなれど、弟子たちは寢て眠れるを言ひ給ふと思へるなり。14 ここにイエス明白に言ひ給ふ『ラザロは死にたり。15 我かしこに居らざりし事を汝等のために喜ぶ、汝等をして信ぜしめんとなり。されど我ら今その許に往くべし』16 デドモと稱ふるトマス、他の弟子たちに言ふ『われらも往きて彼と共に死ぬべし』17 さてイエス來り見給へば、ラザロの墓にあること既に四日なりき。18 ベタニヤはエルサレムに近くして、二十五丁ばかりの距離なるが、19 數多のユダヤ人、マルタとマリヤとをその兄弟の事につき慰めんとなり。20 マルタはイエス來給ふと聞いて出で迎へたれど、マリヤはなほ家に坐し居たり。21 マルタ、イエスに言ふ『主よ、もし此處に在し

しならば、我が兄弟は死なざりしものを。22 されど今にても我は知る、何事を神に願ひ給ふとも、神は與へ給はん』23 イエス言ひ給ふ『なんぢの兄弟は甦へるべし』24 マルタ言ふ『をはりの日、復活のときに甦へるべきを知る』25 イエス言ひ給ふ『我は復活なり、生命なり、我を信する者は死ぬとも生きん。26 凡そ生きて我を信する者は、永遠に死なざるべし。汝これを信するか』27 彼いふ『主よ然り、我なんぢは世に來るべきキリスト、神の子なりと信ず』28 かく言ひて後、ゆきて竊にその姉妹マリヤを呼びて『師きたりて汝を呼びたまふ』と言ふ。29 マリヤ之をきき、急ぎ起ちて御許に往けり。30 イエスは未だ村に入らず、尚マルタの迎へし處に居給ふ。31 マリヤと共に家に居りて慰め居たるユダヤ人、その急ぎ立ちて出でゆくを見、かれは歎かんとて墓に往くと思ひて後に隨へり。32 かくてマリヤ、イエスの居給ひし處にいたり、之を見てその足下に伏し給ふ『主よ、もし此處に在ししならば、我が兄弟は死なざりしものを』と言ふ。33 イエスがかれが泣き居り、共に來りしユダヤ人も泣き居るを見て、心を傷め悲しみて言ひ給ふ、34 『かれを何處に置きしか』彼ら言ふ『主よ、來りて見給へ』35 イエス涙をながし給ふ。36 ここにユダヤ人ら言ふ『視よ、いかばかり彼を愛せしぞや』37 その中の或者ども言ふ『盲人の目をあけし此の人にして、彼を死なざらしむること能はざりしか』38 イエスまた心を傷めつつ墓にいたり給ふ。墓は洞にして石を置きて塞げり。39 イエス言ひ給ふ『石を除けよ』死にし人の姉妹マルタ言ふ『主よ、彼ははや臭し、四日を經たればなり』40 イエス言ひ給ふ『われ汝に、もし信ぜば神の榮光を見んと言ひしにあらざらば』41 ここに人々石を除けたり。イエス目を擧げて言ひたまふ『父よ、我にきき給ひしを謝す。42 斯くに斯く給ふを我は知る。然るに斯く言ふは、傍らに立つ群衆の爲にして、汝の我を遣し給ひしことを之に信ぜしめんとなり』43 斯く言ひてのち、聲高く『ラザロよ、出で來れ』と呼はり給へば、44 死にしもの布にて足と手を巻かれたるまま出で來る、顔も手拭にて包まれたり。イエス『これを解きて往かしめよ』と言ひ給ふ。45 かくてマリヤの許に來りて、イエスの爲し給ひし事を見る多くのユダヤ人、かれを信じたりしが、46 或者はパリサイ人に往きて、イエスの爲し給ひし事を告げたり。47 ここに祭司長・パリサイ人ら議會を開きて言ふ『われら如何に爲すべきか、此の人おほくの徴を行ふなり。48 もし彼をこのまゝ捨ておけば、人々みな彼を信ぜん、而してロマ人きたりて、我らの土地と國人とを奪はん』49 その中の一人にて此の年の大祭司なるカヤパ言ふ『なんぢら何をも知らず。50 ひとりの人、民のために死にて、國人すべての滅びぬは、汝らの益なるを思はぬなり』51 これは

己より云へるに非ず、この年の大祭司なれば、イエスの國人のため、52 又ただに國人の爲のみならず、散りたる神の子らを一につに集めん爲に死に給ふことを預言したるなり。53 彼等この日よりイエスを殺さんと議れり。54 されば此の後イエス顯にユダヤ人のなかを歩み給はず、此處を去りて、荒野にちかき處なるエフラムといふ町に往き、弟子たちと偕に其處に留りたまふ。55 ユダヤ人の過越の祭
近づきたれば、多くの人々身を潔めんとて、祭のまへに田舎よりエルサレムに上れり。56 彼らイエスをたづね、宮に立ちて互に言ふ『なんぢら如何に思ふか、彼は祭に来らぬか』57 祭司長・パリサイ人は、イエスを捕へんとて、その在處を知る者あらば、告げ出づべく預て命したりしなり。

Chapter 12

1 過越の祭の六日前に、イエス、ベタニヤに來り給ふ、こは死人の中より甦へらせ給ひしラザロの居る處なり。2 此處にてイエスのために饗宴を設け、マルタは事へ、ラザロはイエスと共に席に著ける者の中にあり。3 マリヤは價高き混りなきナルドの香油一斤を持ち來りて、イエスの御足にぬり、己が頭髮にて御足を拭ひしに、香油のかをり家に満ちたり。4 御弟子の一人にて、イエスを賣らんとするイスカリオテのユダ言ふ、5 『何ぞこの香油を三百デナリに賣りて、貧しき者に施さざる』6 かく云へるは貧しき者を思ふ故にあらず、おのれ盗人にして、財囊を預り、その中に納むる物を掠めみればなり。7 イエス言ひ給ふ『この女の爲すに任せよ、我が葬りの日のために之を貯へたるなり。8 貧しき者は常に汝らと偕に居れども、我は常に居らぬなり』9 ユダヤの多くの民ども、イエスの此處に居給ふことを知りて來る、これはイエスの爲のみならず、死人の中より甦へせ給ひしラザロを見んとてなり。10 かくて祭司長ら、ラザロをも殺さんと議る。11 彼のために多くのユダヤ人さり往きてイエスを信ぜし故なり。12 明るる日、祭に來りし多くの民ども、イエスのエルサレムに來り給ふをきき、13 棕櫚の枝をとりて出で迎へ、『『ホサナ、讃むべきかな、主の御名によりて來る者』イスラエルの王』と呼はる。14 イエスは小驢馬を得て之に乗り給ふ。これは録して、15 『シオンの娘よ、懼るな。視よ、なんぢの王は驢馬の子に乗りて來り給ふ』と有るが如し。16 弟子たちは最初これらの事を悟らざりしが、イエスの榮光を受け給ひし後に、これらの事のイエスに就きて録されたると、人々が斯く爲ししを思ひ出せり。17 ラザロを墓より呼び起し、死人の中より甦へらせ給ひし時に、イエスと偕に居りし群衆、證をなせり。18 群衆のイエスを迎へたるは、かかる徴を行ひ給ひしこと

を聞きたるに因りてなり。19 パリサイ人ら互に言ふ『見るべし、汝らの謀ることの益なきを。視よ、世は彼に従へり』20 禮拜せんとて祭に上りたる者の中に、ギリシヤ人數人ありしが、21 ガリヤヤなるベツサイダのピリポに來り、請ひて言ふ『君よ、われらイエスに謁えんことを願ふ』22 ピリポ往きてアンデレに告げ、アンデレとピリポと共に往きてイエスに告ぐ。23 イエス答へて言ひ給ふ『人の子の榮光を受くべき時きたれり。24 誠にまことに汝らに告ぐ、一粒の麥、地に落ちて死なずば、唯一つにて在らん、もし死なば、多くの果を結ぶべし。25 己が生命を愛する者は、これを失ひ、この世にて永遠の生命を憎む者は、之を保ちて永遠の生命に至るべし。26 我もし我に事へんとせば、我に従へ、わが居る處に我に事ふる者もまた居るべし。人もし我に事ふることをせば、我が父これを貴び給はん。27 今わが心さわく、われ何を言ふべきか。父よ、この時より我を救ひ給へ、されど我この爲にこの時に到れり。28 父よ、御名の榮光をあらはし給へ』ここに天より聲いでて言ふ『われ既に榮光をあらはしたり、復さらに顯さん』29 傍らに立てる群衆これを聞きて『雷霆鳴れり』と言ひ、ある人々は『御使かれに語れるなり』と言ふ。30 イエス答へて言ひ給ふ『この聲の來りしは、我が爲にあらず、汝らの爲なり。31 今この世の審判は來り、今この世の君は逐ひ出さるべし。32 我もし地より擧げられなば、凡ての人をわが許に引きよせん』33 かく言ひて、己が如何なる死にて死ぬるかを示し給へり。34 群衆こたふ『われら律法によりて、キリストは永遠に存へ給ふと聞きたるに、汝いかなれば人の子は擧げらるべしと言ふか、その人の子とは誰なるか』35 イエス言ひ給ふ『なほ暫し光は汝らの中にあり、光のある間に歩みて、暗黒に追及かれぬやうにせよ、暗黒中を歩む者は往方を知らず。36 光の子とならんために、光のある間に光を信ぜよ』イエス此等のことを語りてのち、彼らを避けて隠れ給へり。37 かく多くの徴を人々の前におこなひ給ひたれど、なほ彼を信ぜざりき。38 これ預言者イザヤの言の成就せん爲なり。曰く『主よ、我らに聞きたる言を誰か信ぜし。主の御腕は誰にあらはれし』39 彼らが信じ得ざりしは此の故なり。即ちイザヤまた云へらく、40 『彼らの眼を暗くし、心を頑固にし給へり。これ目にて見、心にて悟り、ひるがへりて、我に醫さる事なからん爲なり』41 イザヤの斯く云へるは、その榮光を見し故にて、イエスに就きて語りしなり。42 されど司たちの中にもイエスを信じたるもの多かりしが、パリサイ人の故によりて言ひ顯すことをせざりき、除名せられん事を恐れたるなり。43 彼らは神の譬よりも人の譬を愛でしなり。44 イエス呼はりて言ひ給ふ『われを信する者は我を信するにあらず、我を遣し給ひし者信じ、45 我を見る者は我を遣し

給ひし者を見るなり。46 我は光として世に來り、すべて我を信する者の暗黒に居らざらん爲なり。47 人たとひ我が言をききて守らずとも、我は之を審かす。夫わが來りしは世を審かかん爲にあらず、世を救はん爲なり。48 我を棄て我が言を受けぬ者を審く者あり、わが語れる言こそ終の日に之を審くなれ。49 我はおのれに由りて語れるにあらず、我を遣し給ひし父みづから、我が言ふべきこと語るべきことを命じ給ひし故なり。50 我その命令の永遠の生命たるを知る。されば我は語るに我が父の我に言ひ給ふまを語るなり』

Chapter 13

1 過越のまつりの前に、イエスこの世を去りて父に往くべき己が時の來れるを知り、世に在る己の者を愛して、極まで之を愛し給へり。2 夕餐のとき、惡魔早くもシモンの子イスカリオテのユダの心に、イエスを賣らんとする思を入れたるが、3 イエス父が萬物をおのが手にゆだね給ひしことと、己の神より出でて神に到ることを知り、4 夕餐より起ちて上衣をぬぎ、手巾をとりて腰にまとひ、5 尋で盥に水をいれて、弟子たちの足をあらひ、纏ひたる手巾にて之を拭ひはじめ給ふ。6 かくてシモン・ペテロに至り給へば、彼いふ『主よ、汝わが足を洗ひ給ふか』7 イエス答へて言ひ給ふ『わが爲すことを汝いまは知らず、後に悟るべし』8 ペテロ言ふ『永遠に我が足をあらひ給はざれば』イエス答へ給ふ『我もし汝を洗はずば、汝われと關係なし』9 シモン・ペテロ言ふ『主よ、わが足のみならず、手をも頭をも』10 イエス言ひ給ふ『すでに浴したる者は足のほか洗ふを要せず、全身きよきなり。斯く汝らは潔し、されど悉とくは然らず』11 これ己を賣る者の誰なるを知りたまふ故に『ことごとくは潔からず』と言ひ給ひしなり。12 彼らの足をあらひ、己が上衣をとり、再び席につきて後いひ給ふ『わが汝らに爲したることを知るか。13 なんぢら我を師また主となふ、然か言ふは宜なり、我は是なり。14 我は主また師なるに、尚なんぢらの足を洗ひたれば、汝らも互に足を洗ふべきなり。15 われ汝らに模範を示せり、わが爲しごとく汝らも爲さんためなり。16 誠にまことに汝らに告ぐ、僕はその主よりも大ならず。遣されたる者は之を遣す者よりも大ならず。17 汝等これらの事を知りて之を行はば幸福なり。18 これ汝ら凡ての者につきて言ふにあらず、我はわが選びたる者どもを知る。されど聖書に「我とともにパンを食ふ者、われに向ひて踵を擧げたり」と云へることは、必ず成就すべきなり。19 今その事の成らぬ前に之を汝らに告ぐ、事の成らん時、わが夫なるを汝らの信せんためなり。20 誠にまことに汝らに告ぐ、わが遣す者を受くる者は我をうくるなり。我を受くる者は我を遣し給

ひし者を受くるなり』21 イエス此等のことを言ひ終へて、心さわぎ證をなして言ひ給ふ『まことに誠に汝らに告ぐ、汝らの中の一人われを賣らん』22 弟子たち互に顔を見合せ、誰につきて言ひ給ふかを訝る。23 イエスの愛したまふ一人の弟子、イエスの御胸によりそひ居たれば、24 シモン・ペテロ首にて示し『誰のことを言ひ給ふか、告げよ』といふ。25 彼そのまま御胸によりかかりて『主よ、誰なるか』と言ひしに、26 イエス答へ給ふ『わが一撮の食物を浸して與ふる者は夫なり』かくて一撮の食物を浸して、シモンの子イスカリオテのユダに與へたまふ。27 ユダ一撮の食物を受くるや、惡魔かれに入りたり。イエス彼に言ひたまふ『なんぢが爲すことを速かに爲せ』28 席に著きあたる者は一人として、何故かく言ひ給ふかを知らず。29 ある人々は、ユダが財囊を預るによりて『祭のために要する物を買へ』とイエスの言ひ給へるが、また貧しき者に何か施さしめ給ふならんと思へり。30 ユダ一撮の食物を受くるや、直ちに出發、時は夜なりき。31 ユダの出でし後、イエス言ひ給ふ『今や人の子、榮光をうく、神も彼によりて榮光をうけ給ふ。32 神かれに由りて榮光をうけ給はば、神も己によりて彼に榮光を與へ給はん、直ちに與へ給ふべし。33 若子よ、我なほ暫く汝らと偕にあり、汝らは我を尋ねん、されど曾てユダヤ人に「なんぢらは我が往く處に來ること能はず」と言ひし如く、今汝らにも然か言ふなり。34 われ新しき誠命を汝らに與ふ、なんぢら相愛すべし。わが汝らに愛せしごとく、汝らも相愛すべし。35 互に相愛する事をせば、之によりて人みな汝らの我が弟子たるを知らん』36 シモン・ペテロ言ふ『主よ、何處にゆき給ふか』イエス答へ給ふ『わが往く處に、なんぢ今は從ふこと能はず。されど後に從はん』37 ペテロ言ふ『主よ、いま從ふこと能はぬは何故ぞ、我は汝のために生命を棄てん』38 イエス答へ給ふ『なんぢ我がために生命を棄つるか、誠にまことに汝に告ぐ、なんぢ三度われを否むまでは、鷄鳴かざるべし』

Chapter 14

1 『なんぢら心を騒がすな、神を信じ、また我を信ぜよ。2 わが父の家に住處おほし、然らずば我かねて汝らに告げしならん。われ汝等のために處を備へに往く。3 もし往きて汝らの爲に處を備へば、復きたりて汝らを我がもとに迎へん、わが居るところに汝らも居らん爲なり。4 汝らは我が往くところに至る道を知る』5 トマス言ふ『主よ、何處にゆき給ふかを知らず、いかでその道を知らんや』6 イエス彼に言ひ給ふ『われは道なり、眞理なり、生命なり、我に由らば誰にても父の御許にいたる者なし。7 汝等もし我を知りたらば、我が父をも知りしな

らん。今より汝ら之を知る、既に之を見たり』8ピリボ言ふ『主よ、父を我らに示し給へ、さらば足れり』9イエス言ひ給ふ『ピリボ、我かく久しく汝らと偕に居りしに、我を知らぬか。我を見し者は父を見しなり、如何なれば「我らに父を示せ」と言ふか。10我の父に居り、父の我に居給ふことを信ぜぬか。わが汝等にいふ言は、己によりて語るにあらず、父われに在して御業をおこなひ給ふなり。11わが言ふことを信ぜよ、我は父に在り、父は我に居給ふなり。もし信ぜずば、我が業によりて信ぜよ。12誠にまことに汝らに告ぐ、我を信ずる者は我がなす業をなさん、かつ之よりも大なる業をなすべし、われ父に往けばなり。13汝らが我が名によりて願ふことは、我みな之を爲さん、父、子によりて榮光を受け給はんためなり。14何事にても我が名によりて我に願はば、我これを成すべし。15汝等もし我を愛せば、我が誠命を守らん。16われ父に請はん、父は他に助手をあたへて、永遠に汝らと偕に居らしめ給ふべし。17これは眞理の御霊なり、世はこれを受くること能はず、これを見ず、また知らぬに因る。なんぢらは之を知る、彼は汝らと偕に居り、また汝らの中に居給ふべければなり。18我なんぢらを遣して孤兒とはせず、汝らに来るなり。19暫くせば世は復われを見ず、されど汝らは我を見る、われ活ければ汝らも活くべければなり。20その日には、我わが父に居り、なんぢらに居り、われ汝らに居ることを汝ら知らん。21わが誠命を保ちて之を守るものは、即ち我を愛する者なり。我を愛する者は我が父に愛せられん、我も之を愛し、之に己を顯すべし』22イスカリオテならぬユダ言ふ『主よ、何故おのれを我らに顯して、世には顯し給はぬか』23イエス答へて言ひ給ふ『人もし我を愛せば、わが言を守らん、わが父これを愛し、かつ我等その許に來りて住處を之ともせんに。24我を愛せぬ者は、わが言を守らず。汝らが聞くところの言は、わが言にあらず、我を遣し給ひし父の言なり。25此等のことは我なんぢらと偕にありて語りしが、26助主すなはちわが名によりて父の遣したまふ聖霊は、汝らに萬の事ををしへ、又すべて我が汝らに言ひしことを思ひ出さしむべし。27われ平安を汝らに遣す、わが平安を汝らに與ふ。わが與ふるは世の與ふる如くならず、なんぢらは心騒がすな、また懼るな。28「われ往きて汝らに来るなり」と云ひしを汝ら既に聞けり。もし我を愛せば、父にわが往くを喜ぶべきなり、父は我よりも大なるに因る。29今その事の成らぬ前に、これを汝らに告げたり、事の成らんとし汝らの信ぜぬためなり。30今より後われ汝らと多く語らじ、この世の君きたる故なり。彼は我に對して何の權もなし、31されど斯くなるは、我の、父を愛し、父の命じ給ふところに遵ひて行ふことを、世の知らん爲なり。起きよ、いざ此處を去るべし。

Chapter 15

1我は眞の葡萄の樹、わが父は農夫なり。2おほよそ我にありて果を結ばぬ枝は、父これを除き、果を結ぶものは、いよいよ果を結ばせん爲に之を潔めたまふ。3汝らは既に潔し、わが語りたる言に因りてなり。4我に居れ、さらば我なんぢらに居らん。枝もし樹に居らずば、自ら果を結ぶこと能はぬごとく、汝らも我に居らずば亦然り。5我は葡萄の樹、なんぢらは枝なり。人もし我に在り、我また彼にをらば、多くの果を結ぶべし。汝ら我を離るれば、何事をも爲し能はず。6人もし我に居らずば、枝のごとく外に棄てられて枯る、人々これを集め火に投げ入れて焼くなり。7汝等もし我に居り、わが言なんぢらに居らば、何にても望に隨ひて求めよ、さらば成らん。8なんぢら多くの果を結ばば、わが父は榮光を受け給ふべし、而して汝等わが弟子とならん。9父の我を愛し給ひしごとく、我も汝らを愛したり、わが愛に居れ。10なんぢら若しわが誠命をまもらば、我が愛にをらん、我わが父の誠命を守りて、その愛に居るがごとし。11我これらの事を語りたるは、我が喜悅の汝らに在り、かつ汝らの喜悅の満されん爲なり。12わが誠命は是なり、わが汝らを愛せしごとく互に相愛せよ。13人その友のために己の生命を棄つる、之より大なる愛はなし。14汝等もし我が命ずる事をおこなはば、我が友なり。15今よりこの我なんぢらを僕といはば、僕は主人のなす事を知らざるなり。我なんぢらを友と呼べり、我が父に聽きし凡てのことを汝らに知らせたればなり。16汝ら我を選びしにあらず、我なんぢらを選べり。而して汝らの往きて果を結び、且その果の残らんとために、又おほよそ我が名によりて父に求むるものを、父の賜はんために汝らを立てたり。17これらの事を命ずるは、汝らの互に相愛せん爲なり。18世もし汝らを憎まば、汝等より先に我を憎みたることを知れ。19汝等もし世のものならば、世は己がものを愛するならん。汝らは世のものならず、我なんぢらを世より選びたり。この故に世は汝らを憎む。20わが汝らに「僕はその主人より大ならず」と告げし言をおぼえよ。人もし我を責めしならば、汝等をも責め、わが言を守りしならば、汝らの言をも守らん。21すべて此等のことを我が名の故に汝らに爲さん、それは我を遣し給ひし者を知らぬに因る。22われ來りて語らざりしならば、彼ら罪なかりしならん。されど今はその罪いひのがるべき様なし。23我を憎むものは我が父をも憎むなり。24我もし誰もいまだ行はぬ事を彼らの中に往はざりしならば、彼ら罪なかりしならん。されど今ははや我をも我が父をも見たり、また憎みたり。25これは彼らの律法に「ひとびと故なくして我を憎めり」と録した

る言の成就せん爲なり。26父の許より我が遣さんとする助主、すなはち父より出づる眞理の御霊のきたらんとき、我につきて證せん。27汝等もまた初より我とともに在りたれば證するなり。

Chapter 16

1我これらの事を語りたるは、汝らの躓かざらん爲なり。2人なんぢらを除名すべし、然のみならず、汝らを殺す者みな自ら神に事ふと思ふとき來らん。3これらの事をなすは、父と我とを知らぬ故なり。4我これらの事を語りたるは、時いたりて我が斯く言ひしことを汝らの思ひいでん爲なり。初より此等のことを言はざりしは、我なんぢらと偕に在りし故なり。5今われを遣し給ひし者にゆく、然るに汝らの中、たれも我に「何處にゆく」と問ふ者なし。6唯これらの事を語りしによりて、憂なんぢらの心にみてり。7されど、われ實を汝らに告ぐ、わが去るは汝らの益なり。我さらば助主なんぢらに來らじ、我ゆかば之を汝らに遣さん。8かれ來らんとき、世をして罪につき、義につき、審判につきて、過てるを認めしめん。9罪に就きてとは、彼ら我を信ぜぬに因りてなり。10義に就きてとは、われ父にゆき、汝ら今より我を見ぬに因りてなり。11審判に就きてとは、此の世の君さばかるに因りてなり。12我なほ汝らに告ぐべき事あまたあれど、今なんぢら得耐へず。13されど彼すなはち眞理の御靈きたらん時、なんぢらを導きて眞理をことごとく悟らしめん。かれ己より語るにあらず、凡そ聞くところの事を語り、かつ來んとする事どもを汝らに示さん。14彼はわが榮光を顯さん、それは我がものを受けて汝らに示すべければなり。15すべて父の与ち給ふものは我がものなり、此の故に我がものを受けて汝らに示さんと云へるなり。16暫くせば汝ら我を見ず、また暫くして我を見るべし。17ここに弟子たちのうち或者たがひに言ふ『暫くせば我を見ず、また暫くして我を見るべし』と言ひ給へるは、如何なることぞ。18復いふ『この暫くとは如何なることぞ、我等その言ひ給ふところを知らず』19イエスその問はんと思へるを知りて言ひ給ふ『なんぢら「暫くせば我を見ず、また暫くして我を見るべし」と我が言ひしを尋ねあふか。20誠にまことに汝らに告ぐ、なんぢらは泣き悲しめ、世は喜ばん。汝ら憂ふべし、然れどその憂は喜悅とならん。21をんな産まんとする時は憂あり、その期いたるに因りてなり。子を産みてのちは苦痛をおぼえず、世に人の生れたる喜悅によりてなり。22斯く汝らも今は憂あり、されど我ふたたび汝らを見ん、その時なんぢらの心よるごぶべし、その喜悅を奪ふ者なし。23かの日には汝ら何事をも我に問ふまじ。誠にまことに汝らに告ぐ、汝等のすべて父に求

むる物をば、我が名によりて賜ふべし。24なんぢら今までは何をも我が名によりて求めたることなし。求めよ、然らば受けん、而して汝らの喜悅みたさるべし。25我これらの事を譬にて語りたりしが、また譬にて語らず、明白に父のことを汝らに告ぐるとき來らん。26その日には汝等わが名によりて求めん。我は汝らの爲に父に請ふと言はず、27父みづから汝らを愛し給へばなり。これ汝等われを愛し、また我の父より出でたりしことを信じたるに因る。28われ父より出でて世にきたれり、また世を離れて父に往くなり』29弟子たち言ふ『視よ、今は明白に語りて聊かも譬をいひ給はず。30我ら今なんぢの知り給はぬ所なく、また人の汝に問ふを待ち給はぬことを知る。之によりて汝の神より出でたり給ひしことを信ず』31イエス答へ給ふ『なんぢら今、信ずるか。32視よ、なんぢら散されて各自おのが處にゆき、我をひとり遣すとき到來ん、否すてに到れり。然れど我ひとり居るにあらず、父われと偕に在すなり。33此等のことを汝らに語りたるは、汝ら我に在りて平安を得んが爲なり。なんぢら世にありては患難あり、されど雄々しかれ。我すでに世に勝てり』

Chapter 17

1イエスこれらの事を語りては、目を擧げ天を仰ぎて言ひ給ふ『父よ、時來れり、子が汝の榮光を顯さんために、汝の子の榮光を顯したまへ。2汝より賜はりし凡ての者に、永遠の生命を與へしめんとして、萬民を治むる權威を子に賜ひたればなり。3永遠の生命は、唯一の眞の神にいます汝と、なんぢの遣し給ひしイエス・キリストとを知るにあり。4我に成さしめんとして汝の賜ひし業を成し遂げて、我は地上に汝の榮光をあらはせり。5父よ、まだ世のあらぬ前に、わが汝と偕にもちたりし榮光をもて、今御前にて我に榮光あらしめ給へ。6世の中より我に賜ひし人々に、われ御名をあらはせり。彼らは汝の有なるを我に賜へり、而して彼らは汝の言を守りたり。7今かれらは、凡て我に賜ひしもの汝より出づるを知る。8我は我に賜ひし言を彼らに與へ、彼らは之を受け、わが汝より出でたるを眞に知り、なんぢの我を遣し給ひしことを信じたるなり。9我かれらの爲に願ふ、わが願ふは世のためなり、彼らは即ち汝のものなり。10我がものは皆なんぢの有、なんぢの有は我がものなり、我かれらより榮光を受けたり。11今より我は世に居らず、彼らは世に居り、我は汝にゆく。聖なる父よ、我に賜ひたる汝の御名の中に彼らを守りたまへ。これ我等のごとく、彼ら一つとならん爲なり。12我かれらと偕に在る間、われに賜ひたる汝の御名の中に彼らを守り、かつ保護したり。其のうち一人だに亡びず、ただ

亡の子のみ亡びたり、聖書の成就せん爲なり。 13 今は我なんぢに往く、而して此等のことを世に在りて語るは、我が喜悦を彼らに全かにしめん爲なり。 14 我は御言を彼らに與へたり、而して世は彼らを憎めり、我の世のものならぬごとく、彼らも世のものならぬに因りてなり。 15 わが願ふは、彼らを世より取り給はんことならず、惡より免れさせ給はんことなり。 16 我の世のものならぬ如く、彼らも世のものならず。 17 眞理にて彼らを潔め別ちたまへ、汝の御言は眞理なり。 18 汝われを世に遣し給ひし如く、我も彼らを世に遣せり。 19 また彼等のために我は己を潔めわかつ、これ眞理にて彼らも潔め別たれん爲なり。 20 我かれらの爲のみならず、その言によりて我を信ずる者のためにも願ふ。 21 これ皆一つとならん爲なり。父よ、なんぢ我に在し、我なんぢに居るごとく、彼らも我らに居らん爲なり、是なんぢの我を遣し給ひしことを世の信ぜん爲なり。 22 我は汝の我に賜ひし榮光を彼らに與へたり、是われらの一つなる如く、彼らも一つとならん爲なり。 23 即ち我かれらに居り、汝われに在し、彼ら一つとなりて全くせられん爲なり、是なんぢの我を遣し給ひしことと、我を愛し給ふごとく彼らをも愛し給ふこととを、世の知らん爲なり。 24 父よ、望むらくは、我に賜ひたる人々の我が居るところに我と偕にをり、世の創の前より我を愛し給ひしによりて、汝の我に賜ひたる我が榮光を見んことを。 25 正しき父よ、げに世は汝を知らず、されど我は汝を知り、この者どもも汝の我を遣し給ひしことを知れり。 26 これ御名を彼らに知らしめたり、復これを知らしめん。これを我を愛し給ひたる愛の、彼らに在りて、我も彼らに居らん爲なり。』

Chapter 18

1此等のことを言ひ終へて、イエス弟子たちと偕にケデロンの小川の彼方に出でたまふ。彼処に園あり、イエス弟子たちとともども入り給ふ。 2ここは弟子たちと屢々あつまり給ふ處なれば、イエスを賣るユダもこの處を知れり。 3かくてユダは一組の兵隊と祭司長・パリサイ人等よりの下役どもとを受けて、炬火・燈火・武器を携へて此處にきたる。 4 イエス己に臨まんとする事をことごとく知り、進みいでて彼らに言ひたまふ『誰を尋ぬるか』 5 答ふ『ナザレのイエスを』イエス言ひたまふ『我はそれなり』イエスを賣るユダも彼らと共に立てり。 6 『我はそれなり』と言ひ給ひし時、かれら後退して地に倒れたり。 7ここに再び『たれを尋ぬるか』と問ひ給へば『ナザレのイエスを』と言ふ。 8 イエス答へ給ふ『われは夫人らに既に告げたり、我を尋ぬるならば此の人々の去るを容せ』 9 これさきに『なんぢの我に賜ひし者の中より、われ一人をも失はず』と言ひ給ひし言の成就

せん爲なり。 10 シモン・ペテロ劍をもちたるが、之を抜き大祭司の僕を撃ちて、その右の耳を斬り落す、僕の名はマルコスと云ふ。 11 イエス、ペテロに言ひたまふ『劍を鞘に收めよ、父の我に賜ひたる酒杯は、われ飲まざらんや』 12 ここにかの兵隊・千卒長・ユダヤ人の下役ども、イエスを捕へて縛り、 13 先づアンナスの許に曳き往く、アンナスはその年の大祭司なるカヤパの舅なり。 14 カヤパはさきにユダヤ人に、一人、民のために死ぬるは益なる事を勧めし者なり。 15 シモン・ペテロ及び他の一人の弟子、イエスに従ふ。この弟子は大祭司に知られたる者なれば、イエスと共に大祭司の庭に入りしが、 16 ペテロは門の外に立てり。ここに大祭司に知られたる彼の弟子いでて、門を守る女に物言ひてペテロを連れ入れしに、 17 門を守る婢女、ペテロに言ふ『なんぢも彼の人の弟子の一人なるか』かれ言ふ『然らず』 18 時寒くして僕・下役ども炭火を熾し、その傍らに立ちて煖まり居りしに、ペテロも共に立ちて煖まりたり。 19 ここに大祭司、イエスにその弟子とその教につきて問ひたれば、 20 イエス答へ給ふ『われ公然に世に語りし事なし。 21 何ゆゑ我に問ふか、我が語れることは聴きたる人々に問へ。視よ、彼らは我が言ひしことを知るなり』 22 かく言ひ給ふとき、傍らに立つ下役の一人、手掌にてイエスを打ちて言ふ『かくも大祭司に答ふるか』 23 イエス答へ給ふ『わが語りし言もし惡しきば、その惡しき故を證せよ。善くは何とて打つぞ』 24 ここにアンナス、イエスを縛りたるままにて、大祭司カヤパの許に送れり。 25 シモン・ペテロ立ちて煖まり居るに、人々いふ『なんぢも彼が弟子の一人なるか』 26 否みて言ふ『然らず』 27 大祭司の僕の一にて、ペテロに耳を斬り落されし者の親族なるが言ふ『われ汝が園にて彼と偕なるを見しならずや』 28 ペテロまた否む折しも鶏鳴きぬ。 28 かくて人々イエスをカヤパの許より官邸にひきゆく、時は夜明なり。彼ら過越の食をなさんために、汚穢を受けじとて己らは官邸に入らず。 29 ここにピラト彼らの前に出でゆきて言ふ『この人に對して如何なる訴訟をなすか』 30 答へて言ふ『もし惡をなしたる者ならば汝に付きさ』 31 ピラト言ふ『なんぢら彼を引取り、おのが律法に循ひて審け』ユダヤ人いふ『我らに人を殺す權威なし』 32 これイエス、己が如何なる死にて死ぬるかを示して、言ひ給ひし御言の成就せん爲なり。 33 ここにピラトまた官邸に入り、イエスを呼び出して言ふ『なんぢはユダヤ人の王なるか』 34 イエス答へ給ふ『これは汝おのれより言ふか、將わが事を人の汝に告げたるか』 35 ピラト答ふ『我はユダヤ人

ならんや、汝の國人・祭司長ら汝を我に付したり、汝なにを爲ししぞ』 36 イエス答へ給ふ『わが國はこの世のものならず、若し我が國この世のものならば、我が僕ら我をユダヤ人に付きさりと戦ひしならん。然れど我が國は此の世よりのものならず』 37 ここにピラト言ふ『されば汝は王なるか』 イエス答へ給ふ『われは王たることは汝の言へるごとし。我は之がために生れ、之がために世に來れり、即ち眞理につきて證せん爲なり。凡て眞理に屬する者は我が聲をきく』 38 ピラト言ふ『眞理とは何ぞ』 かく言ひて再びユダヤ人の前に出でて言ふ『我この人に何の罪あるをも見ず。 39 過越のとき我なんぢらに一人の囚人を赦す例あり、されば汝らユダヤ人の王をわが赦さんことを望むか』 40 彼らまた叫びて『この人ならず、バラバを』と言ふ、バラバは強盜なり。

Chapter 19

1ここにピラト、イエスをとりて鞭うつ。 2兵卒ども茨にて冠冕をあみ、その首にかむらせ、紫色の上衣をきせ、 3御許に進みて言ふ『ユダヤ人の王やすかれ』而して手掌にて打てり。 4ピラト再び出でて人々にいふ『視よ、この人を汝らに引出す、これは何の罪あるをも我が見ぬことを汝らの知らん爲なり』 5ここにイエス茨の冠冕をかむり、紫色の上衣をきて出で給へば、ピラト言ふ『視よ、この人なり』 6祭司長・下役どもイエスを見て叫びいふ『十字架につけよ、十字架につけよ』ピラト言ふ『なんぢら自らとりて十字架につけよ、我は彼に罪あるを見ず』 7ユダヤ人こたふ『我らに律法あり、その律法によれば死に當るべき者なり、彼はおのれを神の子となせり』 8ピラトこの言をききて増々おそれ、 9再び官邸に入りてイエスに言ふ『なんぢは何處よりぞ』 イエス答をなし給はず。 10ピラト言ふ『われに語らぬか、我になんぢを赦す權威あり、また十字架につくる權威あるを知らぬか』 11 イエス答へ給ふ『なんぢ上より賜はらずば、我に對して何の權威もなし。この故に我をなんぢに付しし者の罪は更に大なり』 12 ここにおいてピラト、イエスを赦さんことを力む。されどユダヤ人さきつて言ふ『なんぢ若しこの人を赦さば、カイザルの忠臣にあらず、凡そおのれを王となす者はカイザルに叛くなり』 13ピラトこれらの言をききて、イエスを外にひきゆき、敷石（ヘブル語にてガバタ）といふ處にて審判の座につく。 14この日は過越の準備日にて、時は第六時ごろなりき。ピラト、ユダヤ人にいふ『視よ、なんぢらの王なり』 15かれら叫びていふ『除け、除け、十字架につけよ』ピラト言ふ『われ汝らの王を十字架につくべけんや』 祭司長ら答ふ『カイザルの他われらに王なし』 16ここにピラト、イエスを十字架に釘くるために彼らに付せり。彼らイエスを受取りたれば、

17イエス己に十字架を負ひて、髑髏（ヘブル語にてゴルゴダ）といふ處に出でゆき給ふ。 18 其處にて彼らイエスを十字架につく。又ほかに二人の者をともに十字架につけ、一人を右に、一人を左に、イエスを眞中に置きけり。 19ピラト罪標を書きて十字架の上に掲ぐ『ユダヤ人の王、ナザレのイエス』と記したり。 20 イエスを十字架につけし處は都に近ければ、多くのユダヤ人この標を讀む、標はヘブル、ロマ、ギリシアの語にて記したり。 21 ここにユダヤ人の祭司長らピラトに言ふ『ユダヤ人の王と記さず、我はユダヤ人の王なりと自稱せりと記せ』 22ピラト答ふ『わが記したることは記したるままに』 23兵卒どもイエスを十字架につけし後、その衣をとりて四つに分け、おのおの其の一つを得たり。また下衣を取りしが、下衣は縫目なく、上より惣て織りたる物なれば、 24兵卒ども互にいふ『これを裂くな、誰がうるか鬮にすべし』これは聖書の成就せん爲なり。 曰く『かれら互にわが衣をわけ、わが衣を鬮にせり』兵卒ども斯くなしたり。 25さてイエスの十字架の傍らには、その母と母の姉妹と、クロパの妻マリヤとマグダラのマリヤと立てり。 26イエスその母とその愛する弟子との近く立てるを見て、母に言ひ給ふ『をんなよ、視よ、なんぢの子なり』 27また弟子に言ひたまふ『視よ、なんぢの母なり』この時より、その弟子かれを己が家に接けたり。 28この後イエス萬の事の終りたるを知りて、聖書の全うせられん爲に『われ渴く』と言ひ給ふ。 29ここに酸き葡萄酒の満ちたる器あり、その葡萄酒のふくみたる海綿をヒソブに著けてイエスの口に差附く。 30イエスその葡萄酒をうけて後いひ給ふ『事畢りぬ』遂に首をたれて靈をわらし給ふ。 31この日は準備日なれば、ユダヤ人、安息日に屍體を十字架のうへに留めおかじとて（殊にこの度の安息日は大なる日なるにより）ピラトに、彼らの脛ををりて屍體を取除かんことを請ふ。 32ここに兵卒ども來りて、イエスとともに十字架に釘けられたる第一の者と他のものとの脛を折り、 33而してイエスに來りて、はや死に給ふを見て、その脛を折らず。 34然るに一人の兵卒、鎗にてその脅をつきたれば、直ちに血と水と流れいづ。 35之を見しもの證をなす、其の證は眞なり、彼はその言ふことの眞なるを知る、これ汝等にも信ぜしめん爲なり。 36此等のことの成りたるは『その骨くだかれず』とある聖句の成就せん爲なり。 37また他に『かれら己が刺したる者を見るべし』と云へる聖句あり。 38この後、アリマタヤのヨセフとて、ユダヤ人を懼れ密にイエスの弟子たりし者、イエスの屍體を引取らんことをピラトに請ひたれば、ピラト許せり、乃ち往きてその屍體を引取る。 39また曾て夜御許に來りしニコデモも、没薬・沈香の混和物を百斤ばかり携へて來る。 40ここに彼

らイエスの屍體をとり、ユダヤ人の葬りの習慣にしたがひて、香料とともに布にて巻けり。41 イエスの十字架につけられ給ひし處に圍あり、圍の中にいまだ人を葬りしことなき新しき墓あり。42 ユダヤ人の準備日なれば、この墓の近きままに其處にイエスを納めたり。

Chapter 20

1一週のはじめの日、朝まだき暗きうちに、マグダラのマリヤ墓にきたりて、墓より石の取除けあるを見る。2乃ち走りゆき、シモン・ペテロとイエスの愛し給ひしかの弟子との許に到りて言ふ『たれか主を墓より取去れり、何處に置きしか我ら知らず』3ペテロと、かの弟子といでて墓にゆく。4二人ともに走りたれど、かの弟子ペテロより疾く走りて先に墓にいたり、5屈みて布の置きたるを見れど、内には入らず。6シモン・ペテロ後れ來り、墓に入りて布の置きたるを視、7また首を包みし手拭は布とともに在らず、他のところに巻きてあるを見る。8先に墓にきたれる彼の弟子もまた入り、之を見て信ず。9彼らは聖書に録したる、死人の中よりその甦へり給ふべきことを未だ悟らざりしなり。10遂に二人の弟子おのが墓にかへり。11然れどマリヤは墓の外に立ちて泣き居りしが、泣きつつ屈みて墓の内を見るに、12イエスの屍體の置かれし處に、白き衣をきたる二人の御使、首の方にひとり足の方にひとり坐しゐたり。13而してマリヤに言ふ『をんなよ、何ぞ泣くか』マリヤ言ふ『誰かわが主を取去れり、何處に置きしか我ら知らず』14かく言ひて後に振反れば、イエスの立ち居給ふを見る、されどイエスたるを知らず。15イエス言ひ給ふ『をんなよ、何ぞ泣く、誰を尋ぬるか』マリヤは圍守ならんと思ひて言ふ『君よ、汝もし彼を取去りしならば、何處に置きしかを告げよ、われ引取るべし』16イエス『マリヤよ』と言ひ給ふ。マリヤ振反りて『ラボニ』（釋けば師よ）と言ふ。17イエス言ひ給ふ『われに觸るな、我いまだ父の許に昇らぬ故なり。我が兄弟たちに往きて「我はわが父すなはち汝らの父、わが神すなはち汝らの神に昇る」といへ』18マグダラマリヤ往きて弟子たちに『われは主を見たり』と告げ、また云々の事を言ひ給ひしと告げたり。19この日すなはち一週のはじめの日の夕、弟子たちユダヤ人を懼るるに困りて、居るところの戸を閉ぢおきしに、イエスキたり彼らの中に立ちて言ひたまふ『平安なんぢらに在れ』20斯く言ひてその手と脅とを見せたまふ、弟子たち主を見て喜べり。21イエスまた言ひたまふ『平安なんぢらに在れ、父の我を遣し給へることく、我も亦なんぢらを遣す』22斯く言ひて、息を吹きかけ言ひたまふ『聖靈をうけよ。23なんぢら誰の罪を赦すとも其の罪ゆるされ、誰の罪を留むるとも其の罪とどめらるべし』

24 イエス來り給ひしとき、十二弟子の一人デドモと稱ふるトマスともに居らざりしかば、25他の弟子これに言ふ『われら主を見たり』トマスいふ『我はその手に釘の痕を見、わが指を釘の痕にさし入れ、わが手をその脅に差入るにあらざれば信ぜじ』26八日ののち弟子たちまた家にをり、トマスも偕に居りて戸を閉ぢおきしに、イエス來り、彼らの中に立ちて言ひたまふ『平安なんぢらに在れ』27またトマスに言ひ給ふ『なんぢの指をここに伸べて、わが手を見よ、汝の手をのべて、我が脅にさしいれよ、信ぜぬ者とならで信ずる者となれ』28トマス答へて言ふ『わが主よ、わが神よ』29イエス言ひ給ふ『なんぢ我を見しによりて信じたり、見ずして信ずる者は幸福なり』30この書に録さざる外の多くの徴を、イエス弟子たちの前にて行ひ給へり。31されど此等の事を録ししは、汝等をしてイエスの神の子キリストたることを信ぜしめ、信じて御名により生命を得しめんが爲なり。

Chapter 21

1この後、イエス復テペリヤの海邊にて己を弟子たちに現し給ふ、その現れ給ひしことと稱ふ。2シモン・ペテロ、デドモと稱ふるトマス、ガリラヤのカナのナタナエル、ゼベダイの子ら及びほかの弟子二人もともに居りしに、3シモン・ペテロ『われ漁獵にゆく』と言へば、彼ら『われらも共に往かん』と言ひ、皆いでて舟に乗りしが、その夜は何をも得ざりき。4夜明の頃イエス岸に立ち給ふに、弟子たち其のイエスなるを知らず。5イエス言ひ給ふ『子どもよ、獲物ありしか』彼ら『なし』と答ふ。6イエス言ひたまふ『舟の右のかたに網をおろせ、然らば獲物あらん』乃ち網を下したるに、魚おびたたくして、網を曳き上ぐることはざりしかば、7イエスの愛し給ひし弟子、ペテロに言ふ『主なり』シモン・ペテロ『主なり』と聞きて、裸なりしを上衣をまとひて海に飛びいれり。8他の弟子たちは陸を離ること遠からず、僅に五十間ばかりなりしかば、魚の入りたる網を小舟にて曳き來り、9陸に上りて見れば、炭火ありてその上に肴あり、又パンあり。10イエス言ひ給ふ『なんぢらの今とりたる肴を少し持ちきたれ』11シモン・ペテロ舟に往きて網を陸に曳き上げしに、百五十三尾の大なる魚満ちたり、斯く多かりしが網は裂けざりき。12イエス言ひ給ふ『きたりて食せよ』弟子たちその主なるをれば『なんぢは誰ぞ』と敢へて問ふ者もなし。13イエス進みてパンをとり彼らに與へ、肴をも然なし給ふ。14イエス死人の中より甦へりてのち、弟子たちに現れ給ひし事、これにて三度なり。15かくて食したる後、イエス、シモン・ペテロに言ひ給ふ『ヨハネの子シモンよ、汝この者どもに勝りて我

を愛するか』ペテロいふ『主よ、然り、わが汝を愛する事は、なんぢ知り給ふ』イエス言ひ給ふ『わが羔羊を養へ』16また二度いひ給ふ『ヨハネの子シモンよ、我を愛するか』ペテロ言ふ『主よ、然り、わが汝を愛する事は、なんぢ知り給ふ』イエス言ひ給ふ『わが羊を牧へ』17三度いひ給ふ『ヨハネの子シモンよ、我を愛するか』ペテロ三度『われを愛するか』と言ひ給ふを憂ひて言ふ『主よ、知りたまはぬ處なし、わが汝を愛する事は、なんぢ識りたまふ』イエス言ひ給ふ『わが羊をやしなへ。18まことに誠になんぢに告ぐ、なんぢ若かりし時は自ら帶して欲する處を歩めり、されど老いては手を伸べて他の人に帶せられ、汝の欲せぬ處に連れゆかれん』19これペテロが如何なる死にて神の榮光を顯すかを示して言ひ給ひしなり。斯く言ひて後かれに言ひ給ふ『われに従へ』20ペテロ振反りて、イエスの愛したまひし弟子の従ふを見る。これはさきに夕餐のとき御胸に倚りかかりて『主よ、汝を賣る者は誰か』と問ひし弟子なり。21ペテロこの人を見てイエスに言ふ『主よ、この人は如何に』22イエス言ひ給ふ『よしや我、かれが我の來るまで留るを欲すとも、汝になにの關係あらんや、汝は我に従へ』23ここに兄弟たちの中に、この弟子死なずと云ふ話つたはりたり。されどイエスは死なずと言ひ給ひしにあらず『よしや我、かれが我の來るまで留るを欲すとも、汝になにの關係あらんや』と言ひ給ひしなり。24これらの事につきて、證をなし、又これを録しし者は、この弟子なり、我等はその證の眞なるを知る。25イエスの行ひ給ひし事は、この外なほ多し、もし一つ録さば、我おもふに世界もその録すところの書を載するに耐へざらん。

使徒の働き

Chapter 1

1テオピロよ、我さきに前の書をつくりて、凡そイエスの行ひはじめ教へはじめ給ひしより、2その選び給へる使徒たちに、聖靈によりて命じたるのち、擧げられ給ひし日に至るまでの事を記せり。3イエスは苦難をうけしちのち、多くの愼なる證をもて、己の活きたることを使徒たちに示し、四十日の間、しばしば彼らに現れて、神の國のことを語り、4また彼等とともに集りて命じたまふ『エルサレムを離れずして、我より聞きし父の約束を待て。5ヨハネは水にてバプテスマを施ししが、汝らは日ならずして聖靈にてバプテスマを施されん』6弟子たち集れるとき問ひて言ふ『主よ、イスラエルの國を回復し給ふは此の時なるか』7イエス言ひたまふ『時また期は父おのれの權威のうちに

置き給へば、汝らの知るべきにあらず。8然れど聖靈なんぢらの上に臨むとき、汝ら能力をうけん、而してエルサレム、ユダヤ全國、サマリア、及び地の極にまで我が證人とならん』9此等のことを言ひ終りて、彼らの見るがうちに擧げられ給ふ。雲これを受けて見えざらしめたり。10その昇りゆき給ふとき、彼ら天に目を注ぎみたりしに、視よ、白き衣を著たる二人の人かたはらに立ちて言ふ、11『ガリラヤの人々よ、何ゆゑ天を仰ぎて立つか、汝らを離れて天に擧げられ給ひし此のイエスは、汝らが天に昇りゆくを見たるその如く復きたり給はん』12ここに彼等オリブといふ山よりエルサレムに歸る。この山はエルサレムに近く、安息日の道程なり。13既に入りてその留りをる高樓に登る。ペテロ、ヨハネ、ヤコブ及びアンデレ、ピリポ及びトマス、バルトロマイ及びマタイ、アルパヨの子ヤコブ、熱心黨のシモン及びヤコブの子ユダなり。14この人々はみな女たち及びイエスの母マリヤ、イエスの兄弟たちと共に、心を一にして只管いのりを務めたり。15その頃ペテロ、百二十名ばかり共に集りて群をなせる兄弟たちの中に立ちて言ふ、16『兄弟たちよ、イエスを捕ふる者どもの手引となりしユダにつきて、聖靈ダビデの口によりて預じめ言ひ給ひし聖書は、かならず成就せざるを得ざりしなり。17彼は我らの中に數へられ、此の務に與りたればなり。18（この人は、かの不義の價をもて地所を得、また俯伏に墜ちて直中より裂けて臟腑みな流れ出でたり。19この事エルサレムに住む凡ての人に知られて、その地所は國語にてアケルダマと稱へらる、血の地所との義なり）20それは詩篇に録して「彼の住處は荒れ果てよ、人その中に住はざれ」と云ひ、又「その職はほかの人に得させよ」と云ひたり。21然れば主イエス我等のうちに往來し給ひし間、22即ちヨハネのバプテスマより始り、我らを離れて擧げられ給ひし日に至るまで、常に我らと偕に在りし此の人々のうち一人、われらと共に主の復活の證人となるべきなり。23ここにバルサバと稱へられ、またの名をユストと呼ばるヨセフ及びマツテヤの二人をあげ、24祈りて言ふ『凡ての人の心を知りたまふ主よ、ユダ己が所に往かんとて此の務と使徒の職とより墮ちたれば、その後を繼がするに、此の二人のうち孰を選び給ふか示したまへ』26かくて鬭せしに、鬭はマツテヤに當りたれば、彼は十一の使徒に加へられたり。

Chapter 2

1五旬節の日となり、彼らみな一處に集り居りしに、2烈しき風の吹ききたること響、にはかに天より起りて、その坐する所の家に満ち、3また火の如きもの舌のやうに現れ、分れて各人の上にとどまる。4

彼らみな聖霊にて満され、御霊の宣べしむるままに異邦の言にて語りはじむ。5時に敬虔なるユダヤ人ら、天下の國々より來りてエルサレムに住み居りしが、6この音おこりたれば群衆あつまり來り、おのおの己が國語にて使徒たちの語るを聞き驚き合ひ、7かつ驚き怪しみて言ふ『視よ、この語る者は皆ガリラヤ人ならずや、8如何にして我等おのの生れし國の言をきくか。9我等はパルテヤ人、メヂヤ人、エラム人、またメソポタミヤ、ユダヤ、カパドキヤ、ポント、アジヤ、10フルギヤ、パンフリヤ、エジプト、リビヤのクレネに近き地方などに住む者、ロマよりの旅人 ユダヤ人および改宗者 11クレテ人およびアラビヤ人なるに、我が國語にて彼らが神の大なる御業をかたるを聞かんとは』12みな驚き惑ひて互に言ふ『これ何事ぞ』13或者どもは嘲りて言ふ『かれらは甘き葡萄酒にて満されたり』14ここにペテロ十一の使徒とともに立ち、聲を揚げ宣べて言ふ『ユダヤの人々および凡てエルサレムに住める者よ、汝等わが言に耳を傾けて、この事を知れ。15今は朝の九時なれば、汝らの思ふごとく彼らは酔ひたるに非ず、16これは預言者ヨエルによりて言はれたる所なり。17「神いひ給はく、末の世に至りて、我が霊を凡ての人に注がん。汝らの子女は預言し、汝らの若者は幻影を見、なんぢらの老人は夢を見るべし。18その世に至りて、わが僕・婢女にわが霊を注がん、彼らは預言すべし。19われは上に天に不思議を、下は地に徴をあらはさん、即ち血と火と煙の氣とあるべし。20主の大なる顯著しき日のきたる前、日は闇に月は血に變らん。21すべて主の御名を呼び頼む者は救はれん』22イスラエルの人々よ、これらの言を聴け。ナザレのイエスは、汝らの知るごとく、神かれに由りて汝らの中に行ひ給ひし能力ある業と不思議と徴とをもて、汝らに證し給へる人なり。23この人は神の定め給ひし御旨と、預じめ知り給ふ所とによりて付されしが、汝ら不法の人の手をもて釘磔にして殺せり。24然れど神は死の苦難を解きて之を甦へせ給へり。彼は死に繋かれをるべき者ならざりしなり。25ダビデ彼につきて言ふ「われ常に我が前に主を見たり、我が動かされぬ爲に我が右に在せばなり。26この故に我が心は樂しみ、我が舌は喜べり、かつ我が肉體もまた望の中に宿らん。27汝わが靈魂を黄泉に棄て置かず、汝の聖者の朽果つることを許し給はざればなり。28汝は生命の道を我に示し給へり、御顔の前にて我に勸喜を満し給はん』29兄弟たちよ、先祖ダビデに就きて、われ憚らず汝らに言ふを得べし、彼は死にて葬られ、その墓は今日に至るまで我らの中にあり。30即ち彼は預言者にして、己の身より出づる者をおのれの座位に坐せしむることを、誓をもて神の約し給ひしを知り、31先見して、キリストの復活に就きて語り、その黄泉に棄て置かれず、その肉體の朽

果てぬことを言へるなり。32神はこのイエスを甦へらせ給へり、我らは皆その證人なり。33イエスは神の右に擧げられ、約束の聖霊を父より受けて、汝らの見聞する此のものを注ぎ給ひしなり。34それダビデは天に昇りしことなし、然れど自ら言ふ「主わが主に言ひ給ふ、35我なんぢの敵を汝の足臺となすまでは、わが右に坐せよ」と。36然ればイスラエルの全家は確と知るべきなり。汝らが十字架に釘けし此のイエスを、神は立てて主となし、キリストとなし給へり。37人々これを聞いて心を刺され、ペテロと他の使徒たちと言ふ『兄弟たちよ、我ら何をなすべきか』38ペテロ答ふ『なんぢら悔改めて、おのおの罪の赦を得んために、イエス・キリストの名によりてバプテスマを受けよ、然らば聖霊の賜物を受けん。39この約束は汝らと汝らの子らと、凡ての遠き者すなはち主なる我らの神の召し給ふ者にと屬くなり。40この他なほ多くの言をもて證し、かつ勸めて『この曲れる代より救ひ出されよ』と言へり。41かくてペテロの言を聴納れし者はバプテスマを受く。この日、弟子に加はりたる者、おほよそ三千人なり。42彼らは使徒たちの教を受け、交際をなし、パンを撃き、祈禱をなすことを只管つとむ。43ここに人みな敬虔を生じ、多くの不思議と徴とは使徒たちに由りて行はれたり。44信じたる者はみな家に居りて諸般の物を共にし、45資産と所有とを賣り、各人の用に從ひて分け與へ、46日々、心を一にして弛みなく宮に居り、家にてパンをさき、勸喜と真心をもて食事をなし、47神を讚美して一般の者に悦ばる。かくて主は救はるる者を日々かれらの中に加へ給へり。

Chapter 3

1晝の三時のりの時に、ペテロとヨハネと宮に上りしが、2ここに生れながらの跛者かかれて來る。宮に入る人より施濟を乞ふために、日々宮の美麗といふ門に置かるるなり。3ペテロとヨハネとの宮に入らんとするを見て施濟を乞ひたれば、4ペテロ、ヨハネと共に目を注めて『我らを見よ』と言ふ。5かれ何をか受くるならんと、彼らを見つめたるに、6ペテロ言ふ『金銀は我になし、然れど我に有るものを汝に與ふ、ナザレのイエス・キリストの名によりて歩め』7乃ち右の手を執りて起ししに、足の甲と踝骨とたちどころに強くなりて、8躍り立ち歩み出して、且あゆみ且をどり、神を讚美しつつ彼らと共に宮に入れり。9民みな其の歩み、また神を讚美するを見て、10彼が前に乞食にて宮の美麗門に坐しゐたるを知れば、この起りし事に就きて驚駭と奇異とに充ちたり。11かくて彼がペテロとヨハネとに取りすがり居るほどに、民みな甚だしく驚きてソロモンの廊と稱ふる廊に馳

せつどぶ。12ペテロこれを見て民に答ふ『イスラエルの人々よ、何ぞ此の事を怪しむか、何ぞ我らが己の能力と敬虔とによりて此の人を歩ませしごとく、我らを見つむるか。13アブラハム、イサク、ヤコブの神、われらの先祖の神は、その僕イエスに榮光あらしめ給へり。汝等このイエスを付し、ピラトの之を釋さんと定めしを、其の前にて否むたり。14汝らは、この聖者・義人を否みて、殺人者を釋さんことを求め、15生命の君を殺したれど、神はこれを死人の中より甦へらせ給へり、我らは其の證人なり。16斯くてその御名を信するに因りてその御名は、汝らに見るところ識るところの此の人を健くしたり。イエスによる信仰は、汝等もるもの前にて斯かる全癒を得させたり。17兄弟よ、われ知る、汝らが、かの事を爲ししは知らぬに因りてなり。汝らの司たちも亦然り。18然れど神は凡ての預言者の口をもて、キリストの苦難を受くべきことを預じめ告げ給ひしを、斯くは成就し給ひしなり。19然れば汝ら罪を消されん爲に、悔改めて心を轉ぜよ。20これ主の御前より慰安の時きたり、汝らの爲に預じめ定め給へるキリスト・イエスを遣し給はんとなり。21古へより神が、その聖なる預言者の口によりて語り給ひし、萬物の革まる時まで、天は必ずイエスを受けおくべし。22モーセ云へらく「主なる神は汝らの兄弟の中より我がごとき預言者を起し給はん。その語る所のことは汝等ごとく聴くべし。23凡てこの預言者に聴かぬ者は民の中より滅し盡さるべし」24又サムエル以來かたりし預言者も、皆この時につきて宣傳たり。25汝らは預言者たちの子孫なり、又なんぢらの先祖たちに神の立て給ひし契約の子孫なり、即ち神アブラハムに告げ給はく「なんぢの裔によりて地の諸族はみな祝福せらるべし」26神はその僕を甦へらせ、まづ汝らに遣し給へり、これ汝ら各人を、その罪より呼びかへして祝福せん爲なり』

Chapter 4

1かれら民に語り居るとき、祭司ら・宮守頭およびサドカイ人ら近づき來りて、2その民を教へ、又イエスの事を引きて死人の中よりの復活を宣ふるを憂ひ、3手をかけて之を捕へしに、はや夕になりたれば、明るる日まで留置場に入れり。4然れど、その言を聴きたる人々の中にも信ぜし者おほくありて、男の數おほよそ五千となりたり。5明るる日、司・長老・學者らエルサレムに會し、6大祭司アンナス、カヤパ、ヨハネ、アレキサンデル及び大祭司の一族みな集ひて、7その中にかの二人を立てて問ふ『如何なる能力いかなる名によりて此の事を行ひしぞ』8この時ペテロ聖霊にて満され、彼らに言ふ『民の司たち及び長老たちよ、9我らが病める者になしし善き業に就き、その如何に

して救はれしかを今日もし訊さるるならば、10汝ら一同およびイスラエルの民みな知れ、この人の健かになりて汝らの前に立つは、ナザレのイエス・キリスト、即ち汝らが十字架に釘け、神が死人の中より甦へせ給ひし者の名に類ることを。11このイエスは汝ら造家者に輕しめられし石にして、隅の首石となりたるなり。12他の者によりては救を得ることなし、天の下には我らの頼りて救はるべき他の名を、人に賜ひし事なればなり。13彼らはペテロとヨハネとの臆することなきを見、その無學の凡人なるを知りたれば、之を怪しみ、且そのイエスと偕にありし事を認む。14また醫されたる人の之とともに立つを見るによりて、更に言ひ消す辭なし。15ここに、命じて彼らを衆議所より退け、相共に議りて言ふ、16『この人々を如何にすべきぞ。彼等によりて顯著しき徴の行はれし事、凡てエルサレムに住む者に知られ、我ら之を否むこと能はねばなり。17然れど愈々ひろく民の中に言ひ弘らぬやうに、彼らを脅かして、今より後かの名によりて誰にも語る事なからしめん』18乃ち彼らと呼ばひ、一切イエスの名によりて語り、また教へざらんことを命じたり。19ペテロとヨハネと答へていふ『神に聴くよりも汝らに聴くは、神の御前に正しきか、汝ら之を審け。20我らは見しこと聴きしことを語らざるを得ず』21民みな此の有りし事に就きて神を崇めたれば、彼らを罰するに由なく、更にまた脅かして釋せり。22かの徴によりて醫されし人は四十歳餘なりしなり。23彼ら釋されて、その友の許にゆき、祭司長・長老の言ひし凡てのことを告げたれば、24之を聞きて皆心を一つにし、神に對ひ、聲を揚げて言ふ『主よ、汝は天と地と海と、其の中のあらゆる物とを造り給へり。25曾て聖霊によりて、汝の僕われらの先祖ダビデの口をもて『何ゆゑ異邦人は騒ぎ立ち、民らは空しき事を謀るぞ。26世の王たちは共に立ち、司らは一つにあつまりて、主および其のキリストに逆ぶ』と宣給へり。27果してヘロデとポンテオ・ピラトとは、異邦人およびイスラエルの民等とともに、汝の油そそぎ給ひし聖なる僕イエスに逆ひて、此の都にあつまり、28御手と御旨とにて、斯く成るべしと預じめ定め給ひし事をなせり。29主よ、今かれらの脅喝を御覽し、僕らに御言を聊かも臆することなく語らせ、30御手をのべて醫を施させ、汝の聖なる僕イエスの名によりて、徴と不思議とを行はせ給へ』31祈り終へしとき、其の集りる處ふるひ動き、みな聖霊にて満され、臆することなく神の御言を語れり。32信じたる者の群は、おなじ心おなじ思となり、誰一人その所有を己が者と謂はず、凡ての物を共にせり。33かくて使徒たちは大なる能力をもて、主イエスの復活の證をなし、みな大なる恩恵を蒙りたり。34彼らの中には一人の乏しき者もな

かりき。これ地所あるいは家屋を有する者、これを賣り、その賣りたる物の價を持ち來りて、35 使徒たちの足下に置きしを、各人その用に隨ひて分け與へられたればなり。36 ここにクプロに生れたるレビ人にて、使徒たちにバルナバ(釋けば慰籍の子)と稱へらるるヨセフ、37 畑ありしを賣りて其の金を持ちきたり、使徒たちの足下に置けり。

Chapter 5

1然るにアナニヤと云ふ人、その妻サツピラと共に資産を賣り、2 その價の幾分を匿しおき、残る幾分を持ちきたりて使徒たちの足下に置きしが、妻も之を與れり。3 ここにペテロ言ふ『アナニヤよ、何故なんぢの心サタンに満ち、聖靈に對し詐りて、地所の價の幾分を匿したるぞ。4 有りし時は汝の物なり、賣りて後も汝の權の内にあるに非ずや、何とて斯ることを心に企てし。なんぢ人に對してにあらず、神に對して詐りしなり。』5 アナニヤこの言をきき、倒れて息絶ゆ。これを聞く者みな大なる懼を懷く。6 若者ども立ちて彼を包み、昇き出して葬れり。7 凡そ三時間を經て、その妻この有りし事を知らずして入り來りしに、8 ペテロ之に向ひて言ふ『なんぢら此程の價にてかの地所を賣りしか、我に告げよ』女いふ『然り、此程なり。』9 ペテロ言ふ『なんぢら何ぞ心を合せて主の御靈を試みんとせしか、視よ、なんぢの夫を葬りし者の足は門口にあり、汝をもまた昇き出すべし。』10 をんな立刻にペテロの足下に倒れて息絶ゆ。若者ども入り來りて、その死にたるを見、これを昇き出して夫の傍らに葬れり。11 ここに全教會および此等のことを聞く者みな大なる懼を懷けり。12 使徒たちの手によりて多くの徴と不思議と民の中に行はれたり。彼等はみな心を一つにして、ソロモンの廊にあり。13 彼の者どもは敢へて近づかず、民は彼らを崇めたり。14 信するもの男女とも増々おほく主に屬けり。15 終には人々、病める者を大路に昇ききたり、寢臺または床の上におく。此等のうち誰にもせよ、ペテロの過ぎん時、その影になりと庇はれんとてなり。16 又エルサレムの周圍の町々より多くの人々、病める者・穢れし靈に惱まれたる者を携へきたりて集ひたりしが、みな醫されたり。17 ここに大祭司および之と偕なる者、即ちサドカイ派の人々、みな嫉に満されて立ち、18 使徒たちに手をかけて之を留置場に入る。19 然るに主の使、夜、獄の戸をひらき、彼らを連れ出して言ふ、20 『往きて宮に立ち、この生命の言をことごとく民に語れ。』21 かれら之を聞き、夜明がた宮に入りて教ふ。大祭司および之と偕なる者ども集ひきたりて、議會とイスラエル人の元老とを呼びあつめ、使徒たちを曳き來らせんとて人を牢舎に遣したり。22 下役ども往きしに、獄の

うちに彼らの居らぬを見て、歸りきたり告げて言ふ、23 『われら牢舎の堅く閉ぢられて、戸の前に牢番の立ちたるを見しに、開きて見れば、内には誰も居らざりき。』24 宮守頭および祭司長らこの言を聞きて、如何になりゆくべきかと惑ひたるに、25 或人きたり告げて言ふ『視よ、汝らの獄に入れし人は、宮に立ちて民を教へ居るなり。』26 ここに宮守頭、下役を伴ひて出でゆき、彼らを曳き來る。されど手暴きことをせざりき、これ民より石にて打たれんことを恐れたるなり。27 彼らを連れ來りて議會の中に立てたれば、大祭司問ひて言ふ、28 『我等かの名によりて教ふることを堅く禁ぜしに、視よ、汝らは其の教をエルサレムに満し、かの人の血を我らに負はせんとす。』29 ペテロ及び他の使徒たち答へて言ふ『人に從はんよりは神に從ふべきなり。30 我らの先祖の神はイエスを起し給ひしに、汝らは之を木に懸けて殺したり。31 神は彼を君とし救主として己が右にあげ、悔改と罪の赦とをイスラエルに與へしめ給ふ。32 我らは此の事の證人なり。神のおのれに從ふ者に賜ふ聖靈もまた然り。』33 かれら之をききて怒に満ち、使徒たちを殺さんと思へり。34 然るにパリサイ人にて凡ての民に尊ばるる教法學者ガマリエルと云ふもの、議會の中に立ち、命じて使徒たちを暫く外に出さしめ、議員らに向ひて言ふ、35 『イスラエルの人よ、汝らが此の人々に爲さんとする事につきて心せよ。36 前にチウダ起りて、自ら大なりと稱し、之に附隨ふ者の數おほよそ四百人なりしが、彼は殺され、從へる者はみな散されて跡なきに至れり。37 そののち戸籍登録のときガリヤのユダ起りて、多くの民を誘ひおのれに從はしめしが、彼も亡び從へる者もことごとく散されたり。38 然れば今なんぢらに言ふ、この人々より離れて、その爲すに任せよ。若しその企圖その所作、人より出でたらんにはおのづから壞れん。39 もし神より出でたらんには彼らを壞ること能はず、恐らくは汝ら神に敵する者とならん。』40 彼等その勸告にしたがひ、遂に使徒たちを呼び出して之を鞭うち、イエスの名によりて語ることを堅く禁じて釋せり。41 使徒たちは御名のために辱めらるるに相應しき者とせられたるを喜びつつ、議員らの前を出で去れり。42 かくて日毎に宮また家にて教をなし、イエスのキリストなる事を宣傳へて止まざりき。

Chapter 6

1そのころ弟子のかず増加はり、ギリシヤ語のユダヤ人、その寡婦らが日々施濟に漏されたれば、ヘブル語のユダヤ人に對して喧く事あり。2 ここに十二使徒すべての弟子を呼び集めて言ふ『われら神の言を差措きて、食卓に事ふるは宣しからず。3 然れば兄弟よ、汝らの中より御靈と智慧とにて満ちたる令聞あ

る者七人を見出せ、それに此の事を掌どらせん。4 我らは専ら祈をなすことと、御言に事ふることとを務めん』5 集れる凡ての者この言を善しとし、信仰と聖靈とにて満ちたるステパノ及びピリポ、プロコロ、ニカノル、テモン、バルメナ、またアントオケの改宗者ニコラオを選びて、6 使徒たちの前に立てたれば、使徒たち祈りて手をその上に按けり。7 かくて神の言ますます弘り、弟子の數エルサレムにて甚だ多くなり、祭司の中にも信仰の道に從へるもの多かりき。8 さてステパノは恩恵と能力とにて満ち、民の中に大なる不思議と徴とを行へり。9 ここに世に稱ふるリベルテンの會堂およびクレネ人、アレキサンデリア人、またキリキヤとアジアとの人の諸會堂より、人々起ちてステパノと論ぜしが、10 その語るところの智慧と御靈とに敵すること能はず。11 乃ち或者どもを唆して『我らはステパノが、モーセと神とを讀す言をいふを聞けり。』と言はしめ、12 民および長老・學者らを煽動し、俄に來りてステパノを捕へ、議會に曳きゆき、13 僞證者を立てて言はしむ『この人はこの聖なる所と律法とに逆言を語りて止まず、14 即ち、かのナザレのイエスは此の所を毀ち、かつモーセの傳へし例を變ふべしと、彼が云へるを聞けり。』と。15 ここに議會に坐したる者みな目を注ぎてステパノを見しに、その顔は御使の顔の如くなりき。

Chapter 7

1 かくて大祭司いふ『此等のこと果してかくの如きか』2 ステパノ言ふ『兄弟たち親たちよ、聽け、我らの先祖アブラハム未だカランに住まずして尚メソポタミヤに居りしとき、榮光の神あらはれて、3 「なんぢの土地、なんぢの親族を離れて、我が示さんとする地に往け」と言ひ給へり。4 ここにカルデアの地に出でてカランに住みたりしが、その父の死にしのち、神は彼を彼處より汝らの今住める此の地に移らしめ、5 此處にて足、蹈立つる程の地をも嗣業に與へ給はざりき。然るに、その地を未だ子なかりし彼と彼の裔とに所有として與へんと約し給へり。6 神また其の裔は他の國に寄寓人となり、その國人は之を四百年のあひだ奴隸となして苦しめん事を告げ給へり。7 神いひ給ふ「われは彼らを奴隸とする國人を審かん、然るのち彼等その國を出で、この處にて我に事へん」8 神また割禮の契約をアブラハムに與へ給ひたれば、イサクを生みて八日めに之に割禮を行へり。イサクはヤコブを、ヤコブは十二の先祖を生めり。9 先祖たちヨセフを嫉みてエジプトに賣りしに、神は彼と偕に在して、10 凡ての患難より之を救ひ出し、エジプトの王パロの前にて寵愛を得させ、また智慧を與へ給ひたれば、パロ之を立ててエジプトと己

が全家との宰となせり。11 時にエジプトとカナンの全地とに飢饉ありて大なる患難おこり、我らの先祖たち糧を求め得ざりしが、12 ヤコブ、エジプトに穀物あるを聞いて、先づ我らの先祖たちを遣す。13 二度めの時ヨセフその兄弟たちに知られ、ヨセフの氏族パロに明かになり。14 ヨセフ言ひ遣して己が父ヤコブと凡ての親族と七十五人を招きたれば、15 ヤコブ、エジプトに下り、彼處にて己も我らの先祖たちも死にたり。16 彼等シケムに送られ、曾てアブラハムがシケムにてハモルの子等より銀をもて買ひ置きし墓に葬られたり。17 かくて神のアブラハムに語り給ひし約束の時近づくに隨ひて、民はエジプトに蓄えひろがり、18 ヨセフを知らぬ他の王、エジプトに起るに及べり。19 王は惡計をもて我らの同族にあたり、我らの先祖たちを苦しめて、其の嬰兒の生存ふる事なからんやう、之を棄つに至らしめたり。20 その頃モーセ生れて基つるはしくして三月のあいだ父の家に育てられ、21 遂に棄てられしを、パロの娘ひき上げて己が子として育てたり。22 かくてモーセはエジプト人の凡ての學術を教へられ、言と業とに能力あり。23 年齢四十になりたる時、おのが兄弟たるイスラエルの子孫を顧みる心おこり、24 一人の害はるるを見て之を護り、エジプト人を撃ちて、虐げらるる者の仇を復せり。25 彼は己の手によりて神が救を與へんとし給ふことを、兄弟たち悟りしならんと思ひたるに、悟らざりき。26 翌日かれらの相争ふところに現れて和睦を勸めて言ふ「人々よ、汝らは兄弟なるに、何ぞ互に害ふか」27 隣を害ふ者モーセを押逐かて言ふ「誰が汝を立てて我らの司また審判人とせしぞ、28 昨日エジプト人を殺したる如く、我をも殺さんとするか」29 この言により、モーセ遁れてミデアンの地の寄寓人となり、彼處にて二人の子を儲けたり。30 四十年を歴て後シナイ山の荒野にて、御使、柴の焔のなかに現れたれば、31 モーセ之を見て視るところを怪しみ、認めんとして近づきしとき、主の聲あり。曰く、32 「我は汝の先祖たちの神、即ちアブラハム、イサク、ヤコブの神なり」モーセ戰慄き敢へて認むることを爲す。33 主いひ給ふ「なんぢの足の鞋を脱げ、なんぢの立つところは聖なる地なり。34 我エジプトに居る我が民の苦難を見、その歎息をききて之を救はん爲に降り。いで我なんぢをエジプトに遣さん」35 斯く彼らが「誰が汝を立てて司また審判人とせしぞ」と言ひて拒みし此のモーセを、神は柴のなかに現れたる御使の手により、司また救人として遣し給へり。36 この人かれらを導き出し、エジプトの地にて、また紅海および四十年のあひだ荒野にて、不思議と徴とを行ひたり。37 イスラエルの子らに「神は汝らの兄弟の中より、我がごとき預言者を起し給はん」と云ひしは此のモーセなり。38 彼はシナイ山にて語りし御使および我

らの先祖たちと偕に荒野なる集會に在りて汝らに與へん爲に生ける御言を授けし人なり。39 然るに我らの先祖たちは此の人に從ふことを好まず、反つて之を押退け、その心エジプトに還りて、40 アロンに言ふ「我らに先だち往くべき神々を造れ、我らをエジプトの地より導き出しし、かのモーセの如何になりしかを知らざればなり」41 その頃かれら犢を造り、その偶像に犠牲をささげて己が手の所作を喜び。42 爰に神は彼らを離れ、その天の軍勢に事ふるに任せ給へり。これは預言者たちの書に「イスラエルの家よ、なんぞ荒野にて四十年の間、屠りし畜と犠牲とを我に献げしや。43 汝らは拜せんとして造れる像、すなはちモロクの幕屋と神ロンパの星とを昇きたり。われ汝らをバビロンの彼方に移さん」と録されたるが如し。44 我らの先祖たちは荒野にて證の幕屋を有てり、モーセに語り給ひし者の、彼が見しに循ひて造れと命じ給ひしままなり。45 我らの先祖たちは之を承け繼ぎ、先祖たちの前より神の逐ひだし給ひし異邦人の領地を收めし時、ヨシユアとともに携へ來りてダビデの日に及べり。46 ダビデ神の前に恩恵を得て、ヤコブの神のために住處を設けんと求めたり。47 而して、その家を建てたるはソロモンなりき。48 されど至高者は手にて造れる所に住み給はず、即ち預言者の49「主のたまはく、天は我が座位、地は我が足臺なり。汝等わが爲に如何なる家をか建てん、わが休息のところは何處なるぞ。50 わが手は凡て此等の物を造りしにあらざるや」と云へるが如し。51 項強くして心と耳とに割禮なき者よ、汝らは常に聖靈に逆ふ、その先祖たちの如く汝も然り。52 汝らの先祖たちは預言者のうちの誰をか迫害せざりし。彼らは義人の來るを預じめ告げし者を殺し、汝らは今この義人を賣り、かつ殺す者となれり。53 ながら、御使たちの傳へし律法を受けて、尚これを守らざりき」54 人々これらの言を聞いて、心いかりに満ち切齒しつつステパノに向ふ。55 ステパノは聖靈にて満ち、天に目を注ぎ、神の榮光およびイエスの神の右に立ちたまふを見て言ふ、56「視よ、われ天 開けて人の子の神の右に立ち給ふを見る」57 ここに彼ら大聲に叫びつつ、耳を掩ひ心一つにして驅け寄り、58 ステパノを町より逐ひだし、石にて撃てり。證人らその衣をサウロといふ若者の足下に置きけり。59 かくて彼等がステパノを石にて撃てる時、ステパノ呼びて言ふ「主イエスよ、我が靈を受けたまへ」60 また跪づきて大聲に「主よ、この罪を彼らの負はせ給ふな」と呼はる。斯く言ひて眠に就けり。

Chapter 8

1 サウロは彼の殺さるるを可しとせり。その日エルサレムに在る教會に對ひて大なる迫害おこり、使徒

たちの他は皆ユダヤ及びサマリヤの地方に散さる。2 敬虔なる人々ステパノを葬り、彼のために大に胸打てり。3 サウロは教會をあらし、家々に入り男女を引出して獄に付せり。4 ここに散されたる者ども歴巡りて御言を宣べしが、5 ビリボはサマリヤの町に下りてキリストの事を傳ふ。6 群衆ビリボの行ふ徴を見聞して、心一つにし、謹みて其の語る事どもを聽けり。7 これ多くの人より、之に憑きたる穢れし靈、大聲に叫びて出で、また中風の者と跛者と多く醫されたるに因る。8 この故にその町に大なる歡喜おこれり。9 ここにシモンといふ人あり、前にその町にて魔術を行ひ、サマリヤ人を驚かして自ら大なる者と稱へたり。10 小より大に至る凡ての人つつしみて之に聽き「この人は、いわゆる神の大能なり」といふ。11 かく謹みて聽けるは、久しき間その魔術に驚かされし故なり。12 然るにビリボが、神の國とイエス・キリストの御名とに就きて宣傳ふるを人々信じたれば、男女ともにバプテスマを受く。13 シモンも亦みづから信じ、バプテスマを受けて、常にビリボと偕に居り、その行ふ徴と、大なる能力とを見て驚けり。14 エルサレムに居る使徒たちは、サマリヤ人、神の御言を受けたりと聞きて、ペテロとヨハネとを遣したれば、15 彼ら下りて人々の聖靈を受けんことを祈れり。16 これ主イエスの名によりてバプテスマを受けしのみにて、聖靈いまだ其の一人にだに降らざりしなり。17 ここに二人のもの彼らの上に手を按きたれば、みな聖靈を受けたり。18 使徒たちの按手によりて其の御言を與へられしを見て、シモン金を持ち來りて言ふ、19「わが手を按くすべての人の聖靈を受くるやうに、此の權威を我にも與へよ」20 ペテロ彼に言ふ「なんぞの銀は汝とともに亡ぶべし、なんぞ金をもて神の賜物を得んと思へばなり。21 なんぞは此の事に關係なく干與なし、なんぞの心、神の前に正しからず。22 然ればこの惡を悔改めて主に祈れ、なんぞが心の念あるひは赦されん。23 我なんぞが苦き膽汁と不義の繋とに居るを見るなり」24 シモン答へて言ふ「なんぞらの言ふ所のこと一つも我に來らぬやう、汝ら我がために主に祈れ」25 かくて使徒たちは證をなし、主の御言を語りて後、サマリヤ人の多くの村に福音を宣傳へつつエルサレムに歸れり。26 然るに主の使ビリボに語りて言ふ「なんぞ起ちて南に向ひエルサレムよりガザに下る道に往け。そこは荒野なり」27 ビリボ起ちて往きたれば、視よ、エテオピアの女王カンダケの權官にして、凡ての寶物を掌どる閹人エテオピヤ人あり、禮拜の爲にエルサレムに上りしが、28 歸る途すがら馬車に坐して預言者イザヤの書を読みたり。29 御靈ビリボに言ひ給ふ「ゆきて此の馬車に近寄れ」30 ビリボ走り寄りて、その預言者イザヤの書を読むを聽きて言ふ「なんぞ其の讀むところ

を悟るか」31 閹人いふ「導く者なくば、いかに悟り得ん」而してビリボに、乗りて共に坐せんことを請ふ。32 その讀むところの聖書の文は是なり「彼は羊の屠場に就くが如く曳かれ、羔羊のその毛を剪る者のまへに黙すがごとく口を開かず。33 卑しめられて審判を奪はれたり、誰かその代の状を述べ得んや。その生命地上より取られたればなり」34 閹人こたへてビリボに言ふ「預言者は誰に就きて斯く云へるぞ、己に就きてか、人に就きてか、請ふしせ」35 ビリボ口を開き、この聖 句を始としてイエスの福音を宣傳ふ。36 途を進む程に水ある所に來りたれば、閹人いふ「視よ、水あり、我がバプテスマを受くるに何の障りかある」37 なし 38 乃ち命じて馬車を止め、ビリボと閹人と二人ともに水に下りて、ビリボ閹人にバプテスマを授く。39 彼ら水より上りしとき、主の靈ビリボを取去りたれば、閹人ふたたび彼を見ざりしが、喜びつつ其の途に進み往けり。40 かくてビリボはアゾトに現れ、町々を経て福音を宣傳へつつカイザリヤに到れり。

Chapter 9

1 サウロは主の弟子たちに對して、なほ恐喝と殺害との氣を充し、大 祭司にいたりて、2 ダマスコにある諸教會への添書を請ふ。この道の者を見出さば、男女にかかはらず縛りてエルサレムに曳かん爲なり。3 往きてダマスコに近づきたるとき、忽ち天より光いでて、彼を環り照したれば、4 かれ地に倒れて「サウロ、サウロ、何ぞ我を迫害するか」といふ聲をきく。5 彼いふ「主よ、なんぞは誰ぞ」答へたまふ「われは汝が迫害するイエスなり。6 起きて町に入れ、さらば汝なすべき事を告げらるべし」7 同行の人々、物言ふこと能はずして立ちたりしが、聲は聞けども誰をも見ざりき。8 サウロ地より起きて目をあけたれど何も見えざれば、人その手をひきてダマスコに導きゆきしに、9 三日のあひだ見えず、また飲食せざりき。10 さてダマスコにアナニヤといふ一人の弟子あり、幻影のうちに主いひ給ふ「アナニヤよ」答ふ「主よ、我ここに在り」11 主いひ給ふ「起きて直といふ街にゆき、ユダの家にてサウロといふタルソ人を尋ねよ。視よ、彼は祈りをなすなり。12 又アナニヤといふ人の入り來りて、再び見ゆることを得しめんために、手を己がうへに按くを見たり」13 アナニヤ答ふ「主よ、われ多くの人より此の人に就きて聞きしに、彼がエルサレムにて汝の聖徒に害を加へしこと如何ばかりぞや。14 また此處にても、凡て汝の御名をよぶ者を縛る權を祭司長らより受けたるなり」15 主いひ給ふ「往け、この人は異邦人・王たち・イスラエルの子孫のまへに、我が名を持ちゆく我が選の器なり。16 我かれに我が名のために如何に多くの苦難を受

くるかを示さん」17 ここにアナニヤ往きて其の家にいり、彼の上に手をおきて言ふ「兄弟サウロよ、主すなはち汝が來る途にて現れ給ひしイエス、われを遣し給へり。なんぞが再び見ゆることを得、かつ聖靈にて滿されん爲なり」18 直ちに彼の目より鱗のごときもの落ちて見ることを得、すなはち起きてバプテスマを受け、19 かつ食事して力づきたり。サウロは數日の間ダマスコの弟子たちと偕に在り、20 直ちに諸會堂にて、イエスの神の子なることを宣べたり。21 聞く者みな驚きて言ふ「こはエルサレムにて此の名をよぶ者を害ひし人ならずや、又ここに來りしも、之を縛りて祭司長らの許に曳きゆかんが爲ならずや」22 サウロますます能力くははり、イエスのキリストなることを論證して、ダマスコに住むユダヤ人を言ひ伏せたり。23 日を経ること久しくして後、ユダヤ人かれを殺さんと謀りたれど、24 その計書サウロに知らる。かくて彼らはサウロを殺さんとて、晝も夜も町の門を守りしに、25 その弟子ら夜中かれを籃にて石垣より縋り下せり。26 ここにサウロ、エルサレムに到りて弟子たちの中に列らんとすれど、皆かれが弟子たるを信ぜずして懼れたり。27 然るにバルナバ彼を迎へて、使徒たちの許に伴ひゆき、その途にて主を見しこと、主の之に物言ひ給ひしこと、又ダマスコにてイエスの名のために臆せず語りし事などを具に告ぐ。28 ここにサウロはエルサレムにて弟子たちと共に出入し、29 主の御名のために臆せず語り、又ギリシヤ語のユダヤ人と、かつ語りかつ論じたれば、彼等これ殺さんと謀りしに、30 兄弟たち知りて彼をカイザリヤに伴ひ下り、タルソに往かしめたり。31 かくてユダヤ、ガリラヤ及びサマリヤを通じて、教會は平安を得、ややに堅立し、主を畏れて歩み、聖靈の祐助によりて人数いひ増せり。32 ペテロは徧く四方をめぐりてルダに住む聖徒の許にいたり、33 彼處にてアイネヤといふ人の中風を患ひて八年のあひだ牀に臥し居るに遇ふ。34 かくてペテロ之に「アイネヤよ、イエス・キリスト汝を醫したまふ、起きて牀を收めよ」と言ひたれば、直ちに起きたり。35 ここにルダ及びサロンに住む者みな之を見て主に歸依せり。36 ヨツパにタビタと云ふ女の弟子あり、その名を譯すればドルカスなり。此の女は、ひたすら善き業と施濟とをなせり。37 彼そのころ病みて死にたれば、之を洗ひて高樓に置く。38 ルダはヨツパに近ければ、弟子たちペテロの彼處に居るを聞きて、二人の者を遣し「ためらはで我らに來れ」と請はしむ。39 ペテロ起ちてともに往き、遂に到れば、彼を高樓に伴れてのぼりしに、寡婦らみな之をかこみて泣きつつ、ドルカスが偕に居りしほどに製りし下衣・上衣を見せたり。40 ペテロ彼等をみな外に出し、跪づきて祈りし後、ふりかへり屍體に向ひて「タビタ、起きよ」と言ひたれば

、かれ目を開き、ペテロを見て起られり。41 ペテロ手をあたへ、起して聖徒と寡婦とを呼び、タビタを生きたるままに見す。42 この事ヨツパに知られたれば、多くの人、主を信じたり。43 ペテロ皮工シモンの家にありて日久しくヨツパに留れり。

Chapter 10

ここにカイザリヤにコルネリオといふ人あり、イタリヤ隊と稱ふる軍隊の百卒長なるが、2 敬虔にして全家族とともに神を畏れ、かつ民に多くの施濟をなし、常に神に祈れり。3 或日の午後三時ごろ幻影のうちに神の使きたりて『コルネリオよ』と言ふを明かに見たれば、4 之に目をそそぎ怖れて言ふ『主よ、何事ぞ』御使いふ『なんぢの祈と施濟とは、神の前に上りて記念とせらる。5 今ヨツパに人を遣してペテロと稱ふるシモンを招け、6 彼は皮工シモンの家に宿る。その家は海邊にあり』7 斯く語れる御使の去りし後、コルネリオ己が僕二人と從卒中の敬虔なる者一人とを呼び、8 凡ての事を告げてヨツパに遣せり。9 明る日かかれらなほ途中にあり、既に町に近づかんとする頃ほび、ペテロ祈らんとて屋の上に登る。時は晝の十二時ごろなり。10 飢えて物欲しくなり、人の食を調ふるほどに我を忘れし心地して、11 天を開け、器のくだるを見る、大なる布のごとき物にして、四隅もて地に縋り下されたり。12 その中には諸種の四足のもの、地を匍ふもの、空の鳥あり。13 また聲ありて言ふ『ペテロ、立て、屠りて食せよ』14 ペテロ言ふ『主よ、可からじ、我いまだ潔からぬもの穢れたる物を食せし事なし』15 聲再びありて言ふ『神の潔め給ひし物を、なんぢ潔からずとすな』16 かくの如きこと三度にして、器は直ちに天に上げられたり。17 ペテロその見し幻影の何の意なるか、心に惑ふほどに、視よ、コルネリオより遣されたる人、シモンの家を尋ねて門の前に立ち、18 訪ひて、ペテロと稱ふるシモンの此處に宿るかを問ふ。19 ペテロなほ幻影に就きて打案じあたるに、御靈いひ給ふ『視よ、三人なんぢを尋ね。20 起ちて下り疑はずして共に往け、彼らを遣したるは我なり』21 ペテロ下りて、かの人たちに言ふ『視よ、我は汝らの尋ぬる者なり、何の故ありて来るか』22 かれら言ふ『義人にして神を畏れ、ユダヤの國人の中に令聞ある百卒長コルネリオ、聖なる御使より、汝を家に招きて、その語ることを受けたり』23 ここにペテロ彼らを迎へ入れて宿らす。明る日たちて彼らと共に出てゆきしが、ヨツパの兄弟も数人ともに往けり。24 明る日カイザリヤに入りし時、コルネリオは親族および親しき朋友を呼び集めて彼らを待ちみたり。25 ペテロ入り来れば、コルネリオ之を迎へ、その足下に伏して

拜す。26 ペテロ彼を起して言ふ『立て、我も人なり』27 かくて相語りつつ内に入り、多くの人の集れるを見て、ペテロ之に言ふ、28 『なんぢらの知る如く、ユダヤ人たる者の外の國人と交りまた近づくことは、律法に適はぬ所なり、然れど神は、何人をも穢れたるもの潔からぬ者と言ふまじきことを我に示したまへり。29 この故に、われ招かるや躊躇はずして来れり。然れば問ふ、汝らは何の故に我をまねきしか』30 コルネリオ言ふ『われ四日前に我が家にて午後三時の祈をなし、此の時刻に至りしに、視よ、輝く衣を著たる人、わが前に立ちて、31 「コルネリオよ、汝の祈は聴かれ、なんぢの施濟は神の前に憶えられたり。32 人をヨツパに送りにてペテロと稱ふるシモンを招け、かれは海邊なる皮工シモンの家に宿るなり」と云へり。33 われ速かに人を汝に遣したるに、汝の來るは忝けなし。いま我等はみな、主の汝に命じ給ひし凡てのことを聽かんとして、神の前に在り』34 ペテロ口を開きて言ふ、『われ今まことに知る、神は偏ることをせず、35 何れの國の人にも神を敬ひて義をおこなふ者を容れ給ふことを。36 神はイエス・キリスト(これ萬民の主)によりて平和の福音をのべ、イスラエルの子孫に言をおくり給へり。37 即ちヨハネの傳へしバプテスマの後、ガリラヤより始り、ユダヤ全國に弘りし言なるは汝らの知る所なり。38 これは神が聖靈と能力とを注ぎ給ひしナザレのイエスの事にして、彼は偏くめぐりて善き事をおこなひ、凡て惡魔に制せらるる者を醫せり、神これと偕に在したればなり。39 我等はユダヤの地およびエルサレムにて、イエスの行ひ給ひし諸般のこの證人なり、人々は彼を木にかけて殺せり。40 神は之を三日めに甦へらせ、かつ明かに現したまへり。41 然れど凡ての民にはあらず、神の預じめ選び給へる證人、即ちイエスの死人の中より甦へり給ひし後、これと共に飲食せし我らに現し給ひしなり。42 イエスは己の生ける者と死にたる者との審判主に、神より定められしを證すること、民どもに宣傳ふる事とを我らに命じ給ふ。43 彼らにつきては預言者たちも皆、おほよそ彼を信する者の、その名によりて罪の赦を得べきことを證す』44 ペテロ尚これらの言を語りをる間に、聖靈、御言をきく凡ての者に降りたまふ。45 ペテロと共に來りし割禮ある信者は、異邦人にも聖靈の賜物のそそがれしに驚けり。46 そは彼らが異言をかたり、神を崇むるを聞きたるに因る。47 ここにペテロ答へて言ふ『この人々われらの如く聖靈をうけたれば、誰か水を禁じて其のバプテスマを受くることを拒み得んや』48 遂にイエス・キリストの御名によりてバプテスマを受けられんことを命じたり。ここに彼らペテロに數日とどまらんことを請へり。

Chapter 11

1 使徒たち及びユダヤに居る兄弟たちは、異邦人も神の言を受けたりと聞く。2 かくてペテロのエルサレムに上りしとき、割禮ある者ども彼を語りて言ふ、3 『なんぢ割禮なき者の内に入りて之と共に食せり』4 ペテロ有りし事を序正しく説き出して言ふ、5 『われヨツパの町にて祈り居るとき、我を忘れし心地し、幻影にて器のくだるを見る、大なる布のごとき物にして、四隅もて天より縋り下され我が許にきたる。6 われ目を注めて之を見るに、地の四足のもの、野の獸、匍ふもの、空の鳥を見たり。7 また「ペテロ、立て、屠りて食せよ」といふ聲を聞けり。8 我いふ「主よ、可からじ、潔からぬもの穢れたる物は、曾て我が口に入りしことなし」9 再び天より聲ありて答ふ「神の潔め給ひし物を、なんぢ潔からずと爲な」10 かくの如きこと三度にして、終にはみな天に引上げられたり。11 視よ、三人の者カイザリヤより我に遣されて、はや我らの居る家の前に立てり。12 御靈われに、疑はずして彼らと共に往くことを告げ給ひたれば、此の六人の兄弟も我とともに往きて、かの人の人家に入れり。13 彼はおのが家に御使の立ちて「人をヨツパに遣し、ペテロと稱ふるシモンを招け、14 その人、なんぢと汝の全家族との救はるべき言を語らん」と言ふを、見しことを我らに告げたり。15 ここに、われ語り出づるや、聖靈かれらの上に降りたまふ、初め我らの上に降りし如し。16 われ主の曾て「ヨハネは水にてバプテスマを施ししが、汝らは聖靈にてバプテスマを施されん」と宣給ひし御言を思ひ出せり。17 神われらが主イエス・キリストを信ぜしときに賜ひしと同じ賜物を彼らにも賜ひたるに、われ何者なれば神を阻み得ん』18 人々これを聞きて默然たりしが、頓て神を崇めて言ふ『されば神は異邦人にも生命を得さる悔改を與へ給ひしなり』19 かくてステパノによりて起りし迫害のために散されたる者ども、ピニケ、クプロ、アンテオケまで到り、ただユダヤ人にも御言を語りたるに、20 その中にクプロ及びクレネの人、數人ありて、アンテオケに來りし時、ギリシヤ人にも語りて主イエスの福音を宣傳ふ。21 主の手かれらと偕にありたれば、數多の人、信じて主に歸依せり。22 この事エルサレムに在る教會に聞えられたれば、バルナバをアンテオケに遣す。23 かれ來りて、神の恩恵を見てよろこび、彼等に、みな心を堅くして主にをらんことを勧む。24 彼は聖靈と信仰とにて満ちたる善き人なればなり。ここに多くの人々、主に加はりたり。25 かくてバルナバはサウロを尋ねんとてタルソに往き、26 彼に逢ひてアンテオケに伴ひきたり、二人ともに一年の間かしこの教會の集會に出でて多くの人を教ふ。弟子たちのキリストアンと稱

へらるる事はアンテオケより始れり。27 その頃エルサレムより預言者たちアンテオケに下る。28 その中の一人アガボと云ふもの起ちて、大なる飢饉の全世界にあるべきことを御靈によりて示せるが、果してクラウデオの時に起れり。29 ここに弟子たち各々の力に應じてユダヤに住む兄弟たちに扶助をおくらん事をさだめ、30 遂に之をおこなひ、バルナバ及びサウロの手に托して長老たちに贈れり。

Chapter 12

1 その頃ヘロデ王、教會のうちの或人どもを苦しめんとて手を下し、2 劍をもてヨハネの兄弟ヤコブを殺せり。3 この事ユダヤ人の心に適ひたるを見て、またペテロをも捕ふ、頃は除酵祭の時なりき。4 すでに執りて獄に入れ、過越の後に民のまへに曳き出さんと心の構にて、四人一組なる四組の兵卒に付して之を守せたり。5 かくてペテロは獄のなかに囚はれ、教會は熱心に彼のために神に祈をなせり。6 ヘロデこれを曳き出さんとする其の前の夜、ペテロは二つの鍵にて繋がれ、二人の兵卒のあひだに睡り、番兵らは門口にみて獄を守りたるに、7 視よ、主の使ペテロの傍らに立ちて、光明室内にかがやく。御使かれの脇をたたき、覺していふ『疾く起きよ』かくて鍵その手より落ちたり。8 御使いふ『帶をしめ、鞋をはけ』彼その如く爲たれば、又いふ『上衣をまといひて我に従へ』9 ペテロ出でて隨ひしが、御使のする事の眞なるを知らず、幻影を見るならんと思ふ。10 かくて第一・第二の警固を過ぎて町に入るところの鐵の門に到れば、門おのづから彼等のために開け、相共にいでて一つの街を過ぎしとき、直ちに御使はなれたり。11 ペテロ共に反りて言ふ『われ今まことに知る、主その使を遣して、ヘロデの手およびユダヤの民の凡て思ひ設けし事より、我を救ひ出し給ひしを』12 斯く悟りてマルコと稱ふるヨハネの母マリヤの家に往きしが、其處には數多のもの集りて祈りありたり。13 ペテロ門の戸を叩きたれば、ロダといふ婢女ききに出でたり、14 ペテロの聲なるを知りて、勸喜のあまりに門を開けずして走り入り、ペテロの門の前に立てることを告げられたれば、15 彼ら『なんぢは氣狂へり』と言ふ。然れどロダは夫なりと言張る。かれら言ふ『それはペテロの御使ならん』16 然るにペテロなほ叩きて止まざれば、かれら門をひらき之を見て驚けり。17 かれ手を揺かして人々を鎮め、主の己を獄より導きいだし給ひしことを具に語り『これをヤコブと兄弟たちとに告げよ』と言ひて他の處に出で往けり。18 夜明になりて、ペテロは如何にせしとて兵卒の中の騒一方ならず。19 ヘロデ之を索むれど見出さず、遂に守卒を訊して死罪を命じ、而してユダヤよりカイザリヤに下りて留れり。20 偕

ヘロデ、ツロとシドンとの人々を甚く怒りたれば、其の民ども心一つにして彼の許にいたり、王の内侍の臣ブラストに取り入りて和諧を求む。かれらの地方は王の國より食品を得るに因りてなり。21ヘロデ定めたる日に及びて王の服を着け高座に坐して言を宣べたれば、22集民よばはりて『これ神の聲なり、人の聲にあらず』と云ふ。23ヘロデ神に榮光を歸せぬに因りて、主の使たちどころに彼を撃ちたれば、蟲に噛まれて息絶えたり。24かくて主の御言いよいよ増々ひろまる。25バルナバ、サウロはその職務を果し、マルコと稱ふるヨハネを伴ひてエルサレムより歸れり。

Chapter 13

1アンテオケの教會にバルナバ、ニゲルと稱ふるシメオン、クレネ人ルキオ、國守ヘロデの乳兄弟マナエン及びサウロなどいふ預言者と教師とあり。2彼らが主に事へ斷食したるとき、聖靈いひ給ふ『わが召して行はせんとする業の爲に、バルナバとサウロとを選び、別て』3ここに彼ら斷食し、祈りて二人の上に手を按きて往かしむ。4この二人、聖靈に遣されてセルキヤに下り、彼處より船にてクプロに渡り、5サラミスに著きてユダヤ人の諸會堂にて神の言を宣傳へ、またヨハネを助人として伴ふ。6徧くこの島を經行きてパボスに到り、バルイエスといふユダヤ人にて僞預言者たる魔術者に遇ふ。7彼は地方總督なる慧き人セルギオ・パウロと偕にありき。總督はバルナバとサウロとを招き神の言を聽かんとしたるに、8かの魔術者エルマ(この名を釋けば魔術者)二人に敵對して總督を信仰の道より離れしめんとせり。9サウロ又の名はパウロ、聖靈に滿され、彼に目を注めて言ふ、10『ああ有らゆる詭計と奸惡とにて滿ちたる者、惡魔の子、すべての義の敵よ、なんぢ主の直き道を曲げて止まぬか。11視よ、いま主の御手なんぢの上にあり、なんぢ盲目となりて暫く日を見ざるべし』かくて立刻に膝と闇とその目を掩ひたれば、探り回りに導きくる者を求む。12ここに總督この有りし事を見て、主の教に驚きて信じたり。13さてパウロ及び之に伴ふ人々、パボスより船出してパンフリヤのベルガに到り、ヨハネは離れてエルサレムに歸れり。14彼らはベルガより進みきてピシデヤのアンテオケに到り、安息日に會堂に入りて坐せり。15律法および預言者の書の朗讀ありしもの、會堂司たち人を彼らに遣し『兄弟たちよ、もし民に勸の言あらば言へ』と云はしめられたれば、16パウロ起ちて手を搖かして言ふ、『イスラエルの人々および神を畏るる者よ、聽け。17このイスラエルの民の神は、我らの先祖を選び、そのエジプトの地に寄寓せし時、わが民をおこし

、強き御腕にて之を導きいだし、18おほよそ四十年のあひだ、荒野にて彼らの所作を忍び、19カナンの地にて七つの民族をほろぼし、その地を彼らに嗣がしめて、20凡そ四百五十年を經たり。此のち預言者サムエルの時代まで審判人を賜ひしを、21後に至りて彼ら王を求めたれば、神は之にキスの子サウロと云ふベニヤミンの族の人を四十年のあひだ賜ひ、22之を退けて後、ダビデを擧げて王となし、且これを證して『我エッサイの子ダビデといふ我が心に適ふ者を見出せり、彼わが意をことごとく行はんと』と宣給へり。23神は約束に隨ひて此の人の裔より、イスラエルの爲に救主イエスを興し給ひしが、24その来る前にヨハネ預じめイスラエルの凡ての民に悔改のバプテスマを宣傳へたり。25かくてヨハネ己が走るべき道程を終へんとする時「なんぢら我を誰と思ふか、我はかの人にあらず、視よ、我に後れて来る者あり、我はその鞋の紐を解くにも足らず」と云へり。26兄弟たち、アブラハムの血統の子ら及び汝等のうち神を畏るる者よ、この救の言は我らに贈られたり。27それエルサレムに住める者および其の司らは、彼をも安息日ごとに讀むところの預言者たちの言をも知らず、彼を刑ひて預言を成就せしめたり。28その死に當るべき故を得ざりしかど、ピラトに殺さんことを求め、29彼につきて記されたる事をことごとく成しをへ、彼を木より下して墓に納めたり。30されど神は彼を死人の中より甦へらせ給へり。31かくてイエスは己と偕にガリラヤよりエルサレムに上りし者に多くの日のあひだ現れ給へり。その人々は今、民の前にイエスの證人たるなり。32我らも先祖たちが與へられし約束につきて喜ばしき音信を汝らに告ぐ、33神はイエスを甦へらせて、その約束を我らの子孫に成就したまへり。即ち詩の第二篇に「なんぢは我が子なり、われ今日なんぢを生めり」と録されたるが如し。34また朽腐に歸せざる狀に彼を死人の中より甦へらせ給ひし事に就きては、斯く宣給へり。曰く「われダビデに約せし確き聖なる恩恵を汝らに與へん」35そは他の篇に「なんぢは汝の聖者を朽腐に歸せざらしむべし」と云へり。36それダビデは、その代にて神の御旨を行ひ、終に眠りて先祖たちと共に置かれ、かつ朽腐に歸したり。37然れど神の甦へらせ給ひし者は朽腐に歸せざりき。38この故に兄弟たちよ、汝ら知れ。この人によりて罪の救のなんぢらに傳へらるることを。39汝らモーセの律法によりて義とせられ得ざりし凡ての事も、信する者は皆この人によりて義とせらるる事を。40然れば汝ら心せよ、恐らくは預言者たちの書に云ひたること來らん、41曰く「あなどる者よ、なんぢら視よ、おどろけ、亡びよ、われ汝らの日に一つの事を行はんと。これを汝らに具に告ぐる者ありとも信ぜざる程の事なり」42彼らが會堂を出づるとき、人々これらの言を

次の安息日にも語らんことを請ふ。43集會の散ぜし後、ユダヤ人および敬虔なる改宗者おほくパウロとバルナバとに従ひ住きたれば、彼らに語りて神の恩恵に止らんことを勧めたり。44次の安息日には、神の言を聽かんとて殆ど町擧りて集りたり。45されどユダヤ人はその群衆を見て嫉に滿され、パウロの語ることに言ひ逆ひて罵れり。46パウロとバルナバとは臆せずして言ふ『神の言を先づ汝らに語るべかりしを、汝等これを斥けて己を永遠の生命に相應しからぬ者と自ら定むるによりて、視よ、我ら轉じて異邦人に向はん。47それ主は斯く我らに命じ給へり。曰く「われ汝を立てて異邦人の光とせり。地の極にまで救とならしめん爲なり」』48異邦人は之を聽きて喜び、主の言をあげ、又とこしへの生命に定められたる者はみな信じ、49主の言この地に徧く弘りたり。50然るにユダヤ人ら、敬虔なる貴女たち及び町の重立ちたる人々を唆かして、パウロとバルナバとに迫害をくはへ、遂に彼らを其の境より逐ひ出せり。51二人は彼らに對ひて足の塵をはらひ、イコニオムに往く。52弟子たちは喜悅と聖靈とにて滿され居たり。

Chapter 14

1二人はイコニオムにて相共にユダヤ人の會堂に入りて語りたれば、之に由りてユダヤ人およびギリシヤ人あまた信じたり。2然るに従はぬユダヤ人ら異邦人を唆かし、兄弟たちに對して惡意を懷かしむ。3二人は久しく留り、主によりて臆せずして語り、主は彼らの手により、徴と不思議とを行ひて惠の御言を證したまふ。4ここに町の人々相分れて、或者はユダヤ人に黨し、或者は使徒たちに黨せり。5異邦人ユダヤ人および其の司ら相共に使徒たちを辱しめ、石にて撃たんと企てしに、6彼ら悟りてルカオニヤの町なるルステラ、デルベ及びその邊の地にのがれ、7彼處にて福音を宣傳ふ。8ルステラに足弱き人ありて坐しめたり、生れながらの跛者にて曾て歩みたる事なし。9この人パウロの語るを聽きあたるが、パウロ之に目をとめ、救はるべき信仰あるを見て、10大聲に『なんぢの足にて眞直に起て』と言ひたれば、かれ躍り上りて歩めり。11群衆、パウロの爲ししことを見て聲を揚げ、ルカオニヤの國語にて『神たち人の形をかりて我らに降り給へり』と言ひ、12バルナバをゼウスと稱へ、パウロを宗と語る人なる故にヘルメスと稱ふ。13而して町の外なるゼウスの宮の祭司、數匹の牛と花飾とを門の前に携へきたりて、群衆とともに犠牲を獻げんとせり。14使徒たち、即ちバルナバとパウロと之を聞きて、己が衣をさき群衆のなかに馳せ入り、15呼はりて言ふ『人々よ、なんぞ斯

かる事をなすか、我らも汝らと同じ情を有てる人なり、汝らに福音を宣べて斯かる虚しき者より離れ、天と地と海とそこの中にある有らゆる物とを造り給ひし活ける神に歸らしめんとするなり。16過ぎし時代には神、すべての國人の己が道々を歩むに任せ給ひしかど、17また自己を證し給はざりし事なし。即ち善き事をなし、天より雨を賜ひ、豐穰の時をあたへ、食物と歡喜とをもて汝らの心を滿ち足らはせ給ひしなり』18斯く言ひて辛うじて群衆の己らに犠牲を獻げんとするを止めたり。19然るに數人のユダヤ人、アンテオケ及びイコニオムより來り、群衆を勧め、而してパウロを石にて撃ち、既に死にたりと思ひて町の外に曳き出せり。20弟子たち之を立圍みあたるに、パウロ起きて町に入る。明るる日バルナバと共にデルベに出で往き、21その町に福音を宣傳へ、多くの人を弟子として後、ルステラ、イコニオム、アンテオケに還り、22斯く弟子たちの心を堅うし信仰に止らんことを勧め、また我らが多くの艱難を歷て神の國に入るべきことを教ふ。23また教會毎に長老をえらび、斷食して祈り、弟子たちを其の信する所の主に委ぬ。24かくてピシデヤを經てパンフリヤに到り、25ベルガにて御言を語りて後アタリヤに下り、26彼處より船出して、その成し果てたる務のために神の恵みに委ねられし處なるアンテオケに往けり。27既に到りて教會の人々を集められたれば、神が己らと偕に在して成し給ひし凡てのこと、並に信仰の門を異邦人にひらき給ひしことを述べ、28かくて久しく留りて弟子たちと偕にあり。

Chapter 15

1或人々ユダヤより下りて、兄弟たちに『なんぢらモーセの例に遵ひて割禮を受けずば救はるるを得ず』と教ふ。2ここに彼らとパウロ及びバルナバとの間に、大なる紛争と議論と起りたれば、兄弟たちはパウロ、バルナバ及びその中の數人をエルサレムに上らせ、此の問題につきて使徒・長老たちに問はしめんと定む。3かれら教會の人々に見送られて、ピニケ及びサマリヤを經、異邦人の改宗せしことを具に告げて、凡ての兄弟に大なる喜悅を得させたり。4エルサレムに到り、教會と使徒と長老とに迎へられ、神が己らと偕に在して爲し給ひし凡ての事を述べたるに、5信者となりたるパリサイ派の或人々立ちて『異邦人にも割禮を施し、モーセの律法を守ることを命ぜざる可からず』と言ふ。6ここに使徒・長老たち此の事につきて協議せんとて集る。7多くの議論ありし後、ペテロ起ちて言ふ『兄弟たちよ、汝らの知るごとく、久しき前には、なんぢらの中より我を選び、わが口より異邦人に福音の言を聞かせ、之を信ぜしめんとし給へり。8人の心を知りたまふ神は、我らと同じく、彼

等にも聖霊を與へて證をなし、9 かつ信仰によりて彼らの心をきよめ、我らと彼らとの間に隔を置き給はざりき。10 然るに何ぞ神を試みて、弟子たちの頸に我らの先祖も我らも負ひ能はざりし軛をかけんとするか。11 然らず、我らの救はるるも彼らと均しく主イエスの恩恵に由ることを我らは信ず。12 ここに會衆みな黙して、バルナバとパウロとの、己等によりて神が異邦人のうちに、己し給ひし多くの徴と不思議とを述ぶるを聴く。13 彼らの語り終へし後、ヤコブ答へて言ふ『兄弟たちよ、我に聽け、14 シメオン既に神の初めて異邦人を顧み、その中より御名を負ふべき民を取り給ひしことを述べしが、15 預言者たちの言もこれと合へり。16 録して「このち我かへりて、倒れたるダビデの幕屋を再び造り、その類れし所をふたたび造り、而して之を立てん。17 これ殘餘の人々、主を尋ね求め、凡て我が名をも稱へらるる異邦人もまた然せん爲なり。18 古へより此等のことを知らしめ給ふ主、これを言ひ給ふ」とあるが如し。19 之によりて我は判断す、異邦人の中より神に歸依する人を煩はすべきにあらず。20 ただ書き贈りて、偶像に穢されたる物と、淫行と、絞殺したる物と、血とを避けしむべし。21 昔より、いづれの町にもモーセを宣ぶる者ありて、安息日毎に諸會堂にてその書を讀めばなり。22 ここに使徒・長老たち及び全教會は、その中より人を選びてパウロ、バルナバと共にアンテオケに送ることを可しとせり。選ばれたるは、バルサバと稱ふるユダとシラスとにて、兄弟たちの中の重立ちたる者なり。23 之に托したる書にいふ『使徒および長老たる兄弟ら、アンテオケ、シリヤ、キリキヤに在る異邦人の兄弟たちの平安を祈る。24 我等のうちの或人々われらが命じもせぬに、言をもて汝らを煩はし、汝らの心を亂したりと聞きたれば、25 我ら心一つにして人を選びて、26 我らの主イエス・キリストの名のために生命を惜まざりし者なる、我らの愛するバルナバ、パウロと共に汝らに遣すことを可しとせり。27 之によりて我らユダとシラスとを遣す、かれらも口づから此等のことを述べん。28 聖霊と我らとは左の肝要なるものの他に何を我らに負はせぬを可しとするなり。29 即ち偶像に獻げたる物と、血と、絞殺したる物と、淫行とを避くべき事なり、汝等これを慎まば善し。なんぢら健かなれ』30 かれら別を告げてアンテオケに下り、人々を集めて書を付す。31 人々これを讀み慰安を得て喜べり。32 ユダモシラスもまた預言者なれば、多くの言をもて兄弟たちを勸めて彼らを堅うし、33 暫く留りてのち、兄弟たちに平安を祝せられ、別を告げて、己らを遣しし者に歸れり。34 なし 35 斯てパウロとバルナバとは尚アンテオケに留りて多くの人とともに主の御言を教へ、かつ宣傳したり。36 數日の後パウロはバルナバに言ふ『いざ

、我ら曩に主の御言を傳へし凡ての町にまた往きて、兄弟たちを訪ひ、その安否を尋ねん』37 バルナバはマルコと稱ふるヨハネを伴はんと望み、38 パウロは彼が曾てパンフリアより離れ去りて、勤勞のために共に往かざりしをもて、伴ふは宣はらずと思ひ、39 激しき爭論となりて遂に二人相別れ、バルナバはマルコを伴ひ、舟にてクプロに渡り、40 パウロはシラスを選び、兄弟たちより主の恩恵に委ねられて出で立ち、41 シリヤ、キリキヤを経て諸教會を堅うせり。

Chapter 16

1 かくてパウロ、デルベとルスセラとに到りたるに、視よ、彼處にテモテと云ふ弟子あり、その母は信者なるユダヤ人にて、父はギリシヤ人なり。2 彼はルスセラ、イコニオムの兄弟たちの中に令聞ある者なり。3 パウロかれの共に出で立つことを欲したれば、その邊に居るユダヤ人のために之に割禮を行へり、その父のギリシヤ人たるを凡ての人の知る故なり。4 かくて町々を経ゆきて、エルサレムに居る使徒・長老たちの定めし規を守らんとて、之を人々に授けたり。5 ここに諸教會はその信仰を堅うせられ、人員日毎にいや増せり。6 彼らアジヤにて御言を語ることを聖霊に禁ぜられたれば、フルギヤ及びガラテヤの地を経ゆきて、7 ムシヤに近づき、ピテニヤに往かんと試みたれど、イエスの御霊ゆるし給はず、8 遂にムシヤを過ぎてトロアスに下れり。9 パウロ夜、幻影を見たるに、一人のマケドニヤ人あり、立ちて己を招き『マケドニヤに渡りて我らを助けよ』と言ふ。10 パウロこの幻影を見れば、我らは神のマケドニヤ人に福音を宣傳へしむる爲に、我らを召し給ふことと思ひ定めて、直ちにマケドニヤに赴かんとせり。11 さてトロアスより船出して、眞直にはせてサモトラケにいたり、次の日ネアポリスにつき、12 彼處よりビビにゆく。ここはマケドニヤの中にて、この邊の第一の町にして殖民地なり、われら數日の間この町に留る。13 安息日に町の門を出でて、祈場あらんと思はるる河のほとりに往き、其處に坐して、集れる女たちに語りければ、14 テアテラの町の紫布の商人にして、神を敬ふルデヤと云ふ女きき居りしが、主その心をひらき、謹みてパウロの語る言をきかしめ給ふ。15 彼は己も家族もバプテスマを受けてのち、我らに勸めて言ふ『なんぢら我を主の信者なりとせば、我が家に來りて留れ』斯く強ひて我らを留めたり。16 われら祈場に往く途中、ト筈の靈に憑れてト筈をなし、其の主らに多くの利を得ざりする婢女、われらに遇ふ。17 彼はパウロ及び我らの後に従ひつつ叫びて言ふ『この人たちは至高き神の僕にて、汝らに救の道を教ふる者なり』18 幾日も

斯くするをパウロ憂ひて、振反りその靈に言ふ『イエス・キリストの名によりて、汝にこの女より出でん事を命ず』靈ただちに出でたり。19 然るにこの女の主人ら利を得る望のなくなりたるをみて、パウロとシラスとを捕へ、市場に曳きて同たちに往き、20 之を上役らに出して言ふ『この人々はユダヤ人にて、我らの町を甚く騒がし、21 我ら口人たる者の受くまじく行ふまじき習慣を傳ふるなり』22 群衆も齊しく起り立ちたれば、上役ら命じて其の衣を褫ぎ、かつ笞にて打たしむ。23 多く打ちてのち獄に入れ、獄守に固く守るべきことを命ず。24 獄守この命令を受けて二人を奥の獄に入れ、桎にてその足を締め置きたり。25 夜半このパウロとシラスと祈りて神を讚美する囚人ら聞きあたるに、26 俄に大なる地震おこりて牢舎の基ふるひ動き、その戸たちどころに皆ひらけ、凡ての囚人の縲綯とけたり。27 獄守、目さめ獄の戸の開けたるを見て、囚人にげ去れりと思ひ、刀を抜きて自殺せんとしたるに、28 パウロ大聲に呼はりて言ふ『みづから害ふな、我ら皆ここに在り』29 獄守、燈火を求め、駈け入りて戦きつパウロとシラスとの前に平伏し、30 之を連れ出して言ふ『君たちよ、われ救はれん爲に何をなすべきか』31 二人は言ふ『主イエスを信ぜよ、然らば汝も汝の家族も救はれん』32 かくて神の言を獄守とその家に居る凡ての人々に語れり。33 この夜、即時に獄守かれらを引取りて、その打傷を洗ひ、遂に己も己に屬する者もみな直ちにバプテスマを受け、34 かつ二人を自宅に伴ひて食事をそなへ、全家とともに神を信じて喜べり。35 夜明になりて上役らは警吏どもを遣して『かの人々を釋せ』と言はせられたれば、36 獄守これらの言をパウロに告げて言ふ『上役、人を遣して汝らを釋さんとす。然れば今いでて安らかに往け』37 ここにパウロ警吏に言ふ『我らは口人たるに罪を定めずして公然に鞭うち、獄に投げ入れたり。然るに今ひそかに我らを出さんと爲るか。然るべからず、彼等みづから來りて我らを連れ出すべし』38 警吏これらの言を上役に告げれば、其の口人たるを聞いて懼れ、39 來り宥めて、二人を連れ出し、かつ町を去らんことを請ふ。40 二人は獄を出でてルデヤの家に入り、兄弟たちに逢ひ、勸をなして出で往けり。

Chapter 17

1 かくてアムビポリス及びアポリニヤを経てテサロニケに到る。此處にユダヤ人の會堂ありたれば、2 パウロは例のごとく彼らの中に入り、三つの安息日にわたり、聖書に基きて論じ、かつ解き明して、3 キリストの必ず苦難をうけ、死人の中より甦へるべきことを述べ『わが汝らに傳ふる此のイエスはキリストなり』と證せり。4 その中のある人々および敬虔なる數多のギリシヤ人、ま

た多くの重立ちたる女も信じてパウロとシラスとに従へり。5 ここにユダヤ人ら嫉を起して市の無賴者をかたらひ、群衆を集めて町を騒がし、又ふたりを集民の前に曳き出さんとしてヤソンの家を圍みしが、6 見出されば、ヤソンと數人の兄弟とを町司たちの前に曳ききたり、呼はりて言ふ『天下を顛覆したる彼の者ども此處にまで來れるを、7 ヤソン迎へ入れたり。この輩は皆カイザルの詔勅にそむき、他にイエスと云ふ王ありと言ふ』8 之をききて群衆と町司たちと心をさわがし、9 保證を取りてヤソンと他の人々を釋せり。10 兄弟たち直ちに夜の間にパウロとシラスとをベレヤに送りいだす。二人は彼處につきてユダヤ人の會堂にいたる。11 此處の人々はテサロニケに居る人よりも善良にして、心より御言をうけ、この事正しく然るが然らぬか、日々聖書をしらぶ。12 この故にその中の多くのもの信じたり、又ギリシヤの貴女、男子にして信じたる者も少からざりき。13 然るにテサロニケのユダヤ人ら、パウロがベレヤにも神の言を傳ふることを聞きたれば、此處にも來りて群衆を動かし、かつ騒がしたり。14 ここに兄弟たち直ちにパウロを送り出して海邊に往かしめ、シラスとテモテとは尚ベレヤに留れり。15 パウロを導ける人々はアテネまで伴ひ往き、パウロよりシラスとテモテとに、疾く我に來れとの命を受けて立ち去れり。16 パウロ、アテネにて彼らを待ちをる間に、町に偶像の満ちたるを見て、その心に憤慨を懷く。17 されば會堂にてはユダヤ人および敬虔なる人々と論じ、市場にては日々逢ふところの者と論じたり。18 斯てエピクロス派ならびにストア派の哲學者數人これと論じあひ、或者らは言ふ『この轉る者なにを言はんとするか』或者らは言ふ『かれは異なる神々を傳ふる者の如し』是はパウロがイエスと復活とを宣はるる故なり。19 遂にパウロをアレオパゴスに連れ往きて言ふ『なんぢが語るこの新しき教の如何なるものなるを、我ら知り得べきか。20 なんぢ異なる事を我らの耳に入るが故に、我らその何事たるを知らんと思ふなり』21 アテネ人も、彼處に住む旅人も、皆ただ新しき事を或は語り、或は聞きてのみ日を送りたり。22 パウロ、アレオパゴスの中に立ちて言ふ『アテネ人も、我すべての事に就きて汝らが神々を敬ふ心の篤きを見る。23 われ汝らが拜むものを見つつ道を過ぐるほどに「知らざる神に」と記したる一つの祭壇を見出したり。然れば我なんぢらが知らずして拜む所のものを汝らに示さん。24 世界とその中のあらゆる物とを造り給ひし神は、天地の主にましますれば、手にて造れる宮に住み給はず。25 みづから凡ての人に生命と息と萬の物とを與へ給へば、物に乏しき所あるが如く、人の手にて事ふることを要し給はず。26 一人よりして諸種の國人を造りいだし、之を地の全

面に住ましめ、時期の限と住居の界とを定め給へり。27 これ人をして神を尋ねしめ、或は探りて見出す事あらしめん爲なり。されど神は我等のおのを離れ給ふこと遠からず、28我らは神の中に生き、動きまた在るなり。汝らの詩人の中の或者どもも「我らは又その裔なり」と云へる如し。29 かく神の裔なれば、神を金・銀・石など人の工と思考とにて刻める物と等しく思ふべきにあらず。30 神はかかる無知の時代を見過しにし給ひしが、今は何處にても凡ての人に悔改むべきことを告げたまふ。31 曩に立て給ひし一人によりて、義をもて世界を審かんために日をさだめ、彼を死人の中より甦へらせて保證を萬人に與へ給へり。32 人々、死人の復活をききて、或者は嘲笑ひしが、或者は『われら復この事を汝に聞かん』と言へり。33 ここにパウロ人々のなかを出で去る。34 されど彼に附随して信じたるもの數人あり。其の中にアレオパゴスの裁判人デオヌシオ及びダマリヌと名づくる女あり、尚その他にもありき。

Chapter 18

1この後パウロ、アテネを離れてコリントに到り、2アクラと云ふポントに生れたるユダヤ人に遇ふ。クラウデオ、ユダヤ人にことごとくロマを退くべき命を下したるによりて、近頃その妻プリスキラと共にイタリヤより来りし者なり。3パウロ其の許に到りしに、同業なりしかば偕に居りて工をなせり。彼らの業は幕屋製造なり。4かくて安息日毎に會堂にて論じ、ユダヤ人とギリシヤ人とを勤む。5シラスとテモテとマケドニヤより来りて後は、パウロ専ら御言を宣ぶることに力め、イエスのキリストたることをユダヤ人に證せり。6然るに、彼ら之に逆ひかつ罵りたれば、パウロ衣を拂ひて言ふ『なんぢらの血は汝らの首に歸すべし、我はいさぎよし、今より異邦人に往かん』7遂に此處を去りて、神を敬ぶテオテオ・ユストと云ふ人の家に到る。この家は會堂に隣れり。8會堂司クリスボその家族一同と共に主を信じ、また多くのコリント人も聽きて信じ、かつバプテスマを受けたり。9主は夜まぼろしの中にパウロに言ひ給ふ『おそるな、語れ、黙すな、10我なんぢと偕にあり、誰も汝を攻めて害ふ者なからん。此の町には多くの我が民あり』11かくてパウロ一年六ヶ月ここに留りて神の言を教へたり。12ガリオ、アカヤの總督たる時、ユダヤ人、心を一つにしてパウロを攻め、審判の座に曳きゆき、13『この人は律法にかなはぬ仕方にて神を拜むことを人に勤む』と言ひたれば、14パウロ口を開かんせしに、ガリオ、ユダヤ人に言ふ『ユダヤ人よ、不正または好惡の事ならば、我が汝らに聽くは道理なれど、15もし言・名あるいは汝らの律法にかかはる問題ならば、汝等みづから理むべし。我が

かる事の審判人となるを好まず』16かくて彼らを審判の座より逐ひいだす。17ここに人々みな會堂司ソステネを執へ、審判の座の前にて打ち拵きたり。ガリオは凡て此らの事を意とせざりき。18パウロなほ長く留りてのち、兄弟たちに別を告げ、プリスキラとアクラとを伴ひ、シリヤに向ひて船出す。早くより誓願ありたれば、ケンクレヤにて髪を剃れり。19かくてエペソに着き、其處にこの二人を留めおき、自らは會堂に入りてユダヤ人と論ず。20人々かれに今しばらく居らんことを請ひたれど、肯んぜずして、21別を告げ『神の御意ならば復なんぢらに返らん』と言ひてエペソより船出し、22カイザリヤにつき、而してエルサレムに上り、教會の安否を問ひてアンテオケに下り、23此處に暫く留りて後、また去りてガラテヤ、フルギヤの地を次々に經て凡ての弟子を堅うせり。24時にアレキサンデリヤ生れのユダヤ人にて、聖書に通達したるアポロと云ふ能辯なる者エペソに下る。25この人は曩に主の道を教へられ、ただヨハネのバプテスマを知るのみなれど、熱心にして詳細にイエスの事を語り、かつ教へたり。26かれ會堂にて臆せずして語り始めしを、プリスキラとアクラと聞きみて之を迎へ入れ、なほも詳細に神の道を解き明せり。27アポロ遂にアカヤに渡らんとしたれば、兄弟たち之を勵まし、かつ弟子たちに彼を受け容るやうに書き贈れり。彼かしこに往き、既に恩恵によりて信じたる者に多くの益を與ふ。28即ち聖書に基き、イエスのキリストたる事を示して、激甚くかつ公然にユダヤ人を言ひ伏せたるなり。

Chapter 19

1かくてアポロ、コリントに居りし時、パウロ東の地方を經てエペソに到り、或弟子たちに逢ひて、2『なんぢら信者となりしとき聖靈を受けしか』と言ひたれば、彼等いふ『いな、我らは聖靈の有ることすら聞かず』3パウロ言ふ『されば何によりてバプテスマを受けしか』彼等いふ『ヨハネのバプテスマなり』4パウロ言ふ『ヨハネは悔改のバプテスマを授けて、己に後れて来るもの(即ちイエス)を信すべきことを民に云へるなり』5彼等これを聞きて主イエスの名によりてバプテスマを受く。6パウロ手を彼らの上に按ぎしとき、聖靈その上に望みたれば、彼ら異言を語り、かつ預言せり。7この人々は凡て十二人ほどなり。8ここにパウロ會堂に入りて、三ヶ月のあひだ臆せずして神の國に就きて論じ、かつ勧めたり。9然るに或者ども頑固になりて従はず、會衆の前に神の道を講りたれば、パウロ彼らを離れ、弟子たちをも退かしめ、日毎にツラノの會堂にて論ず。10斯くすること二年の間なりしかば、アジアに住む者は、ユダヤ人もギリ

シヤ人もみな主の言を聞けり。11而して神はパウロの手によりて尋常ならぬ能力ある業を行ひたまふ。12即ち人々かれの身より或は手拭あるひは前垂をとりて病める者に著くれば、病は去り惡靈は出でたり。13ここに諸國遍歴の咒文師なるユダヤ人數人あり、試みに惡靈に憑かれたる者に對して、主イエスの名を呼び『われパウロの宣ぶるイエスによりて、汝らに命ず』と言へり。14斯くなせる者の中に、ユダヤの祭司長スケウの七人の子もありき。15惡靈こたへて言ふ『われイエスを知り、又パウロを知る。然れど汝らは誰ぞ』16かくて惡靈の入りたる人、かれらに跳びかかりて二人に勝ち、これを打たざれば、彼ら裸體になり傷を受けてその家を逃げ出でたり。17此の事エペソに住む凡てのユダヤ人とギリシヤ人とに知れたれば、懼かれら一同のあひだに生じ、主イエスの名崇めらる。18信者となりし者おほく来り、懺悔して自らの行爲を告ぐ。19また魔術を行ひし多くの者ども、その書物を持ちきたり、衆人の前にて焚きたるが、其の價を算ふれば銀五萬ほどなりき。20主の言、大に弘りて權力を得しこと斯くの如し。21此等の事のありし後、パウロ、マケドニヤ、アカヤを經てエルサレムに往かんとして心を決めて言ふ『われ彼處に到りてのち必ずロマをも見るべし』22かくて己に事ふる者の中にテモテとエラストとの二人をマケドニヤに遣し、自己はアジアに暫く留る。23その頃この道に就きて一方ならぬ騒擾おこれり。24デメテリオと云ふ銀細工人ありしが、アルテミスの銀の小宮を造りて細工人らに多くの業を得させたり。25それらの者および同じ類の職業者を集めて言ふ『人々よ、われらが此の業に頼りて利益を得ることは、汝らの知る所なり。26然るに、かのパウロは手にて造れる物は神にあらざると云ひて、唯にエペソのみならず、殆ど全アジアにわたり、多くの人々を説き勧めて惑したり、これ亦なんぢらの見聞する所なり。27かくては吾に我らの職業の輕しめらるる恐あるのみならず、また大女神アルテミスの宮も蔑せられ、全アジア全世界のをがむ大女神の稜威も滅ぶるに至らん』28彼等これを聞きて憤恚に滿され、叫びて言ふ『大なる哉、エペソ人のアルテミス』29かくて町擧りて騒ぎ立ち、人々パウロの同行者なるマケドニヤ人ガイオとアリストタルコとを捕へ、心を一つにして劇場に押入りたり。30パウロ集民のなかにいらんとしたれど、弟子たち許さず。31又アジアの祭の司のうちの或者どもも彼と親しかりしかば、人を遣して劇場に入らぬやうにと勧めたり。32ここに會衆おほいに亂れ、大方はその何のために集りたるかを知らずして、或者はこの事を、或者はかの事を叫びたり。33遂に群衆の或者ども、ユダヤ人の推

し出したるアレキサンデルに勧めたれば、かれ手を搖かして集民に辯明をなさんとすれど、34其のユダヤ人たるを知り、みな同音に『おほいなる哉、エペソ人のアルテミス』と呼はりて二時間ばかりに及び。35時に書記役、群衆を鎮めおきて言ふ『さてエペソ人よ、誰かエペソの町が大女神アルテミス及び天より降りし像の宮守なることを知らざる者あらんや。36これは言ひ消し難きことなれば、なんぢら靜なるべし、妄なる事を爲すべからず。37この人々は宮の物を盗む者にあらず、我らの女神を誘る者にもあらず、然るに汝ら之を曳き來れり。38もしデメテリオ及び偕にをる細工人ら、人に就きて訴ふべき事あらば、裁判の日あり、かつ司あり、彼等のおの訴ふべし。39もし又ほかの事につきて議する所あらば、正式の議會にて決すべし。40我ら今日の騒擾につきては、何の理由もなきにより咎を受くる恐あり。この會合につきて言ひひろくこと能はねばなり』41斯く言ひて集會を散じたり。

Chapter 20

1騒亂のやみし後、パウロ弟子たちを招きて勸をなし、之に別を告げ、マケドニヤに往かんとして出で立つ。2而して、かの地方を巡り多くの言をもて弟子たちを勧めし後、ギリシヤに到る。3そこに留ること三ヶ月にして、シリヤに向ひて船出せんとする時、おのれを害はんとするユダヤ人らの計略に遭ひたれば、マケドニヤを經て歸らんと心を決む。4之に伴へる人々はベレア人にしてプロの子なるソパテロ、テサロニケ人アリストタルコ及びセクンド、デルベ人ガイオ及びテモテ、アジア人テキコ及びトロピモナリ。5彼らは先だちゆき、トロアスにて我らを待てり。6我らは除酵祭の後ピリビより船出し、五日にしてトロアスに著き、彼らの許に到りて七日のあひだ留れり。7一週の首の日われらパンを擧かんとして集りしが、パウロ明日いで立たんとて彼等とかり、夜半まで語り續けたり。8集りたる高樓には多くの燈火ありき。9ここにユテコといふ若者窓に倚りて坐しおたるが、甚く眼氣さすほどに、パウロの語ることを愈々久しくなりたれば、遂に熟睡して三階より落つ。これを扶け起したるに、はや死にたり。10パウロ降りて其の上に伏し、かき抱きて言ふ『なんぢら騒ぐな、生命はなほ内にあり』11乃ち復のほりてパンを擧ぎ、食してのち久しく語りあひ、夜明に至り遂に出でたり。12人々かの若者の活きたるを連れきたり、甚く慰藉を得たり。13かくて我らは先だちて船に乗り、アソスにてパウロを載せんとして彼處に船出せり。彼は徒歩にて往かんとして斯くは定めたるなり。14我らアソスにてパウロを待ち迎へ、これを載せてミテレネに渡り、15また彼處より船出して翌日キヨス

の彼方にいたり、次の日サモスに立ち寄り、その次の日ミレトに著く。16パウロ、アジアにて時を費さぬ爲に、エペソには船を寄せずして過ぐことに定めしなり。これは成るべく五旬節の日エルサレムに在ることを得んとて急ぎしに因る。17而してパウロ、ミレトより人をエペソに遣し、教會の長老たちを呼びて、18その來りし時かれらに言ふ『わがアジアに來りし初の日より、如何なる状にて常に汝らと偕に居りしかは、汝らの知る所なり。19即ち謙遜の限をつくし、涙を流し、ユダヤ人の計略によりて迫り來し艱難に耐へて主につかへ、20益となる事は何くれとなく憚らずして告げ、公然にても家々にても汝らを教へ、21ユダヤ人にもギリシヤ人にも、神に對して悔改め、われらの主イエスに對して信仰すべきことを證せり。22視よ、今われは心擲められてエルサレムに往く。彼處にて如何なる事の我に及ぶかを知らず。23ただ聖靈いつれの町にても我に證して、縲綯と患難と我を待てりと告げたまふ。24然れど我わが走るべき道程と、主イエスより承けし職、すなわち神の恵の福音を證する事とを果さん爲には、固より生命をも重んぜざるなり。25視よ、今われは知る、前に汝らの中を歴巡りて御國を宣傳へし我が顔を、汝ら皆ふたび見ざるべきを。26この故に、われ今日なんぢらに證す、われは凡ての人の血につきていさぎよし。27我は憚らずして神の御旨をことごとく汝らに告げしなり。28汝等みづから心せよ、又すべての群に心せよ、聖靈は汝等を群のなかに立てて監督となし、神の己の血をもて買ひ給ひし教會を牧せしめ給ふ。29われ知る、わが出で去るのち、暴き豺狼なんぢらの中に入りきたりて、群を惜まず、30又なんぢらの中よりも、弟子たちを己が方に引き入れんとて、曲れることを語るもの起らん。31されば汝ら目を覺しをれ。三年の間わが夜も晝も休まず、涙をもて汝等おののちを訓戒せしことを憶えよ。32われ今なんぢらを、主および其の恵の御言に委ぬ。御言は汝らの徳を建て、すべての潔められたる者ととも嗣業を受けしめ得るなり。33我は人の金銀・衣服を貪りし事なし。34この手は我が必要に供へ、また我と偕なる者に供へしことを汝等みづから知る。35我すべての事に於て例を示せり、即ち汝らも斯く働きて、弱き者を助け、また主イエスの自ら言ひ給ひし「與ふるは受くるよりも幸福なり」との御言を記憶すべきなり』36斯く言ひて後、パウロ跪ぎて一同とともに祈れり。37みな大に歎きパウロの頸を抱きて接吻し、38そのふたたび我が顔を見ざるべしと云ひし言によりて特に憂ひ、遂に彼を船まで送りゆけり。

Chapter 21

ここに我ら人々と別れて船出

をなし、眞直にはせてコスに到り、次の日ロドスにつき、彼處よりパトラにわたる。2此の處にてピニケにゆく船に遇ひ、これに乗りて船出す。3クプロを望み、之を左にして過ぎ、シリヤに向ひて進み、ツロに著きたり、此處にて船荷を卸さんとすればなり。4かくて弟子たちに尋ね逢ひて七日留れり。かれら御靈によりてパウロに、エルサレムに上るまじき事を云へり。5然るに我ら七日終りて後、いでて旅立ちれば、彼等みな妻子とともに町の外まで送りきたり、諸共に濱邊に跪ぎて祈り、6相互に別を告げて我らは船に乗り、彼らは家に歸れり。7ツロをいでトレマイに到りて船路つきたり。此處にて兄弟たちの安否を訪ひ、かれらの許に一日留り、8明るる日ここを去りてカイザリヤにいたり、傳道者ピリポの家に入りて留る、彼はかの七人の一人なり。9この人に預言する四人の娘ありて、處女なりき。10我ら數日留り居るうちに、アガポと云ふ預言者ユダヤより下り、11我らの許に來りてパウロの帯をとり、己が足と手とを縛りて言ふ『聖靈かく言ひ給ふ「エルサレムにて、ユダヤ人この帯の主を斯くの如く縛りて異邦人の手に付さん」と』12われら之を聞きて此の地の人々とともにパウロに、エルサレムに上らざらんことを勸む。13その時パウロ答ふ『なんぢら何ぞ歎きて我が心を挫くか、我エルサレムにて、主イエスの名のために、唯に縛らるるのみかは、死ぬることをも覺悟せり』14斯く我らの勸告を納れるによりて『主の御意の如くなれかし』と言ひて止む。15この後われら行李を整へてエルサレムに上る。16カイザリヤに居る弟子も數人ともに往き、我らの宿らんとするクプロ人マナソンといふ舊き弟子のもとに案内したり。17エルサレムに到りたれば、兄弟たち歡び我らを迎へたり。18翌日パウロ我らと共にヤコブの許に往きしに、長老たちみなあつまり居たり。19パウロその安否を問ひて後、おのが勤勞によりて異邦人のうちに神の行ひ給ひしことを、一々告げたれば、20彼ら聞きて神を崇め、またパウロに言ふ『兄弟よ、なんぢの見るごとく、ユダヤ人のうち、信者となりたるもの數萬人あり、みな律法に對して熱心なる者なり。21彼らは、汝が異邦人のうちに居る凡てのユダヤ人に對ひて、その兒らに割禮を施すな、習慣に従ふなど云ひて、モーセに遠ざかることを教ふと聞けり。22如何にすべきか、彼らは必ず汝の來りたるを聞かん。23されば汝われらの言ふ如くせよ、我らの中に誓願あるもの四人あり、24汝かれらと組みて之とともに潔をなし、彼等のために費を出して髪を剃らしめよ。さらば人々みな汝につきて聞きたることの虚偽にして、汝も律法を守りて正しく歩み居ることを知らん。25異邦人の信者となりたる者につきては、我ら既に書き贈りて、偶像に獻げたる物と、血と、絞殺したる物と、淫行と

に遠ざかるべき事を定めたり』26ここにパウロその人々と組みて、次の日もどもに潔をなして宮に入り、潔の期満ちて各人のために献物をささぐべき日を告げたり。27かくて七日の終らんとする時、アジアより來りしユダヤ人ら、宮の内にパウロの居るを見て、群衆を騒がし、かれに手をかけ叫びて言ふ、28『イスラエルの人々助けよ、この人はいたる處にて民と律法と此の所にに悖れることを人々に教ふる者なり、然のみならず、ギリシヤ人を宮に率き入れて、此の聖なる所をも汚したり』29からら曩にエペソ人トロピモがパウロとともに市中にゐたるを見て、パウロ之を宮に率き入れしと思ひしなり。30ここに市中みな騒ぎたち、民ども馳せ集り、パウロを捕へて宮の外に曳き出せり、かくて門は直ちに鎖されたり。31彼らパウロを殺さんとせしとき、軍隊の千卒長に、エルサレム中さわぎ立てりとの事きこえたれば、32かれ速りに兵卒および百卒長らを率ゐて馳せ下る。かれら千卒長と兵卒とを見て、パウロを打つことを止む。33千卒長、近よりてパウロを執へ、命じて二つの鏈にて繋がせ、その何人なるか、何事をなしたるかを尋ぬるに、34群衆の中にて或者はこの事を、或者はかの事を呼はり、騒亂のために確なる事を知るに由なく、命じて陣營に曳き來らしめたり。35階段に至れるに、群衆の手暴きによりて、兵卒パウロを負ひたり。36これ群れる民ども『彼を除け』と叫びつつ隨ひ迫れる故なり。37パウロ陣營に曳き入れられんとするとき、千卒長に言ふ『われ汝に語りて可きか』かれ言ふ『なんぢギリシヤ語を知るか。38汝はかのエジプト人にして、曩に亂を起して四千人の刺客を荒野に率ゐ出でし者ならずや』39パウロ言ふ『我はキリキヤなるタルソのユダヤ人、鄙しからぬ市の市民なり。請ふ民に語るを許せ』40之を許したれば、パウロ階段の上に立ち、民に對ひて手を搖かし、大に静まれる時、ヘブルの語にて語りて言ふ、

Chapter 22

1『兄弟たち親たちよ、今なんぢらに對する辯明を聽け』2人々そのヘブルの語を語るを聞きてまずまず静になりたれば、又いふ、3『我はユダヤ人にてキリキヤのタルソに生れしが、此の都にて育てられ、ガマリエルの足下にて先祖たちの律法の厳しき方に遵ひて教へられ、今日の汝らのごとく神に對して熱心なる者なりき。4我この道を迫害し、男女を縛りて獄に入れ、死にまで至らしめしことは、5大祭司も凡ての長老も我に就きて證するなり。我は彼等より兄弟たちへの書を受けて、ダマスコに寓り居る者どもを縛り、エルサレムに曳き來りて罰を受けしめんとて彼處にゆけり。6往きてダマスコに近づきたるに、正午ごろ忽ち大なる光、天より出でて我を環り

照せり。7その時われ地に倒れ、かつ我に語りて「サウロ、サウロ、何ぞ我を迫害するか」といふ聲を聞き、8「主よ、なんぢは誰ぞ」と答へしに「われは汝が迫害するナザレのイエスなり」と言ひ給へり。9偕に居る者ども光は見えしが、我に語る者の聲は聞かざりき。10われ復いふ「主よ、我なにを爲すべきか」主いひ給ふ「起ちてダマスコに往け、なんぢの爲すべき定りたる事は彼處にて悉とく告げらるべし」11我は、かの光の晃耀にて目見えざりたれば、偕にをる者に手を引かれてダマスコに入りたり。12ここに律法に據れる敬虔の人にして、其の町に住む凡てのユダヤ人に令聞あるアナニヤという者あり。13彼われに來り傍らに立ちて「兄弟サウロよ、見ることを得よ」と言ひたれば、その時、仰ぎて彼を見たり。14かれ又いふ「我らの先祖の神は、なんぢを選びて御意を知らしめ、又かの義人を見、その御口の聲を聞かしめんとし給へり。15これは汝の見聞したる事につきて、凡ての人に對し彼の證人とならん爲なり。16今なんぞ躊躇ふか、起て、その御名を呼び、バプテスマを受けて汝の罪を洗ひ去れ」17かくて我エルサレムに歸り、宮にて祈りをするとき、我を忘れし心地して主を見奉るに、我に斯く言ひ給ふ、18「なんぢ急げ、早くエルサレムを去れ、人々われに係る汝の證を受けぬ故なり」19我いふ「主よ、我さきに汝を信する者を獄に入れ、諸會堂にて之を打ち、20又なんぢの證人ステパノの血の流されしとき、我もその傍らに立ちて之を可しとし、殺す者どもを衣を守りしことは、彼らの知る所なり」21われに言ひ給ふ「往け、我なんぢを遠く異邦人に遣すなり」と』22人々きき居たりしが、此の言に及び、聲を揚げて言ふ『斯くのごとき者をば地より除け、生かしかるべき者ならず』23斯く叫びつつ其の衣を脱ぎて、塵を空中に撒きたれば、24千卒長、人々が何故パウロにむかひて斯く叫び呼はるかを知らんとし、鞭うちて訊ぶることを命じて、彼を陣營に曳き入れしむ。25革鞭をあて傍らに立つ百卒長に言ふ『口人たる者を罪も定めずして鞭うつは可きか』26百卒長これを聞きて千卒長に往き、告げて言ふ『なんぢ何をなさんとするか、此の人は口人なり』27千卒長きたりて言ふ『なんぢは口人なるか、我に告げよ』かれ言ふ『然り』28千卒長こたふ『我は多くの金をもて此の民籍を得たり』パウロ言ふ『我は生れながらなり』29ここに訊べんとせし者どもは直ちに去り、千卒長はその口人なるを知り、之を縛りしことを懼れたり。30明るる日、千卒長かれが何故ユダヤ人に訴へられしか、確なる事を知らんと欲して、彼の縛を解き、命じて祭司長らと全議會とを呼び集め、パウロを曳き出して其の前に立たしめたり。

Chapter 23

1パウロ議會に目を注ぎて言ふ『兄弟たちよ、我は今日に至るまで事毎に良心に従ひて神に事へたり』2大祭司アナニヤ傍らに立つ者どもに、彼の口を撃つことを命ず。3ここにパウロ言ふ『白く塗りたる壁よ、神なんぢを撃ち給はん、なんぢ律法によりて我を審くために坐しながら、律法に悖りて我を撃つことを命ずるか』4傍らに立つ者いふ『なんぢ神の大祭司を罵るか』5パウロ言ふ『兄弟たちよ、我その大祭司たることを知らざりき。録して「なんぢの民の司をそしる可からず」とあればなり』6かくてパウロ、その一部はサドカイ人、その一部はパリサイ人たるを知りて、議會のうちに呼はりて言ふ『兄弟たちよ、我はパリサイ人にしてパリサイ人の子なり、我は死人の甦へることの希望につきて審かるるなり』7斯く言ひしに因りて、パリサイ人とサドカイ人との間に紛争おこりて、會衆相分れたり。8サドカイ人は復活もなく御使も靈もなしと言ひ、パリサイ人は兩ながらありと云ふ。9遂に大なる喧嘩となりて、パリサイ人の中の學者數人たちて争ひて言ふ『われら此の人に惡しき事あるを見ず、もし靈または御使かれに語りたるならば如何』10紛争いよいよ激しくなりたれば、千卒長、パウロの彼らに引裂かれんことを恐れ、兵卒どもに命じて下りゆかしめ、彼らの中より引取りて陣營に連れ來らしめたり。11その夜、主パウロの傍らに立ちて言ひ給ふ『雄々しかれ、汝エルサレムにて我につきて證をなしたる如く、ロマにても證をなすべし』12夜明になりてユダヤ人、徒黨を組み盟約を立てて、パウロを殺すまでは飲食せじと言ふ。13この徒黨を結びたる者は四十人餘なり。14彼らは祭司長・長老らに往きて言ふ『われらパウロを殺すまでは何を味ふまじと堅く盟約を立てたり。15されば汝等なほ詳細に訊べんとする状して、彼を汝らの許に連れ下らすことを、議會とともに千卒長に訴へよ。我等その近くならぬ間に殺す準備をなせり』16パウロの姉妹の子この待伏の事をきき、往きて陣營に入りパウロに告げたれば、17パウロ百卒長の一人を呼びて言ふ『この若者を千卒長につれ往け、告ぐる事あり』18百卒長これを携へ、千卒長に至りて言ふ『囚人パウロ我を呼びて、この若者なんぢに言ふべき事ありとて、汝に連れ往くことを請へり』19千卒長その手を執り退きて、私に問ふ『われに告ぐる事とは何ぞ』20若者いふ『ユダヤ人は、汝がパウロの事をなほ詳細に訊ぶる爲にこと、明日かれを議會に連れ下らすことを汝に請はんと申合せたり。21汝その請に従ふな、彼らの中に四十人餘の者、パウロを待伏せ、之を殺すまでは飲食

せじと盟約を立て、今その準備をなして汝の許諾を待り』22ここに千卒長、若者に『これらの事を我に訴へたりと誰にも語るな』と命じて歸せり。23さて百卒長を兩三人よびて言ふ『今夜九時ごろカイザリヤに向けて往くために、兵卒二百、騎兵七十、槍をとる者二百を整へよ』24また畜を備へ、パウロを乗せて安全に總督ペリクスの許に護送することを命じ、25かつ左のごとき書をかき贈る。26『クラウデオ・ルシヤ謹みて總督ペリクス閣下の平安を祈る。27この人はユダヤ人に捕へられて殺されんとせしを、我そのロマ人なるを聞き、兵卒どもを率ゐる往きて救へり。28ユダヤ人の彼を訴ふる理由を知らんと欲して、その議會に引き往きたるに、29彼らの律法の問題につき訴へられたるにて、死もしくは縛に當る罪の訴訟にあらざるを知りたり。30又この人を書せんとする謀計ありと我に聞えたれば、われ俄にこれを汝の事に送り、これを訴ふる者に、なんぢの前にて彼を訴へんことを命じたり』31ここに兵卒ども命ぜられたる如くパウロを受けとりて、夜中アンテパトリスまで連れてゆき、32翌日これを騎兵に委ね、ともに往かしめて陣營に歸れり。33騎兵はカイザリヤに入り、總督に書をわたし、パウロを其の前に立たしむ。34總督、書を読み、パウロのいづこの國の者なるかを問ひ、そのキリキヤ人なるを知りて、35『汝を訴ふる者の來らんとし、尚つまびらかに汝のことを聽かん』と言ひ、かつ命じて、ヘロデでの官邸に之を守らしめたり。

Chapter 24

1五日ののち、大祭司アナニヤ數人の長老およびテルトロと云ふ辯護士とともに下りて、パウロを總督に訴ふ。2パウロ呼び出されたれば、テルトロ訴へ出でて言ふ『ペリクス閣下よ、われらは汝によりて太平を樂しみ、3なんぢの先見によりて、此の國人のために時に隨ひ處に隨ひて、惡しき事の改められたるを感謝して罷まず。4ここに喃々しく陳べて汝を妨ぐまじ、願はくは寛容をもて我が少しの言を聽け。5我等この人を見るに、恰も疫病のごとくにて、全世界のユダヤ人のあひだに騒擾をおこし、且ナザレ人の異端の首にして、6宮をさへ潰さんとしたれば、之を捕へたり。7なし8汝この人に就きて訊さば、我らの訴ふる所をことごとく知り得べし』9ユダヤ人も之に加へて、誠にその如くなりと主張す。10總督、首にて示しパウロに言はしめられたれば、答ふ『なんぢが年久しくこの國人の審判人たることを我は知るゆゑに、喜びて我が辯明をなさん。11なんぢ知り得べし、我が禮拜のためにエルサレムに上りてより僅か十二日に過ぎず、12また彼らは、我が宮にても會堂にても市中にても、人と争ひ群衆を騒がしたるを見ず、1

3いま訴へたる我が事につきても證明すること能はざるなり。14我ただ此の一事を汝に言ひあらはさん、即ち我は彼らが異端と稱ふる道に循ひて、我が先祖たちの神につかへ、律法と預言者の書とに録したる事をことごとく信じ、15かれら自らも待てるごとく、義者と不義者との復活あるべしと、神を仰ぎて望を懷くなり。16この故に、われ常に神と人とに對して良心の責なからんことを勉む。17我は多くの年を経てのち歸りきたり、我が民に施濟をなし、また献物をささげたりしが、18その時かれらは我が潔をなして宮にをるを見たるのみにて、群衆もなく騒擾もなかりしなり。19然るにアジアより來れる數人のユダヤ人ありて、もし我に咎むべき事あらば、彼らが汝の前に出でて訴ふることを爲すべきなり。20或はまた此處なる人々、わが先に議會に立ちしとき、我に何の不義を認めしか言へ。21唯われ彼らの中に立ちて「死人の甦へる事につきて我けふ汝らの前にて審かる」と呼はりし一言の他には何もなかるべし』22ペリクスこの道のことを詳しく知りたれば、審判を延して言ふ『千卒長ルシヤの下るを待ちて汝らの事を定むべし』23かくて百卒長に命じパウロを守らせ、寛かならしめ、かつ友の之に事ふるをも禁ぜざらしむ。24數日の後ペリクス、その妻なるユダヤ人の女ドルシラとともに來り、パウロを呼びよせてキリスト・イエスに對する信仰のことを聽き、25パウロが正義と節制と來らんとする審判とにつきて論じたる時、ペリクス懼れて答ふ『今は去れ、よき機を得てまた招かん』26かくてパウロより金を與へられんことを望み、尚しばしば彼を呼びよせては語れり。27二年を経てボルシオ・フェスト、ペリクスの任に代りしが、ペリクス、ユダヤ人の意を迎へんとして、パウロを繋ぎたるままに差措けり。

Chapter 25

1フェスト任國にいたりて三日の後、カイザリヤよりエルサレムに上りたれば、2祭司長ら及びユダヤ人の重立ちたる者ども、パウロを訴へ之を害はんとして、3フェストの好意にて彼をエルサレムに召し出されんことを願ふ。斯くして道に待伏し、之を殺さんと思へるなり。4然るにフェスト答へて、パウロのカイザリヤに囚はれ在ることと、己が程なく歸るべき事とを告げ、5『もし然る不善あらんには、汝等のうち彼にべき者ども我とともに下りて訴ふべし』と言ふ。6かくて彼處に八日十日ばかり居りてカイザリヤに下り、明るる日、審判の座に坐し、命じてパウロを引出さしむ。7その出で來りし時、エルサレムより下りしユダヤ人ら、これを取圍みて様々の重き罪を言ひ立てて訴ふれども、證すること能はず。8パウロは辯明して言ふ『我はユダヤ人の律法に對しても、宮に對しても

、カイザルに對しても、罪を犯したる事なし』9フェスト、ユダヤ人の意を迎へんとしてパウロに答へて言ふ『なんぢエルサレムに上り、彼處にて我が前に審かるることを諾ぶか』10パウロ言ふ『我はわが審かるべきカイザルの審判の座の前に立ちをるなり。汝の能く知ることと、我はユダヤ人を害ひしことなし。11若しも罪を犯して死に當るべき事をなしたらんには、死ぬるを厭はじ。然れど此の人々の訴ふること實ならずば、誰も我を彼らに付すことを得じ、我はカイザルに上訴せん』12ここにフェスト陪席の者と相議りて答ふ『なんぢカイザルに上訴せんとす、カイザルの許に往くべし』13數日を経て、アグリッパ王とベルニケとカイザリヤに到りてフェストの安否を問ふ。14多くの日留りめたれば、フェスト、パウロのことを王に告げて言ふ『ここにペリクスが囚人として遣しおきたる一人のとき、15我エルサレムに居りしとき、ユダヤ人の祭司長・長老ら之を訴へて罪に定めんことを願ひしが、16我は答へて、訴へらるる者の未だ訴ふる者の面前にて辯明する機を與へられぬ前に付すは、ロマ人の慣例にあらぬ事を告げたり。17この故に彼等ここに集りたれば、時を延さず次の日審判の座に坐し、命じてかの者を引出さしむ。18訴ふる者かれを圍みて立ちしが、思ひしごとく惡しき事は一つも陳ぶる所なし。19ただ己らの宗教、またはイエスと云ふ者の死にたるを活きたりと、パウロが主張するなどに關する問題のみなれば、20かかる審理には我も當惑せし故、かの人に「なんぢエルサレムに往き彼處にて審かるる事を好むか」と問ひしに、21パウロは上訴して皇帝の判決を受けん爲に守られんことを願ひしにより、命じて之をカイザルに送るまで守らせ置けり』22アグリッパ、フェストに言ふ『我もその人に聽かんと欲す』フェスト言ふ『なんぢ明日かれに聽くべし』23明るる日アグリッパとベルニケと大に威儀を整へてきたり、千卒長ら及び市の重立ちたる者どもと共に訊問所に入りたれば、フェストの命によりてパウロ引出さる。24フェスト言ふ『アグリッパ王、並びに此處に居る凡ての者よ、汝らの見るこの人は、ユダヤの民衆が擧りて生かしくおくべきにあらずと呼はりて、エルサレムにても此處にても我に訴へし者なり。25然るに我はその死に當るべき惡しき事一つだに犯したるを認めねば、彼の自ら皇帝に上訴せんとする隨にその許に送らんと決めたり。26而して彼につきて我が主に上書すべき實情を得ず。この故に汝等のまへ、特にアグリッパ王よ、なんぢの前に引出し、訊問をなしてのち、上書すべき箇條を得んと思へり。27囚人を送るに訴訟の次第を陳べざるは道理ならずと思ふ故なり』

Chapter 26

1 アグリッパ、パウロに言ふ『なんぢは自己のために陳ぶることを許されたり』ここにパウロ手を伸べ、辯明して言ふ、2 『アグリッパ王よ、我ユダヤ人より訴へられし凡ての事につきて、今日なんぢらの前に辯明するを我が幸福とす。3 汝がユダヤ人の凡ての習慣と問題とを知るによりて殊に然りとす。されば請ふ、忍びて我に聴け。4 わが始より國人のうちに又エルサレムに於ける幼き時より生活の状は、ユダヤ人のみな知る所なり。5 彼等もし證せんと思はば、わが我らの宗教の最も厳しき派に従ひて、パリサイ人の生活をなしし事を始より知れり。6 今わが立ちて審かるとは、神が我らの先祖たちに約束し給ひしことの希望に困りてなり。7 之を得んことを望みて、我が十二の族は夜も晝も熱心に神に事ふるなり。王よ、この希望につきて、我はユダヤ人に訴へられたり。8 神は死人を甦へらせ給ふとも、汝等なんぞ信じ難しとするか。9 我も曩にはナザレ人イエスの名に逆ひて様々の事をなすを宜きことと自ら思へり。10 我エルサレムにて之をおこなひ、祭司長らより權威を受けて多くの聖徒を獄にいれ、彼らの殺されし時これに同意し、11 諸教會堂にてしばしば彼らを罰し、強ひて瀆言を言はしめんとし、甚だしく狂ひ、迫害して外國の町にまで至れり。12 此のとき祭司長らより權威と委任とを受けてダマスコに赴きしが、13 王よ、その途にて正午ごろ天よりの光を見たり、日にも勝りて輝き、我と伴侶とを圍み照せり。14 我等みな地に倒れたるに、ヘブルの語にて「サウロ、サウロ、何ぞ我を迫害するか、刺ある策を蹴るは難し」といふ聲を我きけり。15 われ言ふ「主よ、なんぢは誰ぞ」主いひ給ふ「われは汝が迫害するイエスなり。16 起きて汝の足にて立て、わが汝に現れしは、汝をたてて其の見しことと我が汝に現れて示さんとする事との役者また證人たらしめん爲なり。17 我なんぢを此の民および異邦人より救はん、又なんぢを彼らに遣し、18 その目をひらきて暗より光に、サタンの權威より神に立ち歸らせ、我に對する信仰によりて罪の赦と潔められたる者うちの嗣業とを得しめん」と。19 この故にアグリッパ王よ、われは天よりの顯示に背かずして、20 先づダマスコに居るもの、次にエルサレム及びユダヤ全國、また異邦人にまで、悔改めて神に立ちかへり、其の悔改かなふ業をなすべきことを宣傳へたり。21 之がためにユダヤ人われを宮にて捕へ、かつ殺さんとせり。22 然るに神の祐によりて今日に至るまで尚存へて、小なる人にも大なる人にも證をなし、言ふところは預言者およびモーセが必ず来るべしと語りしことの外ならず。23 即ちキリストの苦難を受くべきこと、最先に死人の中より甦へる事によりて、民と異邦人とに光

を傳ふべきこと是なり』24 パウロ斯く辯明しつつある時、フェスト大聲に言ふ『パウロよ、なんぢ狂氣せり、博學なんぢを狂氣せしめたり』25 パウロ言ふ『フェスト閣下よ、我は狂氣せず、宣ふる所は眞にして慥なる言なり。26 王は此等のことを知るゆゑに、我その前に憚らずして語る。これらの事は片隅に行はれたるにあらねば、一つとして王の眼に隠れたるはなしと信ずるに因る。27 アグリッパ王よ、なんぢ預言者の書を信ずるか、我なんぢの信ずることを知る』28 アグリッパ、パウロに言ふ『なんぢ説くこと僅にして我をキリステアンたらしめんとするか』29 パウロ言ふ『説くことの僅なるにもせよ、多きにもせよ、神に願ふは、奮に汝のみならず、凡て今日われに聴ける者の、この縲縛なくして我がごとき者とならんことなり』30 ここに王も總督もベルニケも、列座の者ども皆とも立つ、31 退きてのち相語りて言ふ『この人は死罪または縲縛に當るべき事をなさず』32 アグリッパ、フェストに言ふ『この人カイザルに上訴せざりしならば釋さるべかりしなり』

Chapter 27

1 すでに我等をイタリアに渡らしむること決りたれば、パウロ及びその他數人の囚人を、近衛隊の百卒長コリアスと云ふ人に付せり。2 ここに我らアジアの海邊なる各處に寄せゆくアドラミテオの船の出帆せんとするに乗りて出づ。テサロニケのマケドニア人アリストタルコも我らと共にありき。3 次の日シドンに著きたれば、コリアス懇切にパウロを遇ひ、その友らの許にゆきて接待を受くることを許せり。4 かくて此處より船出せしが、風の逆ふよりにてクプロの風下の方をばせ、5 キリキヤ及びパンフリヤの沖を過ぎてルキヤのミラに著く。6 彼處にてイタリアにゆくアレキサンデリアの船に遇ひたれば、百卒長われらを之に乗らしむ。7 多くの日のあひだ船の進み遅く、辛うじてクニドに對する處に到りしが、風に阻はられてサルモネの沖を過ぎ、クレテの風下の方をばせ、8 陸に沿ひ辛うじて良き港といふ處につく。その近き處にラサヤの町あり。9 船路久しきを歴て、斷食の期節も既に過ぎたれば、航海危きにより、パウロ人々に勸めて言ふ、10 『人々よ、我この航海の害あり損多くして、ただ積荷と船とのみならず、我らの生命にも及ぶべきを認む』11 されど百卒長は、パウロの言ふ所よりも船長と船主との言を重んじたり。12 且この港は冬を過すに不便なるより、多數の者も、なし得んにはピニクスに到り、彼處にて冬を過さんとて、此處を船出するを可しと東り。ピニクスはクレテの港にて是なり。北と東南とに向ふ。13 南風おもむるに吹きたれば、彼ら志望を得たりとして錨をあげ、クレテの岸邊に沿ひて進みたり。14 幾程もなくユーラクロ

ンといふ疾風その島より吹きおろし、15 之がために船は吹き流され、風に向ひて進むこと能はねば、船は風の追ふに任す。16 クラウダといふ小島の風下の方にいたり、辛うじて小艇を収め、17 これを船に引上げてのち、備網にて船體を巻き縛り、またスルテスの洲に乗りかけんことを恐れ、帆を下して流る。18 いたく暴風に惱され、次の日、船の者ども積荷を投げすて、19 三日めに手づから船具を棄てたり。20 數日のあひだ日も星も見えず、暴風はげしく吹き荒びて、我らの救はるべき望ついに絶え果てたり。21 人々の食せぬこと久しくなりたる時、パウロの中に立ちて言ふ『人々よ、なんぢら前に我が勸をきき、クレテより船出せずして、この害と損とを受けずあるべき筈なりき。22 いま我なんぢらに勸む、心安かれ、汝等のうち一人だに生命をうしなふ者なし、ただ船を失はん。23 わが屬するところ我が事ふる所の神の使、昨夜わが傍らに立ちて、24 「パウロよ、懼るな、なんぢ必ずカイザルの前に立たん、視よ、神は汝と同船する者をことごとく汝に賜へり」と云ひたればなり。25 この故に人々よ、心安かれ、我はその我に語り給ひしごとく必ず成るべしと神を信ず。26 而して我らは或島に推上げらるべし。27 かくて十四日めの夜に至りて、アドリヤの海を漂ひゆきたるに、夜半ごろ水夫ら陸に近づきたりと思ひて、28 水を測りたれば、二十尋なるを知り、少しく進みてまた測りたれば、十五尋なるを知り、29 岩に乗り上げんことを恐れて、艫より錨を四つ投して夜明を待ちわが。30 然るに水夫ら船より逃れ去らんと欲し、舳より錨を曳きゆくに言寄せて小艇を海に下したれば、31 パウロ、百卒長と兵卒らとに言ふ『この者ども若し船に留らずば、汝ら救はるること能はず』32 ここに兵卒ら小艇の綱を斷ちりて、その流れゆくに任す。33 夜の明けんとする頃、パウロ凡ての人に食せんことを勸めて言ふ『なんぢら待ち待ちて食事せぬこと今日にて十日なり。34 されば汝らに食せんことを勸む、これ汝らが救のためなり、汝らの頭髮一筋だに首より落つる事なし』35 斯く言ひて後みづからパンを取り、一同の前にて神に謝し、擘きて食し始めたれば、36 人々もみな心を安んじて食したり。37 船に居る我らは凡て二百七十六人なりき。38 人々食し飽きてのち、穀物を海に投げ棄てて船を軽くせり。39 夜明になりて、孰の土地かは知らねど、砂濱の入江を見出し、なし得べくば此處に船を寄せんと相語り、40 錨を斷ちて海に棄つるとともに、舵纜をゆるめ舳の帆を揚げ、風にまかせつつ砂濱さして進む。41 然るに潮の流れあふ處にいたりて船を淺瀬に乗り上げたれば、舳膠著きて動かず、艫は浪の激しきに破れたり。42 兵卒らは囚人の泳ぎて逃れ去らんことを恐れ、これを殺

さんと譲りしに、43 百卒長パウロを救はんと欲して、その議るところを阻み、泳ぎうる者に命じ、海に跳び入りてまず上陸せしめ、44 その他の者をば或は板あるひは船の碎片に乗らしむ。斯くしてみな上陸して救はるるを得たり。

Chapter 28

1 われら救はれて後、この島のマルタと稱ふるを知れり。2 土人ら一方ならぬ情を我らに表し、降りしける雨と寒氣とのために、火を焚きて我ら一同を待遇せり。3 パウロ柴を束ねて火にくべたれば、熱によりて蝮いでて其の手につく。4 蛇のその手に懸りたるを土人ら見て互に言ふ『この人は必ず殺人者なるべし、海より救はれしも、天道はその生くるを容さぬなり』5 パウロ蛇を火のなかに振り落して何の害をも受けざりき。6 人々は彼が腫れ出づるか、または忽ち倒れ死ぬるならんと候ふ。久しく窺ひたれど、聊かも害を受けぬを見て、思を變へて、此は神なりと言ふ。7 この處の邊に島司もてる土地あり、島司の名はポプリオといふ。此の人われらを迎へて懇切に三日の間もてなせり。8 ポプリオの父、熱と痢病とに罹りて臥し居たれば、パウロその許にいたり、祈りかつ手を按きて醫せり。9 この事ありてより、島の病める人々みな來りて醫されたれば、10 禮を厚くして我らを敬ひ、また船出の時には必要な品々を贈りたり。11 三月の後、われらはこの島に冬籠せしデオスクリの號あるアレキサンデリアの船にて出で、12 シラクサにつきて三日とまり、13 此處より繞りてレギオンにいたり、一日を過ぎて南風ふき起りたれば、我ら二日めにポテオリに著き、14 此處にて兄弟たちに逢ひ、その勤によりて七日のあひだ留り、而して遂にロマに往く。15 かしこの兄弟たち我らの事をききて、アビオボロおよびトस्ताベルネまで來りて我らを迎ふ。パウロこれを見て神に感謝し、その心勇みたり。16 我らロマに入りて後、パウロは己を守る一人の兵卒とともに別に住むことを許さる。17 三日すぎてパウロ、ユダヤ人の重立ちたる者呼び集む。その集りたる時これに言ふ『兄弟たちよ、我はわが民わが先祖たちの慣例に悖ることを一つも爲さざりしに、エルサレムより囚人となりて、 로마人の手に付されたり。18 かれら我を審きて死に當ることなき故に、我を釋さんと思ひしに、19 ユダヤ人さからひたれば、餘義なくカイザルに上訴せり。然れど我が國人を訴へんとせしにあらず。20 この故に我なんぢらに會ひ、かつ共に語らんことを願へり、我はイスラエルの懐く希望の爲にこの鎖に繋がれたり』21 かれら言ふ『われら汝につきてユダヤより書を受けず、また兄弟たちの中より來りて、汝の善からぬ事を告げたる者も、語りたる者もなし。22 ただ我らは汝の思ふところを聞か

んと欲するなり。それは此の宗旨の到る處にて非難せらるるを知ればなり。23ここに日を定めて多くの人パウロの宿に來りたれば、パウロ朝より夕まで神の國のことを説明して證をなす、かつモーセの律法と預言者の書を引きてイエスのことを勧めたり。24パウロのいふ言を或者は信じ、或者は信ぜず。25互に相合はずして退かんとしたるに、パウロー言を述べて言ふ『宜なるかな、聖靈は預言者イザヤによりて汝らの先祖たちに語り給へり。曰く、26「なんぢらこの民に往きて言へ、なんぢら聞きて聞けども悟らず、見て見れども認めず、27この民の心はにぶく、耳は聞くにもものうく、目は閉ぢたればなり。これ目にて見、耳にて聞き、心にてきとり、ひるがへりて我に醫さることなからん爲なり」28然れば汝ら知れ、神のこの救は異邦人に遣されたり、彼らは之を聽くべし。29なり30パウロは滿二年のあひだ、己が借り受けたる家に留り、その許にきたる凡ての者を迎へて、31更に臆せずまた妨げられずして、神の國をのべ、主イエス・キリストの事を教へたり。

ローマ人への手紙

Chapter 1

1キリスト・イエスの僕、召されて使徒となり、神の福音のために選別たれたるパウロ。2この福音は神その預言者たちにより、聖書の中に預じめ御子に就きて約し給ひしものなり。3御子は肉によれば、ダビデの裔より生れ、4潔き靈によれば、死人の復活により大能をもて神の子と定められ給へり、即ち我らの主イエス・キリストなり。5我等その御名の爲にもろもろの國人を信仰に従順ならしめんとて、彼より恩恵と使徒の職とを受けたり。6汝等もその中にあり、てイエス・キリストの有とならん爲に召されたるなり。7われ書をロマに在りて神に愛せられ、召されて聖徒となりたる凡ての者に贈る。願はくは我らの父なる神および主イエス・キリストより賜ふ恩恵と平安と汝らに在らんことを。8汝らの信仰、全世界に言ひ傳へられたれば、我まづ汝ら一同の爲にイエス・キリストによりて我が神に感謝す。9その御子の福音に於て我が靈をもて事ふる神は、わが絶えず祈のうちに汝らに覚え、10如何にしてか御意に適ひ、いつか汝らに到るべき途を得んと、常に冀がふことを我がために證し給ふなり。11われ汝らを見んことを切に望むは、汝らの堅うせられん爲に靈の賜物を分け與へんとてなり。12即ち我なんぢらの中にありて、互の信仰により相共に慰められん爲なり。13兄弟よ、我ほかの異邦人の中より得しごとく、汝らの中よりも實を得んとて、

屢次なんぢらに往かんとしたれど、今に至りてなほ妨げらる、此の事を汝らの知らざるを欲せず。14我はギリシヤ人にも夷人にも、智き者にも愚なる者にも負債あり。15この故に我はロマに在る汝らにも福音を宣傳へんことを頻りに願ふなり。16我は福音を恥とせず、この福音はユダヤ人を始めギリシヤ人にも、凡て信ずる者に救を得さる神の力たればなり。17神の義はその福音のうちに顯れ、信仰より出でて信仰に進ましむ。録して『義人は信仰によりて生くべし』とある如し。18それ神の怒は、不義をもて眞理を阻む人の、もろもろの不虔と不義とに對ひて天より顯る。19その故は、神につきて知り得べきことは彼らに顯著なればなり、神これを顯し給へり。20それ神の見るべからざる永遠の能力と神性とは、造られたる物により世の創より悟りえて明かに見るべければ、彼ら言ひ遁る術なし。21神を知りつつも尚これを神として崇めず、感謝せず、その念は虚しく、その愚なる心は暗くなれり。22自ら智しと稱へて愚となり、23朽つることなき神の榮光を易へて、朽つべき人および禽獸・匍ふ物に似たる像となす。24この故に神は彼らを其の心の慾にまかせて、互にその身を辱しむる汚穢に付し給へり。25彼らは神の眞を易へて虚偽となし、造物主を措きて造られたる物を拜し、且これに事ふ、造物主は永遠に讃むべき者なり、アメン。26之によりて神は彼らを恥づべき慾に付し給へり。即ち女は順性の用を易へて逆性の用となし、27男もまた同じく女の順性の用を棄てて互に情慾を熾し、男と男と恥づることを行ひて、その迷に値すべき報を己が身に受けたり。28また神を心に存するを善しとせざれば、神もその邪曲なる心の隨に爲まじき事をするに任せ給へり。29即ちもろもろの不義・惡・慳貪・惡意にて滿つる者、また嫉妬・殺意・紛争・詭計・惡念の溢るる者、30譏言する者・誘る者・神に憎まるる者・侮る者・高ぶる者・誇る者・惡事を企つる者・父母に逆ふ者、31無知・違約・無情・無慈悲なる者にして、32かかる事どもを行ふ者の死罪に當るべき神の定を知りながら、啻に自己これらの事を行ふのみならず、また人の之を行ふを可しとせり。

Chapter 2

1されば凡て人を審く者よ、なんぢが言ひ遁る術なし、他の人を審くは、正しく己を罪するなり。人をさばく汝もみづから同じ事を行へばなり。2かかる事をおこなふ者を罪する神の審判は眞理に合へりと我らは知る。3かかる事をおこなふ者を審きて自己これを行ふ人よ、なんぢ神の審判を遁れんと思ふか。4神の仁慈なんぢを悔改に導くを知らずして、その仁慈と忍耐と寛容との豊なるを輕んずるか。5なんぢ頑固と悔改めぬ心とにより、己のために神の

怒を積み、その正しき審判の顯る怒の日に及ぶなり。6神はおのの所作に隨ひて報い、7耐へ忍びて善をおこない光榮と尊貴と朽ちざる事とを求むる者には、永遠の生命をもて報い、8徒黨により眞理に従はずして不義にしたがう者には、怒と憤恚とをもて報い給はん。9すべて惡をおこなふ人には、ユダヤ人を始めギリシヤ人にも愚難と苦難とあり。10凡て善をおこなふ人には、ユダヤ人を始めギリシヤ人にも光榮と尊貴と平安とあらん。11そは神には偏り視給ふこと無ければなり。12凡そ律法なくして罪を犯したる者は律法なくして滅び、律法ありて罪を犯したる者は律法によりて審かるべし。13律法を聞くもの神の前に義たるにあらず、律法をおこなふ者のみ義とせらるべし。14律法を有たぬ異邦人、もし本性のまま律法に載せたる所をおこなふ時は、律法を有たずともおのづから己が律法たるなり。15即ち律法の命する所のその心に録されたるを顯し、おのが良心もこれを證をなして、その念、たがひに或は訴へ或は辯明す。16是わが福音に云へる如く、神のキリスト・イエスによりて人々の隠れたる事を審きたまふ日に成るべし。17汝ユダヤ人と稱へられ、律法に安んじ、神を誇り、18その御意を知り、律法に教へられて善惡を辨へ、19また律法のうちに知識と眞理との式を有てりとして、盲人の手引、暗黒に在る者の光明、20愚なる者の守役、幼児の教師なりと自ら信ずる者よ、21何ゆゑ人に教へて己を教へぬか、竊む勿れと宣へて自ら竊むか、22姦淫する勿れと言ひて姦淫するか、偶像を惡みて宮の物を奪ふか、23律法に誇りて律法を破り神を輕んずるか。24録して『神の名は汝らの故によりて異邦人の中に洗さる』とあるが如し。25なんぢ律法を守らば割禮は益あり、律法を破らば汝の割禮は無割禮となるなり。26割禮なき者も律法の義を守らば、その無割禮は割禮とせらるるにあらずや。27本性のまま割禮なくして律法を全うする者は、儀文と割禮とありてなほ律法をやぶる汝を審かん。28それ表面のユダヤ人はユダヤ人たるにあらず、肉に在る表面の割禮は割禮たるにあらず。29隠なるユダヤ人はユダヤ人なり、儀文によらず、靈による心の割禮は割禮なり、その譽は人よりならず、神より來るなり。

Chapter 3

1さらばユダヤ人に何の優る所ありや、また割禮に何の益ありや。2凡ての事に益おほし、先づ第一に彼らは神の言を委ねられたり。3されど如何ん、ここに信ぜざる者ありとも、その不信心は神の眞實を廢つべきか。4決して然らず、人をみな虚偽者とすとも神を誠實とすべし。録して『なんぢは其の言にて義とせられ、審か

るとき勝を得給はん爲なり』とあるが如し。5然れど若し我らの不義は神の義を顯すとせば何と言はんか、怒を加へたまふ神は不義なるか（こは人の言ふごとく言ふなり）6決して然らず、若し然らば神は如何にして世を審き給ふべき。7わが虚偽によりて神の誠實いよいよ顯れ、その榮光とならんには、いかで我なほ罪人として審かる事あらん。8また『善を來せん爲に惡をなすは可からずや』（或者われらを譏りて之を我らの言なりといふ）かかる人の罪に定めらるるは正し。9さらば如何ん、我らの勝る所ありや、有ることなし。我ら既にユダヤ人もギリシヤ人もみな罪の下に在りて告げたり。10録して『義人なし、一人だになし、11聴き者なく、神を求むる者なし。12みな迷ひて相共に空しくなれり、善をなす者なし、一人だになし。13彼らの咽は開きたる墓なり、舌には詭計あり、口唇のうちには蝮の毒あり、14その口は蛆と苦にて滿つ。15その足は血を流すに速し、16破壊と艱難とその道にあり、17彼らは平和の道を知らず。18その眼前に神をおそるる畏なし』とあるが如し。19それ律法の言ふところは律法の下にある者に語ると我らは知る、これは凡ての口ふさがり、神の審判に全世界の服せん爲なり。20律法の行爲によりては、一人だに神のまへに義とせられず、律法によりて罪は知らるるなり。21然るに今や律法の外に神の義は顯れたり、これ律法と預言者との由りて證せられ、22イエス・キリストを信ずるに由りて凡て信ずる者に與へたまふ神の義なり。之には何等の差別あるなし。23凡ての人、罪を差別したれば神の榮光を受くるに足らず、24功なくして神の恩恵により、キリスト・イエスにある贖罪によりて義とせらるるなり。25即ち神は忍耐をもて過來しかたの罪を見通し給ひしが、己の義を顯さんとて、キリストを立て、その血によりて信仰によれる宥の供物となし給へり。26これ今おのれの義を顯して、自ら義たらん爲、またイエスを信ずる者を義とし給はん爲なり。27さらば誇るところ何處にあるか。既に除かれたり、何の律法に由りてか、行爲の律法か、然らず、信仰の律法に由りてなり。28我らは思ふ、人の義とせらるるは、律法の行爲によらず、信仰に由るなり。29神はただユダヤ人のみの神なるか、また異邦人の神ならずや、然り、また異邦人の神なり。30神は唯一にして、割禮ある者を信仰によりて義とし、割禮なき者をも信仰によりて義とし給へばなり。31然らば我ら信仰をもて律法を空しくするか、決して然らず、反つて律法を堅うするなり。

Chapter 4

1さらば我らの先祖アブラハムは肉につきて何を得たりと言はんか

。2 アブラハム若し行爲によりて義とせられたらんに誇るべき所あり、然れど神の前には有ることなし。3 聖書に何と云へるか『アブラハム神を信ず、その信仰を義と認められたり』と。4 それ働く者への報酬は恩恵といはず、負債と認めらる。5 されど働く事なくとも、敬虔ならぬ者を義としたまふ神を信ずる者は、その信仰を義と認めらるるなり。6 ダビデもまた行爲なくして神に義と認めらるる人の幸福につきて斯く云へり。曰く、7 『不法を免れ、罪を蔽はれたる者は幸福なるかな、8 主が罪を認め給はぬ人は幸福なるかな』9 されば此の幸福はただ割禮ある者にもあるか、また割禮なき者にもあるか、我らは言ふ『アブラハムはその信仰を義と認められたり』と。10 如何なるときに義と認められたるか、割禮ののちか、無割禮のときか、割禮の後ならず、無割禮のときなり。11 而して無割禮のときの信仰によれる義の印として割禮の徴を受けたり、これ無割禮にして信ずる凡ての者の義と認められん爲に、その父となり、12 また割禮のみに由らず、我らの父アブラハムの無割禮のときの信仰の跡をふむ割禮ある者の父とならん爲なり。13 アブラハム世界の世嗣たるべしとの約束を、アブラハムとその裔との與へられしは、律法に由らず、信仰の義に由れるなり。14 もし律法による者ども世嗣たらば、信仰は空しく約束は廢るなり。15 それ律法は怒を招く、律法なき所には罪を犯すこともなし。16 この故に世嗣たることの恩恵に干らんために信仰に由るなり、是かの約束のアブラハムの凡ての裔、すなわち律法による裔のみならず、彼の信仰に效ふ裔にも堅うせられん爲なり。17 彼はその信じたる所の神、すなはち死人を活し、無きものを有るもの如く呼びたまふ神の前にて、我等すべての者の父たるなり。録して『われ汝を立てて多くの國人の父とせり』とあるが如し。18 彼は望むべくもあらぬ時になほ望みて信じたり、是なんぢの裔はかくの如くなるべしと言ひ給ひしに隨ひて、多くの國人の父とならん爲なり。19 かくて凡そ百歳に及びて己が身の死にたがるとき状なると、サラの胎の死たがるときを認むれども、その信仰よわず、20 不信をもて神の約束を疑はず、信仰により強くなりて神に榮光を歸し、21 その約し給へることを、成し得給ふと確信せり。22 之に由りて其の信仰を義と認められたり。23 斯く『義と認められたり』と録したるは、アブラハムの爲のみならず、また我らの爲なり。24 我らの主イエスを死人の中より甦へせ給ひし者を信ずる我らも、その信仰を義と認められん。25 主は我らの罪のために付され、我らの義とせられん爲に甦へせられ給へるなり。

Chapter 5

1 斯く我ら信仰によりて義とせ

られたれば、我らの主イエス・キリストに頼り、神に對して平和を得たり。2 また彼により信仰によりて、今立つところの恩恵に入ることを得、神の榮光を望みて喜ぶなり。3 然のみならず患難をも喜ぶ、そは患難は忍耐を生じ、4 忍耐は練達を生じ、練達は希望を生ずと知ればなり。5 希望は恥を來せず、我らに賜ひたる聖靈によりて神の愛われらの心に注げばなり。6 我等のなほ弱かりし時、キリスト定りたる日に及びて、敬虔ならぬ者のために死に給へり。7 それ義人のために死ぬるもの殆どなし、仁者のためには死ぬることを厭はぬ者もやあらん。8 然れど我等がなほ罪人たりし時、キリスト我等のために死に給ひしに由りて、神は我らに對する愛をあらはし給へり。9 斯く今その血に頼りて我ら義とせられたらんに、まして彼によりて怒より救はれざらんや。10 我等もし敵たりしとき御子の死に頼りて神と和ごことを得たらんには、まして和ぎて後その生命によりて救はれざらんや。11 然のみならず今われらに和睦を得させ給へる我らの主イエス・キリストに頼りて神を喜ぶなり。12 それ一人の人によりて罪は世に入り、また罪によりて死は世に入り、凡ての人罪を犯しし故に、死は凡ての人に及べり。13 律法のきたる前にも罪は世にありき、されど律法なくば罪は認めらるること無し。14 然るにアダムよりモーセに至るまで、アダムの咎と等しき罪を犯さぬ者の上にも死は王たりき。アダムは來んとする者の型なり。15 されど恩恵の賜物は、かの咎の如きにあらず、一人の咎によりて多くの人の死にたらんには、まして神の恩恵と一人の人イエス・キリストによる恩恵の賜物とは、多くの人に溢れざらんや。16 又この賜物は罪を犯しし一人より來れるものの如きにあらず、審判は一人よりして罪を定むるに至りしが、恩恵の賜物は多くの咎よりして義とするに至るなり。17 もし一人の咎のために一人によりて死は王となりたらんには、まして恩恵と義の賜物とを豊に受くる者は、一人のイエス・キリストにより生命に在りて王たらざらんや。18 されば一つの咎によりて罪を定むることの凡ての人に及びしごとく、一つの正しき行爲によりて義とせられ生命を得るに至ることも、凡ての人に及べり。19 それは一人の不從順によりて多くの人の罪人とせられし如く、一人の從順によりて多くの人の、義人とせらるるなり。20 律法の來りしは咎の増さんためなり。されど罪の増すところには恩恵も彌増せり。21 これ罪の死によりて王たりし如く、恩恵も義によりて王となり、我らの主イエス・キリストに由りて永遠の生命に至らん爲なり。

Chapter 6

1 されば何をか言はん、恩恵の増さんために罪のうちに止るべきか

、2 決して然らず、罪に就きて死にたる我らは争で尚その中に生きんや。3 なんじら知らぬか、凡そキリスト・イエスに合ふバプテスマを受けたる我らは、その死に合ふバプテスマを受けしを。4 我らはバプテスマによりて彼とともに葬られ、その死に合せられたり。これキリスト父の榮光によりて死人の中より甦へせられ給ひしごとく、我らも新しき生命に歩まんためなり。5 我らキリストに接がれて、その死の状にひとしくば、その復活にも等しかるべし。6 我らは知る、われらの舊き人、キリストと共に十字架につけられたるは、罪の體ほるびて、此のち罪に事へざらん爲なるを。7 そは死にし者は罪より脱るるなり。8 我等もしキリストと共に死にしなければ、また彼とともに活きんことを信ず。9 キリスト死人の中より甦へりて復死に給はず、死もまた彼に主とならぬを我ら知ればなり。10 その死に給へるは罪につきて一たび死に給へるにて、その活き給へるは神につきて活き給へるなり。11 斯くのごとく汝らも己を罪につきては死にたるもの、神につきては、キリスト・イエスに在りて活きたる者と思ふべし。12 されば罪を汝らの死ぬべき體に王たらしめて其の慾に従ふことなく、13 汝らの肢體を罪に獻げて不義の器となさず、反つて死人の中より活き返りたる者のごとく己を神にささげ、その肢體を義の器として神に獻げよ。14 汝られば律法の下にあらずして恩恵の下にあれば、罪は汝らに主となる事なきなり。15 然らば如何に、我らは律法の下にあらず、恩恵の下にあるが故に、罪を犯すべきか、決して然らず。16 なんじら知らぬか、己を獻げ僕となりて、誰に従ふとも其の僕たることを。或は罪の僕となりて死に至り、或は從順の僕となりて義に至る。17 然れど神に感謝す、汝等はもと罪の僕なりしが、傳へられし教の範に心より従ひ、18 罪より解放されて義の僕となりたり。19 斯く人の事をかりて言ふは、汝らの肉よわき故なり。なんじら舊その肢體をささげ、穢と不法との僕となりて不法に到りしごとく、今その肢體をささげ、義の僕となりて潔に到れ。20 なんじら舊その僕たりしときは義に對して自由なりき。21 その時に今は恥とす所の事によりて何の實を得しか、これらの事の極は死なり。22 然れど今は罪より解放されて神の僕となりたれば、潔にいたる實を得たり、その極は永遠の生命なり。23 それ罪の拂ふ價は死なり、然れど神の賜物は我らの主キリスト・イエスにありて受くる永遠の生命なり。

Chapter 7

1 兄弟よ、なんじら知らぬか、(われ律法を知る者に語る)律法は人の生ける間のみに主たるなり。2 夫ある婦は律法によりて夫の生ける中は之に縛らる。然れど夫死なば夫の律法より解かるるなり。3 され

ば夫の生ける中に他の人に適かば淫婦と稱へらるれど、夫死なばその律法より解放さるる故に、他の人に適くとも淫婦とはならぬなり。4 わが兄弟よ、斯くのごとく汝等もキリストの體により律法に就きて死にたり。これ他の者、すなはち死人の中より甦へせられ給ひし者に適き、神のために實を結ばん爲なり。5 われら肉に在りしとき、律法に由れる罪の情は我らの肢體のうちに働きて、死のために實を結ばせたり。6 されど縛られたる所に就きて我等いま死にて律法より解かれたれば、儀文の舊きによらず、靈の新しきに從ひて事ふることを得るなり。7 さらば何をか言はん、律法は罪なるか、決して然らず、律法に由るは、われ罪を知らず、律法に『食る勿れ』と言はずば、慳貪を知らざりき。8 されど罪は機に乘じ誡命によりて各様の慳貪を我がうちに起せり、律法なくば罪は死にたるものなり。9 われ曾て律法なくして生きたれど、誡命きたりし時に罪は生じ、我は死にたり。10 而して我は生命にいたるべき誡命の反つて死に到らしむるを見出せり。11 これ罪は機に乘じ誡命によりて我を欺き、かつ之によりて我を殺せり。12 それ律法は聖なり、誡命もまた聖にして正しく、かつ善なり。13 されば善なるもの我に死となりたるか。決して然らず、罪は罪たることの現れんために、善なる者によりて我が内に死を來せたるなり。これ誡命によりて罪の甚だしき惡とならん爲なり。14 われら律法は靈なるものと知る、されど我は肉なる者にて罪の下に賣られたり。15 わが行ふことは我しらず、我が欲する所は之をなさず、反つて我が憎むところは之を爲すなり。16 わが欲せぬ所を爲すときは律法の善なるを認む。17 然れば之を行ふは我にあらず、我が中に宿る罪なり。18 我はわが中、すなわち我が肉のうちに善の宿らぬを知る、善を欲すること我にあれば、之を行ふ事なければなり。19 わが欲する所の善は之をなさず、反つて欲せぬ所の惡は之をなすなり。20 我もし欲せぬ所の事をなさば、之を行ふは我にあらず、我が中に宿る罪なり。21 然れば善をなさんと欲する我に惡ありとの法を、われ見出せり。22 われ中なる人にては神の律法を悦べど、23 わが肢體のうちに他の法ありて、我が心の法と戦ひ、我を肢體の中にある罪の法の下に虜とするを見る。24 體われ惱める人なるかな、此の死の體より我を救はん者は誰ぞ。25 我らの主イエス・キリストに頼りて神に感謝す、然れば我みづから心にては神の律法につかへ、内にては罪の法に事ふるなり。

Chapter 8

1 この故に今やキリスト・イエスに在る者は罪の定めらるることなし。2 キリスト・イエスに在る生命の御靈の法は、なんじを罪と死との法より解放したればなり。3 肉によ

りて弱くなれる律法の成し能はぬ所を神は爲し給へり、即ち己の子を罪ある肉の形にて罪のために遣し、肉に於て罪を定めたまへり。4これ肉に従はず靈に従ひて歩む我らの中に、律法の義の完つせられん爲なり。5肉にしたがふ者は肉の事をおもひ、靈にしたがふ者は靈の事をおもふ。6肉の念は死なり、靈の念は生命なり、平安なり。7肉の念は神に逆ふ、それは神の律法に服はず、否したがふこと能はず、8また肉に居る者は神を悦ばずこと能はざるなり。9然れど神の御靈なんぢらの中に宿り給はば、汝らは肉に居らで靈に居らん、キリストの御靈なき者はキリストに屬する者にあらず。10若しキリスト汝らに在さば、體は罪によりて死したる者なれど、靈は義によりて生命に在らん。11若しイエスを死人の中より甦へらせ給ひし者の御靈なんぢらの中に宿り給はば、キリスト・イエスを死人の中より甦へらせ給ひし者は、汝らの中に宿りたまふ御靈によりて、汝らの死ぬべき體をも活し給はん。12されば兄弟よ、われらは負債あれど、肉に負ふ者ならねば、肉に従ひて活くべきにあらず。13汝等もし肉に従ひて活きなば、死なん。もし靈によりて體の行爲を殺さば活くべし。14すべて神の御靈に導かる者は、これ神の子なり。15汝らは再び懼を懐くために僕たる靈を受けしにあらず、子とせられたる者の靈を受けたり、之によりて我らはアバ父と呼ぶなり。16御靈みづから我らの靈とともに我らが神の子たることを證す。17もし子たらば世嗣たらん、神の嗣子にしてキリストと共に世嗣たるなり。これはキリストとともに榮光を受けん爲に、その苦難をも共に受くるに因る。18われ思うに、今の時の苦難は、われらの上に顯れんとする榮光にくらぶるに足らず。19それ造られたる者は、切に慕ひて神の子たちの現れんことを待つ。20造られたるもの虚無に服せしは、己が願によるにあらず、服せしめ給ひし者によるなり。21然れどなほ造られたる者にも滅亡の僕たる状より解かれて、神の子たちの榮光の自由に入る望は存れり。22我らは知る、すべて造られたるもの今に至るまで共に嘆き、ともに苦しむことを。23然のみならず、御靈の初の實をもつ我らも自ら心のうちに嘆きて、子とせられんこと、即ちおのが體の贖はれんことを待つなり。24我らは望によりて救はれたり、眼に見ゆる望は望にあらず、人その見るところを争でなほ望まんや。25我等もし其の見ぬところを望まば、忍耐をもて之を待たん。26斯くのごとく御靈も我らの弱を助けたまふ。我らは如何に祈るべきかを知らざれども、御靈みづから言ひ難き歎をもて執成し給ふ。27また人の心を極めたまふ者は御靈の念をも知りたまふ。御靈は神の御意に適ひて聖徒のために執成し給へばなり。28神を愛する者、すなはち御旨によりて召されたる者の爲には、凡てのこと相働きて益となるを我らは知る。29

神は預じめ知りたまふ者を御子の像に象らせんと預じめ定め給へり。これ多くの兄弟のうちに、御子を嫡子たらしめんが爲なり。30又その預じめ定めたる者を召し、召したる者を義とし、義としたる者には榮光を得させ給ふ。31然れば此等の事につきて何をか言はん、神もし我らの味方ならば、誰か我らに敵せんや。32己の御子を惜まらずして我ら衆のために付し給ひし者は、なかか之にそへて萬物を我らに賜はざらんや。33誰か神の選び給へる者を訴へん、神は之を義とし給ふ。34誰か之を罪に定めん、死にて甦へり給ひしキリスト・イエスは神の右に在して、我らの爲に執成し給ふなり。35我等をキリストの愛より離れしむる者は誰ぞ、患難か、苦難か、迫害か、飢か、裸か、危険か、劍か。36録して『汝のために我らは、終日ころされて屠らるべき羊の如きものとせられたり』とあるが如し。37されど凡てこれらの事の中にありても、我らを愛したまふ者に頼り、勝ち得て餘あり。38われ確く信ず、死も生命も、御使も、權威ある者も、今ある者も後あらん者も、力ある者も、39高きも深きも、此の他の造られたるものも、我らの主キリスト・イエスにある神の愛より、我らを離れしむるを得ざることを。

Chapter 9

1我キリストに在りて眞をいひ虚偽を言はず、2我に大なる憂あることと心に絶えざる痛あることを、我が良心も聖靈によりて證す。3も我が兄弟わが骨肉の爲にならんには、我みづから詛はれてキリストに棄てらるるも亦ねがふ所なり。4彼等はイスラエル人にして、彼らには神の子とせられたることと、榮光と、もろもろの契約と、授けられたる律法と、禮拜と、もろもろの約束とあり。5先祖たちも彼等のものなり、肉によれば、キリストも彼等より出で給ひたり。キリストは萬物の上であり、永遠に讃むべき神なり、アメン。6それ神の言は廢りたるに非ず。イスラエルより出づる者みなイスラエルなるに非ず。7また彼等はアブラハムの裔なればとて皆その子たるに非ず『イサクより出づる者は、なんぢの裔と稱へらるべし』とあり。8即ち肉の子らは神の子らにあらず、ただ約束の子等のみ其の裔と認めらるるなり。9約束の御言は是なり、曰く『時ふたび巡り來らば、我きたりてサラに男子あらん』と。10然のみならず、レベカも我らの先祖イサク一人によりて孕りたる時、11その子いまだ生れず、善も悪もなさぬ間に、神の選の御旨は動かず、12行爲によらで召す者によらん爲に『兄は次弟に事ふべし』とレベカに宣へり。13『われヤコブを愛しエザウを憎めり』と録されたる如し。14さらば何をか言はん、神には不義あるか。決して然らず。15モーセに言ひ給ふ『われ憐まんとする者をあはれみ

、慈悲を施さんとする者に慈悲を施すべし』と。16されば欲する者にも由らず、走る者にも由らず、ただ憐みたまふ神に由るなり。17バ口につきて聖書に言ひ給ふ『わが汝を起したるは此の爲なり、即ち我が能力を汝によりて顯し、且わが名の全世界に傳へられん爲なり』と。18されば神はその憐まんと欲する者を憐み、その頑固にせんと欲する者を頑固にし給ふなり。19さらば汝あるいは我に言はん『神なんぞなほ人を咎め給ふか、誰かその御定に悖る者あらん』20ああ人よ、なんぢ誰なれば神に言ひ逆ふか、造られしもの造りたる者に對ひて『なんぢ何ぞ我を斯く造りし』と言ふべきか。21陶工は同じ土塊をもて、此を費き用ふる器とし、彼を賤しき用ふる器とするの權なからんや。22もし神、怒をあらはし權力を示さんと思いつつも、なほ大なる寛容をもて、滅亡に備れる怒の器を忍び、23また榮光のために預じめ備へ給ひ憐憫の器に對ひて、その榮光の富を示さんとし給ひしならば如何に。24この憐憫の器は我等にして、ユダヤ人の中よりのみならず、異邦人の中よりの召し給ひしものなり。25ホゼヤの書に『我が民たらざる者を我が民と呼び、愛せられざる者を愛せらるる者と呼ばん、26「なんぢら我が民にあらず」と言ひし處にて、彼らは活ける神の子と呼ばるべし』と宣へる如し。27イザヤもイスラエルに就きて叫べり『イスラエルの子孫の數は海の砂のごとくなりとも、救はるるはただ殘の者のみならん。28主、地の上に御言をなしたへ、これを遂げ、これを速かにし給はん』29また『萬軍の主われらに裔を遣し給はずば、我等ソドムの如くなり、ゴモラと等しかりならん』とイザヤの預言せしが如し。30然らば何をか言はん、義を追ひ求めざりし異邦人は義を得たり、即ち信仰による義なり。31イスラエルは義の律法を追ひ求めたれど、その律法に到らざりき。32何の故か、かれらは信仰によらず、行爲によりて追ひ求めたる故なり。彼らは蹟く石に蹟きたり。33録して『視よ、我つまづく石さまたぐる岩をシオンに置く、之に依頼む者は辱しめられじ』とあるが如し。

Chapter 10

1兄弟よ、わが心のねがひ、神に對する祈は、彼らの救はれんことなり。2われ彼らが神のために熱心なることを證す、されど其の熱心は知識によらざるなり。3それは神の義を知らず、己の義を立てんとして、神の義に服はざればなり。4キリストは凡て信する者の義とせられん爲に律法の終となり給へり。5モーセは、律法による義をおこなふ人は之によりて生くべしと録したり。6されど信仰による義は斯くいふ『なんぢ心に「誰か天に昇らん」と言ふなかれ』と。7これキリストを引下さんとするなり『また「たれか底な

き所に下らん』と言ふなかれ』と。是キリストを死人の中より引上げんとするなり。8さらば何と言ふか『御言はなんぢに近し、なんぢの口にあり、汝の心にあり』と。これ我がが宣ぶる信仰の言なり。9即ち、なんぢ口にてイエスを主と言ひあらはし、心にて神の之を死人の中より甦へらせ給ひしことを信ぜば、救はるべし。10それ人は心に信じて義とせられ、口に言ひあらはして救はるるなり。11聖書にいふ『すべて彼を信する者は辱しめられじ』と。12ユダヤ人とギリシヤ人との區別なし、同一の主は萬民の主にましまして、凡て呼び求むる者に對して豐なり。13『すべて主の御名を呼び求むる者は救はるべし』とあればなり。14然れど未だ信ぜぬ者を争で呼び求むることをせん、未だ聽かぬ者を争で信ずることをせん、宣傳ふる者なくば争で聽くことをせん。15遣されずば争で宣傳ふることをせん『ああ美しきかな、善き事を告ぐる者の足よ』と録されたる如し。16されど、みな福音に従ひしにはあらず、イザヤいふ『主よ、われらに聞きたる言を誰か信ぜし』17斯く信仰は聞くにより、聞くはキリストの言による。18されど我いふ、彼ら聞えざりしか、然らず『その聲は全地にゆきわたり、其の言は世界の極にまで及べり』19我また言ふ、イスラエルは知らざりしか、先づモーセ言ふ『われ民ならぬ者をもて汝らに嫉を起させ、愚なる民をもて汝らを怒らせん』20またイザヤ憚らずして言ふ『我を求めざる者に、われ見出され、我を尋ねざる者に我あらはれたり』21更にイスラエルに就きては『われ服はずして言ひさからん民に、終日手を伸べたり』と云へり。

Chapter 11

1されば我いふ、神はその民を棄て給ひしか。決して然らず。我もイスラエル人にしてアブラハムの裔ベニヤミンの族の者なり。2神はその預じめ知り給ひし民を棄て給ひしにあらず。汝らエリヤに就きて聖書に云へることを知らぬか、彼イスラエルを神に訴へて言ふ、3『主よ、彼らは汝の預言者たちを殺し、なんぢの祭壇を毀ち、我ひんり遺りたるに、亦わが生命をも求めんとするなり』と。4然るに御答は何と云へるか『われバアルに膝を屈めぬ者、七千人を我がために遣し置けり』と。5斯くのごとく今もなほ恩恵の選によりて遺れる者あり。6もし恩恵によるとせば、もは行爲によるにあらず。然らずば恩恵はもはや恩恵たらざるべし。7さらば如何に、イスラエルはその求むる所を得ず、選ばれたる者は之を得たり、その他の者は鈍くせられたり。8『神は今日に至るまで、彼らに眠れる心、見えぬ目、聞えぬ耳を與へ給へり』と録されたるが如し。9ダビデもいふ『かれらの食卓は罫となれ、網となれ、

つまづきとなれ、報となれ、10 その眼は眩みて見えずなれ、常にその背を屈めしめ給へ』11 されば我いふ、彼らの躓きしは倒れんが爲なりや。決して然らず、反つて其の落度によりて救は異邦人に及び、これイスラエルを勵ましん爲なり。12 もし彼らの落度、世の富となり、その衰微、異邦人の富となりたらんには、まして彼らの數滿つるに於てをや。13 われ異邦人なる汝等にいふ、我は異邦人の使徒たるによりて己が職を重んず。14 これ或は我が骨肉の者を勵まし、その中の幾許かを救はん爲なり。15 もし彼らの棄てらるること世の平和となりたらんには、其の受け納れらるるは、死人の中より活くと等しからずや。16 もし初穂の粉潔くば、パンの團塊も潔く、樹の根潔くば、其の枝も潔からん。17 若しオリブの幾許の枝きり落されて野のオリブなる汝、その中に接がれ、共にその樹の液汁ある根に與らば、18 かの枝に對ひて誇るな、たとひ誇るとも汝は根を支へず、根は反つて汝を支ふるなり。19 なんぢ或は言はん『枝の折られしは我が接がれん爲なり』と。20 實に然り、彼らは不信によりて折られ、汝は信仰によりて立てるなり、高ぶりたる思をもたず、反つて懼れよ。21 もし神、原樹の枝を惜み給はざりしならば、汝をも惜み給はじ。22 神の仁慈と、その嚴肅とを見よ。嚴肅は倒れし者にあり、仁慈はその仁慈に止る汝にあり、若しその仁慈に止らざれば、汝も切り取らるべし。23 彼らも若し不信に止らざれば、接がることあらん、神は再び彼らを接ぎ得給ふなり。24 なんぢ生來の野のオリブより切り取られ、その生來に侍りて善きオリブに接がれたらんには、まして原樹のままなる枝は己がオリブに接がれざらんや。25 兄弟よ、われ汝らが自己を聰しとする事なからん爲に、この奧義を知らざるを欲せず、即ち幾許のイスラエルの鈍くなれるは、異邦人の入り來りて數滿つるに及び時までなり。26 かくしてイスラエルは悉く救はれん。録して『救ふ者シオンより出で來りて、ヤコブより不虔を取り除かん、27 われその罪を除くときに彼らに立つる我が契約は是なり』とあるが如し。28 福音につきて云へば、汝等のために彼らは敵とせられ、選につきて云へば、先祖たちの爲に彼らは愛せらるるなり。29 それ神の賜物と召とは變ることなし。30 汝ら前には神に従はざりしが、今は彼らの不順によりて憐まれたる如く、31 彼らも汝らを受くる憐憫によりて憐まれん爲に、今は従はざるなり。32 神は凡ての人を憐まんために、凡ての人を不順の中に取籠め給ひたり。33 ああ神の智慧と知識との富は深いか、その審判は測り難く、その途は尋ね難し。34 『たれか主の心を知りし、誰かその議士となりし。35 たれか先づ主に與へて其の報を受けんや』36 これ凡ての物は神

より出で、神によりて成り、神に歸すればなり、榮光とこしへに神にある。アメン。

Chapter 12

1 されば兄弟よ、われ神のもろの慈悲によりて汝らに勸む、己が身を神の悦びたまふ潔き活ける供物として献げよ、これ靈の祭なり。2 又この世に效ふな、神の御意の善にして悦ぶべく、かつ全きことを辨へ知らんために、心を更へて新にせよ。3 われ與へられし恩恵によりて汝等おのにおに告ぐ、思ふべき所を超えて自己を高しとすな。神のおのにおに分ち給ひし信仰の量にしたがひ慎みて思ふべし。4 人は一つ體におほくの肢あれども、凡ての肢その運用を同じうせぬ如く、5 我らも多くあれど、キリストに在りて一つ體にして、各人たがひに肢たるなり。6 われらが有てる賜物はおのにおの與へられし恩恵によりて異なる故に、或は預言あらば信仰の量にしたがひて預言をなし、7 或は務あらば務をなし、或は教をなす者は教をなし、8 或は勸をなす者は勸をなし、施す者はをしみなく施し、治むる者は心を盡して治め、憐憫をなす者は喜びて憐憫をなすべし。9 愛はは虚偽あらざれば、惡はにくみ、善はしたしみ、10 兄弟の愛をもて互に愛しむ、禮儀をもて相譲り、11 勤めて怠らず、心を熱くし、主につかへ、12 望みてもて喜び、患難にたへ、祈を恆にし、13 聖徒の缺乏を賑し、旅人を懇ろに待せ、14 汝らに責むる者を祝し、これを祝して詛ふな。15 喜ぶ者と共によこび、泣く者と共になげ。16 相互に心を同じうし、高ぶりたる思をなさず、反つて卑きに附け。なんぢら己を聰しとすな。17 惡をもて惡に報いず、凡ての人のまへに善からんことを圖り、18 汝らの爲し得るかぎり力めて凡ての人と相和げ。19 愛する者よ、自ら復讐すな、ただ神の怒に任せまつれ。録して『主いひ給ふ、復讐するは我にあり、我これに報いん』とあり。20 『もし汝の仇飢ゑなば之に食はせ、渴かば之に飲ませよ、なんぢ斯するは熱き火を彼の頭に積むなり』21 惡に勝たることなく、善をもて惡に勝て。

Chapter 13

1 凡ての人、上にある權威に服ふべし。そは神によらぬ權威なく、あらゆる權威は神によりて立てらる。2 この故に權威にさからふ者は神の定に悖るなり、悖る者は自らその審判を招かん。3 長たる者は善き業の懼にあらざり、惡しき業の懼なり、なんぢ權威を懼れざらんとするか、善をなせ、然らば彼より譽を得ん。4 かれは汝を益せんための神の役者なり。然れど惡をなさば懼れよ、彼は徒らに劍をおびず、神の役者にして、惡をなす者に怒をもて報ゆるなり。5 然れば服はざるべからず、畜

に怒の爲のみならず、良心のためなり。6 また之がために汝ら貢を納む、彼らは神の仕人にして此の職に勵むなり。7 汝等その負債をおのにおに償へ、貢を受くべき者に貢ををさめ、税を受くべき者に税ををさめ、畏るべき者をおそれ、尊ぶべき者をたふとべ。8 汝等たがひに愛を負ふのほかに何をも人に負ふな。人を愛する者は律法を全うするなり。9 それ『姦淫する勿れ、殺すなかれ、盜むなかれ、貪るなかれ』と云へるこの他なほ誠命ありとも『おのれの如く隣を愛すべし』といふ言の中にみな籠るなり。10 愛は隣を害はず、この故に愛は律法の完全なり。11 なんぢら時を知る故に、いよいよ然らずべし。今は眠より覺むべき時なり。始めて信ぜし時より今は我らの救 近ければなり。12 夜ふけて日近づきぬ、然れば我ら暗黒の業をすてて光明の甲を着るべし。13 晝のごとく正しく歩みて宴樂・酔酒に、淫樂・好色に、爭鬪・嫉妬に歩むべきに非ず。14 ただ汝ら主イエス・キリストを衣よ、肉の慾のために備すな。

Chapter 14

1 なんぢら信仰の弱き者を容れよ、その思ふところを語るな。2 或人は凡ての物を食ふを可しと信じ、弱き人はただ野菜を食ふ。3 食ふ者は食はぬ者を蔑すべからず、食はぬ者は食ふ者を審くべからず、神は彼を容れ給へばなり。4 なんぢ如何なる者なれば、他人の僕を審くか、彼が立つも倒るるも其の主人に由れり。彼は必ず立てられん、主は能く之を立たせ給ふべし。5 或人は此の日を彼の日に勝ると思ひ、或人は凡ての日を等しとおもふ、各人おのが心の中に確く定むべし。6 日を重んずる者は主のために之を重んず。食ふ者は主のために食ふ、これ神に感謝すればなり。食はぬ者も主のために食はず、かつ神に感謝するなり。7 我等のうち己のために生ける者なく、己のために死ぬる者なし。8 われら生くるも主のために生き、死ぬるも主のために死ぬ。然れば生くるも死ぬるも我らは主の有なり。9 それキリストの死にて復生き給ひしは、死にたる者と生ける者との主とならん爲なり。10 なんぢ何ぞその兄弟を審くか、汝なんぞ其の兄弟を蔑するか、我等はみな神の審判の座の前に立つべし。11 録して『主いひ給ふ、我は生くるなり、凡ての膝はわが前に屈み、凡ての舌は神を讃め稱へん』とあり。12 我等おのにおの神のまへに己の事を陳ぶべし。13 されば今より後、われら互に審くべからず、むしろ兄弟のまへに妨碍または躓物を置かぬように心を決めよ。14 われ如何なる物も自ら潔からぬ事なきを主イエスに在りて知り、かつ確く信す。ただ潔からずと思ふ人へのみ潔からぬなり。15 もし食物によりて兄弟を憂ひしめば、汝は愛によりて歩まざるなり、キリストの代りて死に給ひし人を、汝の食

物によりて亡すな。16 汝らの善きことの譏られぬようにせよ。17 それ神の國は飲食にあらず、義と平和と聖靈によれる歡喜とに在るなり。18 かくしてキリストに事ふる者は神に悦ばれ、人々に善しとせらるるなり。19 されば我ら平和のことと互に徳を建つる事とを追い求むべし。20 なんぢ食物のために神の御業を毀つな。凡ての物は潔し、されど之を食ひて人を躓かす者には惡とならん。21 肉を食はず、葡萄酒を飲まず、その他なんぢの兄弟を躓かす事をせぬは善し。22 なんぢの有てる信仰を己みづから神の前に保て。善しとする所につきて自ら咎めなき者は幸福なり。23 疑ひつつ食ふ者は罪せらる。これ信仰によらぬ故なり、凡て信仰によらぬ事は罪なり。

Chapter 15

1 われら強き者はおのれを喜ばせずして、力なき者の弱を負ふべし。2 おのにおの隣人の徳を建てん爲に、その益を圖りて之を喜ばすべし。3 キリストに己を喜ばせ給はざりき。録して『なんぢを誘ふ者の誘は我に及べり』とあるが如し。4 夙くより録されたる所は、みな我らの教訓のために録ししものにして、聖書の忍耐と慰安とによりて希望を保たせんとてなり。5 願はくは忍耐と慰安との神、なんぢらをしてキリスト・イエスに效ひ、互に思を同じうせしめ給はん事を。6 これ汝らが心をつにし口をつにして、我らの主イエス・キリストの父なる神を崇めん爲なり。7 此の故にキリスト汝らを容れ給ひしごとく、汝らも互に相容れて神の榮光を彰すべし。8 われ言ふ、キリストは神の眞理のために割禮の役者となり給へり。これ先祖たちの蒙りし約束を堅うし給はん爲、9 また異邦人も憐憫によりて神を崇めんためなり。録して『この故に、われ異邦人の中に汝を讃めたたへ、又なんぢの名を誦はん』とあるが如し。10 また曰く『異邦人よ、主の民と共に喜べ』11 又いはく『もろもろの國人よ、主を讃め奉れ、もろもろの民よ、主を稱へ奉れ』12 又イザヤ言ふ『エツサイの萌蘗生じ、異邦人を治むるもの興らん。異邦人は彼に望をおかん』13 願はくは希望の神、信仰より出づる凡ての喜悅と平安とを汝らに満たしめ、聖靈の能力によりて希望を豊ならしめ給はんことを。14 わが兄弟よ、われは汝らが自ら善に滿ち、もろもろの知識に滿ちて互に訓戒されることを確く信す。15 されど我なほ汝らに憶ひ出させん爲に、ここかしこ少しく憚らずして書きたる所あり、これ神の我に賜ひたる恩恵に因る。16 即ち異邦人のためにキリスト・イエスの仕人となり、神の福音につきて祭司の職をなす。これ異邦人の聖靈によりて潔められ、御心に適ふ献物とならん爲なり。17 されば、われ神の事につきては、キリスト・イエ

スによりて誇る所あり。18 我は、キリストの異邦人を服はせん爲に我を用ひて、言と業と、19 また徴と不思議との能力、および聖靈の能力にて働き給ひし事のほかは敢へて語らず、エルサレムよりイルリコの地方に到るまで、徧くキリストの福音を充たせり。20 我は努めて他人の置えたる基礎のうへに建てじとて、未だキリストの御名の稱へられぬ所におのみ福音を宣傳へり。21 録して『未だ彼のことを傳へられざりし者は見、いまだ聞かざりし者は悟るべし』とあるが如し。22 この故に、われ汝らに往かんとせしが、しばしば妨げられたり。23 されど今は此の地方に働くべき處なく、且なんぢらに往かんとて多年切に望みあるれば、24 イスパニヤに赴かんとし立寄りて汝らを見、ほば意に満つるを得てのち汝らに送られんとを望むなり。25 されど今、聖徒に事へん爲にエルサレムに往かんとす。26 マケドニアとアカヤとの人々は、エルサレムに在る聖徒の貧しき者に幾許かの施與をするを善しとせり。27 實に之を善しとせり、また聖徒に對して斯くする負債あり。異邦人もし彼らの靈の物に與りたらんには、肉の物をもて彼らに事ふべきなり。28 されば此の事を成し了へ、この果を付してのち、汝らを歴てイスパニヤに往かん。29 われ汝らに到るときは、キリストの満ち足れる祝福をもて到らんことを知る。30 兄弟よ、我らの主イエス・キリストにより、また御靈の愛によりて汝らに勧む、なんぢらの祈のうちに、我とともに力を盡して我がために神に祈れ。31 これユダヤに在る從はぬ者の中より我が救はれ、又エルサレムに對する我が務の聖徒の心に適ひ、32 かつ神の御意により、歡喜をもて汝等にいたり、共に安んぜん爲なり。33 願はくは平和の神なんぢら衆と偕に在さんことを、アメン。

Chapter 16

1 我ケンクレヤの教會の執事なる我らの姉妹フィベを汝らに薦む。2 なんぢら主にありて聖徒たるに相應しく彼を容れ、何にても其の要する所を助けよ、彼は夙くより多くの人の保護者また我が保護者たり。3 プリスカとアクラとに安否を問へ、彼らはキリスト・イエスに在る我が同勞者にして、4 わが生命のために己の首をも惜まざりき。彼らに感謝するは、ただ我のみならず、異邦人の諸 教會もまた然り。5 又その家にある教會にも安否を問へ。又わが愛するエパネトに安否を問へ。彼はアジアにて結べるキリストの初の實なり。6 汝 等のために甚く勞せしマリヤに安否を問へ。7 我とともに囚人たりしが同族アンデロニコとユニアスとに安否を問へ、彼らは使徒たちの中に名聲あり、かつ我に先だちてキリストに歸せし者なり。8 主にありて我が愛するアンブリアに安否を問へ。9 キリストにある我ら

の同勞者ウルパノと我が愛するスタキスとに安否を問へ。10 キリストに在りて鍊達せるアペレに安否を問へ。アリストプロの家の者に安否を問へ。11 わが同族ヘロデオンに安否を問へ。ナルキソの家なる主に在る者に安否を問へ。12 主に在りて勞せしツルパナとツルボサとに安否を問へ。主に在りて甚く勞せし愛するベルシスに安否を問へ。13 主に在りて選ばれたるルボスと其の母とに安否を問へ、彼の母は我にもまた母なり。14 アスンクト、フレゴン、ヘルメス、パトロバ、ヘルマス及び彼らと偕に在る兄弟たちに安否を問へ。15 ビロロゴ及びユリヤ、ネレオ及びその姉妹、またオルンバ及び彼らと偕に在る凡ての聖徒に安否を問へ。16 潔き接吻をもて互に安否を問へ。キリストの諸 教會みな汝らに安否を問ふ。17 兄弟よ、われ汝らに勧む、おほよそ汝らの學びし教に背きて分離を生じ、顛躓をおこす者に心して之に遠ざかれ。18 かかる者は我らの主キリストに事へず、反つて己が腹に事へ、また甘き言と媚諂をもて質朴なる人の心を欺くなり。19 汝らの從順は凡ての人に聞えれば、我なんぢらの爲に喜び。而して我が欲する所は、汝らが善に智く、惡に疏からんことなり。20 平和の神は速かにサタンを汝らの足の下に砕き給ふべし。願はくは我らの主イエスの恩恵、なんぢらと偕に在らんことを。21 わが同勞者テモテ及び我が同族ルキオ、ヤソン、ソシパテロ汝らに安否を問ふ。22 この書を書ける我テルテオも主にありて汝らに安否を問ふ。23 我と全教會との家主ガイオ汝らに安否を問ふ。町の庫司エラストと兄弟クワルトと汝らに安否を問ふ。24 なし 25 願はくは長き世のあひだ隠れたれども、26 今顯れて、永遠の神の命にしたがひ、預言者たちの書によりて信仰の從順を得しめん爲に、もろもろの國人に示されたる奥義の黙示に循へる我が福音と、イエス・キリストを宣ぶる事とによりて、汝らを堅うし得る、27 唯一の智き神に、榮光世々限りなくイエス・キリストに由りて在らんことを、アメン。

コリント人への手紙

Chapter 1

1 神の御意により召されてイエス・キリストの使徒となれるパウロ及び兄弟ソステネ、2 書をコリントに在る神の教會、即ちいづれの處にありても、我らの主、ただに我等のみならず彼らの主なるイエス・キリストの名を呼び求むる者とともに、聖徒となるべき召を蒙り、キリスト・イエスに在りて潔められたる汝らに贈る。3 願はくは我らの父なる神および主イエス・キリストより賜ふ恩恵と平安と汝らに在らんことを。4 わ

れ汝らがキリスト・イエスに在りて神より賜はりし恩恵に就きて、常に神に感謝す。5 汝らはキリストに在りて、諸般のこと即ち凡ての言と凡ての悟とに富みたればなり。6 これキリストの證なんぢらの中に堅うせられたるに因る。7 斯く汝らは凡ての賜物に缺くる所なくして、我らの主イエス・キリストの現れ給ふを待てり。8 彼は汝らを終まで堅うして、我らの主イエス・キリストの日に責むべき所なからしめ給はん。9 汝らを召して其の子われらの主イエス・キリストの交際に入らしめ給ふ神は眞實なる哉。10 兄弟よ、我らの主イエス・キリストの名に頼りて汝らに勧む、おのおの語るところを同じうし、分爭する事なく、同じ心おなじ念にて全く一つになるべし。11 わが兄弟よ、クロエの家の者、なんぢらの中に紛爭あることを我に知らせたり。12 即ち汝等おのおの『我はパウロに屬す』『われはアポロに』『我はケバに』『我はキリストに』と言ふこれなり。13 キリストは分たるる者ならんや、パウロは汝らの爲に十字架につけられしや、汝らパウロの名に頼りてバプテスマを受けしや。14 我は感謝す、クリスポとガイオとの他には、我なんぢらの中の一にもバプテスマを施さざりしを。15 是わが名に頼りて汝らがバプテスマを受けしと人の言ふ事なからん爲なり。16 またステパノの家族にバプテスマを施しし事あり、此の他には我バプテスマを施しし事ありや知らざるなり。17 是キリストの我を遣し給へるはバプテスマを施させん爲にあらず、福音を宣傳へしめんとなり。而して言の智慧をもつてせず、是キリストの十字架の虚しきならざらん爲なり。18 それ十字架の言は亡ぶる者には愚なれど、救はるる我らには神の能力なり。19 録して、『われ智者の智慧をほろぼし、慧き者のさときを空しうせん』とあればなり。20 智者いづこにか在る、學者いづこにか在る、この世の論者いづこにか在る、神は世の智慧をして愚ならしめ給へるにあらずや。21 世は己の智慧をもて神を知らず(これ神の智慧に適へるなり)この故に神は宣教の愚をもて、信する者を救ふを善しとし給へり。22 ユダヤ人は徴を請ひ、ギリシヤ人は智慧を求む。23 されど我らは十字架に釘けられ給ひしキリストを宣傳ふ。これはユダヤ人に蹟物となり、異邦人に愚となれど、24 召されたる者にはユダヤ人にもギリシヤ人にも、神の能力また神の智慧たるキリストなり。25 神の愚は人よりも智く、神の弱は人よりも強ければなり。26 兄弟よ、召を蒙れる汝らを見よ、肉によれる智き者おほからず、能力ある者おほからず、貴きもの多からず。27 されど神は智き者を辱しめんとて世の愚なる者を選び、強き者を辱しめんとて弱き者を選び、28 有る者を亡さんとて世の卑しきもの、輕んぜらるる者、すなわち無きが如き者を選び給へり。29 此れ神の前に人の誇る事なからん爲なり。30 汝らは神に頼りてキリ

スト・イエスに在り、彼は神に立てられて我らの智慧と義と聖と救贖とになり給へり。31 これ『誇る者は主に頼りて誇るべし』と録されたる如くならん爲なり。

Chapter 2

1 兄弟よ、われ曩に汝らに到りしとき、神の證を傳ふるに言と智慧との優れたるを用ひざりき。2 イエス・キリスト及びその十字架に釘けられ給ひし事のほかは、汝らの中にありて何をも知るまじと心を定められばなり。3 我なんぢらと偕に居りし時に、弱くかつ懼れ、甚く戦けり。4 わが談話も、宣教も、智慧の美しき言によらずして、御靈と能力との證明によりたり。5 これ汝らの信仰の、人の智慧によらず、神の能力に頼らん爲なり。6 されど我らは成人したる者の中にて智慧を語る。これ此の世の智慧にあらず、又この世の廢らんとする司たちの智慧にあらず、7 我らは奥義を解きて神の智慧を語る、即ち隠れたる智慧にして、神われらの光榮のために、世の創の先より預じめ定め給ひしものなり。8 この世の司には之を知る者なかりき、もし知らば榮光の主を十字架に釘けざりしならん。9 録して『神のおれを愛する者のために備へ給ひし事は、眼いまだ見ず、耳いまだ聞かず、人の心いまだ思はざりし所なり』と有るが如し。10 されど我らには神これを御靈によりて顯し給へり。御靈はすべての事を究め、神の深き所まで究むればなり。11 それ人のことは己が中にある靈のほかに誰か知る人あらん、斯くのごとく神のことは神の御靈のほかに知る者なし。12 我らの受けし靈は世の靈にあらず、神より出づる靈なり、是われらに神の賜ひしものを知らんためなり。13 又われら之を語るに人の智慧の教ふる言を用ひず、御靈の教ふる言を用ふ、即ち靈の事に靈の言を當つるなり。14 性來のままなる人は神の御靈のことを受けず、彼には愚なる者と見ゆればなり。また之を悟ること能はず、御靈のことは靈によりて辨ふべきなるが故なり。15 されど靈に屬する者は、すべての事をわきまふ、而して己は人に辨へらるる事なし。16 誰か主の心を知りて主を教ふる者あらんや。然れど我らはキリストの心をもてり。

Chapter 3

1 兄弟よ、われ靈に屬する者に對する如く汝らに語るに能はず、反つて肉に屬するもの、即ちキリストに在る幼児に對する如く語れり。2 われ汝らに乳のみ飲ませて堅き食物を與へざりき。汝等そのとき食ふこと能はざりし故なり。3 今もなほ食ふこと能はず、今もなほ肉に屬する者なればなり。汝らの中に嫉妬と紛爭とあるは、これ肉に屬する者にして世の人の如くに歩むらざらばなり。4 或者は『われパウロに屬す』といひ、或者は『われアポロに屬す』と

言ふ、これ世の人の如くなるにあらずや。 5 アポロは何者ぞ、パウロは何者ぞ、彼等はおののの主の賜ふところに随ひ、汝らをして信ぜしめたる役者に過ぎざるなり。 6 我は植系、アポロは水灌ぐ者なり、されど育てたるは神なり。 7 されば種うる者も、水灌ぐ者も数ふるに足らず、ただ尊きは育てたまふ神なり。 8 種うる者も、水灌ぐ者も歸する所は一つなれど、各自おののの勞に隨ひて其の値を得べし。 9 我らは神と共に働く者なり。汝らは神の畠なり、また神の建築物なり。 10 我は神の賜ひたる恩恵に隨ひて、熟練なる建築師のごとく基を据えたり、而して他の人その上に建つるなり。然れど如何にして建つべきか、おのおの心して爲すべし。 11 既に置きたる基のほかは誰も据うること能はず、この基は即ちイエス・キリストなり。 12 人もし此の基の上に金・銀・寶石・木・草・藁をもつて建てなば、 13 各人の工は顯るべし。かの日これを明かにせん、かの日は火をもつて顯れ、その火おのおのの工の如何を驗すべければなり。 14 その建つる所の工、もし保たば値を得、 15 もし其の工焼けなば損すべし。然れど己は火より脱れ出づる如くして救はれん。 16 汝ら知らずや、汝らは神の宮にして、神の御靈なんぢらの中に住み給ふを。 17 人もし神の宮を毀たば神かれを毀ち給はん。それ神の宮は聖なり、汝らも亦かくの如し。 18 誰も自ら欺くな。汝等のうち此の世にて自ら智しと思ふ者は、智くならんために愚なる者となれ。 19 そは此の世の智慧は神の前に愚なればなり。録して『彼は智者をその惡巧によりて捕へ給ふ』 20 また『主は智者の念の虚しきを知り給ふ』とあるが如し。 21 さらば誰も人を誇とすな、萬の物は汝らの有なればなり。 22或はパウロ、或はアポロ、或はケバ、或は世界、あるひは生、あるひは死、あるひは現在のもの、或は未來のもの、皆なんぢらの有なり。 23 汝等はキリストの有、キリストは神のものなり。

Chapter 4

1人よりしく我らをキリストの役者また神の奧義を掌るる家司のごとく思ふべし。 2 さて家司に求むべきは忠實ならん事なり。 3 我は汝らに審かれ、或は人の審判によりて審かるることを最小き事とし、また自らも己を審かす。 4 我みづから責むべき所あるを覚えねど、之に由りて義とせらるる事なければなり。我を審きたまふ者は主なり。 5 然れば主の來り給ふまでは時に先だちて審判すな。主は暗にある隠れたる事を明かにし、心の謀計をあらはし給はん。その時おのおの神より其の響を得べし。 6 兄弟よ、われ汝等のために此等のことを我とアポロとの上に當てて言へり。これ汝らが『録されたる所を踰ゆまじき』を我らの事によりて學び、この人をあげ

、かの人を貶して誇らざらん爲なり。 7 汝をして人と異ならしむる者は誰ぞ、なんぢの有てる物に何か受けぬ物あるか。もし受けしならば、何ぞ受けぬごとく誇るか。 8 なんぢら既に飽き、既に富めり、我らを差置きて王となれり。われ實に汝らが王たらんことを願ふ、われらも共に王たることを得んが爲なり。 9 我おもふ、神は使徒たる我らを死に定められし者のごとく、後の者として見せ給へり。實に我らは宇宙のもの、即ち御使にも、衆人にも、觀物にせられたるなり。 10 我らはキリストのために愚なる者となり、汝らはキリストに在りて慧き者となれり。我等は弱く汝らは強し、汝らは尊く我らは卑し。 11 今の時にいたるまで我らは飢え、渴き、また裸となり、また打たれ、定れる住家なく、 12 手づから働きて勞し、罵らるるときは祝し、責めらるるときは忍び、 13 譏らるるときは勸をなせり。我らは今に至るまで世の塵芥のごとく、萬の物の垢のごとくせられたり。 14 わが斯く書すは汝らを辱しめんとならず、我が愛する子として訓戒せんためなり。 15 汝等にはキリストに於ける守役一萬ありとも、父は多くあることなし。そはキリスト・イエスに在りて福音により汝らを生みたるは、我なればなり。 16 この故に汝らに勸む、我に效ふ者とならんことを。 17 之がために主にありて忠實なる我が愛子テモテを汝らに遣せり。彼は我がキリストにありて行ふところ、即ち常に各地の教會に教ふる所を、汝らに思ひ出さしむべし。 18 わが汝らに到ること無しとして誇る者あり。 19 されど主の御意ならば速かに汝等にいたり、誇る者の言にはあらで、その能力を知らんとす。 20 神の國は言にあらで、能力にあればなり。 21 汝ら何を欲するか、われ答をもて到らんか、愛と柔和の心をもて到らんか。

Chapter 5

1現に聞く所によれば、汝らの中に淫行ありと、而してその淫行は異邦人の中にもなき程にして、或人その父の妻を有てりと云ふ。 2 斯くてもなほ汝ら誇ることをなし、かかる行爲をなしし者の除かれんことを願ひて悲しまざるか。 3 われ身は汝らを離れ居れども、心は偕に在りて其處に居ることく、かかる事を行ひし者を既に審きたり。 4 すなはち汝ら及び我が靈の、我らの主イエスの能力をもて偕に集らんとき、主イエスの名によりて、 5 斯くのごとき者をサタンに付さんとす、是その肉は亡されて、其の靈は主イエスの日に救はれん爲なり。 6 汝らの誇は善からず。少しのパン種の、粉の團塊をみな膨れしむるを知らぬか。 7 なんぢら新しく團塊とならんために舊きパン種を取り除け、汝らはパン種なき者なればなり。夫われらの過越の羔羊すなはちキリスト既に屠られ給へり、 8 されば我らは舊きパン種

を用ひず、また惡と邪曲とのパン種を用ひず、眞實と眞との種なしパンを用ひて祭を行ふべし。 9 われ前の書にて淫行の者と交るなど書き贈りしは、 10 此の世の淫行の者、または貪欲のもの、奪ふ者、または偶像を拜む者と更に交るなど言ふにあらず（もし然せば世を離れざるを得ず） 11 ただ兄弟と稱ふる者の中に、或は淫行のもの、或は貪欲のもの、或は偶像を拜む者、あるひは罵るもの、或は酒に酔ふもの、或は奪ふ者あらば、斯かる人と交ることなく、共に食する事だにすなどの意なり。 12 外の者を審くことは我の干る所ならんや、汝らの審くは、ただ内の者ならずや。 13 外にある者は神これを審き給ふ。かの惡しき者を汝らの中より退けよ。

Chapter 6

1汝等のうち互に事あるとき、之を聖徒の前に訴へずして、正しからぬ者の前に訴ふることを敢へてする者あらんや。 2 汝ら知らぬか、聖徒は世を審くべき者なるを。世もし汝らに審かれんには、汝ら最小き事を審くに足らぬ者ならんや。 3 なんぢら知らぬか、我らは御使を審くべき者なるを、ましてこの世の事をや。 4 然るに汝ら審くべき此の世の事のあるとき、教會にて輕しむる所の者を審判の座に坐らしむるか。 5 わが斯く言ふは汝らを辱しめんとてなり。汝等のうちに兄弟の間のことを審き得る智きもの一人だになく、 6 兄弟は兄弟を、而も不信者の前に訴ふるか。 7 互に相訴ふるは既に當しく汝らの失態なり。何故むしる不義を受けぬか、何故むしる欺かれぬか。 8 然るに汝ら不義をなし、詐欺をなし、兄弟にも之を爲す。 9 汝ら知らぬか、正しからぬ者の神の國を嗣ぐことなきを。自ら欺くな、淫行のもの、偶像を拜むもの、姦淫をなすもの、男娼となるもの、男色を行ふ者、 10 盜するもの、貪欲のもの、酒に酔ふもの、罵るもの、奪ふ者などは、みな神の國を嗣ぐことなきなり。 11 汝等のうち曩には斯くのごとき者ありしかど、主イエス・キリストの名により、我らの神の御靈によりて、己を洗ひかつ潔められ、かつ義とせらるることを得たり。 12 一切のもの我に可からざるなし、然れども一切のもの益あるにあらず。一切のもの我に可からざるなし、されど我は何物にも支配せられず、 13 食物は腹のため、腹は食物のためなり。されど神は之をも彼をも亡し給はん。身は淫行をなさん爲にあらで、主の爲なり、主はまた身の爲なり。 14 神は既に主を甦へらせ給へり、又その能力をもて我等をも甦へらせ給はん。 15 汝らの身はキリストの肢體なるを知らぬか、然らばキリストの肢體をとりて遊女の肢體となすべきか、決して然すべからず。 16 遊女につく者は彼と一つ體となることを知らぬか『二人のもの一體となるべし』と言ひ給へり。 17 主につく者は

之と一つ靈となるなり。 18 淫行を避けよ。人のをかす罪はみな身の外にあり、されど淫行をなす者は己が身を犯すなり。 19 汝らの身は、その内にある神より受けたる聖靈の宮にして、汝らは己の者にあらざるを知らぬか。 20 汝らは價をもて買はれたる者なり、然らばその身をもて神の榮光を顯せ。

Chapter 7

1汝らが我に書きおくりし事に就きては、男の女に觸れぬを善しとす。 2 然れど淫行を免れぬために、男はおのおの其の妻をもち、女はおのおの其の夫を有つべし。 3 夫はその分を妻に盡し、妻もまた夫に然すべし。 4 妻は己が身を支配する權をもたず、之を持つ者は夫なり。斯くのごとく夫も己が身を支配する權を有たず、之を有つ者は妻なり。 5 共に拒むな、ただ祈に身を委ぬるため合意にて暫く相別れ、後また偕になるは善し。これ汝らが情の禁じがたきに乘じてサタンの誘ふことならん爲なり。 6 されど我が斯くいふは命するにあらず、許すなり。 7 わが欲する所は、すべての人の我が如くならん事なり。然れど神より各自おのの賜物を受く、此は此のごとく、彼は彼のごとし。 8 我は婚姻せぬ者および寡婦に言ふ。もし我が如くにして居らば、彼等のために善し。 9 もし自ら制すること能はずば婚姻すべし、婚姻するは胸の燃ゆるよりも勝ればなり。 10 われ婚姻したる者に命ず（命ずる者は我にあらず、主なり）妻は夫と別べからず。 11 もし別る事あらば、嫁がずして居るか、又は夫と和げ。夫もまた妻を去るべからず。 12 その外の人に我いふ（主の言ひ給ふにあらず）もし或兄弟に不信者なる妻ありて偕に居ることを可しとせば、之を去るな。 13 また女に不信者なる夫ありて偕に居ることを可しとせば、夫を去るな。 14 そは不信者なる夫は妻によりて潔くなり、不信者なる妻は夫によりて潔くなりたればなり。然なくば汝らの子供は潔からず、されど今は潔き者なり。 15 不信者みづから離れ去らば、その離るるに任せよ。斯くのごとき事あらば、兄弟または姉妹、もはや繋がる所なし。神の汝らを召し給へるは平和を得させん爲なり。 16 妻よ、汝いかで夫を救ひ得るや否やを知らん。夫よ、汝いかで妻を救ひ得るや否やを知らん。 17 唯おのおのの主の分ち賜ふところ、神の召し給ふところに循ひて歩むべし。凡ての教會に我が命ずるは斯くのごとし。 18 割禮ありて召されし者あらんか、その人、割禮を廢つべからず。割禮なくして召されし者あらんか、その人、割禮を受くべからず。 19 割禮を受くも受けぬも數ふるに足らず、ただ責きは神の誠命を守ることなり。 20 各人その召されし時の状に止るべし。 21 なんぢ奴隷にて召されたるか、之を思ひ煩ふな（もし釋さるることを得ばゆるされよ） 22 召

されて主にある奴隷は、主につける自主の人なり。斯くのごとく自主にして召されたる者は、キリストの奴隷なり。23 汝らは價をもて買はれたる者なり。人の奴隷となるな。24 兄弟よ、おのの叫ばれし時の状に止りて神と偕に居るべし。25 處女のごとくに就きては主の命を受けず、然れど主の憐憫によりて忠實の者となりたれば、我が意見を告ぐべし。26 われ思ふに、目前の患難のためには、人その在るが隨にて止るぞ善き。27 なんぢ妻に繋がる者なるか、釋くことを求むな。妻に繋がれぬ者なるか、妻を求むな。28 たとひ妻を娶るとも罪を犯すにはあらず。處女もし嫁ぐとも罪を犯すにあらず。然れどかかる者はその身、苦難に遭はん、我なんぢらを苦難に遭はすに忍びず。29 兄弟よ、われ之を言はん、時は縮れり。されば此よりのち妻を有てる者は有たぬが如く、30 泣く者は泣かぬが如く、喜ぶ者は喜ばぬが如く、買ふ者は有たぬが如く、31 世を用ふる者は用ひ盡さぬが如くすべし。此の世の状態は過ぎ往くべければなり。32 わが欲する所は汝らが思ひ煩はざらん事なり。婚姻せぬ者は如何にして主を喜ばせんと主のことを慮ばかり、33 婚姻せし者は如何にして妻を喜ばせんと、世のことを慮ばかりて心を分つなり。34 婚姻せぬ女と處女とは身も靈も潔くならんために主のことを慮ばかり、婚姻せし者は如何にしてその夫を喜ばせんと世のことを慮ばかりか。35 わが之を言ふは汝らを益せん爲にして、汝らに絆を置かんとするにあらず、寧ろ汝らを宣しきに適はせ、餘念なく只管、主に事へしめんとてなり。36 人もし處女たる己が娘に對するごとく宣しきに適はすとし、年の頃もまた過ぎんとし、かつ然せざるを得ずば、心のままに行ふべし。これ罪を犯すにあらず、婚姻せさせずべし。37 されど人もし其の心を堅くし、止むを得ざる事もなく、又おのが心の隨になすを得て、その娘を留め置かんと心のうちに定めたらば、然するは善きなり。38 されば其の娘を嫁がする者の行爲は善し。されど之を嫁がせぬ者の行爲は更に善し。39 妻は夫の生ける間は繋がるなり。然れど夫もし死なば、欲するままに嫁ぐ自由を得べし、また主にある者におのみ適くべし。40 然れど我が意見にては、その儘に止らば殊に幸福なり。我もまた神の御靈に感じたりと思ふ。

Chapter 8

1 偶像の供物に就きては我等みな知識あることを知る。知識は人を誇らしめ、愛は徳を建つ。2 もし人みづから知れりと思はば、知るべき程の事をも知らぬなり。3 されど人もし神を愛せば、その人、神に知られたるなり。4 偶像の供物を食ふことに就きては、我ら偶像の世になき者なるを知り、また唯一の神の外には神なきを知る。5 神と稱ふるもの、或は天に或は地にありて、多くの

神、おほくの主あるが如くなれど、6 我らには父なる唯一の神あるのみ、萬物これより出で、我らも亦これに歸す。また唯一の主イエス・キリストあるのみ、萬物これに由り、我らも亦これに由れり。7 されど人もし此の知識あるにあらず、或人は今もなほ偶像に慣れ、偶像の献物として食する故に、その良心よわくして汚さるるなり。8 我らを神の前に立たしむるものは食物にあらず、されば食するも益なく、食せざるも損なし。9 されど心して汝らの有てる此の自由を弱き者の躓物とすな。10 人もし知識ある汝が偶像の宮にて食事するを見んに、その人弱きときは良心そそのかされて偶像の献物を食せざらんや。11 さらばキリストの代りて死に給ひし弱き兄弟は、汝の知識によりて亡ぶべし。12 斯くのごとく汝ら兄弟に對して罪を犯し、その弱き良心を傷めしむるは、キリストに對して罪を犯すなり。13 この故に、もし食物わが兄弟を躓かせんには、兄弟を躓かせぬ爲に、我は何時までも肉を食はじ。

Chapter 9

1 我は自主の者ならずや、使徒にあらずや、我らの主イエスを見しにあらざるや、汝ら主の在りて我が業ならずや。2 われ他人には使徒ならずとも汝らには使徒なり。汝らは主にありて我が使徒たる職の印なればなり。3 われを審く者に對する我が辯明は斯くのごとし。4 我らは飲食する權なきか。5 我らは他の使徒たち主の兄弟たち及びケバのごとく、姉妹たる妻を携ふる權なきか。6 ただ我とバルナバとのみ工を止むる權なきか。7 誰か己の財にて兵卒を務むる者あらんや。誰か葡萄酒を作りてその果を食はぬ者あらんや。誰か群を牧ひてその乳を飲まぬ者あらんや。8 我ただ人の思にのみ由りて此等のことを言はんや、律法も亦かく言ふにあらずや。9 モーセの律法に『穀物を碾す牛には口籠を繫ぐべからず』と録したり。神は牛のために慮ばかり給へるか、10 また専ら我等のために之を言ひ給ひしか、然り、我らのために録されたり。それ耕す者は望をもて耕し、穀物をこなす者は之に與る望をもて碾すべきなり。11 もし我ら靈の物を汝らに蒔きしならば、汝らの肉の物を刈り取るは過分ならんや。12 もし他の人なんぢらに對してこの權あらんには、まして我らをや。然れど我等はこの權を用ひざりき。唯キリストの福音に障礙なきやうに一切のことを忍ぶなり。13 なんぢら知らぬか、聖なる事を務むる者は宮のものを食し、祭壇に事ふる者は祭壇のものに與るを。14 斯くのごとく主もまた福音を宣傳ふる者の福音によりて生活すべきことを定め給へり。15 されど我は此等のことを一つだに用ひし事なし、また自ら斯くせられんために之を書き贈るにあらず、斯くせられんよりは寧ろ死ぬるを善しとすればなり。誰

もわが誇を空しくせざるべし。16 われ福音を宣傳ふとも誇るべき所なし、已むを得ざるなり。もし福音を宣傳へずば、我は禍害なるかな。17 若しわれ心より之をなさば報を得ん、たとひ心ならずとも我はその務を委ねられたり。18 然らば我が報は何ぞ、福音を宣傳ふるに、人をして費なく福音を得しめ、而も福音によりて我が有てる權を用ひ盡さぬこと是なり。19 われ凡ての人に對して自主の者なれど、更に多くの人を得んために、自ら凡ての人の奴隷となれり。20 我ユダヤ人にはユダヤ人の如くなれり、これユダヤ人を得んが爲なり。律法の下にある者には律法の下に我はあらねど、律法の下にある者の如くなれり。これ律法の下にある者を得んが爲なり。21 律法なき者には、われ神に向ひて律法なきにあらず、反つてキリストの律法の下にあれど、律法なき者の如くなれり、これ律法なき者を得んがためなり。22 弱き者には弱き者となれり、これ弱き者を得んためなり。我すべての人には凡ての人の状に従へり、これ如何にもして幾許かの人を救はんためなり。23 われ福音のために凡ての事をなす、これ我も共に福音に與らん爲なり。24 なんぢら知らぬか、馳場を走る者はみな走れども、褒美を得る者の、ただ一人なるを。汝らも得んために斯く走れ。25 すべて勝を争ふ者は何事をも節し慎む、彼らは朽つる冠冕を得んが爲なれど、我らは朽ちぬ冠冕を得んがために之をなすなり。26 斯く我が走るは目標なきが如きにあらず、我が拳闘するは空を撃つが如きにあらず。27 わが體を打ち擲きて之を服従せしむ。恐らくは他人に宣傳へて自ら棄てらるる事あらん。

Chapter 10

1 兄弟よ、我なんぢらが之を知らぬを好まず。即ち我らの先祖はみな雲の下にあり、みな海をとほり、2 みな雲と海とにてバプテスマを受けてモーセにつけり。3 而して皆おなじく靈なる食物を食し、4 みな同じく靈なる飲物を飲めり。これ彼らに隨ひし靈なる岩より飲みたるなり、その岩は即ちキリストなりき。5 然れど彼らのうち多くは神の御意に適はず、荒野にて亡されたり。6 此等のことは我らの鑑にして、彼らが貪りし如く惡を貪らざらん爲なり。7 彼らの中の或者に效ひて偶像を拜する者となるな、即ち『民は坐して飲食し立ちて戯る』と録されたり。8 又かれらの中の或者に效ひて我ら姦淫すべからず、姦淫を行ひしもの一日に二萬三千人死にたり。9 また彼等のうちの或者に效ひて我ら主を試むべからず、主を試みしもの蛇に亡されたり、10 又かれらの中の或者に效ひて啞くな、啞しもの亡する者に亡されたり。11 彼らが遭へる此等のことは鑑となれり、かつ末の世に遭へる我らの訓戒のために録されたり。12 さらば自ら立てりと思ふ者は倒れぬやう

に心せよ。13 汝らが遭ひし試煉は人の常ならぬはなし。神は眞實なれば、汝らを耐へ忍ぶこと能はぬほどの試煉に遭はせ給はず。汝らが試煉を耐へ忍ぶことを得んために之と共に通るべき道を備へ給はん。14 さらば我が愛する者よ、偶像を拜することを避けよ。15 されば愚者に言ふごとく言はん、我が言ふところを判断せよ。16 我らが祝ふところの祝の酒杯は、これキリストのパンに與るにあらずや。我らが撃く所のパンは、これキリストの體に與るにあらずや。17 パンは一つなれば、多くの我らも一體なり、皆とも一つのパンに與るに因る。18 肉によるイスラエルを視よ、供物を食ふ者は祭壇に與るにあらずや。19 さらば我が言ふところは何ぞ、偶像の供物あるものと言ふか、また、偶像はあるものと言ふか。20 否、我は言ふ、異邦人の供ふる物は神に供ふるにあらず、惡鬼に供ふるなりと。我なんぢらが惡鬼と交るを欲せず。21 なんぢら主の酒杯と惡鬼の酒杯とを兼ね飲むこと能はず。主の食卓と惡鬼の食卓とに兼ね與ること能はず。22 われら主の妬を惹起さんとするか、我らは主よりも強き者ならんや。23 一切のもの可からざるなし、然れど一切のもの益あるにあらず、一切のもの可からざるなし、されど、一切のもの徳を建つるにあらず。24 各人おのが益を求むることなく、人の益を求めよ。25 すべて市場にて賣る物は、良心のために何をも問はずして食せよ。26 そは地と之に滿つる物とは主の物なればなり。27 もし不信者に招かれて往かんとせば、凡て汝らの前に置く物を、良心のために何をも問はずして食せよ。28 人もし此は犠牲にせし肉なりと言はば、告げし者のため、また良心のために食すな。29 良心とは汝の良心にあらず、かの人良心を言ふなり。何ぞわが自由を他の人の良心によりて審かるる事をせん。30 もし感謝して食する事をせば、何ぞわが感謝する所のものに就きて譏らるる事をせん。31 さらば食ふにも飲むにも何事をなすにも、凡て神の榮光を顯すやうにせよ。32 ユダヤ人にもギリシヤ人にも、また、神の教會にも躓物となるな。33 我も凡ての事を凡ての人の心に適ふやうに力め、人々の救はれんために、己の益を求めずして多くの人の益を求むるなり。

Chapter 11

1 我がキリストに效ふ者なる如く、なんぢら我に效ふ者となれ。2 汝らは凡ての事につきて我を憶え、且わが傳へし所をそのまま守るに因りて、我なんぢらを譬む。3 されど我なんぢらが之を知らんことを願ふ。凡ての男の頭はキリストなり、女の頭は男なり、キリストの頭は神なり。4 すべて男は折をなし、預言をなすとき、頭に物を被るは其の頭を辱しむるなり。5 すべて女は折をなし、預言をなすとき、頭に物を被ら

ぬは其の頭を辱しむるなり。これ雑髪と異なる事なし。6女もし物を被らずば、髪をも剪るべし。されど髪を剪り或は剃ることを女の恥とせば、物を被るべし。7男は神の像、神の榮光なれば、頭にも物を被るべきにあらず。されど女は男の榮光なり。8男は女より出でずして、女は男より出で、9男は女のために造られずして、女は男のために造られたればなり。10この故に女は御使たちの故によりて頭に權の徽を戴くべきなり。11されど主に在りては、女は男に由らざるなく、男は女に由らざるなし。12女の男より出でしごとく、男は女によりて出づ。而して萬物はみな神より出づるなり。13汝等みづから判断せよ、女の物を被らずして神に祈るは宜しき事なるか。14なんぢら自然に知るにあらずや、男もし長き髪をあらば恥づべきことにして、15女もし長き髪をあらばその榮光なるを。それ女の髪は被物として賜はりたるなり。16假令これを坑辯ふ者ありとも、斯くのごとき例は我らにも神の諸教會にもある事なし。17我これらの事を命じて汝らを警めず。汝らの集ること益を受けずして損を招けばなり。18先づ汝らが教會に集るとき分争ありと聞く、われ略これを信ず。19それは汝等のうちに是とせらるべき者の現れんために黨派も必ず起るべければなり。20なんぢら一處に集るとき、主の晚餐を食すること能はず。21食する時おのおの人に先だちて己の晚餐を食するにより、饑うる者あり、酔ひ飽ける者あればなり。22汝ら飲食すべき家なきか、神の教會を輕んじ、また乏しき者を辱しめんとするか、我なにを言ふべきか、汝らを警むべきか、之に就きては警めぬなり。23わが汝らに傳へしことは主より授けられたるなり。即ち主イエス付され給ふ夜、パンを取り、24祝して之を擘き、而して言ひ給ふ『これは汝等のための我が體なり。我が記念として之を行へ』25夕餐のち酒杯をも前の如くして言ひたまふ『この酒杯は我が血によれる新しき契約なり。飲むごとに我が記念として之をおこなへ』26汝等このパンを食し、この酒杯を飲むごとに、主の死を示して其の來りたまふ時にまで及ぶなり。27されば宜しきに適はずして主のパンを食し、主の酒杯を飲む者は、主の體と血とを犯すなり。28人みづから省みて後、そのパンを食し、その酒杯を飲むべし。29御體を辨へずして飲食する者は、その飲食によりて自ら審判を招くべければなり。30この故に汝等のうちに弱きもの病めるもの多くあり、また眠に就きたる者も少からず。31我等もし自ら己を辨へなば審かるる事ならん。32されど審かるる事あるは、我らを世の人とともに罪に定めじとて、主の懲しめ給ふなり。33この故に、わが兄弟よ、食せんとて集るときは互に待ち合せよ。34もし飢うる者あらば、汝らの集會の審判を招くこと無からん爲に、己が家に食すべし。その他のことは我いたら

ん時これを定めん。

Chapter 12

1兄弟よ、靈の賜物に就きては、我なんぢらが知らぬを好まず。2なんぢら異邦人なりしとき、誘はるるままに物を言はぬ偶像のもとに導き往かれしは、汝らの知る所なり。3然れば我なんぢらに示さん、神の御靈に感じて語る者は、誰も『イエスは詛はるべき者なり』と言はず、また聖靈に感ぜざれば、誰も『イエスは主なり』と言ふ能はず。4賜物は殊なれども、御靈は同じ。5務は殊なれども、主は同じ。6活動は殊なれども、凡ての人のうちに凡ての活動を爲したまふ神は同じ。7御靈の顯現をおのおのに賜ひたるは、益を得させんためなり。8或人は御靈によりて智慧の言を賜はり、或人は同じ御靈によりて知識の言、9或人は同じ御靈によりて信仰、ある人は一つ御靈によりて病を醫す賜物、10或人は異能ある業、ある人は預言、ある人は靈を辨へ、或人は異言を言ひ、或人は異言を釋く能力を賜はる。11凡て此等のことは同じ一つの御靈の活動にして、御靈その心に隨ひて各人に分け與へたまふなり。12體は一つにして肢は多く、體の肢は多くとも一つの體なるが如く、キリストも亦然り。13我らはユダヤ人・ギリシヤ人・奴隸・自主の別なく、一體とならん爲に、みな一つ御靈にてバプテスマを受けたり。而してみな一つ御靈を飲み。14體は一肢より成らず、多くの肢より成るなり。15足もし『我は手にあらぬ故に體に屬せず』と云ふとも、之によりて體に屬せぬにあらず。16耳もし『それは眼にあらぬ故に體に屬せず』と云ふとも、之によりて體に屬せぬにあらず。17もし全身、眼ならば、聽くところ何れか。もし全身、聽く所ならば、臭くところ何れか。18げに神は御意のままに肢をおのの體に置き給へり。19若しみな一肢ならば、體は何れか。20げに肢は多くあれど、體は一つなり。21眼は手に對ひて『われ汝を要せず』と言ひ、頭は足に對ひて『われ汝を要せず』と言ふこと能はず。22舌、からだの中にて最も弱しと見ゆる肢は、反つて必要なり。23體のうちにて尊からずと思はるる所に、物を纏ひて殊に之を尊ぶ。斯く我らの美しからぬ所は、一層すぐれて美しくすれども、24美しき所には、物を纏ふの要なし。神は劣れる所に殊に尊榮を加へて、人の體を調和したまへり。25これ體のうちに分争なく、肢々一致して互に相顧みんためなり。26もし一つの肢苦しまば、もろもろの肢とも苦しきみ、一つの肢尊ばれば、もろもろの肢ともに喜ぶなり。27乃ち汝らはキリストの體にして各自その肢なり。28神は第一に使徒、第二に預言者、第三に教師、その次に異能あ

る業、次に病を醫す賜物、補助をなす者、治むる者、異言などを教會に置きたまへり。29是みな使徒ならんや、みな預言者ならんや、みな教師ならんや、みな異能ある業を行ふ者ならんや。30みな病を醫す賜物を有てる者ならんや、みな異言を語る者ならんや、みな異言を釋く者ならんや。31なんぢら優れたる賜物を慕へ、而して我さらに善き道を示さん。

Chapter 13

1たとひ我もろもろの國人の言および御使の言を語るとも、愛なくば鳴る鐘や響く鑼の如し。2假令われ預言する能力あり、又すべての奧義と凡ての知識とに達し、また山を移すほどの大なる信仰ありとも、愛なくば數ふるに足らず。3たとひ我わが財産をことごとく施し、又わが體を燒かるる爲に付すとも、愛なくば我に益なし。4愛は寛容にして慈悲あり。愛は妬まず、愛は誇らず、驕らず、5非禮を行はず、己の利を求めず、憤らせず、人の惡を念はず、6不義を喜ばずして、眞理の喜ぶところを喜び、7凡そ事忍び、おほよそ事信じ、おほよそ事望み、おほよそ事耐ふるなり。8愛は長久までも絶ゆることなし。然れど預言は廢れ、異言は止み、知識もまた廢らん。9それ我らの知るところ全からず、我らの預言も全からず。10全き者の來らん時は全からぬもの廢らん。11われ童子の時は語ることも童子のごとく、思ふことも童子の如く、論ずる事も童子の如くなりしが、人と成りては童子のことを棄てたり。12今われらは鏡をもて見るごとく見るところ臙なり。然れど、かの時には顔を對せて相見ん。今わが知るところ全からず、然れど、かの時には我が知られたる如く全く知るべし。13げに信仰と希望と愛と此の三つの者は限りなく存らん、而して其のうち最も大なるは愛なり。

Chapter 14

1愛を追ひ求めよ、また靈の賜物、ことに預言する能力を慕へ。2異言を語る者は人に語るにあらずして神に語るなり。そは靈にて奧義を語るとも、誰も悟る者なければなり。3されど預言する者は人に語りて其の徳を建て、勸をなし、慰安を與ふるなり。4異言を語る者は己の徳を建て、預言する者は教會の徳を建つ。5われ汝等がみな異言を語らんことを欲すれど、殊に欲するは預言せん事なり。異言を語る者、もし釋きて教會の徳を建つるにあらずば、預言する者のかた勝るなり。6然らば兄弟よ、我もし汝らに到りて異言をかたり、或は默示、あるいは知識、あるいは預言、あるいは教をもて語らざれば、何の益かあらん。7生命なくして聲を出すもの、或は笛、あるいは立琴、その音もし差別なくば、争で吹くところ弾くところの何

たるを知らん。8ラッパ若し定りなき音を出さば、誰か戰鬪の備をなさん。9斯くのごとく汝らも舌をもて明かなる言を出さずば、いかに語るところの何たるを知らん、これ汝等ただ空気に語るのみ。10世には國語の類おほかれど、一つとして意義あらぬはなし。11我もし國語の意義を知らずば、語る者に對して夷人となり、語る者も我に對して夷人とならん、12然らば汝らも靈の賜物を慕ふ者なれば、教會の徳を建つる目的にて賜物の豊ならん事を求めよ。13この故に異言を語る者は自ら釋き得んことをも祈るべし。14我もし異言をもて祈らば、我が靈は祈るなれど、我が心は果を結ばず。15然らば如何にすべきか、我は靈をもて祈り、また心をもて祈らん。我は靈をもて謳ひ、また心をもて謳はん。16汝もし然せずば、靈をもて祝するとき、凡人は汝の語ること知らねば、その感謝に對し如何にしてアメンと言はんや。17なんぢの感謝はよし、然れど、その人の徳を建つることなし。18我なんぢら衆の者よりも多く異言を語ることを神に感謝す。19然れど我は教會にて異言をもて一萬言を語るよりも、寧ろ人を教へんために我が心をもて五言を語らんことを欲するなり。20兄弟よ、智慧に於ては子供となるな、惡に於ては幼兒となり、智慧に於ては成人となれ。21律法に録して『主、宣はく、他し言の民により、他し國人の口唇をもて此の民に語らん、然れど尚かれらは我に聽かじ』とあり。22されば異言は、信者の爲ならで不信者のための徵なり。預言は、不信者の爲ならで信者のためなり。23もし全教會一處に集れる時、みな異言にて語らば、凡人または不信者いり來らんに、汝らを狂へる者と言はざらんや。24然れど若しみな預言せば、不信者または凡人の入りきたるとき、會衆のために自ら責めらる、會衆のためには非せられ、25その心の秘密あらはるる故に、伏して神を拜し『神は實に汝らの中に在す』と言はん。26兄弟よ、さらば如何にすべきか、汝らの集る時はおのおの聖歌あり、教あり、默示あり、異言あり、釋く能力あり、みな徳を建てん爲にすべし。27もし異言を語る者あらば、二人、多くとも三人、順次に語りて一人これを釋くべし。28もし釋く者なき時は、教會にては黙し、而して己に語り、また神に語るべし。29預言者は二人もしくは三人かたり、その他の者はこれを辨ふべし。30もし坐しをる、他のもの默示を蒙らば、先のもの默すべし。31汝らは皆すべての人に學ばせ勸を受けしめんために、一人一人預言することを得なければなり。32また預言者の靈は預言者に制せらる。33それ神は亂の神にあらず、平和の神なり。34聖徒の諸教會のするごとく、女は教會にて黙すべし。彼らは語ること許されず。律法に云へるごとく順ふべき者なり。35何事か學ばんとする事あらば、家にて己が夫に

問ふべし、女の教會にて語るは恥づべき事なればなり。36 神の言は汝等より出でしか、また汝等にもみ來りしか。37 人もし自己を預言者とし、或は御靈に感じたる者と思はし、わが汝らに書きおくる言を主の命なりと知れ。38 もし知らずば其の知らざるに任せよ。39 されば我が兄弟よ、預言することを慕ひ、また異言を語ることを禁ずな。40 凡ての事、宣しきに適ひ、かつ秩序を守りて行へ。

Chapter 15

1 兄弟よ、曩にわが傳へし福音を更に復なんぢらに示す。汝らは之を受け、之に頼りて立ちたり。2 なんぢら徒らに信ぜずして、我が傳へし書を堅く守らば、この福音に由りて救はれん。3 わが第一に汝らに傳へしは、我が受けし所にして、キリスト聖書に應じて我らの罪のために死に、4 また葬られ、聖書に應じて三日めに甦へり、5 ケバに現れ、後に十二弟子に現れ給ひし事なり。6 次に五百人以上の兄弟に同時にあらはれ給へり。その中には既に眠りたる者もあれど、多くは今なほ世にあり。7 次にヤコブに現れ、次にすべての使徒に現れ、8 最終には月 足らぬ者のごとき我にも現れ給へり。9 我は神の教會を迫害したれば、使徒と稱へらるるに足らぬ者にて、使徒のうち最小き者なり。10 然るに我が今の如くなるは、神の恩恵に由るなり。斯くてその賜はりし御恵は空しくならずして、凡ての使徒よりも我は多く働けり。これ我にあらず、我と偕にある神の恩恵なり。11 されば我にもせよ、彼等にもせよ、宣傳ふる所はかくの如くにして、汝らは斯くのごとく信じたるなり。12 キリストは死人の中より甦へり給へりと宣傳ふるに、汝等のうちに、死人の復活なしと云ふ者のあるは何ぞや。13 もし死人の復活なくば、キリストもまた甦へり給はざりしならん。14 もしキリスト甦へり給はざりしならば、我らの宣教も空しく、汝らの信仰もまた空しからん、15 かつ我らは神の僞證人と認められん。我ら神はキリストを甦へらせ給へりと證したればなり。もし死人の甦へることなくば、神はキリストを甦へらせ給はざりしならん。16 もし死人の甦へる事なくば、キリストも甦へり給はざりしならん。17 若しキリスト甦へり給はざりしならば、汝らの信仰は空しく、汝等なほ罪に居らん。18 然ればキリストに在りて眠りたる者も亡びしならん。19 我等この世にあり、キリストに頼りて空しき望みを懐くに過ぎずば、我らは凡ての人の中に最も憫むべき者なり。20 然れど正しくキリストは初穂の中より甦へり、眠りたる者の初穂となり給へり。21 それ人によりて死の來りし如く、死人の復活もまた人に由りて來れり。22 凡ての人、アダムに由りて死ぬること、凡ての人、キリストに

由りて生くべし。23 而して各人その順序に隨ふ。まづ初穂なるキリスト、次はその來り給ふときキリストに屬する者なり。24 次には終きたらん、その時キリストは、もろもろの權能・權威・權力を亡て國を父なる神に付し給ふべし。25 彼は凡ての敵をその足の下に置き給ふまで、王たらざるを得ざるなり。26 最後の敵なる死もまた亡されん。27 『神は萬の物を彼の足の下に服はせ給ひ』たればなり。萬の物を彼に服はせたりと宣ふときは、萬の物を服はせ給ひし者のその中になきこと明かなり。28 萬の物かれに服ふときは、子も亦みづから萬の物を己に服はせ給ひし者に服はん。これ神は萬の物に於て萬の事となり給はん爲なり。29 もし復活なくば、死人の爲にバプテスマを受くるもの何をなすか、死人の甦へること全くなくば、死人のためにバプテスマを受くるは何の爲ぞ。30 また我らが何時も危険を冒すは何の爲ぞ。31 兄弟よ、われらの主イエス・キリストに在りて、汝等につき我が有てる誇によりて誓ひ、我は日々死すと言ふ。32 我がエベソにて獸と闘ひしこと、若し人のごとき思にて爲ししならば、何の益あらんや。死人も甦へる事なくば『我等いざ飲食せん、明日死ぬべければなり』33 なんぢら欺かるな、惡しき交際は善き風儀を害ふなり。34 なんぢら醒めて正しうせよ、罪を犯すな。汝等のうちに神を知らぬ者あり、我が斯く言ふは汝等を辱しめんとてなり。35 されど人あるひは言はん、死人いかにして甦へるべきか、如何なる體をもて來るべきかと。36 愚なる者よ、なんぢの播く所のもの先づ死なずば生さず。37 又その播く所のものは後に成るべき體を播くにあらざ、麥にても他の穀にても、ただ種粒のみ。38 然るに神は御意に隨ひて之に體を予へ、おのおの種にその體を予へたまふ。39 凡ての肉、おなじ肉にあらず、人の肉あり、獸の肉あり、鳥の肉あり、魚の肉あり。40 天上の體あり、地上の體あり、されど天上の物の光榮は地上の物と異なり。41 日の光榮あり、月の光榮あり、星の光榮あり、此の星は彼の星と光榮を異にす。42 死人の復活もまた斯くのごとし。朽つる物にて播かれ、朽ちぬものに甦へらせられ、43 卑しき物にて播かれ、光榮あるものに甦へらせられ、弱きものにて播かれ、強きものに甦へらせられ、44 血氣の體にて播かれ、靈の體に甦へらせられん。血氣の體ある如く、また靈の體あり。45 録して、始の人アダムは、活ける者となれるとあるが如し。而して終のアダムは、生命を與ふる靈となれり。46 靈のものは前にあらず、反つて血氣のもの前にありて靈のもの後にあり。47 第一の人は地より出でて土に屬し、第二の人は天より出でてたる者なり。48 この土に屬する者に、すべて土に屬する者は似、この天に屬する者に、すべて天に屬する者は似るなり。49 我ら土に屬する者の形を有てるごとく、天に屬する者の形をも有つべ

し。50 兄弟よ、われ之を言はん、血肉は神の國を嗣ぐこと能はず、朽つるものは朽ちぬものを嗣ぐことなし。51 視よ、われ汝らに奧義を告げん、我らは悉とく眠るにはあらず、52 終のラッパの鳴らん時みな忽ち瞬間に化せん。ラッパ鳴りて死人は朽ちぬ者に甦へり、我らは化するなり。53 そは此の朽つる者は朽ちぬものを著、この死ぬる者は死なぬものを著るべければなり。54 此の朽つるものは朽ちぬものを著、この死ぬる者は死なぬものを著んとし『死は勝に吞まれたり』と録されたる言は成就すべし。55 『死よ、なんぢの勝は何處にかある。死よ、なんぢの刺は何處にかある』56 死の刺は罪なり、罪の力は律法なり。57 されど感謝すべきかな、神は我らの主イエス・キリストによりて勝を與へたまふ。58 然れば我が愛する兄弟よ、確くして揺ぐことなく、常に勵みて主の事を務めよ、汝等その勞の、主にありて空しからぬを知らばなり。

Chapter 16

1 聖徒たちの爲にする寄附の事に就きては、汝らも我がガラテヤの諸教會に命せしごとくせよ。2 一週の首の日ごとに、各人その得る所にしがごとく己が家に貯へ置き、これ我が到らんとし始めて寄附を集むる事なからん爲なり。3 われ到らば、汝ら選ぶところの人々に添書をあたへ、汝らの患む物をエルサレムに携へ往かしめん。4 もし我も往くべきならば、彼らは我と共に往くべし。5 我マケドニヤを通らんとすれば、マケドニヤを過ぎて後に汝らの許にゆかん。6 かくて汝らの中に留りて、或は冬を過すこともあらん、是わが何處に往くも汝らに送られん爲なり。7 我は今なんぢらを途の次に見ることを欲せず、主ゆるし給はば、暫く汝らと偕に留らんことを望む。8 われ五旬節まではエベソに留らんとす。9 そは活動のために多なる門けが前にひらけ、また逆ふ者も多ければなり。10 テモテもし到らば、慎みて汝等のうちに懼なく居らしめよ、彼は我と同じく主の業を務むる者なり。11 されば誰も之を卑しむることなく、安らかに送りて我が許に來らしめよ、我かれが兄弟たちと共に來るを待てるなり。12 兄弟アポロに就きては、我かれに兄弟たちと共に汝らに到らんことを懇るに勧めたりしが、今は往くことを更に欲せず、されど好き機を得ば往くべし。13 目を覺し、堅く信仰に立ち、雄々しく、かつ剛かれ。14 一切のこと愛をもて行へ。15 兄弟よ、ステパナの家はアカヤの初穂にして、彼らが身を委ねて聖徒に事へたることは、汝らの知る所なり。16 われ汝らに勧む、斯くのごとき人々また凡て之とともに働きて勞する者に服せよ。17 我ステパナとポルトナトとアカイコとの來るを喜ぶ。かれらは汝らの居らぬを補ひたれば

なり。18 彼らは我が心と汝らの心とを安んじたり、斯くのごとき者を認めよ。19 アジアの諸教會なんぢらに安否を問ふ。アクラとプリスカ及びその家の教會、主に在りて懇るに汝らに安否を問ふ。20 すべて兄弟なんぢらに安否を問ふ。なんぢら潔き接吻をもて互に安否を問へ。21 我パウロ自筆をもて汝らに安否を問ふ。22 もし人、主を愛せずば詛はるべし、我らの主きたり給ふ。23 願はくは主イエスの恩恵なんぢらと偕にあらんことを。24 わが愛はキリスト・イエスに在りて汝等すべての者とともに在るなり。

コリント人への手紙

Chapter 1

1 神の御意によりてイエス・キリストの使徒となれるパウロ及び兄弟テモテ、書をコリントに在る神の教會、ならびにアカヤ全國に在る凡ての聖徒に贈る。2 願はくは我らの父なる神および主イエス・キリストより賜ふ恩恵と平安と汝らに在らんことを。3 讀むべき哉、われらの主イエス・キリストの父なる神、即ちもろもろの慈悲の父、一切の慰安の神、4 われらを凡ての患難のうちに慰め、我等をして自ら神に慰めらるる慰安をもて、諸般の患難に居る者を慰むることを得しめ給ふ。5 そはキリストの苦難われらに溢るる如く、我らの慰安も亦キリストによりて溢るればなり。6 我ら或は患難を受くるも汝らの慰安と救のため、或は慰安を受くるも汝らの慰安の爲にして、その慰安は汝らの中に働きて、我らが受くる如き苦難を忍ぶことを得しむるなり。7 かくて汝らが苦難に與るごとく、また慰安にも與ることを知れば、汝らに對する我らの望は堅し。8 兄弟よ、我らがアジアにて遭ひし患難を汝らの知らざるを好まず、すなはち壓せらるること甚だしく、力耐へがたくして、生くる望を失ひ、9 心のうちに死を期するに至れり。これ己を頼まずして、死人を甦へらせ給ふ神を頼まん爲なり。10 神は斯かる死より我らを救ひ給へり、また救ひ給はん。我らは後もなほ救ひ給はんことを望みて神を頼み、11 汝らも我らの爲に祈をもて助く。これ多くの人の願望によりて賜はる恩恵を、多くの人の感謝するに至らん爲なり。12 われら世に在りて殊に汝らに對し、神の清淨と眞實をもて、また肉の智慧によらず、神の恩恵によりて行ひし事は、我らの良心の證する所にして、我らの誇なり。13 我らの書き贈ることは、汝らの讀むところ知る所他ならず。14 而して我は汝等のうち或者の既に知る如く、我らの主イエスの日に我らが汝らの誇、なんぢらが我らの誇たるを終まで知らんことを望む。15 この確信をもて先づ汝らに到り、再び益を得させ、16 かくて

汝らを経てマケドニアに往き、マケドニアより更に復なんぢらに到り、而して汝らに送られてユダヤに往かんことを定めたり。17かく定めたるは浮きたる事ならんや。わが定むるところ肉によりて定め、然り然り、否々と言ふが如きこと有らんや。18神は眞實にて在せば、我らが汝らに對する言も、然りまた否と言ふが如きにあらず。19我ら即ちパウロ、シルワノ、テモテが汝らの中に傳へたる神の子キリスト・イエスは、然りまた否と言ふが如き者にあらず、然りと云ふことは彼によりて成りたるなり。20神の約束は多くありとも、然りと云ふことは彼によりて成りたれば、彼によりてアメンあり、我ら神に榮光を歸するに至る。21汝らと共に我らをキリストに堅くし、且われらに膏を注ぎ給ひし者は神なり。22神はまた我らに印し、保證として御靈を我らの心に賜へり。23我わが靈魂を賭けて神の證を求む、我がコリントに往くことの遅きは、汝らを寛うせん爲なり。24されど我らは汝らの信仰を掌どる者にあらず、汝らの喜悅を助くる者なり、汝らは信仰によりて立てばなり。

Chapter 2

1われ再び憂をもて汝らに到らじと自ら定めたり。2我もし汝らを憂ひしめば、我が憂ひしむる者のほかに誰か我を喜ばせんや。3われ前に此の事を書き贈りしは、我が到らんとし、我を喜ばすべきもの、反つて我を憂ひしむる事なからん爲にして、汝らは皆わが喜悅を喜悅とするを信ずるに因りてなり。4われ大なる患難と心の悲哀とにより、多くの涙をもて汝らに書き贈れり。これ汝らを憂ひしめんにあらず、我が汝らに對する愛の溢るるばかりなるを知らしめん爲なり。5もし憂ひしむる人あらば、我を憂ひしむるにあらず、幾許か汝ら衆を憂ひしむるなり。（幾許かと云へるは、われ激しく責むるを好まぬ故なり）6かかる人の多數の者より受けたる懲罰は足れり。7されば汝ら寧ろ彼を怒し、かつ慰めよ、恐らくは其の人、甚だしき愁に沈まん。8この故に我なんぢらの愛を彼に顯さんことを勸む。9前に書き贈りしは、凡ての事につきて汝らが従順なりや否やをも試み知らん爲なり。10なんぢら何事にも人を怒さば、我も亦これを怒さん、われ怒したる事あらば、汝らの爲にキリストの前に怒したるなり。11これサタンに欺かれざらん爲なり、我等はその詭謀を知らざるにあらず。12我キリストの福音の爲にトロアスに到り、主われに門を開き給ひたれど、13我が兄弟テトスに逢はぬによりて心に平安をえず、彼處の者に別を告げてマケドニアに往けり。14感謝すべきかな、神は何時にてもキリストにより、我らを執へて凱旋し、何處にても我等によりてキリストを知る知識の誓をあらはし

給ふ。15救はるる者にも亡ぶる者にも、我らは神に對してキリストの香しき馨なり。16この人には死よりいづる誓となりて死に至らしめ、かの人には生命より出づる誓となりて生命に至らしむ。誰か此の任に耐へんや。17我らは多くの人のごとく神の言を曲げず、眞實により神による者のごとく、神の前にキリストに在りて語るなり。

Chapter 3

1我等ふたたび己を薦め始めんや、また或人のごとく人の推薦の書を汝らに齎し、また汝等より受くることを要せんや。2汝らは即ち我らの書にして我らの心に録され、又すべての人に知られ、かつ讀まるるなり。3汝らは明かに我らの職によりて書かれたるキリストの書なり。而も墨にあらで活ける神の御靈にて録され、石碑にあらで心の肉碑に録されたるなり。4我らはキリストにより、神に對して斯かる確信あり。5されど己は何事をも自ら定むるに足らず、定むるに足るは神によるなり。6神は我らを新約の役者となるに足らしめ給へり、儀文の役者にあらず、靈の役者なり。そは儀文は殺し、靈は活せばなり。7石に彫り書されたる死の法の職にも光榮ありて、イスラエルの子等はそのやがて消ゆべきモーセの顔の光榮を見つめ得ざりし程ならんには、8まして靈の職は光榮なからんや。9罪を定むる職もし光榮あらんには、まして義とする職は光榮に溢れざらんや。10もと光榮ありし者も更に勝れる光榮に比ぶれば、光榮なき者となれり。11もし消ゆべき者に光榮ありしならんには、まして永存するものに光榮なからんや。12我らは斯くのごとき希望を有つゆゑに、更に臆せずして言ひ、13又モーセの如くせざるなり。彼は消ゆべき者の消えゆくをイスラエルの子らに見せぬために、面帕を顔におほひたり。14然れど彼らの心鈍くなれり。キリストによりて面帕の廢るべきを悟らねば、今日に至るまで舊約を讀む時その面帕なほ存れり。15今日に至るまでモーセの書を讀むとき、面帕は彼らの心のうへに置かれたり。16然れど主に歸する時、その面帕は取り除かるべし。17主は即ち御靈なり、主の御靈のある所には自由あり。18我等はみな面帕なくして、鏡に映るごとく主の榮光を見、榮光より榮光にすすみ、主たる御靈によりて主と同じ像に化するなり。

Chapter 4

1この故に我ら憐憫を蒙りて此の職を受けたれば、落膽せず、2恥づべき隠れたる事をすて、惡巧に歩まず、神の言をみださず、眞理を顯して神の前に己を凡ての人の良心に薦むるなり。3もし我らの福音おはれ居らば、亡ぶる者に覆はれをるなり。4この世の神は此等の不信者の心を暗まして、神の像なるキリ

ストの榮光の福音の光を照さざらしめたり。5我らは己の事を宣べず、ただキリスト・イエスの主たる事と、我らがイエスのために汝らの僕たる事とを宣ふ。6光、暗より照り出でてと宣ひし神は、イエス・キリストの顔にある神の榮光を知る知識を輝かしめんために、我らの心を照し給へるなり。7我等この寶を土の器に有てり、これ優れて大なる能力の我等より出でずして、神より出づることの顯れんためなり。8われら四方より患難を受くれども窮せず、爲ん方つくれども希望を失はず、9責めらるれども棄てられず、倒さるれども亡びず、10常にイエスの死を我らの身に負ふ。これイエスの生命の我らの身にあらはれん爲なり。11それ我ら生ける常にイエスのため死に付さるるは、イエスの生命の我らの死ぬべき肉體にあらはれん爲なり。12さらば死は我等のうちに働き、生命は汝等のうちに働くなり。13録して『われ信ずるによりて語れり』とあるごとく、我等にも同じ信仰の靈あり、信ずるに因りて語るなり。14これ主イエスを甦へらせ給ひし者の我等をもイエスと共に甦へらせ、汝らと共に立たしめ給ふことを我ら知ればなり。15凡ての事は汝らの益なり。これ多くの人によりて御惠の増し加はり、感謝いや増りて神の榮光の顯れん爲なり。16この故に我らは落膽せず、我らが外なる人は壞るれども、内なる人は日々新なり。17それ我らが受くる暫くの輕き患難は、極めて大なる永遠の重き光榮を得しむるなり。18我らの顧みる所は見ゆるものにあらず見えぬものなればなり。見ゆるものは暫時にして、見えぬものは永遠に至るなり。

Chapter 5

1我らは知る、我らの幕屋なる地上の家、壞るれば、神の賜ふ建造物、すなはち天にある、手にて造らぬ、永遠の家あることを。2我等はその幕屋にありて歎き、天より賜ふ住所のこと上に著んことを切に望む。3之を著るときは裸にてある事なからん。4我等この幕屋にありて重荷を負へる如くに歎く、之を脱がんとにあらで、此の上に著んことを欲すればなり。これ死ぬべき者の生命に吞まれん爲なり。5我らを此の事に適ふものとなし、その證として御靈を賜ひし者は神なり。6この故に我らは常に心強し、かつ身に居るうちは主より離れ居るを知る、7見ゆる所によらず、信仰によりて歩めばなり。8斯く心強し、願ふところは寧ろ身を離れて主と偕に居らんことなり。9然れば身に居るも身を離るるも、ただ御心に適はんことを力む。10我等はみな必ずキリストの審判の座の前にあらはれ、善にもあれ惡にもあれ、各人その身に成したる事に隨ひて報を受くべければなり。11斯く主の畏るべきを知るによりて人々に説き勸む。われら既に神に知られたり、亦なんぢら

の良心にも知られたりと思ふ。12我等は再び己を汝らに薦むるにあらず、ただ我等をもて誇とする機を汝らに與へ、心によらず外貌によりて誇る人々に答ふることを得させんとするなり。13我等もし心狂へるならば、神の爲なり、心慥ならば、汝らの爲なり。14キリストの愛われらに迫れり。我ら思ふに、一人すべての人に代りて死にたれば、凡ての人ですでに死にたるなり。15その凡ての人に代りて死に給ひしは、生ける人の最早おのれの爲に生きず、己に代り死にて甦へり給ひし者のために、生きん爲なり。16されば今より後われ肉によりて人を知るまじ、曾て肉によりてキリストを知りしが、今より後は斯くの如くに知ることをせじ。17人もしキリストに在らば新に造られたる者なり、古きは既に過ぎ去り、視よ、新しくなりたり。18これらの事はみな神より出づ、神はキリストによりて我らを己と和がしめ、かつ和がしむる職を我らに授け給へり。19即ち神はキリストに在りて世を己と和がしめ、その罪を之に負はせず、かつ和がしむる言を我らに委ね給へり。20されば我等はキリストの使者たり、恰も神の我等によりて汝らを勧め給ふがごとし。我等キリストに代りて願ふ、なんぢら神を和げ。21神は罪を知り給はざりし者を我らの代に罪となし給へり、これ我らが彼に在りて神の義となるを得んためなり。

Chapter 6

1我らは神とともに働く者なれば、神の恩恵を汝らが徒らに受けざらんことを更に勸む。2（神いひ給ふ『われ恵の時に汝に聴き、救の日に汝を助けたり』と。視よ、今は恵のとき、視よ、今は救の日なり）3我等この職の誘られぬ爲に何事にも人を躓かせず。4反つて凡ての事において神の役者のごとく己をあらはず、即ち患難にも、窮乏にも、苦難にも、5打たるるにも、獄に入るにも、騷擾にも、勞働にも、眠らぬにも、斷食にも、大なる忍耐を用ひ、6また廉潔と知識と寛容と仁慈と聖靈と虚偽なき愛と、7眞の言と神の能力と左右に持ちたる義の武器とにより、8また光榮と恥辱と惡名と美名とによりて表す。我らは人を惑す者の如くなれども眞、9人に知られぬ者の如くなれども人に知られ、死なんとする者の如くなれども、視よ、生ける者、懲さるる者の如くなれども殺されず、10憂ふ者の如くなれども常に喜び、貧しき者の如くなれども多くの人を富ませ、何も有たぬ者の如くなれども凡ての物を有てり。11コリント人よ、我らの口は汝らに向ひて開け、我らの心は廣くなれり。12汝らの狭くせらるるは我らに因るにあらず、反つて己が心に因るなり。13汝らも心を廣くして我に報をせよ。（我わが子に對する如く言ふなり）14不信者と軛を同じうすな、釣合はぬなり、義と

不義と何の干渉があらん、光と暗と何の交際があらん。15 キリストとペリアルと何の調和があらん、信者と不信者と何の關係があらん。16 神の宮と偶像と何の一致があらん、我らは活ける神の宮なり、即ち神の言ひ給ひしが如し。曰く『われ彼らの中に住み、また歩まん。我かれらの神となり、彼等わが民とならん』と。17 この故に『主いひ給ふ、「汝等かれらの中より出で、之を離れ、穢れたる者に觸るなかれ」と。「さらば我なんぢらを受け、18 われ汝らの父となり、汝等わが息子むすめとならん」と、全能の主いひ給ふ』とあるなり。

Chapter 7

1 されば愛する者よ、我らかかる約束を得たれば、肉と靈との汚穢より全く己を潔め、神を畏れてその清潔を成就すべし。2 我らを受け容れよ、われら誰にも不義をなしし事なく、誰をも害ひし事なく、誰をも掠めし事なし。3 わが斯く言ふは、汝らを咎めんとにあらず、そは我が既に言へる如く、汝らは我らの心にありて、共に死に共に生くればなり。4 我なんぢらを信すること大なり、また汝等をもて誇とすること大なり、我らは慰安にみち、凡ての患難の中にも喜悅あふるなり。5 マケドニヤに到りしとき、我らの身はなほ聊かも平安を得ずして、様々の患難に遭ひ、外には分争、内には恐懼ありき。6 然れど哀なる者を慰むる神は、テトスの來るによりて我らを慰め給へり。7 唯その來るに因りてのみならず、彼が汝らによりて得たる慰安をもて慰め給へり。即ち汝らの我を慕ふこと、歎くこと、我に對して熱心なることを我らに告ぐるによりて、我ますます喜べり。8 われ書をもて汝らを憂ひしめたれども悔いせず、その書の汝らを暫く憂ひしめしを見て、前には悔いたれども今は喜ぶ。9 わが喜ぶは汝らの憂ひしが故にあらず、憂ひて悔改に至りし故なり。汝らは神に従ひて憂ひたれば、我等より聊かも損を受けざりき。10 それ神にしたがふ憂は、悔なきの救を得るの悔改を生じ、世の憂は死を生ず。11 視よ、汝らが神に従ひて憂ひしことは、如何ばかりの奮勵・辯明・憤激・恐懼・愛慕・熱心・罪を責むる心などを汝らの中に生じたりしかを。汝等かの事に就きては全く潔きことを表せり。12 されば前に書を汝らに書き贈りしも、不義をなしたる人の爲にあらず、また不義を受けたる人の爲にあらず、我らに對する汝らの奮勵の、神の前にて汝らに顯れん爲なり。13 この故に我らは慰安を得たり。慰安を得たる上にテトスの喜悅によりて更に喜べり。そは彼の心なんぢら一同によりて安んぜられたればなり。14 われ曩に彼の前に汝らに就きて誇りたれど恥づることなし、我らが汝らに語りし事のみな誠實なりし如く、テトスの前に誇りし事もまた誠實となれ

り。15 彼は汝等みな從順にして畏れ戦き、己を迎へしことを思ひ出して、心を汝らに寄すること増々深し。16 われ凡ての事に汝らに就きて心強きを喜ぶ。

Chapter 8

1 兄弟よ、我らマケドニヤの諸教會に賜ひたる神の恩恵を汝らに知らす。2 即ち患難の大なる試練のうちには彼らの喜悅あふれ、又その甚だしき貧窮は吝みなく施す富の溢るるに至れり。3 われ證す、彼らは聖徒に事ふることに與る恵を切に我らに請ひ求め、みづから進みて、力に應じ、否これに過ぎて施濟をなせり。5 我らの望のほかに先づ己を主にささげ、神の御意によりて我らにも身を委ねたり。6 されば我らはテトスが前に此の慈惠のことを汝らの中に始めたれば、又これを成就せんことを勧めたり。7 汝等ももるの事、すなはち信仰に、言に、知識に、凡ての奮勵に、また我らに對する愛に富めるごとく、此の慈惠にも富むべし。8 われ斯く言ふは汝らに命ずるにあらず、ただ他の人の奮勵によりて、汝らの愛の眞實を試みん爲なり。9 汝らは我らの主イエス・キリストの恩恵を知る。即ち富める者に在したれど、汝等のために貧しき者となり給へり。これ汝らが彼の貧窮によりて富める者とならん爲なり。10 施濟のことに就きて我ただ意見を述べ、これは汝らの益なり。汝らは此の事をただに一年前より人に先だちて行ひしのみならず、又これを願ひ始めし事なれば、11 今これを成し遂げよ、汝らが心より願ひしごとく、所有に應じて成し遂げよ。12 人もし志望あらば、其の有たぬ所に由るにあらず、其の有つ所に由りて嘉納せらるるなり。13 これ他の人を安くして汝らを苦しめんとにあらず、均しくせんとするなり。14 すなはち今なんぢらの餘るところは彼らの足らざるを補ひ、後また彼らの餘る所は汝らの足らざるを補ひて、均しくなるに至らざるためなり。15 録して『多く集めし者にも餘る所なく、少く集めし者にも足らざる所なかりき』とあるが如し。16 汝らに對する同じ熱心をテトスの心にも賜へる神に感謝す。17 彼はただに勸を容れしのみならず、甚だ熱心にして、自ら進んで汝らに往くなり。18 我等また彼とともに一人の兄弟を遣す。この人は福音をもて諸教會のうちに譽を得たる上に、19 主の榮光と我らの志望とを顯さん爲ために、掌どれる此の慈惠に就きて、諸教會より我らの道伴として選ばれたる者なり。20 彼を遣すは、此の大なる贖金を掌どるに、人に咎めらるる事を避けんためなり。21 善は主の前のみならず、人の前にも善からんことを慮はずりてなり。22 また一人の兄弟を彼らと共に遣す、我らは多くの事につきて屢次かれの熱心なるを認めたり。而して今は彼が汝らを深く信するに因りて、

その熱心の更に加はるを認む。23 テトスのことを言へば、我が友なり、汝らに對して我が同勞者なり。この兄弟たちの事をいへば、彼らは諸教會の使なり、キリストの榮光なり。24 されば汝らの愛と我らが汝らに就きて誇れる事との證を、諸教會の前にて彼らに顯せ。

Chapter 9

1 聖徒に施すことに就きては汝らに書きおくるに及ばず、2 我なんぢらの志望あるを知らばなり。その志望につき汝らの事をマケドニヤ人に誇りて、アカヤは既に一年前に準備をなせりと云へり。かくて汝らの熱心は多くの人を勵ましたり。3 されどわれ兄弟たちを遣すは、我が言ひしごとく汝らに準備をなさしめ、之につきて我らの誇りし事の空しくならざらん爲なり。4 もしマケドニヤ人われと共に來りて汝らの準備なきを見れば、汝らは言ふに及ばず、我らも確信せしによりて恐らくは恥を受けん。5 この故に兄弟たちを勧め、先づ汝らに往かしめ、曩に汝らが約束したる慈惠を、吝むが如くせずして、恵む心よりせん爲に預じめ調へしむるは、必要のことと思へり。6 それ少く播く者は少く刈り、多く播く者は多く刈るべし。7 おのおの吝むことなく、強ひてすることなく、その心に定めし如くせよ。神は喜びて與ふる人を愛し給へばなり。8 神は汝等をして常に凡ての物に足らざることなく、凡ての善き業に溢るればかり與ふることを得給ふなり。9 録して『彼は散して貧しき者に與へたり。その正義は永遠に存らん』とある如し。10 播く人に種と食するパンとを與ふる者は、汝らにも種をあたへ、且これを殖し、また汝らの義の果を増し給ふべし。11 汝らは一切に富みて吝みなく施すことを得、かくて我らの事により、人々神に感謝するに至るなり。12 此の施濟の務は、ただに聖徒の窮乏を補ふのみならず、充ち溢れて神に對する感謝を多からしむ。13 即ち彼らは此の務を證據として、汝らがキリストの福音に對する言明に順ふことと、彼らにも凡ての人にも吝みなく施すことに就きて、神に榮光を歸し、14 かつ神の汝らに給ひし優れたる恩恵により、汝らを慕ひて汝等のために祈らん。15 言ひ盡しがたき神の賜物につきて感謝す。

Chapter 10

1 汝らに對し面前にては謙だり、離れるては勇ましき我パウロ、自らキリストの柔和と寛容とをもて汝らに勸む。2 我らを肉に従ひて歩むごとく思ふ者あれば、斯かる者に對しては雄々しくせんと思へど、願ふ所は我が汝らに逢ふとき斯く勇ましくせざらん事なり。3 我らは肉にありて歩めども、肉に従ひて戦はず。4 それ我らの戦争の武器は肉に屬するにあらず、神の前には城壁を破る

ほどの能力あり、我等はもるもるの論説を破り、5 神の示教に逆ひて建てたる凡ての櫓を毀ち、凡ての念を虜にしてキリストに服はしむ。6 且なんぢらの從順の全くならん時、すべての不從順を罰せんと思ふ。7 汝らは外貌のみを見る、若し人みづからキリストに屬する者と信せば、己がキリストに屬する如く、我らも亦キリストに屬する者なることを更に考ふべし。8 假令われ汝らを破る爲ならずして建つる爲に、主が我らに賜ひたる權威につきて誇ること稍過ぐとも恥とはならじ。9 われ書をもて汝らを嚇すと思はざれ。10 彼らは言ふ『その書は重くかつ強し、その逢ふときの容貌は弱く、言は鄙し』と。11 斯くのごとき人は思ふべし。我らが離れる時おくる書の言のごとく、逢ふときの行爲も亦然るを。12 我らは己を譽むる人と敢へて並び、また較ぶる事をせず、彼らは己によりて己を度り、己をもて己に較ぶれば智なき者なり。13 我らは範圍を踰えて誇らず、神の我らに分ち賜ひたる範圍にしたがひて誇らん。その範圍は汝らに及べり。14 汝らに及ばぬ者のごとく範圍を踰えて身を延すに非ず、キリストの福音を傳へて汝らにまで到れるなり。15 我らは己が範圍を踰えて他の人の勞を誇らず、唯なんぢらの信仰の彌増すにより、我らの範圍に循ひて汝らのうちに更に大ならんことを望む。16 これ他の人の範圍に既に備ひたるものを誇らず、汝らを踰えて外の處に福音を宣傳へん爲なり。17 誇る者は主によりて誇るべし。18 そは是とせらるるは己を譽むる者にあらず、主の譽め給ふ者なればなり。

Chapter 11

1 願はくは汝等わが少しの愚を忍ばんことを。請ふ我を忍べ。2 われ神の熱心をもて汝らを慕ふ、われ汝らを潔き處女として一人の夫なるキリストに獻げんとて、之に嫁嫁したればなり。3 されど我が恐るるは、蛇の悪巧によりてエバの惑されし如く、汝らの心害はれてキリストに對する眞心と貞操とを失はん事なり。4 もし人きたりて我らの未だ宣べざる他のイエスを宣ぶる時、また汝らが未だ受けざる他の靈を受け、未だ受け容れざる他の福音を受くときは、汝ら能く之を忍ばん。5 我は何事にもかの大使徒たちに劣らずと思ふ。6 われ言に拙けれども知識には然らず、凡ての事にて全く之を汝らに顯せり。7 われ汝らを高うせんために自己を卑しう、價なくして神の福音を傳へたるは罪なりや。8 我は他の教會より奪ひ取り、その俸給をもて汝らに事へたり。9 又なんぢらの中に在りて乏しかりしとき、誰をも煩はせず、マケドニヤより來りし兄弟たち我が窮乏を補へり。斯く凡ての事に汝らを煩はすまじと憤みたるが、此の後もなほ慎まん。10 我に在るキリストの誠實によりて言

ふ、我この誇をアカヤの地方にて阻まれる事あらじ。11これ何故ぞ、汝らを愛せぬに因るか、神は知りたまふ。12我わが行ふ所をなほ行はん、これ機会をうかがふ者の機会を斷ち、彼等をしてその誇る所につき我らの如くならしめん爲なり。13かくの如きは僞使徒また詭計の労働人にして、己をキリストの使徒に扮へる者どもなり。14これ珍しき事にあらず、サタンも己を光の御使に扮へば、15その役者らが義の役者のごとく扮ふは大事にはあらず、彼等の終局はその業に適ふべし。16われ復いはん、誰も我を愚と思ふな。もし然おもふとも、少しく誇る機を我にも得させん爲に、愚なる者として受け容れよ。17今いふ所は主によりて言ふにあらざ、愚なる者として大膽に誇りて言ふなり。18多くの人、肉によりて誇れば、我も誇るべし。19汝らは智き者なれば喜びて愚なる者を忍ぶなり。20人もし汝らを奴隷とすとも、食ひ盡すとも、掠めるとも、驕るとも、顔を打つとも、汝らは之を忍ぶ。21われ恥ぢて言ふ、我らは弱き者の如くなりき。されど人の雄々しき所は我もまた雄々し、われ愚にも斯く言ふなり。22彼らへブル人なるか、我も然り、彼らイスラエル人なるか、我も然り、彼らアブラハムの裔なるか、我も然り。23彼らキリストの役者なるか、われ狂へる如く言ふ、我はなほ勝れり。わが勞は更におほく、獄に入れられしこと更に多く、鞭うたれしこと更に夥だしく、死に瀕みたりしこと屢次なりき。24ユダヤ人より四十に一つ足らぬ鞭を受けしこと五度、25笞にて打たれしこと三たび、石にて打たれしこと一たび、破船に遭ひしこと三度にして、一晝夜海にありき。26しばしば旅行して河の難、盜賊の難、同族の難、異邦人の難、市中の難、荒野の難、海上の難、僞兄弟の難にあひ、27勞し、苦しみ、しばしば眠らず、飢餓渴き、しばしば斷食し、凍え、裸なりき。28ここに擧げざる事もあるに、なほ日々われに迫る諸教會の心勞あり。29誰か弱りて我弱らざらんや、誰か躓きて我燃えざらんや。30もし誇るべくは、我が弱き所につき誇るらん。31永遠に讃むべき者、すなはち主イエスの神また父は、我が僞らざるを知り給ふ。32ダマスコにてアレタ王の下にある總督、われを捕へんとてダマスコ人の町を守りたれば、33我は籠にて窓より石垣傳ひに縋り下されて其の手を脱れたり。

Chapter 12

1わが誇るは益なしと雖も止むを得ざるなり、茲に主の顯示と默示とに及ばん。2我はキリストにある一人のを知る。この人、十四年前に第三の天にまで取去られたり(肉體にてか、われ知らず、肉體を離れてか、われ知らず、神しり給ふ)3われ斯くのごときを知る(肉體に

てか、肉體の外にてか、われ知らず、神しり給ふ)4かれパラダイスに取去られて、言ひ得ざる言、人の語るまじき言を聞けり。5われ斯くのごとき人のために誇らん、されど我が爲には弱き事のほか誇るまじ。6もし自ら誇るとも我が言ふところ誠實なれば、愚なる者とならじ。されど之を罷めん。恐らくは人の我を見われに聞くとこころに過ぎて、我を思ふことあらん。7我は我が蒙りたる默示の鴻大なるによりて高ぶることのなからん爲に、肉體に一つの刺を與へらる、即ち高ぶることなからん爲に我を撃つサタンの使なり。8われ之がために三度まで之を去らしめ給はんことを主に求めたるに、9言ひたまふ『わが恩恵なんぢに足れり、わが能力は弱きうちに全うせらるればなり』さればキリストの能力の我を庇はんために、寧ろ大に喜びて我が微弱を誇らん。10この故に我はキリストの爲に微弱・恥辱・艱難・迫害・苦難に遭ふことを喜び、それは我よわき時に強ければなり。11われ汝らに強ひられて愚になれり、我は汝らに警めらるべかりしなり。我は數ふるに足らぬ者なれども、何事にもかの大使徒たちに劣らざりしなり。12我は微と不思議と能力ある業とを行ひ、大なる忍耐を用ひて汝等のうちに使徒の徴をなせり。13なんぢら他の教會に何の劣る所がある、唯わが汝らを煩はさざりし事のみならずや、此の不義は請ふ方に恕せ。14視よ、茲に三度なんぢらに到らんとして準備したれど、尚なんぢらを煩はすまじ。我は汝らの所有を求めず、ただ汝らを求む。それ子は親のために貯ふべきにあらず、親は子のために貯ふべきなり。15我は大に喜びて汝らの靈魂のために物を費し、また身をも費さん。我なんぢらを多く愛するによりて、汝ら我を少く愛するか。16或人いはん、我なんぢらを煩はさざりしも、狡猾にして詭計をもて取りしなりと。17然れど我なんぢらに遣しし者うちの誰によりて汝らを掠めしや。18我テトスを勸めて汝らに遣し、これと共にかの兄弟を遣せり、テトスは汝らを掠めしや。我らは同じ御靈によりて歩み、同じ足跡を踏みしにあらずや。19汝らは夙く我等なんぢらに對して辯明すと思ひしならん。されど我らはキリストに在りて神の前にて語る。愛する者よ、これ皆なんぢらの徳を建てん爲なり。20わが到りて汝らを見ん時、わが望の如くならず、汝らが見んとき、亦なんぢらの望の如くならざらんことを恐れ、かつ分争・嫉妬・憤恚・徒黨・誹謗・讒言・驕傲・騷亂などの有らんことを恐る。21また重ねて到らん時、わが神われを汝等のまへにて辱しめ、且おほくの人、前に罪を犯して行ひし不潔と姦淫と好色とを悔改めざるを悲しましめ給ふことあらん乎と恐る。

Chapter 13

1今われ三度なんぢらに到らんとす、二三の證人の口によりて凡てのこと慥めらるべし。2われ既に告げたれど、今離れをりて、二度なんぢらに逢ひし時のごとく、前に罪を犯したる者とその他の凡ての人々とに預じめ告ぐ、われ復いたらば決して宥さじ。3汝らはキリストの我にありて語りたまふ證據を求むればなり。キリストは汝らに對ひて弱からず、汝等のうちに強し。4微弱によりて十字架に釘けられ給ひたれど、神の能力によりて生き給へばなり。我らもキリストに在りて弱き者なれど、汝らに向ふ神の能力によりて彼と共に生きん。5なんぢら信仰に居るや否や、みづから試み自ら驗しよ。汝らみづから知らざらんや、若し棄てらるる者ならずば、イエス・キリストの汝らの中に在す事を、6我は我らの棄てらるる者ならぬを汝らの知らんことを望む。7我らは汝らの少しにても惡を行はざらんことを神に祈る。これ我らの是とせらるるを顯さん爲にあらず、よし我らは棄てらるる者の如くなるとも、汝らの善を行はん爲なり。8我らは眞理に逆ひて能力なく、眞理のためには能力あり。9われら弱くして汝らの強きことを喜び、また之に就きて祈るは、汝らの全くならん事なり。10われ離れ居りて此等のことを書き贈るは、汝らに逢ふとき、主の破る爲ならずして建つる爲に我に賜ひたる權威に隨ひて嚴しくせざらん爲なり。11終に言はん、兄弟よ、汝ら喜べ、全くなれ、慰安を受けよ、心を一につにせよ、睦み親しめ、然らば愛と平和との神なんぢらと偕に在さん。12潔き接吻をもて相互に安否を問へ、13凡ての聖徒なんぢらに安否を問ふ。14願はくは主イエス・キリストの恩恵・神の愛・聖靈の交感、なんぢら凡ての者と偕にあらんことを。

ガラテヤ人への手紙

Chapter 1

1人よりに非ず、人に由るにも非ず、イエス・キリスト及び之を死人の中より甦へらせ給ひし父なる神に由りて使徒となれるパウロ、2及び我と偕にある凡ての兄弟、書をガラテヤの諸教會に贈る。3願はくは、我らの父なる神および主イエス・キリストより賜ふ恩恵と平安と汝らに在らんことを。4主は我らの父なる神の御意に隨ひて、我らを今の惡しき世より救ひ出さんとて、己が身を我らの罪のために與へたまへり。5願はくは榮光、世々限りなく神にあらん事を、アメン。6我は汝らが斯くも速かにキリストの恩恵をもて召し給ひし者より離れて、異なる福音に移りゆくを怪しむ。7此は福音

と言ふべき者にあらず、ただ或人々が汝らを擾してキリストの福音を變へんとするなり。8されど我等にもせよ、天よりの御使にもせよ、我らの曾て宣傳へたる所に背きたる福音を汝らに宣傳ふる者あらば詛はるべし。9われら前に言ひし如く今また言はん、汝らの受けし所に背きたる福音を宣傳ふる者あらば詛はるべし。10我いま人に喜ばれんとするか、或は神に喜ばれんとするか、抑もまた人を喜ばせんことを求むるか。もし我なほ人を喜ばせをらば、キリストの僕にあらず。11兄弟よ、われ汝らに示す、わが傳へたる福音は、人に由れるものにあらず。12我は人より之を受けず、また教へられず、唯イエス・キリストの默示に由れるなり。13我がユダヤ教に於ける曩の日の擧動は、なんぢら既に聞けり、即ち烈しく神の教會を責め、かつ暴したり。14又わが國人のうち、我と同じ年輩なる多くの者にも勝りてユダヤ教に進み、わが先祖たちの言傳に對して甚だ熱心なりき。15されど母の胎を出でしより我を選び別ち、その恩恵をもて召し給へる者16御子を我が内に顯して其の福音を異邦人に宣傳へしむるを可とし給へる時、われ直ちに血肉と謀らず、17我より前に使徒となりし人々に逢はんとてエルサレムにも上らず、アラビヤに出で往きて遂にまたダマスコに返れり。18その後三年を歴て、ケバを尋ねんとエルサレムに上り、十五日の間かれと偕に留りしが、19主の兄弟ヤコブのほか孰の使徒にも逢はざりき。20(茲に書きおくる事は、視よ、神の前にて僞らざるなり)21その後シリア、キリキヤの地方に往けり。22キリストにあるユダヤの諸教會は我が顔を知らざりしかど、23ただ人々の『われらを前に責めし者、曾て暴したる信仰の道を今は傳ふ』といふを聞き、24わが事によりて神を崇めたり。

Chapter 2

1その後十四年を歴て、バルナバと共にテトスをも連れて、復エルサレムに上れり。2我が上りしは默示に因りてなり。かくて異邦人の中に宣ぶる福音を彼らに告げ、また名ある者どもに私に告げたり、これは我が走ること、又すでに走りしことの空しからざらん爲なり。3而して我と偕なるギリシヤ人テトスすら割禮を強ひられざりき。4これ私に入りたる僞兄弟あるに因りてなり。彼らの忍び入りたるは、我らがキリスト・イエスに在りて有てる自由を窺ひ、且われらを奴隷とせん爲なり。5然れど福音の眞理の汝らの中に留らんために、我ら一時も彼らに譲り從はざりき。6然るに、かの名ある者どもより、彼らは如何なる人なるにもせよ、我には關係なし、神は人の外面を取り給はず。實にかの名ある者どもは我に何をも加へず、7反つてペテロが割禮ある

者に対する福音を委ねられたる如く、我が割禮なき者に対する福音を委ねられたるを認め、8 (ペテロに能力を與へて割禮ある者の使徒となし給ひし者は、我にも異邦人のために能力を與へ給へり) 9 また我に賜はりたる恩恵をさとりて、柱と思はるるヤコブ、ケバ、ヨハネは、交誼の印として我とバルナバとに握手せり。これは我らが異邦人にゆき、彼らが割禮ある者に往かん爲なり。10 唯その願ふところは我らが貧しき者を顧みんことなり、我も固より此の事を勵みて行へり。11 されどケバがアンテオケに來りしとき、責むべき事のありしをもて面前これと争ひたり。12 その故はある人々のヤコブの許より來るまでは、かれ異邦人と共に食しあたるに、かの人々の來りてよりは、割禮ある者どもを恐れ、退きて異邦人と別れたり。13 他のユダヤ人も彼とともに偏行をなし、バルナバまでもその偏行に誘はれゆけり。14 されど我かれらが福音の眞理に循ひて正しく歩まざるを見て、會衆の前にてケバに言ふ『なんぢユダヤ人なるにユダヤ人の如くせず、異邦人のごとく生活せば、何ぞ強ひて異邦人をユダヤ人の如くならしめんとするか。15 我らは生來のユダヤ人にして、罪人も異邦人にあらざれども、16 人の義とせらるるは律法の行爲に由らず、唯キリスト・イエスを信ずる信仰に由るを知りて、キリスト・イエスを信じたり。これ律法の行爲に由らず、キリストを信ずる信仰によりて義とせられん爲なり。律法の行爲によりては義とせらるる者一人だになし。17 若しキリストに在りて義とせららんことを求めて、なほ罪人と認められなば、キリストは罪の役者なるか、決して然らず。18 我もし前に毀ししものを再び建てなば、己みづから犯罪者たるを表す。19 我は神に生きんために、律法によりて律法に死にたり。20 我キリストと偕に十字架につけられたり。最早われ生くるにあらず、キリスト我が内に在りて生くるなり。今われ肉體に在りて生くるは、我を愛して我がために己が身を捨て給ひし神の子を信ずるに由りて生くるなり。21 我は神の恩恵を空しくせず、もし義とせらるること律法に由らば、キリストの死に給へるは徒然なり。

Chapter 3

1 愚なる哉、ガラテヤ人よ、十字架につけられ給ひしままなるイエス・キリスト、汝らの眼前に顯されたに、誰が汝らを誑かししぞ。2 我は汝等より唯この事を聞かん且欲す。汝らが御靈を受けしは律法の行爲に由るか、聽きて信じたるに由るか。3 汝らは斯くも愚なるか、御靈によりて始りしに、今肉によりて全うせらるるか。4 斯程まで多くの苦難を受けしことは徒然なるか、徒然にはあるまじ。5 然らば汝らに御靈を賜ひて汝らの中に能力ある業を行ひ給へるは、律法の行

爲に由るか、聽きて信ずるに由るか。6 録して『アブラハム神を信じ、その信仰を義とせられたり』とあるが如し。7 されば知れ、信仰に由る者は是アブラハムの子なるを。8 聖書は神が異邦人を信仰に由りて義とし給ふことを知りて、預じめ福音をアブラハムに傳へて言ふ『なんぢに由りてもろの國人は祝福せられん』と。9 この故に信仰による者は、信仰ありしアブラハムと共に祝福せらる。10 されど凡て律法の行爲による者は詛の下にあり。録して『律法の書に記されたる凡ての事を常に行はぬ者はみな詛はるべし』とあればなり。11 律法に由りて神の前に義とせらるる事なきは明かなり『義人は信仰によりて生くべし』とあればなり。12 律法は信仰に由るにあらず、反つて『律法を行ふ者は之に由りて生くべし』と云へり。13 キリストは我等のために詛はるる者となりて、律法の詛より我らを贖ひ出し給へり。録して『木に懸けらるる者は凡て詛はるべし』と云へばなり。14 これアブラハムの受けたる祝福の、イエス・キリストによりて異邦人におよび、且われらが信仰に由りて約束の御靈を受けん爲なり。15 兄弟よ、われ人の事を藉りて言はん、人の契約すら既に定むれば、之を廢した加ふる者なし。16 かの約束はアブラハムと其の裔とに與へ給ひし者なり。多くの者を指すごとく『裔々に』とは云はず、一人を指すごとく『なんぢの裔に』と云へり、これ即ちキリストなり。17 然れば我いはん、神の預じめ定め給ひし契約は、その後四百三十年を歴て起りし律法に廢せらるることなく、その約束も空しくせらるる事なし。18 もし嗣業を受くること律法に由らば、もはや約束には由らず、然るに神は約束に由りて之をアブラハムに賜ひたり。19 然れば律法は何のためぞ。これ罪の爲に加へ給ひしものにて、御使たちを経て中保の手によりて立てられ、約束と與へられたる裔の來らん時にまで及ぶなり。20 (中保は一方のみの者にあらず、然れど神は唯一に在り) 21 さらば律法は神の約束に悖るか、決して然らず。もし人を生かすべき律法を與へられたらんに、實に義とせらるるは律法に由りしならん。22 されど聖書は凡ての者を罪の下に閉ぢ籠めたり。これ信ずる者のイエス・キリストに對する信仰に由れる約束を與へられん爲なり。23 信仰の出で來らぬ前は、われら律法の下に在りて、後に顯れんとする信仰の時まで閉ぢ籠められたり。24 かく信仰によりて我らの義とせられん爲に、律法は我らをキリストに導く守役となれり。25 されど信仰の出で來りし後は、我等もはや守役の下に居らず。26 汝らは信仰によりキリスト・イエスに在りて、みな神の子たり。27 凡そバプテスマに由りてキリストに合ひし汝らは、キリストを衣たるなり。28 今はユダヤ人もギリシヤ人もなく、奴隷も自主もなく、男も女もなし、汝らは皆キリスト・イエスに在りて一體なり。29 汝等

もしキリストのものならば、アブラハムの裔にして約束に循へる世嗣たるなり。

Chapter 4

1 われ言ふ、世嗣は全業の主なれども、成人とならぬ間は僕と異なることなく、2 父の定めし時の至るまでは後見者と家令との下にあり。3 斯くのごとく我らも成人とならぬほどは、世の小學の下にありて僕たりしなり。4 されど時満つるに及びては、神その御子を遣し、これを女より生れしめ、律法の下に生れしめ給へり。5 此れ律法の下にある者をあがなひ、我等をして子たることを得しめん爲なり。6 かく汝ら神の子たる故に、神は御子の御靈を我らの心に遣して『アバ、父』と呼ばしめ給ふ。7 されば最早なんぢは僕にあらず、子たるなり、既に子たらば亦神に由りて世嗣たるなり。8 されど汝ら神を知らざりし時は、その實神にあらざる神々に事へたり。9 今は神を知り、むしる神に知られたるに、何ぞ復かの弱くして賤しき小學に還りて、再びその僕たらんとするか。10 汝らは日と月と季節と年とを守る。

11 我は汝らの爲に働さし事の或は無益にならんことを恐る。12 兄弟よ、我なんぢらに請ふ、われ汝等のごとく成りたれば、汝ら我がごとく成れ。汝ら何事にも我を害ひしことなし。13 わが初め汝らに福音を傳へしは、肉體の弱かりし故なるを汝ら知る。14 わが肉體に汝らの試練となる者ありたれど汝ら之を卑しめず、又さらば、反つて我を神の使の如く、キリスト・イエスの如く迎へたり。15 汝らの其の時の幸福はいま何處に在るか。我なんぢらに就きて證す、もし爲し得くば己が目を抉りて我に與へんとまで思ひしを。16 然るに我なんぢらに眞を言ふによりて仇となりたるか。17 かの人の汝らに熱心なるは善き心にあらず、汝らを我らより離して己らに熱心ならしめんとてなり。18 善き心より熱心に慕はるるは、畜に我が汝らと偕に在る時のみならず、何時にても宜しき事なり。19 わが幼児よ、汝らの衷にキリストの形成るまでは、我ふたび産の苦痛をなす。20 今なんぢらに到りて我が聲を易へんことを願ふ、汝らに就きて惑へばなり。21 律法の下にあらんと願ふ者よ、我にいへ、汝ら律法をきかぬか。22 即ちアブラハムに子二人あり、一人は婢女より、一人は自主の女より生れたりと録されたり。23 婢女よりの子は肉によりて生れ、自主の女よりの子は約束による。24 この中に譬あり、二人の女は二つの契約なり、その一つはシナイ山より出でて、奴隷たる子を生む、これハガルなり。25 このハガルはアラビヤに在るシナイ山にして今のエルサレムに當る。エルサレムはその子らとともに奴隷たるなり。26 されど上なるエルサレムは、自主にして我らの母なり。27 録していふ

『石女にして産まぬものよ、喜べ。産の苦痛せぬ者よ、聲をあげて呼ばれ。獨住の女の子は多し、夫ある者の子よりも多し』とあり。28 兄弟よ、なんぢらはイサクのごとく約束の子なり。29 然るに其の時、肉によりて生れし者御靈によりて生れし者を責めしごとく、今なほ然り。30 されど聖書は何と云へるか『婢女とその子とを逐ひいだせ、婢女の子は自主の女の子と共に業を嗣ぐべからず』とあり。31 されば兄弟よ、われらは婢女の子ならず、自主の女の子なり。

Chapter 5

1 キリストは自由を得せん爲に我らを釋き放ちたまへり。されば堅く立ちて再び奴隷の轡に繋がるな。2 視よ、我パウロ汝らに言ふ、もし割禮を受けば、キリストは汝らに益なし。3 又さらに凡て割禮を受くる人に證す、かれは律法の全體を行ふべき負債あり。4 律法に由りて義とせられんと思ふ汝らは、キリストより離れたり、恩恵より墮ちたり。5 我らは御靈により、信仰によりて希望をいだき、義とせらるることを待てるなり。6 キリスト・イエスに在りては、割禮を受くるも割禮を受けぬも益なく、ただ愛に由りてはたらく信仰のみ益あり。7 なんぢらには善く走りたるに、誰が汝らの眞理に従ふを阻みしか。8 かかる勸は汝らを召したまふ者より出づるにあらず。9 少しのパン種は粉の團塊をみな膨れしむ。10 われ汝らに就きては、その聊かも異念を懐かぬことを主によりて信す。されど汝らを擾す者は、誰にもあれ審判を受けん。11 兄弟よ、我もし今も割禮を宣傳へば、何ぞなほ迫害せられんや。もし然せば十字架の顛躓も止みしならん。12 願はくは汝らを亂す者どももの自己を不具にせんことを。13 兄弟よ、汝らの召されたるは自由を與へられん爲なり。ただ其の自由を肉に従ふ機會となさず、反つて愛をもて互に事へよ。14 それ律法の全體は『おのれの如くなんぢの隣を愛すべし』との一言にて全うせらるるなり。15

心せよ、若し互に咬み食はば相共に亡されん。16 我いふ、御靈によりて歩め、さらば肉の慾を遂げざるべし。17 肉の望むところは肉にさからひ、御靈の望むところは肉にさからひて互に相戻ればなり。これ汝らの欲する所をなし得ざらしめん爲なり。18 汝等もし御靈に導かれなば、律法の下にあらず。19 それ肉の行爲はあらはなり。即ち淫行・汚穢・好色・20 偶像崇拜・呪術・怨恨・紛争・嫉妬・憤恚・徒黨・分離・異端・21 猜忌・醉酒・宴樂などの如し。我すでに警めたるごとく、今また警む。斯かることを行ふ者は神の國を嗣ぐことなし。22 されど御靈の果は愛・喜悅・平和・寛容・仁慈・善良・忠信・23 柔和・節制なり。斯かるものを禁ずる律法はあらず。24 キリスト・イエスに

屬する者は、肉とともに其の情と怒とを十字架につけたり。 25 もし我ら御靈に由りて生きなば、御靈に由りて歩むべし。 26 互に挑み互に妬みて、虚しき譽を求むることを爲な。

Chapter 6

1 兄弟よ、もし人の罪を認むることあらば、御靈に感じたる者、柔和なる心をもて之を正すべし、且おのおの自ら省みよ、恐らくは己も誘はるる事あらん。 2 なんぢら互に重を負へ、而してキリストの律法を全うせよ。 3 人もし有ること無くして自ら有りとせば、是みづから欺くなり。 4 各自おのが行爲を驗し見よ、さらば誇るところは他にあらで、ただ己にあらん。 5 各自おのが荷を負ふべければなり。 6 御言を教へらるる人は、教ふる人と凡ての善き物を共にせよ。 7 自ら欺くな、神は侮るべき者にあらず、人の播く所は、その刈る所とならん。 8 己が肉のために播く者は肉によりて滅亡を刈りとり、御靈のために播く者は御靈によりて永遠の生命を刈りとらん。 9 われら善をなすに倦まざれ、もし撓まざれば、時いたりて刈り取るべし。 10 この故に機に隨ひて、凡ての人、殊に信仰の家族に善をおこなへ。 11 視よ、われ手づから如何に大なる文字にて汝らに書き贈るかを。 12 凡そ肉において美しき外觀をなさんと欲する者は、汝らに割禮を強ふ。これ唯キリストの十字架の故によりて責められざらん爲のみ。 13 そは割禮をつくる者すら自ら律法を守らず、而も汝らに割禮をうけしめんと欲するは、汝らの肉につきて誇らんが爲なり。 14 されど我には、我らの主イエス・キリストの十字架のほかに誇る所あらざれ。之によりて世は我に對して十字架につけられたり、我が世に對するも亦然り。 15 それ割禮を受くるも受けぬも、共に數ふるに足らず、ただ貴きは新に造らるる事なり。 16 此の法に循ひて歩む凡ての者の上に、神のイスラエルの上に、平安と憐憫とあれ。 17 今日よのち誰も我を煩はすな、我はイエスの印を身に佩びたるなり。 18 兄弟よ、願はくは我らの主イエス・キリストの恩恵、なんぢらの靈とともに在らんことを、アアメン。

エペソ人への手紙

Chapter 1

1 神の御意によりてキリスト・イエスの使徒となれるパウロ、書をエペソに居る聖徒、キリストに在りて忠實なる者に贈る。 2 願はくは我らの父なる神および主イエス・キリストより賜ふ恩恵と平安と汝らに在らんことを。 3 讃むべきかな、我らの主イエス・キリストの父なる神、かれはキリストに由りて靈のもろもろの

祝福をもて天の處にて我らを祝し、 4 御前にて潔く瑕なからしめん爲に、世の創の前より我等をキリストの中に選び、 5 御意のままにイエス・キリストに由り愛をもて己が子となさんと定め給へり。 6 是その愛しみ給ふ者によりて我らに賜ひたる恩恵の榮光に譬あらん爲なり。 7 我らは彼にありて恩恵の富に隨ひ、その血に賴りて贖罪、すなはち罪の赦を得たり。 8 神は我らに諸般の知恵と聰明とを與へてその恩恵を充しめ、 9 御意の奧義を御意のままに示し給へり。 10 即ち時満ちて經綸にしたがひ、天に在るもの地にあるものを、悉とくキリストに在りて一つに歸せしめ給ふ。これ自ら定め給ひし所なり。 11 我らは、凡ての事を御意の思慮のままに行ひたまふ者の御旨によりて預じめ定められ、キリストに在りて神の産業とせられたり。 12 これ夙くよりキリストに希望を置きし我らが、神の榮光の譬とならん爲なり。 13 汝等もキリストに在りて、眞の言すなはち汝らの救の福音をきき、彼を信じて約束の聖靈にて印せられたり。 14 これは我らが受くべき嗣業の保證にして、神に屬けるものの贖はれ、かつ神の榮光に譬あらん爲なり。 15 この故に我も汝らが主イエスに對する信仰と凡ての聖徒に對する愛とを聞きて、 16 絶えず汝らのために感謝し、わが祈のうちに汝らを憶え、 17 我らの主イエス・キリストの神、榮光の父、なんぢらに智慧と黙示との靈を與へて、神を知らしめ、 18 汝らの心の眼を明かにし、神の召にかかはる望と、聖徒にある神の嗣業の榮光の富と、 19 神の大能の勢威の活動によりて信ずる我らに對する能力の極めて大なるとを知らしめ給はんことを願ふ。 20 神はその大能をキリストのうちに働かせて、之を死人の中より甦へらせ、天の所に己の右に坐せしめ、 21 もろもろの政治・權威・能力・支配、また啻に此の世のみならず、來らんとする世にも稱ふる凡ての名の上に置き、 22 萬の物をその足の下に服はせ、彼を萬の物の上に首として教會に與へ給へり。 23 この教會は彼の體にして、萬の物をもて萬の物に満し給ふ者の満つる所なり。

Chapter 2

1 汝ら前には咎と罪とによりて死にたる者にして、 2 この世の習慣に従ひ、空中の權を執る宰、すなはち不從順の子らの中に今なほ働く靈の宰にしたがひて歩めり。 3 我等もみな前には彼らの中に在り、肉の慾に従ひて日をおくり、肉と心との欲する隨をなし、他の者のごとく生れながら怒の子なりき。 4 されど神は憐憫に富み給ふが故に、我らを愛する大なる愛をもて、 5 咎によりて死にたる我等をすら、キリスト・イエスに由りてキリストと共に活し、（汝らの救はれしは恩恵によれり） 6 共に甦へらせ、共に天の處に坐せしめ給へり。 7 これキリスト・イエス

に由りて我らに施したまふ仁慈をもて、其の恩恵の極めて大なる富を、來らんとする後の世々に顯さんとなり。 8 汝らは恩恵により、信仰によりて救はれたり、是おのれに由るにあらず、神の賜物なり。 9 行爲に由るにあらず、これ誇る者のなからん爲なり。 10 我らは神に造られたる者にして、神の預じめ備へ給ひし善き業に歩むべく、キリスト・イエスの中に造られたるなり。 11 されば記憶せよ、肉によりては異邦人にして、手にて肉に行ひたるかの割禮ありと稱ふる者に無割禮と稱へらるる汝ら、 12 曩にはキリストなく、イスラエルの民籍に遠く、約束に屬する諸般の契約に與りなく、世に在りて希望なく、神なき者なりき。 13 されど前に遠かりし汝ら今キリスト・イエスに在りて、キリストの血によりて近づくことを得たり。 14 彼は我らの平和にして、己が肉により、様々の誠命の規より成る律法を廢して、二つのものを一つとなし、怒る隔の中籬を毀ち給へり。これは二つのものを己に於て一つの新しき人に造りて平和をなし、 16 十字架によりて怨を滅し、また之によりて二つのものを一つの體となして神と和がしめん爲なり。 17 かつ來りて、遠かりし汝等にも平和を宣べ、近きものにも平和を宣へ給へり。 18 そはキリストによりて我ら二つのもの一つ御靈にありて父に近づくことを得たればなり。 19 されば汝等もはや旅人また寄寓人にあらず、聖徒と同じ國人また神の家族なり。 20 汝らは使徒と預言者との基の上に建てられたる者にして、キリスト・イエス自らその隅の首石たり。 21 おのおのの建造物、かれに在りて建て合せられ、彌増に聖なる宮、主のうちに成るなり。 22 汝等もキリストに在りて共に建てられ、御靈によりて神の御住となるなり。

Chapter 3

1 この故に汝ら異邦人のためにキリスト・イエスの囚人となれる我パウロ、 2 汝等のために我に賜ひたる神の恩恵の經綸は汝ら聞きしならん、 3 即ち我まへに簡單に書きおくりし如く、この奧義は黙示にて我に示されたり。 4 汝等これを讀みてキリストの奧義にかかはる我が悟を知ることを得べし。 5 この奧義は、いま御靈によりて聖使徒と聖預言者と共に顯されし如くに、前代には人の子らに示されざりき。 6 即ち異邦人が福音によりキリスト・イエスに在りて共に世嗣となり、共に一體となり、共に約束に與る者となる事なり。 7 我はその福音の役者とせらる。これ神の能力の活動に隨ひて我に賜ひたる賜物によるなり。 8 我は凡ての聖徒のうちの最小き者よりも小き者なるに、キリストの測るべからざる富を異邦人に傳へ、 9 また萬物を造り給ひし神のうちに、世々隠れたる奧義の經綸の如何なるもの乎をあらはす恩恵を賜は

りたり。 10 いま教會によりて神の豊なる知恵を、天の處にある政治と權威とに知らしめん爲なり。 11 これは永遠より我らの主キリスト・イエスの中に、神の定め給ひし御旨によるなり。 12 我らは彼に在りて彼を信ずる信仰により、臆せず疑はずして神に近づくことを得るなり。 13 されば汝らに請ふ、わが汝等のために受くる患難に就きて落膽すな、是なんぢらの譬なり。 14 この故に我は天と地とに在る諸族の名の起るところの父に跪づきて願ふ。 16 父その榮光の富にしたがひて、御靈により力をもて汝らの内なる人を強くし、 17 信仰によりてキリストを汝らの心に住はせ、汝らをして愛に根ざし、愛を基とし、 18 凡ての聖徒とともにキリストの愛の廣さ・長さ・高さ・深さの如何ばかりなるかを悟り、 19 その測り知るべからざる愛を知ることを得しめ、凡て神に満てる者を汝らに満しめ給はん事を。 20 願はくは我らの中にはたらく能力に隨ひて、我らの凡て求むる所、すべて思ふ所よりも甚く勝る事をなし得る者に、 21 榮光世々限りなく教會によりて、又キリスト・イエスによりて在らんことを、アアメン。

Chapter 4

1 されば主に在りて囚人たる我なんぢらに勸む。汝ら召されたる召に適ひて歩み、 2 事毎に謙遜と柔和と寛容とを用ひ、愛をもて互に忍び、 3 平和の繫のうちに勉めて御靈の賜ふ一致を守れ。 4 體は一つ、御靈は一つなり。汝らが召にかかはる一つ望をもて召されたるが如し。 5 主は一つ、信仰は一つ、バプテスマは一つ、 6 凡ての者の父なる神は一つなり。神は凡てのものの上に在し、凡てのものを貫き、凡てのもの内に在したまふ。 7 我等はキリストの賜物の量に隨ひて、おのおの恩恵を賜はりたり。 8 されば云へることあり『かれ高きところに昇りしとき、多くの虜をひきみ、人々に賜物を賜へり』と。 9 既に昇りしと云へば、まづ地の低き處まで降りしにあらすや。 10 降りし者は即ち萬の物に満たん爲に、もろもろの天の上に昇りし者なり。 11 彼は或人を使徒とし、或人を傳道者とし、或人を牧師・教師として與へ給へり。 12 これ聖徒を全うして職を行はせ、キリストの體を建て、 13 我等をしてみな信仰と神の子を知る知識とに一致せしめ、全き人、すなはちキリストの満ち足れるほどに至らせ、 14 また我等はもはや幼童ならず、人の欺騙と誘惑の術たる惡巧とより起る様々の教の風に吹きまはされず、 15 ただ愛をもて眞を保ち、育てて凡てのこと首なるキリストに達せん爲なり。 16 彼を本とし全身は凡ての節々の助にて整ひ、かつ聯り、肢體おのおの量に應じて働くにより、その體成長し、自ら愛によりて建てらるるなり。 17 されば我これを言ひ、主に在りて

證す、なんぢら今よりのち、異邦人のその心の虚無に任せて歩むが如く歩むな。18 彼らは念暗くなりて、其の内なる無知により、心の頑固によりて神の生命に遠ざかり、19 恥を知らず、放縱に凡ての汚穢を行はんとて己を好色に付せり。20 されど汝らはかくの如くならん爲にキリストを學べるにあらず。21 汝らは彼に聞き、彼に在りてイエスにある眞理に循ひて教へられしならん。22 即ち汝ら誘惑の慾のために亡ぶべき前の動作に屬ける舊き人を脱ぎ捨て、23 心の靈を新にし、24 眞理より出づる義と聖とにて、神に象り造られたる新しき人を著るべきことなり。25 されば虚偽をすてて各自その隣に實をかたれ、我ら互に肢なればなり。26 汝ら怒るとも罪を犯すな、憤恚を日の入るまで續くな。27 惡魔に機會を得さすな。28 盜する者は今よりのち盜すな、むしろ貧しき者に分け與へ得るために手づから働きて善き業をなせ。29 惡しき言を一切なんぢらの口より出すな、ただ時に隨ひて人の徳を建つべき善き言を出して、聴く者に益を得させよ。30 神の聖靈を憂ひしむな、汝らは贖罪の日のために聖靈にて印せられたるなり。31 凡ての苦・憤恚・怒・喧噪・誹謗、および凡ての惡意を汝等より棄てよ。32 互に仁慈と憐憫とあれ、キリストに在りて神の汝らを赦し給ひしごとく、汝らも互に赦せ。

Chapter 5

1 されば汝ら愛せらるる子供のごとく、神に效ふ者となれ。2 又キリストの汝らを愛し、我らのために己を善しき香の献物とし犠牲として、神に献け給ひし如く、愛の中をあゆめ。3 聖徒たるに適ふごとく、淫行、もろもろの汚穢、また慳貪を汝らの間に稱ふる事だに爲な。4 また恥づべき言・愚なる話・戲言を言ふな、これ宜しからぬ事なり、寧ろ感謝せよ。5 凡て淫行のもの、汚れたるもの、貪るもの、即ち偶像を拜む者どもの、キリストと神との國の世嗣たることを得ざるは、汝らの確く知る所なり。6 汝ら人の虚しき言に欺かるな、神の怒はこれらの事によりて不従順の子らに及ぶなり。7 この故に彼らに與する者となるな。8 汝ら舊は闇なりしが、今は主に在りて光となれり、光の子供のごとく歩め。9 (光の結ぶ實はもろもろの善と正義と誠實となり) 10 主の喜び給ふところの如何なるかを辨へ知れ。11 實を結ばぬ暗き業に與する事なく、反つて之を責めよ。12 彼らが隠れて行ふことは之を言ふだに恥づべき事なり。13 凡てかかる事は、責めらるるとき光にて顯さる、顯さる者はみな光となるなり。14 この故に言ひ給ふ『眠れる者よ、起きよ、死人の中より立ち上れ。さらばキリスト汝を照し給はん』15 されば慎みてその歩むところに心せよ、智からぬ者の如くせず、智き者

の如くし、16 また機會をうかがへ、そは時惡しければなり。17 この故に愚ならず、主の御意の如何を悟れ。18 酒に酔ふな、放蕩はその中にあり、むしろ御靈にて満され、19 詩と讚美と靈の歌とをもて語り合ひ、また主に向ひて心より且うたひ、かつ讚美せよ。20 凡ての事に就きて常に我らの主イエス・キリストの名によりて父なる神に感謝し、21 キリストを畏めて互に服へ。22 妻たる者よ、主に服ふごとく己の夫に服へ。23 キリストは自ら體の救主にして教會の首なるごとく、夫は妻の首なればなり。24 教會のキリストに服ふごとく、妻も凡てのこと夫に服へ。25 夫たる者よ、キリストの教會を愛し、之がために己を捨て給ひしごとく、汝らも妻を愛せよ。26 キリストの己を捨て給ひしは、水の洗をもて言によりて教會を潔め、これを聖なる者として、27 汚點なく皺なく、凡て斯くのごとく類なく、潔き瑕なき尊き教會を、おのれの前に建てん爲なり。28 斯くのごとく夫はその妻を己の體のごとく愛すべし。妻を愛するは己を愛するなり。29 己の身を憎む者は曾であることなし、皆これを育て養ふ、キリストの教會に於けるも亦かくの如し。30 我らは彼の體の肢なり、31 『この故に人は父母を離れ、その妻に合ひて二人のもの一體となるべし』32 この奧義は大なり、わが言ふ所はキリストと教會とを指せるなり。33 汝等おのおの己のごとく其の妻を愛せよ、妻も亦その夫を敬ふべし。

Chapter 6

1 子たる者よ、なんぢら主にありて両親に順へ、これ正しき事なり。2 『なんぢの父母を敬へ(これ約束を加へたる誠命の首なり)』3 さらばなんぢ幸福を得、また地の上に壽長からん』4 父たる者よ、汝らの子供を怒らすな、ただ主の薫陶と訓戒とをもて育てよ。5 僕たる者よ、キリストに従ふごとく畏れをのき、眞心をもて肉につける主人に従へ。6 人を喜ばする者の如く、ただ目の前の事のみを勤めず、キリストの僕のごとく心より神の御旨をおこなひ、7 人に事ふる如くせず、主に事ふるごとく快くつかへよ。8 所は奴隸にもあれ、自主にもあれ、各自おこなふ善き業によりて主より其の報を受くることを汝ら知ればなり。9 主人たる者よ、汝らも僕に對し斯く行ひと威嚇を止めよ、そは彼らと汝らとの主は天に在りて、偏り視たまふことなきを汝ら知ればなり。10 終に言はん、汝ら主にありて其の大能の勢威に頼りて強かれ。11 惡魔の術に向ひて立ち得んために、神の武具をもて鎧ふべし。12 我らは血肉と戦ふにあらず、政治・權威、この世の暗黒を掌るもの、天の處にある惡の靈と戦ふなり。13 この故に神の武具を執れ、汝ら惡しき日に遭ひて仇に立ちむかひ、凡ての事

を成就して立ち得んためなり。14 汝ら立つに誠を帶として腰に結び、正義を胸當として胸に當て、15 平和の福音の備を靴として足に穿け。16 この他なほ信仰の盾を執れ、之をもて惡しき者の凡ての火矢を消すことを得ん。17 また救の冑および御靈の劍、すなはち神の言を執れ。18 常にさまざまの祈と願とをなし、御靈によりて祈り、また目を覺して凡ての聖徒のためにも願ひて倦まざれ。19 又わが口を開くととき言を賜はり、憚らずして福音の奧義を示し、20 語るべき所を憚らず語り得るよう、我がためにも祈れ、我はこの福音のために使者となりて鎖に繋がれたり。21 愛する兄弟、主に在りて忠實なる役者テキコ、我が情況わが爲す所のことを、具に汝らに知らせん。22 われ彼を遣すは、我が事を汝らに知らせて、汝らの心を慰めしめん爲なり。23 願はくは父なる神および主イエス・キリストより賜ふ平安と、信仰に伴へる愛と、兄弟たちにならんことを。24 願はくは朽ちぬ愛をもて我らの主イエス・キリストを愛する凡ての者に御恵あらんことを。

ピリピ人への手紙

Chapter 1

1 キリスト・イエスの僕たる我ら、パウロとテモテと、書をピリピに在るキリスト・イエスに在る凡ての聖徒、および監督たちと執事たちとに贈る。2 願はくは我らの父なる神および主イエス・キリストより賜ふ恩恵と平安と汝らにならんことを。3 われ汝らを憶ふごとに、我が神に感謝し、4 常に汝ら衆のために、願のつどつど喜びて願をなす。5 是なんぢら初の日より今に至るまで、福音を弘むることに與るが故なり。6 我は汝らの衷に善き業を始め給ひし者の、キリスト・イエスの日まで之を全うし給ふべきことを確信す。7 わが斯くも汝ら衆を思ふは當然の事なり、我が繯に在る時にも、福音を辯明して之を堅うする時にも、汝らは皆われと共に恩恵に與るによりて、我が心になればなり。8 我いかにキリスト・イエスの心をもて汝ら衆を戀ひ慕ふか、その證をなし給ふ者は神なり。9 我は祈る、汝らの愛、知識ともろもろの悟とによりて彌が上にも増し加はり、10 善惡を辨へ知り、キリストの日に至るまで潔くして躡くことなく、11 イエス・キリストによる義の果を充して、神の榮光と譽とを顯さん事を。12 兄弟よ、我はわが身にありし事の反つて福音の進歩の助となりしを汝らが知らんことを欲するなり。13 即ち我が繯線のキリストの爲なることは、近衛の全營にも、他の凡ての人にも顯れ、14 かつ兄弟のうちの多くの者は、わが繯線によりて主を信ずる心を厚くし、懼る事なく、ます

ます勇みて神の言を語るに至れり。15 或者は嫉妬と分争とによりてキリストを宣傳へ、あるものは善き心によりて之を宣傳ふ。16 これは福音を辯明するために我が立てられたることを知り、愛によりてキリストを宣べ、17 かれは我が繯線に患難を加へんと思ひ、誠意によらず、徒黨によりて之を宣ふ。18 さらば如何、外貌にもあれ、眞にもあれ、孰も宣ぶる所はキリストなれば、我これを喜び、また之を喜ばん。19 是れはこのごとの汝らの祈とイエス・キリストの御靈の賜物とによりて、我が救となるべきを知ればなり。20 これは我が何事をも恥ぢずして、今も常のごとく聊かも臆することなく、生くるにも、死ぬるにも、我が身によりてキリストの崇められ給はんことを切に願ひ、また望むところに適へるなり。21 我にとりて、生くるはキリストなり、死ぬるもまた益なり。22 されど若し肉體にて生くる事わが勤勞の果となるならば、孰を選ぶべきか、我れこれに知らず。23 我はこの二つの間に介まれたり。わが願は世を去りてキリストと偕に居らんことなり、これ遙に勝るなり。24 されど我なほ肉體に留るは汝らの爲に必要なり。25 我これを確信する故に、なほ存て汝らの信仰の進歩と喜悅とのために、汝等すべての者と偕に留らんことを知る。26 これは我が再び汝らに到ることにより、汝らキリスト・イエスに在りて我にかかはる誇を増さん爲なり。27 汝等ただキリストの福音に相應しく日を過せ、さらば我が往きて汝らを見るも、離れみて汝らの事をきくも、汝らが靈を一つにして堅く立ち、心を一つにして福音の信仰のために共に戦ひ、28 凡ての事において逆ひ者に驚かされぬを知ることを得ん。その驚かされぬは、彼らには亡の兆、なんぢらには救の兆にて、此は神より出づるなり。29 汝等はキリストのために雷に彼を信ずる事のみならず、また彼のために苦しむ事をも賜はりたればなり。30 汝らが遭ふ戦闘は、曩に我の上に見しところ、今また我に就きて聞くと所に同じ。

Chapter 2

1 この故に若しキリストによる勸、愛による慰安、御靈の交際、また憐憫と慈悲とあらば、2 なんぢら念を同じうし、愛を同じうし、心を合せ、思ふことを一つにして、我が喜悅を充しめよ。3 何事にまれ、徒黨また虚榮のために己に、おのの謙遜をもて互に人を己に勝れりとせよ。4 おのおの己が事のみを顧みず、人の事をも顧みよ。5 汝らキリスト・イエスの心を心とせよ。6 即ち彼は神の貌にて居給ひしが、神と等しくある事を固く保たんとは思はず、7 反つて己を空しうし、僕の貌をとりて人の如くなれり。8 既に人の状にて現れ、己を卑うして死に至るまで、十字架の死に至るまで順ひ給へり。9 この故に神は彼を高く上げ

て、之に諸般の名にまさる名を賜ひたり。 10 これ天に在るもの、地に在るもの、地の下にあるもの、悉くイエスの名によりて膝を屈め、 11 且もろもろの舌の『イエス・キリストは主なり』と言ひあらはして、榮光を父なる神に歸せん爲なり。 12 されば我が愛する者よ、なんぢら常に服ひしごとく、我が居る時のみならず、我が居らぬ今もますます服ひ、畏れ戰きて己が救を全うせよ。 13神は御意を成さんために汝らの衷にはたらき、汝等をして志望をたて、業を行はしめ給へばなり。 14 なんぢら咳かず疑はずして、凡ての事をおこなへ。 15 是なんぢら責むべき所なく素直にして、此の曲れる邪惡なる時代に在りて神の瑕なき子とならん爲なり。汝らは生命の言を保ちて、世の光のごとく此の時代に輝く。 16 かくて我が走りしところ勞せしところ空しからず、キリストの日にわれ誇ることを得ん。 17 さらば汝らの信仰の供物と祭に加へて、我が血を灌ぐとも我は喜ばん、なんぢら衆と共に喜ばん。 18 かく汝等もよろこべ、我とともに喜べ。 19 われ汝らの事を知りて慰安を得んとて、速かにテモテを汝らに遣さんことを主イエスに頼りて望む。 20 そは彼のほかに我と同じ心をもて眞實に汝らのことを慮ばかる者なければなり。 21 人は皆イエス・キリストの事を求めず、唯おのれの事のみを求む。 22 されどテモテの鍊達なるは汝らの知る所なり、即ち子の父に於ける如く我とともに福音のために勤めたり。 23 この故に我わが身の成行を見れば、直ちに彼を遣さんことを望む。 24 我もまた速かに往くべきを主によりて確信す。 25 されど今は先われと共に働き共に戦ひし兄弟、すなはち汝らの使として我が窮乏を補ひしエパフロデトを、汝らに遣すを必要のことと思ふ。 26 彼は汝等すべての者を戀ひしたひ、又おのが病みたることの汝らに聞えしを以て實し居るに因りてなり。 27 彼は悲し病にかかりて死ぬばかりなりしが、神は彼を憐みたまへり、畜に彼のみならず、我をも憐み、憂に憂を重ねしめ給はざりき。 28 この故に急ぎて彼を遣す、なんぢらが再び彼を見て喜ばん爲なり。又わが憂を少うせん爲なり。 29 されば汝ら主にありて歡喜を盡して彼を迎へ、かつ斯くのごとき人を尊べ。 30 彼は汝らが我を助くるに當り、汝らの居らぬを補はんとて、己が生命を賭け、キリストの事業のために死ぬばかりになりたればなり。

Chapter 3

1 終に言はん、我が兄弟よ、なんぢら主に在りて喜べ。なんぢらに同じことを書きおくるは、我に煩はしきことなく、汝等には安んず。 2 なんぢら犬に心せよ、惡しき勞動人に心せよ、肉の割禮ある者に心せよ。 3 神の御靈によりて禮拜をなし、キリスト・イエスによりて誇り、肉を恃まぬ我らは

眞の割禮ある者なり。 4 されど我は肉にも恃むことを得るなり。もし他の人、肉に恃むところありと思はば、我は更に恃む所あり。 5 我は八日めに割禮を受けたる者にして、イスラエルの血統、ベニヤミンの族、ヘブル人より出でたるヘブル人なり。 6 律法に就きてはパリサイ人、 6 熱心につきては教會を迫害したるもの、律法によれる義に就きては責むべき所なかりし者なり。 7 されど曩に我が益たりし事はキリストのために損と思ふに至れり。 8 然り、我はわが主キリスト・イエスを知ることの優れたるために、凡ての物を損なりと思ひ、彼のために既に凡ての物を損せしが、之を塵芥のごとく思ふ。 9 これキリストを獲、かつ律法による己が義ならで、唯キリストを信ずる信仰による義、すなはち信仰に基きて神より賜はる義を保ち、キリストに在るを認められ、 10 キリストとその復活の力を知り、又その死に効ひて彼の苦難にあづかり、 11 如何にもして死人の中より甦へることを得んが爲なり。 12 われ既に取れり、既に全うせられたりと言ふにあらず、唯これを捉へんとて追ひ求む。キリストは之を得させんとて我を捉へたまへり。 13 兄弟よ、われは既に捉へたりと思はず、唯この一事を務む、即ち後のものを忘れ、前のものに向ひて勵み、 14 標準を指して進み、神のキリスト・イエスに由りて上に召したまふ召にかかはる褒美を得んとて之を追ひ求む。 15 されば我等のうち成人したる者は、みな斯くのごとき思を懐くべし、汝等もし何事にも異なる思を懐き居らば、神これをも示し給はん。 16 ただ我等はその至れる所に隨ひて歩むべし。 17 兄弟よ、なんぢら諸共に我に效ふものとなれ、且なんぢらの模範となる我らに循ひて歩むものを視よ。 18 そは我しばしば汝らに告げ、今また涙を流して告ぐる如く、キリストの十字架に敵して歩む者おほければなり。 19 彼らの終は滅亡なり。おのが腹を神となし、己が恥を光榮となし、ただ地の事のみを念ふ。 20 されど我らの國籍は天に在り、我らは主イエス・キリストの救主として其の處より來りたまふを待つ。 21 彼は萬物を己に服はせ得る能力によりて、我らの卑しき狀の體を化へて、己が榮光の體に象らせ給はん。

Chapter 4

1 この故に我が愛するところ慕ふところの兄弟、われの喜悅われの冠冕たる愛する者よ、斯くのごとく主にありて堅く立て。 2 我ユウオデヤに勤めストケに勤む、主にありて心を同じうせんことを。 3 また眞實に我と軛を共にする者よ、なんぢに求む。この二人の女を助けよ。彼らはクレメンヌ其のほか生命の書に名を録されたる我が同勞者と同じく、福音のために我とともに勤めたり。 4 汝ら常に主にありて喜べ、我また言ふ、なんぢら喜べ。 5 凡ての人

に汝らの寛容を知らしめよ、主は近し。 6 何事をも思ひ煩ふな、ただ事ごとに祈をなし、願をなし、感謝して汝らの求を神に告げよ。 7 さらば凡て人の思にすぐる神の平安は、汝らの心と思をキリスト・イエスによりて守らん。 8 終に言はん、兄弟よ、凡そ眞なること、凡そ尊ぶべきこと、凡そ正しきこと、凡そ潔よきこと、凡そ愛すべきこと、凡そ令聞あること、如何なる徳いかなる譽にても、汝等これらを念へ。 9 なんぢら我に學びしところ、受けしところ、聞きしところ、見し所を皆おこなへ、さらば平和の神なんぢらと偕に在さん。 10 汝らが我を思ふ心の今また萌したるを、われ主にありて甚く喜ぶ。汝らは固より我を思ひあたるなれど、機を得ざりしなり。 11 われ窮乏によりて之を言ふにあらず、我は如何なる狀に居るとも、足ることを學びたればなり。 12 我は卑賤に在る道を知り、富に在る道を知る。また飽くことにも、飢うることにも、富むことにも、乏しき事にも、一切の秘訣を得たり。 13 我を強くし給ふ者によりて、凡ての事をなし得るなり。 14 されど汝らが我が患難に與りしは善き事なり。 15 ピリピン人よ、汝らも知る、わが汝らに福音を傳ふる始、マケドニヤを離れ去るとき、授受して我が事に與りしは、汝等のみにして、他の教會には無かりき。 16 汝らは我がテサロニケに居りし時に、一度ならず二度までも我が窮乏に物贈れり。 17 これ贈物を求むるにあらず、唯なんぢらの益となる實の繁からんことを求むるなり。 18 我には凡ての物そなはりて餘あり、既にエパフロデトより汝らの贈物を受ければ、飽き足れり。これは馨しき香にして神の享け給ふところ、喜びたまふ所の供物なり。 19 かくてわが神は己の富に隨ひ、キリスト・イエスによりて汝らの凡ての窮乏を榮光のうちに補ひ給はん。 20 願はくは榮光世々限りなく、我らの父なる神にあれ、アマム。 21 汝らキリスト・イエスに在りて聖徒おのおのに安否を問へ、我と偕にある兄弟たち汝らに安否を問ふ。 22 凡ての聖徒、殊にカイザルの家のもの、汝らに安否を問ふ。 23 願はくは主イエス・キリストの恩恵、なんぢらの靈と偕に在らんことを。

コロサイ人への手紙

Chapter 1

1 神の御心によりてキリスト・イエスの使徒となれるパウロ及び兄弟テモテ、 2 書をコロサイに居る聖徒、キリストにありて忠實なる兄弟に贈る。願はくは我らの父なる神より賜ふ恩恵と平安と汝らに在らんことを。 3 我らは常に汝らの爲に祈りて、我らの主イエス・キリストの父なる神に感謝す。 4 これキリスト・イエ

スを信ずる汝らの信仰と、凡ての聖徒に對する汝らの愛とにつきて聞きたればなり。 5 かく聖徒を愛するは、汝らの爲に天に蓄へあるものを望むに因る。この望のことは汝らに及べる福音の眞の言によりて汝らが曾て聞きし所なり。 6 この福音は全世界にも及び、果を結びて増々大になれり。汝らが神の恩恵をききて眞に之を知りし日より、汝らの中に然りしが如し。 7 汝らが、我らと共に僕たる愛するエパラスより學びたるは、この福音なり。彼は汝らの爲にキリストの忠實なる役者にして、 8 汝らが御靈によりて懐ける愛を我らに告げたり。 9 この故に我らこの事を聞きし日より、汝等のために絶えず祈りかつ求むるは、汝ら靈のもろもろの知慧と穎悟とをもて神の御意を具に知り、 10 凡てのこと主を悦ばせんが爲に、その御意に従ひて歩み、凡ての善き業によりて果を結び、いよいよ神を知り、 11 また神の榮光の勢威に隨ひて賜ふもろもろの力によりて強くなり、凡ての事よろこびて忍び、かつ耐へ、 12 而して我らを光にある聖徒の嗣業に與るに足る者とし給ひし父に感謝せん事なり。 13 父は我らを暗黒の權威より救ひ出して、その愛し給ふ御子の國に遷したまへり。 14 我らは御子に在りて贖罪すなはち罪の赦を得るなり。 15 彼は見得べからざる神の像にして、萬の造られし物の先に生れ給へる者なり。 16 萬の物は彼によりて造らる、天に在るもの、地に在るもの、見ゆるもの、見えぬもの、或は位、あるひは支配、あるひは政治、あるひは權威、みな彼によりて造られ、彼のために造られたればなり。 17 彼は萬の物より先にあり、萬の物は彼によりて保つことを得るなり。 18 而して彼はその體なる教會の首なり、彼は始にして死人の中より最先に生れ給ひし者なり。これ凡ての事に就きて長とならん爲なり。 19 神は凡ての満ち足れる徳を彼に宿して、 20 その十字架の血によりて平和をなし、或は地にあるもの、或は天にあるもの、萬の物をして己と和がしむるを善とし給ひたればなり。 21 汝等もとは惡しき業を行ひて神に遠ざかり、心に其の敵となりしが、 22 今は神キリストの肉の體をもて、其の死により汝等をして己と和がしめ、潔く瑕なく責むべき所なくして、己の前に立たしめんし給ふなり。 23 汝等もし信仰に止り、之に基きて堅く立ち、福音の望より移らずば、斯くせらることを得べし。此の福音は汝らの聞きし所、また天の下なる凡ての造られし物に宣傳へられたるものにして、我パウロはその役者となれり。 24 われ今なんぢらの爲に受くる苦難を喜び、又キリストの體なる教會のために、我が身をもてキリストの患難の缺けたるを補ふ。 25 われ神より汝等のために與へられたる職に隨ひて教會の役者となれり。 26 これ神の言、すなはち歴世歴代かくれて、今神の聖徒に顯れたる奧義を宣傳へんとてなり。 27 神は聖徒をして異邦人の中なるこの奧

義の榮光の富の如何ばかりなるかを知らしめんと欲し給へり、此の奥義は汝らの中に在すキリストにして榮光の望なり。28 我らは此のキリストを傳へ、知慧を盡して凡ての人を訓戒し、凡ての人を教ふ。これ凡ての人をしてキリストに在り、全くなりて神の前に立つことを得しめん爲なり。29 われ之がために我が衷に能力をもて働き給ふものの活動にしたがひ、力を盡して勞するなり。

Chapter 2

1 我なんぢら及びラオデキヤに居る人々、その他すべて我が肉體の顔をまだ見ぬ人のために、如何に苦心するかを汝らの知らんことを欲す。2 かく苦心するは、彼らが心慰められ、愛をもて相列り、全き穎悟の凡ての富を得て、神の奥義なるキリストを知らん爲なり。3 キリストには知慧と知識との凡ての寶藏れあり。4 我これを言ふは、巧なる言をもて人の汝らを欺くこと勿らん爲なり。5 われ肉體にては汝らと離れ居れど、靈にては汝らと偕に居りて喜び、また汝らの秩序あるときキリストに對する信仰の堅きとを見るなり。6 汝らキリスト・イエスを主として受けたるにより、其のごとく彼に在りて歩め。7 また彼に根ざしてその上に建てられ、かつ教へられし如く信仰を堅くし、溢るばかり感謝せよ。8 なんぢら心すべし、恐らくはキリストに従はずして人の言傳と世の小學とに従ひ、人を惑す虚しき哲學をもて汝らを奪ひ去る者あらん。9 それ神の満ち足れる徳はことごとく形體をなしてキリストに宿れり。10 汝らは彼に在りて満ち足れるなり。彼は凡ての政治と權威との首なり。11 汝らまた彼に在りて手をもてせざる割禮を受けたり、即ち肉の體を脱ぎ去るものにして、キリストの割禮なり。12 汝らバプテスマを受けしとき、彼とともに葬られ、又かれを死人の中より甦へらせ給ひし神の活動を信するによりて、彼と共に甦へせられたり。13 汝ら前には諸般の咎と肉の割禮なきとに因りて死にたる者なりしが、神は汝らを彼と共に生かし、我らの凡ての咎を赦し、14 かつ我らを買むる規の證書、すなはち我らに逆ふ證書を塗抹し、これを中間より取り去りて十字架につけ、15 政治と權威とを擲ぎて之を公然に示し、十字架によりて凱旋し給へり。16 然れば汝ら食物あるひは飲物につき、祭あるいは月朔あるいは安息日の事につきて、誰にも審かるな。17 此等はみな來んとする者の影にして、其の本體はキリストに屬けり。18 殊更に謙遜をよそほひ御使を拜する者に、汝らの褒美を奪はるな。かかる者は見し所のものに基き、肉の念に隨ひて徒らに誇り、19 首に屬くことをせざるなり。全體は、この首によりて節々維々に助けられ、相聯り、神の育にて生長するなり。20 汝等もしキリストと共に死にて此の世の小學を離れしならば、何ぞなほ世に

生ける者のごとく人の誠命と教とに循ひて 21 『捫るな、味ふな、觸るな』と云ふ規の下に在るか。22 (此等はみな用ふれば盡くる物なり) 23 これらの誠命は、みづから定めたる禮拜と謙遜と身を惜まぬ事とによりて知慧あるごとく見ゆれど、實は肉慾の放縱を防ぐ力なし。

Chapter 3

1 汝等もしキリストと共に甦へられしならば、上にあるものを求めよ、キリスト彼處に在りて神の右に坐し給ふなり。2 汝ら上にあるものを念ひ、地に在るものを念ふな、3 汝らは死にたる者にして、其の生命はキリストとともに神の中に隠れ在ればなり。4 我らの生命なるキリストの現れ給ふとき、汝らも之とともに榮光のうちに現れん。5 されば地にある肢體、すなはち淫行・汚穢・情慾・また慳貪を殺せ、慳貪は偶像崇拜なり。6 神の怒は、これらの事によりて不従順の子らに來るなり。7 汝らもかかる人の中に日を送りし時は、これらの惡しき事に歩めり。8 されど今は凡て此等のこと及び怒・憤恚・惡意を棄て、謙と恥づべき言とを汝らの口より棄てよ。9 互に虚言をいふな、汝らは既に舊き人とその行爲とを脱ぎて、10 新しき人を著たればなり。この新しき人は、これを造り給ひしものの像に循ひ、いよいよ新になりて知識に至るなり。11 かくてギリシヤ人とコダヤ人、割禮と無割禮、あるひは兕狄、スクテヤ人・奴隸・自主の別ある事なし、それキリストは萬の物なり、萬のものの中にあり。12 この故に汝らは神の選民にして聖なる者また愛せらるる者なれば、慈悲の心・仁慈・謙遜・柔和・寛容を著よ。13 また互に忍びあひ、若し人に責むべき事あらば互に恕せ、主の汝らを恕し給へる如く汝らも然すべし。14 凡て此等のものの上に愛を加へよ、愛は徳を全うする帶なり。15 キリストの平和をして汝らの心を掌どらしめよ、汝らの召されて一體となりたるはこれが爲なり、汝ら感謝の心を懐け。16 キリストの言をして豊に汝らの衷に住ましめ、凡ての知慧によりて、詩と讚美と靈の歌とをもて、互に教へ互に訓戒し、恩恵に感じて心のうちに神を讚美せよ。17 また爲す所の凡ての事、あるひは言あるひは行爲、みな主イエスの名に頼りて爲し、彼によりて父なる神に感謝せよ。18 妻たる者よ、その夫に服へ、これ主にある者のなすべき事なり。19 夫たる者よ、その妻を愛せよ、苦をもて之を待たぬ。20 子たる者よ、凡ての事みな兩親に順へ、これ主の喜びたまふ所なり。21 父たる者よ、汝らの子供を怒らすな、或は落膽することあらん。22 僕たる者よ、凡ての事みな肉につける主人にしたがへ、人を喜ばする者の如く、ただ眼の前の事のみを勤めず、主を畏れ、眞心をもて従へ。23 汝ら

何事をなすにも人に事ふる如くせず、主に事ふる如く心より行へ。24 汝らは主より報として嗣業を受くることを知ればなり。汝らは主キリストに事ふる者なり。25 不義を行ふ者はその不義の報を受けん、主は偏り視 給ふことなし。

Chapter 4

1 主人たる者よ、汝らも天に主あるを知れば、義と公平とをもて其の僕をあしらへ。2 汝ら感謝しつつ目を覺して祈を常にせよ。3 また我らの爲にも祈て、神の我らに御言を傳ふる門をひらき、我等をしてキリストの奥義を語らしめ、4 之を我が語るべき如く顯させ給はんことを願へ、我はこの奥義のために繋がれたり。5 なんぢら機をうかがひ、外の人に對し知慧をもて行へ。6 汝らの言は常に恵を用ひ、鹽にて味つけよ。然らば如何にして各人に答ふべきかを知らん。7 愛する兄弟、忠實なる役者、主にありて我とともに僕たるテキコ、我がことを具に汝らに知らせん。8 われ殊に彼を汝らに遣すは、我らの事を知らしめ、又なんぢらの心を慰めしめん爲なり。9 汝らの中の一人、忠實なる愛する兄弟オネシモを彼と共につかはず、彼等この處の事を具に汝らに知らせん。10 我と共に囚人となれるアリストアルコ及びバルナバの從弟なるマルコ、汝らに安否を問ふ。此のマルコに就きては汝ら既に命を受けたり、彼もし汝らに到らば之を接けよ。11 またオストと云へるイエス汝らに安否を問ふ。割禮の者の中だ此の三人のみ、神の國のために働く我が同勞者にして我が慰安となりたる者なり。12 汝らの中の一人にてキリスト・イエスの僕なるエパfras 汝らに安否を問ふ。彼は常に汝らの爲に力を盡して祈をなし、汝らが全くなり、凡て神の御意を確信して立たんことを願ふ。13 我かれが汝らとラオデキヤ及びヒエラポリスに在る者との爲に甚く心を勞することを證す。14 愛する醫者ルカ及びデマス汝らに安否を問ふ。15 汝らラオデキヤにある兄弟とヌンバ及びその家にある教會とに安否を問へ。16 この書を汝らの中に讀みたらば、之をラオデキヤ人の教會にも讀ませ、汝等はまたラオデキヤより來る書を讀め。17 アルキボに言へ『主にありて受けし職を慎みて盡せ』と。18 我パウロ手づから安否を問ふ。わが線綫を記憶せよ。願はくは御恵なんぢらと偕に在らんことを。

テサロニケ人への手紙

Chapter 1

1 パウロ、シルワノ、テモテ、書を父なる神および主イエス・キリストにあるテサロニケ人の教會に贈る。願はくは恩恵と平安と汝らに在らん

ことを。2 われら祈のときに汝らを憶えて、常に汝ら衆人のために神に感謝す。3 これ汝らが信仰のはたらき、愛の勞苦、主イエス・キリストに對する望の忍耐を、我らの父なる神の前に絶えず念ふに因りてなり。4 神に愛せらるる兄弟よ、また汝らの選ばれたることを知るに因りてなり。5 それ我らの福音の汝らに至りしは、言にのみ由らず、能力と聖靈と大なる確信とに由れり。且われらが汝らの中にありて汝らの爲に如何なる行爲をなししかは、汝らの知る所なり。6 かくて汝らは大なる患難のうちにも、聖靈による喜悅をもて御言をうけ、我ら及び主に效ふ者となり、7 而してマケドニヤ及びアカヤに在る凡ての信者の模範となれり。8 それは主のことは汝等より出でて、啻にマケドニヤ及びアカヤに響きしのみならず、神に對する汝らの信仰のことは諸方に弘りたるなり。されば之に就きては何をも語るに及ばず。9 人々親しく我が汝らの中に入りし状を告げ、我らが汝らが偶像を棄てて神に歸し、活ける眞の神に事へ、10 神の死人の中より甦へらせ給ひし御子、すなはち我らを來らんとする怒より救ひ出すイエスの、天より降りたまふを待ち望むことを告ぐればなり。

Chapter 2

1 兄弟よ、我らの汝らに到りしことの空しからざりしは、汝ら自ら知る。2 前に我らは汝らの知ること、ピリピにて苦難と侮辱とを受けたれど、我らの神に頼りて大なる紛争のうちに、憚らず神の福音を汝らに語れり。3 我らの勸は、迷より出でず、汚穢より出でず、詭計を用ひず、4 神に慕せられて福音を委ねられたる者なれば、人を喜ばせんとせず、我らの心を鑿たまふ神を喜ばせ奉つらんとして語るなり。5 我らは汝らの知ることく何時にても詭譎の言を用ひず、事よせて慳貪をなさず(神これを證し給ふ) 6 キリストの使徒として重んぜらるべき者なれども、汝らにも他の者にも人よりは譽を求めず、7 汝らの中にありて優しきこと、母の己が子を育てやしなふ如くなりき。8 かく我らは汝らを戀ひ慕ひ、なんぢらは我らの愛する者となりたれば、啻に神の福音のみならず、我らの生命をも與へんと願へり。9 兄弟よ、なんぢらは我らの勞と苦難とを記憶す、われらは汝らの中の一人をも累はずまじとて、夜晝工をなし、勞しつつ福音を宣傳したり。10 また信じたる汝等にむかひて、如何に潔く正しく責むべき所なく行ひしかは、汝らも證し神も證し給ふなり。11 汝らは知る、我らが父のその子に對するごとく各人に對し、12 御國と榮光とに招きたまふ神の心に適ひて歩むべきことを勤め、また勵まし、また諭したるを。13 かくてなほ我ら神に感謝して已まざるは、汝らが神の言を我らより聞きし時、これを人の言とせず、神の言として受けし事なり。これは誠に

神の言にして、汝ら信ずる者のうちに働くなり。14 兄弟よ、汝らはユダヤに於けるキリスト・イエスにある神の教會に效ふ者となれり、彼らのユダヤ人に苦しめられたる如く、汝らも己が國人に苦しめられたるなり。15 ユダヤ人は主イエスをも預言者をも殺し、我らを追ひ出し、16 我らが異邦人に語りて救を得させんとするを拒み、神を悦ばせず、かつ萬民に逆ひ、かくして常に己が罪を充すなり。而して神の怒はかれらに臨みてその極に至れり。17 兄弟よ、われら心は離れねど、顔にて暫時なんぢらと離れ居れば、汝らの顔を見んことを愈々切に願ひて、18 (我パウロは一度ならず再度までも) なんぢらに到らんと爲たれど、サタンに妨げられたり。19 我らの主イエスの來り給ふとき、御前における我らの希望、また喜悅、また誇の冠冕は誰ぞ、汝らならずや。20 實に汝らは我らの光榮、我らの喜悅なり。

Chapter 3

1この故に、もはや忍ぶこと能はず、我等のみアテネに留ることに決し、2キリストの福音において神の役者たる我らの兄弟テモテを汝らに遣せり。これは汝らを堅うし、また信仰につきて勧め、3この患難によりて動かさる者の無からん爲なり。患難に遭ふことの我らに定りたるは、汝等みづから知る所なり。4 我らが患難に遭ふべきことは、汝らと偕に在りしとき預じめ告げたるが、今果して汝らの知るごとく然か成れり。5この故に最早われら忍ぶこと能はず、試むる者の汝らを試みて、我らの勞の空しくならんことを恐れ、なんぢらの信仰を知らんとて人を遣せり。6然るに今テモテ汝らより歸りて、汝らの信仰と愛とにつきて喜ばしき音信を聞かせ、又なんぢら常に我らを懇るに念ひ、我らに違はんことを切に望み居るは、我らが汝らに違はんことを望むに等しと告げたるによりて、7兄弟よ、われらは諸般の苦難と患難との中にも、汝らの信仰によりて慰安を得たり。8汝等もし主に在りて堅く立たば我らは生くるなり。9 汝等につきて我らの神の前によるごぶ大なる喜悅のために、如何なる感謝をか神に献ぐべき。10 我らは夜晝祈りて、汝らの顔を見んことと、汝らの信仰の足らぬ所を補はんこととを切に願ふ。11 願はくは我らの父なる神みづからと我らの主なるイエスと、我らを導きて汝らに到らせ給はんことを。12 願はくは主、なんぢら相互の愛および凡ての人に對する愛を増し、かつ豊にして、我らが汝らを受する如くならしめ、13 かくして汝らの心を堅うし、我らの主イエスの、凡ての聖徒と偕に來りたまふ時、われらの父なる神の前に潔くして責むべき所なからしめ給はんことを。

Chapter 4

1されば兄弟よ、終に我ら主イエスによりて汝らに求め、かつ勧む。なんぢら如何に歩みて神を悦ばすべきかを我等より學びし如く、また歩みをる如くに増々進まんことを。2 我らが主イエスに頼りて如何なる命令を與へしかは、汝らの知る所なり。3 それ神の御旨は、なんぢらの潔からんことにして、即ち淫行をつつしみ、4 各人おのが妻を得て、潔くかつ貴くし、5 神を知らぬ異邦人のごとく情慾を放縱にすまじきを知り、6 かかる事によりて兄弟を欺き、また掠めざらんことなり。凡て此等のことを行ふ者に主の報し給ふは、わが既に汝らに告げ、かつ證せしごとし。7 神の我らを招き給ひしは、汚穢を行はしめん爲にあらざ、潔からしめん爲なり。8この故に之を拒む者は人を拒むにあらざ、汝らに聖靈を與へたまふ神を拒むなり。9 兄弟の愛につきては汝らに書きおくるに及ばず。汝らは互に相愛する事を親しく神に教へられ、10 また既にマケドニヤ全國に在るすべての兄弟を愛するに因りてなり。されど兄弟よ、なんぢらに勧む。ますます之を行ひ、11 我らが前に命ぜしごとく力めて安靜にし、己の業をなし、手づから働け。12 これ外人の人に對して正しく行ひ、また自ら乏しきことなからん爲なり。13 兄弟よ、既に眠れる者のことに就きては、汝らの知らざるを好まず、希望なき他の人のごとく歎かざらん爲なり。14 我らの信ずる如く、イエスもし死にて甦へり給ひしならば、神はイエスによりて眠に就きたる者を、イエスと共に連れきたり給ふべきなり。15 われら主の言をもて汝らに言はん、我等のうち主の來りたまふ時に至るまで生きて存れる者は、既に眠れる者に決して先だたじ。16 それ主は、號令と御使の長の聲と神のラッパと共に、みづから天より降り給はん。その時キリストにある死人まづ甦へり、17 後に生きて存れる我らは、彼らと共に雲のうちに取り去られ、空中にて主を迎へ、斯くしていつまでも主と偕に居るべし。18 されば此等の言をもて互に相慰めよ。

Chapter 5

1兄弟よ、時と期とに就きては汝らに書きおくるに及ばず。2 汝らは主の日の盜人の夜きたるが如くに來ることを、自ら詳細に知ればなり。3 人々の平和無事なりと言ふほどに、滅亡にはかに彼らの上に来らん、妊める婦に産の苦痛の臨むがごとし、必ず遁ることを得じ。4 されど兄弟よ、汝らは暗に居らざれば、盜人の來るごとく其の日なんぢらに追及くことなし。5 それ汝等はみな光の子ども晝の子どもなり。我らは夜に屬く者にあらず、暗に屬く者にあらず。6 されば他人の人のごとく眠るべからず、目を覺して慎むべし

7 眠る者は夜眠り、酒に酔ふ者は夜酔ふなり。8 されど我らは晝に屬く者なれば、信仰と愛との胸當を著け、救の望の兜をかむりて慎むべし。9 それ神は我らを怒に遣はせんとにあらざ、主イエス・キリストに頼りて救を得させんと定め給へるなり。10 主の我等のために死に給へるは、我等をして寤めをともし眠りをともし己と共に生くることを得しめん爲なり。11 此の故に互に勧めて各自の徳を建つべし、これ汝らが常に爲す所なり。12 兄弟よ、汝らに求む。なんぢらの中に勞し、主にありて汝らを治め、汝らを訓戒する者を重んじ、13 その勤勞によりて厚く之を愛し敬へ。また互に相和ぐべし。14 兄弟よ、汝らに勧む、妄なる者を訓戒し、落膽せし者を勵まし、弱き者を扶け、凡ての人に對して寛容なれ。15 誰も人に對し惡をもて惡に報いぬやう慎め。ただ相互に、また凡ての人に對して常に善を追ひ求めよ。16 常に喜べ、17 絶えず祈れ、18 凡てのことに感謝せよ、これキリスト・イエスに由りて神の汝らに求め給ふ所なり。19 御靈を熄すな、20 預言を蔑すな、21 凡てのことに試みて善きものを守り、22 凡て惡の類に遠ざかれ。23 願はくは平和の神、みづから汝らを全く潔くし、汝らの靈と心と體とを全く守りて、我らの主イエス・キリストの來り給ふとき責むべき所なからしめ給はん事を。24 汝らを召したまふ者は眞實なれば、之を成し給ふべし。25 兄弟よ、我らのために祈れ。26 きよき接吻をもて凡ての兄弟の安否を問へ。27 主によりて汝らに命ず、この書を凡ての兄弟に讀み聞かせよ。28 願はくは主イエス・キリストの恩恵、なんぢらと偕に在らんことを。

テサロニケ人への手紙

Chapter 1

1 パウロ、シルワノ、テモテ、書を我らの父なる神および主イエス・キリストに在るテサロニケ人の教會に贈る。2 願はくは父なる神および主イエス・キリストより賜ふ恩恵と平安と汝らに在らんことを。3 兄弟よ、われら汝等につきて常に神に感謝せざるを得ず、これ當然の事なり。そは汝らの信仰おほいに加はり、各自みな互の愛を厚くしたればなり。4 されば我らは、汝らが忍べる凡ての迫害と患難との中にありて保ちたる忍耐と信仰とを、神の諸教會の間に誇る。5 これ神の正しき審判の兆にして、汝らが神の國に相應しき者とならん爲なり。今その御國のために苦難を受く。6 汝らに患難を加ふる者に患難をもて報い、患難を受くる汝らに、我らと共に安息をもて報い給ふは、神の正しき事な

り。7 即ち主イエス焔の中にその能力の御使たちと共に天より顯れ、8 神を知らぬ者と我らの主イエスの福音に服はぬ者にと報いをなし給ふとき、9 かかる者どもは主の顔とその能力の榮光とを離れて、限りなき滅亡の刑罰を受くべし。10 その時は主おのが聖徒によりて崇められ、凡ての信ずる者(なんぢらも我らの證を信じたる者なり)によりて讃められんとて來りたまふ日なり。11 これに就きて我ら常に汝らのために祈るは、我らの神の汝等をして召に適ふ者となし、能力をもて汝らの凡て善に就ける願と信仰の業とを成就せしめ給はんことなり。12 これ我らの神および主イエス・キリストの恵によりて、我らの主イエスの御名の汝らの中に崇められ、又なんぢらも彼に在りて崇められん爲なり。

Chapter 2

1 兄弟よ、我らの主イエス・キリストの來り給ふこと、又われらが主の許に集ふことに就きては、汝らに求む。2 或は靈により、或は言により、或は我等より出でし如き書により、主の日すでに來りりとて、容易く心を動かしかつ驚かざらん事を。3 誰が如何にすとも、それに欺かるな。その日の前に背教の事あり、不法の人すなはち滅亡の子あらはれざるを得ず、4 彼はすべて神と稱ふる者および人の拜む者に逆ひ、此等よりも己を高くし、遂に神の聖所に坐し己を神として見する者なり。5 われ汝らと偕に在りし時、これらの事を告げしを汝ら憶えぬか。6 彼をして己が時に至りて顯れしめんために、彼を阻めをる者を汝らは知る。7 不法の秘密は既に働けり、然れど此はただ阻めをる者の除かるまでなり。8 かくて其のとき不法の者あらはれん、而して主イエス御口の氣息をもて彼を殺し、降臨の輝耀をもて彼を亡し給はん。9 彼はサタンの活動に従ひて來り、もろもろの虚偽なる力と徴と不思議と、10 不義のもろもろの誑惑とを行ひて、亡ぶる者どもに向はん、彼らは眞理を受する愛を受けずして、救はることを爲ざればなり。11 この故に神は、彼らが虚偽を信ぜんために惑をその中に働かせ給ふ。12 これ眞理を信ぜず不義を喜ぶ者の、みな審かれん爲なり。13 されど主に愛せらるる兄弟よ、われら常に汝等のために神に感謝せざるを得ず。神は御靈によれる潔と眞理に對する信仰とをもて、始より汝らを救に選び、14 また我らの主イエス・キリストの榮光を得させんと、我らの福音をもて汝らを招き給へばなり。15 されば兄弟よ、堅く立ちて我らの言あるひは書に由りて教へられたる傳を守れ。16 我らの主イエス・キリスト、及び我らを受し恩恵をもて永遠の慰安と善き望とを與へ給ふ我らの父なる神、17 願はくは汝らの心を慰めて、凡ての善き業と言とに堅うし給はんことを。

Chapter 3

1終に言はん、兄弟よ、我らの爲に祈れ、主の言の汝らの中における如く、疾く弘りて崇められん事と、2われらが無法なる悪人より救はれんことを祈れ。そは人みな信仰あるに非ざればなり。3されど神は眞實なれば、汝らを堅うし汝らを護りて、悲しき者より救ひ給はん。4かくて我らの命ずることを汝らが今も行ひ、後もまた行はんことを主によりて信ずるなり。5願はくは主なんぢらの心を、神の愛とキリストの忍耐とに導き給はんことを。6兄弟よ、我らの主イエス・キリストの名によりて汝らに命ず、我等より受けし傳に從はずして妄に歩む凡ての兄弟に遠ざかれ。7如何にして我らに効ふべきかは、汝らの自ら知る所なり。我らは汝らの中において妄なる事をせず、8價なしに人のパンを食せず、反つて汝等のうち一人をも累はさざらんために勞と苦難とをもて、夜晝はたらけり。9これは權利なき故にあらず、汝等をして我らに效はしめん爲に、自ら模範となりたるなり。10また汝らと偕に在りしとき、人もし働くことを欲せずば食すべからずと命じたりき。11聞く所によれば、汝等のうちに妄に歩みて何の業をもなさず、徒事にたづさる者ありと。12我ら斯くのごとき人に、靜に業をなして己のパンを食せんことを、我らの主イエス・キリストに由りて命じかつ勤む。13兄弟よ、なんぢら善を行ひて倦むな。14もし此の書にいへる我らの言に從はぬ者あらば、その人を認めて交ることをすな、彼みづから恥ぢんためなり。15然れど彼を仇の如くせず、兄弟として訓戒せよ。16願はくは平和の主、みづから何時にても凡ての事に平和を汝らに與へ給はんことを。願はくは主なんぢら凡ての者と偕に在さん事を。17我パウロ手づから筆を執りて汝らの安否を問ふ。これ我がすべての書の記章なり。わが書けるものは斯くの如し。18願はくは我らの主イエス・キリストの恩恵なんぢら凡ての者と偕ならんことを。

テモテへの手紙

Chapter 1

1 我らの救主なる神と我らの希望なるキリスト・イエスの命によりて、キリスト・イエスの使徒となれるパウロ、2書を信仰に由りて我が眞實の子たるテモテに贈る。願はくは父なる神および我らの主キリスト・イエスより賜ふ恩恵と憐憫と平安と、汝に在らんことを。3我マケドニヤに往きしとき汝に勤めし如く、汝なほエペソに留まり、ある人々に命じて、異なる教を傳ふることなく、4 昔話と窮りなき系圖とに心を寄する事なからしめよ。此等のことは信

仰に基ける神の經綸の助とならず、反つて議論を生ずるなり。5命令の目的は清き心と善き良心と偽りなき信仰とより出づる愛にあり。6ある人々これらの事より外れて虚しき物語にうつり、7律法の教師たらんと欲して、反つて其の言ふ所その確證する所を自ら悟らず。8律法は道理に循ひて之を用ひば善き者なるを我らは知る。9律法を用ふる者は、律法の正しき人の爲にあらずして、不法のもの、服従せぬもの、敬虔ならぬもの、罪あるもの、潔からぬもの、妄なるもの、父を撃つもの、母を撃つもの、人を殺す者、10淫行のもの、男色を行ふもの、人を誘拐すもの、偽るもの、いつはり誓ふ者の爲、そのほか健全なる教に逆ふ凡ての事のために設けられたるを知るべし。11これは我に委ね給ひし幸福なる神の榮光の福音に循へるなり。12我に能力を賜ふ我らの主キリスト・イエスに感謝す。13われ曩には洗す者、迫害する者、暴行の者なりしに、我を忠實なる者として、この職に任じ給ひたればなり。われ信ぜぬ時に知らずして行ひし故に憐憫を蒙れり。14而して我らの主の恩恵は、キリスト・イエスに由れる信仰および愛とも溢るばかり彌増せり。15『キリスト・イエス罪人を救はん爲に世に來り給へり』とは、信ずべく正しく受くべき言なり、其の罪人の中にて我は首なり。16然るに我が憐憫を蒙りしは、キリスト・イエス我を首に寛容をことごとく顯し、この後、かれを信じて永遠の生命を受けんとする者の模範となし給はん爲なり。17願はくは萬世の王、すなはち朽ちず見えざる唯一の神に、世々限りなく尊貴と榮光とあらん事を、アメン。18わが子テモテよ、汝を指したる凡ての預言に循ひて、我この命令を汝に委ぬ。これ汝がその預言により、信仰と善き良心とを保ちて、善き戦闘を戦はん爲なり。19或人よき良心を棄てて信仰の破船をなせり。20その中にヒメナオとアレキサンデルとあり、彼らに洗すまじきことを學ばせんとて、我これをサタンに付せり。

Chapter 2

1さればわれ第一に勤む、凡ての人のため、王たち及び凡て權を有つもの爲に、おのおの願・祈禱・とりなし・感謝せよ。2是われら敬虔と謹嚴とを盡して、安らかに靜に一生を過さん爲なり。3斯くするは美事にして、我らの救主なる神の御意に適ふことなり。4神は凡ての人の教はれて、眞理を悟るに至らんことを欲し給ふ。5それ神は唯一なり、また神と人との間の中保も唯一にして、人なるキリスト・イエス是なり。6彼は己を與へて凡ての人の贖價となり給へり、時至りて證せらる。7我これが爲に立てられて宣傳者となり、使徒となり（我は眞を言ひて虚偽を言はず）また信仰と眞とをもて異邦人を教ふる教師となれり。8これ故にわれ望む

、男は怒らず事はず、何れの處にても潔き手をあげて祈らんことを。9また女は恥を知り、慎みて宜しきに合ふ衣にて己を飾り、編みたる頭髮と金と眞珠と價賣き衣とを飾とせず、10善き業をもて飾とせんことを。これ神を敬はんと公言する女に適へる事なり。11女は凡てのこと従順にして靜に道を學ぶべし。12われ女の教ふることと男の上に權を執ることとを許さず、ただ靜にすべし。13それアダムは前に造られ、エバは後に造られたり。14アダムは惑されず、女は惑されて罪に陥りたるなり。15然れど女もし慎みて信仰と愛と潔とに居らば、子を生むことに困りて救はるべし。

Chapter 3

1『人もし監督の職を慕はば、これよき業を願ふなり』とは、信ずべき言なり。2それ監督は責むべき所なく、一人の妻の夫にして、自ら制し、慎み、品行正しく、旅人を懇るに侍り、能く教へ、3酒を嗜まず、人を打たず、寛容にし、争はず、金を貪らず、4善く己が家を理め、謹嚴にして子女を従順ならしむる者たるべし。5（人もし己が家を理むることを知らずば、争でが神の教會を扱ふことを得ん）6また新に教に入りし者ならざるべし、恐らくは傲慢になりて悪魔と同じ審判を受くるに至らん。7外の人にも令聞ある者たるべし、然らずば誹謗と惡魔の囂とに陥らん。8執事もまた同じ謹嚴にして、言を二につせず、大酒せず、恥づべき利をとらず、9潔き良心をもて信仰の奧義を保つものたるべし。10まづ彼らを試みて責むべき所なくば、執事の職に任ずべし。11女もまた謹嚴にして人を誘らず、自ら制して凡ての事に忠實なる者たるべし。12執事は一人の妻の夫にして、子女と己が家とを善く理むる者たるべし。13善く執事の職をなす者は良き地位を得、かつキリスト・イエスに於ける信仰につきて大なる勇氣を得るなり。14われ速かに汝に往かんことを望めど、今これらの事を書きおくるは、15若し遅からんとき、人の如何に神の家に行ふべきかを汝に知らしめん爲なり。神の家は活ける神の教會なり、眞理の柱、眞理の基なり。16實に大なるかな、眞理の奧義『キリストは肉にて顯され、靈にて義とせられ、御使たちに見られ、もろもろの國人に宣傳へられ、世に信ぜられ、榮光のうちに上げられ給へり』

Chapter 4

1されど御靈あきらかに、或人の後の日に及びて、惑す靈と惡鬼の教とに心を寄せて、信仰より離れんことを言ひ給ふ。2これ虚偽をいふ者の偽善に由りてなり。彼らは良心を燒金にて熔かれ、3婚姻するを禁じ、食を斷つことを命ず。されど食は神の造り給へる物にして、信じか

つ眞理を知る者の感謝して受くべきものなり。4神の造り給へる物はみな善し、感謝して受くる時は棄つべき物なし。5そは神の言と祈とによりて潔めらるるなり。6汝もし此等のことを兄弟に教へば、信仰と汝の從ひたる善き教との言にて養はるる所のキリスト・イエスの良き役者たるべし。7されど妄なる談と老いたる女の昔話とを捨てよ、また自ら敬虔を修行せよ。8體の修行もいささかは益あれど、敬虔は今の生命と後の生命との約束を保ちて凡ての事に益あり。9これ信ずべく正しく受くべき言なり。10我らは之がために勞しかつ苦心す、そは我ら凡ての人、殊に信ずる者の救主なる活ける神に望を置けばなり。11汝これらの事を命じかつ教へよ。12なんぢ年若きをもて人に輕んぜらるな、反つて言にも、行状にも、愛にも、信仰にも、潔にも、信者の模範となれ。13わが到るまで、讀むことと勤むることと教ふる事に心を用ひよ。14なんぢ長老たちの按手を受け、預言によりて賜はりたる賜物を等閑にすな。15なんぢ心を傾けて此等のことを専ら務めよ。汝の進歩の明かならん爲なり。16なんぢ己とおのれの教とを慎みて此等のことに怠るな、斯くして己と聽く者とを救ふべし。

Chapter 5

1老人を譴責すな、反つて之を父のごとく勤め、若き人を兄弟の如くに、2老いたる女を母の如くに勤め、若き女を姉妹の如くに全き貞潔をもて勤めよ。3寡婦のうちの眞の寡婦を敬へ。4されど寡婦に子もしくは孫あらば、彼ら先づ己の家に孝を行ひて親に恩を報ゆることを學ぶべし。これ神の御意にかなふ事なり。5眞の寡婦にして獨残りたる者は、望を神におきて、夜も晝も絶えず願と祈とを爲す。6されど快樂を放恣にする寡婦は、生けりと雖も死にたる者なり。7これらの事を命じて彼らに責むべき所なからしめよ。8人もし其の親族、殊に己が家族を顧みずば、信仰を棄てたる者にて、不信者よりも更に惡しきなり。9六十歳以下の寡婦は寡婦の籍に記すべからず、記すべきは一人の夫の妻たりし者にして、10善き業の聲聞あり、或は子女をそだて、或は旅人を宿し、或は聖徒の足を洗ひ、或は惱める者を助くる等、もろもろの善き業に従ひし者たるべし。11若き寡婦は籍に記すな、彼らキリストに背きて心亂る時は、嫁ぐことを欲し、12初の誓約を棄つるに困りて批難を受くべければなり。13彼等はまた懶惰に流れて家々を遊びめぐり、畜に懶惰なるのみならず、言多きして徒事にたづさはり、言ふまじき事を言ふ。14されば若き寡婦は嫁ぎて子を生み、家を理めて敵に少しにても誇るべき機を與へざらんことを我は欲す。15彼らの中には既に迷ひて

サタンに従ひたる者あり。 16 信者たる女もし其の家に寡婦あらば、自ら之を助けて教會を煩はすな。これ眞の寡婦を教會の助けん爲なり。 17 善く治むる長老、殊に言と教とをもて勞する長老を一層尊ぶべき者とせよ。 18 聖書に『穀物を碾す牛に口籠を繋ぐべからず』また『労働人のその價を得るは相應しきなり』と云へばなり。 19 長老に對する訴訟は二三人の證人なくば受くべからず。 20 罪を犯せる者をば衆の前にて責めよ、これ他人をも懼れしめんためなり。 21 われ神とキリスト・イエスと選ばれたる御使たちとの前にて嚴かに汝に命ず、何事も偏り行はず、偏頗なく此等のことを守れ。 22 輕々しく人に手を按くな、人の罪に與るな、自ら守りて潔くせよ。 23 今よりのち水のみを飲まず、胃のため、又しばしば病に罹る故に、少しく葡萄酒を用ひよ。 24 或人の罪は明かにして先だちて審判に往き、或人の罪は後にしたがつ。 25 斯くのごとく善き業も明かなり、然らざる者も遂には隠ること能はず。

Chapter 6

1おほよそ軛の下にありて奴隷たる者は、おのれの主人を全く尊ぶべき者とすべし。これ神の名と教との譏られざらん爲なり。 2 信者たる主人を有てる者は、その兄弟なるに因りて之を輕んぜず、反つて彌増々これに事ふべし。その益を受くる主人は信者にして愛せらるる者なればなり。汝これらの事を教へかつ勧めよ。 3 もし異なる教を傳へて、健全なる言すなはち我らの主イエス・キリストの言と、敬虔にかなふ教とを肯はぬ者あらば、 4 その人は傲慢にして何をも知らず、ただ議論と言争とにのみ耽るなり、之によりて嫉妬・争鬪・惡しき念おこり、 5 また心腐りて眞理をはなれ、敬虔を利益の道とおもふ者の争論おこるなり。 6 されど足ることを知りて敬虔を守る者は、大なる利益を得るなり。 7 我らは何を携へて世に来らず、また何を携へて世を去ること能はざればなり。 8 ただ衣食あらば足りりとせん。 9 されど富まんを欲する者は、誘惑と竊、また人を滅亡と沈淪とに溺らす愚にして害ある各様の慾に陥るなり。 10 それ金を愛するは諸般の惡しき事の根なり、ある人々これを慕ひて信仰より迷ひ、さまざまの痛をもて自ら己を刺しとほせり。 11 神の人よ、なんぢは此等のことを避けて、義と敬虔と信仰と愛と忍耐と柔和とを追い求め、 12 信仰の善き戦闘をたたかへ、永遠の生命をとらへよ。汝これが爲に召を蒙り、また多くの證人の前にて善き言明をなせり。 13 われ凡ての物を生かしたまふ神のまへ、及びポンテオ・ピラトに向ひて善き言明をなし給ひしキリスト・イエスの前にて汝に命ず。 14 汝われらの主イエス・キリストの現れたまふ時まで汚點なく責むべき

所なく、誠命を守れ。 15 時いたらば幸福なる唯一の君主、もろもろの王の王、もろもろの主の主、これを顯し給はん。 16 主は唯ひとり不死を保ち近づきがたき光に住み、人の未だ見ず、また見ること能はぬ者なり。願はくは尊貴と限りなき權力と彼にあらんことを、アアメン。 17 汝この世の富める者に命ぜよ。高ぶりたる思をもたず、定なき富をたのまずして、唯われらを樂しませんとて萬の物を豊に賜ふ神に依頼み、 18 善をおこなひ、善き業に富み、惜みなく施し、分け與ふることを喜び、 19 かくて己のために善き基を蓄へ、未來の備をなして眞の生命を捉ふることを爲よと。 20 テモテよ、なんぢ委ねられたる事を守り、妄なる虚しき物語、また偽りて知識と稱ふる反對論を避けよ。 21 ある人々この知識を装ひて信仰より外れたり。願はくは御惠なんじと偕に在らんことを。

テモテへの手紙

Chapter 1

1 神の御意により、キリスト・イエスにある生命の約束に循ひて、キリスト・イエスの使徒になれるパウロ、 2 書を我が愛する子テモテに贈る。願はくは父なる神および我らの主キリスト・イエスより賜ふ、恩恵と憐憫と平安と汝に在らんことを。 3 われ夜も晝も祈の中に絶えず汝を思ひて、わが先祖に效ひ清き良心をもて事ふる神に感謝す。 4 我なんぢの涙を憶え、わが歡喜の満ちん爲に汝を見んことを欲す。 5 是なんぢに在る虚偽なき信仰をおもひ出すに因りてなり。その信仰の曩に汝の祖母ロイス及び母ユニケに宿りしごとく、汝にも然るを確信す。 6 この故に、わが按手に因りて汝の内に得たる神の賜物をますます熾にせんことを勧めむ。 7 是は神の我らに賜ひたるは、臆する靈にあらず、能力と愛と謹慎との靈なればなり。 8 されば汝われらの主の證をなす事と、主の囚人たる我とを恥とすな、ただ神の能力に隨ひて福音のために我とともに苦難を忍べ。 9 神は我らを救ひ聖なる召をもて召し給へり。是われらの行爲に由るにあらず、神の御旨にて創世の前にキリスト・イエスをもて我らに賜ひし恩恵に由るなり。 10 この恩恵は今われらの救主キリスト・イエスの現れ給ふに因りて顯れたり。彼は死をほろぼし、福音をもて生命と朽ちざる事を明かにし給へり。 11 我はこの福音のために立てられて宣傳者・使徒・教師となれり。 12 之がために我これらの苦難に遭ふ。されど之を恥とせず、我わが依頼む者を知り、且わが委ねたる者、かの日に至るまで守り得給ふことを確信すればなり。 13 汝キリスト・イエスにある信仰と愛とをもて我より聞き健全なる言の模範を保ち、 1

4 かつ委ねられたる善きものを我等のうちに宿りたまふ聖靈に頼りて守るべし。 15 アジアに居る者みな我を棄てしは汝の知る所なり、その中にフゲロとヘルモゲネとあり。 16 願はくは主オネシポロの家に憐憫を賜はんことを。彼はしばしば我を慰め、又わが鎖を恥とせず。 17 そのロマに居りし時には懇ろに尋ね來りて、遂に逢ひたり。 18 願はくは主かの日にいたり主の憐憫を彼に賜はんことを、彼がエペソにて我に事へしことの如何ばかりなりしかは、汝の能く知るところなり。

Chapter 2

1 わが子よ、汝キリスト・イエスにある恩恵によりて強かれ。 2 且おほくの證人の前にて、我より聞きし所のことを他の者に教へ得る忠實なる人々に委ねよ。 3 汝キリスト・イエスのよき兵卒として我とともに苦難を忍べ。 4 兵卒を務むる者は生活のために纏はるる事なし、これ募れる者を喜ばせんとすればなり。 5 技を競ふ者、もし法に隨ひて競はずば冠冕を得ず。 6 勞する農夫まづ實の分配を得べきなり。 7 汝わが言ふ所をおもへ、主なんぢに凡ての事に就きて悟を賜はん。 8 わが福音に云へる如く、ダビデの裔にして死人の中より甦り給へるイエス・キリストを憶えよ。 9 我はこの福音のために苦難を受けて惡人のごとく繋がるに至れり、されど神の言は繋がれたるにあらざり。 10 この故に我えらばれたる者のために凡ての事を忍ぶ。これ彼等をして永遠の光榮と共にキリスト・イエスによる救を得しめんとてなり。 11 ここに信すべき言あり『我等もし彼と共に死にたる者ならば、彼と共に生くべし。 12 もし耐へ忍ばば、彼と共に王となるべし。若し彼を否まば、彼も我らを否み給はん。 13 我らは眞實ならずとも、彼は絶えず眞實にましませり、彼は己を否み給ふこと能はざればなり。 14 汝かれらに此等のことを思ひ出さしめ、かつ言争する事なきやう神の前にて嚴かに命ぜよ、言争は益なくして聞く者を滅亡に至らしむ。 15 なんぢ眞理の言を正しく教へ、恥づる所なき労働人となりて、神の前に練達せる者とらんことを勧め。 16 また妄なる虚しき物語を避けよ。かかる者はますます不敬虔に進み、 17 その言は脱疽のごとく腐れひろがるべし、ヒメナオとピレトとは斯くのごとき者の中にあり。 18 彼らは眞理より外れ、復活ははや過ぎたりと云ひて、或人々の信仰を覆へすなり。 19 されど神の据系給へる堅き基は立てり、之に印あり、記して曰ふ『主おのれの者を知り給ふ』また『凡て主の名を稱ふる者は不義を離るべし』と。 20 大なる家の中には金銀の器あるのみならず、木また土の器もあり、貴きに用ふるものあり、また賤しきものに用ふるものあり。 21 人もし賤しきものを離れて自己を潔よくせば貴

きに用ひらるる器となり、淨められて主の用に適ひ、凡ての善き業に備へらるべし。 22 汝わかき時の慾を避け、主を清き心にて呼び求むる者とともに、義と信仰と愛と平和とを追い求めよ。 23 愚なる無學の議論を棄てよ、これより分争の起るを知らばなり。 24 主の僕は争ふべからず、凡ての人に優しく能く教へ忍ぶことをなし、 25 逆ぶ者をば柔和をもて戒むべし、神あるひは彼らに悔改むる心を賜ひて眞理を悟らせ給はん。 26 彼ら一度は惡魔に囚はれたれど、醒めてその羈をのがれ、神の御心を行ふに至らん。

Chapter 3

1 されど汝これを知れ、末の世に苦しき時きたたらん。 2 人々おのれを愛する者・金を愛する者・誇るもの・高ぶる者・罵るもの・父母に逆ふもの・恩を忘るる者・潔からぬ者、 3 無情なる者・怨を解かぬ者・讒る者・節制なき者・殘刻なる者・善を好まぬ者、 4 友を賣る者・放縱なる者・傲慢なる者・神よりも快樂を愛する者、 5 敬虔の貌をとりてその徳を捨つる者とならん、斯かる類の者を避けよ。 6 彼らの中には人の家に潜り入りて愚なる女を虜にする者あり、斯くせらるる女は罪を積み重ねて各様の慾に引かれ、 7 常に學べども眞理を知る知識に至ること能はず。 8 彼の者らはヤンネとヤンプレとがモーセに逆ひし如く、眞理に逆ふもの、心の腐れたる者、また信仰につきて棄てられたる者なり。 9 されど此の上になほ進むこと能はじ、そはかの二人のごとく彼らの愚なる事も亦すべての人に顯るべければなり。 10 汝は我が教誨・品行・志望・信仰・寛容・愛・忍耐・迫害、および苦難を知り、 11 またアンテオケ、イコニオム、ルメラテに起りし事、わが如何なる迫害を忍びしかを知る。主は凡てこれらの中より我を救ひ出したまへり。 12 凡そキリスト・イエスに在りて敬虔をもて一生を過さんとする者は迫害を受くべし。 13 惡しき人々と人を欺く者は、ますます惡しき人と、人を惡し、また人に惑されん。 14 されど汝は學びて確信したる所に常に居れ。なんぢ誰より之を學びしかを知り、 15 また幼き時より聖なる書を識りし事を知ればなり。この書はキリスト・イエスを信する信仰によりて教に至らしむる知恵を汝に與へ得るなり。 16 聖書はみな神の感動によるものにして、教誨と譴責と矯正と義を薰陶するとに益あり。 17 これ神の人の全くなりて諸般の善き業に備を全うせん爲なり。

Chapter 4

1 われ神の前また生ける者と死にたる者とを審かんとし給ふキリスト・イエスの前にて、その顯現と御國とおもて嚴かに汝に命ず。 2 なんぢ御言を宣傳へよ、機を得るも機を得ざるも常に勧め、寛容と教誨

とを盡して責め、戒め、勧めよ。3 人々健全なる教に堪へず、耳痒くして私慾のまにまに己がために教師を増し加へ、4 耳を眞理より背けて昔話に移る時來らん。5 されど汝は何事にとも憤み、苦難を忍び、傳道者の業をなし、なんぢの職を全うせよ。6 我は今供物として血を灑がんとす、わが去るべき時は近づけり。7 われ善き戦闘をたたかひ、走るべき道程を果し、信仰を守れり。8 今よりのち義の冠冕わが爲に備はれり。かの日に至りて正しき審判主なる主、これを我に賜はん、甞に我のみならず、凡てその顯現を慕ふ者にも賜ふべし。9 なんぢ勉めて速かに我に來れ。10 デマスは此の世を愛し、我を棄ててテサロニケに往き、クレステスはガラテヤに、テトスはダルマテヤに往きて、11 唯ルカのみ我とともに居るなり。汝マルコを連れて共に來れ、彼は職のために我に益あればなり。12 我テキコをエペソに遣せり。13 汝きたる時わがトロアスにてカルボの許に遣し置きたる外衣を携へきたれ、また書物、殊に羊皮紙のものを携へきたれ。14 金細工人アレキサデル大に我を惱せり。主はその行爲に隨ひて彼に報いたまふべし。15 汝もまた彼に心せよ、かれは甚だしく我らの言に逆ひたり。16 わが始の辯明のとき誰も我を助けず、みな我を棄てたり、願はくはこの罪の彼らに歸せざらんことを。17 されど主われと偕に在して我を強めたまへり。これ我によりて宣教の全うせられ、凡ての異邦人のこれを聞かん爲なり。而して我は獅子の口より救ひ出されたり。18 また主は我を凡ての惡しき業より救ひ出し、その天の國に救ひ入れたまはん。願はくは榮光世々限りなく彼にあらん事を、アマメン。19 汝プリスカ及びアクラ、またオネシポロの家に安否を問へ。20 エラストはコリントに留れり。トロピモは病ある故に我かれをミレトに遣せり。21 なんぢ勉めて冬のみへに我に來れ、ユプロ、プデス、リノス、クラウデヤ、及び凡ての兄弟、なんぢに安否を問ふ。22 願はくは主なんぢの靈と偕に在し、御惠なんぢらと偕に在らんことを。

テトスへの手紙

Chapter 1

1 神の僕またイエス・キリストの使徒パウロ 我が使徒となれるは、永遠の生命の望に基きて神の選民の信仰を堅うし、また彼らを敬虔にかなふ眞理を知る知識に至らしめん爲なり。2 偽りなき神は、創世の前に、この生命を約束し給ひしが、3 時いたりて御言を宣教にて顯さんとし、その宣教を我らの救主たる神の命令をもて我に委ねたまへり。4 われ書を同じ信仰によりて我が眞實の子

たるテトスに贈る。願はくは父なる神および我らの救主キリスト・イエスより賜ふ恩恵と平安と、汝にあらんことを。5 わが汝をクレテに遣し置きたる故は、汝をして缺けたる所を正し、且わが命せしごとく町々に長老を立てしめん爲なり。6 長老は責むべき所なく、一人の女の夫にして、子女もまた放蕩をもて訴へらるる事なく、服従せぬことなき信者たるべきなり。7 それ監督は神の家司なれば、責むべき所なく、放縱ならず、軽々しく怒らず、酒を嗜まず、人を打たず、恥づべき利を取らず、8 反つて旅人を懇ろに待ひ、善を愛し、謹慎あり、正しく潔く節制にして、9 教に適ふ信ずべき言を守る者たるべし。これ健全なる教をもて人を勧め、かつ言ひ逆ふ者を言ひ伏することを得んためなり。10 服従せず、虚しき事をかたり、人の心を惑す者おほし、殊に割禮ある者のうちに多し。11 彼らの口を箝がしむべし、彼らは恥づべき利を得んために、教ふまじき事を教へて全家を覆へすなり。12 クレテ人の中なる或る預言者いふ『クレテ人は常に虚偽をいふ者、あしき獸、また懶惰の腹なり』13 この證は眞なり。されば汝きびしく彼らを買めよ、14 彼らがユダヤ人の昔話と眞理を棄てたる人の誠命とに心を寄することなく、信仰を健全にせん爲なり。15 潔き人には凡ての物きよく、汚れたる人と不信者とは一つとして潔き物なし、彼らは既に心も良心も汚れたるなり。16 みづから神を知ると言ひあらはせど、其の行爲にては神を否む。彼らは憎むべきもの、服はぬ者、すべての善き業に就きて棄てられたる者なり。

Chapter 2

1 されど汝は健全なる教に適ふことを語れ。2 老人には自ら制することと謹嚴と謹慎とを勧め、また信仰と愛と忍耐とに健全ならんことを勧めよ。3 老いたる女にも同じく、清潔にかなふ行爲をなし、人を誘らず、大酒の奴隷とならず、善き事を教ふる者とならんことを勧めよ。4 かつ彼等をして若き女に夫を愛し、子を愛し、5 謹慎と貞操とを守り、家の務をなし、仁慈をもち、己が夫に服はんことを教へしめよ。これ神の言の汚されざらん爲なり。6 若き人にも同じく謹慎を勧め、7 なんぢ自ら凡ての事につきて善き業の模範を示せ。教をなすには邪曲なきことと謹嚴と、8 責むべき所なき健全なる言とを以てすべし。これ逆ふ者をして我らの惡を言ふに由なく、自ら恥づる所あらしめん爲なり。9 奴隷には己が主人に服ひ、凡ての事において之を喜ばせ、之に言ひ逆はず、10 物を盗まず、反つて全き忠信を顯すべきことを勧めよ。これ凡ての事において我らの救主なる神の教を飾らん爲なり。11 凡ての人に救を得さる神の恩恵は既に顯れて、12 不敬虔と世の慾とを棄てて謹慎と正義と敬虔とをもて此の世を過

し、13 幸福なる望、すなはち大なる神、われらの救主イエス・キリストの榮光の顯現を待つべきを我らに教ふ。14 キリストは我等のために己を與へたまへり。是われらを諸般の不法より贖ひ出して、善き業に熱心なる特選の民を己がために潔めんとてなり。15 なんぢ全き權威をもて此等のことを語り、勧め、また責めよ。なんぢ人に輕んぜらるな。

Chapter 3

1 汝かれらに司と權威ある者として服し、かつ従ひ、凡ての善き業をおこなふ備をなし、2 人を誘らず、争はず、寛容にし、常に柔和を凡ての人に顯すべきことを思ひ出させよ。3 我らも前には愚なるもの、順はぬもの、迷へる者、さまざまの慾と快樂とに事ふるもの、惡意と嫉妬とをもて過すもの、憎むべき者、また互に憎み合ふ者なりき。4 されど我らの救主なる神の仁慈と、人を愛したまふ愛との顯れはよきとき、5 我らの行ひし義の業にはよきで、唯その憐憫により、更生の洗と、我らの救主イエス・キリストをもて豊に注ぎたまふ聖靈による維新とにて、我らを救ひ給へり。7 これ我らが其の恩恵によりて義とせられ、永遠の生命の望にしたがひて世嗣とならん爲なり。8 この言は信すべきなれば、我なんぢが此等につきて確證せんことを欲す。神を信じたる者をして慎みて善き業を務めしめん爲なり。かくするは善き事にして人に益あり。9 されど愚なる議論・系圖・争闘、また律法に就きての分争を避けよ。これらは益なくして空しきものなり。10 異端の者をば一度もしくは二度、訓戒して後これを棄てよ。11 かかる者は汝の知ることく、邪曲にして自ら罪を認めつつ尚これを犯すなり。12 我アルテマス或はテキコを汝に遣さん、その時なんぢ急ぎてニコポリなる我がもとに來れ。われ彼處にて冬を過さんと定めたり。13 教法師ゼナス及びアポロを懇ろに送りて、乏しき事ならしめよ。14 かくて我らの伴侶も善き業を務めて必要を資けんことを學ぶべし、これ果を結ばぬ事なからん爲なり。15 我と偕に居る者みな汝に安否を問ふ。信仰に在りて我らを受する者に安否を問へ。願はくは御惠、なんぢら凡ての者と偕にあらん事を。

ピレモンへの手紙

Chapter 1

1 キリスト・イエスの囚人たるパウロ及び兄弟テモテ、書を我らが愛する同勞者ピレモン、2 我らの姉妹アピヤ、我らと共に戰鬥をなせるアルキボ及び汝の家にある教會に贈る。3 願はくは我らの父なる神および主イエス・キリストより賜ふ恩恵と平

安と、汝らに在らんことを。4 われ祈るとき常に汝をおぼえて我が神に感謝す。5 これ主イエスと凡ての聖徒とに對する汝の愛と信仰とを聞きたればなり。6 願ふところは、汝の信仰の交際の活動により、人々われらの中なる凡ての善き業を知りて、榮光をキリストに歸するに至らんことなり。7 兄弟よ、我なんぢの愛によりて大なる勸喜と慰安とを得たり。聖徒の心は汝によりて安んぜられたればなり。8 この故に、われキリストに在りて、汝になすべき事を聊かも憚らず命じ得れど、9 むしろ愛の故によりて汝にねがふ。10 既に年老いて今はキリスト・イエスの囚人となれる我パウロ、縲綯の中にて生みし我が子オネシモの事をなんぢに願ふ。11 かれ前には汝に益なき者なりしが、今は汝にも我にも益ある者となれり。12 我かれを汝に歸す、かれは我が心なり。13 我は彼をわが許に留めおきて、我が福音のために縲綯にある間、なんぢに代りて我に事へしめんとして欲したれど、14 なんぢの承諾を経ずして斯くするを好まざりき、是なんぢの善の止むを得ざるに出でずして心より出でんことを欲したればなり。15 彼が暫時なんぢを離れしは、或は汝かれを永遠に保ち、16 もはや奴隷の如くせず、奴隷に勝りて愛する兄弟の如くせん爲なりしやも知るべからず。我は殊に彼を愛す、まして汝は肉によりても主によりて、之を愛せざる可けんや。17 汝も我を友とせば、請ふ、われを納るごとく彼を納れよ。18 彼もし汝に不義をなし、または汝に負債あらば、之を我に負はせよ。19 我パウロ手づから之を記す、われ償はん、汝われに身を以て償ふべき負債あれど、我これを言はず。20 兄弟よ、請ふ、なんぢ主に在りて我に益を得させよ、キリストに在りて我が心を安んぜよ。21 我なんぢの從順を確信して之を書き贈る。わが言ふところに勝りて汝の行はんことを知るなり。22 而して我がために宿を備へよ、我なんぢらの祈により、遂に我が身の汝らに與へられんことを望めばなり。23 キリスト・イエスに在りて我とともに囚人となれるマルコ、24 及び我が同勞者アルコ、アリストアルコ、デマス、ルカ皆なんぢに安否を問ふ。25 願はくは主イエス・キリストの恩恵、なんぢらの靈と偕にあらんことを。

ヘブル人への手紙

Chapter 1

1 神むかしは預言者等により、多くに分ち、多くの方法をもて先祖たちに語り給ひしが、2 この末の世には御子によりて、我らに語り給へり。神は曾て御子を立てて萬の物の世嗣となし、また御子によりて諸般の世界を造り給へり。3 御子は神の榮光のかがやき、神の本質の像に

して、己が権能の言をもて萬の物を保ちたまふ。また罪の潔をなして、高き處にある稜威の右に坐し給へり。4その受け給ひし名の御使の名に勝れるごとく、御使よりは更に勝る者となり給へり。5神は孰の御使に曾て斯くは言ひ給ひしぞ『なんぢは我が子なり、われ今日なんぢを生めり』と。また『われ彼の父となり、彼わが子とならん』と。6また初子を再び世に入れ給ふとき『神の凡ての使は之を拜すべし』と言ひ給ふ。7また御使たちに就きては『神は、その使たちを風となし、その事ふる者を焰となす』と言ひ給ふ。8されど御子に就きては『神よ、なんじの御座は世々限りなく、汝の國の杖は正しき杖なり。9なんぢは義を愛し、不法をにくむ。この故に神なんぢの神は歡喜の油を、汝の友に勝りて汝にそそぎ給へり』と。10また『主よ、なんぢ太初に地の基を置きたまへり、天も御手の業なり。11これらは滅びん、されど汝は常に存けたまはん。これらはみな衣のごとく舊びん。12而して汝これらを袍のごとく疊み給はん、これらは衣のごとく變らん。されど汝はかはり給ふごとく汝の齡は終らざるなり』と言ひたまふ。13又いづれの御使に曾て斯くは言ひ給ひしぞ『われ汝の仇を汝の足臺となすまでは、我が右に坐せよ』と。14御使はみな事へまつる靈にして、救を嗣がんとする者のために職を執るべく遣されたる者にあらずや。

Chapter 2

1この故に我ら聞きし所をいよいよ篤く慎むべし、恐らくは流れ過ぐる事あらん。2若し御使によりて語り給ひし言すら堅くせられて、咎と不従順とみな正しき報を受けたらんには、3我ら斯くのごとき大なる救を等閑にして争でか遁ることを得ん。この救は初め主によりて語り給ひしものにして、聞きし者ども之を我らに確うし、4神また徴と不思議とさまざまの能力ある業と、御旨のままに分ち與ふる聖靈とをもて證を加へたまへり。5それ神は我らの語るところの來らんとする世界を、御使たちには服はせ給はざりき。6或篇に人證して言ふ『人は如何なる者なれば、之を御心に定め給ふか。人の子は如何なる者なれば、之を顧み給ふか。7汝これを御使よりも少しく卑うし、光榮と尊貴とを冠らせ、8萬の物をその足の下の服はせ給へり』と。既に萬の物を之に服はせ給ひたれば、服はぬものは一つだに残さる事なし。されど今もなほ我らは萬の物の之に服ひたるを見ず。9ただ御使よりも少しく卑くせられしイエスの、死の苦難を受くるによりて榮光と尊貴とを冠らせられ給へるを見る。これ神の恩恵によりて萬民のために死を味ひ給はんとしてなり。10それ多くの子を光榮に導くに、その救の君を苦難によりて全うし給ひは、萬の物の歸するところ、萬の物を造りたまふ所

の者に相應しき事なり。11潔めたまふ者も、潔めらるる者も、皆ただ一つより出づ。この故に彼らを兄弟と稱ふるを恥とせずして言ひ給ふ、12『われ御名を我が兄弟たちに告げ、集會の中にて汝を讃め歌はん』13また『われ彼に依頼まん』又『視よ、我と神の我に賜ひし子等とは……』と。14子等はともに血肉を具ふれば、主もまた同じく之を具へ給ひしなり。これは死の權力を有つもの、即ち惡魔を死によりて亡し、15かつ死の懼によりて生涯、奴隷となりし者どもを解放し給はんためなり。16實に主は御使を扶けずしてアブラハムの裔を扶けたまふ。17この故に神の事につきて憐憫ある忠實なる大祭司となりて、民の罪を贖はんために、凡ての事において兄弟の如くなり給ひしは宜なり。18主は自ら試みられて苦しみ給ひたれば、試みられる者を助け得るなり。

Chapter 3

1されば共に天の召を蒙れる聖なる兄弟よ、我らが言ひあらはず信仰の使徒たり大祭司たるイエスを思ひ見よ。2彼の己を立て給ひし者に忠實なるは、モーセが神の全家に忠實なりしが如し。3家を造る者の家より勝りて尊ばれる如く、彼もモーセに勝りて大なる榮光を受くるに相應しき者とせられ給へり。4家は凡て之を造る者あり、萬の物を造り給ひし者は神なり。5モーセは後に語り傳へられんと爲ることの證をせんために、僕として神の全家に忠實なりしが、6キリストは子として神の家を忠實に掌どり給へり。我等もし確信と希望の誇とを終まで堅く保たば、神の家なり。7この故に聖靈の言ひ給ふごとく『今日なんぢら神の聲を聞かば、8その怒を惹きし時のごとく、荒野の嘗試の日のごとく、こころを頑固にするなかれ。9彼處にて汝らの先祖たちは我をこころみて驗し、かつ四十年の間わが業を見たり。10この故に我この代の人を憤りて云へり、「彼らは常に心まよい、わが途を知らざりき」と。11われ怒をもて「彼らは、我が休に入るべからず」と誓へり』12兄弟よ、心せよ、恐らくは汝等のうち活ける神を離れんとする不信仰の恐しき心を懷く者あらん。13汝等のうち誰も罪の誘惑によりて頑固にならぬやう、今日と稱ふる間に日々互に相勸めよ。14もし始の確信を終まで堅く保たば、我らはキリストに與る者となるなり。15それ『今日なんじら神の聲を聞かば、その怒を惹きし時のごとく、こころを頑固にするなかれ』と云へ。16然れば聞きてなほ怒を惹きし者は誰なるか、モーセによりてエジプトを出でし凡ての人にあらずや。17また四十年のあひだ、神は誰に對して憤り給ひしか、罪を犯してその死屍を荒野に横たへし人々にあらずや。18又かれらは我が安息に入る

べからずとは、誰に對して誓ひ給ひしか、不従順なる者にあらずや。19之によりて見れば、彼らの入ること能はざりしは、不信仰によりてなり。

Chapter 4

1然れば我ら懼るべし、その安息に入るべき約束はなほ遺れども、恐らくは汝らの中これに達せざる者あらん。2それは彼らのごとく我らも善き音信を傳へられたり、然れど彼らには聞きし所の言益なかりき。聞くもの之に信仰をまじへざりしに因る。3われら信じた者は、かの休に入ることを得るなり。『われ怒をもて「彼らは、わが休に入るべからず」と誓へり』と云ひ給ひしが如し。されど世の創より御業は既に成れるなり。4或篇に七日めに就きて斯く云へり『七日めに神その凡ての業を休みたまへり』と。5また茲に『かれらは、我が休に入るべからず』と云へり。6然れば之に入るべき者なほ在り、曩に善き音信を傳へられし者らは、不従順によりて入ることを得ざりしなれば、7久しきを經てのち復、日を定めダビデによりて『今日』と言ひ給ふ。曩に記したるが如し。曰く『今日なんじら神の聲を聞かば、こころを頑固にするなかれ』8若しヨシュア既に休を彼らに得しめしならば、神はその後、ほかの日につきて語り給はざりしならん。9然れば神の民の爲になほ安息は遺れり。10既に神の休に入りたる者は、神のその業を休み給ひしごとく、己が業を休めり。11されば我等はこの休に入らんことを務むべし、是かの不従順の例にならひて誰も墮つることなからん爲なり。12神の言は生命あり、能力あり、兩刃の劍より利くして、精神と靈魂、關節と骨髓を透して之を割ち、心の念と志望とを驗すなり。13また造られたる物に一つとして神の前に顯れぬはなし、萬の物は我らが係れる神の目のまへに裸にて露るなり。14我等には、もろもろの天を通り給ひし偉なる大祭司、神の子イエスあり。然れば我らが言ひあらはず信仰を堅く保つべし。15我らの大祭司は我らの弱を思ひ遣ること能はぬ者にあらず、罪を外にして凡ての事、われらと等しく試みられ給へり。16この故に我らには憐憫を受けんが爲、また憐に合ふ助となる恵を得んがために、憚らずして恵の御座に来るべし。

Chapter 5

1凡そ大祭司は人の中より選ばれ、罪のために供物と犠牲とを献げんとて、人にかはりて神に事することを任せらる。2彼は自らも弱に纏はるるが故に、無知なるもの、迷へる者を思ひ遣ることを得るなり。3之によりて民のために爲すごとく、また己のためにも罪に就きて献物をなさざるべからず。4又この貴き位はアロンのごとく神に召さるるにあ

らずば、誰も自ら之を取る者なし。5斯くの如くキリストも己を崇めて自ら大祭司となり給はず。之に向ひて『なんじは我が子なり、われ今日なんじを生めり』と語り給ひし者、これを立てたり。6また他の篇に『なんじは永遠にメルキゼデクの位に等しき祭司たり』と言ひ給へるが如し。7キリストは肉體にて在ししとき、大なる叫と涙とをもて、己を死より救ひ得る者に祈と願とを献げ、その恭敬によりて聽かれ給へり。8彼は御子なれど、受けし所の苦難によりて従順を學び、9かつ全うせられたれば、凡て己に順ふ者のために永遠の救の原となりて、10神よりメルキゼデクの位に等しき大祭司と稱へられ給へり。11之に就きて我ら多くの言ふべき事あれど、汝ら聞くに鈍くなりたれば釋き難し。12なんじら時を經ること久しければ、教師となるべき者なるに、今また神の言の初歩を人より教へられざるを得ず、なれば堅き食物ならで乳を要する者とならん。13おほよそ乳を用ふる者は幼児なれば、未だ義の言に熟せず、14堅き食物は智力を練習して善惡を辨ふる成人の用ふるものなり。

Chapter 6

1この故に我らはキリストの教の初歩に止ることなく、再び死にたる行爲の悔改と神に對する信仰との基、2また各様のバプテスマと按手と、死人の復活と永遠の審判との教の基を置かずして完全に進むべし。3神もし許し給はば、我ら之をなさん。4一たび照されて天よりの賜物を味ひ、聖靈に與る者となり、5神の善き言と來世の能力とを味ひて後、6墮落する者は更にまた自ら神の子を十字架に釘けて肆し者とする故に、再びこれを悔改に立返らること能はざるなり。7それ地しばしば其の上に降る雨を吸ひ入れて耕す者の益となるべき作物を生ぜば、神より祝福を受く。8されど茨と薔とを生ぜば、棄てられ、かつ詛に近く、その果ては焚かれるなり。9愛する者よ、われら斯くは語れど、汝らには更に善きこと、即ち救にかかはる事あるを深く信ず。10神は不義に在さねば、汝らの勤勞と、前に聖徒につかへ、今もなほ之に事へて御名のために顯したる愛とを忘れ給ふことなし。11我らは汝等がおの終まで前と同じ勵をあらはして全き望を保ち、12怠ることなく、信仰と耐忍とをもて約束を嗣ぐ人々に效はんことを求む。13それ神はアブラハムに約し給ふと云ひ、指して誓ふべき己より大なる者なき故に、己を指して誓ひて言ひ給へり、14『われ必ず、なんぢを恵み恵まん、なんぢを殖し殖さん』と、15斯くの如くアブラハムは耐へ忍びて約束のものを得たり。16おほよそ人は己より大なる者を指して誓ひ、その誓はすべての爭論を罷むる保證たり。17この故に神は約束を嗣ぐ者に御旨の變らぬことを充分に示さんと欲し

て誓を加へ給へり。 18 これ神の語るに能はぬ二つの變らぬものによりて、己の前に置かれたる希望を捉へんとて遁れたる我らに強き奨励を與へん爲なり。 19 この希望は我らの靈魂の錨のごとく安全にして動かさず、かつ糧の内に入る。 20 イエス我等のために前驅し、永遠にメルキゼデクの位に等しき大祭司となりて、その處に入り給へり。

Chapter 7

1此のメルキゼデクはサレムの王にて至高き神の祭司たりしが、王たちを破りて還るアブラハムを迎へて祝福せり。 2アブラハムは彼に凡ての物の十分の一を分け與へたり。その名を釋けば第一に義の王、次にサレムの王、すなはち平和の王なり。 3父なく、母なく、系圖なく、齡の始なく、生命の終なく、神の子の如くにして限りなく祭司たり。 4先祖アブラハム分捕物のうち十分の一、最も善き物を之に與へたれば、その人の如何に尊きかを思ふべし。 5レビの子等のうち祭司の職を受ける者は、律法によりて、民すなはちアブラハムの腰より出でたる己が兄弟より、十分の一を取ることを命ぜらる。 6されど此の血脈にあらぬ彼は、アブラハムより十分の一を取りて約束を受けし者を祝福せり。 7それ小なる者の大なる者に祝福せらるるは論なき事なり。 8 かつ此所にては死ぬべき者十分の一を受くれども、彼處にては『活くるなり』と證せられた者これを受く。 9 また十分の一を受くるレビすら、アブラハムに由りて十分の一を納めたりと云ふも可なり。 10 そはメルキゼデクのアブラハムを迎へし時に、レビはなほ父の腰に在りたればなり。 11 もしレビの系なる祭司によりて全うせらるる事ありしならば（民は之によりて律法を受けたり）何ぞなほ他にアロンの位に等しからぬメルキゼデクの位に等しき祭司の起る必要あらんや。 12 祭司の易る時には律法も亦必ず易るべきなり。 13 此等のことは曾て祭壇に事へたることなき他の族に屬する者をさして云へるなり。 14 それ我らの主のユダより出で給へるは明かにして、此の族につき、モーセは聊かも祭司に係ることを云はざりき。 15 又メルキゼデクのごとき他の祭司おこり、肉の誠命の法に由らず、朽ちざる生命の能力によりて立てられたれば、我が言ふ所いよいよ明かなり。 17 そは『なんぢは永遠にメルキゼデクの位に等しき祭司たり』と證せられ給へばなり。 18 前回の誠命は弱く、かつ益なき故に廢せられ、 19（律法は何をも全うせざりしなり）更に優れたる希望を置かれたり、この希望によりて我らは神に近づくなり。 20 かの人々は誓なくして祭司とせられたれども、21彼は誓なくしては爲られず、誓をもて祭司とせられ給へり。即ち彼に就きて『主ちかひて悔い給はず、「なんじは永遠に祭司たり」』と言ひ

給ひしが如し。 22 イエスは斯くも優れたる契約の保證となり給へり。 23かの人々は死によりて永くその職に留ることを得ざる故に、祭司となりし者の數多かりき。 24 されど彼は永遠に在せば易ることなき祭司の職を保ちたまふ。 25 この故に彼は己に頼りて神にきたる者のために執成をなさんとて常に生くれれば、之を全く救ふこと得給ふなり。 26 斯くのごとき大祭司こそ我らに相應しき者なれ、即ち聖にして惡なく、穢なく、罪人より遠ざかり、諸般の天よりも高くせられ給へり。 27 他の大祭司のごとく先づ己の罪のため、次に民の罪のために日々犠牲を獻ぐるを要し給はず、その一たび己を獻げて之を成し給ひたればなり。 28 律法は弱みある人々を立てて大祭司とすれども、律法の後なる誓の御言は、永遠に全うせられ給へる御子を大祭司となせり。

Chapter 8

1 今いふ所の要點は斯くのごとき大祭司の我らにある事なり。彼は天にては稜威の御座の右に坐し、2聖所および眞の幕屋に事へたまふ。この幕屋は人の設くるものにあらず、主の設けたまふ所なり。 3 おおよそ大祭司の立てらるるは供物と犠牲とを獻げん爲なり、この故に彼もまた獻ぐべき物あるべきなり。 4 然るに若し地に在さば、既に律法に循ひて供物を獻ぐる祭司等あるによりて祭司とはなり給はざるべし。 5 彼らの事ふるは、天にある物の型と影となり。モーセが幕屋を建てんとする時に『慎め、山にて汝が示されたる式に效ひて凡ての物を造れ』との御告を受けしが如し。 6 されどキリストは更に勝れる約束に基きて立てられし勝れる契約の中保となりたれば、更に勝る職を受け給へり。 7 かつ初の契約もし虧くる所なくば、第二の契約を求むる事なかりしならん。 8 然るに彼らを咎めて言ひ給ふ『主いひ給ふ「視よ、我イスラエルの家とユダの家とに、新しき契約を設くる日來らん。 9 この契約は我かれらの先祖の手を執りて、エジプトの地より導き出しし時に立てし所の如きにあらず、彼らは我が契約にとどまらず、我も彼らを顧みざりしなり」と主いひ給ふ。 10 「されば、かの日の後に我がイスラエルの家と立つる契約は是なり」と主いひ給ふ。「われ我が律法を彼らの念に置き、そのころに之を記さん、また我かれらの神となり、彼らは我が民とならん。 11 彼らはまた各人その國人に、その兄弟に教へて、なんじ主を知れと言はざるべし。そは小より大に至るまで、皆われを知らん。 12 我もその不義を憐み、この後また其の罪を思ひ出でざるべし」と。 13 既に『新し』と言ひ給へば、初のものを舊しとし給へるなり、舊びて衰ふるものは、消失せんとするなり。

Chapter 9

1初の契約には禮拜の定と世に屬する聖所とありき。 2 設けられたる幕屋あり、前なるを聖所と稱へ、その中に燈臺と案と供のパンとあり。 3 また第二の幕の後に至聖所と稱ふる幕屋あり。 4 その中に金の香壇と金にて編く覆ひたる契約の櫃とあり、この中にマナを納れたる金の壺と芽したるアロンの杖と契約の石碑とあり、5櫃の上に榮光のケルビムありて贖罪所を覆ふ。これらの物に就きては、今 一々言ふこと能はず、 6 此等のもの斯く備りたれば、祭司たちは常に前なる幕屋に入りて禮拜をおこなふ。 7 されど奥なる幕屋には、大祭司のみ年に一度おのれと民との過失のために獻ぐる血を携へて入るなり。 8 之によりて聖靈は前なる幕屋のなほ存するあひだ、至聖所に入る道の未だ顯れざるを示し給ふ。 9 この幕屋はその時のために設けられたる比喻なり、之に循ひて獻げたる供物と犠牲とは、禮拜をなす者の良心を全うすること能はざりき。 10 此等はただ食物・飲料のままの濯事などに係り、肉に屬する定にして、改革の時まで負せられたるのみ。 11 然れどキリストは來らんとする善き事の大祭司として、手にて造らぬ此の世に屬せぬ更に大なる全き幕屋を経て、 12 山羊と犢との血を用ひず、己が血をもて只一たび至聖所に入りて、永遠の贖罪を終へたまへり。 13 もし山羊および牝牛の血、牝牛の灰などを糺れし者にそそぎて其の肉體を濯むることを得ば、 14 まして永遠の御靈により瑕なくして己を神に獻げ給ひしキリストの血は、我らの良心を死にたる行爲より潔めて活ける神に事へしめざらんや。 15 この故に彼は新しき契約の中保なり。 16 此初の契約の下に犯したる咎を贖ふべき死あるによりて、召されたる者に約束の永遠の嗣業を受けさせん爲なり。 17 遺言は必ず遺言者の死を要す。 18 遺言は遺言者死にてのち始めて効あり、遺言者の生くる間は効なきなり。 19 この故に初の契約も血なくして立てしにあらず。 20 モーセ律法に循ひて諸般の誠命をすべての民に告げてのち、犢と山羊との血また水と緋色の毛とヒソブとをとりて、書および凡ての民にそそぎて言ふ、 21 『これ神の汝らに命じたまふ契約の血なり』と。 22 また同じく幕屋と祭のすべての器とに血をそそげり。 23 おほよそ律法によれば、萬のもの血をもて潔めらる。もし血を流すことなれば、赦されることなし。 24 この故に天に在るものに象りたる物は此等にて潔められ、天にある物は此等に勝りたる犠牲をもて潔めらるべきなり。 25 キリストは眞のものに象れる、手にて造りたる聖所に入らず、眞の天に入りて今より我等のために神の前にあらはれ給ふ。 26 25 此これ大祭司が年ごとに他の物の血をもて聖所に入るとく、屢次おのれを獻ぐる爲にあらず。 26 もし然ら

ずば世の創より以來しばしば苦難を受け給ふべきなり。然れど今、世の季にいたり己を犠牲となして罪を除かんために一たび現れたまへり。 27 一たび死ぬることと死にてのち審判を受くることとの人に定りたる如く、 28 キリストも亦おほくの人の罪を負はんが爲に一たび獻げられ、復罪を負ふことなく、己を待望む者に再び現れて救を得させ給ふべし。

Chapter 10

1 され律法は來らんとする善き事の影にして眞の形にあらねば、年毎にたえず獻ぐる同じ犠牲にて、神にきたる者を何時までも全うすることを得ざるなり。 2 もし之を得ば、禮拜をなす者、一たび潔められて復心に罪を憶えねば、獻ぐることを止めしならん。 3 然れど犠牲によりて、年ごとに罪を憶ゆるなり。 4 これ牝牛と山羊との血は罪を除くこと能はざるに因る。 5 この故にキリスト世に來るとき言ひ給ふ『なんぢ犠牲と供物とを欲せず、唯わが爲に體を備へたまへり。 6 なんぢ燔祭と罪祭とを悦び給はず、7 その時われ言ふ「神よ、我なんぢの御意を行はんとて來る」我につきて書の卷に録されたるが如し』と。 8 先には『汝いけにへと供物と燔祭と罪祭と（即ち律法に循ひて獻ぐる物）を欲せず、また悦ばず』と言ひ、 9 後に『視よ、我なんぢの御意を行はんとて來る』と言ひ給へり。その後なる者を立てん爲に、その先なる者を除き給ふなり。 10 この御意に適ひてイエス・キリストの體の一たび獻げられしに由りて我らは潔められたり。 11 すべての祭司は毎日に立ちて事へ、いつまでも罪を除くこと能はぬ同じ犠牲をしばしば獻ぐ。 12 然れどキリストは罪のために一つの犠牲を獻げて限りなく神の右に坐し、 13 斯くて己が仇の己が足臺とせられん時を待ちたまふ。 14 そは潔めらるる者を一つの供物にて限りなく全うし給ふなり。 15 聖靈も亦われらに之を證して 16 『この日の後、われ彼らと立つる契約は是なり』と主いひ給ふ。また「わが律法をその心に置き、その念に銘さん」と言ひ給ひて、 17 『この後また彼らの罪と不法とを思ひ出でざるべし』と言ひたまふ。 18 かの赦ある上は、もはや罪のために獻物をなす要なし。 19 然れば兄弟よ、我らイエスの血により、 20 その肉體たる幔を経て我らに開き給へる新しき活ける路より憚らずして至聖所に入ることを得、 21 かつ神の家を治むる大なる祭司を得たれば、 22 心は濯がれて良心の咎をさり、身は清き水にて洗はれ、眞の心と全き信仰とをもて神に近づくべし。 23 また約束し給ひし者は忠實なれば、我ら言ひあらはす所の望を動かさずして堅く守り、 24 互に相顧み、愛と善き業とを勵まし、 25 集會をやむる或人の習慣の如くせず、互に勧め合ひ、かの日のいよいよ近づくを見て、ますます斯くの如く

すべし。26 我等もし眞理を知る知識をうけたる後、ことさらに罪を犯して止めずば、罪のために犠牲、もはや無し。27 ただ畏れつつ審判を待つことと、逆否者を焚きつくす烈しき火とのみ違ふなり。28 モーセの律法を蔑する者は慈悲を受けることなく、二三人の證人によりて死に至る。29 まして神の子を蹈みつけ、己が潔められし契約の血を潔からずとなし、恩恵の御霊を侮る者の受くべき罰の重きこと如何許とおもふか。30 『仇を復すは我に在り、われ之を報いん』と言ひ、また『主その民を審かん』と言ひ給ひし者を我らは知るなり。31 活ける神の御手に陥るは畏るべきかな。32 なんぢら御光を受けし日のち苦難の大なる戦闘に耐へし前の日を思ひ出でよ。33 或は誹謗と患難とに遭ひて觀物にせられ、或は斯かることに遭ふ人の友となれり。34 また囚人となれる者を思ひやり、永く存する尤も勝れる所有の己にあるを知りて、我が所有を奪はるるをも喜びて忍びたり。35 されば大なる報を受くべき汝らの確信を投げすつな。36 なんぢら神の御意を行ひて約束のものを受けん爲に必要なるは忍耐なり。37 『いま暫くせば、来るべき者きたらん、遅からじ。38 我に屬ける義人は、信仰によりて活くべし。もし退かば、わが心これを喜ばじ』。39 然れど我らは退きて滅亡に至る者にあらず、靈魂を得るに至る信仰を保つ者なり。

Chapter 11

1 それ信仰は望むところを確信し、見ぬ物を眞實とするなり。2 古への人は之によりて證せられたり。3 信仰によりて我等は、もろもろの世界の神の言にて造られ、見ゆる物の顯る物より成らざるを悟る。4 信仰によりてアベルはカインよりも勝れる犠牲を神に献げ、之によりて正しと證せられたり。神その供物につきて證し給へばなり。彼は死ぬれども、信仰によりて今なほ語る。5 信仰によりてエノクは死を見ぬように移されたり。神これを移し給ひたれば見出されざりき。その移さるる前に神に喜ばるることを證せられたり。6 信仰なくしては神に悦ばるること能はず、神に來る者は、神の在すことと神の己を求むる者に報い給ふこととを、必ず信ずなければなり。7 信仰によりてノアは、未だ見ざる事につきて御告を蒙り、畏みてその家の者を救はん爲に方舟を造り、かつ之によりて世の罪を定め、また信仰に由る義の世嗣となれり。8 信仰によりてアブラハムは召されしとき嗣業として受くべき地に出で往けとの命に遵ひ、その往く所を知らずして出で往けり。9 信仰により異國に在るごとく約束の地に寓り、同じ約束を嗣ぐべきイサクとヤコブと共に幕屋に住めり、10 これ神の營み造りたまふ基礎ある都を望めばなり。11 信仰によりてサラも約束したまふ者の忠實なるを思ひし故に

、年邁きたれど胤をやどす力を受けたり。12 この故に死にたる者のごとき一人より天の星のごとく、また海邊の數へがたき砂のごとく夥しく生れ出でたり。13 彼等はみな信仰を懷きて死にたり、未だ約束の物を受けざりしが、遙にこれを見て迎へ、地にては旅人また寓れる者なるを言ひあらはせり。14 斯く言ふは、己が故郷を求むることを表すなり。15 若しその出でし處を念はば、歸るべき機ありしなるべし。16 されど彼らの慕ふ所は天にある更に勝りたる所なり。この故に神は彼らの神と稱へらるるを恥とし給はず、そは彼等のために都を備へ給へばなり。17 信仰に由りてアブラハムは試みられし時イサクを献げたり、彼は約束を喜び受けし者なるに、その獨子を献げたり。18 彼に對しては『イサクより出づる者なんぢの裔と稱へらるべし』と云ひ給ひしなり。19 かれ思へらく、神は死人の中より之を甦へらすことを得給ふと、乃ち死より之を受けしが如くなりき。20 信仰に由りてイサクは來んとする事につきヤコブとエサウとを祝福せり。21 信仰に由りてヤコブは死ぬる時ヨセフの子等をおのおの祝福し、その杖の頭によりて禮拜せり。22 信仰に由りてヨセフは生命の終らんとする時、イスラエルの子らの出で立つことに就きて語り、又おのが骨のことを命じたり。23 信仰に由りて兩親はモーセの生れたる時、その美しき子なるを見て、王の命をも畏れずして三月の間これを匿したり。24 信仰に由りてモーセは人と成りしときパロの女の子と稱へらるるを否み、25 罪のはかなき歡樂を受けんよりは、寧ろ神の民とともにも苦しまんことを善しとし、26 キリストに因る謗はエジプトの財寶にまさる大なる富と思へり、これ報を望めばなり。27 信仰に由りて彼は王の憤恚を畏れずしてエジプトを去れり。これ見えざる者を見るがごとく耐ふる事をすればなり。28 信仰に由りて彼は過越と血を灑ぐこととを行へり、これ初子を滅す者の彼らに觸れざらん爲なり。29 信仰に由りてイスラエル人は紅海を乾ける地のごとく渡りしが、エジプト人は然せんと試みて溺死にたり。30 信仰に由りて七日のあいだ廻りたればエリコの石垣は崩れたり。31 信仰に由りて遊女ラハブは平和をもて間者を接けたれば、不従順の者とともに亡びざりき。32 この外なを言ふべきが、ゲデオン、バラク、サムソン、エフタ、またダビデ、サムエル及び預言者たちに就きて語らば、時足らざるべし。33 彼らは信仰によりて國々を服へ、義をおこなひ、約束のものを得、獅子の口をふさぎ、34 火の勢力を消し、劍の刃をのがれ、弱よりして強くせられ、戰爭に勇ましくなり、異國人の軍勢を退かせたり。35 女は死にたる者の復活を得、ある人は更に勝りたる復活を得んために、免さるることを願はずして極刑を甘んじたり。36 その他の者は嘲笑と鞭と、また繯縄と牢獄と

の試練を受け、37 或者は石にて撃たれ、試みられ、鐵鋸にて挽かれ、劍にて殺され、羊・山羊の皮を纏ひて經あるき、乏しくなり、惱され、苦しめられ、38（世は彼らを置くに堪へず）荒野と山と洞と地の穴とに徨へり。39 彼等はみな信仰に由りて證せられたれども約束のものを得ざりき。40 これ神は我らの爲に勝りたるものを備へ給ひし故に、彼らも我らと偕ならざれば、全うせらるる事なきなり。

Chapter 12

1 この故に我らは斯く多くの證人に雲のごとく圍まれたれば、凡ての重荷と纏へる罪とを除け、忍耐をもて我らの前に置かれたる馳場をはしり、2 信仰の導師また之を全うする者なるイエスを仰ぎ見るべし。彼はその前に置かれたる歡喜のために、恥をも厭はずして十字架をしのび、遂に神の御座の右に坐し給へり。3 なんじら倦み疲れて心を喪ふこと莫らんために、罪人の斯く己に逆ひしことを忍び給へる者をおもへ。4 汝らは罪と闘ひて未だ血を流すまで抵抗しことなし。5 また子に告ぐるごとく汝らに告げ給ひし勸言を忘れたり。曰く『わが子よ、主の懲戒を輕んずるなかれ、主に戒めらるるとき倦むなかれ。6 そは主、その愛する者を懲しめ、凡てその受け給ふ子を鞭うち給へばなり』と。7 汝らの忍ぶは懲戒の爲なり、神は汝らの子のごとく待ひたまふ、誰か父の懲しめぬ子あらんや。8 凡ての人の受くる懲戒、もし汝らに無くば、それは私生兒にして眞の子にあらず、9 また我らの肉體の父は、我らを懲しめし者なるに尚これを敬へり、況して靈魂の父に服ひて生くることを爲ざらんや。10 そは肉體の父は暫くの間その心のままに懲しむることを爲しが、靈魂の父は我らを益するため、その聖潔に與らせんとて懲しめ給へばなり。11 凡ての懲戒、今は喜ばしと見え、反つて悲しと見ゆ、されど後これに由りて練習する者に、義の平安なる果を結ばしむ。12 されば衰へたる手、弱りたる膝を強くし、13 足蹇へたる者の履み外すことなく、反つて醫されんために汝らの足に直なる途を備へよ。14 力めて凡ての人と和ぎ、自ら潔からんことを求めよ。もし潔からずば、主を見ること能はず。15 なんじら慎め、恐らくは神の恩恵に至らぬ者あらん。恐らくは苦き根はえいでて汝らを惱し、多くの人これに由りて汚されん。16 恐らくは淫行のもの、或は一飯のために長子の特權を賣りしエサウの如き妄なるもの起らん。17 汝らの知るごとく、彼はそのち祝福を受けんと欲したれども棄てられ、涙を流して之を求めたれど回復の機を得ざりき。18 汝らの近づきたるは、火の燃ゆる觸り得べき山・黒雲・黒闇・嵐、19 ラッパの音、言の聲にあらず、この聲を聞きし者は此の上に言の加へられざらんことを願へり。20 これ『獸すら山

に觸れなば、石にて撃るべし』と命ぜられしを、彼らは忍ぶこと能はざりし故なり。21 その現れしところ極めて怖しかりしかば、モーセは『われ甚く怖れ戦り』と云へり。22 されど汝らの近づきたるはシオンの山、活ける神の都なる天のエルサレム、千萬の御使の集會、23 天に録されたる長子どもの教會、萬民の審判主なる神、全うせられたる義人の靈魂、24 新約の仲保なるイエス及びアベルの血に勝りて物言ふ灑の血なり。25 なんじら心して語りたまふ者を拒むな、もし地にて示し給ひし時これを拒みし者ども遁るる事なかりしならば、況して天より示し給ふとき、我ら之を退けて遁るることを得んや。26 その時、その聲、地を震へり、されど今は誓ひて言ひたまふ『我なほ一たび地のみならず、天をも震はん』と。27 此の『なほ一度』とは震はれぬ物の存らんとために、震はるる物すなはち造られたる物の取り除かるることを表すなり。28 この故に我らは震はれぬ國を受けたれば、感謝して恭敬と畏懼をもて御心にかなふ奉仕を神になすべし。29 我らの神は焼き盡す火なればなり。

Chapter 13

1 兄弟の愛を常に保つべし。2 旅人の接待を忘るな、或人これに由り、知らずして御使を舍したり。3 己も共に繋がるごとく囚人を思へ、また己も肉體に在れば、苦しむ者を思へ。4 凡ての人、婚姻のことはを責べ、また寢床を汚すな。神は淫行のもの、姦淫の者を審き給ふべければなり。5 金を愛することなく、有てるものを以て足れりとせよ。主みづから『われ更に汝を去らず、汝を捨てじ』と言ひ給ひたればなり。6 然れば我ら心を強くして斯く言はん『主わが助主なり、我おそれじ。人われに何をなさん』と。7 神の言を汝らに語りて汝らを導きし者どもを思へ、その行状の終を見てその信仰に效へ。8 イエス・キリストは昨日も今日も永遠までも變り給ふことなし。9 各様の異なる教のために惑さるるな。飲食によらず、恩恵によりて心を堅うするは善し、飲食によりて歩みたる者は益を得ざりき。10 我らに祭壇あり、幕屋に事ふる者は之より食する權を有たす。11 大祭司、罪のために活物の血を携へて至聖所に入り、その活物の體は陣營の外にて焼かるるなり。12 この故にイエスも己が血をもて民を潔めんが爲に、門の外にて苦難を受け給へり。13 されば我らは彼の恥を負ひ、陣營より出でてその御許に往くべし。14 われら此處には永遠の都なくして、ただ來んとする者を求むればなり。15 此の故に我らイエスによりて常に讚美の供物を神に献ぐべし、乃ちその御名を頌ゆる口唇の果なり。16 かつ仁慈と施濟とを忘るな、神は斯くのごとき供物を喜びたまふ。17 汝らを導く者に順ひ之に服せよ。彼らは己が事を神に陳ぶべき者

なれば、汝らの靈魂のために目を覺しをるなり。彼らを歎かせず、喜びて斯く爲さしめよ、然らずば汝らに益なかるべし。18 我らの爲に祈れ、我らは善き良心ありて凡てのごとく正しく行はんと欲するを信ずるなり。19 われ速かに汝らに歸ることを得んために、汝らの祈らんことを殊に求む。20 願はくは永遠の契約の血によりて、羊の大牧者となれる我らの主イエスを、死人の中より引上げ給ひし平和の神、21 その悦びたまふ所を、イエス・キリストに由りて我らの衷に行ひ、御意を行はしめん爲に凡ての善き事につきて、汝らを全うし給はんことを。世々限りなく榮光、かれに在れ、アメン。22 兄弟よ、請ふ我が勸の言を容れよ、我なんじらに手短か書き贈りたるなり。23 なんじら知れ、我らの兄弟テモテは釋されたり。彼もし速かに來らば、我かれと偕に汝らを見ん。24 汝らの凡ての導く者、および凡ての聖徒に安否を問へ。イタリヤの人々、なんじらに安否を問ふ。25 願はくは恩恵なんじら衆と偕に在らんことを。

ヤコブの手紙

Chapter 1

1 神および主イエス・キリストの僕ヤコブ、散り居る十二の族の平安を祈る。2 わが兄弟よ、なんじら各様の試練に遭ふとき、只管これを歡喜とせよ。3 そは汝らの信仰の驗は、忍耐を生ずるを知らばなり。4 忍耐をして全き活動をなさしめよ。これ汝らが全くかつ備りて、缺くる所なからん爲なり。5 汝らの中もし智慧の缺くる者あらば、咎むることなくまた惜む事なく、凡ての人に與ふる神に求むべし、さらば與へられん。6 但し疑ふことなく、信仰をもて求むべし。疑ふ者は、風に動かされて翻へる海の波のごときなり。7 かかる人は主より何物をも受くと思ふな。8 斯かる人は二心にして、凡てその歩むところの途 定りなし。9 卑き兄弟は、おのが高くせられたるを喜べ。10 富める者は、おのが卑くせられたるを喜べ。そは草の花のごとく過ぎゆくべければなり。11 日出で熱き風吹きて草を枯らせば、花落ちてその麗しき姿ほろぶ。富める者もまた斯くのごとく、その途の半にして己まづ消え失せん。12 試練に耐ふる者は幸福なり、之を善しとせらるる時は、主のおのれを愛する者に、約束し給ひし生命の冠冕を受くべければなり。13 人誘はるるとき『神われを誘ひたまふ』と言ふな、神は惡に誘はれ給はず、又みづから人を誘ひ給ふことなし。14 人の誘はるは己の慾に引かれて惑さるるなり。15 慾 孕みて罪を生み、罪成りて死を生む。16 わが愛する兄弟よ、自ら欺くな。17 凡ての善き

賜物と凡ての全き賜物とは、上より、もろもろの光の父より降るなり。父は變ることなく、また回轉の影もなき者なり。18 その造り給へる物の中に我らを初穂のごとき者たらしめんとて、御旨のままに眞理の言をもて、我らを生み給へり。19 わが愛する兄弟よ、汝らは之を知る。されば、おのおの聽くことを速かにし、語ることを遅くし、怒ることを遅くせよ。20 人の怒は神の義を行はざればなり。21 されば凡ての穢と溢る惡とを捨て、柔和をもて其の植ゑられたる所の靈魂を救ひ得る言を受けよ。22 ただ御言を聞くのみにして、己を欺く者とならず、之を行ふ者となれ。23 それ御言を聞くのみにして之を行はぬ者は、鏡にて己が生來の顔を見る人に似たり。24 己をうつし見て立ち去れば、直ちにその如何なる姿なりしかを忘る。25 されど全き律法、すなはち自由の律法を懇るに見て離れぬ者は、業を行ふ者にして、聞きて忘るる者にあらず、その行爲によりて幸福ならん。26 人もし自ら信心ふかき者と思ひて、その舌に嚙を著けず、己が心を欺かば、その信心は空しきなり。27 父なる神の前に潔くして穢なき信心は、孤兒と寡婦とをその患難の時に見舞ひ、また自ら守りて世に汚されぬ是なり。

Chapter 2

1 わが兄弟よ、榮光の主なる我らの主イエス・キリストに對する信仰を保たんには、人を偏り視るな。2 金の指輪をはめ華美なる衣を著たる人、なんじらの會堂に入りきたり、また粗末なる衣を著たる貧しき者いり來らんに、3 汝等その華美なる衣を著たる人を重んじ視て『なんじ此の善き處に坐せよ』と言ひ、また貧しき者に『なんじ彼處に立つか、又はわが足下に坐せよ』と言はば、4 汝らの中に區別をなし、また惡しき思をもてる審判人となるに非ずや。5 わが愛する兄弟よ、聽け、神は世の貧しき者を選びて信仰に富ませ、神を愛する者に約束し給ひし國の世繼たらしめ給ひしに非ずや。6 然るに汝らは貧しき者を輕んじたり、汝らを虐げ、また裁判所に曳くものは、富める者にあらずや。7 彼らは汝らの上に稱へらるる尊き名を汚すものに非ずや。8 汝等もし聖書にある『おのれの如く汝の隣を愛すべし』との尊き律法を全うせば、その爲すところ善し。9 されど若し人を偏り視れば、これ罪を行ふなり。律法、なんじらを犯罪者と定めん。10 人、律法全體を守るとも、その一つに墮かば是すべてを犯すなり。11 それ『姦淫する勿れ』と宣ひし者、また『殺す勿れ』と宣ひたれば、なんじ姦淫せずとも、若し人を殺さば律法を破る者となるなり、12 なんじら自由の律法によりて審かれんとする者のごとく語り、かつ行ふべし。13 憐憫を行はぬ者は憐憫なき審判を受けん、憐憫は審判にむかひて勝ち誇るなり。1

4 わが兄弟よ、人みづから信仰ありと言ひて、もし行爲なくば何の益かあらん、かかる信仰は彼を救ひ得んや。15 もし兄弟或は姉妹、裸體にて日用の食物に乏しからんとき、16 汝等のうち、或人これに『安らかにして住け、温かなれ、飽くことを得よ』といひて體に無くてならぬ物を與へずば、何の益かあらん。17 斯くのごとく信仰もし行爲なくば、死にたる者なり。18 人もまた言はん『なんじ信仰あり、われ行爲あり、汝の行爲なき信仰を我に示せ、我わが行爲によりて信仰を汝に示さん』と。19 なんじ神は唯一なりと信ずるか、かく信ずるは善し、惡鬼も亦信じて慄けり。20 ああ虚しき人よ、なんじ行爲なき信仰の徒然なるを知らんと欲するか。21 我らの父アブラハムはその子イサクを祭壇に献げしとき、行爲によりて義とせられたるに非ずや。22 なんじ見るべし、その信仰、行爲と共にはたらき、行爲によりて全うせられたるを。23 またアブラハム神を信じ、その信仰を義と認められたりと云へる聖書は成就し、かつ彼は神の友と稱へられたり。24 かく人の義とせらるるは、ただ信仰のみに由らずして行爲に由ることは、汝らの見る所なり。25 また遊女ラハブも使者を受け、これを他の途より去らせたるとき、行爲によりて義とせられたるに非ずや。26 靈魂なき體の死にたる者なるが如く、行爲なき信仰も死にたるものなり。

Chapter 3

1 わが兄弟よ、なんじら多く教師となるな。教師たる我らの更に嚴しき審判を受くることを、汝ら知ればなり。2 我らは皆しばしば躓く者なり、人もし言に蹉跌なくば、これ全き人にして全身に嚙を著け得るなり。3 われら馬を己に馴はせんために嚙をその口に置くときは、その全身を馴し得るなり。4 また船を見よ、その形は大きく、かつ激しき風に追はるるとも、最小き舵にて舵人の欲するままに運すなり。5 斯くのごとく舌もまた小きものなれど、その誇るところ大なり。視よ、いかに小き火の、いかに大なる林を燃すかを。6 舌は火なり、不義の世界なり、舌は我らの肢體の中にて、全身を汚し、また地獄より燃え出でて一生の車輪を燃すものなり。7 獸・鳥・匍ふもの・海にあるもの等、さまざまの種類みな制せらる、既に人に制せられたり。8 されど誰も舌を制すること能はず、舌は動きて止まぬ惡にして死の毒の満つるものなり。9 われら之をもて主たる父を讃め、また之をもて神に象りて造られたる人を詛ふ。10 讚美と呪詛と同じ口より出づ。わが兄弟よ、かかる事はあるべき水と苦き水とを出さんや。12 わが兄弟よ、無花果の樹オリブの實を結び、葡萄の樹、無花果の實を結ぶことを得んや。斯くのごとく鹽水は甘き水を出すこと能はず。13

汝等のうち智くして慧き者は誰なるか、その人は善き行状により柔和なる智慧をもて行爲を顯すべし。14 されど汝等もし心のうちに苦き妬と黨派心とを懷かば、誇るな、眞理に悖りて偽るな。15 かかる智慧は上より下るにあらず、地に屬し、情慾に屬し、惡鬼に屬するものなり。16 妬と黨派心とある所には亂と各様の惡しき業とあればなり。17 されど上よりの智慧は第一に潔よく、次に平和・寛容・温順また憐憫と善き果実とに満ち、人を偏り視ず、虚偽なきものなり。18 義の果は平和をおこなふ者の平和をもて播くに因るなり。

Chapter 4

1 汝等のうちの戰爭は何處よりか、分争は何處よりか、汝らの肢體のうちに戦ふ慾より來るにあらずや。2 汝ら貪れども得ず、殺すことをなし、妬むことを爲れども得ること能はず、汝らは争ひまた戦す。汝らの得ざるは求めざるに因りてなり。3 汝ら求めてなほ受けざるは慾のために費さんとして妄に求むるが故なり。4 姦淫をおこなふ者よ、世の友となるは、神に敵するなるを知らぬか、誰にても世の友とならんと欲する者は、己を神の敵とするなり。5 聖書に『神は我らの衷に住ませ給ひし靈を、妬むほどに慕ひたまふ』と云へるを虚しきことと汝ら思ふか。6 神は更に大なる恩恵を賜ふ。されば言ふ『神は高ぶる者を拒ぎ、へりくだる者に恩恵を與へ給ふ』と。7 この故に汝ら神に服へ、惡魔に立ち向へ、さらば彼なんじらを逃げ去らん。8 神に近づけ、さらば神なんじらに近づき給はん。罪人よ、手を淨めよ、二心の者よ、心を潔よくせよ。9 なんじら惱め、悲しめ、泣け、なんじらの笑を悲歎に、なんじらの歡喜を憂に易へよ。10 主の前に己を卑うせよ、然らば主なんじらを高うし給はん。11 兄弟よ、互に誇るな。兄弟を誇る者、兄弟を審く者は、これ律法を誹り、律法を審くなり。汝もし律法を審かば、律法をおこなふ者にあらずして審判人なり。12 立法者また審判者は唯一人にして、救ふことをも滅ぼすことをも爲し得るなり。なんじ誰なれば隣を審くか。13 聽け『われら今日もししくは明日それがし町に往きて、一年の間かしこに留り、買賣して利を得ん』と言ふ者よ、14 汝らは明日のことを知らず、汝らの生命は何ぞ、暫く現れて遂に消ゆる霧なり。15 汝等その言ふこところに易へて『主の御意ならば、我ら活きて此のごと、或は彼のことを爲さん』と言ふべきなり。16 されど今なんじらは高ぶりて誇る、斯くのごとき誇はみな惡しきなり。17 人善を行ふことを知りて、之を行はぬは罪なり。

Chapter 5

1 聽け、富める者よ、なんじらの上に来らんとする艱難のために泣

きさけべ。2 汝らの財は朽ち、汝らの衣は蠹み、3 汝らの金 銀は錆びたり。この錆なんぢらに對ひて證をなし、かつ火のごとく汝らの肉を蝕はん。汝等この末の世に在りてなほ財を蓄へたり。4 視よ、汝等がその畑を刈り入れたる労働人に拂はざりし値は叫び、その刈りし者の呼聲は萬軍の主の耳に入れり。5 汝らは地にて奢り楽しみ、屠らるる日に在りて尚おのが心を飽かせり。6 汝らは正しき者を罪に定め、且これを殺せり、彼は汝らに抵抗することなし。7 兄弟よ、主の來り給ふまで耐へ忍べ。視よ、農夫は地の貴き實を、前と後との雨を得るまで耐へ忍びて待つなり。8 汝らも耐へ忍べ、なんぢらの心を堅うせよ。主の來り給ふこと近づきたればなり。9 兄弟よ、互に怨言をいふな、恐らくは審かれん。視よ、審判主、門の前に立ちたまふ。10 兄弟よ、主の名によりて語りし預言者たちを苦難と耐忍との模範とせよ。11 視よ、我らは忍ぶ者を幸福なりと思ふ。なんぢらヨブの忍耐を聞けり、主の彼に成し給ひし果を見たり、即ち主は慈悲深く、かつ憐憫あるものなり。12 わが兄弟よ、何事よりも先づ誓ふな、或は天、あるひは地、あるひは其の他のものを指して誓ふな。只なんぢら然りは然り否は否とせよ、罪に定めらるる事ならん爲なり。13 汝等のうち苦しむ者あるか、その人、祈せよ。喜び者あるか、その人、讚美せよ。14 汝等のうち病める者あるか、その人、教會の長老たちを招け。彼らは主の名により其の人に油をぬりて祈るべし。15 さらば信仰の祈は病める者を救はん、主しかるを起し給はん、もし罪を犯し事あらば赦されん。16 この故に互に罪を言ひ表し、かつ癒されんために相互に祈れ、正しき人の祈ははたらきて大なる力あり。17 エリヤは我らと同じ情をもてる人なるに、雨降らざることを切に祈りしかば、三年六ヶ月のあひだ地に雨降らざりき。18 かくて再び祈りたれば、天雨を降らし、地その果を生ぜり。19 わが兄弟よ、汝等のうち眞理より迷ふ者あらんに、誰か之を引同さば、20 その人は知れ、罪人をその迷へる道より引同す者は、かれの靈魂を死より救ひ、多くの罪を掩ふことを。

ペテロの手紙

Chapter 1

1 イエス・キリストの使徒ペテロ、書をポント、ガラテヤ、カパドキヤ、アジア、ピテニヤに散りて宿れる者、2 即ち父なる神の預じめ知り給ふところに隨ひて、御靈の潔により柔順ならんため、イエス・キリストの血の灑を受けんために選ばれたる者に贈る。願はくは恩恵と平安と汝らに増さんことを。3 讀むべきかな

、我らの主イエス・キリストの父なる神、その大なる憐憫に隨ひ、イエス・キリストの死人の中より甦へり給へることに由り、我らを新に生れしめて生ける望を懷かせ、4 汝らの爲に天に蓄へある、朽ちず汚れず萎まざる嗣業を繼がしめ給へり。5 汝らは終のときに顯れんとて備りたる救を得んために、信仰によりて神の力に護らるるなり。6 この故に汝ら今しばしの程さまざまの試煉によりて憂へざるを得ずとも、なほ大に喜べり。7 汝らの信仰の驗は、壞つる金の火にためさるるよりも貴くして、イエス・キリストの現れ給ふとき誓と光榮と尊貴とを得べきなり。8 汝らイエスを見しことなけれど之を愛し、今見ざれども之を信じて、言ひがたく、かつ光榮ある喜悅をもて喜ぶ。9 これ信仰の極、すなはち靈魂の救を受くるに因る。10 汝らの受くべき恩恵を預言したる預言者たちは、この救につきて具に尋ね查べたり。11 即ち彼らは己が中に在すキリストの靈の、キリストの受くべき苦難および其の後の榮光を預じめ證して、何時のころ如何なる時を示し給ひしかを查べたり。12 彼等はその動むるところ己のためにあらず、汝らの爲なることを默示によりて知り。即ち天より遣され給へる聖靈によりて福音を宣ぶる者どもの、汝らに傳へたる所にして、御使たちも之を懇ろに視んと欲するなり。13 この故に、なんぢら心の腰に帶し、慎みてイエス・キリストの現れ給ふときに、與へられんとする恩恵を疑はずして望め。14 従順なる子等の如くして、前の無知なりし時の慾に效はず、15 汝らを召し給ひし聖者に效ひて、自ら凡ての行状に潔かれ。16 録して『われ聖なれば、汝らも聖なるべし』とあればなり。17 また偏ることなく各人の業に隨ひて審きたまふ者を父と呼ばば、畏をもて世に寓る時を過せ。18 なんぢらが先祖たちより傳はりたる虚しき行状より贖はれしは、銀や金のごとき朽つる物に由るにあらず、19 瑕なく汚なき羔羊の如きキリストの貴き血に由ることを知ればなり。20 彼は世の創の前より預じめ知られたまひしが、この末の世に現れ給へり。21 これは彼を死人の中より甦へらせて之に榮光を與へ給ひし神を、彼によりて信ずる汝らの爲なり、この故に汝らの信仰と希望とは神に由れり。22 なんぢら眞理に従ふによりて靈魂をきよめ、偽りなく兄弟を愛するに至りたれば、心より熱く相愛せよ。23 汝らは朽つる種に由らで、朽つることなき種、すなはち神の活ける限りなく保つ言に由りて新に生れたればなり。24 『人はみな草のごとく、その光榮はみな草の花の如し、草は枯れ、花は落つ。25 されど主の御言は永遠に保つなり』汝らに宣傳へたる福音の言は即ちこれなり。

Chapter 2

1 されば凡ての惡意、すべての

詭計・偽善・嫉妬および凡ての謗を棄てて、2 いま生れし嬰兒のごとく靈の眞の乳を慕へ、之により育ちて救に至らん爲なり。3 なんぢら既に主の仁慈あることを味ひ知りたらんには、然すべきなり。4 主は人に棄てられ給へど、神に選ばれたる貴き活ける石なり。5 なんぢら彼にきたり、活ける石のごとく建てられて靈の家となれ。これ潔き祭司となり、イエス・キリストに由りて神に喜ばるる靈の犠牲を献げん爲なり。6 聖書に『視よ、選ばれたる貴き隅の首石を我シオンに置く。之に依頼む者は辱しめられじ』とあるなり。7 されば信ずる汝らには尊きなれど、信ぜぬ者には『造家者らの棄てたる石は、隅の首石となれる』にて、8 『つまづく石、礙ぐる岩』となるなり。彼らは服はぬに困りて御言に躓く。これは斯く定められたるなり。9 されど汝らは選ばれたる族、王なる祭司・潔き國人・神に屬ける民なり、これ汝らを暗黒より召して、己の妙なる光に入れ給ひし者の誓を顯させん爲なり。10 なんぢら前には民にあらずしが、今は神の民なり。前には憐憫を蒙らざりしが、今は憐憫を蒙れり。11 愛する者よ、われ汝らに勸む。汝らは旅人また宿れる者なれば、靈魂に逆ひて戦ふ肉の慾を避け、12 異邦人の中にありて行状を美しく爲よ、これ汝らを誇りて惡をおこなふ者と云へる人々の、汝らの善き行爲を見て、反つて普順の日に神を崇めん爲なり。13 なんぢら主のために凡て人の立てたる制度に服へ。或は上に在る王、14 或は惡をおこなふ者を罰し、善をおこなふ者を賞せんために王より遣されたる司に服へ。15 善を行ひて愚なる人の無知の言を止むるは、神の御意なればなり。16 なんぢら自由なる者のごとくすとも、その自由をもて惡の覆となさず、神の僕のごとくせよ。17 なんぢら凡ての人を敬ひ、兄弟を愛し、神を畏れ、王を尊べ。18 僕たる者よ、大なる畏をもて主人に服へ、啻に善きも、寛容なる者にのみならず、情なき者にも服へ、19 人もし受くべからざる苦難を受け、神を認むるに困りて憂に堪ふる事をせば、これ誓むべきなり。20 もし罪を犯して撻たるとき、之を忍ぶとも何の功がある。されど若し善を行ひてなほ苦しめらるる時これを忍ばば、これ神の誓めたまふ所なり。21 汝らは之がために召されたり、キリストも汝らの爲に苦難をうけ、汝らを其の足跡に隨はしめんとて模範を遺し給へるなり。22 彼は罪を犯さず、その口に虚偽なく、23 また罵られて罵らず、苦しめられて辱かさず、正しく審きたまふ者に己を委ね、24 木の上に懸りて、みづから我らの罪を己が身に負ひ給へり。これ我が罪に就きて死に、義に就きて生きん爲なり。汝らは彼の傷によりて癒されたり。25 なんぢら前には羊のごとく迷ひたりしが、今は汝らの靈魂の牧者たる監督に歸りたり。

Chapter 3

1 妻たる者よ、汝らもその夫に服へ。たとひ御言に遵はぬ夫ありとも、汝らの潔く、かつ恭敬しき行状を見て、言によらず妻の行状によりて救に入らん爲なり。3 汝らは髪を辮み、金をかけ、衣服を裝ふごとき表面のものを飾とせず、4 心のうちの隠れたる人、すなはち柔和、恬靜なる靈の朽ちぬ物を飾とすべし、是こそは神の前にて價貴きものなれ。5 むかし神に望を置きたる潔き女たちも、かくの如くその夫に服ひて己を飾りたり。6 即ちサラがアブラハムを主と呼びて之に服ひし如し。汝らも善を行ひて何事にも戦き懼れずばサラの子たるなり。7 夫たる者よ、汝らその妻を己より弱き器の如くし、知識にしたがひて憐に棲み、生命の恩恵を共に嗣ぐ者として之を貴べ、これ汝らの祈に妨害なからん爲なり。8 終に言ふ、汝らみな心を同じうし、互に思ひ遣り、兄弟を愛し、憐み、へりくだり、9 惡をもて惡に、謗をもて謗に報ゆることなく、反つて之を祝福せよ。汝らの召されたるは祝福を嗣がん爲なればなり。10 『生命を愛し、善き日を送らんとする者は、舌を抑へて惡を避け、口唇を抑へて虚偽を語らず、11 惡より遠ざかりて善をおこなひ、平和を求めて之を追ふべし。12 それ主の目は義人の上にとどまり、その耳は彼らの祈にかたむく。されど主の御顔は惡をおこなふ者に向ふ』13 汝等もし善に熱心ならば、誰か汝らに害はん。14 たとひ義のために苦しめらるる事ありとも、汝ら幸福なり『彼等の威嚇を懼るな、また心を騒がすな』15 心の中にキリストを主と崇めよ、また汝らの衷にある望の理由を問ふ人には、柔和と畏懼とをもて常に辯明すべき準備をなし、16 かつ善き良心を保て。これ汝等のキリストに在りて行ふ善き行状を罵る者の、その謗ることに就きて自ら愧ぢん爲なり。17 もし善をおこなひて苦難を受くること神の御意ならば、惡を行ひて苦難を受くるに勝るなり。18 キリストも汝らを神に近づかせんとて、正しきもの正しからぬ者に代りて、一たび罪のために死に給へり、彼は肉體にて殺され、靈にて生かされ給へるなり。19 また靈にて往き、獄にある靈に宣傳へたまへり。20 これらの靈は、昔ノアの時代に方舟の備へらるるあひだ寛容をもて神の待ち給へるとき、服はざりし者どもなり、その方舟に入り水を経て救はれし者は、僅にしてただ八人なりき。21 その水に象れるバプテスマは肉の汚穢を除くにあらず、善き良心の神に對する要求にして、イエス・キリストの復活によりて今なんぢらを救ふ。22 彼は天に昇りて神の右に在す。御使たち及びもるもるの權威と能力とは彼に服ふなり。

Chapter 4

1キリスト肉體にて苦難を受け給ひたれば、汝らも亦おなじ心をもて自ら鑑へ。肉體にて苦難を受ける者は罪を止むるなり。2これ今よりのち、人の慾に従はず、神の御意に従ひて、肉體に寓れる残の時を過ぎん爲なり。3なんぢら過ぎにし日は、異邦人の好む所をおこなひ、好色・慾情・酩酊・宴樂・暴飲・律法にかなはぬ偶像

崇拜に歩みて、もはや足れり。4彼らは汝らの己とともに放蕩の極に走らぬを怪しみて譏るなり。5彼らは生ける者と死にたる者とを審く準備をなし給へる者に己のことを陳ぶべし。6福音の死にたる者に宣傳へられしは、彼らが肉體にて人のごとく審かれ、靈にて神のごとく生きん爲なり。7萬の物をはり近づけり、然れば汝ら心を慥にし、慎みて祈せよ。8何事よりも先づ互に熱く相愛せよ。愛は多くの罪を掩へばなり。9また吝むことなく互に懇ろに待せ。

10神のさまざまの恩恵を掌どる善き家司のごとく、各人その受けし賜物をもて互に事へよ。11もし語るならば、神の言をかたる者のごとく語り、事ふるならば、神の與へたまふ能力を受けたる者のごとく事へよ。是イエス・キリストによりて事々に神の崇められ給はん爲なり。榮光と權力とは世々限りなく彼に歸するなり、アメン。12愛する者よ、汝らを試みんとて來れる火のごとき試煉を異なる事として怪しまず、13反つてキリストの苦難に與れば、與るほど喜べ、なんぢら彼の榮光の顯れん時にも喜び樂しまん爲なり。14もし汝等キリストの名のために謗られなば幸福なり。榮光の御靈すなはち神の御靈なんじらの上に留り給へばなり。15汝等のうち誰にても或は殺人、あるひは盗人、あるひは悪を行ふ者、あるひは妄に他人の事に干渉する者となりて苦難に遭ふな。16されど若しキリストアンたるをもて苦難を受けなば、之を恥づることなく、反つて此の名によりて神を崇めよ。17既に時いたれり、審判は神の家より始るべし。まづ我等より始るとせば、神の福音に従はざる者のその結局は如何にぞや。18義人も辛うじて救はるるならば、不敬虔なるもの、罪ある者は何處に立たん。19されば神の御意に従ひて苦難を受くる者は、善を行ひて己が靈魂を眞實なる造物主にゆだね奉るべし。

Chapter 5

1われ汝らの中なる長老たちに勸む(我は汝らと同じく長老たる者、またキリストの苦難の證人、顯れんとする榮光に與る者なり)2汝らの中にある神の群羊を牧へ。止むを得ずして爲さず、神に従ひて心より爲し、利を貪るために爲さず、悦びてなし、3委ねられたる者の主とならず、群羊の模範となれ。4さらば

大牧者の現れ給ふとき、萎まざる光榮の冠冕を受けん。5若き者よ、なんぢら長老たちに服へ、かつ皆たがひに謙遜をまとへ『神は高ぶる者を拒ぎ、へりくだる者に恩恵を與へ給ふ』6この故に神の能力ある御手の下に己を卑うせよ、さらば時に及びて神なんぢらを高うし給はん。7又もろもろの心勞を神に委ねよ、神なんぢらの爲に慮ばかり給へばなり。8慎みて目を覺しをれ、汝らの仇なる惡魔、ほゆる獅子のごとく歴迴りて呑むべきものを尋ぬ。9なんぢら信仰を堅うして彼を禦げ、なんぢらは世にある兄弟たちの同じ苦難に遭ふを知ればなり。10もろもろの恩恵の神、すなはち永遠の榮光を受けしめんとて、キリストによりて汝らを召し給へる神は、汝らが暫く苦難をうくる後、なんぢらを全うし、堅うし、強くして、その基を定め給はん。11願はくは權力 世々限りなく神にあれ、アメン。12われ忠實なる兄弟なりと思ふシルワに由りて、簡單に書き贈りて汝らに勧め、かつ此は神の眞の恩恵なることを證す、汝等この恩恵に立て。13汝らと共に選ばれてバビロンに在る教會、なんぢらに安否を問ふ、わが子マルコム安否を問ふ。14なんぢら愛の接吻をもて互に安否を問へ。願はくはキリストに在る汝ら衆に平安あらんことを。

ペテロの手紙

Chapter 1

1イエス・キリストの僕また使徒なるシメオン・ペテロ、書を我らの神および救主イエス・キリストの義によりて、我らと同じ貴き信仰を受けたる者に贈る。2願はくは神および我らの主イエスを知るによりて、恩恵と平安と汝らに増さんことを。3キリストの神たる能力は、生命と敬虔とに係る凡てのもの我らに賜へり。是おのれの榮光と徳とをもて召し給へる者を我ら知るに困りてなり。4その榮光と徳とによりて我らに貴き大なる約束を賜へり、これは汝らが世に在る慾の滅亡をのがれ、神の性質に與る者とならん爲なり。5この故に勵み勉めて汝らの信仰に徳を加へ、徳に知識を、6知識に節制を、節制に忍耐を、忍耐に敬虔を、7敬虔に兄弟の愛を、兄弟の愛に博愛を加へよ。8此等のもの汝らの衷にありて彌増すときは、汝等われらの主イエス・キリストを知るに怠ることなく、實を結ばぬこと無きに至らん。9此等のもの無きは盲人にして遠く見るこれ能はず、己が舊き罪を潔められしことを忘れたるなり。10この故に兄弟よ、ますます勵みて汝らの召されたること、選ばれたることを堅うせよ。若し此等のことを行はば躓くことなからん。11かくて汝らは我らの主なる救主イ

エス・キリストの永遠の國に入る恩恵を豊に與へられん。12されば汝らは此等のことを知り、既に受けたる眞理に堅うせられたれど、我つねに此等のことを思ひ出させんとするなり。13我は尚この幕屋に居るあいだ、汝らに思ひ出させて勵ますを正當なりと思ふ。14そは我らの主イエス・キリストの我に示し給へるごとく、我わが幕屋を脱ぎ去ることの速かなるを知ればなり。15我また汝等をして我が世を去らん後にも、常に此等のことを思ひ出させんと勉むべし。16我らは我らの主イエス・キリストの能力と來りたまふ事とを汝らに告ぐるに、巧なる作話を用ひざりき、我らは親しくその稜威を見し者なり。17いとも貴き榮光の中より聲出でて『こは我が愛しむ子なり、我これを悦ぶ』と言ひ給へるとき、主は父なる神より尊貴と榮光とを受け給へり。18我らも彼と偕に聖なる山に在りしとき、天より出づる此の聲をきけり。19かくて我ら有てる預言の言は堅うせられたり。汝等この言を暗き處にかがやく燈火として、夜明け、明星の汝らの心の中にいづるまで顧みれば善し。20なんじら先づ知れ、聖書の預言は、すべて己がままたに釋くべきものにあらぬを。21預言は人の心より出でしにあらず、人々聖靈に動かされ、神によりて語れるものなればなり。

Chapter 2

1されど民のうちに偽預言者おこりき、その如く汝らの中にも偽教師あらん。彼らは滅亡にいたる異端を持ち入れ、己らを買ひ給ひし主をさへ否みて、速かなる滅亡を自ら招くなり。2また多くの人かれらの好色に隨はん、之によりて眞の道を譏らるべし。3彼らは貪慾によりて節言を設け、汝等より利をとらん。彼らの審判は古へより定められたれば遅からず、その滅亡は寢ぬず。4神は罪を犯しし御使たちを赦さずして地獄に投げ入れ、之を黒闇の穴におきて審判の時まで看守し、5また古き世を容さずして、ただ義の宣傳者なるノアと他の七人とをのみ護り、敬虔ならぬ者の世に洪水を來らせ、6またソドムとゴモラとの町を滅亡に定めて灰となし、後の不敬虔をおこなふ者の鑑とし、7ただ無法の者どもの好色の舉動を憂ひし正しきロトのみを救ひ給へり。8(この正しき人は彼らの中に住みて、日々その不法の行爲を見聞して、己が正しき心を傷めたり)9かく主は敬虔なる者を試煉の中より救ひ、また正しからぬ者を審判の日まで看守して之を罰し、10別けて、肉に隨ひて、汚れたる情慾のうちを歩み、權ある者を輕んずる者を罰することを知り給ふ。この曹輩は臆らく放縱にして、尊き者どもを譏りて畏れぬなり。11御使たちはかの尊き者どもに勝りて、大なる權勢と能力とあれど、彼らを主の御

前に譏り訴ふることをせず。12然れど、かの曹輩は恰も捕へられ屠らるるために生れたる辯別なき生物のごとし、知らぬことを譏り、不義の價をえて必ず亡るべし。13彼らは晝もなほ酒食を快樂とし誘惑を樂しみ、汝らと共に宴席に與りて、汚點となり瑕となる。14その目は淫婦にて満ち罪に飽くことなし、彼らは靈魂の定らぬ者を惑し、その心は貪欲に慣れて呪詛の子たり。15彼らは正しき道を離れて迷ひいで、ペオルの子バラムの道に隨へり。バラムは不義の報を愛して、16その不法を咎められたり。物言はぬ驢馬、人の聲して語り、かの預言者の狂を止めたればなり。17この曹輩は水なき井なり、颯風に逐はるる雲霧なり、黒き闇かれらの爲に備へられたり。18彼らは虚しき誇をかたり、迷の中にある者どもより辛うじて遁れたる者を、肉の慾と好色とをもて惑し、19之に自由を與ふることを約すれど、自己は滅亡の奴隷たり、敗くる者は勝つ者に奴隷とせらるればなり。20彼等もし主なる救主イエス・キリストを知るによりて、世の汚穢をのがれしをのち、復これに纏はれて敗くる時は、その後の状は前よりもなほ悪しくなるなり。21義の道を知りて、その傳へられたる聖なる誠命を去り往かんよりは寧ろ義の道を知らぬを勝れりとす。22俚諺に『犬おのが吐きたる物に歸り來り、豚身を洗ひてまた泥の中に轉ぶ』と云へるは眞にして、能く彼らに當れり。

Chapter 3

1愛する者よ、われ今この第二の書を汝らに書き贈り、第一なる之とをもて汝らに思ひ出させ、その潔き心を勵まし、2聖なる預言者たちの預めまひし言、および汝らの使徒たちの傳へし主なる救主の誠命を憶えさせんとす。3汝等まづ知れ、末の世には嘲る者嘲笑をもて來り、おのが慾に隨ひて歩み、4かつ言はん『主の來りたまふ約束は何處にありや、先祖たちの眠りしもの、萬のもの開闢の初と等しくして變らざるなり』と。5彼らは殊更に次の事を知らざるなり、即ち古へ神の言によりて天あり、地は水より出で水によりて成立ちしが、6その時の世は之により水に淹はれて滅びたり。7されど同じ御言によりて今の天と地とは蓄へられ、火にて焼かれん爲に、敬虔ならぬ人々の審判と滅亡との日まで保たるなり。8愛する者よ、なんぢら此の一事を忘るな。主の御前は一日は千年のごとく、千年は一日のごとし。9主その約束を果すに遅きは、或人の遅しと思ふが如きにあらず、ただ一人の亡ぶるをも望み給はず、凡人の悔改に至らんことを望みて汝らを永く忍び給ふなり。10されど主の日は盗人のごとく來らん、その日には天とどろきて去り、もろもろの天體は焼け崩れ、地とそこにある工とは焼け盡きん。11かく此

等のものはみな崩るべければ、汝等いかに潔き行状と敬虔とをもて、12 神の日の来るを待ち之を速かにせんことを勉むべきにあらずや、その日には天然え崩れ、もろもろの天體焼け溶けん。13 されど我らは神の約束によりて、義の住むところの新しい天と新しい地とを待つ。14 この故に愛する者よ、汝等これを待てば、神の前に汚點なく瑕なく安然に在らんことを勉めよ。15 且われらの主の寛容を救なりと思へ、これは我らの愛する兄弟パウロも、その與へられたる智慧にしたがひ曾て汝らに書き贈りし如し。16 彼はその凡ての書にも此等のことに就きて語る、その中には悟りがたき所あり、無學のもの心の定らぬ者は、他の聖書のごとく之をも強ひ釋きて自ら滅亡を招くなり。17 されば愛する者よ、なんぢら預じめ之を知れば、慎みて無法の者の迷にさそはれて己が堅き心を失はず、18 ますます我らの主なる救主イエス・キリストの恩寵と主を知る知識とに進め。願はくは今および永遠の日までも榮光かれに在らんことを。

ヨハネの手紙

Chapter 1

1 太初より有りし所のもの、我等が聞きしところ、目にて見し所、つらつら視て手觸りし所のもの、即ち生命の言につきて、2 この生命すでに顯れ、われら之を見て證をなし、その曾て父と偕に在して、今われらに顯れ給へる永遠の生命を汝らに告ぐ。3 我らの見しところ聞きし所を汝らに告ぐ、これ汝等をも我らの交際に與らしめん爲なり。我らは父および其の子イエス・キリストの交際に與るなり。4 此等のことを書き贈るは、我らの喜悦の満ちん爲なり。5 我らが彼より聞きて、また汝らに告ぐる音信は是なり、即ち神は光にして少しの暗き所なし。6 もし神と交際ありと言ひて暗きうちを歩まば、我ら偽りて眞理を行はざるなり。7 もし神の光のうちに在すごとく光のうちに歩まば、我ら互に交際を得、また其の子イエスの血、すべての罪より我らを潔む。8 もし罪なしと言はば、是みづから欺けるにて眞理われらの中になし。9 もし己の罪を言ひあらはさば、神は眞實にして正しければ、我らの罪を赦し、凡ての不義より我らを潔め給はん。10 もし罪を犯したる事なしといはば、これ神を偽者とするなり、神の言われらの中になし。

Chapter 2

1 わが若子よ、これらの事を書き贈るは、汝らが罪を犯さざらん爲なり。人もし罪を犯さば、我等のために父の前に助主あり、即ち義なるイエス・キリストなり。2 彼は我ら

の罪のために宥の供物たり、奮に我らの爲のみならず、また全世界の爲なり。3 我らその誠命を守らば、之によりて彼を知ることを自ら悟る。4 『われ彼を知る』と言ひて其の誠命を守らぬ者は偽者にして眞理その衷になし。5 その御言を守る者は誠に神の愛、その衷に全うせらる。之によりて我ら彼に在ることを悟る。6 彼に居ると言ふ者は、彼の歩み給ひしごとく自ら歩むべきなり。7 愛する者よ、わが汝らに書き贈るは、新しい誠命にあらず、汝らが初より有てる舊き誠命なり。この舊き誠命は汝らが聞きし所の言なり。8 然れど我が汝らに書き贈るところは、また新しい誠命にして、主にも汝らにも眞なり、その故は眞の光すでに照りにて、暗黒はややに過ぎ去ればなり。9 光に在りと言ひて其の兄弟を憎むものは、今もなほ暗黒にあるなり。10 その兄弟を愛する者は、光に居りて顛躓その衷になし。11 その兄弟を憎む者は暗黒にあり、暗きうちを歩みて己が往くところを知らず、これ暗黒はその眼を瞎したればなり。12 若子よ、我この書を汝らに贈るは、なんぢら主の御名によりて罪を赦されたるに因る。13 父たちよ、我この書を汝らに贈るは、汝ら太初より在す者を知りたるに因る。若き者よ、我この書を汝らに贈るは、なんぢら悪しき者に勝ちたるに因る。子供よ、我この書を汝らに贈りたるは、汝ら御父を知りたるに因る。14 父たちよ、我この書を汝らに贈りたるは、汝ら太初より在す者を知りたるに因る。若き者よ、我この書を汝らに贈りたるは、汝ら強くかつ神の言その衷に留り、また悪しき者に勝ちたるに因る。15 なんぢら世をも世にある物をも愛すな。人もし世を愛せば、御父を愛する愛その衷になし。16 おほよそ世にあるもの、即ち肉の慾、眼の慾、所有の誇などは、御父より出づるにあらず、世より出づるなり。17 世と世の慾とは過ぎ往く、されど神の御意をおこなふ者は永遠に在るなり。18 子供よ、今は末の時なり、汝らが非キリスト來らんと聞きしごとく、今や非キリスト多く起れり、之によりて我等その末の時なるを知る。19 彼らは我等より出でゆきたれど、固より我等のものに非ざりき。我らの屬ならば、我らと共に留りしならん。されどその出でゆきしは、皆われらの屬ならぬことの顯れん爲なり。20 汝らは聖なる者より油を注がれたれば、凡ての事を知る。21 我この書を汝らに贈るは、汝ら眞理を知らぬ故にあらず、眞理を知り、かつ凡ての虚偽の眞理より出でぬことを知るに因る。22 偽者は誰なるか、イエスのキリストなるを否む者にあらずや。御父と御子とを否む者は非キリストなり。23 凡そ御子を否む者は御父をも有たず、御子を言ひあらはす者は御父をも有つなり。24 初より聞きし所を汝らの衷に居らしめよ。初より聞きしところ汝らの衷に居らば、汝らも御子と御父とに居らん。25 我らに約し給ひし約束は是なり、即ち永遠の

生命なり。26 汝らを惑す者どもに就きて我これらの事を書き贈る。27 なんぢらの衷には、主より注がれたる油とどまる故に、人の汝らに物を教ふる要なし。此の油は汝らに凡ての事を教へ、かつ眞にして虚偽なし、汝等はその教へしごとく主に居るなり。28 されば若子よ、主に居れ。これ主の現れ給ふときに臆することなく、其の來り給ふときに恥づることなからん爲なり。29 なんぢら主を正しと知らば、凡て正義をおこなふ者の主より生れたることを知らん。

Chapter 3

1 視よ、父の我らに賜ひし愛の如何に大なるかを。我ら神の子と稱へらる。既に神の子たり、世の我ら知らぬは、父を知らぬによりてなり。2 愛する者よ、我等いま神の子たり、後いかん、未だ顯れず、主の現れたまふ時われら之に肖んことを知る。我らその眞の状を見るべければなり。3 凡て主による此の希望を懐く者は、その清きがごとく己を潔くす。4 すべて罪をおこなふ者は不法を行ふなり、罪は即ち不法なり。5 汝らは知る、主の現れ給ひしは罪を除かん爲なるを。主には罪あることなし。6 おほよそ主に居る者は罪を犯さず、おほよそ罪を犯す者は未だ主を見ず、主を知らぬなり。7 若子よ、人に惑さるな、義をおこなふ者は義人なり、即ち主の義なるがごとし。8 罪を行ふものは悪魔より出づ、悪魔は初より罪を犯せばなり。神の子の現れ給ひしは、悪魔の業を毀たん爲なり。9 凡て神より生る者は罪を行はず、神の種、その衷に止るに由る。彼は神より生る故に罪を犯すこと能はず。10 之に由りて神の子と悪魔の子とは明かなり。おほよそ義を行はぬ者および己が兄弟を愛せぬ者は神より出づるにあらず。11 われら互に相愛すべきは汝らが初より聞きし音信なり。12 カインに効ふな、彼は悪しき者より出で己が兄弟を殺せり。何故ころしたるか、己が行爲は悪しく、その兄弟の行爲は正しかりしに因る。13 兄弟よ、世は汝らを憎むとも怪しむな。14 われら兄弟を愛するによりて、死より生命に移りしを知る、愛せぬ者は死のうちに居る。15 おほよそ兄弟を憎む者は即ち人を殺す者なり、凡そ人を殺す者の、その内に永遠の生命なきを汝らは知る。16 主は我らの爲に生命を捨てたまへり、之によりて愛といふことを知りたり、我等もまた兄弟のために生命を捨つべきなり。17 世の財寶をもちて兄弟の窮乏を見、反つて憐憫の心を閉づる者は、いかで神の愛その衷にあらんや。18 若子よ、われら言と舌とをもて相愛することなく、行爲と眞實とを以てすべし。19 之に由りて我ら眞理より出でしを知り、且われらの心われらを責むとも神の前に心を安んずべし。20 神は我らの心よりも大にして一切のことを知り給へばなり。2

1 愛する者よ、我らが心みづから責むる所なくば、神に向ひて懼なし。22 且すべて求むる所を神より受くべし。是その誠命を守りて御心にかなふ所を行へばなり。23 その誠命はこれなり、即ち我ら神の子イエス・キリストの名を信じ、その命じ給ひしごとく互に相愛すべきことなり。24 神の誠命を守る者は神に居り、神もまた彼に居給ふ。我らその賜ふところの御靈に由りて其の我らに居給ふことを知るなり。

Chapter 4

1 愛する者よ、凡ての靈を信ずな、その靈の神より出づるか否かを試みよ。多くの偽預言者世に出でたればなり。2 凡そイエス・キリストの肉體にて來り給ひしことを言ひあらはす靈は神より出づ、なんぢら之によりて神の御靈を知るべし。3 凡そイエスを言ひ表さぬ靈は神より出でしにあらず、これは非キリストの靈なり。その來ることは汝ら聞けり、この靈いま既に世にあり。4 若子よ、汝らは神より出でし者にして既に彼らに勝てり。汝らに居給ふ者は世に居る者よりも大なればなり。5 彼らは世より出でし者なり、之によりて世の事をかたり、世も亦かれらに聽く。6 我らは神より出でし者なり。神を知る者は我らに聽き、神より出でぬ者は我らに聽かず。之によりて眞理の靈と迷謬の靈とを知る。7 愛する者よ、われら互に相愛すべし。愛は神より出づ、おほよそ愛ある者は、神より生れ神を知るなり。8 愛なき者は、神を知らず、神は愛なればなり。9 神の愛われらに顯れたり。神はその生み給へる獨子を世に遣し、我等をして彼によりて生命を得しめ給ふに因る。10 愛といふは、我ら神を愛せしにあらざ、神われらを愛し、その子を遣して我らの罪のために宥の供物となし給ひし是なり。11 愛する者よ、斯くのごとく神われらを愛し給ひたれば、我らも亦たかひに相愛すべし。12 未だ神を見し者あらず、我等も互に相愛せば、神われらに在し、その愛も亦われらに全うせらる。13 神、御靈を賜ひしに因りて、我ら神に居り神われらに居給ふことを知る。14 又われら父のその子を遣して世の救主となし給ひしを見て、その證をなすなり。15 凡そイエスを神の子と言ひあらはす者は、神かれに居り、かれ神に居る。16 我らに對する神の愛を我ら既に知り、かつ信ず。神は愛なり、愛に居る者は神に居り、神も亦かれに居給ふ。17 かく我らの愛完全をえて、審判の日に懼なからしむ。我等この世にありて主の如くなるに因る。18 愛には懼なし、全き愛は懼を除く、懼には苦難あればなり。懼るる者は、愛いまだ全からず。19 我らの愛するは、神まづ我らを愛し給ふによる。20 人もし『われ神を愛す』と言ひて、その兄弟を憎まば、これ偽者なり

。既に見るところの兄弟を愛せぬ者は、未だ見ぬ神を愛すること能はず。21 神を愛する者は亦その兄弟をも愛すべし。我等この誠命を神より受けたり。

Chapter 5

1凡そイエスをキリストと信ずる者は、神より生れたるなり。おほよそ之を生み給ひし神を愛する者は、神より生れたる者をも愛す。2我等もし神を愛して、その誠命を行はば、之によりて神の子供を愛することを知る。3神の誠命を守るは即ち神を愛するなり、而してその誠命は難からず。4おほよそ神より生るる者は世に勝つ、世に勝つ勝利は我らの信仰なり。5世に勝つものは誰ぞ、イエスを神の子と信ずる者にあらずや。6これ水と血とに由りて来り給ひし者、即ちイエス・キリストなり。啻に水のみならず、水と血とをもて来り給ひしなり。7證する者は御霊なり。御霊は眞理なればなり。8證する者は三つ、御霊と水と血となり。この三つ合ひて一つとなる。9我等もし人の證を受けんには、神の證は更に大なり。神の證はその子につきて證し給ひし是なり。10神の子を信ずる者はその衷にこの證をもち、神を信ぜぬ者は神を僞者とす。これ神その子につきて證せし證を信ぜぬが故なり。11その證はこれなり、神は永遠の生命を我らに賜へり、この生命はその子にあり。12御子をもつ者は生命をもち、神の子をもたぬ者は生命をもたず。13われ神の子の名を信する汝らに此等のことを書き贈るは、汝らに自ら永遠の生命を有つことを知らしめん爲なり。14我らが神に向ひて確信する所は是なり、即ち御意にかなふ事を求めば、必ず聴き給ふ。15かく求むるところ、何事にも聴き給ふと知れば、求めし願を得たる事を知るなり。16人もし其の兄弟の死に至らぬ罪を犯すを見ば、神に求むべし。さらば彼に、死に至らぬ罪を犯す人々に生命を與へ給はん。死に至る罪あり、我これに就きて請ふべしと言はず。17凡ての不義は罪なり、されど死に至らぬ罪あり。18凡て神より生れたる者の罪を犯さぬことを我らは知る。神より生れ給ひし者、これを守りたまふ故に、惡しきもの觸るる事をせざるなり。19我らは神より出で、全世界は惡しき者に屬するを我らは知る。20また神の子すでに来りて我らに眞の者を知る知識を賜ひしを我らは知る。而して我らは眞の者に居り、その子イエス・キリストに居るなり、彼は眞の神にして永遠の生命なり。21若子よ、自ら守りて偶像に遠ざかれ。

ヨハネの手紙

Chapter 1

1長老、書を選ばれたる婦人および其の子供に贈る。われ眞をもて汝らを愛す。啻に我のみならず、凡て眞理を知る者はみな汝らを愛す。2これは我らの衷に止りて永遠に偕にあらんとする眞理に因りてなり。3父なる神および父の子イエス・キリストより賜ふ恩恵と憐憫と平安とは、眞と愛との中にて我らと偕にあらん。4われ汝の子供のうちに、我らが父より誠命を受けし如く、眞理に循ひて歩む者あるを見て甚だ喜べり。5婦人よ、われ今なんぢに願ふは、我らが互に相愛すべき事なり。これは新しき誠命を書き贈るにあらず、我らが初より有てる誠命なり。6彼の誠命に循ひて歩むは即ち愛なり、汝らが初より聞きしごとく、愛に歩むは即ち誠命なり。7人を愛するもの多く世にいで、イエス・キリストの肉體にて来り給ひしことを言ひ表さず、かかる者は人を惑す者にして、非キリストなり。8なんぢら我らが働きし所を空しくせず、満ち足れる報を得んために自ら心せよ。9凡そキリストの教に居らずして、之を越えゆく者は神を有たず、キリストの教に在る者は父と子とを有つなり。10人もし此の教を有たずして汝らに来らば、之を家に入るな、安かれと言ふな。11之に安かれと言ふ者は、その惡しき行爲に與するなり。12我なほ汝らに書き贈ること多くあれど、紙と墨とにてするを好まず、我らの歡喜を充さんために汝等にいたり、顔をあわせて語らんことを望む。13選ばれたる汝の姉妹の子供、なんぢに安否を問ふ。

ヨハネの手紙

Chapter 1

1長老、書を愛するガイオ、わが眞をもて愛する者に贈る。2愛する者よ、我なんぢが靈魂の榮ゆるごとく汝すべての事に榮え、かつ健かならんことを祈る。3兄弟たち来りて汝が眞理を保つこと、即ち眞理に循ひて歩むことを證したれば、われ甚だ喜べり。4我には我が子供の、眞理に循ひて歩むことを聞くより大なる喜悅はなし。5愛する者よ、なんぢ旅人なる兄弟たちにまで行ふ所みな忠實をもて爲せり。6かれら教會の前にて汝の愛につきて證せり。なんぢ神の御意に適ふやうに彼らを見送らば、その行ふところ善からん。7彼らは異邦人より何をも受けずして御名のために旅立せり。8されば斯かる人を助くべきなり、我らも彼らと共に眞理のために働く者とならん爲なり。9われ曩に聊か教會に書きおくれり。然れど彼らの中に長たんと欲するデオテレベス我らを受けず。10この故に我もし往かば、その行へる業を思ひ出させん。彼は惡

しき言をもて我らを罵り、なほ足れりとせずして自ら兄弟たちを接けず、之を接けんとする者をも拒みて教會より逐ひ出す。11愛する者よ、惡に效ふな、善にならへ。善をおこなふ者は神より出で、惡をおこなふ者は未だ神を見ざるなり。12デメテリオは凡ての人にも眞理にも證せらる。我等もまた證す、なんぢ我らの證の眞なるを知る。13我なほ汝に書き贈ること多くあれど、墨と筆とにてするを欲せず、14速かに汝を見、たがひに顔をあはせて語らんことを望む。汝に平安あれ、朋友たち安否を問ふ。なんぢ名をさして友たちに安否を問へ。

ユダの手紙

Chapter 1

1イエス・キリストの僕にしてヤコブの兄弟なるユダ、書を召されたる者、すなはち父なる神に愛せられ、イエス・キリストの爲に守らるる者に贈る。2願はくは憐憫と平安と愛と、なんぢらに増さんことを。3愛する者よ、われ我らが共に與る救につき勵みて汝らに書き贈らんとせしが、聖徒の一たび傳へられたる信仰のために戦はんことを勧むる書を、汝らに贈るを必要と思へり。4そは敬虔ならずして我らの神の恩恵を好色に易へ、唯一の主なる我らの主イエス・キリストを否むものども潜り入りたればなり。彼らが此の審判を受くべきことは昔より預じめ録されたり。5汝らは固より凡ての事を知れど、我さらに汝等をして思ひ出さしめんとする事あり、即ち主エジプトの地より民を救ひ出して、後に信ぜぬ者を亡し給へり。6又おのが位を保たずして己が居所を離れたる御使を、大なる日の審判まで、闇黒のうちに長久の繩目をもて看守し給へり。7ソドム、ゴモラ及びその周圍の町々も亦これと同じく、淫行に耽り、背倫の肉慾に走り、永遠の火の刑罰をつけて鑑とせられたり。8かくの如くかの夢見る者どもも肉を汚し、權威ある者を輕んじ、尊き者を罵る。9御使の長ミカエル惡魔と論じてモーセの屍體を争ひし時に、敢へて罵りて審かず、唯『ねがはくは主なんぢを戒め給はんことを』と云へり。10されど此の人々は知らぬことを罵り、無知の獸のごとく、自然に知る所によりて亡ぶるなり。11禍害なるかな、彼らはカインの道にゆき、利のためにバラムの迷に走り、またコラの如き謀反によりて亡びたり。12彼らは汝らと共に宴席に與り、その愛餐の暗礁たり、憚らずして自己をやしなふ牧者、風に逐はるる水なき雲、枯れて又かれ、根より抜かれたる果なき秋の木、13おのが恥を湧き出す海のあらし波、さまよふ星なり。彼らの爲に暗き闇、とこしへに蓄へ置かれたり。14アダムより七代に當るエノク彼らに

就きて預言せり。曰く『視よ、主はその聖なる千萬の衆を率ゐて来りたまへり。15これ凡ての人の審判をなし、すべて敬虔ならぬ者の不敬虔を行ひたる不敬虔の凡ての業と、敬虔ならぬ罪人の、主に逆ひて語りたる凡ての甚だしき言とを責め給はんとしてなり』16彼らは眩くもの、不満をならす者にして、おのが慾に隨ひて歩み、口に誇をかり、利のために人に諂ふなり。17愛する者よ、汝らは我らの主イエス・キリストの使徒たちの預じめ言ひし言を憶えよ。18即ち汝らに曰らく『末の時に嘲る者おこり、己が不敬虔なる慾に隨ひて歩まん』と。19彼らは分裂をなし、情慾に屬し、御霊を有たぬ者なり。20されど愛する者よ、なんぢらは己がいと潔き信仰の上に徳を建て、聖靈によりて祈り、21神の愛のうちに己をまもり、永遠の生命を得るまで我らの主イエス・キリストの憐憫を待て。22また彼らの中なる疑ふ者をあはれみ、23或者を火より取出して救ひ、或者をその肉に汚れたる下衣をも厭ひ、かつ懼れつつ憐め。24願はくは汝らを守りて躓かしめず、瑕なくして榮光の御前に歡喜をもて立つことを得しめ給ふ者、25即ち我らの救主なる唯一の神に、榮光・稜威・權力・權威、われらの主イエス・キリストに由りて、萬世の前にも今も萬世までも在らんことを、アメン

ヨハネの黙示録

Chapter 1

1これイエス・キリストの黙示なり。即ち、かならず速かに起るべき事を、その僕どもに顯させんとて、神の彼に與へしものなるを、彼その使を僕ヨハネに遣して示し給へるなり。2ヨハネは神の言とイエス・キリストの證とに就きて、その見しところを悉くと證せり。3此の預言の言を讀む者と之を聴きて其の中に録されたることを守る者どもとは幸福なり、時近ければなり。4ヨハネ書をアジャヤに在る七つの教會に贈る。願はくは今在し、昔在し、後來りたまふ者、および其の御座の前にある七つの靈、5また忠實なる證人、死人の中より最先に生れ給ひしもの、地の諸王の君なるイエス・キリストより賜ふ恩恵と平安と汝らに在らんことを。願はくは我らを愛し、その血をもて我らを罪より解放ち、6われらを我の父なる神のために國民となし祭司となし給へる者に、世々限りなく榮光と權力とあらんことを、アメン。7視よ、彼は雲の中にありて来りたまふ、諸衆の目、殊に彼を刺したる者これを見ん、かつ地上の諸族みな彼の故に歎かん、然り、アメン。8今いまし、昔いまし、後きたり給ふ主なる全能の神いひ給ふ『我はアルパなり、オメガなり

』9 汝らの兄弟にして汝らと共にイエスの艱難と國と忍耐とに與る我ヨハネ、神の言とイエスの證との爲にバトモスといふ島に在りき。10 われ主日に御靈に感じたるに、我が後にラッパのごとき大なる聲を聞けり。11 曰く『なんぢの見る所のことを書に録して、エペソ、スミルナ、ベルガモ、テアテラ、サルデス、ヒラデルヒヤ、ラオデキヤに在る七つの教會に贈れ』12 われ振りて我に語る聲を見んとし、振り見れば七つの金の燈臺あり。13 また燈臺の間に人の子のごとき者ありて、足まで垂るる衣を着、胸に金の帯を束ね、14 その頭と頭髮とは白き毛のごとく雪のごとく白く、その目は焰のごとく、15 その足は爐にて焼きたる輝ける眞鍮のごとく、その聲は衆の水の聲のごとし。16 その右の手に七つの星を持ち、その口より兩刃の利き劍いで、その顔は烈しく照る日のごとし。17 我がこれを見しとき其の足下に倒れて死にたる者の如くなれり。彼その右の手を我に按きて言ひたまふ『懼るな、我は最先なり、最後なり、18 活ける者なり、われ曾て死にたりしが、視よ、世々限りなく生く。また死と陰府との鍵を有てり。19 されば汝が見しことと今あることと、後に成らんとする事とを録せ、20 即ち汝が見しところの我が右の手にある七つの星と七つの金の燈臺との奥義なり。七つの星は七つの教會の使にして、七つの燈臺は七つの教會なり。

Chapter 2

1 エペソに在る教會の使に書きおくれ。「右の手に七つの星を持つ者、七つの金の燈臺の間に歩むもの斯く言ふ、2 われ汝の行爲と勞と忍耐とを知る。また汝が惡しき者を忍び得ざることと、自ら使徒と稱へて使徒にあらぬ者どもを試みて、その虚偽なるを見あらはししこととを知る。3 なんぢは忍耐を保ち、我が名のために忍び得まざりき。4 されど我なんぢに責むべき所あり、なんぢは初の愛を離れたり。5 さればなんぢ何處より墜ちしかを思へ、悔改めて初の行爲をなせ、然らずして若し悔改めずば、我なんぢに到り汝の燈臺を、その處より取除かん。6 されど汝に取るべき所あり、汝はニコライ宗の行爲を憎む、我も之を憎むなり。7 耳ある者は御靈の諸教會に言ひ給ふことを聽くべし、勝を得る者には、われ神のパラダイスに在る生命の樹の實を食ふことを許さん」8 スミルナに在る教會の使に書きおくれ。「最先にして最後なる者、死人となりて復生きし者かく言ふ。9 われ汝の艱難と貧窮とを知る されど汝は富める者なり。我はまた自らユダヤ人と稱へてユダヤ人にあらず、サタンに屬する者なり汝が讒を受くるを知る。10 なんぢ受けんとする苦難を懼るな、視よ、惡魔なんぢらを試みんとて、汝らの中の或者を獄に入れんとす。汝ら十日のあひだ患難を受け

ん、なんぢ死に至るまで忠實なれ、然らば我なんぢに生命の冠冕を與へん。11 耳ある者は御靈の諸教會に言ひ給ふことを聽くべし、勝を得るものは第二の死に害はるることなし」12 ベルガモに在る教會の使に書きおくれ。「兩刃の利き劍を持つもの斯く言ふ、13 われ汝の住むところを知る、彼處にはサタンの座位あり、汝わが名を保ち、わが忠實なる證人アンテパスが、汝等のうち即ちサタンの住む所に殺されし時も、なほ我を信ずる信仰を棄てざりき。14 されど我なんぢに責むべき一二の事あり、汝の中にバラムの教を保つ者どもあり、バラムはバラクに教へ、彼をしてイスラエルの子孫の前に蹟物を置かしめ、偶像に獻げし物を食はせ、かつ淫行をなさせたり。15 斯くのごとく汝らの中にもニコライ宗の教を保つ者あり。16 さらば悔改めよ、然らずば我すみやかに汝に到り、わが口の劍にて彼らと戦はん。17 耳ある者は御靈の諸教會に言ひ給ふことを聽くべし、勝を得る者には我かくれたるマナを與へん、また受くる者の外たれも知らざる新しき名を録したる白き石を與へん」18 テアテラに在る教會の使に書きおくれ。「目は焰のごとく、足は輝ける眞鍮の如くなる神の子かく言ふ、19 われ汝の行爲および汝の愛と信仰と職と忍耐とを知る、又なんぢの初の行爲よりは後の行爲の多きことを知る。20 されど我なんぢに責むべき所あり、汝はかの自ら預言者と稱へて我が僕を教へ感し、淫行をなさせしめ、偶像に獻げし物を食はしむる女イゼベルを容れおけり。21 我かれに悔改むる機を與ふれど、その淫行を悔改むることを欲せず。22 視よ、我かれを牀に投げ入れん、又かれと共に姦淫を行ふ者も、その行爲を悔改めずば、大なる患難に投げ入れん。23 又かれの子供を打ち殺さん、斯くてももろの教會は、わが人の賢と心とを究むる者なるを知るべし、我は汝等のおのの行爲に隨ひて報いん。24 我この他のテアテラの人にして未だかの教を受けず、所謂サタンの深きところを知らぬ汝らに斯くいふ、我ほかの重を汝らに負はせじ。25 ただ汝等はその有つところを我が到らん時まで保て。26 勝を得て終に至るまで我が命ぜしことを守る者には、諸國の民を治むる權威を與へん。27 彼は鐵の杖をもて之を治め、土の器を砕くが如くならん、我が父より我が受けたる權威のごとし。28 我また彼に曙の明星を與へん。29 耳ある者は御靈の諸教會に言ひ給ふことを聽くべし」

Chapter 3

1 サルデスに在る教會の使に書きおくれ。「神の七つの靈と七つの星とを持つ者かく言ふ、われ汝の行爲を知る、汝は生くる名あれば死にたる者なり。2 なんぢ目を覺し、殆ど死なんとする殘のものを堅うせよ、我なんぢの行爲のわが神の前に全

からぬを見とめたり。3 されば汝の如何に受けしか、如何に聽きしかを思ひいで、之を守りて悔改めよ。もし目を覺さずば、盗人のごとく我きたらん、汝わが何れの時きたるかを知らざるべし。4 されどサルデスにて衣を汚さぬもの數名あり、彼らは白き衣を着て我とともに歩まん、斯くするに相應しき者なればなり。5 勝を得る者は斯くのごとく白き衣を着せられん、我その名を生命の書より消し落さず、我が父のまへと御使の前とにてその名を言ひあらはさん。

6 耳ある者は御靈の諸教會に言ひ給ふことを聽くべし」7 ヒラデルヒヤにある教會の使に書きおくれ。「聖なるもの眞なる者、ダビデの鍵を持ちて、開けば閉づる者なく、閉づれば開く者なき者かく言ふ、8 われ汝の行爲を知る、視よ、我なんぢの前に開けたる門を置く、これを閉ぢ得る者なし。汝すこしの力ありて、我が言を守り、我が名を否まざりき。9 視よ、我サタンの會、すなはち自らユダヤ人と稱へてユダヤ人にあらず、ただ虚偽をいふ者の中より、或者をして汝の足下に來り拜せしめ、わが汝を愛せしことを知らしめん。10 汝わが忍耐の言を守りし故に、我なんぢを守りて、地に住む者どもを試むるために全世界に來らんとする試練のときに免れしめん。11 われ速かに來らん、汝の有つものを守りて、汝の冠冕を人に奪はれざれ。12 われ勝を得る者が我が神の聖所の柱とせん、彼は再び外に出でざるべし、又かれの上に、わが神の名および我が神の都、すなはち天より我が神より降る新しきエルサレムの名と、我が新しき名とを書き記さん。

13 耳ある者は御靈の諸教會に言ひ給ふことを聽くべし」14 ラオデキヤに在る教會の使に書きおくれ。「アアメンたる者、忠實なる眞なる證人、神の造り給ふもの本源たる者かく言ふ、15 われ汝の行爲を知る、なんぢは冷かにもあらず熱きにもあらず、我はむしる汝が冷かならんか、熱かならんかを願ふ。16 かく熱きにもあらず、冷かにもあらず、ただ微温きが故に、我なんぢを我が口より吐き出さん。17 なんぢ、我は富めり、豊なり、乏しき所なしと云ひて、己が惱める者・憐むべき者・貧しき者・盲目なる者・裸なる者たるを知らざれば、18 我なんぢに勸む、なんぢ我より火にて煉りたる金を買ひて富め、白き衣を買ひて身に纏ひ、なんぢの裸體の恥を露さざれ、眼薬を買ひて汝の目に塗り、見ることを得よ。19 凡てわが愛する者は、我これを戒め之を懲す。この故に、なんぢ勵みて悔改めよ。20 視よ、われ戸の外に立ちて叩く、人もし我が聲を聞きて戸を開かば、我その内に入りて彼とともに食し、彼もまた我とともに食せん。21 勝を得る者には我とともに我が座位に坐することを許さん、我の勝を得しとき、我が父とともに其の御座に坐したるが如し。22 耳ある者は御靈の諸教會に言ひ給ふことを聽くべし」

Chapter 4

1 この後われ見しに、視よ、天に開けたる門あり。初に我に語るを聞きしラッパのごとき聲いふ『ここに登れ、我この後おこるべき事を汝に示さん』2 直ちに、われ御靈に感ぜしが、視よ、天に御座設けあり。3 その御座に坐したまふ者あり、その坐し給ふもののは碧玉・赤瑪瑙のごとく、かつ御座の周圍には綠玉のごとき虹ありき。4 また御座のまはりに二十四の座位ありて、二十四人の長老、白き衣を纏ひ、首に金の冠冕を戴きて、その座位に坐せり。5 御座より數多の電光と聲と雷霆と出づ。また御座の前に燃えたる七つの燈火あり、これ神の七つの靈なり。6 御座のまへに水晶に似たる玻璃の海あり。御座の中央と御座の周圍との間に活物ありて、前も後も數々の目にて満ちたり。7 第一の活物は獅子のごとく、第二の活物は牛のごとく、第三の活物は面のかたち人のごとく、第四の活物は飛ぶ鷲のごとし。8 この四つの活物のおのの六つの翼あり、翼の内も外も數々の目にて満ちたり、日も夜も絶間なく言ふ、『聖なるかな、聖なるかな、聖なるかな、昔いまし、今いまし、のち來りたまふ主たる全能の神』9

この活物ら御座に坐し、世々限りなく活きたまふ者に榮光と尊崇とを歸し、感謝する時、10 二十四人の長老、御座に坐したまふ者のまへに伏し、世々限りなく活きたまふ者を拜し、おのれの冠冕を御座のまへに投げ出して言ふ、11 『我らの主なる神よ、榮光と尊崇と能力とを受け給ふは宜なり。汝は萬物を造りたまひ、萬物は御意によりて存し、かつ造られたり』

Chapter 5

1 我また御座に坐し給ふ者の右の手に、巻物のあるを見たり、その裏表に文字あり、七つの印をもて封ぜらる。2 また大聲に『巻物を開きてその封印を解くに相應しき者は誰ぞ』と呼はる強き御使を見たり。3 然るに天にも地にも、地の下にも、卷物を開きて之を見得る者なかりき。4 卷物を開き、これを見るに相應しき者の見えざりしに因りて、我いたく泣きあたりしに、5 長老の一人われに言ふ『泣くな、視よ、ユダの族の獅子・ダビデの萌葉、すでに勝を得て巻物とその七つの封印とを開き得るなり』6 我また御座および四つの活物と長老たちとの間に、屠られたるが如き羔羊の立てるを見たり、之に七つの角と七つの目とあり、この目は全世界に遣されたる神の七つの靈なり。7 かれ來りて御座に坐したまふ者の右の手より巻物を受けたり。8 巻物を受けたるとき、四つの活物および二十四人の長老、おのおの立琴と香の満ちたる金の鉢とをもちて、羔羊の前に平伏せり、此の香は聖徒の祈禱なり。9 かくて新しき歌を謳ひて言

ふ『なんぢは巻物を受け、その封印を解くに相應しきなり、汝は屠られ、その血をもて諸種の族・國語・民・國の中より人々を神のために買ひ、10之を我らの神のために國民となし、祭りとなし給へばなり。彼らは地の上に王となるべし』11我また見しに、御座と活物と長老たちとの周圍ををる多くの御使の聲を聞けり。その數、千々萬々にして、12大聲にいふ『屠られ給ひし羔羊こそ、能力と富と知慧と、勢威と尊崇と、榮光と讚美とを受くるに相應しけれ』13我また天に、地に、地の下に、海にある萬の造られたる物、また凡てその中にある物の云へるを聞けり。曰く『願はくは御座に坐し給ふものと羔羊とに、讚美と尊崇と榮光と權力と世々限りなくあらん事を』14四つの活物はアマメンと言ひ、長老たちは平伏して拜せり。

Chapter 6

1羔羊その七つの封印の一つを解き給ひし時、われ見しに、四つの活物の一つが雷霆のごとき聲して『來れ』と言ふを聞けり。2また見しに、視よ、白き馬あり、之に乗るもの弓を持ち、かつ冠冕を與へられ、勝ちて復勝たんとて出でゆけり。3第二の封印を解き給ひたれば、第二の活物の『來れ』と言ふを聞けり。4かくて赤き馬いで來り、これに乗るもの地より平和を奪ひ取ることと、人をして互に殺さしむる事とを許され、また大なる劍を與へられたり。5第三の封印を解き給ひたれば、第三の活物の『來れ』と言ふを聞けり。われ見しに、視よ、黒き馬あり、之に乗るもの手に權衝を持てり。6かくてわれ四つの活物の間より出づるごとき聲を聞けり。曰く『小麦五合は一デナリ、大麥一升五合は一デナリなり、油と葡萄酒とを害ふな』7第四の封印を解き給ひたれば、第四の活物の『來れ』と言ふを聞けり。8われ見しに、視よ、青ざめたる馬あり、之に乗る者の名を死といひ、陰府これに隨ふ。かれらは地の四分の一を支配し、劍と饑饉と死と地の獸とをもて人を殺すことを許されたり。9第五の封印を解き給ひたれば、曾て神の言のため、又その立ての證のために殺されし者の靈魂の祭壇の下に在るを見たり。10彼ら大聲に呼はりて言ふ『聖にして眞なる主よ、何時まで審かずして地に住む者に我らの血の復讐をなし給はぬか』11ここにおのおの白き衣を與へられ、かつ己等のごとく殺されんとする同じ僕たる者と兄弟との數の滿つるまで、なほ暫く安んじて待つべきを言ひ聞けられたり。12第六の封印を解き給ひし時、われ見しに、大なる地震ありて日は荒き毛布のごとく黒く、月は全面血の如くなり、13天の星は無花果の樹の大風に揺られて、生り後の果の落つるごとき地におち、14天は巻物を巻くごとき去りゆき、山と島とは悉くその處を移されたり

。15地の王たち・大臣・將校・富める者・強き者・奴隷・自主の人、みな洞と山の巖間とに匿れ、16山と巖とに對ひて言ふ『請ふ、我らの上に墜ちて御座に坐したまふ者の御顔より、羔羊の怒より、我らを隠せ。17そは御怒の大なる日既に來ればなり。誰か立つことを得ん』

Chapter 7

1この後、われ四人の御使の地の四隅に立つを見たり、彼らは地の四方の風を引止めて、地にも海にも諸種の樹にも風を吹かせざりき。2また他の一人の御使の、活ける神の印を持ちて日の出づる方より登るを見たり、かれ地と海とを害ふ權を與へられたる四人の御使にむかひ、大聲に呼はりて言ふ、3『われらが我らの神の僕の額に印するまでは、地をも海をも樹をも害ふな』4われ印せられたる者の數を聽きしに、イスラエルの子等のもろもろの族の中にて印せられたるもの合せて十四萬四千あり。5ユダの族の中にて一萬二千 印せられ、ルベンの族の中にて一萬二千、ガドの族の中にて一萬二千、6アセルの族の中にて一萬二千、ナフタリの族の中にて一萬二千、マナセの族の中にて一萬二千、7シメオンの族の中にて一萬二千、レビの族の中にて一萬二千、イサカルの族の中にて一萬二千、8ゼブルンの族の中にて一萬二千、ヨセフの族の中にて一萬二千、ベニヤミンの族の中にて一萬二千 印せられたり。9この後われ見しに、視よ、もろもろの國・族・民・國語の中より、誰も數へつくこと能はぬ大なる群衆、しるき衣を纏ひて手に棕櫚の葉をもち、御座と羔羊との前に立ち、10大聲に呼はりて言ふ『救は御座に坐したまふ我らの神と羔羊とにこそ在れ』11御使みな御座および長老たちと四つの活物との周圍に立ち、御座の前に平伏し神を拜して言ふ、12『アマメン、讚美・榮光・知慧・感謝・尊貴・能力・勢威、世々限りなく我らの神にあれ、アマメン』13長老たちの一人われに向ひて言ふ『この白き衣を著たるは如何なる者にして何處より來りしか』14我いふ『わが主よ、なんぢ知れり』かれ言ふ『かれらは大なる患難より出でたり、羔羊の血に己が衣を洗ひて白くしたる者なり。15この故に神の御座の前にありて、晝も夜もその聖所にて神に事ふ。御座に坐したまふ者は彼らの上に幕屋を張り給ふべし。16彼らは重ねて飢えず、重ねて渴かず、日も熱も彼らを侵すことなし。17御座の前にいます羔羊は、彼らを牧して生命の水の泉にみちびき、神は彼らの目より凡ての涙を拭ひ給ふべければなり』

Chapter 8

1第七の封印を解き給ひたれば、凡そ半時のあひだ天靜なりき。2

われ神の前に立てる七人の御使を見たり、彼らは七つのラッパを與へられたり。3また他の一人の御使、金の香爐を持ちきたりて祭壇の前に立ち、多くの香を與へられたり。これは凡ての聖徒の祈に加へて、御座の前なる金の香壇の上に獻げんためなり。4而して香の煙、御使の手より聖徒たちの祈とともに神の前に上れり。5御使その香爐をとり、之に祭壇の火を盛りて地に投げたれば、數多の雷霆と聲と電光と、また地震おこれり。6ここに七つのラッパをもてる七人の御使これを吹く備をなせり。7第一の御使ラッパを吹きしに、血の混りたる雷と火とありて、地にふりくだり、地の三分の一 焼け失せ、樹の三分の一 草焼け失せたり。8第二の御使ラッパを吹きしに、火にて燃ゆる大なる山の如きもの海に投げ入れられ、海の三分の一 血に變じ、9海の中の造られたる生命あるもの三分の一 死に、船の三分の一 滅びたり。10第三の御使ラッパを吹きしに、燈火のごとく燃ゆる大なる星、天より隕ちきたり、川の三分の一と水の源泉との上におちたり。11この星の名は苦艾といひ。水の三分の一は苦艾となり、水の苦くなりしに因りて多くの死にたり。12第四の御使ラッパを吹きしに、日の三分の一と月の三分の一と星の三分の一と撃たれて、その三分の一は暗くなり、晝も三分の一は光なく、夜も亦おなじ。13また見しに、一つの鷲の中空を飛び、大なる聲して言ふを聞けり。曰く『地に住める者どもは禍害なるかな、禍害なるかな、禍害なるかな、尚ほかに三人の御使の吹かんとするラッパの聲あるに因りてなり』

Chapter 9

1第五の御使ラッパを吹きしに、われ一つの星の天より地に隕ちたるを見たり。この星は底なき坑の鍵を與へられたり。2かくて底なき坑を開きたれば、大なる爐の煙のごとき煙、坑より立ちのぼり、日も空も坑の煙にて暗くなり。3煙の中より蝗地上に出でて、地の蝸のもてる力のごとき力を與へられ、4地の草すべての青きもの又すべての樹を害ふことなく、ただ額に神の印なき人のみ害ふことを命ぜられたり。5されど彼らを殺すことを許されず、五月のあひだ苦しむることを許さる、その苦痛は、蝸に刺されたる苦痛のごとし。6このとき人々、死を求むとも見出さず、死なんと欲すとも死は逃げ去るべし。7かの蝗の形は戰爭の爲に具へたる馬のごとく、頭には金に似たる冠冕の如きものあり、顔は人の顔のごとく、8之に女の頭髮のごとき頭髮あり、齒は獅子の齒のごとし。9また鐵の胸當のごとき胸當あり、その翼の音は軍車の轟くごとき、多くの馬の戰鬪に馳せゆくが如し。10また蝸のごとき尾ありて之に刺あり、この尾に五月のあひだ人を害ふ力あり。11

この蝗に王あり。底なき所の使にして、名をヘブル語にてアバドンと云ひ、ギリシヤ語にてアポルオンと云ふ。12第一の禍害すぎ去れり、視よ、此の後なほ二つの禍害きたらん。13第六の御使ラッパを吹きしに、神の前なる金の香壇の四つの角より聲ありて、14ラッパを持てる第六の御使に『大なるウウフラテ川の邊に繋がれるをる四人の御使を解放て』と言ふを聞けり。15かくてその時その日その月その年に至りて、人の三分の一を殺さん爲に備へられたる四人の御使は解放たれたり。16騎兵の數は二億なり、我その數を聞けり。17われ幻影にてその馬と之に乗る者とを見しに、彼らは火・煙・硫黄の色したる胸當を著く。馬の頭は獅子の頭のごとくにて、その口よりは火と煙と硫黄と出づ。18この三つの苦痛、すなはち其の口より出づる火と煙と硫黄とに因りて、人の三分の一 殺されたり。19馬の力はその口とその尾とにあり、その尾は蛇の如くにして頭あり、之をもて人を害ふなり。20これらの苦痛にて殺されざりし殘の人々は、おのが手の業を悔改めずして、なほ惡鬼を拜し、見るごとく聞くこと歩むこと能はぬ、金・銀・銅・石・木の偶像を拜せり、21又その殺人・咒術・淫行・竊盜を悔改めざりき。

Chapter 10

1我また一人の強き御使の、雲を著て天より降るを見たり。その頭の上に虹あり、その顔は日の如く、その足は火の柱のごとし。2その手には展きたる小き巻物をもち、右の足を海の上におき、左の足を地の上におき、3獅子の吼ゆる如く大聲に呼はれり、呼はりたるとき七つの雷霆おのおの聲を出せり。4七つの雷霆の語りし時、われ書き記さんせしに、天より聲ありて『七つの雷霆の語りしことは封じて書き記すな』といふを聞けり。5かくて我が見しところの海と地とに跨り立てる御使は、天にむかひて右の手を擧げ、6天および其の中に在るもの、地および其の中にあるもの、海および其の中にある物を造り給ひし、世々限りなく生きたまふ者を指し、誓ひて言ふ『この後、時は延ぶることなし。7第七の御使の吹かんとするラッパの聲の出づる時に至りて、神の僕なる預言者たちに示し給ひし如く、その奧義は成就せらるべし』8かくて我が前に天より聞きし聲のまた我に語りて『なんぢ往きて、海と地とに跨り立てる御使の手にある展きたる巻物を取れ』と言ふを聞けり。9われ御使のもとに往きて、小き巻物を我に與へんことを請ひたれば、彼いふ『これを取りて食ひ盡せ、さらば汝の腹苦くならん、然れど其の口には蜜のごとく甘からん』10われ御使の手より小き巻物を取りて食ひ盡したれば、口には蜜のごとく甘かりしが、食ひし後わが腹は苦くなれり。11また或物われに言ふ『

なんぢ再び多くの民・國・國語・王たちに就きて預言すべし』

Chapter 11

1ここにわれ杖のごとき間竿を與へられたり、かくて或者いふ『立ちて神の聖所と香壇と其處に拜する者どもとを度れ、2聖所の外の庭は差措きて度るな、これは異邦人に委ねられたり、彼らは四十二ヶ月のあひだ聖なる都を蹂躪らん。3我わが二人の證人に權を與へん、彼らは荒布を著て千二百

六十日のあひだ預言すべし。4彼らは地の主の御前に立てる二つのオリブの樹、二つの燈臺なり。5もし彼らを害はんとする者あらば、火その口より出でてその敵を焼き盡さん。もし彼らを害はんとする者あらば、必ず斯くのごとく殺さん。6彼らは預言するあひだ雨を降らせぬやうに天を閉づる權力あり、また水を血に變らせ、思ふままに幾度にも諸種の苦難をもて地を撃つ權力あり。7彼等がその證を終へんとし、底なき所より上る獸ありて之と戦闘をなし、勝ちて之を殺さん。8その屍體は大なる都の衢に遺らん。この都を譬へてソドムと云ひ、エジプトの云ふ、即ち彼らの主もまた十字架に釘けられ給ひし所なり。9もろもろの民・族・國語・國のもの、三日半の間その屍體を見、かつ其の屍體を墓に葬ることを許さざるべし。10地に住む者どもは彼らに就きて喜び樂しみ互に禮物を贈らん、此の二人の預言者は地に住む者を苦しめられたらばなり。11三日半ののち生命の息、神より出でて彼らに入り、かれら足にて起ちたれば、之を見るもの大に懼れたり。12天より大なる聲して『ここに昇れ』と言ふを彼ら聞きたれば、雲に乗りて天に昇れり、その敵も之を見たり、13このとき大なる地震ありて、都の十分の一は倒れ、地震のために死にしもの七千人にして、遺れる者は懼をいだき天の神に榮光を歸したり。14第二の禍害すまじき來るなり、視よ、第三の禍害すまじき來るなり。15第七の御使ラツバを吹きしに、天に數多の大なる聲ありて『この世の國は我らの主および其のキリストの國となれり。彼は世々限りなく王たらん』と言ふ。16かくて神の前にて座位に坐する二十四人の長老ひれふし神を拜して言ふ、17『今いまし、昔います主たる全能の神よ、なんぢの大なる能力を執りて王と成り給ひしことを感謝す。18諸國の民怒をいだけり、なんぢの怒も亦いたれり、死にたる者を審き、なんぢの僕なる預言者および聖徒、また小なるも大なるも汝の名を畏る者に報賞をあたへ、地を亡す者を亡したまふ時いたれり』19斯くて天にある神の聖所ひらけ、聖所のうちに契約の櫃見え、數多の電光と聲と雷霆と、また地震と大なる雹とありき。

Chapter 12

1また天に大なる徴見えたり。日を著たる女ありて、其の足の下に月あり、其の頭に十二の星の冠冕あり。2かれは孕りをりしが、子を産まんとして産みの苦痛と惱とのために叫べり、3また天に他の徴見えたり。視よ、大なる赤き龍あり、これに七つの頭と十の角とありて、頭には七つの冠冕あり。4その尾は天の星の三分の一を引きて之を地に落せり。龍は子を産まんとする女の前に立ち、産むを待ちて其の子を食べ盡さんと構へたり。5女は男子を産めり、この子は鐵の杖もて諸種の國人を治めん。かれは神の許に、その御座の下に擧げられたり。6女は荒野に逃げゆけり。彼處に千二百六十日の間かれが養はるる爲に神の備へ給へる所あり。7かくて天に戰爭おこれり、ミカエル及びその使たち龍とたたかふ。龍もその使たちも之と戦ひしが、8勝つこと能はず、天には、はや其の居る所なかりき。9かの大なる龍、すなわち惡魔と呼ばれ、サタンと呼ばれたる全世界をまどはす古き蛇は落され、地に落され、その使たちも共に落されたり。10我また天に大なる聲ありて『われらの神の救と能力と國と神のキリストの權威とは、今すでに來れり。我らの兄弟を訴へ夜晝われらの神の前に訴ふるもの落されたり。11而して兄弟たちは羔羊の血と己が證の言とによりて勝ち、死に至るまで己が生命を惜まざりき。12この故に天および天に住める者よ、よろこべ、地と海とは禍害なるかな、惡魔おのが時の暫時なるを知り、大なる憤恚をいだきて汝等のもとに下りたればなり』と云ふを聞けり。13かくて龍はおのが地に落されしを見て、男子を生みし女を責めたりしが、14女は荒野なる己が處に飛ぶために、大なる鷲の兩の翼を與へられたれば、其處にいたり、一年、二年、また半年のあひだ蛇のまへを離れて養はれたり。15蛇はその口より水を川のごとく、女の背後に吐きて之を流さんとしたれど、16地は女を助け、その口を開きて龍の口より吐きたる川を呑み盡せり。17龍は女を怒りてその裔の残れるもの、即ち神の誠命を守りイエスの證を有てる者に、戦闘を挑まんとして出でゆき、海邊の砂の上に立てり。

Chapter 13

1我また一つの獸の海より上るを見たり。之に十の角と七つの頭とあり、その角に十の冠冕あり、頭の上には神を誦す名あり。2わが見し獸は豹に似て、その足は熊のごとく、その口は獅子の口のごとし。龍はこれに己が能力と己が座位と大なる權威とを與へたり。3我その頭の一つ傷つけられて死ぬばかりなるを見しが、その死ぬべき傷いやされたれば、全地の者これを怪しみて獸に従へり。4また龍おのが權威を獸に與へしによりて、彼ら龍を拜し、且そ

の獸を拜して言ふ『たれか此の獸に等しき者あらん、誰か之と戦ふことを得ん』5獸また大言と流言とを語る口を與へられ、四十二ヶ月のあひだ働く權威を與へらる。6彼は口をひらきて神を誦し、又その御名とその幕屋すなはち天に住む者どもとを誦し、7また聖徒に戦闘を挑みて、之に勝つことを許され、且もろもろの族・民・國語・國を掌どる權威を與へらる。8凡て地に住む者にて、其の名を屠れ給ひし羔羊の生命の書に、世の劔より記されざる者は、これを拜せん。9人もし耳あらば聽くべし。10虜にせらるべき者は虜にせられん、劔にて殺す者はおのれも劔にて殺さんべし、聖徒たちの忍耐と信仰とは茲にあり。11我また他の獸の地より上るを見たり。これに羔羊のごとき角二つありて龍のごとく語り、12先の獸の凡ての權威を彼の前にて行ひ、地と地に住む者として死ぬべき傷の醫されたる先の獸を拜せしむ。13また大なる徴をおこなひ、人々の前にて火を天より地に降らせ、14かの獸の前にて行ふことを許されし徴をもて地に住む者どもを惑し、劔にうたれてなほ生ける獸の像を造ることを地に住む者どもに命じたり。15而してその獸の像に息を與へて物言はしめ、且その獸の像を拜せぬ者をことごとく殺さしむる事を許され、16また凡ての人をして、大小・貧富・自主・奴隷の別なく、或はその右の手、あるいは其の額に徽章を受けしむ。17この徽章を有たぬ凡ての者に賣買することを得ざらしめたり。その徽章は獸の名、もしくは其の名の數字なり。18智慧は茲にあり、心ある者は獸の數字を算へよ。獸の數字は人の數字にして、その數字は六百六十六なり。

Chapter 14

1われ見しに、視よ、羔羊シオンの山に立ちたまふ。十四萬四千の人これと偕に居り、その額には羔羊の名および羔羊の父の名記しあり。2われ天よりの聲を聞けり、多くの水の音のごとく、大なる雷霆の聲のごとし。わが聞きし此の聲は彈琴者の立琴を弾く音のごとし。3かれら新しき歌を御座の前および四つの活物と長老たちとの前にて歌ふ。この歌は地より贖はれたる十四萬四千人の他は誰も學びうる者なかりき。4彼らは女に汚されぬ者なり、潔き者なり、何處にまれ羔羊の住き給ふところに隨ふ。彼らは人の中より贖はれて神と羔羊とのために初穂となれり。5その口に虚偽なし、彼らは瑕なき者なり。6我また他の御使の中空を飛ぶを見たり。かれは地に住むもの、即ちもろもろの國・族・國語・民に宣傳へんとて、永遠の福音を携へ、7大聲にて言ふ『なんぢら神を畏れ、神に榮光を歸せよ。その審判のとき既に至りたればなり。汝ら天と地と海と水の源泉とを造り給ひし者を拜せよ』8ほかの第二の御使、かれに従ひて言ふ『倒

れたり、倒れたり。大なるバビロン、己が淫行より出づる憤恚の葡萄酒をもちもろの國人に飲ませし者』9ほかの第三の御使、かれらに従ひ大聲にて言ふ『もし獸とその像とを拜し、且その額あるいは手に徽章を受ける者あらば、10必ず神の怒の酒杯に盛りたる混りなき憤恚の葡萄酒を飲み、かつ聖なる御使たち及び羔羊の前にて、火と硫黄とにて苦しめらるべし。11その苦痛の煙は世々限りなく立ち昇りて、獸とその像とを拜する者、また其の名の徽章を受けし者は、夜も晝も休息を得ざらん。12神の誠命とイエスを信ずる信仰とを守る聖徒の忍耐は茲にあり』13我また天より聲ありて『書き記せ『今よりの主ちにおいて死ぬる死人は幸福なり』御靈も言ひたまふ』然り、彼等はその勞役を止めて息まん。その業これに隨ふなり』と言ふを聞けり。14また見しに、視よ、白き雲あり、その雲の上に人の子の如きもの坐して、首には金の冠冕をいだき、手には利き鎌を持ちたまふ。15又ほかの御使、聖所より出で、雲のうへに坐したまふ者にむかひ、大聲に呼はりて『なんぢの鎌を入れて刈れ、地の穀物は全く熟し、既に刈り取るべき時至ればなり』と言ふ。16かくて雲の上に坐したまふ者その鎌を地に入れたれば、地の穀物は刈り取られたり。17又ほかの御使、天の聖所より出で、同じく利き鎌を持って。18又ほかの火を掌どる御使、祭壇より出で、利き鎌を持つ者にむかひ大聲に呼はりて『なんぢの利き鎌を入れて地の葡萄の樹の房を刈り收めよ、葡萄は既に熟したり』と言ふ。19御使その鎌を地に入れて地の葡萄を刈りをさめ、神の憤恚の大なる酒槽に投げ入れたらり。20かくて都の外にて酒槽を踐みしに、血酒槽より流れ出でて馬の轡に達くほどになり、一千六百町に廣がれり。

Chapter 15

1我また天に他の大なる怪しむべき徴を見たり。即ち七人の御使ありて最後の七つの苦難を持って、神の憤恚は之にて全うせらるるなり。2我また火の混りたる玻璃の海を見しに、獸とその像とその名の數字とに勝たる者ども、神の立琴を持ちて玻璃の海の邊に立てり。3彼ら神の僕モーセの歌と羔羊の歌とを歌ひて言ふ『主なる全能の神よ、なんぢの御業は大なるかな、妙なるかな、萬國の王よ、なんぢの道は義なるかな、眞なるかな。4主よ、たれか汝を畏れざる、誰か御名を尊ばざる、汝のみ聖なり、諸種の國人きたりて御前に拜せん。なんぢの審判は既に現れたればなり』5この後われ見しに、天にある證の幕屋の聖所ひらけて、6かの七つの苦難を持てる七人の御使、きよき輝ける亞麻布を著、金の帯を胸に束ねて聖所より出づ。7四つの活物の一つ、その七人の御使に、世々限りなく生きたまふ神の憤恚の満ちたる七つの金の鉢を與へ

しかば、8聖所は神の榮光とその權力とより出づる煙にて満ち、七人の御使の七つの苦難の終るまでは、誰も聖所に入ること能はざりき。

Chapter 16

1我また聖所より大なる聲ありて、七人の御使に『住きて神の憤懣の七つの鉢を地の上に傾けよ』と言ふを聞けり。2かくて第一の者ゆきて其の鉢を地の上に傾けたれば、獸の徽章を有てる人々とその像を拜する人々との身に、惡しき苦しみ腫物生じたり。3第二の者その鉢を海の上に傾けたれば、海は死人の血の如くなりて、海にある生物ことごとく死にたり。4第三の者その鉢をもるもの河と、もるもの水の源泉との上に傾けたれば、みな血となれり。5われ水を掌どる御使の『いま在し昔います聖なる者よ、なんぢの斯く定め給ひしは正しき事なり。6彼らは聖徒と預言者との血を流したれば、之に血を飲ませ給ひしは相應しきなり』と云へるを聞けり。7我また祭壇の物言ふを聞けり『然り、主なる全能の神よ、なんぢの審判は眞なるかな、義なるかな』と。8第四の者その鉢を太陽の上に傾けたれば、太陽は火をもて人を焼くことを許さる。9かくて人々烈しき熱に焼かれて、此等の苦難を掌どる權威を有たまふ神の名を洗し、かつ悔改めずして神に榮光を歸せざりき。10第五の者その鉢を獸の座位の上に傾けたれば、獸の國暗くなり、その國人痛によりて己の舌を齧み、11その痛と腫物とによりて天の神を洗し、かつ己が行爲を悔改めざりき。12第六の者その鉢を大なる河ユウフラテの上に傾けたれば、河の水涸れたり。これ日の出づる方より来る王たちの途を備へる爲なり。13我また龍の口より、獸の口より、僞預言者の口より、蛙のごとき三つの穢れし靈の出づるを見たり。14これは徴をおこなふ惡鬼の靈にして、全能の神の大なる日の戦闘のために全世界の王たちを集めんとて、その許に出でゆくなり。15(視よ、われ盜人のごとく來らん、裸にて歩み羞所を見らることなからん爲に、目を覺してその衣を守る者は幸福なり)16かの三つの靈、王たちをへブル語にてハルマゲドンと稱ふる處に集めたり。17第七の者その鉢を空中に傾けたれば、聖所より御座より大なる聲いいて『事すでに成れり』と言ふ。18かくて數多の電光と聲と雷霆とあり、また大なる地震おこれり、人の地の上に在りし以來かかる大なる地震なかりき。19大なる都は三つに裂かれ、諸國の町々は倒れ、大なるバビロンは神の前におもひ出されて、劇しき御怒の葡萄酒を盛りたる酒杯を與へられたり。20凡ての島は逃げり、山は見えずなれり。21また天より百斤ほどの大なる雹、人々の上に降りしかば、人々雹の苦難によりて神を洗せり。はその苦難

甚だしく大なればなり。

Chapter 17

1七つの鉢を持てる七人の御使の一人きたり、我に語りて言ふ『來れ、われ多くの水の上に坐する大淫婦の審判を汝に示さん。2地の王たちは之と淫をおこなひ、地に住む者らは其の淫行の葡萄酒に酔ひたり』3かくてわれ御靈に感じ、御使に携へられて荒野にゆき、緋色の獸に乗れる女を見たり、この獸の體は神を洗す名にて覆はれ、また七つの頭と十の角とあり。4女は紫色と緋とを著、金・寶石・眞珠にて身を飾り、手には憎むべきものと己が淫行の汚しにて満ちたる金の酒杯を持ち、5額には記されたる名あり。曰く『奧義大なるバビロン、地の淫婦と憎むべき者との母』6我この女を見るに、聖徒の血とイエスの證人の血とに酔ひたり。我これを見て大に怪しみたれば、7御使われに言ふ『なにゆゑ怪しむか、我この女と之を乗せたる七つの頭、十の角ある獸との奧義を汝に告げん。8なんぢの見し獸は前に有りしも今あらす、後に底なき所より上りて滅亡に往かん、地に住む者にて世の創より其の名を生命の書に記されざる者は、獸の前にありて今あらす、後に來るを見て怪しまん。9智慧の心は茲にあり。七つの頭は女の坐する七つの山なり、また七人の王なり。10五人は既に倒れて一人は今あり、他の一人は未だ來らず、來らば暫時のほど止るべきなり。11前にありて今あらぬ獸は第八なり、前の七人より出でたる者にして滅亡に往くなり。12汝の見し十の角は十人の王にして未だ國を受けざれども、一時のあひだ獸と共に王のごとき權威を受くべし。13彼らは心を一つにして己が能力と權威とを獸にあたふ。14彼らは羔羊と戦はん。而して羔羊かれらに勝ち給ふべし、彼は主の主、王の王なればなり。これと偕なる召されたるもの、選ばれたるもの、忠實なる者も勝を得べし』15御使また我に言ふ『なんぢの見し水、すなわち淫婦の坐する處は、もるもの民・群衆・國・國語なり。16なんぢの見し十の角と獸とは、かの淫婦を憎み、之をして荒涼ばしめ、裸ならしめ、且その肉を喰ひ、火をもて之を燒き盡さん。17神は彼らに御旨を行ふことと、心を一つにすることと、神の御言の成就するまで國を獸に與ふることとを思はしめ給ひたればなり。18なんぢの見し女は地の王たちを宰どる大なる都なり』

Chapter 18

1この後また他の一人の御使の大なる權威を有ちて天より降るを見しに、地はその榮光によりて照されたり。2かれ強き聲にて呼はりて言ふ『大なるバビロンは倒れたり、倒れたり、かつ惡魔の住家、もるもの穢れたる靈の檻、もるもの穢れたる憎むべき鳥の檻となれり。3も

るもの國人はその淫行の憤懣の葡萄酒を飲み、地の王たちは彼と淫をおこなひ、地の商人らは彼の奢の勢力によりて富みたればなり』4また天より他の聲あるを聞けり。曰く『わが民よ、かれの罪に干らず、彼の苦難を共に受けざらんため、その中を出でよ。5かれの罪は積りて天にいたり、神その不義を憶え給ひたればなり。6彼が爲しし如く彼に爲し、その行爲に應じ倍して之を報い、かれが酌み與へし酒杯に倍して之に酌み與へよ。7かれが自ら尊びみづから奢りしと同じほどの苦難と悲歎とを之に與へよ。彼は心のうちに「われは女王の位に坐する者にして寡婦にあらず、決して悲歎を見ざるべし」と言ふ。8この故に、さまざまの苦難、一日のうちに彼の身にきたらん、即ち死と悲歎と饑饉となり。彼また火にて燒き盡されん、彼を審きたまふ主なる神は強ければなり。9彼と淫をおこなひ、彼とともに奢りたる地の王たちは、其の燒かる煙を見て泣きかつ歎き、10その苦難を懼れ、遙に立ちて「禍害なるかな、禍害なるかな、大なる都、堅固なる都バビロンよ、汝の審判は時の間に來れり」と言はん。11地の商人かれが爲に泣き悲しまん。今より後その商品を買ふ者なければなり。12その商品は金・銀・寶石・眞珠・細布・紫色・絹・緋色および各様の香木、また象牙のさまざまの器、價貴き木、眞鍮・鐵・蠟石などの各様の器、13また肉桂・香料・香・香油・乳香・葡萄酒・オリブ油・麥粉・麥・牛・羊・馬・車・奴隸および人の靈魂なり。14なんぢの靈魂の嗜みたる果物は汝を去り、すべての美味、華美なる物は亡びて汝を離れん、今より後これを見ること無かるべし。15これらの物を商ひ、バビロンに由りて富を得たる商人らは、其の苦難を懼れて遙に立ち、泣き悲しみて言はん、16「禍害なるかな、禍害なるかな、細布と紫色と緋とを著、金・寶石・眞珠をもて身を飾りたる大なる都、17斯ばかり大なる富の時の間に荒涼ばんとは」而して凡ての船長、すべて海をわたる人々、舟子および海によりて生活を爲すもの遙かに立ち、18バビロンの燒かる煙を見て叫び「いづれの都か、この大なる都に比ぶべき」と言はん。19彼等また塵をおのが首に被りて泣き悲しみ叫びて「禍害なるかな、禍害なるかな、此の大なる都、その奢によりて海に船を有てる人々の富を得たる都、かく時の間に荒涼ばんとは」と言はん。20天よ、聖徒・使徒・預言者よ、この都につきて喜べ、神なんぢらの爲に之を審き給ひたればなり』21ここに一人の強き御使、大なる礮臼のごとき石を擲げ海に投げて言ふ『おほいなる都バビロンは斯くのごとく烈しく撃ち倒されて、今より後見えざるべし。22今よりのち立琴を弾くもの、樂を奏するもの、笛を吹く者、ラッパを鳴す者の聲なんぢの中に聞えず、今より後さまざまの細工をもつ細工人なんぢの中に見えず、礮臼の音なんぢの中に聞えず、

23今よりのち燈火の光なんぢの中に輝かず、今よりのち新郎・新婦の聲なんぢの中に聞えざるべし。そは汝の商人は地の大臣となり、諸種の國人はなんぢの呪術に惑され、24また預言者・聖徒および凡て地の上に殺されし者の血は、この都の中に見出されたればなり』

Chapter 19

1この後われ天に大なる群衆の大聲のごとき者ありて、かく言ふを聞けり。曰く『ハレルヤ、救と榮光と權力とは、我らの神のものなり。2その御審は眞にして義なるなり、己が淫行をもて地を汚したる大淫婦を審き、神の僕らの血の復讐を彼になし給ひしなり』3また再び言ふ『ハレルヤ、彼の燒かる煙は世々限りなく立ち昇るなり』4ここに二十四人の長老と四つの活物と平伏して御座に坐したまふ神を拜し『アメン、ハレルヤ』と言へり。5また御座より聲出でて言ふ『すべて神の僕たるもの、神を畏る者よ、小なるも大なるも、我らの神を讃め奉れ』6われ大なる群衆の聲おほくの水の音のごとく、烈しき雷霆の聲の如きものを聞けり。曰く『ハレルヤ全能の主、われらの神は統治らすなり。7われら喜び樂しみて之に榮光を歸し奉らん。そは羔羊の婚姻の時いたり、既にその新婦みづから準備したればなり。8彼は輝ける潔き細布を著ることを許されたり、此の細布は聖徒たちの正しき行爲なり。9御使また我に言ふ『なんぢ書き記せ、羔羊の婚姻の宴席に招かれたる者は幸福なり』。また我に言ふ『これ神の眞の言なり』10我その足下に平伏して拜せんとしたれば、彼われに言ふ『慎みて然すな、我は汝およびイエスの證を保つ汝の兄弟とともに僕たるなり。なんぢ神を拜せよ、イエスの證は即ち預言の靈なり』11我また天の開けたるを見しに、視よ、白き馬あり、之に乗りたまふ者は「忠實また眞」と稱へられ、義をもて審きかつ戦ひたまふ。12彼の目は焰のごとく、その頭には多くの冠冕あり、また記せる名あり、之を知る者は彼の他になし。13彼は血に染みたる衣を纏へり、その名は「神の言」と稱ふ。14天に在る軍勢は白く潔き細布を著、白き馬に乗りて彼にしたがふ。15彼の口より利き劍いつ、之をもて諸國の民をうち、鐵の杖をもて之を治め給はん。また自ら全能の神の烈しき怒の酒樽を踐みたまふ。16その衣と股とに『王の王、主の主』と記せる名あり。17我また一人の御使太陽のなかに立てるを見たり。大聲に呼はりて、中空を飛ばして凡ての鳥に言ふ『いざ、神の大なる宴席に集ひきたりて、18王たちの肉、將校の肉、強き者の肉、馬と之に乗る者との肉、すべての自主および奴隸、小なるもの大なる者の肉を食へ』19我また獸と地の王たちと彼らの軍勢とが相集りて、馬に乗りたまふ者および其の軍勢に對ひて戦闘を挑むを見たり

。20 かくて獸は捕へられ、又その前に不思議を行ひて獸の徽章を受けた者と、その像を拜する者とを惑したる偽預言者も、之とともに捕へられ、二つながら生きてるまま硫黄の燃ゆる火の池に投げ入れられたり。21 その他の者は馬に乗りたまふ者の口より出づる劍にて殺され、凡ての鳥その肉を食ひて飽きたり。

Chapter 20

1我また一人の御使の底なき所の鍵と大なる鎖とを手を持ちて、天より降るを見たり。2彼は龍、すなわち悪魔たりサタンたる古き蛇を捕へて、之を千年のあひだ繋ぎおき、3底なき所に投げ入れ閉ぢ込めて、その上に封印し、千年の終るまでは諸國の民を惑すことなからしむ。その後、暫時のあひだ解放さるべし。4我また多くの座位を見しに、之に座する者あり、審判する權威を與へられたり。我またイエスの證および神の御言のために誡られし者の靈魂、また獸をもその像をも拜せず、己が額あるいは手にその徽章を受けざりし者どもを見たり。彼らは生きかへりて千年の間キリストと共に王となれり。5(その他の死人は千年の終るまで生きかへらざりき)これは第一の復活なり。6幸福なるかな、聖なるかな、第一の復活に干る。この人々に對して第二の死は權威を有たず、彼らは神とキリストとの祭司となり、キリストと共に千年のあひだ王たるべし。7千年終りて後サタンは其の檻より解放たれ、8出でて地の四方の國の民、ゴとマゴグとを惑し戦闘のために之を集めん、その數は海の砂のごとし。9かくて彼らは地の全面に上りて、聖徒たちの陣營と愛せられたる都とを圍みしが、天より火くだりて彼等を焼き盡し、10彼らを感じたる悪魔は、火と硫黄との池に投げ入れられたり。ここは獸も偽預言者もまた居る所にして、彼らは世々限りなく晝も夜も苦しめらるべし。11我また大なる白き御座および之に座し給ふものを見たり。天も地もその御顔の前を遁れて跡だに見えずなりき。12我また死にたる者の大なるも小なるも御座の前に立てるを見たり。而して數々の書展かれ、他にまた一つの書ありて展かる、即ち生命の書なり、死人は此等の書に記されたる所の、その行爲に隨ひて審かれたり。13海はその中にある死人を出し、死も陰府もその中にある死人を出したれば、各自その行爲に隨ひて審かれたり。14かくて死も陰府も火の池に投げ入れられたり、此の火の池は第二の死なり。15すべて生命の書に記されぬ者はみな火の池に投げ入れられたり。

Chapter 21

1我また新しき天と新しき地とを見たり。これ前の天と前の地とは過ぎ去り、海も亦なきなり。2我また聖なる都、新しきエルサレムの、

夫のために飾りたる新婦のごとく準備して、神の許をいいで、天より降るを見たり。3また大なる聲の御座より出づるを聞けり。曰く『視よ、神の幕屋、人と偕にあり、神、人と偕に住み、人、神の民となり、神みづから人と偕に在して、4かれらの目の涙をことごとく拭ひ去り給はん。今よりのち死もなく、悲歎も號叫も苦痛もなかるべし。前のもの既に過ぎ去りたればなり』5かくて御座に坐し給ふもの言ひたまふ『視よ、われ一切のものを新にするなり』また言ひたまふ『書き記せ、これらの言は信ずべきなり、眞なり』6また我に言ひたまふ『事すでに成れり、我はアルバなり、オメガなり、始なり、終なり、渴く者には價なくして生命の水の泉より飲むことを許さん。7勝を得る者は此等のものを嗣がんと、我はその神となり、彼は我が子とならん。8されど臆するもの、信ぜぬもの、憎むべきもの、人を殺すもの、淫行のもの、呪術をなすもの、偶像を拜する者および凡て偽る者は、火と硫黄との燃ゆる池にて其の報を受くべし、これ第二の死なり』9最後の七つの苦難の満ちたる七つの鉢を持てる七人の御使の一人きたり、我に語りて言ふ『來れ、われ羔羊の妻なる新婦を汝に見せん』10御使、御靈に感じたる我を携へて大なる高き山にゆき、聖なる都エルサレムの、神の榮光をもて神の許を出でて天より降るを見せたり。11その都の光輝はいと貴き玉のごとく、透徹る碧玉のごとし。12此處に大なる高き石垣ありて十二の門あり、門の側らに一人づつ十二の御使あり、門の上にて一つづつイスラエルの子孫の十二の族の名を記せり。13東に三つの門、北に三つの門、南に三つの門、西に三つの門あり。14都の石垣には十二の基あり、これに羔羊の十二の使徒の十二の名を記せり。15我と語る者は都と門と石垣とを測らん爲に金の間竿を持てり。16都は方形にして、その長さ廣さ相均し。彼は間竿にて都を測りしに一千二百町あり、長さ廣さ高さみな相均し。17また石垣を測りしに、人の度すなはち御使の度に據れば百四十四尺あり。18石垣は碧玉にて築き、都は清らかなる玻璃のごとき純金にて造れり。19都の石垣の基はさまぎまの寶石にて飾れり。第一の基は碧玉、第二は瑠璃、第三は玉髓、第四は綠玉、20第五は紅綺瑪瑙、第六は赤瑪瑙、第七は貴橄欖石、第八は綠柱石、第九は黃玉石、第十は綠玉髓、第十一は青玉、第十二は紫水晶なり。21十二の門は十二の眞珠なり、おのおのの門は一つの眞珠より成り、都の大路は透徹る玻璃のごとき純金なり。22われ都の内にて宮を見ざりき、主なる全能の神および羔羊はその宮なり。23都は日月の照すを要せず、神の榮光これを照し、羔羊はその燈火なり。24諸國の民は都の光のなかを歩み、地の王たちは己が榮光を此處にたづさへきたる。25都の門は終日閉ぢず(此處に夜あることなし)26人々は

諸國の民の榮光と尊貴とを此處にたづさえ來らん。27凡て穢れたる者また憎むべき事と虚偽とを行ふ者は、此處に入らず、羔羊の生命の書に記されたる者のみ此處に入るなり。

Chapter 22

1御使また水晶のごとく透徹れる生命の水の河を我に見せたり。この河は神と羔羊との御座より出でて都の大路の眞中を流る。2河の左右に生命の樹ありて十二種の實を結び、その實は月毎に生じ、その樹の葉は諸國の民を醫すなり。3今よりのち詛はるべき者は一つもなかるべし。神と羔羊との御座は都の中にあり。その僕らは之に事へ、4且その御顔を見ん、その御名は彼らの額にあるべし。5今よりのち夜ある事なし、燈火の光をも日の光をも要せず、主なる神かれらを照し給へばなり。彼らは世々限りなく王たるべし。6彼また我に言ふ『これらの言は信ずべきなり、眞なり、預言者たちの靈魂の神たる主は、速かに起るべき事をその僕どもに示さんとて、御使を遣し給へるなり。7視よ、われ速かに到らん、この書の預言の言を守る者は幸福なり』8これらの事を聞き、かつ見し者は我ヨハネなり。かくて見聞せしとき我これらの事を示したる御使の足下に平伏して拜せんとせしに、9かれ言ふ『つつしみて然すな、われは汝および汝の兄弟たる預言者、また此の書の言を守る者と等しく僕たるなり、なんじ神を拜せよ』10また我に言ふ『この書の預言の言を封ずな、時近ければなり。11不義をなす者はいよいよ不義をなし不淨なる者はいよいよ不淨をなし、義なる者はいよいよ義をおこなひ、清き者はいよいよ清くすべし。12視よ、われ報をもて速かに到らん、各人の行爲に隨ひて之を與ふべし。13我はアルバなり、オメガなり、最先なり、最後なり、始なり、終なり、14おのが衣を洗ふ者は幸福なり、彼らは生命の樹にゆく權威を與へられ、門を通りて都に入ることを得るなり。15犬および呪術をなすもの、淫行のもの、人を殺すもの、偶像を拜する者、また凡て虚偽を愛して之を行ふ者は外にあり。16われイエスは我が使を遣して諸教會のために此等のことを汝らに證せり。我はダビデの萌蘗また其の裔なり、輝ける曙の明星なり』17御靈も新婦もいふ『來りたまへ』聞く者も言へ『きたり給へ』と、渴く者はきたれ、望む者は價なくして生命の水を受けよ。18われ凡てこの書の預言の言を聞く者に證す。もし之に加ふる者あらば、神はこの書に記されたる苦難を彼に加へ給はん。19若しこの預言の書の言を省く者あらば、神はこの書に記されたる生命の樹、また聖なる都より彼の受くべき分を省き給はん。20これらの事を證する者いひ給ふ『然り、われ速かに到らん』アメン、主イエスよ、來りたまへ。21願はくは主イエ

スの恩恵なんぢら凡ての者と偕に在らんことを。